إِنَّا نَحْنُ نَزَّلْنَا الذِّكْرَ وَإِنَّا لَهُ لَحَافِظُونَ

إِنَّهُ لَقُرْآنٌ كَرِيمٌ فِي كِتَابٍ مَكْنُونٍ لَا يَمَسُّهُ إِلَّا الْمُطَهَّرُونَ تَنْزِيلٌ مِنْ رَبِّ الْعَالَمِينَ

サウジアラビア王国　二大聖地の守護者
サルマーン・ブン・アブドルアズィーズ・アーリ・サウード国王は
クルアーン日亜対訳注解の出版をここに要請することを、栄誉とするものである。

تشرف بالأمر بطباعة هذا المصحف الشريف وترجمة معانيه
خادم الحرمين الشريفين الملك سلمان بن عبد العزيز آل سعود
ملك المملكة العربية السعودية

القرآن الكريم

وترجمة معانيه إلى اللغة اليابانية

مجمع الملك فهد لطباعة المصحف الشريف

二大聖地の守護者
サルマーン・ブン・アブドルアズィーズ・アーリ・サウード国王によるワクフ（財産寄進）
無料にて配布される非売品です

聖クルアーン
日亜対訳注解

ファハド国王マディーナ・クルアーン印刷コンプレックス

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

مقدمة

بقلم معالي الشيخ الدكتور

عبد اللطيف بن عبد العزيز بن عبد الرحمن آل الشيخ

وزير الشؤون الإسلامية والدعوة والإرشاد

المشرف العام على المجمع

الحمد لله رب العالمين، القائل في كتابه الكريم:

﴿... قَدۡ جَآءَكُم مِّنَ ٱللَّهِ نُورٞ وَكِتَٰبٞ مُّبِينٞ﴾.

والصلاة والسلام على أشرف الأنبياء والمرسلين، نبينا محمد، القائل: «**خيرُكم من تعلّم القرآن وعلّمه**».

أما بعد:

فإنفاذاً لتوجيهات خادم الحرمين الشريفين الملك سلمان بن عبدالعزيز آل سعود - حفظه الله - بالعناية بكتاب الله، والعمل على تيسير نشره، وتوزيعه بين المسلمين، في مشارق الأرض ومغاربها، وتفسيره، وترجمة معانيه إلى مختلف لغات العالم.

وإيماناً من وزارة الشؤون الإسلامية والدعوة والإرشاد بالمملكة العربية السعودية بأهمية ترجمة معاني القرآن الكريم، إلى جميع لغات العالم المهمة، تسهيلاً لفهمه على المسلمين الناطقين بغير العربية، وتحقيقاً للبلاغ المأمور به في قوله ﷺ: «**بلّغوا عنّي ولو آية**».

وخدمةً لإخواننا الناطقين باللغة اليابانية، يطيب لمجمع الملك فهد لطباعة المصحف الشريف بالمدينة المنورة أن يقدم للقارئ الكريم هذه الترجمة اليابانية، التي أعدّها الشيخ يواتشي (سعيد) ساتو، وراجعتها من قبل المجمع الأستاذة هيروكو (نبيلة) أوكوياما، والأستاذة جونكو (فاطمة) ساتو.

ونحمد الله سبحانه وتعالى أن وفق لإنجاز هذا العمل العظيم؛ الذي نرجو أن يكون خالصاً لوجهه الكريم، وأن ينفع به الناس.

إننا لندرك أن ترجمة معاني القرآن الكريم - مهما بلغت دقتها - ستكون قاصرة عن أداء المعاني العظيمة التي يـــدل عليها النص القرآني المعجز، وأن المعـــاني التي تؤديها الترجمة إنما هي حصيلة ما بلغه علم المترجم في فهم كتاب الله الكريم، وأنه يعتريها ما يعتري عمل البشر كلَّه من خطأ ونقص.

ومن ثم نرجو من كل قارئ لهذه الترجمة أن يوافي مجمع الملك فهد لطباعة المصحف الشريف بالمدينة النبوية بما قد يجده فيها من خطأ أو نقص أو زيادة للإفادة من الاستدراكات في الطبعات القادمة إن شاء الله.

والله الموفق، وهو الهادي إلى سواء السبيل، اللّٰهُمَّ تقبل منا إنك أنت السميع العليم.

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において

序言

全創造物の主、アッラーに称賛あれ。かれは、その誉れ高き書クルアーンの中で、こう仰せられました。

「アッラーの御許からあなた方のもとに、確かに光と解明の書がやって来たのである」。

また、最も高貴な使徒であり預言者である、私たちの預言者ムハンマドに祝福と平安あれ。彼は、こう仰いました。

「あなた方の内で最善の者は、クルアーンを学び、教えた者である」。

二大聖地の守護者サルマーン・ブン・アブドルアズィーズ・アーリ・サウード国王陛下（アッラーが彼をお守り下さいますよう）からは、アッラーの書クルアーンとその出版の便宜、全世界のイスラーム教徒への配布、世界の様々な言語へのその翻訳といったことに特別な関心を払うよう、御指導を承っております。また、サウジアラビア王国イスラーム諸事・布教・伝道省は、非アラビア語話者のイスラーム教徒にとってクルアーン理解が容易なものとなり、かつ預言者ムハンマドの「私から伝達せよ。それが、ただ一つのアーヤ（クルアーンの一句）であったとしても」という伝達命令の言葉が成就されるべく、クルアーンの意味を全世界の主要言語に翻訳することの重要性を肝に銘じております。

ファハド国王マディーナ・クルアーン印刷コンプレックスはこの度、非アラビア語話者である同胞への奉仕として、クルアーンの日亜対訳注解を読者各位にご提供できることを、喜ばしく思います。翻訳に携わったのは佐藤裕一（サイード）氏であり、コンプレックス側からは奥山裕子（ナビーラ）・佐藤純子（ファーティマ）の両氏が校正を担当しました。

私たちは、この偉大な仕事の完遂を成功させて下さった崇高なるアッラーを、称賛します。そして、それがアッラーの御顔のみを求めて純粋に行われたことであることを、かつ人々に有益なものとなることを望みます。

私たちは、どれほど精密さを追求したものであったとしても、クルアーンの意味の翻訳（ほんやく）というものは、本来の奇跡的な文章が示す偉大な意味を表すには役不足だということを、心得ています。また、翻訳（ほんやく）が表す意味というのは、翻訳（ほんやく）者がクルアーンの理解において知り得ることの出来たものに過ぎず、人間の仕事には付き物の間違いや欠陥（けっかん）が付き物であることも、心得ています。

読者各位にお願いしたいのは、この翻訳を読んで間違い、欠落（けつらく）、余分な付け足しなどを発見したら、ファハド国王マディーナ・クルアーン印刷コンプレックスまでご連絡頂きたいということです。アッラーがお望みならば、それは次刷での改定に反映させたいと思います。

アッラーこそは成功をお授（さず）けになるお方、まっすぐな道への導（みちび）き手であられます。アッラーよ、私たちからお受け入れ下さい。本当にあなたこそは、よくお聞きになるお方、全知者なのですから。

サウジアラビア王国イスラーム諸事・布教・伝道省大臣
ファハド国王マディーナ・クルアーン印刷コンプレックス代表
アブドッラティーフ・ブン・アブドルアズィーズ・アーリ・アッ=シャイフ博士

クルアーン*の意味の翻訳について

はじめに

クルアーン*とは、アッラー*がその文字と意味と共に使徒*ムハンマド*（彼に祝福と平安あれ）に啓示した、アッラー*の御言葉である。使徒*ムハンマド*（彼に祝福と平安あれ）は全世界への慈悲として、また、吉報を伝え警告を告げる者、アッラー*の許しと共にアッラー*へと人々を招く者、燦然と輝く光として、遣わされたのである。ここではクルアーン*とそのメッセージに関して、簡単な紹介をする。

クルアーン*についての一般的紹介

1．クルアーン*についての紹介と、その名称と属性の説明：

クルアーン*とは、その使徒*ムハンマド*（彼に祝福と平安あれ）に下された、アッラー*の御言葉である。それはその言葉と意味と共に使徒*ムハンマド*に啓示され、書として書き留められ、疑念の余地のないほど多数の伝承によって伝えられ、その読誦が崇拝*行為となるものである。

使徒*ムハンマド*に下された啓示を「クルアーン*（読まれるもの）」と名づけたのは、それを啓示したアッラー*ご自身である。アッラー*は仰せられた。「（使徒*よ、）本当にわれら*はあなたに、クルアーン*を徐々に下した」（人間章 23）。というのも、それは読まれ、読誦されるものであり、そうされずに放置しておかれるものではないからである。

また、アッラー*はそれを「アル＝キターブ（書）」ともお呼びになった。アッラー*は仰せられる。「（使徒*よ、）本当にわれら*は、あなたに真理の書を下した」（婦人章 105）。それはクルアーン*が書かれ、そうされずに放っておかれる類いのものではないからである。

その他、アッラー*はクルアーン*を「フルカーン（識別）」「ズィクル（教訓、栄誉）」「フダー（導き）」「ヌール（光）」「シファー（癒し）」「ハキーム（完全無欠なもの）」「マウイザ（訓戒）」など、その偉大さとメッセージの完全性を表す属性で形容している。

「ムスハフ」という言葉は、クルアーン*が書き留められた「スフフ（書巻）」という語に由来する。これは教友*たちが、クルアーン*が書き留められた書を指す時に用いていた名称である。

クルアーン*は、アッラー*が天使*ジブリール*（彼に平安あれ）を介して、預言者*ムハンマド*（彼に祝福と平安あれ）の心に下した啓示である。アッラー*は仰せられた。「実にそれはまさしく、全創造物の主*から下されたもの。（啓示の伝達を）託された魂が、それを携えて降臨したのである。（使徒*よ、）あなたが警告者の一人となるべく、あなたの心へと、明白なるアラビアの言葉によって」（詩人たち章 192–195）。

預言者*ムハンマド*は啓示に関し、使徒*の内でも目新しいことを言う者だったわけではない。アッラー*の啓示はジブリール*（彼に平安あれ）を介し、彼の同胞である全ての使徒*たち（彼らに祝福と平安あれ）に下ったのである。アッラー*はこの偉大な信託を託すにあたり、かれがお望みになる者をお選びになる。アッラー*は仰せられる。「アッラー*は天使*たちと人々から、（その教えを人々に伝える）使いをお選びになる。本当にアッラー*は、よくお聞きになるお方、よくご覧になるお方」（巡礼*章 75）。また、アッラー*はその任務に誰が適格で、誰が不適格かを最もよくご存知のお方であられる。というのも、アッラー*ご自身が被造物をお創りになったお方なのだから。アッラー*は仰せられる。「あなたの主*は、お望みのものを創り、選ばれる」（物語章 68）。

2．クルアーン*の啓示：

アッラー*の使徒*（彼に祝福と平安あれ）に最初に啓示が下ったのは、西暦 610 年ラマダーン月*（ヒジュラ暦*9 月）17 日月曜日、マッカ*のとある山にあるヒラー洞窟でのことであった。その時、ジブリール*（彼に平安あれ）が彼に伝えたのが、このアーヤ*（句）である。「（預言者*よ、）創造をされた、あなたの主*の御名において（、啓示されたクルアーン*を）読め。かれは人間を、一塊の凝血からお創りになった。（預言者*よ、クルアーン*を）読め。あなたの主*は、最も貴い*お方。筆（記）を教えて

下さったお方。人間に、彼が知らなかったことを教えて下さった（お方）」（凝血章 1-5）。これが、アッラー*の使徒*（彼に祝福と平安あれ）に下された、最初のクルアーン*であった。

預言者*（彼に祝福と平安あれ）はそれを携えて、恐怖で心を震わせながら家族のもとに戻ると、妻であり、後に信仰者たちの母と呼ばれることになるハディージャ（彼女にアッラー*のお喜びあれ）に、そのことを話した。彼は言った。「私は自分が恐い」。すると、彼女は言った。「いいえ、喜びなさい。アッラー*にかけて、かれは決してあなたに不名誉を与えたりはしません。あなたは近親の絆をつなぎますし、話せば正直で、弱者を助け、客をもてなし、災難においては手を差し伸べるのですから」。こうしてハディージャは彼を、ワラカ・ブン・ナウファルのもとに連れて行った。ワラカは見識と知恵を備えた人物であり、ハディージャは彼にこう言った。「おじさん、あなたの兄弟の息子の話を聞いて下さい」。そしてアッラー*の使徒*（彼に祝福と平安あれ）が、彼に自分が見たことを伝えると、ワラカはこう言った。「それは、ムーサー*に遣わされた、密やかなる者（ジブリール*）[1]である。ああ、私が若者であったなら！　ああ、あなたが自分の民から追放される時、私がまだ生きていたなら！」アッラー*の使徒*（彼に祝福と平安あれ）は、言った。「彼らが、私を追放するというのですか？」ワラカは言った。「ああ。あなたに訪れたようなものを携えて来た者は皆、迫害されることになっているのだ。もし私が、あなたがそうなる日に居合わせることが出来たら、あなたを力強く援助することが出来たのだが」。こうしてワラカは、この出会いの後まもなく他界する。

クルアーン*は過去の預言者*たち（彼らに祝福と平安あれ）に啓典が下った時のように、アッラー*の使徒*（彼に祝福と平安あれ）に全部一遍に下ったわけではない。クルアーン*は二十三年間に渡って、時には一つのスーラ*が下ったり、また時にはスーラ*の中の一部のアーヤ*が下ったりするといった形で、徐々に下されたのである。

1　「密やかなる者」とは、預言者*たちに啓示の伝達を任された、天使*ジブリール*（彼に平安あれ）のこと。

クルアーン*が徐々に啓示されたことに潜む英知[1]は、預言者*ムハンマド*（彼に祝福と平安あれ）の心を堅固にし、強化することであり、ジブリール*（彼に平安あれ）が啓示を携えて繰り返し到来することで、彼を力強くすることであった。彼はこのことにより、使徒*としての使命を授かった当初、シルク*の徒の頑迷さと反対に直面しても確固としていることが出来た。アッラー*は仰せられる。「不信仰に陥った者*たちは、言った。『どうしてクルアーン*は（トーラー*や福音*のように）、彼（預言者*ムハンマド*）に一遍に下されないのか？』われら*は、それによってあなたの心を堅固にすべく、（クルアーン*を）そのように（徐々に下）し、またそれを明瞭に区切ったのだ」（識別章 32）。

また、クルアーン*が徐々に啓示されたことには、別の偉大な教育的英知も存在する。それは信仰者たちが宗教的な決まりに関する知識と実践において、段階的に身につけていくことを可能にしたということである。それは彼らの学習と理解にあっても、また彼らが無知と不信仰とシルク*という闇から、信仰とアッラーの唯一性*と知識という光へと脱出するにあたっても、彼らにとっての便宜となった。

3．クルアーン*の筆録：

筆記は、文章を保存するための最も重要な手段の一つである。筆録されない言葉は、忘却に晒される。クルアーン*は、復活の日*までの全世界への導きとして下されたゆえ、筆録されなければならなかったのである。

クルアーン*の筆録は、預言者*ムハンマド*（彼に祝福と平安あれ）の特別な関心によって成就された。また、彼は筆記を知る教友*にクルアーン*の筆録を命じ、啓示の筆録者とした。その中でも最も有名なのが、アンサール*の一人であったザイド･ブン･サービト*（彼にアッラー*のお喜びあれ）である。[2]

1　アッ＝タバリー19:10、アブー･シャーマ･アル＝マクダスィー「偉大なる書に関する諸学への簡潔なる導き手」28 頁参照。

2　アッ＝タバリー1:28 参照。

アッラー*の使徒*（彼に祝福と平安あれ）は啓示が下ると、まずそれを暗記し、それから啓示の筆録者の誰かにそれを書き取らせ、こう言った。「このアーヤ*を、スーラ*の中の、然々という場所に入れよ」[1]。こうして彼はスーラ*の名前を述べ、そこにアーヤ*を書き留めるように命じたのである。それから彼は教友*たちに、啓示されたクルアーン*を学び、暗記するよう命じた。このようにして全クルアーン*は、彼（彼に祝福と平安あれ）の存命中に、革や木などの切れ端に書き留められたのである。[2]

また、ジブリール*（彼に平安あれ）は毎年一回、預言者*（彼に祝福と平安あれ）にクルアーン*を確認させた。預言者*（彼に祝福と平安あれ）が逝去した年に至っては、現在ムスリム*たちの手許にあるクルアーン*と同じアーヤ*とスーラ*の順番で、二回確認させたのである。これはアッラー*が、クルアーン*の中でこのようにアッラー*が仰せられていることが、実現するためであった。「本当にそれを（あなたの胸に）結集させることと、それを（あなたが望む時にいつでも）読むこと（を可能にさせるの）は、われら*の任務なのだから。それで、われら*がそれを（ジブリール*を介し、あなたに）読んだ時には、その読みに（まずはよく耳を傾け、それからその読誦に）続くのだ」（復活章 17-18）。「（使徒*よ、）われら*は、あなたに（ジブリール*を介して、クルアーン*を）読ませよう。そして、あなたは（それを）忘れない」（至高者章 6）。

4. クルアーン*の編纂：

アッラー*の使徒*（彼に祝福と平安あれ）の逝去後、正統カリフのアブー・バクル*（彼にアッラー*のお喜びあれ）は、クルアーン*を書物に整理してまとめる命令を出した。それはクルアーン*暗記者たちの死去や、クルアーン*が書き留められた木々や革などの切れ端の喪失によって、クルアーン*の一部が失われてしまわないようにするためであった。この任務を授かったのが、啓示の筆録者の一人ザイド・ブン・サービト*（彼にアッラー*のお喜びあ

---

1 アブー・ダーウード 786、アッ＝ティルミズィー3086、アル＝ハーキム 3325 参照。

2 アル＝ブハーリー4592、4593 参照。

れ）である。こうして検証と、切れ端（はし）に書き留（と）められたものと人々に暗記されているものの符号（ふごう）性の確認がなされた後、その書はアブー・バクル*（彼にアッラー*のお喜びあれ）の家に保管された。そして彼の死後には第二代カリフのウマル*（彼にアッラー*のお喜びあれ）へと受け継がれ、ウマル*の死後にはその娘であり、預言者（よげんしゃ）*の妻の一人でもあった信仰者たちの母、ハフサ（彼女にアッラー*のお喜びあれ）の家に保管されることとなった。[1]

イスラーム*が広まり、ムスリム*たちが読むことのできるムスハフ（書物として編纂（へんさん）されたクルアーン*）を必要とした時、何人かの教友（きょうゆう）*たちが第三代正統カリフ・ウスマーン*（彼にアッラー*のお喜びあれ）に、クルアーン*読誦（どくしょう）において規範（きはん）とすべきムスハフ編纂（へんさん）のための必要性を提案（ていあん）した。こうしてウスマーン*は、クルアーン*を暗記している者たちの内で筆記を知る者たちの一団に、その任務を課（か）したのである。彼らの内の筆頭（ひっとう）が、ザイド・ブン・サービト*（彼にアッラー*のお喜びあれ）であった。彼らはアブー・バクル*（彼にアッラー*のお喜びあれ）の時代に集められた書を検証・確認し、それを一冊の書にまとめ、それを何冊か複製（ふくせい）した。そしてそれらの複製（ふくせい）書を、イスラーム*国家内の主たる都市に送り、更にそこから複製（ふくせい）することを命じたのである。

今日、世界中で通用している全てのムスハフは、それが手で書き写されたものであれ、印刷（いんさつ）所で印刷（いんさつ）されたものであれ、原本はそれらの都市に送られた複製（ふくせい）書である。そのテキストにおいても、順番においても、原本と変わるところはない。

そして今日まで、ムスリム*たちは、ムスハフの印刷（いんさつ）はもちろんのこと、日々更新（こうしん）される印刷（いんさつ）ツール・技術・周辺機器の導入（どうにゅう）に高い関心を払っている。それは最高の品質レベルを実現すると共に、「ウスマーン書体」として知られている、第三代正統カリフ・ウスマーン*（彼にアッラー*のお喜びあれ）の時代に書かれた書体による、クルアーン*のテキスト筆記の正確さを追及（ついきゅう）するためなのである。

1　アル＝ブハーリー4986、アッ＝ティルミズィー3086、アフマド76参照。

ファハド国王マディーナ･クルアーン印刷コンプレックスは、クルアーン*に対するその高い関心を表す、一つの顕著なる印である。それはサウジアラビア王国政府によるアッラー*の書に対する熱意と、その奉仕に対する関心の表れであり、印刷･製本･品質･管理･匠といった面において美しく仕上げられたムスハフが、ムスリム*たちの手に届くようにとの便宜を図ってのことなのである。

5．ムスハフの配列と区分：

クルアーン*は開端章に始まり、人々章で終わる。百十四のスーラ*から成立するが、この順番は神命のものであり、預言者*（彼に祝福と平安あれ）に依拠したものである。最初に下されたスーラ*は凝血章であるが、ムスハフの配列では九十六番目に配置されているように、スーラ*の配列は啓示された順番によるものではない。教友*たちは、預言者（彼に祝福と平安あれ）のクルアーン*読誦から、アーヤ*（句）とスーラ*の順番を認識していた。[1]

現在、ムスハフは三十のジュズ（巻）に区分されている。各ジュズは、二つのヒズブ（半ジュズ）から成り、各ヒズブは四つのルブウ（四分の一ヒズブ）から成立している。これらの区分は学者たちが努力して考案したものであり、その目的はクルアーン*読誦がムスリム*たちにとって容易なものとなるためであった。

6．クルアーン*の学習：

ムスリム*たちはクルアーン*学習、暗記、アッラー*の使徒*（彼に祝福と平安あれ）に下ったままの形でクルアーン*読誦することに、大変な関心を払ってきた。教友の内の読誦者たちは、タービウーン*にクルアーン*を教え、その字句を正確に暗記させ、一つ一つのアーヤ*で立ち止まりつつ、その意味を理解させた。こうして彼らは知識と行いを、共に学んだのである。それからタービウーン*の内の暗記者たちが、クルアーン*読誦伝授のための学校を設立した。彼らは教友*から学んだ異なる読誦、字句

1　アッ＝ダーニー「諸都市民のムスハフ筆記体に関する知識についての満足」8 頁参照。

の正確な暗記、文字と語の数、スーラ*とアーヤ*の順番、読誦規則、正しい発音、朗誦法を忠実に守った。こうしてクルアーン*は学ばれ、暗記され、読誦されていった。クルアーン*学習者は今日に至るまで、クルアーン*を暗記した読誦家である自分の師匠を介し、口伝により、アッラー*の使徒*（彼に祝福と平安あれ）に下された通りの生き生きとした正則アラビア語のままで、継承されているのである。

クルアーン*は、複数の読誦法によって読誦される。読誦法とは、クルアーン*の語、文字の読み方、及びその発音法である。タービウーン*は、クルアーン*を暗記した教友*の読誦家から、それを継承した。そしてその教友*たちは、預言者*（彼に祝福と平安あれ）からそれを学び、承認されたのである。現代において最も有名な読誦法は、アースィムからその弟子ハフス・ブン・スライマーンが伝える読誦法と、ナーフィウからその弟子ウスマーン・ブン・サイード、通称ワルシュが伝える読誦法である。その他、アブー・アムル・アル＝バスリーからアッ＝ドゥーリーが伝える読誦法や、カールーンがナーフィウから伝えるその読誦法も有名である。

7. タフスィール（クルアーン*解釈）：

タフスィールとは、クルアーン*の意味の解明である[1]。言葉は、それが表わす意味を知ることなしには、その目的を果たさない。至高なるアッラー*は、クルアーン*を読む者がその意味を理解するよう促して、こう仰せられた。「（使徒*よ、このクルアーン*は）彼らがその御徴を熟慮し、澄んだ理性の持ち主らが教訓を得るべく、われら*があなたに下した啓典、祝福あふれたものである」（サード章 29）。熟慮とは即ち、理解することである。

またアッラー*の使徒*（彼に祝福と平安あれ）は教友*たちに、彼らが分からなかったクルアーン*の意味を、説明したものだった[2]。ただし、クルアーン*がアラビア語で下ったこと、そして当時の人々がアラビア語に

1　アッ＝ザルカシー「クルアーン諸学における明証」1:13 参照。

2　アッ＝タバリー1:13、イブン・タイミーヤ「タフスィール原理学」35 頁参照。

通暁していたことも相まって、クルアーン*のアーヤ*の意味について多くの質問がなされることはなかった。タフスィールに対する人々の必要性は、年月の経過と共に増大したのである。

預言者*（彼に祝福と平安あれ）と教友*たち、そしてその弟子であるタービウーン*たちがタフスィールに関して残し、伝えられた言葉が、タフスィール学の基軸となった。これが「伝承によるタフスィール」と呼ばれる、タフスィールにおいて最重要の手段と目されるものである。というのもそこには、アラビア語に通暁し、クルアーン*が下った当時の出来事や状況を生きた最初の世代による、クルアーン*のアーヤ*理解が明らかにされているからである。

①　タフスィールの種類：

タフスィール学者らの方向性は、その学術的関心により多岐に渡った。そこには、クルアーン*を語学的側面から説明することに関心を払うタフスィールもあれば、法学的側面の説明に重点を置くタフスィールもある。また、歴史的側面、論理的側面、品行的側面といった部分を重視するタフスィールもある。この上で、学者らはタフスィールを、二つの範疇に分類している：

一つ目：伝承によるタフスィール。つまり預言者*（彼に祝福と平安あれ）、教友*、タービウーン*から伝えられたもの。

二つ目：識見によるタフスィール。または、正しい学問的基盤に基づいた努力によるタフスィール。

②　最善のタフスィール方法論と、その規定：

クルアーン*の解釈において優先されるのが、伝承によるタフスィール*である。なぜならそれは預言者*（彼に祝福と平安あれ）、あるいはその教友*、そしてそのまた弟子であるタービウーン*から伝えられたものであり、彼らこそはよりクルアーン*に通暁した者たちであるからだ。もし伝承によるタフスィールには見出すことのできない、更なるクルアーン*のアーヤ*の説明が必要になった場合、タフスィール学者は以下の規定を重んじなければならない：

Ⅰ. アーヤ*の意味に関する、伝承によるタフスィールの中でも正しい伝承経路で伝わるものを重視し、それに矛盾するような解釈をしないこと。

Ⅱ. タフスィールが、クルアーン*全体に認められる一般的な意味、及び預言者*の伝承において説明されている内容に合致すること。ゆえにタフスィール学者は、クルアーン*の一般的な意味と相反するような解釈をしてはならない。クルアーン*はその一部が別の一部を説明するのであり、ある一部が別の一部と矛盾することはない。また預言者*の伝承は、クルアーン*の中で大まかな形で取り上げられている部分を、説明するものである。

Ⅲ. 語の意味、構文、様々な使い回しなどにおいて、アラビア語文法の知識を有すること。クルアーン*はアラビア語で下されたのであり、その語学的法則に従って理解される必要がある。

Ⅳ. クルアーン*のアーヤ*に間際らしい意味の部分があったら、それをクルアーン*の中の意味が明確な部分に照らし合わせること。というのも、クルアーン*のある部分は、別の部分を説明しているからである。クルアーン*のアーヤ*の大半は意味が明確なものであるが、ある種の者にとって、その意味が間際らしく映るものもある。そのようなものを、意味が明確なアーヤ*と照らし合わせることは、その意味の理解と明確化につながる。アッラー*は、こう仰せられている。「かれは、この啓典（クルアーン*）をあなたに下されたお方。その中には、啓典の母である明確なアーヤ*と、（それとは）別の間際らしいアーヤ*がある。心に歪みがある者たちは（人々の）誘惑を望み、（好き勝手な）解釈を求めて、意味が間際らしい部分に従うのだ。アッラー*と、『私たちはこれ（クルアーン*）を信じた。（これは）全て、我らが主*の御許からのものである』と言う、知識が深く根ざした者たちの外、その（真の）解釈を知るものはないというのに。澄んだ知性の持ち主以外、教訓を受けることはないのだ」（イムラーン家章 7。詳しくは、訳本文の訳注も参照）。

Ⅴ．自然現象に関するアーヤ*のタフスィールにおいては、既に確証されている科学的事実への依拠のみに留め、科学的理論をクルアーン*のタフスィールに挿入しないようにすること。それはクルアーン*に対し、それがそもそも意味していないところのものを当てはめないようにするためである。

Ⅵ．アッラー*の言葉の意味を、イスラーム*の教えの本質からかけ離れたもの、アラビア語の法則に反したものへと不当な解釈をすることに対する注意。それらの原因は改竄の意図であったり、アラビア語の意味や使い回しにおける無知であったり、アッラー*の言葉がそこから無縁であるような不当な意味への誤解であったりする。

8．クルアーン*の奇跡性：

奇跡性とはこの場合、行動･意見･采配などにおいて、その実現が不可能であることを指していう言葉である。そして奇跡（ムゥジザ）とは、預言者*や使徒*たち（彼らに祝福と平安あれ）の御徴や明証を証明する出来事のことを指す。クルアーン*の中にこの語の言及は見られないが、その代わりに御徴（アーヤ*）や明証（ブルハーン）などといった語で登場している。

クルアーン*は至高のアッラー*の御言葉であり、その意味には完全性が、そのアーヤ*と語と構造には壮麗さが備わっている。それは人間が創作不可能なものであり、アッラー*はこう仰せられる。「アリフ･ラーム･ラー　。（これは）そのアーヤ*が完全に仕上げられ、それから解明された、英知あふれる*お方、通暁されたお方の御許からの啓典である」（フード*章 1）。

シルク*の徒らは、クルアーン*の出所に関して疑念を抱かせ、嘘の捏造や疑問を煽り立てることによって、人々をそこから遠ざけようとした[1]。それで崇高なるアッラー*は彼らに対し、もし彼らが本当のことを言っているのなら、クルアーン*と同様のもの、または十スーラ*、あるいはスーラ*一つでもよいから創作してみよと、いくつかのアーヤ*の中で挑んでみせた

1　家畜章 7、25、預言者*たち章 5、サバア章 43、ヤー･スィーン章 69、整列者章 36、サード章 4、山章 30 も参照。

のである[1]。しかし彼らはそれに応じることが出来なかった。こうして彼らは、たとえクルアーン*がアラビア語によるものであったとしても、その模倣やそれと同様のものの創作が不可能であることを、認めざるを得なくなったのである。アッラー*は仰せられる。「いや、一体、彼らは（こう）言うのか？　『彼（ムハンマド*）がそれ（クルアーン*）を捏造したのだ』。（使徒*よ、）言ってやれ。『では、それと同様のスーラ*を一つ、披露してみよ 。そして、あなた方がアッラー*以外に（それを頼むことが）出来る（あらゆる）者を、呼んで（手伝わせて）みるがよい。もし、あなた方が本当のことを言っているのなら』」（ユーヌス*章 38）。

またクルアーン*は、人間が一団となり、そこにジン*が加わり、彼らがお互いに助け合ったとしても、クルアーン*同様のものを創作することは不可能であると、高らかに宣告している。「言ってやれ。『もしも、このクルアーン*と同様のものを創作すべく、人間とジン*が結集したとしても、それと同様のものを作ることは断じて叶わない。たとえ彼らがお互いに力を合わせても、である』」（夜の旅章 88）。

クルアーン*はアッラー*の御言葉であり、被造物の言葉とは似つかないものであるがゆえに、奇跡なのである。クルアーン*はその語、アーヤ*、言葉、様々な形での説明と修辞表現、そこに含まれる真の情報と物語、規定と法、心と感情へと訴えかける力、驚異的な科学的事実などにおいて、御徴であり、明証なのである。

クルアーン*は、自然科学、天文学、生物学、医学などに携わる学者たちを、どれだけ驚愕させてきたことであろうか？　そこには、彼らが勤しんでいる学問と関係のある科学的事実についての話や、自然現象に関する示唆が、精緻な学問的表現によって表されているのである。それらは、それらの現象について無知であった当時の世界において、文盲の社会の文盲の使徒*がもたらしたものとは、到底想像できないものなのだ。このことは、多くの人々がイスラーム*を受け入れる、一つの原因となった。とい

1　雌牛章 23、ユーヌス*章 38、フード*章 13、山章 24 も参照。

うのも彼らは、クルアーン*の内容が人間の言葉であり得るはずがなく、この宇宙と人間とを創造したお方の御言葉であることを認識したからである。

クルアーン*の中には、至高のアッラーの唯一性*と、その創造の素晴らしさを示すアーヤ*が、非常に沢山含まれている。アッラー*は仰せられた。「われら*は、彼らに見せよう。それ（クルアーン*）が彼らに真実であることが明らかになるまで、われら*の御徴を彼方に、そして彼ら自身の内に 。一体、あなたの主*だけで、かれが全てのことの証人ということだけで、（クルアーン*の真実性の証拠は）十分なのではないか？」（詳細にされた章 53）

9. クルアーン*の翻訳：

翻訳とは、ある言語から別の言語へと言葉を移転することである[1]。翻訳は困難さを伴うものである。言葉の言い回しは文章構成要素の一つであり、ある言語から別の言語に移転する際に、その言い回しによる言語的意味を保持することは困難だからである。[2]

これが人間の作った文章の翻訳に関してのことであるならば、クルアーン*の翻訳をする際には、その困難は更に大きなものとなる。クルアーン*はアッラー*によってアラビア語で下されたその御言葉であり、その言葉と意味においてアッラー*から啓示されたものだからだ。人間がクルアーン*の意味を完全に知りえたと主張したり、アラビア語のテキストと同じ形において、その言葉の言い回しを再現したりすることは、困難を極める。

しかしクルアーン*の翻訳の困難さがある一方で、ムスリム*の学者たちはクルアーン*とそのメッセージの伝達の必要性を確信している。いかなる言語に属していようと、それを全ての民へと伝達する必要性である。そしてその任務は、翻訳をなくしては実現不可能なのだ。[3]

クルアーン*の別の言語への翻訳は、次の二つのいずれかに分類できる：[4]

---

1 イブン･マンズール「アラブの言詞」参照。

2 イブラーヒーム･アニース「語の意味」171－175 頁、ムハンマド･アワド･ムハンマド「翻訳術」19 頁参照。

3 イブン･タイミーヤ「ファトワー集」4:116 参照。

4 前掲書 4:115、542、ムハンマド･フサイン･アッ＝ザハビー「タフスィールと解釈学者たち」1:23 参照。

① クルアーン*の意味の翻訳。タフスィール抜きの翻訳で、クルアーン*のテキストの言葉が指し示すものの説明に留めたもの。

② 説明や例示をつけることによる、タフスィール的な翻訳。これは、アラビア語以外の言語によるタフスィールという位置づけになる。

いずれにせよ、クルアーン*の意味の翻訳というものは、それがいかに精緻なものであったとしても、そして翻訳者がいかに両言語に精通し、アーヤ*の意味に通暁していたとしても、クルアーン*と呼ばれることはない。それは以下の二つの理由による：[1]

Ⅰ. クルアーン*は、アラビア語で下された至高のアッラー*の御言葉であり、その表現と完成度において極致の域に達したものである。その形態をアラビア語以外の別の言語で再現すれば、クルアーン*という名称は無効化される。

Ⅱ. 翻訳は、翻訳者がクルアーン*の意味について理解したものであると見なされる。その意味では、タフスィールに近い。タフスィールがクルアーン*と呼ばれることがないように、翻訳もまたクルアーン*と呼ばれることはない。

クルアーン*の意味の翻訳が許容され得るものとなるには、学者たちがクルアーン*の意味の説明に関して定めた諸々の条件を満たさなければならない。同時に翻訳者は、自分の翻訳をもって、クルアーン*の意味を改変して拡散するための隠れ蓑としたり、ムスリム*たちの儀式や彼らが神聖視しているものを侵害したりしてはならない。ある種の東洋学者やイスラーム*への帰属を標榜する者たちの翻訳の中には、この手のものが認められる。このようなものは、イスラーム*の教えに基づいた価値観を破壊し、その正しい信仰箇条と寛容なる法規定に被害を及ぼそうという、悪意を含んでいるのである。

1　アン＝ナワウィー「『精錬されたもの』注釈全集」3:342 参照。

ファハド国王マディーナ・クルアーン印刷コンプレックスはこのような観点から、信頼に足るクルアーン*の意味の翻訳出版という任務に身を投じている。非アラビア語話者に向けて、彼らの母語によってクルアーン*の包括的メッセージを伝えるべく、尽力を惜しまない所存である。

全創造物の主*、アッラー*に称賛あれ。そして私たちの預言者*ムハンマド*とその一族、教友*たち全員に、また彼らをよく踏襲した者たちに、裁きの日*まで祝福と平安あれ。

拙訳における重要な注意点

- 翻訳するにあたって用いたクルアーンのテキストは、ファハド国王マディーナ・クルアーン印刷コンプレックス発行のものです。アースィムからその弟子ハフスが伝える読誦法に依拠しつつ、同コンプレックス発行のクルアーン解釈書「タフスィール・ムヤッサル」を主要参考文献として翻訳が行われました。その他、「アッ＝タバリー」「アル＝クルトゥビー」「イブン・カスィール」「アッ＝サァディー」といったクルアーン解釈書を始め、参考文献目録に収録されている諸々の文献を参考にしています。

- クルアーン本文の意味訳からは可能な限り、本文の意味には含まれないものを除外しました。脚注へと立ち返ることなしに本文を読むだけで必要最低限の理解が得られるよう心がけたつもりですが、そのために必要、またはあった方がよい、あるいは誤解の防止となると翻訳者が判断したものに関しては、参考文献としている解釈書に基づきつつ、本文内に括弧内の説明を補助的に示すことがあります。脚注にて示される説明は、括弧内の説明によって本文に挿入するには不適当と翻訳者が判断したものです。

- 「*」マークがついている人名・地名・用語などは、巻末の頻出名・用語解説にその説明があります。

- 脚注にてクルアーン内の別のスーラが参考として言及される場合、通常「スーラ名：アーヤ番号」の形式で表示されます。アーヤ番号のみで言及されている場合、同スーラ内のアーヤのことを示しています。

- 参考文献の表示は「著者名・文献名・巻・ページ」の順番ですが、文献名については、言及される著者に拙訳内での複数の引用著書がない限り、省略しています。文献名とその詳細については、巻末の参考文献目録をご参照ください。尚、拙訳の主要参考文献である「タフスィール・ムヤッサル」については、省略して「ムヤッサル」としました。ま

た、同一のページで同一文献が連続して出現する場合のみ、二度目以降は「前掲書」という表現で済ませています。「序言」内の参考文献は、翻訳者が依拠した参考文献とは独立した別のものであること、それゆえに巻末の参考文献目録に存在していない可能性があること、及び存在していたとしても、出版社や発行年などの情報において一致しない可能性が高いということにもご注意下さい。

- アラビア語の定冠詞「アル」「アン」「アッ」は、「アル＝カリーム」「アッ＝ラフマーン」「アン＝ナースィル」のように、それが結びついている語と「＝」記号で区別されています。但し「アブドッラー」という語と、「ズル＝ヒッジャ」のように定冠詞を伴う名詞が後続する「ズー」という語で始まる名詞は便宜上、「アブド・アッ＝アッラー」「ズー・アル＝ヒッジャ」という表示の仕方はしていません。その他「クルアーン」「マディーナ」といった、定冠詞「アル」がない形で通用している固有名詞などに関しても、定冠詞を省略して表示していることがあります。尚、「序言」や「クルアーンの意味の翻訳について」といった、本書におけるクルアーンの対訳および頻出語・参考文献リスト以外の箇所では、既に個人名として通用している「アブドルアズィーズ」などに関しては、これらの表記法に則っていない場合もあることに、ご注意下さい。

翻訳者

第 1 章
開端章（アル＝ファーティハ）[1]

سُورَةُ الفَاتِحَةِ

1. 慈悲あまねく*慈愛深き*アッラー*の御名において。
2. 全創造物の主*、アッラー*に称賛*あれ、
3. 慈悲あまねく慈愛深きお方、
4. 報いの日*の支配者（に）。
5. 私たちはあなただけを崇拝*し、あなただけにお力添えを乞います[2]。
6. 私たちを、まっすぐな道[3]へとお導き下さい。
7. あなたが恩恵をお授けになった者たち[4]、つまり、（あなたの）お怒りを受けるでもなく、迷うでもない者たち[5]の道へ。[6]

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ ١

ٱلۡحَمۡدُ لِلَّهِ رَبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٢

ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ ٣

مَٰلِكِ يَوۡمِ ٱلدِّينِ ٤

إِيَّاكَ نَعۡبُدُ وَإِيَّاكَ نَسۡتَعِينُ ٥

ٱهۡدِنَا ٱلصِّرَٰطَ ٱلۡمُسۡتَقِيمَ ٦

صِرَٰطَ ٱلَّذِينَ أَنۡعَمۡتَ عَلَيۡهِمۡ غَيۡرِ ٱلۡمَغۡضُوبِ
عَلَيۡهِمۡ وَلَا ٱلضَّآلِّينَ ٧

---

1 クルアーン*の各スーラ*とアーヤ*は、預言者*ムハンマド*のマディーナ*移住*を基準に、それ以前の時期に下ったものを「マッカ*啓示」、それ以後に下ったものを「マディーナ*啓示」と呼ぶ。このスーラ*に関しては、マッカ*啓示説と、マディーナ*啓示説、その両方で下ったという説がある（アッ＝スユーティー1:55-56 参照）。またこのスーラ*は、全クルアーン*のメッセージが凝縮（ぎょうしゅく）されており、各礼拝の際にはその読誦（どくしょう）が義務づけられていることから、「クルアーン*の母」「啓典の開端」「繰り返し読誦される七節」など数々の別称もある（前掲書 1:174-177 参照）。

2 「崇拝*」だけでなく、アッラー*のお力添えがなければ何事も叶わない。イブン・カスィール*は「（このアーヤ*の）前半部分では、アッラー*に何か他のものを並べることとの決別が、そして後半部分では、自らに何らかの力が備わっているとすることの決別と、アッラー*のみに全てを委ねることが命じられている」とし、この意味こそが「開端章はクルアーン*の奥義（おうぎ）であり、開端章の奥義がこのアーヤ*である」という先人たちの言葉の所以（ゆえん）であるとしている（1:70 参照）。

3 来世での成功へと続く道である、イスラーム*のこと（ムヤッサル 1 頁参照）。

4 婦人章 66-69 も参照。

5 「お怒りを受ける」者たちとは、知識を授かってはいても、それに沿って行わなかった当時のユダヤ教徒*、および彼らと同様の状態にある者たちのこと。また「迷う」者たちとは、無知ゆえに導かれず、正しい道から迷い去ってしまった当時のキリスト教徒*、および彼らと同様の状態にある者たちのこと（前掲書、同頁参照）。

6 礼拝中かどうかに関わらず、開端章を読み終えた後には、「アーミーン（アッラーよ、聞き届けたまえ）」と唱えることが薦（すす）められている（前掲書、同頁参照）。

第2章
雌牛章（アル＝バカラ）[1]

سُورَةُ البَقَرَةِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. アリフ・ラーム・ミーム。[2]

الٓمٓ ١

2. それ（クルアーン*）は、疑惑の余地のない啓典、（アッラー*を）畏れる*者たちにとっての導きである。

ذَٰلِكَ ٱلۡكِتَٰبُ لَا رَيۡبَۛ فِيهِۛ هُدٗى لِّلۡمُتَّقِينَ ٢

3. （彼らは）不可視の世界*を信じ、礼拝を遵守し*、われら*が彼らに授けたものから（施しのために）費やす[3]者たち。

ٱلَّذِينَ يُؤۡمِنُونَ بِٱلۡغَيۡبِ وَيُقِيمُونَ ٱلصَّلَوٰةَ
وَمِمَّا رَزَقۡنَٰهُمۡ يُنفِقُونَ ٣

4. また（使徒*よ）、あなたに下されたもの（クルアーン*）と、あなた以前に下されたもの（啓典）を信じ、来世をこそ確信する者たち。

وَٱلَّذِينَ يُؤۡمِنُونَ بِمَآ أُنزِلَ إِلَيۡكَ وَمَآ أُنزِلَ مِن
قَبۡلِكَ وَبِٱلۡأٓخِرَةِ هُمۡ يُوقِنُونَ ٤

5. それらの者たちは、彼らの主*からの導きの上にある者たちである。そしてそれらの者たちこそは、成功者なのだ。

أُوْلَٰٓئِكَ عَلَىٰ هُدٗى مِّن رَّبِّهِمۡۖ وَأُوْلَٰٓئِكَ
هُمُ ٱلۡمُفۡلِحُونَ ٥

---

1 マディーナ*啓示。クルアーン最長のスーラ*。冒頭ではクルアーン*の真実性と、それに対する人々の様々な立場が描写されている。その後、アーダム*とイブリース*、ムーサー*とイスラーイールの子ら*との間に起こった逸話（いつわ）などと共に、アッラー*の全能性、唯一性*、英知、ご慈悲、恩恵、そこにおける信仰者と不信仰者*の態度が示される。このスーラ*の名称となっている「雌牛」の話も、その内の一つ。それから、建設されたばかりのイスラーム*国家が必要としていた様々な法規定の説明と、イスラーム*の信仰と法規定に基づいた共同体の必要性が提起される。そして最後は、預言者*ムハンマド*の共同体がその偉大な任務に選ばれたのだ、という証言によって締めくくられる。

2 これらの文字については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 浄財*や、家族その他、自分の扶養義務がある者のためなど、義務の出費をすると同時に、施しなど、推奨された任意の出費をすること（ムヤッサル 336 頁参照）。

6. （使徒*よ、）本当に、不信仰に陥った*者たちは、あなたが彼らに警告しようと警告しまいと同じことで、信じはしない。

إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ سَوَآءٌ عَلَيۡهِمۡ ءَأَنذَرۡتَهُمۡ
أَمۡ لَمۡ تُنذِرۡهُمۡ لَا يُؤۡمِنُونَ ٦

7. アッラー*は彼らの心と聴覚を塞がれたのであり、彼らの視覚には覆いがかけられている[1]。そして彼らには、厳しい懲罰があるのだ。

خَتَمَ ٱللَّهُ عَلَىٰ قُلُوبِهِمۡ وَعَلَىٰ سَمۡعِهِمۡۖ وَعَلَىٰٓ
أَبۡصَٰرِهِمۡ غِشَٰوَةٞۖ وَلَهُمۡ عَذَابٌ عَظِيمٞ ٧

8. また人々の中には、信仰者でもないのに、「私たちはアッラー*と最後の日*を信じる」と言う（偽信）者*がいる。

وَمِنَ ٱلنَّاسِ مَن يَقُولُ ءَامَنَّا بِٱللَّهِ وَبِٱلۡيَوۡمِ
ٱلۡأٓخِرِ وَمَا هُم بِمُؤۡمِنِينَ ٨

9. 彼らは、アッラーと信仰する者たちを欺いている（と思っている）。（実際は）気付かずに、自らを欺いているに外ならないのに[2]。

يُخَٰدِعُونَ ٱللَّهَ وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَمَا يَخۡدَعُونَ
إِلَّآ أَنفُسَهُمۡ وَمَا يَشۡعُرُونَ ٩

10. 彼らの心の中には病[3]があり、アッラー*は彼らに（その）病を上乗せされた。そして彼らには、彼らが嘘をついていたことゆえの、痛ましい懲罰があるのだ。

فِي قُلُوبِهِم مَّرَضٞ فَزَادَهُمُ ٱللَّهُ مَرَضٗاۖ
وَلَهُمۡ عَذَابٌ أَلِيمُۢ بِمَا كَانُواْ يَكۡذِبُونَ ١٠

11. また彼らは、「地上で腐敗*を働いてはならない」と言われれば、「私たちは外でもない、改善者だ」と言った。

وَإِذَا قِيلَ لَهُمۡ لَا تُفۡسِدُواْ فِي ٱلۡأَرۡضِ قَالُوٓاْ إِنَّمَا
نَحۡنُ مُصۡلِحُونَ ١١

12. 本当に彼らこそは、腐敗を働く者たちではないか。しかし彼らは、気づいていないのだ。

أَلَآ إِنَّهُمۡ هُمُ ٱلۡمُفۡسِدُونَ وَلَٰكِن
لَّا يَشۡعُرُونَ ١٢

---

1 彼らはシャイターン*に従ったために彼に制圧され、それゆえにアッラー*は彼らの心と聴覚をふさがれ、彼らの視覚を覆われた。それで彼らは導きを目にすることも、それに耳を傾けることも、それを理解することもない（イブン・カスィール 1:174 参照）。アーヤ*18、家畜章 50、雷鳴章 16、フード*章 20 とそれらの訳注も参照。

2 彼らは現世において、不信仰や疑念という本心を隠すべく、その外面を上辺だけの言葉や行為でもって取り繕（つくろ）う（アッ＝タバリー1:203 参照）。しかし、そのような行いの結末は全て自分に返ってくるため、実際のところ彼らが欺いているのは、彼ら自身なのである（婦人章 142、ムヤッサル 3 頁参照）。

3 宗教上の疑念のこと（ムヤッサル 3 頁参照）。

13. また彼らは、「人々（信仰者たち）が信仰したように、信仰せよ」と言われると、言った。「愚(おろ)か者たちが信じたように、私たちも信じると言うのか？」本当に彼らこそ、愚(おろ)か者なのではないか。しかし彼らには、分からないのだ。

وَإِذَا قِيلَ لَهُمْ ءَامِنُوا۟ كَمَآ ءَامَنَ ٱلنَّاسُ
قَالُوٓا۟ أَنُؤْمِنُ كَمَآ ءَامَنَ ٱلسُّفَهَآءُ ۗ أَلَآ إِنَّهُمْ
هُمُ ٱلسُّفَهَآءُ وَلَٰكِن لَّا يَعْلَمُونَ ﴿١٣﴾

14. また、彼らは信仰する者たちに会えば、「私たちは信じる」と言った。そして、彼らのシャイターン*達[1]とだけになれば、（彼らにこう）言ったのだ。「本当に私たちは、あなた方と共にある。私たちは、ただ（彼らを）愚弄(ぐろう)する者なのである」。

وَإِذَا لَقُوا۟ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ قَالُوٓا۟ ءَامَنَّا وَإِذَا خَلَوْا۟
إِلَىٰ شَيَٰطِينِهِمْ قَالُوٓا۟ إِنَّا مَعَكُمْ إِنَّمَا نَحْنُ
مُسْتَهْزِءُونَ ﴿١٤﴾

15. アッラー*が彼らを愚弄(ぐろう)されるのだ[2]。そしてかれは、彼らが彷徨(さまよ)うままに、彼らの放埓(ほうらつ)さに更なる拍車(はくしゃ)をおかけになる。

ٱللَّهُ يَسْتَهْزِئُ بِهِمْ وَيَمُدُّهُمْ فِى طُغْيَٰنِهِمْ
يَعْمَهُونَ ﴿١٥﴾

16. それらの者たちは導(みちび)きと引き換えに、迷妄(めいもう)を買った者たち。そして彼らの売買(ばいばい)は実を結ばなかったのであり、彼らは導(みちび)かれた者ではなかったのである。

أُو۟لَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ ٱشْتَرَوُا۟ ٱلضَّلَٰلَةَ بِٱلْهُدَىٰ
فَمَا رَبِحَت تِّجَٰرَتُهُمْ وَمَا كَانُوا۟
مُهْتَدِينَ ﴿١٦﴾

17. 彼ら（偽信者(にせ)*）の状態は、火を灯(とも)して（それが）自分の回りを照らしたかと思いきや、アッラー*がその明かりを消し去られ、闇(やみ)の中に何も見えないまま放置(ほうち)された者のようである。[3]

مَثَلُهُمْ كَمَثَلِ ٱلَّذِى ٱسْتَوْقَدَ نَارًا فَلَمَّآ
أَضَآءَتْ مَا حَوْلَهُۥ ذَهَبَ ٱللَّهُ بِنُورِهِمْ
وَتَرَكَهُمْ فِى ظُلُمَٰتٍ لَّا يُبْصِرُونَ ﴿١٧﴾

---

1 不信仰者*たち、あるいは偽信者*たちの長のこと（ムヤッサル 3 頁参照）。

2 アッラー*は彼らの愚弄に対し、罰でお報いになる。彼らへの「罰という応報」が、その原因である「愚弄」という罪の名そのもので表わされているのは、アラビア語でよく用いられる修辞的表現（アル＝クルトゥビー1:207 参照）。

3 偽信者*は表面上、信仰者たちから「信仰」という火を借り、現世において利益を得る。しかし死んでしまえば、その明かりを利用することも不可能となり、墓の中の闇、不信仰の闇、偽の信仰の闇、様々な罪の闇に包まれ、最後には地獄の闇へと放りこまれてしまう（アッ＝サァディー44 頁参照）。

18. （彼らは真理において）聾(つんぼ)で、唖(おし)で、盲人(もうじん)[1]であり、（迷妄(めいもう)から信仰へと）戻(もど)ることがない。

صُمٌّۢ بُكۡمٌ عُمۡيٞ فَهُمۡ لَا يَرۡجِعُونَ ١٨

19. あるいは（彼らは）、闇(やみ)と雷鳴(らいめい)[2]と稲光(いなびかり)を伴(ともな)う、天からの大雨（の中にある者たち）のよう。彼らは死を恐れ、稲妻(いなづま)ゆえに指でその耳を塞(ふさ)ぐ[3]。アッラー*は、不信仰者*たちを悉(ことごと)く包囲(ほうい)される*お方。

أَوۡ كَصَيِّبٖ مِّنَ ٱلسَّمَآءِ فِيهِ ظُلُمَٰتٞ وَرَعۡدٞ
وَبَرۡقٞ يَجۡعَلُونَ أَصَٰبِعَهُمۡ فِيٓ ءَاذَانِهِم مِّنَ
ٱلصَّوَٰعِقِ حَذَرَ ٱلۡمَوۡتِۚ وَٱللَّهُ مُحِيطُۢ بِٱلۡكَٰفِرِينَ ١٩

20. 稲光(いなびかり)は、彼らの視覚を奪(うば)わんばかり。彼らは（それが）彼らを照らす度(たび)に歩(ほ)を進め、暗闇(くらやみ)が彼らを覆(おお)うと立ち止まる。そして、もしアッラー*がお望みなら、彼らの聴覚(ちょうかく)と視覚をお取り去りになったのである。本当にアッラー*は、全てのことがお出来のお方なのだから。

يَكَادُ ٱلۡبَرۡقُ يَخۡطَفُ أَبۡصَٰرَهُمۡۖ كُلَّمَآ أَضَآءَ
لَهُم مَّشَوۡاْ فِيهِ وَإِذَآ أَظۡلَمَ عَلَيۡهِمۡ قَامُواْۚ
وَلَوۡ شَآءَ ٱللَّهُ لَذَهَبَ بِسَمۡعِهِمۡ وَأَبۡصَٰرِهِمۡۚ
إِنَّ ٱللَّهَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٞ ٢٠

21. 人々よ、あなた方と、それ以前の者たちを創造(そうぞう)されたあなた方の主(しゅ)*（アッラー*）を崇拝(すうはい)*するのだ。それはあなた方が、敬虔(けいけん)*になるためである。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ ٱعۡبُدُواْ رَبَّكُمُ ٱلَّذِي خَلَقَكُمۡ
وَٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِكُمۡ لَعَلَّكُمۡ تَتَّقُونَ ٢١

22. あなた方のために大地を敷物(しきもの)とされ、空を屋根とされ、天からは（雨）水をお降(ふ)らしになり、あなた方の糧(かて)とすべく、それにより（様々な）果実を実らせられたお方を。

ٱلَّذِي جَعَلَ لَكُمُ ٱلۡأَرۡضَ فِرَٰشٗا وَٱلسَّمَآءَ
بِنَآءٗ وَأَنزَلَ مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءٗ فَأَخۡرَجَ بِهِۦ مِنَ
ٱلثَّمَرَٰتِ رِزۡقٗا لَّكُمۡۖ فَلَا تَجۡعَلُواْ لِلَّهِ أَندَادٗا
وَأَنتُمۡ تَعۡلَمُونَ ٢٢

---

1 真理を受け入れない者が、それを聞かない者として「聾」、真理を語ろうともしない、あるいは表面上は信仰者ではあっても、実はそれとは違うものを内に秘めた者が「唖」、真理を見る眼識のない者が「盲人」同様である、と形容されている（アル＝バガウィー1:90 参照）。アーヤ*7、家畜章 50、フード*章 20、24 の訳注も参照。

2 この「雷鳴」は、先代の主な解釈学者らの解釈によれば、「雲を操る天使*の声」のこと（イブン・アティーヤ 1:102 参照）。

3 一説にこれは、真理への疑念と不信仰の間をゆれ動く、この前のアーヤ*で描写されたのとは別の偽信者*たちについてのたとえ。つまり「闇に降る雨」は疑念と不信仰、偽の信仰であり、「雷鳴」は恐怖、「稲光」は、時に彼らの心にきらめく信仰の光であるという（イブン・カスィール 1:189-190 参照）。

ならば（アッラー*が唯一の主*であり、崇拝*すべきお方だと）知りつつ、アッラー*に同位者を設けて（崇拝*して）はならない。

23. （不信仰者*たちよ、）もしあなた方が、われら*がわれら*の僕（ムハンマド*）に下したもの（クルアーン*）について疑惑を抱いているのなら、それと同等のスーラ*を一つでもよいから創作し、アッラー*以外のあなた方の証人（の助け）を呼んでみるがいい。もしあなた方が、本当のことを言っているというのならば[1]。

وَإِن كُنتُمْ فِي رَيْبٍ مِّمَّا نَزَّلْنَا عَلَىٰ عَبْدِنَا فَأْتُوا۟
بِسُورَةٍ مِّن مِّثْلِهِۦ وَٱدْعُوا۟ شُهَدَآءَكُم مِّن
دُونِ ٱللَّهِ إِن كُنتُمْ صَٰدِقِينَ ٢٣

24. そして、もしそう出来ないのなら――あなた方は絶対にそう出来ないのだが――、（預言者*への信仰とアッラー*への服従によって、）その燃料が人間と石である（地獄の）炎から身を守るのだ[2]。それは不信仰者*たちのために準備されている。

فَإِن لَّمْ تَفْعَلُوا۟ وَلَن تَفْعَلُوا۟ فَٱتَّقُوا۟ ٱلنَّارَ ٱلَّتِى
وَقُودُهَا ٱلنَّاسُ وَٱلْحِجَارَةُ أُعِدَّتْ
لِلْكَٰفِرِينَ ٢٤

25. また（使徒*よ）、信仰して正しい行い*を行う者たちには、彼らのために、その下から河川が流れる楽園があるという吉報を伝えよ。彼らはそこで果実の糧を授かるたびに「これは、私たちが以前授かっていたものだ」と言う――彼らには、似たものが授けられるのだ[3]――。またそこには彼らの

وَبَشِّرِ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
أَنَّ لَهُمْ جَنَّٰتٍ تَجْرِى مِن تَحْتِهَا ٱلْأَنْهَٰرُ
كُلَّمَا رُزِقُوا۟ مِنْهَا مِن ثَمَرَةٍ رِّزْقًا قَالُوا۟
هَٰذَا ٱلَّذِى رُزِقْنَا مِن قَبْلُ وَأُتُوا۟ بِهِۦ
مُتَشَٰبِهًا وَلَهُمْ فِيهَآ أَزْوَٰجٌ مُّطَهَّرَةٌ وَهُمْ
فِيهَا خَٰلِدُونَ ٢٥

---

1 この挑戦はマッカ*でもマディーナ*でも、最も雄弁な民であるアラブ人たちに対して何度も向けられた（ユーヌス*章 38、フード*章 13、夜の旅章 88、山章 33-34 も参照）が、彼らのイスラーム*に対する敵意と憎悪にも関わらず、その挑戦は破られなかった。そしてアーヤ*24 にもある通り、それは現在に至るまで、そして未来でも破られることはないのである（イブン・カスィール 1:199 参照）。

2 預言者*たち章 98 とその訳注、禁止章 6 も参照。

3 一説に、それらの果実は色・見た目・名前において、過去に口にしていた果実と似ているが、その風味とおいしさは新しいものである（ムヤッサル 5 頁参照）。

ために、純潔な妻[1]たちがいる。彼らはそこに永遠に住むのである。

26. 本当にアッラー*は、蚊やそれ以上の（取るに足らない）ものでも、譬えとされることを恥じたりはなされない[2]。信仰する者たちはといえば、それが主*からの真理であるということを知る。そして一方、不信仰に陥った*者たちは、「アッラー*は、この譬えで何を望んだのか？」などと言う。かれはそれ（試練）によって多くの者を迷わせ、また多くの者を導かれるのだ。かれが迷わせられるのは、放逸な者たちだけである。

۞إِنَّ ٱللَّهَ لَا يَسۡتَحۡيِۦٓ أَن يَضۡرِبَ مَثَلٗا
مَّا بَعُوضَةٗ فَمَا فَوۡقَهَاۚ فَأَمَّا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ
فَيَعۡلَمُونَ أَنَّهُ ٱلۡحَقُّ مِن رَّبِّهِمۡۖ وَأَمَّا
ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ فَيَقُولُونَ مَاذَآ أَرَادَ ٱللَّهُ
بِهَٰذَا مَثَلٗاۘ يُضِلُّ بِهِۦ كَثِيرٗا
وَيَهۡدِي بِهِۦ كَثِيرٗاۚ وَمَا يُضِلُّ بِهِۦٓ
إِلَّا ٱلۡفَٰسِقِينَ ٢٦

27. （彼らは）アッラー*との契約[3]をその確約後に破り、アッラー*が繋ぎとめられるよう

ٱلَّذِينَ يَنقُضُونَ عَهۡدَ ٱللَّهِ مِنۢ بَعۡدِ
مِيثَٰقِهِۦ وَيَقۡطَعُونَ مَآ أَمَرَ ٱللَّهُ بِهِۦٓ

---

1 クルアーン*ではこの他のアーヤ*でも、男性に対する天国での褒美（ほうび）として、「（外面的にも内面的にも）純潔な妻」がいると言及されているが、女性に関して同様の言及はない。ただ男性にも女性にも、天国の住人には等しく褒美が授けられ、望むもの全てが手に入ることが示されているのみである（イムラーン家章 195、金の装飾章 70 など参照）。またこの問題に関連する預言者*ムハンマド*の伝承として、「天国には、独身者はいない」（ムスリム「天国とその享楽、及びその住人の描写の書」14 参照）、「女性は（天国において）最後の夫のものとなる」（アル＝アルバーニー「真正な伝承の連鎖」1281）などがある（出来事章 35-37 の訳注も参照）。いずれにせよ、人間のことを最もよくご存知である英明なアッラー*が、「女性を天国へと激励されるにあたって、美しい男性という褒美を言及されなかったことも、その英知のなせる業（わざ）である」（イブン・ウサイミーン「価値ある集成」1:175 参照）。整列者章 48、煙霧章 54 とその訳注も参照。

2 アッラー*以外に崇拝*されているものの無能さを証明するにあたり、クルアーン*の中では蝿（はえ）や蜘蛛（くも）がたとえとして言及されている（巡礼*章 73、蜘蛛章 41 参照）。ある種の人々はそのような譬（たと）えを嘲笑（ちょうしょう）したが、実はそれは信仰者とそうでない者を区別する試練であった（アッ＝タバリー1:272-273、ムヤッサル 5 参照）。

3 この「契約」とは、使徒*たちが伝達した諸啓典の中で明らかにされた、アッラー*のご命令のことであるとされる（アル＝クルトゥビー1:246 参照）。アーヤ*40、食卓章 12 も参照。

命じられたものを断って[1]、地上で腐敗*を働く者たち。それらの者たちこそは、損失者である。

أَن يُوصَلَ وَيُفْسِدُونَ فِي ٱلْأَرْضِۚ أُوْلَٰٓئِكَ
هُمُ ٱلْخَٰسِرُونَ ٢٧

28. （シルク*の徒よ、）あなた方はどうして、アッラー*を否定するのか？　かれは、（創造される以前、）死んでいる状態にあったあなた方に生命をお授けになり、やがてあなた方を死なせ給い、そして（また復活の日*には）あなた方に生をお授けになり、それからあなた方はかれの御許に戻される[2]というのに？

كَيْفَ تَكْفُرُونَ بِٱللَّهِ وَكُنتُمْ
أَمْوَٰتٗا فَأَحْيَٰكُمْۖ ثُمَّ يُمِيتُكُمْ ثُمَّ
يُحْيِيكُمْ ثُمَّ إِلَيْهِ تُرْجَعُونَ ٢٨

29. かれは地上にある全てのものをあなた方のために創造され、それから天（の創造）をお望みになり、七層の天を完成されたお方。そしてかれは、全てのことをご存知のお方なのである。

هُوَ ٱلَّذِي خَلَقَ لَكُم مَّا فِي ٱلْأَرْضِ جَمِيعٗا
ثُمَّ ٱسْتَوَىٰٓ إِلَى ٱلسَّمَآءِ فَسَوَّىٰهُنَّ سَبْعَ
سَمَٰوَٰتٖۚ وَهُوَ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمٞ ٢٩

30. （使徒*よ、）あなたの主*が天使*たちに、「本当にわれは、地上に継承者[3]を置こう」と仰せられた時のこと（を、人々に思い起こさせよ）。彼ら（天使*たち）は申し上げた。「あなたはそこで腐敗を働き、血を流す者を（継承者として）置かれるのですか？　私たちはあなたへの称賛*と共に（あなたを）称え*、あなたを神聖なお方と

وَإِذْ قَالَ رَبُّكَ لِلْمَلَٰٓئِكَةِ إِنِّي جَاعِلٞ فِي ٱلْأَرْضِ
خَلِيفَةٗۖ قَالُوٓاْ أَتَجْعَلُ فِيهَا مَن يُفْسِدُ فِيهَا
وَيَسْفِكُ ٱلدِّمَآءَ وَنَحْنُ نُسَبِّحُ بِحَمْدِكَ
وَنُقَدِّسُ لَكَۖ قَالَ إِنِّيٓ أَعْلَمُ مَا لَا تَعْلَمُونَ ٣٠

---

1 「アッラー*が繋ぎとめられるよう命じられたもの」とは、家族や親類との良好な関係を保つことを始め、全ての使徒*・預言者*を分け隔（へだ）てなく信仰すること、信仰と行いを別々にしないことなど、イスラーム*において繋ぎとめておくべき全ての命令を指すと言われる（アル＝クルトゥビー1:247 参照）。

2 赦し深いお方章 11 も参照。

3 「継承者」という訳語を当てたアラビア語は「ハリーファ」で、語源的には文字通り「受け継ぐ者」。ここでは、地上の統治を世代から世代へと受け継いでいく人間のことを指す、とされる（ムヤッサル 6 頁参照）。一説には、アーダム*自身のこと（アル＝クルトゥビー1:263 参照）。

して崇(あが)めていますのに」。かれは仰(おお)せられた。「本当にわれは、あなた方が知らないことを知っているのだ」。

31. かれはアーダム*に、(物の)名を全てお教えになった。それからそれらを天使*たちに示して、仰(おお)せられた。「これらの物の名を、われに告(つ)げてみよ。もしあなた方が、真実を語っているというのであれば」。

وَعَلَّمَ ءَادَمَ ٱلۡأَسۡمَآءَ كُلَّهَا ثُمَّ عَرَضَهُمۡ عَلَى
ٱلۡمَلَٰٓئِكَةِ فَقَالَ أَنۢبِـُٔونِي بِأَسۡمَآءِ هَٰٓؤُلَآءِ
إِن كُنتُمۡ صَٰدِقِينَ ٣١

32. 彼らは申し上げた。「あなたに称(たた)え*あれ。あなたが私たちに教えて下さったもの以外、私たちには知識などございません。あなたこそは全知者、英知あふれる*お方なのですから」。

قَالُواْ سُبۡحَٰنَكَ لَا عِلۡمَ لَنَآ إِلَّا مَا عَلَّمۡتَنَآۖ إِنَّكَ أَنتَ
ٱلۡعَلِيمُ ٱلۡحَكِيمُ ٣٢

33. かれは仰(おお)せられた。「アーダム*よ、彼ら(天使*たち)にそれらの名を告(つ)げてやるがよい」。そして彼(アーダム*)がそれらを彼らに告(つ)げた時、かれは仰(おお)せられた。「一体われは、あなた方に言わなかったのか? われこそは諸天と大地における不可視(ふかし)の世界*も、あなた方が露(あら)わにすることも隠(かく)すことも知っているのだ、ということを」。

قَالَ يَٰٓـَٔادَمُ أَنۢبِئۡهُم بِأَسۡمَآئِهِمۡۖ فَلَمَّآ أَنۢبَأَهُم
بِأَسۡمَآئِهِمۡ قَالَ أَلَمۡ أَقُل لَّكُمۡ إِنِّيٓ أَعۡلَمُ
غَيۡبَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ وَأَعۡلَمُ مَا تُبۡدُونَ
وَمَا كُنتُمۡ تَكۡتُمُونَ ٣٣

34. われら*が天使*たちに「アーダム*にサジダ*せよ[1]」と言い、そして彼らがサジダ*した時のこと(を思い起こさせよ)。但(ただ)しイブリース*は、別だった。彼は(サジダ*を)拒絶(きょぜつ)し、驕(おご)り高ぶり、不信仰者*となった。[2]

وَإِذۡ قُلۡنَا لِلۡمَلَٰٓئِكَةِ ٱسۡجُدُواْ لِأٓدَمَ فَسَجَدُوٓاْ إِلَّآ
إِبۡلِيسَ أَبَىٰ وَٱسۡتَكۡبَرَ وَكَانَ مِنَ ٱلۡكَٰفِرِينَ ٣٤

---

1 このサジダ*は崇拝*行為としてのものではなく、アーダム*への挨拶と敬意を表明する種類のもの。尚イスラーム*において、この種のサジダ*は禁じられた(ムヤッサル 457 頁参照)。

2 この出来事の詳細に関しては、高壁章 11-25、アル=ヒジュル章 28-42、夜の旅章 61-65、ター・ハー章 116-123、サード章 71-83 なども参照。イブリース*の言い分については、高壁章 8 とその訳注を参照。

35. そしてわれら*は言った。「アーダム*よ、あなたとあなたの妻は楽園[1]に住んで、その中のどこでも望む所から快く存分に食べるがよい。そして、この木[2]には近づいて（その実を食べて）はならない。（そうすれば）あなた方は、不正*者になってしまうから」。

وَقُلۡنَا يَٰٓـَٔادَمُ ٱسۡكُنۡ أَنتَ وَزَوۡجُكَ ٱلۡجَنَّةَ
وَكُلَا مِنۡهَا رَغَدًا حَيۡثُ شِئۡتُمَا وَلَا تَقۡرَبَا
هَٰذِهِ ٱلشَّجَرَةَ فَتَكُونَا مِنَ ٱلظَّٰلِمِينَ ٣٥

36. するとシャイターン*は、それ（木）で二人を（唆して足を）滑らさせ、彼らがいた場所から追い出してしまった[3]。われら*は言った。「あなた方は（シャイターン*と）互いに敵となって、（楽園から）落ちて行け。そしてあなた方には地上で、暫しの[4]住まいと楽しみがある」。

فَأَزَلَّهُمَا ٱلشَّيۡطَٰنُ عَنۡهَا فَأَخۡرَجَهُمَا مِمَّا كَانَا فِيهِۖ
وَقُلۡنَا ٱهۡبِطُواْ بَعۡضُكُمۡ لِبَعۡضٍ عَدُوّٞۖ وَلَكُمۡ فِي
ٱلۡأَرۡضِ مُسۡتَقَرّٞ وَمَتَٰعٌ إِلَىٰ حِينٖ ٣٦

37. それからアーダム*は、彼の主*から御言葉[5]を授かった。そして（その御言葉で悔悟し）、かれはその悔悟をお受け入れになった。本当にかれこそは、よく悔悟をお受け入れになる*お方、慈愛深い*お方なのだから。

فَتَلَقَّىٰٓ ءَادَمُ مِن رَّبِّهِۦ كَلِمَٰتٖ فَتَابَ عَلَيۡهِۚ
إِنَّهُۥ هُوَ ٱلتَّوَّابُ ٱلرَّحِيمُ ٣٧

38. われら*は言った、「あなた方は皆、そこ（楽園）から落ちて行け。そして、もしあなた方にわが御許から導き（使徒*と

قُلۡنَا ٱهۡبِطُواْ مِنۡهَا جَمِيعٗاۖ فَإِمَّا يَأۡتِيَنَّكُم مِّنِّي
هُدٗى فَمَن تَبِعَ هُدَايَ فَلَا خَوۡفٌ عَلَيۡهِمۡ

---

1 アーダム*とその妻ハウワーゥ*が住んでいた楽園に関しては、それが永劫（えいごう）の天国であるという説と、地上の楽園であるという説がある（イブン・カスィール 1:233 参照）。

2 この木の種類を特定する真正*な伝承は、皆無（かいむ）とされる（アッ＝タバリー 1:336-340 参照）。

3 預言者*・使徒*共に、アッラー*の教えの伝達においては無謬（むびゅう）である。大半の学者は、大罪*以外のその他の間違い・忘却などは、彼らにも起き得ることとしているが、彼らがそれを承認し続けることはない、としている（イブン・タイミーヤ「預言者的慣行の手法」1:470-472 参照）。

4 天命を迎えるまで、あるいは復活の日*まで、という意味（アル＝クルトゥビー1:321 参照）。

5 高壁章 23 の言葉のことを指す、と言われる（ムヤッサル 6 頁参照）。

啓典）が到来した時、わが導きに従う者があれば、彼らには怖れもなければ、悲しむこともない[1]。

وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ٣٨

39. そして、われら*の御徴[2]を否定し、それを嘘とした者たちは（地獄の）業火の民。彼らはそこに、永遠に留まるのだ」。

وَٱلَّذِينَ كَفَرُواْ وَكَذَّبُواْ بِـَٔايَٰتِنَآ أُوْلَٰٓئِكَ
أَصْحَٰبُ ٱلنَّارِۖ هُمْ فِيهَا خَٰلِدُونَ ٣٩

40. イスラーイールの子ら*よ、われがあなた方に授けたわが恩恵を思い起こし、われとの契約を全うせよ[3]。（そうすれば）われも、あなた方との契約を全うしよう[4]。そして、われだけを恐れるのだ。

يَٰبَنِيٓ إِسْرَٰٓءِيلَ ٱذْكُرُواْ نِعْمَتِيَ ٱلَّتِيٓ أَنْعَمْتُ عَلَيْكُمْ
وَأَوْفُواْ بِعَهْدِيٓ أُوفِ بِعَهْدِكُمْ وَإِيَّٰيَ فَٱرْهَبُونِ ٤٠

41. また、われがあなた方の許にあるものの確証として下したもの（クルアーン*）を、信じよ。それを否定する者たちの先駆けとなってはならない。そして、われの御徴と引き換えに僅かな値打ちのものを買ったりせず、われだけを畏れ*よ。

وَءَامِنُواْ بِمَآ أَنزَلْتُ مُصَدِّقٗا لِّمَا مَعَكُمْ
وَلَا تَكُونُوٓاْ أَوَّلَ كَافِرِۭ بِهِۦۖ وَلَا تَشْتَرُواْ
بِـَٔايَٰتِي ثَمَنٗا قَلِيلٗا وَإِيَّٰيَ فَٱتَّقُونِ ٤١

42. また、知っていながら、真理に虚妄を紛れさせたり、真理を隠蔽したりしてはならない。

وَلَا تَلْبِسُواْ ٱلْحَقَّ بِٱلْبَٰطِلِ وَتَكْتُمُواْ ٱلْحَقَّ وَأَنتُمْ
تَعْلَمُونَ ٤٢

43. そして礼拝を遵守*し、浄財*を支払い、ルクーゥ*する者たちと一緒にルクーゥ*するのだ。

وَأَقِيمُواْ ٱلصَّلَوٰةَ وَءَاتُواْ ٱلزَّكَوٰةَ
وَٱرْكَعُواْ مَعَ ٱلرَّٰكِعِينَ ٤٣

---

1 正しい教えに従って行う者は、近づいて来る来世のことで怖がることもなければ、過ぎ去って行った現世について悲しむこともない（ムヤッサル 7 頁参照）。

2 この「御徴」とは、クルアーン*のアーヤ*や、アッラーの唯一性*を示す証拠のこと（前掲書、同頁参照）。

3 全ての啓典と使徒*を信じ、アッラー*の教えに従うこと（前掲書、同頁参照）。アーヤ*27も参照。

4 つまり現世における慈悲と、来世における救いのこと（前掲書、同頁参照）。

44. 一体（イスラーイールの子ら*と、その学者たちよ）、あなた方は啓典を読誦しているというのに、人々には善を命じながら、自分たちのことは忘れているのか？　一体、あなた方は分別しないのか？

۞أَتَأْمُرُونَ ٱلنَّاسَ بِٱلْبِرِّ وَتَنسَوْنَ أَنفُسَكُمْ
وَأَنتُمْ تَتْلُونَ ٱلْكِتَٰبَ ۚ أَفَلَا تَعْقِلُونَ ﴿٤٤﴾

45. また、忍耐*と礼拝を助力とせよ。それは、（アッラー*に）恭順な者[1]たち以外には困難なことであるが。

وَٱسْتَعِينُوا۟ بِٱلصَّبْرِ وَٱلصَّلَوٰةِ ۚ وَإِنَّهَا لَكَبِيرَةٌ
إِلَّا عَلَى ٱلْخَٰشِعِينَ ﴿٤٥﴾

46. （彼らは復活の日*に、）自分たちの主*に拝謁することを、そして自分たちがかれの御許に戻っていくということを、確信する者たち。

ٱلَّذِينَ يَظُنُّونَ أَنَّهُم مُّلَٰقُوا۟ رَبِّهِمْ وَأَنَّهُمْ إِلَيْهِ
رَٰجِعُونَ ﴿٤٦﴾

47. イスラーイールの子ら*よ、われがあなた方に授けたわが恩恵を思い起こすがよい。またわれがあなた方を、外のいかなる者よりも引き立てたことを[2]。

يَٰبَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ ٱذْكُرُوا۟ نِعْمَتِىَ ٱلَّتِىٓ أَنْعَمْتُ
عَلَيْكُمْ وَأَنِّى فَضَّلْتُكُمْ عَلَى ٱلْعَٰلَمِينَ ﴿٤٧﴾

48. そして誰も他人を益することもなければ、いかなる執り成しも受理されず[3]、またどんな代償も受け入れられなければ、彼らが（誰にも）助けられることもない（復活の）日を、恐れよ。

وَٱتَّقُوا۟ يَوْمًا لَّا تَجْزِى نَفْسٌ عَن نَّفْسٍ شَيْـًٔا
وَلَا يُقْبَلُ مِنْهَا شَفَٰعَةٌ وَلَا يُؤْخَذُ مِنْهَا عَدْلٌ
وَلَا هُمْ يُنصَرُونَ ﴿٤٨﴾

---

1 「恭順」と訳した原語は、「ハシャア（慎ましくあること）」の派生形。静けさと慎（つつ）ましさが身体においても表れているような、心の状態のこと（アル＝クルトゥビー1:374参照）。ここではアッラー*に対し慎み深く、かれへの服従において従順で、かれへの恐れゆえに謙虚（けんきょ）な者たちのことを指す（アッ＝タバリー1:375 参照）。

2 これは彼らの父祖（ふそ）の代のことであり、あくまで当時に限っての話である（ムヤッサル 7 頁参照）。

3 このアーヤ*は、不信仰のまま悔悟（かいご）することなく、死を迎えた者に対して下ったものとされる。というのも、復活の日*の執り成しが起こることは、信憑（しんぴょう）性の高い多くの伝承によって確証されているからである（アッ＝タバリー1:382-383）。例えば、預言者*ムハンマド*には復活の日*、彼の共同体に対し、執り成しの大きな権限が与えられる（ムスリム「信仰の書」345 参照）。ター・ハー章 109 も参照。

49. また、われら*があなた方[1]を、フィルアウン*の一族から救い出した時のこと（を思い起こすがよい）。彼らはあなた方に過酷（かこく）な懲罰（ちょうばつ）を味わわせ、男児は殺しまくり、女児は生かしておいた[2]。そこには、あなた方の主（しゅ）*からの偉大（いだい）な試練（しれん）があったのだ。

وَإِذْ نَجَّيْنَٰكُم مِّنْ ءَالِ فِرْعَوْنَ يَسُومُونَكُمْ
سُوٓءَ ٱلْعَذَابِ يُذَبِّحُونَ أَبْنَآءَكُمْ
وَيَسْتَحْيُونَ نِسَآءَكُمْ ۚ وَفِى ذَٰلِكُم بَلَآءٌ مِّن
رَّبِّكُمْ عَظِيمٌ ﴿٤٩﴾

50. また、われら*があなた方のために海を分けてあなた方を救い、あなた方の見ている前でフィルアウン*の一族を溺（おぼ）れさせた時[3]のこと（を思い起こせ）。

وَإِذْ فَرَقْنَا بِكُمُ ٱلْبَحْرَ فَأَنجَيْنَٰكُمْ وَأَغْرَقْنَآ
ءَالَ فِرْعَوْنَ وَأَنتُمْ تَنظُرُونَ ﴿٥٠﴾

51. また、われら*がムーサー*と四十夜を約束した時[4]のこと（を思い起こすのだ）。その後あなた方は彼の（立ち去った）後に、不正*にも仔牛（こうし）を（崇拝（すうはい）*の対象と）なした。[5]

وَإِذْ وَٰعَدْنَا مُوسَىٰٓ أَرْبَعِينَ لَيْلَةً ثُمَّ ٱتَّخَذْتُمُ
ٱلْعِجْلَ مِنۢ بَعْدِهِۦ وَأَنتُمْ ظَٰلِمُونَ ﴿٥١﴾

52. そしてその後、われら*はあなた方が感謝するようにと、あなた方を大目に見てやった。

ثُمَّ عَفَوْنَا عَنكُم مِّنۢ بَعْدِ ذَٰلِكَ لَعَلَّكُمْ
تَشْكُرُونَ ﴿٥٢﴾

---

1 先代のイスラーイールの子ら*の子孫に対して、「あなた方の父祖」ではなく、あたかも彼らが当事者であるかのように「あなた方」と語りかけている。それは彼らが、フィルアウン*から救われた時代のイスラーイールの子ら*の子孫であり、その恩恵が彼らにも及んでいるためである（アッ＝タバリー1:385 参照）。

2 一説によると、ある日フィルアウン*は、エジプトを滅ぼす男がイスラーイールの民から出現することを暗示する夢を見た。それで一定期間、イスラーイールの民に生まれた男児を皆殺しにして女児は生かしておき、成人には苦役（くえき）を強要して虐（しいた）げた。しかし苦役を課すための労働力が少なくなると、男児の皆殺しは隔年（かくねん）ごとになった。ムーサー*が生まれたのは、男児が殺される年であったとされる（アッ＝タバリー 1:386-389、イブン・カスィール 1:258、5:283 参照）。

3 同様の場面として、ユーヌス*章 90-92、ター・ハー章 77-78、詩人たち章 52-66、煙霧章 23-24 も参照。

4 アッラー*が、ムーサー*にトーラー*を下すことを約束した四十夜のこと（ムヤッサル 8 頁参照）。高壁章 142 以降も参照。

5 イスラーイールの子ら*と仔牛の話については、高壁章 148 以降、ター・ハー章 83-98 も参照。

53. また、あなた方が導かれるようにと、われら*がムーサー*に識別の啓典[1]を授けた時のこと（を思い起こすのだ）。

وَإِذۡ ءَاتَيۡنَا مُوسَى ٱلۡكِتَٰبَ وَٱلۡفُرۡقَانَ
لَعَلَّكُمۡ تَهۡتَدُونَ ٥٣

54. そして、ムーサー*が彼の民に（こう）言った時のこと（を思い起こすがよい）。「我が民よ、本当にあなた方は仔牛を（崇拝*の対象と）なしたことで、自分自身に不正*を働いた。ならば、あなた方の創生者*に悔悟し、あなた方自身を殺すのだ[2]。それがあなた方にとって、あなた方の創生者の御許でより善いことなのである」。こうして、かれはあなた方から悔悟をお受け入れになった。本当にかれこそは、よく悔悟をお受け入れになる*お方、慈愛深い*お方なのだから。

وَإِذۡ قَالَ مُوسَىٰ لِقَوۡمِهِۦ يَٰقَوۡمِ إِنَّكُمۡ ظَلَمۡتُمۡ
أَنفُسَكُم بِٱتِّخَاذِكُمُ ٱلۡعِجۡلَ فَتُوبُوٓاْ إِلَىٰ
بَارِئِكُمۡ فَٱقۡتُلُوٓاْ أَنفُسَكُمۡ ذَٰلِكُمۡ
خَيۡرٞ لَّكُمۡ عِندَ بَارِئِكُمۡ فَتَابَ عَلَيۡكُمۡۚ
إِنَّهُۥ هُوَ ٱلتَّوَّابُ ٱلرَّحِيمُ ٥٤

55. また、あなた方が（こう）言った時のこと（を思い起こすのだ）。「ムーサー*よ、私たちはアッラー*をこの眼で見るまで、あなたを信じない」。それであなた方の見ている前で、稲妻があなた方を捕らえ（、あなた方は死んでしまっ）た。

وَإِذۡ قُلۡتُمۡ يَٰمُوسَىٰ لَن نُّؤۡمِنَ لَكَ حَتَّىٰ نَرَى ٱللَّهَ
جَهۡرَةٗ فَأَخَذَتۡكُمُ ٱلصَّٰعِقَةُ وَأَنتُمۡ تَنظُرُونَ ٥٥

56. それから、われら*はあなた方が感謝するようにと、あなた方が死んだ後に生き返した。

ثُمَّ بَعَثۡنَٰكُم مِّنۢ بَعۡدِ مَوۡتِكُمۡ لَعَلَّكُمۡ
تَشۡكُرُونَ ٥٦

57. そして、われら*は薄い白雲であなた方の上に日陰を作り、あなた方にマンヌとウズラ

وَظَلَّلۡنَا عَلَيۡكُمُ ٱلۡغَمَامَ وَأَنزَلۡنَا عَلَيۡكُمُ ٱلۡمَنَّ
وَٱلسَّلۡوَىٰۖ كُلُواْ مِن طَيِّبَٰتِ مَا رَزَقۡنَٰكُمۡۚ

1 真理と虚妄（きょもう）とを分ける識別の書であった、トーラー*のこと（ムヤッサル 8 頁参照）。

2 彼らの内の一部が、お恵み深い創造主を差しおいて仔牛を崇拝*した罪の悔悟が受け入れられる条件は、互いに殺し合うことであった。アッラー*のこのご命令に従って死んだ者は殉教（じゅんきょう）者となり、生き残った者は悔悟を受け入れられた者となった（イブン・カスィール 1:261-263 参照）。

[1]を下し（て、言っ）た。「われら*があなた方に授(さず)けた、よきものを食べよ」。彼らがわれら*に不正*を働いたのではない。しかし彼らは、自分自身に不正*を働いていたのである。[2]

وَمَا ظَلَمُونَا وَلَٰكِن كَانُوٓا۟ أَنفُسَهُمْ يَظْلِمُونَ ٥٧

58. また、われら*が（こう）言った時のこと（を思い起こすのだ）。「この町[3]に入り、どこからでも快(こころよ)く存分(ぞんぶん)に食べよ。そして身を低めて謹(つつし)んで門に入り、『（私たちが望むのは、罪(つみ)の）免除(めんじょ)です』と言うのだ。（そうすれば）われら*は、あなた方の過(あやま)ちを赦(ゆる)してやろう。善を尽(つ)くす者[4]には、更(さら)に（褒美(ほうび)を）上乗(うわの)せしてやる」。

وَإِذْ قُلْنَا ٱدْخُلُوا۟ هَٰذِهِ ٱلْقَرْيَةَ فَكُلُوا۟ مِنْهَا
حَيْثُ شِئْتُمْ رَغَدًا وَٱدْخُلُوا۟ ٱلْبَابَ سُجَّدًا
وَقُولُوا۟ حِطَّةٌ نَّغْفِرْ لَكُمْ خَطَٰيَٰكُمْ ۚ
وَسَنَزِيدُ ٱلْمُحْسِنِينَ ٥٨

59. すると不正*者たちは、御言葉(おことば)を彼らに言われたのではないものと変えてしまった。そこでわれらはその放逸(ほういつ)な振(ふ)る舞(ま)いゆえに、不正*者たちに天から（罰(ばつ)の）制裁(せいさい)を下した。[5]

فَبَدَّلَ ٱلَّذِينَ ظَلَمُوا۟ قَوْلًا غَيْرَ ٱلَّذِى قِيلَ
لَهُمْ فَأَنزَلْنَا عَلَى ٱلَّذِينَ ظَلَمُوا۟ رِجْزًا مِّنَ
ٱلسَّمَآءِ بِمَا كَانُوا۟ يَفْسُقُونَ ٥٩

---

1 アル＝クルトゥビー*によれば、大半の解釈学者は「マンヌ」を、「空から降ってくる、雫（しずく）状の甘い固形物」とするが、その他アラビアガム、蜜（みつ）、甘い飲み物、薄いパン、などといった解釈がある。また、もっと一般的な解釈として、「アッラー*がそのしもべたちに、労力や栽培なども要さずにお恵みになったものの総称」というものもある（1:406 参照）。また「ウズラ」は、ウズラそのものではなく、ウズラに類似した鳥類のこととされる（ムヤッサル 8 頁参照）。

2 解釈学者たちによれば、これは食卓章 21-26 で描かれている出来事の後、彼らがエジプトとシャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）の間で、四十年間彷徨（さまよ）った時の出来事とされる（アル＝クルトゥビー1:406 参照）。

3 エルサレムのことである、と言われる（アッ＝タバリー1:420、ムヤッサル 9 頁参照）。

4 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

5 彼らは「身を低めて謹んで入る」ように言われたが、ふざけて地面に尻を引きずりながら入り、またアーヤ*58 で言うように命じられた言葉尻を変えて、嘲笑（ちょうしょう）した。つまり言葉と行いにおいて、アッラー*のご命令に反したのである（イブン・カスィール 1:277 参照）。

60. また、ムーサー*がその民のために、水を乞うて祈った時のこと（を思い起こすがよい）。それでわれら*は「あなたの杖で、岩を叩いてみよ」と言った。するとそこから十二の泉が湧きあふれ、（彼らの内の）全ての人々[1]は、確かに自分たちの水場を知った。（われら*は言った。）「アッラー*の糧から食べ、飲むがよい。そして腐敗*を働く者となって、地上で退廃を広めてはならない」。

۞ وَإِذِ ٱسۡتَسۡقَىٰ مُوسَىٰ لِقَوۡمِهِۦ فَقُلۡنَا ٱضۡرِب
بِّعَصَاكَ ٱلۡحَجَرَۖ فَٱنفَجَرَتۡ مِنۡهُ ٱثۡنَتَا
عَشۡرَةَ عَيۡنٗاۖ قَدۡ عَلِمَ كُلُّ أُنَاسٖ مَّشۡرَبَهُمۡۖ
كُلُواْ وَٱشۡرَبُواْ مِن رِّزۡقِ ٱللَّهِ وَلَا تَعۡثَوۡاْ فِي
ٱلۡأَرۡضِ مُفۡسِدِينَ ٦٠

61. また、あなた方が（こう）言った時のこと（を思い起こすのだ）。「ムーサー*よ、私たちは一種類の食べ物には耐えられない。だからあなたの主*にお願いして、私たちに野菜、キュウリ、穀物、レンズ豆、玉葱といった、大地に育つものを出してもらってくれ」。彼(ムーサー*)は言った。「あなた方はより善いものを、それ以下のものと取り換えるというのか？　（この荒野を去って）町に行くがよい。そうすればきっと、あなた方の求めるものがあるだろう」。彼らは屈辱と貧困に付きまとわれ、アッラー*のお怒りと共に戻って来た[2]。それというのも彼らはアッラー*の御徴を否定し、不当にも預言者*たちを殺害していたからである。それは彼らが（アッラー*に）反抗し、（かれの法に反することにおいて）度を越していたためなのだ。[3]

وَإِذۡ قُلۡتُمۡ يَٰمُوسَىٰ لَن نَّصۡبِرَ عَلَىٰ طَعَامٖ وَٰحِدٖ
فَٱدۡعُ لَنَا رَبَّكَ يُخۡرِجۡ لَنَا مِمَّا تُنۢبِتُ
ٱلۡأَرۡضُ مِنۢ بَقۡلِهَا وَقِثَّآئِهَا وَفُومِهَا
وَعَدَسِهَا وَبَصَلِهَاۖ قَالَ أَتَسۡتَبۡدِلُونَ ٱلَّذِي
هُوَ أَدۡنَىٰ بِٱلَّذِي هُوَ خَيۡرٌۚ ٱهۡبِطُواْ مِصۡرٗا
فَإِنَّ لَكُم مَّا سَأَلۡتُمۡۗ وَضُرِبَتۡ عَلَيۡهِمُ ٱلذِّلَّةُ
وَٱلۡمَسۡكَنَةُ وَبَآءُو بِغَضَبٖ مِّنَ ٱللَّهِۗ ذَٰلِكَ
بِأَنَّهُمۡ كَانُواْ يَكۡفُرُونَ بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ
وَيَقۡتُلُونَ ٱلنَّبِيِّـۧنَ بِغَيۡرِ ٱلۡحَقِّۗ ذَٰلِكَ بِمَا عَصَواْ
وَّكَانُواْ يَعۡتَدُونَ ٦١

---

1 ユダヤ教徒*の十二支族のこと（ムヤッサル 9 頁参照）。

2 つまり、アッラー*のお怒りがまといついた、という意味（アル＝クルトゥビー1:430 参照）。

3 このように彼らは、アッラー*がお選びになったものよりも、彼ら自身の欲望と選択を常に優先させていた（ムヤッサル 9 頁参照）。

62. 本当に、信仰する者たち、ユダヤ教徒*である者たち、キリスト教徒*たち、サービア教徒*たちで、アッラー*と最後の日*を信じて正しい行い*を行う者、彼らには、その主*の御許に褒美がある[1]。そして彼らには怖れもなければ、悲しむこともない[2]。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَٱلَّذِينَ هَادُواْ وَٱلنَّصَٰرَىٰ
وَٱلصَّٰبِـِٔينَ مَنْ ءَامَنَ بِٱللَّهِ وَٱلْيَوْمِ ٱلْءَاخِرِ
وَعَمِلَ صَٰلِحًا فَلَهُمْ أَجْرُهُمْ عِندَ رَبِّهِمْ
وَلَا خَوْفٌ عَلَيْهِمْ وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ٦٢

63. また（イスラーイールの子ら*よ）、われら*があなた方の確約を取った時のこと（を思い起こすのだ）[3]。われらはあなた方の上に山を掲げ（、言っ）た[4]。「われらがあなた方に授けたものを、真摯に受け取るがよい[5]。そして（わが懲罰を）畏れる*べく、その内容を教訓とするのだ」。

وَإِذْ أَخَذْنَا مِيثَٰقَكُمْ وَرَفَعْنَا فَوْقَكُمُ
ٱلطُّورَ خُذُواْ مَآ ءَاتَيْنَٰكُم بِقُوَّةٍ
وَٱذْكُرُواْ مَا فِيهِ لَعَلَّكُمْ تَتَّقُونَ ٦٣

64. そしてその後（再び）、あなた方は背き去った。あなた方に対するアッラー*のご恩寵とご慈悲がなければ、あなた方は損失者となっていたであろう。

ثُمَّ تَوَلَّيْتُم مِّنۢ بَعْدِ ذَٰلِكَ فَلَوْلَا فَضْلُ ٱللَّهِ
عَلَيْكُمْ وَرَحْمَتُهُۥ لَكُنتُم مِّنَ ٱلْخَٰسِرِينَ ٦٤

65. またあなた方は、あなた方の（先祖の）内、土曜（の安息）日を破った者たちのことを

وَلَقَدْ عَلِمْتُمُ ٱلَّذِينَ ٱعْتَدَوْاْ مِنكُمْ فِى ٱلسَّبْتِ
فَقُلْنَا لَهُمْ كُونُواْ قِرَدَةً خَٰسِـِٔينَ ٦٥

---

1 「信仰する者たち」であるムスリム*、ユダヤ教徒*、キリスト教徒*、サービア教徒*の内、アッラー*を正しく誠実に信仰し、復活と清算の日を信じ、アッラー*がお喜びになる行いに励む者の褒美（ほうび）は、アッラー*の御許で確かなものとなる。そして最後の預言者*ムハンマド*が全人類に遣（つか）わされた後、アッラー*がイスラーム*以外の宗教をお受け入れになることはない（ムヤッサル 10 頁参照）。

2 「怖れもなければ、悲しむこともない」については、アーヤ*38 の訳注を参照。

3 「確約」については、アーヤ*27、40 の「契約」を参照。

4 高壁章 171 も参照。彼らはその頑迷（がんめい）さと不服従ゆえ、山（原語では「アッ＝トゥール」、シナイ山のこととされる）を落とすと脅（おど）されるまで、確約を受け入れることを拒んだ（前掲書、同頁参照）。

5 彼らへの啓典トーラー*を信じ、その中に記されている法を実践することにおいて真摯に努力せよ、ということ（アッ＝タバリー1:452-453、ムヤッサル 10 頁参照）。

確かに知った[1]。そしてわれら*は彼らに、「追いやられた惨めな猿になってしまえ」と言った。

66. こうしてわれら*は、それ（海岸の町）をその時代と、（同様の罪を犯す）それ以後の者たちに対する（見せしめの）罰とし、敬虔な*者たちへの訓戒としたのである。

فَجَعَلۡنَٰهَا نَكَٰلٗا لِّمَا بَيۡنَ يَدَيۡهَا
وَمَا خَلۡفَهَا وَمَوۡعِظَةٗ لِّلۡمُتَّقِينَ ٦٦

67. また（イスラーイールの子ら*よ）、ムーサー*が彼の民にこう言った時のこと（を、思い起こしてみよ）。「本当にアッラー*は、あなた方に一頭の雌牛を屠るよう命じておられる」。彼らは言った。「一体あなたは、私たちを馬鹿にしているのか？」彼（ムーサー*）は言った。「私は、自分が無知な（嘲笑）者たちの仲間とならないよう、アッラー*にご加護を祈る」。

وَإِذۡ قَالَ مُوسَىٰ لِقَوۡمِهِۦٓ إِنَّ ٱللَّهَ يَأۡمُرُكُمۡ أَن
تَذۡبَحُواْ بَقَرَةٗۖ قَالُوٓاْ أَتَتَّخِذُنَا هُزُوٗاۖ قَالَ
أَعُوذُ بِٱللَّهِ أَنۡ أَكُونَ مِنَ ٱلۡجَٰهِلِينَ ٦٧

68. 彼らは言った。「あなたの主*に、それがどんなものか私たちに明らかにしてくれるよう、お願いしてくれ」。彼（ムーサー*）は言った。「本当にかれは、実にそれが年老いた牛でも仔牛でもなく、丁度その中間にあたる雌牛である、と仰せられる。ならば、命じられたことをせよ」。

قَالُواْ ٱدۡعُ لَنَا رَبَّكَ يُبَيِّن لَّنَا مَا هِيَۚ قَالَ إِنَّهُۥ
يَقُولُ إِنَّهَا بَقَرَةٞ لَّا فَارِضٞ وَلَا بِكۡرٌ
عَوَانُۢ بَيۡنَ ذَٰلِكَۖ فَٱفۡعَلُواْ مَا تُؤۡمَرُونَ ٦٨

69. 彼らは言った。「あなたの主*に、その色について私たちに明らかにしてくれるよう、お願いしてくれ」。彼（ムーサー*）は言った。「本当にかれは、実にそれが見る者を楽しませる、鮮やかな真っ黄色の雌牛である、と仰せられる」。

قَالُواْ ٱدۡعُ لَنَا رَبَّكَ يُبَيِّن لَّنَا مَا لَوۡنُهَاۚ قَالَ
إِنَّهُۥ يَقُولُ إِنَّهَا بَقَرَةٞ صَفۡرَآءُ فَاقِعٞ لَّوۡنُهَا
تَسُرُّ ٱلنَّٰظِرِينَ ٦٩

1 高壁章 163-166 も参照。彼ら‐ある海岸の町に居住していたユダヤ教徒*たち‐は、土曜日に漁をすることを禁じられたが、土曜日に限って魚が大群で押し寄せた。それで彼らは土曜日に網（あみ）をしかけたり、穴を掘ったりしておき、日曜日にそれを収穫（しゅうかく）するというごまかしをした（ムヤッサル 10 頁参照）。

70. 彼らは言った。「あなたの主*に、それがどんなものか私たちに明らかにしてくれるよう、お願いしてくれ。本当に雌牛は、私たちに似通って見えるのだ。そして本当に私たちは、――アッラー*がお望みならば――必ずや（目的の雌牛に）導かれるから」。

قَالُواْ ٱدۡعُ لَنَا رَبَّكَ يُبَيِّن لَّنَا مَا هِيَ إِنَّ ٱلۡبَقَرَ
تَشَٰبَهَ عَلَيۡنَا وَإِنَّآ إِن شَآءَ ٱللَّهُ لَمُهۡتَدُونَ ٧٠

71. 彼（ムーサー*）は言った。「本当にかれは、実にそれが地面を耕したり、農地の灌漑をしたりする卑しめられたものではなく、混じり毛のない無疵の雌牛だ、と仰せられる」。彼らは言った。「あなたは今、ようやく真実を伝えてくれた」。こうして彼らは雌牛を（見つけ、嫌々）屠ったが、それをやり損ねそうなほど（頑迷）であった[1]。

قَالَ إِنَّهُۥ يَقُولُ إِنَّهَا بَقَرَةٞ لَّا ذَلُولٞ تُثِيرُ ٱلۡأَرۡضَ
وَلَا تَسۡقِي ٱلۡحَرۡثَ مُسَلَّمَةٞ لَّا شِيَةَ فِيهَاۚ قَالُواْ
ٱلۡـَٰٔنَ جِئۡتَ بِٱلۡحَقِّۚ فَذَبَحُوهَا وَمَا كَادُواْ
يَفۡعَلُونَ ٧١

72. あなた方[2]がある者を殺害し、そのことで（罪を）押し付け合った時のこと（を思い起こせ）[3]――アッラー*は、あなた方が隠蔽していたことを暴露される――。

وَإِذۡ قَتَلۡتُمۡ نَفۡسٗا فَٱدَّٰرَٰٔتُمۡ فِيهَاۖ وَٱللَّهُ مُخۡرِجٞ
مَّا كُنتُمۡ تَكۡتُمُونَ ٧٢

73. それでわれら*は言った。「その(雌牛の)一部で、彼（死者）を叩いてみよ（、彼は生き返って犯人を告げるであろう）」。同様にアッラー*は（復活の日*）、死者を生き

فَقُلۡنَا ٱضۡرِبُوهُ بِبَعۡضِهَاۚ كَذَٰلِكَ يُحۡيِ ٱللَّهُ
ٱلۡمَوۡتَىٰ وَيُرِيكُمۡ ءَايَٰتِهِۦ لَعَلَّكُمۡ تَعۡقِلُونَ ٧٣

---

1 教友*イブン・アッバース*は言っている。「（最初の時点で）最も手ごろな雌牛を屠（ほふ）っていれば、済んだことだった。しかし彼らが（自分たちで）厳しくしたために、アッラー*も彼らに対して厳しくされたのだ」（アッ＝タバリー1:478 参照）。

2 アーヤ*49 の「あなた方」に関する訳注を参照。

3 多くの解釈学者は、このアーヤ*で示されている内容が、雌牛にまつわる一連の事件（アーヤ*67-71）の冒頭にあたる部分であるとしている（アル＝クルトゥビー1:445 参照）。尚、この事件には、次のような背景があるとされる：ある時、犯人不明の殺人事件が起こった。その犯人を究明するにあたって、イスラーイールの子ら*の集団間で争いが起きたので、彼らはムーサー*に犯人の特定を頼んだ。ムーサー*は、彼らが屠（ほふ）った雌牛の一部で死者を打てば、彼が生き返って犯人が誰かを告げるだろう、という啓示を告げた（イブン・カスィール 1:293-298 参照）。

返らされ、あなた方が分別するよう、あなた方にその御徴[1]をお示しになるのだ」。

74. そしてその後、あなた方の心は硬くなり、岩のように、またはそれ以上に硬くなった。本当に岩の中には、そこから河川が湧き出るものさえある。またその中には、割れて、そこから水が流れ出るものさえもある。またその中には、アッラー*への畏怖から、転げ落ちるものさえもあるのだ[2]。アッラー*は、あなた方の行いに迂闊ではあられない。

ثُمَّ قَسَتْ قُلُوبُكُم مِّنۢ بَعْدِ ذَٰلِكَ فَهِىَ
كَٱلْحِجَارَةِ أَوْ أَشَدُّ قَسْوَةً ۚ وَإِنَّ مِنَ ٱلْحِجَارَةِ
لَمَا يَتَفَجَّرُ مِنْهُ ٱلْأَنْهَٰرُ ۚ وَإِنَّ مِنْهَا لَمَا يَشَّقَّقُ
فَيَخْرُجُ مِنْهُ ٱلْمَآءُ ۚ وَإِنَّ مِنْهَا لَمَا يَهْبِطُ مِنْ
خَشْيَةِ ٱللَّهِ ۗ وَمَا ٱللَّهُ بِغَٰفِلٍ عَمَّا تَعْمَلُونَ ٧٤

75. 一体あなた方 (信仰者)は、彼ら（ユダヤ教徒*）があなた方（の宗教）を信じるようになることを、所望しているというのか？　彼らの内の一部はアッラー*の御言葉を確かに聞き、それを理解した後に知りつつ、それを改竄したというのに。

۞ أَفَتَطْمَعُونَ أَن يُؤْمِنُوا۟ لَكُمْ وَقَدْ كَانَ فَرِيقٌ
مِّنْهُمْ يَسْمَعُونَ كَلَٰمَ ٱللَّهِ ثُمَّ يُحَرِّفُونَهُۥ
مِنۢ بَعْدِ مَا عَقَلُوهُ وَهُمْ يَعْلَمُونَ ٧٥

76. また、彼ら（ユダヤ教徒*）は信仰する者たちに出会うと、「私たちは（あなた方の宗教を）信じる」と言った。そして仲間内になると、（互いにこう）言ったのだ。「一体あなた方は、アッラー*があなた方に明らかにされたこと[3]を、彼ら(信仰者)に伝えるというのか？　それによって彼らが、あなた方の主*の御許であなた方に反証するために？　一体、あなた方は分別しないのか？」

وَإِذَا لَقُوا۟ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ قَالُوٓا۟ ءَامَنَّا وَإِذَا
خَلَا بَعْضُهُمْ إِلَىٰ بَعْضٍ قَالُوٓا۟ أَتُحَدِّثُونَهُم
بِمَا فَتَحَ ٱللَّهُ عَلَيْكُمْ لِيُحَآجُّوكُم بِهِۦ عِندَ
رَبِّكُمْ ۚ أَفَلَا تَعْقِلُونَ ٧٦

---

1 この「御徴」は、アッラー*の御力の完全さを示す証拠のこと（ムヤッサル 11 頁参照）。

2 カターダ*はこのアーヤ*に関し、こう述べている。「アッラー*は、岩のことは（硬くても）容認された。そして（不信仰ゆえに心が硬くなった）アーダム*の子らの悪人のことは、容認されなかったのだ」（アッ＝タバリー1:499 参照）。

3 トーラー*の中で、預言者*ムハンマド*について語られた真実のこと（ムヤッサル 11 頁参照）。イムラーン家章 73 も参照。

77. 一体彼らは、アッラー*が彼らの隠していることも露わにしていることも、全てご存知であることを知らないのか？

أَوَلَا يَعۡلَمُونَ أَنَّ ٱللَّهَ يَعۡلَمُ مَا يُسِرُّونَ
وَمَا يُعۡلِنُونَ ٧٧

78. また、彼ら（ユダヤ教徒*）の中には啓典を知らない文盲もいて、ただ嘘を捏造するだけである。そして彼らは、憶測しているに過ぎないのだ。

وَمِنۡهُمۡ أُمِّيُّونَ لَا يَعۡلَمُونَ ٱلۡكِتَٰبَ
إِلَّآ أَمَانِيَّ وَإِنۡ هُمۡ إِلَّا يَظُنُّونَ ٧٨

79. それと引き換えに僅かな代価を得るため、自らの手で啓典を書き、「これは、アッラー*の御許から下されたもの」などと言う者に、災いあれ。そして彼らの手が書いたものゆえに、彼らに災いあれ。また、（そのことで）彼らが稼ぐものゆえに、彼らに災いあれ。

فَوَيۡلٞ لِّلَّذِينَ يَكۡتُبُونَ ٱلۡكِتَٰبَ بِأَيۡدِيهِمۡ
ثُمَّ يَقُولُونَ هَٰذَا مِنۡ عِندِ ٱللَّهِ لِيَشۡتَرُواْ
بِهِۦ ثَمَنٗا قَلِيلٗاۖ فَوَيۡلٞ لَّهُم مِّمَّا كَتَبَتۡ
أَيۡدِيهِمۡ وَوَيۡلٞ لَّهُم مِّمَّا يَكۡسِبُونَ ٧٩

80. また、彼ら（イスラーイールの子ら*）は言った。「（地獄の）業火が私たちに触れるのは、どうせ数日間だけだ[1]」。（使徒*よ、）言ってやれ。「一体あなた方は、アッラー*の御許で（そのような）契約を結んだというのか？　そうであるなら、アッラー*は決して契約を反故にはされない。それともあなた方はアッラー*に対し、知りもしないことを言うのか？」

وَقَالُواْ لَن تَمَسَّنَا ٱلنَّارُ إِلَّآ أَيَّامٗا
مَّعۡدُودَةٗۚ قُلۡ أَتَّخَذۡتُمۡ عِندَ ٱللَّهِ عَهۡدٗا
فَلَن يُخۡلِفَ ٱللَّهُ عَهۡدَهُۥٓۖ أَمۡ تَقُولُونَ
عَلَى ٱللَّهِ مَا لَا تَعۡلَمُونَ ٨٠

81. いや、誰でも悪行を稼ぎ、自らの過ちが自分自身をがんじがらめにしてしまった者[2]、それらの者たちは業火の住民であり、彼らはそこに永遠に留まるのだ。

بَلَىٰ مَن كَسَبَ سَيِّئَةٗ وَأَحَٰطَتۡ بِهِۦ
خَطِيٓـَٔتُهُۥ فَأُوْلَٰٓئِكَ أَصۡحَٰبُ ٱلنَّارِۖ هُمۡ
فِيهَا خَٰلِدُونَ ٨١

---

1 一説にはユダヤ教徒*の一部は、彼らが業火に焼かれるのは、彼らの祖先が仔牛を崇拝した四十日間だけであると主張した（アッ＝タバリー1:517-520、イブン・カスィール1:313-314 参照）。

2 ここでの「悪行」とは、シルク*のことと言われる。一方「自分自身を過ちでがんじがらめ」にする者とは、そのまま悔悟せずに死を迎えることを指す、と言われる（アッ＝タバリー1:522-525 参照）。

82. そして信仰し、正しい行い*を行った者たち、それらの者たちは天国の住民であり、彼らはそこに永住する。

وَٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ أُو۟لَٰٓئِكَ
أَصْحَٰبُ ٱلْجَنَّةِ ۖ هُمْ فِيهَا خَٰلِدُونَ ﴿٨٢﴾

83. また、われら*がイスラーイールの子ら*の（次のような）確約を取った時のこと（を思い起こすがよい）。「アッラー*以外の何ものも崇拝*してはならない。そして両親に孝行し、親戚、孤児、貧者*らにも（善行を尽くせ）。また人々に対しては善い言葉をかけ、礼拝を遵守*し、浄財*を支払うのだ」。（ところが）その後あなた方は、あなた方の内の僅かな者たちを除いて、身を翻し、背を向けた。

وَإِذْ أَخَذْنَا مِيثَٰقَ بَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ
لَا تَعْبُدُونَ إِلَّا ٱللَّهَ وَبِٱلْوَٰلِدَيْنِ إِحْسَانًا
وَذِى ٱلْقُرْبَىٰ وَٱلْيَتَٰمَىٰ وَٱلْمَسَٰكِينِ
وَقُولُوا۟ لِلنَّاسِ حُسْنًا وَأَقِيمُوا۟ ٱلصَّلَوٰةَ
وَءَاتُوا۟ ٱلزَّكَوٰةَ ثُمَّ تَوَلَّيْتُمْ إِلَّا قَلِيلًا
مِّنكُمْ وَأَنتُم مُّعْرِضُونَ ﴿٨٣﴾

84. また（イスラーイールの子ら*よ）、われら*があなた方の（次のような）確約を取った時のこと（を思い起こしてみよ）。「あなた方の血を流したり、あなた方自身を住居から追放[1]したりしてはならない」。それからあなた方は（それが正しいことであることを）証言しつつ、承認した。

وَإِذْ أَخَذْنَا مِيثَٰقَكُمْ لَا تَسْفِكُونَ دِمَآءَكُمْ
وَلَا تُخْرِجُونَ أَنفُسَكُم مِّن دِيَٰرِكُمْ ثُمَّ
أَقْرَرْتُمْ وَأَنتُمْ تَشْهَدُونَ ﴿٨٤﴾

85. その後、あなた方という人たちは、罪と侵害をもって互いに（敵と）協力し合いながらあなた方自身を殺し、あなた方の一派をその住居から追放する[2]。そして、もし彼らが捕虜となってあなた方のもとにやって来れば、彼らの追放が（そもそも）違法であるにも関わらず、あなた方は彼らの身

ثُمَّ أَنتُمْ هَٰٓؤُلَآءِ تَقْتُلُونَ أَنفُسَكُمْ
وَتُخْرِجُونَ فَرِيقًا مِّنكُم مِّن دِيَٰرِهِمْ
تَظَٰهَرُونَ عَلَيْهِم بِٱلْإِثْمِ وَٱلْعُدْوَٰنِ وَإِن
يَأْتُوكُمْ أُسَٰرَىٰ تُفَٰدُوهُمْ وَهُوَ مُحَرَّمٌ
عَلَيْكُمْ إِخْرَاجُهُمْ ۚ أَفَتُؤْمِنُونَ بِبَعْضِ
ٱلْكِتَٰبِ وَتَكْفُرُونَ بِبَعْضٍ ۚ فَمَا جَزَآءُ مَن

1 つまり、お互いに殺し合ったり、追放し合ったりすること（ムヤッサル 13 頁参照）。

2 アーヤ*84「追放」の訳注を参照。

代(しろ)金を払う[1]。一体、あなた方は啓典(けいてん)の一部だけを信じ、他の部分は否定するというのか？　ならば、あなた方の内でそのようなことをする者の報(むく)いは、現世の生活における屈辱(くつじょく)でしかない。復活の日*、彼らはこの上なく厳(きび)しい懲罰(ちょうばつ)へと戻(もど)されるのだ。アッラー*はあなた方の行いに、決して迂闊(うかつ)ではあられない。

يَفۡعَلُ ذَٰلِكَ مِنكُمۡ إِلَّا خِزۡيٞ فِي ٱلۡحَيَوٰةِ
ٱلدُّنۡيَاۖ وَيَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِ يُرَدُّونَ إِلَىٰٓ أَشَدِّ
ٱلۡعَذَابِۗ وَمَا ٱللَّهُ بِغَٰفِلٍ عَمَّا تَعۡمَلُونَ ٨٥

86. それらの者たちは、来世と引き換(か)えに現世の生活を買った者たち。ゆえに懲罰(ちょうばつ)が、彼らから軽減(けいげん)されることもなければ、彼らが（誰かに）救われることもない。

أُوْلَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ ٱشۡتَرَوُاْ ٱلۡحَيَوٰةَ ٱلدُّنۡيَا
بِٱلۡأٓخِرَةِۖ فَلَا يُخَفَّفُ عَنۡهُمُ ٱلۡعَذَابُ
وَلَا هُمۡ يُنصَرُونَ ٨٦

87. また、われら*は確かにムーサー*に啓典(けいてん)（トーラー*）を授(さず)け、使徒(しと)*たちにその後を継(つ)がせた[2]。そしてマルヤム*の子イーサー*に明証[3]を与え、聖霊(せいれい)[4]で彼を強めた。一体、使徒(しと)*があなた方の気に入らないものを携(たずさ)えてあなた方のもとに来るたびに、あなた方は傲慢(ごうまん)になり、ある一派のことは嘘(うそ)つき呼ばわりし、また別の一派のことは殺害するというのか？

وَلَقَدۡ ءَاتَيۡنَا مُوسَى ٱلۡكِتَٰبَ وَقَفَّيۡنَا
مِنۢ بَعۡدِهِۦ بِٱلرُّسُلِۖ وَءَاتَيۡنَا عِيسَى ٱبۡنَ
مَرۡيَمَ ٱلۡبَيِّنَٰتِ وَأَيَّدۡنَٰهُ بِرُوحِ ٱلۡقُدُسِۗ أَفَكُلَّمَا
جَآءَكُمۡ رَسُولُۢ بِمَا لَا تَهۡوَىٰٓ أَنفُسُكُمُ
ٱسۡتَكۡبَرۡتُمۡ فَفَرِيقٗا كَذَّبۡتُمۡ وَفَرِيقٗا تَقۡتُلُونَ ٨٧

---

1 イスラーム*到来以前のマディーナ*では、アラブ住民がアウス族とハズラジュ族の二派に分かれ、互いに争い合っていた。そしてカイヌカーゥ族、ナディール族、クライザ族といった当地のユダヤ教徒*もまた、不信仰者*であるそれらのアラブ部族と各々同盟して互いに敵対し合い、同士討ちをしていた。そのこと自体トーラー*で禁じられていたことであったが、彼らは戦争で同胞が捕虜にされれば、トーラー*の教えに則って身代金を払う、という矛盾を犯していた（アッ＝タバリー1:536-537 参照）。

2 ムーサー*の後イーサー*の到来まで、アッラー*はトーラー*の法で裁く使徒*・預言者*を遣わされた（食卓章 44 参照）。ただイブン・カスィール*によれば、イーサー*は一部トーラー*とは異なる法をもたらしたため、アッラー*は彼に様々な奇跡を授けたのだという（1:321 参照）。

3 この「明証」とは、イムラーン家章 49、食卓章 110 などに示されているような、数々の奇跡のこと（アッ＝タバリー1:544 参照）。

4 大半の解釈学者によれば、天使*ジブリール*のこと（アッ＝サァディー58 頁参照）。

88. 彼ら（イスラーイールの子ら*）は、言った。「私たちの心は覆われている（から、あなたの言うことが分からない）」。いや、アッラー*はその不信仰ゆえに彼らを呪われた[1]のだ。彼らは、僅かばかりしか信仰しないことよ。

وَقَالُوا۟ قُلُوبُنَا غُلْفٌۢ ۚ بَل لَّعَنَهُمُ ٱللَّهُ
بِكُفْرِهِمْ فَقَلِيلًا مَّا يُؤْمِنُونَ ﴿٨٨﴾

89. 彼らは、——かつて、不信仰だった*者たちに対する勝利を求めていたにも関わらず——アッラー*の御許から彼らに、彼らのもとにあるものを確証する啓典がもたらされた時、そして彼らが知っていたものが彼らのもとに到来した時、それを否定したのだ[2]。ならばアッラー*の呪い[3]は、（使徒*ムハンマド*とクルアーン*を否定する全ての）不信仰者*たちの上にある。

وَلَمَّا جَآءَهُمْ كِتَـٰبٌ مِّنْ عِندِ ٱللَّهِ مُصَدِّقٌ
لِّمَا مَعَهُمْ وَكَانُوا۟ مِن قَبْلُ يَسْتَفْتِحُونَ
عَلَى ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ فَلَمَّا جَآءَهُم مَّا عَرَفُوا۟
كَفَرُوا۟ بِهِۦ ۚ فَلَعْنَةُ ٱللَّهِ عَلَى ٱلْكَـٰفِرِينَ ﴿٨٩﴾

90. 彼ら（イスラーイールの子ら*）が、アッラー*が下されたものを妬みゆえに否定することで、自分自身と交換したものの、何と醜悪なことか。アッラー*はその僕の内、お望みの者(ムハンマド*）にご恩寵を下されるというのに[4]。こうして彼らは（アッラ

بِئْسَمَا ٱشْتَرَوْا۟ بِهِۦٓ أَنفُسَهُمْ أَن يَكْفُرُوا۟
بِمَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ بَغْيًا أَن يُنَزِّلَ ٱللَّهُ مِن فَضْلِهِۦ
عَلَىٰ مَن يَشَآءُ مِنْ عِبَادِهِۦ ۖ فَبَآءُو بِغَضَبٍ
عَلَىٰ غَضَبٍ ۚ وَلِلْكَـٰفِرِينَ عَذَابٌ مُّهِينٌ ﴿٩٠﴾

---

1 「呪い」という訳語を当てた原語は「ラアナ」であり、語源的には「追いやる」「遠ざける」などの意味を含む。つまり「アッラーの呪い」とは、かれから遠ざけられ、見放されることを指すのだという（アッ＝タバリー1:549 参照）。

2 マディーナ*のユダヤ教徒*は、最後の預言者の出現が近いとし、彼に従って同地のアラブ人不信仰者*らと戦い、勝利を収めることを願っていた。しかし、いざ預言者*としての特徴と正直さで知られたムハンマド*が到来すると、彼を嘘つき呼ばわりした（ムヤッサル 14 頁参照）。

3 「アッラー*の呪い」については、アーヤ*88 の訳注を参照。

4 預言者*と使徒*は、長らくイスラーイールの子ら*、つまりイスハーク*の息子ヤァクーブ*の子孫から選ばれていたが、最後の預言者*ムハンマド*はイスマーイール*の子孫のアラブ人であった。このことも、ユダヤ教徒*の彼に対する嫉妬（しっと）を誘う、大きな一因であったという（アッ＝タバリー1:557-559 参照）。

ー*の）お怒りの上に、更なるお怒りを買って戻って来た[1]。不信仰者*たちには、屈辱的な懲罰がある。

91. また彼ら（ユダヤ教徒*）は、「アッラー*が下されたもの（クルアーン*）を信じよ」と言われれば、「私たちは、自分たちに下されたもの（だけ）を信じる」と言った。そしてその後のものは、それが彼らのもとにあるものを確証する真理であるのに、否定するのだ。（使徒*よ、）言ってやるがよい。「ならば、なぜあなた方は以前、アッラー*の預言者*たちを殺害したのか？　もし、あなた方が（本当に）信仰者だとするならば」。

وَإِذَا قِيلَ لَهُمْ ءَامِنُواْ بِمَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ قَالُواْ
نُؤْمِنُ بِمَآ أُنزِلَ عَلَيْنَا وَيَكْفُرُونَ بِمَا
وَرَآءَهُۥ وَهُوَ ٱلْحَقُّ مُصَدِّقًا لِّمَا مَعَهُمْ ۗ قُلْ
فَلِمَ تَقْتُلُونَ أَنۢبِيَآءَ ٱللَّهِ مِن قَبْلُ إِن
كُنتُم مُّؤْمِنِينَ ٩١

92. ムーサー*は明証[2]を携えて、確かにあなた方[3]のもとにやって来た。それから、あなた方は彼の（出発）後、不正*にも仔牛を（崇拝*の対象と）なしたのである。[4]

۞ وَلَقَدْ جَآءَكُم مُّوسَىٰ بِٱلْبَيِّنَٰتِ ثُمَّ
ٱتَّخَذْتُمُ ٱلْعِجْلَ مِنۢ بَعْدِهِۦ وَأَنتُمْ
ظَٰلِمُونَ ٩٢

93. また、われら*があなた方の確約[5]を取った時のこと（を思い出してみよ）。われら*はあなた方の上に山を掲げ（、言っ）た[6]。「われら*があなた方に授けたものを、真摯に受け取り[7]、聴き従うのだ」。（しかし）彼らは言った。「私たちは聞きはするが、逆らおう」。そしてその不信仰ゆえに、彼

وَإِذْ أَخَذْنَا مِيثَٰقَكُمْ وَرَفَعْنَا
فَوْقَكُمُ ٱلطُّورَ خُذُواْ مَآ ءَاتَيْنَٰكُم
بِقُوَّةٍ وَٱسْمَعُواْ ۖ قَالُواْ سَمِعْنَا وَعَصَيْنَا
وَأُشْرِبُواْ فِى قُلُوبِهِمُ ٱلْعِجْلَ
بِكُفْرِهِمْ ۚ قُلْ بِئْسَمَا يَأْمُرُكُم بِهِۦٓ
إِيمَٰنُكُمْ إِن كُنتُم مُّؤْمِنِينَ ٩٣

1 この「戻って来た」については、アーヤ*61 の訳注を参照。

2 この「明証」とは、高壁章 107、108、133、詩人たち章 63 などに描写されているような数々の奇跡に代表される、彼の正直さを示す証拠のこと（アッ＝タバリー1:564 参照）。

3 この「あなた方」については、アーヤ*49 の訳注を参照。

4 アーヤ*51、高壁章 142-153、ター・ハー章 83-98 参照。

5 「確約」については、アーヤ*27、40 の「契約」を参照。

6 この出来事の詳細に関しては、アーヤ*63 の訳注を参照。

7 「真摯に受け取る」については、アーヤ*63 の訳注を参照。

らの心には仔牛（への愛情）が注ぎ込まれて（沁みこんで）しまったのだ。言ってやるがよい。「あなた方の信仰があなた方に命じることの、何と醜悪なことか？　もし、あなた方が（本当に）信仰者であるというなら」。

94. （使徒*よ、彼らイスラーイールの子ら*に）言ってやるがよい。「アッラー*の御許での来世の住まい（での恩恵）が、（他の）人々には許されないあなた方の専有であるのなら、死を望んでみたらいかがか？　もし、あなた方が真実を語っているというのであれば（、だが）」。[1]

قُلۡ إِن كَانَتۡ لَكُمُ ٱلدَّارُ ٱلۡأٓخِرَةُ عِندَ ٱللَّهِ
خَالِصَةٗ مِّن دُونِ ٱلنَّاسِ فَتَمَنَّوُاْ
ٱلۡمَوۡتَ إِن كُنتُمۡ صَٰدِقِينَ ٩٤

95. 彼らは自分たちが行ってきたことゆえ、決してそのようなことを望んだりはしまい。アッラー*は、不正*者たちのことをご存知のお方。

وَلَن يَتَمَنَّوۡهُ أَبَدَۢا بِمَا قَدَّمَتۡ أَيۡدِيهِمۡۚ
وَٱللَّهُ عَلِيمُۢ بِٱلظَّٰلِمِينَ ٩٥

96. また（使徒*よ、）あなたは、彼ら（ユダヤ教徒*）が最も生に執着する人々であり、シルク*を犯している者たちよりもそうであるのを、必ずや見出すであろう。彼らの中には、千年でも生きたいと望む者がいる。（たとえそのように）長生きしたとしても、懲罰から逃れることは叶わないのだが。アッラー*は、彼らの行うことをご覧にな（り、それに対して応報を与えられ）るお方。

وَلَتَجِدَنَّهُمۡ أَحۡرَصَ ٱلنَّاسِ عَلَىٰ حَيَوٰةٖ وَمِنَ
ٱلَّذِينَ أَشۡرَكُواْۚ يَوَدُّ أَحَدُهُمۡ لَوۡ يُعَمَّرُ أَلۡفَ
سَنَةٖ وَمَا هُوَ بِمُزَحۡزِحِهِۦ مِنَ ٱلۡعَذَابِ
أَن يُعَمَّرَۗ وَٱللَّهُ بَصِيرُۢ بِمَا يَعۡمَلُونَ ٩٦

97. 言ってやるがよい。「たとえ、ジブリール*に対して敵対する者があろうと（、そのような敵対心には何のいわれもない）、実に

قُلۡ مَن كَانَ عَدُوّٗا لِّجِبۡرِيلَ فَإِنَّهُۥ
نَزَّلَهُۥ عَلَىٰ قَلۡبِكَ بِإِذۡنِ ٱللَّهِ مُصَدِّقٗا لِّمَا
بَيۡنَ يَدَيۡهِ وَهُدٗى وَبُشۡرَىٰ لِلۡمُؤۡمِنِينَ ٩٧

1 アーヤ*111 参照。

彼（ジブリール*）はアッラー*のお許しにより、あなたの心にそれ（クルアーン*）を、それ以前のもの（諸啓典）の確証、信仰者たちにとっての導き、吉報として下した者なのだから[1]。

98. アッラー*とその天使*たち、その使徒*たち、ジブリール*、ミーカール（ミーカーイール*）に敵対する者があろうと、実にアッラー*は（そのような）不信仰者*たちに対しての敵なのだ」。

مَن كَانَ عَدُوّٗا لِّلَّهِ وَمَلَٰٓئِكَتِهِۦ
وَرُسُلِهِۦ وَجِبۡرِيلَ وَمِيكَىٰلَ فَإِنَّ ٱللَّهَ
عَدُوّٞ لِّلۡكَٰفِرِينَ ٩٨

99. （使徒*よ、）われら*は確かに、あなたへ明白な御徴[2]を下した。そしてそれを否定するのは、放逸な者たちのみである。

وَلَقَدۡ أَنزَلۡنَآ إِلَيۡكَ ءَايَٰتِۭ بَيِّنَٰتٖۖ
وَمَا يَكۡفُرُ بِهَآ إِلَّا ٱلۡفَٰسِقُونَ ٩٩

100. そして一体、彼ら（イスラーイールの子ら*）が契約を結ぶたび、彼らの内の一派はそれを破棄したというのか？　いや、彼らの大半は信じない。

أَوَكُلَّمَا عَٰهَدُواْ عَهۡدٗا نَّبَذَهُۥ فَرِيقٞ
مِّنۡهُمۚ بَلۡ أَكۡثَرُهُمۡ لَا يُؤۡمِنُونَ ١٠٠

101. また、アッラー*の御許から、彼らの手許にあるもの（トーラー*）を確証する使徒*（ムハンマド*）が到来した時、啓典を授かっていた民の一派はあたかも何も知らないかのように、アッラー*の書（クルアーン*）を背後に放り棄てたのだ。

وَلَمَّا جَآءَهُمۡ رَسُولٞ مِّنۡ عِندِ ٱللَّهِ مُصَدِّقٞ
لِّمَا مَعَهُمۡ نَبَذَ فَرِيقٞ مِّنَ ٱلَّذِينَ
أُوتُواْ ٱلۡكِتَٰبَ كِتَٰبَ ٱللَّهِ وَرَآءَ
ظُهُورِهِمۡ كَأَنَّهُمۡ لَا يَعۡلَمُونَ ١٠١

---

1 このアーヤ*は、預言者*が、あるユダヤ教徒*たちに「あなたの同伴者は誰か？」と聞かれ、「ジブリール*だ」と答えた所、「ジブリール*は戦争・殺し合い・懲罰をもたらす者であり、私たちの敵だ。慈悲と植物と雨をもたらすミーカーイール*だ、と言えばよいものを」と言ったことに関し、下ったと言われる（アフマド 2483 参照）。

2 この「明白な御徴」とは、彼の預言者*性を示す証拠のこと。アッラー*は彼に啓示したクルアーン*の中で、ユダヤ教徒*の学者しか知らないような彼らの秘密や、彼らに起きた過去の出来事、トーラー*において改ざんされた物事などを明らかにされた（アッ＝タバリー 1:586 参照）。

102. また彼ら（ユダヤ教徒*）は、スライマーン*の王権（の時代）について、シャイターン*が語ること[1]に従った。スライマーン*は、不信仰になど陥ってはいない。しかしシャイターン*たちが不信仰（の行い）を犯し、人々に魔術と、バービル（バビロン）でハールートとマールート[2]の両天使に授けられたものを伝授していたのである。両天使は、「私たちは本当に、試練なのだ。だから（魔術を習い、シャイターン*に従うことで）、不信仰に陥ってはいけない」と言ってからでなければ、誰にも教えはしなかった。そして彼らは二人から、夫とその妻の間を裂く術を学んだ——彼らとてアッラー*のお許しがなければ、誰のこともそれで害することなど出来ないのだが——。また彼らは、自分たちを害しはしても、益しはしないものを学んだ。そして彼らは、それ（魔術）を（真理と引き換えに）買ってしまった者などには、来世においていかなる（よき）分け前もないということを、確かに承知していたのだ。それで彼らが自らを売って手に入れたものの、何と実に醜悪なことか[3]。彼らが（そのことを）知っていたら（、そんなことはしなかったろうに）。

وَٱتَّبَعُوا۟ مَا تَتْلُوا۟ ٱلشَّيَـٰطِينُ عَلَىٰ مُلْكِ سُلَيْمَـٰنَ ۖ
وَمَا كَفَرَ سُلَيْمَـٰنُ وَلَـٰكِنَّ ٱلشَّيَـٰطِينَ
كَفَرُوا۟ يُعَلِّمُونَ ٱلنَّاسَ ٱلسِّحْرَ وَمَآ أُنزِلَ
عَلَى ٱلْمَلَكَيْنِ بِبَابِلَ هَـٰرُوتَ وَمَـٰرُوتَ ۚ
وَمَا يُعَلِّمَانِ مِنْ أَحَدٍ حَتَّىٰ يَقُولَآ إِنَّمَا نَحْنُ
فِتْنَةٌ فَلَا تَكْفُرْ ۖ فَيَتَعَلَّمُونَ مِنْهُمَا
مَا يُفَرِّقُونَ بِهِۦ بَيْنَ ٱلْمَرْءِ وَزَوْجِهِۦ ۚ وَمَا هُم
بِضَآرِّينَ بِهِۦ مِنْ أَحَدٍ إِلَّا بِإِذْنِ ٱللَّهِ ۚ
وَيَتَعَلَّمُونَ مَا يَضُرُّهُمْ وَلَا يَنفَعُهُمْ ۚ
وَلَقَدْ عَلِمُوا۟ لَمَنِ ٱشْتَرَىٰهُ مَا لَهُۥ فِى
ٱلْـَٔاخِرَةِ مِنْ خَلَـٰقٍ ۚ وَلَبِئْسَ مَا شَرَوْا۟ بِهِۦٓ
أَنفُسَهُمْ ۚ لَوْ كَانُوا۟ يَعْلَمُونَ ١٠٢

---

1 シャイターン*らは、スライマーン*が魔術によって偉大な王国を手にしたのだと思い込ませつつ、人々に魔術を提示した（アッ＝サァディー60 頁参照）。また、魔術とは「人間の力だけでは役不足である何らかの目的を達成するため、シャイターン*へのお近づきを乞う事で、その助力とするもの」。仕かけや道具を用いたり、手先の器用さなどを利用して行う手品などの類は、この内には入らない（アル＝バイダーウィー1:371-372 参照）。

2 ハールートとマールートは、人間を試練にかけるために天から下された天使*であると言われる（ムヤッサル 16 頁参照）。

3 シャイターン*はユダヤ教徒*たちに魔術を教えたが、それは、彼らがそれを啓典よりも尊（たっと）ぶほどになるまで、彼らの間に広まった（前掲書、同頁参照）。

103. 彼ら（ユダヤ教徒*）がもし信仰し、（アッラー*を）畏れ*たのなら、アッラー*の御許での褒美こそが（魔術とそれによる利益）より善かったのだ。もし彼らが（そのことを）知っていれば（、信仰したであろうに）。

وَلَوْ أَنَّهُمْ ءَامَنُوا۟ وَٱتَّقَوْا۟ لَمَثُوبَةٌ مِّنْ عِندِ ٱللَّهِ خَيْرٌ ۖ لَّوْ كَانُوا۟ يَعْلَمُونَ ﴿١٠٣﴾

104. 信仰する者たちよ、「私たちに配慮して下さい」などと言ってはならない。しかし、「私たちを見守って下さい」と言って[1]、（クルアーン*を）聴くのだ。不信仰者*には、痛ましい懲罰がある。

يَـٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَا تَقُولُوا۟ رَٰعِنَا وَقُولُوا۟ ٱنظُرْنَا وَٱسْمَعُوا۟ ۗ وَلِلْكَـٰفِرِينَ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿١٠٤﴾

105. 啓典の民*やシルク*の徒という不信仰に陥った*者たちは、あなた方の主*からあなた方のもとに、いかなる善きものが下されることも望まない。アッラー*は、かれがお望みになる者に、そのご慈悲[2]を特別にお授けになる。そしてアッラー*は、偉大な恩寵の主であられる。

مَّا يَوَدُّ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ مِنْ أَهْلِ ٱلْكِتَـٰبِ وَلَا ٱلْمُشْرِكِينَ أَن يُنَزَّلَ عَلَيْكُم مِّنْ خَيْرٍ مِّن رَّبِّكُمْ ۗ وَٱللَّهُ يَخْتَصُّ بِرَحْمَتِهِۦ مَن يَشَآءُ ۚ وَٱللَّهُ ذُو ٱلْفَضْلِ ٱلْعَظِيمِ ﴿١٠٥﴾

106. アーヤ*を撤回するにせよ、または忘れさせるにせよ、われら*はそれより善いものか、あるいは同等のものをもたらすのである[3]。（預言者*よ、）一体あなた（とそ

۞ مَا نَنسَخْ مِنْ ءَايَةٍ أَوْ نُنسِهَا نَأْتِ بِخَيْرٍ مِّنْهَآ أَوْ مِثْلِهَآ ۗ أَلَمْ تَعْلَمْ أَنَّ ٱللَّهَ عَلَىٰ كُلِّ شَىْءٍ قَدِيرٌ ﴿١٠٦﴾

---

1 ムスリム*たちの預言者*に対する言い回しには、「私たちに配慮して下さい（ラーイナー）」という言葉があり、それには「私たちを見守って下さい」「私たちが理解するまで、お待ち下さい」という意味があった。しかしユダヤ教徒*らは、その言葉を預言者への悪口に利用した。彼らは一説に、それを「ラアン（愚かさ）」という意味に結びつけ、また一説にはその言葉で、ヘブライ語の同音の悪口を意図した。それでアッラー*はその言葉を禁じ、同様の意味だが、そのような害の恐れのない「私たちを見守って下さい（ウンズルナー）」という言葉を使うように命じたのである（アル＝バイダーウィー1:375参照）。

2 この「ご慈悲」は特に、預言者*性・使徒*性のことを指すと言われる（ムヤッサル16頁参照）。

3 学者によってその数や特定の仕方は異なるが、クルアーン*のアーヤ*には、後に下った別のアーヤ*の規定によってその規定が撤回されたものと、代替（だいたい）なしにその規定が撤回されたもの（学者間の意見が一致しているものの例としては、抗弁する女章12）が

の信徒たち）は、アッラー*が全てのことをお出来なのを知らないのか？

107. （預言者*よ、）一体あなた（とその信徒たち）は、天地の王権がアッラー*のみに属することを知らないのか？　あなた方にはアッラー*以外に、いかなる庇護者*も援助者もいないのだ。

أَلَمۡ تَعۡلَمۡ أَنَّ ٱللَّهَ لَهُۥ مُلۡكُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَٱلۡأَرۡضِۗ وَمَا لَكُم مِّن دُونِ ٱللَّهِ مِن وَلِيّٖ
وَلَا نَصِيرٍ ١٠٧

108. いや（人々よ）、一体あなた方は、かつてムーサー*が注文されたように、あなた方の使徒*に注文をつけたいのか？[1]　信仰を不信仰に取り換える者は誰であれ、確かに真っ当な道から迷い去っているのである。

أَمۡ تُرِيدُونَ أَن تَسۡـَٔلُواْ رَسُولَكُمۡ كَمَا
سُئِلَ مُوسَىٰ مِن قَبۡلُۗ وَمَن يَتَبَدَّلِ ٱلۡكُفۡرَ
بِٱلۡإِيمَٰنِ فَقَدۡ ضَلَّ سَوَآءَ ٱلسَّبِيلِ ١٠٨

109. 啓典の民*の多くは、彼らに真理が明らかにされた後でも、彼ら自身からの嫉妬ゆえ、あなた方が信仰した後に不信仰者*に戻そうと望んでいる。ならば、アッラー*がご裁決[2]をお下しになるまで彼らを大目に見、見逃してやるがよい。本当にアッラー*は、全てのことをお出来のお方である。

وَدَّ كَثِيرٞ مِّنۡ أَهۡلِ ٱلۡكِتَٰبِ لَوۡ يَرُدُّونَكُم
مِّنۢ بَعۡدِ إِيمَٰنِكُمۡ كُفَّارًا حَسَدٗا مِّنۡ
عِندِ أَنفُسِهِم مِّنۢ بَعۡدِ مَا تَبَيَّنَ لَهُمُ
ٱلۡحَقُّۖ فَٱعۡفُواْ وَٱصۡفَحُواْ حَتَّىٰ يَأۡتِيَ ٱللَّهُ
بِأَمۡرِهِۦٓۗ إِنَّ ٱللَّهَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٞ ١٠٩

110. （信仰者たちよ、）礼拝を遵守*し、浄財*を払うのだ。どんな善いことでも、自分自身のために前もって行っておけば、あなた方はそれ（褒美）を、アッラー*の御

وَأَقِيمُواْ ٱلصَّلَوٰةَ وَءَاتُواْ ٱلزَّكَوٰةَۚ
وَمَا تُقَدِّمُواْ لِأَنفُسِكُم مِّنۡ خَيۡرٖ تَجِدُوهُ
عِندَ ٱللَّهِۗ إِنَّ ٱللَّهَ بِمَا تَعۡمَلُونَ بَصِيرٞ ١١٠

ある（アッ＝ルーミー「クルアーン諸学研究」416-417 頁参照）。またアッラー*のご決定により、アーヤ*そのものが、そこに含まれる規定もろとも消滅したケースもある（同書 413 頁参照）。雷鳴章 39、蜜蜂章 101 とその訳注も参照。

1 ムーサー*がイスラーイールの子ら*の無理難題に苦労した（アーヤ*55 など参照）ように、預言者*ムハンマド*も、周囲の不信仰者*たちから奇跡を起こすことなど、様々な注文をつけられた（家畜章 109-110、ユーヌス*章 97、夜の旅章 90-93、ター・ハー章 133、預言者*たち章 5、識別章 7-8、創成者*章 42 も参照）。

2 彼らとの戦いの許可のこと（ムヤッサル 17 頁参照）。雌牛章 190、悔悟章 29、巡礼*章 39 なども参照。

許で見出すであろう。本当にアッラー*は、あなた方の行うこと（全て）をご覧になるお方なのだから。

111. 彼ら（啓典の民*）は言った。「ユダヤ教徒*かキリスト教徒*である者の外は、決して天国に入れない」。それは彼らの根拠もない願望である。（使徒*よ、）言ってやるのだ。「明証を見せてみよ。もしあなた方が、真実を語っていると言うのなら」。

وَقَالُواْ لَن يَدۡخُلَ ٱلۡجَنَّةَ إِلَّا مَن كَانَ
هُودًا أَوۡ نَصَٰرَىٰۗ تِلۡكَ أَمَانِيُّهُمۡۗ قُلۡ هَاتُواْ
بُرۡهَٰنَكُمۡ إِن كُنتُمۡ صَٰدِقِينَ ١١١

112. いや、誰であろうと、善を尽くす者でありつつ、アッラーのみに顔を向けて服従する者[1]、彼にはその主*の御許に褒美がある。そして彼らには怖れもなければ、悲しむこともない[2]。

بَلَىٰۚ مَنۡ أَسۡلَمَ وَجۡهَهُۥ لِلَّهِ وَهُوَ مُحۡسِنٞ فَلَهُۥٓ
أَجۡرُهُۥ عِندَ رَبِّهِۦ وَلَا خَوۡفٌ عَلَيۡهِمۡ
وَلَا هُمۡ يَحۡزَنُونَ ١١٢

113. また、ユダヤ教徒*は「キリスト教徒*（の教え）は、全く（正当な）根拠がない」と言い、キリスト教徒*も「ユダヤ教徒*（の教え）は、全く（正当な）根拠がない」と言った。彼らは、（自分たちの）啓典を読誦しているのに[3]。このように、知らない者たち[4]も、彼らと同様のことを言っ

وَقَالَتِ ٱلۡيَهُودُ لَيۡسَتِ ٱلنَّصَٰرَىٰ عَلَىٰ شَيۡءٖ
وَقَالَتِ ٱلنَّصَٰرَىٰ لَيۡسَتِ ٱلۡيَهُودُ عَلَىٰ شَيۡءٖ
وَهُمۡ يَتۡلُونَ ٱلۡكِتَٰبَۗ كَذَٰلِكَ قَالَ ٱلَّذِينَ
لَا يَعۡلَمُونَ مِثۡلَ قَوۡلِهِمۡۚ فَٱللَّهُ يَحۡكُمُ بَيۡنَهُمۡ
يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِ فِيمَا كَانُواْ فِيهِ يَخۡتَلِفُونَ ١١٣

1「善を尽くす」（蜜蜂章 128 の訳注も参照）とは、アッラーへの服従において、その使徒の教えに忠実に従うこと（イブン・カスィール 1:385 参照）。「アッラーのみに顔を向けて服従する」とは、口や心や身体を含む全身全霊でもって、真摯（しんし）にアッラーに従うこと。ここで「顔」のみが言及されているのは、顔が人間の身体で、最も高貴な部位であるためとされる（アッ＝タバリー3:1724 参照）。この「イスラームの教えの遵守」と「アッラーに対する真摯さ」という二つが揃（そろ）って初めて、行為は受け入れられる（イブン・カスィール 1:385 参照）。

2「怖れもなければ、悲しむこともない」については、アーヤ*38 の訳注を参照。

3 トーラー*にも福音*にも、全ての預言者*・使徒*を信じる義務が説かれている（ムヤッサル 18 頁参照）。

4 「知らない者たち」とは、啓典の民*以外のシルク*の徒のこと（前掲書、同頁参照）。

たのだ。ならばアッラー*は復活の日*、彼らが意見を異にしていたことについて、彼らの間を裁かれ（、彼らに応報をお与えにな）る。

114. アッラー*のマスジド*で、かれの名が唱えられることを阻み、その破壊に努める者たち以上に不正*を働く者があろうか？　それらの者たちは、怖気づかずにはそこに入ることが出来ない。彼らには現世で屈辱があり、また彼らには来世において、この上ない懲罰がある。

وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّن مَّنَعَ مَسَٰجِدَ ٱللَّهِ أَن يُذْكَرَ
فِيهَا ٱسْمُهُۥ وَسَعَىٰ فِى خَرَابِهَآ ۚ أُو۟لَٰٓئِكَ مَا كَانَ
لَهُمْ أَن يَدْخُلُوهَآ إِلَّا خَآئِفِينَ ۚ لَهُمْ فِى
ٱلدُّنْيَا خِزْىٌ وَلَهُمْ فِى ٱلْءَاخِرَةِ عَذَابٌ عَظِيمٌ ١١٤

115. 東も西も（その間のものも全て、）アッラー*のもの。あなた方がどこを向こうとも、そこにはアッラー*の御顔がある[1]。本当にアッラー*は広量な*お方、全知者であられる。

وَلِلَّهِ ٱلْمَشْرِقُ وَٱلْمَغْرِبُ ۚ فَأَيْنَمَا تُوَلُّوا۟ فَثَمَّ وَجْهُ
ٱللَّهِ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ١١٥

116. 彼ら（啓典の民*や、その他シルク*の徒）は言った。「アッラー*は御子をもうけられた」。かれ（アッラー*）に称え*あれ[2]。いや、かれにこそ、諸天と大地にあるもの（全て）は属する。全ては、かれに従順なのだ。

وَقَالُوا۟ ٱتَّخَذَ ٱللَّهُ وَلَدًا ۗ سُبْحَٰنَهُۥ ۖ بَل لَّهُۥ مَا فِى
ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۖ كُلٌّ لَّهُۥ قَٰنِتُونَ ١١٦

117. （アッラー*は）諸天と大地の独創者*。そして、かれが一事をお取り決めにな（り、お望みにな）れば、それに「あれ」と仰せられるだけで、それは存在するのである。

بَدِيعُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۖ وَإِذَا قَضَىٰٓ أَمْرًا
فَإِنَّمَا يَقُولُ لَهُۥ كُن فَيَكُونُ ١١٧

---

1 アッラー*の命に従って礼拝をする際、あなた方がいかなる方向を向いたとしても、かれの御顔を望むことになるのであり、かれの王権とかれへの服従から抜け出ることはないのだ、という意味だとされる（ムヤッサル 18 頁参照）。

2 唯一、自己完結した存在であるアッラー*は、子供を持つなどという不完全な性質から、はるか無縁で崇高な存在である（前掲書、同頁参照）。

118. また、知らない者たちは言う。「どうしてアッラー*は私たちに、(あなたが使徒*であることについて、直接）お話しにはならないのか？　あるいは、私たちのもとに（あなたの正直さを示す）御徴がやって来ないのか？」同様に、彼ら以前の（不信仰）者*たちも、彼らの言葉と似たようなことを言ったのである――彼らの心は似通っているのだ――。われら*は確信する民に、確かに御徴を明示した。

وَقَالَ ٱلَّذِينَ لَا يَعۡلَمُونَ لَوۡلَا يُكَلِّمُنَا
ٱللَّهُ أَوۡ تَأۡتِينَآ ءَايَةٞۗ كَذَٰلِكَ قَالَ ٱلَّذِينَ
مِن قَبۡلِهِم مِّثۡلَ قَوۡلِهِمۡۘ تَشَٰبَهَتۡ قُلُوبُهُمۡۗ
قَدۡ بَيَّنَّا ٱلۡأٓيَٰتِ لِقَوۡمٖ يُوقِنُونَ ١١٨

119. 本当にわれら*はあなたを、吉報を伝える者、警告を告げる者[1]として、真理と共に遣わしたのである。そして（それを伝えた後、）あなたが火獄の住民について、（責任を）問われることはない。

إِنَّآ أَرۡسَلۡنَٰكَ بِٱلۡحَقِّ بَشِيرٗا وَنَذِيرٗاۖ
وَلَا تُسۡـَٔلُ عَنۡ أَصۡحَٰبِ ٱلۡجَحِيمِ ١١٩

120. また、ユダヤ教徒*もキリスト教徒*も、あなたが彼らの宗教に従わない限り、あなたに満足することは決してないであろう。言ってやるがよい。「アッラー*のお導きこそが、(真の）導きである」。(使徒*よ、）もしもあなた[2]が、あなたのもとに（アッラーからの）知識がもたらされた後、彼らの私欲に従うのなら、あなたにはアッラー*（の懲罰）に対するいかなる庇護者*も援助者もない。

وَلَن تَرۡضَىٰ عَنكَ ٱلۡيَهُودُ وَلَا ٱلنَّصَٰرَىٰ حَتَّىٰ
تَتَّبِعَ مِلَّتَهُمۡۗ قُلۡ إِنَّ هُدَى ٱللَّهِ هُوَ ٱلۡهُدَىٰۗ
وَلَئِنِ ٱتَّبَعۡتَ أَهۡوَآءَهُم بَعۡدَ ٱلَّذِي جَآءَكَ مِنَ
ٱلۡعِلۡمِ مَا لَكَ مِنَ ٱللَّهِ مِن وَلِيّٖ وَلَا نَصِيرٍ ١٢٠

---

1 預言者*や使徒*は、アッラー*に従う者には天国を約束し、かれを信じず、かれに逆らう者には、地獄を警告する（ムヤッサル 33 頁参照)。

2 預言者*ムハンマド*に対する語りかけの形とはなっているが、意図されているのは彼の共同体のこと（アル＝バガウィー1:161 参照)。

121. われら*が啓典を授け、それを真の読誦で誦む[1]者たち[2]、そのような者たちが、彼[3]を信じるのだ。そして誰でも彼を否定する者、それらの者たちこそは損失者である。

ٱلَّذِينَ ءَاتَيۡنَٰهُمُ ٱلۡكِتَٰبَ يَتۡلُونَهُۥ حَقَّ تِلَاوَتِهِۦٓ
أُوْلَٰٓئِكَ يُؤۡمِنُونَ بِهِۦۗ وَمَن يَكۡفُرۡ بِهِۦ فَأُوْلَٰٓئِكَ
هُمُ ٱلۡخَٰسِرُونَ ١٢١

122. イスラーイールの子ら*よ、われがあなた方[4]に授けた、わが恩恵を思い起こすのだ。またわれがあなた方を、外のいかなる者よりも引き立ててやったことを[5]。

يَٰبَنِيٓ إِسۡرَٰٓءِيلَ ٱذۡكُرُواْ نِعۡمَتِيَ ٱلَّتِيٓ أَنۡعَمۡتُ
عَلَيۡكُمۡ وَأَنِّي فَضَّلۡتُكُمۡ عَلَى ٱلۡعَٰلَمِينَ ١٢٢

123. そして誰も他人を益することもなければ、いかなる代償も受け入れられず、またどんな執り成しも役に立たなければ、彼らが（誰にも）助けられることもない（復活の）日*を、恐れるのだ。

وَٱتَّقُواْ يَوۡمٗا لَّا تَجۡزِي نَفۡسٌ عَن نَّفۡسٖ شَيۡـٔٗا وَلَا يُقۡبَلُ
مِنۡهَا عَدۡلٞ وَلَا تَنفَعُهَا شَفَٰعَةٞ وَلَا هُمۡ يُنصَرُونَ ١٢٣

124. イブラーヒーム*を、その主*が御言葉（によるご命令）[6]で試みられた時のこと（を思い起こすがよい）。そして彼は、それを成し遂げた。かれ（アッラー*）は仰せられた。「本当にわれは、あなたを人々の導師としよう」。彼（イブラーヒーム*）は申し上げた。「そして、私の子孫から

۞ وَإِذِ ٱبۡتَلَىٰٓ إِبۡرَٰهِـۧمَ رَبُّهُۥ بِكَلِمَٰتٖ فَأَتَمَّهُنَّۖ
قَالَ إِنِّي جَاعِلُكَ لِلنَّاسِ إِمَامٗاۖ قَالَ وَمِن
ذُرِّيَّتِيۖ قَالَ لَا يَنَالُ عَهۡدِي ٱلظَّٰلِمِينَ ١٢٤

1 ここで「読誦／誦む」と訳した語「ティラーワ／タラー」には、「行為によって服従する／従う」という意味もある。アッ＝ラーズィー*によれば、ここではいずれの意味も含まれる（2:30 参照）。

2 自分たちの啓典を正しく読み、それにいかなる変更も施（ほどこ）さず、そこに記されていること - 預言者*ムハンマド*を含む全使徒*・預言者*を信仰する義務など - に従う、啓典の民*のこととされる（ムヤッサル 19 頁参照）。

3 この「彼」は、預言者*ムハンマド*、及び彼に下された啓典いずれをも指すとされる（前掲書、同頁参照）。

4 ここでの「あなた方」に関しては、アーヤ*49 の訳注を参照。

5 「外のいかなる者よりも引き立て」たことについては、アーヤ*47 の訳注を参照。

6 イブラーヒーム*に課せられた、全ての命令や禁止のこと。そして彼は、それらを全て遂行した（イブン・カスィール 1:206 参照）。

も（、導師をお授け下さい）」。かれは仰せられた。「わが約束[1]は、不正者*たちには及ばない」。

125. また、われらがこの館（カァバ神殿*）を人々にとっての（不断の）拠り所とし、かつ安全（な場）とした時のこと（を思い起こすがよい）[2]。（われら*は言った。）「イブラーヒーム*の立ち所[3]を、礼拝（の場）とせよ」。われらは、イブラーヒーム*とイスマーイール*に、「タワーフ*する者たち、イァティカーフ*する者たち、ルクーゥ*する者たち、サジダ*する者たちのために、わが館を清める[4]のだ」と命じた。

وَإِذْ جَعَلْنَا ٱلْبَيْتَ مَثَابَةً لِّلنَّاسِ وَأَمْنًا وَٱتَّخِذُوا۟
مِن مَّقَامِ إِبْرَٰهِـۧمَ مُصَلًّى ۖ وَعَهِدْنَآ إِلَىٰٓ إِبْرَٰهِـۧمَ
وَإِسْمَٰعِيلَ أَن طَهِّرَا بَيْتِىَ لِلطَّآئِفِينَ
وَٱلْعَٰكِفِينَ وَٱلرُّكَّعِ ٱلسُّجُودِ ١٢٥

126. また、イブラーヒーム*が（こう）申し上げた時のこと[5]（を思い起こせ）。「我が主*よ、ここ（マッカ*）を平安なる町とし、その住民、つまり彼らの内、アッラー*と最後の日*を信じた者に、（様々な）果実をお授け下さい」。かれは仰せられた。「そして不信仰に陥った*者、われは彼に（現世で）束の間の楽しみを与えよう。それからわれは、彼を業火の懲罰へと押しやるのだ。その行き先は、何と醜悪なことであろうか」。

وَإِذْ قَالَ إِبْرَٰهِـۧمُ رَبِّ ٱجْعَلْ هَٰذَا بَلَدًا ءَامِنًا
وَٱرْزُقْ أَهْلَهُۥ مِنَ ٱلثَّمَرَٰتِ مَنْ ءَامَنَ مِنْهُم بِٱللَّهِ
وَٱلْيَوْمِ ٱلْـَٔاخِرِ ۖ قَالَ وَمَن كَفَرَ فَأُمَتِّعُهُۥ قَلِيلًا
ثُمَّ أَضْطَرُّهُۥٓ إِلَىٰ عَذَابِ ٱلنَّارِ ۖ وَبِئْسَ ٱلْمَصِيرُ ١٢٦

---

1 「わが約束」とは、彼の子孫から導師を遣わすこと（ムヤッサル 19 頁参照）。

2 カァバ神殿*は文字通り、イスラーム*以前から巡礼*者で賑（にぎ）わう会合の場であった。またその周囲の聖域ではイスラーム*以前の時代でも流血が禁じられており、絶え間ない部族抗争の時代にあっても、そこだけは平穏（へいおん）であった（アッ＝タバリー1:690-692 参照）。

3 「イブラーヒーム*の立ち所」とは、彼がカァバ神殿*を建設する際に、足場とした石のことであるとされる（ムヤッサル 19 頁参照）。

4 シルク*、不信仰、アッラー*への反抗、不浄（ふじょう）なものや汚れから「清める」こと（アッ＝サァディー65 頁参照）。巡礼*章 26 も参照。

5 同様のくだりとして、イブラーヒーム*章 35-41 とその訳注も参照。

127. また、イブラーヒーム*とイスマーイール*が、その館(やかた)（カァバ神殿(しんでん)*）の礎(いしずえ)を上げ（て建設し）た時のこと（を思い起こさせよ。二人は、こう祈っていた。）「我らが主(しゅ)*よ、私たちから（祈りと行いを）お受け入れ下さい。あなたは本当に、よくお聴きになるお方、全知者であられますから。

وَإِذْ يَرْفَعُ إِبْرَٰهِـۧمُ ٱلْقَوَاعِدَ مِنَ ٱلْبَيْتِ وَإِسْمَـٰعِيلُ
رَبَّنَا تَقَبَّلْ مِنَّآ ۖ إِنَّكَ أَنتَ ٱلسَّمِيعُ ٱلْعَلِيمُ ١٢٧

128. 我らが主(しゅ)*よ、また、私たち二人をあなたに服従(ふくじゅう)する者（ムスリム*）とし、私たちの子孫からあなたに服従(ふくじゅう)する民をもたらして下さい。また、私たちに儀礼(ぎれい)[1]のあり方を示し、私たちの悔悟(かいご)をお受け入れ下さい。本当にあなたは、よく悔悟(かいご)をお受け入れになる*お方、慈愛(じあい)深い*お方なのですから。

رَبَّنَا وَٱجْعَلْنَا مُسْلِمَيْنِ لَكَ وَمِن ذُرِّيَّتِنَآ
أُمَّةً مُّسْلِمَةً لَّكَ وَأَرِنَا مَنَاسِكَنَا وَتُبْ عَلَيْنَآ ۖ
إِنَّكَ أَنتَ ٱلتَّوَّابُ ٱلرَّحِيمُ ١٢٨

129. 我らが主(しゅ)*よ、そして彼ら自身の内から彼らの中に、あなたの御徴(みしるし)（アーヤ*）を彼らに誦(よ)み聞かせ、啓典(けいてん)と英知[2]を教え、彼らを清(きよ)める[3]一人の使徒(しと)[4]*をお遣(つか)わし下さい。本当にあなたは偉力(いりょく)ならびない*お方、英知あふれる*お方なのですから」。

رَبَّنَا وَٱبْعَثْ فِيهِمْ رَسُولًا مِّنْهُمْ يَتْلُوا۟ عَلَيْهِمْ
ءَايَـٰتِكَ وَيُعَلِّمُهُمُ ٱلْكِتَـٰبَ وَٱلْحِكْمَةَ
وَيُزَكِّيهِمْ ۚ إِنَّكَ أَنتَ ٱلْعَزِيزُ ٱلْحَكِيمُ ١٢٩

---

1 この「儀礼」は、文脈から見て、「ハッジ*の宗教儀礼」とも解釈されうるし、「宗教そのもの」「全ての崇拝行為」というように、もっと広い意味に解釈することも可能（アッ＝サァディー66 頁参照）。

2 ここでの「英知」の解釈には、それが預言者*ムハンマド*のスンナ*であるとか、宗教的知識・理解などといった説がある（アッ＝タバリー1:719 参照）。

3 シルク*や悪い品性から「清める」こと（ムヤッサル 20 頁参照）。

4 この「使徒*」とは、使徒*ムハンマド*のこと（イブン・カスィール 1:425 参照）。彼は自分自身を、「イブラーヒーム*の祈り（の実現）」であり、「イーサー*の吉報（戦列章 6 参照）」である、と仰（おっしゃ）った（アフマド 17163 参照）。尚このことは、彼がアラブ人だけに対する預言者*であることを意味しない。高壁章 158 とその訳注も参照（イブン・カスィール 1:442 参照）。

130. 一体、愚か者以外の誰が、イブラーヒーム*の宗教を敬遠するというのか？　われら*は現世において確かに、彼を選り抜いたのだ。そして彼こそは来世において、必ずや正しい者*の一人となるのである。

وَمَن يَرۡغَبُ عَن مِّلَّةِ إِبۡرَٰهِـۧمَ إِلَّا مَن سَفِهَ نَفۡسَهُۥۚ وَلَقَدِ ٱصۡطَفَيۡنَٰهُ فِي ٱلدُّنۡيَاۖ وَإِنَّهُۥ فِي ٱلۡأٓخِرَةِ لَمِنَ ٱلصَّٰلِحِينَ ١٣٠

131. 彼（イブラーヒーム*）の主*が、彼に「服従（イスラーム*）せよ」と仰せられた時のこと（を思い起こさせよ）。彼は申し上げた。「私は、全創造物の主に服従します」。

إِذۡ قَالَ لَهُۥ رَبُّهُۥٓ أَسۡلِمۡۖ قَالَ أَسۡلَمۡتُ لِرَبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ١٣١

132. またイブラーヒーム*とヤァクーブ*はその息子たちに、それ（イスラーム*の遵守）を勧め（て、言っ）た。「我が子らよ、本当にアッラー*はあなた方のために、この宗教をお選びになられた。だからあなた方は絶対に、服従する者（ムスリム*）としてでしか死んではならない」。

وَوَصَّىٰ بِهَآ إِبۡرَٰهِـۧمُ بَنِيهِ وَيَعۡقُوبُ يَٰبَنِيَّ إِنَّ ٱللَّهَ ٱصۡطَفَىٰ لَكُمُ ٱلدِّينَ فَلَا تَمُوتُنَّ إِلَّا وَأَنتُم مُّسۡلِمُونَ ١٣٢

133. いや、（ユダヤ教徒*たちよ、）一体あなた方はヤァクーブ*に死が訪れた時、つまり彼がその息子たちに「私の（死）後、あなた方は何を崇拝*するのか？」と言った時、（その場に）立ち会っていたとでもいうのか？　彼らは言ったのだ。「私たちは、あなたの神[1]、そしてあなたの父祖であるイブラーヒーム*、イスマーイール*、イスハーク*の神を、ただ一つの神として、かれだけに服従しつつ崇拝します」。

أَمۡ كُنتُمۡ شُهَدَآءَ إِذۡ حَضَرَ يَعۡقُوبَ ٱلۡمَوۡتُ إِذۡ قَالَ لِبَنِيهِ مَا تَعۡبُدُونَ مِنۢ بَعۡدِيۖ قَالُواْ نَعۡبُدُ إِلَٰهَكَ وَإِلَٰهَ ءَابَآئِكَ إِبۡرَٰهِـۧمَ وَإِسۡمَٰعِيلَ وَإِسۡحَٰقَ إِلَٰهٗا وَٰحِدٗا وَنَحۡنُ لَهُۥ مُسۡلِمُونَ ١٣٣

1「神」という訳語をあてたアラビア語は「イラーフ」であり、語源的には崇拝される全ての対象を指す（アッ＝タバリー1:724 参照）。

134. それは、既に過ぎ去った民のこと。彼らには彼らが稼いだことの報いがあり、あなた方にはあなた方が稼いだことの報いがある。彼らが行っていたことについて、あなた方が問われることはない。

تِلۡكَ أُمَّةٞ قَدۡ خَلَتۡۖ لَهَا مَا كَسَبَتۡ وَلَكُم
مَّا كَسَبۡتُمۡۖ وَلَا تُسۡـَٔلُونَ عَمَّا كَانُواْ
يَعۡمَلُونَ ١٣٤

135. また、彼らは（それぞれ）言った[1]。「ユダヤ教徒*か、キリスト教徒*になるがよい。そうすれば、導かれよう」。（使徒*よ、）言ってやるがいい。「いや、純正な[2]イブラーヒーム*の宗教に（従え）。彼は、シルク*の徒の類いなどではなかったのだ」。

وَقَالُواْ كُونُواْ هُودًا أَوۡ نَصَٰرَىٰ تَهۡتَدُواْۗ قُلۡ بَلۡ
مِلَّةَ إِبۡرَٰهِـۧمَ حَنِيفٗاۖ وَمَا كَانَ مِنَ ٱلۡمُشۡرِكِينَ ١٣٥

136. （信仰者たちよ、）言ってやるがいい。「私たちはアッラー*と、私たちに下されたもの（クルアーン*）、またイブラーヒーム*、イスマーイール*、イスハーク*、ヤァクーブ*及び諸支族[3]に下されたもの、またムーサー*とイーサー*に授けられたものと、預言者*たちが彼らの主*から授けられたものを信じる。私たちは彼らの内の誰も分け隔てせず、かれ（アッラー*）だけに服従する者（ムスリム*）である」。

قُولُوٓاْ ءَامَنَّا بِٱللَّهِ وَمَآ أُنزِلَ إِلَيۡنَا وَمَآ أُنزِلَ
إِلَىٰٓ إِبۡرَٰهِـۧمَ وَإِسۡمَٰعِيلَ وَإِسۡحَٰقَ وَيَعۡقُوبَ
وَٱلۡأَسۡبَاطِ وَمَآ أُوتِيَ مُوسَىٰ وَعِيسَىٰ
وَمَآ أُوتِيَ ٱلنَّبِيُّونَ مِن رَّبِّهِمۡ لَا نُفَرِّقُ
بَيۡنَ أَحَدٖ مِّنۡهُمۡ وَنَحۡنُ لَهُۥ مُسۡلِمُونَ ١٣٦

137. それでもし彼らが、あなた方が信じるものと同じものを信じるのならば、確かに（真実へと）導かれたことになる。そしてもし背き去るのであれば、まさに彼ら

فَإِنۡ ءَامَنُواْ بِمِثۡلِ مَآ ءَامَنتُم بِهِۦ فَقَدِ
ٱهۡتَدَواْۖ وَّإِن تَوَلَّوۡاْ فَإِنَّمَا هُمۡ فِي شِقَاقٖۖ
فَسَيَكۡفِيكَهُمُ ٱللَّهُۚ وَهُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلۡعَلِيمُ ١٣٧

1 これは、預言者*時代のムスリム*に対する啓典の民*の言葉（ムヤッサル 21 頁参照）。

2 「純正」と訳した語は「ハニーフ」であり、語源的には何かに対して偏らず、まっすぐであること。ここでは、アッラー*とそのご命令への服従にまっすぐな様を指す（アッ＝タバリー1:726、3:1825 参照）。

3 「諸支族」とは、イスラーイールの子ら*の十二支族から出た、ヤァクーブ*の子孫である預言者*たちのことを指すと言われる（ムヤッサル 21 頁参照）。

は対立[1]の中にある。ならば彼らのことなど、あなたにはアッラー*（のご援助）だけで十分であろう。かれはよくお聴きになるお方、全知者であられる。

138. アッラー*の色染(いろぞ)め（にこそ従(したが)え）[2]——アッラー*よりも善い色染(いろぞ)めをされるお方があろうか？——。そして（言うのだ）。「私たちは、かれのみを崇拝(すうはい)*する者なのである」。

صِبْغَةَ ٱللَّهِ وَمَنْ أَحْسَنُ مِنَ ٱللَّهِ
صِبْغَةً وَنَحْنُ لَهُۥ عَٰبِدُونَ ١٣٨

139. （使徒(しと)*よ、）言ってやるがいい。「一体あなた方はアッラー*について、私たちと口論しようというのか？　かれは私たちの主(しゅ)*であり、あなた方の主(しゅ)*である。また、私たちには私たちの行いがあり、あなた方にはあなた方の行いがある。そして私たちはかれにこそ、（崇拝(すうはい)*行為を）真摯(しんし)に捧(ささ)げる者なのだ。」

قُلْ أَتُحَآجُّونَنَا فِى ٱللَّهِ وَهُوَ رَبُّنَا وَرَبُّكُمْ
وَلَنَآ أَعْمَٰلُنَا وَلَكُمْ أَعْمَٰلُكُمْ وَنَحْنُ لَهُۥ
مُخْلِصُونَ ١٣٩

140. いや、一体あなた方は、「本当にイブラーヒーム*、イスマーイール*、イスハーク*、ヤァクーブ*及び諸支族(しぞく)[3]は、ユダヤ教徒*かキリスト教徒*だった」などと言うのか？　（使徒(しと)*よ、）言ってやるがいい。「一体、あなた方とアッラー*の、どちらが（彼らの宗教について）よりよく

أَمْ تَقُولُونَ إِنَّ إِبْرَٰهِۦمَ وَإِسْمَٰعِيلَ
وَإِسْحَٰقَ وَيَعْقُوبَ وَٱلْأَسْبَاطَ كَانُوا۟
هُودًا أَوْ نَصَٰرَىٰ ۗ قُلْ ءَأَنتُمْ أَعْلَمُ أَمِ ٱللَّهُ ۗ
وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّن كَتَمَ شَهَٰدَةً عِندَهُۥ
مِنَ ٱللَّهِ ۗ وَمَا ٱللَّهُ بِغَٰفِلٍ عَمَّا تَعْمَلُونَ ١٤٠

---

1 アッラー*とその使徒*、そしてその信徒たちとの対立（アッ＝タバリー1:731 参照）。

2 当時のキリスト教徒*には、子供を洗礼するにあたって彼らを水に浸し、キリスト教徒*としての「色染め」の儀式とする一派があった（前掲書 1:732 参照）。しかしイスラーム*こそは、誕生した時点では誰もが備えている、正しい天性に沿った宗教なのである（ビザンチン章 30 参照）。尚、預言者*ムハンマド*は次のように仰（おっしゃ）った。「全ての赤子は、（正しい）天性のもとに誕生する。しかしその両親が彼をユダヤ教徒*にしたり、キリスト教徒*にしたり、マジュース教徒（巡礼*章 17 の訳注を参照）にしたりするのだ」（アル＝ブハーリー1385 参照）。

3 「諸支族」については、アーヤ*136 の訳注を参照。

知っているというのか？　アッラー*から証言を隠蔽する者よりも、ひどい不正*を働く者があろうか？　アッラー*はあなた方の行いに、迂闊ではあられない」。

141. それは、既に過ぎ去った民のこと。彼らには彼らが稼いだことの報いがあり、あなた方にはあなた方が稼いだことの報いがある。彼らが行っていたことについて、あなた方が問われることはない。

تِلۡكَ أُمَّةٞ قَدۡ خَلَتۡۖ لَهَا مَا كَسَبَتۡ
وَلَكُم مَّا كَسَبۡتُمۡۖ وَلَا تُسۡـَٔلُونَ
عَمَّا كَانُواْ يَعۡمَلُونَ ١٤١

142. 人々の中の、愚かな者たちは言うだろう。「それまで向かっていた彼らのキブラ*から、彼ら（ムスリム*たち）を転じさせたものは、何なのか？[1]」（使徒*よ、）言ってやるがよい。「東も西も、アッラー*のもの。かれは、かれがお望みになる者を、まっすぐな道に導かれる」。

۞سَيَقُولُ ٱلسُّفَهَآءُ مِنَ ٱلنَّاسِ مَا وَلَّىٰهُمۡ عَن
قِبۡلَتِهِمُ ٱلَّتِي كَانُواْ عَلَيۡهَاۚ قُل لِّلَّهِ ٱلۡمَشۡرِقُ وَٱلۡمَغۡرِبُۚ
يَهۡدِي مَن يَشَآءُ إِلَىٰ صِرَٰطٖ مُّسۡتَقِيمٖ ١٤٢

143. また（ムスリム*たちよ、あなた方を導いたのと）同様に、われら*はあなた方を最良の共同体とした。（それは）あなた方が人々に対する証人となり、使徒*（ムハンマド*）があなた方の証人となる[2]ためである。また、われら*が、あなたが以前向かっていたキブラ*（と、その変更）を定めたのは、使徒*に従う者と後ろへ引き返す者[3]とを如実に表すためであった——そ

وَكَذَٰلِكَ جَعَلۡنَٰكُمۡ أُمَّةٗ وَسَطٗا
لِّتَكُونُواْ شُهَدَآءَ عَلَى ٱلنَّاسِ وَيَكُونَ ٱلرَّسُولُ
عَلَيۡكُمۡ شَهِيدٗاۗ وَمَا جَعَلۡنَا ٱلۡقِبۡلَةَ ٱلَّتِي
كُنتَ عَلَيۡهَآ إِلَّا لِنَعۡلَمَ مَن يَتَّبِعُ ٱلرَّسُولَ
مِمَّن يَنقَلِبُ عَلَىٰ عَقِبَيۡهِۚ وَإِن كَانَتۡ
لَكَبِيرَةً إِلَّا عَلَى ٱلَّذِينَ هَدَى ٱللَّهُۗ وَمَا كَانَ
ٱللَّهُ لِيُضِيعَ إِيمَٰنَكُمۡۚ إِنَّ ٱللَّهَ
بِٱلنَّاسِ لَرَءُوفٞ رَّحِيمٞ ١٤٣

1 預言者*ムハンマド*のマディーナ*への移住*後、約十六、七ヶ月後に、ムスリム*たちはそれまでキブラ*としていたエルサレムから、イブラーヒーム*のキブラ*でもあったマッカ*のハラーム・マスジド*へと向かうことを命じられた（アル＝ブハーリー4492 参照）。

2 ムスリム*は復活の日*、現世で使徒*たちが到来し、人々にアッラー*の教えを伝えたことを証言する。同じように使徒*ムハンマド*もまた、彼が人々にアッラー*の教えを伝えたことを証言する（ムヤッサル 22 頁参照）。

3 「後ろへ引き返す者」とは、イスラーム*を棄（す）てる者のこと（前掲書、同頁参照）。

れ（キブラ*の変更に従うこと）はアッラー*が導かれた者以外の者にとっては、困難だったのだ――。またアッラー*は、あなた方の信仰[1]を無駄にはなされない。本当にアッラー*は、人々に対し実に哀れみ深い*お方、慈愛深い*お方なのだから。

144. （使徒*よ、）われら*は、あなたの顔が天を何度も仰ぐのを見る。では、われら*はあなたの満足するキブラ*へと、必ずやあなたを向けさせよう。ならば、あなたの顔をハラーム・マスジド*の方向に向けるがよい。また（ムスリム*たちよ）、どこにあろうとも、（礼拝の時は）あなた方の顔をそちらへと向けるのだ。本当に、啓典を授けられた民*は、それ（キブラ*の変更）が彼らの主*からもたらされた真理であるということを、まさしく知っている。そしてアッラー*は、彼らが行っていることに、迂闊ではあられないのだ。

قَدۡ نَرَىٰ تَقَلُّبَ وَجۡهِكَ فِي ٱلسَّمَآءِۖ فَلَنُوَلِّيَنَّكَ
قِبۡلَةٗ تَرۡضَىٰهَاۚ فَوَلِّ وَجۡهَكَ شَطۡرَ
ٱلۡمَسۡجِدِ ٱلۡحَرَامِۚ وَحَيۡثُ مَا كُنتُمۡ فَوَلُّواْ
وُجُوهَكُمۡ شَطۡرَهُۥۗ وَإِنَّ ٱلَّذِينَ أُوتُواْ
ٱلۡكِتَٰبَ لَيَعۡلَمُونَ أَنَّهُ ٱلۡحَقُّ مِن رَّبِّهِمۡۗ
وَمَا ٱللَّهُ بِغَٰفِلٍ عَمَّا يَعۡمَلُونَ ١٤٤

145. また（使徒*よ）、たとえあなたが、啓典を授けられた民*に全ての御徴[2]を示したとしても、彼らはあなたのキブラ*には従わない――あなたが彼らのキブラ*に従うことはなく、彼らが互いのキブラ*に従うこともない――。そして、もしもあな

وَلَئِنۡ أَتَيۡتَ ٱلَّذِينَ أُوتُواْ ٱلۡكِتَٰبَ بِكُلِّ
ءَايَةٖ مَّا تَبِعُواْ قِبۡلَتَكَۚ وَمَآ أَنتَ بِتَابِعٖ
قِبۡلَتَهُمۡۚ وَمَا بَعۡضُهُم بِتَابِعٖ قِبۡلَةَ بَعۡضٖۚ
وَلَئِنِ ٱتَّبَعۡتَ أَهۡوَآءَهُم مِّنۢ بَعۡدِ مَا جَآءَكَ
مِنَ ٱلۡعِلۡمِ إِنَّكَ إِذٗا لَّمِنَ ٱلظَّٰلِمِينَ ١٤٥

1 ここでの「信仰」は、文字通りの意味以外に、礼拝のことも指すと言われる（ムヤッサル 22 頁参照）。またこのアーヤ*は、キブラ*が変更された後、ある教友*たちが「キブラ*の変更前に死んでしまった同胞の礼拝はどうなるのか？」と尋（たず）ねたことに関し、下ったものとされる（アッ＝ティルミズィー2964 参照）。

2 この「御徴」は、キブラ*がカァバ神殿*に変わったことがアッラー*からの真理であることを示す、証拠のこと（ムヤッサル 22 頁参照）。

た[1]が（真理の）知識が自分のもとにやって来た後、彼らの私欲に従うのなら、その時本当にあなたは、まさしく不正*者の仲間となってしまうだろう。

146. われら*が啓典を授けた者たち*は、そのこと[2]を自分の子供のことを知るように、（よく）知っている。そして実に、彼らの内の一派は（そのことを）知りながら、真実をまさに隠蔽しているのだ。

ٱلَّذِينَ ءَاتَيۡنَٰهُمُ ٱلۡكِتَٰبَ يَعۡرِفُونَهُۥ كَمَا
يَعۡرِفُونَ أَبۡنَآءَهُمۡۖ وَإِنَّ فَرِيقٗا مِّنۡهُمۡ
لَيَكۡتُمُونَ ٱلۡحَقَّ وَهُمۡ يَعۡلَمُونَ ١٤٦

147. （預言者*よ、あなたへの啓示は、）あなたの主*の御許からの真理。ならば、あなた[3]は絶対に、（そのことにおいて）疑わしく思う者たちの類いとなってはならない。

ٱلۡحَقُّ مِن رَّبِّكَ فَلَا تَكُونَنَّ مِنَ ٱلۡمُمۡتَرِينَ ١٤٧

148. それぞれ（の民）には、（礼拝の際に）彼（ら）が向かうべき方向がある。ならば（信仰者たちよ、）善行を競い合うのだ。あなた方がどこにいようとも、アッラー*は（復活の日*、）あなた方全員を連れて来られる。本当にアッラー*は、全てのことがお出来のお方なのだから。

وَلِكُلّٖ وِجۡهَةٌ هُوَ مُوَلِّيهَاۖ فَٱسۡتَبِقُواْ
ٱلۡخَيۡرَٰتِۚ أَيۡنَ مَا تَكُونُواْ يَأۡتِ بِكُمُ ٱللَّهُ جَمِيعًاۚ
إِنَّ ٱللَّهَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٞ ١٤٨

149. また（預言者*よ）、どこから出かけようとも、（礼拝をする時は）ハラーム・マスジド*の方向へ、顔を向けよ。本当にそれはまさしく、あなたの主*からの真理なのだから。アッラー*は、あなた方が行っていることに迂闊ではあられない。

وَمِنۡ حَيۡثُ خَرَجۡتَ فَوَلِّ وَجۡهَكَ شَطۡرَ
ٱلۡمَسۡجِدِ ٱلۡحَرَامِۖ وَإِنَّهُۥ لَلۡحَقُّ مِن رَّبِّكَۗ
وَمَا ٱللَّهُ بِغَٰفِلٍ عَمَّا تَعۡمَلُونَ ١٤٩

---

1 この「あなた」については、アーヤ*120 の訳注を参照（ムヤッサル 23 頁参照）。

2 「そのこと」とは、預言者*ムハンマド*が、真の預言者であるということ（前掲書、同頁参照）。

3 この「あなた」については、アーヤ*120 の訳注を参照（前掲書、同頁参照）。

150. また（預言者*よ）、どこから出かけようとも、（礼拝をする時は）ハラーム・マスジド*の方向へ顔を向けよ。そして（ムスリム*たちよ）、どこにあろうとも（礼拝をする時は）、あなた方の顔をそちらへと向けるのだ。それは、彼らの内の不正*者たちは別として、人々のあなた方に対する議論の余地を残さぬようにするためであり[1]——ならば彼らを怖れず、われを怖れよ——、われがあなた方へのわが恩恵を全うし、あなた方が導かれるようにするためである。

وَمِنۡ حَيۡثُ خَرَجۡتَ فَوَلِّ وَجۡهَكَ شَطۡرَ
ٱلۡمَسۡجِدِ ٱلۡحَرَامِۚ وَحَيۡثُ مَا كُنتُمۡ فَوَلُّواْ
وُجُوهَكُمۡ شَطۡرَهُۥ لِئَلَّا يَكُونَ لِلنَّاسِ عَلَيۡكُمۡ
حُجَّةٌ إِلَّا ٱلَّذِينَ ظَلَمُواْ مِنۡهُمۡ فَلَا تَخۡشَوۡهُمۡ
وَٱخۡشَوۡنِي وَلِأُتِمَّ نِعۡمَتِي عَلَيۡكُمۡ وَلَعَلَّكُمۡ
تَهۡتَدُونَ ١٥٠

151. （あなた方のキブラ*をカァバ神殿*としたのと）同様に、われら*はあなた方に、あなた方の内から一人の使徒*を遣わし（て恩恵を授け）た。彼はあなた方に、われら*の御徴（アーヤ*）を誦み聞かせ、あなた方を清め、またあなた方に啓典と英知とを教える[2]。そしてあなた方が知らなかったことを、あなた方に教示するのだ。

كَمَآ أَرۡسَلۡنَا فِيكُمۡ رَسُولٗا مِّنكُمۡ يَتۡلُواْ عَلَيۡكُمۡ
ءَايَٰتِنَا وَيُزَكِّيكُمۡ وَيُعَلِّمُكُمُ ٱلۡكِتَٰبَ
وَٱلۡحِكۡمَةَ وَيُعَلِّمُكُم مَّا لَمۡ تَكُونُواْ تَعۡلَمُونَ ١٥١

152. ゆえに、われを思い起こすのだ。（そうすれば）われも、あなた方を思い起こそう[3]。また、われに感謝し、われ（の恩恵）を蔑ろにするのではない。

فَٱذۡكُرُونِيٓ أَذۡكُرۡكُمۡ وَٱشۡكُرُواْ لِي
وَلَا تَكۡفُرُونِ ١٥٢

---

1 ここでの「不正*者たち」とは、「ムハンマド*が私たちのキブラ*に戻ったぞ。その内、私たちの宗教に戻って来るに違いない」などと言っていたマッカ*の不信仰者*たち、「人々」とは「ムハンマド*とその仲間は、私たちが示してやるまで、彼らのキブラ*を知ることがなかった」とか、「ムハンマド*は私たちの宗教と袂（たもと）を分かちながらも、私たちのキブラ*に従っている」とかいう言いがかりをつけていた、啓典の民*のことだという（アッ＝タバリー1:773-774 参照）。

2 「清める」と「英知」については、アーヤ*129 の訳注を参照。

3 アッラー*がそのしもべを「思い起こす」とは、彼らにそのご慈悲とお赦しというご厚意（こうい）で応じられることであるとか、あるいはお褒（ほ）めと讃美の言葉でもって言及（げんきゅう）されること、などといった解釈がある（ムヤッサル 23 頁参照）。

153. 信仰する者たちよ、忍耐*と礼拝をもって助力とせよ。本当にアッラー*は、忍耐*ある者たちと共におられるのだから。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ ٱسْتَعِينُوا۟ بِٱلصَّبْرِ
وَٱلصَّلَوٰةِ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ مَعَ ٱلصَّٰبِرِينَ ﴿١٥٣﴾

154. そしてアッラー*の道において殺される者を、死人だなどと言ってはならない。いや、彼らは生きているのだ[1]。だがあなた方が、そのことを感じ取れないだけのことである。

وَلَا تَقُولُوا۟ لِمَن يُقْتَلُ فِى سَبِيلِ ٱللَّهِ أَمْوَٰتٌۢ ۚ
بَلْ أَحْيَآءٌ وَلَٰكِن لَّا تَشْعُرُونَ ﴿١٥٤﴾

155. われら*は、いくばくかの恐怖や飢え、財産や生命や果実の損失によって、必ずやあなた方を試練[2]にかける。忍耐*する者たちには、吉報を伝えよ。

وَلَنَبْلُوَنَّكُم بِشَىْءٍ مِّنَ ٱلْخَوْفِ وَٱلْجُوعِ
وَنَقْصٍ مِّنَ ٱلْأَمْوَٰلِ وَٱلْأَنفُسِ وَٱلثَّمَرَٰتِ ۗ
وَبَشِّرِ ٱلصَّٰبِرِينَ ﴿١٥٥﴾

156. （彼らは）災難が降りかかれば、「本当に私たちは、アッラー*にこそ属します。そして必ずや私たちは、かれの御許へと帰り行くのです」と言う者たち。

ٱلَّذِينَ إِذَآ أَصَٰبَتْهُم مُّصِيبَةٌ قَالُوٓا۟ إِنَّا لِلَّهِ
وَإِنَّآ إِلَيْهِ رَٰجِعُونَ ﴿١٥٦﴾

157. そのような者たち、彼らの上には、その主*からの賞賛とご慈悲がある。そしてそのような者たちこそは、正しく導かれた者たちなのである。

أُو۟لَٰٓئِكَ عَلَيْهِمْ صَلَوَٰتٌ مِّن رَّبِّهِمْ وَرَحْمَةٌ ۖ
وَأُو۟لَٰٓئِكَ هُمُ ٱلْمُهْتَدُونَ ﴿١٥٧﴾

158. 本当にサファーとマルワ[3]は、アッラー*の聖徴の一つである。誰でも館（カァバ神殿*）へのハッジ*に詣でたり、ウムラ*

۞ إِنَّ ٱلصَّفَا وَٱلْمَرْوَةَ مِن شَعَآئِرِ ٱللَّهِ ۖ فَمَنْ
حَجَّ ٱلْبَيْتَ أَوِ ٱعْتَمَرَ فَلَا جُنَاحَ عَلَيْهِ أَن

1 アッラー*の道において奮闘（ふんとう）し殺された者は、現世と来世との狭間（はざま）の世界（バルザフ）において、アッラー*の恩恵を授かりながら特別な「生」を送る。一説には、彼らは復活の前まで、天国からの食事を振舞（ふるま）われるとも言われる（アフマド 2390、ムスリム「統治の書」121 参照）。イムラーン家章 169 の訳注も参照。

2 「試練」についてはアーヤ*214、イムラーン家章 186、悔悟章 16、洞窟章 7、蜘蛛章 2、ムハンマド*章 31、王権章 2 とそれらの訳注も参照。

3 「サファーとマルワ」とは、マッカ*のハラーム・マスジド*に面した全長約四百mの通路を挟（はさ）む、二つの丘のこと。「サファーの丘」から始めてその間を三往復半する行（ぎょう）は「サァイ」と呼ばれ、ハッジ*とウムラ*における必須（ひっす）項目の一つである。

を行ったりする者は、その間をタワーフ*しても支障（ししょう）はない[1]。そして自（みずか）ら進んで善行を行う者があれば、実にアッラー*はよく労（ねぎら）われる*お方、全知者なのである。

يَطَّوَّفَ بِهِمَاۚ وَمَن تَطَوَّعَ خَيۡرٗا فَإِنَّ ٱللَّهَ
شَاكِرٌ عَلِيمٌ ١٥٨

159. 本当にわれら*が下した明証（めいしょう）と導（みちび）きを、われら*が啓典（けいてん）の中で人々に明らかにした後に隠蔽（いんぺい）する者たち、そのような者たちは、アッラー*が彼らを呪われ、呪うものたちが彼らを呪う[2]のだ。

إِنَّ ٱلَّذِينَ يَكۡتُمُونَ مَآ أَنزَلۡنَا مِنَ ٱلۡبَيِّنَٰتِ
وَٱلۡهُدَىٰ مِنۢ بَعۡدِ مَا بَيَّنَّٰهُ لِلنَّاسِ فِي
ٱلۡكِتَٰبِ أُوْلَٰٓئِكَ يَلۡعَنُهُمُ ٱللَّهُ
وَيَلۡعَنُهُمُ ٱللَّٰعِنُونَ ١٥٩

160. しかし悔悟（かいご）し、（行いを）改（あらた）め、（隠蔽（いんぺい）していた真理を）明らかにする者たちは別である。それらの者たち、われは彼らの悔悟（かいご）を受け入れるのだから。われはよく悔悟（かいご）を受け入れる*者、慈愛（じあい）深い*者である。

إِلَّا ٱلَّذِينَ تَابُواْ وَأَصۡلَحُواْ وَبَيَّنُواْ فَأُوْلَٰٓئِكَ
أَتُوبُ عَلَيۡهِمۡ وَأَنَا ٱلتَّوَّابُ ٱلرَّحِيمُ ١٦٠

161. 本当に、不信仰に陥（おちい）り、不信仰者*のまま死んだ者たち、それらの者たちの上にはアッラーと天使*たち、そして人々全員の呪い[3]がある。

إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ وَمَاتُواْ وَهُمۡ كُفَّارٌ
أُوْلَٰٓئِكَ عَلَيۡهِمۡ لَعۡنَةُ ٱللَّهِ وَٱلۡمَلَٰٓئِكَةِ وَٱلنَّاسِ
أَجۡمَعِينَ ١٦١

162. 彼らはその中に永住するのだ。懲罰（ちょうばつ）が彼らから軽減（けいげん）されることもなければ、彼らが猶予（ゆうよ）されることもない。

خَٰلِدِينَ فِيهَا لَا يُخَفَّفُ عَنۡهُمُ ٱلۡعَذَابُ
وَلَا هُمۡ يُنظَرُونَ ١٦٢

---

1 ハッジ*でもウムラ*でも、「サァイ」は巡礼*における必須項目の一つ。しかしこのアーヤ*で、それがあたかも任意の行為であるかのように述べられているのは、このアーヤ*が下った当時、マッカ*はまだ不信仰者*の支配下にあり、サファーとマルワの両丘には偶像があったからである。それでムスリム*たちはウムラ*を行う際、そのような状況でサァイを行うことに躊躇（ちゅうちょ）していたが、アッラー*はそのような中でもサァイを行ってよい、と許可された（アル＝ブハーリー1643 参照）。

2 「アッラー*の呪い」についてはアーヤ*88 の訳注を参照。また「呪うものたちが彼らを呪う」とは、彼らに対してアッラー*の呪いを祈ること。「呪うものたち」の解釈には、「天使*」「ジン*と人間」「動物」などの諸説がある（アル＝バガウィー1:194 参照）。

3 「アッラーの呪い」についてはアーヤ 88 の訳注を、アッラー以外のものの呪いについては、アーヤ 159 の訳注を参照。

163. あなた方の神[1]は、ただ一つの神（アッラー*）で、かれ以外には、崇拝*すべきものなどないお方、慈悲あまねき*お方、慈愛深い*お方なのである。

وَإِلَٰهُكُمْ إِلَٰهٌ وَٰحِدٌ ۖ لَّآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ ٱلرَّحْمَٰنُ
ٱلرَّحِيمُ ١٦٣

164. 本当に、諸天と大地の創造、夜と昼の交代、人々に役立つものを載せて海を進む船、アッラー*が天からお降らしになった（雨）水——かれはそれで大地を、その死後に息吹かせ[2]、そこに陸を歩くあらゆる生物を散在させられた——、風の変化、天地の間に仕えさせられた雲々の中にはまさしく、分別する民への御徴[3]がある。

إِنَّ فِي خَلْقِ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ وَٱخْتِلَٰفِ
ٱلَّيْلِ وَٱلنَّهَارِ وَٱلْفُلْكِ ٱلَّتِي تَجْرِي فِي
ٱلْبَحْرِ بِمَا يَنفَعُ ٱلنَّاسَ وَمَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ مِنَ
ٱلسَّمَآءِ مِن مَّآءٍ فَأَحْيَا بِهِ ٱلْأَرْضَ بَعْدَ
مَوْتِهَا وَبَثَّ فِيهَا مِن كُلِّ دَآبَّةٍ وَتَصْرِيفِ
ٱلرِّيَٰحِ وَٱلسَّحَابِ ٱلْمُسَخَّرِ بَيْنَ ٱلسَّمَآءِ
وَٱلْأَرْضِ لَأَيَٰتٍ لِّقَوْمٍ يَعْقِلُونَ ١٦٤

165. また、人々の中には、アッラー*を差しおいて同位者を設け（て崇拝*す）る者たちがいる。彼らはそれらを、あたかもアッラー*への愛情のごとく愛する——信仰する者たちのアッラー*に対する愛情は、（そのような者たちの愛情）より強烈なのだが[4]——。それで、もし（そのような）不正*を働いた者たちが（来世の）懲罰を目の当たりにする時、（それを）見るならば、全ての力はアッラー*にのみ属し、アッラー*は懲罰が厳しいお方である（ことを、思い知っただろう）。

وَمِنَ ٱلنَّاسِ مَن يَتَّخِذُ مِن دُونِ ٱللَّهِ أَندَادًا
يُحِبُّونَهُمْ كَحُبِّ ٱللَّهِ ۖ وَٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ أَشَدُّ
حُبًّا لِّلَّهِ ۗ وَلَوْ يَرَى ٱلَّذِينَ ظَلَمُوٓا۟ إِذْ
يَرَوْنَ ٱلْعَذَابَ أَنَّ ٱلْقُوَّةَ لِلَّهِ جَمِيعًا
وَأَنَّ ٱللَّهَ شَدِيدُ ٱلْعَذَابِ ١٦٥

1 「神」については、アーヤ*133 の訳注を参照。

2 植物の生えない枯れた地を、麗（うるわ）しい緑で覆われる、ということ（ムヤッサル 25 頁参照）。

3 この「御徴」は、アッラーの唯一性*と、その恩恵の偉大さを示す証拠のこと（前掲書、同頁参照）。

4 信仰者はアッラー*への愛情を純粋なものにするが、不信仰者*はアッラー*への愛情において、他の崇拝*対象への愛情を混ぜるため（前掲書、同頁参照）。

166. （それは、シルク*において）従われた者たちが、懲罰を目の当たりにして（彼らに）従った者たちを見捨て、彼らの関係[1]が断絶される時。[2]

إِذۡ تَبَرَّأَ ٱلَّذِينَ ٱتُّبِعُواْ مِنَ ٱلَّذِينَ ٱتَّبَعُواْ
وَرَأَوُاْ ٱلۡعَذَابَ وَتَقَطَّعَتۡ بِهِمُ
ٱلۡأَسۡبَابُ ١٦٦

167. そして彼らに従った者たちは、（こう）言う。「もし（現世に）戻ることが出来るのなら、（今）彼らが私たちを見捨てたように、私たちも彼らと決別するのだが」。同様にアッラー*は、彼らへの悲嘆となる彼らの（虚しい）行いを、彼らにお見せになる。そして、彼らが（地獄の）業火から出ることはない。

وَقَالَ ٱلَّذِينَ ٱتَّبَعُواْ لَوۡ أَنَّ لَنَا كَرَّةٗ
فَنَتَبَرَّأَ مِنۡهُمۡ كَمَا تَبَرَّءُواْ مِنَّاۗ كَذَٰلِكَ
يُرِيهِمُ ٱللَّهُ أَعۡمَٰلَهُمۡ حَسَرَٰتٍ عَلَيۡهِمۡۖ
وَمَا هُم بِخَٰرِجِينَ مِنَ ٱلنَّارِ ١٦٧

168. 人々よ、地上にある合法な善い物の内から、食べるのだ。そしてシャイターン*の歩みに従ってはならない。本当に彼は、あなた方にとって紛れもない敵なのだから。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ كُلُواْ مِمَّا فِي ٱلۡأَرۡضِ حَلَٰلٗا
طَيِّبٗا وَلَا تَتَّبِعُواْ خُطُوَٰتِ ٱلشَّيۡطَٰنِۚ
إِنَّهُۥ لَكُمۡ عَدُوّٞ مُّبِينٌ ١٦٨

169. 本当に彼はあなた方に、悪事と醜行[3]、そしてあなた方がアッラー*に関して知りもしないことを語ることを命じるのだ。

إِنَّمَا يَأۡمُرُكُم بِٱلسُّوٓءِ وَٱلۡفَحۡشَآءِ وَأَن
تَقُولُواْ عَلَى ٱللَّهِ مَا لَا تَعۡلَمُونَ ١٦٩

170. また、「アッラー*が下されたものに従え」と言われれば、彼ら（不信仰者*たち）は言った。「いや、私たちは、私たちが見出した自分たちのご先祖様のやり方[4]に従う」。一体、たとえ彼らの先祖が何も弁え

وَإِذَا قِيلَ لَهُمُ ٱتَّبِعُواْ مَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ قَالُواْ بَلۡ
نَتَّبِعُ مَآ أَلۡفَيۡنَا عَلَيۡهِ ءَابَآءَنَآۚ أَوَلَوۡ كَانَ
ءَابَآؤُهُمۡ لَا يَعۡقِلُونَ شَيۡـٔٗا وَلَا يَهۡتَدُونَ ١٧٠

---

1 この「関係」とは、近親関係・主従関係・宗教上の関係を含む全ての関係のこと（ムヤッサル 25 頁参照）。

2 同様の情景の描写として、高壁章 38、イブラーヒーム*章 21-22、識別章 17-19、物語章 63、部族連合章 67-68、サバア章 31-33、40-41 も参照。

3 「醜行」については、蜜蜂章 90 の訳注も参照。

4 「ご先祖様のやり方」とは、彼らの先祖の宗教、つまりシルク*のこと（アル＝バガウィー 1:198 参照）。また、宗教に関することにおいて、使徒*でもない人間の行いは、その正当性を示す根拠とも、見本ともなり得ない（アッ＝サァディー525 頁参照）。

てはおらず、導かれてもいなかったとしても、（そうするの）か？

171. 不信仰に陥った*者たち（と、彼らを導きと信仰へと招く者）の様子は、あたかも呼びかけや掛け声しか聞こえないもの（家畜）に喚きちらす者のようである。（彼らは真理において）聾で、唖で、盲人[1]。ゆえに、彼らは分別することがないのだ。

وَمَثَلُ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ كَمَثَلِ ٱلَّذِي يَنۡعِقُ
بِمَا لَا يَسۡمَعُ إِلَّا دُعَآءٗ وَنِدَآءٗۚ صُمُّۢ بُكۡمٌ عُمۡيٞ
فَهُمۡ لَا يَعۡقِلُونَ ١٧١

172. 信仰する者たちよ、われら*があなた方に授けた善いものから食べ、アッラー*に感謝せよ。もし、あなた方がかれ（アッラー*）のみを崇拝*しているのなら。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ كُلُواْ مِن طَيِّبَٰتِ
مَا رَزَقۡنَٰكُمۡ وَٱشۡكُرُواْ لِلَّهِ إِن كُنتُمۡ
إِيَّاهُ تَعۡبُدُونَ ١٧٢

173. かれはあなた方に、死肉[2]、血液[3]、豚肉、アッラー*以外の名において屠られたもの[4]を、禁じられたのだ。やむを得ない状態にある者は誰でも、法を超えず度を越さない限りにおいて[5]、（それを口にしても）罪はない。本当にアッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。

إِنَّمَا حَرَّمَ عَلَيۡكُمُ ٱلۡمَيۡتَةَ وَٱلدَّمَ وَلَحۡمَ
ٱلۡخِنزِيرِ وَمَآ أُهِلَّ بِهِۦ لِغَيۡرِ ٱللَّهِۖ فَمَنِ ٱضۡطُرَّ
غَيۡرَ بَاغٖ وَلَا عَادٖ فَلَآ إِثۡمَ عَلَيۡهِۚ إِنَّ ٱللَّهَ
غَفُورٞ رَّحِيمٌ ١٧٣

1 「聾」「唖」「盲人」については、アーヤ*18 の訳注を参照。

2 「死肉」とは、屠殺（とさつ）を条件に食用が許される種類の生き物の内、イスラーム*法に則（のっと）った方法で屠殺されなかったもの。また、たとえ屠殺されたとしても、そもそもイスラーム*法で食用を許されていないもの。尚、水生生物は、この内には入らないとされる（アル＝クルトゥビー2:217 参照）。

3 「血液」とは、流れる血液のこと（家畜章 145 参照）。肝臓や脾臓（ひぞう）内のもの、肉の中に混じっている血液などは合法ということで、学者間の見解は一致している（前掲書 2:222 参照）。

4 アッラー*以外のために屠（ほふ）られたもの、という説もある（アッ＝タバリー1:835-836 参照）。

5 「法を超えず、度を越さない限りにおいて」とは、合法なものを差しおいて非合法なものを望まず、やむを得ない場合でも必要以上にそれを摂取（せっしゅ）しないことである、と言われる（前掲書 1:837-840 参照）。

174. 本当にアッラー*が下された啓典を隠蔽し、それと引き換えに僅かな代価を得る者たち、それらの者たちが腹の中に食べて（詰め込んで）いるのは、（業火の）炎に外ならない。そしてアッラー*は復活の日*、彼らにお言葉をかけられることもなければ、彼らを（罪から）清められることもない。また彼らには、痛烈な懲罰があるのだ。

إِنَّ ٱلَّذِينَ يَكۡتُمُونَ مَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ مِنَ
ٱلۡكِتَٰبِ وَيَشۡتَرُونَ بِهِۦ ثَمَنٗا قَلِيلًا
أُوْلَٰٓئِكَ مَا يَأۡكُلُونَ فِي بُطُونِهِمۡ إِلَّا ٱلنَّارَ
وَلَا يُكَلِّمُهُمُ ٱللَّهُ يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِ
وَلَا يُزَكِّيهِمۡ وَلَهُمۡ عَذَابٌ أَلِيمٌ ١٧٤

175. それらの者たちは、導きの代わりに迷妄を、お赦しの代わりに懲罰を買った者たち。彼らは業火（の責め苦）に対して、何と辛抱強いことか[1]。

أُوْلَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ ٱشۡتَرَوُاْ ٱلضَّلَٰلَةَ
بِٱلۡهُدَىٰ وَٱلۡعَذَابَ بِٱلۡمَغۡفِرَةِۚ فَمَآ
أَصۡبَرَهُمۡ عَلَى ٱلنَّارِ ١٧٥

176. それというのも、アッラー*が真理と共に啓典を下されたためである[2]。本当に、啓典について異論を唱える者は、（真理から）実に遠い対立の中にある。

ذَٰلِكَ بِأَنَّ ٱللَّهَ نَزَّلَ ٱلۡكِتَٰبَ بِٱلۡحَقِّۗ وَإِنَّ ٱلَّذِينَ
ٱخۡتَلَفُواْ فِي ٱلۡكِتَٰبِ لَفِي شِقَاقِۭ بَعِيدٖ ١٧٦

177. 善とは、ただあなた方の顔を東や西に向けることではない[3]。しかし（真の）善（行者）とは、アッラー*、最後の日*、天使*、啓典、預言者*たちを信じ、財産を近親の者、孤児、貧者*、旅路（で苦境）にある

۞لَّيۡسَ ٱلۡبِرَّ أَن تُوَلُّواْ وُجُوهَكُمۡ قِبَلَ
ٱلۡمَشۡرِقِ وَٱلۡمَغۡرِبِ وَلَٰكِنَّ ٱلۡبِرَّ مَنۡ ءَامَنَ
بِٱللَّهِ وَٱلۡيَوۡمِ ٱلۡأٓخِرِ وَٱلۡمَلَٰٓئِكَةِ وَٱلۡكِتَٰبِ
وَٱلنَّبِيِّـۧنَ وَءَاتَى ٱلۡمَالَ عَلَىٰ حُبِّهِۦ ذَوِي ٱلۡقُرۡبَىٰ

---

1 彼らが、自ら懲罰を招くような罪へと急ぐことを蔑（さげす）む、修辞（しゅうじ）的表現（ムヤッサル 26 頁参照）。

2 彼らがそのような懲罰に値したのは、アッラー*がその使徒*に真理と共に啓典を下され、しかも彼らがその事実を認知していたにも関わらず、それを否認したり隠蔽したりしていたからである（アッ＝タバリー1:844-845 参照）。

3 アッラー*が、ムスリム*たちにキブラ*の変更を命じられた（アーヤ*142 以降参照）時、それは一部の啓典の民*とムスリム*にとっての試練となった。それでアッラー*は、善・敬虔さ*・完全な信仰とは、善行も服従行為も行わず、アッラー*のご命令にも基づかずに、単に東や西を向くことではないことを明らかにされた。信仰者に重要なのは、アッラー*のご命令に従い、向くように命じられた方に向き、定められたことを守ることである、とお知らせになったのである（イブン・カスィール 1:485 参照）。

者、物乞い、首[1]のために、自らの（それに対する）愛着にも関わらず施し、礼拝を遵守*し、浄財*を支払い、約束すればそれを果たす者たちで、困窮と災難、戦いの時に忍耐*ある者たち。そのような者たちこそは、（信仰に）正直な者。そしてそのような者たちこそは、敬虔な*者なのである。

وَٱلۡيَتَٰمَىٰ وَٱلۡمَسَٰكِينَ وَٱبۡنَ ٱلسَّبِيلِ وَٱلسَّآئِلِينَ
وَفِي ٱلرِّقَابِ وَأَقَامَ ٱلصَّلَوٰةَ وَءَاتَى ٱلزَّكَوٰةَ
وَٱلۡمُوفُونَ بِعَهۡدِهِمۡ إِذَا عَٰهَدُواْۖ وَٱلصَّٰبِرِينَ
فِي ٱلۡبَأۡسَآءِ وَٱلضَّرَّآءِ وَحِينَ ٱلۡبَأۡسِۗ أُوْلَٰٓئِكَ
ٱلَّذِينَ صَدَقُواْۖ وَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡمُتَّقُونَ ١٧٧

178. 信仰する者たちよ、（故意の）殺人に関して、あなた方にキサース刑[2]が義務づけられた。自由民は自由民、奴隷*は奴隷、女性は女性[3]。（殺人のキサース刑が）同胞[4]によって大目に見られ（代償金へと軽減され）た者があれば、（被害者の遺族はその請求にあたって）適切さを守り、（加害者はその支払いにおいて）彼に善を尽くして全うせよ。それはあなた方の主*からの軽減と、ご慈悲である。そして、その後に侵犯した者[5]があれば、彼には痛ましい懲罰があるのだ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ كُتِبَ عَلَيۡكُمُ ٱلۡقِصَاصُ
فِي ٱلۡقَتۡلَىۖ ٱلۡحُرُّ بِٱلۡحُرِّ وَٱلۡعَبۡدُ بِٱلۡعَبۡدِ وَٱلۡأُنثَىٰ
بِٱلۡأُنثَىٰۚ فَمَنۡ عُفِيَ لَهُۥ مِنۡ أَخِيهِ شَيۡءٞ فَٱتِّبَاعُۢ
بِٱلۡمَعۡرُوفِ وَأَدَآءٌ إِلَيۡهِ بِإِحۡسَٰنٖۗ ذَٰلِكَ تَخۡفِيفٞ
مِّن رَّبِّكُمۡ وَرَحۡمَةٞۗ فَمَنِ ٱعۡتَدَىٰ بَعۡدَ ذَٰلِكَ
فَلَهُۥ عَذَابٌ أَلِيمٞ ١٧٨

1 身体の高貴な一部である「首」によって、人間そのものが意図されている（アッ＝ズバイディー2:518）。ここでの「首」は、奴隷の解放とその援助、書を交わすことを望む者（御光章 33 の同語に関する訳注を参照）の援助、捕虜の解放などと解釈されている（アッ＝サァディー83 頁参照）。

2 「キサース」とは、「追う、模倣する」といった意味のアラビア語が由来で、つまり語源的には誰かの行為を模倣（もほう）することである、と言われる（アッ＝ラーズィー2:222 参照）。しかしイスラーム*用語においては、殺人あるいは傷害の罪を犯した者が、自らが犯したのと同等の罰を受ける刑のこと（クウェイト法学大全 21:45 参照）。

3 つまり自由民の殺人は、犯人が同様の自由民である場合においてキサース刑に処され、奴隷や女性も同様である（ムヤッサル 27 頁参照）。

4 被害者の遺族のこと（前掲書、同頁参照）。

5 代償金を受け取った後、加害者側を殺すこと（前掲書、同頁参照）。また被害者の遺族は、加害者当人にも、それ以外の者にも危害を加えたりしてはならない。刑の執行者は、為政（いせい）者のみである（アル＝クルトゥビー2:245 参照）。

179. そしてキサース刑（の定め）にこそ、あなた方にとって生命（の安全）がある[1]——澄んだ理性の持ち主たちよ——。あなた方が（アッラー*を）畏れる*よう（、それは定められたのだ）。

وَلَكُمۡ فِي ٱلۡقِصَاصِ حَيَوٰةٞ يَٰٓأُوْلِي ٱلۡأَلۡبَٰبِ
لَعَلَّكُمۡ تَتَّقُونَ ١٧٩

180. あなた方の誰かが死に面した時、——もし、彼が財産を残したなら——、両親と近親者に対して適切な形で遺言[2]をするよう、あなた方に義務づけられた[3]。（それは）敬虔な*者たちの義務である。

كُتِبَ عَلَيۡكُمۡ إِذَا حَضَرَ أَحَدَكُمُ ٱلۡمَوۡتُ
إِن تَرَكَ خَيۡرًا ٱلۡوَصِيَّةُ لِلۡوَٰلِدَيۡنِ وَٱلۡأَقۡرَبِينَ
بِٱلۡمَعۡرُوفِۖ حَقًّا عَلَى ٱلۡمُتَّقِينَ ١٨٠

181. それで、それ（遺言）を聞いた後、それを（勝手に）変更した者があれば、罪はその変更した者にこそある。本当にアッラー*は、よくお聴きになるお方、全知者なのだから。

فَمَنۢ بَدَّلَهُۥ بَعۡدَمَا سَمِعَهُۥ فَإِنَّمَآ إِثۡمُهُۥ عَلَى
ٱلَّذِينَ يُبَدِّلُونَهُۥٓۚ إِنَّ ٱللَّهَ سَمِيعٌ عَلِيمٞ ١٨١

182. また、過ちや罪を遺言者に対して怖れる者が、彼らの間を取り持っても罪ではない[4]。本当にアッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。

فَمَنۡ خَافَ مِن مُّوصٖ جَنَفًا أَوۡ إِثۡمٗا فَأَصۡلَحَ
بَيۡنَهُمۡ فَلَآ إِثۡمَ عَلَيۡهِۚ إِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٞ
رَّحِيمٞ ١٨٢

---

1 人を殺せば自分も殺されることを知る者は、そうは殺人など犯すものではない。また殺人犯の死刑が人々の前で執行されることは、彼らをそのような犯罪から抑止するものである（アッ＝サァディー84 頁参照）。

2 「適切な形で遺言」することとは、遺言での贈与に関し、貧しい者をよそに豊かな者に財産を譲ったりせず、自分の財産の三分の一以上を贈与したりしないことなどを指す（ムヤッサル 27 頁参照）。

3 このアーヤ*は、各相続人の取り分が定められた遺産相続に関する啓示（婦人章 11、12、176 参照）前に下ったものと言われる（前掲書、同頁参照）。自分の両親のような遺産相続人にも、遺言で財産を譲（ゆず）ることが出来るという決まりは、最終的には無効化された（アッ＝ティルミズィー2121 参照）。

4 遺言における「過ち」は意図しないもので、「罪」は故意のものであると言われる。このような場合、遺言の場に居合わせた者は遺言者に公正な遺言を勧める。しかし、もしそれが叶わなければ、遺言者の死後に相続人の取り分を、イスラーム*の相続法に沿った形で変更する（ムヤッサル 28 頁参照）。

183. 信仰する者たちよ、あなた方以前の者たちにも義務（ぎむ）づけられたように、あなた方にも斎戒（さいかい）*が義務（ぎむ）づけられた。（それは）あなた方が、敬虔（けいけん）*になるようにである。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ كُتِبَ عَلَيْكُمُ
ٱلصِّيَامُ كَمَا كُتِبَ عَلَى ٱلَّذِينَ مِن
قَبْلِكُمْ لَعَلَّكُمْ تَتَّقُونَ ١٨٣

184. （ラマダーン月*の）一定の日数を（斎戒（さいかい）*せよ）。それであなた方の内、病人や旅行中の者（で斎戒（さいかい）*しなかった者）は誰でも、別の日々に（その）日数を（斎戒（さいかい）*する）。そしてそれ（斎戒（さいかい）*）を遂行（すいこう）できない者の償（つぐな）いは、貧者（ひんじゃ）*一人への食べ物[1]。また、進んで善行をする者ならば、それが彼にとってより善いこと[2]である。そして斎戒（さいかい）*する方が、あなた方にはより善いのだ[3]。もし、あなた方が（その徳（とく）を）知っているのなら。

أَيَّامًا مَّعْدُودَٰتٍ ۚ فَمَن كَانَ مِنكُم
مَّرِيضًا أَوْ عَلَىٰ سَفَرٍ فَعِدَّةٌ مِّنْ أَيَّامٍ أُخَرَ ۚ وَعَلَى
ٱلَّذِينَ يُطِيقُونَهُۥ فِدْيَةٌ طَعَامُ مِسْكِينٍ ۖ
فَمَن تَطَوَّعَ خَيْرًا فَهُوَ خَيْرٌ لَّهُۥ ۚ وَأَن تَصُومُوا۟
خَيْرٌ لَّكُمْ ۖ إِن كُنتُمْ تَعْلَمُونَ ١٨٤

185. （それは）人々への導（みちび）きとして、また導（みちび）きと識別（しきべつ）の明証[4]としてクルアーン*が下された、ラマダーン月*。それで誰であろうと、（旅行中ではない）定住者としてその月に立ち会った（健常（けんじょう））者は、斎戒（さいかい）*せよ。そして病人や旅行中の者（で斎戒（さいかい）*しなかった者）は誰でも、別の日々に（その）日数を（斎戒（さいかい）*する）。アッラー*はあなた方に易（やす）きを望まれるのであって、

شَهْرُ رَمَضَانَ ٱلَّذِىٓ أُنزِلَ فِيهِ ٱلْقُرْءَانُ
هُدًى لِّلنَّاسِ وَبَيِّنَٰتٍ مِّنَ ٱلْهُدَىٰ وَٱلْفُرْقَانِ ۚ
فَمَن شَهِدَ مِنكُمُ ٱلشَّهْرَ فَلْيَصُمْهُ ۖ
وَمَن كَانَ مَرِيضًا أَوْ عَلَىٰ سَفَرٍ فَعِدَّةٌ مِّنْ
أَيَّامٍ أُخَرَ ۗ يُرِيدُ ٱللَّهُ بِكُمُ ٱلْيُسْرَ وَلَا يُرِيدُ
بِكُمُ ٱلْعُسْرَ وَلِتُكْمِلُوا۟ ٱلْعِدَّةَ
وَلِتُكَبِّرُوا۟ ٱللَّهَ عَلَىٰ مَا هَدَىٰكُمْ
وَلَعَلَّكُمْ تَشْكُرُونَ ١٨٥

1 老衰（ろうすい）した者や、快復（かいふく）の望みが薄い病人などは、ラマダーン月*の斎戒*の義務を免除されるが、その代償は毎日一人の貧者*に食べ物を提供することである（ムヤッサル 28 頁参照）。

2 貧者*への食べ物の提供において、義務の枠（わく）を超えた施（ほどこ）しをすること（前掲書、同頁参照）。

3 上記の理由により斎戒*の義務が免除される者でも、斎戒*することの方が望ましいということ（前掲書、同頁参照）。

4 アッラー*のお導き、そして真理と虚妄（きょもう）との明白な判別についての、明らかな証拠のこと（前掲書、同頁参照）。

困難を望んでおられるのではない。そしてそれは、あなた方が（斎戒*の）日数を全うし、あなた方を導いて下さったことについてアッラー*の偉大さを称揚する*ためであり[1]、あなた方が感謝するようになるためである。

186. そして（使徒*よ、）わが僕たちが、われについてあなたに尋ねた時には、（われが、こう語っている、と言うのだ。）「本当にわれは、（あなた方の）近くにある。われに祈れば、われは、祈る者の祈願に応えよう。ならば、彼らが正しく導かれるように、われ（の呼びかけ）に応えさせ[2]、われを信仰させるのだ」。

وَإِذَا سَأَلَكَ عِبَادِي عَنِّي فَإِنِّي قَرِيبٌ أُجِيبُ
دَعْوَةَ الدَّاعِ إِذَا دَعَانِ فَلْيَسْتَجِيبُوا لِي
وَلْيُؤْمِنُوا بِي لَعَلَّهُمْ يَرْشُدُونَ ١٨٦

187. あなた方には、斎戒*の（月の）夜に、妻と交わることが許されている。彼女らはあなた方にとっての衣であり、あなた方は彼女らにとっての衣である[3]。アッラー*は、あなた方が自らを欺いていたこと[4]をご存知であった。そしてかれは、あなた方の悔悟をお受け入れになり、あなた方を大目に見られたのである。今あなた方は、彼女らと交わり、アッラー*があな

أُحِلَّ لَكُمْ لَيْلَةَ الصِّيَامِ الرَّفَثُ إِلَىٰ
نِسَائِكُمْ هُنَّ لِبَاسٌ لَّكُمْ وَأَنتُمْ لِبَاسٌ
لَّهُنَّ عَلِمَ اللَّهُ أَنَّكُمْ كُنتُمْ تَخْتَانُونَ
أَنفُسَكُمْ فَتَابَ عَلَيْكُمْ وَعَفَا عَنكُمْ
فَالْآنَ بَاشِرُوهُنَّ وَابْتَغُوا مَا كَتَبَ اللَّهُ لَكُمْ
وَكُلُوا وَاشْرَبُوا حَتَّىٰ يَتَبَيَّنَ لَكُمُ الْخَيْطُ
الْأَبْيَضُ مِنَ الْخَيْطِ الْأَسْوَدِ مِنَ الْفَجْرِ
ثُمَّ أَتِمُّوا الصِّيَامَ إِلَى اللَّيْلِ وَلَا تُبَاشِرُوهُنَّ

---

1 ここでの「アッラー*の偉大さを称揚する」とは、ラマダーン月*が明けたイード*の日に唱えることを推奨されている、特定の称賛の言葉だとも言われる（ムヤッサル 28 頁参照）。

2 アッラー*が命じられたことを行い、禁じられたことを避けること（前掲書、同頁参照）。

3 夫婦とは、身にまとう衣服のように常に一緒であり、かつ禁じられたものからお互いを守り合い、また、お互いに安らぎの場となるような存在である（アル＝クルトゥビー 2:316-317 参照）。

4 ラマダーン月*の斎戒*が義務づけられた当初は、日没後でも一旦眠ってしまえば、翌日の日没まで飲食や配偶者との性交渉が禁じられていたと言われる。「自らを欺く」とは、このような理由で人々が、苦境に陥（おちい）ることがあったことを示しているのだという（アブー・ダーウード 2314、アッ＝タバリー2:931-937 参照）。

た方に対して定められたこと[1]を求めるがよい。そして夜明けの白い糸が黒い糸から明白になるまで[2]、食べ、飲むのだ。それから（太陽が沈んで）夜になるまで、斎戒*を全うせよ。また、マスジド*でイァティカーフ*している時に、彼女ら（自分の妻）と交わってはならない。それは、アッラー*の決まりである。ならば、そこに近づくのではない。このようにアッラー*は人々に、彼らが敬虔*になるよう、（法規定に関する）かれの御徴を解き明かされるのだ。

وَأَنتُمْ عَٰكِفُونَ فِى ٱلْمَسَٰجِدِ ۗ تِلْكَ حُدُودُ ٱللَّهِ
فَلَا تَقْرَبُوهَا ۗ كَذَٰلِكَ يُبَيِّنُ ٱللَّهُ ءَايَٰتِهِۦ لِلنَّاسِ
لَعَلَّهُمْ يَتَّقُونَ ١٨٧

188. あなた方は自分たちの間で、あなた方の財を偽りの手段[3]によって貪ってはならない。また（それが禁じられていることを）知りながら、罪深くも他人の財の一部を貪ろうとして、裁判官にそれ（偽りの申し立て）による訴えをしてもならない。

وَلَا تَأْكُلُوٓا۟ أَمْوَٰلَكُم بَيْنَكُم بِٱلْبَٰطِلِ
وَتُدْلُوا۟ بِهَآ إِلَى ٱلْحُكَّامِ لِتَأْكُلُوا۟ فَرِيقًا
مِّنْ أَمْوَٰلِ ٱلنَّاسِ بِٱلْإِثْمِ وَأَنتُمْ تَعْلَمُونَ ١٨٨

189. （預言者*よ、）彼らは新月について、あなたに尋ねる。言うのだ。「それは人々の、そしてハッジ*の時節の目安」。また、あなた方がその上部から家に入るという行為は、善行ではない[4]。しかし善行と

۞ يَسْـَٔلُونَكَ عَنِ ٱلْأَهِلَّةِ ۖ قُلْ هِىَ مَوَٰقِيتُ
لِلنَّاسِ وَٱلْحَجِّ ۗ وَلَيْسَ ٱلْبِرُّ بِأَن تَأْتُوا۟
ٱلْبُيُوتَ مِن ظُهُورِهَا وَلَٰكِنَّ ٱلْبِرَّ مَنِ
ٱتَّقَىٰ ۗ وَأْتُوا۟ ٱلْبُيُوتَ مِنْ أَبْوَٰبِهَا ۚ

---

1 子供のことである、とされる（ムヤッサル 29 頁参照）。

2 暁（あかつき）に、夜の黒さから朝の光がはっきりと芽生える時のこと（前掲書、同頁参照）。

3 「偽りの手段」とは、アッラー*が非合法とされた手段のこと。強奪（ごうだつ）・窃盗（せっとう）・詐欺（さぎ）・利息*などの外、労働者の賃金を搾取（さくしゅ）したり、任務を全うせずに報酬（ほうしゅう）を得たりすることも含まれてくる（アッ＝サァディー88 頁参照）。

4 マディーナ*の民は、巡礼*のためのイフラーム*に入った後、自分の頭上と空を遮（さえぎ）らないことを崇拝*行為・善行としていた。それで、イフラーム*後に家に入る必要が生じた際には、通常の戸口から入らず、家の天井から穴を開けて入ったりしたのだった（アル＝クルトゥビー2:344-345 参照）。

は、主*を畏れる*者（の行為）のことをいうのである。戸口から家に入り、あなた方が成功するために、アッラー*を畏れるのだ。

وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ لَعَلَّكُمْ تُفْلِحُونَ ١٨٩

190. あなた方に戦いを仕掛ける者たちと、アッラー*の道において戦え[1]。そして、度を越してはならない[2]。実にアッラー*は、度を越す者をお好みにはならないのだから。

وَقَٰتِلُوا۟ فِى سَبِيلِ ٱللَّهِ ٱلَّذِينَ
يُقَٰتِلُونَكُمْ وَلَا تَعْتَدُوٓا۟ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ لَا يُحِبُّ
ٱلْمُعْتَدِينَ ١٩٠

191. また、捕らえ次第、彼らを殺し、彼らがあなた方を追放した場所（マッカ*）から、彼らを追放せよ。――試練は、殺害よりもっと悪い[3]のだ――。そして、彼らがハラーム・マスジド*であなた方に戦いを仕掛けて来るまでは、彼らにそこで戦いを仕掛けてはならない。彼らが（そこで）あなた方に戦いを仕掛けてくるのなら、彼らを（戦って）殺すのだ。不信仰者*たちへの報いは、そのようなものである。

وَٱقْتُلُوهُمْ حَيْثُ ثَقِفْتُمُوهُمْ وَأَخْرِجُوهُم مِّنْ حَيْثُ
أَخْرَجُوكُمْ ۚ وَٱلْفِتْنَةُ أَشَدُّ مِنَ ٱلْقَتْلِ ۚ وَلَا تُقَٰتِلُوهُمْ
عِندَ ٱلْمَسْجِدِ ٱلْحَرَامِ حَتَّىٰ يُقَٰتِلُوكُمْ فِيهِ ۖ فَإِن
قَٰتَلُوكُمْ فَٱقْتُلُوهُمْ ۗ كَذَٰلِكَ جَزَآءُ ٱلْكَٰفِرِينَ ١٩١

192. それで彼らがやめる[4]のなら、（アッラー*は彼らをお赦しになろう、）本当にアッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。

فَإِنِ ٱنتَهَوْا۟ فَإِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ١٩٢

1 このアーヤ*は巡礼*章 39 に次いで、敵対するマッカ*の不信仰者*との戦闘を許可する初期のアーヤ*であった（イブン・カスィール 1:524 参照）。関連するアーヤ*として、アーヤ*193、巡礼*章 39、悔悟章 5、36、123 も参照。

2 「度を越す」とは、戦死者の遺体を故意に損ねたり、戦闘に関与しない女性・子供・老人・修道僧を殺したりすることなど、アッラー*が禁じられたことに背（そむ）くことを指すという（ムヤッサル 29 頁参照）。

3 この「試練」は、「不信仰」「シルク*」「イスラーム*に対する妨害」で、「殺害」とは「信仰者の、不信仰者*に対する殺害」のこととされる（ムヤッサル 30 頁参照）。「信仰者を不信仰へと戻すために試練にかけることは、信仰者自身を殺すことよりも悪い」という解釈もあり（アッ＝タバリー2:963-964 参照）。

4 不信仰と決別して信仰に入り、戦闘をやめること（ムヤッサル 30 頁参照）。

193. そして試練[1]がなくなり、宗教がアッラー*だけのものとなる[2]まで、彼らと戦え。彼らがやめる[3]のなら、不正*者[4]たち以外に対しては侵害してならない。

وَقَٰتِلُوهُمْ حَتَّىٰ لَا تَكُونَ فِتْنَةٌ وَيَكُونَ ٱلدِّينُ لِلَّهِ ۖ
فَإِنِ ٱنتَهَوْا۟ فَلَا عُدْوَٰنَ إِلَّا عَلَى ٱلظَّٰلِمِينَ ١٩٣

194. 神聖月*には神聖月*、神聖さ（の侵犯）には、同様のことで（報いよ）[5]。そして、あなた方を侵害してきたら、彼には、彼があなた方を侵害したような形で、害し返す[6]のだ。アッラー*を畏れ*、アッラー*が敬虔な*者たちと共におられることを、知るがよい。

ٱلشَّهْرُ ٱلْحَرَامُ بِٱلشَّهْرِ ٱلْحَرَامِ وَٱلْحُرُمَٰتُ قِصَاصٌ ۚ فَمَنِ
ٱعْتَدَىٰ عَلَيْكُمْ فَٱعْتَدُوا۟ عَلَيْهِ بِمِثْلِ مَا ٱعْتَدَىٰ
عَلَيْكُمْ ۚ وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ وَٱعْلَمُوٓا۟ أَنَّ ٱللَّهَ مَعَ ٱلْمُتَّقِينَ ١٩٤

195. また、アッラー*の道において（財を）費やせ。そして、自分の手で（自らを）破滅へと追いやってはならない。善を尽くす[7]のだ。本当にアッラー*は、善を尽くす者たちをお好みになるのだから。

وَأَنفِقُوا۟ فِى سَبِيلِ ٱللَّهِ وَلَا تُلْقُوا۟ بِأَيْدِيكُمْ إِلَى
ٱلتَّهْلُكَةِ ۛ وَأَحْسِنُوٓا۟ ۛ إِنَّ ٱللَّهَ يُحِبُّ ٱلْمُحْسِنِينَ ١٩٥

196. ハッジ*とウムラ*を、アッラー*のために全うせよ。それで、もし阻まれてしまった[8]ら、（イフラーム*を解くために、）簡単

وَأَتِمُّوا۟ ٱلْحَجَّ وَٱلْعُمْرَةَ لِلَّهِ ۚ فَإِنْ أُحْصِرْتُمْ فَمَا
ٱسْتَيْسَرَ مِنَ ٱلْهَدْىِ ۖ وَلَا تَحْلِقُوا۟ رُءُوسَكُمْ حَتَّىٰ يَبْلُغَ

1 「試練」については、アーヤ*191 の訳注を参照 。

2 アッラー*以外の何ものも並べて崇拝*されることがない、かれのためだけの宗教が残ること（ムヤッサル 30 頁参照）。

3 「彼らがやめる」については、アーヤ*192 の訳注を参照 。

4 不信仰を棄（す）てることなく、敵対と迫害を止めない者たちのこと（前掲書、同頁参照）。

5 アッラー*が神聖とした場所や時期を破った者は、同様のもので罰されなければならない、ということ（前掲書、同頁参照）。

6 「報復する」とすべき所で「害し返す」という表現されているのは、その前にある「侵害」という語への対応による、修辞的意味合いのため（イブン・カスィール 1:527 参照）。

7 この「善を尽くす」とは、特に施しと善行におけることで、かつ全ての行いをアッラー*だけのために純粋にすることとされる（ムヤッサル 30 頁参照）。また、蜜蜂章 128 の訳注も参照。

8 イフラーム*後に、敵の妨害や、病気などによって、巡礼*の続行を阻まれてしまったら、の意（前掲書、同頁参照）。

ٱلْهَدْيُ مَحِلَّهُۥ ۚ فَمَن كَانَ مِنكُم مَّرِيضًا أَوْ بِهِۦٓ أَذًى مِّن
رَّأْسِهِۦ فَفِدْيَةٌ مِّن صِيَامٍ أَوْ صَدَقَةٍ أَوْ نُسُكٍ ۚ فَإِذَآ
أَمِنتُمْ فَمَن تَمَتَّعَ بِٱلْعُمْرَةِ إِلَى ٱلْحَجِّ فَمَا ٱسْتَيْسَرَ
مِنَ ٱلْهَدْيِ ۚ فَمَن لَّمْ يَجِدْ فَصِيَامُ ثَلَٰثَةِ أَيَّامٍ فِى
ٱلْحَجِّ وَسَبْعَةٍ إِذَا رَجَعْتُمْ ۗ تِلْكَ عَشَرَةٌ كَامِلَةٌ ۗ ذَٰلِكَ
لِمَن لَّمْ يَكُنْ أَهْلُهُۥ حَاضِرِى ٱلْمَسْجِدِ ٱلْحَرَامِ ۚ
وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ وَٱعْلَمُوٓا۟ أَنَّ ٱللَّهَ شَدِيدُ ٱلْعِقَابِ ﴿١٩٦﴾

に手に入る供物[1]を（捧げよ）。そして供物がその場に達（し、それを屠殺）するまでは、頭髪を剃ってはいけない[2]。またあなた方の内、（イフラーム*に入った者で、）病人や、（害虫などが原因で）頭部に問題がある者は誰でも（頭髪を剃ってもよいが）、斎戒*、施し、供物の内から償いを（選べ）[3]。また、あなた方が安全になり、ハッジ*（の時期）までウムラ*（で禁じられていたもの）を堪能する[4]のであれば、手頃な供物を（捧げよ）。それで、それ（供物）を入手出来ない者は、ハッジ*（の巡礼*月）に三日間、（家族のもとに）帰った後に七日間の斎戒をせよ。これが完全なる十日間である。それは、ハラーム・マスジド*に家族のない者[5]に関すること。アッラー*を畏れ*、アッラー*が厳しい懲罰を与えられるお方であることを、知っておくがよい。

---

1 羊、ラクダ、牛などの犠牲の家畜のこと（ムヤッサル 30 頁参照）。

2 巡礼*の続行が「阻まれて」不可能になった者は、その代償としてその場で犠牲を屠（ほふ）る。そうするまでは、頭髪を刈って（あるいは、頭部全体から均等に短くすることによって、）イフラーム*を解除することが出来ない。尚、ハッジ*を続行・完遂した者の犠牲が屠られる「場所」は、マッカ*の聖域内であり、ズル＝ヒッジャ月*十日から「アイヤーム・アッ＝タシュリーク（アーヤ*203「一定の日数」の訳注を参照）」までである（前掲書、同頁参照）。

3 つまり三日間の斎戒か、六人の貧者*たちに半サーア*ずつの食料を施（ほどこ）すことか、マッカ*の聖域にいる貧者のために羊を一頭屠ること（前掲書、同頁参照）。

4 ウムラ*を行った後に一旦イフラーム*を解き、ハッジ*の行事が始まるにあたって再度イフラーム*に入るまで、イフラーム*に伴う様々な制限から自由な状態を堪能すること。「タマットゥ（堪能）」という、ハッジ*の一形式（前掲書、同頁参照）。

5 マッカ*を訪問するにあたり、イスラーム*法上の旅行者と見なされる者のこととされる（アッ＝サアディー90 頁参照）。

197. ハッジ*は、周知の数ヶ月である[1]。それで、その間に（イフラーム*に入って）ハッジ*を自らに課した者は誰でも、そのハッジ*において、淫らな言動や、放逸さや、言い争い[2]に陥ってはならない。そしてあなた方がいかなる善行でもすれば、アッラー*はそれをご存知になるのだ。旅の蓄えを準備せよ。というのも、実に旅の蓄えで最善のものは、敬虔*さなのだから。そして澄んだ理性の持ち主たちよ、われを畏れる*のだ。

ٱلۡحَجُّ أَشۡهُرٞ مَّعۡلُومَٰتٞۚ فَمَن فَرَضَ
فِيهِنَّ ٱلۡحَجَّ فَلَا رَفَثَ وَلَا فُسُوقَ
وَلَا جِدَالَ فِي ٱلۡحَجِّۗ وَمَا تَفۡعَلُواْ مِنۡ
خَيۡرٖ يَعۡلَمۡهُ ٱللَّهُۗ وَتَزَوَّدُواْ فَإِنَّ خَيۡرَ
ٱلزَّادِ ٱلتَّقۡوَىٰۖ وَٱتَّقُونِ يَٰٓأُوْلِي ٱلۡأَلۡبَٰبِ ١٩٧

198. （ハッジ*中に、）あなた方の主*からの恩寵を求めること[3]は、あなた方にとって罪ではない。それであなた方がアラファート[4]から一斉にやって来たら、聖標[5]でアッラー*を唱念するのだ。そしてかれがあなた方を導かれたように、かれを唱念せよ。本当にあなた方はそれ以前、迷った民だったのだから。

لَيۡسَ عَلَيۡكُمۡ جُنَاحٌ أَن تَبۡتَغُواْ
فَضۡلٗا مِّن رَّبِّكُمۡۚ فَإِذَآ أَفَضۡتُم مِّنۡ
عَرَفَٰتٖ فَٱذۡكُرُواْ ٱللَّهَ عِندَ ٱلۡمَشۡعَرِ
ٱلۡحَرَامِۖ وَٱذۡكُرُوهُ كَمَا هَدَىٰكُمۡ
وَإِن كُنتُم مِّن قَبۡلِهِۦ لَمِنَ ٱلضَّآلِّينَ ١٩٨

199. それから、人々が一斉にやって来るところからやって来て、アッラー*に罪のお赦しを乞うのだ[6]。本当にアッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。

ثُمَّ أَفِيضُواْ مِنۡ حَيۡثُ أَفَاضَ ٱلنَّاسُ
وَٱسۡتَغۡفِرُواْ ٱللَّهَۚ إِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٞ
رَّحِيمٞ ١٩٩

---

1 「周知の数ヶ月」とは、ハッジ*の巡礼*月のこと（ムヤッサル 31 頁参照）。

2 怒りや、望ましくない行いへとつながるような「言い争い」のこと（前掲書、同頁参照）。

3 つまり、商売すること。このアーヤ*は、巡礼*の時期に商売することを罪と見なしていた、ある種の人々に対して下ったとされる（アル＝ブハーリー4519 参照）。

4 「アラファート」あるいは「アラファ」とは、ズル＝ヒッジャ月*九日にハッジ*を行う者たちが向かい、日没まで滞在するマッカ*近郊（きんこう）の台地のこと（ムヤッサル 31 頁参照）。

5 「聖標」とは、巡礼*者が日没後、「アラファ」を後にして向かう、ムズダリファの地のこと（前掲書、同頁参照）。彼らはそこで礼拝をして野営し、翌朝ファジュル*の礼拝後、空が白むまでアッラー*の唱念に努める（アッ＝サァディー92 頁参照）。

6 このようにムスリム*は、一つの崇拝*行為を終えるたび、自分の至らなさに対するアッラー*のお赦しを乞い、それを達成させて下さったアッラー*に、感謝するべきである（前掲書、同頁参照）。

200. そして（ハッジ*における）儀式を全うしたら、あなた方の先祖に対する唱念のように、あるいはそれ以上に強い唱念で、アッラー*を唱念せよ[1]。人々の中には（現世のみを望んで）、「我らが主*よ、現世において私たちにお恵み下さい」と言う者がある。そして彼らには、来世における（よき）取り分などないのだ。

فَإِذَا قَضَيۡتُم مَّنَٰسِكَكُمۡ فَٱذۡكُرُواْ ٱللَّهَ
كَذِكۡرِكُمۡ ءَابَآءَكُمۡ أَوۡ أَشَدَّ ذِكۡرٗاۗ
فَمِنَ ٱلنَّاسِ مَن يَقُولُ رَبَّنَآ ءَاتِنَا فِي
ٱلدُّنۡيَا وَمَا لَهُۥ فِي ٱلۡأٓخِرَةِ مِنۡ خَلَٰقٖ ٢٠٠

201. また彼らの中には、「我らが主*よ、私たちに現世において善きものと、来世において善きものをお授け下さい。そして、私たちを業火の懲罰からお守り下さい」と言う者がある。

وَمِنۡهُم مَّن يَقُولُ رَبَّنَآ ءَاتِنَا فِي
ٱلدُّنۡيَا حَسَنَةٗ وَفِي ٱلۡأٓخِرَةِ حَسَنَةٗ
وَقِنَا عَذَابَ ٱلنَّارِ ٢٠١

202. それらの者たち、彼らには、自分たちが稼いだものに対する（よき）取り分があるのだ。アッラー*は、即座に計算される*お方である。

أُوْلَٰٓئِكَ لَهُمۡ نَصِيبٞ مِّمَّا كَسَبُواْۚ
وَٱللَّهُ سَرِيعُ ٱلۡحِسَابِ ٢٠٢

203. 一定の日数[2]、アッラー*を唱念せよ。それで（滞在を）二日間で早めに切り上げても[3]、彼には罪はなく、また（三日目まで滞在を）遅らせても、彼に罪はない。（このお許しは、）敬虔な*者のため。そしてアッラーを畏れ*、あなた方がかれの御許に召集されるということを知っておくがよい。

۞وَٱذۡكُرُواْ ٱللَّهَ فِيٓ أَيَّامٖ مَّعۡدُودَٰتٖۚ فَمَن
تَعَجَّلَ فِي يَوۡمَيۡنِ فَلَآ إِثۡمَ عَلَيۡهِ وَمَن
تَأَخَّرَ فَلَآ إِثۡمَ عَلَيۡهِۖ لِمَنِ ٱتَّقَىٰۗ وَٱتَّقُواْ
ٱللَّهَ وَٱعۡلَمُوٓاْ أَنَّكُمۡ إِلَيۡهِ تُحۡشَرُونَ ٢٠٣

---

1 ジャーヒリーヤ*時代、アラブ人たちはハッジ*を終えた後、自分たちの先祖の威光（いこう）を称え、誇（ほこ）り合ったとされる（アッ＝タバリー2:1087-1089 参照）。

2 「一定の日数」とは、マッカ*近郊（きんこう）のミナーの地で過ごす、いわゆる「アイヤーム・アッ＝タシュリーク」（ズル＝ヒッジャ月*の十一日、十二日、十三日の三日間）のこと。預言者*ムハンマド*はこの三日間を、「飲食と、アッラー*の唱念の日々」と描写された（アフマド 7134 参照）。

3 その場合、十二日目の投石を終えてから、日没前にミナーを後にする（ムヤッサル 32 頁参照）。

204. （使徒*よ、）人々の中には、（イスラーム*に対する）最も強硬な論客であるにも関わらず、現世においては（上辺だけの）言葉であなたを喜ばせ、自らの胸中についてアッラー*を証人とする者がいる。

وَمِنَ ٱلنَّاسِ مَن يُعۡجِبُكَ قَوۡلُهُۥ فِي
ٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَا وَيُشۡهِدُ ٱللَّهَ عَلَىٰ مَا فِي
قَلۡبِهِۦ وَهُوَ أَلَدُّ ٱلۡخِصَامِ ٢٠٤

205. また彼は、（あなたのもとを）立ち去れば、地上で腐敗*を広めたり、作物や子孫を損ねたりしようと努める。アッラー*は、腐敗*をお好みにはならないのだ。

وَإِذَا تَوَلَّىٰ سَعَىٰ فِي ٱلۡأَرۡضِ لِيُفۡسِدَ فِيهَا
وَيُهۡلِكَ ٱلۡحَرۡثَ وَٱلنَّسۡلَۚ وَٱللَّهُ لَا يُحِبُّ
ٱلۡفَسَادَ ٢٠٥

206. また、「アッラー*を畏れ*よ」と言われれば、尊大さが彼を（更なる）罪へと走らせる。彼（の懲罰）には、地獄で十分。そしてその寝床は、何と実に醜悪なことか。

وَإِذَا قِيلَ لَهُ ٱتَّقِ ٱللَّهَ أَخَذَتۡهُ ٱلۡعِزَّةُ بِٱلۡإِثۡمِۚ
فَحَسۡبُهُۥ جَهَنَّمُۖ وَلَبِئۡسَ ٱلۡمِهَادُ ٢٠٦

207. また、人々の中には、アッラー*のご満悦を求めて自らの魂を売る者がいる。アッラー*はその僕たちに対し、哀れみ深い*お方である。

وَمِنَ ٱلنَّاسِ مَن يَشۡرِي نَفۡسَهُ ٱبۡتِغَآءَ
مَرۡضَاتِ ٱللَّهِۚ وَٱللَّهُ رَءُوفُۢ بِٱلۡعِبَادِ ٢٠٧

208. 信仰する者たちよ、余すことなく平安の内に入れ[1]。そしてシャイターン*の歩みに従ってはならない。本当に彼はあなた方にとって、紛れもない敵なのだから。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ ٱدۡخُلُواْ فِي
ٱلسِّلۡمِ كَآفَّةٗ وَلَا تَتَّبِعُواْ خُطُوَٰتِ
ٱلشَّيۡطَٰنِۚ إِنَّهُۥ لَكُمۡ عَدُوّٞ مُّبِينٞ ٢٠٨

209. それで、あなた方のもとに明証[2]が到来した後に、あなた方が（真理の道から）逸れるのならば、アッラー*が偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方であると知っておくがよい。

فَإِن زَلَلۡتُم مِّنۢ بَعۡدِ مَا جَآءَتۡكُمُ ٱلۡبَيِّنَٰتُ
فَٱعۡلَمُوٓاْ أَنَّ ٱللَّهَ عَزِيزٌ حَكِيمٌ ٢٠٩

---

1 部分的にではなく、余すことなくイスラーム*法を実践し、その教えの中に実を投じよ、ということ（ムヤッサル 32 頁参照）。

2 クルアーン*と、預言者*ムハンマド*のスンナ*による、明白な証拠のこと（前掲書、同頁参照）。

210. 彼らはただ、アッラー*が（復活の日*、）薄い白雲のもとにご到来する[1]のを、そして天使*たち（の到来）を待っているというのか？　（その日、）事は裁決され、全ての物事はかれの御許に帰するのである。

هَلۡ يَنظُرُونَ إِلَّآ أَن يَأۡتِيَهُمُ ٱللَّهُ فِي ظُلَلٖ
مِّنَ ٱلۡغَمَامِ وَٱلۡمَلَٰٓئِكَةُ وَقُضِيَ ٱلۡأَمۡرُۚ
وَإِلَى ٱللَّهِ تُرۡجَعُ ٱلۡأُمُورُ ٢١٠

211. イスラーイールの子ら*に尋ねるがよい、われら*が一体、どれだけ多くの（真実へと導く）明証を彼らに授けたのかを。アッラー*の恩恵（かれの宗教）を、それが到来した後に（不信仰と）取り替えるなら、（アッラー*は彼を罰されよう、）本当にアッラー*は厳しい懲罰を下されるお方なのだから。

سَلۡ بَنِيٓ إِسۡرَٰٓءِيلَ كَمۡ ءَاتَيۡنَٰهُم مِّنۡ ءَايَةِۭ بَيِّنَةٖۗ
وَمَن يُبَدِّلۡ نِعۡمَةَ ٱللَّهِ مِنۢ بَعۡدِ مَا جَآءَتۡهُ
فَإِنَّ ٱللَّهَ شَدِيدُ ٱلۡعِقَابِ ٢١١

212. 現世は不信仰に陥った*者たちにとって煌びやかにされ、彼らは信仰する者たちを嘲笑する。そして敬虔*だった者たちは、復活の日*に彼らの上位にあるのだ。アッラー*は、お望みになる者に、際限なくお恵みになる。

زُيِّنَ لِلَّذِينَ كَفَرُواْ ٱلۡحَيَوٰةُ ٱلدُّنۡيَا وَيَسۡخَرُونَ مِنَ
ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْۘ وَٱلَّذِينَ ٱتَّقَوۡاْ فَوۡقَهُمۡ يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِۗ
وَٱللَّهُ يَرۡزُقُ مَن يَشَآءُ بِغَيۡرِ حِسَابٖ ٢١٢

213. 人々は、かつて一つの民であった[2]。それから（宗教において分裂したので、）アッラー*は、吉報を伝え、警告を告げる[3]預言者*たちを遣わされたのである。またかれは、人々の間を、彼らが意見を異にしていたことについて裁くため、彼ら（預

كَانَ ٱلنَّاسُ أُمَّةٗ وَٰحِدَةٗ فَبَعَثَ ٱللَّهُ
ٱلنَّبِيِّـۧنَ مُبَشِّرِينَ وَمُنذِرِينَ وَأَنزَلَ مَعَهُمُ
ٱلۡكِتَٰبَ بِٱلۡحَقِّ لِيَحۡكُمَ بَيۡنَ ٱلنَّاسِ فِيمَا
ٱخۡتَلَفُواْ فِيهِۚ وَمَا ٱخۡتَلَفَ فِيهِ إِلَّا ٱلَّذِينَ
أُوتُوهُ مِنۢ بَعۡدِ مَا جَآءَتۡهُمُ ٱلۡبَيِّنَٰتُ بَغۡيَۢا

---

1 アッラー*はその日、その荘厳（そうごん）さと偉大さにふさわしい形において、「薄い白雲のもとにご到来」する（ムヤッサル 32 頁参照）。同様のアーヤ*として、識別章 25、真実章 15-17、暁章 22 も参照。

2 以前、全人類はアッラー*からの正しい教えの中にあった、ということ（ムヤッサル 33 頁参照）。

3 「吉報を伝え、警告を告げる」については、アーヤ*119 の訳注を参照。

بَيۡنَهُمۡۖ فَهَدَى ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ لِمَا
ٱخۡتَلَفُواْ فِيهِ مِنَ ٱلۡحَقِّ بِإِذۡنِهِۦۗ وَٱللَّهُ
يَهۡدِي مَن يَشَآءُ إِلَىٰ صِرَٰطٖ مُّسۡتَقِيمٍ ٢١٣

言者*たち）と共に真理の啓典をお下しになった。そして、それ[1]に関して意見を異にしたのは、それ[2]を授かった者たちに外ならず、それも数々の明証[3]が到来した後のことであり、彼らが互いに侵犯し合っていた[4]ゆえのことであった。それでアッラー*はそのお許しにより、信仰する者たちを、彼らが意見を異にしていた真理へとお導きになった。アッラー*は、かれがお望みになる者を、まっすぐな道にお導きになる。

أَمۡ حَسِبۡتُمۡ أَن تَدۡخُلُواْ ٱلۡجَنَّةَ وَلَمَّا يَأۡتِكُم مَّثَلُ
ٱلَّذِينَ خَلَوۡاْ مِن قَبۡلِكُمۖ مَّسَّتۡهُمُ ٱلۡبَأۡسَآءُ وَٱلضَّرَّآءُ
وَزُلۡزِلُواْ حَتَّىٰ يَقُولَ ٱلرَّسُولُ وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ
مَعَهُۥ مَتَىٰ نَصۡرُ ٱللَّهِۗ أَلَآ إِنَّ نَصۡرَ ٱللَّهِ قَرِيبٞ ٢١٤

214. いや（信仰者たちよ）、一体あなた方は、あなた方以前に滅んだ（信仰）者たちの（遭遇した）ようなものに出遭うことなく、天国に入れるとでも思い込んでいるのか？　ひどい困窮や災難が彼らを襲い、（彼らは様々な恐怖に）揺るがされ、使徒*と、彼と共に信仰する者たちが「アッラー*のご援助はいつなのであろうか！？」と言ったほどだった[5]のだ。本当にアッラー*のご援助は、間近なのではないか。

---

1 この「それ」の解釈には、「啓典」「預言者*ムハンマド*」「真理」といった諸説がある（アッ＝シャウカーニー1:378 参照）。

2 この「それ」の解釈には、「啓典」「真理」「預言者*ムハンマド*についての知識」といった諸説がある（アッ＝タバリー2:1134 参照）。

3 この「明証」とは、彼らが「意見を異にしたこと」が、異論の余地のない真実であることを示す、論拠と証拠のこと（前掲書、同頁参照）。

4 つまり、嫉妬（しっと）心や、現世の欲望ゆえの「侵犯」（前掲書、同頁参照）。相談章 14 も参照。

5 この言葉は疑念ではなく、待ちわびる気持ちから出た言葉である（前掲書、同頁参照）。また、信仰者の試練については、イムラーン家章 186、悔悟章 16、洞窟章 7、蜘蛛章 2、ムハンマド章 31、王権章 2 とそれらの訳注も参照。

215. （預言者*よ、）彼ら（教友*たち）はあなたに、何を（誰に対して）費やすべきか、尋ねる。言うがよい。「あなた方が善きものを（施しとして）費やすなら、両親、近親者、孤児、貧者*、旅路（で苦境）にある者のために（費やすがよい）。そして、あなた方がどんな善行をしようと、本当にアッラー*はそれをご存知なのだ」。

يَسۡـَٔلُونَكَ مَاذَا يُنفِقُونَۖ قُلۡ مَآ أَنفَقۡتُم
مِّنۡ خَيۡرٖ فَلِلۡوَٰلِدَيۡنِ وَٱلۡأَقۡرَبِينَ وَٱلۡيَتَٰمَىٰ
وَٱلۡمَسَٰكِينِ وَٱبۡنِ ٱلسَّبِيلِۗ وَمَا تَفۡعَلُواْ مِنۡ
خَيۡرٖ فَإِنَّ ٱللَّهَ بِهِۦ عَلِيمٞ ٢١٥

216. （信仰者たちよ、）戦いが、あなた方に義務づけられた。そしてそれは、あなた方にとって嫌なもの。あなた方は自分たちにとって善いことを嫌うかもしれないし、自分たちにとって悪いことを好むかもしれない。アッラー*が（あなた方にとって真に良いことを）ご存知なのであり、あなた方は知らないのである。

كُتِبَ عَلَيۡكُمُ ٱلۡقِتَالُ وَهُوَ كُرۡهٞ لَّكُمۡۖ
وَعَسَىٰٓ أَن تَكۡرَهُواْ شَيۡـٔٗا وَهُوَ خَيۡرٞ لَّكُمۡۖ
وَعَسَىٰٓ أَن تُحِبُّواْ شَيۡـٔٗا وَهُوَ شَرّٞ لَّكُمۡۚ
وَٱللَّهُ يَعۡلَمُ وَأَنتُمۡ لَا تَعۡلَمُونَ ٢١٦

217. （使徒*よ、）彼ら（シルク*の徒）はあなたに、神聖月*において戦うことについて尋ねる。言ってやるがいい。「そこ（神聖月*）における戦闘は、重大（な罪）である[1]。そして（人々を）アッラー*の道から阻むこと、かれに対する不信仰、ハラーム・マスジド*（に入ることの妨害）、そこにふさわしい人々をそこから追放することは、アッラー*の御許でより重大（な罪）なのだ。そして試練は、殺害よりも重大なのである[2]」。彼らは、あなた方をあ

يَسۡـَٔلُونَكَ عَنِ ٱلشَّهۡرِ ٱلۡحَرَامِ قِتَالٖ فِيهِۖ قُلۡ قِتَالٞ
فِيهِ كَبِيرٞۚ وَصَدٌّ عَن سَبِيلِ ٱللَّهِ وَكُفۡرُۢ
بِهِۦ وَٱلۡمَسۡجِدِ ٱلۡحَرَامِ وَإِخۡرَاجُ أَهۡلِهِۦ مِنۡهُ
أَكۡبَرُ عِندَ ٱللَّهِۚ وَٱلۡفِتۡنَةُ أَكۡبَرُ مِنَ ٱلۡقَتۡلِۗ
وَلَا يَزَالُونَ يُقَٰتِلُونَكُمۡ حَتَّىٰ يَرُدُّوكُمۡ عَن
دِينِكُمۡ إِنِ ٱسۡتَطَٰعُواْۚ وَمَن يَرۡتَدِدۡ مِنكُمۡ عَن
دِينِهِۦ فَيَمُتۡ وَهُوَ كَافِرٞ فَأُوْلَٰٓئِكَ حَبِطَتۡ
أَعۡمَٰلُهُمۡ فِي ٱلدُّنۡيَا وَٱلۡأٓخِرَةِۖ وَأُوْلَٰٓئِكَ
أَصۡحَٰبُ ٱلنَّارِۖ هُمۡ فِيهَا خَٰلِدُونَ ٢١٧

---

1 大半の学者は、神聖月*に戦うことの禁止は後に撤回（てっかい）された、としている。また一部の学者は、その規定は撤回されてはいないものの、敵から攻撃された時にのみ神聖月に戦うことが許される、としている（アッ＝サァディー97 頁参照）。アーヤ*の撤回については、アーヤ*106 とその訳注を参照。

2 この「試練」は、この直前に言及された全てのことで、「殺害」とは、神聖月*における殺害のこと、とされる（アッ＝サァディー97 頁参照）。

なた方の宗教（イスラーム*）から（不信仰に）戻らせるまで 、あなた方と戦い続けることであろう——彼らが、（そう）出来るのならば、だが——。誰であろうと、あなた方の内で自らの宗教から（不信仰へと）戻り、不信仰者*のまま死んだ者、それらの者たちはその（善い）行いが、現世と来世において台無しになってしまったのだ。そして、それらの者たちは（地獄の）業火の住人であり、彼らはそこに永遠に留まるのである。

218. 本当に、信仰する者たちと、移住*し、アッラー*の道において奮闘する者たち、それらの者たちが、アッラー*のご慈悲を熱望しているのである。アッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَٱلَّذِينَ هَاجَرُواْ
وَجَٰهَدُواْ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ أُوْلَٰٓئِكَ يَرۡجُونَ
رَحۡمَتَ ٱللَّهِۚ وَٱللَّهُ غَفُورٞ رَّحِيمٞ ٢١٨

219. （預言者*よ、）彼ら（ムスリム*たち）は酒*と賭け事について、あなたに尋ねる。言うがいい。「その二つには大きな罪と、人々への益がある。そして、それら二つの罪は益よりも大きい[1]」。また、彼らは何を（施しに）費やすかについて、あなたに尋ねる。言うがよい。「余分なもの[2]を（費やすのだ）」。そのようにアッラー*は、あなた方が熟考するよう、あなた方に（法規定に関する）御徴を明らかにされる。

۞يَسۡـَٔلُونَكَ عَنِ ٱلۡخَمۡرِ وَٱلۡمَيۡسِرِۖ قُلۡ فِيهِمَآ
إِثۡمٞ كَبِيرٞ وَمَنَٰفِعُ لِلنَّاسِ وَإِثۡمُهُمَآ
أَكۡبَرُ مِن نَّفۡعِهِمَاۗ وَيَسۡـَٔلُونَكَ مَاذَا
يُنفِقُونَ قُلِ ٱلۡعَفۡوَۗ كَذَٰلِكَ يُبَيِّنُ ٱللَّهُ لَكُمُ
ٱلۡأٓيَٰتِ لَعَلَّكُمۡ تَتَفَكَّرُونَ ٢١٩

1 イスラーム*の歴史において、これらの物事は段階的に制限され、最終的には禁じられた。このアーヤ*は、その完全な禁止が定められる前に下ったものである。順番的にはこのアーヤ*の後に婦人章 43 が、そして最終的に食卓章 90 が下り、それらが完全に禁じられたとする教友*及びタービウーン*の学者らによる多くの伝承が伝えられている（アブー・ダーウード 3670、アッ＝タバリー2:1161-1164 参照）。

2 本人が自分の必要以上に所有している、余剰（よじょう）物のこと（ムヤッサル 34 頁参照）。

220. 現世と、来世について（あなた方が熟考するように）。また（預言者*よ、）彼らは孤児について、あなたに尋ねる。言ってやるがいい。「彼らのために（状況を）改善してやるのが、より善い。そしてあなた方が彼らと（生活の諸事において）交わるのなら、（彼らは）あなた方の兄弟なのだ[1]」。アッラー*は、腐敗*を働く者を、改善者から（見分けて）ご存知になる。そしてアッラー*がお望みであれば、あなた方に困難を課す[2]こともお出来である。本当にアッラー*は偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方なのだ。

فِي ٱلدُّنۡيَا وَٱلۡأٓخِرَةِۗ وَيَسۡـَٔلُونَكَ عَنِ ٱلۡيَتَٰمَىٰۖ
قُلۡ إِصۡلَاحٞ لَّهُمۡ خَيۡرٞۖ وَإِن تُخَالِطُوهُمۡ
فَإِخۡوَٰنُكُمۡۚ وَٱللَّهُ يَعۡلَمُ ٱلۡمُفۡسِدَ مِنَ
ٱلۡمُصۡلِحِۚ وَلَوۡ شَآءَ ٱللَّهُ لَأَعۡنَتَكُمۡۚ
إِنَّ ٱللَّهَ عَزِيزٌ حَكِيمٞ ٢٢٠

221. （ムスリム*たちよ、）シルク*の徒の女性たちとは、彼女らが信仰するまで結婚してはいけない。本当に信仰者の奴隷*女性の方が、たとえ彼女らがあなた方の気に入ったとしても、シルク*の徒である女性よりも善いのだから。またシルク*の徒の男性に、（信仰者の女性を）嫁がせるのではない。本当に信仰者の奴隷*男性の方が、たとえ彼らがあなた方の気に入ったとしても、シルク*の徒である男性よりも善いのだから[3]。それらの者たちは、（彼

وَلَا تَنكِحُواْ ٱلۡمُشۡرِكَٰتِ حَتَّىٰ يُؤۡمِنَّۚ وَلَأَمَةٞ
مُّؤۡمِنَةٌ خَيۡرٞ مِّن مُّشۡرِكَةٖ وَلَوۡ أَعۡجَبَتۡكُمۡۗ
وَلَا تُنكِحُواْ ٱلۡمُشۡرِكِينَ حَتَّىٰ يُؤۡمِنُواْۚ وَلَعَبۡدٞ مُّؤۡمِنٌ
خَيۡرٞ مِّن مُّشۡرِكٖ وَلَوۡ أَعۡجَبَكُمۡۗ أُوْلَٰٓئِكَ
يَدۡعُونَ إِلَى ٱلنَّارِۖ وَٱللَّهُ يَدۡعُوٓاْ إِلَى ٱلۡجَنَّةِ
وَٱلۡمَغۡفِرَةِ بِإِذۡنِهِۦۖ وَيُبَيِّنُ ءَايَٰتِهِۦ لِلنَّاسِ
لَعَلَّهُمۡ يَتَذَكَّرُونَ ٢٢١

---

1 婦人章 10 や家畜章 152 が下った後、孤児の後見人であった人々は孤児の財産に手をつけることを恐れ、飲食などに至るまで彼らと自分たちと別にし始めた。このアーヤ*はそのような状況により、彼らが日常生活に非常な不便さを感じるようになった際に下ったものとされる（アブー・ダーウード 2871 参照）。

2 上記訳注に描写されているように、孤児との交流を禁じ、人々がそれによって生活上の非常な不便に陥ること（ムヤッサル 35 頁参照）。

3 ムスリム*男性が「シルク*の徒の女性」と結婚してはいけない、という禁止令からは、啓典の民*の女性が除外される（食卓章 5 を参照）。一方、ムスリム*女性が「シルク*の徒の男性」と結婚することは、例外なく禁止される（アッ＝サァディー99 頁参照）。

らの伴侶を）業火へと招くのであり、アッラー*はそのお許しにより、（あなた方を）天国とお赦しへとお招きになる。そしてかれは人々に、彼らが教訓を得るようにと、（法規定に関する）その御徴を明らかにされるのだ。

222. また彼らは月経について、あなたに尋ねる。（預言者*よ、）言うがいい。「それは害である。ならば、月経中の女性（との性交）を避けよ。そして彼女らが清浄な状態になるまで、（性交のために）近づいてはならない。そして彼女らが清浄な状態になったら、アッラー*があなた方に命じられた所から、彼女らと交わるのだ[1]」。本当にアッラー*は、よく悔悟する者たちと、よく自ら（の心身）を清める者をお好みになるのだから。

وَيَسْـَٔلُونَكَ عَنِ ٱلْمَحِيضِ ۖ قُلْ هُوَ أَذًى فَٱعْتَزِلُوا۟
ٱلنِّسَآءَ فِى ٱلْمَحِيضِ ۖ وَلَا تَقْرَبُوهُنَّ حَتَّىٰ
يَطْهُرْنَ ۖ فَإِذَا تَطَهَّرْنَ فَأْتُوهُنَّ مِنْ حَيْثُ أَمَرَكُمُ
ٱللَّهُ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ يُحِبُّ ٱلتَّوَّٰبِينَ وَيُحِبُّ ٱلْمُتَطَهِّرِينَ ٢٢٢

223. あなた方の妻たちは、あなた方の耕作の場[2]である。ならば、どこでも望む所[3]から耕作地に赴き、自分自身のために（来世に向けて善行を）しておくのだ。そして、アッラー*を畏れ*よ。あなた方が（復活の日*、）かれにお目にかかるのだということを知り、信仰者たちには吉報を伝えるのだ。

نِسَآؤُكُمْ حَرْثٌ لَّكُمْ فَأْتُوا۟ حَرْثَكُمْ أَنَّىٰ
شِئْتُمْ ۖ وَقَدِّمُوا۟ لِأَنفُسِكُمْ ۚ وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ
وَٱعْلَمُوٓا۟ أَنَّكُم مُّلَٰقُوهُ ۗ وَبَشِّرِ ٱلْمُؤْمِنِينَ ٢٢٣

224. （ムスリム*たちよ、）あなた方はアッラー*を、自分たちの宣誓の妨げとしてはならない。つまり、あなた方が善行を行い、（アッラー*を）畏れ*、人々の間を正す

وَلَا تَجْعَلُوا۟ ٱللَّهَ عُرْضَةً لِّأَيْمَٰنِكُمْ أَن تَبَرُّوا۟
وَتَتَّقُوا۟ وَتُصْلِحُوا۟ بَيْنَ ٱلنَّاسِ ۚ
وَٱللَّهُ سَمِيعٌ عَلِيمٌ ٢٢٤

1 肛門を用いた性交をしてはならない、ということ（ムヤッサル 35 頁参照）。
2 「耕作の場」という表現は、男性の精子をその子宮に注ぐことで、子孫が得られることによる（前掲書、同頁参照）。
3 性器による性交であれば、いかなる形においても、という意味とされる（前掲書、同頁参照）。

ことの（妨げとしてはならない）[1]。アッラー*は、よくお聴きになるお方、全知者であられる。

225. アッラー*はあなた方を、あなた方の宣誓における軽はずみさ[2]ゆえに、罰せられたりはしない。しかしかれが罰せられるのは、あなた方の心が意図し（た後、それを遂行しなかっ）たものについてである。アッラー*は赦し深いお方、寛大な*お方。

لَّا يُؤَاخِذُكُمُ ٱللَّهُ بِٱللَّغْوِ فِيٓ أَيْمَٰنِكُمْ وَلَٰكِن يُؤَاخِذُكُم
بِمَا كَسَبَتْ قُلُوبُكُمْ ۗ وَٱللَّهُ غَفُورٌ حَلِيمٌ ٢٢٥

226. 自分たちの妻（との性交渉の放棄）に関して誓いを立てる者たち[3]には、四ヶ月の猶予がある。そして（その期限内に妻との関係に）戻ったのなら、本当にアッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方である。

لِّلَّذِينَ يُؤْلُونَ مِن نِّسَآئِهِمْ تَرَبُّصُ أَرْبَعَةِ
أَشْهُرٍ ۖ فَإِن فَآءُو فَإِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ٢٢٦

227. また、もし彼らが離婚の意志を固めたならば、アッラー*こそはよくお聴きになるお方、全知者であられるのだ。

وَإِنْ عَزَمُوا۟ ٱلطَّلَٰقَ فَإِنَّ ٱللَّهَ سَمِيعٌ عَلِيمٌ ٢٢٧

228. また、離婚された女性は（結婚せずに）独り身のままで、三度の月経を待たなければならない[4]。そして彼女らが、アッラー*

وَٱلْمُطَلَّقَٰتُ يَتَرَبَّصْنَ بِأَنفُسِهِنَّ ثَلَٰثَةَ قُرُوٓءٍ ۚ
وَلَا يَحِلُّ لَهُنَّ أَن يَكْتُمْنَ مَا خَلَقَ ٱللَّهُ فِيٓ

---

1 何らかの善行を放棄（ほうき）するような誓いを立ててしまった場合、誓いを取り消してその善行を行い、更にその罪を償（つぐな）う（ムヤッサル 35 頁参照）。誓いの取り消しの償いに関しては、食卓章 89 参照。

2 意図せずに、口をついて出てしまった宣誓の言葉（前掲書、36 頁参照）。

3 ジャーヒリーヤ*からイスラーム*初期にかけては、夫が自分の気に入らない妻に対して、性交渉を無期限に放棄することを誓うことがあった。イスラーム*はこれに、四ヶ月という制限を与えた（アル＝バガウィー1:297 参照）。

4 この待ち期間は、一般に「イッダ*」と呼ばれる。尚、ここで「月経」と訳した語「カルウ」には、「（月経を終えた）清浄な状態」という意味もあり、いずれの解釈を採るかによって、その期間も異なってくる。妊娠中の女性のイッダ*は離婚章 4、妊娠してはいないが、夫と死別した女性のイッダ*は雌牛章 234、夫は生存中だが、床入り前に離婚された女性のイッダ*は部族連合章 49、夫が生存中で床入りも済んでいる場合、月経のない女性のイッダ*は離婚章 4、月経がある場合のイッダ*は当アーヤ*に言及されている（前掲書 1:298-300 参照）。

がその胎内にお創りになられたもの[1]を隠すことは、彼女らに許されない——彼女らが、アッラー*と最後の日*を信じるのであれば——。また彼女らの主人は、その期間中に妻を復縁する権利がある——もし彼らが、（夫婦関係の）修復を望むならば——。また彼女らには、（夫に対する）自分たちの適切な義務と同様の、（夫に対する適切な）権利があるのだ。そして（夫である）男性には、彼女たちに対し、（更なる）位階がある[2]。アッラー*は偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

أَرْحَامِهِنَّ إِن كُنَّ يُؤْمِنَّ بِٱللَّهِ وَٱلْيَوْمِ ٱلْآخِرِ ۚ
وَبُعُولَتُهُنَّ أَحَقُّ بِرَدِّهِنَّ فِى ذَٰلِكَ إِنْ أَرَادُوٓا۟
إِصْلَٰحًا ۚ وَلَهُنَّ مِثْلُ ٱلَّذِى عَلَيْهِنَّ بِٱلْمَعْرُوفِ ۚ
وَلِلرِّجَالِ عَلَيْهِنَّ دَرَجَةٌ ۗ وَٱللَّهُ عَزِيزٌ حَكِيمٌ ٢٢٨

229. 離婚は二回（までなら、復縁できる）[3]。そして（離婚後は、彼女を）適切な形で留め置くか、あるいは善を尽くして（結婚関係から）解き放つ[4]のだ。そして彼ら（夫婦）二人が、アッラー*の決まり[5]を遵守出来なさそうだと怖れない限り、あなた方（夫）には、彼女たちに贈った財産から

ٱلطَّلَٰقُ مَرَّتَانِ ۖ فَإِمْسَاكٌۢ بِمَعْرُوفٍ أَوْ تَسْرِيحٌۢ
بِإِحْسَٰنٍ ۗ وَلَا يَحِلُّ لَكُمْ أَن تَأْخُذُوا۟ مِمَّآ
ءَاتَيْتُمُوهُنَّ شَيْـًٔا إِلَّآ أَن يَخَافَآ أَلَّا يُقِيمَا
حُدُودَ ٱللَّهِ ۖ فَإِنْ خِفْتُمْ أَلَّا يُقِيمَا حُدُودَ ٱللَّهِ
فَلَا جُنَاحَ عَلَيْهِمَا فِيمَا ٱفْتَدَتْ بِهِۦ ۗ تِلْكَ حُدُودُ
ٱللَّهِ فَلَا تَعْتَدُوهَا ۚ وَمَن يَتَعَدَّ حُدُودَ ٱللَّهِ فَأُو۟لَٰٓئِكَ

---

1 離婚した夫の子を妊娠している事実を隠したり、月経の数をごまかしたりすること（ムヤッサル 36 頁参照）。

2 この表現に関しアッ＝タバリー*は、夫は「妻が自分に対する義務を多少怠（おこた）っても、自分は彼女に対する義務を果たす」限りにおいて、妻より上位にあるのだという見解を示している（2:1272 参照）。

3 イスラーム*以前あるいはイスラーム*初期の社会においては、夫は同一の妻を離婚しては再婚するということを際限（さいげん）なく行うことが出来た。しかしこのアーヤ*によって、一部の悪意ある男たちの妻に対する横暴（おうぼう）に歯止めがかけられた（アッ＝タバリー2:1273 参照）。

4 離婚前でも、離婚宣告後によりを戻した後でも、夫は妻と良い形で付き合わなければならない（婦人章 19 参照）。また完全に離別する場合でも、妻がイッダ*を終了するまで、扶養（ふよう）や住居の提供など、妻に対する諸々の義務を適切な形で全（まっと）うし、彼女のことを悪く言ったりしてはならない（ムヤッサル 36 頁参照）。

5 夫婦の、互いに対する義務のこと（前掲書、同頁参照）。

何か取り上げることは許されない。そして、もしあなた方[1]が、彼ら二人がアッラー*の決まりを遵守出来そうにないと怖れるのであれば、（夫が）妻からの代償[2]（を受け取ること）において、彼ら二人に問題はない。それは、アッラー*の決まりである。ならば、それを侵してはならない。そして誰であろうとアッラー*の決まりを侵す者、そのような者たちこそは、不正*者なのである。

هُمُ ٱلظَّٰلِمُونَ ٢٢٩

230. それで、もし彼（夫）が彼女（妻）を（三回目に）離婚してしまったら、その後彼女は、彼女が別の夫と結婚（してまた離婚）する[3]まで、彼（元夫）には（結婚相手として）許されない。それから、もし彼（別の夫）が彼女を離婚した場合、彼ら二人（彼女と元夫）がアッラー*の決まりを遵守できそうだと思うなら、彼らの再婚に罪はない。そしてそれが、アッラー*の決まりなのだ。かれはそれを、知識ある民に明らかにされる。

فَإِن طَلَّقَهَا فَلَا تَحِلُّ لَهُۥ مِنۢ بَعۡدُ حَتَّىٰ تَنكِحَ زَوۡجًا
غَيۡرَهُۥۗ فَإِن طَلَّقَهَا فَلَا جُنَاحَ عَلَيۡهِمَآ أَن
يَتَرَاجَعَآ إِن ظَنَّآ أَن يُقِيمَا حُدُودَ ٱللَّهِۗ
وَتِلۡكَ حُدُودُ ٱللَّهِ يُبَيِّنُهَا لِقَوۡمٖ يَعۡلَمُونَ ٢٣٠

231. また、あなた方が女性たち（妻）を離婚した後、彼女たちがその期限に差しかかったならば、彼女たちを適切な形で留め置くか、あるいは善を尽くして（結婚関係

وَإِذَا طَلَّقۡتُمُ ٱلنِّسَآءَ فَبَلَغۡنَ أَجَلَهُنَّ
فَأَمۡسِكُوهُنَّ بِمَعۡرُوفٍ أَوۡ سَرِّحُوهُنَّ
بِمَعۡرُوفٖۚ وَلَا تُمۡسِكُوهُنَّ ضِرَارٗا لِّتَعۡتَدُواْۚ

1 この「あなた方」は、統治者や、彼らの仲介者たちのこととされる（アル＝クルトゥビー 3:138 参照）。

2 夫の性格の悪さ、宗教的な不真面目さ、暴力、扶養義務における怠慢（たいまん）などの理由から、妻側が夫側に代償を支払って離婚を求めることは、合法である（クウェイト法学大全 19:240 以降参照）。

3 再婚の都合をつけるための偽装（ぎそう）結婚などではなく、性交渉を伴（ともな）う正式な結婚でなければならない（アッ＝サァディー102 頁参照）。

から）解き放つのだ[1]。また、（彼女たちの権利を）侵害するために、虐げることを意図して、彼女たちを留め置いてはならない[2]。そうする者は誰でも、まさに自分自身に不正*を働いたのだ。アッラー*の御徴を、嘲笑の的としてはならない[3]。そして、あなた方に対するアッラー*の恩恵と、かれがあなた方に下された、啓典と英知[4]を思い起こすのだ。かれはそれで、あなた方に訓戒をお与えになる。アッラー*を畏れ*、アッラー*がいかなることもご存知であることを知っておくがよい。

وَمَن يَفۡعَلۡ ذَٰلِكَ فَقَدۡ ظَلَمَ نَفۡسَهُۥۚ وَلَا تَتَّخِذُوٓاْ
ءَايَٰتِ ٱللَّهِ هُزُوٗاۚ وَٱذۡكُرُواْ نِعۡمَتَ ٱللَّهِ عَلَيۡكُمۡ
وَمَآ أَنزَلَ عَلَيۡكُم مِّنَ ٱلۡكِتَٰبِ وَٱلۡحِكۡمَةِ يَعِظُكُم بِهِۦۚ
وَٱتَّقُواْ ٱللَّهَ وَٱعۡلَمُوٓاْ أَنَّ ٱللَّهَ بِكُلِّ شَيۡءٍ عَلِيمٞ ٢٣١

232. また、あなた方が女性たち（妻）を離婚し[5]、それから彼女たちがその期限（イッダ*）を終えたなら、あなた方[6]は彼女らが、自分たちの（元）夫と結婚することを阻んではならない。（それは、）彼ら（二人）が適切な形[7]で合意した限りにおいて、だが。それは、あなた方の内でアッラー*と最後の日*を信じる者が訓戒を受けるも

وَإِذَا طَلَّقۡتُمُ ٱلنِّسَآءَ فَبَلَغۡنَ أَجَلَهُنَّ فَلَا
تَعۡضُلُوهُنَّ أَن يَنكِحۡنَ أَزۡوَٰجَهُنَّ إِذَا تَرَٰضَوۡاْ
بَيۡنَهُم بِٱلۡمَعۡرُوفِۗ ذَٰلِكَ يُوعَظُ بِهِۦ مَن كَانَ مِنكُمۡ
يُؤۡمِنُ بِٱللَّهِ وَٱلۡيَوۡمِ ٱلۡأٓخِرِۗ ذَٰلِكُمۡ أَزۡكَىٰ لَكُمۡ
وَأَطۡهَرُۚ وَٱللَّهُ يَعۡلَمُ وَأَنتُمۡ لَا تَعۡلَمُونَ ٢٣٢

---

1 アーヤ*229「（結婚関係から）解き放つ」の訳注を参照。

2 このアーヤ*は、妻に離婚宣告してはイッダ*が完了する直前によりを戻す、ということを悪意をもって繰り返し、妻をいじめようとする者に関して下ったものと言われる（アッ＝タバリー2:1301-1303 参照）。

3 ここでの「御徴」は、アッラー*の教え一般のこと（アル＝カースィミー3:608 参照）。このアーヤ*は、妻に離婚宣告したり、奴隷*の解放を宣言したりした後、「冗談で言ったのだ」などと言う者に関して下ったとされる（アッ＝タバリー2:1304 参照）。預言者*ムハンマド*は、仰（おっしゃ）った。「本気で言っても実現し、冗談で言っても実現する三つのこと：結婚、離婚、復縁（ふくえん）」（アブー・ダーウード 2194 参照）。

4 「英知」については、アーヤ*129 の訳注を参照。

5 ここでの離婚は、三回目未満のものに限る（ムヤッサル 37 頁参照）。

6 アーヤ*229「あなた方」の訳注を参照。

7 つまり、イスラーム*法と良識に則（のっと）った、よい形のこと（前掲書、同頁参照）。

のである。それ[1]があなた方にとって、最も実り多く清いこと。アッラー*こそが（あなた方にとって真に良いことを）ご存知なのであり、あなた方は知らないのである。

233. 授乳を全うさせたい者のため、母親はその子供たちに丸二年間授乳する。そして父親は、彼女らの食事と衣類を適切な形で負担しなければならない。誰も、その能力以上の負担を負うことはないのだ。母親がその子ゆえに害を被ってはならないし、その父親も、その子ゆえに（そうなってはならない）[2]。また相続人にも、それと同様のものが義務づけられる[3]。また、彼ら二人がお互いの合意と話し合いの上で（二年終了前に）離乳を望んでも、彼らには何の罪もない。また（その後）あなた方が、与えるべきものを適切な形で支払う[4]のであれば、自分たちの子供を（実母ではない乳母に）授乳させることを望んでも、あなた方には何の罪もない。そしてアッラー*を畏れ*、かれこそはあなた方の行うことをご覧になるお方だということを知るがよい。

۞وَٱلْوَٰلِدَٰتُ يُرْضِعْنَ أَوْلَٰدَهُنَّ حَوْلَيْنِ كَامِلَيْنِ ۖ
لِمَنْ أَرَادَ أَن يُتِمَّ ٱلرَّضَاعَةَ ۚ وَعَلَى ٱلْمَوْلُودِ لَهُۥ
رِزْقُهُنَّ وَكِسْوَتُهُنَّ بِٱلْمَعْرُوفِ ۚ لَا تُكَلَّفُ
نَفْسٌ إِلَّا وُسْعَهَا ۚ لَا تُضَآرَّ وَٰلِدَةٌۢ بِوَلَدِهَا
وَلَا مَوْلُودٌ لَّهُۥ بِوَلَدِهِۦ ۚ وَعَلَى ٱلْوَارِثِ مِثْلُ ذَٰلِكَ ۗ
فَإِنْ أَرَادَا فِصَالًا عَن تَرَاضٍ مِّنْهُمَا وَتَشَاوُرٍ
فَلَا جُنَاحَ عَلَيْهِمَا ۗ وَإِنْ أَرَدتُّمْ أَن تَسْتَرْضِعُوٓا۟
أَوْلَٰدَكُمْ فَلَا جُنَاحَ عَلَيْكُمْ إِذَا سَلَّمْتُم
مَّآ ءَاتَيْتُم بِٱلْمَعْرُوفِ ۗ وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ وَٱعْلَمُوٓا۟
أَنَّ ٱللَّهَ بِمَا تَعْمَلُونَ بَصِيرٌ ﴿٢٣٣﴾

---

1 妨害を受けることなく、元夫婦が再婚すること（ムヤッサル 37 頁参照）。

2 アル＝クルトゥビー*によれば、大半の解釈学者はこのアーヤ*の意味を、「母親は、父親を困らせるために授乳を拒（こば）んだり、授乳の報酬（ほうしゅう）を法外に吊り上げたりしてはならず、父親は、授乳を望む母親を拒んではならない」と解釈している（3:167 参照）。

3 乳児に父親がおらず、かつ、その乳児が十分な財産を（相続などによって）有していない場合、乳児の相続人が父親の代わりに、その乳母に対して衣食の面倒を見る必要がある（アッ＝サァディー104 頁参照）。

4 授乳期間が終了する前に授乳した実母への代金と、その後授乳を引き継いだ乳母への代金のことであると言われる（ムヤッサル 37 頁参照）。

234. またあなた方の内、妻を残して他界する者があれば、彼女らは独り身のまま四ヶ月と十日の間、待たなければならない[1]。それで彼女らがその期限を終えたら、彼女らが適切な形でその身を処すること[2]に関して、あなた方（彼女らの後見人）に罪はない。アッラー*は、あなた方の行うことに通暁されるお方。

وَٱلَّذِينَ يُتَوَفَّوۡنَ مِنكُمۡ وَيَذَرُونَ أَزۡوَٰجٗا
يَتَرَبَّصۡنَ بِأَنفُسِهِنَّ أَرۡبَعَةَ أَشۡهُرٖ وَعَشۡرٗاۖ
فَإِذَا بَلَغۡنَ أَجَلَهُنَّ فَلَا جُنَاحَ عَلَيۡكُمۡ
فِيمَا فَعَلۡنَ فِيٓ أَنفُسِهِنَّ بِٱلۡمَعۡرُوفِۗ
وَٱللَّهُ بِمَا تَعۡمَلُونَ خَبِيرٞ ٢٣٤

235. また（男たちよ）、あなた方が（そのような）女性[3]への結婚の申し込みを、それとなく仄めかしたとしても、あるいは自分自身の内に秘めておいたとしても、あなた方に罪はない。――アッラー*は、あなた方が（我慢できず、）彼女たちに（思いを）口にするだろうことを、ご存知である――。そして適切な言葉を用いて話す以外、秘密裏に彼女らと約束したりしてはならない[4]。また定められたもの（イッダ*）が期間を満了するまでは、結婚の契約を決めてもならない。アッラー*こそは、あなた方自身の内にあるものをご存知であることを知るのだ。ならば、かれを警戒せよ。また、アッラー*こそは赦し深いお方、寛大な*お方であることを知るがよい。

وَلَا جُنَاحَ عَلَيۡكُمۡ فِيمَا عَرَّضۡتُم بِهِۦ مِنۡ
خِطۡبَةِ ٱلنِّسَآءِ أَوۡ أَكۡنَنتُمۡ فِيٓ أَنفُسِكُمۡۚ عَلِمَ
ٱللَّهُ أَنَّكُمۡ سَتَذۡكُرُونَهُنَّ وَلَٰكِن
لَّا تُوَاعِدُوهُنَّ سِرًّا إِلَّآ أَن تَقُولُواْ قَوۡلٗا
مَّعۡرُوفٗاۚ وَلَا تَعۡزِمُواْ عُقۡدَةَ ٱلنِّكَاحِ حَتَّىٰ
يَبۡلُغَ ٱلۡكِتَٰبُ أَجَلَهُۥۚ وَٱعۡلَمُوٓاْ أَنَّ ٱللَّهَ يَعۡلَمُ
مَا فِيٓ أَنفُسِكُمۡ فَٱحۡذَرُوهُۚ وَٱعۡلَمُوٓاْ
أَنَّ ٱللَّهَ غَفُورٌ حَلِيمٞ ٢٣٥

---

1 夫婦の住居から外出せず、身を飾りもせず、結婚もしない状態でいること（ムヤッサル 38 頁参照）。

2 喪（も）が明けた後、イスラーム*法に則（のっと）った範囲で外出したり、着飾ったり、あるいは結婚したりすること（前掲書、同頁参照）。

3 夫に先立たれたり、あるいは完全に離婚された状態で、イッダ*の期間中にある女性のこと（前掲書、同頁参照）。

4 結婚を約束しつつ婚前交渉を求めたり、イッダ*中に結婚の約束をしたりしてはならない。ただし、「彼女のような人であれば、男性たちが（結婚を）望むだろう」というような、仄（ほの）めかしの言葉を用いることは別である（前掲書、同頁参照）。

236. （夫たちよ、）あなた方がまだ彼女らに触れず[1]、また義務（婚資金*の額）も決定していないのなら、（妻となった）女性を離婚することに、あなた方への罪はない。そして彼女らには、余裕のある者はその程度に応じたものを、貧しい者もその程度に応じたものをという風に、適切な贈り物を贈るのだ。（それは、）善を尽くす者たちの義務なのである。

لَّا جُنَاحَ عَلَيْكُمْ إِن طَلَّقْتُمُ ٱلنِّسَآءَ مَا لَمْ
تَمَسُّوهُنَّ أَوْ تَفْرِضُوا۟ لَهُنَّ فَرِيضَةً ۚ
وَمَتِّعُوهُنَّ عَلَى ٱلْمُوسِعِ قَدَرُهُۥ وَعَلَى ٱلْمُقْتِرِ
قَدَرُهُۥ مَتَٰعًۢا بِٱلْمَعْرُوفِ ۖ حَقًّا عَلَى ٱلْمُحْسِنِينَ ٢٣٦

237. また、まだ彼女らに触れ[2]てはいなくても、既に義務（婚資金の額）を決定した後に彼女らを離婚したならば、決定した額の半額を支払うのだ。但し彼女らか、あるいは結婚の契約当事者（夫）が大目に見る[3]のならば、その限りではない。――大目に見てやることこそが、敬虔さ*により近いのだ――。あなた方の間の徳[4]を、忘れてはならない。本当にアッラー*は、あなた方の行うことを全てご覧になっているのだから。

وَإِن طَلَّقْتُمُوهُنَّ مِن قَبْلِ أَن تَمَسُّوهُنَّ وَقَدْ
فَرَضْتُمْ لَهُنَّ فَرِيضَةً فَنِصْفُ مَا فَرَضْتُمْ
إِلَّآ أَن يَعْفُونَ أَوْ يَعْفُوَا۟ ٱلَّذِى بِيَدِهِۦ عُقْدَةُ
ٱلنِّكَاحِ ۚ وَأَن تَعْفُوٓا۟ أَقْرَبُ لِلتَّقْوَىٰ ۚ وَلَا تَنسَوُا۟
ٱلْفَضْلَ بَيْنَكُمْ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ بِمَا تَعْمَلُونَ
بَصِيرٌ ٢٣٧

238. （ムスリム*たちよ、）礼拝を遵守*せよ、そして中間の礼拝[5]を。また、アッラー*に向かい、恭しく（礼拝に）立つのだ。

حَٰفِظُوا۟ عَلَى ٱلصَّلَوَٰتِ وَٱلصَّلَوٰةِ
ٱلْوُسْطَىٰ وَقُومُوا۟ لِلَّهِ قَٰنِتِينَ ٢٣٨

---

1 性交渉を持つこと（ムヤッサル 38 頁参照）。

2 「彼女らに触れ」ることについては、アーヤ*236 の訳注を参照。

3 妻側がその半額すらも大目に見て免除するか、あるいは夫側が寛大に全額支払うこと（前掲書、同頁参照）。

4 同アーヤ*「大目に見る」の訳注に示されているような、寛大さのこと（前掲書、同頁参照）。

5 「中間のサラー」とは、アスル*の礼拝であるという説が、大多数の見解である（イブン・アティーヤ 1:323 参照）

239. それで、もしあなた方が（敵を）怖れるのであれば、歩きながら、あるいは（乗り物に）乗りながら（礼拝せよ）。そして安全になったら、（また）アッラー*を唱念する[1]のだ。かれが、（以前）あなた方が知らなかったことを、あなた方に教えて下さったように。

فَإِنۡ خِفۡتُمۡ فَرِجَالًا أَوۡ رُكۡبَانٗاۖ فَإِذَآ أَمِنتُمۡ فَٱذۡكُرُواْ ٱللَّهَ كَمَا عَلَّمَكُم مَّا لَمۡ تَكُونُواْ تَعۡلَمُونَ ٢٣٩

240. あなた方の内、妻を後に残して他界する者は、（自分の死後）一年間は（住居から）追い出されずに（扶養を）享受していられるよう、妻のために遺言しなければならない。もし彼女らが（その期間を終える前に自ら）出て行き、適切な形でその身を処する[2]にしても、あなた方（故人の相続人たちと妻たち）に罪はない。アッラー*は偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方である。[3]

وَٱلَّذِينَ يُتَوَفَّوۡنَ مِنكُمۡ وَيَذَرُونَ أَزۡوَٰجٗا وَصِيَّةٗ لِّأَزۡوَٰجِهِم مَّتَٰعًا إِلَى ٱلۡحَوۡلِ غَيۡرَ إِخۡرَاجٖۚ فَإِنۡ خَرَجۡنَ فَلَا جُنَاحَ عَلَيۡكُمۡ فِي مَا فَعَلۡنَ فِيٓ أَنفُسِهِنَّ مِن مَّعۡرُوفٖۗ وَٱللَّهُ عَزِيزٌ حَكِيمٞ ٢٤٠

241. 離婚した妻には、適切な贈り物[4]を（持たせるのだ）。（それは、）敬虔な者の義務である。

وَلِلۡمُطَلَّقَٰتِ مَتَٰعُۢ بِٱلۡمَعۡرُوفِۖ حَقًّا عَلَى ٱلۡمُتَّقِينَ ٢٤١

242. （これら、子供や女性に関する法規定の説明と）同様にアッラー*は、あなた方が分別するようにと、あなた方に（法規定に関する）かれの御徴を明らかにされるのだ。

كَذَٰلِكَ يُبَيِّنُ ٱللَّهُ لَكُمۡ ءَايَٰتِهِۦ لَعَلَّكُمۡ تَعۡقِلُونَ ٢٤٢

---

1 普段通りの形で礼拝し、そこにおいてアッラー*を唱念し感謝すること（ムヤッサル 39 頁参照）。

2 イスラーム*法に則（のっと）った範囲で着飾ったり、香水をつけたりすること（アッ＝サアディー106 頁参照）。

3 このアーヤ*は、アーヤ*234 が示す法規定によって撤回（てっかい）された、というのが大方の学者の見解である（イブン・カスィール 1:658 参照）。アーヤ*106 も参照。

4 イスラーム*法において勧（すす）められた、適切な形での衣服や生活費などによる、贈り物のこと（ムヤッサル 39 頁参照）。

243. （使徒*よ、）死を恐れて故郷から出て行った何千もの人々を、あなたは知らないのか？　それでアッラー*は彼らに「死ぬがよい」と仰せられ、（彼らは死んだが、）それから彼らを蘇らせられた。本当にアッラー*は、人々に対する実に（偉大な）恩寵の主であられるが、大半の者たちは感謝しないのだ。

۞أَلَمۡ تَرَ إِلَى ٱلَّذِينَ خَرَجُواْ مِن دِيَٰرِهِمۡ وَهُمۡ أُلُوفٌ حَذَرَ ٱلۡمَوۡتِ فَقَالَ لَهُمُ ٱللَّهُ مُوتُواْ ثُمَّ أَحۡيَٰهُمۡۚ إِنَّ ٱللَّهَ لَذُو فَضۡلٍ عَلَى ٱلنَّاسِ وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَ ٱلنَّاسِ لَا يَشۡكُرُونَ ٢٤٣

244. また、アッラー*の道において戦うのだ。そして、アッラー*こそはよくお聴きになるお方、全知者であるということを知っておくがよい。

وَقَٰتِلُواْ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ وَٱعۡلَمُوٓاْ أَنَّ ٱللَّهَ سَمِيعٌ عَلِيمٞ ٢٤٤

245. アッラー*に、よき貸付[1]をする者は誰か？　そうすれば、かれはそれを彼のために、何倍にも倍増して下さる。アッラー*は、（そのお恵みをお望みのままに）お控えになり、また（気前よく）与えられるお方。そしてあなた方は、かれの御許へと戻らされるのである。

مَّن ذَا ٱلَّذِي يُقۡرِضُ ٱللَّهَ قَرۡضًا حَسَنٗا فَيُضَٰعِفَهُۥ لَهُۥٓ أَضۡعَافٗا كَثِيرَةٗۚ وَٱللَّهُ يَقۡبِضُ وَيَبۡصُۜطُ وَإِلَيۡهِ تُرۡجَعُونَ ٢٤٥

246. （使徒*よ、）あなたは、ムーサー*の（時代）後の、イスラーイールの子ら*の長老たちについて知らないのか？　彼らが、彼らの預言者*[2]に対してこう言った時のこと。「私たちに王を遣わして下さい。（そうすれば、）アッラー*の道において戦いましょう」。彼（その預言者*）は言った。「あなた方は、自分たちに戦いが命じられても、戦わないのではないか？」

أَلَمۡ تَرَ إِلَى ٱلۡمَلَإِ مِنۢ بَنِيٓ إِسۡرَٰٓءِيلَ مِنۢ بَعۡدِ مُوسَىٰٓ إِذۡ قَالُواْ لِنَبِيّٖ لَّهُمُ ٱبۡعَثۡ لَنَا مَلِكٗا نُّقَٰتِلۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِۖ قَالَ هَلۡ عَسَيۡتُمۡ إِن كُتِبَ عَلَيۡكُمُ ٱلۡقِتَالُ أَلَّا تُقَٰتِلُواْۖ قَالُواْ وَمَا لَنَآ أَلَّا نُقَٰتِلَ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ وَقَدۡ أُخۡرِجۡنَا مِن دِيَٰرِنَا وَأَبۡنَآئِنَاۖ فَلَمَّا كُتِبَ عَلَيۡهِمُ ٱلۡقِتَالُ تَوَلَّوۡاْ إِلَّا قَلِيلٗا مِّنۡهُمۡۗ وَٱللَّهُ عَلِيمُۢ بِٱلظَّٰلِمِينَ ٢٤٦

---

1 アッラー*に対する「貸付」とは、かれの御許での褒美（ほうび）を望みつつ、アッラー*の道において善い施（ほどこ）しをすること（ムヤッサル 39 頁参照）。

2 一説に、この預言者の名は「シャムウィール」あるいは「シャムウーン」（イブン・カスィール 2:665 参照）。旧約聖書のサムエルとの明確な関連性は不明。

彼らは言った。「どうして私たちが、アッラー*の道のために戦わないことがありましょうか？　私たちは（敵によって）、故郷や子供たちから引き離されてしまったというのに」。それで、いざ彼らに戦いが命じられると、彼らは彼らの内の少数の者を除き、背き去って（逃げて）しまった。アッラー*は不正*者たちを、よくご存知である。

247. また、彼らの預言者*は、彼らにこう言った。「本当に、アッラー*はあなた方に対し、確かにタールート[1]を王として遣わされた」。彼らは言った。「どうして彼（タールート）に、私たちに対する王権などありましょうか？　私たちの方が、彼よりも王権に相応しいくらいですし、彼には財産も十分には授けられていませんのに[2]」。彼（預言者*）は、（彼らにこう）言った。「本当に、アッラーはあなた方の上に彼（タールート）を選ばれ、知識と体力において彼を豊かにされた。アッラー*は、かれがお望みになる者に王権を授けられるのだ。アッラーは、広量な*お方、全知者であられる」。

وَقَالَ لَهُمْ نَبِيُّهُمْ إِنَّ ٱللَّهَ قَدْ بَعَثَ
لَكُمْ طَالُوتَ مَلِكًا ۚ قَالُوٓا۟ أَنَّىٰ
يَكُونُ لَهُ ٱلْمُلْكُ عَلَيْنَا وَنَحْنُ أَحَقُّ
بِٱلْمُلْكِ مِنْهُ وَلَمْ يُؤْتَ سَعَةً مِّنَ ٱلْمَالِ ۚ
قَالَ إِنَّ ٱللَّهَ ٱصْطَفَىٰهُ عَلَيْكُمْ وَزَادَهُۥ
بَسْطَةً فِى ٱلْعِلْمِ وَٱلْجِسْمِ ۖ وَٱللَّهُ يُؤْتِى
مُلْكَهُۥ مَن يَشَآءُ ۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٤٧

248. また、彼らの預言者*は彼らに言った。「実に、彼（タールート）の王権の印は、あなた方のところに聖櫃がやって来ることである。その中にはあなた方の主*からの

وَقَالَ لَهُمْ نَبِيُّهُمْ إِنَّ ءَايَةَ مُلْكِهِۦٓ
أَن يَأْتِيَكُمُ ٱلتَّابُوتُ فِيهِ
سَكِينَةٌ مِّن رَّبِّكُمْ وَبَقِيَّةٌ مِّمَّا

1 旧約聖書には、同様の逸話の中でイスラーイールの王サウルが言及されている。ただし、タールートとの明確な関連性は不明。

2 タールートは、それ以前に王も預言者*も輩出（はいしゅつ）したことがなかった部族に属していたと言われる（ムヤッサル 40 頁参照）。

安らぎと、ムーサーの一族およびハールーン*の一族が残した遺品の一部が納められており、天使*たちがそれを運んで来る。本当にその中にこそ、あなた方への御徴[1]があるのだ。もし、あなた方が信仰者であるのなら（、だが）」。

تَرَكَ ءَالُ مُوسَىٰ وَءَالُ هَٰرُونَ
تَحۡمِلُهُ ٱلۡمَلَٰٓئِكَةُۚ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَةٗ
لَّكُمۡ إِن كُنتُم مُّؤۡمِنِينَ ٢٤٨

249. そして、タールートがその兵士たちを引き連れて（巨人族との戦いに）出かけた時、彼は言った。「本当にアッラー*は、あなた方を川で試される。それで、誰でもそこから飲んだ者は私の仲間ではなく、それを全く味わわなかった者は誰でも、まさしく私の仲間であ（り、私と共に戦うことにな）ろう。但し、片手で一すくいしか掬わなかった者は、その限りではないが」。こうして彼らの内の僅かな者を除き、彼らは（皆）そこから飲んだ。そして彼（タールート）が、信仰する者たちと共に（敵と対峙すべく）そこ（川）を渡った時、彼らは言った。「今日私たちには、ジャールート[2]とその兵士たちに対抗する力が、全くありません[3]」。（来世において）アッラー*に拝謁することを確信する者たちは、言った。「一体どれだけ多くの（信仰深く忍耐*強い）小さな集団が、アッラー*のお許しにより、

فَلَمَّا فَصَلَ طَالُوتُ بِٱلۡجُنُودِ قَالَ إِنَّ
ٱللَّهَ مُبۡتَلِيكُم بِنَهَرٖ فَمَن شَرِبَ مِنۡهُ فَلَيۡسَ
مِنِّي وَمَن لَّمۡ يَطۡعَمۡهُ فَإِنَّهُۥ مِنِّيٓ إِلَّا مَنِ
ٱغۡتَرَفَ غُرۡفَةَۢ بِيَدِهِۦۚ فَشَرِبُواْ مِنۡهُ
إِلَّا قَلِيلٗا مِّنۡهُمۡۚ فَلَمَّا جَاوَزَهُۥ هُوَ
وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ مَعَهُۥ قَالُواْ لَا طَاقَةَ لَنَا
ٱلۡيَوۡمَ بِجَالُوتَ وَجُنُودِهِۦۚ قَالَ ٱلَّذِينَ
يَظُنُّونَ أَنَّهُم مُّلَٰقُواْ ٱللَّهِ كَم مِّن
فِئَةٖ قَلِيلَةٍ غَلَبَتۡ فِئَةٗ كَثِيرَةَۢ
بِإِذۡنِ ٱللَّهِۗ وَٱللَّهُ مَعَ ٱلصَّٰبِرِينَ ٢٤٩

---

1 この「御徴」は、タールートが王とされた根拠のこと（ムヤッサル 40 頁参照）。

2 旧約聖書には、同様の逸話の中でゴリアテが登場する。ただし、ジャールートとの明確な関連性は不明。

3 タールートに従って、川の水を全く、あるいは一掬（すく）いしか飲まずに、彼と共に川を渡ったのは三百十数名。つまりヒジュラ暦*2 年にマッカ*軍に対して軍事的初勝利を収めたマディーナ*のムスリム*軍と同数であった、と言われる（アル＝ブハーリー3958 参照）。

（不信仰者*の）大集団に勝利したことか？　アッラー*は、忍耐*する者たちと共におられるのだ」。

250. そして、ジャールートとその兵士たちの前に現れ出た時、彼らは言った。「我らが主*よ、私たちに忍耐*をお授け下さい。そして私たちの足を堅固にし[1]、不信仰者*である民に勝利させて下さい」。

وَلَمَّا بَرَزُواْ لِجَالُوتَ وَجُنُودِهِۦ قَالُواْ
رَبَّنَآ أَفۡرِغۡ عَلَيۡنَا صَبۡرٗا وَثَبِّتۡ أَقۡدَامَنَا
وَٱنصُرۡنَا عَلَى ٱلۡقَوۡمِ ٱلۡكَٰفِرِينَ ٢٥٠

251. こうして彼ら（タールートと信仰者たち）は、アッラー*のお許しにより彼らを打ち負かし、ダーウード*はジャールートを倒した[2]。またアッラー*は、彼（ダーウード*）に王権と英知[3]を授けられ、お望みのことを伝授された。もしアッラー*がある者たち（信仰者）によって、他の者たち（不信仰者*）を淘汰されることがなかったなら、地上は腐敗*したことであろう。しかしアッラー*は、全創造物に対する恩寵の主なのである。

فَهَزَمُوهُم بِإِذۡنِ ٱللَّهِ وَقَتَلَ دَاوُۥدُ
جَالُوتَ وَءَاتَىٰهُ ٱللَّهُ ٱلۡمُلۡكَ
وَٱلۡحِكۡمَةَ وَعَلَّمَهُۥ مِمَّا يَشَآءُۗ وَلَوۡلَا
دَفۡعُ ٱللَّهِ ٱلنَّاسَ بَعۡضَهُم بِبَعۡضٖ
لَّفَسَدَتِ ٱلۡأَرۡضُ وَلَٰكِنَّ ٱللَّهَ ذُو
فَضۡلٍ عَلَى ٱلۡعَٰلَمِينَ ٢٥١

252. それらは、われら*が真実をもってあなたに語って聞かせる、アッラー*の御徴[4]。そして（預言者*よ、）本当にあなたは、まさしく使徒*の一人なのだ。

تِلۡكَ ءَايَٰتُ ٱللَّهِ نَتۡلُوهَا عَلَيۡكَ بِٱلۡحَقِّۚ
وَإِنَّكَ لَمِنَ ٱلۡمُرۡسَلِينَ ٢٥٢

---

1 「足を堅固にする」とは、敵との戦いにおいてしっかりと踏（ふ）んばらせ、戦いによる恐怖から逃げないようにすること（ムヤッサル 41 頁参照）。

2 タールートはダーウードに、もしジャールートを倒すことができたら、自分の娘と自分の財産の半分を分け与え、王権の一部を授けることを約束したと言われる（イブン・カスィール 1:669 参照）。

3 ここでの「英知」は、預言者*性という意味であるとされる（ムヤッサル 41 頁参照）。

4 この「御徴」は、預言者*ムハンマド*の正しさを示す証拠のこと。アーヤ*243-251 の中で語られた話は啓典の民*も知っていたものだったが、預言者*は文盲であり、啓典を読んだこともなかったからである（アッ＝タバリー2:1479 参照）。

253. それらの使徒*たち、われら*は彼らのある者を、他のある者よりも特に引き立てた。彼らの中には、アッラー*が（直接）御言葉をかけて下さった者もあるし、またある者は、その位を高められた。また、われらはマルヤム*の子イーサー*に明証を授け、聖霊[1]によって彼を強めた。アッラー*がお望みであったなら、明証が到来した後、彼ら（預言者*たち）の後（の世代）の者たちが争い合うことはなかったのだ。だが彼らは意見を異にし、それで彼らの内のある者は信仰し、またある者は不信仰に陥った。そして、アッラー*がお望みであったなら、彼らは争ったりしなかったのだ。しかしアッラー*は、かれがお望みになることを行われる。

۞ تِلْكَ الرُّسُلُ فَضَّلْنَا بَعْضَهُمْ عَلَىٰ بَعْضٍ
مِّنْهُم مَّن كَلَّمَ اللَّهُ ۖ وَرَفَعَ بَعْضَهُمْ دَرَجَاتٍ ۚ
وَآتَيْنَا عِيسَى ابْنَ مَرْيَمَ الْبَيِّنَاتِ وَأَيَّدْنَاهُ
بِرُوحِ الْقُدُسِ ۗ وَلَوْ شَاءَ اللَّهُ مَا اقْتَتَلَ
الَّذِينَ مِن بَعْدِهِم مِّن بَعْدِ مَا جَاءَتْهُمُ
الْبَيِّنَاتُ وَلَٰكِنِ اخْتَلَفُوا فَمِنْهُم مَّنْ
آمَنَ وَمِنْهُم مَّن كَفَرَ ۚ وَلَوْ شَاءَ اللَّهُ
مَا اقْتَتَلُوا وَلَٰكِنَّ اللَّهَ يَفْعَلُ مَا يُرِيدُ ﴿٢٥٣﴾

254. 信仰する者たちよ、売買も友愛も執り成しもなくなる日[2]が来る前に、われらがあなた方に授けたものから（施しとして）費やす[3]のだ。不信仰者*たちは、まさしく不正*者なのである。

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا أَنفِقُوا مِمَّا رَزَقْنَاكُم
مِّن قَبْلِ أَن يَأْتِيَ يَوْمٌ لَّا بَيْعٌ فِيهِ وَلَا خُلَّةٌ
وَلَا شَفَاعَةٌ ۗ وَالْكَافِرُونَ هُمُ الظَّالِمُونَ ﴿٢٥٤﴾

255. アッラー*は、かれの外に（真に）崇拝*すべきものがなく、永生する*お方、全てを司る*お方。まどろみも眠りも、かれを捉えることはない。諸天にあるものと、

اللَّهُ لَا إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ الْحَيُّ الْقَيُّومُ ۚ لَا تَأْخُذُهُ
سِنَةٌ وَلَا نَوْمٌ ۚ لَّهُ مَا فِي السَّمَاوَاتِ وَمَا فِي
الْأَرْضِ ۗ مَن ذَا الَّذِي يَشْفَعُ عِندَهُ إِلَّا

1 この「明証」と「聖霊」については、アーヤ*87 の訳注を参照。

2 復活の日*のこと。その日、不信仰者*にとって儲（もう）けのある売買はなく、アッラー*の罰を免（まぬが）れるためのお金もなく、自分を助けてくれる友人の友情もなく、罰を軽減（けいげん）してくれる執り成し手もいない（ムヤッサル 42 頁参照）。「執り成し」については、アーヤ*48 と、その訳注も参照。

3 「われらが…費やす」については、アーヤ*3 の訳注を参照。

بِإِذۡنِهِۦۚ يَعۡلَمُ مَا بَيۡنَ أَيۡدِيهِمۡ وَمَا خَلۡفَهُمۡۖ
وَلَا يُحِيطُونَ بِشَيۡءٖ مِّنۡ عِلۡمِهِۦٓ إِلَّا بِمَا شَآءَۚ
وَسِعَ كُرۡسِيُّهُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَۖ وَلَا يَـُٔودُهُۥ
حِفۡظُهُمَاۚ وَهُوَ ٱلۡعَلِيُّ ٱلۡعَظِيمُ ٢٥٥

大地にあるものは（全て）、かれに属する。かれのお許しなくして、誰がかれの御許で執り成すことが出来ようか？[1]　かれは、彼ら（全存在）の前にあるものも、彼らの背後にあるもの[2]も、ご存知である。そしてかれのお望みになることの外、彼らはかれの御知識について、何も把握することはないのだ。かれの玉座[3]は、諸天と大地に広がり、その二つの護持が、かれを疲れさせることもない。そしてかれは至高の*お方、この上なく偉大な*お方であられる。[4]

لَآ إِكۡرَاهَ فِي ٱلدِّينِۖ قَد تَّبَيَّنَ ٱلرُّشۡدُ مِنَ ٱلۡغَيِّۚ
فَمَن يَكۡفُرۡ بِٱلطَّٰغُوتِ وَيُؤۡمِنۢ بِٱللَّهِ فَقَدِ
ٱسۡتَمۡسَكَ بِٱلۡعُرۡوَةِ ٱلۡوُثۡقَىٰ لَا ٱنفِصَامَ
لَهَاۗ وَٱللَّهُ سَمِيعٌ عَلِيمٌ ٢٥٦

256.　（この）宗教に強制はない[5]。実に正しさは、誤りから明確に分け隔てられたのだから。それで、ターグート*を否定してアッラー*を信仰する者は誰でも、決して外れることのない堅固な取っ手を確かに握り締めたのである。アッラー*は、よくお聴きになるお方、全知者であられる。

1　復活の日*の「執り成し」については、アーヤ*48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

2　つまり全存在の、未来と過去のこと（ムヤッサル 42 頁参照）。

3　教友*イブン・アッバース*は言った「玉座はかれ（アッラー*）の足台で、御座（みくら）の大きさは際限（さいげん）がない」（アル＝ハキーム 2:338 参照）。アッラー*の「足台」がいかなるものかは、かれご自身のみがご存知である（ムヤッサル 42 頁参照）。尚、「御座」については高壁章 54 の訳注を参照。

4　このアーヤ*は、クルアーン*の中で最も偉大なアーヤ*の一つとされ（ムスリム「旅行者の礼拝の書」257 参照）、「アーヤト・アル＝クルスィー（玉座の節）」と呼ばれている。

5　イスラーム*は、その完全性、そしてそれを示す根拠の明白さゆえ、強制される必要がない、ということ（ムヤッサル 42 頁参照）。

257. アッラー*は、信仰する者たちの庇護者*。かれは、彼らを闇から光[1]へと導き出して下さる。そして、不信仰に陥った*者たちの庇護者はターグート*。それらは、彼らを光から闇へと引き出してしまう。それらの者たちこそは、業火の民。彼らはその中に永住するのだ。

ٱللَّهُ وَلِيُّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ يُخۡرِجُهُم مِّنَ
ٱلظُّلُمَٰتِ إِلَى ٱلنُّورِۖ وَٱلَّذِينَ كَفَرُوٓاْ
أَوۡلِيَآؤُهُمُ ٱلطَّٰغُوتُ يُخۡرِجُونَهُم مِّنَ
ٱلنُّورِ إِلَى ٱلظُّلُمَٰتِۗ أُوْلَٰٓئِكَ أَصۡحَٰبُ
ٱلنَّارِۖ هُمۡ فِيهَا خَٰلِدُونَ ٢٥٧

258. （使徒*よ、）あなたは、アッラー*が王権をお授けになったことで（高慢になり）、イブラーヒーム*と、彼の主*について言い争った者[2]を知らないのか？[3]イブラーヒーム*が、「我が主*は、生を授け、死を与えられるお方」と言った時のこと。（しかし）彼（王）は、「私は生かし、死を与える[4]」と言った。（そこで、）イブラーヒーム*は言った。「それなら、本当にアッラー*は、太陽を東から昇らせるお方である。ならば、あなたは太陽を西から昇らせてみよ」。すると、この不信仰だった者*は当惑してしまった。アッラー*は、不正*者である民をお導きにはならないのだ。

أَلَمۡ تَرَ إِلَى ٱلَّذِي حَآجَّ إِبۡرَٰهِـۧمَ فِي رَبِّهِۦٓ أَنۡ
ءَاتَىٰهُ ٱللَّهُ ٱلۡمُلۡكَ إِذۡ قَالَ إِبۡرَٰهِـۧمُ رَبِّيَ
ٱلَّذِي يُحۡيِۦ وَيُمِيتُ قَالَ أَنَا۠ أُحۡيِۦ وَأُمِيتُۖ
قَالَ إِبۡرَٰهِـۧمُ فَإِنَّ ٱللَّهَ يَأۡتِي بِٱلشَّمۡسِ
مِنَ ٱلۡمَشۡرِقِ فَأۡتِ بِهَا مِنَ ٱلۡمَغۡرِبِ فَبُهِتَ
ٱلَّذِي كَفَرَۗ وَٱللَّهُ لَا يَهۡدِي ٱلۡقَوۡمَ
ٱلظَّٰلِمِينَ ٢٥٨

---

1 原語では「闇」は複数形、「光」は単数形で表現されている。これは、真理が一つである一方、不信仰には様々な種類があり、その全てが無意味であることを示しているのだという（イブン・カスィール 1:685 参照）。

2 この王の名はナムルーズ、と言われる（アッ＝タバリー2:1505-1506 参照）。旧約聖書のニムロド王との明確な関連性は、不明。

3 イブラーヒーム*とその父親、及びその民のやり取りについては、家畜章 74-82、マルヤム*章 42-48、預言者*たち章 52-70、詩人たち章 70－89、整列者章 85-98、金の装飾章 26-28 も参照。

4 意のままに人を殺し、あるいは生かしておく権力がある、という意味（ムヤッサル 43 頁参照）。

259. それとも、屋根ごと崩れ落ちた[1]廃村を通りかかり、「アッラー*は、どのようにしてこれ（廃村）を、それが（一旦）滅びてしまった後に、蘇らせられるのであろう？」と言ったような者を（知らないのか？）。アッラー*は彼を百年間死なせ、それから彼を蘇らせられた。かれ（アッラー*）は仰せられた。「あなたは（ここで）、どれだけ過ごしていたのか？」彼は申し上げた。「一日か、一日の一部を過ごしただけです」。かれは仰せられた。「いや、あなたは百年間過ごしたのだ。ならば、あなたの食べ物と飲み物を見よ。それはまだ、変わらぬままであろう。また、あなたのロバを見てみよ。われら*はあなたを、人々への御徴[2]としよう。そして、その骨を見てみるがよい。われら*がどのようにしてそれらを組み立て、それからそれらに肉付けするのかを」。そして、それが彼にとって明らかになった時、彼は申し上げた。「私は、アッラー*こそが全てのことをお出来なのを、存じ上げています」。

أَوۡ كَٱلَّذِي مَرَّ عَلَىٰ قَرۡيَةٖ وَهِيَ خَاوِيَةٌ عَلَىٰ
عُرُوشِهَا قَالَ أَنَّىٰ يُحۡيِۦ هَٰذِهِ ٱللَّهُ بَعۡدَ
مَوۡتِهَاۖ فَأَمَاتَهُ ٱللَّهُ مِاْئَةَ عَامٖ ثُمَّ بَعَثَهُۥۖ
قَالَ كَمۡ لَبِثۡتَۖ قَالَ لَبِثۡتُ يَوۡمًا أَوۡ بَعۡضَ
يَوۡمٖۖ قَالَ بَل لَّبِثۡتَ مِاْئَةَ عَامٖ فَٱنظُرۡ
إِلَىٰ طَعَامِكَ وَشَرَابِكَ لَمۡ يَتَسَنَّهۡۖ وَٱنظُرۡ
إِلَىٰ حِمَارِكَ وَلِنَجۡعَلَكَ ءَايَةٗ لِّلنَّاسِۖ
وَٱنظُرۡ إِلَى ٱلۡعِظَامِ كَيۡفَ نُنشِزُهَا ثُمَّ
نَكۡسُوهَا لَحۡمٗاۚ فَلَمَّا تَبَيَّنَ لَهُۥ قَالَ
أَعۡلَمُ أَنَّ ٱللَّهَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٞ ٢٥٩

260. また、イブラーヒーム*が（こう）申し上げた時のこと（を、思い出すがよい）。「我が主*よ、あなたがどのようにして死者を生き返らせられるのか、私にお見せ下さい」。かれ（アッラー*）は仰せられた。「一体、あなたは（まだ）

وَإِذۡ قَالَ إِبۡرَٰهِـۧمُ رَبِّ أَرِنِي كَيۡفَ تُحۡيِ
ٱلۡمَوۡتَىٰۖ قَالَ أَوَلَمۡ تُؤۡمِنۖ قَالَ بَلَىٰ وَلَٰكِن
لِّيَطۡمَئِنَّ قَلۡبِيۖ قَالَ فَخُذۡ أَرۡبَعَةٗ مِّنَ ٱلطَّيۡرِ
فَصُرۡهُنَّ إِلَيۡكَ ثُمَّ ٱجۡعَلۡ عَلَىٰ كُلِّ جَبَلٖ
مِّنۡهُنَّ جُزۡءٗا ثُمَّ ٱدۡعُهُنَّ يَأۡتِينَكَ سَعۡيٗاۚ

---

1 「崩れ落ちた」と訳した語「ハーウィヤ」には、「空っぽになった」という意味も含まれ得る（アル＝クルトゥビー3:290 参照）。

2 アッラー*には、死後に人々を復活させる力が備わっていることを示す、証拠のこと（ムヤッサル 43 頁参照）。

信じていないのか？」彼は申し上げた。「いいえ、（ただ）自分の心が（確信で）安らぐために、（それを見たいの）です」。かれは仰せられた。「ならば四羽の鳥を捕まえて、それらをあなたの手許に集め（屠って切り刻み）、そしてそれらの一部を、それぞれの山に置くがよい。それからそれらを呼ぶのだ。（そうすれば）それらは（生き返り）、急いであなたのもとへとやって来るであろう。アッラー*こそが偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方であるということを、知るのだ」。

وَٱعۡلَمۡ أَنَّ ٱللَّهَ عَزِيزٌ حَكِيمٞ ٢٦٠

261. アッラー*の道において自らの財産を費やす者たちの様子は、ちょうど七本の穂を実らせた、一つの種粒のようである。それぞれの穂には、百の種粒がついている。アッラー*は、かれがお望みになる者に、（その褒美を）倍増されるのだ。アッラー*は広量な*お方、全知者であられる。

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ
كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي
كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ
يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

262. アッラー*の道において自らの財産を費やし、それから自分が費やしたものに、（施しを費やした相手に対する）恩着せがましさや害[1]を伴わせない者たち、彼らには、その主*の御許に褒美がある。そして彼らには怖れもなければ、悲しむこともない[2]。

ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ ثُمَّ
لَا يُتۡبِعُونَ مَآ أَنفَقُواْ مَنّٗا وَلَآ أَذٗى لَّهُمۡ
أَجۡرُهُمۡ عِندَ رَبِّهِمۡ وَلَا خَوۡفٌ عَلَيۡهِمۡ
وَلَا هُمۡ يَحۡزَنُونَ ٢٦٢

1 ここでの「害」は、施した相手に対し、引け目を感じさせるような言動によるものであるとされる（ムヤッサル 44 頁参照）。

2 「怖れもなければ･･･」に関しては、アーヤ*38 の訳注を参照。

263. 適切な言葉と赦し[1]は、（施した相手に対して）害を伴う施しよりも、ましである。アッラーは満ち足りておられる*お方、寛大な*お方。

﴿قَوْلٌ مَّعْرُوفٌ وَمَغْفِرَةٌ خَيْرٌ مِّن صَدَقَةٍ
يَتْبَعُهَآ أَذًى ۗ وَٱللَّهُ غَنِىٌّ حَلِيمٌ ﴿٢٦٣﴾

264. 信仰する者たちよ、あなた方の施し（による褒美）を、恩着せがましさや害によって、無効にしてはならない。人々に見せびらかすために自分の財産を費やし[2]、アッラー*も最後の日*も信じてはいない者のように。というのも彼の様子は、あたかも土で覆われた滑らかな岩のようであり、そこに大雨が降れば、それを裸にしてしまうからである。彼らは自分たちが稼いだ行いから、何も得ることがない[3]。アッラー*は、不信仰者*である民をお導きにはならないのだ[4]。

يَـٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَا تُبْطِلُوا۟
صَدَقَـٰتِكُم بِٱلْمَنِّ وَٱلْأَذَىٰ كَٱلَّذِى يُنفِقُ
مَالَهُۥ رِئَآءَ ٱلنَّاسِ وَلَا يُؤْمِنُ بِٱللَّهِ وَٱلْيَوْمِ
ٱلْـَٔاخِرِ ۖ فَمَثَلُهُۥ كَمَثَلِ صَفْوَانٍ عَلَيْهِ تُرَابٌ
فَأَصَابَهُۥ وَابِلٌ فَتَرَكَهُۥ صَلْدًا ۖ لَّا يَقْدِرُونَ عَلَىٰ
شَىْءٍ مِّمَّا كَسَبُوا۟ ۗ وَٱللَّهُ لَا يَهْدِى ٱلْقَوْمَ
ٱلْكَـٰفِرِينَ ﴿٢٦٤﴾

1 「適切な言葉」とは、乞う者に対して善い言葉で応じることや、その時は要望を叶えられなくても、後にそれを叶えることを約束すること（夜の旅章 28 とその訳注も参照）、あるいは彼のために祈ってやること。「赦し」とは、他人の窮乏（きゅうぼう）や過（あやま）ちを隠しておいたり、不正*を行った者を赦したり、物乞いが出すぎた態度をとっても大目に見てやったりすること（アル＝バガウィー1:360 参照）。

2 アッラー*のためではなく、人目や評判などを目的とした行為は、「リヤーゥ」と呼ばれる。預言者*ムハンマド*はムスリム*の「リヤーゥ」を、「小さなシルク*」と表現した（アフマド 23686 参照）。なぜならそれは、崇拝*行為や善行をアッラー*だけのためではなく、人々の自分に対する賞賛のためにすることになり、その結果、来世におけるアッラー*の褒美を禁じられるからである（イブン・バッタール 1:113 参照）。

3 他人に見せびらかすために善行を行う者の心は、この岩のように硬く、施しを始めとした彼の善行は、その表面の土のようである。無知な者は、それが農作に適した良い土地だと考える。しかし真実が暴（あば）かれれば、その土はなくなり、そこでの労働が無駄（むだ）であったこと、そこが農作には適していなかったことを知ることになる（アッ＝サァディー113 頁参照）。イムラーン家章 117、イブラーヒーム*章 18、御光章 39-40、識別章 23 も参照。

4 アッラー*は、不信仰者*が施しやその他のことにおいて、真に正しい形で行うことをお助けにはならない、ということ（ムヤッサル 44 頁参照）。

265. また、アッラー*のお喜びを求め、自らの確固とした信念をもって自分の財産を費やす者たち[1]の様子は、まるで大雨が降りかかって倍の収穫物をもたらした、丘陵の農園のようである。たとえ多量の雨が降らなくても、僅かな雨で（十分なのだ）。アッラー*は、あなた方が行うことを（全て）ご覧になるお方。

وَمَثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمُ ٱبۡتِغَآءَ
مَرۡضَاتِ ٱللَّهِ وَتَثۡبِيتٗا مِّنۡ أَنفُسِهِمۡ كَمَثَلِ
جَنَّةِۭ بِرَبۡوَةٍ أَصَابَهَا وَابِلٞ فَـَٔاتَتۡ أُكُلَهَا
ضِعۡفَيۡنِ فَإِن لَّمۡ يُصِبۡهَا وَابِلٞ فَطَلّٞۗ
وَٱللَّهُ بِمَا تَعۡمَلُونَ بَصِيرٌ ٢٦٥

266. 一体あなた方の内で、ナツメヤシや葡萄の農園――その下からは川が流れ、そこには彼のための、あらゆる種類の果実がある――を所有しているが、既に（本人は）年老いてしまい、その子供はまだ幼く、そうしている内に火事を伴う強風が吹いて、ついには（農園が）全焼してしまう、ということを望む者がいるのか？（このような説明と）同様に、アッラー*はあなた方が熟考するようにと、あなた方に（法規定に関する）御徴を明らかにされるのである。

أَيَوَدُّ أَحَدُكُمۡ أَن تَكُونَ لَهُۥ جَنَّةٞ مِّن نَّخِيلٖ
وَأَعۡنَابٖ تَجۡرِي مِن تَحۡتِهَا ٱلۡأَنۡهَٰرُ لَهُۥ فِيهَا
مِن كُلِّ ٱلثَّمَرَٰتِ وَأَصَابَهُ ٱلۡكِبَرُ وَلَهُۥ
ذُرِّيَّةٞ ضُعَفَآءُ فَأَصَابَهَآ إِعۡصَارٞ فِيهِ نَارٞ
فَٱحۡتَرَقَتۡۗ كَذَٰلِكَ يُبَيِّنُ ٱللَّهُ لَكُمُ ٱلۡأٓيَٰتِ
لَعَلَّكُمۡ تَتَفَكَّرُونَ ٢٦٦

267. 信仰する者たちよ、あなた方が稼いだ善きものと、われら*が大地からあなた方のために大地からわれら*が出し（て生育させ）たものから、（施しとして）費やす[2]のだ。また、そこから費やそうとして、粗悪なものを意図してはならない。あなた方自身でさえ、それに対して目をつぶらずには、手にしようとはしないというの

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ أَنفِقُواْ مِن طَيِّبَٰتِ
مَا كَسَبۡتُمۡ وَمِمَّآ أَخۡرَجۡنَا لَكُم مِّنَ
ٱلۡأَرۡضِۖ وَلَا تَيَمَّمُواْ ٱلۡخَبِيثَ مِنۡهُ
تُنفِقُونَ وَلَسۡتُم بِـَٔاخِذِيهِ إِلَّآ أَن تُغۡمِضُواْ
فِيهِۚ وَٱعۡلَمُوٓاْ أَنَّ ٱللَّهَ غَنِيٌّ حَمِيدٌ ٢٦٧

---

1 アッ＝サァディー*によれば、このアーヤ*で言及されているのは、施しにおいて二つの害を克服（こくふく）した者であるという。つまり、アッラー*のお喜びだけを望んで施すことで「見せびらかしの行為」という害を、そして確固とした信念をもって施すことで、「決心の弱さや躊躇（ちゅうちょ）」という害を克服する者である（114 頁参照）。

2 「われらが…費やす」については、アーヤ*3 の訳注を参照。

に[1]。アッラー*こそが満ち足りておられる*お方、称賛されるべき*お方であることを知るのだ。

268. シャイターン*はあなた方に貧困を約束し（て怯えさせ）、醜行[2]を命じ、アッラー*はあなた方に（施しによって、）かれの御許からのお赦しとご恩寵を約束される。そしてアッラー*は、広量な*お方、全知者であられるのだ。

ٱلشَّيۡطَٰنُ يَعِدُكُمُ ٱلۡفَقۡرَ وَيَأۡمُرُكُم
بِٱلۡفَحۡشَآءِۖ وَٱللَّهُ يَعِدُكُم مَّغۡفِرَةٗ مِّنۡهُ
وَفَضۡلٗاۗ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٞ ٢٦٨

269. かれは、かれがお望みになる者に英知をお授けになる。誰でも英知を授けられた者は、確かに多くの善を授かったのだ。教訓を得るのは、澄んだ理性の持ち主たちだけである。

يُؤۡتِي ٱلۡحِكۡمَةَ مَن يَشَآءُۚ وَمَن يُؤۡتَ
ٱلۡحِكۡمَةَ فَقَدۡ أُوتِيَ خَيۡرٗا كَثِيرٗاۗ
وَمَا يَذَّكَّرُ إِلَّآ أُوْلُواْ ٱلۡأَلۡبَٰبِ ٢٦٩

270. また、あなた方が（施しのために）費やしたいかなる出費も、あなた方が誓ったいかなる誓約も、必ずやアッラー*はご存知である。不正*者たちには、いかなる援助者もない。

وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن نَّفَقَةٍ أَوۡ نَذَرۡتُم مِّن
نَّذۡرٖ فَإِنَّ ٱللَّهَ يَعۡلَمُهُۥۗ
وَمَا لِلظَّٰلِمِينَ مِنۡ أَنصَارٍ ٢٧٠

271. あなた方が施しを公然と行えば、それは素晴らしいこと。また、それを秘密裏に困窮者*たちに与えれば、それがあなた方にとって更に善い[3]。かれは、あなた方の悪行の一部を帳消しにして下さる。アッラー*は、あなた方の行うこと（全てに）通暁されているお方。

إِن تُبۡدُواْ ٱلصَّدَقَٰتِ فَنِعِمَّا هِيَۖ
وَإِن تُخۡفُوهَا وَتُؤۡتُوهَا ٱلۡفُقَرَآءَ
فَهُوَ خَيۡرٞ لَّكُمۡۚ وَيُكَفِّرُ
عَنكُم مِّن سَيِّـَٔاتِكُمۡۗ وَٱللَّهُ
بِمَا تَعۡمَلُونَ خَبِيرٞ ٢٧١

---

1 一説によれば、このアーヤ*は、わざと質の悪いナツメヤシの実を施す者に関して下った（アッ＝ティルミズィー2987 参照）。

2 「醜行」については、蜜蜂章 90 の訳注も参照。

3 これは任意の施しや善行に関してであり、義務の浄財に関しては公然と行う方がよいという見解もある（アッ＝タバリー2:1584 参照）。

272.　（使徒*よ、）彼ら（不信仰者*たち）を導くこと[1]は、あなたの義務ではない。しかしアッラー*こそが、かれがお望みになる者をお導きになるのだ。あなた方が何か善いものを（施しとして）費やせば[2]、（それは）あなた方自身のため（となる）。あなた方（信仰者たち）は、アッラー*のお喜びを求めずには、（施しを）費やすことがない。そして、あなた方が何であれ善いものを（施しとして）費やせば、あなた方は不正*を受けることなく、ふんだんに報われるのだ。

۞لَّيْسَ عَلَيْكَ هُدَىٰهُمْ وَلَٰكِنَّ ٱللَّهَ
يَهْدِى مَن يَشَآءُ ۗ وَمَا تُنفِقُوا۟ مِنْ خَيْرٍ
فَلِأَنفُسِكُمْ ۚ وَمَا تُنفِقُونَ إِلَّا
ٱبْتِغَآءَ وَجْهِ ٱللَّهِ ۚ وَمَا تُنفِقُوا۟ مِنْ خَيْرٍ
يُوَفَّ إِلَيْكُمْ وَأَنتُمْ لَا تُظْلَمُونَ ٢٧٢

273.　（生活の糧を稼ぐために）大地を旅することもできず、アッラー*の道において遮断された状態[3]にある、困窮者たちのために（施すのだ）。無知な者たちは、（彼ら困窮者たちの）遠慮深さゆえ、彼らが裕福であると思い込んでいる。あなたは彼らを、その佇まいによって知るのだが。彼らは人々に、しつこくせがんだりはしない。あなた方が何であれ善いものを（施しとして）費やせば、アッラー*は必ずや、それをご存知なのである。

لِلْفُقَرَآءِ ٱلَّذِينَ أُحْصِرُوا۟ فِى سَبِيلِ
ٱللَّهِ لَا يَسْتَطِيعُونَ ضَرْبًا فِى
ٱلْأَرْضِ يَحْسَبُهُمُ ٱلْجَاهِلُ أَغْنِيَآءَ
مِنَ ٱلتَّعَفُّفِ تَعْرِفُهُم بِسِيمَٰهُمْ
لَا يَسْـَٔلُونَ ٱلنَّاسَ إِلْحَافًا ۗ وَمَا تُنفِقُوا۟
مِنْ خَيْرٍ فَإِنَّ ٱللَّهَ بِهِۦ عَلِيمٌ ٢٧٣

1　最終的に人を導くのはアッラー*であり、預言者*（あるいはそれ以下の者）の一存で叶うことではない。ただ預言者*には、導きの説明や、そこへと招くことが義務づけられているだけである（アル＝バガウィー1:376 参照）。蜜蜂章 37、ユーヌス*章 99-100、蟻章 80、物語章 56、相談章 52 とその訳注も参照。

2　「（施しとして）費やす」については、雌牛章 3 の訳注を参照。以下、同頁の同様の表現も同訳注を参照。

3　「アッラー*の道において遮断された状態」とは、アッラー*の道における戦いやその他のことにおいて、アッラーへの服従行為に専念している状態のこと（アッ＝サアディー116 頁参照）。一説にこのアーヤ*は、住む家も近親もなく、マディーナ*で預言者のマスジド*の一角に住んでいた、貧しいムハージルーン*たちに関して下った、とされる（アル＝バガウィー1:377 参照）。

274. 自分の財産を、夜も昼も、（時には）秘密裏に、そして（時には）公然と（施しとして）費やす者たち、彼らには、自分たちの主*の御許でその褒美がある。そして彼らには怖れもなければ、悲しむこともないのだ[1]。

ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُم بِٱلَّيۡلِ وَٱلنَّهَارِ سِرّٗا
وَعَلَانِيَةٗ فَلَهُمۡ أَجۡرُهُمۡ عِندَ رَبِّهِمۡ وَلَا
خَوۡفٌ عَلَيۡهِمۡ وَلَا هُمۡ يَحۡزَنُونَ ٢٧٤

275. 利息*を貪る者たちは、シャイターン*がとり憑いて躓かせる者のような立ち上がり方しかできない[2]。それは彼らが、「本当に売買だって、利息のようなものだ」と言ったためである。そしてアッラー*は売買を合法とされ、利息を禁じられた。自分の主*からの訓戒が到来した後に（利息を）やめるのなら、彼には過ぎ去ったこと（へのお赦し）があり、その前途はアッラー*に委ねられる。そして再び（その罪を）繰り返すのなら、そのような者たちは業火の住民となる。彼らはそこに、永住するのだ。

ٱلَّذِينَ يَأۡكُلُونَ ٱلرِّبَوٰاْ لَا يَقُومُونَ إِلَّا
كَمَا يَقُومُ ٱلَّذِي يَتَخَبَّطُهُ ٱلشَّيۡطَٰنُ مِنَ
ٱلۡمَسِّۚ ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمۡ قَالُوٓاْ إِنَّمَا ٱلۡبَيۡعُ مِثۡلُ
ٱلرِّبَوٰاْۗ وَأَحَلَّ ٱللَّهُ ٱلۡبَيۡعَ وَحَرَّمَ ٱلرِّبَوٰاْۚ فَمَن
جَآءَهُۥ مَوۡعِظَةٞ مِّن رَّبِّهِۦ فَٱنتَهَىٰ فَلَهُۥ
مَا سَلَفَ وَأَمۡرُهُۥٓ إِلَى ٱللَّهِۖ وَمَنۡ عَادَ فَأُوْلَٰٓئِكَ
أَصۡحَٰبُ ٱلنَّارِۖ هُمۡ فِيهَا خَٰلِدُونَ ٢٧٥

276. アッラー*は利息を根絶やしにされ、施し（の褒美）は増幅させせられる。そしてアッラー*は、不信心この上なく、罪に溺れた、いかなる者もお好みにはならない。

يَمۡحَقُ ٱللَّهُ ٱلرِّبَوٰاْ وَيُرۡبِي ٱلصَّدَقَٰتِۗ وَٱللَّهُ
لَا يُحِبُّ كُلَّ كَفَّارٍ أَثِيمٍ ٢٧٦

277. 本当に、信仰して正しい行い*に励み、礼拝を遵守*し、浄財*を支払う者たち、彼らには、その主*の御許に彼らの褒美がある。そして彼らには怖れもなければ、悲しむこともないのだ[3]。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
وَأَقَامُواْ ٱلصَّلَوٰةَ وَءَاتَوُاْ ٱلزَّكَوٰةَ لَهُمۡ
أَجۡرُهُمۡ عِندَ رَبِّهِمۡ وَلَا خَوۡفٌ عَلَيۡهِمۡ
وَلَا هُمۡ يَحۡزَنُونَ ٢٧٧

1 「怖れもなければ･･･」の意味に関しては、アーヤ*38 の訳注を参照。

2 これは復活の日*が到来し、復活させせられる時の様子であると言われる（ムヤッサル 47 頁参照）。

3 「怖れもなければ･･･」の意味に関しては、アーヤ*38 の訳注を参照。

278. 信仰する者たちよ、アッラー*を畏れ*、利息*の残額を帳消しにせよ。もし、あなた方が信仰者であるのなら。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ ٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ وَذَرُوا۟
مَا بَقِىَ مِنَ ٱلرِّبَوٰٓا۟ إِن كُنتُم مُّؤْمِنِينَ ٢٧٨

279. それで、もしそうしないのなら、アッラー*とその使徒*からの戦い（の宣告）を確信せよ。そしてもし悔い改めるのであれば、あなた方には元金（への権利）がある。あなた方は不正*を働くこともなく、不正*を被ることもない[1]。

فَإِن لَّمْ تَفْعَلُوا۟ فَأْذَنُوا۟ بِحَرْبٍ مِّنَ ٱللَّهِ
وَرَسُولِهِۦ ۖ وَإِن تُبْتُمْ فَلَكُمْ رُءُوسُ
أَمْوَٰلِكُمْ لَا تَظْلِمُونَ وَلَا تُظْلَمُونَ ٢٧٩

280. また、彼（債務者が）が苦境にあるのなら、余裕が出来るまで待ってやるがよい。（債務を帳消しにして）施しとしてしまうことが、あなた方にとってより善いのだ。もし、あなた方が（そのことを）知っているのなら。

وَإِن كَانَ ذُو عُسْرَةٍ فَنَظِرَةٌ إِلَىٰ مَيْسَرَةٍ ۚ
وَأَن تَصَدَّقُوا۟ خَيْرٌ لَّكُمْ ۖ إِن كُنتُمْ
تَعْلَمُونَ ٢٨٠

281. そしてあなた方が、アッラー*の御許に帰される（復活の）日を恐れよ。やがて各人は自分が稼いだもの（の報い）を、不正*を受けることもなく、ふんだんに受け取ることになるのだ。[2]

وَٱتَّقُوا۟ يَوْمًا تُرْجَعُونَ فِيهِ إِلَى ٱللَّهِ ۖ ثُمَّ تُوَفَّىٰ
كُلُّ نَفْسٍ مَّا كَسَبَتْ وَهُمْ لَا يُظْلَمُونَ ٢٨١

282. 信仰する者たちよ、定められた（返済）期限まで借金を貸し借りする際には、それを書面にするのだ[3]。また、（当事者以外の）一人の記録者が、あなた方の間に立ち、公正さをもって記録せよ。そして、アッラー*が彼に（筆記という恩恵を）教

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ إِذَا تَدَايَنتُم بِدَيْنٍ إِلَىٰٓ
أَجَلٍ مُّسَمًّى فَٱكْتُبُوهُ ۚ وَلْيَكْتُب بَّيْنَكُمْ
كَاتِبٌۢ بِٱلْعَدْلِ ۚ وَلَا يَأْبَ كَاتِبٌ أَن يَكْتُبَ
كَمَا عَلَّمَهُ ٱللَّهُ ۚ فَلْيَكْتُبْ وَلْيُمْلِلِ ٱلَّذِى
عَلَيْهِ ٱلْحَقُّ وَلْيَتَّقِ ٱللَّهَ رَبَّهُۥ وَلَا يَبْخَسْ

---

1 他人から不当な利益を得ることもなければ、自分の元手を不当に失うこともない、ということ（ムヤッサル 47 頁参照）。

2 一説には、このアーヤ*がクルアーン*で下った最後のもの（アッ＝タバリー2:1610 参照）。

3 四大法学派*はこれが義務ではなく、財産権上のすすめであるとする（クウェイト法学大全 14:137 参照）。

えられたように、記録者は筆記（によって他人を益）することを拒んではならない。ならば、彼（記録者）に記録させ、債務者には口述させ、彼の主*であるアッラー*を畏れ*させ、そこ（借りた額）から（口述で故意に）何一つ減らしてはならない。また、債務者が無知[1]であったり、貧弱[2]だったり、あるいは彼が口述することが出来ない状態にあった場合には、その後見人に公正さをもって口述させよ。そしてあなた方の中から、二名の男性[3]の証人に証言を求めるのだ。そして、もし二名の男性でなければ、証人としてあなた方が満足する男性一名と女性二名（が証言する）。（それは）片方の女性が忘れてしまっても、もう一方の女性が（それを）思い出させるようにである。また、証人は（証言をするように）呼ばれた際、（それを）拒んではならない。そして（額の）大小に関わらず、期限が定められたそれ（借金）を記録するのを、面倒がってはならない。そうすることがアッラー*の御許でより公正なことであり、証言をより確立させ、かつ（貸し借りの契約において）あなた方が疑惑を抱くことから、より遠ざけてくれるものなのである。しかし（借金ではなく）、

مِنْهُ شَيْـًٔا ۚ فَإِن كَانَ ٱلَّذِى عَلَيْهِ ٱلْحَقُّ سَفِيهًا
أَوْ ضَعِيفًا أَوْ لَا يَسْتَطِيعُ أَن يُمِلَّ هُوَ فَلْيُمْلِلْ
وَلِيُّهُۥ بِٱلْعَدْلِ ۚ وَٱسْتَشْهِدُوا۟ شَهِيدَيْنِ مِن
رِّجَالِكُمْ ۖ فَإِن لَّمْ يَكُونَا رَجُلَيْنِ فَرَجُلٌ
وَٱمْرَأَتَانِ مِمَّن تَرْضَوْنَ مِنَ ٱلشُّهَدَآءِ أَن تَضِلَّ
إِحْدَىٰهُمَا فَتُذَكِّرَ إِحْدَىٰهُمَا ٱلْأُخْرَىٰ ۚ
وَلَا يَأْبَ ٱلشُّهَدَآءُ إِذَا مَا دُعُوا۟ ۚ وَلَا تَسْـَٔمُوٓا۟ أَن
تَكْتُبُوهُ صَغِيرًا أَوْ كَبِيرًا إِلَىٰٓ أَجَلِهِۦ ۚ
ذَٰلِكُمْ أَقْسَطُ عِندَ ٱللَّهِ وَأَقْوَمُ لِلشَّهَٰدَةِ
وَأَدْنَىٰٓ أَلَّا تَرْتَابُوٓا۟ ۖ إِلَّآ أَن تَكُونَ تِجَٰرَةً حَاضِرَةً
تُدِيرُونَهَا بَيْنَكُمْ فَلَيْسَ عَلَيْكُمْ جُنَاحٌ
أَلَّا تَكْتُبُوهَا ۗ وَأَشْهِدُوٓا۟ إِذَا تَبَايَعْتُمْ ۚ
وَلَا يُضَآرَّ كَاتِبٌ وَلَا شَهِيدٌ ۚ وَإِن تَفْعَلُوا۟
فَإِنَّهُۥ فُسُوقٌۢ بِكُمْ ۗ وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ ۖ
وَيُعَلِّمُكُمُ ٱللَّهُ ۗ وَٱللَّهُ بِكُلِّ شَىْءٍ
عَلِيمٌ ٢٨٢

1 つまり禁治産者や、過度の浪費癖（ろうひへき）がある者など、金銭的な常識において無知な者のこと（ムヤッサル 48 頁参照）。

2 つまり幼少だったり、精神的に正常ではない状態にあったりすること（前掲書、同頁参照）。

3 分別と良識を備え、信頼性のあるムスリム*の成人*男性（前掲書、同頁参照）。なお信頼性に関しては、頻出名・用語解説の「真正*」の項②も参照のこと。

あなた方の間で取り交わす直接の売買取引の場合は別。それを記録しなくても、あなた方に罪はない。あなた方が売買取引する際には、証人を立てるがよい[1]。そして記録者も証人も、侵害してはならない[2]。（そういうことを）すれば、本当にそれはあなた方の放逸さとなるのだ。そして、アッラー*を畏れ*よ。アッラー*はあなた方にお教えになる。アッラー*は全てをご存知のお方。

283. また、あなた方が旅の途上にあって記録者を見出せないなら、渡すべき担保を（渡せ）[3]。そして、もしあなた方がお互いに信頼し合っている（ゆえに無担保で貸す）のであれば、信用を受けた者にはその信託（債務）を果たさせ、彼の主*であるアッラー*を畏れ*させよ。また、あなた方は証言を隠してはならない[4]。誰でもそれを隠す者、本当に彼は、罪深い心の持ち主なのだから。アッラー*は、あなた方の行うこと（全て）をご存知である。

۞وَإِن كُنتُمْ عَلَىٰ سَفَرٍ وَلَمْ تَجِدُوا۟ كَاتِبًا
فَرِهَٰنٌ مَّقْبُوضَةٌ ۖ فَإِنْ أَمِنَ بَعْضُكُم بَعْضًا
فَلْيُؤَدِّ ٱلَّذِى ٱؤْتُمِنَ أَمَٰنَتَهُۥ وَلْيَتَّقِ ٱللَّهَ رَبَّهُۥ ۗ
وَلَا تَكْتُمُوا۟ ٱلشَّهَٰدَةَ ۚ وَمَن يَكْتُمْهَا
فَإِنَّهُۥٓ ءَاثِمٌ قَلْبُهُۥ ۗ وَٱللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ عَلِيمٌ ٢٨٣

1 通常の売買取引においても証人を立てることは、推奨（すいしょう）される行為である（ムヤッサル 48 頁）。

2 「侵害してはならない」と訳した原語「ラー・ユダーッル」は、アラビア語の形態文法学上、「侵害されてはならない」という意味にも解釈され得る。つまり借金の当事者が、無理な要求によって記録者と証言者を害してもならないし、記録者と証言者も、記録や証言において事実と異なることを書いたり、言ったりしてもならない（アブー・ハイヤーン 2: 370 参照）。

3 大多数の学者は、ここで言及されている「旅の途上」にあることは、「記録者が見つからない典型的状況」を示しているだけなのであり、担保は旅行中でなくとも入れることが可能である、という見解をとっている（イブン・アル＝アラビー1:343 参照）。

4 債務者が自分の義務を無視するようなことがあれば、その貸し借りの契約の証人は、自分の証言を隠してはならない（ムヤッサル 49 頁参照）。

284. 諸天にあるものと、大地にあるものは、アッラー*にこそ属(ぞく)する。そしてあなた方が、自分自身の内にあることを露(あら)わにしようと、それを隠そうと、アッラー*は（それをご存知であり、）そのことについてあなた方を清算なされる[1]。かれは、かれがお望みになる者をお赦(ゆる)しになり、また、かれがお望みになる者を罰(ばっ)せられるのだ。アッラー*は、全てのことがお出来のお方。

لِلَّهِ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلْأَرْضِۗ وَإِن تُبْدُوا۟
مَا فِيٓ أَنفُسِكُمْ أَوْ تُخْفُوهُ يُحَاسِبْكُم
بِهِ ٱللَّهُۖ فَيَغْفِرُ لِمَن يَشَآءُ وَيُعَذِّبُ مَن يَشَآءُۗ
وَٱللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ٢٨٤

285. 使徒(しと)*は、彼の主(しゅ)*から彼に下されたものを信仰する。そして信仰者たちも（同様である）。（彼らは）皆(みな)、アッラー*とその天使*たち、諸啓典(けいてん)と使徒(しと)*たちを信仰する。（彼らは言う。）「私たちは、かれ（アッラー*）の使徒(しと)*たちの間に差別をつけない[2]」。そして彼らは言うのだ。「私たちは（あなたのご命令を）聞き、従(したが)います。我らが主(しゅ)*よ、あなたのお赦(ゆる)しを（乞(こ)います）。そしてあなたの御許(みもと)こそ、（私たちの）帰り所(どころ)なのです」。

ءَامَنَ ٱلرَّسُولُ بِمَآ أُنزِلَ إِلَيْهِ مِن رَّبِّهِۦ
وَٱلْمُؤْمِنُونَۚ كُلٌّ ءَامَنَ بِٱللَّهِ
وَمَلَٰٓئِكَتِهِۦ وَكُتُبِهِۦ وَرُسُلِهِۦ
لَا نُفَرِّقُ بَيْنَ أَحَدٍ مِّن رُّسُلِهِۦۚ وَقَالُوا۟ سَمِعْنَا
وَأَطَعْنَاۖ غُفْرَانَكَ رَبَّنَا وَإِلَيْكَ ٱلْمَصِيرُ ٢٨٥

286. アッラー*は誰にも、その能力以上のものを負(お)わせられない。人は自(みずか)ら得たもの（善行）によって自(みずか)らを益(えき)し、自(みずか)ら稼(かせ)いだもの（悪行）によって自(みずか)らを損(そこ)ねる。（こう祈るがよい。）「我らが主(しゅ)*よ、私たち

لَا يُكَلِّفُ ٱللَّهُ نَفْسًا إِلَّا وُسْعَهَاۚ لَهَا مَا كَسَبَتْ
وَعَلَيْهَا مَا ٱكْتَسَبَتْۗ رَبَّنَا لَا تُؤَاخِذْنَآ إِن
نَّسِينَآ أَوْ أَخْطَأْنَاۚ رَبَّنَا وَلَا تَحْمِلْ عَلَيْنَآ
إِصْرًا كَمَا حَمَلْتَهُۥ عَلَى ٱلَّذِينَ مِن

1 現世で「自分自身の内に隠していた」罪深いことについての「清算」は、必ずしも懲罰を意味するわけではない。復活の日*、信仰者は現世での罪を見せられるが、アッラー*はこう仰（おお）せられる。「われはそれを現世において、あなたのために隠しておいてやった。ゆえに今日、われはそれを赦してやろう」。しかし不信仰者*や偽信者*らは、その罪を証言する多くの証人（それが自分自身の肉体である可能性もある）の前に運び出されることになる（アル＝ブハーリー2441、アッ＝タバリー2:1648-1650 参照）。

2 婦人章 150 も参照。

قَبۡلِنَاۚ رَبَّنَا وَلَا تُحَمِّلۡنَا مَا لَا طَاقَةَ لَنَا بِهِۦۖ
وَٱعۡفُ عَنَّا وَٱغۡفِرۡ لَنَا وَٱرۡحَمۡنَآۚ أَنتَ
مَوۡلَىٰنَا فَٱنصُرۡنَا عَلَى ٱلۡقَوۡمِ ٱلۡكَٰفِرِينَ ٢٨٦

をお咎めにはならないで下さい。もし私たちが忘れたとしても、また過ちを犯したとしても。我らが主*よ、また、あなたが私たち以前の者たちに課されたような厳しいご命令を、私たちには課さないで下さい。我らが主*よ、そして私たちが担いきれない重荷を、私たちに負わせないで下さい。また、私たちを大目にご覧になり、私たち（の罪）をお赦しになり、私たちにご慈悲をおかけ下さい。あなたは私たちの庇護者*なのですから。ゆえに不信仰者*である民に対して、私たちを勝利させて下さい」。

第３章
イムラーン家章（アーリ・イムラーン）[1]

سُورَةُ آلِ عِمۡرَانَ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. アリフ・ラーム・ミーム[2]。

2. アッラー*はかれの外に真に崇拝*すべきものがなく、永生する*お方、全てを司る*お方。

3. （使徒*よ、）かれはあなたに、それ以前のもの[3]を確証する啓典（クルアーン*）を、真理をもってお下しになった。また、かれはトーラー*と福音*もお下しになり、

4. （それらをクルアーン*）以前に人々への導きとして（下し給い）、また（真理と虚妄を分ける）識別[4]を下された。本当に、アッラー*の御徴[5]を否定する者たち、彼らには厳しい懲罰がある。アッラー*は偉力ならびない*お方、報復の主*。

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

الٓمٓ ١

ٱللَّهُ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ ٱلۡحَيُّ ٱلۡقَيُّومُ ٢

نَزَّلَ عَلَيۡكَ ٱلۡكِتَٰبَ بِٱلۡحَقِّ مُصَدِّقٗا لِّمَا بَيۡنَ
يَدَيۡهِ وَأَنزَلَ ٱلتَّوۡرَىٰةَ وَٱلۡإِنجِيلَ ٣

مِن قَبۡلُ هُدٗى لِّلنَّاسِ وَأَنزَلَ ٱلۡفُرۡقَانَۗ
إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ لَهُمۡ عَذَابٞ
شَدِيدٞۗ وَٱللَّهُ عَزِيزٞ ذُو ٱنتِقَامٍ ٤

---

1 マディーナ*啓示で、学者間の意見はほぼ一致。スーラ*前半は一説に、ナジュラーン地方（アラビア半島南部）からマディーナ*を来訪したキリスト教徒*学者を含む派遣（はけん）団が、預言者*ムハンマド*にイーサー*に関しての論争を挑（いど）んだことに関し下ったと言われ、イスラーム*の基本的な信仰箇条（かじょう）、特にアッラーの唯一性*の説明が主に取り上げられている。スーラ*名ともなっている「イムラーン家」の「イムラーン」は、この説明の流れで登場する、イーサー*の母マルヤム*の父親の名とされる（アーヤ*33･35参照）。一方後半では、バドルの戦い*やウフドの戦い*の描写と共に、戦闘時の決まり、そこにおけるムスリム*や偽（にせ）信者*らの様々な様子、諸々の訓戒、警告などが描かれている。

2 これらの文字については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 預言者*ムハンマド*以前の、諸啓典や諸預言者*のこと（ムヤッサル 50 頁参照）。

4 この「識別」には、「啓典一般」「（ダーウード*の）書簡」「クルアーン*」といった解釈がある（アル＝バイダーウィー2:4-5 参照）。

5 この「御徴」とは、アッラーの唯一性*と、イーサー*がかれの僕（しもべ）であるということを示す証拠のこと（アッ＝タバリー3:1673 参照）。

5. 本当にアッラー*は、地でも天でも、かれから姿を暗ますことが出来るものなど、何一つない。

إِنَّ ٱللَّهَ لَا يَخۡفَىٰ عَلَيۡهِ شَيۡءٞ فِي ٱلۡأَرۡضِ
وَلَا فِي ٱلسَّمَآءِ ٥

6. かれはお望みのままに、あなた方を（母親の）胎内に形造られるお方。かれの外に、（真に）崇拝*すべきものはない。（かれは）偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方である。

هُوَ ٱلَّذِي يُصَوِّرُكُمۡ فِي ٱلۡأَرۡحَامِ كَيۡفَ يَشَآءُۚ
لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ ٱلۡعَزِيزُ ٱلۡحَكِيمُ ٦

7. かれは、この啓典（クルアーン*）をあなたに下されたお方。その中には、啓典の母[1]である明確なアーヤ*と、（それとは）別の間際らしいアーヤ*がある。心に歪みがある者たちは（人々の）誘惑を望み、（好き勝手な）解釈を求めて、意味が間際らしい部分に従うのだ。アッラー*と、「私たちはこれ（クルアーン*）を信じた。（これは）全て、我らが主*の御許からのものである」と言う、知識が深く根ざした者たちの外、その（真の）解釈を知るものはないというのに。澄んだ知性の持ち主以外、教訓を受けることはないのだ。

هُوَ ٱلَّذِيٓ أَنزَلَ عَلَيۡكَ ٱلۡكِتَٰبَ مِنۡهُ ءَايَٰتٞ
مُّحۡكَمَٰتٌ هُنَّ أُمُّ ٱلۡكِتَٰبِ وَأُخَرُ
مُتَشَٰبِهَٰتٞۖ فَأَمَّا ٱلَّذِينَ فِي قُلُوبِهِمۡ زَيۡغٞ فَيَتَّبِعُونَ
مَا تَشَٰبَهَ مِنۡهُ ٱبۡتِغَآءَ ٱلۡفِتۡنَةِ وَٱبۡتِغَآءَ تَأۡوِيلِهِۦۖ
وَمَا يَعۡلَمُ تَأۡوِيلَهُۥٓ إِلَّا ٱللَّهُۗ وَٱلرَّٰسِخُونَ فِي
ٱلۡعِلۡمِ يَقُولُونَ ءَامَنَّا بِهِۦ كُلّٞ مِّنۡ عِندِ رَبِّنَاۗ
وَمَا يَذَّكَّرُ إِلَّآ أُوْلُواْ ٱلۡأَلۡبَٰبِ ٧

8. （彼らは、こう言う。）「我らが主*よ、私たちを導かれた後で、私たちの心を歪めないで下さい。そしてあなたの御許から、私たちにご慈悲をお授け下さい。本当にあなたこそは、恵み深い*お方なのですから。

رَبَّنَا لَا تُزِغۡ قُلُوبَنَا بَعۡدَ إِذۡ هَدَيۡتَنَا وَهَبۡ لَنَا
مِن لَّدُنكَ رَحۡمَةًۚ إِنَّكَ أَنتَ ٱلۡوَهَّابُ ٨

---

1 「啓典の母」とは、間際らしさを感じた際に、そこへと立ち返るべきクルアーン*の根本的部分のこと（ムヤッサル 50 頁参照）。アラビア語では、何かの大半を占めるものや、物事の基礎となるものを、「（何かの）母」と呼ぶことがある（イブン・アーシュール 3:154 参照）。そして「間際らしいアーヤ*」を「明確なアーヤ*」という基準によって判断する者は正しく導かれ、逆に「間際らしいアーヤ*」を基準に「明確なアーヤ*」を判断しようとする者は、それに逆行することになる（イブン・カスィール 2:6 参照）。

9. 我らが主*よ、本当にあなたは、（その到来に）疑惑の余地がない（復活の）日*に、人々を召集されるお方。本当にアッラー*が、約束を違えられることはありません」。

رَبَّنَآ إِنَّكَ جَامِعُ ٱلنَّاسِ لِيَوۡمٖ لَّا رَيۡبَ فِيهِۚ
إِنَّ ٱللَّهَ لَا يُخۡلِفُ ٱلۡمِيعَادَ ٩

10. 本当に、不信仰に陥った*者たち、彼らにはその財産も子供も、アッラー*（の懲罰）に対しては何の役に立つこともない。それらの者たちこそは、業火の薪なのだ。

إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ لَن تُغۡنِيَ عَنۡهُمۡ
أَمۡوَٰلُهُمۡ وَلَآ أَوۡلَٰدُهُم مِّنَ ٱللَّهِ شَيۡـٔٗاۖ
وَأُوْلَٰٓئِكَ هُمۡ وَقُودُ ٱلنَّارِ ١٠

11. （彼らの結末は）フィルアウン*の一族や、それ以前の（不信仰）者*たちの習いと同様である。彼らはわれら*の御徴[1]を嘘よばわりし、アッラー*はその罪ゆえに彼らを（罰で）捕らえられた。アッラー*は、厳しく懲罰されるお方。

كَدَأۡبِ ءَالِ فِرۡعَوۡنَ وَٱلَّذِينَ مِن
قَبۡلِهِمۡۚ كَذَّبُواْ بِـَٔايَٰتِنَا فَأَخَذَهُمُ ٱللَّهُ
بِذُنُوبِهِمۡۗ وَٱللَّهُ شَدِيدُ ٱلۡعِقَابِ ١١

12. （使徒*よ、）不信仰に陥った者*たちに、言ってやるがいい。「あなた方は、じきに打ち負かされて、地獄に集められよう。その寝床は、何と醜悪なことか」。

قُل لِّلَّذِينَ كَفَرُواْ سَتُغۡلَبُونَ
وَتُحۡشَرُونَ إِلَىٰ جَهَنَّمَۖ وَبِئۡسَ ٱلۡمِهَادُ ١٢

13. （ユダヤ教徒*たちよ、バドルの戦い*で）会した二つの集団には、確かにあなた方への御徴[2]があった。（一方は）アッラー*の道において戦う集団であり、不信仰であるもう一方（の集団）には確かに、彼らがその（実際の数の）倍に見えたのだ[3]。ア

قَدۡ كَانَ لَكُمۡ ءَايَةٞ فِي فِئَتَيۡنِ ٱلۡتَقَتَاۖ
فِئَةٞ تُقَٰتِلُ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ وَأُخۡرَىٰ
كَافِرَةٞ يَرَوۡنَهُم مِّثۡلَيۡهِمۡ رَأۡيَ ٱلۡعَيۡنِۚ
وَٱللَّهُ يُؤَيِّدُ بِنَصۡرِهِۦ مَن يَشَآءُۚ إِنَّ فِي
ذَٰلِكَ لَعِبۡرَةٗ لِّأُوْلِي ٱلۡأَبۡصَٰرِ ١٣

---

1 この「御徴」は、クルアーン*のアーヤ*、あるいはアッラーの唯一性*を示す証拠のこと（アル＝クルトゥビー4:23 参照）。

2 この「御徴」は、アッラー*がイスラーム*を威光（いこう）高きものとされ、その使徒*を援助され、その敵は敗北することになるという教示と証拠のこと（アル＝カースィミー4:802 参照）。

3 このアーヤ*の解釈には、以下のような説がある：①信仰者たちにとって、不信仰者*たちが、自分たちの倍の数に見えた。そもそも不信仰者*たちの数は信仰者たちの三倍だったが、それより少なく見えることで、信仰者たちを戦闘へと鼓舞（こぶ）する結果となった（戦

ッラー*は、かれがお望みになる者を、かれのご援助でお助けになる。本当にそこにはまさしく、慧眼(けいがん)を有する者たちへの教示(きょうじ)があるのだ。

14. 欲望（を誘うものへ）の愛情は、人々に煌(きら)びやかにされた。婦女、子供、莫大(ばくだい)な金銀財宝、美しい馬[1]、家畜(かちく)、農地。それらは、現世の生活における楽しみ。そしてアッラー*の御許(みもと)にこそは、善い帰り所があるのだ。

زُيِّنَ لِلنَّاسِ حُبُّ ٱلشَّهَوَٰتِ مِنَ ٱلنِّسَآءِ
وَٱلْبَنِينَ وَٱلْقَنَٰطِيرِ ٱلْمُقَنطَرَةِ مِنَ ٱلذَّهَبِ
وَٱلْفِضَّةِ وَٱلْخَيْلِ ٱلْمُسَوَّمَةِ وَٱلْأَنْعَٰمِ
وَٱلْحَرْثِ ۗ ذَٰلِكَ مَتَٰعُ ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا ۖ وَٱللَّهُ
عِندَهُۥ حُسْنُ ٱلْمَـَٔابِ ١٤

15. （使徒(しと)*よ、）言ってやるがいい。「あなた方に、それよりも善いものを教えようか？敬虔(けいけん)である*者たちには、彼らの主(しゅ)*の御許(みもと)に、その下から河川(かせん)が流れる楽園――彼らはそこに永遠に住む――と、純潔(じゅんけつ)な妻[2]たち、アッラー*からのご満悦(まんえつ)がある。アッラー*は、その僕(しもべ)たちをよくご覧(らん)になるお方」。

۞ قُلْ أَؤُنَبِّئُكُم بِخَيْرٍ مِّن ذَٰلِكُمْ ۚ
لِلَّذِينَ ٱتَّقَوْا۟ عِندَ رَبِّهِمْ جَنَّٰتٌ تَجْرِى مِن
تَحْتِهَا ٱلْأَنْهَٰرُ خَٰلِدِينَ فِيهَا وَأَزْوَٰجٌ
مُّطَهَّرَةٌ وَرِضْوَٰنٌ مِّنَ ٱللَّهِ ۗ
وَٱللَّهُ بَصِيرٌۢ بِٱلْعِبَادِ ١٥

16. （彼らは、こう言う。）「我らが主(しゅ)*よ、私たちは本当に信仰しました。ゆえに、私たちのために私たちの罪(つみ)をお赦(ゆる)しになり、私たちを業火(ごうか)の懲罰(ちょうばつ)からお救い下さい」。

ٱلَّذِينَ يَقُولُونَ رَبَّنَآ إِنَّنَآ ءَامَنَّا فَٱغْفِرْ
لَنَا ذُنُوبَنَا وَقِنَا عَذَابَ ٱلنَّارِ ١٦

17. （彼らは）忍耐(にんたい)*があり、（言動において）正直、（アッラー*の教えに）従順(じゅうじゅん)で、（施(ほどこ)しのために）よく費(つい)やし、夜明け前に（罪(つみ)の）赦(ゆる)しを乞(こ)う者たち。

ٱلصَّٰبِرِينَ وَٱلصَّٰدِقِينَ وَٱلْقَٰنِتِينَ وَٱلْمُنفِقِينَ
وَٱلْمُسْتَغْفِرِينَ بِٱلْأَسْحَارِ ١٧

利品*章 44 も参照）。②不信仰者*たちにとって、信仰者たちが、信仰者たちの本来の数の倍に見えた。③不信仰者*たちにとって、信仰者たちが、自分たちの数の倍に見えた（イブン・ジュザイ 1:137-138 参照）。

1 「美しい馬」には外にも、「放し飼いにされた馬」とか、斑点（はんてん）や色、あるいは烙印（らくいん）などの「印によって特徴づけられた馬」、といった解釈もあり（アル＝バガウィー1:417-418 参照）。

2 「純潔な妻」に関しては、雌牛章 25 の訳注参照。

18. アッラー*は、公正を行われるかれの外に、崇拝*すべきものがないことを証言された。そして天使*たちも、知識ある者たちも、また（それを証言する）。かれの外に、崇拝*すべきものはない。（かれは）偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

شَهِدَ ٱللَّهُ أَنَّهُۥ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ
وَٱلْمَلَٰٓئِكَةُ وَأُو۟لُوا۟ ٱلْعِلْمِ قَآئِمًۢا
بِٱلْقِسْطِ ۚ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ ٱلْعَزِيزُ
ٱلْحَكِيمُ ١٨

19. 本当にアッラー*の御許における（真の）宗教[1]は、イスラーム*である。そして啓典を授けられた人々が意見を異にしたのは、彼らのもとに知識[2]が到来した後のこと、彼らの間の侵犯[3]ゆえ以外の何ものでもなかった。誰だろうとアッラー*の御徴[4]を否定する者があっても（、アッラー*は彼にその応報を与えられるのであり）、本当にアッラー*は即座に計算されるお方*なのだ。

إِنَّ ٱلدِّينَ عِندَ ٱللَّهِ ٱلْإِسْلَٰمُ ۗ وَمَا ٱخْتَلَفَ
ٱلَّذِينَ أُوتُوا۟ ٱلْكِتَٰبَ إِلَّا مِنۢ بَعْدِ
مَا جَآءَهُمُ ٱلْعِلْمُ بَغْيًۢا بَيْنَهُمْ ۗ وَمَن يَكْفُرْ
بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ فَإِنَّ ٱللَّهَ سَرِيعُ ٱلْحِسَابِ ١٩

20. それで（使徒*よ）、もし彼ら（啓典の民*）があなたに（アッラーの唯一性*について）論争してくるのなら、言ってやるがよい。「私はアッラー*に（のみ）自分の顔を向け、服従した[5]。そして、私に従った者も同様である」。また、啓典を授けられた者*たちと文盲者たち[6]に、（こう）言うのだ。「あなた方は（アッラーの唯一性*において）、服従し

فَإِنْ حَآجُّوكَ فَقُلْ أَسْلَمْتُ وَجْهِىَ لِلَّهِ
وَمَنِ ٱتَّبَعَنِ ۗ وَقُل لِّلَّذِينَ أُوتُوا۟ ٱلْكِتَٰبَ
وَٱلْأُمِّيِّۦنَ ءَأَسْلَمْتُمْ ۚ فَإِنْ أَسْلَمُوا۟ فَقَدِ
ٱهْتَدَوا۟ ۖ وَّإِن تَوَلَّوْا۟ فَإِنَّمَا عَلَيْكَ ٱلْبَلَٰغُ ۗ
وَٱللَّهُ بَصِيرٌۢ بِٱلْعِبَادِ ٢٠

---

1 アッラー*が創造物に対してお喜びになり、使徒*たちに託（たく）して遣（つか）わし、それ以外のものはお受け入れにはならない「宗教」のこと（ムヤッサル 52 頁参照）。アーヤ*85 も参照。

2 この「知識」は、使徒*や啓典のこと（前掲書、同頁参照）。相談章 14 の訳注も参照。

3 この「侵犯」については、雌牛章 213 の訳注を参照。

4 この「御徴」は、クルアーン*のアーヤ*、及びアッラーの唯一性*を示す証拠のこと（前掲書、同頁参照）。

5 「アッラー*にのみ顔を向け、服従する」については、雌牛章 112 の訳注を参照。

6 アラブ人を筆頭（ひっとう）とする、シルク*の徒のこと（前掲書、同頁参照）。合同礼拝章 2 の同語に関する訳注も参照。

たのか？[1]」もし服従したならば、彼らは確かに（正しく）導かれたのである。そして、もし彼らが背き去ったとしても、あなたの義務は（啓示の）伝達だけなのだ。アッラー*は、その僕たちをよくご覧になるお方。

21. 本当に、アッラー*の御徴[2]を否定し、預言者*たちを不当に殺害し、人々の内、正義を命じる者たち[3]を殺す者たち[4]、彼らには、痛烈な懲罰の吉報[5]を告げてやるがよい。

إِنَّ ٱلَّذِينَ يَكۡفُرُونَ بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ
وَيَقۡتُلُونَ ٱلنَّبِيِّـۧنَ بِغَيۡرِ حَقّٖ وَيَقۡتُلُونَ
ٱلَّذِينَ يَأۡمُرُونَ بِٱلۡقِسۡطِ مِنَ ٱلنَّاسِ
فَبَشِّرۡهُم بِعَذَابٍ أَلِيمٍ ٢١

22. それらの者たちは、現世と来世においてその行いが台無しになってしまった者たち。彼らには、いかなる援助者もない。

أُوْلَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ حَبِطَتۡ أَعۡمَٰلُهُمۡ فِي ٱلدُّنۡيَا
وَٱلۡأٓخِرَةِ وَمَا لَهُم مِّن نَّٰصِرِينَ ٢٢

23. （使徒*よ、）あなたは、啓典の一部を授けられた者たち（啓典の民*）が、彼らの間に裁決を下すためにアッラー*の啓典（クルアーン*）へと呼びかけられ、それから彼らの一部が、（真理から）身を翻して背を向けるのを見なかったのか？

أَلَمۡ تَرَ إِلَى ٱلَّذِينَ أُوتُواْ نَصِيبٗا مِّنَ ٱلۡكِتَٰبِ
يُدۡعَوۡنَ إِلَىٰ كِتَٰبِ ٱللَّهِ لِيَحۡكُمَ بَيۡنَهُمۡ ثُمَّ يَتَوَلَّىٰ
فَرِيقٞ مِّنۡهُمۡ وَهُم مُّعۡرِضُونَ ٢٣

24. それというのも、彼らが「（地獄の）業火が私たちに触れるのは、どうせ数日間だけだ[6]」と言っていたからなのだ。彼らがでっ

ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمۡ قَالُواْ لَن تَمَسَّنَا ٱلنَّارُ إِلَّآ
أَيَّامٗا مَّعۡدُودَٰتٖۖ وَغَرَّهُمۡ فِي دِينِهِم
مَّا كَانُواْ يَفۡتَرُونَ ٢٤

---

1 この質問は命令の意味を含む、アラビア語の言い回し（アッ＝タバリー3:1725 参照）。

2 この「御徴」は、クルアーン*と使徒*ムハンマド*のこと（イブン・アル＝ジャウズィー1:365 参照）。

3 つまり善事を命じ、悪事を禁じる者たち（アッ＝サァディー126 頁参照）。アーヤ*104 とその訳注も参照。

4 預言者*たちを殺害したのは、ここで語りかけられている預言者*ムハンマド*時代の啓典の民*の、先祖である。しかし、彼らが先祖のそのような行いに満足していたことから、それが彼ら自身の行いであるかのように表現されている（アブー・ハイヤーン 2:314 参照）。

5 「吉報を告げること（タブシール）」は本来、喜ばしい知らせに用いられる。しかしここでは、彼らへの蔑（さげす）みを表す、修辞的表現として用いられている（イブン・アーシュール 3:207 参照）。

6 雌牛章 80 の訳注も参照。

ち上げていたものが、彼らの宗教において彼らを欺いたのである。

25. （その到来に）疑惑の余地のない（復活の）日*、われら*が彼らを召集し、各人が不正*を受けることなく、自らが稼いだことをふんだんに報われる時、（彼らの状況は）どうなってしまうだろうか？

فَكَيۡفَ إِذَا جَمَعۡنَٰهُمۡ لِيَوۡمٖ لَّا رَيۡبَ فِيهِ
وَوُفِّيَتۡ كُلُّ نَفۡسٖ مَّا كَسَبَتۡ وَهُمۡ
لَا يُظۡلَمُونَ ٢٥

26. （預言者*よ、祈って）言うがよい。「王権の所有者アッラー*よ、あなたは、あなたがお望みの者に王権をお与えになり、あなたがお望みの者から王権を剥奪されます。また、あなたがお望みの者に権勢をお与えになり、あなたがお望みの者を卑しめられます。あなたの御手にこそ、善きものはあります。本当にあなたは、全てのことがお出来になるお方なのですから。

قُلِ ٱللَّهُمَّ مَٰلِكَ ٱلۡمُلۡكِ تُؤۡتِي ٱلۡمُلۡكَ مَن
تَشَآءُ وَتَنزِعُ ٱلۡمُلۡكَ مِمَّن تَشَآءُ وَتُعِزُّ
مَن تَشَآءُ وَتُذِلُّ مَن تَشَآءُۖ بِيَدِكَ ٱلۡخَيۡرُۖ
إِنَّكَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٞ ٢٦

27. あなたは夜を昼の中にお入れになり、昼を夜の中にお入れになります[1]。また死から生を取り出され、生から死を取り出されます[2]。そしてあなたは、あなたがお望みの者に、際限なくお恵みになるのです」。

تُولِجُ ٱلَّيۡلَ فِي ٱلنَّهَارِ وَتُولِجُ ٱلنَّهَارَ فِي ٱلَّيۡلِۖ
وَتُخۡرِجُ ٱلۡحَيَّ مِنَ ٱلۡمَيِّتِ وَتُخۡرِجُ ٱلۡمَيِّتَ مِنَ
ٱلۡحَيِّۖ وَتَرۡزُقُ مَن تَشَآءُ بِغَيۡرِ حِسَابٖ ٢٧

28. 信仰者たちは、（他の）信仰者を差しおいて、不信仰者*たちをその盟友としてはならない。そうする者は、アッラー*から完全に無縁となる[3]。但し、彼ら（の危害）から本

لَّا يَتَّخِذِ ٱلۡمُؤۡمِنُونَ ٱلۡكَٰفِرِينَ أَوۡلِيَآءَ مِن دُونِ
ٱلۡمُؤۡمِنِينَۖ وَمَن يَفۡعَلۡ ذَٰلِكَ فَلَيۡسَ مِنَ ٱللَّهِ فِي
شَيۡءٍ إِلَّآ أَن تَتَّقُواْ مِنۡهُمۡ تُقَىٰةٗۗ وَيُحَذِّرُكُمُ
ٱللَّهُ نَفۡسَهُۥۗ وَإِلَى ٱللَّهِ ٱلۡمَصِيرُ ٢٨

---

1 夜の一部を昼に入れて夜を短くしたり、また同様に、昼の一部を夜に入れて昼を短縮したりすることを意味する、とされる（アッ＝タバリー3:1733 頁参照）。

2 種から作物を、作物から種を出したり、不信仰者*を信仰者に、信仰者を不信仰者*にしたり、鶏から卵を、卵を鶏から出したりする、というようなことであるとされる（イブン・カスィール 2:29 参照）。

3 不信仰への愛情、ムスリム*に対する敵対・害悪などゆえに、非ムスリムを盟友とすることは禁じられる。しかしムスリム*たちへの害とならない限り、非ムスリムとよい形で付き合

当に身を守る[1]場合は、その限りではないが。アッラー*はあなた方に、ご自身（のお怒り）について警告される。かれこそは、あなた方の帰り所なのだ。

29. （預言者*よ、信仰者たちに）言うがいい。「あなた方が、自分たちの胸中にあることを隠そうが、それを露わにしようが、アッラー*はそのことをご存知である。かれは、諸天にあるものと、大地にあるものを（全て）、知っておられるのだ。アッラー*は、全てのことがお出来になるお方」。

قُلۡ إِن تُخۡفُواْ مَا فِي صُدُورِكُمۡ أَوۡ تُبۡدُوهُ
يَعۡلَمۡهُ ٱللَّهُۗ وَيَعۡلَمُ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي
ٱلۡأَرۡضِۗ وَٱللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٞ ٢٩

30. 各人が、自らが（現世で）行った善いことも悪いことも、ありありと目の当たりにする、（復活*の）その日のこと（を思い起こすがよい）。彼は（その時）、自分自身とその（悪事との）間に、遠い時間の隔たりがあったなら、と望むのだ。アッラー*はあなた方に、ご自身（の懲罰）について警告される。アッラー*は、その僕たちに哀れみ深い*お方。

يَوۡمَ تَجِدُ كُلُّ نَفۡسٖ مَّا عَمِلَتۡ مِنۡ خَيۡرٖ
مُّحۡضَرٗا وَمَا عَمِلَتۡ مِن سُوٓءٖ تَوَدُّ لَوۡ أَنَّ بَيۡنَهَا
وَبَيۡنَهُۥٓ أَمَدَۢا بَعِيدٗاۗ وَيُحَذِّرُكُمُ ٱللَّهُ نَفۡسَهُۥۗ
وَٱللَّهُ رَءُوفُۢ بِٱلۡعِبَادِ ٣٠

31. （使徒*よ、）言うのだ。「もし、あなた方がアッラー*のことを（真に）愛しているのなら、私に従うのだ。（そうすれば）アッラー*もあなた方を愛して下さり、あなた方のために、その罪をお赦し下さる。アッラーは赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから」。

قُلۡ إِن كُنتُمۡ تُحِبُّونَ ٱللَّهَ فَٱتَّبِعُونِي
يُحۡبِبۡكُمُ ٱللَّهُ وَيَغۡفِرۡ لَكُمۡ ذُنُوبَكُمۡۚ
وَٱللَّهُ غَفُورٞ رَّحِيمٞ ٣١

ったり、親戚づきあいなどをしたりして、個人的に親しい関係を結ぶことに問題はない（イブン・アーシュール 3：217-220 参照）。試問される女章 8 も参照。

1 不信仰者*の悪を怖れる状況では、彼らから身を守るため、外面的に彼らにおもねることが許される。ただし、内面までそうしてはならない。蜜蜂章 106 も参照（イブン・カスィール 2:30 参照）。

32. （使徒*よ、）言え。「アッラー*と使徒*に従うのだ」。それで、もし彼らが背き去ったならば、本当にアッラー*が不信仰者*たちを愛されることはないのである。

قُلْ أَطِيعُوا۟ ٱللَّهَ وَٱلرَّسُولَ ۖ فَإِن تَوَلَّوْا۟ فَإِنَّ ٱللَّهَ
لَا يُحِبُّ ٱلْكَـٰفِرِينَ ٣٢

33. 実にアッラー*は、アーダム*、ヌーフ*、イブラーヒーム*の一族、イムラーンの一族[1]を、全創造物の中から選り抜かれた。

۞ إِنَّ ٱللَّهَ ٱصْطَفَىٰٓ ءَادَمَ وَنُوحًا وَءَالَ إِبْرَٰهِيمَ
وَءَالَ عِمْرَٰنَ عَلَى ٱلْعَـٰلَمِينَ ٣٣

34. 互いに繋がり合う子孫として。アッラー*は、よくお聞きになるお方、全知者であられる。

ذُرِّيَّةًۢ بَعْضُهَا مِنۢ بَعْضٍ ۗ وَٱللَّهُ سَمِيعٌ عَلِيمٌ ٣٤

35. イムラーンの妻が、（祈って、こう）言った時のこと（を思い起こさせよ）。「我が主*よ、本当に私は、自分のお腹に宿っているものを、自由な者[2]としてあなたに捧げると誓いました。ゆえに私から、お受け入れ下さい。本当にあなたは、よくお聞きになるお方、全知者であられますから」。

إِذْ قَالَتِ ٱمْرَأَتُ عِمْرَٰنَ رَبِّ إِنِّى نَذَرْتُ لَكَ
مَا فِى بَطْنِى مُحَرَّرًا فَتَقَبَّلْ مِنِّىٓ ۖ إِنَّكَ أَنتَ
ٱلسَّمِيعُ ٱلْعَلِيمُ ٣٥

36. 彼女（マルヤム*）を出産した時、彼女（イムラーンの妻）は言った。「我が主*よ、本当に私は女児を生んでしまいました――アッラー*は、彼女が生んだものを最もよくご存知である――。そして男性は、女性のようではありません[3]。また、本当に私は、彼女をマルヤム*と名付けました。そして実に私は、追放された[4]シャイターン*に対し、

فَلَمَّا وَضَعَتْهَا قَالَتْ رَبِّ إِنِّى وَضَعْتُهَآ أُنثَىٰ وَٱللَّهُ
أَعْلَمُ بِمَا وَضَعَتْ وَلَيْسَ ٱلذَّكَرُ كَٱلْأُنثَىٰ ۖ وَإِنِّى
سَمَّيْتُهَا مَرْيَمَ وَإِنِّىٓ أُعِيذُهَا بِكَ وَذُرِّيَّتَهَا
مِنَ ٱلشَّيْطَـٰنِ ٱلرَّجِيمِ ٣٦

---

1 「イブラーヒーム*の一族」の中には、人類の長・最後の預言者*ムハンマド*も含まれる。また、「イムラーンの一族」の「イムラーン」とは、イーサー*の母マルヤム*の父のこととされる（イブン・カスィール 2:33 参照）。

2 アッラー*とエルサレムの神殿への奉仕に専念し、その他のいかなる仕事からも「自由な者」ということ（アッ＝タバリー3:1747 参照）。

3 当時女子は、神殿での奉仕に適当ではないとされていた（アル＝バガウィー1:431 参照）。

4 「追放された」と訳した原語は「ラジーム」で、「呪われた（つまり、アッラー*のご慈悲から遠ざけられた）」「けなされた」「（天から）追放された」「（流星で）撃たれた」など、複数の意味を含みえる（アッ＝タバリー1:120 参照）。

彼女とその子孫へのあなたのご加護をお祈りします。」

37. 彼女（イムラーンの妻）の主は、彼女を快くお受け入れになり、彼女（マルヤム*）を見事にお育てになった。そしてかれは、ザカリーヤー*に彼女の養育をお任せになった[1]。彼（ザカリーヤー*）は彼女を訪れてミフラーブ[2]に入るたびに、彼女のもとに食べ物[3]があるのを見出した。彼は言った。「マルヤム*よ、一体どこからあなたにこれが？」彼女は（答えて）言った。「これは、アッラー*の御許からです。本当にアッラー*は、かれがお望みの者に、際限なくお恵みになるのです」。

فَتَقَبَّلَهَا رَبُّهَا بِقَبُولٍ حَسَنٍ وَأَنۢبَتَهَا نَبَاتًا
حَسَنًا وَكَفَّلَهَا زَكَرِيَّا ۖ كُلَّمَا دَخَلَ عَلَيْهَا
زَكَرِيَّا ٱلْمِحْرَابَ وَجَدَ عِندَهَا رِزْقًا ۖ قَالَ
يَـٰمَرْيَمُ أَنَّىٰ لَكِ هَـٰذَا ۖ قَالَتْ هُوَ مِنْ عِندِ ٱللَّهِ ۖ
إِنَّ ٱللَّهَ يَرْزُقُ مَن يَشَآءُ بِغَيْرِ حِسَابٍ ٣٧

38. そこでザカリーヤー*は、彼の主*に祈（って言）った。「我が主*よ、あなたの御許から私に、よき子孫をお授け下さい[4]。本当にあなたは、祈りをお聞きになるお方です」。

هُنَالِكَ دَعَا زَكَرِيَّا رَبَّهُۥ ۖ قَالَ رَبِّ هَبْ لِى مِن
لَّدُنكَ ذُرِّيَّةً طَيِّبَةً ۖ إِنَّكَ سَمِيعُ ٱلدُّعَآءِ ٣٨

39. そして、彼（ザカリーヤー*）がミフラーブで礼拝しつつ立っていると、天使*たちが彼に呼びかけた。「アッラー*はあなたに、ヤヒヤー*（誕生）の吉報をお伝えになる。アッラー*からの御言葉[5]を信じる者、（民

فَنَادَتْهُ ٱلْمَلَـٰٓئِكَةُ وَهُوَ قَآئِمٌ يُصَلِّى فِى
ٱلْمِحْرَابِ أَنَّ ٱللَّهَ يُبَشِّرُكَ بِيَحْيَىٰ مُصَدِّقًۢا
بِكَلِمَةٍ مِّنَ ٱللَّهِ وَسَيِّدًا وَحَصُورًا وَنَبِيًّا
مِّنَ ٱلصَّـٰلِحِينَ ٣٩

---

1 アーヤ*44 を参照。

2 ここでの「ミフラーブ」とは、独りきりで崇拝*行為や礼拝などに専念するための場所のこと（イブン・アーシュール 3:237 参照）。

3 夏の果物が冬にあったり、冬の果物が夏にあったりしたのだとされる（イブン・カスィール 2:36 参照）。

4 アーヤ*40 にあるように、ザカリーヤー*は高齢で、その妻は不妊であった。マルヤム*章 4-5 も参照。

5 アル＝クルトゥビー*によれば大半の解釈学者は、この「アッラー*の御言葉」をイーサー*のことと解釈し、彼がそのように呼ばれるのは、「アッラー*が『あれ』と仰せられたことで、父親もなしに存在した（アーヤ*47 参照）」ためである、としている（4:76 参照）。

の）長、隔てられた者[1]、正しい者*たちの一人である預言者*として（の彼の吉報を）」。

40. 彼（ザカリーヤー*）は言った。「我が主*よ、どうして私に男の子が出来ましょう？私はもう高齢に達し、私の妻は不妊だといいますのに」。彼（天使*）は言った。「そのように、アッラー*はお望みのことをなされるのだ」。

قَالَ رَبِّ أَنَّىٰ يَكُونُ لِي غُلَٰمٌ وَقَدْ بَلَغَنِيَ
ٱلْكِبَرُ وَٱمْرَأَتِي عَاقِرٌ ۖ قَالَ كَذَٰلِكَ
ٱللَّهُ يَفْعَلُ مَا يَشَآءُ ٤٠

41. 彼（ザカリーヤー*）は言った。「我が主*よ、私に御徴[2]をお示し下さい」。彼（天使*）は言った。「あなたへの御徴は、あなたが三日間、身振りによる以外は人々と話すことが出来なくなることである。そして、あなたの主*を多く唱念し、夕に朝に称える*のだ」。

قَالَ رَبِّ ٱجْعَل لِّيٓ ءَايَةً ۖ قَالَ ءَايَتُكَ
أَلَّا تُكَلِّمَ ٱلنَّاسَ ثَلَٰثَةَ أَيَّامٍ إِلَّا رَمْزًا ۗ
وَٱذْكُر رَّبَّكَ كَثِيرًا وَسَبِّحْ بِٱلْعَشِيِّ
وَٱلْإِبْكَٰرِ ٤١

42. 天使*たちが、（こう）言った時[3]のこと（を思い起こさせよ）。「マルヤム*よ、本当にアッラー*はあなたをお選びになり、清められた。そして全世界の女性の中から、あなたを選りすぐられたのである。

وَإِذْ قَالَتِ ٱلْمَلَٰٓئِكَةُ يَٰمَرْيَمُ إِنَّ ٱللَّهَ
ٱصْطَفَىٰكِ وَطَهَّرَكِ وَٱصْطَفَىٰكِ
عَلَىٰ نِسَآءِ ٱلْعَٰلَمِينَ ٤٢

43. マルヤム*よ、あなたの主*に謹んで仕えよ。そして（かれに）サジダ*し、ルクーゥ*する者たちと共にルクーゥ*をするのだ」。

يَٰمَرْيَمُ ٱقْنُتِي لِرَبِّكِ وَٱسْجُدِي
وَٱرْكَعِي مَعَ ٱلرَّٰكِعِينَ ٤٣

44. それは（使徒*よ）、われら*があなたに啓示する、不可視の世界*に属する消息の一部である。そして彼らが、誰がマルヤム*を養

ذَٰلِكَ مِنْ أَنۢبَآءِ ٱلْغَيْبِ نُوحِيهِ إِلَيْكَ ۚ وَمَا كُنتَ
لَدَيْهِمْ إِذْ يُلْقُونَ أَقْلَٰمَهُمْ أَيُّهُمْ يَكْفُلُ مَرْيَمَ
وَمَا كُنتَ لَدَيْهِمْ إِذْ يَخْتَصِمُونَ ٤٤

1 罪や、有害な欲望に近づくことなく、そのような物事から「隔てられた者」（ムヤッサル 55 頁参照）。

2 この「御徴」とは、子供を授かることの証拠としての印のこと（ムヤッサル 55 頁参照）。

3 この時の描写は、マルヤム*章 16-21 に詳しい。

育するかを決めるために（くじ引きの）筆を投げた時[1]、あなたは彼らの所にはいなかった。また彼らが言い争った時も、あなたは彼らと一緒ではなかったのだ。

45. 天使*たちが、（こう）言った時のこと（を思い起こさせるがよい）。「マルヤム*よ、本当にアッラー*は、ご自身からの御言葉[2]についての吉報を、あなたにお伝えになる。その名はマスィーフ*、マルヤム*の子イーサー*。現世でも来世でも栄誉ある者であり、（アッラー*の御許ではその）側近の一人。

إِذۡ قَالَتِ ٱلۡمَلَٰٓئِكَةُ يَٰمَرۡيَمُ إِنَّ ٱللَّهَ
يُبَشِّرُكِ بِكَلِمَةٖ مِّنۡهُ ٱسۡمُهُ ٱلۡمَسِيحُ
عِيسَى ٱبۡنُ مَرۡيَمَ وَجِيهٗا فِي ٱلدُّنۡيَا
وَٱلۡأٓخِرَةِ وَمِنَ ٱلۡمُقَرَّبِينَ ٤٥

46. また、彼は揺りかごの中からでも、壮年になってからも人々に語りかけ、正しい者*たちの一人である」。

وَيُكَلِّمُ ٱلنَّاسَ فِي ٱلۡمَهۡدِ وَكَهۡلٗا
وَمِنَ ٱلصَّٰلِحِينَ ٤٦

47. 彼女（マルヤム*）は、（驚いて）言った。「我が主*よ、どうして私に子供が出来ましょうか？　今まで誰一人、私に触れたことなどありませんのに」。彼（天使*）は言った。「そのように、アッラー*はお望みのものをお創りになる。かれが一事をお取り決めにな（り、お望みにな）れば、それに『あれ』と仰せられるだけで、それは存在するのである。[3]

قَالَتۡ رَبِّ أَنَّىٰ يَكُونُ لِي وَلَدٞ وَلَمۡ يَمۡسَسۡنِي
بَشَرٞۖ قَالَ كَذَٰلِكِ ٱللَّهُ يَخۡلُقُ مَا يَشَآءُۚ إِذَا قَضَىٰٓ
أَمۡرٗا فَإِنَّمَا يَقُولُ لَهُۥ كُن فَيَكُونُ ٤٧

1 マルヤム*の母が彼女を連れてエルサレムの神殿に行ったところ、誰が彼女の面倒を見るかで、人々の間に議論が起きた。マルヤム*が、神殿の導師イムラーンの娘であったためである。それで彼らは川に筆を投げ入れ、それが流れなかった者がマルヤム*の後見人となることに決めた。その結果、ザカリーヤー*が彼女の後見人となった（イブン・カスィール 2:42、アッ＝サァディー130 頁参照）。

2 「アッラー*からの御言葉」については、アーヤ*39 の訳注を参照。

3 マルヤム*がイーサー*を身ごもり、出産した時とその後の出来事については、マルヤム*章 22 以降を参照。

48. また、かれ（アッラー*）は書[1]、英知、トーラー*、福音*を、彼（イーサー*）にお教えになる。

وَيُعَلِّمُهُ ٱلْكِتَٰبَ وَٱلْحِكْمَةَ وَٱلتَّوْرَىٰةَ
وَٱلْإِنجِيلَ ﴿٤٨﴾

49. そして（彼を）、イスラーイールの子ら*への使徒*と（され、彼にこう言わせられる）。『実に私は、あなた方の主*からの御徴[2]を携えて、あなた方のもとにやって来た。本当に私があなた方のために、泥土で鳥の形のようなものを作り、そこに息を吹き込むと、それはアッラー*のお許しにより（本物の）鳥となる。また、私はアッラー*のお許しにより、生まれつきの盲人やライ病[3]患者を癒し、死人を蘇らせよう。そしてあなた方が家で食べているものと、蓄えているものについて、あなた方に話して聞かそう。本当にそこにこそ、あなた方への御徴があるのだ。もし、あなた方が信仰者であるというのなら。

وَرَسُولًا إِلَىٰ بَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ أَنِّى قَدْ
جِئْتُكُم بِـَٔايَةٍ مِّن رَّبِّكُمْ أَنِّىٓ أَخْلُقُ
لَكُم مِّنَ ٱلطِّينِ كَهَيْـَٔةِ ٱلطَّيْرِ فَأَنفُخُ فِيهِ
فَيَكُونُ طَيْرًۢا بِإِذْنِ ٱللَّهِ ۖ وَأُبْرِئُ ٱلْأَكْمَهَ
وَٱلْأَبْرَصَ وَأُحْىِ ٱلْمَوْتَىٰ بِإِذْنِ ٱللَّهِ ۖ وَأُنَبِّئُكُم
بِمَا تَأْكُلُونَ وَمَا تَدَّخِرُونَ فِى بُيُوتِكُمْ ۚ إِنَّ فِى
ذَٰلِكَ لَءَايَةً لَّكُمْ إِن كُنتُم مُّؤْمِنِينَ ﴿٤٩﴾

50. また（私は）、トーラー*という私以前のもの（の内容）を確証し、あなた方に禁じられたものの一部[4]をあなた方に合法化

وَمُصَدِّقًا لِّمَا بَيْنَ يَدَىَّ مِنَ ٱلتَّوْرَىٰةِ
وَلِأُحِلَّ لَكُم بَعْضَ ٱلَّذِى حُرِّمَ
عَلَيْكُمْ ۚ وَجِئْتُكُم بِـَٔايَةٍ مِّن رَّبِّكُمْ

---

1 この「書」の解釈には、「啓典」あるいは「筆記」という説がある（アッ＝サアディー131 頁）。

2 この「御徴」とは、彼がアッラー*の使徒*であることを示す証拠のこと（ムヤッサル 56 頁参照）。

3 あえて「ライ病」という訳をあてた原語「アブラス」は、肌が白くなる皮膚（ひふ）病のほか、現在ハンセン病として知られている症状のことも指す。ユダヤ教徒*はこの病を非常に忌避（きひ）し、彼らを隔離（かくり）していた。そのような中、イーサー*がこの病を治すことは、当時のユダヤ教徒*にとって大きな奇跡を意味したのである（イブン・アーシュール 3:251 参照）。

4 「禁じられたものの一部」とは、ある種の食べ物のこと。一説に、それは脂肪（しぼう）や爪を有する生き物（家畜章 143 の訳注を参照）のように、本来トーラー*では禁じられていなかったにも関わらず、ユダヤ教徒*の罪ゆえに禁じられたもの（婦人章 160 参照）。あるいは、トーラー*が禁じていなかったにも関わらず、彼らの学者たちが勝手に禁じたもの（アル＝クルトゥビー4:96 参照）。金の装飾章 63 とその訳注も参照。

するために（、あなた方のもとにやって来た）。そして私は、あなた方の主*からの御徴[1]を携えて、あなた方のもとに到来したのである。ゆえにアッラー*を畏れ*、私に従うのだ。

فَاتَّقُوا اللَّهَ وَأَطِيعُونِ ٥٠

51. 本当にアッラー*は、我が主*であり、あなた方の主*。ならば、かれ（のみ）を崇拝*せよ。これが、まっすぐな道なのだから』」。

إِنَّ اللَّهَ رَبِّي وَرَبُّكُمْ فَاعْبُدُوهُ هَٰذَا
صِرَاطٌ مُسْتَقِيمٌ ٥١

52. （しかし彼らはイーサー*を、嘘つき呼ばわりした。）それでイーサー*は、彼ら[2]の不信仰を察知すると、言った。「アッラー* (の道)への、私の援助者は誰か？」弟子たち[3]は言った。「私たちが、アッラー*の援助者です。私たちはアッラー*を信じました。（イーサー*よ、）私たちこそは服従する者（ムスリム*）である、と証言して下さい」。

۞ فَلَمَّا أَحَسَّ عِيسَىٰ مِنْهُمُ الْكُفْرَ
قَالَ مَنْ أَنْصَارِي إِلَى اللَّهِ قَالَ الْحَوَارِيُّونَ
نَحْنُ أَنْصَارُ اللَّهِ آمَنَّا بِاللَّهِ وَاشْهَدْ
بِأَنَّا مُسْلِمُونَ ٥٢

53. （弟子たちは、アッラー*に祈って言った。）「我らが主*よ、私たちは、あなたが下されたものを信じ、使徒*（イーサー*）に従いました。ならば私たちを、証言者たち[4]と共にお書き留め下さい」。

رَبَّنَا آمَنَّا بِمَا أَنْزَلْتَ وَاتَّبَعْنَا الرَّسُولَ
فَاكْتُبْنَا مَعَ الشَّاهِدِينَ ٥٣

1 アーヤ* 49「御徴」の訳注を参照。

2 彼とその信徒を敵視した、ユダヤ教徒*たちのこと（アッ＝タバリー3:1800参照）。

3 便宜上「弟子たち」という訳語をあてた原語「ハワーリーユーン」は、「純白」を意味する「ハワル」から派生したとされる。その名称の由来には、「彼らの意図の真摯（しんし）さと、内面の純粋さゆえ」「白い衣服を着ていたため」「衣服の漂白に携（たずさ）わる者たちであったため」といった諸説がある（アル＝バイダーウィー2:44参照）。

4 アッラーの唯一性*と使徒*の真実性を証言する者たち、つまり全ての使徒が、彼らの遣（つか）わされた民にアッラー*の教えを伝えたということを証言する、ムスリム*たちのこと（ムヤッサル57頁参照）。雌牛章143「証人となる」の訳注も参照。

54. そして彼ら[1]は策謀し、アッラー*も策謀なされた[2]。アッラー*は、最良の策謀者であられる。

وَمَكَرُوا۟ وَمَكَرَ ٱللَّهُ ۖ وَٱللَّهُ خَيْرُ
ٱلْمَٰكِرِينَ ﴿٥٤﴾

55. アッラー*が、（こう）仰せられた時のこと（を思い起こさせよ）。「イーサー*よ、本当にわれはあなたを召し、あなたをわれの許に上げ、不信仰に陥った者*たちから清める[3]者である。また、あなたに従った者たちを、復活の日*まで不信仰に陥った者*たちに優越させる者である。それから（清算の日）、われにこそ、あなた方の戻り所がある。そしてわれは、あなた方が（イーサー*において）意見を異にしていたことにおいて、あなた方の間に裁定を下すのだ。

إِذْ قَالَ ٱللَّهُ يَٰعِيسَىٰٓ إِنِّى مُتَوَفِّيكَ وَرَافِعُكَ
إِلَىَّ وَمُطَهِّرُكَ مِنَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ وَجَاعِلُ
ٱلَّذِينَ ٱتَّبَعُوكَ فَوْقَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوٓا۟ إِلَىٰ
يَوْمِ ٱلْقِيَٰمَةِ ۖ ثُمَّ إِلَىَّ مَرْجِعُكُمْ فَأَحْكُمُ
بَيْنَكُمْ فِيمَا كُنتُمْ فِيهِ تَخْتَلِفُونَ ﴿٥٥﴾

56. それで不信仰だった者*たちはといえば、われは彼らを、現世においても来世においても厳しい懲罰で罰する。そして彼らには、いかなる援助者もない」。

فَأَمَّا ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ فَأُعَذِّبُهُمْ عَذَابًا شَدِيدًا
فِى ٱلدُّنْيَا وَٱلْءَاخِرَةِ وَمَا لَهُم مِّن نَّٰصِرِينَ ﴿٥٦﴾

57. また、信仰して正しい行い*を行った者たち、かれ（アッラー*）は彼らに、余すことなく褒美をお授けになる。アッラーは、不正*者たちを好まれないのだ。

وَأَمَّا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
فَيُوَفِّيهِمْ أُجُورَهُمْ ۗ وَٱللَّهُ لَا يُحِبُّ ٱلظَّٰلِمِينَ ﴿٥٧﴾

---

1 この「彼ら」については、アーヤ*52「彼ら」の訳注を参照。

2 この「アッラー*の策謀」とは、イーサー*の殺害を企（たくら）んだユダヤ教徒*らの策謀に対し、アッラー*がある男にイーサー*の容貌（ようぼう）を与えられたこと。その結果、彼らはその者をイーサー*と思い込んで捕まえ、磔（はりつけ）にした（ムヤッサル 57 頁参照）。婦人章 157 とその訳注も参照。彼らへの罰が、彼らの罪（策謀）の名で表現されていることについては、雌牛章 15 の訳注を参照。

3 イーサー*は死ぬことなく、アッラー*の御許（みもと）へと召された（前掲書、同頁参照）。婦人章 157-159 とその訳注も参照。

58. それ[1]は（使徒*よ）、われら*があなたに誦み聞かせる御徴[2]であり、英知にあふれる教訓である。

ذَٰلِكَ نَتۡلُوهُ عَلَيۡكَ مِنَ ٱلۡأٓيَٰتِ وَٱلذِّكۡرِ
ٱلۡحَكِيمِ ٥٨

59. 本当に、アッラー*の御許におけるイーサー*の状況は、まるでアーダム*のようなもの[3]。かれ（アッラー*）が土[4]から彼（アーダム*）を創造され、それに「（人間と）なれ」と仰せられるだけで、それは（そう）なるのである。

إِنَّ مَثَلَ عِيسَىٰ عِندَ ٱللَّهِ كَمَثَلِ
ءَادَمَۖ خَلَقَهُۥ مِن تُرَابٖ ثُمَّ قَالَ لَهُۥ كُن فَيَكُونُ ٥٩

60. （使徒*よ、これは）あなたの主*からの真理。ならば、あなた[5]は絶対に、疑わしく思う者たちの類いとなってはならない。

ٱلۡحَقُّ مِن رَّبِّكَ فَلَا تَكُن مِّنَ
ٱلۡمُمۡتَرِينَ ٦٠

61. それで（使徒*よ、イーサー*に関する真実の）知識があなたに下された後、彼についてあなたに議論をしかける者があれば、（こう）言ってやるがいい。「来なさい。私たちの子供とあなた方の子供、私たちの妻たちとあなた方の妻たち、そして私たち自身とあなた方自身を呼び（集め）、それから互いに本気で祈り合い、嘘をついている者にアッラー*の呪い[6]があるとしよう[7]」。

فَمَنۡ حَآجَّكَ فِيهِ مِنۢ بَعۡدِ مَا جَآءَكَ مِنَ ٱلۡعِلۡمِ
فَقُلۡ تَعَالَوۡاْ نَدۡعُ أَبۡنَآءَنَا وَأَبۡنَآءَكُمۡ
وَنِسَآءَنَا وَنِسَآءَكُمۡ وَأَنفُسَنَا وَأَنفُسَكُمۡ ثُمَّ
نَبۡتَهِلۡ فَنَجۡعَل لَّعۡنَتَ ٱللَّهِ عَلَى ٱلۡكَٰذِبِينَ ٦١

---

1 アッラー*が預言者*に啓示した、イーサー*にまつわるこれらの真実のこと（ムヤッサル 57 頁）。

2 この「御徴」とは、ムハンマド*の預言者*性が真実であるという証拠。というのもここで語られた知識は啓典を読んだことがある者か、啓示の主にしか分からないことだが、彼は文盲（もんもう）だったからである（アル＝バガウィー1:449 参照）。

3 イーサー*が父親なしに創造されたことを彼の神性の根拠とすることは、誤りである。アーダム*は父親どころか、母親もなしに創造されたのであり、彼がアッラー*のしもべの一人に過ぎないことは、異論の余地のないことなのだから（ムヤッサル 57 頁参照）。

4 アーダム*が「土」から創造されたことについては、アル＝ヒジュル章 26 の訳注を参照。

5 この「あなた」については、雌牛章 120「あなた」の訳注を参照。

6 「アッラー*の呪い」については、雌牛章 88 の訳注参照。

7 預言者*は、キリスト教徒*の派遣団（スーラ*冒頭の訳注を参照）にこうすることを提示したが、彼らはそれを拒否した（アル＝ブハーリー4380 参照）。もしそうしたら、自分たちと自分たちにとって最愛の人々に「呪い」が返って来ることを、知っていたからである（アッ＝サァディー133 頁参照）。

62. 本当にこれこそは、まさしく真実の物語であり、アッラー*の外に崇拝*に値するものなどはない。そして本当にアッラー*こそは、まさに偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方であられる。

إِنَّ هَٰذَا لَهُوَ ٱلْقَصَصُ ٱلْحَقُّ ۚ وَمَا مِنْ إِلَٰهٍ
إِلَّا ٱللَّهُ ۚ وَإِنَّ ٱللَّهَ لَهُوَ ٱلْعَزِيزُ ٱلْحَكِيمُ ٦٢

63. それで、もし彼らが（あなたを信じることから）背き去ったとしても、アッラー*こそは腐敗*を働く者たちをご存知なお方なのだ。

فَإِن تَوَلَّوْا فَإِنَّ ٱللَّهَ عَلِيمٌۢ بِٱلْمُفْسِدِينَ ٦٣

64. （使徒*よ、）言え。「啓典の民*よ、私たちとあなた方との間の（共通する）正しい言葉へとやって来なさい。『私たちはアッラー*以外には崇拝*せず、かれに対して何ものをも並べない[1]。またアッラー*を差しおいて、自分たちの内の誰かを主としたりもしない』（という言葉へ）」。もし彼らが（この呼びかけから）背き去ったのなら、（ムスリム*たちよ、こう）言ってやるがいい。「私たちが（アッラー*に）服従する者（ムスリム*）であると、証言せよ[2]」。

قُلْ يَٰٓأَهْلَ ٱلْكِتَٰبِ تَعَالَوْا إِلَىٰ كَلِمَةٍ
سَوَآءٍۭ بَيْنَنَا وَبَيْنَكُمْ أَلَّا نَعْبُدَ إِلَّا ٱللَّهَ
وَلَا نُشْرِكَ بِهِۦ شَيْـًٔا وَلَا يَتَّخِذَ بَعْضُنَا بَعْضًا
أَرْبَابًا مِّن دُونِ ٱللَّهِ ۚ فَإِن تَوَلَّوْا فَقُولُوا
ٱشْهَدُوا بِأَنَّا مُسْلِمُونَ ٦٤

65. 啓典の民*よ、トーラー*も福音*もイブラーヒーム*の後に下されたものなのに、どうしてあなた方はイブラーヒーム*のことで議論するのか？　一体あなた方は、分別することがないのか？[3]

يَٰٓأَهْلَ ٱلْكِتَٰبِ لِمَ تُحَآجُّونَ فِىٓ إِبْرَٰهِيمَ
وَمَآ أُنزِلَتِ ٱلتَّوْرَىٰةُ وَٱلْإِنجِيلُ إِلَّا مِنۢ
بَعْدِهِۦٓ ۚ أَفَلَا تَعْقِلُونَ ٦٥

---

1 つまり、シルク*を犯さない、ということ（ムヤッサル 58 頁参照）。

2 もし彼らがこの善い誘いを断わるのであれば、自分たち（ムスリム*）が崇拝*行為と真摯（しんし）さをもってアッラー*に従い、正義の言葉へと招く者たちであることを証言せよ、ということ（前掲書、同頁参照）。

3 ユダヤ教徒*とキリスト教徒*は共に、イブラーヒーム*は自分たちの宗教に属していたのだ、と主張していた（アッ＝サアディー134 頁参照）。

66. ほら、あなた方という人たちは、自分たちが知識を有していることについてさえ（信じずに）議論しているというのに、なぜ自分たちに知識のないことについて議論するのか？[1]　アッラー*がご存知なのであり、あなた方は知らないのだ。

هَٰٓأَنتُمۡ هَٰٓؤُلَآءِ حَٰجَجۡتُمۡ فِيمَا لَكُم
بِهِۦ عِلۡمٞ فَلِمَ تُحَآجُّونَ فِيمَا لَيۡسَ لَكُم
بِهِۦ عِلۡمٞۚ وَٱللَّهُ يَعۡلَمُ وَأَنتُمۡ لَا تَعۡلَمُونَ ٦٦

67. イブラーヒーム*は、ユダヤ教徒*でもキリスト教徒*でもなかった。しかし彼は純正な人[2]であり、服従する者（ムスリム*）であった。そして、シルク*の徒の類いではなかったのだ。

مَا كَانَ إِبۡرَٰهِيمُ يَهُودِيّٗا وَلَا نَصۡرَانِيّٗا
وَلَٰكِن كَانَ حَنِيفٗا مُّسۡلِمٗا وَمَا كَانَ
مِنَ ٱلۡمُشۡرِكِينَ ٦٧

68. 本当に、イブラーヒーム*に最も近しい人々とは、まさしく彼に従った者たちと、この預言者*（ムハンマド*）、そして（彼を）信仰した者たちである。アッラー*は、信仰者たちの庇護者*なのだ。

إِنَّ أَوۡلَى ٱلنَّاسِ بِإِبۡرَٰهِيمَ لَلَّذِينَ ٱتَّبَعُوهُ وَهَٰذَا
ٱلنَّبِيُّ وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْۗ وَٱللَّهُ وَلِيُّ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ٦٨

69. 啓典の民*の一派は、あわよくばあなた方を（イスラーム*から）迷わせようと望んでいる。彼らは気付かずに、自分自身を迷わすだけなのだが。

وَدَّت طَّآئِفَةٞ مِّنۡ أَهۡلِ ٱلۡكِتَٰبِ لَوۡ يُضِلُّونَكُمۡ
وَمَا يُضِلُّونَ إِلَّآ أَنفُسَهُمۡ وَمَا يَشۡعُرُونَ ٦٩

70. 啓典の民*よ、あなた方はなぜアッラー*の御徴[3]を拒否するのか？　あなた方は、（それを）目の当たりにしているというのに。

يَٰٓأَهۡلَ ٱلۡكِتَٰبِ لِمَ تَكۡفُرُونَ بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ
وَأَنتُمۡ تَشۡهَدُونَ ٧٠

71. 啓典の民*よ、あなた方はなぜ知っていながら、真理を虚妄で紛らわそうとしたり、真理を隠蔽したりするのか？

يَٰٓأَهۡلَ ٱلۡكِتَٰبِ لِمَ تَلۡبِسُونَ ٱلۡحَقَّ بِٱلۡبَٰطِلِ
وَتَكۡتُمُونَ ٱلۡحَقَّ وَأَنتُمۡ تَعۡلَمُونَ ٧١

---

1 彼らは、自らがよく知っている預言者*ムハンマド*とその教えの真実性についても受け入れずに議論しているのに、なぜ彼らが知りもしないイブラーヒーム*のことについてまで議論することが出来るのか、ということ（ムヤッサル 58 頁参照）。

2 「純正」に関しては、雌牛章 135 の訳注を参照。

3 この「御徴」とは、彼らの啓典の中における、預言者*ムハンマド*の描写、及びクルアーン*のこと（アル＝バガウィー1:456 参照）。

72. 啓典の民*の一派は、言った。「一日の始めには信仰する者たちに下されたものを信じ、その（日の）終りには否定するのだ。恐らく彼らは、（再び不信仰に）戻って来るであろうから。[1]

وَقَالَت طَّآئِفَةٞ مِّنۡ أَهۡلِ ٱلۡكِتَٰبِ ءَامِنُواْ
بِٱلَّذِيٓ أُنزِلَ عَلَى ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَجۡهَ ٱلنَّهَارِ
وَٱكۡفُرُوٓاْ ءَاخِرَهُۥ لَعَلَّهُمۡ يَرۡجِعُونَ ٧٢

73. そしてあなた方の宗教に従う者以外は、（本気で）信じてはならない――（使徒*よ、）言ってやれ、本当に導きとはアッラー*のお導きだけである、と――、（それは）あなた方が授かったものと同様のものが誰かに授けられたり、彼らがあなた方の主*の御許であなた方と議論（して勝利）するようなことがないようにするためである[2]」。（使徒*よ、）言ってやるがいい。「実に（全ての）恩寵はアッラー*の御手にあり、かれはそれを、かれがお望みの者にお授けになる。アッラー*は広量な*お方、全知者であられる。

وَلَا تُؤۡمِنُوٓاْ إِلَّا لِمَن تَبِعَ دِينَكُمۡ قُلۡ إِنَّ
ٱلۡهُدَىٰ هُدَى ٱللَّهِ أَن يُؤۡتَىٰٓ أَحَدٞ مِّثۡلَ مَآ أُوتِيتُمۡ
أَوۡ يُحَآجُّوكُمۡ عِندَ رَبِّكُمۡۗ قُلۡ إِنَّ ٱلۡفَضۡلَ بِيَدِ ٱللَّهِ
يُؤۡتِيهِ مَن يَشَآءُۗ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٞ ٧٣

74. かれは、彼がお望みになる者に、そのご慈悲[3]を特別にお与えになる。アッラー*は、偉大な恩寵の主であられる」。

يَخۡتَصُّ بِرَحۡمَتِهِۦ مَن يَشَآءُۗ وَٱللَّهُ ذُو ٱلۡفَضۡلِ
ٱلۡعَظِيمِ ٧٤

75. 啓典の民*の中には、あなたが大金を託しても、それをあなたに返済する者がある。また彼らの中には、あなたが一枚の金貨を託しても、常に催促しない限り、返さない者

۞وَمِنۡ أَهۡلِ ٱلۡكِتَٰبِ مَنۡ إِن تَأۡمَنۡهُ بِقِنطَارٖ
يُؤَدِّهِۦٓ إِلَيۡكَ وَمِنۡهُم مَّنۡ إِن تَأۡمَنۡهُ بِدِينَارٖ لَّا
يُؤَدِّهِۦٓ إِلَيۡكَ إِلَّا مَا دُمۡتَ عَلَيۡهِ قَآئِمٗاۗ ذَٰلِكَ

---

1 ユダヤ教徒*の一部は、信仰心の弱いムスリム*に、イスラーム*に疑念を抱かせて棄教（ききょう）させるべく、このような策略を行った（イブン・カスィール 2:59 参照）。

2 彼らユダヤ教徒*の一部が恐れていたのは、彼らが預言者*ムハンマド*を信じ、自分たちの知識をムスリム*たちに教えてしまえば、ムスリム*たちの方が自分たちより優位になってしまうこと、あるいは、そのことがアッラー*の御許で、彼ら自身に対するムスリム*たちの正当性の証拠となってしまうことであった（ムヤッサル 59 頁参照）。

3 この「ご慈悲」は、預言者*としての天分、及びイスラーム*への導きのこと（ムヤッサル 59 頁参照）。

もいる。それは彼らが、「文盲者たち[1]（の権利侵害）において、私たちに（咎められる）筋合いなどはない」と言っているためである。彼らは知っていながら、アッラー*に対して嘘を語っているのだ。

بِأَنَّهُمْ قَالُوا۟ لَيْسَ عَلَيْنَا فِى ٱلْأُمِّيِّـۧنَ سَبِيلٌ
وَيَقُولُونَ عَلَى ٱللَّهِ ٱلْكَذِبَ وَهُمْ يَعْلَمُونَ ٧٥

76. いや、かれ（アッラー*）との約束を果たし、（かれを）畏れ*る[2]者ならば、本当にアッラー*は（かれを）畏れる*者たちをお好みになる。

بَلَىٰ مَنْ أَوْفَىٰ بِعَهْدِهِۦ وَٱتَّقَىٰ فَإِنَّ ٱللَّهَ يُحِبُّ
ٱلْمُتَّقِينَ ٧٦

77. 本当に、アッラー*との契約と自分たちの誓約と引き換えに、僅かな代価を得る者たち、それらの者たちには来世において何の（善き）取り分もない。そしてアッラー*は復活の日*、彼らに（嬉しい）お言葉をかけても下さらなければ、彼らを（慈悲の目で）ご覧にもならず、彼らを（罪から）清めて下さることもない。彼らには、痛ましい懲罰があるのだ。

إِنَّ ٱلَّذِينَ يَشْتَرُونَ بِعَهْدِ ٱللَّهِ وَأَيْمَـٰنِهِمْ
ثَمَنًا قَلِيلًا أُو۟لَـٰٓئِكَ لَا خَلَـٰقَ لَهُمْ فِى ٱلْـَٔاخِرَةِ
وَلَا يُكَلِّمُهُمُ ٱللَّهُ وَلَا يَنظُرُ إِلَيْهِمْ يَوْمَ
ٱلْقِيَـٰمَةِ وَلَا يُزَكِّيهِمْ وَلَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ٧٧

78. また、本当に彼ら（ユダヤ教徒*）の中には、あなた方がそれを啓典の一部と思い込むようにすべく、啓典（の内容）を口で言い換える一派がある。それは啓典の一部などではないのに。また彼らは、「これはアッラー*の御許からのものだ」などと言う。それは、アッラー*の御許からのものなどではないのに。彼らはアッラー*について、知りつつ嘘を語っているのだ。

وَإِنَّ مِنْهُمْ لَفَرِيقًا يَلْوُۥنَ أَلْسِنَتَهُم
بِٱلْكِتَـٰبِ لِتَحْسَبُوهُ مِنَ ٱلْكِتَـٰبِ
وَمَا هُوَ مِنَ ٱلْكِتَـٰبِ وَيَقُولُونَ هُوَ مِنْ
عِندِ ٱللَّهِ وَمَا هُوَ مِنْ عِندِ ٱللَّهِ وَيَقُولُونَ عَلَى
ٱللَّهِ ٱلْكَذِبَ وَهُمْ يَعْلَمُونَ ٧٨

1 文盲の民であった、当時のアラブ人のことを指すと言われる。ユダヤ教徒*らは、彼らの財産は、不当に奪ってもよいと信じていた（ムヤッサル 59 頁参照）。合同礼拝章 2 の訳注も参照。

2 「かれとの約束を果たす」とは、信託を守ること、アッラー*とその使徒*を信じ、その導きと教えを守ることなどを始めとした、アッラー*との約束を果たすこと（前掲書、同頁参照）。また「畏れる*」とは、アッラー*を畏れる*がゆえに、かれに対する義務だけでなく、人に対する義務もきちんと果たすこと（アッ＝サァディー135 頁参照）。

79. アッラー*が人間[1]に、啓典と英知[2]と預言者*としての天分を授けられた後、その者が人々に向かって、「アッラー*を差しおいて、私を崇拝*せよ」などと言うことはありえない。しかし（そのような者は、こう命じるのが当然なのだ。）「あなた方は、啓典を教え、自らも学んできたことによって、学識豊かな指導者[3]となるのだ」。

مَا كَانَ لِبَشَرٍ أَن يُؤۡتِيَهُ ٱللَّهُ ٱلۡكِتَٰبَ
وَٱلۡحُكۡمَ وَٱلنُّبُوَّةَ ثُمَّ يَقُولَ لِلنَّاسِ كُونُواْ
عِبَادٗا لِّي مِن دُونِ ٱللَّهِ وَلَٰكِن كُونُواْ
رَبَّٰنِيِّـۧنَ بِمَا كُنتُمۡ تُعَلِّمُونَ
ٱلۡكِتَٰبَ وَبِمَا كُنتُمۡ تَدۡرُسُونَ ٧٩

80. また（そのような者が、）「天使*や預言者*たちを主*とせよ」などと、あなた方に命じることも（、ありえない）。一体、あなた方が服従する者（ムスリム*）となった後、（彼が）あなた方に不信仰を命じることなどがあろうか？

وَلَا يَأۡمُرَكُمۡ أَن تَتَّخِذُواْ ٱلۡمَلَٰٓئِكَةَ
وَٱلنَّبِيِّـۧنَ أَرۡبَابًاۗ أَيَأۡمُرُكُم بِٱلۡكُفۡرِ بَعۡدَ
إِذۡ أَنتُم مُّسۡلِمُونَ ٨٠

81. アッラー*が、預言者*たちの確約[4]を受け取られた時のこと（を思い起こさせよ。かれは、こう仰せられた）。「われがあなた方に啓典と英知を授け、その後にあなた方のもとにあるもの（啓典）を確証する使徒*があなた方のところに来たら、あなた方は必ずや彼を信じ、援助するのだ」。（それから）かれは仰せられた。「あなた方は（そのことを）了承し、それについて、わが確約を受け取るか？」彼らは申し上げた。「承知しました」。（すると）かれは仰せられ

وَإِذۡ أَخَذَ ٱللَّهُ مِيثَٰقَ ٱلنَّبِيِّـۧنَ لَمَآ ءَاتَيۡتُكُم مِّن
كِتَٰبٖ وَحِكۡمَةٖ ثُمَّ جَآءَكُمۡ رَسُولٞ
مُّصَدِّقٞ لِّمَا مَعَكُمۡ لَتُؤۡمِنُنَّ بِهِۦ
وَلَتَنصُرُنَّهُۥۚ قَالَ ءَأَقۡرَرۡتُمۡ وَأَخَذۡتُمۡ عَلَىٰ
ذَٰلِكُمۡ إِصۡرِيۖ قَالُوٓاْ أَقۡرَرۡنَاۚ قَالَ فَٱشۡهَدُواْ
وَأَنَا۠ مَعَكُم مِّنَ ٱلشَّٰهِدِينَ ٨١

---

1 ここでの「人間」は全人類のことだが、特にイーサー*、あるいは預言者*ムハンマド*のことを指していると言われる（アル＝バガウィー1:462-463 参照）。

2 この「英知」は理解・知識、あるいは人々を裁く権威のこと（前掲書 1:463 参照）。

3 「学識豊かな指導者」という訳語をあてた原語は、「ラッバーニー」の複数形。アッ＝タバリー*はこれが「ラッバ（面倒を見る、育成する）」という語の派生形とし、宗教的知識を備えつつも、現世的分野においても人々の教育と指導に携（たずさ）わる者である、と解釈している（3:1849 参照）。

4 「確約」については、雌牛章 27 の「契約」についての訳注も参照。

た。「それでは証言せよ[1]。われもあなた方と共に、証人となろう」。

82. 誰であれ、その（確約の）後に（イスラーム*への招きから）背き去った者、それらの者たちは放逸な者である。

فَمَن تَوَلَّىٰ بَعۡدَ ذَٰلِكَ فَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ
ٱلۡفَٰسِقُونَ ٨٢

83. 一体、彼らはアッラー*の宗教（イスラーム*）以外のものを求めるというのか？　諸天と大地にいるものは――従順にであろうと、嫌々であろうと――かれに服従し[2]、そして彼らは（復活の日*）、かれの御許にこそ戻らされるというのに。

أَفَغَيۡرَ دِينِ ٱللَّهِ يَبۡغُونَ وَلَهُۥٓ أَسۡلَمَ مَن
فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ طَوۡعٗا وَكَرۡهٗا
وَإِلَيۡهِ يُرۡجَعُونَ ٨٣

84. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「私たちはアッラー*、私たちに下されたもの（クルアーン*）、イブラーヒーム*、イスマーイール*、イスハーク*、ヤアクーブ*、諸支族[3] に下されたものを信じる。またムーサー*とイーサー*と、（その他の）預言者*たちが彼らの主*から授けられたものを信じる。私たちは、彼らの内の誰も分け隔てはしない[4]。そして私たちは、かれ（アッラー*）のみに従う者（ムスリム*）なのである」。

قُلۡ ءَامَنَّا بِٱللَّهِ وَمَآ أُنزِلَ عَلَيۡنَا وَمَآ أُنزِلَ
عَلَىٰٓ إِبۡرَٰهِيمَ وَإِسۡمَٰعِيلَ وَإِسۡحَٰقَ
وَيَعۡقُوبَ وَٱلۡأَسۡبَاطِ وَمَآ أُوتِيَ مُوسَىٰ وَعِيسَىٰ
وَٱلنَّبِيُّونَ مِن رَّبِّهِمۡ لَا نُفَرِّقُ بَيۡنَ أَحَدٖ
مِّنۡهُمۡ وَنَحۡنُ لَهُۥ مُسۡلِمُونَ ٨٤

---

1 この「証言」については、雌牛章 143「証人となる」の訳注を参照。尚このアーヤ*には、全ての預言者*とその民は、預言者*ムハンマド*を信仰する義務があるという根拠がある（ムヤッサル 60 頁参照）。

2 全創造物は、脱出することのできない定めの中にある。このアーヤ*の解釈には、ほかにも「信仰者は従順に従い、不信仰者*は死の際に嫌々従うことになる（家畜章 158 とその訳注を参照）」「不信仰者*はアッラー*以外のものにサジダ*するが、その影はアッラー*にサジダ*する（雷鳴章 15、密蜂章 48 とその訳注を参照）」「『従順に従う』とは容易なもので、『嫌々に従う』とは、辛苦と拒否感を伴（ともな）うもの」「前者は議論なしに従った者、後者は議論の末にアッラーの唯一性*に降伏（こうふく）した者」などといった諸説がある（アル＝クルトゥビー4:127-128 参照）。

3 「諸支族」については、雌牛章 136 の訳注を参照。

4 婦人章 150-152 参照。

85. 誰であれ、イスラーム*以外のものを宗教として望む者は、決してそれを受け入れられない。また来世において、その者は損失者の類いとなるのである。

وَمَن يَبۡتَغِ غَيۡرَ ٱلۡإِسۡلَٰمِ دِينٗا فَلَن يُقۡبَلَ
مِنۡهُ وَهُوَ فِي ٱلۡأٓخِرَةِ مِنَ ٱلۡخَٰسِرِينَ ٨٥

86. 信仰に入り、使徒*は真実であると証言した後、自分たちのもとに明証が訪れたにも関わらず不信仰に陥った民を、アッラー*がどうしてお導きになろうか？　アッラー*は、不正*者である民をお導きにはならない。

كَيۡفَ يَهۡدِي ٱللَّهُ قَوۡمٗا كَفَرُواْ بَعۡدَ
إِيمَٰنِهِمۡ وَشَهِدُوٓاْ أَنَّ ٱلرَّسُولَ حَقّٞ
وَجَآءَهُمُ ٱلۡبَيِّنَٰتُۚ وَٱللَّهُ لَا يَهۡدِي
ٱلۡقَوۡمَ ٱلظَّٰلِمِينَ ٨٦

87. それらの者たちの応報は、アッラー*と天使*たち、そして人々全員の呪いが、彼らの上に注がれること[1]である。

أُوْلَٰٓئِكَ جَزَآؤُهُمۡ أَنَّ عَلَيۡهِمۡ لَعۡنَةَ ٱللَّهِ
وَٱلۡمَلَٰٓئِكَةِ وَٱلنَّاسِ أَجۡمَعِينَ ٨٧

88. 彼らはそこ（地獄の業火）に永住する。彼らは懲罰を軽減されることもなければ、猶予を与えられることもない。

خَٰلِدِينَ فِيهَا لَا يُخَفَّفُ عَنۡهُمُ ٱلۡعَذَابُ
وَلَا هُمۡ يُنظَرُونَ ٨٨

89. 但し、（不信仰の）その後に悔悟し、（誤りを）正した者たちは別であ（り、アッラー*は彼らをお赦しにな）る。本当にアッラー*は、赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。

إِلَّا ٱلَّذِينَ تَابُواْ مِنۢ بَعۡدِ ذَٰلِكَ وَأَصۡلَحُواْ
فَإِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٞ رَّحِيمٌ ٨٩

90. 本当に、信仰した後に不信仰に陥り、それから更に不信仰が甚だしくなった者たち、彼らの悔悟は受け入れられない[2]。そしてそれらの者たちこそは、迷い去った者たちなのだ。

إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ بَعۡدَ إِيمَٰنِهِمۡ ثُمَّ ٱزۡدَادُواْ
كُفۡرٗا لَّن تُقۡبَلَ تَوۡبَتُهُمۡ وَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ
ٱلضَّآلُّونَ ٩٠

---

1 「アッラー*の呪い」に関しては、雌牛章 88 の訳注を、アッラー*以外のものの呪いについては、雌牛章 159 の訳注を参照。

2 死が訪れる前までに悔悟しなければ、受け入れられない、の意（ムヤッサル 61 頁参照）。この次のアーヤ*、および家畜章 158 とその訳注も参照。

91. 本当に不信仰に陥(おちい)り、不信仰者*のまま死んだ者たち、彼らの誰一人として、大地一杯の黄金さえ受け入れられることはない。たとえ、(復活の日*の懲罰(ちょうばつ)を免じてもらうため、)それで償(つぐな)おうとしても（、受け入れられないのだ）。それらの者たちには痛ましい懲罰(ちょうばつ)があり、彼らにはいかなる援助者もない。

إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ وَمَاتُوا۟ وَهُمْ كُفَّارٌ
فَلَن يُقْبَلَ مِنْ أَحَدِهِم مِّلْءُ ٱلْأَرْضِ
ذَهَبًا وَلَوِ ٱفْتَدَىٰ بِهِۦٓ ۗ أُو۟لَٰٓئِكَ لَهُمْ عَذَابٌ
أَلِيمٌ وَمَا لَهُم مِّن نَّٰصِرِينَ ٩١

92. あなた方は自(みずか)らが欲する物の内から施(ほどこ)すまで、（真の）善[1]に到達することはない。そしていかなるものでも、あなた方が施(ほどこ)すならば、アッラー*はそれを必(かなら)ずやご存知になるお方。

لَن تَنَالُوا۟ ٱلْبِرَّ حَتَّىٰ تُنفِقُوا۟ مِمَّا تُحِبُّونَ ۚ
وَمَا تُنفِقُوا۟ مِن شَىْءٍ فَإِنَّ ٱللَّهَ بِهِۦ عَلِيمٌ ٩٢

93. トーラー*が下される以前にイスラーイール(ヤアクーブ*)が自(みずか)ら禁じたもの以外は、全ての（善き）食物はイスラーイールの子ら*に許(ゆる)されていた。（使徒(しと)*よ、）言ってやるがいい。「トーラー*を持ってきて、(アッラー*がそれを禁じられたという証拠を見せるべく、）それを読誦(どくしょう)してみよ。もし、あなた方が真実を語っているのならば。[2]

۞ كُلُّ ٱلطَّعَامِ كَانَ حِلًّا لِّبَنِىٓ
إِسْرَٰٓءِيلَ إِلَّا مَا حَرَّمَ إِسْرَٰٓءِيلُ عَلَىٰ نَفْسِهِۦ
مِن قَبْلِ أَن تُنَزَّلَ ٱلتَّوْرَىٰةُ ۗ قُلْ فَأْتُوا۟ بِٱلتَّوْرَىٰةِ
فَٱتْلُوهَآ إِن كُنتُمْ صَٰدِقِينَ ٩٣

94. それでその後、アッラー*に対して嘘(うそ)を捏造(ねつぞう)する者があれば、それらの者たちこそは不正*者である」。

فَمَنِ ٱفْتَرَىٰ عَلَى ٱللَّهِ ٱلْكَذِبَ مِنۢ بَعْدِ
ذَٰلِكَ فَأُو۟لَٰٓئِكَ هُمُ ٱلظَّٰلِمُونَ ٩٤

---

1 ここでの「善」は天国の意味であると言われる（ムヤッサル 62 頁参照）。

2 ヤァクーブ*は重病を患（わずら）った際、アッラー*が癒（いや）して下さったら、自分の一番好きな物であるラクダの肉と乳を自分に禁じる、と誓った。それはアッラー*からの命令ではなく、ヤァクーブ*が自ら禁じたものであり、彼の子孫も彼に従って、それを自分たちに禁じただけだった。そして（後世に）トーラー*が下った時、ユダヤ教徒*たちは自分たちの不正*と侵害に対する罰（婦人章 160 参照）として、ヤァクーブ*が自ら禁じたもの以外の、それまで合法だったある種の食べ物を禁じられた（アッ＝サァディー138 頁参照）。一説にこのアーヤ*は、イブラーヒーム*の宗教の後継者を主張した預言者*ムハンマド*に対し、ユダヤ教徒*らが「(イブラーヒーム*に禁じられていた）ラクダの肉と乳を口にする、あなたが？」と言ったことに関し、下った（アル＝ワーヒディー5:426 参照）。

95. （使徒*よ、）言ってやれ。「アッラー*は真実を述べられる。ゆえにシルク*の徒の類いではなかった、純正な[1]イブラーヒーム*の宗教に従うのだ」。

قُلۡ صَدَقَ ٱللَّهُۗ فَٱتَّبِعُواْ مِلَّةَ إِبۡرَٰهِيمَ حَنِيفٗاۖ
وَمَا كَانَ مِنَ ٱلۡمُشۡرِكِينَ ٩٥

96. 本当に、（アッラー*を崇拝*するため）人々のために最初に建立された館（カァバ神殿*）は、バッカ[2]にあるもの。祝福にあふれ、全世界への導きとして（建立されたものなのだ）。

إِنَّ أَوَّلَ بَيۡتٖ وُضِعَ لِلنَّاسِ لَلَّذِي بِبَكَّةَ
مُبَارَكٗا وَهُدٗى لِّلۡعَٰلَمِينَ ٩٦

97. そこには、数々の明白な御徴[3]がある。（その一つが、）イブラーヒーム*の立ち所[4]。誰でもその中に入る者は、安全なのだ[5]。人々、つまりそこまでの道（を旅行すること）が可能な者[6]には、その館へとハッジ*するというアッラー*への義務がある。そしてそれ（ハッジ*の義務性）を否定する者があっても、実にアッラー*は全世界（のいかなるものへの必要）から、満ち足りた*お方なのだ。

فِيهِ ءَايَٰتُۢ بَيِّنَٰتٞ مَّقَامُ إِبۡرَٰهِيمَۖ وَمَن
دَخَلَهُۥ كَانَ ءَامِنٗاۗ وَلِلَّهِ عَلَى ٱلنَّاسِ حِجُّ
ٱلۡبَيۡتِ مَنِ ٱسۡتَطَاعَ إِلَيۡهِ سَبِيلٗاۚ وَمَن كَفَرَ
فَإِنَّ ٱللَّهَ غَنِيٌّ عَنِ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٩٧

---

1 「純正な」については、雌牛章 135 の訳注を参照。

2 「バッカ」とは「マッカ*」そのものであるという説と、マッカ*の中でもカァバ神殿*の周りのみ、あるいはハラーム・マスジド*のことだけを示す語であるという説がある。尚、「バッカ」は「混雑する」という動詞から派生したもの、と言われる（アッ＝タバリー 3:1879-1881 参照）。

3 この「御徴」とは、イブラーヒーム*がそれを建立し、アッラー*がそれを偉大なものとされた証拠のこと（ムヤッサル 62 頁参照）。

4 「イブラーヒーム*の立ち所」については、雌牛章 125 の訳注を参照。

5 その安全さに関しては、雌牛章 125 の訳注を参照。

6 「道が可能」であるとは、それが旅行の蓄（たくわ）えと交通手段であるとか、巡礼*する本人の能力であるとか、健康のことであるなど、諸説ある（アッ＝タバリー 3:1886-1890 参照）。詳しくは頻出名・用語解説の「ハッジ*」を参照。

98.　（使徒*よ、）言ってやるがいい。「啓典の民*よ、あなた方はなぜ、アッラー*の御徴[1]を否定するのか？　アッラー*は、あなた方が行うことの証人であられるというのに」。

قُلْ يَٰٓأَهْلَ ٱلْكِتَٰبِ لِمَ تَكْفُرُونَ بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ
وَٱللَّهُ شَهِيدٌ عَلَىٰ مَا تَعْمَلُونَ ٩٨

99.　（使徒*よ、）言ってやるがいい。「啓典の民*よ、あなた方はなぜ、信仰する者をアッラー*の道から阻むのか？　あなた方は（その道が正しいことの）証人なのに、それ（その道）を捻じ曲げようとして？　アッラー*はあなた方の行いに、決して迂闊ではあられない」。

قُلْ يَٰٓأَهْلَ ٱلْكِتَٰبِ لِمَ تَصُدُّونَ عَن
سَبِيلِ ٱللَّهِ مَنْ ءَامَنَ تَبْغُونَهَا عِوَجًا وَأَنتُمْ
شُهَدَآءُ ۗ وَمَا ٱللَّهُ بِغَٰفِلٍ عَمَّا تَعْمَلُونَ ٩٩

100.　信仰する者たちよ、もしあなた方が啓典を授かった人々の一派に従うならば、彼らはあなた方を信仰の後、不信仰者*へと戻してしまうであろう。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ إِن تُطِيعُوا۟ فَرِيقًا
مِّنَ ٱلَّذِينَ أُوتُوا۟ ٱلْكِتَٰبَ يَرُدُّوكُم بَعْدَ
إِيمَٰنِكُمْ كَٰفِرِينَ ١٠٠

101.　そして（信仰者たちよ）、どうしてあなた方が不信仰となろうか？　アッラー*の御徴（アーヤ*）があなた方に読誦され、かれの使徒*は、あなた方の間にいるというのに？　アッラー*（の教え）にしがみつく者は、既にまっすぐな道に導かれているのである。

وَكَيْفَ تَكْفُرُونَ وَأَنتُمْ تُتْلَىٰ عَلَيْكُمْ ءَايَٰتُ
ٱللَّهِ وَفِيكُمْ رَسُولُهُۥ ۗ وَمَن يَعْتَصِم بِٱللَّهِ
فَقَدْ هُدِىَ إِلَىٰ صِرَٰطٍ مُّسْتَقِيمٍ ١٠١

102.　信仰する者たちよ、真の畏怖の念[2]をもってアッラー*を畏れ*よ。そして服従する者（ムスリム*）としてでしか、死んではならない。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ ٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ حَقَّ تُقَاتِهِۦ
وَلَا تَمُوتُنَّ إِلَّا وَأَنتُم مُّسْلِمُونَ ١٠٢

1　この「御徴」とは、イスラーム*が真の宗教であるという証拠。それは彼らの啓典の中に、存在していた（ムヤッサル 62 頁参照）。

2　「真の畏怖の念によって、アッラー*を畏れ*」ることとは、教友*イブン・マスウード*によれば「かれに服従して逆らわず、常にかれを思い起こして忘れないこと」だという（アル＝ハーキム 2:352）。

103. また、アッラー*の絆[1]に皆でしっかりとしがみ付き、分裂してはならない。あなた方に対するアッラー*の恩恵を、思い出すのだ。あなた方が（かつて）敵対し合っていた[2]のに、かれがあなた方の心を結び付けられ、あなた方がかれの恩恵によって同胞となった時のことを。（以前）あなた方は業火の穴の淵にいたが、かれはあなた方を（イスラーム*によって）、そこからお救いになったのである。このようにアッラー*は、あなた方が導かれるよう、あなた方に御徴を明らかにされるのだ。

وَٱعۡتَصِمُواْ بِحَبۡلِ ٱللَّهِ جَمِيعٗا وَلَا تَفَرَّقُواْۚ
وَٱذۡكُرُواْ نِعۡمَتَ ٱللَّهِ عَلَيۡكُمۡ إِذۡ كُنتُمۡ
أَعۡدَآءٗ فَأَلَّفَ بَيۡنَ قُلُوبِكُمۡ فَأَصۡبَحۡتُم
بِنِعۡمَتِهِۦٓ إِخۡوَٰنٗا وَكُنتُمۡ عَلَىٰ شَفَا حُفۡرَةٖ
مِّنَ ٱلنَّارِ فَأَنقَذَكُم مِّنۡهَاۗ كَذَٰلِكَ يُبَيِّنُ ٱللَّهُ
لَكُمۡ ءَايَٰتِهِۦ لَعَلَّكُمۡ تَهۡتَدُونَ ١٠٣

104. また（信仰者たちよ）、あなた方の内から、善きことへと招き、善事を命じて悪事を禁じる[3]共同体をあらしめよ。それらの者たちこそは、成功者なのである。

وَلۡتَكُن مِّنكُمۡ أُمَّةٞ يَدۡعُونَ إِلَى ٱلۡخَيۡرِ
وَيَأۡمُرُونَ بِٱلۡمَعۡرُوفِ وَيَنۡهَوۡنَ عَنِ ٱلۡمُنكَرِۚ
وَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡمُفۡلِحُونَ ١٠٤

105. そして明証が訪れた後に分裂し、（互いに）意見を異にした者たち[4]のようになってはならない。それらの者たちには、この上ない懲罰がある。

وَلَا تَكُونُواْ كَٱلَّذِينَ تَفَرَّقُواْ وَٱخۡتَلَفُواْ مِنۢ بَعۡدِ
مَا جَآءَهُمُ ٱلۡبَيِّنَٰتُۚ وَأُوْلَٰٓئِكَ لَهُمۡ عَذَابٌ
عَظِيمٞ ١٠٥

106. （復活*の）その日、ある（者の）顔は白くなり、また別の（者の）顔は黒くなる[5]。顔が黒くなった者たちといえば、（こう言われる。）「一体あなた方は信仰した

يَوۡمَ تَبۡيَضُّ وُجُوهٞ وَتَسۡوَدُّ وُجُوهٞۚ فَأَمَّا ٱلَّذِينَ
ٱسۡوَدَّتۡ وُجُوهُهُمۡ أَكَفَرۡتُم بَعۡدَ إِيمَٰنِكُمۡ
فَذُوقُواْ ٱلۡعَذَابَ بِمَا كُنتُمۡ تَكۡفُرُونَ ١٠٦

---

1 「アッラー*の絆」の解釈には、「イスラーム*」「団結」「クルアーン*」「アッラー*のご命令と、かれへの服従」といった諸説がある（アル＝バガウィー1:480-481 参照）。

2 雌牛章 85 の訳注、戦利品*章 63 とその訳注も参照。

3 この「善事」とは、善行とアッラー*への服従行為、及びイスラーム*の教えと理性によってその善性が認められる、全ての物事。「悪事」はその逆（アッ＝サアディー202 頁参照）。

4 この「明証」とは、真理のこと。「意見を異にする」とは、イスラーム*の根本的な教えにおける相違のこと（ムヤッサル 63 頁参照）。

5 これについては、実際に顔の色が変わるという見解と、「顔が白くなる」というのは喜びを、「黒くなる」の悲しみのたとえである、という見解がある（アル＝カースィミー4：932-933 参照）。

後に、不信仰に陥ったというのか？　ならば、あなた方が不信仰だったことゆえの懲罰を、味わうがよい」。

107. また、顔が白くなった者といえば、アッラー*のご慈悲の中[1]にあり、そこに永遠に留まる。

وَأَمَّا ٱلَّذِينَ ٱبۡيَضَّتۡ وُجُوهُهُمۡ فَفِي رَحۡمَةِ
ٱللَّهِۖ هُمۡ فِيهَا خَٰلِدُونَ ١٠٧

108. それは（使徒*よ）、われら*があなたに真理と共に誦み聞かせるアッラー*の御徴（アーヤ*）。アッラー*はいかなる創造物に対しても、不正*をお望みにはならない。

تِلۡكَ ءَايَٰتُ ٱللَّهِ نَتۡلُوهَا عَلَيۡكَ بِٱلۡحَقِّۗ
وَمَا ٱللَّهُ يُرِيدُ ظُلۡمٗا لِّلۡعَٰلَمِينَ ١٠٨

109. そして諸天にあるものと、大地にあるものはアッラー*にこそ属し、（一切の）物事はアッラー*へと帰される。

وَلِلَّهِ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلۡأَرۡضِۚ
وَإِلَى ٱللَّهِ تُرۡجَعُ ٱلۡأُمُورُ ١٠٩

110. （ムハンマド*の共同体よ、）あなた方はもとより、人類へ遣わされた最良の共同体なのだ。あなた方は善事を命じて悪事を禁じ[2]、アッラー*を信仰する。もし啓典の民*が（イスラーム*を）信じたなら、（それが）彼らにとって、より善いことだったのだ。彼らの内には信仰者もいるが、大部分の者は放逸な者たちである。

كُنتُمۡ خَيۡرَ أُمَّةٍ أُخۡرِجَتۡ لِلنَّاسِ تَأۡمُرُونَ
بِٱلۡمَعۡرُوفِ وَتَنۡهَوۡنَ عَنِ ٱلۡمُنكَرِ
وَتُؤۡمِنُونَ بِٱللَّهِۗ وَلَوۡ ءَامَنَ أَهۡلُ ٱلۡكِتَٰبِ
لَكَانَ خَيۡرٗا لَّهُمۚ مِّنۡهُمُ ٱلۡمُؤۡمِنُونَ
وَأَكۡثَرُهُمُ ٱلۡفَٰسِقُونَ ١١٠

111. 彼らはあなた方のことをいくらか悩ませる[3]だけで、害することはない。そしてもしあなた方と戦ったとしても、背中を見せ（て敗走す）るのがおちである。それから彼らが、勝利を授かることもないのだ。

لَن يَضُرُّوكُمۡ إِلَّآ أَذٗىۖ وَإِن يُقَٰتِلُوكُمۡ
يُوَلُّوكُمُ ٱلۡأَدۡبَارَ ثُمَّ لَا يُنصَرُونَ ١١١

---

1 ここでの「ご慈悲」とは、天国と、その恩恵のこと（ムヤッサル 63 頁参照）。

2 「善事を命じて悪事を禁じる」については、アーヤ*104 の訳注を参照。

3 シルク*や不信仰などの言葉で、「いくらか悩ませるだけ」ということ（ムヤッサル 64 頁参照）。

112. アッラー*からの絆と、人々との絆[1]によらない限り、彼らはどこで捕らえられようと屈辱に付きまとわれ、アッラー*のお怒りと共に戻って来て[2]は、貧困に付きまとわれる。それというのも彼らはアッラー*の御徴を否定し、不当にも預言者*たちを殺害していた[3]からである。それは彼らが（アッラー*に）反抗し、（かれの法に反することにおいて）度を越していたためなのだ。

ضُرِبَتْ عَلَيْهِمُ ٱلذِّلَّةُ أَيْنَ مَا ثُقِفُوٓا۟ إِلَّا
بِحَبْلٍ مِّنَ ٱللَّهِ وَحَبْلٍ مِّنَ ٱلنَّاسِ وَبَآءُو
بِغَضَبٍ مِّنَ ٱللَّهِ وَضُرِبَتْ عَلَيْهِمُ
ٱلْمَسْكَنَةُ ۚ ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمْ كَانُوا۟ يَكْفُرُونَ
بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ وَيَقْتُلُونَ ٱلْأَنۢبِيَآءَ بِغَيْرِ حَقٍّ ۚ
ذَٰلِكَ بِمَا عَصَوا۟ وَّكَانُوا۟ يَعْتَدُونَ ١١٢

113. 彼らは一様ではない。啓典の民*の中にも、正しい一団[4]がある。彼らは夜の刻にサジダ*しつつ、アッラー*の御徴（アーヤ*）を読誦するのだ。

۞ لَيْسُوا۟ سَوَآءً ۗ مِّنْ أَهْلِ ٱلْكِتَٰبِ أُمَّةٌ
قَآئِمَةٌ يَتْلُونَ ءَايَٰتِ ٱللَّهِ ءَانَآءَ ٱلَّيْلِ
وَهُمْ يَسْجُدُونَ ١١٣

114. 彼らはアッラー*と最後の日*を信じ、善事を命じて悪事を禁じ[5]、善行に急ぐ。それらの者たちは、正しい者*たちの類いである。

يُؤْمِنُونَ بِٱللَّهِ وَٱلْيَوْمِ ٱلْءَاخِرِ وَيَأْمُرُونَ
بِٱلْمَعْرُوفِ وَيَنْهَوْنَ عَنِ ٱلْمُنكَرِ وَيُسَٰرِعُونَ
فِى ٱلْخَيْرَٰتِ ۖ وَأُو۟لَٰٓئِكَ مِنَ ٱلصَّٰلِحِينَ ١١٤

115. また、彼らがするいかなる善行も、決して無駄にされることはない。アッラー*は、敬虔な*者たちをご存知なのだ。

وَمَا يَفْعَلُوا۟ مِنْ خَيْرٍ فَلَن يُكْفَرُوهُ ۗ
وَٱللَّهُ عَلِيمٌۢ بِٱلْمُتَّقِينَ ١١٥

116. 本当に、不信仰に陥った者*たち、彼らにはその財産も子供も、アッラー*（の懲罰）に対しては何の役にも立たない。それらの者たちは業火の住人。彼らはその中で永住するのだ。

إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ لَن تُغْنِىَ عَنْهُمْ أَمْوَٰلُهُمْ
وَلَآ أَوْلَٰدُهُم مِّنَ ٱللَّهِ شَيْـًٔا ۖ وَأُو۟لَٰٓئِكَ
أَصْحَٰبُ ٱلنَّارِ ۚ هُمْ فِيهَا خَٰلِدُونَ ١١٦

---

1 イブン・カスィール*によれば、「アッラー*からの絆」とは「アッラー*からの保護と、ジズヤ*の徴収、及び（民法、刑法における表面的な）イスラーム*法規定の遵守」であり、「人々との絆」とはムスリム*による彼らへの庇護（ひご）のこと（2:104 参照）。

2 「アッラー*のお怒りと共に…」については、雌牛章 61 の訳注を参照。

3 「預言者*たちを殺害していた」については、アーヤ*21「…殺す者たち」の訳注を参照。

4 つまり啓典の民*の内、預言者*ムハンマド*を信仰した者たちのこと（ムヤッサル 64 頁参照）。

5 「善事を命じて悪事を禁じる」については、アーヤ*104 の訳注を参照。

117. 彼らがこの現世の生活で施すものの様子は、あたかも酷寒を運ぶ風のようなもの[1]。それは（不信仰とアッラー*への反抗によって）自らに不正*を働いた民の作物を襲い、それを枯らしてしまう。アッラー*が彼らに不正*を働かれたのではない。しかし彼らが、自分自身に不正*を働いていたのである。

مَثَلُ مَا يُنفِقُونَ فِي هَٰذِهِ ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا
كَمَثَلِ رِيحٍ فِيهَا صِرٌّ أَصَابَتْ حَرْثَ قَوْمٍ
ظَلَمُوٓا۟ أَنفُسَهُمْ فَأَهْلَكَتْهُ ۚ وَمَا
ظَلَمَهُمُ ٱللَّهُ وَلَٰكِنْ أَنفُسَهُمْ يَظْلِمُونَ ﴿١١٧﴾

118. 信仰する者たちよ、あなた方（信仰者たち）を差しおいて、（不信仰者*の）腹心を選んではならない。彼らは、あなた方（の状況）を堕落させることに抜かりない。彼らは、あなた方が苦難に遭うことを望んだのだ。敵意（の印）は、もう彼らの口から明らかになったのであり、彼らが胸中に潜めているものは更に甚だしい。われら*は既に、あなた方に御徴[2]を明らかにした。もしあなた方が、（それを）理解するならば。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَا تَتَّخِذُوا۟ بِطَانَةً مِّن
دُونِكُمْ لَا يَأْلُونَكُمْ خَبَالًا وَدُّوا۟ مَا عَنِتُّمْ
قَدْ بَدَتِ ٱلْبَغْضَآءُ مِنْ أَفْوَٰهِهِمْ
وَمَا تُخْفِي صُدُورُهُمْ أَكْبَرُ ۚ قَدْ بَيَّنَّا لَكُمُ
ٱلْءَايَٰتِ ۖ إِن كُنتُمْ تَعْقِلُونَ ﴿١١٨﴾

119. ほら、あなた方という人たちは彼らを好いているが、彼らの方ではあなた方を好いてはいない。あなた方は、全ての啓典を信じているというのに[3]。また彼らは、あなた方と会った時には（本音とは裏腹に、）「私たちは信仰する」と言った。そして自分たちだけになると、（ムスリム*たちの団結とイスラーム*の興隆に対する）憤りゆえに、指先を噛んだのだ。

هَٰٓأَنتُمْ أُو۟لَآءِ تُحِبُّونَهُمْ وَلَا يُحِبُّونَكُمْ
وَتُؤْمِنُونَ بِٱلْكِتَٰبِ كُلِّهِۦ وَإِذَا لَقُوكُمْ قَالُوٓا۟
ءَامَنَّا وَإِذَا خَلَوْا۟ عَضُّوا۟ عَلَيْكُمُ ٱلْأَنَامِلَ
مِنَ ٱلْغَيْظِ ۚ قُلْ مُوتُوا۟ بِغَيْظِكُمْ ۗ إِنَّ ٱللَّهَ عَلِيمٌۢ
بِذَاتِ ٱلصُّدُورِ ﴿١١٩﴾

---

1 同様のアーヤ*として、雌牛章264、イブラーヒーム*章18、御光章39-40、識別章23なども参照。

2 この「御徴」とは、（信仰に対する）誠実さの義務を示す根拠のこと（アッ＝シャウカーニー1:615参照）。

3 ムスリム*は啓典の民*のものも含む、全ての啓典を信仰する。その一方、啓典の民*は、それら全てを信じることがないどころか、啓典を改竄（かいざん）までしている。それなのに彼らに好意を抱くとは、どういうことか、ということ（ムヤッサル65頁参照）。

（使徒*よ、彼らに）言ってやれ。「憤死するがいい」。本当にアッラー*は、胸中にあるものをご存知になるお方。

120. （信仰者たちよ、）彼らは、あなた方に善いことが起きれば落胆する。また、あなた方を災難が襲えば、それに歓喜する。そして忍耐して（アッラー*を）畏れる*ならば、彼らの策略は少しもあなた方を害することはない。本当にアッラー*は、彼らの行うことを悉く包囲される*お方。

إِن تَمۡسَسۡكُمۡ حَسَنَةٞ تَسُؤۡهُمۡ وَإِن تُصِبۡكُمۡ
سَيِّئَةٞ يَفۡرَحُواْ بِهَاۖ وَإِن تَصۡبِرُواْ وَتَتَّقُواْ
لَا يَضُرُّكُمۡ كَيۡدُهُمۡ شَيۡـًٔاۗ إِنَّ ٱللَّهَ بِمَا
يَعۡمَلُونَ مُحِيطٞ ١٢٠

121. （使徒*よ、）あなたが信仰者たちを戦闘のための持ち場に配置すべく、早朝に家族のもとを後にした時[1]のこと（を思い起こさせるがよい）。アッラー*はよくお聴きになるお方、全知者であられる。

وَإِذۡ غَدَوۡتَ مِنۡ أَهۡلِكَ تُبَوِّئُ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ
مَقَٰعِدَ لِلۡقِتَالِۗ وَٱللَّهُ سَمِيعٌ عَلِيمٌ ١٢١

122. あなた方の内の二団[2]が、臆病風に吹かれ（退却し）そうになった時のこと（を思い起こすのだ）。アッラー*が彼らの庇護者*だというのに。信仰者たちには、アッラー*にこそ全てを委ねさせよ*。

إِذۡ هَمَّت طَّآئِفَتَانِ مِنكُمۡ أَن تَفۡشَلَا وَٱللَّهُ
وَلِيُّهُمَاۗ وَعَلَى ٱللَّهِ فَلۡيَتَوَكَّلِ ٱلۡمُؤۡمِنُونَ ١٢٢

123. （信仰者たちよ、）アッラー*は確かに、まだあなた方が弱小であった時、バドル（の戦い*）であなた方に勝利を授けられた[3]。ならば（かれの恩恵に）感謝すべく、アッラー*を畏れる*のだ。

وَلَقَدۡ نَصَرَكُمُ ٱللَّهُ بِبَدۡرٖ وَأَنتُمۡ أَذِلَّةٞۖ فَٱتَّقُواْ ٱللَّهَ
لَعَلَّكُمۡ تَشۡكُرُونَ ١٢٣

---

1 これはウフドの戦い*のこと（ムヤッサル 65 頁）。

2 サリマ族とハーリサ族のこと。宗教において疑念を抱いていたわけではないが、アブドッラー・ブン・ウバイイ*が多数の兵と共に撤退（てったい）した際、戦力の低下によって士気が下がり、彼らの中に退却の気運が高まった。しかし彼らは結局、共に進軍した（アッ＝タバリー3:1947-1949 参照）。

3 バドルの戦い*については、戦利品*章の中に多くの描写が見られる。

124. （預言者*よ、）あなたが信仰者たちに、（こう）言った時のこと（を思い出させよ）。「あなた方の主*が、舞い降りる三千の天使*であなた方を増強させられれば、それで十分なのではないか？

إِذْ تَقُولُ لِلْمُؤْمِنِينَ أَلَن يَكْفِيَكُمْ أَن يُمِدَّكُمْ
رَبُّكُم بِثَلَاثَةِ آلَافٍ مِّنَ الْمَلَائِكَةِ مُنزَلِينَ ١٢٤

125. いや（、それで十分なのだ）。もし、あなた方が忍耐*して（主*を）畏れ*、彼ら（敵軍）があなた方のもとにそのように逸り立って（襲いかかって）来るならば、あなた方の主は目印をつけた[1]五千の天使*でもって、あなた方を増強させられる」。[2]

بَلَىٰ إِن تَصْبِرُوا وَتَتَّقُوا وَيَأْتُوكُم مِّن
فَوْرِهِمْ هَٰذَا يُمْدِدْكُمْ رَبُّكُم بِخَمْسَةِ
آلَافٍ مِّنَ الْمَلَائِكَةِ مُسَوِّمِينَ ١٢٥

126. そしてアッラー*がそうされたのは、（それが）あなた方への吉報となり、それであなた方の心が安らぐために外ならなかった。勝利は、偉力ならびなく*、英知あふれる*アッラー*の御許からのみ、訪れるのだ。

وَمَا جَعَلَهُ اللَّهُ إِلَّا بُشْرَىٰ لَكُمْ وَلِتَطْمَئِنَّ
قُلُوبُكُم بِهِ ۗ وَمَا النَّصْرُ إِلَّا مِنْ عِندِ
اللَّهِ الْعَزِيزِ الْحَكِيمِ ١٢٦

127. （バドルでの勝利は、アッラー*が）不信仰に陥った者*たちの一部を壊滅させたり、または彼らに苦汁を嘗めさせて、敗北者として撤退させたり、

لِيَقْطَعَ طَرَفًا مِّنَ الَّذِينَ كَفَرُوا
أَوْ يَكْبِتَهُمْ فَيَنقَلِبُوا خَائِبِينَ ١٢٧

1 この「目印」の解釈については、「肩までかかる白い（あるいは黄色い）ターバン」「まだらの馬に乗っていたこと」「たてがみと尻尾（しっぽ）に切り込みを入れて、そこに羊毛を飾り付けられた馬に乗っていたこと」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー 4:196 参照）。

2 アーヤ*124-125 は、バドルの戦い*のことであるという説と、ウフドの戦い*のことであるという説がある（イブン・カスィール 2:112-113 参照）。アッ＝タバリー*は、戦利品*章 9 にある「千の天使*」がバドルの戦い*で下ったのは確実だが、三千、または五千の天使*が下ったかどうかについては、バドルとウフドいずれの戦いにおいても確実な証拠はないとし、もしウフドの戦い*で多くの天使*が下されていたら、ムスリム*側にあのような被害は出ていなかっただろう、と述べている（3:1955 参照）。

128. ――（使徒*よ、）そのことについて、あなたには何の権限もない[1]――または彼らの悔悟を受け入れたり、あるいは彼らが不正*者であるがゆえに、彼らを懲らしめたりするためのものだったのだ。

لَيۡسَ لَكَ مِنَ ٱلۡأَمۡرِ شَيۡءٌ أَوۡ يَتُوبَ عَلَيۡهِمۡ
أَوۡ يُعَذِّبَهُمۡ فَإِنَّهُمۡ ظَٰلِمُونَ ١٢٨

129. そしてアッラー*にこそ、諸天にあるものと大地にあるものは、属する。かれはかれがお望みになる者をお赦しになり、またお望みになる者を罰される。アッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方。

وَلِلَّهِ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلۡأَرۡضِۚ
يَغۡفِرُ لِمَن يَشَآءُ وَيُعَذِّبُ مَن يَشَآءُۚ
وَٱللَّهُ غَفُورٞ رَّحِيمٞ ١٢٩

130. 信仰する者たちよ、利息*を何倍にも膨らませて、貪ってはならない[2]。また、あなた方が（現世と来世で）成功すべく、アッラー*を畏れ*よ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ لَا تَأۡكُلُواْ ٱلرِّبَوٰٓاْ
أَضۡعَٰفٗا مُّضَٰعَفَةٗۖ وَٱتَّقُواْ ٱللَّهَ لَعَلَّكُمۡ
تُفۡلِحُونَ ١٣٠

131. そして、不信仰者*たちのために用意されている業火を恐れ、

وَٱتَّقُواْ ٱلنَّارَ ٱلَّتِيٓ أُعِدَّتۡ لِلۡكَٰفِرِينَ ١٣١

132. あなた方がご慈悲を授かるよう、アッラー*と使徒*に従うのだ。

وَأَطِيعُواْ ٱللَّهَ وَٱلرَّسُولَ لَعَلَّكُمۡ تُرۡحَمُونَ ١٣٢

133. そして、あなた方の主*からのお赦しと天国（の獲得）に、奔走するがよい。（天国の）その広さは諸天と大地ほどもあり、敬虔な*者たちのために用意されている。

۞ وَسَارِعُوٓاْ إِلَىٰ مَغۡفِرَةٖ مِّن رَّبِّكُمۡ
وَجَنَّةٍ عَرۡضُهَا ٱلسَّمَٰوَٰتُ وَٱلۡأَرۡضُ
أُعِدَّتۡ لِلۡمُتَّقِينَ ١٣٣

---

1 全てのことはアッラー*に委ねられているのであり、かれは彼ら不信仰者*の内の者をムスリム*とされるかもしれないし、あるいは現世と来世において罰されるかもしれない（ムヤッサル 66 頁参照）。

2 利息*はいかなる形でも禁じられており（雌牛章 275 参照）、「何倍にも膨らませ」なければ問題ない、という意味ではない。このアーヤ*で描写されているのは、返済の期限日を延長するたびに借金の額を増やしていくという、当時のアラブ人の間で一般的だった利息の特徴を示しているだけである（アッ＝シャウカーニー1:622 参照）。

134. （彼ら敬虔な*者たちとは、）順境においても災難の中であっても施し、憤りを抑え[1]、人々を大目に見てやる者たち。アッラー*は善を尽くす者[2]たちを、お好みになる。

ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ فِي ٱلسَّرَّآءِ وَٱلضَّرَّآءِ
وَٱلۡكَٰظِمِينَ ٱلۡغَيۡظَ وَٱلۡعَافِينَ
عَنِ ٱلنَّاسِۗ وَٱللَّهُ يُحِبُّ ٱلۡمُحۡسِنِينَ ١٣٤

135. また、醜行[3]をしたり、（罪を犯すことで）自らに対して不正*をしたりした時にはアッラー*を思い出し、その罪の赦しを乞う者たち。――アッラー*の外に、誰が罪を赦すことが出来ようか？――そして彼らは、（アッラー*に悔悟すれば、それを受け入れられることを）知った上で、自分のした（悪い）ことに固執し続けることがない。

وَٱلَّذِينَ إِذَا فَعَلُواْ فَٰحِشَةً أَوۡ ظَلَمُوٓاْ
أَنفُسَهُمۡ ذَكَرُواْ ٱللَّهَ فَٱسۡتَغۡفَرُواْ
لِذُنُوبِهِمۡ وَمَن يَغۡفِرُ ٱلذُّنُوبَ إِلَّا ٱللَّهُ وَلَمۡ
يُصِرُّواْ عَلَىٰ مَا فَعَلُواْ وَهُمۡ يَعۡلَمُونَ ١٣٥

136. それらの者たち、その褒美は、彼らの主からのお赦しと、その下から河川が流れる楽園。彼らはそこに永住する。（アッラー*のために、善行に）励む者への褒美は、何と素晴らしいものか。

أُوْلَٰٓئِكَ جَزَآؤُهُم مَّغۡفِرَةٞ مِّن رَّبِّهِمۡ
وَجَنَّٰتٞ تَجۡرِي مِن تَحۡتِهَا ٱلۡأَنۡهَٰرُ خَٰلِدِينَ
فِيهَاۚ وَنِعۡمَ أَجۡرُ ٱلۡعَٰمِلِينَ ١٣٦

137. あなた方以前にも既に、（信仰者が不信仰者*との戦いという試練に遭い、最後には勝利するという）アッラー*の摂理が過ぎ去ってきた。ならば、あなた方は地上を旅して、（アッラー*と使徒*を）嘘呼ばわりした者たちの結末がどのようなものであったか、見てみるがよい。

قَدۡ خَلَتۡ مِن قَبۡلِكُمۡ سُنَنٞ فَسِيرُواْ
فِي ٱلۡأَرۡضِ فَٱنظُرُواْ كَيۡفَ كَانَ عَٰقِبَةُ
ٱلۡمُكَذِّبِينَ ١٣٧

138. これ（クルアーン*）は人々への明示であり、敬虔な*者たちへの導きと訓戒である。

هَٰذَا بَيَانٞ لِّلنَّاسِ وَهُدٗى وَمَوۡعِظَةٞ
لِّلۡمُتَّقِينَ ١٣٨

---

1 「憤り」と訳した原語「ガイズ」は、ただの怒りではなく、頭に血が昇る激しい憤りのこと（アッ＝ラーギブ 371）。相談章 37 とその訳注も参照。

2 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

3 「醜行」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。

139. （信仰者たちよ、ウフドの戦い*での被害ゆえに、）あなた方は衰弱したり、悲しんだりしてはならない。あなた方は勝利者なのである。もし、あなた方が信仰者であるのなら。

وَلَا تَهِنُوا۟ وَلَا تَحْزَنُوا۟ وَأَنتُمُ ٱلْأَعْلَوْنَ إِن
كُنتُم مُّؤْمِنِينَ ١٣٩

140. （信仰者たちよ、）たとえあなた方が痛手を負ったとしても、かの民[1]も確かに、（かつてバドルの戦い*で）同様の痛手を負ったのである[2]。われら*はそれらの日々を、人々の間に交互に配分するのだ[3]。また、（それは）アッラー*が信仰する者たちを如実に表され、あなた方の内から殉教者をお選びになるためである——アッラー*は、不正*者をお好みにはならない——。

إِن يَمْسَسْكُمْ قَرْحٌ فَقَدْ مَسَّ ٱلْقَوْمَ قَرْحٌ
مِّثْلُهُۥ ۚ وَتِلْكَ ٱلْأَيَّامُ نُدَاوِلُهَا بَيْنَ ٱلنَّاسِ
وَلِيَعْلَمَ ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَيَتَّخِذَ مِنكُمْ
شُهَدَآءَ ۗ وَٱللَّهُ لَا يُحِبُّ ٱلظَّـٰلِمِينَ ١٤٠

141. また（それは）、アッラー*が信仰する者たちを浄化[4]され、不信仰者*たちを根絶やしにされるためなのである。

وَلِيُمَحِّصَ ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَيَمْحَقَ
ٱلْكَـٰفِرِينَ ١٤١

142. いや、（教友*たちよ、）あなた方は、アッラー*があなた方の内の努力奮闘する者たちを如実に表されず、忍耐*ある者たちを露わにされてもいないというのに、天国に入れるとでも思い込んでいたのか？

أَمْ حَسِبْتُمْ أَن تَدْخُلُوا۟ ٱلْجَنَّةَ وَلَمَّا يَعْلَمِ ٱللَّهُ
ٱلَّذِينَ جَـٰهَدُوا۟ مِنكُمْ وَيَعْلَمَ ٱلصَّـٰبِرِينَ ١٤٢

---

1 「かの民」とは、マッカ*の不信仰者*たちのこと（ムヤッサル 67 頁参照）。

2 バドル・ウフド両方の戦いにおける両軍の被害に関しては、アーヤ*165 とその訳注を参照。

3 「それらの日々」とは、戦争の勝ち負けのこと。具体的に、バドルの戦い*ではムスリム*側が勝利したが、続くウフドの戦い*においてはマッカ*軍が形勢を逆転させた（アッ＝タバリー3:1982-1984 参照）。

4 罪や汚点から「浄化」され、偽信者*から判別・精選されること（アッ＝サアディー150 頁参照）。

143. また（信仰者たちよ）、あなた方は確かに（ウフドの戦い*以前には、殉教による）死を望んでいたのだ。それ（死）に直面する前には。そして確かに、あなた方はそれをまざまざと、目の当たりにした。[1]

وَلَقَدۡ كُنتُمۡ تَمَنَّوۡنَ ٱلۡمَوۡتَ مِن قَبۡلِ أَن
تَلۡقَوۡهُ فَقَدۡ رَأَيۡتُمُوهُ وَأَنتُمۡ تَنظُرُونَ ١٤٣

144. ムハンマド*は、一人の使徒*に過ぎない。彼以前にも、使徒*たちが滅び去っていったのである。それでもし彼が死んだり、殺されたりしたら、あなた方は踵を返すのか[2]？　踵を返す者があっても、その者が少しもアッラー*を害することはない。アッラー*は（その恩恵に）感謝する者たちに、（善く）お報いになる。

وَمَا مُحَمَّدٌ إِلَّا رَسُولٞ قَدۡ خَلَتۡ مِن قَبۡلِهِ
ٱلرُّسُلُۚ أَفَإِيْن مَّاتَ أَوۡ قُتِلَ ٱنقَلَبۡتُمۡ عَلَىٰٓ
أَعۡقَٰبِكُمۡۚ وَمَن يَنقَلِبۡ عَلَىٰ عَقِبَيۡهِ فَلَن يَضُرَّ
ٱللَّهَ شَيۡـٔٗاۗ وَسَيَجۡزِي ٱللَّهُ ٱلشَّٰكِرِينَ ١٤٤

145. また、定められた期限というアッラー*のお許しなくしては、誰も死ぬことがない。そして誰でも現世の褒美を望む者には、われらがそこ（現世の褒美）から与えよう。また、誰でも来世の褒美を望む者には、われら*がそこ（来世の褒美）から与えよう[3]。われら*は感謝する者たちに、（よく）報いるのだ。

وَمَا كَانَ لِنَفۡسٍ أَن تَمُوتَ إِلَّا بِإِذۡنِ
ٱللَّهِ كِتَٰبٗا مُّؤَجَّلٗاۗ وَمَن يُرِدۡ ثَوَابَ ٱلدُّنۡيَا
نُؤۡتِهِۦ مِنۡهَا وَمَن يُرِدۡ ثَوَابَ ٱلۡأٓخِرَةِ نُؤۡتِهِۦ
مِنۡهَاۚ وَسَنَجۡزِي ٱلشَّٰكِرِينَ ١٤٥

---

1 バドルの戦い*に参加出来なかった教友*たちの多くは、また戦いの機会が訪れることを望んでいた。このアーヤ*は彼ら、そして特にマディーナ*郊外へと戦いに出ることを強く主張した者たち（頻出名・用語解説「ウフドの戦い*」参照）に対する、お叱（しか）りである（アル＝クルトゥビー4:220-221 参照）。

2 不信仰へと戻るのか、の意（ムヤッサル 68 頁参照）。このアーヤ*は、ムスリム*軍がウフドの戦い*で劣勢（れっせい）になった時、「ムハンマド*は戦死した」という噂（うわさ）が流れ、ムスリム*たちの士気が下がり、尻込みし始めた折に下ったとされる（イブン・カスィール 2:128 参照）。

3 ただし、前者は現世での報いや必要の一部を満たされるだけで、来世での褒美はない。一方後者は、現世での必要を満たされる上に、来世での褒美も授かることになる（アッ＝タバリー3:1995 参照）。

146. どれだけ多くの預言者*と共に、数多くの信徒[1]が戦ったことであろう。そして彼らは、アッラー*の道において自分たちに降りかかったもの[2]ゆえに衰弱したり、弱体化したり、（敵に対して）屈したりもしなかった。アッラー*は、忍耐*ある者たちをお好みになる。

وَكَأَيِّن مِّن نَّبِيٍّ قَٰتَلَ مَعَهُۥ رِبِّيُّونَ كَثِيرٌ
فَمَا وَهَنُواْ لِمَآ أَصَابَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ وَمَا ضَعُفُواْ
وَمَا ٱسۡتَكَانُواْۗ وَٱللَّهُ يُحِبُّ ٱلصَّٰبِرِينَ ١٤٦

147. そして彼ら（忍耐*ある者たち）の言葉は、（こう）言うものでしかなかった。「我らが主*よ、私たちの罪と、自分たちの（宗教上の）事における私たちの行き過ぎ[3]を、お赦し下さい。そして私たちの足を堅固にし、不信仰者*の民に対して勝利をお授け下さい」。

وَمَا كَانَ قَوۡلَهُمۡ إِلَّآ أَن قَالُواْ رَبَّنَا ٱغۡفِرۡ لَنَا ذُنُوبَنَا
وَإِسۡرَافَنَا فِيٓ أَمۡرِنَا وَثَبِّتۡ أَقۡدَامَنَا
وَٱنصُرۡنَا عَلَى ٱلۡقَوۡمِ ٱلۡكَٰفِرِينَ ١٤٧

148. こうしてアッラー*は、彼らに現世の褒美と、来世の素晴らしい褒美[4]を授けられた。アッラー*は、善を尽くす者[5]たちをお好みになる。

فَـَٔاتَىٰهُمُ ٱللَّهُ ثَوَابَ ٱلدُّنۡيَا وَحُسۡنَ ثَوَابِ
ٱلۡأٓخِرَةِۗ وَٱللَّهُ يُحِبُّ ٱلۡمُحۡسِنِينَ ١٤٨

149. 信仰する者たちよ、あなた方がもし不信仰に陥った者*たちに従うならば、彼らは（不信仰へと）あなた方の踵を返させ、あなた方は損失者へと舞い戻ってしまうであろう。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِن تُطِيعُواْ
ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ يَرُدُّوكُمۡ عَلَىٰٓ
أَعۡقَٰبِكُمۡ فَتَنقَلِبُواْ خَٰسِرِينَ ١٤٩

150. いや、アッラー*があなた方の庇護者*なのであり、かれが最善の援助者なのだ。

بَلِ ٱللَّهُ مَوۡلَىٰكُمۡۖ وَهُوَ خَيۡرُ
ٱلنَّٰصِرِينَ ١٥٠

1 「信徒（リッビーユ）」とは、預言者*たちが信仰と正しい行い*のもとに育てあげた、彼らの追従（ついじゅう）者たちのこと（アッ＝サァディー151 頁参照）。

2 怪我（けが）や死のこと（ムヤッサル 68 頁参照）。

3 ここでの「罪」は小さい罪で、「行き過ぎ」は大罪*である、と言われる（アッ＝タバリー 3:2000 参照）。

4 前者の「褒美」は敵に対する勝利や地上での確立で、後者は天国であると言われる（ムヤッサル 68 頁参照）。

5 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

151. われら*はじきに、不信仰に陥った者*たちの心に恐怖を投げ込もう。彼らが、アッラー*が（崇拝*における正当性に関する）いかなる根拠も下されなかったものを、かれに並べ（て崇め）たことゆえに。そして彼らの住処は業火なのだ。不正*者たちの住まいは、何と醜悪なことか。

سَنُلْقِي فِي قُلُوبِ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ ٱلرُّعْبَ
بِمَآ أَشْرَكُوا۟ بِٱللَّهِ مَا لَمْ يُنَزِّلْ بِهِۦ
سُلْطَٰنًا ۖ وَمَأْوَىٰهُمُ ٱلنَّارُ ۚ وَبِئْسَ
مَثْوَى ٱلظَّٰلِمِينَ ١٥١

152. また、あなた方がアッラー*のお許しにより、（ウフドの戦い*で）彼ら（不信仰者*）を討伐していた時、かれは確かにあなた方への（勝利の）約束を果たされた。かれがあなた方の好むもの（である勝利と戦利品*）をお見せになった後、あなた方が尻込みし、命令[1]のことで争い始め、（それに）背くまでは。――あなた方の中には、現世を欲する者もいれば、来世を欲する者もいる[2]――。それからかれ（アッラー*）はあなた方を試されるため、あなた方を彼ら（への勝利）から転じさせられた。そしてかれは、もうあなた方を大目に見て下さったのである。アッラー*は信仰者たちに対する、恩寵の主であられるのだから。

وَلَقَدْ صَدَقَكُمُ ٱللَّهُ وَعْدَهُۥٓ
إِذْ تَحُسُّونَهُم بِإِذْنِهِۦ ۖ حَتَّىٰٓ إِذَا
فَشِلْتُمْ وَتَنَٰزَعْتُمْ فِي ٱلْأَمْرِ وَعَصَيْتُم
مِّنۢ بَعْدِ مَآ أَرَىٰكُم مَّا تُحِبُّونَ ۚ
مِنكُم مَّن يُرِيدُ ٱلدُّنْيَا وَمِنكُم
مَّن يُرِيدُ ٱلْءَاخِرَةَ ۚ ثُمَّ صَرَفَكُمْ عَنْهُمْ
لِيَبْتَلِيَكُمْ ۖ وَلَقَدْ عَفَا عَنكُمْ ۗ
وَٱللَّهُ ذُو فَضْلٍ عَلَى ٱلْمُؤْمِنِينَ ١٥٢

153. （教友*たちよ、）あなた方が（敵軍から逃げて山を駆け）登り、誰のことも顧みなかった時のこと（を思い出せ）。使徒*は（戦場に留まり）、あなた方のことを後方から呼んでいた。それでかれ（アッ

۞ إِذْ تُصْعِدُونَ وَلَا تَلْوُۥنَ
عَلَىٰٓ أَحَدٍ وَٱلرَّسُولُ يَدْعُوكُمْ
فِيٓ أُخْرَىٰكُمْ فَأَثَٰبَكُمْ غَمًّۢا
بِغَمٍّ لِّكَيْلَا تَحْزَنُوا۟ عَلَىٰ

1 この「命令」とは、預言者*ムハンマド*が弓兵（きゅうへい）たちに対し、「絶対に持ち場を離れないように」と仰（おっしゃ）ったこと（アッ＝タバリー3:2009 参照）。

2 前者は現世の恩恵、つまり戦利品*を得るのに躍起（やっき）だった者たち。後者はそれよりも、使徒*の命令に忠実に従うことで、来世の褒美を望んだ者たち（イブン・アーシュール 4:129 参照）。

مَا فَاتَكُمْ وَلَا مَآ أَصَٰبَكُمْ ۗ
وَٱللَّهُ خَبِيرٌۢ بِمَا تَعْمَلُونَ ﴿١٥٣﴾

ラー*）は暗雲に次ぐ暗雲[1]で、あなた方に報われた。（それは）あなた方が逃したもの（勝利と戦利品*）や、あなた方に降りかかったこと（恐怖や敗北）について、あなた方が悲しまないようにするためであった[2]。アッラー*は、あなた方の行うこと（全て）に通暁されている。

ثُمَّ أَنزَلَ عَلَيْكُم مِّنۢ بَعْدِ ٱلْغَمِّ أَمَنَةً نُّعَاسًا
يَغْشَىٰ طَآئِفَةً مِّنكُمْ ۖ وَطَآئِفَةٌ قَدْ أَهَمَّتْهُمْ
أَنفُسُهُمْ يَظُنُّونَ بِٱللَّهِ غَيْرَ ٱلْحَقِّ ظَنَّ
ٱلْجَٰهِلِيَّةِ ۖ يَقُولُونَ هَل لَّنَا مِنَ ٱلْأَمْرِ مِن شَىْءٍ ۗ
قُلْ إِنَّ ٱلْأَمْرَ كُلَّهُۥ لِلَّهِ ۗ يُخْفُونَ فِىٓ أَنفُسِهِم مَّا لَا
يُبْدُونَ لَكَ ۖ يَقُولُونَ لَوْ كَانَ لَنَا مِنَ ٱلْأَمْرِ شَىْءٌ مَّا
قُتِلْنَا هَٰهُنَا ۗ قُل لَّوْ كُنتُمْ فِى بُيُوتِكُمْ لَبَرَزَ ٱلَّذِينَ
كُتِبَ عَلَيْهِمُ ٱلْقَتْلُ إِلَىٰ مَضَاجِعِهِمْ ۖ وَلِيَبْتَلِىَ
ٱللَّهُ مَا فِى صُدُورِكُمْ وَلِيُمَحِّصَ مَا فِى
قُلُوبِكُمْ ۗ وَٱللَّهُ عَلِيمٌۢ بِذَاتِ ٱلصُّدُورِ ﴿١٥٤﴾

154. それからかれはその暗雲の後、あなた方へ安らぎを、つまりまどろみを下された。それは、あなた方の一派（信仰者たち）を包んでくれた。一方、自分たちの身がとても心配であ（り、眠れなか）った（別の）一派（である偽信者*たち）は、アッラー*に対し、不当にもジャーヒリーヤ*の憶測のような憶測[3]をしている。彼らは言うのだ。「私たちにはその事で、どうすることも出来なかったのではないか？[4]」（使徒*よ、彼らにこう）言ってやるが

---

1 この二つの「暗雲」については、前者と後者がそれぞれ「①戦死や負傷、②預言者が殺されたという噂（うわさ）」「①勝利と戦利品を逃したこと、②戦死と敗北」「①敗北、②アブー・スフヤーン*と騎兵隊の将軍ハーリドが、山の上方に陣取（じんど）ったこと。ムスリム*たちは、それにより自分たちが壊滅（かいめつ）させられることを恐れた」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー4:240 参照）。

2 この解釈については、「この文は、アーヤ*152 の『そしてかれは、…大目に見て下さったのである』にかかる」「この文は『それでかれは…報われた』にかかるが、『悲しまないようにするため』という文中の否定句『ラー』は否定の意味ではなく、虚辞（きょじ）句で、『悲しむようにするため』という意味である」「続けざまに起きた一連の出来事が、それ以前の『暗雲』を軽減させ、忘れさせた」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー4:241 参照）。

3 結局アッラー*は使徒*を援助されず、この敗北によってイスラーム*は終わったのだという「憶測」のこと（アッ＝サァディー153 頁参照）。

4 一説にこれは、戦利品*を求め、信仰者たちの目を恐れつつ、ウフドの戦い*に出た偽信者*たちの言葉。つまり、戦いのためにマディーナ*の「外に出ることは、自分たちにはどうにもならなかったことなのであり、自分たちは嫌々出てきたのだ」ということ（アル＝クルトゥビー4:242 参照）。また一説に、これはアブドッラー・ブン・ウバイイ*の言葉で、「彼ら（ムスリム*たち）は自分たちの言うことを聞かなかった」という意味（イブン・ジュザイ 1:162 参照）。「私たちには、勝利などなかったではないか」という解釈もある（アル＝バガウィー1:525 参照）。

いい。「事は、全てアッラー*に属する」。彼らはあなたに明かしていないことを、胸中に潜めている。彼らは、（こう）言うのだ。「もし私たちに、その事に関して何か出来たなら、こんな所で殺されはしなかったのに」。言ってやるがいい。「たとえあなた方が（出征せずに）家の中に留まったとしても、殺されることを定められている者は、死に場所へと（自ら）出て来るものなのである」。そして（それは）、アッラー*があなた方の胸中にあるものを試され、またあなた方の心中にあるものを浄化[1]されるためであった。アッラー*は、胸中にあるものをご存知になるお方である。

155. （教友*たちよ、）両軍が会した（ウフドの戦い*の）日、本当にあなた方の内で逃亡した者たちは、彼らが稼いだもの（罪）の一部によって、シャイターン*が滑り落とさせたに外ならない[2]。アッラー*は、もう彼らを大目に見られた。本当にアッラー*は赦し深いお方、寛大な*お方なのだから。

إِنَّ ٱلَّذِينَ تَوَلَّوۡاْ مِنكُمۡ يَوۡمَ ٱلۡتَقَى ٱلۡجَمۡعَانِ
إِنَّمَا ٱسۡتَزَلَّهُمُ ٱلشَّيۡطَٰنُ بِبَعۡضِ مَا كَسَبُواْۖ
وَلَقَدۡ عَفَا ٱللَّهُ عَنۡهُمۡۗ إِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٌ حَلِيمٞ ١٥٥

156. 信仰する者たちよ、不信仰に陥り、自分たちの同胞に対し、彼らが地上を旅したり、または出征中だったりし（て落命し）た時、（こう）言った者たちのようになってはならない。「もし彼らが私たちのもとに（留まって）いたなら、死んだり、殺されたりすることもなかったのに」。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ لَا تَكُونُواْ كَٱلَّذِينَ كَفَرُواْ
وَقَالُواْ لِإِخۡوَٰنِهِمۡ إِذَا ضَرَبُواْ فِي ٱلۡأَرۡضِ أَوۡ كَانُواْ
غُزّٗى لَّوۡ كَانُواْ عِندَنَا مَا مَاتُواْ وَمَا قُتِلُواْ
لِيَجۡعَلَ ٱللَّهُ ذَٰلِكَ حَسۡرَةٗ فِي قُلُوبِهِمۡۗ وَٱللَّهُ
يُحۡيِۦ وَيُمِيتُۗ وَٱللَّهُ بِمَا تَعۡمَلُونَ بَصِيرٞ ١٥٦

1 この「浄化」については、アーヤ*141 の訳注を参照。

2 つまり彼らはシャイターン*の誘いに応じて、預言者*の命令に反したり、戦利品*や現世に目がくらんだりすることで、罪を犯してしまった（アル＝バイダーウィー2:106 参照）。

（それは）アッラー*がそのこと[1]で、彼らの心に（更なる）悲痛をお与えになるためなのだ。アッラー*は生を与え、死を与えられる。そしてアッラー*は、あなた方の行いを（全て）ご覧になるお方。

157. （信仰者たちよ、）もしも、あなた方がアッラー*の道において殺されたり、死んだりしたとしても、アッラー*からのお赦しとご慈悲こそは、彼らが（現世で）集めるものよりも優るのだ。

وَلَئِن قُتِلْتُمْ فِي سَبِيلِ اللَّهِ أَوْ مُتُّمْ لَمَغْفِرَةٌ
مِّنَ اللَّهِ وَرَحْمَةٌ خَيْرٌ مِّمَّا يَجْمَعُونَ ١٥٧

158. そして、もしもあなた方が死んだり、殺されたりしても、あなた方は必ずや（復活の日*、）アッラー*の御許に召集されるのである。

وَلَئِن مُّتُّمْ أَوْ قُتِلْتُمْ لَإِلَى اللَّهِ تُحْشَرُونَ ١٥٨

159. （預言者*よ、）あなたが彼ら（教友*たち）に優しかったのは、アッラーのご慈悲によるものであった。あなたがもし粗野で硬い心の持ち主だったなら、彼らはあなたの周囲から離れ去っただろう。ならば（預言者*よ、）彼らを大目に見、彼らのために（アッラー*の）お赦しを乞い、また（必要な）諸事においては彼らと相談せよ[2]。そして決意したならば、（その結果は）アッラー*に全てを委ねる*のだ。本当にアッラー*は、全てを（かれに）委ねる*者たちをお好みになるのだから。

فَبِمَا رَحْمَةٍ مِّنَ اللَّهِ لِنتَ لَهُمْ ۖ وَلَوْ كُنتَ فَظًّا
غَلِيظَ الْقَلْبِ لَانفَضُّوا مِنْ حَوْلِكَ ۖ فَاعْفُ
عَنْهُمْ وَاسْتَغْفِرْ لَهُمْ وَشَاوِرْهُمْ فِي الْأَمْرِ ۖ فَإِذَا
عَزَمْتَ فَتَوَكَّلْ عَلَى اللَّهِ ۚ إِنَّ اللَّهَ يُحِبُّ الْمُتَوَكِّلِينَ ١٥٩

---

1 「そのこと」とは、アッラー*の定めた運命に逆行するような言葉や信念のこと（アッ＝サァディー153頁参照）。

2 アル＝ハサン*はこのアーヤ*に関して、こう言っている。「アッラー*は、彼（預言者*）が彼らのことをそもそも必要としていないことをご存知であるが、彼以後の者たちが（その行為において）彼を模範（もはん）にすることをお望みになった」（イブン・アビー・ハーティム4416参照）。

160. もしアッラー*があなた方をお助けになれば、あなた方を打ち負かすものは何一つない。また、もしかれがあなた方を見捨てられれば、かれを差しおいてあなた方を助ける者とは、一体誰なのか？　信仰者たちには、アッラー*にこそ全てを委ね*させよ。

إِن يَنصُرۡكُمُ ٱللَّهُ فَلَا غَالِبَ لَكُمۡۖ
وَإِن يَخۡذُلۡكُمۡ فَمَن ذَا ٱلَّذِي يَنصُرُكُم مِّنۢ
بَعۡدِهِۦۗ وَعَلَى ٱللَّهِ فَلۡيَتَوَكَّلِ ٱلۡمُؤۡمِنُونَ ١٦٠

161. 預言者*がごまかすなどということは、あり得ない[1]。そしてごまかす者は誰であろうと、復活の日*にその着服したものを携えてやって来る[2]のだ。それから各人は不正*を受けることなく、自らが稼いだもの（の報い）を全うされる。

وَمَا كَانَ لِنَبِيٍّ أَن يَغُلَّۚ وَمَن يَغۡلُلۡ يَأۡتِ
بِمَا غَلَّ يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِۚ ثُمَّ تُوَفَّىٰ كُلُّ
نَفۡسٖ مَّا كَسَبَتۡ وَهُمۡ لَا يُظۡلَمُونَ ١٦١

162. 一体、アッラー*のお喜びを追求し（て服従し）た者は、（不服従ゆえに）アッラー*の激怒と共に戻って来て[3]、その住処が地獄となる者と同じだろうか？　その行き先は、何と醜悪であろう。

أَفَمَنِ ٱتَّبَعَ رِضۡوَٰنَ ٱللَّهِ كَمَنۢ بَآءَ بِسَخَطٖ
مِّنَ ٱللَّهِ وَمَأۡوَىٰهُ جَهَنَّمُۖ وَبِئۡسَ ٱلۡمَصِيرُ ١٦٢

163. 彼らは、アッラー*の御許において（様々に異なる）位なのである。アッラー*は、彼らの行いを（一つ残さず）ご覧になるお方。

هُمۡ دَرَجَٰتٌ عِندَ ٱللَّهِۗ وَٱللَّهُ بَصِيرُۢ بِمَا
يَعۡمَلُونَ ١٦٣

---

1 このアーヤ*は、「バドルの戦い*で、預言者*が戦利品*の一つをせしめた、という噂（うわさ）を立てられたこと」に関して下ったとも、「偽信者*たちが、ある紛失（ふんしつ）物について、彼に濡（ぬ）れ衣をかけたこと」に関して下った、とも言われる。いずれにせよ、託された物事の遂行、戦利品*の分配など全てのことにおいて、預言者*がごまかしをすることはない（イブン・カスィール 2：150-151 参照）。

2 戦利品*などを着服した者は、復活の日*にそれを首の周りに巻きつけた状態で現れる。そしてアッラー*の使徒*のもとに赴（おもむ）いてその苦しみを訴えるが、それは却下（きゃっか）される（アル＝ブハーリー3073 参照）。

3 この表現については、雌牛章 161「アッラー*のお怒りと共に…」の訳注を参照。

164. アッラー*は信仰者たちの上に、確かにお恵みをかけられた。かれが彼ら自身の内から彼らの中に、その御徴（アーヤ*）を彼らに誦み聞かせ、彼らを清め、彼らに啓典と英知[1]を教える一人の使徒*を遣わされた時のこと。（その使徒*が遣わされる）以前、彼らは明白な迷いの中にあったのだ。

لَقَدْ مَنَّ ٱللَّهُ عَلَى ٱلْمُؤْمِنِينَ إِذْ بَعَثَ فِيهِمْ
رَسُولًا مِّنْ أَنفُسِهِمْ يَتْلُوا۟ عَلَيْهِمْ ءَايَٰتِهِۦ
وَيُزَكِّيهِمْ وَيُعَلِّمُهُمُ ٱلْكِتَٰبَ وَٱلْحِكْمَةَ
وَإِن كَانُوا۟ مِن قَبْلُ لَفِى ضَلَٰلٍ مُّبِينٍ ١٦٤

165. 一体、（ウフドの戦い*で）あなた方に災難――あなた方は既に（バドルの戦い*で）、その倍の被害を（敵に）与えている[2]――が降りかかった時、あなた方は「これは一体どうしたことか？」などと言うのか？　（預言者*よ、）言ってやるがいい。「それは（預言者*の命令[3]に反したことが原因で起きた）、あなた方自身によるものである。本当にアッラー*は、全てのことがお出来のお方」。

أَوَلَمَّآ أَصَٰبَتْكُم مُّصِيبَةٌ قَدْ أَصَبْتُم
مِّثْلَيْهَا قُلْتُمْ أَنَّىٰ هَٰذَا ۖ قُلْ هُوَ مِنْ عِندِ
أَنفُسِكُمْ ۗ إِنَّ ٱللَّهَ عَلَىٰ كُلِّ شَىْءٍ قَدِيرٌ ١٦٥

166. また、両軍が会した（ウフドの戦い*の）日にあなた方に降りかかったことは、アッラー*のお許し（定め）によるものであり、そして信仰者たちが如実に表され、

وَمَآ أَصَٰبَكُمْ يَوْمَ ٱلْتَقَى ٱلْجَمْعَانِ فَبِإِذْنِ ٱللَّهِ
وَلِيَعْلَمَ ٱلْمُؤْمِنِينَ ١٦٦

167. 偽の信仰だった者たちが明るみになるためであった。彼ら（偽信者*たち）には、（こう）言われたのだ。「来なさい、アッラー*の道において（私たちと共に）戦うか、または（軍に加勢して人数を増

وَلِيَعْلَمَ ٱلَّذِينَ نَافَقُوا۟ ۚ وَقِيلَ لَهُمْ تَعَالَوْا۟ قَٰتِلُوا۟
فِى سَبِيلِ ٱللَّهِ أَوِ ٱدْفَعُوا۟ ۖ قَالُوا۟ لَوْ نَعْلَمُ قِتَالًا
لَّٱتَّبَعْنَٰكُمْ ۗ هُمْ لِلْكُفْرِ يَوْمَئِذٍ أَقْرَبُ مِنْهُمْ
لِلْإِيمَٰنِ ۚ يَقُولُونَ بِأَفْوَٰهِهِم مَّا لَيْسَ فِى

---

1 「清める」「英知」に関しては、雌牛章 129 の訳注を参照。

2 ウフドの戦い*におけるムスリム*軍の被害は七十名の死者だったが、バドルの戦い*におけるマッカ*軍の被害は七十名の死者および七十名の捕虜であった（アッ＝タバリー3:2048参照）。

3 この「命令」については、アーヤ*152 の訳注を参照。

やし、敵を）追い返すのだ」。彼ら（偽(にせ)信者*たち）は、言った。「もし戦いが（本当にあることが）分かれば、あなた方について行ったのだが[1]」。彼らはその日、信仰よりも不信仰の方に近かった。彼らは自分たちの心にもないことを、口先で言っているのだ。アッラー*は、彼らが隠していることを最もよくご存知である。

قُلُوبِهِمۡۚ وَٱللَّهُ أَعۡلَمُ بِمَا يَكۡتُمُونَ ١٦٧

168. （彼ら偽(にせ)信者*たちは、出征(しゅっせい)せずに）留(とど)まりつつ、彼らの同胞[2]に、「もし彼らが私たちに従(したが)っていたら、殺されなかったのに」などと言った者たち。（使徒(しと)*よ、）言ってやるがいい。「では、自分自身から死を押しのけてみよ。もし、あなた方が真実を語っているのならば」。

ٱلَّذِينَ قَالُواْ لِإِخۡوَٰنِهِمۡ وَقَعَدُواْ لَوۡ أَطَاعُونَا
مَا قُتِلُواْۗ قُلۡ فَٱدۡرَءُواْ عَنۡ أَنفُسِكُمُ ٱلۡمَوۡتَ
إِن كُنتُمۡ صَٰدِقِينَ ١٦٨

169. （預言者(よげんしゃ)*よ、）アッラー*の道において殺された者たちを、決して死人だなどと思ってはならない。いや、彼らは、彼らの主(しゅ)*の御許(みもと)で生きており、糧(かて)を授(さず)かっているのだ。[3]

وَلَا تَحۡسَبَنَّ ٱلَّذِينَ قُتِلُواْ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ أَمۡوَٰتَۢاۚ
بَلۡ أَحۡيَآءٌ عِندَ رَبِّهِمۡ يُرۡزَقُونَ ١٦٩

170. 彼らは、アッラー*がそのご恩寵(おんちょう)から彼らにお授(さず)けになったものに喜び、その後方でまだ自分たちには追いついてはいない

فَرِحِينَ بِمَآ ءَاتَىٰهُمُ ٱللَّهُ مِن فَضۡلِهِۦ
وَيَسۡتَبۡشِرُونَ بِٱلَّذِينَ لَمۡ يَلۡحَقُواْ بِهِم
مِّنۡ خَلۡفِهِمۡ أَلَّا خَوۡفٌ عَلَيۡهِمۡ وَلَا هُمۡ يَحۡزَنُونَ ١٧٠

---

1 これは、偽信者*アブドッラー・ブン・ウバイイ*がウフド山への行軍中、約三百の兵と共に撤退（てったい）した時に言った言葉とされる（イブン・イスハーク 1:333 参照）。

2 この「同胞」には、「宗教上の同胞ではなく、彼らと血縁・隣人関係にあった、ハズラジュ族の殉教者たち」「彼らと同様の偽信者*たち」という説がある（アル＝クルトゥビー4:267 参照）。

3 ウフドでの殉教者たちの魂は、天国の河川で遊び、その果実をついばみ、アッラー*の玉座の陰にある金のランプにとまる、緑色の鳥の中に入れられたという（アフマド 2388、アブー・ダーウード 2520 参照）。雌牛章 154 の訳注も参照。

（、アッラー*の道に戦う）者たち（が同様のものを勝ち取ること）に、心躍らせている。彼らには怖れもなければ、悲しむこともないのだ[1]、と。

171. 彼らはアッラー*からの恩恵と恩寵に、そしてアッラー*が信仰者たちへの褒美を決して無駄にされないということに、心躍らせている。

*يَسۡتَبۡشِرُونَ بِنِعۡمَةٖ مِّنَ ٱللَّهِ وَفَضۡلٖ
وَأَنَّ ٱللَّهَ لَا يُضِيعُ أَجۡرَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ١٧١

172. （彼らは戦いで）痛手を負った後でも、アッラー*と使徒*（の呼びかけ）に応えた者たち[2]。彼らの内、善を尽くし[3]、敬虔だった*者たちには、この上ない褒美がある。

ٱلَّذِينَ ٱسۡتَجَابُواْ لِلَّهِ وَٱلرَّسُولِ مِنۢ بَعۡدِ
مَآ أَصَابَهُمُ ٱلۡقَرۡحُۚ لِلَّذِينَ أَحۡسَنُواْ مِنۡهُمۡ
وَٱتَّقَوۡاْ أَجۡرٌ عَظِيمٌ ١٧٢

173. （彼らは、）人々が彼らに向かって「本当に人々（マッカ*軍）は、あなた方のために既に集結している。だから、彼らを恐れよ」[4]と言った後、（却って）それが彼らの信仰心を増大させ、（こう）言った者たち。「私たちには、アッラー*だけで十分。全てを請け負われる*お方は、何と素晴らしいことか」。

ٱلَّذِينَ قَالَ لَهُمُ ٱلنَّاسُ إِنَّ ٱلنَّاسَ قَدۡ جَمَعُواْ
لَكُمۡ فَٱخۡشَوۡهُمۡ فَزَادَهُمۡ إِيمَٰنٗا وَقَالُواْ
حَسۡبُنَا ٱللَّهُ وَنِعۡمَ ٱلۡوَكِيلُ ١٧٣

---

1 「怖れもなければ…」については、雌牛章 38 の訳注を参照。

2 マッカ*軍はウフドの戦い*でマディーナ*軍に痛手を負わせた後、マッカ*へと立ち去った。しかし彼らがマディーナ*に立ち寄って、更なる被害を与える気配を見せた時、預言者*は彼らに自分たちの余力を見せ、威嚇すべく、彼らを追跡するよう提案した。これは、痛手を負っていたにも関わらず、預言者*のこの呼びかけに応え、ハムラーウ・アル＝アサド（マディーナ*から約八マイル離れた地点）まで行軍した者たちのことを指しているとされる（イブン・カスィール 2:165-169 参照）。

3 「善を尽くす」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

4 アブー・スフヤーン*はマッカ*へと戻る道中、マディーナ*軍が彼らを追跡している、との知らせを受けた。恐怖に襲われた彼は、マディーナ*へ向かう隊商の人々を買収し、ムスリム*軍と出遭ったらこのように言うように頼んだ上で、マッカ*への撤退を続行した（イブン・ヒシャーム 3:66-68 参照）。

174. こうして彼らは何の災厄も降りかかることなく、アッラー*からの恩恵と恩寵と共に（マディーナ*に）帰還した。彼らは、アッラー*のお喜びを追及し（て服従し）たのである。アッラー*は、偉大な恩寵の主であられる。

فَٱنقَلَبُواْ بِنِعۡمَةٖ مِّنَ ٱللَّهِ وَفَضۡلٖ لَّمۡ
يَمۡسَسۡهُمۡ سُوٓءٞ وَٱتَّبَعُواْ رِضۡوَٰنَ ٱللَّهِۗ
وَٱللَّهُ ذُو فَضۡلٍ عَظِيمٍ ١٧٤

175. 実にあの者[1]は、その盟友に対して（あなた方を）怖気づかせるシャイターン*なのだ。ならば彼らを怖れず、われを怖れよ。もし、あなた方が信仰者であるならば。

إِنَّمَا ذَٰلِكُمُ ٱلشَّيۡطَٰنُ يُخَوِّفُ أَوۡلِيَآءَهُۥ
فَلَا تَخَافُوهُمۡ وَخَافُونِ إِن كُنتُم مُّؤۡمِنِينَ ١٧٥

176. （使徒*よ、）不信仰に急ぐ者たちが、あなたを悲しませるようであってはならない。本当に彼らは、少しもアッラー*を害することなどないのだから。アッラー*は来世において、彼らに（褒美の）分け前など与えないことをお望みなのである。そして彼らには、この上ない懲罰があるのだ。

وَلَا يَحۡزُنكَ ٱلَّذِينَ يُسَٰرِعُونَ فِي ٱلۡكُفۡرِۚ إِنَّهُمۡ
لَن يَضُرُّواْ ٱللَّهَ شَيۡـٔٗاۗ يُرِيدُ ٱللَّهُ أَلَّا يَجۡعَلَ لَهُمۡ
حَظّٗا فِي ٱلۡأٓخِرَةِۖ وَلَهُمۡ عَذَابٌ عَظِيمٌ ١٧٦

177. 本当に、信仰と引き換えに不信仰を買った者たちは、少しもアッラー*を害することなどない。そして彼らには、痛ましい懲罰がある。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ٱشۡتَرَوُاْ ٱلۡكُفۡرَ بِٱلۡإِيمَٰنِ لَن يَضُرُّواْ
ٱللَّهَ شَيۡـٔٗاۖ وَلَهُمۡ عَذَابٌ أَلِيمٞ ١٧٧

178. 不信仰に陥った者*たちは、われら*が彼らに（懲罰を下さず）猶予を与えてやっていることを、自分たちにとって善いことだなどと断じて思ってはならない。われらは、彼らが自分たちに罪を上乗せさせるべく、猶予を与えてやっているに外ならないのだから。そして彼らには、屈辱的な懲罰がある。

وَلَا يَحۡسَبَنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُوٓاْ أَنَّمَا نُمۡلِي لَهُمۡ
خَيۡرٞ لِّأَنفُسِهِمۡۚ إِنَّمَا نُمۡلِي لَهُمۡ لِيَزۡدَادُوٓاْ إِثۡمٗاۖ
وَلَهُمۡ عَذَابٞ مُّهِينٞ ١٧٨

---

1 アーヤ*173 のような言葉で、ムスリム*たちを怖がらせた者のこと（アッ＝タバリー 3:2069 参照）。

179. アッラー*は、悪質なものを良質なもの[1]から選り分けられるまでは、信仰者たちを(今の)あなた方のような状況のまま、放ったらかしにはされない。また(信仰者たちよ、)アッラー*は不可視の世界*のことを、あなた方に知らせることもされない。だがアッラー*は、ご自身の使徒*たちの中から、かれがお望みになる者を選ばれ(、啓示によってその一部をお教えにな)るのだ[2]。ならばあなた方は、アッラー*とその使徒*たちを信じよ。もしあなた方が信じ、(アッラー*を)畏れる*のなら、あなた方には偉大な褒美がある。

مَّا كَانَ ٱللَّهُ لِيَذَرَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ عَلَىٰ مَآ أَنتُمۡ
عَلَيۡهِ حَتَّىٰ يَمِيزَ ٱلۡخَبِيثَ مِنَ ٱلطَّيِّبِۗ وَمَا كَانَ
ٱللَّهُ لِيُطۡلِعَكُمۡ عَلَى ٱلۡغَيۡبِ وَلَٰكِنَّ ٱللَّهَ يَجۡتَبِي مِن
رُّسُلِهِۦ مَن يَشَآءُۖ فَـَٔامِنُواْ بِٱللَّهِ وَرُسُلِهِۦۚ وَإِن
تُؤۡمِنُواْ وَتَتَّقُواْ فَلَكُمۡ أَجۡرٌ عَظِيمٞ ١٧٩

180. また、アッラー*がそのご恩寵から授けて下さったものを出し惜しみする者は、それが自分たちにとってより善いことだなどと、絶対に思ってはならない。いや、それは彼らにとって、もっと悪いことである。彼らが出し惜しみしていた物は復活の日*、彼らの首に巻きつけられるのだ[3]。諸天と大地の遺産はアッラー*

وَلَا يَحۡسَبَنَّ ٱلَّذِينَ يَبۡخَلُونَ بِمَآ ءَاتَىٰهُمُ ٱللَّهُ
مِن فَضۡلِهِۦ هُوَ خَيۡرٗا لَّهُمۖ بَلۡ هُوَ شَرّٞ لَّهُمۡۖ
سَيُطَوَّقُونَ مَا بَخِلُواْ بِهِۦ يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِۗ وَلِلَّهِ
مِيرَٰثُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۗ
وَٱللَّهُ بِمَا تَعۡمَلُونَ خَبِيرٞ ١٨٠

1 「悪質なもの」とは偽信者*、「良質なもの」とは正直な信仰者のこと(ムヤッサル 73 頁参照)。

2 人は不可視の世界*に立ち入り、他人の心の中の不信仰・信仰を知ることは出来ない。しかしアッラー*は啓示によって、使徒*に不可視の世界*の一部を明らかにされたり、その手がかりとなるものをお授けになったりする(アル=バイダーウィー2:121 参照)。家畜章 50 とその訳注、ジン*章 26-27 も参照。

3 アッラー*から授かった財産から浄財(じょうざい)*を払わない者の首には、復活の日*にそれが蛇となって巻きつき、噛(か)みついてこう言う。「私がお前の財だ!私がお前の宝だ!」(アル=ブハーリー1403 参照)悔悟章 34-35 も参照。尚このアーヤ*は、ムハンマド*の預言者*性についての証拠を「出し惜しみしていた」ユダヤ教徒*たちに関して下った、という説もある(アル=バガウィー1:546 参照)。婦人章 37 とその訳注も参照。

にこそ属する[1]。そしてアッラー*は、あなた方の行うこと（全て）に通暁されるお方。

181. 「実にアッラー*が貧しく、私たちが豊かなのだ」などと言った者たちの言葉を、アッラー*は確かにお聞きになった[2]。われら*は彼らの言ったことと、彼らが預言者*たちを不当に殺害したこと[3]を記録しておこう。そしてわれら*は（来世で、地獄の中にいる彼らに）言うのだ。「烈火の懲罰を味わえ」。

لَّقَدۡ سَمِعَ ٱللَّهُ قَوۡلَ ٱلَّذِينَ قَالُوٓاْ إِنَّ ٱللَّهَ
فَقِيرٞ وَنَحۡنُ أَغۡنِيَآءُۘ سَنَكۡتُبُ مَا قَالُواْ
وَقَتۡلَهُمُ ٱلۡأَنۢبِيَآءَ بِغَيۡرِ حَقّٖ وَنَقُولُ
ذُوقُواْ عَذَابَ ٱلۡحَرِيقِ ١٨١

182. それは、あなた方自身が（現世で）行ったことゆえ（の報い）である。そしてアッラー*はその僕たちに対する、不正*者などではないのだ。

ذَٰلِكَ بِمَا قَدَّمَتۡ أَيۡدِيكُمۡ وَأَنَّ ٱللَّهَ
لَيۡسَ بِظَلَّامٖ لِّلۡعَبِيدِ ١٨٢

183. （彼らユダヤ教徒*たちは、）「本当に、アッラー*は私たちに（トーラー*の中で）、いかなる使徒*も信じてはならない、と命じられたのだ。その者が私たちのもとに、火が（天から落ちてきて）焼き尽くすことになる、供え物を携えて来ない限

ٱلَّذِينَ قَالُوٓاْ إِنَّ ٱللَّهَ عَهِدَ إِلَيۡنَآ أَلَّا
نُؤۡمِنَ لِرَسُولٍ حَتَّىٰ يَأۡتِيَنَا بِقُرۡبَانٖ
تَأۡكُلُهُ ٱلنَّارُۗ قُلۡ قَدۡ جَآءَكُمۡ رُسُلٞ مِّن
قَبۡلِي بِٱلۡبَيِّنَٰتِ وَبِٱلَّذِي قُلۡتُمۡ فَلِمَ
قَتَلۡتُمُوهُمۡ إِن كُنتُمۡ صَٰدِقِينَ ١٨٣

1 いかなる所有物もその所有主が死亡すれば、遺産として引き継がれる。そして全世界はいずれ消滅する運命にあるが、その後に残るのはアッラー*だけである。「諸天と大地の遺産はアッラー*にこそ属する」という表現の裏には、こういった意味が含まれている（アッ＝タバリー3:2080 参照）。

2 このアーヤ*は、クルアーン*の「アッラー*によい貸付をせよ」（雌牛章 245、鉄章 11 など参照）という言葉を聞いたユダヤ教徒*が、アッラー*に貸付をする自分たちこそが豊かで、貸付を必要とするアッラー*こそが貧しいのだ、などと言ったことに関して下ったとされる（イブン・アビー・ハーティム 4589 参照）。

3 「預言者*たちを不当に殺害したこと」については、アーヤ*21「…殺す者たち」の訳注を参照。

りは[1]」と言った者たち。（使徒*よ、彼ら
に）言ってやるがよい。「私以前にも、使徒
*たちは明証[2]とあなた方の言っているも
のを携えて、確かにあなた方（の先祖）
のもとに到来した。それなのに、どうし
てあなた方（の先祖）は彼らを殺害した
のか？　もし、あなた方が本当のことを
言っているというのなら」。

184. そして（使徒*よ）、もし彼ら（ユダヤ教
徒*たち）があなたを嘘つき呼ばわりした
としても、明証や書巻や光明の書[3]を携
えてあなた以前に到来した使徒*たちも
（また）、確かに嘘つき呼ばわりされた
のである。

فَإِن كَذَّبُوكَ فَقَدْ كُذِّبَ رُسُلٌ مِّن
قَبْلِكَ جَآءُو بِٱلْبَيِّنَٰتِ وَٱلزُّبُرِ
وَٱلْكِتَٰبِ ٱلْمُنِيرِ ١٨٤

185. 全ての者は、死を味わう。そして復活の
日*、あなた方は（現世での行いに対する）
自分たちの褒美を、余すことなく授かる
のだ。それで、誰でも（地獄の）業火か
ら遠ざけられ、天国に入れられた者は、
確かに（自分が望む最高のものを）勝ち
取ったのである。現世の生活は、偽りの
楽しみに過ぎない。

كُلُّ نَفْسٍ ذَآئِقَةُ ٱلْمَوْتِ ۗ وَإِنَّمَا تُوَفَّوْنَ
أُجُورَكُمْ يَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ ۖ فَمَن زُحْزِحَ
عَنِ ٱلنَّارِ وَأُدْخِلَ ٱلْجَنَّةَ فَقَدْ فَازَ ۗ
وَمَا ٱلْحَيَوٰةُ ٱلدُّنْيَآ إِلَّا مَتَٰعُ ٱلْغُرُورِ ١٨٥

---

1 イスラーイールの子ら*の預言者*は、犠牲（ぎせい）を捧（ささ）げて祈ると、天から白い火が落ちてきて、それを焼き尽くすのが習いだったのだという。これは彼らのでっち上げか、またはイーサー*と預言者*ムハンマド*はこの習いにおける例外であったが、彼らがそのことを隠していたか、あるいはこの習いは、既に撤回（てっかい）されたものだった（アル＝クルトゥビー4:295-296 参照）。

2 この「明証」とは、奇跡や、彼らの正直さを証明する根拠のこと（ムヤッサル 74 頁参照）。

3 この「明証」とは知的・神的根拠、「書簡」とは啓典、「光明の書」とはアッラー*の法規定、および正しい情報を明らかにする啓典のこととされる（アッ＝サァディー159 頁参照）。

186. （信仰者たちよ、）あなた方は、自分たちの財産やあなた方自身において、必(かなら)ずや試練(しれん)を受けよう[1]。また、あなた方以前に啓典(けいてん)を授(さず)けられた者*たちや、シルク*を犯(おか)す者たちから、多くの聞くに堪(た)えないことを、必(かなら)ずや耳にしよう。そして、もしあなた方が（それらのことに）忍耐(にんたい)*し、（主(しゅ)*を）畏(おそ)れる*なら、それこそはあなた方が決意を固めるべき事柄の内のものなのである。

۞لَتُبْلَوُنَّ فِيٓ أَمْوَٰلِكُمْ وَأَنفُسِكُمْ
وَلَتَسْمَعُنَّ مِنَ ٱلَّذِينَ أُوتُواْ
ٱلْكِتَٰبَ مِن قَبْلِكُمْ وَمِنَ ٱلَّذِينَ
أَشْرَكُوٓاْ أَذٗى كَثِيرٗاۚ وَإِن تَصْبِرُواْ وَتَتَّقُواْ
فَإِنَّ ذَٰلِكَ مِنْ عَزْمِ ٱلْأُمُورِ ١٨٦

187. （かつて）アッラー*が、啓典(けいてん)を授(さず)けられた者*たちの確約(かくやく)をお取りになった時のこと（を、思い起こしてみよ）。（かれは仰(おお)せられた。）「あなた方は必(かなら)ずや、それ（啓典(けいてん)）を人々に明らかにし、絶対にそれを隠蔽(いんぺい)したりしてはならない」。すると彼らはそれを背後に放(ほう)り捨(す)て、それと引き換(か)えに僅(わず)かな代価(だいか)を買った[2]。彼らが買う物の、何と醜悪(しゅうあく)なことか。

وَإِذْ أَخَذَ ٱللَّهُ مِيثَٰقَ ٱلَّذِينَ أُوتُواْ ٱلْكِتَٰبَ
لَتُبَيِّنُنَّهُۥ لِلنَّاسِ وَلَا تَكْتُمُونَهُۥ فَنَبَذُوهُ
وَرَآءَ ظُهُورِهِمْ وَٱشْتَرَوْاْ بِهِۦ ثَمَنٗا قَلِيلٗاۖ
فَبِئْسَ مَا يَشْتَرُونَ ١٨٧

188. あなた[3]は絶対に、自分たちが行った（悪）事に有頂天(うちょうてん)な者たちや、自分たちがしてもいないことにおいて褒(ほ)められることを喜ぶ者たちのことなどを、考えてはならない。彼らが懲罰(ちょうばつ)を免(まぬが)れるなどとは、決して考えてはならないのだ。彼らには、痛ましい懲罰(ちょうばつ)がある。

لَا تَحْسَبَنَّ ٱلَّذِينَ يَفْرَحُونَ بِمَآ أَتَواْ وَّيُحِبُّونَ أَن
يُحْمَدُواْ بِمَا لَمْ يَفْعَلُواْ فَلَا تَحْسَبَنَّهُم
بِمَفَازَةٖ مِّنَ ٱلْعَذَابِۖ وَلَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٞ ١٨٨

---

1 「財産における試練」とは、義務（ぎむ）の、あるいは推奨（すいしょう）された拠出（きょしゅつ）や、財産の損失など。「あなた方自身における試練」とは、義務の服従行為、死傷（ししょう）、愛する人々を失うことなど（ムヤッサル 74 頁参照）。アーヤ*186、雌牛章 214、悔悟章 16、洞窟章 7、蜘蛛章 2、ムハンマド*章 31、王権章 2 とそれらの訳注も参照。

2 雌牛章 79、174 も参照。

3 この「あなた」については、雌牛章 120「あなた」の訳注を参照。

189. 諸天と大地の王権は、アッラー*にこそ属する。アッラー*は、全てのことがお出来になるお方。

وَلِلَّهِ مُلْكُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۗ وَٱللَّهُ عَلَىٰ
كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ١٨٩

190. 本当に、諸天と大地の創造と夜と昼の交代の中には、澄んだ知性の持ち主たちへの（、アッラーの唯一性*を示す）御徴がある。

إِنَّ فِي خَلْقِ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ وَٱخْتِلَٰفِ
ٱلَّيْلِ وَٱلنَّهَارِ لَءَايَٰتٍ لِّأُو۟لِي ٱلْأَلْبَٰبِ ١٩٠

191. （彼らは）立ち、座り、横になりつつアッラー*を唱念し、諸天と大地の創造を熟考する者たち。（彼らは言う。）「我らが主*よ、あなたはこれらを無意味にお創りになったのではありません[1]——あなたに称え*あれ！——。ゆえに私たちを、（地獄の）業火の懲罰からお守り下さい。

ٱلَّذِينَ يَذْكُرُونَ ٱللَّهَ قِيَٰمًا وَقُعُودًا وَعَلَىٰ
جُنُوبِهِمْ وَيَتَفَكَّرُونَ فِي خَلْقِ
ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ رَبَّنَا مَا خَلَقْتَ هَٰذَا
بَٰطِلًا سُبْحَٰنَكَ فَقِنَا عَذَابَ ٱلنَّارِ ١٩١

192. 我らが主*よ、本当にあなたが誰かを（その罪ゆえに、地獄の）業火に放り込まれるのなら、あなたは確かにその者を辱められたのです。不正*者たちには（復活の日*）、いかなる援助者もありません。

رَبَّنَآ إِنَّكَ مَن تُدْخِلِ ٱلنَّارَ فَقَدْ أَخْزَيْتَهُۥ ۖ
وَمَا لِلظَّٰلِمِينَ مِنْ أَنصَارٍ ١٩٢

193. 我らが主*よ、本当に私たちは、信仰へと招く者が、『あなた方の主*を信じよ』と呼びかけるのを聞いて、信仰に入りました。我らが主*よ、ですから私たちのために私たちの罪をお赦しになり、私たちの悪行を帳消しにし、私たちを善行者たちと共にお召し下さい。

رَّبَّنَآ إِنَّنَا سَمِعْنَا مُنَادِيًا يُنَادِي لِلْإِيمَٰنِ
أَنْ ءَامِنُوا۟ بِرَبِّكُمْ فَـَٔامَنَّا ۚ رَبَّنَا فَٱغْفِرْ لَنَا
ذُنُوبَنَا وَكَفِّرْ عَنَّا سَيِّـَٔاتِنَا وَتَوَفَّنَا
مَعَ ٱلْأَبْرَارِ ١٩٣

1 アッラー*はこの偉大で驚異的な創造を、無意味に、英知にもよらず、無益（むえき）に創られたのではない。そうではなく、偉大な英知と利益ゆえにお創りになった。その利益の一つが、それ自体がアッラー*を知ること、かれに従（したが）う義務（ぎむ）、かれに反することを回避（かいひ）する根拠となり、またそこが人々の生活の場となり、それが創造の原初と復活の様子を知る手がかりとなるためなのである（アル＝カースィミー4:1968参照）。

194. 我らが主*よ、また、あなたの使徒*たち（の言葉）によって私たちに約束されたもの[1]を、私たちにお授け下さい。そして復活の日*に、私たちを辱めないで下さい。本当にあなたは、約束をお破りにはならないのですから」。

رَبَّنَا وَءَاتِنَا مَا وَعَدتَّنَا عَلَىٰ رُسُلِكَ وَلَا تُخۡزِنَا
يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِۖ إِنَّكَ لَا تُخۡلِفُ ٱلۡمِيعَادَ ١٩٤

195. 彼らの主*は、彼ら（の祈り）に（こう）お応えになられた。「本当にわれは、男女の別なく、あなた方の内の（正しい）行いをする者の行いを、無駄にはしない――あなた方は、互いに同等なのである――。移住*し、故郷から追放され、わが道のために迫害され、戦い、殺された者たち、われは必ずや彼らのためにその悪行を帳消しにし、その下から河川が流れる楽園に入らせよう。アッラー*の御許からの褒美として。アッラー*の御許にこそ、よき褒美はあるのだ」。

فَٱسۡتَجَابَ لَهُمۡ رَبُّهُمۡ أَنِّي لَآ أُضِيعُ عَمَلَ
عَٰمِلٖ مِّنكُم مِّن ذَكَرٍ أَوۡ أُنثَىٰۖ بَعۡضُكُم مِّنۢ
بَعۡضٖۖ فَٱلَّذِينَ هَاجَرُواْ وَأُخۡرِجُواْ مِن دِيَٰرِهِمۡ
وَأُوذُواْ فِي سَبِيلِي وَقَٰتَلُواْ وَقُتِلُواْ لَأُكَفِّرَنَّ
عَنۡهُمۡ سَيِّـَٔاتِهِمۡ وَلَأُدۡخِلَنَّهُمۡ جَنَّٰتٖ
تَجۡرِي مِن تَحۡتِهَا ٱلۡأَنۡهَٰرُ ثَوَابٗا مِّنۡ عِندِ ٱللَّهِۚ
وَٱللَّهُ عِندَهُۥ حُسۡنُ ٱلثَّوَابِ ١٩٥

196. （使徒*よ、）あなた[2]は、不信仰に陥った者*たちが地上で（商売や旅行などに）勤しんでいることに、決して惑わされてはならない。

لَا يَغُرَّنَّكَ تَقَلُّبُ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ فِي ٱلۡبِلَٰدِ ١٩٦

197. （それは一時の）僅かな楽しみで、やがて彼らの住処は地獄となるのだから。その寝床は、何と醜悪なことか。

مَتَٰعٞ قَلِيلٞ ثُمَّ مَأۡوَىٰهُمۡ جَهَنَّمُۖ وَبِئۡسَ
ٱلۡمِهَادُ ١٩٧

198. だが、自分たちの主*を畏れる*者たち、彼らにはその下から河川が流れ、そこに永遠に留まることになる楽園がある。アッラー*の御許からの御もてなしとして。

لَٰكِنِ ٱلَّذِينَ ٱتَّقَوۡاْ رَبَّهُمۡ لَهُمۡ جَنَّٰتٞ
تَجۡرِي مِن تَحۡتِهَا ٱلۡأَنۡهَٰرُ خَٰلِدِينَ فِيهَا نُزُلٗا
مِّنۡ عِندِ ٱللَّهِۗ وَمَا عِندَ ٱللَّهِ خَيۡرٞ لِّلۡأَبۡرَارِ ١٩٨

1 つまり勝利、確立、成功、導きといったこと（ムヤッサル 75 頁参照）。

2 この「あなた」については、雌牛章 120「あなた」の訳注を参照。

アッラー*の御許にあるものは善行者たちにとって、（不信仰者*たちが現世で楽しんでいるもの）より善いものなのだ。

199. 本当に啓典の民*の中にもまさに、アッラー*と、あなた方に下されたもの（クルアーン*）と自分たちに下されたものを、信じる者がいる。彼らはアッラー*に恭順[1]で、アッラー*の御徴と引き換えに僅かな代価を買ったりしない[2]。それらの者たちには、彼らの主*の御許にその褒美がある。本当にアッラー*は、即座に計算されるお方*なのだから。

وَإِنَّ مِنْ أَهْلِ ٱلْكِتَٰبِ لَمَن يُؤْمِنُ بِٱللَّهِ
وَمَآ أُنزِلَ إِلَيْكُمْ وَمَآ أُنزِلَ إِلَيْهِمْ
خَٰشِعِينَ لِلَّهِ لَا يَشْتَرُونَ بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ
ثَمَنًا قَلِيلًا ۗ أُو۟لَٰٓئِكَ لَهُمْ أَجْرُهُمْ عِندَ
رَبِّهِمْ ۗ إِنَّ ٱللَّهَ سَرِيعُ ٱلْحِسَابِ ١٩٩

200. 信仰する者たちよ、（アッラー*への服従において）忍耐*し、（敵との）我慢比べに打ち勝ち、前線を守れ。そしてあなた方が成功するべく、アッラー*を畏れ*るのだ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ ٱصْبِرُوا۟ وَصَابِرُوا۟
وَرَابِطُوا۟ وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ لَعَلَّكُمْ
تُفْلِحُونَ ٢٠٠

---

1 「恭順」については、雌牛章 45 の訳注を参照。

2 アーヤ*187、および雌牛章 79、174 も参照。

第 4 章
婦人章(アン=ニサーゥ) [1]

سُورَةُ النِّسَاءِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 人々よ、あなた方を一人の者(アーダム*)から創られ、彼からその妻を創られ、そしてその二人から多くの男女を(創り)広められた、あなた方の主*を畏れる*のだ。そして、あなた方がかれにおいて頼みごとをし合う[2]アッラー*と、親戚の絆(の断絶)を畏れ*よ。本当にアッラー*はもとより、あなた方(の一部始終)を見守られるお方である。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ ٱتَّقُواْ رَبَّكُمُ ٱلَّذِي خَلَقَكُم مِّن نَّفۡسٖ
وَٰحِدَةٖ وَخَلَقَ مِنۡهَا زَوۡجَهَا وَبَثَّ مِنۡهُمَا رِجَالٗا
كَثِيرٗا وَنِسَآءٗۚ وَٱتَّقُواْ ٱللَّهَ ٱلَّذِي تَسَآءَلُونَ
بِهِۦ وَٱلۡأَرۡحَامَۚ إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ عَلَيۡكُمۡ رَقِيبٗا ١

2. また、孤児に彼らの財産を与えるのだ[3]。そして(あなた方の財産の)悪いものと、(孤児の財産の)良いものを取り替えてはならない。また彼らの財産を、あなた方の財産と一緒くたにして貪ってもならない。本当にそれは大きな罪なのだから。

وَءَاتُواْ ٱلۡيَتَٰمَىٰٓ أَمۡوَٰلَهُمۡۖ وَلَا تَتَبَدَّلُواْ ٱلۡخَبِيثَ
بِٱلطَّيِّبِۖ وَلَا تَأۡكُلُوٓاْ أَمۡوَٰلَهُمۡ إِلَىٰٓ أَمۡوَٰلِكُمۡۚ
إِنَّهُۥ كَانَ حُوبٗا كَبِيرٗا ٢

---

1 マディーナ*啓示。女性・孤児・婚姻・夫婦・遺産相続などに関する規定が数多く取り上げられていることが、名称の由来とされる。またマディーナ*への移住*の命令とその徳、ムスリム*をよそに啓典の民*やシルク*の徒、偽信者*らと親密になることへの警告、正義と公正の勧めと欺瞞(ぎまん)の禁止、イーサー*の神性の否定なども、随所に描写されている。

2 この解釈としては、当時の人々の間では「『アッラー*に誓って、あなたに頼む』という言い回しがあったこと」「自分たちの権利を要求する際、アッラー*の御名を言及することで、その重要性を強調していたこと」「アッラー*において、契約を結んでいたこと」を示している、といった諸説がある(アブー・ハイヤーン 3:125 参照)。

3 孤児の後見人は孤児をいたわり、(孤児が遺産などによる財産を有するのであれば、)その財産をよい形で用い、孤児が成人*して十分な能力が備わった際には、財産を不足なく返却することが義務づけられる(アッ=サァディー163 頁参照)。アーヤ*6 も参照。

3. もし、あなた方が（女の）孤児に対して公正を貫けないこと[1]を怖れるのならば、あなた方に合法な女性を二人でも、三人でも、あるいは四人でも娶るがよい。そしてもし（複数の妻を娶ったら、彼女らを）平等に扱えないことを怖れるのなら、妻は一人だけにするか、あるいはあなた方の右手が所有するもの（奴隷*女性）だけに（留めておくのだ）。そうすることが、あなた方が罪を犯さずにいるために、より無難なのである。

وَإِنْ خِفْتُمْ أَلَّا تُقْسِطُوا۟ فِى ٱلْيَتَٰمَىٰ فَٱنكِحُوا۟
مَا طَابَ لَكُم مِّنَ ٱلنِّسَآءِ مَثْنَىٰ وَثُلَٰثَ وَرُبَٰعَ ۖ
فَإِنْ خِفْتُمْ أَلَّا تَعْدِلُوا۟ فَوَٰحِدَةً أَوْ مَا مَلَكَتْ
أَيْمَٰنُكُمْ ۚ ذَٰلِكَ أَدْنَىٰٓ أَلَّا تَعُولُوا۟ ٣

4. そして（夫となる者たちよ、）女性たちには婚資金*を、贈り物として与えるのだ。もし、彼女らがあなた方のために、自ら進んでその一部を譲歩（し、あなた方に贈与）するのなら、それを善く、合法なものとして受け取るがよい。

وَءَاتُوا۟ ٱلنِّسَآءَ صَدُقَٰتِهِنَّ نِحْلَةً ۚ فَإِن طِبْنَ
لَكُمْ عَن شَىْءٍ مِّنْهُ نَفْسًا فَكُلُوهُ هَنِيٓـًٔا مَّرِيٓـًٔا ٤

5. また、アッラー*があなた方の（生活の）基盤とされた財産を、無分別な者[2]に渡してはならない。そしてそれでもって彼らを扶養し、衣服を与え、適切な言葉で話しかけるのだ。

وَلَا تُؤْتُوا۟ ٱلسُّفَهَآءَ أَمْوَٰلَكُمُ ٱلَّتِى جَعَلَ ٱللَّهُ لَكُمْ
قِيَٰمًا وَٱرْزُقُوهُمْ فِيهَا وَٱكْسُوهُمْ وَقُولُوا۟ لَهُمْ قَوْلًا
مَّعْرُوفًا ٥

6. また、結婚（適齢期）[3]に達するまで、孤児を試すのだ。そして、もし彼らに十分な分別があると認めたならば、彼らの財産を彼らに渡せ。また、彼らが成人する前にそれを浪費

وَٱبْتَلُوا۟ ٱلْيَتَٰمَىٰ حَتَّىٰٓ إِذَا بَلَغُوا۟ ٱلنِّكَاحَ فَإِنْ
ءَانَسْتُم مِّنْهُمْ رُشْدًا فَٱدْفَعُوٓا۟ إِلَيْهِمْ أَمْوَٰلَهُمْ ۖ
وَلَا تَأْكُلُوهَآ إِسْرَافًا وَبِدَارًا أَن يَكْبَرُوا۟ ۚ وَمَن كَانَ
غَنِيًّا فَلْيَسْتَعْفِفْ ۖ وَمَن كَانَ فَقِيرًا فَلْيَأْكُلْ

1 自分の後見下にある女の孤児が美しさや財産に恵まれている時に、彼女と結婚できる関係にある後見人が、通常よりも安い婚資金*を支払って彼女と結婚しようとすること（アル＝ブハーリー4574 参照）。そのような不正*を働いてしまいそうな者は、彼女以外の女性を公正な婚資金*を払って娶ることを命じられている（ムヤッサル 77 頁参照）。関連して、アーヤ*127 とその訳注も参照。

2 財産を、適切な形で管理運営する能力に欠けた者のこと（前掲書、同頁参照）。

3 つまり成人すること（前掲書、同頁参照）。頻出名•用語解説の「成人*」の項も参照。

したり、先手を取って使い込んだりしてはならない。（後見人が）裕福ならば、（孤児の財産に対して）慎ましくあるようにし、貧乏ならば、（そこから必要に応じて）適度に使うがよい。また、彼ら（孤児）にその財産を返還する時には、彼らに対して証人を立てるのだ。アッラー*だけで、清算者*は十分なのである。

بِٱلۡمَعۡرُوفِۚ فَإِذَا دَفَعۡتُمۡ إِلَيۡهِمۡ أَمۡوَٰلَهُمۡ
فَأَشۡهِدُواْ عَلَيۡهِمۡۚ وَكَفَىٰ بِٱللَّهِ حَسِيبٗا ٦

7. 多かれ少なかれ、男性には両親と近親が残したもの（遺産）からの取り分があり、女性にもまた両親と近親が残したもの（遺産）からの取り分がある。定められた取り分として、である。

لِّلرِّجَالِ نَصِيبٞ مِّمَّا تَرَكَ ٱلۡوَٰلِدَانِ وَٱلۡأَقۡرَبُونَ
وَلِلنِّسَآءِ نَصِيبٞ مِّمَّا تَرَكَ ٱلۡوَٰلِدَانِ وَٱلۡأَقۡرَبُونَ
مِمَّا قَلَّ مِنۡهُ أَوۡ كَثُرَۚ نَصِيبٗا مَّفۡرُوضٗا ٧

8. そして（遺産の）分配の場に（相続権を有さない）親戚や孤児や貧者*らが現れたら、そこからいくらかのものを施してやるのだ。そして彼らには、適切な言葉[1]で話しかけよ。

وَإِذَا حَضَرَ ٱلۡقِسۡمَةَ أُوْلُواْ ٱلۡقُرۡبَىٰ وَٱلۡيَتَٰمَىٰ
وَٱلۡمَسَٰكِينُ فَٱرۡزُقُوهُم مِّنۡهُ
وَقُولُواْ لَهُمۡ قَوۡلٗا مَّعۡرُوفٗا ٨

9. もし自分たちの（死）後に貧弱な子孫を残せば、彼ら（の身）を案じる者には、（自分の後見下にある孤児らのことも、それと同様に）恐れさせよ。そしてアッラー*を畏れ[2]させ*、的確な言葉を語らせる[3]のだ。

وَلۡيَخۡشَ ٱلَّذِينَ لَوۡ تَرَكُواْ مِنۡ خَلۡفِهِمۡ
ذُرِّيَّةٗ ضِعَٰفًا خَافُواْ عَلَيۡهِمۡ فَلۡيَتَّقُواْ ٱللَّهَ
وَلۡيَقُولُواْ قَوۡلٗا سَدِيدًا ٩

---

1 ここでの「適切な言葉」とは、全く、あるいは僅かばかりしか彼らに施してやれないような場合に、そのことを詫びる言葉であるとか、または夜の旅章アーヤ*28 にあるように、彼らへの祈願の言葉である、とかいう説などがある（アッ＝タバリー3:2164-2165 参照）。

2 ここでは特に、孤児を始めとした自分の後見下にある者の財産・養育・保護などの義務において、かれのお怒りを恐れる、という意味合いが強いと言われる（ムヤッサル 78 頁参照）。

3 この「的確な言葉」とは、孤児に対しては、自分の実子に対するような慈しみの念とよい作法でもって話すこと。また瀕死（ひんし）の病人に対しては、節度のある遺言と、相続人の権利の遵守、そして悔悟とシャハーダ*の言葉を勧めること。また相続権のない貧者たちには、本頁の訳注 1 にあるような言葉。あるいは遺言の際に、その額が全財産の三分の一を超えないようにすることである、などと言われる（アル＝バイダーウィー2:152 参照）。

10. 本当に孤児の財産を不正*に貪る者たちは、炎を食べて（、それを）腹の中に詰め込んでいるに外ならない。そして彼らは、（地獄の）烈火の中に入り炙られることになるのだ。

إِنَّ ٱلَّذِينَ يَأۡكُلُونَ أَمۡوَٰلَ ٱلۡيَتَٰمَىٰ ظُلۡمًا
إِنَّمَا يَأۡكُلُونَ فِي بُطُونِهِمۡ نَارٗاۖ
وَسَيَصۡلَوۡنَ سَعِيرٗا ١٠

11. アッラー*はあなた方に、あなた方の子供（の相続）に関して（このように）命じられる：男には、（その姉妹である）女の倍の取り分がある。もし（男がおらず）女が二人以上いる場合、彼女たちには（親の）遺したもの（遺産）の三分の二が（配当分として）ある。そして女一人しかいない場合には、彼女には（遺産の）半分がある。彼（故人）に子供があるならば、その両親には各々、彼の遺産から六分の一がある。彼（故人）に子供がなく、その両親（だけ）が彼を相続した場合、母親には三分の一がある。彼（故人）に複数の兄弟姉妹がいる場合、母親には六分の一である。（これらの分配は、）彼が遺した遺言（の実行）と、（抱えていた）債務の（清算）後に（行われる）。あなた方の父母とあなた方の子供と、どちらがあなた方にとってより有益[1]かを、あなた方は知らないのだ。（これらは）アッラー*からの義務として（定められたもの）。本当にアッラー*はもとより全知者、英知あふれる*お方なのだ。

يُوصِيكُمُ ٱللَّهُ فِيٓ أَوۡلَٰدِكُمۡۖ لِلذَّكَرِ مِثۡلُ
حَظِّ ٱلۡأُنثَيَيۡنِۚ فَإِن كُنَّ نِسَآءٗ فَوۡقَ
ٱثۡنَتَيۡنِ فَلَهُنَّ ثُلُثَا مَا تَرَكَۖ وَإِن كَانَتۡ
وَٰحِدَةٗ فَلَهَا ٱلنِّصۡفُۚ وَلِأَبَوَيۡهِ لِكُلِّ وَٰحِدٖ
مِّنۡهُمَا ٱلسُّدُسُ مِمَّا تَرَكَ إِن كَانَ لَهُۥ وَلَدٞۚ
فَإِن لَّمۡ يَكُن لَّهُۥ وَلَدٞ وَوَرِثَهُۥٓ أَبَوَاهُ فَلِأُمِّهِ ٱلثُّلُثُۚ
فَإِن كَانَ لَهُۥٓ إِخۡوَةٞ فَلِأُمِّهِ ٱلسُّدُسُۚ مِنۢ بَعۡدِ
وَصِيَّةٖ يُوصِي بِهَآ أَوۡ دَيۡنٍۗ ءَابَآؤُكُمۡ وَأَبۡنَآؤُكُمۡ
لَا تَدۡرُونَ أَيُّهُمۡ أَقۡرَبُ لَكُمۡ نَفۡعٗاۚ فَرِيضَةٗ
مِّنَ ٱللَّهِۗ إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ عَلِيمًا حَكِيمٗا ١١

---

1 この「有益さ」とは、現世においては遺産の相続・祈願・施（ほどこ）しなど、そして来世においては、お互いの執り成しのことについてである、とされる。ゆえに、ここでの「父母」及び「子供」は一親等に留まらず、それ以上の尊属直系・卑属直系も含まれ得る（イブン・アル＝ジャウズィー2:29、アル＝クルトゥビー5:74-75 参照）。

12. （男たちよ、亡くなった）あなた方の妻に子供がない場合、あなた方には彼女らの遺した物（遺産）の半分がある。そしてもし彼女らに子供がある場合は、あなた方には彼女らの遺した物の、四分の一がある。（これらの分配は）彼女らが遺した遺言（の実行）と、（抱えていた）債務の（清算）後に（行われる）。また（男たちよ）、あなた方に子供がない場合、彼女ら（あなた方の妻たち）にはあなた方の遺した物の四分の一がある。そしてあなた方に子供がある場合、彼女らにはあなた方の遺した物の八分の一がある。（これらの分配は）あなた方が遺した遺言（の実行）と、（抱えていた）債務の（清算）後に（行われる）。もし、男あるいは女が、子供も親もない状態で（亡くなって）遺産を遺す場合、彼（または彼女）に（異父）兄弟か姉妹が一人だけいるのなら、その各々には（遺産の）六分の一がある。そしてもし（その異父兄弟姉妹が）それ（二人）以上であれば、彼らは三分の一を共同で受け取る。（これらの分配は、故人によって）遺された害悪のない遺言（の実行）と、（抱えていた）債務の（清算）後に（行われる）。（これらは）アッラー*からの仰せ付け（としてのもの）。アッラー*は全知者、寛大な*お方であられる。

۞وَلَكُمْ نِصْفُ مَا تَرَكَ أَزْوَٰجُكُمْ
إِن لَّمْ يَكُن لَّهُنَّ وَلَدٌۚ فَإِن كَانَ
لَهُنَّ وَلَدٌ فَلَكُمُ ٱلرُّبُعُ مِمَّا تَرَكْنَۚ
مِنۢ بَعْدِ وَصِيَّةٍ يُوصِينَ بِهَآ
أَوْ دَيْنٍۚ وَلَهُنَّ ٱلرُّبُعُ مِمَّا تَرَكْتُمْ إِن
لَّمْ يَكُن لَّكُمْ وَلَدٌۚ فَإِن كَانَ
لَكُمْ وَلَدٌ فَلَهُنَّ ٱلثُّمُنُ مِمَّا تَرَكْتُمۚ
مِّنۢ بَعْدِ وَصِيَّةٍ تُوصُونَ بِهَآ أَوْ دَيْنٍۗ
وَإِن كَانَ رَجُلٌ يُورَثُ كَلَٰلَةً
أَوِ ٱمْرَأَةٌ وَلَهُۥٓ أَخٌ أَوْ أُخْتٌ فَلِكُلِّ وَٰحِدٍ
مِّنْهُمَا ٱلسُّدُسُۚ فَإِن كَانُوٓا۟ أَكْثَرَ
مِن ذَٰلِكَ فَهُمْ شُرَكَآءُ فِى ٱلثُّلُثِۚ
مِنۢ بَعْدِ وَصِيَّةٍ يُوصَىٰ بِهَآ أَوْ دَيْنٍ
غَيْرَ مُضَآرٍّۚ وَصِيَّةً مِّنَ ٱللَّهِۗ
وَٱللَّهُ عَلِيمٌ حَلِيمٌ ﴿١٢﴾

13. それらは、アッラー*の決まり。アッラー*とその使徒*に従う者は誰であろうと、かれ（アッラー*）がその下から河川の流れる楽園に、その者をお入れになる。（彼らは）そこに永遠に留まるのだ。それはこの上ない成功なのである。

تِلْكَ حُدُودُ ٱللَّهِۚ وَمَن يُطِعِ ٱللَّهَ
وَرَسُولَهُۥ يُدْخِلْهُ جَنَّٰتٍ تَجْرِى
مِن تَحْتِهَا ٱلْأَنْهَٰرُ خَٰلِدِينَ
فِيهَاۚ وَذَٰلِكَ ٱلْفَوْزُ ٱلْعَظِيمُ ﴿١٣﴾

14. そして、アッラー*とその使徒*に逆らい、かれ（アッラー*）の決まりを破る者は誰でも、かれ（アッラー*）がその者を地獄にお入れになる。（彼は）そこに永遠に留まるのだ。彼には、屈辱的な懲罰がある。

وَمَن يَعۡصِ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ وَيَتَعَدَّ
حُدُودَهُۥ يُدۡخِلۡهُ نَارًا خَٰلِدٗا فِيهَا
وَلَهُۥ عَذَابٞ مُّهِينٞ ١٤

15. あなた方の女性の内、醜行[1]を働いた者があれば、あなた方の内から彼女らに対し、（それを証言する）四名の証人を立てよ[2]。もし彼らが（それを）証言したならば、彼女らが天寿を全うするか、あるいはアッラー*が彼女らのために（別の）道[3]をお決めになるまで、彼女らを家の中に拘束するのだ。

وَٱلَّٰتِي يَأۡتِينَ ٱلۡفَٰحِشَةَ مِن نِّسَآئِكُمۡ
فَٱسۡتَشۡهِدُواْ عَلَيۡهِنَّ أَرۡبَعَةٗ مِّنكُمۡۖ
فَإِن شَهِدُواْ فَأَمۡسِكُوهُنَّ فِي ٱلۡبُيُوتِ
حَتَّىٰ يَتَوَفَّىٰهُنَّ ٱلۡمَوۡتُ أَوۡ يَجۡعَلَ ٱللَّهُ
لَهُنَّ سَبِيلٗا ١٥

16. そしてあなた方の内、それ（婚外交渉）を犯した二人を害せ[4]。彼らが悔悟して（行いを）正したならば、彼ら（への仕打ち）から身を引くがよい。本当にアッラー*はもとより、よく悔悟を受け入れられるお方、慈愛深き*お方であられるから。

وَٱلَّذَانِ يَأۡتِيَٰنِهَا مِنكُمۡ فَـَٔاذُوهُمَاۖ
فَإِن تَابَا وَأَصۡلَحَا فَأَعۡرِضُواْ عَنۡهُمَآۗ
إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ تَوَّابٗا رَّحِيمًا ١٦

---

1 ここでの「醜行」は、婚外交渉のこと。またアッ＝タバリー*によれば、ここでの「女性」とはその時点で配偶者がいるかどうかに関わらず、「防護された女性（ムフサナ*）」のこと（3:2188 参照）

2 信頼性のあるムスリム*成人*男性（信頼性に関しては、頻出名・用語解説の「真正*」の項②も参照）四人が、互いの証言において矛盾の認められない形で、実際に性交を目視したことを正確に証言すること。尚その証言に十分な根拠と信頼性が認められなかった場合、彼らは逆に名誉毀損（きそん）の罪で罰されることになる。また当人が未成年や精神異常などの理由で責任能力を有していなかったり、自ら選択して行った行動ではなかったり、あるいは婚外交渉の非合法性に無知だったりした場合も、罪には問われない。また四人の証言がなくても、自白によって罪は確定する。御光章 2 の訳注も参照。

3 この「拘束」に取って代わる「別の道」とは、御光章 2 や預言者*ムハンマド*から伝わる複数の伝承に基づく、婚外交渉に対する刑罰の規定（アーヤ*の撤回については、雌牛章 106 の訳注を参照）。四大法学派*は、男女のムフサン*には石打ち刑を、非ムフサンには百回の鞭打ち刑を科すこと（一定期間の追放もを科すかどうかは、学派によって異なる）で一致している（クウェイト法学大全 41:122 参照）。なお刑の確定と執行はイスラーム*法治国家監督の下、様々な厳しい条件を全て満たした場合のみ可能になる。

4 非難の言葉や、靴で叩くなどして「害する」こと。これもアーヤ*15 同様、後に撤回された。一説にこの「二人」とは、ムフサン*ではない男女（イブン・カスィール 2:235 参照）。

17. アッラー*が悔悟をお受け入れになるのは、無知ゆえに[1]悪事を犯しても、その後すぐに[2]悔い改める者だけである。そしてそれらの者たちこそ、アッラー*が悔悟をお受け入れになる者たちなのだ。アッラー*はもとより、全知者、英知あふれる*お方。

إِنَّمَا ٱلتَّوْبَةُ عَلَى ٱللَّهِ لِلَّذِينَ يَعْمَلُونَ
ٱلسُّوٓءَ بِجَهَٰلَةٍ ثُمَّ يَتُوبُونَ مِن قَرِيبٍ
فَأُوْلَٰٓئِكَ يَتُوبُ ٱللَّهُ عَلَيْهِمْ ۗ
وَكَانَ ٱللَّهُ عَلِيمًا حَكِيمًا ﴿١٧﴾

18. そして（アッラー*に受け入れられる）悔悟とは、あなた方の内、悪行を行い続け、死が訪れる時になって「私は今、悔い改めました」などと言う者たちや、不信仰者*のままで死を迎える者たちのためのものではない[3]。それらの者たちのためにこそ、われら*は痛ましい懲罰を準備しておいたのである。

وَلَيْسَتِ ٱلتَّوْبَةُ لِلَّذِينَ يَعْمَلُونَ
ٱلسَّيِّـَٔاتِ حَتَّىٰٓ إِذَا حَضَرَ أَحَدَهُمُ
ٱلْمَوْتُ قَالَ إِنِّى تُبْتُ ٱلْـَٔـٰنَ وَلَا ٱلَّذِينَ
يَمُوتُونَ وَهُمْ كُفَّارٌ ۚ أُوْلَٰٓئِكَ أَعْتَدْنَا
لَهُمْ عَذَابًا أَلِيمًا ﴿١٨﴾

19. 信仰する者たちよ、嫌がる女性（自身）を相続すること[4]は、あなた方に許されない。また、あなた方（夫）は、（婚資金*として）妻に贈った物の一部を持ち去ろうとして、彼女らに嫌がらせをしてはならない[5]。但

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَا يَحِلُّ لَكُمْ أَن
تَرِثُوا۟ ٱلنِّسَآءَ كَرْهًا ۖ وَلَا تَعْضُلُوهُنَّ لِتَذْهَبُوا۟
بِبَعْضِ مَآ ءَاتَيْتُمُوهُنَّ إِلَّآ أَن يَأْتِينَ
بِفَٰحِشَةٍ مُّبَيِّنَةٍ ۚ وَعَاشِرُوهُنَّ بِٱلْمَعْرُوفِ

---

1 故意にせよ、そうではないにせよ、罪を犯す者とは、そうすることによる自らの結末とアッラー*のお怒りについて無知であるがゆえに、罪を犯すのである（ムヤッサル 80 頁参照）。

2 死が訪れる前に、ということ（ムヤッサル 80 頁参照）。あるいは、遅らせることなく、すぐに（アル＝カースィミー1154-1155 参照）。

3 関連するアーヤ*として、家畜章 158 とその訳注も参照。

4 ジャーヒリーヤ*では、妻が未亡人となった場合には、息子など、彼女の亡き夫に最も近縁の男性が彼女自身を相続するという悪習があった。そして彼は望むなら彼女を自分自身で娶（めと）ったり、誰かに嫁がせたり、あるいは誰にも嫁がせずに生涯独身でいさせる、ということも出来た（アッ＝タバリー3:2203-2206 参照）。尚、「嫌がる」は単なる描写であり、たとえ嫌がってはいなくても、そのようなことが合法なわけではない（アル＝カースィミー1157 参照）。

5 妻を嫌うがゆえに、妻の方から離婚を求めさせ、その代償として自分が払った婚資金*の一部をせしめようとすべく、嫌がらせをすること（アル＝バガウィー1:588 参照）。雌牛章 229 とその訳注も参照。

し、彼女らが紛れもない醜行[1]を働いた場合は別である。また妻とは、適切な形で付き合う[2]のだ。もし、あなた方が（何らかの現世的理由ゆえに）彼女らを嫌ったとしても（、忍耐*せよ）[3]。あなた方は、アッラー*がそこに沢山の善きものをご用意下さっているものを、嫌っているのかもしれないのだから。

فَإِن كَرِهۡتُمُوهُنَّ فَعَسَىٰٓ أَن تَكۡرَهُواْ شَيۡـٔٗا
وَيَجۡعَلَ ٱللَّهُ فِيهِ خَيۡرٗا كَثِيرٗا ١٩

20. あなた方が（現）妻を（離婚して、他の）女性と取り替えたいならば、彼女（現妻）に（婚資金*として）大金を贈っていても、そこから一銭たりとも取り返してはならない[4]。あなた方は大嘘と紛れもない罪を犯して、それを取り戻そうというのか？

وَإِنۡ أَرَدتُّمُ ٱسۡتِبۡدَالَ زَوۡجٖ مَّكَانَ
زَوۡجٖ وَءَاتَيۡتُمۡ إِحۡدَىٰهُنَّ قِنطَارٗا
فَلَا تَأۡخُذُواْ مِنۡهُ شَيۡـًٔاۚ أَتَأۡخُذُونَهُۥ
بُهۡتَٰنٗا وَإِثۡمٗا مُّبِينٗا ٢٠

21. 一体、あなた方はそれ（妻に贈った婚資金*）をいかに取り戻すというのか？　あなた方は既に近づき（交わり）合い、彼女らはあなた方から厳粛なる確約[5]を得ているというのに。

وَكَيۡفَ تَأۡخُذُونَهُۥ وَقَدۡ أَفۡضَىٰ
بَعۡضُكُمۡ إِلَىٰ بَعۡضٖ وَأَخَذۡنَ مِنكُم
مِّيثَٰقًا غَلِيظٗا ٢١

---

1 この「醜行」は、婚外交渉のほか、夫への口の悪さ、嫌がらせなども含まれるとされる（アッ＝タバリー3:2208-2211 参照）。

2 敬意と愛情をもって接し、妻への義務をきちんと果たすこと（ムヤッサル 80 頁参照）。預言者*は仰（おっしゃ）った：「あなた方の中で最善の者は、自分の妻に対して最善の者である」（アル＝ハーキム 7406 参照）。

3 預言者*は仰（おっしゃ）った:「男の信仰者が、（妻である）女の信仰者を（完全に）嫌ってはならない。もし彼女のある性格が嫌でも、別の一面を気に入るようにせよ」（ムスリム「養育の書」61 参照）。

4 他の新たな女性と結婚したいがために、現妻にわざと嫌がらせをし、妻の方から離婚を求めるように仕向け、その結果彼女から代償をせしめようとすることを指す（アッ＝タバリー3:2212 参照）。

5 「厳粛なる確約」とは、男性が妻に対して適切かつ親切に接し、やむなく離婚するにしても、いたわりの念をもってそうすること（雌牛章 229 も参照）。また、男女が肉体関係を合法なものとする結婚の契約自体、非常に厳（おごそ）かで神聖なものである（前掲書3:2214-2216 参照）。

22. あなた方の父が結婚した女性と、結婚してはならない。但し、既に過ぎ去ったこと[1]は問われない。本当にそれは醜行、憎むべきこと[2]であり、何と忌まわしい道であることか。

وَلَا تَنكِحُواْ مَا نَكَحَ ءَابَآؤُكُم
مِّنَ ٱلنِّسَآءِ إِلَّا مَا قَدۡ سَلَفَۚ إِنَّهُۥ كَانَ
فَٰحِشَةٗ وَمَقۡتٗا وَسَآءَ سَبِيلًا ٢٢

23. あなた方（男性）には、（以下の女性を娶ることが）禁じられた：あなた方の母親たち[3]。あなた方の娘たち[4]。あなた方の姉妹たち。あなた方の父方の叔（伯）母たち。あなた方の母方の叔（伯）母たち。兄弟の娘たち[5]。姉妹の娘たち[6]。あなた方に授乳した乳母たち。乳姉妹たち。あなた方の妻の母親たち。あなた方が床入りした妻から（の連れ子）で、あなた方の家で養育された娘たち[7]——もし、あなた方がまだ彼女ら（その母親）と床入りしていなければ、（その娘を娶ることに）罪はない——。あなた方の後背部から出た[8]、あなた方の息子の妻たち。また、姉妹同士を（同時に）娶ること（も禁じられた）。但し過ぎ去ったこと[9]は、問われな

حُرِّمَتۡ عَلَيۡكُمۡ أُمَّهَٰتُكُمۡ
وَبَنَاتُكُمۡ وَأَخَوَٰتُكُمۡ وَعَمَّٰتُكُمۡ
وَخَٰلَٰتُكُمۡ وَبَنَاتُ ٱلۡأَخِ وَبَنَاتُ
ٱلۡأُخۡتِ وَأُمَّهَٰتُكُمُ ٱلَّٰتِيٓ أَرۡضَعۡنَكُمۡ
وَأَخَوَٰتُكُم مِّنَ ٱلرَّضَٰعَةِ وَأُمَّهَٰتُ
نِسَآئِكُمۡ وَرَبَٰٓئِبُكُمُ ٱلَّٰتِي فِي
حُجُورِكُم مِّن نِّسَآئِكُمُ ٱلَّٰتِي
دَخَلۡتُم بِهِنَّ فَإِن لَّمۡ تَكُونُواْ دَخَلۡتُم
بِهِنَّ فَلَا جُنَاحَ عَلَيۡكُمۡ وَحَلَٰٓئِلُ
أَبۡنَآئِكُمُ ٱلَّذِينَ مِنۡ أَصۡلَٰبِكُمۡ
وَأَن تَجۡمَعُواْ بَيۡنَ ٱلۡأُخۡتَيۡنِ إِلَّا
مَا قَدۡ سَلَفَۗ إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ
غَفُورٗا رَّحِيمٗا ٢٣

1 ジャーヒリーヤ*において、既に行ってしまったこと（ムヤッサル 81 頁参照）。

2 そのようなことは、アッラー*と創造物にとって憎むべきことであり、親子間の憎悪をもたらす原因である（アッ＝サァディー173 頁参照）。

3 この「母親」には、それ以上の父方・母方の女性尊属（そんぞく）も含まれる（ムヤッサル 81 頁参照）。

4 この「娘」には、孫娘など、それ以下の女性卑属（ひぞく）も含まれる（前掲書、同頁参照）。

5 上記訳注を参照（前掲書、同頁参照）。

6 上記訳注を参照（前掲書、同頁参照）。

7 「あなた方の家で養育された」という言葉は、条件ではなく典型的状況の描写に過ぎない。大半の学者によれば、もし連れ子の娘が継父の家で養育されていなくても、彼女の母親と結婚し、床入りした後の男性と彼女との結婚は禁じられる（イブン・アーシュール 4:299 参照）。

8 これは養子ではなく、実の息子であることを強調する表現（イブン・カスィール 2:253 参照）。「後背部」については、夜訪れるもの章 7 の訳注も参照。

9 「過ぎ去ったこと」については、アーヤ*22 の同表現に関する訳注を参照。

い。本当にアッラー*はもとより、赦し深いお方、慈愛深い*お方であられる。

24. また、夫のある女性（もあなた方に禁じられた）。但し、あなた方の右手の所有する者（奴隷*女性）は別である[1]。あなた方に対するアッラー*のご命令として（、アッラー*はこれらの女性との結婚を禁止された）。それら以外（の女性）であれば、あなた方が自らの財産（婚資金*）をもって、貞淑に、姦淫を犯すことなく、（彼女らとの結婚を）望むことは、あなた方に許されている。あなた方が彼女らから悦びを得たら、義務として定められた婚資金*を、彼女らに贈れ[2]。義務（である、結婚契約における婚資金*額の合意）の後、あなた方（双方）が合意したものについては、（その額を変更しても）あなた方に罪はない。本当にアッラー*はもとより全知者、英知あふれる*お方である。

۞وَٱلۡمُحۡصَنَٰتُ مِنَ ٱلنِّسَآءِ إِلَّا
مَا مَلَكَتۡ أَيۡمَٰنُكُمۡۖ كِتَٰبَ ٱللَّهِ
عَلَيۡكُمۡۚ وَأُحِلَّ لَكُم مَّا وَرَآءَ ذَٰلِكُمۡ أَن تَبۡتَغُواْ
بِأَمۡوَٰلِكُم مُّحۡصِنِينَ غَيۡرَ مُسَٰفِحِينَۚ فَمَا
ٱسۡتَمۡتَعۡتُم بِهِۦ مِنۡهُنَّ فَـَٔاتُوهُنَّ أُجُورَهُنَّ
فَرِيضَةٗۚ وَلَا جُنَاحَ عَلَيۡكُمۡ فِيمَا تَرَٰضَيۡتُم
بِهِۦ مِنۢ بَعۡدِ ٱلۡفَرِيضَةِۚ إِنَّ ٱللَّهَ
كَانَ عَلِيمًا حَكِيمٗا ٢٤

25. あなた方の内、自由民の信仰者女性を娶る力のない者は、あなた方の右手が所有する信仰者の娘（奴隷*女性）たちから（娶るがよい）――アッラー*は、あなた方の信仰心を最もよくご存知である。あなた方は、お互いに繋がっているのだ[3]――。それであなた方は彼女らの所有者たちの承諾を得て、

وَمَن لَّمۡ يَسۡتَطِعۡ مِنكُمۡ طَوۡلًا أَن
يَنكِحَ ٱلۡمُحۡصَنَٰتِ ٱلۡمُؤۡمِنَٰتِ فَمِن مَّا
مَلَكَتۡ أَيۡمَٰنُكُم مِّن فَتَيَٰتِكُمُ
ٱلۡمُؤۡمِنَٰتِۚ وَٱللَّهُ أَعۡلَمُ بِإِيمَٰنِكُمۚ
بَعۡضُكُم مِّنۢ بَعۡضٖۚ فَٱنكِحُوهُنَّ بِإِذۡنِ
أَهۡلِهِنَّ وَءَاتُوهُنَّ أُجُورَهُنَّ بِٱلۡمَعۡرُوفِ

---

1 これは、戦争の際に捕虜となり奴隷*となった、夫がある女性のこと。このような者は、一回の月経を確認した後、結婚することが合法となる（ムヤッサル 82 頁参照）。

2 イスラーム*法に沿った正しい結婚の下、妻と性交渉をした時点で、前もって合意していた婚資金*の全額支払い義務が確定する（アル＝クルトゥビー5:129 参照）。

3 全ての者はアーダム*の子孫ゆえ、血縁でつながっている。または、イスラーム*という宗教でつながっている。このアーヤ*が下った背景には、アラブ人たちが奴隷*との間に産まれる子供を見下し、卑下（ひげ）していたという状況がある（アッ＝シャウカーニー1:722 参照）。

彼女らと結婚するがよい。そして彼女らに、適切な形[1]で婚資金*を贈るのだ。（彼女らが）貞淑で、（公然と）姦淫を犯すのでもなく、情夫を持ったりもしないように。結婚した後、彼女らが（婚外交渉の）醜行を働いたならば、彼女らには、自由民の女性が課されるもの（罰）の半分[2]が課せられる。それ（奴隷*女性との結婚）は、あなた方の内で苦難[3]を恐れる者のためである。そして（貞節さを保ちつつ、彼女らと結婚せずに）忍耐*する方が、あなた方にとってよりよいのだ[4]。アッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方である。

مُحۡصَنَٰتٍ غَيۡرَ مُسَٰفِحَٰتٖ وَلَا مُتَّخِذَٰتِ
أَخۡدَانٖۚ فَإِذَآ أُحۡصِنَّ فَإِنۡ أَتَيۡنَ
بِفَٰحِشَةٖ فَعَلَيۡهِنَّ نِصۡفُ مَا عَلَى
ٱلۡمُحۡصَنَٰتِ مِنَ ٱلۡعَذَابِۚ ذَٰلِكَ لِمَنۡ
خَشِيَ ٱلۡعَنَتَ مِنكُمۡۚ وَأَن تَصۡبِرُواْ
خَيۡرٞ لَّكُمۡۗ وَٱللَّهُ غَفُورٞ رَّحِيمٞ ٢٥

26. アッラー*はあなた方に（正しい教えを）明示して、あなた方を以前の者たちの（正しい）道へと導き、あなた方の悔悟をお受け入れになることを望まれている。アッラー*は全知者、英知あふれる*お方。

يُرِيدُ ٱللَّهُ لِيُبَيِّنَ لَكُمۡ وَيَهۡدِيَكُمۡ
سُنَنَ ٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِكُمۡ وَيَتُوبَ
عَلَيۡكُمۡۗ وَٱللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٞ ٢٦

27. アッラー*は、あなた方の悔悟をお受け入れになることをお望みになる。そして欲望に従う者たちには、（正しい宗教から）大きく逸脱することを望まれるのだ。

وَٱللَّهُ يُرِيدُ أَن يَتُوبَ عَلَيۡكُمۡ وَيُرِيدُ
ٱلَّذِينَ يَتَّبِعُونَ ٱلشَّهَوَٰتِ أَن تَمِيلُواْ
مَيۡلًا عَظِيمٗا ٢٧

28. アッラー*は、あなた方（の負担）を軽減するよう望まれる。人間は弱く創られているのだから。

يُرِيدُ ٱللَّهُ أَن يُخَفِّفَ عَنكُمۡۚ وَخُلِقَ
ٱلۡإِنسَٰنُ ضَعِيفٗا ٢٨

1 つまり遅らせたり、害を及ぼしたり、減額したりしないこと（アル＝バイダーウィー2:173参照）。

2 ここでの「自由民の女性」とは、ムフサナ*ではない自由民女性のこと。ゆえに「罰の半分」は、五十回の鞭打ちの刑（御光章 2、アッ＝タバリー3:2249 参照）。追放刑については、諸説あり。

3 姦淫（かんいん）の罪のこと。あるいはそれゆえの刑罰（アル＝バイダーウィー2:174 参照）。

4 関連するアーヤ*として、御光章 33 とその訳注も参照。

29. 信仰する者たちよ、あなた方の間で自分たちの財産を不当に貪ってはならない。しかし、あなた方の間で合意のもとに行われる商売取引であるなら、別である。そしてあなた方自身を殺してはいけない[1]。本当にアッラー*はもとより、あなた方に対して慈愛深い*お方であられる。

يَـٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَا تَأْكُلُوٓا۟ أَمْوَٰلَكُم
بَيْنَكُم بِٱلْبَـٰطِلِ إِلَّآ أَن تَكُونَ تِجَـٰرَةً عَن
تَرَاضٍ مِّنكُمْ ۚ وَلَا تَقْتُلُوٓا۟ أَنفُسَكُمْ ۚ
إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ بِكُمْ رَحِيمًا ٢٩

30. そして、そのようなことを侵害と不正*をもってする者は、われら*が業火に放り込んで炙ってやろう。そのようなことはアッラー*にとって、そもそも容易いことなのだ。

وَمَن يَفْعَلْ ذَٰلِكَ عُدْوَٰنًا وَظُلْمًا فَسَوْفَ نُصْلِيهِ
نَارًا ۚ وَكَانَ ذَٰلِكَ عَلَى ٱللَّهِ يَسِيرًا ٣٠

31. （信仰者たちよ、）もしあなた方が禁じられている大罪*を避けるのなら、われら*は（それ以外の）あなた方の悪事[2]を帳消しにし、あなた方を栄誉ある入り所（天国）に入らせよう。

إِن تَجْتَنِبُوا۟ كَبَآئِرَ مَا تُنْهَوْنَ عَنْهُ
نُكَفِّرْ عَنكُمْ سَيِّـَٔاتِكُمْ وَنُدْخِلْكُم
مُّدْخَلًا كَرِيمًا ٣١

32. アッラー*があなた方のある者に対し、他の者よりも多くお恵みになったものに関して、羨望するのではない。男たちには彼らが稼いだもの（行い）による取り分があり、女たちにも彼女らが稼いだもの（行い）による取り分があるのだ。（羨望する代わりに）アッラー*の恩寵を乞うがよい。本当にアッラー*はもとより、全てのことをご存知であられるお方なのだから。

وَلَا تَتَمَنَّوْا۟ مَا فَضَّلَ ٱللَّهُ بِهِۦ بَعْضَكُمْ عَلَىٰ
بَعْضٍ ۚ لِّلرِّجَالِ نَصِيبٌ مِّمَّا ٱكْتَسَبُوا۟ ۖ
وَلِلنِّسَآءِ نَصِيبٌ مِّمَّا ٱكْتَسَبْنَ ۚ وَسْـَٔلُوا۟
ٱللَّهَ مِن فَضْلِهِۦٓ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ
بِكُلِّ شَىْءٍ عَلِيمًا ٣٢

---

1 信仰者どうし殺し合ってはならないし、互いの財を不当に貪り合ったりして、間接的に殺し合うような真似をしてもならない、という意味。また、自殺してはならない、という意味も含まれるとされる（アル＝バガウィー1:602-603 参照）。

2 ここでの「悪事」とは、大罪*には至らない小さな罪のことである、と言われる（ムヤッサル 83 頁参照）。

33. われら*は各人に、その両親と近親が残すものの相続者たちを定めた。そして、あなた方が（盟約の）誓いを交わした者にも、その取り分を与えよ[1]。本当にアッラー*はもとより、全てのことの証人であられる。

34. 男たちは女たちの監護役である。それはアッラー*が、一方（女たち）よりも多くのものを他方（男たち）にお授けになったためであり、また彼らが（妻たちのために）自らの財産から拠出するためである。正しい*女たちとは従順で[2]、（夫の）不在にもアッラー*のご守護によってよく遵守する[3]者。そしてあなた方が（自分たちに対する）その不従順さを怖れる女たちは、（まずは）彼女らを（よき言葉で）戒め、（それでも効き目がなければ）寝室で彼女らを遠ざけ[4]、そして（それでも効き目がなければ、）叩くのだ[5]。もし彼女らがあなた方に

وَلِكُلّٖ جَعَلۡنَا مَوَٰلِيَ مِمَّا تَرَكَ
ٱلۡوَٰلِدَانِ وَٱلۡأَقۡرَبُونَۚ وَٱلَّذِينَ عَقَدَتۡ
أَيۡمَٰنُكُمۡ فَـَٔاتُوهُمۡ نَصِيبَهُمۡۚ إِنَّ ٱللَّهَ
كَانَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ شَهِيدًا ٣٣

ٱلرِّجَالُ قَوَّٰمُونَ عَلَى ٱلنِّسَآءِ بِمَا فَضَّلَ
ٱللَّهُ بَعۡضَهُمۡ عَلَىٰ بَعۡضٖ وَبِمَآ أَنفَقُواْ مِنۡ
أَمۡوَٰلِهِمۡۚ فَٱلصَّٰلِحَٰتُ قَٰنِتَٰتٌ حَٰفِظَٰتٞ
لِّلۡغَيۡبِ بِمَا حَفِظَ ٱللَّهُۚ وَٱلَّٰتِي
تَخَافُونَ نُشُوزَهُنَّ فَعِظُوهُنَّ
وَٱهۡجُرُوهُنَّ فِي ٱلۡمَضَاجِعِ وَٱضۡرِبُوهُنَّۖ
فَإِنۡ أَطَعۡنَكُمۡ فَلَا تَبۡغُواْ عَلَيۡهِنَّ سَبِيلًاۗ
إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ عَلِيّٗا كَبِيرٗا ٣٤

---

1 イスラーム*初期においては、盟約の誓いを交わした人々の間の相続が認められていた。しかし遺産相続を定めるアーヤ*が下った後、それは撤回された（ムヤッサル 83 頁）。戦利品*章 75 とその訳注も参照。また、アーヤ*の撤回については、雌牛章 106 の訳注を参照。

2 アッラー*に、そして夫に対して従順なこと（前掲書 84 頁参照）。相手が夫であるかどうかに関わらず、ムスリム*にとっての服従とは、あくまでイスラーム*の教えと法に適ったことに関してである。預言者*は仰（おっしゃ）った：「ムスリム*は好むことにおいても嫌うことにおいても、（指導者の）言うことをよく聴き、服従する義務がある。但しアッラー*への不服従を命じられた場合は別であり、それを命じられた場合には聞き入れたり、服従したりしてはならない」（アル＝ブハーリー7144 参照）。

3 自分自身の貞節さを始め、夫の財産・家・秘密などを守ること（イブン・ジュザイ 1:188 参照）。

4 「寝室で彼女らを遠ざける」の解釈には、「一緒の寝具で寝ない」「寝る時に背中を向けて寝る」「性交しないことのたとえ」「同じ家で夜を過ごさない」という説などがある（アッ＝シャウカーニー1:738 参照）。

5 その目的はあくまで訓戒であり、身体的苦痛を味わわせることではない。ゆえに頭部などの急所を避け、傷や大きな痛みなどを与えない程度のものであるべきとされる（クウェイト法学大全 24:10 参照）。また一説には、それは細い木の枝で叩くことである（イブン・アビー・ハーティム 4:944 参照）。

従順（じゅうじゅん）にするのなら、彼女らに（それ以上の）咎（とが）め立（だ）てをするのではない。本当にアッラー*はもとより、至高の*お方、大いなる*お方であられる。

35. （夫婦それぞれの後見人たちよ、）あなた方が（夫婦）両人の不和を知ったなら、（事情の調査と問題の解決に臨（のぞ）ませるべく、）彼の一族から一人の仲裁人（ちゅうさいにん）と、彼女の一族から一人の仲裁人（ちゅうさいにん）を遣（つか）わすのだ。もし（仲裁人（ちゅうさいにん））両人が（夫婦間の）改善を望むのであれば、アッラー*は（夫婦）両人の間を正しく導（みちび）いて下さろうから[1]。本当にアッラー*はもとより全知者、通暁（つうぎょう）されているお方。

وَإِنۡ خِفۡتُمۡ شِقَاقَ بَيۡنِهِمَا فَٱبۡعَثُواْ حَكَمٗا
مِّنۡ أَهۡلِهِۦ وَحَكَمٗا مِّنۡ أَهۡلِهَآ إِن يُرِيدَآ
إِصۡلَٰحٗا يُوَفِّقِ ٱللَّهُ بَيۡنَهُمَآۗ إِنَّ ٱللَّهَ
كَانَ عَلِيمًا خَبِيرٗا ٣٥

36. アッラー*を崇拝（すうはい）*し、かれと共に何ものをも並べてはならない[2]。そして両親に孝行し、親戚（しんせき）、孤児（こじ）、貧者（ひんじゃ）*、近い隣人（りんじん）、遠い隣人（りんじん）[3]、道連（みちづ）れの仲間[4]、旅路（たびじ）（で苦境）にある者、あなた方の右手が所有する者（奴隷（どれい）*）にも（、善行を尽（つ）くせ）。本当にアッラー*は、尊大（そんだい）ぶった者、高慢（こうまん）ちきな者をお好みにはならない。

۞وَٱعۡبُدُواْ ٱللَّهَ وَلَا تُشۡرِكُواْ بِهِۦ
شَيۡـٔٗاۖ وَبِٱلۡوَٰلِدَيۡنِ إِحۡسَٰنٗا وَبِذِي ٱلۡقُرۡبَىٰ
وَٱلۡيَتَٰمَىٰ وَٱلۡمَسَٰكِينِ وَٱلۡجَارِ ذِي
ٱلۡقُرۡبَىٰ وَٱلۡجَارِ ٱلۡجُنُبِ وَٱلصَّاحِبِ
بِٱلۡجَنۢبِ وَٱبۡنِ ٱلسَّبِيلِ وَمَا مَلَكَتۡ
أَيۡمَٰنُكُمۡۗ إِنَّ ٱللَّهَ لَا يُحِبُّ مَن
كَانَ مُخۡتَالٗا فَخُورًا ٣٦

---

1 一説には、一番目と二番目のいずれの「両人」ともに、仲裁人のこと。また一説には、いずれも夫婦のことを指す（アル＝バイダーウィー2:186 参照）。

2 アッラー*以外に主があると信じたり、アッラー*以外のものに崇拝*行為を捧（ささ）げたりしてはならない、ということ（ムヤッサル 84 頁参照）。頻出名・用語解説「アッラーの唯一性*」「シルク*」も参照。

3 「近い隣人」と「遠い隣人」の解釈には、「血縁上の距離」「家の距離」「宗教上の距離（つまり前者がムスリム*、後者が啓典の民*）」といった諸説がある（アッ＝タバリー3:2311-2314 参照）。

4 「道連れの仲間」とは一説に、学習、仕事、製造、旅行など、全てのよいことにおける仲間。一説には、女性のこと（アル＝バイダーウィー2:187 参照）。

37. （彼らは）けちで、人々にもまた吝嗇を勧め、アッラー*が彼らに授けて下さった恩恵を隠蔽する者たち[1]。われら*は、不信仰者*たちに屈辱的な懲罰を準備しておいた。

ٱلَّذِينَ يَبْخَلُونَ وَيَأْمُرُونَ ٱلنَّاسَ
بِٱلْبُخْلِ وَيَكْتُمُونَ مَآ ءَاتَىٰهُمُ ٱللَّهُ
مِن فَضْلِهِۦ ۗ وَأَعْتَدْنَا لِلْكَٰفِرِينَ عَذَابًا
مُّهِينًا ٣٧

38. また（彼らは、）人々の視線ゆえにその財産を施し、アッラー*も最後の日*も信じない者たち。誰であろうとシャイターン*が自分の相棒である者、それは相棒として何と忌まわしいことか。

وَٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمْوَٰلَهُمْ رِئَآءَ ٱلنَّاسِ
وَلَا يُؤْمِنُونَ بِٱللَّهِ وَلَا بِٱلْيَوْمِ ٱلْءَاخِرِ ۗ وَمَن
يَكُنِ ٱلشَّيْطَٰنُ لَهُۥ قَرِينًا فَسَآءَ قَرِينًا ٣٨

39. もし彼らがアッラー*と最後の日*を信じ、アッラー*が彼らに授けて下さったものから施したところで、一体何（の害）になろうか？　アッラー*はもとより彼らを、よくご存知のお方。

وَمَاذَا عَلَيْهِمْ لَوْ ءَامَنُوا۟ بِٱللَّهِ وَٱلْيَوْمِ ٱلْءَاخِرِ
وَأَنفَقُوا۟ مِمَّا رَزَقَهُمُ ٱللَّهُ ۚ وَكَانَ ٱللَّهُ
بِهِمْ عَلِيمًا ٣٩

40. 本当にアッラー*は、ほんの僅かな重みさえも、不正*に扱われたりはしない[2]。そして（その僅かなものが）善行であるならば、それを何倍にもされ、そしてその御許から、偉大なる褒美をお授けになるのだ。

إِنَّ ٱللَّهَ لَا يَظْلِمُ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ ۖ وَإِن تَكُ
حَسَنَةً يُضَٰعِفْهَا وَيُؤْتِ مِن لَّدُنْهُ
أَجْرًا عَظِيمًا ٤٠

41. （使徒*よ、復活の日*、）われら*が各共同体から証人[3]を連れて来たら、そしてあなたをこれらの者たち[4]に対する証人として連

فَكَيْفَ إِذَا جِئْنَا مِن كُلِّ أُمَّةٍۭ بِشَهِيدٍ
وَجِئْنَا بِكَ عَلَىٰ هَٰٓؤُلَآءِ شَهِيدًا ٤١

---

1 彼らが吝嗇し、隠蔽していたアッラー*からの恩恵の内でも最たるものは、ムハンマド*の預言者*性の真実に関するものであった。彼らはそれを知っていたにも関わらず、その隠蔽に努めた（アッ＝タバリー3:2321 参照）。イムラーン家章 180 と、その訳注も参照。

2 つまりアッラー*は僅かばかりも、人の善行を減らしたり、悪行を上乗せしたりすることはない（アッ＝サァディー179 頁参照）。洞窟章 49、預言者*たち 47、ルクマーン章 16、地震章 7-8 も参照。

3 アッラー*の教えをその民に伝達した、各使徒*のこと。民が使徒*に対し、どのような態度でもって応じたかを証言する（ムヤッサル 85 頁参照）。

4 「これらの者たち」には、「彼の全共同体」「クライシュ族*の不信仰者*を筆頭とする、全ての不信仰者*」といった説がある（アル＝クルトゥビー5:198 参照）。

れて来たら、（彼らの有様は）いかなるものとなろうか？

42. その日、不信仰に陥(おちい)り、使徒(しと)*に従(したが)わなかった者たちは、大地と共に平らにされ（て土となり、蘇(よみがえ)らされることなどなかっ）たなら、と願う。彼らはアッラー*に対して、何一つ黙秘(もくひ)できない[1]のである。

يَوْمَئِذٍ يَوَدُّ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ وَعَصَوُا۟
ٱلرَّسُولَ لَوْ تُسَوَّىٰ بِهِمُ ٱلْأَرْضُ وَلَا يَكْتُمُونَ
ٱللَّهَ حَدِيثًا ﴿٤٢﴾

43. 信仰する者たちよ、あなた方が酔(よ)っ払(ぱら)った時[2]には、自分の言うことが理解出来るようになるまで礼拝(れいはい)に近付いてはならない。また、ジャナーバ*の状態にある時も、ただそこを通過する者[3]以外は、全身沐浴(もくよく)した後でなければ（礼拝(れいはい)と礼拝(れいはい)所に近付いてはならない）。もし、あなた方が病気[4]や旅行中であったり、あなた方の誰かが窪地(くぼち)から（戻(もど)って）来たり[5]、女性と交(まじ)わったりした後に（穢(けが)れを清めるための）水を見つけられなかった時は、清浄な地面へと向かい（それに触(ふ)れ）、あなた方の顔と両手を撫(な)でよ[6]。本当にアッラーはもとより、よく寛恕(かんじょ)されるお方*、赦(ゆる)し深いお方である。

يَـٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَا تَقْرَبُوا۟ ٱلصَّلَوٰةَ وَأَنتُمْ
سُكَـٰرَىٰ حَتَّىٰ تَعْلَمُوا۟ مَا تَقُولُونَ
وَلَا جُنُبًا إِلَّا عَابِرِى سَبِيلٍ حَتَّىٰ تَغْتَسِلُوا۟ ۚ
وَإِن كُنتُم مَّرْضَىٰٓ أَوْ عَلَىٰ سَفَرٍ أَوْ جَآءَ أَحَدٌ
مِّنكُم مِّنَ ٱلْغَآئِطِ أَوْ لَـٰمَسْتُمُ ٱلنِّسَآءَ فَلَمْ
تَجِدُوا۟ مَآءً فَتَيَمَّمُوا۟ صَعِيدًا طَيِّبًا
فَٱمْسَحُوا۟ بِوُجُوهِكُمْ وَأَيْدِيكُمْ ۗ
إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ عَفُوًّا غَفُورًا ﴿٤٣﴾

---

1 復活の日*に不信仰者*らは、彼らがシルク*の徒などではなかったと誓う（家畜章 23 参照）が、アッラー*は彼らの口を封じられる。すると、彼らの手足が現世での彼らの行いを語り出し（御光章 24 参照）、彼らはそれを隠すことが出来ない（アッ＝タバリー3:2329-2330 参照）。消息章 40 とその訳注も参照。

2 これは、酒などの酔いを引き起こす物の摂取を、完全に禁じる命令が下る前のアーヤ*である（前掲書 3：2332 参照）。詳しくは、雌牛章 219 とその訳注を参照。

3 マスジド*の中でジャナーバの状態になったりすることで、やむを得ず、マスジドを通過しなければならない者のこと。別説では「旅行者」。その場合、「ジャナーバの状態にある旅行者は、水が見つからない場合、タヤンムム*をして礼拝してもよい」という解釈となる（アル＝バガウィー1:627 参照）。

4 ここでの「病気」は、水に触れたら症状の悪化が予想される類の病気のこと（ムヤッサル 85 頁参照）。

5 排便することの婉曲（えんきょく）的表現。当時のアラブ人には、そのような場所で排泄する習慣があった（アッ＝タバリー3:2338 参照）。

6 この清め方はタヤンムムと呼ばれる。詳しくは、頻出名・用語解説「タヤンムム」を参照。

44. （使徒《しと》*よ、）あなたは、啓典《けいてん》を幾《いく》ばくか授《さず》けられたにも関わらず（導《みちび》きを売って）迷妄《めいもう》を購《あがな》い[1]、あなた方（信仰者たち）を（も、彼らと共に）道に迷うことを望んでいる者たちを知らなかったのか？

أَلَمْ تَرَ إِلَى ٱلَّذِينَ أُوتُوا۟ نَصِيبًا مِّنَ ٱلْكِتَـٰبِ يَشْتَرُونَ ٱلضَّلَـٰلَةَ وَيُرِيدُونَ أَن تَضِلُّوا۟ ٱلسَّبِيلَ ﴿٤٤﴾

45. アッラー*はあなた方の敵を、最もよくご存知である。庇護《ひご》者*としてアッラー*は万全であり、また、援助者としてアッラー*は万全である。

وَٱللَّهُ أَعْلَمُ بِأَعْدَآئِكُمْ ۚ وَكَفَىٰ بِٱللَّهِ وَلِيًّا وَكَفَىٰ بِٱللَّهِ نَصِيرًا ﴿٤٥﴾

46. ユダヤ教徒*である者たちの中には、（啓典《けいてん》の）言葉を（本来の）意味合いからすり替え、また（預言者《よげんしゃ》*ムハンマド*に対し）その舌を歪《ゆが》め、宗教を誹謗《ひぼう》して（こう）言う（民がいる）。「私たちは（あなたの言葉を）聞きはするが、（あなたの命令には）逆らう」。「聞いてみよ、聞きはしないだろうが」[2]。「私たちに配慮《はいりょ》せよ」[3]。もし彼らが「私たちは聞き、従《したが》います」「（私たちのことを）聞いて下さい」「私たちを見守って下さい[4]」と言うのならば、それが彼らにとってより善く、より正しいのである。しかしアッラー*は彼らの不信仰ゆえ、彼らを呪われた[5]。彼らは、僅《わず》かばかりしか信仰しないのだから。

مِّنَ ٱلَّذِينَ هَادُوا۟ يُحَرِّفُونَ ٱلْكَلِمَ عَن مَّوَاضِعِهِۦ وَيَقُولُونَ سَمِعْنَا وَعَصَيْنَا وَٱسْمَعْ غَيْرَ مُسْمَعٍ وَرَٰعِنَا لَيًّۢا بِأَلْسِنَتِهِمْ وَطَعْنًا فِى ٱلدِّينِ ۚ وَلَوْ أَنَّهُمْ قَالُوا۟ سَمِعْنَا وَأَطَعْنَا وَٱسْمَعْ وَٱنظُرْنَا لَكَانَ خَيْرًا لَّهُمْ وَأَقْوَمَ وَلَـٰكِن لَّعَنَهُمُ ٱللَّهُ بِكُفْرِهِمْ فَلَا يُؤْمِنُونَ إِلَّا قَلِيلًا ﴿٤٦﴾

---

1 これは、トーラー*による知識を頂き、預言者*ムハンマド*の使徒*性の正しさを示す証拠を知っていながらも拒否した、ユダヤ教徒*らの描写（ムヤッサル 85 頁参照）。

2 つまり「私たちのことを聞け、でも私たちはあなたのことを聞かない」、あるいは「聞いて下さい」と口では言いつつ、心の中では「聞くな」と言っていた（アル＝バガウィー1:641 参照）。

3 雌牛章 104 とその訳注を参照。

4 雌牛章 104 と、その訳注を参照。

5 「アッラー*の呪い」については、雌牛章 88 の訳注参照。

47. 啓典(けいてん)を授(さず)けられた民*よ、あなた方のもとにあるもの（トーラー*）を確証する、われら*が下したもの（クルアーン*）を信じよ。われら*が(不信仰の報(むく)いとして)顔を消し、それを後ろ向きにしてしまう前に。あるいは、われらが土曜日の人々[1]を呪ったように、彼ら[2]を呪ってしまわない前に。アッラー*のご命令はもとより、成(な)し遂(と)げられることになっているのだ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ أُوتُوا۟ ٱلْكِتَٰبَ ءَامِنُوا۟ بِمَا نَزَّلْنَا
مُصَدِّقًا لِّمَا مَعَكُم مِّن قَبْلِ أَن نَّطْمِسَ
وُجُوهًا فَنَرُدَّهَا عَلَىٰٓ أَدْبَارِهَآ أَوْ نَلْعَنَهُمْ كَمَا لَعَنَّآ
أَصْحَٰبَ ٱلسَّبْتِ ۚ وَكَانَ أَمْرُ ٱللَّهِ مَفْعُولًا ﴿٤٧﴾

48. 本当にアッラー*は、かれと共に（何かが）並べられること（シルク*）をお赦(ゆる)しになることはないが、それ以外のことは、御心(みこころ)に適(かな)う者にお赦(ゆる)しになる。アッラー*に対してシルク*を犯(おか)す者は誰でも、この上ない罪(つみ)を確かに捏造(ねつぞう)しているのだ。

إِنَّ ٱللَّهَ لَا يَغْفِرُ أَن يُشْرَكَ بِهِۦ وَيَغْفِرُ مَا دُونَ
ذَٰلِكَ لِمَن يَشَآءُ ۚ وَمَن يُشْرِكْ بِٱللَّهِ فَقَدِ ٱفْتَرَىٰٓ
إِثْمًا عَظِيمًا ﴿٤٨﴾

49. （使徒(しと)*よ、）あなたは、自分自身の清らかさを主張する者たち[3]を知らなかったのか？　いや、アッラー*がその御心(みこころ)に適(かな)う者を、お清めになるのだ。そして彼らは、糸くず[4]ほどさえも不正*に扱(あつか)われることがない。

أَلَمْ تَرَ إِلَى ٱلَّذِينَ يُزَكُّونَ أَنفُسَهُم ۚ بَلِ ٱللَّهُ يُزَكِّى
مَن يَشَآءُ وَلَا يُظْلَمُونَ فَتِيلًا ﴿٤٩﴾

---

1 「土曜日の人々」に関しての詳細は、雌牛章 65、高壁章 163-166 とその訳注も参照。

2 ここでの「彼ら」とは、一説には「顔を消され、後ろ向きにされた者たち」のこと。あるいは「イルティファート（転換）」と呼ばれる、アラビア語独特の修辞法によって、人称が二人称から三人称に変換しているのだ、とも言われる。つまりこのアーヤ*で啓典の民*は、イスラーム*の信仰へと招かれているが、信仰を拒否した場合の結果としての懲罰を、あえて彼らに直接結び付けて描写しないことで、その誘いをより効果的なものにしているのだという（アブー・ハイヤーン 3:267-268 参照）。

3 この主張が何かについては、「雌牛章 111、食卓章 18 にあるような言葉」「自分たちは子供のように罪がないということ」「ご先祖様が執り成してくれること」「お互いへの称賛」といった諸説がある（アッ＝シャウカーニー1:762 参照）。

4 原語では「ファティール」。ナツメヤシの実の種に付着した、細い糸状の物質。または、手や指をこすり合わせた時に出る手垢のこと。いずれにせよ、非常に微々（びび）たる物のたとえ（アッ＝タバリー3:2269-2270 参照）。

50. （使徒*よ、）見よ、彼らがアッラー*に対して、いかに嘘をでっち上げているかを。それだけで十分、明白な罪に値するのだ。

ٱنظُرۡ كَيۡفَ يَفۡتَرُونَ عَلَى ٱللَّهِ ٱلۡكَذِبَۖ
وَكَفَىٰ بِهِۦٓ إِثۡمٗا مُّبِينًا ٥٠

51. （使徒*よ、）あなたは知らなかったのか？啓典を幾ばくか授けられたにも関わらず、ジブトとターグート[1]を信じ、不信仰者*たちに対して「これらの者たち（不信仰者*）は信仰する者たちよりも、より正しい道に導かれている」と言う者たちを？

أَلَمۡ تَرَ إِلَى ٱلَّذِينَ أُوتُواْ نَصِيبٗا مِّنَ
ٱلۡكِتَٰبِ يُؤۡمِنُونَ بِٱلۡجِبۡتِ وَٱلطَّٰغُوتِ
وَيَقُولُونَ لِلَّذِينَ كَفَرُواْ هَٰٓؤُلَآءِ أَهۡدَىٰ
مِنَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ سَبِيلًا ٥١

52. それらの者たちは、アッラー*が呪い給うた[2]者たちである。誰であろうとアッラー*が呪い給う者に、あなたはいかなる援助者も見出すことがないのだ。

أُوْلَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ لَعَنَهُمُ ٱللَّهُۖ وَمَن يَلۡعَنِ ٱللَّهُ فَلَن
تَجِدَ لَهُۥ نَصِيرًا ٥٢

53. いや、彼らには、王権の一部でも属しているというのか？[3]　では、そうであったとしても、彼らは斑点一つ[4]ほども人々に与えはしないであろう。

أَمۡ لَهُمۡ نَصِيبٞ مِّنَ ٱلۡمُلۡكِ فَإِذٗا لَّا يُؤۡتُونَ
ٱلنَّاسَ نَقِيرًا ٥٣

54. いや、彼らはアッラー*がお授けになった恩寵に対して、人々を妬んでいる[5]のか？　われら*は確かに、イブラーヒーム*の一族

أَمۡ يَحۡسُدُونَ ٱلنَّاسَ عَلَىٰ مَآ ءَاتَىٰهُمُ ٱللَّهُ مِن
فَضۡلِهِۦۖ فَقَدۡ ءَاتَيۡنَآ ءَالَ إِبۡرَٰهِيمَ ٱلۡكِتَٰبَ
وَٱلۡحِكۡمَةَ وَءَاتَيۡنَٰهُم مُّلۡكًا عَظِيمٗا ٥٤

---

1 アッ＝タバリー*によれば「ジブト」と「ターグート*」とは、アッラー*を差しおいて崇拝*されたり、従われたりする全ての対象のことである。その意味では偶像もシャイターン*も、魔術師も巫女（みこ）も、あるいはアッラー*とその使徒*に対する不信仰と敵対行為において指導的役割を担っていた者たちも、全てこの中に含まれることになる（3:2371-2374 参照）。

2 「アッラー*の呪い」については、雌牛章 88 の訳注参照。

3 ユダヤ教徒*らが、王権または預言者*に相応しいのは自分たちであると信じ、アラブ人に従うことなど不可能だと考えていたことを指すと言われる（アッ＝ラーズィー4:103 参照）。

4 原語では「ナキール」であり、ナツメヤシの実の種にある小さな斑点、あるいは穴のことであると言われる。つまり、非常に微々（びび）たる物の代名詞（ムヤッサル 87 頁参照）。

5 ここでの「恩寵」はムハンマド*の使徒*性を、「人々」は彼を含む信仰者たちのことを指しているのだと言われる（前掲書、同頁参照）。

に啓典と英知[1]を授けたのであり、彼らに偉大なる王権を与えたのだ。

55. それで、彼らの内にはそれ（預言者*ムハンマド*に下った啓示）を信じた者も、それを（自分たちと人々から）阻んだ者もある。（嘘呼ばわりする者たちよ、あなた方には）燃え盛る地獄だけで、十分である。

فَمِنۡهُم مَّنۡ ءَامَنَ بِهِۦ وَمِنۡهُم مَّن صَدَّ عَنۡهُۚ
وَكَفَىٰ بِجَهَنَّمَ سَعِيرًا ﴿٥٥﴾

56. 本当にわれら*の御徴を信じない者は、やがてわれらが業火に入れて炙ってやろう。彼らの皮膚が焼き上がる度、われら*は彼らに別の皮膚を取り替えてやるのだ。彼らが、（ずっと）懲罰を味わうようにするためである。本当にアッラー*はもとより、偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ بِـَٔايَٰتِنَا سَوۡفَ نُصۡلِيهِمۡ نَارٗا
كُلَّمَا نَضِجَتۡ جُلُودُهُم بَدَّلۡنَٰهُمۡ جُلُودًا غَيۡرَهَا
لِيَذُوقُواْ ٱلۡعَذَابَۗ إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ عَزِيزًا حَكِيمٗا ﴿٥٦﴾

57. 一方、信仰して正しい行い*を行う者たち、われら*は彼らを、その下から川が流れる楽園に入れてやろう。（彼らは）そこにずっと永遠に留まるのだ。そこには彼らのために、純潔な妻[2]たちがいる。そしてわれら*は彼らを、幾重にも重なる蔭の中に入れてやるのだ。

وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ سَنُدۡخِلُهُمۡ
جَنَّٰتٖ تَجۡرِي مِن تَحۡتِهَا ٱلۡأَنۡهَٰرُ خَٰلِدِينَ فِيهَآ
أَبَدٗاۖ لَّهُمۡ فِيهَآ أَزۡوَٰجٞ مُّطَهَّرَةٞۖ وَنُدۡخِلُهُمۡ
ظِلّٗا ظَلِيلًا ﴿٥٧﴾

58. 本当にアッラー*は、あなた方が信託をその権利主に返すこと[3]を、そしてあなた方が人々の間を裁く時には公正さによって裁くことを、ご命じになる。実にアッラー*は、その訓戒の何とも素晴らしいお

۞إِنَّ ٱللَّهَ يَأۡمُرُكُمۡ أَن تُؤَدُّواْ ٱلۡأَمَٰنَٰتِ إِلَىٰٓ
أَهۡلِهَا وَإِذَا حَكَمۡتُم بَيۡنَ ٱلنَّاسِ أَن
تَحۡكُمُواْ بِٱلۡعَدۡلِۚ إِنَّ ٱللَّهَ نِعِمَّا يَعِظُكُم بِهِۦٓۗ
إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ سَمِيعَۢا بَصِيرٗا ﴿٥٨﴾

---

1 ここでの「英知」とは、彼らに下された啓示の内で、啓典とはならなかったもののことである、と言われる（ムヤッサル 87 頁）。

2 「純潔な妻」については、雌牛章 25 の訳注参照。

3 「信託をその権利主に返すこと」には、礼拝*や浄財*などのアッラー*に対する義務や、預かり物などの人間に対する義務など、あらゆる信託の遵守（じゅんしゅ）が含まれる（イブン・カスィール 2:338 参照）。

方。本当にアッラー*はもとより、よくお聞きになるお方、よくご覧になるお方である。

59. 信仰する者たちよ、アッラー*に従い、そして使徒*と、あなた方の内の長たち[1]に従え。そして、あなた方が何かで争った時には、それ（についての裁定）をアッラー*と使徒*（ムハンマド*）に返すのだ[2]。もしあなた方が、アッラーと最後の日*を信仰しているのならば、である。それが最善なのであり、最良の帰結なのだ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ أَطِيعُواْ ٱللَّهَ وَأَطِيعُواْ ٱلرَّسُولَ
وَأُوْلِي ٱلۡأَمۡرِ مِنكُمۡۖ فَإِن تَنَٰزَعۡتُمۡ فِي شَيۡءٖ فَرُدُّوهُ
إِلَى ٱللَّهِ وَٱلرَّسُولِ إِن كُنتُمۡ تُؤۡمِنُونَ بِٱللَّهِ وَٱلۡيَوۡمِ
ٱلۡأٓخِرِۚ ذَٰلِكَ خَيۡرٞ وَأَحۡسَنُ تَأۡوِيلًا ٥٩

60. （使徒*よ、）あなたに下されたもの（クルアーン*）と、あなた以前に下されたもの（その他の過去の啓典）を信じたと標榜する（偽信）者*たちを、あなたは知らなかったのか？　彼らはそれを拒むよう、確かに命じられたというのに、（自分たちの争いに関して）ターグート*に裁定してもらうことを望んでいる。シャイターン*は、彼らを（正道から）遠く迷い去らせることを欲しているのだ。

أَلَمۡ تَرَ إِلَى ٱلَّذِينَ يَزۡعُمُونَ أَنَّهُمۡ ءَامَنُواْ
بِمَآ أُنزِلَ إِلَيۡكَ وَمَآ أُنزِلَ مِن قَبۡلِكَ
يُرِيدُونَ أَن يَتَحَاكَمُوٓاْ إِلَى ٱلطَّٰغُوتِ
وَقَدۡ أُمِرُوٓاْ أَن يَكۡفُرُواْ بِهِۦۖ وَيُرِيدُ
ٱلشَّيۡطَٰنُ أَن يُضِلَّهُمۡ ضَلَٰلَۢا بَعِيدٗا ٦٠

61. また、彼らに向かって「（争いの裁定のために、）アッラー*が下されたものと使徒のもとに来なさい」と告げられた時、あなたは偽信者*たちが、あなたからそっぽを向いて背き去るのを見たのである。

وَإِذَا قِيلَ لَهُمۡ تَعَالَوۡاْ إِلَىٰ مَآ أَنزَلَ
ٱللَّهُ وَإِلَى ٱلرَّسُولِ رَأَيۡتَ ٱلۡمُنَٰفِقِينَ
يَصُدُّونَ عَنكَ صُدُودٗا ٦١

---

1 「あなた方の内の長たち」とは、指導者・統治者・イスラーム*法学者など、人々の諸事を司（つかさど）る者たち。ただし、彼らへの服従義務は、罪深いことではないことに限る（アッ＝サァディー183 頁参照）。アーヤ*34 の、「従順」についての訳注も参照。

2 つまりクルアーン*と預言者*のスンナ*。しかしどのようにその二つを参照するかという知識は、学者に属する（アル＝クルトゥビー5:260 参照）。

62. 彼ら（偽信者*たち）が、自分たちが行ったことゆえに災難に遭遇し、それからあなたのもとにやって来て、「私たちが望んだのは、（裁定における）善行と調停に外ならない」とアッラー*に誓う時、（彼らの状況は）どうなるであろう？

فَكَيۡفَ إِذَآ أَصَٰبَتۡهُم مُّصِيبَةُۢ بِمَا
قَدَّمَتۡ أَيۡدِيهِمۡ ثُمَّ جَآءُوكَ يَحۡلِفُونَ بِٱللَّهِ
إِنۡ أَرَدۡنَآ إِلَّآ إِحۡسَٰنٗا وَتَوۡفِيقًا ٦٢

63. それらの者たちは、アッラー*がその心の内にあるもの[1]をご存知である。ならばあなたは彼らを（罰さず）放っておき、戒め、彼らの心に届く言葉で彼らに語りかけるがよい。

أُوْلَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ يَعۡلَمُ ٱللَّهُ مَا فِي
قُلُوبِهِمۡ فَأَعۡرِضۡ عَنۡهُمۡ وَعِظۡهُمۡ
وَقُل لَّهُمۡ فِيٓ أَنفُسِهِمۡ قَوۡلَۢا بَلِيغٗا ٦٣

64. われら*が使徒*を遣わしたのは、彼がアッラー*のお許しのもと、（人々に）従われるために外ならなかった。（使徒*よ、）もし彼らが自らに不正[2]を働いた時に、あなたのもとにやって来てアッラー*のお赦しを乞い、そして使徒*が彼らのために（アッラー*の）お赦しを乞うたならば、彼らはアッラー*がよく悔悟をお受け入れになるお方、慈愛深い*お方であることを見出したであろうに。

وَمَآ أَرۡسَلۡنَا مِن رَّسُولٍ إِلَّا لِيُطَاعَ
بِإِذۡنِ ٱللَّهِۚ وَلَوۡ أَنَّهُمۡ إِذ ظَّلَمُوٓاْ
أَنفُسَهُمۡ جَآءُوكَ فَٱسۡتَغۡفَرُواْ ٱللَّهَ
وَٱسۡتَغۡفَرَ لَهُمُ ٱلرَّسُولُ لَوَجَدُواْ
ٱللَّهَ تَوَّابٗا رَّحِيمٗا ٦٤

65. あなたの主*に誓って。彼らの間の争いに関して、彼らがあなたにその裁定を仰ぎ、それからあなたが裁決したことについて、彼らが自分自身の内に少しの不満も見出さず、完全に受け入れるようになるまでは、彼らは（真に）信仰してはいないのである。[3]

فَلَا وَرَبِّكَ لَا يُؤۡمِنُونَ حَتَّىٰ يُحَكِّمُوكَ
فِيمَا شَجَرَ بَيۡنَهُمۡ ثُمَّ لَا يَجِدُواْ فِيٓ
أَنفُسِهِمۡ حَرَجٗا مِّمَّا قَضَيۡتَ وَيُسَلِّمُواْ
تَسۡلِيمٗا ٦٥

---

1 偽の信仰、あるいは信仰における不誠実さのこと（ムヤッサル 88 頁参照）。

2 ここでの「不正*」とは特に、これより前のアーヤ*が示しているように、アッラー*以外のものに裁定を求め、アッラー*とその使徒*を拒否し、妨害することを指している（アッ＝タバリー3:2400 参照）。

3 部族連合章 36 も参照。

66. また、たとえわれら*が彼ら（偽信者(にせ)*たち）に、「互いに殺し合え[1]」、あるいは「故郷(こきょう)から出て行け」と義務(ぎむ)づけたとしても、そうするのは彼らの中の僅(わず)かな者たちだけであっただろう。そして、もし彼らが（アッラー*とその使徒(しと)*から）忠告(ちゅうこく)されることに従(したが)ったならば、それは彼らのためにより善く、（彼らの信仰心を）より堅固(けんご)にするものだったのだ。

وَلَوْ أَنَّا كَتَبْنَا عَلَيْهِمْ أَنِ ٱقْتُلُوٓا۟ أَنفُسَكُمْ
أَوِ ٱخْرُجُوا۟ مِن دِيَـٰرِكُم مَّا فَعَلُوهُ إِلَّا قَلِيلٌ
مِّنْهُمْ ۖ وَلَوْ أَنَّهُمْ فَعَلُوا۟ مَا يُوعَظُونَ بِهِۦ
لَكَانَ خَيْرًا لَّهُمْ وَأَشَدَّ تَثْبِيتًا ٦٦

67. そうすれば、われら*は彼らに、われら*の御許(みもと)からの偉大な褒美(ほうび)を授(さず)けたのだが。

وَإِذًا لَّـَٔاتَيْنَـٰهُم مِّن لَّدُنَّآ أَجْرًا عَظِيمًا ٦٧

68. そして、われら*は彼らを、まっすぐな道に導(みちび)いたのだが。

وَلَهَدَيْنَـٰهُمْ صِرَٰطًا مُّسْتَقِيمًا ٦٨

69. 誰であろうとアッラー*と使徒(しと)*（ムハンマド*）に服従(ふくじゅう)する者、それらの者たちは（来世において）預言者(よげんしゃ)*たち、大そうな正直者たち[2]、殉教者(じゅんきょうしゃ)、正しい*者たちといった、アッラー*が恩恵(おんけい)をお授(さず)けになった者たちと共になろう。それらの者たちは、何と素晴(すば)らしい同伴者だろうか。

وَمَن يُطِعِ ٱللَّهَ وَٱلرَّسُولَ فَأُو۟لَـٰٓئِكَ مَعَ ٱلَّذِينَ
أَنْعَمَ ٱللَّهُ عَلَيْهِم مِّنَ ٱلنَّبِيِّـۧنَ
وَٱلصِّدِّيقِينَ وَٱلشُّهَدَآءِ وَٱلصَّـٰلِحِينَ ۚ
وَحَسُنَ أُو۟لَـٰٓئِكَ رَفِيقًا ٦٩

70. その恩寵(おんちょう)は、アッラー*から（のもの）である。アッラー*は全知者として万全であられる。

ذَٰلِكَ ٱلْفَضْلُ مِنَ ٱللَّهِ ۚ وَكَفَىٰ بِٱللَّهِ عَلِيمًا ٧٠

71. 信仰する者たちよ、用心せよ。そして分隊で、あるいは総勢(そうぜい)で出征(しゅっせい)するのだ。

يَـٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ خُذُوا۟ حِذْرَكُمْ
فَٱنفِرُوا۟ ثُبَاتٍ أَوِ ٱنفِرُوا۟ جَمِيعًا ٧١

72. 本当にあなた方の中には、まさしく（出征(しゅっせい)にわざと）遅れをとる者がいる。そしてもしあなた方に災難(さいなん)が襲(おそ)いかかれば、「アッ

وَإِنَّ مِنكُمْ لَمَن لَّيُبَطِّئَنَّ فَإِنْ أَصَـٰبَتْكُم
مُّصِيبَةٌ قَالَ قَدْ أَنْعَمَ ٱللَّهُ عَلَىَّ إِذْ لَمْ

1 雌牛章のアーヤ*54 とその訳注を参照。

2 「大そうな正直者たち」と訳した語は、「サダカ（信じる、本当のことを言う）」から派生した強調能動分詞。自らの言葉を行動で現実化させ示す者、という意味合いがある（アッ＝タバリー3:2406 参照）。

ラー*はまさに、私に恩恵（おんけい）を授（さず）けて下さった。私は彼らと共に（戦場に）いなかったのだから」などと言う。

أَكُن مَّعَهُمْ شَهِيدًا ﴿٧٢﴾

73. そして、もしもアッラー*の恩寵（おんちょう）[1]があなた方に降（ふ）りかかれば、まるであなた方と彼の間に何の愛情もなかったかのように、まさに（こう）言うのだ。「ああ、もし私が彼らと一緒にあったならば。そうすれば、私は大きな収穫（しゅうかく）[2]を得たのに！」

وَلَئِنْ أَصَٰبَكُمْ فَضْلٌ مِّنَ ٱللَّهِ لَيَقُولَنَّ كَأَن
لَّمْ تَكُنۢ بَيْنَكُمْ وَبَيْنَهُۥ مَوَدَّةٌ يَٰلَيْتَنِى
كُنتُ مَعَهُمْ فَأَفُوزَ فَوْزًا عَظِيمًا ﴿٧٣﴾

74. ならば、現世の生活と引き換（か）えに来世を購（あがな）う者は、アッラー*の道において戦え。誰であろうとアッラー*の道において戦う者は、殺されようが、あるいは勝利を収めようが、われら*がこの上ない褒美（ほうび）を与えることになるのだ。[3]

۞ فَلْيُقَٰتِلْ فِى سَبِيلِ ٱللَّهِ ٱلَّذِينَ
يَشْرُونَ ٱلْحَيَوٰةَ ٱلدُّنْيَا بِٱلْءَاخِرَةِ ۚ وَمَن
يُقَٰتِلْ فِى سَبِيلِ ٱللَّهِ فَيُقْتَلْ أَوْ يَغْلِبْ
فَسَوْفَ نُؤْتِيهِ أَجْرًا عَظِيمًا ﴿٧٤﴾

75. （信仰者たちよ、）あなた方がアッラー*の道において戦わないのは、一体どういうことか？　そして「我らが主（しゅ）*よ、その民が不正*を働（はたら）いているこの町（マッカ*）から、私たちを（救い）出して下さい。そして私たちに、あなたの御許（みもと）から庇護者（ひごしゃ）*をお遣（つか）わし下さい。私たちに、あなたの御許（みもと）から援助者をお遣（つか）わし下さい」と（祈って）言う、男たちや女たち、子供らといった弱者たち[4]のために（戦わないのは）？

وَمَا لَكُمْ لَا تُقَٰتِلُونَ فِى سَبِيلِ ٱللَّهِ
وَٱلْمُسْتَضْعَفِينَ مِنَ ٱلرِّجَالِ وَٱلنِّسَآءِ وَٱلْوِلْدَٰنِ
ٱلَّذِينَ يَقُولُونَ رَبَّنَآ أَخْرِجْنَا مِنْ هَٰذِهِ ٱلْقَرْيَةِ
ٱلظَّالِمِ أَهْلُهَا وَٱجْعَل لَّنَا مِن لَّدُنكَ وَلِيًّا وَٱجْعَل لَّنَا
مِن لَّدُنكَ نَصِيرًا ﴿٧٥﴾

---

1 ここでの「アッラー*の恩寵」とは、勝利や戦利品などのことであるという（アッ＝タバリー3:2410 参照）。

2 つまり救援と勝利と戦利品*のこと（ムヤッサル 89 頁参照）。

3 関連するアーヤ*として、雌牛章 190、悔悟章 36、巡礼*章 39 とそれらの訳注も参照。

4 これは、不信仰者*らによる妨害や、または自分たちの弱さゆえに（マディーナ*へ）移住*できず、マッカ*に留まって抑圧され、試練を受けていた者たちのこと（アル＝バイダーウィー2:218 参照）。

76. 信仰する者たちはアッラー*の道において戦い、不信仰に陥った者*たちはターグート*の道のために戦う。ならば、シャイターン*の盟友[1]と戦え。本当にシャイターン*の策謀は、そもそも脆いものであるから。

ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ يُقَٰتِلُونَ فِى سَبِيلِ ٱللَّهِ ۖ وَٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ يُقَٰتِلُونَ فِى سَبِيلِ ٱلطَّٰغُوتِ فَقَٰتِلُوٓا۟ أَوْلِيَآءَ ٱلشَّيْطَٰنِ ۖ إِنَّ كَيْدَ ٱلشَّيْطَٰنِ كَانَ ضَعِيفًا ٧٦

77. （使徒*よ、）あなたは知らなかったのか、「（敵に）手を出すのではない。そして礼拝を遵守し*、浄財*を施すのだ」と言われた者たち[2]を？　にも関わらず、彼らに戦闘が義務づけられた時には、どうであろうか、彼らの一派はあたかもアッラー*を恐れるか、あるいはそれよりもっと強い恐怖でもって、人々[3]を恐れるのだ。そして、彼らは（こう）言う。「我らが主*よ。あなたはどうして、私たちに戦闘を義務づけられたのですか？暫しの間、私たちに猶予を与えて下さいませんか？」（使徒*よ、）言ってやるがいい。「現世の享楽は僅かなものであるが、来世の方が敬虔*である者にとって、より善いのだ。そしてあなた方は、糸くず[4]ほどさえも不正*に扱われることがない」。

أَلَمْ تَرَ إِلَى ٱلَّذِينَ قِيلَ لَهُمْ كُفُّوٓا۟ أَيْدِيَكُمْ وَأَقِيمُوا۟ ٱلصَّلَوٰةَ وَءَاتُوا۟ ٱلزَّكَوٰةَ فَلَمَّا كُتِبَ عَلَيْهِمُ ٱلْقِتَالُ إِذَا فَرِيقٌ مِّنْهُمْ يَخْشَوْنَ ٱلنَّاسَ كَخَشْيَةِ ٱللَّهِ أَوْ أَشَدَّ خَشْيَةً ۚ وَقَالُوا۟ رَبَّنَا لِمَ كَتَبْتَ عَلَيْنَا ٱلْقِتَالَ لَوْلَآ أَخَّرْتَنَآ إِلَىٰٓ أَجَلٍ قَرِيبٍ ۗ قُلْ مَتَٰعُ ٱلدُّنْيَا قَلِيلٌ وَٱلْءَاخِرَةُ خَيْرٌ لِّمَنِ ٱتَّقَىٰ وَلَا تُظْلَمُونَ فَتِيلًا ٧٧

78. どこにいようと、死はあなた方に降りかかる。たとえあなた方が、堅固な砦の中にいたとしても。彼らは自分たちが善い目に遭えば、「これは、アッラー*からのものだ」

أَيْنَمَا تَكُونُوا۟ يُدْرِككُّمُ ٱلْمَوْتُ وَلَوْ كُنتُمْ فِى بُرُوجٍ مُّشَيَّدَةٍ ۗ وَإِن تُصِبْهُمْ حَسَنَةٌ يَقُولُوا۟ هَٰذِهِۦ مِنْ عِندِ ٱللَّهِ ۖ وَإِن تُصِبْهُمْ سَيِّئَةٌ يَقُولُوا۟

---

1 「シャイターン*の盟友」とは、シャイターン*に従う、彼らと親密な不信仰者*のこと（ムヤッサル 90 頁参照）。雌牛章 190、悔悟章 36、巡礼*章 39 とそれらの訳注も参照。

2 マッカ*時代、一部のムスリム*は不信仰者*たちの迫害に耐えかねて、彼らとの戦闘が許可されることを待ち望んでいた。また一説には、このアーヤ*はユダヤ教徒*の一派に関して下ったのだ、とも言われる（アッ＝タバリー3:2413-2415 参照）。

3 ここでの「人々」は、マッカ*のシルク*の徒である、と言われる（アル＝バガウィー1:664 参照）。

4 「糸くず」については、アーヤ*49 の訳注を参照。

と言う。そして悪い目に遭えば、「これはあなたのせいだ」と言う。言ってやれ。「全てはアッラー*からのものである」。それらの民が、殆ど話を理解することがないのは、どういうことか？

هَٰذِهِۦ مِنْ عِندِكَ ۚ قُلْ كُلٌّ مِّنْ عِندِ ٱللَّهِ ۖ فَمَالِ
هَٰٓؤُلَآءِ ٱلْقَوْمِ لَا يَكَادُونَ يَفْقَهُونَ حَدِيثًا ٧٨

79. （人間よ、）あなたに降りかかったいかなる善きものも、アッラー*からのものである。また、あなたに降りかかったいかなる災難も、あなた自身からのものである[1]。（使徒*よ、）われら*はあなたを、人々への使徒*として遣わした。アッラーは証人として万全なるお方であられる。

مَّآ أَصَابَكَ مِنْ حَسَنَةٍ فَمِنَ ٱللَّهِ ۖ وَمَآ أَصَابَكَ مِن
سَيِّئَةٍ فَمِن نَّفْسِكَ ۚ وَأَرْسَلْنَٰكَ لِلنَّاسِ
رَسُولًا ۚ وَكَفَىٰ بِٱللَّهِ شَهِيدًا ٧٩

80. 誰であろうと使徒 *（ムハンマド*）に従う者は、実にアッラー*に従ったのだ。そしてわれらは（使徒*への服従を拒んで）背き去る者に対し、あなたを監視役として遣わしたのではない[2]。

مَّن يُطِعِ ٱلرَّسُولَ فَقَدْ أَطَاعَ ٱللَّهَ ۖ وَمَن تَوَلَّىٰ
فَمَآ أَرْسَلْنَٰكَ عَلَيْهِمْ حَفِيظًا ٨٠

81. 彼らは（あなたの前では）、「（私たちのすべきは）服従です」と言う。そしてあなたのもとから立ち去ると、彼らの一派は（あなたに）言うこととは違うことを、夜中に企むのだ。だがアッラー*は、彼らの夜中の策謀を記録なされる。ならば彼らに背を向け、アッラー*に（全てを）委ねる*のだ。アッラー*こそは、全てを請け負われる*お方として万全であられる。

وَيَقُولُونَ طَاعَةٌ فَإِذَا بَرَزُوا۟ مِنْ عِندِكَ بَيَّتَ
طَآئِفَةٌ مِّنْهُمْ غَيْرَ ٱلَّذِى تَقُولُ ۖ وَٱللَّهُ يَكْتُبُ
مَا يُبَيِّتُونَ ۖ فَأَعْرِضْ عَنْهُمْ وَتَوَكَّلْ عَلَى ٱللَّهِ ۚ
وَكَفَىٰ بِٱللَّهِ وَكِيلًا ٨١

---

1 本来、善いことも災難も全てはアッラー*からのものだが、アッラー*への礼節として善いことだけがかれに帰せられ、災難は人間に帰せられている。というのも人間に起きる悪いことは、自分自身の罪ゆえ（相談章 30 参照）なのであり、その意味で災難は自分自身が原因であり、それを創造されるお方がアッラー*なのである（イブン・ジュザイ 1:199 参照）。

2 アッラー*が預言者*ムハンマド*を遣わされたのは、彼が不信仰者*らの行いを監視・記録し、裁定するためではなく、アッラー*の教えを伝達させるためである。彼らの行いの清算は、アッラー*が復活の日*に請け負われる（アッ＝タバリー3:2421、ムヤッサル 91 頁参照）。

82. 一体彼らは、クルアーン*を熟慮しないのか？　もしそれがアッラー*以外のものに由来するものであったなら、彼らはその中に沢山の相違点を見出したであろうに。

أَفَلَا يَتَدَبَّرُونَ ٱلْقُرْءَانَ ۚ وَلَوْ كَانَ مِنْ عِندِ
غَيْرِ ٱللَّهِ لَوَجَدُوا۟ فِيهِ ٱخْتِلَـٰفًا كَثِيرًا ٨٢

83. また彼らは、安全や恐怖に関わる諸事[1]（の知らせ）が訪れると、それを言いふらす。もし彼らがそれを使徒*に、そして権威を有する者たち[2]に伝えたなら、彼らの内でそこから（正しい）結論を導き出す（ことの出来る）者は、それ[3]を知ったことであろうに。もし、あなた方に対するアッラー*のご恩寵とご慈悲がなかったならば、僅かな者たちを除き、あなた方はシャイターン*に従ってしまったことであろう。

وَإِذَا جَآءَهُمْ أَمْرٌ مِّنَ ٱلْأَمْنِ أَوِ ٱلْخَوْفِ أَذَاعُوا۟
بِهِۦ ۖ وَلَوْ رَدُّوهُ إِلَى ٱلرَّسُولِ وَإِلَىٰٓ أُو۟لِى ٱلْأَمْرِ
مِنْهُمْ لَعَلِمَهُ ٱلَّذِينَ يَسْتَنۢبِطُونَهُۥ مِنْهُمْ ۗ
وَلَوْلَا فَضْلُ ٱللَّهِ عَلَيْكُمْ وَرَحْمَتُهُۥ
لَٱتَّبَعْتُمُ ٱلشَّيْطَـٰنَ إِلَّا قَلِيلًا ٨٣

84. ならば（預言者*よ）、アッラー*の道において戦うのだ。あなたが課されるのは、自分自身のみ[4]。そして信仰者たちを（戦いへと）激励せよ。きっとアッラー*は、不信仰に陥った者*たちの猛威を阻んで下さろうから。アッラー*は猛威がより厳しく、懲罰がより激しいお方。[5]

فَقَـٰتِلْ فِى سَبِيلِ ٱللَّهِ لَا تُكَلَّفُ إِلَّا نَفْسَكَ ۚ
وَحَرِّضِ ٱلْمُؤْمِنِينَ ۖ عَسَى ٱللَّهُ أَن يَكُفَّ بَأْسَ
ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ ۚ وَٱللَّهُ أَشَدُّ بَأْسًا وَأَشَدُّ
تَنكِيلًا ٨٤

---

1 ここでの「安全に関わる諸事」とは、イスラーム*とムスリム*の安全に関わるもので、内密にしておくべき物事。一方「恐怖に関わる物事」とは、それを不用意に口にすれば、ムスリム*たちの心を恐怖に陥れるような物事（ムヤッサル 91 頁参照）。

2 この「権威を有する者」とは、知識や優れた知性を備えた者。あるいは指導者（アッ＝シャウカーニー782 頁参照）。

3 つまり、その知らせの真意のこと（前掲書、同頁参照）。

4 たとえあなた一人であっても、アッラー*が勝利をお約束になったのだから、敵との戦いと、弱い信仰者の援助を放棄（ほうき）してはならない、ということ（アル＝クルトゥビー5:293 参照）。

5 関連するアーヤ*として、雌牛章 190、悔悟章 36、巡礼*章 39 とそれらの訳注も参照。

85. よい執り成しをする者には誰でも、その（よい褒美の）分け前があろう。また、悪い執り成しをする者には誰でも、その（罪の）取り分があろう。アッラー*はもとより、全てのことを看視される*お方。

مَّن يَشۡفَعۡ شَفَٰعَةً حَسَنَةٗ يَكُن لَّهُۥ
نَصِيبٞ مِّنۡهَاۖ وَمَن يَشۡفَعۡ شَفَٰعَةٗ سَيِّئَةٗ يَكُن
لَّهُۥ كِفۡلٞ مِّنۡهَاۗ وَكَانَ ٱللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ مُّقِيتٗا ٨٥

86. あなた方が挨拶されたら、それよりもっと丁重な挨拶をするか、あるいはそれ（同様の挨拶）を返すのだ。本当にアッラー*はもとより、全ての清算者*であられるのだから。

وَإِذَا حُيِّيتُم بِتَحِيَّةٖ فَحَيُّواْ بِأَحۡسَنَ مِنۡهَآ
أَوۡ رُدُّوهَآۗ إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٍ حَسِيبًا ٨٦

87. アッラー*は、かれ以外に崇拝*すべきものがないお方。かれは必ずやあなた方を、疑惑の余地のない復活の日*に召集される。一体、アッラー*よりも真実を語るものがあろうか？

ٱللَّهُ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَۚ لَيَجۡمَعَنَّكُمۡ إِلَىٰ يَوۡمِ ٱلۡقِيَٰمَةِ
لَا رَيۡبَ فِيهِۗ وَمَنۡ أَصۡدَقُ مِنَ ٱللَّهِ حَدِيثٗا ٨٧

88. （信仰者たちよ、）あなた方は、どうして偽信者*たち[1]（のこと）で二派に分れるのか？　アッラー*は彼らが稼いだ（悪）事ゆえに、彼らを（不信仰と迷妄に）陥れ給うたというのに？　あなた方は、アッラー*が迷わせ給うた者を導こうと望んでいるのか？　誰であろうとアッラー*が迷わせられた者に、あなたが彼のための（導きの）道を見出すことなど、ないのだ。

۞فَمَا لَكُمۡ فِي ٱلۡمُنَٰفِقِينَ فِئَتَيۡنِ وَٱللَّهُ
أَرۡكَسَهُم بِمَا كَسَبُوٓاْۚ أَتُرِيدُونَ أَن تَهۡدُواْ مَنۡ
أَضَلَّ ٱللَّهُۖ وَمَن يُضۡلِلِ ٱللَّهُ فَلَن تَجِدَ لَهُۥ سَبِيلٗا ٨٨

89. 彼らは自分たちが不信仰に陥ったように、あなた方も不信仰に陥り、（彼らの）同類になることを望んでいる。ならば、彼らがアッラー*の道において移住*するまでは、彼らの内から盟友を得てはならない。そしてもし彼らが（移住*を拒んで）背を向け

وَدُّواْ لَوۡ تَكۡفُرُونَ كَمَا كَفَرُواْ فَتَكُونُونَ سَوَآءٗۖ
فَلَا تَتَّخِذُواْ مِنۡهُمۡ أَوۡلِيَآءَ حَتَّىٰ يُهَاجِرُواْ
فِي سَبِيلِ ٱللَّهِۚ فَإِن تَوَلَّوۡاْ فَخُذُوهُمۡ وَٱقۡتُلُوهُمۡ
حَيۡثُ وَجَدتُّمُوهُمۡۖ وَلَا تَتَّخِذُواْ مِنۡهُمۡ وَلِيّٗا
وَلَا نَصِيرًا ٨٩

1 これは、ムスリム*を装（よそお）った偽信者*らの内でも、不信仰ゆえにマディーナ*に移住*しなかった者たちのこととされる（アッ＝サアディー191頁参照）。

たならば、彼らを捕え、見つけ次第、彼らを殺すのだ。彼らの内から盟友も援助者も、得てはならない。

90. 但し、あなた方と盟約を結んでいる民のもとに身を寄せる者たち[1]、あるいはあなた方と戦うことも、自分たちの民と戦うことも嫌がって、あなた方のところへやって来た者たち[2]は別である。もしアッラー*がお望みならば、かれは彼らをあなた方に対して威勢強くさせ、（その結果）彼らは（あなた方の敵と共に）あなた方と戦ったことであろう。もし、彼らがあなた方から身を引いてあなた方と戦わず、あなた方に和平を申し出るならば、アッラー*はあなた方に彼らへの（戦いという）道をお許しにはならない。

إِلَّا ٱلَّذِينَ يَصِلُونَ إِلَىٰ قَوۡمِۭ بَيۡنَكُمۡ وَبَيۡنَهُم
مِّيثَٰقٌ أَوۡ جَآءُوكُمۡ حَصِرَتۡ صُدُورُهُمۡ أَن
يُقَٰتِلُوكُمۡ أَوۡ يُقَٰتِلُواْ قَوۡمَهُمۡۚ وَلَوۡ شَآءَ
ٱللَّهُ لَسَلَّطَهُمۡ عَلَيۡكُمۡ فَلَقَٰتَلُوكُمۡۚ فَإِنِ
ٱعۡتَزَلُوكُمۡ فَلَمۡ يُقَٰتِلُوكُمۡ وَأَلۡقَوۡاْ إِلَيۡكُمُ
ٱلسَّلَمَ فَمَا جَعَلَ ٱللَّهُ لَكُمۡ عَلَيۡهِمۡ سَبِيلٗا ٩٠

91. あなた方は、あなた方から安全を望み、また（不信仰者*である）自らの民からも安全でありたいと望む、別の者たち[3]を見出すであろう。彼らは（不信仰への）試練に戻される度、そこに転落する。そして、彼らがもしあなた方（との戦い）から身を引かず、あなた方に和平も申し出ず、また（攻撃の）手を止めもしないのなら、彼らを捕え、捕獲し次第、彼らを殺すのだ。それらの者たちに対してこそ、われら*はあなた方に（交戦の）明白な根拠を授けたのである。

سَتَجِدُونَ ءَاخَرِينَ يُرِيدُونَ أَن يَأۡمَنُوكُمۡ
وَيَأۡمَنُواْ قَوۡمَهُمۡ كُلَّ مَا رُدُّوٓاْ إِلَى ٱلۡفِتۡنَةِ
أُرۡكِسُواْ فِيهَاۚ فَإِن لَّمۡ يَعۡتَزِلُوكُمۡ وَيُلۡقُوٓاْ
إِلَيۡكُمُ ٱلسَّلَمَ وَيَكُفُّوٓاْ أَيۡدِيَهُمۡ فَخُذُوهُمۡ
وَٱقۡتُلُوهُمۡ حَيۡثُ ثَقِفۡتُمُوهُمۡۚ وَأُوْلَٰٓئِكُمۡ
جَعَلۡنَا لَكُمۡ عَلَيۡهِمۡ سُلۡطَٰنٗا مُّبِينٗا ٩١

---

1 ムスリム*と休戦協定や庇護（ひご）協定を結んでいる民のもとに避難（ひなん）した者については、その民と同じ位置づけがされる（イブン・カスィール 2:372 参照）。

2 一説にこれは、マディーナ*に移住*したものの、信仰者たちと共に自分たちの民と戦うことを免除してもらった者たちのこと（イブン・アーシュール 5:153 参照）。

3 この「別の者たち」とは、ムスリム*側にはムスリム*の顔を見せ、不信仰者*である自分の民には不信仰者*の顔を見せる、偽信者*のことであると言われる（ムヤッサル 92 頁参照）。

92. 信仰者が信仰者を殺めることがあってはならない。但し、過失の場合は別である。それで過失から信仰者を殺めてしまった者には誰でも、信仰者の首一つの解放[1]と、その遺族への代償金[2]（が義務づけられる）。だが、彼ら（被害者の遺族）が（免責を）施してやる場合は別である。また、彼（被害者）があなた方に敵対している民に属する信仰者であったら、信仰者の首一つの解放。また、彼（被害者）があなた方と盟約を結んでいる民に属する者であったら、その遺族への代償金と、信仰者の首一つの解放。そして（信仰者の奴隷*、あるいはそれを解放する財産を）見出せない者は、アッラー*が悔悟をお受け入れになるよう、連続二ヶ月の斎戒*を（義務づけられる）。アッラー*はもとより、全知者、英知あふれる*お方であられる。

وَمَا كَانَ لِمُؤۡمِنٍ أَن يَقۡتُلَ مُؤۡمِنًا إِلَّا
خَطَـٔٗاۚ وَمَن قَتَلَ مُؤۡمِنًا خَطَـٔٗا فَتَحۡرِيرُ
رَقَبَةٖ مُّؤۡمِنَةٖ وَدِيَةٞ مُّسَلَّمَةٌ إِلَىٰٓ
أَهۡلِهِۦٓ إِلَّآ أَن يَصَّدَّقُواْۚ فَإِن كَانَ مِن
قَوۡمٍ عَدُوّٖ لَّكُمۡ وَهُوَ مُؤۡمِنٞ
فَتَحۡرِيرُ رَقَبَةٖ مُّؤۡمِنَةٖۖ وَإِن كَانَ مِن قَوۡمِۭ
بَيۡنَكُمۡ وَبَيۡنَهُم مِّيثَٰقٞ فَدِيَةٞ
مُّسَلَّمَةٌ إِلَىٰٓ أَهۡلِهِۦ وَتَحۡرِيرُ رَقَبَةٖ
مُّؤۡمِنَةٖۖ فَمَن لَّمۡ يَجِدۡ فَصِيَامُ شَهۡرَيۡنِ
مُتَتَابِعَيۡنِ تَوۡبَةٗ مِّنَ ٱللَّهِۗ وَكَانَ
ٱللَّهُ عَلِيمًا حَكِيمٗا ٩٢

93. 一方、誰であろうと信仰者を故意に殺める者、その報いは地獄である。（彼は）そこに永遠に留まる。そしてアッラー*は彼をお怒りになり、彼を呪われ[3]、彼のためにこの上ない懲罰をご用意になる。[4]

وَمَن يَقۡتُلۡ مُؤۡمِنٗا مُّتَعَمِّدٗا فَجَزَآؤُهُۥ
جَهَنَّمُ خَٰلِدٗا فِيهَا وَغَضِبَ ٱللَّهُ عَلَيۡهِ
وَلَعَنَهُۥ وَأَعَدَّ لَهُۥ عَذَابًا عَظِيمٗا ٩٣

1 ここでの「首」は、奴隷のこと。身体の一部の言及によって、人間の全身が表わされている（アル＝バイダーウィー2:234 参照）。

2 ここでの「代償金」は、キサース刑（雌牛章 178 参照）の免除として課せられる、生命の対価のこと。被害者の遺族に対して支払われる。

3 「アッラー*の呪い」については、雌牛章 88 の訳注参照。

4 先代・後代の学者の大半は、故意の殺人者にも悔悟の余地は残されており、真に悔悟し、従順なしもべとなり、正しい行い*を行うならば、悪行は善行に替えてもらえるとする。また、信仰者が地獄に永遠に留まることがないことは、多くの伝承によって明らかにされている（イブン・カスィール 2:380-381 参照)。識別章 68-71 も参照。

94. 信仰する者たちよ、あなた方がアッラー*の道に出征する時は、（事を慎重に）見極めるのだ。そしてあなた方に（イスラーム*の）挨拶をする[1]者に向かって、現世の生活のつまらぬ利益を求めつつ、「あなたは信仰者ではない」と言ってはならない。アッラー*の御許にこそ、ふんだんな褒美があるのだから[2]。あなた方もかつてはそうであったのだが、アッラー*があなた方にお恵みを与えて下さったのだ[3]。ならば（慎重に）見極めよ。本当にアッラー*はもとより、あなた方の行うことに通暁されているお方。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِذَا ضَرَبۡتُمۡ فِي
سَبِيلِ ٱللَّهِ فَتَبَيَّنُواْ وَلَا تَقُولُواْ لِمَنۡ أَلۡقَىٰٓ
إِلَيۡكُمُ ٱلسَّلَٰمَ لَسۡتَ مُؤۡمِنٗا
تَبۡتَغُونَ عَرَضَ ٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَا
فَعِندَ ٱللَّهِ مَغَانِمُ كَثِيرَةٞۚ كَذَٰلِكَ
كُنتُم مِّن قَبۡلُ فَمَنَّ ٱللَّهُ
عَلَيۡكُمۡ فَتَبَيَّنُوٓاْۚ إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ
بِمَا تَعۡمَلُونَ خَبِيرٗا ٩٤

95. 信仰者の内で支障もないのに（出征せずに家に）居残る者たちと、アッラー*の道において自らの財と命をかけて奮闘する者たちは同等ではない。自らの財と命をかけて奮闘する者たちを、アッラー*は（支障ゆえに）居残る者たちよりも、一段階上に置かれた。アッラー*はそのいずれにも、最善のもの[4]をお約束されたのだ。そしてアッラー*は、奮闘する者たちを居残る者たちの上に、偉大な褒美でもって優越させられたのだ。

لَّا يَسۡتَوِي ٱلۡقَٰعِدُونَ مِنَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ غَيۡرُ أُوْلِي ٱلضَّرَرِ
وَٱلۡمُجَٰهِدُونَ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ بِأَمۡوَٰلِهِمۡ وَأَنفُسِهِمۡۚ
فَضَّلَ ٱللَّهُ ٱلۡمُجَٰهِدِينَ بِأَمۡوَٰلِهِمۡ وَأَنفُسِهِمۡ عَلَى
ٱلۡقَٰعِدِينَ دَرَجَةٗۚ وَكُلّٗا وَعَدَ ٱللَّهُ ٱلۡحُسۡنَىٰۚ وَفَضَّلَ ٱللَّهُ
ٱلۡمُجَٰهِدِينَ عَلَى ٱلۡقَٰعِدِينَ أَجۡرًا عَظِيمٗا ٩٥

---

1 あるいは、自分がムスリム*であると言ったり、シャハーダ*の言葉を口にしたりする者のこと（アッ＝タバリー3:2471 参照）。

2 教友*イブン・アッバース*によれば、バヌー・スライム族の男が一頭の羊を率いて、教友*たちと遭遇した。彼は教友*たちにイスラーム*の挨拶をしたが、教友たちは「こいつは、あなた方から保身するために（ムスリム*を装って）挨拶したのだ」と言い、彼を殺害し、羊を奪ってしまった。彼らは羊を連れてアッラー*の使徒*のもとにやって来たが、その時このアーヤ*が下った（アッ＝ティルミズィー3030 参照）。

3 彼ら信仰者たちの多くも、かつてはマッカ*の不信仰者*の中で信仰を隠しつつ暮らしていた。そして彼らがあやめた者もまた、不信仰の民の中で信仰を隠して生きていたのである。しかしアッラー*はそのお恵みでもって、彼らが信仰を公けにすることが出来るほどまでに、勢力を強めて下さったのだ（アッ＝タバリー3:2476-2477 参照）。

4 ここでの「最善のもの」は天国のことである、と言われる（ムヤッサル 94 頁参照）。

96. （それらの褒美とは、）かれからの数々の位[1]と、お赦しと、ご慈悲である。アッラー*はもとより、赦し深いお方、慈愛深い*お方であられる。

دَرَجَٰتٖ مِّنۡهُ وَمَغۡفِرَةٗ وَرَحۡمَةٗۚ وَكَانَ ٱللَّهُ
غَفُورٗا رَّحِيمًا ٩٦

97. 本当に、自分自身に不正*を働いた状態のまま、天使*たちに（その魂を）召された者たち[2]（は、破滅した）。（天使*たちは、彼らを咎めて）言う。「あなた方は（生前、宗教に関して）どのような状態にあったのか？」彼らは、（答えて）言う。「私たちは、地上で抑圧されていた者たちでした[3]」。彼ら（天使*たち）は、言う。「アッラー*の地は広大であり、あなた方はそこで移住*することが出来たのではないか？[4]」それらの者たちの住処は地獄である。それは何と悪い還り所であることか。

إِنَّ ٱلَّذِينَ تَوَفَّىٰهُمُ ٱلۡمَلَٰٓئِكَةُ ظَالِمِيٓ أَنفُسِهِمۡ
قَالُواْ فِيمَ كُنتُمۡۖ قَالُواْ كُنَّا مُسۡتَضۡعَفِينَ فِي ٱلۡأَرۡضِۚ
قَالُوٓاْ أَلَمۡ تَكُنۡ أَرۡضُ ٱللَّهِ وَٰسِعَةٗ فَتُهَاجِرُواْ فِيهَاۚ
فَأُوْلَٰٓئِكَ مَأۡوَىٰهُمۡ جَهَنَّمُۖ وَسَآءَتۡ مَصِيرًا ٩٧

98. しかし（移住*する）策も立てられず、道も知らなかった、男たち、女たち、子供たちという弱者たち[5]は別である。

إِلَّا ٱلۡمُسۡتَضۡعَفِينَ مِنَ ٱلرِّجَالِ وَٱلنِّسَآءِ
وَٱلۡوِلۡدَٰنِ لَا يَسۡتَطِيعُونَ حِيلَةٗ وَلَا يَهۡتَدُونَ
سَبِيلٗا ٩٨

99. それらの者たちは、アッラー*が大目に見て下さろう。アッラー*はもとより、（罪を）よく寛恕されるお方*、赦し深いお方であられる。

فَأُوْلَٰٓئِكَ عَسَى ٱللَّهُ أَن يَعۡفُوَ عَنۡهُمۡۚ
وَكَانَ ٱللَّهُ عَفُوًّا غَفُورٗا ٩٩

---

1 「位」とは、天国における高い位階のこと（ムヤッサル 94 頁）。

2 可能でありながら、移住*せずに不信仰のマッカ*社会に留まったムスリム*たちのこと。一説には、彼らはバドルの戦い*の際にマッカ*軍と共に駆り出され、ムスリム*軍の攻撃により命を失ったり、捕虜（ほりょ）になったりした（アル＝ブハーリー4596・7085、アッ＝タバリー3:2484-2489 参照）。戦利品*章 50 とその訳注も参照。

3 これは、嘘の言い訳（アル＝バガウィー1:685 参照）。

4 蜘蛛章 56、集団章 10 とその訳注も参照。

5 アーヤ*75 の同語に関する訳注も参照。

100. アッラー*の道において移住*する者は誰でも、地上に広い避難所とゆとりを見出すであろう。そして、アッラー*とその使徒*のもとに移住*すべく自分の家を後にし、それから（目的地に到達する前に）死を迎える者は誰でも、その褒美が必ずやアッラー*の御許で確定するのだ。アッラー*はもとより赦し深いお方、慈愛深い*お方。

۞وَمَن يُهَاجِرْ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ يَجِدْ فِي ٱلْأَرْضِ
مُرَٰغَمًا كَثِيرًا وَسَعَةً ۚ وَمَن يَخْرُجْ مِنۢ بَيْتِهِۦ
مُهَاجِرًا إِلَى ٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦ ثُمَّ يُدْرِكْهُ ٱلْمَوْتُ فَقَدْ
وَقَعَ أَجْرُهُۥ عَلَى ٱللَّهِ ۗ وَكَانَ ٱللَّهُ غَفُورًا رَّحِيمًا ١٠٠

101. （信仰者たちよ、）あなた方が地上を旅する時、もし不信仰に陥った者*たちが危害を加えてくる恐れがあるならば、礼拝を短縮してもあなた方に罪はない[1]。本当に不信仰者*らは元来、あなた方にとっての紛れもない敵である。

وَإِذَا ضَرَبْتُمْ فِي ٱلْأَرْضِ فَلَيْسَ عَلَيْكُمْ جُنَاحٌ أَن
تَقْصُرُوا۟ مِنَ ٱلصَّلَوٰةِ إِنْ خِفْتُمْ أَن يَفْتِنَكُمُ ٱلَّذِينَ
كَفَرُوٓا۟ ۚ إِنَّ ٱلْكَٰفِرِينَ كَانُوا۟ لَكُمْ عَدُوًّا مُّبِينًا ١٠١

102. また（預言者*よ）、あなたが彼らと共に（戦場に）あり、彼らを率いて礼拝する時[2]には、（彼らを二つの集団に分け、その）一団をあなたと共に（礼拝に）立たせ、彼らに自分たちの武器を持たせよ。そして彼らがサジダ*する時には、（別の一団を）あなた方（礼拝中の一団）の後ろにいさせ（て、護衛させ）るのだ。それから、まだ礼拝していないその別の一団に来させて、あなたと共に礼拝させよ[3]。

وَإِذَا كُنتَ فِيهِمْ فَأَقَمْتَ لَهُمُ ٱلصَّلَوٰةَ
فَلْتَقُمْ طَآئِفَةٌ مِّنْهُم مَّعَكَ وَلْيَأْخُذُوٓا۟
أَسْلِحَتَهُمْ ۖ فَإِذَا سَجَدُوا۟ فَلْيَكُونُوا۟ مِن
وَرَآئِكُمْ وَلْتَأْتِ طَآئِفَةٌ أُخْرَىٰ لَمْ يُصَلُّوا۟
فَلْيُصَلُّوا۟ مَعَكَ وَلْيَأْخُذُوا۟ حِذْرَهُمْ
وَأَسْلِحَتَهُمْ ۗ وَدَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟
لَوْ تَغْفُلُونَ عَنْ أَسْلِحَتِكُمْ وَأَمْتِعَتِكُمْ
فَيَمِيلُونَ عَلَيْكُم مَّيْلَةً وَٰحِدَةً ۚ وَلَا جُنَاحَ
عَلَيْكُمْ إِن كَانَ بِكُمْ أَذًى مِّن مَّطَرٍ

---

1 「もし…恐れがあるならば」というのは、当時の大方の状況の描写に過ぎず、礼拝の短縮の条件ではない。大半の学者は、旅行者がある一定の条件下で、四ラクアの礼拝を二ラクアに短縮できるという見解を示している（イブン・カスィール 2:393-394 参照）。

2 これは「恐れの礼拝」と呼ばれる礼拝。アーヤ*の中ではそのやり方の詳細には触れられていないが、伝承によって、数多くの形式が伝えられている（アブー・ハイヤーン 3:276-277 参照）。

3 最初の集団は、最初の一ラクアだけ先導者と共に行い、二ラクア目は自分たちで行う。先導者の二ラクア目には別の集団がやって来て、先導者と共に礼拝し（彼らにとっては一ラクア目）、先導者が二ラクア目を終えた後には、もう一ラクア（彼らにとっての二ラクア目）行う（ムヤッサル 95 頁参照）。

そして用心させ、武器を持たせるのだ。不信仰に陥った者*たちは、あなた方が自分たちの武器や装備品をおろそかにし、それで彼らがあなた方に一斉に襲いかかれたなら、と望んでいる。もし雨による害があったり、あなた方が病気だったりしたら、自分たちの武器を置いても、あなた方に罪はない。用心せよ。本当にアッラー*は不信仰者*たちに、屈辱的な懲罰をご用意なされたのだ。

أَوْ كُنتُم مَّرْضَىٰٓ أَن تَضَعُوٓا۟ أَسْلِحَتَكُمْ ۖ
وَخُذُوا۟ حِذْرَكُمْ ۗ إِنَّ ٱللَّهَ أَعَدَّ لِلْكَـٰفِرِينَ
عَذَابًا مُّهِينًا ﴿١٠٢﴾

103. そしてあなた方が礼拝を終えたならば、立ったまま、座ったまま、横たわったまま、アッラー*を唱念せよ。そして安全になったら、（通常通りの形で）礼拝を遵守*せよ。本当に礼拝はもとより、信仰者に対して定刻に義務づけられているのだから。

فَإِذَا قَضَيْتُمُ ٱلصَّلَوٰةَ فَٱذْكُرُوا۟ ٱللَّهَ قِيَـٰمًا
وَقُعُودًا وَعَلَىٰ جُنُوبِكُمْ ۚ فَإِذَا
ٱطْمَأْنَنتُمْ فَأَقِيمُوا۟ ٱلصَّلَوٰةَ ۚ إِنَّ ٱلصَّلَوٰةَ
كَانَتْ عَلَى ٱلْمُؤْمِنِينَ كِتَـٰبًا مَّوْقُوتًا ﴿١٠٣﴾

104. あなた方は、敵を追うことに弱気になってはならない。あなた方が苦しかったとしても、本当に彼らも、あなた方が苦しむように苦しんでいるのだから。しかもあなた方は、彼らが期待してはいないもの[1]をアッラー*から期待している。アッラー*はもとより全知者、英知あふれる*お方。

وَلَا تَهِنُوا۟ فِى ٱبْتِغَآءِ ٱلْقَوْمِ ۖ إِن تَكُونُوا۟
تَأْلَمُونَ فَإِنَّهُمْ يَأْلَمُونَ كَمَا تَأْلَمُونَ ۖ
وَتَرْجُونَ مِنَ ٱللَّهِ مَا لَا يَرْجُونَ ۗ
وَكَانَ ٱللَّهُ عَلِيمًا حَكِيمًا ﴿١٠٤﴾

105. （使徒*よ、）本当にわれら*は、あなたに真理の啓典を下した。（それは）アッラー*があなたにお示しになったものによって、あなたが人々の間を裁くためである。そして、欺く者たちの弁護者となってはならない[2]。

إِنَّآ أَنزَلْنَآ إِلَيْكَ ٱلْكِتَـٰبَ بِٱلْحَقِّ لِتَحْكُمَ
بَيْنَ ٱلنَّاسِ بِمَآ أَرَىٰكَ ٱللَّهُ ۚ وَلَا تَكُن
لِّلْخَآئِنِينَ خَصِيمًا ﴿١٠٥﴾

1 来世での褒美や、勝利、アッラーからのご援助のこと（ムヤッサル 95 頁参照）。

2 この一連のアーヤ*が下った背景を示す伝承の大筋は、以下のようなものである：あるムスリム*が他人の鎧（よろい）を不当に入手し、彼とその部族が共同してその罪をある者（一

106. そしてアッラー*のお赦しを乞うのだ。本当にアッラー*はもとより、赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。

وَٱسۡتَغۡفِرِ ٱللَّهَۖ إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ
غَفُورٗا رَّحِيمٗا ١٠٦

107. そして、（罪を犯すことによって）自らを欺く者たちを弁護してはならない。本当にアッラー*は、欺瞞に満ち、罪に溺れた者をお好みにはならないのだから。

وَلَا تُجَٰدِلۡ عَنِ ٱلَّذِينَ يَخۡتَانُونَ أَنفُسَهُمۡۚ
إِنَّ ٱللَّهَ لَا يُحِبُّ مَن كَانَ خَوَّانًا أَثِيمٗا ١٠٧

108. 彼らは人々から（自分たちの罪を）隠そうとはするが、アッラー*から隠そうとはしない。彼らが、かれのお喜びにならない言葉を夜中に企む[1]時でも、かれは彼らと共におられる[2]というのに。アッラー*はもとより、彼らの行うことを悉く包囲*されているお方。

يَسۡتَخۡفُونَ مِنَ ٱلنَّاسِ وَلَا يَسۡتَخۡفُونَ
مِنَ ٱللَّهِ وَهُوَ مَعَهُمۡ إِذۡ يُبَيِّتُونَ مَا لَا
يَرۡضَىٰ مِنَ ٱلۡقَوۡلِۚ وَكَانَ ٱللَّهُ
بِمَا يَعۡمَلُونَ مُحِيطًا ١٠٨

109. ほら、本当にあなた方という人たちは、現世の生活において彼らを弁護した。では誰が復活の日*に、アッラー*に対して彼らを弁護するのか？　いや、誰が彼らの代理人となるのか？

هَٰٓأَنتُمۡ هَٰٓؤُلَآءِ جَٰدَلۡتُمۡ عَنۡهُمۡ فِي ٱلۡحَيَوٰةِ
ٱلدُّنۡيَا فَمَن يُجَٰدِلُ ٱللَّهَ عَنۡهُمۡ يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِ
أَم مَّن يَكُونُ عَلَيۡهِمۡ وَكِيلٗا ١٠٩

110. 悪事を行ったり、自らに不正*を働いたりしても、その後アッラー*に（自分の罪の）お赦しを乞う者は誰でも、アッラー*が赦し深いお方、慈愛深い*お方であるのを見出すであろう。

وَمَن يَعۡمَلۡ سُوٓءًا أَوۡ يَظۡلِمۡ نَفۡسَهُۥ ثُمَّ
يَسۡتَغۡفِرِ ٱللَّهَ يَجِدِ ٱللَّهَ غَفُورٗا رَّحِيمٗا ١١٠

説にはユダヤ教徒*）に擦（なす）り付けようとした。預言者*ムハンマド*はそれを一旦信じかけたが、その折にこれらのアーヤ*が下り、真相が明らかになった（アッ＝ティルミズィー3036、アッタバリー3:2522-2528 参照）。

1 無実の者に罪を着せたり、嘘の誓いや偽証（ぎしょう）をしたりするため、企むこと（アル＝バイダーウィー2:250 参照）。アーヤ*105 の訳注も参照。

2 つまり彼らのことをお見通しである、ということ（ムヤッサル 96 頁参照）。

111. また、誰であろうと罪を犯す者は、自分自身を害すべくそれ[1]を稼いでいるに外ならない。アッラー*はもとより、全知者、英知あふれる*お方であられる。

وَمَن يَكۡسِبۡ إِثۡمٗا فَإِنَّمَا يَكۡسِبُهُۥ عَلَىٰ
نَفۡسِهِۦۚ وَكَانَ ٱللَّهُ عَلِيمًا حَكِيمٗا ١١١

112. そして過ちや罪[2]を犯した後、それを無実の者に擦り付ける者は誰でも、確かに大嘘と紛れもない罪を背負い込んでいるのだ。

وَمَن يَكۡسِبۡ خَطِيٓـَٔةً أَوۡ إِثۡمٗا ثُمَّ يَرۡمِ بِهِۦ
بَرِيٓـٔٗا فَقَدِ ٱحۡتَمَلَ بُهۡتَٰنٗا وَإِثۡمٗا مُّبِينٗا ١١٢

113. （使徒*よ、）もしあなたへのアッラー*のご恩寵とご慈悲がなかったならば、彼らの一派は、あなたを迷わそうと思い立ったであろう。彼らが迷わせるのは自分自身に外ならず、彼らがあなたを害することなど、少しも出来やしないのだが。アッラー*はあなたに啓典と英知[3]を下し、あなたが（かつて）知らなかったことを教示された。そして、あなたに対するアッラー*のご恩寵はもとより、偉大なのである。

وَلَوۡلَا فَضۡلُ ٱللَّهِ عَلَيۡكَ وَرَحۡمَتُهُۥ لَهَمَّت
طَّآئِفَةٞ مِّنۡهُمۡ أَن يُضِلُّوكَ وَمَا يُضِلُّونَ
إِلَّآ أَنفُسَهُمۡۖ وَمَا يَضُرُّونَكَ مِن شَيۡءٖۚ
وَأَنزَلَ ٱللَّهُ عَلَيۡكَ ٱلۡكِتَٰبَ وَٱلۡحِكۡمَةَ
وَعَلَّمَكَ مَا لَمۡ تَكُن تَعۡلَمُۚ وَكَانَ فَضۡلُ
ٱللَّهِ عَلَيۡكَ عَظِيمٗا ١١٣

114. 彼らの密談の多くは無益である。但し、施しや善事[4]、人々の間の調停を命じる者（の密談）は別である。アッラー*のご満悦を望んでそうする者には誰でも、われら*がやがて、この上ない褒美を授けよう。

۞ لَّا خَيۡرَ فِي كَثِيرٖ مِّن نَّجۡوَىٰهُمۡ إِلَّا مَنۡ
أَمَرَ بِصَدَقَةٍ أَوۡ مَعۡرُوفٍ أَوۡ إِصۡلَٰحِۭ
بَيۡنَ ٱلنَّاسِۚ وَمَن يَفۡعَلۡ ذَٰلِكَ ٱبۡتِغَآءَ
مَرۡضَاتِ ٱللَّهِ فَسَوۡفَ نُؤۡتِيهِ أَجۡرًا عَظِيمٗا ١١٤

115. また、誰であろうと、自らに導きが明らかになった後に及んで使徒*に歯向かい、信仰者らの道以外のものを追求する者、われら*は彼を彼が向かったものへと放

وَمَن يُشَاقِقِ ٱلرَّسُولَ مِنۢ بَعۡدِ مَا تَبَيَّنَ لَهُ
ٱلۡهُدَىٰ وَيَتَّبِعۡ غَيۡرَ سَبِيلِ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ نُوَلِّهِۦ
مَا تَوَلَّىٰ وَنُصۡلِهِۦ جَهَنَّمَۖ وَسَآءَتۡ مَصِيرًا ١١٥

---

1 「それ」とは、罪を犯した結果としての罰のこと（アッ＝サァディー200 頁参照）。

2 一説に、ここでの「過ち」は故意のものとそうでないものの両方が含まれるが、「罪」は故意に行ったもののみを指すとされる（アッ＝タバリー3:2531-2532 参照）。

3 ここでの「英知」はスンナ*のことである、と言われる（ムヤッサル 96 頁参照）。

4 この「善事」については、イムラーン家章 104 の同語についての訳注を参照。

っておき、地獄に入れて炙ってやる。それは何と悪い還り所であろうか。

116. 本当にアッラー*は、かれと共に（何かが）並べられること（シルク*）をお赦しになることはないが、それ以外のことは、御心に適う者にお赦しになる。アッラー*に対してシルク*を犯す者は誰でも、実に遥か遠くへ迷い去ってしまっているのだ。

إِنَّ ٱللَّهَ لَا يَغْفِرُ أَن يُشْرَكَ بِهِۦ وَيَغْفِرُ
مَا دُونَ ذَٰلِكَ لِمَن يَشَآءُ ۚ وَمَن يُشْرِكْ بِٱللَّهِ
فَقَدْ ضَلَّ ضَلَٰلًۢا بَعِيدًا ﴿١١٦﴾

117. 彼らは、かれ（アッラー*）を差しおいて女性[1]に祈っているに過ぎない。そして彼らは、（アッラー*に対し）反逆的なシャイターン*に祈っているに過ぎないのだ。

إِن يَدْعُونَ مِن دُونِهِۦٓ إِلَّآ إِنَٰثًا وَإِن
يَدْعُونَ إِلَّا شَيْطَٰنًا مَّرِيدًا ﴿١١٧﴾

118. アッラー*は彼（シャイターン*）を呪われた[2]。そして（シャイターン*は、こう）言った。「私はあなたの僕たちの内から、一定の取り分[3]を必ずや頂いてみせましょう。

لَّعَنَهُ ٱللَّهُ ۘ وَقَالَ لَأَتَّخِذَنَّ مِنْ
عِبَادِكَ نَصِيبًا مَّفْرُوضًا ﴿١١٨﴾

119. また彼らを迷わせ、夢想に耽らせ（て私に従わせ）、彼らに命じて家畜の耳を切断させるようにしましょう。また私は彼らに命じて、アッラー*の創造を変えさせましょう[4]」。誰でもアッラー*を差しおい

وَلَأُضِلَّنَّهُمْ وَلَأُمَنِّيَنَّهُمْ وَلَءَامُرَنَّهُمْ
فَلَيُبَتِّكُنَّ ءَاذَانَ ٱلْأَنْعَٰمِ
وَلَءَامُرَنَّهُمْ فَلَيُغَيِّرُنَّ خَلْقَ ٱللَّهِ ۚ
وَمَن يَتَّخِذِ ٱلشَّيْطَٰنَ وَلِيًّا مِّن دُونِ

1 原語では文字通り「女性（イナース）」である。当時のマッカ*の不信仰者*たちが崇拝*していた偶像には、専（もっぱ）らアッ＝ラートとかアル＝ウッザーなどという女性形の名称が付けられていたため、彼らの偶像がここで「女性」と描写されたのだと言われる（アッ＝タバリー3:2541-2543 参照）。星章 19-23 とその訳注も参照。

2 「アッラー*の呪い」については、雌牛章 88 の訳注参照。また、この話の背景にあることに関しては、雌牛章 34-39、高壁章 11-25、アル＝ヒジュル章 28-42、夜の旅章 61-65、洞窟章 50、ター・ハー章 116-123、サード章 71-83 とその訳注も参照。

3 「一定の取り分」とは、シャイターン*に従って迷わされる者たちのこと（ムヤッサル 97 頁参照）。

4 「家畜の耳の切断」はイスラーム*以前の不信仰的習慣で、バヒーラ（食卓章 103 参照）と呼ばれるラクダの目印のためと言われる（アッ＝タバリー4:2544 参照）。また「アッラー*の創造の変更」はアッラー*の宗教そのものの改変を始め、刺青や美容整形など、宗教において禁じられている創造上の改変なども含まれるという（前掲書 4:2545-2549 参照）。

てシャイターン*を盟友とする者は、確かに明らかな損失を被っているのだ。

ٱللَّهِ فَقَدۡ خَسِرَ خُسۡرَانٗا مُّبِينٗا ١١٩

120. 彼（シャイターン*）は彼らに（嘘の）約束をし、（虚妄と欺瞞の）夢想を膨らませる。そしてシャイターン*が彼らに約束するのは、欺き以外の何ものでもない。

يَعِدُهُمۡ وَيُمَنِّيهِمۡۖ وَمَا يَعِدُهُمُ
ٱلشَّيۡطَٰنُ إِلَّا غُرُورًا ١٢٠

121. それらの者たち、彼らの住処は地獄である。彼らはそこからの、いかなる逃げ道も見出すことがない。

أُوْلَٰٓئِكَ مَأۡوَىٰهُمۡ جَهَنَّمُ
وَلَا يَجِدُونَ عَنۡهَا مَحِيصٗا ١٢١

122. われら*は信仰して正しい行い*を行う者を、その下から川が流れる楽園に入れてやろう。（彼らは）そこにずっと永遠に留まる。アッラー*の真なるお約束（を、信仰者たちにお約束になったのだ）。一体、アッラー*よりも真実の言葉を語る者などいようか？

وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
سَنُدۡخِلُهُمۡ جَنَّٰتٖ تَجۡرِي مِن تَحۡتِهَا
ٱلۡأَنۡهَٰرُ خَٰلِدِينَ فِيهَآ أَبَدٗاۖ وَعۡدَ ٱللَّهِ
حَقّٗاۚ وَمَنۡ أَصۡدَقُ مِنَ ٱللَّهِ قِيلٗا ١٢٢

123. （ムスリム*たちよ、アッラー*のお約束とは）あなた方の夢想によるのでもなければ、啓典の民*の夢想によ（って得られ）るのでもない。悪事を行う者は誰でもその報いを受けるのであり、その者はアッラー*の外に、自分にとってのいかなる庇護者や援助者も見出すことがないのだ。[1]

لَّيۡسَ بِأَمَانِيِّكُمۡ وَلَآ أَمَانِيِّ أَهۡلِ ٱلۡكِتَٰبِۗ
مَن يَعۡمَلۡ سُوٓءٗا يُجۡزَ بِهِۦ وَلَا يَجِدۡ لَهُۥ مِن
دُونِ ٱللَّهِ وَلِيّٗا وَلَا نَصِيرٗا ١٢٣

---

1 一説にこのアーヤ*は、ユダヤ教徒*やキリスト教徒*がムスリム*に対して「我々はあなた方よりも優れている。我々の宗教と啓典と預言者*は、あなた方のものに先立っているからである」と言い、かたやムスリム*が「我々の啓典と預言者*はあなた方のそれよりも後に下されたのであり、あなた方は我々に従うように命じられている。ゆえに我々の方が優れているのだ」と言ったことに関して、下されたと言われる。つまり救済とは単なる願望や思い込みではなく、アッラー*に従い、使徒*たちによって伝えられたかれの教えを実践することによって達成される（イブン・カスィール 2:417 参照）。

124. そして男性であれ女性であれ、誰であろうと信仰者で正しい行い*を行う者、それらの者たちは天国に入る。彼らは、斑点[1]一つほども不正*に扱われることはない。

وَمَن يَعۡمَلۡ مِنَ ٱلصَّٰلِحَٰتِ مِن
ذَكَرٍ أَوۡ أُنثَىٰ وَهُوَ مُؤۡمِنٞ فَأُوْلَٰٓئِكَ
يَدۡخُلُونَ ٱلۡجَنَّةَ وَلَا يُظۡلَمُونَ نَقِيرٗا ١٢٤

125. 誰であろうと、善を尽くす者でありつつ、アッラー*のみに顔を向けて服従し[2]、純正な[3]イブラーヒーム*の教えを踏襲する者よりも、よい宗教の者がいようか？アッラー*はイブラーヒーム*を、（かれに）近しい者とされたのである。

وَمَنۡ أَحۡسَنُ دِينٗا مِّمَّنۡ أَسۡلَمَ وَجۡهَهُۥ لِلَّهِ
وَهُوَ مُحۡسِنٞ وَٱتَّبَعَ مِلَّةَ إِبۡرَٰهِيمَ حَنِيفٗاۗ
وَٱتَّخَذَ ٱللَّهُ إِبۡرَٰهِيمَ خَلِيلٗا ١٢٥

126. そして諸天にあるものも大地にあるものも（全て）、アッラー*のもの。アッラー*はもとより、全てを包囲されている*お方。

وَلِلَّهِ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلۡأَرۡضِۚ
وَكَانَ ٱللَّهُ بِكُلِّ شَيۡءٖ مُّحِيطٗا ١٢٦

127. （預言者*よ、）彼ら（人々）は、女性たち（に関する法規定）について、あなたに教示を請う。言ってやるがいい。「アッラー*は、彼女らについて教示を下される。また、啓典の中であなた方に誦み聞かされること[4]が（、教示を下す）。あなた方が（権利として）定められたもの[5]を与えず、また結婚させようともしない[6]、

وَيَسۡتَفۡتُونَكَ فِي ٱلنِّسَآءِۖ قُلِ ٱللَّهُ
يُفۡتِيكُمۡ فِيهِنَّ وَمَا يُتۡلَىٰ عَلَيۡكُمۡ فِي
ٱلۡكِتَٰبِ فِي يَتَٰمَى ٱلنِّسَآءِ ٱلَّٰتِي
لَا تُؤۡتُونَهُنَّ مَا كُتِبَ لَهُنَّ وَتَرۡغَبُونَ أَن
تَنكِحُوهُنَّ وَٱلۡمُسۡتَضۡعَفِينَ مِنَ ٱلۡوِلۡدَٰنِ وَأَن
تَقُومُواْ لِلۡيَتَٰمَىٰ بِٱلۡقِسۡطِۚ وَمَا تَفۡعَلُواْ مِنۡ
خَيۡرٖ فَإِنَّ ٱللَّهَ كَانَ بِهِۦ عَلِيمٗا ١٢٧

---

1 「斑点」については、アーヤ*53 の訳注を参照。

2 「善を尽くす者でありつつ、アッラー*のみに顔を向けて服従」することに関しては、雌牛章 112 の訳注を参照。

3 ここでの「純正」の意味に関しては、雌牛章 135 の訳注を参照。

4 イブン・アティーヤ*によれば、「女の孤児」に関して下ったクルアーン*は本章のアーヤ*3（アル＝ブハーリー4574 も参照）であり、また「子供らの内でも、か弱い者たち」に関して下ったのは、女性や子供に対する遺産相続の権利を定めた本章アーヤ*11、「孤児を公正に待遇」することに関して下ったのは、本章のアーヤ*2 である、という（2:118 参照）。

5 遺産や、正当な額の婚資金*を始めとした諸権利のこと（ムヤッサル 98 頁参照）。

6 当時のアラブ社会では、（自分が結婚できる関係にある）女の孤児の後見人は、不正*を働くことがあった。自分自身が彼女と結婚したくない場合、それは彼女の財産に不当に手をつけたり、その財産を自分が利用したいがために彼女を結婚から阻んだり、結婚させても

女の孤児たちについて。そして子供らの内でも、か弱い者たちと、あなた方が孤児を公正に待遇しなければならないことについて（、教示を下す）」。あなた方がどんな善行を行っても、本当にアッラー*はもとより、それをご存知になるお方であられる。

128. もし女性（妻）がその主人（夫）につれなくされたり、避けられたりすることを知ったのであれば、二人が互いに和解[1]し合っても罪はない。和解が、より善いのである。貪欲さは人間と、切っても切れないのだが[2]。そして、もしあなた方が（妻に対して）よくしてやり、（彼女らに関してアッラー*を）畏れる*のであれば、本当にアッラー*はもとより、あなた方の成すこと全てに通暁され（、それらの善行にお報い下さ）るお方である。

وَإِنِ ٱمۡرَأَةٌ خَافَتۡ مِنۢ بَعۡلِهَا نُشُوزًا أَوۡ
إِعۡرَاضٗا فَلَا جُنَاحَ عَلَيۡهِمَآ أَن يُصۡلِحَا
بَيۡنَهُمَا صُلۡحٗاۚ وَٱلصُّلۡحُ خَيۡرٞۗ
وَأُحۡضِرَتِ ٱلۡأَنفُسُ ٱلشُّحَّۚ وَإِن تُحۡسِنُواْ
وَتَتَّقُواْ فَإِنَّ ٱللَّهَ كَانَ بِمَا تَعۡمَلُونَ
خَبِيرٗا ١٢٨

129. （男たちよ、）あなた方はたとえ懸命になったとしても、女性（妻）たちを（愛情において）平等に扱うことなど出来ない。

وَلَن تَسۡتَطِيعُوٓاْ أَن تَعۡدِلُواْ بَيۡنَ ٱلنِّسَآءِ وَلَوۡ
حَرَصۡتُمۡۖ فَلَا تَمِيلُواْ كُلَّ ٱلۡمَيۡلِ فَتَذَرُوهَا
كَٱلۡمُعَلَّقَةِۚ وَإِن تُصۡلِحُواْ وَتَتَّقُواْ

彼女の婚資金*を不当に奪ったりすることだった。また、彼女が美貌や財産を有していた場合、自らが結婚を望んでも、非常に少ない婚資金*しか与えなかったりすることもあった（アーヤ*3 も参照）。尚、「結婚させようともしない」というアラビア語の表現は「結婚したがっている」という解釈も可能（アッ＝サァディー206 頁参照）。

1 夫婦が互いに、扶養や共に過ごす時間の割り当てなどの権利と義務を譲り合うことで、和解すること（ムヤッサル 99 頁参照）。

2 複数の妻を有する夫は、イスラーム*において、各々の妻に対し扶養や共に過ごす時間の割り当てなどを平等にする義務がある。だが預言者*ムハンマド*の妻の一人サウダ・ビント・ザムア*は、自分の割り当ての日を、自ら進んで別の妻アーイシャ*に譲った（アル＝ブハーリー5212 参照）。アル＝カースィミー*によれば、預言者*ムハンマド*が年をとった彼女を離婚しようとしたのがこの出来事の原因だとする説は、信頼に値する伝承に基づいてはいない。そして彼が彼女の申し出を受け入れたのも、ひとえに彼の共同体に対しその法規定と合法性を示すためであったのだという（4:1597）。

ならば、あなた方は（妻を）完全に放ったらかしにして、彼女を宙ぶらりんの状態にしてはならない[1]。そしてあなた方が（妻に対する義務において行いを）正し、（彼女らに関しアッラー*を）畏れる*ならば、本当にアッラー*はもとより赦し深いお方、慈愛深い*お方なのである。

فَإِنَّ ٱللَّهَ كَانَ غَفُورًا رَّحِيمًا ١٢٩

130. そしてもし彼ら二人が離縁するなら、アッラー*がその豊かさで両人（の必要）を満たして下さろう。アッラー*はもとより広量*なお方、英知あふれる*お方であられる。

وَإِن يَتَفَرَّقَا يُغْنِ ٱللَّهُ كُلًّا مِّن سَعَتِهِۦۚ
وَكَانَ ٱللَّهُ وَٰسِعًا حَكِيمًا ١٣٠

131. 諸天にあるものと大地にあるものは、アッラー*のもの。そしてわれら*は、あなた方以前に啓典を与えられた者たちと、あなた方（ムハンマド*の共同体）に、「アッラー*を畏れよ*」と確かに命じた。たとえ、あなた方が不信仰に陥ろうとも、諸天にあるものと大地にあるもの（全て）は、アッラー*のもの。アッラー*はもとより、満ち足りておられる*お方、称賛されるべき*お方であられる。

وَلِلَّهِ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلْأَرْضِۗ
وَلَقَدْ وَصَّيْنَا ٱلَّذِينَ أُوتُوا۟ ٱلْكِتَٰبَ مِن
قَبْلِكُمْ وَإِيَّاكُمْ أَنِ ٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَۚ وَإِن
تَكْفُرُوا۟ فَإِنَّ لِلَّهِ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي
ٱلْأَرْضِۚ وَكَانَ ٱللَّهُ غَنِيًّا حَمِيدًا ١٣١

132. そして諸天にあるものと大地にあるものは、アッラー*のもの。アッラー*は全てを請け負われる*お方として、万全であられる。

وَلِلَّهِ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلْأَرْضِۚ وَكَفَىٰ
بِٱللَّهِ وَكِيلًا ١٣٢

133. もしかれがお望みになれば、人々よ、あなた方を滅ぼし、別の民を出現させ給うであろう。アッラー*はそもそも、それがお出来のお方。

إِن يَشَأْ يُذْهِبْكُمْ أَيُّهَا ٱلنَّاسُ وَيَأْتِ
بِـَٔاخَرِينَۚ وَكَانَ ٱللَّهُ عَلَىٰ ذَٰلِكَ قَدِيرًا ١٣٣

1 預言者*ムハンマド*は仰（おっしゃ）った:「妻が二人あるのに、その片方だけを偏愛する者は、復活の日*に体半分が崩れた形で現れるであろう」（アブー・ダーウード 2133 参照）。また「宙ぶらりんの状態」とは、結婚しているのでも離婚されているのでもないような状態のこと（ムヤッサル 99 頁参照）。

134. 現世の褒美を欲する者があっても、アッラー*の御許には現世と来世の褒美がある。アッラー*はもとより、よくお聴きになられるお方、よくご覧になられるお方。

مَّن كَانَ يُرِيدُ ثَوَابَ ٱلدُّنْيَا فَعِندَ ٱللَّهِ ثَوَابُ
ٱلدُّنْيَا وَٱلْءَاخِرَةِ ۚ وَكَانَ ٱللَّهُ سَمِيعًۢا
بَصِيرًا ١٣٤

135. 信仰する者たちよ、公正を貫く者、アッラー*のための証言者となれ。たとえそれがあなた方自身やあなた方の両親、近親に不利であろうとも。（証言される者が）豊かであろうと、貧しかろうと、アッラー*の方が（あなた方よりも）彼らに近い[1]のだから。ならば私欲に従って、（公正さから）逸脱してはならない。もし、あなた方が（証言を）捻じ曲げたり、（するべき証言を）放棄したりしても、本当にアッラー*はもとより、あなた方の行うことに通暁されているお方（であり、それに対して報われるのだ）。

۞ يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ كُونُوا۟ قَوَّٰمِينَ بِٱلْقِسْطِ
شُهَدَآءَ لِلَّهِ وَلَوْ عَلَىٰٓ أَنفُسِكُمْ أَوِ ٱلْوَٰلِدَيْنِ
وَٱلْأَقْرَبِينَ ۚ إِن يَكُنْ غَنِيًّا أَوْ فَقِيرًا فَٱللَّهُ
أَوْلَىٰ بِهِمَا ۖ فَلَا تَتَّبِعُوا۟ ٱلْهَوَىٰٓ أَن تَعْدِلُوا۟ ۚ
وَإِن تَلْوُۥٓا۟ أَوْ تُعْرِضُوا۟ فَإِنَّ ٱللَّهَ كَانَ بِمَا
تَعْمَلُونَ خَبِيرًا ١٣٥

136. 信仰する者たちよ、アッラー*とかれの使徒*、かれ（アッラー*）がその使徒*にお下しになった啓典（クルアーン*）と、それ以前にかれがお下しになった（全ての）啓典を信じよ。そしてアッラー*と諸天使*、諸啓典、諸使徒*、最後の日*を否定する者は誰でも、実に（真理の道から）遥か遠く迷い去っているのだ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ ءَامِنُوا۟ بِٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦ
وَٱلْكِتَٰبِ ٱلَّذِى نَزَّلَ عَلَىٰ رَسُولِهِۦ
وَٱلْكِتَٰبِ ٱلَّذِىٓ أَنزَلَ مِن قَبْلُ ۚ وَمَن
يَكْفُرْ بِٱللَّهِ وَمَلَٰٓئِكَتِهِۦ وَكُتُبِهِۦ وَرُسُلِهِۦ
وَٱلْيَوْمِ ٱلْءَاخِرِ فَقَدْ ضَلَّ ضَلَٰلًۢا بَعِيدًا ١٣٦

137. 本当に、信仰に入り、その後に不信仰に陥り、その後信仰に戻り、それから不信仰に陥り、それから不信仰を募らせ（固執し

إِنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ ثُمَّ كَفَرُوا۟ ثُمَّ ءَامَنُوا۟ ثُمَّ
كَفَرُوا۟ ثُمَّ ٱزْدَادُوا۟ كُفْرًا لَّمْ يَكُنِ ٱللَّهُ لِيَغْفِرَ
لَهُمْ وَلَا لِيَهْدِيَهُمْ سَبِيلًۢا ١٣٧

1 証言される者の裕福さや貧しさゆえに、意図的に公正ではない証言をするよりも、公正な証言を義務付けられ、人々の真の福利をご存知であるアッラー*のご命令を優先視しなければならない（アッ＝タバリー4:2589 参照）。

続け）る者たち[1]は、アッラー*がお赦しにもならないし、（真理の）道へとお導きになることもない。

138. （使徒*よ、）偽信者*たちに吉報を告げてやれ[2]。彼らには痛烈な懲罰がある、と。

بَشِّرِ ٱلْمُنَٰفِقِينَ بِأَنَّ لَهُمْ عَذَابًا أَلِيمًا ١٣٨

139. （彼らは）信仰者たちを差しおいて、不信仰者*らを盟友とする者たち[3]。彼らは、彼ら（不信仰者*ら）のもとに権勢を求めるというのか？　本当に（全ての）権勢は、アッラー*にこそ属するというのに。

ٱلَّذِينَ يَتَّخِذُونَ ٱلْكَٰفِرِينَ أَوْلِيَآءَ مِن
دُونِ ٱلْمُؤْمِنِينَ ۚ أَيَبْتَغُونَ عِندَهُمُ ٱلْعِزَّةَ
فَإِنَّ ٱلْعِزَّةَ لِلَّهِ جَمِيعًا ١٣٩

140. かれ（アッラー*）はその啓典の中で、あなた方に確かに（こう）下された。「アッラー*の御徴[4]が否定され、嘲笑されるのを聞いたら、彼らがそれとは別の話題に移るまで、彼らと同席してはならない。本当にあなた方は、そうすれば、彼らと同類なのだから」[5]。本当にアッラー*は、偽信者*たちと不信仰者*たちを皆、地獄にお集めになる。

وَقَدْ نَزَّلَ عَلَيْكُمْ فِى ٱلْكِتَٰبِ أَنْ إِذَا سَمِعْتُمْ
ءَايَٰتِ ٱللَّهِ يُكْفَرُ بِهَا وَيُسْتَهْزَأُ بِهَا فَلَا تَقْعُدُوا۟
مَعَهُمْ حَتَّىٰ يَخُوضُوا۟ فِى حَدِيثٍ غَيْرِهِۦٓ ۚ إِنَّكُمْ إِذًا
مِّثْلُهُمْ ۗ إِنَّ ٱللَّهَ جَامِعُ ٱلْمُنَٰفِقِينَ
وَٱلْكَٰفِرِينَ فِى جَهَنَّمَ جَمِيعًا ١٤٠

141. （信仰者たちよ、彼ら偽信者*たちは、）あなた方に（災難が降りかかるのを）待ちわびる者たちである。あなた方にアッラー*からの勝利があれば、彼らは（あなた方に、こう）言う。「私たちは、あ

ٱلَّذِينَ يَتَرَبَّصُونَ بِكُمْ فَإِن كَانَ لَكُمْ
فَتْحٌ مِّنَ ٱللَّهِ قَالُوٓا۟ أَلَمْ نَكُن مَّعَكُمْ وَإِن
كَانَ لِلْكَٰفِرِينَ نَصِيبٌ قَالُوٓا۟ أَلَمْ
نَسْتَحْوِذْ عَلَيْكُمْ وَنَمْنَعْكُم مِّنَ ٱلْمُؤْمِنِينَ ۚ

---

1 ここで言われている者たちは、ムーサー*を信じた後に不信仰に陥り、その後イーサー*を信じて再び不信仰に陥り、更にはムハンマド*をも否定した啓典の民*のことであるとか、あるいは偽信者*たちのことである、と言われる（アッ＝タバリー4:2595-2597 参照）。

2 本来であれば警告を表す語が用いられるべき所に、吉報という表現が使われている。偽信者*への皮肉を表す修辞的表現（アル＝バイダーウィー2:268 参照）。

3 イムラーン家章 28 とその訳注、試問される女章 8 も参照。

4 アッラー*から示される諸々の論拠や、クルアーン*のアーヤ*のこと（アッ＝タバリー4:2598 参照）。

5 同様のアーヤ*として、家畜章 68 とその訳注も参照。

なた方と一緒だったではないか？[1]」そして、もし不信仰者*たちの方に分け前[2]があれば、（彼らに向かって、こう）言う。「私たちはあなた方の上に君臨（くんりん）していた（が、あなた方に危害は加えずにおいたやった）ではないか？ そして、信仰者たちからあなた方を守ってやったではないか？」アッラー*は復活の日*、あなた方の間をお裁（さば）きになる。そしてアッラー*が不信仰者*たちに、信仰者たちに対する（勝利の）道をお授（さず）けになることはない。

فَٱللَّهُ يَحۡكُمُ بَيۡنَكُمۡ يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِۗ وَلَن يَجۡعَلَ
ٱللَّهُ لِلۡكَٰفِرِينَ عَلَى ٱلۡمُؤۡمِنِينَ سَبِيلًا ١٤١

142. 本当に偽（にせ）信者*たちは、アッラー*を欺（あざむ）いている（と思っている）。（実際は、）かれが彼らを欺（あざむ）いているのだが[3]。また、彼らが礼拝（れいはい）に立つ時には、億劫（おっくう）そうに立ち上がる。人々に対する見せかけのためであり、アッラー*を少ししか念じることがない。

إِنَّ ٱلۡمُنَٰفِقِينَ يُخَٰدِعُونَ ٱللَّهَ وَهُوَ
خَٰدِعُهُمۡ وَإِذَا قَامُوٓاْ إِلَى ٱلصَّلَوٰةِ قَامُواْ كُسَالَىٰ
يُرَآءُونَ ٱلنَّاسَ وَلَا يَذۡكُرُونَ ٱللَّهَ إِلَّا قَلِيلٗا ١٤٢

143. （彼らは）これらの者たちにでもなければ、これらの者たちに（属（ぞく）するの）でも

مُّذَبۡذَبِينَ بَيۡنَ ذَٰلِكَ لَآ إِلَىٰ هَٰٓؤُلَآءِ وَلَآ إِلَىٰ
هَٰٓؤُلَآءِۚ وَمَن يُضۡلِلِ ٱللَّهُ فَلَن تَجِدَ لَهُۥ سَبِيلٗا ١٤٣

1 偽信者*たちはムスリム*側に勝利や戦利品*が訪れると、「私たちはあなた方の宗教と共にあり、戦いにおいてはあなた方と共にあったではないか？」などと言い、現世の分け前にあずかろうとする（アル＝バガウィー1:714 参照）。

2 いくばくかの勝利や、戦利品*のこと（ムヤッサル 101 頁参照）。

3 「偽信者*がアッラー*を欺いている」については、雌牛章 9 の訳注を参照。「欺き」という彼らの罪に対するアッラー*の罰が、「欺き」という同じ表現で表されているのは、彼らの罪は結局、自分たちに返って来るからである（イブン・ジュザイ 1:215 参照）。尚、「アッラー*が偽信者*を欺く」とは、彼らが放埓（ほうらつ）さと迷妄に留まることゆえに、実際にはアッラー*が彼らを徐々に破滅へとお導きなのであること、そして現世では彼らが真理に到達することはなく、復活の日*には「鉄章」のアーヤ*13-14 で描写されているような状況に陥（おちい）ることを意味する（イブン・カスィール 2:437 参照）。

なく、その間をあたふたとする[1]。誰であろうとアッラー*が迷わせられる者に、あなたが彼のための（導きの）道を見出すことはない。

144. 信仰する者たちよ、信仰者たちを差しおいて不信仰者*たちを盟友としてはならない[2]。一体、あなた方は自分たち（の信仰の不誠実さ）に対する紛れもない証拠を、アッラー*に差し出すことを望むのか？

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا لَا تَتَّخِذُوا الْكَافِرِينَ
أَوْلِيَاءَ مِن دُونِ الْمُؤْمِنِينَ ۚ أَتُرِيدُونَ أَن
تَجْعَلُوا لِلَّهِ عَلَيْكُمْ سُلْطَانًا مُّبِينًا ﴿١٤٤﴾

145. 本当に偽信者*たちは、地獄の業火の最下層に（い続けることになる）。そして（使徒*よ、）あなたは彼らに対する、いかなる援助者も見出すことなどない。

إِنَّ الْمُنَافِقِينَ فِي الدَّرْكِ الْأَسْفَلِ مِنَ النَّارِ
وَلَن تَجِدَ لَهُمْ نَصِيرًا ﴿١٤٥﴾

146. だが悔悟して（心身を）正し、アッラー*（の教え）にしっかりと縋りつき、その崇拝*行為をアッラー*だけに真摯に捧げる[3]者たちは別である。それらの者たちは、信仰者たちと共にあるのだ。そしてアッラー*はやがて、信仰者たちに偉大な褒美をお授けになろう。

إِلَّا الَّذِينَ تَابُوا وَأَصْلَحُوا وَاعْتَصَمُوا
بِاللَّهِ وَأَخْلَصُوا دِينَهُمْ لِلَّهِ فَأُولَٰئِكَ مَعَ
الْمُؤْمِنِينَ ۖ وَسَوْفَ يُؤْتِ اللَّهُ
الْمُؤْمِنِينَ أَجْرًا عَظِيمًا ﴿١٤٦﴾

---

1 信仰者たちと一緒でもないし、不信仰者*たちと一緒でもない、不安定な状況（ムヤッサル101 頁参照）。教友*イブン・ウマル*によれば、預言者*は仰（おっしゃ）った：「偽信者*というものは、二つの羊の群れの間を彷徨（さまよ）う、一頭の羊のようなものである。時にはそちらに行ったり、また別の時にはこちらに行ったりするのだ」（ムスリム「偽信者*の特徴の書」17 参照）。つまり彼らは眼識を備えた信仰者でもなければ、無知な不信仰者*でもない（アッ＝タバリー4:2605 参照）。

2 関連するアーヤ*として、イムラーン家章 28 とその訳注、試問される女章 8 も参照。

3 「その崇拝*行為をアッラー*だけに真摯に捧げる」とは、心身による崇拝*行為においてアッラー*のみを意図し、人目を気にした善行やイスラーム*への不誠実さを避けること（アッ＝サァディー211 頁参照）。

147. もしあなた方が感謝し、信仰するならば、アッラー*があなた方を罰(ばっ)されたりすることがあろうか？　アッラー*はもとより、よく労(いた)われる*お方、全知者であられる。

مَّا يَفۡعَلُ ٱللَّهُ بِعَذَابِكُمۡ إِن شَكَرۡتُمۡ
وَءَامَنتُمۡۚ وَكَانَ ٱللَّهُ شَاكِرًا عَلِيمٗا ١٤٧

148. アッラー*は、（人が）悪い言葉[1]を口外(こうがい)するのをお好みにはならない。但(ただ)し、不正*を被(こうむ)った者はその限りではないが[2]。アッラー*はもとより、よくお聞きになるお方、全知者であられる。

۞لَّا يُحِبُّ ٱللَّهُ ٱلۡجَهۡرَ بِٱلسُّوٓءِ مِنَ ٱلۡقَوۡلِ
إِلَّا مَن ظُلِمَۚ وَكَانَ ٱللَّهُ سَمِيعًا عَلِيمًا ١٤٨

149. たとえ、あなた方が善いことを公(おおや)けにしようが、それを隠しておこうが、あるいは（他人の）悪を大目に見ようが、（大目に見ることが最善なのだ、）アッラー*こそはもとより、よく寛恕(かんじょ)される*お方、全能のお方なのだから。

إِن تُبۡدُواْ خَيۡرًا أَوۡ تُخۡفُوهُ أَوۡ تَعۡفُواْ عَن سُوٓءٖ
فَإِنَّ ٱللَّهَ كَانَ عَفُوّٗا قَدِيرًا ١٤٩

150. 本当に、アッラー*とその使徒(しと)*たちを否定し、アッラー*とその使徒(しと)*たちの間を分断(ぶんだん)しようとし[3]、また、「私たちは（使徒(しと)*の）ある者は信じるが、（別の）ある者は否定する」と言って、その狭間(はざま)[4]に（迷妄(めいもう)の）道を見出(みいだ)すことを望む者たち。

إِنَّ ٱلَّذِينَ يَكۡفُرُونَ بِٱللَّهِ وَرُسُلِهِۦ وَيُرِيدُونَ
أَن يُفَرِّقُواْ بَيۡنَ ٱللَّهِ وَرُسُلِهِۦ وَيَقُولُونَ نُؤۡمِنُ
بِبَعۡضٖ وَنَكۡفُرُ بِبَعۡضٖ وَيُرِيدُونَ أَن
يَتَّخِذُواْ بَيۡنَ ذَٰلِكَ سَبِيلًا ١٥٠

1 この「悪い言葉」とは、悪口、名誉毀損（きそん）、中傷など、禁じられたあらゆる種類の言葉のこと（アッ＝サァディー212 頁参照）。

2 不正*を被った者は、自分に不正*を働いた者に対し、アッラー*にその不正*を訴えたり、彼に対して不利になるような祈願をすることもできる。また、悪いことを公然と言われたら、嘘をついたり、度を越したり、当人以外のことまで引き合いに出したりすることなく、その者に対して悪いことを公然と言うこともできる。しかしそれでも、悪には悪で応じない方がよい。相談章 40 も参照（前掲書、同頁参照）。

3 アッラー*のことは信じるが、かれの遣わされた使徒*たちのことを嘘つきとしたり、あるいは使徒*たちの一部を正直者とする一方で、別の者たちは嘘つきであるとしたりすること（ムヤッサル 102 頁参照）。アッラー*への信仰と、その使徒*たちへの信仰は不可分である。アッラー*は使徒*たちを通して人々に命令されるのであり、彼らへの信仰なくしては、アッラー*への信仰も成り立たないのだから（アル＝クルトゥビー6:5 参照）。

4 信仰と不信仰の狭間のこと（前掲書 6:5 参照）。

151. それらの者たちこそは、真に不信仰者*である。われら*は不信仰者*たちに対し、屈辱的な懲罰を用意しておいた。

أُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡكَٰفِرُونَ حَقّٗاۚ وَأَعۡتَدۡنَا
لِلۡكَٰفِرِينَ عَذَابٗا مُّهِينٗا ١٥١

152. また、アッラー*とその使徒*たちを信じ、彼らの内の誰も分け隔てしなかった者たち、それらの者たちには、かれ（アッラー*）がやがて、その褒美を与えて下さる。アッラー*はもとより、赦し深いお方、慈愛深い*お方。

وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ بِٱللَّهِ وَرُسُلِهِۦ وَلَمۡ يُفَرِّقُواْ
بَيۡنَ أَحَدٖ مِّنۡهُمۡ أُوْلَٰٓئِكَ سَوۡفَ
يُؤۡتِيهِمۡ أُجُورَهُمۡۚ وَكَانَ ٱللَّهُ غَفُورٗا رَّحِيمٗا ١٥٢

153. （使徒*よ、）啓典の民*（ユダヤ教徒*）はあなたに、天から彼らのもとに書を下すよう注文をつける[1]。（驚くことはない、）彼らは（それ以前にも）ムーサー*に対し、それよりも大それたことを注文し、確かに（こう）言ったのだから。「アッラー*を私たちに、しかと見せてみよ」。そしてその不正*ゆえに、彼らを稲妻が捉え（、彼らは死んでしまっ）た[2]。それから彼らは（蘇らされ）、明証[3]が彼らのもとに訪れた後で、仔牛を（崇拝*の対象と）なした[4]。それでわれら*は、それについて大目に見たのである。また、われら*はムーサー*に、紛れもなき証拠[5]を授けたのだ。

يَسۡـَٔلُكَ أَهۡلُ ٱلۡكِتَٰبِ أَن تُنَزِّلَ عَلَيۡهِمۡ
كِتَٰبٗا مِّنَ ٱلسَّمَآءِۚ فَقَدۡ سَأَلُواْ مُوسَىٰٓ أَكۡبَرَ
مِن ذَٰلِكَ فَقَالُوٓاْ أَرِنَا ٱللَّهَ جَهۡرَةٗ فَأَخَذَتۡهُمُ
ٱلصَّٰعِقَةُ بِظُلۡمِهِمۡۚ ثُمَّ ٱتَّخَذُواْ ٱلۡعِجۡلَ مِنۢ
بَعۡدِ مَا جَآءَتۡهُمُ ٱلۡبَيِّنَٰتُ فَعَفَوۡنَا عَن
ذَٰلِكَۚ وَءَاتَيۡنَا مُوسَىٰ سُلۡطَٰنٗا مُّبِينٗا ١٥٣

154. またわれら*は、彼らの確約（の不履行）ゆえ、彼らの頭上に山を高く掲げた[6]し、彼らに「身を低めて謹んで門に入るがよ

وَرَفَعۡنَا فَوۡقَهُمُ ٱلطُّورَ بِمِيثَٰقِهِمۡ وَقُلۡنَا لَهُمُ
ٱدۡخُلُواْ ٱلۡبَابَ سُجَّدٗا وَقُلۡنَا لَهُمۡ لَا تَعۡدُواْ
فِي ٱلسَّبۡتِ وَأَخَذۡنَا مِنۡهُم مِّيثَٰقًا غَلِيظٗا ١٥٤

---

1 雌牛章 108 とその訳注も参照。

2 雌牛章 55-56 も参照。

3 ムーサー*のもとで起きた、シルク*を否定する奇跡の数々のこと（ムヤッサル 102 頁参照）。

4 雌牛章 51、高壁章 148-153、ター・ハー章 83-98 も参照。

5 ムーサー*が預言者*であることの正しさを示す、偉大な根拠のこと（前掲書、同頁参照）。

6 雌牛章 63 とその訳注、高壁章 171 も参照。

い[1]」と言ったし、また彼らに「土曜（の安息）日に違反するのではない[2]」とも言った（が、彼らはそれに背いた）。そしてわれら*は、彼らから厳かなる確約を取ったのだ（が、彼らはそれも破棄した）。

155. 彼らの確約の破棄と、アッラー*の御徴の否定、預言者*たちの不当な殺害、「私たちの心は覆われている（から、あなたの言うことが分からない）」という言葉ゆえ（、われらは彼らを呪った[3]のだ）。いや、アッラー*は彼らの不信仰ゆえに、それら（彼らの心）を塞がれたのである。それで彼らは、僅かばかりしか信仰することがないのだ。

فَبِمَا نَقْضِهِم مِّيثَٰقَهُمْ وَكُفْرِهِم بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ
وَقَتْلِهِمُ ٱلْأَنۢبِيَآءَ بِغَيْرِ حَقٍّ وَقَوْلِهِمْ قُلُوبُنَا
غُلْفٌۢ ۚ بَلْ طَبَعَ ٱللَّهُ عَلَيْهَا بِكُفْرِهِمْ فَلَا
يُؤْمِنُونَ إِلَّا قَلِيلًا ١٥٥

156. また、彼らの不信仰と、マルヤム*についてこの上ない大嘘[4]を言ったことゆえ（、われらは彼らを呪った）。

وَبِكُفْرِهِمْ وَقَوْلِهِمْ عَلَىٰ مَرْيَمَ بُهْتَٰنًا عَظِيمًا ١٥٦

157. また彼らの、「本当に私たちはマルヤム*の息子マスィーフ*・イーサー*、アッラー*の使徒*を殺したぞ」という言葉ゆえに（、われら*は彼らを呪ったのだ）。彼らは、彼を殺してもいなければ、磔の刑にもしていない。だが、彼らには似通って見えたのだ[5]。本当に、彼について意見を異にした者たちは、まさしくそこにお

وَقَوْلِهِمْ إِنَّا قَتَلْنَا ٱلْمَسِيحَ عِيسَى ٱبْنَ مَرْيَمَ
رَسُولَ ٱللَّهِ وَمَا قَتَلُوهُ وَمَا صَلَبُوهُ وَلَٰكِن
شُبِّهَ لَهُمْ ۚ وَإِنَّ ٱلَّذِينَ ٱخْتَلَفُوا۟ فِيهِ لَفِى شَكٍّ
مِّنْهُ ۚ مَا لَهُم بِهِۦ مِنْ عِلْمٍ إِلَّا ٱتِّبَاعَ ٱلظَّنِّ ۚ
وَمَا قَتَلُوهُ يَقِينًۢا ١٥٧

1 雌牛章 58-59 とその訳注、高壁章 161-162 も参照。

2 雌牛章 65 とその訳注、高壁章 163 参照。

3 「アッラー*の呪い」については、雌牛章 88 の訳注を参照。

4 彼女が姦淫（かんいん）した、という嘘のこと（ムヤッサル 103 頁参照）。

5 イーサー*とは別の男にイーサー*の姿が与えられ、人々はその者をイーサー*と思い込んで磔（はりつけ）にした。一方、イーサー*は生きたまま天に召された（イブン・カスィール 1:448-449 参照）。

いて疑念の中にあった[1]。彼らはそのことについて僅かばかりの知識もなく、ただ憶測に従っていたに過ぎない。そして彼らは、確信をもって彼を殺したわけではなかったのだ。

158. いや、アッラー*は彼（イーサー*）を、かれの御許に（魂と肉体と共に）お召しになったのである。アッラー*はもとより偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

بَل رَّفَعَهُ ٱللَّهُ إِلَيۡهِۚ وَكَانَ ٱللَّهُ عَزِيزًا حَكِيمٗا ١٥٨

159. 啓典の民*の内のいかなる者も、彼（イーサー*）が（降臨し、それから）死を迎えるまでには、必ずや彼を信仰することになるのだ[2]。そして復活の日*、彼は彼らへの証人となる[3]。

وَإِن مِّنۡ أَهۡلِ ٱلۡكِتَٰبِ إِلَّا لَيُؤۡمِنَنَّ بِهِۦ قَبۡلَ
مَوۡتِهِۦۖ وَيَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِ يَكُونُ عَلَيۡهِمۡ شَهِيدٗا ١٥٩

160. また、ユダヤ教徒*である者たちの不正*ゆえ、われら*は（本来）彼らに合法とされていた善きものを、彼らに禁じた[4]。また彼らが（自分たちと人々を）、アッラー*の道からひどく阻んだゆえ（そうしたのだ）。

فَبِظُلۡمٖ مِّنَ ٱلَّذِينَ هَادُواْ حَرَّمۡنَا عَلَيۡهِمۡ
طَيِّبَٰتٍ أُحِلَّتۡ لَهُمۡ وَبِصَدِّهِمۡ عَن سَبِيلِ
ٱللَّهِ كَثِيرٗا ١٦٠

161. また彼らが、それを禁じられているにも関わらず、利息*をせしめたり、他人の財産を不当に貪ったりしたことゆえに（、それらを禁じたのである）。そしてわれら*は、彼らの内の不信仰者*たちに、痛ましい懲罰を用意しておいた。

وَأَخۡذِهِمُ ٱلرِّبَوٰاْ وَقَدۡ نُهُواْ عَنۡهُ وَأَكۡلِهِمۡ
أَمۡوَٰلَ ٱلنَّاسِ بِٱلۡبَٰطِلِۚ وَأَعۡتَدۡنَا لِلۡكَٰفِرِينَ
مِنۡهُمۡ عَذَابًا أَلِيمٗا ١٦١

1 つまり、イーサー*を殺したかどうかについて、疑念を持っていた（アル＝バガウィー1:719参照）。

2 末世にイーサー*が降臨し、イスラーム*で世を治める時、全ての者がイーサー*を信じることになる（イブン・カスィール 2:452-454 参照）。

3 彼（イーサー*）を嘘つき呼ばわりした者に関しては、その嘘について、そして彼を信仰した者には、その信仰について証言する（ムヤッサル 103 頁参照）。

4 イムラーン家章 50「禁じられたものの一部」の訳注、同章 93 の訳注、家畜章 146 とその訳注も参照。

162. しかし彼らの内、知識が深く根ざした者たちと信仰者たちは、（使徒*よ、）あなたに下されたもの（クルアーン*）と、あなた以前に下されたもの[1]を信じる。また、礼拝を遵守する*者たち（に誉れあれ）、（彼らは）浄財*を払う者たちと、アッラー*と最後の日*を信じる者たちである。それらの者たち、われら*はやがて彼らに、この上ない褒美を授けよう。

لَّٰكِنِ ٱلرَّٰسِخُونَ فِي ٱلۡعِلۡمِ مِنۡهُمۡ وَٱلۡمُؤۡمِنُونَ
يُؤۡمِنُونَ بِمَآ أُنزِلَ إِلَيۡكَ وَمَآ أُنزِلَ مِن قَبۡلِكَۚ
وَٱلۡمُقِيمِينَ ٱلصَّلَوٰةَۚ وَٱلۡمُؤۡتُونَ ٱلزَّكَوٰةَ
وَٱلۡمُؤۡمِنُونَ بِٱللَّهِ وَٱلۡيَوۡمِ ٱلۡأٓخِرِ أُوْلَٰٓئِكَ
سَنُؤۡتِيهِمۡ أَجۡرًا عَظِيمًا ١٦٢

163. 本当にわれら*は、ヌーフ*とそれ以後の預言者*たちに啓示したように、（使徒*よ、）あなたにも啓示を下した。またわれら*は、イブラーヒーム*、イスマーイール*、イスハーク*、ヤアクーブ*、諸支族[2]、イーサー*、アイユーブ*、ユーヌス*、ハールーン*、スライマーン*にも啓示を下した。そしてダーウード*には、書巻[3]を授けたのだ。

۞ إِنَّآ أَوۡحَيۡنَآ إِلَيۡكَ كَمَآ أَوۡحَيۡنَآ إِلَىٰ نُوحٖ
وَٱلنَّبِيِّـۧنَ مِنۢ بَعۡدِهِۦۚ وَأَوۡحَيۡنَآ إِلَىٰٓ إِبۡرَٰهِيمَ
وَإِسۡمَٰعِيلَ وَإِسۡحَٰقَ وَيَعۡقُوبَ
وَٱلۡأَسۡبَاطِ وَعِيسَىٰ وَأَيُّوبَ وَيُونُسَ
وَهَٰرُونَ وَسُلَيۡمَٰنَۚ وَءَاتَيۡنَا دَاوُۥدَ زَبُورٗا ١٦٣

164. また、われら*が以前、あなたに語って聞かせた使徒*たちと、まだあなたに語って聞かせてはいない使徒*たちを（遣わした）。そしてアッラー*はムーサー*に、直々に語りかけられたのだ。

وَرُسُلٗا قَدۡ قَصَصۡنَٰهُمۡ عَلَيۡكَ مِن قَبۡلُ
وَرُسُلٗا لَّمۡ نَقۡصُصۡهُمۡ عَلَيۡكَۚ وَكَلَّمَ ٱللَّهُ
مُوسَىٰ تَكۡلِيمٗا ١٦٤

165. 吉報を伝え、警告を告げる[4]使徒*たちを（、われら*は遣わした）。それは使徒*（の到来）の後、人々にアッラー*に対する弁解の余地がないようにするためで

رُّسُلٗا مُّبَشِّرِينَ وَمُنذِرِينَ لِئَلَّا يَكُونَ
لِلنَّاسِ عَلَى ٱللَّهِ حُجَّةُۢ بَعۡدَ ٱلرُّسُلِۚ وَكَانَ ٱللَّهُ
عَزِيزًا حَكِيمٗا ١٦٥

1 トーラー*や福音*のように、それ以前に下された啓典のこと（ムヤッサル 103 頁参照）。

2 「諸支族」については、雌牛章 136 の訳注を参照。

3 「書巻（ザブール）」は、アッラー*がダーウード*に下された啓典（イブン・カスィール 2:469 参照）。

4 「吉報を伝え、警告を告げる」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

ある[1]。アッラー*はもとより、偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

166. しかし（使徒*よ、あなたを否定する者がいようと、）アッラー*は、あなたに下し給うたものを証言される[2]。かれはそれを、その御知識と共に下されたのだ。また天使*たちも証言する。アッラー*だけで、証人は十分なのだ。

لَّٰكِنِ ٱللَّهُ يَشْهَدُ بِمَآ أَنزَلَ إِلَيْكَ ۖ أَنزَلَهُۥ بِعِلْمِهِۦ ۖ
وَٱلْمَلَٰٓئِكَةُ يَشْهَدُونَ ۚ وَكَفَىٰ بِٱللَّهِ
شَهِيدًا ١٦٦

167. 本当に（あなたを）否定し、（自分たちと人々を）アッラー*の道から阻んだ者たちは、確かに遠く迷ってしまった。

إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ وَصَدُّوا۟ عَن سَبِيلِ
ٱللَّهِ قَدْ ضَلُّوا۟ ضَلَٰلًۢا بَعِيدًا ١٦٧

168. 本当に（アッラー*とその使徒*を）否定し、不正*を働いた[3]者たち、アッラー*は彼らをお赦しにはならないし、彼らを（イスラーム*の）道へとお導きになることもない。

إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ وَظَلَمُوا۟ لَمْ يَكُنِ ٱللَّهُ
لِيَغْفِرَ لَهُمْ وَلَا لِيَهْدِيَهُمْ طَرِيقًا ١٦٨

169. 彼らがそこに、ずっと永遠に留まることになる地獄への道以外、（彼らが導かれることは）ないのだ。それはアッラー*にとって、もとより容易いこと。

إِلَّا طَرِيقَ جَهَنَّمَ خَٰلِدِينَ فِيهَآ أَبَدًا ۚ
وَكَانَ ذَٰلِكَ عَلَى ٱللَّهِ يَسِيرًا ١٦٩

170. 人々よ、使徒*（ムハンマド*）は確かに、あなた方の主*の御許から真理を携えて、あなた方のもとに到来した。ならば信じよ、それがあなた方にとってより善いこと。そして、もしあなた方が不信仰であろうと、（アッラー*はあなた方のことな

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ قَدْ جَآءَكُمُ ٱلرَّسُولُ بِٱلْحَقِّ مِن
رَّبِّكُمْ فَـَٔامِنُوا۟ خَيْرًا لَّكُمْ ۚ وَإِن
تَكْفُرُوا۟ فَإِنَّ لِلَّهِ مَا فِى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۚ
وَكَانَ ٱللَّهُ عَلِيمًا حَكِيمًا ١٧٠

---

1 関連するアーヤ*として、家畜章 131、155-157、夜の旅章 15 とその訳注、ター・ハー章 134、詩人たち章 208、創成者*章 24 も参照。

2 つまり彼が、クルアーン*を啓示された使徒*であることを「証言される」（ムヤッサル 104 頁参照）。

3 アッ＝サァディー*によれば、この「不正*」とは、不信仰的な諸々の行為、および不信仰に浸（ひた）り切っている状態を示している、という（215 頁参照）。

ど必要とはされない、）本当にアッラー*にこそ、諸天と大地にあるものが属するのだから[1]。アッラー*はもとより、全知者、英知あふれる*お方であられる。

171. 啓典の民*（であるキリスト教徒*）よ、あなた方の宗教において（正しい信仰に反して）行き過ぎてはならないし、アッラー*について真理以外を語ってはならない。本当にマスィーフ*、マルヤム*の子イーサー*は、アッラー*の使徒*であり、かれ（アッラー*）がマルヤム*に（ジブリール*を介して）投げかけられた、かれの御言葉[2]であり、かれによる魂[3]である。ならば、アッラー*とその使徒*たちを信じよ。そして、「三位（一体の神）」などと言ってはならない。（そんなことを言うのは、）やめるのだ、それがあなた方にとってより善いこと。アッラー*こそは唯一の崇拝*すべき存在なのだから。——子供があるなどということから（無縁な）かれに、称え*あれ[4]——。諸天にあるものと大地にあるものは、かれにこそ属する。そして、全てを請け負われるお方*は、アッラー*だけで十分なのである。

يَٰٓأَهۡلَ ٱلۡكِتَٰبِ لَا تَغۡلُواْ فِي دِينِكُمۡ
وَلَا تَقُولُواْ عَلَى ٱللَّهِ إِلَّا ٱلۡحَقَّۚ إِنَّمَا
ٱلۡمَسِيحُ عِيسَى ٱبۡنُ مَرۡيَمَ رَسُولُ ٱللَّهِ
وَكَلِمَتُهُۥٓ أَلۡقَىٰهَآ إِلَىٰ مَرۡيَمَ وَرُوحٞ مِّنۡهُۖ
فَـَٔامِنُواْ بِٱللَّهِ وَرُسُلِهِۦۖ وَلَا تَقُولُواْ ثَلَٰثَةٌۚ
ٱنتَهُواْ خَيۡرٗا لَّكُمۡۚ إِنَّمَا ٱللَّهُ إِلَٰهٞ وَٰحِدٞۖ
سُبۡحَٰنَهُۥٓ أَن يَكُونَ لَهُۥ وَلَدٞۘ لَّهُۥ مَا فِي
ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلۡأَرۡضِۗ وَكَفَىٰ بِٱللَّهِ
وَكِيلٗا ١٧١

1 天地はアッラー*のもので、かれに従っている。同様に人々が、アッラー*とその使徒*、そしてクルアーン*を信じ、従わなければならないのは、尚更（なおさら）のことである（ムヤッサル 104 頁参照）。

2 この「かれの御言葉」については、イムラーン家章 39 の訳注参照。

3 この「魂（ルーフ）」とは、天使*ジブリール*がアッラー*のご命令により、マルヤム*の衣服の隙間（すきま）から吹き込んだもののこと。これによって彼女は、イーサー*を身篭（みごも）った（ムヤッサル 105 頁参照）。この詳しい情景については、マルヤム*章 16 以降を参照。

4 雌牛章 116 の訳注も参照。

172. マスィーフ*（イーサー*）は断じて、アッラー*の僕であることを尊大にも拒んだりはしない。また、かれのお傍に仕える天使*たちも（同様である）。そして誰であろうと、かれ（アッラー*）の崇拝*を尊大にも拒み、思い上がる者は、かれがやがて（その行いに対して報いるべく）かれの御許に全員、召集し給う。

لَّن يَسۡتَنكِفَ ٱلۡمَسِيحُ أَن يَكُونَ عَبۡدٗا
لِّلَّهِ وَلَا ٱلۡمَلَٰٓئِكَةُ ٱلۡمُقَرَّبُونَۚ وَمَن
يَسۡتَنكِفۡ عَنۡ عِبَادَتِهِۦ وَيَسۡتَكۡبِرۡ
فَسَيَحۡشُرُهُمۡ إِلَيۡهِ جَمِيعٗا ١٧٢

173. それで信仰し、正しい行い*を行った者たちといえば、かれ（アッラー*）が彼らにその褒美をふんだんにお授けになり、そのご恩寵から彼らに更に上乗せして下さる。また、（アッラー*への服従を）尊大にも拒み、思い上がった者たちはといえば、かれが彼らを痛ましい懲罰でもって罰されるのだ。そして彼らはアッラー*以外に、自分たちの為のいかなる庇護者も援助者も見出すことがない。

فَأَمَّا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
فَيُوَفِّيهِمۡ أُجُورَهُمۡ وَيَزِيدُهُم مِّن
فَضۡلِهِۦۖ وَأَمَّا ٱلَّذِينَ ٱسۡتَنكَفُواْ
وَٱسۡتَكۡبَرُواْ فَيُعَذِّبُهُمۡ عَذَابًا أَلِيمٗا
وَلَا يَجِدُونَ لَهُم مِّن دُونِ ٱللَّهِ وَلِيّٗا
وَلَا نَصِيرٗا ١٧٣

174. 人々よ、あなた方の主*からの明証が確かに、あなた方のもとに到来した。そしてわれら*はあなた方に、解明の光を下したのだ。[1]

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ قَدۡ جَآءَكُم بُرۡهَٰنٞ مِّن رَّبِّكُمۡ
وَأَنزَلۡنَآ إِلَيۡكُمۡ نُورٗا مُّبِينٗا ١٧٤

175. アッラー*を信じ、かれに縋りついた者たちはといえば、かれ（アッラー*）がやがて彼らを、そのご慈悲とご恩寵の中にお入れ下さろう。そして（天国へと続く）まっすぐな道を、かれの御許へと導いて下さるのだ。

فَأَمَّا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ بِٱللَّهِ وَٱعۡتَصَمُواْ بِهِۦ
فَسَيُدۡخِلُهُمۡ فِي رَحۡمَةٖ مِّنۡهُ وَفَضۡلٖ
وَيَهۡدِيهِمۡ إِلَيۡهِ صِرَٰطٗا مُّسۡتَقِيمٗا ١٧٥

1 「明証」とは、預言者*ムハンマド*と、彼の預言者*性と使徒*性の真実を証言する、数々の明証と絶対的証拠であり、その最大のものがクルアーン*である。「解明の光」とは、クルアーン*のこと（ムヤッサル 105 頁参照）。

176.　（預言者*よ、）彼らはあなたに教示を請う。言え。「アッラー*は、親も子もない者（の遺産相続）について、あなた方にご教示される。もし子供（も親）もないが、（同父母あるいは異母）姉妹が一人だけいる男性が他界したのであれば、彼女には彼が遺した物の半分がある。（同じ状況[1]において）彼は、彼女（の全遺産を）を相続する――もし、彼女に子供（と親）がなかったのならば、だが――。もし、（遺産を残して他界した、子供も親もない男性に）二人の（同父母あるいは異母）姉妹があれば、彼女たち二人には、彼が遺した物の三分の二がある。そして、もし彼らが男女からなる（同父母あるいは異母の）兄弟姉妹であれば、男性には女性の倍の取り分がある。アッラー*はあなた方が迷わぬよう、あなた方に明示し給う。アッラー*は、全てのことをご存知のお方である。

يَسۡتَفۡتُونَكَ قُلِ ٱللَّهُ يُفۡتِيكُمۡ فِي ٱلۡكَلَٰلَةِۚ
إِنِ ٱمۡرُؤٌاْ هَلَكَ لَيۡسَ لَهُۥ وَلَدٞ وَلَهُۥٓ أُخۡتٞ
فَلَهَا نِصۡفُ مَا تَرَكَۚ وَهُوَ يَرِثُهَآ إِن لَّمۡ يَكُن
لَّهَا وَلَدٞۚ فَإِن كَانَتَا ٱثۡنَتَيۡنِ فَلَهُمَا ٱلثُّلُثَانِ
مِمَّا تَرَكَۚ وَإِن كَانُوٓاْ إِخۡوَةٗ رِّجَالٗا وَنِسَآءٗ
فَلِلذَّكَرِ مِثۡلُ حَظِّ ٱلۡأُنثَيَيۡنِۗ يُبَيِّنُ ٱللَّهُ لَكُمۡ
أَن تَضِلُّواْۗ وَٱللَّهُ بِكُلِّ شَيۡءٍ عَلِيمُۢ ١٧٦

1　つまり親も子もないが、同父母、あるいは異母兄弟が一人だけいる女性が他界した場合（ムヤッサル 106 頁参照）。

第５章
食卓章（アル＝マーイダ）[1]

سُورَةُ المَائِدَةِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 信仰する者たちよ、契約を果たす[2]のだ。あなた方に誦み聞かされるもの[3]を除き、家畜獣[4]はあなた方に合法とされた。あなた方がイフラーム*中に、狩猟を合法とすることもない。本当にアッラー*は、かれがお望みのことを取り決められるお方なのだから。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ أَوْفُوا۟ بِٱلْعُقُودِ ۚ أُحِلَّتْ لَكُم
بَهِيمَةُ ٱلْأَنْعَٰمِ إِلَّا مَا يُتْلَىٰ عَلَيْكُمْ غَيْرَ مُحِلِّى
ٱلصَّيْدِ وَأَنتُمْ حُرُمٌ ۗ إِنَّ ٱللَّهَ يَحْكُمُ مَا يُرِيدُ ١

2. 信仰するたちよ、アッラー*の聖徴[5]、神聖月[6]、供物[7]、首飾り[8]、そしてその主*の御許からのご恩寵と（かれの）お喜びを求めて聖殿（カァバ神殿*）を志す者たちのことを、侵

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَا تُحِلُّوا۟ شَعَٰٓئِرَ ٱللَّهِ
وَلَا ٱلشَّهْرَ ٱلْحَرَامَ وَلَا ٱلْهَدْىَ وَلَا ٱلْقَلَٰٓئِدَ
وَلَآ ءَآمِّينَ ٱلْبَيْتَ ٱلْحَرَامَ يَبْتَغُونَ فَضْلًا مِّن رَّبِّهِمْ

---

1 マディーナ*啓示。スーラ*の主なテーマは、信仰面か法的側面かを問わず、アッラー*の教えを守り、実行することの強調。その流れで、飲食物・狩猟・結婚などにおける合法・非合法な物事の説明、誓い・遺言・礼拝・裁判・刑罰などの法規定がスーラ*随所に示され、啓典の民*の誤った信仰教義についての議論や、偽信者*らの描写、様々な教訓が取り上げられる。スーラ*の最後は、復活の日*と、使徒*たちの各共同体に対する証言に関する警告、アッラー*の賛美で締めくくられるが、スーラ*名となっている「食卓」の話も、イーサー*とその民との出来事の中で言及されたもの（アーヤ*112-115 参照）。

2 イスラーム*を信じ、それに従うというアッラー*との契約（雌牛章 27 の訳注も参照）。及び、信託や売買など、イスラーム*法で合法とされる範囲内での人と人の間の約束のこと（ムヤッサル 106 頁参照）。

3 「誦み聞かされるもの」の内容は、アーヤ*3 で明確にされている（アッ＝タバリー4:2666 参照）。

4 一般にはラクダ、羊、ヤギ、牛のこととされる（ムヤッサル 106 頁参照）。

5 「聖徴」とは、アッラー*がお定めになり、ご命じになり、禁じ給うた全てのもの（アッ＝タバリー4:2671 参照）。

6 ここでは、神聖月*に戦うことを意味するとされる（ムヤッサル 106 頁参照）。雌牛章 194、217 とその訳注も参照。

7 「供物」とは、アッラー*に捧げるべくマッカ*の聖域へと連れていく、羊やラクダなどの犠牲用の家畜のこと（アッ＝サァディー218 頁参照）。

8 犠牲用の家畜で、特別に首飾りをつけられたもの（前掲書、同頁参照）。

してはならない。また、（イフラーム*を）解禁したならば、狩猟してもよい。そして、あなた方をハラーム・マスジド*から阻んだことゆえの、ある民への憎しみが、あなた方を（彼らに対する）侵害へと向けてしまうようではならない。また、善と敬虔さ*においては互いに助け合い、罪や侵犯においては互いに助け合ってならない。そしてアッラー*を畏れ*よ。本当にアッラー*は、厳しく懲罰されるお方なのだから。

وَرِضۡوَٰنٗاۚ وَإِذَا حَلَلۡتُمۡ فَٱصۡطَادُواْۚ وَلَا يَجۡرِمَنَّكُمۡ
شَنَـَٔانُ قَوۡمٍ أَن صَدُّوكُمۡ عَنِ ٱلۡمَسۡجِدِ ٱلۡحَرَامِ
أَن تَعۡتَدُواْۘ وَتَعَاوَنُواْ عَلَى ٱلۡبِرِّ وَٱلتَّقۡوَىٰۖ
وَلَا تَعَاوَنُواْ عَلَى ٱلۡإِثۡمِ وَٱلۡعُدۡوَٰنِۚ وَٱتَّقُواْ
ٱللَّهَۖ إِنَّ ٱللَّهَ شَدِيدُ ٱلۡعِقَابِ ٢

3. あなた方には、（以下のものが）禁じられた：死体、血液、豚肉、アッラー*以外の名において屠られたもの[1]、絞め殺されたもの、撲殺されたもの、転落死したもの、（外の家畜の角で）突き殺されたもの、野獣に食い殺されたもの――但し（それら[2]がまだ息のある内に）あなた方が止めを刺したものは、その限りではない――、（アッラー*を差しおいて崇めるために）立てられたものの上で屠られたもの[3]、賭矢を引くこと[4]。それらは放逸さなのだ。今日、不信仰に陥った者*たちは（、あなた方が）あなた方の宗教（を棄てないこと）に失意しきっている。ならば彼らのことは恐れずに、われ（アッラー*）

حُرِّمَتۡ عَلَيۡكُمُ ٱلۡمَيۡتَةُ وَٱلدَّمُ وَلَحۡمُ ٱلۡخِنزِيرِ وَمَآ أُهِلَّ
لِغَيۡرِ ٱللَّهِ بِهِۦ وَٱلۡمُنۡخَنِقَةُ وَٱلۡمَوۡقُوذَةُ وَٱلۡمُتَرَدِّيَةُ
وَٱلنَّطِيحَةُ وَمَآ أَكَلَ ٱلسَّبُعُ إِلَّا مَا ذَكَّيۡتُمۡ
وَمَا ذُبِحَ عَلَى ٱلنُّصُبِ وَأَن تَسۡتَقۡسِمُواْ بِٱلۡأَزۡلَٰمِۚ
ذَٰلِكُمۡ فِسۡقٌۗ ٱلۡيَوۡمَ يَئِسَ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ مِن
دِينِكُمۡ فَلَا تَخۡشَوۡهُمۡ وَٱخۡشَوۡنِۚ ٱلۡيَوۡمَ أَكۡمَلۡتُ
لَكُمۡ دِينَكُمۡ وَأَتۡمَمۡتُ عَلَيۡكُمۡ نِعۡمَتِي وَرَضِيتُ
لَكُمُ ٱلۡإِسۡلَٰمَ دِينٗاۚ فَمَنِ ٱضۡطُرَّ فِي مَخۡمَصَةٍ
غَيۡرَ مُتَجَانِفٖ لِّإِثۡمٖ فَإِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٞ رَّحِيمٞ ٣

---

1 「死体」「血液」「アッラー*以外の名において屠られたもの」については、雌牛章 173 の訳注を参照。

2 この「それら」は、「絞め殺されたもの」以下を指す（ムヤッサル 107 頁参照）。

3 「立てられたもの」とは、崇められ、犠牲の血をかけられていた石のこと。一説には、その石の上で屠られたものではなく、それらの石のために屠られたもののこと（アル＝クルトゥビー6:57 参照）。

4 ジャーヒリーヤ*において、人々は何らかを決意するにあたり、これらの賭矢などを用いた「くじ引き」に頼ることがあった。イスラーム*はこれを禁じ、その代わりに、アッラー*に決断の選択を乞う、「イスティハーラ」という特別な礼拝を定めた（イブン・カスィール 3:24-25 参照）。

のことを恐れるのだ。この日[1]われはあなた方のために、あなた方の宗教を完成させ、あなた方へのわが恩恵を全うし、イスラーム*があなた方への宗教であることに満足した。（故意に）罪に傾く[2]のでもなく、空腹でやむを得ない状態にある者は誰でも（、禁じられたものを食べてもよい[3]）、本当にアッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。

4. （預言者*よ、）彼ら（教友*たち）は、自分たちに合法とされた（食べ）物は何なのか、あなたに尋ねる。言ってやるがいい。「あなた方には、善きもの[4]が合法とされた。また捕食獣[5]の内、あなた方が狩猟を訓練し、アッラー*があなた方にお教えになったもので調教するもの（が捕まえた獲物）も。ならば、それらがあなた方のために捕まえたものを食べ、それにアッラー*の御名を唱えるのだ[6]。そしてアッラー*を畏れ*よ。本当にアッラー*は、即座に計算される*お方なのだから」。

يَسْـَٔلُونَكَ مَاذَآ أُحِلَّ لَهُمْۖ قُلْ أُحِلَّ لَكُمُ
ٱلطَّيِّبَٰتُ وَمَا عَلَّمْتُم مِّنَ ٱلْجَوَارِحِ مُكَلِّبِينَ
تُعَلِّمُونَهُنَّ مِمَّا عَلَّمَكُمُ ٱللَّهُۖ فَكُلُوا۟ مِمَّآ
أَمْسَكْنَ عَلَيْكُمْ وَٱذْكُرُوا۟ ٱسْمَ ٱللَّهِ عَلَيْهِۖ
وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَۚ إِنَّ ٱللَّهَ سَرِيعُ ٱلْحِسَابِ ٤

---

1 「この日」とは、預言者*が他界する数十日前、彼が生涯で最初で最後に行った「別れのハッジ*」における、アラファの日（ヒジュラ暦*10年ズル＝ヒッジャ月*第九日）のこと（アル＝ブハーリー45参照）。

2 この「罪に傾く」とは、必要もなく禁じられたものを食べたり、やむを得ない状態であっても、自分の必要を満たす以上のものを口にしたりすること（アッ＝サァディー219頁参照）。

3 雌牛章173とその訳注も参照。

4 この「善きもの」とは、健全な感覚が忌避（きひ）感や嫌悪（けんお）感を抱（いだ）くことのないもの。あるいは、クルアーン*とスンナ*、及びそれらから導き出される類推（るいすい）により、禁じられてはいないもの（アル＝バイダーウィー2:295参照）。

5 ここには、同じ類（たぐ）いの鳥類も含まれる（ムヤッサル107頁参照）。

6 アッラー*の御名を唱えるのは、狩猟を調教した鳥獣を放す時（前掲書、同頁参照）。

5. （信仰者たちよ、）この日、あなた方には善きものが許された。また、啓典を授けられた者*たちの食べ物[1]はあなた方にとって合法であり、あなた方の食べ物は彼らにとっても合法である。また、信仰者女性の内の貞淑な女性と、あなた方以前に啓典を授けられた者*たちの内の貞淑な女性[2]も（合法である）。あなた方が貞淑であり、（公然と）姦淫を犯したり、情婦を持ったりもせず、彼女たちに婚資金*を贈るのであれば、だが。誰であろうと信仰を否定する者、その行いは確実に台無しとなるのであり、来世において彼は損失者の類いとなるのだ。

ٱلۡيَوۡمَ أُحِلَّ لَكُمُ ٱلطَّيِّبَٰتُۖ وَطَعَامُ ٱلَّذِينَ أُوتُواْ
ٱلۡكِتَٰبَ حِلّٞ لَّكُمۡ وَطَعَامُكُمۡ حِلّٞ لَّهُمۡۖ
وَٱلۡمُحۡصَنَٰتُ مِنَ ٱلۡمُؤۡمِنَٰتِ وَٱلۡمُحۡصَنَٰتُ مِنَ
ٱلَّذِينَ أُوتُواْ ٱلۡكِتَٰبَ مِن قَبۡلِكُمۡ إِذَآ ءَاتَيۡتُمُوهُنَّ
أُجُورَهُنَّ مُحۡصِنِينَ غَيۡرَ مُسَٰفِحِينَ وَلَا مُتَّخِذِيٓ
أَخۡدَانٖۗ وَمَن يَكۡفُرۡ بِٱلۡإِيمَٰنِ فَقَدۡ حَبِطَ عَمَلُهُۥ
وَهُوَ فِي ٱلۡأٓخِرَةِ مِنَ ٱلۡخَٰسِرِينَ ٥

6. 信仰する者たちよ、あなた方が礼拝を意図した時には、自分たちの顔と、両腕を肘まで洗い、頭を撫で、両足をくるぶしまで（洗え）[3]。そして、あなた方がジャナーバ*の状態にあったら、（礼拝の前に、水で）身を清めよ。また、もしあなた方が病人[4]や旅行中であったり、あなた方の誰かが窪地から（戻って）来たり[5]、（妻である）女性と交わったりした後（、穢れを清めるための）水を見つけられなかった時は、清浄な地面へと向かい（それに触れ）、その一部であなた方の顔と両手

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِذَا قُمۡتُمۡ إِلَى
ٱلصَّلَوٰةِ فَٱغۡسِلُواْ وُجُوهَكُمۡ وَأَيۡدِيَكُمۡ
إِلَى ٱلۡمَرَافِقِ وَٱمۡسَحُواْ بِرُءُوسِكُمۡ
وَأَرۡجُلَكُمۡ إِلَى ٱلۡكَعۡبَيۡنِۚ وَإِن كُنتُمۡ
جُنُبٗا فَٱطَّهَّرُواْۚ وَإِن كُنتُم مَّرۡضَىٰٓ أَوۡ عَلَىٰ
سَفَرٍ أَوۡ جَآءَ أَحَدٞ مِّنكُم مِّنَ ٱلۡغَآئِطِ
أَوۡ لَٰمَسۡتُمُ ٱلنِّسَآءَ فَلَمۡ تَجِدُواْ مَآءٗ فَتَيَمَّمُواْ
صَعِيدٗا طَيِّبٗا فَٱمۡسَحُواْ بِوُجُوهِكُمۡ
وَأَيۡدِيكُم مِّنۡهُۚ مَا يُرِيدُ ٱللَّهُ لِيَجۡعَلَ
عَلَيۡكُم مِّنۡ حَرَجٖ وَلَٰكِن يُرِيدُ

1 この「食べ物」は、大半の学者の見解では、彼らが屠殺（とさつ）した生き物の肉のこと（アル＝クルトゥビー6:76 参照）。家畜章 121 も参照。

2 いずれの場合でも、ここでは自由民女性のことを示すというのが、大半の学者の見解（アル＝バガウィー2:19、ムヤッサル 107 参照）。婦人章 25 も参照。

3 この清めの行為は、「ウドゥー*」と言われる。

4 「病気」に関しては、婦人章 43 の訳注を参照。

5 「窪地から戻って来る」という意味に関しては、婦人章 43 の訳注を参照。

を撫でる[1]のだ。アッラー*はあなた方に、困難をお授けになりたいのではない。しかし、かれはあなた方を清められ、あなた方が感謝するように、あなた方の上にその恩恵を全うされたいのである。

لِيُطَهِّرَكُمْ وَلِيُتِمَّ نِعْمَتَهُۥ عَلَيْكُمْ
لَعَلَّكُمْ تَشْكُرُونَ ٦

7. また、あなた方に対するアッラー*の恩恵と、あなた方が「私たちは聞き、従いました」と言った時にかれがあなた方と結んだ、かれとの確約[2]を思い起こすがよい。そして、アッラー*を畏れ*よ。本当にアッラー*は、胸中にあるものをご存知になるお方なのだから。

وَٱذْكُرُوا۟ نِعْمَةَ ٱللَّهِ عَلَيْكُمْ وَمِيثَٰقَهُ
ٱلَّذِى وَاثَقَكُم بِهِۦٓ إِذْ قُلْتُمْ سَمِعْنَا
وَأَطَعْنَا ۖ وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ عَلِيمٌۢ بِذَاتِ
ٱلصُّدُورِ ٧

8. 信仰する者たちよ、アッラー*のためによく(権利を)履行する者[3]、正義の証人であれ。そしてある民に対する憎しみが、あなた方を公正の不履行へと向けてしまうようではならない。公正に徹するのだ。それがより敬虔さ*に近いのだから。そしてアッラー*を畏れよ。本当にアッラー*は、あなた方の行うことに通暁されているお方。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ كُونُوا۟ قَوَّٰمِينَ لِلَّهِ
شُهَدَآءَ بِٱلْقِسْطِ ۖ وَلَا يَجْرِمَنَّكُمْ
شَنَـَٔانُ قَوْمٍ عَلَىٰٓ أَلَّا تَعْدِلُوا۟ ۚ ٱعْدِلُوا۟ هُوَ أَقْرَبُ
لِلتَّقْوَىٰ ۖ وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ خَبِيرٌۢ
بِمَا تَعْمَلُونَ ٨

9. アッラー*は、信仰し、正しい行い*を行う者たちに、(天国を)お約束される。彼らには、お赦しと、この上ない褒美がある。

وَعَدَ ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟
ٱلصَّٰلِحَٰتِ ۙ لَهُم مَّغْفِرَةٌ وَأَجْرٌ
عَظِيمٌ ٩

10. そして不信仰に陥り、われら*の(唯一性*を示す)御徴を嘘よばわりした者たち、それらの者たちは火獄の住人である。

وَٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ وَكَذَّبُوا۟ بِـَٔايَٰتِنَآ
أُو۟لَٰٓئِكَ أَصْحَٰبُ ٱلْجَحِيمِ ١٠

---

1 この清めの行為は、「タヤンムム*」と呼ばれる。

2 ここでの「確約」については、雌牛章 40 とその訳注を参照。

3 この「よく(権利を)履行する者」とは、アッラー*の諸権利と、かれが自分に義務づけられたもの、および他人の諸権利を、よく果たす者のこととされる(アル=ジャザーイリー 1:601 参照)。

11. 信仰する者たちよ、あなた方に対するアッラー*の恩恵を思い起こすのだ。ある民があなた方に（支配の）その手を伸ばそうとし、それでかれが、その手をあなた方から阻まれた時のことを。そしてアッラー*を畏れ*よ。信仰者たちには、アッラー*にこそ全てを委ね*させるのだ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ ٱذۡكُرُواْ نِعۡمَتَ
ٱللَّهِ عَلَيۡكُمۡ إِذۡ هَمَّ قَوۡمٌ أَن يَبۡسُطُوٓاْ
إِلَيۡكُمۡ أَيۡدِيَهُمۡ فَكَفَّ أَيۡدِيَهُمۡ عَنكُمۡۖ
وَٱتَّقُواْ ٱللَّهَۚ وَعَلَى ٱللَّهِ فَلۡيَتَوَكَّلِ
ٱلۡمُؤۡمِنُونَ ١١

12. アッラー*は確かに、イスラーイールの子ら*の確約[1]をお取りになり、われら*[2]は彼らの内から十二人の族長を遣わした[3]。そして、アッラー*は彼らに仰せられた。「本当にわれは、あなた方と共にある[4]。もしも、あなた方が礼拝を遵守し*、浄財*を支払い、わが使徒*たちを信じ、彼らを助け、アッラー*によき貸付[5]をするのであれば、われは必ずやあなた方の悪行をあなた方のために帳消しにし、あなた方をその下から河川が流れる楽園に入れてやろう。あなた方の内、その後に及んで不信仰に陥る者*は、確かに真っ当な道から迷ってしまっているのである」。

۞وَلَقَدۡ أَخَذَ ٱللَّهُ مِيثَٰقَ بَنِيٓ إِسۡرَٰٓءِيلَ
وَبَعَثۡنَا مِنۡهُمُ ٱثۡنَيۡ عَشَرَ نَقِيبٗاۖ
وَقَالَ ٱللَّهُ إِنِّي مَعَكُمۡۖ لَئِنۡ أَقَمۡتُمُ
ٱلصَّلَوٰةَ وَءَاتَيۡتُمُ ٱلزَّكَوٰةَ وَءَامَنتُم
بِرُسُلِي وَعَزَّرۡتُمُوهُمۡ وَأَقۡرَضۡتُمُ ٱللَّهَ قَرۡضًا
حَسَنٗا لَّأُكَفِّرَنَّ عَنكُمۡ سَيِّـَٔاتِكُمۡ
وَلَأُدۡخِلَنَّكُمۡ جَنَّٰتٖ تَجۡرِي مِن تَحۡتِهَا
ٱلۡأَنۡهَٰرُۚ فَمَن كَفَرَ بَعۡدَ ذَٰلِكَ
مِنكُمۡ فَقَدۡ ضَلَّ سَوَآءَ ٱلسَّبِيلِ ١٢

13. われら*は、彼ら（ユダヤ教徒*）が確約を破棄したことゆえに彼らを呪い[6]、彼らの心を硬化させた。彼らは（トーラー*の中の）

فَبِمَا نَقۡضِهِم مِّيثَٰقَهُمۡ لَعَنَّٰهُمۡ وَجَعَلۡنَا
قُلُوبَهُمۡ قَٰسِيَةٗۖ يُحَرِّفُونَ ٱلۡكَلِمَ عَن
مَّوَاضِعِهِۦ وَنَسُواْ حَظّٗا مِّمَّا ذُكِّرُواْ

---

1 この「確約」については、雌牛章 40 とその訳注を参照。。

2 第三人称から第一人称に突如変わっているが、いずれも主語はアッラー*。これは同一の対象が、異なる人称で入れ替わる、アラビア語独特の修辞法の一つであり、「イルティファート（転換）」と呼ばれるもの（アッ＝スユーティー3:214-219 参照）。

3 ユダヤ教徒*の支族数と、同数の族長。彼らはそれぞれ自分たちの配下の者に対し、アッラー*とその使徒*ムーサー*、そして啓典への服従を命じた（ムヤッサル 109 頁参照）。

4 つまり、「わが守護と援助によって、あなた方と共にある」ということ（前掲書、同頁参照）。

5 「よき貸付」については、雌牛章 245 の訳注を参照。

6 「アッラー*の呪い」に関しては、雌牛章 88 の訳注を参照。

بِهِۦۚ وَلَا تَزَالُ تَطَّلِعُ عَلَىٰ خَآئِنَةٖ مِّنۡهُمۡ
إِلَّا قَلِيلٗا مِّنۡهُمۡۖ فَٱعۡفُ عَنۡهُمۡ وَٱصۡفَحۡۚ
إِنَّ ٱللَّهَ يُحِبُّ ٱلۡمُحۡسِنِينَ ١٣

御言葉を本来の形から改竄し、自分たちがそれ（トーラー*）によって戒められていたものの多く[1]を忘れた[2]。そして（使徒*よ、）あなたは、彼らの内の僅かな者を除いては、未だに彼らの裏切りを見出すのだ。ならば彼らを大目に見、見逃してやれ。本当にアッラー*は、善を尽くす者[3]たちをお好きになるのだから。

وَمِنَ ٱلَّذِينَ قَالُوٓاْ إِنَّا نَصَٰرَىٰٓ أَخَذۡنَا
مِيثَٰقَهُمۡ فَنَسُواْ حَظّٗا مِّمَّا ذُكِّرُواْ
بِهِۦ فَأَغۡرَيۡنَا بَيۡنَهُمُ ٱلۡعَدَاوَةَ
وَٱلۡبَغۡضَآءَ إِلَىٰ يَوۡمِ ٱلۡقِيَٰمَةِۚ وَسَوۡفَ
يُنَبِّئُهُمُ ٱللَّهُ بِمَا كَانُواْ يَصۡنَعُونَ ١٤

14. またわれら*は、「私たちはキリスト教徒*です」と言う者たちからも、その確約[4]を取った。そして彼らも、自分たちがそれ（福音*）で戒められていたものの多くを、忘れてしまったのだ[5]。それで、われら*は復活の日*まで、彼らの間に敵意と憎悪を煽り立てた。アッラー*はやがて、彼らが成していたことを、彼らにお告げになろう。

يَٰٓأَهۡلَ ٱلۡكِتَٰبِ قَدۡ جَآءَكُمۡ
رَسُولُنَا يُبَيِّنُ لَكُمۡ كَثِيرٗا
مِّمَّا كُنتُمۡ تُخۡفُونَ مِنَ ٱلۡكِتَٰبِ
وَيَعۡفُواْ عَن كَثِيرٖۚ قَدۡ جَآءَكُم مِّنَ

15. 啓典の民*よ、あなた方のもとには確かに、われら*の使徒*（ムハンマド*）が到来した。彼はその啓典の内の、あなた方が隠蔽していたものの多くを明らかにし、また（その他の）多くについては大目に見てくれる[6]。

---

1 これは、預言者*ムハンマド*への信仰や、彼の特徴を人々に明らかにする義務などを含む、アッラー*との契約のことを意味するとされる（アル＝クルトゥビー6:116 参照）。イムラーン家章 187 も参照。

2 つまり、アッラー*との契約を放（ほう）ったらかしにし、それを実行しなかった（ムヤッサル 109 頁参照）。

3 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

4 この「確約」については、雌牛章 40 とその訳注を参照。

5 「戒められていたものの多く」と「忘れてしまった」については、アーヤ*13 の訳注を参照。

6 彼らが隠蔽していたことの多くについて多めに見られ、宗教上の必要に迫られない限り、それを逐一（ちくいち）公けにされることはない。あるいは、彼らの多くを大目に見られ、その罪をお咎（とが）めにはならない（アル＝バイダーウィー2:307 参照）。

アッラー*の御許（みもと）からあなた方のもとに、光と解明（かいめい）の書[1]が確かにやって来たのである。

ٱللَّهِ نُورٌ وَكِتَٰبٌ مُّبِينٌ ١٥

16. アッラー*は、それ（クルアーン*）によってかれのお喜びを追求する者を、平安の道へとお導（みちび）きになる。そしてそのお許（ゆる）しによって、彼らを闇（やみ）から光[2]へと救い出され、まっすぐな道へとお導（みちび）きになるのである。

يَهْدِي بِهِ ٱللَّهُ مَنِ ٱتَّبَعَ رِضْوَٰنَهُۥ
سُبُلَ ٱلسَّلَٰمِ وَيُخْرِجُهُم مِّنَ
ٱلظُّلُمَٰتِ إِلَى ٱلنُّورِ بِإِذْنِهِۦ
وَيَهْدِيهِمْ إِلَىٰ صِرَٰطٍ مُّسْتَقِيمٍ ١٦

17. 「本当にアッラー*こそは、マルヤム*の子マスィーフ*（イーサー*）である」などと言った者たちは、確かに不信仰に陥（おちい）ったのだ。（使徒（しと）*よ、）言ってやるがいい。「ならば、誰がアッラー*に対して、僅（わず）かばかりでも（力を）有するというのか？　もしアッラー*が、マルヤム*の子マスィーフ*とその母、そして地上にあるもの全てを滅（ほろ）ぼすことを欲（ほっ）されたならば[3]（、誰もどうすることも出来ない）。諸天と大地、その間にあるもの（全て）の王権は、アッラー*にこそ属（ぞく）するのだ。かれは、かれがお望みのものをお創（つく）りになるのだから。そしてアッラー*は、全てのことがお出来になるお方であられる」。

لَّقَدْ كَفَرَ ٱلَّذِينَ قَالُوٓا۟ إِنَّ ٱللَّهَ
هُوَ ٱلْمَسِيحُ ٱبْنُ مَرْيَمَ ۚ قُلْ فَمَن
يَمْلِكُ مِنَ ٱللَّهِ شَيْـًٔا إِنْ أَرَادَ أَن
يُهْلِكَ ٱلْمَسِيحَ ٱبْنَ مَرْيَمَ
وَأُمَّهُۥ وَمَن فِى ٱلْأَرْضِ جَمِيعًا ۗ
وَلِلَّهِ مُلْكُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ
وَمَا بَيْنَهُمَا ۚ يَخْلُقُ مَا يَشَآءُ ۚ وَٱللَّهُ عَلَىٰ
كُلِّ شَىْءٍ قَدِيرٌ ١٧

18. ユダヤ教徒*とキリスト教徒*は、言った。「私たちはアッラー*の子であり、その寵愛（ちょうあい）を受ける者である」。（使徒（しと）*よ、）言ってやるのだ。「ならば、なぜ、かれ（アッラー*）はあなた方の罪（つみ）ゆえに、あなた方を罰（ばっ）されるのか？　いや、あなた方はかれが

وَقَالَتِ ٱلْيَهُودُ وَٱلنَّصَٰرَىٰ نَحْنُ أَبْنَٰٓؤُا۟ ٱللَّهِ
وَأَحِبَّٰٓؤُهُۥ ۚ قُلْ فَلِمَ يُعَذِّبُكُم بِذُنُوبِكُم ۖ
بَلْ أَنتُم بَشَرٌ مِّمَّنْ خَلَقَ ۚ يَغْفِرُ لِمَن يَشَآءُ
وَيُعَذِّبُ مَن يَشَآءُ ۚ وَلِلَّهِ مُلْكُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَٱلْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا ۖ وَإِلَيْهِ ٱلْمَصِيرُ ١٨

1 この「光」には、「イスラーム*」「預言者*ムハンマド*」といった解釈がある。「解明の書」はクルアーン*のこと（アル＝クルトゥビー6:118 参照）。

2 この「闇」と「光」については、雌牛章 257 の訳注を参照。

3 もし彼らが主張するように、イーサー*がアッラー*であったとしたら、彼は自らとその母親、またその他、全てのものの運命を変えることが出来たであろう、ということ（アッ＝タバリー4:2793-2794 参照）。

創られたもの（である外の人間と同種）の、人間なのだ。かれは、かれがお望みになる者をお赦しになり、かれがお望みになる者を罰され給う。そして諸天と大地、その間にあるものの王権はアッラー*にこそ属し、かれにこそ帰り所があるのだ」。

19. 啓典の民*よ、あなた方のもとに（それ以前の）使徒*たちから期間をおいて、（真実と導きを）明示するわれら*の使徒*（ムハンマド*）が到来した。（それは）あなた方が、「私たちのもとには、吉報を伝える者も、警告を告げる者[1]も、（誰も）来なかった」などと言わないようにするため。そして、あなた方のもとには確かに、吉報を伝え警告を告げる者が到来したのだ。アッラー*は、全てのことがお出来になるお方。

يَٰٓأَهۡلَ ٱلۡكِتَٰبِ قَدۡ جَآءَكُمۡ رَسُولُنَا يُبَيِّنُ
لَكُمۡ عَلَىٰ فَتۡرَةٖ مِّنَ ٱلرُّسُلِ أَن تَقُولُواْ
مَا جَآءَنَا مِنۢ بَشِيرٖ وَلَا نَذِيرٖۖ فَقَدۡ جَآءَكُم
بَشِيرٞ وَنَذِيرٞۗ وَٱللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٞ ١٩

20. ムーサー*が、その民に（こう）言った時のこと（を思い起こさせるがよい）。「我が民よ、あなた方に対する、アッラー*の恩恵を思い出すのだ。かれが、あなた方の内に数々の預言者*を遣わされ、あなた方を王とし、全創造物のいかなる者にも与えられなかったものを、あなた方にお授けになった時のことを。[2]

وَإِذۡ قَالَ مُوسَىٰ لِقَوۡمِهِۦ يَٰقَوۡمِ ٱذۡكُرُواْ
نِعۡمَةَ ٱللَّهِ عَلَيۡكُمۡ إِذۡ جَعَلَ فِيكُمۡ أَنۢبِيَآءَ
وَجَعَلَكُم مُّلُوكٗا وَءَاتَىٰكُم مَّا لَمۡ يُؤۡتِ
أَحَدٗا مِّنَ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٢٠

21. 我が民よ、アッラー*があなた方に約束された聖なる地[3]に入るのだ。そして背を向けて退散するのではない。そうすればあなた方は、損失者として帰って来ることになろう」。

يَٰقَوۡمِ ٱدۡخُلُواْ ٱلۡأَرۡضَ ٱلۡمُقَدَّسَةَ ٱلَّتِي
كَتَبَ ٱللَّهُ لَكُمۡ وَلَا تَرۡتَدُّواْ عَلَىٰٓ
أَدۡبَارِكُمۡ فَتَنقَلِبُواْ خَٰسِرِينَ ٢١

---

1 「吉報を伝え、警告を告げる」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

2 雌牛章 47「外（ほか）のいかなる者よりも引き立てた時のこと」の訳注も参照。

3 この「聖なる地」とは、エルサレムとその周辺のことと言われる（ムヤッサル 111 頁参照）。

22. 彼らは言った。「ムーサー*よ、実にそこには強大な民がいる。そして本当に私たちは、彼らがそこから出て行くまで、絶対にそこには入らないぞ。もし彼らがそこから出て行くなら、まさしく私たちは（そこへ）入る者となろう」。

قَالُواْ يَٰمُوسَىٰٓ إِنَّ فِيهَا قَوۡمٗا جَبَّارِينَ
وَإِنَّا لَن نَّدۡخُلَهَا حَتَّىٰ يَخۡرُجُواْ مِنۡهَا فَإِن
يَخۡرُجُواْ مِنۡهَا فَإِنَّا دَٰخِلُونَ ٢٢

23. （アッラー*を）怖(おそ)れる者たちの内、二人の男[1]――アッラー*は彼らに、（アッラー*とムーサー*への服従(ふくじゅう)という）恩恵(おんけい)を授(さず)けて下さった――が、言った。「門に入り、彼らのもとに突入(とつにゅう)するのだ。それで、もしそこに入ったなら、あなた方は必(かなら)ずや勝利者となろう。ならばアッラー*にこそ、全てを委(ゆだ)ねる*のだ。もし、あなた方が信仰者であるというなら」。

قَالَ رَجُلَانِ مِنَ ٱلَّذِينَ يَخَافُونَ أَنۡعَمَ ٱللَّهُ
عَلَيۡهِمَا ٱدۡخُلُواْ عَلَيۡهِمُ ٱلۡبَابَ فَإِذَا دَخَلۡتُمُوهُ
فَإِنَّكُمۡ غَٰلِبُونَۚ وَعَلَى ٱللَّهِ فَتَوَكَّلُوٓاْ
إِن كُنتُم مُّؤۡمِنِينَ ٢٣

24. 彼らは言った。「ムーサー*よ、彼らがそこにいる限り、私たちは絶対にそこには入らないぞ。ならば、あなたと、あなたの主(しゅ)*が行って、戦って来るがいい。実に私たちは、ここで留(とど)まる者となるから」。

قَالُواْ يَٰمُوسَىٰٓ إِنَّا لَن نَّدۡخُلَهَآ أَبَدٗا مَّا دَامُواْ
فِيهَا فَٱذۡهَبۡ أَنتَ وَرَبُّكَ فَقَٰتِلَآ
إِنَّا هَٰهُنَا قَٰعِدُونَ ٢٤

25. 彼（ムーサー*）は（祈って、）申し上げた。「我が主(しゅ)*よ、本当に私は、自分自身と我が兄（ハールーン*）の外(ほか)、何も有しておりません。ゆえに、私たちと放逸(ほういつ)な民との間に、ご裁決(さいけつ)をお下し下さい」。

قَالَ رَبِّ إِنِّي لَآ أَمۡلِكُ إِلَّا نَفۡسِي وَأَخِيۖ
فَٱفۡرُقۡ بَيۡنَنَا وَبَيۡنَ ٱلۡقَوۡمِ ٱلۡفَٰسِقِينَ ٢٥

26. かれ（アッラー*）は、仰(おお)せられた。「では、実にそこは彼らに四十年間禁じられ、彼らは（その間、）地を彷徨(さまよ)うことになろう。ならば、放逸(ほういつ)な民のために悲しむのではない」。

قَالَ فَإِنَّهَا مُحَرَّمَةٌ عَلَيۡهِمۡۛ أَرۡبَعِينَ سَنَةٗۛ
يَتِيهُونَ فِي ٱلۡأَرۡضِۚ فَلَا تَأۡسَ عَلَى
ٱلۡقَوۡمِ ٱلۡفَٰسِقِينَ ٢٦

1 先代・後代における多くの学者が、この二人を、ユーシュア・ブン・ヌーン（ヨシュア）と、カーリブ・ブン・ユーフナー（カレブ）であるとしている（イブン・カスィール 3:77 参照）。

27. （使徒*よ、）彼らにアーダム*の二人の子[1]についての真実の話を、誦んで聞かせるがいい。二人が供物を捧げ、彼らの一人（ハービール）からは受け入れられ、もう一人（カービール）からは受け入れられなかった時のこと[2]。彼（カービール）は言った。「絶対に、お前を殺してやる」。彼（ハービール）は言った。「アッラー*は敬虔な*者たちからのみ、お受け入れになるのだ。

۞وَٱتْلُ عَلَيْهِمْ نَبَأَ ٱبْنَىْ ءَادَمَ بِٱلْحَقِّ إِذْ قَرَّبَا
قُرْبَانًا فَتُقُبِّلَ مِنْ أَحَدِهِمَا وَلَمْ يُتَقَبَّلْ
مِنَ ٱلْءَاخَرِ قَالَ لَأَقْتُلَنَّكَ ۖ قَالَ إِنَّمَا
يَتَقَبَّلُ ٱللَّهُ مِنَ ٱلْمُتَّقِينَ ٢٧

28. もしも、あなたが私を殺そうとして、その手を私に伸ばしたとしても、私はあなたを殺そうとして、我が手をあなたへ伸ばしはしまい。本当に私は、全創造物の主*アッラー*を、怖れているのだから。

لَئِنۢ بَسَطتَ إِلَىَّ يَدَكَ لِتَقْتُلَنِى مَآ أَنَا۠
بِبَاسِطٍ يَدِىَ إِلَيْكَ لِأَقْتُلَكَ ۖ إِنِّىٓ أَخَافُ
ٱللَّهَ رَبَّ ٱلْعَٰلَمِينَ ٢٨

29. 本当に私は、あなたが私の罪とあなた自身の罪[3]と共に（アッラー*の御許へと）戻り、業火の民の類いとなることを望んでいる[4]のだ。それが、不正*者たちへの応報である」。

إِنِّىٓ أُرِيدُ أَن تَبُوٓأَ بِإِثْمِى وَإِثْمِكَ فَتَكُونَ مِنْ
أَصْحَٰبِ ٱلنَّارِ ۚ وَذَٰلِكَ جَزَٰٓؤُا۟ ٱلظَّٰلِمِينَ ٢٩

30. 彼（カービール）の自我は、彼に自分の弟を殺害するよう仕向け、彼は彼（ハービール）を殺した。そして彼は、損失者の類いとなった。

فَطَوَّعَتْ لَهُۥ نَفْسُهُۥ قَتْلَ أَخِيهِ فَقَتَلَهُۥ
فَأَصْبَحَ مِنَ ٱلْخَٰسِرِينَ ٣٠

---

1 ハービール（アベル）とカービール（カイン）の話である、と言われる（イブン・カスィール 3:82、ムヤッサル 112 頁参照）。

2 大半の解釈学者によれば、ハービールは羊飼いで、カービールは農夫だった。そして自分の持ち物の内、最良の羊を供物として捧げたハービールがアッラー*に受け入れられ、一方質の低い作物を供物としたカービールは受け入れられなかったのだという（イブン・カスィール 3:85 参照）。

3 「私の罪」とは、ハービールを殺害した罪のことで、「あなた自身の罪」とは、それ以前の彼の罪である、というのが大半の解釈学者の見解（アル＝クルトゥビー6:137 参照）。

4 これは文字通りの願望ではなく、「私は、あなたを殺すよりは、自分があなたに殺されることを望む」という、二つの好ましくない物事の間の選択という意味合い（イブン・ジュザイ 1:233 参照）。

31. そしてアッラー*は、その弟の亡骸をいかに埋めるかを示すため、地面を掘る、一羽のカラスを遣わされた[1]。彼（カービール）は言った。「我が災いよ[2]！　一体、私はこのカラスのようにして、自分の弟の亡骸を埋めることも出来なかったのか？」彼は、後悔する者の類いとなった。

فَبَعَثَ ٱللَّهُ غُرَابٗا يَبۡحَثُ فِي ٱلۡأَرۡضِ
لِيُرِيَهُۥ كَيۡفَ يُوَٰرِي سَوۡءَةَ أَخِيهِۚ قَالَ
يَٰوَيۡلَتَىٰٓ أَعَجَزۡتُ أَنۡ أَكُونَ مِثۡلَ هَٰذَا
ٱلۡغُرَابِ فَأُوَٰرِيَ سَوۡءَةَ أَخِيۖ فَأَصۡبَحَ مِنَ
ٱلنَّٰدِمِينَ ٣١

32. それ（殺人の罪）ゆえに、われら*はイスラーイールの子ら*に（こう）定めたのだ。誰か一人（の命）の代償としてでもなく、地上における腐敗*[3]ゆえにでもなくして人一人の命を奪った者は、あたかも全人類を殺したようなものである[4]。また、それ（一人の命）を生かした者は、あたかも全人類を生かしたようなものである[5]。われら*の使徒*たちは確かに、明証[6]を携えて彼らのもとに到来したのだ。それから実に、彼らの多くはその後、地上で（アッラー*の法を侵犯することにおいて、）正しく度を越した者たちなのである。

مِنۡ أَجۡلِ ذَٰلِكَ كَتَبۡنَا عَلَىٰ بَنِيٓ إِسۡرَٰٓءِيلَ
أَنَّهُۥ مَن قَتَلَ نَفۡسَۢا بِغَيۡرِ نَفۡسٍ أَوۡ فَسَادٖ
فِي ٱلۡأَرۡضِ فَكَأَنَّمَا قَتَلَ ٱلنَّاسَ
جَمِيعٗا وَمَنۡ أَحۡيَاهَا فَكَأَنَّمَآ أَحۡيَا
ٱلنَّاسَ جَمِيعٗاۚ وَلَقَدۡ جَآءَتۡهُمۡ رُسُلُنَا
بِٱلۡبَيِّنَٰتِ ثُمَّ إِنَّ كَثِيرٗا مِّنۡهُم بَعۡدَ
ذَٰلِكَ فِي ٱلۡأَرۡضِ لَمُسۡرِفُونَ ٣٢

1 この事件は人類史初の殺人であったゆえ、カービールは遺体に対していかに対処すべきかを知らなかった。そこでアッラー*は彼に、カラスが仲間の遺体を地面に埋（う）めるのを示され、埋葬（まいそう）の仕方を教えられたのだという（アッ＝タバリー4:2831-2834 参照）。

2 「我が災いよ」とは、心配や後悔の念を表すアラビア語表現（アル＝バイダーウィー2:318参照）。

3 「命の代償」に関しては、雌牛章 178-179 の「キサース刑」のくだりを、また刑罰の対象となる「地上で腐敗*をもたらすこと」の具体的内容については、アーヤ*33 を参照。

4 殺してはならない命を奪う者にとって、殺す相手に違いはなく、ただ自分の悪の欲望に従って、殺したい者を殺すに過ぎない。その意味で、彼は全人類を殺すのに等しい（アッ＝サァディー229 頁参照）。

5 たとえ殺したい相手がいても、アッラー*への恐れゆえに思いとどまり、彼を生かしておく者は、全人類の生命を生かしておく者に等しい。というのも彼はアッラー*への恐れゆえ、殺害を禁じられている、いかなる命も奪ったりはしないからである（前掲書、同頁参照）。

6 この「明証」は、使徒*たちの教えの正しさを示す、様々な証拠のこと（ムヤッサル 113 頁参照）。

33. アッラー*とその使徒*に戦いをしかけ、地上で腐敗*を働くことに奔走する者たち[1]の応報は、殺されるか、（死刑の上に）磔にされるか、またはその手足[2]を交互に切断されるか、あるいはその土地から追放される[3]ことに外ならない。それは、現世における彼らへの屈辱である。そして来世においては彼らに、この上ない懲罰があるのだ。

إِنَّمَا جَزَٰٓؤُاْ ٱلَّذِينَ يُحَارِبُونَ ٱللَّهَ
وَرَسُولَهُۥ وَيَسۡعَوۡنَ فِي ٱلۡأَرۡضِ
فَسَادًا أَن يُقَتَّلُوٓاْ أَوۡ يُصَلَّبُوٓاْ أَوۡ تُقَطَّعَ
أَيۡدِيهِمۡ وَأَرۡجُلُهُم مِّنۡ خِلَٰفٍ أَوۡ يُنفَوۡاْ
مِنَ ٱلۡأَرۡضِۚ ذَٰلِكَ لَهُمۡ خِزۡيٞ فِي
ٱلدُّنۡيَاۖ وَلَهُمۡ فِي ٱلۡأٓخِرَةِ عَذَابٌ عَظِيمٌ ٣٣

34. 但し、あなた方が召し捕る前に悔悟した者たちは別である。ならば（信仰者たちよ）、アッラー*が赦し深いお方、慈愛深い*お方であることを知るがよい。

إِلَّا ٱلَّذِينَ تَابُواْ مِن قَبۡلِ أَن تَقۡدِرُواْ
عَلَيۡهِمۡۖ فَٱعۡلَمُوٓاْ أَنَّ ٱللَّهَ غَفُورٞ رَّحِيمٞ ٣٤

35. 信仰する者たちよ、アッラー*を畏れ*、かれへのお近づきを求め[4]、かれの道において奮闘するのだ。あなた方が成功するように。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ ٱتَّقُواْ ٱللَّهَ وَٱبۡتَغُوٓاْ
إِلَيۡهِ ٱلۡوَسِيلَةَ وَجَٰهِدُواْ فِي سَبِيلِهِۦ
لَعَلَّكُمۡ تُفۡلِحُونَ ٣٥

36. 本当に、不信仰に陥った者*たちは、たとえ彼らに、復活の日*の懲罰をそれで償（って免除してもら）うため、地上にあるもの全てと、それと同様のものがもう一つあったとしても、それが彼らから受け入れられることはない。そして彼らには、痛烈な懲罰がある。

إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ لَوۡ أَنَّ لَهُم مَّا فِي ٱلۡأَرۡضِ
جَمِيعٗا وَمِثۡلَهُۥ مَعَهُۥ لِيَفۡتَدُواْ بِهِۦ مِنۡ
عَذَابِ يَوۡمِ ٱلۡقِيَٰمَةِ مَا تُقُبِّلَ مِنۡهُمۡۖ
وَلَهُمۡ عَذَابٌ أَلِيمٞ ٣٦

37. 業火から抜け出したくても、彼らがそこから出ることは叶わない。そして彼らには、永劫の懲罰がある。

يُرِيدُونَ أَن يَخۡرُجُواْ مِنَ ٱلنَّارِ وَمَا هُم
بِخَٰرِجِينَ مِنۡهَاۖ وَلَهُمۡ عَذَابٞ مُّقِيمٞ ٣٧

---

1 アッラー*に対して宣戦し、その敵意を露（あら）わにし、アッラー*とその使徒*の法に逆らう者たちや、強盗・殺人などで治安を乱す者たちのこと（ムヤッサル 113 頁参照）。

2 右手と左足のこと。もし再犯であれば、その時は左手と右足（前掲書、同頁参照）。

3 追放された先の土地で、悔悟するまで拘束される（前掲書、同頁参照）。

4 アッラー*への服従と、かれが喜ばれる行いによって「お近づき」を求めよ、ということ（前掲書、同頁参照）。

38. （イスラーム*法によって統治する者よ、）男女の窃盗[1]犯は、彼らが（不当に）稼いだことの応報、アッラー*からの懲罰ゆえに、その手[2]を切断するのだ。アッラー*は、偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

وَٱلسَّارِقُ وَٱلسَّارِقَةُ فَٱقۡطَعُوٓاْ أَيۡدِيَهُمَا
جَزَآءَۢ بِمَا كَسَبَا نَكَٰلٗا مِّنَ ٱللَّهِۗ
وَٱللَّهُ عَزِيزٌ حَكِيمٞ ٣٨

39. そして、その不正*（窃盗）の後に悔悟し（行いを）正した者は誰であろうと、本当にアッラー*は、その悔悟を受け入れて下さる。本当にアッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方であられるのだから。

فَمَن تَابَ مِنۢ بَعۡدِ ظُلۡمِهِۦ وَأَصۡلَحَ فَإِنَّ ٱللَّهَ
يَتُوبُ عَلَيۡهِۚ إِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٞ رَّحِيمٌ ٣٩

40. （使徒*よ、）あなた[3]は、諸天と大地の王権がアッラー*に属するということを知らないのか？　かれはお望みの者を罰され、お望みの者をお赦しになるのだ。アッラー*は、全てのことがお出来のお方。

أَلَمۡ تَعۡلَمۡ أَنَّ ٱللَّهَ لَهُۥ مُلۡكُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَٱلۡأَرۡضِ يُعَذِّبُ مَن يَشَآءُ وَيَغۡفِرُ لِمَن
يَشَآءُۗ وَٱللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٌ ٤٠

41. 使徒*よ、「私たちは信仰した」と口先では言いつつも、その心は信仰していない者たちの内、不信仰へと急ぐ者たちが、あなたを悲しませるようであってはならない。また、嘘に耳を傾け、（余りの憎しみゆえに）あなたのもとには顔を出さず、（トーラー*の）言葉をその場所の（確定）後に改変する民に傾聴する[4]、ユダヤ教徒*である者た

۞ يَٰٓأَيُّهَا ٱلرَّسُولُ لَا يَحۡزُنكَ ٱلَّذِينَ
يُسَٰرِعُونَ فِي ٱلۡكُفۡرِ مِنَ ٱلَّذِينَ قَالُوٓاْ
ءَامَنَّا بِأَفۡوَٰهِهِمۡ وَلَمۡ تُؤۡمِن قُلُوبُهُمۡۛ وَمِنَ
ٱلَّذِينَ هَادُواْۛ سَمَّٰعُونَ لِلۡكَذِبِ
سَمَّٰعُونَ لِقَوۡمٍ ءَاخَرِينَ لَمۡ يَأۡتُوكَۖ
يُحَرِّفُونَ ٱلۡكَلِمَ مِنۢ بَعۡدِ مَوَاضِعِهِۦۖ
يَقُولُونَ إِنۡ أُوتِيتُمۡ هَٰذَا فَخُذُوهُ

1 イスラーム*法における窃盗とは、正常な理性を備えた成人*が、一定の価値を有する他人の所有物（その所有権において疑念のないもの）を、その保管場所からこっそりと盗むこと。（クウェイト法学大全 24:292 参照）。

2 窃盗は基本的に、本人の自白か、一定の条件を満たした二人の証人による証言によって確定する。尚、初犯者は、右手を手首から切断される、というのが大半の学者の見解（前掲書 24:332-334、338 参照）。

3 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。

4 この「民」とは、ここで「傾聴する」ユダヤ教徒*とは別のユダヤ教徒*（ムヤッサル 114 頁参照）。彼らに「傾聴する」とは、彼らの言うことを聞いて従うこと、あるいは（ムスリム*たちの間の）言葉を聞き回っては、彼らにそれを伝達すること（イブン・カスィール 3:113 参照）。

ち（の不信仰者*）も（同様である）。彼ら（その人々）は、言うのだ。「もし、あなた方が（ムハンマド*から）これを与えられたら、これを受け入れよ。そしてもし、これを与えられなかったら、用心するのだ[1]」。（使徒*よ、）誰であろうと、アッラー*がその試練をお望みになる者、あなたはその者のために、アッラー*に反して何一つ出来ないだろう[2]。それらの者たちは、アッラー*が（不信仰から）その心の浄化をお望みにはならなかった者たち。彼らには現世において屈辱があり、来世においてはこの上ない懲罰がある。

وَإِن لَّمْ تُؤْتَوْهُ فَاحْذَرُوا ۚ وَمَن يُرِدِ اللَّهُ
فِتْنَتَهُ فَلَن تَمْلِكَ لَهُ مِنَ اللَّهِ شَيْئًا ۚ
أُولَٰئِكَ الَّذِينَ لَمْ يُرِدِ اللَّهُ أَن يُطَهِّرَ
قُلُوبَهُمْ ۚ لَهُمْ فِي الدُّنْيَا خِزْيٌ ۖ وَلَهُمْ فِي
الْآخِرَةِ عَذَابٌ عَظِيمٌ ﴿٤١﴾

42. （彼らユダヤ教徒*は）嘘に耳を傾け、禁じられた物を貪る者たち。彼らが（裁決を求めて）あなたのもとに来たら、彼らの間を裁くか、あるいは彼らから背を向けよ。そして、あなたが彼らに背を向けるにしても、彼らは少しもあなたを害せないだろう。また、裁決するのであれば、公正さで彼らの間を裁け。本当にアッラー*は、公正な者たちをお好みになるのだから。

سَمَّاعُونَ لِلْكَذِبِ أَكَّالُونَ لِلسُّحْتِ ۚ
فَإِن جَاءُوكَ فَاحْكُم بَيْنَهُمْ أَوْ أَعْرِضْ
عَنْهُمْ ۖ وَإِن تُعْرِضْ عَنْهُمْ فَلَن يَضُرُّوكَ شَيْئًا ۖ
وَإِنْ حَكَمْتَ فَاحْكُم بَيْنَهُم بِالْقِسْطِ ۚ
إِنَّ اللَّهَ يُحِبُّ الْمُقْسِطِينَ ﴿٤٢﴾

43. 彼らは、自分たちの手許にはアッラー*の規定が記されたトーラー*があるというのに、一体どうしてあなたに裁決を求めるのか？　それから彼らは、その（裁決が下さ

وَكَيْفَ يُحَكِّمُونَكَ وَعِندَهُمُ
التَّوْرَاةُ فِيهَا حُكْمُ اللَّهِ ثُمَّ يَتَوَلَّوْنَ مِن
بَعْدِ ذَٰلِكَ ۚ وَمَا أُولَٰئِكَ بِالْمُؤْمِنِينَ ﴿٤٣﴾

1 この「これ」とは、ユダヤ教徒*たちが自分たちの私欲に沿って、本来のトーラー*の法規定を改変したもののこと（ムヤッサル 114 頁参照）。マディーナ*のユダヤ教徒*らは、姦通（かんつう）の罪に対する罰として、トーラー*の中で定められていた石打ちの刑ではなく、罪人の顔を墨（すみ）で黒く塗り、鞭（むち）打ち刑に処すこととしていた。それで預言者*は姦通した者に対し、アッラー*の定めた刑罰である石打ち刑を実施したのだった（ムスリム「固定刑の書」28 参照）。姦通罪の刑罰に関しては婦人章 15、及び御光章 2 を参照。

2 使徒*だろうと、アッラー*が迷妄（めいもう）をお望みになる者を導くことは出来ない（ムヤッサル 114 頁参照）。

れた）後、それに背を向けるのである。それらの者たちは、信仰者などではない[1]。

44. 本当にわれら*は、（アッラー*の法に）服従（イスラーム*）した預言者*たちが、それによってユダヤ教徒*である者たち*を裁く、導きと光を宿したトーラー*を下した。また、学識豊かな指導者[2]たちや学者らも、自分たちがアッラー*の書（であるトーラー*が改変されることから）の保持を託されたがゆえに（、それで裁いていた）。そして彼らは、それに対する証人[3]だったのだ。ならば人々を恐れず、われ（アッラー*）を恐れよ[4]。そして、われの（規定という）御徴と引き換えに、僅かな値打ちのものを買ったりしてはならない。誰であろうと、アッラー*がお下しになったもので裁かない者、それらの者たちこそは不信仰者*なのである。

إِنَّآ أَنزَلۡنَا ٱلتَّوۡرَىٰةَ فِيهَا هُدٗى وَنُورٞۚ
يَحۡكُمُ بِهَا ٱلنَّبِيُّونَ ٱلَّذِينَ أَسۡلَمُواْ
لِلَّذِينَ هَادُواْ وَٱلرَّبَّٰنِيُّونَ وَٱلۡأَحۡبَارُ بِمَا
ٱسۡتُحۡفِظُواْ مِن كِتَٰبِ ٱللَّهِ وَكَانُواْ
عَلَيۡهِ شُهَدَآءَۚ فَلَا تَخۡشَوُاْ ٱلنَّاسَ وَٱخۡشَوۡنِ
وَلَا تَشۡتَرُواْ بِـَٔايَٰتِي ثَمَنٗا قَلِيلٗاۚ وَمَن لَّمۡ يَحۡكُم
بِمَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ فَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡكَٰفِرُونَ ٤٤

45. また、われら*はその（トーラー*の）中で、彼らに（こう）定めた。命には命で、目には目で、鼻には鼻で、耳には耳で、歯には歯で（報われる）。そして傷害は、キサース刑[5]（による報い）なのだ」。誰でも、それ（キサース刑の執行）を免じてやる者は、それが自分への罪滅ぼしとなる。そし

وَكَتَبۡنَا عَلَيۡهِمۡ فِيهَآ أَنَّ ٱلنَّفۡسَ
بِٱلنَّفۡسِ وَٱلۡعَيۡنَ بِٱلۡعَيۡنِ وَٱلۡأَنفَ بِٱلۡأَنفِ
وَٱلۡأُذُنَ بِٱلۡأُذُنِ وَٱلسِّنَّ بِٱلسِّنِّ
وَٱلۡجُرُوحَ قِصَاصٞۚ فَمَن تَصَدَّقَ بِهِۦ
فَهُوَ كَفَّارَةٞ لَّهُۥۚ وَمَن لَّمۡ يَحۡكُم بِمَآ
أَنزَلَ ٱللَّهُ فَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلظَّٰلِمُونَ ٤٥

1 彼らは自分たちの法については不信仰を犯しつつ、預言者*ムハンマド*の裁決にも背を向ける、という二重の罪を犯している（ムヤッサル 115 頁参照）。

2 「学識豊かな指導者」については、イムラーン家章 79 の訳注を参照。

3 それら先代の預言者*たちが、トーラー*によってユダヤ教徒*を裁いていたということの「証人」（前掲書、同頁参照）。

4 彼らユダヤ教徒*の学者らは、彼らが知っている預言者*ムハンマド*の特徴や、姦通（かんつう）罪に対する本来の刑罰である石打ちの刑を公（おおや）けにすることにおいて、アッラー*以外の誰をも恐れるべきではない、ということ（アル＝クルトゥビー6:189 参照）。

5 「キサース刑」については、雌牛章 178 の訳注を参照。

て誰であろうと、アッラー*がお下しになったもので裁かない者、それらの者たちこそは不正*者なのである。

46. われら*は、それ以前に下されたトーラー*を確証するマルヤム*の子イーサー*に、彼ら（イスラーイールの子ら*の預言者*たち）の跡を継がせた。そしてわれら*は、導きと光を宿し、それ以前に下されたトーラー（*の正しさ）を確証する、敬虔な*者たちへの導きと訓戒としての福音*を、彼に授けたのだ。

وَقَفَّيۡنَا عَلَىٰٓ ءَاثَٰرِهِم بِعِيسَى ٱبۡنِ مَرۡيَمَ مُصَدِّقٗا
لِّمَا بَيۡنَ يَدَيۡهِ مِنَ ٱلتَّوۡرَىٰةِۖ وَءَاتَيۡنَٰهُ ٱلۡإِنجِيلَ
فِيهِ هُدٗى وَنُورٞ وَمُصَدِّقٗا لِّمَا بَيۡنَ يَدَيۡهِ
مِنَ ٱلتَّوۡرَىٰةِ وَهُدٗى وَمَوۡعِظَةٗ لِّلۡمُتَّقِينَ ٤٦

47. 福音*の徒は、アッラー*が（福音*の）その中で下されたものによって裁決せよ。誰であろうと、アッラー*がお下しになったもので裁かない者、それらの者たちこそは放逸な者なのである。

وَلۡيَحۡكُمۡ أَهۡلُ ٱلۡإِنجِيلِ بِمَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ فِيهِۚ
وَمَن لَّمۡ يَحۡكُم بِمَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ فَأُوْلَٰٓئِكَ
هُمُ ٱلۡفَٰسِقُونَ ٤٧

48. また（使徒*よ）、われら*はあなたに、それ以前の啓典（の正しさ）を確証し、かつ統制するもの[1]として、真実の啓典（クルアーン*）を下した。ならばアッラー*がお下しになったものによって、彼らの間を裁くのだ。そして、あなたに到来した真理をよそに、彼らの欲望に従ってはならない。われら*はあなた方の各々（の共同体）に、法と（明白な）道筋を授けた[2]。そして、もしアッラー*がお望みになったのであれば、あなた方を一つの（法に基づいた）共同体と

وَأَنزَلۡنَآ إِلَيۡكَ ٱلۡكِتَٰبَ بِٱلۡحَقِّ مُصَدِّقٗا
لِّمَا بَيۡنَ يَدَيۡهِ مِنَ ٱلۡكِتَٰبِ وَمُهَيۡمِنًا
عَلَيۡهِۖ فَٱحۡكُم بَيۡنَهُم بِمَآ أَنزَلَ ٱللَّهُۖ وَلَا تَتَّبِعۡ
أَهۡوَآءَهُمۡ عَمَّا جَآءَكَ مِنَ ٱلۡحَقِّۚ لِكُلّٖ جَعَلۡنَا
مِنكُمۡ شِرۡعَةٗ وَمِنۡهَاجٗاۚ وَلَوۡ شَآءَ ٱللَّهُ
لَجَعَلَكُمۡ أُمَّةٗ وَٰحِدَةٗ وَلَٰكِن
لِّيَبۡلُوَكُمۡ فِي مَآ ءَاتَىٰكُمۡۖ فَٱسۡتَبِقُواْ
ٱلۡخَيۡرَٰتِۚ إِلَى ٱللَّهِ مَرۡجِعُكُمۡ جَمِيعٗا
فَيُنَبِّئُكُم بِمَا كُنتُمۡ فِيهِ تَخۡتَلِفُونَ ٤٨

1 クルアーン*は、それ以前の啓典の正しい部分を確証し、改竄（かいざん）されていた部分は暴（あば）き、その中のある種の法規定については撤回する、啓典の最終版である（ムヤッサル 116 頁参照）。

2 アッラー*の法規定は、時代背景により異なるものではあったが、各時代において正義に叶うものだった。しかし宗教の根本的部分（タウヒード*など）は、不変である（アッ＝サァディー234 頁参照）。

されただろう。しかし（そうされなかったのは）、あなた方に授けたものにおいて、あなた方をお試しになるため[1]。ならば、善行を競い合うがよい。アッラー*にこそ（復活の日*）、あなた方全員の帰り所はあり、そしてかれは、あなた方が意見を異にしていたことに関して、あなた方にお告げになるのだから。

49. また（使徒*よ）、アッラー*のお下しになったもので彼らの間を裁き、彼らの私欲に従うのではない。そして、アッラー*があなたに啓示したものの一部から、彼らがあなたを惑わせ（、その実践を阻止し）ようとすることに用心せよ。もし彼らが（あなたの裁決から）背き去るなら、知るがよい、アッラー*は彼らの罪の一部ゆえに、彼らを罰することをお望みなのだということを。本当に人々の多くは、まさしく放逸な者たちなのである。

وَأَنِ ٱحۡكُم بَيۡنَهُم بِمَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ وَلَا تَتَّبِعۡ
أَهۡوَآءَهُمۡ وَٱحۡذَرۡهُمۡ أَن يَفۡتِنُوكَ عَنۢ بَعۡضِ
مَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ إِلَيۡكَۖ فَإِن تَوَلَّوۡاْ فَٱعۡلَمۡ أَنَّمَا يُرِيدُ ٱللَّهُ
أَن يُصِيبَهُم بِبَعۡضِ ذُنُوبِهِمۡۗ وَإِنَّ كَثِيرٗا مِّنَ
ٱلنَّاسِ لَفَٰسِقُونَ ٤٩

50. 一体彼らは、ジャーヒリーヤ*の裁決を望むというのか？　そして（アッラー*の法の正しさを）確信する民にとって、アッラー*よりも裁決に優れたお方があろうか？

أَفَحُكۡمَ ٱلۡجَٰهِلِيَّةِ يَبۡغُونَۚ وَمَنۡ أَحۡسَنُ مِنَ
ٱللَّهِ حُكۡمٗا لِّقَوۡمٖ يُوقِنُونَ ٥٠

51. 信仰する者たちよ、ユダヤ教徒*とキリスト教徒*を盟友としてはならない[2]。彼らの盟友は、彼ら自身なのだから。そして誰であろうと、あなた方の内で彼らを盟友とす

۞يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ لَا تَتَّخِذُواْ ٱلۡيَهُودَ وَٱلنَّصَٰرَىٰٓ
أَوۡلِيَآءَۘ بَعۡضُهُمۡ أَوۡلِيَآءُ بَعۡضٖۚ وَمَن يَتَوَلَّهُم مِّنكُمۡ
فَإِنَّهُۥ مِنۡهُمۡۗ إِنَّ ٱللَّهَ لَا يَهۡدِي ٱلۡقَوۡمَ ٱلظَّٰلِمِينَ ٥١

---

1 各時代において、いかなる相違（そうい）もない同一の法ではなく、異なる法が定められたのは、人々が、法の変更がアッラー*の英知によるものであると信じ従うか、あるいは真理から脱線し、実践をおろそかにするかどうか、試練にかけるためだった（アル＝バイダーウィー2:332 参照）。

2 イムラーン家章 28 とその訳注も参照。

る者、その者はまさしく彼らの仲間である。本当にアッラー*は、不正*者である民をお導きにはならない。

52. またあなたは、その心に病を宿す者たち[1]が、「私たちは、自分たちに（状況の）暗転が訪れる[2]ことを怖れている」と言って、彼ら（の親愛）へと急ぐのを目にする。アッラー*はきっと勝利か、あるいはその御許から（新たな）局面をもたらされるだろう[3]。それで彼らは、自らの胸中に潜めていたことを後悔することになるのだ。

فَتَرَى ٱلَّذِينَ فِي قُلُوبِهِم مَّرَضٞ يُسَٰرِعُونَ فِيهِمۡ
يَقُولُونَ نَخۡشَىٰٓ أَن تُصِيبَنَا دَآئِرَةٞۚ فَعَسَى ٱللَّهُ أَن
يَأۡتِيَ بِٱلۡفَتۡحِ أَوۡ أَمۡرٖ مِّنۡ عِندِهِۦ فَيُصۡبِحُواْ عَلَىٰ
مَآ أَسَرُّواْ فِيٓ أَنفُسِهِمۡ نَٰدِمِينَ ٥٢

53. 信仰する者たちは（その時、偽信者*たちのことを知って、こう）言う。「一体これらの者たちは、本当に自分たちこそはあなた方の仲間であると、躍起になってアッラー*にかけて誓った者たちなのか？」彼らの行いは台無しとなり、損失者となってしまうのだ。

وَيَقُولُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ أَهَٰٓؤُلَآءِ ٱلَّذِينَ أَقۡسَمُواْ بِٱللَّهِ
جَهۡدَ أَيۡمَٰنِهِمۡ إِنَّهُمۡ لَمَعَكُمۡۚ حَبِطَتۡ أَعۡمَٰلُهُمۡ
فَأَصۡبَحُواْ خَٰسِرِينَ ٥٣

54. 信仰する者たちよ、あなた方の内で自分の宗教（イスラーム*）から（不信仰へと）戻ってしまう者があっても、アッラー*はかれが愛で給い、その者たちもまた、かれのことを愛するような別の民を、やがて出現させ給おう。（彼らは）信仰者たちに対しては控えめで、不信仰者*たちには厳格であり、アッラー*の道において努力奮闘し、

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ مَن يَرۡتَدَّ مِنكُمۡ عَن دِينِهِۦ
فَسَوۡفَ يَأۡتِي ٱللَّهُ بِقَوۡمٖ يُحِبُّهُمۡ وَيُحِبُّونَهُۥٓ أَذِلَّةٍ
عَلَى ٱلۡمُؤۡمِنِينَ أَعِزَّةٍ عَلَى ٱلۡكَٰفِرِينَ يُجَٰهِدُونَ
فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ وَلَا يَخَافُونَ لَوۡمَةَ لَآئِمٖۚ ذَٰلِكَ فَضۡلُ
ٱللَّهِ يُؤۡتِيهِ مَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٥٤

---

1 この「心に病を宿す者たち」とは、信仰に疑念を抱き、かつユダヤ教徒*らに親愛の念を示していた偽信者*たちのこと（ムヤッサル 117 頁参照）。

2 つまりユダヤ教徒*らがムスリム*たちに勝利することで、彼ら自身もその被害にあってしまうこと（前掲書、同頁参照）。

3 この「勝利」は、マッカ開城*と、ムスリム*たちの不信仰者*たちに対する勝利を、「新たな局面」とは、啓典の民*の弱体化を原因づける出来事のことを指す、とされる（前掲書、同頁参照）。

中傷する者の中傷など怖れない。それ[1]はアッラー*が、かれのお望みになる者に授けられる、かれのご恩寵である。アッラー*は広量な*お方、全知者であられる。

55. （信仰者たちよ、）あなた方の盟友とは、アッラー*とその使徒*であり、礼拝を遵守し*、（アッラー*に対して）恭順に浄財*を支払う、信仰する者たちに外ならない。

إِنَّمَا وَلِيُّكُمُ ٱللَّهُ وَرَسُولُهُۥ وَٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ ٱلَّذِينَ
يُقِيمُونَ ٱلصَّلَوٰةَ وَيُؤْتُونَ ٱلزَّكَوٰةَ وَهُمْ رَٰكِعُونَ ٥٥

56. そして誰であろうと、アッラー*とその使徒*と信仰する者たちを盟友とする者は（アッラー*の党派であり）、本当にアッラー*の党派こそは勝利者なのである。

وَمَن يَتَوَلَّ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ وَٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟
فَإِنَّ حِزْبَ ٱللَّهِ هُمُ ٱلْغَٰلِبُونَ ٥٦

57. 信仰する者たちよ、あなた方以前に啓典を授けられた者*たちと不信仰者*たちの内、あなた方の宗教を嘲笑と遊興の的とした者たちを、盟友とするのではない。そして、アッラー*を畏れ*よ。もし、あなた方が信仰者であるならば。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَا تَتَّخِذُوا۟ ٱلَّذِينَ ٱتَّخَذُوا۟
دِينَكُمْ هُزُوًا وَلَعِبًا مِّنَ ٱلَّذِينَ أُوتُوا۟ ٱلْكِتَٰبَ
مِن قَبْلِكُمْ وَٱلْكُفَّارَ أَوْلِيَآءَ ۚ وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ
إِن كُنتُم مُّؤْمِنِينَ ٥٧

58. また（信仰者たちよ）、あなた方が礼拝へと呼びかければ、彼らはそれを嘲笑と遊興の的とした。それというのも彼らは、分別しない民であるからなのだ。

وَإِذَا نَادَيْتُمْ إِلَى ٱلصَّلَوٰةِ ٱتَّخَذُوهَا هُزُوًا وَلَعِبًا ۚ
ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمْ قَوْمٌ لَّا يَعْقِلُونَ ٥٨

59. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「啓典の民*よ、あなた方は、私たちがアッラー*と、私たちに下されたもの、（それ）以前に下されたもの[2]を信じたというだけで、私たちを咎めるのか？　あなた方の大半は、放逸な者であるのに」。

قُلْ يَٰٓأَهْلَ ٱلْكِتَٰبِ هَلْ تَنقِمُونَ مِنَّآ إِلَّآ أَنْ
ءَامَنَّا بِٱللَّهِ وَمَآ أُنزِلَ إِلَيْنَا وَمَآ أُنزِلَ مِن قَبْلُ
وَأَنَّ أَكْثَرَكُمْ فَٰسِقُونَ ٥٩

1 「それ」とは、「信仰者たちに対しては控えめで、…中傷など怖れない」という美点のこと（アッ＝タバリー4:2933 参照）

2 つまり全ての啓典のこと（アル＝バイダーウィー2:341 参照）。

60. （預言者(よげんしゃ)*よ、）言ってやるがいい。「アッラー*の御許(みもと)において、それよりも悪い応報(おうほう)を（受ける者たちについて、）あなた方に教えようか？　（それは、彼らの罪(つみ)や嘘(うそ)や傲慢(ごうまん)さゆえに）アッラー*が呪い[1]給(たま)い、お怒りになり、その一部を猿や豚にお変えになり[2]、ターグート*を拝(はい)した者」。それらの者たちは（来世で）より悪い居場所にあり、（現世では）真(ま)っ当(とう)な道から、より迷い去った者たちなのだ。

قُلْ هَلْ أُنَبِّئُكُم بِشَرٍّ مِّن ذَٰلِكَ مَثُوبَةً عِندَ اللَّهِ ۚ مَن
لَّعَنَهُ اللَّهُ وَغَضِبَ عَلَيْهِ وَجَعَلَ مِنْهُمُ الْقِرَدَةَ
وَالْخَنَازِيرَ وَعَبَدَ الطَّاغُوتَ ۚ أُولَٰئِكَ شَرٌّ مَّكَانًا
وَأَضَلُّ عَن سَوَاءِ السَّبِيلِ ﴿٦٠﴾

61. また、彼ら（偽(にせ)信者*たち）はあなた方のもとにやって来れば、「私たちは信仰した」と言う。彼らは確かに、不信仰と共に（あなた方のもとに）入り、そして不信仰と共に（あなた方のもとを）出て行ったのだ。アッラー*は、彼らが隠していたことを最もよくご存知である。

وَإِذَا جَاءُوكُمْ قَالُوا آمَنَّا وَقَد دَّخَلُوا بِالْكُفْرِ وَهُمْ
قَدْ خَرَجُوا بِهِ ۚ وَاللَّهُ أَعْلَمُ بِمَا كَانُوا يَكْتُمُونَ ﴿٦١﴾

62. （使徒(しと)*よ、）あなたは彼らの多くが罪(つみ)と（法の）侵犯(しんぱん)、禁じられた物を貪(むさぼ)ることに急ぐのを目にする。彼らの行っていることは、何と実に醜悪(しゅうあく)なことか。

وَتَرَىٰ كَثِيرًا مِّنْهُمْ يُسَارِعُونَ فِي الْإِثْمِ وَالْعُدْوَانِ
وَأَكْلِهِمُ السُّحْتَ ۚ لَبِئْسَ مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٦٢﴾

63. 学識(がくしき)豊かな指導者[3]たちや学者らはなぜ、罪(つみ)深い言葉と禁じられた物を貪(むさぼ)ることを彼らに止めさせないのか。彼らの成していたことの、何と実に醜悪(しゅうあく)なことか。

لَوْلَا يَنْهَاهُمُ الرَّبَّانِيُّونَ وَالْأَحْبَارُ عَن
قَوْلِهِمُ الْإِثْمَ وَأَكْلِهِمُ السُّحْتَ ۚ لَبِئْسَ
مَا كَانُوا يَصْنَعُونَ ﴿٦٣﴾

64. ユダヤ教徒*は言った。「アッラー*の御手(みて)は、縛(しば)られている[4]」。――縛(しば)られたのは彼

وَقَالَتِ الْيَهُودُ يَدُ اللَّهِ مَغْلُولَةٌ ۚ غُلَّتْ أَيْدِيهِمْ
وَلُعِنُوا بِمَا قَالُوا ۘ بَلْ يَدَاهُ مَبْسُوطَتَانِ يُنفِقُ

---

1 「アッラー*の呪い」については、雌牛章 88 の訳注を参照。

2 雌牛章 65、高壁章 166 も参照。

3 「学識豊かな指導者」については、イムラーン家章 79 の訳注を参照。

4 彼らは日照(ひで)りや旱魃(かんばつ)の時に、アッラー*が自分たちに対して出し惜(お)しみしている、などと言ったのだという（ムヤッサル 118 頁参照）。

らの手であり、彼らは彼らの言ったことゆえに呪われたのだ――。いや、かれ（アッラー*）の御手は大きく広げられており、かれはお望みのままにお恵みになる。あなたの主*の御許からあなたに下されたものは必ずや、彼らの多くに、放埓さと不信仰を上乗せする[1]。そして、われら*は復活の日*まで、彼らの間に（互いへの）敵意と憎悪の念を投じたのだ。彼らが（ムスリム*に対する策略の）戦争に火を点けようとするたび、アッラー*はそれをお消しになる。そして彼らは（依然）、地上で腐敗*を働いているのだ。アッラー*は、腐敗*を働く者たちをお好みにはならない。

كَيۡفَ يَشَآءُۚ وَلَيَزِيدَنَّ كَثِيرٗا مِّنۡهُم مَّآ أُنزِلَ
إِلَيۡكَ مِن رَّبِّكَ طُغۡيَٰنٗا وَكُفۡرٗاۚ وَأَلۡقَيۡنَا بَيۡنَهُمُ
ٱلۡعَدَٰوَةَ وَٱلۡبَغۡضَآءَ إِلَىٰ يَوۡمِ ٱلۡقِيَٰمَةِۚ كُلَّمَآ
أَوۡقَدُواْ نَارٗا لِّلۡحَرۡبِ أَطۡفَأَهَا ٱللَّهُۚ وَيَسۡعَوۡنَ
فِي ٱلۡأَرۡضِ فَسَادٗاۚ وَٱللَّهُ لَا يُحِبُّ ٱلۡمُفۡسِدِينَ ٦٤

65. もし啓典の民*が信仰し、（アッラー*を）畏れ*たなら、われら*は彼らのためにその悪行を覆い隠してやり、彼らを（来世において）安寧の楽園に入れてやるのだが。

وَلَوۡ أَنَّ أَهۡلَ ٱلۡكِتَٰبِ ءَامَنُواْ وَٱتَّقَوۡاْ
لَكَفَّرۡنَا عَنۡهُمۡ سَيِّـَٔاتِهِمۡ
وَلَأَدۡخَلۡنَٰهُمۡ جَنَّٰتِ ٱلنَّعِيمِ ٦٥

66. また、もし彼らがトーラー*、福音*、彼らの主*から彼らのもとに下されたもの（クルアーン*）を実践したならば、その頭上からも足元からも、食べ（るための糧を授かっ）たであろう[2]。彼らの中には中庸な集団[3]もある。そして彼らの多くの者たちの行いは、何と忌まわしいことか。

وَلَوۡ أَنَّهُمۡ أَقَامُواْ ٱلتَّوۡرَىٰةَ وَٱلۡإِنجِيلَ وَمَآ أُنزِلَ
إِلَيۡهِم مِّن رَّبِّهِمۡ لَأَكَلُواْ مِن فَوۡقِهِمۡ
وَمِن تَحۡتِ أَرۡجُلِهِمۚ مِّنۡهُمۡ أُمَّةٞ مُّقۡتَصِدَةٞۖ
وَكَثِيرٞ مِّنۡهُمۡ سَآءَ مَا يَعۡمَلُونَ ٦٦

---

1 彼らはクルアーン*を聞くことによって、放埓さと不信仰を増す。それは、あたかも健常者には有益な栄養を摂（と）ることで、病人の病状が更に悪化する状態のようである（アル＝バイダーウィー2:346 参照）。夜の旅章 82、詳細にされた章 44 も参照（イブン・カスィール 3:147 参照）。そしてその原因は、啓示に背き、反対し、頑（かたく）なに拒（こば）み、間際（まぎわ）らしい嘘を用いて対抗したためなのである（アッ＝サアディー237 頁参照）。

2 アッラー*がお降らしになった雨の恵みと、それによって大地に生育する作物の恵みを授かる、という意味（アッ＝タバリー4:2952、ムヤッサル 119 頁参照）。

3 「中庸な集団」とは、過激でもいい加減でもない、正しい集団のこと。ここでは啓典の民*の内、イスラーム*を信じた者たちのこと（アル＝バガウィー2:68 参照）。

67. （使徒*よ、）あなたの主*からあなたに下されたものを伝えよ。もしそうしなければ、あなたはかれのお言伝を伝えなかったことになる[1]。そしてアッラー*が、あなたを人々から守って下さるのだ。本当にアッラー*は、不信仰者*である民をお導きにはならない[2]。

۞يَٰٓأَيُّهَا ٱلرَّسُولُ بَلِّغۡ مَآ أُنزِلَ إِلَيۡكَ مِن
رَّبِّكَۖ وَإِن لَّمۡ تَفۡعَلۡ فَمَا بَلَّغۡتَ
رِسَالَتَهُۥۚ وَٱللَّهُ يَعۡصِمُكَ مِنَ ٱلنَّاسِۗ
إِنَّ ٱللَّهَ لَا يَهۡدِي ٱلۡقَوۡمَ ٱلۡكَٰفِرِينَ ٦٧

68. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「啓典の民*よ、トーラー*、福音*、そしてあなた方の主*からあなた方のもとに下されたもの（クルアーン*）を実践するまで、あなた方は（宗教とは）無関係なのだぞ」。そして、あなたの主*の御許からあなたに下されたものは必ずや、彼らの多くに、放埒さと不信仰を上乗せする[3]。ならば（使徒*よ、）不信仰者*である民ゆえに、悲しむのではない。

قُلۡ يَٰٓأَهۡلَ ٱلۡكِتَٰبِ لَسۡتُمۡ عَلَىٰ شَيۡءٍ حَتَّىٰ
تُقِيمُواْ ٱلتَّوۡرَىٰةَ وَٱلۡإِنجِيلَ وَمَآ أُنزِلَ إِلَيۡكُم
مِّن رَّبِّكُمۡۗ وَلَيَزِيدَنَّ كَثِيرٗا مِّنۡهُم
مَّآ أُنزِلَ إِلَيۡكَ مِن رَّبِّكَ طُغۡيَٰنٗا وَكُفۡرٗاۖ
فَلَا تَأۡسَ عَلَى ٱلۡقَوۡمِ ٱلۡكَٰفِرِينَ ٦٨

69. 本当に、信仰する者たち、ユダヤ教徒*である者たち、サービア教徒*たち、キリスト教徒*たちで、アッラー*と最後の日*を信じて正しい行い*を行う者、彼らには、怖れもなければ、悲しむこともない[4]。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَٱلَّذِينَ هَادُواْ وَٱلصَّٰبِـُٔونَ
وَٱلنَّصَٰرَىٰ مَنۡ ءَامَنَ بِٱللَّهِ وَٱلۡيَوۡمِ ٱلۡأٓخِرِ وَعَمِلَ
صَٰلِحٗا فَلَا خَوۡفٌ عَلَيۡهِمۡ وَلَا هُمۡ يَحۡزَنُونَ ٦٩

70. われら*は、イスラーイールの子ら*の確約[5]を確かに取り、彼らに数々の使徒*を遣わした。彼ら自身の気に入らないものを携えた使徒*が、彼らのもとに到来する度、

لَقَدۡ أَخَذۡنَا مِيثَٰقَ بَنِيٓ إِسۡرَٰٓءِيلَ وَأَرۡسَلۡنَآ إِلَيۡهِمۡ
رُسُلٗاۖ كُلَّمَا جَآءَهُمۡ رَسُولُۢ بِمَا لَا تَهۡوَىٰٓ
أَنفُسُهُمۡ فَرِيقٗا كَذَّبُواْ وَفَرِيقٗا يَقۡتُلُونَ ٧٠

---

1 実際に預言者*ムハンマド*は、アッラー*の教えを余すことなく伝えた。ゆえに、彼が少しでも啓示を隠蔽（いんぺい）したと考える者は、アッラー*とその使徒*に対して大それた嘘を言ったことになる（ムヤッサル 119 頁参照）。

2 つまりアッラー*は彼らに、あなたを害するようなことは許されない、ということ（アッ＝シャウカーニー2:85 参照）。

3 アーヤ*64 の、同様のくだりの訳注も参照。

4 「怖れもなければ、悲しむこともない」については、雌牛章 38 の訳注を参照。

5 この「確約」に関しては、雌牛章 27 の「契約」に関する訳注を参照。

彼らは（使徒*たちの）ある一派を嘘つきとしたのであり、また別の一派は殺害するのだった。

71. また、彼らは試練[1]などないだろうと思い込み、（導きに対して）盲目になり、聾になった[2]。その後アッラー*は彼らの悔悟をお受け入れになったが、それから彼らの多くは（再び、導きに対して）盲目になり、聾になったのだ。アッラー*は、彼らの行うことをご覧になるお方。

وَحَسِبُوٓاْ أَلَّا تَكُونَ فِتۡنَةٞ فَعَمُواْ وَصَمُّواْ ثُمَّ
تَابَ ٱللَّهُ عَلَيۡهِمۡ ثُمَّ عَمُواْ وَصَمُّواْ كَثِيرٞ
مِّنۡهُمۡۚ وَٱللَّهُ بَصِيرُۢ بِمَا يَعۡمَلُونَ ٧١

72. 「本当にアッラー*、かれは、マルヤム*の子マスィーフ*のことである」と言った者は、確かに不信仰に陥ったのだ。マスィーフ*は、（こう）言ったというのに。「イスラーイールの子ら*よ、我が主*であり、あなた方の主*であるアッラーを崇拝*せよ。本当に、アッラー*に対してシルク*を犯す者は誰であろうと、アッラー*が彼に天国を禁じられるのだ。そして、その住処は（地獄の）業火である。不正*者たちには、いかなる援助者もない」。

لَقَدۡ كَفَرَ ٱلَّذِينَ قَالُوٓاْ إِنَّ ٱللَّهَ هُوَ ٱلۡمَسِيحُ ٱبۡنُ
مَرۡيَمَۖ وَقَالَ ٱلۡمَسِيحُ يَٰبَنِيٓ إِسۡرَٰٓءِيلَ ٱعۡبُدُواْ
ٱللَّهَ رَبِّي وَرَبَّكُمۡۖ إِنَّهُۥ مَن يُشۡرِكۡ بِٱللَّهِ
فَقَدۡ حَرَّمَ ٱللَّهُ عَلَيۡهِ ٱلۡجَنَّةَ وَمَأۡوَىٰهُ
ٱلنَّارُۖ وَمَا لِلظَّٰلِمِينَ مِنۡ أَنصَارٖ ٧٢

73. 「本当にアッラー*は、三位の内の一つである[3]」と言った者は、確かに不信仰に陥ったのだ。そして、ただ一つの崇拝*すべき存在（アッラー*）の外には、いかなる神[4]もない。もし彼らが（そのように）言うのを

لَّقَدۡ كَفَرَ ٱلَّذِينَ قَالُوٓاْ إِنَّ ٱللَّهَ ثَالِثُ
ثَلَٰثَةٖۘ وَمَا مِنۡ إِلَٰهٍ إِلَّآ إِلَٰهٞ وَٰحِدٞۚ وَإِن لَّمۡ
يَنتَهُواْ عَمَّا يَقُولُونَ لَيَمَسَّنَّ ٱلَّذِينَ
كَفَرُواْ مِنۡهُمۡ عَذَابٌ أَلِيمٌ ٧٣

---

1 この「試練」とは、自分たちの罪深さゆえに、罰されること（ムヤッサル 120 頁参照）。

2 「盲目」「聾」については、雌牛章 7、18、家畜章 50、フード*章 20、24 の訳注を参照。

3 キリスト教*の、三位一体論のこと。その具体的意味には、「父なる神性・息子なる神性・父から子へとほとばしった御言葉の神性という、三つの神性論」のことであるとか、アッラー*と共に、イーサー*とマルヤム*を神としたことである、という説がある（イブン・カスィール 3:158 参照）。

4 「神」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

止めないならば、痛ましい懲罰は必ずや、彼らの内の不信仰に陥った者*たちに降りかかるであろう。

74. 一体、彼ら（キリスト教徒*）はアッラー*に悔悟し、かれにお赦しを乞わないのか？　アッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方であるというのに。

أَفَلَا يَتُوبُونَ إِلَى ٱللَّهِ وَيَسْتَغْفِرُونَهُۥ ۚ وَٱللَّهُ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ٧٤

75. マルヤム*の子マスィーフ*は、彼以前にも数々の使徒*が滅び去って行った、一人の使徒*に過ぎない。また彼の母親はよき信仰者[1]であり、二人とも食事を口にしていたのだ[2]。見よ、われら*が彼らに対して、いかに御徴[3]を明示するかを。それから見よ、彼らがいかに（真理から）背かされているかを。

مَّا ٱلْمَسِيحُ ٱبْنُ مَرْيَمَ إِلَّا رَسُولٌ قَدْ خَلَتْ مِن قَبْلِهِ ٱلرُّسُلُ وَأُمُّهُۥ صِدِّيقَةٌ ۖ كَانَا يَأْكُلَانِ ٱلطَّعَامَ ۗ ٱنظُرْ كَيْفَ نُبَيِّنُ لَهُمُ ٱلْـَٔايَٰتِ ثُمَّ ٱنظُرْ أَنَّىٰ يُؤْفَكُونَ ٧٥

76. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「一体あなた方は、アッラー*をよそに、あなた方に対して害も益も有さないものを崇拝*するというのか？　アッラー*こそはよくお聞きになるお方、全知者であるというのに」。

قُلْ أَتَعْبُدُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ مَا لَا يَمْلِكُ لَكُمْ ضَرًّا وَلَا نَفْعًا ۚ وَٱللَّهُ هُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلْعَلِيمُ ٧٦

77. （使徒*よ、）言ってやれ。「啓典の民*（キリスト教徒*）よ、あなた方の宗教において不当にも度を越してはならない。また過去に迷い去り、多く（の人々）を迷わせ、真っ当な道から迷い去った民[4]の私欲に従ってはならない」。

قُلْ يَٰٓأَهْلَ ٱلْكِتَٰبِ لَا تَغْلُوا۟ فِى دِينِكُمْ غَيْرَ ٱلْحَقِّ وَلَا تَتَّبِعُوٓا۟ أَهْوَآءَ قَوْمٍ قَدْ ضَلُّوا۟ مِن قَبْلُ وَأَضَلُّوا۟ كَثِيرًا وَضَلُّوا۟ عَن سَوَآءِ ٱلسَّبِيلِ ٧٧

---

1 あるいは、「大そうな正直者」（アル＝バガウィー2:72 参照）。

2 つまり彼ら二人は、他の人々同様、食べ物を必要とする人間であった。そして生きるために食べなければならない存在は、神などではない（ムヤッサル 120 頁参照）。

3 この「御徴」は、アッラーの唯一性*を証明し、彼らが預言者*たちについて主張している間違いを示す証拠のこと（前掲書、同頁参照）。

4 この「民」とは、ユダヤ教徒*のこと（ムヤッサル 120 頁参照）。

78. イスラーイールの子ら*の内の不信仰だった者*たちは、ダーウード*とマルヤム*の子イーサー*の舌によって呪われた[1]のである。それは彼らが反抗し、（アッラー*が禁じられた物事を）侵犯していたからなのだ。

لُعِنَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ مِنۢ بَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ
عَلَىٰ لِسَانِ دَاوُۥدَ وَعِيسَى ٱبْنِ مَرْيَمَ ۚ ذَٰلِكَ
بِمَا عَصَوا۟ وَّكَانُوا۟ يَعْتَدُونَ ٧٨

79. 彼らは、自分たちがしていた悪事[2]を互いに禁じ合わなかった。彼らがしていたことの、何と実に醜悪なことか。

كَانُوا۟ لَا يَتَنَاهَوْنَ عَن مُّنكَرٍ فَعَلُوهُ ۚ
لَبِئْسَ مَا كَانُوا۟ يَفْعَلُونَ ٧٩

80. （使徒*よ、）あなたは彼ら（ユダヤ教徒*）の多くが、不信仰に陥った者*たちを盟友とするのを目にする。彼らが自らのために成したことの、何と実に醜悪なことか。アッラー*は(それゆえに)彼らに激怒し給い、彼らは懲罰の中に永遠に留まるのだ。

تَرَىٰ كَثِيرًا مِّنْهُمْ يَتَوَلَّوْنَ ٱلَّذِينَ
كَفَرُوا۟ ۚ لَبِئْسَ مَا قَدَّمَتْ لَهُمْ
أَنفُسُهُمْ أَن سَخِطَ ٱللَّهُ عَلَيْهِمْ وَفِى
ٱلْعَذَابِ هُمْ خَٰلِدُونَ ٨٠

81. そして、もし彼らがアッラー*と預言者*と、彼に下されたものを信じていたら、彼ら（不信仰者*）のことを盟友とはしなかったであろう。しかし彼らの多くは、放逸な者たちなのである。

وَلَوْ كَانُوا۟ يُؤْمِنُونَ بِٱللَّهِ وَٱلنَّبِىِّ وَمَآ
أُنزِلَ إِلَيْهِ مَا ٱتَّخَذُوهُمْ أَوْلِيَآءَ
وَلَٰكِنَّ كَثِيرًا مِّنْهُمْ فَٰسِقُونَ ٨١

82. （使徒*よ、）あなたは、信仰する者たちに対して最も敵意の激しい人々が、ユダヤ教徒*とシルク*を犯す者たちであることを、必ずや見出すのだ。また、信仰する者たちに対し、彼ら（人々）の内で最も親愛の念を示す者たちが、「本当に私たちは、キリスト教徒*です」と言う者たちであること

۞ لَتَجِدَنَّ أَشَدَّ ٱلنَّاسِ عَدَٰوَةً لِّلَّذِينَ
ءَامَنُوا۟ ٱلْيَهُودَ وَٱلَّذِينَ أَشْرَكُوا۟ ۖ
وَلَتَجِدَنَّ أَقْرَبَهُم مَّوَدَّةً لِّلَّذِينَ ءَامَنُوا۟
ٱلَّذِينَ قَالُوٓا۟ إِنَّا نَصَٰرَىٰ ۚ ذَٰلِكَ بِأَنَّ
مِنْهُمْ قِسِّيسِينَ وَرُهْبَانًا وَأَنَّهُمْ
لَا يَسْتَكْبِرُونَ ٨٢

---

1 つまりアッラー*は、ダーウード*とイーサー*に下された啓典の中で、イスラーイールの子ら*の不信仰者*が、アッラー*のご慈悲から遠ざけられてしまったと、仰せになった（ムヤッサル 121 頁参照)。

2 「悪事」については、イムラーン章 104 の訳注を参照。

を、必ずや見出す。それは彼らの中には学僧や修道僧がおり、彼らが高慢ではないためである。[1]

83. また、彼らが使徒*に下されたもの（クルアーン*）を聞く時、あなたは彼らの眼が、彼らが知った真理ゆえに涙で溢れるのを目にする。彼らは言う。「我らが主*よ、私たちは信仰しました。ゆえに私たちを、証人たちと共に書き留めて下さい[2]。

وَإِذَا سَمِعُوا۟ مَآ أُنزِلَ إِلَى ٱلرَّسُولِ
تَرَىٰٓ أَعْيُنَهُمْ تَفِيضُ مِنَ ٱلدَّمْعِ مِمَّا
عَرَفُوا۟ مِنَ ٱلْحَقِّ ۖ يَقُولُونَ رَبَّنَآ ءَامَنَّا
فَٱكْتُبْنَا مَعَ ٱلشَّٰهِدِينَ ٨٣

84. また私たちが、アッラー*と、自分たちのもとに到来した真理を信仰しないとは、どういうことでしょうか？　私たちは私たちの主が、自分たちを正しい者*たちと共に（天国に）入れて下さることを望んでいますのに」。

وَمَا لَنَا لَا نُؤْمِنُ بِٱللَّهِ وَمَا جَآءَنَا مِنَ ٱلْحَقِّ وَنَطْمَعُ
أَن يُدْخِلَنَا رَبُّنَا مَعَ ٱلْقَوْمِ ٱلصَّٰلِحِينَ ٨٤

85. そしてアッラー*は、彼らが言った（その）ことゆえに、彼らをその下から河川が流れる楽園でお報いになった。彼らはそこに永遠に留まる。そしてそれは、善を尽くす[3]者たちの褒美なのである。

فَأَثَٰبَهُمُ ٱللَّهُ بِمَا قَالُوا۟ جَنَّٰتٍ تَجْرِى مِن
تَحْتِهَا ٱلْأَنْهَٰرُ خَٰلِدِينَ فِيهَا ۚ وَذَٰلِكَ
جَزَآءُ ٱلْمُحْسِنِينَ ٨٥

86. また、不信仰に陥り、われら*の御徴（アーヤ*）を嘘とする者たち、それらの者たちは火獄の住人である。

وَٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ وَكَذَّبُوا۟ بِـَٔايَٰتِنَآ أُو۟لَٰٓئِكَ
أَصْحَٰبُ ٱلْجَحِيمِ ٨٦

87. 信仰する者たちよ、アッラー*があなた方にお許しになった善きものを、禁じるのではない。また、（禁じられた物事を）侵犯し

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَا تُحَرِّمُوا۟ طَيِّبَٰتِ
مَآ أَحَلَّ ٱللَّهُ لَكُمْ وَلَا تَعْتَدُوٓا۟

---

1 一説に、このアーヤ*は、イスラーム*を受容した当時のキリスト教国エチオピア王アン＝ナジャーシーらに関して下った（アン＝ナサーイー11148 参照）。

2 「証人たち」とは、預言者*ムハンマド*の共同体のこと（ムヤッサル 121 頁参照）。詳しくは、雌牛章 143 の訳注を参照。

3 それがどこであろうと、そして誰のもとにあろうと、真理に従うことにおいて「善を尽くす」こと（イブン・カスィール 3:169 参照）。蜜蜂章 128 の訳注も参照。

てもならない[1]。本当にアッラー*は、侵犯する者たちをお好きではないのだから。

إِنَّ ٱللَّهَ لَا يُحِبُّ ٱلْمُعْتَدِينَ ٨٧

88. また（信仰者たちよ）、アッラー*があなた方に授けられた、合法な善きものから食べよ。そして、あなた方が信じているアッラー*をこそ、畏れる*のだ。

وَكُلُوا۟ مِمَّا رَزَقَكُمُ ٱللَّهُ حَلَٰلًا طَيِّبًا ۚ
وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ ٱلَّذِىٓ أَنتُم بِهِۦ مُؤْمِنُونَ ٨٨

89. アッラー*はあなた方を、あなた方の宣誓における軽はずみさ[2]ゆえに、罰せられたりはしない。しかしかれは、あなた方が宣誓を確定し（た後、それを遂行しなかっ）たことに対して、罰せられる。ならば、その罪滅ぼしは、あなた方の土地の人々に食べさせる平均的なもので、十人の貧者*に食物[3]を施すことか、または彼らに対する衣服の提供、あるいは首[4]一つの解放（の内、いずれか一つ）である。（それらのいずれも）見出せない者[5]は誰でも、三日間の斎戒*（が義務づけられる）。それが、あなた方が誓った際の、あなた方の宣誓（の不履行）に対する罪滅ぼしである。そして（ムスリム*たちよ）、宣誓を守る[6]のだ。そのように

لَا يُؤَاخِذُكُمُ ٱللَّهُ بِٱللَّغْوِ فِىٓ أَيْمَٰنِكُمْ
وَلَٰكِن يُؤَاخِذُكُم بِمَا عَقَّدتُّمُ ٱلْأَيْمَٰنَ ۖ
فَكَفَّٰرَتُهُۥٓ إِطْعَامُ عَشَرَةِ مَسَٰكِينَ مِنْ
أَوْسَطِ مَا تُطْعِمُونَ أَهْلِيكُمْ أَوْ كِسْوَتُهُمْ
أَوْ تَحْرِيرُ رَقَبَةٍ ۖ فَمَن لَّمْ يَجِدْ فَصِيَامُ
ثَلَٰثَةِ أَيَّامٍ ۚ ذَٰلِكَ كَفَّٰرَةُ أَيْمَٰنِكُمْ إِذَا
حَلَفْتُمْ ۚ وَٱحْفَظُوٓا۟ أَيْمَٰنَكُمْ ۚ كَذَٰلِكَ يُبَيِّنُ
ٱللَّهُ لَكُمْ ءَايَٰتِهِۦ لَعَلَّكُمْ تَشْكُرُونَ ٨٩

---

1 同様の意味として、アーヤ*103、家畜章 136 以降、高壁章 31 も参照。このアーヤ*は一説に、禁欲を意図して去勢（きょせい）や放浪をしたり、肉食・結婚・睡眠などを避（さ）けたりしようとした教友*たちに関して下ったと言われる（イブン・カスィール 3:169 参照）。

2 「宣誓における軽はずみさ」については、雌牛章 225 の訳注を参照。

3 その分量は、ハナフィー法学派*以外の四大法学派*では一人につき一ムッド*、ハナフィー法学派では半サーア*、物によっては一サーア*、あるいはその相当価格という説もあり（クウェイト法学大全 35:101-102 参照）。

4 この「首」については、婦人章 92 の訳注を参照。

5 それら三つの選択の内、いずれも物質的に不可能である場合、ということ（イブン・カスィール 3:176 参照）。

6 軽はずみな宣誓を避（さ）け、もし何かを誓った場合には、それがイスラーム*法に反しない限りにおいて実行すること。また、宣誓を破る際には、その代償を払うこと（ムヤッサル 122 頁参照）。

アッラー*は、あなた方が感謝するようにと、あなた方に（法規定に関する）御徴を明示される。

90. 信仰する者たちよ、酒*、賭け事、（アッラー*を差しおいて崇めるために）立てられたもの、賭矢を引くこと[1]は、シャイターン*の行いであり、穢れに外ならない。ゆえにあなた方が成功するように、それ（ら）を避けるのだ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ إِنَّمَا ٱلْخَمْرُ وَٱلْمَيْسِرُ
وَٱلْأَنصَابُ وَٱلْأَزْلَٰمُ رِجْسٌ مِّنْ عَمَلِ
ٱلشَّيْطَٰنِ فَٱجْتَنِبُوهُ لَعَلَّكُمْ تُفْلِحُونَ ٩٠

91. まさにシャイターン*は酒*と賭け事で、あなた方の間に敵意や憎悪をもたらし、あなた方をアッラー*の唱念や礼拝から妨害したいのである。では一体、あなた方は（それらを）止めるのか？[2]

إِنَّمَا يُرِيدُ ٱلشَّيْطَٰنُ أَن يُوقِعَ بَيْنَكُمُ
ٱلْعَدَٰوَةَ وَٱلْبَغْضَآءَ فِى ٱلْخَمْرِ وَٱلْمَيْسِرِ
وَيَصُدَّكُمْ عَن ذِكْرِ ٱللَّهِ وَعَنِ
ٱلصَّلَوٰةِ فَهَلْ أَنتُم مُّنتَهُونَ ٩١

92. また、アッラー*に従い、使徒*（ムハンマド*）に従え。そして、用心するのだ。もしあなた方が背を向けても、われら*の使徒*の義務は、（真理を）解明する（啓示の）伝達のみであるということを知っておくがよい。

وَأَطِيعُوا۟ ٱللَّهَ وَأَطِيعُوا۟ ٱلرَّسُولَ وَٱحْذَرُوا۟
فَإِن تَوَلَّيْتُمْ فَٱعْلَمُوٓا۟ أَنَّمَا عَلَىٰ رَسُولِنَا
ٱلْبَلَٰغُ ٱلْمُبِينُ ٩٢

93. 信仰して正しい行い*を行った者たちには、彼らが食べたものに関して罪はない[3]。彼らが（アッラー*を）畏れ*、信仰して正しい行い*を行い、更に畏れ*て信仰し、それからま

لَيْسَ عَلَى ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
جُنَاحٌ فِيمَا طَعِمُوٓا۟ إِذَا مَا ٱتَّقَوا۟ وَّءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟
ٱلصَّٰلِحَٰتِ ثُمَّ ٱتَّقَوا۟ وَّءَامَنُوا۟ ثُمَّ ٱتَّقَوا۟
وَّأَحْسَنُوا۟ وَٱللَّهُ يُحِبُّ ٱلْمُحْسِنِينَ ٩٣

---

1 「立てられたもの」と「賭け矢を引くこと」については、アーヤ*3の訳注を参照。

2 「あなた方は…止めるのか？」は、表面上は疑問形だが、意図されているのは命令（アル＝バガウィー2:81 参照）。クルアーン*において、酒*と賭け事が禁止されていった経過に関しては、雌牛章219の訳注を参照。

3 このアーヤ*は、まだ酒*が禁じられてはいなかった頃に飲酒したことがあり、かつ酒*が完全に禁じられる前に他界したムスリム*に関して下ったとされる（アル＝ブハーリー2464参照）。

た畏れ*て善を尽くした[1]のならば。アッラー*は、善を尽くす者[2]たちをお好みになる。

94. 信仰する者たちよ、アッラー*は必ずや、あなた方の手と槍で捕獲する狩猟物の何か[3]によって、あなた方を試される。それはアッラー*が、まだ見ぬままにかれを怖れる[4]者を、如実に表すためなのである。そして誰であろうと、その後に（法を）侵犯する者、彼には痛ましい懲罰がある。

يَـٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَيَبْلُوَنَّكُمُ ٱللَّهُ بِشَىْءٍ
مِّنَ ٱلصَّيْدِ تَنَالُهُۥٓ أَيْدِيكُمْ وَرِمَاحُكُمْ
لِيَعْلَمَ ٱللَّهُ مَن يَخَافُهُۥ بِٱلْغَيْبِ ۚ فَمَنِ ٱعْتَدَىٰ
بَعْدَ ذَٰلِكَ فَلَهُۥ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿٩٤﴾

95. 信仰する者たちよ、あなた方がイフラーム*（あるいは聖域）にある時には、狩猟物[5]を殺してはならない。そしてあなた方の内、誰であろうと（それらを）故意に殺してしまった者、（その者には）報い——カアバ神殿*[6]に届く供物として、あなた方の内の公正な男性二人が判定した、彼が殺したのと同様の家畜[7]——か、罪滅ぼし——

يَـٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَا تَقْتُلُوا۟ ٱلصَّيْدَ وَأَنتُمْ
حُرُمٌ ۚ وَمَن قَتَلَهُۥ مِنكُم مُّتَعَمِّدًا فَجَزَآءٌ
مِّثْلُ مَا قَتَلَ مِنَ ٱلنَّعَمِ يَحْكُمُ بِهِۦ ذَوَا عَدْلٍ
مِّنكُمْ هَدْيًۢا بَـٰلِغَ ٱلْكَعْبَةِ أَوْ كَفَّـٰرَةٌ طَعَامُ
مَسَـٰكِينَ أَوْ عَدْلُ ذَٰلِكَ صِيَامًا لِّيَذُوقَ
وَبَالَ أَمْرِهِۦ ۗ عَفَا ٱللَّهُ عَمَّا سَلَفَ ۚ وَمَنْ عَادَ
فَيَنتَقِمُ ٱللَّهُ مِنْهُ ۗ وَٱللَّهُ عَزِيزٌ ذُو ٱنتِقَامٍ ﴿٩٥﴾

---

1 つまり罪深い行いを避（さ）け、アッラー*を正しく信じ、その信仰が義務づける正しい行い*に励（はげ）み、創造主の崇拝*と被造物への益において善を尽くし、更にはその状態を死ぬ時まで継続すること。また、過去に禁じられたことを犯していても、その罪を認めて悔悟し、アッラー*を畏れ*、信じ、正しい行い*に努めれば、罪のお赦しを頂けるのである（アッ＝サアディー243 頁参照）。

2 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注も参照。

3 「狩猟物の何か」とは陸上生物を、手で捕まえられるものは小さいもので、槍で捕まえられるものは、大きいものを指す、とされる（ムヤッサル 123 頁参照）。また、この「手」には、他の身体器官や、紐（ひも）、罠（わな）、網（あみ）などによるものも、そして「槍」には、弓矢なども含まれる。尚、陸上生物の狩猟が禁じられるのは、イフラーム*に入っている時と、聖域にいる時である（アル＝クルトゥビー6:299-300 参照）。

4 「まだ見ぬままに…」については、預言者*たち章 49 の訳注を参照。

5 この「狩猟物」については、アーヤ*94 とその訳注、アーヤ 96 も参照。

6 ここではマッカ*の全聖域の意（ムヤッサル 123 頁参照）。

7 公正な男性二人が判定する「同様の家畜」とは、例えば、ダチョウにはラクダ、野ロバ・野牛には牛、鹿には羊、といったように、体の作りや姿が似ているもの（アル＝クルトゥビー6:310 参照）。

貧者*たちに食を施すか、あるいは斎戒*でその代わりとすること[1]――が（義務として）ある。（それらは、）自分の（した）ことの悪を味わうため。アッラー*は、（禁じられる前に）やってしまったことを、大目に見給う。そして誰であろうと、（禁じられた後、意図的にそれを）繰り返す者、アッラーは彼に報復し給う。アッラーは偉力ならびなき*お方、報復の主*なのだ。

96. （ムスリム*たちよ、）あなた方には、あなた方（定住者）と旅行中の者への利として、海での狩猟物とその食物[2]が許された。また、陸上の狩猟物は、あなた方がイフラーム*の状態にある限り、あなた方には禁じられた。あなた方が（復活の日*に）その御許へと召集される、アッラー*を畏れる*のだ。

أُحِلَّ لَكُمْ صَيْدُ ٱلْبَحْرِ وَطَعَامُهُۥ مَتَٰعًا لَّكُمْ
وَلِلسَّيَّارَةِ ۖ وَحُرِّمَ عَلَيْكُمْ صَيْدُ ٱلْبَرِّ مَا دُمْتُمْ
حُرُمًا ۗ وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ ٱلَّذِىٓ إِلَيْهِ تُحْشَرُونَ ٩٦

97. アッラー*は、聖殿であるカァバ*、神聖月*、供物、首飾り[3]を、人々への拠り所とされた[4]。それはあなた方が、アッラー*が諸天にあるものと大地にあるもの（全て）をご存知にな

۞ جَعَلَ ٱللَّهُ ٱلْكَعْبَةَ ٱلْبَيْتَ ٱلْحَرَامَ
قِيَٰمًا لِّلنَّاسِ وَٱلشَّهْرَ ٱلْحَرَامَ وَٱلْهَدْىَ وَٱلْقَلَٰٓئِدَ ۚ
ذَٰلِكَ لِتَعْلَمُوٓا۟ أَنَّ ٱللَّهَ يَعْلَمُ مَا فِى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِى
ٱلْأَرْضِ وَأَنَّ ٱللَّهَ بِكُلِّ شَىْءٍ عَلِيمٌ ٩٧

---

1 家畜の肉は聖域で屠（ほふ）られた後、そこで貧しい人々に施される。またその代わりに、見積もった家畜の価格に相当する食べ物を、彼らに施すことも出来るし、あるいは一人分の食べ物を一日分と見積もり、斎戒で償（つぐな）うことも可能（ムヤッサル 123 頁参照）。法学派ごとの詳細は、クウェイト法学大全 2:186-188 を参照。

2 この「海」は、湖、河川など、あらゆる水域を指すとされる（アッ＝タバリー4:3040 参照）。また、ここでの「狩猟物」とは生け捕りにしたもの、「食物」とは、既に死んでいるものであるとされる（ムヤッサル 124 頁参照）。

3 「供物」と「首飾り」については、アーヤ*2 の訳注を参照。

4 アーヤ*2 も参照。アッラー*はこれらのものを、人々の利益・生活・安全を守る、「拠り所」とされた。イスラーム*が到来する以前から、カァバ神殿*は人々の畏敬（いけい）の的であり、そこに身を寄せた者は生命の安全を保証された（雌牛章 125 も参照）。また、神聖月*も流血を禁じられた月であったし、カァバ神殿*で捧げるための犠牲の家畜や、そのために特別に飾り付けられた家畜を率いて旅する者は、その旅行中に危害を加えられることがなかった（アル＝クルトゥビー6:325-326 参照）。

り、またアッラー*が、全てのことをご存知のお方であることを知るためなのである。

98.　（人々よ、）知るがよい、アッラー*が厳しく懲罰されるお方であることを。また アッラー*が、赦し深いお方、慈愛深い*お方であることを。

اعْلَمُوا أَنَّ اللَّهَ شَدِيدُ الْعِقَابِ وَأَنَّ اللَّهَ
غَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿٩٨﴾

99.　使徒*の義務は、（啓示の）伝達に過ぎない。そしてアッラー*は、あなた方の露わにすることも、隠すことも、ご存知である。

مَا عَلَى الرَّسُولِ إِلَّا الْبَلَاغُ ۗ وَاللَّهُ يَعْلَمُ مَا
تُبْدُونَ وَمَا تَكْتُمُونَ ﴿٩٩﴾

100.　（使徒*よ、）言ってやるがいい。「悪と善は同等ではない。たとえ悪の多さが、（人間よ、）あなたを惹きつけたとしても。ならば――澄んだ知性の持ち主たちよ――、あなた方が成功するように、アッラー*を畏れ*るのだ」。

قُلْ لَا يَسْتَوِي الْخَبِيثُ وَالطَّيِّبُ
وَلَوْ أَعْجَبَكَ كَثْرَةُ الْخَبِيثِ ۚ فَاتَّقُوا اللَّهَ
يَا أُولِي الْأَلْبَابِ لَعَلَّكُمْ تُفْلِحُونَ ﴿١٠٠﴾

101.　信仰する者たちよ、それが自分たちに明らかにされたら、却ってあなた方を害する物事について、尋ねるのではない。そして、クルアーン*が下っている時にその（ような）ことについて尋ねれば、それはあなた方に明示されるのだぞ[1]。アッラー*はそれらのことを、大目に見られた。アッラー*は赦し深いお方、寛大な*お方。

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا لَا تَسْأَلُوا عَنْ أَشْيَاءَ
إِنْ تُبْدَ لَكُمْ تَسُؤْكُمْ وَإِنْ تَسْأَلُوا عَنْهَا
حِينَ يُنَزَّلُ الْقُرْآنُ تُبْدَ لَكُمْ عَفَا اللَّهُ
عَنْهَا ۗ وَاللَّهُ غَفُورٌ حَلِيمٌ ﴿١٠١﴾

102.　あなた方以前の民は確かに、（自分たちの使徒*に対して）その（ような）ことを尋ねたのであり、その後それに対する否定者となった[2]のだ。

قَدْ سَأَلَهَا قَوْمٌ مِنْ قَبْلِكُمْ ثُمَّ أَصْبَحُوا
بِهَا كَافِرِينَ ﴿١٠٢﴾

---

1 まだ起こってもいないことや、それを尋ねれば結果的に厳しい法規定を招いてしまいそうなことなど、そもそも命じられてはいない宗教的諸事について尋ねてはならない、ということ（ムヤッサル 124 頁参照）。

2 いざ、その質問がきっかけとなって何かが義務づけられると、それを拒（こば）んだ、の意（前掲書、同頁参照）。

103. アッラー*が、バヒーラ、サーイバ、ワスィーラ、ハーミー[1]（を偶像への捧げものとし、その利用を禁止すること）を定められたのではない。しかし不信仰に陥った者*たちが、アッラー*に対して嘘を捏造するのだ。そして彼らの大半は、分別することがない。

مَا جَعَلَ ٱللَّهُ مِنۢ بَحِيرَةٍ وَلَا سَآئِبَةٍ وَلَا وَصِيلَةٍ
وَلَا حَامٍ وَلَٰكِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ يَفْتَرُونَ عَلَى ٱللَّهِ
ٱلْكَذِبَ ۖ وَأَكْثَرُهُمْ لَا يَعْقِلُونَ ١٠٣

104. また、彼らは「（法規定を明らかにするため、）アッラー*が下されたものと、使徒のもとに来るのだ」と言われれば、（こう）言った。「私たちが見出したご先祖様のやり方[2]だけで、私たちには十分」。一体、彼らの先祖は何も知らず、導かれてもいなかったとしても、（そんなことを言うの）か？

وَإِذَا قِيلَ لَهُمْ تَعَالَوْا۟ إِلَىٰ مَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ وَإِلَى
ٱلرَّسُولِ قَالُوا۟ حَسْبُنَا مَا وَجَدْنَا عَلَيْهِ
ءَابَآءَنَآ ۚ أَوَلَوْ كَانَ ءَابَآؤُهُمْ لَا يَعْلَمُونَ
شَيْـًٔا وَلَا يَهْتَدُونَ ١٠٤

105. 信仰する者たちよ、あなた方自身に専念せよ[3]。あなた方が導かれれば、迷った者があなた方を害することはない。アッラー*の御許こそが、あなた方全員の帰り所なのであり、かれは、あなた方が行っていたことについて、あなた方にお告げになるのだから。

يَـٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ عَلَيْكُمْ أَنفُسَكُمْ ۖ لَا يَضُرُّكُم
مَّن ضَلَّ إِذَا ٱهْتَدَيْتُمْ ۚ إِلَى ٱللَّهِ مَرْجِعُكُمْ
جَمِيعًا فَيُنَبِّئُكُم بِمَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ١٠٥

1 「バヒーラ」とは、多くの子を出産したもので、耳に切れ目を入れた雌ラクダのこと。「サーイバ」は、偶像など、アッラー*以外のもののために放牧されるもの。「ワスィーラ」は連続して雌を出産したもの。「ハーミー」は、沢山の子をもうけた雄ラクダのことである、と言われる（ムヤッサル 124 頁参照）。家畜章 136、138-139 なども参照。

2 「ご先祖様のやり方」については、雌牛章 170 の訳注を参照。

3 たとえ他人が自分に同調しなくても、アッラー*への服従行為に勤（いそ）しみ、罪を遠ざけ続けることに努力せよ、ということ（ムヤッサル 125 頁参照）。ただし、このことが、善事を命じ、悪事を禁じる努力の放棄（ほうき）を意味するわけではない（アッ＝サァディー246 頁参照）。

106. 信仰する者たちよ、あなた方の内の誰かに死が訪れ（そうになっ）たら、遺言の際には、あなた方の内の公正さを備えた男性二人が、あなた方の間の証言[1]（をせよ）。あるいは、あなた方以外の二人が（証言するのだ）[2]。もし、あなた方が地上を旅しており、死の不幸があなた方に降りかかったならば（、そうせよ）。もし、あなた方が（彼らの証言に）疑惑を抱くのであれば、あなた方は礼拝後[3]に彼ら二人を引き止める。そして彼ら二人は、アッラー*において（こう）誓うのだ。「私たちは、これ（誓い）と引き換えに代価を得たりはしない。たとえ親戚であったとしても（、彼らに偏った誓いなどしない）。また、私たちはアッラー*の証言を、隠蔽したりはしない。本当に私たちは、そうすれば、まさに罪悪者となってしまう」。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ شَهَٰدَةُ بَيْنِكُمْ إِذَا
حَضَرَ أَحَدَكُمُ ٱلْمَوْتُ حِينَ ٱلْوَصِيَّةِ
ٱثْنَانِ ذَوَا عَدْلٍ مِّنكُمْ أَوْ ءَاخَرَانِ مِنْ غَيْرِكُمْ
إِنْ أَنتُمْ ضَرَبْتُمْ فِى ٱلْأَرْضِ فَأَصَٰبَتْكُم
مُّصِيبَةُ ٱلْمَوْتِ ۚ تَحْبِسُونَهُمَا مِنۢ بَعْدِ
ٱلصَّلَوٰةِ فَيُقْسِمَانِ بِٱللَّهِ إِنِ ٱرْتَبْتُمْ
لَا نَشْتَرِى بِهِۦ ثَمَنًا وَلَوْ كَانَ ذَا قُرْبَىٰ ۙ وَلَا
نَكْتُمُ شَهَٰدَةَ ٱللَّهِ إِنَّآ إِذًا لَّمِنَ ٱلْءَاثِمِينَ ١٠٦

107. そして、彼ら（証人）二人が罪に値すること[4]が露見したならば、（遺産への）権利がある者たちの内、最も（遺産に）優先される別の二人が彼ら（証人）二人の場に立ち、アッラー*において（こう）誓う。「私たちの証言こそは、彼らの証言

فَإِنْ عُثِرَ عَلَىٰٓ أَنَّهُمَا ٱسْتَحَقَّآ إِثْمًا فَـَٔاخَرَانِ
يَقُومَانِ مَقَامَهُمَا مِنَ ٱلَّذِينَ ٱسْتَحَقَّ عَلَيْهِمُ
ٱلْأَوْلَيَٰنِ فَيُقْسِمَانِ بِٱللَّهِ لَشَهَٰدَتُنَآ أَحَقُّ مِن
شَهَٰدَتِهِمَا وَمَا ٱعْتَدَيْنَآ إِنَّآ إِذًا لَّمِنَ
ٱلظَّٰلِمِينَ ١٠٧

---

1 遺言の内容を証言すること、とされる（アッ＝サァディー246 頁参照）。

2 大半の解釈学者によれば、「あなた方の内の･･･」とはムスリム*のことで、「あなた方以外の･･･」とは、ムスリム*以外の者である（アル＝バガウィー2:97 参照）。ただしムスリム*以外の者を証人とすることが出来るのは、その必要があり、ムスリム*が不在の場合に限るとされる（アッ＝サァディー246 頁参照）。

3 この「礼拝」は、特にアスル*の礼拝のことを指すとされる（ムヤッサル 125 頁参照）。イブン･カスィール*によれば、礼拝後、人々が集まっている中で証言させることが目的なのだという（3:217 参照）。

4 この「罪」とは、証言や遺言における不実さのこと（ムヤッサル 125 頁参照）。

よりも（受け入れられるに）相応しいものである。また、私たちは（自分たちの証言において、権利を）侵犯してはいない。本当に私たちは、そうすれば、まさに不正*者となってしまう」。

108. それ（らの証言についての規定）が、彼らが（真実に基づいた）本来の形で証言し、あるいは彼らの（嘘の）誓いの後、（その）誓いが、（遺産の権利人たちによって）突き返されてしまうことを怖れ（るようにな）るのに、最適なのである。アッラー*を畏れ*、（かれの訓戒を）聴くのだ。アッラー*は、放逸な民をお導きにはならないのである。

ذَٰلِكَ أَدۡنَىٰٓ أَن يَأۡتُواْ بِٱلشَّهَٰدَةِ عَلَىٰ وَجۡهِهَآ
أَوۡ يَخَافُوٓاْ أَن تُرَدَّ أَيۡمَٰنُۢ بَعۡدَ أَيۡمَٰنِهِمۡۗ وَٱتَّقُواْ
ٱللَّهَ وَٱسۡمَعُواْۗ وَٱللَّهُ لَا يَهۡدِي ٱلۡقَوۡمَ ٱلۡفَٰسِقِينَ ١٠٨

109. （人々よ、）アッラー*が使徒*たちを召集され、（彼らに）こう仰せられる（復活の）日*のこと（を、思い起こすのだ）。「あなた方は、（民をアッラー*の教えに招いた時、）どのような返答を受けたのか？[1]」彼らは申し上げる。「私たちは、全く存じ上げません[2]。あなたこそは、不可視の世界*を熟知されるお方なのですから」。

۞يَوۡمَ يَجۡمَعُ ٱللَّهُ ٱلرُّسُلَ فَيَقُولُ مَاذَآ أُجِبۡتُمۡۖ
قَالُواْ لَا عِلۡمَ لَنَآۖ إِنَّكَ أَنتَ عَلَّٰمُ ٱلۡغُيُوبِ ١٠٩

110. アッラー*が、（こう）仰せられた時のこと（を思い起こすがよい）。「マルヤム*の子イーサー*よ、あなたとあなたの母に

إِذۡ قَالَ ٱللَّهُ يَٰعِيسَى ٱبۡنَ مَرۡيَمَ ٱذۡكُرۡ نِعۡمَتِي
عَلَيۡكَ وَعَلَىٰ وَٰلِدَتِكَ إِذۡ أَيَّدتُّكَ بِرُوحِ
ٱلۡقُدُسِ تُكَلِّمُ ٱلنَّاسَ فِي ٱلۡمَهۡدِ وَكَهۡلٗاۖ

---

1 全知者であられるアッラー*が復活の日*にされる質問は、回答者に教示を求めることを目的にしているのではない。それは不信仰者*に対する、質問の形によるお咎（とが）めとお叱（しか）りを意図しているのであり、彼らにとっての一種の罰なのである（アッ＝シャンキーティー2:6-7 参照）。高壁章 8 の訳注も参照。

2 「私たちは人々の胸の内や、私たちが民のもとを去った後、彼らがやったことを知りません」という意味とされる（ムヤッサル 126 頁参照）。

対する、わが恩恵を思い出すのだ。われがあなたを、聖霊[1]によって支えた時のこと。あなたは揺りかごの中（から）でも、壮年になって（から）も、人々に語りかける。また、われがあなたに、書[2]、英知、トーラー*、福音*を教えた時のこと。また、あなたがわが許しによって、泥土で鳥の形のようなものを作り、あなたがそこに息を吹き込んで、それがわが許しによって（本物の）鳥となる時のこと。また、あなたがわが許しにより、生まれつきの盲人とライ病患者[3]を癒す（時のこと）。また、あなたがわが許しによって、死人を（蘇らせ、墓場から）出す時のこと。また、われがイスラーイールの子ら*を、あなたが明証[4]を携えて彼らのもとに到来した時、あなた（の殺害）から阻んだ時のこと。彼らの内の不信仰だった者*たちは、（こう）言ったのだ。『これは、紛れもない魔術に外ならない』。

وَإِذْ عَلَّمْتُكَ ٱلْكِتَٰبَ وَٱلْحِكْمَةَ
وَٱلتَّوْرَىٰةَ وَٱلْإِنجِيلَ ۖ وَإِذْ تَخْلُقُ مِنَ ٱلطِّينِ
كَهَيْـَٔةِ ٱلطَّيْرِ بِإِذْنِى فَتَنفُخُ فِيهَا فَتَكُونُ
طَيْرًۢا بِإِذْنِى ۖ وَتُبْرِئُ ٱلْأَكْمَهَ وَٱلْأَبْرَصَ
بِإِذْنِى ۖ وَإِذْ تُخْرِجُ ٱلْمَوْتَىٰ بِإِذْنِى ۖ
وَإِذْ كَفَفْتُ بَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ عَنكَ
إِذْ جِئْتَهُم بِٱلْبَيِّنَٰتِ فَقَالَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟
مِنْهُمْ إِنْ هَٰذَآ إِلَّا سِحْرٌ مُّبِينٌ ١١٠

111. また（イーサーよ）、われが（あなたの）弟子たち[5]に、われとわが使徒を信じよ、と示した時のこと（を思い出せ）。彼らは申し上げた。『私たちは信じました。私たちが服従する者（ムスリム*）であることを、証言して下さい』」。

وَإِذْ أَوْحَيْتُ إِلَى ٱلْحَوَارِيِّـۧنَ أَنْ ءَامِنُوا۟ بِى
وَبِرَسُولِى قَالُوٓا۟ ءَامَنَّا وَٱشْهَدْ بِأَنَّنَا
مُسْلِمُونَ ١١١

---

1 この「聖霊」については、雌牛章 87 の訳注を参照。

2 この「書」については、イムラーン家章 48 の訳注を参照。

3 「ライ病患者」については、イムラーン家章 49 の訳注を参照。

4 この「明証」は、彼の預言者*性を裏付ける、数々の驚くべき奇跡のこと（ムヤッサル 126 頁参照）。

5「弟子たち」については、イムラーン家章 52 の訳注を参照。

112. （イーサーの）弟子たちが、（こう）言った時のこと（を思い起こすがよい）。「マルヤム*の子イーサー*よ、あなたの主*は、天から私たちに食卓を下すことが出来ますか？」彼（イーサー*）は言った。「アッラー*を畏れ*よ。もし、あなた方が信仰者であるならば」。

إِذۡ قَالَ ٱلۡحَوَارِيُّونَ يَٰعِيسَى ٱبۡنَ مَرۡيَمَ هَلۡ
يَسۡتَطِيعُ رَبُّكَ أَن يُنَزِّلَ عَلَيۡنَا مَآئِدَةٗ
مِّنَ ٱلسَّمَآءِۖ قَالَ ٱتَّقُواْ ٱللَّهَ إِن كُنتُم
مُّؤۡمِنِينَ ١١٢

113. 彼らは言った。「私たちはそこから食べ、私たちの心を安らげたいのです。また、あなたが私たちに、確かに真実を語ったことを知り、その証人[1]になりたいのです」。

قَالُواْ نُرِيدُ أَن نَّأۡكُلَ مِنۡهَا وَتَطۡمَئِنَّ قُلُوبُنَا
وَنَعۡلَمَ أَن قَدۡ صَدَقۡتَنَا وَنَكُونَ عَلَيۡهَا
مِنَ ٱلشَّٰهِدِينَ ١١٣

114. マルヤム*の子イーサー*は、申し上げた。「アッラー*よ、我らが主*よ、私たちに天から食卓をお下し下さい。それは私たちの代と後代の者たちにとっての祭日となり、あなたからの御徴となるものです。そして私たちに、糧をお授け下さい。あなたは、最もよく糧を授けられるお方です」。

قَالَ عِيسَى ٱبۡنُ مَرۡيَمَ ٱللَّهُمَّ رَبَّنَآ أَنزِلۡ عَلَيۡنَا
مَآئِدَةٗ مِّنَ ٱلسَّمَآءِ تَكُونُ لَنَا عِيدٗا لِّأَوَّلِنَا
وَءَاخِرِنَا وَءَايَةٗ مِّنكَۖ وَٱرۡزُقۡنَا وَأَنتَ خَيۡرُ
ٱلرَّٰزِقِينَ ١١٤

115. アッラー*は仰せられた。「本当にわれは、それをあなた方に下す者である。そして誰であろうと、その後あなた方の内で不信仰に陥る者*、本当にわれは彼を、全創造物のいかなるものも罰することのない（ような）罰し方で、罰するであろう」。

قَالَ ٱللَّهُ إِنِّي مُنَزِّلُهَا عَلَيۡكُمۡۖ فَمَن يَكۡفُرۡ بَعۡدُ
مِنكُمۡ فَإِنِّيٓ أُعَذِّبُهُۥ عَذَابٗا لَّآ أُعَذِّبُهُۥٓ أَحَدٗا
مِّنَ ٱلۡعَٰلَمِينَ ١١٥

116. アッラー*が（復活の日*、こう）仰せられる時のこと（を、思い起こさせよ）。「マルヤム*の子イーサー*よ、一体あな

وَإِذۡ قَالَ ٱللَّهُ يَٰعِيسَى ٱبۡنَ مَرۡيَمَ ءَأَنتَ قُلۡتَ لِلنَّاسِ
ٱتَّخِذُونِي وَأُمِّيَ إِلَٰهَيۡنِ مِن دُونِ ٱللَّهِۖ قَالَ
سُبۡحَٰنَكَ مَا يَكُونُ لِيٓ أَنۡ أَقُولَ مَا لَيۡسَ لِي بِحَقٍّۚ

---

1 アッラー*が、自らの唯一性*と全能性に対する証拠として、またイーサー*の預言者*性を確証する証拠として、食卓をお下しになることへの「証人」、という意味（アッ＝タバリー 4:3115 参照）。

たは人々に、『アッラー*とは別に、私と私の母親も二つの神[1]とせよ』などと言ったのか？[2]」彼は申し上げる。「あなたに称え*あれ。私は、自分に権利がないようなことを言うはずがありません。もし、そう言ったとしたら、あなたはそのことについて既にご存知です。あなたは私自身の内にあるものをご存知ですが、私はあなたご自身の内にあるものについて、存じ上げないのですから。あなたこそは、不可視の世界*を熟知されるお方であられます。

إِن كُنتُ قُلْتُهُۥ فَقَدْ عَلِمْتَهُۥ ۚ تَعْلَمُ مَا فِى نَفْسِى
وَلَآ أَعْلَمُ مَا فِى نَفْسِكَ ۚ إِنَّكَ أَنتَ عَلَّٰمُ ٱلْغُيُوبِ ١١٦

117. 私は彼らに、あなたが私に命じられたこと、つまり我が主*であり、あなた方の主*であられるアッラー*を崇拝*せよ、ということしか言っておりません。また私は、彼らの間に留まっている限り、彼らに対しての証人でした。そして、あなたが私をお召しになってからは[3]、あなたこそが彼らへの監視者だったのです。あなたは、全てのことの証人であられます。

مَا قُلْتُ لَهُمْ إِلَّا مَآ أَمَرْتَنِى بِهِۦٓ أَنِ ٱعْبُدُوا۟ ٱللَّهَ
رَبِّى وَرَبَّكُمْ ۚ وَكُنتُ عَلَيْهِمْ شَهِيدًا مَّا دُمْتُ
فِيهِمْ ۖ فَلَمَّا تَوَفَّيْتَنِى كُنتَ أَنتَ ٱلرَّقِيبَ عَلَيْهِمْ ۚ
وَأَنتَ عَلَىٰ كُلِّ شَىْءٍ شَهِيدٌ ١١٧

118. もしあなたが彼らを罰されるとしても、実に彼らは、あなたの僕たちです[4]。そして彼らをお赦しになるとしても、本当にあなたこそは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方です」。

إِن تُعَذِّبْهُمْ فَإِنَّهُمْ عِبَادُكَ ۖ وَإِن تَغْفِرْ لَهُمْ
فَإِنَّكَ أَنتَ ٱلْعَزِيزُ ٱلْحَكِيمُ ١١٨

---

1 「神」については、雌牛章 133 の訳注を参照。

2 復活の日*の使徒*への質問については、アーヤ*109 の訳注を参照。

3 イーサー*が殺されてはいないことについては、イムラーン家章 55、婦人章 157-159 とその訳注を参照。

4 アッラー*こそが、ご自身のしもべたちの状況を最もよくご存知であり、その公正さによって彼らを、お望みのままに処されるお方である（ムヤッサル 127 頁参照）。

119. アッラー*は仰せられる。「これは、正直者たちを、自分自身の正直さ[1]が益する(復活の)日*。彼らには、彼らがそこにずっと永遠に住むことになる、その下から河川が流れる楽園がある。アッラー*は彼らをお喜びになり、彼らもアッラー*に満足する。それはこの上ない勝利なのだ」。

قَالَ ٱللَّهُ هَٰذَا يَوْمُ يَنفَعُ ٱلصَّٰدِقِينَ صِدْقُهُمْۚ
لَهُمْ جَنَّٰتٌ تَجْرِي مِن تَحْتِهَا ٱلْأَنْهَٰرُ خَٰلِدِينَ فِيهَآ
أَبَدًاۚ رَّضِيَ ٱللَّهُ عَنْهُمْ وَرَضُواْ عَنْهُۚ
ذَٰلِكَ ٱلْفَوْزُ ٱلْعَظِيمُ ١١٩

120. アッラー*にこそ諸天と大地と、そこにあるものの王権が属する。そしてかれは、全てのことがお出来になるお方なのである。

لِلَّهِ مُلْكُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ وَمَا فِيهِنَّۚ
وَهُوَ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٖ قَدِيرُۢ ١٢٠

1 アッラー*のみを崇拝*し、その法を守り、自らの意図と言動において真摯(しんし)だったこと(ムヤッサル 127 頁参照)。

第6章 家畜章（アル＝アンアーム）[1]

سُورَةُ الأَنۡعَامِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 諸天と大地を創造され、闇と光[2]をお創りになったアッラー*に、称賛*あれ。その後に及んで不信仰に陥った者*たちは、自分たちの主*に対して（かれ以外のものを）並べている[3]。

ٱلۡحَمۡدُ لِلَّهِ ٱلَّذِي خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَ
وَجَعَلَ ٱلظُّلُمَٰتِ وَٱلنُّورَۖ ثُمَّ ٱلَّذِينَ
كَفَرُواْ بِرَبِّهِمۡ يَعۡدِلُونَ ١

2. かれは、あなた方（の父祖アーダム*）を泥土からお創りになり[4]、それから（あなた方の）寿命を決定されたお方。そして定められた時期[5]（の知識）は、かれの御許にある。その後に及んで、あなた方は（死後の復活を）疑わしく思っているのだ。

هُوَ ٱلَّذِي خَلَقَكُم مِّن طِينٖ ثُمَّ قَضَىٰٓ أَجَلٗاۖ
وَأَجَلٞ مُّسَمًّى عِندَهُۥۖ ثُمَّ أَنتُمۡ تَمۡتَرُونَ ٢

3. そしてかれは、諸天と大地において（真に）崇拝*されるべきお方。あなた方が密かにすることも、露わにすることもご存知であり、あなた方が稼ぐもの[6]もご存知である。

وَهُوَ ٱللَّهُ فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَفِي ٱلۡأَرۡضِ يَعۡلَمُ
سِرَّكُمۡ وَجَهۡرَكُمۡ وَيَعۡلَمُ مَا تَكۡسِبُونَ ٣

---

1 マッカ*啓示（一部アーヤ*については、マディーナ*啓示説もあり）。アッラーの唯一性*、預言者*ムハンマド*に下された啓示、復活と報（むく）いの確証といった信仰の基礎が、質疑応答、議論、物語など様々な形で提示される。スーラ*名ともなっている「家畜」の話もまた、当時の不信仰者*の誤った宗教観を暴露（ばくろ）すると共に、それを正す文脈の中で取り上げられたものである。

2 この「闇」と「光」については、雌牛章 257 の訳注を参照。

3 つまり、シルク*を犯しているということ。

4 アーダム*が土から段階を経（へ）て創られたことについては、アル＝ヒジュル章 26 の訳注を参照。

5 復活の日*のこと（ムヤッサル 128 頁参照）。

6 善悪を問わず、あらゆる行為のこと（前掲書、同頁参照）。

4. 彼らの主*の御徴[1]の内、いかなる御徴が彼らのもとに到来した時でも、彼らがそれに背を向けないことはなかった。

وَمَا تَأْتِيهِم مِّنْ ءَايَةٍ مِّنْ ءَايَٰتِ رَبِّهِمْ إِلَّا
كَانُوا۟ عَنْهَا مُعْرِضِينَ ٤

5. 彼らは真理（クルアーン*）を、それが自分たちのもとに到来した時、嘘呼ばわりしたのだから。ならば、いずれ彼らのもとには、彼らが嘲笑していたものの知らせが（事実として）やって来るであろう。

فَقَدْ كَذَّبُوا۟ بِٱلْحَقِّ لَمَّا جَآءَهُمْ فَسَوْفَ يَأْتِيهِمْ
أَنۢبَٰٓؤُا۟ مَا كَانُوا۟ بِهِۦ يَسْتَهْزِءُونَ ٥

6. 一体彼らは、われら*が彼ら以前に、どれだけ多くの（不信仰な）世代を滅ぼしてきたかを、知らないのか？　われら*は地上において彼らに、あなた方には授けなかった力を授けた。また、われら*は彼らに豊かな雨を送り、彼らの下からは河川を走らせた。にも関わらず（彼らは不信仰に陥ったので、）われら*は彼らをその罪ゆえに滅ぼし、彼らの後に別の世代を設けたのである。

أَلَمْ يَرَوْا۟ كَمْ أَهْلَكْنَا مِن قَبْلِهِم مِّن قَرْنٍ
مَّكَّنَّٰهُمْ فِى ٱلْأَرْضِ مَا لَمْ نُمَكِّن لَّكُمْ وَأَرْسَلْنَا
ٱلسَّمَآءَ عَلَيْهِم مِّدْرَارًا وَجَعَلْنَا ٱلْأَنْهَٰرَ تَجْرِى
مِن تَحْتِهِمْ فَأَهْلَكْنَٰهُم بِذُنُوبِهِمْ وَأَنشَأْنَا مِنۢ
بَعْدِهِمْ قَرْنًا ءَاخَرِينَ ٦

7. （使徒*よ、）たとえわれら*が、あなたに啓典を書面で下し、彼らがそれに自分たちの手で触れたとしても、不信仰に陥った者*たちは（こう）言ったであろう。「これは紛れもない魔術に外ならない」。

وَلَوْ نَزَّلْنَا عَلَيْكَ كِتَٰبًا فِى قِرْطَاسٍ فَلَمَسُوهُ بِأَيْدِيهِمْ
لَقَالَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوٓا۟ إِنْ هَٰذَآ إِلَّا سِحْرٌ مُّبِينٌ ٧

8. また、彼らは言った。「どうして彼に、（彼が使徒*であることを証言する）天使*が下らないのか？」もしわれら*が天使*を下したら、事は決定されてしまった[2]であろう。その後、彼らは、猶予を与えられることもないのだ。

وَقَالُوا۟ لَوْلَآ أُنزِلَ عَلَيْهِ مَلَكٌ ۖ وَلَوْ أَنزَلْنَا مَلَكًا
لَّقُضِىَ ٱلْأَمْرُ ثُمَّ لَا يُنظَرُونَ ٨

1 この「御徴」とは、アッラーの唯一性*と預言者*ムハンマド*の正直さを示す根拠の数々のこと（ムヤッサル 128 頁参照）。

2 彼らが不信仰の状態にある時に天使*が遣わされたら、それはアッラー*から彼らへの懲罰が下る時である（イブン・カスィール 3:241 参照）。アーヤ*111、アル＝ヒジュル章 7-8、夜の旅章 92、識別章 7 も参照。

9. また、もし彼（使徒*）を天使*としたならば、われら*は彼（その天使*）を人（の姿）としたのである。そしてわれら*は、彼らが（自分たちを）惑わしているもので、彼らを惑わすことになっただろう[1]。

وَلَوۡ جَعَلۡنَٰهُ مَلَكٗا لَّجَعَلۡنَٰهُ رَجُلٗا
وَلَلَبَسۡنَا عَلَيۡهِم مَّا يَلۡبِسُونَ ٩

10. あなた以前の使徒*たちもまた、確かに嘲笑されたのである。それで彼らの内の嘲っていた者たちを、彼らが嘲笑していたもの（懲罰）が包囲したのだ。

وَلَقَدِ ٱسۡتُهۡزِئَ بِرُسُلٖ مِّن قَبۡلِكَ فَحَاقَ
بِٱلَّذِينَ سَخِرُواْ مِنۡهُم مَّا كَانُواْ بِهِۦ
يَسۡتَهۡزِءُونَ ١٠

11. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「地上を旅し、それから（使徒*たちを）嘘呼ばわりした者たちの結末がどのようなものであったか、見てみるがよい」。

قُلۡ سِيرُواْ فِي ٱلۡأَرۡضِ ثُمَّ ٱنظُرُواْ كَيۡفَ
كَانَ عَٰقِبَةُ ٱلۡمُكَذِّبِينَ ١١

12. （使徒*よ、）言ってやるのだ。「諸天と大地にあるものは、誰に属しているのか？」言うのだ。「アッラー*に属する」。アッラー*はご自身に、慈悲を定められた[2]。かれは疑惑の余地のない復活の日*に、必ずやあなた方を召集される。自らを（シルク*で）損ねた者たち、彼らは信じないのである。

قُل لِّمَن مَّا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۖ قُل لِّلَّهِۚ
كَتَبَ عَلَىٰ نَفۡسِهِ ٱلرَّحۡمَةَۚ لَيَجۡمَعَنَّكُمۡ
إِلَىٰ يَوۡمِ ٱلۡقِيَٰمَةِ لَا رَيۡبَ فِيهِۚ ٱلَّذِينَ خَسِرُوٓاْ
أَنفُسَهُمۡ فَهُمۡ لَا يُؤۡمِنُونَ ١٢

13. 夜と昼に静止するもの（と動くもの）[3]は（全て）、かれにこそ属する。かれはよくお聴きになるお方、全知者であられる。

۞وَلَهُۥ مَا سَكَنَ فِي ٱلَّيۡلِ وَٱلنَّهَارِۚ وَهُوَ
ٱلسَّمِيعُ ٱلۡعَلِيمُ ١٣

---

1 通常、人間は天使*をその本来の姿において捉（とら）えることが不可能なため、たとえアッラー*が天使*を下したとしても、結局は人間の姿を取ることになる。こうして不信仰者*らは、人間である預言者*ムハンマド*の使徒*性を拒否したように、人間の姿をした天使*の使徒*についても同様の態度を取ることになる（ムヤッサル 129 頁参照）。

2 預言者*ムハンマド*は仰（おっしゃ）った。「創造を完成された後、アッラー*は守られし碑板*にこう記された。『わが慈悲は、わが怒りに勝れり』」（アル＝ブハーリー7404参照）。

3 つまり天地に存在する全創造物のこと（ムヤッサル 129 頁参照）。

14. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「私が、諸天と大地の創成者*アッラー*以外のものを、庇護者*とすることなどあろうか？　かれは養い給うお方であって、養われるお方ではないというのに」。言うのだ。「私は（この共同体において）、服従する者（ムスリム*）の先駆けとなることを命じられたのである。（私は、こう命じられたのだ。）『決して、シルク*の徒の類いとなってはならない』」。

قُلۡ أَغَيۡرَ ٱللَّهِ أَتَّخِذُ وَلِيّٗا فَاطِرِ
ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ وَهُوَ يُطۡعِمُ
وَلَا يُطۡعَمُۗ قُلۡ إِنِّيٓ أُمِرۡتُ أَنۡ أَكُونَ أَوَّلَ
مَنۡ أَسۡلَمَۖ وَلَا تَكُونَنَّ مِنَ ٱلۡمُشۡرِكِينَ ١٤

15. （使徒*よ、）言うがよい。「本当に私は、もし我が主*に逆らったりしたら、この上ない（復活の）日*の懲罰（が自分に降りかかること）を怖れる」。

قُلۡ إِنِّيٓ أَخَافُ إِنۡ عَصَيۡتُ رَبِّي عَذَابَ يَوۡمٍ
عَظِيمٖ ١٥

16. その日、それ（懲罰）から遠ざけられる者があれば、かれ（アッラー*）は確かに、その者にご慈悲をおかけになったことになる。そしてそれが、明白な勝利なのである。

مَّن يُصۡرَفۡ عَنۡهُ يَوۡمَئِذٖ فَقَدۡ رَحِمَهُۥۚ وَذَٰلِكَ
ٱلۡفَوۡزُ ٱلۡمُبِينُ ١٦

17. （人間よ、）もしアッラー*があなたに害悪[1]をお与えになれば、それを取り除いてくれる者は、かれ以外にはいらっしゃらない。また、かれがあなたに善[2]をお与えになるとしても（、それを阻む者はなく）、かれは全てのことがお出来になるお方なのだ。

وَإِن يَمۡسَسۡكَ ٱللَّهُ بِضُرّٖ فَلَا كَاشِفَ لَهُۥٓ
إِلَّا هُوَۖ وَإِن يَمۡسَسۡكَ بِخَيۡرٖ فَهُوَ عَلَىٰ
كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٞ ١٧

18. かれはその僕たちの上に君臨される*お方であり、また、かれは英知あふれる*お方、（全てに）通暁されているお方。

وَهُوَ ٱلۡقَاهِرُ فَوۡقَ عِبَادِهِۦۚ وَهُوَ
ٱلۡحَكِيمُ ٱلۡخَبِيرُ ١٨

1 この「害悪」とは、貧困や病気などのこと（ムヤッサル 129 頁参照）。
2 この「善」とは、豊かさや健康などのこと（前掲書、同頁参照）。

19. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「何が最大の証拠[1]であるか？」言うのだ。「アッラー*が、私とあなた方の間の証人であられる。そしてこのクルアーン*は、私がそれであなた方と、それが届いた全ての者に警告を告げるため、私に啓示されたのだ。一体、本当にあなた方は、アッラー*と共に別の神々[2]が存在すると証言するのか？」（使徒よ、）言え。「私は（そのようなことを）証言しない」。言うのだ。「かれこそは、唯一の崇拝*されるべきお方であられる。そして本当に私は、あなた方が（アッラー*の崇拝*において）シルク*を犯しているものから無縁なのだ」。

قُلْ أَيُّ شَيْءٍ أَكْبَرُ شَهَٰدَةً قُلِ ٱللَّهُ شَهِيدٌۢ بَيْنِى وَبَيْنَكُمْ
وَأُوحِىَ إِلَىَّ هَٰذَا ٱلْقُرْءَانُ لِأُنذِرَكُم بِهِۦ وَمَنۢ بَلَغَ أَئِنَّكُمْ
لَتَشْهَدُونَ أَنَّ مَعَ ٱللَّهِ ءَالِهَةً أُخْرَىٰ قُل لَّآ أَشْهَدُ
قُلْ إِنَّمَا هُوَ إِلَٰهٌ وَٰحِدٌ وَإِنَّنِى بَرِىٓءٌ مِّمَّا تُشْرِكُونَ ١٩

20. われら*が啓典を授けた者*たちは、彼のことを自分たちの子供を知るように（よく）知っている[3]。自らを（不信仰で）損ねた者たち、彼らは信じないのである。

ٱلَّذِينَ ءَاتَيْنَٰهُمُ ٱلْكِتَٰبَ يَعْرِفُونَهُۥ كَمَا يَعْرِفُونَ
أَبْنَآءَهُمُ ٱلَّذِينَ خَسِرُوٓا۟ أَنفُسَهُمْ فَهُمْ
لَا يُؤْمِنُونَ ٢٠

21. アッラー*に対して嘘を捏造し、その御徴を嘘とする者[4]よりも、ひどい不正*を働く者がいようか？　本当に不正*者たちは、成功しないのである。

وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّنِ ٱفْتَرَىٰ عَلَى ٱللَّهِ كَذِبًا أَوْ كَذَّبَ
بِـَٔايَٰتِهِۦٓ إِنَّهُۥ لَا يُفْلِحُ ٱلظَّٰلِمُونَ ٢١

22. われら*が彼らを皆召集し、それからシルク*を犯していた者たちに、（こう）言う日[5]のこと（を思い起こさせよ）。「あなた方

وَيَوْمَ نَحْشُرُهُمْ جَمِيعًا ثُمَّ نَقُولُ لِلَّذِينَ أَشْرَكُوٓا۟ أَيْنَ
شُرَكَآؤُكُمُ ٱلَّذِينَ كُنتُمْ تَزْعُمُونَ ٢٢

---

1 預言者*ムハンマド*がアッラー*の使徒*である、ということについての証拠（ムヤッサル130頁参照）。

2 「神々」に関しては、雌牛章133の訳注を参照。

3 彼らの啓典の中に記されている特徴によって、預言者*ムハンマド*のことをよく知っている、ということ（前掲書、同頁参照）。

4 つまりアッラー*に同位者があると主張し、アッラー*がその使徒*たちを援助した数々の明証を嘘呼ばわりする者のこと（前掲書、同頁参照）。

5 復活の日*のこと（前掲書、同頁参照）。

が主張していた[1]、あなた方（がアッラー*）の同位者（としていたもの）たちはどこにいるのか？」

23. それから彼らの試練（に対する答え）は、「我らが主*アッラー*に誓って、私たちはシルク*の徒ではありませんでした」と言うことのみであった。

ثُمَّ لَمۡ تَكُن فِتۡنَتُهُمۡ إِلَّآ أَن قَالُواْ وَٱللَّهِ رَبِّنَا
مَا كُنَّا مُشۡرِكِينَ ٢٣

24. 見よ、彼らがいかに自分自身を偽ったかを。そして彼らが（執り成し手として）でっち上げていたものは、彼らから消え去ってしまったのだ。

ٱنظُرۡ كَيۡفَ كَذَبُواْ عَلَىٰٓ أَنفُسِهِمۡۚ وَضَلَّ عَنۡهُم
مَّا كَانُواْ يَفۡتَرُونَ ٢٤

25. （使徒*よ、）彼らの内には、あなたに耳を傾ける者もいる。われら*は、彼らがそれ（クルアーン*）を理解出来ないように、彼らの心には覆いを、その耳には重しをかけた[2]というのに。そして、たとえいかなる御徴[3]を目にしても、彼らはそれを信仰しない。果ては（御徴を見た挙句、）あなたのもとに議論を吹っかけながらやって来ると、不信仰に陥った者*たちは（こう）言うのだ。「これは、昔の人たちのお伽噺に過ぎない」。

وَمِنۡهُم مَّن يَسۡتَمِعُ إِلَيۡكَۖ وَجَعَلۡنَا عَلَىٰ قُلُوبِهِمۡ
أَكِنَّةً أَن يَفۡقَهُوهُ وَفِيٓ ءَاذَانِهِمۡ وَقۡرٗاۚ وَإِن يَرَوۡاْ
كُلَّ ءَايَةٖ لَّا يُؤۡمِنُواْ بِهَاۖ حَتَّىٰٓ إِذَا جَآءُوكَ
يُجَٰدِلُونَكَ يَقُولُ ٱلَّذِينَ كَفَرُوٓاْ إِنۡ هَٰذَآ
إِلَّآ أَسَٰطِيرُ ٱلۡأَوَّلِينَ ٢٥

26. また、彼らは（人々に）それ[4]を禁じ、自分たちもまたそれから遠ざかる。彼らは気付かないまま、自分自身を滅ぼしているに外ならない。

وَهُمۡ يَنۡهَوۡنَ عَنۡهُ وَيَنۡـَٔوۡنَ عَنۡهُۖ وَإِن يُهۡلِكُونَ
إِلَّآ أَنفُسَهُمۡ وَمَا يَشۡعُرُونَ ٢٦

1 彼らはそれらのものが、アッラー*の御許で、彼らを執り成してくれると主張していた（ムヤッサル 130 頁参照）。雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109、集団章 3 とその訳注も参照。

2 「耳には重しをかけた」とは、聴覚を鈍らせ、彼らを益するものを聞こえなくさせた、の意（アッ＝サァディー253 頁参照）。また、雌牛章 7 の訳注も参照。

3 この「御徴」については、アーヤ*4「御徴」の訳注を参照（アッ＝タバリー4:3150 参照）。

4 つまり預言者*ムハンマド*に耳を傾け、従うこと（ムヤッサル 130 頁参照）。

27. （使徒*よ、）もし、あなたが目にしたならば。彼らが（地獄の）業火の上に留まらされ、（こう）言う時のことを。「ああ、私たちが（現世に）戻され、我らが主*の御徴を嘘呼ばわりせず、信仰者たちの仲間となれたなら！」[1]

وَلَوۡ تَرَىٰٓ إِذۡ وُقِفُواْ عَلَى ٱلنَّارِ فَقَالُواْ يَٰلَيۡتَنَا نُرَدُّ
وَلَا نُكَذِّبَ بِـَٔايَٰتِ رَبِّنَا وَنَكُونَ مِنَ
ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ٢٧

28. いや、（その日は）かつて彼らが隠していたこと[2]が、彼らの前で露呈するのだ。そしてたとえ（現世に）戻されたとしても、彼らは禁じられたことに立ち返るのである。本当に彼らは、まさしく嘘つきなのだ。

بَلۡ بَدَا لَهُم مَّا كَانُواْ يُخۡفُونَ مِن قَبۡلُۖ وَلَوۡ رُدُّواْ
لَعَادُواْ لِمَا نُهُواْ عَنۡهُ وَإِنَّهُمۡ لَكَٰذِبُونَ ٢٨

29. また彼ら（シルク*の徒）は、言った。「それ[3]は、私たちの現世の生活以外にはない。そして私たちは、蘇らされる身などではないのだ」。

وَقَالُوٓاْ إِنۡ هِيَ إِلَّا حَيَاتُنَا ٱلدُّنۡيَا وَمَا نَحۡنُ
بِمَبۡعُوثِينَ ٢٩

30. （使徒*よ、）彼らが（復活の日*、）その主*の御前に立たされる時のことを、あなたが目にしたならば。かれ（アッラー*）は仰せられる。「一体これ（死後の復活）は、真実ではないのか？」彼らは言う。「我らが主*に誓って、確かにそうです」。かれは仰せられる。「ならば、あなた方が（アッラー*とその使徒*を）否定していたことゆえに、懲罰を味わうがよい」。

وَلَوۡ تَرَىٰٓ إِذۡ وُقِفُواْ عَلَىٰ رَبِّهِمۡۚ قَالَ أَلَيۡسَ هَٰذَا
بِٱلۡحَقِّۚ قَالُواْ بَلَىٰ وَرَبِّنَاۚ قَالَ فَذُوقُواْ ٱلۡعَذَابَ
بِمَا كُنتُمۡ تَكۡفُرُونَ ٣٠

---

1 いざ復活の日*（あるいは死）が到来すると、彼らは現世での猶予を求めたり、自分たちを現世に返してくれることを頼んだりすが、それは叶わない。高壁章 53、イブラーヒーム*章 44、信仰者たち章 99-100、アッ＝サジダ*章 12、創成者*章 37、赦し深いお方章 11-12、相談章 44、偽信者*たち章 10-11 も参照。

2 つまり彼らは、現世で使徒*たちが伝えたことが真実だということを隠していた（ムヤッサル 131 頁参照）。

3 この「それ」は、人生を指す。つまり彼らは現世の生活しか信じていなかった（前掲書、同頁参照）。

31. アッラー*との拝謁を嘘とした者たちは、確かに損失したのだ。やがて（復活の）その時が彼らのもとを不慮に訪れると、彼らは（罪という）重荷をその背に負いながら（、こう）言う。「ああ、私たちがそこ（現世）で疎かにしていたこと[1]への、私たちの悲痛よ！」彼らが背負っているものは、何と忌まわしいものではないか。

قَدۡ خَسِرَ ٱلَّذِينَ كَذَّبُواْ بِلِقَآءِ ٱللَّهِۖ حَتَّىٰٓ إِذَا
جَآءَتۡهُمُ ٱلسَّاعَةُ بَغۡتَةٗ قَالُواْ يَٰحَسۡرَتَنَا عَلَىٰ مَا
فَرَّطۡنَا فِيهَا وَهُمۡ يَحۡمِلُونَ أَوۡزَارَهُمۡ عَلَىٰ
ظُهُورِهِمۡۚ أَلَا سَآءَ مَا يَزِرُونَ ٣١

32. 現世の生活は、遊興と戯れごとに過ぎない[2]。そして来世の住まいこそは、（アッラー*を）畏れる*者たちにとって、より善いのである。一体あなた方は、弁えないのか？

وَمَا ٱلۡحَيَوٰةُ ٱلدُّنۡيَآ إِلَّا لَعِبٞ وَلَهۡوٞۖ وَلَلدَّارُ
ٱلۡأٓخِرَةُ خَيۡرٞ لِّلَّذِينَ يَتَّقُونَۚ أَفَلَا تَعۡقِلُونَ ٣٢

33. われら*は、本当に彼らの言うことがあなたを悲しませることを、確かに知っている。（だが、悲しむのではない。）というのも、彼らは（確信を持って）あなたを嘘つき呼ばわりしているのではないのだ。だが不正*者たちはアッラー*の御徴を、否定しているのである[3]。

قَدۡ نَعۡلَمُ إِنَّهُۥ لَيَحۡزُنُكَ ٱلَّذِي يَقُولُونَۖ فَإِنَّهُمۡ
لَا يُكَذِّبُونَكَ وَلَٰكِنَّ ٱلظَّٰلِمِينَ بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ
يَجۡحَدُونَ ٣٣

34. また、あなた以前の使徒*たちも、確かに嘘つき呼ばわりされたのだ。それで彼らは、自分たちにわれら*の勝利が到来するまで、嘘つき呼ばわりされたり迫害されたりす

وَلَقَدۡ كُذِّبَتۡ رُسُلٞ مِّن قَبۡلِكَ فَصَبَرُواْ عَلَىٰ
مَا كُذِّبُواْ وَأُوذُواْ حَتَّىٰٓ أَتَىٰهُمۡ نَصۡرُنَاۚ وَلَا
مُبَدِّلَ لِكَلِمَٰتِ ٱللَّهِۚ وَلَقَدۡ جَآءَكَ مِن نَّبَإِيْ
ٱلۡمُرۡسَلِينَ ٣٤

---

1 「疎かにしていたこと」とは、来世のための現世での行いのこと（アル＝クルトゥビー 6:413 参照）。

2 この「現世」には、「不信仰者*の人生」と「現世の享楽」という解釈がある。後者の解釈の場合、「現世の享楽」が「遊興と戯れごと」にたとえられている理由は、いずれも「期間が短い」「大方の場合、好ましくないことを伴う」「無意味であり真の価値がない」「賞賛すべき結末を伴わない」といった共通点があるため、と言われる。一方「来世」の解釈には、「天国」「来世のための行い」「来世の安寧（あんねい）」といった説がある（アッ＝ラーズィー4:515-517 参照）。

3 彼らは、預言者*となる前から「信頼のおける人」という名で呼ばれていたムハンマド*自身のことではなく、彼に啓示されたアーヤ*のことを嘘よばわりしていた（アッ＝サァディー254 頁参照）。

ることに忍耐*し続けたのである。そしてアッラー*の御言葉[1]を変更するものは、何一つない。（使徒*よ、）あなたのもとには、（あなた以前に）遣わされた者たちの知らせ[2]の一部が、確かに届いたのだ。

35. また、（使徒*よ、）もし彼らの拒絶があなたにとって過酷だというなら、もしあなたが地面に穴を、あるいは天に梯子を求め[3]、彼らに（自分の正しさを証明する）御徴をもたらすことが出来るのならば（、そうしてみよ）[4]。そして、もしアッラー*がお望みなら、彼らを導きのもとに一同にさせたのだ。ならばあなた[5]は決して、（無闇に悲しみを募らせる）無知な者たちの類いとなるのではない。

وَإِن كَانَ كَبُرَ عَلَيْكَ إِعْرَاضُهُمْ فَإِنِ ٱسْتَطَعْتَ أَن تَبْتَغِيَ نَفَقًا فِى ٱلْأَرْضِ أَوْ سُلَّمًا فِى ٱلسَّمَآءِ فَتَأْتِيَهُم بِـَٔايَةٍ ۚ وَلَوْ شَآءَ ٱللَّهُ لَجَمَعَهُمْ عَلَى ٱلْهُدَىٰ ۚ فَلَا تَكُونَنَّ مِنَ ٱلْجَٰهِلِينَ ٣٥

36. （使徒*よ、あなたの呼びかけに）応えるのは、聴き入れる者たちだけである。そして死人たち、アッラー*は彼らを蘇らされるのだ。それから彼らは、かれの御許にこそ戻される。

۞ إِنَّمَا يَسْتَجِيبُ ٱلَّذِينَ يَسْمَعُونَ ۘ وَٱلْمَوْتَىٰ يَبْعَثُهُمُ ٱللَّهُ ثُمَّ إِلَيْهِ يُرْجَعُونَ ٣٦

---

1 預言者*が彼に敵対する者に対して勝利を収めるという、アッラー*のお約束のこと（ムヤッサル 131 頁参照）。

2 これは、使徒*たちには勝利が、そして使徒*たちを嘘つき呼ばわりした者たちにはアッラー*のお怒りと懲罰が下った、という「知らせ」のこと（前掲書、同頁参照）。

3 「地面に穴を、あるいは天に梯子を…」とは、夜の旅章 90、92-93 で言及されているような、シルク*の徒の要求を示しているとされる（イブン・アーシュール 7:205 参照）。

4 預言者*ムハンマド*は彼らが信仰することを強く欲していたため、彼らの拒絶に胸を痛めていた。しかし彼自身がいかに努力しても、アッラー*が導きをお望みにならない者を導くことは出来ないのである（アッ＝サァディー254 頁参照）。雌牛章 272、ユーヌス*章 99-100、物語章 56、相談章 52 とその訳注も参照。

5 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。

37. 彼ら（シルク*の徒）は、言った。「どうして彼（ムハンマド*）に、その主*からの御徴[1]が下らないのか？」（使徒*よ、）言ってやるがいい。「本当にアッラー*は、御徴を下すことがお出来のお方。だが彼らの大半は、（奇跡が起きるかどうかは、アッラー*の英知に任されているということを）知らないのだ」。

وَقَالُواْ لَوۡلَا نُزِّلَ عَلَيۡهِ ءَايَةٞ مِّن رَّبِّهِۦۚ قُلۡ إِنَّ
ٱللَّهَ قَادِرٌ عَلَىٰٓ أَن يُنَزِّلَ ءَايَةٗ وَلَٰكِنَّ
أَكۡثَرَهُمۡ لَا يَعۡلَمُونَ ٣٧

38. 地を歩くいかなるものも、その双翼で飛ぶいかなるものも、あなた方のような共同体でないものは皆無である[2]。われら*がその書[3]の中で定め残したことなど、何一つないのだ。それから彼らは、自分たちの主*の御許にこそ、召集される。

وَمَا مِن دَآبَّةٖ فِي ٱلۡأَرۡضِ وَلَا طَٰٓئِرٖ يَطِيرُ بِجَنَاحَيۡهِ
إِلَّآ أُمَمٌ أَمۡثَالُكُمۚ مَّا فَرَّطۡنَا فِي ٱلۡكِتَٰبِ مِن شَيۡءٖۚ
ثُمَّ إِلَىٰ رَبِّهِمۡ يُحۡشَرُونَ ٣٨

39. われら*の御徴を嘘呼ばわりする者たちは、聾で唖[4]で、闇の中。アッラー*は誰であろうと、かれがお望みの者を迷わせられる。また誰であろうと、かれがお望みの者を、まっすぐな道の上に置かれるのだ。

وَٱلَّذِينَ كَذَّبُواْ بِـَٔايَٰتِنَا صُمّٞ وَبُكۡمٞ فِي
ٱلظُّلُمَٰتِۗ مَن يَشَإِ ٱللَّهُ يُضۡلِلۡهُ وَمَن يَشَأۡ
يَجۡعَلۡهُ عَلَىٰ صِرَٰطٖ مُّسۡتَقِيمٖ ٣٩

40. （使徒*よ、シルク*の徒に）言ってやるがいい。「言ってみよ。もしあなた方にアッラー*の懲罰がやって来たり、あるいはあなた方に（復活の）時が訪れたりしたら、一体あなた方は、アッラー*以外のものに祈

قُلۡ أَرَءَيۡتَكُمۡ إِنۡ أَتَىٰكُمۡ عَذَابُ ٱللَّهِ أَوۡ أَتَتۡكُمُ
ٱلسَّاعَةُ أَغَيۡرَ ٱللَّهِ تَدۡعُونَ إِن كُنتُمۡ
صَٰدِقِينَ ٤٠

---

1 この「御徴」は、預言者*の正直さを示す奇跡のこととされる（ムヤッサル 132 頁参照）。

2 「あなた方のような共同体」の解釈には、「名前によって区分される、様々な種類から成り立っている」「お互いに意思を通じ合わせることが出来る」「アッラーの唯一性*を知っている」「食べ、餌（えさ）を探し、死から身を守る」といった諸説がある（アル＝バガウィー 2:122 参照）。

3 この「書」とは、守られし碑板*のこと（ムヤッサル 132 頁参照）。

4 「聾」「唖」については、雌牛章 18 の訳注を参照。

るのか？　もしあなた方が、本当のこと[1]を言っているなら（、そうしてみよ）。

41. いや、あなた方は（その時、）かれ（アッラー*）にのみ祈るのであり、それでかれは、あなた方がかれに（その除去を）祈っているものを、取り除いて下さる――かれがお望みになれば、だが――。そしてあなた方は（その時）、自分たちが（アッラー*の崇拝*において、）シルク*を犯しているものを忘れるのだ」。

بَلۡ إِيَّاهُ تَدۡعُونَ فَيَكۡشِفُ مَا تَدۡعُونَ إِلَيۡهِ
إِن شَآءَ وَتَنسَوۡنَ مَا تُشۡرِكُونَ ٤١

42. （使徒*よ、）われら*は確かに、あなた以前の共同体に（使徒*たちを）遣わした。そして（彼らが使徒*たちを嘘つき呼ばわりすると、）われら*は彼らが（われら*のみに）おそれ畏まるよう、困窮と災難で彼らを捕らえた。

وَلَقَدۡ أَرۡسَلۡنَآ إِلَىٰٓ أُمَمٖ مِّن قَبۡلِكَ فَأَخَذۡنَٰهُم
بِٱلۡبَأۡسَآءِ وَٱلضَّرَّآءِ لَعَلَّهُمۡ يَتَضَرَّعُونَ ٤٢

43. そして、どうして彼らのもとにわれら*の猛威[2]が到来した時、彼らは（われら*に）おそれ畏まらなかったのか？　しかし彼らの心は硬化し、シャイターン*は彼らが行っていたことを彼らに目映く見せたのだ。

فَلَوۡلَآ إِذۡ جَآءَهُم بَأۡسُنَا تَضَرَّعُواْ وَلَٰكِن قَسَتۡ
قُلُوبُهُمۡ وَزَيَّنَ لَهُمُ ٱلشَّيۡطَٰنُ مَا كَانُواْ
يَعۡمَلُونَ ٤٣

44. それで彼らが諭されていたものを忘れた[3]時、われら*は全ての（糧の）扉を彼らに開放した[4]。ついには自分たちに与えられたものに有頂天になった時、われら*は彼らを突

فَلَمَّا نَسُواْ مَا ذُكِّرُواْ بِهِۦ فَتَحۡنَا عَلَيۡهِمۡ
أَبۡوَٰبَ كُلِّ شَيۡءٍ حَتَّىٰٓ إِذَا فَرِحُواْ بِمَآ أُوتُوٓاْ
أَخَذۡنَٰهُم بَغۡتَةٗ فَإِذَا هُم مُّبۡلِسُونَ ٤٤

1 つまり、アッラー*以外の何かが物事の害益（がいえき）に作用する、という彼らの主張のこと（ムヤッサル 132 頁参照）。

2 この「猛威」とは、懲罰のこと（アル＝バガウィー2:123 参照）。

3 この「忘れた」は、意図的に放棄した、の意（ムヤッサル 132 頁参照）。

4 これによって困窮は豊かさに、災難は安全に取って代わった。しかしそれは、彼らへの懲罰が少しずつ近づいて来る序章に過ぎなかった（前掲書、同頁参照）。

然、（懲罰で）捕えたのだ。するとどうであろう、彼らは落胆する者たちとなる。

45. こうして不正*を働いた民は、一人残さず根こそぎにされた。全創造物の主*、アッラー*に称賛*あれ。

فَقُطِعَ دَابِرُ ٱلْقَوْمِ ٱلَّذِينَ ظَلَمُوا۟ ۚ وَٱلْحَمْدُ لِلَّهِ
رَبِّ ٱلْعَٰلَمِينَ ﴿٤٥﴾

46. （使徒*よ、彼らシルク*の徒に）言ってやるのだ。「言ってみよ。もしアッラー*があなた方の聴覚と視覚を奪われ、あなた方の心を塞がれたら[1]、一体アッラー*以外のいかなる神[2]が、それをあなた方に与えてくれるのか？」見よ、われら*がいかに御徴[3]を多彩に示し、その後に及んで、彼らが（その熟慮を）拒絶するのかを。

قُلْ أَرَءَيْتُمْ إِنْ أَخَذَ ٱللَّهُ سَمْعَكُمْ وَأَبْصَٰرَكُمْ
وَخَتَمَ عَلَىٰ قُلُوبِكُم مَّنْ إِلَٰهٌ غَيْرُ ٱللَّهِ يَأْتِيكُم
بِهِ ۗ ٱنظُرْ كَيْفَ نُصَرِّفُ ٱلْءَايَٰتِ ثُمَّ هُمْ
يَصْدِفُونَ ﴿٤٦﴾

47. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「言ってみよ。もしアッラー*の懲罰が突然に、あるいは、まざまざと[4]あなた方に到来しても、一体不正*者である民以外、滅ぼされることがあろうか？」

قُلْ أَرَءَيْتَكُمْ إِنْ أَتَىٰكُمْ عَذَابُ ٱللَّهِ بَغْتَةً أَوْ
جَهْرَةً هَلْ يُهْلَكُ إِلَّا ٱلْقَوْمُ ٱلظَّٰلِمُونَ ﴿٤٧﴾

48. われら*が遣わされる者（使徒*）たちを遣わすのは、吉報を伝え、警告を告げる者[5]としてに外ならない。それで誰であろうと、信仰して（行いを）正す者、彼らには怖れもなければ、悲しむこともない[6]。

وَمَا نُرْسِلُ ٱلْمُرْسَلِينَ إِلَّا مُبَشِّرِينَ وَمُنذِرِينَ ۖ
فَمَنْ ءَامَنَ وَأَصْلَحَ فَلَا خَوْفٌ عَلَيْهِمْ وَلَا هُمْ
يَحْزَنُونَ ﴿٤٨﴾

1 アッラー*に視覚や聴覚を奪われたり、心を塞がれたりすることについては、雌牛章 7 の訳注を参照。

2 「神」については、雌牛章 133 の訳注を参照。

3 この「御徴」については、アーヤ*4「御徴」の訳注を参照（アル＝バガウィー2:124 参照）。

4 「突然に…まざまざと」とは、前者が「突然、前置きもなく」後者が「前置きと共に」ということ。また、前者が夜で、後者は昼のことを指すという説もある（アル＝カースィミー6:2317 参照）。

5 「吉報を伝え、警告を告げる」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

6 「怖れもなければ、悲しむこともない」については、雌牛章 38 の訳注を参照。

49. そして、われら*の御徴[1]を嘘呼ばわりした者たち、彼らには、彼らが放逸であったことゆえに懲罰が降りかかるのだ。

وَٱلَّذِينَ كَذَّبُواْ بِـَٔايَٰتِنَا يَمَسُّهُمُ ٱلۡعَذَابُ بِمَا
كَانُواْ يَفۡسُقُونَ ٤٩

50. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「私はあなた方に、自分にはアッラー*の（数々の）宝庫があるなどとは言っていないし、不可視の世界*も知らない[2]。またあなた方に、自分こそは天使*だ、とも言ってはいない。私は、自分に啓示されることに従っているだけなのだ」。言うがいい。「盲人と見える者[3]は、同じであろうか？　そして一体、あなた方は熟考しないのか？」

قُل لَّآ أَقُولُ لَكُمۡ عِندِي خَزَآئِنُ ٱللَّهِ وَلَآ
أَعۡلَمُ ٱلۡغَيۡبَ وَلَآ أَقُولُ لَكُمۡ إِنِّي مَلَكٌۖ
إِنۡ أَتَّبِعُ إِلَّا مَا يُوحَىٰٓ إِلَيَّۚ قُلۡ هَلۡ يَسۡتَوِي
ٱلۡأَعۡمَىٰ وَٱلۡبَصِيرُۚ أَفَلَا تَتَفَكَّرُونَ ٥٠

51. また（使徒*よ）、自分たちの主*の御許へ——かれの外、庇護者*も執り成し手もいないという状態で——召集されることを怖れている者たちが、（アッラー*を）畏れる*ようになるように、それ（クルアーン*）で警告するがよい。

وَأَنذِرۡ بِهِ ٱلَّذِينَ يَخَافُونَ أَن يُحۡشَرُوٓاْ إِلَىٰ
رَبِّهِمۡ لَيۡسَ لَهُم مِّن دُونِهِۦ وَلِيّٞ وَلَا شَفِيعٞ
لَّعَلَّهُمۡ يَتَّقُونَ ٥١

52. そして（預言者*よ、）朝に夕に、その主*の御顔を望んでかれに祈る者たちを、追い払ってはならない[4]。あなたに彼らの詮索を

وَلَا تَطۡرُدِ ٱلَّذِينَ يَدۡعُونَ رَبَّهُم بِٱلۡغَدَوٰةِ وَٱلۡعَشِيِّ
يُرِيدُونَ وَجۡهَهُۥۖ مَا عَلَيۡكَ مِنۡ حِسَابِهِم مِّن
شَيۡءٖ وَمَا مِنۡ حِسَابِكَ عَلَيۡهِم مِّن شَيۡءٖ

---

1 この「御徴」は、クルアーン*のアーヤ*や、預言者*に与えられた奇跡のこと（ムヤッサル 133 頁参照）。

2 アッラー*の知識によるもの以外は、という意味。預言者*は、アッラー*がお教えになったもの以外、不可視の世界*について知ることはない（イブン・カスィール 3:258 参照）。イムラーン家章 179、ジン*章 26-27 も参照。

3 「盲人」とはアッラー*の明証に盲目で、それを理解することもなければ、受容することもない者のこと。「見える者」はその逆（アッ＝タバリー4:3185 参照）。雌牛章 7、雷鳴章 16、フード*章 20、24、巡礼*章 46 とその訳注も参照。

4 このアーヤ*は、アンマール*、ビラール、ハッバーブといった、敬虔な*ムスリム*でありつつも社会的地位の低かった者たちについて、マッカ*の不信仰者*らが預言者*に対し、彼らを追い出すのならあなたに従おう、と言ったことに関して下ったと言われる（ムスリム「教友*たちの徳の書」46 参照）。洞窟章 28 も参照。

する必要は一切なく、彼らにもあなたの詮索をする必要は一切ないのだ[1]。ゆえに彼らを追い払って、不正*者たちの類いとなってしまってはならない。

فَتَطۡرُدَهُمۡ فَتَكُونَ مِنَ ٱلظَّٰلِمِينَ ٥٢

53. 同様に、われら*は彼らをお互いに試練にかけた[2]。その結果、彼らは、「一体、アッラー*は私たちの間から、これらの（弱小な）者たち（を選んで特別）に（導きを）お恵みになったというのか？」と言ったのである[3]。一体アッラー*が、（かれの恩恵に）感謝する者たちを、最もよくご存知なのではないか？

وَكَذَٰلِكَ فَتَنَّا بَعۡضَهُم بِبَعۡضٖ لِّيَقُولُوٓاْ
أَهَٰٓؤُلَآءِ مَنَّ ٱللَّهُ عَلَيۡهِم مِّنۢ بَيۡنِنَآۗ أَلَيۡسَ ٱللَّهُ
بِأَعۡلَمَ بِٱلشَّٰكِرِينَ ٥٣

54. また（預言者*よ）、われら*の御徴[4]を信じる者たち[5]があなたのもとにやって来た時には、（こう）言うがよい。「あなた方に平安を[6]。あなた方の主*は、ご自身に慈悲

وَإِذَا جَآءَكَ ٱلَّذِينَ يُؤۡمِنُونَ بِـَٔايَٰتِنَا فَقُلۡ سَلَٰمٌ
عَلَيۡكُمۡۖ كَتَبَ رَبُّكُمۡ عَلَىٰ نَفۡسِهِ ٱلرَّحۡمَةَ
أَنَّهُۥ مَنۡ عَمِلَ مِنكُمۡ سُوٓءَۢا بِجَهَٰلَةٖ ثُمَّ تَابَ

---

1 一説に、不信仰者*たちは彼らの信仰心を、疑うようなことを言った（アッ＝シャウカーニー2:168 参照）。だが、彼らの信仰心を詮索することは預言者*の仕事ではなく、その内実は彼にとって関係のないことである。彼らの行いの清算が預言者*に影響することもなければ、その逆もない。また、別の解釈によれば、「彼らの糧について、あなたが気にかけることはない」（アル＝バイダーウィー2:412 参照）という意味。

2 アッラー*は人々の間に、貧富や強弱などの差をお付けになった。こうして彼らはアッラー*からの試練として、お互いに依存し合うのである（ムヤッサル 134 頁参照）。金の装飾章 32 も参照。

3 マッカ*時代初期においてイスラーム*を受容した者の多くは、社会的に弱い立場にあった男女の自由民や奴隷*であった。クライシュ族*の不信仰者*らは彼らを見下し、「もしそれ（イスラーム*への導き）が善いものならば、アッラー*は私たちを差しおいて、あのような者たちを善へとお導きになるはずがない」と主張したのだった（イブン・カスィール 3:261 参照）。マルヤム*章 73、砂丘章 11 も参照。

4 この「御徴」はクルアーン*など、預言者*ムハンマド*の正直さを示す証拠のこと（ムヤッサル 134 頁参照）。

5 ここで言及されている者たちとは、新しくイスラーム*を受容した後に預言者*のもとを訪れ、彼らが犯した過去の罪について質問した者たちである、という（アッ＝タバリー4:3195 参照）。

6 「あなた方に平安を」とは、あらゆる忌（い）まわしい物事からの無事を祈願する言葉。現世と来世における、信仰者どうしの挨拶である（アル＝ジャザーイリー2:66 参照）。

をお定めになった[1]。本当に誰であろうと、あなた方の内で無知から悪を行ってしまい、それからその後に悔悟して（行いを）正した者、実にかれ（アッラー*）は（そのような者に対し、）赦し深いお方、慈愛深い*お方なのである」。

مِنۢ بَعۡدِهِۦ وَأَصۡلَحَ فَأَنَّهُۥ غَفُورٞ رَّحِيمٞ ٥٤

55. 同様にわれら*は、御徴[2]を明らかにする。そして（それは真理が露わになり、）罪悪者たちの道が浮き彫りになるためなのだ。

وَكَذَٰلِكَ نُفَصِّلُ ٱلۡأٓيَٰتِ وَلِتَسۡتَبِينَ
سَبِيلُ ٱلۡمُجۡرِمِينَ ٥٥

56. （使徒*よ、彼らシルク*の徒に）言ってやるがいい。「本当に私は、あなた方がアッラー*を差しおいて崇めている者たちを崇拝*することを、禁じられたのだ」。言うのだ。「私は、あなた方の私欲には従わない。そんなことをすれば私は確かに迷い去り、導かれた者の一人ではなくなってしまうのだから」。

قُلۡ إِنِّي نُهِيتُ أَنۡ أَعۡبُدَ ٱلَّذِينَ تَدۡعُونَ مِن
دُونِ ٱللَّهِۚ قُل لَّآ أَتَّبِعُ أَهۡوَآءَكُمۡ قَدۡ ضَلَلۡتُ
إِذٗا وَمَآ أَنَا۠ مِنَ ٱلۡمُهۡتَدِينَ ٥٦

57. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「本当に私は、自分の主*からの明証に依拠している[3]。あなた方は（確かに）、それを嘘呼ばわりしたのだが。私には、あなた方が性急に求めているもの[4]（を実現させる力）などない。（懲罰の時期についての）裁決は、真

قُلۡ إِنِّي عَلَىٰ بَيِّنَةٖ مِّن رَّبِّي وَكَذَّبۡتُم بِهِۦۚ
مَا عِندِي مَا تَسۡتَعۡجِلُونَ بِهِۦٓۚ إِنِ ٱلۡحُكۡمُ
إِلَّا لِلَّهِۖ يَقُصُّ ٱلۡحَقَّۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلۡفَٰصِلِينَ ٥٧

1 「ご自身に慈悲をお定めになった」については、アーヤ*12 の訳注を参照。

2 この「御徴」は、不信仰者*らが否定する全ての真理に対する証拠のこと（ムヤッサル 134 頁参照）。

3 つまりアッラー*から啓示された、その教え - アッラー*のみの崇拝* - における明白な理解を有している、ということ（前掲書、同頁参照）。

4 彼ら不信仰者*らへの懲罰のこと（前掲書、同頁参照）。不信仰者*らはその余りの不信心ゆえ、自分たちに早く懲罰を下してみよ、と嘲笑（ちょうしょう）したものだった。一説には、これは懲罰ではなく、奇跡のこと（アル＝クルトゥビー6:436 参照）。戦利品*章 32、ユーヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、サード章 16、相談章 18、階段章 1-2 なども参照。

理を仰(おっしゃ)り、最善の裁(さば)き手(て)であられるアッラー*にのみ属(ぞく)するのだから」。

58. （使徒(しと)*よ、）言うがいい。「もし私に、あなた方が性急に求めているもの[1]（を実現させる力）があったのならば、私とあなた方の間の問題は片(かた)がつけられたであろう。アッラー*は不正*者たちのことを、最もよくご存知であられる」。

قُل لَّوۡ أَنَّ عِندِي مَا تَسۡتَعۡجِلُونَ بِهِۦ لَقُضِيَ
ٱلۡأَمۡرُ بَيۡنِي وَبَيۡنَكُمۡۗ وَٱللَّهُ أَعۡلَمُ بِٱلظَّٰلِمِينَ ٥٨

59. また、かれ（アッラー*）以外に知る者はない不可視(ふかし)の世界*の鍵(かぎ)[2]は、かれの御許(みもと)にこそある。またかれは、陸と海にあるものも（全て）ご存知である。そしてかれがご存知にならずしては、葉一枚も落ちることがない。また、地面の暗闇(くらやみ)の中にある種(たね)一粒であっても、あるいは湿(しめ)っているものでも、乾(かわ)いているもの[3]でも。（それらのことで）明白な書[4]の中に（記録されて）ないものは、ないのだ。[5]

۞وَعِندَهُۥ مَفَاتِحُ ٱلۡغَيۡبِ لَا يَعۡلَمُهَآ
إِلَّا هُوَۚ وَيَعۡلَمُ مَا فِي ٱلۡبَرِّ وَٱلۡبَحۡرِۚ وَمَا
تَسۡقُطُ مِن وَرَقَةٍ إِلَّا يَعۡلَمُهَا وَلَا حَبَّةٖ فِي
ظُلُمَٰتِ ٱلۡأَرۡضِ وَلَا رَطۡبٖ وَلَا يَابِسٍ إِلَّا
فِي كِتَٰبٖ مُّبِينٖ ٥٩

60. また、かれは夜にあなた方（の魂(たましい)）を召(め)され[6]、あなた方が昼に稼(かせ)いだものをご存知になるお方。それからかれは、（現世での）定められた期間が全(まっと)うされるべく、（その

وَهُوَ ٱلَّذِي يَتَوَفَّىٰكُم بِٱلَّيۡلِ وَيَعۡلَمُ مَا
جَرَحۡتُم بِٱلنَّهَارِ ثُمَّ يَبۡعَثُكُمۡ فِيهِ
لِيُقۡضَىٰٓ أَجَلٞ مُّسَمّٗىۖ ثُمَّ إِلَيۡهِ مَرۡجِعُكُمۡ ثُمَّ
يُنَبِّئُكُم بِمَا كُنتُمۡ تَعۡمَلُونَ ٦٠

---

1 前アーヤ*の訳注を参照。

2 教友*イブン・アッバース*によれば、これはルクマーン章 34 の中で言及されている五つの知識のことであるという（アル＝ブハーリー4778 参照）。

3 この「湿っているもの」「乾いているもの」には、「水場と砂漠」「芽生えるものと芽生えないもの」「生命のあるものと死んだもの」「つまり全てのもの」といった解釈がある（アル＝バガウィー2:130 参照）。

4 「明白な書」とは、守られし碑板*のこと（ムヤッサル 134 頁参照）。

5 同様のアーヤ*として、婦人章 40、ユーヌス*章 61、サバア章 3 も参照。

6 アッラー*は夜（眠っている時に）、人の魂をお召しになるが、それはちょうど死の際に魂が召されるのと似ている。また眠りから目覚めた時、かれはその魂をその身体へと戻されるが、それは死後に生命が与えられることを彷彿（ほうふつ）とさせる。そして同様にアッラー*は、死後の復活がお出来なのだ（ムヤッサル 135 頁参照）。また、集団章 42 も参照。

魂を再び身体に戻すことで、）あなた方をそこ（昼）において蘇らされる。その後かれの御許にこそ、あなた方の帰り所があるのであり、それからかれは、あなた方が（現世で）行っていたことについて、あなた方にお告げになるのだ。

61. また、かれはその僕たちの上に君臨される*お方であり、あなた方に記録者たち[1]を遣わされる。やがてあなた方の誰かに死が訪れれば、われら*の使いたち[2]は抜かりなく、彼（の魂）を召すのだ。

وَهُوَ ٱلْقَاهِرُ فَوْقَ عِبَادِهِۦ ۖ وَيُرْسِلُ عَلَيْكُمْ
حَفَظَةً حَتَّىٰٓ إِذَا جَآءَ أَحَدَكُمُ ٱلْمَوْتُ تَوَفَّتْهُ
رُسُلُنَا وَهُمْ لَا يُفَرِّطُونَ ٦١

62. それから彼らは、自分たちの真の庇護者*であるアッラー*の御許へと戻される。（その日の）裁決は、かれのみに属するのではないか。かれは、最も早く計算される*お方である。

ثُمَّ رُدُّوٓا۟ إِلَى ٱللَّهِ مَوْلَىٰهُمُ ٱلْحَقِّ ۚ أَلَا لَهُ ٱلْحُكْمُ
وَهُوَ أَسْرَعُ ٱلْحَٰسِبِينَ ٦٢

63. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「（人目をはばからず）畏まり、そして密かに（こう）祈るあなた方を、陸と海の闇[3]から救って下さるのは誰なのか？『かれ（アッラー*）が、もしも私たちをここから救って下さったら、私たちは必ずや（かれのみを崇拝*することで、）感謝する者になります』」。

قُلْ مَن يُنَجِّيكُم مِّن ظُلُمَٰتِ ٱلْبَرِّ وَٱلْبَحْرِ
تَدْعُونَهُۥ تَضَرُّعًا وَخُفْيَةً لَّئِنْ أَنجَىٰنَا مِنْ
هَٰذِهِۦ لَنَكُونَنَّ مِنَ ٱلشَّٰكِرِينَ ٦٣

64. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「アッラー*がそこから、そしてあらゆる苦悩から、あなた方をお救い下さるのだ。その後に及んで、あなた方はシルク*を犯すのである」。

قُلِ ٱللَّهُ يُنَجِّيكُم مِّنْهَا وَمِن كُلِّ كَرْبٍ ثُمَّ أَنتُمْ
تُشْرِكُونَ ٦٤

---

1 この「記録者たち」とは、昼夜交代で人間の行いを監視し、記録する天使*たちのこと（アッ＝タバリー4:3203 参照）。雷鳴章 11「交代番」の訳注も参照。

2 この「使いたち」は、死の天使*たちのことを指す（ムヤッサル 135 頁参照）。

3 「陸と海の闇」とは、そこでの困難や恐怖のこと。陸や海の旅行中、道に迷って死の恐怖に陥った時、彼らはアッラー*だけに祈ったものであった（アル＝バガウィー2:130 参照）。

65. （使徒*よ、）言ってやるのだ。「かれはあなた方の頭上から、またはあなた方の足元から、あなた方に懲罰をもたらすこと[1]も、あるいはあなた方を惑わせて分裂させ、互いに（争わせて）痛い目にあわせることもお出来のお方」。見よ、彼らが理解するようにと、われら*がいかに御徴を多彩に示すかを。

قُلْ هُوَ ٱلْقَادِرُ عَلَىٰٓ أَن يَبْعَثَ عَلَيْكُمْ عَذَابًا مِّن
فَوْقِكُمْ أَوْ مِن تَحْتِ أَرْجُلِكُمْ أَوْ يَلْبِسَكُمْ شِيَعًا
وَيُذِيقَ بَعْضَكُم بَأْسَ بَعْضٍ ۗ ٱنظُرْ كَيْفَ نُصَرِّفُ
ٱلْـَٔايَـٰتِ لَعَلَّهُمْ يَفْقَهُونَ ٦٥

66. あなたの民は、それ[2]を嘘呼ばわりした。それは真理であるというのに。言ってやるのだ。「私は、あなた方の代理人[3]などではない」。

وَكَذَّبَ بِهِۦ قَوْمُكَ وَهُوَ ٱلْحَقُّ ۚ قُل لَّسْتُ عَلَيْكُم
بِوَكِيلٍ ٦٦

67. いかなる話にも、帰結がある。やがてあなた方は、（懲罰という自分たちの最後を）知るだろう。

لِّكُلِّ نَبَإٍ مُّسْتَقَرٌّ ۚ وَسَوْفَ تَعْلَمُونَ ٦٧

68. （使徒*よ、）われら*の御徴（アーヤ*）について（嘘と嘲笑をもって）喋っている者たちを目にしたら、彼らがそれとは別の話題に移るまで、彼らから離れよ。そして、もしシャイターン*があなたに（、それが禁止されているのを）忘れさせてしまうことがあっても、思い出した後には、不正*者である民と同席してはならない[4]。

وَإِذَا رَأَيْتَ ٱلَّذِينَ يَخُوضُونَ فِىٓ ءَايَـٰتِنَا فَأَعْرِضْ
عَنْهُمْ حَتَّىٰ يَخُوضُوا۟ فِى حَدِيثٍ غَيْرِهِۦ ۚ وَإِمَّا
يُنسِيَنَّكَ ٱلشَّيْطَـٰنُ فَلَا تَقْعُدْ بَعْدَ
ٱلذِّكْرَىٰ مَعَ ٱلْقَوْمِ ٱلظَّـٰلِمِينَ ٦٨

---

1 「頭上から」の懲罰とは、石が降ってきたり、大雨による洪水などのこと。「足元から」の懲罰とは、地震や地割れなどのことである、とされる（ムヤッサル 135 頁参照）。

2 この「それ」には、「クルアーン*」「懲罰」といった解釈がある（アル＝バガウィー2:133参照）。

3 彼らを守ったり、監視したりする「代理人」（ムヤッサル 135 頁参照）。

4 アッ＝サァディー*は、このアーヤ*が示す内容に含まれるものとして、本人にそれを正す力がない限り「偽（いつわ）りを語る者」「非合法な物事を語ったり行ったりする者」との同席や、あらゆる悪事の場に立ち会うことの禁止も挙げている（260 頁参照）。

69. そして（アッラー*を）畏れる*者たちは、彼らの勘定[1]において、いかなる責任も問われない。しかし彼らが（アッラー*を）畏れる*べく、訓戒を（与えよ）。

وَمَا عَلَى ٱلَّذِينَ يَتَّقُونَ مِنْ حِسَابِهِم مِّن
شَيْءٍ وَلَٰكِن ذِكْرَىٰ لَعَلَّهُمْ يَتَّقُونَ ٦٩

70. （使徒*よ、）自分たちの宗教[2]を遊興と戯れごととし、現世の生活に欺かれた者たちは、放っておけ。また、人が自分で稼いだもの[3]ゆえに（あらゆる善を）差し止められぬよう、それ（クルアーン*）で教訓を与えよ。彼にはアッラー*の外、いかなる庇護者*も執り成し手もないのだ。また、たとえあらゆる代償を払っても、彼から受け入れてはもらえない。それらの者たちは、自分の稼いだものゆえ、（あらゆる善を）差し止められた者たちである。彼らには、彼らが不信仰に陥っていたことゆえの、煮えたぎる湯の飲み物と、痛ましい懲罰があるのだ。

وَذَرِ ٱلَّذِينَ ٱتَّخَذُوا۟ دِينَهُمْ لَعِبًا وَلَهْوًا
وَغَرَّتْهُمُ ٱلْحَيَوٰةُ ٱلدُّنْيَا ۚ وَذَكِّرْ بِهِۦٓ
أَن تُبْسَلَ نَفْسٌۢ بِمَا كَسَبَتْ لَيْسَ
لَهَا مِن دُونِ ٱللَّهِ وَلِيٌّ وَلَا شَفِيعٌ وَإِن تَعْدِلْ
كُلَّ عَدْلٍ لَّا يُؤْخَذْ مِنْهَآ ۗ أُو۟لَٰٓئِكَ
ٱلَّذِينَ أُبْسِلُوا۟ بِمَا كَسَبُوا۟ ۖ لَهُمْ
شَرَابٌ مِّنْ حَمِيمٍ وَعَذَابٌ أَلِيمٌۢ بِمَا
كَانُوا۟ يَكْفُرُونَ ٧٠

71. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「一体私たちが、アッラー*を差しおいて、私たちを益することもなければ、害することもないものに祈るというのか？　また、アッラー*が私たちを導かれた後に、私たちが自分たちの後方へ引き返す[4]とでも？　ちょうど、『私たちのもとに来なさい』と導きに呼びかける（信仰者の）仲間たちがあるにも関わらず、シャイターン*どもに唆さ

قُلْ أَنَدْعُوا۟ مِن دُونِ ٱللَّهِ مَا لَا يَنفَعُنَا وَلَا
يَضُرُّنَا وَنُرَدُّ عَلَىٰٓ أَعْقَابِنَا بَعْدَ إِذْ هَدَىٰنَا
ٱللَّهُ كَٱلَّذِى ٱسْتَهْوَتْهُ ٱلشَّيَٰطِينُ فِى
ٱلْأَرْضِ حَيْرَانَ لَهُۥٓ أَصْحَٰبٌ يَدْعُونَهُۥٓ
إِلَى ٱلْهُدَى ٱئْتِنَا ۗ قُلْ إِنَّ هُدَى ٱللَّهِ هُوَ
ٱلْهُدَىٰ ۖ وَأُمِرْنَا لِنُسْلِمَ لِرَبِّ ٱلْعَٰلَمِينَ ٧١

1 「彼らの勘定」とは、クルアーン*を嘲笑しつつ語っている者たちに対する、アッラー*の清算のこと（ムヤッサル 136 頁参照）。

2 イスラーム*のこと（前掲書、同頁参照）。

3 この「稼いだもの」とは、罪と、自分の主*に対する不信仰のこと（前掲書、同頁参照）。

4 「後方へ引き返す」とは、不信仰へ戻ることを指す（前掲書、同頁参照）。

れ、地上で迷ってしまった者のように？」言うのだ。「本当にアッラー*のお導きこそ、（真の）導きである。そして私たちは、全創造物の主*に服従（イスラーム*）するよう命じられたのだ」。

72. また（、私たちは）礼拝を遵守*し、かれを畏れ*よ、と（命じられた）。かれは（復活の日*）、あなた方がその御許へと召集されるお方である。

وَأَنۡ أَقِيمُواْ ٱلصَّلَوٰةَ وَٱتَّقُوهُۚ وَهُوَ ٱلَّذِيٓ إِلَيۡهِ
تُحۡشَرُونَ ٧٢

73. また、かれは、真実によって諸天と大地をお創りになったお方[1]。かれが「あれ」と仰せられれば、即そのようになる（復活の）日*のこと（を思い起こさせよ）。かれの御言葉は、真実。角笛に吹き込まれるその日[2]、かれにこそ王権は属する[3]。（かれは）不可視の世界*も、現象界[4]もご存知のお方。そしてかれは、英知あふれる*お方、（全てに）通暁されたお方なのだ。

وَهُوَ ٱلَّذِي خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَ بِٱلۡحَقِّۖ
وَيَوۡمَ يَقُولُ كُن فَيَكُونُۚ قَوۡلُهُ ٱلۡحَقُّۚ وَلَهُ
ٱلۡمُلۡكُ يَوۡمَ يُنفَخُ فِي ٱلصُّورِۚ عَٰلِمُ ٱلۡغَيۡبِ
وَٱلشَّهَٰدَةِۚ وَهُوَ ٱلۡحَكِيمُ ٱلۡخَبِيرُ ٧٣

74. イブラーヒーム*がその父アーザルに対し、（こう）言った時のこと（を思い起こさせよ）。「一体あなたは、偶像を神[5]とするのですか？　本当に私は、あなたとあなたの民が、紛れもない迷妄の中にあるとお見受けします」。

۞ وَإِذۡ قَالَ إِبۡرَٰهِيمُ لِأَبِيهِ ءَازَرَ أَتَتَّخِذُ أَصۡنَامًا
ءَالِهَةً إِنِّيٓ أَرَىٰكَ وَقَوۡمَكَ فِي ضَلَٰلٖ مُّبِينٖ ٧٤

---

1 イムラーン家章 191「我らが主*よ、…ありません」の訳注も参照。

2 この角笛が天使*イスラーフィールによって一回目に吹き鳴らされると、全ては息絶え、二回目に吹き鳴らされると、それらが復活する（アル＝クルトゥビー7:20 参照）。

3 そもそも全ての王権はアッラー*に属するが、復活の日*には、かれ以外に王を名乗る者がいなくなる（アッ＝サァディー261 頁参照）。

4 「現象界」とは、人々が目にし、知ることの出来る物事のこと（イブン・カスィール 7:309 参照）。

5 「神」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

75. また同様に、われら*はイブラーヒーム*に諸天と大地の絶対なる王権を見せた[1]。（それは彼がそれによって証明し、）彼が（アッラーの唯一性*について）確信する者の一人となるためであった。

وَكَذَٰلِكَ نُرِيٓ إِبۡرَٰهِيمَ مَلَكُوتَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَٱلۡأَرۡضِ وَلِيَكُونَ مِنَ ٱلۡمُوقِنِينَ ٧٥

76. そして夜の帳が彼の上に下りた時、彼は星を見た。彼は（民に向かって）言った[2]。「これが我が主*だ」。そしてそれが姿を消した時、彼は言った。「私は、消え行くものが好きではない」。

فَلَمَّا جَنَّ عَلَيۡهِ ٱلَّيۡلُ رَءَا كَوۡكَبٗاۖ قَالَ هَٰذَا
رَبِّيۖ فَلَمَّآ أَفَلَ قَالَ لَآ أُحِبُّ ٱلۡأٓفِلِينَ ٧٦

77. また、月が昇るのを見た時、彼は言った。「これが我が主*だ」。そしてそれが姿を消した時、彼は言った。「もしも、我が主*が私をお導きにならなければ、私は必ずや迷い去った民の類いとなってしまうだろう」。

فَلَمَّا رَءَا ٱلۡقَمَرَ بَازِغٗا قَالَ هَٰذَا رَبِّيۖ فَلَمَّآ أَفَلَ
قَالَ لَئِن لَّمۡ يَهۡدِنِي رَبِّي لَأَكُونَنَّ مِنَ
ٱلۡقَوۡمِ ٱلضَّآلِّينَ ٧٧

78. それから太陽が昇るのを見た時、彼は言った。「これが我が主*だ。これは（前者）より大きい」。そしてそれが姿を消した時、彼は言った。「我が民よ、本当に私は、あなた方が（アッラー*に）並べて（崇めて）いるものとは無縁なのだ。

فَلَمَّا رَءَا ٱلشَّمۡسَ بَازِغَةٗ قَالَ هَٰذَا رَبِّي
هَٰذَآ أَكۡبَرُۖ فَلَمَّآ أَفَلَتۡ قَالَ يَٰقَوۡمِ إِنِّي
بَرِيٓءٞ مِّمَّا تُشۡرِكُونَ ٧٨

79. 本当に私は、諸天と大地を創成されたお方[3]に、我が顔を純正に向ける[4]。そして私は、シルク*の徒の類いではないのだ」。

إِنِّي وَجَّهۡتُ وَجۡهِيَ لِلَّذِي فَطَرَ
ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَ حَنِيفٗاۖ وَمَآ أَنَا۠ مِنَ
ٱلۡمُشۡرِكِينَ ٧٩

1 つまりアッラー*はそこにある創造物を通して、イブラーヒーム*がアッラーの唯一性*を証明する方法を教示された（イブン・カスィール 3:290 参照）。

2 ここからアーヤ*78 までのイブラーヒーム*の語りは、天体を拝していた自分の民に対し、彼らの宗教の間違いと、アッラーの唯一性*を証明するための議論として彼が用いた手法であり、彼自身の信仰が誤っていたわけではない（ムヤッサル 137 頁参照）。

3 頻出名・用語解説の「創成者*」も参照。

4 「我が顔を純正に向ける」とは、自分の崇拝*行為をアッラー*のみに向ける、ということ。「顔」という語が用いられているのは、それが人間において最も特徴ある部位であるためとされる（アル＝クルトゥビー7:28 参照）。「純正」については雌牛章 135 の訳注を参照。

80. 彼の民は、彼と言い争った。彼は言った。「一体あなた方は、アッラー（の唯一性*）について、私と言い争うというのか？　かれは確かに、私をお導きになったというのに。私は、あなた方が（アッラー*に）並べて（崇めて）いるもの（の害）など、怖れてはいない。ただ、我が主*が何か（私を罰されるようなこと）をお望みになるのなら、別だが。我が主*は（その）知識で、全てのものを網羅されているのだ。一体あなた方は、教訓を得ないのか？

وَحَآجَّهُۥ قَوْمُهُۥ ۚ قَالَ أَتُحَٰٓجُّوٓنِّى فِى ٱللَّهِ وَقَدْ
هَدَىٰنِ ۚ وَلَآ أَخَافُ مَا تُشْرِكُونَ بِهِۦٓ إِلَّآ
أَن يَشَآءَ رَبِّى شَيْـًٔا ۗ وَسِعَ رَبِّى كُلَّ شَىْءٍ
عِلْمًا ۗ أَفَلَا تَتَذَكَّرُونَ ﴿٨٠﴾

81. また、どうして私が、あなた方が（アッラー*に）並べて（崇めて）いるものを怖れようか？　あなた方はアッラー*に対し、かれが（崇拝*すべき）いかなる根拠も下されなかったものを並べ（て崇め）ることを、怖れてはいない。ならば二派[1]の内のいずれが、（アッラー*の懲罰から）より安泰であるというのか？　もし、あなた方が知っているのならば（、だが）」。

وَكَيْفَ أَخَافُ مَآ أَشْرَكْتُمْ وَلَا تَخَافُونَ
أَنَّكُمْ أَشْرَكْتُم بِٱللَّهِ مَا لَمْ يُنَزِّلْ بِهِۦ
عَلَيْكُمْ سُلْطَٰنًا ۚ فَأَىُّ ٱلْفَرِيقَيْنِ أَحَقُّ
بِٱلْأَمْنِ ۖ إِن كُنتُمْ تَعْلَمُونَ ﴿٨١﴾

82. 信仰し、その信仰に、いかなる不正*[2]も混じえない者たち、そのような者たちにこそ安泰があるのであり、彼らは導かれた者たちなのだ。

ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَلَمْ يَلْبِسُوٓا۟ إِيمَٰنَهُم بِظُلْمٍ
أُو۟لَٰٓئِكَ لَهُمُ ٱلْأَمْنُ وَهُم مُّهْتَدُونَ ﴿٨٢﴾

83. それが、われら*がイブラーヒーム*に、その民に対して授けた論拠である。われら*は、われら*が望む者の位を上げるのだ。本当にあなたの主*は、英知あふれる*お方、全知者であられるのだから。

وَتِلْكَ حُجَّتُنَآ ءَاتَيْنَٰهَآ إِبْرَٰهِيمَ عَلَىٰ قَوْمِهِۦ ۚ
نَرْفَعُ دَرَجَٰتٍ مَّن نَّشَآءُ ۗ إِنَّ رَبَّكَ
حَكِيمٌ عَلِيمٌ ﴿٨٣﴾

1 つまりアッラー*だけを崇拝*する徒と、シルク*の徒のこと（ムヤッサル 137 頁参照）。
2 この「不正*」は、シルク*のこと（アル＝ブハーリー4629 参照）。

84. また、われら*は彼にイスハーク*とヤアクーブ*を恵み、（その）いずれをも導いた。また（彼ら）以前に、ヌーフ*も導いた。そしてその子孫であるダーウード*、スライマーン*、アイユーブ*、ユースフ*、ムーサー*、ハールーン*も。同様にわれら*は、善を尽くす者[1]たちに報いるのだ。

وَوَهَبۡنَا لَهُۥٓ إِسۡحَٰقَ وَيَعۡقُوبَۚ كُلًّا هَدَيۡنَاۚ
وَنُوحًا هَدَيۡنَا مِن قَبۡلُۖ وَمِن ذُرِّيَّتِهِۦ دَاوُۥدَ
وَسُلَيۡمَٰنَ وَأَيُّوبَ وَيُوسُفَ وَمُوسَىٰ
وَهَٰرُونَۚ وَكَذَٰلِكَ نَجۡزِي
ٱلۡمُحۡسِنِينَ ٨٤

85. またザカリーヤー*、ヤヒヤー*、イーサー*、イルヤース*も（導いた）。（彼らは）皆、正しい者*たちの仲間であった。

وَزَكَرِيَّا وَيَحۡيَىٰ وَعِيسَىٰ وَإِلۡيَاسَۖ كُلّٞ
مِّنَ ٱلصَّٰلِحِينَ ٨٥

86. そしてイスマーイール*、アル＝ヤサウ*、ユーヌス*、ルート*も（導いた）。彼ら全員を、われら*は外のいかなる者よりも引き立てた[2]のだ。

وَإِسۡمَٰعِيلَ وَٱلۡيَسَعَ وَيُونُسَ وَلُوطٗاۚ وَكُلّٗا
فَضَّلۡنَا عَلَى ٱلۡعَٰلَمِينَ ٨٦

87. また彼らの先祖、子孫、兄弟の内からも（導いた）。そしてわれら*は彼らを選り抜き、彼らをまっすぐな道へと導いたのだ。

وَمِنۡ ءَابَآئِهِمۡ وَذُرِّيَّٰتِهِمۡ وَإِخۡوَٰنِهِمۡۖ وَٱجۡتَبَيۡنَٰهُمۡ
وَهَدَيۡنَٰهُمۡ إِلَىٰ صِرَٰطٖ مُّسۡتَقِيمٖ ٨٧

88. それはアッラー*のお導きであり、かれはその僕たちの内から、かれがお望みになる者をそれで導かれる。そして、もし彼らがシルク*を犯したら、彼らが行っていたことは彼らにとって台無しになるのだ。

ذَٰلِكَ هُدَى ٱللَّهِ يَهۡدِي بِهِۦ مَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦۚ
وَلَوۡ أَشۡرَكُواْ لَحَبِطَ عَنۡهُم مَّا كَانُواْ يَعۡمَلُونَ ٨٨

89. それらの（預言）者*たちは、われら*が啓典と英知と預言者*としての天分を授けた者たちである。それで、もしこれらの（不信仰）者*たちがそれ[3]を否定するのなら、われら*はそれを否定しない（別の）民[4]に、それを確かに委ねるであろう。

أُوْلَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ ءَاتَيۡنَٰهُمُ ٱلۡكِتَٰبَ
وَٱلۡحُكۡمَ وَٱلنُّبُوَّةَۚ فَإِن يَكۡفُرۡ بِهَا هَٰٓؤُلَآءِ
فَقَدۡ وَكَّلۡنَا بِهَا قَوۡمٗا لَّيۡسُواْ بِهَا بِكَٰفِرِينَ ٨٩

---

1 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。
2 「外のいかなる者よりも…」については、雌牛章 47 の訳注を参照。
3 クルアーン*のアーヤ*のこと（ムヤッサル 138 頁参照）。
4 この「民」とは、ムハージルーン*とアンサール*、そして彼らの後を継ぐムスリム*たちのこと（前掲書、同頁参照）。

90. それらの者たちは、アッラー*がお導き下さった者たち。ならば（使徒*よ）、彼らの導きをこそ踏襲するのだ。言うがよい。「私はそのことゆえに、あなた方に見返り[1]を求めているわけではない。それは全世界への教訓に外ならないのだから」。

أُوْلَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ هَدَى ٱللَّهُۖ فَبِهُدَىٰهُمُ ٱقۡتَدِهۡۗ
قُل لَّآ أَسۡـَٔلُكُمۡ عَلَيۡهِ أَجۡرًاۖ إِنۡ هُوَ إِلَّا
ذِكۡرَىٰ لِلۡعَٰلَمِينَ ٩٠

91. 彼らは、彼らが「アッラー*は人間に、何もお下しにはならなかった」と言った時、アッラー*を真に敬わなかった。（使徒*よ、彼らシルク*の徒に）言ってやるがいい。「ムーサー*が人々への光と導きとして携えて来た啓典（トーラー*）を下したのは、一体誰なのか？ あなた方[2]はそれを（分断された）紙片に記している。あなた方はそれ（の一部）は公けにし、多くの部分[3]は隠蔽しているのだ。あなた方（アラブ人）は、あなた方自身も自分たちの先祖も知らなかったことを、（クルアーン*によって）教わったというのに」。言ってやるのだ。「（それを下したのは、）アッラー*である」。それから彼らを、その戯言の中でふざけるままに、放っておくのだ。

وَمَا قَدَرُواْ ٱللَّهَ حَقَّ قَدۡرِهِۦٓ إِذۡ قَالُواْ مَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ
عَلَىٰ بَشَرٖ مِّن شَيۡءٖۗ قُلۡ مَنۡ أَنزَلَ ٱلۡكِتَٰبَ
ٱلَّذِي جَآءَ بِهِۦ مُوسَىٰ نُورٗا وَهُدٗى لِّلنَّاسِۖ
تَجۡعَلُونَهُۥ قَرَاطِيسَ تُبۡدُونَهَا وَتُخۡفُونَ كَثِيرٗاۖ
وَعُلِّمۡتُم مَّا لَمۡ تَعۡلَمُوٓاْ أَنتُمۡ وَلَآ ءَابَآؤُكُمۡۖ قُلِ
ٱللَّهُۖ ثُمَّ ذَرۡهُمۡ فِي خَوۡضِهِمۡ يَلۡعَبُونَ ٩١

92. これ（クルアーン*）は、われら*が下した、祝福にあふれ、それ以前のものを確証する啓典である。また、あなたが都市の母と、

وَهَٰذَا كِتَٰبٌ أَنزَلۡنَٰهُ مُبَارَكٞ مُّصَدِّقُ ٱلَّذِي
بَيۡنَ يَدَيۡهِ وَلِتُنذِرَ أُمَّ ٱلۡقُرَىٰ وَمَنۡ حَوۡلَهَاۚ
وَٱلَّذِينَ يُؤۡمِنُونَ بِٱلۡأٓخِرَةِ يُؤۡمِنُونَ بِهِۦۖ وَهُمۡ عَلَىٰ

1 アッラー*の教えへと招くことと、人々がそれを受け入れることによる、貸しや物質的見返りのこと（アッ＝サァディー263 頁参照）。

2 この「あなた方」はマッカ*の不信仰者*ではなく、語りかけの対象が一転して、ユダヤ教徒*たちを指している、とされる。そして後に、また語りかけの対象はアラブ人の不信仰者*らに戻る（ムヤッサル 139 頁参照）。

3 預言者*ムハンマド*の特徴と、彼の預言者*性を描写するくだりなどのこと（前掲書、同頁参照）。

その周辺[1]にいる者へ警告を告げるために（、われら*はそれを下した）。そして来世を信じる者は、自分たちの礼拝を遵守*しつつ、それを信じるのだ。

صَلَاتِهِمْ يُحَافِظُونَ ﴿٩٢﴾

93. 一体、アッラー*に対して嘘を捏造したり、自分には何も下っていないのに「私に啓示が下った」と言ったり、あるいは「アッラー*が下したようなものを、下してやろう」などと言った者よりも、ひどい不正*を働く者があろうか？ （使徒*よ、）もしあなたが、不正*者たちが死の苦悶の中にあり、天使*たち[2]が彼らに手を伸ばす時のことを見るのならば！ （天使*たちは、言う。）「あなた方の魂を、出せ[3]。この日あなた方は、自分たちがアッラー*に対して真実ではないことを語っていたことと、かれの御徴に対して奢り高ぶっていたことゆえに、屈辱の懲罰で報われるのだ」。

وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّنِ ٱفْتَرَىٰ عَلَى ٱللَّهِ كَذِبًا أَوْ قَالَ
أُوحِيَ إِلَيَّ وَلَمْ يُوحَ إِلَيْهِ شَيْءٌ وَمَن قَالَ
سَأُنزِلُ مِثْلَ مَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ ۗ وَلَوْ تَرَىٰٓ إِذِ ٱلظَّٰلِمُونَ
فِي غَمَرَٰتِ ٱلْمَوْتِ وَٱلْمَلَٰٓئِكَةُ بَاسِطُوٓا۟ أَيْدِيهِمْ
أَخْرِجُوٓا۟ أَنفُسَكُمُ ۖ ٱلْيَوْمَ تُجْزَوْنَ عَذَابَ ٱلْهُونِ
بِمَا كُنتُمْ تَقُولُونَ عَلَى ٱللَّهِ غَيْرَ ٱلْحَقِّ وَكُنتُمْ
عَنْ ءَايَٰتِهِۦ تَسْتَكْبِرُونَ ﴿٩٣﴾

94. （復活の日*、彼らにはこう言われる。）「あなた方は確かに、われら*があなた方を最初に創った時のように、われら*のもとに一人きりでやって来た[4]。われら*が（現世で）

وَلَقَدْ جِئْتُمُونَا فُرَٰدَىٰ كَمَا خَلَقْنَٰكُمْ أَوَّلَ مَرَّةٍ
وَتَرَكْتُم مَّا خَوَّلْنَٰكُمْ وَرَآءَ ظُهُورِكُمْ ۖ وَمَا
نَرَىٰ مَعَكُمْ شُفَعَآءَكُمُ ٱلَّذِينَ زَعَمْتُمْ أَنَّهُمْ
فِيكُمْ شُرَكَٰٓؤُا۟ ۚ لَقَد تَّقَطَّعَ بَيْنَكُمْ وَضَلَّ

1 「都市の母」とは、マッカ*のこと。この呼び名の理由には、大地がマッカ*から広がったからという説や、アッラー*を崇拝*するための最初の館がそこに建設されたからという説など、諸説ある（アッ＝タバリー4:3262 参照）。また「その周辺にいる者」とは、全ての土地の民のこと（ムヤッサル 139 頁参照）。

2 人の魂を抜き取る役目を負う、死の天使*たちのこと（前掲書、同頁参照）。

3 死の天使*たちは不信仰者*が死ぬ時、彼に対する懲罰とアッラー*のお怒りを告げる。すると不信仰者*の魂はその体から出ることを拒（こば）むので、天使*はそれを叩いて無理やり引き出すことになる（イブン・カスィール 3:302 参照）。一方、信仰者の魂は主*との拝謁（はいえつ）を望み、自ら進んで出てくる（アル＝クルトゥビー7:42 参照）。

4 預言者*は仰（おっしゃ）った。「復活の日*、人々は靴も衣服も纏（まと）わず、割礼もされていない状態で召集される」（アル＝ブハーリー6527 参照）。また、洞窟章 48 と預言者*たち章 104 も参照。

あなた方に授けたものを、自分たちの背後に置き去りにして。そしてわれら*は（この日、）あなた方が、自分たち（の崇拝*）における（アッラー*の）同位者であると主張していたあなた方の執り成し手[1]を、あなた方と共に見出すことはない。あなた方の間（の関係）は既に断絶し、あなた方が主張していたものは、あなた方から消え失せてしまったのだ」。

عَنكُم مَّا كُنتُمْ تَزْعُمُونَ ٩٤

95. 本当にアッラー*は、種粒と種子[2]を裂かれ（、芽吹かせ）るお方。かれは死から生を取り出され、生から死を取り出されるお方[3]。そのお方がアッラー*。では一体どうして、あなた方は（真理から）背かされるのか？

۞ إِنَّ ٱللَّهَ فَالِقُ ٱلْحَبِّ وَٱلنَّوَىٰ ۖ يُخْرِجُ ٱلْحَىَّ مِنَ
ٱلْمَيِّتِ وَمُخْرِجُ ٱلْمَيِّتِ مِنَ ٱلْحَىِّ ۚ ذَٰلِكُمُ ٱللَّهُ ۖ
فَأَنَّىٰ تُؤْفَكُونَ ٩٥

96. （かれは夜の闇から）暁を裂き出されるお方。また、かれは夜を安住の場とされ、太陽と月（の運行）を計算[4]とされた。それは偉力ならびなき*お方、全知者のお定めである。

فَالِقُ ٱلْإِصْبَاحِ وَجَعَلَ ٱلَّيْلَ سَكَنًا وَٱلشَّمْسَ
وَٱلْقَمَرَ حُسْبَانًا ۚ ذَٰلِكَ تَقْدِيرُ ٱلْعَزِيزِ ٱلْعَلِيمِ ٩٦

97. またかれは、それによってあなた方が陸と海の闇の中を導かれるべく、あなた方のために星々をお創りになったお方。われら*は知識ある民に対し、確かに御徴[5]を詳細にした。

وَهُوَ ٱلَّذِى جَعَلَ لَكُمُ ٱلنُّجُومَ لِتَهْتَدُوا۟
بِهَا فِى ظُلُمَٰتِ ٱلْبَرِّ وَٱلْبَحْرِ ۗ قَدْ فَصَّلْنَا ٱلْـَٔايَٰتِ
لِقَوْمٍ يَعْلَمُونَ ٩٧

---

1 彼らがそれらを執り成し手と見なしていたことについては、集団章 3 とその訳注を参照。

2 「種粒（ハッブ）」は麦類のような、種そのもののこと。「種子（ナワー）」は桃やナツメヤシなどのように、果実に包まれた種のこと（アッ＝ラーズィー5:71 参照）。

3 「死から生を取り出され…」については、イムラーン家章 27 の訳注を参照。

4 つまり、それらが正確な「計算」に基づいて運行するものとされた（ムヤッサル 140 頁参照）。そして人はそれらの運行により、時間を知ることが出来る（アッ＝サァディー265 頁参照）。ユーヌス*章 5 とその訳注も参照。

5 この「御徴」は、アッラー*の御力と偉大さ、英知を示す数々の証拠のこと（アッ＝シャウカーニー2:202 参照）。

98. またかれは、あなた方を一人の者（アーダム*）からお創りになったお方。それで（あなた方には、）定住地と収容地[1]がある。われら*は理解ある民に対し、確かに御徴[2]を明らかにした。

وَهُوَ ٱلَّذِيٓ أَنشَأَكُم مِّن نَّفۡسٖ وَٰحِدَةٖ
فَمُسۡتَقَرّٞ وَمُسۡتَوۡدَعٞۗ قَدۡ فَصَّلۡنَا ٱلۡأٓيَٰتِ لِقَوۡمٖ
يَفۡقَهُونَ ٩٨

99. またかれは、天から（雨）水をお降らしになったお方。そしてわれら*は、それであらゆる植物を芽吹かせ、そこから（瑞々しい）緑を生じさせた。われら*はそこから、連なり重なる種粒を実らせる。またナツメヤシの木、その莢[3]からは（われら*の意思によって）、低く垂れ下がる房がなる。そして葡萄の果樹園、また（、一面では）似ているが、（別の面では）異なる[4]オリーブとザクロも（生じさせた）。それが実をつけ熟した時に、その果実を見てみるがよい。実にその中にはまさしく、信仰する民への御徴[5]があるのだから。

وَهُوَ ٱلَّذِيٓ أَنزَلَ مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءٗ فَأَخۡرَجۡنَا
بِهِۦ نَبَاتَ كُلِّ شَيۡءٖ فَأَخۡرَجۡنَا مِنۡهُ خَضِرٗا
نُّخۡرِجُ مِنۡهُ حَبّٗا مُّتَرَاكِبٗا وَمِنَ ٱلنَّخۡلِ مِن
طَلۡعِهَا قِنۡوَانٞ دَانِيَةٞ وَجَنَّٰتٖ مِّنۡ أَعۡنَابٖ
وَٱلزَّيۡتُونَ وَٱلرُّمَّانَ مُشۡتَبِهٗا وَغَيۡرَ مُتَشَٰبِهٍۗ
ٱنظُرُوٓاْ إِلَىٰ ثَمَرِهِۦٓ إِذَآ أَثۡمَرَ وَيَنۡعِهِۦٓۚ إِنَّ فِي
ذَٰلِكُمۡ لَأٓيَٰتٖ لِّقَوۡمٖ يُؤۡمِنُونَ ٩٩

100. 彼ら（シルク*の徒）はアッラー*に対し、ジン*を（アッラー*の崇拝*における）同位者とし（て崇め）た。かれ（アッラー*）が、彼ら（ジン*）をお創りになったというのに。また彼ら（シルク*の徒）は知識

وَجَعَلُواْ لِلَّهِ شُرَكَآءَ ٱلۡجِنَّ وَخَلَقَهُمۡۖ وَخَرَقُواْ
لَهُۥ بَنِينَ وَبَنَٰتِۭ بِغَيۡرِ عِلۡمٖۚ سُبۡحَٰنَهُۥ وَتَعَٰلَىٰ عَمَّا
يَصِفُونَ ١٠٠

1 「定住地と収容地」の解釈には、前者と後者がそれぞれ「子宮と墓場」「子宮と男性の後背部（男性の精液が生成・収容される場所の意）」「子宮と地上」「現世と来世」「墓場と現世」「墓場と来世」というように大きな見解の相違が見られる（アル＝バガウィー 2:146-147 参照）。

2 この「御徴」については、アーヤ*97 の訳注を参照。

3 これはナツメヤシの実がなる房が出てくる、莢状のもののこと（イブン・アーシュール 7:328 参照）。

4 この意味の解釈には、「葉は似ているが、実は異なる」「見た目は似ているが、味は異なる」といった複数の説がある（アッ＝タバリー 4:3287 参照）。

5 この「御徴」については、アーヤ*97 の訳注を参照。

もなく、かれに息子や娘をでっち上げた[1]。かれに称え*あれ、かれは彼らの言うようなこと（シルク*を犯しているもの）から（無縁で）、遥か高遠[2]であられる。

101. （かれは）諸天と大地の独創者*。かれには伴侶もないのに、どうしてかれに子供などあり得ようか？　そしてかれが全てをお創りになり、かれは全てのことをご存知のお方だというのに？

بَدِيعُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۖ أَنَّىٰ يَكُونُ لَهُۥ وَلَدٞ
وَلَمۡ تَكُن لَّهُۥ صَٰحِبَةٞۖ وَخَلَقَ كُلَّ شَيۡءٖۖ وَهُوَ
بِكُلِّ شَيۡءٍ عَلِيمٞ ١٠١

102. そのお方がアッラー*、あなた方の主*、かれ以外に（真に）崇拝*すべきものはない。（かれは）全ての創造主である。ならば、かれを崇拝*せよ。かれは、全てのことを請け負われる*お方であられる。

ذَٰلِكُمُ ٱللَّهُ رَبُّكُمۡۖ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَۖ خَٰلِقُ كُلِّ
شَيۡءٖ فَٱعۡبُدُوهُۚ وَهُوَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ
وَكِيلٞ ١٠٢

103. 視覚が（現世で）かれ（アッラー*）を捉えることはない[3]。かれが視覚を捉え給うのであり、かれは霊妙な*お方、通暁されるお方なのだ。

لَّا تُدۡرِكُهُ ٱلۡأَبۡصَٰرُ وَهُوَ يُدۡرِكُ ٱلۡأَبۡصَٰرَۖ
وَهُوَ ٱللَّطِيفُ ٱلۡخَبِيرُ ١٠٣

104. （使徒*よ、言うがよい。）「あなた方の主*の御許からあなた方のもとに、開眼[4]が確かに到来した。（それに）開眼する者は誰でも、自分自身を益し、（そこにお

قَدۡ جَآءَكُم بَصَآئِرُ مِن رَّبِّكُمۡۖ فَمَنۡ
أَبۡصَرَ فَلِنَفۡسِهِۦۖ وَمَنۡ عَمِيَ فَعَلَيۡهَاۚ وَمَآ أَنَا۠
عَلَيۡكُم بِحَفِيظٖ ١٠٤

1 キリスト教徒*のイーサー*やユダヤ教徒*のウザイル（悔悟章 30 参照）のように、アッラー*には息子があるとか、あるいは当時のアラブ人のように、天使*がアッラー*の娘である（蜜蜂章 57 とその訳注も参照）というようなことを、根拠もなく語っていたことを指す（イブン・ジュザイ 1:281 参照）。

2 雌牛章 116 の訳注も参照。

3 復活の日*、信仰者はアッラー*との拝謁（はいえつ）の際、かれの全体像を捉えることは出来なくても、かれを拝見する栄誉に与（あず）かることが出来るとされる（アル＝ブハーリー7434 参照）。

4 この「開眼」とは、それによって迷いから導きを見極（みきわ）めることの出来る明証、つまりクルアーン*のこと（ムヤッサル 141 頁参照）。

いて）盲目である者[1]は誰でも、自分自身を害するのだ。そして私は、あなた方の監視役[2]などではない」。

105. 同様に、われら*は御徴[3]を多彩に示すのだ。そして（その結果、）彼ら（シルク*の徒）は、「あなたは学習したのだ」[4]と言ったのだが、（それは）われら*が、それを知識ある民に明らかにするためなのだ。

وَكَذَٰلِكَ نُصَرِّفُ ٱلۡأٓيَٰتِ وَلِيَقُولُواْ
دَرَسۡتَ وَلِنُبَيِّنَهُۥ لِقَوۡمٖ يَعۡلَمُونَ ١٠٥

106. （使徒*よ、）あなたの主*からあなたに啓示されたものに、従え――かれの外に、崇拝*すべきものはない――。そして、シルク*の徒から遠ざかれ。

ٱتَّبِعۡ مَآ أُوحِيَ إِلَيۡكَ مِن رَّبِّكَۖ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَۖ
وَأَعۡرِضۡ عَنِ ٱلۡمُشۡرِكِينَ ١٠٦

107. また、もしアッラー*がお望みであったなら、彼らはシルク*を犯さなかったのだ[5]。そしてわれら*は、（使徒*よ、）あなたを彼らに対する監視役[6]としたのではないし、あなたは彼らへの（諸事の面倒を見るための）代理人というわけでもない。

وَلَوۡ شَآءَ ٱللَّهُ مَآ أَشۡرَكُواْۗ وَمَا جَعَلۡنَٰكَ
عَلَيۡهِمۡ حَفِيظٗاۖ وَمَآ أَنتَ عَلَيۡهِم بِوَكِيلٖ ١٠٧

108. （ムスリム*たちよ、）あなた方は、彼らがアッラー*を差しおいて祈っているものを、罵ったりしてはならない。そうすれば彼らは度を越して、知識もないまま

وَلَا تَسُبُّواْ ٱلَّذِينَ يَدۡعُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ
فَيَسُبُّواْ ٱللَّهَ عَدۡوَۢا بِغَيۡرِ عِلۡمٖۗ كَذَٰلِكَ زَيَّنَّا لِكُلِّ
أُمَّةٍ عَمَلَهُمۡ ثُمَّ إِلَىٰ رَبِّهِم مَّرۡجِعُهُمۡ
فَيُنَبِّئُهُم بِمَا كَانُواْ يَعۡمَلُونَ ١٠٨

1 「盲目である者」に関しては、アーヤ*50「盲人」の訳注を参照。

2 「監視役」については、婦人章 80 の訳注を参照。

3 この「御徴」とは、アッラーの唯一性*、ムハンマド*の預言者*性、復活などの証拠（ムヤッサル 141 頁参照）。

4 マッカ*の不信仰者*らは、預言者*ムハンマド*がクルアーン*を、異国人や啓典の民*から教わったものである、と主張したりもした（アル＝バガウィー2:149 参照）。蜜蜂章 103、識別章 4-5、煙霧章 14 も参照。

5 これはシルク*の徒が信仰を望んでいるのに、アッラー*がそれを阻（はば）まれるということではない。アッラー*は、信仰への意思も示さず、不信仰にしがみついている者の信仰を望まれないのである（アブー・アッ＝スウード 3:171 参照）。集団章 7 も参照。

6 「監視役」については、婦人章 80 の訳注を参照。

に、アッラー*のことを罵ってしまうだろう。同様にわれら*は、各共同体にその行いを目映く見せたのだ。その後、彼らの主*の御許こそは、彼らの戻る場所なのであり、かれは彼らが行っていたことについて、彼らにお告げになるのである。

109. 彼らは、もしも御徴[1]が自分たちに到来したら（使徒*のことを）必ず信じる、と躍起になってアッラー*にかけて誓った。（使徒*よ、）言ってやるがいい。「御徴は、アッラー*の御許（から）だけである」。そしてそれが到来しても、彼らが信じない（かもしれない）ということを、何があなた方に知らせようか？

وَأَقۡسَمُواْ بِٱللَّهِ جَهۡدَ أَيۡمَٰنِهِمۡ لَئِن جَآءَتۡهُمۡ
ءَايَةٞ لَّيُؤۡمِنُنَّ بِهَاۚ قُلۡ إِنَّمَا ٱلۡأٓيَٰتُ عِندَ ٱللَّهِۖ
وَمَا يُشۡعِرُكُمۡ أَنَّهَآ إِذَا جَآءَتۡ لَا يُؤۡمِنُونَ ١٠٩

110. 彼らがそれを当初から信じなかったように、われらは彼らの心と眼を（アッラー*の御徴の理解から）転回させる[2]。そしてわれら*は、彼らが彷徨うまま、彼らを（アッラー*への反抗という）ひどい放埓さの中に放ったらかしにしておくのだ。

وَنُقَلِّبُ أَفۡـِٔدَتَهُمۡ وَأَبۡصَٰرَهُمۡ كَمَا لَمۡ
يُؤۡمِنُواْ بِهِۦٓ أَوَّلَ مَرَّةٖ وَنَذَرُهُمۡ فِي
طُغۡيَٰنِهِمۡ يَعۡمَهُونَ ١١٠

111. たとえ、われら*が彼ら（シルク*の徒）に天使*を降臨させ、（われら*が蘇らせた）死人が彼らに語りかけ、彼らの眼前に（彼らが求める）全てを結集させたところで、アッラー*がお望みにならない限り、彼らが信仰すべくもない。しかし彼らの大半は、無知なのである。

۞وَلَوۡ أَنَّنَا نَزَّلۡنَآ إِلَيۡهِمُ ٱلۡمَلَٰٓئِكَةَ
وَكَلَّمَهُمُ ٱلۡمَوۡتَىٰ وَحَشَرۡنَا عَلَيۡهِمۡ كُلَّ
شَيۡءٖ قُبُلٗا مَّا كَانُواْ لِيُؤۡمِنُوٓاْ إِلَّآ أَن يَشَآءَ
ٱللَّهُ وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَهُمۡ يَجۡهَلُونَ ١١١

1 この「御徴」とは、奇跡のこと。雌牛章 108、ユーヌス*章 97、夜の旅章 90-93、ター・ハー章 133、預言者*たち章 6、識別章 7-8、創成者*章 42 も参照。

2 つまり、信仰から阻（はば）まれるということ。これは目の前に扉が開かれ、道を示されたにも関わらず、当初から信仰を拒（こば）み続けた不信仰者*の状態。そしてそのような結果を招いたのは、自分自身なのである（アッ＝サァディー269 頁参照）。

112. 同様に、われら*は全ての預言者*に、人間とジン*のシャイターン*という敵を創った。彼らは（アッラー*の道に反して）欺こうとし、飾り立てた（嘘の）言葉で互いに唆し合う。そして、もしあなたの主*がお望みだったなら、彼らはそうしなかっただろう（、しかしそれは、アッラー*からの試練なのだ）。ならば彼らを、彼らの捏造するもの諸共、放っておくのだ。

وَكَذَٰلِكَ جَعَلْنَا لِكُلِّ نَبِيٍّ عَدُوًّا
شَيَٰطِينَ ٱلْإِنسِ وَٱلْجِنِّ يُوحِى بَعْضُهُمْ
إِلَىٰ بَعْضٍ زُخْرُفَ ٱلْقَوْلِ غُرُورًا ۚ وَلَوْ شَآءَ
رَبُّكَ مَا فَعَلُوهُ ۖ فَذَرْهُمْ وَمَا يَفْتَرُونَ ﴿١١٢﴾

113. また、来世を信じない者たちの心がそこ（嘘の言葉）へと傾き、それに満足し、彼らが犯すもの[1]を犯すようにするため(、彼らは唆し合う）。

وَلِتَصْغَىٰٓ إِلَيْهِ أَفْـِٔدَةُ ٱلَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ بِٱلْـَٔاخِرَةِ
وَلِيَرْضَوْهُ وَلِيَقْتَرِفُوا۟ مَا هُم مُّقْتَرِفُونَ ﴿١١٣﴾

114. （使徒*よ、シルク*の徒に言ってやるがいい。）「一体、私がアッラー*以外のものを裁決者として望むというのか？[2] かれはあなた方に、明らかにされた啓典をお下しになったお方なのに？」われら*が啓典を授けた者たち（啓典の民*）は、それ（クルアーン*）があなたの主*から真理と共に下されたものであることを知っている。ならばあなた[3]は決して、疑わしく思う者たちの類いとなってはならない。

أَفَغَيْرَ ٱللَّهِ أَبْتَغِى حَكَمًا وَهُوَ ٱلَّذِىٓ أَنزَلَ
إِلَيْكُمُ ٱلْكِتَٰبَ مُفَصَّلًا ۚ وَٱلَّذِينَ
ءَاتَيْنَٰهُمُ ٱلْكِتَٰبَ يَعْلَمُونَ أَنَّهُۥ مُنَزَّلٌ مِّن
رَّبِّكَ بِٱلْحَقِّ ۖ فَلَا تَكُونَنَّ مِنَ ٱلْمُمْتَرِينَ ﴿١١٤﴾

---

1 「彼らが犯すもの」とは、悪行のこと（ムヤッサル 142 頁参照）。

2 一説によれば、マッカ*の不信仰者*は預言者*ムハンマド*に、「私たちとあなたの間に、裁決者を置こうではないか。望むならユダヤ教徒*の学者からでも、あるいはキリスト教徒*の学者からでも。彼らの啓典の中であなたについて何が書かれているのか、述べてもらおう。」と言ったものだった（イブン・アル＝ジャウズィー3:110 参照）。

3 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。

115. あなたの主*の、真実で公正な御言葉（クルアーン*）は、完遂された[1]。かれの御言葉には、いかなる変更者もいない。かれはよくお聴きになるお方、全知者であられる。

وَتَمَّتۡ كَلِمَتُ رَبِّكَ صِدۡقٗا وَعَدۡلٗاۚ لَّا مُبَدِّلَ
لِكَلِمَٰتِهِۦۚ وَهُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلۡعَلِيمُ ١١٥

116. そして（使徒*よ）、もしあなたが地上の大半の者[2]に従えば、彼らはあなたをアッラー*の道から迷わせてしまうだろう。彼らは（誤った）憶測に従っているに外ならない。彼らは決めつけているだけなのだ。

وَإِن تُطِعۡ أَكۡثَرَ مَن فِي ٱلۡأَرۡضِ يُضِلُّوكَ عَن
سَبِيلِ ٱللَّهِۚ إِن يَتَّبِعُونَ إِلَّا ٱلظَّنَّ وَإِنۡ هُمۡ إِلَّا
يَخۡرُصُونَ ١١٦

117. 本当にあなたの主*こそは、かれの道から迷う者を、最もよくご存知である。またかれは、導かれる者たちのことも、最もよくご存知なのだ。

إِنَّ رَبَّكَ هُوَ أَعۡلَمُ مَن يَضِلُّ عَن سَبِيلِهِۦۖ
وَهُوَ أَعۡلَمُ بِٱلۡمُهۡتَدِينَ ١١٧

118. ならば、あなた方は、アッラー*の御名がその上に唱えられたものの内から食べよ[3]。もしあなた方が、かれの御徴[4]を信じているのならば（、だが）。

فَكُلُواْ مِمَّا ذُكِرَ ٱسۡمُ ٱللَّهِ عَلَيۡهِ
إِن كُنتُم بِـَٔايَٰتِهِۦ مُؤۡمِنِينَ ١١٨

119. そして、アッラー*の御名がその上に唱えられたものの内から食べないとは、どういうことか？ かれはあなた方に禁じたものを確かに、あなた方に詳しく説明されたというのに。しかし、あなた方がその必要に迫られたもの[5]は

وَمَا لَكُمۡ أَلَّا تَأۡكُلُواْ مِمَّا ذُكِرَ ٱسۡمُ ٱللَّهِ
عَلَيۡهِ وَقَدۡ فَصَّلَ لَكُم مَّا حَرَّمَ عَلَيۡكُمۡ إِلَّا
مَا ٱضۡطُرِرۡتُمۡ إِلَيۡهِۗ وَإِنَّ كَثِيرٗا لَّيُضِلُّونَ
بِأَهۡوَآئِهِم بِغَيۡرِ عِلۡمٍۚ إِنَّ رَبَّكَ هُوَ أَعۡلَمُ
بِٱلۡمُعۡتَدِينَ ١١٩

---

1 クルアーン*に含まれる言葉と情報は真実で、その法規定は公正である（ムヤッサル 142頁参照）。

2 当時、人類の大半は不信仰の中にあった（アッ＝タバリー4:3318 参照）。

3 つまり信仰者は、アッラー*の御名が唱えられることなく屠殺（とさつ）された肉を、食べてはならないということ。シルク*の徒である不信仰者*たちは、アッラー*の御名が唱えられていない肉や、アッラー*以外のものに捧げられた肉を合法化していた（イブン・カスィール 3:323 参照）。

4 この「御徴」は、アッラー*の法規定とご命令のこと（アル＝クルトゥビー7:72 参照）。

5 雌牛章 173 と、その訳注も参照。

別である。本当に多く（の誤った者たち）は知識もなく、その私欲によって（合法・非合法な物事において）正に迷わせるのだ。本当に（使徒よ、）あなたの主*こそは、度を越す者たちを最もよくご存知である。

120. 露わな罪も、密やかな罪も放棄するのだ。実に罪を稼ぐ者たちは、自分たちが犯していたことゆえに、やがて報いを受けることになるのだから。

وَذَرُواْ ظَٰهِرَ ٱلۡإِثۡمِ وَبَاطِنَهُۥٓۚ إِنَّ ٱلَّذِينَ
يَكۡسِبُونَ ٱلۡإِثۡمَ سَيُجۡزَوۡنَ بِمَا كَانُواْ
يَقۡتَرِفُونَ ١٢٠

121. また（ムスリム*たちよ）、アッラー*の御名がその上に唱えられていないものの内から、食べるのではない。本当にそれは、まさしく放逸さ[1]である。本当にシャイターン*（のジン*たち）は、あなた方と言い争うよう、自分たちの盟友（であるシャイターン*の人間たち）を、まさに唆すのだ[2]。そして、もし彼らに従ったら、本当にあなた方は正しくシルク*の徒である[3]。

وَلَا تَأۡكُلُواْ مِمَّا لَمۡ يُذۡكَرِ ٱسۡمُ ٱللَّهِ عَلَيۡهِ
وَإِنَّهُۥ لَفِسۡقٞۗ وَإِنَّ ٱلشَّيَٰطِينَ لَيُوحُونَ إِلَىٰٓ
أَوۡلِيَآئِهِمۡ لِيُجَٰدِلُوكُمۡۖ وَإِنۡ أَطَعۡتُمُوهُمۡ
إِنَّكُمۡ لَمُشۡرِكُونَ ١٢١

122. 一体、（かつては）死人だったが、われら*が生命を与え、人々の間をそれによって歩く光を授けた者は、脱出することの

أَوَمَن كَانَ مَيۡتٗا فَأَحۡيَيۡنَٰهُ وَجَعَلۡنَا لَهُۥ
نُورٗا يَمۡشِي بِهِۦ فِي ٱلنَّاسِ كَمَن مَّثَلُهُۥ فِي
ٱلظُّلُمَٰتِ لَيۡسَ بِخَارِجٖ مِّنۡهَاۚ كَذَٰلِكَ زُيِّنَ

---

1 アッラー*の服従からの逸脱（いつだつ）ゆえの、「放逸さ」ということ（ムヤッサル 143 頁参照）。

2 このアーヤ*は一説に、アッラー*の御名が唱えられてはいない死肉が禁じられたことに関し、不信仰者*らが「ムハンマド*よ、あなた方は自分で屠（ほふ）ったものは食べるくせに、あなた方の主*が息の根を止められたもの（自然死したもの）は禁じるというのか！？」と言ったことに関し、下ったと言われる（アブー・ダーウード 2818 参照）。

3 かれの御名が唱えられずに屠られた家畜の肉に限らず、アッラー*の禁じられたものを合法視したり、かれの命じられたことを勝手に禁じたりすることは、シルク*の一形態である（アッ＝タバリー4：3330 参照）。

出来ない闇の中にある者[1]と同等だろうか？　同様に不信仰者*たちには、彼らが行っていたことが煌びやかに映ったのである[2]。

لِلْكَٰفِرِينَ مَا كَانُوا۟ يَعْمَلُونَ ١٢٢

123. また（マッカ*の不信仰者*たちと）同様に、われらはいかなる町においても、その罪悪者たちを（町の）有力者とした。（それは）彼らがそこで、策謀するためである。そして彼らが策謀しているのは、自分自身に対してに外ならない[3]。彼らはそれに気付いていないのだが。

وَكَذَٰلِكَ جَعَلْنَا فِى كُلِّ قَرْيَةٍ أَكَٰبِرَ
مُجْرِمِيهَا لِيَمْكُرُوا۟ فِيهَا ۖ وَمَا
يَمْكُرُونَ إِلَّا بِأَنفُسِهِمْ وَمَا يَشْعُرُونَ ١٢٣

124. また、御徴[4]が彼らのもとに到来した時、彼らは言った。「私たちは、アッラー*の使徒*たちが授けられたものと同様のもの[5]を授けられるまで、（ムハンマド*を）決して信じない」。アッラー*が、そのお言伝を託す（に相応しい）場所を最もよくご存知である。やがて罪深い者たちには、彼らが策謀していたことゆえに、アッラー*の御許での惨めさと、厳しい懲罰が降りかかるであろう。

وَإِذَا جَآءَتْهُمْ ءَايَةٌ قَالُوا۟ لَن نُّؤْمِنَ حَتَّىٰ نُؤْتَىٰ
مِثْلَ مَآ أُوتِىَ رُسُلُ ٱللَّهِ ۘ ٱللَّهُ أَعْلَمُ حَيْثُ
يَجْعَلُ رِسَالَتَهُۥ ۗ سَيُصِيبُ ٱلَّذِينَ أَجْرَمُوا۟
صَغَارٌ عِندَ ٱللَّهِ وَعَذَابٌ شَدِيدٌۢ بِمَا
كَانُوا۟ يَمْكُرُونَ ١٢٤

---

1 前者は、一時は迷いの中で混乱した、死人に等しい状態にあったものの、その後、信仰心によって心が生き返り、導かれ、使徒*たちへの服従という恩恵を授かり、導きという光の中に生きる者。一方後者は、様々な無知と私欲と迷いの中にあり、そこから脱出する手段がない者のこと（ムヤッサル 143 頁参照）。

2 食べ物について議論してきた不信仰者*たちに、彼らへの痛ましい懲罰の原因となる、自分たちの悪い行いが煌びやかに映ったのと同様、彼らと同様の不信仰の状態にある者たちにもまた、懲罰の原因となる罪が煌びやかに映るのだ、ということ（アッ＝タバリー4:3333 参照）。

3 というのも彼らは、アッラー*の宗教とその使徒*を阻止しようとして策謀するが、結局のところその罪は自分自身に返ってくるからである（前掲書 4:3334 参照）。

4 この「御徴」については、アーヤ*37 の訳注を参照。

5 つまり、預言者*性と奇跡のこと（ムヤッサル 143 頁参照）。金の装飾章 31-32 も参照。

125. アッラー*が誰かを導くことをお望みになれば、かれはその者の胸を服従（イスラーム*）へと広げて下さる。また、かれが誰かを迷わせることをお望みになれば、かれはその者の胸をひどく狭められる。それは、あたかも（上）空に何とか昇ろうとする[1]ようなもの。同様にアッラー*は、信仰しない者たちに穢れ[2]をお与えになるのだ。

فَمَن يُرِدِ ٱللَّهُ أَن يَهۡدِيَهُۥ يَشۡرَحۡ صَدۡرَهُۥ
لِلۡإِسۡلَٰمِۖ وَمَن يُرِدۡ أَن يُضِلَّهُۥ يَجۡعَلۡ
صَدۡرَهُۥ ضَيِّقًا حَرَجٗا كَأَنَّمَا
يَصَّعَّدُ فِي ٱلسَّمَآءِۚ كَذَٰلِكَ يَجۡعَلُ ٱللَّهُ
ٱلرِّجۡسَ عَلَى ٱلَّذِينَ لَا يُؤۡمِنُونَ ١٢٥

126. （使徒*よ、）これがあなたの主*の、まっすぐな道。われら*は確かに教訓を得る民に対し、御徴を詳細にしたのだ。

وَهَٰذَا صِرَٰطُ رَبِّكَ مُسۡتَقِيمٗاۗ قَدۡ فَصَّلۡنَا
ٱلۡأٓيَٰتِ لِقَوۡمٖ يَذَّكَّرُونَ ١٢٦

127. 彼らにはその主*の御許に、平安の郷[3]がある。かれは彼らが行っていた（正しい）ことゆえの、彼らの庇護者*なのだ。

۞لَهُمۡ دَارُ ٱلسَّلَٰمِ عِندَ رَبِّهِمۡۖ وَهُوَ وَلِيُّهُم
بِمَا كَانُواْ يَعۡمَلُونَ ١٢٧

128. かれが彼ら全員を召集され（、こう仰せられ）る日のこと（を思い起こさせよ）。「ジン*の衆（のシャイターン*たち）よ、本当にあなた方は人間を、随分と集めたものだな[4]」。そして（不信仰な）人間の内の、彼らの盟友は言う。「我らが主*よ、私たちは互いに楽しみ合っていました[5]。そして私たちは、あなたが私た

وَيَوۡمَ يَحۡشُرُهُمۡ جَمِيعٗا يَٰمَعۡشَرَ ٱلۡجِنِّ قَدِ
ٱسۡتَكۡثَرۡتُم مِّنَ ٱلۡإِنسِۖ وَقَالَ
أَوۡلِيَآؤُهُم مِّنَ ٱلۡإِنسِ رَبَّنَا ٱسۡتَمۡتَعَ
بَعۡضُنَا بِبَعۡضٖ وَبَلَغۡنَآ أَجَلَنَا ٱلَّذِيٓ أَجَّلۡتَ
لَنَاۚ قَالَ ٱلنَّارُ مَثۡوَىٰكُمۡ خَٰلِدِينَ فِيهَآ إِلَّا
مَا شَآءَ ٱللَّهُۗ إِنَّ رَبَّكَ حَكِيمٌ عَلِيمٞ ١٢٨

---

1 イスラーム*を否定する者の心の狭窄（きょうさく）が、空高く昇ろうとして、呼吸困難に陥（おちい）る状態にたとえられている（ムヤッサル 144 頁参照）。

2 この「穢れ」とは、懲罰のこと（前掲書、同頁参照）。

3 「平安の郷」とは、天国のこととされる（前掲書、同頁参照）。

4 シャイターン*が人間たちを迷わせ、地獄への道連れとしたことを指す（アッ＝タバリー 4:3343 参照）。

5 ジン*はといえば、人間が自分たちに服従することを楽しみ、人間はといえば、姦通（かんつう）や飲酒などのジン*の誘惑を受け入れることで、楽しんでいた（アル＝クルトゥビー 7:84 参照）。

ちに定められた時期[1]まで到達してしまったのです」。かれは仰せられる。「（地獄の）業火があなた方の、住まいである。あなた方はそこに永遠に留まるのだ」。但し、アッラー*がお望みになった者[2]は別であるが。本当にあなたの主*は英知あふれる*お方、全知者であられるのだから。

129. そのようにわれら*は不正*者たちを、彼らが稼いでいたものゆえに、互いの盟友とさせる。

وَكَذَٰلِكَ نُوَلِّي بَعْضَ ٱلظَّٰلِمِينَ بَعْضًۢا بِمَا
كَانُواْ يَكْسِبُونَ ١٢٩

130. （アッラー*は復活の日*、仰せられる。）「（シルク*の徒であった）ジン*と人間の衆よ、一体あなた方のもとに、われの御徴をあなた方に語って聞かせ、あなた方のこの日の面会についてあなた方に警告を放つ、あなた方（人間）自身の内からの使徒*たちはやって来なかったのか？」彼らは申し上げる。「私たちは、自分自身に対して（不利に）証言[3]します」。現世の生活が、彼らを欺いたのである。そして彼らは自分たちが不信仰者*であったことを、自分自身に対して証言するのだ。

يَٰمَعْشَرَ ٱلْجِنِّ وَٱلْإِنسِ أَلَمْ يَأْتِكُمْ
رُسُلٌ مِّنكُمْ يَقُصُّونَ عَلَيْكُمْ
ءَايَٰتِي وَيُنذِرُونَكُمْ لِقَآءَ يَوْمِكُمْ هَٰذَاۚ
قَالُواْ شَهِدْنَا عَلَىٰٓ أَنفُسِنَاۖ وَغَرَّتْهُمُ
ٱلْحَيَوٰةُ ٱلدُّنْيَا وَشَهِدُواْ عَلَىٰٓ أَنفُسِهِمْ
أَنَّهُمْ كَانُواْ كَٰفِرِينَ ١٣٠

1 「私たちに定められた時期」とは、現世での彼らの人生の終わりのこと（ムヤッサル 144 頁参照）。

2 これは、罪深いムスリム*のこと。彼らは地獄に入っても、そこに永遠に留まることはない（前掲書、同頁参照）。フード*章 107 とその訳注も参照。

3 使徒*たちがアッラー*の御徴を伝え、復活の日*について警告したが、彼らはそれを嘘としたという証言のこと（前掲書、同頁参照）。

131. それ[1]はあなたの主*が、その住民が無頓着な状態[2]にある時、町々を不正[3]ゆえに滅ぼされたりはしないからである。

ذَٰلِكَ أَن لَّمۡ يَكُن رَّبُّكَ مُهۡلِكَ ٱلۡقُرَىٰ
بِظُلۡمٖ وَأَهۡلُهَا غَٰفِلُونَ ١٣١

132. また各人には、（アッラー*への服従行為であろうと、かれへの反抗であろうと、）自分が行ったことゆえの位があるのだ。そしてあなたの主*は、彼らが行うことに迂闊ではあられない。

وَلِكُلّٖ دَرَجَٰتٞ مِّمَّا عَمِلُواْۚ وَمَا رَبُّكَ
بِغَٰفِلٍ عَمَّا يَعۡمَلُونَ ١٣٢

133. そして（使徒*よ）、あなたの主*は満ち足りておられる*お方、慈悲の主であられる。もしかれがお望みになれば、（不従順な）あなた方を消し去り、ちょうどあなた方を別の民の子孫から出現させられたように、あなた方の後にかれがお望みになるもの[4]を引き継がせられるのだ。

وَرَبُّكَ ٱلۡغَنِيُّ ذُو ٱلرَّحۡمَةِۚ إِن يَشَأۡ
يُذۡهِبۡكُمۡ وَيَسۡتَخۡلِفۡ مِنۢ
بَعۡدِكُم مَّا يَشَآءُ كَمَآ أَنشَأَكُم مِّن
ذُرِّيَّةِ قَوۡمٍ ءَاخَرِينَ ١٣٣

134. （シルク*の徒よ、）実にあなた方に約束されていることは、必ずや到来することになっている。そしてあなた方は、（アッラー*の懲罰を）やり過ごすことが出来る者ではない。

إِنَّ مَا تُوعَدُونَ لَأٓتٖۖ وَمَآ أَنتُم
بِمُعۡجِزِينَ ١٣٤

135. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「我が民よ、あなた方は自分たちのやり方で行うがよい。実に私も、（自分のやり方で）

قُلۡ يَٰقَوۡمِ ٱعۡمَلُواْ عَلَىٰ مَكَانَتِكُمۡ إِنِّي
عَامِلٞۖ فَسَوۡفَ تَعۡلَمُونَ مَن تَكُونُ
لَهُۥ عَٰقِبَةُ ٱلدَّارِۚ إِنَّهُۥ لَا يُفۡلِحُ ٱلظَّٰلِمُونَ ١٣٥

---

1 「それ」とは、アッラー*がジン*と人間に使徒*を遣わされ、啓典を下されたことで、彼らが後に自分たちの不信仰を言い訳できないようにされたこと（ムヤッサル 145 頁参照）。

2 「無頓着な状態」とは、イスラーム*の教えが伝わっていない状態のこと（イブン・カスィール 3:341 参照）。関連するアーヤ*として、婦人章 165、家畜章 155-157、夜の旅章 15、ター・ハー章 134、詩人たち章 208、創成者*章 24 も参照。

3 この「不正*」とは、シルク*を始めとする全ての罪のこととされる。尚、「あなたの主*が不当にも、その住民が無頓着な状態にある時、町々を滅ぼされないことがないためである」という解釈の仕方もある（前掲書、同頁参照）。

4 つまり、彼らよりもアッラー*に従順（じゅうじゅん）で善い民のこと（アル＝バガウィー 2:161 参照）。

行おう。そうすれば、いずれあなた方は、誰に世の（善き）結末[1]があるかを知ることになろうから。本当に、不正*者たちが成功することはないのだ」。

136. 彼ら（シルク*の徒）はアッラー*に、かれが繁茂させ給うた作物と家畜の内から割り当て分を決め、自分たちの主張するところにより、（こう）言った。「これはアッラー*の分。そしてこれは、私たち（がアッラー*）の同位者（とするもの）たちの分」。そして彼らの同位者たちの分だったものは、アッラー*に届くことがなく、アッラー*の分だったものは、彼らの同位者たちに届くのだ[2]。彼らの決めることの、何と忌まわしいことか。

وَجَعَلُوا۟ لِلَّهِ مِمَّا ذَرَأَ مِنَ ٱلْحَرْثِ
وَٱلْأَنْعَٰمِ نَصِيبًا فَقَالُوا۟ هَٰذَا لِلَّهِ
بِزَعْمِهِمْ وَهَٰذَا لِشُرَكَآئِنَا ۖ فَمَا كَانَ
لِشُرَكَآئِهِمْ فَلَا يَصِلُ إِلَى ٱللَّهِ ۖ وَمَا
كَانَ لِلَّهِ فَهُوَ يَصِلُ إِلَىٰ
شُرَكَآئِهِمْ ۗ سَآءَ مَا يَحْكُمُونَ ١٣٦

137. 同様に、彼ら（がアッラー*）の同位者（としたもの、つまりシャイターン*）たちは、シルク*の徒の多くに対し、自分たちの子供を殺すことを魅惑的に見せた[3]。（それは）彼らを（破滅に）転落させ、彼らに自分たちの宗教を紛らわしく見せ（て迷わせ）るためであった。そして、もしア

وَكَذَٰلِكَ زَيَّنَ لِكَثِيرٍ مِّنَ ٱلْمُشْرِكِينَ
قَتْلَ أَوْلَٰدِهِمْ شُرَكَآؤُهُمْ لِيُرْدُوهُمْ
وَلِيَلْبِسُوا۟ عَلَيْهِمْ دِينَهُمْ ۖ وَلَوْ شَآءَ ٱللَّهُ
مَا فَعَلُوهُ ۖ فَذَرْهُمْ وَمَا يَفْتَرُونَ ١٣٧

1 「世の（善き）結末」とは、現世と来世における善い結末のこと（アッ＝サァディー274頁参照）。

2 具体的には、偶像の分の作物や果物などがアッラー*の分の中に落ちてしまった場合、それを元に戻したが、逆の場合はそうしなかった。また偶像のための給水が（不慮に）アッラー*の分の所へ行ってしまった場合、それを偶像の分の方に戻したが、逆の場合はそうしなかった。また、それがアッラー*のためと思い込みつつ、家畜の一部を偶像のために捧げていた（アッ＝タバリー4:3351 参照）。食卓章 103 も参照。

3 ジャーヒリーヤ*のアラブ人の一部では、貧困に対する恐れなどから、子供を殺す悪習があった。また女児に関しては、貧困だけでなく戦争で捕虜（ほりょ）となった場合の辱（はずかし）めなどを受けることを恐れて、殺害してしまうこともあったとされる（アル＝アルースィー8:32 参照）。

ッラー*がお望みであったなら、彼らはそのようなことをしなかったのだ[1]。ならば彼らを、彼らが捏造したもの諸共、放っておけ。

138. 彼ら（シルク*の徒）は自分たちの主張するところにより、かれ（アッラー*）に対し（嘘を）捏造しつつ、（こう）言った。「これらは、私たちが望む者しか食することが出来ない、禁じられた家畜と作物[2]である。また（これらは）、背中が禁じられている家畜[3]。そして（これらは）彼らが、その上にアッラー*の御名を唱えない家畜[4]」。かれはやがて、彼らが捏造していたことゆえに、彼らに応報を与えられるであろう。

وَقَالُوا۟ هَٰذِهِۦٓ أَنْعَٰمٌ وَحَرْثٌ حِجْرٌ لَّا يَطْعَمُهَآ
إِلَّا مَن نَّشَآءُ بِزَعْمِهِمْ وَأَنْعَٰمٌ حُرِّمَتْ
ظُهُورُهَا وَأَنْعَٰمٌ لَّا يَذْكُرُونَ
ٱسْمَ ٱللَّهِ عَلَيْهَا ٱفْتِرَآءً عَلَيْهِ ۚ
سَيَجْزِيهِم بِمَا كَانُوا۟ يَفْتَرُونَ ﴿١٣٨﴾

139. また、彼らは言った。「これらの家畜の腹の中にあるもの[5]は、私たちの内の男性だけのものであり、私たちの妻たちには禁じられる。そしてそれが（生まれた時）死んでいた場合、彼ら（男女）はそれ（の利用）における共同者となる」。かれ（アッラー*）はやがてその言葉ゆえ、彼らに応報を与えられよう。本当にかれは、英知あふれる*お方、全知者なのだから。

وَقَالُوا۟ مَا فِى بُطُونِ هَٰذِهِ ٱلْأَنْعَٰمِ خَالِصَةٌ
لِّذُكُورِنَا وَمُحَرَّمٌ عَلَىٰٓ أَزْوَٰجِنَا ۖ وَإِن
يَكُن مَّيْتَةً فَهُمْ فِيهِ شُرَكَآءُ ۚ
سَيَجْزِيهِمْ وَصْفَهُمْ ۚ إِنَّهُۥ حَكِيمٌ عَلِيمٌ ﴿١٣٩﴾

1 同様の言い回しのある、アーヤ*107 とその訳注も参照。

2 つまり、彼らが偶像に捧げたもののこと（アル＝クルトゥビー7:94 参照)。

3 「背中が禁じられている家畜」とは、乗用や荷役などに利用しない家畜（ムヤッサル 146 頁参照)。

4 アッラー*の御名ではなく、偶像の名によって屠（ほふ）られる家畜のこと。一説には、それに乗ってハッジ*をしない家畜（アル＝バガウィー2:163 参照)。

5 これは、アーヤ 138 で言及されている家畜が孕（はら）んだ子供のこと。生まれたその子供の肉は男性だけに許されるが、死産であれば、男女ともにそれを食することが出来る、と主張した（イブン･アーシュール 110 頁参照)。

140. 愚かにも、知識もなく自分たちの子供を殺し、アッラー*に対する捏造ゆえに、かれが自分たちにお恵みになったものを（勝手に）禁じた者たちは、確かに損失したのである。彼らは確かに（真理から）迷い去ったのであり、導かれた者の仲間ではなかったのだ。[1]

قَدْ خَسِرَ ٱلَّذِينَ قَتَلُوٓا۟ أَوْلَٰدَهُمْ سَفَهًۢا
بِغَيْرِ عِلْمٍ وَحَرَّمُوا۟ مَا رَزَقَهُمُ ٱللَّهُ
ٱفْتِرَآءً عَلَى ٱللَّهِ ۚ قَدْ ضَلُّوا۟ وَمَا كَانُوا۟
مُهْتَدِينَ ﴿١٤٠﴾

141. かれは、高く上げられた果樹園[2]と、高く上げられてはいないもの、異なる味のナツメヤシと作物、（一面では）似ているが、（別の面では）異なっている[3]オリーブとザクロを創られたお方。それが実ったらその果実から食べ、収穫日にはその義務[4]を支払うのだ。そして度を越すのではない[5]。本当にかれは、度を越す者たちをお好きにはならないのだから。

۞ وَهُوَ ٱلَّذِىٓ أَنشَأَ جَنَّٰتٍ مَّعْرُوشَٰتٍ
وَغَيْرَ مَعْرُوشَٰتٍ وَٱلنَّخْلَ وَٱلزَّرْعَ
مُخْتَلِفًا أُكُلُهُۥ وَٱلزَّيْتُونَ وَٱلرُّمَّانَ
مُتَشَٰبِهًا وَغَيْرَ مُتَشَٰبِهٍ ۚ كُلُوا۟ مِن ثَمَرِهِۦٓ
إِذَآ أَثْمَرَ وَءَاتُوا۟ حَقَّهُۥ يَوْمَ حَصَادِهِۦ ۖ وَلَا
تُسْرِفُوٓا۟ ۚ إِنَّهُۥ لَا يُحِبُّ ٱلْمُسْرِفِينَ ﴿١٤١﴾

142. また（かれは）、運搬用の家畜と、小型の家畜も（お創りになった）。アッラー*があなた方にお授け下さったものから食べ、そしてシャイターン*の歩みに従ってはならない。本当に彼はあなた方にとって、紛れもない敵なのだから。

وَمِنَ ٱلْأَنْعَٰمِ حَمُولَةً وَفَرْشًا ۚ كُلُوا۟
مِمَّا رَزَقَكُمُ ٱللَّهُ وَلَا تَتَّبِعُوا۟ خُطُوَٰتِ
ٱلشَّيْطَٰنِ ۚ إِنَّهُۥ لَكُمْ عَدُوٌّ مُّبِينٌ ﴿١٤٢﴾

---

1 何かが合法か非合法かということを決定する権威は、アッラー*のみに属する。かれ以外のいかなる者も、そのような法規定を勝手に定めることは出来ない（ムヤッサル 146 頁参照）。アーヤ 121 の訳注も参照。

2 「高く上げられた果樹園」とは葡萄のように、棚などの上部に生育する果実類のそれを指すと言われる（アッ＝タバリー4:3363-3364 参照）。

3 「（一面では）似ているが…」については、アーヤ*99 の訳注を参照。

4 イブン・カスィール*によれば、これは義務の浄財（じょうざい）*のこと。ただし義務の浄財*の詳細、重量、数量が定められたのは、ヒジュラ暦*2 年のことである（3:349 参照）。

5 浄財*や食事、その他あらゆる物事において、度を越してはならない（ムヤッサル 146 頁参照）。

143. 八頭の雌雄を（お創りになった）。羊のつがいと、山羊のつがい。（使徒*よ、）言うのだ。「一体、かれが両方の雄、または両方の雌、あるいは両方の雌のお腹にあるものを禁じられたと言うのか？[1]　（あなた方の主張を裏づける）知識によって、私に告げてみよ。もし、あなた方が本当のことを言っているのならば（、だが）」。

ثَمَٰنِيَةَ أَزۡوَٰجٖۖ مِّنَ ٱلضَّأۡنِ ٱثۡنَيۡنِ وَمِنَ
ٱلۡمَعۡزِ ٱثۡنَيۡنِۗ قُلۡ ءَآلذَّكَرَيۡنِ حَرَّمَ
أَمِ ٱلۡأُنثَيَيۡنِ أَمَّا ٱشۡتَمَلَتۡ عَلَيۡهِ أَرۡحَامُ
ٱلۡأُنثَيَيۡنِۖ نَبِّـُٔونِي بِعِلۡمٍ إِن كُنتُمۡ
صَٰدِقِينَ ١٤٣

144. また、ラクダのつがいと、牛のつがい。（使徒よ、）言うのだ。「一体、かれが両方の雄、または両方の雌、あるいは両方の雌のお腹にあるものを禁じられたと言うのか？　いや、一体あなた方は、アッラー*がこのことをあなた方に命じられた時、（その場に）立ち会わせていたとでもいうのか？　ならば、知識もなく人々を迷わせようとして、アッラー*に対して嘘を捏造する者ほど、ひどい不正*を働く者があろうか？　本当にアッラーは、不正*者である民をお導きにはならない」。

وَمِنَ ٱلۡإِبِلِ ٱثۡنَيۡنِ وَمِنَ ٱلۡبَقَرِ ٱثۡنَيۡنِۗ قُلۡ
ءَآلذَّكَرَيۡنِ حَرَّمَ أَمِ ٱلۡأُنثَيَيۡنِ أَمَّا
ٱشۡتَمَلَتۡ عَلَيۡهِ أَرۡحَامُ ٱلۡأُنثَيَيۡنِۖ
أَمۡ كُنتُمۡ شُهَدَآءَ إِذۡ وَصَّىٰكُمُ ٱللَّهُ
بِهَٰذَاۚ فَمَنۡ أَظۡلَمُ مِمَّنِ ٱفۡتَرَىٰ عَلَى ٱللَّهِ
كَذِبٗا لِّيُضِلَّ ٱلنَّاسَ بِغَيۡرِ عِلۡمٍۚ
إِنَّ ٱللَّهَ لَا يَهۡدِي ٱلۡقَوۡمَ ٱلظَّٰلِمِينَ ١٤٤

145. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「私に啓示されたものの中では、死肉、流れ出る血液[2]、豚肉――実にそれは穢れであるから――、アッラー*以外の名において屠られた[3]放逸なもの[4]以外、それ（らの家畜）を食する者にとって非合法なものは、見

قُل لَّآ أَجِدُ فِي مَآ أُوحِيَ إِلَيَّ مُحَرَّمًا عَلَىٰ طَاعِمٖ
يَطۡعَمُهُۥٓ إِلَّآ أَن يَكُونَ مَيۡتَةً أَوۡ دَمٗا
مَّسۡفُوحًا أَوۡ لَحۡمَ خِنزِيرٖ فَإِنَّهُۥ رِجۡسٌ أَوۡ
فِسۡقًا أُهِلَّ لِغَيۡرِ ٱللَّهِ بِهِۦۚ فَمَنِ ٱضۡطُرَّ غَيۡرَ
بَاغٖ وَلَا عَادٖ فَإِنَّ رَبَّكَ غَفُورٞ رَّحِيمٞ ١٤٥

---

1 シルク*の徒は、これらの家畜の一部を非合法としたり、あるいは一部の者にとって非合法なものとした。しかしそれらの家畜は雄も雌も、まだ雌雄の判別がつかない胎児も、全て合法なのである（アッ＝サアディー277 頁参照）。

2 「死肉」と「血液」に関しては、雌牛章 173 の訳注を参照。

3 雌牛章 173 の訳注も参照。

4 アーヤ*121「放逸さ」の訳注も参照。

出せない[1]。やむを得ない状態にある者は、法を超えず度を越さない限りにおいて[2]（それを口にしても罪はない、なぜなら）本当にあなたの主*は赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから」。

146. われら*はユダヤ教徒*である者たちに対し、爪を有する全てのもの[3]を禁じた。また牛と羊の内でも、背中と腸が蓄えたものか、あるいは骨に密着したものを除き、その脂肪を彼らに（禁じた）。それは彼らの侵害[4]ゆえに、われら*が彼らに報いたもの。本当にわれら*こそは、真実を語る者である。

وَعَلَى ٱلَّذِينَ هَادُوا۟ حَرَّمْنَا كُلَّ ذِى
ظُفُرٍ ۖ وَمِنَ ٱلْبَقَرِ وَٱلْغَنَمِ حَرَّمْنَا
عَلَيْهِمْ شُحُومَهُمَآ إِلَّا مَا حَمَلَتْ ظُهُورُهُمَآ
أَوِ ٱلْحَوَايَآ أَوْ مَا ٱخْتَلَطَ بِعَظْمٍ ۚ ذَٰلِكَ
جَزَيْنَٰهُم بِبَغْيِهِمْ ۖ وَإِنَّا لَصَٰدِقُونَ ﴿١٤٦﴾

147. そして（使徒*よ、）彼らがあなたを嘘つき呼ばわりしたならば、（こう）言ってやれ。「あなた方の主*は、広大なご慈悲の主。そしてかれの猛威[5]は、罪悪者である民から遮られることはない」。

فَإِن كَذَّبُوكَ فَقُل رَّبُّكُمْ ذُو رَحْمَةٍ
وَٰسِعَةٍ وَلَا يُرَدُّ بَأْسُهُۥ عَنِ ٱلْقَوْمِ
ٱلْمُجْرِمِينَ ﴿١٤٧﴾

148. シルク*を犯していた者たちは言うであろう。「アッラー*がお望みならば、私たちも私たちのご先祖様たちもシルク*など犯さなかったし、何も（勝手に）禁じ

سَيَقُولُ ٱلَّذِينَ أَشْرَكُوا۟ لَوْ شَآءَ ٱللَّهُ مَآ
أَشْرَكْنَا وَلَآ ءَابَآؤُنَا وَلَا حَرَّمْنَا مِن شَىْءٍ ۚ
كَذَٰلِكَ كَذَّبَ ٱلَّذِينَ مِن قَبْلِهِمْ حَتَّىٰ
ذَاقُوا۟ بَأْسَنَا ۗ قُلْ هَلْ عِندَكُم مِّنْ عِلْمٍ

---

1 一説に、「このアーヤ*が下った時点では、見出せない」という意味。このアーヤ*で言及されている以外にも、猛獣・猛禽（もうきん）類の肉など、イスラーム*法で禁じられている食物は存在する（アッ＝サァディー277 頁参照）。

2 「法を超えず、度を越さない限りにおいて」については雌牛章 173 の訳注を参照。

3 この解釈には、「ラクダ」「ラクダとダチョウ」「捕食のための爪を持った動物・鳥類」といった諸説がある（アッ＝ラーズィー5:171 参照）。

4 彼らのこの具体的な侵害については、婦人章 160-161 を参照（イブン・カスィール 3:355 参照）。また、蜜蜂章 90 の訳注も参照。

5 「猛威」とは、懲罰のこと（ムヤッサル 148 頁参照）。

たりはしなかったであろう[1]」。同様に彼ら以前の（不信仰）者*たちも、われら*の猛威[2]を味わうまで、（使徒*たちを）嘘つき呼ばわりし（続け）たのだ。（使徒*よ、）言ってやるがいい。「あなた方には少しでも（正しい）知識があって、それであなた方はそれを私たちに持ってこれるのか？　あなた方は憶測しているに過ぎず、あなた方は決めつけているだけなのである」。

فَتُخۡرِجُوهُ لَنَآۖ إِن تَتَّبِعُونَ إِلَّا ٱلظَّنَّ وَإِنۡ
أَنتُمۡ إِلَّا تَخۡرُصُونَ ١٤٨

149.　（使徒*よ、）言ってやるのだ。「ならばアッラー*にこそ、決定的な証拠がある。そして、もしかれがお望みならば、あなた方全員を導かれたことであろう」。

قُلۡ فَلِلَّهِ ٱلۡحُجَّةُ ٱلۡبَٰلِغَةُۖ فَلَوۡ شَآءَ لَهَدَىٰكُمۡ
أَجۡمَعِينَ ١٤٩

150.　（使徒*よ、）言うがよい。「アッラー*がこれ[3]を禁じ給うた、ということを証言する、あなた方の証人たちを連れて来るのだ。そしてもし彼らが証言しても、あなた[4]は彼らと共に証言してはならない。またあなたは、われら*の御徴を嘘呼ばわりする者や、来世を信じず、自分たちの主*に対して（かれ以外のものを）並べている[5]者たちの私欲に従ってはならない」。

قُلۡ هَلُمَّ شُهَدَآءَكُمُ ٱلَّذِينَ يَشۡهَدُونَ
أَنَّ ٱللَّهَ حَرَّمَ هَٰذَاۖ فَإِن شَهِدُواْ فَلَا تَشۡهَدۡ
مَعَهُمۡۚ وَلَا تَتَّبِعۡ أَهۡوَآءَ ٱلَّذِينَ كَذَّبُواْ
بِـَٔايَٰتِنَا وَٱلَّذِينَ لَا يُؤۡمِنُونَ بِٱلۡأٓخِرَةِ
وَهُم بِرَبِّهِمۡ يَعۡدِلُونَ ١٥٠

1　彼らの言い分はこうである：「アッラー*は、自分たちがシルク*を犯し、合法なものを非合法とするのをご覧になっていたが、それを正すことがお出来であったにも関わらず、そうされなかった。つまりアッラー*はそれらの物事をお望みになったのであり、それに満足されていたのである」。しかし、もし彼らの言い訳が正しければ、アッラー*は彼らと同じことを言っていた過去の不信仰者*を滅ぼされもしなかったし、彼らに対して使徒*を遣わされることもなかったのだ（イブン・カスィール 3:357-358 参照）。

2　「猛威」については、アーヤ*147 の訳注を参照。

3　この「これ」は、彼らが勝手に禁じたある種の家畜のこと（ムヤッサル 148 頁参照）。

4　この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。以下、同様の表現についても同訳注を参照。

5　アーヤ*1 の、同様の表現についての訳注を参照。

151. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「来なさい。私はあなた方の主*が、あなた方に禁じられたことを誦んで聞かせよう。あなた方は、（アッラー*の崇拝*において、）いかなるものもかれに並べてはならない。そして自分の両親に孝行を（せよ）。また貧困ゆえに、あなた方の子供たちを殺してはならない[1]。われら*が、あなた方と彼らを養うのだから。また醜行[2]には、その内の露わなものにも、秘められたものにも、近づくな。そして権利[3]がない限り、アッラー*が（その殺害を）禁じられた者を殺してはならない。それはあなた方が分別するようにと、かれがあなた方に命じられたことなのである。

۞ قُلْ تَعَالَوْا۟ أَتْلُ مَا حَرَّمَ رَبُّكُمْ
عَلَيْكُمْ ۖ أَلَّا تُشْرِكُوا۟ بِهِۦ شَيْـًٔا ۖ
وَبِٱلْوَٰلِدَيْنِ إِحْسَٰنًا ۖ وَلَا تَقْتُلُوٓا۟ أَوْلَٰدَكُم
مِّنْ إِمْلَٰقٍ ۖ نَّحْنُ نَرْزُقُكُمْ وَإِيَّاهُمْ ۖ
وَلَا تَقْرَبُوا۟ ٱلْفَوَٰحِشَ مَا ظَهَرَ مِنْهَا وَمَا بَطَنَ ۖ
وَلَا تَقْتُلُوا۟ ٱلنَّفْسَ ٱلَّتِى حَرَّمَ ٱللَّهُ إِلَّا بِٱلْحَقِّ ۚ
ذَٰلِكُمْ وَصَّىٰكُم بِهِۦ لَعَلَّكُمْ تَعْقِلُونَ ﴿١٥١﴾

152. また、孤児の財産には、それが最善の形[4]でない限り、彼が成熟[5]するまで近づいてはならない。そして升と秤[6]を、公正に全うするのだ。——われら*は誰にも、その能力以上のものを負わせない[7]

وَلَا تَقْرَبُوا۟ مَالَ ٱلْيَتِيمِ إِلَّا بِٱلَّتِى هِىَ أَحْسَنُ
حَتَّىٰ يَبْلُغَ أَشُدَّهُۥ ۖ وَأَوْفُوا۟ ٱلْكَيْلَ وَٱلْمِيزَانَ
بِٱلْقِسْطِ ۖ لَا نُكَلِّفُ نَفْسًا إِلَّا وُسْعَهَا ۖ وَإِذَا
قُلْتُمْ فَٱعْدِلُوا۟ وَلَوْ كَانَ ذَا قُرْبَىٰ ۖ
وَبِعَهْدِ ٱللَّهِ أَوْفُوا۟ ۚ ذَٰلِكُمْ وَصَّىٰكُم بِهِۦ

---

1 アーヤ*137 とその訳注も参照。

2 「醜行」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。

3 この「権利」とは、姦通罪（婦人章 15、御光章 2 とその訳注を参照）、故意の殺人に対するキサース刑（雌牛章 178 の訳注を参照）、イスラーム*からの棄教（ききょう）罪が確定すること（ムヤッサル 148 頁参照）。

4 その財産を、彼の福利のために用いること（前掲書 149 頁参照）。

5 ここでの「成熟」とは、分別を備えた状態でありつつ、成人*すること（前掲書、同頁参照）。

6 「升」という訳をあてた語「カイル」も、「秤」という訳をあてた「ワズン」も、いずれも計量そのもの、あるいはそれに用いる器具のこと。但し前者が容積によるものであるのに対し、後者は重量によるものである（クウェイト法学大全 35:177）。

7 公正さと正確さの追求に努力すれば、そこに多少の誤差が生じても問題はない。あるいは、やせ我慢をしてまで自分の権利を譲歩したり、他人に多めに与えたりする必要もない（ムヤッサル 149 頁参照）。

——。また、あなた方が話す際には、公正を貫くのだ[1]。たとえ、それが近親の者（の利）に反することであっても。そして、アッラー*との契約[2]をこそ全うせよ。それはあなた方が教訓を得るようにと、かれがあなた方にご命じになったことなのである。

لَعَلَّكُمْ تَذَكَّرُونَ ١٥٢

153. そしてこれこそが、まっすぐなるわが道（イスラーム*）だということを（、私は誦んで聞かせる）。ならば、それに従うのだ。そして（それ以外の）道に従って、あなた方をかれ（アッラー*）の道から分裂させてしまってはならない[3]。それはあなた方が敬虔*になるようにと、かれがあなた方に命じられたことなのである」。

وَأَنَّ هَٰذَا صِرَٰطِي مُسْتَقِيمًا فَٱتَّبِعُوهُ ۖ
وَلَا تَتَّبِعُوا۟ ٱلسُّبُلَ فَتَفَرَّقَ بِكُمْ عَن سَبِيلِهِۦ ۚ
ذَٰلِكُمْ وَصَّىٰكُم بِهِۦ لَعَلَّكُمْ تَتَّقُونَ ١٥٣

154. それからわれら*は、善を尽くした者への（恩恵の）完遂、（宗教上の）全ての物事の解明、導き、慈悲として、ムーサー*に啓典（トーラー*）を下した。彼らが、その主*との拝謁を信じるようにと。

ثُمَّ ءَاتَيْنَا مُوسَى ٱلْكِتَٰبَ تَمَامًا عَلَى
ٱلَّذِىٓ أَحْسَنَ وَتَفْصِيلًا لِّكُلِّ شَىْءٍ وَهُدًى
وَرَحْمَةً لَّعَلَّهُم بِلِقَآءِ رَبِّهِمْ يُؤْمِنُونَ ١٥٤

155. そしてこれ（クルアーン*）はわれら*が下した、祝福にあふれた啓典である。ならば、あなた方が慈しまれるよう、それに従い、（アッラー*を）畏れる*のだ。

وَهَٰذَا كِتَٰبٌ أَنزَلْنَٰهُ مُبَارَكٌ فَٱتَّبِعُوهُ
وَٱتَّقُوا۟ لَعَلَّكُمْ تُرْحَمُونَ ١٥٥

---

1 情報の伝達、証言、判決、執り成しにおいて、公正を貫くこと（ムヤッサル 149 頁参照）。

2 「アッラー*との契約」については、雌牛章 27 の訳注を参照。

3 ある時、預言者*は（地面に）一本の線を引き、こう仰（おっしゃ）った。「これがアッラー*の道である」。それからその左右に複数の線を引き、こう仰った。「これが分裂した道である。その各々には、そこへと招くシャイターン*がいるのだ」。それから、このアーヤ*をお読みになったという（アフマド 4142 参照）。

156. （クルアーン*を下したのは、）あなた方（アラブ人の不信仰者*たち）が、「啓典は私たち以前の二集団[1]にこそ下されたのであり、本当に私たちは、彼ら（の啓典）を学ぶことにまさしく無頓着な者たちだったのだ」と言わないようにするためである。

أَن تَقُولُوٓاْ إِنَّمَآ أُنزِلَ ٱلۡكِتَٰبُ عَلَىٰ طَآئِفَتَيۡنِ مِن
قَبۡلِنَا وَإِن كُنَّا عَن دِرَاسَتِهِمۡ لَغَٰفِلِينَ ١٥٦

157. あるいは、「もし私たちに啓典が下っていたら、私たちは彼らよりも導かれていたのに」などと（、言わないようにするため）。あなた方の主*からの明証と導きとご慈悲は、確かにあなた方のもとにやって来たのだぞ。ならば、アッラー*の御徴を嘘呼ばわりし、それに背いた者よりもひどい不正*を働く者があろうか？　われら*はやがて、われら*の御徴に背く者たちを、彼らが背いていたことゆえに、忌まわしい懲罰によって報いてやろう。

أَوۡ تَقُولُواْ لَوۡ أَنَّآ أُنزِلَ عَلَيۡنَا ٱلۡكِتَٰبُ
لَكُنَّآ أَهۡدَىٰ مِنۡهُمۡۚ فَقَدۡ جَآءَكُم
بَيِّنَةٞ مِّن رَّبِّكُمۡ وَهُدٗى وَرَحۡمَةٞۚ
فَمَنۡ أَظۡلَمُ مِمَّن كَذَّبَ بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ وَصَدَفَ
عَنۡهَاۗ سَنَجۡزِي ٱلَّذِينَ يَصۡدِفُونَ عَنۡ ءَايَٰتِنَا
سُوٓءَ ٱلۡعَذَابِ بِمَا كَانُواْ يَصۡدِفُونَ ١٥٧

158. 一体彼らは、天使*たちが自分たちのもとに到来するか、またはあなたの主*が御出でになるか、あるいはあなたの主*の御徴の一部が到来する[2]まで、待っているというのか？　あなたの主*の御徴の一部が到来する（復活の）日*、（それ）以前に信仰してはいなかった、あるいはその信仰において善を稼ぐことのなかった者の

هَلۡ يَنظُرُونَ إِلَّآ أَن تَأۡتِيَهُمُ ٱلۡمَلَٰٓئِكَةُ أَوۡ يَأۡتِيَ
رَبُّكَ أَوۡ يَأۡتِيَ بَعۡضُ ءَايَٰتِ رَبِّكَۗ يَوۡمَ يَأۡتِي بَعۡضُ
ءَايَٰتِ رَبِّكَ لَا يَنفَعُ نَفۡسًا إِيمَٰنُهَا لَمۡ تَكُنۡ
ءَامَنَتۡ مِن قَبۡلُ أَوۡ كَسَبَتۡ فِيٓ إِيمَٰنِهَا
خَيۡرٗاۗ قُلِ ٱنتَظِرُوٓاْ إِنَّا مُنتَظِرُونَ ١٥٨

1 ユダヤ教徒*とキリスト教徒*のこと（ムヤッサル 149 頁参照）。

2 この「天使*たち」とは、死期が訪れた時に人の魂を召す「死の天使*」のこと。「アッラー*が御出でになる」とは、復活の日*にアッラー*が僕（しもべ）たちをお裁きになるために御出でになること、「主*の御徴の一部の到来」とは、太陽が西から昇るなどの復活の日*の予兆のことである、とされている（前掲書 150 頁参照）。

信仰が、自らを益することはない[1]。（使徒*よ、）言ってやるのだ。「（その時を）待っているがよい。本当に私たちも、待つ者となるから」。

159. 本当に、自分たちの宗教を分裂させ、分派となった者たち[2]、（使徒*よ、）あなたは彼らと全くの無縁である。彼らのことは、アッラー*にこそ帰されるのだ。その後、かれは彼らがしていたことについて、彼らにお告げになる。

إِنَّ الَّذِينَ فَرَّقُوا دِينَهُمْ وَكَانُوا شِيَعًا لَّسْتَ
مِنْهُمْ فِي شَيْءٍ ۚ إِنَّمَا أَمْرُهُمْ إِلَى اللَّهِ ثُمَّ يُنَبِّئُهُم
بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ ١٥٩

160. （復活の日*、）誰であろうと、一つの善行と共に（主*の御許へ）やって来た者、彼には、その十倍（の褒美）がある。そして誰であろうと、一つの悪行と共に（主*の御許へ）やって来た者、彼はそれと同等の報いしか受けない。彼らが不正*を被ることはないのだ。

مَن جَاءَ بِالْحَسَنَةِ فَلَهُ عَشْرُ أَمْثَالِهَا ۖ وَمَن
جَاءَ بِالسَّيِّئَةِ فَلَا يُجْزَىٰ إِلَّا مِثْلَهَا وَهُمْ
لَا يُظْلَمُونَ ١٦٠

161. （使徒*よ、）言うのだ。「本当に我が主*は、私をまっすぐな道（イスラーム*）へとお導きになった。正しい教え、純正[3]なイブラーヒーム*の宗教へと。彼はシルク*の徒の類いではなかった」。

قُلْ إِنَّنِي هَدَانِي رَبِّي إِلَىٰ صِرَاطٍ مُّسْتَقِيمٍ دِينًا
قِيَمًا مِّلَّةَ إِبْرَاهِيمَ حَنِيفًا ۚ وَمَا كَانَ
مِنَ الْمُشْرِكِينَ ١٦١

162. 言え。「本当に私の礼拝も犠牲も、生も死も、全創造物の主*アッラー*のためのみ。

قُلْ إِنَّ صَلَاتِي وَنُسُكِي وَمَحْيَايَ وَمَمَاتِي لِلَّهِ
رَبِّ الْعَالَمِينَ ١٦٢

---

1 預言者*ムハンマド*は仰（おっしゃ）った。「太陽が西から昇る時、全ての者は信仰する」（アル＝ブハーリー4635 参照）。そしてこの時、不信仰者*が信仰しても意味はない。一方、既に信仰者であった者は、その時に正しい行い*を行っても意味がなくなる（ムヤッサル 150 頁参照）。信仰は、自分自身の選択によって、不可視の世界*を信じることで有効となる。全ての物事が明らかになった時、無理強いされたに等しい状態で信仰しても、意味はない（アッ＝サァディー281 頁参照）。婦人章 18、ユーヌス*章 90-91、99、詩人たち章 4 とその訳注、赦し深いお方章 84-85 も参照。

2 これは、人々がアッラーの唯一性*と、その教えの実践において団結した後に、その宗教を分裂させる者たちのこと（ムヤッサル 150 頁参照）。

3 「純正」については、雌牛章 135 の訳注を参照。

163. かれには（その唯一性*において、）いかなる同位者もない。私は、それ[1]こそを命じられたのだ。そして私は（我が共同体において）、服従する者（ムスリム*）の先駆けなのである」。

لَا شَرِيكَ لَهُۥ ۖ وَبِذَٰلِكَ أُمِرْتُ وَأَنَا۠ أَوَّلُ ٱلْمُسْلِمِينَ ﴿١٦٣﴾

164. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「一体、私がアッラー*以外を（、崇拝*の対象である）主*として欲することなどあろうか？　かれは、全てのものの主*であられるというのに。いかなる者も、自分で（その罪を）背負うことなしに、（悪行を）稼ぐことはない。また（罪の）重荷を背負う者は、他の者（が犯した罪）の重荷まで背負うことはない。それから、あなた方の主*の御許にこそ、あなた方の帰り所はあるのだ。そしてかれは、あなた方が（宗教上のことで）意見を異にしていたことについて、あなた方にお告げになる。

قُلْ أَغَيْرَ ٱللَّهِ أَبْغِى رَبًّا وَهُوَ رَبُّ كُلِّ شَىْءٍ ۚ
وَلَا تَكْسِبُ كُلُّ نَفْسٍ إِلَّا عَلَيْهَا ۚ وَلَا تَزِرُ
وَازِرَةٌ وِزْرَ أُخْرَىٰ ۚ ثُمَّ إِلَىٰ رَبِّكُم
مَّرْجِعُكُمْ فَيُنَبِّئُكُم بِمَا كُنتُمْ فِيهِ تَخْتَلِفُونَ ﴿١٦٤﴾

165. かれは、あなた方を地上の継承者[2]とされ、かれがあなた方にお授けになったものであなた方を試みられるべく、あなた方の内のある者を別の者よりも高く位置づけられたお方[3]。本当に（使徒*よ、）あなたの主*は、即座に懲罰を下されるお方。そして、実にかれはまさしく、赦し深いお方、慈愛深い*お方である。

وَهُوَ ٱلَّذِى جَعَلَكُمْ خَلَٰٓئِفَ ٱلْأَرْضِ وَرَفَعَ
بَعْضَكُمْ فَوْقَ بَعْضٍ دَرَجَٰتٍ لِّيَبْلُوَكُمْ فِى مَآ
ءَاتَىٰكُمْ ۗ إِنَّ رَبَّكَ سَرِيعُ ٱلْعِقَابِ وَإِنَّهُۥ
لَغَفُورٌ رَّحِيمٌۢ ﴿١٦٥﴾

---

1 つまり、アッラーの唯一性*信仰のこと（ムヤッサル 150 頁参照）。

2 「地上の継承者」とは、アッラー*への服従において地上を開拓すべく、アッラー*が滅ぼされた民の後を継いだ者たちのこと（前掲書、同頁参照）。あるいは、地上の開拓を世代から世代へと受け継いでゆく者たちのこと。（イブン・カスィール 3:384 参照）。

3 つまり、人々をその形質、糧、能力、体力、徳、知識などにおいて、千差万別にされた。それは富める者がその富ゆえに感謝するかどうか、貧しい者がその貧しさに対して忍耐*するかどうかというようにして、人々が褒美（ほうび）、あるいは罰を得るようにするためである（アル＝クルトゥビー7:158 参照）。金の装飾章 32 とその訳注も参照。

第 7 章
高壁章（アル＝アァラーフ）[1]

سُورَةُ الأَعۡرَافِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. アリフ・ラーム・ミーム・サード[2]。

المٓصٓ ١

2. （使徒*よ、このクルアーン*は、）あなたに下された啓典。ならば、それで警告を告げ、信仰者たちへの教訓とするにあたって、あなたの胸の内にいかなる煩悶[3]があってもならない。

كِتَٰبٌ أُنزِلَ إِلَيۡكَ فَلَا يَكُن فِي صَدۡرِكَ حَرَجٞ
مِّنۡهُ لِتُنذِرَ بِهِۦ وَذِكۡرَىٰ لِلۡمُؤۡمِنِينَ ٢

3. （人々よ、）あなた方の主*から、あなた方に下されたものに従うのだ。そして、かれをよそにして盟友たちに従うのではない[4]。あなた方が教訓を得ることの、少ないことよ。

ٱتَّبِعُواْ مَآ أُنزِلَ إِلَيۡكُم مِّن رَّبِّكُمۡ وَلَا تَتَّبِعُواْ مِن
دُونِهِۦٓ أَوۡلِيَآءَۗ قَلِيلٗا مَّا تَذَكَّرُونَ ٣

---

1 マッカ*啓示（一部アーヤ*については、マディーナ*啓示説もあり）。クルアーン*内でこのスーラ*内に唯一登場する「高壁」という語（アーヤ*46 参照）が、スーラ*名の由来。預言者*ムハンマド*に下った啓示の偉大さと、その伝達の命令に始まり、人間に対するアッラー*の数々の恩恵が描写され、それに対して恩知らずであり、シャイターン*に従うシルク*の徒と、感謝深いタウヒード*の徒、そして来世において両者に約束されている行き先 - 天国と地獄 - が、臨場（りんじょう）感あふれる形で提示される。またこのスーラ*は、過去の預言者*たちの説話が大半を占めており、彼らとその民の間に起こった出来事が、タウヒード*信仰、預言者*への服従の義務の確証、シルク*の徒への警告、信仰者への吉報と共に描写されていく。そしてスーラ*の最後は、タウヒード*への呼びかけと、シルク*の禁止によって締めくくられる。

2 これらの文字については頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 啓示に疑念を抱くことなく、それでもって人々にアッラー*の御言葉を伝達するという偉大な義務を果たすこと、及びその過程で遭遇する様々な苦難において、挫（くじ）けたりしてはならない、ということ（アッ＝タバリー5:3435-3436 参照）。

4 つまり人間であれジン*であれ、アッラー*以外の何かを自分の盟友とし、偶像（ぐうぞう）崇拝や私欲や宗教における改変に走ってはならない、ということ（アル＝カースィミー7:2610 参照）。

4. 一体われら*は、どれだけ多くの（不信仰者*の）町を滅ぼしたきたことか。そしてわれら*の猛威[1]は（夜）眠っている時でも、あるいは彼らが昼寝している間でも、彼らのもとに到来したのだ。

وَكَم مِّن قَرۡيَةٍ أَهۡلَكۡنَٰهَا فَجَآءَهَا بَأۡسُنَا
بَيَٰتًا أَوۡ هُمۡ قَآئِلُونَ ٤

5. それでわれら*の猛威が彼らのもとに到来した時、彼らの言い分は、「本当に私たちは、不正*者でした」と言うだけのものだった。

فَمَا كَانَ دَعۡوَىٰهُمۡ إِذۡ جَآءَهُم بَأۡسُنَآ إِلَّآ أَن
قَالُوٓاْ إِنَّا كُنَّا ظَٰلِمِينَ ٥

6. われら*は必ずや、（使徒*らが）遣わされた者たちに尋ねよう。また必ずや、使徒*たちにも尋ねよう。[2]

فَلَنَسۡـَٔلَنَّ ٱلَّذِينَ أُرۡسِلَ إِلَيۡهِمۡ وَلَنَسۡـَٔلَنَّ
ٱلۡمُرۡسَلِينَ ٦

7. それから必ずや知識をもって、（彼らが現世で行ったことについて、）彼らに語り聞かせよう。そして、われらはもとより（彼らに対する）不在者であったわけではない[3]。

فَلَنَقُصَّنَّ عَلَيۡهِم بِعِلۡمٖۖ وَمَا كُنَّا غَآئِبِينَ ٧

8. （復活の）その日*、（行いの）重みは真実である[4]。誰でも、自分の（善行の）秤が重かった者、それらの者たちこそは成功者である。[5]

وَٱلۡوَزۡنُ يَوۡمَئِذٍ ٱلۡحَقُّۚ فَمَن ثَقُلَتۡ مَوَٰزِينُهُۥ
فَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡمُفۡلِحُونَ ٨

---

1 この「猛威」とは、懲罰のこと（ムヤッサル 151 頁参照）。

2 使徒*が遣わされた人々には、彼らが自分たちの使徒*に、いかなる返答をしたかをお尋ねになる。また使徒*たちには、彼らがアッラー*の教えの伝達を果たし、そして人々がそれに対してどのような返答をしたかを、お尋ねになる（前掲書、同頁参照）。アーヤ*8、食卓章 109 の訳注も参照。

3 かれは全てをご覧（らん）になるお方であり、かれから隠れられるものは何もない（イブン・カスィール 3:389 参照）。

4 その日、人々の行いの重みは秤によって公正に量（はか）られる（ムヤッサル 151 頁参照）。

5 そもそもアッラー*は人々の行いを含め、全ての出来事について、それが存在する前からご存知であり、それが存在した後にお忘れになることもない。アッラー*は「守られし碑板*」も「現世での行いの帳簿」も、そもそも必要とはされないが、ただそれは創造物に対して議論の余地がなくなるようにするためなのである。アッラー*が復活の日*にあえて秤を提示されるのも同様で、それは天国の徒であれ、地獄の徒であれ、創造物に対する証明とするためのものに過ぎない（アッ＝タバリー5:3445 参照）。

9. そして誰でも、その（善行の）秤(はかり)が軽かった者、それらの者たちはわれら*の御徴(みしるし)に不正*を働いていた[1]ゆえに、自(みずか)らを損(そこ)ねた者たちである。

وَمَنْ خَفَّتْ مَوَٰزِينُهُۥ فَأُو۟لَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ خَسِرُوٓا۟
أَنفُسَهُم بِمَا كَانُوا۟ بِـَٔايَٰتِنَا يَظْلِمُونَ ٩

10. （人々よ、）われら*は確かに、あなた方に地上で力を授(さず)け、そこにあなた方のための生活の糧(かて)を設(しつら)えた。あなた方が感謝することの、少ないことよ。

وَلَقَدْ مَكَّنَّٰكُمْ فِى ٱلْأَرْضِ وَجَعَلْنَا لَكُمْ
فِيهَا مَعَٰيِشَ ۗ قَلِيلًا مَّا تَشْكُرُونَ ١٠

11. また、われら*は確かにあなた方（の父祖(ふそ)アーダム*）を創造(そうぞう)し、それから形作り、それから天使*たちに（こう）言った。「アーダム*にサジダ*[2]せよ」。すると、彼らは（全員）サジダ*した。但(ただ)しイブリース*は別で、彼はサジダ*する者たちの一人ではなかった。[3]

وَلَقَدْ خَلَقْنَٰكُمْ ثُمَّ صَوَّرْنَٰكُمْ ثُمَّ قُلْنَا
لِلْمَلَٰٓئِكَةِ ٱسْجُدُوا۟ لِءَادَمَ فَسَجَدُوٓا۟ إِلَّآ
إِبْلِيسَ لَمْ يَكُن مِّنَ ٱلسَّٰجِدِينَ ١١

12. かれ（アッラー*）は、仰(おお)せられた。「われがあなたに命じた時、あなたがサジダ*するのを妨(さまた)げたものは何なのか？」彼（イブリース*）は申し上げた。「私は彼（アーダム*）よりも優れています。あなたは私を火からお創りになり、彼のことは泥土(どろつち)[4]からお創りになったのですから」。[5]

قَالَ مَا مَنَعَكَ أَلَّا تَسْجُدَ إِذْ أَمَرْتُكَ ۖ قَالَ أَنَا۠ خَيْرٌ
مِّنْهُ خَلَقْتَنِى مِن نَّارٍ وَخَلَقْتَهُۥ مِن طِينٍ ١٢

---

1 つまりアッラー*の御徴の否定と、それに対する不服従において、度を越していたということ（ムヤッサル 151 頁参照）。

2 ここでの「サジダ*」に関しては、雌牛章 34 の訳注を参照。

3 この出来事の詳細に関しては、雌牛章 34-39、アル＝ヒジュル章 28-42、夜の旅章 61-65、ター・ハー章 116-123、サード章 71-83 も参照。

4 アーダム*が土から段階を経（へ）て創られたことについては、アル＝ヒジュル章 26 の訳注を参照。

5 イブリース*はこの件に関し、いくつもの間違いを犯した。つまり「アッラー*のご命令に逆らったこと」「自惚（うぬぼ）れと高慢さ」「アッラー*に対して知りもしないことを言うこと」「火が土よりも優れているという間違った推測、あるいは嘘」といったことである（アッ＝サァディー284 頁参照）。

13. かれは仰せられた。「ならば、そこ[1]から落ちてゆくがいい。あなたがそこで高慢になる筋合いは、ないのだから。そして出て行け。本当にあなたは、卑しい者の類いなのだ」。

قَالَ فَٱهۡبِطۡ مِنۡهَا فَمَا يَكُونُ لَكَ أَن تَتَكَبَّرَ فِيهَا
فَٱخۡرُجۡ إِنَّكَ مِنَ ٱلصَّٰغِرِينَ ١٣

14. 彼は申し上げた。「彼らが蘇らされる日まで、私に猶予をお授け下さい」。

قَالَ أَنظِرۡنِيٓ إِلَىٰ يَوۡمِ يُبۡعَثُونَ ١٤

15. かれは仰せられた。「実にあなたは、（角笛に最初に吹き込まれる日[2]まで）猶予を与えられる者の一人である」。[3]

قَالَ إِنَّكَ مِنَ ٱلۡمُنظَرِينَ ١٥

16. 彼は申し上げた。「ならば、あなたが私を誤らせられたのですから、私は必ずやあなたのまっすぐな道（イスラーム*）において（誤らせるべく）、彼らに立ちはだかりましょう。

قَالَ فَبِمَآ أَغۡوَيۡتَنِي لَأَقۡعُدَنَّ لَهُمۡ صِرَٰطَكَ
ٱلۡمُسۡتَقِيمَ ١٦

17. それから私は必ずや、彼らの前から、後ろから、右から、左から、彼らに到来しましょう[4]。そしてあなたは彼らの大半を、感謝する者として見出さないのです」。

ثُمَّ لَأٓتِيَنَّهُم مِّنۢ بَيۡنِ أَيۡدِيهِمۡ وَمِنۡ خَلۡفِهِمۡ وَعَنۡ
أَيۡمَٰنِهِمۡ وَعَن شَمَآئِلِهِمۡۖ وَلَا تَجِدُ أَكۡثَرَهُمۡ
شَٰكِرِينَ ١٧

18. かれは仰せられた。「叱責され、追放されつつ、そこから出て行くのだ。実に彼らの内であなたに従った者があれば、われはきっと（彼らを含めた）あなた方全員で、地獄を満たすであろう」。

قَالَ ٱخۡرُجۡ مِنۡهَا مَذۡءُومٗا مَّدۡحُورٗاۖ لَّمَن تَبِعَكَ مِنۡهُمۡ
لَأَمۡلَأَنَّ جَهَنَّمَ مِنكُمۡ أَجۡمَعِينَ ١٨

---

1 楽園のこと。雌牛章 35 の訳注も参照。

2 この「角笛」については、家畜章 73 とその訳注を参照。

3 イブリース*の申し出が受け入れられたのは、しもべたちへの試練（王権章 2 の同語についての訳注も参照）と、イブリース*の誘惑に打ち勝つことで、彼らが褒美を得ることが出来るようにするため（アル＝バイダーウィー3:9 参照）。

4 これはつまり、真理から阻（はば）んだり、嘘を勧（すす）めたり、現世を目映（まばゆ）く見せたり、来世に疑念を抱（いだ）かせたりすることなどを意味するという（ムヤッサル 152 頁参照）。

19. 「アーダム*よ、あなたとあなたの妻は楽園[1]に住み、どこでも望む所から食べるがよい。そして、この木[2]に近づいて（その実を食べて）はならない。そうすればあなた方二人は、不正*者の類(たぐ)いになってしまうから」。

وَيَٰٓـَٔادَمُ ٱسۡكُنۡ أَنتَ وَزَوۡجُكَ ٱلۡجَنَّةَ فَكُلَا مِنۡ
حَيۡثُ شِئۡتُمَا وَلَا تَقۡرَبَا هَٰذِهِ ٱلشَّجَرَةَ فَتَكُونَا
مِنَ ٱلظَّٰلِمِينَ ١٩

20. そしてシャイターン*は、彼ら二人の隠(かく)されていた恥部(ちぶ)（アウラ*）を彼ら自身に露(あら)わにすべく、二人を唆(そそのか)して言った。「あなた方の主(しゅ)*があなた方にこの木を禁じられたのは、あなた方が天使*になるか、あるいは永遠なる（生を得る）者の仲間とならないようにするために外(ほか)ならない」。

فَوَسۡوَسَ لَهُمَا ٱلشَّيۡطَٰنُ لِيُبۡدِيَ لَهُمَا مَا وُۥرِيَ
عَنۡهُمَا مِن سَوۡءَٰتِهِمَا وَقَالَ مَا نَهَىٰكُمَا رَبُّكُمَا
عَنۡ هَٰذِهِ ٱلشَّجَرَةِ إِلَّآ أَن تَكُونَا مَلَكَيۡنِ
أَوۡ تَكُونَا مِنَ ٱلۡخَٰلِدِينَ ٢٠

21. そして彼は、二人に向かって（こう）誓(ちか)った。「本当に私はまさしく、あなた方二人に対する忠告(ちゅうこく)者である」。

وَقَاسَمَهُمَآ إِنِّي لَكُمَا لَمِنَ ٱلنَّٰصِحِينَ ٢١

22. こうして彼は、偽(いつわ)りによって二人を陥(おとしい)れた。そして二人が木（の実）を味わった時、その恥部(ちぶ)（アウラ*）は彼ら自身に露(あら)わになり、彼らは楽園の葉を自分自身（の恥部(ちぶ)）に当て始めた[3]。そして彼らの主(しゅ)*は二人に呼びかけられ、（こう）仰(おお)せられた。「われはあの木を、あなた方に禁じたのではなかったか？　そしてあなた方に、本当にシャイターン*はあなた方にとっての紛(まぎ)れもない敵である、と言わなかったのか？」

فَدَلَّىٰهُمَا بِغُرُورٖۚ فَلَمَّا ذَاقَا ٱلشَّجَرَةَ بَدَتۡ لَهُمَا
سَوۡءَٰتُهُمَا وَطَفِقَا يَخۡصِفَانِ عَلَيۡهِمَا مِن وَرَقِ ٱلۡجَنَّةِۖ
وَنَادَىٰهُمَا رَبُّهُمَآ أَلَمۡ أَنۡهَكُمَا عَن تِلۡكُمَا ٱلشَّجَرَةِ
وَأَقُل لَّكُمَآ إِنَّ ٱلشَّيۡطَٰنَ لَكُمَا عَدُوّٞ مُّبِينٞ ٢٢

---

1 アーダム*とその妻ハウワーゥ*が住んでいた楽園に関しては、雌牛章 35 の訳注を参照。

2 この「木」については、雌牛章 35 の訳注を参照。

3 恥部を露わにすることは重大なことであり、現在に至るまでそれは、人間の性質が不快に感じ、理性が醜（みにく）いと見なすものである（ムヤッサル 152 頁参照）。

23. 二人は申し上げた。「我らが主*よ、私たちは自分自身に不正*を犯しました。そしてあなたが私たちをお赦しになり、ご慈悲をかけて下さらなければ、私たちは間違いなく損失者の類いとなってしまいます」。[1]

قَالَا رَبَّنَا ظَلَمْنَآ أَنفُسَنَا وَإِن لَّمْ تَغْفِرْ لَنَا
وَتَرْحَمْنَا لَنَكُونَنَّ مِنَ ٱلْخَٰسِرِينَ ٢٣

24. かれは仰せられた。「あなた方は（シャイターン*と）互いに敵となって、（楽園から）落ちて行け。そしてあなた方には地上で、暫しの[2]住まいと楽しみがある」。

قَالَ ٱهْبِطُوا۟ بَعْضُكُمْ لِبَعْضٍ عَدُوٌّ ۖ وَلَكُمْ
فِى ٱلْأَرْضِ مُسْتَقَرٌّ وَمَتَٰعٌ إِلَىٰ حِينٍ ٢٤

25. かれは仰せられた。「あなた方はそこで生き、そこで死に、そしてそこから（復活の日*、蘇らされるために）出されるのだ」。

قَالَ فِيهَا تَحْيَوْنَ وَفِيهَا تَمُوتُونَ وَمِنْهَا
تُخْرَجُونَ ٢٥

26. アーダム*の子ら（人類）よ、われら*はあなた方に、自分たちの恥部（アウラ*）を覆う衣服と、着飾るためのものを、確かに下した[3]。そして敬虔さ*の衣こそが、より善いのである。それは彼らが教訓を得るようにとの、アッラー*の御徴[4]の一つなのだ。

يَٰبَنِىٓ ءَادَمَ قَدْ أَنزَلْنَا عَلَيْكُمْ لِبَاسًا يُوَٰرِى
سَوْءَٰتِكُمْ وَرِيشًا ۖ وَلِبَاسُ ٱلتَّقْوَىٰ ذَٰلِكَ
خَيْرٌ ۚ ذَٰلِكَ مِنْ ءَايَٰتِ ٱللَّهِ لَعَلَّهُمْ يَذَّكَّرُونَ ٢٦

27. アーダム*の子らよ、シャイターン*が（罪への誘惑によって）、あなた方を試練にかけるようなことがあっては、決してならない。彼があなた方の先祖二人を、その恥部（アウラ*）を彼ら自身に露わにすべく、その衣服を彼らから剥ぎ取り、楽園から追い出してしまったように。まさに彼とその徒党は、あなた方が彼らを見ることの出来な

يَٰبَنِىٓ ءَادَمَ لَا يَفْتِنَنَّكُمُ ٱلشَّيْطَٰنُ كَمَآ
أَخْرَجَ أَبَوَيْكُم مِّنَ ٱلْجَنَّةِ يَنزِعُ عَنْهُمَا
لِبَاسَهُمَا لِيُرِيَهُمَا سَوْءَٰتِهِمَآ ۗ إِنَّهُۥ يَرَىٰكُمْ
هُوَ وَقَبِيلُهُۥ مِنْ حَيْثُ لَا تَرَوْنَهُمْ ۗ إِنَّا جَعَلْنَا
ٱلشَّيَٰطِينَ أَوْلِيَآءَ لِلَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ ٢٧

1 預言者*・使徒*の無謬（むびゅう）性については、雌牛章 36 の訳注を参照。

2 この「暫し」については、雌牛章 36 の訳注を参照。

3 一説に、衣服の原料となる植物は、天から「下される」雨水によって生育することから、衣服が「下された」と表現されている（アル＝バガウィー2:185 参照）。

4 アッラー*の主*性、唯一性*、ご恩寵（おんちょう）、ご慈悲を示す証拠のこと（ムヤッサル 153 頁参照）。

い所から、あなた方を見ているのだぞ。本当にわれら*はシャイターン*たちを、信仰しない者たちの盟友としたのである。

28. また彼ら（信仰しない者たち）は、自分たちが醜行[1]を行った時には、（こう）言った。「私たちは、私たちのご先祖様が、このようにするのを見出したのだ。アッラー*が、それを私たちにご命じになったのである」。（使徒*よ、）言ってやるがいい。「本当にアッラー*は、醜行をご命じにはならない。一体あなた方はアッラー*に対して、自分たちが知りもしないことを言うのか？」

وَإِذَا فَعَلُوا۟ فَٰحِشَةً قَالُوا۟ وَجَدْنَا عَلَيْهَآ ءَابَآءَنَا وَٱللَّهُ أَمَرَنَا بِهَا ۗ قُلْ إِنَّ ٱللَّهَ لَا يَأْمُرُ بِٱلْفَحْشَآءِ ۖ أَتَقُولُونَ عَلَى ٱللَّهِ مَا لَا تَعْلَمُونَ ﴿٢٨﴾

29. （使徒*よ、）言うがよい。「我が主*は、公正をご命じになった。そしてあなた方は、いかなるマスジド*でも自分たちの顔を正し[2]、かれに祈れ。かれだけに真摯に崇拝*行為を捧げつつ[3]。かれがあなた方（の創造）を始め給うたように、あなた方は（死後の復活へと）戻るのだから」。

قُلْ أَمَرَ رَبِّى بِٱلْقِسْطِ ۖ وَأَقِيمُوا۟ وُجُوهَكُمْ عِندَ كُلِّ مَسْجِدٍ وَٱدْعُوهُ مُخْلِصِينَ لَهُ ٱلدِّينَ ۚ كَمَا بَدَأَكُمْ تَعُودُونَ ﴿٢٩﴾

30. （アッラー*は人々を二つの集団にお分けになった。）かれがお導きになった集団と、迷妄が確定した集団。本当に彼らは、アッラー*をよそにシャイターン*らを盟友とし、自分たちが導かれた者だと思い込んでいる。

فَرِيقًا هَدَىٰ وَفَرِيقًا حَقَّ عَلَيْهِمُ ٱلضَّلَٰلَةُ ۗ إِنَّهُمُ ٱتَّخَذُوا۟ ٱلشَّيَٰطِينَ أَوْلِيَآءَ مِن دُونِ ٱللَّهِ وَيَحْسَبُونَ أَنَّهُم مُّهْتَدُونَ ﴿٣٠﴾

1 「醜行」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。そしてその一つが、裸でタワーフ*を行うこと（アッ＝サァディー286 頁参照）。イブン・カスィール*によれば、クライシュ族*以外の当時のアラブ人には、いかなる正当な宗教的根拠もない、このような習慣があったのだという（3:402 参照）。

2 「マスジド*で顔を正す」とは、アッラー*へと向かい、崇拝*行為、特に礼拝を、その外面・内面いずれにおいても、完全な形で行うよう努力すること（アッ＝サァディー286 頁参照）。雌牛章 112 と、その訳注も参照。

3 アッラー*だけに「真摯に崇拝*行為を捧げる」ことについては、婦人章 146 の訳注を参照。

31. アーダム*の子らよ、いかなるマスジド*でも、自分たちの飾(かざ)りを（身に）着けよ[1]。また、飲みかつ食べるのだ。そして度(ど)を越(こ)してはいけない[2]。本当にかれは、度(ど)を越(こ)す者をお好きにはならないのだから。

۞ يَٰبَنِيٓ ءَادَمَ خُذُواْ زِينَتَكُمۡ عِندَ كُلِّ مَسۡجِدٖ
وَكُلُواْ وَٱشۡرَبُواْ وَلَا تُسۡرِفُوٓاْۚ إِنَّهُۥ لَا يُحِبُّ
ٱلۡمُسۡرِفِينَ ٣١

32. （使徒(しと)*よ、シルク*の徒に）言ってやるがいい。「かれ（アッラー*）がその僕(しもべ)たちのために出し給(たも)うたアッラー*の装飾(そうしょく)品と、糧(かて)の内の善きものを禁じたのは、一体誰なのか？」言うのだ。「それらは現世の生活において、信仰する者たち（と、それ以外の者たち）のためのものであり、復活の日*には（信仰者たちの）専有物(せんゆう)となる」。同様にわれらは、知識ある民に御徴(みしるし)を詳(つまび)らかにするのである。

قُلۡ مَنۡ حَرَّمَ زِينَةَ ٱللَّهِ ٱلَّتِيٓ أَخۡرَجَ لِعِبَادِهِۦ
وَٱلطَّيِّبَٰتِ مِنَ ٱلرِّزۡقِۚ قُلۡ هِيَ لِلَّذِينَ ءَامَنُواْ فِي
ٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَا خَالِصَةٗ يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِۗ كَذَٰلِكَ
نُفَصِّلُ ٱلۡأٓيَٰتِ لِقَوۡمٖ يَعۡلَمُونَ ٣٢

33. （使徒(しと)*よ、）言ってやるがいい。「我が主(しゅ)*は、（次のことを）まさに禁じられた。醜行(しゅうこう)の内の露(あら)わなものと、秘められたもの。罪悪(ざいあく)。不当な侵害(しんがい)[3]。あなた方がアッラー*に対し、かれがそこにおいて[4]、いかなる根拠(こんきょ)も下されてはいないものを並べ（て崇(あが)め）ること。あなた方がアッラー*に対し、自分たちが知りもしないことを語ること」。

قُلۡ إِنَّمَا حَرَّمَ رَبِّيَ ٱلۡفَوَٰحِشَ مَا ظَهَرَ مِنۡهَا وَمَا
بَطَنَ وَٱلۡإِثۡمَ وَٱلۡبَغۡيَ بِغَيۡرِ ٱلۡحَقِّ وَأَن
تُشۡرِكُواْ بِٱللَّهِ مَا لَمۡ يُنَزِّلۡ بِهِۦ سُلۡطَٰنٗا وَأَن
تَقُولُواْ عَلَى ٱللَّهِ مَا لَا تَعۡلَمُونَ ٣٣

---

1 礼拝をする時には、アウラ*を覆う衣服、清潔さ、心身の清めなどによる、イスラーム*法に則（のっと）った形で「身を飾る」（ムヤッサル 154 頁参照）。このアーヤ*は、当時のアラブ人が裸でタワーフ*することに関し、下ったとされる（イブン・カスィール 3:405 参照）。アーヤ*28 の訳注も参照。

2 食べ物などを食べ過ぎたり、飲食・衣服などにおいて浪費したり、合法・非合法の決まりを破ったりしてはならない、ということ（アッ＝サァディー287 頁参照）。

3 「醜行」「侵害」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。「罪悪」は、アッラー*がその罰を約束されているような、全ての罪のこと（前掲書、同頁参照）。

4 つまり、アッラー*と並べて崇拝*することにおいて（ムヤッサル 154 頁参照）。

34. いかなる（不信仰な）共同体にも、（定められた）期限[1]がある。そして彼らの期限が訪れれば、（彼らはそれを）一刻たりとも遅らせたり、早めたりすることはない」。

وَلِكُلِّ أُمَّةٍ أَجَلٌ ۖ فَإِذَا جَاءَ أَجَلُهُمْ لَا
يَسْتَأْخِرُونَ سَاعَةً ۖ وَلَا يَسْتَقْدِمُونَ ٣٤

35. アーダム*の子らよ、もしもあなた方の内から、あなた方にわが御徴（アーヤ*）を読み聞かせる使徒*たちが、あなた方のもとに到来した時、誰であれ（アッラー*を）畏れ*、（行いを）正した者、その者たちには怖れもなければ、悲しむこともない[2]。

يَا بَنِي آدَمَ إِمَّا يَأْتِيَنَّكُمْ رُسُلٌ مِنْكُمْ يَقُصُّونَ
عَلَيْكُمْ آيَاتِي ۙ فَمَنِ اتَّقَىٰ وَأَصْلَحَ فَلَا خَوْفٌ
عَلَيْهِمْ وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ٣٥

36. そしてわれら*の御徴を嘘呼ばわりし、それに対して奢り高ぶる者たち、それらの者たちは業火の住人である。彼らはそこに永遠に留まるのだ。

وَالَّذِينَ كَذَّبُوا بِآيَاتِنَا وَاسْتَكْبَرُوا عَنْهَا
أُولَٰئِكَ أَصْحَابُ النَّارِ ۖ هُمْ فِيهَا خَالِدُونَ ٣٦

37. ならば一体、アッラーに対して嘘を捏造したり、その御徴を嘘呼ばわりしたりする者よりも、ひどい不正*を働く者があろうか？　それらの者たちには（現世で）、書[3]（に記されてあるもの）からの、自分たちの分け前[4]が訪れよう。やがて、われら*の使いたち[5]が彼ら（不正*者たちの魂）を召すべく、彼らのもとを訪れると、彼ら（使いたち）は（、こう）言う。「あなた方が、アッラー*を差しおいて祈っていたものはどこか？」彼らは言う。「（それ

فَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّنِ افْتَرَىٰ عَلَى اللَّهِ كَذِبًا أَوْ كَذَّبَ
بِآيَاتِهِ ۚ أُولَٰئِكَ يَنَالُهُمْ نَصِيبُهُمْ مِنَ الْكِتَابِ ۖ
حَتَّىٰ إِذَا جَاءَتْهُمْ رُسُلُنَا يَتَوَفَّوْنَهُمْ قَالُوا أَيْنَ
مَا كُنْتُمْ تَدْعُونَ مِنْ دُونِ اللَّهِ ۖ قَالُوا ضَلُّوا عَنَّا
وَشَهِدُوا عَلَىٰ أَنْفُسِهِمْ أَنَّهُمْ كَانُوا كَافِرِينَ ٣٧

---

1 この「期限」は、彼らに下る懲罰の時期のこと（ムヤッサル 154 頁参照）。

2 「彼らには怖れもなければ、悲しむこともない」については、雌牛章 38 の訳注を参照。

3 この「書」は、守られし碑板*のこととされる（前掲書、同頁参照）。

4 この「分け前」の解釈には、「善悪の行為」「行いと糧と寿命」などといった説がある（イブン・カスィール 3:410-411 参照）。

5 死期が訪れた人間の魂を引き抜く、死の天使*のこと（アッ＝サアディー288 頁参照）。家畜章 93 とその訳注も参照。

らは）私たちのもとから、喪失してしまいました」。彼らは、自分たちが不信仰者*だったことを、自らに対して証言することになるのである。

38. かれ（アッラー*）は仰せられる。「あなた方以前に滅びたジン*と人間からなる（、不信仰だった）共同体と共に、業火の中に入れ」。ある共同体が（地獄に）入って来るたび、それはその（先代である）仲間を呪う[1]。やがて彼らがそこに勢揃いすると、彼らの内の後代の者たちは、その先代に関して（アッラー*に訴えつつ、こう）言う。「我らが主*よ、これらの者たちが私たちを（真理から）迷わせたのです。ゆえに彼らには、業火による倍の懲罰をお与え下さい」。かれは仰せられる。「（あなた方と彼ら）全員に、倍のものがある。しかしあなた方は、分かっていないのだ[2]」。

قَالَ ٱدۡخُلُواْ فِيٓ أُمَمٖ قَدۡ خَلَتۡ مِن قَبۡلِكُم مِّنَ
ٱلۡجِنِّ وَٱلۡإِنسِ فِي ٱلنَّارِۖ كُلَّمَا دَخَلَتۡ أُمَّةٞ
لَّعَنَتۡ أُخۡتَهَاۖ حَتَّىٰٓ إِذَا ٱدَّارَكُواْ فِيهَا جَمِيعٗا
قَالَتۡ أُخۡرَىٰهُمۡ لِأُولَىٰهُمۡ رَبَّنَا هَٰٓؤُلَآءِ أَضَلُّونَا
فَـَٔاتِهِمۡ عَذَابٗا ضِعۡفٗا مِّنَ ٱلنَّارِۖ قَالَ لِكُلّٖ
ضِعۡفٞ وَلَٰكِن لَّا تَعۡلَمُونَ ٣٨

39. そして、彼らの内の先代はその後代の者たちに、（こう）言う。「ならば、あなた方が（懲罰において、）私たちよりもましというわけではない」。（アッラー*は、彼ら全員に仰せられる。）「では、あなた方が稼いでいたもの（罪）ゆえに、懲罰を味わうがよい」。[3]

وَقَالَتۡ أُولَىٰهُمۡ لِأُخۡرَىٰهُمۡ فَمَا كَانَ لَكُمۡ
عَلَيۡنَا مِن فَضۡلٖ فَذُوقُواْ ٱلۡعَذَابَ بِمَا كُنتُمۡ
تَكۡسِبُونَ ٣٩

---

1 先代の不信仰な共同体に従ったことで、自らも不信仰となった後代の共同体が、それゆえに先代の者たちを呪う、ということ（ムヤッサル 155 頁参照）。

2 アッラー*があなた方にご用意された地獄の懲罰が、いかなるものかを分かっていない、ということ（前掲書、同頁参照）。

3 同様の情景の描写として、雌牛章 166-167、イブラーヒーム*章 21-22、識別章 17-19、物語章 63、部族連合章 67-68、サバア章 31-33、40-41 も参照。

40. 本当にわれら*の御徴[1]を嘘呼ばわりし、それに対して奢り高ぶる者たち、彼らには天の門が開き放たれることはない[2]。そして彼らは、ラクダが針の穴を通るまで、天国に入ることはないのだ。同様にわれら*は、罪悪者たちに報いるのである。

إِنَّ ٱلَّذِينَ كَذَّبُوا۟ بِـَٔايَـٰتِنَا وَٱسْتَكْبَرُوا۟ عَنْهَا لَا تُفَتَّحُ لَهُمْ أَبْوَٰبُ ٱلسَّمَآءِ وَلَا يَدْخُلُونَ ٱلْجَنَّةَ حَتَّىٰ يَلِجَ ٱلْجَمَلُ فِى سَمِّ ٱلْخِيَاطِ ۚ وَكَذَٰلِكَ نَجْزِى ٱلْمُجْرِمِينَ ﴿٤٠﴾

41. 彼らには地獄の寝床があり、その頭上からは（炎の）覆いがある。そのようにわれら*は、不正*者たちに報いるのだ。

لَهُم مِّن جَهَنَّمَ مِهَادٌ وَمِن فَوْقِهِمْ غَوَاشٍ ۚ وَكَذَٰلِكَ نَجْزِى ٱلظَّـٰلِمِينَ ﴿٤١﴾

42. 信仰し、正しい行い*を行う者たち——われら*は人に、その能力以上のものを負わせない——、それらの者たちは天国の民となる。彼らはそこに永遠に留まるのだ。

وَٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّـٰلِحَـٰتِ لَا نُكَلِّفُ نَفْسًا إِلَّا وُسْعَهَآ أُو۟لَـٰٓئِكَ أَصْحَـٰبُ ٱلْجَنَّةِ ۖ هُمْ فِيهَا خَـٰلِدُونَ ﴿٤٢﴾

43. また、われら*は彼らの胸中にある、憎しみの念を一掃する[3]。彼らの下からは河川が流れており、彼らは（こう）言うのだ。「私たちをここへと導いて下さったアッラー*に、称賛*あれ。私たちは導かれるべくもなかったのだ、もしアッラー*が私たちをお導き下さらなかったならば。我らが主*の使徒*たちは真理と共に、確かに到来したのである」。そして、彼らには呼びかけられる。「その天国は、あなた方が行っていたことゆえ、あなた方に引き継がされた[4]のだ」。

وَنَزَعْنَا مَا فِى صُدُورِهِم مِّنْ غِلٍّ تَجْرِى مِن تَحْتِهِمُ ٱلْأَنْهَـٰرُ ۖ وَقَالُوا۟ ٱلْحَمْدُ لِلَّهِ ٱلَّذِى هَدَىٰنَا لِهَـٰذَا وَمَا كُنَّا لِنَهْتَدِىَ لَوْلَآ أَنْ هَدَىٰنَا ٱللَّهُ ۖ لَقَدْ جَآءَتْ رُسُلُ رَبِّنَا بِٱلْحَقِّ ۖ وَنُودُوٓا۟ أَن تِلْكُمُ ٱلْجَنَّةُ أُورِثْتُمُوهَا بِمَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٤٣﴾

---

1 この「御徴」とは、アッラーの唯一性*を示す様々な証拠のこと（ムヤッサル 155 頁参照）。

2 生前においてはその行いが、死後には魂そのものが天に受け入れられることがない、ということ（前掲書、同頁参照）。

3 信仰者たちは復活の日*、天国と地獄の間のアーチで止められ、現世でのお互いに対する不正の清算をつけさせられる。そして正され、清い状態になった後に、初めて天国に入ることが許される（アル＝ブハーリー6535 参照）。

4 天国を「引き継がされた」という表現については、マルヤム*章 63 の訳注を参照。

44. 天国の民は、地獄の民に（こう）呼びかける。「私たちは確かに、我らが主*が私たちに約束されたものが真実だと見出した。それであなた方は、あなた方の主*があなた方に約束されたものが真実だと見出したのか？」彼ら（地獄の民）は言う。「ええ（、見出しましたとも）」。そして呼びかける者が、彼らの中に（こう）呼びかける。「不正*者たちにアッラー*の呪い[1]あれ」。

وَنَادَىٰٓ أَصۡحَٰبُ ٱلۡجَنَّةِ أَصۡحَٰبَ ٱلنَّارِ أَن قَدۡ
وَجَدۡنَا مَا وَعَدَنَا رَبُّنَا حَقّٗا فَهَلۡ وَجَدتُّم مَّا وَعَدَ
رَبُّكُمۡ حَقّٗاۖ قَالُواْ نَعَمۡۚ فَأَذَّنَ مُؤَذِّنُۢ بَيۡنَهُمۡ
أَن لَّعۡنَةُ ٱللَّهِ عَلَى ٱلظَّٰلِمِينَ ٤٤

45. （彼らは、自分たちと人々を）アッラー*の道から阻み、それ（その道）を捻じ曲げようとする者たち。そして彼らは、来世を否定する者たちなのである。

ٱلَّذِينَ يَصُدُّونَ عَن سَبِيلِ ٱللَّهِ وَيَبۡغُونَهَا عِوَجٗا
وَهُم بِٱلۡأٓخِرَةِ كَٰفِرُونَ ٤٥

46. （天国の民と地獄の民の）両者の間には、障壁[2]がある。そして高壁の上には、（両者）いずれのことも、その目印によって知る者たちがいる[3]。彼らは天国の民に、（こう）呼びかける。「あなた方に平安を[4]」。彼ら（高壁の民）は、（自分たちも天国に入ることを）所望しつつも、（まだ）そこに入れずにいる。

وَبَيۡنَهُمَا حِجَابٞۚ وَعَلَى ٱلۡأَعۡرَافِ رِجَالٞ يَعۡرِفُونَ
كُلَّۢا بِسِيمَىٰهُمۡۚ وَنَادَوۡاْ أَصۡحَٰبَ ٱلۡجَنَّةِ أَن
سَلَٰمٌ عَلَيۡكُمۡۚ لَمۡ يَدۡخُلُوهَا وَهُمۡ يَطۡمَعُونَ ٤٦

47. また、彼ら（高壁の民）の目が地獄の民の方に向けられると、彼らは（こう）言う。「我らが主*よ、私たちを不正*者である民と一緒にはしないで下さい！」

۞ وَإِذَا صُرِفَتۡ أَبۡصَٰرُهُمۡ تِلۡقَآءَ أَصۡحَٰبِ ٱلنَّارِ
قَالُواْ رَبَّنَا لَا تَجۡعَلۡنَا مَعَ ٱلۡقَوۡمِ ٱلظَّٰلِمِينَ ٤٧

---

1 「アッラー*の呪い」については、雌牛章 88 の訳注を参照。

2 この障壁が、すなわち高壁のことである、とされる（ムヤッサル 156 頁参照）。一説にこれは、鉄章 13 に登場する壁のこと（アッ＝タバリー5：3517 参照）。

3 この「高壁の民」は、現世での善行と悪行が同等であったため、天国・地獄のいずれに入ることも許されてはいない者たちのこととされる（イブン・カスィール 3:418-420 参照）。尚、天国の民の「目印」とは、顔の美しさと白さ（イムラーン家章 107 参照）で、地獄の民の「目印」は顔の醜（みにく）さと黒さ（イムラーン家章 106 参照）である、と言われる（アル＝クルトゥビー7:212 参照）。

4 「あなた方に平安を」については、雷鳴章 24 の訳注を参照。

48. また高壁の民は、その目印によって知る者たち[1]に呼びかけ、（こう）言う。「あなた方が（現世で）集めていたものも、あなた方が思い上がっていたこと[2]も、（この日、）自分自身の役に立たなかったではないか？

وَنَادَىٰٓ أَصۡحَٰبُ ٱلۡأَعۡرَافِ رِجَالٗا يَعۡرِفُونَهُم
بِسِيمَىٰهُمۡ قَالُواْ مَآ أَغۡنَىٰ عَنكُمۡ جَمۡعُكُمۡ وَمَا كُنتُمۡ
تَسۡتَكۡبِرُونَ ٤٨

49. 一体これらの者たち[3]は、あなた方が『アッラー*が彼らを、そのご慈悲に与からせること[4]などはない』と、誓っていた者たちではないのか？」（アッラー*は仰せられる。）「（高壁の民よ、）天国に入るがよい。あなた方には怖れもなければ、悲しむこともない[5]」。

أَهَٰٓؤُلَآءِ ٱلَّذِينَ أَقۡسَمۡتُمۡ لَا يَنَالُهُمُ ٱللَّهُ بِرَحۡمَةٍۚ
ٱدۡخُلُواْ ٱلۡجَنَّةَ لَا خَوۡفٌ عَلَيۡكُمۡ وَلَآ أَنتُمۡ
تَحۡزَنُونَ ٤٩

50. 地獄の民は、天国の民に呼びかける。「私たちの上に、水をいくらか注いでくれ！あるいは、アッラー*があなた方に授けて下さった糧の内から（、何かを）！」彼ら（天国の民）は言う。「実にアッラー*は不信仰者*たちに、それらを禁じられたのだ。

وَنَادَىٰٓ أَصۡحَٰبُ ٱلنَّارِ أَصۡحَٰبَ ٱلۡجَنَّةِ أَنۡ أَفِيضُواْ
عَلَيۡنَا مِنَ ٱلۡمَآءِ أَوۡ مِمَّا رَزَقَكُمُ ٱللَّهُۚ قَالُوٓاْ
إِنَّ ٱللَّهَ حَرَّمَهُمَا عَلَى ٱلۡكَٰفِرِينَ ٥٠

51. （彼らは、）自分たちの宗教を戯れごとや遊興とし、現世の生活に欺かれた者たち」。今日われら*は、彼らが自分たちの（復活の）この日の拝謁を忘れ、われら*の御徴を否定していたように、彼らのことを忘れてやろう[6]。

ٱلَّذِينَ ٱتَّخَذُواْ دِينَهُمۡ لَهۡوٗا وَلَعِبٗا وَغَرَّتۡهُمُ
ٱلۡحَيَوٰةُ ٱلدُّنۡيَاۚ فَٱلۡيَوۡمَ نَنسَىٰهُمۡ كَمَا نَسُواْ
لِقَآءَ يَوۡمِهِمۡ هَٰذَا وَمَا كَانُواْ بِـَٔايَٰتِنَا
يَجۡحَدُونَ ٥١

---

1 不信仰者*の内でも、その指導者的な地位にあった者たち（ムヤッサル 156 頁参照）。

2 「集めていたもの」とは、財産や仲間など。「思い上がっていたこと」とは、アッラー*への信仰と、真理を受容することに対する思い上がりのこと（前掲書、同頁参照）。

3 「これらの者たち」とは、現世において弱く、貧しかった信仰者たちのことである、とされる（前掲書、同頁参照）。家畜章 53 とその訳注も参照。

4 「ご慈悲に与からせること」とは、天国に入れて下さること（前掲書、同頁参照）。

5 「怖れもなければ、悲しむこともない」については、雌牛章 38 の訳注を参照。

6 彼らが、復活の日*の拝謁（はいえつ）を「忘れた」というのは、彼らがそのために現世で努力することを放棄（ほうき）したことを、そしてアッラー*が「彼らのことを忘れる」とは、彼らを地獄に置き去りにすることを意味する、と言われる（前掲書、同頁参照）。

52. われら*は彼ら（不信仰者）に、われら*が知識と共に明らかにした、信仰する民への導き、慈悲である啓典（クルアーン*）を、確かにもたらしたのだ。

وَلَقَدْ جِئْنَٰهُم بِكِتَٰبٍ فَصَّلْنَٰهُ عَلَىٰ عِلْمٍ
هُدًى وَرَحْمَةً لِّقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ﴿٥٢﴾

53. 一体彼らは、その結末[1]を待っているだけなのか？　その結末がやって来る（復活の）日*、以前それを忘れていた者たち[2]は、（こう）言うのだ。「我らが主*の使徒*たちは、真理と共に確かに到来しました。では、私たちに誰か（アッラー*の御許での）執り成し手がおり、それで彼らは私たちに執り成してくれるでしょうか？[3] あるいは私たちは（現世に）戻されて、私たちが行っていたものとは違う（善い）行いをする（ことは、出来ます）でしょうか？[4]」彼らは確かに、自分自身を損ねたのである。そして彼らがでっち上げていたもの[5]は、彼らの前から消え失せてしまった。

هَلْ يَنظُرُونَ إِلَّا تَأْوِيلَهُۥ ۚ يَوْمَ يَأْتِى تَأْوِيلُهُۥ
يَقُولُ ٱلَّذِينَ نَسُوهُ مِن قَبْلُ قَدْ جَآءَتْ
رُسُلُ رَبِّنَا بِٱلْحَقِّ فَهَل لَّنَا مِن شُفَعَآءَ
فَيَشْفَعُوا۟ لَنَآ أَوْ نُرَدُّ فَنَعْمَلَ غَيْرَ ٱلَّذِى
كُنَّا نَعْمَلُ ۚ قَدْ خَسِرُوٓا۟ أَنفُسَهُمْ وَضَلَّ
عَنْهُم مَّا كَانُوا۟ يَفْتَرُونَ ﴿٥٣﴾

54. 本当にあなた方の主*は、諸天と大地を六日間で創造され[6]、それから御座に上がられた

إِنَّ رَبَّكُمُ ٱللَّهُ ٱلَّذِى خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضَ
فِى سِتَّةِ أَيَّامٍ ثُمَّ ٱسْتَوَىٰ عَلَى ٱلْعَرْشِ

1 クルアーン*の中で彼ら不信仰者*に警告されていた、懲罰のこと（ムヤッサル157頁参照）。

2 現世でクルアーン*を放棄（ほうき）し、信じなかった者たちのこと（前掲書、同頁参照）。

3 復活の日*の「執り成し」については、雌牛章48、マルヤム*章87、ター・ハー章109とその訳注を参照。

4 いざ復活の日*（あるいは死）が到来すると、彼らは現世での猶予を求めたり、自分たちを現世に返してくれることを頼んだりする。だが、もちろんそれは叶わない。家畜章27-28、イブラーヒーム*章44、信仰者たち章99-100、アッ＝サジダ*章12、創成者*章37、赦し深いお方章11-12、相談章44、偽信者*たち章10-11も参照。

5 現世で、彼らがアッラー*と並べて崇拝*していたもののこと（ムヤッサル157頁参照）。

6 「六日間での天地創造」については、詳細にされた章9-12とその訳注も参照。

[1]アッラー*である。かれは夜を昼に覆わせられ（、昼を夜にお入れにな）る[2]。それは（互いに）相手をせわしなく求める[3]。また（かれは）太陽も月も星々も、そのご命令によって（かれがお望みの者に）奉仕させられるもの（として、お創りになった）。かれにこそ、（全ての）創造とご命令は属するのではないか？　全創造物の主*アッラー*は、祝福にあふれたお方よ。

يُغۡشِي ٱلَّيۡلَ ٱلنَّهَارَ يَطۡلُبُهُۥ حَثِيثٗا وَٱلشَّمۡسَ وَٱلۡقَمَرَ وَٱلنُّجُومَ مُسَخَّرَٰتِۭ بِأَمۡرِهِۦٓۗ أَلَا لَهُ ٱلۡخَلۡقُ وَٱلۡأَمۡرُۗ تَبَارَكَ ٱللَّهُ رَبُّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٥٤

55. （信仰者よ、）あなた方の主*におそれ畏まりつつ、密かに祈るのだ。本当にかれは、度を越す者たちをお好きではないのだから。[4]

ٱدۡعُواْ رَبَّكُمۡ تَضَرُّعٗا وَخُفۡيَةًۚ إِنَّهُۥ لَا يُحِبُّ ٱلۡمُعۡتَدِينَ ٥٥

56. また地上で、（使徒*が遣わされて）そこが正された後、腐敗*を働いてはならない。そして（アッラー*の懲罰を）怖れ、（その褒美を）望みつつ、かれに祈るのだ。本当にアッラー*のご慈悲は、善を尽くす者[5]たちの間近にあるのだから。

وَلَا تُفۡسِدُواْ فِي ٱلۡأَرۡضِ بَعۡدَ إِصۡلَٰحِهَا وَٱدۡعُوهُ خَوۡفٗا وَطَمَعًاۚ إِنَّ رَحۡمَتَ ٱللَّهِ قَرِيبٞ مِّنَ ٱلۡمُحۡسِنِينَ ٥٦

57. かれはそのご慈悲（雨）の前触れに、吉報を告げる風を送られるお方。やがてそれは（雨を湛えた）重厚な雲を運び、われら*

وَهُوَ ٱلَّذِي يُرۡسِلُ ٱلرِّيَٰحَ بُشۡرَۢا بَيۡنَ يَدَيۡ رَحۡمَتِهِۦۖ حَتَّىٰٓ إِذَآ أَقَلَّتۡ سَحَابٗا ثِقَالٗا سُقۡنَٰهُ لِبَلَدٖ مَّيِّتٖ فَأَنزَلۡنَا بِهِ ٱلۡمَآءَ فَأَخۡرَجۡنَا بِهِۦ

---

1 「御座（アルシュ）」はそもそもアラビア語で、寝台の意。アッラー*の御座は最も偉大な被造物である、と言われる。「御座にお上りになる」という表現に関しては、それを「いかに？」と問わず、その行為を他の被造物の行為と同様のものと見なすことなく、また否定せずにそのまま受け入れるのが、先代の模範（もはん）的なムスリム*たちの手法（アル＝バガウィー2:197、イブン・カスィール 3:426-427 参照）。

2 イムラーン家章 27 の、同様のくだりに関する訳注を参照。

3 お互いに遅れることなく、素早く交代するということ（イブン・カスィール 3:427 参照）。

4 全ての物事において、「度を越すこと」は禁じられる。アッラー*に対して不適切なことを祈ったり、祈願を誇張したり、その声を上げ過ぎたりすることも、その内の一つ（アッ＝サァディー291 頁参照）。

5 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

はそれを死んだ大地[1]へと導く。そして、われら*はそれで（雨）水を降らせ、それによってあらゆる果実を生まれ出させる。同様にわれら*は、あなた方が教訓を得るようにと、死者を（蘇らせて墓から）引き出すのである。

مِن كُلِّ ٱلثَّمَرَٰتِۚ كَذَٰلِكَ نُخۡرِجُ ٱلۡمَوۡتَىٰ
لَعَلَّكُمۡ تَذَكَّرُونَ ٥٧

58. 善い土地は、その主*のお許しにより、その（善い）植物が生える。そして悪性のもの（、そこから）は粗悪なものしか生えない[2]。同様にわれらは感謝する民に対し、御徴を多彩に示すのだ。

وَٱلۡبَلَدُ ٱلطَّيِّبُ يَخۡرُجُ نَبَاتُهُۥ بِإِذۡنِ رَبِّهِۦۖ وَٱلَّذِي
خَبُثَ لَا يَخۡرُجُ إِلَّا نَكِدٗاۚ كَذَٰلِكَ نُصَرِّفُ
ٱلۡأٓيَٰتِ لِقَوۡمٖ يَشۡكُرُونَ ٥٨

59. われら*は確かに、ヌーフ*をその民に遣わした[3]。彼は言った。「我が民よ、アッラー*（のみ）を崇拝*するのだ。あなた方にはかれの外に、崇拝*すべきものなどない。本当に私は、あなた方に対し、偉大な（復活の）日の懲罰（が襲いかかるの）を怖れているのだ」。

لَقَدۡ أَرۡسَلۡنَا نُوحًا إِلَىٰ قَوۡمِهِۦ فَقَالَ يَٰقَوۡمِ
ٱعۡبُدُواْ ٱللَّهَ مَا لَكُم مِّنۡ إِلَٰهٍ غَيۡرُهُۥٓ إِنِّيٓ أَخَافُ
عَلَيۡكُمۡ عَذَابَ يَوۡمٍ عَظِيمٖ ٥٩

60. 彼の民の内の、有力者たちは言った。「（ヌーフ*よ、）本当に私たちはまさに、あなたが紛れもない迷いの中にあると思う」。

قَالَ ٱلۡمَلَأُ مِن قَوۡمِهِۦٓ إِنَّا لَنَرَىٰكَ فِي ضَلَٰلٖ
مُّبِينٖ ٦٠

61. 彼（ヌーフ*）は言った。「我が民よ、私は迷ってなどいない。だが私は、全創造物の主*からの使徒*なのだ。

قَالَ يَٰقَوۡمِ لَيۡسَ بِي ضَلَٰلَةٞ وَلَٰكِنِّي رَسُولٞ
مِّن رَّبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٦١

---

1 枯れ果てて植物の育たない土地のこと（ムヤッサル 158 頁参照）。

2 信仰者の心はクルアーン*が沁（し）み込めば、それを信仰し、そこに信仰心が定着する。だが不信仰者*の心はクルアーン*が入って来ても、そのご利益に与かることなく、信仰が定着することもない。そしてそこに残存するのは、無益なものだけなのである（アッ＝タバリー5:3543 参照）。また同様の譬（たと）えとして、雷鳴章 17 も参照。

3 ヌーフ*とその民の間の出来事については、フード*章 25-48、信仰者たち章 23-30、詩人たち章 105-122、整列者章 75-82、月章 9-17、ヌーフ*章なども参照。

62. 私は我が主*のお言伝をあなた方に伝え、あなた方に忠言する。そして私はアッラー*によって、あなた方が知らないことを知っているのだ。

أُبَلِّغُكُمْ رِسَٰلَٰتِ رَبِّى وَأَنصَحُ لَكُمْ
وَأَعْلَمُ مِنَ ٱللَّهِ مَا لَا تَعْلَمُونَ ٦٢

63. 一体あなた方は、自分たちの主*からの教訓が、自分たちの内の一人の男に到来したことを、驚いているのか？　（それは）彼があなた方に警告し、あなた方が畏れ*、そしてあなた方が慈しまれるように、とのためなのだ」。

أَوَعَجِبْتُمْ أَن جَآءَكُمْ ذِكْرٌ مِّن رَّبِّكُمْ
عَلَىٰ رَجُلٍ مِّنكُمْ لِيُنذِرَكُمْ وَلِتَتَّقُوا۟
وَلَعَلَّكُمْ تُرْحَمُونَ ٦٣

64. そして彼らは彼（ヌーフ*）を嘘つき呼ばわりし、われら*は彼と、彼と共にあった者たちを船で救い、われら*の御徴を嘘呼ばわりした者たちを溺れさせた。本当に彼らは、盲目[1]の民だったのだから。

فَكَذَّبُوهُ فَأَنجَيْنَٰهُ وَٱلَّذِينَ مَعَهُۥ فِى ٱلْفُلْكِ
وَأَغْرَقْنَا ٱلَّذِينَ كَذَّبُوا۟ بِـَٔايَٰتِنَآ ۚ إِنَّهُمْ
كَانُوا۟ قَوْمًا عَمِينَ ٦٤

65. またアード*には、その同胞フード*を（遣わした）[2]。彼は言った。「我が民よ、アッラー*（のみ）を崇拝*するのだ。あなた方にはかれの外に、崇拝*すべきものなどない。一体、あなた方は（アッラー*を）畏れ*ないのか？」

۞ وَإِلَىٰ عَادٍ أَخَاهُمْ هُودًا ۗ قَالَ يَٰقَوْمِ
ٱعْبُدُوا۟ ٱللَّهَ مَا لَكُم مِّنْ إِلَٰهٍ غَيْرُهُۥٓ ۚ أَفَلَا
تَتَّقُونَ ٦٥

66. 彼の民の内の、不信仰だった有力者たちは言った。「（フード*よ、）本当に私たちは、まさにあなたが愚かさの中にあると思う。そして本当に私たちは、あなたがまさしく嘘つきの類いだと思うのだ」。

قَالَ ٱلْمَلَأُ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ مِن قَوْمِهِۦٓ إِنَّا
لَنَرَىٰكَ فِى سَفَاهَةٍ وَإِنَّا لَنَظُنُّكَ مِنَ
ٱلْكَٰذِبِينَ ٦٦

1 「盲目」については、雌牛章 7、家畜章 50、フード*章 20、24、巡礼*章 46 とその訳注も参照。

2 アード*とその民に起こったことについては、フード*章 50-60、詩人たち章 123-140、詳細にされた章 13-16、砂丘章 21-26、月章 18-22、真実章 1-8、暁章 6-14 なども参照。

67. 彼（フード）は言った。「我が民よ、私は愚か者ではない。だが私は、全創造物の主*からの使徒*なのだ。

قَالَ يَٰقَوۡمِ لَيۡسَ بِي سَفَاهَةٞ وَلَٰكِنِّي رَسُولٞ مِّن
رَّبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٦٧

68. 私は我が主*のお言伝をあなた方に伝える。私は、あなた方への誠実なる忠告者なのだ。

أُبَلِّغُكُمۡ رِسَٰلَٰتِ رَبِّي وَأَنَا۠ لَكُمۡ نَاصِحٌ
أَمِينٌ ٦٨

69. 一体あなた方は、あなた方の主*からの教訓が、あなた方に（アッラー*の懲罰を）警告すべく、自分たちの内の一人の男に到来したことを驚いているのか？　かれ（アッラー*）があなた方をヌーフ*の民の後の継承者とされ、あなた方の肉体に強大さを上乗せされたことを、思い起こすがよい。ならば、あなた方が成功するよう、アッラー*の恩徳を思い出すのだ」。

أَوَعَجِبۡتُمۡ أَن جَآءَكُمۡ ذِكۡرٞ مِّن رَّبِّكُمۡ عَلَىٰ
رَجُلٖ مِّنكُمۡ لِيُنذِرَكُمۡۚ وَٱذۡكُرُوٓاْ إِذۡ
جَعَلَكُمۡ خُلَفَآءَ مِنۢ بَعۡدِ قَوۡمِ نُوحٖ وَزَادَكُمۡ
فِي ٱلۡخَلۡقِ بَصۜۡطَةٗۖ فَٱذۡكُرُوٓاْ ءَالَآءَ ٱللَّهِ
لَعَلَّكُمۡ تُفۡلِحُونَ ٦٩

70. 彼らは言った。「（フード*よ、）あなたは、私たちにアッラー*だけを崇拝*させ、私たちのご先祖様が崇めていたものを捨て去らせるためにやって来たのか？　ならば、あなたが私たちに約束するもの[1]を、私たちにもたらしてみよ。もしあなたが、正直者の類いであるというならば（、だが）」。

قَالُوٓاْ أَجِئۡتَنَا لِنَعۡبُدَ ٱللَّهَ وَحۡدَهُۥ وَنَذَرَ مَا
كَانَ يَعۡبُدُ ءَابَآؤُنَا فَأۡتِنَا بِمَا تَعِدُنَآ إِن
كُنتَ مِنَ ٱلصَّٰدِقِينَ ٧٠

71. 彼（フード*）は言った。「あなた方の主*からの穢れ[2]とお怒りは、あなた方に対して既に下っている。一体あなた方は、自分たちと自分たちの先祖が名付けた名前[3]において、私と議論すると言うのか？　アッラ

قَالَ قَدۡ وَقَعَ عَلَيۡكُم مِّن رَّبِّكُمۡ
رِجۡسٞ وَغَضَبٌۖ أَتُجَٰدِلُونَنِي فِيٓ أَسۡمَآءٖ
سَمَّيۡتُمُوهَآ أَنتُمۡ وَءَابَآؤُكُم مَّا نَزَّلَ
ٱللَّهُ بِهَا مِن سُلۡطَٰنٖۚ فَٱنتَظِرُوٓاْ إِنِّي
مَعَكُم مِّنَ ٱلۡمُنتَظِرِينَ ٧١

---

1 懲罰のこと（ムヤッサル 159 頁参照）。

2 この「穢れ」とは、懲罰のこととされる（前掲書、同頁参照）。

3 いかなる神性も有していないのに、彼らが神と名付けていた偶像のこと（アッ＝サアディー294 頁参照）。

ー*はそれら（の崇拝*）に、いかなる（正当な）根拠も下されなかったのだ。ならば、あなた方は（自分たちに懲罰が下るのを）待つがよい。実に私も、あなた方と共に（それを）待つ者の一人となるから」。

72. こうしてわれら*は、われら*の御許からの慈悲により、彼と彼と共にあった者たちを救い、われら*の御徴を嘘とし、信仰者ではなかった者たちを一人残さず根こそぎにした。

فَأَنجَيۡنَٰهُ وَٱلَّذِينَ مَعَهُۥ بِرَحۡمَةٖ مِّنَّا
وَقَطَعۡنَا دَابِرَ ٱلَّذِينَ كَذَّبُواْ بِـَٔايَٰتِنَاۖ وَمَا
كَانُواْ مُؤۡمِنِينَ ٧٢

73. またサムード*には、その同胞サーリフ*を（遣わした）[1]。彼は言った。「我が民よ、アッラー*（のみ）を崇拝*するのだ。あなた方にはかれの外に、崇拝*すべきものなどない。あなた方の主*からの明証[2]は、確かにあなた方のもとにやって来たのだ。これはあなた方への御徴としての、アッラー*の雌ラクダ[3]である。ゆえにそれを放っておき、アッラー*の地で食べるがままにさせよ。そして、それに害を及ぼすことで、自分たちに痛烈な懲罰を襲いかからせてはならない。[4]

وَإِلَىٰ ثَمُودَ أَخَاهُمۡ صَٰلِحٗاۚ قَالَ يَٰقَوۡمِ
ٱعۡبُدُواْ ٱللَّهَ مَا لَكُم مِّنۡ إِلَٰهٍ غَيۡرُهُۥۖ قَدۡ
جَآءَتۡكُم بَيِّنَةٞ مِّن رَّبِّكُمۡۖ هَٰذِهِۦ نَاقَةُ
ٱللَّهِ لَكُمۡ ءَايَةٗۖ فَذَرُوهَا تَأۡكُلۡ فِيٓ
أَرۡضِ ٱللَّهِۖ وَلَا تَمَسُّوهَا بِسُوٓءٖ فَيَأۡخُذَكُمۡ
عَذَابٌ أَلِيمٞ ٧٣

1 サーリフ*とその民の間の出来事については、フード*章 60-68、アル＝ヒジュル章 80-84、詩人たち章 141-159、蟻章 45-53、詳細にされた章 17-18、月章 23-32 なども参照。

2 「明証」とは、サーリフ*が伝達することの正しさを証明するもののこと（ムヤッサル 159 頁参照）。

3 「アッラー*の雌ラクダ」という表現については、アル＝ヒジュル章 29 の「わが魂」に関する訳注を参照。

4 サムード*の民はサーリフ*に対し、彼が預言者*であることの証明として、岩山から子を孕（はら）んだ巨大な雌ラクダを出すよう要求した。サーリフ*は民が信仰するという誓約（せいやく）をさせた上で、その奇跡を行ったが、彼らは信じなかった。彼は、人々と雌ラクダが、一日ごとに交代で水を飲むことを命じる。詩人たち章 155、月章 28 も参照（イブン・カスィール 3:440-441 参照）。

74. また、かれ（アッラー*）があなた方をアード*の後の継承者とされ、あなた方をその地に住まわせたことを思い起こすのだ。あなた方はその平地を城郭とし、山をくりぬいて住居としている。ならば、アッラー*の恩徳を思い出すのだ。腐敗*を働く者となって、地上で退廃を広めてはならない」。

وَٱذۡكُرُوٓاْ إِذۡ جَعَلَكُمۡ خُلَفَآءَ مِنۢ بَعۡدِ
عَادٖ وَبَوَّأَكُمۡ فِي ٱلۡأَرۡضِ تَتَّخِذُونَ
مِن سُهُولِهَا قُصُورٗا وَتَنۡحِتُونَ ٱلۡجِبَالَ
بُيُوتٗاۖ فَٱذۡكُرُوٓاْ ءَالَآءَ ٱللَّهِ وَلَا تَعۡثَوۡاْ
فِي ٱلۡأَرۡضِ مُفۡسِدِينَ ٧٤

75. 彼の民の内の高慢だった有力者たちは、抑圧された者たちである、彼らの内の信仰した者に言った。「一体あなた方は、サーリフ*がその主*から遣わされた者だと（実際に）知っているのか？」彼ら（信仰者たち）は言った。「私たちこそは、彼が携えて遣わされたものへの、信仰者なのです」。

قَالَ ٱلۡمَلَأُ ٱلَّذِينَ ٱسۡتَكۡبَرُواْ مِن قَوۡمِهِۦ
لِلَّذِينَ ٱسۡتُضۡعِفُواْ لِمَنۡ ءَامَنَ مِنۡهُمۡ
أَتَعۡلَمُونَ أَنَّ صَٰلِحٗا مُّرۡسَلٞ مِّن رَّبِّهِۦۚ
قَالُوٓاْ إِنَّا بِمَآ أُرۡسِلَ بِهِۦ مُؤۡمِنُونَ ٧٥

76. 高慢だった者たちは言った。「私たちこそは、あなた方が信じたものに対する否定者である」。

قَالَ ٱلَّذِينَ ٱسۡتَكۡبَرُوٓاْ إِنَّا بِٱلَّذِيٓ
ءَامَنتُم بِهِۦ كَٰفِرُونَ ٧٦

77. こうして彼らは雌ラクダの腱を切り[1]、自分たちの主*のご命令に反抗して[2]、（こう）言った。「サーリフ*よ、あなたが私たちに約束するもの（懲罰）を、もたらしてみよ。もしあなたが、使徒*の一人であるならば（、だが）」。

فَعَقَرُواْ ٱلنَّاقَةَ وَعَتَوۡاْ عَنۡ أَمۡرِ رَبِّهِمۡ
وَقَالُواْ يَٰصَٰلِحُ ٱئۡتِنَا بِمَا تَعِدُنَآ إِن
كُنتَ مِنَ ٱلۡمُرۡسَلِينَ ٧٧

---

1 「腱を切った」とは、つまり屠（ほふ）ることの間接的表現。ラクダを屠（ほふ）る時には、まず足の腱を切ってからそうしたことによる（アル＝バガウィー2:207 参照）。

2 雌ラクダが水を飲む日、人々はその乳を心行くまで飲むことが出来た。しかし彼らの家畜が、餌を求めて自由に往来する巨大な雌ラクダを怖がるのと、彼ら自身が水を毎日占有したいという望み、そしてサーリフ*への不信感などから、雌ラクダを殺すことで全員一致した。雌ラクダを屠ったのは一人であったが、こうした背景から「彼ら全員が屠った」という表現が用いられている（イブン・カスィール 3:440-441 参照）。

78. こうして彼らを激震が捕らえ[1]、彼らは朝、その地で突っ伏して（死んで）いた。

فَأَخَذَتۡهُمُ ٱلرَّجۡفَةُ فَأَصۡبَحُواْ فِي دَارِهِمۡ
جَٰثِمِينَ ٧٨

79. そして彼（サーリフ*）は彼らのもとを去り、（こう）言った[2]。「我が民よ、私は確かにあなた方に我が主*のお言伝を伝え、あなた方に忠告したぞ。しかしあなた方は、忠告者たちを好まないのだ」。

فَتَوَلَّىٰ عَنۡهُمۡ وَقَالَ يَٰقَوۡمِ لَقَدۡ
أَبۡلَغۡتُكُمۡ رِسَالَةَ رَبِّي وَنَصَحۡتُ
لَكُمۡ وَلَٰكِن لَّا تُحِبُّونَ ٱلنَّٰصِحِينَ ٧٩

80. また、ルート*がその民に（こう）言った時のこと（を思い出すのだ）[3]。「一体あなた方は、全創造物のいかなる者もあなた方以前には行わなかった醜行[4]に、手を染めるというのか？

وَلُوطًا إِذۡ قَالَ لِقَوۡمِهِۦٓ أَتَأۡتُونَ ٱلۡفَٰحِشَةَ مَا
سَبَقَكُم بِهَا مِنۡ أَحَدٖ مِّنَ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٨٠

81. 本当にあなた方は女性を差しおいて、欲望ゆえに男性に赴こうとしている[5]。いや、あなた方は度を越した民である」。

إِنَّكُمۡ لَتَأۡتُونَ ٱلرِّجَالَ شَهۡوَةٗ مِّن
دُونِ ٱلنِّسَآءِۚ بَلۡ أَنتُمۡ قَوۡمٞ مُّسۡرِفُونَ ٨١

82. 彼の民の答えは、（このように）言うことだけであった。「彼らをあなた方の町[6]から追放するのだ。本当に彼らは、潔癖ぶった人々なのだから」。

وَمَا كَانَ جَوَابَ قَوۡمِهِۦٓ إِلَّآ أَن قَالُوٓاْ
أَخۡرِجُوهُم مِّن قَرۡيَتِكُمۡۖ إِنَّهُمۡ أُنَاسٞ
يَتَطَهَّرُونَ ٨٢

83. こうしてわれら*は彼と、彼の妻を除くその家族を救った。彼女は残っ（て滅ぼされ）た者たちの一人となった。

فَأَنجَيۡنَٰهُ وَأَهۡلَهُۥٓ إِلَّا ٱمۡرَأَتَهُۥ
كَانَتۡ مِنَ ٱلۡغَٰبِرِينَ ٨٣

1 サムード*に下された懲罰の詳細については、頻出名・用語解説の「サムード*」の項を参照。

2 この言葉は、サムード*の民に懲罰が下る前のことであったという説と、後であったという説がある。アッ＝タバリー*（5:3566 参照）、アル＝クルトゥビー*（7:242 参照）らは、前者の説を採っている。

3 彼とその民の間に起こった話については、フード*章 77-83、アル＝ヒジュル章 61-77、詩人たち章 160-175、蟻章 54-58、蜘蛛章 28-35、月章 33-40 も参照。

4 「醜行」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。

5 つまり男色のこと（ムヤッサル 160 頁参照）。

6 この「町」については、フード*章 81 の訳注を参照。

84. そしてわれら*は、彼らの上に（石の）雨を降り注いだ。罪悪者たちの結末が、いかなるものだったかを見るがよい。

وَأَمۡطَرۡنَا عَلَيۡهِم مَّطَرٗاۖ فَٱنظُرۡ كَيۡفَ
كَانَ عَٰقِبَةُ ٱلۡمُجۡرِمِينَ ٨٤

85. またマドゥヤン*には、その同胞シュアイブ*を（遣わした）[1]。彼は言った。「我が民よ、アッラー*（のみ）を崇拝*するのだ。あなた方にはかれの外に、崇拝*すべきものなどない。あなた方の主*からの明証[2]は、確かにあなた方のもとにやって来たのだ。ならば升と秤[3]を全うし、人々に対し、彼らのもの（権利）を損ねてはならない。また地上で、（使徒*が遣わされて）そこが正された後、腐敗*を働いてはならない。それが、あなた方にとってより善いのである。もし、あなた方が信仰者であるというならば（、だが）。

وَإِلَىٰ مَدۡيَنَ أَخَاهُمۡ شُعَيۡبٗاۚ قَالَ يَٰقَوۡمِ
ٱعۡبُدُواْ ٱللَّهَ مَا لَكُم مِّنۡ إِلَٰهٍ غَيۡرُهُۥۖ قَدۡ
جَآءَتۡكُم بَيِّنَةٞ مِّن رَّبِّكُمۡۖ فَأَوۡفُواْ
ٱلۡكَيۡلَ وَٱلۡمِيزَانَ وَلَا تَبۡخَسُواْ
ٱلنَّاسَ أَشۡيَآءَهُمۡ وَلَا تُفۡسِدُواْ فِي
ٱلۡأَرۡضِ بَعۡدَ إِصۡلَٰحِهَاۚ ذَٰلِكُمۡ خَيۡرٞ
لَّكُمۡ إِن كُنتُم مُّؤۡمِنِينَ ٨٥

86. また（人々を）威嚇し、アッラー*を信仰した者をかれの道から阻み、それを捻じ曲げようとして、道々に立ちはだかったりしてはならない。そしてあなた方が（以前）無勢だったのを、かれが増やして下さった時のことを思い出すのだ。そして腐敗を働く者たちの結末がいかなるものだったかを、見るがよい。

وَلَا تَقۡعُدُواْ بِكُلِّ صِرَٰطٖ تُوعِدُونَ
وَتَصُدُّونَ عَن سَبِيلِ ٱللَّهِ مَنۡ ءَامَنَ
بِهِۦ وَتَبۡغُونَهَا عِوَجٗاۚ وَٱذۡكُرُوٓاْ إِذۡ
كُنتُمۡ قَلِيلٗا فَكَثَّرَكُمۡۖ وَٱنظُرُواْ
كَيۡفَ كَانَ عَٰقِبَةُ ٱلۡمُفۡسِدِينَ ٨٦

87. もしあなた方の内の一派が、私が携えて遣わされたものを信じ、別の一派が信じなかったとしても、アッラー*が私たちの間

وَإِن كَانَ طَآئِفَةٞ مِّنكُمۡ ءَامَنُواْ
بِٱلَّذِيٓ أُرۡسِلۡتُ بِهِۦ وَطَآئِفَةٞ لَّمۡ يُؤۡمِنُواْ
فَٱصۡبِرُواْ حَتَّىٰ يَحۡكُمَ ٱللَّهُ بَيۡنَنَاۚ وَهُوَ

1 シュアイブ*とその民の間に起こったことについては、フード*章 84-95、詩人たち章 176-191、蜘蛛章 36-37 も参照。

2 「明証」とは、シュアイブ*が伝達することの正しさを証明するもののこと（ムヤッサル 161 頁参照）。

3 「升と秤」については、家畜章 152 の訳注を参照。

にご裁決[1]を下されるまで忍耐*するのだ。かれは裁き手の内でも、最善のお方なのだから」。

خَيۡرُ ٱلۡحَٰكِمِينَ ٨٧

88. 彼の民の内、（信仰に対して）高慢だった有力者たちは言った。「シュアイブ*よ、私たちは必ずやあなたと、あなたと共に信仰した者たちを、私たちの町から追放しよう。さもなくば、あなた方は絶対に私たちの宗教に戻るのだ」。彼（シュアイブ*）は言った。「たとえ私たちが、（そのような宗教を）毛嫌いしていたとしてもか？

۞قَالَ ٱلۡمَلَأُ ٱلَّذِينَ ٱسۡتَكۡبَرُواْ مِن قَوۡمِهِۦ
لَنُخۡرِجَنَّكَ يَٰشُعَيۡبُ وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ مَعَكَ مِن
قَرۡيَتِنَآ أَوۡ لَتَعُودُنَّ فِي مِلَّتِنَاۚ قَالَ أَوَلَوۡ كُنَّا
كَٰرِهِينَ ٨٨

89. アッラー*が私たちをそこからお救い下さった後、あなた方の宗教に戻ったりしたら、私たちはアッラー*に対してまさに嘘を捏造したことになってしまう。そして我らが主*アッラー*が（そう）お望みにならない限り、私たちがそこに戻ることはあり得ない。我らが主*は（その）知識で、全てのものを網羅されているのだから。私たちは、アッラー*のみに全てを委ね*た。我らが主よ、私たちと我らが民の間を真理によってご裁決下さい。あなたは裁決者の中でも、最善のお方であられます」。

قَدِ ٱفۡتَرَيۡنَا عَلَى ٱللَّهِ كَذِبًا إِنۡ عُدۡنَا فِي مِلَّتِكُم بَعۡدَ
إِذۡ نَجَّىٰنَا ٱللَّهُ مِنۡهَاۚ وَمَا يَكُونُ لَنَآ أَن نَّعُودَ
فِيهَآ إِلَّآ أَن يَشَآءَ ٱللَّهُ رَبُّنَاۚ وَسِعَ رَبُّنَا كُلَّ
شَيۡءٍ عِلۡمًاۚ عَلَى ٱللَّهِ تَوَكَّلۡنَاۚ رَبَّنَا ٱفۡتَحۡ بَيۡنَنَا
وَبَيۡنَ قَوۡمِنَا بِٱلۡحَقِّ وَأَنتَ خَيۡرُ ٱلۡفَٰتِحِينَ ٨٩

90. 彼の民の内、不信仰であった有力者たちは言った。「もしもシュアイブ*に従ったら、そうすれば実にあなた方は、まさしく損失者となろう」。

وَقَالَ ٱلۡمَلَأُ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ مِن قَوۡمِهِۦ لَئِنِ
ٱتَّبَعۡتُمۡ شُعَيۡبًا إِنَّكُمۡ إِذٗا لَّخَٰسِرُونَ ٩٠

91. そして彼らを激震が捕らえ[2]、彼らは朝、その地で突っ伏して（死んで）いた。

فَأَخَذَتۡهُمُ ٱلرَّجۡفَةُ فَأَصۡبَحُواْ فِي دَارِهِمۡ جَٰثِمِينَ ٩١

---

1 この「ご裁決」とは、彼らに警告されていた懲罰のこと（ムヤッサル 161 頁参照）。

2 マドゥヤン*を滅ぼした懲罰については、詩人たち章 189 の訳注を参照。

92. シュアイブ*を嘘つき呼ばわりした者たちは、あたかもそこに暮らしてはいなかったかのようであった[1]。シュアイブ*を嘘つき呼ばわりした者たちこそが、損失者だったのである。

ٱلَّذِينَ كَذَّبُوا۟ شُعَيْبًا كَأَن لَّمْ يَغْنَوْا۟ فِيهَا ۚ
ٱلَّذِينَ كَذَّبُوا۟ شُعَيْبًا كَانُوا۟ هُمُ ٱلْخَٰسِرِينَ ﴿٩٢﴾

93. そして彼（シュアイブ*）は彼らのもとを去り、（こう）言った。「我が民よ、私は確かにあなた方に我が主*のお言伝を伝え、あなた方に忠告したぞ。ならば、どうして不信仰な民のことで、私が心痛ませることがあろうか？」

فَتَوَلَّىٰ عَنْهُمْ وَقَالَ يَٰقَوْمِ لَقَدْ أَبْلَغْتُكُمْ
رِسَٰلَٰتِ رَبِّى وَنَصَحْتُ لَكُمْ ۖ فَكَيْفَ
ءَاسَىٰ عَلَىٰ قَوْمٍ كَٰفِرِينَ ﴿٩٣﴾

94. われら*が預言者*を町に遣わす時[2]には決まって、その住民を困窮や災難で捕らえたものだった。（それは）彼らが、おそれ畏まるようにするためだったのだ。

وَمَآ أَرْسَلْنَا فِى قَرْيَةٍ مِّن نَّبِىٍّ إِلَّآ أَخَذْنَآ أَهْلَهَا
بِٱلْبَأْسَآءِ وَٱلضَّرَّآءِ لَعَلَّهُمْ يَضَّرَّعُونَ ﴿٩٤﴾

95. それからわれら*は、逆境を順境にとって換えた。やがて彼らが（身体的にも経済的にも）潤い、「私たちのご先祖様たちにも確かに、災難と順境が訪れたものなのだ[3]」などと言い出したところで、われら*は彼らが気付かぬ内に突然、彼らを懲罰で捕らえたのだ。

ثُمَّ بَدَّلْنَا مَكَانَ ٱلسَّيِّئَةِ ٱلْحَسَنَةَ حَتَّىٰ
عَفَوا۟ وَّقَالُوا۟ قَدْ مَسَّ ءَابَآءَنَا ٱلضَّرَّآءُ وَٱلسَّرَّآءُ
فَأَخَذْنَٰهُم بَغْتَةً وَهُمْ لَا يَشْعُرُونَ ﴿٩٥﴾

96. そして、もし町々の住民が信仰し畏れ*たなら、われら*は彼らに天と地からの祝福[4]を

وَلَوْ أَنَّ أَهْلَ ٱلْقُرَىٰٓ ءَامَنُوا۟ وَٱتَّقَوْا۟ لَفَتَحْنَا
عَلَيْهِم بَرَكَٰتٍ مِّنَ ٱلسَّمَآءِ وَٱلْأَرْضِ

---

1 一人残らず全滅し、生活の痕跡もなくなったため（ムヤッサル 162 頁参照）。

2 預言者*の使命とは、アッラー*のみの崇拝*へと招き、シルク*を禁じることである（前掲書、同頁参照）。

3 アッラー*は彼らがおそれ畏まり、悔悟するようにと、順境と逆境によって彼らに試練を与えられた。しかし彼らはそれに気づかず、それが単なる世の習いだと思い、いずれの試練にも成功しなかった（イブン・カスィール 3:450 参照）。同様のアーヤ*として、家畜章 42-44 も参照。

4 全ての善きもののこと。あるいは天からの雨と、作物などの大地の恵みのこと（アル＝バイダーウィー3:43 参照）。

解き放っただろう。しかし彼らは、（われら*の使徒*らを）嘘つき呼ばわりした。ゆえにわれら*は、彼らが稼いでいたもの[1]ゆえ、彼らを（罰で）捕らえたのだ。

وَلَٰكِن كَذَّبُواْ فَأَخَذۡنَٰهُم بِمَا كَانُواْ
يَكۡسِبُونَ ﴿٩٦﴾

97. 一体、（不信仰な）町々の住民は、彼らが（夜）眠っている間に、われら*の猛威[2]が彼らにやってこないと安心していたのか？

أَفَأَمِنَ أَهۡلُ ٱلۡقُرَىٰٓ أَن يَأۡتِيَهُم بَأۡسُنَا
بَيَٰتٗا وَهُمۡ نَآئِمُونَ ﴿٩٧﴾

98. また一体、（不信仰な）町々の住民は、彼らが朝ふざけている時に、われら*の猛威が彼らにやってこないと安心していたのか？

أَوَأَمِنَ أَهۡلُ ٱلۡقُرَىٰٓ أَن يَأۡتِيَهُم بَأۡسُنَا
ضُحٗى وَهُمۡ يَلۡعَبُونَ ﴿٩٨﴾

99. 一体、彼らはアッラー*の策謀[3]から安全だとでもいうのか？　（彼らは間違えている、）というのもアッラー*の策謀から安全だと思い込むのは、損失者である民に外ならないのだから。

أَفَأَمِنُواْ مَكۡرَ ٱللَّهِۚ فَلَا يَأۡمَنُ مَكۡرَ
ٱللَّهِ إِلَّا ٱلۡقَوۡمُ ٱلۡخَٰسِرُونَ ﴿٩٩﴾

100. （過去の）その住民の（滅亡）後、その地を引き継ぐ者たちには、まだ明らかになっていないのか？　もしわれら*が望めば（彼らの先人たちと同様）、その罪ゆえに彼らを（罰によって）掌握したのだということが？　われら*はその心を閉じ、それで彼らは聞こえなくなってしまったのだ[4]。

أَوَلَمۡ يَهۡدِ لِلَّذِينَ يَرِثُونَ ٱلۡأَرۡضَ مِنۢ بَعۡدِ
أَهۡلِهَآ أَن لَّوۡ نَشَآءُ أَصَبۡنَٰهُم بِذُنُوبِهِمۡۚ
وَنَطۡبَعُ عَلَىٰ قُلُوبِهِمۡ فَهُمۡ لَا يَسۡمَعُونَ ﴿١٠٠﴾

1 不信仰や罪のこと（ムヤッサル 163 頁参照）。

2 この「猛威」とは、懲罰のこと（前掲書、同頁参照）。

3 「アッラー*の策謀」については、アーヤ*182-183 とその訳注を参照。また、雌牛章 15 の訳注も参照。

4 雌牛章 7 の訳注も参照。

101. それらの町々、われら*はそれらの消息の内から、（使徒*よ、）あなたに語って聞かせる。彼らの使徒*たちは明証[1]を携えて、彼らのもとに確かに到来したが、彼らは以前に（真理を）嘘呼ばわりしていたことゆえ、（使徒*たちのもたらしたものを）信じるべくもなかった[2]。同様に、アッラー*は不信仰者*たちの心を閉じてしまう[3]のである。

تِلْكَ ٱلْقُرَىٰ نَقُصُّ عَلَيْكَ مِنْ أَنۢبَآئِهَا ۚ
وَلَقَدْ جَآءَتْهُمْ رُسُلُهُم بِٱلْبَيِّنَـٰتِ فَمَا
كَانُوا۟ لِيُؤْمِنُوا۟ بِمَا كَذَّبُوا۟ مِن قَبْلُ ۚ
كَذَٰلِكَ يَطْبَعُ ٱللَّهُ عَلَىٰ قُلُوبِ ٱلْكَـٰفِرِينَ ١٠١

102. またわれら*は、彼らの大半に契約[4]（の遵守）を見出さなかった。そして実にわれらは、彼らの大半がまさしく放逸な者たちであることを見出したのである。

وَمَا وَجَدْنَا لِأَكْثَرِهِم مِّنْ عَهْدٍ ۖ وَإِن وَجَدْنَآ
أَكْثَرَهُمْ لَفَـٰسِقِينَ ١٠٢

103. それからわれら*は彼らの後、ムーサー*をわれら*の御徴と共に、フィルアウン*とその（配下の）有力者たちに遣わした。そして彼らは、それらに対して不正*を働いた[5]。ならば腐敗*を働く者たちの結末がいかなるものだったかを、見てみるがよい。

ثُمَّ بَعَثْنَا مِنۢ بَعْدِهِم مُّوسَىٰ بِـَٔايَـٰتِنَآ إِلَىٰ
فِرْعَوْنَ وَمَلَإِي۟هِۦ فَظَلَمُوا۟ بِهَا ۖ فَٱنظُرْ
كَيْفَ كَانَ عَـٰقِبَةُ ٱلْمُفْسِدِينَ ١٠٣

104. ムーサー*は言った。「フィルアウン*よ、私はまさに全創造物の主*からの使徒*です。

وَقَالَ مُوسَىٰ يَـٰفِرْعَوْنُ إِنِّى رَسُولٌ مِّن رَّبِّ
ٱلْعَـٰلَمِينَ ١٠٤

105. 私はアッラー*に対し、真実以外は喋らないことが相応しいのです。私はあなた方に対して確かに、あなた方の主*からの明証を携えて来ました。ならばイス

حَقِيقٌ عَلَىٰٓ أَن لَّآ أَقُولَ عَلَى ٱللَّهِ إِلَّا ٱلْحَقَّ ۚ قَدْ
جِئْتُكُم بِبَيِّنَةٍ مِّن رَّبِّكُمْ فَأَرْسِلْ
مَعِىَ بَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ ١٠٥

1 この「明証」とは、使徒*たちの正直さを示す証拠のこと（ムヤッサル 163 頁参照）。
2 同様のアーヤ*として、家畜章 110 とその訳注も参照（アッ＝サァディー298 頁参照）。
3 雌牛章 7 の訳注も参照。
4 この「契約」については、雌牛章 27 の訳注を参照（アッ＝サァディー298 頁参照）。また一説に、これはアーヤ*172 に言及されていることを指す（イブン・カスィール 3:453 参照）。
5 つまり、それらの御徴（奇跡）を否定し、信じなかった（ムヤッサル 163 頁参照）。

ラーイールの子ら*を、私と共に自由にして下さい[1]」。

106. 彼（フィルアウン*）は言った。「もし、あなたが御徴を携えて来たというのなら、それを披露してみよ。もし、あなたが本当のことを言っているというのならば（、だが）」。

قَالَ إِن كُنتَ جِئۡتَ بِـَٔايَةٖ فَأۡتِ بِهَآ إِن
كُنتَ مِنَ ٱلصَّٰدِقِينَ ١٠٦

107. それで彼（ムーサー*）は、自分の杖を投げた。すると、どうであろう、それは紛れもない一匹の大蛇となった。

فَأَلۡقَىٰ عَصَاهُ فَإِذَا هِيَ ثُعۡبَانٞ مُّبِينٞ ١٠٧

108. また、彼が自分の手を（懐に入れてから）出すと、どうだろう、それは観衆（の前）に白くなって現れた。

وَنَزَعَ يَدَهُۥ فَإِذَا هِيَ بَيۡضَآءُ لِلنَّٰظِرِينَ ١٠٨

109. フィルアウン*の民の内の有力者たちは、言った。「本当にこれは、まさに習熟した魔術師です。

قَالَ ٱلۡمَلَأُ مِن قَوۡمِ فِرۡعَوۡنَ إِنَّ هَٰذَا
لَسَٰحِرٌ عَلِيمٞ ١٠٩

110. 彼はあなた方を、あなた方の土地から追い出そうとの魂胆なのです」。（フィルアウン*は、有力者たちに言った。）「あなた方は、私に何を命じるのか？」

يُرِيدُ أَن يُخۡرِجَكُم مِّنۡ أَرۡضِكُمۡۖ فَمَاذَا
تَأۡمُرُونَ ١١٠

111. 彼ら（有力者たち）は、言った。「彼とその兄（ハールーン*）[2]のことは後回しにされて、（ムーサー*に対抗するための魔術師たちを）召集する者たち（兵隊）を、町々にお遣わし下さい。

قَالُوٓاْ أَرۡجِهۡ وَأَخَاهُ وَأَرۡسِلۡ فِي ٱلۡمَدَآئِنِ
حَٰشِرِينَ ١١١

---

1 アッラー*の崇拝*のために自由にし（ムヤッサル 164 頁参照）、エジプトから聖なる地へと旅立たせること（アル＝バガウィー2:218 参照）。当時のイスラーイールの子ら*の抑圧（よくあつ）された状況については、雌牛章 49 とその訳注を参照。

2 ムーサー*は、フィルアウン*とその民をアッラー*の教えに招くにあたり、ハールーン*が彼の助っ人となることをアッラー*に求めた。詳しくは、ター・ハー章 29-32、詩人たち章 12-13、物語章 34-35 を参照。

112. （そうすれば、）彼らはあなたのもとに、あらゆる習熟（しゅうじゅく）した魔術（まじゅつ）師を参上させることでしょう」。[1]

يَأۡتُوكَ بِكُلِّ سَٰحِرٍ عَلِيمٖ ١١٢

113. そして、魔術（まじゅつ）師たちはフィルアウン*のもとに到着（とうちゃく）した。彼らは言った。「本当に私たちには、まさしくご褒美（ほうび）がありますか（でしょうか）。もし、私たちが（ムーサー*に）勝利したならば」。

وَجَآءَ ٱلسَّحَرَةُ فِرۡعَوۡنَ قَالُوٓاْ إِنَّ لَنَا لَأَجۡرًا
إِن كُنَّا نَحۡنُ ٱلۡغَٰلِبِينَ ١١٣

114. 彼（フィルアウン*）は言った。「ああ。そして本当にあなた方は、きっと（我が）側近（そっきん）の仲間となろう」。

قَالَ نَعَمۡ وَإِنَّكُمۡ لَمِنَ ٱلۡمُقَرَّبِينَ ١١٤

115. 彼ら（魔術（まじゅつ）師たち）は、言った。「ムーサー*よ、あなたが（先に杖（つえ）を）投げるか、それとも私たちが（杖（つえ）を）投げる者となるか？」

قَالُواْ يَٰمُوسَىٰٓ إِمَّآ أَن تُلۡقِيَ وَإِمَّآ أَن
نَّكُونَ نَحۡنُ ٱلۡمُلۡقِينَ ١١٥

116. 彼（ムーサー*）は、言った。「あなた方が投げるがよい」。それで彼らが（縄（なわ）や杖（つえ）を）投げた時、彼らは人々の目に魔術（まじゅつ）をかけ[2]、彼らを戦慄（せんりつ）させた。そして彼らは大変な魔術（まじゅつ）を披露（ひろう）したのだ。

قَالَ أَلۡقُواْۖ فَلَمَّآ أَلۡقَوۡاْ سَحَرُوٓاْ أَعۡيُنَ ٱلنَّاسِ
وَٱسۡتَرۡهَبُوهُمۡ وَجَآءُو بِسِحۡرٍ عَظِيمٖ ١١٦

117. われら*は、ムーサー*に啓示（けいじ）した。「あなたの杖（つえ）を投げよ」。そして（彼がそうすると）、どうであろう、それは彼らがまやかすものを呑（の）み込んでしまう。

۞وَأَوۡحَيۡنَآ إِلَىٰ مُوسَىٰٓ أَنۡ أَلۡقِ عَصَاكَۖ فَإِذَا هِيَ
تَلۡقَفُ مَا يَأۡفِكُونَ ١١٧

118. こうして真実は明らかになり、彼らの行っていたことは無駄（むだ）になった。

فَوَقَعَ ٱلۡحَقُّ وَبَطَلَ مَا كَانُواْ يَعۡمَلُونَ ١١٨

119. そして彼ら（フィルアウン*とその仲間たち）はそこで敗北を喫（きっ）し、惨（みじ）めに引き下がり、

فَغُلِبُواْ هُنَالِكَ وَٱنقَلَبُواْ صَٰغِرِينَ ١١٩

---

1 フィルアウン*が魔術師たちを集結させ、ムーサー*と魔術師たちに決戦させたことについては、ユーヌス*章 79-82、ター・ハー章 57-73、詩人たち章 34-51 も参照。

2 この「魔術」の内容については、ター・ハー章 66 を参照。

120. 魔術師たちは、サジダ*しつつ崩れ落ちた[1]。

وَأُلْقِيَ ٱلسَّحَرَةُ سَٰجِدِينَ ١٢٠

121. 彼ら（魔術師たち）は、言った。「私たちは全創造物の主*を信じました。

قَالُوٓاْ ءَامَنَّا بِرَبِّ ٱلْعَٰلَمِينَ ١٢١

122. ムーサー*とハールーン*の主を」。

رَبِّ مُوسَىٰ وَهَٰرُونَ ١٢٢

123. フィルアウン*は（魔術師たちに）、言った。「私があなた方に許可を出す前に、あなた方は信じた（のか）。本当にこれはまさしく、あなた方が町で、その住民をそこから追放すべく企んだ策謀である。ならば、あなた方はきっと（自分たちが受ける罰を、）知ることになろう。

قَالَ فِرْعَوْنُ ءَامَنتُم بِهِۦ قَبْلَ أَنْ ءَاذَنَ لَكُمْ ۖ
إِنَّ هَٰذَا لَمَكْرٌ مَّكَرْتُمُوهُ فِى ٱلْمَدِينَةِ
لِتُخْرِجُواْ مِنْهَآ أَهْلَهَا ۖ فَسَوْفَ تَعْلَمُونَ ١٢٣

124. 私は必ずやあなた方の手足を交互に切り落とし、それから全員磔にしてやる」。

لَأُقَطِّعَنَّ أَيْدِيَكُمْ وَأَرْجُلَكُم مِّنْ خِلَٰفٍ
ثُمَّ لَأُصَلِّبَنَّكُمْ أَجْمَعِينَ ١٢٤

125. 彼ら（魔術師たち）は、言った。「実に私たちは、我らが主*の御許へと戻り行く身なのです。

قَالُوٓاْ إِنَّآ إِلَىٰ رَبِّنَا مُنقَلِبُونَ ١٢٥

126. そしてあなたが私たちを咎めるのは、我らが主の御徴が到来した時、私たちがそれを信じたがゆえに外なりません。我らが主よ、私たちに（多くの）忍耐*をお注ぎ下さい。そして私たちを服従する者（ムスリム*）として、お召し下さい[2]」。

وَمَا تَنقِمُ مِنَّآ إِلَّآ أَنْ ءَامَنَّا بِـَٔايَٰتِ رَبِّنَا لَمَّا
جَآءَتْنَا ۚ رَبَّنَآ أَفْرِغْ عَلَيْنَا صَبْرًا وَتَوَفَّنَا
مُسْلِمِينَ ١٢٦

---

1 アッラー*の御力の偉大さを目の当たりにして、かれに対しサジダ*した（ムヤッサル 164 頁参照）。魔術について最もよく心得ている彼らは、ムーサー*の行ったことがアッラー*による御徴であることを、最もよく理解したのだった（アッ＝サァディー299 頁参照）。

2 彼らは実際に、信仰者として殉教（じゅんきょう）することになった。彼らは昼始めには魔術師であったが、昼の終わりには殉教者となっていた、と言われている（アッ＝タバリー5:3597-3598 参照）。

127. フィルアウン*の民の内の有力者たちは、（フィルアウン*に）言った。「一体あなたは、ムーサー*とその民が（エジプトの）地で腐敗（ふはい）*を働き[1]、あなたとあなたの神々[2]（の崇拝（すうはい）*）を放棄（ほうき）するままにされるのですか？」彼（フィルアウン*）は言った。「私たちは彼らの男児は殺しまくり、女児は生かしておこう。本当に私たちは、彼らの上に君臨（くんりん）する者なのである」。[3]

وَقَالَ ٱلۡمَلَأُ مِن قَوۡمِ فِرۡعَوۡنَ أَتَذَرُ مُوسَىٰ
وَقَوۡمَهُۥ لِيُفۡسِدُواْ فِي ٱلۡأَرۡضِ وَيَذَرَكَ
وَءَالِهَتَكَۚ قَالَ سَنُقَتِّلُ أَبۡنَآءَهُمۡ وَنَسۡتَحۡيِۦ
نِسَآءَهُمۡ وَإِنَّا فَوۡقَهُمۡ قَٰهِرُونَ ١٢٧

128. ムーサー*はその民に言った。「アッラー*にご助力（じょりょく）を乞（こ）い、忍耐（にんたい）*せよ。本当に大地は、アッラー*のものなのだから。かれはそれをその僕（しもべ）たちの内、かれがお望みの者に引き継（つ）がされるのである。そして（よき）結末（けつまつ）は、敬虔（けいけん）*な者たちにあるのだ」。

قَالَ مُوسَىٰ لِقَوۡمِهِ ٱسۡتَعِينُواْ بِٱللَّهِ
وَٱصۡبِرُوٓاْۖ إِنَّ ٱلۡأَرۡضَ لِلَّهِ يُورِثُهَا مَن يَشَآءُ
مِنۡ عِبَادِهِۦۖ وَٱلۡعَٰقِبَةُ لِلۡمُتَّقِينَ ١٢٨

129. 彼ら（イスラーイールの子ら*）は、（ムーサー*に）言った。「私たちは、あなたが私たちのところに来る前も、あなたが私たちのところに来てからも、迫害（はくがい）されたのだ[4]」。彼（ムーサー*）は言った。「あ

قَالُوٓاْ أُوذِينَا مِن قَبۡلِ أَن تَأۡتِيَنَا وَمِنۢ بَعۡدِ مَا
جِئۡتَنَاۚ قَالَ عَسَىٰ رَبُّكُمۡ أَن يُهۡلِكَ
عَدُوَّكُمۡ وَيَسۡتَخۡلِفَكُمۡ فِي ٱلۡأَرۡضِ فَيَنظُرَ
كَيۡفَ تَعۡمَلُونَ ١٢٩

---

1 彼らにとって、エジプトの宗教を、アッラー*だけを崇拝*する宗教へと変えることは「腐敗*」以外の何ものでもなかった（ムヤッサル 165 頁参照）。

2 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

3 フィルアウン*は、ムーサー*の誕生前にもこれと同様のことをした（雌牛章 49 とその訳注を参照）が、その結果は彼の思惑とは逆のものとなった。そしてこの時も、イスラーイールの子ら*の抑圧という彼の意図とは裏腹に、彼とその軍勢の破滅という結果に終わる（イブン・カスィール 3:460 参照）。

4 ムーサー*到来前と到来後にイスラーイールの子ら*が受けた「迫害」については、アーヤ*127 とその訳注を参照（ムヤッサル 165 頁参照）。

なた方の主*は恐らく、あなた方の敵を滅ぼし、あなた方を（エジプトの）地における継承者[1]とされ、あなた方がいかに行うかをご覧になるであろう[2]」。

130. われら*はフィルアウン*の一族を、彼らが教訓を得るべく、旱魃と果実の不作（という試練）によって確かに捕らえた。[3]

وَلَقَدۡ أَخَذۡنَآ ءَالَ فِرۡعَوۡنَ بِٱلسِّنِينَ وَنَقۡصٖ
مِّنَ ٱلثَّمَرَٰتِ لَعَلَّهُمۡ يَذَّكَّرُونَ ١٣٠

131. そして彼らは、自分たちに順境が訪れた時には、「私たちにこそ、これは（当然の権利として）属するのである」と言い、もし災難が彼らを襲えば、ムーサー*と彼と共にある者を、不吉がった[4]。本当に彼らの不吉のもとは、アッラー*の御許にある[5]のではないか。しかし彼らの大半は、分からないのだ。

فَإِذَا جَآءَتۡهُمُ ٱلۡحَسَنَةُ قَالُواْ لَنَا هَٰذِهِۦۖ وَإِن
تُصِبۡهُمۡ سَيِّئَةٞ يَطَّيَّرُواْ بِمُوسَىٰ وَمَن
مَّعَهُۥٓۗ أَلَآ إِنَّمَا طَٰٓئِرُهُمۡ عِندَ ٱللَّهِ
وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَهُمۡ لَا يَعۡلَمُونَ ١٣١

132. 彼らは言った。「私たちをそれで魔術にかけ（、フィルアウン*の宗教から背け）ようとして、どんな御徴を披露したとしても、私たちはあなたのことを信じたりはしないぞ」。

وَقَالُواْ مَهۡمَا تَأۡتِنَا بِهِۦ مِنۡ ءَايَةٖ لِّتَسۡحَرَنَا بِهَا
فَمَا نَحۡنُ لَكَ بِمُؤۡمِنِينَ ١٣٢

---

1 「継承者」については、雌牛章 30 の訳注を参照。

2 彼らの土地を継承した後、彼らが感謝深い者たちとなるか、あるいは恩知らずの不信仰者*になるかをご覧になる、の意（ムヤッサル 165 頁参照）。

3 夜の旅章 101 とその訳注も参照。

4 「不吉に思う（タタイヤル）」は、「鳥（タイル）」という語から派生した語。ジャーヒリーヤ*では鳥の動向で吉兆（きっちょう）を占う習慣があり、それが転じて、全ての「不吉に思われる物事」に対し、この表現が用いられるようになった（イブン・アーシュール 9:65-66 参照）。

5 あなた方に降りかかる災難は、全てアッラー*の定めとご裁決によるもの、あなた方の罪と不信仰によるものである、という意味（ムヤッサル 166 頁参照）。あるいは、順境でも逆境でも、あなた方に訪れる全てのものは、アッラー*からのものである、という意味（アル＝バガウィー2:223 参照）。

133. それでわれら*は彼らに洪水、イナゴ、虱、蛙、血を、断続的な御徴として送った[1]。すると彼らは（信仰に対して）奢り高ぶり、罪深い民であり続けたのだ。

فَأَرۡسَلۡنَا عَلَيۡهِمُ ٱلطُّوفَانَ وَٱلۡجَرَادَ وَٱلۡقُمَّلَ
وَٱلضَّفَادِعَ وَٱلدَّمَ ءَايَٰتٖ مُّفَصَّلَٰتٖ
فَٱسۡتَكۡبَرُواْ وَكَانُواْ قَوۡمٗا مُّجۡرِمِينَ ١٣٣

134. そして彼らに（罰の）制裁が下された時、彼らは言った。「ムーサー*よ、私たちのため、あなたの主*に、かれがあなたに約束されたもの[2]で祈ってくれ。もしも、あなたが私たちからこの（罰の）制裁を取り除けてくれたなら、私たちは必ずやあなたのことを信じ、必ずやあなたと共にイスラーイールの子ら*を行かせてやろう」。

وَلَمَّا وَقَعَ عَلَيۡهِمُ ٱلرِّجۡزُ قَالُواْ يَٰمُوسَى ٱدۡعُ
لَنَا رَبَّكَ بِمَا عَهِدَ عِندَكَۖ لَئِن كَشَفۡتَ
عَنَّا ٱلرِّجۡزَ لَنُؤۡمِنَنَّ لَكَ وَلَنُرۡسِلَنَّ
مَعَكَ بَنِيٓ إِسۡرَٰٓءِيلَ ١٣٤

135. それで、彼らが行き着くことになっている（次の罰の到来）時期まで、われら*が彼らから（罰の）制裁を取り除けてやると、どうであろう、彼らは（約束を）破るのだ。

فَلَمَّا كَشَفۡنَا عَنۡهُمُ ٱلرِّجۡزَ إِلَىٰٓ أَجَلٍ هُم
بَٰلِغُوهُ إِذَا هُمۡ يَنكُثُونَ ١٣٥

136. それで、われら*は（定められた彼らの破滅の時期が来た時、）彼らに報復し、彼らを海原に溺れさせた[3]。というのも、彼

فَٱنتَقَمۡنَا مِنۡهُمۡ فَأَغۡرَقۡنَٰهُمۡ فِي ٱلۡيَمِّ بِأَنَّهُمۡ
كَذَّبُواْ بِـَٔايَٰتِنَا وَكَانُواْ عَنۡهَا غَٰفِلِينَ ١٣٦

---

1 まず大雨により作物が全滅すると、フィルアウン*の民は、イスラーイールの子ら*をムーサー*と共に脱出させることを条件に、災難の除去をアッラー*に祈るよう、ムーサー*に頼んだ（アーヤ* 134 参照）。ムーサー*が祈るとそれは止んだが、彼らは約束を破った（アーヤ* 135 参照）。その後豊作を迎えたが、今度はイナゴが送られ、作物は再びほぼ全滅する。これも同様にしてムーサー*の祈りによって止んだが、彼らはまた約束を破った。それで今度は虱が送られ、残りの作物も全滅した。その後も同様に蛙が送られて彼らの住居に侵入したり、また彼らの水という水が全て血に変わったりしたが、彼らの不信仰と嘘は止まなかった（アッ＝タバリー5:3607-3608 参照）。

2 つまり悔悟すれば、制裁を解除してもらえるという約束のこと（ムヤッサル 166 頁参照）。

3 この情景の描写として、ユーヌス*章 90-92、ター・ハー章 77-78、詩人たち章 61-66、煙霧章 23-24 も参照。

らはわれら*の御徴[1]を嘘呼ばわりし、それに対して無頓着な者たちだったからである。

137. われら*は抑圧されていた民（イスラーイールの子ら*）に、われら*が祝福したその土地[2]の東方と西方を引き継がせた。イスラーイールの子ら*に対するあなたの主*のよき御言葉[3]が、彼らが忍耐*したことゆえに完遂されたのだ。そして、われら*はフィルアウン*とその民が作り上げていたものと、築き上げていたもの[4]を破壊したのである。

وَأَوْرَثْنَا ٱلْقَوْمَ ٱلَّذِينَ كَانُوا۟
يُسْتَضْعَفُونَ مَشَٰرِقَ ٱلْأَرْضِ وَمَغَٰرِبَهَا
ٱلَّتِى بَٰرَكْنَا فِيهَا ۖ وَتَمَّتْ كَلِمَتُ رَبِّكَ
ٱلْحُسْنَىٰ عَلَىٰ بَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ بِمَا صَبَرُوا۟ ۖ
وَدَمَّرْنَا مَا كَانَ يَصْنَعُ فِرْعَوْنُ وَقَوْمُهُۥ
وَمَا كَانُوا۟ يَعْرِشُونَ ١٣٧

138. われら*は、イスラーイールの子ら*に海を渡らせた。そして彼らは、自分たちの偶像に奉仕し続ける民のところに出くわした。彼ら（イスラーイールの子ら*）は言った。「ムーサー*よ、彼らに神々[5]があるように、私たちにも神（の偶像）を一つ、こしらえてくれ」。彼（ムーサー*）は言った。「本当にあなた方は、無知な民である。

وَجَٰوَزْنَا بِبَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ ٱلْبَحْرَ فَأَتَوْا۟ عَلَىٰ
قَوْمٍ يَعْكُفُونَ عَلَىٰٓ أَصْنَامٍ لَّهُمْ ۚ قَالُوا۟
يَٰمُوسَى ٱجْعَل لَّنَآ إِلَٰهًا كَمَا لَهُمْ
ءَالِهَةٌ ۚ قَالَ إِنَّكُمْ قَوْمٌ تَجْهَلُونَ ١٣٨

139. 実にこれらの者たちは、（シルク*という）その状況が滅ぼされる（ことになる）のであり、その行っていたことは無に帰す（ことになる）のだから」。

إِنَّ هَٰٓؤُلَآءِ مُتَبَّرٌ مَّا هُمْ فِيهِ وَبَٰطِلٌ مَّا
كَانُوا۟ يَعْمَلُونَ ١٣٩

---

1 この「御徴」は、ムーサー*の数々の奇跡のこと（ムヤッサル 166 頁参照）。

2 シャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）のこと（前掲書、同頁参照）。エジプトとシャーム地方のこと、という説もある（アル＝バガウィー2:226 参照）。

3 この「御言葉」とは、物語章 5-6 にある内容のことである、と言われる（アッ＝タバリー 5:3618 参照）。

4 「作り上げていたもの」とは建物や農場など、「築き上げていたもの」とは城郭などのことである、と言われる（ムヤッサル 166 頁参照）。

5 「神々」については、雌牛章 133 の訳注を参照。

140. 彼（ムーサー*）は言った。「一体私が、あなた方に対し、アッラー*以外のものを神として欲するとでもいうのか？　かれはあなた方を、全創造物の上にお引き立てになった[1]というのに」。

قَالَ أَغَيْرَ ٱللَّهِ أَبْغِيكُمْ إِلَٰهًا وَهُوَ فَضَّلَكُمْ عَلَى ٱلْعَٰلَمِينَ ١٤٠

141. （イスラーイールの子ら*よ、）われら*があなた方を、フィルアウン*の一族から救い出した時のこと（を思い起こすがよい）。彼らはあなた方に過酷な懲罰を味わわせ、あなた方の男児は殺しまくり、女児は生かしておいた。そこには、あなた方の主*からの偉大な試練があったのだ。

وَإِذْ أَنجَيْنَٰكُم مِّنْ ءَالِ فِرْعَوْنَ يَسُومُونَكُمْ سُوٓءَ ٱلْعَذَابِ يُقَتِّلُونَ أَبْنَآءَكُمْ وَيَسْتَحْيُونَ نِسَآءَكُمْ ۚ وَفِى ذَٰلِكُم بَلَآءٌ مِّن رَّبِّكُمْ عَظِيمٌ ١٤١

142. われら*は、ムーサー*と三十夜を約束した。そしてわれら*は、それを（更なる）十夜で完遂し、彼の主*の定められた期間は四十夜[2]として完了した。ムーサー*はその兄ハールーン*に、（こう）言った。「（私の不在中、）我が民の中で私の代理を務めてくれ。そして（彼らの状態を）正すのであり、腐敗*を働く者たちの道に従ってはならない」。

۞ وَوَٰعَدْنَا مُوسَىٰ ثَلَٰثِينَ لَيْلَةً وَأَتْمَمْنَٰهَا بِعَشْرٍ فَتَمَّ مِيقَٰتُ رَبِّهِۦٓ أَرْبَعِينَ لَيْلَةً ۚ وَقَالَ مُوسَىٰ لِأَخِيهِ هَٰرُونَ ٱخْلُفْنِى فِى قَوْمِى وَأَصْلِحْ وَلَا تَتَّبِعْ سَبِيلَ ٱلْمُفْسِدِينَ ١٤٢

143. そしてムーサーがわれらの定めた時にやって来て、かれの主が彼に語り給うた[3]時、彼（ムーサー）は申し上げた。「我が主よ、私に（お姿を）お見せ下さい。あなたを拝見しますから[4]」。かれは仰せられた。「あなたが、われを見ることは出来ない。だが、

وَلَمَّا جَآءَ مُوسَىٰ لِمِيقَٰتِنَا وَكَلَّمَهُۥ رَبُّهُۥ قَالَ رَبِّ أَرِنِىٓ أَنظُرْ إِلَيْكَ ۚ قَالَ لَن تَرَىٰنِى وَلَٰكِنِ ٱنظُرْ إِلَى ٱلْجَبَلِ فَإِنِ ٱسْتَقَرَّ مَكَانَهُۥ فَسَوْفَ تَرَىٰنِى ۚ فَلَمَّا تَجَلَّىٰ رَبُّهُۥ لِلْجَبَلِ جَعَلَهُۥ دَكًّا وَخَرَّ مُوسَىٰ صَعِقًا

---

1 「全創造物の上にお引き立てになった」については、雌牛章 47 も参照。

2 「四十夜」については、雌牛章 51 の訳注を参照。

3 同一文、あるいは連続した文章における人称の転換に関しては、食卓章 12 の訳注参照のこと。

4 家畜章 103 と、その訳注も参照。

その山を見るのだ。そして、もしそれがその場にしっかりと留まっているのなら、あなたはわれを見るであろう[1]」。それで、彼の主が山にお姿をお見せになると、かれはそれを粉々にされ、ムーサーは気絶して倒れた。そして意識を取り戻すと、彼は申し上げた。「あなたに称え*あれ！　私は、あなたに悔悟しました。そして私は、（我が民の内の）信仰者の先駆けです」。

فَلَمَّآ أَفَاقَ قَالَ سُبۡحَٰنَكَ تُبۡتُ إِلَيۡكَ وَأَنَا۠
أَوَّلُ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ١٤٣

144. かれは仰せられた。「ムーサー*よ、本当にわれは、わが言伝とわが言葉[2]で、あなたを人々の上に選りすぐった。ならば、われがあなたに授けたもの[3]を手にし(て、それを遵守し）、感謝する者の一人となるのだ」。

قَالَ يَٰمُوسَىٰٓ إِنِّي ٱصۡطَفَيۡتُكَ عَلَى ٱلنَّاسِ بِرِسَٰلَٰتِي
وَبِكَلَٰمِي فَخُذۡ مَآ ءَاتَيۡتُكَ وَكُن مِّنَ
ٱلشَّٰكِرِينَ ١٤٤

145. われら*は彼（ムーサー*）のため、（宗教において必要な）全ての物事を、つまり訓戒と、全てのものの詳細[4]を、碑板の中に記した。ならばそれを真摯に受け取り[5]、あなたの民に命じて、その最善のものを行わせよ[6]。じきにわれは、あな

وَكَتَبۡنَا لَهُۥ فِي ٱلۡأَلۡوَاحِ مِن كُلِّ
شَيۡءٖ مَّوۡعِظَةٗ وَتَفۡصِيلٗا لِّكُلِّ شَيۡءٖ
فَخُذۡهَا بِقُوَّةٖ وَأۡمُرۡ قَوۡمَكَ يَأۡخُذُواْ بِأَحۡسَنِهَاۚ
سَأُوْرِيكُمۡ دَارَ ٱلۡفَٰسِقِينَ ١٤٥

---

1 つまり、ムーサーよりも強くて堅固な山が、アッラーのお姿を前にして確固としていられたら、彼もそのお姿を拝見できるだろう、ということ（アル＝クルトゥビー 7:278 参照）。

2 「言伝」とは、人々をアッラー*の教えへと招く、使徒*としての使命。「言葉」とは、アッラー*が直接彼に語りかけられたという特別な栄誉のこと（ムヤッサル 168 頁参照）。

3 アッラー*のご命じになったことと、禁じられたこと（前掲書、同頁参照）。

4 つまり、法規定・義務・物語・信仰教義・不可視の世界*の情報などを網羅（もうら）した、トーラー*のこと（前掲書、同頁参照）。

5 「真摯に受け取る」については、雌牛章 63 の訳注を参照。

6 つまり、その命令を実行し、禁令を避（さ）け、たとえと訓戒を熟慮（じゅくりょ）すること。あるいは、「最善のもの」とは義務と任意の服従行為で、その他の合法な物事が「それ以下のもの」（アル＝クルトゥビー7:282 参照）。

た方に放逸な者たちの住まいを見せてやるから[1]。

146. われら*は、不当にも地上で（われら*への服従に対し、そして人々に対し）奢り高ぶる者たちを、わが御徴[2]（の理解）から遠のけてしまおう。そして彼らは、いかなる御徴を目にしても、それを信じることがない。また正しさの道を目にしても、それを道として選ぶこともない。そして誤りの道を目にすれば、それを道として選んでしまう。それというのも、彼らがわれら*の御徴を嘘とし、それに無頓着な者たちだったからなのである。

سَأَصْرِفُ عَنْ ءَايَٰتِيَ ٱلَّذِينَ يَتَكَبَّرُونَ فِي
ٱلْأَرْضِ بِغَيْرِ ٱلْحَقِّ وَإِن يَرَوْا۟ كُلَّ ءَايَةٍ
لَّا يُؤْمِنُوا۟ بِهَا وَإِن يَرَوْا۟ سَبِيلَ ٱلرُّشْدِ لَا
يَتَّخِذُوهُ سَبِيلًا وَإِن يَرَوْا۟ سَبِيلَ ٱلْغَيِّ
يَتَّخِذُوهُ سَبِيلًا ۚ ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمْ كَذَّبُوا۟
بِـَٔايَٰتِنَا وَكَانُوا۟ عَنْهَا غَٰفِلِينَ ١٤٦

147. われら*の御徴と来世における拝謁を嘘呼ばわりする者は、その行いが台無しになってしまったのである。一体彼らが（来世で）報いを受けるのは、自分たちが（現世で）行っていたこと（によるもの）以外の、何ものでもないのではないか？

وَٱلَّذِينَ كَذَّبُوا۟ بِـَٔايَٰتِنَا وَلِقَآءِ ٱلْءَاخِرَةِ
حَبِطَتْ أَعْمَٰلُهُمْ ۚ هَلْ يُجْزَوْنَ إِلَّا مَا كَانُوا۟
يَعْمَلُونَ ١٤٧

148. ムーサー*の民は彼の（アッラー*との約束のための出発）後、彼らの宝飾品から、実体があり、鳴き声を有する仔牛を作り出した[3]。一体彼らは、それが彼らに語りかけもしなければ、彼らを（よき）道に導きもしないことを知らなかったのか？　彼らはそれを（崇拝*の対象として）選んだのであり、彼らは不正*者だったのである。

وَٱتَّخَذَ قَوْمُ مُوسَىٰ مِنۢ بَعْدِهِۦ مِنْ حُلِيِّهِمْ
عِجْلًا جَسَدًا لَّهُۥ خُوَارٌ ۚ أَلَمْ يَرَوْا۟ أَنَّهُۥ
لَا يُكَلِّمُهُمْ وَلَا يَهْدِيهِمْ سَبِيلًا ۘ
ٱتَّخَذُوهُ وَكَانُوا۟ ظَٰلِمِينَ ١٤٨

1 来世において、彼らの内の、あるいは彼ら以外のシルク*の徒の行き先である地獄をお見せになる、ということ（ムヤッサル 168 頁参照）。ほかにも、「エジプト」「シャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）」といった解釈などもある（アル＝クルトゥビー7:282 参照）。

2 この「御徴」とは、アッラー*の偉大さとその法規定を示す証拠のこと（ムヤッサル 168 頁参照）。

3 この時の状況についてはター・ハー章 83-98 に、より詳細に描写されている。

149. そして（仔牛の崇拝を）後悔し[1]、自分たちが確かに迷い去っていたのを知ると、彼らは言った[2]。「もしも我らが主*が私たちにご慈悲をかけて下さらず、私たちをお赦しにならなければ、私たちは本当に損失者の類いとなってしまいます」。

وَلَمَّا سُقِطَ فِيٓ أَيۡدِيهِمۡ وَرَأَوۡاْ أَنَّهُمۡ قَدۡ
ضَلُّواْ قَالُواْ لَئِن لَّمۡ يَرۡحَمۡنَا رَبُّنَا
وَيَغۡفِرۡ لَنَا لَنَكُونَنَّ مِنَ ٱلۡخَٰسِرِينَ ١٤٩

150. ムーサー*は怒り、悲しみつつ、その民のもとに戻って来た時[3]、（こう）言った。「私の（出発）後に、あなた方が務めた我が代役の何と醜悪なことか。一体あなた方は、自分たちの主*の定めを急いだのか[4]？」彼は碑板を投げ[5]、彼の兄（ハールーン*）の頭をつかんで自分の方に引き寄せた。彼（ハールーン*）は言った。「我が母の息子[6]よ、本当に民は私を軽んじ、私を今にも殺さんばかりだったのだ。だから、私（に対してあなたがすること）ゆえに、敵を喜ばせたりしてはいけない。そして私を、不正*者である民と一緒にはしないでくれ」。

وَلَمَّا رَجَعَ مُوسَىٰٓ إِلَىٰ قَوۡمِهِۦ غَضۡبَٰنَ أَسِفٗا قَالَ
بِئۡسَمَا خَلَفۡتُمُونِي مِنۢ بَعۡدِيٓۖ أَعَجِلۡتُمۡ أَمۡرَ
رَبِّكُمۡۖ وَأَلۡقَى ٱلۡأَلۡوَاحَ وَأَخَذَ بِرَأۡسِ أَخِيهِ
يَجُرُّهُۥٓ إِلَيۡهِۚ قَالَ ٱبۡنَ أُمَّ إِنَّ ٱلۡقَوۡمَ ٱسۡتَضۡعَفُونِي
وَكَادُواْ يَقۡتُلُونَنِي فَلَا تُشۡمِتۡ بِيَ ٱلۡأَعۡدَآءَ
وَلَا تَجۡعَلۡنِي مَعَ ٱلۡقَوۡمِ ٱلظَّٰلِمِينَ ١٥٠

---

1 この「後悔した」は、直訳的には「自分たちの手の中に落とされた」という表現。後悔する者が、苦悩ゆえに自分の手に口をつけて噛（か）む様子が、その意味の由来とされる（アッ＝シャウカーニー2:352 参照）。

2 これはムーサー*がアッラー*との語らいを終え、シナイ山を降りて民のもとに帰ってきた後のことである（アッ＝タバリー5:3638-3639、ムヤッサル 168 頁参照）。

3 この「怒りと悲しみ」は、彼がアッラー*から、民がサーミリーによって不信仰に走ったことを知らされたため（ムヤッサル 169 頁参照）。詳しくは、ター・ハー章 85 を参照。

4 この「定め」には、「四十日間の約束（雌牛章 51「四十夜」の訳注を参照）」「主*のお怒り」「主*のご命令もないままに、仔牛の崇拝*へと急いだこと」といった解釈がある（アル＝クルトゥビー7:288 参照）。

5 イブン・カスィール*によれば、大半の学者は、ムーサー*が「碑板を投げ」たのは、民への怒りゆえのことであったとしている（3:477 参照）。

6 ムーサー*とハールーン*の父母は、そもそも同一。この言い回しは、母親を前面に出すことによって、より相手の同情を引くための修辞的表現であるとされる（アッ＝タバリー5:3645 参照）。

151. 彼（ムーサー*）は申し上げた。「我が主*よ、私と我が兄をお赦し下さい。そして私たちを、あなたのご慈悲の中にお入れ下さい。あなたは慈悲深い者の中でも、最も慈悲深いお方です」。[1]

قَالَ رَبِّ ٱغْفِرْ لِى وَلِأَخِى وَأَدْخِلْنَا فِى
رَحْمَتِكَ ۖ وَأَنتَ أَرْحَمُ ٱلرَّٰحِمِينَ ﴿١٥١﴾

152. 本当に仔牛を（崇拝*の対象として）選んだ者たち、彼らには、彼らの主*からのお怒りと、現世の生活における辱めが降りかかろう。同様にわれら*は、（宗教における）捏造者たちに報いるのである。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ٱتَّخَذُوا۟ ٱلْعِجْلَ سَيَنَالُهُمْ غَضَبٌ
مِّن رَّبِّهِمْ وَذِلَّةٌ فِى ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا ۚ وَكَذَٰلِكَ
نَجْزِى ٱلْمُفْتَرِينَ ﴿١٥٢﴾

153. そして悪行を犯し、それからその（悪行の）後に悔悟して信仰する者たち、本当にあなたの主*はその（悔悟の）後、（彼らに対して）まさしく赦し深いお方、慈愛深い*お方であられる。

وَٱلَّذِينَ عَمِلُوا۟ ٱلسَّيِّـَٔاتِ ثُمَّ تَابُوا۟ مِنۢ
بَعْدِهَا وَءَامَنُوٓا۟ إِنَّ رَبَّكَ مِنۢ بَعْدِهَا
لَغَفُورٌ رَّحِيمٌ ﴿١٥٣﴾

154. ムーサー*の怒りが沈まると、彼は碑板を（再び）手に取った。その写しには自分たちの主*こそを恐れる者たちへの導きと、ご慈悲がある。

وَلَمَّا سَكَتَ عَن مُّوسَى ٱلْغَضَبُ أَخَذَ ٱلْأَلْوَاحَ ۖ
وَفِى نُسْخَتِهَا هُدًى وَرَحْمَةٌ لِّلَّذِينَ هُمْ لِرَبِّهِمْ
يَرْهَبُونَ ﴿١٥٤﴾

155. そしてムーサー*はわれら*との約束の時[2]のため、彼の民から七十人の（秀でた）男たちを選んだ。そして彼らを激震が捕らえた[3]時、彼（ムーサー*）は申し上げた。「我が主*よ、もしあなたがお望みならば、あなたは彼らと私を（これ）以前

وَٱخْتَارَ مُوسَىٰ قَوْمَهُۥ سَبْعِينَ رَجُلًا لِّمِيقَٰتِنَا ۖ
فَلَمَّآ أَخَذَتْهُمُ ٱلرَّجْفَةُ قَالَ رَبِّ لَوْ شِئْتَ
أَهْلَكْتَهُم مِّن قَبْلُ وَإِيَّٰىَ ۖ أَتُهْلِكُنَا بِمَا فَعَلَ
ٱلسُّفَهَآءُ مِنَّآ ۖ إِنْ هِىَ إِلَّا فِتْنَتُكَ تُضِلُّ بِهَا
مَن تَشَآءُ وَتَهْدِى مَن تَشَآءُ ۖ أَنتَ وَلِيُّنَا فَٱغْفِرْ لَنَا

---

1 イスラーイールの子ら*のこの罪が招いた結果については、雌牛章 54 とその訳注を参照。預言者*・使徒*の無謬（むびゅう）性については、同章 36 の訳注を参照。

2 彼らの内の愚か者が仔牛の件で犯した罪（アーヤ*148 以降参照）に関し、アッラー*に悔悟するため、シナイ山に赴（おもむ）く「約束の時」のこと（ムヤッサル 169 頁参照）。

3 一説に、この激震による罰の原因は、彼らがムーサー*に、雌牛章 55 にあるような言葉を言ったせいであり、これによって彼らは死んでしまったとされる（前掲書、同頁参照）。

وَٱرۡحَمۡنَاۖ وَأَنتَ خَيۡرُ ٱلۡغَٰفِرِينَ ١٥٥

に、（皆）滅亡させせられたはずです[1]。一体あなたは、私たちの内の愚か者たちがしたことゆえに、私たちを滅ぼされるのですか？　これは、あなたがそれによってあなたがお望みの者を迷わされ、あなたがお望みの者をお導きになる、あなたの試練に外なりません。あなたは私たちの庇護者*です。ですから私たちをお赦しになり、私たちにご慈悲をおかけ下さい。あなたは赦す者の内でも、最善のお方です。

۞وَٱكۡتُبۡ لَنَا فِي هَٰذِهِ ٱلدُّنۡيَا حَسَنَةٗ وَفِي ٱلۡأٓخِرَةِ إِنَّا هُدۡنَآ إِلَيۡكَۚ قَالَ عَذَابِيٓ أُصِيبُ بِهِۦ مَنۡ أَشَآءُۖ وَرَحۡمَتِي وَسِعَتۡ كُلَّ شَيۡءٖۚ فَسَأَكۡتُبُهَا لِلَّذِينَ يَتَّقُونَ وَيُؤۡتُونَ ٱلزَّكَوٰةَ وَٱلَّذِينَ هُم بِـَٔايَٰتِنَا يُؤۡمِنُونَ ١٥٦

156. また、私たちにこの現世において、善きものをお定め下さい。そして来世においても[2]。本当に私たちは、あなたに悔悟したのですから」。かれ（アッラー*）は仰せられた。「わが懲罰、われはそれで、われが望む者を襲うのだ。そしてわが慈悲は、あらゆるものに広く及んでいる。われは（われを）畏れ*、浄財*[3]を払う者たち、われら*の御徴を信じるその者たちに、それ（慈悲）を定めよう。

ٱلَّذِينَ يَتَّبِعُونَ ٱلرَّسُولَ ٱلنَّبِيَّ ٱلۡأُمِّيَّ ٱلَّذِي يَجِدُونَهُۥ مَكۡتُوبًا عِندَهُمۡ فِي

157. （その者たちとは、）彼ら（啓典の民*）が、自分たちのもとにあるトーラー*と福音*の中に記されているのを見出すと

1 イスラーイールの子ら*の内、選り抜きの七十人が死んでしまったら、ムーサー*は残った民のところへ戻って行った時、彼らに何と言い訳していいか分からなくなる。もし、これ以前に民が全滅させられていたら、その方がむしろムーサー*にとってはましだったのである（ムヤッサル 169 頁参照）。

2 現世での「善きもの」とは、有益な知識、豊かな糧（かて）、正しい行い*など。来世における「善きもの」とは、アッラー*が正しい者*にご用意された褒美のこととされる（アッ＝サァディー305 頁参照）。

3 この「浄財*」は、義務の浄財*とも、「心を清めること」とも、あるいは、その両方であるともされる（イブン・カスィール 3:483 参照）。

ころの、使徒*、文盲の預言者*[1]に従う者たち。彼は、彼らに善事を命じて悪事を禁じ[2]、善きものを合法として悪いものを非合法とする[3]。また彼は、彼らの上にのしかかっていた重課と枷を、彼らから取り除いてくれる[4]。彼を信仰し、敬い、援助して、彼と共に下された光[5]に従う者たち、それらの者たちこそは、成功者なのである」。

ٱلتَّوۡرَىٰةِ وَٱلۡإِنجِيلِ يَأۡمُرُهُم
بِٱلۡمَعۡرُوفِ وَيَنۡهَىٰهُمۡ عَنِ ٱلۡمُنكَرِ
وَيُحِلُّ لَهُمُ ٱلطَّيِّبَٰتِ وَيُحَرِّمُ عَلَيۡهِمُ
ٱلۡخَبَٰٓئِثَ وَيَضَعُ عَنۡهُمۡ إِصۡرَهُمۡ وَٱلۡأَغۡلَٰلَ
ٱلَّتِي كَانَتۡ عَلَيۡهِمۡۚ فَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ بِهِۦ
وَعَزَّرُوهُ وَنَصَرُوهُ وَٱتَّبَعُواْ ٱلنُّورَ ٱلَّذِيٓ
أُنزِلَ مَعَهُۥٓ أُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡمُفۡلِحُونَ ١٥٧

158. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「人々よ、本当に私はあなた方全員への、アッラー*の使徒*である[6]。（アッラー*は、）かれにこそ諸天と大地の王権が属するお方。かれの外に、崇拝*すべきものなどはない。生を与え、死を与えられる（お方）。ならばアッラー*と、アッラー*とその御言葉を信じるその使徒*、文盲の預言者*を信じ、彼に従うのだ。あなた方が導かれるようにするために」。

قُلۡ يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ إِنِّي رَسُولُ ٱللَّهِ إِلَيۡكُمۡ
جَمِيعًا ٱلَّذِي لَهُۥ مُلۡكُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَٱلۡأَرۡضِۖ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ يُحۡيِۦ وَيُمِيتُۖ
فَـَٔامِنُواْ بِٱللَّهِ وَرَسُولِهِ ٱلنَّبِيِّ ٱلۡأُمِّيِّ
ٱلَّذِي يُؤۡمِنُ بِٱللَّهِ وَكَلِمَٰتِهِۦ وَٱتَّبِعُوهُ
لَعَلَّكُمۡ تَهۡتَدُونَ ١٥٨

1 トーラー*と福音*の中でその特徴や使命について記されている、預言者*ムハンマド*のこと（ムヤッサル 170 頁参照）。雌牛章 129「使徒*」の訳注、戦列章 6 とその訳注も参照。

2 「善事を命じて悪事を禁じる」については、イムラーン家章 104 の訳注を参照。

3 ここでの「善きもの」とは、本来合法であるにも関わらず、人々が勝手に非合法と見なしていた物事であり、「悪いもの」とは豚肉や利息*のように、そもそもアッラー*が禁じられたにも関わらず、人々が合法としていた物事のことであるという（アッ＝タバリー5:3663 参照）。

4 「重課」と「枷」とは、イスラーイールの子ら*が結んだアッラー*との契約と、その中で従うように命じられた厳しい決まりのこととされる。預言者*ムハンマド*は、「尿（にょう）がかかった衣服はその部分を切り取ること」「戦利品*の非合法性」「月経中の妻と一緒に座ったり、食べたり、寝たりすることなどの禁止」といった過去の厳しい決まりを、合法化した（アル＝クルトゥビー7:300 参照）。

5 この「光」とは、クルアーン*、および預言者*のスンナ*のこと（ムヤッサル 170 頁参照）。

6 預言者*ムハンマド*は、それ以前の預言者*のように、特定の民に遣わされたのではない。彼は、全人類への教えと共に到来した（アッ＝タバリー5:3665 参照）。家畜章 19、識別章 1、サバア章 28 も参照。

159. そしてムーサー*の民の中にも、真理に（則(のっと)り、それに）よって導(みちび)き、それで正義を行う一派がある。

وَمِن قَوۡمِ مُوسَىٰٓ أُمَّةٞ يَهۡدُونَ بِٱلۡحَقِّ
وَبِهِۦ يَعۡدِلُونَ ١٥٩

160. また、われら*は彼ら（イスラーイールの子ら*）を、十二支族(しぞく)の集団に分けた。そしてムーサー*に対し、その民が彼に水を乞(こ)うた時、われら*は「あなたの杖(つえ)で、その石を叩くがよい」と啓示(けいじ)した。するとそこから十二の泉が湧(わ)き出た。（十二支族(しぞく)の）全ての人々は、確かに自分たちの水場を知った。また、われら*は雲々(くもぐも)で彼らの上に日陰(ひかげ)を作り、彼らのためにマンヌとウズラ[1]を下し（て、言っ）た。「われら*があなた方に授(さず)けた、よきものを食べよ[2]」。彼らがわれら*に不正*を働いたのではない。しかし彼らが、自分自身に不正*を働いていたのである。

وَقَطَّعۡنَٰهُمُ ٱثۡنَتَيۡ عَشۡرَةَ أَسۡبَاطًا أُمَمٗاۚ
وَأَوۡحَيۡنَآ إِلَىٰ مُوسَىٰٓ إِذِ ٱسۡتَسۡقَىٰهُ
قَوۡمُهُۥٓ أَنِ ٱضۡرِب بِّعَصَاكَ ٱلۡحَجَرَۖ
فَٱنۢبَجَسَتۡ مِنۡهُ ٱثۡنَتَا عَشۡرَةَ عَيۡنٗاۖ قَدۡ
عَلِمَ كُلُّ أُنَاسٖ مَّشۡرَبَهُمۡۚ وَظَلَّلۡنَا
عَلَيۡهِمُ ٱلۡغَمَٰمَ وَأَنزَلۡنَا عَلَيۡهِمُ ٱلۡمَنَّ
وَٱلسَّلۡوَىٰۖ كُلُواْ مِن طَيِّبَٰتِ مَا
رَزَقۡنَٰكُمۡۚ وَمَا ظَلَمُونَا وَلَٰكِن
كَانُوٓاْ أَنفُسَهُمۡ يَظۡلِمُونَ ١٦٠

161. 彼らに、（こう）言われた時のこと（を思い起こすがよい）。「この町[3]に住み、そこでどこからでも食べるがよい。そして『（私たちが望むのは、罪(つみ)の）免除(めんじょ)です』と言って、身を低めつつ謹(つつし)んで門に入るのだ。（そうすれば）われら*は、あなた方の過(あやま)ちを赦(ゆる)してやる。われら*は善を尽(つ)くす者[4]たちには、更(さら)に（褒美(ほうび)を）上乗(うわの)せしてやろう」。

وَإِذۡ قِيلَ لَهُمُ ٱسۡكُنُواْ هَٰذِهِ ٱلۡقَرۡيَةَ
وَكُلُواْ مِنۡهَا حَيۡثُ شِئۡتُمۡ وَقُولُواْ حِطَّةٞ
وَٱدۡخُلُواْ ٱلۡبَابَ سُجَّدٗا نَّغۡفِرۡ لَكُمۡ
خَطِيٓـَٰٔتِكُمۡۚ سَنَزِيدُ ٱلۡمُحۡسِنِينَ ١٦١

---

1 「マンヌ」と「ウズラ」に関しては、雌牛章 57 の訳注を参照。

2 これらはイスラーイールの子ら*が荒野にあった時、アッラー*から恵まれた恩恵の数々である（イブン・カスィール 1:133 参照）。同様の描写がある、雌牛章 57-61 も参照。

3 「この町」については、雌牛章 58 の訳注を参照。

4 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

162. すると彼らの内の不正*を働く者たちは、御言葉を自分たちに言われたのではないものと変えてしまった。そこでわれら*は、彼らが不正*を働いていたゆえに、彼らの上に天から（罰という）制裁を送ったのだ。[1]

فَبَدَّلَ ٱلَّذِينَ ظَلَمُوا۟ مِنْهُمْ قَوْلًا غَيْرَ
ٱلَّذِى قِيلَ لَهُمْ فَأَرْسَلْنَا عَلَيْهِمْ رِجْزًا
مِّنَ ٱلسَّمَآءِ بِمَا كَانُوا۟ يَظْلِمُونَ ١٦٢

163. また（使徒*よ）、海に面していた町（の人々）について、彼ら（ユダヤ教徒*）に尋ねてみよ。彼らが、土曜（の安息）日を破った時[2]。彼らの土曜（の安息）日には、彼らの魚群が彼らのもとに大挙して水面までやって来たが、彼らが安息しない日には、それらが彼らのもとにやって来なかった時のこと。そのようにわれらは彼らを、彼らが放逸であったことゆえに試みたのである。

وَسْـَٔلْهُمْ عَنِ ٱلْقَرْيَةِ ٱلَّتِى كَانَتْ
حَاضِرَةَ ٱلْبَحْرِ إِذْ يَعْدُونَ فِى ٱلسَّبْتِ
إِذْ تَأْتِيهِمْ حِيتَانُهُمْ يَوْمَ سَبْتِهِمْ شُرَّعًا
وَيَوْمَ لَا يَسْبِتُونَ لَا تَأْتِيهِمْ كَذَٰلِكَ
نَبْلُوهُم بِمَا كَانُوا۟ يَفْسُقُونَ ١٦٣

164. また、彼らの一派が（こう）言った時のこと（を思い起こさせよ）。「なぜあなた方は、アッラー*が（現世で）破滅させるか、あるいは（来世において）厳しい罰で罰されようとする民を戒めるのか？」彼らは言った。「あなた方の主*に対する弁解ゆえ（、そうするのだ）。彼らが（アッラー*を）畏れる*ようにするためである」。[3]

وَإِذْ قَالَتْ أُمَّةٌ مِّنْهُمْ لِمَ تَعِظُونَ قَوْمًا ٱللَّهُ
مُهْلِكُهُمْ أَوْ مُعَذِّبُهُمْ عَذَابًا شَدِيدًا قَالُوا۟
مَعْذِرَةً إِلَىٰ رَبِّكُمْ وَلَعَلَّهُمْ يَتَّقُونَ ١٦٤

---

1 この話の詳細については、雌牛章 59 の訳注を参照。

2 この出来事については、雌牛章 65 の訳注も参照。

3 アーヤ*163 の試練において、町の人々は三つの集団に分かれた。つまり、①魚を採って安息日を破った者たち、②それを止めようとし、彼らから距離を置いた者たち、③安息日を破りはしなかったが、それを破る者たちを止めなかった者たち。アーヤ*冒頭の言葉は、この③の集団から、②の集団に向けて発せられたものである（イブン・カスィール 3:494 参照）。

165. それで彼らが戒められた物事を忘れてしまった時、われら*は悪を禁じる者たちを救い出し、不正*を働いた者たちを、彼らが放逸であったことゆえに惨憺たる懲罰で捕らえた。

فَلَمَّا نَسُوا۟ مَا ذُكِّرُوا۟ بِهِۦٓ أَنجَيْنَا ٱلَّذِينَ
يَنْهَوْنَ عَنِ ٱلسُّوٓءِ وَأَخَذْنَا ٱلَّذِينَ ظَلَمُوا۟
بِعَذَابٍۭ بَـِٔيسٍۭ بِمَا كَانُوا۟ يَفْسُقُونَ ١٦٥

166. そして彼らが禁じられたことに反抗した時、われら*は彼らに言った。「惨めな猿になってしまえ[1]」。

فَلَمَّا عَتَوْا۟ عَن مَّا نُهُوا۟ عَنْهُ قُلْنَا لَهُمْ كُونُوا۟ قِرَدَةً
خَـٰسِـِٔينَ ١٦٦

167. また（使徒*よ）、あなたの主*が彼ら（ユダヤ教徒*）に対し、彼らに過酷な懲罰を味わわせる者を、復活の日*まで必ずや送（り続け）るということ[2]をお知らせになった時のこと（を、思い起こさせよ）。本当にあなたの主*はまさしく、即座に懲罰を下されるお方[3]であり、本当にかれは（悔悟する者に対して、）実に赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだ。

وَإِذْ تَأَذَّنَ رَبُّكَ لَيَبْعَثَنَّ عَلَيْهِمْ إِلَىٰ يَوْمِ
ٱلْقِيَـٰمَةِ مَن يَسُومُهُمْ سُوٓءَ ٱلْعَذَابِ ۗ إِنَّ رَبَّكَ
لَسَرِيعُ ٱلْعِقَابِ ۖ وَإِنَّهُۥ لَغَفُورٌ رَّحِيمٌ ١٦٧

168. またわれら*は地上において、彼ら（イスラーイールの子ら*）を数々の集団に分けた。彼らの内には正しい者*たち[4]もいれば、そうではない者たちもいる。そしてわれら*は彼らが（われら*に悔悟して）立ち返るべく、彼らを善きことと悪いこと[5]によって試練にかけたのである。

وَقَطَّعْنَـٰهُمْ فِى ٱلْأَرْضِ أُمَمًا ۖ مِّنْهُمُ ٱلصَّـٰلِحُونَ
وَمِنْهُمْ دُونَ ذَٰلِكَ ۖ وَبَلَوْنَـٰهُم بِٱلْحَسَنَـٰتِ
وَٱلسَّيِّـَٔاتِ لَعَلَّهُمْ يَرْجِعُونَ ١٦٨

---

1 雌牛章 65 と食卓章 60 も参照。

2 「過酷な懲罰」とは、屈辱（くつじょく）や、ジズヤ*の徴収（ちょうしゅう）などによるもの。それは彼らがアッラー*のご命令と法に反抗し、禁じられた物事をごまかしつつ犯していたためである（アル＝カースィミー7:2893 参照）。

3 アッラー*に対する不信仰と不服従ゆえに、かれの懲罰が確定した者に対して、「即座に懲罰を下されるお方」（ムヤッサル 172 頁参照）。

4 この「正しい者*たち」とは彼らの内、預言者*ムハンマド*のことを知り、信じた者たち（アル＝クルトゥビー7:310 参照）。

5 「善きこと」とは豊作や健康、「悪いこと」とは不作や困難のこと（前掲書、同頁参照）。

169. そして彼らの後に、啓典を引き継いだ愚かな後継者が到来した。彼らは現世のつまらぬ利益を（禁じられた手段で）手にし、（こう）言う。「私たちは赦されるであろう」。また、もしそれと同様の（禁じられた種類の）つまらぬ利益が彼らのもとにやって来れば、彼らはそれを（反省せずに）手にするのだ。一体彼らは、アッラー*に対して真実しか語らない、との啓典の確約[1]を取られたのではなかったか？　そして彼らは、その内容を学んだ（上で、それに反した）のである。（アッラー*を）畏れる*者にとっては、来世の住まいがより善いのだ。一体あなた方は、弁えないのか？

فَخَلَفَ مِنۢ بَعۡدِهِمۡ خَلۡفٞ وَرِثُواْ ٱلۡكِتَٰبَ
يَأۡخُذُونَ عَرَضَ هَٰذَا ٱلۡأَدۡنَىٰ وَيَقُولُونَ
سَيُغۡفَرُ لَنَا وَإِن يَأۡتِهِمۡ عَرَضٞ مِّثۡلُهُۥ يَأۡخُذُوهُۚ
أَلَمۡ يُؤۡخَذۡ عَلَيۡهِم مِّيثَٰقُ ٱلۡكِتَٰبِ أَن لَّا يَقُولُواْ
عَلَى ٱللَّهِ إِلَّا ٱلۡحَقَّ وَدَرَسُواْ مَا فِيهِۗ وَٱلدَّارُ ٱلۡأٓخِرَةُ
خَيۡرٞ لِّلَّذِينَ يَتَّقُونَۚ أَفَلَا تَعۡقِلُونَ ١٦٩

170. 啓典を固守し（それに則って行い）、礼拝を遵守*した者たち、本当にわれら*は改善者たちの褒美を、無駄にはしない。

وَٱلَّذِينَ يُمَسِّكُونَ بِٱلۡكِتَٰبِ وَأَقَامُواْ
ٱلصَّلَوٰةَ إِنَّا لَا نُضِيعُ أَجۡرَ ٱلۡمُصۡلِحِينَ ١٧٠

171. また、われら*が山を彼ら（イスラーイールの子ら*）の上方に、まるで覆いかぶさる雲のように掲げ、彼らがそれが自分たちの上に落下して来るものと確信した時のこと（を思い起こさせよ）[2]。（その時、われら*は言った。）「われら*があなた方に授けたものを、真摯に受け取る[3]がよい。そして（われら*を）畏れる*べく、その内容を心に刻み込むのだ」。

۞وَإِذۡ نَتَقۡنَا ٱلۡجَبَلَ فَوۡقَهُمۡ كَأَنَّهُۥ ظُلَّةٞ وَظَنُّوٓاْ
أَنَّهُۥ وَاقِعُۢ بِهِمۡ خُذُواْ مَآ ءَاتَيۡنَٰكُم بِقُوَّةٖ
وَٱذۡكُرُواْ مَا فِيهِ لَعَلَّكُمۡ تَتَّقُونَ ١٧١

---

1 彼らの啓典トーラー*に沿って行う、との確約（ムヤッサル 172 頁参照）。雌牛章 27 の訳注も参照。

2 同じ出来事の描写として、雌牛章 63、93 も参照。

3 「われら*があなたに授けたものを、真摯に受け取る」については雌牛章 63 の訳注を参照。

172. そして（使徒*よ、）あなたの主*が、アーダム*の子らの後背部から彼らの子孫を取り出し、彼ら自身に対して（こう）証言させた時のこと（を思い起こさせよ。われらは言った）。「一体われは、あなた方の主*ではないのか？」彼らは言った。「その通りです。私たちは証言しました」。（それは、）あなた方が復活の日*に「本当に私たちは、これに対して無頓着な者だったのです」などと言わないようにするためである。[1]

وَإِذْ أَخَذَ رَبُّكَ مِنۢ بَنِىٓ ءَادَمَ مِن ظُهُورِهِمْ
ذُرِّيَّتَهُمْ وَأَشْهَدَهُمْ عَلَىٰٓ أَنفُسِهِمْ أَلَسْتُ
بِرَبِّكُمْ ۖ قَالُوا۟ بَلَىٰ ۛ شَهِدْنَآ ۛ أَن تَقُولُوا۟ يَوْمَ
ٱلْقِيَـٰمَةِ إِنَّا كُنَّا عَنْ هَـٰذَا غَـٰفِلِينَ ١٧٢

173. あるいは、あなた方が「私たちのご先祖様こそが以前に（確約を破って）シルク*を犯したのであり、私たちは彼ら（に従っていただけ）の後の子孫なのです。なのに、あなたは（シルク*によって自らの行いを）無駄にする者たちがしたことゆえに、私たちを滅ぼされるのですか？」などと言わないようにするためである。

أَوْ تَقُولُوٓا۟ إِنَّمَآ أَشْرَكَ ءَابَآؤُنَا مِن قَبْلُ
وَكُنَّا ذُرِّيَّةً مِّنۢ بَعْدِهِمْ ۖ أَفَتُهْلِكُنَا
بِمَا فَعَلَ ٱلْمُبْطِلُونَ ١٧٣

174. そのようにわれら*は、御徴を詳らかにするのだ。（それは、不信仰者*たちがそれを熟慮し、）彼らが（われら*に悔悟して、）立ち返るようにするためである。

وَكَذَٰلِكَ نُفَصِّلُ ٱلْـَٔايَـٰتِ وَلَعَلَّهُمْ يَرْجِعُونَ ١٧٤

175. （使徒*よ、）われら*がわれら*の御徴を授けたものの、それを放棄し、シャイターン*に従わせられ、それで（不信仰へと）

وَٱتْلُ عَلَيْهِمْ نَبَأَ ٱلَّذِىٓ ءَاتَيْنَـٰهُ ءَايَـٰتِنَا فَٱنسَلَخَ
مِنْهَا فَأَتْبَعَهُ ٱلشَّيْطَـٰنُ فَكَانَ مِنَ ٱلْغَاوِينَ ١٧٥

---

1 このアーヤ*の意味については、よく知られた二つの解釈がある：①「アーダム*の子らの後背部からその子孫を取り出す」というのは、人類を世代から世代へと出現させることで、「アッラー*こそが主*であるという証言」とは、彼らがそのことを示す根拠を提示されて、それを認めること。②アッラー*は文字通り、アーダム*の後背部からその全ての子孫を粒子の形でお出しになり、かれが彼らにとっての主であるとの証言をさせられた。しかしその後、各人はその約束を忘れて生まれてくるため、それを想起させるべく使徒*たちが遣わされるのである、というもの（アッ＝シャンキーティー2:42-43 参照）。

逸脱(いつだつ)した者の類(たぐ)いとなった者の消息(しょうそく)[1]を、彼ら（あなたの民）に語って聞かせるがいい。

176. そして、もしわれら*が望んだのであれば、われら*はそれ（御徴(みしるし)）で彼（の位(くらい)）を上げてやっただろう。だが彼は（現世という）地にしがみつき、自分の欲望に従(したが)ったのだ。それで彼の様子は、犬の様子のようである。あなたがそれを追い立てても舌を出して喘(あえ)いでいるし、放ったらかしにしても舌を出して喘(あえ)いでいる[2]。それは、われら*の御徴(みしるし)を嘘(うそ)呼ばわりした民の様子のこと。ならば彼らが熟考(じゅっこう)するように、その物語を語って聞かせるのだ。

وَلَوۡ شِئۡنَا لَرَفَعۡنَٰهُ بِهَا وَلَٰكِنَّهُۥٓ أَخۡلَدَ إِلَى
ٱلۡأَرۡضِ وَٱتَّبَعَ هَوَىٰهُۚ فَمَثَلُهُۥ كَمَثَلِ ٱلۡكَلۡبِ
إِن تَحۡمِلۡ عَلَيۡهِ يَلۡهَثۡ أَوۡ تَتۡرُكۡهُ يَلۡهَثۚ
ذَّٰلِكَ مَثَلُ ٱلۡقَوۡمِ ٱلَّذِينَ كَذَّبُواْ بِـَٔايَٰتِنَاۚ
فَٱقۡصُصِ ٱلۡقَصَصَ لَعَلَّهُمۡ يَتَفَكَّرُونَ ١٧٦

177. われら*の御徴(みしるし)を嘘(うそ)呼ばわりした民の様子の、何と忌(い)まわしいことか。彼らは自分自身に、不正*を働いていたのである。

سَآءَ مَثَلًا ٱلۡقَوۡمُ ٱلَّذِينَ كَذَّبُواْ بِـَٔايَٰتِنَا
وَأَنفُسَهُمۡ كَانُواْ يَظۡلِمُونَ ١٧٧

178. 誰であろうとアッラー*がお導(みちび)きになった者、それが導(みちび)かれた者なのだ。そして誰であろうと、かれが迷わせ給(たも)うた者、それらの者たちこそは損失(そんしつ)者なのである。

مَن يَهۡدِ ٱللَّهُ فَهُوَ ٱلۡمُهۡتَدِيۖ وَمَن يُضۡلِلۡ
فَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡخَٰسِرُونَ ١٧٨

179. われら*は確かに、多くのジン*と人間を地獄のために創った。彼らには理解することのない心があり、見ることのない眼

وَلَقَدۡ ذَرَأۡنَا لِجَهَنَّمَ كَثِيرٗا مِّنَ ٱلۡجِنِّ وَٱلۡإِنسِۖ لَهُمۡ
قُلُوبٞ لَّا يَفۡقَهُونَ بِهَا وَلَهُمۡ أَعۡيُنٞ لَّا يُبۡصِرُونَ
بِهَا وَلَهُمۡ ءَاذَانٞ لَّا يَسۡمَعُونَ بِهَآۚ أُوْلَٰٓئِكَ

1 これは、アッラー*の御徴について真実の知識を授けられたものの、その知識が高徳と善行を命じ、高い地位を約束しているにも関わらず、啓典とそれが命じる高徳を放棄し、最も卑（いや）しい位階に成り下がった者のたとえ（アッ＝サァディー308頁参照）。

2 これは、イスラーム*を熱心に勧（すす）めても、または放ったらかしにしても、結局は不信仰であり続ける者のたとえ（ムヤッサル173頁参照）。

があり、聞くことのない耳がある[1]。それらの者たちは家畜のよう。いや、彼らは（それら）よりひどく迷っている[2]。それらの者たちこそは、（信仰に）無頓着な者たちなのだ。

كَٱلۡأَنۡعَٰمِ بَلۡ هُمۡ أَضَلُّۚ أُوْلَٰٓئِكَ هُمُ
ٱلۡغَٰفِلُونَ ١٧٩

180. アッラー*にこそ、美名は属する[3]。ならば、それによってかれに祈願するのだ。そして、かれの美名において（真理から）逸脱する者[4]たちは、放っておくがいい。彼らはいずれ、自分たちが行っていた（悪）事の応報を受けることになるのだから。

وَلِلَّهِ ٱلۡأَسۡمَآءُ ٱلۡحُسۡنَىٰ فَٱدۡعُوهُ بِهَاۖ وَذَرُواْ ٱلَّذِينَ
يُلۡحِدُونَ فِيٓ أَسۡمَٰٓئِهِۦۚ سَيُجۡزَوۡنَ مَا كَانُواْ
يَعۡمَلُونَ ١٨٠

181. われら*が創ったものの内には真理によって導き、それによって正義を行う共同体がある。

وَمِمَّنۡ خَلَقۡنَآ أُمَّةٞ يَهۡدُونَ بِٱلۡحَقِّ وَبِهِۦ يَعۡدِلُونَ ١٨١

182. また、われら*の御徴を嘘呼ばわりした者たち、われら*は彼らを、彼らが知らない所から徐々に（破滅へと）導いて行こう。[5]

وَٱلَّذِينَ كَذَّبُواْ بِـَٔايَٰتِنَا سَنَسۡتَدۡرِجُهُم
مِّنۡ حَيۡثُ لَا يَعۡلَمُونَ ١٨٢

---

1 この表現は、これらの器官の感覚機能を否定しているのではない。心を（本来の使い方において）役立てられず、（来世での）褒美も分からず、懲罰も怖れないために「理解することがない」とし、導きを「見ること」がなく、訓戒を「聞くことがない」としているのである（アル＝クルトゥビー7:324 参照）。家畜章 50、雷鳴章 16、フード*章 20、24 とその訳注も参照。

2 家畜でさえ、自分への害悪を見極（みきわ）め、その飼い主に従うのに、彼らはそれとは正反対であることのたとえ（ムヤッサル 174 頁参照）。

3 預言者*ムハンマド*は仰った。「アッラー*には九十九の美名がある。それを数え上げた者は、天国に入るであろう」（アル＝ブハーリー6410 参照）。しかし実際のところ、アッラー*の美名は九十九という数に限定されないとされる（イブン・カスィール 3:515 参照）。

4 「かれの美名において…逸脱する」とは、アッラー*の美名を改変したり、勝手に創ったりすること（ムヤッサル 174 頁参照）。当時のマッカ*の不信仰者*たちは、アッラー*の美名に手を加え、彼らの偶像に「アッラート（『アッラー*』を女性形に改変したもの）」とか「アル＝ウッザー（『アル＝アズィーズ』（偉力ならびない*お方）"の女性形）」などという名称をつけていた（イブン・カスィール 3:516 参照）。星章 19 と、その訳注も参照。

5 「知らない所から徐々に（破滅へと）導いて行く」ことの具体例については、家畜章 44 を参照。

183. そしてわれら*は彼らに、猶予を与えておくのだ。本当にわが策略[1]は、手堅いのだから。

وَأُمۡلِي لَهُمۡۚ إِنَّ كَيۡدِي مَتِينٌ ١٨٣

184. 一体、彼らは熟考しなかったのか？　彼らの仲間（ムハンマド*）には、憑き物など憑いてはいない[2]。彼は明白なる警告者に外ならないのだ。

أَوَلَمۡ يَتَفَكَّرُواْۗ مَا بِصَاحِبِهِم مِّن جِنَّةٍۚ إِنۡ هُوَ
إِلَّا نَذِيرٞ مُّبِينٌ ١٨٤

185. また、一体彼らは、諸天と大地の絶対なる王権と、（そこに）アッラー*がお創りになったものを見ないのか？　そして彼らの（死の）期限が、確かに迫ってしまったかもしれないことを？　ならば、それ（クルアーン*の警告）を差しおいて、彼らは一体いかなる話を信じるというのか？

أَوَلَمۡ يَنظُرُواْ فِي مَلَكُوتِ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ
وَمَا خَلَقَ ٱللَّهُ مِن شَيۡءٖ وَأَنۡ عَسَىٰٓ أَن يَكُونَ
قَدِ ٱقۡتَرَبَ أَجَلُهُمۡۖ فَبِأَيِّ حَدِيثِۭ بَعۡدَهُۥ
يُؤۡمِنُونَ ١٨٥

186. 誰であろうとアッラー*が迷わせ給うた者、彼にはいかなる導き手もない。かれは、彼らが彷徨うまま、そのひどい放埓さの中に彼らを放ったらかしにされる。

مَن يُضۡلِلِ ٱللَّهُ فَلَا هَادِيَ لَهُۥۚ وَيَذَرُهُمۡ فِي
طُغۡيَٰنِهِمۡ يَعۡمَهُونَ ١٨٦

187. （使徒*よ、）彼ら（マッカ*の不信仰者*）は復活の日*について、その到来がいつなのか、あなたに尋ねる。言ってやるがいい。「その知識は、我が主*の御許にこそある。その（到来する）時期にそれを露わにされるのは、かれのみなのだ。それは諸天と大地（の住人たち）に重い[3]。それは突然にしか、あなた方のもとにやって来ることがないのだ」。彼らはまるで、

يَسۡـَٔلُونَكَ عَنِ ٱلسَّاعَةِ أَيَّانَ مُرۡسَىٰهَاۖ قُلۡ إِنَّمَا
عِلۡمُهَا عِندَ رَبِّيۖ لَا يُجَلِّيهَا لِوَقۡتِهَآ إِلَّا هُوَۚ
ثَقُلَتۡ فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۚ لَا تَأۡتِيكُمۡ إِلَّا
بَغۡتَةٗۗ يَسۡـَٔلُونَكَ كَأَنَّكَ حَفِيٌّ عَنۡهَاۖ قُلۡ إِنَّمَا عِلۡمُهَا
عِندَ ٱللَّهِ وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَ ٱلنَّاسِ لَا يَعۡلَمُونَ ١٨٧

---

1 彼らに猶予を与えておくことにおける、アッラー*の「策略」については、イムラーン家章178を参照。

2 「憑かれた者」については、アル＝ヒジュル章6の訳注を参照。

3 復活の日*が到来する時期に関する知識は、かれ以外の誰にも知り得るものではない、ということ（ムヤッサル174頁参照）。

あなたがそれ（を知ること）に躍起な者[1]であるかのように、あなたに尋ねる。言ってやれ。「その知識は、アッラー*の御許にこそある。しかし人々の大半は、（そのことが）分からないのだ」。

188. （使徒*よ、）言うがよい。「私は自分自身に対し、アッラー*がお望みになったものの外、益（する力）も害（する力）も有してはいない。そして、もし私が不可視の世界*を知っていたら、善いことを増や（すことばかり）しただろうし、私に悪が降りかかることもなかっただろう[2]。私は、信仰する民に警告を告げる者、吉報を伝える者[3]に過ぎないのである」。

قُل لَّآ أَمۡلِكُ لِنَفۡسِي نَفۡعٗا وَلَا ضَرًّا إِلَّا
مَا شَآءَ ٱللَّهُۚ وَلَوۡ كُنتُ أَعۡلَمُ ٱلۡغَيۡبَ
لَٱسۡتَكۡثَرۡتُ مِنَ ٱلۡخَيۡرِ وَمَا مَسَّنِيَ
ٱلسُّوٓءُۚ إِنۡ أَنَا۠ إِلَّا نَذِيرٞ وَبَشِيرٞ لِّقَوۡمٖ يُؤۡمِنُونَ ١٨٨

189. かれ（アッラー*）はあなた方を一人の者（アーダム*）からお創りになり、彼がそこへと安らぐべく、彼自身からその妻（ハウワーゥ*）を創造されたお方。彼が彼女[4]に覆いかぶさった時[5]、彼女は軽い荷[6]を宿し、それを身ごもり続けた。そして（お腹が）重くなった時、二人は彼らの主*アッラー*に（こう）祈ったのだ。「もしも、

۞هُوَ ٱلَّذِي خَلَقَكُم مِّن نَّفۡسٖ وَٰحِدَةٖ وَجَعَلَ
مِنۡهَا زَوۡجَهَا لِيَسۡكُنَ إِلَيۡهَاۖ فَلَمَّا تَغَشَّىٰهَا
حَمَلَتۡ حَمۡلًا خَفِيفٗا فَمَرَّتۡ بِهِۦۖ فَلَمَّآ أَثۡقَلَت
دَّعَوَا ٱللَّهَ رَبَّهُمَا لَئِنۡ ءَاتَيۡتَنَا صَٰلِحٗا
لَّنَكُونَنَّ مِنَ ٱلشَّٰكِرِينَ ١٨٩

---

1 つまり躍起さゆえに、その知識に到達した者、という意味（イブン・アーシュール 9:204参照）。

2 預言者*は、アッラー*から教わること以外、不可視の世界*について知ることがない（イブン・カスィール 3:523 参照）。イムラーン家章 179、家畜章 50 とその訳注、ジン*章 26-27も参照。

3 「警告を告げる者」「吉報を伝える者」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

4 この「彼」と「彼女」は、アーダム*とハウワーゥ*の子孫である非特定の夫婦を指す、というのが大半の解釈学者らの見解とされる（ムヤッサル 175 頁参照）。

5 つまり、性交のこと（前掲書、同頁参照）。

6 「軽い荷」とは、精液のこと（前掲書、同頁参照）。

あなたが私たちに正しい者[1]をお授け下さったならば、私たちは必ずや感謝する者となりましょう」。

190. そして、かれが二人に正しい者を授けられた時、彼らはかれが自分たちに授けて下さったものにおいて、かれに（かれの崇拝*における）同位者たちを設けた[2]。かれは、彼らが（アッラー*の崇拝*において）シルク*を犯しているものから（無縁で）、遥か高遠なお方であられる。

فَلَمَّآ ءَاتَىٰهُمَا صَٰلِحًا جَعَلَا لَهُۥ شُرَكَآءَ فِيمَآ
ءَاتَىٰهُمَا ۚ فَتَعَٰلَى ٱللَّهُ عَمَّا يُشْرِكُونَ ١٩٠

191. 一体彼らは、それら（自身）が創られるものであって、何一つ創造することもないようなものを、（崇拝*においてアッラー*と）並べるというのか？

أَيُشْرِكُونَ مَا لَا يَخْلُقُ شَيْـًٔا وَهُمْ يُخْلَقُونَ ١٩١

192. それらは彼らへの援助も出来ないどころか、自分自身すら救えないというのに。

وَلَا يَسْتَطِيعُونَ لَهُمْ نَصْرًا وَلَآ أَنفُسَهُمْ
يَنصُرُونَ ١٩٢

193. そして（シルクの徒よ、）もしあなた方がそれら（アッラーの崇拝において同位者としているもの）を導きへと招いたところで、それらがあなた方に従うことはない。あなた方がそれらを招こうが、沈黙していようが、あなた方にとっては同じことなのである。

وَإِن تَدْعُوهُمْ إِلَى ٱلْهُدَىٰ لَا يَتَّبِعُوكُمْ ۚ سَوَآءٌ
عَلَيْكُمْ أَدَعَوْتُمُوهُمْ أَمْ أَنتُمْ صَٰمِتُونَ ١٩٣

194. 本当に、あなた方がアッラー*を差しおいて祈っているものは、あなた方同様（アッラー*）の僕たちなのだ。ならば、それらを呼び、あなた方に応えさせてみるがいい。もし、あなた方が本当のことを言っているのならば。

إِنَّ ٱلَّذِينَ تَدْعُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ عِبَادٌ
أَمْثَالُكُمْ ۖ فَٱدْعُوهُمْ فَلْيَسْتَجِيبُوا۟
لَكُمْ إِن كُنتُمْ صَٰدِقِينَ ١٩٤

---

1 この「正しい者」とは、健全な子供ということ（ムヤッサル 175 頁参照）。

2 つまり、その子供を誕生させ、恵んで下さったのは、誰ならぬアッラー*であるにも関わらず、その子供をアッラー*以外のものの僕（しもべ）とした（アッ＝サアディー311 頁参照）。

195. 一体それらには、歩く足があるというのか？　いや、一体それらには、制する手があるというのか？　いや、一体それらには、見る（ことの出来る）眼があるというのか？　いや、一体それらには、聞く（ことの出来る）耳があるのか？（使徒*よ、）言ってやるのだ。「あなた方（がアッラー*）の同位者（としているもの）たちに、祈るがいい。それから私に対して（災いが降りかかるよう）、策謀してみよ。私には、猶予を与えてくれなくてもいい。

أَلَهُمْ أَرْجُلٌ يَمْشُونَ بِهَآ أَمْ لَهُمْ أَيْدٍ
يَبْطِشُونَ بِهَآ أَمْ لَهُمْ أَعْيُنٌ يُبْصِرُونَ
بِهَآ أَمْ لَهُمْ ءَاذَانٌ يَسْمَعُونَ بِهَا قُلِ ٱدْعُوا۟
شُرَكَآءَكُمْ ثُمَّ كِيدُونِ فَلَا تُنظِرُونِ ١٩٥

196. 本当に私の庇護者*は、啓典（クルアーン*）を下されたアッラー*なのだから。かれは、正しい者*たちを庇護して下さる。

إِنَّ وَلِـِّۧيَ ٱللَّهُ ٱلَّذِى نَزَّلَ ٱلْكِتَٰبَ وَهُوَ
يَتَوَلَّى ٱلصَّٰلِحِينَ ١٩٦

197. そして（シルク*の徒よ）、あなた方がかれを差しおいて祈っている者たちは、あなた方を援助できず、自分自身すら救えない。

وَٱلَّذِينَ تَدْعُونَ مِن دُونِهِۦ لَا يَسْتَطِيعُونَ
نَصْرَكُمْ وَلَآ أَنفُسَهُمْ يَنصُرُونَ ١٩٧

198. また、もしあなた方がそれらを導きへと招こうとも、それらは聞きはしない。そして（使徒*よ、）あなたは、それらが自分の方を見ていると思うだけ。それらは、見てなどいないのだが。

وَإِن تَدْعُوهُمْ إِلَى ٱلْهُدَىٰ لَا يَسْمَعُوا۟ وَتَرَىٰهُمْ
يَنظُرُونَ إِلَيْكَ وَهُمْ لَا يُبْصِرُونَ ١٩٨

199. （預言者*よ、）あなた[1]は雅量を身につけ、善事[2]を命じ、無知な者たち（との争い）から遠ざかれ。

خُذِ ٱلْعَفْوَ وَأْمُرْ بِٱلْعُرْفِ وَأَعْرِضْ عَنِ
ٱلْجَٰهِلِينَ ١٩٩

1　この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。以下、同様の表現の際にも、同訳注を参照。

2　「善事」については、イムラーン家章 104 の訳注を参照。

200. そして、もしシャイターン*からの一突きがあなたを突くようなことがあれば[1]、アッラー*にご加護を乞うのだ。かれこそはよくお聴きになられるお方、全知者であられるのだから。

وَإِمَّا يَنزَغَنَّكَ مِنَ ٱلشَّيۡطَٰنِ نَزۡغٞ فَٱسۡتَعِذۡ
بِٱللَّهِۚ إِنَّهُۥ سَمِيعٌ عَلِيمٌ ٢٠٠

201. 本当に（アッラー*を）畏れる*者たちとは、シャイターン*の内の徘徊者が自分たちに触れた時、（アッラー*への服従と悔悟の義務を）思い出すのである。するとどうであろう、彼らは開眼した者となるのだ[2]。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ٱتَّقَوۡاْ إِذَا مَسَّهُمۡ طَٰٓئِفٞ مِّنَ
ٱلشَّيۡطَٰنِ تَذَكَّرُواْ فَإِذَا هُم مُّبۡصِرُونَ ٢٠١

202. そして、彼ら（ジン*のシャイターン*）の同胞（である、人間のシャイターン*）。彼ら（ジン*のシャイターン*）は、逸脱において彼ら（人間のシャイターン*）を助長するのであり、抜かりがない[3]。

وَإِخۡوَٰنُهُمۡ يَمُدُّونَهُمۡ فِي ٱلۡغَيِّ ثُمَّ لَا
يُقۡصِرُونَ ٢٠٢

203. また（使徒*よ）、あなたが彼ら（シルク*の徒）に御徴を持って来なければ、彼らは言う。「どうして、それを選ばないのか？[4]」言ってやるのだ。「私は、我が主*から啓示されるものに従っているだけ。これ（クルアーン*）はあなた方の主*からの開眼[5]、導き、信仰する民へのご慈悲なのだ」。

وَإِذَا لَمۡ تَأۡتِهِم بِـَٔايَةٖ قَالُواْ لَوۡلَا ٱجۡتَبَيۡتَهَاۚ
قُلۡ إِنَّمَآ أَتَّبِعُ مَا يُوحَىٰٓ إِلَيَّ مِن رَّبِّيۚ هَٰذَا
بَصَآئِرُ مِن رَّبِّكُمۡ وَهُدٗى وَرَحۡمَةٞ لِّقَوۡمٖ
يُؤۡمِنُونَ ٢٠٣

---

1 つまり、シャイターン*に怒りを煽（あお）られたり、その悪の囁（ささや）きを感じたり、善の妨害と悪への扇動（せんどう）に出くわしたりすること（ムヤッサル 176 頁参照）。

2 つまり誤（あやま）りとシャイターン*の策謀を見極（みきわ）め、それを避（さ）け、そこにおいてシャイターン*に従わない（アル＝バイダーウィー3:85 参照）。

3 ジン*のシャイターン*は彼らを逸脱させるのに抜かりなく、人間のシャイターン*も彼らに従うことに抜かりない（ムヤッサル 176 頁参照）。

4 つまり、「クルアーン*のアーヤ*を捏造（ねつぞう）してみよ」ということ。時に啓示は遅れることがあり、不信仰者*たちはこのように挑発したのだという。また一説には、「アッラー*に頼んで、自分が選んだ奇跡を叶（かな）えてもらえ」という意味（イブン・ジュザイ 1:335 参照）。

5 「開眼」については、家畜章 104 の訳注を参照。

204. クルアーン*が読まれたら、あなた方が慈しまれるよう、それに耳を傾け、傾聴せよ。

وَإِذَا قُرِئَ ٱلْقُرْءَانُ فَٱسْتَمِعُوا۟ لَهُۥ وَأَنصِتُوا۟
لَعَلَّكُمْ تُرْحَمُونَ ٢٠٤

205. また（使徒*よ、）朝に夕に自分の内で[1]、謹んで怖れながら、声を上げ（過ぎ）ることなく、あなたの主*を念じるのだ。そして、（アッラー*の唱念に）無頓着な者の類いであってはならない。

وَٱذْكُر رَّبَّكَ فِى نَفْسِكَ تَضَرُّعًا وَخِيفَةً
وَدُونَ ٱلْجَهْرِ مِنَ ٱلْقَوْلِ بِٱلْغُدُوِّ وَٱلْـَٔاصَالِ
وَلَا تَكُن مِّنَ ٱلْغَٰفِلِينَ ٢٠٥

206. 本当にあなたの主*の御許に侍る者たち[2]は、かれを崇拝*することにおいて奢り高ぶることなく、かれを称え*、かれのみにサジダ*するのだ。

إِنَّ ٱلَّذِينَ عِندَ رَبِّكَ لَا يَسْتَكْبِرُونَ عَنْ
عِبَادَتِهِۦ وَيُسَبِّحُونَهُۥ وَلَهُۥ يَسْجُدُونَ ۩ ٢٠٦

---

1 「自分の内で」とは、「舌を動かすことなく、心で」あるいは「舌を動かしつつも、密かに」ということ。後者の解釈の場合、「声を上げ（過ぎ）ることなく」という部分は、その念じ方の説明となるが、前者の場合、「声を上げ（過ぎ）ることなく」という部分は、別の念じ方における状況を表すことになる（イブン・ジュザイ 1:336 参照）。

2 天使*のこと（ムヤッサル 176 頁参照）。

第８章
戦利品*章（アル＝アンファール）[1]

سُورَةُ الأَنفَالِ

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. （預言者*よ、）彼らは戦利品*について、あなたに尋ねる[2]。言うのだ。「戦利品*はアッラー*と使徒*のもの[3]。ならばアッラー*を畏れ*、あなた方の間の状態を正し、アッラー*とその使徒*に従うのだ。もし、あなた方が信仰者であるというならば」。

يَسْـَٔلُونَكَ عَنِ ٱلْأَنفَالِ قُلِ ٱلْأَنفَالُ لِلَّهِ وَٱلرَّسُولِ
فَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ وَأَصْلِحُوا۟ ذَاتَ بَيْنِكُمْ
وَأَطِيعُوا۟ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥٓ إِن كُنتُم مُّؤْمِنِينَ ﴿١﴾

2. （真の）信仰者たちとは外でもなく、アッラー*（のこと）が言及されればその心が慄き[4]、その御徴（アーヤ*）が彼らに読誦されれば、それが彼らに（更なる）信仰心を上乗せする者たち。そして彼らの主*にのみ、全てを委ねる*者たちのことである。

إِنَّمَا ٱلْمُؤْمِنُونَ ٱلَّذِينَ إِذَا ذُكِرَ ٱللَّهُ
وَجِلَتْ قُلُوبُهُمْ وَإِذَا تُلِيَتْ عَلَيْهِمْ ءَايَٰتُهُۥ
زَادَتْهُمْ إِيمَٰنًا وَعَلَىٰ رَبِّهِمْ يَتَوَكَّلُونَ ﴿٢﴾

3. （彼らは）礼拝を遵守*し、われら*が彼らに授けたものから（施しのために）費やす[5]者たち。

ٱلَّذِينَ يُقِيمُونَ ٱلصَّلَوٰةَ وَمِمَّا رَزَقْنَٰهُمْ
يُنفِقُونَ ﴿٣﴾

---

1 マディーナ*啓示（一部アーヤ*には、マッカ*啓示説もあり）。スーラ*名は、このスーラ*のみに繰り返し登場する「戦利品*（アンファール）」という語に由来。ムスリム*たちはマディーナ*移住*後に初めて、敵対する不信仰者*との戦いを許された。物質的な戦力において圧倒的に劣るマディーナ*のムスリム*軍が、バドルの戦い*（ヒジュラ暦*2 年）で不信仰者*からなるマッカ*軍に初の軍事的大勝利を収めた出来事を背景に、アッラー*とその使徒*への絶対的信頼と服従の義務、イスラーム*に敵対する者たちへの警告、軍事上の様々な法規定などが描写される。また最後は、不信仰者*どうしがそうであるのと同様、信仰者どうしは出自や出身地の別なく盟友であることが強調されている。

2 ムスリム*共同体における初の戦利品*の分配について、一部の教友*間で意見の相違が生じた。それで彼らは預言者*に、質問したのである（アッ＝サァディー315 頁参照）。

3 戦利品*は、預言者*ムハンマド*がアッラー*のご命令によって分配するのであり、彼以外の者が口出しすることではない（ムヤッサル 177 頁参照）。

4 集団章 23 の訳注も参照。

5 この意味については、雌牛章 3 の訳注を参照。

4. それらの者たちこそ、真の信仰者である。彼らにこそ、その主*の御許での（高い）位とお赦し、貴い糧[1]があるのだ。

أُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡمُؤۡمِنُونَ حَقّٗاۚ لَّهُمۡ دَرَجَٰتٌ
عِندَ رَبِّهِمۡ وَمَغۡفِرَةٞ وَرِزۡقٞ كَرِيمٞ ٤

5. （預言者*よ、戦利品*の件は、）あなたの主*が、あなたを真理と共に、あなたの家（マディーナ*）から出発させられたのと同様であった。実に信仰者たちの一派は、（出征を）まさしく嫌がる者たちだったのだが。[2]

كَمَآ أَخۡرَجَكَ رَبُّكَ مِنۢ بَيۡتِكَ بِٱلۡحَقِّ وَإِنَّ
فَرِيقٗا مِّنَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ لَكَٰرِهُونَ ٥

6. 彼らは真理[3]において、それが明らかになった後、あなたと議論する。彼らはまるで（死を）眼前にしながら、死へと連れて行かれる者たちのようである。

يُجَٰدِلُونَكَ فِي ٱلۡحَقِّ بَعۡدَ مَا تَبَيَّنَ كَأَنَّمَا
يُسَاقُونَ إِلَى ٱلۡمَوۡتِ وَهُمۡ يَنظُرُونَ ٦

7. （議論する者たちよ）、アッラー*があなた方に、二派[4]のいずれか（に対する勝利）をお約束になった時のこと（を思い出すがよい）。あなた方は武装している者たちではない方（隊商）が、自分たちのものとなることを望んでいた。そしてアッラー*はその御言葉[5]によって真理を確立させ、不信仰者*たちを一人残さず根こそぎにされることをお望みなのである。[6]

وَإِذۡ يَعِدُكُمُ ٱللَّهُ إِحۡدَى ٱلطَّآئِفَتَيۡنِ أَنَّهَا
لَكُمۡ وَتَوَدُّونَ أَنَّ غَيۡرَ ذَاتِ ٱلشَّوۡكَةِ
تَكُونُ لَكُمۡ وَيُرِيدُ ٱللَّهُ أَن يُحِقَّ ٱلۡحَقَّ
بِكَلِمَٰتِهِۦ وَيَقۡطَعَ دَابِرَ ٱلۡكَٰفِرِينَ ٧

---

1 「貴い糧」とはここでは、天国のことを指していると言われる（ムヤッサル 177 頁参照）。

2 アッラー*は預言者*に、クライシュ族*の隊商を襲撃（しゅうげき）すべく出征するよう、啓示によって命じられた（前掲書、同頁参照）。そして一部のムスリム*たちはそれを嫌がったが、このことは結局、ムスリム*たちの大勝利という結果につながる。同様に戦利品*の件は、当初は一部の者に不満があったものの、結局は公平な分配によって決着した、ということ（アル＝バイダーウィー3:89 参照）。

3 ここでの「真理」は、戦いのことであると言われる（ムヤッサル 177 頁参照）。

4 一方は、戦いの必要もないほど軽装備な隊商で、もう一方は隊商を守るために出動してきたマッカ*軍のこと（アッ＝タバリー5:3775 参照）。

5 この「御言葉」は、戦いのご命令、あるいは勝利のお約束のこと（アル＝バガウィー2:272 参照）。

6 アッラー*は、ムスリム*たちが武装したマッカ*軍と戦い、ムスリム*たちとその宗教が勝利し、確立することをお望みになっている、ということ（イブン・カスィール 4:16 参照）。

8. 真理を確立させ、虚妄[1]を無に帰させるため(、アッラー*はそのようにされる)。たとえ罪悪者たちが、(それを)嫌がったとしても。

لِيُحِقَّ ٱلۡحَقَّ وَيُبۡطِلَ ٱلۡبَٰطِلَ وَلَوۡ كَرِهَ
ٱلۡمُجۡرِمُونَ ٨

9. あなた方が(敵への勝利に関して)自分たちの主*にご助力を求め、かれがあなた方に(こう仰せられつつ、)応えられた時のこと(を思い出すのだ)。「実にわれは、次々とやって来る千の天使*によって、あなた方を増強する者である」。[2]

إِذۡ تَسۡتَغِيثُونَ رَبَّكُمۡ فَٱسۡتَجَابَ لَكُمۡ أَنِّي
مُمِدُّكُم بِأَلۡفٖ مِّنَ ٱلۡمَلَٰٓئِكَةِ مُرۡدِفِينَ ٩

10. そしてアッラー*がそうされたのは、(あなた方の勝利への)吉報とし、それによってあなた方の心が安らぎを得るために外ならなかった。勝利は、アッラー*の御許からのみ。本当にアッラー*は偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方なのだから。

وَمَا جَعَلَهُ ٱللَّهُ إِلَّا بُشۡرَىٰ وَلِتَطۡمَئِنَّ بِهِۦ
قُلُوبُكُمۡۚ وَمَا ٱلنَّصۡرُ إِلَّا مِنۡ عِندِ ٱللَّهِۚ إِنَّ
ٱللَّهَ عَزِيزٌ حَكِيمٌ ١٠

11. かれがその御許から平安として、あなた方をまどろみで包まれ、天からあなた方の上に(雨)水をお降らしになった時のこと(を思い出すがよい)。それはあなた方(の外面な汚れ)をそれで清め、あなた方(の内面)からシャイターン*の汚れ[3]を取り除き、あなた方の心を(忍耐*で)繋ぎとめ[4]、それによってあなた方の足元を確固とするためであった[5]。

إِذۡ يُغَشِّيكُمُ ٱلنُّعَاسَ أَمَنَةٗ مِّنۡهُ وَيُنَزِّلُ
عَلَيۡكُم مِّنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءٗ لِّيُطَهِّرَكُم بِهِۦ
وَيُذۡهِبَ عَنكُمۡ رِجۡزَ ٱلشَّيۡطَٰنِ وَلِيَرۡبِطَ عَلَىٰ
قُلُوبِكُمۡ وَيُثَبِّتَ بِهِ ٱلۡأَقۡدَامَ ١١

---

1 ここでの「真理」とはイスラーム*とその信徒、「虚妄」はシルク*とその民のこと(ムヤッサル 177 頁参照)。

2 イムラーン家章 124-125 と、その訳注も参照。

3 この「汚れ」は、シャイターン*の囁(ささや)きのこととされる(前掲書 178 頁参照)。

4 「心を繋ぎとめる」とは、堅固さと揺るぎのなさが備わること(イブン・アーシュール 9:280 参照)。

5 バドルではマッカ*軍が先に水場を確保してしまい、それによってムスリム*たちは喉(のど)の渇きを癒(いや)すことも出来ず、礼拝の際の清めも叶わない状態となった。一部の者たちは先行きが心配になったが、雨が降ったことにより問題は解決し、両軍の間にあった砂丘も雨によって固まった(イブン・カスィール 4:23 参照)。

12. （預言者*よ、）あなたの主*が天使*たちに、（こう）お伝えになった時のこと（を思い起こさせるのだ）。「われはあなた方と共にある。ならば信仰する者たちを、堅固にするのだ――われは、不信仰に陥った者*たちの心に恐怖を投げ込もう――。そして（信仰者たちよ、）彼らの首を打ち、彼らの指の節々すべてを断ち切ってやる[1]がよい」。

إِذْ يُوحِي رَبُّكَ إِلَى ٱلْمَلَٰٓئِكَةِ أَنِّي مَعَكُمْ
فَثَبِّتُوا۟ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ ۚ سَأُلْقِي فِي قُلُوبِ
ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ ٱلرُّعْبَ فَٱضْرِبُوا۟ فَوْقَ
ٱلْأَعْنَاقِ وَٱضْرِبُوا۟ مِنْهُمْ كُلَّ بَنَانٍ ١٢

13. それというのも、彼らがアッラー*とその使徒*に反していたからなのである。そして誰であろうと、アッラー*とその使徒*に反する者（、アッラー*はその者を罰される）、というのも、実にかれは厳しい懲罰を与えられるお方なのだから。

ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمْ شَآقُّوا۟ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ ۚ وَمَن يُشَاقِقِ
ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ فَإِنَّ ٱللَّهَ شَدِيدُ ٱلْعِقَابِ ١٣

14. それ（が、懲罰）である。ならば、それを（現世で）味わうがよい。そして不信仰者*たちにこそは（来世において）、業火の罰があるのだ。

ذَٰلِكُمْ فَذُوقُوهُ وَأَنَّ لِلْكَٰفِرِينَ
عَذَابَ ٱلنَّارِ ١٤

15. 信仰する者たちよ、進軍中に不信仰に陥った者*たちと出遭ったならば、彼らに背を見せるのではない。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ إِذَا لَقِيتُمُ ٱلَّذِينَ
كَفَرُوا۟ زَحْفًا فَلَا تُوَلُّوهُمُ ٱلْأَدْبَارَ ١٥

16. そして、その日彼らに背を向ける者は誰でも、戦闘（における策謀）のために（一旦戦線から）脱けたり、あるいは（味方の別の）一団に編入したりするためでない限り、確かにアッラー*からのお怒りと共に戻った[2]ことになるのである。そしてその住処は、地獄である。その行き先は、何と醜悪であろうか。

وَمَن يُوَلِّهِمْ يَوْمَئِذٍ دُبُرَهُۥٓ إِلَّا مُتَحَرِّفًا لِّقِتَالٍ
أَوْ مُتَحَيِّزًا إِلَىٰ فِئَةٍ فَقَدْ بَآءَ بِغَضَبٍ مِّنَ
ٱللَّهِ وَمَأْوَىٰهُ جَهَنَّمُ ۖ وَبِئْسَ ٱلْمَصِيرُ ١٦

1　「指を断ち切る」のは、武器を使えないようにするため（イブン・アーシュール 9:283 参照）。

2　「アッラー*のお怒りと共に戻った」については、雌牛章 61 の訳注を参照。

17. ならば（信仰者たちよ）、あなた方が（自分たちの力で）彼らを殺したのではなく、アッラー*が彼らを殺されたのである。また（使徒*よ、）あなたが投げた時、（実は）あなたが投げたのではなく、アッラー*が投げ給うたのだ[1]。そして（アッラー*がそうされたのは、）かれがそれによって、信仰者たちをよき試練におかけになるためであった[2]。本当にアッラー*はよくお聞きになるお方、全知者であられるのだから。

فَلَمۡ تَقۡتُلُوهُمۡ وَلَٰكِنَّ ٱللَّهَ قَتَلَهُمۡۚ وَمَا رَمَيۡتَ إِذۡ رَمَيۡتَ وَلَٰكِنَّ ٱللَّهَ رَمَىٰ وَلِيُبۡلِيَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ مِنۡهُ بَلَآءً حَسَنًاۚ إِنَّ ٱللَّهَ سَمِيعٌ عَلِيمٞ ١٧

18. それ（は、アッラー*によるもの）である。そしてアッラー*こそは、不信仰者*たちの策略を脆いものとされるお方なのだ。

ذَٰلِكُمۡ وَأَنَّ ٱللَّهَ مُوهِنُ كَيۡدِ ٱلۡكَٰفِرِينَ ١٨

19. （不信仰者*たちよ、）もし、あなた方が裁決を求める[3]のなら、裁決は確かにあなた方のもとに到来した。また、もしあなた方が（不信仰と、ムスリム*との戦いを）やめるのなら、それがあなた方にとってより善いのである。そして（ムスリムとの戦いに）戻るというなら、われら*も（あなた方に再び敗北をもたらすべく）戻って来よう。また、

إِن تَسۡتَفۡتِحُواْ فَقَدۡ جَآءَكُمُ ٱلۡفَتۡحُۖ وَإِن تَنتَهُواْ فَهُوَ خَيۡرٞ لَّكُمۡۖ وَإِن تَعُودُواْ نَعُدۡ وَلَن تُغۡنِيَ عَنكُمۡ فِئَتُكُمۡ شَيۡـٔٗا وَلَوۡ كَثُرَتۡ وَأَنَّ ٱللَّهَ مَعَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ١٩

---

1 ここで預言者*が投げたのは、敵軍に向かって投げた砂粒である、とされる。アッラー*はそれを敵軍まで到達させて命中させ、彼ら全員の戦力をお下げになった（イブン・カスィール 4:30 参照）。

2 アッラー*がお望みなら、戦いなしにムスリム*たちを勝利させることもお出来である。しかしそれは、彼らが戦いによってより高い位に到達し、大きな褒美（ほうび）を得るための試練だったのだ（アッ＝サアディー317 頁参照）。

3 この「裁決を求める」とは、決戦前にマッカ*軍の指揮官アブー・ジャハル*が口にした、「アッラー*よ、近親との絆（きずな）を断ち切ってばかりいて、我々の知らないものを我々にもたらした者たちを今朝、滅ぼして下さい！」という祈りのことである、と言われる（アル＝ハーキム 2:389 参照）。

あなた方の集団など、あなた方にとって何の役にも立たないのである。たとえ、それが多勢（たぜい）であろうと（、同じこと）。本当にアッラー*は（そのご援助によって）、信仰者と共にあられるのだ。

20. 信仰する者たちよ、アッラー*とその使徒（しと）*に従（したが）え。そして（クルアーン*を）聞いているのに、彼（使徒（しと）*）に背（そむ）いてはならない[1]。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ أَطِيعُواْ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ
وَلَا تَوَلَّوۡاْ عَنۡهُ وَأَنتُمۡ تَسۡمَعُونَ ٢٠

21. また、聞いてなどいないのに、「私たちは聞きました」と言う者たち[2]のようになってはならない。

وَلَا تَكُونُواْ كَٱلَّذِينَ قَالُواْ سَمِعۡنَا وَهُمۡ لَا
يَسۡمَعُونَ ٢١

22. 本当にアッラー*の御許（みもと）で、地上を歩く生き物の内でも最悪のものとは、弁（わきま）えることのない聾（つんぼ）と唖（おし）[3]たちのことなのである。

۞إِنَّ شَرَّ ٱلدَّوَآبِّ عِندَ ٱللَّهِ ٱلصُّمُّ ٱلۡبُكۡمُ
ٱلَّذِينَ لَا يَعۡقِلُونَ ٢٢

23. もしアッラー*が彼らの内に善いこと[4]があるのをご存知だったなら、彼らにお聞かせになった[5]であろう。そして、たとえお聞かせになったとしても、彼らは身を翻（ひるがえ）して背を向けるのがおちなのだ。

وَلَوۡ عَلِمَ ٱللَّهُ فِيهِمۡ خَيۡرٗا لَّأَسۡمَعَهُمۡۖ وَلَوۡ
أَسۡمَعَهُمۡ لَتَوَلَّواْ وَّهُم مُّعۡرِضُونَ ٢٣

24. 信仰する者たちよ、アッラー*と使徒（しと）*に応（こた）えよ、彼（使徒（しと）*）があなた方を生かす物

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ ٱسۡتَجِيبُواْ لِلَّهِ
وَلِلرَّسُولِ إِذَا دَعَاكُمۡ لِمَا يُحۡيِيكُمۡۖ وَٱعۡلَمُوٓاْ

---

1 使徒*に背くことは、アッラー*に背くことに等しい。婦人章 80 も参照（イブン・アーシュール 9:303 参照）。

2 クルアーン*を「ちゃんと耳で聞いている」と言いながらも、それを熟慮（じゅくりょ）しないシルク*の徒や偽信者*たちのこと（ムヤッサル 179 頁参照）。

3 この「聾」と「唖」については、雌牛章 18 の訳注を参照。

4 「善いこと」とは、幸福な運命、あるいはアーヤ*から益を得ること（アル＝バイダーウィー3:98 参照）。

5 クルアーン*の訓戒と教示をお聞かせになり、アッラー*のお話を理解させられたであろう、ということ（ムヤッサル 179 頁参照）。

事[1]へと呼びかけた時には[2]。そしてアッラー*が人とその心の間を遮られること[3]を、また、あなた方がかれの御許にこそ召集されるということを知れ。

أَنَّ ٱللَّهَ يَحُولُ بَيْنَ ٱلْمَرْءِ وَقَلْبِهِۦ وَأَنَّهُۥٓ إِلَيْهِ تُحْشَرُونَ ٢٤

25. そして（信仰者たちよ、）決して、あなた方の内の不正*者たちだけに降りかかるわけではない試練から、身を守るのだ[4]。そして、アッラー*が厳しく懲罰されるお方であることを知れ。

وَٱتَّقُوا۟ فِتْنَةً لَّا تُصِيبَنَّ ٱلَّذِينَ ظَلَمُوا۟ مِنكُمْ خَآصَّةً ۖ وَٱعْلَمُوٓا۟ أَنَّ ٱللَّهَ شَدِيدُ ٱلْعِقَابِ ٢٥

26. また、あなた方が地上（マッカ*）において無勢で、抑圧された者たちであり、人々があなた方のことを攫ってしまうことを怖れていた時のことを思い出すがよい。それから、かれ（アッラー*）はあなた方が感謝するようにと、あなた方を（マディーナ*に）住まわせ、そのご援助によって（バドルの戦い*で）あなた方を支えられ、あなた方に善きものの内からお恵みになったのだ。

وَٱذْكُرُوٓا۟ إِذْ أَنتُمْ قَلِيلٌ مُّسْتَضْعَفُونَ فِى ٱلْأَرْضِ تَخَافُونَ أَن يَتَخَطَّفَكُمُ ٱلنَّاسُ فَـَٔاوَىٰكُمْ وَأَيَّدَكُم بِنَصْرِهِۦ وَرَزَقَكُم مِّنَ ٱلطَّيِّبَٰتِ لَعَلَّكُمْ تَشْكُرُونَ ٢٦

27. 信仰する者たちよ、アッラー*と使徒*を裏切ってはならない。そして（それを守る義務を）知りつつ、あなた方の信託[5]を裏切ってもならない。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَا تَخُونُوا۟ ٱللَّهَ وَٱلرَّسُولَ وَتَخُونُوٓا۟ أَمَٰنَٰتِكُمْ وَأَنتُمْ تَعْلَمُونَ ٢٧

---

1 「生かす物事」の解釈には諸説あるが、アル＝クルトゥビー*によると多くの学者は「服従行為、及びクルアーン*が命じ、禁じることの遵守（じゅんしゅ）のこと。というのも、そこには永遠の生と恩恵があるからである」としている（7:389 参照）。

2 この言い回しは、アッラー*とその使徒*が招くものは全て「生かす物事」であることを意味し、またそこにおける利益と英知を説明している（アッ＝サァディー318 頁参照）。アーヤ*20 の訳注も参照。

3 アッラー*こそは全ての物事をご自由に操（あやつ）られるお方で、人間を、その心が望むものから遮ることもお出来になるお方である（ムヤッサル 179 頁参照）。

4 正しい者*でも、不正*者たちと共にあり、その能力があるにも関わらず彼らの不正を正さないならば、彼らと同じ試練に晒（さら）されることを意味する（前掲書、同頁参照）。

5 「信託」については、婦人章 58、部族連合章 72 の訳注を参照。

28. そして（信仰者たちよ）、知るのだ。あなた方の財産と、あなた方の子供は試練[1]であり、アッラー*の御許にこそ偉大な褒美があるということを。

وَٱعۡلَمُوٓاْ أَنَّمَآ أَمۡوَٰلُكُمۡ وَأَوۡلَٰدُكُمۡ
فِتۡنَةٞ وَأَنَّ ٱللَّهَ عِندَهُۥٓ أَجۡرٌ عَظِيمٞ ٢٨

29. 信仰する者たちよ、もしあなた方がアッラー*を畏れる*ならば、かれはあなた方に（真理と虚妄との）識別[2]をお授けになり、あなた方のためにその悪行を帳消しにされ、あなた方をお赦し下さる。アッラー*は、偉大な恩寵の主であられる。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِن تَتَّقُواْ ٱللَّهَ يَجۡعَل
لَّكُمۡ فُرۡقَانٗا وَيُكَفِّرۡ عَنكُمۡ سَيِّـَٔاتِكُمۡ
وَيَغۡفِرۡ لَكُمۡۗ وَٱللَّهُ ذُو ٱلۡفَضۡلِ ٱلۡعَظِيمِ ٢٩

30. そして（使徒*よ、）不信仰に陥った者*たちがあなたを拘束したり、殺害したり、（故郷から）追放したりするために策謀していた時のこと（を思い起こさせよ）。彼らは策謀し、アッラー*も策謀し給う[3]。アッラー*は、策謀する者の内でも最善のお方であられるのだ。

وَإِذۡ يَمۡكُرُ بِكَ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ لِيُثۡبِتُوكَ
أَوۡ يَقۡتُلُوكَ أَوۡ يُخۡرِجُوكَۚ وَيَمۡكُرُونَ
وَيَمۡكُرُ ٱللَّهُۖ وَٱللَّهُ خَيۡرُ ٱلۡمَٰكِرِينَ ٣٠

31. われら*の御徴（アーヤ*）が彼らに読誦されれば、彼らは（無知と頑迷さから、こう）言った。「（これは以前にも、）確かに聞いたことがあるぞ。もしその気になれば、私たちはこれと同じようなものを語ったであろう。これは、昔の人々のお伽話に外ならないのだ」。[4]

وَإِذَا تُتۡلَىٰ عَلَيۡهِمۡ ءَايَٰتُنَا قَالُواْ قَدۡ سَمِعۡنَا
لَوۡ نَشَآءُ لَقُلۡنَا مِثۡلَ هَٰذَآ إِنۡ هَٰذَآ إِلَّآ
أَسَٰطِيرُ ٱلۡأَوَّلِينَ ٣١

1 財産や子供は、人がそれゆえにアッラー*に感謝し、そこにおいてアッラー*に服従するか、あるいはそれゆえにアッラー*への服従をおろそかにしてしまうかどうかの、試練である（ムヤッサル 180 頁参照）。

2 現世と来世における活路、救い、勝利、といった解釈もある（イブン・カスィール 4:43 参照）。

3 「アッラー*の策謀」とは、彼らが気づきもしないような形で、彼らの策謀に対して罰で報われること（アル＝クルトゥビー7:397 参照）。同様の表現法の説明として、雌牛章 15 の訳注も参照。

4 アッラー*はクルアーン*と同様のものを作ってみるよう仰せられたが、彼らにはそれが叶わなかった（アッ＝サァディー320 頁参照）。雌牛章 23、ユーヌス*章 38、フード*章 13、夜の旅章 88、山章 33-34 も参照。

32. 彼らが、（こう）言った時のこと（を思い起こさせるがよい）。「アッラー*よ、もしこれが本当にあなたの御許からの真実であるなら、天から私たちの上に石をお降らしになるか、あるいは私たちに痛ましい懲罰をお与え下さい」。[1]

وَإِذْ قَالُوا۟ ٱللَّهُمَّ إِن كَانَ هَٰذَا هُوَ ٱلْحَقَّ
مِنْ عِندِكَ فَأَمْطِرْ عَلَيْنَا حِجَارَةً مِّنَ
ٱلسَّمَآءِ أَوِ ٱئْتِنَا بِعَذَابٍ أَلِيمٍ ٣٢

33. そして（使徒*よ、）アッラー*はあなたが彼らの中にいる限り、彼らを罰されない。またアッラー*は、彼らが（罪の）お赦しを乞う限りは、彼らを罰されたりするお方ではないのだ。

وَمَا كَانَ ٱللَّهُ لِيُعَذِّبَهُمْ وَأَنتَ فِيهِمْ ۚ وَمَا
كَانَ ٱللَّهُ مُعَذِّبَهُمْ وَهُمْ
يَسْتَغْفِرُونَ ٣٣

34. どうしてアッラー*が、彼らを罰されないだろうか？　彼らは（信仰者たちを）ハラーム・マスジド*から阻んでおり、その後見人でもないというのに？　その後見人とは、敬虔な*者たち以外にはないのである[2]。だが彼らの大半は、（それを）知らない。

وَمَا لَهُمْ أَلَّا يُعَذِّبَهُمُ ٱللَّهُ وَهُمْ يَصُدُّونَ
عَنِ ٱلْمَسْجِدِ ٱلْحَرَامِ وَمَا كَانُوٓا۟ أَوْلِيَآءَهُۥٓ ۚ
إِنْ أَوْلِيَآؤُهُۥٓ إِلَّا ٱلْمُتَّقُونَ وَلَٰكِنَّ
أَكْثَرَهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ٣٤

35. 聖殿（ハラーム・マスジド*）における彼らの礼拝は、口笛と手拍子以外の何ものでもなかった[3]。ならば、あなた方が不信仰を犯していたことゆえ、懲罰を味わうがよい。

وَمَا كَانَ صَلَاتُهُمْ عِندَ ٱلْبَيْتِ إِلَّا
مُكَآءً وَتَصْدِيَةً ۚ فَذُوقُوا۟ ٱلْعَذَابَ
بِمَا كُنتُمْ تَكْفُرُونَ ٣٥

---

1 不信仰者*らは、その無知さ、頑迷さから、懲罰を早く下してみよ、と求めたものだった。家畜章 57-58、ユーヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、サード章 16、相談章 18、階段章 1-2 なども参照。

2 「後見人」とは、ハラーム・マスジド*にふさわしい者たち（雌牛章 217、悔悟章 17-18 も参照）のこと（イブン・カスィール 4：51 参照）。尚、「ハラーム・マスジド*の後見人」ではなく、「アッラー*と親密な者たち」（ユーヌス*章 62 の訳注を参照）という解釈もある（ムヤッサル 181 頁参照）。

3 この様子は、「ある種の人々が裸で、このようにしてタワーフ*していたこと（高壁章 28 とその訳注も参照）」「そのようなことをして、預言者*の礼拝を妨害していたこと（詳細にされた章 26 とその訳注も参照）」「信仰者たちを嘲笑していたこと」を表している、といった解釈がある（イブン・カスィール 4:52 参照）。

36. 本当に不信仰に陥(おちい)った者*たちは、アッラー*の道を阻(はば)むべく、彼らの財産を費(つい)やす。彼らはそれを費(つい)やすであろう。やがてそれは彼らにとっての悲痛となり、それから彼らは打ち負かされるのだ。そして不信仰だった者*たちは、地獄へと召集(しょうしゅう)させせられるのである。[1]

إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ يُنفِقُونَ أَمْوَٰلَهُمْ
لِيَصُدُّوا۟ عَن سَبِيلِ ٱللَّهِ ۚ فَسَيُنفِقُونَهَا
ثُمَّ تَكُونُ عَلَيْهِمْ حَسْرَةً ثُمَّ يُغْلَبُونَ ۗ
وَٱلَّذِينَ كَفَرُوٓا۟ إِلَىٰ جَهَنَّمَ
يُحْشَرُونَ ٣٦

37. （それは）アッラー*が善いものから悪いものを分別され[2]、悪いものを互いに積(つ)み上げてそれをまとめて重ねられ、そしてそれを地獄へと放り込まれるためなのだ。そのような者たちこそ、損失(そんしつ)者なのである。

لِيَمِيزَ ٱللَّهُ ٱلْخَبِيثَ مِنَ ٱلطَّيِّبِ وَيَجْعَلَ
ٱلْخَبِيثَ بَعْضَهُۥ عَلَىٰ بَعْضٍ فَيَرْكُمَهُۥ
جَمِيعًا فَيَجْعَلَهُۥ فِى جَهَنَّمَ ۚ أُو۟لَـٰٓئِكَ هُمُ
ٱلْخَـٰسِرُونَ ٣٧

38. （使徒(しと)*よ、）不信仰に陥(おちい)った者*たちに、（こう）言ってやれ。もし彼らが（不信仰と、信仰者たちとの戦いを）やめるならば、既(すで)に過(す)ぎ去ったこと（の罪(つみ)）は彼らに赦(ゆる)されよう。そして、もし彼らが（バドルの戦い*の後、再びムスリム*たちとの戦いに）戻(もど)って来るならば（、われら*は彼らに報復(ほうふく)しよう）、確かに昔の人々（に対するアッラー*）の摂理(せつり)[3]は先んじたのだから。

قُل لِّلَّذِينَ كَفَرُوٓا۟ إِن يَنتَهُوا۟ يُغْفَرْ
لَهُم مَّا قَدْ سَلَفَ وَإِن يَعُودُوا۟ فَقَدْ مَضَتْ
سُنَّتُ ٱلْأَوَّلِينَ ٣٨

39. また、試練(しれん)[4]がなくなり、宗教が全てアッラー*のものとなるまで[5]、彼らと戦うのだ。

وَقَـٰتِلُوهُمْ حَتَّىٰ لَا تَكُونَ فِتْنَةٌ
وَيَكُونَ ٱلدِّينُ كُلُّهُۥ لِلَّهِ ۚ فَإِنِ

---

1 このアーヤ*は一説に、バドルの戦い*での敗戦の雪辱を果たすべく、再戦に向けて大金を費やしたアブー・スフヤーン*に関して下ったとされる。しかしアーヤ*の意味は、同様の状態にある全ての不信仰者*に当てはまるものである（イブン・カスィール 4:53 参照）。

2 「善いもの」とは信仰者、よい行い、よい施しのことで、「悪いもの」とは不信仰者*、悪い行い、悪い施しのこと（アル＝バガウィー2:292 参照）。

3 使徒*を嘘つき呼ばわりし、不信仰において頑迷であり続けた者たちには、アッラー*の懲罰が下るという摂理のこと（イブン・カスィール 4:55 参照）。

4 ここでの「試練」とは、シルク*と、イスラーム*への妨害のこと（ムヤッサル 181 頁参照）。

5 宗教、服従行為、崇拝*行為がアッラー*のみに捧げられるようになるまで、という意味（前掲書、同頁参照）。

そしてもし彼らが止めるのであれば（、アッラー*は彼らに報われよう）、本当にアッラー*は彼らの行うことをよくご覧になるお方なのだから。

ٱنتَهَوۡاْ فَإِنَّ ٱللَّهَ بِمَا يَعۡمَلُونَ بَصِيرٞ ٣٩

40. そして、もし彼らが（あなた方信仰者の呼びかけに）背を向けたのであれば、アッラー*があなた方の庇護者*であることを知るのだ。（アッラー*という）その庇護者*は何と素晴らしいことか、そして（アッラー*という）その援助者は何と素晴らしいことか。

وَإِن تَوَلَّوۡاْ فَٱعۡلَمُوٓاْ أَنَّ ٱللَّهَ مَوۡلَىٰكُمۡۚ
نِعۡمَ ٱلۡمَوۡلَىٰ وَنِعۡمَ ٱلنَّصِيرُ ٤٠

41. また、あなた方が戦利品*として得たいかなるものも、その五分の一[1]はアッラー*と使徒*[2]、その近親[3]、孤児、貧者*、旅路（で苦境）にある者に属することを知るのだ。もし、あなた方がアッラー*と、識別の日[4]、両陣営が会した日に、われら*がわれら*の僕（ムハンマド*）に下したもの[5]を信じるのであれば（、そうせよ）。アッラー*は、全てのことがお出来になるお方である。

۞وَٱعۡلَمُوٓاْ أَنَّمَا غَنِمۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَأَنَّ لِلَّهِ
خُمُسَهُۥ وَلِلرَّسُولِ وَلِذِي ٱلۡقُرۡبَىٰ وَٱلۡيَتَٰمَىٰ
وَٱلۡمَسَٰكِينِ وَٱبۡنِ ٱلسَّبِيلِ إِن كُنتُمۡ
ءَامَنتُم بِٱللَّهِ وَمَآ أَنزَلۡنَا عَلَىٰ عَبۡدِنَا يَوۡمَ
ٱلۡفُرۡقَانِ يَوۡمَ ٱلۡتَقَى ٱلۡجَمۡعَانِۗ وَٱللَّهُ عَلَىٰ
كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٌ ٤١

42. あなた方が谷の（マディーナ*から見て）最寄り側に、そして彼らが谷の最も遠い側にあり、隊商があなた方よりも下方[6]に位置していた時のこと（を思い出すのだ）。

إِذۡ أَنتُم بِٱلۡعُدۡوَةِ ٱلدُّنۡيَا وَهُم بِٱلۡعُدۡوَةِ
ٱلۡقُصۡوَىٰ وَٱلرَّكۡبُ أَسۡفَلَ مِنكُمۡۚ وَلَوۡ
تَوَاعَدتُّمۡ لَٱخۡتَلَفۡتُمۡ فِي ٱلۡمِيعَٰدِ وَلَٰكِن
لِّيَقۡضِيَ ٱللَّهُ أَمۡرٗا كَانَ مَفۡعُولٗا لِّيَهۡلِكَ

---

1 戦利品*の五分の四は、戦闘に参加した兵士に分配される（ムヤッサル 182 頁参照）。

2 アッラー*とその使徒*の割り当て分は、ムスリム*の一般的な福利のために費やされる（前掲書、同頁参照）。

3 預言者*ムハンマド*の家系である、ハーシム族とムッタリブ族のこと。彼らは施（ほどこ）しを受け取ることが禁じられているので、これがその代わりなのだともされる（前掲書、同頁参照）。

4 「識別の日」とは、真理と虚妄の明暗が鮮明にされたバドルの戦い*の日のこと（前掲書、同頁参照）。

5 アッラー*からのご助力と勝利など、そこで現れた御徴の数々のこと（前掲書、同頁参照）。

6 ムスリム*たちから見て、紅海方面の低地に位置していた、ということ（前掲書、同頁参照）。

たとえあなた方が（前もって、両軍が会した時のような時と場所を）約束し合っていたとしても、あなた方はその約束を違えてしまったであろう。しかし（アッラー*が、あなた方を約束もなしに一堂に会させたのは、）アッラー*が、実現されることになっていたことをご決行されるため。（それは）滅びる者が明証によって滅び、生きる者が明証によって生きるため[1]であった。本当にアッラー*こそは、よくお聞きになるお方、全知者であられる。

مَنْ هَلَكَ عَنۢ بَيِّنَةٍ وَيَحْيَىٰ مَنْ حَيَّ
عَنۢ بَيِّنَةٍ ۗ وَإِنَّ ٱللَّهَ لَسَمِيعٌ عَلِيمٌ ﴿٤٢﴾

43. （預言者*よ、）アッラー*があなたの夢の中で、彼ら（の数）をあなたに、少なくお見せになった時のこと（を思い起こさせるがよい）。そして、もしかれが、あなたに彼らが多数であるのをお見せになっていたら、あなた方は尻込み、その件[2]について争い合ったことであろう。だがアッラー*は、（そのようなことから）無事に済ませられた。本当にかれは胸中にあるものを、ご存知になるお方なのだから。

إِذْ يُرِيكَهُمُ ٱللَّهُ فِى مَنَامِكَ قَلِيلًا ۖ وَلَوْ
أَرَىٰكَهُمْ كَثِيرًا لَّفَشِلْتُمْ
وَلَتَنَٰزَعْتُمْ فِى ٱلْأَمْرِ وَلَٰكِنَّ ٱللَّهَ سَلَّمَ ۗ
إِنَّهُۥ عَلِيمٌۢ بِذَاتِ ٱلصُّدُورِ ﴿٤٣﴾

44. また、あなた方が会した時に、かれがあなた方の目には彼らを少なくお見せになり、彼らの目にもあなた方を少なくお見せになった時のこと[3]（を思い出すのだ）。（それは）アッラー*が、実現されることになっていたことをご決行されるためだった。アッラー*にこそ、全ての物事は戻り行く。

وَإِذْ يُرِيكُمُوهُمْ إِذِ ٱلْتَقَيْتُمْ فِىٓ أَعْيُنِكُمْ
قَلِيلًا وَيُقَلِّلُكُمْ فِىٓ أَعْيُنِهِمْ لِيَقْضِىَ ٱللَّهُ
أَمْرًا كَانَ مَفْعُولًا ۗ وَإِلَى ٱللَّهِ تُرْجَعُ
ٱلْأُمُورُ ﴿٤٤﴾

---

1 イスラーム*の真実性と不信仰の嘘が、議論の余地なく明らかになった後、それでも不信仰にこだわる者が不信仰者*として、信仰者が信仰者としてあり続けること（イブン・カスィール 4:69 参照）。

2 攻撃するかどうか、ということ（アル＝バガウィー2:297 参照）。

3 このことでムスリム*たちは勇気づけられ、一方の敵軍は戦闘の準備を怠（おこた）った（ムヤッサル 182 頁参照）。イムラーン家章 13 と、その訳注も参照。

45. 信仰する者たちよ、（戦いにやって来た不信仰者*の）集団と会したら、堅固であれ。そしてあなた方が成功するように、アッラー*を沢山唱念するのだ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِذَا لَقِيتُمۡ فِئَةٗ
فَٱثۡبُتُواْ وَٱذۡكُرُواْ ٱللَّهَ كَثِيرٗا
لَّعَلَّكُمۡ تُفۡلِحُونَ ٤٥

46. また、アッラー*とその使徒*に従え。そして争い合って、それゆえに尻込みし、（力と勝利への）勢いを失ってはならない。忍耐*するのだ。本当にアッラー*は（そのご援助によって）、忍耐*する者たちと共にあるのだから。

وَأَطِيعُواْ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ وَلَا تَنَٰزَعُواْ
فَتَفۡشَلُواْ وَتَذۡهَبَ رِيحُكُمۡۖ وَٱصۡبِرُوٓاْۚ
إِنَّ ٱللَّهَ مَعَ ٱلصَّٰبِرِينَ ٤٦

47. また、得意然として人々に見せびらかし、（自分たちと人々を）アッラー*の道から阻むべく、自分たちの家を出た者たちのようになるのではない[1]。アッラー*は、彼らの行うことを包囲されている。

وَلَا تَكُونُواْ كَٱلَّذِينَ خَرَجُواْ مِن دِيَٰرِهِم
بَطَرٗا وَرِئَآءَ ٱلنَّاسِ وَيَصُدُّونَ عَن سَبِيلِ
ٱللَّهِۚ وَٱللَّهُ بِمَا يَعۡمَلُونَ مُحِيطٞ ٤٧

48. シャイターン*が、彼らの行いを彼らに煌びやかにして見せ、（こう）言った時のこと（を思い起こさせるがよい）。「この日、人々の内で、あなた方を打ち負かす者はいない。そして本当に私は、あなた方の援助者である[2]」。それで両軍が会すると、彼（シャイターン*）は踵を返して後ずさりし、（こう）言ったのだ。「本当に私は、あなた方とは無関係だ。実に私は、あなた方の見えないものを目にしている[3]。本当に私

وَإِذۡ زَيَّنَ لَهُمُ ٱلشَّيۡطَٰنُ أَعۡمَٰلَهُمۡ وَقَالَ
لَا غَالِبَ لَكُمُ ٱلۡيَوۡمَ مِنَ ٱلنَّاسِ وَإِنِّي
جَارٞ لَّكُمۡۖ فَلَمَّا تَرَآءَتِ ٱلۡفِئَتَانِ
نَكَصَ عَلَىٰ عَقِبَيۡهِ وَقَالَ إِنِّي بَرِيٓءٞ
مِّنكُمۡ إِنِّيٓ أَرَىٰ مَا لَا تَرَوۡنَ إِنِّيٓ
أَخَافُ ٱللَّهَۚ وَٱللَّهُ شَدِيدُ ٱلۡعِقَابِ ٤٨

---

1 隊商がマディーナ*軍をやり過ごし、無事マッカ*方面へと立ち去った後にも、マッカ*からの援軍は退却せず、彼らの名声が響（ひび）き渡るようにと、バドルに留（とど）まって音楽や酒*の宴（うたげ）を開こうとしたとされる（イブン・カスィール 4:72 参照）。

2 一説にクライシュ族*は、彼らと敵対関係にあったバクル族に攻め込まれることを恐れていた。そこでシャイターン*がバクル族出身のスラーカ・ブン・マーリクの姿を借りて、このように言ったのだという。また一説にシャイターン*たちは、スラーカとその軍勢の姿を借りて戦場に赴（おもむ）いたとされる（アル＝クルトゥビー8:26 参照）。

3 バドルの戦場に降臨した天使*を目にしたのだ、と言われる（ムヤッサル 183 頁参照）。

は、アッラー*を怖れているのだ。アッラー*は厳しく懲罰されるお方である」。

49. 偽信者*たちと、心に病がある者たち[1]が（こう）言った時のこと（を思い起こさせよ）。「その宗教（イスラーム*）が、これらの者たち（ムスリム*）を欺いたのだ！」誰であろうとアッラー*に全てを委ねる*者（、アッラー*はその者を見捨てられたりはしない）、本当にアッラー*は偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方なのだから。

إِذْ يَقُولُ ٱلْمُنَٰفِقُونَ وَٱلَّذِينَ فِى قُلُوبِهِم
مَّرَضٌ غَرَّ هَٰٓؤُلَآءِ دِينُهُمْ ۗ وَمَن يَتَوَكَّلْ
عَلَى ٱللَّهِ فَإِنَّ ٱللَّهَ عَزِيزٌ حَكِيمٌ ٤٩

50. 天使*たちがその顔や背中を殴りつけつつ、不信仰だった者*たち（の魂）を取り上げる時のこと[2]を、あなたが見るのならば！（彼らは、こう言う。）「（焼き尽くす）炎の懲罰を味わうのだ」。

وَلَوْ تَرَىٰٓ إِذْ يَتَوَفَّى ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟
ٱلْمَلَٰٓئِكَةُ يَضْرِبُونَ وُجُوهَهُمْ
وَأَدْبَٰرَهُمْ وَذُوقُوا۟ عَذَابَ ٱلْحَرِيقِ ٥٠

51. それは、あなた方自身が行ったことゆえ（の報い）である。またアッラー*が（公正に裁かれるお方であり）、僕たちに対する不正*者などではないことゆえなのだ。

ذَٰلِكَ بِمَا قَدَّمَتْ أَيْدِيكُمْ وَأَنَّ ٱللَّهَ
لَيْسَ بِظَلَّٰمٍ لِّلْعَبِيدِ ٥١

52. （彼らの結末は）フィルアウン*の一族と、それ以前の（不信仰）者*たちの習いと同様である。彼らはアッラー*の御徴を否定し、それでアッラー*はその罪ゆえに彼らを罰された。本当にアッラー*は強力なお方、厳しく懲罰されるお方。

كَدَأْبِ ءَالِ فِرْعَوْنَ وَٱلَّذِينَ مِن قَبْلِهِمْ ۚ
كَفَرُوا۟ بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ فَأَخَذَهُمُ ٱللَّهُ
بِذُنُوبِهِمْ ۗ إِنَّ ٱللَّهَ قَوِىٌّ شَدِيدُ ٱلْعِقَابِ ٥٢

1　「心に病がある者たち」とは、イスラーム*に疑念を抱く、信仰心の弱い者たち（アッ＝サァディー322 頁参照）。尚、この「偽信者*たちと心に病がある者たち」とは、①マッカ*の不信仰者*たち、②マッカ*にいた偽信者*たち、③マディーナ*の偽信者*たち、④移住*せずにマッカ*に留（とど）まり、マッカ*軍と共にバドルの戦い*に出征したムスリム*たち、などといった説がある（イブン・カスィール 4：75-76 参照）。

2　家畜章 61、93 とその訳注も参照。尚、これはバドルの戦い*のみならず、全ての不信仰者*が出くわすことになる状況である（ムヤッサル 183 頁参照）。

53. それというのもアッラーは、ある民に授けられた恩恵を、彼らが自分たちの状況を（敢えて悪い方へ）変えない限り、変更されることがないお方だからである[1]。またアッラーが、よくお聞きになるお方、全知者であられるからなのだ。

ذَٰلِكَ بِأَنَّ ٱللَّهَ لَمۡ يَكُ مُغَيِّرٗا نِّعۡمَةً
أَنۡعَمَهَا عَلَىٰ قَوۡمٍ حَتَّىٰ يُغَيِّرُواْ مَا بِأَنفُسِهِمۡ
وَأَنَّ ٱللَّهَ سَمِيعٌ عَلِيمٞ ٥٣

54. （彼らの結末は）フィルアウン*の一族と、（使徒*たちを嘘つき呼ばわりした）彼ら以前の者たちの習いと、同様である。彼らはその主*の御徴を嘘呼ばわりし、それでわれら*はその罪ゆえに彼らを滅ぼした。またわれらは、フィルアウン*の一族を溺れさせたのである。そして（彼らは）皆、不正*者であった。

كَدَأۡبِ ءَالِ فِرۡعَوۡنَ وَٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِهِمۡۚ
كَذَّبُواْ بِـَٔايَٰتِ رَبِّهِمۡ فَأَهۡلَكۡنَٰهُم بِذُنُوبِهِمۡ
وَأَغۡرَقۡنَآ ءَالَ فِرۡعَوۡنَۚ وَكُلّٞ كَانُواْ
ظَٰلِمِينَ ٥٤

55. 本当にアッラー*の御許で、地上を歩く生き物の内でも最悪のものとは、不信仰に陥った者*たちのことである。彼らは信じないのだから。

إِنَّ شَرَّ ٱلدَّوَآبِّ عِندَ ٱللَّهِ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ
فَهُمۡ لَا يُؤۡمِنُونَ ٥٥

56. （使徒*よ、彼らは）あなたが彼らと協定を結んだ後に、（アッラー*を）畏れる*ことなく[2]、毎回、自分たちの協定を破る者たち[3]。

ٱلَّذِينَ عَٰهَدتَّ مِنۡهُمۡ ثُمَّ يَنقُضُونَ
عَهۡدَهُمۡ فِي كُلِّ مَرَّةٖ وَهُمۡ لَا يَتَّقُونَ ٥٦

---

1 フィルアウン*の一族やクライシュ族*、彼らと同様の状態にあるシルク*の徒らは、現世での幸運・使徒*・啓典といった恩恵を授かったが、それに対して不信仰で応じた。ゆえにアッラー*は、彼らへの恩恵を変更された（アッ＝シャウカーニー2:457 参照）。雷鳴章 11 とその訳注も参照。

2 協約を破ることにおいて「身を慎むことがない」という解釈もある（アル＝カースィミー8：3020 参照）。

3 当時のマディーナ*には、ユダヤ教徒*のクライザ族のように、ムスリム*たちと安全協約を結んでは破ることを繰り返し、不信仰者*たちと共謀する者たちがいた（アル＝バガウィー2:302 参照）。

57. それで、もしあなたが戦争で彼らを捕らえたならば、彼ら（を罰すること）によって、その背後にいる者たちを散り散りにしてしまうがよい。（それは）彼らが、教訓を得るようにするためである。

فَإِمَّا تَثۡقَفَنَّهُمۡ فِي ٱلۡحَرۡبِ فَشَرِّدۡ بِهِم مَّنۡ خَلۡفَهُمۡ
لَعَلَّهُمۡ يَذَّكَّرُونَ ٥٧

58. また（使徒*よ）、もしあなたがある民による裏切り行為を怖れる[1]というのなら、彼らに向けて（協定を）、等しく[2]投げ捨ててやれ。本当にアッラー*は、裏切り者たちをお好みにはならないのだから。

وَإِمَّا تَخَافَنَّ مِن قَوۡمٍ خِيَانَةٗ فَٱنۢبِذۡ إِلَيۡهِمۡ
عَلَىٰ سَوَآءٍۚ إِنَّ ٱللَّهَ لَا يُحِبُّ ٱلۡخَآئِنِينَ ٥٨

59. 不信仰に陥った者*たちは、自分たちが（アッラー*の懲罰を）やり過ごしたなどと、断じて考えるのではない。本当に彼らは、（アッラー*を）やり過ごすことが出来る者ではないのだから。

وَلَا يَحۡسَبَنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ سَبَقُوٓاْۚ إِنَّهُمۡ
لَا يُعۡجِزُونَ ٥٩

60. また（ムスリム*たちよ、）あなた方は彼らに対し、力と、馬を繋ぎとめておくことによって、出来る限りの準備[3]をしておくのだ。あなた方はそれによってアッラー*の敵とあなた方の敵、そしてあなた方が（まだ）知らずともアッラー*はご存知であられる、彼ら以外の別の者たち[4]を脅かす。アッラー*の道において何か費やせば、あなた方は不正*を蒙ることなく、ふんだんに報われよう。

وَأَعِدُّواْ لَهُم مَّا ٱسۡتَطَعۡتُم مِّن قُوَّةٖ وَمِن
رِّبَاطِ ٱلۡخَيۡلِ تُرۡهِبُونَ بِهِۦ عَدُوَّ ٱللَّهِ
وَعَدُوَّكُمۡ وَءَاخَرِينَ مِن دُونِهِمۡ لَا تَعۡلَمُونَهُمُ
ٱللَّهُ يَعۡلَمُهُمۡۚ وَمَا تُنفِقُواْ مِن شَيۡءٖ فِي سَبِيلِ
ٱللَّهِ يُوَفَّ إِلَيۡكُمۡ وَأَنتُمۡ لَا تُظۡلَمُونَ ٦٠

---

1 たとえ明言なしでも、彼らの裏切りを示す証拠が明らかになったら、ということ（アッ＝サアディー324 頁参照）。

2 協定の破棄が、両陣営にとって等しく明確なものとなるように、という意味（ムヤッサル 184 頁参照）。

3 アッ＝サアディー*によれば、この中には、知力・体力・各種兵器などによるあらゆる「準備」のみならず、敵の悪を防ぐ政治力なども含まれる（324 頁参照）。

4 「別の者たち」とは、まだ敵意を露（あら）わにしていない者たち（ムヤッサル 184 頁参照）。

61. また、もし彼らが講和に傾くのなら、（預言者*よ、）あなたもそこへと傾くがよい[1]。そしてアッラー*に全てを委ねる*のだ。本当にかれこそはよくお聞きになるお方、全知者なのだから。

۞وَإِن جَنَحُواْ لِلسَّلۡمِ فَٱجۡنَحۡ لَهَا وَتَوَكَّلۡ عَلَى
ٱللَّهِۚ إِنَّهُۥ هُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلۡعَلِيمُ ٦١

62. そして、もし彼ら（講和を結ぶ者たち）があなたを欺こうとしても、本当にアッラー*だけであなたには十分なのである。かれは、そのご援助と信仰者たちによって、あなたを支えられたお方なのだから。

وَإِن يُرِيدُوٓاْ أَن يَخۡدَعُوكَ فَإِنَّ حَسۡبَكَ ٱللَّهُۚ
هُوَ ٱلَّذِيٓ أَيَّدَكَ بِنَصۡرِهِۦ وَبِٱلۡمُؤۡمِنِينَ ٦٢

63. また、かれ（アッラー*）は、彼らの心を結びつけて下さった[2]。たとえあなたが地上にある全てのものを費やしたとしても、あなたが彼らの心を結びつけることは叶わなかった。しかしアッラー*が、彼らを団結させられたのである。本当にかれは、偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

وَأَلَّفَ بَيۡنَ قُلُوبِهِمۡۚ لَوۡ أَنفَقۡتَ مَا فِي ٱلۡأَرۡضِ
جَمِيعٗا مَّآ أَلَّفۡتَ بَيۡنَ قُلُوبِهِمۡ وَلَٰكِنَّ
ٱللَّهَ أَلَّفَ بَيۡنَهُمۡۚ إِنَّهُۥ عَزِيزٌ حَكِيمٞ ٦٣

64. 預言者*よ、あなたには、アッラー*だけで十分なのである。そして信仰者たちの内で、あなたに従った者にとっても。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّبِيُّ حَسۡبُكَ ٱللَّهُ وَمَنِ ٱتَّبَعَكَ مِنَ
ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ٦٤

65. 預言者*よ、信仰者たちを戦いへと駆り立てよ。もし、あなた方の内からの忍耐*強い者が二十人いれば、彼らは（敵）二百人を打ち負かすであろう。また、もしあなた方の内からの（忍耐*強い）者百人がいれば、彼

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّبِيُّ حَرِّضِ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ عَلَى
ٱلۡقِتَالِۚ إِن يَكُن مِّنكُمۡ عِشۡرُونَ صَٰبِرُونَ
يَغۡلِبُواْ مِاْئَتَيۡنِۚ وَإِن يَكُن مِّنكُم مِّاْئَةٞ
يَغۡلِبُوٓاْ أَلۡفٗا مِّنَ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ بِأَنَّهُمۡ
قَوۡمٞ لَّا يَفۡقَهُونَ ٦٥

---

1 預言者*ムハンマド*はフダイビーヤ*の年、シルク*の徒がムスリム*たちとの講和と戦争の停止を申し出た時、それを条件つきで受け入れた（イブン・カスィール 4:83 参照）。

2 信仰者の心をイスラーム*によって結びつけた、の意。ジャーヒリーヤ*において、人々は部族間で争い合い、マディーナ*の住民もまた互いに分裂していた（アッ＝タバリー5:3886 参照）。雌牛章 85「身代金を払う」の訳注、イムラーン家章 103 も参照。

らは不信仰に陥った者*たち千人を打ち負かすであろう。それというのも、彼らは理解することのない民[1]だからである。

66. （信仰者たちよ、）今、アッラー*はあなた方に軽減された。そしてかれは、あなた方の内に弱さをお認めになったのである。もし、あなた方の内からの忍耐*強い者百人がいれば、彼らは二百人（の不信仰者*）を打ち負かすであろう。また、もしあなた方の内からの千人がいれば、アッラー*のお許しにより、二千人を打ち負かすであろう。アッラー*は（そのご援助と共に）、忍耐*強い者たちと共におられる。

ٱلۡـَٔـٰنَ خَفَّفَ ٱللَّهُ عَنكُمۡ وَعَلِمَ أَنَّ فِيكُمۡ
ضَعۡفٗاۚ فَإِن يَكُن مِّنكُم مِّاْئَةٞ صَابِرَةٞ يَغۡلِبُواْ
مِاْئَتَيۡنِۚ وَإِن يَكُن مِّنكُمۡ أَلۡفٞ يَغۡلِبُوٓاْ
أَلۡفَيۡنِ بِإِذۡنِ ٱللَّهِۗ وَٱللَّهُ مَعَ ٱلصَّـٰبِرِينَ ٦٦

67. 地上で徹底的に痛めつける[2]まで、いかなる預言者にも、捕虜を取ることは許されなかった。あなた方は現世のつまらぬ利益[3]を望み、アッラー*は来世[4]をお望みになる。アッラー*は偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

مَا كَانَ لِنَبِيٍّ أَن يَكُونَ لَهُۥٓ أَسۡرَىٰ حَتَّىٰ
يُثۡخِنَ فِي ٱلۡأَرۡضِۚ تُرِيدُونَ عَرَضَ ٱلدُّنۡيَا
وَٱللَّهُ يُرِيدُ ٱلۡأٓخِرَةَۗ وَٱللَّهُ عَزِيزٌ حَكِيمٞ ٦٧

68. もし、（戦利品*と捕虜の身代金が合法化されるということを）先んじ（て記し）た、あなたの主*からの書[5]がなければ、

لَّوۡلَا كِتَٰبٞ مِّنَ ٱللَّهِ سَبَقَ لَمَسَّكُمۡ فِيمَآ أَخَذۡتُمۡ
عَذَابٌ عَظِيمٞ ٦٨

---

1 イブン・イスハーク*によれば、「いかなる（正しい）意図も、正当性も、善悪の分別もなく戦う者たち」のこと（316 頁参照）。

2 イスラーム*とムスリム*の滅亡を望んで戦う不信仰者*を徹底的に痛めつけるまで、ということ（アッ＝サァディー326 頁参照）。次アーヤ*とその訳注、およびこの件に関し、ムスリム*たちの勢力が強くなってから下ったムハンマド*章 4 も参照（アル＝バガウィー2:310 参照）。

3 バドルの戦い*で捕まえた捕虜を、身代金と引き換えに解放することなど（ムヤッサル 184 頁参照）。

4 つまり、ムスリム*にとっての来世での褒美につながる、イスラーム*の興隆（こうりゅう）と、敵の滅亡につながる原因となるもの（アル＝バイダーウィー3:121 参照）。

5 この「書」は、守られし碑板*のこと（アッ＝タバリー5:3897 参照）。

あなた方には自分たちが手にしたものゆえ、この上ない懲罰が降りかかったことであろう。[1]

69. ならば、あなた方が戦利品*としたものから、合法で善きものを享受するがよい。そしてアッラー*を畏れ*よ。本当にアッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。

فَكُلُوا۟ مِمَّا غَنِمْتُمْ حَلَٰلًا طَيِّبًا ۚ وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ ۚ
إِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ٦٩

70. 預言者*よ、捕虜の内、あなた方の手許にある者に、(こう)言ってやるがいい。「もしアッラー*が、あなた方の心の内に善きものがあることをご存知ならば、かれは、あなた方から奪われたものよりも善きものをあなた方にお授けになり[2]、あなた方をお赦しになろう」。アッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّبِىُّ قُل لِّمَن فِىٓ أَيْدِيكُم مِّنَ
ٱلْأَسْرَىٰٓ إِن يَعْلَمِ ٱللَّهُ فِى قُلُوبِكُمْ خَيْرًا
يُؤْتِكُمْ خَيْرًا مِّمَّآ أُخِذَ مِنكُمْ وَيَغْفِرْ لَكُمْ ۗ
وَٱللَّهُ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ٧٠

71. そして(使徒*よ、)もし彼ら(解放した捕虜たち)があなたへの裏切りを望んでいるとしても(、それがあなたを害することはない)、以前[3]にも彼らはアッラー*を裏切り、そしてかれは(あなたに)彼らを掌握させられたのだから。アッラー*は偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

وَإِن يُرِيدُوا۟ خِيَانَتَكَ فَقَدْ خَانُوا۟ ٱللَّهَ مِن
قَبْلُ فَأَمْكَنَ مِنْهُمْ ۗ وَٱللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٌ ٧١

---

1 以前の預言者*たちとその共同体にとって、戦利品*を手にすることは禁じられていた。しかしバドルの戦い*の後、ムスリム*たちは戦利品*を手にし、捕虜の身代金を取った。このアーヤ*は、このような状況で下ったとされる(アル＝バガウィー2:310 参照)。

2 「善きもの」とはイスラーム*のことで、「奪われたもの」とは身代金のことであると言われる。一説に、このアーヤ*はバドルの戦い*で捕虜となった、預言者*の叔父アル＝アッバースらに関して下った。アル＝アッバースはイスラーム*を受け入れた後、支払った身代金の百倍にあたる財産を得た、とされる(アッ＝タバリー5:3901-3902 参照)。

3 つまりバドルの戦い*の時のこと(アル＝バガウィー2:312 参照)。

72. 本当に信仰し、移住*し、自分たちの財産と生命によってアッラー*の道に奮闘した者たち（ムハージルーン*）と、（彼らを）住まわせ、援助した者たち（アンサール*）、それらの者たちは、お互いに盟友[1]である。そして信仰しても移住*しなかった者たちは、彼らが移住*するまで、あなた方に彼らとの盟友関係などは一切ない。また、もし彼らが宗教においてあなた方に援助を求めて来たら、あなた方は彼らを援助しなければならない。但し、あなた方とその間に確約がある民に敵対（して彼らを援助）することは除かれるが。アッラー*はあなた方の行うことを、（全て）ご覧になるお方。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَهَاجَرُواْ وَجَٰهَدُواْ
بِأَمۡوَٰلِهِمۡ وَأَنفُسِهِمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ وَٱلَّذِينَ
ءَاوَواْ وَّنَصَرُوٓاْ أُوْلَٰٓئِكَ بَعۡضُهُمۡ أَوۡلِيَآءُ بَعۡضٖۚ
وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَلَمۡ يُهَاجِرُواْ مَا لَكُم مِّن وَلَٰيَتِهِم
مِّن شَيۡءٍ حَتَّىٰ يُهَاجِرُواْۚ وَإِنِ ٱسۡتَنصَرُوكُمۡ
فِي ٱلدِّينِ فَعَلَيۡكُمُ ٱلنَّصۡرُ إِلَّا عَلَىٰ قَوۡمِۭ
بَيۡنَكُمۡ وَبَيۡنَهُم مِّيثَٰقٞۗ وَٱللَّهُ بِمَا تَعۡمَلُونَ
بَصِيرٞ ٧٢

73. また不信仰に陥った者*たちは、お互いに盟友である。（信仰者たちよ、）あなた方がそうしなければ、地上に試練と大きな腐敗*が生じてしまうであろう。[2]

وَٱلَّذِينَ كَفَرُواْ بَعۡضُهُمۡ أَوۡلِيَآءُ بَعۡضٍۚ
إِلَّا تَفۡعَلُوهُ تَكُن فِتۡنَةٞ فِي ٱلۡأَرۡضِ وَفَسَادٞ
كَبِيرٞ ٧٣

74. そして信仰し、移住*し、アッラー*の道に奮闘した者たち（ムハージルーン*）と、（彼らを）住まわせ、援助した者たち（アンサール*）、それらの者たちこそは、真の信仰者である。彼らにこそ、お赦しと、貴い糧[3]があるのだ。

وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَهَاجَرُواْ وَجَٰهَدُواْ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ
وَٱلَّذِينَ ءَاوَواْ وَّنَصَرُوٓاْ أُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡمُؤۡمِنُونَ
حَقّٗاۚ لَّهُم مَّغۡفِرَةٞ وَرِزۡقٞ كَرِيمٞ ٧٤

---

1 この「盟友」は、相続に関することとも、支持と援助に関することとも言われる。前者の説の場合、その決まりは撤回された（アーヤ*の撤回については、雌牛章 106 の訳注を参照）と見なされる（アーヤ*75 とその訳注を参照）。婦人章 33 とその訳注も参照（アル＝クルトゥビー8:56 参照）。

2 つまり、信仰者どうしが助け合わなければ、イスラーム*において「試練」が生じ、イスラーム*を阻（はば）み、不信仰の基盤が強化されるという「腐敗」が現れる、ということ（ムヤッサル 186 頁参照）。

3 「貴い糧」とは、天国における褒美のこと、とされる（前掲書、同頁参照）。

75. また（ムハージルーン*とアンサール*の）後に信仰し、移住*し、あなた方と共にアッラー*の道に奮闘した者たち、それらの者たちは、（信仰者たちよ、）あなた方の同胞である。また近親関係にある者たちは（遺産相続に関し）、アッラー*の定めにおいて互いに優先される[1]。本当にアッラー*は、全てをご存知のお方なのだ。

وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ مِنۢ بَعۡدُ وَهَاجَرُواْ وَجَٰهَدُواْ
مَعَكُمۡ فَأُوْلَٰٓئِكَ مِنكُمۡۚ وَأُوْلُواْ ٱلۡأَرۡحَامِ
بَعۡضُهُمۡ أَوۡلَىٰ بِبَعۡضٖ فِي كِتَٰبِ ٱللَّهِۚ إِنَّ ٱللَّهَ
بِكُلِّ شَيۡءٍ عَلِيمُۢ ٧٥

---

1 マディーナ*時代の初期においては、信仰上の兄弟という契りを交わした信仰者どうしが、親族関係を越えて遺産を相続し合った（イブン・カスィール 4:95 参照）。しかしこのアーヤ*によって、そのような遺産相続は撤回された（前掲書 4:99-100 参照）。婦人章 33 とその訳注、部族連合章 6 も参照。また、アーヤ*の撤回については、雌牛章 106 の訳注を参照。

第９章
悔悟章（アッ＝タウバ）[1]

سُورَةُ التَّوبَةِ

1.　（これは）シルク*の徒の内で、あなた方が協約を結んだ者たちに対する、アッラー*とその使徒*からの解除（通告）である。[2]

بَرَآءَةٌ مِّنَ ٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦٓ إِلَى ٱلَّذِينَ عَٰهَدتُّم
مِّنَ ٱلْمُشْرِكِينَ ١

2.　ゆえに（シルク*の徒よ、）あなた方は四ヶ月間、地上を（安全に）通行するがよい。そして、あなた方がアッラー*（の懲罰）から逃れることなど出来ない身であり、アッラー*は不信仰者*たちを（現世と来世で）辱めるお方であることを、知るのだ。[3]

فَسِيحُوا۟ فِى ٱلْأَرْضِ أَرْبَعَةَ أَشْهُرٍ وَٱعْلَمُوٓا۟
أَنَّكُمْ غَيْرُ مُعْجِزِى ٱللَّهِ ۙ وَأَنَّ ٱللَّهَ مُخْزِى
ٱلْكَٰفِرِينَ ٢

3.　また（これは、）大いなるハッジ*の日における、アッラー*とその使徒*から人々への、「アッラー*とその使徒*は、シルク*の徒とは無縁である」という通告[4]である。もし（シルク*の徒よ）、あなた方が悔悟し（てシル

وَأَذَٰنٌ مِّنَ ٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦٓ إِلَى ٱلنَّاسِ يَوْمَ ٱلْحَجِّ
ٱلْأَكْبَرِ أَنَّ ٱللَّهَ بَرِىٓءٌ مِّنَ ٱلْمُشْرِكِينَ ۙ
وَرَسُولُهُۥ ۚ فَإِن تُبْتُمْ فَهُوَ خَيْرٌ لَّكُمْ ۖ وَإِن

1　マディーナ*啓示でも最後期に属する。クルアーン*の中で「慈悲あまねく*、慈愛深き*アッラーの御名において」という言葉によって始まらない、唯一のスーラ*。スーラ*名は「悔悟」という語の頻出と、タブークの戦い*に出征しなかった信仰者三人の悔悟の話に由来する。シルク*の徒、ユダヤ教徒*の諸部族、偽信者*らによる度重（たびかさ）なる協約の破棄（はき）の後、アッラー*はムスリム*たちに、シルク*の徒との絶縁を命じ、シルク*の徒・啓典の民*に関する法規定を明らかにされる。また、アッラー*の使徒*がタブークの戦い*へと徴集（ちょうしゅう）した際の、人々の様々な様子を描写し、偽信者*たちの心中を暴露すると共に、アッラー*とその使徒*の呼びかけに背く者に厳しい警告を放っている。

2　この「解除」通告の原因は、預言者*率いるムスリム*軍がタブークの戦い*へと出征した際、偽信者*らが嘘の噂を広めたり、シルク*の徒らがアッラー*の使徒*と結んでいた協定を破棄したりしたことにあるとされる（アル＝バガウィー2:314 参照）。

3　このアーヤ*が意図しているのは、当時ムスリム*たちとの協約において以下のような状態にあったシルク*の徒らである:①無期限の協約を結んでいた者たち、②期限が四ヶ月以下の協約を結んでいた者たち、③協約を結んでいたが、それを破った者たち（ムヤッサル 187 頁参照）。一方、四ヶ月以上の協約を結んでおり、裏切り行為も協約の違反もなかった者たちについては、アーヤ*4 でその処遇が定められている（アッ＝サァディー328 頁参照）。

4　「大いなるハッジ*の日」とは、ズル＝ヒッジャ月*十日のいわゆる「犠牲祭の日」のこと（ムヤッサル 187 頁参照）。預言者*は、アリー*をこれらのアーヤ*と共に巡礼*期のマッカ*へと派遣し、読誦による通告をさせた（アル＝ブハーリー4655 参照）。

ク*を止め）たなら、それがあなた方にとってより善いこと。そしてもし（シルク*の放棄と信仰から）背を向けるのならば、自分たちがアッラー*（の懲罰）から逃れることなど、出来ない身であることを知るがよい。（使徒*よ、）不信仰に陥った者*たちに、痛烈な懲罰の吉報を告げてやる[1]のだ。

تَوَلَّيْتُمْ فَاعْلَمُوٓا۟ أَنَّكُمْ غَيْرُ مُعْجِزِى ٱللَّهِ ۗ
وَبَشِّرِ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ بِعَذَابٍ أَلِيمٍ ٣

4. 但しシルク*の徒の内、あなた方が協約を結んだ者たちで、それからあなた方（との協約）に対していかなる不備もなく、あなた方に（敵）対していかなる者も援助しなかった者たちは、別である。ならば彼らに対しては、彼らとの協約を、その期限まで全うせよ。本当にアッラー*は、身を慎む者[2]たちをお好みになるのだから。

إِلَّا ٱلَّذِينَ عَـٰهَدتُّم مِّنَ ٱلْمُشْرِكِينَ ثُمَّ لَمْ
يَنقُصُوكُمْ شَيْـًٔا وَلَمْ يُظَـٰهِرُوا۟ عَلَيْكُمْ أَحَدًا
فَأَتِمُّوٓا۟ إِلَيْهِمْ عَهْدَهُمْ إِلَىٰ مُدَّتِهِمْ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ
يُحِبُّ ٱلْمُتَّقِينَ ٤

5. また、禁じられた（四ヶ）月[3]が終了したら、シルク*の徒をどこでも見つけた場所で殺すがよい[4]。そして彼らを捕まえ、彼らを阻み[5]、彼らのためにあらゆる見張り場所に待機せよ。それでもし彼らが（不信仰から）悔悟し、礼拝を遵守*して浄財*を支払ったならば、彼らを自由にしてやるがよい。本当にアッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。

فَإِذَا ٱنسَلَخَ ٱلْأَشْهُرُ ٱلْحُرُمُ فَٱقْتُلُوا۟
ٱلْمُشْرِكِينَ حَيْثُ وَجَدتُّمُوهُمْ وَخُذُوهُمْ
وَٱحْصُرُوهُمْ وَٱقْعُدُوا۟ لَهُمْ كُلَّ مَرْصَدٍ ۚ
فَإِن تَابُوا۟ وَأَقَامُوا۟ ٱلصَّلَوٰةَ وَءَاتَوُا۟ ٱلزَّكَوٰةَ
فَخَلُّوا۟ سَبِيلَهُمْ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ٥

---

1 「吉報を告げる」という言い回しについては、イムラーン家 21 の訳注を参照。

2 シルク*、裏切り、その他の罪から身を慎む者のこと（ムヤッサル 187 頁参照）。

3 大半の解釈学者によれば、ここでの「禁じられた月」とは「神聖月*」のことではなく、シルク*の徒との戦いが禁じられ、彼らの生命が保障された四ヶ月のこと（アル＝カースィミー8:3072-3073 参照）。

4 雌牛 190、アーヤ*36 とその訳注も参照。

5 許可がない限り、ムスリム*の国に入ったり、そこで自由に振る舞ったりすることから阻むこと（アル＝クルトゥビー8:73 参照）。

6. また（使徒*よ、）シルク*の徒の誰かが、あなたに庇護を要請してきたら、彼がアッラー*の御言葉（クルアーン*）を耳にする（ことで、その導きを知ることが出来る）まで、彼を庇護してやるがよい[1]。それから彼を、彼にとって安全な場所まで送り届けてやれ。それというのも、彼らが（イスラーム*の実像を）知らない民であるからなのだ。

وَإِنْ أَحَدٌ مِّنَ الْمُشْرِكِينَ اسْتَجَارَكَ
فَأَجِرْهُ حَتَّىٰ يَسْمَعَ كَلَامَ اللَّهِ ثُمَّ أَبْلِغْهُ
مَأْمَنَهُ ۚ ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمْ قَوْمٌ لَّا يَعْلَمُونَ ٦

7. アッラー*の御許とその使徒*のもとで、どうしてシルク*の徒に対する協約などがあり得ようか？ 但し、ハラーム・マスジド*であなた方が協約[2]を結んだ者たちは、別である。彼らがあなた方（との協約の遵守）に忠実である限り、あなた方も彼ら（との協約の遵守）に忠実であれ。本当にアッラー*は、身を慎む者[3]たちをお好みになるのだから。

كَيْفَ يَكُونُ لِلْمُشْرِكِينَ عَهْدٌ عِندَ اللَّهِ
وَعِندَ رَسُولِهِ إِلَّا الَّذِينَ عَاهَدتُّمْ عِندَ
الْمَسْجِدِ الْحَرَامِ ۖ فَمَا اسْتَقَامُوا لَكُمْ
فَاسْتَقِيمُوا لَهُمْ ۚ إِنَّ اللَّهَ يُحِبُّ
الْمُتَّقِينَ ٧

8. どうして（そのようなことが、あり得ようか）？　もし彼ら（シルク*の徒）があなた方に対して優位に立てば、彼らはあなた方に関して血縁も契約も遵守しないというのに。彼らは口ではあなた方を喜ばせるが、その心は拒絶しているのであり、彼らの大半は放逸なのだ。

كَيْفَ وَإِن يَظْهَرُوا عَلَيْكُمْ لَا يَرْقُبُوا
فِيكُمْ إِلًّا وَلَا ذِمَّةً ۚ يُرْضُونَكُم
بِأَفْوَاهِهِمْ وَتَأْبَىٰ قُلُوبُهُمْ وَأَكْثَرُهُمْ
فَاسِقُونَ ٨

9. 彼らはアッラー*の御徴と引き換えに僅かな代価を買い、（自分たちと人々を）かれの道から阻んだ。本当に彼らが行っていたことは、何と忌まわしいことか。

اشْتَرَوْا بِآيَاتِ اللَّهِ ثَمَنًا قَلِيلًا فَصَدُّوا عَن
سَبِيلِهِ ۚ إِنَّهُمْ سَاءَ مَا كَانُوا
يَعْمَلُونَ ٩

---

1 たとえイスラーム*法統治国家と戦争中の状態にある国の者でも、文書などの配送、商売、調停・停戦の申し出、ジズヤ*の納付などの目的のため、入国・滞在許可をその統治者、またはその代理人に要請する者は、それを許可され、滞在中の安全を保障される（イブン・カスィール 4:114 参照）。

2 この「協約」は、フダイビーヤの和議*のこと（ムヤッサル 188 頁参照）。

3 「身を慎む者」については、アーヤ*4 の訳注を参照。

10. 彼らは信仰者に対し、血縁も契約も遵守しない。そしてそれらの者たちこそ、（契約の破棄において）度を越した者たちなのだ。

لَا يَرۡقُبُونَ فِي مُؤۡمِنٍ إِلّٗا وَلَا ذِمَّةٗۚ
وَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡمُعۡتَدُونَ ١٠

11. それで、もし彼らが（シルク*から）悔悟し、礼拝を遵守*し、浄財*を施したのであれば、（彼らは）宗教（イスラーム*）における、あなた方の同胞である。われら*は知識ある民に、御徴[1]を明らかにするのだ。

فَإِن تَابُواْ وَأَقَامُواْ ٱلصَّلَوٰةَ وَءَاتَوُاْ
ٱلزَّكَوٰةَ فَإِخۡوَٰنُكُمۡ فِي ٱلدِّينِۗ
وَنُفَصِّلُ ٱلۡأٓيَٰتِ لِقَوۡمٖ يَعۡلَمُونَ ١١

12. また、もし彼ら（シルク*の徒）がその協約後に確約を破り、あなた方の宗教（イスラーム*）を中傷したならば、不信仰の長たちと戦え。本当に、彼らには確約などないのだから。（それは）彼らが、（不信仰とイスラーム*への敵対を）止めるようにするためである。

وَإِن نَّكَثُوٓاْ أَيۡمَٰنَهُم مِّنۢ بَعۡدِ عَهۡدِهِمۡ
وَطَعَنُواْ فِي دِينِكُمۡ فَقَٰتِلُوٓاْ أَئِمَّةَ ٱلۡكُفۡرِ
إِنَّهُمۡ لَآ أَيۡمَٰنَ لَهُمۡ لَعَلَّهُمۡ يَنتَهُونَ ١٢

13. 一体あなた方は、自分たちの確約を破り、（マッカ*からの）使徒*の追放を意図し、あなた方に対して最初に仕掛けてきた[2]民と戦わないのか？ 一体あなた方は、彼らを怖れるのか？ ならば、アッラー*の方が、より怖れるに相応しいお方なのだ。もしあなた方が、信仰者であるというならば。

أَلَا تُقَٰتِلُونَ قَوۡمٗا نَّكَثُوٓاْ أَيۡمَٰنَهُمۡ
وَهَمُّواْ بِإِخۡرَاجِ ٱلرَّسُولِ وَهُم
بَدَءُوكُمۡ أَوَّلَ مَرَّةٍۚ أَتَخۡشَوۡنَهُمۡۚ فَٱللَّهُ
أَحَقُّ أَن تَخۡشَوۡهُ إِن كُنتُم مُّؤۡمِنِينَ ١٣

14. 彼らと戦え。アッラー*はあなた方の手でもって彼らを罰され、彼らを辱められ、あなた方を彼らに勝利させて下さろう。そして信仰する民[3]の胸（の悲しみ）を、癒して下さるのだ。

قَٰتِلُوهُمۡ يُعَذِّبۡهُمُ ٱللَّهُ بِأَيۡدِيكُمۡ
وَيُخۡزِهِمۡ وَيَنصُرۡكُمۡ عَلَيۡهِمۡ وَيَشۡفِ صُدُورَ
قَوۡمٖ مُّؤۡمِنِينَ ١٤

---

1 この「御徴」は、アッラー*がご説明になる法規定のこと（アブー・ハイヤーン 5:9 参照）。

2 バドルの戦い*で先に仕掛けてきた（戦利品*章 47 の訳注を参照）のは、あるいはフダイビーヤの和議*の破棄を最初に行ったのは、彼らの方である（イブン・カスィール 4:117 参照）。

3 シルク*の徒からの迫害を蒙（こうむ）ってきたムスリム*のこと。あるいはフダイビーヤの和議*の後、彼らの協約違反によって憂き目を見た、アッラー*の使徒*の同盟部族フザーアのこと（アッ＝タバリー5:3949 参照）。

15. また、彼らの心の憤（いきどお）りを解消して下さろう。アッラー*はかれがお望みになる者の悔悟（かいご）を、お受け入れになる。アッラー*は全知者、英知あふれる*お方。

وَيُذۡهِبۡ غَيۡظَ قُلُوبِهِمۡۗ وَيَتُوبُ ٱللَّهُ عَلَىٰ
مَن يَشَآءُۗ وَٱللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٌ ١٥

16. いや、一体あなた方は、（試練（しれん）[1]から）放免（ほうめん）されるとでも思い込んでいたのか？　アッラー*はあなた方の内で、アッラー*とその使徒（しと）*と信仰者たち以外を腹心とすることなく努力奮闘（ふんとう）した者たちを、まだ如実（にょじつ）に表されてはいないというのに。アッラー*は、あなた方の行うこと（全て）に通暁（つうぎょう）されているお方。

أَمۡ حَسِبۡتُمۡ أَن تُتۡرَكُواْ وَلَمَّا يَعۡلَمِ ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ
جَٰهَدُواْ مِنكُمۡ وَلَمۡ يَتَّخِذُواْ مِن دُونِ ٱللَّهِ
وَلَا رَسُولِهِۦ وَلَا ٱلۡمُؤۡمِنِينَ وَلِيجَةٗۚ
وَٱللَّهُ خَبِيرُۢ بِمَا تَعۡمَلُونَ ١٦

17. 自（みずか）らに対して不信仰を証言していながら、シルク*の徒（と）がアッラー*のマスジド*を管理することなど、あってはならない。そのような者たちは、その行いが台無しになるのである。そして彼らはまさしく業火（ごうか）の中に、永遠に留（とど）まることになるのだ。

مَا كَانَ لِلۡمُشۡرِكِينَ أَن يَعۡمُرُواْ مَسَٰجِدَ ٱللَّهِ
شَٰهِدِينَ عَلَىٰٓ أَنفُسِهِم بِٱلۡكُفۡرِۚ أُوْلَٰٓئِكَ
حَبِطَتۡ أَعۡمَٰلُهُمۡ وَفِي ٱلنَّارِ هُمۡ
خَٰلِدُونَ ١٧

18. アッラー*のマスジド*を管理するのは、アッラー*と最後の日*を信じ、礼拝（れいはい）を遵守（じゅんしゅ）*して浄財（じょうざい）*を支払い、アッラー*以外の何も怖（おそ）れない者のみ。そしてそれらの者たちは恐らく、導（みちび）かれた者の類（たぐ）いとなろう。

إِنَّمَا يَعۡمُرُ مَسَٰجِدَ ٱللَّهِ مَنۡ ءَامَنَ بِٱللَّهِ
وَٱلۡيَوۡمِ ٱلۡأٓخِرِ وَأَقَامَ ٱلصَّلَوٰةَ وَءَاتَى
ٱلزَّكَوٰةَ وَلَمۡ يَخۡشَ إِلَّا ٱللَّهَۖ فَعَسَىٰٓ أُوْلَٰٓئِكَ
أَن يَكُونُواْ مِنَ ٱلۡمُهۡتَدِينَ ١٨

19. （我が民よ、）一体あなた方は、ハッジ*の給水とハラーム・マスジド*の管理（に従事（じゅうじ）する者）を、アッラー*と最後の日*を信仰し、アッラー*の道において努力奮闘（ふんとう）する者と同等にするのか？　彼らはアッラー*の

۞أَجَعَلۡتُمۡ سِقَايَةَ ٱلۡحَآجِّ وَعِمَارَةَ
ٱلۡمَسۡجِدِ ٱلۡحَرَامِ كَمَنۡ ءَامَنَ بِٱللَّهِ وَٱلۡيَوۡمِ
ٱلۡأٓخِرِ وَجَٰهَدَ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِۚ لَا يَسۡتَوُۥنَ عِندَ
ٱللَّهِۗ وَٱللَّهُ لَا يَهۡدِي ٱلۡقَوۡمَ ٱلظَّٰلِمِينَ ١٩

---

1 「試練」については、雌牛章 214、イムラーン家章 142、154、179、蜘蛛章 2 とその訳注、ムハンマド*章 31、王権章 2 とその訳注も参照。

御許で、同等ではない[1]。アッラー*は不正*者である民を、お導きにはならないのだ。

20. 信仰して移住*し、自らの財産と生命をかけてアッラー*の道に努力奮闘する者は、アッラー*の御許において、より位が偉大なのである。そして、そのような者たちこそが勝利者なのだ。

ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَهَاجَرُوا۟ وَجَٰهَدُوا۟ فِى سَبِيلِ
ٱللَّهِ بِأَمْوَٰلِهِمْ وَأَنفُسِهِمْ أَعْظَمُ دَرَجَةً عِندَ
ٱللَّهِ ۚ وَأُو۟لَٰٓئِكَ هُمُ ٱلْفَآئِزُونَ ٢٠

21. 彼らの主*は彼らに、その御許からのご慈悲とご満足、楽園の吉報をお告げになる。そこ（楽園）には彼らのため、永遠の安寧があるのだ。

يُبَشِّرُهُمْ رَبُّهُم بِرَحْمَةٍ مِّنْهُ وَرِضْوَٰنٍ
وَجَنَّٰتٍ لَّهُمْ فِيهَا نَعِيمٌ مُّقِيمٌ ٢١

22. 彼らはそこに、ずっと永遠に留まる。本当にアッラー*、かれの御許には、この上ない褒美がある。

خَٰلِدِينَ فِيهَآ أَبَدًا ۚ إِنَّ ٱللَّهَ عِندَهُۥٓ أَجْرٌ
عَظِيمٌ ٢٢

23. 信仰する者たちよ、自分たちの親や兄弟を盟友としてはならない、もし彼らが信仰よりも不信仰を好む[2]のならば。そして、あなた方の内で彼らを盟友とする者があれば、そのような者たちこそは不正*者なのである。[3]

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَا تَتَّخِذُوٓا۟
ءَابَآءَكُمْ وَإِخْوَٰنَكُمْ أَوْلِيَآءَ إِنِ
ٱسْتَحَبُّوا۟ ٱلْكُفْرَ عَلَى ٱلْإِيمَٰنِ ۚ وَمَن يَتَوَلَّهُم
مِّنكُمْ فَأُو۟لَٰٓئِكَ هُمُ ٱلظَّٰلِمُونَ ٢٣

24. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「あなた方の親、あなた方の子供、あなた方の兄弟、あなた方の配偶者、あなた方の近親、あなた方の稼いだ財産、また、あなた方がその不振を怖れている商売、あなた方が満足する住まいが、アッラー*とその使徒*、そし

قُلْ إِن كَانَ ءَابَآؤُكُمْ وَأَبْنَآؤُكُمْ
وَإِخْوَٰنُكُمْ وَأَزْوَٰجُكُمْ وَعَشِيرَتُكُمْ
وَأَمْوَٰلٌ ٱقْتَرَفْتُمُوهَا وَتِجَٰرَةٌ تَخْشَوْنَ
كَسَادَهَا وَمَسَٰكِنُ تَرْضَوْنَهَآ أَحَبَّ
إِلَيْكُم مِّنَ ٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦ وَجِهَادٍ فِى

---

1 ある種のシルク*の徒は、マッカ*におけるそれらの高貴な任務が最善の行いであるとし、ある種のムスリム*は、信仰とアッラー*の道における奮闘こそが最善の行いであると主張して、議論した。このアーヤ*は、後者の主張を確証すべく下ったのだという（アッ＝サァディー331 頁参照）。

2 具体的には、イスラーム*に敵対する不信仰者*に対し、ムスリム*たちの秘密を明かしたり、彼らにムスリム*たちにとっての重要な事柄を相談したりすること（ムヤッサル 190 頁参照）。

3 最も近しい間柄でさえそうなのだから、それ以下の関係にある者たちであれば、尚更である（アッ＝サァディー332 頁参照）。イムラーン家章 28 の訳注も参照。

てかれの道における努力奮闘よりもあなた方にとって好ましいならば、アッラー*がそのご命令[1]をもたらされるまで待つがよい。アッラー*は、放逸な民をお導きにはならないのだ」。

سَبِيلِهِۦ فَتَرَبَّصُوا۟ حَتَّىٰ يَأْتِىَ ٱللَّهُ بِأَمْرِهِۦ ۗ
وَٱللَّهُ لَا يَهْدِى ٱلْقَوْمَ ٱلْفَـٰسِقِينَ ﴿٢٤﴾

25. （信仰者たちよ、）アッラー*は確かに、多くの場面であなた方をお助けになった[2]。また自分たちの多勢ぶりが、あなた方を悦に入らせたフナイン*の日も（、同様であった）。そしてそれはあなた方の何の役にも立たず、大地はその広さにも関わらずあなた方にとって狭くなり[3]、更にはあなた方は背を見せて敗走したのである。

لَقَدْ نَصَرَكُمُ ٱللَّهُ فِى مَوَاطِنَ كَثِيرَةٍ ۙ وَيَوْمَ
حُنَيْنٍ ۙ إِذْ أَعْجَبَتْكُمْ كَثْرَتُكُمْ
فَلَمْ تُغْنِ عَنكُمْ شَيْـًٔا وَضَاقَتْ عَلَيْكُمُ
ٱلْأَرْضُ بِمَا رَحُبَتْ ثُمَّ وَلَّيْتُم مُّدْبِرِينَ ﴿٢٥﴾

26. それからアッラー*は、その使徒*と信仰者たちに（彼らを堅固にすべく、）かれの静寂をお下しになり、あなた方の目には見えなかった軍勢[4]を下され、不信仰だった者*たちを罰された。それが不信仰者*たちへの報いなのだから。

ثُمَّ أَنزَلَ ٱللَّهُ سَكِينَتَهُۥ عَلَىٰ رَسُولِهِۦ
وَعَلَى ٱلْمُؤْمِنِينَ وَأَنزَلَ جُنُودًا لَّمْ تَرَوْهَا
وَعَذَّبَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ ۚ وَذَٰلِكَ جَزَآءُ
ٱلْكَـٰفِرِينَ ﴿٢٦﴾

27. そしてその後アッラー*は、かれがお望みになる者の悔悟[5]をお受け入れになる。アッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方。

ثُمَّ يَتُوبُ ٱللَّهُ مِنۢ بَعْدِ ذَٰلِكَ عَلَىٰ مَن
يَشَآءُ ۗ وَٱللَّهُ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ﴿٢٧﴾

28. 信仰する者たちよ、シルク*の徒こそは不浄[6]である。ゆえに今年[7]以降、彼らはハラ

يَـٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ إِنَّمَا ٱلْمُشْرِكُونَ
نَجَسٌ فَلَا يَقْرَبُوا۟ ٱلْمَسْجِدَ ٱلْحَرَامَ

1 アッラー*の懲罰という「ご命令」のこと（ムヤッサル 190 頁参照）。

2 そしてそれは、ムスリム*たちが成功に必要な手はずを整（ととの）え、かつアッラー*に全てを委ねた時であった（前掲書、同頁参照）。

3 広い大地が、狭く感じられるほどの苦境や困難を表している（アブー・ハイヤーン 5:25 参照）。

4 この「軍勢」とは、天使*たちのことである、と言われる（ムヤッサル 190 頁参照）。

5 不信仰を棄（す）て、イスラーム*を受け入れた者の「悔悟」のこと（前掲書 191 頁参照）。

6 大多数の学者は、この「不浄さ」を物質的・本質的なものではなく、「信仰的な不浄さ」としている（イブン・カスィール 4:131 参照）。

7 アリー*がマッカ*でこの禁止通告を行った、ヒジュラ暦*9 年のこと（ムヤッサル 191 頁参照）。アーヤ*3 の訳注も参照。

ーム・マスジド*[1]に近付いてはならない。そして、もしあなた方が困窮(こんきゅう)を怖(おそ)れるのであっても、やがてアッラー*がそのご恩寵(おんちょう)で――かれがお望みなら――、あなた方を豊かにしてくれよう[2]。本当にアッラー*は、全知者、英知あふれる*お方なのだから。

بَعۡدَ عَامِهِمۡ هَٰذَاۚ وَإِنۡ خِفۡتُمۡ عَيۡلَةٗ
فَسَوۡفَ يُغۡنِيكُمُ ٱللَّهُ مِن فَضۡلِهِۦٓ
إِن شَآءَۚ إِنَّ ٱللَّهَ عَلِيمٌ حَكِيمٞ ٢٨

29. （ムスリム*たちよ、）啓典(けいてん)を授(さず)けられた者*たちの内、アッラー*と最後の日*を信仰せず、アッラー*とその使徒(しと)*が禁じた物事を禁じもせず、真理の宗教に従(したが)わない者たちと、彼らが、すごすごとジズヤ*を手渡しで払うまで戦うのだ。[3]

قَٰتِلُواْ ٱلَّذِينَ لَا يُؤۡمِنُونَ بِٱللَّهِ وَلَا
بِٱلۡيَوۡمِ ٱلۡأٓخِرِ وَلَا يُحَرِّمُونَ مَا حَرَّمَ
ٱللَّهُ وَرَسُولُهُۥ وَلَا يَدِينُونَ دِينَ ٱلۡحَقِّ
مِنَ ٱلَّذِينَ أُوتُواْ ٱلۡكِتَٰبَ حَتَّىٰ يُعۡطُواْ
ٱلۡجِزۡيَةَ عَن يَدٖ وَهُمۡ صَٰغِرُونَ ٢٩

30. ユダヤ教徒*は言った。「ウザイル[4]はアッラー*の御子(みこ)である」。また、キリスト教徒*は言った。「マスィーフ*（イーサー*）はアッラー*の御子(みこ)である」。それは（彼ら）以前の不信仰だった者*たちの言葉に似た、口先だけの彼らの言葉である。アッラー*が彼らを成敗(せいばい)して下さいますよう。彼らはどうして、（真理から）背(そむ)かされるのか？

وَقَالَتِ ٱلۡيَهُودُ عُزَيۡرٌ ٱبۡنُ ٱللَّهِ
وَقَالَتِ ٱلنَّصَٰرَى ٱلۡمَسِيحُ ٱبۡنُ ٱللَّهِۖ
ذَٰلِكَ قَوۡلُهُم بِأَفۡوَٰهِهِمۡۖ يُضَٰهِـُٔونَ
قَوۡلَ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ مِن قَبۡلُۚ قَٰتَلَهُمُ
ٱللَّهُۖ أَنَّىٰ يُؤۡفَكُونَ ٣٠

---

1 この「マスジド・ハラーム*」は、マッカ*の聖域のこととされる（前掲書 191 頁参照）。

2 イスラーム*到来以前にも、アラビア半島のシルク*の徒にはマッカ*巡礼*・訪問の慣習があり、そのことはマッカ*の物質的繁栄に大きく貢献していた。それゆえアッラー*からこのご命令が下った時、マッカ*の民のある者たちは、自分たちの大きな収入源が消失してしまうことを怖れたのだという（アッ＝タバリー5:3965 参照）。

3 イスラーム*の勝利がアラビア半島で確実なものとなった時、近隣諸国のキリスト教徒*たちは危機感を強めた。ローマ帝国は、シャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）を治めさせていたガッサーン族のキリスト教徒*を介し、対ムスリム*の戦争準備を始める（イブン・アーシュール 10:162 参照）。そしてヒジュラ暦*9 年にこのアーヤ*が下ったことにより、ムスリム*たちはシャーム地方に近接するタブーク*へと出征したとされる（イブン・カスィール 4:132 参照）が、この前年にはガッサーン族が預言者*の使節を殺害したことが原因で、ムウタの戦い*が起きている（ムバーラクフーリー387 参照）。

4 「ウザイル」は、一説には旧約聖書の「エズラ」のこと（イブン・アーシュール 10:167-168）。

31. 彼ら（啓典の民*）はアッラー*を差しおいて、彼らの学者や修道僧たちを、彼らの主*としたのだ。また、マルヤム*の子マスィーフ*も（主とした）[1]。彼らは、唯一の神（アッラー*）のみを崇拝*することしか、命じられてはいなかったというのに。かれ以外に、（真に）崇拝*すべきものなど存在しない。彼らがシルク*を犯しているものから（無縁な）、アッラー*に称え*あれ。

ٱتَّخَذُوٓاْ أَحۡبَارَهُمۡ وَرُهۡبَٰنَهُمۡ أَرۡبَابٗا
مِّن دُونِ ٱللَّهِ وَٱلۡمَسِيحَ ٱبۡنَ مَرۡيَمَ
وَمَآ أُمِرُوٓاْ إِلَّا لِيَعۡبُدُوٓاْ إِلَٰهٗا
وَٰحِدٗاۖ لَّآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَۚ سُبۡحَٰنَهُۥ
عَمَّا يُشۡرِكُونَ ٣١

32. 彼らは、その口先でアッラー*の御光[2]を消してしまおうと望んでいる。そしてアッラーは、その御光を完遂させずにはおかれない。たとえ不信仰者*たちが、（それを）嫌おうとも（、である）。

يُرِيدُونَ أَن يُطۡفِـُٔواْ نُورَ ٱللَّهِ بِأَفۡوَٰهِهِمۡ
وَيَأۡبَى ٱللَّهُ إِلَّآ أَن يُتِمَّ نُورَهُۥ وَلَوۡ كَرِهَ
ٱلۡكَٰفِرُونَ ٣٢

33. かれは、その使徒*を導きと真理の宗教（イスラーム*）と共に遣わされたお方。（それは）かれが、それ（イスラーム*）をあらゆる宗教の上に君臨させる[3]ため。たとえ、シルク*の徒が（そのことを）嫌おうとも（、なのだ）。

هُوَ ٱلَّذِيٓ أَرۡسَلَ رَسُولَهُۥ بِٱلۡهُدَىٰ
وَدِينِ ٱلۡحَقِّ لِيُظۡهِرَهُۥ عَلَى ٱلدِّينِ
كُلِّهِۦ وَلَوۡ كَرِهَ ٱلۡمُشۡرِكُونَ ٣٣

34. 信仰する者たちよ、本当に（啓典の民*の内の）多くの学者や修道僧たちは、まさに人々の財産を偽って貪り、（自分たちと人々を）アッラー*の道から阻んでいる。そして金銀を貯め込み、それをアッラー*の道

۞ يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِنَّ كَثِيرٗا
مِّنَ ٱلۡأَحۡبَارِ وَٱلرُّهۡبَانِ لَيَأۡكُلُونَ
أَمۡوَٰلَ ٱلنَّاسِ بِٱلۡبَٰطِلِ وَيَصُدُّونَ عَن
سَبِيلِ ٱللَّهِۗ وَٱلَّذِينَ يَكۡنِزُونَ

---

1 学者や修道僧を「主として選ぶ」とは、アッラー*が定める法をそっちのけにし、彼らが定める法に従うこと。イーサー*については、彼に神性を認め、崇拝*の対象としたこと（ムヤッサル 191 頁参照）。

2 この「御光」とは、イスラーム*、そしてアッラーの唯一性*を示す証拠のこと（前掲書 192 頁参照）。

3 つまりイスラーム*はあらゆる宗教を撤廃（てっぱい）し、唯一の宗教となる。あるいは、他宗教の信徒を落ちぶらせる（アル＝バイダーウィー3:142 参照）。

において施すことのない者たち[1]、彼らには（使徒*よ、）痛ましい懲罰の吉報を告げる[2]がよい。

ٱلذَّهَبَ وَٱلْفِضَّةَ وَلَا يُنفِقُونَهَا فِي
سَبِيلِ ٱللَّهِ فَبَشِّرْهُم بِعَذَابٍ أَلِيمٍ ٣٤

35. それら（の金銀）が地獄の業火の中で熱せられ、彼らの額と脇腹と背中がそれで焼き付けられる（復活の）日*。（彼らには、こう言われる。）「これが、お前たちが自分たちのために貯め込んでいた物である。ならばお前たちは、自分たちが貯め込んでいた物（ゆえの罰）を味わうがよい。」

يَوْمَ يُحْمَىٰ عَلَيْهَا فِي نَارِ جَهَنَّمَ
فَتُكْوَىٰ بِهَا جِبَاهُهُمْ وَجُنُوبُهُمْ
وَظُهُورُهُمْ ۖ هَٰذَا مَا كَنَزْتُمْ لِأَنفُسِكُمْ
فَذُوقُوا۟ مَا كُنتُمْ تَكْنِزُونَ ٣٥

36. 実に、アッラー*が諸天と大地を創造された日、アッラー*の書[3]でのアッラー*（の裁定）における月数は、十二ヶ月である。その内の四ヶ月が神聖月*。それが正しい宗教なのだ。ならば、そこにおいて自分たちに不正*を働いてはならない[4]。また、シルク*の徒と全面的に戦え、彼らがあなた方と全面的に戦うように[5]。そしてアッラー*は敬虔な*者たちと共にあるということを、知るのだ。

إِنَّ عِدَّةَ ٱلشُّهُورِ عِندَ ٱللَّهِ ٱثْنَا عَشَرَ
شَهْرًا فِي كِتَٰبِ ٱللَّهِ يَوْمَ خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَٱلْأَرْضَ مِنْهَآ أَرْبَعَةٌ حُرُمٌ ۚ ذَٰلِكَ ٱلدِّينُ
ٱلْقَيِّمُ ۚ فَلَا تَظْلِمُوا۟ فِيهِنَّ أَنفُسَكُمْ ۚ
وَقَٰتِلُوا۟ ٱلْمُشْرِكِينَ كَآفَّةً
كَمَا يُقَٰتِلُونَكُمْ كَآفَّةً ۚ وَٱعْلَمُوٓا۟
أَنَّ ٱللَّهَ مَعَ ٱلْمُتَّقِينَ ٣٦

1 教友*アブー・ザッル*によれば、これは啓典の民*の不信仰者*だけではなく、浄財*の義務を果たさないムスリム*のことも含んでいる（アル＝ブハーリー1406、4660 参照）。

2 「懲罰の吉報を告げる」という言い回しについては、イムラーン家 21 の訳注を参照。

3 ここでの「アッラー*の書」とは、守られし碑板*のこと（ムヤッサル 192 頁参照）。

4 神聖月*における不正*は、それ以外の月よりも大きな罪となることを示しており、神聖月*以外でも不正*は禁じられている（前掲書、同頁参照）。

5 この「シルク*の徒」は、アーヤ*2、5 で言及されている期限が終了したシルク*の徒のこととされる（アル＝ジャザーイリー2:366 参照）。イスラーム*は、（その宗教を問わず、）協約を結んでいる者・安全の保障を与えている者（アーヤ*6 の訳注も参照）の殺害を、厳しく禁じている（アル＝ブハーリー3166 参照）。また、戦闘状態にある非ムスリムとの戦いにおいては、まずイスラーム*へと招き、それを受容しなければジズヤ*の支払いを呼びかけ、彼らがそれらを全て拒んで初めて、攻撃が許される。また戦闘においても、女性、子供、老人、修道僧のほか、戦闘員ではない農民、使節などを殺害することは禁じられる（クウェイト法学大全 16:143、148-149 参照）。

37. 実に（神聖月*の）延期は、不信仰における（更なる）上乗せである。不信仰に陥った者*たちは、それによって迷わせられているのだ。彼らはアッラー*が禁じられた（神聖月*の）数に帳尻合わせして、ある年にはそれを合法とし、また別の年にはそれを禁じ、アッラー*の禁じられたものを合法としている[1]。彼らにはその悪い行いが、目映く映ったのだ。アッラー*は、不信仰である民をお導きにはならない[2]。

إِنَّمَا ٱلنَّسِيٓءُ زِيَادَةٞ فِي ٱلۡكُفۡرِۖ
يُضَلُّ بِهِ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ يُحِلُّونَهُۥ
عَامٗا وَيُحَرِّمُونَهُۥ عَامٗا لِّيُوَاطِـُٔواْ عِدَّةَ
مَا حَرَّمَ ٱللَّهُ فَيُحِلُّواْ مَا حَرَّمَ ٱللَّهُۚ
زُيِّنَ لَهُمۡ سُوٓءُ أَعۡمَٰلِهِمۡۗ وَٱللَّهُ لَا
يَهۡدِي ٱلۡقَوۡمَ ٱلۡكَٰفِرِينَ ٣٧

38. 信仰する者たちよ、あなた方に「アッラー*の道に出征せよ」と言われた後、（自分たちの）土地に（へばりついて）もたもたしたのはどういうことか？　一体、あなた方は来世をよそに、現世の生活に満足しているというのか？　現世の生活の楽しみなど、来世（との比較）においては、ごく僅かな物でしかないのだぞ。[3]

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ مَا لَكُمۡ إِذَا
قِيلَ لَكُمُ ٱنفِرُواْ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ
ٱثَّاقَلۡتُمۡ إِلَى ٱلۡأَرۡضِۚ أَرَضِيتُم بِٱلۡحَيَوٰةِ
ٱلدُّنۡيَا مِنَ ٱلۡأٓخِرَةِۚ فَمَا مَتَٰعُ
ٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَا فِي ٱلۡأٓخِرَةِ إِلَّا قَلِيلٌ ٣٨

39. （信仰者たちよ、）もし出征しないのであれば、かれ（アッラー*）はあなた方を痛ましい懲罰で罰され、あなた方以外の（アッラー*とその使徒*に従順な）民を代わりに置かれよう。あなた方がかれのことを害することなど、微塵もない。アッラー*は全てのことがお出来のお方。

إِلَّا تَنفِرُواْ يُعَذِّبۡكُمۡ عَذَابًا أَلِيمٗا
وَيَسۡتَبۡدِلۡ قَوۡمًا غَيۡرَكُمۡ وَلَا تَضُرُّوهُ
شَيۡـٔٗاۗ وَٱللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٌ ٣٩

1 ジャーヒリーヤ*のアラブ人たちには、アッラー*によって定められた四つの神聖月*を守らず、戦争などの自分たちの都合に合わせ、ある神聖月*を遅らせたり早めたりし、その分を本来神聖月*ではない月にあてがうという習慣があった（ムヤッサル 193 頁参照）。

2 つまり不信仰に固執（こしつ）し、それをやめようとしない者は、真に求められるべき目的へと導かれることはない、の意味（アッ＝シャウカーニー2:514 参照）。

3 このアーヤ*は、タブークの戦い*への出征に関して下った。当時、人々は苦境にあった上、暑さが厳しく、果実が実る時節にあった。しかもタブークはとても遠い土地で、敵の数も多かったため、人々は出征に億劫（おっくう）になったのだという（アル＝バガウィー2:348 参照）。

40. たとえ、あなた方が彼（ムハンマド*）を援助しなくても、アッラー*は不信仰に陥った者*たちが、二人の内の一人だった彼を（マッカ*から）追放した時、確かに彼を援助されたのである。二人が洞窟の中にあった時、つまり彼（ムハンマド*）がその同伴者に「悲しむのではない。本当にアッラー*は私たちと共にあるのだから」と言った時。アッラー*は彼にその静寂をお下しになり、あなた方の目に見えない（天使*の）軍勢によって彼をお助けになり、不信仰に陥った者*たちの言葉を最下のものとされた[1]。アッラー*の御言葉こそは最上のものなのだ[2]。アッラー*は偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

إِلَّا تَنصُرُوهُ فَقَدْ نَصَرَهُ ٱللَّهُ إِذْ
أَخْرَجَهُ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ ثَانِىَ ٱثْنَيْنِ إِذْ
هُمَا فِى ٱلْغَارِ إِذْ يَقُولُ لِصَـٰحِبِهِۦ
لَا تَحْزَنْ إِنَّ ٱللَّهَ مَعَنَا ۖ فَأَنزَلَ ٱللَّهُ
سَكِينَتَهُۥ عَلَيْهِ وَأَيَّدَهُۥ بِجُنُودٍ لَّمْ
تَرَوْهَا وَجَعَلَ كَلِمَةَ ٱلَّذِينَ
كَفَرُوا۟ ٱلسُّفْلَىٰ ۗ وَكَلِمَةُ ٱللَّهِ هِىَ
ٱلْعُلْيَا ۗ وَٱللَّهُ عَزِيزٌ حَكِيمٌ ٤٠

41. 軽かろうと、重かろうと[3]、出征し、あなた方の財産と生命をかけて、アッラー*の道において努力奮闘せよ。それがあなた方にとって、より善いことなのである。もし、あなた方が（その徳と褒美を）知っていたのならば。

ٱنفِرُوا۟ خِفَافًا وَثِقَالًا وَجَـٰهِدُوا۟
بِأَمْوَٰلِكُمْ وَأَنفُسِكُمْ فِى سَبِيلِ ٱللَّهِ ۚ
ذَٰلِكُمْ خَيْرٌ لَّكُمْ إِن كُنتُمْ
تَعْلَمُونَ ٤١

---

1 ここで描写されているのは、預言者*ムハンマド*と教友*アブー・バクル*の二人が、マディーナ*への移住*のためにマッカ*を出発した時の出来事。彼らは追っ手を撒（ま）くため、マッカ*郊外のサウル洞窟に一時身を隠したが、追っ手の足はその間近にまで迫った。アブー・バクル*は預言者*がそこで捕まってしまうことを恐れたが、預言者*の彼に対する慰（なぐさ）めの言葉通り、アッラー*は彼らをお守りになった。このようにアッラー*は、預言者*にただ一人の同伴者しかなかった時にも、彼をお助けになった。だから今や、一部の者が出征に応じなかったとしても、アッラー*によって彼が援助されることは容易なことなのである（アッ＝タバリー5:3998 参照）。

2 「不信仰に陥った者*たちの言葉」とは、シルク*の言葉。それは制圧され、蔑（さげす）まれるものであることから、「最下」とされる。また「アッラー*の御言葉」とは、タウヒード*の言葉、シャハーダ*の言葉。シルク*とその民を制することから、「最上」と表されている（前掲書 5:4000 参照）。

3 「軽かろうと、重かろうと」の解釈には、「分散して、または軍隊で」「元気があっても、なくても」「貧しくても、豊かでも」「若くても、年寄りでも」「扶養すべき者がなくても、あっても」などの諸説がある（アル＝クルトゥビー8:150 参照）。

42. （預言者*よ、）もしそれが手近な利益だったり、適度な（距離の）旅[1]だったなら、彼ら（偽信者*たち）はあなたについて行ったのであろう。だが彼らには、距離が遠かった（ために、厳しく感じられた）のである。そして彼らは、アッラー*に誓（ってこう言）う。「出来るものなら、私たちはあなた方と共に出発したのだが」。彼らは（嘘と偽の信仰で、）自分自身を滅ぼしている。アッラー*は本当に彼らが、まさしく嘘つきであることをご存知なのだ。

لَوۡ كَانَ عَرَضٗا قَرِيبٗا وَسَفَرٗا قَاصِدٗا
لَّٱتَّبَعُوكَ وَلَٰكِنۢ بَعُدَتۡ عَلَيۡهِمُ
ٱلشُّقَّةُۚ وَسَيَحۡلِفُونَ بِٱللَّهِ لَوِ ٱسۡتَطَعۡنَا
لَخَرَجۡنَا مَعَكُمۡ يُهۡلِكُونَ أَنفُسَهُمۡ وَٱللَّهُ
يَعۡلَمُ إِنَّهُمۡ لَكَٰذِبُونَ ٤٢

43. （預言者*よ、）アッラー*はあなたを大目に見られた。（言い訳をして出征しなかった者の内、その言い訳において）正直だった者たちがあなたに明らかになり、あなたが（彼らの内の）嘘つきどもを知る前に、彼らに（出征の免除を）許可するとはどういうことか？[2]

عَفَا ٱللَّهُ عَنكَ لِمَ أَذِنتَ لَهُمۡ حَتَّىٰ يَتَبَيَّنَ لَكَ
ٱلَّذِينَ صَدَقُواْ وَتَعۡلَمَ ٱلۡكَٰذِبِينَ ٤٣

44. アッラー*と最後の日*を信じる者は、自らの財産と生命をかけて努力奮闘することにおいて、あなたに（嘘の言い訳をしつつ、出征免除の）許可を請うたりはしない。アッラー*は敬虔な*者たちを、ご存知のお方。

لَا يَسۡتَـٔۡذِنُكَ ٱلَّذِينَ يُؤۡمِنُونَ بِٱللَّهِ
وَٱلۡيَوۡمِ ٱلۡأٓخِرِ أَن يُجَٰهِدُواْ بِأَمۡوَٰلِهِمۡ
وَأَنفُسِهِمۡۗ وَٱللَّهُ عَلِيمُۢ بِٱلۡمُتَّقِينَ ٤٤

45. 実にあなたに（嘘の言い訳をして、出征免除の）許可を請うのは、アッラー*と最後の日*を信じず、その心が（イスラーム*に対する）疑惑に満ちた者たちだけである。そして彼らは自らの疑惑の中で、右往左往しているのだ。

إِنَّمَا يَسۡتَـٔۡذِنُكَ ٱلَّذِينَ لَا يُؤۡمِنُونَ بِٱللَّهِ
وَٱلۡيَوۡمِ ٱلۡأٓخِرِ وَٱرۡتَابَتۡ قُلُوبُهُمۡ فَهُمۡ فِي
رَيۡبِهِمۡ يَتَرَدَّدُونَ ٤٥

---

1 タブークの戦い*の出征にまつわる状況については、アーヤ*38 の訳注を参照。

2 使徒*・預言者*の無謬（むびゅう）性については、雌牛章 36 の訳注を参照。

46. もし彼ら（偽信者*たち）が出発を望んだなら、そのために装備を整えただろう。しかしアッラー*は彼らの遠征を厭われ、彼らを億劫にさせられたのだ。そして彼らに、「居残る者たち[1]と共に、残っていよ」と言われた[2]のである。

۞ وَلَوۡ أَرَادُواْ ٱلۡخُرُوجَ لَأَعَدُّواْ لَهُۥ عُدَّةٗ
وَلَٰكِن كَرِهَ ٱللَّهُ ٱنۢبِعَاثَهُمۡ فَثَبَّطَهُمۡ وَقِيلَ
ٱقۡعُدُواْ مَعَ ٱلۡقَٰعِدِينَ ٤٦

47. たとえあなた方と共に出発したとしても、彼ら（偽信者*たち）はあなた方に堕落しか上乗せせず、あなた方に誘惑[3]を望みつつ、あなた方の間を奔走する[4]——（信仰者たちよ、）あなた方の中には彼らのスパイもいるのだ——。アッラー*は、不正*者たちのことをご存知のお方。

لَوۡ خَرَجُواْ فِيكُم مَّا زَادُوكُمۡ إِلَّا خَبَالٗا
وَلَأَوۡضَعُواْ خِلَٰلَكُمۡ يَبۡغُونَكُمُ ٱلۡفِتۡنَةَ
وَفِيكُمۡ سَمَّٰعُونَ لَهُمۡۗ وَٱللَّهُ عَلِيمُۢ
بِٱلظَّٰلِمِينَ ٤٧

48. （預言者*よ、タブークの戦い*）以前から、彼ら（偽信者*たち）は確かに（信仰者たちへの）誘惑[5]を望み、あなたに対して策を練り上げて来た[6]。（それは）真理が到来し、アッラー*の物事[7]が顕現するまでのことだった。彼らはそれを嫌っていたのだが。

لَقَدِ ٱبۡتَغَوُاْ ٱلۡفِتۡنَةَ مِن قَبۡلُ وَقَلَّبُواْ لَكَ
ٱلۡأُمُورَ حَتَّىٰ جَآءَ ٱلۡحَقُّ وَظَهَرَ أَمۡرُ ٱللَّهِ
وَهُمۡ كَٰرِهُونَ ٤٨

---

1 ここでの「居残る者たち」とは女性など、イスラーム*法的に正当な理由から、出征を免除された者たちのこと（アッ＝サァディー339 頁参照）。

2 この言葉の主には、「シャイターン*」「彼ら（偽信者*たち）自身」「預言者*」「アッラー*」といった解釈がある（アッ＝シャウカーニー2:522 参照）。

3 この「誘惑」の解釈には、「敵軍の強大さをほのめかして士気を下げること」「困難や悪事」「シルク*」といった説がある（アル＝バガウィー2:355 参照）。

4 具体的には、信仰者の間にお互いに対する憎悪を生じさせるべく、陰口や悪口などを広めたりすること（ムヤッサル 194 頁参照）。

5 「誘惑」については、アーヤ*47 の訳注を参照。

6 それまでにも偽信者*たちは、ウフドの戦い*や部族連合の戦い*などで、預言者*がもたらした教えを滅ぼそうと、策略を練ってきたものだった（前掲書 195 頁参照）。

7 「真理」とはアッラー*からの勝利で、かれの「物事」とは、イスラーム*のこととされる（アッ＝タバリー5:4010 参照）。

49. また、彼ら（偽信者*たち）の内には、「私に（出征からの残留を）お許し下さい。そして、私のことを試練にかけないで下さい」と言う者もいる。彼らはまさに、（偽の信仰という）試練の中に陥ったのではないか。そして本当に地獄は、不信仰者*たちをまさに包囲している。[1]

وَمِنْهُم مَّن يَقُولُ ٱئْذَن لِّى وَلَا تَفْتِنِّىٓ ۚ
أَلَا فِى ٱلْفِتْنَةِ سَقَطُوا۟ ۗ وَإِنَّ جَهَنَّمَ
لَمُحِيطَةٌۢ بِٱلْكَـٰفِرِينَ ٤٩

50. （預言者*よ、）もしあなたに善いことが起これば、それは彼ら（偽信者*たち）を消沈させる。そしてもしあなたに災厄が降りかかれば、彼らは「私たちは確かに前もって、大事を取っておいたのだ[2]」と言い、有頂天になって（あなたから）背き去る。

إِن تُصِبْكَ حَسَنَةٌ تَسُؤْهُمْ ۖ وَإِن
تُصِبْكَ مُصِيبَةٌ يَقُولُوا۟ قَدْ أَخَذْنَآ
أَمْرَنَا مِن قَبْلُ وَيَتَوَلَّوا۟ وَّهُمْ فَرِحُونَ ٥٠

51. （預言者*よ、彼らに）言ってやるがよい。「私たちには、アッラー*が私たちにお定めになったことしか起こらない――かれは私たちの庇護者*である――。そして信仰者たちには、アッラー*にこそ全てを委ね*させるのだ」。

قُل لَّن يُصِيبَنَآ إِلَّا مَا كَتَبَ ٱللَّهُ لَنَا
هُوَ مَوْلَىٰنَا ۚ وَعَلَى ٱللَّهِ فَلْيَتَوَكَّلِ
ٱلْمُؤْمِنُونَ ٥١

52. （預言者*よ、彼らに）言うのだ。「あなた方は私たちに、二つの善きこと[3]のいずれかを待ち望んでいるに外ならないのではないか？ そして私たちはあなた方に、アッラー*がその御許からの懲罰によって、あるいは私たちの手（による成敗）によって、

قُلْ هَلْ تَرَبَّصُونَ بِنَآ إِلَّآ إِحْدَى ٱلْحُسْنَيَيْنِ ۖ
وَنَحْنُ نَتَرَبَّصُ بِكُمْ أَن يُصِيبَكُمُ ٱللَّهُ
بِعَذَابٍ مِّنْ عِندِهِۦٓ أَوْ بِأَيْدِينَا ۖ فَتَرَبَّصُوٓا۟
إِنَّا مَعَكُم مُّتَرَبِّصُونَ ٥٢

---

1 このアーヤ*は、自分は女性に目がなく、ローマ人女性を見たらその虜（とりこ）になってしまうのを恐れる、と嘘の言い訳をし、タブークの戦い*に出征しなかった者に関して下ったとされる（アッ＝タバリー5:4012 参照）。

2 「大事を取っておいた」とは、ムスリム*軍の敗北と苦難を予期して、タブークに出征しなかったことを指す（ムヤッサル 195 頁参照）。

3 「二つの善きこと」とは、①敵への勝利と、現世と来世における褒美、②殉教（じゅんきょう）と、その偉大なる地位のこと（アッ＝サァディー339 頁参照）。

あなた方を襲われるのを待ち望んでいるのである。ならば、待ち望むがよい。本当に私たちも、あなた方と共に待ち望む者となるから」。

53. （預言者*よ、偽信者*たちに）言ってやるのだ。「従順にであれ、嫌々であれ、施すがよい。あなた方から（アッラー*に）受け入れられることなど、ないのだ。本当にあなた方は、放逸な民だったのだから」。

قُلۡ أَنفِقُواْ طَوۡعًا أَوۡ كَرۡهٗا لَّن يُتَقَبَّلَ
مِنكُمۡ إِنَّكُمۡ كُنتُمۡ قَوۡمٗا
فَٰسِقِينَ ٥٣

54. また、彼らの施しが、受け入れられることを彼らから阻んだのは、彼らがアッラー*とその使徒*を否定し、礼拝にはいつも面倒くさそうに顔を出し、嫌々にでしか施すことがないからに外ならない。

وَمَا مَنَعَهُمۡ أَن تُقۡبَلَ مِنۡهُمۡ نَفَقَٰتُهُمۡ
إِلَّآ أَنَّهُمۡ كَفَرُواْ بِٱللَّهِ وَبِرَسُولِهِۦ وَلَا
يَأۡتُونَ ٱلصَّلَوٰةَ إِلَّا وَهُمۡ كُسَالَىٰ
وَلَا يُنفِقُونَ إِلَّا وَهُمۡ كَٰرِهُونَ ٥٤

55. ならば（預言者*よ、われら*が彼らに与えた）その財産や子供に、心引かれてはならない。アッラー*はそれらによって、現世の生活で彼らを罰せられ[1]、彼らが不信仰者*として事切れることを、まさにお望みなのだから。

فَلَا تُعۡجِبۡكَ أَمۡوَٰلُهُمۡ وَلَآ أَوۡلَٰدُهُمۡۚ إِنَّمَا يُرِيدُ
ٱللَّهُ لِيُعَذِّبَهُم بِهَا فِي ٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَا
وَتَزۡهَقَ أَنفُسُهُمۡ وَهُمۡ كَٰفِرُونَ ٥٥

56. また彼ら（偽信者*たち）は、あなた方の仲間ではないのに、本当に自分たちはまさしくあなた方の仲間である、と（嘘をついて）アッラー*に誓う。しかし彼らは、怖気づいている民なので（、そのようにするので）ある。

وَيَحۡلِفُونَ بِٱللَّهِ إِنَّهُمۡ لَمِنكُمۡ وَمَا هُم
مِّنكُمۡ وَلَٰكِنَّهُمۡ قَوۡمٞ يَفۡرَقُونَ ٥٦

57. もし避難所や洞窟、穴でも見つければ、彼らは一目散に、そこへと退散するであろう。

لَوۡ يَجِدُونَ مَلۡجَـًٔا أَوۡ مَغَٰرَٰتٍ أَوۡ مُدَّخَلٗا
لَّوَلَّوۡاْ إِلَيۡهِ وَهُمۡ يَجۡمَحُونَ ٥٧

---

1 つまり、それらをアッラー*の御許での褒美（ほうび）を得るための手段としないため、それらの獲得における消耗（しょうもう）や、そこにおける損失ゆえに「罰せられ」ること（ムヤッサル 196 頁参照）。戦利品*章 28 の訳注も参照。

58. また、彼ら（偽信者*たち）の中には、施しのことであなたをけなす者もいる。それで彼らは、そこから与えられれば満足し、そこから与えられなければ、どうであろうか、激怒するのである。[1]

وَمِنْهُم مَّن يَلْمِزُكَ فِي ٱلصَّدَقَٰتِ فَإِنْ
أُعْطُوا۟ مِنْهَا رَضُوا۟ وَإِن لَّمْ يُعْطَوْا۟ مِنْهَآ إِذَا
هُمْ يَسْخَطُونَ ٥٨

59. もし彼らが、アッラー*とその使徒*が自分たちに与えてくれたものに満足し、「私たちにはアッラー*だけで十分。アッラー*はその恩寵によって、そしてその使徒*も（彼がアッラー*から授かったものから）、私たちにお授け下さるだろう。本当に私たちは、アッラー*にこそ（豊かさを）求める者なのだから」（と言えばよかったものを）。

وَلَوْ أَنَّهُمْ رَضُوا۟ مَآ ءَاتَىٰهُمُ ٱللَّهُ وَرَسُولُهُۥ
وَقَالُوا۟ حَسْبُنَا ٱللَّهُ سَيُؤْتِينَا ٱللَّهُ مِن
فَضْلِهِۦ وَرَسُولُهُۥٓ إِنَّآ إِلَى ٱللَّهِ رَٰغِبُونَ ٥٩

60. （義務の）浄財*は、困窮者*、貧者*、それ（浄財*の徴収）に携わる者、（それを与えられることによって）心が融和される者[2]、首[3]、借金している者[4]、アッラー*の道（ゆえに努力奮闘する者）、旅路（で苦境）にある者のためにのみ（与えられる）。（それは）アッラー*からの義務（として定められた）。アッラー*は全知者、英知あふれる*お方であられる。

۞ إِنَّمَا ٱلصَّدَقَٰتُ لِلْفُقَرَآءِ وَٱلْمَسَٰكِينِ
وَٱلْعَٰمِلِينَ عَلَيْهَا وَٱلْمُؤَلَّفَةِ قُلُوبُهُمْ
وَفِى ٱلرِّقَابِ وَٱلْغَٰرِمِينَ وَفِى سَبِيلِ
ٱللَّهِ وَٱبْنِ ٱلسَّبِيلِ ۖ فَرِيضَةً مِّنَ ٱللَّهِ ۗ
وَٱللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٌ ٦٠

---

1 このアーヤ*は、預言者*ムハンマド*のもとに集められた施しを分配している時、ある男が「公正に分配せよ」と言いがかりをつけたことに関して下ったとされる（アル＝ブハーリー3610 参照）。

2 「心が融和される者」とは、浄財*の受給によってイスラーム*への改宗や信仰心の強化が望まれる者や、それによってムスリム*の利益や害悪の防止につながること、とされる（ムヤッサル 196 頁参照）。

3 「首」については、雌牛章 177 の訳注を参照。

4 借金があるが、返済できない者のこと。尚、不適切なことにおいて借金した者については、悔悟するまで浄財を受給する資格はない（アル＝クルトゥビー8:183 参照）。

61. また、彼ら（偽信者*たち）の中には預言者*を害し、「奴は耳なのだ[1]」と言う者がある。（預言者*よ、）言ってやるのだ。「（ムハンマド*は）あなた方への善の耳なのである[2]。彼はアッラー*を信じ、信仰者たち（の言うこと）を信じる。また（彼は）、あなた方の内の信仰する者たちへの慈悲なのだ。そしてアッラー*の使徒*を害する者たち、彼らには痛ましい懲罰がある」。

وَمِنۡهُمُ ٱلَّذِينَ يُؤۡذُونَ ٱلنَّبِيَّ وَيَقُولُونَ
هُوَ أُذُنٞۚ قُلۡ أُذُنُ خَيۡرٖ لَّكُمۡ يُؤۡمِنُ بِٱللَّهِ
وَيُؤۡمِنُ لِلۡمُؤۡمِنِينَ وَرَحۡمَةٞ لِّلَّذِينَ
ءَامَنُواْ مِنكُمۡۚ وَٱلَّذِينَ يُؤۡذُونَ رَسُولَ
ٱللَّهِ لَهُمۡ عَذَابٌ أَلِيمٞ ٦١

62. 彼ら（偽信者*たち）は、あなた方（信仰者たち）を満足させようとし、あなた方のためにアッラー*に（嘘の誓いを）誓う。アッラー*とその使徒*の方が、満足させるにより相応しいというのに。もし彼らが、（本当に）信仰者であるというのならば。

يَحۡلِفُونَ بِٱللَّهِ لَكُمۡ لِيُرۡضُوكُمۡ وَٱللَّهُ
وَرَسُولُهُۥٓ أَحَقُّ أَن يُرۡضُوهُ إِن كَانُواْ
مُؤۡمِنِينَ ٦٢

63. 一体、彼ら（偽信者*たち）は知らないのか？　誰であろうと、アッラー*とその使徒*に歯向かう者、彼には永遠に留まることになる地獄の業火がある、ということを？　それはこの上ない屈辱なのである。

أَلَمۡ يَعۡلَمُوٓاْ أَنَّهُۥ مَن يُحَادِدِ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ
فَأَنَّ لَهُۥ نَارَ جَهَنَّمَ خَٰلِدٗا فِيهَاۚ
ذَٰلِكَ ٱلۡخِزۡيُ ٱلۡعَظِيمُ ٦٣

64. 偽信者*たちは、その心の内（にある不信仰）を自分たちに告げるスーラ*が、彼ら[3]に下ることを警戒している。（預言者*よ、）言ってやれ。「嘲笑しているがよい。本当にアッラー*は、あなた方が警戒しているものを暴き出されるお方なのだから」。

يَحۡذَرُ ٱلۡمُنَٰفِقُونَ أَن تُنَزَّلَ عَلَيۡهِمۡ
سُورَةٞ تُنَبِّئُهُم بِمَا فِي قُلُوبِهِمۡۚ قُلِ ٱسۡتَهۡزِءُوٓاْ
إِنَّ ٱللَّهَ مُخۡرِجٞ مَّا تَحۡذَرُونَ ٦٤

---

1 何を言っても鵜呑（うの）みにする、という蔑（さげす）みの言葉（ムヤッサル 196 頁参照）。

2 善いことのみを聞き入れる耳である、ということ（ムヤッサル 196 頁参照）。あるいは、「正直者と嘘つきを聞き分ける耳」（イブン・カスィール 4:170 参照）。

3 この「彼ら」が誰を指すかについては、「信仰者たち」「偽信者*たち」という説がある（アッ＝シャウカーニー2:536 参照）。

65. （預言者*よ、）もしもあなたが、彼らに（預言者*とその教友*たちについて何を言ったのか、と）尋ねたならば、彼らはきっと（こう）言うのだ。「私たちはふざけて、戯言を言っていただけですよ」。言ってやるがいい。「一体あなた方は、アッラー*と、その御徴と、その使徒*を嘲笑していたのか？[1]

وَلَئِن سَأَلۡتَهُمۡ لَيَقُولُنَّ إِنَّمَا كُنَّا
نَخُوضُ وَنَلۡعَبُۚ قُلۡ أَبِٱللَّهِ وَءَايَٰتِهِۦ
وَرَسُولِهِۦ كُنتُمۡ تَسۡتَهۡزِءُونَ ٦٥

66. 言い訳をするのではない。あなた方は確かにあなた方の信仰後、不信仰を犯したのだから。たとえ、われら*があなた方の内のある集団を大目に見るにしても、われら*は（別の）集団のことは罰するのだ。というのも、彼らは罪悪者だったからである」。

لَا تَعۡتَذِرُواْ قَدۡ كَفَرۡتُم بَعۡدَ إِيمَٰنِكُمۡۚ إِن
نَّعۡفُ عَن طَآئِفَةٖ مِّنكُمۡ نُعَذِّبۡ طَآئِفَةَۢ
بِأَنَّهُمۡ كَانُواْ مُجۡرِمِينَ ٦٦

67. 偽信者*の男たちと偽信者*の女たちは、同じ穴のむじなである。彼らは悪事を命じて善事を禁じ[2]、（アッラー*の道ゆえの施しから）その手を引っ込める。彼らがアッラー*を忘れたゆえに、かれも彼らのことをお忘れになった[3]のだ。本当に偽信者*たちこそは、（アッラー*とその使徒*への信仰から逸脱した、）放逸な者たちである。

ٱلۡمُنَٰفِقُونَ وَٱلۡمُنَٰفِقَٰتُ بَعۡضُهُم مِّنۢ
بَعۡضٖۚ يَأۡمُرُونَ بِٱلۡمُنكَرِ
وَيَنۡهَوۡنَ عَنِ ٱلۡمَعۡرُوفِ وَيَقۡبِضُونَ
أَيۡدِيَهُمۡۚ نَسُواْ ٱللَّهَ فَنَسِيَهُمۡۚ إِنَّ
ٱلۡمُنَٰفِقِينَ هُمُ ٱلۡفَٰسِقُونَ ٦٧

---

1 このアーヤ*は、タブークへの遠征中、偽信者*の一派が預言者*ムハンマド*とムスリム*のことを陰で笑いものにしたことに関し、下ったとされる（アッ＝タバリー5:4037-4039参照）。

2 この「悪事」と「善事」については、イムラーン家章 104 の訳注を参照。

3 彼らがアッラー*の想起を忘れたため、アッラー*は彼らをそのご慈悲から遠ざけられた（ムヤッサル 197 頁参照）。または、彼らがアッラー*のご命令を放ったらかしにしたため、アッラー*は彼らを疑念の中に放ったらかしにされた（アル＝クルトゥビー8:199 参照）。同種の表現法については、雌牛章 15 の訳注も参照。

68. アッラー*は偽信者*の男たち、偽信者*の女たち、不信仰者*たちに、永遠に留まることになる地獄の業火を約束された。それだけで、彼ら（の罰）には十分。アッラー*は彼らを呪われ給い[1]、彼らには永遠の懲罰がある。

وَعَدَ ٱللَّهُ ٱلۡمُنَٰفِقِينَ وَٱلۡمُنَٰفِقَٰتِ
وَٱلۡكُفَّارَ نَارَ جَهَنَّمَ خَٰلِدِينَ فِيهَاۚ
هِيَ حَسۡبُهُمۡۚ وَلَعَنَهُمُ ٱللَّهُۖ وَلَهُمۡ
عَذَابٞ مُّقِيمٞ ٦٨

69. （偽信者*たちよ、あなた方は、）あなた方以前の（不信仰）者*たちと同様である。彼らはあなた方より力が強く、より多くの財産と子供を有し、（現世での）その取り分を堪能していた。またあなた方も、あなた方以前の者たちが（現世での）その取り分を堪能していたように、自分たちの（現世での）取り分を堪能し、彼らが（アッラー*に対する嘘という）戯言を喋ったように、（アッラー*に対する嘘という）戯言を喋った。それらの者たちは、その行いが、現世と来世において台無しになってしまったのだ。そして彼らこそは、損失者なのである。

كَٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِكُمۡ كَانُوٓاْ أَشَدَّ مِنكُمۡ قُوَّةٗ
وَأَكۡثَرَ أَمۡوَٰلٗا وَأَوۡلَٰدٗا فَٱسۡتَمۡتَعُواْ
بِخَلَٰقِهِمۡ فَٱسۡتَمۡتَعۡتُم بِخَلَٰقِكُمۡ
كَمَا ٱسۡتَمۡتَعَ ٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِكُم
بِخَلَٰقِهِمۡ وَخُضۡتُمۡ كَٱلَّذِي خَاضُوٓاْۚ
أُوْلَٰٓئِكَ حَبِطَتۡ أَعۡمَٰلُهُمۡ فِي ٱلدُّنۡيَا
وَٱلۡأٓخِرَةِۖ وَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡخَٰسِرُونَ ٦٩

70. 彼らのもとには、ヌーフ*の民、アード*、サムード*、イブラーヒーム*の民、マドゥヤン*の仲間たち、転覆した町々[2]といった、それ以前の者たちの知らせが届かなかったのか？　彼らの使徒*たちは、彼らのもとに（その正しさを証明する）明証を携えて到来した（が、彼らは使徒*たちを嘘つき呼ばわりしたので、アッラー*に滅ぼされたのだ）。アッラー*が彼らに不正*を働くなどということは、あるべくもなかった。しかし彼らが、自分自身に不正*を働いていたのである。

أَلَمۡ يَأۡتِهِمۡ نَبَأُ ٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِهِمۡ قَوۡمِ
نُوحٖ وَعَادٖ وَثَمُودَ وَقَوۡمِ إِبۡرَٰهِيمَ
وَأَصۡحَٰبِ مَدۡيَنَ وَٱلۡمُؤۡتَفِكَٰتِۚ أَتَتۡهُمۡ
رُسُلُهُم بِٱلۡبَيِّنَٰتِۖ فَمَا كَانَ ٱللَّهُ لِيَظۡلِمَهُمۡ
وَلَٰكِن كَانُوٓاْ أَنفُسَهُمۡ يَظۡلِمُونَ ٧٠

---

1 「アッラー*の呪い」に関しては、雌牛章 88 の訳注を参照。

2 「転覆した町々」とは、複数の町に居住していた、ルート*の民のこと。あるいはそれらの中心であった、サドームの町のこと（イブン・カスィール 4:174 参照）。この名称の由来、およびそれらが滅ぼされた時の様子については、フード*章 82-83、アル＝ヒジュル章 73-74 を参照。

71. また、信仰者の男たちと信仰者の女たちは、互いに盟友である。彼らは善事を命じて悪事を禁じ[1]、礼拝を遵守し*、浄財*を施し、アッラー*とその使徒*に従う。それらの者たち、アッラー*は彼らに、ご慈悲をおかけになるのだ。本当にアッラーは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方なのだから。

وَٱلْمُؤْمِنُونَ وَٱلْمُؤْمِنَٰتُ بَعْضُهُمْ أَوْلِيَآءُ
بَعْضٍ ۚ يَأْمُرُونَ بِٱلْمَعْرُوفِ وَيَنْهَوْنَ عَنِ
ٱلْمُنكَرِ وَيُقِيمُونَ ٱلصَّلَوٰةَ وَيُؤْتُونَ
ٱلزَّكَوٰةَ وَيُطِيعُونَ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥٓ ۚ أُو۟لَٰٓئِكَ
سَيَرْحَمُهُمُ ٱللَّهُ ۗ إِنَّ ٱللَّهَ عَزِيزٌ حَكِيمٌ ٧١

72. アッラー*は信仰者の男たちと信仰者の女たちに、彼らが永遠に留まることになる、その下から河川が流れる楽園を約束された。また、永久の楽園の麗しき住まいも（約束された）。そしてアッラー*のご満悦は、更に大きい（享楽）。それこそはこの上ない勝利なのだ。

وَعَدَ ٱللَّهُ ٱلْمُؤْمِنِينَ وَٱلْمُؤْمِنَٰتِ جَنَّٰتٍ
تَجْرِى مِن تَحْتِهَا ٱلْأَنْهَٰرُ خَٰلِدِينَ فِيهَا
وَمَسَٰكِنَ طَيِّبَةً فِى جَنَّٰتِ عَدْنٍ ۚ وَرِضْوَٰنٌ
مِّنَ ٱللَّهِ أَكْبَرُ ۚ ذَٰلِكَ هُوَ ٱلْفَوْزُ
ٱلْعَظِيمُ ٧٢

73. 預言者*よ、不信仰者*たちと偽信者*らに対して努力奮闘し、彼らに厳しくあれ。彼らの住処は地獄なのだ。そしてその行き先は、何と醜悪であろうか。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّبِىُّ جَٰهِدِ ٱلْكُفَّارَ وَٱلْمُنَٰفِقِينَ
وَٱغْلُظْ عَلَيْهِمْ ۚ وَمَأْوَىٰهُمْ جَهَنَّمُ ۖ وَبِئْسَ
ٱلْمَصِيرُ ٧٣

74. 彼ら（偽信者*たち）は、自分たちは（預言者*とその教友*たちの悪口など）言っていない[2]と言って、アッラー*に誓う。彼らは確かに不信仰の言葉を口にし、服従（イスラーム*）後に不信仰に陥り、彼らが（結局は）達成できなかったこと[3]を意図したのである。彼らは（使徒*を）咎めたが、実にアッラー*とその使徒*はその恩寵により、彼らを富ませて下さったに外ならな

يَحْلِفُونَ بِٱللَّهِ مَا قَالُوا۟ وَلَقَدْ قَالُوا۟ كَلِمَةَ
ٱلْكُفْرِ وَكَفَرُوا۟ بَعْدَ إِسْلَٰمِهِمْ وَهَمُّوا۟ بِمَا
لَمْ يَنَالُوا۟ ۚ وَمَا نَقَمُوٓا۟ إِلَّآ أَنْ أَغْنَىٰهُمُ ٱللَّهُ
وَرَسُولُهُۥ مِن فَضْلِهِۦ ۚ فَإِن يَتُوبُوا۟ يَكُ خَيْرًا
لَّهُمْ ۖ وَإِن يَتَوَلَّوْا۟ يُعَذِّبْهُمُ ٱللَّهُ عَذَابًا
أَلِيمًا فِى ٱلدُّنْيَا وَٱلْءَاخِرَةِ ۚ وَمَا لَهُمْ فِى
ٱلْأَرْضِ مِن وَلِىٍّ وَلَا نَصِيرٍ ٧٤

---

1 「善事を命じて…」については、イムラーン家章 104 の訳注を参照。

2 この背景にある出来事については、アーヤ*64-66 を参照。

3 つまり、アッラー*の使徒*に危害を加えること（ムヤッサル 199 頁参照）。

いのである[1]。もし彼らが悔悟するなら、それが彼らにとってより善いのである。けれども、もし背き去るのであれば、かれ(アッラー*)は現世と来世において彼らを痛ましい懲罰で罰され給う。そして彼らには地上において、いかなる庇護者も援助者もないのだ。

75. 彼ら（偽信者*たち）の中には、アッラー*に対して（このように誓って）約束した者がある。「もしも、かれ（アッラー*）がそのご恩寵から私たちに授けて下さったら、私たちは必ずや（そこから）施し、必ずや正しい者*たちの仲間入りをしましょう」。

۞وَمِنْهُم مَّنْ عَٰهَدَ ٱللَّهَ لَئِنْ ءَاتَىٰنَا مِن
فَضْلِهِۦ لَنَصَّدَّقَنَّ وَلَنَكُونَنَّ مِنَ
ٱلصَّٰلِحِينَ ﴿٧٥﴾

76. そして、かれがそのご恩寵から彼らにお授けになれば、彼らはそれを出し惜しみし、（イスラーム*から）身を翻して背を向けたのである。

فَلَمَّآ ءَاتَىٰهُم مِّن فَضْلِهِۦ بَخِلُوا۟ بِهِۦ
وَتَوَلَّوا۟ وَّهُم مُّعْرِضُونَ ﴿٧٦﴾

77. それでかれ（アッラー*）は、彼らがかれと拝謁することになる（復活の）日*まで、その心の中の偽信（の増加）を、彼らの（行いの）帰結とされた。それというのも彼らがアッラー*に対して、かれに約束したことを破り、嘘をついていたためなのである。

فَأَعْقَبَهُمْ نِفَاقًا فِى قُلُوبِهِمْ إِلَىٰ يَوْمِ يَلْقَوْنَهُۥ
بِمَآ أَخْلَفُوا۟ ٱللَّهَ مَا وَعَدُوهُ وَبِمَا كَانُوا۟
يَكْذِبُونَ ﴿٧٧﴾

78. 一体、彼らは知らなかったのか？　アッラー*が彼らの秘密も密談もご存知であり、アッラー*が不可視の世界*を熟知されるお方であるということを？

أَلَمْ يَعْلَمُوٓا۟ أَنَّ ٱللَّهَ يَعْلَمُ سِرَّهُمْ
وَنَجْوَىٰهُمْ وَأَنَّ ٱللَّهَ عَلَّٰمُ ٱلْغُيُوبِ ﴿٧٨﴾

---

1 偽信者*に代表されるある種の人々は、アッラー*が預言者*ムハンマド*にお授けになった恩恵や祝福の数々を享受したにも関わらず、恩知らずな態度を変えなかった（ムヤッサル199 頁参照）。

79. （彼らは）信仰者たちの内、率先して施す（豊かな）者たちや、自分たちの能力分しか（施し物を）見出せない（貧しい）者たちのことをけなし、彼らを嘲笑する者たち[1]。アッラー*が、彼らのことを嘲笑された[2]のである。そして彼らには、痛ましい懲罰があるのだ。

ٱلَّذِينَ يَلۡمِزُونَ ٱلۡمُطَّوِّعِينَ مِنَ
ٱلۡمُؤۡمِنِينَ فِي ٱلصَّدَقَٰتِ وَٱلَّذِينَ لَا
يَجِدُونَ إِلَّا جُهۡدَهُمۡ فَيَسۡخَرُونَ مِنۡهُمۡ
سَخِرَ ٱللَّهُ مِنۡهُمۡ وَلَهُمۡ عَذَابٌ أَلِيمٌ ٧٩

80. （使徒*よ、）彼らのために（アッラー*に）お赦しを乞うがいい。あるいは、彼らのためにお赦しを乞うのではない。たとえ、あなたが彼らのために七十回[3]赦しを乞うても、アッラー*は決して彼らをお赦しにはなるまい。それというのも、彼らはアッラー*とその使徒*を否定したからである。アッラー*は、放逸な民をお導きにはならないのだ。

ٱسۡتَغۡفِرۡ لَهُمۡ أَوۡ لَا تَسۡتَغۡفِرۡ لَهُمۡ إِن تَسۡتَغۡفِرۡ
لَهُمۡ سَبۡعِينَ مَرَّةٗ فَلَن يَغۡفِرَ ٱللَّهُ لَهُمۡۚ ذَٰلِكَ
بِأَنَّهُمۡ كَفَرُواْ بِٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦۗ وَٱللَّهُ
لَا يَهۡدِي ٱلۡقَوۡمَ ٱلۡفَٰسِقِينَ ٨٠

81. （タブークの戦い*へと出征せず、）アッラー*の使徒*に反した状態で[4]（マディーナ*に）居残らされた（偽信）者*たち[5]は、その居残りに有頂天になった。そして、彼らは自分たちの財産と生命をかけてアッラー*の道に努力奮闘することを嫌い、（互いにこう）言ったのだ。「暑さの中、出征することはないぞ」。（使徒*よ、）言ってや

فَرِحَ ٱلۡمُخَلَّفُونَ بِمَقۡعَدِهِمۡ خِلَٰفَ رَسُولِ ٱللَّهِ
وَكَرِهُوٓاْ أَن يُجَٰهِدُواْ بِأَمۡوَٰلِهِمۡ وَأَنفُسِهِمۡ
فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ وَقَالُواْ لَا تَنفِرُواْ فِي ٱلۡحَرِّۗ قُلۡ
نَارُ جَهَنَّمَ أَشَدُّ حَرّٗاۚ لَّوۡ كَانُواْ يَفۡقَهُونَ ٨١

---

1 沢山のものを施す者には「見せびらかしだ」と言い、僅かなものを施す者には「アッラー*はこんな施しなど、必要とはされない」などと言った者たちがいたのだという（アル＝ブハーリー1415 参照）。

2 この表現については、雌牛章 15 の訳注を参照。

3 この「七十回」は文字通りの意味ではなく、「単に数の多さを示す表現である」という説と、文字通りの意味である、という説がある（イブン・カスィール 4:188 参照）。

4 一説には、「アッラー*の使徒*の後方に」という意味（アル＝バガウィー2:374 参照）。

5 「自ら居残った者たち」でなく「居残らされた者たち」と表現されているのは、一説に、もし彼らが共に出征すれば悪事や面倒を起こすことになるのを知っていた預言者*が、彼らの出征を禁じたからである（アッ＝ラーズィー6:113 参照）。

るがいい。「地獄の業火は、もっと熱さが厳しいぞ」。もし彼らが、（そのことを）理解していたならば。

82. ならば、彼らが稼いでいたもの（不信仰）の報いゆえ、彼らを（現世で）少し笑わせておき、（地獄で）沢山泣かせておくがよい。

فَلْيَضْحَكُوا قَلِيلًا وَلْيَبْكُوا كَثِيرًا جَزَاءً بِمَا
كَانُوا يَكْسِبُونَ ٨٢

83. （使徒*よ、）アッラー*があなたを、彼ら（偽信者*たち）の内の一派のもとへと（タブークの戦い*から）帰還させ給い、彼らがあなたに（次の戦いの）出征の許可を請うたら、言ってやるのだ。「あなた方は断じて、私と共に出征することはないし、私と共に敵と戦うこともあるまい。本当にあなた方は最初、（出征せずに）居残ることに満足したのだから。ならば、後方に居残る者たち[1]と共に居残っているがよい」。

فَإِن رَّجَعَكَ ٱللَّهُ إِلَىٰ طَآئِفَةٍ مِّنْهُمْ
فَٱسْتَـْٔذَنُوكَ لِلْخُرُوجِ فَقُل لَّن تَخْرُجُوا۟ مَعِىَ
أَبَدًا وَلَن تُقَـٰتِلُوا۟ مَعِىَ عَدُوًّا ۖ إِنَّكُمْ رَضِيتُم
بِٱلْقُعُودِ أَوَّلَ مَرَّةٍ فَٱقْعُدُوا۟ مَعَ ٱلْخَـٰلِفِينَ ٨٣

84. また（使徒*よ）、彼ら（偽信者*たち）の内の他界した誰かのために、断じて祈ってはならない。また（祈願のために）、その墓に立ってもならない。本当に彼らはアッラー*とその使徒*を否定したのであり、放逸な（偽信）者*として死んだのだから。

وَلَا تُصَلِّ عَلَىٰٓ أَحَدٍ مِّنْهُم مَّاتَ أَبَدًا وَلَا تَقُمْ
عَلَىٰ قَبْرِهِۦٓ ۖ إِنَّهُمْ كَفَرُوا۟ بِٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦ وَمَاتُوا۟
وَهُمْ فَـٰسِقُونَ ٨٤

85. そして（預言者*よ、われら*が彼らに与えた）その財産や子供に、心引かれてはならない。実にアッラー*はそれらによって、現世で彼らを罰し給い[2]、彼らが不信仰者*として事切れることを、まさにお望みなのだから。

وَلَا تُعْجِبْكَ أَمْوَٰلُهُمْ وَأَوْلَـٰدُهُمْ ۚ إِنَّمَا يُرِيدُ ٱللَّهُ
أَن يُعَذِّبَهُم بِهَا فِى ٱلدُّنْيَا وَتَزْهَقَ أَنفُسُهُمْ
وَهُمْ كَـٰفِرُونَ ٨٥

1 「後方に居残る者たち」の解釈には、「後方に居残る偽信者*たち」「女性や弱い男性たち」「放逸な者たち」といった説がある（アル＝クルトゥビー8:218 参照）。

2 アーヤ*55 の同様の件（くだり）の訳注も参照。

86. また、アッラー*を信じ、その使徒*と共に努力奮闘せよ、というスーラ*が下った時、彼ら（偽信者*たち）の内の裕福な者たちはあなたに、（出征せずに居残る）許しを請い、（こう）言った。「私たちを放っておいて下さい。私たちは、居残る者たち[1]と一緒にいます」。

وَإِذَآ أُنزِلَتۡ سُورَةٌ أَنۡ ءَامِنُواْ بِٱللَّهِ وَجَٰهِدُواْ
مَعَ رَسُولِهِ ٱسۡتَـٔۡذَنَكَ أُوْلُواْ ٱلطَّوۡلِ مِنۡهُمۡ
وَقَالُواْ ذَرۡنَا نَكُن مَّعَ ٱلۡقَٰعِدِينَ ٨٦

87. 彼ら（偽信者*たち）は、（出征せずに）後方に居残る者たち[2]と共にあることに満足し、その心は（偽の信仰と居残りゆえに）塞がれた。ゆえに彼らは、理解することがない。

رَضُواْ بِأَن يَكُونُواْ مَعَ ٱلۡخَوَالِفِ وَطُبِعَ عَلَىٰ
قُلُوبِهِمۡ فَهُمۡ لَا يَفۡقَهُونَ ٨٧

88. しかし使徒*と、彼と共に信仰する者たちは、その財産と生命をかけて努力奮闘した。それらの者たち、彼らには善きものがあり[3]、それらの者たちこそは成功者なのである。

لَٰكِنِ ٱلرَّسُولُ وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ مَعَهُۥ
جَٰهَدُواْ بِأَمۡوَٰلِهِمۡ وَأَنفُسِهِمۡۚ وَأُوْلَٰٓئِكَ
لَهُمُ ٱلۡخَيۡرَٰتُۖ وَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡمُفۡلِحُونَ ٨٨

89. アッラー*は彼らのために、その下から河川が流れる楽園をご用意なされた。彼らはそこに永遠に留まる。それは、この上ない勝利なのだ。

أَعَدَّ ٱللَّهُ لَهُمۡ جَنَّٰتٖ تَجۡرِي مِن تَحۡتِهَا
ٱلۡأَنۡهَٰرُ خَٰلِدِينَ فِيهَاۚ ذَٰلِكَ ٱلۡفَوۡزُ
ٱلۡعَظِيمُ ٨٩

90. また（出征の免除の）許しをもらうため、ベドウィンの弁解者たち[4]がやって来た。そしてアッラー*とその使徒*に嘘をついた者たちが、（後方に）居残ったのである。彼らの内、不信仰だった者*たちには、（現世

وَجَآءَ ٱلۡمُعَذِّرُونَ مِنَ ٱلۡأَعۡرَابِ لِيُؤۡذَنَ لَهُمۡ
وَقَعَدَ ٱلَّذِينَ كَذَبُواْ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥۚ سَيُصِيبُ
ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ مِنۡهُمۡ عَذَابٌ أَلِيمٞ ٩٠

1 この「居残る者たち」については、アーヤ*46の訳注を参照。

2 「後方に居残る者たち」については、アーヤ* 46「居残る者たち」の訳注を参照。

3 現世では勝利や戦利品*など、そして来世においてはこの上ない栄誉を得る（ムヤッサル 201 頁参照）。

4 これは、マディーナ*近郊にいたベドウィンたちの内、マディーナ*にやって来て、預言者*に自分たちの弱さと無力さを訴（うった）え、出征しなくてもよい許しを請うた者たちのこと。このアーヤ*の「居残った」者たちは、正当な言い訳のなかった別の民であるとされる（ムヤッサル 201 頁参照）。

と来世において）痛ましい懲罰が襲いかかるであろう。

91. 弱者にも、病人にも、（出征に）費すものを見出せない者にも、（出征せずに居残ることの）罪はない。もし、アッラー*とその使徒*に誠実であるのなら。善を尽くす者[1]たちに、（罰される）筋合いはないのである。アッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方。

لَّيْسَ عَلَى الضُّعَفَاءِ وَلَا عَلَى الْمَرْضَىٰ وَلَا عَلَى
الَّذِينَ لَا يَجِدُونَ مَا يُنفِقُونَ حَرَجٌ إِذَا
نَصَحُوا لِلَّهِ وَرَسُولِهِ ۚ مَا عَلَى الْمُحْسِنِينَ
مِن سَبِيلٍ ۚ وَاللَّهُ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ٩١

92. また（使徒*よ、）自分たちを（出征のため、乗用の家畜に）乗せてくれるようにと、あなたの所にやって来たものの、あなたが「あなた方を乗せる（余分な）もの（家畜）はない」と言った者たちにも（、罪はない）。彼らは（出征のために）費すものを見出せずに悲しみ、その目からは涙を溢れ出させながら、引き返して行ったのである。

وَلَا عَلَى الَّذِينَ إِذَا مَا أَتَوْكَ لِتَحْمِلَهُمْ
قُلْتَ لَا أَجِدُ مَا أَحْمِلُكُمْ عَلَيْهِ
تَوَلَّوا وَّأَعْيُنُهُمْ تَفِيضُ مِنَ الدَّمْعِ حَزَنًا
أَلَّا يَجِدُوا مَا يُنفِقُونَ ٩٢

93. 咎められるべきは、裕福であるにも関わらず、（出征せずに居残る）許しをあなたに乞う（偽信）者*たちにこそある。彼らは、後方に居残る者たち[2]と共にあることに満足し、アッラー*は彼らの心を（偽の信仰ゆえに）塞がれた。それで彼らは、（自分たちの悪い結末を）知ることもないのだ。

۞ إِنَّمَا السَّبِيلُ عَلَى الَّذِينَ يَسْتَأْذِنُونَكَ
وَهُمْ أَغْنِيَاءُ ۚ رَضُوا بِأَن يَكُونُوا مَعَ الْخَوَالِفِ
وَطَبَعَ اللَّهُ عَلَىٰ قُلُوبِهِمْ فَهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ٩٣

94. （信仰者たちよ、）あなた方が（タブークの戦い*から）彼らのもとに戻って来た時、彼らはあなた方に（嘘の）言い訳をする。（使徒*よ、）言ってやるのだ。「言い訳するのではない。私たちはあなた方のことを、信じないのだから。アッラー*は、あなた方

يَعْتَذِرُونَ إِلَيْكُمْ إِذَا رَجَعْتُمْ إِلَيْهِمْ ۚ
قُل لَّا تَعْتَذِرُوا لَن نُّؤْمِنَ لَكُمْ قَدْ
نَبَّأَنَا اللَّهُ مِنْ أَخْبَارِكُمْ ۚ وَسَيَرَى اللَّهُ
عَمَلَكُمْ وَرَسُولُهُ ثُمَّ تُرَدُّونَ إِلَىٰ عَالِمِ
الْغَيْبِ وَالشَّهَادَةِ فَيُنَبِّئُكُم بِمَا كُنتُمْ
تَعْمَلُونَ ٩٤

---

1 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

2 「後方に居残る者たち」については、アーヤ*46「居残る者たち」の訳注を参照。

の消息の一部を、私たちに確かにお告げになったのだ。アッラー*はあなた方の行いをご覧になり、その使徒*もまた（そうする）[1]。それからあなた方は不可視の世界*も現象界[2]もご存知のお方の御許へと返され、かれはあなた方が（現世で）行っていたことについて、あなた方にお告げになる」。

95. あなた方が彼ら（偽信者*たち）のもとに帰れば、彼らはあなた方が（問い詰めることなく）自分たちから離れ去るようにと、あなた方に対し（嘘の言い訳で）アッラー*に誓うであろう。ならば、彼らから離れ去るがよい。彼らは穢れ[3]なのであり、彼らの住処は、彼らが稼いでいたことによる報いゆえの地獄なのだから。

سَيَحْلِفُونَ بِٱللَّهِ لَكُمْ إِذَا ٱنقَلَبْتُمْ
إِلَيْهِمْ لِتُعْرِضُوا۟ عَنْهُمْ ۖ فَأَعْرِضُوا۟ عَنْهُمْ ۖ
إِنَّهُمْ رِجْسٌ ۖ وَمَأْوَىٰهُمْ جَهَنَّمُ جَزَآءًۢ بِمَا
كَانُوا۟ يَكْسِبُونَ ٩٥

96. 彼ら（偽信者*たち）は、あなた方が自分たちに満足してくれるようにと、あなた方に対し、（偽って）誓う。そして、たとえあなた方が彼らに満足したとしても、（そんなものは彼らの役には立たない、）本当にアッラー*が放逸な民を喜ばれることはないのだから。

يَحْلِفُونَ لَكُمْ لِتَرْضَوْا۟ عَنْهُمْ ۖ فَإِن
تَرْضَوْا۟ عَنْهُمْ فَإِنَّ ٱللَّهَ لَا يَرْضَىٰ عَنِ
ٱلْقَوْمِ ٱلْفَٰسِقِينَ ٩٦

97. ベドウィンたち[4]は不信仰と偽信において（町の民）よりひどく、アッラー*がその使徒*に下された決まりについて無知なのも、より当然なのだ[5]。アッラー*は全知者、英知あふれる*お方である。

ٱلْأَعْرَابُ أَشَدُّ كُفْرًا وَنِفَاقًا وَأَجْدَرُ أَلَّا
يَعْلَمُوا۟ حُدُودَ مَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ عَلَىٰ رَسُولِهِۦ ۗ
وَٱللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٌ ٩٧

1 悔悟するかどうか、ご覧になるということ（ムヤッサル 202 頁参照）。

2 「現象界」については、家畜章 73 の訳注を参照。

3 この「穢れ」については、アーヤ*28「不浄」の訳注も参照。

4 砂漠の民のこと。ここではベドウィンの内の偽信者*を指す（アル＝クルトゥビー8:231 参照）。

5 これはベドウィンが粗暴（そぼう）かつ頑固で、知識や学者、訓戒や教訓の場から疎遠（そえん）であるため（ムヤッサル 202 頁参照）。アーヤ*98、99 も参照。

98. また、ベドウィンたちの中には自(みずか)らが費(つい)やすもの[1]を罰金(ばっきん)ととらえ、あなた方に（状況の）暗転を待ち望んでいる者がいる。彼らの方にこそ、悪しき暗転があるのだ。アッラー*はよくお聴きになるお方、全知者であられる。

وَمِنَ ٱلْأَعْرَابِ مَن يَتَّخِذُ مَا يُنفِقُ
مَغْرَمًا وَيَتَرَبَّصُ بِكُمُ ٱلدَّوَآئِرَ ۚ عَلَيْهِمْ
دَآئِرَةُ ٱلسَّوْءِ ۗ وَٱللَّهُ سَمِيعٌ عَلِيمٌ ٩٨

99. またベドウィンたちの中にも、アッラー*と最後の日*を信じ、自(みずか)らが費(つい)やすものをアッラー*の御許(みもと)での（かれへの）お近づきと、（自分への）使徒(しと)*の祈願(きがん)（の手段）としてとらえる者たちがいる。本当にそれは、彼らにとって（アッラー*への）お近づき（の手段）なのではないか。アッラー*は彼らを、（天国という）そのご慈悲の中にお入れになろう。本当にアッラーは赦(ゆる)し深いお方、慈(じ)愛(あい)深い*お方なのだ。

وَمِنَ ٱلْأَعْرَابِ مَن يُؤْمِنُ بِٱللَّهِ وَٱلْيَوْمِ
ٱلْـَٔاخِرِ وَيَتَّخِذُ مَا يُنفِقُ قُرُبَٰتٍ عِندَ ٱللَّهِ
وَصَلَوَٰتِ ٱلرَّسُولِ ۚ أَلَآ إِنَّهَا قُرْبَةٌ لَّهُمْ ۚ
سَيُدْخِلُهُمُ ٱللَّهُ فِى رَحْمَتِهِۦٓ ۗ إِنَّ ٱللَّهَ
غَفُورٌ رَّحِيمٌ ٩٩

100. ムハージルーン*とアンサール*の内、先人の先駆(さきが)け[2]たちと、善を尽(つ)くして彼らに従(したが)った者[3]たち、アッラー*は彼らをお喜びになり、彼らもアッラー*に満足する。そしてかれ（アッラー*）は彼らのために、その下を河川(かせん)が流れる楽園を用意されている。彼らはそこに、ずっと永遠に留(とど)まる。それは、この上ない勝利なのだ。[4]

وَٱلسَّٰبِقُونَ ٱلْأَوَّلُونَ مِنَ ٱلْمُهَٰجِرِينَ
وَٱلْأَنصَارِ وَٱلَّذِينَ ٱتَّبَعُوهُم بِإِحْسَٰنٍ
رَّضِىَ ٱللَّهُ عَنْهُمْ وَرَضُوا۟ عَنْهُ وَأَعَدَّ لَهُمْ
جَنَّٰتٍ تَجْرِى تَحْتَهَا ٱلْأَنْهَٰرُ خَٰلِدِينَ
فِيهَآ أَبَدًا ۚ ذَٰلِكَ ٱلْفَوْزُ ٱلْعَظِيمُ ١٠٠

---

1 不信仰者*との戦いや、ムスリム*への援助、アッラー*がお勧めになる物事などにおける出費のこと（アッ＝タバリー5:4085 参照）。

2 アッラー*とその使徒*への信仰を早くから受け入れた者たちの内、自分たちの民や家族を離れて移住*したムハージルーン*と、不信仰者*に対して彼らを援助したアンサール*のこと（ムヤッサル 203 頁参照）。

3 アッラー*のご満悦を求めて、信仰と言行において善を尽くし、彼ら先人たちの道に続く者たちのこと（ムヤッサル 203 頁参照）。蜜蜂章 128 の訳注も参照。

4 このアーヤ*にもあるように、教友*たちへの敬意は信仰の基本の一つである（前掲書、同頁参照）。

101. またベドウィンたちの内、あなた方（マディーナ*の住民）の周りにいる者たちの中には、偽信者*がいる。そして、マディーナの住民の中にも（同様に）。彼らは偽の信仰にしがみついて（、放埓さを更に上乗せして）いるのだ。（使徒*よ、）あなたは彼らのことを知らない。（しかし）われら*は、彼らのことを知っている。われらは彼らを、二度に亘って罰してやろう[1]。それから彼らは（復活の日）、この上ない懲罰へと戻されることになるのだ。

وَمِمَّنْ حَوْلَكُم مِّنَ ٱلْأَعْرَابِ مُنَٰفِقُونَ ۖ
وَمِنْ أَهْلِ ٱلْمَدِينَةِ مَرَدُوا۟ عَلَى ٱلنِّفَاقِ لَا
تَعْلَمُهُمْ ۖ نَحْنُ نَعْلَمُهُمْ ۚ سَنُعَذِّبُهُم
مَّرَّتَيْنِ ثُمَّ يُرَدُّونَ إِلَىٰ عَذَابٍ عَظِيمٍ ١٠١

102. また（マディーナ*の周りのベドウィンと、マディーナ*の住民の中には、）自分たちの罪を認めた、別の者たち[2]がいる。彼らは正しい行い*と、別の悪（い行い）[3]を混在させた。恐らくアッラー*は、彼らの悔悟を受け入れて下さるであろう。本当にアッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。

وَءَاخَرُونَ ٱعْتَرَفُوا۟ بِذُنُوبِهِمْ خَلَطُوا۟ عَمَلًا
صَٰلِحًا وَءَاخَرَ سَيِّئًا عَسَى ٱللَّهُ أَن يَتُوبَ
عَلَيْهِمْ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ١٠٢

103. （預言者*よ、）彼ら[4]の財産から施しを取るがよい。あなたはそれで彼らを清め、育んでやる[5]。そして彼らのために、（罪

خُذْ مِنْ أَمْوَٰلِهِمْ صَدَقَةً تُطَهِّرُهُمْ وَتُزَكِّيهِم بِهَا
وَصَلِّ عَلَيْهِمْ ۖ إِنَّ صَلَوٰتَكَ سَكَنٌ لَّهُمْ ۗ وَٱللَّهُ
سَمِيعٌ عَلِيمٌ ١٠٣

---

1 この「二度の懲罰」の一つ目は、殺害、拘束、彼らの秘密の暴露（ばくろ）など現世におけるもので、二つ目は死後、墓の中での懲罰（信仰者たち章 100「障壁」の訳注も参照）のことであるとされる（前掲書、同頁参照）。

2 一説にこのアーヤ*は、タブークの戦い*に出征せずに居残ったが、預言者*たちがマディーナ*に帰還した際に自分たちをマスジド*の柱にくくりつけ、預言者*が赦してくれるまではそのままでいる、と誓った者たちについて下った。同様にどんなに罪深い者でも、悔悟する信仰者は赦される（イブン・カスィール 4:206 参照）。

3 この「正しい行い*」は、悔悟、後悔、罪の認識などのこと。「悪い行い」は使徒*の命令に背いて出征しなかったことを始めとした、その他全ての悪行（ムヤッサル 203 頁参照）。

4 この「彼ら」とは、アーヤ*102 の「別の者たち」のこと（前掲書、同頁参照）。

5 彼らの善き品性と正しい行い*を育み、その現世と来世における褒美を上乗せし、その財産を増やしてやる（頻出名・用語解説「浄財*」も参照）、ということ（アッ＝サアディー350 頁参照）。

の赦しを）祈ってやるのだ。本当にあなたの祈願は、彼らにとって（心の）静寂なのだから。アッラー*はよく聴かれるお方、全知者であられる。

104. 一体、彼らはアッラー*こそが、その僕たちから悔悟をお受け入れになり、施しをお受け取りになることを知らないのか？そしてアッラー*こそが、よく悔悟をお受け入れになる*お方、慈愛深き*お方であることを？

أَلَمۡ يَعۡلَمُوٓاْ أَنَّ ٱللَّهَ هُوَ يَقۡبَلُ ٱلتَّوۡبَةَ عَنۡ
عِبَادِهِۦ وَيَأۡخُذُ ٱلصَّدَقَٰتِ وَأَنَّ ٱللَّهَ هُوَ
ٱلتَّوَّابُ ٱلرَّحِيمُ ١٠٤

105. （預言者*よ、彼らに）言ってやるのだ。「（アッラー*がお喜びになることを、）行え。アッラー*は、あなた方の行いをご覧になるだろうから。また、その使徒*と信仰者たちも（あなた方の行いを見るだろう）。そしてあなた方は、不可視の世界*も現象界[1]もご存知のお方の御許へと返され、かれはあなた方が（現世で）行っていたことについて、あなた方にお告げになろう」。

وَقُلِ ٱعۡمَلُواْ فَسَيَرَى ٱللَّهُ عَمَلَكُمۡ وَرَسُولُهُۥ
وَٱلۡمُؤۡمِنُونَۖ وَسَتُرَدُّونَ إِلَىٰ عَٰلِمِ ٱلۡغَيۡبِ
وَٱلشَّهَٰدَةِ فَيُنَبِّئُكُم بِمَا كُنتُمۡ تَعۡمَلُونَ ١٠٥

106. また（出征の命令に応じなかった者たちの内、その処分について）、アッラー*のご裁決を見合わされている別の者たち[2]、かれ（アッラー*）は彼らを罰されるか、あるいはその悔悟を受け入れられるかされるであろう。アッラー*は全知者、英知あふれる*お方である。

وَءَاخَرُونَ مُرۡجَوۡنَ لِأَمۡرِ ٱللَّهِ إِمَّا يُعَذِّبُهُمۡ
وَإِمَّا يَتُوبُ عَلَيۡهِمۡۗ وَٱللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٞ ١٠٦

1 「現象界」については、家畜章 73 の訳注を参照。

2 これはアーヤ*102 で言及されている者たちとは別で、アーヤ*118 の訳注に言及されている三人のことである、とされる（ムヤッサル 203 頁参照）。

107. また（出征の命令に応じなかった者たちの内には）、マスジド*を（信仰者たちへの）害悪と不信仰、信仰者たちの間の分断と、（それ）以前にアッラー*とその使徒*に戦いを仕掛けた者を待ち受けるためのものとする者たちがいる[1]。彼らは実に、（こう）誓うのだ。「私たちは（その建設において）、善いことを望んだだけなのです」。アッラー*は本当に彼らが、まさしく嘘つきであることを証言し給う。

وَٱلَّذِينَ ٱتَّخَذُواْ مَسۡجِدٗا ضِرَارٗا
وَكُفۡرٗا وَتَفۡرِيقَۢا بَيۡنَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ
وَإِرۡصَادٗا لِّمَنۡ حَارَبَ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ مِن
قَبۡلُۚ وَلَيَحۡلِفُنَّ إِنۡ أَرَدۡنَآ إِلَّا ٱلۡحُسۡنَىٰۖ
وَٱللَّهُ يَشۡهَدُ إِنَّهُمۡ لَكَٰذِبُونَ ١٠٧

108. （預言者*よ、）そこには決して（礼拝のため）立つのではない。最初の日から敬虔さに基づいて築かれたマスジド[2]こそは、あなたが（礼拝に）立つにふさわしいのだから。そこには、自らをよく清めること[3]を愛する者たちがいる。アッラー*は、自らをよく清める者をお好みになるのだ。

لَا تَقُمۡ فِيهِ أَبَدٗاۚ لَّمَسۡجِدٌ أُسِّسَ عَلَى ٱلتَّقۡوَىٰ
مِنۡ أَوَّلِ يَوۡمٍ أَحَقُّ أَن تَقُومَ فِيهِۚ فِيهِ
رِجَالٞ يُحِبُّونَ أَن يَتَطَهَّرُواْۚ وَٱللَّهُ يُحِبُّ
ٱلۡمُطَّهِّرِينَ ١٠٨

---

1 マディーナ*には、ムスリム*たちがそこに移住*した後、彼らを憎み、様々な策謀（さくぼう）を計画した、アブー・アーミル・アッ＝ラーヒブという男がいた。しかしムスリム*たちが勢力を強めた後、彼は「ローマ軍を従えてマディーナ*を攻撃するから、砦（とりで）を用意しておくように」とマディーナ*の偽信者*たちに約束し、ローマ帝国に亡命する。それに応じて偽信者*らは、ムスリム*軍がタブークに出征する前、マディーナ*のクバー・マスジド（アーヤ*108「マスジド*」の訳注も参照）近くに彼らのマスジド*を建てた。雨夜などにそこに行けない人々のため、という名目だったが、実際は礼拝者たちの分断やムスリム*に対する策謀の場とすることを目的としていた。預言者*はそこで礼拝するよう頼まれたが、タブークの戦い*からマディーナ*に戻る途中、このアーヤ*が啓示された。結局そのマスジド*は、破壊された（イブン・カスィール 4:210-212 参照）。

2 アーヤ*107 の訳注にもあるように、これはイスラーム*史上初のマスジド*であるクバー・マスジドのことであるとされる。イスラーム*において二番目に徳がある預言者*マスジド*が、クバー・マスジドよりも礼拝するにふさわしい場所であることは、言うまでもない（ムヤッサル 204 頁参照）。

3 水で身の汚れを清め、罪の赦しを乞うことと敬虔さ*により、心の罪を清めること（前掲書、同頁参照）。

109. 一体、アッラー*への畏れ*の念と、かれのお喜び（を追求すること）に基づいてその建物を築く者の方が善いのか、それとも崩れかかった崖のほとりにその建物を築き、それと一緒に地獄の業火へと崩れ落ちてしまう者（の方が善いの）か？アッラー*は、不正*者である民をお導きにはならないのだ。

أَفَمَنْ أَسَّسَ بُنْيَـٰنَهُۥ عَلَىٰ تَقْوَىٰ مِنَ ٱللَّهِ
وَرِضْوَٰنٍ خَيْرٌ أَم مَّنْ أَسَّسَ بُنْيَـٰنَهُۥ عَلَىٰ
شَفَا جُرُفٍ هَارٍ فَٱنْهَارَ بِهِۦ فِى نَارِ جَهَنَّمَ ۗ
وَٱللَّهُ لَا يَهْدِى ٱلْقَوْمَ ٱلظَّـٰلِمِينَ ١٠٩

110. 彼ら（偽信者*たち）が建てたその建物は、彼らの心がばらばらに張り裂けるまで[1]、彼らの心の中の疑惑であり続ける。アッラー*は全知者、英知あふれるお方である。

لَا يَزَالُ بُنْيَـٰنُهُمُ ٱلَّذِى بَنَوْا۟ رِيبَةً فِى
قُلُوبِهِمْ إِلَّآ أَن تَقَطَّعَ قُلُوبُهُمْ ۗ وَٱللَّهُ
عَلِيمٌ حَكِيمٌ ١١٠

111. 本当にアッラー*は信仰者たちから、天国と引き換えに、彼らの命と財産を買い取られた。彼らはアッラー*の道において戦い、殺し、殺されるのである。トーラー*と福音*とクルアーン*における、その真のお約束——アッラー*よりも自らの約束に忠実なお方があろうか？——。ならば、あなた方が契約した自分たちの取引に心躍らせよ。それこそは、この上ない勝利なのだ。

۞ إِنَّ ٱللَّهَ ٱشْتَرَىٰ مِنَ ٱلْمُؤْمِنِينَ أَنفُسَهُمْ
وَأَمْوَٰلَهُم بِأَنَّ لَهُمُ ٱلْجَنَّةَ ۚ يُقَـٰتِلُونَ فِى
سَبِيلِ ٱللَّهِ فَيَقْتُلُونَ وَيُقْتَلُونَ ۖ وَعْدًا
عَلَيْهِ حَقًّا فِى ٱلتَّوْرَىٰةِ وَٱلْإِنجِيلِ
وَٱلْقُرْءَانِ ۚ وَمَنْ أَوْفَىٰ بِعَهْدِهِۦ مِنَ ٱللَّهِ ۚ
فَٱسْتَبْشِرُوا۟ بِبَيْعِكُمُ ٱلَّذِى بَايَعْتُم بِهِۦ ۚ
وَذَٰلِكَ هُوَ ٱلْفَوْزُ ٱلْعَظِيمُ ١١١

112. （彼ら信仰者たちとは、）悔悟する者たち、崇拝*行為に専念する者たち、（アッラー*を）称賛*する者たち、斎戒*する[2]者たち、ルクーゥ*する者たち、サジダ*する者たち、善事を命じる者たち、悪事を

ٱلتَّـٰٓئِبُونَ ٱلْعَـٰبِدُونَ ٱلْحَـٰمِدُونَ
ٱلسَّـٰٓئِحُونَ ٱلرَّٰكِعُونَ
ٱلسَّـٰجِدُونَ ٱلْـَٔامِرُونَ بِٱلْمَعْرُوفِ
وَٱلنَّاهُونَ عَنِ ٱلْمُنكَرِ وَٱلْحَـٰفِظُونَ

---

1 「心がばらばらに張り裂けるまで」の解釈には、「殺されるまで」「死ぬまで」「とても後悔して、アッラー*に悔悟し、かれを非常に恐れるようになるまで」といった解釈がある（ムヤッサル 204 頁参照）。

2 外にも「アッラー*の道において奮闘する」「知識を求める」などの解釈がある（アル＝バガウィー2:392 参照）。原語「サーハ」にはそもそも、「移動する」「旅行する」といった意味があり、そこから一般に「イスラーム*において賞讃すべき旅をする」ことを指すのだ、という（イブン・アーシュール 11:41 参照）。

禁じる[1]者たち、アッラー*の決まりを守る[2]者たち。（預言者*よ、これらの）信仰者たちに吉報を伝えよ。

لِحُدُودِ ٱللَّهِۗ وَبَشِّرِ ٱلْمُؤْمِنِينَ ١١٢

113. 預言者*と、信仰する者たちにとって、シルク*の徒のため（アッラー*に罪の）お赦しを乞うことなど、あってはならない。たとえ彼らが（自分たちの）近親の者であろうとも、火獄の徒であることが彼らに明白になった後には[3]（、そうしてはならない）。

مَا كَانَ لِلنَّبِيِّ وَٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ أَن
يَسْتَغْفِرُوا۟ لِلْمُشْرِكِينَ وَلَوْ كَانُوٓا۟
أُو۟لِى قُرْبَىٰ مِنۢ بَعْدِ مَا تَبَيَّنَ لَهُمْ أَنَّهُمْ
أَصْحَـٰبُ ٱلْجَحِيمِ ١١٣

114. イブラーヒーム*が（、シルク*の徒であった）自分の父のため、（アッラー*に罪の）お赦しを乞うたのは、彼（イブラーヒーム*）が彼（父）にした約束[4]ゆえに過ぎなかった。そして彼（父）が、アッラー*の敵であることが明らかになった時、彼（イブラーヒーム*）は彼と決別したのである。本当にイブラーヒーム*はまさしく、哀願する者[5]、寛容な者だったのだから。

وَمَا كَانَ ٱسْتِغْفَارُ إِبْرَٰهِيمَ لِأَبِيهِ إِلَّا
عَن مَّوْعِدَةٍ وَعَدَهَآ إِيَّاهُ فَلَمَّا تَبَيَّنَ لَهُۥٓ
أَنَّهُۥ عَدُوٌّ لِّلَّهِ تَبَرَّأَ مِنْهُۚ إِنَّ إِبْرَٰهِيمَ لَأَوَّٰهٌ
حَلِيمٌ ١١٤

115. そしてアッラー*は、ある民をお導きになった後、彼らが保身するためのことを明らかにされない限りは、彼らを迷わせ給

وَمَا كَانَ ٱللَّهُ لِيُضِلَّ قَوْمًۢا بَعْدَ إِذْ
هَدَىٰهُمْ حَتَّىٰ يُبَيِّنَ لَهُم مَّا يَتَّقُونَۚ إِنَّ
ٱللَّهَ بِكُلِّ شَىْءٍ عَلِيمٌ ١١٥

---

1 「善事を命じる」「悪事を禁じる」については、イムラーン家章 104 の訳注を参照。

2 アッラー*から課せられた義務を果たし、命じられたことを行い、禁じられたことを避（さ）け、アッラー*への服従に従事し、かれがお定めになった掟を破らないこと（ムヤッサル 205 頁参照）。

3 つまり、シルク*を犯したまま死んだことで、「火獄の徒」であることが確定したら、ということ（前掲書、同頁参照）。婦人章 48 も参照。

4 イブラーヒーム*は父がムスリム*になることを望むがゆえに、彼の罪の赦しを乞うことを、彼に約束した。マルヤム*章 47、試問される女章 4 も参照（アル＝バガウィー2:395 参照）。

5 「哀願する者」という訳をあてた語「アウワーフ」には、「よく祈る者」「慈悲深い者」「確信する者」「よくアッラー*を唱念する者」「よく嘆く者」「おそれ畏（かしこ）まり、恭順（雌牛章 45 参照）な者」など、様々な解釈がある（アル＝クルトゥビー8:275 参照）。

うことはない[1]。本当にアッラー*は、全てのことをご存知のお方なのだから。

116. 本当にアッラー*、かれにこそ、諸天と大地の王権は属する。かれは（お望みの者に）生をお授けになり、（お望みの者に）死をお授けになる。そしてあなた方にはアッラー*の外に、いかなる庇護者も援助者もない。

إِنَّ ٱللَّهَ لَهُۥ مُلْكُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۖ
يُحْىِۦ وَيُمِيتُ ۚ وَمَا لَكُم مِّن دُونِ ٱللَّهِ
مِن وَلِىٍّ وَلَا نَصِيرٍ ١١٦

117. アッラー*は確かに、預言者*と、（タブークの戦い*という）苦難の時[2]に彼（預言者*）に従ったムハージルーン*とアンサール*の悔悟を、彼らの一派の心が傾きかけた[3]後、お受け入れになった。それから、かれは彼らの悔悟をお受け入れになったのである。本当にかれは、彼らに対してこそ、哀れみ深い*お方、慈愛深い*お方なのだ。

لَّقَد تَّابَ ٱللَّهُ عَلَى ٱلنَّبِىِّ وَٱلْمُهَٰجِرِينَ
وَٱلْأَنصَارِ ٱلَّذِينَ ٱتَّبَعُوهُ فِى سَاعَةِ ٱلْعُسْرَةِ
مِنۢ بَعْدِ مَا كَادَ يَزِيغُ قُلُوبُ فَرِيقٍ مِّنْهُمْ
ثُمَّ تَابَ عَلَيْهِمْ ۚ إِنَّهُۥ بِهِمْ رَءُوفٌ رَّحِيمٌ ١١٧

118. そして（出征せず）後方に残された三人[4]に対しても（、アッラー*はその悔悟をお受け入れになった）。やがて、大地がそ

وَعَلَى ٱلثَّلَٰثَةِ ٱلَّذِينَ خُلِّفُوا۟ حَتَّىٰٓ إِذَا ضَاقَتْ
عَلَيْهِمُ ٱلْأَرْضُ بِمَا رَحُبَتْ وَضَاقَتْ عَلَيْهِمْ
أَنفُسُهُمْ وَظَنُّوٓا۟ أَن لَّا مَلْجَأَ مِنَ ٱللَّهِ إِلَّآ

1 つまりアッラー*は、まだ明白に禁じられてもいない物事（ここでは特に、シルク*の徒として亡くなった者の罪の赦しを乞うこと）を行ってしまった者に対して、「迷妄（めいもう）」の烙印（らくいん）を押されることはない（アッ＝タバリー5:4141-4142 参照）。

2 タブークの戦い*は真夏の酷暑（こくしょ）、食料や水の不足、旅行用のラクダの欠如などが重なった、大変厳しい遠征だった（ムヤッサル 205 頁参照）。

3 「心が傾きかけた」のは、「信仰における確固さから」だとか、「困窮と苦難ゆえに（タブークの）戦いへの出征から」だとかいう解釈がある（イブン・ジュザイ 1:372 参照）。

4 カァブ・ブン・マーリク、ヒラール・ブン・ウマイヤ、ムラーラ・ブン・アッ＝ラビーゥの三人のこと。ムスリム*軍がタブークから凱旋（がいせん）した後、出征の命令に応じなかった多くの者は言い訳をし、その言い訳が真実であると誓った（アーヤ*94 以降を参照）。だがこの三人は嘘の言い訳をすることを拒んだので、彼らの処分についてのアッラー*のご命令が下るまで、ムスリム*たちから村八分にされることになった。彼らの悔悟が受け入れられたとの啓示が下ったのは、村八分が始まってから五十日目の夜明けのことだった（アル＝ブハーリー4418 参照）。

の広さにも関わらず彼らにとって狭くなって[1]、彼らに心苦しいものとなり、彼らがアッラー*（のお怒り）からの逃げ場所は、かれご自身（に赦しを乞うこと）しかないことを確信した時、（彼らはアッラー*に悔悟し、）それからかれ（アッラー*）は、彼らが（その後もしっかりと）悔悟するよう、彼らの悔悟をお受け入れになった。本当にアッラー*こそは、よく悔悟をお受け入れになる*お方、慈愛深い*お方なのだから。

إِلَيۡهِ ثُمَّ تَابَ عَلَيۡهِمۡ لِيَتُوبُوٓاْۚ إِنَّ ٱللَّهَ هُوَ
ٱلتَّوَّابُ ٱلرَّحِيمُ ١١٨

119. 信仰する者たちよ、アッラー*を畏れ*、正直な者たち[2]と共にあれ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ ٱتَّقُواْ ٱللَّهَ وَكُونُواْ
مَعَ ٱلصَّٰدِقِينَ ١١٩

120. マディーナ*の住民とその周辺のベドウィンたちは、アッラー*の使徒*をよそに（出征せず）後方に留まったり、彼（使徒*）よりも自分自身を優先させたりすべきではない[3]。というのも、アッラー*の道において彼らが喉の乾きや、疲労、空腹に襲われたり、（交戦状態にある）不信仰者*たちを憤らせる土地に足を踏み入れたり、敵に被害を与えたりすれば、それにより正しい行い*（の褒美）が、彼らのために必ず記録されるからである。本当にアッラー*は、善を尽くす者[4]たちの褒美を、無駄にはされないのだから。

مَا كَانَ لِأَهۡلِ ٱلۡمَدِينَةِ وَمَنۡ حَوۡلَهُم
مِّنَ ٱلۡأَعۡرَابِ أَن يَتَخَلَّفُواْ عَن رَّسُولِ
ٱللَّهِ وَلَا يَرۡغَبُواْ بِأَنفُسِهِمۡ عَن نَّفۡسِهِۦۚ
ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمۡ لَا يُصِيبُهُمۡ ظَمَأٞ وَلَا
نَصَبٞ وَلَا مَخۡمَصَةٞ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ وَلَا
يَطَـُٔونَ مَوۡطِئٗا يَغِيظُ ٱلۡكُفَّارَ وَلَا
يَنَالُونَ مِنۡ عَدُوّٖ نَّيۡلًا إِلَّا كُتِبَ لَهُم
بِهِۦ عَمَلٞ صَٰلِحٌۚ إِنَّ ٱللَّهَ لَا يُضِيعُ أَجۡرَ
ٱلۡمُحۡسِنِينَ ١٢٠

---

1 この表現については、アーヤ*25 の訳注を参照。

2 「正直な者たち」とは、言葉と行いが矛盾している偽信者のようではなく、アッラー*への信仰において正直で、その言葉を行いで実証するような者のこと（アッ＝タバリー5:4151参照）。

3 預言者*が大変な目にあっているのに、自分たちは楽をしていてはならない、ということ（ムヤッサル 206 頁参照）。

4 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

121. また（アッラー*の道において、）費用を少し、あるいは多く出費したり、（行軍して）谷一つ越えたりすれば、彼らのために（その褒美が）記録されないことはないのである。（それは）アッラー*が彼らに、彼らが行っていた最善のもの（行い）でお報いになるためなのだ。

وَلَا يُنفِقُونَ نَفَقَةً صَغِيرَةً وَلَا كَبِيرَةً
وَلَا يَقْطَعُونَ وَادِيًا إِلَّا كُتِبَ لَهُمْ
لِيَجْزِيَهُمُ ٱللَّهُ أَحْسَنَ مَا كَانُوا۟
يَعْمَلُونَ ١٢١

122. また信仰者たちは、総動員で出征すべきではない。どうして彼らの内の各集団から、（必要に見合った人数だけの）一団が出征しないのか？　（それは出征せずに留まる者たちが）宗教において理解を深め、そして（出征していた）その民が自分たちのもとに戻って来た時、彼らに警告するため[1]。（それは）彼らが、（アッラーの懲罰に対して）用心するようになるためなのだ。

۞ وَمَا كَانَ ٱلْمُؤْمِنُونَ لِيَنفِرُوا۟
كَآفَّةً ۚ فَلَوْلَا نَفَرَ مِن كُلِّ فِرْقَةٍ مِّنْهُمْ
طَآئِفَةٌ لِّيَتَفَقَّهُوا۟ فِى ٱلدِّينِ وَلِيُنذِرُوا۟ قَوْمَهُمْ
إِذَا رَجَعُوٓا۟ إِلَيْهِمْ لَعَلَّهُمْ يَحْذَرُونَ ١٢٢

123. 信仰する者たちよ、不信仰者*たちの内、あなた方に隣接する者たちと戦え[2]。そして彼らに、あなた方にある強靭さを知らしめよ。アッラー*こそは（その支持と援助によって）、敬虔*な者たちと共にあることを知るのだ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ قَٰتِلُوا۟ ٱلَّذِينَ
يَلُونَكُم مِّنَ ٱلْكُفَّارِ وَلْيَجِدُوا۟ فِيكُمْ
غِلْظَةً ۚ وَٱعْلَمُوٓا۟ أَنَّ ٱللَّهَ مَعَ ٱلْمُتَّقِينَ ١٢٣

124. スーラ*が下ると、彼ら（偽信者*たち）の内のある者は言う。「一体あなた方の内の誰が、これで（更なる）信仰心を上乗

وَإِذَا مَآ أُنزِلَتْ سُورَةٌ فَمِنْهُم مَّن يَقُولُ
أَيُّكُمْ زَادَتْهُ هَٰذِهِۦٓ إِيمَٰنًا ۚ فَأَمَّا ٱلَّذِينَ

---

1 つまりクルアーン、スンナ、義務行為、法規定などを学び、遠征軍が戻って来たら、彼らの不在中に啓示されたものを伝えること。尚、「宗教において理解を深め」る者たちが、「出征した人々」であり、「警告」される側が、「出征せずに留まる者たち」という説など、他の解釈の仕方もある（アル＝バガウィー2:403-404 参照）。

2 この「隣接する不信仰者*たち」とは、マディーナ*やハイバルのユダヤ教徒*たちとか、当時のシャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）を支配していたローマ人たちのことであるとされる（前掲書 2:406 参照）。「不信仰者*との戦い」については、雌牛章 190、悔悟章 36 とその訳注も参照。

せするというのか？」信仰する者たちこそは、（スーラ*の啓示によって、更なる）信仰心を上乗せするのである。そして彼らは、（授けられた信仰心に）心躍らせるのだ。

ءَامَنُواْ فَزَادَتۡهُمۡ إِيمَٰنٗا وَهُمۡ
يَسۡتَبۡشِرُونَ ١٢٤

125. また、心に病がある者たち[1]はといえば（スーラ*の啓示により）、彼らの穢れ[2]の上に更なる穢れを上乗せし、不信仰者*として死んでしまったのである。

وَأَمَّا ٱلَّذِينَ فِي قُلُوبِهِم مَّرَضٞ فَزَادَتۡهُمۡ
رِجۡسًا إِلَىٰ رِجۡسِهِمۡ وَمَاتُواْ وَهُمۡ
كَٰفِرُونَ ١٢٥

126. 一体、彼ら（偽信者*たち）は、自分たちが毎年一度や二度は、試練[3]にかけられるということを知らないのか？ その後に及んで、彼らは悔悟することもなく、教訓を得ることもないのだ。

أَوَلَا يَرَوۡنَ أَنَّهُمۡ يُفۡتَنُونَ فِي كُلِّ
عَامٖ مَّرَّةً أَوۡ مَرَّتَيۡنِ ثُمَّ لَا يَتُوبُونَ
وَلَا هُمۡ يَذَّكَّرُونَ ١٢٦

127. また、スーラ[4]が下れば、彼ら（偽信者*たち）は互いに顔を見合わせ（て、互いにこう言っ）た。「（今、ムハンマド*のもとを立ち去ったとしても、）誰かあなた方を目にすることがあろうか？」それから（誰の目にもつかなければ、）彼らは立ち去ってしまう。アッラー*が彼らの心を、彼らが理解しない民であるゆえに、（信仰から）お逸らしになったのだ。

وَإِذَا مَآ أُنزِلَتۡ سُورَةٞ نَّظَرَ بَعۡضُهُمۡ
إِلَىٰ بَعۡضٍ هَلۡ يَرَىٰكُم مِّنۡ أَحَدٖ ثُمَّ
ٱنصَرَفُواْۚ صَرَفَ ٱللَّهُ قُلُوبَهُم بِأَنَّهُمۡ
قَوۡمٞ لَّا يَفۡقَهُونَ ١٢٧

---

1 偽信者*や、イスラーム*への疑念が強い者たちのこととされる（ムヤッサル 207 頁参照）。

2 この「穢れ」には、「疑念」「不信仰」「罪」などといった解釈がある（アル＝クルトゥビー 8:299 参照）。

3 この「試練」の解釈には、「病気や逆境」「旱魃（かんばつ）」「戦い」「偽の信仰が露（あら）わになること」などの諸説がある（アル＝バガウィー2:407 参照）。

4 ここでは特に、偽信者*たちの問題や行動を指摘するスーラ*のこと（ムヤッサル 207 頁参照）。

128. あなた方自身の内から一人の使徒*（ムハンマド*）が、確かにあなた方のもとに到来した。あなた方が苦しむのは、彼にとって辛いこと。（彼は）あなた方に対して懸命で[1]、信仰者たちにこそ哀れみ深く、慈愛深いのだ。

لَقَدۡ جَآءَكُمۡ رَسُولٞ مِّنۡ أَنفُسِكُمۡ
عَزِيزٌ عَلَيۡهِ مَا عَنِتُّمۡ حَرِيصٌ عَلَيۡكُم
بِٱلۡمُؤۡمِنِينَ رَءُوفٞ رَّحِيمٞ ١٢٨

129. （使徒*よ、）それで、もし彼ら（不信仰者たちと偽信者*たち）が（あなたへの信仰から）背くのであれば、言ってやるがよい。「私には、アッラー*だけで十分。かれ以外に（真に）崇拝*すべきものはなく——私は、かれにこそ全てを委ねた*——、かれは偉大なる御座[2]の主であられるお方」。

فَإِن تَوَلَّوۡاْ فَقُلۡ حَسۡبِيَ ٱللَّهُ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَۖ
عَلَيۡهِ تَوَكَّلۡتُۖ وَهُوَ رَبُّ ٱلۡعَرۡشِ
ٱلۡعَظِيمِ ١٢٩

---

1 あなた方の導きと、諸事の改善に「懸命」であるということ（ムヤッサル 207 頁参照）。

2 「御座」については、高壁章 54 の訳注を参照。

第 10 章
ユーヌス*章[1]

سُورَةُ يُونُسَ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. アリフ・ラーム・ラー[2]。それは、完全無欠な[3]啓典の御徴（アーヤ*）である。

الٓر ۚ تِلْكَ ءَايَٰتُ ٱلْكِتَٰبِ ٱلْحَكِيمِ ١

2. 一体、人々には驚きだったというのか？　われら*が彼らの内のある男に、「人々に、（アッラー*の懲罰を）警告せよ。そして信仰する者たちには吉報を伝えよ、彼らには自分たちの主*の御許で、真の高み[4]があるということを」と啓示したことが？　不信仰者*らは言った。「本当にこれはまさしく、紛れもない魔術師である」。

أَكَانَ لِلنَّاسِ عَجَبًا أَنْ أَوْحَيْنَآ إِلَىٰ رَجُلٍ مِّنْهُمْ
أَنْ أَنذِرِ ٱلنَّاسَ وَبَشِّرِ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ أَنَّ
لَهُمْ قَدَمَ صِدْقٍ عِندَ رَبِّهِمْ ۗ قَالَ
ٱلْكَٰفِرُونَ إِنَّ هَٰذَا لَسَٰحِرٌ مُّبِينٌ ٢

3. あなた方の主*は、諸天と大地を六日間で創造され[5]、それから御座[6]にお上がりになったアッラーである。かれは、万事を司られ

إِنَّ رَبَّكُمُ ٱللَّهُ ٱلَّذِى خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضَ
فِى سِتَّةِ أَيَّامٍ ثُمَّ ٱسْتَوَىٰ عَلَى ٱلْعَرْشِ ۖ
يُدَبِّرُ ٱلْأَمْرَ ۖ مَا مِن شَفِيعٍ إِلَّا مِنۢ بَعْدِ إِذْنِهِۦ

---

1 マッカ*啓示（一部アーヤ*には、マディーナ*啓示説あり）。マッカ*啓示の常として、クルアーン*の真実性と奇跡性、アッラーの唯一性*と全能性、死後の復活と清算といった基本的な信仰箇条（かじょう）を確証すると共に、それらに対するシルク*の徒の態度や反応が明らかにされ、様々なたとえ・証明・物語などを用いた議論がなされる。スーラ*名の由来は、一時は預言者*ユーヌス*を拒否していたものの、悔悟によってすんでの所で罰を免れた、彼の民の話（アーヤ*98）による。それはマッカ*の不信仰者*たちに対する懲罰の警告であると共に、彼らに早期での悔悟を促（うなが）してもいる。

2 これらの文字については頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 アッラー*はクルアーン*を、消失、欠損、変化、嘘、矛盾といったことから「完全無欠な」ものとされた。その他、「英知にあふれた」「裁決する」「（様々な教えが、その中に）定められた」といった解釈もある（アッ＝ラーズィー6:184-185 参照）。

4 「真の高み」とは、（来世のために現世で）前もって行っていた善行ゆえの、善き褒美のこと（ムヤッサル 208 頁参照）。

5 「六日間での天地創造」については、詳細にされた章 9-12 とその訳注も参照。

6 「御座にお上がりになる」については、高壁章 54 の訳注を参照。

る。かれのお許しの後でなくしては（復活の日*）、いかなる執り成し手もいない。そのお方がアッラー*、あなた方の主*。ゆえに、かれを崇拝*せよ。一体、あなた方は教訓を得ないのか？

ذَٰلِكُمُ ٱللَّهُ رَبُّكُمۡ فَٱعۡبُدُوهُۚ أَفَلَا تَذَكَّرُونَ ٣

4. かれの御許にこそ（復活の日*）、あなた方全員の帰り所はある。アッラー*の真なるお約束（を、お約束になった）。本当にかれは創造を始められ、それから（死後に）それをお戻しになるのだ。（それは）かれが、信仰して正しい行い*を行った者たちに、公正にお報いになるため。そして不信仰だった者*たちには、彼らが不信仰に陥っていたことゆえに、煮えたぎる湯の飲み物と痛烈な懲罰があるのだ。

إِلَيۡهِ مَرۡجِعُكُمۡ جَمِيعٗاۖ وَعۡدَ ٱللَّهِ حَقًّاۚ إِنَّهُۥ
يَبۡدَؤُاْ ٱلۡخَلۡقَ ثُمَّ يُعِيدُهُۥ لِيَجۡزِيَ ٱلَّذِينَ
ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ بِٱلۡقِسۡطِۚ وَٱلَّذِينَ
كَفَرُواْ لَهُمۡ شَرَابٞ مِّنۡ حَمِيمٖ وَعَذَابٌ
أَلِيمُۢ بِمَا كَانُواْ يَكۡفُرُونَ ٤

5. かれは太陽を（燦然たる）光、月を明かりとされ、あなた方が年数と計算[1]を知るべく、それ[2]に諸々の宿り場を定められたお方。アッラー*がそれを創造されたのは、真実ゆえに外ならない[3]。かれは知識ある民に、御徴[4]を明らかにされるのだ。

هُوَ ٱلَّذِي جَعَلَ ٱلشَّمۡسَ ضِيَآءٗ وَٱلۡقَمَرَ نُورٗا
وَقَدَّرَهُۥ مَنَازِلَ لِتَعۡلَمُواْ عَدَدَ ٱلسِّنِينَ
وَٱلۡحِسَابَۚ مَا خَلَقَ ٱللَّهُ ذَٰلِكَ إِلَّا بِٱلۡحَقِّۚ
يُفَصِّلُ ٱلۡأٓيَٰتِ لِقَوۡمٖ يَعۡلَمُونَ ٥

6. 本当に夜と昼の交代と、アッラー*が諸天と大地に創造されたものの内にはまさに、敬虔なる*民への御徴[5]がある。

إِنَّ فِي ٱخۡتِلَٰفِ ٱلَّيۡلِ وَٱلنَّهَارِ وَمَا خَلَقَ
ٱللَّهُ فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ لَأٓيَٰتٖ لِّقَوۡمٖ
يَتَّقُونَ ٦

---

1 この「計算」は月日の数や、時間の計算のことであると言われる（アル＝バガウィー2:411参照）。

2 この「それ」は太陽と月、両方を指しているとも、月だけを指しているのだとも言われる（アル＝クルトゥビー8:310 参照）。

3 イムラーン家章 191「我らが主*よ、…ありません」の訳注も参照。

4 この「御徴」とは、アッラー*の完全なる御力と知識を示す証拠のこと（ムヤッサル 208 頁参照）。

5 この「御徴」については、アーヤ*5「御徴」の訳注を参照（アル＝カースィミー9:3325 参照）。

7. 本当にわれら*との（来世における）拝謁を望まず[1]、現世の生活に満足して、それに安んじる者たち、そして、われら*の御徴[2]をなおざりにしている者たち、

إِنَّ ٱلَّذِينَ لَا يَرۡجُونَ لِقَآءَنَا وَرَضُواْ بِٱلۡحَيَوٰةِ
ٱلدُّنۡيَا وَٱطۡمَأَنُّواْ بِهَا وَٱلَّذِينَ هُمۡ عَنۡ ءَايَٰتِنَا
غَٰفِلُونَ ٧

8. そのような者たちの（来世での）住処は、彼らが（現世で）稼いでいたもの（罪）ゆえの業火。

أُوْلَٰٓئِكَ مَأۡوَىٰهُمُ ٱلنَّارُ بِمَا كَانُواْ يَكۡسِبُونَ ٨

9. 本当に、信仰し、正しい行い*を行った者たち、彼らの主*はその信仰心ゆえ、彼らをお導きになる[3]。安寧の楽園では、彼らの下から河川が流れている。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
يَهۡدِيهِمۡ رَبُّهُم بِإِيمَٰنِهِمۡۖ تَجۡرِي مِن
تَحۡتِهِمُ ٱلۡأَنۡهَٰرُ فِي جَنَّٰتِ ٱلنَّعِيمِ ٩

10. そこでの彼らの祈願は、「あなたに称え*あれ、アッラー*よ」であり、そこでの彼らの挨拶は「（あなた方に）平安を[4]」。そして祈願の締めくくりは、「全創造物の主*、アッラー*に全ての称賛*あれ」。[5]

دَعۡوَىٰهُمۡ فِيهَا سُبۡحَٰنَكَ ٱللَّهُمَّ
وَتَحِيَّتُهُمۡ فِيهَا سَلَٰمٞۚ وَءَاخِرُ دَعۡوَىٰهُمۡ
أَنِ ٱلۡحَمۡدُ لِلَّهِ رَبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ١٠

11. もし、アッラー*が人々に善きこと（の祈願を聞き入れること）を急がれるように、彼らに悪いこと（の祈願[6]の聞き入れ）を急が

۞ وَلَوۡ يُعَجِّلُ ٱللَّهُ لِلنَّاسِ ٱلشَّرَّ
ٱسۡتِعۡجَالَهُم بِٱلۡخَيۡرِ لَقُضِيَ إِلَيۡهِمۡ أَجَلُهُمۡۖ
فَنَذَرُ ٱلَّذِينَ لَا يَرۡجُونَ لِقَآءَنَا فِي

---

1 この「望まず」は、原語では「ラジャーゥ」から派生した動詞。「望む」と「恐れる」という意味、いずれをも含む。つまり本来は、復活の日*の懲罰を恐れもしなければ、その日の褒美を望みもしない、という意味であるという（アル＝バガウィー2:411 参照）。

2 この「御徴」の解釈には、「クルアーン*のアーヤ*」「アッラーの唯一性*、全能性を示す証拠」「アッラー*の法規定」といった説がある（アブー・ハイヤーン 5:120 参照）。

3 天国への道と、それにつながる正しい行いへと、「お導きになる」（ムヤッサル 209 頁参照）。

4 「あなた方に平安を」については、雷鳴章 24 の訳注を参照。

5 一説によれば、天国の住人は何か欲しい物があれば、「アッラー*よ、あなたに称え*あれ」と言いさえすれば、天使*がお望みの物を持ってやって来る。その際、彼らは「平安あれ」と挨拶を交わし、望みの物を頂いた後には主*を称賛するのだ、という（アッ＝タバリー 5:4182-4183 参照）。

6 「悪いことの祈願」とは怒りゆえに、自分自身や子供、財産などに対し、実現したら困るような祈願の言葉を口にしてしまうこと。あるいは戦利品*章 32 にあるような類の、不信仰者*の祈願のことである、とも言われる（アル＝バガウィー2:412 参照）。

れるのであれば、彼らには自分たちの（滅亡の）期限（の到来）が決定されてしまったであろう。だが、われら*は（そうせず、）われら*との拝謁を望まない[1]者たちを彷徨うまま、そのひどい放埒さの中に放ったらかしにしておくのだ。

طُغْيَانِهِمْ يَعْمَهُونَ ١١

12. また（不信仰な）人間は、害悪が降りかかれば、横になって、または座りつつ、あるいは立ちながら、われら*に祈る。そして、われら*が彼からその害悪を取り除いてやれば、彼は自分に降りかかった害悪（からの救い）について、われら*に祈りなどしなかったかのように（以前の不信仰な状態を）続ける。同様に、（アッラー*とその使徒*に対する嘘において）度を越した者たちには、自分たちが行っていたこと[2]が目映く見えたのだ。

وَإِذَا مَسَّ الْإِنسَانَ الضُّرُّ دَعَانَا لِجَنبِهِ أَوْ
قَاعِدًا أَوْ قَائِمًا فَلَمَّا كَشَفْنَا عَنْهُ
ضُرَّهُ مَرَّ كَأَن لَّمْ يَدْعُنَا إِلَىٰ ضُرٍّ مَّسَّهُ
كَذَٰلِكَ زُيِّنَ لِلْمُسْرِفِينَ مَا كَانُوا
يَعْمَلُونَ ١٢

13. また、われら*は確かにあなた方以前の幾つもの世代を、滅ぼした。使徒*たちが明証[3]を携えて彼らのもとに到来したにも関わらず、彼らが不正*を働き、信仰すべくもない状態にあった時のことであった。同様に、われら*は罪深い民に報いるのだ。

وَلَقَدْ أَهْلَكْنَا الْقُرُونَ مِن قَبْلِكُمْ لَمَّا ظَلَمُوا
وَجَاءَتْهُمْ رُسُلُهُم بِالْبَيِّنَاتِ وَمَا كَانُوا
لِيُؤْمِنُوا كَذَٰلِكَ نَجْزِي الْقَوْمَ الْمُجْرِمِينَ ١٣

14. それから（人々よ）、われら*は彼らの（滅亡の）後、あなた方を地上の継承者[4]とした。あなた方がどのような行いをするか、見届けるために。

ثُمَّ جَعَلْنَاكُمْ خَلَائِفَ فِي الْأَرْضِ مِن
بَعْدِهِمْ لِنَنظُرَ كَيْفَ تَعْمَلُونَ ١٤

---

1 この「望まない」については、アーヤ*7 の訳注を参照。

2 つまり試練の時にだけ（アッラー*に）祈願し、順境の時には感謝を忘れること（アル＝バガウィー2:413 参照）。

3 この「明証」は、彼らの言うことの正しさを証明する明らかな奇跡や、根拠のこと（ムヤッサル 209 頁参照）。

4 「地上の継承者」については、家畜章 165 の訳注を参照。

15. また、彼ら（シルク*の徒）にわれら*の明白な御徴（アーヤ*）が読誦された時、われらとの拝謁を望まない[1]者たちは（、こう）言った。「これではないクルアーン*を披露してみよ。あるいは、それを変えよ[2]」。（使徒*よ、）言ってやるがいい。「私には、それを自分勝手に変更する権利などない。ただ私は、自分に啓示されたものに従うだけなのだから。本当に私は、もし我が主*に逆らったりしたら、偉大なる（復活の*）日の懲罰（が降りかかること）を怖れている」。

وَإِذَا تُتْلَىٰ عَلَيْهِمْ ءَايَاتُنَا بَيِّنَٰتٍ قَالَ
ٱلَّذِينَ لَا يَرْجُونَ لِقَآءَنَا ٱئْتِ بِقُرْءَانٍ
غَيْرِ هَٰذَآ أَوْ بَدِّلْهُ قُلْ مَا يَكُونُ لِيٓ أَنْ
أُبَدِّلَهُۥ مِن تِلْقَآيِٕ نَفْسِيٓ إِنْ أَتَّبِعُ إِلَّا مَا
يُوحَىٰٓ إِلَيَّ إِنِّيٓ أَخَافُ إِنْ عَصَيْتُ رَبِّي
عَذَابَ يَوْمٍ عَظِيمٍ ﴿١٥﴾

16. （使徒*よ、）言ってやれ。「もしアッラー*がお望みになったのなら、私はそれ（クルアーン*）をあなた方に対して読誦しなかったし、また（アッラー*は）それをあなた方にお教えにもならなかったのだ。（それがアッラー*からの真実だと知れ、）私は確かに、それ（が下される）以前、あなた方のもとで（長い）年月[3]を過ごしたのだから。一体、あなた方は分別しないのか？」

قُل لَّوْ شَآءَ ٱللَّهُ مَا تَلَوْتُهُۥ عَلَيْكُمْ وَلَآ
أَدْرَىٰكُم بِهِۦ فَقَدْ لَبِثْتُ فِيكُمْ
عُمُرًا مِّن قَبْلِهِۦٓ أَفَلَا تَعْقِلُونَ ﴿١٦﴾

17. アッラー*に対して嘘を捏造し、あるいはその御徴を嘘呼ばわりする[4]者よりも、ひどい不正*を働く者がいようか？　本当に罪悪者たちは、成功しないのである。

فَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّنِ ٱفْتَرَىٰ عَلَى ٱللَّهِ كَذِبًا
أَوْ كَذَّبَ بِـَٔايَٰتِهِۦٓ إِنَّهُۥ لَا يُفْلِحُ
ٱلْمُجْرِمُونَ ﴿١٧﴾

1 この「望まない」については、アーヤ*7 の訳注を参照。

2 「これではないクルアーン*」とは、不信仰者*らの崇めていた偶像などを批判し、禁じるようなものではないもののこと（アル＝バガウィー2:414 参照）。また「（クルアーン*を）変える」こととは、不信仰者*らの意向に沿って、警告のアーヤ*を吉報のアーヤ*に変えたり、何かを非合法とするアーヤ*を合法とするアーヤ*に変えたり、またその逆にしたりすること（アッ＝タバリー5:4188 参照）。

3 「年月」とは具体的に、啓示が下るまでの四十年間のこと。その間、預言者*ムハンマド*は嘘をついたことなどもなく、正直さで知られていた（イブン・カスィール 4:253-254 参照）。

4 「嘘の捏造」とは、アッラー*に共同者や子供がある、という主張。「御徴を嘘呼ばわりする」とは、預言者*やクルアーン*を嘘呼ばわりすること（アル＝バガウィー4:414 参照）。

18. 彼ら（シルク*の徒）はアッラー*を差しおいて、彼らを害しなければ、益もしないようなものを崇めている。そして（彼らは、）言うのだ。「この者たちはアッラー*の御許での、私たちの執り成し手なのである」。（使徒*よ、）言ってやるがいい。「アッラー*に対し、かれが諸天においても大地においても関知されないことを、申し上げるというのか？」かれに称え*あれ、かれは彼らがシルクを犯しているものから（無縁で）、遥か高遠なお方。

وَيَعْبُدُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ مَا لَا يَضُرُّهُمْ وَلَا
يَنفَعُهُمْ وَيَقُولُونَ هَٰٓؤُلَآءِ شُفَعَٰٓؤُنَا
عِندَ ٱللَّهِ ۚ قُلْ أَتُنَبِّـُٔونَ ٱللَّهَ بِمَا لَا يَعْلَمُ فِى
ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَلَا فِى ٱلْأَرْضِ ۚ سُبْحَٰنَهُۥ
وَتَعَٰلَىٰ عَمَّا يُشْرِكُونَ ١٨

19. 人々はかつて、（イスラーム*という一つの宗教に基づいた、）ただ一つの民に外ならなかったのであり、その後に意見を異にしたのである[1]。そして、もしあなたの主からの先んじた御言葉[2]（による懲罰の猶予）がなかったならば、彼らの間には、彼らが意見を異にしていたことにおいて、（早期での）裁決[3]が下されていただろう。

وَمَا كَانَ ٱلنَّاسُ إِلَّآ أُمَّةً وَٰحِدَةً
فَٱخْتَلَفُوا۟ ۚ وَلَوْلَا كَلِمَةٌ سَبَقَتْ مِن رَّبِّكَ
لَقُضِىَ بَيْنَهُمْ فِيمَا فِيهِ يَخْتَلِفُونَ ١٩

20. また、彼ら（頑迷な不信仰者*たち）は言う。「どうして彼（ムハンマド*）には、彼の主*からの御徴[4]が下らないのか？」では（使徒*よ）、言ってやるがいい。「本当にアッラー*にこそ、不可視の世界*は属する

وَيَقُولُونَ لَوْلَآ أُنزِلَ عَلَيْهِ ءَايَةٌ مِّن
رَّبِّهِۦ ۖ فَقُلْ إِنَّمَا ٱلْغَيْبُ لِلَّهِ فَٱنتَظِرُوٓا۟ إِنِّى
مَعَكُم مِّنَ ٱلْمُنتَظِرِينَ ٢٠

1 つまり、ある者たちは不信仰に陥り、またある者たちは真理を固守した（ムヤッサル 210 頁参照）。雌牛章 214、相談章 14 とその訳注も参照。

2 この「御言葉」とは、復活の日*まで、彼ら不信仰者*たちの懲罰が猶予される、というアッラー*の定めのこと（前掲書、同頁参照）。

3 真理を固守した者たちが救われ、不信仰の民*が滅ぼされるという「裁決」のこと（前掲書、同頁参照）。

4 この「御徴」は、奇跡のこと（アル＝クルトゥビー8:323 参照）。同様のアーヤ*として、雌牛章 108、家畜章 109-110、夜の旅章 90-93、ター・ハー章 133、預言者*たち章 5、識別章 7-8、創成者*章 42 も参照。

のだ。ならば、（私たちへのアッラー*のご裁決を）待つがよい。実に私も、あなた方と共に待つ者となるから」。

21. また、われら*が（シルク*を犯している）人々に、彼らに降りかかった災難の後、慈悲[1]を味わわせたならば、どうであろう、彼らはわれら*の御徴に対して策謀[2]する。（使徒*よ、）言ってやれ。「アッラー*は、より速く策謀されるお方[3]」。本当にわれら*の使い（天使*）たちは、あなた方の策謀を書き留めているのだから[4]。

وَإِذَآ أَذَقۡنَا ٱلنَّاسَ رَحۡمَةٗ مِّنۢ بَعۡدِ ضَرَّآءَ
مَسَّتۡهُمۡ إِذَا لَهُم مَّكۡرٞ فِيٓ ءَايَاتِنَاۚ قُلِ ٱللَّهُ أَسۡرَعُ
مَكۡرًاۚ إِنَّ رُسُلَنَا يَكۡتُبُونَ مَا تَمۡكُرُونَ ٢١

22. （人々よ、）かれ（アッラー*）は、あなた方を海に陸に移動させられるお方。やがて、あなた方が船上の人となり、それらがよき風と共に彼ら[5]を乗せて進み、彼らがそれ（よき風）に有頂天になると、そこに強風が到来し、あらゆる場所から波が彼らを襲い、彼らは（八方ふさがりになって）自分たちの一巻の終わりを悟る。彼らはアッラー*だけに真摯に崇拝*行為を捧げつつ、（こう言って）かれに祈るのである[6]。「も

هُوَ ٱلَّذِي يُسَيِّرُكُمۡ فِي ٱلۡبَرِّ وَٱلۡبَحۡرِۖ حَتَّىٰٓ إِذَا
كُنتُمۡ فِي ٱلۡفُلۡكِ وَجَرَيۡنَ بِهِم بِرِيحٖ طَيِّبَةٖ
وَفَرِحُواْ بِهَا جَآءَتۡهَا رِيحٌ عَاصِفٞ وَجَآءَهُمُ
ٱلۡمَوۡجُ مِن كُلِّ مَكَانٖ وَظَنُّوٓاْ أَنَّهُمۡ أُحِيطَ
بِهِمۡ دَعَوُاْ ٱللَّهَ مُخۡلِصِينَ لَهُ ٱلدِّينَ لَئِنۡ
أَنجَيۡتَنَا مِنۡ هَٰذِهِۦ لَنَكُونَنَّ مِنَ ٱلشَّٰكِرِينَ ٢٢

---

1 この「慈悲」は、順境、平安、豊かさのこと（ムヤッサル 211 頁参照）。

2 この「策謀」とは、アッラー*の御徴を嘘よばわりし、嘲笑すること（前掲書、同頁参照）。

3 つまり彼らの策謀は、彼らに不利な方に働く。天使*たちは彼らの行いを記録し、アッラー*はそれを仔細（しさい）に渡って数え上げられ、それに十分な報いを与えられるのだから（アッ＝サァディー361 頁参照）。「アッラー*が策謀する」という表現については、雌牛章 15 の同様の表現についての訳注も参照。

4 この天使*たちについては、雷鳴章 11 とその訳注も参照。

5 ここで突然「あなた方」から「彼ら」に人称が変わる独特の修辞（しゅうじ）法については、食卓章 12 の訳注を参照。一説に、ここで「彼ら」と切り替わるのは、アッラー*からのお怒りや、かれから遠ざけられることを示しているのだという（アッ＝ラーズィー6:234 参照）。

6 つまり、それまで拝していたアッラー*以外のものを放棄し、アッラー*だけに真摯に祈りすがる（ムヤッサル 211 頁参照）。婦人章 146 の「その崇拝*行為をアッラー*だけに真摯に捧げる」に関する訳注も参照。

しも、あなたが私たちをこれからお救い下さったなら、私たちは必ずや（あなたの恩恵を）感謝する者となりますのに」。

23. それで、かれ（アッラー*）が彼らを（その苦境と恐怖から）お救いになれば、どうであろう、彼らは不当にも地上で（腐敗*や罪によって）侵犯するのだ。人々よ、あなた方の侵犯は、自分自身に対するもの[1]に外ならないのだぞ。現世の生活の楽しみ（を、あなた方は楽しんでいるだけ）。やがて、われら*こそがあなた方の帰り所となり、われら*はあなた方が行っていたことを、あなた方に告げ聞かせ（、それに報い）るのである。

فَلَمَّآ أَنجَىٰهُمۡ إِذَا هُمۡ يَبۡغُونَ فِي ٱلۡأَرۡضِ بِغَيۡرِ
ٱلۡحَقِّۗ يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ إِنَّمَا بَغۡيُكُمۡ عَلَىٰٓ أَنفُسِكُمۖ
مَّتَٰعَ ٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَاۖ ثُمَّ إِلَيۡنَا مَرۡجِعُكُمۡ
فَنُنَبِّئُكُم بِمَا كُنتُمۡ تَعۡمَلُونَ ٢٣

24. 本当に現世の生活の様子は、（雨）水のようなもの。われら*は天からそれを降らし、人々と家畜が食する大地の（様々な）植物が、それと混合（し、茂って互いに混生）する。やがて大地がその装飾品を身にまとい、（種子や果実や花々で）自らを飾り立て、その住民がそれら（の収穫）を手にすることが出来ると思ったところで、（それらを壊滅させるという）われら*の命令が夜中に、あるいは昼間に、それらを襲う。そしてわれら*は、まるでそれらが昨日までは存在しなかったかのように、根こそぎにしてしまうのだ。このようにわれら*は、熟考する民に御徴（アーヤ*）を明らかにする。

إِنَّمَا مَثَلُ ٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَا كَمَآءٍ أَنزَلۡنَٰهُ مِنَ
ٱلسَّمَآءِ فَٱخۡتَلَطَ بِهِۦ نَبَاتُ ٱلۡأَرۡضِ مِمَّا
يَأۡكُلُ ٱلنَّاسُ وَٱلۡأَنۡعَٰمُ حَتَّىٰٓ إِذَآ أَخَذَتِ
ٱلۡأَرۡضُ زُخۡرُفَهَا وَٱزَّيَّنَتۡ وَظَنَّ أَهۡلُهَآ أَنَّهُمۡ
قَٰدِرُونَ عَلَيۡهَآ أَتَىٰهَآ أَمۡرُنَا لَيۡلًا أَوۡ نَهَارٗا
فَجَعَلۡنَٰهَا حَصِيدٗا كَأَن لَّمۡ تَغۡنَ بِٱلۡأَمۡسِۚ كَذَٰلِكَ
نُفَصِّلُ ٱلۡأٓيَٰتِ لِقَوۡمٖ يَتَفَكَّرُونَ ٢٤

25. アッラー*は平安の地へとお招きになり、かれがお望みになる者をまっすぐな道[2]へとお導きになる。

وَٱللَّهُ يَدۡعُوٓاْ إِلَىٰ دَارِ ٱلسَّلَٰمِ وَيَهۡدِي مَن
يَشَآءُ إِلَىٰ صِرَٰطٖ مُّسۡتَقِيمٖ ٢٥

---

1 その罰は自分自身に返って来る、ということ（ムヤッサル 211 頁参照）。

2 「平安の地」は天国で、「真っ直ぐな道」はイスラーム*のこととされる（前掲書、同頁参照）。

26. 善を尽くした者[1]たちには、最善のものと、（更なる）上乗せ[2]がある。そして彼らの顔を、埃や屈辱が覆うことはない。それらの者たちは天国の民であり、彼らはそこに永遠に留まる。

۞ لِّلَّذِينَ أَحْسَنُوا۟ ٱلْحُسْنَىٰ وَزِيَادَةٌ ۖ وَلَا يَرْهَقُ
وُجُوهَهُمْ قَتَرٌ وَلَا ذِلَّةٌ ۚ أُو۟لَٰٓئِكَ أَصْحَٰبُ
ٱلْجَنَّةِ ۖ هُمْ فِيهَا خَٰلِدُونَ ٢٦

27. そして悪行を稼いでいた者たちには、それと同様の悪い報いがあり、屈辱が彼らを覆う。彼らには、アッラー*（の懲罰）から守ってくれる者など、誰もいない。彼らの顔は、あたかも真っ暗な夜の断片に覆われてしまったかのよう。それらの者たちは業火の民であり、彼らはそこに永遠に留まるのだ。

وَٱلَّذِينَ كَسَبُوا۟ ٱلسَّيِّـَٔاتِ جَزَآءُ سَيِّئَةٍۭ بِمِثْلِهَا
وَتَرْهَقُهُمْ ذِلَّةٌ ۖ مَّا لَهُم مِّنَ ٱللَّهِ مِنْ عَاصِمٍ ۖ
كَأَنَّمَآ أُغْشِيَتْ وُجُوهُهُمْ قِطَعًا مِّنَ ٱلَّيْلِ
مُظْلِمًا ۚ أُو۟لَٰٓئِكَ أَصْحَٰبُ ٱلنَّارِ ۖ هُمْ فِيهَا
خَٰلِدُونَ ٢٧

28. われら*が彼らを皆召集し、それからシルク*を犯していた者たちに、（こう）言う（復活の）日*のこと（を思い起こさせよ）。「あなた方と、あなた方（がアッラー*）の同位者（としていたもの）たちは、自分たちの場所に（控えていよ）[3]」。われら*は彼らを別々にし、彼らの（アッラーに対する）同位者たちは、（自分たちを崇めていた者たちに向かって、こう）言う。「あなた方が崇めていたのは、私たちではなかった。

وَيَوْمَ نَحْشُرُهُمْ جَمِيعًا ثُمَّ نَقُولُ لِلَّذِينَ أَشْرَكُوا۟
مَكَانَكُمْ أَنتُمْ وَشُرَكَآؤُكُمْ ۚ فَزَيَّلْنَا بَيْنَهُمْ ۖ وَقَالَ
شُرَكَآؤُهُم مَّا كُنتُمْ إِيَّانَا تَعْبُدُونَ ٢٨

29. アッラー*だけで、私たちとあなた方の間の証人は十分。本当に私たちは、あなた方の（私たちに対する）崇拝*について、無頓着だったのだから」。[4]

فَكَفَىٰ بِٱللَّهِ شَهِيدًۢا بَيْنَنَا وَبَيْنَكُمْ إِن كُنَّا
عَنْ عِبَادَتِكُمْ لَغَٰفِلِينَ ٢٩

---

1 蜜蜂章 128「善を尽くす者」の訳注も参照。

2 「最善のもの」とは天国で、「上乗せ」とは、天国でアッラー*の御顔を拝（おが）むことや、罪のお赦し、アッラー*のお喜びのこととされる（ムヤッサル 212 頁参照）。

3 彼らシルク*の徒は復活の日*、信仰者たちとは別の場所に区別される（イブン・カスィール 4:264 参照）。ビザンチン章 14、ヤー・スィーン章 59 も参照。

4 同様の情景の描写として、雌牛章 166-167、マルヤム*章 82、物語章 63、蜘蛛章 25、創成者*章 13-14、砂丘章 6 なども参照。

30. そこにおいて全ての者は、自分が（現世で）既に行ったことを検証する[1]。そしてアッラー*へと、彼らの真の庇護者*の御許へと戻されるのであり、彼らが捏造して（アッラー*と並べて崇めて）いたものは彼らから消え失せてしまうのだ。

هُنَالِكَ تَبْلُوا۟ كُلُّ نَفْسٍ مَّآ أَسْلَفَتْ ۚ وَرُدُّوٓا۟
إِلَى ٱللَّهِ مَوْلَىٰهُمُ ٱلْحَقِّ ۖ وَضَلَّ عَنْهُم مَّا
كَانُوا۟ يَفْتَرُونَ ﴿٣٠﴾

31. （使徒*よ、彼らシルク*の徒に）言ってやれ。「天と大地から、あなた方に糧を与えられる[2]お方は誰か？　いや、（あなた方の）聴覚と視覚を所有されるお方[3]は、誰なのか？　また、死から生を取り出され、生から死を取り出される[4]お方は誰か？　そして（全ての）物事を司られるお方は、誰なのか？」そうしたら、彼らは言うだろう、「アッラー*である」と。言ってやれ。「一体、あなた方は（かれを）畏れ*ないのか？」

قُلْ مَن يَرْزُقُكُم مِّنَ ٱلسَّمَآءِ وَٱلْأَرْضِ أَمَّن
يَمْلِكُ ٱلسَّمْعَ وَٱلْأَبْصَٰرَ وَمَن يُخْرِجُ ٱلْحَىَّ
مِنَ ٱلْمَيِّتِ وَيُخْرِجُ ٱلْمَيِّتَ مِنَ ٱلْحَىِّ وَمَن
يُدَبِّرُ ٱلْأَمْرَ ۚ فَسَيَقُولُونَ ٱللَّهُ ۚ فَقُلْ أَفَلَا
تَتَّقُونَ ﴿٣١﴾

32. そのお方がアッラー*、あなた方の真の主*である。そして真理の外には、迷妄があるのみなのではないか？[5]　一体、どうしてあなた方は（、アッラー*の崇拝*から別のものの崇拝*へと）逸らされるのか？

فَذَٰلِكُمُ ٱللَّهُ رَبُّكُمُ ٱلْحَقُّ ۖ فَمَاذَا بَعْدَ
ٱلْحَقِّ إِلَّا ٱلضَّلَٰلُ ۖ فَأَنَّىٰ تُصْرَفُونَ ﴿٣٢﴾

33. （彼らシルク*の徒と）同様に、放逸だった者たちには、彼らは信仰しないという、あなたの主*の御言葉が確定したのである。

كَذَٰلِكَ حَقَّتْ كَلِمَتُ رَبِّكَ عَلَى ٱلَّذِينَ فَسَقُوٓا۟
أَنَّهُمْ لَا يُؤْمِنُونَ ﴿٣٣﴾

1 つまり自らの状態と成果を検証し、善く有益なものを知り、醜（みにく）く有害なものを知ることになる（イブン・アーシュール 11:153 参照）。

2 食卓章 66「頭上からも足元からも…」の訳注を参照。

3 アッラー*こそは人間に聴覚や視覚をお授けになり（王権章 23 など参照）、またお望みになれば、それを奪うことのできる御力をお持ち（家畜章 46 など参照）のお方である（イブン・カスィール 4:266 参照）。

4 「死から生を取り出され…」については、イムラーン家章 27 の訳注を参照。

5 アッラー*以外のものを主とし、崇拝*することは、例外なく「迷妄」であるということ（アッ＝タバリー5:4209 参照）。

34. （使徒*よ、）言ってやれ。「あなた方（がアッラー*）の同位者（としているもの）たちの内、（無から）創造を始め、その（消滅）後、それを（元通りに）戻すものはあるのか？」言ってやるのだ。「アッラー*（のみ）が創造を始められ、その後にそれをお戻しになる。一体、どうしてあなた方は(、アッラー*の崇拝*から別のものの崇拝*へと）背かされるのか？」

قُلْ هَلْ مِن شُرَكَآئِكُم مَّن يَبْدَؤُا۟ ٱلْخَلْقَ ثُمَّ
يُعِيدُهُۥ ۚ قُلِ ٱللَّهُ يَبْدَؤُا۟ ٱلْخَلْقَ ثُمَّ يُعِيدُهُۥ ۖ فَأَنَّىٰ
تُؤْفَكُونَ ٣٤

35. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「あなた方（がアッラー*）の同位者（としているもの）たちの内、真理へと導くものはあるのか？」言ってやれ。「アッラー*（のみ）が真理へとお導き下さるのである。それで一体、真理へとお導き下さるお方が、従われるにより相応しいのか？　それとも導かれなければ、自ら導きを得ることはない[1]もの（が従われるに相応しいの）か？　一体、あなた方はどうしたことか？　あなた方は何という、（誤った）判断[2]をしているのか？」

قُلْ هَلْ مِن شُرَكَآئِكُم مَّن يَهْدِىٓ إِلَى ٱلْحَقِّ ۚ قُلِ ٱللَّهُ
يَهْدِى لِلْحَقِّ ۗ أَفَمَن يَهْدِىٓ إِلَى ٱلْحَقِّ أَحَقُّ أَن
يُتَّبَعَ أَمَّن لَّا يَهِدِّىٓ إِلَّآ أَن يُهْدَىٰ ۖ فَمَا لَكُمْ
كَيْفَ تَحْكُمُونَ ٣٥

36. 彼らの大半が従っているのは、憶測に外ならない。実に憶測は真理に対して、少しも役立つことなどないのに[3]。本当にアッラー*は、彼らがなすことをご存知のお方。

وَمَا يَتَّبِعُ أَكْثَرُهُمْ إِلَّا ظَنًّا ۚ إِنَّ ٱلظَّنَّ لَا يُغْنِى
مِنَ ٱلْحَقِّ شَيْـًٔا ۚ إِنَّ ٱللَّهَ عَلِيمٌۢ بِمَا يَفْعَلُونَ ٣٦

---

1 これが偶像のような非生命体である場合、その意味は「誰かに運ばれない限りは、自分自身で移動することも出来ない」といったものに解釈されるという（アル＝バガウィー2:419参照）。

2 アッラー*とその創造物を並べ（て崇め）る、という「判断」のこと（ムヤッサル 213 頁参照）。

3 この「憶測」は、偶像が神であり、それらが来世で彼らの執り成しをしてくれる、という考えのこと。「真理」とは、一説には「懲罰」、あるいは「知識」のこと（アル＝バガウィー2:420 参照）。

37. このクルアーン*が、アッラー*以外（の誰か）によって捏造されることなど、あり得ない。だが（それは、）それ以前のもの（諸啓典）への確証であり、全創造物の主*からの、疑惑の余地のない啓典（法）の解明なのである。

وَمَا كَانَ هَٰذَا ٱلْقُرْءَانُ أَن يُفْتَرَىٰ مِن دُونِ ٱللَّهِ
وَلَٰكِن تَصْدِيقَ ٱلَّذِي بَيْنَ يَدَيْهِ وَتَفْصِيلَ
ٱلْكِتَٰبِ لَا رَيْبَ فِيهِ مِن رَّبِّ ٱلْعَٰلَمِينَ ٣٧

38. いや、一体、彼らは（こう）言うのか？　「彼（ムハンマド*）がそれ（クルアーン*）を捏造したのだ」。（使徒よ、）言ってやれ。「では、それと同様のスーラ*を一つ、持って来てみよ[1]。そして、あなた方がアッラー*以外に（それを頼むことが）出来る（あらゆる）者を、呼んで（手伝わせて）みるがよい。もし、あなた方が本当のことを言っているのなら」。

أَمْ يَقُولُونَ ٱفْتَرَىٰهُ ۖ قُلْ فَأْتُوا۟ بِسُورَةٍ مِّثْلِهِۦ
وَٱدْعُوا۟ مَنِ ٱسْتَطَعْتُم مِّن دُونِ ٱللَّهِ إِن كُنتُمْ
صَٰدِقِينَ ٣٨

39. いや、彼らは、まだその知識[2]を把握してもいなかったものを、（早合点して）嘘よばわりしたのだ。そしてその結末は、まだ彼らのもとに到来してはいないというのに[3]。同様に、彼ら以前の（不信仰）者*たちも、嘘よばわりしたのだ。そして見るがよい、不正*者たちの結果がいかなるものであったかを。

بَلْ كَذَّبُوا۟ بِمَا لَمْ يُحِيطُوا۟ بِعِلْمِهِۦ وَلَمَّا يَأْتِهِمْ
تَأْوِيلُهُۥ ۚ كَذَٰلِكَ كَذَّبَ ٱلَّذِينَ مِن قَبْلِهِمْ ۖ
فَٱنظُرْ كَيْفَ كَانَ عَٰقِبَةُ ٱلظَّٰلِمِينَ ٣٩

40. （使徒*よ、）彼ら（あなたの民）の内には、それ（クルアーン*）を信じる者がおり、また彼らの内には、それを信じない者もいる。あなたの主*は、腐敗*を働く者たちのことを最もよくご存知である。

وَمِنْهُم مَّن يُؤْمِنُ بِهِۦ وَمِنْهُم مَّن لَّا يُؤْمِنُ
بِهِۦ ۚ وَرَبُّكَ أَعْلَمُ بِٱلْمُفْسِدِينَ ٤٠

---

1 雌牛章 23 の訳注も参照。

2 復活や、現世での行いへの応報、天国、地獄などについての「知識」のこと（ムヤッサル 213 頁参照）。

3 このアーヤ*の解釈には、「アッラー*が彼らに約束されている懲罰は、まだ到来していない」（アッ＝サァディー364 頁参照）「彼らの理解が、まだその意味に追いついていない」「不可視の世界*についての知らせは、まだ結果として実現していない。ゆえに彼らは、それらが真実か嘘か、まだ分からない」（アル＝バイダーウィー3:199 参照）といった諸説がある。

41. また（使徒*よ）、もし彼ら（シルク*の徒）があなたを嘘つき呼ばわりしたなら、言ってやるのだ。「私には自分の行い（とその報い）があり、あなた方には自分たちの行い（とその報い）がある。あなた方は私が行うことから無関係であり、私もあなた方が行うこととは無関係なのだ」。

وَإِن كَذَّبُوكَ فَقُل لِّي عَمَلِي وَلَكُمْ عَمَلُكُمْ ۖ أَنتُم
بَرِيٓـُٔونَ مِمَّآ أَعْمَلُ وَأَنَا۠ بَرِيٓءٌ مِّمَّا
تَعْمَلُونَ ٤١

42. また彼ら（不信仰者*たち）の中には、あなたに（表面的にのみ）耳を傾ける者たちがいる。一体あなたは、分別することもない聾に聞かせるというのか？[1]

وَمِنْهُم مَّن يَسْتَمِعُونَ إِلَيْكَ ۚ أَفَأَنتَ تُسْمِعُ
ٱلصُّمَّ وَلَوْ كَانُوا۟ لَا يَعْقِلُونَ ٤٢

43. また、彼ら（不信仰者*たち）の中には、あなた（の正しさの証明）に（表面的にのみ）目を向ける者たちがいる。一体あなたは、眼識もない盲人を導くというのか？

وَمِنْهُم مَّن يَنظُرُ إِلَيْكَ ۚ أَفَأَنتَ تَهْدِى ٱلْعُمْىَ وَلَوْ
كَانُوا۟ لَا يُبْصِرُونَ ٤٣

44. 本当にアッラー*は、人々に対して少しの不正*も行われない。しかし人々が、自らに不正*を働いているのである。

إِنَّ ٱللَّهَ لَا يَظْلِمُ ٱلنَّاسَ شَيْـًٔا وَلَٰكِنَّ
ٱلنَّاسَ أَنفُسَهُمْ يَظْلِمُونَ ٤٤

45. かれ（アッラー*）が彼らを、あたかも昼の一時しか過ごさなかったかのような状態[2]で召集される（復活の）日*、（そこで）彼らは、お互いを認め合う[3]。アッラー*との拝謁を嘘呼ばわりした者たちは確かに

وَيَوْمَ يَحْشُرُهُمْ كَأَن لَّمْ يَلْبَثُوٓا۟ إِلَّا سَاعَةً مِّنَ
ٱلنَّهَارِ يَتَعَارَفُونَ بَيْنَهُمْ ۚ قَدْ خَسِرَ ٱلَّذِينَ كَذَّبُوا۟
بِلِقَآءِ ٱللَّهِ وَمَا كَانُوا۟ مُهْتَدِينَ ٤٥

1 預言者*が語る言葉に何も感化されない者が、「分別することもない聾」に譬（たと）えられている。次アーヤ*でも同様に、預言者*の行いや人となりを目にしつつも導かれない者が、「眼識もない盲人」に譬（たと）えられている（イブン・アーシュール 11:177-178 参照）。

2 ここでそれ以前に「昼の一時」しか留まっていなかったと感じるのは、その日の余りの恐ろしさゆえである。またその場所については、現世であるとか、死後の墓場であるという説などがある（アル＝クルトゥビー8:347 参照）。ター・ハー章 103、信仰者たち章 113-114、ビザンチン章 55、砂丘章 35、引き離すもの章 46 も参照。

3 現世で知り合いだった者どうしは、復活の場でも互いの存在を認め合う。だが余りの恐怖ゆえに、お互いの安否（あんぴ）を尋ね合うことなどもない（イブン・カスィール 4:271-272 参照）。信仰者たち章 101、階段章 10-11 なども参照。

損失したのであり、彼らは導かれた者たちではなかったのだ。

46. そして（使徒*よ）、もしわれら*が（あなたの存命中）、彼らに約束したものの一部[1]をあなたに見せてやるにせよ、あるいは（その前に）あなたを召すにせよ、われら*にこそ彼らの帰り所はある。それからアッラー*は、彼らがすることの証人なの（であり、彼らに相応の報いを与えられるの）だ。

وَإِمَّا نُرِيَنَّكَ بَعْضَ ٱلَّذِى نَعِدُهُمْ أَوْ نَتَوَفَّيَنَّكَ
فَإِلَيْنَا مَرْجِعُهُمْ ثُمَّ ٱللَّهُ شَهِيدٌ عَلَىٰ
مَا يَفْعَلُونَ ٤٦

47. また、（過去の）全ての民には、使徒*が（遣わされて）いる。それで彼らの使徒*が（来世において）到来する時、彼らの間は公正に、不正*を被ることなく裁かれるのだ。

وَلِكُلِّ أُمَّةٍ رَّسُولٌ ۖ فَإِذَا جَآءَ رَسُولُهُمْ
قُضِىَ بَيْنَهُم بِٱلْقِسْطِ وَهُمْ لَا يُظْلَمُونَ ٤٧

48. また、彼ら（シルク*の徒）は言う。「その約束（復活の日*）は、いつなのか？　もし、あなた方が本当のことを言っているのならば」。

وَيَقُولُونَ مَتَىٰ هَٰذَا ٱلْوَعْدُ إِن كُنتُمْ صَٰدِقِينَ ٤٨

49. （使徒*よ、）言ってやれ。「私は自分自身に対し、アッラー*がお望みになったものの外、害（する力）も益（する力）も有してはいない。いかなる民にも、（定められた滅亡の）期限があるのだ。その期限が来れば、（彼らはそれを）一刻たりとも遅らせたり、早めたりすることはない」。

قُل لَّآ أَمْلِكُ لِنَفْسِى ضَرًّا وَلَا نَفْعًا إِلَّا مَا شَآءَ
ٱللَّهُ ۗ لِكُلِّ أُمَّةٍ أَجَلٌ ۚ إِذَا جَآءَ أَجَلُهُمْ فَلَا
يَسْتَـْٔخِرُونَ سَاعَةً ۖ وَلَا يَسْتَقْدِمُونَ ٤٩

50. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「言ってみよ、もし夜、あるいは昼に、かれ（アッラー*）の懲罰があなた方に到来したら？　一体罪悪者たちは、その（懲罰の）内の何を、性急に求めている[2]のか？

قُلْ أَرَءَيْتُمْ إِنْ أَتَىٰكُمْ عَذَابُهُۥ بَيَٰتًا أَوْ نَهَارًا
مَّاذَا يَسْتَعْجِلُ مِنْهُ ٱلْمُجْرِمُونَ ٥٠

---

1 不信仰者*たちに約束され、警告された、現世での懲罰のこと（ムヤッサル 214 頁参照）。

2 同様のアーヤとして、家畜章 57-58、戦利品章 32、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、サード章 16、相談章 18、階段章 1-2 も参照。

51. それから一体、あなた方（シルク*の徒）は、それ（アッラー*の懲罰）が起こる時になって、それを信じるというのか？　（その時、あなた方にはこう言われる、）『一体、今頃になって（信じるのか）？　あなた方は確かに、それを性急に求めていたくせに』」。[1]

أَثُمَّ إِذَا مَا وَقَعَ ءَامَنتُم بِهِۦٓۚ ءَآلْـَٰٔنَ وَقَدْ كُنتُم بِهِۦ
تَسْتَعْجِلُونَ ٥١

52. それから不正*（シルク*）を働いていた者たちに、（こう）言われる。「永遠の懲罰を味わえ。一体、あなた方が報われているのは、自分たちが（現世で）稼いでいたことゆえ以外の、何ものでもないのではないか？」

ثُمَّ قِيلَ لِلَّذِينَ ظَلَمُوا۟ ذُوقُوا۟ عَذَابَ ٱلْخُلْدِ
هَلْ تُجْزَوْنَ إِلَّا بِمَا كُنتُمْ تَكْسِبُونَ ٥٢

53. （使徒*よ、）彼ら（シルク*の徒）は、あなたに尋ねる。「一体、それ[2]は真実なのか？」言ってやるのだ。「然り、我が主*にかけて、本当にそれはまさしく真実である。そしてあなた方は（それから）、逃れられる者ではない」。

۞ وَيَسْتَنۢبِـُٔونَكَ أَحَقٌّ هُوَ ۖ قُلْ إِى وَرَبِّىٓ إِنَّهُۥ
لَحَقٌّ ۖ وَمَآ أَنتُم بِمُعْجِزِينَ ٥٣

54. もし、不正*（シルク*）を働いたあらゆる者に、地上にあるもの（全て）があったなら、（そして、それを懲罰を免れるための代償とすることが出来たのならば、）それで償ったであろう。そして懲罰を目の当たりにする時、彼らは（余りの恐怖ゆえ）後悔の念を露わに出来ない[3]。彼らは不正*を受けることなく、自分たちの間を公正に裁かれるのだ。

وَلَوْ أَنَّ لِكُلِّ نَفْسٍ ظَلَمَتْ مَا فِى ٱلْأَرْضِ
لَٱفْتَدَتْ بِهِۦ ۗ وَأَسَرُّوا۟ ٱلنَّدَامَةَ لَمَّا رَأَوُا۟
ٱلْعَذَابَ ۖ وَقُضِىَ بَيْنَهُم بِٱلْقِسْطِ ۚ وَهُمْ
لَا يُظْلَمُونَ ٥٤

---

1 アッラー*の最終的な懲罰が訪れたら、私たちは今信仰しました、などと言っても手遅れである（ムヤッサル 214 頁参照）。家畜章 158 とその訳注も参照。

2 彼らに約束された、復活の日*の懲罰のこと（前掲書、同頁参照）。

3 「露わに出来ない」と訳した動詞「アサッラ」には、「露わにする」という全く逆の意味もある（アル＝バガウィー2:423 参照）。

55. 本当にアッラー*にこそ、諸天と大地にあるもの（全て）が属するのではないか。本当にアッラー*のお約束[1]は、真実ではないか。だが、彼らの大半は知らないのだ。

أَلَآ إِنَّ لِلَّهِ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۗ أَلَآ إِنَّ
وَعۡدَ ٱللَّهِ حَقّٞ وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَهُمۡ لَا يَعۡلَمُونَ ٥٥

56. かれは生をもたらされ、死をもたらせられる。そしてかれ（の御許）にこそ、あなた方は戻らされるのである。

هُوَ يُحۡيِۦ وَيُمِيتُ وَإِلَيۡهِ تُرۡجَعُونَ ٥٦

57. 人々よ、あなた方のもとには確かに、あなた方の主*からの訓戒と、胸の内にあるものへの癒し[2]、導きと、信仰者たちへの慈悲（である、クルアーン*）が到来した。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ قَدۡ جَآءَتۡكُم مَّوۡعِظَةٞ
مِّن رَّبِّكُمۡ وَشِفَآءٞ لِّمَا فِي ٱلصُّدُورِ وَهُدٗى
وَرَحۡمَةٞ لِّلۡمُؤۡمِنِينَ ٥٧

58. （使徒*よ、）言うのだ。「アッラー*のご恩寵とそのご慈悲[3]ゆえに（喜べ）、それゆえにこそ喜ぶがよい。それは彼らが（現世で）集めている（つまらなく儚い）ものより、善いのだから」。

قُلۡ بِفَضۡلِ ٱللَّهِ وَبِرَحۡمَتِهِۦ فَبِذَٰلِكَ فَلۡيَفۡرَحُواْ
هُوَ خَيۡرٞ مِّمَّا يَجۡمَعُونَ ٥٨

59. （使徒*よ、彼ら不信仰者*たちに）言ってやるがいい。「言ってみよ、アッラー*があなた方のために下された糧のもの（について）。あなた方は（自分たちに）、その一部を非合法とし、（別の一部を）合法とした[4]」。言ってやれ。「一体アッラー*が、あなた方に（それを）許可されたのか？いや、あなた方はアッラー*に対して（嘘を）捏造しているのだ」。

قُلۡ أَرَءَيۡتُم مَّآ أَنزَلَ ٱللَّهُ لَكُم مِّن رِّزۡقٖ
فَجَعَلۡتُم مِّنۡهُ حَرَامٗا وَحَلَٰلٗا قُلۡ ءَآللَّهُ أَذِنَ
لَكُمۡۖ أَمۡ عَلَى ٱللَّهِ تَفۡتَرُونَ ٥٩

---

1 褒美と懲罰という「お約束」のこと（アル＝バイダーウィー3:203 参照）。

2 クルアーン*は間際（まぎわ）らしい間違いや、疑念への癒しであり、心の中の汚れを除去してくれるものである（イブン・カスィール 4:274 参照）。

3 ここでの「ご恩寵とご慈悲」とは、アッラー*のお導きと、イスラーム*のこと（ムヤッサル 215 頁参照）。

4 具体例として、食卓章 103、家畜章 136、138-139 も参照。

60. 復活の日*、アッラー*に対して嘘を捏造する者たちの（、自分たちの結末に対する）予測は、いかなるものであろう？　アッラー*こそはまさしく、人々への恩寵の主であられるが、彼らの大半は感謝しない。

وَمَا ظَنُّ ٱلَّذِينَ يَفۡتَرُونَ عَلَى ٱللَّهِ ٱلۡكَذِبَ
يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِۗ إِنَّ ٱللَّهَ لَذُو فَضۡلٍ عَلَى ٱلنَّاسِ
وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَهُمۡ لَا يَشۡكُرُونَ ٦٠

61. （使徒*よ、）あなたが何らかの用事中でも、まさにクルアーン*から読誦する時でも、あなた方がいかなる行為を行っている時でも、あなた方がそれに取りかかっている時、われら*はもとより、あなた方を見守る者なのである。そして僅かな重みでも、大地にあろうが天にあろうが、あなたの主*（の知識）から免れることはない。また、それより小さいものでも、大きなものでも、明白な書[1]に（予め記されてい）ないものはないのだ。[2]

وَمَا تَكُونُ فِي شَأۡنٖ وَمَا تَتۡلُواْ مِنۡهُ مِن قُرۡءَانٖ
وَلَا تَعۡمَلُونَ مِنۡ عَمَلٍ إِلَّا كُنَّا عَلَيۡكُمۡ
شُهُودًا إِذۡ تُفِيضُونَ فِيهِۚ وَمَا يَعۡزُبُ عَن رَّبِّكَ
مِن مِّثۡقَالِ ذَرَّةٖ فِي ٱلۡأَرۡضِ وَلَا فِي
ٱلسَّمَآءِ وَلَآ أَصۡغَرَ مِن ذَٰلِكَ وَلَآ أَكۡبَرَ إِلَّا
فِي كِتَٰبٖ مُّبِينٍ ٦١

62. 本当にアッラー*と親密な者[3]たち、彼らには怖れもなければ、悲しむこともない[4]のではないか。

أَلَآ إِنَّ أَوۡلِيَآءَ ٱللَّهِ لَا خَوۡفٌ عَلَيۡهِمۡ
وَلَا هُمۡ يَحۡزَنُونَ ٦٢

63. （彼らは）信仰し、（アッラー*を）畏れ*ていた者たち。

ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَكَانُواْ يَتَّقُونَ ٦٣

64. 彼らには現世の生活と来世において、吉報がある[5]。アッラー*の（お約束という）御言葉に、変更はない。それこそは、偉大なる勝利なのである。

لَهُمُ ٱلۡبُشۡرَىٰ فِي ٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَا وَفِي
ٱلۡأٓخِرَةِۚ لَا تَبۡدِيلَ لِكَلِمَٰتِ ٱللَّهِۚ
ذَٰلِكَ هُوَ ٱلۡفَوۡزُ ٱلۡعَظِيمُ ٦٤

---

1 この「明白な書」とは、守られし碑板*のことである、とされる（アル＝バガウィー2:424 参照）。

2 同様のアーヤ*として、婦人章 40、家畜章 59、サバア章 3 も参照。

3 服従行為によってアッラー*とお近づきになり、アッラー*からの厚遇を受ける者たち（アル＝カースィミー9:3364-3365 参照）。

4 「怖れもなければ…」については、雌牛章 38 の訳注を参照。

5 預言者*は、こう仰（おっしゃ）ったと伝えられている。「現世における彼らの吉報とは、ムスリム*が見る、あるいは見せられる正夢であり、来世における彼らの吉報は天国である」（アフマド 27526 参照）。

65. （使徒*よ、）彼ら（シルク*の徒）の言葉が、あなたを悲しませるようであってはならない。本当に偉力は全て、アッラー*に属するのだから。かれはよくお聴きになるお方、全知者であられる。

وَلَا يَحۡزُنكَ قَوۡلُهُمۡۘ إِنَّ ٱلۡعِزَّةَ لِلَّهِ جَمِيعًاۚ
هُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلۡعَلِيمُ ٦٥

66. 本当にアッラー*にこそ、諸天にある者と、大地にある者（全て）が属するのではないか。そしてアッラー*を差しおいて（、かれの）同位者（と自分たちが見なしているもの）たちに祈っている者たちは、何に従っているのか？ 彼らは憶測に従っているに過ぎないのであり、彼らは決めつけているだけなのだ。

أَلَآ إِنَّ لِلَّهِ مَن فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَن فِي
ٱلۡأَرۡضِۗ وَمَا يَتَّبِعُ ٱلَّذِينَ يَدۡعُونَ مِن
دُونِ ٱللَّهِ شُرَكَآءَۚ إِن يَتَّبِعُونَ إِلَّا ٱلظَّنَّ
وَإِنۡ هُمۡ إِلَّا يَخۡرُصُونَ ٦٦

67. （人々よ、）かれ（アッラー*）は、あなた方がそこで安らぐように夜をお創りになり、昼を（生活のために）視界が利くものとされたお方。本当にそこにはまさしく、耳を傾ける民にとっての御徴[1]がある。

هُوَ ٱلَّذِي جَعَلَ لَكُمُ ٱلَّيۡلَ
لِتَسۡكُنُواْ فِيهِ وَٱلنَّهَارَ مُبۡصِرًاۚ إِنَّ
فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَٰتٖ لِّقَوۡمٖ يَسۡمَعُونَ ٦٧

68. 彼ら（シルク*の徒）は、言った。「アッラー*は御子をもうけられた」――かれ（アッラー*）に称え*あれ[2]――。かれは、満ち足りておられる*お方であるのに。かれにこそ、諸天にあるものと大地にあるもの（全て）は属する。あなた方には、これ[3]についての根拠などないのだ。一体あなた方は、アッラー*について知りもしないことを言うのか？

قَالُواْ ٱتَّخَذَ ٱللَّهُ وَلَدٗاۗ سُبۡحَٰنَهُۥۖ هُوَ
ٱلۡغَنِيُّۖ لَهُۥ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلۡأَرۡضِۚ
إِنۡ عِندَكُم مِّن سُلۡطَٰنِۭ بِهَٰذَآۚ
أَتَقُولُونَ عَلَى ٱللَّهِ مَا لَا تَعۡلَمُونَ ٦٨

---

1 この「御徴」とは、アッラーの唯一性*の証拠のこと（ムヤッサル 216 頁参照）。

2 雌牛章 116 の訳注も参照。

3 「アッラー*は御子をもうけられた」などといった、シルク*の徒の嘘の数々を指す（前掲書、同頁参照）。

69. 言ってやれ。「本当に、アッラー*に対して嘘(うそ)を捏造(ねつぞう)する者たちは成功しない」。

قُلۡ إِنَّ ٱلَّذِينَ يَفۡتَرُونَ عَلَى ٱللَّهِ ٱلۡكَذِبَ
لَا يُفۡلِحُونَ ٦٩

70. （それは）現世における享楽(きょうらく)[1]。その後、われら*（の御許(みもと)）こそが、彼らの帰り所となる。それからわれら*は、彼らが不信仰を犯(おか)していたことゆえに、彼らに厳(きび)しい懲罰(ちょうばつ)を味わわせるのだ。

مَتَٰعٞ فِي ٱلدُّنۡيَا ثُمَّ إِلَيۡنَا مَرۡجِعُهُمۡ ثُمَّ
نُذِيقُهُمُ ٱلۡعَذَابَ ٱلشَّدِيدَ بِمَا كَانُواْ
يَكۡفُرُونَ ٧٠

71. （使徒(しと)よ、）彼ら（不信仰者*たち）に、ヌーフ*の話を読唱(どくしょう)して聞かせよ。彼（ヌーフ）がその民に、（こう）言った時のこと。「我が民よ、もし（あなた方のもとでの）私の滞留(たいりゅう)と、アッラーの御徴(みしるし)[2]による（あなた方に対しての）私の訓戒(くんかい)が、あなた方にとって苦痛となったとしても、私はアッラーにこそ全てを委(ゆだ)ねた*のだ。ならば、あなた方は自分たちの事を、あなた方（がアッラー）の同位者（としているもの）たちと共に決定し、その後はあなた方の（決定した）事を包(つつ)み隠すことなく（公(おおや)けにし）、それから私に対してやり遂(と)げてみよ[3]。私を猶予(ゆうよ)してくれなくてもよい。

۞وَٱتۡلُ عَلَيۡهِمۡ نَبَأَ نُوحٍ إِذۡ قَالَ لِقَوۡمِهِۦ يَٰقَوۡمِ إِن
كَانَ كَبُرَ عَلَيۡكُم مَّقَامِي وَتَذۡكِيرِي بِـَٔايَٰتِ
ٱللَّهِ فَعَلَى ٱللَّهِ تَوَكَّلۡتُ فَأَجۡمِعُوٓاْ أَمۡرَكُمۡ
وَشُرَكَآءَكُمۡ ثُمَّ لَا يَكُنۡ أَمۡرُكُمۡ عَلَيۡكُمۡ غُمَّةٗ ثُمَّ
ٱقۡضُوٓاْ إِلَيَّ وَلَا تُنظِرُونِ ٧١

72. それで、もしあなた方が（私の呼びかけから）背(そむ)き去ったとしても、私はあなた方に見返り[4]を要求していたわけではない。私の見返りは、全創造物(そうぞうぶつ)の主(しゅ)*から以外の何もの

فَإِن تَوَلَّيۡتُمۡ فَمَا سَأَلۡتُكُم مِّنۡ أَجۡرٍۖ إِنۡ أَجۡرِيَ
إِلَّا عَلَى ٱللَّهِۖ وَأُمِرۡتُ أَنۡ أَكُونَ مِنَ
ٱلۡمُسۡلِمِينَ ٧٢

1 シルク*の徒らの一部は、現世で享楽や幸福を味わっており、あたかも成功しているかのようである。しかしそれは現世での束の間の享楽であり、真の成功ではない（アブー・アッ＝スウード 4:163 参照）。

2 この「御徴」については、アッラーの唯一性を示し、彼らが犯していたシルクの虚妄（きょもう）性を暴（あば）く根拠のこと（アル＝アルースィー11:157 参照）。

3 出来る限りの懲罰や迫害によって、ヌーフを始末するということ（ムヤッサル 217 頁参照）。

4 「見返りの要求」については、家畜章 90 の訳注を参照。

でもないのであり、私は服従(ふくじゅう)する者（ムスリム*）となるように命じられたのだから」。

73. そして彼らは、彼（ヌーフ*）を嘘(うそ)つき呼ばわりした。それで、われら*は彼と、彼と共にあった者を船で救って、彼らを継承者(けいしょう)[1]とし、われら*の御徴(みしるし)[2]を嘘(うそ)とした者たちを、溺(おぼ)れ（死(じ)に）させた[3]。ならば、警告(けいこく)を受けた者たちの結末(けつまつ)がいかなるものだったかを、見てみるがよい。

فَكَذَّبُوهُ فَنَجَّيْنَٰهُ وَمَن مَّعَهُۥ فِى ٱلْفُلْكِ
وَجَعَلْنَٰهُمْ خَلَٰٓئِفَ وَأَغْرَقْنَا ٱلَّذِينَ كَذَّبُوا۟
بِـَٔايَٰتِنَا ۖ فَٱنظُرْ كَيْفَ كَانَ عَٰقِبَةُ ٱلْمُنذَرِينَ ٧٣

74. それから彼（ヌーフ*）の後、われら*は（その他の）使徒(しと)*たちを、彼らの民に遣(つか)わした。それで彼ら（使徒(しと)*たち）は、明証[4]と共に彼ら（その民）のもとに到来(とうらい)したものの、彼らは以前にそれを嘘(うそ)呼ばわりしていたことゆえ、（使徒(しと)*たちのもたらしたものを）信じるべくもなかった[5]。同様にわれら*は、（アッラー*の法と使徒(しと)たちの教えに対する）侵犯(しんぱん)者たちの心を、閉じてしまうのである[6]。

ثُمَّ بَعَثْنَا مِنۢ بَعْدِهِۦ رُسُلًا إِلَىٰ قَوْمِهِمْ فَجَآءُوهُم
بِٱلْبَيِّنَٰتِ فَمَا كَانُوا۟ لِيُؤْمِنُوا۟ بِمَا كَذَّبُوا۟ بِهِۦ مِن قَبْلُ ۚ
كَذَٰلِكَ نَطْبَعُ عَلَىٰ قُلُوبِ ٱلْمُعْتَدِينَ ٧٤

75. それから彼らの後、われら*はムーサー*とハールーン*をわれら*の御徴(みしるし)[7]と共に、フィルアウン*とその（民の）有力者たちに遣(つか)わした。そして彼らは、（真実を受け入れることに）高慢であり、罪悪者(ざいあく)である民であった。

ثُمَّ بَعَثْنَا مِنۢ بَعْدِهِم مُّوسَىٰ وَهَٰرُونَ إِلَىٰ فِرْعَوْنَ
وَمَلَإِي۟هِۦ بِـَٔايَٰتِنَا فَٱسْتَكْبَرُوا۟ وَكَانُوا۟
قَوْمًا مُّجْرِمِينَ ٧٥

---

1 「継承者」については、家畜章 165 の訳注を参照。

2 この「御徴」は、アッラーの唯一性*と、使徒*の正しさを示す証拠のこと（アッ＝タバリー5:4240 参照）。

3 この時の様子は、フード*章 42-48 に詳しい。

4 この「明証」については、アーヤ*13「明証」の訳注を参照。

5 同様のアーヤ*として、家畜章 110 とその訳注も参照（イブン・カスィール 4:284 参照）。

6 雌牛章 7「…塞がれた」の訳注も参照。

7 この「御徴」は、アッラーの唯一性*と、使徒*の正しさを示す証拠のこと（アッ＝タバリー5:4240 参照）。

76. そして、彼らのもとにわれら*の御許からの真実が訪れると、彼らは言った。「本当にこれはまさしく、紛れもない魔術だ」。

فَلَمَّا جَآءَهُمُ ٱلۡحَقُّ مِنۡ عِندِنَا قَالُوٓاْ إِنَّ هَٰذَا
لَسِحۡرٞ مُّبِينٞ ٧٦

77. ムーサーは言った。「一体あなた方は真実があなた方のもとを訪れた時、それに対して（そのようなことを）言うのか？　これが魔術だというのか？　魔術師たちは、成功しないというのに」。

قَالَ مُوسَىٰٓ أَتَقُولُونَ لِلۡحَقِّ لَمَّا جَآءَكُمۡۖ
أَسِحۡرٌ هَٰذَا وَلَا يُفۡلِحُ ٱلسَّٰحِرُونَ ٧٧

78. 彼らは、（ムーサー*に）言った。「一体あなたは、私たちが見出した自分たちのご先祖様のやり方[1]から、私たちを背かせるために来たのか？ そして地上での権威が、あなた方両人（ムーサー*とハールーン*）のものとなるために？　私たちはあなた方のことなど、信じる者ではないというのに」。

قَالُوٓاْ أَجِئۡتَنَا لِتَلۡفِتَنَا عَمَّا وَجَدۡنَا عَلَيۡهِ ءَابَآءَنَا
وَتَكُونَ لَكُمَا ٱلۡكِبۡرِيَآءُ فِي ٱلۡأَرۡضِ وَمَا نَحۡنُ
لَكُمَا بِمُؤۡمِنِينَ ٧٨

79. フィルアウン*は、（有力者たちに）言った。「あらゆる習熟した魔術師を、私のもとに連れて来い」。

وَقَالَ فِرۡعَوۡنُ ٱئۡتُونِي بِكُلِّ سَٰحِرٍ عَلِيمٖ ٧٩

80. そして魔術師たちがやって来ると、ムーサー*は彼らに言った。「あなた方が投げる物（紐や杖など）を、投げるがよい」。[2]

فَلَمَّا جَآءَ ٱلسَّحَرَةُ قَالَ لَهُم مُّوسَىٰٓ أَلۡقُواْ مَآ
أَنتُم مُّلۡقُونَ ٨٠

81. それで彼らが（それらを）投げた時、ムーサー*は言った[3]。「あなた方が披露したものは、魔術である。本当にアッラー*は、

فَلَمَّآ أَلۡقَوۡاْ قَالَ مُوسَىٰ مَا جِئۡتُم بِهِ ٱلسِّحۡرُۖ
إِنَّ ٱللَّهَ سَيُبۡطِلُهُۥٓ إِنَّ ٱللَّهَ لَا يُصۡلِحُ عَمَلَ
ٱلۡمُفۡسِدِينَ ٨١

---

1 「ご先祖様のやり方」については、雌牛章 170 の訳注を参照。

2 話の流れとしては、この前に高壁章 115、ター・ハー章 65 のような状況がある。尚ムーサー*が魔術師らに先手を取らせたのは、彼らが既に列を作って準備を整えていたのと、先に人々に魔術師らの行いを見せることで、ムーサー*によるアッラー*の奇跡の真実性と魔術の嘘を明らかにするためであった、とされる（イブン・カスィール 4:286 参照）。

3 ムーサー*のこの言葉の前には、高壁章 116、ター・ハー章 67-69 に描かれているような状況がある（前掲書 4:286-287 参照）。

それを無効にして下さろう。実にアッラー*は、腐敗*を働く者たちの行い[1]を、容認されないのだから。

82. そしてアッラー*は、その御言葉によって真理を確立される。たとえ、罪悪者たちが嫌がろうとも」。

وَيُحِقُّ ٱللَّهُ ٱلْحَقَّ بِكَلِمَٰتِهِۦ وَلَوْ كَرِهَ
ٱلْمُجْرِمُونَ ٨٢

83. そしてムーサーを信じたのは、その民の子孫だけだった。彼らは、フィルアウン*とその有力者たち[2]が、自分たちを試練にかけることを怖がっていた——本当にフィルアウンは地上で驕り高ぶり、本当にまさしく、彼は度を越した者たちの類いであった——。

فَمَآ ءَامَنَ لِمُوسَىٰٓ إِلَّا ذُرِّيَّةٌ مِّن قَوْمِهِۦ عَلَىٰ
خَوْفٍ مِّن فِرْعَوْنَ وَمَلَإِي۟هِمْ أَن يَفْتِنَهُمْ ۚ وَإِنَّ
فِرْعَوْنَ لَعَالٍ فِى ٱلْأَرْضِ وَإِنَّهُۥ لَمِنَ
ٱلْمُسْرِفِينَ ٨٣

84. また、ムーサー*は言った。「我が民よ、もしアッラー*を信じたというのなら、かれにこそ全てを委ねよ*。もしあなた方が、服従する者（ムスリム*）であるならば」。

وَقَالَ مُوسَىٰ يَٰقَوْمِ إِن كُنتُمْ ءَامَنتُم بِٱللَّهِ
فَعَلَيْهِ تَوَكَّلُوٓا۟ إِن كُنتُم مُّسْلِمِينَ ٨٤

85. それで彼ら（ムーサー*の民）は、言った。「私たちは、アッラー*にこそ全てを委ねました。我らが主*よ、私たちを不正*者である民への試練とはしないで下さい[3]。

فَقَالُوا۟ عَلَى ٱللَّهِ تَوَكَّلْنَا رَبَّنَا لَا تَجْعَلْنَا فِتْنَةً
لِّلْقَوْمِ ٱلظَّٰلِمِينَ ٨٥

86. また、あなたのご慈悲によって、私たちを不信仰の民*からお救い下さい」。

وَنَجِّنَا بِرَحْمَتِكَ مِنَ ٱلْقَوْمِ ٱلْكَٰفِرِينَ ٨٦

---

1 これは一説に、腐敗*を及ぼすあらゆる物事のこと。そして魔術や魔術師は、この内の最たるものである（アッ＝シャウカーニー2:672 参照）。

2「その民」「その有力者たち」いずれも、「その」が「ムーサーの」あるいは「フィルアウンの」を指す、という異なる解釈がある（アル＝バガウィー2:430 参照）。

3 「不信仰者*たちが私たちに勝利し、その結果、私たちが宗教から遠ざけられないようにして下さい」という意味。あるいは、「不信仰者*たちが私たちに勝利することにより、そのことが彼らに、彼らの方が正しかったのだと誤解（ごかい）させないようにして下さい」ということ（ムヤッサル 218 頁参照）。

87. われら*は、ムーサー*とその兄（ハールーン*）に（、こう）啓示した。「あなた方二人の民のためにエジプトで家々を拠り所とし、あなた方の家々をキブラ*とし、礼拝を遵守*せよ[1]。そして信仰者たちには、吉報を伝えるのだ」。

وَأَوْحَيْنَآ إِلَىٰ مُوسَىٰ وَأَخِيهِ أَن تَبَوَّءَا
لِقَوْمِكُمَا بِمِصْرَ بُيُوتًا وَٱجْعَلُوا۟ بُيُوتَكُمْ
قِبْلَةً وَأَقِيمُوا۟ ٱلصَّلَوٰةَ ۗ وَبَشِّرِ ٱلْمُؤْمِنِينَ ٨٧

88. また、ムーサー*は言った。「我らが主*よ、実にあなたはフィルアウン*とその（民の）有力者に、現世の生活において、飾りと財産をお与えになりました。我らが主*よ、（その結果、）彼らは（それらの恩恵に感謝せず、）あなたの道から（自分たちと人々を）迷わせたのです。我らが主*よ、彼らの財産を変容させ[2]、彼らの心をきつく狭め、それで痛烈な懲罰を目の当たりにするまでは、彼らが信仰しないようにして下さい」。

وَقَالَ مُوسَىٰ رَبَّنَآ إِنَّكَ ءَاتَيْتَ فِرْعَوْنَ
وَمَلَأَهُۥ زِينَةً وَأَمْوَٰلًا فِى ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا رَبَّنَا
لِيُضِلُّوا۟ عَن سَبِيلِكَ ۖ رَبَّنَا ٱطْمِسْ عَلَىٰٓ
أَمْوَٰلِهِمْ وَٱشْدُدْ عَلَىٰ قُلُوبِهِمْ فَلَا يُؤْمِنُوا۟ حَتَّىٰ
يَرَوُا۟ ٱلْعَذَابَ ٱلْأَلِيمَ ٨٨

89. かれ（アッラー*）は仰せられた。「あなた方二人の祈願は、確かに聞き入れられた。ゆえに確固としてあれ[3]。そして（われら*の約束と警告について）知識のない者たちの道には、断じて従ってはならない」。

قَالَ قَدْ أُجِيبَت دَّعْوَتُكُمَا فَٱسْتَقِيمَا
وَلَا تَتَّبِعَآنِّ سَبِيلَ ٱلَّذِينَ لَا يَعْلَمُونَ ٨٩

90. われら*は、イスラーイールの子ら*に海を渡らせた[4]。そしてフィルアウン*とその軍勢は不当にも敵対して、彼らを追った。や

۞ وَجَٰوَزْنَا بِبَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ ٱلْبَحْرَ فَأَتْبَعَهُمْ فِرْعَوْنُ
وَجُنُودُهُۥ بَغْيًا وَعَدْوًا ۖ حَتَّىٰٓ إِذَآ أَدْرَكَهُ
ٱلْغَرَقُ قَالَ ءَامَنتُ أَنَّهُۥ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا ٱلَّذِىٓ

---

1 大半の解釈学者によれば、イスラーイールの子ら*はムーサー*たちの到来後、彼らの礼拝所を破壊（はかい）され、礼拝を禁じられた。それで彼らは家をマスジド*とし、彼らのキブラ*であるエルサレムの方に向けるように命じられた（アル＝バガウィー4:431 参照）。

2 貨幣や農産物などが、価値のない石に変わり果てること。あるいは、朽（く）ち果ててしまうこと（アッ＝タバリー5:4254-4256 参照）。

3 自分たちの宗教の遵守（じゅんしゅ）と、フィルアウン*とその民を正しい教えへと招き続けることにおいて、確固としてあること（ムヤッサル 219 頁参照）。

4 この出来事については、ター・ハー章 77-78、詩人たち章 61-66、煙霧章 23-24 も参照。

がて溺死が彼（フィルアウン*）に襲いかかった時、彼は言った。「私は、イスラーイールの子ら*が信じたお方（アッラー*）の外、崇拝*すべき何ものもないことを信じました。そして私は、服従する者（ムスリム*）の一人なのです」。

ءَامَنَتۡ بِهِۦ بَنُوٓاْ إِسۡرَٰٓءِيلَ وَأَنَا۠ مِنَ ٱلۡمُسۡلِمِينَ ٩٠

91. 「（フィルアウン*よ、）今頃（信仰するの）か？[1]　あなたは以前、確かに反抗していたし、腐敗*を働く者たちの類いだったのに。

ءَآلۡـَٰٔنَ وَقَدۡ عَصَيۡتَ قَبۡلُ وَكُنتَ مِنَ
ٱلۡمُفۡسِدِينَ ٩١

92. それでわれら*はこの日、あなたがあなたの後（世）の者たちへの（訓戒すべき）御徴となるべく、あなたをその肉体のみ[2]、高台にうち上げてやるとしよう。本当に多くの人々は、われら*の御徴に無頓着なのである[3]」。[4]

فَٱلۡيَوۡمَ نُنَجِّيكَ بِبَدَنِكَ لِتَكُونَ لِمَنۡ
خَلۡفَكَ ءَايَةٗۚ وَإِنَّ كَثِيرٗا مِّنَ ٱلنَّاسِ عَنۡ
ءَايَٰتِنَا لَغَٰفِلُونَ ٩٢

93. われら*は確かに、イスラーイールの子ら*を善い土地に住まわせ、善きものの内から、彼らに糧を授けた。そして彼らが意見を異にしたのは、彼らのもとに知識が到来した後のことだったのだ[5]。本当にあなたの主*は復活の日*、彼らが意見を異にしていたことについて、彼らの間に裁決をお下しになる。

وَلَقَدۡ بَوَّأۡنَا بَنِيٓ إِسۡرَٰٓءِيلَ مُبَوَّأَ صِدۡقٖ
وَرَزَقۡنَٰهُم مِّنَ ٱلطَّيِّبَٰتِ فَمَا ٱخۡتَلَفُواْ حَتَّىٰ
جَآءَهُمُ ٱلۡعِلۡمُۚ إِنَّ رَبَّكَ يَقۡضِي بَيۡنَهُمۡ يَوۡمَ
ٱلۡقِيَٰمَةِ فِيمَا كَانُواْ فِيهِ يَخۡتَلِفُونَ ٩٣

---

1 死が訪れれば、悔悟をしても受け入れられない（ムヤッサル 219 頁参照）。家畜章 158 とその訳注も参照。

2 魂のない肉体、あるいは彼が着ていた鎧（よろい）のこと（アル＝バガウィー2:433 参照）。

3 一説によれば、ムーサー*と共にエジプトを脱出したイスラーイールの子ら*の一部は、フィルアウン*が溺れ死んだのを信じない、と主張した。それでアッラー*は、彼の死が明白になるよう、このようにされたのだという（イブン・カスィール 4:294 参照）。

4 これが誰の言葉であるか、という点については、「アッラー*」「ジブリール*」「ミーカーイール*」「その他の天使*」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー8:379 参照）。

5 このアーヤ*の意味については、雌牛章 213、相談章 14 とその訳注を参照。

94. もし（使徒*よ）、われら*があなた[1]に下したもの（の真実性）について疑念を抱いているのなら、（確証と証言を得るため、）あなた以前に啓典を読んでいる者たちに尋ねるがよい。真理は確かに、あなたの主*から、あなたのもとに到来したのである。ならば絶対に、（そのことを）疑わしく思う者たちの類いになってはならない。

فَإِن كُنتَ فِي شَكّٖ مِّمَّآ أَنزَلۡنَآ إِلَيۡكَ فَسۡـَٔلِ
ٱلَّذِينَ يَقۡرَءُونَ ٱلۡكِتَٰبَ مِن قَبۡلِكَۚ
لَقَدۡ جَآءَكَ ٱلۡحَقُّ مِن رَّبِّكَ فَلَا تَكُونَنَّ مِنَ
ٱلۡمُمۡتَرِينَ ٩٤

95. また（使徒*よ、）あなたは絶対に、アッラー*の御徴を嘘呼ばわりした者たちの一人となり、それによって損失者の類いとなってはならない。

وَلَا تَكُونَنَّ مِنَ ٱلَّذِينَ كَذَّبُواْ بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ
فَتَكُونَ مِنَ ٱلۡخَٰسِرِينَ ٩٥

96. 本当に、（懲罰という）あなたの主*の御言葉が自分たちに確定した者たちは、信じないのである。

إِنَّ ٱلَّذِينَ حَقَّتۡ عَلَيۡهِمۡ كَلِمَتُ رَبِّكَ لَا
يُؤۡمِنُونَ ٩٦

97. たとえ、彼らのもとに（訓戒と教訓としての）あらゆる御徴が訪れても。痛烈な懲罰を目の当たりにするまで（、信じないのだ）。[2]

وَلَوۡ جَآءَتۡهُمۡ كُلُّ ءَايَةٍ حَتَّىٰ يَرَوُاْ
ٱلۡعَذَابَ ٱلۡأَلِيمَ ٩٧

98. どうして町（の住民）は（、懲罰を目の当たりにする前に）信仰し、その信仰で自らを益しなかったのか？[3]　但しユーヌス*の民だけは別で、彼らが信仰した時（、懲罰はまさに下ろうとしていたが）、われら*

فَلَوۡلَا كَانَتۡ قَرۡيَةٌ ءَامَنَتۡ فَنَفَعَهَآ
إِيمَٰنُهَآ إِلَّا قَوۡمَ يُونُسَ لَمَّآ ءَامَنُواْ كَشَفۡنَا
عَنۡهُمۡ عَذَابَ ٱلۡخِزۡيِ فِي ٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَا
وَمَتَّعۡنَٰهُمۡ إِلَىٰ حِينٖ ٩٨

---

1 このアーヤ*と、後続のアーヤ*の「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照（前掲書 8:383 参照）。

2 アーヤ*91 の訳注も参照。

3 この件（くだり）には、懲罰が下るまで信仰しなかった過去の不信仰の民*に対する非難と、懲罰が到来した時に信仰しても彼らは救われなかったのだという、否定の意味が含まれているという（イブン・ジュザイ参照 1:388）。また当時のマッカ*の民に対する警告と、信仰への奨励（しょうれい）も多分に含まれている（イブン・アーシュール 11:289 参照）。家畜章 158 とその訳注も参照。

は彼らから現世の生活における屈辱の懲罰を取り除いてやり、暫しの間、彼ら（の余命）を楽しませておいたのである。[1]

99. （使徒*よ、）あなたの主*がお望みになったなら、地上の全ての者が揃って、信仰に入ったであろう。一体あなたは、人々が信仰者となるように強制するというのか？[2]

وَلَوۡ شَآءَ رَبُّكَ لَأٓمَنَ مَن فِي ٱلۡأَرۡضِ كُلُّهُمۡ
جَمِيعًاۚ أَفَأَنتَ تُكۡرِهُ ٱلنَّاسَ حَتَّىٰ يَكُونُواْ
مُؤۡمِنِينَ ٩٩

100. また、アッラー*のお許しなくしては、誰も信仰することなど叶わない。そして、かれ（アッラー*）は（、そのご命令を）弁えない者たちに対して、穢れ[3]をお与えになるのだ。

وَمَا كَانَ لِنَفۡسٍ أَن تُؤۡمِنَ إِلَّا بِإِذۡنِ ٱللَّهِۚ
وَيَجۡعَلُ ٱلرِّجۡسَ عَلَى ٱلَّذِينَ لَا يَعۡقِلُونَ ١٠٠

101. （使徒*よ、）言ってやれ。「諸天にあるものと、大地にあるものを考えてみよ——御徴も警告も、信仰しない民には無益なのだが——」。

قُلِ ٱنظُرُواْ مَاذَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۚ
وَمَا تُغۡنِي ٱلۡأٓيَٰتُ وَٱلنُّذُرُ عَن قَوۡمٖ
لَّا يُؤۡمِنُونَ ١٠١

102. 彼らは一体、彼ら以前に過ぎ去って行った（不信仰）者*たちの日々[4]のようなものを、待つというのか？ （使徒*よ、）言ってやるがいい。「では、待つがよい。本当に私も、あなた方と共に（あなた方への懲罰を、）待つ者となるから」。

فَهَلۡ يَنتَظِرُونَ إِلَّا مِثۡلَ أَيَّامِ ٱلَّذِينَ
خَلَوۡاْ مِن قَبۡلِهِمۡۚ قُلۡ فَٱنتَظِرُوٓاْ إِنِّي مَعَكُم
مِّنَ ٱلۡمُنتَظِرِينَ ١٠٢

---

1 ユーヌス*はその民に懲罰の警告をして立ち去った（詳しくは預言者*たち章 87、整列者章 139-148 とその訳注を参照）が、懲罰の兆候（ちょうこう）を目の当たりにした民は信仰に入り、必死になってアッラー*に救いを求めた。その結果、アッラー*は彼らにご慈悲をおかけになったのである（イブン・カスィール 4:297 参照）。

2 強制された信仰については、家畜章 158、詩人たち章 4 とその訳注も参照。最終的な導きは、アッラーのみに委ねられていることに関しては、雌牛章 272、蜜蜂章 37、蟻章 80、物語章 56、相談章 52 とその訳注を参照。

3 この「穢れ」は、懲罰と屈辱のこと（ムヤッサル 220 頁参照）。

4 過去の不信仰者*たちが、アッラー*からの懲罰を目の当たりにした「日々」のこと（ムヤッサル 220 頁参照）。

103. それからわれら*は、われらの使徒たちと、信仰した者たちを、救い出す。そのように――(それは)われらにとって必須なのだ――、われらは信仰者たちを救う。

ثُمَّ نُنَجِّي رُسُلَنَا وَٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ ۚ
كَذَٰلِكَ حَقًّا عَلَيْنَا نُنجِ ٱلْمُؤْمِنِينَ ١٠٣

104. (使徒*よ、)言うのだ。「人々よ、もしあなた方が私の宗教(イスラーム*)に疑念を抱いていたとしても、私はあなた方がアッラー*を差しおいて崇めているものを、崇拝*しない。だが私は、あなた方(の魂)をお召しになるアッラー*を崇拝*するのであり、信仰者の一人となることを命じられたのである。

قُلْ يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ إِن كُنتُمْ فِى شَكٍّ مِّن دِينِى
فَلَآ أَعْبُدُ ٱلَّذِينَ تَعْبُدُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ
وَلَٰكِنْ أَعْبُدُ ٱللَّهَ ٱلَّذِى يَتَوَفَّىٰكُمْ ۖ وَأُمِرْتُ أَنْ
أَكُونَ مِنَ ٱلْمُؤْمِنِينَ ١٠٤

105. そして、『(使徒*よ、)あなた[1]の顔をその純正[2]な宗教(イスラーム*)へと正すのだ。断じて、シルク*の徒の類いとなってはならない。

وَأَنْ أَقِمْ وَجْهَكَ لِلدِّينِ حَنِيفًا وَلَا تَكُونَنَّ مِنَ
ٱلْمُشْرِكِينَ ١٠٥

106. また、あなた[3]を益することもなければ害することもないもの[4]を、アッラー*を差しおいて祈ってはならない。もし(そのようなことを)したならば、そうしたら、本当にあなたは不正*者の類いとなってしまうだろう』と(命じられたのだ)」。

وَلَا تَدْعُ مِن دُونِ ٱللَّهِ مَا لَا يَنفَعُكَ وَلَا
يَضُرُّكَ ۖ فَإِن فَعَلْتَ فَإِنَّكَ إِذًا مِّنَ
ٱلظَّٰلِمِينَ ١٠٦

---

1 この「あなた」は預言者*だけでなく、彼の共同体の全員にも向けられている(ムヤッサル 220 頁参照)。

2 雌牛章 135「純正な」についての訳注を参照。また「顔」についても、同章 112 の訳注を参照。

3 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照(ムヤッサル 220 頁参照)。

4 つまり、それらを崇拝*しても、それらがあなたを益することはない。そして、もしそれらに敵対しても、それらがあなたを害することもない(アル=バガウィー2:437 参照)。

107. （使徒*よ、）もしアッラー*があなたに害悪をお与えになれば、かれ以外には誰一人、それを取り除いてくれる者はいない。また、かれがあなたに何らかの善をお望みになれば誰一人として、その恩寵を突き返す（ことの出来る）者はいない[1]。かれはその僕の内から、かれがお望みになる者に、それ（害悪あるいは善）をお与えになるのであり、かれは赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだ。

وَإِن يَمۡسَسۡكَ ٱللَّهُ بِضُرّٖ فَلَا كَاشِفَ لَهُۥٓ إِلَّا هُوَۖ وَإِن يُرِدۡكَ بِخَيۡرٖ فَلَا رَآدَّ لِفَضۡلِهِۦۚ يُصِيبُ بِهِۦ مَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦۚ وَهُوَ ٱلۡغَفُورُ ٱلرَّحِيمُ ١٠٧

108. （使徒*よ、）言ってやれ。「人々よ、あなた方の主*から、あなた方のもとに真理が到来した。それで（それにより）導かれた者があれば、本当に彼は自分を益するために導かれるだけであり、また迷う者があれば、自分を害するために迷うだけ。そして私は（あなた方の信仰を委任された）、あなた方に対する代理人などではない」。

قُلۡ يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ قَدۡ جَآءَكُمُ ٱلۡحَقُّ مِن رَّبِّكُمۡۖ فَمَنِ ٱهۡتَدَىٰ فَإِنَّمَا يَهۡتَدِي لِنَفۡسِهِۦۖ وَمَن ضَلَّ فَإِنَّمَا يَضِلُّ عَلَيۡهَاۖ وَمَآ أَنَا۠ عَلَيۡكُم بِوَكِيلٖ ١٠٨

109. そして（使徒*よ、）あなたに啓示されるものに従い、アッラー*が裁決[2]を下されるまで忍耐*せよ。かれは、裁決者の内でも最善のお方であられる。

وَٱتَّبِعۡ مَا يُوحَىٰٓ إِلَيۡكَ وَٱصۡبِرۡ حَتَّىٰ يَحۡكُمَ ٱللَّهُۚ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلۡحَٰكِمِينَ ١٠٩

---

1 この「害悪」と「善」については、家畜章 17 の訳注を参照。

2 アッラー*はバドルの戦い*の日、彼らを征伐（せいばつ）するという「裁決」をお下しになり、その残存者たちについては、彼らと同様の目にあわせるか、あるいはアッラー*に悔悟するかのいずれかとなるよう、命じられた（アッ＝タバリー5:4277 参照）。

第 11 章
フード*章[1]

سُورَةُ هُودٍ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. アリフ・ラーム・ラー[2]。（これは）そのアーヤ*が完全に仕上げられ、それから解明された、英知あふれる*お方、通暁されたお方の御許からの啓典である。

الٓرۚ كِتَٰبٌ أُحۡكِمَتۡ ءَايَٰتُهُۥ ثُمَّ فُصِّلَتۡ مِن لَّدُنۡ حَكِيمٍ خَبِيرٍ ١

2. あなた方が、アッラー*以外のいかなるものも崇拝*しないように、との。（ムハンマド*よ、人々に言え。）「本当に私はあなた方への、かれ（アッラー*）からの警告者、吉報を伝える者[3]である」。

أَلَّا تَعۡبُدُوٓاْ إِلَّا ٱللَّهَۚ إِنَّنِي لَكُم مِّنۡهُ نَذِيرٞ وَبَشِيرٞ ٢

3. また、あなた方の主*に（罪の）お赦しを乞い、それからかれに悔悟せよ、との。（そうすれば、）かれは定められた期限まで、あなた方を善き楽しみで楽しませて下さり、あらゆる徳の持ち主には、その徳をお授け下さろう[4]。もし、彼らが（あなたが誘うものから）背き去るのであれば、（言うのだ、）「本当に私は、あなた方に対し、大いなる（復活の*）日の懲罰を怖れている」。

وَأَنِ ٱسۡتَغۡفِرُواْ رَبَّكُمۡ ثُمَّ تُوبُوٓاْ إِلَيۡهِ يُمَتِّعۡكُم مَّتَٰعًا حَسَنًا إِلَىٰٓ أَجَلٖ مُّسَمّٗى وَيُؤۡتِ كُلَّ ذِي فَضۡلٖ فَضۡلَهُۥۖ وَإِن تَوَلَّوۡاْ فَإِنِّيٓ أَخَافُ عَلَيۡكُمۡ عَذَابَ يَوۡمٖ كَبِيرٍ ٣

---

1 学者間の見解は、マッカ*啓示でほぼ一致。マッカ*啓示の常として、アッラーの唯一性*、預言者*ムハンマド*の使徒*性、死後の復活といった基本的信仰の確証がなされ、次いで預言者*たちの教えの一貫性の強調、信仰者たちへの慰（なぐさ）め、不信仰者*への警告といった意味を含む、過去の預言者*たちとその民の間に起こった出来事が、描写されていく。スーラ*の名称は、そういった預言者*たちの一人であり、当スーラ*において詳細に描かれている、フード*（アーヤ*50 以降を参照）に由来。尚、ヌーフ*とその民の話についても、他のスーラ*には見られない詳しい描写が見受けられる。

2 これらの文字については頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 この「警告者…」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

4 服従行為や行いに徳がある者には、現世で、または来世で、あるいはその両方で、その徳の報いを下さる、ということ（アッ＝シャウカーニー2:672 参照）。

4. アッラー*にこそ、あなた方の帰り所がある。そしてかれは、あらゆることがお出来なお方。

إِلَى ٱللَّهِ مَرۡجِعُكُمۡۖ وَهُوَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٌ ٤

5. 本当に彼ら（シルクの徒*）は、かれ[1]から（心の内を）隠そうとして、身をかがめているではないか。彼らがその衣服ですっぽり身を覆う時でも、かれ（アッラー*）は彼らの秘密にすることも、露わにすることもご存知なのではないか。本当にかれは、胸中にあるものを（全て）ご存知になるお方なのだから。

أَلَآ إِنَّهُمۡ يَثۡنُونَ صُدُورَهُمۡ لِيَسۡتَخۡفُواْ مِنۡهُۚ
أَلَا حِينَ يَسۡتَغۡشُونَ ثِيَابَهُمۡ يَعۡلَمُ مَا يُسِرُّونَ
وَمَا يُعۡلِنُونَۚ إِنَّهُۥ عَلِيمُۢ بِذَاتِ ٱلصُّدُورِ ٥

6. 地上を歩くいかなる生き物でも、その糧がアッラー*に委ねられていないものはない。またかれは、それらの定住地と収容地[2]をご存知である。全ては、明白なる書[3]の中に（予め定められて）あるのだから。

۞ وَمَا مِن دَآبَّةٖ فِي ٱلۡأَرۡضِ إِلَّا عَلَى ٱللَّهِ
رِزۡقُهَا وَيَعۡلَمُ مُسۡتَقَرَّهَا وَمُسۡتَوۡدَعَهَاۚ
كُلّٞ فِي كِتَٰبٖ مُّبِينٖ ٦

7. また、かれ（アッラー*）は、あなた方の誰が最も行いが善いか、あなた方を試されるため、諸天と大地を六日間で創造された[4]お方――（その時、）かれの御座[5]は水の上にあった――。（使徒*よ、）もしもあなたが彼ら（シルク*の徒）に、「本当にあなた方は死後、蘇らされる身の上なのだ」と言ったならば、不信仰に陥った者*たちは必ずや（こう）言う。「これ（クルアーン*）は、紛れもない魔術に外ならない」。

وَهُوَ ٱلَّذِي خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَ فِي
سِتَّةِ أَيَّامٖ وَكَانَ عَرۡشُهُۥ عَلَى ٱلۡمَآءِ
لِيَبۡلُوَكُمۡ أَيُّكُمۡ أَحۡسَنُ عَمَلٗاۗ وَلَئِن
قُلۡتَ إِنَّكُم مَّبۡعُوثُونَ مِنۢ بَعۡدِ ٱلۡمَوۡتِ
لَيَقُولَنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُوٓاْ إِنۡ هَٰذَآ إِلَّا سِحۡرٞ
مُّبِينٞ ٧

---

1 「かれ」はアッラー*を指すという説と、預言者*のことを指すという説がある（アル＝バガウィー2:439 参照）。

2 この「定住地と収容地」については、家畜章 98 の訳注を参照。

3 この「明白なる書」とは、守られし碑板*のこと（前掲書 2:440 参照）。

4 「六日間での天地創造」については、詳細にされた章 9-12 とその訳注も参照。

5 「御座」に関しては、高壁章 54 の訳注を参照。

8. そして、もしもわれら*が彼ら（シルク*の徒）に、決められた時期まで懲罰を遅らせてやったならば、彼らは必ずや（こう）言う。「（懲罰が真実なら、）何がそれ（が到来するの）を妨げているのか？[1]」見よ、それ（懲罰）が彼らに到来する日、それが彼らから逸らされることはなく、自分たちが嘲笑していたもの（懲罰）が彼らを包囲することになるのだ。

وَلَئِنْ أَخَّرْنَا عَنْهُمُ ٱلْعَذَابَ إِلَىٰٓ أُمَّةٍ
مَّعْدُودَةٍ لَّيَقُولُنَّ مَا يَحْبِسُهُۥٓ ۗ أَلَا يَوْمَ
يَأْتِيهِمْ لَيْسَ مَصْرُوفًا عَنْهُمْ وَحَاقَ بِهِم
مَّا كَانُوا۟ بِهِۦ يَسْتَهْزِءُونَ ﴿٨﴾

9. また、もしもわれら*が人間に、われら*の御許からの慈悲[2]を（一旦）味わわせてやり、その後に彼からそれを奪い取ってしまったならば、本当に彼は必ず、（アッラー*のご慈悲に対して）失意の念激しい者、（かれの恩恵に対する）大層な恩知らずになる。

وَلَئِنْ أَذَقْنَا ٱلْإِنسَٰنَ مِنَّا رَحْمَةً ثُمَّ
نَزَعْنَٰهَا مِنْهُ إِنَّهُۥ لَيَـُٔوسٌ كَفُورٌ ﴿٩﴾

10. そして、もしもわれら*が、彼に降りかかった害悪の後、恩恵[3]を味わわせたならば、彼は必ずや（こう）言うであろう。「悪事は、私から去って行ったぞ[4]」。本当に彼はまさしく、（恩恵に）有頂天な者、（他人に対して）高慢ちきな者である。

وَلَئِنْ أَذَقْنَٰهُ نَعْمَآءَ بَعْدَ ضَرَّآءَ
مَسَّتْهُ لَيَقُولَنَّ ذَهَبَ ٱلسَّيِّـَٔاتُ عَنِّىٓ ۚ
إِنَّهُۥ لَفَرِحٌ فَخُورٌ ﴿١٠﴾

11. 但し、忍耐*して正しい行い*を行う者たちは、別である。それらの者たち、彼らには（罪の）お赦しと、大いなる褒美がある。

إِلَّا ٱلَّذِينَ صَبَرُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
أُو۟لَٰٓئِكَ لَهُم مَّغْفِرَةٌ وَأَجْرٌ كَبِيرٌ ﴿١١﴾

---

1 彼らは、懲罰を早く下してみよ、と挑発したものだった。家畜章 57-58、戦利品*章 32、ユーヌス*章 50、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、サード章 16、相談章 18、階段章 1-2 なども参照。

2 この「慈悲」は、健康や安全などのこと（ムヤッサル 222 頁参照）。

3 「害悪の後の恩恵」とは、病の後の健康、困窮の後のゆとりなどを指す、とされる（アル＝クルトゥビー9:11 参照）。

4 この言葉の裏には、うぬぼれと、苦境からの脱出がアッラー*からの恩恵であることを否認する考えが含まれている（イブン・アティーヤ 3:153 参照）。

12. （使徒*よ、）あなたは、彼らが「どうして彼（ムハンマド*）に、財宝が下されなかったのか？　あるいは、彼と共に（、彼が使徒*であることを証明する）天使[1]*がやって来なかったのか？[2]」と言うこと（を恐れるが）ゆえに、あなたに啓示されるものの一部を放棄しようとしたり[3]、それゆえに心苦しくなったりするかもしれない。（彼らの言うことは気にするな、）あなたは（啓示を伝えるだけの）警告者に過ぎず、アッラー*は全ての物事を請け負われる*お方なのだから。

فَلَعَلَّكَ تَارِكُۢ بَعۡضَ مَا يُوحَىٰٓ إِلَيۡكَ وَضَآئِقُۢ
بِهِۦ صَدۡرُكَ أَن يَقُولُواْ لَوۡلَآ أُنزِلَ عَلَيۡهِ كَنزٌ
أَوۡ جَآءَ مَعَهُۥ مَلَكٌۚ إِنَّمَآ أَنتَ نَذِيرٞۚ وَٱللَّهُ عَلَىٰ
كُلِّ شَيۡءٖ وَكِيلٌ ١٢

13. いや、一体、彼ら（シルク*の徒）は、「彼（ムハンマド*）が、それ（クルアーン*）を捏造したのだ」と言うのか？　言ってやれ。「では、それと同様の、捏造された十のスーラ*を（創作して）持って来てみよ[4]。そして、あなた方がアッラー*以外に（それを頼むことが）出来る（あらゆる）者を呼んで（手伝わせて）みるがよい。もし、あなた方が本当のことを言っているのならば。

أَمۡ يَقُولُونَ ٱفۡتَرَىٰهُۖ قُلۡ فَأۡتُواْ بِعَشۡرِ سُوَرٖ
مِّثۡلِهِۦ مُفۡتَرَيَٰتٖ وَٱدۡعُواْ مَنِ ٱسۡتَطَعۡتُم مِّن
دُونِ ٱللَّهِ إِن كُنتُمۡ صَٰدِقِينَ ١٣

14. それで、もし彼らがあなた方に応じなかったなら、知るがよい。それ（クルアーン*）が実にアッラー*の御知識と共に下され、かれ（アッラー*）以外には（真に）崇拝*す

فَإِلَّمۡ يَسۡتَجِيبُواْ لَكُمۡ فَٱعۡلَمُوٓاْ أَنَّمَآ
أُنزِلَ بِعِلۡمِ ٱللَّهِ وَأَن لَّآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَۖ فَهَلۡ أَنتُم
مُّسۡلِمُونَ ١٤

---

1 彼の使徒*性の真実性を証言する、天使*のこと（ムヤッサル 222 頁参照）。

2 シルク*の徒は預言者*に、このような奇跡の要求をしたものだった。雌牛章 108、家畜章 109-110、ユーヌス*章 97、夜の旅章 90-93、ター・ハー章 133、預言者*たち章 5、識別章 7-8、創成者*章 42 なども参照。

3 使徒*・預言者*は、啓示の伝達という任務において無謬（むびゅう）である。ゆえに預言者*ムハンマド*を含む、いかなる使徒*・預言者*も、アッラー*からの啓示を隠蔽（いんぺい）することなどは、現実には起き得ない（アル＝バイダーウィー3:224 参照）。雌牛章 36 の訳注も参照。

4 雌牛章 23 の訳注も参照。

べきものがないということを。ならば一体、あなた方は服従する者（ムスリム*）であるか？[1]

15. 誰であろうと、現世の生活とその飾りが欲しい者、われら*は彼らにそこで、その行い（の報い）を余すことなく与えてやろう。そして彼らがそこで、（行為の報いを）減じられることはないのだ。[2]

مَن كَانَ يُرِيدُ ٱلۡحَيَوٰةَ ٱلدُّنۡيَا وَزِينَتَهَا نُوَفِّ
إِلَيۡهِمۡ أَعۡمَٰلَهُمۡ فِيهَا وَهُمۡ فِيهَا لَا
يُبۡخَسُونَ ١٥

16. それらの者たちは、来世では業火の外に、何もない者たち。彼らがそこ（現世）で成したことは台無しとなるのであり、彼らが行っていたことは、まさしく無意味なのだ。

أُوْلَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ لَيۡسَ لَهُمۡ فِي ٱلۡأٓخِرَةِ إِلَّا
ٱلنَّارُۖ وَحَبِطَ مَا صَنَعُواْ فِيهَا وَبَٰطِلٞ مَّا كَانُواْ
يَعۡمَلُونَ ١٦

17. また一体、自分の主*からの明証に依拠していた者[3]は（、現世のみを欲していた者と同様であろうか）？ そして、かれ（アッラー*）の御許からの証人[4]と、それ以前に（信仰者への）指針と慈悲であったムーサー*の啓典[5]が、それ（明証）に次ぐのである。それらの者たちが、それ（クルアーン*）を信じるのだ。そして（預言者*に敵対する）

أَفَمَن كَانَ عَلَىٰ بَيِّنَةٖ مِّن رَّبِّهِۦ وَيَتۡلُوهُ شَاهِدٞ
مِّنۡهُ وَمِن قَبۡلِهِۦ كِتَٰبُ مُوسَىٰٓ إِمَامٗا وَرَحۡمَةًۚ
أُوْلَٰٓئِكَ يُؤۡمِنُونَ بِهِۦۚ وَمَن يَكۡفُرۡ بِهِۦ مِنَ
ٱلۡأَحۡزَابِ فَٱلنَّارُ مَوۡعِدُهُۥۚ فَلَا تَكُ فِي مِرۡيَةٖ
مِّنۡهُۚ إِنَّهُ ٱلۡحَقُّ مِن رَّبِّكَ وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَ
ٱلنَّاسِ لَا يُؤۡمِنُونَ ١٧

---

1 これは食卓章 91 同様、「服従する者となれ」という命令の意味（アル＝バガウィー2:442 参照）。

2 これは現世のみを求めて行う者のこと。その行いの報いは、現世にのみ限られたものとなる（アッ＝サァディー378 参照）。

3 「明証」の解釈には、「イスラーム*」「預言者*」「クルアーン*」といった諸説がある。また、この「者」については、「預言者*」または「ムスリム*」という説がある（イブン・アル＝ジャウズィー4:85 参照）。

4 この「証人」の解釈には、「ジブリール*」「預言者*」「天使*」「福音*」「クルアーン*の奇跡性」といった諸説がある（前掲書 4:85-86 参照）。

5 「ムーサー*の啓典」とは、トーラー*のこと。高壁章 157 などにもあるように、改変される前のトーラー*には預言者*ムハンマド*の到来と、彼についての詳しい描写が記されていた（アル＝クルトゥビー9:17 参照）。

党派の内、それ（クルアーン*）を否定した者は誰でも、業火がその約束の地となる。ならば（使徒*よ、）あなた[1]は、それを疑わしく思う者となってはならない。本当にそれは、あなたの主*からの真実なのだから。だが、人々の大半は信じない。

18. アッラー*に対して嘘を捏造した者よりも、ひどい不正*を働く者がいようか？　それらの者たちは（復活の日*、自らの行いに対する清算のため、）自分たちの主*に差し出される。そして証人[2]たちは言うのだ。「この者たちが（現世で）、自分たちの主*に対して嘘を言った者たちです」。不正*者たちには、アッラー*の呪い[3]があるのではないか。

وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّنِ ٱفْتَرَىٰ عَلَى ٱللَّهِ كَذِبًا ۚ
أُو۟لَـٰٓئِكَ يُعْرَضُونَ عَلَىٰ رَبِّهِمْ وَيَقُولُ
ٱلْأَشْهَـٰدُ هَـٰٓؤُلَآءِ ٱلَّذِينَ كَذَبُوا۟ عَلَىٰ رَبِّهِمْ ۚ
أَلَا لَعْنَةُ ٱللَّهِ عَلَى ٱلظَّـٰلِمِينَ ﴿١٨﴾

19. （彼らは自分たちと人々を）アッラー*の道から阻み、それ（その道）を捻じ曲げることを望む者たち。そして彼らこそは、まさしく来世を否定する者たちなのである。

ٱلَّذِينَ يَصُدُّونَ عَن سَبِيلِ ٱللَّهِ وَيَبْغُونَهَا
عِوَجًا وَهُم بِٱلْـَٔاخِرَةِ هُمْ كَـٰفِرُونَ ﴿١٩﴾

20. それらの者たちは、地上で（アッラー*の懲罰から）逃れられる者ではなかったのであり、彼らにはアッラー*の外に、（自分たちを守ってくれる）いかなる庇護者もなかったのだ。彼らには（地獄で、）懲罰が倍増される。彼らは聞くことも出来なければ、見ることもなかったのだ[4]。

أُو۟لَـٰٓئِكَ لَمْ يَكُونُوا۟ مُعْجِزِينَ فِى ٱلْأَرْضِ وَمَا
كَانَ لَهُم مِّن دُونِ ٱللَّهِ مِنْ أَوْلِيَآءَ ۘ يُضَـٰعَفُ لَهُمُ
ٱلْعَذَابُ ۚ مَا كَانُوا۟ يَسْتَطِيعُونَ ٱلسَّمْعَ
وَمَا كَانُوا۟ يُبْصِرُونَ ﴿٢٠﴾

1 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。

2 この「証人」とは、天使*や、預言者*たちなどのこと（ムヤッサル 223 頁参照）。

3 「アッラー*の呪い」については、雌牛章 88 の訳注を参照。

4 アッ＝タバリー*によれば、彼らには聴覚も視覚もあった。しかし不信仰への傾倒（けいとう）ゆえに、クルアーン*を聴いても利益を得ず、それを慧眼（けいがん）によって理解することもなかった（6:4317 参照）。アーヤ*24、雌牛章 7、家畜章 50、雷鳴章 16、巡礼*章 46 とその訳注も参照。

21. それらの者たちは自（みずか）らを損（そこ）ねた者たちであり、彼らが（執（と）り成（な）し手[1]として）でっち上げていたものは、彼らから消え去ってしまったのだ。

أُوْلَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ خَسِرُوٓاْ أَنفُسَهُمۡ وَضَلَّ
عَنۡهُم مَّا كَانُواْ يَفۡتَرُونَ ٢١

22. 間違いなく、彼らこそは来世において、最大の損失（そんしつ）者である。

لَا جَرَمَ أَنَّهُمۡ فِي ٱلۡأٓخِرَةِ هُمُ ٱلۡأَخۡسَرُونَ ٢٢

23. 本当に、信仰し、正しい行い*を行い、自分たちの主（しゅ）*に謹（つつし）んで従（したが）う[2]者たち、それらの者たちは天国の徒。彼らはそこに、永遠に留（とど）まる。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
وَأَخۡبَتُوٓاْ إِلَىٰ رَبِّهِمۡ أُوْلَٰٓئِكَ أَصۡحَٰبُ
ٱلۡجَنَّةِۖ هُمۡ فِيهَا خَٰلِدُونَ ٢٣

24. その二つの集団（不信仰者*と信仰者）の状況は、盲人（もうじん）と聾（つんぼ）、見える者と聞こえる者[3]のようである。それら（二つの集団）は、その状況において同等だろうか？　一体、彼らは教訓を得ないのか？

۞مَثَلُ ٱلۡفَرِيقَيۡنِ كَٱلۡأَعۡمَىٰ وَٱلۡأَصَمِّ
وَٱلۡبَصِيرِ وَٱلسَّمِيعِۚ هَلۡ يَسۡتَوِيَانِ مَثَلًاۚ
أَفَلَا تَذَكَّرُونَ ٢٤

25. われら*は確かに、ヌーフ*をその民に遣（つか）わした。（彼は、民に言った。）「本当に私はあなた方への、明白なる警告（けいこく）者である。

وَلَقَدۡ أَرۡسَلۡنَا نُوحًا إِلَىٰ قَوۡمِهِۦٓ إِنِّي لَكُمۡ نَذِيرٞ
مُّبِينٌ ٢٥

26. （私はあなた方に、）アッラー*以外のものを崇拝（すうはい）*してはならない（、と命じる）。本当に私は、あなた方に、痛烈（つうれつ）な日の懲罰（ちょうばつ）を怖（おそ）れているのだから」。

أَن لَّا تَعۡبُدُوٓاْ إِلَّا ٱللَّهَۖ إِنِّيٓ أَخَافُ عَلَيۡكُمۡ عَذَابَ
يَوۡمٍ أَلِيمٖ ٢٦

---

1 アッラー*の御許で、彼らをアッラー*に近づけてくれる「執り成し手」のこと。雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109、集団章 3 とその訳注も参照。

2 「謹んで従う（アフバタ）」の原義は、「平らである」「安定する」といった意味。つまりアッラー*への恭順さと安心、あるいは悔悟が定着し、継続している状態のこと（アル＝クルトゥビー9:21 参照）。

3 慧眼（けいがん）で真理をとらえることも、それに従うこともなく、またそこへと招く者の言うことを聞いて導かれることもない不信仰者*が「盲人」「聾」に譬（たと）えられ、信仰の根拠を認め、そこへと招く者の言うことを聞いて、それを受け入れる信仰者が「見える者」「聞こえる者」に譬えられている（ムヤッサル 224 頁参照）。アーヤ*20 とその訳注も参照。

27. すると彼の民の内の、不信仰だった有力者たちは言った。「私たちは、あなたが私たちと同様の人間としか思わないし、あなたに短絡的(たんらく)に[1]従(したが)ったのは、私たちの内でもまさに最底辺の者たちとしか思わない。また私たちに対して、あなた方に特に優れた点があるとも思えない。いや、私たちはあなた方が嘘(うそ)つきだと確信しているのだ」。

فَقَالَ ٱلۡمَلَأُ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ مِن قَوۡمِهِۦ مَا
نَرَىٰكَ إِلَّا بَشَرٗا مِّثۡلَنَا وَمَا نَرَىٰكَ ٱتَّبَعَكَ إِلَّا
ٱلَّذِينَ هُمۡ أَرَاذِلُنَا بَادِيَ ٱلرَّأۡيِ وَمَا نَرَىٰ
لَكُمۡ عَلَيۡنَا مِن فَضۡلِۭ بَلۡ نَظُنُّكُمۡ
كَٰذِبِينَ ٢٧

28. 彼（ヌーフ*）は、言った。「我が民よ、言ってみよ。私が、我が主(しゅ)*からの明証[2]に依拠(いきょ)し、その御許(みもと)からのご慈悲(じひ)[3]を授(さず)かっているにも関わらず、（自分たちの無知と偽(いつわ)りゆえに、そのご慈悲(じひ)が）あなた方に見えないのであれば、一体私たちはそれをあなた方に（無理矢理）押しつけることが出来ようか？　あなた方はそれを、嫌っているというのに？

قَالَ يَٰقَوۡمِ أَرَءَيۡتُمۡ إِن كُنتُ عَلَىٰ بَيِّنَةٖ مِّن رَّبِّي
وَءَاتَىٰنِي رَحۡمَةٗ مِّنۡ عِندِهِۦ فَعُمِّيَتۡ عَلَيۡكُمۡ
أَنُلۡزِمُكُمُوهَا وَأَنتُمۡ لَهَا كَٰرِهُونَ ٢٨

29. 我が民よ、私は、それ[4]ゆえにあなた方にお金を要求しているのではない。私の見返りは、全創造物(そうぞう)の主(しゅ)*から以外にはないのだから。また私は、信仰する者たちを追い出す者ではない[5]。本当に彼らは（復活の

وَيَٰقَوۡمِ لَآ أَسۡـَٔلُكُمۡ عَلَيۡهِ مَالًاۖ إِنۡ أَجۡرِيَ إِلَّا
عَلَى ٱللَّهِۚ وَمَآ أَنَا۠ بِطَارِدِ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْۚ إِنَّهُم
مُّلَٰقُواْ رَبِّهِمۡ وَلَٰكِنِّيٓ أَرَىٰكُمۡ قَوۡمٗا تَجۡهَلُونَ ٢٩

---

1 「短絡的に」と訳した語は、「見せかけだけ」という解釈も可能（アル＝クルトゥビー9:24参照）。

2 この「明証」は、彼がアッラー*から伝えることの正しさを証明するもの（ムヤッサル 224頁参照）。

3 この「ご慈悲」は、導き、預言者*性、英知などと解釈される（アッ＝タバリー6:4322 参照）。

4 この「それ」とは、タウヒード*へと招くこと（ムヤッサル 225 頁参照）。

5 ヌーフ*の民は、ヌーフ*を信じた者たちと共にあることを毛嫌いし、ヌーフ*に彼らを追い出すよう求めた。そして預言者*ムハンマド*も、クライシュ族*の不信仰者*たちから、同様の要求をされた。家畜章 52-53、洞窟章 28、詩人たち章 111-113 なども参照（イブン・カスィール 4:317 参照）。

日*）、彼らの主*と拝謁する身の上[1]なのだから。しかし私は、あなた方が無知な民であると思う。

30. 我が民よ、一体、誰が私をアッラー*（の懲罰）から助けてくれるのか？　もし私が、彼ら（信仰者たち）を追い出したりしたら？　一体、あなた方は教訓を得ないのか？

وَيَٰقَوۡمِ مَن يَنصُرُنِي مِنَ ٱللَّهِ إِن طَرَدتُّهُمۡۚ
أَفَلَا تَذَكَّرُونَ ٣٠

31. また私はあなた方に、自分にはアッラー*の（数々の）宝庫があるなどとは言っていないし、不可視の世界*も知らないし[2]、自分は天使*だとも言ってはいない。また、あなた方が見下している者たちに対し、アッラー*は彼らに善きもの[3]をお授けにはならない、とも言わない。アッラー*が彼らの胸中を、最もよくご存知なのだ。本当に私は、そうすれば[4]、まさに不正*者の仲間となってしまうのだから」。

وَلَآ أَقُولُ لَكُمۡ عِندِي خَزَآئِنُ ٱللَّهِ وَلَآ
أَعۡلَمُ ٱلۡغَيۡبَ وَلَآ أَقُولُ إِنِّي مَلَكٞ وَلَآ أَقُولُ
لِلَّذِينَ تَزۡدَرِيٓ أَعۡيُنُكُمۡ لَن يُؤۡتِيَهُمُ ٱللَّهُ خَيۡرًاۖ
ٱللَّهُ أَعۡلَمُ بِمَا فِيٓ أَنفُسِهِمۡ إِنِّيٓ إِذٗا لَّمِنَ
ٱلظَّٰلِمِينَ ٣١

32. 彼ら（不信仰者*たち）は、言った。「ヌーフ*よ、あなたは私たちと論争し、私たちとやたら論争した。では、あなたが私たちに約束するもの（懲罰）を、私たちにもたらしてみよ。もし、あなたが本当のことを言っているのであれば」。

قَالُواْ يَٰنُوحُ قَدۡ جَٰدَلۡتَنَا فَأَكۡثَرۡتَ جِدَٰلَنَا فَأۡتِنَا
بِمَا تَعِدُنَآ إِن كُنتَ مِنَ ٱلصَّٰدِقِينَ ٣٢

---

1 もし彼らを不当に追い出すようなことがあれば、アッラー*は復活の日*、そのような罪ゆえに、彼に罰を下されるということ（アッ＝ラーズィー6:339 参照）。

2 イムラーン家章 179、家畜章 50 とその訳注、ジン*章 26-27 も参照。

3 この「善きもの」とは、成功、信仰心、（来世での）褒美のこと（アル＝バガウィー2:446 参照）。

4 信仰を表明した者たちの内心を知識もなく判断し、彼らには「善きもの」が授けられないだろうなどと言い、自分の回りから追い出せば、ということ（アッ＝タバリー6:4325 参照）。

33. 彼（ヌーフ*）は、言った。「（外ならぬ）アッラー*こそが、それ（懲罰）をあなた方にもたらされるのだ――もし、かれがお望みになれば――。あなた方は、（それから）逃れられる者ではない。

قَالَ إِنَّمَا يَأۡتِيكُم بِهِ ٱللَّهُ إِن شَآءَ وَمَآ أَنتُم
بِمُعۡجِزِينَ ٣٣

34. また私の忠告は、あなた方の役には立たない。もしアッラー*が、（あなた方が真理を拒否したことゆえ、）あなた方を逸脱させることをお望みならば、たとえ私があなた方への忠告を望んだとしても。かれがあなた方の主*なのであり、かれにこそ、あなた方は戻らされるのだから」。

وَلَا يَنفَعُكُمۡ نُصۡحِيٓ إِنۡ أَرَدتُّ أَنۡ أَنصَحَ
لَكُمۡ إِن كَانَ ٱللَّهُ يُرِيدُ أَن يُغۡوِيَكُمۡۚ
هُوَ رَبُّكُمۡ وَإِلَيۡهِ تُرۡجَعُونَ ٣٤

35. いや、一体、彼らは「彼がそれ[1]を捏造したのだ」と言うのか？　言ってやれ。「もし私がそれを捏造したのなら、私（のみ）に我が罪がある。そして私は、あなた方の犯しているもの（不信仰）から無縁なのだ」。

أَمۡ يَقُولُونَ ٱفۡتَرَىٰهُۖ قُلۡ إِنِ ٱفۡتَرَيۡتُهُۥ فَعَلَيَّ
إِجۡرَامِي وَأَنَا۠ بَرِيٓءٞ مِّمَّا تُجۡرِمُونَ ٣٥

36. そしてヌーフ*に、啓示された。既に信仰した者の外、あなたの民の内から（誰一人）信仰することはない、と。ならば彼らがしていたことで、悲嘆に暮れるのではない。

وَأُوحِيَ إِلَىٰ نُوحٍ أَنَّهُۥ لَن يُؤۡمِنَ مِن قَوۡمِكَ إِلَّا مَن
قَدۡ ءَامَنَ فَلَا تَبۡتَئِسۡ بِمَا كَانُواْ يَفۡعَلُونَ ٣٦

37. また、われら*の眼差しのもと[2]、われら*の啓示によって[3]船を造り、（不信仰という）不正*を働いた者たち（の懲罰の延期を求めること）について、われに話しかけるのではない。実に彼らは、溺れさせられる者たちなのだから。

وَٱصۡنَعِ ٱلۡفُلۡكَ بِأَعۡيُنِنَا وَوَحۡيِنَا وَلَا تُخَٰطِبۡنِي
فِي ٱلَّذِينَ ظَلَمُوٓاْ إِنَّهُم مُّغۡرَقُونَ ٣٧

1 「それ」とは、ヌーフ*の主張のこと（ムヤッサル 225 頁参照）。

2 「眼差しのもと」については、ター・ハー章 39 とその訳注を参照。

3 ヌーフ*は船の作り方を知らなかったが、アッラー*がその方法を啓示した（アッ＝タバリー6:4328 参照）。

38. 彼の民の有力者らが彼のもとを通りかかるたび、彼を嘲笑（ちょうしょう）する中、彼は船を造（つく）る。彼（ヌーフ*）は言った。「あなた方が私たちを嘲笑（ちょうしょう）しても、実に私たちは（いずれ）、あなた方が私たちを嘲笑（ちょうしょう）しているように、あなた方を嘲笑（ちょうしょう）するのだ。

وَيَصۡنَعُ ٱلۡفُلۡكَ وَكُلَّمَا مَرَّ عَلَيۡهِ مَلَأٞ مِّن
قَوۡمِهِۦ سَخِرُواْ مِنۡهُۚ قَالَ إِن تَسۡخَرُواْ مِنَّا فَإِنَّا
نَسۡخَرُ مِنكُمۡ كَمَا تَسۡخَرُونَ ٣٨

39. それであなた方はやがて、知ることとなろう。誰に辱（はずかし）めの懲罰（ちょうばつ）が到来（とうらい）し、（来世においては）永続の懲罰（ちょうばつ）が襲（おそ）いかかることになるかを」。

فَسَوۡفَ تَعۡلَمُونَ مَن يَأۡتِيهِ عَذَابٞ يُخۡزِيهِ
وَيَحِلُّ عَلَيۡهِ عَذَابٞ مُّقِيمٌ ٣٩

40. ついに（不信仰者*を滅亡（めつぼう）させる）われら*の命令が到来（とうらい）し、焼（や）き窯（がま）が噴（ふ）き出した[1]時、われら*は（ヌーフ*に）言った。「それ（船）に、全て（の生き物）から一つがいずつと、あなたの家族と信仰した者を、そこに乗り込ませよ。但（ただ）し、既（すで）に（懲罰（ちょうばつ）の）言葉が定められた者[2]は別である」。そして僅（わず）かな者たちだけしか、彼と共に信仰しなかった。

حَتَّىٰٓ إِذَا جَآءَ أَمۡرُنَا وَفَارَ ٱلتَّنُّورُ قُلۡنَا ٱحۡمِلۡ
فِيهَا مِن كُلّٖ زَوۡجَيۡنِ ٱثۡنَيۡنِ وَأَهۡلَكَ إِلَّا
مَن سَبَقَ عَلَيۡهِ ٱلۡقَوۡلُ وَمَنۡ ءَامَنَۚ وَمَآ ءَامَنَ
مَعَهُۥٓ إِلَّا قَلِيلٞ ٤٠

41. 彼（ヌーフ*）は、（信仰者たちに）言った。「それに乗り込むのだ。その航行（こうこう）と停泊（ていはく）は、アッラー*の御名（みな）において。本当に我が主（しゅ）*はまさしく、赦（ゆる）し深いお方、慈愛（じあい）深い*お方」。

۞وَقَالَ ٱرۡكَبُواْ فِيهَا بِسۡمِ ٱللَّهِ مَجۡرٜىٰهَا
وَمُرۡسَىٰهَآۚ إِنَّ رَبِّي لَغَفُورٞ رَّحِيمٞ ٤١

42. 船は彼らを乗せて、山々のような波の中を走った。そしてヌーフ*は、自分の息子を呼んだ――彼は、（信仰者たちから）遠い場

وَهِيَ تَجۡرِي بِهِمۡ فِي مَوۡجٖ كَٱلۡجِبَالِ وَنَادَىٰ
نُوحٌ ٱبۡنَهُۥ وَكَانَ فِي مَعۡزِلٖ يَٰبُنَيَّ ٱرۡكَب مَّعَنَا
وَلَا تَكُن مَّعَ ٱلۡكَٰفِرِينَ ٤٢

1 原語では「ファーラ・アッ＝タンヌール」。その他、「大地から水が噴出した」「朝が来た」などの解釈があるが、いずれにせよ、ヌーフ*の民を滅ぼす大洪水の予兆のこと（アル＝クルトゥビー9:33-34 参照）。

2 ヌーフ*の家族でも、その妻と息子の一人は信仰しなかった。彼らは民と一緒に滅ぼされる、と予（あらかじ）め述べられていた（ムヤッサル 226 頁参照）。

所[1]にいたのだ——。（ヌーフ*は言った。）「我が息子よ、私たちと一緒に（船に）乗れ！　不信仰者*たちと一緒にいるのではない！」

43. 彼（息子）は言った。「私は、水から自分を守ってくれる山に、避難します」。彼（ヌーフ*）は言った。「この日アッラー*のご命令から守ってくれるものは、何一つない。但し、かれがご慈悲をかけて下さ（り、信仰して船に乗）った者は、別だが」。そして二人の間を波が阻み、彼（息子）は溺れ死んだ者たちの一人となった。

قَالَ سَـَٔاوِيٓ إِلَىٰ جَبَلٖ يَعۡصِمُنِي مِنَ ٱلۡمَآءِۚ
قَالَ لَا عَاصِمَ ٱلۡيَوۡمَ مِنۡ أَمۡرِ ٱللَّهِ إِلَّا مَن رَّحِمَۚ
وَحَالَ بَيۡنَهُمَا ٱلۡمَوۡجُ فَكَانَ مِنَ ٱلۡمُغۡرَقِينَ ٤٣

44. そして（、こう）言われた[2]。「大地よ、あなたの水を呑み込み、天よ、（雨を）止めよ」。そして水は引き、（不信仰者たちの滅亡という）ご命令は成就され、それ（船）はアル＝ジューディー[3]の上で泊まった。そして不正*者である民に、（こう）言われたのだ。「滅亡あれ」。

وَقِيلَ يَـٰٓأَرۡضُ ٱبۡلَعِي مَآءَكِ وَيَٰسَمَآءُ أَقۡلِعِي
وَغِيضَ ٱلۡمَآءُ وَقُضِيَ ٱلۡأَمۡرُ وَٱسۡتَوَتۡ عَلَى
ٱلۡجُودِيِّۖ وَقِيلَ بُعۡدٗا لِّلۡقَوۡمِ ٱلظَّـٰلِمِينَ ٤٤

45. ヌーフ*は彼の主*に呼びかけて、申し上げた。「我が主*よ、本当に我が息子は、我が家族の一員です。そして本当にあなたのお約束は真実であり、あなたは最善の裁き手であられますのに（、彼は溺れ死んでしまいました）」。

وَنَادَىٰ نُوحٞ رَّبَّهُۥ فَقَالَ رَبِّ إِنَّ ٱبۡنِي مِنۡ أَهۡلِي وَإِنَّ
وَعۡدَكَ ٱلۡحَقُّ وَأَنتَ أَحۡكَمُ ٱلۡحَٰكِمِينَ ٤٥

---

1 イブン・アティーヤ*によれば、「遠い場所」という表現には、「船から遠い」という物質的な遠さと、信仰者らの「宗教から遠い」という精神的な遠さ、二つの意味が含まれ得る（3:174 参照）。

2 この言葉の主は、アッラー*とされる（ムヤッサル 226 頁参照）。

3 「アル＝ジューディー」は山の名前。イラク地方のモスル近郊にある山とか、シナイ山であるとかいう説がある（イブン・カスィール 4:323-324 参照）。

46. かれ（アッラー*）は、仰せられた。「ヌーフ*よ、本当に彼は、あなたの家族の一員などではない[1]。実に彼は、行いが正しくない者なのだから。ならば、（その結果の善悪について）自分に知識もないことを、われに求めるのではない。本当にわれは、あなたが無知な者の類いとならぬよう、あなたを戒める」。

قَالَ يَٰنُوحُ إِنَّهُۥ لَيۡسَ مِنۡ أَهۡلِكَۖ إِنَّهُۥ عَمَلٌ غَيۡرُ
صَٰلِحٖۖ فَلَا تَسۡـَٔلۡنِ مَا لَيۡسَ لَكَ بِهِۦ عِلۡمٌۖ إِنِّيٓ
أَعِظُكَ أَن تَكُونَ مِنَ ٱلۡجَٰهِلِينَ ٤٦

47. 彼（ヌーフ*）は申し上げた。「我が主*よ、本当に私は、自分に知識がないことをあなたに求めたりしないよう、あなたにご加護を乞います。そしてあなたが私をお赦しになり、私にご慈悲をかけて下さらなければ、私は損失者の類いとなってしまいます」。

قَالَ رَبِّ إِنِّيٓ أَعُوذُ بِكَ أَنۡ أَسۡـَٔلَكَ مَا لَيۡسَ لِي
بِهِۦ عِلۡمٞۖ وَإِلَّا تَغۡفِرۡ لِي وَتَرۡحَمۡنِيٓ أَكُن مِّنَ
ٱلۡخَٰسِرِينَ ٤٧

48. （すると、こう）言われた[2]。「ヌーフ*よ、われら*からの平安と共に、そしてあなたと、あなたと共にある者（たち）からなる共同体への祝福と共に、（船から地上へと）降りよ。（その子孫の内には、）われら*が（現世で）楽しませておき、その後にわれら*からの痛ましい懲罰が降りかかる共同体も（、出現することになるのだが）」。

قِيلَ يَٰنُوحُ ٱهۡبِطۡ بِسَلَٰمٖ مِّنَّا وَبَرَكَٰتٍ
عَلَيۡكَ وَعَلَىٰٓ أُمَمٖ مِّمَّن مَّعَكَۚ وَأُمَمٞ
سَنُمَتِّعُهُمۡ ثُمَّ يَمَسُّهُم مِّنَّا عَذَابٌ أَلِيمٞ ٤٨

49. それは（使徒*よ）、われら*があなたに啓示する、不可視の世界*に属する消息の一部である。あなたも、あなたの民もこれ以前、それを知りはしなかったのだ。忍耐*せよ。本当に（現世と来世での善き）結末は、（アッラー*を）畏れる*者たちにあるのだから。

تِلۡكَ مِنۡ أَنۢبَآءِ ٱلۡغَيۡبِ نُوحِيهَآ إِلَيۡكَۖ مَا
كُنتَ تَعۡلَمُهَآ أَنتَ وَلَا قَوۡمُكَ مِن قَبۡلِ
هَٰذَاۖ فَٱصۡبِرۡۖ إِنَّ ٱلۡعَٰقِبَةَ لِلۡمُتَّقِينَ ٤٩

1 アーヤ*40 と、その訳注を参照。彼はヌーフ*の家族の一員ではあっても、その不信仰ゆえに滅びることが既に定められていた（イブン・カスィール 4:326 参照）。

2 この言葉の主は、アッラー*とされる（ムヤッサル 227 頁参照）。

50. またアード*には、その同胞フード*を（遣わした）。彼（フード*）は言った。「我が民よ、アッラー*（のみ）を崇拝*せよ。あなた方にはかれの外、崇拝*すべきものなどないのだから。あなた方は（シルク*という嘘の）、捏造者以外の何者でもない。

وَإِلَىٰ عَادٍ أَخَاهُمْ هُودًا ۚ قَالَ يَٰقَوْمِ ٱعْبُدُوا۟
ٱللَّهَ مَا لَكُم مِّنْ إِلَٰهٍ غَيْرُهُۥٓ ۖ إِنْ أَنتُمْ إِلَّا
مُفْتَرُونَ ﴿٥٠﴾

51. 我が民よ、私はそれ[1]ゆえに、あなた方に見返りを要求しているのではない。私の見返りは、私を創成[2]されたお方（アッラー*）から以外にはないのだ。一体、あなた方は（真理を）弁えないのか？

يَٰقَوْمِ لَآ أَسْـَٔلُكُمْ عَلَيْهِ أَجْرًا ۖ إِنْ أَجْرِىَ إِلَّا
عَلَى ٱلَّذِى فَطَرَنِىٓ ۚ أَفَلَا تَعْقِلُونَ ﴿٥١﴾

52. 我が民よ、そして自分たちの主*に（罪の）赦しを乞い、それからかれに悔悟するのだ。（そうすれば、）かれはあなた方の上に豊かな雨を送り給い、あなた方の力の上に更なる力を上乗せして下さろう。そして（私の招く教えから、）罪深くも背き去ってはならない」。

وَيَٰقَوْمِ ٱسْتَغْفِرُوا۟ رَبَّكُمْ ثُمَّ تُوبُوٓا۟ إِلَيْهِ
يُرْسِلِ ٱلسَّمَآءَ عَلَيْكُم مِّدْرَارًا وَيَزِدْكُمْ
قُوَّةً إِلَىٰ قُوَّتِكُمْ وَلَا تَتَوَلَّوْا۟ مُجْرِمِينَ ﴿٥٢﴾

53. 彼ら（アード*）は、言った。「フード*よ、あなたは（自分の正しさを証明する）証拠を、私たちに持って来てはいない。また、私たちはあなたの言葉ゆえに、私たちの神々[3]を放棄する者ではないし、私たちはあなたを信じる者でもないのだ。

قَالُوا۟ يَٰهُودُ مَا جِئْتَنَا بِبَيِّنَةٍ وَمَا نَحْنُ
بِتَارِكِىٓ ءَالِهَتِنَا عَن قَوْلِكَ وَمَا نَحْنُ لَكَ
بِمُؤْمِنِينَ ﴿٥٣﴾

54. 私たちの神々の内のいくつかが、あなたを悪いもの（狂気）で祟ったとしか言いようがない」。彼（フード*）は言った。「実に私は、アッラー*を（私の言葉の）証人とし

إِن نَّقُولُ إِلَّا ٱعْتَرَىٰكَ بَعْضُ ءَالِهَتِنَا بِسُوٓءٍ ۗ
قَالَ إِنِّىٓ أُشْهِدُ ٱللَّهَ وَٱشْهَدُوٓا۟ أَنِّى بَرِىٓءٌ مِّمَّا
تُشْرِكُونَ ﴿٥٤﴾

1 「それ」については、アーヤ*29 の訳注を参照。

2 頻出名・用語解説の「創成者*」の項も参照。

3 「神々」については、雌牛章 133 の訳注を参照。

よう。そしてあなた方は、あなた方が（アッラー*の）同位者としているものと私が無縁であると証言せよ。

55. かれ（アッラー*）を差しおいて（、あなた方がシルク*を犯しているものとは無縁だ、と）。では、あなた方は一丸となって、私に対し策略を練るがよい。それから私には、猶予など与えなくてもよい。

مِن دُونِهِۦۖ فَكِيدُونِي جَمِيعٗا ثُمَّ لَا تُنظِرُونِ ٥٥

56. 本当に私は、我が主*であり、あなた方の主*であるアッラー*に、全てを委ねた*のだから。地を歩く生きもので、かれがその前髪をお掴みになっていないものはない[1]。本当に我が主*は、まっすぐな道におられる[2]お方。

إِنِّي تَوَكَّلۡتُ عَلَى ٱللَّهِ رَبِّي وَرَبِّكُمۚ مَّا مِن دَآبَّةٍ
إِلَّا هُوَ ءَاخِذُۢ بِنَاصِيَتِهَآۚ إِنَّ رَبِّي عَلَىٰ صِرَٰطٖ
مُّسۡتَقِيمٖ ٥٦

57. それでもし、あなた方が（私が招くことから）背き去ったとしても、（私は構わない、）私は確かに、私があなた方へと託されて遣わされたものを、あなた方に伝えたのだから。我が主*は（あなた方を滅ぼされ）、あなた方とは別の（信仰する）民をお継がせになるのであり、あなた方がかれを害することなど少しもないのだ。本当に我が主*は全てのことを、よくお守りになる*お方」。

فَإِن تَوَلَّوۡاْ فَقَدۡ أَبۡلَغۡتُكُم مَّآ أُرۡسِلۡتُ بِهِۦٓ إِلَيۡكُمۡۚ
وَيَسۡتَخۡلِفُ رَبِّي قَوۡمًا غَيۡرَكُمۡ وَلَا تَضُرُّونَهُۥ
شَيۡـًٔاۚ إِنَّ رَبِّي عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٍ حَفِيظٞ ٥٧

58. （アード*を滅ぼすという）われら*の命令が到来した時、われら*はわれら*の御許からの慈悲によって、フード*と、彼と共に信仰した者たちを救い出した。われら*は彼らを、荒々しい懲罰から救ったのである。

وَلَمَّا جَآءَ أَمۡرُنَا نَجَّيۡنَا هُودٗا وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ
مَعَهُۥ بِرَحۡمَةٖ مِّنَّا وَنَجَّيۡنَٰهُم مِّنۡ عَذَابٍ غَلِيظٖ ٥٨

---

1 「前髪を掴む」とは、何かを自分に「従わせ、望むがままに操（あやつ）る」状態を表す、アラビア語的表現（アッ＝タバリー6:4358-4359 参照）。

2 つまり、アッラー*はその定めと法、ご命令において公正なお方であり、善行者には善で、悪行者には悪でもって報われるお方（ムヤッサル 228 頁参照）。

59. それがアード*、彼らは自分たちの主*の御徴[1]を否定し、その使徒*ら[2]に歯向かい、（真理に対して）尊大で頑迷なあらゆる者たちの命令に従った。

وَتِلْكَ عَادٌ جَحَدُوا۟ بِـَٔايَٰتِ رَبِّهِمْ وَعَصَوْا۟
رُسُلَهُۥ وَٱتَّبَعُوٓا۟ أَمْرَ كُلِّ جَبَّارٍ عَنِيدٍ ٥٩

60. また彼らは、この現世において、呪い[3]に付きまとわれた。そして、復活の日*においても。まさしくアード*は、自分たちの主*に対して不信仰だったのではないか。フード*の民アード*に滅亡あれ。

وَأُتْبِعُوا۟ فِى هَٰذِهِ ٱلدُّنْيَا لَعْنَةً وَيَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ ۗ أَلَآ
إِنَّ عَادًا كَفَرُوا۟ رَبَّهُمْ ۗ أَلَا بُعْدًا لِّعَادٍ قَوْمِ هُودٍ ٦٠

61. またサムード*には、その同胞サーリフ*を（遣わした）。彼は言った。「我が民よ、アッラー*（のみ）を崇拝*せよ。あなた方にはかれの外、崇拝*すべきものなどないのだから。かれは大地からあなた方（の祖アーダム*）を創造され、あなた方をそこにおける開拓者とされた[4]。ならば、かれに（罪の）お赦しを乞い、かれに悔悟するのだ。本当に私の主*は近くにおられるお方、（祈りを）聞き届けられるお方[5]であるのだから」。

۞ وَإِلَىٰ ثَمُودَ أَخَاهُمْ صَٰلِحًا ۚ قَالَ يَٰقَوْمِ
ٱعْبُدُوا۟ ٱللَّهَ مَا لَكُم مِّنْ إِلَٰهٍ غَيْرُهُۥ ۖ هُوَ
أَنشَأَكُم مِّنَ ٱلْأَرْضِ وَٱسْتَعْمَرَكُمْ فِيهَا
فَٱسْتَغْفِرُوهُ ثُمَّ تُوبُوٓا۟ إِلَيْهِ ۚ إِنَّ رَبِّى قَرِيبٌ مُّجِيبٌ ٦١

62. 彼ら（サムード*）は、言った。「サーリフ*よ、あなたはこれ[6]以前、私たちの間で確かに期待された人物であった。一体あなた

قَالُوا۟ يَٰصَٰلِحُ قَدْ كُنتَ فِينَا مَرْجُوًّا قَبْلَ هَٰذَآ ۖ
أَتَنْهَىٰنَآ أَن نَّعْبُدَ مَا يَعْبُدُ ءَابَآؤُنَا وَإِنَّنَا لَفِى
شَكٍّ مِّمَّا تَدْعُونَآ إِلَيْهِ مُرِيبٍ ٦٢

1 この「御徴」とは、アッラーの唯一性*を示す様々な証拠のこと（アル＝カースィミー9:3459参照）。

2 フード*が「使徒*ら」と複数形で表されているのは、一人の使徒*を否定することは、全ての使徒*を否定することに等しいからである、とされる（アル＝バガウィー2:454 参照）。

3 アッラー*からの「呪い」（ムヤッサル 228 頁参照）。雌牛章 88 の訳注も参照。

4 つまり地上における継承者（家畜章 165 の訳注も参照）とし、様々な恩恵と共に安定させ、建設や農栽培など、そこを利用できるようにされた（アッ＝サアディー384 参照）。

5 アッラー*は、かれのみを真摯（しんし）に崇拝*する信仰者の近くにおり、その祈りを聞き入れて下さる（前掲書、同頁参照）。雌牛章 186 も参照。

6 「これ」とはアーヤ*61 にあるような、サーリフ*の言葉のこと（前掲書、同頁参照）。

は、私たちが、私たちのご先祖様が崇めるものを崇めることを、禁じるのか？　本当に私たちは、あなたが私たちを招いているものに対する、大きな疑惑の真っ只中にあるというのに」。

63. 彼（サーリフ*）は、言った。「我が民よ、言ってみよ。もし私が、我が主*からの明証[1]に立脚し、その御許からのご慈悲[2]を授かっているにも関わらず、私がかれに逆らったならば、誰が私をアッラー*（の懲罰）から助けてくれるのか？　あなた方（の呼びかけ）は私に、損失を上乗せするだけである。

قَالَ يَٰقَوۡمِ أَرَءَيۡتُمۡ إِن كُنتُ عَلَىٰ بَيِّنَةٖ مِّن
رَّبِّي وَءَاتَىٰنِي مِنۡهُ رَحۡمَةٗ فَمَن يَنصُرُنِي مِنَ
ٱللَّهِ إِنۡ عَصَيۡتُهُۥۖ فَمَا تَزِيدُونَنِي غَيۡرَ تَخۡسِيرٖ ٦٣

64. 我が民よ、そしてこれは（私の言うことの正しさを証明する、）あなた方への御徴としての、アッラー*の雌ラクダ[3]だ。ゆえにそれをアッラー*の地で食べるがままにしておき、それに対して害を及ぼしてはならない。そうすれば、間近に迫った懲罰があなた方に襲いかかるであろう」。

وَيَٰقَوۡمِ هَٰذِهِۦ نَاقَةُ ٱللَّهِ لَكُمۡ ءَايَةٗۖ
فَذَرُوهَا تَأۡكُلۡ فِيٓ أَرۡضِ ٱللَّهِۖ وَلَا تَمَسُّوهَا
بِسُوٓءٖ فَيَأۡخُذَكُمۡ عَذَابٞ قَرِيبٞ ٦٤

65. こうして彼らは（サーリフ*を嘘つき呼ばわりし）、その（雌ラクダの）腱を切った[4]。彼（サーリフ*）は、言った。「（懲罰が下るまでの）三日間、自分たちの土地で楽しんでいるがいい。それは偽りではない、（アッラー*からの）お約束だ」。

فَعَقَرُوهَا فَقَالَ تَمَتَّعُواْ فِي دَارِكُمۡ
ثَلَٰثَةَ أَيَّامٖۖ ذَٰلِكَ وَعۡدٌ غَيۡرُ مَكۡذُوبٖ ٦٥

---

1 この「明証」については、アーヤ*28 の訳注を参照。

2 この「ご慈悲」についても、アーヤ*28 の訳注を参照。

3 「アッラー*の雌ラクダ」という表現については、アル＝ヒジュル章 29 の「わが魂」に関する訳注を参照。

4 雌ラクダを屠ることになった経緯（いきさつ）、「腱を切る」の意味については高壁章 77 の訳注を参照。

66. そして（、サムード*を滅ぼすという）われら*の命令が到来した時、われら*はわれら*の御許からの慈悲によって、サーリフ*と、彼と共に信仰した者たちを救い出した。また、その日の屈辱から（、彼らを救ったのだ）。本当にあなたの主*は強力なお方、偉力ならびない*お方である。

فَلَمَّا جَآءَ أَمۡرُنَا نَجَّيۡنَا صَٰلِحٗا وَٱلَّذِينَ
ءَامَنُواْ مَعَهُۥ بِرَحۡمَةٖ مِّنَّا وَمِنۡ خِزۡيِ
يَوۡمِئِذٍۚ إِنَّ رَبَّكَ هُوَ ٱلۡقَوِيُّ ٱلۡعَزِيزُ ٦٦

67. そして不正*を働いた者たちを（轟く）一声[1]が捉えると、彼らは（四日目の）朝、自宅で突っ伏して（死んで）いた。

وَأَخَذَ ٱلَّذِينَ ظَلَمُواْ ٱلصَّيۡحَةُ فَأَصۡبَحُواْ
فِي دِيَٰرِهِمۡ جَٰثِمِينَ ٦٧

68. 彼らはあたかも、そこに暮らしてはいなかったかのようであった[2]。まさしくサムード*は、彼らの主*に対して不信仰であったのではないか。サムード*に滅亡あれ。

كَأَن لَّمۡ يَغۡنَوۡاْ فِيهَآۗ أَلَآ إِنَّ ثَمُودَاْ
كَفَرُواْ رَبَّهُمۡۗ أَلَا بُعۡدٗا لِّثَمُودَ ٦٨

69. また、われら*の御使い（人間の姿を借りた天使*）たちは確かに、吉報を携えてイブラーヒーム*のもとに到来した[3]。彼らは（イブラーヒーム*に）言った。「（あなたに）平安を[4]」。彼（イブラーヒーム*）は言った。「（あなた方にこそ）平安を」。そして彼はすぐさま、焼いた仔牛を持って（彼らのところへと）やって来た。

وَلَقَدۡ جَآءَتۡ رُسُلُنَآ إِبۡرَٰهِيمَ بِٱلۡبُشۡرَىٰ قَالُواْ
سَلَٰمٗاۖ قَالَ سَلَٰمٞۖ فَمَا لَبِثَ أَن جَآءَ بِعِجۡلٍ
حَنِيذٖ ٦٩

70. そして彼（イブラーヒーム*）は、彼らの手がそれ（仔牛）に伸びないのを見た時、彼らを不審に思い、彼らに対して恐怖感を抱いた。彼らは言った。「怖がらなくてもよ

فَلَمَّا رَءَآ أَيۡدِيَهُمۡ لَا تَصِلُ إِلَيۡهِ نَكِرَهُمۡ
وَأَوۡجَسَ مِنۡهُمۡ خِيفَةٗۚ قَالُواْ لَا تَخَفۡ إِنَّآ
أُرۡسِلۡنَآ إِلَىٰ قَوۡمِ لُوطٖ ٧٠

---

1 サムード*に下された懲罰の詳細については、頻出名・用語解説の「サムード*」の項を参照。

2 高壁章 92 の訳注も参照。

3 同様の話については、アル＝ヒジュル章 51-60、蜘蛛章 31-32、撒き散らすもの章 24-34 も参照。

4 家畜章 54「あなた方に平安を」の訳注を参照。

い。本当に私たちは、ルート*の民に（彼らを滅ぼすべく）遣わされたのだから」。

71. 彼の妻（サーラ）は立って（その話を聴いて）おり[1]、笑ってしまった[2]。そしてわれら*は彼女に（天使*たちを介して）、イスハーク*（誕生）の吉報を伝えた。またイスハーク*の後には、ヤァクーブ*を（授けたのだ）。

وَٱمۡرَأَتُهُۥ قَآئِمَةٞ فَضَحِكَتۡ فَبَشَّرۡنَٰهَا
بِإِسۡحَٰقَ وَمِن وَرَآءِ إِسۡحَٰقَ يَعۡقُوبَ ٧١

72. 彼女（サーラ）は言った。「我が災いよ[3]！ 私は年寄りで、これ（イブラーヒーム*）は老人である我が主人だというのに、私が出産するとでも？ 本当にこれは全く、驚くべきことです」。

قَالَتۡ يَٰوَيۡلَتَىٰٓ ءَأَلِدُ وَأَنَا۠ عَجُوزٞ وَهَٰذَا بَعۡلِي
شَيۡخًاۖ إِنَّ هَٰذَا لَشَيۡءٌ عَجِيبٞ ٧٢

73. 彼ら（天使*たち）は、言った。「あなたはアッラー*の定めに驚いているのか？ （預言者*）家の人々よ、アッラー*のご慈悲と祝福が、あなた方の上にあるように。本当にかれは称賛されるべき*お方、栄誉高き*お方である」。

قَالُوٓاْ أَتَعۡجَبِينَ مِنۡ أَمۡرِ ٱللَّهِۖ رَحۡمَتُ ٱللَّهِ
وَبَرَكَٰتُهُۥ عَلَيۡكُمۡ أَهۡلَ ٱلۡبَيۡتِۚ إِنَّهُۥ حَمِيدٞ
مَّجِيدٞ ٧٣

74. そしてイブラーヒーム*から（、彼らが食事に手を出さなかったことによる）恐怖が去り、彼のもとに吉報が訪れると、彼はルート*の民について、われら*（の天使*たち）と議論[4]し出す。

فَلَمَّا ذَهَبَ عَنۡ إِبۡرَٰهِيمَ ٱلرَّوۡعُ وَجَآءَتۡهُ
ٱلۡبُشۡرَىٰ يُجَٰدِلُنَا فِي قَوۡمِ لُوطٍ ٧٤

---

1 サーラは、部屋の仕切りの裏に立って話を聴いていたのだ、とされる（ムヤッサル 229 頁参照）。

2 ここでサーラが笑った理由には、「滅亡が迫っているにも関わらず、ルート*の民が無頓着であることを驚いたため」とか「それまで子供が出来ず、夫と共に年配だったのに、子供を授かると言われて驚いたため」など、諸説ある（アッ＝タバリー6:4371-4373 参照）。

3 ここでの「我が災いよ」は、驚（おどろ）きや否認の気持ちを表す（前掲書 6：4376 参照）。

4 この「議論」は、天使*たちが滅ぼそうとしている町の中にいる、信仰者たちの処遇（しょぐう）についてのもの。蜘蛛章 32 も参照（イブン・カスィール 4:335 参照）。

75. 本当にイブラーヒーム*こそは寛容な者、哀願する者[1]、よく（アッラー*に悔悟して）立ち返る者である。

إِنَّ إِبۡرَٰهِيمَ لَحَلِيمٌ أَوَّٰهٞ مُّنِيبٞ ٧٥

76. （天使*たちは言った。）「イブラーヒーム*よ、これ[2]から身を引くのだ。本当にあなたの主*のご命令は確かに到来したのであり、彼らにはまさしく、防ぐことの出来ない懲罰が襲いかかるのだから」。

يَٰٓإِبۡرَٰهِيمُ أَعۡرِضۡ عَنۡ هَٰذَآۖ إِنَّهُۥ قَدۡ جَآءَ أَمۡرُ
رَبِّكَۖ وَإِنَّهُمۡ ءَاتِيهِمۡ عَذَابٌ غَيۡرُ مَرۡدُودٖ ٧٦

77. そしてわれら*の使いたちが（やはり人間の姿で）ルート*を訪れた時、彼は彼ら（の来訪）ゆえに気が滅入り、心苦しくなった。彼は言った。「これは大変な日だ」。[3]

وَلَمَّا جَآءَتۡ رُسُلُنَا لُوطٗا سِيٓءَ بِهِمۡ وَضَاقَ
بِهِمۡ ذَرۡعٗا وَقَالَ هَٰذَا يَوۡمٌ عَصِيبٞ ٧٧

78. そして彼（ルート*）の民が、彼のもとに急き立てられるようにしてやって来た。彼らは（天使*たちの訪問）以前、悪行（男色）を働いていたのだ。彼（ルート*）は言った。「我が民よ、これらの者たちは私の娘[4]である（から、望むなら結婚せよ）。彼女らの方が、あなた方にとって清浄なのだ。ならばアッラー*を畏れ*、私の客人のことで私を辱めるのではない。一体あなた方の中に、まともな者はいないのか？」

وَجَآءَهُۥ قَوۡمُهُۥ يُهۡرَعُونَ إِلَيۡهِ وَمِن قَبۡلُ كَانُواْ
يَعۡمَلُونَ ٱلسَّيِّـَٔاتِۚ قَالَ يَٰقَوۡمِ هَٰٓؤُلَآءِ بَنَاتِي
هُنَّ أَطۡهَرُ لَكُمۡۖ فَٱتَّقُواْ ٱللَّهَ وَلَا تُخۡزُونِ فِي
ضَيۡفِيٓۖ أَلَيۡسَ مِنكُمۡ رَجُلٞ رَّشِيدٌ ٧٨

---

1 「哀願する者」については、悔悟章 114 の訳注を参照。

2 「これ」とは、天使*たちとの議論のこと（ムヤッサル 230 頁参照）。

3 ルート*の民は男色癖で知られていた。天使*たちは美しい容姿の人間の姿を借り、かつ芳（かぐわ）しい香りを漂わせていたため、ルート*は彼らに災難が起こることを恐れたのだという（アル＝バガウィー2:458 参照）。彼とその民の間に起こった話については、高壁章 80-84、アル＝ヒジュル章 61-77、詩人たち章 160-175、蟻章 54-58、蜘蛛章 28-35、月章 33-40 も参照。

4 預言者*は自分の共同体における、父親のような存在である。こうした理由から、その女性たちは「私の娘」と表現されたのだとされる（ムヤッサル 230 頁参照）。

79. 彼ら（民）は言った。「あなたの娘たちへの用など私たちにないことは、とっくに知っているはずだ。そして本当にあなたは、私たちが求めるものを、まさに知っている」。

قَالُواْ لَقَدۡ عَلِمۡتَ مَا لَنَا فِي بَنَاتِكَ مِنۡ حَقّٖ
وَإِنَّكَ لَتَعۡلَمُ مَا نُرِيدُ ٧٩

80. 彼（ルート*）は言った。「もし私に、あなた方に対する力があったなら。あるいは、力強い支持者に身を寄せることが出来たなら」。

قَالَ لَوۡ أَنَّ لِي بِكُمۡ قُوَّةً أَوۡ ءَاوِيٓ إِلَىٰ رُكۡنٖ
شَدِيدٖ ٨٠

81. 彼ら（天使*たち）は言った。「ルート*よ、実に私たちは、あなたの主*の御使いなのだ。彼らが（害悪をもって）、あなたに触れることはない。ゆえに夜が更けてから、あなたの家族と共に（町[1]を）出発せよ。そしてあなた方の誰一人として、（後ろを）振り向いてはならない。但し、あなたの妻は別である。本当に、彼らに降りかかるもの（懲罰）が、彼女に（も）降りかかるのだから。実に彼らの約束の時は、早朝である。一体、早朝は間近なのではないか？」

قَالُواْ يَٰلُوطُ إِنَّا رُسُلُ رَبِّكَ لَن يَصِلُوٓاْ إِلَيۡكَۖ
فَأَسۡرِ بِأَهۡلِكَ بِقِطۡعٖ مِّنَ ٱلَّيۡلِ وَلَا يَلۡتَفِتۡ
مِنكُمۡ أَحَدٌ إِلَّا ٱمۡرَأَتَكَۖ إِنَّهُۥ مُصِيبُهَا
مَآ أَصَابَهُمۡۚ إِنَّ مَوۡعِدَهُمُ ٱلصُّبۡحُۚ أَلَيۡسَ
ٱلصُّبۡحُ بِقَرِيبٖ ٨١

82. そして（ルート*の民を滅ぼすという）われら*の命令が到来した時、われら*はそれ（町）を逆さまに（ひっくり返）し、その上に、積み重なった[2]（硬い）泥土からなる石を降らせた。

فَلَمَّا جَآءَ أَمۡرُنَا جَعَلۡنَا عَٰلِيَهَا سَافِلَهَا
وَأَمۡطَرۡنَا عَلَيۡهَا حِجَارَةٗ مِّن سِجِّيلٖ
مَّنضُودٖ ٨٢

---

1 町の名はサドーム（ソドム）である、と言われる。また町は一つだけではなく五つあり、その中でもサドームが最大の町であったとされる（イブン・カスィール 4:340-341参照）。

2 ほかにも「次々と連続する」「一列になった」という解釈もある（アル＝クルトゥビー9:83参照）。

83. 主*の御許で、印[1]が付けられた（石を）。それは（クライシュ族*の不信仰者*という）不正*者たちから、遠いわけではない[2]。

مُّسَوَّمَةً عِندَ رَبِّكَ ۖ وَمَا هِيَ مِنَ
ٱلظَّٰلِمِينَ بِبَعِيدٍ ٨٣

84. またマドゥヤン*（の民）には、その同胞シュアイブ*を（遣わした）。彼は言った。「我が民よ、アッラー*（のみ）を崇拝*せよ。あなた方にはかれの外、崇拝*すべきものなどないのだから。そして升と秤[3]を減じ（、不正*を働い）てはならない。私はあなた方が豊かなのを目にしているが、本当に私はあなた方に対し、（あなた方を）八方ふさがりにする日の懲罰[4]（が降りかかるの）を怖れているのだから。

۞ وَإِلَىٰ مَدْيَنَ أَخَاهُمْ شُعَيْبًا ۚ قَالَ يَٰقَوْمِ
ٱعْبُدُوا۟ ٱللَّهَ مَا لَكُم مِّنْ إِلَٰهٍ غَيْرُهُۥ ۖ وَلَا
تَنقُصُوا۟ ٱلْمِكْيَالَ وَٱلْمِيزَانَ ۚ إِنِّىٓ
أَرَىٰكُم بِخَيْرٍ وَإِنِّىٓ أَخَافُ عَلَيْكُمْ
عَذَابَ يَوْمٍ مُّحِيطٍ ٨٤

85. 我が民よ、そして升と秤（の測量）を公正さでもって全うするのだ。人々に対し、彼らのもの（権利）を損ねたり、腐敗*を働く者となって、地上で退廃を広めたりしてはならない。

وَيَٰقَوْمِ أَوْفُوا۟ ٱلْمِكْيَالَ وَٱلْمِيزَانَ
بِٱلْقِسْطِ ۖ وَلَا تَبْخَسُوا۟ ٱلنَّاسَ أَشْيَآءَهُمْ
وَلَا تَعْثَوْا۟ فِى ٱلْأَرْضِ مُفْسِدِينَ ٨٥

86. アッラー*が残された物[5]の方が、あなた方にとってより善いのである。もし、あなた方が（本当に）信仰者なのであれば、だが。そして私は、あなた方への監視役[6]などではない」。

بَقِيَّتُ ٱللَّهِ خَيْرٌ لَّكُمْ إِن كُنتُم مُّؤْمِنِينَ ۚ
وَمَآ أَنَا۠ عَلَيْكُم بِحَفِيظٍ ٨٦

---

1 それが命中する者の名前が記されていたのだ、という説もある（イブン・カスィール 4:340 参照）。

2 この「遠いわけではない」には、「アラビア半島からルート*の町までは、地理的に遠くない」「彼らに起こったことは、彼らと同様の不信仰者*たちに対して、起こり得ないことではない、という警告の意味」といった解釈がある（アッ＝シャンキーティー2:193 参照）。

3 「升と秤」については、家畜章 152 の訳注を参照。

4 これは来世の懲罰とも、現世のそれであるとも言われる（アル＝クルトゥビー9:85-86 参照）。

5 「アッラー*が残された物」とは、不当に秤をごまかして得た非合法な稼（かせ）ぎではなく、秤を正した後に、合法な稼ぎとして手許に残った物のこと（ムヤッサル 231 頁参照）。

6 この「監視役」については、婦人章 80 の訳注も参照。

87. 彼ら（民）は、言った。「シュアイブ*よ、あなたの（常々行っている）礼拝[1]が、私たちのご先祖様が崇めるもの[2]や、私たちが自分たちの財産において好き勝手に振舞うことを私たちが放棄するよう、あなたに命じているのか？ 本当にあなたという人は、寛大なお方、まともなお方だ[3]」。

قَالُوا۟ يَـٰشُعَيْبُ أَصَلَوٰتُكَ تَأْمُرُكَ أَن نَّتْرُكَ
مَا يَعْبُدُ ءَابَآؤُنَآ أَوْ أَن نَّفْعَلَ فِىٓ أَمْوَٰلِنَا
مَا نَشَـٰٓؤُا۟ ۖ إِنَّكَ لَأَنتَ ٱلْحَلِيمُ ٱلرَّشِيدُ ﴿٨٧﴾

88. 彼（シュアイブ*）は言った。「我が民よ、言ってみよ、私が我が主*からの明証[4]に依拠し、その御許からの善き糧を授かっているというのに（、どうして私がアッラー*の命に背こうか）？ そして私は、自分があなた方に禁じることにおいて、自ら違反するつもりはない。私は自分の出来る限り、（あなた方を）改善したいだけなのだから。そして私の成功は、アッラー*のみにかかっている。私はかれにこそ全てを委ね*、かれにこそ（悔悟して不断に）立ち返るのだ。

قَالَ يَـٰقَوْمِ أَرَءَيْتُمْ إِن كُنتُ عَلَىٰ بَيِّنَةٍ
مِّن رَّبِّى وَرَزَقَنِى مِنْهُ رِزْقًا حَسَنًا ۚ وَمَآ
أُرِيدُ أَنْ أُخَالِفَكُمْ إِلَىٰ مَآ أَنْهَىٰكُمْ
عَنْهُ ۚ إِنْ أُرِيدُ إِلَّا ٱلْإِصْلَـٰحَ مَا ٱسْتَطَعْتُ ۚ وَمَا
تَوْفِيقِىٓ إِلَّا بِٱللَّهِ ۚ عَلَيْهِ تَوَكَّلْتُ وَإِلَيْهِ أُنِيبُ ﴿٨٨﴾

89. 我が民よ、私への反目のせいで、ヌーフ*の民、フード*の民、サーリフ*の民に降りかかったようなものを、自分たちに降りかからせては、絶対にならない。ルート*の民は、あなた方から遠い[5]わけではないのだ。

وَيَـٰقَوْمِ لَا يَجْرِمَنَّكُمْ شِقَاقِىٓ أَن يُصِيبَكُم
مِّثْلُ مَآ أَصَابَ قَوْمَ نُوحٍ أَوْ قَوْمَ هُودٍ أَوْ قَوْمَ
صَـٰلِحٍ ۚ وَمَا قَوْمُ لُوطٍ مِّنكُم بِبَعِيدٍ ﴿٨٩﴾

90. そしてあなた方の主*にお赦しを乞い、それからかれに悔悟せよ。本当に我が主*は、慈愛深い*お方、寵愛深い*お方なのだから」。

وَٱسْتَغْفِرُوا۟ رَبَّكُمْ ثُمَّ تُوبُوٓا۟ إِلَيْهِ ۚ إِنَّ
رَبِّى رَحِيمٌ وَدُودٌ ﴿٩٠﴾

---

1 この「あなたの礼拝」には、文字通りの意味のほかにも、「あなたが読んでいるもの」「あなたの宗教」「あなたの信徒」といった解釈もある（アッ＝シャウカーニー2:721 参照）。

2 つまり、偶像や彫像（ちょうぞう）のこと（ムヤッサル 231 頁参照）。

3 これは、嘲笑（ちょうしょう）的な意味合いの言葉（前掲書、同頁参照）。

4 この「明証」については、アーヤ*28 の訳注を参照。

5 この「遠いわけではない」については、アーヤ*83 の訳注を参照。

91. 彼ら（民）は、言った。「シュアイブ*よ、私たちはあなたの言うことの多くが分からないし、本当に私たちはまさしく、あなたが私たちの内で弱者だと思う。また、もしあなたの身内さえいなければ、あなたを（石で）打ち殺してやった[1]のだが。あなたは、私たちにとって貴人などではない」。

قَالُواْ يَٰشُعَيۡبُ مَا نَفۡقَهُ كَثِيرٗا مِّمَّا تَقُولُ
وَإِنَّا لَنَرَىٰكَ فِينَا ضَعِيفٗاۖ وَلَوۡلَا رَهۡطُكَ
لَرَجَمۡنَٰكَۖ وَمَآ أَنتَ عَلَيۡنَا بِعَزِيزٖ ٩١

92. 彼（シュアイブ*）は言った。「我が民よ、一体アッラー*よりも私の身内の方が、あなた方にとって貴いというのか？ かれ（アッラー*）のことを、自分たちの背後に放ったらかしにしておきながら？ 本当に我が主*は、あなた方の行うことを悉く包囲される*お方。

قَالَ يَٰقَوۡمِ أَرَهۡطِيٓ أَعَزُّ عَلَيۡكُم مِّنَ ٱللَّهِ
وَٱتَّخَذۡتُمُوهُ وَرَآءَكُمۡ ظِهۡرِيًّاۖ إِنَّ رَبِّي
بِمَا تَعۡمَلُونَ مُحِيطٞ ٩٢

93. 我が民よ、あなた方は自分たちのやり方で（、出来る限りのことを）行うがよい。実に私も、（自分のやり方で）行おう。あなた方はやがて、誰のもとに懲罰が訪れて、その者を辱めることになるか、また誰が嘘つきかを、知ることになろう。そして（自分たちに何が起こるか、）見守っているがよい。本当に私も、あなた方と共に見守る者なのだから。

وَيَٰقَوۡمِ ٱعۡمَلُواْ عَلَىٰ مَكَانَتِكُمۡ إِنِّي
عَٰمِلٞۖ سَوۡفَ تَعۡلَمُونَ مَن يَأۡتِيهِ عَذَابٞ
يُخۡزِيهِ وَمَنۡ هُوَ كَٰذِبٞۖ وَٱرۡتَقِبُوٓاْ إِنِّي
مَعَكُمۡ رَقِيبٞ ٩٣

94. そして（マドゥヤン*を滅ぼすという）われら*の命令が到来した時、われら*はわれらの御許からの慈悲によって、シュアイブ*と、彼と共に信仰した者たちを救い出した。そして不正*を働いた者たちを（轟く）一声[2]が捉えると、彼らは朝、自宅で突っ伏して（死んで）いた。

وَلَمَّا جَآءَ أَمۡرُنَا نَجَّيۡنَا شُعَيۡبٗا وَٱلَّذِينَ
ءَامَنُواْ مَعَهُۥ بِرَحۡمَةٖ مِّنَّا وَأَخَذَتِ
ٱلَّذِينَ ظَلَمُواْ ٱلصَّيۡحَةُ فَأَصۡبَحُواْ فِي
دِيَٰرِهِمۡ جَٰثِمِينَ ٩٤

1 「石で打ち殺す」のほかに、「罵（ののし）る」という解釈もある（アル＝クルトゥビー 9:91 参照）。

2 マドゥヤン*を滅ぼした懲罰については、詩人たち章 189 の訳注を参照。

95. 彼らはあたかも、そこに暮らしてはいなかったかのようであった[1]。サムード*が滅亡したように、マドゥヤン*に（も）滅亡あれ。

كَأَن لَّمْ يَغْنَوْا۟ فِيهَآ ۗ أَلَا بُعْدًا لِّمَدْيَنَ كَمَا بَعِدَتْ ثَمُودُ ٩٥

96. また、われら*は確かにムーサー*を、われら*の御徴と紛れもなき証拠[2]と共に遣わした。

وَلَقَدْ أَرْسَلْنَا مُوسَىٰ بِـَٔايَٰتِنَا وَسُلْطَٰنٍ مُّبِينٍ ٩٦

97. フィルアウン*と、その（民の）有力者たちに。それで彼ら（民）は、（それを信じるのではない、という）フィルアウン*の命令に従った。フィルアウン*の命令など、真っ当なものではないのに。

إِلَىٰ فِرْعَوْنَ وَمَلَإِي۟هِۦ فَٱتَّبَعُوٓا۟ أَمْرَ فِرْعَوْنَ ۖ وَمَآ أَمْرُ فِرْعَوْنَ بِرَشِيدٍ ٩٧

98. 彼（フィルアウン）は復活の日*、その民の先頭を切って進み、彼らを（地獄の）業火（という水場）に連行する[3]。（彼らの）連行先である水場は、何と醜悪であろうか。

يَقْدُمُ قَوْمَهُۥ يَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ فَأَوْرَدَهُمُ ٱلنَّارَ ۖ وَبِئْسَ ٱلْوِرْدُ ٱلْمَوْرُودُ ٩٨

99. また彼らは、これ（現世）と復活の日*において、呪いに付きまとわれる。（彼らに）授けられたその授かり物は、何と醜悪であろうか。

وَأُتْبِعُوا۟ فِى هَٰذِهِۦ لَعْنَةً وَيَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ ۚ بِئْسَ ٱلرِّفْدُ ٱلْمَرْفُودُ ٩٩

100. （使徒*よ、）それは（われら*が滅ぼした）町々の消息の一部であり、われら*があなたに語り聞かせるもの。その中には（まだ痕跡の）残っているものもあれば、（跡形もなく）壊滅させられたものもある。

ذَٰلِكَ مِنْ أَنۢبَآءِ ٱلْقُرَىٰ نَقُصُّهُۥ عَلَيْكَ ۖ مِنْهَا قَآئِمٌ وَحَصِيدٌ ١٠٠

---

1 高壁章 92 の訳注も参照。

2 この「御徴」は、トーラー*、あるいは数々の奇跡。「紛れもなき証拠」とは、議論の余地のない奇跡、あるいはその中でも、特に杖のことを指すと言われる（アル＝バイダーウィー3:258 参照）。

3 「連行する」と訳した語「アウラダ」には、そもそも「水場へと導く」という意味が含まれている。本来、喉の渇きを癒（いや）すために先導する者が、自分に従う者たちを、それとは逆の灼熱（しゃくねつ）へと導いている、という修辞的描写（アッ＝ラーズィー6:394 参照）。

101. そして、われら*が彼らに不正*を働いたのではない。しかし彼らが、（シルク*と地上で腐敗*を働くことで、）自分自身に不正*を働いたのである。（彼らの懲罰という）あなたの主*のご命令が到来した時、彼らがアッラー*を差しおいて祈っている彼らの神々[1]は、彼らを少しも益することがなかった。そしてそれらは彼らに、破滅以外の何も上乗せしてはくれなかったのである。

وَمَا ظَلَمْنَٰهُمْ وَلَٰكِن ظَلَمُوٓا۟ أَنفُسَهُمْ ۖ
فَمَآ أَغْنَتْ عَنْهُمْ ءَالِهَتُهُمُ ٱلَّتِى يَدْعُونَ مِن
دُونِ ٱللَّهِ مِن شَىْءٍ لَّمَّا جَآءَ أَمْرُ رَبِّكَ ۖ وَمَا
زَادُوهُمْ غَيْرَ تَتْبِيبٍ ١٠١

102. そして不正[2]を働く町々（の民）を（懲罰で）捕えた時の、あなたの主*の捕らえ方も、（それらの町々に対するそれと）同様なのである。本当にかれの捕らえ方は、痛烈で凄まじい。

وَكَذَٰلِكَ أَخْذُ رَبِّكَ إِذَآ أَخَذَ ٱلْقُرَىٰ وَهِىَ
ظَٰلِمَةٌ ۚ إِنَّ أَخْذَهُۥٓ أَلِيمٌ شَدِيدٌ ١٠٢

103. 本当にその中にはまさしく、来世の懲罰を怖れる者への御徴[3]がある。それは（清算と報いの）そのために、人々が集められる日、そしてそれは（全創造物によって）立ち会われる日なのだ。

إِنَّ فِى ذَٰلِكَ لَءَايَةً لِّمَنْ خَافَ عَذَابَ ٱلْءَاخِرَةِ ۚ
ذَٰلِكَ يَوْمٌ مَّجْمُوعٌ لَّهُ ٱلنَّاسُ وَذَٰلِكَ يَوْمٌ
مَّشْهُودٌ ١٠٣

104. そしてわれら*はそれ（復活の日*）を、決められた期限までしか、先延ばしにすることがない。

وَمَا نُؤَخِّرُهُۥٓ إِلَّا لِأَجَلٍ مَّعْدُودٍ ١٠٤

105. いかなる者も、かれ（アッラー*）のお許しなくしては話すことがない[4]、それ（復活の時）が到来する日。彼らの中には不幸な者も、幸福な者[5]もいる。

يَوْمَ يَأْتِ لَا تَكَلَّمُ نَفْسٌ إِلَّا بِإِذْنِهِۦ ۚ فَمِنْهُمْ
شَقِىٌّ وَسَعِيدٌ ١٠٥

---

1 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

2 この「不正*」とは、アッラー*に対する不信仰と反抗、そして使徒*を嘘つき呼ばわりしたこと（ムヤッサル 233 頁参照）。

3 この「御徴」は、教訓や訓戒のこと（前掲書、同頁参照）。

4 夜の旅章 97 の訳注も参照。

5 「不幸な者」とは懲罰を受ける者で、「幸福な者」とは享楽を味わう者のこと（前掲書、同頁参照）。

106. それで（間違った信仰と悪行ゆえ、現世で）不幸になった者たちといえば、（地獄の）業火の中にある。そこでは彼らに、（その苦しみゆえの）大きな呻き声と喘ぎ声[1]がある。

فَأَمَّا ٱلَّذِينَ شَقُواْ فَفِي ٱلنَّارِ لَهُمۡ فِيهَا زَفِيرٞ
وَشَهِيقٌ ١٠٦

107. 諸天と大地が続く限り[2]、永遠にそこに留まる。但し、あなたの主*がお望みになったこと[3]は別だが。本当に（使徒*よ、）あなたの主*は、かれがお望みになることを決行されるのだ。

خَٰلِدِينَ فِيهَا مَا دَامَتِ ٱلسَّمَٰوَٰتُ وَٱلۡأَرۡضُ
إِلَّا مَا شَآءَ رَبُّكَۚ إِنَّ رَبَّكَ فَعَّالٞ لِّمَا
يُرِيدُ ١٠٧

108. また幸福な者たちはといえば、天国の中にある。諸天と大地が続く限り[4]、永遠にそこに留まる。但し、あなたの主*がお望みになったこと[5]は別だが。（アッラー*は）途絶えることのない賜物（を、彼ら幸福な者たちにお与えになる）。

۞وَأَمَّا ٱلَّذِينَ سُعِدُواْ فَفِي ٱلۡجَنَّةِ خَٰلِدِينَ
فِيهَا مَا دَامَتِ ٱلسَّمَٰوَٰتُ وَٱلۡأَرۡضُ إِلَّا
مَا شَآءَ رَبُّكَۖ عَطَآءً غَيۡرَ مَجۡذُوذٖ ١٠٨

109. ならば（使徒*よ）、あなた[6]は（シルク*の徒である）これらの者たちが崇めるもの（の無意味さ）を、疑わしく思ってはならない。彼らは、過去に自分たちの先

فَلَا تَكُ فِي مِرۡيَةٖ مِّمَّا يَعۡبُدُ هَٰٓؤُلَآءِۚ مَا يَعۡبُدُونَ
إِلَّا كَمَا يَعۡبُدُ ءَابَآؤُهُم مِّن قَبۡلُۚ وَإِنَّا
لَمُوَفُّوهُمۡ نَصِيبَهُمۡ غَيۡرَ مَنقُوصٖ ١٠٩

---

1 「大きな呻き声と喘ぎ声」と訳した原語の解釈については、「胸から出す声と、喉から出す声」「ロバの鳴き声の最初の部分にあたるものと、最後の部分にあたるもの」「息を吐き出す音と、吸い込む音」など多説あるが、いずれにせよ悲しみや苦しみゆえの声である（アル＝クルトゥビー9:98-99 参照）。

2 「諸天と大地が続く限り」の解釈には、「永続性を表わす単なるアラビア語的表現」「来世における諸天と大地のこと（イブラーヒーム*章 48 も参照）」といった説がある（アル＝カースィミー9：3486 参照）。

3 罪深いムスリム*が地獄で暫（しばら）く罰された後、アッラー*のご意思によって天国に入れられること（ムヤッサル 233 頁参照）。

4 アーヤ*107 の同様の表現についての訳注を参照。

5 罪深いムスリム*はまず地獄に入り、後にアッラー*のご意思によって天国に入れられること（前掲書、同頁参照）。

6 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照（ムヤッサル 234 頁参照）。

祖が崇めていたように（偶像を）崇めているに過ぎず、本当にわれら*は必ずや、彼らの取り分[1]を不足なく全うしてやるのだから。

110. また、われら*は確かに、ムーサー*に啓典（トーラー*）を授けた。すると、そこにおいて異論が生じ（、ある者は信じ、ある者は信じなかっ）た。そして（使徒よ）、もし（彼らに対する懲罰を猶予する、という）あなたの主*からの先んじた御言葉がなければ、彼らの間には裁決[2]が下されてしまったであろう。そして本当に彼ら（不信仰者*たち）はそれ（クルアーン*）に対して、大きな疑惑の真っ只中にあるのだ。

وَلَقَدۡ ءَاتَيۡنَا مُوسَى ٱلۡكِتَٰبَ فَٱخۡتُلِفَ
فِيهِۚ وَلَوۡلَا كَلِمَةٞ سَبَقَتۡ مِن رَّبِّكَ لَقُضِيَ
بَيۡنَهُمۡۚ وَإِنَّهُمۡ لَفِي شَكّٖ مِّنۡهُ مُرِيبٖ ١١٠

111. （使徒*よ、）本当に全ての者に対し、あなたの主*は必ずや、その行いにお報いになるのである。本当にかれは、彼らが行うことに通暁されるお方なのだから。

وَإِنَّ كُلّٗا لَّمَّا لَيُوَفِّيَنَّهُمۡ رَبُّكَ أَعۡمَٰلَهُمۡۚ إِنَّهُۥ
بِمَا يَعۡمَلُونَ خَبِيرٞ ١١١

112. （預言者*よ、）あなたが命じられたように、確固としてあれ[3]。そして、あなたと共に悔悟した者も（確固としてあれ）。また（アッラー*の法という境界線を、）踏み越えてはならない。本当にかれは、あなた方の行うこと（全て）をご覧になるお方なのだから。

فَٱسۡتَقِمۡ كَمَآ أُمِرۡتَ وَمَن تَابَ مَعَكَ وَلَا
تَطۡغَوۡاْۚ إِنَّهُۥ بِمَا تَعۡمَلُونَ بَصِيرٞ ١١٢

1 この「取り分」の解釈には、「（現世での）糧」「懲罰」「善と悪にたいして約束された報い」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー9:103 参照）。

2 「裁決を下される」については、ユーヌス*章 19 の訳注を参照。

3 アッラー*の教えとその実践、そして人々をそこへと招くことにおいて確固としてあれ、という意味であるとされる（アル＝バガウィー2:468 参照）。

113. そして不正*を働いた者（不信仰者*）たちに同調し、それゆえに（地獄の）業火があなた方に触れることになってはならない。あなた方にはアッラー*の外、いかなる庇護者もなく、（地獄に入った）その後には（そこから）助けられることもないのだ。

وَلَا تَرْكَنُوٓا۟ إِلَى ٱلَّذِينَ ظَلَمُوا۟ فَتَمَسَّكُمُ
ٱلنَّارُ وَمَا لَكُم مِّن دُونِ ٱللَّهِ مِنْ
أَوْلِيَآءَ ثُمَّ لَا تُنصَرُونَ ١١٣

114. また（預言者*よ、）昼の両端と夜の一部[1]に、礼拝を遵守せよ*。本当に善行は、悪行を駆逐する[2]のだから。それは教訓を得る者たちにとっての、教訓である。

وَأَقِمِ ٱلصَّلَوٰةَ طَرَفَىِ ٱلنَّهَارِ وَزُلَفًا مِّنَ
ٱلَّيْلِ ۚ إِنَّ ٱلْحَسَنَٰتِ يُذْهِبْنَ ٱلسَّيِّـَٔاتِ ۚ
ذَٰلِكَ ذِكْرَىٰ لِلذَّٰكِرِينَ ١١٤

115. そして忍耐*せよ。本当にアッラー*は、善を尽くす者[3]たちの褒美を無駄にはされないのだから。

وَٱصْبِرْ فَإِنَّ ٱللَّهَ لَا يُضِيعُ أَجْرَ ٱلْمُحْسِنِينَ ١١٥

116. どうして、あなた方以前の幾つもの世代には、地上での腐敗*を禁じる善き名残を有した者[4]たちがいなかったのか？ われら*が彼ら（不信仰の民*）から救い出した、僅かな者たちを除いては（、そのような者たちはいなかったのである）。そして不正*を働いた者たちは、（現世の享楽という）与えられた贅沢を追求したのであり、罪悪者だったのだ。

فَلَوْلَا كَانَ مِنَ ٱلْقُرُونِ مِن قَبْلِكُمْ أُو۟لُوا۟
بَقِيَّةٍ يَنْهَوْنَ عَنِ ٱلْفَسَادِ فِى ٱلْأَرْضِ إِلَّا
قَلِيلًا مِّمَّنْ أَنجَيْنَا مِنْهُمْ ۗ وَٱتَّبَعَ ٱلَّذِينَ
ظَلَمُوا۟ مَآ أُتْرِفُوا۟ فِيهِ وَكَانُوا۟ مُجْرِمِينَ ١١٦

---

1 「昼の両端」には「ファジュル*と、ズフル*及びアスル*」「ファジュル*とマグリブ*」「ファジュル*とアスル*」などの諸説がある。「夜の一部」には「イシャーゥ*」「マグリブ*とイシャーゥ*」「マグリブ*とイシャーゥ*とファジュル*」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー9:109-110 参照）。

2 礼拝は善行の中でも最たるものであるが、ここでの「善行」は全ての善行で、「悪行」は大罪*以外のものである、とされる（イブン・アティーヤ 3:213 参照）。

3 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

4 「善き名残を有した者たち」とは、アッラー*への従順さ、宗教性、知性、慧眼（けいがん）を備えた者のこととされる（アル＝クルトゥビー9:113 参照）。

117. （使徒*よ、）あなたの主*は、その住民が改善者である時に、町々を不正[1]ゆえに滅ぼされたりはしない。[2]

وَمَا كَانَ رَبُّكَ لِيُهْلِكَ ٱلْقُرَىٰ بِظُلْمٍ
وَأَهْلُهَا مُصْلِحُونَ ١١٧

118. もしあなたの主*がお望みだったなら、人々を（イスラーム*のもとに）一つの共同体とされたであろう。（だが、アッラー*は英知ゆえにそうはされなかったのであり、）彼らは未だ、（宗教において）分裂しているのである。

وَلَوْ شَآءَ رَبُّكَ لَجَعَلَ ٱلنَّاسَ أُمَّةً وَٰحِدَةً ۖ وَلَا
يَزَالُونَ مُخْتَلِفِينَ ١١٨

119. 但し、あなたの主*がご慈悲をかけられ（、アッラー*を信仰し、使徒*に従っ）た者[3]は、その限りではない。それ[4]ゆえにかれは、彼らを創造されたのである。そして「われは必ずや、（信仰しなかった）全てのジン*と人間で、地獄を満たすのだ」という、あなたの主*の御言葉は確定したのだ。

إِلَّا مَن رَّحِمَ رَبُّكَ ۚ وَلِذَٰلِكَ خَلَقَهُمْ ۗ وَتَمَّتْ
كَلِمَةُ رَبِّكَ لَأَمْلَأَنَّ جَهَنَّمَ مِنَ ٱلْجِنَّةِ
وَٱلنَّاسِ أَجْمَعِينَ ١١٩

120. そして（使徒*よ）、われら*は使徒たちの消息の内からあなたに（、あなたが必要とする）全てを、つまりそれによって、われら*があなたの心を堅固にするものを語り聞かせよう。あなたには、この（スーラ*の）中で、真理と訓戒、信仰者にとっての教訓が到来したのだ。

وَكُلًّا نَّقُصُّ عَلَيْكَ مِنْ أَنۢبَآءِ ٱلرُّسُلِ مَا نُثَبِّتُ
بِهِۦ فُؤَادَكَ ۚ وَجَآءَكَ فِى هَٰذِهِ ٱلْحَقُّ وَمَوْعِظَةٌ
وَذِكْرَىٰ لِلْمُؤْمِنِينَ ١٢٠

1 ここでの「不正*」は、シルク*と不信仰、「改善」は、人々がお互いの権利を守ることであるとされる。ある学者らはこのアーヤ*から、アッラー*は不信仰者*の社会でも社会不正を働かない限り、全滅はさせられないのだ、という理解を導き出している（アッ＝ラーズィー6:410、アル＝クルトゥビー9:114 参照）。

2 このアーヤ*は「不正*」の文法上の位置づけにより、別の解釈も可能。家畜章 131 の訳注参照。

3 アッラー*のご慈悲によって真理を知り、それを実践し、そこにおいて団結した者（アッ＝サァディー392 参照）。

4 この「それ」が何を指すかについては、①分裂、②ご慈悲、③その両方、という説がある（アッ＝タバリー6:4453-4455 参照）。

121. （使徒*よ、）信仰しない者たちに、（こう）言え。「あなた方は自分たちのやり方で（、出来る限りのことを）行うがよい。実に私たちも、（自分たちのやり方で）行おう。

وَقُل لِّلَّذِينَ لَا يُؤۡمِنُونَ ٱعۡمَلُواْ عَلَىٰ مَكَانَتِكُمۡ إِنَّا عَٰمِلُونَ ١٢١

122. そして（、私たちの結末を）待つがよい。本当に私たちも、（あなた方の結末を）待っているのだから」。

وَٱنتَظِرُوٓاْ إِنَّا مُنتَظِرُونَ ١٢٢

123. アッラー*にこそ、諸天と大地における不可視の世界*（に関する知識）は属し、かれにこそ、物事は万事帰される。ならば、かれを崇拝*し、かれに全てを委ね*よ。そしてあなたの主*は、あなた方が行うことに、無頓着なお方ではあられない。

وَلِلَّهِ غَيۡبُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ وَإِلَيۡهِ يُرۡجَعُ ٱلۡأَمۡرُ كُلُّهُۥ فَٱعۡبُدۡهُ وَتَوَكَّلۡ عَلَيۡهِۚ وَمَا رَبُّكَ بِغَٰفِلٍ عَمَّا تَعۡمَلُونَ ١٢٣

第 12 章
ユースフ*章[1]

سُورَةُ يُوسُفَ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. アリフ・ラーム・ラー[2]。それは、解明する啓典[3]の御徴（アーヤ*）。

الٓرۚ تِلۡكَ ءَايَٰتُ ٱلۡكِتَٰبِ ٱلۡمُبِينِ ١

2. 本当にわれら*はそれを、あなた方が（その意味を）弁えるべく、アラビア語のクルアーン*として下した。

إِنَّآ أَنزَلۡنَٰهُ قُرۡءَٰنًا عَرَبِيّٗا لَّعَلَّكُمۡ تَعۡقِلُونَ ٢

3. （使徒*よ、）われら*はこのクルアーン*をあなたに啓示することで、あなたに最良の物語を話して聞かせる。実にあなたはそれ以前、（このような話には、）無頓着な者の類いだったのだが。

نَحۡنُ نَقُصُّ عَلَيۡكَ أَحۡسَنَ ٱلۡقَصَصِ بِمَآ
أَوۡحَيۡنَآ إِلَيۡكَ هَٰذَا ٱلۡقُرۡءَانَ وَإِن كُنتَ مِن قَبۡلِهِۦ
لَمِنَ ٱلۡغَٰفِلِينَ ٣

4. ユースフ*が、自分の父親（ヤァクーブ*）に（こう）言った時のこと。「お父さん、本当に私は（夢で）十一個の星と、太陽と、月を見ました。私はかれら[4]が、私にサジダ*するのを見たのです」。

إِذۡ قَالَ يُوسُفُ لِأَبِيهِ يَٰٓأَبَتِ إِنِّي رَأَيۡتُ
أَحَدَ عَشَرَ كَوۡكَبٗا وَٱلشَّمۡسَ وَٱلۡقَمَرَ
رَأَيۡتُهُمۡ لِي سَٰجِدِينَ ٤

---

1 マッカ*啓示で学者間の見解は、ほぼ一致。預言者*ユースフ*の物語が主題であることから、彼の名がスーラ*名となっている。ユースフ*とヤァクーブ*が信仰心、忍耐*心、英知、寛大さと共に度（たび）重なる試練に立ち向かい、最後には成功を勝ち取る話が描かれている。この話は、マッカ*時代の苦境にあった預言者*ムハンマド*とその信徒たちに対する大きな慰（なぐさ）めとなり、彼らを抑圧していた不信仰者*に対しては厳（きび）しい警告と悔悟（かいご）の勧告となった。

2 これらの文字については、頻出名・用語解説「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 「解明する啓典」とは、正しい導きを始め、物事の合法性や非合法性など、あらゆることを解明する啓典、つまりクルアーン*のこと（アッ＝タバリー6:4461-4462 参照）。

4 「サジダ*」という、知力を備えた存在の行為ゆえ、これらの物質が「かれら」と表現されている（アル＝バガウィー2:475 参照）。また、十一個の星はユースフ*の兄弟を、太陽と月は彼の両親を暗示していると言われる。詳しくはアーヤ*100 を参照（イブン・カスィール 4：369 参照）。

5. 彼（ヤァクーブ*）は、言った。「我が息子よ、お前の夢を兄さんたちに話してはならない。そうすれば彼らは、お前に悪だくみをする。本当にシャイターン*は、人間への紛れもない敵なのだから。

قَالَ يَٰبُنَيَّ لَا تَقۡصُصۡ رُءۡيَاكَ عَلَىٰٓ إِخۡوَتِكَ
فَيَكِيدُواْ لَكَ كَيۡدًاۖ إِنَّ ٱلشَّيۡطَٰنَ لِلۡإِنسَٰنِ
عَدُوّٞ مُّبِينٞ ٥

6. そして（、お前に正夢を見せて下さったのと）同様に、お前の主*はお前を選び抜かれ、お前に話の解釈[1]をお教えになり、お前とヤァクーブ*の一族にその恩恵を全うされる。ちょうどかれが以前、お前の二人の祖イブラーヒーム*とイスハーク*に対してそれを全うされたように。本当にお前の主*は、全知者、英知あふれる*お方」。

وَكَذَٰلِكَ يَجۡتَبِيكَ رَبُّكَ وَيُعَلِّمُكَ مِن
تَأۡوِيلِ ٱلۡأَحَادِيثِ وَيُتِمُّ نِعۡمَتَهُۥ عَلَيۡكَ وَعَلَىٰٓ
ءَالِ يَعۡقُوبَ كَمَآ أَتَمَّهَا عَلَىٰٓ أَبَوَيۡكَ مِن قَبۡلُ
إِبۡرَٰهِيمَ وَإِسۡحَٰقَۚ إِنَّ رَبَّكَ عَلِيمٌ حَكِيمٞ ٦

7. ユースフ*とその兄弟（の間に起きた話）には、確かに（それについて）尋ねる者たちにとっての御徴[2]があった。

۞لَّقَدۡ كَانَ فِي يُوسُفَ وَإِخۡوَتِهِۦٓ ءَايَٰتٞ
لِّلسَّآئِلِينَ ٧

8. 彼ら（ユースフ*の兄たち）が（密談して、こう）言った時のこと（を思い起こせ）。「本当にユースフ*とあいつの弟[3]は、私たちよりもお父さんに愛されている。私たちは多勢であるというのに。本当にお父さんは全く、紛れもない迷妄の中におられる。

إِذۡ قَالُواْ لَيُوسُفُ وَأَخُوهُ أَحَبُّ إِلَىٰٓ أَبِينَا مِنَّا
وَنَحۡنُ عُصۡبَةٌ إِنَّ أَبَانَا لَفِي ضَلَٰلٖ مُّبِينٍ ٨

9. ユースフ*を殺してしまえ。それか、（どこか辺鄙な）土地に放り投げてしまえ。（そうすれば、）お父さんの顔はあなた方だけに向けられるし、あなた方はその後で正しい民となる[4]のだ」。

ٱقۡتُلُواْ يُوسُفَ أَوِ ٱطۡرَحُوهُ أَرۡضٗا يَخۡلُ
لَكُمۡ وَجۡهُ أَبِيكُمۡ وَتَكُونُواْ مِنۢ بَعۡدِهِۦ
قَوۡمٗا صَٰلِحِينَ ٩

---

1 「話の解釈」とは夢の解釈のことであるとされるが、夢だけではなくもっと広い範囲の解釈能力のことである、とも言われる（イブン・アティーヤ 3:220 参照）。

2 この「御徴」とは、アッラー*の御力と英知を示す証拠のこと（ムヤッサル 236 頁参照）。

3 ユースフの弟の名はビンヤーミーン（ベニヤミン）。この二人は他の十人の兄たちよりも年少で、彼らとは母親を異にしていたという（イブン・アティーヤ 3:221 参照）。

4 アッラー*に悔悟し、その罪のお赦しを乞う、ということ（ムヤッサル 236 頁参照）。

10. 彼らの内のある者が、言った。「ユースフ*を殺さず、井戸の奥底に投げ入れてしまえ。（そうすれば、旅行中の）通行人たちが、あいつを拾ってくれるだろう。もし、あなた方がそうするのであれば、だが」。

قَالَ قَآئِلٞ مِّنۡهُمۡ لَا تَقۡتُلُواْ يُوسُفَ وَأَلۡقُوهُ
فِي غَيَٰبَتِ ٱلۡجُبِّ يَلۡتَقِطۡهُ بَعۡضُ ٱلسَّيَّارَةِ
إِن كُنتُمۡ فَٰعِلِينَ ١٠

11. （そうすることを決定した後、）彼らは言った。「お父さん、あなたが私たちにユースフ*を任せて下さらないのは、どういうわけですか？　本当に私たちは、彼に対して実に親身ですのに。

قَالُواْ يَٰٓأَبَانَا مَا لَكَ لَا تَأۡمَ۬نَّا عَلَىٰ يُوسُفَ وَإِنَّا
لَهُۥ لَنَٰصِحُونَ ١١

12. 彼を明日、私たちと一緒に（遊牧地へ）送って下さい。（そうすれば）彼は満喫し[1]、遊ぶでしょう。本当に私たちは、まさしく彼の保護者なのです」。

أَرۡسِلۡهُ مَعَنَا غَدٗا يَرۡتَعۡ وَيَلۡعَبۡ وَإِنَّا لَهُۥ
لَحَٰفِظُونَ ١٢

13. 彼（ヤアクーブ*）は言った。「本当に私は、お前たちが彼を連れて行くことがひどく悲しい。そしてお前たちが彼に不注意になっている時に、狼が彼を食べてしまうのではないかと怖れているのだ」。

قَالَ إِنِّي لَيَحۡزُنُنِيٓ أَن تَذۡهَبُواْ بِهِۦ وَأَخَافُ أَن
يَأۡكُلَهُ ٱلذِّئۡبُ وَأَنتُمۡ عَنۡهُ غَٰفِلُونَ ١٣

14. 彼らは言った。「私たちは多勢であるというのに、もしも狼が彼を食べてしまうことがあれば、本当にその時は、私たちはまさしく（役立たずの）損失者です」。

قَالُواْ لَئِنۡ أَكَلَهُ ٱلذِّئۡبُ وَنَحۡنُ عُصۡبَةٌ
إِنَّآ إِذٗا لَّخَٰسِرُونَ ١٤

15. それで彼らが彼（ユースフ*）を連れて行き、彼を井戸の奥底に投げ入れることで一致した時（、彼らはそれを実行した）。われら*は彼（ユースフ*）に、（こう）啓示した。「あなたは必ずや（将来）、彼らの（策謀した）この事について、彼らに語り聞かせるこ

فَلَمَّا ذَهَبُواْ بِهِۦ وَأَجۡمَعُوٓاْ أَن يَجۡعَلُوهُ فِي غَيَٰبَتِ
ٱلۡجُبِّۚ وَأَوۡحَيۡنَآ إِلَيۡهِ لَتُنَبِّئَنَّهُم بِأَمۡرِهِمۡ هَٰذَا
وَهُمۡ لَا يَشۡعُرُونَ ١٥

1　「満喫（ラトゥウ）」とは語源的に、「快楽を十分に味わうこと」であり、ここでは楽しみ、食べ、遊び、羽を伸ばすことを指す（アル＝バガウィー2:479 参照）。

とになろう。彼らは（その時、あなたがユースフ*であることに）気付かないのだが」。

16. 彼ら（ユースフ*の兄たち）は夜、泣きながら、自分たちの父親のもとにやって来た。

وَجَآءُوٓ أَبَاهُمۡ عِشَآءٗ يَبۡكُونَ ١٦

17. 彼らは言った。「お父さん、本当に私たちは競争[1]しに行き、ユースフ*を荷物の所に残しておきました。すると、狼が彼を食べてしまったのです。あなたは私たちのことを信用してはくれないでしょう。たとえ私たちが、正直者であったとしても」。

قَالُواْ يَٰٓأَبَانَآ إِنَّا ذَهَبۡنَا نَسۡتَبِقُ وَتَرَكۡنَا
يُوسُفَ عِندَ مَتَٰعِنَا فَأَكَلَهُ ٱلذِّئۡبُۖ وَمَآ
أَنتَ بِمُؤۡمِنٖ لَّنَا وَلَوۡ كُنَّا صَٰدِقِينَ ١٧

18. そして彼らは、偽物の血の付いた彼の上着を持って来た[2]。彼（ヤァクーブ*）は言った。「いや、お前たち自身の心が（その醜悪な）事を、お前たちに惑わせて促したのである。（我が忍耐*は、）よき忍耐*[3]。アッラー*（こそ）は、お前たちの言うことに対して（私から）援助を乞われるべきお方である」。

وَجَآءُو عَلَىٰ قَمِيصِهِۦ بِدَمٖ كَذِبٖۚ قَالَ بَلۡ
سَوَّلَتۡ لَكُمۡ أَنفُسُكُمۡ أَمۡرٗاۖ فَصَبۡرٞ جَمِيلٞۖ
وَٱللَّهُ ٱلۡمُسۡتَعَانُ عَلَىٰ مَا تَصِفُونَ ١٨

19. こうして（井戸に、旅行中の）通行人たち[4]がやって来た。彼らは水汲みの者を（井戸に）やり、彼はその水桶を（井戸の中に）垂らした。（そしてユースフ*がそれに掴まって井戸の外に出てくると、）彼は言った。「おお、吉報よ！　これは（素晴らしい）男の子だ[5]」。彼らは彼のことを、商品とし

وَجَآءَتۡ سَيَّارَةٞ فَأَرۡسَلُواْ وَارِدَهُمۡ فَأَدۡلَىٰ
دَلۡوَهُۥۖ قَالَ يَٰبُشۡرَىٰ هَٰذَا غُلَٰمٞۚ وَأَسَرُّوهُ بِضَٰعَةٗۚ
وَٱللَّهُ عَلِيمُۢ بِمَا يَعۡمَلُونَ ١٩

1 「競争」とは、かけっこや弓矢での競争のこととされる（ムヤッサル 237 頁参照）。

2 彼らはそれを、自分たちの正直さの証拠としたかったが、それは逆に彼らへの反証となった。というのもそれは、破（やぶ）き裂かれてはいなかったからである（前掲書、同頁参照）。

3 「よき忍耐*」とは、「動じたり、不平を言ったりせずに忍耐すること」（アル＝クルトゥビー9:152 参照）であるとされる。

4 マドゥヤン*方面から、エジプトへと向かう旅行者たちであったという（アル＝バガウィー2:481 参照）。

5 アーヤ*31 の伝承にもある通り、ユースフ*は絶世の美男子だった（アル＝クルトゥビー9:153 参照）。

て秘密にした[1]。アッラー*は彼らが（ユースフ*に対して）行うことを、ご存知のお方であられる。

20. また、彼ら[2]は僅かな値で、つまり数えるほどのディルハム[3]で、彼を売り払った。彼らは、彼に関して無欲な者たちだったのだ。

وَشَرَوۡهُ بِثَمَنِۭ بَخۡسٖ دَرَٰهِمَ مَعۡدُودَةٖ
وَكَانُواْ فِيهِ مِنَ ٱلزَّٰهِدِينَ ٢٠

21. （旅行者らはエジプトでユースフ*を売ったが、）彼を買ったエジプト出身の者[4]は、自分の妻に言った。「彼の待遇を、よく気遣ってやりなさい。彼は私たちの役に立つかもしれないし、また私たちは彼を子供の代わりにするかもしれないのだから」。そのように、われら*はユースフ*に（エジプトの）その地で、確固たる地位を授けた[5]。そして（それは、）われら*が彼に、話の解釈[6]を教えるためであった。アッラー*は、事を決行されるお方[7]であられる。しかし多くの人々は、（それが）分からないのだ。

وَقَالَ ٱلَّذِي ٱشۡتَرَىٰهُ مِن مِّصۡرَ لِٱمۡرَأَتِهِۦٓ
أَكۡرِمِي مَثۡوَىٰهُ عَسَىٰٓ أَن يَنفَعَنَآ أَوۡ
نَتَّخِذَهُۥ وَلَدٗاۚ وَكَذَٰلِكَ مَكَّنَّا لِيُوسُفَ فِي
ٱلۡأَرۡضِ وَلِنُعَلِّمَهُۥ مِن تَأۡوِيلِ ٱلۡأَحَادِيثِۚ
وَٱللَّهُ غَالِبٌ عَلَىٰٓ أَمۡرِهِۦ وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَ
ٱلنَّاسِ لَا يَعۡلَمُونَ ٢١

---

1 「商品」とは、奴隷*としての商品のこと。水汲みの者とその仲間たちは自分たちの分け前が減らぬよう、商人である他の旅行者たちに対し、ユースフ*のことは水の所有者から共同で買ったものだ、と主張したのだとされる（アッ＝タバリー6:4484 参照）。また一説には、ここでの「彼ら」はユースフ*の兄たちのこと。彼らは旅行者たちのもとにユースフ*を見つけ、「これは私たちのもとから逃げた奴隷*である」と主張し、売り払ったのだという（アル＝バガウィー2:481 参照）。

2 この「彼ら」には、水汲みの者とその仲間という説と、ユースフ*の兄たちという説がある（アル＝クルトゥビー9:155 参照）。アーヤ*19 の訳注も参照。

3 「ディルハム」は銀貨のこと。「数えるほどの」という形容には、秤（はかり）を使うまでもない小額の、という意味が含まれている。また「僅かな」という訳をあてた原語「バフス」には、不正な、非合法な、という意味もある（アッ＝タバリー6:4485-4490 参照）。

4 この「エジプト出身の者」は、エジプトの大臣であった（ムヤッサル 237 頁参照）。

5 つまり主人のもとで様々な権限を与えられ、エジプトの地で高い地位を得、人々から親しまれた（アル＝カースィミー9:3524 参照）。

6 「話の解釈」については、アーヤ*6 の訳注を参照。

7 ご自身の望まれることを決行されるお方、という意味。あるいはユースフ*の諸事を、特別の配慮（はいりょ）でもって営（いとな）まれるお方、という意味（アル＝バガウィー2:483 参照）。

22. 彼（ユースフ*）が成熟[1]した時、われら*は彼に英知と知識[2]を授けた。そのようにわれら*は、善を尽くす者[3]たちに報いるのである。

وَلَمَّا بَلَغَ أَشُدَّهُۥٓ ءَاتَيْنَٰهُ حُكْمًا وَعِلْمًا ۚ وَكَذَٰلِكَ نَجْزِى ٱلْمُحْسِنِينَ ٢٢

23. そして彼が住んでいた家の女性（大臣の妻）が彼を（不倫へと）誘惑し、扉をきっちりと閉めて言った。「さあ、いらっしゃい」。彼は言った。「アッラー*のご加護を（乞います）。本当にあのお方は、私によくして下さった我がご主人様なのですから。不正*者が成功することは、絶対にありません」。

وَرَٰوَدَتْهُ ٱلَّتِى هُوَ فِى بَيْتِهَا عَن نَّفْسِهِۦ وَغَلَّقَتِ ٱلْأَبْوَٰبَ وَقَالَتْ هَيْتَ لَكَ ۚ قَالَ مَعَاذَ ٱللَّهِ ۖ إِنَّهُۥ رَبِّىٓ أَحْسَنَ مَثْوَاىَ ۖ إِنَّهُۥ لَا يُفْلِحُ ٱلظَّٰلِمُونَ ٢٣

24. そして彼女は確かに彼を望み、彼もまた、彼女に対して欲が生じた[4]。彼が、その主*の根拠[5]を目にしなかったなら（、彼もまた彼女を求めたであろう）。そのように（見せたのは）、われら*が彼から悪と醜行[6]を逸らすためである。本当に彼は、われら*の精選された僕[7]の内の一人なのだから。

وَلَقَدْ هَمَّتْ بِهِۦ ۖ وَهَمَّ بِهَا لَوْلَآ أَن رَّءَا بُرْهَٰنَ رَبِّهِۦ ۚ كَذَٰلِكَ لِنَصْرِفَ عَنْهُ ٱلسُّوٓءَ وَٱلْفَحْشَآءَ ۚ إِنَّهُۥ مِنْ عِبَادِنَا ٱلْمُخْلَصِينَ ٢٤

---

1 この「成熟」については、巡礼*章 5「成熟」の訳注を参照。

2 一説に、この「英知」は預言者*性で、「知識」は宗教理解（アル＝バガウィー2:483 参照）。

3 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注も参照。

4 大臣の妻は欲望と決意をもって行動に移したが、ユースフ*は単にそのようなことが脳裏（のうり）をよぎっただけであった、とされる（前掲書 2:485 参照）。預言者*・使徒*の無謬（むびゅう）性については、雌牛章 36 の訳注を参照。

5 この「根拠」の解釈には、「ヤァクーブ*の姿」「主人の姿」「啓典のアーヤ*」といった諸説がある。アッ＝タバリー*は、いずれにせよ、彼は自分の欲望を制するようなアッラー*の御徴を見たのだ、と結論づけている（6:4511 参照）。

6 「醜行」については、蜜蜂章 90 の訳注も参照。

7 「精選されたアッラー*の僕」とは、アッラー*の崇拝*において誠心を尽くす一方で、アッラー*によって純粋にされ、選ばれ、特別な存在とされ、恩恵を注がれると共に、悪を遠ざけられたような存在のこと（アッ＝サァディー396 頁参照）。

25. そして二人は扉へと我先に急ぎ[1]、彼女は彼の上着を後ろから（引っぱって）破いてしまった。そして二人は、扉のところに彼女の主人を見出した。彼女は言った。「あなたの家人に悪さをしようとした者の応報は、牢獄に入れられるか、あるいは痛ましい懲罰の外にはありません」。

وَٱسۡتَبَقَا ٱلۡبَابَ وَقَدَّتۡ قَمِيصَهُۥ مِن دُبُرٖ وَأَلۡفَيَا سَيِّدَهَا لَدَا ٱلۡبَابِۚ قَالَتۡ مَا جَزَآءُ مَنۡ أَرَادَ بِأَهۡلِكَ سُوٓءًا إِلَّآ أَن يُسۡجَنَ أَوۡ عَذَابٌ أَلِيمٞ ﴿٢٥﴾

26. 彼（ユースフ*）は言った。「彼女が私を、（不倫へと）誘惑したのです」。そして彼女の家族の内の裁決者が、（こう）裁決した[2]。「もし彼の上着が前方から破れていたら、彼女は本当のことを言ったのであり、彼が嘘つきの類いということになります。

قَالَ هِيَ رَٰوَدَتۡنِي عَن نَّفۡسِيۚ وَشَهِدَ شَاهِدٞ مِّنۡ أَهۡلِهَآ إِن كَانَ قَمِيصُهُۥ قُدَّ مِن قُبُلٖ فَصَدَقَتۡ وَهُوَ مِنَ ٱلۡكَٰذِبِينَ ﴿٢٦﴾

27. そして、もし彼の上着が後方から破れていたら、彼女は嘘をついたのであり、彼が正直者の類いということになります」。

وَإِن كَانَ قَمِيصُهُۥ قُدَّ مِن دُبُرٖ فَكَذَبَتۡ وَهُوَ مِنَ ٱلصَّٰدِقِينَ ﴿٢٧﴾

28. それで彼（大臣）は、彼の上着が後方から破れているのを見ると、（こう）言った。「実に、これはあなたたち（女性）の策略の一つである。本当にあなた方の策略は、途方もないものなのだから。

فَلَمَّا رَءَا قَمِيصَهُۥ قُدَّ مِن دُبُرٖ قَالَ إِنَّهُۥ مِن كَيۡدِكُنَّۖ إِنَّ كَيۡدَكُنَّ عَظِيمٞ ﴿٢٨﴾

29. ユースフ*よ、これ（を他言すること）から身を慎むのだ。そして（妻よ、）自分の罪の赦しを乞え。本当にあなたは、過ちを犯した者の類いなのだから」。

يُوسُفُ أَعۡرِضۡ عَنۡ هَٰذَاۚ وَٱسۡتَغۡفِرِي لِذَنۢبِكِۖ إِنَّكِ كُنتِ مِنَ ٱلۡخَاطِـِٔينَ ﴿٢٩﴾

---

1 ユースフ*は逃げるため、大臣の妻はそれを追うためにそうした（ムヤッサル238頁参照）。

2 「裁決者」の解釈には、「揺りかごの中の赤ん坊」「上着そのもの（話したわけではないが、その状態が全てを物語っていた）」「大臣の相談役の男」などの諸説がある（アル＝クルトゥビー9:172-173 参照）。

30. 町の婦人たち[1]は、（噂を聞いて）言った。「（大臣）閣下の奥様が、（彼女の召使いの）若者を誘惑するんですって。（彼は）彼女のことを、恋心で夢中にさせたんですよ。本当に彼女は、紛れもない迷いの中にありますわね」。

۞وَقَالَ نِسۡوَةٞ فِي ٱلۡمَدِينَةِ ٱمۡرَأَتُ ٱلۡعَزِيزِ
تُرَٰوِدُ فَتَىٰهَا عَن نَّفۡسِهِۦۖ قَدۡ شَغَفَهَا حُبًّاۖ
إِنَّا لَنَرَىٰهَا فِي ضَلَٰلٖ مُّبِينٖ ٣٠

31. それで彼女（大臣の妻）は彼女たちの策謀[2]を聞くと、彼女たちに（使いを）送っ（て、邸宅に招待し）た。そして彼女たちに肘掛けを用意[3]し、彼女たち一人一人に（食事用の）ナイフを渡し、（こう）言った。「（ユースフ*よ、）彼女たちのところに、お出でなさい」。それで彼女たちは彼を目にした時、彼に賛嘆し、（余りの美しさに驚き、ナイフで）自分たちの手を切ってしまった。そして彼女たちは、（こう）言った。「アッラー*にご加護を（乞います）。これは人間じゃないわ！　これは、高貴な天使*様以外の何ものでもないわよ！」[4]

فَلَمَّا سَمِعَتۡ بِمَكۡرِهِنَّ أَرۡسَلَتۡ إِلَيۡهِنَّ
وَأَعۡتَدَتۡ لَهُنَّ مُتَّكَـٔٗا وَءَاتَتۡ كُلَّ وَٰحِدَةٖ
مِّنۡهُنَّ سِكِّينٗا وَقَالَتِ ٱخۡرُجۡ عَلَيۡهِنَّۖ فَلَمَّا رَأَيۡنَهُۥٓ
أَكۡبَرۡنَهُۥ وَقَطَّعۡنَ أَيۡدِيَهُنَّ وَقُلۡنَ حَٰشَ لِلَّهِ
مَا هَٰذَا بَشَرًا إِنۡ هَٰذَآ إِلَّا مَلَكٞ كَرِيمٞ ٣١

32. 彼女（大臣の妻）は（彼女たちに）、言った。「その人が、あなた方が彼（への恋心）ゆえに私を咎めた者です。私は確かに彼を誘惑し、彼は自らを守りました。もしも（今後、）私が彼に命じることをしなければ、彼は必ずや牢獄に入れられ、惨めな者の類いとなるでしょう」。

قَالَتۡ فَذَٰلِكُنَّ ٱلَّذِي لُمۡتُنَّنِي فِيهِۖ وَلَقَدۡ رَٰوَدتُّهُۥ
عَن نَّفۡسِهِۦ فَٱسۡتَعۡصَمَۖ وَلَئِن لَّمۡ يَفۡعَلۡ مَآ
ءَامُرُهُۥ لَيُسۡجَنَنَّ وَلَيَكُونٗا مِّنَ ٱلصَّٰغِرِينَ ٣٢

---

1 「町の婦人たち」とは、町の有力者の妻たちである、と言われる（イブン・カスィール 4:384 参照）。

2 この「策謀」とは、婦人たちの彼女に対する陰口と、彼女をけなすことにおける「策謀」のこと（ムヤッサル 239 頁参照）。

3 「肘掛けを用意」することとは、食事の場を提供することの意（アル＝バガウィー2:489 参照）。

4 預言者*ムハンマド*はユースフ*の美貌について、こう仰った。「彼は美の半分を授けられた」（ムスリム「信仰の書」259 参照）。

33. 彼（ユースフ*）は言った。「我が主*よ、私には、彼女たちが私を招いていること（醜行）よりも、牢獄の方がましです。そして、もしあなたが私から彼女たちの策略を遠ざけて下さらなければ、私（の欲）は彼女らへと揺れ動き、私は（罪を犯す）愚か者の類いとなってしまいます」。

قَالَ رَبِّ ٱلسِّجۡنُ أَحَبُّ إِلَيَّ مِمَّا يَدۡعُونَنِيٓ إِلَيۡهِۖ
وَإِلَّا تَصۡرِفۡ عَنِّي كَيۡدَهُنَّ أَصۡبُ إِلَيۡهِنَّ وَأَكُن مِّنَ
ٱلۡجَٰهِلِينَ ٣٣

34. そして彼の主*は彼（の祈り）をお聞き届けになり、彼女たちの策略を彼から遠ざけて下さった。本当にかれこそは、よくお聴きになるお方、全知者であられる。

فَٱسۡتَجَابَ لَهُۥ رَبُّهُۥ فَصَرَفَ عَنۡهُ كَيۡدَهُنَّۚ إِنَّهُۥ
هُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلۡعَلِيمُ ٣٤

35. それから（ユースフ*が無実である）証拠[1]を目にした後、彼を暫く牢獄に入れておくことにしよう、と（いう意見が、）彼ら[2]に持ち上がった。[3]

ثُمَّ بَدَا لَهُم مِّنۢ بَعۡدِ مَا رَأَوُاْ ٱلۡأٓيَٰتِ
لَيَسۡجُنُنَّهُۥ حَتَّىٰ حِينٖ ٣٥

36. こうして彼と一緒に、二人の若者[4]が牢獄に入った。その片方が、（こう）言った。「本当に私は（夢で）、自分が酒*（を造るために葡萄）を搾っているのを見ました」。また、もう一方は言った。「本当に私は（夢で）、自分の頭の上にパンを運ぶのを見ました。そこから、鳥が啄ばんでいました」。（二人は言った。）「（ユースフ*よ、）この解釈について、私たちにお告げ下さい。

وَدَخَلَ مَعَهُ ٱلسِّجۡنَ فَتَيَانِۖ قَالَ أَحَدُهُمَآ إِنِّيٓ
أَرَىٰنِيٓ أَعۡصِرُ خَمۡرٗاۖ وَقَالَ ٱلۡأٓخَرُ إِنِّيٓ أَرَىٰنِيٓ
أَحۡمِلُ فَوۡقَ رَأۡسِي خُبۡزٗا تَأۡكُلُ ٱلطَّيۡرُ مِنۡهُۖ
نَبِّئۡنَا بِتَأۡوِيلِهِۦٓۖ إِنَّا نَرَىٰكَ مِنَ ٱلۡمُحۡسِنِينَ ٣٦

1 この「証拠」とは、上着の件、裁決者の裁決の件、婦人たちがナイフで手を傷つけた件、彼女らが彼を賛嘆した件、といったこととされる（アル＝クルトゥビー9:186 参照）。

2 「彼ら」とは、大臣とその取り巻きの者たちのこと（ムヤッサル 239 頁参照）。

3 一説によると、不祥（ふしょう）事の噂（うわさ）が広がらないようにするため、ほとぼりが収まるまで、ユースフ*のことを拘束しておこうとしたのだという（イブン・カスィール 4:387 参照）。

4 「二人の若者」はエジプトの王の家来で、何らかの原因で王の怒りを招き、投獄されたのだという（アッ＝タバリー6:4538-4539 参照）。

本当に私たちは、あなたが善を尽くす者[1]たちの類いであるとお見受けしますから」。

37. 彼（ユースフ*）は、言った。「あなた方が貰うことになっている食事は、あなた方にやって来ることはありませんよ。それがあなた方にやって来る前に、私がその解釈について、あなた方に告げるまでは[2]。それ（解釈）は、我が主*が私に教えて下さったものの一部。本当に私は、アッラー*を信じず、来世に対してもまさしく不信仰者*である民の宗教を、捨て去りました。

قَالَ لَا يَأۡتِيكُمَا طَعَامٞ تُرۡزَقَانِهِۦٓ إِلَّا نَبَّأۡتُكُمَا
بِتَأۡوِيلِهِۦ قَبۡلَ أَن يَأۡتِيَكُمَاۚ ذَٰلِكُمَا مِمَّا
عَلَّمَنِي رَبِّيٓۚ إِنِّي تَرَكۡتُ مِلَّةَ قَوۡمٖ لَّا يُؤۡمِنُونَ
بِٱللَّهِ وَهُم بِٱلۡأٓخِرَةِ هُمۡ كَٰفِرُونَ ٣٧

38. そして私は、我がご先祖様たち、イブラーヒーム*とイスハーク*とヤァクーブ*の宗教に従ったのです。私たちはアッラー*（の崇拝*）に、いかなるものも並べるべきではないのですから[3]。それ（タウヒード*）は私たちと人々への、アッラー*のご恩寵からのものです。しかし人々の大半は、（その恩寵の主に）感謝しません。

وَٱتَّبَعۡتُ مِلَّةَ ءَابَآءِيٓ إِبۡرَٰهِيمَ وَإِسۡحَٰقَ
وَيَعۡقُوبَۚ مَا كَانَ لَنَآ أَن نُّشۡرِكَ بِٱللَّهِ مِن
شَيۡءٖۚ ذَٰلِكَ مِن فَضۡلِ ٱللَّهِ عَلَيۡنَا وَعَلَى ٱلنَّاسِ
وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَ ٱلنَّاسِ لَا يَشۡكُرُونَ ٣٨

39. 牢獄の仲間たちよ、異なる複数の主[4]（の崇拝*）がより善いのでしょうか？　それとも唯一で*、全てに君臨し給う*お方、アッラー*（の崇拝*がより善いの）でしょうか？

يَٰصَٰحِبَيِ ٱلسِّجۡنِ ءَأَرۡبَابٞ مُّتَفَرِّقُونَ خَيۡرٌ
أَمِ ٱللَّهُ ٱلۡوَٰحِدُ ٱلۡقَهَّارُ ٣٩

---

1 ユースフ*は牢獄の中でも、病人を見舞ったり、悲しむ者を慰（なぐさ）めたり、何か必要がある者にはそのために努力したりしていたとされる（アッ＝タバリー6:4540-4541 参照）。蜜蜂章 128「善を尽くす者」の訳注も参照。

2 つまり、牢獄で配給される食事がやって来る前に、彼らに食事の内容が何か、告げることが出来るということ。この言葉は、彼の知識の高さと、夢に対する彼の解釈力の確かさを示すと共に、正しい信仰への呼びかけへとつながる前置き的な役割を果たしている。尚、ここでの「解釈」は「内容」という意味だが、夢の解釈についての文脈上、同語が用いられている（アッ＝シャウカーニー3:36-37 参照）。

3 頻出名・用語解説のシルク*の項を参照。

4 この「複数の主」とは、木、石、天使、死人など、シルク*の徒が崇拝*の対象としていた、何の力もない存在のこと（アッ＝サァディー398 頁参照）。

40. あなた方はかれ（アッラー*）を差しおいて、自分たちと自分たちの先祖が名付けた名前[1]を崇めているに過ぎません。アッラー*はそれら（の崇拝*）に、いかなる（正当な）根拠も下されてはいないのです。ご裁決はアッラー*にのみ属し、かれはあなた方が、かれ以外は崇拝*しないように命じられたのですから。それが正しい宗教。しかし人々の大半は（、そのことを）知りません。

مَا تَعۡبُدُونَ مِن دُونِهِۦٓ إِلَّآ أَسۡمَآءٗ
سَمَّيۡتُمُوهَآ أَنتُمۡ وَءَابَآؤُكُم مَّآ أَنزَلَ ٱللَّهُ
بِهَا مِن سُلۡطَٰنٍۚ إِنِ ٱلۡحُكۡمُ إِلَّا لِلَّهِۚ أَمَرَ أَلَّا
تَعۡبُدُوٓاْ إِلَّآ إِيَّاهُۚ ذَٰلِكَ ٱلدِّينُ ٱلۡقَيِّمُ وَلَٰكِنَّ
أَكۡثَرَ ٱلنَّاسِ لَا يَعۡلَمُونَ ٤٠

41. 牢獄の仲間たちよ、あなた方の一人はといえば（牢獄から出ることになり）、そのご主人（エジプト王）に酒*を注ぐでしょう。そしてもう一人はといえば、磔にされ（て殺され）、鳥がその頭を啄むことになるでしょう。あなた方二人が教示を請うたことは、決定されました[2]」。

يَٰصَٰحِبَيِ ٱلسِّجۡنِ أَمَّآ أَحَدُكُمَا فَيَسۡقِي
رَبَّهُۥ خَمۡرٗاۖ وَأَمَّا ٱلۡأٓخَرُ فَيُصۡلَبُ فَتَأۡكُلُ
ٱلطَّيۡرُ مِن رَّأۡسِهِۦۚ قُضِيَ ٱلۡأَمۡرُ ٱلَّذِي فِيهِ
تَسۡتَفۡتِيَانِ ٤١

42. 彼（ユースフ*）は、二人の内、（牢獄から）助かる者であることを知った者に、言った。「あなたのご主人様（王）のもとで、私（が無実の罪で投獄されていること）について、話して下さい」。そして（彼は牢獄から出たが、）シャイターン*が彼に、その主人に話すことを忘れさせた[3]。それで彼（ユースフ*）は数年間、牢獄で過ごすことになった。

وَقَالَ لِلَّذِي ظَنَّ أَنَّهُۥ نَاجٖ مِّنۡهُمَا ٱذۡكُرۡنِي
عِندَ رَبِّكَ فَأَنسَىٰهُ ٱلشَّيۡطَٰنُ ذِكۡرَ
رَبِّهِۦ فَلَبِثَ فِي ٱلسِّجۡنِ بِضۡعَ سِنِينَ ٤٢

---

1 この「名前」については、高壁章 71 の訳注を参照。

2 一説に、ユースフ*は啓示を受けてこのように断言した。また一説には、「あなた方の質問に対する答えは終わった」という意味（イブン・アル＝ジャウズィー3:226-227 参照）。

3 一説に、この「彼」はユースフ*、「話すこと」は「思い起こすこと」の意。ユースフ*が牢獄から出る者に伝言を頼んだ時、アッラー*にこそ嘆願し援助を求めるのを忘れ、人間に頼ってしまったことを指す。この解釈の場合、牢獄に数年とどまることになったのは、そのことに対する罰であった（アル＝クルトゥビー9:195 参照）。預言者*・使徒*の無謬（むびゅう）性については、雌牛章 36 の訳注を参照。

43. 王は言った。「本当に私は（夢で）、痩(や)せた七頭の雌牛(めうし)に食べられてしまう太った七頭の雌牛(めうし)と、七本の緑の穂(ほ)と、別の（七本の）枯(か)れた穂(ほ)を見た。名士たちよ、我が夢について教示(きょうじ)してくれ。もし、あなた方が夢を解釈(かいしゃく)するのならば」。

وَقَالَ ٱلۡمَلِكُ إِنِّيٓ أَرَىٰ سَبۡعَ بَقَرَٰتٖ سِمَانٖ
يَأۡكُلُهُنَّ سَبۡعٌ عِجَافٞ وَسَبۡعَ سُنۢبُلَٰتٍ
خُضۡرٖ وَأُخَرَ يَابِسَٰتٖۖ يَٰٓأَيُّهَا ٱلۡمَلَأُ أَفۡتُونِي فِي
رُءۡيَٰيَ إِن كُنتُمۡ لِلرُّءۡيَا تَعۡبُرُونَ ٤٣

44. 彼ら（名士たち）は言った。「（それは、）夢まぼろしがごちゃ混ぜになった（無意味な）ものです。そして私たちは、夢の解釈(かいしゃく)など知る者ではありません」。

قَالُوٓاْ أَضۡغَٰثُ أَحۡلَٰمٖۖ وَمَا نَحۡنُ بِتَأۡوِيلِ ٱلۡأَحۡلَٰمِ
بِعَٰلِمِينَ ٤٤

45. そして（牢獄(ろうごく)の仲間だった）二人の内の助かった者が、（ユースフ*のことを）長い時間の（経過(けいか)した）後に思い出して、言った。「私めがその解釈(かいしゃく)を、あなた方に申し上げましょう。ですから、私を（ユースフ*のもとに）お遣(つか)わし下さい」。

وَقَالَ ٱلَّذِي نَجَا مِنۡهُمَا وَٱدَّكَرَ بَعۡدَ أُمَّةٍ
أَنَا۠ أُنَبِّئُكُم بِتَأۡوِيلِهِۦ فَأَرۡسِلُونِ ٤٥

46. （彼はユースフ*の所に着くと、言った。）「ユースフ*よ、大そうな正直者[1]よ、（王様がご覧(らん)になった、）痩(や)せた七頭の雌牛(めうし)に食べられてしまう太った七頭の雌牛(めうし)と、七本の緑の穂(ほ)と、別の（七本の）枯(か)れた穂(ほ)（の夢）について、私たちにご教示(きょうじ)下さい。私は人々のもとへと、（それを伝えるべく）帰るでしょう。（それは、）彼らが知るため[2]なのです」。

يُوسُفُ أَيُّهَا ٱلصِّدِّيقُ أَفۡتِنَا فِي سَبۡعِ بَقَرَٰتٖ
سِمَانٖ يَأۡكُلُهُنَّ سَبۡعٌ عِجَافٞ وَسَبۡعِ
سُنۢبُلَٰتٍ خُضۡرٖ وَأُخَرَ يَابِسَٰتٖ لَّعَلِّيٓ أَرۡجِعُ
إِلَى ٱلنَّاسِ لَعَلَّهُمۡ يَعۡلَمُونَ ٤٦

47. 彼（ユースフ*）は、言った。「七年間、ずっと懸命(けんめい)に耕(たがや)し、あなた方が収穫(しゅうかく)したものは、それを穂(ほ)に付けたまま置きなさい。但(ただ)し、あなた方が食べる少量のものは別ですが。

قَالَ تَزۡرَعُونَ سَبۡعَ سِنِينَ دَأَبٗا فَمَا حَصَدتُّمۡ
فَذَرُوهُ فِي سُنۢبُلِهِۦٓ إِلَّا قَلِيلٗا مِّمَّا تَأۡكُلُونَ ٤٧

---

1 「大そうな正直者」については、婦人章 69 の訳注を参照。

2 夢の解釈と、ユースフ*の地位と徳を「知るため」ということ（ムヤッサル 241 頁参照）。

48. そしてその（豊作の七年の）後、あなた方がそのために予め蓄えていたものを、あなた方が貯蔵する僅かなものを除いて食べ尽くしてしまう、（凶作の）過酷な七年が到来します。

ثُمَّ يَأۡتِي مِنۢ بَعۡدِ ذَٰلِكَ سَبۡعٞ شِدَادٞ يَأۡكُلۡنَ مَا قَدَّمۡتُمۡ لَهُنَّ إِلَّا قَلِيلٗا مِّمَّا تُحۡصِنُونَ ٤٨

49. そしてその（凶作の七年の）後、（雨によって）人々が救済され、（果実を）搾る年がやって来ます」。

ثُمَّ يَأۡتِي مِنۢ بَعۡدِ ذَٰلِكَ عَامٞ فِيهِ يُغَاثُ ٱلنَّاسُ وَفِيهِ يَعۡصِرُونَ ٤٩

50. （夢の解釈を聞いた後、）王は言った。「彼（ユースフ*）を（牢獄から出し）、私のもとに連れて来なさい」。そして彼のもとに使いが来ると、彼は言った。「あなたのご主人様のもとに戻り、（私の無実が明らかになるよう、）自分たちの手を切ったご婦人方[1]の件（の真実）について、彼に尋ねて下さい。本当に我が主*は、彼女らの策略についてご存知のお方です」。

وَقَالَ ٱلۡمَلِكُ ٱئۡتُونِي بِهِۦۖ فَلَمَّا جَآءَهُ ٱلرَّسُولُ قَالَ ٱرۡجِعۡ إِلَىٰ رَبِّكَ فَسۡـَٔلۡهُ مَا بَالُ ٱلنِّسۡوَةِ ٱلَّٰتِي قَطَّعۡنَ أَيۡدِيَهُنَّۚ إِنَّ رَبِّي بِكَيۡدِهِنَّ عَلِيمٞ ٥٠

51. 彼（王）は（それを聞くと、婦人たちと大臣の妻を呼んで、）言った。「（その日、）ユースフ*を誘惑した時の、あなた方の件は何だったのか？」彼女らは言った。「アッラー*にご加護を（乞います）。私たちは彼に、何の落ち度も認めませんでした」。（大臣）閣下の妻は、言った。「今、真実が明るみに出ました。私が彼を誘惑したのであり、本当に彼は正直者です。

قَالَ مَا خَطۡبُكُنَّ إِذۡ رَٰوَدتُّنَّ يُوسُفَ عَن نَّفۡسِهِۦۚ قُلۡنَ حَٰشَ لِلَّهِ مَا عَلِمۡنَا عَلَيۡهِ مِن سُوٓءٖۚ قَالَتِ ٱمۡرَأَتُ ٱلۡعَزِيزِ ٱلۡـَٰٔنَ حَصۡحَصَ ٱلۡحَقُّ أَنَا۠ رَٰوَدتُّهُۥ عَن نَّفۡسِهِۦ وَإِنَّهُۥ لَمِنَ ٱلصَّٰدِقِينَ ٥١

52. それ[2]は彼（大臣）が、私が彼を陰で騙してはおらず[3]、また、アッラー*が欺く者たち

ذَٰلِكَ لِيَعۡلَمَ أَنِّي لَمۡ أَخُنۡهُ بِٱلۡغَيۡبِ وَأَنَّ ٱللَّهَ لَا يَهۡدِي كَيۡدَ ٱلۡخَآئِنِينَ ٥٢

---

1 ユースフ*は礼儀と敬意の念から、大臣の妻を名指しにはしなかった（アル＝バガウィー 2:495 参照）。

2 「それ」とは、彼女がユースフ*の無実を告白したこと（ムヤッサル 241 頁参照）。

3 つまり、ユースフ*のことを誘惑したものの、彼はそれを拒（こば）んだので、最悪の罪にまでは至らなかった、ということ（イブン・カスィール 4:394 参照）。尚、アッ＝シャウカ

の策略（さくりゃく）をお導（みちび）きにはならないということを、知るためなのです。

53. そして私は、自分自身が潔白（けっぱく）だとは言いません。本当に人の自我（じが）というものは、我が主（しゅ）がご慈悲（じひ）をかけて下さった者を除（のぞ）いては、悪をよく指図するもの[1]ですから。本当に我が主（しゅ）*は赦（ゆる）し深いお方、慈愛（じあい）深い*お方です」。

۞وَمَآ أُبَرِّئُ نَفۡسِيٓۚ إِنَّ ٱلنَّفۡسَ لَأَمَّارَةُۢ بِٱلسُّوٓءِ
إِلَّا مَا رَحِمَ رَبِّيٓۚ إِنَّ رَبِّي غَفُورٞ رَّحِيمٞ ٥٣

54. （ユースフ*の無実を知ると、）王は言った。「彼（ユースフ*）を連れて来るのだ。そうすれば彼を、私にとっての特別な側近（そっきん）としよう」。それで（ユースフ*がやって来て）話した時、彼（王）は（ユースフ*の無実と徳の高さを知って、）言った。「本当にあなたはこの日、私たちのもとで地位高き者、（全権を委（ゆだ）ねられた）信頼篤（あつ）き者である」。

وَقَالَ ٱلۡمَلِكُ ٱئۡتُونِي بِهِۦٓ أَسۡتَخۡلِصۡهُ لِنَفۡسِيۖ
فَلَمَّا كَلَّمَهُۥ قَالَ إِنَّكَ ٱلۡيَوۡمَ لَدَيۡنَا مَكِينٌ
أَمِينٞ ٥٤

55. 彼（ユースフ*）は、言った。「私を、（エジプトの）地の蔵相（ぞうしょう）として下さい。本当に私は管理に長じた者、知者ですから」。

قَالَ ٱجۡعَلۡنِي عَلَىٰ خَزَآئِنِ ٱلۡأَرۡضِۖ إِنِّي حَفِيظٌ
عَلِيمٞ ٥٥

56. そのように、われら*は（エジプトの）地において、ユースフ*に確固（かっこ）たる地位を授（さず）けた。彼は自分が望む場所どこにでも、滞在（たいざい）することが出来る。われら*は、誰でもわれら*が望む者に、われら*の慈悲（じひ）を授（さず）け、善を尽（つ）くす者[2]たちの報（むく）いを反故（ほご）にはしないのだ。

وَكَذَٰلِكَ مَكَّنَّا لِيُوسُفَ فِي ٱلۡأَرۡضِ يَتَبَوَّأُ
مِنۡهَا حَيۡثُ يَشَآءُۚ نُصِيبُ بِرَحۡمَتِنَا مَن
نَّشَآءُۖ وَلَا نُضِيعُ أَجۡرَ ٱلۡمُحۡسِنِينَ ٥٦

ーニー*によれば、大半の解釈学者は、このアーヤ*と後続のアーヤ*の言葉はユースフ*のものである、としている。その場合、ユースフ*がこの言葉を語ったのは、「牢獄の中で、王と婦人たちの間で交わされた一部始終を、王の使いから聞いた時」あるいは「王のもとで」という説がある（3:47-48 参照）。

1 これがユースフ*の言葉であるとする場合、雌牛章 36 の預言者*・使徒*の無謬（むびゅう）性についての訳注も参照。

2 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

57. 来世の報いこそは、信仰し、（アッラー*を）畏れ*ていた者たちにとって、（現世の報い）より善いのである。

وَلَأَجۡرُ ٱلۡأٓخِرَةِ خَيۡرٞ لِّلَّذِينَ ءَامَنُواْ
وَكَانُواْ يَتَّقُونَ ٥٧

58. （そして不作に見舞われたため、食料を得ようと、）ユースフ*の兄たちが、（エジプトに）やって来た[1]。彼らが彼（ユースフ*）のところに入った時、彼は彼らのことが分かった。彼らは（長い時間の経過とユースフ*の変わりっぷりゆえ）、彼に気付かずにいたが。

وَجَآءَ إِخۡوَةُ يُوسُفَ فَدَخَلُواْ عَلَيۡهِ فَعَرَفَهُمۡ
وَهُمۡ لَهُۥ مُنكِرُونَ ٥٨

59. そして彼（ユースフ*）は（彼らを気前よく歓待した後）、彼ら（のラクダ）にその荷物[2]を用意した時、言った。「あなた方の父方の弟（ビンヤーミーン）を、私のところに連れて来なさい[3]。あなた方は、私が升[4]（による計量）を全うするとは、そして私が最良の歓待者だとは、思わないのですか？

وَلَمَّا جَهَّزَهُم بِجَهَازِهِمۡ قَالَ ٱئۡتُونِي بِأَخٖ لَّكُم
مِّنۡ أَبِيكُمۡۚ أَلَا تَرَوۡنَ أَنِّيٓ أُوفِي ٱلۡكَيۡلَ وَأَنَا۠ خَيۡرُ
ٱلۡمُنزِلِينَ ٥٩

---

1 王の夢に対するユースフ*の解釈通り、エジプトの地を七年の豊作が訪れた。それで彼はそれを保存しておいたが、その後に凶作の年が訪れる。それは他の諸国にまで及び、人々は食料を得るために挙（こぞ）ってエジプトへと向かった。パレスチナに住んでいたヤァクーブ*らも同様で、ユースフ*に次いでお気に入りだったビンヤーミーン（アーヤ*8「弟」の訳注を参照）を除く、十人の息子らをエジプトへと遣わした（アル＝カースィミー9:3561 参照）。

2 つまり、彼らが求めていた食料のこと（ムヤッサル 242 頁参照）。

3 この「弟」については、アーヤ*8 の訳注を参照。食料を買うためにエジプトにやって来た者には、一人につきラクダ一頭分の荷物しか積めないように決められていた。それで彼らには故郷に弟が一人いるという話題になった時、もう一頭分の食料が積めるようにと、このように言ったのだという（アッ＝タバリー6:4573 参照）。あるいはユースフ*は故意に、彼らにスパイの嫌疑（けんぎ）をかけ、彼らの素性を詳しく尋ね出した。そして彼らに、国に残してきた弟がいることを聞き出すと、彼らの言うことが正しいかどうか試すためという名目で、彼を連れて来るように命じ、そうするまで兄たちの一人を拘束することにした（アル＝カースィミー9:3562 参照）。

4 「升」については、家畜章 152 の訳注を参照。

60. そして（次回）、もしあなた方が私のところに彼を連れて来なかったら、私のもとにあなた方の（食料を量るための）升はありません。また、私のもとにも近付かないで下さい」。

فَإِن لَّمۡ تَأۡتُونِي بِهِۦ فَلَا كَيۡلَ لَكُمۡ عِندِي وَلَا
تَقۡرَبُونِ ٦٠

61. 彼らは言った。「私たちは彼（を一緒に連れて来ること）に関し、彼の父親を口説いてみましょう。本当に私たちは、必ずやります」。

قَالُواْ سَنُرَٰوِدُ عَنۡهُ أَبَاهُ وَإِنَّا لَفَٰعِلُونَ ٦١

62. 彼（ユースフ*）は、自分の小間使いたちに言った。「彼らの物品[1]を（気付かれないように）、彼らの荷物の中に入れておきなさい。彼らが家人のもとに帰った時、彼らがそれに気付くように。彼らは恐らく、戻って来るでしょう」。[2]

وَقَالَ لِفِتۡيَٰنِهِ ٱجۡعَلُواْ بِضَٰعَتَهُمۡ فِي رِحَالِهِمۡ
لَعَلَّهُمۡ يَعۡرِفُونَهَآ إِذَا ٱنقَلَبُوٓاْ إِلَىٰٓ أَهۡلِهِمۡ
لَعَلَّهُمۡ يَرۡجِعُونَ ٦٢

63. そして彼ら（ユースフ*の兄たち）は、自分たちの父親のところに戻ると、言った。「お父さん、私たちに（食料を量るための）升[3]が禁じられてしまいました[4]。ですので私たちと共に、私たちの弟（ビンヤーミーン）を遣わして下さい。（そうすれば、）本当に私たちは彼への保護者でありつつ、（食料を）量（って持って来）れることになります」。

فَلَمَّا رَجَعُوٓاْ إِلَىٰٓ أَبِيهِمۡ قَالُواْ يَٰٓأَبَانَا مُنِعَ
مِنَّا ٱلۡكَيۡلُ فَأَرۡسِلۡ مَعَنَآ أَخَانَا
نَكۡتَلۡ وَإِنَّا لَهُۥ لَحَٰفِظُونَ ٦٣

---

1 「物品」とは、彼らが食料と交換するために持って来た品のこと（アッ＝タバリー6:4574参照)。貨幣（かへい）であったとも言われる（アル＝バガウィー2:501 参照)。

2 この行為の理由については、「その物品で食料を得るべく、彼らがまた戻って来るようにするため」「家族から食料の代価を取ることを、恥じたため」「彼の徳を知らしめ、また戻って来るように差し向けるため」などの諸説がある（アル＝クルトゥビー9:223参照)。

3 「升」については、家畜章 152 の訳注を参照。

4 その理由については、アーヤ*59-60 を参照。

64. 彼（ヤァクーブ*）は言った。「どうして私が、お前たちに彼（ビンヤーミーン）を任せようか？　以前、私がお前たちに彼の兄を任せ（て、裏切られ）たように？（私はお前たちの保護は信用しないが、アッラー*の保護を信頼する。）アッラー*は保護者の内でも最善のお方であられ、かれは慈悲深い者たちの中でも最も慈悲深いお方」。

قَالَ هَلۡ ءَامَنُكُمۡ عَلَيۡهِ إِلَّا كَمَآ أَمِنتُكُمۡ
عَلَىٰٓ أَخِيهِ مِن قَبۡلُ فَٱللَّهُ خَيۡرٌ حَٰفِظٗاۖ وَهُوَ
أَرۡحَمُ ٱلرَّٰحِمِينَ ٦٤

65. そして彼らが自分たちの荷物を開けた時、彼らは、自分たちの物品[1]が彼らに返されているのを見出した。彼らは言った。「お父さん、（これ以上）何を求めましょうか？これは私たちに返された、私たちの物品です。（だから安心して、ビンヤーミーンを行かせて下さい、）私たちは私たちの家族に食料を調達し、私たちの弟を保護し、（彼の分として）ラクダ一頭分の升（で量った食料）を付け加えましょう。それは（エジプトの蔵相にとって）、取るに足らない升（の量）です」。

وَلَمَّا فَتَحُواْ مَتَٰعَهُمۡ وَجَدُواْ بِضَٰعَتَهُمۡ
رُدَّتۡ إِلَيۡهِمۡۖ قَالُواْ يَٰٓأَبَانَا مَا نَبۡغِيۖ هَٰذِهِۦ
بِضَٰعَتُنَا رُدَّتۡ إِلَيۡنَاۖ وَنَمِيرُ أَهۡلَنَا وَنَحۡفَظُ
أَخَانَا وَنَزۡدَادُ كَيۡلَ بَعِيرٖۖ ذَٰلِكَ كَيۡلٞ
يَسِيرٞ ٦٥

66. 彼（ヤァクーブ*）は言った。「私は彼（ビンヤーミーン）を、お前たちと一緒に行かせたりするまい。お前たちが八方ふさがりとならない限り、必ずや彼を連れて（戻って）来る、というアッラー*を証人とした誓約を私にするまでは」。そして彼らが、彼に対してその誓約をすると、彼は言った。「アッラー*が私たちの言うことに対し（ての証人であり）、請け負われる*お方であられる」。

قَالَ لَنۡ أُرۡسِلَهُۥ مَعَكُمۡ حَتَّىٰ تُؤۡتُونِ
مَوۡثِقٗا مِّنَ ٱللَّهِ لَتَأۡتُنَّنِي بِهِۦٓ إِلَّآ أَن يُحَاطَ
بِكُمۡۖ فَلَمَّآ ءَاتَوۡهُ مَوۡثِقَهُمۡ قَالَ ٱللَّهُ عَلَىٰ مَا
نَقُولُ وَكِيلٞ ٦٦

1 「物品」については、アーヤ*62 の訳注を参照。

67. また、彼（ヤァクーブ*）は言った。「我が息子たちよ、（エジプトに入る時は）一つの門から入るのではなく、別々の門から入るのだ[1]。そして私は、アッラー*（の定め）をよそに、あなた方を益することなど、少しも出来やしない。裁決はアッラー*にのみ属するのだから。私は、かれにこそ全てを委ねた*。そして（何かを誰かに）委ねる者たちには、かれにこそ全てを委ねさせるのだ」。

وَقَالَ يَٰبَنِيَّ لَا تَدۡخُلُواْ مِنۢ بَابٖ وَٰحِدٖ
وَٱدۡخُلُواْ مِنۡ أَبۡوَٰبٖ مُّتَفَرِّقَةٖۖ وَمَآ أُغۡنِي
عَنكُم مِّنَ ٱللَّهِ مِن شَيۡءٍۖ إِنِ ٱلۡحُكۡمُ إِلَّا لِلَّهِۖ
عَلَيۡهِ تَوَكَّلۡتُۖ وَعَلَيۡهِ فَلۡيَتَوَكَّلِ
ٱلۡمُتَوَكِّلُونَ ٦٧

68. そして彼らが、父親の命じた所から（エジプトに）入った時、（そのことが）アッラー*（の定め）をよそに、彼らのことを益することなどは少しもなかった。ただ、（それは）ヤァクーブ*の気がかりだったのであり、彼はそれを晴らしただけなのである[2]。本当に彼はまさしく、われら*が（啓示によって）彼に教えたものによる、知識の持ち主であった。しかし人々の大半は知らないのだ。

وَلَمَّا دَخَلُواْ مِنۡ حَيۡثُ أَمَرَهُمۡ أَبُوهُم مَّا كَانَ
يُغۡنِي عَنۡهُم مِّنَ ٱللَّهِ مِن شَيۡءٍ إِلَّا حَاجَةٗ
فِي نَفۡسِ يَعۡقُوبَ قَضَىٰهَاۚ وَإِنَّهُۥ لَذُو عِلۡمٖ لِّمَا
عَلَّمۡنَٰهُ وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَ ٱلنَّاسِ
لَا يَعۡلَمُونَ ٦٨

69. そして彼らがユースフ*のもとに入った時、彼（ユースフ*）はその弟（ビンヤーミーンと二人きりになり、彼）を自分の方へ抱き寄せた。彼は（ビンヤーミーンに）言った。「実に私こそは、お前の兄なのだ。ならば彼らが（昔、私に対して）行っていたことゆえに、悲嘆に暮れるのではない」。

وَلَمَّا دَخَلُواْ عَلَىٰ يُوسُفَ ءَاوَىٰٓ إِلَيۡهِ أَخَاهُۖ
قَالَ إِنِّيٓ أَنَا۠ أَخُوكَ فَلَا تَبۡتَئِسۡ بِمَا
كَانُواْ يَعۡمَلُونَ ٦٩

---

1 彼ら息子たちは父親を同じくする、美貌（びぼう）と見事さと力強さを兼ね備えた十一人だった。それでヤァクーブ*は、彼らが人々から「アイン（筆章 51 の訳注を参照）」に遭（あ）うことを恐れたのだという（アル＝クルトゥビー9:226 参照）。

2 アーヤ*67 の「別々の門から入るのだ」の訳注を参照。

70. そして彼ら（のラクダ）にその荷物を用意した時、彼（ユースフ*）は自分の弟の荷物に（、こっそりと）器を入れ（させ）た[1]。それから（彼らが出発しようとした時、）呼びかける者が（こう）呼びかけた。「隊商（の人々）よ、実にあなた方はまさしく盗人だ！」

فَلَمَّا جَهَّزَهُم بِجَهَازِهِمْ جَعَلَ ٱلسِّقَايَةَ
فِى رَحْلِ أَخِيهِ ثُمَّ أَذَّنَ مُؤَذِّنٌ أَيَّتُهَا ٱلْعِيرُ
إِنَّكُمْ لَسَٰرِقُونَ ٧٠

71. 彼ら（ユースフ*の兄弟ら）はその（呼ぶ）者たちの方に向かい、言った。「何が無いのですか？」

قَالُوا۟ وَأَقْبَلُوا۟ عَلَيْهِم مَّاذَا تَفْقِدُونَ ٧١

72. 彼ら（呼ぶ者と、その取り巻き）は言った。「王の器が無いのだ。そしてそれを持って来た者には（褒美として）、ラクダ一頭分の（食料が入った）荷をやろう」。（呼ぶ者は、言った。）「私がその保証人だ」。

قَالُوا۟ نَفْقِدُ صُوَاعَ ٱلْمَلِكِ وَلِمَن جَآءَ بِهِۦ حِمْلُ
بَعِيرٍ وَأَنَا۠ بِهِۦ زَعِيمٌ ٧٢

73. 彼ら（ユースフ*の兄弟ら）は言った。「アッラー*に誓って、あなた方は確かにご存知になったでしょう。私たちが（エジプトの）地を腐敗*させるために来たのではなく、私たちが盗人でもなかったということを」。

قَالُوا۟ تَٱللَّهِ لَقَدْ عَلِمْتُم مَّا جِئْنَا لِنُفْسِدَ
فِى ٱلْأَرْضِ وَمَا كُنَّا سَٰرِقِينَ ٧٣

74. 彼らは言った。「では（あなた方のもとでの）、その者（盗人）の報いは何か？　もし、あなた方が嘘つきだったとしたら（、だが）」。

قَالُوا۟ فَمَا جَزَٰٓؤُهُۥٓ إِن كُنتُمْ كَٰذِبِينَ ٧٤

1 この「器」とは、王が飲食用に用いる器。一説には金製、あるいは銀製だった。ユースフ*がこれをビンヤーミーンの荷物の中に忍ばせたのは、彼に盗みの嫌疑（けんぎ）をかけ、拘束して自分のところに留めるためだった。というのもヤァクーブ*の法では、盗人の罰は、被害者の奴隷*となることとして定められていたからである（イブン・ジュザイ 1:421-422参照）。アーヤ*75 とその訳注も参照。

75. 彼ら（ユースフ*の兄弟ら）は言った。「その者（盗人）の報いは、荷物の中にそれ（器）が見つかった者、彼自身がその報いとなる[1]ことです。このように私たちは、（私たちの法において、盗みを犯した）不正*者たちに報いるのです」。

قَالُواْ جَزَٰٓؤُهُۥ مَن وُجِدَ فِي رَحۡلِهِۦ فَهُوَ
جَزَٰٓؤُهُۥۚ كَذَٰلِكَ نَجۡزِي ٱلظَّٰلِمِينَ ٧٥

76. （ユースフ*の兄弟らはユースフ*のもとに戻され、）彼（ユースフ*）は、彼の弟の荷物入れの前に、彼らの荷物入れ（の検査）から始めた。それから、彼の弟の荷物入れから、それ（器）を取り出した。このように、われら*はユースフ*に対して（、ビンヤーミーンを手許に留めておけるよう、）取り計らった。彼はアッラー*がお望みにならない限り、（エジプト）王の決まりにおいて、彼の弟を引き取ることが叶わなかった[2]のだから。われら*は、われら*が望む者の位を上げる。そしてあらゆる知者の上には、（更なる）知者がいる[3]のだ。

فَبَدَأَ بِأَوۡعِيَتِهِمۡ قَبۡلَ وِعَآءِ أَخِيهِ ثُمَّ
ٱسۡتَخۡرَجَهَا مِن وِعَآءِ أَخِيهِۚ كَذَٰلِكَ كِدۡنَا
لِيُوسُفَۖ مَا كَانَ لِيَأۡخُذَ أَخَاهُ فِي دِينِ
ٱلۡمَلِكِ إِلَّآ أَن يَشَآءَ ٱللَّهُۚ نَرۡفَعُ دَرَجَٰتٖ مَّن
نَّشَآءُۗ وَفَوۡقَ كُلِّ ذِي عِلۡمٍ عَلِيمٞ ٧٦

77. 彼ら（ユースフ*の兄ら）は言った。「もし彼（ビンヤーミーン）が盗みを犯したのなら、以前、彼の兄（ユースフ*）も確かに、盗みを犯した[4]のです」。そしてユースフ*

۞ قَالُوٓاْ إِن يَسۡرِقۡ فَقَدۡ سَرَقَ أَخٞ لَّهُۥ
مِن قَبۡلُۚ فَأَسَرَّهَا يُوسُفُ فِي نَفۡسِهِۦ وَلَمۡ
يُبۡدِهَا لَهُمۡۚ قَالَ أَنتُمۡ شَرّٞ مَّكَانٗاۖ وَٱللَّهُ

---

1 つまり、窃盗の被害者に自分自身を奴隷*として与えることで、報いること（ムヤッサル244頁参照）。

2 ユースフ*は彼の弟を兄たちから引き取りたかったが、当時のエジプトの法では、盗みの罰は鞭打ちと罰金刑のみであったとされる。それでユースフ*はアッラー*のお示しにより、彼らの裁決を彼ら自身の法に任せ、その目的を上手く果たしたのであった（アル＝バガウィー2:505参照）。

3 そして知の頂点には、アッラー*がおられる（ムヤッサル244頁参照）。

4 この「盗み」については、「母方の祖父が崇めていた偶像を取って壊したこと」「食卓の食べ物を隠し取っては、貧者*に与えていたこと」など諸説あるが、いずれもユースフ*とビンヤーミーンとは母を異にする兄たちの、自らの体面を気にした言い逃れである（アル＝バガウィー2:506、アッ＝サァディー402頁参照）。

はそれ（彼らの嘘）を心の内に隠し、彼らに対してそれを露わにはしなかった。彼は（心の中で）言った。「あなた方は（あなた方が貶している者）よりも、悪い地位にあるのだ。そしてアッラー*はあなた方の言うことを、最もよくご存知であられる」。

أَعۡلَمُ بِمَا تَصِفُونَ ٧٧

78. 彼ら（ユースフ*の兄ら）は言った。「閣下、実に彼には、老いた年配の父親がいるのです。ですから彼の代わりに、私たちの誰か一人をお取り下さい。本当に私たちは、あなた様を善人とお見受けしますから」。

قَالُواْ يَٰٓأَيُّهَا ٱلۡعَزِيزُ إِنَّ لَهُۥٓ أَبٗا شَيۡخٗا
كَبِيرٗا فَخُذۡ أَحَدَنَا مَكَانَهُۥٓۖ إِنَّا نَرَىٰكَ
مِنَ ٱلۡمُحۡسِنِينَ ٧٨

79. 彼（ユースフ*）は言った。「私たちが、私たちの（盗難）品をその手許に見出した者以外を捕まえるなどということから、アッラー*のご加護を（乞う）。そうしたら、本当に私たちはまさしく不正*者です」。

قَالَ مَعَاذَ ٱللَّهِ أَن نَّأۡخُذَ إِلَّا مَن وَجَدۡنَا
مَتَٰعَنَا عِندَهُۥٓ إِنَّآ إِذٗا لَّظَٰلِمُونَ ٧٩

80. そして彼（の返事）に絶望すると、彼らは自分たちだけになって密談した。彼らの最年長者は言った。「一体あなた方は、お父さんが確かに、アッラー*を証人とする誓約[1]をあなた方にさせたのを、知らないのか？（これ）以前にも、あなた方はユースフ*のことで不手際を犯したのだ。そして私は、お父さんが私（のエジプト出発）をお許しになるか、あるいはアッラー*が私にご裁決[2]を下されるまで、この（エジプトの）地を離れまい。かれは裁決者の内でも最善のお方なのだ。

فَلَمَّا ٱسۡتَيۡـَٔسُواْ مِنۡهُ خَلَصُواْ نَجِيّٗاۖ قَالَ
كَبِيرُهُمۡ أَلَمۡ تَعۡلَمُوٓاْ أَنَّ أَبَاكُمۡ قَدۡ
أَخَذَ عَلَيۡكُم مَّوۡثِقٗا مِّنَ ٱللَّهِ وَمِن قَبۡلُ مَا
فَرَّطتُمۡ فِي يُوسُفَۖ فَلَنۡ أَبۡرَحَ ٱلۡأَرۡضَ حَتَّىٰ
يَأۡذَنَ لِيٓ أَبِيٓ أَوۡ يَحۡكُمَ ٱللَّهُ لِيۖ وَهُوَ خَيۡرُ
ٱلۡحَٰكِمِينَ ٨٠

1 この「誓約」については、アーヤ*66 を参照。

2 「ご裁決」とは、死、あるいは、弟を取り返すこと（イブン・カスィール 4:404 参照）。

81. お父さんのもとに戻(もど)り、(こう)言うのだ。『お父さん、本当にあなたの息子(ビンヤーミーン)は盗(ぬす)みを働きました。そして私たちは、自分たちが知ったこと以外は証言していない[1]のであり、知り得ないことにおいてまで保護する者ではなかったのです[2]。

ٱرۡجِعُوٓاْ إِلَىٰٓ أَبِيكُمۡ فَقُولُواْ يَٰٓأَبَانَآ إِنَّ
ٱبۡنَكَ سَرَقَ وَمَا شَهِدۡنَآ إِلَّا بِمَا عَلِمۡنَا
وَمَا كُنَّا لِلۡغَيۡبِ حَٰفِظِينَ ٨١

82. また、私たちがいた町(エジプトの人々)と、私たちが共に旅した隊商(たいしょう)(の同行者ら)に、(事の真相を)お尋(たず)ね下さい。本当に私たちは、まさしく正直者なのです』」。

وَسۡـَٔلِ ٱلۡقَرۡيَةَ ٱلَّتِي كُنَّا فِيهَا وَٱلۡعِيرَ ٱلَّتِيٓ
أَقۡبَلۡنَا فِيهَاۖ وَإِنَّا لَصَٰدِقُونَ ٨٢

83. (彼らは父親のもとに帰ると、事の一部始終を話した。)彼(ヤァクーブ*)は言った。「いや、お前たちの(悪に傾(かたむ)きやすい)自我(じが)が(その)事を、お前たちに惑(まど)わせて促(うなが)したのである。(我が忍耐(にんたい)*は、)よき忍耐(にんたい)[3]だ。アッラー*は彼らを全員[4]、私へと連れ戻(もど)して下さるかもしれない。本当に彼は全知者、英知あふれる*お方なのだから」。

قَالَ بَلۡ سَوَّلَتۡ لَكُمۡ أَنفُسُكُمۡ أَمۡرٗاۖ
فَصَبۡرٞ جَمِيلٌۖ عَسَى ٱللَّهُ أَن يَأۡتِيَنِي بِهِمۡ
جَمِيعًاۚ إِنَّهُۥ هُوَ ٱلۡعَلِيمُ ٱلۡحَكِيمُ ٨٣

84. そして彼らから背を向け、言った。「ユースフ*への我が悲哀(ひあい)よ!」彼の両目は悲しみゆえに白く濁(にご)り[5]、彼は(募(つの)る悲しみを)押し殺した。

وَتَوَلَّىٰ عَنۡهُمۡ وَقَالَ يَٰٓأَسَفَىٰ عَلَىٰ يُوسُفَ
وَٱبۡيَضَّتۡ عَيۡنَاهُ مِنَ ٱلۡحُزۡنِ فَهُوَ
كَظِيمٞ ٨٤

---

1 この「証言」とは、王の杯がビンヤーミーンの荷物入れから出てきたために、彼がそれを盗んだのを認めたこととされる(アッ=タバリー6:4606 参照)。

2 この「知り得ないこと」の解釈については、「ビンヤーミーンが盗みをすること」「夜、彼らが眠っている間のこと」「昼夜におけるビンヤーミーンの一挙一動」といった諸説がある(アル=クルトゥビー9:244-245 参照)。

3 「よき忍耐*」については、アーヤ*18 の訳注を参照。

4 ユースフ*、ビンヤーミーン、そして自らエジプトに残った長兄の三人のこと(ムヤッサル245 頁参照)。

5 泣き過ぎて盲目になった、または視力が非常に弱くなった(アル=クルトゥビー9:248 参照)。

85. 彼ら（息子たち）は言った。「アッラー*に誓って、あなたは身を滅ぼしそうになるまで、あるいは（実際に）破滅する者の類いとなるまで、ユースフ*のことを思い続けます（か）！」

قَالُوا۟ تَٱللَّهِ تَفْتَؤُا۟ تَذْكُرُ يُوسُفَ حَتَّىٰ
تَكُونَ حَرَضًا أَوْ تَكُونَ مِنَ
ٱلْهَٰلِكِينَ ٨٥

86. 彼（ヤァクーブ*）は言った。「私は自分の苦悩と悲しみを、アッラー*のみに訴えるのだ。そして私はアッラー*によって、お前たちの知らないこと[1]を知っている。

قَالَ إِنَّمَآ أَشْكُوا۟ بَثِّى وَحُزْنِىٓ إِلَى ٱللَّهِ
وَأَعْلَمُ مِنَ ٱللَّهِ مَا لَا تَعْلَمُونَ ٨٦

87. 息子たちよ、（再びエジプトへ）赴き、ユースフ*とその弟を探索せよ。そしてアッラー*のご慈悲に、失意してはならない。本当にアッラー*のご慈悲に失意するのは、不信仰の民*だけなのだから」。

يَٰبَنِىَّ ٱذْهَبُوا۟ فَتَحَسَّسُوا۟ مِن يُوسُفَ وَأَخِيهِ
وَلَا تَا۟يْـَٔسُوا۟ مِن رَّوْحِ ٱللَّهِ ۖ إِنَّهُۥ لَا يَا۟يْـَٔسُ
مِن رَّوْحِ ٱللَّهِ إِلَّا ٱلْقَوْمُ ٱلْكَٰفِرُونَ ٨٧

88. 彼らは（エジプトへと向かい、）彼（ユースフ*）のもとに（参じて）入ると、言った。「閣下、私たちと私たちの家族を（旱魃と飢饉の）災害が襲い、私たちは僅か（で粗悪）な物品を携えて来ました。ですから、私たちのために升[2]を満たし、私たちに施して下さい。本当にアッラー*は、施す人々にお報いになりますから」。

فَلَمَّا دَخَلُوا۟ عَلَيْهِ قَالُوا۟ يَٰٓأَيُّهَا ٱلْعَزِيزُ
مَسَّنَا وَأَهْلَنَا ٱلضُّرُّ وَجِئْنَا بِبِضَٰعَةٍ
مُّزْجَىٰةٍ فَأَوْفِ لَنَا ٱلْكَيْلَ وَتَصَدَّقْ
عَلَيْنَآ ۖ إِنَّ ٱللَّهَ يَجْزِى ٱلْمُتَصَدِّقِينَ ٨٨

89. 彼（ユースフ*）は言った。「一体あなた方は、あなた方が無知な者たちであった時[3]に、ユースフ*とその弟に対して自分たちがしたことを知っているのですか？」

قَالَ هَلْ عَلِمْتُم مَّا فَعَلْتُم بِيُوسُفَ
وَأَخِيهِ إِذْ أَنتُمْ جَٰهِلُونَ ٨٩

---

1 これが何かに関しては、「ユースフ*が、まだ生きていること」「ユースフ*の正夢の実現」（アル＝バガウィー2:510 参照）といった解釈がある。

2 「升」については、家畜章 152 の訳注を参照。

3 彼らはユースフ*に対しての仕打ちが、このような結果になるとは思ってもいなかった（アッ＝タバリー6:4627 参照）。

90. 彼らは言った。「本当に、あなたは本当に、ユースフ*なのですか？」彼は言った。「私はユースフ*で、これが我が弟です。アッラー*は私たちに、確かに（別離の後の再会という）お恵みを授けて下さいました。本当に誰であろうと、(アッラー*を)畏れ*、忍耐*する者、実にアッラー*は（そのように）善を尽くす者[1]たちの褒美を無駄にされることがないのです」。

قَالُوٓاْ أَءِنَّكَ لَأَنتَ يُوسُفُۖ قَالَ أَنَا۠ يُوسُفُ
وَهَٰذَآ أَخِيۖ قَدۡ مَنَّ ٱللَّهُ عَلَيۡنَآۖ إِنَّهُۥ مَن
يَتَّقِ وَيَصۡبِرۡ فَإِنَّ ٱللَّهَ لَا يُضِيعُ أَجۡرَ
ٱلۡمُحۡسِنِينَ ٩٠

91. 彼らは言った。「アッラー*に誓って、アッラー*は確かにあなたを、私たちよりもお引き立て下さいました。そして本当に私たちはまさしく、過った者たちだったのです」。

قَالُواْ تَٱللَّهِ لَقَدۡ ءَاثَرَكَ ٱللَّهُ عَلَيۡنَا وَإِن
كُنَّا لَخَٰطِـِٔينَ ٩١

92. 彼は言った。「この日、あなた方に咎めはありません。アッラー*があなた方を、お赦し下さいますよう。そして、かれは慈悲深い者の内でも、最も慈悲深いお方です」。

قَالَ لَا تَثۡرِيبَ عَلَيۡكُمُ ٱلۡيَوۡمَۖ يَغۡفِرُ ٱللَّهُ
لَكُمۡۖ وَهُوَ أَرۡحَمُ ٱلرَّٰحِمِينَ ٩٢

93. （それから父ヤァクーブ*の話を聞くと、ユースフ*は彼らに言った。）「この私の上着を携えて（再びお父さんの所へ）行き、それをお父さんの顔に投げかけなさい。彼は、眼が見えるようになるでしょう。そしてあなた方の家族を皆、私のもとに連れて来るのです」。

ٱذۡهَبُواْ بِقَمِيصِي هَٰذَا فَأَلۡقُوهُ عَلَىٰ وَجۡهِ
أَبِي يَأۡتِ بَصِيرٗا وَأۡتُونِي بِأَهۡلِكُمۡ
أَجۡمَعِينَ ٩٣

94. 隊商が（ユースフ*の上着と共にエジプトを）出発した時、彼らの父（ヤァクーブ*）は（周りに）言った。「本当に私は、まさにユースフ*の匂いを感じる。あなた方が私のことを、愚か者扱いするのでなければ(、私のことを信じたであろうに)」。

وَلَمَّا فَصَلَتِ ٱلۡعِيرُ قَالَ أَبُوهُمۡ إِنِّي
لَأَجِدُ رِيحَ يُوسُفَۖ لَوۡلَآ أَن تُفَنِّدُونِ ٩٤

---

1 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注も参照。

95. 彼ら（ヤァクーブ*の周りにいた者たち）は、言った。「アッラー*に誓って、本当にあなたはまさしく、（まだ）昔の迷い[1]の中にありますね」。

قَالُواْ تَٱللَّهِ إِنَّكَ لَفِي ضَلَٰلِكَ ٱلۡقَدِيمِ ٩٥

96. それで（ヤァクーブ*に）吉報を伝える者が到着した時、彼はそれ（ユースフ*の上着）を彼の顔に投げかけ、彼の視力は戻った。彼（ヤァクーブ*）は（、周りの者たちに）言った。「一体、私はお前たちに言わなかったのか？　本当に私はアッラー*によって、お前たちの知らないこと[2]を知っている、ということを？」

فَلَمَّآ أَن جَآءَ ٱلۡبَشِيرُ أَلۡقَىٰهُ عَلَىٰ وَجۡهِهِۦ فَٱرۡتَدَّ بَصِيرٗاۖ قَالَ أَلَمۡ أَقُل لَّكُمۡ إِنِّيٓ أَعۡلَمُ مِنَ ٱللَّهِ مَا لَا تَعۡلَمُونَ ٩٦

97. 彼ら（ユースフ*の兄たち）は、（エジプトからヤァクーブ*のもとに戻って来ると、彼に）言った。「お父さん、私たちのため、私たちの罪の赦しを乞うて下さい。本当に私たちは、過った者たちだったのですから」。

قَالُواْ يَٰٓأَبَانَا ٱسۡتَغۡفِرۡ لَنَا ذُنُوبَنَآ إِنَّا كُنَّا خَٰطِـِٔينَ ٩٧

98. 彼は言った。「お前たちのため、そのうち我が主*にお赦しを乞おう[3]。本当にかれこそは、赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから」。

قَالَ سَوۡفَ أَسۡتَغۡفِرُ لَكُمۡ رَبِّيٓۖ إِنَّهُۥ هُوَ ٱلۡغَفُورُ ٱلرَّحِيمُ ٩٨

99. そして彼ら（全員）が（エジプトの）ユースフ*のもとにやって来た時、彼（ユースフ*）は両親を自分の方へ抱き寄せて、言った。「安全に――アッラー*がお望みなら――、エジプトにお入り下さい」。[4]

فَلَمَّا دَخَلُواْ عَلَىٰ يُوسُفَ ءَاوَىٰٓ إِلَيۡهِ أَبَوَيۡهِ وَقَالَ ٱدۡخُلُواْ مِصۡرَ إِن شَآءَ ٱللَّهُ ءَامِنِينَ ٩٩

1 「昔の迷い」とは、ユースフ*に対する深い愛情と回想のこと（ムヤッサル 246 頁参照）。

2 アーヤ*86 の、同様のくだりに関する訳注を参照。

3 アル＝バガウィー*によれば、ヤァクーブ*は、祈願が受け入れられやすい明け方まで、その時を遅らせたのだというのが大半の解釈学者の見解。そのほかにも、「ユースフ*の許しを得てから、赦しを乞うつもりだった」というような説もある（2:514 参照）。

4 一説にユースフ*は、エジプト国境まで彼らを迎え出た（アッ＝タバリー6:4641 参照）。

100. そして彼は自分の両親を御座の上に上げ（て自分の傍に座らせ）、彼ら（両親と十一人の兄弟）は、彼に向かってサジダ*[1]した。彼は言った。「お父さん、これは我が主*がまさに実現して下さった、以前（小さい頃に）私が見た夢[2]の解釈です。かれ（我が主*）は私に、本当によくして下さいました。私を牢獄から出して下さり、シャイターン*が私と私の兄たちの間を突い（てこじれさせ）た[3]後、あなた方を辺境の地から連れて来て下さったのですから。本当に我が主*は、かれがお望みになること（の遂行）に霊妙な*お方であられます。本当にかれは全知者、英知あふれる*お方。

وَرَفَعَ أَبَوَيۡهِ عَلَى ٱلۡعَرۡشِ وَخَرُّواْ لَهُۥ سُجَّدٗاۖ
وَقَالَ يَٰٓأَبَتِ هَٰذَا تَأۡوِيلُ رُءۡيَٰيَ مِن قَبۡلُ قَدۡ
جَعَلَهَا رَبِّي حَقّٗاۖ وَقَدۡ أَحۡسَنَ بِيٓ إِذۡ أَخۡرَجَنِي
مِنَ ٱلسِّجۡنِ وَجَآءَ بِكُم مِّنَ ٱلۡبَدۡوِ مِنۢ بَعۡدِ
أَن نَّزَغَ ٱلشَّيۡطَٰنُ بَيۡنِي وَبَيۡنَ إِخۡوَتِيٓۚ إِنَّ
رَبِّي لَطِيفٞ لِّمَا يَشَآءُۚ إِنَّهُۥ هُوَ ٱلۡعَلِيمُ
ٱلۡحَكِيمُ ١٠٠

101. 我が主*よ、あなたはまさしく私に王権の一部を下さり、私に話の解釈[4]を教えて下さいました。諸天と大地の創成者*よ、あなたは現世と来世における、我が庇護者*です。私を服従する者（ムスリム*）としてお召しになり、正しい者*たちの仲間入りをさせて下さい」。

۞رَبِّ قَدۡ ءَاتَيۡتَنِي مِنَ ٱلۡمُلۡكِ وَعَلَّمۡتَنِي
مِن تَأۡوِيلِ ٱلۡأَحَادِيثِۚ فَاطِرَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَٱلۡأَرۡضِ أَنتَ وَلِيِّۦ فِي ٱلدُّنۡيَا وَٱلۡأٓخِرَةِۖ
تَوَفَّنِي مُسۡلِمٗا وَأَلۡحِقۡنِي بِٱلصَّٰلِحِينَ ١٠١

102. （使徒*よ、）それ[5]は、われら*があなたに啓示する、不可視の世界*に属する消息の一部。そして彼ら（ユースフ*の兄たち）が策謀しつつ、彼らの事[6]を示し合わせた時、あなたは彼らのもとに（立ち合わせて）はいなかったのである。

ذَٰلِكَ مِنۡ أَنۢبَآءِ ٱلۡغَيۡبِ نُوحِيهِ إِلَيۡكَۖ وَمَا
كُنتَ لَدَيۡهِمۡ إِذۡ أَجۡمَعُوٓاْ أَمۡرَهُمۡ وَهُمۡ
يَمۡكُرُونَ ١٠٢

---

1 イブン・カスィール*によれば、偉大な者に挨拶する時にサジダ*するのは、彼らの法では合法だった。しかしイスラーム*においては、サジダ*はアッラー*だけへのものとなった（4:412 参照）。

2 この夢については、アーヤ*4 を参照。

3 シャイターン*から突かれることに関しては、高壁章 200 の訳注を参照。

4 「話の解釈」については、アーヤ*6 の訳注を参照。

5 この「それ」とは、ここまで述べられたユースフ*の話のこと（ムヤッサル 247 頁参照）。

6 この「彼らの事」とは、アーヤ*9-10 に言及されている策謀のこと（前掲書、同頁参照）。

103. そして（使徒*よ、）人々の大半は、——たとえ、あなたが（彼らを信じさせようとして）躍起になったとしても——、信仰者とはならない。

وَمَآ أَكۡثَرُ ٱلنَّاسِ وَلَوۡ حَرَصۡتَ بِمُؤۡمِنِينَ ١٠٣

104. また、あなたはそれ[1]ゆえに、彼らにいかなる見返りも求めてはいない。それは全世界に対する教訓に、外ならないのだから。

وَمَا تَسۡـَٔلُهُمۡ عَلَيۡهِ مِنۡ أَجۡرٍۚ إِنۡ هُوَ إِلَّا
ذِكۡرٞ لِّلۡعَٰلَمِينَ ١٠٤

105. 諸天と大地における、いかに多くの（アッラーの唯一性*と御力を示す）御徴を、彼らは通り過ぎ（目にし）ていることか？それらに対して背を向けながら？

وَكَأَيِّن مِّنۡ ءَايَةٖ فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ
يَمُرُّونَ عَلَيۡهَا وَهُمۡ عَنۡهَا مُعۡرِضُونَ ١٠٥

106. また彼らの大半は、シルク*の徒であることなくして、アッラー*を信じることがない。[2]

وَمَا يُؤۡمِنُ أَكۡثَرُهُم بِٱللَّهِ إِلَّا وَهُم
مُّشۡرِكُونَ ١٠٦

107. 一体彼らは、アッラー*の懲罰である、(彼らを) 覆い尽くすものが、自分たちに襲いかからないと安心していたのか？ あるいは彼らが気付かぬまま、（復活の）時が彼らのもとに突然やって来ることはない、と？

أَفَأَمِنُوٓاْ أَن تَأۡتِيَهُمۡ غَٰشِيَةٞ مِّنۡ عَذَابِ ٱللَّهِ
أَوۡ تَأۡتِيَهُمُ ٱلسَّاعَةُ بَغۡتَةٗ وَهُمۡ لَا
يَشۡعُرُونَ ١٠٧

108. （使徒*よ、）言え。「これは、我が道。私も、私に従った者たちも確証に基づき、アッラー*（のみへの崇拝*）へと招く。アッラー*に称え*あれ、私はシルク*の徒の類いではない」。

قُلۡ هَٰذِهِۦ سَبِيلِيٓ أَدۡعُوٓاْ إِلَى ٱللَّهِۚ عَلَىٰ
بَصِيرَةٍ أَنَا۠ وَمَنِ ٱتَّبَعَنِيۖ وَسُبۡحَٰنَ ٱللَّهِ
وَمَآ أَنَا۠ مِنَ ٱلۡمُشۡرِكِينَ ١٠٨

109. そして（使徒*よ）、われら*があなた以前に（使徒*として）遣わしたのは、われら*が啓示を下す、町の住民の男性（人間）た

وَمَآ أَرۡسَلۡنَا مِن قَبۡلِكَ إِلَّا رِجَالٗا نُّوحِيٓ
إِلَيۡهِم مِّنۡ أَهۡلِ ٱلۡقُرَىٰٓۗ أَفَلَمۡ يَسِيرُواْ فِي

---

1 この「それ」とは、彼らを信仰へと導くこと（ムヤッサル 248 頁参照）。

2 つまり、アッラー*が全ての創造主であり、崇拝*に値する唯一の対象であると認めつつも、それと同時に偶像をも崇めているような状態のこと（前掲書、同頁参照）。

ち以外の何者でもなかった[1]。それで一体彼ら（不信仰者*たち）は、地上を旅し、彼ら以前の（不信仰）者*たちの結末がいかなるものであったかを見なかったのか？ 来世の住まいこそは、（アッラー*を）畏れる*者たちにとって、（現世など）より善いのである。一体あなた方は、分別しないのか？

ٱلْأَرْضِ فَيَنظُرُوا۟ كَيْفَ كَانَ عَـٰقِبَةُ
ٱلَّذِينَ مِن قَبْلِهِمْ ۗ وَلَدَارُ ٱلْـَٔاخِرَةِ خَيْرٌ
لِّلَّذِينَ ٱتَّقَوْا۟ ۚ أَفَلَا تَعْقِلُونَ ١٠٩

110. （使徒*よ、過去の使徒*たちも嘘つき呼ばわりされたが、すぐ勝利が訪れたわけではなかった。）やがて使徒*たちが（、自分の民はもはや信じることはないという）大きな失意に陥り、（民が、自分たちは使徒*たちに）確かに嘘をつかれた[2]のだと思った時、彼ら（使徒*たち）のもとにわれら*の勝利が到来し、われら*が望む者は救い出されたのだ。かれの猛威（という懲罰）が、罪悪者である民から遮られることはない。

حَتَّىٰٓ إِذَا ٱسْتَيْـَٔسَ ٱلرُّسُلُ وَظَنُّوٓا۟ أَنَّهُمْ
قَدْ كُذِبُوا۟ جَآءَهُمْ نَصْرُنَا فَنُجِّىَ مَن نَّشَآءُ ۖ
وَلَا يُرَدُّ بَأْسُنَا عَنِ ٱلْقَوْمِ ٱلْمُجْرِمِينَ ١١٠

111. 彼ら（ユースフ*とその兄弟たち）の物語の中には確かに、澄んだ理性の持ち主にとっての教示があった。それ（クルアーン*）は、でっち上げられた作り話などではない。しかし（それは）それ以前のもの[3]の確証、全ての物事[4]の解明、導きであり、信仰する民への慈悲なのである。

لَقَدْ كَانَ فِى قَصَصِهِمْ عِبْرَةٌ لِّأُو۟لِى ٱلْأَلْبَـٰبِ ۗ
مَا كَانَ حَدِيثًا يُفْتَرَىٰ وَلَـٰكِن تَصْدِيقَ
ٱلَّذِى بَيْنَ يَدَيْهِ وَتَفْصِيلَ كُلِّ شَىْءٍ
وَهُدًى وَرَحْمَةً لِّقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ١١١

---

1 アッラー*は使徒*を女性ともせず、（天使*など）人間以外のものともせず、僻地（へきち）出身のものともされなかった（イブン・カスィール 4:422-423 参照）。同様のアーヤ*として、預言者*たち章 7-8、識別章 20 も参照。

2 つまり、彼らが招いている教えの内容、あるいは勝利に関して「嘘をつかれた」と思うこと（イブン・ジュザイ 1:428 参照）。

3 「それ以前のもの」とは、それ以前に下った啓典のこと（ムヤッサル 248 頁参照）。

4 この「全ての物事」とは、合法なことや非合法なこと、勧（すす）められることや避けるべきことなど、人間が必要とする全てのこと（前掲書、同頁参照）。

第 13 章
雷鳴章[1]（アッ＝ラァド）

سُورَةُ الرَّعۡدِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. アリフ・ラーム・ミーム・ラー[2]。それは啓典の御徴（アーヤ*）。そして（使徒*よ、）あなたの主*からあなたに下されたものは、真理である。だが、人々の大半は信じない。

المٓرۚ تِلۡكَ ءَايَٰتُ ٱلۡكِتَٰبِۗ وَٱلَّذِيٓ أُنزِلَ إِلَيۡكَ مِن
رَّبِّكَ ٱلۡحَقُّ وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَ ٱلنَّاسِ لَا يُؤۡمِنُونَ ١

2. アッラー*は諸天を、いかなる柱もなしにお上げになったお方。あなた方は、それを目にしている[3]。それからかれは、御座[4]にお上がりになった。また、太陽と月を（人々の利益のために）仕えさせられた。（その）いずれも、定められた時期（である復活の日）まで運航し続ける。かれは（現世と来世の）物事を司られる。あなた方が自分たちの主との拝謁を確信するため、かれは（ご自身の御力と唯一性*を示す）御徴を明らかにされるのだ。

ٱللَّهُ ٱلَّذِي رَفَعَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ بِغَيۡرِ عَمَدٖ تَرَوۡنَهَاۖ ثُمَّ
ٱسۡتَوَىٰ عَلَى ٱلۡعَرۡشِۖ وَسَخَّرَ ٱلشَّمۡسَ وَٱلۡقَمَرَۖ كُلّٞ
يَجۡرِي لِأَجَلٖ مُّسَمّٗىۚ يُدَبِّرُ ٱلۡأَمۡرَ يُفَصِّلُ
ٱلۡأٓيَٰتِ لَعَلَّكُم بِلِقَآءِ رَبِّكُمۡ تُوقِنُونَ ٢

---

1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。アーヤ*13で言及されている「雷鳴」の語にちなんで、この名称で呼ばれる。創造や自然界の驚異（きょうい）を根拠に、アッラー*の存在と唯一性*が確証され、真理と虚偽、信仰者と不信仰者*の様々なたとえが、各々への吉報や警告と共に描写されている。また、信仰者と不信仰者*の特徴、来世における両者の行き先なども取り上げられ、最後は預言者*ムハンマド*の使徒*性を確証する証言によって、締めくくられる。

2 これらの文字については、頻出名・用語解説「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 本文訳のような解釈以外にも、「アッラー*は諸天を、あなた方に見える柱もなく、お上げになったお方」という解釈もある（イブン・カスィール 4:429 参照）。

4 「御座にお上がりになる」については、高壁章 54 の訳注を参照。

3. また、かれは地を広げ、そこに堅固な山々と河川を置かれ、そこに全ての果実から、二つの種類[1]をお創りになったお方。かれは夜を昼に覆わせられる[2]。本当にそこにはまさしく（アッラーの唯一性*と御力を示す）、熟考する民への御徴があるのだ。

وَهُوَ ٱلَّذِي مَدَّ ٱلۡأَرۡضَ وَجَعَلَ فِيهَا رَوَٰسِيَ
وَأَنۡهَٰرٗاۖ وَمِن كُلِّ ٱلثَّمَرَٰتِ جَعَلَ فِيهَا زَوۡجَيۡنِ
ٱثۡنَيۡنِۖ يُغۡشِي ٱلَّيۡلَ ٱلنَّهَارَۚ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَٰتٖ
لِّقَوۡمٖ يَتَفَكَّرُونَ ٣

4. また大地には、隣接し合った（異なる性質[3]の）土地、（その内の肥沃な土地にできる）葡萄園、（種々の）農作物、同根で多幹のナツメヤシの木と、同根で多幹ではないものがある。（それらは皆）同一の水を与えられている。そして、われら*はその内のあるものを、別のものよりも果実において引き立てるのだ[4]。本当にその中にはまさしく（アッラー*の御力と唯一性*を示す）、分別する民への御徴がある。

وَفِي ٱلۡأَرۡضِ قِطَعٞ مُّتَجَٰوِرَٰتٞ وَجَنَّٰتٞ مِّنۡ
أَعۡنَٰبٖ وَزَرۡعٞ وَنَخِيلٞ صِنۡوَانٞ وَغَيۡرُ صِنۡوَانٖ
يُسۡقَىٰ بِمَآءٖ وَٰحِدٖ وَنُفَضِّلُ بَعۡضَهَا عَلَىٰ بَعۡضٖ
فِي ٱلۡأُكُلِۚ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَٰتٖ لِّقَوۡمٖ يَعۡقِلُونَ ٤

5. （使徒*よ、）あなたが（、これらの御徴をそっちのけにした人々の不信仰を）驚くのなら、（更に）驚くべきは、「（死んで）土となった後、本当に私たちが新たに創造[5]されるとでもいうのか？」という彼らの言葉である。それらの者たちは、自分たちの主*を否定した者であり、それらの者たちは（復活の日*に、）その首に枷が（かけられ

۞وَإِن تَعۡجَبۡ فَعَجَبٞ قَوۡلُهُمۡ أَءِذَا كُنَّا
تُرَٰبًا أَءِنَّا لَفِي خَلۡقٖ جَدِيدٍۗ أُوْلَٰٓئِكَ
ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ بِرَبِّهِمۡۖ وَأُوْلَٰٓئِكَ
ٱلۡأَغۡلَٰلُ فِيٓ أَعۡنَاقِهِمۡۖ وَأُوْلَٰٓئِكَ أَصۡحَٰبُ
ٱلنَّارِۖ هُمۡ فِيهَا خَٰلِدُونَ ٥

---

1 甘いものと酸っぱいもの、白いものと黒いもの、熟れたものと乾燥したもの、小さいものと大きいものなどの「二つの種類」（アル＝クルトゥビー9:281 参照）。尚、これはイブン・アティーヤ*によれば、どんな果実でも二種類はあるということを示しているのであり、それ以上の種類があってもアーヤ*の意味とは矛盾しない（3:293 参照）。

2 イムラーン家章 27 の、同様のくだりに関する訳注も参照。

3 植物の生育する肥沃な土地もあれば、不毛の土地もある（ムヤッサル 249 頁参照）。

4 形、大きさ、匂い、味などにおいて「引き立てる」（アル＝バイダーウィー3:318 参照）。

5 「新たな創造」とは、復活のこと（ムヤッサル 249 頁参照）。

て）ある者なのである。そしてそれらの者たちは、（地獄の）業火の住人であり、彼らはそこに永遠に留まる者たちなのだ。

6. また、彼ら（不信仰者*たち）はあなたに、善よりも先に悪を（もたらすことを）性急に求める[1]。彼ら以前（の不信仰者*たち）にも確かに、懲罰が降りかかってきたというのに。（使徒*よ、）本当にあなたの主*は人々が不正*を行っても（悔悟するならば）、彼らにとってまさしく赦しの主なのである。そして本当にあなたの主*は（不信仰と迷いとアッラー*への反抗に固執する者に対し）、実に懲罰が厳しいお方なのだ。

وَيَسۡتَعۡجِلُونَكَ بِٱلسَّيِّئَةِ قَبۡلَ ٱلۡحَسَنَةِ
وَقَدۡ خَلَتۡ مِن قَبۡلِهِمُ ٱلۡمَثُلَٰتُۗ وَإِنَّ رَبَّكَ
لَذُو مَغۡفِرَةٖ لِّلنَّاسِ عَلَىٰ ظُلۡمِهِمۡۖ وَإِنَّ رَبَّكَ
لَشَدِيدُ ٱلۡعِقَابِ ٦

7. また、不信仰に陥った者*たちは言う。「どうして彼（ムハンマド*）に、その主*から御徴[2]が下されないのか？」（使徒*よ、）あなたは警告者でしかない。そしていかなる民にも、（その）導き手がいる。

وَيَقُولُ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ لَوۡلَآ أُنزِلَ عَلَيۡهِ
ءَايَةٞ مِّن رَّبِّهِۦٓۗ إِنَّمَآ أَنتَ مُنذِرٞۖ وَلِكُلِّ
قَوۡمٍ هَادٍ ٧

8. アッラー*は、いかなる女性が（胎内に）宿すものも、子宮が減じるものも、増えるもの[3]もご存知である。そして全ての物事は、かれの御許で（一定の）量に（定められて）ある。

ٱللَّهُ يَعۡلَمُ مَا تَحۡمِلُ كُلُّ أُنثَىٰ وَمَا تَغِيضُ
ٱلۡأَرۡحَامُ وَمَا تَزۡدَادُۖ وَكُلُّ شَيۡءٍ عِندَهُۥ
بِمِقۡدَارٍ ٨

---

1 この「善」は無事、あるいは安全と善が望まれる、信仰のこと。「悪」は懲罰。彼らはひどい不信仰ゆえ、自分たちに懲罰を下すよう挑んだものだった（アル＝クルトゥビー9:284参照）。家畜章 57-58、戦利品*章 32、ユーヌス*章 50、フード*章 8、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、サード章 16、相談章 18、階段章 1-2 なども参照。

2 この「御徴」は、ムーサー*の杖、サーリフ*の雌ラクダのような、目に見える奇跡のこと（ムヤッサル 250 頁参照）。

3 「子宮が減じるもの」とは堕胎（だたい）や、通常の出産期間よりも早い出産のことを表し、「増えるもの」は通常の出産期間よりも遅い出産のことを指すとされる（前掲書、同頁参照）。

9. （アッラー*は、）不可視(ふかし)の世界*と現象界[1]をご存知のお方。大いなる*お方、至高の*お方であられる。

عَٰلِمُ ٱلْغَيْبِ وَٱلشَّهَٰدَةِ ٱلْكَبِيرُ ٱلْمُتَعَالِ ٩

10. あなた方の内、言葉を秘(ひ)める者も、それを露(あら)わにする者も、夜にこそこそとする者も、昼に堂々とする者も、（アッラー*には）同じこと。

سَوَآءٌ مِّنكُم مَّنْ أَسَرَّ ٱلْقَوْلَ وَمَن جَهَرَ
بِهِۦ وَمَنْ هُوَ مُسْتَخْفٍۭ بِٱلَّيْلِ وَسَارِبٌۢ
بِٱلنَّهَارِ ١٠

11. かれには、（人間の）その前と、その後ろに、アッラー*のご命令によって彼を守（り、その行いを記録す）る、交代番[2]（の天使*たち）がいる。本当にアッラー*は、民の（恩恵(おんけい)に溢(あふ)れた）状況を、彼らが自分たちの状況を（自(みずか)ら）変える[3]まで、変更されることがないのだ。そしてアッラー*が民に災難(さいなん)をお望みになれば、それを遮(さえぎ)るものは誰一人としてなく、彼らには、かれ以外にいかなる庇護(ひご)者もいない。

لَهُۥ مُعَقِّبَٰتٌ مِّنۢ بَيْنِ يَدَيْهِ وَمِنْ خَلْفِهِۦ
يَحْفَظُونَهُۥ مِنْ أَمْرِ ٱللَّهِ ۗ إِنَّ ٱللَّهَ لَا يُغَيِّرُ مَا
بِقَوْمٍ حَتَّىٰ يُغَيِّرُوا۟ مَا بِأَنفُسِهِمْ ۗ وَإِذَآ أَرَادَ
ٱللَّهُ بِقَوْمٍ سُوٓءًا فَلَا مَرَدَّ لَهُۥ ۚ وَمَا لَهُم
مِّن دُونِهِۦ مِن وَالٍ ١١

12. かれ（アッラー*）はあなた方に、（あなた方が）恐怖と待望[4]を抱(いだ)く稲光(いなびかり)をお見せになり、（雨を湛(たた)えた）重厚(じゅうこう)な雲をお造(つく)りになるお方。

هُوَ ٱلَّذِى يُرِيكُمُ ٱلْبَرْقَ خَوْفًا وَطَمَعًا
وَيُنشِئُ ٱلسَّحَابَ ٱلثِّقَالَ ١٢

---

1 「現象界」については、家畜章 73 の訳注を参照。

2 人間には、その右側に善行を記録する天使*、左側に悪行を記録する天使*が一人ずつおり、またその前後には、彼を守る天使*が一人ずつ付いている。そしてこの四人の天使*は、朝晩に別の四人と交代して任務につく（イブン・カスィール 4:437 参照）。カーフ章 17 とその訳注も参照。

3 信仰から不信仰へ、アッラー*への従順さから反逆へと自らの状態を変えない限り、という意味（アッ＝サァディー414 頁参照）。戦利品*章 53 とその訳注も参照。

4 稲光には落雷の恐怖もあるが、それによって雨を期待することも出来る（ムヤッサル 250 頁参照）。

13. また、雷鳴[1]はかれ（アッラー*）への称賛*と共に（かれを）称え*、天使*たちはかれへの恐怖から（そうする）。そしてかれは稲妻を送り、彼ら（不信仰者*たち）がアッラー*（の唯一性*と御力）について議論している最中に、それでお望みになる者を撃たれる。かれは、御力[2]の凄まじいお方。

وَيُسَبِّحُ ٱلرَّعۡدُ بِحَمۡدِهِۦ وَٱلۡمَلَٰٓئِكَةُ مِنۡ
خِيفَتِهِۦ وَيُرۡسِلُ ٱلصَّوَٰعِقَ فَيُصِيبُ بِهَا
مَن يَشَآءُ وَهُمۡ يُجَٰدِلُونَ فِي ٱللَّهِ وَهُوَ
شَدِيدُ ٱلۡمِحَالِ ١٣

14. 真の呼びかけ[3]は、かれ（アッラー*）だけに属する。そして、かれを差しおいて彼らが祈っているものたちは、少しも彼らに応じることなどない。自分の（乾いた）口に届くよう、その両手を（遠くから）水へと伸ばすが、そこには届かない者（が、その念願を叶えられる）程度のもの以外には（、その念願を叶えられないのだ）[4]。不信仰者*たちの祈願は、全くの徒労である。

لَهُۥ دَعۡوَةُ ٱلۡحَقِّۚ وَٱلَّذِينَ يَدۡعُونَ مِن دُونِهِۦ لَا يَسۡتَجِيبُونَ
لَهُم بِشَيۡءٍ إِلَّا كَبَٰسِطِ كَفَّيۡهِ إِلَى ٱلۡمَآءِ لِيَبۡلُغَ فَاهُ وَمَا هُوَ
بِبَٰلِغِهِۦۚ وَمَا دُعَآءُ ٱلۡكَٰفِرِينَ إِلَّا فِي ضَلَٰلٖ ١٤

15. そしてアッラー*にこそ、諸天と大地にある（全ての）ものは、従順にであろうと嫌々であろうと[5]、サジダ*する。また（創造物

وَلِلَّهِ يَسۡجُدُ مَن فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ طَوۡعٗا
وَكَرۡهٗا وَظِلَٰلُهُم بِٱلۡغُدُوِّ وَٱلۡأٓصَالِ۩ ١٥

1 「雷鳴」については、雌牛章 19 の同語についての訳注も参照。

2 ここで「御力」と訳した語「ミハール」には、「懲罰」「策略」などといった解釈もある（アル＝バガウィー3:12 参照）。

3 「真の呼びかけ」とは、シャハーダ*のこととされる。祈願のために呼ばれるべき存在は、アッラー*のみである（ムヤッサル 251 頁参照）。

4 つまり、その念願は叶えられない。ほかにも、これが「空想の水に手を伸ばす者」「水を両手で掴（つか）もうとするが、掴めない者」の様子である、といった説がある（アル＝クルトゥビー9:301 参照）。

5 ある種の学者によれば、このアーヤ*の意味は、「信仰者と天使*は、文字通りの崇拝*行為としてのサジダ*をするが、偽信者*は嫌々サジダ*する」。偽（にせ）信者*以外の不信仰者*については、巡礼*章 18 によって、『全ての人』がサジダ*するわけではないことが説明されている。また一説には、ここでの「サジダ*」は文字通りの崇拝*行為の一形式ではなく、「服従」という意味のサジダ*。というのも不信仰者*もまた、アッラー*のご意思から逃れられず、かれに物理的に服従しているのが現状だからである（アッ＝シャンキーティー2:237-239 参照）。イムラーン家章 83 とその訳注、蜜蜂章 48-49、夜の旅章 44、巡礼*章 18 とその訳注、御光章 41 とその訳注も参照。

の）影も、朝に夕に（サジダ[1]する）。（読誦のサジダ*）

16. （使徒*よ、シルク*の徒に）言え。「諸天と大地の主*は誰か？」言ってやるのだ。「（それは）アッラー*である」。言うのだ。「（そのことを認めている）にも関わらず、一体あなた方はかれを差しおいて、自分自身への益も害も有さない庇護者を設けたというのか？」言え。「盲人と見える者[2]は同じか？　いや、闇と光[3]は同じなのか？」いや、彼らはアッラー*に、かれの創造と同様に創造し、それゆえに（それらの創造とアッラー*の）創造が彼らにとって紛らわしくなってしまった同位者を設け（、アッラー*と共に崇拝*し）ているのか？　（使徒*よ、）言うがよい。「アッラー*は全てのものの創造主であり、かれは唯一の*お方、君臨し給う*お方である」。

قُلۡ مَن رَّبُّ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ قُلِ ٱللَّهُۚ قُلۡ
أَفَٱتَّخَذۡتُم مِّن دُونِهِۦٓ أَوۡلِيَآءَ لَا يَمۡلِكُونَ
لِأَنفُسِهِمۡ نَفۡعٗا وَلَا ضَرّٗاۚ قُلۡ هَلۡ يَسۡتَوِي ٱلۡأَعۡمَىٰ
وَٱلۡبَصِيرُ أَمۡ هَلۡ تَسۡتَوِي ٱلظُّلُمَٰتُ وَٱلنُّورُۗ أَمۡ جَعَلُواْ
لِلَّهِ شُرَكَآءَ خَلَقُواْ كَخَلۡقِهِۦ فَتَشَٰبَهَ ٱلۡخَلۡقُ عَلَيۡهِمۡۚ قُلِ
ٱللَّهُ خَٰلِقُ كُلِّ شَيۡءٖ وَهُوَ ٱلۡوَٰحِدُ ٱلۡقَهَّٰرُ ١٦

17. かれ（アッラー*）は天から（雨）水をお降らしになり、渓谷（の水）はその規模に応じて流れ、流水は浮き上がった（無益な）泡を湛える。また、彼らが装飾品や道具（の加工・鋳造）を望んで火の中にくべるもの[4]の内にも、それと同様の（無益な）泡が（生じる）。同様にアッラー*は、真理と虚偽に

أَنزَلَ مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءٗ فَسَالَتۡ أَوۡدِيَةُۢ بِقَدَرِهَا
فَٱحۡتَمَلَ ٱلسَّيۡلُ زَبَدٗا رَّابِيٗاۖ وَمِمَّا يُوقِدُونَ عَلَيۡهِ
فِي ٱلنَّارِ ٱبۡتِغَآءَ حِلۡيَةٍ أَوۡ مَتَٰعٖ زَبَدٞ مِّثۡلُهُۥۚ
كَذَٰلِكَ يَضۡرِبُ ٱللَّهُ ٱلۡحَقَّ وَٱلۡبَٰطِلَۚ فَأَمَّا ٱلزَّبَدُ
فَيَذۡهَبُ جُفَآءٗۖ وَأَمَّا مَا يَنفَعُ ٱلنَّاسَ فَيَمۡكُثُ
فِي ٱلۡأَرۡضِۚ كَذَٰلِكَ يَضۡرِبُ ٱللَّهُ ٱلۡأَمۡثَالَ ١٧

---

1 「影のサジダ*」については、「アッラー*のご意思に沿って、その傾きが変化すること」「サジダ*する者たちの影」といった説がある。蜜蜂章 48 も参照（アル＝クルトゥビー9:302 参照）。

2 信仰者と不信仰者*のたとえ。真理を見ようとせず、それを信じもしないことから、このようにたとえられている（ムヤッサル 251、252 頁参照）。雌牛章 7、18、家畜章 50、フード*章 20、24 と各訳注も参照。

3 これも、不信仰と信仰のたとえ（前掲書 251 頁参照）。雌牛章 257「闇から光」の訳注も参照。

4 装飾品加工のための金銀や、種々の道具を鋳造（ちゅうぞう）するための銅などの金属のこと（前掲書、同頁参照）。

ついて譬えられる。それで泡はといえば散って消え去り、人々を益するものはといえば、地上に残存する。そのようにアッラー*は、（真理と虚偽、導きと迷いについて）譬えを挙げられるのだ。

18. 自分たちの主*に応え（て従っ）た者たちには、最善のもの[1]がある。そしてかれに応え（て従わ）なかった者たちは、もし彼らに地上にある全てのものとそれと同様のものが（もう一つ）あり、（それを懲罰を免れるための代償とすることが出来たのならば、）それで償ったであろう。それらの者たち、彼らには悪い清算があり、その住処は地獄なのだ。そしてその寝床は、何と醜悪なことだろうか。

لِلَّذِينَ ٱسْتَجَابُوا۟ لِرَبِّهِمُ ٱلْحُسْنَىٰ ۚ وَٱلَّذِينَ لَمْ
يَسْتَجِيبُوا۟ لَهُۥ لَوْ أَنَّ لَهُم مَّا فِى ٱلْأَرْضِ جَمِيعًا
وَمِثْلَهُۥ مَعَهُۥ لَٱفْتَدَوْا۟ بِهِۦٓ ۚ أُو۟لَـٰٓئِكَ لَهُمْ سُوٓءُ
ٱلْحِسَابِ وَمَأْوَىٰهُمْ جَهَنَّمُ ۖ وَبِئْسَ ٱلْمِهَادُ ١٨

19. （使徒*よ、）一体、あなたの主*からあなたに下されたものが、まさしく真理であることを知（って信じ）る者は、盲人[2]である者と同様であろうか？　澄んだ理性の持ち主が、まさに教訓を得るのである。

۞ أَفَمَن يَعْلَمُ أَنَّمَآ أُنزِلَ إِلَيْكَ مِن رَّبِّكَ ٱلْحَقُّ كَمَنْ
هُوَ أَعْمَىٰٓ ۚ إِنَّمَا يَتَذَكَّرُ أُو۟لُوا۟ ٱلْأَلْبَـٰبِ ١٩

20. （それらの者たちとは、）アッラー*との契約[3]を全うし、確約を破らない者たち。

ٱلَّذِينَ يُوفُونَ بِعَهْدِ ٱللَّهِ وَلَا يَنقُضُونَ ٱلْمِيثَـٰقَ ٢٠

21. また、アッラー*が繋ぎとめられるよう命じられたものを繋ぎとめ[4]、その主*を恐れ、悪い清算[5]を怖れる者たち。

وَٱلَّذِينَ يَصِلُونَ مَآ أَمَرَ ٱللَّهُ بِهِۦٓ أَن يُوصَلَ
وَيَخْشَوْنَ رَبَّهُمْ وَيَخَافُونَ سُوٓءَ ٱلْحِسَابِ ٢١

1 この「最善のもの」とは、天国のこと（ムヤッサル 251 頁参照）。

2 「盲人」については、アーヤ*16 の訳注を参照。

3 この「契約」については、雌牛章 27 の訳注を参照。

4 「アッラー*が繋ぎとめるよう命じられたもの」については、雌牛章 27 の訳注を参照。

5 「悪い清算」とは、復活の日*に全ての罪を清算され、何一つ見過ごしてはもらえないもの（ムヤッサル 252 頁参照）。

22. また、その主*の御顔を求めて忍耐*し、礼拝を遵守*し、われら*が授けたものから（施しのため）秘密裏に、または公けに費やし[1]、善行によって悪行を追い払う[2]者たち。そのような者たち、彼らには、世の（善き）結末[3]がある。

وَٱلَّذِينَ صَبَرُواْ ٱبۡتِغَآءَ وَجۡهِ رَبِّهِمۡ وَأَقَامُواْ ٱلصَّلَوٰةَ
وَأَنفَقُواْ مِمَّا رَزَقۡنَٰهُمۡ سِرّٗا وَعَلَانِيَةٗ وَيَدۡرَءُونَ
بِٱلۡحَسَنَةِ ٱلسَّيِّئَةَ أُوْلَٰٓئِكَ لَهُمۡ عُقۡبَى ٱلدَّارِ ٢٢

23. （それは）彼らと、彼らの祖先、配偶者、子孫の内で正しかった者*が入ることになる、永久の楽園。天使*たちも（彼らを祝福すべく）、全ての扉から彼らのもとに入る。

جَنَّٰتُ عَدۡنٖ يَدۡخُلُونَهَا وَمَن صَلَحَ مِنۡ ءَابَآئِهِمۡ
وَأَزۡوَٰجِهِمۡ وَذُرِّيَّٰتِهِمۡۖ وَٱلۡمَلَٰٓئِكَةُ يَدۡخُلُونَ
عَلَيۡهِم مِّن كُلِّ بَابٖ ٢٣

24. （天使*たちは、彼らに言う。）「あなた方が（現世で、アッラー*への服従において）忍耐*したことゆえ、あなた方に平安を[4]」。そして世の（善き）結末[5]は、何と素晴らしいことか。

سَلَٰمٌ عَلَيۡكُم بِمَا صَبَرۡتُمۡۚ فَنِعۡمَ عُقۡبَى ٱلدَّارِ ٢٤

25. アッラー*との契約をそれが確約された後に破り、アッラー*が繋ぎとめられるよう命じられたもの[6]を断ち、地上で腐敗*を働く者たち、それらの者たちの上には呪いがある。そして彼らには（来世で）、忌まわしい住処があるのだ。

وَٱلَّذِينَ يَنقُضُونَ عَهۡدَ ٱللَّهِ مِنۢ بَعۡدِ
مِيثَٰقِهِۦ وَيَقۡطَعُونَ مَآ أَمَرَ ٱللَّهُ بِهِۦٓ أَن
يُوصَلَ وَيُفۡسِدُونَ فِي ٱلۡأَرۡضِ أُوْلَٰٓئِكَ لَهُمُ
ٱللَّعۡنَةُ وَلَهُمۡ سُوٓءُ ٱلدَّارِ ٢٥

26. アッラー*は、かれがお望みの者に糧を豊富に与えられ、また控えられる[7]。現世の生活など、来世（との比較）においては（僅か

ٱللَّهُ يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ وَيَقۡدِرُۚ وَفَرِحُواْ
بِٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَا وَمَا ٱلۡحَيَوٰةُ ٱلدُّنۡيَا فِي ٱلۡأٓخِرَةِ إِلَّا
مَتَٰعٞ ٢٦

---

1 「われら*が授けた･･･費やす」については、雌牛章 3 の訳注を参照。

2 「善行でもって悪行を追いやる」については、フード*章 114 の訳注を参照。

3 「世の（善き）結末」については、家畜章 135 の訳注を参照。

4 「あなた方に平安を」とは、「あなた方はこの日、あらゆる忌まわしいことから安全ですよ」という意味とされる（ムヤッサル 252 頁参照）。家畜章 54 の訳注も参照。

5 「世の（善き）結末」については、家畜章 135 の訳注を参照。

6 「アッラー*が繋ぎとめるよう命じられたもの」については、雌牛章 27 の訳注を参照。

7 物語章 82、サバア章 36、暁章 16 の訳注も参照。

で儚い）楽しみでしかないのに、彼ら[1]は現世の生活に浮かれているのだ。

27. 不信仰に陥った者*たちは言う。「どうして彼（ムハンマド*）の主*から、彼のもとに御徴が下されなかったのか？[2]」言ってやるがいい。「本当にアッラー*は（、導きを頑固に拒む者の内、）お望みの者を迷わされ、よく（アッラー*に悔悟して）立ち返る者を、かれの御許へとお導きになる」。

وَيَقُولُ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ لَوْلَآ أُنزِلَ عَلَيْهِ ءَايَةٌ
مِّن رَّبِّهِۦ ۗ قُلْ إِنَّ ٱللَّهَ يُضِلُّ مَن يَشَآءُ وَيَهْدِىٓ
إِلَيْهِ مَنْ أَنَابَ ٢٧

28. 信仰し、その心がアッラー*の唱念で安らぐ者たち（を、お導きになるのだ）。アッラーの唱念によってこそ、心は安らぐのではないか。[3]

ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَتَطْمَئِنُّ قُلُوبُهُم بِذِكْرِ ٱللَّهِ ۗ
أَلَا بِذِكْرِ ٱللَّهِ تَطْمَئِنُّ ٱلْقُلُوبُ ٢٨

29. 信仰し、正しい行い*を行う者たち、彼らには麗しきもの[4]と、よき戻り場所[5]がある。

ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ طُوبَىٰ لَهُمْ
وَحُسْنُ مَـَٔابٍ ٢٩

30. （過去にも数々の使徒*を遣わしたのと）同様に、（使徒*よ、）われら*はあなたを、それ以前にいくつもの共同体が滅び去っていった共同体に、遣わした。（それは）あなたが、慈悲あまねき*お方を否定している[6]彼らに、われら*があなたに啓示したも

كَذَٰلِكَ أَرْسَلْنَٰكَ فِىٓ أُمَّةٍ قَدْ خَلَتْ مِن
قَبْلِهَآ أُمَمٌ لِّتَتْلُوَا۟ عَلَيْهِمُ ٱلَّذِىٓ أَوْحَيْنَآ
إِلَيْكَ وَهُمْ يَكْفُرُونَ بِٱلرَّحْمَٰنِ ۚ قُلْ هُوَ رَبِّى لَآ إِلَٰهَ
إِلَّا هُوَ عَلَيْهِ تَوَكَّلْتُ وَإِلَيْهِ مَتَابِ ٣٠

1 この「彼ら」は、現世で豊富な糧を授かった不信仰者*のこと（アッ＝タバリー6:4730 参照）。

2 同様の意味の、アーヤ*7 とその訳注を参照。

3 同様のアーヤ*として、集団章 23 とその訳注も参照。

4 この「麗しきもの」の解釈には、「天国にある大木の名」「喜び」「天国の別名」などといった諸説がある（アル＝クルトゥビー9:316 参照）。

5 この「よき戻り場所」とは、天国、アッラー*のご満悦などと言われる（ムヤッサル 253 頁参照）。

6 マッカ*の不信仰者*の中には、「慈悲あまねき*お方」というアッラー*の御名を否定する者たちがいた（アッ＝タバリー6:4737-4738 参照）。夜の旅章 110 とその訳注、預言者*たち章 36、識別章 60 も参照。

の（クルアーン*）を読誦するためである。（使徒*よ、彼らに）言ってやるのだ。「かれは我が主*、かれ以外に、（真に）崇拝*すべきものなど存在しない。かれにこそ、私は全てを委ねた*のであり、かれの御許にこそ、我が帰り先はあるのだ」。

31. もし読誦されるもの（啓典）によって山々が動かされ、またはそれによって大地が裂け、あるいはそれによって死人が（蘇らされて）語りかけられるとするならば（、このクルアーン*こそが、それである）[1]。いや、アッラー*にこそ全ての物事は属する[2]のだ。一体、信仰する者たちは、もしアッラー*がお望みになれば（奇跡など起こさずとも）、全ての人々をお導きになっただろうことを知らないのか？[3] 不信仰に陥った者*たちにはアッラー*のお約束[4]が到来するまで、自分たちが成したことゆえに災難[5]が襲いかかるか、あるいはそれが彼らの土地の近くに降りかかり続けるのだ。本当にアッラー*は、約束をお破りにはならない。

وَلَوۡ أَنَّ قُرۡءَانٗا سُيِّرَتۡ بِهِ ٱلۡجِبَالُ أَوۡ قُطِّعَتۡ بِهِ
ٱلۡأَرۡضُ أَوۡ كُلِّمَ بِهِ ٱلۡمَوۡتَىٰۗ بَل لِّلَّهِ ٱلۡأَمۡرُ
جَمِيعًاۗ أَفَلَمۡ يَاْيۡـَٔسِ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ أَن لَّوۡ يَشَآءُ
ٱللَّهُ لَهَدَى ٱلنَّاسَ جَمِيعٗاۗ وَلَا يَزَالُ ٱلَّذِينَ
كَفَرُواْ تُصِيبُهُم بِمَا صَنَعُواْ قَارِعَةٌ أَوۡ
تَحُلُّ قَرِيبٗا مِّن دَارِهِمۡ حَتَّىٰ يَأۡتِيَ وَعۡدُ ٱللَّهِۚ
إِنَّ ٱللَّهَ لَا يُخۡلِفُ ٱلۡمِيعَادَ ٣١

---

1 マッカ*の不信仰者*らは預言者*ムハンマド*に、奇跡を起こすことで彼の使徒*性を証明するよう求めてきたものであった（アッ＝タバリー6:4738-4740 参照）。家畜章 111 も参照。

2 奇跡を含む全ての物事は、アッラー*の英知とご意思にかかっている（アッ＝シャウカーニー3:115 参照）。

3 このアーヤ*が下った背景には、預言者*が奇跡を起こしたら信仰する、というシルク*の徒の言葉を聞いた教友*たちが、奇跡が起きるのを望んだということがある（アル＝バガウィー3:23 参照）。

4 「アッラー*のお約束」は、復活の日*とも、ムスリム*の勝利とも言われる（前掲書 3:24 参照）。

5 「災難」とは具体的に、罰、殺害、捕虜、飢饉などのこと（アル＝クルトゥビー9:321 参照）。

32. （使徒*よ、）あなた以前の使徒*たちも確かに（自分の民から）嘲笑されたのであり、われは不信仰だった者*たちに猶予を与え、それから彼らを罰したのだ。わが懲罰はいかなるものであったか？

33. 一体、あらゆる者をその稼ぐものにおいて司るお方[1]が（崇拝*に値するのか、それともかれ以外の不能な創造物か）？　彼らは（創造物の内から）、アッラー*（の崇拝*）に同位者を設けた。（使徒*よ、）言ってやれ。「それらの（同位者の）名（と性質）を述べてみよ[2]。いや、一体あなた方は、は、かれが地上において関知されないもの[3]について、かれに申し上げるというのか？か？　いや、一体（実体もないのに）言葉の上っ面で、（それを同位者と呼んでいるだけ）なのか？　いや、不信仰に陥った者*たちには自分たちの策謀[4]が目映く見せられ、彼らは（アッラー*の）道から阻まれてしまったのだ。誰だろうとアッラー*が迷わせ給う者には、いかなる導き手もない」。

34. 彼らには現世の生活で懲罰があり、来世の懲罰こそはもっと厳しい。そして彼らにはアッラー*（の罰）から、誰も守ってくれる者などない。

وَلَقَدِ ٱسْتُهْزِئَ بِرُسُلٍ مِّن قَبْلِكَ فَأَمْلَيْتُ
لِلَّذِينَ كَفَرُوا۟ ثُمَّ أَخَذْتُهُمْ ۖ فَكَيْفَ كَانَ
عِقَابِ ٣٢

أَفَمَنْ هُوَ قَآئِمٌ عَلَىٰ كُلِّ نَفْسٍۭ بِمَا كَسَبَتْ ۗ
وَجَعَلُوا۟ لِلَّهِ شُرَكَآءَ قُلْ سَمُّوهُمْ ۚ أَمْ تُنَبِّـُٔونَهُۥ
بِمَا لَا يَعْلَمُ فِى ٱلْأَرْضِ أَم بِظَٰهِرٍ مِّنَ ٱلْقَوْلِ ۗ
بَلْ زُيِّنَ لِلَّذِينَ كَفَرُوا۟ مَكْرُهُمْ وَصُدُّوا۟ عَنِ
ٱلسَّبِيلِ ۗ وَمَن يُضْلِلِ ٱللَّهُ فَمَا لَهُۥ مِنْ هَادٍ ٣٣

لَّهُمْ عَذَابٌ فِى ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا ۖ وَلَعَذَابُ ٱلْءَاخِرَةِ
أَشَقُّ ۖ وَمَا لَهُم مِّنَ ٱللَّهِ مِن وَاقٍ ٣٤

---

1 アッラー*は人の行いを、全て数え上げられるお方（ムヤッサル 253 頁参照）。頻出名・用語解説の「全てを司る*お方」の項も参照。

2 述べてみたところで、それらは崇拝*に値するものではないから、の意（ムヤッサル 253 頁参照）。

3 彼らがアッラー*の同位者として崇めているものは、実体がないゆえ、アッラー*はそれらを関知されない（イブン・カスィール 4:463 参照）。

4 この「策謀」とは、嘘を真実のように見せる、彼らの偽装（ぎそう）のこと。あるいは、シルク*による、イスラーム*に対する彼らの「策謀」のこと（アル＝バイダーウィー3:332 参照）。

35. 敬虔な*者たちが約束された、天国の様子（とは、このようなもの）。その下からは河川が流れている。その食べ物は絶えることがなく、その陰も（同様）。それが（アッラー*を）畏れる*者たちの結末。そして不信仰者*らの結末は、（地獄の）業火なのだ。

۞ مَّثَلُ ٱلْجَنَّةِ ٱلَّتِى وُعِدَ ٱلْمُتَّقُونَ ۖ تَجْرِى مِن
تَحْتِهَا ٱلْأَنْهَـٰرُ ۖ أُكُلُهَا دَآئِمٌ وَظِلُّهَا ۚ
تِلْكَ عُقْبَى ٱلَّذِينَ ٱتَّقَوا۟ ۖ وَّعُقْبَى
ٱلْكَـٰفِرِينَ ٱلنَّارُ ﴿٣٥﴾

36. われら*が啓典を授けた者たちは、あなたに下されたもの（が、自分たちの教えと符合している事実）に歓喜する[1]。そして（不信仰の）徒党の内には、その一部を否定する者[2]がいる。（使徒*よ、）言うのだ。「私はアッラー*を崇拝*し、かれ（の崇拝*）に何ものも並べない[3]よう、命じられたに過ぎない。かれ（の崇拝*）にこそ私は（人々を）招くのであり、かれの御許にこそ、我が戻り場所はある」。

وَٱلَّذِينَ ءَاتَيْنَـٰهُمُ ٱلْكِتَـٰبَ يَفْرَحُونَ بِمَآ
أُنزِلَ إِلَيْكَ ۖ وَمِنَ ٱلْأَحْزَابِ مَن يُنكِرُ
بَعْضَهُۥ ۚ قُلْ إِنَّمَآ أُمِرْتُ أَنْ أَعْبُدَ ٱللَّهَ وَلَآ
أُشْرِكَ بِهِۦٓ ۚ إِلَيْهِ أَدْعُوا۟ وَإِلَيْهِ مَـَٔابِ ﴿٣٦﴾

37. （使徒*よ、過去の預言者*たちに、彼らの言葉で啓典を下したのと）同様に、われら*はそれ（クルアーン*）をアラビア語の裁定[4]として下した。もしもあなたが、自分に知識が到来した後に彼ら（シルク*の徒）の私欲に従うのなら、あなたにはアッラー*（の罰）に対する、いかなる庇護者も守護者もないのだ。

وَكَذَٰلِكَ أَنزَلْنَـٰهُ حُكْمًا عَرَبِيًّا ۚ وَلَئِنِ ٱتَّبَعْتَ
أَهْوَآءَهُم بَعْدَ مَا جَآءَكَ مِنَ ٱلْعِلْمِ مَا لَكَ مِنَ ٱللَّهِ
مِن وَلِىٍّ وَلَا وَاقٍ ﴿٣٧﴾

---

1 ユダヤ教徒*からムスリム*となったイブン・サラームや、キリスト教徒*からムスリム*となったアン＝ナジャーシーらのことを指す（ムヤッサル 254 頁参照）。

2 預言者*に論争を挑んだナジュラーンのキリスト教導師ら（イムラーン家章、冒頭の訳注を参照）や、ユダヤ教徒*のナディール族の長カァブ・ブン・アル＝アシュラフらのこと（前掲書、同頁参照）。

3 「何ものも並べない」とは、シルク*を犯さない、ということ。

4 クルアーン*に含まれる法規定によって裁くところの「裁定」、あるいはアラビア語で表現された「英知」という意味とされる（アッ＝シャウカーニー3:120 参照）。

38. （使徒*よ、）われら*は確かに、あなた以前にも使徒*たちを遣わし、彼らに妻と子孫を授けた[1]。そしてアッラー*のお許しなしには、いかなる使徒*も御徴[2]をもたらすことはない。全ての期限には、（定められた）書がある[3]のだから。

وَلَقَدۡ أَرۡسَلۡنَا رُسُلٗا مِّن قَبۡلِكَ وَجَعَلۡنَا
لَهُمۡ أَزۡوَٰجٗا وَذُرِّيَّةٗۚ وَمَا كَانَ لِرَسُولٍ أَن يَأۡتِيَ
بِـَٔايَةٍ إِلَّا بِإِذۡنِ ٱللَّهِۗ لِكُلِّ أَجَلٖ كِتَابٞ ٣٨

39. アッラー*はお望みのものを抹消され、また、定着させられる。そしてかれの御許には、書の母があるのだ。[4]

يَمۡحُواْ ٱللَّهُ مَا يَشَآءُ وَيُثۡبِتُۖ وَعِندَهُۥٓ أُمُّ
ٱلۡكِتَٰبِ ٣٩

40. （使徒*よ、）もし、われら*が彼らに約束したもの[5]の一部をあなたに見せてやるにしても、あるいは（その前に）あなたを召すにせよ、あなたには（アッラー*の教えの）伝達あるのみなのであり、清算するのはわれら*の役目なのだ。

وَإِن مَّا نُرِيَنَّكَ بَعۡضَ ٱلَّذِي نَعِدُهُمۡ أَوۡ نَتَوَفَّيَنَّكَ
فَإِنَّمَا عَلَيۡكَ ٱلۡبَلَٰغُ وَعَلَيۡنَا ٱلۡحِسَابُ ٤٠

41. そして一体、彼ら（不信仰者*たち）は見ないのか？ われら*が（彼らの）土地に取りかかっては、それをその端々から削り取ってい

أَوَلَمۡ يَرَوۡاْ أَنَّا نَأۡتِي ٱلۡأَرۡضَ نَنقُصُهَا مِنۡ
أَطۡرَافِهَاۚ وَٱللَّهُ يَحۡكُمُ لَا مُعَقِّبَ لِحُكۡمِهِۦۚ

1 一説に、これは預言者*が結婚していることを揶揄（やゆ）したシルク*の徒について下ったとされる。だがアッラー*は、使徒*たちを、飲み、食べ、結婚もする人間とされたのであり、天使*とはされなかった（アル＝バガウィー3:26 参照）。

2 この「御徴」とは、奇跡のこと。シルク*の徒らは、使徒*の証明として奇跡を起こすよう要求したものだった（ムヤッサル 254 頁参照）。雌牛章 108、家畜章 109-110、ユーヌス*章 97、夜の旅章 90-93、ター・ハー章 133、預言者*たち章 5、識別章 7-8、創成者*章 42 も参照。

3 つまり、全ての物事にはアッラー*によって前もって定められた期限がある（前掲書、同頁参照）。

4 法規定でも何でも、アッラー*はその英知によって、お望みのものを抹消し、保存される（雌牛章 106、蜜蜂章 101 も参照）。それらのことも含め、アッラー*の御許には、復活の日*までの創造物の全状態が定められた「書の母」、つまり守られし碑版*がある（イブン・カスィール 4:471、ムヤッサル 254 頁参照）。「母」と呼ばれているのは、それが全ての書の元であるため。アラビア語では、何かの元となるものを「母」と呼ぶことがある（アッ＝ラーズィー7:52 参照）。

5 「彼らに約束したもの」については、ユーヌス*章 46 の訳注を参照。

く[1]のを？　アッラー*は裁決を下されるが、そのご裁決を覆す者などはないのであり、かれは即座に計算される*お方なのだ。

وَهُوَ سَرِيعُ ٱلۡحِسَابِ ﴿٤١﴾

42. 彼ら以前の者たちは（自分たちの使徒*に対して）確かに策謀した。そうであっても、全ての策謀はアッラー*に属する[2]。かれは、全ての者が稼ぐもの（行為）をご存知なのだから。そして不信仰者*らは（復活の日*）、誰に世の（善き）結末[3]があるかを知ることになろう。[4]

وَقَدۡ مَكَرَ ٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِهِمۡ فَلِلَّهِ ٱلۡمَكۡرُ جَمِيعٗاۖ يَعۡلَمُ مَا تَكۡسِبُ كُلُّ نَفۡسٖۗ وَسَيَعۡلَمُ ٱلۡكُفَّٰرُ لِمَنۡ عُقۡبَى ٱلدَّارِ ﴿٤٢﴾

43. 不信仰に陥った者*たちは言う。「（ムハンマド*よ、）あなたは（アッラー*の御許から）遣わされた者ではない」。言ってやれ。「私とあなた方の間の証人は、アッラー*だけで十分である。そして、啓典の知識を有する者[5]（の証言）だけで」。

وَيَقُولُ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ لَسۡتَ مُرۡسَلٗاۚ قُلۡ كَفَىٰ بِٱللَّهِ شَهِيدَۢا بَيۡنِي وَبَيۡنَكُمۡ وَمَنۡ عِندَهُۥ عِلۡمُ ٱلۡكِتَٰبِ ﴿٤٣﴾

---

1 これは、ムスリム*の国の領土が広がっていくにつれて、シルク*の徒の領土が減っていくことを示しているのだと言われる（アッ＝タバリー6:4762-4765、ムヤッサル 254 頁参照）。

2 この解釈には、「アッラー*の御許にこそ、彼らの策謀の応報がある」「彼らの策謀も全てアッラー*の創造なのであり、かれがお望みにならない限り、それが誰かを害することはない」といった説がある（アル＝バガウィー3:28 参照）。彼らへの罰が、彼らの罪（策謀）の名で表現されていることについては、雌牛章 15 の訳注を参照

3 「世の（善き）結末」については、家畜章 135 の訳注を参照。

4 無論、それは使徒*に従った者たちのものである（ムヤッサル 254 頁参照）。

5 これは啓典の民*の内、ムスリム*になった者たちのこととされる（前掲書 255 頁参照）。アーヤ*36 とその訳注も参照。

第14章
イブラーヒーム章[1]

سُورَةُ إِبۡرَٰهِيمَ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. アリフ・ラーム・ラー[2]。（使徒*よ、これは）あなたが人々を、彼らの主*のお許しによって闇から光[3]へ、つまり偉力ならびない*お方、称賛されるべき*お方の道へと（導き）出すべく、われら*があなたに下した啓典（クルアーン*）である。

الٓرۚ كِتَٰبٌ أَنزَلۡنَٰهُ إِلَيۡكَ لِتُخۡرِجَ ٱلنَّاسَ
مِنَ ٱلظُّلُمَٰتِ إِلَى ٱلنُّورِ بِإِذۡنِ رَبِّهِمۡ إِلَىٰ
صِرَٰطِ ٱلۡعَزِيزِ ٱلۡحَمِيدِ ١

2. 諸天にあるものと、大地にあるものが属する、アッラー*（の道へと）。そして不信仰者*たちには、厳しい懲罰という災いあれ。

ٱللَّهِ ٱلَّذِي لَهُۥ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي
ٱلۡأَرۡضِۗ وَوَيۡلٞ لِّلۡكَٰفِرِينَ مِنۡ عَذَابٖ
شَدِيدٍ ٢

3. （それらの者たちは、）来世よりも現世の生活を愛し、アッラー*の道（イスラーム*）から（人々を）阻み、それ（その道）を捻じ曲げようと望む者たち。それらの者たちは、（真実から）遠い迷いの中にある。

ٱلَّذِينَ يَسۡتَحِبُّونَ ٱلۡحَيَوٰةَ ٱلدُّنۡيَا عَلَى
ٱلۡأٓخِرَةِ وَيَصُدُّونَ عَن سَبِيلِ ٱللَّهِ
وَيَبۡغُونَهَا عِوَجًاۚ أُوْلَٰٓئِكَ فِي ضَلَٰلِۢ
بَعِيدٖ ٣

4. われら*はいかなる使徒*も、その民の言葉でしか、遣わすことがなかった。（それは）彼らに、（アッラー*の教えを）明白にす

وَمَآ أَرۡسَلۡنَا مِن رَّسُولٍ إِلَّا بِلِسَانِ
قَوۡمِهِۦ لِيُبَيِّنَ لَهُمۡۖ فَيُضِلُّ ٱللَّهُ مَن
يَشَآءُ وَيَهۡدِي مَن يَشَآءُۚ وَهُوَ ٱلۡعَزِيزُ

---

1 マッカ*啓示（一部アーヤ*は、マディーナ*啓示説もあり）。クルアーン*と預言者*ムハンマド*の使徒*性の真実、アッラーの唯一性*の確証に始まり、ムーサー*とフィルアウン*の話や、それ以前の不信仰な民*と使徒*の話が、不信仰者*に対する警告と共に描写される。また、来世における信仰者と不信仰者*の行き先とその様子が対照的に描かれ、後半では再び不信仰者*へのイスラーム*への招きと警告が示される。スーラ*名はこの流れで登場する、マッカ*にゆかりのある使徒*でもあり、そこに住まわせた自分の子孫が正しい信仰者となることを祈った、イブラーヒーム*の逸話に由来。

2 これらの文字については、頻出名・用語解説「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 この「闇」は迷いや誤り、「光」は導き、つまりイスラーム*のこと（ムヤッサル255頁参照）。雌牛章257の訳注も参照。

るため。アッラー*はお望みになる者を迷わされ、お望みになる者をお導きになる。かれは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

ٱلۡحَكِيمُ ٤

5. われら*は確かに、ムーサー*をわれら*の御徴[1]と共に遣わし（、こう命じ）た。「あなたの民を、闇から光[2]へと（導き）出すのだ。そしてアッラー*の日々[3]について、彼らに思い出させよ」。本当にそこにはまさしく、忍耐*強く感謝深い全ての者[4]への（、アッラーの唯一性*と全能性を示す）御徴があるのだから。

وَلَقَدۡ أَرۡسَلۡنَا مُوسَىٰ بِـَٔايَٰتِنَآ أَنۡ أَخۡرِجۡ
قَوۡمَكَ مِنَ ٱلظُّلُمَٰتِ إِلَى ٱلنُّورِ
وَذَكِّرۡهُم بِأَيَّىٰمِ ٱللَّهِۚ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ
لَأٓيَٰتٖ لِّكُلِّ صَبَّارٖ شَكُورٖ ٥

6. ムーサー*が、その民（イスラーイールの子ら*）に（こう）言った時のこと（を思い起こさせよ）。「あなた方に対するアッラー*の恩恵を思い起こすのだ。かれがあなた方を、フィルアウン*の一族から救い出された時のことを。彼らはあなた方に過酷な懲罰を味わわせ、男児は殺し、女児は生かしておいた[5]。そしてそこには、あなた方の主*からの偉大な試練があったのだ。

وَإِذۡ قَالَ مُوسَىٰ لِقَوۡمِهِ ٱذۡكُرُواْ نِعۡمَةَ
ٱللَّهِ عَلَيۡكُمۡ إِذۡ أَنجَىٰكُم مِّنۡ ءَالِ
فِرۡعَوۡنَ يَسُومُونَكُمۡ سُوٓءَ ٱلۡعَذَابِ
وَيُذَبِّحُونَ أَبۡنَآءَكُمۡ وَيَسۡتَحۡيُونَ
نِسَآءَكُمۡۚ وَفِي ذَٰلِكُم بَلَآءٞ مِّن
رَّبِّكُمۡ عَظِيمٞ ٦

---

1 この「御徴」は奇跡など、ムーサー*の使徒*性の真実を証明するもの（アッ＝タバリー 6:4773-4774 参照）。

2 この「闇と光」については、アーヤ*1 の訳注を参照。

3 「アッラー*の日々」とは、イスラーイールの子ら*に対する、アッラー*からの恩恵や試練の日々のこと（ムスリム「功徳の書」172 参照）。

4 アッラー*への服従において辛抱し、禁じられた物事を犯すことにおいて自制し、定められた運命を耐え忍ぶ者、そしてアッラー*に対する義務を行うことで感謝の念を表し、かれの恩恵に感謝深い者のこと。このような者こそは、アッラー*の御徴から真に教訓を得る者である（ムヤッサル 255 頁参照）。

5 この出来事の詳細については、雌牛章 49 の訳注を参照。

7. また、あなた方の主*が（こう）宣言された時のこと（を思い起こさせるのだ）。『もしも、あなた方が（わが恩恵ゆえ、われに）感謝したなら、われは必ずや（わが恩寵を）あなた方に上乗せしてつかわそう。そして、もしもあなた方が恩知らずになったなら、本当に（あなた方への）わが懲罰は、まさしく厳しいものなのである』」。

وَإِذۡ تَأَذَّنَ رَبُّكُمۡ لَئِن شَكَرۡتُمۡ
لَأَزِيدَنَّكُمۡۖ وَلَئِن كَفَرۡتُمۡ إِنَّ عَذَابِي
لَشَدِيدٞ ٧

8. そしてムーサー*は、（彼らに）言った。「もし、あなた方と、地上にいる者全てが不信仰に陥ろうとも（、それはあなた方自身を害するだけ）、実にアッラー*こそは、満ち足りた*お方、称賛されるべき*お方なのだから」。

وَقَالَ مُوسَىٰٓ إِن تَكۡفُرُوٓاْ أَنتُمۡ وَمَن
فِي ٱلۡأَرۡضِ جَمِيعٗا فَإِنَّ ٱللَّهَ لَغَنِيٌّ حَمِيدٌ ٨

9. （人々よ、）あなた方には、あなた方以前の者たちの消息が届いていないのか？ ヌーフ*の民、アード*、サムード*、そしてアッラー*以外には（その数を）ご存知にならない、彼ら以後の者たち（の知らせ）が？　彼らには、彼らの使徒*たちが明証[1]を携えてやって来たのだ。そして彼ら（民）は、彼らの手を自分たちの口に持っていき[2]（、苛立ちゆえにそれを噛みながら、こう）言った。「本当に私たちは、あなた方が携えて遣わされたものを否定する。そして本当に私たちは、あなた方が私たちを招いているもの[3]に対して、大きな疑惑を抱いているのだ」。

أَلَمۡ يَأۡتِكُمۡ نَبَؤُاْ ٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِكُمۡ قَوۡمِ
نُوحٖ وَعَادٖ وَثَمُودَ وَٱلَّذِينَ مِنۢ
بَعۡدِهِمۡ لَا يَعۡلَمُهُمۡ إِلَّا ٱللَّهُۚ جَآءَتۡهُمۡ
رُسُلُهُم بِٱلۡبَيِّنَٰتِ فَرَدُّوٓاْ أَيۡدِيَهُمۡ فِيٓ
أَفۡوَٰهِهِمۡ وَقَالُوٓاْ إِنَّا كَفَرۡنَا بِمَآ أُرۡسِلۡتُم
بِهِۦ وَإِنَّا لَفِي شَكّٖ مِّمَّا تَدۡعُونَنَآ إِلَيۡهِ مُرِيبٖ ٩

---

1 この「明証」は、彼らがアッラー*の使徒*であることを示す明白な証拠のこと（ムヤッサル 256 頁参照）。

2 このアーヤ*には、ほかにも「彼ら（民）が、自分たちの手で彼ら（使徒*たち）の口を指し（口を閉じるよう命じ）た」とか「彼ら（民）が、（使徒*たちを黙らせようとして、）自分たちの手を彼ら（使徒*たち）の口にかざした」など、複数の解釈がある（イブン・カスィール 4:481 参照）。

3 つまり、信仰とタウヒード*のこと（ムヤッサル 256 頁参照）。

10. 使徒*たちは、(彼らに)言った。「一体、アッラー*(と、かれのみを崇拝*すること)に、疑念を抱くのか？　諸天と大地の創成者*に？ かれはあなた方のために、あなた方の罪の一部をお赦しになり、あなた方に一定の時期まで(懲罰の)猶予を与えて下さるべく、あなた方を(信仰へ)招いておられるのだ」。彼ら(民)は、(使徒*たちに)言った。「あなた方は、私たちと同様の人間に外なら(ず、使徒*などに相応しいものでは)ない。あなた方は、私たちのご先祖様が崇めていたもの(を私たちが崇めること)から、私たちを阻もうとしているのだ。(あなた方が本当に使徒*)ならば、紛れもなき証拠[1]を私たちに持って来てみよ」。

۞ قَالَتْ رُسُلُهُمْ أَفِي ٱللَّهِ شَكٌّ فَاطِرِ
ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۖ يَدْعُوكُمْ لِيَغْفِرَ لَكُم
مِّن ذُنُوبِكُمْ وَيُؤَخِّرَكُمْ إِلَىٰٓ أَجَلٍ مُّسَمًّى ۚ
قَالُوٓا۟ إِنْ أَنتُمْ إِلَّا بَشَرٌ مِّثْلُنَا تُرِيدُونَ أَن
تَصُدُّونَا عَمَّا كَانَ يَعْبُدُ ءَابَآؤُنَا فَأْتُونَا
بِسُلْطَٰنٍ مُّبِينٍ ١٠

11. 使徒*たちは、彼らに言った。「私たちは、あなた方と同様の人間に外ならない。しかしアッラー*はその僕の内、お望みになる者にお恵みを垂れ給う[2]のだ。また私たちは、アッラー*のお許しもなく、あなた方に証拠[3]をもたらすことは出来ない。信仰者たちには、アッラー*にこそ全てを委ね*させよ。

قَالَتْ لَهُمْ رُسُلُهُمْ إِن نَّحْنُ إِلَّا بَشَرٌ
مِّثْلُكُمْ وَلَٰكِنَّ ٱللَّهَ يَمُنُّ عَلَىٰ مَن يَشَآءُ
مِنْ عِبَادِهِۦ ۖ وَمَا كَانَ لَنَآ أَن نَّأْتِيَكُم
بِسُلْطَٰنٍ إِلَّا بِإِذْنِ ٱللَّهِ ۚ وَعَلَى ٱللَّهِ
فَلْيَتَوَكَّلِ ٱلْمُؤْمِنُونَ ١١

12. また、どうして私たちが、アッラー*に全てを委ねないことがあろうか？ かれは私たちを確かに、(救済への)いくつもの道[4]へとお導きになったというのに。私たちは必ずや、あなた方が私たちを害したことに対して、耐え切るのだ。そして(何かを誰

وَمَا لَنَآ أَلَّا نَتَوَكَّلَ عَلَى ٱللَّهِ وَقَدْ هَدَىٰنَا
سُبُلَنَا ۚ وَلَنَصْبِرَنَّ عَلَىٰ مَآ ءَاذَيْتُمُونَا ۚ وَعَلَى
ٱللَّهِ فَلْيَتَوَكَّلِ ٱلْمُتَوَكِّلُونَ ١٢

1 この「紛れもなき証拠」とは、奇跡のこととされる(イブン・カスィール 4:482 参照)。

2 つまり人間の内、お望みになる者を使徒*としてお選びになる(ムヤッサル 257 頁参照)。

3 この「証拠」については、アーヤ*10 の「紛れもなき証拠」の訳注を参照。

4 あるいは、アッラー*を知り、かれにこそ全ての物事が委ねられている、ということを知るための「いくつもの道」のこと(アル=バイダーウィー3:341 参照)。

かに）委ねる（信仰）者たちには、アッラー*にこそ全てを委ね*させよ」。

13. 不信仰に陥った者*たちは、自分たちの使徒*たちに言った。「私たちは必ずや、あなた方を私たちの土地から追放しよう。さもなくば、あなた方は私たちの宗教に戻る外ないのだ」。それで彼らの主*は、彼ら（使徒*たち）に（こう）啓示した。「われら*はきっと、不正*者たちを滅ぼそう。

وَقَالَ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ لِرُسُلِهِمۡ لَنُخۡرِجَنَّكُم
مِّنۡ أَرۡضِنَآ أَوۡ لَتَعُودُنَّ فِي مِلَّتِنَاۖ فَأَوۡحَىٰٓ
إِلَيۡهِمۡ رَبُّهُمۡ لَنُهۡلِكَنَّ ٱلظَّٰلِمِينَ ١٣

14. そして彼らの（滅亡）後に必ずや、あなた方をその土地に住ませよう。それはわが立ち所[1]を怖れ、わが（罰の）約束を怖れていた者のためのもの」。

وَلَنُسۡكِنَنَّكُمُ ٱلۡأَرۡضَ مِنۢ بَعۡدِهِمۡۚ
ذَٰلِكَ لِمَنۡ خَافَ مَقَامِي وَخَافَ وَعِيدِ ١٤

15. そして彼ら（使徒*たち）は（アッラー*に、敵に対する）勝利を乞い、（真理に対して）尊大で頑迷な全ての者は敗北した。

وَٱسۡتَفۡتَحُواْ وَخَابَ كُلُّ جَبَّارٍ عَنِيدٖ ١٥

16. 彼（不信仰者*）の前には地獄があり、彼は（そこで、その住人の）血膿を飲まされる[2]。

مِّن وَرَآئِهِۦ جَهَنَّمُ وَيُسۡقَىٰ مِن مَّآءٖ صَدِيدٖ ١٦

17. 彼はそれをどうにか飲み込もうとするが、なかなか喉元を通すことが出来ない[3]。そして彼は死人（となって楽）になれないにも関わらず、死（の原因である苦しみ）がありとあらゆる場所から彼のもとを訪れる。また、その後にも、（別の）荒々しい懲罰があるのだ。

يَتَجَرَّعُهُۥ وَلَا يَكَادُ يُسِيغُهُۥ وَيَأۡتِيهِ
ٱلۡمَوۡتُ مِن كُلِّ مَكَانٖ وَمَا هُوَ بِمَيِّتٖۖ
وَمِن وَرَآئِهِۦ عَذَابٌ غَلِيظٞ ١٧

---

1 「わが立ち所」とは、復活の日*にアッラー*の御前に立つことになる、その場のこと（ムヤッサル 257 頁参照）。

2 地獄の民の飲み物については、洞窟章 29、サード章 57、ムハンマド*章 15、出来事章 54-55、消息章 24-25、圧倒的事態章 5 も参照。

3 喉が渇いているにも関わらず、その汚さと熱さ、不味さゆえに、なかなか飲み込めないのだと言われる（アッ＝タバリー6:4789、ムヤッサル 257 頁参照）。ムハンマド*章 15 も参照。

18. 自分たちの主*を否定する者たちの様子、その行いは、強風の日に風が激しくなっ（て、跡形もなく吹き散らしてしまっ）た灰のようなもの。彼らは自分たちが稼いだもの（行い）によって、（アッラー*の御許で）何一つ（益を）得ることがない[1]。それこそは（まっすぐな道から）遠い、迷いなのである。

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ بِرَبِّهِمۡۖ أَعۡمَٰلُهُمۡ
كَرَمَادٍ ٱشۡتَدَّتۡ بِهِ ٱلرِّيحُ فِي يَوۡمٍ
عَاصِفٖۖ لَّا يَقۡدِرُونَ مِمَّا كَسَبُواْ عَلَىٰ
شَيۡءٖۚ ذَٰلِكَ هُوَ ٱلضَّلَٰلُ ٱلۡبَعِيدُ ١٨

19. 一体あなた[2]は、アッラー*が真理ゆえに、諸天と大地をお創りになったことを知らなかったのか？[3]　かれがお望みなら、あなた方を滅ぼされ、新たな創造物[4]をもたらされるのだ。

أَلَمۡ تَرَ أَنَّ ٱللَّهَ خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَ
بِٱلۡحَقِّۚ إِن يَشَأۡ يُذۡهِبۡكُمۡ وَيَأۡتِ بِخَلۡقٖ جَدِيدٖ ١٩

20. そして、それはアッラー*にとって難しいことなどではない。

وَمَا ذَٰلِكَ عَلَى ٱللَّهِ بِعَزِيزٖ ٢٠

21. （復活の日*、）彼らは皆アッラー*へと向かって（馳せ参じるべく、墓から）姿を現す[5]。そして弱者たちは、高慢だった者たち[6]に（、こう）言うのだ。「本当に私たちは（現世で）あなた方に追従していた。それでは（この日、）あなた方は少し

وَبَرَزُواْ لِلَّهِ جَمِيعٗا فَقَالَ ٱلضُّعَفَٰٓؤُاْ لِلَّذِينَ
ٱسۡتَكۡبَرُوٓاْ إِنَّا كُنَّا لَكُمۡ تَبَعٗا فَهَلۡ أَنتُم
مُّغۡنُونَ عَنَّا مِنۡ عَذَابِ ٱللَّهِ مِن شَيۡءٖۚ قَالُواْ
لَوۡ هَدَىٰنَا ٱللَّهُ لَهَدَيۡنَٰكُمۡۖ سَوَآءٌ عَلَيۡنَآ
أَجَزِعۡنَآ أَمۡ صَبَرۡنَا مَا لَنَا مِن مَّحِيصٖ ٢١

---

1 これは、不信仰者*の行いに対する来世での褒美のたとえ。現世での彼らの努力は、散り散りになった灰を回収するようなものであり、彼らはそれによって褒美を得ることが出来ない(イブン・カスィール 4:486-487 参照)。雌牛章 264、イムラーン家章 117、御光章 39-40、識別章 23 も参照。

2 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照（ムヤッサル 258 頁参照)。

3 アッラー*の創造は無意味なものなどではなく、それによってかれの唯一性*と全能性、かれのみが崇拝*に値することを示すためのものであった（前掲書、同頁参照)。イムラーン家章 191「我らが主*よ･･･ありません」の訳注も参照。

4 「新たな創造物」とは、アッラー*に従順な別の民のこと（前掲書、同頁参照)。

5 その日、全人類は、どこにも隠れ場所のない台地に集められる（イブン・カスィール 4:488 参照)。

6 「弱者たち」とは、間違った道における指導者であった「高慢だった者たち」に追従していた者たちや、同調していた者たち（アッ＝サァディー424 頁参照)。

でも、アッラー*の懲罰から私たちを守ってくれるのか？」彼ら（高慢だった者たち）は、言う。「もしアッラー*が私たちをお導きになっていたら、私たちもあなた方を導いていたのだ[1]。私たちが嘆き悲しもうが、忍耐*しようが、私たちにとっては同じこと。私たちに、（懲罰からの）逃げ道などない」。[2]

22. そしてシャイターン*は、事が裁決され（、天国の民と地獄の民が振り分けられ）た後、言う。「本当にアッラー*は、あなた方に（復活と報いという）真実の約束を約束され、私もあなた方に（それらが嘘だと）約束した。そして私は、あなた方を裏切ったのだ。また私には、あなた方に対していかなる（正当な）根拠[3]もなかった。ただ、私はあなた方を（不信仰と迷いへと）招き、あなた方は私に応じたのである。ならば、私を責めるのではなく、自分自身を責めよ。私は（この日、アッラー*の懲罰に対する）あなた方の救護者などではないし、あなた方が私の救護者なのでもない。本当に私は、以前（、現世で）あなた方が私を（アッラー*の）同位者として（服従して）いたこと（に対する責任）[4]を、否定した」。

وَقَالَ ٱلشَّيۡطَٰنُ لَمَّا قُضِيَ ٱلۡأَمۡرُ إِنَّ ٱللَّهَ
وَعَدَكُمۡ وَعۡدَ ٱلۡحَقِّ وَوَعَدتُّكُمۡ
فَأَخۡلَفۡتُكُمۡۖ وَمَا كَانَ لِيَ عَلَيۡكُم
مِّن سُلۡطَٰنٍ إِلَّآ أَن دَعَوۡتُكُمۡ فَٱسۡتَجَبۡتُمۡ
لِيۖ فَلَا تَلُومُونِي وَلُومُوٓاْ أَنفُسَكُمۖ مَّآ أَنَا۠
بِمُصۡرِخِكُمۡ وَمَآ أَنتُم بِمُصۡرِخِيَّ إِنِّي
كَفَرۡتُ بِمَآ أَشۡرَكۡتُمُونِ مِن قَبۡلُۗ إِنَّ
ٱلظَّٰلِمِينَ لَهُمۡ عَذَابٌ أَلِيمٞ ٢٢

1 彼らは自分たちの迷いと、他人を迷わせたことをアッラー*のせいにするが、実際のところは自ら逸脱したがゆえに、アッラー*も彼らを逸脱させられたのである。戦列章 5 も参照（アル＝カースィミー10:3723、参照）。

2 同様の情景の描写として、雌牛章 166-167、高壁章 38、識別章 17-19、物語章 63、部族連合章 67-68、サバア章 31-33、40-41 も参照。

3 あるいは、自分に従うことを無理強いする「力」もなかった、という意味（ムヤッサル 258 頁参照）。

4 つまり、シルク*のこと。

本当に不正*者たち、彼らには痛ましい懲罰があるのだ。[1]

23. そして信仰し、正しい行い*を行った者たちは、その主*のお許しによって、その下から河川が流れる楽園に入れられる。彼らはそこに、永遠に留まる。そこでの彼らの挨拶は、「（あなた方に）平安を[2]」である。

وَأُدۡخِلَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
جَنَّٰتٖ تَجۡرِي مِن تَحۡتِهَا ٱلۡأَنۡهَٰرُ خَٰلِدِينَ
فِيهَا بِإِذۡنِ رَبِّهِمۡۖ تَحِيَّتُهُمۡ فِيهَا سَلَٰمٌ ٢٣

24. （使徒*よ、）あなたは、アッラー*がいかに譬えをお挙げになったのか、知らないのか？ その根っこは堅固であり、その天辺は天に聳える、よき樹木のような、よき言葉（という譬え）を？[3]

أَلَمۡ تَرَ كَيۡفَ ضَرَبَ ٱللَّهُ مَثَلٗا كَلِمَةٗ طَيِّبَةٗ
كَشَجَرَةٖ طَيِّبَةٍ أَصۡلُهَا ثَابِتٞ وَفَرۡعُهَا
فِي ٱلسَّمَآءِ ٢٤

25. それはその主*のお許しによって、あらゆる時節にその果実を振舞う[4]。アッラー*は人々に、数々の譬えを示されるのだ。（それは、）彼らが教訓を得るように、とのためである。

تُؤۡتِيٓ أُكُلَهَا كُلَّ حِينِۭ بِإِذۡنِ رَبِّهَاۗ وَيَضۡرِبُ
ٱللَّهُ ٱلۡأَمۡثَالَ لِلنَّاسِ لَعَلَّهُمۡ
يَتَذَكَّرُونَ ٢٥

26. また、悪い言葉とは、地表から抜かれてしまった、悪い樹木のようなもの[5]。それには、いかなる安定もない。

وَمَثَلُ كَلِمَةٍ خَبِيثَةٖ كَشَجَرَةٍ خَبِيثَةٍ
ٱجۡتُثَّتۡ مِن فَوۡقِ ٱلۡأَرۡضِ مَا لَهَا مِن قَرَارٖ ٢٦

---

1 同様の情景の描写として、カーフ章 27-29 も参照。尚、このアーヤ*の最後の一文は、シャイターン*の言葉の続きという説と、アッラー*の言葉という説がある（アル＝バイダーウィー3:346 参照）。

2 「あなた方に平安を」については、雷鳴章 24 の訳注を参照。

3 ここでの「よき言葉」はシャハーダ*の言葉、「よき樹木」は信仰者、「根っこ」は信仰者の心の中のシャハーダ*の言葉、「天辺は･･･」とは、その言葉によって信仰者の行いが天にまで届く様子である、とされる。また、この「よき樹木」とは、特にナツメヤシの木のことを指している、と言われる（イブン・カスィール 4:491-493 参照）。

4 同様に、信仰という樹木の根っこも知識と信念と共に、信仰者の心にしっかりと根付く。そして正しい行い*や高徳といった枝先の部分は、アッラー*の御許にまで到達し、時を問わずして褒美（ほうび）を得ることになるのである（ムヤッサル 259 頁参照）。

5 これは不信仰の言葉のたとえ。それは心に有益な形で根付かず、自らにとって有害無益な悪い言葉と行いしか、もたらすことがない。また、その行いはアッラー*にまで届かず、それによって自分のことも他人のことも益することがない（アッ＝サァディー425 頁参照）。

27. アッラー*は現世においても来世においても、信仰する者たちを確固とした言葉で堅固にされる[1]。またアッラー*は、不正*者たちを迷わせ給うのだ[2]。アッラー*は、かれがお望みのことをし給うのである。

يُثَبِّتُ ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ بِٱلْقَوْلِ ٱلثَّابِتِ فِى
ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا وَفِى ٱلْءَاخِرَةِ ۖ وَيُضِلُّ ٱللَّهُ
ٱلظَّٰلِمِينَ ۚ وَيَفْعَلُ ٱللَّهُ مَا يَشَآءُ ٢٧

28. 一体あなた[3]は、アッラー*の恩恵[4]を不信仰で取り換え、自分たちの民を破滅の世界へと住まわせた者たちを見なかったのか？

۞ أَلَمْ تَرَ إِلَى ٱلَّذِينَ بَدَّلُوا۟ نِعْمَتَ ٱللَّهِ
كُفْرًا وَأَحَلُّوا۟ قَوْمَهُمْ دَارَ ٱلْبَوَارِ ٢٨

29. 彼らがそこに入って炙られることになる、地獄へと？ その定着地は、何と醜悪であろうか。

جَهَنَّمَ يَصْلَوْنَهَا ۖ وَبِئْسَ ٱلْقَرَارُ ٢٩

30. また、彼ら（不信仰者*たち）は（、人々をイスラーム*という）その道から迷わせるべく、アッラーに同位者を置い（て崇め）た。（使徒*よ、）言ってやれ。「（現世で）楽しんでいよ。本当にあなた方の行き先は、業火なのだから」。

وَجَعَلُوا۟ لِلَّهِ أَندَادًا لِّيُضِلُّوا۟ عَن سَبِيلِهِۦ ۗ
قُلْ تَمَتَّعُوا۟ فَإِنَّ مَصِيرَكُمْ إِلَى ٱلنَّارِ ٣٠

31. （使徒*よ、）信仰するわが僕たちに、言うのだ。いかなる売買[5]も友愛もない（復活の）日*が到来する前に、礼拝を遵守*し、

قُل لِّعِبَادِىَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ يُقِيمُوا۟ ٱلصَّلَوٰةَ
وَيُنفِقُوا۟ مِمَّا رَزَقْنَٰهُمْ سِرًّا وَعَلَانِيَةً مِّن قَبْلِ

---

1 「確固とした言葉」とは、シャハーダ*と、イスラーム*の教えのこと。アッラー*はそれによって人を、現世と来世において堅固にされ、死後に墓場の中で聞かれる天使*たちの質問「あなたの主*は誰か？ あなたの宗教は何か？ あなたの預言者*は誰か？」にも、正しく返答することが出来るようにして下さる（アブー・ダーウード 4753、ムヤッサル 259 頁参照）。

2 現世における彼らの「迷い」とは、「論拠に基づいていないために、試練が訪れると堅固でいられず、失敗してしまうこと」で、来世における「迷い」とは、墓の中の質問に答えられないこととされる（アブー・ハイヤーン 5:423 参照）。

3 この「あなた」については、アーヤ*19 の同語の訳注を参照。

4 この「恩恵」とは、クライシュ族*の不信仰者*たちがマッカ*の聖域で堪能（たんのう）していた安全（雌牛章 125 の訳注も参照）と、預言者*ムハンマド*のこととされる（ムヤッサル 259 頁参照）。戦利品*章 53 とその訳注も参照。

5 「売買」については、雌牛章 254 の訳注も参照。

われら*が彼らに授けたものから秘密裏に、そして公然と（施しとして）費やせ[1]、と。

أَن يَأۡتِيَ يَوۡمٞ لَّا بَيۡعٞ فِيهِ وَلَا خِلَٰلٌ ٣١

32. アッラー*は諸天と大地を創造され、天から（雨）水をお降らしになり、それによって果実というあなた方への糧をお出しになり、そのご命令によって海を航行すべく船をあなた方に仕えさせ、河川をあなた方に仕えさせられた[2]お方。

ٱللَّهُ ٱلَّذِي خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَ وَأَنزَلَ
مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءٗ فَأَخۡرَجَ بِهِۦ مِنَ ٱلثَّمَرَٰتِ رِزۡقٗا
لَّكُمۡۖ وَسَخَّرَ لَكُمُ ٱلۡفُلۡكَ لِتَجۡرِيَ فِي ٱلۡبَحۡرِ
بِأَمۡرِهِۦۖ وَسَخَّرَ لَكُمُ ٱلۡأَنۡهَٰرَ ٣٢

33. また、かれは、あなた方に太陽と月を仕えさせて運行し続けさせ、あなた方に夜と昼を仕えさせられた（お方）。[3]

وَسَخَّرَ لَكُمُ ٱلشَّمۡسَ وَٱلۡقَمَرَ دَآئِبَيۡنِۖ
وَسَخَّرَ لَكُمُ ٱلَّيۡلَ وَٱلنَّهَارَ ٣٣

34. また、かれは、あなた方がかれに求めた全てのものの内から、あなた方にお授けになった（お方）。たとえあなた方がアッラー*の恩恵を数えたとしても、それを数え上げることは叶わない。本当に人間は不正*極まりない者、大変な恩知らずである。

وَءَاتَىٰكُم مِّن كُلِّ مَا سَأَلۡتُمُوهُۚ وَإِن
تَعُدُّواْ نِعۡمَتَ ٱللَّهِ لَا تُحۡصُوهَآۗ إِنَّ ٱلۡإِنسَٰنَ
لَظَلُومٞ كَفَّارٞ ٣٤

35. イブラーヒーム*が、（こう）言った時のこと[4]（を思い起こさせるのだ）。「我が主*よ、この町（マッカ*）を平穏にし[5]、私と、私の子孫が偶像を崇めることから、遠ざけて下さい。

وَإِذۡ قَالَ إِبۡرَٰهِيمُ رَبِّ ٱجۡعَلۡ هَٰذَا ٱلۡبَلَدَ
ءَامِنٗا وَٱجۡنُبۡنِي وَبَنِيَّ أَن نَّعۡبُدَ ٱلۡأَصۡنَامَ ٣٥

---

1 「われらが…費やす」については、雌牛章 3 の訳注を参照。

2 人はそこから自分たち、家畜、農作物のための水を始めとした、様々な利益を得る（前掲書、同頁参照）。

3 アッラー*は太陽と月を月日の計算（ユーヌス*章 5 とその訳注も参照）や、人間の身体、動物、植物の諸益のため、そして夜は休息、昼は活動のためにお創りになった（アッ＝サアディー426 頁参照）。

4 これはイブラーヒーム*が、その息子イスマーイール*とその母親ハージャルを、マッカ*に住まわせた後の祈願の言葉（ムヤッサル 260 頁参照）。マッカ*が本来、アッラー*のみを崇拝*するために設けられ、イブラーヒーム*もそのためにこそカァバ神殿*を建設したという事実が、シルク*の徒であったアラブ人に対して証明されている（イブン・カスィール 4:512 参照）。雌牛章 126-129 とその訳注も参照。

5 雌牛章 125 とその訳注、イムラーン家章 97、物語章 57 も参照。

36. 我が主*よ、それら（偶像）は、多くの人々を（正しい道から）迷わせました。ゆえに私に従った者[1]は誰でも、本当に私の仲間です。そして私に反した者[2]があっても、本当にあなたは（そのような者にも）赦し深く、慈愛深い*お方であられます。

رَبِّ إِنَّهُنَّ أَضْلَلْنَ كَثِيرًا مِّنَ ٱلنَّاسِ ۖ
فَمَن تَبِعَنِى فَإِنَّهُۥ مِنِّى ۖ وَمَنْ عَصَانِى فَإِنَّكَ
غَفُورٌ رَّحِيمٌ ٣٦

37. 我らが主*よ、本当に私は自分の子孫の内の者たちを、あなたの聖なる館（カアバ神殿*）の傍らの、作物も（水も）ない谷間に住まわせました、我らが主*よ、彼らが礼拝を遵守*するために（、私はそうしたのです）[3]。ならば、人々の内の心が彼らへと傾くようにし、種々の果実の内から彼らにお授け下さい[4]。彼らはきっと（あなたに）、感謝するでしょう。

رَّبَّنَآ إِنِّىٓ أَسْكَنتُ مِن ذُرِّيَّتِى بِوَادٍ غَيْرِ ذِى
زَرْعٍ عِندَ بَيْتِكَ ٱلْمُحَرَّمِ رَبَّنَا لِيُقِيمُوا۟
ٱلصَّلَوٰةَ فَٱجْعَلْ أَفْـِٔدَةً مِّنَ ٱلنَّاسِ تَهْوِىٓ
إِلَيْهِمْ وَٱرْزُقْهُم مِّنَ ٱلثَّمَرَٰتِ لَعَلَّهُمْ
يَشْكُرُونَ ٣٧

38. 我らが主*よ、本当にあなたは、私たちが隠すことも露わにすることもご存知です。地でも天でも、アッラー*から姿を暗ますことが出来るものなど、何一つありません。

رَبَّنَآ إِنَّكَ تَعْلَمُ مَا نُخْفِى وَمَا نُعْلِنُ ۗ وَمَا
يَخْفَىٰ عَلَى ٱللَّهِ مِن شَىْءٍ فِى ٱلْأَرْضِ وَلَا فِى
ٱلسَّمَآءِ ٣٨

---

1 タウヒード*と、彼の手法において彼に「従った者」のこと（ムヤッサル 260 頁参照）。

2 一説に、シルク*以外のことに関してイブラーヒーム*に反した者のこと（前掲書、同頁参照）。

3 当時マッカ*は無人かつ不毛の地だったが、イブラーヒーム*はアッラー*からのご命令ゆえに妻ハージャルと幼い息子イスマーイール*をマッカ*に置き去りにした。この祈願の言葉は、彼らの姿が見えなくなった場所で、イブラーヒーム*が唱えたもの。その後、飲み水が尽きてしまったハージャルは幼子を抱え、人を探し回ったが、サファーとマルワの丘（雌牛章 158 の訳注参照）を三往復半した時、ザムザムの水が湧き出てきた。その後、アラブ人のジュルフム族が彼女の許可を得てマッカ*に定住し始め、イスマーイール*はアラブ人の中で育つこととなった（アル＝ブハーリー3364 参照）。

4 カァバ神殿*は巡礼*の場と定められ（巡礼*章 27 参照）、人の心をひきつける秘密が施（ほどこ）された。また、そこにはあらゆる果実がもたらされた（物語章 57 参照）（アッ＝サァディー427 頁参照）。

39. 年老いた私に、イスマーイール*とイスハーク*をお授けになったアッラー*に、全ての称賛*あれ。本当に我が主*は、まさしく祈りを聞き届けられるお方。

ٱلْحَمْدُ لِلَّهِ ٱلَّذِى وَهَبَ لِى عَلَى ٱلْكِبَرِ
إِسْمَٰعِيلَ وَإِسْحَٰقَ ۚ إِنَّ رَبِّى لَسَمِيعُ
ٱلدُّعَآءِ ٣٩

40. 我が主*よ、私を、礼拝を遵守*する者として下さい。また、私の子孫の内の者たちも。そして我らが主*よ、私の祈りをお受け入れ下さい。

رَبِّ ٱجْعَلْنِى مُقِيمَ ٱلصَّلَوٰةِ وَمِن ذُرِّيَّتِى ۚ
رَبَّنَا وَتَقَبَّلْ دُعَآءِ ٤٠

41. 我らが主*よ、清算が行われる日に、私と我が両親[1]、信仰者たちをお赦し下さい」。

رَبَّنَا ٱغْفِرْ لِى وَلِوَٰلِدَىَّ وَلِلْمُؤْمِنِينَ
يَوْمَ يَقُومُ ٱلْحِسَابُ ٤١

42. （使徒*よ、）あなた[2]は、（イブラーヒーム*の宗教に反した）不正*者たち[3]が行っていることに対して、アッラー*が無頓着であられるなどと、断じて思ってはならない。かれは、彼らの眼が（余りの恐怖ゆえに）凝然とするその日まで、彼らを猶予されるに過ぎないのだから。

وَلَا تَحْسَبَنَّ ٱللَّهَ غَٰفِلًا عَمَّا يَعْمَلُ
ٱلظَّٰلِمُونَ ۚ إِنَّمَا يُؤَخِّرُهُمْ لِيَوْمٍ تَشْخَصُ
فِيهِ ٱلْأَبْصَٰرُ ٤٢

43. （彼らはその日、）あたふたと（墓場から現れ、）自分たちの頭を上げた状態のまま。（余りの恐怖ゆえ、）彼らの瞬きは自分たちに戻ることもなく[4]、その心は虚ろである。

مُهْطِعِينَ مُقْنِعِى رُءُوسِهِمْ لَا يَرْتَدُّ
إِلَيْهِمْ طَرْفُهُمْ ۖ وَأَفْـِٔدَتُهُمْ هَوَآءٌ ٤٣

44. （使徒*よ、）人々に警告せよ、彼らに懲罰が到来し、（不信仰という）不正*を働いた者たちが（、こう）言う（復活の）日*のことを。「我らが主*よ、短い期間だけ、私た

وَأَنذِرِ ٱلنَّاسَ يَوْمَ يَأْتِيهِمُ ٱلْعَذَابُ
فَيَقُولُ ٱلَّذِينَ ظَلَمُوا۟ رَبَّنَآ أَخِّرْنَآ إِلَىٰٓ أَجَلٍ
قَرِيبٍ نُّجِبْ دَعْوَتَكَ وَنَتَّبِعِ ٱلرُّسُلَ ۗ أَوَلَمْ
تَكُونُوٓا۟ أَقْسَمْتُم مِّن قَبْلُ مَا لَكُم

---

1 これは、彼の父親がアッラー*の敵であることが明らかにされる前のこと（ムヤッサル 260 頁参照）。詳しくは悔悟章 114、マルヤム*章 47、試問される女章 4 も参照。

2 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照（アッ＝シャウカーニー3:157 参照）。

3 使徒*の嘘つき呼ばわりや、信仰者の迫害などの罪を犯す「不正*者たち」（ムヤッサル 260 頁参照）。

4 つまり瞬きすることもなく、眼が見開かれたままの状態（アル＝カースィミー10:3737 参照）。

ちに猶予をお授け下さい。あなたの呼びかけに応え、使徒*たちに従いますから」。[1]（すると、彼らにこう言われる。）「あなた方は以前、自分たちには（現世から来世への）移転などない、と誓いを立てたのではなかったか？

مِّن زَوَالٍ ﴿٤٤﴾

45. また、あなた方は、自らに不正*を働いた（過去の不信仰）者*たちの住処に滞在した[2]。われら*が彼らに対していかなる仕打ちをしたか、あなた方には明らかになったのである。われら*は（このクルアーン*の中で）、あなた方にいくつもの譬えを挙げたのだ」。

وَسَكَنتُمْ فِي مَسَٰكِنِ ٱلَّذِينَ ظَلَمُوٓا۟ أَنفُسَهُمْ
وَتَبَيَّنَ لَكُمْ كَيْفَ فَعَلْنَا بِهِمْ وَضَرَبْنَا
لَكُمُ ٱلْأَمْثَالَ ﴿٤٥﴾

46. 彼ら（シルク*の徒）は確かに、自分たちの策謀を企んだ。そして彼らの策謀は、アッラー*の御許にこそ（掌握されて）ある[3]。彼らの策謀は（その脆弱さゆえ）、それによって山々を動かすこともないのだ。

وَقَدْ مَكَرُوا۟ مَكْرَهُمْ وَعِندَ ٱللَّهِ مَكْرُهُمْ
وَإِن كَانَ مَكْرُهُمْ لِتَزُولَ مِنْهُ
ٱلْجِبَالُ ﴿٤٦﴾

47. だから（使徒*よ）、アッラー*が、かれの使徒*たちに対するそのお約束をお破りになるなどと、あなた[4]は断じて考えてはならない。本当にアッラー*は偉力ならびない*お方であり、報復の主*なのだから。

فَلَا تَحْسَبَنَّ ٱللَّهَ مُخْلِفَ وَعْدِهِۦ رُسُلَهُۥٓ
إِنَّ ٱللَّهَ عَزِيزٌ ذُو ٱنتِقَامٍ ﴿٤٧﴾

---

1 いざ復活の日*（あるいは死）が到来すると、彼らは現世での猶予を求めたり、自分たちを現世に返してくれることを頼んだりする。だが、もちろんそれは叶わない。家畜章 27-28、高壁章 53、信仰者たち章 99-100、アッ＝サジダ*章 12、創成者*章 37、赦し深いお方章 11-12、相談章 44、偽信者*たち章 10-11 も参照。

2 アラブ人たちは旅をする際、サムード*の地やアード*の地に立ち寄ったものだった（イブン・アーシュール 13:249 参照）。

3 不信仰者*らは預言者*ムハンマド*の暗殺など、様々な策謀を図った。しかしアッラー*はそのような策謀を全てご存知であり、その悪い策謀の結末は彼らに返って来ることになる（ムヤッサル 261 頁参照）。

4 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照（前掲書、同頁参照）。

48. 大地がその大地ではない（別の）もの[1]に、そして諸天もまた（その諸天ではない別のものに）取って代わられる日（の報復である）。彼らは、唯一で*全てに君臨し給う*アッラー*へと（馳せ参じるべく、墓から）姿を現す[2]。

يَوْمَ تُبَدَّلُ ٱلْأَرْضُ غَيْرَ ٱلْأَرْضِ وَٱلسَّمَٰوَٰتُ ۖ وَبَرَزُوا۟ لِلَّهِ ٱلْوَٰحِدِ ٱلْقَهَّارِ ﴿٤٨﴾

49. （使徒*よ、）あなたは（復活の）その日、不正*者たちが枷で、がんじがらめにされている[3]のを見る。

وَتَرَى ٱلْمُجْرِمِينَ يَوْمَئِذٍ مُّقَرَّنِينَ فِى ٱلْأَصْفَادِ ﴿٤٩﴾

50. 彼らの衣服はタール[4]で出来ており、炎が彼らの顔を覆う。

سَرَابِيلُهُم مِّن قَطِرَانٍ وَتَغْشَىٰ وُجُوهَهُمُ ٱلنَّارُ ﴿٥٠﴾

51. （それは）アッラー*が全ての者を、（善行であれ悪行であれ、）彼が稼いだものによってお報いになるためである。本当にアッラー*は、即座に計算される*お方。

لِيَجْزِىَ ٱللَّهُ كُلَّ نَفْسٍ مَّا كَسَبَتْ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ سَرِيعُ ٱلْحِسَابِ ﴿٥١﴾

52. これ（クルアーン*）は、人々への布告である。（アッラー*はそれを彼らへの忠告のため、）そして彼らがそれによって警告を受け、かれ（アッラー*）が唯一の崇拝*されるべき存在に外ならないということを知り、澄んだ知性の持ち主たちが教訓を得るために（下されたのである）。

هَٰذَا بَلَٰغٌ لِّلنَّاسِ وَلِيُنذَرُوا۟ بِهِۦ وَلِيَعْلَمُوٓا۟ أَنَّمَا هُوَ إِلَٰهٌ وَٰحِدٌ وَلِيَذَّكَّرَ أُو۟لُوا۟ ٱلْأَلْبَٰبِ ﴿٥٢﴾

---

1 大地と諸天が「取って代わられる」ことには、①その性質が変化する、②別の物と取り換えられる、という説がある。①の説の場合、大地は「丘が平坦になり、山々が粉々になり、広く伸ばされ」、諸天は「太陽と月が巻き込まれ、星々が落下する（巻き込む章 1-2 参照）」あるいは「時には解けた鉛のように（階段章 8 参照）、時には溶けた脂のように（慈悲あまねき*お方章 37 参照）なったりする」。②の説の場合、大地と取り換えられるものは「地獄の架け橋（鉄章 12 とその訳注を参照）」「純白の薄いパンのような、ピンク色のかった白色の大地（アル＝ブハーリー6521 参照）」、また「大地は銀、天は金となる」（アル＝クルトゥビー9: 383-384 参照）「諸天は楽園となる」（イブン・カスィール 4:521 参照）といった諸説もある。

2 アーヤ*21 とその訳注も参照。

3 識別章 13 とその訳注も参照。

4 一説には、高熱で溶解した銅や真鍮（しんちゅう）のこと（アッ＝タバリー6:4855-4859 参照）。預言*者たち章 19 も参照。

第 15 章
アル＝ヒジュル章[1]

سُورَةُ الحِجۡرِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. アリフ・ラーム・ラー[2]。それは啓典と解明する[3]クルアーン*の、御徴（アーヤ*）。

2. 不信仰だった者*たちは、自分たちが（現世で、）服従する者（ムスリム*）であったなら、と望むことになるかもしれない。[4]

3. （使徒*よ、）彼ら（不信仰者*たち）のことは放っておけ。（そうすれば、）彼らは食べ、（現世を）楽しみ、（空しい）期待が彼らを（アッラー*への服従とは別のことに）勤しませよう。（そうとなれば）彼らは、やがて（自分たちの悪い結末を）知ることになるのである。

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

الٓرۚ تِلۡكَ ءَايَٰتُ ٱلۡكِتَٰبِ وَقُرۡءَانٖ مُّبِينٖ ١

رُّبَمَا يَوَدُّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ لَوۡ كَانُواْ
مُسۡلِمِينَ ٢

ذَرۡهُمۡ يَأۡكُلُواْ وَيَتَمَتَّعُواْ وَيُلۡهِهِمُ ٱلۡأَمَلُۖ
فَسَوۡفَ يَعۡلَمُونَ ٣

---

1 マッカ*啓示。クルアーン*と預言者*ムハンマド*の真実性、アッラー*の創造の偉大さが確証された後、アーダム*とイブリース*を始めとした、各預言者*とその民の間に起こった出来事とその結末が、信仰者への吉報と不信仰者*に対する警告と共に描写される。スーラ*名は、この流れで言及された「アル＝ヒジュルの仲間たち（アーヤ*80 参照）」、つまりサムード*の民に由来。また、苦境にあった預言者*ムハンマド*への慰（なぐさ）めと、崇拝*と布教における努力の命令なども示されている。

2 これらの文字については、頻出名・用語解説「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 クルアーン*は、最も素晴らしく、最も明白で、最も的確な意味の語によって、真実を「解明する」。尚このアーヤ*の「啓典」もまた、クルアーン*のことを指しているとされる（ムヤッサル 262 頁参照）。

4 「望むことになるかもしれないから、注意せよ」という警告と蔑（さげす）みの念を含む、アラビア語的表現。実際のところ、彼らは絶対にそう望むことになる（イブン・アーシュール 14:11 参照）。これが、いつのことかに関しては、「地獄に直面する時」「死ぬ時」「復活の日*」「罪深かったムスリム*が地獄から出されるのを、彼らが目にした時」といった諸説がある（イブン・カスィール 4:524 参照）。

4. （使徒*よ、不信仰者*たちが、早く懲罰を下してみよ、と挑んできたにせよ、）われら*がどんな町を滅ぼす時でも、そこには定められた期限があったのだ。[1]

وَمَآ أَهۡلَكۡنَا مِن قَرۡيَةٍ إِلَّا وَلَهَا كِتَابٞ مَّعۡلُومٞ ٤

5. いかなる共同体も、その（滅亡の）期限に先駆けることもなければ、遅れることもない。

مَّا تَسۡبِقُ مِنۡ أُمَّةٍ أَجَلَهَا وَمَا يَسۡتَـٔۡخِرُونَ ٥

6. 彼らは（預言者*ムハンマド*に、嘲笑まじりに）言った。「訓戒（クルアーン*）を下された者よ、本当にあなたは、まさしく憑かれた者[2]である。

وَقَالُواْ يَـٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِي نُزِّلَ عَلَيۡهِ ٱلذِّكۡرُ إِنَّكَ لَمَجۡنُونٞ ٦

7. 天使*を連れて来てみよ。もし、あなたが正直者の類いだというのなら[3]」。

لَّوۡ مَا تَأۡتِينَا بِٱلۡمَلَـٰٓئِكَةِ إِن كُنتَ مِنَ ٱلصَّـٰدِقِينَ ٧

8. われら*が天使*を下すのは、真理[4]と共にのみ。そして彼らは、そうすれば、（もはや懲罰を）猶予された者たちではなくなる。[5]

مَا نُنَزِّلُ ٱلۡمَلَـٰٓئِكَةَ إِلَّا بِٱلۡحَقِّ وَمَا كَانُوٓاْ إِذٗا مُّنظَرِينَ ٨

9. 本当にわれら*は訓戒（クルアーン*）を下したのであり、実にわれら*がまさしく、その守護者[6]なのである。

إِنَّا نَحۡنُ نَزَّلۡنَا ٱلذِّكۡرَ وَإِنَّا لَهُۥ لَحَٰفِظُونَ ٩

---

1 同様のアーヤ*として、家畜章 57-58、戦利品*章 32、ユーヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、サード章 16、相談章 18、階段章 1-2 なども参照。

2 彼らは、「『あなた方のご先祖が崇めていた（アッラー*以外の）神々を棄（す）て、私に従いなさい』という、彼の主張」、または「自分に訓戒が下されたという、彼の主張」、あるいは単なる嘲笑ゆえに、彼を「憑かれた者」と呼んだのである（アル＝カースィミー10:3747 参照）。

3 家畜章 8-9、111、夜の旅章 92、識別章 7 も参照。

4 この「真理」には、「クルアーン*」「アッラー*の教えの伝達」「懲罰」といった解釈がある（アル＝クルトゥビー10:4 参照）。

5 家畜章 8 とその訳注も参照。

6 アッラー*ご自身が、クルアーン*をあらゆる改竄（かいざん）からお守りになる（ムヤッサル 262 頁参照）。詳細にされた章 41-42 とその訳注も参照。

10. （使徒*よ、）われら*はあなた以前にも確かに、昔の人々の各集団に（使徒*たちを）遣わした。

وَلَقَدْ أَرْسَلْنَا مِن قَبْلِكَ فِي شِيَعِ الْأَوَّلِينَ ١٠

11. そして彼らのもとに使徒*が訪れた時は決まって、彼らは彼（使徒*）のことを嘲笑したものだった。

وَمَا يَأْتِيهِم مِّن رَّسُولٍ إِلَّا كَانُوا بِهِ يَسْتَهْزِئُونَ ١١

12. （それらの者たちと）同様に、われら*は（アッラー*を否定し、その使徒*を嘘つき呼ばわりした）罪悪者たち[1]の心にも、それ[2]を差し込むのである。

كَذَٰلِكَ نَسْلُكُهُ فِي قُلُوبِ الْمُجْرِمِينَ ١٢

13. 彼らはそれ（クルアーン*）を信じない。確かに昔の人々（に対するアッラー*）の摂理は、先んじた[3]というのに。

لَا يُؤْمِنُونَ بِهِ ۖ وَقَدْ خَلَتْ سُنَّةُ الْأَوَّلِينَ ١٣

14. もし、われら*が彼ら（マッカ*の不信仰者*たち）に天の扉を開けてやり、彼らがそこを昇り続け（、そこでアッラー*の王国の驚異を目の当たりにし）たとしても、

وَلَوْ فَتَحْنَا عَلَيْهِم بَابًا مِّنَ السَّمَاءِ فَظَلُّوا فِيهِ يَعْرُجُونَ ١٤

15. 彼らは（、こう）言ったであろう。「私たちの眼は、封じられてしまったに違いない。いや、私たちは魔術をかけられた民なのだ」。

لَقَالُوا إِنَّمَا سُكِّرَتْ أَبْصَارُنَا بَلْ نَحْنُ قَوْمٌ مَّسْحُورُونَ ١٥

16. われら*は確かに、天に星座を設け、観る者のためにそれ（天）を飾り付けた。

وَلَقَدْ جَعَلْنَا فِي السَّمَاءِ بُرُوجًا وَزَيَّنَّاهَا لِلنَّاظِرِينَ ١٦

17. そしてそれ（天）を、全ての追放された[4]シャイターン*から、守った。

وَحَفِظْنَاهَا مِن كُلِّ شَيْطَانٍ رَّجِيمٍ ١٧

---

1 この「罪悪者たち」は特に、預言者*ムハンマド*の民のシルク*の徒のこと（ムヤッサル262頁参照）。

2 使徒*たちを嘲笑し、嘘つき呼ばわりしたことゆえに、不信仰を「差し込む」（前掲書、同頁参照）。

3 「昔の人々の摂理は･･･」については、戦利品*章38の訳注を参照。

4 「追放された」については、イムラーン家章36の訳注を参照。

18. しかし（彼らの内、天上界の言葉を）盗(ぬす)み聞きし、それで鮮明(せんめい)なる流星が追尾(ついび)（して、焼殺(しょうさつ)）する者は別だが[1]。

إِلَّا مَنِ ٱسْتَرَقَ ٱلسَّمْعَ فَأَتْبَعَهُۥ شِهَابٌ
مُّبِينٌ ١٨

19. また、大地はといえば、われら*はそれを広げ、そこに堅固(けんご)な山々を置き、またそこに（最適の量に）調整された全てのもの（植物）を生育させた。

وَٱلْأَرْضَ مَدَدْنَٰهَا وَأَلْقَيْنَا فِيهَا رَوَٰسِىَ
وَأَنۢبَتْنَا فِيهَا مِن كُلِّ شَىْءٍ مَّوْزُونٍ ١٩

20. また、あなた方のため、そこに生活の糧(かて)と、あなた方がそれを養(やしな)うわけではないもの[2]を（創り）設(しつら)えた。

وَجَعَلْنَا لَكُمْ فِيهَا مَعَٰيِشَ وَمَن لَّسْتُمْ لَهُۥ
بِرَٰزِقِينَ ٢٠

21. （僕(しもべ)を益(えき)する）いかなるものも、われら*の御許(みもと)にこそ、その宝庫がある。そしてわれら*はそれを、決められた量しか下さない[3]。

وَإِن مِّن شَىْءٍ إِلَّا عِندَنَا خَزَآئِنُهُۥ وَمَا
نُنَزِّلُهُۥٓ إِلَّا بِقَدَرٍ مَّعْلُومٍ ٢١

22. われら*は授粉(じゅふん)の風[4]を送り、天から（雨）水を降(ふ)らし、あなた方をそれで潤(うるお)した。あなた方が、それを貯めておく者ではないのだ[5]。

وَأَرْسَلْنَا ٱلرِّيَٰحَ لَوَٰقِحَ فَأَنزَلْنَا مِنَ ٱلسَّمَآءِ
مَآءً فَأَسْقَيْنَٰكُمُوهُ وَمَآ أَنتُمْ لَهُۥ بِخَٰزِنِينَ ٢٢

23. そして本当にわれら*こそが、生かし、死なせるのであり、われら*が相続者[6]なのである。

وَإِنَّا لَنَحْنُ نُحْىِۦ وَنُمِيتُ وَنَحْنُ ٱلْوَٰرِثُونَ ٢٣

---

1 ただし、それは啓示以外に関することであり、シャイターン*は盗み聞きしたことを占い師などに伝えた後、流星で撃たれるのだという（アル＝クルトゥビー10:10-11 参照）。詩人たち章 223 の訳注、整列者章 6-10、王権章 5、ジン*章 8-9 も参照。

2 子孫、下働きの者、家畜などのこと。それらに糧を与えるのは、アッラー*以外にはない（ムヤッサル 263 頁参照）。

3 アッラー*はそのご慈悲と英知に即した形で、諸益の宝庫からお望みの者に与えられ、お望みの者には控えられる（前掲書、同頁参照）。

4 風によって水が運ばれ、それが雲となって雨を降らす様が、風による雲の授粉に譬（たと）えられている。また風には木々の花粉を運び、授粉を促す役割もある（前掲書、同頁参照）。

5 アーヤ*21 の訳注も参照。

6 この「相続者」については、イムラーン家章 180「諸天と大地の遺産は･･･」についての訳注を参照。

24. またわれら*は、あなた方の内の先んじた者たちも確かに知っているし、後からやって来る者たち[1]のことも確かに知っている。

وَلَقَدۡ عَلِمۡنَا ٱلۡمُسۡتَقۡدِمِينَ مِنكُمۡ وَلَقَدۡ
عَلِمۡنَا ٱلۡمُسۡتَـٔۡخِرِينَ ٢٤

25. そして本当にあなたの主*こそは、彼らを（復活の日*に、清算と報いのため）召集される。本当にかれは英知あふれる*お方、全知者であられる。

وَإِنَّ رَبَّكَ هُوَ يَحۡشُرُهُمۡۚ إِنَّهُۥ حَكِيمٌ عَلِيمٞ ٢٥

26. われら*は確かに人間（アーダム*）を、変質した[2]黒土が乾いたものから創った。[3]

وَلَقَدۡ خَلَقۡنَا ٱلۡإِنسَٰنَ مِن صَلۡصَٰلٖ مِّنۡ حَمَإٖ
مَّسۡنُونٖ ٢٦

27. そして、ジン*の祖（イブリース*）。われら*は彼をそれ以前に、無煙の熱い炎[4]から創った。

وَٱلۡجَآنَّ خَلَقۡنَٰهُ مِن قَبۡلُ مِن نَّارِ ٱلسَّمُومِ ٢٧

28. （使徒*よ、）あなたの主*が天使*たちに（こう）仰せられた時のこと[5]（を思い起こさせよ）。「本当にわれは、人間（アーダム*）を変質した黒土が乾いたものから創ろう。[6]

وَإِذۡ قَالَ رَبُّكَ لِلۡمَلَٰٓئِكَةِ إِنِّي خَٰلِقُۢ بَشَرٗا مِّن
صَلۡصَٰلٖ مِّنۡ حَمَإٖ مَّسۡنُونٖ ٢٨

---

1 前者が「アッラー*への服従行為と善行によって、（アッラー*に）近づく者たち」、後者が「罪と悪行によって、（アッラー*から）遠ざかる者たち」という解釈もある（アル＝クルトゥビー10:19 参照）。

2 「変質した（マスヌーン）」の解釈には「湿り気があり悪臭のする」「撒（ま）かれた」「形づくられた」といった別説もある（前掲書 10:21-23 参照）。

3 クルアーン*の中では、アーダム*は「土」「泥土」「変質した黒土」「乾いた土」という、異なる性質の土から創造されたと言及されている。多くの解釈学者によれば、土が固まって泥土となり、それから時間が経って悪臭を放つ変質した黒土となり、それから乾いた土となる、という段階を経て、アーダム*が創られたのだとされる（前掲書 10:21 参照）。

4 「熱風」という解釈もある（アル＝バガウィー3:57 参照）。

5 同様の情景を描写するアーヤ*として、雌牛章 34-39、高壁章 11-25、夜の旅章 61-65、ター・ハー章 116-123、サード章 71 以降も参照。

6 アーヤ*26 の訳注も参照。

29. それでわれがそれを整え、そこにわが魂[1]から吹き込んだら、彼にサジダ*[2]せよ」。

فَإِذَا سَوَّيْتُهُۥ وَنَفَخْتُ فِيهِ مِن رُّوحِى فَقَعُوا۟
لَهُۥ سَـٰجِدِينَ ٢٩

30. すると天使*たちは皆、一斉にサジダ*した。

فَسَجَدَ ٱلْمَلَـٰٓئِكَةُ كُلُّهُمْ أَجْمَعُونَ ٣٠

31. 但しイブリース*だけは別で、彼はサジダ*する者たちと共にあることを拒んだ。

إِلَّآ إِبْلِيسَ أَبَىٰٓ أَن يَكُونَ مَعَ ٱلسَّـٰجِدِينَ ٣١

32. かれ（アッラー*）は、仰せられた。「イブリース*よ、あなたがサジダ*する者たちと共にないのは、どうしたことか？」

قَالَ يَـٰٓإِبْلِيسُ مَا لَكَ أَلَّا تَكُونَ مَعَ ٱلسَّـٰجِدِينَ ٣٢

33. 彼（イブリース*）は、申し上げた。「変質した黒土が乾いたものから、あなたがお創りになった人間[3]にサジダ*するなど、私には相応しくありません」。[4]

قَالَ لَمْ أَكُن لِّأَسْجُدَ لِبَشَرٍ خَلَقْتَهُۥ مِن
صَلْصَـٰلٍ مِّنْ حَمَإٍ مَّسْنُونٍ ٣٣

34. かれ（アッラー*）は、仰せられた。「ならば、そこ[5]から出て行くがよい。まさにあなたは追放された[6]者なのであり、

قَالَ فَٱخْرُجْ مِنْهَا فَإِنَّكَ رَجِيمٌ ٣٤

35. 本当にあなたの上には、報いの日*まで呪いがあるのだから」。

وَإِنَّ عَلَيْكَ ٱللَّعْنَةَ إِلَىٰ يَوْمِ ٱلدِّينِ ٣٥

36. 彼（イブリース*）は、申し上げた。「我が主*よ、では私に、彼らが蘇らされる（復活の）日*まで猶予をお授け下さい」。

قَالَ رَبِّ فَأَنظِرْنِىٓ إِلَىٰ يَوْمِ يُبْعَثُونَ ٣٦

---

1 この「魂」とは、霊妙（れいみょう）な物質のこと。アッラー*はこの物質と共に、肉体に生を宿らせられる。尚「魂」が「わが」という、アッラー*の修飾を受けているのは、「アッラー*の雌ラクダ（預言者*サーリフ*の奇跡）」「アッラー*の館（カァバ神殿*）」などと同様、特別な栄誉を表しているためとされる（アル＝クルトゥビー10:24参照）。

2 このサジダ*については、雌牛章 34 の訳注を参照。

3 アーヤ*26 とその訳注も参照。

4 高壁章 12 の訳注も参照。

5 楽園のこと（ムヤッサル 264 頁参照）。雌牛章 35 の訳注も参照。

6 「追放された」については、イムラーン家章 36 の訳注を参照。

37. かれ（アッラー*）は、仰せられた。「それでは、実にあなたは、猶予される者の一人である、

قَالَ فَإِنَّكَ مِنَ ٱلْمُنظَرِينَ ٣٧

38. （角笛[1]に最初に吹き込まれる、）定められた時の日まで」。[2]

إِلَىٰ يَوْمِ ٱلْوَقْتِ ٱلْمَعْلُومِ ٣٨

39. 彼（イブリース*）は、申し上げた。「我が主*よ、あなたが私を誤らせたのですから、私は必ずや地上で、彼ら（アーダム*の子ら）に（、あなたへの不服従を）目映くして見せ、彼ら全員を必ずや、（正しい道から）踏み誤らせてみせましょう。

قَالَ رَبِّ بِمَآ أَغْوَيْتَنِى لَأُزَيِّنَنَّ لَهُمْ فِى
ٱلْأَرْضِ وَلَأُغْوِيَنَّهُمْ أَجْمَعِينَ ٣٩

40. 彼らの内、精選されたあなたの僕たち[3]はその限りではありませんが」。

إِلَّا عِبَادَكَ مِنْهُمُ ٱلْمُخْلَصِينَ ٤٠

41. かれ（アッラー*）は、仰せられた。「これはわれへの、まっすぐな道である。

قَالَ هَٰذَا صِرَٰطٌ عَلَىَّ مُسْتَقِيمٌ ٤١

42. 本当に（精選された）わが僕たち、彼ら（の心を、まっすぐな道から迷わせること）に対し、あなたにはいかなる力もない。但し、踏み誤った者たちの内、あなたに従った者は別だが。

إِنَّ عِبَادِى لَيْسَ لَكَ عَلَيْهِمْ سُلْطَٰنٌ إِلَّا مَنِ
ٱتَّبَعَكَ مِنَ ٱلْغَاوِينَ ٤٢

43. そして本当に地獄が、まさしく彼ら（イブリース*とその追従者たち）全員の、約束の場である。

وَإِنَّ جَهَنَّمَ لَمَوْعِدُهُمْ أَجْمَعِينَ ٤٣

44. そこには七つの門がある。その各々の門には、彼ら（イブリース*の追従者たち）の内からの割り当て分があるのだ」。[4]

لَهَا سَبْعَةُ أَبْوَٰبٍ لِّكُلِّ بَابٍ مِّنْهُمْ جُزْءٌ
مَّقْسُومٌ ٤٤

---

1 この「角笛」については、家畜章 73 とその訳注を参照。

2 イブリース*の申し出が受け入れられたことについては、高壁章 15 の訳注を参照。

3 「精選されたアッラー*の僕」については、ユースフ*章 24 の訳注を参照。

4 「門」とは、つまり「階層」のこと（アル＝クルトゥビー10:30 参照）。彼らは自分たちの行いに応じて、各層に入れられることになる（ムヤッサル 264 頁参照）。

45. 本当に敬虔な*者たちは、楽園と泉の中にある。

إِنَّ ٱلْمُتَّقِينَ فِي جَنَّٰتٍ وَعُيُونٍ ٤٥

46. （彼らにはこう言われる。）「平安と共に、安全にそこに入りなさい[1]」。

ٱدْخُلُوهَا بِسَلَٰمٍ ءَامِنِينَ ٤٦

47. そしてわれら*は、彼らの胸中にある憎しみの念を一掃する[2]。寝台の上、互いに向かい合う[3]同胞として。

وَنَزَعْنَا مَا فِي صُدُورِهِم مِّنْ غِلٍّ إِخْوَٰنًا عَلَىٰ
سُرُرٍ مُّتَقَٰبِلِينَ ٤٧

48. そこでは疲労が彼らを襲うこともなく、彼らがそこから出されることもない。

لَا يَمَسُّهُمْ فِيهَا نَصَبٌ وَمَا هُم مِّنْهَا
بِمُخْرَجِينَ ٤٨

49. （使徒*よ、）わが僕たちに伝えよ、われこそは赦し深い者、慈愛深き*者であるということを。

۞ نَبِّئْ عِبَادِيٓ أَنِّيٓ أَنَا ٱلْغَفُورُ ٱلرَّحِيمُ ٤٩

50. そしてわが懲罰こそは、痛ましい懲罰であることを。

وَأَنَّ عَذَابِي هُوَ ٱلْعَذَابُ ٱلْأَلِيمُ ٥٠

51. また（使徒*よ）、イブラーヒーム*の客人（人間の姿を借りた天使*）たちについて、彼らに伝えよ。[4]

وَنَبِّئْهُمْ عَن ضَيْفِ إِبْرَٰهِيمَ ٥١

52. 彼らが、彼（イブラーヒーム*）のところに入って来て、「（あなたに）平安を[5]」と言った時のこと（を思い出せ）。彼は言った。「本当に私たちは、あなた方のことが怖いのです」。[6]

إِذْ دَخَلُوا۟ عَلَيْهِ فَقَالُوا۟ سَلَٰمًا قَالَ إِنَّا مِنكُمْ
وَجِلُونَ ٥٢

1 天国は、死、疲労、戯言（たわごと）、そこでの恩恵の消失、病気、悲しみ、不安など、あらゆる悩みの種から安全な場所である（アッ＝サァディー431 頁参照）。

2 「憎しみの念を一掃する」については、高壁章 43 の訳注を参照。

3 天国の民は互いに訪問し、集まり合い、お互いに向き合って背を見せることもない（前掲書、同頁参照）。

4 同じ場面を描写するアーヤ*として、フード*章 69-76、蜘蛛章 31-32、撒き散らすもの章 24-34 も参照。

5 「（あなたに）平安を」については、家畜章 54 の訳注も参照。

6 イブラーヒーム*はまず彼らの挨拶に応じ、それから彼らに食事を出したが、彼らはそれに手をつけなかったので「怖くなった」（ムヤッサル 265 頁参照）。フード*章 69-70、撒き散らすもの章 25-28 も参照。

53. 彼ら（天使*たち）は、言った。「怖がるのではない。実に私たちはあなたに、有識な男の子[1]（の出産について）の吉報を告げるのだから」。

قَالُواْ لَا تَوۡجَلۡ إِنَّا نُبَشِّرُكَ بِغُلَٰمٍ عَلِيمٖ ٥٣

54. 彼（イブラーヒーム*）は、言った。「一体あなた方は、高齢に達した私に、（出産の）吉報をお告げになりましたか？　一体あなた方は、何という（突拍子もない）吉報をお告げになるのでしょう？」

قَالَ أَبَشَّرۡتُمُونِي عَلَىٰٓ أَن مَّسَّنِيَ ٱلۡكِبَرُ فَبِمَ
تُبَشِّرُونَ ٥٤

55. 彼ら（天使*たち）は、言った。「私たちはあなたに、真理の吉報を告げたのである。だから、絶望する者の類いとなってはならない」。

قَالُواْ بَشَّرۡنَٰكَ بِٱلۡحَقِّ فَلَا تَكُن مِّنَ
ٱلۡقَٰنِطِينَ ٥٥

56. 彼（イブラーヒーム*）は、言った。「（私は絶望などしませんし、）自分の主*のご慈悲に絶望するのは、（真理の道から）迷った者たちだけです」。

قَالَ وَمَن يَقۡنَطُ مِن رَّحۡمَةِ رَبِّهِۦٓ إِلَّا
ٱلضَّآلُّونَ ٥٦

57. 彼（イブラーヒーム*）は、言った。「では、あなた方のご用件は何なのでしょう、御使いたちよ」。

قَالَ فَمَا خَطۡبُكُمۡ أَيُّهَا ٱلۡمُرۡسَلُونَ ٥٧

58. 彼ら（天使*たち）は、言った。「本当に私たちは、罪悪者である民へと（、彼らを滅ぼすべく）遣わされたのです。

قَالُوٓاْ إِنَّآ أُرۡسِلۡنَآ إِلَىٰ قَوۡمٖ مُّجۡرِمِينَ ٥٨

59. 但しルート*の一族だけは別で、本当に私たちは、彼ら全員を必ずや救います。

إِلَّآ ءَالَ لُوطٍ إِنَّا لَمُنَجُّوهُمۡ أَجۡمَعِينَ ٥٩

60. しかし彼の妻は、その限りではありませんが。私たちは（アッラー*のご命令により）、まさしく彼女が残っ（て滅ぼされ）た者たちの一人となるよう、決めたのです」。

إِلَّا ٱمۡرَأَتَهُۥ قَدَّرۡنَآ إِنَّهَا لَمِنَ ٱلۡغَٰبِرِينَ ٦٠

1 イスハーク*のこと。フード*章 71 も参照。

61. それでルート*の一族のもとに、御使(みつか)いたちがやって来た時、[1]

فَلَمَّا جَآءَ ءَالَ لُوطٍ ٱلۡمُرۡسَلُونَ ٦١

62. 彼（ルート*）は言った。「本当にあなた方は、見慣れない方々ですね」。

قَالَ إِنَّكُمۡ قَوۡمٞ مُّنكَرُونَ ٦٢

63. 彼ら（天使*たち）は、言った。「いや（、怖(こわ)がるのではない）、私たちは、彼らが疑(うたが)わしく思っていたもの（彼らへの懲罰(ちょうばつ)）を携(たずさ)えて、あなたを訪(おとず)れたのである。

قَالُواْ بَلۡ جِئۡنَٰكَ بِمَا كَانُواْ فِيهِ
يَمۡتَرُونَ ٦٣

64. そして私たちは、真理と共にあなたのもとにやって来たのであり、本当に私たちは、まさしく正直者である。

وَأَتَيۡنَٰكَ بِٱلۡحَقِّ وَإِنَّا لَصَٰدِقُونَ ٦٤

65. ならば夜が更(ふ)けてから、あなたの家族と共に（町[2]を）出発せよ。また、あなたは彼らの後方につき、あなた方の誰一人として（、後ろを）振り向いてはならない。そして、あなた方が命じられている（安全な）所へと進むのだ」。

فَأَسۡرِ بِأَهۡلِكَ بِقِطۡعٖ مِّنَ ٱلَّيۡلِ وَٱتَّبِعۡ
أَدۡبَٰرَهُمۡ وَلَا يَلۡتَفِتۡ مِنكُمۡ أَحَدٞ وَٱمۡضُواْ
حَيۡثُ تُؤۡمَرُونَ ٦٥

66. われら*は彼（ルート*）に、これらの者たちが朝を迎(むか)えた時には、一人残さず根こそぎにされるという、その裁決(さいけつ)を知らせたのである。

وَقَضَيۡنَآ إِلَيۡهِ ذَٰلِكَ ٱلۡأَمۡرَ أَنَّ دَابِرَ هَٰٓؤُلَآءِ
مَقۡطُوعٞ مُّصۡبِحِينَ ٦٦

67. そして町の人々が、（ルート*の客人(きゃくじん)のことを聞きつけて）心躍(おど)らせつつ、やって来た[3]。

وَجَآءَ أَهۡلُ ٱلۡمَدِينَةِ يَسۡتَبۡشِرُونَ ٦٧

68. 彼（ルート*）は、言った。「本当にこの方々は、私の客人(きゃくじん)なのだ。ならば、私の面目(めんぼく)を失(うしな)わせないでくれ。

قَالَ إِنَّ هَٰٓؤُلَآءِ ضَيۡفِي فَلَا تَفۡضَحُونِ ٦٨

---

1 彼とその民の間に起こった話については、高壁章 80-84、フード*章 77-83、詩人たち章 160-175、蟻章 54-58、蜘蛛章 28-35、月章 33-40 も参照。

2 「町」については、フード*章 81 の同語についての訳注を参照。

3 この情景の詳細として、フード*章 77-78 とその訳注も参照。

69. そしてアッラー*を畏(おそ)れ*、私を辱(はずかし)めるのではない」。　وَٱتَّقُواْ ٱللَّهَ وَلَا تُخۡزُونِ ٦٩

70. 彼ら（町の人々）は、言った。「一体、私たちは（あなたに警告(けいこく)し）、あなたに人々（を外から客人(きゃくじん)として迎(むか)え入れること）を禁じなかったのか？[1]」　قَالُوٓاْ أَوَلَمۡ نَنۡهَكَ عَنِ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٧٠

71. 彼（ルート*）は言った。「これらは私の娘[2]である。もし、あなた方が（望みを果たそうと）するのならば（、彼女らと結婚せよ）」。　قَالَ هَٰٓؤُلَآءِ بَنَاتِيٓ إِن كُنتُمۡ فَٰعِلِينَ ٧١

72. ——あなた（預言者(よげんしゃ)*ムハンマド*）の人生に誓(ちか)って[3]、実に彼らはまさしく、迷いの中で彷徨(さまよ)っている——。　لَعَمۡرُكَ إِنَّهُمۡ لَفِي سَكۡرَتِهِمۡ يَعۡمَهُونَ ٧٢

73. そして日の出を迎(むか)えた頃、彼らを（轟(とどろ)く）一声が捉(とら)えた。　فَأَخَذَتۡهُمُ ٱلصَّيۡحَةُ مُشۡرِقِينَ ٧٣

74. それでわれら*は、それ（町）を逆(さか)さまに（ひっくり返）し、その上に（硬(かた)い）泥土(でいど)からなる石を降(ふ)らせた。　فَجَعَلۡنَا عَٰلِيَهَا سَافِلَهَا وَأَمۡطَرۡنَا عَلَيۡهِمۡ حِجَارَةٗ مِّن سِجِّيلٍ ٧٤

75. 本当にそこにはまさしく、眼識(がんしき)ある者たちへの御徴(みしるし)[4]があり、　إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَٰتٖ لِّلۡمُتَوَسِّمِينَ ٧٥

76. 実にそれ（ルート*の民の町）は、まさに歴然(れきぜん)たる道の途上(とじょう)にある。[5]　وَإِنَّهَا لَبِسَبِيلٖ مُّقِيمٍ ٧٦

---

1 別の解釈では、「（私たちが醜行を望んだ時に、）あなたに人々（と私たちの間に割って入ること）を禁じなかったのか？」（アル＝クルトゥビー10:39 参照）

2 「私の娘」については、フード*章 78 の訳注を参照。

3 これは、アッラー*の誓い（ムヤッサル 266 頁参照）。整列者章 1 の訳注も参照。

4 この「御徴」とは、アッラー*への反抗を恐れない者、ひどい悪行を犯すことにも意を介さない者に対しては、アッラー*もひどい懲罰で応じられる、という証明のこと（アッ＝サァディー433 頁参照）。

5 つまりその痕跡は明白に残っており、その道を通りかかる者が目にすることが出来る、ということ（アッ＝タバリー6:4911 参照）。整列者章 137-138 も参照。

77. 本当にそこにはまさしく、信仰者たちへの御徴があるのだ。

إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَآيَةً لِّلْمُؤْمِنِينَ ٧٧

78. また、本当に藪の仲間たち[1]は、まさしく不正*者であった。

وَإِن كَانَ أَصْحَابُ الْأَيْكَةِ لَظَالِمِينَ ٧٨

79. それでわれら*は、彼らに報復した。実にそのいずれ（ルート*の町と、シュアイブ*の民の町）も、明白な道筋の途上にある[2]。

فَانتَقَمْنَا مِنْهُمْ وَإِنَّهُمَا لَبِإِمَامٍ مُّبِينٍ ٧٩

80. また、アル＝ヒジュルの仲間たち[3]は、遣わされた者（使徒*）たち[4]を確かに嘘つき呼ばわりした。

وَلَقَدْ كَذَّبَ أَصْحَابُ الْحِجْرِ الْمُرْسَلِينَ ٨٠

81. そしてわれら*は彼らに、われら*の御徴[5]を与えたが、彼らはそれに背を向けていた。

وَآتَيْنَاهُمْ آيَاتِنَا فَكَانُوا عَنْهَا مُعْرِضِينَ ٨١

82. そして彼らは安全に[6]、山々を削って住居にしていた。

وَكَانُوا يَنْحِتُونَ مِنَ الْجِبَالِ بُيُوتًا آمِنِينَ ٨٢

83. それで朝を迎えた時、彼らを（轟く）一声が襲った。[7]

فَأَخَذَتْهُمُ الصَّيْحَةُ مُصْبِحِينَ ٨٣

---

1 「藪の仲間たち」とは、藪に囲まれた町に住んでいたシュアイブ*の民のこと（ムヤッサル 266 頁参照）。

2 「明白な道の途上にある」については、アーヤ*76 の訳注を参照。

3 「アル＝ヒジュルの仲間たち」とは、サムード*の民のこと。「アル＝ヒジュル」はそもそも、石とか岩という意味（アッ＝タバリー6:4914 参照）。尚、サムード*と、彼らに遣わされた預言者*サーリフ*の間の出来事については、高壁章 73-77、フード*章 61-68、詩人たち章 141-159、蟻章 45-53、詳細にされた章 17-18、月章 23-32 なども参照。

4 サーリフ*を指す「遣わされた者」が複数形になっていることについては、識別章 37 の訳注を参照。

5 この「御徴」は、サーリフ*の伝えることの真理を確証する、数々の証拠のこと。その一つが、巨大な雌ラクダであった（ムヤッサル 266 頁参照）。その詳細については、高壁章 73 とその訳注、フード*章 64-68、詩人たち章 155-157、月章 27-29、太陽章 13-14 を参照。

6 「（山が崩れ落ちることなく）安全に」とか、「（アッラー*の懲罰から）安全に」といった解釈がある（アッ＝タバリー6:4915 参照）。

7 サムード*に下された懲罰の詳細については、頻出名・用語解説の「サムード*」の項を参照。

84. そして彼らが稼いでいたもの[1]は、（アッラー*の懲罰が下された時、）彼らの役に立つことがなかった。

فَمَآ أَغۡنَىٰ عَنۡهُم مَّا كَانُواْ يَكۡسِبُونَ ٨٤

85. われら*が諸天と大地とその間にあるものを創造したのは、真理ゆえに外ならない[2]。そして（復活の）その時は、必ずや到来する。ならば（使徒*よ）、あなたは（シルク*の徒を）綺麗さっぱり見逃してやるのだ。

وَمَا خَلَقۡنَا ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَ وَمَا بَيۡنَهُمَآ إِلَّا بِٱلۡحَقِّۗ وَإِنَّ ٱلسَّاعَةَ لَأٓتِيَةٞۖ فَٱصۡفَحِ ٱلصَّفۡحَ ٱلۡجَمِيلَ ٨٥

86. 本当にあなたの主*こそは、全ての創造者、全知者であられるのだから。

إِنَّ رَبَّكَ هُوَ ٱلۡخَلَّٰقُ ٱلۡعَلِيمُ ٨٦

87. （預言者*よ、）われら*は確かに、反復される七つのもの[3]と偉大なるクルアーン*を、あなたに授けた。

وَلَقَدۡ ءَاتَيۡنَٰكَ سَبۡعٗا مِّنَ ٱلۡمَثَانِي وَٱلۡقُرۡءَانَ ٱلۡعَظِيمَ ٨٧

88. われら*が、彼ら（不信仰者*たち）の各種の者を楽しませてやった（現世の）ものに、決して視線を釘付けにするのではない。また、彼ら（の不信仰）ゆえに悲しまず、あなたの翼を信仰者たちに下ろしてやる[4]のだ。

لَا تَمُدَّنَّ عَيۡنَيۡكَ إِلَىٰ مَا مَتَّعۡنَا بِهِۦٓ أَزۡوَٰجٗا مِّنۡهُمۡ وَلَا تَحۡزَنۡ عَلَيۡهِمۡ وَٱخۡفِضۡ جَنَاحَكَ لِلۡمُؤۡمِنِينَ ٨٨

89. そして、言え。「本当に私は、（あなた方にアッラー*を信仰すべき証拠と、その懲罰を）明白にする警告者である。

وَقُلۡ إِنِّيٓ أَنَا ٱلنَّذِيرُ ٱلۡمُبِينُ ٨٩

90. 同様にわれら*は、分断する者たち[5]にも（懲罰を）下したのだ。

كَمَآ أَنزَلۡنَا عَلَى ٱلۡمُقۡتَسِمِينَ ٩٠

---

1 財産、岩山の堅固な砦（とりで）、力、地位などのこと（ムヤッサル 266 頁参照）。

2 イムラーン家章 191「我らが主*よ･･･ありません」の訳注も参照。

3 「反復される七つのもの」とは、礼拝の中で毎回「反復される七つのアーヤ*」である、開端章のこと（アル＝ブハーリー4703、ムヤッサル 266 頁参照）。

4 「翼を誰かに下ろす」とは、その者に対する優しさや謙虚さを示す、修辞的表現（イブン・アーシュール 14:83 参照）。

5 「分断する者たち」とは、クルアーン*のある部分は信じるが、別の部分は信じない、という啓典の民*や、それ以外の不信仰者*たちのことであるとされる（ムヤッサル 266 頁参照）。

91. クルアーン*を、ばらばらにした[1]者たちに。
ٱلَّذِينَ جَعَلُوا۟ ٱلْقُرْءَانَ عِضِينَ ٩١

92. あなたの主*に誓って、われら*は必ずや（復活の日*に）彼ら全員を問いただそう、[2]
فَوَرَبِّكَ لَنَسْـَٔلَنَّهُمْ أَجْمَعِينَ ٩٢

93. 彼らが行っていたこと[3]について。
عَمَّا كَانُوا۟ يَعْمَلُونَ ٩٣

94. ならば、あなたに命じられたことを公けにし、シルク*の徒らに背を向けよ。[4]
فَٱصْدَعْ بِمَا تُؤْمَرُ وَأَعْرِضْ عَنِ ٱلْمُشْرِكِينَ ٩٤

95. 本当にわれら*があなたを、嘲笑する者たちから守った[5]のだから。
إِنَّا كَفَيْنَـٰكَ ٱلْمُسْتَهْزِءِينَ ٩٥

96. アッラー*と共に、別の神[6]を配する者たち（から）。彼らは、（自分たちがした事の結末を）知ることになろう。
ٱلَّذِينَ يَجْعَلُونَ مَعَ ٱللَّهِ إِلَـٰهًا ءَاخَرَ ۚ فَسَوْفَ يَعْلَمُونَ ٩٦

97. （使徒*よ、）われら*は確かに、彼らが（あなたとあなたの布教について）言うことゆえ、あなたが心苦しくなるのを知っている。
وَلَقَدْ نَعْلَمُ أَنَّكَ يَضِيقُ صَدْرُكَ بِمَا يَقُولُونَ ٩٧

98. ならば、あなたの主*の称賛*と共に（かれを）称え*、サジダ*する者たちの仲間であれ。
فَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ وَكُن مِّنَ ٱلسَّـٰجِدِينَ ٩٨

99. そして、あなたに確然たるもの[7]が到来するまで、あなたの主*を崇拝*するのだ。
وَٱعْبُدْ رَبَّكَ حَتَّىٰ يَأْتِيَكَ ٱلْيَقِينُ ٩٩

---

1 「クルアーン*をばらばらにした」の解釈には、「アーヤ*90 と同様の意味」「クルアーン*における彼らの意見を、『嘘』『魔術』『占い師の言葉』『詩』などという風に、『ばらばらにした』」「魔術と見なした」「嘘とした」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー10:58-59 参照）。

2 食卓章 109、および高壁章 6 の訳注も参照。

3 クルアーン*を「分断（アーヤ*90 の訳注を参照）」したり、改変したり、偶像を崇めるなどのシルク*を行ったり、その他の罪を犯したりすること（ムヤッサル 267 頁参照）。

4 「命じられたこと」とは、真理へと招（まね）くこと（前掲書、同頁参照）。一説に、このアーヤ*が下るまで預言者*と教友*たちは、イスラーム*の教えを公けにはしなかった（イブン・カスィール 4:551 参照）。

5 これは特に、預言者*を嘲笑したことゆえに滅ぼされることになった、マッカ*の不信仰者*らの長であった五人の男たちを指すと言われる（アル＝クルトゥビー10:62 参照）。

6 「神」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照

7 この「確然たるもの」とは、死のこと。そして預言者*ムハンマド*は、アッラー*からのこのご命令を文字通り守った（ムヤッサル 267 頁参照）。

第 16 章
蜜蜂章[1]（アン＝ナフル）

سُورَةُ النَّحْلِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. アッラー*のご命令が到来した[2]。ゆえに（不信仰者*たちよ、）あなた方はそれを、性急に求めるのではない[3]。かれに称え*あれ、かれは彼らがシルク*を犯しているものから（無縁で）、遥か高遠であられる。

أَتَىٰٓ أَمۡرُ ٱللَّهِ فَلَا تَسۡتَعۡجِلُوهُۚ سُبۡحَٰنَهُۥ
وَتَعَٰلَىٰ عَمَّا يُشۡرِكُونَ ١

2. かれは、その僕たちの内からお望みになる者（使徒*たち）に、かれのご命令によって、魂（啓示）[4]と共に天使*たちを下される。（こう）警告せよ、と。「本当にわれの外に、（真に）崇拝*すべきものなど、何一つない。ならば、われを畏れる*のだ」。

يُنَزِّلُ ٱلۡمَلَٰٓئِكَةَ بِٱلرُّوحِ مِنۡ أَمۡرِهِۦ عَلَىٰ
مَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦٓ أَنۡ أَنذِرُوٓاْ أَنَّهُۥ لَآ إِلَٰهَ
إِلَّآ أَنَا۠ فَٱتَّقُونِ ٢

---

1 マッカ*啓示（一部アーヤ*は、マディーナ*啓示説もあり）。マッカ*啓示の常として、アッラーの唯一性*、預言者*ムハンマド*の使徒*性、クルアーン*、復活の日*の真実が確証され、スーラ*全体に渡ってアッラー*の様々な恩恵が描写される。ゆえに「恩恵章」という別称もあるが、スーラ*名となっている「蜜蜂（アーヤ*68 参照）」は、その流れで取り上げられた恩恵の一つ。また、アッラー*の全知全能性の描写、アッラー*の恩恵を否定する不信仰者*への警告と、彼らが犯している罪の非難、それと対照的な形での信仰者への吉報、過去の預言者*たちとその民の間に起こった逸話による訓戒などのほか、後半ではいくつかの法規定の言及や、抑圧や苦難の中での忍耐*、善行、英知の勧（すす）めなども見られる。

2 復活の日*と、不信仰者*らへの懲罰は近づいた、ということ（ムヤッサル 267 頁参照）。預言者*は中指と人差し指を並べて立て、こう仰（おっしゃ）った。「私が遣わされたのと復活の時（まで）は、この二本（の長さの違い）ほどである」（アル＝ブハーリー4936 参照）。また、預言者*たち章 1 の訳注も参照。

3 彼らは自分たちに対する警告を嘲笑して、懲罰を早く下してみよ、と言ったものだった。家畜章 57-58、戦利品*章 32、ユーヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、サード章 16、相談章 18、階段章 1-2 なども参照。

4 啓示が「魂」と呼ばれている理由については、赦し深いお方章 15 の同語についての訳注を参照。

خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضَ بِٱلْحَقِّ ۚ
تَعَٰلَىٰ عَمَّا يُشْرِكُونَ ٣

3. かれは真理ゆえに、諸天と大地をお創りになった[1]。かれは、彼らがシルク*を犯しているものから（無縁で）、遥か高遠であられる。

خَلَقَ ٱلْإِنسَٰنَ مِن نُّطْفَةٍ فَإِذَا هُوَ خَصِيمٌ
مُّبِينٌ ٤

4. かれは、人間を一滴の精液から創られた[2]。なのにどうであろうか、彼は（その主*に対する）あからさまな反論者なのだ。[3]

وَٱلْأَنْعَٰمَ خَلَقَهَا ۗ لَكُمْ فِيهَا دِفْءٌ
وَمَنَٰفِعُ وَمِنْهَا تَأْكُلُونَ ٥

5. また、家畜を（あなた方人間のために）お創りになった。それらにはあなた方への温もり[4]と諸益があり、あなた方はそれらから食する。

وَلَكُمْ فِيهَا جَمَالٌ حِينَ تُرِيحُونَ
وَحِينَ تَسْرَحُونَ ٦

6. また、あなた方が（夕べに、それらの家畜を小屋へと）連れて帰る時、そして（朝には）牧場に連れて行く時、そこにはあなた方にとっての甘美さがある。[5]

وَتَحْمِلُ أَثْقَالَكُمْ إِلَىٰ بَلَدٍ لَّمْ تَكُونُوا۟
بَٰلِغِيهِ إِلَّا بِشِقِّ ٱلْأَنفُسِ ۚ إِنَّ رَبَّكُمْ
لَرَءُوفٌ رَّحِيمٌ ٧

7. また、それら（の家畜）は、（あなた方）自身の苦労なしにはあなた方が到達できなかったであろう町にまで、あなた方の荷物を運んでくれる。本当にあなた方の主*は、まさに哀れみ深い*お方、慈愛深い*お方なのだから。

وَٱلْخَيْلَ وَٱلْبِغَالَ وَٱلْحَمِيرَ لِتَرْكَبُوهَا
وَزِينَةً ۚ وَيَخْلُقُ مَا لَا تَعْلَمُونَ ٨

8. また、あなた方がそれらに乗り、飾りとするための、馬と、ラバと、ロバ（も、お創りになった）。またかれは、あなた方が知らないものを創造される。

---

1 イムラーン章 191「我らが主*よ、あなたは…」の訳注も参照。

2 人間の創造の変遷については、巡礼*章 5、信仰者たち章 14 とその訳注を参照。

3 人間は、一滴の取るに足らない精液から創造されたにも関わらず自惚（うぬぼ）れ、復活を否定したりするなどして、自分の主に反論する（ムヤッサル 267 頁参照）。ヤー・スィーン章 78 も参照。

4 その毛や皮などは、衣服や寝具、住居などに利用される（アッ＝サァディー435 頁参照）。

5 その二つの時間帯、場は壮観となり、主人には荘厳さが漂う（アル＝バイダーウィー3:386 参照）。

9. アッラー*にこそ、まっすぐな道[1]（の明示）がある——それらの中には歪んだもの[2]もあるが——。そしてかれがお望みになれば、あなた方全員をお導きになったのである。

وَعَلَى ٱللَّهِ قَصۡدُ ٱلسَّبِيلِ وَمِنۡهَا جَآئِرٞۚ وَلَوۡ
شَآءَ لَهَدَىٰكُمۡ أَجۡمَعِينَ ٩

10. かれ（アッラー*）は、天から（雨）水をお降らしになったお方。その一部はあなた方のための飲みものであり、それから、あなた方がそれで（家畜に）餌をやる木々が（得られるので）ある。

هُوَ ٱلَّذِيٓ أَنزَلَ مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءٗۖ لَّكُم
مِّنۡهُ شَرَابٞ وَمِنۡهُ شَجَرٞ فِيهِ تُسِيمُونَ ١٠

11. かれはあなた方のために、それ（水）で作物、オリーブ、ナツメヤシ、葡萄、あらゆる果実の内のものを生育させられる。本当にその中にはまさしく、熟考する民への御徴[3]があるのだ。

يُنۢبِتُ لَكُم بِهِ ٱلزَّرۡعَ وَٱلزَّيۡتُونَ وَٱلنَّخِيلَ
وَٱلۡأَعۡنَٰبَ وَمِن كُلِّ ٱلثَّمَرَٰتِۚ إِنَّ فِي
ذَٰلِكَ لَأٓيَةٗ لِّقَوۡمٖ يَتَفَكَّرُونَ ١١

12. またかれは、あなた方に夜、昼、太陽、月を仕えさせられた。また星々は、かれのご命令によって奉仕させられている。本当にその中にはまさしく、分別する民への御徴[4]がある。

وَسَخَّرَ لَكُمُ ٱلَّيۡلَ وَٱلنَّهَارَ وَٱلشَّمۡسَ
وَٱلۡقَمَرَۖ وَٱلنُّجُومُ مُسَخَّرَٰتُۢ بِأَمۡرِهِۦٓۚ إِنَّ
فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَٰتٖ لِّقَوۡمٖ يَعۡقِلُونَ ١٢

13. また、あなた方のために大地に創造された、様々な彩りのもの[5]（も、あなた方に仕えさせられた）。本当にその中にはまさしく、教訓を得る民への御徴がある。

وَمَا ذَرَأَ لَكُمۡ فِي ٱلۡأَرۡضِ مُخۡتَلِفًا
أَلۡوَٰنُهُۥٓۚ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَةٗ لِّقَوۡمٖ
يَذَّكَّرُونَ ١٣

---

1 この「まっすぐな道」とは、イスラーム*のこと（ムヤッサル 268 頁参照）。

2 「それらの中」とは、「まっすぐな道」以外の全ての道のこと。イスラーム*以外のいかなる道も、真の意味で正しく導いてはくれない（前掲書、同頁参照）。家畜章 153 と、その訳注も参照。

3 この「御徴」とは、アッラー*の全能性と唯一性*を示す証拠のこと（アッ＝シャウカーニー3:210 参照）。

4 この「御徴」とは、創造主の存在とその唯一性を示す証拠のこと（前掲書 3:211 参照）。

5 「様々な彩りのもの」とは、家畜、果実、鉱物などのこと（ムヤッサル 268 頁参照）。

14. かれは（あなた方に）、海を仕えさせられたお方。（それは）あなた方がそこから新鮮な肉を食べ、あなた方が身に纏う装飾品を、そこから採り出すため。あなたはそこを、船が水を切（りつつ走）るのを見る。そして（それは）あなた方が、かれのご恩寵から（糧を）求めるためなのであり、あなた方が（アッラー*に）感謝するようにするためなのだ。

وَهُوَ ٱلَّذِي سَخَّرَ ٱلۡبَحۡرَ لِتَأۡكُلُواْ مِنۡهُ
لَحۡمٗا طَرِيّٗا وَتَسۡتَخۡرِجُواْ مِنۡهُ حِلۡيَةٗ
تَلۡبَسُونَهَاۖ وَتَرَى ٱلۡفُلۡكَ مَوَاخِرَ فِيهِ
وَلِتَبۡتَغُواْ مِن فَضۡلِهِۦ وَلَعَلَّكُمۡ
تَشۡكُرُونَ ١٤

15. また、かれは大地に、それがあなた方と共に揺れ動かないよう、堅固な山々を投げ入れられた。そして河川や、あなた方が導かれるべく道々も（設えられた）。

وَأَلۡقَىٰ فِي ٱلۡأَرۡضِ رَوَٰسِيَ أَن تَمِيدَ بِكُمۡ
وَأَنۡهَٰرٗا وَسُبُلٗا لَّعَلَّكُمۡ تَهۡتَدُونَ ١٥

16. そして、道標[1]（も設えられた）。星によってこそ、実に彼らは（夜に、道を）導かれるのだ。

وَعَلَٰمَٰتٖۚ وَبِٱلنَّجۡمِ هُمۡ يَهۡتَدُونَ ١٦

17. 一体、（これら全てを）創造するお方（アッラー*）は、創造しないもの[2]と同様であろうか？　一体、あなた方は教訓を得ないのか？

أَفَمَن يَخۡلُقُ كَمَن لَّا يَخۡلُقُۚ أَفَلَا
تَذَكَّرُونَ ١٧

18. たとえあなた方がアッラー*の恩恵を数えたとしても、それを数え上げることは叶わない。本当にアッラー*はまさしく、赦し深いお方、慈愛深い*お方。

وَإِن تَعُدُّواْ نِعۡمَةَ ٱللَّهِ لَا تُحۡصُوهَآۗ إِنَّ
ٱللَّهَ لَغَفُورٞ رَّحِيمٞ ١٨

19. また、アッラー*はあなた方が隠すことも、露わにすることもご存知である。

وَٱللَّهُ يَعۡلَمُ مَا تُسِرُّونَ وَمَا تُعۡلِنُونَ ١٩

20. そして彼らがアッラー*を差しおいて祈っているもの（偶像）は、何一つ創造することとなどないし、それらは（そもそも不信仰者*によって）造られるものなのだ。

وَٱلَّذِينَ يَدۡعُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ لَا يَخۡلُقُونَ
شَيۡـٔٗا وَهُمۡ يُخۡلَقُونَ ٢٠

---

1 この「道標」とは、陸上か水上かを問わず、旅行者が昼間に道を迷ったりした時、目印にする大きな山や小さな丘などのこととされる（イブン・カスィール 4:564 参照）。

2 つまり、偽物の神々のこと（ムヤッサル 269 頁参照）。

21. （それらは全て）死んだものであり、生きているものではない。それらは（自分たちを崇(あが)めている者たちが）いつ蘇(よみがえ)らされるか、察知することがない[1]のだ。

أَمۡوَٰتٌ غَيۡرُ أَحۡيَآءٖۖ وَمَا يَشۡعُرُونَ أَيَّانَ
يُبۡعَثُونَ ٢١

22. あなた方の神[2]は、ただ一つの神（アッラー*）。来世を信じない者たち、その心は（アッラーの唯一性*を）否認しているのであり、彼らは（真理を受け入れ、アッラーだけを崇拝(すうはい)*することに対して）高慢な者たちなのだ。

إِلَٰهُكُمۡ إِلَٰهٞ وَٰحِدٞۚ فَٱلَّذِينَ لَا يُؤۡمِنُونَ
بِٱلۡأٓخِرَةِ قُلُوبُهُم مُّنكِرَةٞ وَهُم
مُّسۡتَكۡبِرُونَ ٢٢

23. 間違いなくアッラー*は、彼らが隠すことも、露(あら)わにすることもご存知であ（り、それにお報(むく)いにな）る。本当にかれは、高慢な者たちをお好みにはならない。

لَا جَرَمَ أَنَّ ٱللَّهَ يَعۡلَمُ مَا يُسِرُّونَ وَمَا
يُعۡلِنُونَۚ إِنَّهُۥ لَا يُحِبُّ ٱلۡمُسۡتَكۡبِرِينَ ٢٣

24. 「あなた方の主(しゅ)*が、（ムハンマド*に）下されたのは何か？」と、彼ら（シルク*の徒）に言われれば、彼らは言った。「昔の人々のお伽話(とぎばなし)だ」。

وَإِذَا قِيلَ لَهُم مَّاذَآ أَنزَلَ رَبُّكُمۡ قَالُوٓاْ
أَسَٰطِيرُ ٱلۡأَوَّلِينَ ٢٤

25. こうして彼らは復活の日*、（罪(つみ)という）自分たちの重荷(おもに)を全て背負(せお)い、彼らが知識もなく迷わせる者たちの重荷(おもに)の一部も、背負(せお)うことになる[3]。彼らの背負(せお)うものは、何と忌(い)まわしいものではないか。

لِيَحۡمِلُوٓاْ أَوۡزَارَهُمۡ كَامِلَةٗ يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِ
وَمِنۡ أَوۡزَارِ ٱلَّذِينَ يُضِلُّونَهُم بِغَيۡرِ عِلۡمٍۗ أَلَا سَآءَ
مَا يَزِرُونَ ٢٥

---

1 アーヤ*86 やユーヌス*章 28 以降にもあるように、崇められていた偶像は復活の日*に魂を吹き込まれ、自らの崇拝*者たちとの決別を表明する。また「いつ蘇らされるか知らない」のは偶像ではなく、不信仰者*たちのことである、という説もある（アル＝バガウィー3:75 参照）。

2「神」については、雌牛章 133 の訳注を参照。

3 しかし、彼らに「迷わせられる者たち」は、自分たちの罪の一部を彼らに背負ってもらっても、自分自身の罪が減るわけではない（ムスリム「知識の書」16、ムヤッサル 269 頁参照）。蜘蛛章 13 も参照。

26. 彼ら以前の（不信仰）者*たちも、（使徒*たちと、彼らが携えて来た真理に対して）確かに策謀したのだ。それでアッラー*（のご命令）が、彼らの建物にその土台から到来し（て、それを破壊し）、屋根が彼らに、その上方から崩れ落ちた[1]。彼らが気付きもしないところから、彼らに懲罰が到来したのである。

قَدْ مَكَرَ ٱلَّذِينَ مِن قَبْلِهِمْ فَأَتَى ٱللَّهُ بُنْيَٰنَهُم
مِّنَ ٱلْقَوَاعِدِ فَخَرَّ عَلَيْهِمُ ٱلسَّقْفُ
مِن فَوْقِهِمْ وَأَتَىٰهُمُ ٱلْعَذَابُ مِنْ حَيْثُ
لَا يَشْعُرُونَ ٢٦

27. それからかれ（アッラー*）は復活の日*、彼らを（懲罰で）辱められる。そして、（こう）仰せられるのだ。「あなた方が、それらゆえに（使徒*たちや信仰者らと）対立していた、わが同位者たちはどこなのだ？[2]」知識を授けられた者たち[3]は言う。「本当にこの日、屈辱と災い（懲罰）は不信仰者*たちの上にあります。

ثُمَّ يَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ يُخْزِيهِمْ وَيَقُولُ أَيْنَ
شُرَكَآءِىَ ٱلَّذِينَ كُنتُمْ تُشَٰٓقُّونَ فِيهِمْ
قَالَ ٱلَّذِينَ أُوتُوا۟ ٱلْعِلْمَ إِنَّ ٱلْخِزْىَ ٱلْيَوْمَ
وَٱلسُّوٓءَ عَلَى ٱلْكَٰفِرِينَ ٢٧

28. 自分自身に（不信仰という）不正*を働いた状態[4]のまま、天使*たち[5]が（その魂を）召した者たち（の上に）」。（死に直面した時、）彼らは降伏する。（そして、こう言う。）「私たちは悪いことなど、何一つやっていませんでした」。（すると、こう言われる。）「いや（、あなた方は嘘をついている）。本当にアッラー*は、あなた方が行っていたことを（全て）ご存知なのである。

ٱلَّذِينَ تَتَوَفَّىٰهُمُ ٱلْمَلَٰٓئِكَةُ ظَالِمِىٓ أَنفُسِهِمْ
فَأَلْقَوُا۟ ٱلسَّلَمَ مَا كُنَّا نَعْمَلُ مِن سُوٓءٍۭ بَلَىٰٓ
إِنَّ ٱللَّهَ عَلِيمٌۢ بِمَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ٢٨

---

1 一説にこれは、天に昇って天上界の住人と戦おうと高い塔を建てた、ナムルーズ（雌牛章258とその訳注も参照）とその民のこと（アル＝クルトゥビー10：97参照）。

2 「わが同位者たち」とは、「われをよそに、あなた方が崇めていた神々」のこと（ムヤッサル270頁参照）。それらの「同位者たち」はなぜ、この場にやって来て、あなた方を懲罰から救ってくれないのか、という意味（アル＝バガウィー3:77参照）。家畜章22-24も参照。

3 「知識を授けられた者たち」とは、タウヒード*へと招いていた預言者*・学者たちのこと。あるいは天使*たち（アル＝バイダーウィー3:394参照）。

4 つまり不信仰のこと（ムヤッサル270頁参照）。

5 この「天使*たち」とその任務については家畜章61、93、戦利品*章50とその訳注も参照。

29. ゆえに地獄の門々に入り、そこに永遠に留まるがよい。(アッラー*への信仰と服従に対して)高慢な者たちの住処は、何と実に醜悪であろうか」。

فَٱدْخُلُوٓا۟ أَبْوَٰبَ جَهَنَّمَ خَٰلِدِينَ فِيهَا ۖ
فَلَبِئْسَ مَثْوَى ٱلْمُتَكَبِّرِينَ ﴿٢٩﴾

30. そして敬虔*だった者たちには、(こう)言われる。「あなた方の主*が、(ムハンマド*に)下されたのは何か?」彼らは言う。「善きもの[1]です」。この現世で善を尽くした者[2]たちには素晴らしいもの[3]があり、実に来世の住まいは(現世よりも)更に善いのである。そして敬虔な*者たちの住まいは、何と実に素晴らしいことか。

۞ وَقِيلَ لِلَّذِينَ ٱتَّقَوْا۟ مَاذَآ أَنزَلَ رَبُّكُمْ ۚ قَالُوا۟
خَيْرًا ۗ لِّلَّذِينَ أَحْسَنُوا۟ فِى هَٰذِهِ ٱلدُّنْيَا
حَسَنَةٌ ۚ وَلَدَارُ ٱلْءَاخِرَةِ خَيْرٌ ۚ وَلَنِعْمَ دَارُ
ٱلْمُتَّقِينَ ﴿٣٠﴾

31. (それは)彼らがそこに入ることになり、その下からは河川が流れる、永久の楽園。彼らにはそこに、自分たちが望む(あらゆる)ものがある。このようにアッラー*は、敬虔な*者たちに報われるのだ。

جَنَّٰتُ عَدْنٍ يَدْخُلُونَهَا تَجْرِى مِن
تَحْتِهَا ٱلْأَنْهَٰرُ ۖ لَهُمْ فِيهَا مَا يَشَآءُونَ ۚ
كَذَٰلِكَ يَجْزِى ٱللَّهُ ٱلْمُتَّقِينَ ﴿٣١﴾

32. (彼らはその魂が)善い状態[4]のまま、天使*たちに召される者たち。彼ら(天使*たち)は言う。「あなた方に平安を[5]。あなた方が(現世で)行っていたものゆえに、天国に入るがよい」。

ٱلَّذِينَ تَتَوَفَّىٰهُمُ ٱلْمَلَٰٓئِكَةُ طَيِّبِينَ ۙ يَقُولُونَ
سَلَٰمٌ عَلَيْكُمُ ٱدْخُلُوا۟ ٱلْجَنَّةَ بِمَا كُنتُمْ
تَعْمَلُونَ ﴿٣٢﴾

---

1 「善きもの」とは、それに従い、それを信じた者にとっての慈悲、祝福、善のこと(イブン・カスィール 4:568 参照)。

2 アッラー*の崇拝*において、そしてアッラー*の僕(しもべ)たちに対して「善を尽くした者」たち(アッ=サァディー439 頁参照)。アーヤ*128「善を尽くす者」の訳注も参照。

3 「素晴らしいもの」とは豊かな糧、安逸な生活、心の静寂、平安、喜びなどのこと(前掲書、同頁参照)。

4 つまり、不信仰の汚れから清浄な状態のこと(ムヤッサル 270 頁参照)。

5 「あなた方に平安を」については、雷鳴章 24 の訳注を参照。

33. 一体、彼ら（シルク*の徒）は、天使たちが彼らのもとに到来するか、またはあなたの主*のご命令がやって来るのを待っているだけなのか？[1] 彼ら以前の（不信仰）者*たちも、そのようにしたのだ。アッラー*が彼らに不正*を働かれたのではない。しかし彼らが、自分自身に不正*を働いていたのである。

هَلْ يَنظُرُونَ إِلَّآ أَن تَأْتِيَهُمُ ٱلْمَلَـٰٓئِكَةُ أَوْ يَأْتِىَ أَمْرُ رَبِّكَ ۚ كَذَٰلِكَ فَعَلَ ٱلَّذِينَ مِن قَبْلِهِمْ ۚ وَمَا ظَلَمَهُمُ ٱللَّهُ وَلَـٰكِن كَانُوٓا۟ أَنفُسَهُمْ يَظْلِمُونَ ٣٣

34. それで、彼らが行ったことの悪行（に対する報いとしての懲罰）は彼らに襲いかかり、自分たちが嘲笑していたもの（懲罰）が、彼らを包囲した。

فَأَصَابَهُمْ سَيِّـَٔاتُ مَا عَمِلُوا۟ وَحَاقَ بِهِم مَّا كَانُوا۟ بِهِۦ يَسْتَهْزِءُونَ ٣٤

35. また、シルク*を犯していた者たちは言った。「アッラー*がお望みであったなら、私たちも、私たちのご先祖様たちも、かれ（アッラー*）を差しおいて何も崇めることなどなかったし、私たちがかれをよそに（、勝手に）何かを禁じることもなかったのだ[2]」。彼ら以前の（不信仰）者*たちも、同じようにしていたのである。一体、使徒*たちには、明白なる伝達以外の使命があるとでもいうのか？

وَقَالَ ٱلَّذِينَ أَشْرَكُوا۟ لَوْ شَآءَ ٱللَّهُ مَا عَبَدْنَا مِن دُونِهِۦ مِن شَىْءٍ نَّحْنُ وَلَآ ءَابَآؤُنَا وَلَا حَرَّمْنَا مِن دُونِهِۦ مِن شَىْءٍ ۚ كَذَٰلِكَ فَعَلَ ٱلَّذِينَ مِن قَبْلِهِمْ ۚ فَهَلْ عَلَى ٱلرُّسُلِ إِلَّا ٱلْبَلَـٰغُ ٱلْمُبِينُ ٣٥

36. われら*は確かに、あらゆる共同体へと使徒*を遣わし（て、こう伝えさせ）た。「アッラー*（だけ）を崇拝*し、ターグート*を避けよ[3]」。そして彼らの内には、アッラー*がお導きになった者もあり、また彼らの内には、（誤った道に頑迷に従ったことで、）迷妄が確定した者もある。ならば、あなた

وَلَقَدْ بَعَثْنَا فِى كُلِّ أُمَّةٍ رَّسُولًا أَنِ ٱعْبُدُوا۟ ٱللَّهَ وَٱجْتَنِبُوا۟ ٱلطَّـٰغُوتَ ۖ فَمِنْهُم مَّنْ هَدَى ٱللَّهُ وَمِنْهُم مَّنْ حَقَّتْ عَلَيْهِ ٱلضَّلَـٰلَةُ ۚ فَسِيرُوا۟ فِى ٱلْأَرْضِ فَٱنظُرُوا۟ كَيْفَ كَانَ عَـٰقِبَةُ ٱلْمُكَذِّبِينَ ٣٦

---

1 つまり不信仰の状態のまま、死期を迎えて魂を抜かれるか、またはアッラー*の懲罰や復活の日*の到来を待っているのか、という意味（イブン・アティーヤ 3:391 参照）。家畜章 158 と、その訳注も参照。

2 この言い訳の詳細については、家畜章 148 の訳注を参照。

3 預言者*たち章 25 も参照。

方は地上を旅し、（使徒たちを）嘘つき呼ばわりした者たちの結末が、いかなるものであったかを見てみるがよい。

37. （使徒*よ、）たとえあなたが彼ら（シルク*の徒）の導きに懸命になっても、（それはあなたには叶わない、）本当にアッラー*は、かれが迷わせ給う者をお導きにはならないのだから[1]。そして彼らには、（彼らを懲罰から救ってくれる、）いかなる援助者もないのだ。

إِن تَحْرِصْ عَلَىٰ هُدَىٰهُمْ فَإِنَّ ٱللَّهَ لَا يَهْدِى
مَن يُضِلُّ ۖ وَمَا لَهُم مِّن نَّٰصِرِينَ ٣٧

38. また彼らは、「アッラー*は死ぬ者を、蘇らせたりなどしない」と、躍起になってアッラー*にかけて誓った[2]。いや、（アッラー*は、彼らを必ずや復活させられるという、）その真のお約束（を約束されたのだ）。しかし大半の人々は、（アッラー*の御力を）知らないのである。

وَأَقْسَمُوا۟ بِٱللَّهِ جَهْدَ أَيْمَٰنِهِمْ ۙ لَا يَبْعَثُ ٱللَّهُ
مَن يَمُوتُ ۚ بَلَىٰ وَعْدًا عَلَيْهِ حَقًّا وَلَٰكِنَّ
أَكْثَرَ ٱلنَّاسِ لَا يَعْلَمُونَ ٣٨

39. （アッラー*が彼らを蘇らせられるのは、）彼らが意見を異にしていること[3]を彼らに明らかにされるためであり、不信仰だった者*たちが、自分たちが嘘つきであったことを知るためなのだ。

لِيُبَيِّنَ لَهُمُ ٱلَّذِى يَخْتَلِفُونَ فِيهِ وَلِيَعْلَمَ
ٱلَّذِينَ كَفَرُوٓا۟ أَنَّهُمْ كَانُوا۟ كَٰذِبِينَ ٣٩

40. われら*が何かを望んだ時、それに対するわれら*の言葉は、それに「あれ」と言うだけ。そうすれば、それは存在するのである。[4]

إِنَّمَا قَوْلُنَا لِشَىْءٍ إِذَآ أَرَدْنَٰهُ أَن نَّقُولَ لَهُۥ كُن
فَيَكُونُ ٤٠

1 最終的な導きがアッラー*のみに委ねられていることについては、雌牛章 272、ユーヌス*章 99-100、蟻章 80、物語章 56、相談章 52 とその訳注も参照。

2 これは彼らの行為の奇異さを示している。彼らはアッラー*の偉大さを前面に出し、アッラー*において誓っておきながら、かれが死者を復活させることは不可能だ、と主張しているからである（アル＝クルトゥビー10:105 参照）。

3 「彼らが意見を異にしていること」とは、復活の真実性のこと（ムヤッサル 271 頁参照）。

4 つまり復活は、アッラー*にとって容易いものである（前掲書、同頁参照）。

41. 不正*を受けた後、アッラー*ゆえに移住*する者たち、われら*は現世において、必ずや彼らを素晴らしき（場所）に住まわせる。そして来世の褒美（天国）こそは、更に偉大なのだ。もし彼らが（そのことを）知っていたのならば（、アッラー*ゆえの移住*を思いとどまることはなかっただろう）。

وَٱلَّذِينَ هَاجَرُوا۟ فِى ٱللَّهِ مِنۢ بَعْدِ مَا ظُلِمُوا۟
لَنُبَوِّئَنَّهُمْ فِى ٱلدُّنْيَا حَسَنَةً ۖ وَلَأَجْرُ ٱلْـَٔاخِرَةِ
أَكْبَرُ ۚ لَوْ كَانُوا۟ يَعْلَمُونَ ﴿٤١﴾

42. （彼らは）忍耐*し、自分たちの主*にこそ、全てを委ねる*者たち。

ٱلَّذِينَ صَبَرُوا۟ وَعَلَىٰ رَبِّهِمْ يَتَوَكَّلُونَ ﴿٤٢﴾

43. （使徒*よ、）われら*があなた以前に（使徒*として）遣わしたのは、われら*が啓示を下す、男性（人間）以外の何者でもなかった[1]。（シルク*の徒よ、それを信じない）ならば、教訓の民に尋ねてみよ[2]。もし、あなた方が知らないのなら。

وَمَآ أَرْسَلْنَا مِن قَبْلِكَ إِلَّا رِجَالًا نُّوحِىٓ إِلَيْهِمْ ۚ
فَسْـَٔلُوٓا۟ أَهْلَ ٱلذِّكْرِ إِن كُنتُمْ لَا تَعْلَمُونَ ﴿٤٣﴾

44. 明証と書巻[3]と共に（、われら*は使徒*たちを遣わした）。そしてわれら*は、あなたが人々に、彼らに下されたものを説明すべく、あなたに教訓（クルアーン*）を下したのである[4]。（それを聞いて、）彼らが熟考するように、と。

بِٱلْبَيِّنَٰتِ وَٱلزُّبُرِ ۗ وَأَنزَلْنَآ إِلَيْكَ ٱلذِّكْرَ لِتُبَيِّنَ
لِلنَّاسِ مَا نُزِّلَ إِلَيْهِمْ وَلَعَلَّهُمْ يَتَفَكَّرُونَ ﴿٤٤﴾

45. 一体、悪事を策謀した者たちは、安心しているのか？　アッラー*が彼らを地面に飲み込ませたり、彼らが気付きもしない所から、彼らに懲罰が到来したりしないと？

أَفَأَمِنَ ٱلَّذِينَ مَكَرُوا۟ ٱلسَّيِّـَٔاتِ أَن يَخْسِفَ
ٱللَّهُ بِهِمُ ٱلْأَرْضَ أَوْ يَأْتِيَهُمُ ٱلْعَذَابُ مِنْ
حَيْثُ لَا يَشْعُرُونَ ﴿٤٥﴾

---

1 同様のアーヤ*として、ユースフ*章 109 とその訳注も参照。

2 この「教訓の民」は、啓典の民*のこと。しかしこのアーヤ*は一般に、学識のある者を讃えているのであり、あらゆる学識の中でも最高のものがクルアーン*に関するものである。またアッラー*はこのアーヤ*で、分からないことは学識ある者に尋ねることを義務づけている（アッ＝サァディー441 頁参照）。

3 「明証」は使徒*性の証拠、「書巻」は啓典のこと、とされる（イブン・カスィール 4:574 参照）。

4 預言者*ムハンマド*には、クルアーン*の説明も委任された。そしてそれは、彼のスンナ*によるものである（アル＝バガウィー3:80 参照）。

46. または、彼らが（旅や活動に）勤しんでいる間に、彼らのことを罰されることがないと（、安心しているのか）？　彼らは、（アッラー*の懲罰から）逃れられる者などではないというのに。

أَوۡ يَأۡخُذَهُمۡ فِي تَقَلُّبِهِمۡ فَمَا هُم بِمُعۡجِزِينَ ٤٦

47. あるいは、（アッラー*が）彼らを減退させつつ[1]滅ぼされることはないと（、安心しているのか）？　本当にあなた方の主*は、まさしく哀れみ深い*お方、慈愛深い*お方なのだ。

أَوۡ يَأۡخُذَهُمۡ عَلَىٰ تَخَوُّفٖ فَإِنَّ رَبَّكُمۡ لَرَءُوفٞ
رَّحِيمٌ ٤٧

48. 一体、彼ら（不信仰者*）は、アッラー*がお創りになったものを何も見なかったのか？　そ（れら）の（ものの）影は、右に左に揺れ動きつつ、従順にアッラー*にサジダ*する。[2]

أَوَلَمۡ يَرَوۡاْ إِلَىٰ مَا خَلَقَ ٱللَّهُ مِن شَيۡءٖ يَتَفَيَّؤُاْ
ظِلَٰلُهُۥ عَنِ ٱلۡيَمِينِ وَٱلشَّمَآئِلِ سُجَّدٗا لِّلَّهِ وَهُمۡ
دَٰخِرُونَ ٤٨

49. 諸天にあるものと、大地にある（全ての）生物は、アッラー*にのみサジダ*する[3]。また天使*たちも、驕り高ぶることなく（サジダ*するのだ）。

وَلِلَّهِ يَسۡجُدُ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلۡأَرۡضِ
مِن دَآبَّةٖ وَٱلۡمَلَٰٓئِكَةُ وَهُمۡ لَا يَسۡتَكۡبِرُونَ ٤٩

50. 彼ら（天使*たち）は、（その本質と権勢と完全なる属性において）彼らの上におわします自分たちの主*を怖がり、自分たちが命じられたことを実行する。（読誦のサジダ*）

يَخَافُونَ رَبَّهُم مِّن فَوۡقِهِمۡ وَيَفۡعَلُونَ مَا
يُؤۡمَرُونَ۩ ٥٠

1 ついには全滅するまで、財産、生命、収穫などが減退していくこと。あるいは、人々が次々と罰されていき、残った者たちの恐怖感が募（つの）ること（アル＝クルトゥビー 10:109-110 参照）。

2 山々や木々など、影を有するものの影は、昼間は太陽、夜は月の動きに応じて、右に左に揺れ動く。そしてそれら全ては、その主*の偉大さに服従しているのである（ムヤッサル 272 頁参照）。雷鳴章 15 とその訳注も参照。

3 イムラーン家章 83、雷鳴章 15、夜の旅章 44、巡礼*章 18、御光章 41 と、それらの訳注も参照。

51. アッラー*は仰せられた。「二つの神[1]を配して（崇拝*して）はならない。かれ（アッラー*）は外ならぬ唯一の神なのだ。ならば、われだけを恐れよ」。

وَقَالَ ٱللَّهُ لَا تَتَّخِذُوٓا۟ إِلَٰهَيْنِ ٱثْنَيْنِ ۖ إِنَّمَا هُوَ إِلَٰهٌ وَٰحِدٌ ۖ فَإِيَّٰىَ فَٱرْهَبُونِ ٥١

52. また、かれにこそ諸天と大地にあるもの（全て）は属し、そしてかれにこそ常に、服従は属する。なのに一体、あなた方は、アッラー*以外を畏れる*というのか？

وَلَهُۥ مَا فِى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ وَلَهُ ٱلدِّينُ وَاصِبًا ۚ أَفَغَيْرَ ٱللَّهِ تَتَّقُونَ ٥٢

53. あなた方のもとにある、いかなる恩恵も、アッラー*からのもの。それから、あなた方に害悪が降りかかれば、あなた方はかれにこそ縋って（祈りの）声を上げるのだ。

وَمَا بِكُم مِّن نِّعْمَةٍ فَمِنَ ٱللَّهِ ۖ ثُمَّ إِذَا مَسَّكُمُ ٱلضُّرُّ فَإِلَيْهِ تَجْـَٔرُونَ ٥٣

54. それから、かれがあなた方から害悪を取り除いて下さると、何ということか、あなた方の内の一派は自分たちの主*に対してシルク*を犯す。[2]

ثُمَّ إِذَا كَشَفَ ٱلضُّرَّ عَنكُمْ إِذَا فَرِيقٌ مِّنكُم بِرَبِّهِمْ يُشْرِكُونَ ٥٤

55. こうして彼らは、われら*が彼らに授けたもの[3]を否定する。ならば、（現世を）楽しんでいるがよい。いずれあなた方は、（不信仰と不服従の結末を）知ることになるだろうから。

لِيَكْفُرُوا۟ بِمَآ ءَاتَيْنَٰهُمْ ۚ فَتَمَتَّعُوا۟ ۖ فَسَوْفَ تَعْلَمُونَ ٥٥

56. 彼らは、われら*が彼らに授けたものの内の一部を、知りもしないもの[4]にあてがっている。アッラー*に誓って、あなた方は（復活の日*、）自分たちが（アッラー*に対して嘘

وَيَجْعَلُونَ لِمَا لَا يَعْلَمُونَ نَصِيبًا مِّمَّا رَزَقْنَٰهُمْ ۗ تَٱللَّهِ لَتُسْـَٔلُنَّ عَمَّا كُنتُمْ تَفْتَرُونَ ٥٦

---

1 「神」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

2 同様のアーヤ*として、ユーヌス*章 12 も参照。

3 害悪の除去を始めとした、恩恵の数々（ムヤッサル 273 頁参照）。

4 不信仰者*らの醜行の一つとして、知識も、害する力も、益する力もない偶像に、財産の一部を捧（ささ）げるというものがあった（家畜章 136、ムヤッサル 273 頁参照）。また一説には、「それらの偶像が、害するかも益するかも知らないのに、彼らはそれらに財産の一部を捧げている」（アル＝クルトゥビー10:115 参照）。

を）でっち上げていたことについて、必ずや問われることになるのだ。

57. また彼らは、アッラー*に娘たちをあてがい[1]——（そのようなことから無縁な）アッラー*に称え*あれ——、自分たちには彼らの欲するもの[2]をあてがっている。

وَيَجۡعَلُونَ لِلَّهِ ٱلۡبَنَٰتِ سُبۡحَٰنَهُۥ وَلَهُم مَّا
يَشۡتَهُونَ ٥٧

58. そのくせ、彼らの内の誰かに女児（誕生）の吉報を告げられれば、（悲しみで）意気消沈し、その顔は黒く翳ってしまう。[3]

وَإِذَا بُشِّرَ أَحَدُهُم بِٱلۡأُنثَىٰ ظَلَّ وَجۡهُهُۥ مُسۡوَدّٗا
وَهُوَ كَظِيمٞ ٥٨

59. 彼は、自分に告げられた吉報の忌まわしさゆえに、（自らの）民から身を隠す。一体、屈辱を忍んで、それ（女児）を留め（て生かし）ておくか、それともそれを土に埋めてしまおうか？[4]（と、迷いながら。）彼らの取り決めること[5]は、何と忌まわしいことではないか？

يَتَوَٰرَىٰ مِنَ ٱلۡقَوۡمِ مِن سُوٓءِ مَا بُشِّرَ بِهِۦٓۚ
أَيُمۡسِكُهُۥ عَلَىٰ هُونٍ أَمۡ يَدُسُّهُۥ فِي ٱلتُّرَابِۗ أَلَا
سَآءَ مَا يَحۡكُمُونَ ٥٩

60. 来世を信じない者たちにこそ、悪の属性[6]がある。そしてアッラー*にこそ最高の属性[7]があるのであり、かれは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方なのだ。

لِلَّذِينَ لَا يُؤۡمِنُونَ بِٱلۡأٓخِرَةِ مَثَلُ ٱلسَّوۡءِۖ وَلِلَّهِ
ٱلۡمَثَلُ ٱلۡأَعۡلَىٰۚ وَهُوَ ٱلۡعَزِيزُ ٱلۡحَكِيمُ ٦٠

---

1 当時のアラブ人の中には、天使*たちはアッラー*の娘である、と主張する者たちがいた（アル＝バガウィー3:83 参照）。

2 「彼らの欲するもの」とは、男児のこと。彼らは多くの間違いを犯している:まず、天使*たちを女性としたこと。また自分たちは女児を毛嫌いしているにも関わらず、天使*たちをアッラー*の女児としたこと。そして更には、その天使*たちをアッラー*と共に崇めたこと（イブン・カスィール 4:577 参照）。整列者章 149-154 も参照。

3 同様のアーヤ*として、金の装飾章 15-18 も参照。

4 家畜章 137 とその訳注も参照。

5 「彼らの取り決めること」の内容については、アーヤ*57 を参照（ムヤッサル 273 頁参照）。

6 「悪の属性」とは、彼らがアッラー*に対して主張しているような欠陥や不完全性のほか、無知、不信仰、地獄の懲罰などのこと（アル＝クルトゥビー10:119 参照）。

7 相談章 11 とその訳注も参照。

61. また、もしアッラー*が人々をその不正*ゆえにお咎めになるとしたら、そこ（地上）にはいかなる生物も残してはおかれなかっただろう[1]。しかしかれは、定められた期限まで、彼らを猶予されるのである。そして彼らの期限が訪れれば、（彼らはそれを）一刻たりとも遅らせたり、早めたりすることはない。

وَلَوْ يُؤَاخِذُ ٱللَّهُ ٱلنَّاسَ بِظُلْمِهِم مَّا تَرَكَ
عَلَيْهَا مِن دَآبَّةٍ وَلَٰكِن يُؤَخِّرُهُمْ إِلَىٰٓ أَجَلٍ
مُّسَمًّى فَإِذَا جَآءَ أَجَلُهُمْ لَا يَسْتَـْٔخِرُونَ
سَاعَةً وَلَا يَسْتَقْدِمُونَ ٦١

62. また、彼らはアッラー*に、自分たちが嫌うもの[2]をあてがっている。そして彼らの舌は、自分たちにこそ最上のもの[3]がある、と嘘をついている。間違いなく、彼らには業火（の懲罰）があるのであり、彼らはそこに放置される[4]のである。

وَيَجْعَلُونَ لِلَّهِ مَا يَكْرَهُونَ وَتَصِفُ أَلْسِنَتُهُمُ
ٱلْكَذِبَ أَنَّ لَهُمُ ٱلْحُسْنَىٰ لَا جَرَمَ أَنَّ لَهُمُ
ٱلنَّارَ وَأَنَّهُم مُّفْرَطُونَ ٦٢

63. アッラー*に誓って、（使徒*よ、）われら*は確かに、あなた方以前の民に（使徒*たちを）遣わした。そしてシャイターン*が彼らの行い[5]を、彼らに目映く見せたのである。それで彼（シャイターン*）は今日[6]、彼らの庇護者なのであり、彼らには（来世において）痛ましい懲罰があるのだ。

تَٱللَّهِ لَقَدْ أَرْسَلْنَآ إِلَىٰٓ أُمَمٍ مِّن قَبْلِكَ فَزَيَّنَ
لَهُمُ ٱلشَّيْطَٰنُ أَعْمَٰلَهُمْ فَهُوَ وَلِيُّهُمُ ٱلْيَوْمَ
وَلَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ٦٣

---

1 一説には、人類と共に、地上の全生物を滅ぼされたであろう、という意味（イブン・カスィール 4:578 参照）。同様のアーヤ*として、創成者*章 45 も参照。

2 「自分たちが嫌うもの」とは、女児のこと（ムヤッサル 273 頁参照）。

3 この「最上のもの」の解釈には、「男児」「天国」といった説がある（アル＝バガウィー3:84 参照）。

4 その他、「真っ先にそこに放り込まれる」という意味合いも含まれる（アッ＝タバリー 6:5002 参照）。

5 不信仰、嘘呼ばわり、アッラー*以外のものへの崇拝*などのこと（ムヤッサル 273 頁参照）。

6 「今日」とは、現世、あるいは復活の日*のこと（アル＝クルトゥビー10:121-122 参照）。

64. そして（使徒*よ）、われら*があなたに啓典（クルアーン*）を下したのは、あなたが、彼らが（宗教において）意見を異にしていることを彼らに明らかにし、（われら*がクルアーン*を）導きとし、信仰する民への慈悲とするためであった。

وَمَآ أَنزَلۡنَا عَلَيۡكَ ٱلۡكِتَٰبَ إِلَّا لِتُبَيِّنَ لَهُمُ
ٱلَّذِي ٱخۡتَلَفُواْ فِيهِ وَهُدٗى وَرَحۡمَةٗ لِّقَوۡمٖ
يُؤۡمِنُونَ ٦٤

65. アッラーは天から（雨）水をお降らしになり、それで大地を、その死後に息吹かせ[1]給う。本当にその中にはまさしく、耳を傾ける民への御徴[2]があるのだ。

وَٱللَّهُ أَنزَلَ مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءٗ فَأَحۡيَا بِهِ ٱلۡأَرۡضَ بَعۡدَ
مَوۡتِهَآۚ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَةٗ لِّقَوۡمٖ يَسۡمَعُونَ ٦٥

66. また（人々よ）、本当に家畜の内にはまさしく、あなた方にとっての教示がある。われら*はその腹部にある（食べ）物より、胃袋の中の残留物と血液の間からの（分泌物である）、混じり気のない、飲む者にとって喉越しのよい乳を、あなた方に飲ませる。

وَإِنَّ لَكُمۡ فِي ٱلۡأَنۡعَٰمِ لَعِبۡرَةٗۖ نُّسۡقِيكُم مِّمَّا فِي
بُطُونِهِۦ مِنۢ بَيۡنِ فَرۡثٖ وَدَمٖ لَّبَنًا خَالِصٗا سَآئِغٗا
لِّلشَّٰرِبِينَ ٦٦

67. また、ナツメヤシや葡萄の果実から（も、あなた方に飲ませる）。あなた方はそこから酒*[3]と、よい糧[4]を得る。本当にその中にはまさしく、分別する民への（アッラー*の御力を示す）御徴がある。

وَمِن ثَمَرَٰتِ ٱلنَّخِيلِ وَٱلۡأَعۡنَٰبِ تَتَّخِذُونَ مِنۡهُ
سَكَرٗا وَرِزۡقًا حَسَنًاۚ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَةٗ لِّقَوۡمٖ يَعۡقِلُونَ ٦٧

68. また、あなたの主*は、蜜蜂に（こう）お教えになった。「山々の内に、あなたの巣を作るのだ。そして木々の内や、彼ら（人々）が建てるもの[5]の内に（巣を作れ）。

وَأَوۡحَىٰ رَبُّكَ إِلَى ٱلنَّحۡلِ أَنِ ٱتَّخِذِي مِنَ ٱلۡجِبَالِ
بُيُوتٗا وَمِنَ ٱلشَّجَرِ وَمِمَّا يَعۡرِشُونَ ٦٨

1「大地をその死後に息吹かせる」については、雌牛章 164 の訳注を参照。

2 この「御徴」は、復活を可能にするアッラーの御力、かれの唯一性*の証拠のこと（ムヤッサル 274 頁参照）。

3 これは、酒*が禁じられる前の啓示（ムヤッサル 274 頁参照）。雌牛章 219 の訳注も参照。

4 「よい糧」とは、それらの果実から得られる合法なもの。つまり、ナツメヤシの実、干し葡萄、それらから抽出された糖蜜、酢、発酵する前の果汁などのこと（イブン・カスィール 4:581 参照）。

5 一説によれば、葡萄棚や軒先など、人為によるもの。あるいはそもそも養蜂家が、それを目的に作った巣箱のこと（アッ＝シャルビーニー2:192 参照）。

69. それから、あらゆる果実から食べ、（あなたのために）均された、あなたの主*の道々を（、糧を求めて）行くのだ」。その腹部からは様々な色合いの、人々への癒しを含む飲み物が分泌される。本当にその中にはまさしく、熟考する民への（アッラー*の御力を示す）御徴があるのだ。

ثُمَّ كُلِي مِن كُلِّ ٱلثَّمَرَٰتِ فَٱسْلُكِي سُبُلَ رَبِّكِ
ذُلُلًا ۚ يَخْرُجُ مِنۢ بُطُونِهَا شَرَابٌ مُّخْتَلِفٌ أَلْوَٰنُهُۥ
فِيهِ شِفَآءٌ لِّلنَّاسِ ۗ إِنَّ فِى ذَٰلِكَ لَءَايَةً لِّقَوْمٍ
يَتَفَكَّرُونَ ٦٩

70. アッラー*があなた方を創造し、その後にあなた方を召されるのだ。あなた方の内には（健常なまま死を迎える者もいれば）、最悪の年齢[1]へと戻らされる者もいる。こうして彼は、知識（の習得）の後に（再び、誕生した時のような）何も知らない状態になるのだ。本当にアッラー*は、全知者、全能のお方であられる。

وَٱللَّهُ خَلَقَكُمْ ثُمَّ يَتَوَفَّىٰكُمْ ۚ وَمِنكُم مَّن يُرَدُّ إِلَىٰٓ
أَرْذَلِ ٱلْعُمُرِ لِكَىْ لَا يَعْلَمَ بَعْدَ عِلْمٍ شَيْـًٔا ۚ إِنَّ ٱللَّهَ
عَلِيمٌ قَدِيرٌ ٧٠

71. また、アッラー*は糧において、あなた方のある者を別の者よりも、お引き立てになった。そして（糧において）引き立てられた者たちは、自分たちの右手が所有するもの（奴隷*）にその糧を還元し、それ（の所有）において彼らが（自分たちと）同等となるようにはしない。一体、彼らはアッラー*の恩恵を否定するのか？[2]

وَٱللَّهُ فَضَّلَ بَعْضَكُمْ عَلَىٰ بَعْضٍ فِى ٱلرِّزْقِ ۚ فَمَا
ٱلَّذِينَ فُضِّلُوا۟ بِرَآدِّى رِزْقِهِمْ عَلَىٰ مَا مَلَكَتْ
أَيْمَٰنُهُمْ فَهُمْ فِيهِ سَوَآءٌ ۚ أَفَبِنِعْمَةِ ٱللَّهِ
يَجْحَدُونَ ٧١

---

1 「最悪の年齢」とは老齢のことで、身体的な弱さや理性や記憶の低下などのこと（イブン・カスィール 4:585 参照）。預言者*ムハンマド*は、この「最悪の年齢」に戻らされることから、アッラーのご加護を乞うたものであった（アル＝ブハーリー2822参照）。

2 これは、シルク*の徒に対するたとえ。奴隷*の所有者は、奴隷*に自分の財産を与えて、彼が自分の財産における同等な共有者となることを望まない。それにも関わらず、アッラー*に対して、かれのしもべの内から同位者を設けるとはどういうことか、ということ（ムヤッサル 274 頁参照）。同様のアーヤ*として、ビザンチン章 28 も参照。

72. また、アッラー*はあなた方自身の内から、あなた方のためにに妻をお創りになった。そしてあなた方の妻からあなた方に、子供たちと孫[1]を創られ、あなた方に善きものの内から授けられた。それで一体、彼らは虚妄を信じ、アッラー*の恩恵には恩知らずであり続ける[2]というのか？

وَٱللَّهُ جَعَلَ لَكُم مِّنْ أَنفُسِكُمْ أَزْوَٰجًا وَجَعَلَ
لَكُم مِّنْ أَزْوَٰجِكُم بَنِينَ وَحَفَدَةً
وَرَزَقَكُم مِّنَ ٱلطَّيِّبَٰتِ ۚ أَفَبِٱلْبَٰطِلِ يُؤْمِنُونَ
وَبِنِعْمَتِ ٱللَّهِ هُمْ يَكْفُرُونَ ٧٢

73. また、彼ら（シルク*の徒）は自分たちに、諸天や大地から何一つ糧を有してはおらず[3]、（そうすることも）出来ないものを、アッラー*を差しおいて崇めている。

وَيَعْبُدُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ مَا لَا يَمْلِكُ لَهُمْ رِزْقًا
مِّنَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ شَيْـًٔا وَلَا
يَسْتَطِيعُونَ ٧٣

74. ならば（人々よ）、アッラー*に同類を設けてはならない[4]。本当にアッラー*がご存知なのであり、あなた方は知らないのだから。

فَلَا تَضْرِبُوا۟ لِلَّهِ ٱلْأَمْثَالَ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ يَعْلَمُ وَأَنتُمْ
لَا تَعْلَمُونَ ٧٤

75. アッラー*は、譬え[5]をお挙げになった。無能な奴隷*の僕と、われら*がわれら*の御許からよき糧を授け、そこから密かに、あるいは露わに施す（裁量権を有する）者（の譬え）を。一体、彼らは同等であろうか？ アッラー*にこそ称賛*あれ。いや、彼ら（シルク*の徒）の大半は（、アッラー*こそが全ての称賛*と崇拝*に値することを、）知らないのだ。

۞ ضَرَبَ ٱللَّهُ مَثَلًا عَبْدًا مَّمْلُوكًا لَّا
يَقْدِرُ عَلَىٰ شَىْءٍ وَمَن رَّزَقْنَٰهُ مِنَّا رِزْقًا حَسَنًا
فَهُوَ يُنفِقُ مِنْهُ سِرًّا وَجَهْرًا ۖ هَلْ يَسْتَوُۥنَ ۚ
ٱلْحَمْدُ لِلَّهِ ۚ بَلْ أَكْثَرُهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ٧٥

---

1 「孫」ではなく、婚姻（こんいん）関係によって出来た親戚、援助者、奉仕する者、などといった解釈もある（アッ＝タバリー6:5018-5022 参照）。

2 この「虚妄」は偶像やシャイターン*などのことで、「恩恵」はイスラーム*や、アッラー*が合法とされたことである、とされる（アル＝バガウィー3:88 参照）。

3 つまり、天から雨を、大地から作物を恵んでもくれない、ということ（ムヤッサル 275 頁参照）。

4 アッラー*に同類のものがあるなどとして、シルク*を犯してはならない、ということ（前掲書、同頁参照）。

5 この二者が何を指すかについては、前者と後者がそれぞれ「偶像、アッラー*」「不信仰者*、信仰者」といった解釈がある（アル＝クルトゥビー10:146-147 参照）。

76. また、アッラー*は、二人の男の譬えをお挙げになった。片方は口が聞けず、無能で、その後見人のお荷物であり、（後見人が）彼をどこへ遣わそうとも、善きものをもたらさない。一体、彼と、（健常で有能、かつ）公正を命じ、まっすぐな道の上にある者とは、同等であろうか？[1]

وَضَرَبَ ٱللَّهُ مَثَلٗا رَّجُلَيۡنِ أَحَدُهُمَآ
أَبۡكَمُ لَا يَقۡدِرُ عَلَىٰ شَيۡءٖ وَهُوَ كَلٌّ عَلَىٰ
مَوۡلَىٰهُ أَيۡنَمَا يُوَجِّههُّ لَا يَأۡتِ بِخَيۡرٍ هَلۡ
يَسۡتَوِي هُوَ وَمَن يَأۡمُرُ بِٱلۡعَدۡلِ وَهُوَ عَلَىٰ
صِرَٰطٖ مُّسۡتَقِيمٖ ٧٦

77. アッラー*にこそ、諸天と大地の不可視の世界*（に関する知識）が属する。そして復活の日*というもの（の到来）は、ほんの一瞥（の速さ）に過ぎないか、それより間近なのである[2]。本当にアッラー*は、全てのことがお出来になるお方なのだから。

وَلِلَّهِ غَيۡبُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۚ وَمَآ
أَمۡرُ ٱلسَّاعَةِ إِلَّا كَلَمۡحِ ٱلۡبَصَرِ أَوۡ هُوَ
أَقۡرَبُۚ إِنَّ ٱللَّهَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٞ ٧٧

78. アッラー*はあなた方を、あなた方の母親の胎内から、何一つ知らない状態でお出しになった。また、かれはあなた方に、聴覚と視覚と心を授けられた。あなた方が（かれの恩恵に）感謝（し、かれのみを崇拝*）するように、である。

وَٱللَّهُ أَخۡرَجَكُم مِّنۢ بُطُونِ أُمَّهَٰتِكُمۡ
لَا تَعۡلَمُونَ شَيۡـٔٗا وَجَعَلَ لَكُمُ ٱلسَّمۡعَ
وَٱلۡأَبۡصَٰرَ وَٱلۡأَفۡـِٔدَةَ لَعَلَّكُمۡ تَشۡكُرُونَ ٧٨

79. 一体、彼ら（シルク*の徒）は、（アッラー*によって）天空に仕えさせられている鳥を見なかったのか？ それらを（落下せぬよう）支えているのは、アッラー*以外の何者でもないのだ。本当にその中にはまさしく、信仰する民への御徴がある。

أَلَمۡ يَرَوۡاْ إِلَى ٱلطَّيۡرِ مُسَخَّرَٰتٖ فِي جَوِّ ٱلسَّمَآءِ
مَا يُمۡسِكُهُنَّ إِلَّا ٱللَّهُۚ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَٰتٖ
لِّقَوۡمٖ يُؤۡمِنُونَ ٧٩

---

1 この二者のたとえについては、アーヤ*75 の訳注を参照（アル＝クルトゥビー10:149 参照）。

2 アッラー*が復活の日*の到来をお望みになれば、復活も召集も全て、瞬時に起こる。またこのアーヤ*は、復活の日*の到来が近いことを示している（アーヤ*1、預言者*たち章 1 の訳注も参照）のだ、という解釈もある（イブン・アティーヤ 3:411 参照）。

80. また、アッラー*はあなた方（定住者）のために、あなた方の住居という安住の場を提供された。そしてあなた方（旅行者）のために、家畜の皮によって住居（テント）を授けられた。あなた方の旅行の日にも、あなた方の滞在の日にも、あなた方はそれを手軽に扱う[1]。また、あなた方に、その羊毛、ラクダの毛、山羊の毛から、家財と、暫しの間の利益を（あなた方に授けられた）。

وَٱللَّهُ جَعَلَ لَكُم مِّنۢ بُيُوتِكُمۡ سَكَنٗا وَجَعَلَ
لَكُم مِّن جُلُودِ ٱلۡأَنۡعَٰمِ بُيُوتٗا تَسۡتَخِفُّونَهَا يَوۡمَ
ظَعۡنِكُمۡ وَيَوۡمَ إِقَامَتِكُمۡ وَمِنۡ أَصۡوَافِهَا
وَأَوۡبَارِهَا وَأَشۡعَارِهَآ أَثَٰثٗا
وَمَتَٰعًا إِلَىٰ حِينٖ ٨٠

81. また、アッラー*はかれがお創りになったものから、あなた方に影をお授けになり、あなた方のために、山々の所々に隠れ場（である洞窟）を設けられた。また、あなた方のため、あなた方を暑さから守ってくれる衣服と、自分たち（が争い合う際）の武力から、あなた方自身を守ってくれる衣服を授けられた。そのように、かれはあなた方にその恩恵を全うされる[2]のだ。（それは、）あなた方が（かれのご命令にのみ、）服従するためである。

وَٱللَّهُ جَعَلَ لَكُم مِّمَّا خَلَقَ ظِلَٰلٗا وَجَعَلَ
لَكُم مِّنَ ٱلۡجِبَالِ أَكۡنَٰنٗا وَجَعَلَ
لَكُمۡ سَرَٰبِيلَ تَقِيكُمُ ٱلۡحَرَّ
وَسَرَٰبِيلَ تَقِيكُم بَأۡسَكُمۡۚ كَذَٰلِكَ يُتِمُّ
نِعۡمَتَهُۥ عَلَيۡكُمۡ لَعَلَّكُمۡ تُسۡلِمُونَ ٨١

82. （使徒*よ、）それでもし彼らが背を向けても、あなたには（啓示の）明白なる伝達が課せられているだけなのだ。

فَإِن تَوَلَّوۡاْ فَإِنَّمَا عَلَيۡكَ ٱلۡبَلَٰغُ ٱلۡمُبِينُ ٨٢

83. 彼ら（シルク*の徒）は、アッラー*の恩恵[3]を知っている。その後に及んで、彼らはそれを否定するのだ。彼らの大半は、不信仰者*なのである。

يَعۡرِفُونَ نِعۡمَتَ ٱللَّهِ ثُمَّ يُنكِرُونَهَا
وَأَكۡثَرُهُمُ ٱلۡكَٰفِرُونَ ٨٣

1 つまり旅行中の携帯や、旅行後の滞在において、それを組み立てる際に「手軽」である（ムヤッサル 276 頁参照）。

2 真理の宗教をご説明される、という意味であるとされる（前掲書、同頁参照）。

3 この「アッラー*の恩恵」は特に、預言者*ムハンマド*が使徒*として彼らに遣わされたことを指すとされる（前掲書、同頁参照）。

84. われら*が各共同体から、証人[1]を遣(つか)わす日（のことを彼らに思い起こさせよ）。その後、不信仰だった者*たちには（弁解(べんかい)の）許(ゆる)しも与えられなければ、（アッラー*の）ご満悦(まんえつ)を得ることも課されないのだ[2]。

وَيَوۡمَ نَبۡعَثُ مِن كُلِّ أُمَّةٖ شَهِيدٗا ثُمَّ
لَا يُؤۡذَنُ لِلَّذِينَ كَفَرُواْ وَلَا هُمۡ
يُسۡتَعۡتَبُونَ ٨٤

85. また、（不信仰という）不正*を働いていた者たちが（来世の）懲罰(ちょうばつ)を目にする時、それは彼らに軽減されることもなく、また猶予(ゆうよ)が与えられることもない。

وَإِذَا رَءَا ٱلَّذِينَ ظَلَمُواْ ٱلۡعَذَابَ فَلَا يُخَفَّفُ
عَنۡهُمۡ وَلَا هُمۡ يُنظَرُونَ ٨٥

86. また、シルク*を犯(おか)していた者たちは（復活の日*）、自分たち（がアッラー*）の同位者（としていたもの）たちを見る時、（こう）言う。「我らが主(しゅ)*よ、これらの者たちは、私たちがあなたをよそに祈っていた、私たち（があなた）の同位者（としていたもの）たちです」。そしてそれらは、彼らに対して言葉を放つ。「（シルク*の徒よ、）本当にあなた方はまさしく、嘘(うそ)つきである」。[3]

وَإِذَا رَءَا ٱلَّذِينَ أَشۡرَكُواْ شُرَكَآءَهُمۡ قَالُواْ
رَبَّنَا هَٰٓؤُلَآءِ شُرَكَآؤُنَا ٱلَّذِينَ كُنَّا
نَدۡعُواْ مِن دُونِكَۖ فَأَلۡقَوۡاْ إِلَيۡهِمُ ٱلۡقَوۡلَ
إِنَّكُمۡ لَكَٰذِبُونَ ٨٦

87. そして彼ら（シルク*の徒）はその日、アッラー*に降伏(こうふく)する。彼らがでっち上げていたものは、彼らから消え去ってしまったのだ。

وَأَلۡقَوۡاْ إِلَى ٱللَّهِ يَوۡمَئِذٍ ٱلسَّلَمَۖ وَضَلَّ
عَنۡهُم مَّا كَانُواْ يَفۡتَرُونَ ٨٧

---

1 この「証人」については、婦人章 41 とその訳注を参照。

2 来世は褒美を稼ぐ場所ではないので、そこではもう主*のご満悦を得るための努力は出来ず、かと言って現世に戻って悔悟することも叶わない（アル＝バガウィー3:91 参照）。復活の日*の悔悟については、家畜章 158 とその訳注も参照。

3 シルク*の徒がアッラー*をよそに崇めていたものは復活の日*、「あなた方は私たちをアッラー*の同位者とし、アッラー*と共に自分たちを崇めるという、嘘をついていた。私たちはあなた方にそのようなことを命じてはいないし、自分たちが崇拝*に値するとも思っていない」と言って、自分たちを崇めていた者たちとの決別を表明する（ムヤッサル 276 頁参照）。同様の情景の描写として、雌牛章 166-167、高壁章 38、イブラーヒーム*章 21-22、識別章 17-19、物語章 63、部族連合章 67-68、サバア章 31-33、40-41 も参照。

88. 不信仰であり、（自分たちと人々を）アッラー*の道から阻んだ者たち、われら*は彼らが腐敗*を働いていたことゆえ、彼らに懲罰の上に更なる懲罰を上乗せしてやる。

ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ وَصَدُّواْ عَن سَبِيلِ ٱللَّهِ زِدۡنَٰهُمۡ عَذَابٗا فَوۡقَ ٱلۡعَذَابِ بِمَا كَانُواْ يُفۡسِدُونَ ٨٨

89. また、われら*が各共同体に、彼ら自身の中から彼らに対する証人[1]を遣わす日（のことを、思い起こさせよ）。そして（使徒*よ、）われら*は、あなたをこれらの者たちに対する証人として連れて来るのだ。われら*は全ての物事の解明、導き、慈悲、そして服従する者（ムスリム*）たちにとっての吉報として、あなたに啓典を下したのである。

وَيَوۡمَ نَبۡعَثُ فِي كُلِّ أُمَّةٖ شَهِيدًا عَلَيۡهِم مِّنۡ أَنفُسِهِمۡۖ وَجِئۡنَا بِكَ شَهِيدًا عَلَىٰ هَٰٓؤُلَآءِۚ وَنَزَّلۡنَا عَلَيۡكَ ٱلۡكِتَٰبَ تِبۡيَٰنٗا لِّكُلِّ شَيۡءٖ وَهُدٗى وَرَحۡمَةٗ وَبُشۡرَىٰ لِلۡمُسۡلِمِينَ ٨٩

90. 本当にアッラー*は、公正と善行と近親への贈与をご命じになり、醜行と悪事と侵害を禁じ給う[2]。かれはあなた方が教訓を受けるよう、あなた方を戒められるのだ。

۞إِنَّ ٱللَّهَ يَأۡمُرُ بِٱلۡعَدۡلِ وَٱلۡإِحۡسَٰنِ وَإِيتَآيِٕ ذِي ٱلۡقُرۡبَىٰ وَيَنۡهَىٰ عَنِ ٱلۡفَحۡشَآءِ وَٱلۡمُنكَرِ وَٱلۡبَغۡيِۚ يَعِظُكُمۡ لَعَلَّكُمۡ تَذَكَّرُونَ ٩٠

91. また、アッラー*の契約[3]を全うせよ。あなた方が（それを）結んだならば。そして誓約を、それを確認した後に破ってはならない。あなた方は確かに、アッラー*をあなた方の（契約と誓約における）保証人としたというのに。本当にアッラー*はあなた方のすることを、ご存知であるのだぞ。

وَأَوۡفُواْ بِعَهۡدِ ٱللَّهِ إِذَا عَٰهَدتُّمۡ وَلَا تَنقُضُواْ ٱلۡأَيۡمَٰنَ بَعۡدَ تَوۡكِيدِهَا وَقَدۡ جَعَلۡتُمُ ٱللَّهَ عَلَيۡكُمۡ كَفِيلًاۚ إِنَّ ٱللَّهَ يَعۡلَمُ مَا تَفۡعَلُونَ ٩١

---

1 この「証人」については、婦人章 41 とその訳注を参照。

2 「公正」とは、アッラー*とその創造物に対する公正さのこと。つまりアッラー*とその創造物に対してその義務を果たし、人々との売買などにおいても公正さを守ること。「善行」は、財産、身体、知識などで他者を益すること。「近親への贈与」は物質的なものに限らず、より近い者を優先しつつ善行を行い、その縁を保つこと。また「醜行」は、シルク*、殺人、姦通（かんつう）、盗み、自惚（うぬぼ）れ、高慢さなど、イスラーム*法と自然な人間の天性が醜（みにく）いものとしたもの。「悪事」は、全ての罪（イムラーン家 104 の訳注も参照）。「侵害」は、生命、財産、尊厳（そんげん）に対する侵害のこと（アッ＝サアディー447 頁参照）。

3 アッラー*と人々の間の契約（雌牛章 27 の訳注も参照）、あるいはイスラーム*法的に合法な、人と人の間の契約のこと（ムヤッサル 277 頁参照）。

92. また、紡いだ糸を丈夫に（縒り合わ）した後、解いてばらばらにしてしまった女性[1]のようになってはならない。ある集団が（別の）集団よりも優勢であるがゆえに、あなた方の誓約を、あなた方の間の騙し（の手段）とすることで[2]。アッラー*はそれ（契約の遵守）によって、あなた方を試みられるに外ならない。そしてかれは復活の日*、あなた方が（現世で）意見を異にしていたこと[3]を、必ずやあなた方に明らかにされるのである。

وَلَا تَكُونُوا۟ كَٱلَّتِى نَقَضَتْ غَزْلَهَا مِنۢ بَعْدِ
قُوَّةٍ أَنكَـٰثًا تَتَّخِذُونَ أَيْمَـٰنَكُمْ دَخَلًۢا
بَيْنَكُمْ أَن تَكُونَ أُمَّةٌ هِىَ أَرْبَىٰ مِنْ أُمَّةٍ ۚ
إِنَّمَا يَبْلُوكُمُ ٱللَّهُ بِهِۦ ۚ وَلَيُبَيِّنَنَّ لَكُمْ يَوْمَ
ٱلْقِيَـٰمَةِ مَا كُنتُمْ فِيهِ تَخْتَلِفُونَ ﴿٩٢﴾

93. もしアッラー*がお望みになれば、あなた方を（イスラーム*に基づく）一つの民とされたであろう。しかし、かれは（迷妄を好んだ者の内、）お望みになる者を迷わせられ、（真理を好んだ者の内、）お望みになる者をお導きになる。そして（復活の日*、）あなた方は自分たちが（現世で）行っていたことを、必ずや問われることになるのだ。

وَلَوْ شَآءَ ٱللَّهُ لَجَعَلَكُمْ أُمَّةً وَٰحِدَةً
وَلَـٰكِن يُضِلُّ مَن يَشَآءُ وَيَهْدِى مَن يَشَآءُ ۚ
وَلَتُسْـَٔلُنَّ عَمَّا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٩٣﴾

94. あなた方の誓約を、あなた方の間の騙し（の手段）としてはならない。そうすれば足元が堅固であった後に躓くこと[4]となり、あなた方は（人々を騙して）アッラー*の道から阻んだことゆえに、災い[5]を味わうことにな

وَلَا تَتَّخِذُوٓا۟ أَيْمَـٰنَكُمْ دَخَلًۢا بَيْنَكُمْ
فَتَزِلَّ قَدَمٌۢ بَعْدَ ثُبُوتِهَا وَتَذُوقُوا۟ ٱلسُّوٓءَ
بِمَا صَدَدتُّمْ عَن سَبِيلِ ٱللَّهِ ۖ وَلَكُمْ عَذَابٌ
عَظِيمٌ ﴿٩٤﴾

1 この女性はマッカ*に実在したという説と、単なる譬（たと）えであるという説がある（アッ＝タバリー6:5042-5043 参照）。

2 このアーヤ*は、ある部族と盟約を結んでおきながら、より多勢で強力な別の部族が出現すると、前者との盟約を裏切って後者と盟約を結ぶ、ということをしていたアラブ人たちに関して下った、とされる。ここでは特に、より多勢で豊かだった不信仰者*になびいて、不信仰に舞い戻ってはならないという、信仰者への戒（いまし）めの言葉（アル＝クルトゥビー10:171 参照）。

3 つまり、アッラー*への信仰や、ムハンマド*の預言者*性の真実について「意見を異にしていたこと」（ムヤッサル 277 頁参照）。

4 安泰であった後に、滅ぼされることのたとえ（前掲書 278 頁参照）。

5 この「災い」とは、現世での懲罰のことであると言われる（前掲書、同頁参照）。

るのだ。そしてあなた方には（来世で）、この上ない懲罰があるのである。

95. また、アッラー*の契約と引き換えに、僅かな値打ちのものを買ったりしてはならない。アッラー*の御許にあるもの、それこそがあなた方にとってより善いのだから。もし、あなた方が知っているというのなら（、現世と来世における恩恵の違いを、よく熟考するがよい）。

وَلَا تَشۡتَرُواْ بِعَهۡدِ ٱللَّهِ ثَمَنٗا قَلِيلًاۚ إِنَّمَا عِندَ
ٱللَّهِ هُوَ خَيۡرٞ لَّكُمۡ إِن كُنتُمۡ تَعۡلَمُونَ ٩٥

96. あなた方の手許にあるものは消滅するが、アッラー*の御許にあるもの（褒美）は残るのだ。そしてわれら*は忍耐*した者たちに対し、彼らが行っていた最善のもので、必ずやその褒美を報いてやるのだ。

مَا عِندَكُمۡ يَنفَدُ وَمَا عِندَ ٱللَّهِ بَاقٖۗ
وَلَنَجۡزِيَنَّ ٱلَّذِينَ صَبَرُوٓاْ أَجۡرَهُم بِأَحۡسَنِ
مَا كَانُواْ يَعۡمَلُونَ ٩٦

97. 男性であれ女性であれ、誰であろうと信仰者で正しい行い*を行う者、われら*はその者に、必ずやよい暮らし[1]を送らせよう。そしてわれら*は彼らに対し、彼らが行っていた最善のもので、必ずや彼らの褒美を報いてやるのだ。

مَنۡ عَمِلَ صَٰلِحٗا مِّن ذَكَرٍ أَوۡ أُنثَىٰ
وَهُوَ مُؤۡمِنٞ فَلَنُحۡيِيَنَّهُۥ حَيَوٰةٗ طَيِّبَةٗۖ
وَلَنَجۡزِيَنَّهُمۡ أَجۡرَهُم بِأَحۡسَنِ مَا كَانُواْ
يَعۡمَلُونَ ٩٧

98. （信仰者よ、）あなたがクルアーン*を誦む時には、追放された[2]シャイターン*に対し、アッラー*によるご加護を乞うのだ。[3]

فَإِذَا قَرَأۡتَ ٱلۡقُرۡءَانَ فَٱسۡتَعِذۡ بِٱللَّهِ مِنَ
ٱلشَّيۡطَٰنِ ٱلرَّجِيمِ ٩٨

99. 本当に、信仰し、自分たちの主*にこそ全てを委ねる*者たちに対し、彼（シャイターン*）にはいかなる力[4]もないのだから。

إِنَّهُۥ لَيۡسَ لَهُۥ سُلۡطَٰنٌ عَلَى ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ
وَعَلَىٰ رَبِّهِمۡ يَتَوَكَّلُونَ ٩٩

---

1 この「よい暮らし」には、「合法で善い糧」「満足」「幸福」など複数の解釈があるが、イブン・カスィール*はそれらが全て「よい暮らし」の中に含まれるとしている（4:601 参照）。

2 「追放された」については、イムラーン家章 36 の訳注を参照。

3 クルアーン*を読み始める前にはシャイターン*に対し、アッラー*からのご加護を乞う祈願の言葉を口にするのが推奨（すいしょう）されている（イブン・カスィール 4:602 参照）。

4 「力」ではなく、「根拠」という解釈もある（前掲書、同頁参照）。

100. 彼（シャイターン*）の力とは、彼を盟友とする者たち、そして（シャイターン*に従うことで、）かれ（アッラー*）にシルク*を犯している者たちに対するものに外ならない。

إِنَّمَا سُلْطَٰنُهُۥ عَلَى ٱلَّذِينَ يَتَوَلَّوْنَهُۥ وَٱلَّذِينَ
هُم بِهِۦ مُشْرِكُونَ ١٠٠

101. また、われら*があるアーヤ*の場所に（別の）アーヤ*を（あてがって）取り替えた[1]時——アッラー*はご自身が下されるものを、最もよくご存知である[2]——、彼ら（不信仰者*）は（こう）言った。「（ムハンマド*よ、）あなたは、（アッラー*に対する嘘の）捏造者に外ならない」。いや、彼らの大半は（そこに含まれる英知を）知らないのだ。

وَإِذَا بَدَّلْنَآ ءَايَةً مَّكَانَ ءَايَةٍ وَٱللَّهُ
أَعْلَمُ بِمَا يُنَزِّلُ قَالُوٓا۟ إِنَّمَآ أَنتَ مُفْتَرٍۭ بَلْ
أَكْثَرُهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ١٠١

102. （使徒*よ、彼らに）言ってやるがいい。「聖なる魂（ジブリール*）[3]がそれをあなた[4]の主*の御許から、真理と共に下したのである。（それは）信仰する者たちを堅固にし、（迷いからの）導き、服従する者（ムスリム*）たちへの吉報とするためであった」。

قُلْ نَزَّلَهُۥ رُوحُ ٱلْقُدُسِ مِن رَّبِّكَ بِٱلْحَقِّ
لِيُثَبِّتَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَهُدًى وَبُشْرَىٰ
لِلْمُسْلِمِينَ ١٠٢

103. われら*は、彼ら（シルク*の徒）が、「彼に（クルアーン*を）教えているのは、人間に外ならない[5]」と言うのを、確かに知っている。（彼らは嘘をついているのだ、

وَلَقَدْ نَعْلَمُ أَنَّهُمْ يَقُولُونَ إِنَّمَا يُعَلِّمُهُۥ
بَشَرٌ لِّسَانُ ٱلَّذِى يُلْحِدُونَ إِلَيْهِ
أَعْجَمِىٌّ وَهَٰذَا لِسَانٌ عَرَبِىٌّ مُّبِينٌ ١٠٣

---

1 アーヤ*の撤回については雌牛章 106 と雷鳴章 39、その訳注も参照。

2 創造主こそは、創造物にとって最も有益なこと、異なる時においてどの法規定を啓示されるかを、ご存知のお方である（ムヤッサル 278 頁参照）。

3 ジブリール*が「魂」と表現されていることについては、マルヤム*章 17「われら*の魂」の訳注を参照。

4 本来は「我が主*」と表現されるところだが、敢えて「あなた」という人称が用いられている。この修辞法は「イルティファート（転換）」と呼ばれるもの（イブン・アーシュール 14:284 参照）。食卓章 12 の訳注も参照。

5 同様のアーヤ*として、家畜章 105、識別章 4-5、煙霧章 14 も参照。

というのも、）彼らが（預言者*が学んでいる言葉として）誤って指摘している男の言葉は異国語であり、これは明白なるアラビア語なのだから。

104. 本当にアッラー*の御徴（クルアーン*）を信じない者たち、アッラー*は彼らをお導きにはならない。そして彼らには（来世で）、痛ましい懲罰がある。

إِنَّ ٱلَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ لَا
يَهْدِيهِمُ ٱللَّهُ وَلَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ١٠٤

105. アッラー*の御徴を信じない者たちこそが、嘘を捏造するのだ。それらの者たちこそは嘘つきである。

إِنَّمَا يَفْتَرِي ٱلْكَذِبَ ٱلَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ
بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ وَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلْكَٰذِبُونَ ١٠٥

106. 信仰の後に、アッラー*に対する不信仰に陥った者*が（、嘘を捏造するのである）[1]。但し、その心は信仰で満たされていながらも、（不信仰の言葉を口にすることを）強制された者は別（で、お咎めはないの）だが[2]。しかし、不信仰に胸を開い（て、不信仰の言葉を口にし）た者、彼らの上にはアッラー*からのお怒りがあり、彼らにこそはこの上ない懲罰がある。

مَن كَفَرَ بِٱللَّهِ مِنۢ بَعْدِ إِيمَٰنِهِۦٓ إِلَّا مَنْ
أُكْرِهَ وَقَلْبُهُۥ مُطْمَئِنٌّۢ بِٱلْإِيمَٰنِ
وَلَٰكِن مَّن شَرَحَ بِٱلْكُفْرِ صَدْرًا
فَعَلَيْهِمْ غَضَبٌ مِّنَ ٱللَّهِ وَلَهُمْ عَذَابٌ
عَظِيمٌ ١٠٦

107. それというのも、彼らが来世よりも現世を愛したからであり、アッラー*が不信仰の民*をお導きにはならない[3]ためである。

ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمُ ٱسْتَحَبُّوا۟ ٱلْحَيَوٰةَ
ٱلدُّنْيَا عَلَى ٱلْءَاخِرَةِ وَأَنَّ ٱللَّهَ لَا
يَهْدِى ٱلْقَوْمَ ٱلْكَٰفِرِينَ ١٠٧

---

1 このアーヤ*には多くの文法的解釈があるが、アッ＝シャウカーニー*によれば大半の学者は、本文のような解釈を指示している（3:272 参照）。

2 一説によれば、このアーヤ*は、教友*アンマール*がマッカ*の不信仰者*に拷問（ごうもん）された挙げ句、彼らに強いられて不信仰の言葉を口にしてしまったことに関して下った。イブン・カスィール*は、ムスリム*がこのような状況において口先だけでそうすることも、それを拒否して立ち向かうことも、いずれも合法であるとした上で、後者の方がより優れた行為であるとしている（4:605-606 参照）。

3 つまりアッラー*は、その御徴を否定し、かつそこにおいて固執する者たちに、（真の）成功をお授けにはならない（アッ＝タバリー6:5060 参照）。

108. それらの者たちは、アッラー*がその心と聴覚と視覚を塞ぎ給うた者[1]であり、それらの者たちこそは（懲罰に）無頓着な者である。

أُولَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ طَبَعَ ٱللَّهُ عَلَىٰ قُلُوبِهِمۡ
وَسَمۡعِهِمۡ وَأَبۡصَٰرِهِمۡۖ وَأُوْلَٰٓئِكَ
هُمُ ٱلۡغَٰفِلُونَ ١٠٨

109. 間違いなく、彼らこそは来世における損失者なのだ。

لَا جَرَمَ أَنَّهُمۡ فِي ٱلۡأٓخِرَةِ هُمُ
ٱلۡخَٰسِرُونَ ١٠٩

110. それから本当にあなたの主*は、試練に遭った後に移住*し、それから（アッラー*の道において）努力奮闘し、忍耐*した者たち[2]に対して、——本当にあなたの主*は——その（悔悟の）後、実に赦し深いお方、慈愛深い*お方であられる。

ثُمَّ إِنَّ رَبَّكَ لِلَّذِينَ هَاجَرُواْ مِنۢ بَعۡدِ
مَا فُتِنُواْ ثُمَّ جَٰهَدُواْ وَصَبَرُوٓاْ إِنَّ
رَبَّكَ مِنۢ بَعۡدِهَا لَغَفُورٞ رَّحِيمٞ ١١٠

111. 全ての者が、自分のことを弁護しつつやって来て、各人が自ら行ったこと（の報い）を、不正*に扱われることもなく、ふんだんに受け取る（復活の）その日（のことを、思い起こさせよ）。

۞ يَوۡمَ تَأۡتِي كُلُّ نَفۡسٖ تُجَٰدِلُ عَن
نَّفۡسِهَا وَتُوَفَّىٰ كُلُّ نَفۡسٖ مَّا عَمِلَتۡ وَهُمۡ
لَا يُظۡلَمُونَ ١١١

112. 平穏で安泰であり、あらゆる場所からその糧が存分に舞い込んでいた[3]ある町（マッカ*）を、アッラー*は譬えにお挙げになった。そして（、その民は自分たちに対する）アッラー*の恩恵を蔑ろにし（、感謝せずにシルク*を犯し）た。それでアッラー*は彼らが成していた（不信仰と虚妄な行いという）事ゆえに、それ（そ

وَضَرَبَ ٱللَّهُ مَثَلٗا قَرۡيَةٗ كَانَتۡ ءَامِنَةٗ
مُّطۡمَئِنَّةٗ يَأۡتِيهَا رِزۡقُهَا رَغَدٗا مِّن كُلِّ
مَكَانٖ فَكَفَرَتۡ بِأَنۡعُمِ ٱللَّهِ فَأَذَٰقَهَا ٱللَّهُ
لِبَاسَ ٱلۡجُوعِ وَٱلۡخَوۡفِ بِمَا كَانُواْ
يَصۡنَعُونَ ١١٢

1 雌牛章 7 の訳注も参照。

2 これはマッカ*でシルク*の徒から抑圧され、彼らから不本意なこと（アーヤ*106 とその訳注を参照）を強制された後、マディーナ*へと移住し、アッラーの道に努力奮闘して、様々な義務の困難に忍耐*した者たちのことを指す（ムヤッサル 279 頁参照）。

3 雌牛章 125、蟻章 91 とそれらの訳注も参照。

の町の民）に飢えと恐怖という衣[1]を味わわせられたのだ。[2]

113. 彼ら（マッカ*の民）のもとには、彼らの内からの使徒*（ムハンマド*）が確かに到来した。そして彼らは彼を嘘つき呼ばわりし、懲罰[3]は不正*者であった彼らに襲いかかったのだ。

وَلَقَدْ جَآءَهُمْ رَسُولٌ مِّنْهُمْ فَكَذَّبُوهُ
فَأَخَذَهُمُ ٱلْعَذَابُ وَهُمْ ظَٰلِمُونَ ١١٣

114. ならば（信仰者たちよ）、アッラー*があなた方に授けて下さった合法で善きものの内から、食べるがよい。そしてアッラー*の恩恵に感謝するのだ。もしあなた方が、かれのみを崇拝*するというのなら。

فَكُلُوا۟ مِمَّا رَزَقَكُمُ ٱللَّهُ حَلَٰلًا طَيِّبًا
وَٱشْكُرُوا۟ نِعْمَتَ ٱللَّهِ إِن كُنتُمْ إِيَّاهُ
تَعْبُدُونَ ١١٤

115. かれはあなた方に、死肉、血液、豚肉、アッラー*以外の名において屠られたもの[4]を、禁じられたのだ。そしてやむを得ない状態にある者は、法を超えず度を越さない限りにおいて[5]、（それを口にしてもお咎めはない、というのも）本当にアッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。

إِنَّمَا حَرَّمَ عَلَيْكُمُ ٱلْمَيْتَةَ وَٱلدَّمَ
وَلَحْمَ ٱلْخِنزِيرِ وَمَآ أُهِلَّ لِغَيْرِ ٱللَّهِ بِهِۦ
فَمَنِ ٱضْطُرَّ غَيْرَ بَاغٍ وَلَا عَادٍ فَإِنَّ ٱللَّهَ
غَفُورٌ رَّحِيمٌ ١١٥

---

1 この「飢え」は一説に、預言者*ムハンマド*がマッカ*の民に対して祈った七年間の飢餓（きが）のこと。また「恐怖」とは、ムスリム*たちが移住*した後にマッカ*の民が味わうことになった、マディーナ*からの遠征軍に対するものである、とされる。一方のムスリム*たちはと言えば、彼らとは逆に貧困の後に豊かさを、恐怖の後に平安を味わうことになった（イブン・カスィール 4:608 参照）。尚、「衣」という表現は、飢えと恐怖が、まるで衣服のように彼らを覆（おお）い、付きまとうものとなった様を表わしているのだという（イブン・アーシュール 14:306 参照）。

2 同様のアーヤ*として、イブラーヒーム*章 28-29 も参照。

3 この「懲罰」は、アーヤ*112 に言及されている「飢えと恐怖」のほか、バドルの戦い*で彼らの首領たちが殺されたことを指しているとされる（ムヤッサル 280 頁参照）。

4 「死肉」「血液」「アッラー*以外の名において屠られたもの」については、雌牛章 173 の訳注を参照。

5 「法を超えず、度を越さない限りにおいて」については、雌牛章 173 の訳注を参照。

116. （シルク*の徒よ、）あなた方は、アッラー*に対して嘘を捏造すべく、「これは合法であり、これは非合法である[1]」などと、自分たちの舌が（根拠もなく口先だけで）語る嘘にまかせて、喋ってはならない。本当にアッラー*に対して嘘を捏造する者たちは、成功しないのだから。

وَلَا تَقُولُوا۟ لِمَا تَصِفُ أَلْسِنَتُكُمُ
ٱلْكَذِبَ هَٰذَا حَلَٰلٌ وَهَٰذَا حَرَامٌ
لِّتَفْتَرُوا۟ عَلَى ٱللَّهِ ٱلْكَذِبَ ۚ إِنَّ ٱلَّذِينَ
يَفْتَرُونَ عَلَى ٱللَّهِ ٱلْكَذِبَ لَا يُفْلِحُونَ ﴿١١٦﴾

117. （彼らには、現世における）僅かな楽しみがあり、（来世では）彼らにこそ痛烈な懲罰があるのだ。

مَتَٰعٌ قَلِيلٌ وَلَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿١١٧﴾

118. （使徒*よ、）われら*はユダヤ教徒*である者たちに対し、あなたに以前話して聞かせたもの[2]を禁じた。そして、われら*が彼らに不正*を働いたのではない。だが、彼らが自分自身に不正*を働いていたのである。[3]

وَعَلَى ٱلَّذِينَ هَادُوا۟ حَرَّمْنَا مَا قَصَصْنَا عَلَيْكَ مِن
قَبْلُ ۖ وَمَا ظَلَمْنَٰهُمْ وَلَٰكِن كَانُوٓا۟ أَنفُسَهُمْ
يَظْلِمُونَ ﴿١١٨﴾

119. それから本当にあなたの主*は、無知ゆえに悪事を働いた[4]ものの、その後に悔悟して（自らと行いを）正した者たちに対し、——本当にあなたの主*は——その（悔悟の）後には、実に赦し深いお方、慈愛深い*お方であられる。

ثُمَّ إِنَّ رَبَّكَ لِلَّذِينَ عَمِلُوا۟ ٱلسُّوٓءَ بِجَهَٰلَةٍ
ثُمَّ تَابُوا۟ مِنۢ بَعْدِ ذَٰلِكَ وَأَصْلَحُوٓا۟ إِنَّ رَبَّكَ مِنۢ
بَعْدِهَا لَغَفُورٌ رَّحِيمٌ ﴿١١٩﴾

---

1 勝手な意見や欲望に基づいて、アッラー*が非合法とされたものを合法としたり、合法とされたものを非合法としたりすること（その具体例として、家畜章 138-144 なども参照）。イブン・カスィール*はここに、イスラーム*においていかなる根拠もないような宗教的に新奇な物事も含まれる、としている（4:609 参照）。

2 これは家畜章 146 に描写されているものである、とされる（ムヤッサル 280 頁参照）。

3 同様のアーヤ*として婦人章 160、そしてその訳注も参照。

4 ある先人たちの言葉によれば、「アッラー*に逆らう者は皆、無知なのである」（イブン・カスィール 4:610 参照）。婦人章 17 とその訳注も参照。

120. 本当にイブラーヒーム*はアッラー*に従順で、純正[1]な共同体[2]であった。そして彼は、シルク*の徒の類いではなかったのだ。

إِنَّ إِبْرَٰهِيمَ كَانَ أُمَّةً قَانِتًا لِّلَّهِ حَنِيفًا وَلَمْ
يَكُ مِنَ ٱلْمُشْرِكِينَ ١٢٠

121. （イブラーヒーム*は、）かれ（アッラー*）の恩恵に、感謝深かった。かれ（アッラー*）は彼を（使徒*として）選り抜かれ、彼をまっすぐな道（イスラーム*）へとお導き下さった。

شَاكِرًا لِّأَنْعُمِهِ ٱجْتَبَىٰهُ وَهَدَىٰهُ إِلَىٰ
صِرَٰطٍ مُّسْتَقِيمٍ ١٢١

122. また、われら*は彼に、現世で素晴らしいもの[3]を授けた。そして本当に彼は、来世において、まさしく正しい者*たちの一人なのだ。

وَءَاتَيْنَٰهُ فِى ٱلدُّنْيَا حَسَنَةً وَإِنَّهُۥ فِى ٱلْءَاخِرَةِ
لَمِنَ ٱلصَّٰلِحِينَ ١٢٢

123. それから（使徒*よ、）われら*はあなたに、（こう）啓示した。「純正[4]なイブラーヒーム*の宗教に従え。彼はシルク*の徒の類いではなかった」。

ثُمَّ أَوْحَيْنَآ إِلَيْكَ أَنِ ٱتَّبِعْ مِلَّةَ إِبْرَٰهِيمَ
حَنِيفًا وَمَا كَانَ مِنَ ٱلْمُشْرِكِينَ ١٢٣

124. 土曜日（の偉大視）は、それにおいて意見を異にした者たち[5]に定められたに外ならない[6]。そして（使徒*よ、）本当にあな

إِنَّمَا جُعِلَ ٱلسَّبْتُ عَلَى ٱلَّذِينَ ٱخْتَلَفُوا۟ فِيهِ
وَإِنَّ رَبَّكَ لَيَحْكُمُ بَيْنَهُمْ يَوْمَ
ٱلْقِيَٰمَةِ فِيمَا كَانُوا۟ فِيهِ يَخْتَلِفُونَ ١٢٤

1 「純正」については、雌牛章 135 の訳注を参照。

2 この「共同体」は、指導者の意（ムヤッサル 281 頁参照）。また、一人であるにも関わらず「共同体」と表現されているのは、当時彼が唯一の信仰者であったためであるとか、あるいはその徳と完全さゆえ、彼一人で一つの共同体と同様の地位にあったからである、などと言われる（イブン・アーシュール 14:315-316 参照）。

3 この「素晴らしいもの」の解釈には、「啓示とアッラー*からのご寵愛」「人々の賛美と祝福」「高齢でよい子供たちを授かったこと」「全ての民から受け入れられたこと」などといった諸説がある（アル＝バガウィー3:101 参照）。

4 「純正」については、雌牛章 135 の訳注を参照。

5 預言者*ムハンマド*について「意見を異にした者たち」である、ユダヤ教徒*のこと（ムヤッサル 281 頁参照）。

6 アッラー*は、創造を完成させられ、僕（しもべ）たちへの恩恵が全うされた日である金曜日を、人々がかれの崇拝*のために集まる特別な日とするよう、命じられた。しかしユダヤ教徒*は、創造の完成後にアッラー*が何も創造されなかった土曜日を、一方キリスト教徒*は、アッラーが創造をお始めになった日曜日を選んだ（ムスリム「金曜日の書」22、イブン・カスィール 4:612 参照）。

たの主*は復活の日*、彼らが意見を異にしていたことについて、彼らの間を必ずやお裁きになるのだ。

125. （使徒*よ、また、彼に従う者よ、）英知とよき訓戒によってあなたの主*の道へと招き、最善の形で彼らと議論する[1]のだ。本当にあなたの主*こそは、その道から迷った者のことを最もよくご存知であり、導かれた者たちのことも最もよくご存知であるのだから。

ٱدۡعُ إِلَىٰ سَبِيلِ رَبِّكَ بِٱلۡحِكۡمَةِ وَٱلۡمَوۡعِظَةِ
ٱلۡحَسَنَةِۖ وَجَٰدِلۡهُم بِٱلَّتِي هِيَ أَحۡسَنُۚ
إِنَّ رَبَّكَ هُوَ أَعۡلَمُ بِمَن ضَلَّ عَن سَبِيلِهِۦ
وَهُوَ أَعۡلَمُ بِٱلۡمُهۡتَدِينَ ١٢٥

126. また（信仰者たちよ）、あなた方が懲らしめる際には、あなた方がされたのと同程度に懲らしめよ。そして、もしあなた方が忍耐*するなら、それこそは忍耐*する者たちにとってより善いことなのだ。

وَإِنۡ عَاقَبۡتُمۡ فَعَاقِبُواْ بِمِثۡلِ مَا عُوقِبۡتُم
بِهِۦۖ وَلَئِن صَبَرۡتُمۡ لَهُوَ خَيۡرٞ
لِّلصَّٰبِرِينَ ١٢٦

127. そして（使徒*よ、）忍耐*せよ。あなたの忍耐*は、アッラー*（のご援助）によるもの以外の何ものでもない。また、（あなたの招きに応じない）彼らゆえに悲しまず、彼らが策謀することゆえに心苦しさを覚えるのではない。

وَٱصۡبِرۡ وَمَا صَبۡرُكَ إِلَّا بِٱللَّهِۚ وَلَا تَحۡزَنۡ
عَلَيۡهِمۡ وَلَا تَكُ فِي ضَيۡقٖ مِّمَّا يَمۡكُرُونَ ١٢٧

128. 本当にアッラー*は敬虔*な者たちと、善を尽くす者[2]たちとこそ、共にあるのだから。

إِنَّ ٱللَّهَ مَعَ ٱلَّذِينَ ٱتَّقَواْ وَّٱلَّذِينَ هُم
مُّحۡسِنُونَ ١٢٨

1 優しさと穏やかさ、よい話し方でもって議論すること、とされる（イブン・カスィール 4:613参照）。蜘蛛章 46 の訳注も参照。

2 アッラー*から義務づけられた物事と、かれへの義務を遂行し、アッラー*への服従において「善を尽くす者」たちのこと（ムヤッサル 281 頁参照）。また預言者*は、この「善を尽くすこと（イフサーン）」について、こう説明された。「（それは）アッラー*があたかも眼前におられるかのごとく、かれを崇拝*することである。そしてたとえかれを見なくても、かれはあなたのことをご覧になるのだ」（アル＝ブハーリー50 参照）。

第 17 章
夜の旅章[1]（アル＝イスラーゥ）

سُورَةُ الإِسۡرَاءِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. ハラーム・マスジド*から、われら*がその周りを祝福したアクサー・マスジド[2]まで、われら*の（力と唯一性*を示す）御徴の一部を見せるべく、一晩でその僕（ムハンマド*）をお連れになった[3]お方（アッラー*）[4]に称え*あれ。本当にかれこそは、よくお聴きになるお方、よくご覧になるお方。

سُبۡحَٰنَ ٱلَّذِيٓ أَسۡرَىٰ بِعَبۡدِهِۦ لَيۡلٗا مِّنَ
ٱلۡمَسۡجِدِ ٱلۡحَرَامِ إِلَى ٱلۡمَسۡجِدِ ٱلۡأَقۡصَا
ٱلَّذِي بَٰرَكۡنَا حَوۡلَهُۥ لِنُرِيَهُۥ مِنۡ ءَايَٰتِنَآۚ إِنَّهُۥ
هُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلۡبَصِيرُ ١

2. われら*は（ムハンマド*に夜の旅で栄誉を与えたように、）ムーサー*には啓典（トーラー*）を授け（て栄誉を与え）、それをイスラーイールの子ら*への導きとした。われをよそに、いかなる委任者[5]も設けてはならない、と。

وَءَاتَيۡنَا مُوسَى ٱلۡكِتَٰبَ وَجَعَلۡنَٰهُ هُدٗى
لِّبَنِيٓ إِسۡرَٰٓءِيلَ أَلَّا تَتَّخِذُواْ مِن دُونِي
وَكِيلٗا ٢

---

1 マッカ*啓示（一部のアーヤ*は、マディーナ*啓示説もあり）。スーラ*名ともなっている、預言者*ムハンマド*が一晩でマッカ*からエルサレム、そして天界の彼方を廻って帰って来た「夜の旅」という奇跡の描写に始まり、アッラーの唯一性*と全能性、クルアーン*、預言者*ムハンマドの使徒*性、復活、報いといった信仰の要（かなめ）が確証される。また、シルク*への論駁（ろんばく）と非難、不信仰者*に対する警告と信仰者への吉報、預言者*と信仰者たちへの弁護と慰（なぐさ）めなどのほか、イスラーム*の道徳律や、礼拝の義務なども明確に言及されている。

2 「アクサー」とは「最も遠い」という意味。その名称の由来は、ハラーム・マスジドから離れており、かつ当時はそれより遠くにマスジド*がなかったため（アッ＝シャウカーニー 3:286 参照）。

3 預言者*ムハンマド*は一晩の内に、ブラークという獣に乗ってマッカ*からエルサレムに到着し、アクサー・マスジドで礼拝した後、ジブリール*に率いられて昇天した。この出来事が全て夢ではなく覚醒（かくせい）した状態で、預言者*が自らの魂と肉体を伴いつつ起こったというのが、大半の解釈学者の説（イブン・カスィール 5:5-43 参照）。

4 「われら」「お方」は、いずれもアッラー*を指す。この修辞法については、食卓章 12 の訳注も参照。

5 「委任者」については、頻出名・用語解説の「全てを請け負われる*お方」の項を参照。

3. われら*がヌーフ*と共に運んだ者（たち）の子孫[1]よ（、彼に倣ってわれら*の恩恵に感謝し、シルク*を犯すのではない）。本当に彼は、感謝深い僕だったのだから。

ذُرِّيَّةَ مَنۡ حَمَلۡنَا مَعَ نُوحٍۚ إِنَّهُۥ كَانَ عَبۡدٗا
شَكُورٗا ٣

4. また、われら*は啓典（トーラー*）の中で、イスラーイールの子ら*に（こう）告げた。「あなた方はきっと、その地（エルサレム）で二度腐敗*を働き、そして必ずやひどく驕り高ぶることになる」。

وَقَضَيۡنَآ إِلَىٰ بَنِيٓ إِسۡرَٰٓءِيلَ فِي ٱلۡكِتَٰبِ لَتُفۡسِدُنَّ
فِي ٱلۡأَرۡضِ مَرَّتَيۡنِ وَلَتَعۡلُنَّ عُلُوّٗا كَبِيرٗا ٤

5. それで最初の（腐敗*の）約束が訪れた時、われら*はあなた方に、凄まじい武力を備えたわれら*の僕たちを遣わし[2]、彼らは家々の間を隈なく徘徊し（て、あなた方を殺害し）た。（それは）実現される約束だったのだ。

فَإِذَا جَآءَ وَعۡدُ أُولَىٰهُمَا بَعَثۡنَا عَلَيۡكُمۡ
عِبَادٗا لَّنَآ أُوْلِي بَأۡسٖ شَدِيدٖ فَجَاسُواْ خِلَٰلَ
ٱلدِّيَارِۚ وَكَانَ وَعۡدٗا مَّفۡعُولٗا ٥

6. それから（イスラーイールの子ら*よ）、われら*は（あなた方の善行と、われら*への服従ゆえに）、あなた方に彼ら（敵）に対する（勝利と国家の）再興を与え、あなた方を財産と子孫で増強した。そしてあなた方を、（敵の数）より多くしたのだ。

ثُمَّ رَدَدۡنَا لَكُمُ ٱلۡكَرَّةَ عَلَيۡهِمۡ وَأَمۡدَدۡنَٰكُم
بِأَمۡوَٰلٖ وَبَنِينَ وَجَعَلۡنَٰكُمۡ أَكۡثَرَ نَفِيرًا ٦

7. もしあなた方が善を尽くしたならば、自分自身に善を尽くしたことになり、悪を行ったならば、（その悪は）自分自身へのものとなる[3]。そして、最後の（腐敗*の）約束[4]が

إِنۡ أَحۡسَنتُمۡ أَحۡسَنتُمۡ لِأَنفُسِكُمۡۖ وَإِنۡ
أَسَأۡتُمۡ فَلَهَاۚ فَإِذَا جَآءَ وَعۡدُ ٱلۡأٓخِرَةِ لِيَسُـُٔواْ
وُجُوهَكُمۡ وَلِيَدۡخُلُواْ ٱلۡمَسۡجِدَ كَمَا دَخَلُوهُ
أَوَّلَ مَرَّةٖ وَلِيُتَبِّرُواْ مَا عَلَوۡاْ تَتۡبِيرًا ٧

---

1 この「子孫」の解釈には、「全人類」「ムーサー*とその民であるイスラーイールの子ら*」という解釈がある（アル＝クルトゥビー10:213 参照）。

2 アッ＝サァディー*によれば、この「（腐敗*の）約束」とは、イスラーイールの子ら*の間に罪が横行し、彼らが法に背き、驕り高ぶった時のこと（447 頁参照）。また、この「僕たち」が誰かに関しては諸説あるが、アッ＝ラーズィー*（7:300 参照）やイブン・カスィール*（5:47 参照）は「それらの民の詳細を知ることが、このアーヤ*の本意なのではない」としている。

3 行った善は自分自身に褒美として返り、悪もまた罰として返って来る（ムヤッサル 282 頁参照）。

4 この「（腐敗*の）約束」については、アーヤ*5 の訳注を参照。

訪れた時（、われら*は再度、あなた方を敵に制圧させた）。（それは）彼らがあなた方の顔を（屈辱で）歪め、また彼ら（敵）が最初にそうしたように、マスジド*（エルサレム）に入城し（て破壊の限りを尽くし）、彼らが（そこで）制圧したものを徹底的に滅ぼしてしまうためであった。

8. （イスラーイールの子*らよ、）あなた方の主*は（、もしあなた方が悔悟して身を正すのであれば）、あなた方にご慈悲をかけて下さるだろう。もし（不正*と腐敗*へと）戻るのであれば、われら*も（あなた方の懲罰へと）戻るのだ。そしてわれら*は地獄を、不信仰者*たちの（永遠の）牢獄としたのである。

عَسَىٰ رَبُّكُمْ أَن يَرْحَمَكُمْ ۚ وَإِنْ عُدتُّمْ عُدْنَا ۘ وَجَعَلْنَا
جَهَنَّمَ لِلْكَافِرِينَ حَصِيرًا ٨

9. 本当に、このクルアーン*は最も正しき（道であるイスラーム*）へと導き、正しい行い*を行う信仰者たちには、彼らに大いなる褒美がある、との吉報を告げるのだ。

إِنَّ هَٰذَا الْقُرْآنَ يَهْدِي لِلَّتِي هِيَ أَقْوَمُ
وَيُبَشِّرُ الْمُؤْمِنِينَ الَّذِينَ يَعْمَلُونَ
الصَّالِحَاتِ أَنَّ لَهُمْ أَجْرًا كَبِيرًا ٩

10. また、来世を信じない者たち、彼らのためには、われら*が痛ましい懲罰を用意したということを（告げる）。

وَأَنَّ الَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ بِالْآخِرَةِ أَعْتَدْنَا لَهُمْ
عَذَابًا أَلِيمًا ١٠

11. 人間は（時として）、善の祈願のように、悪を祈る[1]。本当に人間は元来、せっかちなものだから。

وَيَدْعُ الْإِنسَانُ بِالشَّرِّ دُعَاءَهُ بِالْخَيْرِ ۖ وَكَانَ
الْإِنسَانُ عَجُولًا ١١

12. われら*は、夜と昼を（、われら*の力と唯一性*を示す）二つの御徴とした。そして夜の御徴を消し、昼の御徴を視界が利くものとした[2]。（それは）あなた方が自分た

وَجَعَلْنَا اللَّيْلَ وَالنَّهَارَ آيَتَيْنِ ۖ فَمَحَوْنَا آيَةَ
اللَّيْلِ وَجَعَلْنَا آيَةَ النَّهَارِ مُبْصِرَةً لِّتَبْتَغُوا
فَضْلًا مِّن رَّبِّكُمْ وَلِتَعْلَمُوا عَدَدَ

1　「悪を祈る」の意味に関しては、ユーヌス*章 11 とその訳注も参照。

2　「夜の御徴」とは闇と月の出現、「昼の御徴」とは光と太陽の出現のこと（イブン・カスィール 5:50 参照）。

ちの主*のご恩寵を求め、年数と計算[1]を知るようにするため。そして全ての物事を、われらは詳細に説明したのだ。

ٱلسِّنِينَ وَٱلْحِسَابَۚ وَكُلَّ شَيْءٖ فَصَّلْنَٰهُ
تَفْصِيلٗا ١٢

13. また、われら*は全ての人間の首に、その取り分を括りつけた[2]。そして復活の日*、われらは彼に、彼がそれを開かれた状態で受け取る（ことになる、行いが記された）帳簿を出してやるのだ。[3]

وَكُلَّ إِنسَٰنٍ أَلْزَمْنَٰهُ طَٰٓئِرَهُۥ فِي عُنُقِهِۦۖ وَنُخْرِجُ
لَهُۥ يَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ كِتَٰبٗا يَلْقَىٰهُ مَنشُورًا ١٣

14. （それから彼に、こう声がかかる。）「自分の帳簿を読め。この日、あなただけで、自分自身（の行いの報い）に対する清算者は十分なのである」。[4]

ٱقْرَأْ كِتَٰبَكَ كَفَىٰ بِنَفْسِكَ ٱلْيَوْمَ عَلَيْكَ حَسِيبٗا ١٤

15. 導かれた者は誰でも、導かれたことで自らを益するだけであり、（虚妄に従って）迷った者は誰でも、迷って自らを害するだけ。また（罪の）重荷を背負う者は、他者（が犯した罪）の重荷まで背負うことはない。そしてわれら*は使徒*を遣わすまで、（いかなる民も）罰することなどないのである[5]。

مَّنِ ٱهْتَدَىٰ فَإِنَّمَا يَهْتَدِي لِنَفْسِهِۦۖ وَمَن ضَلَّ
فَإِنَّمَا يَضِلُّ عَلَيْهَاۚ وَلَا تَزِرُ وَازِرَةٞ وِزْرَ أُخْرَىٰۗ
وَمَا كُنَّا مُعَذِّبِينَ حَتَّىٰ نَبْعَثَ رَسُولٗا ١٥

---

1 「計算」については、ユーヌス*章 5 の訳注を参照。

2 アッ＝シャンキーティー*によれば、「取り分」には大きく分けて、「行い」「幸福か不幸かといった、アッラー*によって既に定められたこと」という二つの解釈があるが、それらは互いに原因と結果という関係にあり、矛盾するわけではない（3:60 参照）。尚、「取り分（ターイル）」という語は、語源的には「飛ぶもの、鳥」という意味であり、アラブ人が鳥によって吉兆を占っていたことに由来する（高壁章 131 の訳注も参照）、とされる（イブン・ジュザイ 1:483 参照）。また、「取り分」が「首」に結び付けられているのは、身体の内でもそこが、ネックレスや首枷（かせ）など美醜（びしゅう）を際立たせるもの、常に付いて回るものをつける場所だからである、とされる（アル＝バガウィー3:124 参照）。

3 復活の日*の帳簿の提示については、高壁章 8 の訳注も参照。また、この時の様子については、洞窟章 49、真実章 19-29、割れる章 7 以降なども参照。

4 つまり自分で自分の行いを読み、それに対する報いを知ることになる（ムヤッサル 283 頁参照）。

5 アッラー*は最も公正なお方である。ゆえにその教えが人々に伝達され、それが彼らに対する動かぬ証拠となった後に頑迷（がんめい）に逆らわない限り、決定的な懲罰を下されない（アッ＝サァディー455 頁参照）。関連するアーヤ*として、婦人章 165、家畜章 131、155-157、ター・ハー章 134、詩人たち章 208、創成者*章 24 も参照。

16. また、われら*がある町を（その民の不正*ゆえに）滅ぼそうとする時には、（まず）その（町の）贅沢者たちに（民の代表として、われら*への服従と信仰を）命じたものであった。そして彼らがそこで放逸に振る舞う[1]と、それ（町）に（懲罰の）御言葉が確定し、われら*はそれを木っ端微塵に滅ぼしたのである。

وَإِذَآ أَرَدۡنَآ أَن نُّهۡلِكَ قَرۡيَةً أَمَرۡنَا مُتۡرَفِيهَا فَفَسَقُواْ
فِيهَا فَحَقَّ عَلَيۡهَا ٱلۡقَوۡلُ فَدَمَّرۡنَٰهَا تَدۡمِيرٗا ١٦

17. 一体われらは、ヌーフ*の後にどれだけ多くの（、使徒*を嘘つき呼ばわりした）世代を滅ぼしてきたであろうか。（使徒*よ、）あなたの主*だけで、その僕たちの罪に通暁されるお方、ご覧になるお方は十分なのである。

وَكَمۡ أَهۡلَكۡنَا مِنَ ٱلۡقُرُونِ مِنۢ بَعۡدِ نُوحٖۗ وَكَفَىٰ
بِرَبِّكَ بِذُنُوبِ عِبَادِهِۦ خَبِيرَۢا بَصِيرٗا ١٧

18. 誰であろうと、手っ取り早いもの（現世）を望む者、われら*は彼にそこで――われら*が望む者にわれら*が望むものを――、手っ取り早く授けよう[2]。それからわれら*は彼に、（来世では）地獄を与えるのだ。彼は責められ、（アッラー*のご慈悲から）追いやられつつそこに入り、炙られることになる。

مَّن كَانَ يُرِيدُ ٱلۡعَاجِلَةَ عَجَّلۡنَا لَهُۥ فِيهَا مَا
نَشَآءُ لِمَن نُّرِيدُ ثُمَّ جَعَلۡنَا لَهُۥ جَهَنَّمَ يَصۡلَىٰهَا
مَذۡمُومٗا مَّدۡحُورٗا ١٨

19. そして誰であろうと、信仰者でありつつ、来世（の褒美）を望み、そのためにこそ懸命に努力した者、そのような者たちは、その努力が（アッラー*の御許で）労われる[3]ことになる。

وَمَنۡ أَرَادَ ٱلۡأٓخِرَةَ وَسَعَىٰ لَهَا سَعۡيَهَا وَهُوَ
مُؤۡمِنٞ فَأُوْلَٰٓئِكَ كَانَ سَعۡيُهُم مَّشۡكُورٗا ١٩

---

1 つまり、アッラー*に反抗し、使徒*を嘘つき呼ばわりすること（ムヤッサル 283 頁参照）。

2 これは、来世のためではなく、現世のためだけに努力する者のこと（前掲書 284 頁参照）。フード*章 15 とその訳注も参照。

3 頻出名・用語解説の「よく労（ねぎら）われる*お方」の項も参照。

20. いずれ（の者たち）も、これらの者たちにも、またこれらの者たち[1]にも、あなたの主*の賜物から、われら*[2]が増やしてやる。あなたの主*の賜物はもとより、（信仰者にも不信仰者*にも）禁じられていない。

كُلًّا نُّمِدُّ هَٰٓؤُلَآءِ وَهَٰٓؤُلَآءِ مِنْ عَطَآءِ
رَبِّكَ ۚ وَمَا كَانَ عَطَآءُ رَبِّكَ مَحْظُورًا ٢٠

21. （使徒*よ、）見よ、われら*がいかに彼らのある者を別の者より引き立てたか？[3] 来世こそは（信仰者にとって）より位が高く、より優れたものなのだが。

ٱنظُرْ كَيْفَ فَضَّلْنَا بَعْضَهُمْ عَلَىٰ بَعْضٍ ۚ
وَلَلْءَاخِرَةُ أَكْبَرُ دَرَجَٰتٍ وَأَكْبَرُ تَفْضِيلًا ٢١

22. （人間よ、）あなたはアッラー*と共に、外のいかなる神[4]も設けて（崇めて）はならない。そうすればあなたは責められ、見捨てられたままになるだろう。

لَّا تَجْعَلْ مَعَ ٱللَّهِ إِلَٰهًا ءَاخَرَ فَتَقْعُدَ مَذْمُومًا
مَّخْذُولًا ٢٢

23. （人間よ、）あなたの主*は、あなた方がかれ（アッラー*）以外には何も崇拝*することなく、両親には孝行を（せよ）、と命じられた。もし彼らの内の片方、あるいは二人とも、あなたの許で高齢に達したなら、彼らに対して「ちぇっ」[5]と言ったり、彼らに居丈高になったりしてはならない。そして彼らには（いつも）、温かい言葉をかけてやるのだ。

۞ وَقَضَىٰ رَبُّكَ أَلَّا تَعْبُدُوٓا۟ إِلَّآ إِيَّاهُ وَبِٱلْوَٰلِدَيْنِ
إِحْسَٰنًا ۚ إِمَّا يَبْلُغَنَّ عِندَكَ ٱلْكِبَرَ
أَحَدُهُمَآ أَوْ كِلَاهُمَا فَلَا تَقُل لَّهُمَآ أُفٍّ وَلَا
تَنْهَرْهُمَا وَقُل لَّهُمَا قَوْلًا كَرِيمًا ٢٣

---

1 現世のためだけに努力する者たちと、来世ゆえに努力する者たちのこと（ムヤッサル 284 頁参照）。

2 いずれもアッラー*を指す「あなたの主*」「われら*」という表現の入れ替わりは、「イルティファート（転換）」という修辞法。食卓章 12 の訳注も参照。

3 現世での糧（かて）、行いにおいて「引き立てた」（ムヤッサル 284 頁参照）。家畜章 165「･･･高く位置づけられたお方」の訳注も参照。

4 「神」については、雌牛章 133 の訳注を参照。

5 原語では「ウッフ」。語源には諸説あるが、嫌気を示す語として通用している（アル＝バガウィー3:127 参照）。これは両親に対して、僅かでも嫌な思いをさせることが禁じられているということであり、それ以上の心理的・身体的危害であれば、尚更である（アル＝バイダーウィー3:439 参照）。

24. また彼らに、慈悲の念による謙虚さの翼を下ろし[1]、（こう）言うのだ。「我が主*よ、彼らにご慈悲をおかけ下さい。彼らが幼かった私を（優しくいたわって）育ててくれたように」。

وَٱخۡفِضۡ لَهُمَا جَنَاحَ ٱلذُّلِّ مِنَ ٱلرَّحۡمَةِ وَقُل
رَّبِّ ٱرۡحَمۡهُمَا كَمَا رَبَّيَانِي صَغِيرٗا ٢٤

25. （人々よ、）あなた方の主*は、あなた方の心の内にあるものを最もよくご存知であられる。もしあなた方が正しい者*ならば[2]、（かれはあなた方をお赦しになろう、）本当にかれは、常に回帰する者[3]たちに対し、もとより赦し深いお方なのだから。

رَّبُّكُمۡ أَعۡلَمُ بِمَا فِي نُفُوسِكُمۡۚ إِن تَكُونُواْ
صَٰلِحِينَ فَإِنَّهُۥ كَانَ لِلۡأَوَّٰبِينَ
غَفُورٗا ٢٥

26. （人間よ、）近親の者にその権利を与えよ。また、貧者*と旅路（で苦境）にある者にも（与えるのだ）[4]。そして、ひどい浪費をするのではない。

وَءَاتِ ذَا ٱلۡقُرۡبَىٰ حَقَّهُۥ وَٱلۡمِسۡكِينَ وَٱبۡنَ
ٱلسَّبِيلِ وَلَا تُبَذِّرۡ تَبۡذِيرًا ٢٦

27. 本当に浪費する者たちはシャイターン*の同胞であり、シャイターン*はもとより、その主*に対してこの上ない不信心者なのだから。

إِنَّ ٱلۡمُبَذِّرِينَ كَانُوٓاْ إِخۡوَٰنَ ٱلشَّيَٰطِينِۖ وَكَانَ
ٱلشَّيۡطَٰنُ لِرَبِّهِۦ كَفُورٗا ٢٧

28. もしあなたが、あなたが望む、あなたの主*からのご慈悲の不在ゆえ、彼らから背を向けるというのであれば、彼らには優しい物言いをせよ。[5]

وَإِمَّا تُعۡرِضَنَّ عَنۡهُمُ ٱبۡتِغَآءَ رَحۡمَةٖ مِّن رَّبِّكَ
تَرۡجُوهَا فَقُل لَّهُمۡ قَوۡلٗا مَّيۡسُورٗا ٢٨

---

1 「翼を下ろす」という表現については、アル＝ヒジュル章 88 の訳注を参照。

2 親孝行をするという意図において正直であれば、という意味であるとされる（アル＝クルトゥビー10:246 参照）。

3 「常に回帰する者（アウワーブ）」とは、あらゆる状況において、悔悟、愛慕、崇拝*、怖れ、希望、畏怖の念、祈りなどと共に、アッラー*によく回帰する者のこと（アッ＝サァディー711 頁参照）。

4 「近親の者」の権利とは、義務、あるいは推奨（すいしょう）された善行や施しを、その状況や必要に応じて与えること。また「貧者」と「旅路（で苦境）にある者」に対しては、その必要を満たすだけの施しを、浄財*や任意の施しから与えること（前掲書 456 頁参照）。

5 ここでの「ご慈悲」は、糧のこととされる。つまり施しを求められても物質的な余裕がないため、断らなければならない時には、彼らに（余裕が出来たら施すという）よい約束をしなさい、ということ（アッ＝タバリー6:5158 参照）。

29. また、（善いことに費やす）あなたの手を自分の首に縛りつけたままにしたり、それ（手）を完全に解き放ったりしてはならない。そうすればあなたは咎められ、悲しみ続けることになろうから。[1]

وَلَا تَجۡعَلۡ يَدَكَ مَغۡلُولَةً إِلَىٰ عُنُقِكَ وَلَا
تَبۡسُطۡهَا كُلَّ ٱلۡبَسۡطِ فَتَقۡعُدَ مَلُومٗا مَّحۡسُورًا ٢٩

30. 本当にあなたの主*は、かれがお望みの者に糧を豊富に与えられ、また控えられる[2]。本当にかれはもとより、その僕たちにご通暁されており、（その全てを）よくご覧になるお方なのだから。

إِنَّ رَبَّكَ يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ وَيَقۡدِرُۚ إِنَّهُۥ
كَانَ بِعِبَادِهِۦ خَبِيرَۢا بَصِيرٗا ٣٠

31. また（人々よ）、貧困を恐れてあなた方の子供を殺してはならない。われら*が彼らと、あなた方を養うのだから。本当に彼らの殺害は、元来大きな罪である。[3]

وَلَا تَقۡتُلُوٓاْ أَوۡلَٰدَكُمۡ خَشۡيَةَ إِمۡلَٰقٖۖ نَّحۡنُ نَرۡزُقُهُمۡ
وَإِيَّاكُمۡۚ إِنَّ قَتۡلَهُمۡ كَانَ خِطۡـٔٗا كَبِيرٗا ٣١

32. また、姦淫には近づくな[4]。実に、それは醜行[5]であり、悪い道なのだから。

وَلَا تَقۡرَبُواْ ٱلزِّنَىٰٓۖ إِنَّهُۥ كَانَ فَٰحِشَةٗ وَسَآءَ
سَبِيلٗا ٣٢

33. また、権利[6]がない限り、アッラー*が（その殺害を）禁じられた者を殺してはならない。不正*に殺された者は、われら*が確かに彼の後見人[7]に、根拠[8]を与えたのだ。な

وَلَا تَقۡتُلُواْ ٱلنَّفۡسَ ٱلَّتِي حَرَّمَ ٱللَّهُ إِلَّا بِٱلۡحَقِّۗ
وَمَن قُتِلَ مَظۡلُومٗا فَقَدۡ جَعَلۡنَا لِوَلِيِّهِۦ سُلۡطَٰنٗا
فَلَا يُسۡرِف فِّي ٱلۡقَتۡلِۖ إِنَّهُۥ كَانَ مَنصُورٗا ٣٣

---

1 「手を自分の首に縛りつける」とは、自分自身と自分の家族、困っている者たちに対して十分に費やさないこと。「完全に解き放つ」とは、出費において浪費し、自分の能力以上のものを与えること。前者は他人から咎められ、後者は後悔することになる（ムヤッサル 285 頁参照）。

2 物語章 82、サバア章 36、暁章 15-16 と、それらの訳注も参照。

3 「子供を殺すこと」については、家畜章 137 とその訳注も参照。

4 姦淫に「近づくこと」の禁止は、姦淫そのものの禁止よりも意味が強い。それは、姦淫を招くようなあらゆる事柄を禁じているからである（アッ＝サァディー457 頁参照）。

5 「醜行」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。

6 この「権利」については、家畜章 151 の訳注を参照。

7 あるいは、イスラーム*法による統治者（ムヤッサル 285 頁参照）。

8 この「根拠」とは、キサース刑（雌牛章 178 とその訳注を参照）、または刑の代わりに代償金を請求すること、あるいはいかなる代償もなしに赦免（しゃめん）すること（アッ＝タバリー6:5165 参照）。

らば、無駄に命を奪ってはならない[1]。本当に彼（後見人）は、（その権利を満たすことにおいて）援助される者なのだから。

34. また、孤児の財産には、それが最善の形[2]でない限り、彼が成熟[3]するまで近づいてはならない。そして契約を全うするのだ[4]。実に契約は（復活の日*）、問われることになるのだから。

وَلَا تَقۡرَبُواْ مَالَ ٱلۡيَتِيمِ إِلَّا بِٱلَّتِي هِيَ أَحۡسَنُ حَتَّىٰ يَبۡلُغَ أَشُدَّهُۥۚ وَأَوۡفُواْ بِٱلۡعَهۡدِۖ إِنَّ ٱلۡعَهۡدَ كَانَ مَسۡـُٔولٗا ٣٤

35. また（他人のために）量る時には升を全うし、正しい秤でもって量るのだ[5]。それが（現世で）より善いことなのであり、（来世で）より善い結果となるのだから。

وَأَوۡفُواْ ٱلۡكَيۡلَ إِذَا كِلۡتُمۡ وَزِنُواْ بِٱلۡقِسۡطَاسِ ٱلۡمُسۡتَقِيمِۚ ذَٰلِكَ خَيۡرٞ وَأَحۡسَنُ تَأۡوِيلٗا ٣٥

36. また（人間よ）、あなたの知識のないものに従ってはならない。実に聴覚も視覚も心も、それら全ては、それ[6]について問われることになるのだから。

وَلَا تَقۡفُ مَا لَيۡسَ لَكَ بِهِۦ عِلۡمٌۚ إِنَّ ٱلسَّمۡعَ وَٱلۡبَصَرَ وَٱلۡفُؤَادَ كُلُّ أُوْلَٰٓئِكَ كَانَ عَنۡهُ مَسۡـُٔولٗا ٣٦

37. また、大地を得意然として歩いてはならない。本当にあなたは（そのような歩き方で）大地を裂くこともなければ、（その高慢さによって）山々ほどに背高くなることも叶わないだろうから。

وَلَا تَمۡشِ فِي ٱلۡأَرۡضِ مَرَحًاۖ إِنَّكَ لَن تَخۡرِقَ ٱلۡأَرۡضَ وَلَن تَبۡلُغَ ٱلۡجِبَالَ طُولٗا ٣٧

---

1 殺された者の後見人が、キサース刑で処刑した者の遺体を傷つけたり、加害者以外の者を殺したりすること。あるいは一般的に、正当な権利もなく人の命を奪うこと（アッ＝タバリー6:5165）。

2 この「最善の形」については、家畜章 152 を参照。

3 この「成熟」については、家畜章 152 の訳注を参照。

4 食卓章 1「契約を果たす」の訳注も参照。

5 「升」と「秤」については、家畜章 152 の訳注を参照。

6 「それ」とは、聴覚、視覚、心を用いて行った物事。それらを善に用いれば褒美を得ることになり、悪に用いれば罰を受けることになる（ムヤッサル 285 頁参照）。復活の日*に「問われる」ことについては、高壁章 8 の訳注を参照。

38. それらは皆、その悪が、あなたの主*の御許で厭われることなのだ。[1]

كُلُّ ذَٰلِكَ كَانَ سَيِّئُهُۥ عِندَ رَبِّكَ مَكْرُوهًا ٣٨

39. それらはあなたの主*が、あなたに啓示した英知の一部。そして（人間よ、）アッラー*と共に、外の神[2]を設けて（崇めて）はならない。そうすればあなたは咎められ、（あらゆる善から）追いやられつつ、地獄に放り込まれることになる。

ذَٰلِكَ مِمَّآ أَوْحَىٰٓ إِلَيْكَ رَبُّكَ مِنَ ٱلْحِكْمَةِ ۗ وَلَا
تَجْعَلْ مَعَ ٱللَّهِ إِلَٰهًا ءَاخَرَ فَتُلْقَىٰ فِى جَهَنَّمَ
مَلُومًا مَّدْحُورًا ٣٩

40. （シルク*の徒よ、）一体あなた方の主*は、あなた方に男子を特別にお選びになり、（ご自身には）天使*たちを女（娘）として選ばれたというのか？[3]　本当にあなた方はまさしく、とんでもない言葉を語っている。

أَفَأَصْفَىٰكُمْ رَبُّكُم بِٱلْبَنِينَ وَٱتَّخَذَ مِنَ
ٱلْمَلَٰٓئِكَةِ إِنَٰثًا ۚ إِنَّكُمْ لَتَقُولُونَ قَوْلًا عَظِيمًا ٤٠

41. われら*は確かに、彼ら（人々）が教訓を得るべく、このクルアーン*の中で（法規定や譬え、訓戒などを）多彩に示した。それは彼ら（不正*者たち）に対し、（真理から）離れ去ることに拍車をかけるだけなのだが。

وَلَقَدْ صَرَّفْنَا فِى هَٰذَا ٱلْقُرْءَانِ لِيَذَّكَّرُوا۟ وَمَا
يَزِيدُهُمْ إِلَّا نُفُورًا ٤١

42. （使徒*よ、彼らシルク*の徒に）言うのだ。「もし彼らが言うように、かれ（アッラー*）と共に（別の）神々[4]が存在したとした

قُل لَّوْ كَانَ مَعَهُۥٓ ءَالِهَةٌ كَمَا يَقُولُونَ إِذًا لَّٱبْتَغَوْا۟ إِلَىٰ
ذِى ٱلْعَرْشِ سَبِيلًا ٤٢

---

1 「その悪」とは、アーヤ*22 から 37 までの中で示された物事の内、シルク*や親不孝、浪費など、悪と定められたこと（アッ＝サァディー457 頁参照）。またここでの「厭われること」は法学用語的な意味合いではなく、「禁じられたこと」である、とされる（イブン・ジュザイ 1:487 参照）。

2 「神」については、雌牛章 133 の訳注を参照。

3 マッカ*の不信仰者*たちの一部は天使*をアッラー*の娘とする一方で、自分たち自身には娘でなく息子が授かることを望んでいた（アッ＝タバリー6:5175 参照）。詳しくは、蜜蜂章 57-62 とその訳注を参照。

4 「神々」については、雌牛章 133 の訳注を参照。

ら、それならば、それらは御座(みくら)[1]の主(ぬし)への道を求めた[2]であろうに」。

43. アッラー*に称(たた)え*あれ。かれは彼らの言うようなことから遥(はる)かに程遠く、高遠(こうえん)なお方。

سُبۡحَٰنَهُۥ وَتَعَٰلَىٰ عَمَّا يَقُولُونَ عُلُوّٗا كَبِيرٗا ٤٣

44. 七層(そう)の天と、大地、そこにある（全ての）ものは、かれをこそ称(たた)える。そしてありとあらゆるものは、かれの称賛(しょうさん)*と共に（かれを）称(たた)える*のだ[3]。しかし（人々よ）、あなた方はそれらの称揚(しょうよう)*を理解しない。本当にかれはもとより、寛大(かんだい)な*お方、赦(ゆる)し深いお方である。

تُسَبِّحُ لَهُ ٱلسَّمَٰوَٰتُ ٱلسَّبۡعُ وَٱلۡأَرۡضُ وَمَن فِيهِنَّۚ
وَإِن مِّن شَيۡءٍ إِلَّا يُسَبِّحُ بِحَمۡدِهِۦ وَلَٰكِن لَّا
تَفۡقَهُونَ تَسۡبِيحَهُمۡۚ إِنَّهُۥ كَانَ حَلِيمًا غَفُورٗا ٤٤

45. （使徒(しと)*よ、）あなたがクルアーン*を誦(よ)む時、われら*はあなたと、来世を信じない者たちの間に、覆(おお)い隠す帳(とばり)を下ろしてやる[4]。

وَإِذَا قَرَأۡتَ ٱلۡقُرۡءَانَ جَعَلۡنَا بَيۡنَكَ وَبَيۡنَ ٱلَّذِينَ لَا
يُؤۡمِنُونَ بِٱلۡأٓخِرَةِ حِجَابٗا مَّسۡتُورٗا ٤٥

46. また、彼らがそれ（クルアーン*）を理解できないように、彼らの心に覆(おお)いを、その耳には重しをかけた[5]。そして、あなたがクルアーン*の中であなたの主(しゅ)*お一人を（崇拝(すうはい)*の対象として）言及すると、彼らは嫌がって背を向けるのだ。

وَجَعَلۡنَا عَلَىٰ قُلُوبِهِمۡ أَكِنَّةً أَن يَفۡقَهُوهُ وَفِيٓ
ءَاذَانِهِمۡ وَقۡرٗاۚ وَإِذَا ذَكَرۡتَ رَبَّكَ فِي ٱلۡقُرۡءَانِ وَحۡدَهُۥ
وَلَّوۡاْ عَلَىٰٓ أَدۡبَٰرِهِمۡ نُفُورٗا ٤٦

---

1 「御座」については、高壁章 54 の訳注を参照。

2 一説には、アッラー*以外にも神々がいたとすれば、それらはアッラー*の王権を求め、かれに打ち勝とうとしたであろう、ということ（信仰者たち章 91 も参照）。あるいは、それらもまたアッラー*へのお近づきを求めたであろう、という解釈もある（アル＝バガウィー 3:135 参照）。

3 イムラーン家章 83 とその訳注、雷鳴章 15 とその訳注、蜜蜂章 48-49、巡礼*章 18 とその訳注、御光章 41 とその訳注も参照。

4 彼らは預言者*のクルアーン*読誦に背を向け、それに無頓着（むとんちゃく）であるがゆえに、あたかも預言者*と彼らの間には覆いがあり、それで彼らは彼を目にしないかのようである（アッ＝シャウカーニー3:321 参照）。あるいは、それは彼らの不信仰に対する罰としての、無知と心の盲目のことで、彼らの心はクルアーン*を理解し、そこから益を得ることから阻まれた（アル＝カースィミー10:3936 参照）。

5 「耳に重しをかける」については、家畜章 25 を参照。また、雌牛章 7 の訳注も参照。

47. われら*は、彼らがあなたに耳を傾ける時、そして彼らが密談している時、つまり不正*者たちが、「あなた方は、魔術にかけられ（て正気を失っ）た男に従っているに外ならない」と言う時、彼らが聴いている様子[1]を最もよく知っている。

نَّحۡنُ أَعۡلَمُ بِمَا يَسۡتَمِعُونَ بِهِۦٓ إِذۡ يَسۡتَمِعُونَ
إِلَيۡكَ وَإِذۡ هُمۡ نَجۡوَىٰٓ إِذۡ يَقُولُ ٱلظَّٰلِمُونَ إِن
تَتَّبِعُونَ إِلَّا رَجُلٗا مَّسۡحُورًا ٤٧

48. （使徒*よ、）見よ、彼らがあなたに対してどんな譬えを挙げ[2]、迷い去ってしまったかを？ ゆえに彼らは、（正しい）道に到達することも出来ないのだ。

ٱنظُرۡ كَيۡفَ ضَرَبُواْ لَكَ ٱلۡأَمۡثَالَ فَضَلُّواْ فَلَا
يَسۡتَطِيعُونَ سَبِيلٗا ٤٨

49. また、彼ら（シルク*の徒）は言った。「一体、骨と化し、ばらばらになった後で、本当に私たちがまさしく、新たな創造[3]として蘇らされるというのか？」

وَقَالُوٓاْ أَءِذَا كُنَّا عِظَٰمٗا وَرُفَٰتًا أَءِنَّا لَمَبۡعُوثُونَ
خَلۡقٗا جَدِيدٗا ٤٩

50. （使徒*よ、）言ってやれ。「石にでも、鉄にでもなるがよい。

۞ قُلۡ كُونُواْ حِجَارَةً أَوۡ حَدِيدًا ٥٠

51. あるいは、あなた方の心にとって（生命を授かることが）ありえないような、いかなる創造物[4]にでも。（それでもアッラー*は、あなた方を蘇らせるのだから。）」すると、彼らは言うであろう。「誰が私たちを、（死後に生き）返らせるというのか？」言ってやれ。「あなた方を、最初に（無から）創成*されたお方が（そうされる）」。する

أَوۡ خَلۡقٗا مِّمَّا يَكۡبُرُ فِي صُدُورِكُمۡۚ
فَسَيَقُولُونَ مَن يُعِيدُنَاۖ قُلِ ٱلَّذِي فَطَرَكُمۡ
أَوَّلَ مَرَّةٖۚ فَسَيُنۡغِضُونَ إِلَيۡكَ رُءُوسَهُمۡ
وَيَقُولُونَ مَتَىٰ هُوَۖ قُلۡ عَسَىٰٓ أَن يَكُونَ قَرِيبٗا ٥١

---

1 彼らがクルアーン*に耳を傾けたのは導きを得たり、真理を受け入れたりするためではなく、ただクルアーン*の中に落ち度を見つけようとする悪い意図のためだった（アッ＝サァディー459 頁参照)。

2 預言者*ムハンマド*に対する、「魔術にかけられた男」「単なる詩人」「狂人」などという悪口のことである、と言われる（アッ＝タバリー6:5181 参照)。

3 「新たな創造」については、雷鳴章 5 の同語の訳注を参照。

4 「あなた方の心に…創造物」とは、一説に天地や山々などのこと。あるいは、石や鉄などよりも、更に生命からは無縁と思われる全てのもの（イブン・ジュザイ 1:489 参照)。

と彼らは、あなたに対して（嘲りながら）頭を振り、（こう）言うであろう。「それ（復活の日*）は、いつのことなのだね？」言ってやるのだ。「すぐかもしれない[1]」。

52. かれ（アッラー*）があなた方を（墓場から出て来るよう）お呼びになり、あなた方がかれを称賛*しつつ（そのご命令に）応じ、自分たちは（現世で）少しの間しか過ごさなかったと思う[2]日。

يَوْمَ يَدْعُوكُمْ فَتَسْتَجِيبُونَ بِحَمْدِهِۦ وَتَظُنُّونَ
إِن لَّبِثْتُمْ إِلَّا قَلِيلًا ٥٢

53. （信仰者である）わが僕たちに、よい言葉を語りなさい、と言うがよい。本当にシャイターン*は、彼らの間を（こじれさせるべく）突いてくる[3]のだから。本当にシャイターン*は元来、人間にとっての紛れもない敵なのだ。

وَقُل لِّعِبَادِى يَقُولُوا۟ ٱلَّتِى هِىَ أَحْسَنُ ۚ إِنَّ
ٱلشَّيْطَـٰنَ يَنزَغُ بَيْنَهُمْ ۚ إِنَّ ٱلشَّيْطَـٰنَ كَانَ
لِلْإِنسَـٰنِ عَدُوًّا مُّبِينًا ٥٣

54. （人々よ、）あなた方の主*は、あなた方のことを最もよくご存知である。かれがお望みならば、あなた方にご慈悲をかけられ、またお望みならば、あなた方を罰せられる。そして（使徒*よ、）われら*はあなたを、彼らの（諸事の面倒を見る）代理人として遣わしたのではない。

رَّبُّكُمْ أَعْلَمُ بِكُمْ ۖ إِن يَشَأْ يَرْحَمْكُمْ أَوْ إِن
يَشَأْ يُعَذِّبْكُمْ ۚ وَمَآ أَرْسَلْنَـٰكَ عَلَيْهِمْ
وَكِيلًا ٥٤

55. また（使徒*よ）、あなたの主*は諸天と大地にある者を最もよくご存知のお方。そしてわれらは確かに、ある預言者*たちを、別の預言者*たちよりも引き立てた。また、ダーウード*には書巻[4]を授けたのだ。

وَرَبُّكَ أَعْلَمُ بِمَن فِى ٱلسَّمَـٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۗ
وَلَقَدْ فَضَّلْنَا بَعْضَ ٱلنَّبِيِّـۧنَ عَلَىٰ بَعْضٍ ۖ
وَءَاتَيْنَا دَاوُۥدَ زَبُورًا ٥٥

---

1 復活の日*の近さについては、蜜蜂章 1、預言者*たち章 1 の訳注も参照。

2 「（現世で）少ししか過ごさなかったと思う」については、ユーヌス*章 45 とその訳注、及びター・ハー章 103、信仰者たち章 113-114、ビザンチン章 55、砂丘章 35、引き離すもの章 46 も参照。

3 シャイターン*から「突かれること」に関しては、高壁章 200 の訳注を参照。

4 「書巻」については、婦人章 163 も訳注を参照。

56. （使徒*よ、シルク*の徒に）言え。「あなた方が、かれ（アッラー*）をよそに（神々[1]であると）主張した者たちに、祈ってみるがよい。それらはあなた方から災いを取り除くことも、（それを）移すこと[2]も出来ない。

قُلِ ٱدۡعُواْ ٱلَّذِينَ زَعَمۡتُم مِّن دُونِهِۦ فَلَا
يَمۡلِكُونَ كَشۡفَ ٱلضُّرِّ عَنكُمۡ وَلَا تَحۡوِيلًا ٥٦

57. 彼らが（アッラー*に並べて）祈っているそれらの者たち[3]は（彼ら自身が）、いずれの者が（主*に）一番近いか、と自分たちの主*へのお近づきを求め、そのご慈悲を望み、その懲罰を怖がる者たちなのである。本当にあなたの主*の懲罰はもとより、用心すべきものなのだ。

أُوْلَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ يَدۡعُونَ يَبۡتَغُونَ إِلَىٰ رَبِّهِمُ
ٱلۡوَسِيلَةَ أَيُّهُمۡ أَقۡرَبُ وَيَرۡجُونَ رَحۡمَتَهُۥ
وَيَخَافُونَ عَذَابَهُۥٓۚ إِنَّ عَذَابَ رَبِّكَ كَانَ
مَحۡذُورٗا ٥٧

58. われら*はいかなる（不信仰者*の）町も、復活の日*以前に滅亡させるか、あるいは厳しい懲罰で罰せずにはおかないのだ。それはもとより、書（守られし碑版*）の中に記されて（おり、起こるのが運命づけられて）いることなのである。

وَإِن مِّن قَرۡيَةٍ إِلَّا نَحۡنُ مُهۡلِكُوهَا قَبۡلَ يَوۡمِ
ٱلۡقِيَٰمَةِ أَوۡ مُعَذِّبُوهَا عَذَابٗا شَدِيدٗاۚ كَانَ ذَٰلِكَ
فِي ٱلۡكِتَٰبِ مَسۡطُورٗا ٥٨

59. また、われら*が（、シルク*の徒があなたに要求する）御徴[4]をもたらさなかったのは、昔の人々が（いざ、奇跡がもたらされた時に）それを嘘呼ばわりし（、それゆえに懲罰を味わうことになっ）たからに外ならない。われら*はサムード*に、明らかなるもの（奇跡）として雌ラクダを授け、彼らはそれに対して（否定するという）不正

وَمَا مَنَعَنَآ أَن نُّرۡسِلَ بِٱلۡأٓيَٰتِ إِلَّآ أَن كَذَّبَ
بِهَا ٱلۡأَوَّلُونَۚ وَءَاتَيۡنَا ثَمُودَ ٱلنَّاقَةَ مُبۡصِرَةٗ
فَظَلَمُواْ بِهَاۚ وَمَا نُرۡسِلُ بِٱلۡأٓيَٰتِ إِلَّا تَخۡوِيفٗا ٥٩

---

1 「神々」については、雌牛章 133 の訳注を参照。

2 つまり、災いを別の者に転移させたり、別の状況に変えたりすること（ムヤッサル 287 頁参照）。

3 「それらの者たち」とは、預言者*、正しい者*、天使*たちなどのこと（前掲書、同頁参照）。

4 この「御徴」とは、奇跡のこと（前掲書 288 頁参照）。彼らは、真の預言者*なのであれば奇跡を起こしてみよ、と要求したものだった。アーヤ*90-93、雌牛章 108、家畜章 109-110、ユーヌス*章 97、ター・ハー章 133、預言者*たち章 5、識別章 7-8、創成者*章 42 なども参照。

*を働いたのだ[1]。そして、われら*が御徴[2]（と共に使徒*たち）を送るのは、（人々を戒めるべく）怖がらせるために外ならないのである。

60. （使徒*よ、）われら*があなたに、「本当にあなたの主*は、人々を（その知識と御力によって）包囲された[3]」と言った時のこと（を思い起こさせよ）。また、われら*があなたに見せた光景は、人々への試練以外の何物でもなかったし[4]、クルアーン*の中の呪われた木[5]も（、そうなのである）。われら*は彼らを、（懲罰や御徴の数々で）怖がらせる。そして、それは彼らに対し、（不信仰と迷いという）ひどい放埓さに拍車をかけるだけなのだ。

وَإِذۡ قُلۡنَا لَكَ إِنَّ رَبَّكَ أَحَاطَ بِٱلنَّاسِۚ وَمَا جَعَلۡنَا
ٱلرُّءۡيَا ٱلَّتِيٓ أَرَيۡنَٰكَ إِلَّا فِتۡنَةٗ لِّلنَّاسِ
وَٱلشَّجَرَةَ ٱلۡمَلۡعُونَةَ فِي ٱلۡقُرۡءَانِۚ وَنُخَوِّفُهُمۡ
فَمَا يَزِيدُهُمۡ إِلَّا طُغۡيَٰنٗا كَبِيرٗا ٦٠

61. （使徒*よ、）われら*が天使*たちに「アーダム*にサジダ*せよ」と言い、そして彼らがサジダ*した時のこと（を思い起こさせ

وَإِذۡ قُلۡنَا لِلۡمَلَٰٓئِكَةِ ٱسۡجُدُواْ لِأٓدَمَ
فَسَجَدُوٓاْ إِلَّآ إِبۡلِيسَ قَالَ ءَأَسۡجُدُ لِمَنۡ
خَلَقۡتَ طِينٗا ٦١

1 サムード*と雌ラクダの逸話については、高壁章 73 とその訳注、フード*章 64-68、詩人たち章 155-157、月章 27-29、太陽章 13-14 も参照。

2 この「御徴」は、奇跡や教示などのこと（ムヤッサル 288 頁参照）。

3 アッラー*は預言者*ムハンマド*に対して悪を望む者から、彼をお守りくださる。不信仰者*らはアッラー*のご意思と定めから、反することは出来ない（アッ＝タバリー7:5199 参照）。

4 この「光景」とは、預言者*が夜の旅と昇天において目にした、驚くべき光景の数々のこと（ムヤッサル 288 頁参照）。そして、この「試練」により、ある人々はその出来事を信じることが出来ず棄教（ききょう）したが、別の者たちは逆に堅固さと確信を得た（イブン・カスィール 5:92 参照）。

5 「呪われた木」とは、ザックームの木のこと。水ではなく地獄の炎によって生きる木で、地獄の民の食べ物。「無理やり飲み込む」という意味の「タザックム」が語源であるとされるように、その実は忌まわしく、悪臭を放つのだという。「ザックーム」が一方言で「ナツメヤシの実とバター」を指したことから、マッカ*の不信仰者*らは「アッラー*よ、私たちの家にそれをお増やし下さい」と言ったり、あるいは「火は木を燃やすというのに、地獄に木などあるはずがない」などと笑ったりした（アル＝クルトゥビー15:85 参照）。整列者章 62-66、煙霧章 43-46、出来事章 52-53 も参照。

よ）[1]。しかし、イブリース*だけは別だった。彼は（不遜にも、こう）申し上げたのだ。「一体、あなたが泥土から創られたもの[2]に、私がサジダ*するというのですか？」

62. 彼（イブリース*）は、（アッラー*に）申し上げた。「仰って下さい。これが、あなたが私よりもお引き立てになった者です（が、その訳は何ですか）。もしもあなたが、私に復活の日*まで猶予を授けて下さったなら、私は（精選された）僅かな者たち[3]を除き、必ずやその子孫を（誘惑と腐敗*によって）思い通りにしてみせましょう」。

قَالَ أَرَءَيْتَكَ هَٰذَا ٱلَّذِى كَرَّمْتَ عَلَىَّ لَئِنْ
أَخَّرْتَنِ إِلَىٰ يَوْمِ ٱلْقِيَٰمَةِ لَأَحْتَنِكَنَّ
ذُرِّيَّتَهُۥٓ إِلَّا قَلِيلًا ٦٢

63. かれは仰せられた。「（イブリース*よ、）行くがよい[4]。そして彼ら（アーダム*の子孫）の内、あなたに従う者があれば、地獄こそが、あなた方へのふんだんなる報いとなろう。

قَالَ ٱذْهَبْ فَمَن تَبِعَكَ مِنْهُمْ فَإِنَّ
جَهَنَّمَ جَزَآؤُكُمْ جَزَآءً مَّوْفُورًا ٦٣

64. 彼らの内、出来る限りの者を、あなたの声によって（罪へと）扇動し、あなたの騎兵と歩兵を彼らに対して結集させ、財産と子供たちにおいて彼らの分け前に与かり[5]、彼

وَٱسْتَفْزِزْ مَنِ ٱسْتَطَعْتَ مِنْهُم بِصَوْتِكَ
وَأَجْلِبْ عَلَيْهِم بِخَيْلِكَ وَرَجِلِكَ وَشَارِكْهُمْ
فِى ٱلْأَمْوَٰلِ وَٱلْأَوْلَٰدِ وَعِدْهُمْ ۚ وَمَا
يَعِدُهُمُ ٱلشَّيْطَٰنُ إِلَّا غُرُورًا ٦٤

---

1 この出来事の詳細に関しては、雌牛章 34-39、高壁章 11-25、アル＝ヒジュル章 28-42、ター・ハー章 116-123、サード章 71-83 なども参照。また、ここでのサジダ*については、雌牛章 34 の訳注を参照。

2 アーダム*が土から段階を経（へ）て創られたことについては、アル＝ヒジュル章 26 の訳注を参照。

3 この「僅かな者たち」については、ユースフ*章 24「精選された僕」の訳注を参照。

4 これらの言葉は、イブリース*とその追随者への警告的意味合いによるもの（ムヤッサル 288 頁参照）。また、イブリース*の申し出が受け入れられたことについては、高壁章 15 の訳注を参照。

5 シャイターン*は人の財産において、アッラー*以外のものに犠牲を捧げたりすることや、合法な家畜を勝手に非合法とすることなど、非合法な目的・手段による出費や収入へと招く。また子供に関しては、姦淫（かんいん）や嬰児（えいじ）殺しなどの罪を飾り立てる（アッ＝タバリー7:5213 参照）。

らに（偽りの）約束をせよ」。シャイターン*が彼らに約束することは、欺き以外の何ものでもないのだが。

65. 本当に（精選された信仰者である）わが僕たち[1]はといえば、あなたには彼ら（を誘惑すること）に対して、いかなる力[2]もない。そして（預言者*よ、）あなたの主*だけで、（信仰者をシャイターン*から守ってくれる）委任者[3]は十分なのだ。

إِنَّ عِبَادِي لَيْسَ لَكَ عَلَيْهِمْ سُلْطَٰنٌۚ
وَكَفَىٰ بِرَبِّكَ وَكِيلًا ﴿٦٥﴾

66. （人々よ、）あなた方の主*は、あなた方がかれの恩寵を求めるべく、あなた方のために船を海に歩ませるお方。本当にかれはもとより、あなた方に慈愛深い*お方なのだ。

رَّبُّكُمُ ٱلَّذِي يُزْجِي لَكُمُ ٱلْفُلْكَ فِي
ٱلْبَحْرِ لِتَبْتَغُوا۟ مِن فَضْلِهِۦٓۚ إِنَّهُۥ كَانَ
بِكُمْ رَحِيمًا ﴿٦٦﴾

67. そして、海であなた方に災難が降りかかれば、あなた方が祈っているものたちは、かれ（アッラー*）を除いて（あなた方の脳裏から）消え失せてしまう。（あなた方はその時、アッラー*だけに救いを求めるが、）かれがあなた方を陸上に救い上げられると、あなた方は（信仰と誠実さ、正しい行い*から）背を向けてしまう。人間とはそもそも、恩知らずなもの。

وَإِذَا مَسَّكُمُ ٱلضُّرُّ فِي ٱلْبَحْرِ ضَلَّ مَن تَدْعُونَ
إِلَّآ إِيَّاهُۖ فَلَمَّا نَجَّىٰكُمْ إِلَى ٱلْبَرِّ أَعْرَضْتُمْۚ
وَكَانَ ٱلْإِنسَٰنُ كَفُورًا ﴿٦٧﴾

68. （人々よ、）一体あなた方は、かれがあなた方を陸の一辺[4]もろとも沈めてしまったり、あるいはあなた方に石を降らす風を送ったりし（て罰せられ）ないと、安心して

أَفَأَمِنتُمْ أَن يَخْسِفَ بِكُمْ جَانِبَ ٱلْبَرِّ أَوْ
يُرْسِلَ عَلَيْكُمْ حَاصِبًا ثُمَّ لَا تَجِدُوا۟
لَكُمْ وَكِيلًا ﴿٦٨﴾

1 この「わが僕たち」については、ユースフ*章 24「精選された僕」の訳注を参照。

2 あるいは「根拠」という意味（アッ＝タバリー7:5213 参照）。

3 この「委任者」については、頻出名・用語解説の「全てを請け負われる*お方」の項を参照。

4 一説には海岸のこと。アッラー*がお望みなら、彼らが海の危険から逃れて上陸した直後に、陸の危険が襲いかかることもあり得る（イブン・アーシュール 15:162 参照）。

いるのか？ その後、あなた方は自分たちに、（あなた方を守ってくれる）いかなる委任者も見出さないのだ。

69. いや、一体あなた方は、かれが自分たちをもう一度そこ（海）へ戻し、自分たちに暴風を送り、自らの不信仰ゆえに自分たちを溺れさせないと安心しているのか？ その後、あなた方はそのことで、われら*に対する自分たちの後見人[1]を見出すこともないのだ。

أَمْ أَمِنتُمْ أَن يُعِيدَكُمْ فِيهِ تَارَةً أُخْرَىٰ فَيُرْسِلَ
عَلَيْكُمْ قَاصِفًا مِّنَ الرِّيحِ فَيُغْرِقَكُم بِمَا كَفَرْتُمْ
ثُمَّ لَا تَجِدُوا لَكُمْ عَلَيْنَا بِهِ تَبِيعًا ٦٩

70. われら*は確かに、アーダム*の子らに栄誉を授け、彼らを陸に海に運んだ。そして彼らに善き糧から授け、われら*が創造した多くのものよりも、彼らを大いに引き立てたのだ。

۞ وَلَقَدْ كَرَّمْنَا بَنِي آدَمَ وَحَمَلْنَاهُمْ فِي الْبَرِّ
وَالْبَحْرِ وَرَزَقْنَاهُم مِّنَ الطَّيِّبَاتِ
وَفَضَّلْنَاهُمْ عَلَىٰ كَثِيرٍ مِّمَّنْ خَلَقْنَا
تَفْضِيلًا ٧٠

71. われら*が全ての人々を、その導き手[2]と共に召喚する（、復活の）日*（のことを思い出させよ）。そして自分の帳簿を右手に渡された者、それらの者たちは自分たちの帳簿を（喜々として）読むこととなり[3]、糸くず[4]ほどさえも不正*に扱われることがない。

يَوْمَ نَدْعُوا كُلَّ أُنَاسٍ بِإِمَامِهِمْ ۖ فَمَنْ أُوتِيَ
كِتَابَهُ بِيَمِينِهِ فَأُولَٰئِكَ يَقْرَءُونَ
كِتَابَهُمْ وَلَا يُظْلَمُونَ فَتِيلًا ٧١

72. また、ここ（現世）で盲目だった者は、来世においても盲目[5]であり、更に道に迷う者なのだ。

وَمَن كَانَ فِي هَٰذِهِ أَعْمَىٰ فَهُوَ فِي الْآخِرَةِ
أَعْمَىٰ وَأَضَلُّ سَبِيلًا ٧٢

1 彼らへの援助者、彼らの復讐（ふくしゅう）を要求する「後見人」のこと。あるいは、アッラー*のされたことを否認し、かれを追求する者（アル＝バガウィー3:144 参照）。

2 この「導き手」の解釈には、「預言者*」「啓典」「現世での行いが記された帳簿」などの説がある（アッ＝タバリー7:5217-5219 参照）。

3 行いの帳簿を右手に渡されることは、彼が正しく導かれ、悪行よりも善行が優ったことの印である（アッ＝サァディー463 頁参照）。また、この時の様子についてはアーヤ*13-14 とその訳注、洞窟章 49、真実章 19-25、割れる章 7 以降なども参照。

4 「糸くず」については、婦人章 49 の訳注を参照。

5 現世において、アッラー*の御力を示す証拠に盲目であり、預言者*ムハンマド*の伝えた教えを信じなかった者は、復活の日*、天国への道を歩むことにおいて更に盲目である（ムヤッサル 289 頁参照）。家畜章 50、雷鳴章 16、フード*章 20、24 とその訳注も参照。

73. （使徒*よ、）本当に彼ら（シルク*の徒）は、あなたにそれ（クルアーン*）以外のものをわれら*に対してでっち上げさせるべく[1]、われら*があなたに下したもの（クルアーン*）から、あなたを惑わせて遠ざけてしまうところであった。そうすれば彼らは、あなたを親友としたであろう。

وَإِن كَادُوا۟ لَيَفْتِنُونَكَ عَنِ ٱلَّذِىٓ
أَوْحَيْنَآ إِلَيْكَ لِتَفْتَرِىَ عَلَيْنَا غَيْرَهُۥ ۖ
وَإِذًا لَّٱتَّخَذُوكَ خَلِيلًا ٧٣

74. そして、もしわれら*があなたを（真理において）確固とさせなければ、あなたは確かに僅かながらも、彼ら（の提案）に靡いてしまうところであった。

وَلَوْلَآ أَن ثَبَّتْنَـٰكَ لَقَدْ كِدتَّ تَرْكَنُ إِلَيْهِمْ
شَيْـًٔا قَلِيلًا ٧٤

75. （使徒*よ、もしあなたが彼らに少しでも靡いていた）ならば、われら*はあなたに倍の生と倍の死[2]を味わわせたのであり、それからあなたは自分自身に、われら*に対するいかなる援助者も見出すことはなかったのだ。

إِذًا لَّأَذَقْنَـٰكَ ضِعْفَ ٱلْحَيَوٰةِ وَضِعْفَ
ٱلْمَمَاتِ ثُمَّ لَا تَجِدُ لَكَ عَلَيْنَا نَصِيرًا ٧٥

76. また、本当に彼ら（不信仰者*ら）はあなたを追放するべく、あなたを実に煩わせて、その地（マッカ*）から出て行かせるところであった。そして、そうしたとしても彼らは、あなたの（出て行った）後、僅かばかり（の間）しか（そこに）留まることがないのである[3]。

وَإِن كَادُوا۟ لَيَسْتَفِزُّونَكَ مِنَ ٱلْأَرْضِ
لِيُخْرِجُوكَ مِنْهَا ۖ وَإِذًا لَّا يَلْبَثُونَ خِلَـٰفَكَ إِلَّا
قَلِيلًا ٧٦

77. （それは、）われら*の使徒*たちの内、われら*が確かに、あなた以前に遣わした者たちの摂理[4]。そして（使徒*よ、）あなたは

سُنَّةَ مَن قَدْ أَرْسَلْنَا قَبْلَكَ مِن رُّسُلِنَا ۖ
وَلَا تَجِدُ لِسُنَّتِنَا تَحْوِيلًا ٧٧

1 フード*章 12 の訳注も参照。

2 つまり現世でも来世でも、倍の懲罰を味わうことになるということ（アッ＝タバリー 7:5223 参照）。

3 一説には、バドルの戦い*のこと。ムスリム*たちがマッカ*からマディーナ*に移住*した後、マッカ*の不信仰者*がバドルで大敗するまで、一年半しかなかった（イブン・カスィール 5:101 参照）。

4 「使徒*たちの摂理」とは、使徒*を自分たちの間から追放した社会が滅ぼされる、という摂理のこと（ムヤッサル 290 頁参照）。

われら*の摂理に、いかなる変更も見出すことがない。

78. 太陽が傾いてから、夜の闇(が包みこむ時)まで、礼拝を遵守*せよ。そして暁のクルアーン*[1]を(遵守するのだ)。本当に暁のクルアーン*は、(天使*たちに)立ち会われるものなのだから。

أَقِمِ ٱلصَّلَوٰةَ لِدُلُوكِ ٱلشَّمۡسِ إِلَىٰ غَسَقِ
ٱلَّيۡلِ وَقُرۡءَانَ ٱلۡفَجۡرِۖ إِنَّ قُرۡءَانَ
ٱلۡفَجۡرِ كَانَ مَشۡهُودٗا ٧٨

79. また(預言者*よ)、夜の一部をあなた(の高い位)への善き上乗せとして、それ(クルアーン*)をもってタハッジュド[2]せよ。あなたの主*は、あなたを栄誉ある場所[3]に蘇らせて下さるだろうから。

وَمِنَ ٱلَّيۡلِ فَتَهَجَّدۡ بِهِۦ نَافِلَةٗ لَّكَ عَسَىٰٓ أَن
يَبۡعَثَكَ رَبُّكَ مَقَامٗا مَّحۡمُودٗا ٧٩

80. また、言うのだ。「我が主*よ、私を善い入り所から入れ、私を善い出口から出して下さい[4]。そしてあなたの御許から私に、(私に反対する者に対する、我が)助力となる論拠[5]をお授け下さい」。

وَقُل رَّبِّ أَدۡخِلۡنِي مُدۡخَلَ صِدۡقٖ وَأَخۡرِجۡنِي
مُخۡرَجَ صِدۡقٖ وَٱجۡعَل لِّي مِن لَّدُنكَ
سُلۡطَٰنٗا نَّصِيرٗا ٨٠

---

1 これは一説に、夜明け前の義務の礼拝のこと。そこには、夜の天使*たちと昼の天使*たちが集合するとされる(アル=ブハーリー648、雷鳴章 11「交替番」の訳注を参照)。尚、この直前に言及されている「礼拝」は正午過ぎから夜までに定められた、四つの義務の礼拝であると言われる(ムヤッサル 290 頁参照)。これら一日五回の義務の礼拝は、預言者*が昇天した際に定められた(アル=ブハーリー3887 参照)。

2 夜に一度眠った後起きて、暁の前までに行う礼拝のこと(アッ=タバリー7:5234 参照)。語源的には、「眠りを振り払うべく努力する」という意味合いがある(イブン・アーシュール 15:185 参照)その義務性については、衣を纏(まと)う者章 2 とその訳注も参照。

3 預言者*ムハンマド*は復活の日*、最大の執り成し手となるほか、誰も授かることの出来ない数多くの栄誉や、特別な役目を授かる(イブン・カスィール 5:104 参照)。

4 「善い入り所」と「善い出口」の解釈には、前者と後者がそれぞれ「死、復活」「(アッラー*からの)ご命令(への服従)、禁止(の回避)」「(安全な避難先としての)マディーナ*、(シルク*の徒の支配下にあった)マッカ*」といった諸説があるが、アーヤ*の意味はその全てを包括するものである(アル=クルトゥビー10:312-313 参照)。

5 一説には、「偉力と勝利」(前掲書 10:313 参照)。

81. そして（使徒*よ、シルク*の徒に）、言うがよい。「真理は到来し、虚妄は消滅した[1]。本当に虚妄は、消滅することになっているのだから」。

وَقُلْ جَآءَ ٱلْحَقُّ وَزَهَقَ ٱلْبَٰطِلُ ۚ إِنَّ ٱلْبَٰطِلَ كَانَ
زَهُوقًا ﴿٨١﴾

82. われら*はクルアーン*から、信仰者たちへの癒し[2]と慈悲であるものを下す。それは（それを嘘つき呼ばわりして信じない）不正*者たちに、（不信仰と迷いという）損失しか上乗せしないのだが。

وَنُنَزِّلُ مِنَ ٱلْقُرْءَانِ مَا هُوَ شِفَآءٌ وَرَحْمَةٌ
لِّلْمُؤْمِنِينَ ۙ وَلَا يَزِيدُ ٱلظَّٰلِمِينَ إِلَّا خَسَارًا ﴿٨٢﴾

83. また、われら*が人間に恩恵を授ければ、彼は（アッラー*の想念を）拒み、そっぽを向いて遠ざかる。そして自分に悪が降りかかると、失意の念激しい者となるのだ。

وَإِذَآ أَنْعَمْنَا عَلَى ٱلْإِنسَٰنِ أَعْرَضَ وَنَـَٔا
بِجَانِبِهِۦ ۖ وَإِذَا مَسَّهُ ٱلشَّرُّ كَانَ يَـُٔوسًا ﴿٨٣﴾

84. （使徒*よ、）言え。「（あなた方は）皆、自分に合ったやり方で行うのであり、あなた方の主*は、誰こそが最も（正しい）道に導かれている者なのか、一番よくご存知なのである」。

قُلْ كُلٌّ يَعْمَلُ عَلَىٰ شَاكِلَتِهِۦ فَرَبُّكُمْ أَعْلَمُ
بِمَنْ هُوَ أَهْدَىٰ سَبِيلًا ﴿٨٤﴾

85. 彼ら（不信仰者*たち）は、魂についてあなたに尋ねる。言ってやれ。「魂は、我が主*（だけがご存知）の事。あなた方は、僅かばかりしか知識を与えられてはいない」。

وَيَسْـَٔلُونَكَ عَنِ ٱلرُّوحِ ۖ قُلِ ٱلرُّوحُ مِنْ أَمْرِ رَبِّى
وَمَآ أُوتِيتُم مِّنَ ٱلْعِلْمِ إِلَّا قَلِيلًا ﴿٨٥﴾

86. また、もしわれら*が望むなら、われら*はあなたに啓示したもの（クルアーン*）を（あなたの心から、）まさに消し去ってしまおう。それからあなたはそこにおいて、われらに対して（それを阻む、）自らの委任者を見出さないのである。

وَلَئِن شِئْنَا لَنَذْهَبَنَّ بِٱلَّذِىٓ أَوْحَيْنَآ إِلَيْكَ ثُمَّ لَا
تَجِدُ لَكَ بِهِۦ عَلَيْنَا وَكِيلًا ﴿٨٦﴾

1 この「真理」はイスラーム*、「虚妄」はシルク*のこと（ムヤッサル 290 頁参照）。

2 この「癒し」については、ユーヌス*章 57 の訳注を参照。

87. しかし、あなたの主*からのご慈悲ゆえ（、かれはクルアーン*を、あなたの心に堅固にし給う）。本当に、かれのあなたに対するご恩寵は、もとより偉大なのだから。

إِلَّا رَحۡمَةٗ مِّن رَّبِّكَۚ إِنَّ فَضۡلَهُۥ كَانَ عَلَيۡكَ
كَبِيرٗا ٨٧

88. 言ってやれ。「もしも、このクルアーン*と同様のものを創作すべく、人間とジン*が結集したとしても、それと同様のものを作ることは断じて叶わない。たとえ彼らがお互いに力を合わせても、である」。[1]

قُل لَّئِنِ ٱجۡتَمَعَتِ ٱلۡإِنسُ وَٱلۡجِنُّ عَلَىٰٓ أَن يَأۡتُواْ
بِمِثۡلِ هَٰذَا ٱلۡقُرۡءَانِ لَا يَأۡتُونَ بِمِثۡلِهِۦ وَلَوۡ
كَانَ بَعۡضُهُمۡ لِبَعۡضٖ ظَهِيرٗا ٨٨

89. われら*は確かにこのクルアーン*の中で、人々に対し、（教訓を受けるべき）あらゆる譬えを多彩に示した。そして大半の人々は、（真理への）否定以外を拒んだのだ。

وَلَقَدۡ صَرَّفۡنَا لِلنَّاسِ فِي هَٰذَا ٱلۡقُرۡءَانِ مِن
كُلِّ مَثَلٖ فَأَبَىٰٓ أَكۡثَرُ ٱلنَّاسِ إِلَّا كُفُورٗا ٨٩

90. （クルアーン*の真実性に太刀打ちできないと知ると、）彼ら（シルク*の徒）は言った[2]。「（ムハンマド*よ、）あなたがその地（マッカ*）から、私たちに噴泉を湧かせるまで、私たちはあなたのことを信じまい。

وَقَالُواْ لَن نُّؤۡمِنَ لَكَ حَتَّىٰ تَفۡجُرَ لَنَا مِنَ
ٱلۡأَرۡضِ يَنۢبُوعًا ٩٠

91. または、あなたにナツメヤシと葡萄からなる農園が現れ、あなたがその間から河川を勢いよく迸らせるまでは。

أَوۡ تَكُونَ لَكَ جَنَّةٞ مِّن نَّخِيلٖ وَعِنَبٖ
فَتُفَجِّرَ ٱلۡأَنۡهَٰرَ خِلَٰلَهَا تَفۡجِيرًا ٩١

92. あるいは、あなたが主張しているように、天をいくつもの破片にして私たちの上に落下させる[3]か、あなたがアッラー*と天使*たちを眼前に連れて来る[4]までは。

أَوۡ تُسۡقِطَ ٱلسَّمَآءَ كَمَا زَعَمۡتَ عَلَيۡنَا كِسَفًا
أَوۡ تَأۡتِيَ بِٱللَّهِ وَٱلۡمَلَٰٓئِكَةِ قَبِيلًا ٩٢

---

1 創造物によるクルアーン*の創作については、雌牛章 23 の訳注を参照。

2 マッカ*の不信仰者*たちは、預言者*ムハンマド*に様々な無理難題を突きつけた。家畜章 57-58、戦利品*章 32、ユーヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、サード章 16、相談章 18、階段章 1-2 なども参照。

3 復活の日*に天は脆（もろ）くなって割れ、その片々が落下する、とあなたは約束したが、一足早く、現世でそれが起こるようにしてみよ、ということ（イブン・カスィール 5:120 参照）。山章 44 と、その訳注も参照。

4 家畜章 8-9、111、アル＝ヒジュル章 7-8、識別章 7 も参照。

93. それとも、あなたに金の邸宅が現れるか、あなたが天に昇るまでは。そして私たちが読む書[1]を（、天から戻って来て）私たちに下すまでは、あなたが昇天したことなど、信じはしまい」。（使徒*よ、）言ってやれ。「我が主*に称え*あれ！　私は、使徒*である一介の人間に過ぎないのではないか？」

أَوۡ يَكُونَ لَكَ بَيۡتٞ مِّن زُخۡرُفٍ أَوۡ تَرۡقَىٰ فِي
ٱلسَّمَآءِ وَلَن نُّؤۡمِنَ لِرُقِيِّكَ حَتَّىٰ تُنَزِّلَ عَلَيۡنَا
كِتَٰبٗا نَّقۡرَؤُهُۥۗ قُلۡ سُبۡحَانَ رَبِّي هَلۡ
كُنتُ إِلَّا بَشَرٗا رَّسُولٗا ٩٣

94. （不信仰な）人々が、自分たちのもとに導きが到来した時に（アッラー*とその使徒*を）信仰するのを阻んだのは、「アッラー*が人間の使徒*を遣わされただと？」と、彼らが言ったこと[2]に外ならなかった。

وَمَا مَنَعَ ٱلنَّاسَ أَن يُؤۡمِنُوٓاْ إِذۡ جَآءَهُمُ ٱلۡهُدَىٰٓ
إِلَّآ أَن قَالُوٓاْ أَبَعَثَ ٱللَّهُ بَشَرٗا رَّسُولٗا ٩٤

95. （使徒*よ、）言ってやれ。「（アッラー*はこう仰せられる。）もし地上に安住して（そこを）歩く天使*たちがいたならば、われら*は天から彼らのもとに、天使*の使徒*を遣わしたであろう」。[3]

قُل لَّوۡ كَانَ فِي ٱلۡأَرۡضِ مَلَٰٓئِكَةٞ يَمۡشُونَ
مُطۡمَئِنِّينَ لَنَزَّلۡنَا عَلَيۡهِم مِّنَ ٱلسَّمَآءِ مَلَكٗا
رَّسُولٗا ٩٥

96. 言うがよい。「（私が本当に預言者*であることの、）私とあなた方の間の証人は、アッラー*のみで十分。本当にかれは、その僕たちに通暁されるお方、全てをご覧になるお方であられる」。

قُلۡ كَفَىٰ بِٱللَّهِ شَهِيدَۢا بَيۡنِي وَبَيۡنَكُمۡۚ إِنَّهُۥ
كَانَ بِعِبَادِهِۦ خَبِيرَۢا بَصِيرٗا ٩٦

97. 誰であろうと、アッラー*がお導きになる者こそは、（真実へと）導かれた者。そして、かれが迷わされる者が誰であろうと、あなたは彼らに対し、かれ（アッラー*）以

وَمَن يَهۡدِ ٱللَّهُ فَهُوَ ٱلۡمُهۡتَدِۖ وَمَن يُضۡلِلۡ فَلَن
تَجِدَ لَهُمۡ أَوۡلِيَآءَ مِن دُونِهِۦۖ وَنَحۡشُرُهُمۡ يَوۡمَ
ٱلۡقِيَٰمَةِ عَلَىٰ وُجُوهِهِمۡ عُمۡيٗا وَبُكۡمٗا وَصُمّٗاۖ

---

1 ムハンマド*は真にアッラー*の使徒*である、と記された書のこと（ムヤッサル 291 頁参照）。

2 つまり、このような言葉を発する原因となる、あらゆる信条や考えのこと（アブー・アッ＝サウード 5:195 参照）。

3 しかし地上の住人は人間であることから、彼らと同種である人間の使徒*が彼らに遣わされたのである（ムヤッサル 291 頁参照）。家畜章 8-9、111、アル＝ヒジュル章 7-8、識別章 7 も参照。

外のいかなる庇護者も見出すまい。われら*は復活の日*、彼らを顔を下にした逆様の状態にし[1]、盲目で、唖で、聾の状態のまま召集する[2]。彼らの住処は地獄。それ（地獄の炎）が収まるたび、われら*は彼らに烈火を上乗せする[3]のだ。

مَّأْوَىٰهُمْ جَهَنَّمُ كُلَّمَا خَبَتْ زِدْنَٰهُمْ
سَعِيرًا ﴿٩٧﴾

98. それが彼らの応報。というのも彼らは、われら*の御徴を否定し、「一体、骨と化し、ばらばらになった後で、本当に私たちがまさしく、新たな創造[4]として蘇らされるというのか？」と言っていたからなのだ。

ذَٰلِكَ جَزَآؤُهُم بِأَنَّهُمْ كَفَرُوا۟ بِـَٔايَٰتِنَا وَقَالُوٓا۟
أَءِذَا كُنَّا عِظَٰمًا وَرُفَٰتًا أَءِنَّا لَمَبْعُوثُونَ
خَلْقًا جَدِيدًا ﴿٩٨﴾

99. 一体、彼ら（シルク*の徒）は、諸天と大地を創造されたアッラー*が、（彼らの滅亡後、）彼らと同様の者をお創りになることがお出来なのを知らなかったのか？ またかれは、彼らに対して疑惑の余地のない期限[5]を設けられたのである。そして不正*者たちは、（アッラー*の教えの）否定以外を、拒んだのだ。

۞ أَوَلَمْ يَرَوْا۟ أَنَّ ٱللَّهَ ٱلَّذِى خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَٱلْأَرْضَ قَادِرٌ عَلَىٰٓ أَن يَخْلُقَ مِثْلَهُمْ
وَجَعَلَ لَهُمْ أَجَلًا لَّا رَيْبَ فِيهِ فَأَبَى ٱلظَّٰلِمُونَ
إِلَّا كُفُورًا ﴿٩٩﴾

---

1 預言者*は仰（おっしゃ）った。「一体、彼（人）を現世において両足で歩かせられたお方が、復活の日*、彼を顔で歩かせられることが出来ないなどということがあろうか？（いや、お出来になるのである。）」（アル＝ブハーリー4760 参照）。

2 洞窟章 53、識別章 12-13 などにもあるように、クルアーン*の複数の箇所で、復活の日*に不信仰者*が見、聞き、話す描写が登場する。これについては「彼らが喜ぶようなものを見たり、根拠のあることを話したり、嬉しいことを耳にしたりすることがない」「これは召集される時の、一時的な状態である」などといった解釈がある（アッ＝タバリー7:5263 参照）。

3 これは婦人章 56 にあるような光景のことを指している、とも言われる（アル＝バガウィー3:164 参照）。

4 「新たな創造」については、雷鳴章 5 の同語の訳注を参照。

5 この「期限」とは、彼らが死んだり、懲罰にあったりするまでの期限のこと（ムヤッサル 292 頁参照）。

100. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「もし、あなた方が我が主*のご慈悲の宝庫[1]を所有していたとしても、出費（ゆえの貧困）を恐れて出し惜しみしたであろう。人間とは元来、守銭奴なのだから」。

قُل لَّوْ أَنتُمْ تَمْلِكُونَ خَزَآئِنَ رَحْمَةِ رَبِّىٓ إِذًا
لَّأَمْسَكْتُمْ خَشْيَةَ ٱلْإِنفَاقِ ۚ وَكَانَ ٱلْإِنسَٰنُ
قَتُورًا ﴿١٠٠﴾

101. われら*は確かにムーサー*に、明らかなる九つの御徴[2]を授けた。ならば（使徒*よ、）イスラーイールの子ら*に、彼（ムーサー*）が彼ら（の先祖）のもとに（御徴を携えて）到来し、フィルアウン*が彼（ムーサー*）に対して、「本当に私はまさしく——ムーサー*よ——、あなたが魔術にかけられ（て正気を失っ）た者だと思うのだ」と言った時のことを、尋ねてみよ。

وَلَقَدْ ءَاتَيْنَا مُوسَىٰ تِسْعَ ءَايَٰتٍۭ بَيِّنَٰتٍ ۖ فَسْـَٔلْ
بَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ إِذْ جَآءَهُمْ فَقَالَ لَهُۥ فِرْعَوْنُ
إِنِّى لَأَظُنُّكَ يَٰمُوسَىٰ مَسْحُورًا ﴿١٠١﴾

102. 彼（ムーサー*）は、言った。「これらのもの（九つの御徴）を開眼として下した[3]のは、諸天と大地の主*以外の何ものでもないということを、あなたは確かにご存知です。そして、本当に私はまさしく——フィルアウン*よ——、あなたが破滅する者であると確信しています」。

قَالَ لَقَدْ عَلِمْتَ مَآ أَنزَلَ هَٰٓؤُلَآءِ إِلَّا رَبُّ
ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ بَصَآئِرَ وَإِنِّى لَأَظُنُّكَ
يَٰفِرْعَوْنُ مَثْبُورًا ﴿١٠٢﴾

103. それで彼（フィルアウン*）は、彼ら（イスラーイールの子ら*）を煩わせて、（ムーサー*と共に）その地（エジプト）から追い出すことを望んだ。そしてわれら*は、彼（フィルアウン*）と彼と共にあった者全員[4]を（海で）溺れさせた。

فَأَرَادَ أَن يَسْتَفِزَّهُم مِّنَ ٱلْأَرْضِ
فَأَغْرَقْنَٰهُ وَمَن مَّعَهُۥ جَمِيعًا ﴿١٠٣﴾

---

1 「ご慈悲の宝庫」とは、糧の宝庫、あるいは恩恵の宝庫のこと（アル＝クルトゥビー10:335 参照）。

2 「九つの御徴」とは一説に、杖、手、旱魃（かんばつ）、凶作、洪水、イナゴ、虱（しらみ）、蛙（かえる）、血のこと（ムヤッサル 292 頁参照）。高壁章 107-108、130、133 も参照。

3 つまり、アッラーの唯一性*を示す証拠として下した、ということ（ムヤッサル 292 頁参照）。

4 フィルアウン*の軍勢のこと（前掲書、同頁参照）。

104. また、われら*はその（出来事の）後、イスラーイールの子ら*に言った。「その地[1]に住むがよい。そして来世の約束（復活の日*）が到来したら、われら*はあなた方を皆、一緒くたにして（清算の場に）連れ出すのだ」。

وَقُلْنَا مِنۢ بَعْدِهِۦ لِبَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ ٱسْكُنُوا۟ ٱلْأَرْضَ
فَإِذَا جَآءَ وَعْدُ ٱلْءَاخِرَةِ جِئْنَا بِكُمْ لَفِيفًا ١٠٤

105. われら*は、真理と共にそれ（クルアーン*）を下し、それは真理と共に下った[2]。そして（使徒*よ）、われら*があなたを遣わしたのは、吉報を伝え、警告を告げる者[3]としてに外ならない。

وَبِٱلْحَقِّ أَنزَلْنَٰهُ وَبِٱلْحَقِّ نَزَلَ ۗ وَمَآ أَرْسَلْنَٰكَ إِلَّا
مُبَشِّرًا وَنَذِيرًا ١٠٥

106. また（使徒*よ、われら*は）クルアーン*を（、あなたに下した）。われら*はそれを、あなたが人々に対してゆっくり誦むように明確に分け[4]、徐々に下した[5]のだ。

وَقُرْءَانًا فَرَقْنَٰهُ لِتَقْرَأَهُۥ عَلَى ٱلنَّاسِ عَلَىٰ مُكْثٍ
وَنَزَّلْنَٰهُ تَنزِيلًا ١٠٦

107. （使徒*よ、クルアーン*を嘘呼ばわりする者たちに、）言うのだ。「それを信じよ。あるいは、信じなくてもよい（、いずれにせよ、それは変わらず真理なのだから）」。本当にそれ（クルアーン*の啓示）以前に知識（啓典）を授けられた者たちは、それ（クルアーン*）が彼らに読

قُلْ ءَامِنُوا۟ بِهِۦٓ أَوْ لَا تُؤْمِنُوٓا۟ ۚ إِنَّ ٱلَّذِينَ أُوتُوا۟ ٱلْعِلْمَ مِن
قَبْلِهِۦٓ إِذَا يُتْلَىٰ عَلَيْهِمْ يَخِرُّونَ لِلْأَذْقَانِ سُجَّدًا ١٠٧

---

1 「その地」とは、シャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）のこととされる（ムヤッサル 292 頁参照参照）。

2 クルアーン*は人々への命令、禁止、褒美、懲罰のために下され、また、真実と正義、改変からの保護と共に下った（前掲書 293 頁参照）。

3 「吉報を伝え、警告を告げる」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

4 つまりクルアーン*を明快なもの、完全なものとし、導きと迷妄（めいもう）、真理と虚妄（きょもう）をはっきりと分けるものとした、ということ（ムヤッサル 293 頁参照）。

5 クルアーン*は明白かつ詳細にされ、完全なものとして仕上げられた。また一度に全部下されたのではなく二十三年（他説もあり）という年月をかけて、折々の出来事や状況に応じて徐々に下された（イブン・カスィール 5:127、ムヤッサル 293 頁参照）。識別章 32 とその訳注も参照。

誦されれば、顔[1]を伏せつつ崩れ落ちてサジダ*する[2]のだ。

108. そして彼らは、（こう）言うのである。「我らが主*に称え*あれ。本当に我らが主*のお約束[3]は、まさしく実現されることになっていたのだ」。

وَيَقُولُونَ سُبْحَٰنَ رَبِّنَآ إِن كَانَ وَعْدُ رَبِّنَا
لَمَفْعُولًا ١٠٨

109. そして、顔を伏せつつ泣きながら崩れ落ち、（クルアーン*を聴くことは、）彼らに更なる恭順さ[4]を上乗せする。（読誦のサジダ*）

وَيَخِرُّونَ لِلْأَذْقَانِ يَبْكُونَ وَيَزِيدُهُمْ
خُشُوعًا ۩ ١٠٩

110. （使徒*よ、シルク*の徒に）言うがよい。「アッラー*に祈るがよい。あるいは、慈悲あまねき*お方に祈ってもよい。（かれの美名の内の）いずれで呼ぼうと、最も美しい御名はかれにのみ属するのであ（り、かれは唯一なのであ）る[5]。そしてあなたの礼拝を声高にせず、低くもせず、その中間の道を求めよ[6]」。

قُلِ ٱدْعُوا۟ ٱللَّهَ أَوِ ٱدْعُوا۟ ٱلرَّحْمَٰنَ ۖ أَيًّا مَّا تَدْعُوا۟
فَلَهُ ٱلْأَسْمَآءُ ٱلْحُسْنَىٰ ۚ وَلَا تَجْهَرْ بِصَلَاتِكَ
وَلَا تُخَافِتْ بِهَا وَٱبْتَغِ بَيْنَ ذَٰلِكَ سَبِيلًا ١١٠

---

1 字義的には「あご」のこと。顔を深々と地面につける意味合いが含まれている（イブン・アーシュール 15:234 参照）。

2 これは啓典の民*の内、クルアーン*を信じてイスラーム*を受け入れた信仰者たちの描写とされる（アル＝バガウィー3:167 参照）。

3 クルアーン*を下し、預言者*ムハンマド*を遣わすという、彼らの啓典に示された「お約束」のこと（アル＝ワーヒディー13:508 参照）。

4 「恭順さ」については、雌牛章 45 の訳注を参照。

5 一説にこのアーヤ*は、預言者*がアッラー*を、「慈悲あまねき*お方」「慈愛深き*お方」と異なる美名で呼びつつ祈っていたのを耳にした不信仰者*が、彼が複数の神に祈っているのだと誤解したことに関して下った（アッ＝タバリー7:5279 参照）。雷鳴章 30 とその訳注、預言者*たち章 36、識別章 60 も参照。

6 一説にこのアーヤ*は、預言者*とその教友*たちがマッカ*で密かに礼拝していた時に下った。礼拝でクルアーン*読誦の声を上げれば、それを耳にした不信仰者*らがその悪口を言い、声を低めすぎれば、礼拝に参加する者たちに聞こえないという状況を避けるため、このようなご命令が下ったのだという（アル＝ブハーリー4722 参照）。また別の説では、ここでの「礼拝」は「祈願」のこと（前掲書 4723 参照）。

111. また（使徒*よ）、言うのだ。「子供を持たず、王権においていかなる同位者もなく、屈辱ゆえのいかなる庇護者[1]もないアッラー*に、称賛*あれ」。そして、アッラー*の偉大さを称揚*するのだ。

وَقُلِ ٱلْحَمْدُ لِلَّهِ ٱلَّذِى لَمْ يَتَّخِذْ وَلَدًا وَلَمْ يَكُن لَّهُۥ
شَرِيكٌ فِى ٱلْمُلْكِ وَلَمْ يَكُن لَّهُۥ وَلِىٌّ مِّنَ ٱلذُّلِّ ۖ وَكَبِّرْهُ
تَكْبِيرًا ﴿١١١﴾

1 屈辱から守ってくれる庇護者や、援助者など必要としない、ということ。つまり、かれは屈辱などからは無縁のお方である（アル＝クルトゥビー10:345 参照）。

第 18 章
洞窟章（アル＝カハフ）[1]

سُورَةُ الكَهۡفِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. その僕（ムハンマド*）に啓典（クルアーン*）をお下しになり、それにいかなる歪み[2]ももたらされなかったアッラー*に、称賛*あれ。

2. （矛盾のない）まっすぐなものとして（、それをお下しになった）。（不信仰者*たちには）かれの御許からの凄まじい猛威[3]を警告し、正しい行い*を行う信仰者たちには、善き褒美（天国）は彼らにこそある、との吉報を伝えるためである。

3. 彼ら（信仰者たち）はそこに、永遠に留まる。

4. また、「アッラー*は御子をもうけられた」と言った者たちに警告するため（、クルアーン*をお下しになった）。

5. 彼らにも、彼らの先祖たちにも、それについて何の知識[4]もない。彼らの口から出る言葉の、何と由々しきことか。彼らは嘘を言っているに外ならないのだから。

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

ٱلۡحَمۡدُ لِلَّهِ ٱلَّذِيٓ أَنزَلَ عَلَىٰ عَبۡدِهِ ٱلۡكِتَٰبَ
وَلَمۡ يَجۡعَل لَّهُۥ عِوَجَاۜ ١

قَيِّمٗا لِّيُنذِرَ بَأۡسٗا شَدِيدٗا مِّن لَّدُنۡهُ
وَيُبَشِّرَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ٱلَّذِينَ يَعۡمَلُونَ
ٱلصَّٰلِحَٰتِ أَنَّ لَهُمۡ أَجۡرًا حَسَنٗا ٢

مَّٰكِثِينَ فِيهِ أَبَدٗا ٣
وَيُنذِرَ ٱلَّذِينَ قَالُواْ ٱتَّخَذَ ٱللَّهُ وَلَدٗا ٤

مَّا لَهُم بِهِۦ مِنۡ عِلۡمٖ وَلَا لِأٓبَآئِهِمۡۚ كَبُرَتۡ
كَلِمَةٗ تَخۡرُجُ مِنۡ أَفۡوَٰهِهِمۡۚ إِن يَقُولُونَ إِلَّا
كَذِبٗا ٥

---

1 マッカ*啓示（一部のアーヤ*は、マディーナ*啓示説もあり）。冒頭と終わりでアッラーの唯一性*、クルアーン*、預言者*ムハンマド*、復活と清算への信仰が確証され、その中間に、スーラ*名ともなっている「洞窟の人々の話」「二つの果樹園の話」「アーダム*とイブリース*の話」「ムーサー*とハディルの話」「ズル＝カルナイン*の話」といった、信仰と不信仰を教訓と共に描く説話が挿入（そうにゅう）されている。また、洞窟章には「最初の 10 アーヤ*を覚えると、ダッジャール（末世に出現する偽の救世主）から守られる」（ムスリム「旅行者の礼拝とその短縮の書」257 参照）「最後の 10 アーヤ*を読むと、ダッジャールの試練から守られる」（アフマド 27516 参照）「金曜日の夜にそれを読んだ者は、カァバ神殿*と彼の間を光が照らしてくれる（アッ＝ダーリミー3450 参照）」などの徳が伝えられている。

2 「歪み」とは、真理からの逸脱のこと（ムヤッサル 293 頁参照）。

3 この「猛威」については、家畜章 43 の訳注を参照。

4 「アッラー*には子供がある」といった主張を裏付ける「知識」のこと（前掲書 294 頁参照）。

6. （使徒*よ、）あなたは彼らの（背き去る）跡を見て、ひどい悲しみで身を切り裂く思いであろう。もし彼らが、この話（クルアーン*）を信じないのであれば。

فَلَعَلَّكَ بَٰخِعٞ نَّفۡسَكَ عَلَىٰٓ ءَاثَٰرِهِمۡ إِن لَّمۡ
يُؤۡمِنُواْ بِهَٰذَا ٱلۡحَدِيثِ أَسَفًا ٦

7. 本当にわれら*は、地上にあるものを、その飾りと（、地上の住人の利益と）した。（それは）われら*が、彼らの誰が最も行いが善いか、試練にかけるため。[1]

إِنَّا جَعَلۡنَا مَا عَلَى ٱلۡأَرۡضِ زِينَةٗ لَّهَا
لِنَبۡلُوَهُمۡ أَيُّهُمۡ أَحۡسَنُ عَمَلٗا ٧

8. そして本当にわれら*は（現世が終わる時）、そこにあるものを必ずや、まっさらな地面としてしまうのである。

وَإِنَّا لَجَٰعِلُونَ مَا عَلَيۡهَا صَعِيدٗا جُرُزًا ٨

9. いや、一体（使徒*よ、）あなたは、洞窟と碑文[2]の人々が、われら*の（他の）御徴よりも、驚くべきものだと思ったのか？[3]

أَمۡ حَسِبۡتَ أَنَّ أَصۡحَٰبَ ٱلۡكَهۡفِ وَٱلرَّقِيمِ
كَانُواْ مِنۡ ءَايَٰتِنَا عَجَبًا ٩

10. （信仰者の）若者たち[4]が（、不信仰な民*からの抑圧を逃れて）洞窟に避難し、（こう）言った時のこと（を思い起こさせよ）。「我らが主*よ、あなたの御許からのご慈悲を、私たちにお授け下さい。そして私たちの状況を、正しくお取り計り下さい[5]」。

إِذۡ أَوَى ٱلۡفِتۡيَةُ إِلَى ٱلۡكَهۡفِ فَقَالُواْ رَبَّنَآ
ءَاتِنَا مِن لَّدُنكَ رَحۡمَةٗ وَهَيِّئۡ لَنَا مِنۡ
أَمۡرِنَا رَشَدٗا ١٠

---

1 「試練」については、雌牛章 214、イムラーン家章 186、悔悟章 16、蜘蛛章 2、ムハンマド*章 31、王権章 2 とそれらの訳注も参照。

2 「碑文（ラキーム）」は一説に「洞窟の人々」の名だけでなく、彼らについての話を書き留めた碑文のこと。ほかにも、「彼らの名前や宗教などが記録された書」「彼らが逃げた町の名」「谷の名」「洞窟の上にあった岩の名」「彼らの犬」といった複数の解釈がある（アル＝クルトゥビー10:356-358 参照）。

3 人々が洞窟の人々の話を驚いたとしても、天地をお創りになり、それを飾りつけられた後に砂とされるお方の力を考えてみれば、驚くべきことなどではない（アッ＝シャンキーティー3:205 参照）。

4 彼らはイーサー*の宗教に従ったローマ人とも、あるいはイーサー*以前の時代の人々だとも言われる（アル＝クルトゥビー10:359 参照）。

5 彼らは、自分たちが堅固であり、悪から守られるための「ご慈悲」と、迷うことなく、アッラー*のご満悦に適（かな）う行いへと導いてくれる「正しさ」を祈ったのである（ムヤッサル 294 頁参照）。

11. それでわれら*は長年に渡って、洞窟の中で彼らの耳を遮った[1]。

فَضَرَبْنَا عَلَىٰٓ ءَاذَانِهِمْ فِى ٱلْكَهْفِ سِنِينَ عَدَدًا ١١

12. それからわれら*は、彼らを目覚めさせた。（それは）彼らが過ごした期間について、二派[2]のいずれがより正しく計算する者かを、如実に表すためであった。

ثُمَّ بَعَثْنَٰهُمْ لِنَعْلَمَ أَىُّ ٱلْحِزْبَيْنِ أَحْصَىٰ لِمَا لَبِثُوٓا۟ أَمَدًا ١٢

13. （使徒*よ、）われら*はあなたに、彼らの消息を真実のままに語って聞かせよう。本当に彼らはその主*を信じ、われら*が（真理の）導きを増してやった若者たちである。

نَّحْنُ نَقُصُّ عَلَيْكَ نَبَأَهُم بِٱلْحَقِّ ۚ إِنَّهُمْ فِتْيَةٌ ءَامَنُوا۟ بِرَبِّهِمْ وَزِدْنَٰهُمْ هُدًى ١٣

14. また、彼らが（、偶像崇拝を命じる不信仰の王の前に）立ち上がり、（こう）言った時、われら*は彼らの心を（信仰心で）繋ぎとめた[3]。「我らが主*は、諸天と大地の主*。私たちは決してかれをよそに、いかなる神[4]にも祈ったりはしません。そうすれば私たちは確かに、（真実から）逸脱したことを言ってしまったこと[5]になります」。

وَرَبَطْنَا عَلَىٰ قُلُوبِهِمْ إِذْ قَامُوا۟ فَقَالُوا۟ رَبُّنَا رَبُّ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ لَن نَّدْعُوَا۟ مِن دُونِهِۦٓ إِلَٰهًا ۖ لَّقَدْ قُلْنَآ إِذًا شَطَطًا ١٤

15. （それから彼らは、互いにこう言い合った。）「これら私たちの民は、かれ（アッラー*）を差しおいて、（アッラー*以外のものを）神々とした[6]。どうして彼らは、自分たち（のしていること）に対する、明白な根拠を持って来ないのか？　一体、アッ

هَٰٓؤُلَآءِ قَوْمُنَا ٱتَّخَذُوا۟ مِن دُونِهِۦٓ ءَالِهَةً ۖ لَّوْلَا يَأْتُونَ عَلَيْهِم بِسُلْطَٰنٍۭ بَيِّنٍ ۖ فَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّنِ ٱفْتَرَىٰ عَلَى ٱللَّهِ كَذِبًا ١٥

---

1 「耳を遮る」とは、眠らせることを意味する表現。深い眠りは聴覚を遮るため（イブン・アーシュール 15:268 参照）。

2 アッ＝シャンキーティー*によれば、この「二派」は「洞窟の人々の二派」であるとするのが、大半の解釈学者の見解。アーヤ*19 も参照（3:208 参照）。

3 「心を繋ぎとめる」という表現については、戦利品*章 11 の訳注を参照。

4 「神」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

5 つまり、アッラー*には同位者がいるという主張のこと（ムヤッサル 294 頁参照）。

6 「神々」については、雌牛章 133 の訳注を参照。

ラー*に対して嘘を捏造する者より、ひどい不正*を働く者がいようか？

16. あなた方が彼らと、彼らが崇めているアッラー*以外のものから離別するためには、（あなた方の主*だけを崇拝*すべく、）洞窟に避難せよ。あなた方の主*は、あなた方のためにそのご慈悲から豊富に与えられ、あなた方の状況をあなた方に便宜よく取り計らって下さろう」。

وَإِذِ ٱعۡتَزَلۡتُمُوهُمۡ وَمَا يَعۡبُدُونَ إِلَّا ٱللَّهَ
فَأۡوُۥٓاْ إِلَى ٱلۡكَهۡفِ يَنشُرۡ لَكُمۡ رَبُّكُم مِّن
رَّحۡمَتِهِۦ وَيُهَيِّئۡ لَكُم مِّنۡ أَمۡرِكُم مِّرۡفَقٗا ١٦

17. （そして彼らが洞窟に避難した時、アッラー*は彼らを眠らせ、お守りになった。）あなたは太陽が昇った時には、それが彼らの洞窟から右側に傾き、沈んだ時には、左側へと彼らをよけるのを見る[1]。彼らは、その中の（中央の）広い所にいたのだ。それはアッラー*の（御力を示す、）御徴の一つである。誰であろうと、アッラー*がお導きになる者こそは、（真実へと）導かれた者。また、かれが誰かを迷わせるならば、あなたはその者に、正道へと導くいかなる庇護者も見出すまい。

۞وَتَرَى ٱلشَّمۡسَ إِذَا طَلَعَت تَّزَٰوَرُ عَن
كَهۡفِهِمۡ ذَاتَ ٱلۡيَمِينِ وَإِذَا غَرَبَت تَّقۡرِضُهُمۡ
ذَاتَ ٱلشِّمَالِ وَهُمۡ فِي فَجۡوَةٖ مِّنۡهُۚ ذَٰلِكَ مِنۡ
ءَايَٰتِ ٱللَّهِۗ مَن يَهۡدِ ٱللَّهُ فَهُوَ ٱلۡمُهۡتَدِۖ وَمَن
يُضۡلِلۡ فَلَن تَجِدَ لَهُۥ وَلِيّٗا مُّرۡشِدٗا ١٧

18. また、あなたは彼らが眠っているにも関わらず、目覚めているように思うであろう。そして、彼らの犬が（洞窟の）入り口で両の前足を伸ばしている中、われら*は彼らを右に左に転がした[2]。もし彼らを見たら、あ

وَتَحۡسَبُهُمۡ أَيۡقَاظٗا وَهُمۡ رُقُودٞۚ وَنُقَلِّبُهُمۡ
ذَاتَ ٱلۡيَمِينِ وَذَاتَ ٱلشِّمَالِۖ وَكَلۡبُهُم بَٰسِطٞ
ذِرَاعَيۡهِ بِٱلۡوَصِيدِۚ لَوِ ٱطَّلَعۡتَ عَلَيۡهِمۡ لَوَلَّيۡتَ
مِنۡهُمۡ فِرَارٗا وَلَمُلِئۡتَ مِنۡهُمۡ رُعۡبٗا ١٨

---

1 アッラー*は彼らに、その入り口の方向が、いかなる時間帯においても日差しの入らないような洞窟を用意して下さったのだという説と、洞窟に日差しが入らないよう、アッラー*が太陽を逸（そ）らして下さったのだ、という説がある。また洞窟内の広場は風通しもよく、適当な涼しさであったとされる（アル＝バガウィー3:183 参照）。

2 定期的に転がされることで、体が地面に侵食されなかったのだという（ムヤッサル 295 頁参照）。

なたは彼らから逃げて踵を返し、彼らに対する恐怖で一杯になったであろう。

19. （彼らを長年に渡って眠らせ、守ったのと）同様に、われら*は彼らを（昔と何の変わりもない状態で）目覚めさせた。（それは）彼らが互いに、尋ね合うようにするためであった。彼らの内のある者は言った。「あなた方はどれ位（眠って）過ごしたのか？」彼ら（の内のある者たち）は言った。「一日か、一日足らずを過ごしたのだ」。彼ら（の内の別の者たち）は言った。「あなた方の主*が、あなた方の過ごした期間を最もよくご存知である（のだから、その知識はアッラー*に委ねよ）。（それよりも、）あなた方の内の誰かを、あなた方のこの銀（貨）と共に町へ遣わし、誰が（町の中で）一番清い食べ物[1]を持っているかを調べさせ、そこから糧（としての食料）を持って来させるのだ。そして（買い物の際には、私たちのことがばれてしまわないよう）細心の注意を払わせ、あなた方のことを誰にも、決して感づかせないようにせよ。

وَكَذَٰلِكَ بَعَثۡنَٰهُمۡ لِيَتَسَآءَلُواْ بَيۡنَهُمۡۚ
قَالَ قَآئِلٞ مِّنۡهُمۡ كَمۡ لَبِثۡتُمۡۖ قَالُواْ لَبِثۡنَا
يَوۡمًا أَوۡ بَعۡضَ يَوۡمٖۚ قَالُواْ رَبُّكُمۡ أَعۡلَمُ بِمَا
لَبِثۡتُمۡ فَٱبۡعَثُوٓاْ أَحَدَكُم بِوَرِقِكُمۡ هَٰذِهِۦٓ
إِلَى ٱلۡمَدِينَةِ فَلۡيَنظُرۡ أَيُّهَآ أَزۡكَىٰ طَعَامٗا
فَلۡيَأۡتِكُم بِرِزۡقٖ مِّنۡهُ وَلۡيَتَلَطَّفۡ وَلَا
يُشۡعِرَنَّ بِكُمۡ أَحَدًا ١٩

20. 本当に彼らが、もしあなた方のことを知ったならば、あなた方を（石で）打ち殺す[2]か、あるいはあなた方を彼らの宗教へと戻してしまうだろう。そしてそうなれば、あなた方は断じて、永遠に成功することはあるまい」。

إِنَّهُمۡ إِن يَظۡهَرُواْ عَلَيۡكُمۡ يَرۡجُمُوكُمۡ
أَوۡ يُعِيدُوكُمۡ فِي مِلَّتِهِمۡ وَلَن
تُفۡلِحُوٓاْ إِذًا أَبَدٗا ٢٠

1 目覚めた後、彼らは空腹に襲われたのだという。「一番清い食べ物」とは、最も合法なもの。町の民は偶像の名において、家畜を屠（ほふ）っていたが、中には信仰を隠している者もいたのだという。ほかにも、「最も祝福の多い食べ物」「最もよい食べ物」「最も安い食べ物」といった解釈もある（アル＝クルトゥビー10:375参照）。

2 「（石で）打ち殺す」については、フード*章91内の同表現の訳注も参照。

وَكَذَٰلِكَ أَعۡثَرۡنَا عَلَيۡهِمۡ لِيَعۡلَمُوٓاْ أَنَّ
وَعۡدَ ٱللَّهِ حَقّٞ وَأَنَّ ٱلسَّاعَةَ لَا رَيۡبَ فِيهَآ إِذۡ
يَتَنَٰزَعُونَ بَيۡنَهُمۡ أَمۡرَهُمۡۖ فَقَالُواْ ٱبۡنُواْ
عَلَيۡهِم بُنۡيَٰنٗاۖ رَّبُّهُمۡ أَعۡلَمُ بِهِمۡۖ قَالَ ٱلَّذِينَ
غَلَبُواْ عَلَىٰٓ أَمۡرِهِمۡ لَنَتَّخِذَنَّ عَلَيۡهِم
مَّسۡجِدٗا ٢١

21. （彼らを長年の眠りに落とし、それから目覚めさせたのと）同様に、われら*は彼らを（その時代の人々に）発見させた[1]。（それは）彼ら（発見者ら）が自分たちの間で彼らの問題[2]について言い争っている時、彼らが（復活という）アッラー*のお約束は真実であり、（復活の）その時（の到来）には疑惑の余地がないことを知るためであった。そして彼ら（発見者ら）は（、洞窟の人々が死んだ後）、言った。「彼らの（洞窟の）上に、（入り口を塞ぐ）建物を建てよ[3]——彼らのことは、彼らの主が最もよくご存知である[4]——」。彼らの諸事に発言力のある者たちは、言った。「私たちは必ずや、彼らの（場所の）上にマスジド*を建てよう[5]」。

---

1 一説に、町に遣わされた者が買い物に使った古い時代の銀貨が、彼らが発見されるきっかけとなった。また、彼らが目覚めた時代の王は信仰者で、町に買い物に来た者と共に洞窟へ行って出来事の真相を確認したとされる（アッ＝タバリー7:5317-5318 参照）。アル＝クルトゥビー*によると、大半の伝承は、この時に洞窟の人々は死んでしまったとしている（10:379 参照）。

2 一説に当時の人々の間では、死後に魂だけが復活するのか、それとも魂が肉体を伴って復活するのか、議論の種になっていた。しかしこの出来事の後、後者の説が確証された（前掲書 10:378-379 参照）。

3 「建物を建てる」理由としては、「彼らの痕跡（こんせき）を消すため」「彼らの遺体や、その砂などを、盗難から守るため」「洞窟の目印とするため」といった諸説がある（イブン・ジュザイ 1:506 参照）。

4 この挿入句の意味については、「洞窟の人々について、ああでもないこうでもないと議論していた、預言者*ムハンマド*の時代の啓典の民*に対する、アッラー*の御言葉」とか、「洞窟の人々の状況に関する議論の末に行き着いた、発見者らの言葉」とかいった説がある（アル＝カースィミー11:4036 参照）。

5 彼らとその出来事を記念し、かつそこでアッラー*を崇拝*するためのマスジド*のこと。尚このことは、墓の上にマスジド*を建てることの容認を意味するわけではない（アッ＝サァディー473 頁参照）。預言者*ムハンマド*は、預言者*や偉人たちの墓をマスジド*とすることを特に強く禁じた（アル＝ブハーリー434-437 参照）。

22. 彼ら（洞窟の人々に関し、ああでもないこうでもないと言う啓典の民*）は、言うであろう。「（彼らの数は）三人で、四人目が彼らの犬だった」。また、（別の者たちは）言う。「（彼らの数は）五人で、六人目が彼らの犬だった」。（彼らのいずれも、）あてずっぽうなのだ。また、（別の者たちは）言う。「（彼らの数は）七人で、八人目が彼らの犬だったのだ」。（使徒*よ、）言ってやれ。「我が主*が彼らの数について、最もよくご存知。僅かな者しか、彼ら（の数）について知る者はいない」。ならば、彼ら（の数）に関しては表面的な議論[1]しかしてはならず、彼ら（啓典の民*）の内の誰にも、彼ら（の詳細）について教示を請うてはならない。

سَيَقُولُونَ ثَلَٰثَةٞ رَّابِعُهُمۡ كَلۡبُهُمۡ
وَيَقُولُونَ خَمۡسَةٞ سَادِسُهُمۡ كَلۡبُهُمۡ
رَجۡمَۢا بِٱلۡغَيۡبِۖ وَيَقُولُونَ سَبۡعَةٞ وَثَامِنُهُمۡ
كَلۡبُهُمۡۚ قُل رَّبِّيٓ أَعۡلَمُ بِعِدَّتِهِم مَّا يَعۡلَمُهُمۡ إِلَّا
قَلِيلٞۗ فَلَا تُمَارِ فِيهِمۡ إِلَّا مِرَآءٗ ظَٰهِرٗا وَلَا
تَسۡتَفۡتِ فِيهِم مِّنۡهُمۡ أَحَدٗا ٢٢

23. また、（自分がやろうと決めた）いかなることについても、「本当に私は、明日それをやろう」などと、決して言ってはならない。

وَلَا تَقُولَنَّ لِشَاْيۡءٍ إِنِّي فَاعِلٞ ذَٰلِكَ غَدًا ٢٣

24. 但し、アッラー*がお望みならば、（と言い添えるのであれば）別であるが[2]。そして（その言葉を言うのを）忘れてしまったら、あ

إِلَّآ أَن يَشَآءَ ٱللَّهُۚ وَٱذۡكُر رَّبَّكَ إِذَا
نَسِيتَ وَقُلۡ عَسَىٰٓ أَن يَهۡدِيَنِ رَبِّي لِأَقۡرَبَ مِنۡ
هَٰذَا رَشَدٗا ٢٤

1 「表面的な議論」とは、啓示によって知らされた情報のみに留め、深入りしないこと（ムヤッサル 296 頁参照）。

2 一説に、ある時マッカ*の不信仰者*らはムハンマド*の正体を確かめるべく、マディーナ*のユダヤ教徒*のもとに赴（おもむ）いて教示を請うた。ユダヤ教徒*たちはムハンマド*が本当の預言者*かどうかを判別するため、彼にいくつかの質問をするよう命じたが、この「洞窟の人々」についての話もその中の一つだった。だが預言者*は質問に応じることを約束した際、「アッラー*がお望みならば」と言い添えるのを忘れてしまう。その戒（いまし）めとして、啓示は半月間とだえたとされる（イブン・イスハーク 1:239 参照）。サード章 34 と、その訳注も参照。

なたの主*を念じ[1]、（こう）言うのだ。「我が主*は私を、これよりももっと正しく導いて下さるだろう[2]」。

25. 彼らは、彼らの洞窟の中で三百年間（眠って）過ごし、更に九（年）を上乗せした[3]。

وَلَبِثُواْ فِي كَهۡفِهِمۡ ثَلَٰثَ مِاْئَةٖ سِنِينَ
وَٱزۡدَادُواْ تِسۡعٗا ٢٥

26. （使徒*よ、）言ってやれ。「彼らが過ごした期間については、アッラー*が最もよくご存知である。かれにこそ、諸天と大地の不可視の世界*（に関する知識）は属するのだから。かれは何とよくご覧になり、お聞きになるのであろうか！　彼ら（人間）には、かれの外にいかなる庇護者もいないのであり、かれはご自身のご裁決に、誰も干渉させはしないのだ」。

قُلِ ٱللَّهُ أَعۡلَمُ بِمَا لَبِثُواْۖ لَهُۥ غَيۡبُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَٱلۡأَرۡضِۖ أَبۡصِرۡ بِهِۦ وَأَسۡمِعۡۚ مَا لَهُم مِّن
دُونِهِۦ مِن وَلِيّٖ وَلَا يُشۡرِكُ فِي حُكۡمِهِۦٓ
أَحَدٗا ٢٦

27. （使徒*よ、）あなたの主*の啓典から、あなたに啓示されたものを読誦[4]せよ。かれの御言葉にはいかなる変更もなく、あなたはかれ以外に、いかなる避難所も見出すまい。

وَٱتۡلُ مَآ أُوحِيَ إِلَيۡكَ مِن كِتَابِ رَبِّكَۖ
لَا مُبَدِّلَ لِكَلِمَٰتِهِۦ وَلَن تَجِدَ مِن دُونِهِۦ
مُلۡتَحَدٗا ٢٧

28. また（預言者*よ）、その御顔を望みつつ、朝に夕に自分たちの主*（だけ）に祈る者たちと共に、忍耐*せよ[5]。そして現世の生活

وَٱصۡبِرۡ نَفۡسَكَ مَعَ ٱلَّذِينَ يَدۡعُونَ رَبَّهُم
بِٱلۡغَدَوٰةِ وَٱلۡعَشِيِّ يُرِيدُونَ وَجۡهَهُۥۖ وَلَا تَعۡدُ

---

1 「アッラー*がお望みならば」という言葉を言い忘れても、そのことを思い出した時に、そう唱（とな）えること。あるいは何かを忘れた時には、アッラー*を唱念すること。そうすればアッラー*は、忘却を遠ざけて下さる（ムヤッサル 296 頁参照）。

2 忘れたことを思い出すことよりも、もっと善いことへ。あるいは彼自身の使徒*性の正しさについて、洞窟の人々の話よりも更に明白な根拠を授かることへと、導かれること（アル＝バガウィー3:187 参照）。

3 つまり太陽暦では三百年、イスラーム*以前からアラブ人に使用されてきた太陰暦によれば、三百九年。太陰暦は太陽暦に比べ、一年あたり約十一日、百年で約三年少なくなる計算（前掲書 3:188 参照）。

4 この「読誦」については、雌牛章 121 の同語についての訳注も参照（アッ＝タバリー7:5336 参照）。

5 家畜章 52 とその訳注も参照。

の飾りを欲して、あなたの眼が彼ら（信仰者たち）から（不信仰者*へと）逸れてしまうようではならない。また、われら*がその心をわれら*の唱念から遠ざけさせ、自らの欲望を追及し、その状態が破滅に陥ってしまった者に従ってはならない。

عَيْنَاكَ عَنْهُمْ تُرِيدُ زِينَةَ ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا ۖ
وَلَا تُطِعْ مَنْ أَغْفَلْنَا قَلْبَهُۥ عَن ذِكْرِنَا وَٱتَّبَعَ
هَوَىٰهُ وَكَانَ أَمْرُهُۥ فُرُطًا ﴿٢٨﴾

29. そして、言うのだ。「（私が伝えるのは、）あなた方の主*からの真実。ならば、誰でも望む者は（それを）信じ、誰でも望む者は、否定せよ」。本当にわれら*は不正*者たちに、その塀が彼らを包みこむ（、地獄の）業火を用意しておいたのだから。そして、もし彼らが（ひどい喉の渇きゆえに）救いを求めれば、（煮えたぎった）どろどろの油[1]のような、顔面を焼き焦がす水で救われる。その飲み物は何と醜悪であり、それ（業火）は休息所として、何と忌まわしいことか。

وَقُلِ ٱلْحَقُّ مِن رَّبِّكُمْ ۖ فَمَن شَآءَ فَلْيُؤْمِن وَمَن
شَآءَ فَلْيَكْفُرْ ۚ إِنَّآ أَعْتَدْنَا لِلظَّٰلِمِينَ نَارًا
أَحَاطَ بِهِمْ سُرَادِقُهَا ۚ وَإِن يَسْتَغِيثُوا۟ يُغَاثُوا۟
بِمَآءٍ كَٱلْمُهْلِ يَشْوِى ٱلْوُجُوهَ ۚ بِئْسَ
ٱلشَّرَابُ وَسَآءَتْ مُرْتَفَقًا ﴿٢٩﴾

30. 実に信仰し、正しい行い*を行う者たち、（彼らには偉大な褒美がある、）本当にわれら*は、行いに善を尽くした者[2]の褒美を無駄にはしないのだから。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
إِنَّا لَا نُضِيعُ أَجْرَ مَنْ أَحْسَنَ عَمَلًا ﴿٣٠﴾

31. それらの者たちにこそは、その下から河川が流れる永久の楽園がある。彼らはそこで、金のブレスレットで飾りつけられ、精巧な絹地と重厚な絹地からなる緑色の衣をまとう[3]。そこで、寝台にもたれか

أُو۟لَٰٓئِكَ لَهُمْ جَنَّٰتُ عَدْنٍ تَجْرِى مِن تَحْتِهِمُ
ٱلْأَنْهَٰرُ يُحَلَّوْنَ فِيهَا مِنْ أَسَاوِرَ مِن ذَهَبٍ
وَيَلْبَسُونَ ثِيَابًا خُضْرًا مِّن سُندُسٍ وَإِسْتَبْرَقٍ
مُّتَّكِـِٔينَ فِيهَا عَلَى ٱلْأَرَآئِكِ ۚ نِعْمَ ٱلثَّوَابُ
وَحَسُنَتْ مُرْتَفَقًا ﴿٣١﴾

---

1 その他、「血膿」「高熱で溶けた鉱物」「毒」などといった解釈もある（アル＝クルトゥビー 10:394 参照）。また地獄の民の飲み物については、イブラーヒーム*章 16-17、サード章 57、ムハンマド*章 15、出来事章 54-55、消息章 24-25、圧倒的事態章 5 も参照。

2 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注も参照。

3 天国の民の衣服については、巡礼*章 23、創成者*章 33、煙霧章 51-53、人間章 12、21 も参照。

かりつつ。その褒美は何と素晴らしく、それ（楽園）は休息所として何と素敵であろうか。

32. （使徒*よ、）彼ら（不信仰者*たち）に、（一方は信仰者、もう一方は不信仰者*である）二人の男の譬えを挙げてやれ。われら*は彼らの一方（不信仰者*）に、葡萄からなる二つの果樹園を与え、その二つの周りをナツメヤシの木で囲み、その（二つの果樹園の）間には作物を実らせてやった。

۞وَٱضۡرِبۡ لَهُم مَّثَلٗا رَّجُلَيۡنِ جَعَلۡنَا لِأَحَدِهِمَا
جَنَّتَيۡنِ مِنۡ أَعۡنَٰبٖ وَحَفَفۡنَٰهُمَا بِنَخۡلٖ وَجَعَلۡنَا
بَيۡنَهُمَا زَرۡعٗا ٣٢

33. いずれの果樹園もその果実を実らせ、それ（収穫）に何の不足も齎さなかったし、われらはその（二つの果樹園の）間から（、それらに水をやる）川を噴き出させた。

كِلۡتَا ٱلۡجَنَّتَيۡنِ ءَاتَتۡ أُكُلَهَا وَلَمۡ تَظۡلِم مِّنۡهُ شَيۡـٔٗاۚ
وَفَجَّرۡنَا خِلَٰلَهُمَا نَهَرٗا ٣٣

34. 彼（不信仰者*）には、収穫[1]があった。そして彼は、その連れ合い（信仰者）と話し合いながら[2]、（自惚れつつ、）彼に（こう）言った。「私はあなたよりも財産が沢山あるし、もっと強い衆がついている」。

وَكَانَ لَهُۥ ثَمَرٞ فَقَالَ لِصَٰحِبِهِۦ وَهُوَ يُحَاوِرُهُۥٓ
أَنَا۠ أَكۡثَرُ مِنكَ مَالٗا وَأَعَزُّ نَفَرٗا ٣٤

35. そして彼（不信仰者*）は、自らに不正*を働きつつ[3]、自分の果樹園に入った。彼は（その実りを喜び、）言った。「これ（果樹園）が絶対に、消え失せてしまうとは思わないし、

وَدَخَلَ جَنَّتَهُۥ وَهُوَ ظَالِمٞ لِّنَفۡسِهِۦ قَالَ مَآ أَظُنُّ
أَن تَبِيدَ هَٰذِهِۦٓ أَبَدٗا ٣٥

36. （復活の）その時が起きるとも思わない。そして（信仰者よ、あなたが主張しているように）、もしも自分が我が主*の御許に戻

وَمَآ أَظُنُّ ٱلسَّاعَةَ قَآئِمَةٗ وَلَئِن رُّدِدتُّ إِلَىٰ
رَبِّي لَأَجِدَنَّ خَيۡرٗا مِّنۡهَا مُنقَلَبٗا ٣٦

---

1 この「収穫」は、果実や、その他の財産のこと（ムヤッサル 297 頁参照）。

2 信仰者の男は、不信仰者*の果樹園の主を戒（いまし）め、アッラー*と復活の信仰へと招（まね）いていたのだという（アッ＝ラーズィー7:463 参照）。

3 つまり不信仰、（アッラー*に対する）反抗、高慢さ、横暴さ、復活の否定という「不正*」を働いていた、ということ（イブン・カスィール 5:157 参照）。

らされたとしても、私は絶対にそれ（自分の果樹園（かじゅえん））よりも善いものを、（自分の）帰り先として見出（みいだ）すのだ[1]」。

37. 彼の連れ合い（信仰者）は、彼（不信仰者*）と話し合いつつ、（警告（けいこく）して）言った。「一体あなたは、あなた（の父祖（ふそ）アーダム*）を土からお創りになり[2]、その後に（両親からのものである）一滴（いってき）の精液（せいえき）から（あなたを創られ）[3]、それから（均整（きんせい）の取れた姿形（すがたかたち）の）人間として整（ととの）えて下さったお方を否定するのか？

قَالَ لَهُۥ صَاحِبُهُۥ وَهُوَ يُحَاوِرُهُۥٓ أَكَفَرْتَ بِٱلَّذِى خَلَقَكَ مِن تُرَابٍ ثُمَّ مِن نُّطْفَةٍ ثُمَّ سَوَّىٰكَ رَجُلًا ﴿٣٧﴾

38. しかし私は（、あなたのような不信仰の言葉は言わず、こう言おう）、かれ、つまりアッラー*は我が主（しゅ）*であり、私は我が主（しゅ）*に誰一人並べ（て崇拝（すうはい）*し）たりはしない。

لَّٰكِنَّا۠ هُوَ ٱللَّهُ رَبِّى وَلَآ أُشْرِكُ بِرَبِّىٓ أَحَدًا ﴿٣٨﴾

39. そして、あなたはどうして自分の果樹園（かじゅえん）に入（り、嬉しくな）った時、『（これは、）アッラー*がお望みになったこと[4]。アッラー*による以外、いかなる力もない[5]』と言

وَلَوْلَآ إِذْ دَخَلْتَ جَنَّتَكَ قُلْتَ مَا شَآءَ ٱللَّهُ لَا قُوَّةَ إِلَّا بِٱللَّهِ ۚ إِن تَرَنِ أَنَا۠ أَقَلَّ مِنكَ مَالًا وَوَلَدًا ﴿٣٩﴾

---

1 彼は自分の高貴さ、アッラー*の御許における自分の位の高さゆえ、自分にはそのようなものが相応（ふさわ）しいのだと思い込んでいた（ムヤッサル 298 頁参照）。同様の例として、物語章 78 以降のカールーンの話、サバア章 36、暁章 15-16 とそれらの訳注も参照。

2 アーダム*が土から段階を経（へ）て創られたことについては、アル＝ヒジュル章 26 の訳注を参照。

3 人間の創造の変遷については、巡礼*章 5、信仰者たち章 14 とその訳注を参照。

4 「アッラー*がお望みになったこと（は、実現する）」という文法的解釈もある（アル＝クルトゥビー10:406 参照）。

5 誰であろうとアッラー*のご助力とご決定なしには、何においても、僅（わず）かばかりの力も有することがない、ということ（アッ＝ラーズィー7:463 参照）。預言者*は「ラー・ハウラ・ワ・ラー・クッワタ・イッラー・ビッラー（アッラー*による以外には、いかなる（状況の）転変も、力もない）」という唱念の言葉を、「天国の財宝の一つ」である、と形容した（アル＝ブハーリー4205 参照）。また、このアーヤ*からある種の先人たちは、「自分の境遇、財産、子息などで喜びを感じた時には、『アッラー*がお望みになったこと。アッラー*による以外、いかなる力もない』と言うべきである」としている（イブン・カスィール 5:158 参照）。

わなかったのか？ たとえ、あなたが私を、自分よりも財産と子女が少ない者と見なしたとしても、

40. 我が主*は私に、あなたの果樹園よりも善いものを授けて下さ（り[1]、あなたへの恩恵は消滅させせられ）るだろう。そしてかれは、天からそこ（あなたの果樹園）に懲罰を送られ給い、それはある朝、（丸裸で）つるつるの地面となってしまうだろう。

فَعَسَىٰ رَبِّيٓ أَن يُؤۡتِيَنِ خَيۡرٗا مِّن جَنَّتِكَ وَيُرۡسِلَ
عَلَيۡهَا حُسۡبَانٗا مِّنَ ٱلسَّمَآءِ فَتُصۡبِحَ صَعِيدٗا
زَلَقًا ٤٠

41. あるいはある朝、その水は（地下に沈んで）無くなってしまい、あなたはそれを求めることが、もはや出来なくなってしまうだろう」。

أَوۡ يُصۡبِحَ مَآؤُهَا غَوۡرٗا فَلَن تَسۡتَطِيعَ لَهُۥ
طَلَبٗا ٤١

42. こうして、彼（不信仰者*）の果実は全滅させられ、彼はその朝、自分がその（果樹園の）ために費やしたものゆえに（嘆き悔しがり）、その両手の平を返した[2]。それは（葡萄）棚ごと、崩れ落ちてしまった[3]。彼は、（こう）言った。「ああ、我が主*（の恩恵と御力を認め、かれ）に誰のことも並べていなかったら！」

وَأُحِيطَ بِثَمَرِهِۦ فَأَصۡبَحَ يُقَلِّبُ كَفَّيۡهِ
عَلَىٰ مَآ أَنفَقَ فِيهَا وَهِيَ خَاوِيَةٌ عَلَىٰ عُرُوشِهَا
وَيَقُولُ يَٰلَيۡتَنِي لَمۡ أُشۡرِكۡ بِرَبِّيٓ أَحَدٗا ٤٢

43. 彼には、アッラー*（の懲罰）に対して自分を助けてくれる集団もなかったし、自ら（自力で）助かる者でもなかった。

وَلَمۡ تَكُن لَّهُۥ فِئَةٞ يَنصُرُونَهُۥ مِن دُونِ ٱللَّهِ وَمَا
كَانَ مُنتَصِرًا ٤٣

---

1 「善いものを授かる」のは、来世で、または現世でのこと（アル＝クルトゥビー10:408参照）。

2 「両手の平を返す」とは、両手を上に上げては、前へと突き出す動作。悲哀を示す表現（イブン・アーシュール 15:327 参照）。

3 「崩れ落ちる」については、雌牛章 259 の訳注を参照。

44. そこにおいて庇護は、真実のお方アッラー*にこそ属する[1]。かれは（かれの盟友である信仰者たちにとって）最良の褒美をお授けになるお方であり、最良の結末を与えて下さるお方。

هُنَالِكَ ٱلْوَلَٰيَةُ لِلَّهِ ٱلْحَقِّ ۚ هُوَ خَيْرٌ ثَوَابًا وَخَيْرٌ
عُقْبًا ﴿٤٤﴾

45. （使徒*よ、）彼らに現世の生活の譬えを挙げよ。（それは、）われら*が天から降らせる（雨）水のようなもので、大地の（様々な）植物は、それと混合（し、茂って互いに混生）する。そして（やがて）それは、風が吹き散らす枯れ草となってしまうのだ。アッラー*は全てのことに、全能なお方である。

وَٱضْرِبْ لَهُم مَّثَلَ ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا كَمَآءٍ
أَنزَلْنَٰهُ مِنَ ٱلسَّمَآءِ فَٱخْتَلَطَ بِهِۦ نَبَاتُ ٱلْأَرْضِ
فَأَصْبَحَ هَشِيمًا تَذْرُوهُ ٱلرِّيَٰحُ ۗ وَكَانَ ٱللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ
شَىْءٍ مُّقْتَدِرًا ﴿٤٥﴾

46. 財産と子供は現世の生活の飾り。そして永遠に残る正しい行い*[2]は、あなた方の主*の御許でより善い褒美をもたらすものであり、より善い希望を叶えるものなのである。

ٱلْمَالُ وَٱلْبَنُونَ زِينَةُ ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا ۖ
وَٱلْبَٰقِيَٰتُ ٱلصَّٰلِحَٰتُ خَيْرٌ عِندَ رَبِّكَ ثَوَابًا
وَخَيْرٌ أَمَلًا ﴿٤٦﴾

47. われら*が山々を動かす[3]日（のことを、彼らに思い起こさせよ）。そして、あなたは大地が露わになる[4]のを見る。われら*は彼

وَيَوْمَ نُسَيِّرُ ٱلْجِبَالَ وَتَرَى ٱلْأَرْضَ بَارِزَةً
وَحَشَرْنَٰهُمْ فَلَمْ نُغَادِرْ مِنْهُمْ أَحَدًا ﴿٤٧﴾

---

1 つまり懲罰の時には、信仰者も不信仰者*も皆、アッラー*へと立ち返り、かれの庇護を求め、かれに服従する。ユーヌス*章 90-91、赦し深いお方章 84 とそれらの訳注も参照（イブン・カスィール 5:160 参照）。

2 「永遠に残る正しい行い」とは、アッ＝タバリー*によれば「来世にまで残り、それゆえに褒美を授かることになる、全ての正しい行い*」のこと（7:5362 参照）。アッラーの唯一性*、偉大さ、崇高（すうこう）さ、全能性を念じることは、その筆頭（ひっとう）である（アフマド 513 参照）。

3 一説に山々は復活の日*、その場所から動かされ、雲が飛ぶように宙を舞い（蟻章 88 参照）、それから崩壊して大地に戻る（出来事章 5-6 参照）、とされる（アル＝クルトゥビー10:416 参照）。あるいは、砕け散った砂山（衣を纏う者章 14 参照）となってから、散り散りの羊毛（衝撃章 5 参照）のようになり、それから、ばらばらの塵屑（出来事章 6 参照）となる（アル＝バガウィー5:152 参照）。

4 その日、地表を覆（おお）っていた山々や木々など、視界を遮（さえぎ）るものは消失する（アッ＝タバリー7:5362 参照）。また、これら復活の日*の天変地異の様子については、ター・ハー章 105-107、山章 9-10、出来事章 5-6、真実章 13-15、階段章 8-9、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 なども参照。

らを（清算の場へと）召集し、彼らの内の一人たりとも放ってはおかない。

48. そして彼らは列をなして、あなたの主*へと差し出される。（かれは、仰せられる。）「あなた方は確かに（蘇らされ）、われら*があなた方を最初に創った時のように、われら*のもとに一人きりでやって来た[1]。いや、あなた方（復活の否定者たち）は、われら*があなた方に（復活と報いの）約束を果たす時など、定めはしないだろうと思い込んでいたのだ」。

وَعُرِضُوا۟ عَلَىٰ رَبِّكَ صَفًّا لَّقَدْ جِئْتُمُونَا كَمَا
خَلَقْنَـٰكُمْ أَوَّلَ مَرَّةٍۭ ۚ بَلْ زَعَمْتُمْ أَلَّن نَّجْعَلَ لَكُم
مَّوْعِدًا ﴿٤٨﴾

49. そして、（現世での行いの）帳簿が（各人の右手、あるいは左手に）置かれ[2]、あなたは罪悪者たちが、そこにあるもの[3]ゆえに怯えて、（こう）言うのを見る。「ああ、我らが災いよ！[4]（罪の内、）小さいことも大きいことも（記録して）数え上げずにはおかない、この帳簿は一体どういうことなのか！？」彼らは、自分たちが（現世で）行ったことをありありと目にする。あなたの主*は誰にも、不正*を働いたりはしないのだ。[5]

وَوُضِعَ ٱلْكِتَـٰبُ فَتَرَى ٱلْمُجْرِمِينَ مُشْفِقِينَ
مِمَّا فِيهِ وَيَقُولُونَ يَـٰوَيْلَتَنَا مَالِ هَـٰذَا
ٱلْكِتَـٰبِ لَا يُغَادِرُ صَغِيرَةً وَلَا كَبِيرَةً إِلَّآ
أَحْصَىٰهَا ۚ وَوَجَدُوا۟ مَا عَمِلُوا۟ حَاضِرًا ۗ وَلَا
يَظْلِمُ رَبُّكَ أَحَدًا ﴿٤٩﴾

---

1 家畜章 94 とその訳注、預言者*たち章 104 も参照。

2 復活の日*に帳簿が渡されることの意味については、高壁章 8 の訳注を参照。帳簿が渡される時の様子については、夜の旅章 13-14、71、真実章 19-29、割れる章 7 以降などを参照。

3 帳簿に記された、彼らが現世で行った悪行のこと（アッ＝タバリー7:5363 参照）。

4 この表現については、食卓章 31「我が災いよ！」の訳注を参照。

5 同様の意味のアーヤ*として、婦人章 40、高壁章 8 とその訳注、預言者*たち章 47、ルクマーン章 16、地震章 7-8 なども参照。

50. われら*が天使*たちに、「アーダム*にサジダ*せよ」と言い、彼らが（全員）サジダ*[1]した時のこと（を思い起こさせよ）[2]。但しイブリース*は、別だった。彼（イブリース*）はジン*の類いで、自らの主*のご命令に対して放逸だったのだ。（人々よ、）一体あなた方は、彼（イブリース*）と彼の子孫を、われをよそに盟友とするのか？ 彼らはあなた方の敵だというのに。（アッラー*への服従をよそに）不正*者たちが代わりとするもの（シャイターン*への服従）は、何と醜悪であろうか。

وَإِذۡ قُلۡنَا لِلۡمَلَٰٓئِكَةِ ٱسۡجُدُواْ لِأٓدَمَ فَسَجَدُوٓاْ
إِلَّآ إِبۡلِيسَ كَانَ مِنَ ٱلۡجِنِّ فَفَسَقَ عَنۡ أَمۡرِ رَبِّهِۦٓۗ
أَفَتَتَّخِذُونَهُۥ وَذُرِّيَّتَهُۥٓ أَوۡلِيَآءَ مِن دُونِي وَهُمۡ
لَكُمۡ عَدُوُّۢۚ بِئۡسَ لِلظَّٰلِمِينَ بَدَلٗا ٥٠

51. われは諸天と大地の創造にも、彼ら自身の創造にも、彼ら（シャイターン*とその子孫）を立ち合わせ（て、それを手伝わせ）たりはしなかったし、もとより、迷わせる者たちを補佐役としたりもしなかったのだ（、それなのに、なぜわれら*をよそに、彼らを盟友とするのか？）。

۞مَّآ أَشۡهَدتُّهُمۡ خَلۡقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ
وَلَا خَلۡقَ أَنفُسِهِمۡ وَمَا كُنتُ مُتَّخِذَ ٱلۡمُضِلِّينَ
عَضُدٗا ٥١

52. かれ（アッラー）が（シルク*の徒に、こう）仰せられる（復活の）日のこと（を思い起こさせよ）。「あなた方が（崇拝*における、われの同位者だと）主張した、わが同位者たちを呼んで（、懲罰からの助けを乞うて）みよ」。それで彼らは、彼ら（アッラー*の同位者としていたもの）のことを呼ぶものの、応じることはない。われら*は彼らの間に、破滅の場をもうけたのだ[3]。

وَيَوۡمَ يَقُولُ نَادُواْ شُرَكَآءِيَ ٱلَّذِينَ زَعَمۡتُمۡ
فَدَعَوۡهُمۡ فَلَمۡ يَسۡتَجِيبُواْ لَهُمۡ وَجَعَلۡنَا بَيۡنَهُم
مَّوۡبِقٗا ٥٢

1 このサジダ*については、雌牛章 34 の訳注を参照。

2 この出来事の詳細に関しては、雌牛章 34-39、高壁章 11-25、アル＝ヒジュル章 28-42、夜の旅章 61-65、ター・ハー章 116-123、サード章 71-83 なども参照。

3 その日、シルク*の徒と彼らがアッラーの同位者としていたものとの関係は絶たれ（家畜章 94、マルヤム*章 81-82、砂丘章 5-6 なども参照）、その代わりに破滅が訪れる。また一説にこの「破滅の場」は、地獄の谷の名称（イブン・カスィール 5:170 参照）。

53. 罪悪者たちは業火を目にし、彼らがそこに入る身の上であることを確信する。そして彼らは、そこからのいかなる逃げ道も見出すことがない。

وَرَءَا ٱلْمُجْرِمُونَ ٱلنَّارَ فَظَنُّوٓا۟ أَنَّهُم
مُّوَاقِعُوهَا وَلَمْ يَجِدُوا۟ عَنْهَا مَصْرِفًا ﴿٥٣﴾

54. われら*は確かに、このクルアーン*の中であらゆる譬えを、人々に対して多彩に示した。そして人間はもとより、最も議論ばかりしている生き物である。

وَلَقَدْ صَرَّفْنَا فِى هَٰذَا ٱلْقُرْءَانِ لِلنَّاسِ مِن
كُلِّ مَثَلٍ ۚ وَكَانَ ٱلْإِنسَٰنُ أَكْثَرَ شَىْءٍ
جَدَلًا ﴿٥٤﴾

55. 人々に導き[1]が到来した時、信仰し、自分たちの主*にお赦しを乞うことから阻んだのは、昔の人々（に対するアッラー*）の摂理[2]が自分たちに訪れること、または懲罰が彼らの眼前に訪れる（のを、彼らが自ら要求した）こと以外の何ものでもなかった。[3]

وَمَا مَنَعَ ٱلنَّاسَ أَن يُؤْمِنُوٓا۟ إِذْ جَآءَهُمُ
ٱلْهُدَىٰ وَيَسْتَغْفِرُوا۟ رَبَّهُمْ إِلَّآ أَن تَأْتِيَهُمْ
سُنَّةُ ٱلْأَوَّلِينَ أَوْ يَأْتِيَهُمُ ٱلْعَذَابُ قُبُلًا ﴿٥٥﴾

56. そして、われら*が使徒*たちを遣わすのは、吉報を伝え、警告を告げる者[4]としてに外ならない。けれども、不信仰に陥った者*たちは真理を消し去るべく、虚妄によって議論する[5]。わが御徴[6]と、彼らが警告されたもの（懲罰）を嘲笑の的としつつ。

وَمَا نُرْسِلُ ٱلْمُرْسَلِينَ إِلَّا مُبَشِّرِينَ
وَمُنذِرِينَ ۚ وَيُجَٰدِلُ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟
بِٱلْبَٰطِلِ لِيُدْحِضُوا۟ بِهِ ٱلْحَقَّ ۖ وَٱتَّخَذُوٓا۟ ءَايَٰتِى
وَمَآ أُنذِرُوا۟ هُزُوًا ﴿٥٦﴾

---

1 この「導き」とは、クルアーン*と共に到来した預言者*ムハンマド*のこと（ムヤッサル 300 頁参照）。

2 「昔の人々の摂理」に関しては、戦利品*章 38 の同語についての訳注を参照。

3 不信仰者*というものは過去でも現在でも、明らかな証拠を眼前にしながらも真理を否定するものであり、自分たちが警告されている懲罰を実際に見せてみよと要求することで、真理への服従から阻まれてしまうものである。戦利品*章 32、アル＝ヒジュル章 6-7、詩人たち章 187、蜘蛛章 29 なども参照（イブン・カスィール 5:172 参照）。

4 この「吉報」と「警告」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

5 これは夜の旅章 94、金の装飾章 31 にあるような議論のこととされる（アル＝バガウィー 3：201 参照）。

6 この「御徴」は、使徒*がもたらした明白な証拠と、奇跡のこと（イブン・カスィール 5:172 参照）。

57. 自分の主*の御徴によって戒められてから、それに背を向け、自分の手が行った（醜悪な）物事を忘れてしま（い、悔悟しなか）った者よりも、ひどい不正*を働く者があろうか？ 本当にわれら*は、彼らがそれ（クルアーン*）を理解できないように、彼らの心には覆いを、その耳には重しをかけたのだ[1]。たとえあなたが彼らを導きへと招いても、それでも彼らは永遠に導かれまい[2]。

وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّن ذُكِّرَ بِـَٔايَٰتِ رَبِّهِۦ
فَأَعْرَضَ عَنْهَا وَنَسِيَ مَا قَدَّمَتْ يَدَاهُ ۚ إِنَّا
جَعَلْنَا عَلَىٰ قُلُوبِهِمْ أَكِنَّةً أَن يَفْقَهُوهُ
وَفِىٓ ءَاذَانِهِمْ وَقْرًا ۖ وَإِن تَدْعُهُمْ إِلَى ٱلْهُدَىٰ
فَلَن يَهْتَدُوٓا۟ إِذًا أَبَدًا ﴿٥٧﴾

58. あなたの主*は、赦し深いお方、慈悲の主。もしかれが、彼らが稼いだもの（罪）ゆえに彼らをお咎めになれば、彼らに対する懲罰をお急ぎになったであろう。（だが、アッラー*は懲罰をお急ぎにはならない、）いや、彼らには、彼らがそこから逃げ場を見出すことがない、（決められた）約束[3]があるのだ。

وَرَبُّكَ ٱلْغَفُورُ ذُو ٱلرَّحْمَةِ ۖ لَوْ يُؤَاخِذُهُم بِمَا
كَسَبُوا۟ لَعَجَّلَ لَهُمُ ٱلْعَذَابَ ۚ بَل لَّهُم مَّوْعِدٌ
لَّن يَجِدُوا۟ مِن دُونِهِۦ مَوْئِلًا ﴿٥٨﴾

59. また、それらの町々（の人々[4]）は、（不信仰という）不正*を働いた時、われら*が滅ぼした。そしてわれら*は彼らの滅亡に、約束の期限を定めておいたのである。

وَتِلْكَ ٱلْقُرَىٰٓ أَهْلَكْنَٰهُمْ لَمَّا ظَلَمُوا۟
وَجَعَلْنَا لِمَهْلِكِهِم مَّوْعِدًا ﴿٥٩﴾

60. ムーサー*がその従者[5]に、（こう）言った時のこと（を思い起こさせよ）。「私は二つの海が交わる場所に着くまで、あ

وَإِذْ قَالَ مُوسَىٰ لِفَتَىٰهُ لَآ أَبْرَحُ حَتَّىٰٓ أَبْلُغَ
مَجْمَعَ ٱلْبَحْرَيْنِ أَوْ أَمْضِىَ حُقُبًا ﴿٦٠﴾

---

1 「耳に重しをかける」については、家畜章 25 を参照。また、雌牛章 7 の訳注も参照。

2 これは彼らの内、信仰することがないとアッラー*がご存知である民のこと（アル＝バガウィー3:201 参照）。

3 この「約束」には、「死」「来世での懲罰」「バドルの戦い*」といった解釈がある（イブン・ジュザイ 1:513 参照）。

4 アード*、サムード*、ルート*の民、シュアイブ*の民などを指す（ムヤッサル 300 頁参照）。

5 この従者の名は、ユーシャウ・ブン・ヌーン（アル＝ブハーリー122 参照）。

るいは長時間歩み続けるまでは、（旅を）やめない」。[1]

61. それで二つ（の海）が交わる場所に到着し（、岩に腰を下ろし）た時、彼ら二人は自分たちの（食事として携えてきた）魚を忘れてしまった。そしてそれ（魚）は、（生き返って海に潜って行き、）海中の、トンネルの道を進んで行った。[2]

فَلَمَّا بَلَغَا مَجْمَعَ بَيْنِهِمَا نَسِيَا حُوتَهُمَا
فَٱتَّخَذَ سَبِيلَهُۥ فِى ٱلْبَحْرِ سَرَبًا ٦١

62. そして二人が（その場所を）離れ（て、翌日まで旅を続け）た時、彼（ムーサー*）は従者に言った。「私たちの昼ご飯をよこしなさい。私たちは、この旅で、本当にくたびれてしまったのだから」。

فَلَمَّا جَاوَزَا قَالَ لِفَتَىٰهُ ءَاتِنَا غَدَآءَنَا لَقَدْ
لَقِينَا مِن سَفَرِنَا هَٰذَا نَصَبًا ٦٢

63. 彼（従者）は、言った。「ご覧になりましたか？[3] 私たちが、岩に身を寄せた時のことです。本当に私は、魚（のことをあなたに伝えるの）を忘れてしまいました――私にそれを思い出すことを忘れさせたのは、

قَالَ أَرَءَيْتَ إِذْ أَوَيْنَآ إِلَى ٱلصَّخْرَةِ فَإِنِّى نَسِيتُ
ٱلْحُوتَ وَمَآ أَنسَىٰنِيهُ إِلَّا ٱلشَّيْطَٰنُ أَنْ أَذْكُرَهُۥ ۚ
وَٱتَّخَذَ سَبِيلَهُۥ فِى ٱلْبَحْرِ عَجَبًا ٦٣

---

1 ある時ムーサー*は「あなたより有識な者はいますか？」と人に尋ねられ、「いない」と答えた。だがアッラー*から、「二つの海が交わる場所」にいる「ハディル」はもっと有識であり、（食事用の）魚をかごに入れて持って旅したならば、それを失くした時に、彼に会うことが出来る旨を啓示され、ムーサー*は彼を探す旅を始める（アル＝ブハーリー122 参照）。尚、ハディルは全てにおいてムーサー*よりも有識なのではなく、ある出来事についての詳細な規定や、特定の事件に潜（ひそ）む英知において、彼よりも有識だったのだとされる（アル＝クルトゥビー11:10 参照）。

2 一説に、二人は岩の上で眠ったが、そこには「生命の泉」があり、塩漬けだった魚はそれに触れて生き返り、海に飛び込んだのだという。魚の周囲の水はアーチ状になり、泳いで行った道はその後も水で塞（ふさ）がれなかった。従者は目覚めてそれに気づいたが、そのことをムーサー*に告げるのを忘れてしまった（イブン・カスィール 5:174-175 参照）。尚、魚のことを忘れたのは従者だが、「魚を旅の荷物として共有していた」ことから、「忘れた」の主語が二人に帰されている（アッ＝タバリー7:5380 参照）。

3 従者は、アッラー*の御力を示す、忘れがたいような凄い出来事を目にしながら、それを伝えるのを忘れてしまっていた。この「ご覧になりましたか？」とは、その事実についてムーサー*に驚きを求める表現（アッ＝シャウカーニー3:412 参照）。

シャイターン*に外なりません――。そして、それ（魚）は驚くべきことに、（生き返って）海中の（トンネルの）道を進んで行ったのです」。

64. 彼（ムーサー*）は、言った。「それが、私たちの求めていたもの[1]」。それで二人は自分たちの（歩んできた）跡を辿りつつ、（岩まで）引き返した。

قَالَ ذَٰلِكَ مَا كُنَّا نَبۡغِۚ فَٱرۡتَدَّا عَلَىٰٓ ءَاثَارِهِمَا
قَصَصٗا ٦٤

65. そして二人は（そこに）、われら*がわれら*の御許から慈悲を授け、われら*の御許からの知識を与えた、われら*の僕たちの内の一人である僕（ハディル）を見つけた。

فَوَجَدَا عَبۡدٗا مِّنۡ عِبَادِنَآ ءَاتَيۡنَٰهُ رَحۡمَةٗ مِّنۡ
عِندِنَا وَعَلَّمۡنَٰهُ مِن لَّدُنَّا عِلۡمٗا ٦٥

66. ムーサー*は、彼に（挨拶した後、）言った。「あなたが、（アッラー*から）あなたに教示されたものの内からの導きを、私に教えて下さることを前提に、あなたについて行ってもよろしいでしょうか？」

قَالَ لَهُۥ مُوسَىٰ هَلۡ أَتَّبِعُكَ عَلَىٰٓ أَن تُعَلِّمَنِ
مِمَّا عُلِّمۡتَ رُشۡدٗا ٦٦

67. 彼（ハディル）は、言った。「絶対にあなたは、私との同伴に耐えることが出来ないだろう。

قَالَ إِنَّكَ لَن تَسۡتَطِيعَ مَعِيَ صَبۡرٗا ٦٧

68. そしてあなたは、（アッラー*が私に教えて下さったことの内、）自分が熟知してもいないことに関し、どうやって忍耐*するというのか？」

وَكَيۡفَ تَصۡبِرُ عَلَىٰ مَا لَمۡ تُحِطۡ بِهِۦ خُبۡرٗا ٦٨

69. 彼（ムーサー*）は、言った。「あなたは私が、――アッラー*がお望みならば――忍耐*ある者であることを見出すでしょうし、私は（あなたの）命令において、あなたに逆らいません」。

قَالَ سَتَجِدُنِيٓ إِن شَآءَ ٱللَّهُ صَابِرٗا وَلَآ
أَعۡصِي لَكَ أَمۡرٗا ٦٩

1 それを「求めていた」理由については、アーヤ*60 の訳注を参照。

قَالَ فَإِنِ ٱتَّبَعۡتَنِي فَلَا تَسۡـَٔلۡنِي عَن شَيۡءٍ حَتَّىٰٓ
أُحۡدِثَ لَكَ مِنۡهُ ذِكۡرٗا ٧٠

70. 彼（ハディル）は、言った。「では、もし私について来るなら、（あなたが否認するような）いかなることに関しても、私に質問してはならない。私があなたに、（あなたから質問される前に）それについて説明するまでは」。

فَٱنطَلَقَا حَتَّىٰٓ إِذَا رَكِبَا فِي ٱلسَّفِينَةِ خَرَقَهَاۖ
قَالَ أَخَرَقۡتَهَا لِتُغۡرِقَ أَهۡلَهَا لَقَدۡ جِئۡتَ
شَيۡـًٔا إِمۡرٗا ٧١

71. 二人は出発した。やがて二人が船に乗（せてもら）った時、彼（ハディル）はそこに穴を空けた。彼（ムーサー*）は言った。「一体あなたは、その人々を溺（おぼ）れさせるために、そこに穴を空けてしまったのですか？ あなたは確かに、大層（たいそう）なことをしでかしました[1]」。

قَالَ أَلَمۡ أَقُلۡ إِنَّكَ لَن تَسۡتَطِيعَ مَعِيَ صَبۡرٗا ٧٢

72. 彼（ハディル）は、言った。「一体、私は、『絶対にあなたは、私との同伴に耐えることが出来ないだろう』と言わなかったのか？」

قَالَ لَا تُؤَاخِذۡنِي بِمَا نَسِيتُ وَلَا تُرۡهِقۡنِي
مِنۡ أَمۡرِي عُسۡرٗا ٧٣

73. 彼（ムーサー）は、言った。「忘れてしまったことについて、私を咎（とが）めないで下さい。そして私の物事[2]において、私に困難を課（か）さないで下さい」。

فَٱنطَلَقَا حَتَّىٰٓ إِذَا لَقِيَا غُلَٰمٗا فَقَتَلَهُۥ قَالَ أَقَتَلۡتَ
نَفۡسٗا زَكِيَّةَۢ بِغَيۡرِ نَفۡسٖ لَّقَدۡ جِئۡتَ شَيۡـٔٗا
نُّكۡرٗا ٧٤

74. 二人は出発した。やがて二人が一人の少年と会い、彼（ハディル）が彼（少年）を殺した時、彼（ムーサー*）は言った。「一体あなたは、誰か一人（の命）の代償（だいしょう）としてでもなく[3]、無垢（むく）な人間を殺してしまったのですか？ あなたは確かに、認められない事をしでかしました」。

---

1 船の人々はハディルへの敬意ゆえ、代金を取らなかったのだという（アル＝ブハーリー 4725 参照）。

2 「私の物事」とは、ハディルからの学習を指す（ムヤッサル 301 頁参照）。

3 つまり殺人者に対しての、死刑による報（むく）いでもなく、ということ（前掲書同頁参照）。雌牛章 178-179 の、キサース刑についての説明も参照。

75. 彼（ハディル）は言った。「一体、私はあなたに、『絶対にあなたは、私との同伴に耐えることが出来ないだろう』と言わなかったのか？」

۞ قَالَ أَلَمۡ أَقُل لَّكَ إِنَّكَ لَن تَسۡتَطِيعَ مَعِيَ
صَبۡرٗا ٧٥

76. 彼（ムーサー*）は言った。「この後もし、私があなたに何か尋ねることがあれば、私と同伴しなくても結構です。あなたは私に関して、既に（同伴を断る）弁解（の理由）を見つけたのですから」。

قَالَ إِن سَأَلۡتُكَ عَن شَيۡءِۭ بَعۡدَهَا فَلَا تُصَٰحِبۡنِيۖ
قَدۡ بَلَغۡتَ مِن لَّدُنِّي عُذۡرٗا ٧٦

77. こうして二人は出発した。そして、ある町の民のところに行き着いた時、二人はその民に食事（によるもてなし）を乞うたが、彼らは二人をもてなすことを拒んだ。すると二人はその（町の）中に、今にも崩れ落ちそうな壁を見つけ、彼（ハディル）がそれを直した。彼（ムーサー*）は言った。「もしお望みなら、あなたはそれで見返りを得ることが出来ましたのに」。

فَٱنطَلَقَا حَتَّىٰٓ إِذَآ أَتَيَآ أَهۡلَ قَرۡيَةٍ ٱسۡتَطۡعَمَآ
أَهۡلَهَا فَأَبَوۡاْ أَن يُضَيِّفُوهُمَا فَوَجَدَا فِيهَا
جِدَارٗا يُرِيدُ أَن يَنقَضَّ فَأَقَامَهُۥۖ قَالَ لَوۡ شِئۡتَ
لَتَّخَذۡتَ عَلَيۡهِ أَجۡرٗا ٧٧

78. 彼（ハディル）は言った。「これが私とあなたの、別れ（の時）だ。あなたが我慢できなかったことの解釈を、あなたに語って聞かせよう。

قَالَ هَٰذَا فِرَاقُ بَيۡنِي وَبَيۡنِكَۚ سَأُنَبِّئُكَ
بِتَأۡوِيلِ مَا لَمۡ تَسۡتَطِع عَّلَيۡهِ صَبۡرًا ٧٨

79. あの船はといえば、それは（それを手段に）海で働く貧しい者たちの物であった。それで、私はそれ（船）を傷物にしようとしたのだ。というのも彼らの行く手には、（正常な）あらゆる船を強奪する王がいたから。

أَمَّا ٱلسَّفِينَةُ فَكَانَتۡ لِمَسَٰكِينَ يَعۡمَلُونَ
فِي ٱلۡبَحۡرِ فَأَرَدتُّ أَنۡ أَعِيبَهَا وَكَانَ وَرَآءَهُم
مَّلِكٞ يَأۡخُذُ كُلَّ سَفِينَةٍ غَصۡبٗا ٧٩

80. また、あの少年はといえば（、アッラー*は彼が不信仰者*となることをご存知であったが）、その両親が信仰者だったので、

وَأَمَّا ٱلۡغُلَٰمُ فَكَانَ أَبَوَاهُ مُؤۡمِنَيۡنِ فَخَشِينَآ أَن
يُرۡهِقَهُمَا طُغۡيَٰنٗا وَكُفۡرٗا ٨٠

私たち[1]は彼が、二人（両親）にひどい放埓さと不信仰を強いること[2]を恐れた。

81. それで私たちは、二人の主*が彼らに、彼よりも方正さに優り、より慈悲深い者[3]を、代わりに授けて下さることを望んだのだ。

فَأَرَدْنَآ أَن يُبْدِلَهُمَا رَبُّهُمَا خَيْرًا مِّنْهُ زَكَوٰةً
وَأَقْرَبَ رُحْمًا ﴿٨١﴾

82. また壁はといえば、それは町の孤児である、二人の少年のものであった。そしてその下には、二人のための財宝があり、二人の父親は正しい*人であった。それであなたの主は、二人が成熟し[4]、自分たちの財宝を掘り出すことを、あなたの主からの（彼らに対する）ご慈悲として、お望みになったのだ。そして（ムーサー*よ、）私はそれ（ら）を、自分の一存でしたわけではない[5]。それが、あなたが我慢することの出来なかったことの、解釈である。」

وَأَمَّا ٱلْجِدَارُ فَكَانَ لِغُلَٰمَيْنِ يَتِيمَيْنِ فِى
ٱلْمَدِينَةِ وَكَانَ تَحْتَهُۥ كَنزٌ لَّهُمَا وَكَانَ أَبُوهُمَا
صَٰلِحًا فَأَرَادَ رَبُّكَ أَن يَبْلُغَآ أَشُدَّهُمَا
وَيَسْتَخْرِجَا كَنزَهُمَا رَحْمَةً مِّن رَّبِّكَ ۚ
وَمَا فَعَلْتُهُۥ عَنْ أَمْرِى ۚ ذَٰلِكَ تَأْوِيلُ مَا لَمْ
تَسْطِع عَّلَيْهِ صَبْرًا ﴿٨٢﴾

83. また（使徒*よ）、彼らはあなたに、ズル＝カルナイン*について尋ねる。言え。「私は彼について、あなた方に教訓を誦んで聞かせよう」。

وَيَسْـَٔلُونَكَ عَن ذِى ٱلْقَرْنَيْنِ ۖ قُلْ سَأَتْلُوا۟
عَلَيْكُم مِّنْهُ ذِكْرًا ﴿٨٣﴾

1 ここでハディルが「私たち」と言っているのは、アラビア語特有の表現によって、自らの尊厳を誇示している（頻出名・用語集「われら*」も参照）わけではなく、「アッラー*こそが、彼にそのことをお教えになったこと」を示す、ハディルの謙虚さを表しているのだという（イブン・アーシュール 16:13 参照）。

2 我が子への愛情ゆえに、両親までもが不信仰に追いやられてしまうこと（イブン・カスィール 5:185 参照）。

3 あるいは、「より親孝行で、親類の絆（きずな）を大事にする者」（アル＝バガウィー3:210 参照）。

4 この「成熟」とは、成人*することであるとされる（イブン・カスィール 5:187 参照）。「成人*」については、婦人章 6 の「結婚」についての訳注を参照。

5 ハディルはこれらのことを、アッラー*からのご命令のもとに行ったのである（ムヤッサル 302 頁参照）。

84. 本当にわれら*は、地上において彼のために手はずを整え、あらゆることに関する手段[1]を彼に授けた。

إِنَّا مَكَّنَّا لَهُۥ فِى ٱلْأَرْضِ وَءَاتَيْنَٰهُ مِن كُلِّ شَىْءٍ
سَبَبًا ٨٤

85. それで彼は、手段に則っ（て、それを駆使し）た。

فَأَتْبَعَ سَبَبًا ٨٥

86. こうして太陽が沈む土地に到達した時、彼はそれ（太陽）が（煮えたぎる）黒い泥の泉へと沈むのを見出し[2]、そこである民を発見した。われら*は言った。「ズル＝カルナイン*よ、（彼らの内、信仰しない者を）罰するか、あるいは彼ら（を導くため）に善くしてやるのだ」。

حَتَّىٰٓ إِذَا بَلَغَ مَغْرِبَ ٱلشَّمْسِ وَجَدَهَا تَغْرُبُ فِى
عَيْنٍ حَمِئَةٍ وَوَجَدَ عِندَهَا قَوْمًا ۗ قُلْنَا يَٰذَا ٱلْقَرْنَيْنِ
إِمَّآ أَن تُعَذِّبَ وَإِمَّآ أَن تَتَّخِذَ فِيهِمْ حُسْنًا ٨٦

87. 彼（ズル＝カルナイン*）は、言った。「不正*を働く者については、私たちが罰を下そう。それからその者は、自分の主*の御許へと戻らされる。そしてかれは、忌まわしい懲罰でその者を罰せられるのだ。

قَالَ أَمَّا مَن ظَلَمَ فَسَوْفَ نُعَذِّبُهُۥ ثُمَّ يُرَدُّ إِلَىٰ رَبِّهِۦ
فَيُعَذِّبُهُۥ عَذَابًا نُّكْرًا ٨٧

88. また、信仰し、正しい行い*を行う者といえば、その者には褒美として最善のもの（天国）がある。そして私たちは私たちの命令において、彼に易しい言葉を用いよう」。

وَأَمَّا مَنْ ءَامَنَ وَعَمِلَ صَٰلِحًا فَلَهُۥ جَزَآءً ٱلْحُسْنَىٰ ۖ
وَسَنَقُولُ لَهُۥ مِنْ أَمْرِنَا يُسْرًا ٨٨

89. それから彼は（東へと）、手段に則っ（て、それを駆使し）た。

ثُمَّ أَتْبَعَ سَبَبًا ٨٩

90. そして太陽が昇る場所に着いた時、彼はそれ（太陽）が、ある民の上に昇るのを見出

حَتَّىٰٓ إِذَا بَلَغَ مَطْلِعَ ٱلشَّمْسِ وَجَدَهَا تَطْلُعُ عَلَىٰ
قَوْمٍ لَّمْ نَجْعَل لَّهُم مِّن دُونِهَا سِتْرًا ٩٠

---

1 この「手段」に関しての詳細を語る、信頼性のある伝承はない。しかしそれが、それによって強大な大軍が秩序をもって行進し、敵を征圧し、大地の方々へと到達することを可能にさせた、非常に強力な内的・外的手段であったことに間違いはない（アッ＝サアディー 485 頁参照）。

2 「太陽が黒い泥の泉に沈む」ように見えたのであり、実際にそこへ沈んだわけではない（アル＝クルトゥビー11:50 参照）。

した。われら*はそれ（太陽）に対して、彼らにいかなる覆いも与えなかった[1]。

91. （事は）このような次第であった。われら*は確かに、彼に備わっていたもの[2]を熟知していたのである。

كَذَٰلِكَ وَقَدْ أَحَطْنَا بِمَا لَدَيْهِ خُبْرًا ﴿٩١﴾

92. それから彼は（また別方面に向かい）、手段に則っ（て、それを駆使し）た。

ثُمَّ أَتْبَعَ سَبَبًا ﴿٩٢﴾

93. そして（行く手を）阻む二つのもの（山）に着いた時、その手前[3]に、（自分たち以外の）言葉をほとんど理解しない民を発見した。

حَتَّىٰٓ إِذَا بَلَغَ بَيْنَ ٱلسَّدَّيْنِ وَجَدَ مِن دُونِهِمَا قَوْمًا
لَّا يَكَادُونَ يَفْقَهُونَ قَوْلًا ﴿٩٣﴾

94. 彼らは言った[4]。「ズル＝カルナイン*よ、本当にヤァジュージュとマァジュージュ[5]は、地上で腐敗*を働いています。あなたに報酬を差し上げますから、私たちと彼らの間に障壁を築いては頂けないでしょうか？」

قَالُوا۟ يَٰذَا ٱلْقَرْنَيْنِ إِنَّ يَأْجُوجَ وَمَأْجُوجَ
مُفْسِدُونَ فِى ٱلْأَرْضِ فَهَلْ نَجْعَلُ لَكَ خَرْجًا
عَلَىٰٓ أَن تَجْعَلَ بَيْنَنَا وَبَيْنَهُمْ سَدًّا ﴿٩٤﴾

95. 彼は言った。「我が主*が私に与えて下さったものの方が、（あなた方の財産）より善いのである。それでは、私に力を貸しなさい。あなた方と彼らの間に、高壁を築いてあげるから」。

قَالَ مَا مَكَّنِّى فِيهِ رَبِّى خَيْرٌ فَأَعِينُونِى بِقُوَّةٍ
أَجْعَلْ بَيْنَكُمْ وَبَيْنَهُمْ رَدْمًا ﴿٩٥﴾

---

1 この「覆い」は、建物や木など、太陽の光を遮（さえぎ）るものとされる（ムヤッサル 303 頁参照）。

2 ズル＝カルナイン*の徳や、偉大な手段の数々のこと（前掲書、同頁参照）。

3 「手前」でなく、「向こう」という解釈もある（アル＝クルトゥビー11:55 参照）。

4 ズル＝カルナイン*は、彼が授かった「偉大な手段」の一つとして、彼らの言葉を理解する知的手段を備えていたという（アッ＝サァディー486 頁参照）。

5 「ヤァジュージュとマァジュージュ」は、二つの強大な人類集団であると言われる（ムヤッサル 303 頁参照）。アーヤ*98-99、預言者*たち章 96-97 も参照。

96. （ズル＝カルナイン*は、彼らに言った。）「鉄片を私によこしなさい」。そして山と山の間を（それで）平坦にすると、言った。「（火を起こして、ふいごを）吹け」。そしてそれ（鉄片の山）を火にすると、言った。「溶けた銅を私によこすのだ。そこに、注ぎ込むから」。

ءَاتُونِي زُبَرَ ٱلۡحَدِيدِۖ حَتَّىٰٓ إِذَا سَاوَىٰ بَيۡنَ ٱلصَّدَفَيۡنِ
قَالَ ٱنفُخُواْۖ حَتَّىٰٓ إِذَا جَعَلَهُۥ نَارٗا قَالَ ءَاتُونِيٓ أُفۡرِغۡ
عَلَيۡهِ قِطۡرٗا ٩٦

97. こうして彼ら（ヤァジュージュとマァジュージュ）は、それ（高壁）を越えることも出来ず、それに（下から）穴を開けることも叶わなかった。

فَمَا ٱسۡطَٰعُوٓاْ أَن يَظۡهَرُوهُ وَمَا ٱسۡتَطَٰعُواْ لَهُۥ
نَقۡبٗا ٩٧

98. 彼（ズル＝カルナイン*）は言った。「これは、我が主*からのご慈悲。そして我が主*のお約束[1]が到来すれば、かれはそれ（高壁）を真っ平らにされる。そして我が主*のお約束は、もとより真実なのだ」。

قَالَ هَٰذَا رَحۡمَةٞ مِّن رَّبِّيۖ فَإِذَا جَآءَ وَعۡدُ رَبِّي جَعَلَهُۥ
دَكَّآءَۖ وَكَانَ وَعۡدُ رَبِّي حَقّٗا ٩٨

99. また、われら*は彼ら（ヤァジュージュとマァジュージュ）をその日、次から次へと押し寄せ、入り混じるがままにさせる。そして角笛[2]が吹き鳴らされ、われら*は彼ら（人々）を一斉に召集するのだ。

۞وَتَرَكۡنَا بَعۡضَهُمۡ يَوۡمَئِذٖ يَمُوجُ فِي بَعۡضٖۖ وَنُفِخَ
فِي ٱلصُّورِ فَجَمَعۡنَٰهُمۡ جَمۡعٗا ٩٩

100. また、われら*はその日、不信仰者*たちに地獄をまざまざと見せる。

وَعَرَضۡنَا جَهَنَّمَ يَوۡمَئِذٖ لِّلۡكَٰفِرِينَ عَرۡضًا ١٠٠

101. （彼らは）われら*の教訓から、その眼を覆われていた者たちであり、聞くことも出来なかったのだ。[3]

ٱلَّذِينَ كَانَتۡ أَعۡيُنُهُمۡ فِي غِطَآءٍ عَن ذِكۡرِي وَكَانُواْ
لَا يَسۡتَطِيعُونَ سَمۡعًا ١٠١

---

1 復活の日*、あるいはヤァジュージュとマァジュージュが障壁の向こうから出現する時のこと（アル＝クルトゥビー11:63 参照）。預言者*たち章 96 も参照。

2 これは、復活を知らせる角笛のこと（ムヤッサル 304 頁参照）。家畜章 73 の訳注も参照。

3 関連する内容として、雌牛章 7、フード*章 20 とその訳注も参照。

102. 一体不信仰に陥った者*たちは、われを差しおいて、わが僕たちを庇護者としようと思っていたのか？[1] 本当にわれら*は地獄を、不信仰者*たちの御もてなし[2]として用意しておいたのである。

أَفَحَسِبَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوٓا۟ أَن يَتَّخِذُوا۟ عِبَادِى مِن دُونِىٓ أَوْلِيَآءَ ۚ إِنَّآ أَعْتَدْنَا جَهَنَّمَ لِلْكَٰفِرِينَ نُزُلًا ١٠٢

103. （使徒*よ、）言うがよい。「あなた方に、行いにおける最大の損失者について教えようか？

قُلْ هَلْ نُنَبِّئُكُم بِٱلْأَخْسَرِينَ أَعْمَٰلًا ١٠٣

104. （彼らは、）自分たちが善い仕事をしていると思いつつ[3]も、（実は）現世の生活での自分の努力が、徒労になってしまっている者たち」。

ٱلَّذِينَ ضَلَّ سَعْيُهُمْ فِى ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا وَهُمْ يَحْسَبُونَ أَنَّهُمْ يُحْسِنُونَ صُنْعًا ١٠٤

105. それらの者たちは、自分たちの主*の御徴と、（来世における）かれとの拝謁を否定し、それでその行いが無駄になった者たち。それでわれら*は復活の日*、彼らに僅かばかりの価値も認めないのだ。

أُو۟لَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ بِـَٔايَٰتِ رَبِّهِمْ وَلِقَآئِهِۦ فَحَبِطَتْ أَعْمَٰلُهُمْ فَلَا نُقِيمُ لَهُمْ يَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ وَزْنًا ١٠٥

106. それは彼らが不信仰に陥り、わが御徴とわが使徒*たちを嘲笑の的としていたことゆえの、地獄という彼らの応報である。

ذَٰلِكَ جَزَآؤُهُمْ جَهَنَّمُ بِمَا كَفَرُوا۟ وَٱتَّخَذُوٓا۟ ءَايَٰتِى وَرُسُلِى هُزُوًا ١٠٦

107. 本当に、信仰し、正しい行い*を行う者たちには、御もてなしとしてフィルダウスの楽園[4]がある。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ كَانَتْ لَهُمْ جَنَّٰتُ ٱلْفِرْدَوْسِ نُزُلًا ١٠٧

---

1 つまり彼らは、アッラー*を差し置いて自分たちの庇護者としていたものが、自分たちを益したり、害したりすると思い込んでいた（アッ＝サァディー487 頁参照）。

2 「御もてなし」の原語は「ヌズル」で、滞在者や客をもてなすためのもの。ここでは修辞的意味から、彼らへの蔑（さげす）みとして、懲罰に対して用いられている（イブン・アーシュール 15:141 参照）。

3 「善い仕事」と思っていることでも無駄（むだ）になるのだから、彼ら自身が「無意味な物事」と分かっていることは、尚更である（アッ＝サァディー487 頁参照）。

4 天国の楽園にも、様々なランクがある。「フィルダウス」はその中でも、最高の場所とされる。預言者*ムハンマド*は仰（おっしゃ）った。「アッラー*にお願いするのなら、フィルダウスをお願いせよ。実にそれは天国の最も中心部、最高部にある。その上には慈悲あまねき*お方の御座（みくら）が見え、そこから天国の河川（かせん）が噴（ふ）き出しているのだ」（アル＝ブハーリー2790 参照）。

108. （彼らは）そこに永遠に留まり、そこから（いかなる別の場所にも）移されることを望まない。

خَٰلِدِينَ فِيهَا لَا يَبۡغُونَ عَنۡهَا حِوَلٗا ١٠٨

109. （使徒*よ、）言ってやれ。「もし海が、我が主*の御言葉（を書き写すため）のインクであったとしたら、我が主*の御言葉が尽きる前に、海は枯れ果ててしまったであろう。たとえ、われら*がそれと同様のものをもう一つ、補充分として持って来たとしても」。[1]

قُل لَّوۡ كَانَ ٱلۡبَحۡرُ مِدَادٗا لِّكَلِمَٰتِ رَبِّي لَنَفِدَ ٱلۡبَحۡرُ
قَبۡلَ أَن تَنفَدَ كَلِمَٰتُ رَبِّي وَلَوۡ جِئۡنَا بِمِثۡلِهِۦ مَدَدٗا ١٠٩

110. （使徒*よ、）言え。「私は、『あなた方の（真に）崇拝*すべきは、ただ一つの神[2]』と啓示が下されている、あなた方と同様の一人の人間に過ぎない。それで自分の主*との拝謁を望む[3]者は、正しい行い*に励み、自分の主*の崇拝*において、いかなるものも並べてはならない[4]」。

قُلۡ إِنَّمَآ أَنَا۠ بَشَرٞ مِّثۡلُكُمۡ يُوحَىٰٓ إِلَيَّ أَنَّمَآ إِلَٰهُكُمۡ إِلَٰهٞ
وَٰحِدٞۖ فَمَن كَانَ يَرۡجُواْ لِقَآءَ رَبِّهِۦ فَلۡيَعۡمَلۡ
عَمَلٗا صَٰلِحٗا وَلَا يُشۡرِكۡ بِعِبَادَةِ رَبِّهِۦٓ أَحَدَۢا ١١٠

---

1 「アッラー*の御言葉」は、かれの属性（ぞくせい）の一つであり、無限かつ人の想像を超えるものである（アッ＝サァディー488頁参照）。ルクマーン章27も参照。

2 同位者のいない、崇拝*すべき唯一の存在であるアッラー*のこと（前掲書489頁参照）。

3 この「望む」という語には、「恐れる」という意味もある（アル＝バガウィー3:222参照）。ユーヌス*章7「望まず」の訳注も参照。

4 つまりシルク*を犯してはならない、ということ。

第 19 章
マルヤム*章[1]

سُورَةُ مَرۡيَمَ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. カーフ・ハー・ヤー・アイン・サード[2]。

2. （これは、）その僕ザカリーヤー*に対する、あなたの主*のご慈悲の叙述。

3. 彼が自分の主*を、ひそやかに呼んだ時のこと。[3]

4. 彼は申し上げた。「我が主*よ、本当に私の骨は脆くなり、頭は白髪だらけになってしまいました[4]。そして私は――我が主*よ――（これ以前）、あなたへの祈願において、不幸な者ではありませんでした[5]。

5. また私の妻は不妊であり、私は自分の（死）後、身内（があなたの宗教を達成できないかもしれないこと）を怖れます。ですから私に、あなたの御許から後継者（としての子供）をお授け下さい。

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

كٓهيعٓصٓ ١

ذِكۡرُ رَحۡمَتِ رَبِّكَ عَبۡدَهُۥ زَكَرِيَّآ ٢

إِذۡ نَادَىٰ رَبَّهُۥ نِدَآءً خَفِيّٗا ٣

قَالَ رَبِّ إِنِّي وَهَنَ ٱلۡعَظۡمُ مِنِّي وَٱشۡتَعَلَ
ٱلرَّأۡسُ شَيۡبٗا وَلَمۡ أَكُنۢ بِدُعَآئِكَ رَبِّ
شَقِيّٗا ٤

وَإِنِّي خِفۡتُ ٱلۡمَوَٰلِيَ مِن وَرَآءِي
وَكَانَتِ ٱمۡرَأَتِي عَاقِرٗا فَهَبۡ لِي مِن
لَّدُنكَ وَلِيّٗا ٥

---

1 マッカ*啓示で、学者間の意見はほぼ一致。前半では、過去の預言者*や敬虔（けいけん）*な人々にまつわる逸話が、彼らへの賞賛と共に描写される。その中で最も長く、かつ詳細に語られているのが、スーラ*名ともなっているイーサー*の母マルヤム*についてのもの。後半では、アッラー*の正しい教えに従順であった、このような過去の偉人たちとは対照的な、シルク*の徒・復活を否定する不信仰者*らへの厳しい警告と、信仰者らへの吉報、アッラーの唯一性*と慈悲深さの説明などが展開されている。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 ザカリーヤー*がこの祈願をするに至った背景については、イムラーン家章 37-41 参照。

4 原語では正確には、「頭が白髪で燃え上がった」という表現が用いられている。元々は黒い頭が白くなってしまったことが、あたかも墨（すみ）の塊に火がつき、目映い光が黒い物体を全体的に覆ってしまうことに譬（たと）えられているのである（イブン・アーシュール 16:64 参照）。

5 つまり、祈願を叶（かな）えられなかったことはない、ということ（ムヤッサル 305 頁参照）。

6. 私（の預言者*としての使命）を継ぎ、ヤァクーブ*の一族（の預言者*としての使命）を継ぐ（後継者を）。そして――我が主*よ――、彼を（あなたとあなたの僕たちから）喜ばれる者として下さい」。

يَرِثُنِي وَيَرِثُ مِنْ ءَالِ يَعْقُوبَ ۖ وَٱجْعَلْهُ
رَبِّ رَضِيًّا ٦

7. （アッラー*は、天使*を通じて仰せられた。）「ザカリーヤー*よ、本当にわれら*はあなたに、ヤヒヤー*という名の男の子についての吉報を伝えよう。われら*は（彼）以前、誰もその名で名付けたことはなかった」。

يَٰزَكَرِيَّآ إِنَّا نُبَشِّرُكَ بِغُلَٰمٍ ٱسْمُهُۥ
يَحْيَىٰ لَمْ نَجْعَل لَّهُۥ مِن قَبْلُ سَمِيًّا ٧

8. 彼（ザカリーヤー*）は、申し上げた。「我が主*よ、私に男の子が出来ましょうか？私の妻は不妊で、しかも私は老齢で干からびてしまっていますのに？」

قَالَ رَبِّ أَنَّىٰ يَكُونُ لِى غُلَٰمٌ وَكَانَتِ
ٱمْرَأَتِى عَاقِرًا وَقَدْ بَلَغْتُ مِنَ ٱلْكِبَرِ
عِتِيًّا ٨

9. 彼（天使*）は言った。「その通り（だが）、あなたの主*は、（こう）仰せられたのだ。『それはわれにとって、容易いこと。われは彼（ヤヒヤー*）以前に、（以前は）全く存在していなかったあなたのことも、確かに創造したのだ』」。

قَالَ كَذَٰلِكَ قَالَ رَبُّكَ هُوَ عَلَىَّ هَيِّنٌ
وَقَدْ خَلَقْتُكَ مِن قَبْلُ وَلَمْ تَكُ شَيْـًٔا ٩

10. 彼（ザカリーヤー*）は、申し上げた。「我が主*よ、私に（、その吉報が実現するという）御徴をお授け下さい」。彼（天使*）は言った。「あなたの御徴は、あなたが健常でありながら、三夜の間、人々に話しかけることが出来なくなることである」。

قَالَ رَبِّ ٱجْعَل لِّىٓ ءَايَةً ۚ قَالَ ءَايَتُكَ
أَلَّا تُكَلِّمَ ٱلنَّاسَ ثَلَٰثَ لَيَالٍ سَوِيًّا ١٠

11. こうして彼（ザカリーヤー*）は、ミフラーブ[1]から彼の民のもとに出てくると、彼らに「朝夕に、（アッラー*を）称え*なさい[2]」と仕草で示した。

فَخَرَجَ عَلَىٰ قَوْمِهِۦ مِنَ ٱلْمِحْرَابِ فَأَوْحَىٰٓ
إِلَيْهِمْ أَن سَبِّحُوا۟ بُكْرَةً وَعَشِيًّا ١١

1 「ミフラーブ」については、イムラーン家章 37 の訳注を参照。

2 ヤヒヤー*の誕生が、全ての者にとっての吉報であったことゆえに、アッラー*を称える*よう命じたのだとされる（アッ＝サァディー490 頁参照）。

12. （そしてヤヒヤー*が誕生し、成長した頃、アッラー*は仰せられた。）「ヤヒヤー*よ、啓典（トーラー*）を真摯に受け取れ[1]」。そしてわれら*は、幼少の彼に英知を授けた。

يَٰيَحْيَىٰ خُذِ ٱلْكِتَٰبَ بِقُوَّةٍ ۖ وَءَاتَيْنَٰهُ
ٱلْحُكْمَ صَبِيًّا ١٢

13. また（われら*はヤヒヤー*に、）われら*の御許からの慈しみの念と、（罪からの）清らかさを（授けた）。彼は敬虔*であった。

وَحَنَانًا مِّن لَّدُنَّا وَزَكَوٰةً ۖ وَكَانَ تَقِيًّا ١٣

14. また（彼は）、自分の両親に孝行であり、尊大でも反抗的でもなかった。

وَبَرًّۢا بِوَٰلِدَيْهِ وَلَمْ يَكُن جَبَّارًا عَصِيًّا ١٤

15. そして、彼が生まれた日、亡くなる日、生きて蘇らされる日に、彼に（アッラー*からの）平安あれ。[2]

وَسَلَٰمٌ عَلَيْهِ يَوْمَ وُلِدَ وَيَوْمَ يَمُوتُ وَيَوْمَ
يُبْعَثُ حَيًّا ١٥

16. また（使徒*よ）、啓典（クルアーン*）の中で、マルヤム*について語るのだ。彼女が自分の家族から、東方の場所に身を引いた[3]時のこと。

وَٱذْكُرْ فِى ٱلْكِتَٰبِ مَرْيَمَ إِذِ ٱنتَبَذَتْ مِنْ
أَهْلِهَا مَكَانًا شَرْقِيًّا ١٦

17. そして彼女は彼らを避けて覆いをかけ、われら*は彼女に、われら*の魂[4]を遣わした。すると彼は、非の打ち所のない人間の姿で、彼女の前に現れた。

فَٱتَّخَذَتْ مِن دُونِهِمْ حِجَابًا فَأَرْسَلْنَآ إِلَيْهَا
رُوحَنَا فَتَمَثَّلَ لَهَا بَشَرًا سَوِيًّا ١٧

---

1 「啓典を真摯に受け取る」とは、トーラー*を真剣に受け止め、その暗記、理解、実践に励（はげ）むこと（ムヤッサル 306 頁参照）。

2 イブン・ウヤイナ*によれば、ここでこれら三つの状態のみが言及されているのは、これら三つの瞬間が人間にとって最も不安な状態であるからだという（アッ＝タバリー7:5466 参照）。

3 アル＝クルトゥビー*は、彼女はアッラー*の崇拝*のために、神殿の東部に篭（こ）もったのだ、という見解を述べている（11:90 参照）。また一説に、当時の人々にとって東という方向は、特別な善い意味があった（アッ＝タバリー7:5468 参照）。

4 大半の学者は、この「魂」をジブリール*と解釈している。ジブリール*がここで「魂」と呼ばれているのは、彼と、彼による啓示の伝達によって、宗教が息吹（いぶ）くからだとされる。また、それが「われら*」というアッラー*の修飾を受けているのは、カアバ神殿*が「アッラー*の館」と呼ばれるように、ジブリール*への栄誉を表しているためとされる（アル＝アルースィー16:75 参照）。

18. 彼女は言った。「本当に私は、慈悲あまねき*お方（アッラー*）に、あなた（から災いを受けること）に対してのご加護を乞います。もしあなたが、（アッラー*を）畏れる*お方ならば（、近づかないで下さい）」。

قَالَتۡ إِنِّيٓ أَعُوذُ بِٱلرَّحۡمَٰنِ مِنكَ إِن كُنتَ
تَقِيّٗا ١٨

19. 彼（ジブリール*）は言った。「私はまさに、あなたに清らかな男の子を差し上げるための、あなたの主*からの使いなのです」。

قَالَ إِنَّمَآ أَنَا۠ رَسُولُ رَبِّكِ لِأَهَبَ لَكِ غُلَٰمٗا
زَكِيّٗا ١٩

20. 彼女は言った。「私に、男の子が出来るなどということがありましょうか？ 私には人一人触れたことはなく、私はふしだらでもありませんでしたのに」。

قَالَتۡ أَنَّىٰ يَكُونُ لِي غُلَٰمٞ وَلَمۡ يَمۡسَسۡنِي
بَشَرٞ وَلَمۡ أَكُ بَغِيّٗا ٢٠

21. 彼は言った。「その通り（ですが）、あなたの主*は、（こう）仰せられました。『それはわれにとって、容易いこと。そして（それは）、彼（その男の子）を人々への御徴[1]とし、われら*の御許からの慈悲とするためなのだ。（それは）既に定められていたことなのである』」。

قَالَ كَذَٰلِكِ قَالَ رَبُّكِ هُوَ عَلَيَّ هَيِّنٞۖ
وَلِنَجۡعَلَهُۥٓ ءَايَةٗ لِّلنَّاسِ وَرَحۡمَةٗ مِّنَّاۚ
وَكَانَ أَمۡرٗا مَّقۡضِيّٗا ٢١

22. こうして彼女は、彼（イーサー*）を宿し、身ごもった状態で（人々から）遠い場所へと身を遠ざけた[2]。

۞فَحَمَلَتۡهُ فَٱنتَبَذَتۡ بِهِۦ مَكَانٗا قَصِيّٗا ٢٢

23. そして陣痛が彼女を、ナツメヤシの木[3]の幹へと追いや（り、彼女はそれによりかか）った。彼女は言った。「あぁ、これ以前に

فَأَجَآءَهَا ٱلۡمَخَاضُ إِلَىٰ جِذۡعِ ٱلنَّخۡلَةِ
قَالَتۡ يَٰلَيۡتَنِي مِتُّ قَبۡلَ هَٰذَا وَكُنتُ
نَسۡيٗا مَّنسِيّٗا ٢٣

---

1 この「御徴」とは、アッラー*の御力を示す証拠のこと。アッラー*は、人間を多様な形で創造された。アーダム*は男性も女性も介さず、ハウワーゥ*は女性を介さず、イーサー*は男性を介さず、そしてそれ以外の人間は皆、男性と女性を介してお創りになったのである（イブン・カスィール 5:220 参照）。

2 彼女は、未婚の妊娠による醜聞（しゅうぶん）を恐れていた（アッ＝サァディー491 頁参照）。

3 一説に、このナツメヤシの木は枯れ木であった（アル＝バガウィー3:229 参照）。

私が死んでしまっていたら、そして忘れ去られた、どうでもよい存在であったらよかったのに！」

24. すると、彼[1]は彼女の下方から、彼女に（こう）呼びかけた。「悲しんではなりません。あなたの主*は、あなたの下に、まさに小川を流れさせ給うたのですから。

فَنَادَىٰهَا مِن تَحْتِهَآ أَلَّا تَحْزَنِى قَدْ جَعَلَ رَبُّكِ
تَحْتَكِ سَرِيًّا ٢٤

25. そしてナツメヤシの木の幹を、ご自分の方にお揺らしなさい。そうすればそれは、採り頃の熟れたナツメヤシの実を、あなたの上に落とします。

وَهُزِّىٓ إِلَيْكِ بِجِذْعِ ٱلنَّخْلَةِ تُسَٰقِطْ عَلَيْكِ
رُطَبًا جَنِيًّا ٢٥

26. そうしたら、食べかつ飲み、（子の誕生に）お喜びなさい[2]。そして、もし誰か人を見るようなことがあれば、（こう）言うのです。『本当に私は、慈悲あまねき*お方（アッラー*）に斎戒[3]を誓いました。それでこの日は、絶対に人とは話しません』」。

فَكُلِى وَٱشْرَبِى وَقَرِّى عَيْنًا ۖ فَإِمَّا تَرَيِنَّ مِنَ
ٱلْبَشَرِ أَحَدًا فَقُولِىٓ إِنِّى نَذَرْتُ لِلرَّحْمَٰنِ
صَوْمًا فَلَنْ أُكَلِّمَ ٱلْيَوْمَ إِنسِيًّا ٢٦

27. それから彼女は彼（イーサー*）を抱き、彼と共に彼女の民のもとへやって来た。彼らは（、それを見て）言った。「マルヤム*よ、あなたは本当に、とんでもないことをしでかした。

فَأَتَتْ بِهِۦ قَوْمَهَا تَحْمِلُهُۥ ۖ قَالُوا۟ يَٰمَرْيَمُ لَقَدْ
جِئْتِ شَيْـًٔا فَرِيًّا ٢٧

---

1 この「彼」には、「ジブリール*」という説と、「イーサー*」という説がある（アッ＝タバリー7:5477-5479 参照）。

2 ここで「喜ぶ」という訳をあてた原語は、「クッラトゥ・アイン（眼の涼しさ）」という表現の派生形。アラビア語で「眼が熱くなる」という表現が、「（悲しみゆえに）泣いてばかりいる状態」を表すのと逆に、「眼が涼しい」ことは、喜びを表す（イブン・アーシュール 16:89 参照）。

3 当時の「斎戒*」は、飲食だけでなく、言葉を慎（つつし）む必要があったとされる。それゆえマルヤム*は、この言葉を喋らずに、仕草で示したのだという説もある（イブン・カスィール 5:225 参照）。

28. ハールーンの姉妹[1]よ、あなたの父親は不品行な男ではなかったし、あなたの母親もふしだらではなかったのだぞ」。

يَٰٓأُخۡتَ هَٰرُونَ مَا كَانَ أَبُوكِ ٱمۡرَأَ سَوۡءٖ
وَمَا كَانَتۡ أُمُّكِ بَغِيّٗا ٢٨

29. すると彼女は、（彼らが赤ん坊に直接尋ねるよう、）彼の方を指した。彼らは言った。「揺りかごの中にいる幼子に、私たちがいかに話しかけるというのか？」

فَأَشَارَتۡ إِلَيۡهِۖ قَالُواْ كَيۡفَ نُكَلِّمُ مَن كَانَ فِي
ٱلۡمَهۡدِ صَبِيّٗا ٢٩

30. 彼（イーサー*）は言った。「本当に私は、アッラー*の僕です。かれは私に、啓典を授けて下さり、私を預言者*とされたのです。

قَالَ إِنِّي عَبۡدُ ٱللَّهِ ءَاتَىٰنِيَ ٱلۡكِتَٰبَ وَجَعَلَنِي
نَبِيّٗا ٣٠

31. また、かれは私がどこにあろうと祝福にあふれた者とされ、私が生きている間中、礼拝と浄財*を私に命じられました。

وَجَعَلَنِي مُبَارَكًا أَيۡنَ مَا كُنتُ وَأَوۡصَٰنِي
بِٱلصَّلَوٰةِ وَٱلزَّكَوٰةِ مَا دُمۡتُ حَيّٗا ٣١

32. そして（私を）母親に孝行する者とされ、尊大で不幸な者とはされませんでした。

وَبَرَّۢا بِوَٰلِدَتِي وَلَمۡ يَجۡعَلۡنِي جَبَّارٗا
شَقِيّٗا ٣٢

33. 私が生まれた日、死ぬ日、生きたまま蘇らされる日に、私に（アッラー*からの）平安あれ[2]」。

وَٱلسَّلَٰمُ عَلَيَّ يَوۡمَ وُلِدتُّ وَيَوۡمَ أَمُوتُ
وَيَوۡمَ أُبۡعَثُ حَيّٗا ٣٣

34. （使徒*よ、）それがマルヤム*の子イーサー*。彼ら（啓典の民*）が疑わしく思っている、（イーサー*に関する）真理の言葉。

ذَٰلِكَ عِيسَى ٱبۡنُ مَرۡيَمَۖ قَوۡلَ ٱلۡحَقِّ ٱلَّذِي
فِيهِ يَمۡتَرُونَ ٣٤

35. アッラー*が子供をもうけ給うことなど、ありえない。かれに称え*あれ[3]。かれが一事をお取り決めにな（り、お望みにな）れば、

مَا كَانَ لِلَّهِ أَن يَتَّخِذَ مِن وَلَدٖۖ سُبۡحَٰنَهُۥٓۚ إِذَا
قَضَىٰٓ أَمۡرٗا فَإِنَّمَا يَقُولُ لَهُۥ كُن فَيَكُونُ ٣٥

---

1 ここでマルヤム*が、「ハールーン*の姉妹」と形容されていることに関し、イブン・カスィール*は「その崇拝*行為における熱心さにおいて、預言者*ハールーン*に類似していたため」「彼女が、預言者*ハールーン*の一族に属していたため」「彼女には実際、崇拝*と禁欲で有名なハールーン*という名の兄弟がいたため」といった説を挙げ、彼女が預言者*ハールーン*の実の姉妹という説は否定している（5:226-227 参照）。

2 アーヤ*15 の訳注も参照。

3 ここでの「称え*あれ」については、雌牛章 116 の訳注も参照。

それに『あれ』と仰せられるだけで、それは存在するのである。

36. （イーサー*は民に言った。）「本当にアッラー*は、我が主*であり、あなた方の主*。ならば、かれを崇拝*しなさい。これがまっすぐな道なのですから」。

وَإِنَّ ٱللَّهَ رَبِّي وَرَبُّكُمۡ فَٱعۡبُدُوهُۚ هَٰذَا صِرَٰطٞ
مُّسۡتَقِيمٞ ٣٦

37. それから（啓典の民*の）派閥が、（イーサー*のことに関し、）彼らの間で意見を異にした[1]。それで不信仰に陥った者*たちに、この上な（く恐ろし）い（復活の）日*の立会いの災いあれ。

فَٱخۡتَلَفَ ٱلۡأَحۡزَابُ مِنۢ بَيۡنِهِمۡۖ فَوَيۡلٞ لِّلَّذِينَ
كَفَرُواْ مِن مَّشۡهَدِ يَوۡمٍ عَظِيمٍ ٣٧

38. われら*のもとへと彼らがやって来るその日、彼らの視力は何と鋭く、その聴覚は何と研ぎ澄まされていることか！[2]　しかし（現世における）この日、不正*者たちは紛れもない迷妄の中にあるのだ。

أَسۡمِعۡ بِهِمۡ وَأَبۡصِرۡ يَوۡمَ يَأۡتُونَنَا لَٰكِنِ ٱلظَّٰلِمُونَ
ٱلۡيَوۡمَ فِي ضَلَٰلٖ مُّبِينٖ ٣٨

39. そして（使徒*よ）、迂闊であり、信仰することのない彼らに、事が決定される悔恨の日[3]について警告を告げよ。

وَأَنذِرۡهُمۡ يَوۡمَ ٱلۡحَسۡرَةِ إِذۡ قُضِيَ ٱلۡأَمۡرُ وَهُمۡ فِي
غَفۡلَةٖ وَهُمۡ لَا يُؤۡمِنُونَ ٣٩

40. 本当にわれら*は、大地と、その上にある者を引き継ぐ[4]。そしてわれら*の御許にこそ、彼らは戻されるのである。

إِنَّا نَحۡنُ نَرِثُ ٱلۡأَرۡضَ وَمَنۡ عَلَيۡهَا وَإِلَيۡنَا
يُرۡجَعُونَ ٤٠

---

1 ある者たちは彼を神聖化し、またある者たちは彼を魔術師とし、また別の者たちは彼を大工ユースフ*の息子とした（ムヤッサル 307 頁参照）。

2 復活の日*、彼らは自分たちの不信仰・シルク*・（不適切な）言動を認め、自分たちの真の状況を明確に知って、後悔する（アッ＝サアディー493 頁参照）。関連するアーヤ*として、家畜章 158 とその訳注、夜の旅章 97「盲目…」の訳注も参照。

3 その日、不信仰者*らはアッラー*のご満悦と天国を失い、代わりにそのお怒りと地獄を得る。そして、やり直すために現世に戻ることも出来ず、仮に戻っても、自分の状況を変えることも叶わない。そのような中で彼らは、心が張り裂けんばかりの後悔に襲われる（アッ＝サアディー493 頁参照）。

4 全ての創造物は滅び、アッラー*だけが残る（イブン・カスィール 234:5 参照）。「われら*は･･･引き継ぐ」という表現については、イムラーン家章 180「天地の遺産はアッラー*にこそ属する」の訳注も参照。

41. （使徒*よ、）啓典（クルアーン*）の中で、イブラーヒーム*について語るのだ。本当に彼は大そうな正直者[1]であり、預言者*であった。

وَٱذۡكُرۡ فِي ٱلۡكِتَٰبِ إِبۡرَٰهِيمَۚ إِنَّهُۥ كَانَ صِدِّيقٗا
نَّبِيًّا ٤١

42. 彼が自分の父親に、（こう）言った時のこと[2]。「お父さん、聞きもしなければ、見ることも出来ず、あなたを少しも益することのないもの[3]を、なぜ崇めるのですか？

إِذۡ قَالَ لِأَبِيهِ يَٰٓأَبَتِ لِمَ تَعۡبُدُ مَا لَا يَسۡمَعُ
وَلَا يُبۡصِرُ وَلَا يُغۡنِي عَنكَ شَيۡـٔٗا ٤٢

43. お父さん、本当に私のもとに、あなたには訪れることのなかった知識の一部が、確かに到来したのです。ですから、私に従って下さい。そうすれば私はあなたを、真っ当な道にご案内します。

يَٰٓأَبَتِ إِنِّي قَدۡ جَآءَنِي مِنَ ٱلۡعِلۡمِ مَا لَمۡ يَأۡتِكَ
فَٱتَّبِعۡنِيٓ أَهۡدِكَ صِرَٰطٗا سَوِيّٗا ٤٣

44. お父さん、シャイターン*を崇めないで下さい。本当にシャイターン*は、慈悲あまねき*お方（アッラー*）にひどく反抗的なものです。

يَٰٓأَبَتِ لَا تَعۡبُدِ ٱلشَّيۡطَٰنَۖ إِنَّ ٱلشَّيۡطَٰنَ كَانَ
لِلرَّحۡمَٰنِ عَصِيّٗا ٤٤

45. お父さん、本当に私は、慈悲あまねき*お方（アッラー*）からの罰があなたに及び、あなたがシャイターン*の同志となるのを怖れています」。

يَٰٓأَبَتِ إِنِّيٓ أَخَافُ أَن يَمَسَّكَ عَذَابٞ مِّنَ
ٱلرَّحۡمَٰنِ فَتَكُونَ لِلشَّيۡطَٰنِ وَلِيّٗا ٤٥

46. 彼（イブラーヒーム*の父親）は、言った。「一体お前は、我が神々（の崇拝*）から身を引きたいのか、イブラーヒーム*よ？ もしもお前が（、我が神々への中傷を）止めないのなら、私はきっとお前を（石で）打ち殺してやろう[4]。私からずっと、遠ざかっておれ」。

قَالَ أَرَاغِبٌ أَنتَ عَنۡ ءَالِهَتِي يَٰٓإِبۡرَٰهِيمُۖ
لَئِن لَّمۡ تَنتَهِ لَأَرۡجُمَنَّكَۖ وَٱهۡجُرۡنِي مَلِيّٗا ٤٦

---

1 「大そうな正直者」については、婦人章 63 の訳注を参照。

2 イブラーヒーム*とその父親、及びその民のやり取りについては、家畜章 74-82、預言者*たち章 52-70、詩人たち章 70－89、整列者章 85-98、金の装飾章 26-28 も参照。

3 つまり、偶像のこと（アッ＝サァディー494 頁参照）。

4 「（石で）打ち殺す」については、フード*章 91 内の同表現の訳注も参照。

47. 彼（イブラーヒーム*）は言った。「あなたに平安あれ[1]。私は我が主*に対し、あなたのために、（罪の）お赦しを乞いましょう[2]。本当にかれは（祈れば聞き入れて下さる）、私に懇切なお方なのですから。

قَالَ سَلَٰمٌ عَلَيۡكَۖ سَأَسۡتَغۡفِرُ لَكَ رَبِّيٓۖ إِنَّهُۥ
كَانَ بِي حَفِيّٗا ٤٧

48. そして私は、あなた方と、あなた方がアッラー*をよそに祈っているものから遠ざかり、我が主*に祈りましょう。私は、我が主*への祈りにおいて、（それが叶えられないような）不幸な者とはならないでしょう」。

وَأَعۡتَزِلُكُمۡ وَمَا تَدۡعُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ وَأَدۡعُواْ
رَبِّي عَسَىٰٓ أَلَّآ أَكُونَ بِدُعَآءِ رَبِّي شَقِيّٗا ٤٨

49. 彼（イブラーヒーム*）が、彼らと、彼らがアッラー*をよそに崇めているものから遠ざかった時、われら*は彼にイスハーク*と（イスハーク*の息子の）ヤァクーブ*を授けた。そして（その）いずれも、預言者*としたのだ。

فَلَمَّا ٱعۡتَزَلَهُمۡ وَمَا يَعۡبُدُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ وَهَبۡنَا
لَهُۥٓ إِسۡحَٰقَ وَيَعۡقُوبَۖ وَكُلّٗا جَعَلۡنَا نَبِيّٗا ٤٩

50. そしてわれら*は、われら*の慈悲の内から彼らに授け[3]、彼らに対する（人々の、）誉れ高く素晴らしい（賞賛の）言葉を与えた[4]。

وَوَهَبۡنَا لَهُم مِّن رَّحۡمَتِنَا وَجَعَلۡنَا لَهُمۡ لِسَانَ
صِدۡقٍ عَلِيّٗا ٥٠

51. （使徒*よ、）啓典（クルアーン*）の中で、ムーサー*について語るのだ。本当に彼は、精選された者[5]であり、使徒*であり預言者*であった。

وَٱذۡكُرۡ فِي ٱلۡكِتَٰبِ مُوسَىٰٓۚ إِنَّهُۥ كَانَ مُخۡلَصٗا
وَكَانَ رَسُولٗا نَّبِيّٗا ٥١

---

1 「私の方からは、父親であるあなたに害悪は及びません」という事（イブン・カスィール 5:236 参照）。

2 後に悔悟章 112-113、試問される女章 4 が下り、不信仰者*のために罪の赦しを乞うことは、禁じられた（前掲書、同頁参照）。

3 有益な知識、正しい行い*、預言者たちや義人（ぎじん）らを含む多くの子孫など、アッラー*が彼らにお授けになった全てのご慈悲のこと（アッ＝サァディー494 頁参照）。

4 アッラー*は、人々が公（おおや）けに、彼らに対する心からの賞賛を表明し、人々の心と言葉が彼らに対する賞賛と愛情で満たされるようにされた。そして彼らに対する賞賛は、世の終わりまで続くのである（前掲書、同頁参照）。

5 「精選された者」については、ユースフ*章 24「精選されたアッラー*の僕」の訳注も参照。

52. また、われら*は山の右側から彼に呼びかけ[1]、密やかに語りかけつつ、彼を近寄せた。

وَنَٰدَيۡنَٰهُ مِن جَانِبِ ٱلطُّورِ ٱلۡأَيۡمَنِ وَقَرَّبۡنَٰهُ
نَجِيّٗا ٥٢

53. そしてわれら*は彼に、われら*の慈悲ゆえ、預言者*であるその兄ハールーン*を授けた[2]。

وَوَهَبۡنَا لَهُۥ مِن رَّحۡمَتِنَآ أَخَاهُ هَٰرُونَ نَبِيّٗا ٥٣

54. （使徒*よ、）啓典（クルアーン*）の中で、イスマーイール*について語るのだ。本当に彼は、その約束に忠実[3]で、使徒*であり預言者*であった。

وَٱذۡكُرۡ فِي ٱلۡكِتَٰبِ إِسۡمَٰعِيلَۚ إِنَّهُۥ كَانَ صَادِقَ
ٱلۡوَعۡدِ وَكَانَ رَسُولٗا نَّبِيّٗا ٥٤

55. そして彼は、自分の家族に礼拝と浄財*を命じ、その主*の御許で喜ばれる者であった。

وَكَانَ يَأۡمُرُ أَهۡلَهُۥ بِٱلصَّلَوٰةِ وَٱلزَّكَوٰةِ وَكَانَ عِندَ
رَبِّهِۦ مَرۡضِيّٗا ٥٥

56. （使徒*よ、）啓典（クルアーン*）の中で、イドリース*について語るのだ。本当に彼は、大そうな正直者[4]であり、預言者*であった。

وَٱذۡكُرۡ فِي ٱلۡكِتَٰبِ إِدۡرِيسَۚ إِنَّهُۥ كَانَ صِدِّيقٗا نَّبِيّٗا ٥٦

57. そしてわれら*は彼を、高い場所へと上げてやった。

وَرَفَعۡنَٰهُ مَكَانًا عَلِيًّا ٥٧

58. （われら*があなたに語って聞かせた、）それらの者たちは、アッラー*が恩恵をお授けになった預言者*たちである。（彼らは）アーダム*の子孫、われら*がヌーフ*と共に運んだ者、イブラーヒーム*とイスラーイール（ヤアクーブ*）の子孫、われら*が導き、選び抜いた内の者たち。慈悲あまねき*お方

أُوْلَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ أَنۡعَمَ ٱللَّهُ عَلَيۡهِم مِّنَ ٱلنَّبِيِّـۧنَ مِن
ذُرِّيَّةِ ءَادَمَ وَمِمَّنۡ حَمَلۡنَا مَعَ نُوحٖ وَمِن ذُرِّيَّةِ
إِبۡرَٰهِيمَ وَإِسۡرَٰٓءِيلَ وَمِمَّنۡ هَدَيۡنَا وَٱجۡتَبَيۡنَآۚ إِذَا
تُتۡلَىٰ عَلَيۡهِمۡ ءَايَٰتُ ٱلرَّحۡمَٰنِ خَرُّواْۤ سُجَّدٗاۤ
وَبُكِيّٗا۩ ٥٨

---

1 ムーサー*はマドゥヤン*からエジプトに向かう途中、山の傍（かたわ）らにあった、ムーサー*から見て右側の木から呼びかけられたという（アル＝クルトゥビー11:114 参照）。この時の様子については、ター・ハー章 9-37、蟻章 8、物語章 29-35 も参照。

2 このことの詳細については、ター・ハー章 29-32、詩人たち章 12-13、物語章 34-35 を参照。

3 この「約束」は、アッラー*とのものも、人間とのものも、いずれをも含む。彼は自分自身を犠牲として捧げるかどうか、という究極的な状況（整列者章 102 参照）においてさえも、自分の約束を全うした（アッ＝サァディー496 頁参照）。

4 「大そうな正直者」については、婦人章 63 の訳注を参照。

（アッラー*）の御徴[1]が誦み聞かせられれば、彼らはサジダ*し、涙しつつ、崩れ落ちたのだ（読誦のサジダ*）。

59. こうして彼らの後、礼拝を放棄し、欲望を追い求めた愚かな後継者たちが、後を継いだ。ならば彼らはやがて、悪事[2]に直面するであろう。

۞فَخَلَفَ مِنۢ بَعۡدِهِمۡ خَلۡفٌ أَضَاعُواْ ٱلصَّلَوٰةَ وَٱتَّبَعُواْ ٱلشَّهَوَٰتِۖ فَسَوۡفَ يَلۡقَوۡنَ غَيًّا ٥٩

60. 但し、悔悟し、信仰して正しい行い*を行う者、それらの者たちは天国に入り、少しも不正*を受けることはない。

إِلَّا مَن تَابَ وَءَامَنَ وَعَمِلَ صَٰلِحٗا فَأُوْلَٰٓئِكَ يَدۡخُلُونَ ٱلۡجَنَّةَ وَلَا يُظۡلَمُونَ شَيۡـٔٗا ٦٠

61. （彼らは、）慈悲あまねき*お方（アッラー*）がその僕たちに約束された、まだ見ぬ永久の楽園[3]に（入る）。本当にかれのお約束は、実現することになっているのだ。

جَنَّٰتِ عَدۡنٍ ٱلَّتِي وَعَدَ ٱلرَّحۡمَٰنُ عِبَادَهُۥ بِٱلۡغَيۡبِۚ إِنَّهُۥ كَانَ وَعۡدُهُۥ مَأۡتِيّٗا ٦١

62. 彼らはそこで、いかなる戯言を耳にすることもない。ただ、「（あなた方に）平安を[4]」（という挨拶を聞く）。そして彼らにはそこで朝夕[5]、（いつでも望むだけの）自分たちの糧があるのだ。

لَّا يَسۡمَعُونَ فِيهَا لَغۡوًا إِلَّا سَلَٰمٗاۖ وَلَهُمۡ رِزۡقُهُمۡ فِيهَا بُكۡرَةٗ وَعَشِيّٗا ٦٢

63. その天国は、われら*が、われら*の僕たちの内、敬虔*だった者に引き継がせる[6]もの。

تِلۡكَ ٱلۡجَنَّةُ ٱلَّتِي نُورِثُ مِنۡ عِبَادِنَا مَن كَانَ تَقِيّٗا ٦٣

---

1 明白な証拠を含む、アッラー*の御言葉のこと（イブン・カスィール 5:242 参照）。

2 この「悪事」には、「損失」「地獄の奥底にある谷の名前」といった解釈もある（前掲書 5:245 参照）。

3 「永久の楽園」については、悔悟章 72 の訳注を参照。

4 「あなた方に平安を」については、雷鳴章 24 の訳注も参照。

5 解釈学者の一般的な説として、天国は常に光で包まれており、夜が存在しない。ただ彼らは昼の始まりと終わりに相当する時間帯に、食事を頂くのだという。また、天国の昼と夜は、垂れ幕の上げ下げによって分かるのだ、という説などもある（アル＝バガウィー3:241 参照）。

6 天国に入れることが、「引き継がせる」と表現されていることの理由としては、「あたかも相続人に遺産を取っておくように、アッラー*が彼らのために、天国を取って置かれるため」「もしアッラー*に従っていれば、自分のものであった天国の権利を、別の敬虔な*者たちへと移転する様子が、相続にたとえられているため」などといった説がある（アッ＝ラーズィー7:553 参照）。

64. そして（ジブリール*よ、使徒*ムハンマド*にこう言うのだ、）「私たち（天使*）は、あなたの主*のご命令によらずしては、（天から地に）降臨することがない。かれにこそ、私たちの前にあるものと、後ろにあるもの、そしてその間にあるものが属する[1]のだ。そしてあなたの主*はもとより、忘れたりするお方ではない。[2]

وَمَا نَتَنَزَّلُ إِلَّا بِأَمۡرِ رَبِّكَۖ لَهُۥ مَا بَيۡنَ أَيۡدِينَا
وَمَا خَلۡفَنَا وَمَا بَيۡنَ ذَٰلِكَۚ وَمَا كَانَ رَبُّكَ نَسِيّٗا ٦٤

65. （かれは、）諸天と大地とその間にあるものの主。ならば、かれを崇拝*し、かれへの崇拝*に忍耐*せよ。一体あなた[3]は、かれに似たものを知っているというのか？[4]」

رَّبُّ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ وَمَا بَيۡنَهُمَا فَٱعۡبُدۡهُ
وَٱصۡطَبِرۡ لِعِبَٰدَتِهِۦۚ هَلۡ تَعۡلَمُ لَهُۥ سَمِيّٗا ٦٥

66. （不信仰な）人間は言う。「一体、私が死んだら、やがて生きて（墓から）出されるというのか？」

وَيَقُولُ ٱلۡإِنسَٰنُ أَءِذَا مَا مِتُّ لَسَوۡفَ أُخۡرَجُ
حَيًّا ٦٦

67. 一体、その人間は、存在してはいなかった自分自身を、われら*が以前、創造したことを覚えていないのか？

أَوَلَا يَذۡكُرُ ٱلۡإِنسَٰنُ أَنَّا خَلَقۡنَٰهُ مِن قَبۡلُ
وَلَمۡ يَكُ شَيۡـٔٗا ٦٧

68. （使徒*よ、）あなたの主*にかけて、われら*は必ずや彼らとシャイターン*たちを召集し、それから彼らを跪いた状態[5]のまま、地獄の周りにきっと連れて来よう。

فَوَرَبِّكَ لَنَحۡشُرَنَّهُمۡ وَٱلشَّيَٰطِينَ ثُمَّ
لَنُحۡضِرَنَّهُمۡ حَوۡلَ جَهَنَّمَ جِثِيّٗا ٦٨

---

1 つまりアッラー*にこそ、未来における来世のことも、過去における現世のことも、またその中間にあることなど、全ての時間と場所における命令が属するということ（ムヤッサル309 頁参照）。

2 このアーヤ*は、預言者*ムハンマド*がジブリール*に、「なぜ、今あなたが私たちを訪れるよりも沢山、私たちのもとを訪れないのか？」と尋ねたことに関し、下ったとされる（アル＝ブハーリー4731 参照）。

3 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。以下、同様の表現の際にも、同訳注を参照。

4 相談章 11 も参照。

5 彼らはその日、恐怖により立ち上がることが出来ないのだという（ムヤッサル 310 頁参照）。

69. それから、われら*は必(かなら)ずや、慈悲(じひ)あまねき*お方（アッラー*）に対して最も反抗的な者を、各々の集団から引き抜いて（真っ先に懲罰(ちょうばつ)にかけて）やろう。

ثُمَّ لَنَنزِعَنَّ مِن كُلِّ شِيعَةٍ أَيُّهُمْ أَشَدُّ عَلَى
ٱلرَّحْمَٰنِ عِتِيًّا ﴿٦٩﴾

70. そして本当にわれら*は、そこ（地獄(じごく)）に入って炙(あぶ)られるに最も相応(ふさわ)しい者たちを最もよく知っているのだ。

ثُمَّ لَنَحْنُ أَعْلَمُ بِٱلَّذِينَ هُمْ أَوْلَىٰ بِهَا صِلِيًّا ﴿٧٠﴾

71. また、あなた方の内で、そこにやって来ない者はいない[1]。それはもとより、あなたの主(しゅ)*にとって、定められた絶対（に起きること）なのだ。

وَإِن مِّنكُمْ إِلَّا وَارِدُهَا ۚ كَانَ عَلَىٰ رَبِّكَ حَتْمًا
مَّقْضِيًّا ﴿٧١﴾

72. それからわれら*は、敬虔(けいけん)*な者たちを救い出し、不正*者たちをその中に跪(ひざまず)いた状態で置(お)き去(ざ)りにする。

ثُمَّ نُنَجِّى ٱلَّذِينَ ٱتَّقَوا۟ وَّنَذَرُ ٱلظَّٰلِمِينَ
فِيهَا جِثِيًّا ﴿٧٢﴾

73. また、われら*の明白な御徴(みしるし)[2]が彼らに読誦(どくしょう)されれば、不信仰に陥(おちい)った者*たちは信仰する者たちに、（こう）言った。「二つの集団のいずれが、住居がより素晴(すば)らしく、会合の場がより華々(はなばな)しいのか？」[3]

وَإِذَا تُتْلَىٰ عَلَيْهِمْ ءَايَٰتُنَا بَيِّنَٰتٍ قَالَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟
لِلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ أَىُّ ٱلْفَرِيقَيْنِ خَيْرٌ مَّقَامًا
وَأَحْسَنُ نَدِيًّا ﴿٧٣﴾

74. 一体、われら*は彼ら以前、（彼らより）家財も容色(ようしょく)も上回る、どれだけの世代を滅(ほろ)ぼしてきたであろうか。

وَكَمْ أَهْلَكْنَا قَبْلَهُم مِّن قَرْنٍ هُمْ أَحْسَنُ
أَثَٰثًا وَرِءْيًا ﴿٧٤﴾

---

1 このアーヤ*の解釈には、以下のような諸説がある。①全ての者がそこにやって来るが、その後に信仰者だけが救われる。②実際に全ての者が地獄の中に入るが、信仰者にとって、その火は涼（すず）しく、無事なものとなる。③これは、地獄の上に架（か）けられた橋（鉄章 12 とその訳注を参照）のこと。信仰者ではなかった者は、そこから地獄におちてしまう（アッ＝サァディー498 頁参照）。

2 クルアーン*のアーヤ*のこと（アル＝クルトゥビー11:141 参照）。

3 裕福なクライシュ族*の不信仰者*らは、貧しいムスリム*たちに向かって、もし自分たちの教えが間違っているのなら、なぜ自分たちは財産や仲間においてムスリム*たちより優っているのか、と主張した（アル＝クルトゥビー11:141 参照）。家畜章 53 と砂丘章 11、およびその訳注も参照。

75. 言ってやれ。「（真理に従わず）迷いの中にある者、そのような者には慈悲あまねき*お方（アッラー*）が、猶予を伸ばして下さるままにしておけ[1]。やがて（現世での）懲罰にせよ、その時（復活の日*）にせよ、彼らが警告されているものを目の当たりにすれば、彼らは誰がより立場が悪く、軍勢が弱い者であるかを知ることになるのだ」。

قُلْ مَن كَانَ فِي ٱلضَّلَٰلَةِ فَلْيَمْدُدْ لَهُ ٱلرَّحْمَٰنُ
مَدًّا ۚ حَتَّىٰٓ إِذَا رَأَوْا۟ مَا يُوعَدُونَ إِمَّا ٱلْعَذَابَ
وَإِمَّا ٱلسَّاعَةَ فَسَيَعْلَمُونَ مَنْ هُوَ شَرٌّ مَّكَانًا
وَأَضْعَفُ جُندًا ٧٥

76. また（言ってやれ）、「アッラー*は、導かれた者たちに、導きを上乗せされる[2]。そして永遠に残る正しい行い*[3]は、あなたの主*の御許で褒美がよりよく、結末もよりよいものなのだ」と。

وَيَزِيدُ ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ ٱهْتَدَوْا۟ هُدًى ۗ وَٱلْبَٰقِيَٰتُ
ٱلصَّٰلِحَٰتُ خَيْرٌ عِندَ رَبِّكَ ثَوَابًا وَخَيْرٌ
مَّرَدًّا ٧٦

77. （使徒*よ、）あなたは、われら*の御徴を否定し、「私は（来世でも）必ずや、（多くの）財産と子供を授かるのだ」などと言った者[4]を知っているか？

أَفَرَءَيْتَ ٱلَّذِى كَفَرَ بِـَٔايَٰتِنَا وَقَالَ
لَأُوتَيَنَّ مَالًا وَوَلَدًا ٧٧

78. 一体彼は、不可視の世界*を覗き見でもしたのか？　それとも、慈悲あまねき*お方（アッラー*）の御許で、（そのような）約束を結んだのだとでも？

أَطَّلَعَ ٱلْغَيْبَ أَمِ ٱتَّخَذَ عِندَ ٱلرَّحْمَٰنِ عَهْدًا ٧٨

79. 断じて（、そうでは）ない。われら*は彼の言うことを記録し、彼に懲罰をどんどん上乗せしてやろう。

كَلَّا ۚ سَنَكْتُبُ مَا يَقُولُ وَنَمُدُّ لَهُۥ مِنَ
ٱلْعَذَابِ مَدًّا ٧٩

---

1 イムラーン家章 178 も参照。

2 アッラー*の教えを信じ、それに則（のっと）って行うことで、信仰は新たなものになる（ムヤッサル 310 頁参照）。

3 「永遠に残る正しい行い」については、洞窟章 46 の訳注を参照。

4 これは、マッカ*の不信仰者*アル＝アース・ブン・ワーイル（アル＝ブハーリー2091 参照）。ただし、アーヤ*の意味は、彼と同様の全ての者に適用される（ムヤッサル 311 頁参照）。

80. そして、われら*が彼の言うものを引き継(つ)ぎ[1]、（復活の日*、）彼はわれら*のもとに（財産も子供もない状態で、）ただ独(ひと)りやって来るのだ。

وَنَرِثُهُۥ مَا يَقُولُ وَيَأۡتِينَا فَرۡدٗا ٨٠

81. また彼ら（シルク*の徒）は、それらが自分たちにとっての威信(いしん)となるべく、アッラー*をよそに神々[2]を設(もう)け（、拝(はい)し）た。

وَٱتَّخَذُواْ مِن دُونِ ٱللَّهِ ءَالِهَةٗ لِّيَكُونُواْ لَهُمۡ عِزّٗا ٨١

82. 断じて（、そうはなら）ない。それらは彼らの（自分たちに対する）崇拝(すうはい)*を否定し、彼らに対して（彼らが思っていたのとは）正反対のものとなるのだ。[3]

كَلَّاۚ سَيَكۡفُرُونَ بِعِبَادَتِهِمۡ وَيَكُونُونَ عَلَيۡهِمۡ ضِدًّا ٨٢

83. 一体（使徒(しと)*よ、）あなたは、われら*がシャイターン*たちを不信仰者*らへと遣(つか)わし（それで彼らを支配してしまっ）たのを、知らなかったのか？ 彼ら（シャイターン*）は、その者（不信仰者*）たちを、（アッラー*への服従(ふくじゅう)から反抗へと）煽(あお)り立てるのだ。

أَلَمۡ تَرَ أَنَّآ أَرۡسَلۡنَا ٱلشَّيَٰطِينَ عَلَى ٱلۡكَٰفِرِينَ تَؤُزُّهُمۡ أَزّٗا ٨٣

84. ならば、彼らに対して、（懲罰(ちょうばつ)が下るのを）急ぐのではない。われら*は彼らのために、数えに数え上げる[4]だけなのだから。

فَلَا تَعۡجَلۡ عَلَيۡهِمۡۖ إِنَّمَا نَعُدُّ لَهُمۡ عَدّٗا ٨٤

85. われら*が敬虔(けいけん)*な者たちを、使節(しせつ)団として慈悲(じひ)あまねき*お方（アッラー*）の御許(みもと)へと召集(しょうしゅう)する（復活の*）日。

يَوۡمَ نَحۡشُرُ ٱلۡمُتَّقِينَ إِلَى ٱلرَّحۡمَٰنِ وَفۡدٗا ٨٥

86. そしてわれらは罪悪(ざいあく)者たちを、喉(のど)がからからの状態で地獄(じごく)へと引っぱってくる。

وَنَسُوقُ ٱلۡمُجۡرِمِينَ إِلَىٰ جَهَنَّمَ وِرۡدٗا ٨٦

---

1 アッラー*は彼を滅ぼされ、彼が来世でも授かると主張していた財産と子供を、彼から奪われる（アッ＝タバリー7:5539 参照）。

2 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注参照のこと。

3 同様の情景が描写されているアーヤ*として、ユーヌス*章 28-29、物語章 63、蜘蛛章 25、創成者*章 13-14、砂丘章 6 なども参照。

4 彼らに与えられた寿命と、彼らの行いを数え上げる、ということ（ムヤッサル 311 頁参照）。

87. 彼らは（誰に対しても）、執り成し（の権利）を持っていない。しかし、慈悲あまねき*お方（アッラー*）の御許で約束をした者[1]は、別である。

لَّا يَمْلِكُونَ ٱلشَّفَٰعَةَ إِلَّا مَنِ ٱتَّخَذَ عِندَ ٱلرَّحْمَٰنِ عَهْدًا ٨٧

88. 彼らは言った。「慈悲あまねき*お方（アッラー*）は、御子をもうけられた」。

وَقَالُوا۟ ٱتَّخَذَ ٱلرَّحْمَٰنُ وَلَدًا ٨٨

89. あなた方は確かに、とんでもない悪事をしでかしたものだ。

لَّقَدْ جِئْتُمْ شَيْـًٔا إِدًّا ٨٩

90. 諸天は、それ[2]ゆえにばらばらに割れんばかり、また地面は裂けんばかり、そして山々は崩れ落ちんばかりである。

تَكَادُ ٱلسَّمَٰوَٰتُ يَتَفَطَّرْنَ مِنْهُ وَتَنشَقُّ ٱلْأَرْضُ وَتَخِرُّ ٱلْجِبَالُ هَدًّا ٩٠

91. 彼らが慈悲あまねき*お方（アッラー*）に、御子があるなどとしたために。

أَن دَعَوْا۟ لِلرَّحْمَٰنِ وَلَدًا ٩١

92. 慈悲あまねき*お方（アッラー*）が御子をもうけるなどということは、ありえないことなのだ。[3]

وَمَا يَنۢبَغِى لِلرَّحْمَٰنِ أَن يَتَّخِذَ وَلَدًا ٩٢

93. 諸天と大地にあるいかなる者[4]も、（復活の日*に）僕として[5]、慈悲あまねき*お方（アッラー*）の御許へと馳せ参じない者はいない。

إِن كُلُّ مَن فِى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ إِلَّآ ءَاتِى ٱلرَّحْمَٰنِ عَبْدًا ٩٣

94. かれは確かに、彼らを数え上げられ、彼らを勘定し尽くしておられる[6]。

لَّقَدْ أَحْصَىٰهُمْ وَعَدَّهُمْ عَدًّا ٩٤

---

1 アッラー*とその使徒*を信じ、従い、アッラー*がお喜びになった者のこと（アッ＝サァディー500頁参照）。ター・ハー章109も参照。

2 この「それ」は、アーヤ*88にあるような、とんでもない言葉のこと（ムヤッサル311頁参照）。

3 雌牛章116の訳注も参照。

4 天にいる天使*と、地にある人間とジン*のこととされる（前掲書、同頁参照）。

5 つまり、アッラー*に対して謙虚・従順（じゅうじゅん）で、かれのみが崇拝*に値するお方であるということを認める僕（しもべ）のこと（前掲書、同頁参照）。

6 アッラー*は、彼ら自身のことも、彼らの行いのことも、余すことなくご存知である（アッ＝サァディー501頁参照）。

95. そして彼ら全員は復活の日*、（財産も子供もなく）独(ひと)りで、かれの御許(みもと)に馳(は)せ参(さん)じるのだ。

وَكُلُّهُمْ ءَاتِيهِ يَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ فَرْدًا ٩٥

96. 本当に、信仰し、正しい行い*に励(はげ)む者たち、慈悲(じひ)あまねき*お方（アッラー*）は彼らに対し、愛情[1]をお授(さず)けになろう。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
سَيَجْعَلُ لَهُمُ ٱلرَّحْمَٰنُ وُدًّا ٩٦

97. （あなたに下った啓示(けいじ)を伝えよ、）というのもわれら*は、あなたがそれ（クルアーン*）によって敬虔(けいけん)*な者たちに吉報(きっぽう)を伝え、それによって激(はげ)しい反論(はんろん)の民に警告(けいこく)するべく、それをあなたの言葉（アラビア語）によって容易(ようい)なものとしたに外(ほか)ならないのだから。

فَإِنَّمَا يَسَّرْنَٰهُ بِلِسَانِكَ لِتُبَشِّرَ بِهِ
ٱلْمُتَّقِينَ وَتُنذِرَ بِهِۦ قَوْمًا لُّدًّا ٩٧

98. そしてわれら*は彼ら以前に、一体どれだけ多くの世代を滅(ほろ)ぼしたことか。一体あなたは彼らの内の一人でも、目にするのか？　あるいは、彼らの囁(ささや)き声を耳にするとでも？[2]

وَكَمْ أَهْلَكْنَا قَبْلَهُم مِّن قَرْنٍ هَلْ تُحِسُّ
مِنْهُم مِّنْ أَحَدٍ أَوْ تَسْمَعُ لَهُمْ رِكْزًۢا ٩٨

---

1 アッラー*からの寵愛（ちょうあい）と、信仰者たちからの愛情（アル＝バガウィー3:253参照）。

2 つまり彼らは、跡形（あとかた）もなく全滅してしまったということ（前掲書、同頁参照）。

第20章
ター・ハー章[1]

سُورَةُ طه

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. ター・ハー[2]。

طه ١

2. （使徒*よ、）われら*があなたにクルアーン*を下したのは、あなたが不幸になるためではない[3]。

مَآ أَنزَلۡنَا عَلَيۡكَ ٱلۡقُرۡءَانَ لِتَشۡقَىٰٓ ٢

3. しかし、（それをあなたに下したのは、アッラー*の懲罰を）恐れる者への、教訓とするため。

إِلَّا تَذۡكِرَةٗ لِّمَن يَخۡشَىٰ ٣

4. 大地と、高き諸天をお創りになったお方から、次々と下されたものとして。

تَنزِيلٗا مِّمَّنۡ خَلَقَ ٱلۡأَرۡضَ وَٱلسَّمَٰوَٰتِ ٱلۡعُلَى ٤

5. （かれは）慈悲あまねき*お方、まさに御座に上がられた[4]。

ٱلرَّحۡمَٰنُ عَلَى ٱلۡعَرۡشِ ٱسۡتَوَىٰ ٥

6. かれにこそ、諸天にあるもの、地にあるもの、その間にあるもの、土の下にあるものは属する。

لَهُۥ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلۡأَرۡضِ وَمَا
بَيۡنَهُمَا وَمَا تَحۡتَ ٱلثَّرَىٰ ٦

7. たとえあなたが言葉を露わにしても（隠しても）、本当にかれは秘密と、更に秘められたことをご存知である。

وَإِن تَجۡهَرۡ بِٱلۡقَوۡلِ فَإِنَّهُۥ يَعۡلَمُ ٱلسِّرَّ
وَأَخۡفَى ٧

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の大半を、ムーサー*についての話が占めている。ムーサー*が啓示を受け、フィルアウン*とその民に遣わされ、彼らをアッラー*の教えに招き、頑迷（がんめい）なイスラーイールの子ら*に四苦八苦する様子が描かれる一方、タウヒード*、預言者*性、復活といった基本的な信仰教義を始め、人々への教訓と、マッカ*後期の苦境の中にあった預言者*ムハンマド*への慰（なぐさ）めといった要素が、随所に現れている。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 啓示と、様々な義務や制約を含むその教えの目的は、人を不幸にさせることではない。慈悲深いアッラー*はそれを、幸福・成功・勝利への導きとされ、この上なく易（やさ）しいものとされ、心身への栄養・身体の休息とされたのである（アッ＝サァディー501頁参照）。

4 「（アッラー*が）御座に上がられる」については、高壁章54の訳注を参照。

8. アッラー*は、かれ以外には崇拝*すべきもののないお方。かれにこそ、美名は属する。

ٱللَّهُ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ ۖ لَهُ ٱلْأَسْمَآءُ ٱلْحُسْنَىٰ ﴿٨﴾

9. 一体、あなたのもとにムーサー*の話は届いたか？

وَهَلْ أَتَىٰكَ حَدِيثُ مُوسَىٰٓ ﴿٩﴾

10. 彼が火を目にし、自分の家族に（こう）言った時。「待っていなさい。まさに私は、火を見つけたのだ。私はそこからあなた方に、火種を持って来るだろう。あるいは火のもとに、（道の）案内人を見つけるかもしれない」。[1]

إِذْ رَءَا نَارًا فَقَالَ لِأَهْلِهِ ٱمْكُثُوٓا۟ إِنِّىٓ
ءَانَسْتُ نَارًا لَّعَلِّىٓ ءَاتِيكُم مِّنْهَا بِقَبَسٍ أَوْ أَجِدُ
عَلَى ٱلنَّارِ هُدًى ﴿١٠﴾

11. こうして彼がそこ[2]にやって来た時、（こう）呼びかけられた。「ムーサー*よ、

فَلَمَّآ أَتَىٰهَا نُودِىَ يَٰمُوسَىٰٓ ﴿١١﴾

12. 本当にわれこそは、あなたの主*である。ならば、（われとの語らいのため、）あなたの靴を脱ぐがよい。まさにあなたは、聖なる谷トゥワー[3]にいるのだから。

إِنِّىٓ أَنَا۠ رَبُّكَ فَٱخْلَعْ نَعْلَيْكَ ۖ إِنَّكَ بِٱلْوَادِ
ٱلْمُقَدَّسِ طُوًى ﴿١٢﴾

13. そしてわれは、あなたを（使徒*として）選んだのだ。ならば、（あなたに）啓示されることに、耳を傾けよ。

وَأَنَا ٱخْتَرْتُكَ فَٱسْتَمِعْ لِمَا يُوحَىٰٓ ﴿١٣﴾

14. 本当にわれこそは、われ以外に崇拝*すべきもののない、アッラー*。ゆえにわれを崇拝*し、われを唱念すべく礼拝を遵守*せよ。

إِنَّنِىٓ أَنَا ٱللَّهُ لَآ إِلَٰهَ إِلَّآ أَنَا۠ فَٱعْبُدْنِى وَأَقِمِ
ٱلصَّلَوٰةَ لِذِكْرِىٓ ﴿١٤﴾

---

1 これはムーサー*が、家族を連れてマドゥヤン*からエジプトへと向かう途中、道を迷ってしまった時の出来事であり、時節は冬の夜であったとされる（アル＝クルトゥビー11:171参照）。蟻章 7、物語章 29 も参照。こうして物質的な明かりと道案内を求めて火のもとへ向かったムーサー*は、そこで啓示という精神的な明かりと導きを見出すこととなる（アッ＝サァディー502 頁参照）。

2 ムーサー*が火と思ったものは、白い火に包まれた緑樹であったという（アル＝バガウィー3:256 参照）。

3 「トゥワー」という語の意味には諸説あるが、イブン・カスィール*はそれが谷の固有名詞であるという説を有力視している（5:266-267）。

15. 本当にその時（復活の日*）は、訪(おとず)れる。全ての者が自分の努力することによって報(むく)われるようにするため、われはそれ（が訪れる時）を、（われ自身にさえも）隠(かく)してしまわんばかりである。[1]

إِنَّ ٱلسَّاعَةَ ءَاتِيَةٌ أَكَادُ أُخۡفِيهَا لِتُجۡزَىٰ
كُلُّ نَفۡسِۭ بِمَا تَسۡعَىٰ ١٥

16. ならば、それを信じず、自分の欲望に従(したが)った者が、あなたをそれ[2]から阻(はば)むようであってはならない。そうすれば、あなたは破滅(はめつ)してしまう。

فَلَا يَصُدَّنَّكَ عَنۡهَا مَن لَّا يُؤۡمِنُ بِهَا وَٱتَّبَعَ
هَوَىٰهُ فَتَرۡدَىٰ ١٦

17. あなたの右手にあるそれは何か、ムーサー*よ？」

وَمَا تِلۡكَ بِيَمِينِكَ يَٰمُوسَىٰ ١٧

18. 彼は申し上げた。「これは、私の杖(つえ)です。私はこれに寄りかかったり、これで（木々の葉を）私の羊(ひつじ)の上に突(つつ)き落としたりします。また、私にはそれに、外(ほか)の使い道もあるのです」。

قَالَ هِيَ عَصَايَ أَتَوَكَّؤُاْ عَلَيۡهَا وَأَهُشُّ
بِهَا عَلَىٰ غَنَمِي وَلِيَ فِيهَا مَـَٔارِبُ أُخۡرَىٰ ١٨

19. かれは仰(おお)せられた。「それを投げるがよい、ムーサー*よ」。

قَالَ أَلۡقِهَا يَٰمُوسَىٰ ١٩

20. 彼はそれを投げた。すると、どうであろう、それは這(は)い回る大蛇(だいじゃ)となった（ので、彼は怖(こわ)がって逃げ出した）。

فَأَلۡقَىٰهَا فَإِذَا هِيَ حَيَّةٞ تَسۡعَىٰ ٢٠

21. かれは仰(おお)せられた。「それを掴(つか)め。そして怖(こわ)がるのではない。われら*はそれを、元の形に戻(もど)すのだから。

قَالَ خُذۡهَا وَلَا تَخَفۡۖ سَنُعِيدُهَا
سِيرَتَهَا ٱلۡأُولَىٰ ٢١

---

1 アル＝バガウィー*によれば、大半の解釈学者はこのアーヤ*を「アッラー*は、復活の日*の時をご自身にさえお隠しになりそうな程なのだから、創造物にとっては知る由もない」と解釈している。また、復活の日*の時が分からないからこそ、人はそれを常に恐れるようになるのである（3:258 参照）。

2 つまり復活の日*への信仰と、それへの準備のこと（ムヤッサル 313 頁参照）。

22. また、あなたの手を自分の脇に挟んでみよ。それはもう一つの御徴として、災い[1]もなしに、白くなって出てくる。

وَٱضۡمُمۡ يَدَكَ إِلَىٰ جَنَاحِكَ تَخۡرُجۡ بَيۡضَآءَ مِنۡ غَيۡرِ سُوٓءٍ ءَايَةً أُخۡرَىٰ ٢٢

23. （これらのことは、）われら*があなたに、われら*の最大の御徴[2]の内から、見せてやるためなのである。

لِنُرِيَكَ مِنۡ ءَايَٰتِنَا ٱلۡكُبۡرَى ٢٣

24. （ムーサー*よ、われへと招くべく、）フィルアウン*のもとへ行くのだ。実に彼は、（われへの反抗において）度を越してしまったのだから」。

ٱذۡهَبۡ إِلَىٰ فِرۡعَوۡنَ إِنَّهُۥ طَغَىٰ ٢٤

25. 彼は申し上げた。「我が主*よ、私の胸を広げ[3]、

قَالَ رَبِّ ٱشۡرَحۡ لِي صَدۡرِي ٢٥

26. 我が任務を、私のために容易にし、

وَيَسِّرۡ لِيٓ أَمۡرِي ٢٦

27. 私の舌のもつれ[4]を解いて下さい。

وَٱحۡلُلۡ عُقۡدَةٗ مِّن لِّسَانِي ٢٧

28. そうすれば、彼らは私の言葉を理解しましょう。

يَفۡقَهُواْ قَوۡلِي ٢٨

29. また私に、私の家族から、片腕をお授け下さい。

وَٱجۡعَل لِّي وَزِيرٗا مِّنۡ أَهۡلِي ٢٩

30. 我が兄、ハールーン*を。

هَٰرُونَ أَخِي ٣٠

---

1 この「災い」は、皮膚（ひふ）の病気などのことを指す（ムヤッサル 313 頁参照）。

2 この「御徴」とは、アッラー*の御力、その権威の偉大さ、ムーサー*が真の使徒*であることを証明する、最大の根拠のこと（前掲書、同頁参照）。

3 「胸を広げる」という訳をあてた原語は、字義的には「胸の柔らかい表面を切り開く」といった意味。それが転じて実際には、「何かを実行するにあたって、無気力さや迷いの気持ちを取り除くこと」のたとえに用いられる（イブン・アーシュール 16:210 参照）。ムーサー*は、強大な権力と軍勢を有するフィルアウン*に立ち向かうことになり、非常な恐怖を感じていた（アル＝バガウィー3:260 参照）し、預言者*となる前に誤って人を殺してしまったことの心配もあった（物語章 33 参照）。

4 ムーサー*には、舌足らずな所、あるいは口下手（くちべた）な所があったとされる（イブン・カスィール 5:282 参照）。詩人たち章 13、物語章 34 も参照。

31. 彼によって、私の背中[1]を強固にし、
ٱشۡدُدۡ بِهِۦٓ أَزۡرِي ٣١

32. 私の任務に彼を、協力させて下さい。[2]
وَأَشۡرِكۡهُ فِيٓ أَمۡرِي ٣٢

33. （それは、）私たちがあなたを沢山称え*、
كَيۡ نُسَبِّحَكَ كَثِيرٗا ٣٣

34. あなたをよく唱念するため。
وَنَذۡكُرَكَ كَثِيرًا ٣٤

35. 本当にあなたはもとより、私たちをご覧になっていたお方」。
إِنَّكَ كُنتَ بِنَا بَصِيرٗا ٣٥

36. かれ（アッラー*）は仰せられた。「あなたは、あなたの願いを確かに叶えられたぞ、ムーサー*よ」。
قَالَ قَدۡ أُوتِيتَ سُؤۡلَكَ يَٰمُوسَىٰ ٣٦

37. そしてわれら*は確かに、別の時にも、あなたに恵みを垂れてやったのだ。[3]
وَلَقَدۡ مَنَنَّا عَلَيۡكَ مَرَّةً أُخۡرَىٰٓ ٣٧

38. われら*があなたの母に、示されるもの[4]を示した時。
إِذۡ أَوۡحَيۡنَآ إِلَىٰٓ أُمِّكَ مَا يُوحَىٰٓ ٣٨

39. 「彼（生まれたばかりのムーサー*）を箱に入れて、それを海原[5]へと放り投げよ[6]。そして海原に、それを岸へと投げ出させよ。そうすればわが敵と、彼（ムーサー*）にとっての敵[7]が、それを手にするから」。また、
أَنِ ٱقۡذِفِيهِ فِي ٱلتَّابُوتِ فَٱقۡذِفِيهِ فِي ٱلۡيَمِّ فَلۡيُلۡقِهِ
ٱلۡيَمُّ بِٱلسَّاحِلِ يَأۡخُذۡهُ عَدُوّٞ لِّي وَعَدُوّٞ لَّهُۥۚ وَأَلۡقَيۡتُ
عَلَيۡكَ مَحَبَّةٗ مِّنِّي وَلِتُصۡنَعَ عَلَىٰ عَيۡنِيٓ ٣٩

---

1 「背中を強固にする」とは、背中が身体動作の中心であり、確固さの要（かなめ）であることが転じて、「力を強くする」という意味で用いられるアラビア語的表現（イブン・アーシュール 16:213 参照）。

2 ハールーン*は、ムーサー*よりも雄弁だった。物語章 34 も参照。

3 この「恵み」はムーサー*の出生後、彼が啓示を受けるまでに授かったもの（アブー・アッ＝スウード 6:14 参照）。次のアーヤ*からは、その過去の出来事が長い挿入（そうにゅう）節の形で、言及される。

4 このように「･･･もの」として、関係代名詞を用いて非特定の形で表現することは、その内容の重大さを示すアラビア語の修辞的表現の一つ（アッ＝シャンキーティー4:8 参照）。

5 この「海原」は、ナイル川のこと（ムヤッサル 314 頁参照）。

6 この出来事の背景については、雌牛章 49 の「男児は殺し･･･」の訳注を参照。ムーサー*の幼少時に起こった、アッラー*の彼に対する恩恵を示す諸々の出来事は、物語章 7-14 に詳しく描写されている。

7 この「敵」は、フィルアウン*のこと（ムヤッサル 314 頁参照）。

われはあなた（ムーサー*）に、わが御許からの愛情を授けた。そして、（それは）あなたが、わが眼差しの中で[1]育まれるためであったのだ。

40. あなた（ムーサー*）の姉が、（あなたの入った箱を追って）歩んで行き、（その箱を拾った者に、こう）言った時。「あなた方に、彼の世話をしてくれる者を、お教えしましょうか？」こうして、われら*はあなたを、あなたの母親へと返した。（それは）彼女が喜ぶ[2]ようにし、悲しまないようにするためであった。また、あなたは（過って、コプト）人を殺してしまった[3]けれど、われら*はあなたを苦悩から救ってやった。そしてわれら*は、あなたをまさに試練にかけたのだ。また、あなたは（殺されるのを怖れて逃げ、）マドゥヤン*の民のもとで数年過ごし、それから定め通り——ムーサー*よ——あなたはやって来たのだ[4]。

إِذۡ تَمۡشِيٓ أُخۡتُكَ فَتَقُولُ هَلۡ أَدُلُّكُمۡ عَلَىٰ مَن
يَكۡفُلُهُۥۖ فَرَجَعۡنَٰكَ إِلَىٰٓ أُمِّكَ كَيۡ تَقَرَّ عَيۡنُهَا
وَلَا تَحۡزَنَۚ وَقَتَلۡتَ نَفۡسٗا فَنَجَّيۡنَٰكَ مِنَ ٱلۡغَمِّ
وَفَتَنَّٰكَ فُتُونٗاۚ فَلَبِثۡتَ سِنِينَ فِيٓ أَهۡلِ مَدۡيَنَ
ثُمَّ جِئۡتَ عَلَىٰ قَدَرٖ يَٰمُوسَىٰ ٤٠

41. われは、われ自身の（教えの伝達の）ために、あなたを（これらの恩恵で）養成した[5]のである。

وَٱصۡطَنَعۡتُكَ لِنَفۡسِي ٤١

---

1 つまり、アッラー*の守護のもとで、ということ（ムヤッサル 314 頁参照）。

2 この「喜ぶ」という表現については、マルヤム*章 26 の訳注を参照。

3 これはムーサー*がある程度、成長してからの出来事（アル＝バガウィー3:262 参照）。詳しくは、物語章 15 を参照。

4 ムーサー*がエジプトからマドゥヤン*へと逃れ、それからまたエジプトへと戻って来るまでの出来事は、物語章 20-29 に詳しい。そしてアーヤ*37 からの、ムーサー*に対する過去のアッラー*の恩恵を示す話題がここで終わり、ここからはアーヤ*36 の続きが再開する。

5 つまりアッラー*は彼を、かれの教えを伝える者、かれの命じられ禁じられたことを守る者として、お選びになったのである（ムヤッサル 314 頁参照）。

42. あなた（ムーサー*）と、あなたの兄（ハールーン*）は、わが御徴[1]を携えて行くのだ。そして、われの唱念（を持続すること）において、気力を失ってはならない。

ٱذۡهَبۡ أَنتَ وَأَخُوكَ بِـَٔايَٰتِي وَلَا تَنِيَا فِي ذِكۡرِي ٤٢

43. （二人で、）フィルアウン*のもとに行け。実に彼は、（われへの反抗において）度を越してしまったのだから。

ٱذۡهَبَآ إِلَىٰ فِرۡعَوۡنَ إِنَّهُۥ طَغَىٰ ٤٣

44. そして、彼が教訓を得、（自分の主*を）恐れるよう、彼に柔らかい言葉で語りかけよ。

فَقُولَا لَهُۥ قَوۡلٗا لَّيِّنٗا لَّعَلَّهُۥ يَتَذَكَّرُ أَوۡ يَخۡشَىٰ ٤٤

45. 彼ら二人は、申し上げた。「我ら*が主よ、本当に私たちは、彼が私たちに対して早まったこと[2]をしたり、あるいは（真理に対して）高慢になったりすることを怖れます」。

قَالَا رَبَّنَآ إِنَّنَا نَخَافُ أَن يَفۡرُطَ عَلَيۡنَآ أَوۡ أَن يَطۡغَىٰ ٤٥

46. かれは仰せられた。「怖れるのではない。実にわれは、あなた方二人と共にあり、（あなた方のことを）聞き、見ているのだから」。

قَالَ لَا تَخَافَآۖ إِنَّنِي مَعَكُمَآ أَسۡمَعُ وَأَرَىٰ ٤٦

47. そして、あなた方二人は彼のもとへ行き、（こう）言うのだ。「本当に私たちは、あなたの主*の二人の使徒*なのです。ですから、イスラーイールの子ら*を私たちと共に自由にし[3]、彼らを苦しめないで下さい。私たちは確かに、あなたの主の御許からの御徴[4]と共に、あなたのもとへやって来たのですから。導きに従う者には、（現世と来世での）平安があります。

فَأۡتِيَاهُ فَقُولَآ إِنَّا رَسُولَا رَبِّكَ فَأَرۡسِلۡ مَعَنَا بَنِيٓ إِسۡرَٰٓءِيلَ وَلَا تُعَذِّبۡهُمۡۖ قَدۡ جِئۡنَٰكَ بِـَٔايَةٖ مِّن رَّبِّكَۖ وَٱلسَّلَٰمُ عَلَىٰ مَنِ ٱتَّبَعَ ٱلۡهُدَىٰٓ ٤٧

---

1 この「御徴」に関しては、雌牛章 92 の「明証」についての訳注を参照。

2 つまり、彼らを罰すること（ムヤッサル 314 頁参照）。

3 この「自由にする」については、高壁章 105 とその訳注も参照。

4 この「御徴」に関しては、アーヤ*42 の同語についての訳注を参照。

48. 本当に私たちには、（アッラー*の教えを）嘘呼ばわりし、（それから）背を向ける者には懲罰があると、確かに啓示されたのです」。

إِنَّا قَدْ أُوحِيَ إِلَيْنَآ أَنَّ ٱلْعَذَابَ عَلَىٰ مَن
كَذَّبَ وَتَوَلَّىٰ ﴿٤٨﴾

49. 彼（フィルアウン*）は言った。「では、あなた方二人の主*とは誰なのか、ムーサー*よ？」

قَالَ فَمَن رَّبُّكُمَا يَٰمُوسَىٰ ﴿٤٩﴾

50. 彼（ムーサー*）は言った。「我らが主*は、全てのものにその（相応しい）形をお授けになり、それから導かれた[1]お方です」。

قَالَ رَبُّنَا ٱلَّذِيٓ أَعْطَىٰ كُلَّ شَيْءٍ خَلْقَهُۥ ثُمَّ
هَدَىٰ ﴿٥٠﴾

51. 彼（フィルアウン*）は言った。「では、（不信仰の中にあった）昔の世代はどうなる？」

قَالَ فَمَا بَالُ ٱلْقُرُونِ ٱلْأُولَىٰ ﴿٥١﴾

52. 彼（ムーサー*）は言った。「その知識は、我が主*の御許、書[2]の中にあります。我が主*は間違えることも、忘れることもありません。

قَالَ عِلْمُهَا عِندَ رَبِّي فِي كِتَٰبٍ لَّا يَضِلُّ رَبِّي
وَلَا يَنسَى ﴿٥٢﴾

53. （かれは、）あなた方のために大地を平坦にされ、あなた方のためにそこに（多くの）道をお通しになり、天から（雨）水をお降らしになったお方」。そして、われら*はそれで、様々な種類の植物を出（し、生育）させる。

ٱلَّذِي جَعَلَ لَكُمُ ٱلْأَرْضَ مَهْدًا وَسَلَكَ لَكُمْ
فِيهَا سُبُلًا وَأَنزَلَ مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءً فَأَخْرَجْنَا
بِهِۦٓ أَزْوَٰجًا مِّن نَّبَاتٍ شَتَّىٰ ﴿٥٣﴾

54. （アッラー*がお恵みになったよき作物から、）食べ、（それで）あなた方の家畜を飼育するがよい。本当にその中にはまさしく、まともな理性の持ち主への御徴[3]があるのだ。

كُلُوا۟ وَٱرْعَوْا۟ أَنْعَٰمَكُمْ ۗ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَءَايَٰتٍ
لِّأُو۟لِي ٱلنُّهَىٰ ﴿٥٤﴾

---

1 アッラー*は全ての創造物を、飲食・生殖行為など、彼らを益するものへとお導きになった（アル＝バガウィー3:264 参照）。

2 「書」とは、守られし碑板*のこととされる（ムヤッサル 315 頁参照）。

3 この「御徴」は、アッラー*の御力、かれの唯一性*、かれのみを崇拝*することに関する証拠のこと（前掲書、同頁参照）。

55. われら*は、あなた方をそれ（大地）から創り、（死後には）その中へとあなた方を戻し、そして（復活の日*には）再び、そこからあなた方を出すのである。

۞ مِنْهَا خَلَقْنَٰكُمْ وَفِيهَا نُعِيدُكُمْ وَمِنْهَا
نُخْرِجُكُمْ تَارَةً أُخْرَىٰ ۝٥٥

56. われら*は確かに彼（フィルアウン*）に対し、われら*の御徴[1]を全て見せた。そして彼は（それらを）嘘とし、拒んだのだ。

وَلَقَدْ أَرَيْنَٰهُ ءَايَٰتِنَا كُلَّهَا فَكَذَّبَ وَأَبَىٰ ۝٥٦

57. 彼（フィルアウン*）は言った。「一体あなたは――ムーサー*よ――、あなたの魔術で私たちを、私たちの地から追い出すため、私たちのもとにやって来たのか？

قَالَ أَجِئْتَنَا لِتُخْرِجَنَا مِنْ أَرْضِنَا بِسِحْرِكَ
يَٰمُوسَىٰ ۝٥٧

58. それでは、私たちも必ずや、それと同様の魔術をあなたに披露しよう。そして私たちとあなたの間に、私たちも、あなたも違えることのない約束を、中ほどの場[2]に設けるのだ」。[3]

فَلَنَأْتِيَنَّكَ بِسِحْرٍ مِّثْلِهِۦ فَٱجْعَلْ بَيْنَنَا
وَبَيْنَكَ مَوْعِدًا لَّا نُخْلِفُهُۥ نَحْنُ وَلَآ أَنتَ مَكَانًا
سُوًى ۝٥٨

59. 彼（ムーサー*）は言った。「あなた方の約束（の日時）は、晴れ着の日[4]で、人々は朝[5]に集められます」。

قَالَ مَوْعِدُكُمْ يَوْمُ ٱلزِّينَةِ وَأَن يُحْشَرَ ٱلنَّاسُ
ضُحًى ۝٥٩

60. フィルアウン*は引き返し、自分の策略を練り上げてから、約束（の日）に現れた。

فَتَوَلَّىٰ فِرْعَوْنُ فَجَمَعَ كَيْدَهُۥ ثُمَّ أَتَىٰ ۝٦٠

---

1 この「御徴」に関しては、アーヤ*42 の同語についての訳注を参照。

2 町外れに住んでいる者たちでも問題なく来れるような、町の中心地のこと。あるいは、観衆の視界を阻（はば）むようなものがない、平坦な場所（イブン・アーシュール 16:246 参照）。

3 フィルアウン*が魔術師たちを集結させ、ムーサー*と魔術師たちに決戦させたことについては、高壁章 109-126、ユーヌス*章 79-82、詩人たち章 34-51 も参照。

4 人々が着飾る、祭日のこと（ムヤッサル 315 頁参照）。

5 ここで「朝」と訳した原語は「ドハー」、つまり朝、太陽が昇って暑くなり始める頃（イブン・アーシュール 16:246 参照）。

61. ムーサー*は、彼ら（魔術師たち）に言った。「あなた方の災難に（気を付けよ）。アッラー*に対して嘘をでっち上げてはならない。そうすれば、かれはあなた方を罰で根こそぎにしてしまおう。（アッラー*に）嘘をでっち上げる者は、確かに敗北するのだ」。

قَالَ لَهُم مُّوسَىٰ وَيۡلَكُمۡ لَا تَفۡتَرُواْ عَلَى ٱللَّهِ
كَذِبٗا فَيُسۡحِتَكُم بِعَذَابٖۖ وَقَدۡ خَابَ مَنِ
ٱفۡتَرَىٰ ٦١

62. すると彼らは、仲間内で自分たちの事について論議し、密かに密談した。

فَتَنَٰزَعُوٓاْ أَمۡرَهُم بَيۡنَهُمۡ وَأَسَرُّواْ ٱلنَّجۡوَىٰ ٦٢

63. 彼ら（魔術師たち）は言った。「実にこの二人（ムーサー*とハールーン*）は、まさしく魔術師である。彼ら二人はその魔術で、あなた方をあなた方の地から追い出し、あなた方の最善のやり方[1]を葬り去ろうとしているのだ。

قَالُوٓاْ إِنۡ هَٰذَٰنِ لَسَٰحِرَٰنِ يُرِيدَانِ أَن
يُخۡرِجَاكُم مِّنۡ أَرۡضِكُم بِسِحۡرِهِمَا وَيَذۡهَبَا
بِطَرِيقَتِكُمُ ٱلۡمُثۡلَىٰ ٦٣

64. ならば、あなた方の策略を練り上げ、それから一列になって行くのだ。そしてこの日、（相手に）勝った者は、確かに成功を収めたことになる」。

فَأَجۡمِعُواْ كَيۡدَكُمۡ ثُمَّ ٱئۡتُواْ صَفّٗاۚ وَقَدۡ أَفۡلَحَ ٱلۡيَوۡمَ
مَنِ ٱسۡتَعۡلَىٰ ٦٤

65. 彼ら（魔術師たち）は、言った。「ムーサーよ、あなた方が杖を投げるか、それとも私たちが最初に（自分たちが持っているものを）投げる者となるか？」

قَالُواْ يَٰمُوسَىٰٓ إِمَّآ أَن تُلۡقِيَ وَإِمَّآ أَن نَّكُونَ أَوَّلَ
مَنۡ أَلۡقَىٰ ٦٥

66. 彼（ムーサー*）は言った。「いや、あなた方が（先に）投げよ」。すると、彼らの縄と杖はどうであろうか、その魔術により、彼（ムーサー*）にはそれらが（大蛇と化して）這い回るように映った。

قَالَ بَلۡ أَلۡقُواْۖ فَإِذَا حِبَالُهُمۡ وَعِصِيُّهُمۡ يُخَيَّلُ
إِلَيۡهِ مِن سِحۡرِهِمۡ أَنَّهَا تَسۡعَىٰ ٦٦

---

1 「あなた方の最善のやり方」とは、彼らの魔術の手法のこと（ムヤッサル 315 頁参照）。「あなた方の貴人たち」「あなた方の宗教」といった解釈もある（アル＝バガウィー 3:266-267 参照）。

67. それでムーサー*は、自らの内に恐怖感を抱いた。

فَأَوْجَسَ فِي نَفْسِهِۦ خِيفَةً مُّوسَىٰ ٦٧

68. われら*は言った。「怖れるのではない。まさにあなたこそは、（彼らに対する）勝利者なのだから。

قُلْنَا لَا تَخَفْ إِنَّكَ أَنتَ ٱلْأَعْلَىٰ ٦٨

69. そして、あなたの右手にあるもの（杖）を投げよ。そうすれば、それは彼らの作ったもの[1]を、呑み込んでしまう。本当に彼らの作ったものは、魔術師の策略なのだ。そして魔術師はどこに行こうと、成功することなどはない」。

وَأَلْقِ مَا فِي يَمِينِكَ تَلْقَفْ مَا صَنَعُوٓاْۖ إِنَّمَا صَنَعُواْ
كَيْدُ سَٰحِرٖۖ وَلَا يُفْلِحُ ٱلسَّاحِرُ حَيْثُ أَتَىٰ ٦٩

70. （こうしてムーサー*は杖を投げ、それは幻の大蛇を呑み込んだ。）そして魔術師たちは、サジダ*しつつ崩れ落ちた[2]。彼らは言った。「私たちは、ハールーン*とムーサー*の主*を信じました」。

فَأُلْقِيَ ٱلسَّحَرَةُ سُجَّدٗا قَالُوٓاْ ءَامَنَّا بِرَبِّ هَٰرُونَ
وَمُوسَىٰ ٧٠

71. 彼（フィルアウン*）は言った。「私があなた方に許可を出す前に、あなた方は彼を信じた（のか）。本当に彼はまさしく、あなた方に魔術を教えた、あなた方の親玉なのだ。ならば私は必ずや、あなた方の手足を交互に切り落とし、あなた方をナツメヤシの木の幹に磔にしてやろう。そしてあなた方はきっと、私たち[3]のいずれが、より厳しく永い罰（の主）なのか、知ることになるのだ」。

قَالَ ءَامَنتُمْ لَهُۥ قَبْلَ أَنْ ءَاذَنَ لَكُمْۖ إِنَّهُۥ لَكَبِيرُكُمُ
ٱلَّذِي عَلَّمَكُمُ ٱلسِّحْرَۖ فَلَأُقَطِّعَنَّ أَيْدِيَكُمْ
وَأَرْجُلَكُم مِّنْ خِلَٰفٖ وَلَأُصَلِّبَنَّكُمْ فِي جُذُوعِ
ٱلنَّخْلِ وَلَتَعْلَمُنَّ أَيُّنَآ أَشَدُّ عَذَابٗا وَأَبْقَىٰ ٧١

72. 彼ら（魔術師たち）は言った。「私たちは決して、私たちのもとに到来した明証と、私たちを創成されたお方[4]より、あなたを重

قَالُواْ لَن نُّؤْثِرَكَ عَلَىٰ مَا جَآءَنَا مِنَ ٱلْبَيِّنَٰتِ
وَٱلَّذِي فَطَرَنَاۖ فَٱقْضِ مَآ أَنتَ قَاضٍۖ إِنَّمَا تَقْضِي
هَٰذِهِ ٱلْحَيَوٰةَ ٱلدُّنْيَآ ٧٢

---

1 魔術による幻の大蛇のこと（ムヤッサル 316 頁参照）。

2 高壁章 120 の訳注も参照。

3 「私たち」とは、フィルアウン*と、アッラー*のこと（前掲書、同頁参照）。

4 頻出名・用語集の「創成者*」の項も参照。

んじたりはしません。では、あなたのすることを、するがよいでしょう。あなたが（権限を有）するのは、この現世の生活だけのことなのですから。

إِنَّآ ءَامَنَّا بِرَبِّنَا لِيَغۡفِرَ لَنَا خَطَٰيَٰنَا وَمَآ أَكۡرَهۡتَنَا
عَلَيۡهِ مِنَ ٱلسِّحۡرِۗ وَٱللَّهُ خَيۡرٞ وَأَبۡقَىٰٓ ٧٣

73. 本当に私たちは、かれ（アッラー*）が私たちの過ちと、あなたが私たちに無理強いした魔術のことをお赦しになるべく、私たちの主*を信じました。そしてアッラー*は（あなたよりも）より善く、より永いお方[1]なのです」。[2]

إِنَّهُۥ مَن يَأۡتِ رَبَّهُۥ مُجۡرِمٗا فَإِنَّ لَهُۥ جَهَنَّمَ لَا يَمُوتُ
فِيهَا وَلَا يَحۡيَىٰ ٧٤

74. 本当に、自分の主*の御許に罪悪者（不信仰者*）として馳せ参じる者があれば、地獄は彼のためにこそある。彼はそこで（安らぐべく）死ぬことも、（楽しく）生きることもない。

وَمَن يَأۡتِهِۦ مُؤۡمِنٗا قَدۡ عَمِلَ ٱلصَّٰلِحَٰتِ فَأُوْلَٰٓئِكَ
لَهُمُ ٱلدَّرَجَٰتُ ٱلۡعُلَىٰ ٧٥

75. そしてかれの御許に、正しい行い*に励んだ信仰者としてやって来る者、それらの者たちにこそは（天国で）高い位がある。

جَنَّٰتُ عَدۡنٖ تَجۡرِي مِن تَحۡتِهَا ٱلۡأَنۡهَٰرُ خَٰلِدِينَ
فِيهَاۚ وَذَٰلِكَ جَزَآءُ مَن تَزَكَّىٰ ٧٦

76. その下から河川が流れる、永久の楽園が。彼らはそこに永遠に留まる。それが、自らを努めて清めた者[3]への褒美なのだ。

وَلَقَدۡ أَوۡحَيۡنَآ إِلَىٰ مُوسَىٰٓ أَنۡ أَسۡرِ بِعِبَادِي
فَٱضۡرِبۡ لَهُمۡ طَرِيقٗا فِي ٱلۡبَحۡرِ يَبَسٗا لَّا تَخَٰفُ

77. また、われら*は確かに、ムーサー*に（こう）啓示した[4]。「われら*の僕たち（イス

---

1 アッラー*は、かれに従う者に対し、フィルアウン*が彼に従う者に与えるよりも、善い褒美（ほうび）をお授けになる、またアッラー*は、かれに逆らう者に対し、フィルアウン*が彼に逆らう者に与えるよりも、長期間の懲罰をお与えになる（ムヤッサル 316 頁参照）。

2 高壁章 125-126、及びその訳注も参照。

3 「自らを清めた者」とは、自分自身を、汚れ・悪・シルク*から清め、アッラー*だけを崇拝*し、かれに従って逆らわず、シルク*を犯した状態ではなくして主*と拝謁（はいえつ）した者のこと（前掲書、同頁参照）。至高者章 14 の同語についての訳注も参照。

4 高壁章 127-135 にもあるように、この啓示の前、ムーサー*はエジプトに長期間滞在し、フィルアウン*とその民をアッラー*の教えへと招き続けている（イブン・カスィール 6:142 参照）。また、イスラーイールの子ら*がエジプトを脱出した時の描写（びょうしゃ）については、ユーヌス*章 90-92、詩人たち章 61-66、煙霧章 23-24 も参照。

ラーイールの子ら*）と共に、夜（エジプトを）旅立て。そして（追っ手が）追いつくことを怖(こわ)がらず、（溺(おぼ)れることも）恐れず、彼らのため、海に干上(ひあ)がった道を作ってやるのだ」。

دَرَكًا وَلَا تَخْشَىٰ ٧٧

78. こうしてフィルアウン*は、その軍勢(ぐんぜい)に彼らを追跡(ついせき)させた。そして海原(うなばら)から彼らを、彼らを覆(おお)ったものが覆(おお)った[1]。

فَأَتْبَعَهُمْ فِرْعَوْنُ بِجُنُودِهِۦ فَغَشِيَهُم مِّنَ ٱلْيَمِّ مَا غَشِيَهُمْ ٧٨

79. フィルアウン*はその民を迷わせたのであり、導(みちび)いたのではなかったのだ。

وَأَضَلَّ فِرْعَوْنُ قَوْمَهُۥ وَمَا هَدَىٰ ٧٩

80. イスラーイールの子ら*よ、われら*は確かにあなた方[2]を、あなた方の敵から救った。また山の右側であなた方と約束を交(か)わし[3]、あなた方にマンヌとウズラ[4]を下した。

يَٰبَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ قَدْ أَنجَيْنَٰكُم مِّنْ عَدُوِّكُمْ وَوَٰعَدْنَٰكُمْ جَانِبَ ٱلطُّورِ ٱلْأَيْمَنَ وَنَزَّلْنَا عَلَيْكُمُ ٱلْمَنَّ وَٱلسَّلْوَىٰ ٨٠

81. われら*があなた方に授(さず)けた善きものから、食べるがよい。そしてそれにおいて、放埒(ほうらつ)であってはならない[5]。そうすれば、あなた方にわが怒りが降(ふ)りかかろう。わが怒りが降(ふ)りかかる者は誰でも、確かに転落(てんらく)し（破滅(はめつ)し）た[6]のである。

كُلُوا۟ مِن طَيِّبَٰتِ مَا رَزَقْنَٰكُمْ وَلَا تَطْغَوْا۟ فِيهِ فَيَحِلَّ عَلَيْكُمْ غَضَبِى ۖ وَمَن يَحْلِلْ عَلَيْهِ غَضَبِى فَقَدْ هَوَىٰ ٨١

---

1 ムーサー*らが海を渡り終えたところで、その後を追って同じ道をやって来たフィルアウン*とその軍勢に海の水が襲いかかり、彼らは全滅した（アッ＝サァディー510 頁参照)。「覆ったものが覆った」という表現については、アーヤ*38 の訳注を参照。

2 ここでの「あなた方」については、雌牛章 49「あなた方」の訳注を参照。

3 ムーサー*に、トーラー*を啓示するという約束のこととされる。雌牛章 51、高壁章 142、本スーラ*のアーヤ*86 も参照（アッ＝シャンキーティー4:74 参照)。

4 「マンヌとウズラ」については、雌牛章 57 の訳注を参照。

5 具体的には、「不正*を犯してはならない」「恩恵をないがしろにしてはならない」「罪深いことにそれを費やしてはならない」「貯め込んではならない」といった解釈がある（アル＝バガウィー3:270 参照)。

6 「転落（ハワー)」という表現は、地獄の奥底への転落という意味も含み得る（アル＝クルトゥビー11:231 参照)。

82. 本当にわれは、悔悟し、信仰し、正しい行い*に励み、そして導かれた者に対し、実に赦し深い者なのである。

وَإِنِّي لَغَفَّارٌ لِّمَن تَابَ وَءَامَنَ وَعَمِلَ صَٰلِحًا ثُمَّ ٱهْتَدَىٰ ﴿٨٢﴾

83. （アッラー*は仰せられた。）「何があなたを、あなたの民から急がせたのか[1]、ムーサー*よ？」

۞ وَمَآ أَعْجَلَكَ عَن قَوْمِكَ يَٰمُوسَىٰ ﴿٨٣﴾

84. 彼（ムーサー*）は、申し上げた。「彼らは、私の後を追って来ている、あれらの者たちです。そして私は――我が主*よ――、あなたがお喜びになるべく、（彼らを置いて）あなたの御許へと急いだのです」。

قَالَ هُمْ أُوْلَآءِ عَلَىٰٓ أَثَرِي وَعَجِلْتُ إِلَيْكَ رَبِّ لِتَرْضَىٰ ﴿٨٤﴾

85. かれは仰せられた。「というのも実にわれら*は、あなた（の民との離別）の後、確かにあなたの民を試みたのだ。そしてサーミリーが彼らを、迷わせたのである」。[2]

قَالَ فَإِنَّا قَدْ فَتَنَّا قَوْمَكَ مِنۢ بَعْدِكَ وَأَضَلَّهُمُ ٱلسَّامِرِيُّ ﴿٨٥﴾

86. ムーサー*は怒り、悲しみつつ、自分の民のもとに戻った。彼は言った。「我が民よ、一体あなた方の主*は、あなた方に、善きお約束[3]を約束されたのではなかったのか？ 一体、（約束の）その期間が、あなた方に長引い（て待ち切れなくなっ）たというのか？ それともあなた方は、あなた方の主*からのお怒りが自分たちに降りかかることを望み、それで私との約束を破ったのか？」

فَرَجَعَ مُوسَىٰٓ إِلَىٰ قَوْمِهِۦ غَضْبَٰنَ أَسِفًاۚ قَالَ يَٰقَوْمِ أَلَمْ يَعِدْكُمْ رَبُّكُمْ وَعْدًا حَسَنًاۚ أَفَطَالَ عَلَيْكُمُ ٱلْعَهْدُ أَمْ أَرَدتُّمْ أَن يَحِلَّ عَلَيْكُمْ غَضَبٌ مِّن رَّبِّكُمْ فَأَخْلَفْتُم مَّوْعِدِي ﴿٨٦﴾

---

1 人々を後にして、アッラー*との約束のために山へと急いだ時のことを指す（ムヤッサル317頁参照）。高壁章142以降も参照。

2 「サーミリー」が誰かについては、「牛を崇拝*する民の出身の男」「ムーサー*の隣人であり、彼を信じたコプト人」など、諸説ある（アッ＝シャンキーティー4:78 参照）。彼は、ムーサー*がトーラー*を受け取るために民を離れていた時（高壁章143-145 参照）、イスラーイールの子ら*の試練の原因となった（高壁章148-153、イブン・カスィール5:310 参照）。

3 「善きお約束」とは、トーラー*の啓示のこと（ムヤッサル317頁参照）。

87. 彼らは言った。「私たちは自分たちの選択で、あなたとの約束を破(やぶ)ったわけではない。しかし私たちは（フィルアウン*の）民の宝飾(ほうしょく)品の内から、重い荷物を背負わされたのであり、それを（サーミリーの命令通り、火をつけた穴の中に）放り込んだのだ[1]。そしてサーミリーも同じように、放り投げた[2]」。

قَالُوا۟ مَآ أَخْلَفْنَا مَوْعِدَكَ بِمَلْكِنَا وَلَـٰكِنَّا
حُمِّلْنَآ أَوْزَارًا مِّن زِينَةِ ٱلْقَوْمِ فَقَذَفْنَـٰهَا
فَكَذَٰلِكَ أَلْقَى ٱلسَّامِرِىُّ ٨٧

88. こうして彼（サーミリー）は彼らに、鳴き声を有する、実体のある仔牛(こうし)を（それらの黄金から作って）出した。そして彼ら[3]は、言ったのだ。「これは、あなた方の神[4]であり、ムーサー*の神である。そして彼（ムーサー*）は、（仔牛(こうし)のことを）忘れてしまった[5]のだ」。

فَأَخْرَجَ لَهُمْ عِجْلًا جَسَدًا لَّهُۥ خُوَارٌ فَقَالُوا۟
هَـٰذَآ إِلَـٰهُكُمْ وَإِلَـٰهُ مُوسَىٰ فَنَسِىَ ٨٨

89. 一体彼らは、それ（仔牛(こうし)）が彼らに言葉も返さなければ、彼らに対して害(がい)も益(えき)も有してはいない[6]のが、分からないのか？

أَفَلَا يَرَوْنَ أَلَّا يَرْجِعُ إِلَيْهِمْ قَوْلًا وَلَا
يَمْلِكُ لَهُمْ ضَرًّا وَلَا نَفْعًا ٨٩

90. （ムーサー*の帰還(きかん)）以前、ハールーン*は彼らに対し、確かに（こう）言った。「我が民よ、あなた方はまさしく、それ（仔牛(こうし)）

وَلَقَدْ قَالَ لَهُمْ هَـٰرُونُ مِن قَبْلُ يَـٰقَوْمِ إِنَّمَا
فُتِنتُم بِهِۦ ۖ وَإِنَّ رَبَّكُمُ ٱلرَّحْمَـٰنُ فَٱتَّبِعُونِى
وَأَطِيعُوٓا۟ أَمْرِى ٩٠

---

1 一説に、イスラーイールの子ら*はエジプトを出る時、コプト人たちから沢山の宝飾品を借りて来ており、そのことについて罪悪感を感じていた（アッ＝サァディー511 頁参照）。あるいは、それらはフィルアウン*とその軍勢が溺れた時、彼らから奪った物であった。いずれにせよ、その財産、または戦利品*は、彼らにとって非合法なものであった（アル＝クルトゥビー11:235 参照）。

2 サーミリーの放り投げた物については、アーヤ*96 を参照。

3 この「彼ら」とは、イスラーイールの子ら*の内、試練に負けてしまった者たち（ムヤッサル 318 頁参照）。

4 「神」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

5 つまり、「ムーサー*は、自分の神をここに忘れて、探しに行ってしまった」、あるいは「それがあなた方の神であると言うのを、忘れてしまった」（イブン・カスィール 5:311 参照）。

6 「害も益も備えてはいない」については、ユーヌス*章 106 の訳注を参照。

で試されている。そして本当に、あなた方の主*は慈悲あまねき*お方。ならば私に従い、私の命令に服すのだ」。

91. 彼らは言った。「私たちは、ムーサー*が私たちの所に戻って来るまで、それ（仔牛）に崇め仕えるのを決して止めないぞ」。

قَالُواْ لَن نَّبۡرَحَ عَلَيۡهِ عَٰكِفِينَ حَتَّىٰ يَرۡجِعَ
إِلَيۡنَا مُوسَىٰ ٩١

92. 彼（ムーサー*）は言った。「ハールーン*よ、彼らが迷ったのを目にした時、あなたを引き止めたものは何なのか、

قَالَ يَٰهَٰرُونُ مَا مَنَعَكَ إِذۡ رَأَيۡتَهُمۡ ضَلُّوٓاْ ٩٢

93. あなたが私に従うことから（引き止めたのは）？ 一体、あなたは私の命令に背いたのか？[1]」

أَلَّا تَتَّبِعَنِۖ أَفَعَصَيۡتَ أَمۡرِي ٩٣

94. 彼（ハールーン*）は言った。「我が母の息子[2]よ、私のあごひげも、頭（髪）も、掴まないでくれ。本当に私は、（もし私が彼らを放ったらかしにて、あなたを追っかけていたら、）『あなたはイスラーイールの子ら*を分裂させ、私の言いつけも守らなかった』とあなたが言うことを、恐れていたのだ」。[3]

قَالَ يَبۡنَؤُمَّ لَا تَأۡخُذۡ بِلِحۡيَتِي وَلَا بِرَأۡسِيٓۖ إِنِّي
خَشِيتُ أَن تَقُولَ فَرَّقۡتَ بَيۡنَ بَنِيٓ إِسۡرَٰٓءِيلَ
وَلَمۡ تَرۡقُبۡ قَوۡلِي ٩٤

95. 彼（ムーサー*）は言った。「では、あなたの言い分は何なのだ、サーミリーよ？」

قَالَ فَمَا خَطۡبُكَ يَٰسَٰمِرِيُّ ٩٥

---

1 ムーサー*は残した民のことを、高壁章 142 にあるような言葉と共に、ハールーン*に委任していた（ムヤッサル 318 頁参照）。また、このアーヤ*と同じ場面を描写している、高壁章 150-151 も参照。

2 「我が母の息子」という表現に関しては、高壁章 150 の訳注を参照。

3 高壁章 150 には、このアーヤ*で示されているのとは別のハールーン*の言い訳と、それに対するムーサー*の反応が描写されている。また、イスラーイールの子ら*のこの罪が招いた結果については、雌牛章 54 とその訳注を、預言者*・使徒*の無謬（むびゅう）性については、同章 36 の訳注を参照。

96. 彼（サーミリー）は言った。「私は、彼らが目にしなかったもの（ジブリール*）を見たのです[1]。それで私は、御使い（ジブリール*）の（馬の足）跡から、一掴み（の土）を手にし、それを（燃やして溶けた宝飾品に）投げかけました。そのように私の自我は、（このような行いを）自分自身に目映く見せたのです」。[2]

قَالَ بَصُرْتُ بِمَا لَمْ يَبْصُرُوا۟ بِهِۦ فَقَبَضْتُ قَبْضَةً مِّنْ أَثَرِ ٱلرَّسُولِ فَنَبَذْتُهَا وَكَذَٰلِكَ سَوَّلَتْ لِى نَفْسِى ٩٦

97. 彼（ムーサー*）は言った。「ならば、行くがよい。というのも本当にあなたは、この（現世での）生活にいる間は『（私に）近づくのではない』と言うこと[3]になり、本当にあなたにこそは、決して破られることのない（来世での懲罰の）約束があるのだから。あなたが仕えていた自分の神（仔牛）を、見てみるがよい。私たちはそれを必ずや焼き尽くし、それからきっと、それを海原に跡形もなくばら撒いてしまおう」。

قَالَ فَٱذْهَبْ فَإِنَّ لَكَ فِى ٱلْحَيَوٰةِ أَن تَقُولَ لَا مِسَاسَ ۖ وَإِنَّ لَكَ مَوْعِدًا لَّن تُخْلَفَهُۥ ۖ وَٱنظُرْ إِلَىٰٓ إِلَٰهِكَ ٱلَّذِى ظَلْتَ عَلَيْهِ عَاكِفًا ۖ لَّنُحَرِّقَنَّهُۥ ثُمَّ لَنَنسِفَنَّهُۥ فِى ٱلْيَمِّ نَسْفًا ٩٧

98. あなた方が崇拝*すべきは、かれ以外に（真に）崇拝*すべきいかなるものもない、アッラー*のみ。かれは（その）知識で、全てのものを網羅し給う。

إِنَّمَآ إِلَٰهُكُمُ ٱللَّهُ ٱلَّذِى لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ ۚ وَسِعَ كُلَّ شَىْءٍ عِلْمًا ٩٨

99. （使徒*ムハンマド*よ、）そのようにわれら*は、既に過ぎ去ったものの消息の一部を、あなたに語って聞かせる。また、われら*は確かにわれら*の御許から、あなたに教訓（クルアーン*）を授けたのである。

كَذَٰلِكَ نَقُصُّ عَلَيْكَ مِنْ أَنۢبَآءِ مَا قَدْ سَبَقَ ۚ وَقَدْ ءَاتَيْنَٰكَ مِن لَّدُنَّا ذِكْرًا ٩٩

---

1 これは、彼ら（イスラーイールの子ら*）が海を渡り、それを追うフィルアウン*とその軍勢が、溺れ死んだ時のこと（ムヤッサル 318 頁参照）。

2 アーヤ*87 も参照。

3 触れるべきではなかったジブリール*の残したものに触れてしまった現世での罰として、サーミリーは「（私に）近づくのではない」と言い、人々との接触を一切絶たなくてはならなくなった（イブン・カスィール 5:313-314 参照）。

100. それ（クルアーン*）に背を向ける者は誰でも、本当に復活の日*、（罪という）重荷を背負うことになる。

مَّنۡ أَعۡرَضَ عَنۡهُ فَإِنَّهُۥ يَحۡمِلُ يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِ وِزۡرًا ١٠٠

101. 彼らはそこ（懲罰）に、永遠に留まる。そして復活の日*、彼らの荷物は何と忌まわしいことか。

خَٰلِدِينَ فِيهِۖ وَسَآءَ لَهُمۡ يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِ حِمۡلٗا ١٠١

102. 角笛に吹き込まれるその日[1]。われら*はその日、眼が青くなった[2]罪悪者たちを召集する。

يَوۡمَ يُنفَخُ فِي ٱلصُّورِۚ وَنَحۡشُرُ ٱلۡمُجۡرِمِينَ يَوۡمَئِذٖ زُرۡقٗا ١٠٢

103. 彼らは、自分たちの間で、ひそひそ話し合（い、こう言）う。「あなた方は（現世で）、十（日間）しか過ごさなかった」。[3]

يَتَخَٰفَتُونَ بَيۡنَهُمۡ إِن لَّبِثۡتُمۡ إِلَّا عَشۡرٗا ١٠٣

104. われら*は、彼らの中で最も見識ある者が、「あなた方は（現世で）、一日しか過ごさなかった」と言う時、彼らの言うことを最もよく知っているのだ。

نَّحۡنُ أَعۡلَمُ بِمَا يَقُولُونَ إِذۡ يَقُولُ أَمۡثَلُهُمۡ طَرِيقَةً إِن لَّبِثۡتُمۡ إِلَّا يَوۡمٗا ١٠٤

105. （使徒*よ、）彼らは、（復活の日*の）山々（の状態）について、あなたに尋ねる。ならば、言うのだ。「我が主*はそれらを、跡形もなく粉々にされる。[4]

وَيَسۡـَٔلُونَكَ عَنِ ٱلۡجِبَالِ فَقُلۡ يَنسِفُهَا رَبِّي نَسۡفٗا ١٠٥

106. そしてそれ（大地）を、真っ平でつるつるなものとされ、

فَيَذَرُهَا قَاعٗا صَفۡصَفٗا ١٠٦

---

1 復活の日*のこと（ムヤッサル 319 頁参照）。家畜章 73 の訳注も参照。

2 その日の出来事と恐怖の激しさゆえ、彼らの肌と眼の色は青ずんでしまう（前掲書、同頁参照）。また一説によれば、当時のアラブ人は青い眼を不吉がっていた（アッ＝ラーズィー 8:98 参照）。イムラーン家章 106 も参照。

3 ユーヌス*章 45 とその訳注、及び、信仰者たち章 113-114、ビザンチン章 55、砂丘章 35、引き離すもの章 46 も参照。また一説にこの言葉は、現世と来世の長さの違いを実感した時の、彼らの驚きの声であるとも言われる（アッ＝ラーズィー8:99 参照）。

4 これら復活の日*の天変地異の様子については、洞窟章 47、山章 9-10、出来事章 5-6、真実章 13-15、階段章 8-9 とその訳注、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 なども参照。

107. あなたはそこに、いかなる歪みや起伏も見出すことがない」。

لَّا تَرَىٰ فِيهَا عِوَجًا وَلَآ أَمْتًا ١٠٧

108. その日、彼らは呼ぶ者（の声）に従（い、集合の場へと向か）う。彼からの逃げ道は、全くない。そして（人々の）声は、慈悲あまねき*お方（アッラー*）に対して恭順[1]にな（って消え入）り、あなたはひそひそ声[2]しか耳にすることがないのだ。

يَوْمَئِذٍ يَتَّبِعُونَ ٱلدَّاعِىَ لَا عِوَجَ لَهُۥ ۖ وَخَشَعَتِ
ٱلْأَصْوَاتُ لِلرَّحْمَٰنِ فَلَا تَسْمَعُ إِلَّا هَمْسًا ١٠٨

109. その日、慈悲あまねき*お方が許可を授け、その言葉においてご満足された者以外、執り成しは役に立たない。[3]

يَوْمَئِذٍ لَّا تَنفَعُ ٱلشَّفَٰعَةُ إِلَّا مَنْ أَذِنَ لَهُ
ٱلرَّحْمَٰنُ وَرَضِىَ لَهُۥ قَوْلًا ١٠٩

110. かれは、彼らの前にあるものも、背後にあるもの[4]も、ご存知なのだ。また彼らが、かれのことを知り尽くすことは出来ない。

يَعْلَمُ مَا بَيْنَ أَيْدِيهِمْ وَمَا خَلْفَهُمْ وَلَا
يُحِيطُونَ بِهِۦ عِلْمًا ١١٠

111. そして（人々の）顔[5]は、永生する*お方、全てを司る*お方へと屈服する。不正*を背負った者は、（復活の日*、）確かに敗北したのだ。

۞ وَعَنَتِ ٱلْوُجُوهُ لِلْحَىِّ ٱلْقَيُّومِ ۖ وَقَدْ خَابَ
مَنْ حَمَلَ ظُلْمًا ١١١

112. そして信仰者で正しい行い*を行う者は誰であれ、不正*も欠損も怖れることがない[6]。

وَمَن يَعْمَلْ مِنَ ٱلصَّٰلِحَٰتِ وَهُوَ مُؤْمِنٌ فَلَا
يَخَافُ ظُلْمًا وَلَا هَضْمًا ١١٢

---

1 この「恭順」については、雌牛章 45 の訳注を参照。

2 「ひそひそ声（ハムス）」は、声以外にも、全ての小さい物音を表し得る。復活の集合の場へと静かに向かう、人々の足音という理解も可能（アッ＝シャンキーティー4:100 参照）。

3 アッラー*のお許しがなければ、預言者*や使徒*でさえも、執り成すことはできない。そして執り成しを受ける側も、その言動においてアッラー*がお喜びになる誠実な信仰者でなければ、執り成しを受けることが出来ない（アッ＝サァディー513 頁参照）。雌牛章 48 の訳注、マルヤム*章 87 も参照。

4 「彼らの前にあるもの･･･」については、雌牛章 255 の訳注を参照。

5 ここで特に顔のみが言及されているのは、人の屈服は顔によって表され、顔において表れるからである、と言われる（アッ＝ラーズィー8:102 参照）。

6 やってもいない悪行について問われることもなければ、行った善行の褒美（ほうび）を不当に減らされることもない、ということ（ムヤッサル 319 頁参照）。

113. そのように、われら*はそれをアラビア語のクルアーン*として下し、その中で警告を多彩に示した。（それは、）彼らが（アッラー*を）畏れ*るため、あるいは彼らに教訓を汲ませるためなのである。

وَكَذَٰلِكَ أَنزَلْنَٰهُ قُرْءَانًا عَرَبِيًّا وَصَرَّفْنَا فِيهِ
مِنَ ٱلْوَعِيدِ لَعَلَّهُمْ يَتَّقُونَ أَوْ يُحْدِثُ لَهُمْ
ذِكْرًا ﴿١١٣﴾

114. そして、王であり、真理であられるアッラー*は、（いかなる欠点からも）高遠なお方であられる。（使徒*よ）、あなたにその啓示が（一頻り）下り終わる前に、クルアーン*（を受け取ること）に慌てるのではない。そして、言うのだ。「我が主*よ、私に知識を増やして下さい」。[1]

فَتَعَٰلَى ٱللَّهُ ٱلْمَلِكُ ٱلْحَقُّ ۗ وَلَا تَعْجَلْ
بِٱلْقُرْءَانِ مِن قَبْلِ أَن يُقْضَىٰٓ إِلَيْكَ وَحْيُهُۥ ۖ
وَقُل رَّبِّ زِدْنِى عِلْمًا ﴿١١٤﴾

115. われら*は確かに以前、アーダム*に（楽園の木の実を食べないよう）命じた[2]。そして彼は（そのことを）忘れてしまい、われらは彼に（命令を遵守するだけの）決意（の力）を見出すことがなかった。

وَلَقَدْ عَهِدْنَآ إِلَىٰٓ ءَادَمَ مِن قَبْلُ فَنَسِىَ وَلَمْ
نَجِدْ لَهُۥ عَزْمًا ﴿١١٥﴾

116. また、われら*が天使*たちに「アーダム*にサジダ[3]せよ」と言い、彼らが（全員）サジダ*した時のこと（を思い出せ）[4]。但しイブリース*だけは別で、（それを）拒んだ。[5]

وَإِذْ قُلْنَا لِلْمَلَٰٓئِكَةِ ٱسْجُدُوا۟ لِءَادَمَ
فَسَجَدُوٓا۟ إِلَّآ إِبْلِيسَ أَبَىٰ ﴿١١٦﴾

---

1 預言者*ムハンマド*は、クルアーン*という知識への愛着と熱意ゆえに、ジブリール*がそれを彼に読誦（どくしょう）して伝授する際、それを慌（あわ）てて受け取ろうとした（復活章 16 以降、およびその訳注も参照）。それでアッラー*は、彼が知識の増加を、アッラー*ご自身にこそ求めることを命じられた（アッ＝サァディー514 頁参照）。

2 この出来事の詳細に関しては、雌牛章 30-39、高壁章 11-25、夜の旅章 61-65、サード章 71-83 なども参照のこと。預言者*・使徒*の無謬（むびゅう）性については、雌牛章 36 の訳注を参照。

3 この「サジダ*」については、雌牛章 34 の訳注を参照。

4 この出来事の詳細に関しては、雌牛章 34-39、高壁章 11-25、アル＝ヒジュル章 28-42、夜の旅章 61-65、洞窟章 50、サード章 71-83 なども参照。

5 イブリース*がサジダ*を拒んだことについては、高壁章 12 とその訳注も参照。

117. われら*は言った。「アーダム*よ、本当にこれ（イブリース*）はあなたと、あなたの妻に対する敵である。ならば、彼に（従（したが）って）あなた方二人を楽園[1]から追い出させ、それであなた[2]が不幸になるようではならない。

فَقُلۡنَا يَٰٓـَٔادَمُ إِنَّ هَٰذَا عَدُوّٞ لَّكَ وَلِزَوۡجِكَ
فَلَا يُخۡرِجَنَّكُمَا مِنَ ٱلۡجَنَّةِ فَتَشۡقَىٰٓ ١١٧

118. 本当にあなたはそこ（楽園）において、飢（う）えることもなければ、裸（はだか）になることもない。

إِنَّ لَكَ أَلَّا تَجُوعَ فِيهَا وَلَا تَعۡرَىٰ ١١٨

119. また、そこで喉（のど）が渇（かわ）くことも、太陽に晒（さら）されることもない」。

وَأَنَّكَ لَا تَظۡمَؤُاْ فِيهَا وَلَا تَضۡحَىٰ ١١٩

120. すると、シャイターン*が彼に囁（ささや）きかけて、言った。「アーダム*よ、永遠の（生を授（さず）けてくれる）木と、廃（すた）れることのない王権へと、あなたを案内してやろうか？」

فَوَسۡوَسَ إِلَيۡهِ ٱلشَّيۡطَٰنُ قَالَ يَٰٓـَٔادَمُ هَلۡ
أَدُلُّكَ عَلَىٰ شَجَرَةِ ٱلۡخُلۡدِ وَمُلۡكٖ لَّا يَبۡلَىٰ ١٢٠

121. こうして二人はそこから食べ、二人の恥部（ちぶ）（アウラ*）は彼ら自身に露（あら）わになってしまい、二人は楽園の葉でそれら（アウラ*）を隠（かく）し始めた[3]。アーダム*は彼の主（しゅ）*に逆らい、誤（あやま）った[4]のである。

فَأَكَلَا مِنۡهَا فَبَدَتۡ لَهُمَا سَوۡءَٰتُهُمَا
وَطَفِقَا يَخۡصِفَانِ عَلَيۡهِمَا مِن وَرَقِ ٱلۡجَنَّةِۚ
وَعَصَىٰٓ ءَادَمُ رَبَّهُۥ فَغَوَىٰ ١٢١

---

1 この「楽園」については、雌牛章 35 の訳注を参照。

2 シャイターン*に従えば、アーダム*もその妻ハウワーゥ*も、不幸になることに変わりはない。一説に、ここでアーダム*のみが「不幸になる」と言及されているのは、ここでの「不幸」が「身体的労苦」のことであり、シャイターン*に従って楽園から出たら、それまでは保障されていた衣食住を獲得するために苦労するのは、男性であるアーダム*自身に外ならないため、とされる（アル＝クルトゥビー11:253 参照）。

3 高壁章 22 とその訳注も参照。

4 クルアーン*かスンナ*の中にある描写を読むのでない限り、人がアーダム*を「主*に逆らった」などと描写することは、預言者*・人類の祖に対する礼儀上、許されない（イブン・アル＝アラビー3:259 参照）。預言者*の無謬（むびゅう）性については、雌牛章 36 の訳注を参照。

122. それから、かれの主*は彼（アーダム*）をお選びになり、彼の悔悟をお受け入れになり、お導きになった。

ثُمَّ ٱجۡتَبَٰهُ رَبُّهُۥ فَتَابَ عَلَيۡهِ وَهَدَىٰ ١٢٢

123. かれは仰せられた。「二人とも共に、（イブリース*と）互いに敵となって、そこ（楽園）から落ちて行け。そして、あなた方にわれら*の御許からの導きが到来した時、わが導き（使徒*と啓典）に従う者は誰でも、（現世で）迷うことはなく、（来世で）不幸になることもない。

قَالَ ٱهۡبِطَا مِنۡهَا جَمِيعَۢاۖ بَعۡضُكُمۡ لِبَعۡضٍ
عَدُوّٞۖ فَإِمَّا يَأۡتِيَنَّكُم مِّنِّي هُدٗى فَمَنِ
ٱتَّبَعَ هُدَايَ فَلَا يَضِلُّ وَلَا يَشۡقَىٰ ١٢٣

124. また、わが教訓に背を向ける者、本当に彼には苦しい生活[1]がある。そしてわれら*は復活の日*、彼を盲目にして集める[2]のだ」。

وَمَنۡ أَعۡرَضَ عَن ذِكۡرِي فَإِنَّ لَهُۥ مَعِيشَةٗ
ضَنكٗا وَنَحۡشُرُهُۥ يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِ أَعۡمَىٰ ١٢٤

125. 彼は言う。「我が主*よ、どうして私を盲目にしてお集めになったのですか？　私は（現世では、）目が見えていましたのに？」

قَالَ رَبِّ لِمَ حَشَرۡتَنِيٓ أَعۡمَىٰ وَقَدۡ كُنتُ
بَصِيرٗا ١٢٥

126. かれは仰せられる。「（あなたがしたことと、）同様（にしたの）である。われらの御徴はあなたに到来し、そしてあなたはそれを（故意に）忘れたのだから。それで同じようにこの日、あなたは（地獄に）忘れ去られよう」。

قَالَ كَذَٰلِكَ أَتَتۡكَ ءَايَٰتُنَا فَنَسِيتَهَاۖ وَكَذَٰلِكَ
ٱلۡيَوۡمَ تُنسَىٰ ١٢٦

127. そのように、われら*は自分の主*の御徴を信じず、（主*への反抗に）度を越していた者に応報を与える。来世の懲罰こそは、より厳しく、より永いのである。

وَكَذَٰلِكَ نَجۡزِي مَنۡ أَسۡرَفَ وَلَمۡ يُؤۡمِنۢ بِـَٔايَٰتِ
رَبِّهِۦۚ وَلَعَذَابُ ٱلۡأٓخِرَةِ أَشَدُّ وَأَبۡقَىٰ ١٢٧

---

1 ある種の解釈学者らは、この「苦しい生活」を、現世・復活の日*が来るまでの死後の世界・来世におけるもの、という広い意味で理解している（アッ＝サァディー515 頁参照）。

2 現世で、アッラー*の教訓において盲目であったように、来世ではその視覚を奪われる（アル＝カースィミー11:4230 参照）。夜の旅章 97 の訳注も参照。

128. 一体、われら*が彼ら以前に、どれほど多くの（不信仰な）民*を滅ぼしたかが、彼らにはまだ明らかになってはいないのか？　彼らはその者たちの住居の中を、（その滅亡の跡を目にして）歩いているというのに？　本当にそこ[1]にはまさしく、まともな理性の持ち主への御徴があるのだ。

أَفَلَمْ يَهْدِ لَهُمْ كَمْ أَهْلَكْنَا قَبْلَهُم مِّنَ الْقُرُونِ
يَمْشُونَ فِي مَسَاكِنِهِمْ ۗ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَآيَاتٍ
لِّأُولِي النُّهَىٰ ١٢٨

129. （彼ら不信仰者*の懲罰を先送りにするという）あなたの主*からの先んじた御言葉と、定められた期限[2]さえなければ、（彼らの早期での滅亡は）必然だったのである。

وَلَوْلَا كَلِمَةٌ سَبَقَتْ مِن رَّبِّكَ لَكَانَ لِزَامًا
وَأَجَلٌ مُّسَمًّى ١٢٩

130. ならば（使徒*よ）、彼らの言うことに忍耐*せよ。また、太陽が昇る前とそれが沈む前、そして夜の一部[3]において、あなたの主*の称賛*と共に（かれを）称える*のだ。また、昼の端々[4]に（アッラー*を）称えよ。（それは、）あなたが（その褒美で）満足するようになるためである。

فَاصْبِرْ عَلَىٰ مَا يَقُولُونَ وَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ قَبْلَ
طُلُوعِ الشَّمْسِ وَقَبْلَ غُرُوبِهَا ۖ وَمِنْ آنَاءِ
اللَّيْلِ فَسَبِّحْ وَأَطْرَافَ النَّهَارِ لَعَلَّكَ تَرْضَىٰ ١٣٠

131. また、われら*が彼ら（不信仰者*）の内の様々な者たちを楽しませているものに、決してあなたの（羨望の）視線を釘付けにするのではない。（それは、）われ

وَلَا تَمُدَّنَّ عَيْنَيْكَ إِلَىٰ مَا مَتَّعْنَا بِهِ أَزْوَاجًا
مِّنْهُمْ زَهْرَةَ الْحَيَاةِ الدُّنْيَا لِنَفْتِنَهُمْ فِيهِ ۚ وَرِزْقُ
رَبِّكَ خَيْرٌ وَأَبْقَىٰ ١٣١

---

1 つまり、多くの不信仰な民が罰を受けて滅亡し、その痕跡が残っていること（ムヤッサル321頁参照）。

2 この「定められた期限」には具体的に、「彼らの寿命や懲罰に関して定められた期限」「復活の日*」「バドルの戦い*」といった解釈がある（アル＝バイダーウィー4:76参照）。

3 この三つの時間は、それぞれファジュル*、アスル*、イシャーゥ*の礼拝時間を指しているのだという（ムヤッサル321頁参照）。カーフ章39-40とその訳注も参照。

4 これは一説に、昼の前半の終わりであるズフル*と、昼の後半の終わりであるマグリブ*の礼拝時間のこと（前掲書、同頁参照）。

ら*がそれで彼らを試練にかけるための、現世の生活の飾りなのである。あなたの主*の糧[1]は、(彼らが味わっている享楽)より善く、より永く続くものなのだ。

132. また(使徒*よ)、あなたの家族[2]に礼拝を命じ、それ(を行うこと)において忍耐*を重ねよ。われら*があなたに糧を求めるのではなく[3]、われら*があなたに糧を与えるのだから。そして(現世と来世における、善き)結末は、敬虔*さ(を纏った者たち)にあるのだ。

وَأۡمُرۡ أَهۡلَكَ بِٱلصَّلَوٰةِ وَٱصۡطَبِرۡ عَلَيۡهَاۖ لَا نَسۡـَٔلُكَ رِزۡقٗاۖ نَّحۡنُ نَرۡزُقُكَۗ وَٱلۡعَٰقِبَةُ لِلتَّقۡوَىٰ ١٣٢

133. 彼らは言う。「どうして彼(使徒*)は自分の主*の御許から、私たちに御徴[4]を持って来ないのか?」一体、以前の書巻の中にあるものに対する明証[5]は、彼らに到来しなかったのか?

وَقَالُواْ لَوۡلَا يَأۡتِينَا بِـَٔايَةٖ مِّن رَّبِّهِۦٓۚ أَوَلَمۡ تَأۡتِهِم بَيِّنَةُ مَا فِي ٱلصُّحُفِ ٱلۡأُولَىٰ ١٣٣

134. もしわれら*が懲罰によって、それ以前[6]に彼らを滅亡させていたら、彼らは(こう)言ったであろう。「我らが主*よ、どうしてあなたは私たちに、使徒*を遣わしてくれなかったのですか? そうすれば

وَلَوۡ أَنَّآ أَهۡلَكۡنَٰهُم بِعَذَابٖ مِّن قَبۡلِهِۦ لَقَالُواْ رَبَّنَا لَوۡلَآ أَرۡسَلۡتَ إِلَيۡنَا رَسُولٗا فَنَتَّبِعَ ءَايَٰتِكَ مِن قَبۡلِ أَن نَّذِلَّ وَنَخۡزَىٰ ١٣٤

---

1 この「糧」は、来世での褒美のこと(アッ=タバリー7:5661 参照)。

2 この「家族」は、彼の家族以外はもちろんのこと、彼のムスリム*共同体全員をも指している(アル=クルトゥビー11:263 参照)。

3 つまり、アッラー*こそが「あなた自身と彼らの糧」を保障されるのだから、生活の糧を求めるがために、礼拝をおろそかにしてはならない、ということ(前掲書、同頁参照)。撒き散らすもの章 56-58、離婚章 2-3 も参照。

4 この「御徴」とは、奇跡のこと(アッ=サァディー517 頁参照)。しかし、たとえ奇跡を目にしても、彼らは信じることがない。家畜章 109-110、ユーヌス*章 97、創成者*章 42 なども参照。

5 過去の啓典に含まれた真理を確証する、クルアーン*のこと(ムヤッサル 321 頁参照)。食卓章 48 も参照。

6 使徒*を遣わし、啓典を下す以前、ということ(前掲書、同頁参照)。

私たちは、（あなたの懲罰によって）卑しめられ、辱められる前に、あなたの御徴に従いましたのに」。[1]

135. （使徒*よ、）言ってやるのだ。「（私たちの）いずれも、（誰に勝利があるか）待ち望む身にある。ならば、待ち望むがいい。あなた方は、誰が真っ当な道の徒であり、誰が導かれていたかを知ることになるのだから」。

قُلۡ كُلّٞ مُّتَرَبِّصٞ فَتَرَبَّصُواْۖ فَسَتَعۡلَمُونَ مَنۡ أَصۡحَٰبُ ٱلصِّرَٰطِ ٱلسَّوِيِّ وَمَنِ ٱهۡتَدَىٰ ١٣٥

1 関連するアーヤ*として、婦人章 165、家畜章 131、155-157、夜の旅章 15 とその訳注、詩人たち章 208、創成者*章 24 も参照。

第 21 章
預言者たち章（アル＝アンビヤーゥ）[1]

سُورَةُ الأَنبِيَاءِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

1. 人々に、その清算（の時）が近づいた[2]。にも関わらず、彼らは上の空で（警告に）背を向けている。

2. 彼らのもとに、彼らの主*から（次々と）新しい教訓（クルアーン*）がやって来ても、彼らは決まってふざけながらそれを聞くだけ。

3. 彼らの心は、不注意である[3]。不正*を働く者たちは、ひそひそと（こう）密談する。「一体これは、あなた方と同様の人間に外ならないではないか？[4] 一体あなた方は（、彼が人間であることを）分かっていながら、魔術[5]へと赴くのか？」

اقْتَرَبَ لِلنَّاسِ حِسَابُهُمْ وَهُمْ فِي غَفْلَةٍ
مُعْرِضُونَ ١

مَا يَأْتِيهِم مِّن ذِكْرٍ مِّن رَّبِّهِم مُّحْدَثٍ إِلَّا
اسْتَمَعُوهُ وَهُمْ يَلْعَبُونَ ٢

لَاهِيَةً قُلُوبُهُمْ ۗ وَأَسَرُّوا النَّجْوَى الَّذِينَ
ظَلَمُوا هَلْ هَٰذَا إِلَّا بَشَرٌ مِّثْلُكُمْ ۖ أَفَتَأْتُونَ
السِّحْرَ وَأَنتُمْ تُبْصِرُونَ ٣

---

1 マッカ*啓示。マッカ*啓示のスーラ*の常であるように、アッラー*の偉大さとその唯一性*、啓示と預言者*ムハンマド*の正直さ、死後の復活と清算の証明が描かれている。また、スーラ*の名称ともなっているように、預言者*ムハンマド*を含め十七人もの預言者*・使徒*が言及され、彼らとその民との間に起こったイスラーム*の歴史が、その基本教義の説明・使徒*に逆らう民への教訓や警告などと共に提示されている。

2 復活の日*の「清算」が近いという意味についての解釈に、次のようなものがある。①預言者*ムハンマド*は最後の使徒*・預言者*であり、その共同体は最後のイスラーム*共同体である。つまり、それ以前のイスラーム*共同体と比較すると、より復活の日*に近い。②ここでの「清算」は、死のこと。というのも死んでしまった者は、復活の日*が起こってしまったも同然であるため。蜜蜂章 1 の訳注も参照（アッ＝サァディー518 頁参照）。

3 彼らの心は現世的願望にかまけ、その体は娯楽に耽（ふけ）り、欲望の追求、無意味な物事、俗悪な言葉に勤（いそ）しんでいる。しかし本来、心はアッラー*のご命令に従い、かれの御言葉に傾聴（けいちょう）すると共に、その意味を熟考（じゅっこう）し、来世を念頭に置きつつ、身体は創造主への崇拝*にこそ勤（いそ）しむべきなのである（前掲書、同頁参照）。

4 家畜章 8-9 などにもあるように、彼らは使徒が彼らと同様の人間ではなく、天使*であるべきだと主張したりもした（アル＝バガウィー3:283 参照）。

5 この「魔術」とは、マッカ*の不信仰者*らがクルアーン*を揶揄（やゆ）して言ったもの（ムヤッサル 322 頁参照）。彼らは、人間の手による奇跡を魔術の一種としていた（アブー・アッ＝スウード 6:54 参照）。

4. 彼（預言者*ムハンマド*）は、言った。「我が主*は、天と地における（全ての）言葉を存じておられる。かれはよくお聞きになるお方、全知者であられるのだ」。

قَالَ رَبِّي يَعۡلَمُ ٱلۡقَوۡلَ فِي ٱلسَّمَآءِ وَٱلۡأَرۡضِۖ
وَهُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلۡعَلِيمُ ٤

5. いや、彼らは（それぞれ、こう）言った。「（クルアーン*は、）夢まぼろしがごちゃ混ぜになった（無意味な）もの」。「いや、彼（ムハンマド*）がそれを、捏造したのだ」。「いや、彼は詩人なのである」。「ならば、先代の者たちが（それと共に）遣わされたように、私たちに何か御徴[1]を持って来させよ」。

بَلۡ قَالُوٓاْ أَضۡغَٰثُ أَحۡلَٰمِۭ بَلِ ٱفۡتَرَىٰهُ بَلۡ
هُوَ شَاعِرٞ فَلۡيَأۡتِنَا بِـَٔايَةٖ كَمَآ أُرۡسِلَ
ٱلۡأَوَّلُونَ ٥

6. 彼ら（マッカ*の不信仰者*たち）以前にも、われら*が滅ぼしたいかなる町（の住人）も、（たとえ使徒*が奇跡をもたらしたところで、）信じることはなかったのだ。そして一体、（奇跡を眼にしたら、）彼らは信じるというのか？[2]

مَآ ءَامَنَتۡ قَبۡلَهُم مِّن قَرۡيَةٍ أَهۡلَكۡنَٰهَآۖ
أَفَهُمۡ يُؤۡمِنُونَ ٦

7. また、われら*があなた以前に（使徒*として）遣わしたのは、われら*が啓示を下す男性（人間）以外の何者でもなかった[3]。ならば、教訓の民[4]に尋ねてみよ。もし、あなた方が知らないというなら。

وَمَآ أَرۡسَلۡنَا قَبۡلَكَ إِلَّا رِجَالٗا نُّوحِيٓ إِلَيۡهِمۡۖ
فَسۡـَٔلُوٓاْ أَهۡلَ ٱلذِّكۡرِ إِن كُنتُمۡ لَا
تَعۡلَمُونَ ٧

---

1 この「御徴」とは、サーリフ*の雌ラクダ、ムーサー*やイーサー*の奇跡のような奇跡のこと（イブン・カスィール 5:332 参照）。

2 家畜章 109-110、ユーヌス*章 97、ター・ハー章 133、創成者*章 42 なども参照 。

3 啓典の民*どころか、マッカ*の不信仰者*たちでさえ、その預言者*性を信じていたイブラーヒーム*もまた、人間の男性であった。つまり、人間だからという理由で預言者*ムハンマド*を否定するという彼らの論理は、彼らの信条にさえも矛盾していた（アッ＝サァディー519 頁参照）。

4 この「教訓の民」とは、過去の啓典についての知識がある者たちのこと（ムヤッサル 322 頁参照）。尚、このアーヤ*を、「宗教に関する知らないことは、無知な者ではなく、知識を有する者に尋ねよ」と、より一般的な形で理解することも可能である（アッ＝サァディー519 頁参照）。

8. また、われら*は彼ら（使徒*）を、食べ物を口にしない物体にしたわけでもないし、彼らが（現世で）永遠の者たちだったわけでもない。[1]

وَمَا جَعَلْنَٰهُمْ جَسَدًا لَّا يَأْكُلُونَ ٱلطَّعَامَ وَمَا كَانُوا۟ خَٰلِدِينَ ٨

9. それから、われら*は彼ら（使徒*とその信徒たち）に（勝利と救いの）約束を実現させ、彼らと、われら*が望む者たちを救い出し、（不信仰において）度を越していた者たちを滅ぼしたのだ。

ثُمَّ صَدَقْنَٰهُمُ ٱلْوَعْدَ فَأَنجَيْنَٰهُمْ وَمَن نَّشَآءُ وَأَهْلَكْنَا ٱلْمُسْرِفِينَ ٩

10. われら*は確かに、あなた方に啓典を下した。（そこにある教えを信じ実行すれば、）その中には、あなた方への栄誉[2]がある。一体、あなた方は分別しないのか？

لَقَدْ أَنزَلْنَآ إِلَيْكُمْ كِتَٰبًا فِيهِ ذِكْرُكُمْ أَفَلَا تَعْقِلُونَ ١٠

11. また、われら*は一体、どれだけ多くの不正*であった町を全滅させ、その後、別の民を設けたのか。

وَكَمْ قَصَمْنَا مِن قَرْيَةٍ كَانَتْ ظَالِمَةً وَأَنشَأْنَا بَعْدَهَا قَوْمًا ءَاخَرِينَ ١١

12. それで彼らは、われら*の（彼らに対する懲罰の）猛威を察知すると、どうであろうか、そこ（町）から疾走（して逃亡しようと）するのである。

فَلَمَّآ أَحَسُّوا۟ بَأْسَنَآ إِذَا هُم مِّنْهَا يَرْكُضُونَ ١٢

13. （その時、彼らにはこう言われる。）「疾走せずに、あなた方が享受していたもの（現世の享楽）と、あなた方の住まいに戻れ。あなた方は、（自分たちが現世でしていたことについて、）尋ねられるであろう」。[3]

لَا تَرْكُضُوا۟ وَٱرْجِعُوٓا۟ إِلَىٰ مَآ أُتْرِفْتُمْ فِيهِ وَمَسَٰكِنِكُمْ لَعَلَّكُمْ تُسْـَٔلُونَ ١٣

1 同様のアーヤ*として、ユースフ*章 109、識別章 20 も参照。

2 「栄誉」については、信仰者たち章 71、金の装飾章 44 とその訳注も参照。

3 一説には、天使*たちが彼らに対する嘲笑（ちょうしょう）的意味合いから、「（信仰に対する）高慢さの原因であった、あなた方の豊かな恩恵のもとに戻れ。あなた方が有していた現世的恩恵から、ねだられるだろう」と言う（アル＝クルトゥビー11:275 参照）。

14. 彼らは言う。「我らが災いよ！[1]　本当に私たちは、不正*者でした」。

قَالُوا۟ يَٰوَيْلَنَآ إِنَّا كُنَّا ظَٰلِمِينَ ١٤

15. そして彼らのその言葉は、われら*が彼らを刈り取られた作物（のよう）にし、息絶えらせるまで、続くのである。

فَمَا زَالَت تِّلْكَ دَعْوَىٰهُمْ حَتَّىٰ جَعَلْنَٰهُمْ
حَصِيدًا خَٰمِدِينَ ١٥

16. われら*は、天と地とその間にあるもの全てを、ふざけ半分に創ったのではない。

وَمَا خَلَقْنَا ٱلسَّمَآءَ وَٱلْأَرْضَ وَمَا بَيْنَهُمَا
لَٰعِبِينَ ١٦

17. もしわれら*が(自分に子供や妻を設けるなどという）戯れ事をするのであれば、（あなた方のもとからではなく）われら*の御許からそれを設けたであろう[2]。われら*が（そのようなことを）することはないが。

لَوْ أَرَدْنَآ أَن نَّتَّخِذَ لَهْوًا لَّٱتَّخَذْنَٰهُ مِن لَّدُنَّآ
إِن كُنَّا فَٰعِلِينَ ١٧

18. いや、われら*は真理を虚妄に投げつける。すると、それ（真理）はそれ（虚妄）を割り砕き、どうであろう、それ（虚妄）は消滅してしまう。あなた方には、自分たちが言っていること[3]ゆえの、災いがあるのだ。

بَلْ نَقْذِفُ بِٱلْحَقِّ عَلَى ٱلْبَٰطِلِ فَيَدْمَغُهُۥ فَإِذَا
هُوَ زَاهِقٌ ۚ وَلَكُمُ ٱلْوَيْلُ مِمَّا تَصِفُونَ ١٨

19. かれ（アッラー*）にこそ、諸天と大地にいる全てのものは属する。そして、かれの御許にいる者（天使*たち）は、かれを崇拝*することに対して驕り高ぶらず、疲れることもない。

وَلَهُۥ مَن فِى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۚ وَمَنْ عِندَهُۥ لَا
يَسْتَكْبِرُونَ عَنْ عِبَادَتِهِۦ وَلَا يَسْتَحْسِرُونَ ١٩

20. 夜も昼も、倦むことなく（かれを）称え*ているのだ。

يُسَبِّحُونَ ٱلَّيْلَ وَٱلنَّهَارَ لَا يَفْتُرُونَ ٢٠

---

1 「我らが災いよ！」という表現については、食卓章 31 の訳注を参照。

2 これはイーサー*とその母マルヤム*を神とした、キリスト教徒*らに対する言葉とされる。つまり、子供や妻は自分の種族から得るものであり、アッラー*が人間を子供や妻にすることはあり得ない、ということ（アル＝バガウィー3:285 参照）。集団章 4 も参照。

3 つまりシルク*を始めとした、アッラー*に相応（ふさわ）しくない形容のこと（ムヤッサル 323 頁参照）。

21. いや、一体彼らは地上から、（死んだものを）復活させることの出来る神々[1]を設けたというのか？[2]

أَمِ ٱتَّخَذُوٓاْ ءَالِهَةً مِّنَ ٱلۡأَرۡضِ هُمۡ يُنشِرُونَ ٢١

22. そこ（天地）にアッラー*以外の神々がいたら、その二つ（天地）は損なわれてしまったであろう[3]。彼らの言うようなことから（無縁な）、御座[4]の主*アッラー*に称えあれ。

لَوۡ كَانَ فِيهِمَآ ءَالِهَةٌ إِلَّا ٱللَّهُ لَفَسَدَتَاۚ
فَسُبۡحَٰنَ ٱللَّهِ رَبِّ ٱلۡعَرۡشِ عَمَّا يَصِفُونَ ٢٢

23. かれがご自身のされることを問われるのではなく、彼らが（自分たちの行いを）問われるのである。[5]

لَا يُسۡـَٔلُ عَمَّا يَفۡعَلُ وَهُمۡ يُسۡـَٔلُونَ ٢٣

24. いや、一体彼らは、かれ（アッラー*）を差しおいて神々を設けたのか？ 言ってやれ。「（そのことの正当性を示す、）あなた方の明証を持ってくるがよい。これは私と共にある者の教訓と、私以前の者の教訓[6]である（が、そこにはそのような根拠はない）のだ。いや、彼らの多くは真実を知らない。彼らは（そこから）背を向けているのだ」。

أَمِ ٱتَّخَذُواْ مِن دُونِهِۦٓ ءَالِهَةٗۖ قُلۡ هَاتُواْ
بُرۡهَٰنَكُمۡۖ هَٰذَا ذِكۡرُ مَن مَّعِيَ وَذِكۡرُ مَن قَبۡلِيۚ بَلۡ
أَكۡثَرُهُمۡ لَا يَعۡلَمُونَ ٱلۡحَقَّۖ فَهُم
مُّعۡرِضُونَ ٢٤

---

1 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。以下、同様の表現についても同訳注を参照。

2 もちろん、アッラー*以外にそのような存在はない（イブン・カスィール 5:337 参照）。

3 もし、この世に複数の全能神があれば、それらの意向は衝突し合い、秩序は乱れてしまう。一方の意向のみが存在することは、他方の不能性を示し、またそれらの意図が全ての物事において一致することは、あり得ない（アッ＝サァディー521 頁参照）。信仰者たち章 91 も参照。

4 「御座」に関しては、高壁章 54 の訳注を参照。

5 全てのものはアッラー*の王権のもとにあるのであり、かれはその僕に関するご決定について、「なぜ、そのようにされるのですか？」などと問われる筋合いはない。天地における創造物こそが、その行いを問われるのであり、それに応じた報いを受けることになる（アッ＝タバリー7:5680-5681 参照）。

6 一番目の「教訓」はクルアーン*、二番目のはそれ以前の啓典のこと（ムヤッサル 323 頁参照）。

25. また、われら*はあなた以前、「われ以外に(真に)崇拝*すべきものはない。ゆえにわれを崇拝*せよ」と啓示することなしには、いかなる使徒*も遣わさなかった。[1]

وَمَآ أَرۡسَلۡنَا مِن قَبۡلِكَ مِن رَّسُولٍ إِلَّا نُوحِيٓ إِلَيۡهِ أَنَّهُۥ لَآ إِلَٰهَ إِلَّآ أَنَا۠ فَٱعۡبُدُونِ ٢٥

26. 彼ら(シルク*の徒)は言った。「慈悲あまねき*お方(アッラー)は、(天使*たちという)御子をもうけられた[2]」。アッラー*に称え*あれ。いや、(彼らは)誉れ高き僕なのである。

وَقَالُواْ ٱتَّخَذَ ٱلرَّحۡمَٰنُ وَلَدٗاۗ سُبۡحَٰنَهُۥۚ بَلۡ عِبَادٞ مُّكۡرَمُونَ ٢٦

27. 彼らは、かれ(アッラー*)に対して言葉を先んじることなく、かれのご命令に沿って行動するのだ。

لَا يَسۡبِقُونَهُۥ بِٱلۡقَوۡلِ وَهُم بِأَمۡرِهِۦ يَعۡمَلُونَ ٢٧

28. かれは、彼ら(天使*たち)の前にあるものも、その背後にあるもの[3]も、ご存知である。また彼らは、かれ(アッラー*)がご満悦になられた者に対してしか、執り成しをしない[4]。そして彼らは、かれへの畏怖ゆえに、怯える者たちなのだ。

يَعۡلَمُ مَا بَيۡنَ أَيۡدِيهِمۡ وَمَا خَلۡفَهُمۡ وَلَا يَشۡفَعُونَ إِلَّا لِمَنِ ٱرۡتَضَىٰ وَهُم مِّنۡ خَشۡيَتِهِۦ مُشۡفِقُونَ ٢٨

29. また、彼ら(天使*たち)の内、「私こそは、かれとは別の神である」などと言う者[5]があれば、われら*はその者を地獄で報いてやる。われら*はそのように、不正*者たちに応報を与えるのだ。

۞ وَمَن يَقُلۡ مِنۡهُمۡ إِنِّيٓ إِلَٰهٞ مِّن دُونِهِۦ فَذَٰلِكَ نَجۡزِيهِ جَهَنَّمَۚ كَذَٰلِكَ نَجۡزِي ٱلظَّٰلِمِينَ ٢٩

---

1 蜜蜂章 36 も参照。

2 マッカ*の不信仰者*らは、天使*をアッラー*の娘と見なしていた。蜜蜂章 57 とその訳注も参照。

3 つまり、彼ら天使*たちの未来と過去の行いのこと(ムヤッサル 324 頁参照)。

4 「執り成し」については、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 も参照。

5 これは、一説にイブリース*のこと。また一説には、天使*一般についての、仮定上の話(アル＝クルトゥビー11:282 参照)。

30. 一体、不信仰に陥った者*たちは、諸天と大地が膠着した状態だったことを知らないのか？　そしてわれら*がその二つを引き裂いたことを？[1]　われら*は、水から全ての生物を創った[2]。一体、彼らは信じないのか？

أَوَلَمۡ يَرَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوٓاْ أَنَّ ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَٱلۡأَرۡضَ كَانَتَا رَتۡقٗا فَفَتَقۡنَٰهُمَاۖ وَجَعَلۡنَا
مِنَ ٱلۡمَآءِ كُلَّ شَيۡءٍ حَيٍّۚ أَفَلَا يُؤۡمِنُونَ ٣٠

31. またわれら*は大地に、それが彼らと共に揺れ動かないよう堅固な山々を設え、彼らが導かれるようにと、そこに広々とした道々を用意した。

وَجَعَلۡنَا فِي ٱلۡأَرۡضِ رَوَٰسِيَ أَن تَمِيدَ بِهِمۡ
وَجَعَلۡنَا فِيهَا فِجَاجٗا سُبُلٗا لَّعَلَّهُمۡ
يَهۡتَدُونَ ٣١

32. また、われら*は天を守られた屋根[3]とした。それでも彼らは、その御徴から背を向けているのだ。

وَجَعَلۡنَا ٱلسَّمَآءَ سَقۡفٗا مَّحۡفُوظٗاۖ وَهُمۡ عَنۡ
ءَايَٰتِهَا مُعۡرِضُونَ ٣٢

33. かれは夜と昼、太陽と月をお創りになったお方。全ては、軌道を走る。

وَهُوَ ٱلَّذِي خَلَقَ ٱلَّيۡلَ وَٱلنَّهَارَ وَٱلشَّمۡسَ
وَٱلۡقَمَرَۖ كُلّٞ فِي فَلَكٖ يَسۡبَحُونَ ٣٣

34. （使徒*よ、）われら*はあなた以前（現世において）、いかなる人間にも永遠（の生）を授けたりはしなかった。一体、もしあなたが死んだら、彼らは（その後）永遠なる者となるというのか？[4]

وَمَا جَعَلۡنَا لِبَشَرٖ مِّن قَبۡلِكَ ٱلۡخُلۡدَۖ أَفَإِيْن مِّتَّ
فَهُمُ ٱلۡخَٰلِدُونَ ٣٤

---

1 つまり、雨の降らない「閉じられた」状態の空から雨をお降らしになり、植物の育たない「閉じられた」大地から、植物を芽生えさせられること（アッ＝タバリー7:5687、ムヤッサル 324 頁参照)。外にも、「一体であった天と、一体であった大地を、それぞれ七層に分けられた」「天地がそもそも一体であったのを、引き裂かれた」などの解釈もある（イブン・カスィール 5:339 参照)。

2 つまり水を、全ての生物の基礎とされた（前掲書、同頁参照)。「精液から、お創りになった」「大半の生物を、水から作った」といった説もある（アル＝バガウィー3:287 参照)。

3 一説には、巡礼*章 65 にもあるように、「落下することから守られている」という意味。あるいは、アル＝ヒジュル章 17 にもあるように、「シャイターン*が天界の話を盗み聞きしようとして、そこに近づくことから」守られている（前掲書、同頁参照)。

4 山章 30 などにもあるように、不信仰者*らは預言者*ムハンマド*を蔑（さげす）みつつ、「彼が死ぬのを待って、放っておこう」と言っていた。しかし、たとえ彼が彼らより先に他界したとしても、それは全ての預言者*の習いなのである。そして後続のアーヤ*にもある通り、彼ら自身も遅かれ早かれ、現世という試練を去り、そこでの行いの報いを受けることになる（アッ＝サァディー523 頁参照)。

35. 全ての者は、死を味わうのだ。われら*は悪と善という試練[1]で、あなた方を試す。そしてわれら*の御許にこそ、あなた方は戻されるのである。

كُلُّ نَفْسٍ ذَآئِقَةُ ٱلْمَوْتِ ۗ وَنَبْلُوكُم بِٱلشَّرِّ
وَٱلْخَيْرِ فِتْنَةً ۖ وَإِلَيْنَا تُرْجَعُونَ ٣٥

36. （使徒*よ、）不信仰に陥った者*たちがあなたを見れば、あなたのことを嘲笑の的とするだけ。（彼らはあなたを蔑んで、互いにこう言うのだ。）「一体これが、あなた方の神々に（無礼な言葉で）言い及ぶ者か？」彼らこそは、慈悲あまねき*お方（アッラー*）の教訓（クルアーン*）について否定する者たち[2]であるというのに。

وَإِذَا رَءَاكَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوٓا۟ إِن يَتَّخِذُونَكَ
إِلَّا هُزُوًا أَهَٰذَا ٱلَّذِى يَذْكُرُ ءَالِهَتَكُمْ
وَهُم بِذِكْرِ ٱلرَّحْمَٰنِ هُمْ كَٰفِرُونَ ٣٦

37. 人間は、せっかちさから創られている[3]。われは間もなく、あなた方にわが御徴[4]を見せてやる。ならば、（それを）われに性急に求めるのではない。

خُلِقَ ٱلْإِنسَٰنُ مِنْ عَجَلٍ ۚ سَأُو۟رِيكُمْ
ءَايَٰتِى فَلَا تَسْتَعْجِلُونِ ٣٧

38. 彼らは言う。「この約束（の実現）は、いつなのか？　もし、あなたが本当のことを言っているのならば」。

وَيَقُولُونَ مَتَىٰ هَٰذَا ٱلْوَعْدُ إِن كُنتُمْ
صَٰدِقِينَ ٣٨

39. 不信仰だった者*たちが、自分たちの顔も背中も業火から防ぐことが出来ず、（誰からも）助けられることのない時のことを知っていれば（不信仰に留まることなく、懲罰も復活の日*も、急ぐことはなかったのに）。

لَوْ يَعْلَمُ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ حِينَ لَا
يَكُفُّونَ عَن وُجُوهِهِمُ ٱلنَّارَ وَلَا عَن
ظُهُورِهِمْ وَلَا هُمْ يُنصَرُونَ ٣٩

---

1 この「悪と善という試練」とは、イブン・アッバース*によれば、「苦難と安楽、健康と病気、裕福さと貧困、合法な物事と非合法な物事、服従と反抗、導きと迷い」のこと（アッ＝タバリー7:5693 参照）。

2 夜の旅章 110、雷鳴章 30 とそれらの訳注、識別章 60 も参照。マッカ*の不信仰者*らは、慈悲あまねき*お方（アッラー*）の神性は否定する一方で、自分たちの偶像の神性を否定する者を非難した。これは、無知の中でも最たるものであった（アル＝クルトゥビー11:288 参照）。

3 この表現は、過度のせっかちさの譬（たと）え（アル＝バイダーウィー4:93 参照）。

4 この「御徴」は、懲罰のこと（ムヤッサル 325 頁参照）。

40. いや、それ（復活の日*）は突然訪れて、彼らを動転させるのである。そして彼らはそれを阻止することも出来なければ、（それに対する）猶予を与えられることもない。

بَلۡ تَأۡتِيهِم بَغۡتَةٗ فَتَبۡهَتُهُمۡ فَلَا
يَسۡتَطِيعُونَ رَدَّهَا وَلَا هُمۡ يُنظَرُونَ ٤٠

41. （使徒*よ、）あなた以前の使徒*たちもまた、確かに嘲笑されたのである。そして彼らを嘲っていた者たちは、自分たちが嘲笑していたもの（懲罰）によって包囲されたのだ。

وَلَقَدِ ٱسۡتُهۡزِئَ بِرُسُلٖ مِّن قَبۡلِكَ فَحَاقَ
بِٱلَّذِينَ سَخِرُواْ مِنۡهُم مَّا كَانُواْ بِهِۦ
يَسۡتَهۡزِءُونَ ٤١

42. 言ってやれ。「誰が、夜でも昼でも、あなた方を慈悲あまねき*お方（アッラー*）から守ってくれるというのか？」いや、彼らは自分たちの主*の教訓から、背を向ける者たちである。

قُلۡ مَن يَكۡلَؤُكُم بِٱلَّيۡلِ وَٱلنَّهَارِ مِنَ
ٱلرَّحۡمَٰنِۚ بَلۡ هُمۡ عَن ذِكۡرِ رَبِّهِم
مُّعۡرِضُونَ ٤٢

43. いや、一体彼らには、われら*（の懲罰）を彼らから阻止してくれる神々などあるとでもいうのか？ それらは自分自身のことを助けることも出来なければ、われら*から救われることもないというのに。

أَمۡ لَهُمۡ ءَالِهَةٞ تَمۡنَعُهُم مِّن دُونِنَاۚ لَا
يَسۡتَطِيعُونَ نَصۡرَ أَنفُسِهِمۡ وَلَا هُم مِّنَّا
يُصۡحَبُونَ ٤٣

44. いや、われら*は、これらの者たちとその先祖を、彼らに長い年月が流れ去るまで楽しませておいたのだ。一体、彼ら（不信仰者*）は見ないのか？ われら*が（彼らの）土地に取りかかっては、それをその端々から削り取っていく[1]のを？ 一体、彼らは勝利者[2]であるというのか？

بَلۡ مَتَّعۡنَا هَٰٓؤُلَآءِ وَءَابَآءَهُمۡ حَتَّىٰ طَالَ
عَلَيۡهِمُ ٱلۡعُمُرُۗ أَفَلَا يَرَوۡنَ أَنَّا نَأۡتِي
ٱلۡأَرۡضَ نَنقُصُهَا مِنۡ أَطۡرَافِهَآۚ أَفَهُمُ
ٱلۡغَٰلِبُونَ ٤٤

---

1 この意味については、雷鳴章 41 の訳注を参照。

2 アッラー*の御力が迫って来たり、死が襲いかかって来たりすることに、打ち勝つ者のこと。もちろん、その時が来れば、彼らは大人しく身を引き渡すだけである（アッ＝サアディー 524 頁参照）。

45. （使徒*よ、）言うのだ。「私があなた方に警告するのは、（アッラー*からの）啓示によってこそである」。聾は、警告を受けても、呼びかけを聞くことがない[1]。

قُلْ إِنَّمَآ أُنذِرُكُم بِٱلْوَحْىِ ۚ وَلَا يَسْمَعُ
ٱلصُّمُّ ٱلدُّعَآءَ إِذَا مَا يُنذَرُونَ ﴿٤٥﴾

46. もし彼らに、あなたの主*の懲罰の一片が触れでもすれば、彼らはきっと（こう）言うのだ。「我らが災いよ！[2] 本当に私たちは、不正*者でした」。

وَلَئِن مَّسَّتْهُمْ نَفْحَةٌ مِّنْ عَذَابِ رَبِّكَ
لَيَقُولُنَّ يَٰوَيْلَنَآ إِنَّا كُنَّا ظَٰلِمِينَ ﴿٤٦﴾

47. われら*は復活の日*に、公正な秤を設ける。誰一人、僅かたりとも不正*を受けることはない。そして、たとえ（現世での行いが）からし種一粒きりの重さであったとしても、われら*はそれを（勘定に入れるべく）持って来るのだ。われら*だけで、清算者は十分なのである。[3]

وَنَضَعُ ٱلْمَوَٰزِينَ ٱلْقِسْطَ لِيَوْمِ ٱلْقِيَٰمَةِ فَلَا
تُظْلَمُ نَفْسٌ شَيْـًٔا ۖ وَإِن كَانَ مِثْقَالَ حَبَّةٍ
مِّنْ خَرْدَلٍ أَتَيْنَا بِهَا ۗ وَكَفَىٰ بِنَا حَٰسِبِينَ ﴿٤٧﴾

48. われら*は確かにムーサー*とハールーン*に、識別[4]と（燦然たる）光、敬虔*な者たちへの教訓を授けた。

وَلَقَدْ ءَاتَيْنَا مُوسَىٰ وَهَٰرُونَ ٱلْفُرْقَانَ
وَضِيَآءً وَذِكْرًا لِّلْمُتَّقِينَ ﴿٤٨﴾

49. （彼ら敬虔*な者たちとは、）その時（復活の日）に怯えつつ、まだ見ぬままに、彼らの主*を恐れる[5]者たち。

ٱلَّذِينَ يَخْشَوْنَ رَبَّهُم بِٱلْغَيْبِ وَهُم مِّنَ
ٱلسَّاعَةِ مُشْفِقُونَ ﴿٤٩﴾

---

1 耳が、それで聞くものから利益を得ないという理由で、あたかも聴覚自体がないかのように表現されている（アル＝バイダーウィー4:95 参照）。フード*章 20、24 とその訳注も参照。

2 この表現については、食卓章 31「我が災いよ」の訳注を参照。

3 同様の意味のアーヤ*として、婦人章 40、高壁章 8 とその訳注、洞窟章 49、ルクマーン章 16、地震章 7-8 も参照。

4 この「識別」については、雌牛章 53「識別の啓典」についての訳注を参照。

5 アッラー*を直（じか）に見はしなくても、熟考と実証によって、現世での行いにお報いになる全能の主の存在を知り、心の奥底で、そして他人の目から離れた所で、かれを恐れること（アル＝クルトゥビー11:295 参照）。カーフ章 33、王権章 12 も参照。

50. これ（クルアーン*）は、われら*が下した祝福あふれる教訓。一体あなた方は、それを否定するのか？

وَهَٰذَا ذِكْرٌ مُّبَارَكٌ أَنزَلْنَٰهُ ۚ أَفَأَنتُمْ لَهُۥ مُنكِرُونَ ٥٠

51. われら*はイブラーヒーム*に以前[1]、確かに正道を授けた。そしてわれら*は、そのこと[2]を知っていたのだ。

۞ وَلَقَدْ ءَاتَيْنَآ إِبْرَٰهِيمَ رُشْدَهُۥ مِن قَبْلُ وَكُنَّا بِهِۦ عَٰلِمِينَ ٥١

52. 彼（イブラーヒーム*）が自分の父親と民に、（こう）言った時[3]のこと（を思い起こさせよ）。「あなた方が仕えている、これらの偶像は何なのですか？」

إِذْ قَالَ لِأَبِيهِ وَقَوْمِهِۦ مَا هَٰذِهِ ٱلتَّمَاثِيلُ ٱلَّتِىٓ أَنتُمْ لَهَا عَٰكِفُونَ ٥٢

53. 彼らは言った。「私たちは、私たちのご先祖様が、それらを崇めているのを見出したのだ」。[4]

قَالُوا۟ وَجَدْنَآ ءَابَآءَنَا لَهَا عَٰبِدِينَ ٥٣

54. 彼は言った。「あなた方と、あなた方のご先祖は確かに、紛れもない迷いの中にあります」。

قَالَ لَقَدْ كُنتُمْ أَنتُمْ وَءَابَآؤُكُمْ فِى ضَلَٰلٍ مُّبِينٍ ٥٤

55. 彼らは言った。「一体あなたは、真実を携えて私たちのところへやって来たのか？[5]　それともあなたは、ふざけた者の類いなのか？」

قَالُوٓا۟ أَجِئْتَنَا بِٱلْحَقِّ أَمْ أَنتَ مِنَ ٱللَّٰعِبِينَ ٥٥

56. 彼は言った。「いや、あなた方の主*は、諸天と大地の主*。それらを創成されたお方[6]。そして私はその事に関する、証人の一人なのです」。

قَالَ بَل رَّبُّكُمْ رَبُّ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ٱلَّذِى فَطَرَهُنَّ وَأَنَا۠ عَلَىٰ ذَٰلِكُم مِّنَ ٱلشَّٰهِدِينَ ٥٦

---

1 預言者*としての使命を授ける以前、あるいはムーサー*とハールーン*以前、ということ。アル＝クルトゥビー*によれば、前者の説が大半の学者らの見解（11:296 参照）。

2 イブラーヒーム*がそれに適役である、ということ（ムヤッサル 326 頁参照）。

3 イブラーヒーム*とその父親、及びその民のやり取りについては、家畜章 74-82、マルヤム*章 42-48、詩人たち章 70－89、整列者章 85-98、金の装飾章 26-28 も参照。

4 この言い訳については、雌牛章 170「ご先祖様のやり方」についての訳注を参照。

5 あなたの言っていることは本当で、かつ本気なのか、ということ（ムヤッサル 326 頁参照）。

6 頻出名・用語集「創成者*」の項も参照。アッラー*こそは、天地とそこにある全創造物をお創りになり、その全てを一手に司（つかさど）られるお方であり、彼らがアッラー*をよそに崇めていた偶像もその一つでしかない（アッ＝サァディー525 頁参照）。

57. （イブラーヒーム*は、つぶやいて言った。）「そしてアッラー*に誓って、私はあなた方が背を向けて立ち去った後[1]、必ずやあなた方の偶像に策略しよう」。

وَتَٱللَّهِ لَأَكِيدَنَّ أَصۡنَٰمَكُم بَعۡدَ أَن
تُوَلُّواْ مُدۡبِرِينَ ٥٧

58. こうして彼は、それら（の偶像）を、それらの長[2]を除いて（全て）粉々にした[3]。（それは）彼らが、それに（縋るべく）戻って来るようにするため[4]であった。

فَجَعَلَهُمۡ جُذَٰذًا إِلَّا كَبِيرٗا لَّهُمۡ لَعَلَّهُمۡ
إِلَيۡهِ يَرۡجِعُونَ ٥٨

59. 彼らは（戻って来て、その有様を見ると、お互いに）言った。「私たちの神々に、これをやったのは誰だ？ 本当にそいつはまさしく、不正*者の類いである」。

قَالُواْ مَن فَعَلَ هَٰذَا بِـَٔالِهَتِنَآ إِنَّهُۥ لَمِنَ
ٱلظَّٰلِمِينَ ٥٩

60. 彼らは言った。「私たちは、イブラーヒーム*と呼ばれる若者が、それらについて（無礼な言葉で）言い及ぶのを耳にしたぞ」。

قَالُواْ سَمِعۡنَا فَتٗى يَذۡكُرُهُمۡ يُقَالُ لَهُۥٓ
إِبۡرَٰهِيمُ ٦٠

61. 彼ら（の内の有力者たち[5]）は、言った。「では、そいつを人々の面前に連れて来るのだ。彼らが、（イブラーヒーム*がそのように言ったと認める場に）立ち会うように[6]」。

قَالُواْ فَأۡتُواْ بِهِۦ عَلَىٰٓ أَعۡيُنِ ٱلنَّاسِ لَعَلَّهُمۡ
يَشۡهَدُونَ ٦١

62. （イブラーヒーム*が連れて来られると、）彼らは言った。「一体あなたが、私たちの神々に対してこんなことをしたのか、イブラーヒーム*よ？」

قَالُوٓاْ ءَأَنتَ فَعَلۡتَ هَٰذَا بِـَٔالِهَتِنَا
يَٰٓإِبۡرَٰهِيمُ ٦٢

---

1 彼らが年に一度、皆外出する、祭日の日のこと（アル＝クルトゥビー11:297 参照）。この時、イブラーヒーム*がいかにして外出せずに済むようにしたのかについては、整列者章88-89を参照。

2 偶像の中でも一番大きいもの。（アッ＝サァディー526 頁参照）。

3 この時の様子と、その後の出来事については、整列者章 91-98 を参照。

4 一説には、「イブラーヒーム*の宗教へと戻って来るようにするため」（アル＝バガウィー3:292 参照）。

5 一説に彼らは、王ナムルーズとその民のこと（アル＝クルトゥビー11:299 参照）。雌牛章258 も参照。

6 あるいは、「彼らの神々をこんな目にあわせた者がどうなるか、人々が目の当たりにするように」（アッ＝サァディー526 頁参照）。

63. 彼は言った。「いいえ、それら（偶像）の長であるこれが、そうしたのです[1]。では、それら（の偶像）にお尋ね下さい。もし、それらが喋れるのなら、ですが」。

قَالَ بَلۡ فَعَلَهُۥ كَبِيرُهُمۡ هَٰذَا فَسۡـَٔلُوهُمۡ إِن
كَانُواْ يَنطِقُونَ ٦٣

64. そして彼らは我に返り[2]、（互いに）言った。「本当にあなた方こそは、不正*者だったのだ」。

فَرَجَعُوٓاْ إِلَىٰٓ أَنفُسِهِمۡ فَقَالُوٓاْ إِنَّكُمۡ
أَنتُمُ ٱلظَّٰلِمُونَ ٦٤

65. それから彼らは、（頑迷さへと）逆戻りして（言った）。「あなたは確かに、これらの者たち（偶像）が喋らないことを知っているのに（、いかに私たちがそれらに尋ねようか）？」

ثُمَّ نُكِسُواْ عَلَىٰ رُءُوسِهِمۡ لَقَدۡ عَلِمۡتَ مَا
هَٰٓؤُلَآءِ يَنطِقُونَ ٦٥

66. 彼（イブラーヒーム*）は言った。「一体（そのことを知りながら、）あなた方はアッラー*をよそに、あなた方を少しも益しなければ、（それを崇拝*しても）害しもしないものを崇めるのですか？

قَالَ أَفَتَعۡبُدُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ مَا لَا
يَنفَعُكُمۡ شَيۡـٔٗا وَلَا يَضُرُّكُمۡ ٦٦

67. あなた方と、あなた方がアッラー*をよそに崇めているものの、忌まわしいこと。一体あなた方は（無知で、）分別しないのですか？」

أُفّٖ لَّكُمۡ وَلِمَا تَعۡبُدُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِۚ
أَفَلَا تَعۡقِلُونَ ٦٧

68. 彼らは言った。「そいつを焼き（殺し）、あなた方の神々を助けるのだ。もし、あなた方が（神々を援助）するならば」。

قَالُواْ حَرِّقُوهُ وَٱنصُرُوٓاْ ءَالِهَتَكُمۡ إِن كُنتُمۡ
فَٰعِلِينَ ٦٨

69. （こうして彼らはイブラーヒーム*を、火の中に投げ入れた[3]。）われら*は（こう）言っ（て、彼を助け）た。「火よ、冷たくなり、イブラーヒーム*に安全となれ」。

قُلۡنَا يَٰنَارُ كُونِي بَرۡدٗا وَسَلَٰمًا عَلَىٰٓ
إِبۡرَٰهِيمَ ٦٩

---

1 一説には、偶像の長が、自分と共に崇められている他の偶像に対して怒り、壊してしまったのだ、という話を仕立て上げた（アッ＝サァディー526 頁参照）。

2 自分の身を守れもせず、質問にも応じることの出来ないようなものが、崇拝*に値しないことに気付いた（ムヤッサル 327 頁参照）。

3 火の中に投げ込まれた時、イブラーヒーム*はこう言った。「私には、アッラー*さえいらっしゃれば万全である。全てを請け負われる*お方の素晴らしさよ」（アル＝ブハーリー4564 参照）。整列者章 97-98 も参照。

70. 彼らは、彼に対して策略を望んだが、われら*は彼らを最大の損失者とした。[1]

وَأَرَادُواْ بِهِۦ كَيۡدٗا فَجَعَلۡنَٰهُمُ ٱلۡأَخۡسَرِينَ ٧٠

71. また、われら*は彼（イブラーヒーム*）とルート*を、われら*が全創造物のために祝福した地へと、救い出した。[2]

وَنَجَّيۡنَٰهُ وَلُوطًا إِلَى ٱلۡأَرۡضِ ٱلَّتِي بَٰرَكۡنَا
فِيهَا لِلۡعَٰلَمِينَ ٧١

72. また、われらは彼（イブラーヒーム）に、イスハーク*と、その上ヤァクーブ*を恵んだ。そして皆、正しい者*としたのである。

وَوَهَبۡنَا لَهُۥٓ إِسۡحَٰقَ وَيَعۡقُوبَ نَافِلَةٗۖ وَكُلّٗا
جَعَلۡنَا صَٰلِحِينَ ٧٢

73. また、われら*は彼らを、われら*の命令によって（人々を）導く導師とし、彼らに善行と、礼拝の遵守*、浄財*の拠出を啓示した。そして、彼らはわれら*を崇拝*する者だったのである。

وَجَعَلۡنَٰهُمۡ أَئِمَّةٗ يَهۡدُونَ بِأَمۡرِنَا
وَأَوۡحَيۡنَآ إِلَيۡهِمۡ فِعۡلَ ٱلۡخَيۡرَٰتِ وَإِقَامَ
ٱلصَّلَوٰةِ وَإِيتَآءَ ٱلزَّكَوٰةِۖ وَكَانُواْ لَنَا
عَٰبِدِينَ ٧٣

74. また、われら*はルート*に裁決[3]と知識を授けた。そして彼を、（その民が）忌まわしい事[4]を働いていた町[5]から、救い出した。本当に彼らは、悪の民、放逸な者たちであった。

وَلُوطًا ءَاتَيۡنَٰهُ حُكۡمٗا وَعِلۡمٗا وَنَجَّيۡنَٰهُ
مِنَ ٱلۡقَرۡيَةِ ٱلَّتِي كَانَت تَّعۡمَلُ ٱلۡخَبَٰٓئِثَۚ
إِنَّهُمۡ كَانُواْ قَوۡمَ سَوۡءٖ فَٰسِقِينَ ٧٤

---

1 彼らの試みは、彼らが誤っており、イブラーヒーム*が正しいことの絶対的証拠をもたらした上、イブラーヒーム*の位を上げ、彼らが最も厳しい罰を受けるに値する結果となった（アル＝バイダーウィー4:101 参照）。

2 彼らはイラクの地から、様々な恩恵に恵まれ、多くの預言者*たちを輩出（はいしゅつ）した、シャーム地方（現在のシリア、パレスチナ、ヨルダン周辺）へと移住した（ムヤッサル 327 頁参照）。

3 この「裁決」は一説に、預言者*としての使命と、人々の間を裁く力のこと（前掲書 328 頁参照）。

4 この「忌まわしい事」とは、男色（高壁章 80-81、フード*章 77-79、詩人たち章 165-166、蟻章 54-55、蜘蛛章 28-30 参照）、人への投石、公然と放屁（ほうひ）し合うことなどであったとされる（アッ＝タバリー7:5720 参照）。

5 この「町」については、フード*章 81 の訳注を参照。

75. そして、われら*は彼を、われら*の慈悲[1]の中に入れてやった。本当に彼は、正しい者*の一人であったのだから。

وَأَدْخَلْنَٰهُ فِى رَحْمَتِنَآ ۖ إِنَّهُۥ مِنَ
ٱلصَّٰلِحِينَ ﴿٧٥﴾

76. また（使徒*よ）、ヌーフ*（のことを思い起こさせよ）。彼が以前、（その主*に祈って）呼びかけた時のこと[2]。われら*は彼に応え、彼とその家族を、この上ない苦悩[3]から救った。

وَنُوحًا إِذْ نَادَىٰ مِن قَبْلُ فَٱسْتَجَبْنَا لَهُۥ
فَنَجَّيْنَٰهُ وَأَهْلَهُۥ مِنَ ٱلْكَرْبِ ٱلْعَظِيمِ ﴿٧٦﴾

77. そしてわれら*は、われら*の御徴を嘘呼ばわりした民から、彼を助けた。本当に彼らは悪の民だったのであり、われら*は彼らを皆、溺れさせたのだ。

وَنَصَرْنَٰهُ مِنَ ٱلْقَوْمِ ٱلَّذِينَ كَذَّبُوا۟ بِـَٔايَٰتِنَآ ۚ
إِنَّهُمْ كَانُوا۟ قَوْمَ سَوْءٍ فَأَغْرَقْنَٰهُمْ
أَجْمَعِينَ ﴿٧٧﴾

78. また（使徒*よ）、ダーウード*とスライマーン*（のことを思い起こさせよ）。彼ら二人が、農作地について（争う二人の者を）裁いた時のこと。（それは、）そこに夜中、（一方の）民の羊が侵入して（、別の民の）作物を食べ（荒らし）てしまった時のことだった。われら*は、彼らの裁決に立ち会っていたのである。

وَدَاوُۥدَ وَسُلَيْمَٰنَ إِذْ يَحْكُمَانِ فِى ٱلْحَرْثِ
إِذْ نَفَشَتْ فِيهِ غَنَمُ ٱلْقَوْمِ وَكُنَّا
لِحُكْمِهِمْ شَٰهِدِينَ ﴿٧٨﴾

79. そして、われら*はスライマーン*に、それ（争う両者の利益を公正に配慮すること）についての理解を授けた[4]。――われら*は

فَفَهَّمْنَٰهَا سُلَيْمَٰنَ ۚ وَكُلًّا ءَاتَيْنَا حُكْمًا
وَعِلْمًا ۚ وَسَخَّرْنَا مَعَ دَاوُۥدَ ٱلْجِبَالَ يُسَبِّحْنَ

1 この「慈悲」には、「預言者*としての使命」「イスラーム*」「天国」「不信仰の民*からの救い」など諸説あり（アル＝クルトゥビー11:306 参照）。

2 呼びかけた祈りの内容については、月章 10、ヌーフ*章 26-27 を参照。

3 この「苦悩」とは、洪水によって溺れることと、民から嘘つき呼ばわりされていたこと（アル＝バガウィー3:298 参照）。

4 ダーウード*は、羊が、荒らされた農作地の所有者のものとなるように裁いた。一方スライマーン*は、羊の所有者が荒らされた農作地を元通りにするまで、農作地の所有者が羊の乳や羊毛などを利用することが出来るものとし、農作地が元通りになった後には、農作地と羊がそれぞれ元の所有者のもとに返還されるようにした（ムヤッサル 328 頁参照）。

（両者の）いずれにも、裁決[1]と知識を授けたのである[2]――。またダーウード*には、（その主*を）称える*山々と鳥を仕えさせた[3]。そして、われら*は（そのように）する者であった。

وَٱلطَّيۡرَۚ وَكُنَّا فَٰعِلِينَ ٧٩

80. また、われら*は彼（ダーウード*）に、あなた方のための鎧の作り方を教えた[4]。（それは）あなた方を、あなた方の戦い（の中での負傷）から守るためである。ならば、あなた方は（アッラー*の恩恵を）感謝する者なのか？[5]

وَعَلَّمۡنَٰهُ صَنۡعَةَ لَبُوسٖ لَّكُمۡ لِتُحۡصِنَكُم
مِّنۢ بَأۡسِكُمۡۖ فَهَلۡ أَنتُمۡ شَٰكِرُونَ ٨٠

81. またスライマーン*には、彼の命令のもと、われら*が祝福した地[6]まで吹いて行く強風を（仕えさせた）[7]。われら*はもとより、全ての物事を知っていたのである。

وَلِسُلَيۡمَٰنَ ٱلرِّيحَ عَاصِفَةٗ تَجۡرِي بِأَمۡرِهِۦٓ إِلَى
ٱلۡأَرۡضِ ٱلَّتِي بَٰرَكۡنَا فِيهَاۚ وَكُنَّا بِكُلِّ شَيۡءٍ
عَٰلِمِينَ ٨١

---

1 この「裁決」については、アーヤ*74 の訳注を参照。

2 アル＝クルトゥビー*によれば、ダーウード*とスライマーン*はこの裁決において、啓示ではなく、自らの知的努力によって見解を導き出した、というのが大半の学者の説である。そして二人の裁決の差異については、以下のような学者の意見がある。①ダーウード*はこの件において間違えたわけではなく、「裁決と知識」を与えられてはいたが、スライマーン*の方が彼より優れていた。②この件に限ってみれば、ダーウード*は間違い、スライマーン*は正しかったが、預言者*でも（このような分野での）間違いはあり得る（雌牛章 36 の訳注も参照）。ただ、預言者*は間違いを承認し続けることがない（11:308-309 参照）。

3 一説には、ダーウード*は柔らかく繊細な美声の持ち主だった。それで彼がアッラー*を称える*と、山々や鳥がそれに応えて、アッラー*を称え*たのだという（アッ＝サァディー528 頁参照）。サバア章 10、サード章 18-19 も参照。

4 サバア章 10-11 も参照。

5 この言い回しについては、食卓章 91「あなた方は･･･止めるのか？」についての訳注を参照。

6 この「われら*が祝福した地」とは、エルサレムのこととされる（ムヤッサル 328 頁参照）。

7 サバア章 12、サード章 36 も参照。

82. また、シャイターン*らの内から、彼（スライマーン*）のために（海へ）潜り、それ以外の仕事もこなす[1]者たちを（仕えさせた）。われら*は、彼らに対する守護者[2]だったのだ。

وَمِنَ ٱلشَّيَٰطِينِ مَن يَغُوصُونَ لَهُۥ
وَيَعۡمَلُونَ عَمَلٗا دُونَ ذَٰلِكَۖ وَكُنَّا لَهُمۡ
حَٰفِظِينَ ٨٢

83. また（使徒*よ）、アイユーブ*（のことを思い起こさせよ）。彼が、「私に災難が降りかかりました。それでも、あなたは慈しみ深い者の中でも、最も慈しみ深いお方であられます」と（言って）、その主*を呼んだ時のこと。[3]

۞وَأَيُّوبَ إِذۡ نَادَىٰ رَبَّهُۥٓ أَنِّي مَسَّنِيَ
ٱلضُّرُّ وَأَنتَ أَرۡحَمُ ٱلرَّٰحِمِينَ ٨٣

84. それで、われら*は彼に応え、彼に降りかかった災難を取り除いた。そして、われら*の御許からの慈悲と、崇拝*者たちへの教訓として、彼に家族と、それと同様のものをもう一つ与えた[4]のだ。

فَٱسۡتَجَبۡنَا لَهُۥ فَكَشَفۡنَا مَا بِهِۦ مِن ضُرّٖۖ
وَءَاتَيۡنَٰهُ أَهۡلَهُۥ وَمِثۡلَهُم مَّعَهُمۡ رَحۡمَةٗ
مِّنۡ عِندِنَا وَذِكۡرَىٰ لِلۡعَٰبِدِينَ ٨٤

85. また、イスマーイール*とイドリース*とズル＝キフル*（のことを思い起こさせよ）。（彼らは）いずれも、忍耐*強い者たちの仲間であった。

وَإِسۡمَٰعِيلَ وَإِدۡرِيسَ وَذَا ٱلۡكِفۡلِۖ كُلّٞ مِّنَ
ٱلصَّٰبِرِينَ ٨٥

---

1 シャイターン*らはスライマーン*のために、海に潜って真珠や宝石類を採集したり、彼の望む物を作っていたりしたのだという（ムヤッサル 329 頁参照）。サバア章 12-13、サード章 37 も参照。

2 つまりアッラー*こそが、彼らがダーウード*に逆らわないように制御なさったお方だった、ということ（アッ＝サァディー528 頁参照）。頻出名・用語集「よくお守りになる*お方」の項も参照。

3 身体の病気による試練を受け、家族や財産を失ったとされる。だが彼は忍耐*を重ね、アッラー*に状況の改善を祈った（ムヤッサル 329 頁参照）。サード章 41-44 も参照。

4 アル＝バガウィー*によれば、この意味は、「アッラー*が、先立った家族を生き返され、かつ彼らと同様の家族を更にもう一つ、彼にお授けになった」というのが、大半の解釈学者の見解。ほかにも「アッラー*から再び授かった財産と家族から、更に多くのものを授かった」「現世では先立った家族と同様の家族を授かり、先立った家族とは来世で共になることを約束された」という説などがある（3:310-312 参照）。

86. そしてわれら*は彼らを、われら*の慈悲[1]の中に入れてやった。本当に彼らは、正しい者*たちの類いだったのだから。

وَأَدۡخَلۡنَٰهُمۡ فِي رَحۡمَتِنَآۖ إِنَّهُم مِّنَ
ٱلصَّٰلِحِينَ ٨٦

87. また、ズン＝ヌーン[2]（のことを思い起こさせよ）。彼がひどく立腹し、（その民のもとを）立ち去った時のことを[3]。そして彼は、われら*が彼のことを（そのことゆえに、）決して辛い目には遭わせないだろうと思っていた[4]。それで（アッラー*からの苦しい試練に遭い、海で大魚に飲みこまれた時、）彼は闇[5]の中で（主*に、こう）呼びかけたのだ。「あなたの外に、崇拝*されるべきものはありません。あなたに称え*あれ。本当に私は、不正*者の類いだったのです[6]」。

وَذَا ٱلنُّونِ إِذ ذَّهَبَ مُغَٰضِبٗا فَظَنَّ أَن
لَّن نَّقۡدِرَ عَلَيۡهِ فَنَادَىٰ فِي ٱلظُّلُمَٰتِ أَن
لَّآ إِلَٰهَ إِلَّآ أَنتَ سُبۡحَٰنَكَ إِنِّي كُنتُ
مِنَ ٱلظَّٰلِمِينَ ٨٧

88. それでわれら*は彼に応え、彼を苦悩から救い出した。同様に、われら*は信仰者たちを救出するのである。

فَٱسۡتَجَبۡنَا لَهُۥ وَنَجَّيۡنَٰهُ مِنَ ٱلۡغَمِّۚ
وَكَذَٰلِكَ نُـۨجِي ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ٨٨

---

1 この「慈悲」については、アーヤ*75 の同語についての訳注を参照。

2 「ズン＝ヌーン（大魚の人）」とは、預言者*ユーヌス*のこと（アッ＝サアディー529 頁参照）。その異名の由来は、整列者章 142 にあるように、彼が海で大魚に呑（の）み込まれたことである。

3 ユーヌス*は、預言者*としてその民へ遣わされたが、彼らは信仰せず、警告にも耳を貸さなかった。それで彼は、アッラー*から命じられたように忍耐*せず、民に腹を立て、彼らのもとを立ち去ってしまったのだという（ムヤッサル 329 頁参照）。整列者章 139-148 には、その情景がより詳しく描写されている。尚、預言者*の無謬（むびゅう）性については、雌牛章 36 の訳注も参照。

4 アッ＝サアディー*によれば、このような発想は、それが定着・継続しないことを条件に、預言者*にも起こり得ることである（529 頁参照）。雌牛章 36 の訳注も参照。

5 この「闇」は、原語では複数形。つまり大魚の体内の闇と、海の底の闇、夜の闇などが重なった状態であった（アッ＝タバリー7:5755 参照）。

6 預言者*ムハンマド*は、このユーヌス*の言葉は、アッラー*によって必ず叶（かな）えられる祈願の言葉である、と仰（おっしゃ）っている（アッ＝ティルミズィー3505 参照）。

89. また（使徒*よ）、ザカリーヤー*（のことを思い起こさせよ）。彼がその主*に、（こう）呼びかけた時のこと。「我が主*よ、私を（後継ぎもない）孤独な状態に、放り置かないで下さい。あなたは、最善の相続者[1]です」。[2]

وَزَكَرِيَّآ إِذۡ نَادَىٰ رَبَّهُۥ رَبِّ لَا تَذَرۡنِي
فَرۡدٗا وَأَنتَ خَيۡرُ ٱلۡوَٰرِثِينَ ٨٩

90. それで、われら*は彼に応えて、彼にヤヒヤー*を授け、彼（ザカリーヤー*）のためにその妻を正しくしてやった[3]。本当に彼らは善行に急ぎ、（われら*の褒美を）望み（われら*の罰を）怖れつつ、われら*に祈っていたのであり、われら*に対して恭順[4]な者たちだったのだ。

فَٱسۡتَجَبۡنَا لَهُۥ وَوَهَبۡنَا لَهُۥ يَحۡيَىٰ
وَأَصۡلَحۡنَا لَهُۥ زَوۡجَهُۥٓۚ إِنَّهُمۡ كَانُواْ
يُسَٰرِعُونَ فِي ٱلۡخَيۡرَٰتِ وَيَدۡعُونَنَا رَغَبٗا
وَرَهَبٗاۖ وَكَانُواْ لَنَا خَٰشِعِينَ ٩٠

91. また（使徒*よ）、自らの貞操を堅持し、われら*がその内に、われら*の魂[5]から吹き込んでやった女性（マルヤム*のことを、思い起こさせよ）。われら*は彼女とその息子を、（自らの力を示す）全創造物への御徴とした。

وَٱلَّتِيٓ أَحۡصَنَتۡ فَرۡجَهَا فَنَفَخۡنَا
فِيهَا مِن رُّوحِنَا وَجَعَلۡنَٰهَا وَٱبۡنَهَآ
ءَايَةٗ لِّلۡعَٰلَمِينَ ٩١

92. 本当にこれら（の預言者*たち）は、あなた方の共同体、一つの共同体[6]である。そしてわれは、あなた方の主*。ならば、われを崇拝*せよ。

إِنَّ هَٰذِهِۦٓ أُمَّتُكُمۡ أُمَّةٗ وَٰحِدَةٗ
وَأَنَا۠ رَبُّكُمۡ فَٱعۡبُدُونِ ٩٢

---

1 この「相続者」については、イムラーン家章 180「天地の遺産は･･･」についての訳注を参照。

2 この場面の詳細については、イムラーン家章 38-41、マルヤム*章 2-11 を参照。

3 つまり彼の妻の品性を高められ、また不妊であった彼女を、妊娠と出産が可能な状態にして下さった（ムヤッサル 329 頁参照）。

4 「恭順」については、雌牛章 45 の訳注を参照。

5 この「魂」については、婦人章 171 の訳注を参照。

6 全ての預言者*は、同じ一つの宗教を携えて到来した。そしてそれがイスラーム*であり、アッラー*に従い、かれだけを崇拝*する教えなのである（ムヤッサル 330 頁参照）。

93. （その後、）彼ら（人々）は自分たちの（宗教上の）事柄において、互いに分裂してしまった。全ての者は、われら*の御許へと帰り行く身なのであ（り、その行いの清算を受け）る。

وَتَقَطَّعُوٓاْ أَمۡرَهُم بَيۡنَهُمۡۖ كُلٌّ
إِلَيۡنَا رَٰجِعُونَ ٩٣

94. そして信仰者でありつつ、正しい行い*をいくらかでも行う者ならば、その努力が蔑ろにされることは絶対にない。本当にわれら*は、彼のために記録する者[1]なのである。

فَمَن يَعۡمَلۡ مِنَ ٱلصَّٰلِحَٰتِ وَهُوَ مُؤۡمِنٞ
فَلَا كُفۡرَانَ لِسَعۡيِهِۦ وَإِنَّا لَهُۥ
كَٰتِبُونَ ٩٤

95. われら*が滅ぼした町（の民）は、（現世でやり直すため、）戻って来ることを禁じられているのだ。

وَحَرَٰمٌ عَلَىٰ قَرۡيَةٍ أَهۡلَكۡنَٰهَآ أَنَّهُمۡ
لَا يَرۡجِعُونَ ٩٥

96. やがて、ヤァジュージュとマァジュージュ[2]（を遮る障壁）が開き放たれ、彼らがあらゆる丘陵地から雪崩落ちてくる時、

حَتَّىٰٓ إِذَا فُتِحَتۡ يَأۡجُوجُ وَمَأۡجُوجُ وَهُم
مِّن كُلِّ حَدَبٖ يَنسِلُونَ ٩٦

97. 真実の約束（復活の日*）は近づいたのである。そしてどうであろうか、（その日の恐怖が現れると、）不信仰だった者*たちの眼は見開いたままになる。（彼らはこう言うのだ。）「我らが災いよ！[3] 私たちは確かに、このことに迂闊でした。いや、私たちは不正*者だったのです」。

وَٱقۡتَرَبَ ٱلۡوَعۡدُ ٱلۡحَقُّ فَإِذَا هِيَ شَٰخِصَةٌ
أَبۡصَٰرُ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ يَٰوَيۡلَنَا قَدۡ كُنَّا
فِي غَفۡلَةٖ مِّنۡ هَٰذَا بَلۡ كُنَّا ظَٰلِمِينَ ٩٧

---

1 アッラー*はそもそも全ての出来事を、守られし碑板*に記録されているが、同時に人々の行いを天使*らの「行いの帳簿（ちょうぼ）」にも記録させている（アッ＝サァディー530頁参照）。

2 「ヤァジュージュとマァジュージュ」については、洞窟章 94-99 参照。

3 「我らが災いよ！」という表現については、食卓章 31 の訳注を参照。

98. 本当に（不信仰者*よ、）あなた方と、あなた方がアッラー*を差しおいて崇(あが)めているもの[1]は、地獄(じごく)へと放り込まれるもの[2]となる。あなた方は、そこに入ることになるのだ。

إِنَّكُمْ وَمَا تَعْبُدُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ
حَصَبُ جَهَنَّمَ أَنتُمْ لَهَا وَٰرِدُونَ ﴿٩٨﴾

99. もし、これらの者たちが（真に崇拝(すうはい)*に値(あたい)する）神々であったなら、彼らがそこに入ることはなかったのだ。そして皆(みな)[3]、そこに永遠に留(とど)まる。

لَوْ كَانَ هَٰٓؤُلَآءِ ءَالِهَةً مَّا وَرَدُوهَا ۖ
وَكُلٌّ فِيهَا خَٰلِدُونَ ﴿٩٩﴾

100. 彼らにはそこで、呻(うめ)き声[4]（を催(もよお)す苦痛）があり、彼らはそこで（懲罰(ちょうばつ)の恐怖のため）何も聞こえない。

لَهُمْ فِيهَا زَفِيرٌ وَهُمْ فِيهَا لَا يَسْمَعُونَ ﴿١٠٠﴾

101. 本当に、われら*によって最善のものが既(すで)に定められている者たち[5]、それらの者たちはそこ（地獄(じごく)）から遠ざけられる。[6]

إِنَّ ٱلَّذِينَ سَبَقَتْ لَهُم مِّنَّا ٱلْحُسْنَىٰٓ
أُو۟لَٰٓئِكَ عَنْهَا مُبْعَدُونَ ﴿١٠١﴾

---

1 つまり偶像や、人間・ジン*の内、自分たちが崇拝*されることに満足している者たちのこと（ムヤッサル 330 頁参照）。

2 地獄の薪（たきぎ）となること（前掲書、同頁参照）。雌牛章 24、禁止章 6 も参照。また、単なる物体である偶像が業火の中に入れられる意味の一つに、それを崇めていた者たちの嘘が明らかになり、彼らの無念が募ることで、懲罰が更に増加するということがある（アッ＝サァディー531 頁参照）。

3 「皆」とは、アーヤ*98 で言及されている者たち。ただし、アーヤ*101 で言及されている者は例外。

4 これは苦しみゆえに、肺の一番奥から強く吐き出される息のこと（イブン・アーシュール 17:153 参照）。

5 イーサー*、天使*など、永遠の幸福を授かることを予（あらかじ）めアッラー*がご存知になり、守られし碑板*の中にそう定められていた者たち（アッ＝サァディー531 頁参照）。「最善のもの」については、婦人章 95 の同語についての訳注を参照。

6 一説に、このアーヤ*はアーヤ*98 が下った際、マッカ*の不信仰者*らが「それでは、天使*やイーサー*、ウザイル（ユダヤ教徒*が拝していた人物であるとされる）も地獄に入るのか？」と反論したことに関し、下ったとされる（アル＝ハーキム 2:453 参照）。

102. 彼らは、自分自身の欲するもの[1]の中に永住し、（地獄の）その微かな音さえ聞くことがない。

لَا يَسْمَعُونَ حَسِيسَهَا ۖ وَهُمْ فِي مَا
ٱشْتَهَتْ أَنفُسُهُمْ خَٰلِدُونَ ١٠٢

103. （復活の日*、業火が不信仰者*に押し寄せる時の）最大の戦慄が、彼らを悲しませることはない。そして天使*たちは（こう言いつつ）、彼らを迎え入れる。「これが、あなた方が（大いなる褒美を）約束されていた、あなた方の日ですよ」。

لَا يَحْزُنُهُمُ ٱلْفَزَعُ ٱلْأَكْبَرُ وَتَتَلَقَّىٰهُمُ
ٱلْمَلَٰٓئِكَةُ هَٰذَا يَوْمُكُمُ ٱلَّذِي كُنتُمْ
تُوعَدُونَ ١٠٣

104. あたかも書（面の上）に頁を折りたたむかのように、われら*が天を折りたたむ[2]、その日。最初の創造を始めたように、われらはそれ（創造）を元通りにするのである[3]。われら*にとって（履行）必須の約束として（、復活を約束したのだ）。本当にわれら*は、もとより（約束を全う）する者だったのである。

يَوْمَ نَطْوِي ٱلسَّمَآءَ كَطَيِّ ٱلسِّجِلِّ
لِلْكُتُبِ ۚ كَمَا بَدَأْنَآ أَوَّلَ خَلْقٍ نُّعِيدُهُۥ ۚ
وَعْدًا عَلَيْنَآ ۚ إِنَّا كُنَّا فَٰعِلِينَ ١٠٤

105. われら*は（守られし碑板*の中で）記した後、（過去の）書簡[4]の中で、確かに（こう）書きとめたのである。「大地は、正しきわが僕たち[5]が継承するのだ[6]」。

وَلَقَدْ كَتَبْنَا فِي ٱلزَّبُورِ مِنۢ بَعْدِ
ٱلذِّكْرِ أَنَّ ٱلْأَرْضَ يَرِثُهَا عِبَادِيَ
ٱلصَّٰلِحُونَ ١٠٥

---

1 サジダ*章 17 とその訳注も参照。

2 同様のアーヤ*として、集団章 67 も参照。

3 人が、素足で裸で割礼を受けていない状態の誕生した時のままの姿で、死後に復活させられることを指す（アル＝バガウィー3:320 参照）。家畜章 94 とその訳注、洞窟章 48 も参照。

4 過去の全ての啓典のこと（ムヤッサル 331 頁参照）。そこに書かれたことを含め、この世で起こる全ての物事は、守られし碑板*の中に既に記録されている（アッ＝サァディー531 頁参照）。

5 「正しきわが僕たち」とは、預言者*ムハンマド*の共同体のこと（ムヤッサル 331 頁参照）。

6 この「大地」とは、天国のこと。一説には地上の世界（アッ＝サァディー531 頁参照）。高壁章 128、御光章 55、赦し深いお方章 51 も参照。

106. 本当にこの（クルアーン*の）中にはまさしく、崇拝*する民にとって十分なもの[1]がある。

إِنَّ فِي هَٰذَا لَبَلَٰغٗا لِّقَوۡمٍ عَٰبِدِينَ ١٠٦

107. また、（使徒*よ、）われら*があなたを遣わしたのは、全創造物への慈悲ゆえに外ならない。[2]

وَمَآ أَرۡسَلۡنَٰكَ إِلَّا رَحۡمَةٗ لِّلۡعَٰلَمِينَ ١٠٧

108. 言え。「私に啓示されたのは、あなた方の崇拝*すべきものが、唯一の神（アッラー*）であるということに外ならない。では一体、あなた方は服従する者（ムスリム*）となるのか？」

قُلۡ إِنَّمَا يُوحَىٰٓ إِلَيَّ أَنَّمَآ إِلَٰهُكُمۡ إِلَٰهٞ
وَٰحِدٞۖ فَهَلۡ أَنتُم مُّسۡلِمُونَ ١٠٨

109. もし、彼らが（イスラーム*に）背を向けるなら、言ってやるのだ。「私はあなた方に、（自分に啓示されたものを）等しく[3]お知らせした。そして私は、あなた方が約束されているもの（懲罰）が、一体近いのか、それとも遠いのか、分からないのだ。

فَإِن تَوَلَّوۡاْ فَقُلۡ ءَاذَنتُكُمۡ عَلَىٰ سَوَآءٖۖ وَإِنۡ
أَدۡرِيٓ أَقَرِيبٌ أَم بَعِيدٞ مَّا تُوعَدُونَ ١٠٩

110. 本当にかれ（アッラー*）は、露わにされる言葉をご存知であり、あなた方が隠すものもご存知である。

إِنَّهُۥ يَعۡلَمُ ٱلۡجَهۡرَ مِنَ ٱلۡقَوۡلِ وَيَعۡلَمُ مَا
تَكۡتُمُونَ ١١٠

---

1 「十分なもの」とは、最も高貴な目的である、主*の御許、そして天国へと到達させてくれるに十分なもの。クルアーン*は、アッラー*、不可視の世界*、信仰の真実への招き、確信への証拠、命じられた物事、禁じられた物事、人の心と行いの至らなさ、宗教において歩むべき道についての教示、シャイターン*の道や罠についての警告などを一手に担（にな）う、万全な存在である（アッ＝サァディー532 頁参照）。

2 ゆえにその慈悲を受け入れ、感謝した者は、現世と来世において幸福な者となり、それを拒否し、否定した者は、現世と来世において破滅する（イブン・カスィール 5:385 参照）。

3 警告は伝えたのだから、そこにおいて私たちの知識は等しい、ということ（ムヤッサル 331 頁参照）。関連するアーヤ*として、婦人章 165、家畜章 131、155-157、夜の旅章 15、ター・ハー章 134、創成者*章 24 も参照。

111. そして私は、それ[1]があなた方への試練(しれん)であり、暫(しば)しの享楽(きょうらく)なのかどうかも、分からずにいるのだ」。

وَإِنْ أَدْرِي لَعَلَّهُۥ فِتْنَةٌ لَّكُمْ وَمَتَٰعٌ إِلَىٰ حِينٍ ﴿١١١﴾

112. 彼（預言者(よげんしゃ)*）は、申し上げた。「我が主(しゅ)*よ、（私たちの間を）真理でお裁(さば)き下さい。そして我らが主(しゅ)*は慈悲(じひ)あまねき*お方、あなた方（不信仰者*）が言うことに対して（私から）援助を乞(こ)われるべきお方である[2]」。

قَٰلَ رَبِّ ٱحْكُم بِٱلْحَقِّ ۗ وَرَبُّنَا ٱلرَّحْمَٰنُ ٱلْمُسْتَعَانُ عَلَىٰ مَا تَصِفُونَ ﴿١١٢﴾

1 彼らが性急に求めている懲罰が、すぐ実現しないこと（ムヤッサル 331 頁参照）。

2 不信仰者*らは、自分たちこそが勝利するとか、イスラーム*は敗北する、などと息巻いていた。しかし全創造物の主*であるアッラー*こそは、あらゆることにおいて助けを求められるべきお方である。そして実際にムスリム*はそのようにし、アッラー*のムスリム*に対するご援助は、ヒジュラ暦*2 年のバドルの戦い*を皮切りに実現していくこととなった（アッ＝サァディー532 頁参照）。

第22章
巡礼*章（アル＝ハッジ）[1]

سُورَةُ الحَجِّ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 人々よ、あなた方の主*を畏れ*よ。本当に（復活の）その時の地震[2]は、凄まじい出来事なのだから。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ ٱتَّقُواْ رَبَّكُمۡۚ إِنَّ زَلۡزَلَةَ
ٱلسَّاعَةِ شَيۡءٌ عَظِيمٞ ١

2. あなた方がそれ（復活の時）を目の当たりにする日（のことを、思い起こせ）。全ての授乳する女性は、授乳していたもの（乳飲み児）を忘れ、赤ん坊を宿していた女性は流産する。またあなたは、（酔いで）錯乱しているのではなく、（恐怖で）錯乱している人々を見る。だが（これらにもまして）、アッラー*の懲罰は厳しいのである。

يَوۡمَ تَرَوۡنَهَا تَذۡهَلُ كُلُّ مُرۡضِعَةٍ عَمَّآ
أَرۡضَعَتۡ وَتَضَعُ كُلُّ ذَاتِ حَمۡلٍ حَمۡلَهَا
وَتَرَى ٱلنَّاسَ سُكَٰرَىٰ وَمَا هُم بِسُكَٰرَىٰ
وَلَٰكِنَّ عَذَابَ ٱللَّهِ شَدِيدٞ ٢

3. 人々の中には、知識もなくアッラー*について議論[3]し、あらゆる反抗的なシャイターン*に従う者がいる。

وَمِنَ ٱلنَّاسِ مَن يُجَٰدِلُ فِي ٱللَّهِ بِغَيۡرِ عِلۡمٖ
وَيَتَّبِعُ كُلَّ شَيۡطَٰنٖ مَّرِيدٖ ٣

4. 彼（シャイターン*）には、定められているのである。彼（シャイターン*）を盟友とする者があれば、実に彼はその者を迷わせ、烈火の懲罰へと導くことになると。

كُتِبَ عَلَيۡهِ أَنَّهُۥ مَن تَوَلَّاهُ فَأَنَّهُۥ
يُضِلُّهُۥ وَيَهۡدِيهِ إِلَىٰ عَذَابِ ٱلسَّعِيرِ ٤

---

1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間に大きな相違があるスーラ*の一つ。ハッジ*への呼びかけ、その偉大さの称揚（しょうよう）、そこに含まれる数々の徳と利益への言及に因（ちな）み、この名称で呼ばれる。スーラ*全般を通して、信仰、アッラーの唯一性*、不信仰者*への警告、復活と清算、復活の日*の出来事の描写など、マッカ*啓示の特徴が現れている一方、不信仰者*との戦いの許可、ハッジ*の法規定など、マディーナ*啓示の特徴も顕著（けんちょ）である。

2 これは、復活の日*が起こる直前の予兆としての地震のことを指す、というのが大半の学者の見解である（アル＝クルトゥビー12:3 参照）。

3 アッラー*には復活を行う力が備わっているか、疑念をもって議論すること（ムヤッサル332 頁参照）。

5. 人々よ、もしあなた方が復活に疑惑を抱いているのなら（、あなた方の周りを見てみるがよい）。というのも本当に、われら*はあなた方（の父祖アーダム*）を土から創ったのである[1]。そして（その子孫は）一滴の精液から（一塊の凝血へ）、また一塊の凝血から（一個の肉塊へ）、そして創造が進んだ肉塊、あるいは創造が進んでいない肉塊[2]から（、段階を経て創ったのだ）。（それは、）われら*があなた方に（創造の変遷における、われら*の力を）明らかにするため。われら*は決められた（出産の）時まで、われら*の望むものを子宮の中に留める。その後われら*は、あなた方を子供として（母体から）出し、それから、あなた方が成熟[3]するように（、年齢を重ねさせる）。また、あなた方の中には、（成熟する前に）寿命を全うする者もいれば、（成熟期の後に）最悪の年齢[4]に戻される者もいる。（それは）彼が、知識の（習得）後に何も知らない状態となるため。また、あなたは干上がった大地を見るが、われら*がそこに（雨）水を降らせると、それは振動し、盛り上がり、あらゆる麗しい種類のもの（植物）を芽生えさせるのだ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ إِن كُنتُمۡ فِي رَيۡبٖ مِّنَ
ٱلۡبَعۡثِ فَإِنَّا خَلَقۡنَٰكُم مِّن تُرَابٖ ثُمَّ
مِن نُّطۡفَةٖ ثُمَّ مِنۡ عَلَقَةٖ ثُمَّ مِن مُّضۡغَةٖ
مُّخَلَّقَةٖ وَغَيۡرِ مُخَلَّقَةٖ لِّنُبَيِّنَ لَكُمۡۚ وَنُقِرُّ
فِي ٱلۡأَرۡحَامِ مَا نَشَآءُ إِلَىٰٓ أَجَلٖ مُّسَمّٗى ثُمَّ
نُخۡرِجُكُمۡ طِفۡلٗا ثُمَّ لِتَبۡلُغُوٓاْ أَشُدَّكُمۡۖ
وَمِنكُم مَّن يُتَوَفَّىٰ وَمِنكُم مَّن يُرَدُّ إِلَىٰٓ
أَرۡذَلِ ٱلۡعُمُرِ لِكَيۡلَا يَعۡلَمَ مِنۢ بَعۡدِ عِلۡمٖ
شَيۡـٔٗاۚ وَتَرَى ٱلۡأَرۡضَ هَامِدَةٗ فَإِذَآ أَنزَلۡنَا
عَلَيۡهَا ٱلۡمَآءَ ٱهۡتَزَّتۡ وَرَبَتۡ وَأَنۢبَتَتۡ مِن
كُلِّ زَوۡجِۭ بَهِيجٖ ٥

1 アーダム*が土から段階を経（へ）て創られたことについては、アル＝ヒジュル章26の訳注を参照。

2 「創造が進んだ肉塊」「創造が進んでいない肉塊」は一説に、前者が「創造が全うされ、子供として生まれ出るもの」、後者が「創造が完遂されず、流産するもの」。またその他、前者が「人間としての表面的な形成が始まったもの」で、後者が「まだ形成が始まっていないもの」、といった説もある（アル＝クルトゥビー12:9参照）。

3 この「成熟」は、知性が完全なものとなり、身体的な力にみなぎった、青年期の頂点のこととされる（ムヤッサル332頁参照）。

4 「最悪の年齢」については、蜜蜂章70の訳注を参照。また、人間の創造の変遷（へんせん）については、信仰者たち章14も参照。

6. それというのもアッラー*が真実であり、かれが死んだものに生を授けられ、そしてかれには全てのことがお出来だからである。

ذَٰلِكَ بِأَنَّ ٱللَّهَ هُوَ ٱلْحَقُّ وَأَنَّهُۥ يُحْيِ ٱلْمَوْتَىٰ وَأَنَّهُۥ
عَلَىٰ كُلِّ شَىْءٍ قَدِيرٌ ٦

7. また、その時（復活の日*）が疑惑の余地なく到来し、アッラー*は墓の中にいる者を蘇らされるからなのだ。

وَأَنَّ ٱلسَّاعَةَ ءَاتِيَةٌ لَّا رَيْبَ فِيهَا وَأَنَّ ٱللَّهَ
يَبْعَثُ مَن فِى ٱلْقُبُورِ ٧

8. また、人々の中には、知識も導きも光明の書もなしに、アッラー*について議論する者がいる。[1]

وَمِنَ ٱلنَّاسِ مَن يُجَٰدِلُ فِى ٱللَّهِ بِغَيْرِ عِلْمٍ وَلَا
هُدًى وَلَا كِتَٰبٍ مُّنِيرٍ ٨

9. 彼は（人々を）アッラー*の道から迷わせるため、その顔を背けつつ（議論するのだ）。彼には現世において屈辱があり、われら*は彼に復活の日*、焼き尽くす懲罰を味わわせよう。

ثَانِىَ عِطْفِهِۦ لِيُضِلَّ عَن سَبِيلِ ٱللَّهِ ۖ لَهُۥ فِى ٱلدُّنْيَا
خِزْىٌ ۖ وَنُذِيقُهُۥ يَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ عَذَابَ ٱلْحَرِيقِ ٩

10. （彼には、こう言われる。）「それは、あなたが自ら行ったことゆえ（の応報）。そしてアッラー*が、僕たちに対して（罪もなしに罰する）不正*者などではないためなのだ」。

ذَٰلِكَ بِمَا قَدَّمَتْ يَدَاكَ وَأَنَّ ٱللَّهَ لَيْسَ بِظَلَّٰمٍ
لِّلْعَبِيدِ ١٠

11. 人々の中には、アッラー*を覚束ない形で崇拝*する者[2]がいる。そして自分に善いことが起これば、それに安心し、試練が降りかかれば、顔から引っくり返（って反転す）る[3]。彼は現世と来世において、損をしたのだ。それは明らかな損失なのである。

وَمِنَ ٱلنَّاسِ مَن يَعْبُدُ ٱللَّهَ عَلَىٰ حَرْفٍ ۖ فَإِنْ
أَصَابَهُۥ خَيْرٌ ٱطْمَأَنَّ بِهِۦ ۖ وَإِنْ أَصَابَتْهُ
فِتْنَةٌ ٱنقَلَبَ عَلَىٰ وَجْهِهِۦ خَسِرَ ٱلدُّنْيَا
وَٱلْءَاخِرَةَ ۚ ذَٰلِكَ هُوَ ٱلْخُسْرَانُ ٱلْمُبِينُ ١١

---

1 彼らは正しい理論的根拠も、神的根拠（アッラー*からの啓示と使徒*の言葉）もなく、シャイターン*から吹き込まれた疑念に従っているだけである（アッ＝サァディー534頁参照）。

2 弱い信仰心と疑念と共に、または現世的利益への欲望ゆえにイスラーム*に入り、ためらいつつアッラー*を崇拝*する者のたとえ（ムヤッサル333頁参照）。

3 つまり、イスラーム*を棄（す）てる、ということ（前掲書、同頁参照）。蜘蛛章 10 も参照。

12. 彼はアッラー*を差しおいて、自分を害もしなければ、益もしないもの[1]に祈る。それこそは、遠い迷いである。

يَدۡعُواْ مِن دُونِ ٱللَّهِ مَا لَا يَضُرُّهُۥ وَمَا لَا
يَنفَعُهُۥۚ ذَٰلِكَ هُوَ ٱلضَّلَٰلُ ٱلۡبَعِيدُ ١٢

13. 彼は、むしろ害の方がその益よりも近いもの[2]に祈っている。その庇護者は何と実に醜悪であり、その身寄りは何と実に醜悪であろうか。

يَدۡعُواْ لَمَن ضَرُّهُۥٓ أَقۡرَبُ مِن نَّفۡعِهِۦۚ لَبِئۡسَ
ٱلۡمَوۡلَىٰ وَلَبِئۡسَ ٱلۡعَشِيرُ ١٣

14. 本当にアッラー*は、信仰し、正しい行い*を行う者を、その下から河川が流れる楽園に入れて下さる。本当にアッラー*は、かれがお望みのことをされるのだ。

إِنَّ ٱللَّهَ يُدۡخِلُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ
ٱلصَّٰلِحَٰتِ جَنَّٰتٖ تَجۡرِي مِن تَحۡتِهَا
ٱلۡأَنۡهَٰرُۚ إِنَّ ٱللَّهَ يَفۡعَلُ مَا يُرِيدُ ١٤

15. （アッラー*は、預言者*ムハンマド*を援助される。）アッラー*が、彼を現世と来世において、決して援助されることなどないと思い込んでいた者は、空へと綱を伸ばし、それから断ち切ってみよ[3]。そして自分の策略が（、自分自身を）憤らせているものを解消してくれるかどうか、見てみるのだ。

مَن كَانَ يَظُنُّ أَن لَّن يَنصُرَهُ ٱللَّهُ فِي ٱلدُّنۡيَا
وَٱلۡأٓخِرَةِ فَلۡيَمۡدُدۡ بِسَبَبٍ إِلَى ٱلسَّمَآءِ ثُمَّ لۡيَقۡطَعۡ
فَلۡيَنظُرۡ هَلۡ يُذۡهِبَنَّ كَيۡدُهُۥ مَا يَغِيظُ ١٥

16. また同様に、われら*はそれ（クルアーン*）を、解明の御徴として下した。そしてアッラー*は（それによって、）かれのお望みになる者を導かれる。

وَكَذَٰلِكَ أَنزَلۡنَٰهُ ءَايَٰتِۭ بَيِّنَٰتٖ وَأَنَّ ٱللَّهَ
يَهۡدِي مَن يُرِيدُ ١٦

---

1 「自分を害もしなければ・・・」については、ユーヌス*章 106 の訳注を参照。

2 一説にこれは、フィルアウン*のように、崇拝*された暴虐（ぼうぎゃく）者のこと。そのような者は自分を崇拝*する者に対し、いくばくかの現世的利益を提供してくれるかもしれない。しかし、その結果としての地獄での懲罰に比べれば、それは非常に僅かな利益である（アブー・ハイヤーン 6:346 参照）。

3 つまり、アッラー*がその使徒*と啓典、宗教を援助されないと思っていた者は、頭上に綱をかけ、それで首をくくって死に、それで自分の怒りを抑えてみるがよい、ということ。また一説には、天に昇って、預言者*ムハンマド*への援助を断ち切ってみよ、ということ（イブン・カスィール 5:402 参照）。

17. 本当に、信仰する者たち、ユダヤ教徒*である者たち、サービア教徒*たち、キリスト教徒*たち、マジュース教徒[1]たち、シルク*を犯す者たち、実にアッラー*は復活の日*、彼らの間に裁きをお下しになる。本当にアッラー*は、全てのことの証人であられるのだから。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَٱلَّذِينَ هَادُواْ
وَٱلصَّٰبِـِٔينَ وَٱلنَّصَٰرَىٰ وَٱلْمَجُوسَ وَٱلَّذِينَ
أَشْرَكُوٓاْ إِنَّ ٱللَّهَ يَفْصِلُ بَيْنَهُمْ يَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِۚ
إِنَّ ٱللَّهَ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ شَهِيدٌ ١٧

18. （使徒*よ、）一体あなたは、まさにアッラー*に向かって、諸天にいる者と大地にいる者、太陽、月、星々、山々、木々、陸を歩く生物、多くの人々がサジダ*するのを、知らないのか？[2] また、多くの者には懲罰が定められた。アッラー*が惨めにし給う者には、栄誉を与えてくれる者などいない。本当にアッラー*は、かれがお望みのことをし給うのだ。（読誦のサジダ*）

أَلَمْ تَرَ أَنَّ ٱللَّهَ يَسْجُدُ لَهُۥ مَن فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَمَن فِي ٱلْأَرْضِ وَٱلشَّمْسُ وَٱلْقَمَرُ
وَٱلنُّجُومُ وَٱلْجِبَالُ وَٱلشَّجَرُ وَٱلدَّوَآبُّ
وَكَثِيرٌ مِّنَ ٱلنَّاسِۖ وَكَثِيرٌ حَقَّ عَلَيْهِ ٱلْعَذَابُۗ
وَمَن يُهِنِ ٱللَّهُ فَمَا لَهُۥ مِن مُّكْرِمٍۚ إِنَّ ٱللَّهَ
يَفْعَلُ مَا يَشَآءُ۩ ١٨

19. これらは、彼らの主*（の教え）に関して言い争う、二つの集団[3]。そして不信仰に陥った者*たち、彼らには火で出来た衣服[4]が切り分けられ、その頭上からは煮えたぎった湯がかけられる。

۞ هَٰذَانِ خَصْمَانِ ٱخْتَصَمُواْ فِي رَبِّهِمْۖ
فَٱلَّذِينَ كَفَرُواْ قُطِّعَتْ لَهُمْ ثِيَابٌ مِّن
نَّارٍ يُصَبُّ مِن فَوْقِ رُءُوسِهِمُ ٱلْحَمِيمُ ١٩

20. それによって彼らの腹の中にあるものと、皮膚は溶け落ちてしまう。

يُصْهَرُ بِهِۦ مَا فِي بُطُونِهِمْ وَٱلْجُلُودُ ٢٠

21. また、彼らには鉄の金槌があ（り、それで天使*たちに殴打され）る。

وَلَهُم مَّقَٰمِعُ مِنْ حَدِيدٍ ٢١

1 一説には、火を拝する宗教を奉じる人々（ムヤッサル 334 頁参照）。

2 天使*も、人間・ジン*・動物・鳥といった生物も、天体、山々、木々も、皆各々のやり方でサジダ*し、服従する（イブン・カスィール 5:403 参照）。イムラーン家章 83 とその訳注、雷鳴章 15 とその訳注、蜜蜂章 48-49、夜の旅章 44、御光章 41 とその訳注も参照。

3 信仰者たちと、不信仰者*たちのこと（ムヤッサル 334 頁参照）。

4 地獄の民が身に纏（まと）うものについては、イブラーヒーム*章 50 も参照。

22. 苦悩ゆえにそこから抜け出ようとするたび、彼らはそこに戻される。そして、（こう）言われるのだ。「焼き尽くす懲罰を味わえ」。

كُلَّمَآ أَرَادُوٓاْ أَن يَخۡرُجُواْ مِنۡهَا مِنۡ غَمٍّ
أُعِيدُواْ فِيهَا وَذُوقُواْ عَذَابَ ٱلۡحَرِيقِ ٢٢

23. 本当にアッラー*は、信仰し、正しい行い*を行う者たちを、その下から河川が流れる楽園に入れて下さる。彼らはそこで金の腕輪や真珠によって飾られ、そこでの彼らの衣服は絹なのだ[1]。

إِنَّ ٱللَّهَ يُدۡخِلُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ
ٱلصَّٰلِحَٰتِ جَنَّٰتٖ تَجۡرِي مِن تَحۡتِهَا
ٱلۡأَنۡهَٰرُ يُحَلَّوۡنَ فِيهَا مِنۡ أَسَاوِرَ مِن
ذَهَبٖ وَلُؤۡلُؤٗاۖ وَلِبَاسُهُمۡ فِيهَا حَرِيرٞ ٢٣

24. また彼らは、（現世では）善い言葉へと導かれ[2]、（来世では）称賛されるべき*お方の道へと導かれたのである。

وَهُدُوٓاْ إِلَى ٱلطَّيِّبِ مِنَ ٱلۡقَوۡلِ وَهُدُوٓاْ إِلَىٰ
صِرَٰطِ ٱلۡحَمِيدِ ٢٤

25. 本当に、不信仰に陥り、アッラー*の道と、ハラーム・マスジド*から阻む[3]者たち（は、損失者である）。それ（ハラーム・マスジド*）は、われら*がそこに居住する者にも、来訪者にも同様に、（信仰する）人々のためとしたもの。不正*にも、そこ（ハラーム・マスジド*）において（真理からの）偏向[4]を望む者には誰であろうと、われら*が痛ましい懲罰の内から味わわせるのだ。

إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ وَيَصُدُّونَ عَن سَبِيلِ ٱللَّهِ
وَٱلۡمَسۡجِدِ ٱلۡحَرَامِ ٱلَّذِي جَعَلۡنَٰهُ لِلنَّاسِ سَوَآءً
ٱلۡعَٰكِفُ فِيهِ وَٱلۡبَادِۚ وَمَن يُرِدۡ فِيهِ بِإِلۡحَادِۭ
بِظُلۡمٖ نُّذِقۡهُ مِنۡ عَذَابٍ أَلِيمٖ ٢٥

26. （預言者*よ、）われら*がイブラーヒーム*に館（カァバ神殿*）の場所を明確にし、準備してやった時のこと（を思い起こさせるがよい。われら*は彼に、こう命じたのだ）。「われに、何ものも並べてはならな

وَإِذۡ بَوَّأۡنَا لِإِبۡرَٰهِيمَ مَكَانَ ٱلۡبَيۡتِ أَن
لَّا تُشۡرِكۡ بِي شَيۡـٔٗا وَطَهِّرۡ بَيۡتِيَ لِلطَّآئِفِينَ
وَٱلۡقَآئِمِينَ وَٱلرُّكَّعِ ٱلسُّجُودِ ٢٦

---

1 天国の民の衣服については、洞窟章 31、創成者*章 33、煙霧章 51-53、人間章 12、21 なども参照。

2 現世においてはシャハーダ*の言葉や、アッラー*を称える*言葉へと、そして来世においては、善い結末に対しての賛美の言葉へと導かれた、ということ（ムヤッサル 335 頁参照）。

3 マッカ*の不信仰者*らは、人々がイスラーム*に入るのを阻み、フダイビーヤの和議*の年には、ムスリム*たちがハラーム・マスジド*に入ることを阻んだ（前掲書、同頁参照）。

4 アッラー*に対する不服従のこと（前掲書、同頁参照）。

い[1]。そしてわが館[2]をタワーフ*する者たち、（礼拝のために）立つ者たち、サジダ*しルクーゥ*する者たちのために清めよ[3]。

27. また、人々にハッジ*（の義務）を告げよ。そうすれば彼らは徒歩で、そしてありとあらゆる遠い山道をやって来る無数の精悍なラクダに乗って、到来する。

وَأَذِّن فِي ٱلنَّاسِ بِٱلۡحَجِّ يَأۡتُوكَ رِجَالٗا وَعَلَىٰ كُلِّ ضَامِرٖ يَأۡتِينَ مِن كُلِّ فَجٍّ عَمِيقٖ ٢٧

28. 自分たちの利益[4]に立ち合い、かれ（アッラー*）が自分たちに授けて下さった（捧げ物の）家畜獣[5]に対し、周知の日々[6]にアッラー*の御名を唱えるため（、やって来るのだ）。ならば、そこ（屠殺した家畜の肉）から食べ、みすぼらしい貧者*にも食べさせるがよい。

لِّيَشۡهَدُواْ مَنَٰفِعَ لَهُمۡ وَيَذۡكُرُواْ ٱسۡمَ ٱللَّهِ فِيٓ أَيَّامٖ مَّعۡلُومَٰتٍ عَلَىٰ مَا رَزَقَهُم مِّنۢ بَهِيمَةِ ٱلۡأَنۡعَٰمِۖ فَكُلُواْ مِنۡهَا وَأَطۡعِمُواْ ٱلۡبَآئِسَ ٱلۡفَقِيرَ ٢٨

29. それから彼らに、自らの汚れを落とさせ[7]、その誓約[8]を全うさせ、解放された館[9]をタワーフ*させよ」。

ثُمَّ لۡيَقۡضُواْ تَفَثَهُمۡ وَلۡيُوفُواْ نُذُورَهُمۡ وَلۡيَطَّوَّفُواْ بِٱلۡبَيۡتِ ٱلۡعَتِيقِ ٢٩

---

1 シルク*を犯してはならない、ということ。

2 カァバ神殿*が、「わが館」と、アッラー*の御名で修飾されていることについては、アル＝ヒジュル章 29 の訳注を参照。

3 不信仰や、アッラー*の教えにおいて根拠もないような物事、汚れなどから清める、ということ（ムヤッサル 335 頁参照）。雌牛章 125 も参照。

4 この「利益」とは、ハッジ*による罪の赦（ゆる）し、その行を遂行し、そこにおいて従順（じゅうじゅん）であることによる褒美（ほうび）、商売上の利益などのこと（前掲書、同頁参照）。

5 「家畜獣」については、食卓章 1 の訳注を参照。

6 「周知の日々」とは、ズル＝ヒッジャ月*十日から十三日目までとされる（前掲書、同頁参照）。

7 この「汚れ（タファス）」は通常、「残されたハッジ*の行」と解釈される（アル＝クルトゥビー12:48-50 参照）。つまり、ハッジ*の残りの行を終わらせ、イフラーム*を解き、爪を切ったり、髪の毛を剃（切）ったりして、体に溜（た）まった汚れを落とすこととされる（前掲書、同頁参照）。

8 この「誓約」とは、ハッジやウムラ*や犠牲をする誓約のこと（前掲書、同頁参照）。

9 「解放された（アティーク）館」とは、アッラー*が抑圧者たちから解放して下さったカァバ神殿*（前掲書、同頁参照）。ほかにも、「誰も所有しない」「古い」などの解釈あり（アッ＝タバリー7:5834-5835 参照）。

30. それ（が、アッラー*のご命令）である。（ゆえにそれを厳粛に受け止めよ。）アッラー*の神聖な諸事を厳粛なものとする者ならば、それが彼の主*の御許で、より善いことなのである。また、あなた方に誦んで聞かされるもの[1]を除いて、あなた方には家畜（の食用）が許された。ならば偶像による穢れを避け、偽りの言葉を避けるのだ[2]。

ذَٰلِكَۖ وَمَن يُعَظِّمۡ حُرُمَٰتِ ٱللَّهِ فَهُوَ خَيۡرٞ
لَّهُۥ عِندَ رَبِّهِۦۗ وَأُحِلَّتۡ لَكُمُ ٱلۡأَنۡعَٰمُ
إِلَّا مَا يُتۡلَىٰ عَلَيۡكُمۡۖ فَٱجۡتَنِبُواْ ٱلرِّجۡسَ
مِنَ ٱلۡأَوۡثَٰنِ وَٱجۡتَنِبُواْ قَوۡلَ ٱلزُّورِ ٣٠

31. アッラー*に対して純正[3]に、かれに（いかなるものも）並べることなく（、それらを避けよ）。そしてアッラー*にシルク*を犯す者は誰でも、（その様子は）天から墜落して、鳥が彼をさらってしまうか、あるいは風が彼を遠い場所へと（運び去って）放り落としてしまうかのようである[4]。

حُنَفَآءَ لِلَّهِ غَيۡرَ مُشۡرِكِينَ بِهِۦۚ وَمَن يُشۡرِكۡ بِٱللَّهِ
فَكَأَنَّمَا خَرَّ مِنَ ٱلسَّمَآءِ فَتَخۡطَفُهُ ٱلطَّيۡرُ
أَوۡ تَهۡوِي بِهِ ٱلرِّيحُ فِي مَكَانٖ سَحِيقٖ ٣١

32. それ（が、アッラー*のご命令）である。アッラー*の聖徴[5]を厳粛なものとする者があれば、それは心の敬虔さ*からこそ来るもの。

ذَٰلِكَۖ وَمَن يُعَظِّمۡ شَعَٰٓئِرَ ٱللَّهِ فَإِنَّهَا مِن تَقۡوَى
ٱلۡقُلُوبِ ٣٢

33. あなた方にはそこ（犠牲）に、一定の期間の利益[6]がある。それから、その（捧げる）場所は、解放された館[7]なのだ。

لَكُمۡ فِيهَا مَنَٰفِعُ إِلَىٰٓ أَجَلٖ مُّسَمّٗى ثُمَّ مَحِلُّهَآ
إِلَى ٱلۡبَيۡتِ ٱلۡعَتِيقِ ٣٣

---

1 これは食卓章 3 のことである、とされる（イブン・カスィール 5:419 参照）。

2 不信仰者*たちは、ある種の家畜を神聖化して自らに禁じ、自分たちが偉大視する偶像こそが、そのように命じたのだと虚偽（きょぎ）の主張をしていた（アル＝バイダーウィー4:124 参照）。食卓章 103、家畜章 136、138-139 なども参照。尚、「偽りの言葉」とは、嘘や、偽（いつわ）りの証言を始めとした、全ての禁じられた言葉のこと（アッ＝サアディー537 頁参照）。

3 「純正」については、雌牛章 135 の訳注を参照。

4 これはシルク*を犯す者が、あらゆる方面からシャイターン*に襲われ、かつ信仰という高みから不信仰という低みへと落下する様子の描写とされる（ムヤッサル 336 頁参照）。

5 ハッジ*の行とそれが行われる場所、捧げ物などは、アッラー*の聖徴の一部である（前掲書、同頁参照）。

6 それを屠（ほふ）る時まで、それを害しない範囲において、その毛や乳を利用したり、乗用にしたり出来る（前掲書、同頁参照）。

7 ここでの「解放された館」は、マッカ*の全聖域のことを指す、とされる（前掲書、同頁参照）。アーヤ*29 の訳注も参照。

34. われら*は全ての（信仰する）共同体に、彼らに授けた家畜獣に対し、彼らがアッラー*の御名を唱えるための儀式[1]を定めた。ならば、あなた方の崇拝*すべきは、一つの神（アッラー*）。では、かれにこそ服従（イスラーム*）せよ。そして（預言者*よ、）謹んで従う[2]者たちに吉報を告げるのだ。

وَلِكُلِّ أُمَّةٖ جَعَلۡنَا مَنسَكٗا لِّيَذۡكُرُواْ
ٱسۡمَ ٱللَّهِ عَلَىٰ مَا رَزَقَهُم مِّنۢ بَهِيمَةِ ٱلۡأَنۡعَٰمِۗ
فَإِلَٰهُكُمۡ إِلَٰهٞ وَٰحِدٞ فَلَهُۥٓ أَسۡلِمُواْۗ وَبَشِّرِ
ٱلۡمُخۡبِتِينَ ٣٤

35. （彼らは、）アッラー*について言及されれば、その心が慄く者たち。そして自分たちに降りかかったことに対して忍耐*し、礼拝を遵守*し、われら*が彼らに授けたものの中から費やす[3]者たちである。

ٱلَّذِينَ إِذَا ذُكِرَ ٱللَّهُ وَجِلَتۡ قُلُوبُهُمۡ
وَٱلصَّٰبِرِينَ عَلَىٰ مَآ أَصَابَهُمۡ وَٱلۡمُقِيمِي
ٱلصَّلَوٰةِ وَمِمَّا رَزَقۡنَٰهُمۡ يُنفِقُونَ ٣٥

36. また、ラクダ[4]（の犠牲）。われら*はそれを、あなた方に対するアッラー*の聖徴の一つとした。それには、あなた方にとっての善きもの[5]がある。ならば立ったまま[6]、それにアッラー*の御名を唱え（て屠）るのだ。それで、その体が崩れ落ち（て息絶え）たら、（あなた方自身）そこから食べ、遠慮深い貧者にも、せがむ貧者にも食べさせるがよい。アッラー*はそのように、あなた方が感謝すべく、それ（ラクダ）をあなた方に従わせたのである。

وَٱلۡبُدۡنَ جَعَلۡنَٰهَا لَكُم مِّن شَعَٰٓئِرِ ٱللَّهِ لَكُمۡ
فِيهَا خَيۡرٞۖ فَٱذۡكُرُواْ ٱسۡمَ ٱللَّهِ عَلَيۡهَا صَوَآفَّۖ
فَإِذَا وَجَبَتۡ جُنُوبُهَا فَكُلُواْ مِنۡهَا وَأَطۡعِمُواْ
ٱلۡقَانِعَ وَٱلۡمُعۡتَرَّۚ كَذَٰلِكَ سَخَّرۡنَٰهَا لَكُمۡ لَعَلَّكُمۡ
تَشۡكُرُونَ ٣٦

---

1 この「儀式」の解釈には、「屠殺（とさつ）」「そのための場所」「ハッジ*の儀式」「アッラー*に服従するための手法」「祭り」「ハッジ*そのもの」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー12:58 参照）。

2 「謹んで従う」については、フード*章 23 の訳注を参照。

3 「われら*が彼らに授けたものの中から費やす」については、雌牛章 3 の訳注を参照。

4 ここで「ラクダ」と訳した原語「ブドゥン」は、特にカァバ神殿*に捧げられるラクダのことを指すという（アル＝クルトゥビー12:61 参照）。

5 「善きもの」とは、食や施（ほどこ）し、来世での褒美などのこと（ムヤッサル 336 頁参照）。

6 つまり、いずれかの前足を縛（しば）り、三本足の状態で立たせたまま（アッ＝サァディー538 頁参照）。

37. その血と肉が、アッラー*に届くということでは、断じてない。しかし、あなた方の敬虔さ*が、かれに届くのである[1]。そのようにかれは、それ（ラクダ）をあなた方のために仕えさせられたのだ。（それは）自分たちを導いて下さったことに関し、あなた方がアッラー*の偉大さを称揚*するためである。（預言者*よ、）善を尽くす者[2]たちに吉報を伝えよ。

لَن يَنَالَ ٱللَّهَ لُحُومُهَا وَلَا دِمَآؤُهَا وَلَٰكِن يَنَالُهُ
ٱلتَّقْوَىٰ مِنكُمْ ۚ كَذَٰلِكَ سَخَّرَهَا لَكُمْ لِتُكَبِّرُوا۟
ٱللَّهَ عَلَىٰ مَا هَدَىٰكُمْ ۗ وَبَشِّرِ ٱلْمُحْسِنِينَ ٣٧

38. 本当にアッラー*は、信仰する者たちを（敵から）お守りになる。本当にアッラー*は、欺瞞に満ち、恩知らずな者を、お好きにはならない。

۞ إِنَّ ٱللَّهَ يُدَٰفِعُ عَنِ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ ۗ إِنَّ ٱللَّهَ
لَا يُحِبُّ كُلَّ خَوَّانٍ كَفُورٍ ٣٨

39. 戦いを仕掛けられる者たち（ムスリム*）に、彼らが（不信仰者*から）不正*を受けていたことゆえの、（戦いの）お許しが出た[3]。そして本当にアッラー*は、まさに彼らの援助がお出来になるお方。

أُذِنَ لِلَّذِينَ يُقَٰتَلُونَ بِأَنَّهُمْ ظُلِمُوا۟ ۚ وَإِنَّ ٱللَّهَ عَلَىٰ
نَصْرِهِمْ لَقَدِيرٌ ٣٩

40. （彼らは、）ただ「我らが主*は、アッラー*」と言うがゆえに、その故郷から不当にも追い出された者たち。もしアッラー*が人々の一部によって、別の者たち（の不正*）を追いやる（ことを合法化される）ことがなかったならば、（そこで）アッラー*

ٱلَّذِينَ أُخْرِجُوا۟ مِن دِيَٰرِهِم بِغَيْرِ حَقٍّ إِلَّآ
أَن يَقُولُوا۟ رَبُّنَا ٱللَّهُ ۗ وَلَوْلَا دَفْعُ ٱللَّهِ
ٱلنَّاسَ بَعْضَهُم بِبَعْضٍ لَّهُدِّمَتْ صَوَٰمِعُ
وَبِيَعٌ وَصَلَوَٰتٌ وَمَسَٰجِدُ يُذْكَرُ فِيهَا
ٱسْمُ ٱللَّهِ كَثِيرًا ۗ وَلَيَنصُرَنَّ ٱللَّهُ مَن

1 単に犠牲を屠ることだけが、目的なのではない。しかし、その行為における真摯（しんし）さ、褒美を望む心、正しい意図、アッラー*の御顔のみを求める気持ちこそが、受け入れられるのである。これは他の崇拝*行為でも同様であり、この部分が欠けていれば、あたかもそれは実のない皮、魂のない体のようなものである（アッ＝サアディー538 頁参照）。

2 この「善を尽くす者」については、ユーヌス*章 26 の訳注を参照。

3 マッカ*時代、ムスリム*は不信仰者*らとの戦いを禁じられ、ただ抑圧に耐えることを命じられていた。彼らとの戦いの許可が出たのは、ムスリム*らがマディーナ*へ移住*してからのことで、このアーヤ*がその許可を告げる最初のものであったとされる（ムヤッサル 337 頁参照）。雌牛章 190、193、悔悟章 5、36、123 も参照。

の御名が沢山唱念される修道院も、（キリスト）教会も、（ユダヤ）寺院も、マスジド*も、破壊されてしまっただろう[1]。アッラー*は必ずや、かれ（の宗教）を援助する者をお助けになる[2]。本当にアッラーこそは、強力なお方、偉力ならびない*お方なのだから。

يَنصُرُهُۥٓۚ إِنَّ ٱللَّهَ لَقَوِيٌّ عَزِيزٌ ٤٠

41. （われら*が援助を約束した者たちとは、）われら*が彼らに地上で力を授ければ、礼拝を遵守*し、浄財*を払い、善事を命じて悪事を禁じる[3]者たち[4]。そしてアッラー*にこそ、全ての物事の結末は属する[5]。

ٱلَّذِينَ إِن مَّكَّنَّٰهُمۡ فِي ٱلۡأَرۡضِ أَقَامُواْ
ٱلصَّلَوٰةَ وَءَاتَوُاْ ٱلزَّكَوٰةَ وَأَمَرُواْ بِٱلۡمَعۡرُوفِ
وَنَهَوۡاْ عَنِ ٱلۡمُنكَرِۗ وَلِلَّهِ عَٰقِبَةُ ٱلۡأُمُورِ ٤١

42. （使徒*よ、）もし彼らがあなたを嘘つき呼ばわりするにしても、確かに彼ら以前にも、ヌーフ*の民、アード*、サムード*が（その預言者*たちを）嘘つき呼ばわりしたのである。

وَإِن يُكَذِّبُوكَ فَقَدۡ كَذَّبَتۡ قَبۡلَهُمۡ
قَوۡمُ نُوحٖ وَعَادٞ وَثَمُودُ ٤٢

43. また、イブラーヒーム*の民、ルート*の民も。

وَقَوۡمُ إِبۡرَٰهِيمَ وَقَوۡمُ لُوطٖ ٤٣

44. そして、マドゥヤン*の民も。また、ムーサー*も嘘つき呼ばわりされた。それでわれは不信仰者*らに猶予を与えた後、彼らを（懲罰で）捕らえたのだ。（彼らの不信仰に対する）、わが否認はいかなるものだったか？[6]

وَأَصۡحَٰبُ مَدۡيَنَۖ وَكُذِّبَ مُوسَىٰۖ فَأَمۡلَيۡتُ
لِلۡكَٰفِرِينَ ثُمَّ أَخَذۡتُهُمۡۖ فَكَيۡفَ كَانَ
نَكِيرِ ٤٤

---

1 つまり奮闘と宗教の実践がなければ、全ての預言者*の礼拝所は、その時代において破壊されてしまっただろう、ということ（アル＝バガウィー3:343 参照）。

2 同様のアーヤ*として、イムラーン家章 160、ムハンマド*章 7 も参照。

3 この「善事」と「悪事」に関しては、イムラーン家章 104 の訳注を参照。

4 同様のアーヤ*として、御光章 55 も参照。

5 力を授かっても、それをアッラー*の命令の実行に用いる敬虔な*者たちにはよき結末が、それを私欲に用いて暴虐（ぼうぎゃく）を行う者たちには、悪い結末がある（アッ＝サァディー539 頁参照）。

6 つまり、預言者*らを嘘つき呼ばわりしていた者たちに対する、「わが懲罰と破壊による」否認のこと（アル＝バガウィー3:344 参照）。

45. 一体われら*は、どれだけの不正な町（の民）を滅(ほろ)ぼしたことであろう。それら（の町）は、屋根ごと崩(くず)れ落ちた[1]のだ。また、（どれだけの）放置された井戸と、聳(そび)える城郭(じょうかく)を？

فَكَأَيِّن مِّن قَرْيَةٍ أَهْلَكْنَاهَا وَهِيَ
ظَالِمَةٌ فَهِيَ خَاوِيَةٌ عَلَىٰ عُرُوشِهَا وَبِئْرٍ
مُّعَطَّلَةٍ وَقَصْرٍ مَّشِيدٍ ﴿٤٥﴾

46. 一体、彼らは地上を旅し、分別(ふんべつ)する心か、聞くことの出来る耳[2]を得ることはなかったのか？ というのも本当に（破滅(はめつ)的な盲目(もうもく)とは）、眼が盲目(もうもく)になることではなく、胸の内にある心が盲目(もうもく)になること[3]なのである。

أَفَلَمْ يَسِيرُوا فِي الْأَرْضِ فَتَكُونَ لَهُمْ قُلُوبٌ
يَعْقِلُونَ بِهَا أَوْ آذَانٌ يَسْمَعُونَ بِهَا
فَإِنَّهَا لَا تَعْمَى الْأَبْصَارُ وَلَٰكِن تَعْمَى الْقُلُوبُ
الَّتِي فِي الصُّدُورِ ﴿٤٦﴾

47. 彼らはあなた（預言者(よげんしゃ)*ムハンマド*）に、懲罰(ちょうばつ)を（下して見せることを）性急(せいきゅう)に求める[4]。そしてアッラー*はかれのお約束を、決してお破(やぶ)りにはならない。本当に、（復活の日*における）あなたの主(しゅ)*の御許(みもと)での一日は、あなた方が（現世で）数える千年のようなもの[5]なのである。

وَيَسْتَعْجِلُونَكَ بِالْعَذَابِ وَلَن يُخْلِفَ اللَّهُ
وَعْدَهُ وَإِنَّ يَوْمًا عِندَ رَبِّكَ كَأَلْفِ سَنَةٍ
مِّمَّا تَعُدُّونَ ﴿٤٧﴾

48. 一体われら*は、どれだけ多くの不正*な町（の民）に猶予(ゆうよ)を与え、それからそれらを（懲罰(ちょうばつ)で）捕(と)らえたのか。われにこそ、（来世での）行き先があ（り、そこでわれは彼らに更(さら)なる懲罰(ちょうばつ)を加え）るのだ。

وَكَأَيِّن مِّن قَرْيَةٍ أَمْلَيْتُ لَهَا وَهِيَ ظَالِمَةٌ
ثُمَّ أَخَذْتُهَا وَإِلَيَّ الْمَصِيرُ ﴿٤٨﴾

---

1 「崩れ落ちる」については、雌牛章 259 の訳注を参照。

2 アッラー*の御徴を理解し、教訓を熟慮（じゅくりょ）する理性と、懲罰が下った過去の民の話を傾聴（けいちょう）する耳、ということ。ただ見たり、聞いたり、熟考することもなく物質的に移動するだけでは、役には立たない（アッ＝サァディー540 頁参照）。

3 つまり真理をとらえ、熟慮するための慧眼（けいがん）を失うこと（ムヤッサル 337 頁参照）。雌牛章 7、家畜章 50、雷鳴章 16、フード*章 20、24 とその訳注も参照。

4 関連するアーヤ*として、家畜章 57-58、戦利品*章 32、ユーヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、蜘蛛章 53-54、サード章 16、相談章 18、階段章 1-2 なども参照。

5 「千年」は不信仰者*にとっての時間感覚。信仰者にとって、復活の日*の時間は短いものとなる。また一説に、この「一日」は「アッラー*が天地創造した、六日間の内の一日」のこと（アッ＝シャンキーティー5：277-280 参照）。アッ＝サジダ*章 5、階段章 4 とそれらの訳注も参照。

49. （使徒*よ、）言え。「人々よ、私はあなた方に対する、明白なる警告者に過ぎない」。

قُلۡ يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ إِنَّمَآ أَنَا۠ لَكُمۡ نَذِيرٞ
مُّبِينٞ ﴿٤٩﴾

50. それで信仰し、正しい行い*を行う者たちには、お赦しと貴い糧[1]がある。

فَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ لَهُم
مَّغۡفِرَةٞ وَرِزۡقٞ كَرِيمٞ ﴿٥٠﴾

51. そして、われら*の御徴（の否定）において、敵対しつつ躍起になっていた者たち、それらの者たちは火獄の徒なのである。

وَٱلَّذِينَ سَعَوۡاْ فِيٓ ءَايَٰتِنَا مُعَٰجِزِينَ
أُوْلَٰٓئِكَ أَصۡحَٰبُ ٱلۡجَحِيمِ ﴿٥١﴾

52. （使徒*よ、）われら*があなた以前に使徒*や預言者*を遣わせば、（その使徒*や預言者*が啓典を）読誦した時には、決まってシャイターン*がその読誦に（悪い囁きを）放り込んだものなのだ[2]。それからアッラー*は、シャイターン*の放り込むものを消去され、かれのアーヤ*を確固としたものとされる。アッラー*は全知者、英知あふれる*お方。

وَمَآ أَرۡسَلۡنَا مِن قَبۡلِكَ مِن رَّسُولٖ وَلَا نَبِيٍّ
إِلَّآ إِذَا تَمَنَّىٰٓ أَلۡقَى ٱلشَّيۡطَٰنُ فِيٓ أُمۡنِيَّتِهِۦ
فَيَنسَخُ ٱللَّهُ مَا يُلۡقِي ٱلشَّيۡطَٰنُ ثُمَّ يُحۡكِمُ
ٱللَّهُ ءَايَٰتِهِۦۗ وَٱللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٞ ﴿٥٢﴾

53. （それは、）かれ（アッラー*）が、シャイターン*が放り込んだものを、心に病がある[3]者たちと、心が硬くなってしまった[4]者たちへの試練とするため。本当に、不正*者たちはまさしく、（アッラー*とその使徒*との）遠い対立の中にある。

لِّيَجۡعَلَ مَا يُلۡقِي ٱلشَّيۡطَٰنُ فِتۡنَةٗ لِّلَّذِينَ فِي
قُلُوبِهِم مَّرَضٞ وَٱلۡقَاسِيَةِ قُلُوبُهُمۡۗ وَإِنَّ
ٱلظَّٰلِمِينَ لَفِي شِقَاقِۭ بَعِيدٖ ﴿٥٣﴾

---

1 この「貴い糧」については、戦利品章 4 の訳注を参照。

2 アッラー*は啓示の伝達が間際（まぎわ）らしいものとなったり、そこにそれ以外の何かが混入したりすることから、お守りになる。シャイターン*が啓示に紛れさせようとするものは、決してそこに定着・継続することはない。アッラー*はそれを消去され、それが啓示ではないということを明白にされる。そして本来のアーヤ*を確固としたものとされ、それを保護されるのである（アッ＝サァディー542 頁参照）。尚、預言者*の無謬（むびゅう）性については、雌牛章 36 の訳注を参照。

3 つまり、信仰心が弱いか無いに等しく、ほんの少しの紛（まぎ）らわしさによって心が惑（まど）わされてしまう状態のこと（前掲書、同頁参照）。

4 注意や教訓が届かず、アッラー*とその使徒*の言葉が理解できない心の状態のこと（前掲書、同頁参照）。

54. また（それは）、知識を授けられた者たちが、それ（クルアーン*）があなたの主*からの真理であること[1]を知り、そしてそれを（更に強く）信じ、また彼らの心がそれに謹んで従う[2]ようにするため。本当にアッラー*は、信仰する者たちを、まっすぐな道[3]へとお導きになるお方。

وَلِيَعۡلَمَ ٱلَّذِينَ أُوتُواْ ٱلۡعِلۡمَ أَنَّهُ ٱلۡحَقُّ
مِن رَّبِّكَ فَيُؤۡمِنُواْ بِهِۦ فَتُخۡبِتَ لَهُۥ
قُلُوبُهُمۡۗ وَإِنَّ ٱللَّهَ لَهَادِ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِلَىٰ
صِرَٰطٖ مُّسۡتَقِيمٖ ٥٤

55. 不信仰に陥った者*たちは、その時（復活の日*）が突然彼らに訪れるか、彼らに不毛な日（復活の日*）の懲罰が降りかかるかするまで、それ（クルアーン*）を疑わしく思い続けるのだ。

وَلَا يَزَالُ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ فِي مِرۡيَةٖ مِّنۡهُ حَتَّىٰ
تَأۡتِيَهُمُ ٱلسَّاعَةُ بَغۡتَةً أَوۡ يَأۡتِيَهُمۡ عَذَابُ
يَوۡمٍ عَقِيمٍ ٥٥

56. 王権はその日、アッラー*のみに属する[4]。かれは、彼らの間をお裁きになる。それで信仰し、正しい行い*を行った者たちは、安寧の楽園の中にあるのだ。

ٱلۡمُلۡكُ يَوۡمَئِذٖ لِّلَّهِ يَحۡكُمُ بَيۡنَهُمۡۚ
فَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
فِي جَنَّٰتِ ٱلنَّعِيمِ ٥٦

57. また、不信仰に陥り、われら*の御徴を嘘呼ばわりした者たち、それらの者たちこそには屈辱の懲罰がある。

وَٱلَّذِينَ كَفَرُواْ وَكَذَّبُواْ بِـَٔايَٰتِنَا
فَأُوْلَٰٓئِكَ لَهُمۡ عَذَابٞ مُّهِينٞ ٥٧

58. また、アッラー*の道において移住*し、その後に殺されたり、死んだりした者たち、アッラー*は必ずや彼らによき糧[5]を授けよう。本当にアッラー*、かれこそは最もよく糧を授けられるお方なのだから。

وَٱلَّذِينَ هَاجَرُواْ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ ثُمَّ قُتِلُوٓاْ
أَوۡ مَاتُواْ لَيَرۡزُقَنَّهُمُ ٱللَّهُ رِزۡقًا حَسَنٗاۚ
وَإِنَّ ٱللَّهَ لَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٥٨

---

1 クルアーン*がアッラー*の御許から使徒*ムハンマド*に下った真実であり、そこに紛らわしいものはなく、またシャイターン*にはそこに付け入る余地がないということ（ムヤッサル 338 頁参照）。

2 「謹んで従う」については、フード*章 23 の訳注を参照。

3 「まっすぐな道」とは、イスラーム*のこと（前掲書、同頁参照）。

4 家畜章 73 の、同様の言い回しに関する訳注も参照。

5 「よき糧」とは、来世では天国、現世においては豊かで善い糧のこと（アッ＝サアディー 543 頁参照）。

59. かれは必ずや、彼らが満足する入り口[1]に、彼らをお入れ下さる。本当にアッラー*こそは、全知者、寛大な*お方であられるのだから。

لَيُدۡخِلَنَّهُم مُّدۡخَلٗا يَرۡضَوۡنَهُۥۚ وَإِنَّ
ٱللَّهَ لَعَلِيمٌ حَلِيمٞ ٥٩

60. それ（が、信仰者のよき結末）である。自分がされたようなやり方で懲らしめ（たもの）、その後（また）侵害された者、アッラー*は必ずや彼をお助けになる。本当にアッラー*こそは、よく寛恕される*お方、赦し深いお方。

۞ذَٰلِكَۖ وَمَنۡ عَاقَبَ بِمِثۡلِ مَا عُوقِبَ
بِهِۦ ثُمَّ بُغِيَ عَلَيۡهِ لَيَنصُرَنَّهُ ٱللَّهُۚ إِنَّ
ٱللَّهَ لَعَفُوٌّ غَفُورٞ ٦٠

61. それはアッラー*が（全能であり、）夜を昼の中にお入れになり、昼を夜の中にお入れになる[2]ため。そしてアッラー*が、よくお聞きになるお方、よくご覧になるお方であるためなのだ。

ذَٰلِكَ بِأَنَّ ٱللَّهَ يُولِجُ ٱلَّيۡلَ فِي
ٱلنَّهَارِ وَيُولِجُ ٱلنَّهَارَ فِي ٱلَّيۡلِ وَأَنَّ
ٱللَّهَ سَمِيعُۢ بَصِيرٞ ٦١

62. それはアッラー*こそが（、崇拝*されるべき唯一の）真理であり、彼ら（シルク*の徒）が、かれをよそに祈っているものこそが虚妄であるため。そしてアッラー*こそが、至高の*お方、大いなる*お方であるためなのだ。

ذَٰلِكَ بِأَنَّ ٱللَّهَ هُوَ ٱلۡحَقُّ وَأَنَّ مَا
يَدۡعُونَ مِن دُونِهِۦ هُوَ ٱلۡبَٰطِلُ وَأَنَّ ٱللَّهَ
هُوَ ٱلۡعَلِيُّ ٱلۡكَبِيرُ ٦٢

63. 一体あなたは、アッラー*が天から（雨）水を下され、大地が（それによって生育する植物により）緑と化すのを見ないのか？本当にアッラー*は霊妙な*お方、（全てに）通暁されたお方。

أَلَمۡ تَرَ أَنَّ ٱللَّهَ أَنزَلَ مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءٗ
فَتُصۡبِحُ ٱلۡأَرۡضُ مُخۡضَرَّةًۚ إِنَّ ٱللَّهَ
لَطِيفٌ خَبِيرٞ ٦٣

64. かれにこそ、諸天にあるものと大地にあるもの全ては属する。そして本当にアッラー、かれこそは満ち足りた*お方、称賛されるべき*お方である。

لَّهُۥ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلۡأَرۡضِۚ
وَإِنَّ ٱللَّهَ لَهُوَ ٱلۡغَنِيُّ ٱلۡحَمِيدُ ٦٤

---

1 つまり、天国の入り口（ムヤッサル 339 頁参照）。マッカ開城*のことを暗示している、とも言われる（アッ＝サァディー543 頁参照）。

2 「夜を昼の中に･･･」については、イムラーン家章 27 の訳注を参照。

65. 一体あなたは、アッラー*が地上にあるもの全てと、そのご命令によって海を進む船をあなた方に仕えさせられたのを見ないのか？ かれは、かれのお許しによる外は地上に落ちないように、天をお支えになっている。本当にアッラー*は人々に対し、哀れみ深い*お方、慈愛深い*お方。

أَلَمْ تَرَ أَنَّ ٱللَّهَ سَخَّرَ لَكُم مَّا فِى ٱلْأَرْضِ
وَٱلْفُلْكَ تَجْرِى فِى ٱلْبَحْرِ بِأَمْرِهِۦ وَيُمْسِكُ
ٱلسَّمَآءَ أَن تَقَعَ عَلَى ٱلْأَرْضِ إِلَّا بِإِذْنِهِۦٓ ۗ إِنَّ
ٱللَّهَ بِٱلنَّاسِ لَرَءُوفٌ رَّحِيمٌ ٦٥

66. またかれは、あなた方に生を与え、それから死なせられ、また生をお与えになるお方[1]。本当に人間はまさしく、恩知らずである。

وَهُوَ ٱلَّذِىٓ أَحْيَاكُمْ ثُمَّ يُمِيتُكُمْ ثُمَّ
يُحْيِيكُمْ ۗ إِنَّ ٱلْإِنسَٰنَ لَكَفُورٌ ٦٦

67. われら*は各共同体に、彼らが奉じる儀式[2]を定めた。ゆえに（使徒*よ、）そのこと[3]において彼ら（シルク*の徒）が、あなたを論駁するようなことがあっては断じてならない。そしてあなたの主*へと招くのだ。本当にあなたは確かに、まっすぐな導きの上にあるのだから。

لِّكُلِّ أُمَّةٍ جَعَلْنَا مَنسَكًا هُمْ
نَاسِكُوهُ ۖ فَلَا يُنَٰزِعُنَّكَ فِى ٱلْأَمْرِ ۚ وَٱدْعُ
إِلَىٰ رَبِّكَ ۖ إِنَّكَ لَعَلَىٰ هُدًى مُّسْتَقِيمٍ ٦٧

68. そして、もし彼らがあなたと議論するならば、言ってやるがいい。「アッラー*は、あなた方が行っていることを、最もよくご存知である。

وَإِن جَٰدَلُوكَ فَقُلِ ٱللَّهُ أَعْلَمُ بِمَا
تَعْمَلُونَ ٦٨

69. アッラー*は復活の日*、あなた方が意見を異にしていたことにおいて、あなた方の間に裁きを下されるのだ」。

ٱللَّهُ يَحْكُمُ بَيْنَكُمْ يَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ فِيمَا
كُنتُمْ فِيهِ تَخْتَلِفُونَ ٦٩

---

1 アッラー*は人々を無からお創りになり、その寿命が訪れたらお召しになり、死後には清算のために復活させられるお方（ムヤッサル 340 頁参照）。

2 この「儀式」には、「法」「祭り」「犠牲（ぎせい）を捧げる場所」「崇拝*する場所」などといった解釈がある（アル＝バガウィー3:350 参照）。

3 イスラーム*の教えと、アッラー*が命じられた儀式、様々な種類の崇拝*行為のこと（ムヤッサル 340 頁参照）。

70. （使徒*よ、）一体あなた[1]は、アッラー*が天と地にあるもの全てをご存知になるのを、知らないのか？ 本当にそれは（余すことなく）、書[2]の中に（記録されて）ある。本当にそれは、アッラー*にとって容易いこと。

أَلَمْ تَعْلَمْ أَنَّ ٱللَّهَ يَعْلَمُ مَا فِي ٱلسَّمَآءِ
وَٱلْأَرْضِۚ إِنَّ ذَٰلِكَ فِي كِتَٰبٍۚ إِنَّ
ذَٰلِكَ عَلَى ٱللَّهِ يَسِيرٞ ٧٠

71. 彼らはアッラー*を差しおいて、かれが（崇拝*すべき）いかなる根拠も下されなかったもの、そして自分たちに、それに関するいかなる知識もないものを崇めている。不正*者たちには、援助者など全くない。

وَيَعْبُدُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ مَا لَمْ يُنَزِّلْ بِهِۦ
سُلْطَٰنٗا وَمَا لَيْسَ لَهُم بِهِۦ عِلْمٞۗ وَمَا
لِلظَّٰلِمِينَ مِن نَّصِيرٖ ٧١

72. また、われら*の明白な御徴（アーヤ*）が彼らに読誦されれば、あなたは不信仰に陥った者*たちの顔に嫌悪（の表情）を認める。彼らは、彼らに対してわれら*の御徴を読誦する者たちに、襲いかからんばかりである。（使徒*よ、）言ってやれ。「それよりも忌まわしいこと[3]を、あなた方に教えようか？ （それは）アッラー*が、不信仰に陥った者*たちに約束した業火である。その行き先は、何と醜悪であろうか」。

وَإِذَا تُتْلَىٰ عَلَيْهِمْ ءَايَٰتُنَا بَيِّنَٰتٖ تَعْرِفُ فِي
وُجُوهِ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ ٱلْمُنكَرَۖ يَكَادُونَ
يَسْطُونَ بِٱلَّذِينَ يَتْلُونَ عَلَيْهِمْ ءَايَٰتِنَاۗ قُلْ
أَفَأُنَبِّئُكُم بِشَرّٖ مِّن ذَٰلِكُمُۗ ٱلنَّارُ وَعَدَهَا ٱللَّهُ
ٱلَّذِينَ كَفَرُواْۖ وَبِئْسَ ٱلْمَصِيرُ ٧٢

73. 人々よ、一つの譬えが挙げられた。ならば、それに耳を傾けよ。本当に、アッラー*を差しおいてあなた方が祈っている者たち

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ ضُرِبَ مَثَلٞ فَٱسْتَمِعُواْ لَهُۥٓۚ
إِنَّ ٱلَّذِينَ تَدْعُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ لَن

1 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。以下、同様の表現の際にも、同訳注を参照。

2 この「書」は、守られし碑板*のこと（ムヤッサル 340 頁参照）。

3 彼らが真理を聞き、そこへと招く者たちを見る時に感じる忌まわしさよりも、もっと忌まわしいもののこと（前掲書、同頁参照）。

[1]、それらは断じて、蝿一匹[2]作れはしない。たとえ、そのために団結したとしても、である。また、もし蝿がそれらから何かを奪っても、それらが、その（奪われた）ものを、それ（蝿）から取り戻すこともできない。求める方も、求められる方も弱い[3]のである。

يَخۡلُقُواْ ذُبَابٗا وَلَوِ ٱجۡتَمَعُواْ لَهُۥۖ وَإِن
يَسۡلُبۡهُمُ ٱلذُّبَابُ شَيۡـٔٗا لَّا يَسۡتَنقِذُوهُ
مِنۡهُۚ ضَعُفَ ٱلطَّالِبُ وَٱلۡمَطۡلُوبُ ٧٣

74. 彼ら（シルク*の徒）はアッラー*を、真に敬わなかった[4]。本当にアッラー*はまさしく、強力なお方、偉力ならびない*お方であられる。

مَا قَدَرُواْ ٱللَّهَ حَقَّ قَدۡرِهِۦٓۚ إِنَّ ٱللَّهَ لَقَوِيٌّ
عَزِيزٌ ٧٤

75. アッラー*は天使*たちと人々から、（その教えを人々に伝える）使いをお選びになる。本当にアッラー*は、よくお聞きになるお方、よくご覧になるお方。

ٱللَّهُ يَصۡطَفِي مِنَ ٱلۡمَلَٰٓئِكَةِ رُسُلٗا
وَمِنَ ٱلنَّاسِۚ إِنَّ ٱللَّهَ سَمِيعُۢ بَصِيرٞ ٧٥

76. かれは彼ら[5]の前にあることも、彼らの背後にあること[6]もご存知である。そして全ての物事は、アッラー*の御許にこそ戻されるのだ。

يَعۡلَمُ مَا بَيۡنَ أَيۡدِيهِمۡ وَمَا خَلۡفَهُمۡۚ
وَإِلَى ٱللَّهِ تُرۡجَعُ ٱلۡأُمُورُ ٧٦

77. 信仰する者たちよ、あなた方が成功するために、ルクーゥ*し、サジダ*し、あなた方の主*を崇拝し、善行せよ。（読誦のサジダ*）

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ ٱرۡكَعُواْ وَٱسۡجُدُواْۤ
وَٱعۡبُدُواْ رَبَّكُمۡ وَٱفۡعَلُواْ ٱلۡخَيۡرَ
لَعَلَّكُمۡ تُفۡلِحُونَ ۩ ٧٧

---

1 偶像や、アッラー*の同位者として崇められている者たちのこと（ムヤッサル341頁参照）。

2 最も卑小（ひしょう）な創造物の一つである蝿さえ創れないものは、それ以上のものを創造することなど、到底（とうてい）出来ない（アッ＝サァディー546頁参照）。

3 「求める方」は、奪われたものを求める側。つまりアッラー*をよそに崇められるもの。「求められる方」とは、蝿のこと。その弱い存在から、自分が取られた物も取り返すことの出来ないようなものもまた弱いのであり、崇拝*するに値しない（ムヤッサル341頁参照）。

4 つまり、全ての面において無力な存在を、全ての面において強力かつ満ち足りたお方と並べたことは、最大の不敬（ふけい）である（アッ＝サァディー546頁参照）。

5 この「彼ら」とは、天使*と人間の使徒*たちのこと（ムヤッサル341頁参照）。

6 アッラー*は彼らの創造以前から、彼らのことをご存知であり、彼らの消滅後に何が起こるかもご存知である（前掲書、同頁参照）。

78. また、アッラー*のために、真の奮闘(ふんとう)をせよ[1]。かれはあなた方を（イスラーム*の担(にな)い手として）お選びになったのであり、かれは、宗教においてあなた方にいかなる困難も課(か)されなかったのだぞ。（この宗教こそ、）あなた方の父祖(ふそ)イブラーヒーム*の宗教。かれ（アッラー*）は、使徒(しと)*（ムハンマド*）があなた方への証人となり、あなた方が人々への証人となるため[2]に、以前（の諸啓典(けいてん)と）、そしてこの（クルアーン*の）中で、あなた方をムスリム*（服従(ふくじゅう)する者）と名付けた[3]のである。ならば礼拝(れいはい)を遵守(じゅんしゅ)*し、浄財(じょうざい)*を支払い、あなた方の庇護(ひご)者*であるアッラー*に縋(すが)りつくのだ。（アッラー*という）その庇護(ひご)者は何と素晴(すば)らしいことか、そして、（アッラー*という）その援助(えんじょ)者は何と素晴(すば)らしいことか。

وَجَٰهِدُواْ فِي ٱللَّهِ حَقَّ جِهَادِهِۦۚ هُوَ
ٱجۡتَبَىٰكُمۡ وَمَا جَعَلَ عَلَيۡكُمۡ فِي
ٱلدِّينِ مِنۡ حَرَجٖۚ مِّلَّةَ أَبِيكُمۡ إِبۡرَٰهِيمَۚ هُوَ
سَمَّىٰكُمُ ٱلۡمُسۡلِمِينَ مِن قَبۡلُ وَفِي هَٰذَا
لِيَكُونَ ٱلرَّسُولُ شَهِيدًا عَلَيۡكُمۡ وَتَكُونُواْ
شُهَدَآءَ عَلَى ٱلنَّاسِۚ فَأَقِيمُواْ ٱلصَّلَوٰةَ وَءَاتُواْ
ٱلزَّكَوٰةَ وَٱعۡتَصِمُواْ بِٱللَّهِ هُوَ مَوۡلَىٰكُمۡۖ فَنِعۡمَ
ٱلۡمَوۡلَىٰ وَنِعۡمَ ٱلنَّصِيرُ ٧٨

1 「真の奮闘」とは、アッラー*のご命令を完全に遂行し、忠告・教育・戦い・礼儀・注意・訓戒など、あらゆる手段を尽くして、人々をそこへと招くこと（アッ＝サァディー546頁参照）。

2 雌牛章 143 も参照。

3 つまりムスリム*という名は、過去においても現在においても、彼らのためのものである（前掲書、同頁参照）。

第 23 章
信仰者たち章（アル＝ムウミヌーン）[1]

سُورَةُ المُؤْمِنُونَ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. 信仰者たちは、確かに成功する。

2. （彼らは、）その礼拝において、恭順[2]な者たち。

3. また、戯言[3]から背を向ける者たち。

4. また、浄財*を実行する[4]者たち。

5. また、自らの陰部を（禁じられた物事[5]から）守る者たち。

6. 但し、自分の妻たち、あるいは自分の右手が所有するもの（奴隷*女性）は別で、本当に彼ら（合法な物事だけを行う者たち）は咎められる者ではない。

7. そして誰であろうとそれ以上を欲する者、それらの者たちこそは（アッラー*の法の）違反者なのだ。

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

قَدْ أَفْلَحَ ٱلْمُؤْمِنُونَ ١

ٱلَّذِينَ هُمْ فِى صَلَاتِهِمْ خَٰشِعُونَ ٢

وَٱلَّذِينَ هُمْ عَنِ ٱللَّغْوِ مُعْرِضُونَ ٣

وَٱلَّذِينَ هُمْ لِلزَّكَوٰةِ فَٰعِلُونَ ٤

وَٱلَّذِينَ هُمْ لِفُرُوجِهِمْ حَٰفِظُونَ ٥

إِلَّا عَلَىٰٓ أَزْوَٰجِهِمْ أَوْ مَا مَلَكَتْ أَيْمَٰنُهُمْ
فَإِنَّهُمْ غَيْرُ مَلُومِينَ ٦

فَمَنِ ٱبْتَغَىٰ وَرَآءَ ذَٰلِكَ فَأُو۟لَٰٓئِكَ هُمُ
ٱلْعَادُونَ ٧

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭およびアーヤ*57-61、109-111 における、信仰者の特徴の描写に由来するとされる。マッカ*啓示のスーラ*の常として、信仰者の身につけるべき品性、人間自身の内部から高遠な外界にまで存在するアッラーの唯一性*の証拠、預言者*ムハンマド*の正直さ、過去の預言者*たちとその民の間に起こった出来事、復活の日*などが、それを否定する者たちへの警告と共に描写されている。

2 「恭順」については、雌牛章 45 の訳注を参照。

3 「戯言」とは、そこにいかなる善も認められないような言動のこと（ムヤッサル 342 頁参照）。禁じられた物事であれば尚更（なおさら）である（アッ＝サァディー547 頁参照）。

4 物質的な浄財*だけでなく、自分自身を悪い品性や悪行から清めることも含むとされる（前掲書、同頁参照）。

5 この「禁じられた物事」については、御光章 30 の訳注を参照。

8. また、自らの信託と、自分の契約を厳守する[1]者たち。

وَٱلَّذِينَ هُمۡ لِأَمَٰنَٰتِهِمۡ وَعَهۡدِهِمۡ رَٰعُونَ ٨

9. また、自分自身の礼拝を固守する者たち。

وَٱلَّذِينَ هُمۡ عَلَىٰ صَلَوَٰتِهِمۡ يُحَافِظُونَ ٩

10. それらの者たちこそは、（天国の）相続人[2]である。

أُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡوَٰرِثُونَ ١٠

11. （彼らは、）フィルダウス[3]を引き継ぐ者たち。彼らはそこに、永遠に留まる者たちとなる。

ٱلَّذِينَ يَرِثُونَ ٱلۡفِرۡدَوۡسَ هُمۡ فِيهَا خَٰلِدُونَ ١١

12. われら*は確かに人間（の父祖アーダム*）を、泥土より抽出した物から創った[4]。

وَلَقَدۡ خَلَقۡنَا ٱلۡإِنسَٰنَ مِن سُلَٰلَةٖ مِّن طِينٖ ١٢

13. それから、われら*はそれ（人間）を精液の一滴として、しっかりとした定着場[5]に設えた。

ثُمَّ جَعَلۡنَٰهُ نُطۡفَةٗ فِي قَرَارٖ مَّكِينٖ ١٣

14. それから、その一滴の精液から一塊の凝血を創り、その一塊の凝血から一個の肉塊を創り、その一個の肉塊から骨を創り、そしてその骨に肉をかぶせ、それから（そこに魂を吹き込み、）別の創造（物）として、それを創り上げた。最善の創造者であられるアッラー*は、祝福に溢れたお方よ。

ثُمَّ خَلَقۡنَا ٱلنُّطۡفَةَ عَلَقَةٗ فَخَلَقۡنَا ٱلۡعَلَقَةَ مُضۡغَةٗ فَخَلَقۡنَا ٱلۡمُضۡغَةَ عِظَٰمٗا فَكَسَوۡنَا ٱلۡعِظَٰمَ لَحۡمٗا ثُمَّ أَنشَأۡنَٰهُ خَلۡقًا ءَاخَرَۚ فَتَبَارَكَ ٱللَّهُ أَحۡسَنُ ٱلۡخَٰلِقِينَ ١٤

15. それから本当にあなた方は、その後、まさに死に行く身なのだ。

ثُمَّ إِنَّكُم بَعۡدَ ذَٰلِكَ لَمَيِّتُونَ ١٥

---

1 アッラー*がしもべに義務づけた信託と、財産や秘密に関することなど、人間同士の信託を守ること。また、契約についても同様（アッ＝サアディー547頁参照）。雌牛章27の訳注も参照。

2 「相続人」、およびアーヤ*11の「引き継ぐ」という表現については、マルヤム*章63の訳注を参照。

3 「フィルダウス」とは、天国で最も高く、最も中心部に位置する楽園のこと。その真上には、アッラーの御座（みくら）がある（アル＝ブハーリー2790参照）。

4 アル＝ヒジュル章26の訳注も参照。人間の創造の変遷（へんせん）については、巡礼章5も参照。

5 「しっかりとした定着場」とは、子宮のこと（アッ＝サアディー548頁参照）。

16. それから本当に、あなた方は復活の日*、蘇（よみがえ）らされるのである。

ثُمَّ إِنَّكُمۡ يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِ تُبۡعَثُونَ ١٦

17. われら*は確かに、あなた方の上に七つの重（かさ）なったもの（天）を創（つく）り上げた[1]。そしてわれら*はもとより、創造（そうぞう）に関して迂闊（うかつ）だったわけではない[2]。

وَلَقَدۡ خَلَقۡنَا فَوۡقَكُمۡ سَبۡعَ طَرَآئِقَ وَمَا كُنَّا
عَنِ ٱلۡخَلۡقِ غَٰفِلِينَ ١٧

18. また、われら*は天から（雨）水を適度に下し、それを大地に留（とど）まらせた。そして実にわれら*は、それを消し去ってしまうことも、確実に出来るのである。

وَأَنزَلۡنَا مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءَۢ بِقَدَرٖ فَأَسۡكَنَّٰهُ فِي
ٱلۡأَرۡضِۖ وَإِنَّا عَلَىٰ ذَهَابِۢ بِهِۦ لَقَٰدِرُونَ ١٨

19. そしてわれら*はそれ（水）によって、あなた方のためにナツメヤシや葡萄（ぶどう）の園（その）を設（しつら）えた。そこには、あなた方のための豊富（ほうふ）な果実があり、あなた方はそこから食べるのである。

فَأَنشَأۡنَا لَكُم بِهِۦ جَنَّٰتٖ مِّن نَّخِيلٖ وَأَعۡنَٰبٖ
لَّكُمۡ فِيهَا فَوَٰكِهُ كَثِيرَةٞ وَمِنۡهَا تَأۡكُلُونَ ١٩

20. また、シナイ山から生える木[3]を（設（しつら）えた）。それは油と、（それを）食する者たちへの味つけ（をもたらす果実）と共に、生育する。

وَشَجَرَةٗ تَخۡرُجُ مِن طُورِ سَيۡنَآءَ تَنۢبُتُ
بِٱلدُّهۡنِ وَصِبۡغٖ لِّلۡأٓكِلِينَ ٢٠

21. また本当に家畜（かちく）[4]には、あなた方に対しての教示がある。われら*はその腹部にあるもの[5]から、あなた方に飲ませる。そこ（家畜（かちく））

وَإِنَّ لَكُمۡ فِي ٱلۡأَنۡعَٰمِ لَعِبۡرَةٗۖ نُّسۡقِيكُم مِّمَّا فِي
بُطُونِهَا وَلَكُمۡ فِيهَا مَنَٰفِعُ كَثِيرَةٞ وَمِنۡهَا
تَأۡكُلُونَ ٢١

---

1 ヌーフ*章 15 も参照。

2 つまり天が崩れ落ちることで、人々が滅んでしまわないようにすることにおいて、迂闊ではあられない。あるいは、被造物の福利と保護において、迂闊ではあられない（アル＝クルトゥビー12:111 参照）。

3 この「木」は、オリーブの木（ムヤッサル 343 頁参照）。シナイ山、と限定されているのは、それがシャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）特産であるため（アッ＝サァディー549 頁参照）。

4 「家畜」については、食卓章 1「家畜獣」の訳注を参照。

5 つまり、乳のこと（ムヤッサル 343 頁参照）。蜜蜂章 66 も参照。

にはあなた方にとっての多くの利益[1]があり、またあなた方は、そこから食する。

22. そしてあなた方は、それ（家畜）と、船の上に（乗って）運ばれる。

وَعَلَيۡهَا وَعَلَى ٱلۡفُلۡكِ تُحۡمَلُونَ ٢٢

23. われら*は確かに、ヌーフ*をその民へと遣わした。そして彼は言った。「我が民よ、アッラー*を崇拝*せよ。あなた方には、かれの外に崇拝*すべきいかなるものもないのだから。一体、あなた方は（アッラー*に逆らい、）畏れ*ないのか？」

وَلَقَدۡ أَرۡسَلۡنَا نُوحًا إِلَىٰ قَوۡمِهِۦ فَقَالَ يَٰقَوۡمِ ٱعۡبُدُواْ ٱللَّهَ مَا لَكُم مِّنۡ إِلَٰهٍ غَيۡرُهُۥٓۚ أَفَلَا تَتَّقُونَ ٢٣

24. 彼の民の内の不信仰な有力者らは（人々に向かって、）言った。「これは（預言者*を主張することによって、）あなた方に優越しようとする、あなた方同様の一人の人間に過ぎない。そして、もしアッラー*が（使徒*を下すことを）お望みならば、天使*たちを下したであろう[2]。私たちはこのようなことを、私たちの昔のご先祖様（の時代）において、聞いたことはなかったぞ。

فَقَالَ ٱلۡمَلَؤُاْ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ مِن قَوۡمِهِۦ مَا هَٰذَآ إِلَّا بَشَرٞ مِّثۡلُكُمۡ يُرِيدُ أَن يَتَفَضَّلَ عَلَيۡكُمۡ وَلَوۡ شَآءَ ٱللَّهُ لَأَنزَلَ مَلَٰٓئِكَةٗ مَّا سَمِعۡنَا بِهَٰذَا فِيٓ ءَابَآئِنَا ٱلۡأَوَّلِينَ ٢٤

25. 彼は憑き物がついた、一人の男に過ぎない[3]。ならば（彼が正気を取り戻すか、死ぬかするまで）、しばらく彼のことを見守っておけ」。

إِنۡ هُوَ إِلَّا رَجُلُۢ بِهِۦ جِنَّةٞ فَتَرَبَّصُواْ بِهِۦ حَتَّىٰ حِينٖ ٢٥

26. 彼（ヌーフ*）は、申し上げた。「我が主*よ、彼らが私を嘘つき呼ばわりしますゆえ、私をお助け下さい」。[4]

قَالَ رَبِّ ٱنصُرۡنِي بِمَا كَذَّبُونِ ٢٦

1 具体的な利益の例については、蜜蜂章 5-8、80 も参照。

2 家畜章 111、アル＝ヒジュル章 14-15、夜の旅章 93 も参照。

3 アル＝ヒジュラ章 6「憑かれた者」に関する訳注も参照。

4 月章 10、ヌーフ*章 26-27 も参照。

27. それでわれら*は、彼に（こう）啓示した。「われら*の眼差しのもと[1]、われら*の啓示によって[2]、船を造れ。そしてわれら*の命令が到来し、焼き窯が噴き出した[3]ら、全て（の生き物）から一つがいずつと、あなたの家族を、そこに乗り込ませよ。但し、彼らの内、既に（懲罰の）言葉が定められた者[4]は別である。そして、不正*を働いていた者たちのこと[5]で、（その救いを求めて）私に話しかけるのではない。本当に彼らは、溺れ死ぬことになる者たちなのだから。

فَأَوْحَيْنَآ إِلَيْهِ أَنِ ٱصْنَعِ ٱلْفُلْكَ بِأَعْيُنِنَا
وَوَحْيِنَا فَإِذَا جَآءَ أَمْرُنَا وَفَارَ ٱلتَّنُّورُ فَٱسْلُكْ
فِيهَا مِن كُلٍّ زَوْجَيْنِ ٱثْنَيْنِ وَأَهْلَكَ إِلَّا
مَن سَبَقَ عَلَيْهِ ٱلْقَوْلُ مِنْهُمْ ۖ وَلَا تُخَٰطِبْنِى فِى
ٱلَّذِينَ ظَلَمُوٓا۟ ۖ إِنَّهُم مُّغْرَقُونَ ٢٧

28. それで、あなたと、あなたと共にいる者たちが船に（無事）乗った[6]なら、（こう）言うのだ。『私たちを不正*者である民から救って下さったアッラー*に、全ての称賛*あれ』」。

فَإِذَا ٱسْتَوَيْتَ أَنتَ وَمَن مَّعَكَ عَلَى ٱلْفُلْكِ فَقُلِ
ٱلْحَمْدُ لِلَّهِ ٱلَّذِى نَجَّىٰنَا مِنَ ٱلْقَوْمِ ٱلظَّٰلِمِينَ ٢٨

29. また、言うのだ。「我が主*よ、私を祝福多き場所へと到着させて下さい。あなたは、最善の場に到着させて下さるお方です」。

وَقُل رَّبِّ أَنزِلْنِى مُنزَلًا مُّبَارَكًا وَأَنتَ خَيْرُ
ٱلْمُنزِلِينَ ٢٩

30. 本当にその中にはまさしく、御徴[7]がある。そしてわれら*は本当に、試練を課す者[8]であった。

إِنَّ فِى ذَٰلِكَ لَءَايَٰتٍ وَإِن كُنَّا لَمُبْتَلِينَ ٣٠

---

1 「眼差しのもと」については、ター・ハー章 39 とその訳注を参照。

2 「われら*の啓示によって」については、フード*章 37 の訳注を参照。

3 「焼き窯が噴き出した」については、フード*章 40 の訳注を参照。

4 「既に（懲罰の）言葉が定められた者」については、フード*章 40 の訳注を参照。

5 この具体的内容については、フード*章 37 の訳注を参照。

6 彼らが船に乗ってからの出来事は、フード*章 42-48 に詳しい。

7 この「御徴」は、アッラーの唯一性*、ヌーフ*の正直さ、その民の偽（いつわ）り、及びアッラー*のしもべたちに対するご慈悲を示す、証拠のこと（アッ＝サァディー551 頁参照）。

8 つまり、民を滅ぼす前に使徒*を遣わすことで、その民を試す者ということ（ムヤッサル 344 頁参照）。

31. それからわれら*は、彼ら（ヌーフ*の民）の後、別の世代[1]を設けた。

ثُمَّ أَنشَأۡنَا مِنۢ بَعۡدِهِمۡ قَرۡنًا ءَاخَرِينَ ٣١

32. それで、われら*は彼らに、彼ら自身の内から一人の使徒*を遣わした。（彼は民に、こう言った。）「アッラー*を崇拝*せよ。あなた方には、かれの外に崇拝*すべきいかなるものもないのだから。一体あなた方は（アッラー*に逆らい、）畏れ*ないのか？」

فَأَرۡسَلۡنَا فِيهِمۡ رَسُولٗا مِّنۡهُمۡ أَنِ ٱعۡبُدُواْ ٱللَّهَ مَا لَكُم
مِّنۡ إِلَٰهٍ غَيۡرُهُۥٓۚ أَفَلَا تَتَّقُونَ ٣٢

33. 不信仰で、来世における拝謁[2]を嘘呼ばわりし、われらが現世の生活において贅沢を味わわせた、彼の民の有力者らは言った。「これは、あなた方と同様の一人の人間に過ぎない。彼は、あなた方が食べる（同じ）ものから食べ、あなた方が飲む（同じ）ものから飲んでいる。

وَقَالَ ٱلۡمَلَأُ مِن قَوۡمِهِ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ وَكَذَّبُواْ
بِلِقَآءِ ٱلۡأٓخِرَةِ وَأَتۡرَفۡنَٰهُمۡ فِي ٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَا
مَا هَٰذَآ إِلَّا بَشَرٞ مِّثۡلُكُمۡ يَأۡكُلُ مِمَّا
تَأۡكُلُونَ مِنۡهُ وَيَشۡرَبُ مِمَّا تَشۡرَبُونَ ٣٣

34. そして、もしもあなた方が自分たちと同様の人間に従うならば、そうすれば実にあなた方は、まさしく損失者となってしまうのだ。

وَلَئِنۡ أَطَعۡتُم بَشَرٗا مِّثۡلَكُمۡ إِنَّكُمۡ إِذٗا لَّخَٰسِرُونَ ٣٤

35. 一体、彼（使徒*）は、あなた方が死んで土と骨と化した時、本当にあなた方が（再び生を与えられて墓の中から）出される者になると、あなた方に約束するのか？

أَيَعِدُكُمۡ أَنَّكُمۡ إِذَا مِتُّمۡ وَكُنتُمۡ تُرَابٗا وَعِظَٰمًا
أَنَّكُم مُّخۡرَجُونَ ٣٥

36. あなた方が約束されているものは、あり得ない、あり得ないのだぞ！

۞ هَيۡهَاتَ هَيۡهَاتَ لِمَا تُوعَدُونَ ٣٦

37. それは、現世における私たちの生活に過ぎない[3]。私たちは死に、生き（て、世代を交

إِنۡ هِيَ إِلَّا حَيَاتُنَا ٱلدُّنۡيَا نَمُوتُ وَنَحۡيَا وَمَا

---

1 この「別の世代」とは、アード*のことを指すとされる。また一説には、サムード*のこと（イブン・カスィール 5:474 参照）。

2 「来世における拝謁」とは、復活と清算のこと（アル＝クルトゥビー12:121 参照）。

3 つまり、生とは自分たちが今いるものだけであり、あなたが約束する来世における復活の後の生などはない、ということ（アル＝クルトゥビー12:124 参照）。

代し続け）るだけ[1]。そして私たちは、蘇らされる身などではないのだ。

نَحْنُ بِمَبْعُوثِينَ ٣٧

38. 彼はアッラー*に対して嘘をでっち上げた、一人の男に過ぎない。そして私たちは彼のことなど、信じないぞ」。

إِنْ هُوَ إِلَّا رَجُلٌ ٱفْتَرَىٰ عَلَى ٱللَّهِ كَذِبًا وَمَا
نَحْنُ لَهُۥ بِمُؤْمِنِينَ ٣٨

39. 彼（使徒*）は、申し上げた。「我が主*よ、彼らが私を嘘つき呼ばわりしますゆえ、私をお助け下さい」。

قَالَ رَبِّ ٱنصُرْنِى بِمَا كَذَّبُونِ ٣٩

40. かれは仰せられた。「彼らは必ずやもうすぐ、後悔する者となる」。

قَالَ عَمَّا قَلِيلٍ لَّيُصْبِحُنَّ نَٰدِمِينَ ٤٠

41. （轟く）一声[2]が真理と共に[3]彼らを捕え、われら*は彼らを枯れ屑にした。不正*者である民に、滅亡あれ。

فَأَخَذَتْهُمُ ٱلصَّيْحَةُ بِٱلْحَقِّ فَجَعَلْنَٰهُمْ
غُثَآءً ۚ فَبُعْدًا لِّلْقَوْمِ ٱلظَّٰلِمِينَ ٤١

42. それから、われら*は彼らの後、（また）いくつもの別の世代を設けた。

ثُمَّ أَنشَأْنَا مِنۢ بَعْدِهِمْ قُرُونًا ءَاخَرِينَ ٤٢

43. いかなる共同体も、その（滅亡の）期限に先駆けることもなければ、遅れることもない。

مَا تَسْبِقُ مِنْ أُمَّةٍ أَجَلَهَا وَمَا يَسْتَـْٔخِرُونَ ٤٣

44. それからわれら*は、われら*の使徒*たちを続けて遣わした。ある共同体にその使徒*が到来するたび、彼ら（共同体の民）は彼（使徒*）を嘘つき呼ばわりした。それでわれら*は、彼らを次から次へと立て続けにし（て滅亡させ）、彼らを（後世へと）語り継がれるものとしたのだ。信仰しない民には、滅亡あれ。

ثُمَّ أَرْسَلْنَا رُسُلَنَا تَتْرَا ۖ كُلَّ مَا جَآءَ أُمَّةً رَّسُولُهَا
كَذَّبُوهُ ۚ فَأَتْبَعْنَا بَعْضَهُم بَعْضًا وَجَعَلْنَٰهُمْ
أَحَادِيثَ ۚ فَبُعْدًا لِّقَوْمٍ لَّا يُؤْمِنُونَ ٤٤

1 「私たち」の先祖が死に、「私たち」の子孫が生きること（ムヤッサル 344 頁参照）。

2 「（轟く）一声」については、フード*章 67 の訳注を参照。

3 「真理と共に」とは、不正*ではなく、公正さによって、という意味（アッ＝サアディー 551 頁参照）。

45. それからわれら*は、われら*の御徴[1]と紛れもなき証拠[2]と共に、ムーサー*とその兄ハールーン*を遣わした。

ثُمَّ أَرْسَلْنَا مُوسَىٰ وَأَخَاهُ هَٰرُونَ بِـَٔايَٰتِنَا وَسُلْطَٰنٍ مُّبِينٍ ﴿٤٥﴾

46. フィルアウン*とその（民の）有力者に。すると彼らは、（信仰を受け入れることに対して、）驕り高ぶった。彼らは高慢非道な民であった。

إِلَىٰ فِرْعَوْنَ وَمَلَإِيْهِۦ فَٱسْتَكْبَرُواْ وَكَانُواْ قَوْمًا عَالِينَ ﴿٤٦﴾

47. また、彼ら（フィルアウン*たち）は言った。「一体私たちが、私たちと同様の二人の人間を信じるとでも？　彼らの民（イスラーイールの子ら*）は、私たちの奴隷*だというのに[3]」。

فَقَالُوٓاْ أَنُؤْمِنُ لِبَشَرَيْنِ مِثْلِنَا وَقَوْمُهُمَا لَنَا عَٰبِدُونَ ﴿٤٧﴾

48. そして彼らは二人を嘘つき呼ばわりし、滅亡する者の類いとなった。

فَكَذَّبُوهُمَا فَكَانُواْ مِنَ ٱلْمُهْلَكِينَ ﴿٤٨﴾

49. また、われら*は確かに、彼らが導かれるようにと、ムーサー*に啓典（トーラー*）を授けた。

وَلَقَدْ ءَاتَيْنَا مُوسَى ٱلْكِتَٰبَ لَعَلَّهُمْ يَهْتَدُونَ ﴿٤٩﴾

50. また、われら*はマルヤム*の息子（イーサー*）とその母親を、一つの御徴[4]とした。そして二人を、安住と水の流れる台地に住まわせた[5]。

وَجَعَلْنَا ٱبْنَ مَرْيَمَ وَأُمَّهُۥٓ ءَايَةً وَءَاوَيْنَٰهُمَآ إِلَىٰ رَبْوَةٍ ذَاتِ قَرَارٍ وَمَعِينٍ ﴿٥٠﴾

51. 使徒*たちよ、善きものの内から食べ、正しい行い*を行え[6]。本当にわれは、あなた方

يَٰٓأَيُّهَا ٱلرُّسُلُ كُلُواْ مِنَ ٱلطَّيِّبَٰتِ وَٱعْمَلُواْ

---

1 この「御徴」については、雌牛章 92「明証」の訳注を参照。

2 この「紛れもなき証拠」については、婦人章 153 の訳注を参照。

3 雌牛章 49 とその訳注も参照。

4 この「御徴」については、マルヤム*章 21 の訳注を参照。

5 一説にこれは、マルヤム*がイーサー*を身ごもった時、身を寄せた場所のこと（アッ＝サァディー553 頁参照）。マルヤム*章 22-25 を参照。

6 合法なものを摂取（せっしゅ）することは、正しい行い*への助力となる。一方で、非合法なものの摂取は、有害さを招く（ムヤッサル 345 頁参照）。そしてその害の一つが、祈りが叶（かな）えられなくなることである（ムスリム「浄財*の書」65 も参照）。

が行うことを知って（おり、それで報）いるのだから。

صَٰلِحًاۖ إِنِّي بِمَا تَعۡمَلُونَ عَلِيمٞ ٥١

52. また（預言者*たちよ）、まさにこれ（あなた方の宗教）は、一つの宗教である、あなた方の宗教（イスラーム*）。そしてわれは、あなた方の主*なのだ。ゆえに、われを畏れ*よ。

وَإِنَّ هَٰذِهِۦٓ أُمَّتُكُمۡ أُمَّةٗ وَٰحِدَةٗ وَأَنَا۠ رَبُّكُمۡ فَٱتَّقُونِ ٥٢

53. （その後）彼ら（人々）は、自分たちの（宗教上の）事柄において、互いに派を作って分裂してしまった。各派は、自分たちのもの（宗教）に有頂天でいる[1]。

فَتَقَطَّعُوٓاْ أَمۡرَهُم بَيۡنَهُمۡ زُبُرٗاۖ كُلُّ حِزۡبِۭ بِمَا لَدَيۡهِمۡ فَرِحُونَ ٥٣

54. ならば（使徒*よ、）彼らをしばらく、彼らの（迷いと無知の）奥底に漬かり切ったままにしておけ。

فَذَرۡهُمۡ فِي غَمۡرَتِهِمۡ حَتَّىٰ حِينٍ ٥٤

55. 一体彼らは、思い込んでいるのか？ われら*が（現世において）彼らに増やしてやる財産や子供、

أَيَحۡسَبُونَ أَنَّمَا نُمِدُّهُم بِهِۦ مِن مَّالٖ وَبَنِينَ ٥٥

56. （それらによって）われら*が彼らのため、善に急いでいると？ いや、（それは彼らの試練なのだが、）彼らは気付いていないのだ。[2]

نُسَارِعُ لَهُمۡ فِي ٱلۡخَيۡرَٰتِۚ بَل لَّا يَشۡعُرُونَ ٥٦

57. 本当に、自分たちの主*への恐れだけから、（かれの罰に）怯える者たち。[3]

إِنَّ ٱلَّذِينَ هُم مِّنۡ خَشۡيَةِ رَبِّهِم مُّشۡفِقُونَ ٥٧

58. また、自分たちの主*の御徴をこそ、固く信じる者たち。

وَٱلَّذِينَ هُم بِـَٔايَٰتِ رَبِّهِمۡ يُؤۡمِنُونَ ٥٨

---

1 つまり、（イスラーム*のもとに）団結を命じられた後に分裂し、各々の宗教が真理で、他の宗教が嘘だとし、そのことに喜んでいる状態（ムヤッサル 345 頁参照）。

2 同様のアーヤ*として、イムラーン家章 178、悔悟章 55 も参照。

3 彼らは善を尽くし、信仰し、正しい行い*に励みつつも、アッラー*を恐れる者たちである。アル＝ハサン*は言った。「実に信仰者とは、善を尽くしつつも怯えるもの。そして実に偽信者*とは、悪行*を犯しつつ安心しているものである」（イブン・カスィール 5:480 参照）。

59. また、自分たちの主*に対し、決してシルク*を犯さない者たち。

وَٱلَّذِينَ هُم بِرَبِّهِمۡ لَا يُشۡرِكُونَ ٥٩

60. また、自分たちの主*の御許に戻る身であるがゆえに、心慄きつつ、与える（べき）ものを与える者たち。[1]

وَٱلَّذِينَ يُؤۡتُونَ مَآ ءَاتَواْ وَّقُلُوبُهُمۡ وَجِلَةٌ أَنَّهُمۡ
إِلَىٰ رَبِّهِمۡ رَٰجِعُونَ ٦٠

61. それらの者たちは、我先にと、善[2]において競い合っているのだ。

أُوْلَٰٓئِكَ يُسَٰرِعُونَ فِي ٱلۡخَيۡرَٰتِ وَهُمۡ لَهَا
سَٰبِقُونَ ٦١

62. また、われら*はいかなる者にも、その能力以上のものを課したりはしない。そしてわれら*の御許には、真理を語る書[3]があるのであり、彼らが不正*を被ることもない。

وَلَا نُكَلِّفُ نَفۡسًا إِلَّا وُسۡعَهَاۖ وَلَدَيۡنَا كِتَٰبٞ
يَنطِقُ بِٱلۡحَقِّ وَهُمۡ لَا يُظۡلَمُونَ ٦٢

63. いや、彼らの心はこれ（クルアーン*）から、（迷いによって）すっかり覆われた状態にある。そして彼らには、その外にも、彼らが行っている（悪い）行いがあるのだ[4]。

بَلۡ قُلُوبُهُمۡ فِي غَمۡرَةٖ مِّنۡ هَٰذَا وَلَهُمۡ أَعۡمَٰلٞ
مِّن دُونِ ذَٰلِكَ هُمۡ لَهَا عَٰمِلُونَ ٦٣

64. やがて、彼らの内の贅沢者たちをわれら*が懲罰[5]で捕えることになれば、どうであろうか、彼らは（助けを求めて）苦しみ喚く。

حَتَّىٰٓ إِذَآ أَخَذۡنَا مُتۡرَفِيهِم بِٱلۡعَذَابِ إِذَا هُمۡ
يَجۡـَٔرُونَ ٦٤

65. 今日、（助けを求めて）苦しみ喚くのではない。本当にあなた方は、われら*（の罰）から助けられることなどないのだから。

لَا تَجۡـَٔرُواْ ٱلۡيَوۡمَۖ إِنَّكُم مِّنَّا لَا تُنصَرُونَ ٦٥

---

1 つまり善行に励みつつも、それが受け入れられず、復活の日*に自分の役に立たないかもしれないことを恐れる者たちのこと（ムヤッサル 346 頁参照）。

2 この「善」とは、アッラー*への服従行為、正しい行為のこと（前掲書、同頁参照）。

3 これは天使*たちによって、しもべたちの行いが記録された帳簿のこと。一説には、守られし碑版*のこと（アル＝クルトゥビー12:134 参照）。

4 つまり、シルク*以外にも悪い行いがある、という意味（ムヤッサル 346 頁参照）。

5 この「懲罰」が、バドルの戦い*での彼らの敗北だとか、あるいはマッカ*を襲った飢饉（ききん）のことであるとかいう説もある（アル＝バガウィー3:369 参照）。

66. わが御徴（アーヤ*）は確かに、あなた方に対して読誦されていた。そしてあなた方は、踵を返して後ずさりしたのである。

قَدْ كَانَتْ ءَايَٰتِى تُتْلَىٰ عَلَيْكُمْ فَكُنتُمْ عَلَىٰٓ أَعْقَٰبِكُمْ تَنكِصُونَ ٦٦

67. それ[1]ゆえに驕り高ぶり、夜もすがら悪口に興じつつ[2]。

مُسْتَكْبِرِينَ بِهِۦ سَٰمِرًا تَهْجُرُونَ ٦٧

68. 一体、彼らはその言葉（クルアーン*）を熟慮しないのか？ いや、彼らの昔の先祖たちに訪れなかったものが、彼らのもとに到来した（ことが理由で、信じないという）のか？[3]

أَفَلَمْ يَدَّبَّرُوا۟ ٱلْقَوْلَ أَمْ جَآءَهُم مَّا لَمْ يَأْتِ ءَابَآءَهُمُ ٱلْأَوَّلِينَ ٦٨

69. いや、彼らは自分たちの使徒*（ムハンマド*）を知らず、それで彼を否認するのか？[4]

أَمْ لَمْ يَعْرِفُوا۟ رَسُولَهُمْ فَهُمْ لَهُۥ مُنكِرُونَ ٦٩

70. いや、彼らは、彼が憑かれている[5]とでも言うのか？ いや、彼は彼らのもとに真理を携えてやって来たのだが、彼らの多くは真理を嫌うのである。

أَمْ يَقُولُونَ بِهِۦ جِنَّةٌۢ ۚ بَلْ جَآءَهُم بِٱلْحَقِّ وَأَكْثَرُهُمْ لِلْحَقِّ كَٰرِهُونَ ٧٠

71. もし真理が彼らの欲望に従うようなことがあれば、諸天と大地、そこにあるものは、損なわれてしまったであろう。いや、われら*は彼らに、彼らの栄誉[6]をもたらした。そして彼らは自分たちの栄誉に対し、背を向けているのだ。

وَلَوِ ٱتَّبَعَ ٱلْحَقُّ أَهْوَآءَهُمْ لَفَسَدَتِ ٱلسَّمَٰوَٰتُ وَٱلْأَرْضُ وَمَن فِيهِنَّ ۚ بَلْ أَتَيْنَٰهُم بِذِكْرِهِمْ فَهُمْ عَن ذِكْرِهِم مُّعْرِضُونَ ٧١

---

1 「それ」とは、大方の学者によれば、マッカ*のクライシュ族*がその管理を携（たずさ）わっていたカァバ神殿*のこと。彼らはそのことを、鼻にかけていた。また一説には、「それ（クルアーン*）に対して驕り高ぶり…」という解釈もある（アル＝クルトゥビー12:136 参照）。

2 詳細にされた章 26、星章 59-61 も参照。

3 金の装飾章 23-24 も参照。

4 実際のところ、彼らは預言者*ムハンマド*が啓示を授かる前から、彼を「誠実な人」という別称で呼ぶほど、彼の良き品性、正直さ、誠実さについて、熟知していた（アッ＝サァディー554 頁参照）。ユーヌス*章 16 の訳注も参照。

5 アル＝ヒジュラ章 6「憑かれた者」に関する訳注も参照。

6 「栄誉（ズィクル）」には、彼らへの「教訓」という意味も含まれ、いずれにせよクルアーン*のことを指す。彼らがその教えを実践する限りにおいて、それは彼らにとっての栄誉となる（前掲書、同頁参照）。預言者*たち章 10、金の装飾章 44 も参照。

72. いや、（使徒*よ、）あなたは、彼らに見返りを要求[1]（し、それゆえに彼らは信仰を拒否）するのか？ （いや、違う、）というのも、あなたの主*の見返りの方が、より善いのだから。そしてかれは、最もよく糧を授けられるお方なのだ。

أَمۡ تَسۡـَٔلُهُمۡ خَرۡجٗا فَخَرَاجُ رَبِّكَ خَيۡرٞۖ وَهُوَ خَيۡرُ
ٱلرَّٰزِقِينَ ٧٢

73. 本当にあなたは、彼らをまさに、まっすぐな道（イスラーム*）へと招いているのである。

وَإِنَّكَ لَتَدۡعُوهُمۡ إِلَىٰ صِرَٰطٖ مُّسۡتَقِيمٖ ٧٣

74. そして本当に、来世を信じない者たちは、（正しい）道からまさに外れてしまっている者たちなのだ。

وَإِنَّ ٱلَّذِينَ لَا يُؤۡمِنُونَ بِٱلۡأٓخِرَةِ عَنِ
ٱلصِّرَٰطِ لَنَٰكِبُونَ ٧٤

75. もし、われら*が彼らに慈悲をかけ、彼らの害を取り除いてやったら[2]、彼らは彷徨いつつ、自らのひどい放埒さに固執したであろう。

۞ وَلَوۡ رَحِمۡنَٰهُمۡ وَكَشَفۡنَا مَا بِهِم مِّن ضُرّٖ
لَّلَجُّواْ فِي طُغۡيَٰنِهِمۡ يَعۡمَهُونَ ٧٥

76. われら*は確かに、彼らを懲罰[3]で捕えた。そして彼らは自分たちの主*に従順になることもなかったし、おそれ畏まりもしない。

وَلَقَدۡ أَخَذۡنَٰهُم بِٱلۡعَذَابِ فَمَا ٱسۡتَكَانُواْ
لِرَبِّهِمۡ وَمَا يَتَضَرَّعُونَ ٧٦

77. やがて、われら*が彼らに対して厳しい懲罰[4]の扉を開ける時、どうであろう、彼らはその中で落胆する者となる。

حَتَّىٰٓ إِذَا فَتَحۡنَا عَلَيۡهِم بَابٗا ذَا عَذَابٖ شَدِيدٍ
إِذَا هُمۡ فِيهِ مُبۡلِسُونَ ٧٧

78. かれは、あなた方に聴覚と視覚と心を備え付けて下さったお方。あなた方が感謝することの少ないこと。

وَهُوَ ٱلَّذِيٓ أَنشَأَ لَكُمُ ٱلسَّمۡعَ وَٱلۡأَبۡصَٰرَ وَٱلۡأَفۡـِٔدَةَۚ
قَلِيلٗا مَّا تَشۡكُرُونَ ٧٨

---

1 この「見返りの要求」については、ユーヌス*章 72 の訳注を参照。

2 一説に、これは「地獄に入れずに現世に返してやり、（再び）試すこと」。または「旱魃（かんばつ）や飢餓（きが）」（アル＝クルトゥビー12:142 参照）。

3 この「懲罰」とは、試練としての災（わざわ）いのこと（ムヤッサル 347 頁参照）。一説には、マッカ*の民を苦しめた七年間の大飢饉（ききん）のこと（アン＝ナサーイー 11352 参照）。

4 この「懲罰」は、来世での懲罰のこととされる（ムヤッサル 347 頁参照）。

79. また、かれは、あなた方を大地に繁茂(はんも)させられたお方。そしてかれの御許(みもと)にこそ、あなた方は召集(しょうしゅう)されるのだ。

وَهُوَ ٱلَّذِي ذَرَأَكُمۡ فِي ٱلۡأَرۡضِ وَإِلَيۡهِ
تُحۡشَرُونَ ٧٩

80. そして、かれは生を与えられ、死を与えられるお方。またかれにこそ、夜と昼の交代は属(ぞく)する。一体あなた方は、分別(ふんべつ)しないのか？

وَهُوَ ٱلَّذِي يُحۡيِۦ وَيُمِيتُ وَلَهُ ٱخۡتِلَٰفُ ٱلَّيۡلِ
وَٱلنَّهَارِۚ أَفَلَا تَعۡقِلُونَ ٨٠

81. いや、彼らは昔の人々が言ったのと同じようなことを言った。

بَلۡ قَالُواْ مِثۡلَ مَا قَالَ ٱلۡأَوَّلُونَ ٨١

82. 彼らは言ったのだ。「一体、死んで土と骨と化した後で、本当に私たちが蘇(よみがえ)らされる身であるなどというのか？

قَالُوٓاْ أَءِذَا مِتۡنَا وَكُنَّا تُرَابٗا وَعِظَٰمًا أَءِنَّا
لَمَبۡعُوثُونَ ٨٢

83. 私たちと、私たちのご先祖様たちは以前、確かにこれ[1]を約束されたのである。これは昔の人々のお伽話(とぎばなし)に外(ほか)ならない」。

لَقَدۡ وُعِدۡنَا نَحۡنُ وَءَابَآؤُنَا هَٰذَا مِن قَبۡلُ
إِنۡ هَٰذَآ إِلَّآ أَسَٰطِيرُ ٱلۡأَوَّلِينَ ٨٣

84. （使徒(しと)*よ、）言ってやれ。「大地と、そこにあるものは誰のものか？ もし、あなた方が知っているのであれば」。

قُل لِّمَنِ ٱلۡأَرۡضُ وَمَن فِيهَآ إِن كُنتُمۡ
تَعۡلَمُونَ ٨٤

85. 彼らは言うであろう。「アッラー*のものである」。言ってやるのだ。「一体、あなた方は教訓を得ないのか？」

سَيَقُولُونَ لِلَّهِۚ قُلۡ أَفَلَا تَذَكَّرُونَ ٨٥

86. 言ってやれ。「七層(そう)の天の主(しゅ)*と、偉大なる御座(みくら)[2]の主(しゅ)*は誰か？」

قُلۡ مَن رَّبُّ ٱلسَّمَٰوَٰتِ ٱلسَّبۡعِ وَرَبُّ ٱلۡعَرۡشِ
ٱلۡعَظِيمِ ٨٦

87. 彼らは言うであろう。「（それらは）アッラー*のものである」。言ってやるのだ。「一体、あなた方は畏(おそ)れ*ないのか？」

سَيَقُولُونَ لِلَّهِۚ قُلۡ أَفَلَا تَتَّقُونَ ٨٧

---

1 「これ」とは、復活のこととされる。つまり、「ご先祖様の代から、復活のことを耳にしてきたが、それはまだ起こらないではないか？」という当てこすり（アッ＝サアディー557頁参照）。

2 「御座」については、高壁章 54 の訳注を参照。

88. 言ってやれ。「その御手に全てのものの絶対なる王権があり、そして（援助を求める者を）お助けになり、かれ（の意）に反しては（誰も）助けられることがないお方は、誰か？ もし、あなた方が知っているのならば」。

قُلْ مَنۢ بِيَدِهِۦ مَلَكُوتُ كُلِّ شَىْءٍ وَهُوَ
يُجِيرُ وَلَا يُجَارُ عَلَيْهِ إِن كُنتُمْ تَعْلَمُونَ ٨٨

89. 彼らは言うであろう。「（それらは全て、）アッラー*のものである」。言ってやるのだ。「ならば一体、あなた方はどうしてまやかされるのか？」

سَيَقُولُونَ لِلَّهِ ۚ قُلْ فَأَنَّىٰ تُسْحَرُونَ ٨٩

90. いや、われら*は彼らに真理をもたらした。本当に彼らはまさしく、嘘つきだったのだ。

بَلْ أَتَيْنَٰهُم بِٱلْحَقِّ وَإِنَّهُمْ لَكَٰذِبُونَ ٩٠

91. アッラー*は御子など設けてはおられないし、かれと共にある神[1]なども一切ない。（もし）そうならば、きっと全ての神は自らが創ったものと共に（銘々に）去ってしまい、彼らは互いに君臨し（ようとし合っ）たであろう[2]。彼らの言うようなこと[3]から（無縁な）、アッラー*に称え*あれ[4]。

مَا ٱتَّخَذَ ٱللَّهُ مِن وَلَدٍ وَمَا كَانَ مَعَهُۥ مِنْ
إِلَٰهٍ ۚ إِذًا لَّذَهَبَ كُلُّ إِلَٰهٍۭ بِمَا خَلَقَ وَلَعَلَا
بَعْضُهُمْ عَلَىٰ بَعْضٍ ۚ سُبْحَٰنَ ٱللَّهِ عَمَّا
يَصِفُونَ ٩١

92. （かれは）不可視の世界*と現象界[5]をご存知になるお方で、彼らがシルク*を犯しているものから、（無縁で）高遠なお方。

عَٰلِمِ ٱلْغَيْبِ وَٱلشَّهَٰدَةِ فَتَعَٰلَىٰ عَمَّا
يُشْرِكُونَ ٩٢

---

1 「神」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

2 全能である真の神が二つ以上あったとしたら、世界の秩序は無茶苦茶になってしまう。しかし実際のところ、この宇宙は太古の昔から、あらゆる被造物の福利を実現しつつ、いかなる不具合や矛盾（むじゅん）もなく、驚くべき秩序を保ち続けてきた（アッ＝サァディー558 頁参照）。

3 つまり、シルク*や、嘘つき呼ばわりすることなど（ムヤッサル 348 頁参照）。

4 雌牛章 116 の訳注も参照。

5 「現象界」については、家畜章 73 の訳注を参照。

93. （使徒*よ、）言うがよい。「我が主*よ、もしもあなたが私に、彼らが約束されているもの[1]をまさにお見せになるとしても、

قُل رَّبِّ إِمَّا تُرِيَنِّي مَا يُوعَدُونَ ٩٣

94. 我が主*よ、私を不正*者である民の中には置かないで下さい」。

رَبِّ فَلَا تَجۡعَلۡنِي فِي ٱلۡقَوۡمِ ٱلظَّٰلِمِينَ ٩٤

95. 本当にわれら*は、われら*が彼らに約束しているものをあなたに見せることが、まさしく出来る者なのである。

وَإِنَّا عَلَىٰٓ أَن نُّرِيَكَ مَا نَعِدُهُمۡ لَقَٰدِرُونَ ٩٥

96. 悪を、より善いものでこそ押しのけよ[2]。われら*は彼らが言うこと[3]を、最もよく知っている。

ٱدۡفَعۡ بِٱلَّتِي هِيَ أَحۡسَنُ ٱلسَّيِّئَةَۚ نَحۡنُ أَعۡلَمُ بِمَا يَصِفُونَ ٩٦

97. また（使徒*よ）、言うがよい。「我が主*よ、私はあなたに、シャイターン*の煽り立てからのご加護を乞います。

وَقُل رَّبِّ أَعُوذُ بِكَ مِنۡ هَمَزَٰتِ ٱلشَّيَٰطِينِ ٩٧

98. そして我が主*よ、（何事においても、）彼ら（シャイターン*）が私のところにやって来ることからのご加護を、あなたに乞います」。

وَأَعُوذُ بِكَ رَبِّ أَن يَحۡضُرُونِ ٩٨

99. やがて、彼らの内の者[4]に死が訪れれば、彼は（こう）言う。「我が主*よ、私を（現世に）返して下さい。

حَتَّىٰٓ إِذَا جَآءَ أَحَدَهُمُ ٱلۡمَوۡتُ قَالَ رَبِّ ٱرۡجِعُونِ ٩٩

100. 私は、自分が残して来たもの[5]において、正しい行い*をするでしょう」。断じて（、戻ることは出来）ない。本当にそれは、彼が（口先だけで）言っている、ただの

لَعَلِّيٓ أَعۡمَلُ صَٰلِحٗا فِيمَا تَرَكۡتُۚ كَلَّآۚ إِنَّهَا كَلِمَةٌ هُوَ قَآئِلُهَاۖ وَمِن وَرَآئِهِم بَرۡزَخٌ إِلَىٰ يَوۡمِ يُبۡعَثُونَ ١٠٠

1 「われら*が約束しているもの」とは、懲罰のこと（ムヤッサル 348 頁参照）。

2 同様のアーヤ*として、詳細にされた章 34-35 も参照。

3 アーヤ*91「彼らが言うようなこと」の訳注を参照。

4 これは不信仰者*、あるいはアッラー*のご命令に反していた者のこと（前掲書、同頁参照）。

5 「残して来たもの」には、シャハーダ*の言葉、施（ほどこ）すべき財産などといった解釈がある（アル＝クルトゥビー12:150 参照）。

言葉に過ぎないのだから。そして彼らの先には、彼らが蘇らされる日まで、障壁[1]がある。[2]

101. 角笛に吹き込まれれば[3]、その日、彼らの間には血縁（の自慢）などもなければ、互いに（安否を）尋ね合うこともない。[4]

فَإِذَا نُفِخَ فِي ٱلصُّورِ فَلَآ أَنسَابَ بَيْنَهُمْ يَوْمَئِذٍ
وَلَا يَتَسَآءَلُونَ ١٠١

102. それで、その（善行の）秤が重かった者、それらの者たちこそは成功者。

فَمَن ثَقُلَتْ مَوَٰزِينُهُۥ فَأُو۟لَٰٓئِكَ هُمُ
ٱلْمُفْلِحُونَ ١٠٢

103. そして、その秤が軽かった者、それらの者たちは自らを損ねた者たちであり、地獄に永遠に留まる。

وَمَنْ خَفَّتْ مَوَٰزِينُهُۥ فَأُو۟لَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ
خَسِرُوٓا۟ أَنفُسَهُمْ فِى جَهَنَّمَ خَٰلِدُونَ ١٠٣

104. 業火が彼らの顔を焼き焦がし、彼らはそこで（苦痛ゆえに）歯を剥き出す。

تَلْفَحُ وُجُوهَهُمُ ٱلنَّارُ وَهُمْ فِيهَا كَٰلِحُونَ ١٠٤

105. （アッラー*は彼らに、こう仰せられる。）「あなた方には（現世で）、わが御徴が誦まれていたのではないのか？ そしてあなた方は、それを嘘呼ばわりしていたのでは？」

أَلَمْ تَكُنْ ءَايَٰتِى تُتْلَىٰ عَلَيْكُمْ فَكُنتُم بِهَا
تُكَذِّبُونَ ١٠٥

106. 彼らは申し上げる。「我らが主*よ、私たちの不幸[5]が、私たちを制圧してしまったのです。私たちは、迷った民でした。

قَالُوا۟ رَبَّنَا غَلَبَتْ عَلَيْنَا شِقْوَتُنَا وَكُنَّا قَوْمًا
ضَآلِّينَ ١٠٦

---

1 この「障壁（バルザフ）」とは、現世と来世の間を分ける障壁のこと。現世でアッラー*に従順であった者は、自分の死から復活の日*までの間、そこで安楽を楽しみ、反抗的であった者は、そこで罰され続ける（アッ＝サァディー559 頁参照）。

2 いざ復活の日*（あるいは死）が到来すると、彼らは現世での猶予（ゆうよ）を求めたり、自分たちを現世に返してくれることを頼んだりする。だがもちろん、それは叶（かな）わない。家畜章 27-28、高壁章 53、イブラーヒーム*章 44、アッ＝サジダ*章 12、創成者*章 37、赦し深いお方章 11-12、相談章 44、偽信者*たち章 10-11 も参照。

3 「角笛に吹き込まれる」については、家畜章 73 の訳注を参照。

4 階段章 10-14、眉をひそめて章 34-37 も参照。

5 この「不幸」とは、自らが働いていた不正*と、真理への拒否、自分を害するものを志向し、益するものを放棄（ほうき）することにより生じた不幸のこと（アッ＝サァディー560 頁参照）。

107. 我らが主*よ、私たちをここから出して下さい。そしてもし、（再び迷妄へと）戻ってしまったら、本当に私たちは（真に懲罰に値する）不正*者です」。

رَبَّنَآ أَخۡرِجۡنَا مِنۡهَا فَإِنۡ عُدۡنَا فَإِنَّا ظَٰلِمُونَ ١٠٧

108. かれは仰せられる。「そこに、（惨めなまま）下がっていよ。そしてわれに（これ以上）、話しかけるのではない」。

قَالَ ٱخۡسَـُٔواْ فِيهَا وَلَا تُكَلِّمُونِ ١٠٨

109. 本当に、わが僕たちの（信仰者の）一団は、（現世でこう）言っていたものなのだ。「我らが主*よ、私たちは信じました。ならば、私たちをお赦しになり、私たちにご慈悲をおかけ下さい。あなたは慈しみ深い者の中でも、最善のお方です」。[1]

إِنَّهُۥ كَانَ فَرِيقٞ مِّنۡ عِبَادِي يَقُولُونَ رَبَّنَآ ءَامَنَّا فَٱغۡفِرۡ لَنَا وَٱرۡحَمۡنَا وَأَنتَ خَيۡرُ ٱلرَّٰحِمِينَ ١٠٩

110. そしてあなた方（不信仰者*）は彼らを、あなた方にわが教訓を忘れさせるほどにまで侮蔑の的とし[2]、彼らを嘲り笑っていたのだ。

فَٱتَّخَذۡتُمُوهُمۡ سِخۡرِيًّا حَتَّىٰٓ أَنسَوۡكُمۡ ذِكۡرِي وَكُنتُم مِّنۡهُمۡ تَضۡحَكُونَ ١١٠

111. 本当にわれはこの日、彼らが（現世で）忍耐*していたことゆえに、彼らこそを成功者とすることで、彼らに報いてやるのだ。

إِنِّي جَزَيۡتُهُمُ ٱلۡيَوۡمَ بِمَا صَبَرُوٓاْ أَنَّهُمۡ هُمُ ٱلۡفَآئِزُونَ ١١١

112. かれ（アッラー*）は、（地獄の民に）仰せられる。「あなた方は地上で、何年間過ごしたのか？」[3]

قَٰلَ كَمۡ لَبِثۡتُمۡ فِي ٱلۡأَرۡضِ عَدَدَ سِنِينَ ١١٢

---

1 彼らは、以下のことを結集した者たちであった:①信仰と、それが要求する正しい行い*。②主*からのお赦しと、ご慈悲の祈願。③アッラー*を主*と認めつつ、信仰というお恵みをかれから頂いたこと、及びかれの豊かなご慈悲と善を告白することを、祈願が叶（かな）えられるための一手段とすること（アッ＝サアディー560頁）。アーヤ*57-61とその訳注も参照。

2 他人の侮蔑に勤しむことは、教訓を忘れることにつながる。そして教訓を忘れているがゆえに、他人の侮蔑（ぶべつ）に勤（いそ）しむのである（前掲書、同頁参照）。

3 食卓章109の、復活の日*における質問についての訳注も参照。

113. 彼らは（応えて）申し上げる。「一日か、一日足らずを、過ごしました。ならば、数える者たち[1]にお尋ね下さい」。

قَالُوا۟ لَبِثْنَا يَوْمًا أَوْ بَعْضَ يَوْمٍ فَسْـَٔلِ ٱلْعَآدِّينَ ١١٣

114. かれは仰せられる。「あなた方は（現世で）、僅かばかりしか過ごしてはいなかった。もし、あなた方が知っていたならば[2]。[3]

قَٰلَ إِن لَّبِثْتُمْ إِلَّا قَلِيلًا ۖ لَّوْ أَنَّكُمْ كُنتُمْ تَعْلَمُونَ ١١٤

115. 一体あなた方は、われら*があなた方を無意味に創造したと、そしてあなた方が（清算と報いのため）われら*の御許へと戻らされないとでも、思っていたのか？」

أَفَحَسِبْتُمْ أَنَّمَا خَلَقْنَٰكُمْ عَبَثًا وَأَنَّكُمْ إِلَيْنَا لَا تُرْجَعُونَ ١١٥

116. 王であり、真理であられるアッラー*は、（そのような無意味な行いから）高遠なお方。貴い御座[4]の主*、かれの外に（真に）崇拝*すべきものはない。

فَتَعَٰلَى ٱللَّهُ ٱلْمَلِكُ ٱلْحَقُّ ۖ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ رَبُّ ٱلْعَرْشِ ٱلْكَرِيمِ ١١٦

117. 誰であろうと、アッラー*に並べて別の神[5]を祈る者――彼にはそれ（を祈る正当性）において、いかなる根拠もないのだが――、その清算は、その主*の御許にこそある。本当に不信仰者*らは、成功することがない。

وَمَن يَدْعُ مَعَ ٱللَّهِ إِلَٰهًا ءَاخَرَ لَا بُرْهَٰنَ لَهُۥ بِهِۦ فَإِنَّمَا حِسَابُهُۥ عِندَ رَبِّهِۦٓ ۚ إِنَّهُۥ لَا يُفْلِحُ ٱلْكَٰفِرُونَ ١١٧

118. （預言者*よ、）言うのだ。「我が主*よ、お赦しになり、ご慈悲をおかけ下さい。そしてあなたは、慈しみ深い者の中でも最善のお方です」。

وَقُل رَّبِّ ٱغْفِرْ وَٱرْحَمْ وَأَنتَ خَيْرُ ٱلرَّٰحِمِينَ ١١٨

---

1 「数える者たち」とは、計算に長じた者たち、あるいは人の行いを記録し、数える天使*たちのこと（アル＝クルトゥビー12:156 参照）。

2 現世が短いことを知っていたら、来世よりも現世を優先させることなく、自分たちの益となることを行い、損となるようなことは行わなかっただろう、ということ（アッ＝シャルビーニー2:467 参照）。

3 同様のアーヤ*として、ユーヌス*章 45、ター・ハー章 103、ビザンチン章 55、砂丘章 35、引き離すもの章 46 も参照。

4 「御座」については、高壁章 54 の訳注を参照。

5 「神」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

第24章

御光章（アン＝ヌール）[1]

سُورَةُ النُّورِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. （これは、）われら*が下し、それ（に沿った行い）を義務づけ、あなた方が教訓を得るようにと、そこにおいて明白な御徴を下した、一つのスーラ*である。

سُورَةٌ أَنزَلۡنَٰهَا وَفَرَضۡنَٰهَا وَأَنزَلۡنَا فِيهَآ ءَايَٰتِۭ
بَيِّنَٰتٖ لَّعَلَّكُمۡ تَذَكَّرُونَ ١

2. （非ムフサン*である）姦通した女性と、姦通した男性、彼らはいずれも百回の鞭打ちに処せ[2]。また、あなた方がアッラー*の宗教において、彼らへの憐れみに流され（、刑罰の実施を放棄し）てしまうようではならない。もし、あなた方がアッラー*と最後の日*を信じているのなら、である。そして二人の懲罰（の場）には、信仰者たちの一団を立ち合わせよ。

ٱلزَّانِيَةُ وَٱلزَّانِي فَٱجۡلِدُواْ كُلَّ وَٰحِدٖ مِّنۡهُمَا مِاْئَةَ
جَلۡدَةٖۖ وَلَا تَأۡخُذۡكُم بِهِمَا رَأۡفَةٞ فِي دِينِ ٱللَّهِ إِن كُنتُمۡ
تُؤۡمِنُونَ بِٱللَّهِ وَٱلۡيَوۡمِ ٱلۡأٓخِرِۖ وَلۡيَشۡهَدۡ عَذَابَهُمَا
طَآئِفَةٞ مِّنَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ٢

3. 姦通した男性は、姦通した女性かシルク*の徒の女性としか、結婚しない。また姦通した女性は、姦通した男性かシルク*の徒の男

ٱلزَّانِي لَا يَنكِحُ إِلَّا زَانِيَةً أَوۡ مُشۡرِكَةٗ وَٱلزَّانِيَةُ لَا
يَنكِحُهَآ إِلَّا زَانٍ أَوۡ مُشۡرِكٞۚ وَحُرِّمَ ذَٰلِكَ عَلَى
ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ٣

1 マディーナ*啓示。スーラ*の名称は、その中で七回言及される「光」という語、及び、このスーラ*の一貫したテーマである「信仰者の教育」によってその心に灯（とも）される、心の「光」に由来するとされる。冒頭では姦通罪、および誰かを姦通罪で訴えることの重大さと、その刑罰の規定が、実際にムスリム*社会で起こった事件への言及と共に、説明される。そして、そのような重大な罪に対する予防策として、家の中や、他人の家の訪問、異性間の礼儀作法、結婚の奨励（しょうれい）などについての言及が続く。また偽信者*の描写やシャイターン*についての警告と共に、信仰と不信仰という「光と闇」についての印象的なたとえもあり、最後はアッラー*の信仰者に対する約束と、現世の行いの清算の言及によって締めくくられる。

2 姦通罪についての詳細は、婦人章 15 とその訳注を参照。

性しか彼女と結婚しない[1]。そしてそれは信仰者にとって、禁じられた[2]のである。

4. ムフサンの女性[3]たちを（姦通で）咎めておきながら、その後に四名の証人[4]を連れて来ない者たち、彼らは八十回の鞭打ち[5]に処せ。そして彼らからは（その後）一切、証言を受け入れてはならない。それらの者たちこそは、放逸な者たちなのである。

وَٱلَّذِينَ يَرۡمُونَ ٱلۡمُحۡصَنَٰتِ ثُمَّ لَمۡ يَأۡتُواْ بِأَرۡبَعَةِ
شُهَدَآءَ فَٱجۡلِدُوهُمۡ ثَمَٰنِينَ جَلۡدَةٗ وَلَا تَقۡبَلُواْ
لَهُمۡ شَهَٰدَةً أَبَدٗاۚ وَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡفَٰسِقُونَ ٤

5. 但し、その後に悔悟し、（行いを）正した者たちは別であ（り、アッラー*は彼らをお赦しにな）る[6]。本当にアッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。

إِلَّا ٱلَّذِينَ تَابُواْ مِنۢ بَعۡدِ ذَٰلِكَ وَأَصۡلَحُواْ فَإِنَّ
ٱللَّهَ غَفُورٞ رَّحِيمٞ ٥

6. また、彼ら自身の外には彼らにとっての証人がいないのに、自分たちの妻を（姦通で）

وَٱلَّذِينَ يَرۡمُونَ أَزۡوَٰجَهُمۡ وَلَمۡ يَكُن لَّهُمۡ
شُهَدَآءُ إِلَّآ أَنفُسُهُمۡ فَشَهَٰدَةُ أَحَدِهِمۡ أَرۡبَعُ

---

1 姦通者は、自分と同様の身持ちにある者、あるいは復活も清算も信じず、アッラー*のご命令にも従わないシルク*の徒としか結婚（あるいは姦通）しない、ということ。姦通者は、そもそもアッラー*とその使徒*の決まりを守らないシルク*の徒であるか、あるいはムスリム*ではあっても、「信仰者」という名には相応（ふさわ）しくない罪深い者であるかの、いずれかである（アッ＝サァディー561 頁参照）。また、このアーヤ*の「結婚（ニカーフ）」が、契約としての結婚ではなく、単なる性的関係のことを指す、という説もある（アッ＝タバリー7:5983、イブン・カスィール 6:9 参照）。

2 このアーヤ*の「結婚」を、文字通り契約上の結婚とするならば、一説に「姦通した者との結婚の禁止」はアーヤ*32 によって取り消された（アル＝クルトゥビー12:169 参照）。

3 ここにはムフサン*の男性も含まれるというのが、学者間の見解の一致したところ（前掲書12:172 参照）。

4 「四名の証人」については、婦人章 15 の訳注を参照。

5 これが非ムフサンの場合、統治者は根拠のない訴えをした者を裁量刑に処すことが出来る（クウェイト法学大全 33:25 参照）。

6 自分の訴えを嘘であると認め、悔悟し、行いを正せば、証言は受け入れられ、「放逸さ」という形容で表されることはなくなる（アッ＝サァディー561 頁参照）。但し、ハナフィー学派*では悔悟の後も、証言は受け入れられないとされる（イブン・カスィール 6:14 参照）。

咎める者たち、彼ら各人の証言は、本当に自分が（その主張において）まさしく正直者の一人であるということを、アッラー*に誓って四回証言[1]すること。

شَهَٰدَٰتِۭ بِٱللَّهِ إِنَّهُۥ لَمِنَ ٱلصَّٰدِقِينَ ٦

7. そして五回目（の証言）は、もし彼が嘘つきの類いであったなら、自分自身にアッラー*の呪いあれ、と（いう祈願）。

وَٱلْخَٰمِسَةُ أَنَّ لَعْنَتَ ٱللَّهِ عَلَيْهِ إِن كَانَ مِنَ ٱلْكَٰذِبِينَ ٧

8. また、彼女（夫から訴えられた妻）は、本当に彼（夫）がまさしく嘘つきの類いであるということを四回、アッラー*に誓って証言することで、自分から懲罰を防ぐことが出来る。

وَيَدْرَؤُا۟ عَنْهَا ٱلْعَذَابَ أَن تَشْهَدَ أَرْبَعَ شَهَٰدَٰتٍۭ بِٱللَّهِ إِنَّهُۥ لَمِنَ ٱلْكَٰذِبِينَ ٨

9. そして、もし彼が正直者の類いであったなら、彼女自身にアッラー*のお怒りあれ、と五回目に（祈願することで）。[2]

وَٱلْخَٰمِسَةَ أَنَّ غَضَبَ ٱللَّهِ عَلَيْهَآ إِن كَانَ مِنَ ٱلصَّٰدِقِينَ ٩

10. そしてもし、あなた方に対するアッラー*のご恩寵とそのご慈悲がなかったならば、また、アッラー*がよく悔悟をお受け入れになる*お方、英知あふれる*お方でなかったのであれば（、あなた方は罪を庇われることもなく、現世で罰されていたのだ）。

وَلَوْلَا فَضْلُ ٱللَّهِ عَلَيْكُمْ وَرَحْمَتُهُۥ وَأَنَّ ٱللَّهَ تَوَّابٌ حَكِيمٌ ١٠

---

1 四回の証言には、四人分の証言、という意味合いが含まれているとされる（アッ＝サァディー562 頁参照）。尚、この証言はイスラーム*法廷の場で行われなければならない（イブン・カスィール 6:14 参照）。

2 もし妻が夫の証言に対し、この証言で対抗しなければ、離婚が決定し、妻の姦通罪が確定するというのが大方の学者の意見（前掲書、同頁参照）。しかし両者とも証言を終えたら、いずれの刑罰も確定しないまま、離婚する流れとなる（ムヤッサル 350 頁参照）。そして両者は、二度と再婚することが出来ない、というのが大半の学者の見解（アル＝クルトゥビー12:194 参照）。ちなみにこのアーヤ*は、自分の妻の姦通を目の当たりにしたが、それ以外に何の証拠も証人もなかったため、大きな困惑に直面した男に関して下ったとされる（アル＝ブハーリー4745、4747 参照）。

11. 本当にでっち上げ[1]をもたらしたのは、あなた方の内の一団[2]である。それがあなた方にとって、悪いことだと思ってはならない。いや、それはあなた方にとって善いこと[3]なのだ。彼らの内の各々には、自分自身が稼いだ罪（の応報）がある[4]。そして彼らの内、その大半を請け負った者[5]、その者にはこの上ない懲罰がある。

إِنَّ ٱلَّذِينَ جَآءُو بِٱلۡإِفۡكِ عُصۡبَةٞ مِّنكُمۡۚ لَا
تَحۡسَبُوهُ شَرّٗا لَّكُمۖ بَلۡ هُوَ خَيۡرٞ لَّكُمۡۚ لِكُلِّ
ٱمۡرِيٕٖ مِّنۡهُم مَّا ٱكۡتَسَبَ مِنَ ٱلۡإِثۡمِۚ وَٱلَّذِي تَوَلَّىٰ
كِبۡرَهُۥ مِنۡهُمۡ لَهُۥ عَذَابٌ عَظِيمٞ ١١

12. どうして、あなた方がそれを聞いた時、信仰者男性らと信仰者女性らは、自分自身[6]について、よい方に考えなかったのか？　そして「これは、紛れもないでっち上げである」と言わなかったのか？

لَّوۡلَآ إِذۡ سَمِعۡتُمُوهُ ظَنَّ ٱلۡمُؤۡمِنُونَ وَٱلۡمُؤۡمِنَٰتُ
بِأَنفُسِهِمۡ خَيۡرٗا وَقَالُواْ هَٰذَآ إِفۡكٞ مُّبِينٞ ١٢

13. どうして彼らは、それに関して、四人の証人を連れて来ないのか？　そして証人を連れて来ないなら、それらの者たちはアッラー*の御許において、まさに嘘つきなのである。

لَّوۡلَا جَآءُو عَلَيۡهِ بِأَرۡبَعَةِ شُهَدَآءَۚ فَإِذۡ لَمۡ يَأۡتُواْ
بِٱلشُّهَدَآءِ فَأُوْلَٰٓئِكَ عِندَ ٱللَّهِ هُمُ ٱلۡكَٰذِبُونَ ١٣

---

1 この「でっち上げ」は、ある時、預言者*ムハンマド*の妻の一人アーイシャ*に対して流布（るふ）された虚言のこと。彼女は、ある遠征において預言者*と同伴したが、首飾りをなくして探している内に、遠征軍に置いて行かれてしまった。その後、軍の後方から遅れてやって来た男が彼女を見つけ、ラクダに乗せて彼女を送り届けたが、ある者たちが、彼女とその男の間についての悪い噂（うわさ）を流した。この一連のアーヤ*は、彼女の無実について下ったものである（アル＝ブハーリー4141 参照）。

2 その中には偽信者*もいれば、風評に騙（だま）された信仰者もいた（アッ＝サァディー563 頁参照）。

3 というのも、そこにはアーイシャ*の無実と潔癖さの証明、彼女の栄誉への示唆と、彼女にとっての贖罪（しょくざい）、信仰者とそれ以外の者たちの選別があったからである（ムヤッサル 351 頁参照）。

4 彼らの一部は後に、鞭打ちの刑に処された（アブー・ダーウード 4474 参照）。

5 偽信者*の長アブドッラー・イブン・ウバイイ*のこと（アル＝ブハーリー4141 参照）。

6 ここでは、主語が「あなた方」から「信仰者」と転換（食卓章 12「われら*」の訳注も参照）し、中傷された信仰者が「自分自身」と表現されている。それは、信仰者というものが本来、同じ信仰者が中傷された時には、その者を自分自身のことのように弁護する義務があるためである（アル＝バイダーウィー4:177 参照）。部屋章 11 も参照。

14. もし、現世と来世において、あなた方へのアッラー*のご恩寵とそのご慈悲がなかったならば、あなた方には自分たちがそれについて喋り立てたことゆえに、この上ない懲罰が及んだであろう。

وَلَوْلَا فَضْلُ ٱللَّهِ عَلَيْكُمْ وَرَحْمَتُهُۥ فِى ٱلدُّنْيَا وَٱلْءَاخِرَةِ لَمَسَّكُمْ فِى مَآ أَفَضْتُمْ فِيهِ عَذَابٌ عَظِيمٌ ١٤

15. あなた方がそれ（でっち上げ）を、あなた方の舌で互いに受け止め（ては言いふらし）、あなた方の口先で、自分たちに全く知識もないことを喋っている時（、あなた方は罪を犯していた）。そして、それがアッラー*の御許で重大なことであるにも関わらず、あなた方はそれを他愛ないことと考えていたのだ。

إِذْ تَلَقَّوْنَهُۥ بِأَلْسِنَتِكُمْ وَتَقُولُونَ بِأَفْوَاهِكُم مَّا لَيْسَ لَكُم بِهِۦ عِلْمٌ وَتَحْسَبُونَهُۥ هَيِّنًا وَهُوَ عِندَ ٱللَّهِ عَظِيمٌ ١٥

16. どうしてあなた方はそれを聞いた時、（こう）言わなかったのか？「私たちは、このようなことを喋るべきではない。――あなた（アッラー*）に称え*あれ――。これは、この上ない大嘘である」。

وَلَوْلَآ إِذْ سَمِعْتُمُوهُ قُلْتُم مَّا يَكُونُ لَنَآ أَن نَّتَكَلَّمَ بِهَٰذَا سُبْحَٰنَكَ هَٰذَا بُهْتَٰنٌ عَظِيمٌ ١٦

17. アッラー*は、あなた方がそのようなことを絶対に繰り返さないよう、あなた方を戒め給う。もし、あなた方が信仰者であるのならば（、繰り返すのではない）。

يَعِظُكُمُ ٱللَّهُ أَن تَعُودُوا۟ لِمِثْلِهِۦٓ أَبَدًا إِن كُنتُم مُّؤْمِنِينَ ١٧

18. そしてアッラー*は、あなた方に御徴[1]を明らかにされる。アッラー*は、全知者、英知あふれる*お方。

وَيُبَيِّنُ ٱللَّهُ لَكُمُ ٱلْءَايَٰتِ ۚ وَٱللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٌ ١٨

19. 本当に、（ムフサン*である）信仰する者たちの中に醜行[2]が広まることを好む者たち、彼らには現世と来世において痛ましい

إِنَّ ٱلَّذِينَ يُحِبُّونَ أَن تَشِيعَ ٱلْفَٰحِشَةُ فِى ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ فِى ٱلدُّنْيَا وَٱلْءَاخِرَةِ ۚ وَٱللَّهُ يَعْلَمُ وَأَنتُمْ لَا تَعْلَمُونَ ١٩

---

1 この「御徴」とは、イスラーム*の法規定と訓戒を含む、クルアーン*のアーヤ*のこと（ムヤッサル 351 頁参照）。

2 この「醜行」は、根拠もなく他人を姦通で訴えることを始めとした、その他諸々の悪い言葉のこと（前掲書、同頁参照）。蜜蜂章 90「醜行」の訳注も参照。

懲罰[1]がある。アッラー*がご存知なのであり、あなた方は知らないのだ。

20. そしてもし、あなた方に対するアッラー*のご恩寵とそのご慈悲がなかったなら、また、アッラー*が哀れみ深い*お方、慈愛深い*お方でなかったならば（、かれはこれらの法規定と訓戒を明らかにはされなかったであろう）。

وَلَوْلَا فَضْلُ ٱللَّهِ عَلَيْكُمْ وَرَحْمَتُهُۥ وَأَنَّ
ٱللَّهَ رَءُوفٌ رَّحِيمٌ ٢٠

21. 信仰する者たちよ、シャイターン*の歩みに従ってはならない。誰であろうとシャイターン*の歩みに従う者、本当に彼は（その者に）醜行と悪事[2]を命じるのである。そしてもし、あなた方に対するアッラー*のご恩寵とそのご慈悲がなかったならば、あなた方の内の誰も決して（自分の罪から）清くなる[3]ことはなかったのだ。だがアッラー*は、かれがお望みになる者をお清めになる。アッラー*は、よくお聞きになるお方、全知者であられるのだ。

۞ يَـٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَا تَتَّبِعُوا۟ خُطُوَٰتِ
ٱلشَّيْطَـٰنِ ۚ وَمَن يَتَّبِعْ خُطُوَٰتِ ٱلشَّيْطَـٰنِ فَإِنَّهُۥ
يَأْمُرُ بِٱلْفَحْشَآءِ وَٱلْمُنكَرِ ۚ وَلَوْلَا فَضْلُ ٱللَّهِ
عَلَيْكُمْ وَرَحْمَتُهُۥ مَا زَكَىٰ مِنكُم مِّنْ أَحَدٍ أَبَدًا
وَلَـٰكِنَّ ٱللَّهَ يُزَكِّى مَن يَشَآءُ ۗ وَٱللَّهُ سَمِيعٌ عَلِيمٌ ٢١

22. あなた方の内、（宗教的）徳と（経済的）余裕のある者たちは、近親、貧者*、アッラー*の道において移住*する者たちに（彼らの過ちゆえ、施しを）与えることの放棄を誓ってはならない。そして大目に見、見逃してやるのだ。あなた方は、アッラー*が自分たちのことをお赦しになるのを好まな

وَلَا يَأْتَلِ أُو۟لُوا۟ ٱلْفَضْلِ مِنكُمْ وَٱلسَّعَةِ أَن يُؤْتُوٓا۟
أُو۟لِى ٱلْقُرْبَىٰ وَٱلْمَسَـٰكِينَ وَٱلْمُهَـٰجِرِينَ فِى
سَبِيلِ ٱللَّهِ ۖ وَلْيَعْفُوا۟ وَلْيَصْفَحُوٓا۟ ۗ أَلَا تُحِبُّونَ
أَن يَغْفِرَ ٱللَّهُ لَكُمْ ۗ وَٱللَّهُ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ٢٢

1　「現世での懲罰」は、固定刑*による刑罰のこと。また悔悟しない限り、来世においては地獄の懲罰がある（アッ＝タバリー7:6011 参照）。

2　「醜行」と「悪事」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。

3　「清くなる（ザカー）」には、「増殖・成長する」という意味もある。つまり「罪から清まる」ほかにも、善行の増加という意味も含まれる（アッ＝サァディー563 頁参照）。

いのか？[1] アッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方なのである。

23. 本当に、無頓着[2]で信仰者であるムフサン*の女性[3]たちを（姦通で）咎める者たちは、現世と来世において呪われる[4]。そして彼らには、この上ない懲罰があるのだ。

إِنَّ ٱلَّذِينَ يَرۡمُونَ ٱلۡمُحۡصَنَٰتِ ٱلۡغَٰفِلَٰتِ
ٱلۡمُؤۡمِنَٰتِ لُعِنُواْ فِي ٱلدُّنۡيَا وَٱلۡأٓخِرَةِ وَلَهُمۡ
عَذَابٌ عَظِيمٞ ٢٣

24. 彼らの舌、手、足が、彼らが行っていたことについて、彼らに不利な証言をする日（のこと）。[5]

يَوۡمَ تَشۡهَدُ عَلَيۡهِمۡ أَلۡسِنَتُهُمۡ وَأَيۡدِيهِمۡ
وَأَرۡجُلُهُم بِمَا كَانُواْ يَعۡمَلُونَ ٢٤

25. その日アッラー*は、彼らの公正なる報いを、彼らに全うされる。そして彼らは（その日、）アッラー*こそが紛れもない真実[6]であることを知るのだ。

يَوۡمَئِذٖ يُوَفِّيهِمُ ٱللَّهُ دِينَهُمُ ٱلۡحَقَّ وَيَعۡلَمُونَ أَنَّ
ٱللَّهَ هُوَ ٱلۡحَقُّ ٱلۡمُبِينُ ٢٥

26. 悪しき女性たちは悪しき男性たちに相応しく、悪しき男性たちは悪しき女性たちに相応しい。また、善き女性たちは善き男性たちに相応しく、善き男性たちは善き女性

ٱلۡخَبِيثَٰتُ لِلۡخَبِيثِينَ وَٱلۡخَبِيثُونَ
لِلۡخَبِيثَٰتِۖ وَٱلطَّيِّبَٰتُ لِلطَّيِّبِينَ
وَٱلطَّيِّبُونَ لِلطَّيِّبَٰتِۚ أُوْلَٰٓئِكَ مُبَرَّءُونَ مِمَّا
يَقُولُونَۖ لَهُم مَّغۡفِرَةٞ وَرِزۡقٞ كَرِيمٞ ٢٦

---

1 このアーヤ*は、アブー・バクル*が、彼の近親で、貧しいムハージルーン*の一人であったミスタフ・ブン・ウサーサが「でっち上げ」事件に加担したために、彼への金銭的援助を断ち切ることを誓ったことに関して下った。しかしこのアーヤ*が下ると、アブー・バクル*はアッラー*のご命令に即応じ、彼を赦し、誓いを取り消した（アル＝ブハーリー4141 参照）。尚、誓ったことを撤回（てっかい）する際の罪滅ぼしについては、食卓章 89 を参照。

2 そのような醜行を思いつくこともないほど、無垢（むく）な者たちのこと（ムヤッサル 352 頁参照）。

3 この「女性たち」に関しては、アーヤ*4 の訳注を参照。

4 つまり、現世と来世においてアッラー*のご慈悲から遠ざけられる（前掲書、同頁参照）。部族連合章 57 も参照。

5 夜の旅章 97、ヤー・スィーン章 65、詳細にされた章 20 とそれらの訳注も参照。

6 アッラー*ご自身と、そのお約束、そのご警告、その他かれによる全てのものは真実であり、かれが少したりとも不正*を行うことなどはない（前掲書、同頁参照）。

たちに相応しい[1]。それらの者たち（善き男女）は、彼ら（悪しき者たち）の言うことから無縁である。彼ら（善き男女）にはお赦しと、（天国での）貴い糧がある。

27. 信仰する者たちよ、許可を請い[2]、その住人に挨拶するまでは、自分の家でもない家に入ってはならない[3]。それがあなた方にとって、より善いことなのである。あなた方は（そうすることにより）教訓を受けるであろう。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ لَا تَدۡخُلُواْ بُيُوتًا غَيۡرَ
بُيُوتِكُمۡ حَتَّىٰ تَسۡتَأۡنِسُواْ وَتُسَلِّمُواْ عَلَىٰٓ
أَهۡلِهَاۚ ذَٰلِكُمۡ خَيۡرٞ لَّكُمۡ لَعَلَّكُمۡ تَذَكَّرُونَ ٢٧

28. そして、もしあなた方がそこに誰も見出さなければ、あなた方に許可が出されるまで、そこに入ってはならない。また、もしあなた方に「お引き取り下さい」と言われたら、帰るのだ。それがあなた方にとって、より清いこと[4]なのだから。アッラー*は、あなた方が行うことをご存知のお方。

فَإِن لَّمۡ تَجِدُواْ فِيهَآ أَحَدٗا فَلَا تَدۡخُلُوهَا
حَتَّىٰ يُؤۡذَنَ لَكُمۡۖ وَإِن قِيلَ لَكُمُ
ٱرۡجِعُواْ فَٱرۡجِعُواْۖ هُوَ أَزۡكَىٰ لَكُمۡۚ وَٱللَّهُ بِمَا
تَعۡمَلُونَ عَلِيمٞ ٢٨

29. 誰も住んでおらず、その中にあなた方にとっての益がある家[5]に入っても、あなた方には何の問題もない。アッラー*は、あ

لَّيۡسَ عَلَيۡكُمۡ جُنَاحٌ أَن تَدۡخُلُواْ بُيُوتًا غَيۡرَ
مَسۡكُونَةٖ فِيهَا مَتَٰعٞ لَّكُمۡۚ وَٱللَّهُ يَعۡلَمُ مَا
تُبۡدُونَ وَمَا تَكۡتُمُونَ ٢٩

---

1 アル＝クルトゥビー*によれば、大多数の学者はここでの「女性」を「言葉」と解釈している。つまり、「悪しき言葉は悪しき男性のためのものであり、善き男性は善き言葉のためのもの…」という意味。また一説には、それは文字通り「女性」を意味する（12:211 参照）。善い者の中でも最善の者である預言者*ムハンマド*は、特に善いものが相応（ふさわ）しいお方である。つまり、彼の妻アーイシャ*をけなすことは、彼自身をけなすことに等しい（アッ＝サァディー563 頁参照）。

2 「許可を請う」と訳した原語は「イスティウナース（安心を求める）」。つまり「あなた方に対して、住人が安心するようにせよ」という意味が含まれている（イブン・アーシュール 18:197 参照）。

3 預言者*ムハンマド*は仰（おっしゃ）った。「三回（入室の）許可を請うても許可されなかったら、引き返すのだ」（アル＝ブハーリー6245 参照）。また、こうも仰った。「（許可を請う時には、こう）言え。『あなた方に平安を。入ってもよろしいですか？』と」（アブー・ダーウード 5177 参照）。

4 アーヤ*21「清くなる」の訳注を参照。

5 旅行者などのために用意された建物などのことを指す、とされる（ムヤッサル 353 頁参照）。

なた方が露わにすることも、隠すことも、ご存知である。

30. （預言者*よ、）信仰者の男たちに、彼らの視線の一部を（見ることを禁じられた物事[1]から）低め[2]、その陰部を（禁じられた物事[3]から）守るよう、言え。それが彼らにとって、より清い[4]ことなのだから。本当にアッラー*は、彼らが成すことに通暁されておられるお方。

قُل لِّلْمُؤْمِنِينَ يَغُضُّوا۟ مِنْ أَبْصَٰرِهِمْ
وَيَحْفَظُوا۟ فُرُوجَهُمْ ۚ ذَٰلِكَ أَزْكَىٰ لَهُمْ ۗ إِنَّ ٱللَّهَ
خَبِيرٌۢ بِمَا يَصْنَعُونَ ٣٠

31. また、信仰者の女たちに、彼女らの視線の一部を（見ることを禁じられた物事から）低め、その陰部を（禁じられた物事から）守り[5]、現れてしまうものの外は、自分たちの飾りを露わにしない[6]ように言うのだ。また、彼女らのスカーフで、その胸元まできちんと覆わせよ。また、（隠された部位に着けた）自分たちの飾り[7]を、以下の者以外

وَقُل لِّلْمُؤْمِنَٰتِ يَغْضُضْنَ مِنْ أَبْصَٰرِهِنَّ
وَيَحْفَظْنَ فُرُوجَهُنَّ وَلَا يُبْدِينَ زِينَتَهُنَّ
إِلَّا مَا ظَهَرَ مِنْهَا ۖ وَلْيَضْرِبْنَ بِخُمُرِهِنَّ عَلَىٰ
جُيُوبِهِنَّ ۖ وَلَا يُبْدِينَ زِينَتَهُنَّ إِلَّا لِبُعُولَتِهِنَّ
أَوْ ءَابَآئِهِنَّ أَوْ ءَابَآءِ بُعُولَتِهِنَّ أَوْ أَبْنَآئِهِنَّ
أَوْ أَبْنَآءِ بُعُولَتِهِنَّ أَوْ إِخْوَٰنِهِنَّ أَوْ بَنِىٓ إِخْوَٰنِهِنَّ
أَوْ بَنِىٓ أَخَوَٰتِهِنَّ أَوْ نِسَآئِهِنَّ أَوْ مَا مَلَكَتْ

---

1 つまり非合法な物事や、恥部（アウラ*）、自分の心を虜（とりこ）にしそうな現世の魅力などのこと（アッ＝サァディー566 頁参照）。

2 預言者*は仰（おっしゃ）った。「･･･（非合法なものを見ても、）視線を定めてはならない。実にあなたには最初の視線が許されても、二番目のそれは許されないのだから」（アブー・ダーウード 2149 参照）。尚、視線が「一部」と表現されているのには、証言や結婚の申し込みの際など、場合によっては、普段は禁じられている物事に視線を定めることが許されることがあるから、とされる。一方、貞操に関しては、いかなる状況においても守らなければならない（アッ＝サァディー566 頁参照）。

3 つまり禁じられた性交渉や、陰部を見られたりすることから（前掲書、同頁参照）。

4 アーヤ*21「清くなる」の訳注を参照。

5 アーヤ*31 とその訳注を参照。

6 この「飾り」とは、アンクレット、腕輪、イヤリング、ネックレスといった「隠れた飾り」のこと。そしてここでの意図は、それらを着用する身体的部位のことである（アル＝バガウィー3:403 参照）。「現れてしまうもの」には、「外套（がいとう）」「顔と両手首から先」といった解釈があるが、イブン・カスィール*は後者を、大多数の学者の見解としている（6:45 参照）。頻出名・用語解説の「アウラ*」も参照。

7 この「飾り」は、マハラム*にしか見せてはならない「隠れた飾り」のこと（本頁の訳注 5 参照）。

には露(あら)わにしてはならない：自分たちの主人（夫）ら。自分たちの父親[1]たち。自分たちの主人の父親たち。自分たちの子供[2]たち。自分たちの主人の子供たち。自分たちの兄弟たち。自分たちの兄弟の子供たち。自分たちの姉妹の子供[3]たち。自分たち（と同様）の女性[4]たち。自分たちの右手が所有する者たち（奴隷(どれい)*）。男性の内、（女性を）必要としない[5]お付きの者たち。女性の恥部(ちぶ)（アウラ*）に関して無知な男児。また、自分たちが隠(かく)して（着けて）いる装飾(そうしょく)品が（男たちに）分かるようにと、自分たちの足を打ち鳴らしてはならない。あなた方が成功するように、信仰者たちよ、皆アッラー*に悔悟(かいご)するのだ。

أَيْمَٰنُهُنَّ أَوِ ٱلتَّٰبِعِينَ غَيْرِ أُو۟لِى ٱلْإِرْبَةِ مِنَ
ٱلرِّجَالِ أَوِ ٱلطِّفْلِ ٱلَّذِينَ لَمْ يَظْهَرُوا۟ عَلَىٰ
عَوْرَٰتِ ٱلنِّسَآءِ ۖ وَلَا يَضْرِبْنَ بِأَرْجُلِهِنَّ لِيُعْلَمَ
مَا يُخْفِينَ مِن زِينَتِهِنَّ ۚ وَتُوبُوٓا۟ إِلَى ٱللَّهِ جَمِيعًا
أَيُّهَ ٱلْمُؤْمِنُونَ لَعَلَّكُمْ تُفْلِحُونَ ٣١

32. （信仰者たちよ、自分の後見(こうけん)下にある）あなた方の内の独身者と、あなた方の奴隷(どれい)*男性と奴隷(どれい)*女性の正しい者*たち[6]を、結婚させるがよい。もし彼らが貧(まず)しくても、アッラー*がそのご恩寵(おんちょう)から（彼らにお恵みになり、）彼らを豊(ゆた)かにして下さる。アッラー*は、広量(こうりょう)な*お方、全知者であられるのだから。

وَأَنكِحُوا۟ ٱلْأَيَٰمَىٰ مِنكُمْ وَٱلصَّٰلِحِينَ مِنْ عِبَادِكُمْ
وَإِمَآئِكُمْ ۚ إِن يَكُونُوا۟ فُقَرَآءَ يُغْنِهِمُ ٱللَّهُ مِن
فَضْلِهِۦ ۗ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٣٢

1 ここでの「父親」には、祖父など、父方・母方の男性尊属（そんぞく）も含まれるとされる。「自分たちの主人の父親」も同様（アル＝クルトゥビー12:232 参照）。

2 ここでの「子供」には、孫など、息子・娘いずれの男性卑属（ひぞく）も含まれるとされる。このアーヤ*内の外の「子供」も、全て同様（前掲書 12:232-233 参照）。

3 「自分たちの兄弟・姉妹の子供」という言葉には、その男親である叔（伯）父も含まれるとされる。また、授乳によって出来た親族関係（婦人章 21 を参照）の男性も、「隠された飾り」を見せてもよいとされるが、ここでは言及されていない（前掲書 12: 233 参照）。

4 女性一般、あるいはムスリム*女性のこと（アッ＝サァディー566 頁参照）。

5 去勢された者、性欲のない者、老人など、女性に関心のない男性（アル＝クルトゥビー12:234 参照）。

6 「正しい」には、宗教的な正しさの外、結婚するに適当な、という意味も含まれ得る（アッ＝サァディー567 頁参照）。

33. また、結婚（の費用）を見出せない者たちは、アッラー*がそのご恩寵から（彼らにお恵みになり）、彼らを豊かにして下さるまで、慎ましくあれ[1]。また、あなた方の右手が所有するもの（奴隷*）の内、（自らを解放する契約の）書を交わすこと[2]を望む者たちとは、書を交わしてやるがよい。もし、あなた方が彼らに善きもの[3]を見出したのであれば、だが。そしてあなた方は、アッラー*が自分たちに授けて下さった、かれの財の一部を彼らに与えてやるのだ[4]。また、現世的利益[5]を求めて、自分たちの（奴隷*）女性に売春を無理強いしてはならない。もし、彼女らが貞節さを望むならば[6]、である。そして彼女らに（売春を）無理強いする者は誰でも（、その罪を負うのは彼自身であり、彼女らは赦されよう）、本当にアッラー*は彼女らへの無理強いの後でも、赦し深いお方、慈愛深い*お方であられるのだから。

وَلْيَسْتَعْفِفِ ٱلَّذِينَ لَا يَجِدُونَ نِكَاحًا حَتَّىٰ
يُغْنِيَهُمُ ٱللَّهُ مِن فَضْلِهِۦۗ وَٱلَّذِينَ يَبْتَغُونَ ٱلْكِتَٰبَ
مِمَّا مَلَكَتْ أَيْمَٰنُكُمْ فَكَاتِبُوهُمْ إِنْ عَلِمْتُمْ
فِيهِمْ خَيْرًاۖ وَءَاتُوهُم مِّن مَّالِ ٱللَّهِ ٱلَّذِىٓ ءَاتَىٰكُمْۚ
وَلَا تُكْرِهُوا۟ فَتَيَٰتِكُمْ عَلَى ٱلْبِغَآءِ إِنْ أَرَدْنَ تَحَصُّنًا
لِّتَبْتَغُوا۟ عَرَضَ ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَاۚ وَمَن يُكْرِههُّنَّ
فَإِنَّ ٱللَّهَ مِنۢ بَعْدِ إِكْرَٰهِهِنَّ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ٣٣

---

1 イブン・カスィール*によれば、このアーヤ*は婦人章 25 よりも優先される（6:52 参照）。預言者*は仰（おっしゃ）った。「（結婚の）必要条件が揃（そろ）っている者は、結婚せよ。というのもそれこそは視線をより低めさせ、貞操をより守らせるものであるから。そして（それが）出来ない者は、斎戒*せよ。というのも実にそれは、彼にとっての性欲の抑制なのだから」（アル＝ブハーリー1905 参照）。

2 つまり、一定の金額を分割して支払うことを条件に、主人がその奴隷*を解放するという契約のこと（アル＝クルトゥビー12:244 参照）。一括払いでよいともされる（クウェイト法学大全 38:362）。

3 この「善きもの」は、分別、稼（かせ）ぐ力、宗教的な正しさのこと（ムヤッサル 354 頁参照）。

4 大多数の学者は、これを、奴隷*の主人が解放のための金額を減額してやることの命令であるとしている。一説に、減額後にも、更に経済的援助を与えることは推奨される行為とされる。また一説には、これは主人だけではなくムスリム*一般への命令（アル＝バイダーウィー4:186 参照）。

5 「利益」とは、それによって得られる報酬や子供のこと（イブン・カスィール 6:56 参照）。

6 これは、このような場合の典型的状況を表しているだけであり、彼女らが貞節さを望んでいなければ、姦通を無理強いしてよいということではない（前掲書、同頁参照）。

34. われら*は確かに、あなた方に解明の御徴と、あなた方以前に滅び去った者たちの例えと、敬虔*な者たちへの訓戒を下したのだ。

وَلَقَدْ أَنزَلْنَآ إِلَيْكُمْ ءَايَٰتٍ مُّبَيِّنَٰتٍ وَمَثَلًا
مِّنَ ٱلَّذِينَ خَلَوْا۟ مِن قَبْلِكُمْ وَمَوْعِظَةً لِّلْمُتَّقِينَ ٣٤

35. アッラー*は、諸天と大地の御光[1]。その御光[2]の様子は、灯火のある壁龕のよう。その灯火は、ガラスの中にある。そのガラスは、あたかも真珠の惑星のようである。(その灯火は) 東方のものでもなく西方のものでもない[3]、オリーブの祝福あふれた木（の油）によって灯される。その油は、火がまだついていなくても、（その煌めきゆえに）照らし出さんばかり。光の上に、（更なる）光[4]。アッラー*は、かれがお望みの者を、ご自身の御光へと導かれる。そしてアッラー*は、人々に数々の譬えを挙げられるのだ。アッラー*は、全てのことをご存知である。[5]

۞ ٱللَّهُ نُورُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۚ مَثَلُ نُورِهِۦ
كَمِشْكَوٰةٍ فِيهَا مِصْبَاحٌ ۖ ٱلْمِصْبَاحُ فِى
زُجَاجَةٍ ۖ ٱلزُّجَاجَةُ كَأَنَّهَا كَوْكَبٌ دُرِّىٌّ يُوقَدُ مِن
شَجَرَةٍ مُّبَٰرَكَةٍ زَيْتُونَةٍ لَّا شَرْقِيَّةٍ وَلَا غَرْبِيَّةٍ
يَكَادُ زَيْتُهَا يُضِىٓءُ وَلَوْ لَمْ تَمْسَسْهُ نَارٌ ۚ نُّورٌ
عَلَىٰ نُورٍ ۗ يَهْدِى ٱللَّهُ لِنُورِهِۦ مَن يَشَآءُ ۚ وَيَضْرِبُ
ٱللَّهُ ٱلْأَمْثَٰلَ لِلنَّاسِ ۗ وَٱللَّهُ بِكُلِّ شَىْءٍ عَلِيمٌ ٣٥

---

1 アッラー*は天地の全てを司（つかさど）り、そこに存在するものを各々の利へと導かれる光である。かれを包む覆いは光であり、天地とそこにあるもの全ては、そこからの光を浴びる。そしてかれの書（クルアーン*）と導きもまた、光である。かれの御光なくしては、闇が覆い重なるばかりなのだ（ムヤッサル 354 頁参照)。

2 これは、アッラー*がご自身へとお導きになる光。それは信仰者の心の中の、信仰心とクルアーン*のことであるとも言われる（前掲書、同頁参照)。

3 午前にだけ太陽の光を浴びる東端の木でも、午後にだけそれを浴びる西端の木でもなく、一日中その光を浴びる、中央に位置した木のこととされる（前掲書、同頁参照)。

4 油そのものの輝（かがや）きの上に、火による更なる光が加えられる様子（前掲書、同頁参照)。

5 この描写は、信仰者の状態についてのたとえであるとされる。つまり彼の生来の天性は、混じり気のないオリーブ油のように純粋で、アッラー*の教えとそれに沿った行いのために準備されたものである。それでそこに知識と信仰が注ぎ込まれると、その光は灯火の芯に点火されるように、彼の心に燃え上がる。彼の心は悪い意図と、アッラー*についての誤解から無縁である。そこに信仰が加われば、それは不純物からの純粋さゆえに、明るく照らし出す。それは真珠のガラスのようであり、こうして彼には天性の光、信仰の光、知識の光、知の純粋さが結集され、光の上に光が加えられる（アッ＝サアディー568 頁参照)。

36. アッラー*が、（それが）高められることと、かれの御名が唱念されることをご命じになった館[1]の中で、朝に夕に、そこでかれを称え*る[2]。

فِي بُيُوتٍ أَذِنَ ٱللَّهُ أَن تُرۡفَعَ وَيُذۡكَرَ فِيهَا
ٱسۡمُهُۥ يُسَبِّحُ لَهُۥ فِيهَا بِٱلۡغُدُوِّ وَٱلۡأٓصَالِ ٣٦

37. （余りの恐怖ゆえに）心と眼が頻りに反転する（復活の）その日のことを怖れ、アッラー*の唱念や礼拝の遵守*、浄財*の拠出をそっちのけにして商売や売買に勤しむことのない男たちが（、称えるのである）。

رِجَالٞ لَّا تُلۡهِيهِمۡ تِجَٰرَةٞ وَلَا بَيۡعٌ عَن ذِكۡرِ ٱللَّهِ
وَإِقَامِ ٱلصَّلَوٰةِ وَإِيتَآءِ ٱلزَّكَوٰةِ يَخَافُونَ يَوۡمٗا
تَتَقَلَّبُ فِيهِ ٱلۡقُلُوبُ وَٱلۡأَبۡصَٰرُ ٣٧

38. その結果アッラー*は、彼らの行った最善のものにお報いになり、そのご恩寵から彼らに（更に）上乗せし給う。アッラー*はお望みの者に、際限なくお恵みになるのだ。

لِيَجۡزِيَهُمُ ٱللَّهُ أَحۡسَنَ مَا عَمِلُواْ وَيَزِيدَهُم
مِّن فَضۡلِهِۦۗ وَٱللَّهُ يَرۡزُقُ مَن يَشَآءُ بِغَيۡرِ حِسَابٖ ٣٨

39. 不信仰に陥った者*たち、その行いは（たとえ善行を意図していたとしても）、喉がからからに渇いた者が水と思い込む、広漠な大地の蜃気楼のようなもの。やがてそこにやって来れば、そこに何も見出すことはない[3]。そしてそこ[4]でアッラー*を見出し、かれはその（行いの）清算を彼に全うなされる。アッラーは即座に計算される*お方。

وَٱلَّذِينَ كَفَرُوٓاْ أَعۡمَٰلُهُمۡ كَسَرَابِۭ بِقِيعَةٖ يَحۡسَبُهُ
ٱلظَّمۡـَٔانُ مَآءً حَتَّىٰٓ إِذَا جَآءَهُۥ لَمۡ يَجِدۡهُ شَيۡـٔٗا
وَوَجَدَ ٱللَّهَ عِندَهُۥ فَوَفَّىٰهُ حِسَابَهُۥۗ وَٱللَّهُ
سَرِيعُ ٱلۡحِسَابِ ٣٩

---

1 この「館」は、マスジド*のこと（ムヤッサル 354 頁参照）。「高められ」たということには、建築物としての物質的な高さを始め、汚れ、害悪、不信仰、戯れごと、アッラー*以外の名が念じられることなどから遠ざけられるという、抽象的な意味での崇高さも含み得る（アッ＝サァディー569 参照）。

2 大半の解釈学者は、この「称える*」を「義務の礼拝」としている（アッ＝シャウカーニー 4:48 参照）。

3 このアーヤ*は、不信仰者*の行いが実を結ぶことがないことのたとえ。同様のアーヤ*として、雌牛章 264、イムラーン家章 117、イブラーヒーム*章 18、識別章 23 も参照。

4 復活の日*のこととされる（ムヤッサル 355 頁参照）。

40. あるいは（不信仰者*の行いは、）深い海の闇のよう。それを波が覆い、その上には別の波が、そしてその上には雲が重なる。（それは）互いに重なり合う闇。自分の手を出してみても、それはほとんど見えない。そしてアッラー*が光を授けて下さらなかった者には誰であれ、僅かばかりの光もないのだ。[1]

أَوۡ كَظُلُمَٰتٖ فِي بَحۡرٖ لُّجِّيّٖ يَغۡشَىٰهُ مَوۡجٞ مِّن فَوۡقِهِۦ
مَوۡجٞ مِّن فَوۡقِهِۦ سَحَابٞۚ ظُلُمَٰتُۢ بَعۡضُهَا فَوۡقَ
بَعۡضٍ إِذَآ أَخۡرَجَ يَدَهُۥ لَمۡ يَكَدۡ يَرَىٰهَاۗ وَمَن
لَّمۡ يَجۡعَلِ ٱللَّهُ لَهُۥ نُورٗا فَمَا لَهُۥ مِن نُّورٍ ٤٠

41. （使徒*よ、）一体あなたは、諸天と大地にいる全ての者と、羽を広げ（つつ飛行す）る鳥が、アッラー*を称え*るのを知らないのか？　全ての者は確かに、自分の礼拝と称え*方を知っているのだ[2]。アッラー*は、彼らのすることを全てご存知なお方なのである。

أَلَمۡ تَرَ أَنَّ ٱللَّهَ يُسَبِّحُ لَهُۥ مَن فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَٱلۡأَرۡضِ وَٱلطَّيۡرُ صَٰٓفَّٰتٖۖ كُلّٞ قَدۡ عَلِمَ صَلَاتَهُۥ
وَتَسۡبِيحَهُۥۗ وَٱللَّهُ عَلِيمُۢ بِمَا يَفۡعَلُونَ ٤١

42. また、アッラー*にこそ、諸天と大地の王権が属する。そしてアッラー*にこそ、帰り先があるのだ。

وَلِلَّهِ مُلۡكُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۖ وَإِلَى ٱللَّهِ
ٱلۡمَصِيرُ ٤٢

43. 一体あなたは、アッラー*が雲を追いやり、それからそれらを接ぎ合わせ、その後にそれを積雲とされるのを見ないのか？　そしてあなたは、雨がその間から（降って）出てくるのを見る。またかれは、空から、そこにある山々（のような大きな雲）から、

أَلَمۡ تَرَ أَنَّ ٱللَّهَ يُزۡجِي سَحَابٗا ثُمَّ يُؤَلِّفُ بَيۡنَهُۥ ثُمَّ
يَجۡعَلُهُۥ رُكَامٗا فَتَرَى ٱلۡوَدۡقَ يَخۡرُجُ مِنۡ خِلَٰلِهِۦ
وَيُنَزِّلُ مِنَ ٱلسَّمَآءِ مِن جِبَالٖ فِيهَا مِنۢ بَرَدٖ فَيُصِيبُ بِهِۦ
مَن يَشَآءُ وَيَصۡرِفُهُۥ عَن مَّن يَشَآءُۖ يَكَادُ سَنَا
بَرۡقِهِۦ يَذۡهَبُ بِٱلۡأَبۡصَٰرِ ٤٣

---

1 一説に、この「闇」は不信仰者*の行い、深い海はその心を指しており、それが無知、疑念、困惑という波に覆われ、罪の汚れ、封印という雲で包まれている。つまり、その心眼によって信仰という光を目にすることが出来ない（アル＝クルトゥビー12:285 参照）。雌牛章7、家畜章 50、雷鳴章 16、フード*章 20、24、巡礼*章 46 とその訳注も参照。

2 全ての者は、人間やジン*のように使徒*を介するにせよ、それ以外の被造物のようにアッラー*から示唆（しさ）されてそうするにせよ、自分たちに相応（ふさわ）しい形での称え*方や礼拝の仕方を知っている。あるいは、「アッラー*は確かに、全ての者の礼拝と称え*方を知っている」という意味にも解釈可能（アッ＝サァディー570 頁参照）。蜜蜂章 48-49、夜の旅章 44、巡礼*章 18 とその訳注も参照。

雹を下される。それでかれは、かれがお望みの者にそれを命中させ、かれがお望みの者からそれを逸らせ給うのだ。その稲光の閃光は、視力を奪わんばかりである。

44. アッラー*は夜と昼を、変転させせられる。本当にそこにはまさしく、慧眼を有する者たちへの教示があるのだ。

يُقَلِّبُ ٱللَّهُ ٱلَّيۡلَ وَٱلنَّهَارَۚ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَعِبۡرَةٗ
لِّأُوْلِي ٱلۡأَبۡصَٰرِ ٤٤

45. またアッラー*は、水から地上を歩く全ての生物をお創りになった[1]。それでその中には腹ばいに歩くものもいれば、二本の足で歩くものもあり、四本（足）で歩くものもいる。アッラー*は、かれがお望みになるものをお創りになる[2]。本当にアッラー*は、全てのことがお出来になるお方なのだから。

وَٱللَّهُ خَلَقَ كُلَّ دَآبَّةٖ مِّن مَّآءٖۖ فَمِنۡهُم مَّن يَمۡشِي عَلَىٰ
بَطۡنِهِۦ وَمِنۡهُم مَّن يَمۡشِي عَلَىٰ رِجۡلَيۡنِ وَمِنۡهُم
مَّن يَمۡشِي عَلَىٰٓ أَرۡبَعٖۚ يَخۡلُقُ ٱللَّهُ مَا يَشَآءُۚ إِنَّ ٱللَّهَ
عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٞ ٤٥

46. われら*は確かに、（真理を）解明する御徴を下した。そしてアッラー*は、かれがお望みになる者を、まっすぐな道（イスラーム*）へとお導きになる。

لَّقَدۡ أَنزَلۡنَآ ءَايَٰتٖ مُّبَيِّنَٰتٖۚ وَٱللَّهُ يَهۡدِي مَن
يَشَآءُ إِلَىٰ صِرَٰطٖ مُّسۡتَقِيمٖ ٤٦

47. 彼ら（偽信者*たち）は言う。「私たちは、アッラー*と使徒*（ムハンマド*）を信じ、従いました」。それから彼らの内の一派はその後、（信仰から）立ち去ってしまうのだ。それらの者たちは、信仰者ではない。

وَيَقُولُونَ ءَامَنَّا بِٱللَّهِ وَبِٱلرَّسُولِ وَأَطَعۡنَا ثُمَّ
يَتَوَلَّىٰ فَرِيقٞ مِّنۡهُم مِّنۢ بَعۡدِ ذَٰلِكَۚ وَمَآ أُوْلَٰٓئِكَ
بِٱلۡمُؤۡمِنِينَ ٤٧

48. また（使徒*ムハンマド*が、彼らの争いにおいて）彼らの間を裁くため、彼らがアッラー*とその使徒*へと招かれることがあれば、どうであろうか、彼らの内の一派は背を向けるのだ。

وَإِذَا دُعُوٓاْ إِلَى ٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦ لِيَحۡكُمَ بَيۡنَهُمۡ
إِذَا فَرِيقٞ مِّنۡهُم مُّعۡرِضُونَ ٤٨

---

1 預言者*たち章 30 の訳注も参照。

2 基本的な構成要素は同じながらも、腹ばいに進む蛇や、二足歩行する人間、四足歩行する動物の類など、様々な形態の生物をアッラー*がお創りになったことは、そのご意志の達成力と御力のほどを示す証拠の一つである（アッ＝サァディー571 頁参照）。

49. そして（イスラーム*の裁決において、）彼らに（その私欲に適う）権利があれば[1]、彼らは彼（預言者*）のところに素直にやって来る。

وَإِن يَكُن لَّهُمُ ٱلۡحَقُّ يَأۡتُوٓاْ إِلَيۡهِ مُذۡعِنِينَ ٤٩

50. 一体、彼らの心の内には、病[2]があるのか？　いや、彼らは（ムハンマド*の預言者*性について、）疑惑を抱いているのか？　いや、アッラー*とその使徒*が、彼らを不当に裁くと怖れているのか？　いや、それらの者たちこそ、不正*者なのである。

أَفِي قُلُوبِهِم مَّرَضٌ أَمِ ٱرۡتَابُوٓاْ أَمۡ يَخَافُونَ أَن يَحِيفَ
ٱللَّهُ عَلَيۡهِمۡ وَرَسُولُهُۥۚ بَلۡ أُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلظَّٰلِمُونَ ٥٠

51. アッラー*とその使徒*のもとへと、彼（使徒*）が自分たちの間を裁くために招かれた時、信仰者たちの（言うべき）言葉とは、「私たちは聞き、従いました」と言うことに外ならない。それらの者たちこそは、成功者なのである。

إِنَّمَا كَانَ قَوۡلَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ إِذَا دُعُوٓاْ إِلَى ٱللَّهِ
وَرَسُولِهِۦ لِيَحۡكُمَ بَيۡنَهُمۡ أَن يَقُولُواْ سَمِعۡنَا
وَأَطَعۡنَاۚ وَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡمُفۡلِحُونَ ٥١

52. そして誰であろうと、アッラー*とその使徒*に従い、アッラー*を恐がり、かれを畏れ*る者、それらの者たちこそは勝利者なのだ。

وَمَن يُطِعِ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ وَيَخۡشَ ٱللَّهَ وَيَتَّقۡهِ
فَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡفَآئِزُونَ ٥٢

53. また彼ら（偽信者*たち）は、もしもあなたが彼らに命じたら必ずや出征すると、躍起になってアッラー*にかけて誓った。（使徒*よ、）言ってやれ。「誓うのではない。（あなた方の）服従は、知れたことなのだから[3]。本当にアッラー*は、あなた方が行うことに通暁されている」。

۞وَأَقۡسَمُواْ بِٱللَّهِ جَهۡدَ أَيۡمَٰنِهِمۡ لَئِنۡ أَمَرۡتَهُمۡ
لَيَخۡرُجُنَّۖ قُل لَّا تُقۡسِمُواْۖ طَاعَةٞ مَّعۡرُوفَةٌۚ
إِنَّ ٱللَّهَ خَبِيرُۢ بِمَا تَعۡمَلُونَ ٥٣

---

1 つまり、イスラーム*による裁決に満足しているわけではないが、それが彼らの私欲と一致すると判断すれば、ということ（アッ＝サァディー57 頁参照）。

2 つまり、偽の信仰という病（ムヤッサル 356 頁参照）。

3 つまり、口先だけの誓いであることが分かっている、ということ（前掲書、同頁参照）。あるいは、「（誓約はよいから、）よき服従を（せよ）」という意味（アル＝クルトゥビー12:296 参照）。同様のアーヤ*として、悔悟章 96、集合章 11-12、偽信者*たち章 2 も参照。

54. （使徒*よ、）言え。「アッラー*に従い、使徒*に従え」。もし、あなた方が背を向けても（問題はない）、彼（使徒*）には彼に課されたものがあり、あなた方にはあなた方に課せられたもの[1]があるだけなのだから。そしてもし、彼に従うのなら、あなた方は導かれよう。使徒*の義務は、（啓示の）明白なる伝達に外ならない。

قُلْ أَطِيعُوا۟ ٱللَّهَ وَأَطِيعُوا۟ ٱلرَّسُولَ ۖ فَإِن تَوَلَّوْا۟
فَإِنَّمَا عَلَيْهِ مَا حُمِّلَ وَعَلَيْكُم مَّا حُمِّلْتُمْ ۖ
وَإِن تُطِيعُوهُ تَهْتَدُوا۟ ۚ وَمَا عَلَى ٱلرَّسُولِ إِلَّا
ٱلْبَلَٰغُ ٱلْمُبِينُ ٥٤

55. アッラー*は、あなた方の内の信仰し、正しい行い*を行う者たちに、（こう）約束された：かれはそれ以前の者たちを継承者[2]とされたように、必ずや彼らを継承者とされる。また必ずや、かれが彼らに対してご満悦なされるその宗教（イスラーム*）を、彼らのために確立して下さり、彼ら（の状況）をその恐怖の後に、安寧へと替えて下さる、と。彼らはわれ[3]を崇拝*し、われに何も並べない。そしてその後に及んで不信仰に陥る者*、それらの者たちこそは放逸な者である。[4]

وَعَدَ ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ مِنكُمْ وَعَمِلُوا۟
ٱلصَّٰلِحَٰتِ لَيَسْتَخْلِفَنَّهُمْ فِى ٱلْأَرْضِ
كَمَا ٱسْتَخْلَفَ ٱلَّذِينَ مِن قَبْلِهِمْ
وَلَيُمَكِّنَنَّ لَهُمْ دِينَهُمُ ٱلَّذِى ٱرْتَضَىٰ
لَهُمْ وَلَيُبَدِّلَنَّهُم مِّنۢ بَعْدِ خَوْفِهِمْ أَمْنًا ۚ
يَعْبُدُونَنِى لَا يُشْرِكُونَ بِى شَيْـًٔا ۚ وَمَن كَفَرَ
بَعْدَ ذَٰلِكَ فَأُو۟لَٰٓئِكَ هُمُ ٱلْفَٰسِقُونَ ٥٥

56. 礼拝を遵守*し、浄財*を支払い、使徒*（ムハンマド*）に従うのだ。あなた方がご慈悲を授かるように。

وَأَقِيمُوا۟ ٱلصَّلَوٰةَ وَءَاتُوا۟ ٱلزَّكَوٰةَ وَأَطِيعُوا۟
ٱلرَّسُولَ لَعَلَّكُمْ تُرْحَمُونَ ٥٦

---

1 「使徒*に課せられたもの」とは、アッラー*の教えの伝達。「あなた方に課せられたもの」とは、それに従うこと（ムヤッサル 356 頁参照）。

2 「継承者」については、雌牛章 30 の訳注を参照。

3 ここでアッラー*が、第三人称から第一人称に突如変わっているが、このアラビア語独特の修辞法については、食卓章 12「われら*」の訳注を参照。

4 アッラー*は、まだムスリム*たちが地上の継承者ともなってはおらず、イスラーム*とその共同体が確立していない時期に、このような約束をされた。そして信仰と正しい行い*に励んだムスリム*たちは、東西の国々と民を統治下に入れ、完全なる安全と確立を獲得したのである（アッ＝サアディー573 頁参照）。

57. 不信仰に陥った者*たちが、地上において（アッラー*の懲罰から）逃れられる者だなどと、決して考えてはならない。そして、彼らの住処は業火なのだ。その行き先は、何と実に醜悪なことか。

لَا تَحْسَبَنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ مُعْجِزِينَ فِى ٱلْأَرْضِ ۚ
وَمَأْوَىٰهُمُ ٱلنَّارُ ۖ وَلَبِئْسَ ٱلْمَصِيرُ ٥٧

58. 信仰する者たちよ、あなた方の右手が所有するもの（奴隷*）と、あなた方の内、まだ精通を見ていない者[1]たち（が、あなた方のところに入室する際）には、あなた方に対して三度許しを請わせよ。ファジュル*の礼拝の前と、あなた方が（昼寝のため）自分たちの衣服を脱ぐ真昼の折と、イシャーウ*の礼拝の後。（これは）あなた方にとっての、三つのアウラ*（が現れる時間帯）[2]である。それら（の時間帯）以外は、あなた方にとっても、彼らにとっても、（許可なく入室することに）お咎めはない。（彼らはあなた方の世話のため、）あなた方を引っ切りなしに行き来する者たちで、あなた方は互いに行き来するのだから。このようにアッラー*は、あなた方に御徴を明らかにされる。アッラー*は全知者、英知あふれる*お方なのだ。

يَـٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لِيَسْتَـْٔذِنكُمُ ٱلَّذِينَ
مَلَكَتْ أَيْمَـٰنُكُمْ وَٱلَّذِينَ لَمْ يَبْلُغُوا۟ ٱلْحُلُمَ مِنكُمْ
ثَلَـٰثَ مَرَّٰتٍ ۚ مِّن قَبْلِ صَلَوٰةِ ٱلْفَجْرِ وَحِينَ
تَضَعُونَ ثِيَابَكُم مِّنَ ٱلظَّهِيرَةِ وَمِنۢ بَعْدِ
صَلَوٰةِ ٱلْعِشَآءِ ۚ ثَلَـٰثُ عَوْرَٰتٍ لَّكُمْ ۚ لَيْسَ عَلَيْكُمْ
وَلَا عَلَيْهِمْ جُنَاحٌۢ بَعْدَهُنَّ ۚ طَوَّٰفُونَ عَلَيْكُم
بَعْضُكُمْ عَلَىٰ بَعْضٍ ۚ كَذَٰلِكَ يُبَيِّنُ ٱللَّهُ
لَكُمُ ٱلْـَٔايَـٰتِ ۗ وَٱللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٌ ٥٨

59. また、あなた方の子供たちが精通を見たら[3]、彼ら以前の者たち[4]が許可を請うたように、（入室の際には常に）許可を請わせよ。

وَإِذَا بَلَغَ ٱلْأَطْفَـٰلُ مِنكُمُ ٱلْحُلُمَ
فَلْيَسْتَـْٔذِنُوا۟ كَمَا ٱسْتَـْٔذَنَ ٱلَّذِينَ مِن
قَبْلِهِمْ ۚ كَذَٰلِكَ يُبَيِّنُ ٱللَّهُ لَكُمْ ءَايَـٰتِهِۦ ۗ

---

1 つまり自由民の未成年のこと。「精通」のみが言及されているのは、それが成人*の徴候（ちょうこう）の中でも最大のものであるため（アル＝バイダーウィー4:199 参照）。

2 いずれも、人が通常の衣服を着用していない状態にある時間帯（アッ＝サアディー573 頁参照）。

3 アーヤ*58「精通を見ていない者たち」についての訳注も参照。

4 「彼ら以前の者たち」とは、大人のこと。あるいは、アーヤ*27 にて、既に言及されている者たちのこと、とされる（アル＝カースィミー12:4548 参照）。

このようにアッラー*は、あなた方にその御(み)徴(しるし)を明らかにされる。アッラー*は全知者、英知あふれる*お方。

وَٱللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٌ ٥٩

60. また女性たちの内で、結婚を望まない、退(しりぞ)いた者[1]たち、彼女らは装飾(そうしょく)品でこれ見よがしに飾(かざ)り立てないようにしつつ、（非マハラム*の前で）その（外(がい)）衣を外しても問題はない。そして（非マハラムの前でも外衣を脱(ぬ)がず、）慎(つつま)しくあるのが、彼女らにとってより善いこと。アッラー*はよくお聞きになるお方、全知者であられる。

وَٱلْقَوَٰعِدُ مِنَ ٱلنِّسَآءِ ٱلَّٰتِي لَا يَرْجُونَ
نِكَاحًا فَلَيْسَ عَلَيْهِنَّ جُنَاحٌ أَن يَضَعْنَ
ثِيَابَهُنَّ غَيْرَ مُتَبَرِّجَٰتٍۭ بِزِينَةٍ وَأَن
يَسْتَعْفِفْنَ خَيْرٌ لَّهُنَّ وَٱللَّهُ سَمِيعٌ
عَلِيمٌ ٦٠

61. （自分の能力以上の義務(ぎむ)を果(は)たせなくても、）視覚に障害(しょうがい)ある者に罪(つみ)はなく、足が不自由な者にも罪(つみ)はなく、病人にも罪(つみ)はない[2]。また（信仰者たちよ）、あなた方が（以下の場所で）食べても、問題はない[3]：あなた方の（妻子(さいし)がいる）家。あなた方の父親たちの家。あなた方の母親たちの家。あなた方の兄弟たちの家。あなた方の姉妹たちの家。あなた方の父方の叔(お)（伯(お)）父(じ)たちの家。あなた方の父方の叔(お)（伯(お)）母(ば)たちの家。あなた方の母方の叔(お)（伯(お)）父(じ)たちの家。あなた方の母方の叔(お)（伯(お)）母(ば)たちの家。あなた方がその鍵(かぎ)を所有しているもの[4]。あなた方の友人

لَّيْسَ عَلَى ٱلْأَعْمَىٰ حَرَجٌ وَلَا عَلَى ٱلْأَعْرَجِ
حَرَجٌ وَلَا عَلَى ٱلْمَرِيضِ حَرَجٌ وَلَا عَلَىٰٓ
أَنفُسِكُمْ أَن تَأْكُلُوا۟ مِنۢ بُيُوتِكُمْ أَوْ
بُيُوتِ ءَابَآئِكُمْ أَوْ بُيُوتِ أُمَّهَٰتِكُمْ
أَوْ بُيُوتِ إِخْوَٰنِكُمْ أَوْ بُيُوتِ أَخَوَٰتِكُمْ
أَوْ بُيُوتِ أَعْمَٰمِكُمْ أَوْ بُيُوتِ
عَمَّٰتِكُمْ أَوْ بُيُوتِ أَخْوَٰلِكُمْ أَوْ
بُيُوتِ خَٰلَٰتِكُمْ أَوْ مَا مَلَكْتُم
مَّفَاتِحَهُۥٓ أَوْ صَدِيقِكُمْ لَيْسَ
عَلَيْكُمْ جُنَاحٌ أَن تَأْكُلُوا۟ جَمِيعًا أَوْ
أَشْتَاتًا فَإِذَا دَخَلْتُم بُيُوتًا فَسَلِّمُوا۟ عَلَىٰٓ
أَنفُسِكُمْ تَحِيَّةً مِّنْ عِندِ ٱللَّهِ مُبَٰرَكَةً طَيِّبَةً
كَذَٰلِكَ يُبَيِّنُ ٱللَّهُ لَكُمُ ٱلْـَٔايَٰتِ

1 つまり、高齢ゆえに諸々の行動や、出産・月経などの諸事から「退いた者」のこと（アル＝クルトゥビー12:309 参照）。

2 例えば、出征の義務など。また一説には、このアーヤ*で言及されている場所で食事を共にすることに関して、罪はない、ということ（イブン・カスィール 6:84-85 参照）。

3 ただし、言葉、あるいは慣習的な意味において、先方からの許可があると見なされた場合に限る（アッ＝サァディー575 頁参照）。

4 つまり、その所有者の不在中、管理を任された家などのこと（ムヤッサル 358 頁参照）。

لَعَلَّكُمۡ تَعۡقِلُونَ ٦١

（の家）。あなた方が全員で、あるいは別々に食べても、問題はない[1]。そしてあなた方が家に入ったら、あなた方自身[2]に、アッラー*の御許からの祝福にあふれた善い挨拶[3]によって、挨拶せよ。このようにアッラー*は、あなた方が分別するようにと、あなた方に御徴を明らかにされるのだ。

إِنَّمَا ٱلۡمُؤۡمِنُونَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ بِٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦ
وَإِذَا كَانُواْ مَعَهُۥ عَلَىٰٓ أَمۡرٖ جَامِعٖ لَّمۡ يَذۡهَبُواْ
حَتَّىٰ يَسۡتَـٔۡذِنُوهُۚ إِنَّ ٱلَّذِينَ يَسۡتَـٔۡذِنُونَكَ أُوْلَٰٓئِكَ
ٱلَّذِينَ يُؤۡمِنُونَ بِٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦۚ فَإِذَا
ٱسۡتَـٔۡذَنُوكَ لِبَعۡضِ شَأۡنِهِمۡ فَأۡذَن لِّمَن
شِئۡتَ مِنۡهُمۡ وَٱسۡتَغۡفِرۡ لَهُمُ ٱللَّهَۚ إِنَّ
ٱللَّهَ غَفُورٞ رَّحِيمٞ ٦٢

62. 信仰者たちとは、アッラー*とその使徒*を信じる者たちに外ならない。そして彼らは、集まり事[4]において彼（使徒*）と共にある時には、彼に許可を請うまで、（その場を）立ち去らないのである。本当に、あなたに許しを請う者たち、それらの者たちがアッラー*とその使徒*を信じる者たちなのだから。それで彼らが、彼らの何らかの用事ゆえに、あなたに（退出の）許可を請うた時には、彼らの内のあなたが望む者に許可を与え、彼らのためアッラー*に赦しを乞うてやれ。本当にアッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。

---

1 いずれも合法ではあるが、より徳が多いのは共に食すること（アッ＝サァディー575 頁参照）。一説にジャーヒリーヤ*では、一人で食事することを忌（い）み嫌う者たちがいた。またムスリム*の中には、他人に食事をご馳走になることを恥じた者もいたとされる（イブン・カスィール 6:86 参照）。

2 ムスリム*は一心同体であることから、ここでは他のムスリム*が「あなた方自身」と表現されている（アッ＝サァディー575 頁参照）。

3 「あなた方に平安と、アッラー*のご慈悲と、かれの祝福がありますよう」という挨拶。もし無人の家だったら、こう言う。「私たちと、アッラー*の正しいしもべたちに、平安がありますよう」（ムヤッサル 358 頁参照）。

4 ムスリム*の福利に関わることで、預言者*が彼らを集めた場のこと（前掲書 359 頁参照）。

63. （信仰者たちよ、）あなた方の間における使徒*の呼びかけを、あなた方の互いに対する呼びかけのようにするのではない[1]。アッラー*は、あなた方のもとから（許可もなく）、こそこそ隠れ合いながら出て行く者たちのことを、確かにご存知なのだ。ならば、彼（使徒*ムハンマド*）の命令に違反する者たちは、彼らに試練が襲いかかることを、あるいは彼らに痛ましい懲罰が降りかかることを用心せよ。

لَّا تَجْعَلُوا دُعَاءَ الرَّسُولِ بَيْنَكُمْ كَدُعَاءِ
بَعْضِكُم بَعْضًا ۚ قَدْ يَعْلَمُ اللَّهُ الَّذِينَ
يَتَسَلَّلُونَ مِنكُمْ لِوَاذًا ۚ فَلْيَحْذَرِ الَّذِينَ
يُخَالِفُونَ عَنْ أَمْرِهِ أَن تُصِيبَهُمْ فِتْنَةٌ
أَوْ يُصِيبَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿٦٣﴾

64. 本当にアッラー*にこそ、諸天と大地にあるものは属するのではないか。かれは、あなた方の状況を確かにご存知になっておられるのだ。そして彼らが、かれの御許に戻され、かれが彼らに、彼らが行ったことについてお告げになる（復活の）日*も。アッラー*は全てのことをご存知のお方なのだから。

أَلَا إِنَّ لِلَّهِ مَا فِي السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ ۖ قَدْ
يَعْلَمُ مَا أَنتُمْ عَلَيْهِ وَيَوْمَ يُرْجَعُونَ إِلَيْهِ
فَيُنَبِّئُهُم بِمَا عَمِلُوا ۗ وَاللَّهُ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمٌ ﴿٦٤﴾

---

1 使徒*が呼びかけたら、ムスリム*はそれに応えなければならない。また、ムスリム*は使徒*を「ムハンマド*」と呼び捨てにするのではなく、敬意と共に「アッラー*の使徒*」「アッラー*の預言者*」といった呼び方をしなければならない（アッ＝サアディー576 頁参照）。

第 25 章
識別章（アル＝フルカーン）[1]

سُورَةُ الفُرْقَانِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. 全創造物への警告者[2]となるべく、その僕（預言者*ムハンマド*）に識別[3]を下されたお方は、祝福にあふれておられる。

2. （かれは）諸天と大地の王権がご自身に属し、子供を設けることなく、その王権においていかなる共同者もお持ちにならず、全てをお創りになり、それらを然るべく調整されたお方。

3. 彼ら（シルク*の徒）は、かれをよそに神々[4]を設けた。（それらは）それら自身が創られたものであり、何も創造することなく、自分自身に対する害も益も有さず[5]、死も生も再生（を司る力）も有してはいない。

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

تَبَارَكَ ٱلَّذِي نَزَّلَ ٱلۡفُرۡقَانَ عَلَىٰ عَبۡدِهِۦ لِيَكُونَ
لِلۡعَٰلَمِينَ نَذِيرًا ١

ٱلَّذِي لَهُۥ مُلۡكُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ وَلَمۡ يَتَّخِذۡ
وَلَدٗا وَلَمۡ يَكُن لَّهُۥ شَرِيكٞ فِي ٱلۡمُلۡكِ وَخَلَقَ
كُلَّ شَيۡءٖ فَقَدَّرَهُۥ تَقۡدِيرٗا ٢

وَٱتَّخَذُواْ مِن دُونِهِۦٓ ءَالِهَةٗ لَّا يَخۡلُقُونَ شَيۡـٔٗا
وَهُمۡ يُخۡلَقُونَ وَلَا يَمۡلِكُونَ لِأَنفُسِهِمۡ
ضَرّٗا وَلَا نَفۡعٗا وَلَا يَمۡلِكُونَ مَوۡتٗا وَلَا حَيَوٰةٗ
وَلَا نُشُورٗا ٣

---

1 マッカ*啓示。冒頭のアーヤ*で言及されている、「真理と虚妄（きょもう）を分断する」という意味で、クルアーン*の名称の一つでもある「識別（フルカーン）」が、スーラ*の名前となっている。マッカ*での布教期という厳しい状況にあった預言者*に対する、アッラー*の弁護と慰（なぐさ）めがスーラ*全体に認められ、マッカ*啓示の常として、アッラー*の全能性、クルアーン*と預言者*ムハンマド*の真実性の確証、それを信じない者たちへの反駁（はんばく）、復活と清算、来世における信仰者と不信仰者*の行く末、過去の預言者*たちとその民の間に起こった出来事による教訓などが、描写されている。慈悲あまねき*お方のしもべたちの模範的品行と、彼らに対する偉大な褒美の約束、そして不信仰者*への警告の言及によって、スーラ*は締（し）めくくられる。

2 高壁章 158 の訳注も参照。

3 「識別」に関しては、本頁の訳注 1 を参照。

4 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

5 自分以外の者に対して害も益も与えられないのは、尚更である（イブン・カスィール 6:93 参照）。

4. 不信仰に陥(おちい)った者*たちは、言った。「これ（クルアーン*）は彼（預言者(よげんしゃ)*ムハンマド*）が捏造(ねつぞう)し、別の民[1]がそれに関して彼に手を貸した、でっち上げに外(ほか)ならない」。そして確かに、彼らは不正*と偽(いつわ)りの言葉を犯(おか)したのだ。

وَقَالَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوٓاْ إِنۡ هَٰذَآ إِلَّآ إِفۡكٌ
ٱفۡتَرَىٰهُ وَأَعَانَهُۥ عَلَيۡهِ قَوۡمٌ ءَاخَرُونَۖ فَقَدۡ
جَآءُو ظُلۡمٗا وَزُورٗا ٤

5. また、彼らは言った。「（クルアーン*は、）彼が書き写させた昔の人々のお伽話(とぎばなし)で、それは朝夕に、彼に読み聞かされているのだ」。

وَقَالُوٓاْ أَسَٰطِيرُ ٱلۡأَوَّلِينَ ٱكۡتَتَبَهَا فَهِيَ
تُمۡلَىٰ عَلَيۡهِ بُكۡرَةٗ وَأَصِيلٗا ٥

6. （使徒(しと)*よ、）言ってやれ。「諸天と大地における秘密をご存知のお方（アッラー*）が、それを彼に下されたのだ。本当にかれは、赦(ゆる)し深いお方、慈愛(じあい)深い*お方なのだから」。

قُلۡ أَنزَلَهُ ٱلَّذِي يَعۡلَمُ ٱلسِّرَّ فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَٱلۡأَرۡضِۚ إِنَّهُۥ كَانَ غَفُورٗا رَّحِيمٗا ٦

7. また、彼らは言った。「食べ物を口にし、市場を歩く[2]この（自称）使徒(しと)*は、一体どういうことか？　どうして彼のもとに（その正直さを証言する）天使*が下されて、彼と共に警告(けいこく)者とはならないのか？[3]

وَقَالُواْ مَالِ هَٰذَا ٱلرَّسُولِ يَأۡكُلُ
ٱلطَّعَامَ وَيَمۡشِي فِي ٱلۡأَسۡوَاقِ لَوۡلَآ أُنزِلَ
إِلَيۡهِ مَلَكٞ فَيَكُونَ مَعَهُۥ نَذِيرًا ٧

8. あるいは、（どうして）彼に（天から）財宝が下されたり、彼がそこから食する農園が現れたりはしないのか？」不正*者たちは、（信仰者たちに対して）言った。「あなた方は、魔術(まじゅつ)にかかった男に従(したが)っているに過(す)ぎない」。

أَوۡ يُلۡقَىٰٓ إِلَيۡهِ كَنزٌ أَوۡ تَكُونُ لَهُۥ جَنَّةٞ
يَأۡكُلُ مِنۡهَاۚ وَقَالَ ٱلظَّٰلِمُونَ إِن
تَتَّبِعُونَ إِلَّا رَجُلٗا مَّسۡحُورًا ٨

---

1 「別の民」とは、ユダヤ教徒*などの啓典の民*や、外国人の占い師のことであるという説がある（アル＝バガウィー3:435 参照）。家畜章 105、蜜蜂章 103、煙霧章 14 も参照。

2 彼らは使徒*が天使*であることを望み、生活の糧を稼ぐために売買を営むことなどは、使徒に相応（ふさわ）しくないことだと思っていた（アッ＝サアディー578 頁参照）。

3 家畜章 8-9、111、アル＝ヒジュル章 7-8、夜の旅章 92 も参照。

9. （使徒*よ、）見てみよ、彼らがあなたに対して、どんな譬えを挙げ、迷い去り[1]、そして彼ら が（正しい）道を見出すことが出来ずにいるかを？

ٱنظُرْ كَيْفَ ضَرَبُوا۟ لَكَ ٱلْأَمْثَـٰلَ
فَضَلُّوا۟ فَلَا يَسْتَطِيعُونَ سَبِيلًا ٩

10. もしお望みなら、（現世で）あなたにそれ[2]よりも善いもの――その下から河川が流れる楽園――を、そしてあなたに豪邸をお授けになるお方は、祝福にあふれておられる。

تَبَارَكَ ٱلَّذِىٓ إِن شَآءَ جَعَلَ لَكَ خَيْرًا مِّن
ذَٰلِكَ جَنَّـٰتٍ تَجْرِى مِن تَحْتِهَا ٱلْأَنْهَـٰرُ وَيَجْعَل
لَّكَ قُصُورًا ١٠

11. いや、彼らは（復活の）その時を、嘘とした。われら*は、その時を嘘呼ばわりする者に、烈火を用意しておいたというのに。

بَلْ كَذَّبُوا۟ بِٱلسَّاعَةِ ۖ وَأَعْتَدْنَا لِمَن كَذَّبَ
بِٱلسَّاعَةِ سَعِيرًا ١١

12. それ（地獄の烈火）が彼らを遠い場所から認める時、彼らはそれがいきり立つのと、呻くのを耳にする。[3]

إِذَا رَأَتْهُم مِّن مَّكَانٍۭ بَعِيدٍ سَمِعُوا۟ لَهَا
تَغَيُّظًا وَزَفِيرًا ١٢

13. そして、がんじがらめにされて[4]、その中の狭苦しい場所に放り投げ込まれる時、彼らはそこで（自らの）破滅を祈る。[5]

وَإِذَآ أُلْقُوا۟ مِنْهَا مَكَانًا ضَيِّقًا مُّقَرَّنِينَ
دَعَوْا۟ هُنَالِكَ ثُبُورًا ١٣

14. （すると、こう声がかかる。）「この日、あなた方はただ一度だけの破滅を祈るのではなく、何度も破滅を祈るのだ」。[6]

لَّا تَدْعُوا۟ ٱلْيَوْمَ ثُبُورًا وَٰحِدًا وَٱدْعُوا۟ ثُبُورًا
كَثِيرًا ١٤

15. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「一体それがより善いのか、それとも敬虔*な者たちが約束された永遠の楽園なのか？　それ（楽園）は彼らにとっての褒美であり、行き先なのである」。

قُلْ أَذَٰلِكَ خَيْرٌ أَمْ جَنَّةُ ٱلْخُلْدِ ٱلَّتِى وُعِدَ
ٱلْمُتَّقُونَ ۚ كَانَتْ لَهُمْ جَزَآءً وَمَصِيرًا ١٥

---

1 詳しくは、夜の旅章 48 とその訳注を参照。

2 「それ」とは、アーヤ*8 で述べられているような物事のこと（アッ＝シャウカーニー4:86 参照）。

3 王権章 7-8 も参照。

4 手と首が鎖でつながれている（ムヤッサル 361 頁参照）。イブラーヒーム*章 49 も参照。

5 苦しい罰から楽になろうと、自分たちに対して破滅を祈る（前掲書、同頁参照）。

6 これは、様々な種類の懲罰を、途切れることなく繰り返し味わうことを意味する（アル＝カースィミー12:4569 参照）。

16. そこには永遠に住む彼らのために、彼らが望むものがある。それはあなたの主*にとって、願われた約束[1]だったのだから。

لَّهُمْ فِيهَا مَا يَشَآءُونَ خَٰلِدِينَ ۚ كَانَ عَلَىٰ رَبِّكَ وَعْدًا مَّسْـُٔولًا ﴿١٦﴾

17. そして、かれ（アッラー*）が彼らと、彼らがアッラー*をよそに崇めていたものを召集され（、その崇められていたものに、こう）仰せられる日のこと（を思い起こさせよ）。「一体あなた方が、これらのわが僕たちを迷わせたのか？ それとも、彼らが（自ら）道を迷ったのか？」

وَيَوْمَ يَحْشُرُهُمْ وَمَا يَعْبُدُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ فَيَقُولُ ءَأَنتُمْ أَضْلَلْتُمْ عِبَادِى هَٰٓؤُلَآءِ أَمْ هُمْ ضَلُّوا۟ ٱلسَّبِيلَ ﴿١٧﴾

18. 彼ら（アッラー*をよそに崇められていたもの）は、言う。「あなたに称え*あれ。あなたを差しおいて庇護者を設けることなど、私たちのすべきことではありませんでした。しかしあなたは、彼らとその先祖が教訓を忘れるまで、彼らを楽しませられました[2]。彼らは、滅亡の民だったのです」。

قَالُوا۟ سُبْحَٰنَكَ مَا كَانَ يَنۢبَغِى لَنَآ أَن نَّتَّخِذَ مِن دُونِكَ مِنْ أَوْلِيَآءَ وَلَٰكِن مَّتَّعْتَهُمْ وَءَابَآءَهُمْ حَتَّىٰ نَسُوا۟ ٱلذِّكْرَ وَكَانُوا۟ قَوْمًۢا بُورًا ﴿١٨﴾

19. （すると、シルク*を犯していた者たちに、こう言われる。）「彼らは、あなた方の言っていることを嘘とした。そしてあなた方は、（自分たちから懲罰を）逸らすことも、（自分たちを）助けることも出来ない。あなた方の内の不正*を働く者には、われら*が甚大な懲罰を味わわせるのだ」。[3]

فَقَدْ كَذَّبُوكُم بِمَا تَقُولُونَ فَمَا تَسْتَطِيعُونَ صَرْفًا وَلَا نَصْرًا ۚ وَمَن يَظْلِم مِّنكُمْ نُذِقْهُ عَذَابًا كَبِيرًا ﴿١٩﴾

---

1 「願われた約束」とは、イムラーン家章 194 にあるような信仰者の願いであるとか、赦し深いお方章 8 にあるような天使*たちによる願いのこと（アル＝クルトゥビー 13:9-10 参照）。

2 彼らは様々な恩恵を享受しながらも、欲望に溺（おぼ）れ、アッラー*の教訓やその恩恵に対する感謝、かれの様々な御徴の熟慮（じゅくりょ）をおろそかにした（アル＝バイダーウィー4:211 参照）。蟻章 4 の訳注も参照。

3 同様の情景の描写として、雌牛章 166-167、高壁章 38、イブラーヒーム*章 21-22、物語章 63、部族連合章 67-68、サバア章 31-33、40-41 も参照。

20. （使徒*よ、）われら*があなた以前、使徒*たちの内から（誰かを）遣わす時には決まって、彼らは食べ物を口にし、市場を歩いたものだった[1]。また（人々よ、）われら*は、あなた方を互いに対する試練[2]としたのである。「果たして、あなた方は忍耐*するのか？」と。あなたの主*はもとより、よくご覧になるお方なのだ。

وَمَآ أَرۡسَلۡنَا قَبۡلَكَ مِنَ ٱلۡمُرۡسَلِينَ إِلَّآ إِنَّهُمۡ
لَيَأۡكُلُونَ ٱلطَّعَامَ وَيَمۡشُونَ فِي
ٱلۡأَسۡوَاقِۗ وَجَعَلۡنَا بَعۡضَكُمۡ لِبَعۡضٖ فِتۡنَةً
أَتَصۡبِرُونَۗ وَكَانَ رَبُّكَ بَصِيرٗا ٢٠

21. また、（来世での）われら*との拝謁を望まない[3]者たちは、言った。「どうして私たちに天使*たちが下されたり、あるいは私たちが自分たちの主*を拝見したりすることがないのか？[4]」彼らは確かに己に自惚れ、度を越して反抗していたのだ。

۞ وَقَالَ ٱلَّذِينَ لَا يَرۡجُونَ لِقَآءَنَا لَوۡلَآ أُنزِلَ
عَلَيۡنَا ٱلۡمَلَٰٓئِكَةُ أَوۡ نَرَىٰ رَبَّنَاۗ لَقَدِ
ٱسۡتَكۡبَرُواْ فِيٓ أَنفُسِهِمۡ وَعَتَوۡ عُتُوّٗا كَبِيرٗا ٢١

22. 彼らが天使*たちを目にする日[5]（のことを、思い起こさせよ。天使*たちは、こう言う）。「この日、罪悪者たちには吉報などない」。そして彼ら（天使*たち）は、言うのだ。「（天国が彼らに、）完全に禁じられたものとなれ！」

يَوۡمَ يَرَوۡنَ ٱلۡمَلَٰٓئِكَةَ لَا بُشۡرَىٰ يَوۡمَئِذٖ
لِّلۡمُجۡرِمِينَ وَيَقُولُونَ حِجۡرٗا مَّحۡجُورٗا ٢٢

23. われら*は、彼らが（現世で）行った（一見よい）行いへと向かい、それをばらばらの塵屑としてしまう。[6]

وَقَدِمۡنَآ إِلَىٰ مَا عَمِلُواْ مِنۡ عَمَلٖ فَجَعَلۡنَٰهُ
هَبَآءٗ مَّنثُورًا ٢٣

---

1 同様のアーヤ*として、ユースフ*章 109、預言者*たち章 8 も参照。

2 現世とは、裕福な者、貧しい者、健康な者、病人など、様々な状態にある人々が、互いの権利と義務を果たすかどうかの試練の場である（アル＝クルトゥビー13:18 参照）。

3 この「望む」については、ユーヌス*章 7 の訳注を参照。

4 これは、天使*やアッラー*に直接、預言者*ムハンマド*が主張することの正しさを証言させよ、という要求のこととされる（ムヤッサル 362 頁参照）。夜の旅章 92 も参照。

5 人は自分の死期、死後の墓の中、復活の日*において天使*たちを目にする。不信仰者*たちはその時、現世で自分たちが要求していたのとは違う、恐ろしく厳しい姿の天使*たちを目にすることになる（前掲書、同頁参照）。

6 来世で人を益する行いは、そこにおいて以下の条件を満たしたものだけである：①アッラー*への信仰。②かれへの真摯さ。③使徒*の教えに従っていること（ムヤッサル 362 頁参照）。雌牛章 264、イムラーン家章 117、イブラーヒーム*章 18、御光章 39-40 も参照。

24. 天国の住人はその日、（地獄の住人）より善い定住の場、より優れた休息の場にある。

أَصْحَٰبُ ٱلْجَنَّةِ يَوْمَئِذٍ خَيْرٌ مُّسْتَقَرًّا وَأَحْسَنُ مَقِيلًا ٢٤

25. 天が割れて、薄い白雲が出現し、天使*たちが次々と下される日（のことを思い起こさせよ）。[1]

وَيَوْمَ تَشَقَّقُ ٱلسَّمَآءُ بِٱلْغَمَٰمِ وَنُزِّلَ ٱلْمَلَٰٓئِكَةُ تَنزِيلًا ٢٥

26. その日、真の王権は、慈悲あまねき*お方（アッラー*）に属する[2]。そしてそれは不信仰者*たちにとって、困難な日なのだ。

ٱلْمُلْكُ يَوْمَئِذٍ ٱلْحَقُّ لِلرَّحْمَٰنِ ۚ وَكَانَ يَوْمًا عَلَى ٱلْكَٰفِرِينَ عَسِيرًا ٢٦

27. 不正*者が（悔しがって）自分の両手を噛み、（こう）言う日（のことを思い起こさせよ）。「あぁ、私が使徒*と共に、道[3]を選んでいたらよかったのに！

وَيَوْمَ يَعَضُّ ٱلظَّالِمُ عَلَىٰ يَدَيْهِ يَقُولُ يَٰلَيْتَنِى ٱتَّخَذْتُ مَعَ ٱلرَّسُولِ سَبِيلًا ٢٧

28. 我が災いよ[4]、（不信仰な）何某を、親友としなければよかった！

يَٰوَيْلَتَىٰ لَيْتَنِى لَمْ أَتَّخِذْ فُلَانًا خَلِيلًا ٢٨

29. 彼は確かに、教訓（クルアーン*）が私のもとに到来した時、私をそこから迷わせてしまったのだから」。シャイターン*はもとより、人間に対するとんでもない裏切り者である。[5]

لَّقَدْ أَضَلَّنِى عَنِ ٱلذِّكْرِ بَعْدَ إِذْ جَآءَنِى ۗ وَكَانَ ٱلشَّيْطَٰنُ لِلْإِنسَٰنِ خَذُولًا ٢٩

30. また、使徒*（ムハンマド*）は（主*に訴えて、）言った。「我が主*よ、本当に我が民は、このクルアーン*を放ったらかし[6]にしてしまいました」。

وَقَالَ ٱلرَّسُولُ يَٰرَبِّ إِنَّ قَوْمِى ٱتَّخَذُوا۟ هَٰذَا ٱلْقُرْءَانَ مَهْجُورًا ٣٠

---

1 同様のアーヤ*として、雌牛章 210、真実章 15-17、暁章 22 も参照。

2 家畜章 73「かれにこそ王権は属する」の訳注も参照。

3 天国へと通じる、イスラーム*という「道」のこと（ムヤッサル 362 頁参照）。

4 「我が災いよ」という表現については、食卓章 31 の訳注を参照。

5 シャイターン*はアーダム*の時代から、人々を騙（だま）し、地獄の道連れとすることをその使命としている（高壁章 16-17、20-22、27、イブラーヒーム*章 22 など参照）。

6 イブン・カスィール*によれば、「クルアーン*を放ったらかしにする」ことには、以下の物事が含まれる：それが読誦されている時、故意に声や音を立てて妨害すること（詳細にされた章 26 参照）。その学びと暗記、信仰、その熟慮と理解、それに則（のっと）った行いの放棄（ほうき）。それよりも詩や歌など、別なものに勤（いそ）しむこと（6:108 参照）。

31. （あなたにそうしたのと）同様に、われら*は全ての預言者*に、罪悪者たちからなる敵を設けた[1]のである。そして導き手と援助者は、あなたの主*だけで十分なのだ。

وَكَذَٰلِكَ جَعَلْنَا لِكُلِّ نَبِيٍّ عَدُوًّا مِّنَ
ٱلْمُجْرِمِينَ ۗ وَكَفَىٰ بِرَبِّكَ هَادِيًا وَنَصِيرًا ٣١

32. 不信仰に陥った者*たちは、言った。「どうしてクルアーン*は（トーラー*や福音*のように）、彼（預言者*ムハンマド*）に一遍に下されないのか？」われら*は、それによってあなたの心を堅固にすべく、（クルアーン*を）そのように（徐々に下）し[2]、またそれを明瞭に区切ったのだ[3]。

وَقَالَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ لَوْلَا نُزِّلَ عَلَيْهِ ٱلْقُرْءَانُ
جُمْلَةً وَٰحِدَةً ۚ كَذَٰلِكَ لِنُثَبِّتَ بِهِۦ فُؤَادَكَ ۖ
وَرَتَّلْنَٰهُ تَرْتِيلًا ٣٢

33. また（使徒*よ）、彼ら（シルク*の徒）があなたに譬え[4]を挙げれば、われら*は決まって、あなたに真理（の回答）と、（それに対する）よりよい説明をもたらすのである。

وَلَا يَأْتُونَكَ بِمَثَلٍ إِلَّا جِئْنَٰكَ بِٱلْحَقِّ
وَأَحْسَنَ تَفْسِيرًا ٣٣

34. （彼らは）顔を下にした逆様の状態[5]で、地獄へと集められる者たち。それらの者たちはより悪い場所にあり、より道を迷った者たちである。

ٱلَّذِينَ يُحْشَرُونَ عَلَىٰ وُجُوهِهِمْ إِلَىٰ جَهَنَّمَ
أُو۟لَٰٓئِكَ شَرٌّ مَّكَانًا وَأَضَلُّ سَبِيلًا ٣٤

---

1 同様のアーヤ*として、家畜章 112-113 も参照。

2 クルアーン*が徐々に下ることによって、安心と堅固さが上乗せされる。特に悲しいことが起こった時などは、過去に下されたものを思い起こすより、出来事の折々に直接下された方が、より強い作用と確固さをもたらすものである（アッ＝サァディー582 頁参照）。夜の旅章 106 とその訳注も参照。

3 「明瞭に区切る」と訳した原語「タルティール」には、ここでは以下のような意味が含まれる。「優れた構成と明瞭な意味の言葉とする」「（啓示の時期を）区切って別々にする」「明瞭に区切りつつ、ゆっくりと読誦することを命じる（衣を纏う者章 4 とその訳注も参照）」（イブン・アーシュール 19:20 参照）。

4 この「譬え」については、夜の旅章 48 とその訳注を参照。

5 「顔から逆様の状態」に関しては、夜の旅章 97 とその訳注を参照。

35. われら*は確かにムーサー*に啓典（トーラー*）を授け、その兄ハールーン*を彼と共にその片腕とした。

وَلَقَدۡ ءَاتَيۡنَا مُوسَى ٱلۡكِتَٰبَ وَجَعَلۡنَا مَعَهُۥٓ
أَخَاهُ هَٰرُونَ وَزِيرٗا ٣٥

36. そして、われら*は言った。「（あなた方二人よ、）われら*の御徴[1]を嘘呼ばわりした民のもとへ行（き、彼らを正しい信仰へと招）くのだ」。そして（彼らはムーサー*たちを信じなかったので、）われら*は彼らを徹底的に滅ぼした。

فَقُلۡنَا ٱذۡهَبَآ إِلَى ٱلۡقَوۡمِ ٱلَّذِينَ كَذَّبُواْ
بِـَٔايَٰتِنَا فَدَمَّرۡنَٰهُمۡ تَدۡمِيرٗا ٣٦

37. また、ヌーフ*の民を（滅ぼした）。彼らが使徒*たち[2]を嘘つき呼ばわりした時、われら*は彼らを溺れさせ、彼ら（の溺死）を人々への御徴とした。そしてわれら*は、不正*者たちに痛ましい懲罰を用意しておいたのだ。

وَقَوۡمَ نُوحٖ لَّمَّا كَذَّبُواْ ٱلرُّسُلَ أَغۡرَقۡنَٰهُمۡ
وَجَعَلۡنَٰهُمۡ لِلنَّاسِ ءَايَةٗۖ وَأَعۡتَدۡنَا لِلظَّٰلِمِينَ
عَذَابًا أَلِيمٗا ٣٧

38. また、アード*、サムード*、ラッスの徒*、そしてその間の多くの世代を（滅ぼした）。

وَعَادٗا وَثَمُودَاْ وَأَصۡحَٰبَ ٱلرَّسِّ وَقُرُونَۢا
بَيۡنَ ذَٰلِكَ كَثِيرٗا ٣٨

39. また、われら*は全て（の民）に譬え[3]を挙げ（たが信じなかったので、彼ら）全てを完全に滅ぼした。

وَكُلّٗا ضَرَبۡنَا لَهُ ٱلۡأَمۡثَٰلَۖ وَكُلّٗا
تَبَّرۡنَا تَتۡبِيرٗا ٣٩

40. 彼らは確かに、忌まわしい雨を降らされた町を訪れた[4]。一体、彼らはそれを（熟慮して）見ていなかったのか？ いや、彼らは復活を望んではいなかった[5]のだ。

وَلَقَدۡ أَتَوۡاْ عَلَى ٱلۡقَرۡيَةِ ٱلَّتِيٓ أُمۡطِرَتۡ مَطَرَ
ٱلسَّوۡءِۚ أَفَلَمۡ يَكُونُواْ يَرَوۡنَهَاۚ بَلۡ كَانُواْ
لَا يَرۡجُونَ نُشُورٗا ٤٠

---

1 この「御徴」は、アッラーの唯一性*を証明する証拠の数々のこと（ムヤッサル 363 頁参照）。

2 「使徒*たち」と複数形になっているのは、ある一人の使徒*を信じないことは、全ての使徒*を信じないことに等しいからである（前掲書、同頁参照）。

3 アッラー*はこうして彼らの弁解の余地がなくなるまで、真実の根拠を明らかにされた。それでも、彼らは信じなかった（前掲書、同頁参照）。雌牛章 98 の訳注も参照。

4 この「町」とは、ルート*の民が住んでいたサドームの町のこと。マッカ*の人々は旅の際、そこを通りかかることがあったのだという（前掲書、同頁参照）。

5 この「望んではいなかった」については、ユーヌス*章 7 の訳注を参照。

41. また（使徒*よ）、あなたを見れば、彼らはあなたを嘲笑の的とするだけ。（彼らは、こう言うのだ。）「一体これが、アッラー*が使徒*として遣わされた者だって？

وَإِذَا رَأَوۡكَ إِن يَتَّخِذُونَكَ إِلَّا هُزُوًا أَهَٰذَا
ٱلَّذِي بَعَثَ ٱللَّهُ رَسُولًا ٤١

42. 本当に彼は私たちを、私たちの神々（偶像）から迷わせんばかりだった。もし私たちが、それら（の崇拝*）において辛抱強くなかったならば」。彼らはいずれ、彼らが懲罰を目にする時、誰がより道に迷っている者かを知ることになろう。

إِن كَادَ لَيُضِلُّنَا عَنۡ ءَالِهَتِنَا لَوۡلَآ أَن
صَبَرۡنَا عَلَيۡهَاۚ وَسَوۡفَ يَعۡلَمُونَ حِينَ
يَرَوۡنَ ٱلۡعَذَابَ مَنۡ أَضَلُّ سَبِيلًا ٤٢

43. （使徒*よ、）言ってみよ、自分の欲望（への服従）を自分の崇拝*すべきもの（への服従）とした者[1]について。一体あなたは、その者に対する代理人[2]なのか？

أَرَءَيۡتَ مَنِ ٱتَّخَذَ إِلَٰهَهُۥ هَوَىٰهُ أَفَأَنتَ
تَكُونُ عَلَيۡهِ وَكِيلًا ٤٣

44. いや、あなたは、彼らの大半が（クルアーン*を熟慮して）聞いていると、あるいは分別していると思っているのか？　彼らは家畜のようなものに外ならない。いや、彼らは（それら）より道に迷っているのだ。[3]

أَمۡ تَحۡسَبُ أَنَّ أَكۡثَرَهُمۡ يَسۡمَعُونَ أَوۡ
يَعۡقِلُونَۚ إِنۡ هُمۡ إِلَّا كَٱلۡأَنۡعَٰمِ بَلۡ هُمۡ أَضَلُّ
سَبِيلًا ٤٤

45. 一体あなたは、あなたの主*がいかに陰を引き伸ばされたか——かれがお望みになれば、それを静止させ給うたであろう——を、見ないのか？　それからわれら*が、

أَلَمۡ تَرَ إِلَىٰ رَبِّكَ كَيۡفَ مَدَّ ٱلظِّلَّ وَلَوۡ شَآءَ
لَجَعَلَهُۥ سَاكِنٗا ثُمَّ جَعَلۡنَا ٱلشَّمۡسَ عَلَيۡهِ
دَلِيلٗا ٤٥

---

1 これは、正しい根拠を聞くことも見ることもなく、自分の欲望に従い、それを自分の宗教の基盤とする者のたとえ（アル＝バイダーウィー4:219 参照）。シルク*の徒は石を崇めては、それと違うものがよいと思うと今まで崇めていたものを捨て、別のものを崇めたものだった（アッ＝タバリー8:6141 参照）。

2 そのような者を信仰へと戻す義務を課せられた代理人なのか、ということ。そうではなく、預言者*は啓示を伝達し、警告する者でしかない（アル＝クルトゥビー13:36 参照）。

3 高壁章 179 とその訳注も参照。

太陽をそれ（陰）に対する目印とされたのを？[1]

46. それから、われら*はそれ（陰）を、われら*自身の方へと少しずつ掴み寄せる。[2]

47. かれ（アッラー*）は、あなた方のために夜を衣とし[3]、眠りを休息とし、昼を展開（する時間）[4]とされたお方。

48. また、かれはそのご慈悲（雨）の前触れに吉報を告げる風を送ったお方。そしてわれら[5]は、天から清浄な雨を降らせた。

49. （それは、）われら*がそれによって死んだ土地を生き返し、われら*が創った家畜や沢山の人間にそれを飲ませるため。

50. われら*は確かに、あなた方が教訓を得るべく、あなた方の間にそれ（雨）を振り分けた[6]。そして大半の人々は、（われら*の恩恵に対する）否定以外を拒んだのである。

ثُمَّ قَبَضْنَٰهُ إِلَيْنَا قَبْضًا يَسِيرًا ٤٦

وَهُوَ ٱلَّذِى جَعَلَ لَكُمُ ٱلَّيْلَ لِبَاسًا وَٱلنَّوْمَ
سُبَاتًا وَجَعَلَ ٱلنَّهَارَ نُشُورًا ٤٧

وَهُوَ ٱلَّذِىٓ أَرْسَلَ ٱلرِّيَٰحَ بُشْرًۢا بَيْنَ يَدَىْ
رَحْمَتِهِۦ ۚ وَأَنزَلْنَا مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءً طَهُورًا ٤٨

لِّنُحْـِۧىَ بِهِۦ بَلْدَةً مَّيْتًا وَنُسْقِيَهُۥ مِمَّا
خَلَقْنَآ أَنْعَٰمًا وَأَنَاسِىَّ كَثِيرًا ٤٩

وَلَقَدْ صَرَّفْنَٰهُ بَيْنَهُمْ لِيَذَّكَّرُوا۟ فَأَبَىٰٓ أَكْثَرُ
ٱلنَّاسِ إِلَّا كُفُورًا ٥٠

---

1 ここでの「陰」は、「完全なる明るさと完全なる闇との中間的状態」のこととされる（アッ＝シャウカーニー4:106 参照）。そして多くの解釈学者は、この「陰が引き伸ばされる」時間帯を、夜明けから日の出までの間だとしている。また、「太陽が陰の目印」というのは、太陽がなければ陰の存在も知られることがないため（イブン・カスィール 6:113-114 参照）。

2 つまり、太陽が高く昇るにつれて、陰も短くなって行く（ムヤッサル 364 頁参照）。

3 そこに包み込まれて落ち着くものとして、夜が衣服に譬えられている（アッ＝サァディー 584 頁参照）。

4 地上に散らばり、生活の糧を求めるための時間のこと（ムヤッサル 364 頁参照）。

5 主語が「かれ」から「われら*」に転換していることについては、食卓章 12「われら*」の訳注も参照。

6 この解釈には、「既に定められている量の雨を、各地に振り分けた」「雨を、様々な種類のものとして降らせた」「雨水による利益を多様なものとした」といった説がある。また、アーヤ*中の「それ」がクルアーン*（つまり、法規定や訓戒、譬えなどを多彩に示した、という意味）、あるいは風を指す、という説もある（アル＝クルトゥビー13:57 参照）。

51. また、もしわれら*が望めば、われら*は全ての町に警告者を遣わしたであろう。[1]

وَلَوْ شِئْنَا لَبَعَثْنَا فِي كُلِّ قَرْيَةٍ نَّذِيرًا ٥١

52. ならば不信仰者*らには従わず、彼らとはそれ（クルアーン*）によって[2]大いに奮闘せよ。

فَلَا تُطِعِ ٱلْكَٰفِرِينَ وَجَٰهِدْهُم بِهِۦ جِهَادًا
كَبِيرًا ٥٢

53. かれ（アッラー*）は、こちらは甘くて美味しく、こちらはしょっぱくて辛いという風に、二つの海を出会わされ、その二つの間に障壁を設けられ、完全に隔離されたお方。[3]

۞ وَهُوَ ٱلَّذِي مَرَجَ ٱلْبَحْرَيْنِ هَٰذَا عَذْبٌ
فُرَاتٌ وَهَٰذَا مِلْحٌ أُجَاجٌ وَجَعَلَ بَيْنَهُمَا
بَرْزَخًا وَحِجْرًا مَّحْجُورًا ٥٣

54. また、かれは水[4]から人間をお創りになり、それ[5]を血縁関係と婚戚関係（からなるもの）とされたお方。もとより、あなたの主*は全能者であられる。

وَهُوَ ٱلَّذِي خَلَقَ مِنَ ٱلْمَآءِ بَشَرًا فَجَعَلَهُۥ نَسَبًا
وَصِهْرًا ۗ وَكَانَ رَبُّكَ قَدِيرًا ٥٤

55. 彼ら（不信仰者*ら）はアッラー*をよそに、（それを崇拝*しても）自分たちを益もしなければ（、崇拝*しなくても）自分たちを害もしないものを崇めている。不信仰者*はそもそも、その主*に対する（シャイターン*の）援助者[6]なのである。

وَيَعْبُدُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ مَا لَا يَنفَعُهُمْ وَلَا
يَضُرُّهُمْ ۗ وَكَانَ ٱلْكَافِرُ عَلَىٰ رَبِّهِۦ ظَهِيرًا ٥٥

56. （使徒*よ、）われら*があなたを遣わしたのは、吉報を伝え、警告を告げる者[7]としてに外ならない。

وَمَآ أَرْسَلْنَٰكَ إِلَّا مُبَشِّرًا وَنَذِيرًا ٥٦

---

1 しかしアッラー*は、預言者*ムハンマド*を全人類へ遣わされ、彼らにクルアーン*を伝えることをご命じになった（ムヤッサル 364 頁参照）。

2 つまり、吉報や警告を含むクルアーン*のアーヤ*を伝達し、その明証によって論証することによって（アル＝ビカーイー5:327 参照）。

3 「二つの海を出会わされ」ではなく、「二つの海を分けられ」という解釈もある（アル＝クルトゥビー13:58 参照）。慈悲あまねき*お方章 19-20 も参照。

4 この「水」は、男女の精液のこととされる（ムヤッサル 364 頁参照）。

5 この「それ」は、男女の子孫のこと（前掲書、同頁参照）。

6 シルク*と罪において、シャイターン*を援助する者（前掲書、同頁参照）。

7 「吉報を伝え、警告を告げる」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

57. 言うのだ。「私はそのこと（啓示の伝達）について、あなた方にいかなる見返り[1]も要求してはいない。しかし、自分の主*へと道を選ぼうとする者のみ（、アッラー*ゆえに施すのであり、それは自分自身のために外ならないの）である」。

قُلْ مَآ أَسْـَٔلُكُمْ عَلَيْهِ مِنْ أَجْرٍ إِلَّا مَن شَآءَ
أَن يَتَّخِذَ إِلَىٰ رَبِّهِۦ سَبِيلًا ٥٧

58. そして、死ぬことのない永生する*お方（アッラー*）に全てを委ね、その称賛*と共にかれを称え*よ。その僕たちの罪に通暁されるお方は、かれだけで十分なのである。

وَتَوَكَّلْ عَلَى ٱلْحَىِّ ٱلَّذِى لَا يَمُوتُ وَسَبِّحْ
بِحَمْدِهِۦ ۚ وَكَفَىٰ بِهِۦ بِذُنُوبِ عِبَادِهِۦ
خَبِيرًا ٥٨

59. （かれは）諸天と大地と、その間にあるものを六日間でお創りになり[2]、それから御座に上がられた[3]お方で、慈悲あまねき*お方。ならば（預言者*よ）、それ[4]について通暁されたお方（ご自身）に尋ねよ。

ٱلَّذِى خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضَ وَمَا بَيْنَهُمَا
فِى سِتَّةِ أَيَّامٍ ثُمَّ ٱسْتَوَىٰ عَلَى ٱلْعَرْشِ ۚ
ٱلرَّحْمَٰنُ فَسْـَٔلْ بِهِۦ خَبِيرًا ٥٩

60. 彼ら（不信仰者*たち）に「慈悲あまねき*お方（アッラー*）にサジダ*せよ」と言われた時、彼らは（こう）言った。「慈悲あまねき*お方とは、誰なのか？[5] 一体私たちが、あなたが私たちに命じるものにサジダ*するというのか？」それは、彼らが（信仰から）離れ去ることに拍車をかけたのだ。（読誦のサジダ*）

وَإِذَا قِيلَ لَهُمُ ٱسْجُدُوا۟ لِلرَّحْمَٰنِ قَالُوا۟ وَمَا
ٱلرَّحْمَٰنُ أَنَسْجُدُ لِمَا تَأْمُرُنَا وَزَادَهُمْ
نُفُورًا ۩ ٦٠

61. 天に星座を設けられ、そこに灯火[6]と照る月を置かれたお方は、祝福にあふれておられる。

تَبَارَكَ ٱلَّذِى جَعَلَ فِى ٱلسَّمَآءِ بُرُوجًا
وَجَعَلَ فِيهَا سِرَٰجًا وَقَمَرًا مُّنِيرًا ٦١

1 この「見返り」については、家畜章 90 の訳注を参照。
2 「六日間での天地創造」については、詳細にされた章 9-12 とその訳注も参照。
3 「御座に上がられた」については、高壁章 54 の訳注を参照。
4 この「それ」とは、諸天と大地の創造、御座に上がられたこと（アル＝バガウィー3:453 参照）。
5 夜の旅章 110、雷鳴章 30 とそれらの訳注、預言者*たち章 36 も参照。
6 この「灯火」は、太陽のこと（ムヤッサル 365 頁参照）。

62. また、かれは夜と昼を、（そこから）教訓を得たい者、あるいは（その恩恵に対し、アッラー*に）感謝を望む者のため、交替するものとされたお方。

وَهُوَ ٱلَّذِي جَعَلَ ٱلَّيۡلَ وَٱلنَّهَارَ خِلۡفَةٗ لِّمَنۡ
أَرَادَ أَن يَذَّكَّرَ أَوۡ أَرَادَ شُكُورٗا ٦٢

63. 慈悲あまねき*お方（アッラー*）の僕たちとは、地上を慎ましやかに歩く[1]者たち。また無知な者たちが彼らに（嫌なことを）話しかければ、無難なこと[2]を語る者たち。

وَعِبَادُ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلَّذِينَ يَمۡشُونَ عَلَى ٱلۡأَرۡضِ هَوۡنٗا
وَإِذَا خَاطَبَهُمُ ٱلۡجَٰهِلُونَ قَالُواْ سَلَٰمٗا ٦٣

64. また、自分たちの主*に（礼拝しつつ）サジダ*したり、立ったりしながら夜を過ごす者たち。

وَٱلَّذِينَ يَبِيتُونَ لِرَبِّهِمۡ سُجَّدٗا وَقِيَٰمٗا ٦٤

65. また、（こう）言う者たち。「我らが主*よ、私たちから地獄の懲罰を遠ざけて下さい。本当にその懲罰は、ずっと付いて回るものなのですから。

وَٱلَّذِينَ يَقُولُونَ رَبَّنَا ٱصۡرِفۡ عَنَّا عَذَابَ
جَهَنَّمَۖ إِنَّ عَذَابَهَا كَانَ غَرَامًا ٦٥

66. 本当にそれは、定住地、滞在地として忌まわしいものです」。

إِنَّهَا سَآءَتۡ مُسۡتَقَرّٗا وَمُقَامٗا ٦٦

67. また、出費した際には浪費もせず、守銭奴にもならず、その中間に程よくある者たち。

وَٱلَّذِينَ إِذَآ أَنفَقُواْ لَمۡ يُسۡرِفُواْ وَلَمۡ يَقۡتُرُواْ
وَكَانَ بَيۡنَ ذَٰلِكَ قَوَامٗا ٦٧

68. また、アッラー*と並べて別の神を祈らず[3]、アッラー*が禁じられた者を正当な権利[4]なしには殺さず、姦通しない者たち。それ（らの大罪*）を行う者は誰でも、（来世で）罪（の報い）に出会うのだ。

وَٱلَّذِينَ لَا يَدۡعُونَ مَعَ ٱللَّهِ إِلَٰهًا ءَاخَرَ وَلَا
يَقۡتُلُونَ ٱلنَّفۡسَ ٱلَّتِي حَرَّمَ ٱللَّهُ إِلَّا بِٱلۡحَقِّ
وَلَا يَزۡنُونَۚ وَمَن يَفۡعَلۡ ذَٰلِكَ يَلۡقَ أَثَامٗا ٦٨

---

1 弱々しさやわざとらしさではなく、落ち着きと厳（おご）そかさをもって歩くこと、とされる（イブン・カスィール 6:122 参照）。

2 つまり、罪からは程遠い物言いをし、無知な者に対して無知さで対抗するようなことから無難であること（アッ＝サァディー586 頁参照）。

3 これはシルク*のこと。「神」については、雌牛章 133 の訳注を参照。

4 「正当な権利」については、家畜章 151 の訳注を参照。

69. 復活の日*、彼には懲罰が倍増され、卑しめられつつ、そこで永遠に留まることになる。[1]

يُضَٰعَفۡ لَهُ ٱلۡعَذَابُ يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِ وَيَخۡلُدۡ فِيهِۦ مُهَانًا ٦٩

70. 但し、悔悟し、信仰し、正しい行い*を行う者、それらの者たちはアッラー*がその悪行を善行に換えて下さる。アッラー*はもとより、赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。

إِلَّا مَن تَابَ وَءَامَنَ وَعَمِلَ عَمَلٗا صَٰلِحٗا فَأُوْلَٰٓئِكَ يُبَدِّلُ ٱللَّهُ سَيِّـَٔاتِهِمۡ حَسَنَٰتٖۗ وَكَانَ ٱللَّهُ غَفُورٗا رَّحِيمٗا ٧٠

71. また、悔悟し、正しい行い*を行う者、本当に彼はアッラー*に対して、まさしく悔悟しているのである。

وَمَن تَابَ وَعَمِلَ صَٰلِحٗا فَإِنَّهُۥ يَتُوبُ إِلَى ٱللَّهِ مَتَابٗا ٧١

72. また、偽りには立ち会わず[2]、戯言（が語られている状況）に出遭えば、綺麗に通り過ぎる[3]者たち。

وَٱلَّذِينَ لَا يَشۡهَدُونَ ٱلزُّورَ وَإِذَا مَرُّواْ بِٱللَّغۡوِ مَرُّواْ كِرَامٗا ٧٢

73. また、その主*の御徴によって教訓を与えられれば、聾や盲目のようにはならず[4]、それに対して（サジダ*して）崩れ落ちる者たち。

وَٱلَّذِينَ إِذَا ذُكِّرُواْ بِـَٔايَٰتِ رَبِّهِمۡ لَمۡ يَخِرُّواْ عَلَيۡهَا صُمّٗا وَعُمۡيَانٗا ٧٣

74. また、「我らが主*よ、私たちの妻や子孫の内から、私たちに喜び[5]をお授け下さい。そして私たちを、敬虔な*者たちへの導師として下さい」と言う者たち。

وَٱلَّذِينَ يَقُولُونَ رَبَّنَا هَبۡ لَنَا مِنۡ أَزۡوَٰجِنَا وَذُرِّيَّٰتِنَا قُرَّةَ أَعۡيُنٖ وَٱجۡعَلۡنَا لِلۡمُتَّقِينَ إِمَامًا ٧٤

---

1 永遠に地獄に留まることになるのは、前アーヤ*で言及されていること全てを犯した者か、あるいはシルク*を犯した者（ムヤッサル 366 頁参照）。

2 つまり、偽りの証言を始め、アッラー*の御徴を笑いの種にすること、無意味な議論、陰口、悪評を立てること、悪口、名誉毀損（きそん）、嘲笑（ちょうしょう）など、あらゆる非合法な物事に関わらないこと（アッ＝サァディー587 頁参照）。

3 そのような場からは遠ざかり、自らの品位を保つべく、同席したり話に付き合ったりしないこと。そこには、下品な物事から目を背けること、他人の罪を大目に見てやること、直接的な表現が憚（はばか）れることを間接的に表現することなども、含まれる（アル＝バイダーウィー4:229 参照）。

4 これはつまり、クルアーン*のアーヤ*や、アッラーの唯一性*を示す証拠を提示されれば、それを疎（おろそ）かにせず、むしろそれを心で理解し、それによって眼が開かれた状態となること（ムヤッサル 366 頁参照）。夜の旅章 107-109 も参照。

5 この「喜び」とは、善良で敬虔な子孫のこととされる（アル＝バガウィー3:459 参照）。また「喜び」という表現については、マルヤム*章 26 の訳注を参照。

75. それらの者たち（慈悲あまねき*お方の僕たち）は、彼らの忍耐*ゆえに、（天国の）高き住まいによって報われる。そしてそこで、挨拶と平安[1]を授かるのだ。

أُوْلَٰٓئِكَ يُجۡزَوۡنَ ٱلۡغُرۡفَةَ بِمَا صَبَرُواْ
وَيُلَقَّوۡنَ فِيهَا تَحِيَّةٗ وَسَلَٰمًا ٧٥

76. そこで永遠に留まる。それは定住地、滞在地として素晴らしいもの。

خَٰلِدِينَ فِيهَاۚ حَسُنَتۡ مُسۡتَقَرّٗا
وَمُقَامٗا ٧٦

77. 言ってやれ。「もし、あなた方の祈りがないのなら[2]、我が主*はあなた方のことなど、お気にもかけられない。（不信仰者*たちよ、）あなた方は確かに、嘘つき呼ばわりしたのだから。ならば、やがて（あなた方には、）それ（懲罰）が必然となろう」。

قُلۡ مَا يَعۡبَؤُاْ بِكُمۡ رَبِّي لَوۡلَا دُعَآؤُكُمۡۖ
فَقَدۡ كَذَّبۡتُمۡ فَسَوۡفَ يَكُونُ لِزَامَۢا ٧٧

---

1 天使*たちからの善い挨拶と、よい生活、あらゆる害悪からの無事のこと（ムヤッサル 366 頁参照）。雷鳴章 24 とその訳注も参照。

2 一説には、この「祈り」は「崇拝*」のこと。アッラー*はそもそも彼らを、ご自身のことを崇拝*し、かれの唯一性*を信じ、かれを称え*るように創造した（撒き散らすもの章 56 参照）のである（イブン・カスィール 6:134 参照）。

第26章 詩人たち章（アッ＝シュアラーゥ）[1]

سُورَةُ الشُّعَرَاءِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. ター・スィーン・ミーム[2]。

طسٓمٓ ١

2. それは、解明する啓典[3]の御徴（アーヤ*）である。

تِلۡكَ ءَايَٰتُ ٱلۡكِتَٰبِ ٱلۡمُبِينِ ٢

3. （使徒*よ、）彼らが信仰者とならないがゆえに、あなたは（悲しみで）身を切り裂く思いであろう。

لَعَلَّكَ بَٰخِعٞ نَّفۡسَكَ أَلَّا يَكُونُواْ مُؤۡمِنِينَ ٣

4. もしわれら*が望めば、われら*は天から彼らの上に御徴[4]を下し、彼らの首[5]はそれに屈服するようになるのだから。[6]

إِن نَّشَأۡ نُنَزِّلۡ عَلَيۡهِم مِّنَ ٱلسَّمَآءِ ءَايَةٗ فَظَلَّتۡ
أَعۡنَٰقُهُمۡ لَهَا خَٰضِعِينَ ٤

5. また、慈悲あまねき*お方（アッラー*）から彼らのもとに新たな教訓がやって来ても、彼らは決まってそれに背を向けたものだった。

وَمَا يَأۡتِيهِم مِّن ذِكۡرٖ مِّنَ ٱلرَّحۡمَٰنِ مُحۡدَثٍ إِلَّا كَانُواْ
عَنۡهُ مُعۡرِضِينَ ٥

---

1 マッカ*啓示（一部のアーヤ*は、マディーナ*啓示説もあり）。クルアーン*の真実性の確証と不信仰者*らへの警告に始まり、数々の預言者*・使徒*とその民の間に起こった出来事が、イスラーム*の根本教義の提示、預言者*ムハンマド*とムスリム*たちへの慰めと励まし、不信仰者*らへの教訓と警告を交えつつ、描写されていく。そして最後には再びクルアーン*の真実性が言及され、それが詩人の言葉でも、シャイターン*の言葉でもないことが確認される。スーラ*の名称の由来は、このスーラ*だけに登場する「詩人たち」という語であるとも、あるいはこのスーラ*の主題の一つが、クルアーン*が詩などとは比べようもないほどに高尚な真実であることの確証だから、とも言われる。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 「解明する啓典」については、ユースフ*章1の訳注を参照。

4 この「御徴」は、彼ら不信仰者*が信仰せざるを得なくなるような奇跡のこと（ムヤッサル367頁参照）。

5 屈服の様子が如実に現れる箇所として、「首」という表現が用いられている。一説には「首領たち」または「集団」という意味（イブン・アーシュール 19:96-97）。

6 しかしアッラー*は、このようにはされなかった。というのも無理強いされた信仰は、有益なものではないからである（ムヤッサル367頁参照）。家畜章158、ユーヌス*章99とその訳注も参照。

6. 彼らは確かに、（クルアーン*を）嘘呼ばわりしたのだから。ならば、直に彼らのもとに、彼らが嘲笑していたもの（懲罰）の知らせが訪れよう。

فَقَدْ كَذَّبُوا۟ فَسَيَأْتِيهِمْ أَنۢبَـٰٓؤُا۟ مَا كَانُوا۟ بِهِۦ يَسْتَهْزِءُونَ ٦

7. 一体、彼らは大地を見ないのか？ われら*がそこで、どれだけ多くのあらゆる貴い種類のもの（植物）を、生育させたかを？

أَوَلَمْ يَرَوْا۟ إِلَى ٱلْأَرْضِ كَمْ أَنۢبَتْنَا فِيهَا مِن كُلِّ زَوْجٍ كَرِيمٍ ٧

8. 本当にそこにはまさしく、（アッラー*の御力を示す）御徴がある。彼らの大半は信仰者ではなかったのだ。

إِنَّ فِى ذَٰلِكَ لَـَٔايَةً ۖ وَمَا كَانَ أَكْثَرُهُم مُّؤْمِنِينَ ٨

9. そして本当にあなたの主*、かれこそは偉力ならびない*お方、慈愛深い*お方であられる。

وَإِنَّ رَبَّكَ لَهُوَ ٱلْعَزِيزُ ٱلرَّحِيمُ ٩

10. あなたの主*がムーサー*に対し、（こう）呼びかけられた時のこと（を思い起こさせよ）。「不正*者である民のもとへ行け。

وَإِذْ نَادَىٰ رَبُّكَ مُوسَىٰٓ أَنِ ٱئْتِ ٱلْقَوْمَ ٱلظَّـٰلِمِينَ ١٠

11. フィルアウン*の民のもとへ。一体彼らは、（アッラー*の懲罰を）畏れないのか？」

قَوْمَ فِرْعَوْنَ ۚ أَلَا يَتَّقُونَ ١١

12. 彼（ムーサー*）は、申し上げた。「我が主*よ、本当に私は、彼らが私を嘘つき呼ばわりするのが怖いのです。

قَالَ رَبِّ إِنِّىٓ أَخَافُ أَن يُكَذِّبُونِ ١٢

13. また、私の胸は（苦悩で）狭まり[1]、私の舌は滑らかに動いてくれません[2]。ならば（啓示と共に、ジブリール*を）、ハールーン*にお遣わし下さい[3]。

وَيَضِيقُ صَدْرِى وَلَا يَنطَلِقُ لِسَانِى فَأَرْسِلْ إِلَىٰ هَـٰرُونَ ١٣

14. 私には、彼らに対する罪（という負い目）があり[4]、彼らが私のことを殺すのが怖いのです」。

وَلَهُمْ عَلَىَّ ذَنۢبٌ فَأَخَافُ أَن يَقْتُلُونِ ١٤

1 「胸を広げる」という表現の反対の意味。詳しくは、ター・ハー章 25 参照。

2 ター・ハー章 27 とその訳注、金の装飾章 52 も参照。

3 このアーヤ*の背景に関しては、ター・ハー章 27-32 の訳注、物語章 33-35 を参照。

4 あるコプト人を殺してしまったことを指す（ムヤッサル 367 頁参照）。物語章 15-17 参照。

15. かれ（アッラー*）は仰(おお)せられた。「断じて（、彼らはあなたを殺さ）ない。そして（あなた方二人よ）、われら*の御徴(みしるし)[1]と共に行くのだ。本当にわれら*は、あなた方と共にあり、聞く者[2]となるから。

قَالَ كَلَّاۖ فَٱذۡهَبَا بِـَٔايَٰتِنَآۖ إِنَّا مَعَكُم
مُّسۡتَمِعُونَ ١٥

16. そしてフィルアウン*のもとへ赴(おもむ)き、言うのだ。『本当に私たちは、全創造(そうぞう)物の主(しゅ)*（から）の使徒(しと)*なのです。

فَأۡتِيَا فِرۡعَوۡنَ فَقُولَآ إِنَّا رَسُولُ رَبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ١٦

17. 私たちと共に（行くために）、イスラーイールの子ら*を自由にして下さい』」。[3]

أَنۡ أَرۡسِلۡ مَعَنَا بَنِيٓ إِسۡرَٰٓءِيلَ ١٧

18. 彼（フィルアウン*）は言った。「私たちは、幼少のあなた（ムーサー*）を私たちのもとで育ててやり、あなたは私たちのもとで、あなたの人生の何年かを過(す)ごしたのではなかったか？[4]

قَالَ أَلَمۡ نُرَبِّكَ فِينَا وَلِيدٗا وَلَبِثۡتَ فِينَا مِنۡ
عُمُرِكَ سِنِينَ ١٨

19. またあなたは、あなたがやった、あなたの行い[5]をしでかした。あなたは、恩知らずな者[6]たちの類(たぐ)いなのだ」。

وَفَعَلۡتَ فَعۡلَتَكَ ٱلَّتِي فَعَلۡتَ وَأَنتَ مِنَ
ٱلۡكَٰفِرِينَ ١٩

20. 彼（ムーサー*）は、言った。「私は、自分が（使徒(しと)*としての使命を授(さず)かる前の）迷い人であった時に、それをやってしまったのです。

قَالَ فَعَلۡتُهَآ إِذٗا وَأَنَا۠ مِنَ ٱلضَّآلِّينَ ٢٠

---

1 この「御徴」に関しては、雌牛章 92 の「明証」についての訳注を参照。

2 知識と守護と援助によって、共に聞く者となるということ（ムヤッサル 367 頁参照）。ター・ハー章 46 も参照。

3 高壁章 105 とその訳注も参照。尚、このアーヤ*と次のアーヤ*の間には、二人がフィルアウン*のもとへ行き、アッラー*のお言葉を伝えたというくだりが省略されている（アッ＝タバリー8:6193 参照）。

4 この背景にあることについては、ター・ハー章 38-40、物語章 7-13 を参照。

5 この「行い」については、アーヤ 14 とその訳注を参照。

6 フィルアウン*の彼に対する恩を蔑（ないがし）ろにし、彼の神性を否定する者のこと（ムヤッサル 367 頁参照）。アーヤ*29、物語章 38、至高者章 24 にもあるように、フィルアウン*は神を自称していた。

21. それで私は、（自分が殺されるのではないかと）あなた方を怖れた時、あなた方から逃げました。そして我が主*は私に英知[1]をお恵みになり、私を使徒*の一人とされたのです。[2]

فَفَرَرْتُ مِنكُمْ لَمَّا خِفْتُكُمْ فَوَهَبَ لِي رَبِّي حُكْمًا
وَجَعَلَنِي مِنَ الْمُرْسَلِينَ ﴿٢١﴾

22. そしてそれが、あなたが私に着せている恩なのですか——あなたが、イスラーイールの子ら*を隷従させたという——？」。[3]

وَتِلْكَ نِعْمَةٌ تَمُنُّهَا عَلَيَّ أَنْ عَبَّدتَّ بَنِي
إِسْرَائِيلَ ﴿٢٢﴾

23. 彼（フィルアウン）は言った。「全創造物の主とは、何なのかね？」

قَالَ فِرْعَوْنُ وَمَا رَبُّ الْعَالَمِينَ ﴿٢٣﴾

24. 彼（ムーサー*）は、言った。「（それは）諸天と大地、その間にある全てのものの主*です。もしあなた方が、確信する者であるならば（信じて下さい）」。

قَالَ رَبُّ السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا إِن
كُنتُم مُّوقِنِينَ ﴿٢٤﴾

25. 彼（フィルアウン*）は、周りの者たちに言った。「おい、あなた方は、（この突拍子もないことを）聞いているか？」[4]

قَالَ لِمَنْ حَوْلَهُ أَلَا تَسْتَمِعُونَ ﴿٢٥﴾

26. 彼（ムーサー*）は、言った。「（アッラー*は、）あなた方の主*と、あなた方の先代のご先祖の主です」。[5]

قَالَ رَبُّكُمْ وَرَبُّ آبَائِكُمُ الْأَوَّلِينَ ﴿٢٦﴾

27. 彼（フィルアウン*）は言った。「本当に、あなた方に遣わされたあなた方の使徒*は、まさしく憑かれた者[6]だ」。

قَالَ إِنَّ رَسُولَكُمُ الَّذِي أُرْسِلَ إِلَيْكُمْ
لَمَجْنُونٌ ﴿٢٧﴾

---

1 この「英知」は、知識と預言者*性であるとされる（ムヤッサル 368 頁参照）。

2 この間の出来事は、ター・ハー章 10-36、物語章 20-30 に詳しい。

3 これは一説に、そもそもフィルアウン*によるイスラーイールの子ら*への抑圧がなければ、幼いムーサー*が彼らのもとで育てられる必要はなかったのだ、という非難の意味（アル＝バガウィー3:465 参照）。当時の状況に関する詳細については、雌牛章 49 とその訳注を参照。

4 フィルアウン*は神を自称していた（ムヤッサル 368 頁参照）。アーヤ*19 の訳注も参照。

5 フィルアウン*の先祖も、他の者たちの先祖と同様、既に死んでしまっている。彼が他人と同じ人間なのに、どうして神とするなどということがあろうか、ということ（前掲書、同頁参照）。

6 アル＝ヒジュル章 6「憑かれた者」の訳注も参照。

28. 彼（ムーサー*）は、言った。「（アッラー*は）東と西、その間にある全てのものの主。あなた方が分別するのであれば（、信仰するでしょうに）」。

قَالَ رَبُّ ٱلْمَشْرِقِ وَٱلْمَغْرِبِ وَمَا بَيْنَهُمَآ ۖ إِن كُنتُمْ تَعْقِلُونَ ٢٨

29. 彼（フィルアウン*）は言った。「もしも、あなたが私以外の神[1]を設けるのなら、私は必ずや、あなたを囚人の一人にしてやるぞ」。

قَالَ لَئِنِ ٱتَّخَذْتَ إِلَٰهًا غَيْرِى لَأَجْعَلَنَّكَ مِنَ ٱلْمَسْجُونِينَ ٢٩

30. 彼（ムーサー*）は、言った。「もし、私があなたに明白なもの[2]を披露して差し上げたとしても（、私を投獄しますか）？」

قَالَ أَوَلَوْ جِئْتُكَ بِشَىْءٍ مُّبِينٍ ٣٠

31. 彼（フィルアウン*）は言った。「ならば、それを披露してみよ。もしあなたが正直者の類いならば、だが」。

قَالَ فَأْتِ بِهِۦٓ إِن كُنتَ مِنَ ٱلصَّٰدِقِينَ ٣١

32. 彼（ムーサー*）は、自分の杖を投げた。するとどうしたことか、それは紛れもない一匹の大蛇となった。

فَأَلْقَىٰ عَصَاهُ فَإِذَا هِىَ ثُعْبَانٌ مُّبِينٌ ٣٢

33. また、彼が自分の手を（懐に入れてから）出すと、どうだろう、それは観衆の前に白くなって現れた。

وَنَزَعَ يَدَهُۥ فَإِذَا هِىَ بَيْضَآءُ لِلنَّٰظِرِينَ ٣٣

34. 彼（フィルアウン*）は、その周りの有力者たちに言った。「本当にこれはまさしく、習熟した魔術師だぞ。

قَالَ لِلْمَلَإِ حَوْلَهُۥٓ إِنَّ هَٰذَا لَسَٰحِرٌ عَلِيمٌ ٣٤

35. （彼は）その魔術で、あなた方をあなた方の地から追い出したいのだ。では、あなた方は何を命じるか？」

يُرِيدُ أَن يُخْرِجَكُم مِّنْ أَرْضِكُم بِسِحْرِهِۦ فَمَاذَا تَأْمُرُونَ ٣٥

---

1 「神」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。物語章 38、至高者章 24 にもあるように、フィルアウン*は神を自称していた。

2 この「明白なもの」とは、彼の正直さを証明する決定的な証拠（ムヤッサル 368 頁参照）。

36. 彼らは言った。「彼とその兄（ハールーン*）のことは後回しにされて、（ムーサー*に対抗するための魔術師たちを）召集する者たち（兵隊）を、町々にお遣わし下さい。

قَالُوٓاْ أَرۡجِهۡ وَأَخَاهُ وَٱبۡعَثۡ فِي ٱلۡمَدَآئِنِ حَٰشِرِينَ ٣٦

37. そうすれば、彼らはあなたのもとに、あらゆる習熟した腕の立つ魔術師を参上させることでしょう」。

يَأۡتُوكَ بِكُلِّ سَحَّارٍ عَلِيمٖ ٣٧

38. そして、定められた日のある時刻に、魔術師たちは集められた。[1]

فَجُمِعَ ٱلسَّحَرَةُ لِمِيقَٰتِ يَوۡمٖ مَّعۡلُومٖ ٣٨

39. そして人々には、（こう）言われた。「あなた方は、集合するのか？」[2]

وَقِيلَ لِلنَّاسِ هَلۡ أَنتُم مُّجۡتَمِعُونَ ٣٩

40. （人々は言った。）「私たちは、魔術師たちに従おう。彼らこそが勝利者となったならば」。

لَعَلَّنَا نَتَّبِعُ ٱلسَّحَرَةَ إِن كَانُواْ هُمُ ٱلۡغَٰلِبِينَ ٤٠

41. そして魔術師たちはやって来ると、フィルアウン*に言った。「本当に私たちには、ご褒美がありますでしょうか？ もし、私たちが（ムーサー*に）勝利したならば」。

فَلَمَّا جَآءَ ٱلسَّحَرَةُ قَالُواْ لِفِرۡعَوۡنَ أَئِنَّ لَنَا لَأَجۡرًا
إِن كُنَّا نَحۡنُ ٱلۡغَٰلِبِينَ ٤١

42. 彼（フィルアウン*）は言った。「ああ。本当にあなた方は、そうしたら、きっと側近の仲間となろう」。

قَالَ نَعَمۡ وَإِنَّكُمۡ إِذٗا لَّمِنَ ٱلۡمُقَرَّبِينَ ٤٢

43. ムーサー*は彼らに言った。「あなた方が投げる物を、投げるがよい」。[3]

قَالَ لَهُم مُّوسَىٰٓ أَلۡقُواْ مَآ أَنتُم مُّلۡقُونَ ٤٣

---

1 この日時については、ター・ハー章 59 とその訳注を参照。また、フィルアウン*が魔術師たちを集結させ、ムーサー*と魔術師たちに決戦させた情景については、高壁章 109-126、ユーヌス*章 79-82、ター・ハー章 57-73 も参照。

2 これは、人々に早く集まることを促す、アラビア語的表現（アル＝バイダーウィー4:237参照）。

3 ムーサー*のこの言葉の前には、高壁章 115、ユーヌス*章 80、ター・ハー章 65 にあるような魔術師たちの言葉がある（アッ＝タバリー8:6200 参照）。

44. それで彼らは、「フィルアウン*の威信に誓って。本当に私たちこそは、勝利者だ」と言いながら、自分たちの縄と杖を投げた。[1]

فَأَلۡقَوۡاْ حِبَالَهُمۡ وَعِصِيَّهُمۡ وَقَالُواْ بِعِزَّةِ
فِرۡعَوۡنَ إِنَّا لَنَحۡنُ ٱلۡغَٰلِبُونَ ٤٤

45. それでムーサー*は、自分の杖を投げた。するとどうであろう、それは（一匹の大蛇となって、）彼らがまやかすものを呑み込んでしまう。

فَأَلۡقَىٰ مُوسَىٰ عَصَاهُ فَإِذَا هِيَ تَلۡقَفُ مَا
يَأۡفِكُونَ ٤٥

46. そして魔術師たちは、（それが魔術ではなく、アッラー*の御徴であることを知り、）サジダ*しつつ崩れ落ちた。[2]

فَأُلۡقِيَ ٱلسَّحَرَةُ سَٰجِدِينَ ٤٦

47. 彼らは言った。「私たちは、全創造物の主*を信じました。

قَالُوٓاْ ءَامَنَّا بِرَبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٤٧

48. ムーサー*とハールーン*の主*を」。

رَبِّ مُوسَىٰ وَهَٰرُونَ ٤٨

49. 彼（フィルアウン*）は言った。「私があなた方に許可を出す前に、あなた方は（ムーサー*を）信じた。本当に彼はまさしく、あなた方に魔術を教えた、あなた方の親玉だからだ。ならば、あなた方はきっと（自分たちの失敗を）知ることになろう。私は必ずや、あなた方の手と足を交互に切り落とし、あなた方を全員、磔にしてやろう」。

قَالَ ءَامَنتُمۡ لَهُۥ قَبۡلَ أَنۡ ءَاذَنَ لَكُمۡۖ إِنَّهُۥ
لَكَبِيرُكُمُ ٱلَّذِي عَلَّمَكُمُ ٱلسِّحۡرَ فَلَسَوۡفَ تَعۡلَمُونَۚ
لَأُقَطِّعَنَّ أَيۡدِيَكُمۡ وَأَرۡجُلَكُم مِّنۡ خِلَٰفٖ
وَلَأُصَلِّبَنَّكُمۡ أَجۡمَعِينَ ٤٩

50. 彼ら（魔術師たち）は言った。「全く差し障りはございません。実に私たちは、我らが主*の御許へと戻り行く身なのですから。

قَالُواْ لَا ضَيۡرَۖ إِنَّآ إِلَىٰ رَبِّنَا مُنقَلِبُونَ ٥٠

51. 本当に私たちは、自分たちが信仰者の先駆けとなったことで、私たちの主*が私たちのために、私たちの過ちをお赦しになることを望んでいるのです」。

إِنَّا نَطۡمَعُ أَن يَغۡفِرَ لَنَا رَبُّنَا خَطَٰيَٰنَآ أَن كُنَّآ
أَوَّلَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ٥١

---

1 するとそれらは人々の目に、這い回る大蛇となって見えた（ムヤッサル 369 頁参照）。高壁章 116、ター・ハー章 66 も参照。

2 高壁章 120 の訳注を参照。

52. われら*はムーサー*に、(こう)啓示した。「われら*の僕たち(イスラーイールの子ら*)を連れて夜に、(エジプトを)旅立つのだ。実にあなた方は、追われる身となるのだから」。[1]

وَأَوْحَيْنَآ إِلَىٰ مُوسَىٰٓ أَنْ أَسْرِ بِعِبَادِيٓ إِنَّكُم مُّتَّبَعُونَ ٥٢

53. フィルアウン*は(彼らがエジプトを脱出したことを知ると)、(軍を)召集する者たち(兵隊)を町々に遣わした。

فَأَرْسَلَ فِرْعَوْنُ فِي ٱلْمَدَآئِنِ حَٰشِرِينَ ٥٣

54. (フィルアウン*は言った。)「本当にこれらの者たち[2]は、全くちっぽけな集団である。

إِنَّ هَٰٓؤُلَآءِ لَشِرْذِمَةٌ قَلِيلُونَ ٥٤

55. 本当に彼らは、まさに私たちを憤らせる[3]者たち。

وَإِنَّهُمْ لَنَا لَغَآئِظُونَ ٥٥

56. そして本当に私たちは、まさしく全員、警備万端なる者なのだ」。

وَإِنَّا لَجَمِيعٌ حَٰذِرُونَ ٥٦

57. われら*は、彼ら(フィルアウン*とその民)を果樹園と泉(の土地エジプト)から追い出した。

فَأَخْرَجْنَٰهُم مِّن جَنَّٰتٍ وَعُيُونٍ ٥٧

58. また、財宝(の宝庫)と、上等な居場所から。

وَكُنُوزٍ وَمَقَامٍ كَرِيمٍ ٥٨

59. (彼らの出征は、)そのような次第であった。そしてわれら*はそれら[4]を、イスラーイールの子ら*に受け継がせたのだ。[5]

كَذَٰلِكَ وَأَوْرَثْنَٰهَا بَنِيٓ إِسْرَٰٓءِيلَ ٥٩

---

1 高壁章 127-135 にもあるように、この啓示の前、ムーサー*はエジプトに長期間滞在し、フィルアウン*とその民をアッラー*の教えへと招き続けている(イブン・カスィール 6:142 参照)。また、イスラーイールの子ら*がエジプトを脱出した時の描写(びょうしゃ)については、ユーヌス*章 90-92、ター・ハー章 77-78、煙霧章 23-24 も参照。

2 ムーサー*と、彼と共に脱出したイスラーイールの子ら*のこと(ムヤッサル 369 頁参照)。

3 彼らは、フィルアウン*の宗教に背き、彼の許可なしに国を出たことで、彼を憤らせた(前掲書、同頁参照)。

4 「それら」とは、アーヤ*57-58 で言及されているようなもの(アル=クルトゥビー13:105 参照)。

5 高壁章 137、物語章 5-6 も参照。

60. こうして彼ら（フィルアウン*とその軍勢）は、太陽が昇ると共に、彼ら（イスラーイールの子ら*）を追った。

فَأَتْبَعُوهُم مُّشْرِقِينَ ٦٠

61. 二つの集団がお互いの姿を認めた時、ムーサー*の仲間たちは言った。「本当に私たちは、まさに追いつかれてしまいます」。

فَلَمَّا تَرَٰٓءَا ٱلْجَمْعَانِ قَالَ أَصْحَٰبُ مُوسَىٰٓ إِنَّا لَمُدْرَكُونَ ٦١

62. 彼（ムーサー*）は言った。「断じて（、追いつかれはし）ない。本当に我が主*は私と共にあるのであり、かれは私を（救いの道へと）お導き下さろう」。

قَالَ كَلَّآ ۖ إِنَّ مَعِىَ رَبِّى سَيَهْدِينِ ٦٢

63. われら*はムーサー*に、「あなたの杖で、海を叩け」と啓示した。（彼がそう）すると、それ（海）は割れ、全ての割れた部分は、大きな山のようになった。[1]

فَأَوْحَيْنَآ إِلَىٰ مُوسَىٰٓ أَنِ ٱضْرِب بِّعَصَاكَ ٱلْبَحْرَ ۖ فَٱنفَلَقَ فَكَانَ كُلُّ فِرْقٍ كَٱلطَّوْدِ ٱلْعَظِيمِ ٦٣

64. そしてわれら*は、外の者たち（フィルアウン*とその軍勢）をそこ（海）へと近づけ（て、そこに入らせ）、

وَأَزْلَفْنَا ثَمَّ ٱلْءَاخَرِينَ ٦٤

65. ムーサー*と、彼と共にあった者たちを全員救い出し、

وَأَنجَيْنَا مُوسَىٰ وَمَن مَّعَهُۥٓ أَجْمَعِينَ ٦٥

66. それから外の者たち（フィルアウン*とその軍勢）を、（海を閉じて）溺れさせた。

ثُمَّ أَغْرَقْنَا ٱلْءَاخَرِينَ ٦٦

67. 本当にそこにはまさしく、（アッラー*の御力を示す）御徴[2]がある。彼らの大半は信仰者ではなかったのだ。

إِنَّ فِى ذَٰلِكَ لَءَايَةً ۖ وَمَا كَانَ أَكْثَرُهُم مُّؤْمِنِينَ ٦٧

68. そして本当にあなたの主*、かれこそは偉力ならびない*お方、慈愛深い*お方であられる。

وَإِنَّ رَبَّكَ لَهُوَ ٱلْعَزِيزُ ٱلرَّحِيمُ ٦٨

---

1 そこにはイスラーイールの子ら*の支族数である、十二本の道が出来、その間の海水は盛り上がって大きな山のようになったとされる。彼らはその乾いた道を、無事に渡って対岸に出た（アル＝クルトゥビー13:107 参照）。

2 この「御徴」とは、アッラー*の全能性を示す、驚くべき訓戒のこと（ムヤッサル 370 頁参照）。

69. （使徒*よ）、イブラーヒーム*の知らせを、彼らに誦んで聞かせよ。

وَٱتۡلُ عَلَيۡهِمۡ نَبَأَ إِبۡرَٰهِيمَ ٦٩

70. 彼がその父親と民に、（こう）言った時のこと[1]。「あなた方は、何を崇めているのですか？」

إِذۡ قَالَ لِأَبِيهِ وَقَوۡمِهِۦ مَا تَعۡبُدُونَ ٧٠

71. 彼らは言った。「私たちは偶像を崇めており、それらに仕え続ける」。

قَالُواْ نَعۡبُدُ أَصۡنَامٗا فَنَظَلُّ لَهَا عَٰكِفِينَ ٧١

72. 彼（イブラーヒーム*）は言った。「一体それらは、あなた方が（それらに）祈る時、あなた方のことを聞いてくれるのですか？

قَالَ هَلۡ يَسۡمَعُونَكُمۡ إِذۡ تَدۡعُونَ ٧٢

73. それともそれらは、あなた方を益したり、あるいはあなた方を害したりするのですか？」

أَوۡ يَنفَعُونَكُمۡ أَوۡ يَضُرُّونَ ٧٣

74. 彼らは言った。「いや、私たちは私たちのご先祖様が、そのようにしているのを見出したのだ」。

قَالُواْ بَلۡ وَجَدۡنَآ ءَابَآءَنَا كَذَٰلِكَ يَفۡعَلُونَ ٧٤

75. 彼（イブラーヒーム*）は言った。「それで一体、あなた方は（じっくりと）見てみたのですか？ あなた方が崇めてきたものを？

قَالَ أَفَرَءَيۡتُم مَّا كُنتُمۡ تَعۡبُدُونَ ٧٥

76. あなた方自身と、あなた方の先代のご先祖が（崇めてきたものを）？

أَنتُمۡ وَءَابَآؤُكُمُ ٱلۡأَقۡدَمُونَ ٧٦

77. 本当にそれらは、私にとっての敵。全創造物の主*だけが違うのです。

فَإِنَّهُمۡ عَدُوّٞ لِّيٓ إِلَّا رَبَّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٧٧

78. （かれは）私をお創りになったお方で、かれが私を導いて下さります[2]。

ٱلَّذِي خَلَقَنِي فَهُوَ يَهۡدِينِ ٧٨

79. また、かれは私に食べ物をお授けになり、私に飲み物を与えて下さるお方。

وَٱلَّذِي هُوَ يُطۡعِمُنِي وَيَسۡقِينِ ٧٩

---

1 イブラーヒーム*とその父親、及びその民のやり取りについては、家畜章 74-82、マルヤム*章 42-48、預言者*たち章 52-70、整列者章 85-98、金の装飾章 26-28 も参照。

2 現世と来世における利益へと導いて下さる、ということ（ムヤッサル 370 頁参照）。

80. また、私が病気になった時には、かれが私を癒して下さいます。

وَإِذَا مَرِضْتُ فَهُوَ يَشْفِينِ ٨٠

81. また私を（現世で）死なせ、それから（復活の日*に）私を生かして下さるお方。

وَالَّذِي يُمِيتُنِي ثُمَّ يُحْيِينِ ٨١

82. また報いの日*には、我が過ちをお赦し下さることを、私が所望するお方」。

وَالَّذِي أَطْمَعُ أَن يَغْفِرَ لِي خَطِيٓـَٔتِي يَوْمَ الدِّينِ ٨٢

83. （イブラーヒーム*は、主*に祈って言った。）「我が主*よ、私に英知[1]を授けて下さい。そして私に、正しい者*たちの仲間入りをさせて下さい。

رَبِّ هَبْ لِي حُكْمًا وَأَلْحِقْنِي بِالصَّٰلِحِينَ ٨٣

84. また後代の者たちにおいて、私に対する（人々の、）素晴らしい（賛美の）言葉[2]をお恵み下さい。

وَاجْعَل لِّي لِسَانَ صِدْقٍ فِي الْآخِرِينَ ٨٤

85. また私を、安寧の楽園を相続する[3]者の一人として下さい。

وَاجْعَلْنِي مِن وَرَثَةِ جَنَّةِ النَّعِيمِ ٨٥

86. また、私の父をお赦し下さい[4]。本当に彼は、迷った人々の一人だったのですから。

وَاغْفِرْ لِأَبِي إِنَّهُ كَانَ مِنَ الضَّالِّينَ ٨٦

87. そして彼らが蘇らされる日に、私を辱めないで下さい、

وَلَا تُخْزِنِي يَوْمَ يُبْعَثُونَ ٨٧

88. 財産も子供も役に立たないその日に。

يَوْمَ لَا يَنفَعُ مَالٌ وَلَا بَنُونَ ٨٨

89. 但し、健全な心[5]と共にアッラー*の御許に参じた者は別ですが」。

إِلَّا مَنْ أَتَى اللَّهَ بِقَلْبٍ سَلِيمٍ ٨٩

---

1 この「英知」は、知識と理解のこととされる（ムヤッサル 370 頁参照）。

2 この言葉については、マルヤム*章 50 の訳注を参照。

3 天国を「相続する」という表現については、マルヤム*章 63 の訳注を参照。

4 マルヤム*章 47「お赦しを乞いましょう」の訳注を参照。

5 「健全な心」とは、シルク*、（信仰に対する）疑念、悪への志向、宗教の改新、罪などから無事であり、かつ真摯さ、知識、確信、善への志向、自分自身の意思・愛情・欲望がアッラー*への愛情に基づいているような心のこと（アッ＝サァディー593 頁参照）。

90.　楽園は、敬虔*な者たちに近寄せられる。

وَأُزْلِفَتِ ٱلْجَنَّةُ لِلْمُتَّقِينَ ٩٠

91.　また火獄は、逸脱者たち[1]の前に露わにされる。

وَبُرِّزَتِ ٱلْجَحِيمُ لِلْغَاوِينَ ٩١

92.　そして彼らには、（こう）言われる。「あなた方が崇めていたものは、どこなのか、

وَقِيلَ لَهُمْ أَيْنَ مَا كُنتُمْ تَعْبُدُونَ ٩٢

93.　アッラー*をよそにして？　一体彼らは、あなた方を（アッラー*の懲罰から）助けてくれるのか？　それとも彼らは、自分自身を（そこから）救うというのか？」

مِن دُونِ ٱللَّهِ هَلْ يَنصُرُونَكُمْ أَوْ يَنتَصِرُونَ ٩٣

94.　彼らと逸脱者たち[2]は、そこに逆様に（何度も何度も）投げ集められる。

فَكُبْكِبُواْ فِيهَا هُمْ وَٱلْغَاوُۥنَ ٩٤

95.　そしてイブリース*の軍勢も、全員。

وَجُنُودُ إِبْلِيسَ أَجْمَعُونَ ٩٥

96.　彼らはそこで、（自分たちを迷わせた者たちと）言い争いながら、（こう）言う。

قَالُواْ وَهُمْ فِيهَا يَخْتَصِمُونَ ٩٦

97.　「アッラー*に誓って、本当に私たちは、まさに明らかな迷いの中にあった。

تَٱللَّهِ إِن كُنَّا لَفِي ضَلَٰلٍ مُّبِينٍ ٩٧

98.　私たちがあなた方を、全創造物の主に並べて（崇拝*して）いた時。

إِذْ نُسَوِّيكُم بِرَبِّ ٱلْعَٰلَمِينَ ٩٨

99.　私たちを迷わせたのは、罪悪者たち[3]以外の何ものでもない。

وَمَآ أَضَلَّنَآ إِلَّا ٱلْمُجْرِمُونَ ٩٩

100.　そして私たちには、いかなる執り成し手もなく[4]、

فَمَا لَنَا مِن شَٰفِعِينَ ١٠٠

101.　近しい友人もいない。

وَلَا صَدِيقٍ حَمِيمٍ ١٠١

1　この「逸脱者たち」とは、正しい導きから逸脱し、アッラー*が禁じられた物事に身をやつし、使徒*を嘘つき呼ばわりしていたような者たちのこと（ムヤッサル 371 頁参照）。

2　ここでの「逸脱者たち」は、偶像やシャイターン*など、不信仰者*らがアッラー*をよそに崇めていたものこととされる（アッ＝タバリー8:6217 参照）。

3　この「罪悪者たち」には、「シャイターン*」「彼らが従っていた者たち」などといった解釈がある（アル＝クルトゥビー13:116 参照）。

4　つまり天使*、預言者*、信仰者らの「執り成し手」のこと（前掲書、同頁参照）。「執り成し」については、雌牛章 48、ター・ハー章 109 とその訳注も参照。

102. もし私たちに（現世に）戻ることが出来、
それで信仰者の仲間となれたなら（、よ
かったのだが）」。[1]

فَلَوۡ أَنَّ لَنَا كَرَّةٗ فَنَكُونَ مِنَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ١٠٢

103. 本当にそこ[2]にはまさしく、（アッラーの
唯一性*とシルク*の誤りを示す）御徴[3]
がある。彼ら[4]の大半は信仰者ではなかっ
たのだ。

إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَةٗۖ وَمَا كَانَ أَكۡثَرُهُم مُّؤۡمِنِينَ ١٠٣

104. そして本当にあなたの主*、かれこそは偉
力ならびない*お方、慈愛深い*お方であ
られる。

وَإِنَّ رَبَّكَ لَهُوَ ٱلۡعَزِيزُ ٱلرَّحِيمُ ١٠٤

105. ヌーフ*の民は、遣わされた者（使徒*）
たち[5]を、嘘つき呼ばわりした。

كَذَّبَتۡ قَوۡمُ نُوحٍ ٱلۡمُرۡسَلِينَ ١٠٥

106. 彼らの同胞であるヌーフ*が、彼らに（こ
う）言った時のこと[6]。「一体あなた方は、
（アッラー*を）畏れ*ないのか？

إِذۡ قَالَ لَهُمۡ أَخُوهُمۡ نُوحٌ أَلَا تَتَّقُونَ ١٠٦

107. 本当に私は、（啓示の伝達において）あ
なた方への誠実な使徒*である。

إِنِّي لَكُمۡ رَسُولٌ أَمِينٞ ١٠٧

108. ならばアッラー*を畏れ*、私に従うのだ。

فَٱتَّقُواْ ٱللَّهَ وَأَطِيعُونِ ١٠٨

109. そして、私はそれ（啓示の伝達）ゆえに、
あなた方にいかなる見返りも要求しては
いない。私の見返りは、全創造物の主*か
ら以外にはないのだから。

وَمَآ أَسۡـَٔلُكُمۡ عَلَيۡهِ مِنۡ أَجۡرٍۖ إِنۡ أَجۡرِيَ إِلَّا عَلَىٰ
رَبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ١٠٩

---

1 同様のアーヤ*として、家畜章 27-28、高壁章 12、イブラーヒーム*章 44、信仰者たち章 99-100、サジダ*章 12、創成者章 37、赦し深いお方章 11-12、相談章 44、偽信者*たち章 10-11 も参照。

2 つまり、イブラーヒーム*にまつわる逸話のこと（ムヤッサル 371 頁参照）。

3 この「御徴」に関しては、アーヤ*67 の訳注を参照。

4 この「彼ら」は、イブラーヒーム*の逸話を聞いた者たちのこと（前掲書、同頁参照）。

5 「遣わされた者（使徒*）」が複数形になっていることについては、識別章 37 の訳注を参照。

6 ヌーフ*とその民に起こったことに関しては、高壁章 59-64、フード*章 25-48、信仰者たち章 23-30、整列者章 75-82、月章 9-17、ヌーフ*章なども参照。

110. ならばアッラー*を畏れ*、私に従え」。

فَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ وَأَطِيعُونِ ١١٠

111. 彼ら（ヌーフ*の民）は、言った。「一体私たちが、あなたを信じるというのか？最底辺の者たちが、あなたに従っているというのに？」

۞ قَالُوٓا۟ أَنُؤْمِنُ لَكَ وَٱتَّبَعَكَ ٱلْأَرْذَلُونَ ١١١

112. 彼（ヌーフ*）は言った。「彼らが行っていたことを私が知ったところで、何になるのか？

قَالَ وَمَا عِلْمِى بِمَا كَانُوا۟ يَعْمَلُونَ ١١٢

113. 彼らの（行いや内心に対する）勘定は、我が主*のみに任されたもの。もし、あなた方が気付いてくれれば。

إِنْ حِسَابُهُمْ إِلَّا عَلَىٰ رَبِّى ۖ لَوْ تَشْعُرُونَ ١١٣

114. そして私は、信仰者たちを追いやる者ではない。

وَمَآ أَنَا۠ بِطَارِدِ ٱلْمُؤْمِنِينَ ١١٤

115. 私は明白なる警告者でしかないのだ」。[1]

إِنْ أَنَا۠ إِلَّا نَذِيرٌ مُّبِينٌ ١١٥

116. 彼ら（ヌーフ*の民）は言った。「もしもあなたが（その宗教へ招くのを）止めなければ、ヌーフ*よ、必ずやあなたは（石で）打ち殺される[2]者となろう」。

قَالُوا۟ لَئِن لَّمْ تَنتَهِ يَٰنُوحُ لَتَكُونَنَّ مِنَ ٱلْمَرْجُومِينَ ١١٦

117. 彼（ヌーフ*）は言った。「我が主*よ、本当に我が民は、私を嘘つき呼ばわりしました。

قَالَ رَبِّ إِنَّ قَوْمِى كَذَّبُونِ ١١٧

118. ゆえに私と彼らの間に、裁決をお下しになり、私と、信仰者たちの内で私と共にある者を救って下さい」。

فَٱفْتَحْ بَيْنِى وَبَيْنَهُمْ فَتْحًا وَنَجِّنِى وَمَن مَّعِىَ مِنَ ٱلْمُؤْمِنِينَ ١١٨

119. それでわれら*は彼と、彼と共にある者を満載された船で救った。

فَأَنجَيْنَٰهُ وَمَن مَّعَهُۥ فِى ٱلْفُلْكِ ٱلْمَشْحُونِ ١١٩

120. それから（ヌーフ*らを救った）後、（信仰を拒んだ）残りの者たちを溺れさせた。

ثُمَّ أَغْرَقْنَا بَعْدُ ٱلْبَاقِينَ ١٢٠

---

1 この内容の詳細については、フード*章 27-31 とその訳注を参照。

2 「（石で）打ち殺される」については、フード*章 91 の訳注を参照。

121. 本当にそこにはまさしく、御徴がある。彼らの大半は信仰者ではなかったのだ。

إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَآيَةً ۖ وَمَا كَانَ أَكْثَرُهُم مُّؤْمِنِينَ ١٢١

122. そして本当にあなたの主*、かれこそは偉力ならびない*お方、慈愛深い*お方であられる。

وَإِنَّ رَبَّكَ لَهُوَ الْعَزِيزُ الرَّحِيمُ ١٢٢

123. アード*は、遣わされた者（使徒*）たち[1]を、嘘つき呼ばわりした。

كَذَّبَتْ عَادٌ الْمُرْسَلِينَ ١٢٣

124. 彼らの同胞であるフード*が、彼らに（こう）言った時のこと[2]。「一体あなた方は、（アッラー*を）畏れ*ないのか？

إِذْ قَالَ لَهُمْ أَخُوهُمْ هُودٌ أَلَا تَتَّقُونَ ١٢٤

125. 本当に私は、（啓示の伝達において）あなた方への誠実な使徒である。

إِنِّي لَكُمْ رَسُولٌ أَمِينٌ ١٢٥

126. ならばアッラー*を畏れ*、私に従うのだ。

فَاتَّقُوا اللَّهَ وَأَطِيعُونِ ١٢٦

127. そして、私はそれ（啓示の伝達）ゆえに、あなた方にいかなる見返りも要求してはいない。私の見返りは、全創造物の主*から以外にはないのだから。

وَمَا أَسْأَلُكُمْ عَلَيْهِ مِنْ أَجْرٍ ۖ إِنْ أَجْرِيَ إِلَّا عَلَىٰ رَبِّ الْعَالَمِينَ ١٢٧

128. 一体、あなた方は徒らに、あらゆる高台に塔を建てる[3]のか？

أَتَبْنُونَ بِكُلِّ رِيعٍ آيَةً تَعْبَثُونَ ١٢٨

129. また、自分たちがあたかも永遠に生きるかのように、城郭[4]を造るのか？

وَتَتَّخِذُونَ مَصَانِعَ لَعَلَّكُمْ تَخْلُدُونَ ١٢٩

130. そして、あなた方が（誰かを）制圧する時には、暴虐的に制圧するのだ。

وَإِذَا بَطَشْتُم بَطَشْتُمْ جَبَّارِينَ ١٣٠

---

1 「遣わされた者（使徒*）」が複数形になっていることについては、識別章 37 の訳注を参照。

2 フード*とその民に起こったことについては、高壁章 65-72、フード*章 50-60、詳細にされた章 13-16、砂丘章 21-26、月章 18-22、真実章 1-6、暁章 6-14 なども参照。

3 アード*の民は、通行人を見下ろして馬鹿にするために、そのようなことをしていたという（アル＝バガウィー3:474 参照）。また一説には、自分たちの強大さを誇示するため、必要もないのに無意味に高い建築物を建てていた（イブン・カスィール 6:152 参照）。

4 一説には「城郭」ではなく、貯水池（アッ＝タバリー8:6224 参照）。

131. ならばアッラー*を畏（おそ）れ*、私に従（したが）え。

فَاتَّقُوا اللَّهَ وَأَطِيعُونِ ﴿١٣١﴾

132. そしてあなた方に、あなた方が知っているもの（である各種の恩恵（おんけい））を供給し給（たも）うたお方を畏（おそ）れ*よ。

وَاتَّقُوا الَّذِي أَمَدَّكُم بِمَا تَعْلَمُونَ ﴿١٣٢﴾

133. あなた方に、家畜（かちく）と子供を供給し給（たま）い、

أَمَدَّكُم بِأَنْعَامٍ وَبَنِينَ ﴿١٣٣﴾

134. また果樹（かじゅ）園と泉を（供給し給（たも）うたお方を）。

وَجَنَّاتٍ وَعُيُونٍ ﴿١٣٤﴾

135. 本当に私はあなた方に、偉大なる日の懲罰（ちょうばつ）を怖（おそ）れているのだ」。

إِنِّي أَخَافُ عَلَيْكُمْ عَذَابَ يَوْمٍ عَظِيمٍ ﴿١٣٥﴾

136. 彼らは言った。「あなたが訓戒（くんかい）しようと、訓戒（くんかい）者の類（たぐ）いではなかろうと、私たちには同じこと。

قَالُوا سَوَاءٌ عَلَيْنَا أَوَعَظْتَ أَمْ لَمْ تَكُن مِّنَ الْوَاعِظِينَ ﴿١٣٦﴾

137. これは昔の人々の習（なら）いに過（す）ぎず、[1]

إِنْ هَٰذَا إِلَّا خُلُقُ الْأَوَّلِينَ ﴿١٣٧﴾

138. 私たちは、（たとえ蘇（よみがえ）らされたとしても、）罰（ばっ）される身などではないのだから」。

وَمَا نَحْنُ بِمُعَذَّبِينَ ﴿١٣٨﴾

139. こうして彼らは、彼（フード*）を嘘（うそ）つき呼ばわりし、われら*は彼らを滅（ほろ）ぼした。本当にそこにはまさしく、（アッラー*の御力（おちから）を示す）御徴（みしるし）がある。彼らの大半は信仰者ではなかったのだ。

فَكَذَّبُوهُ فَأَهْلَكْنَاهُمْ ۗ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَآيَةً ۖ وَمَا كَانَ أَكْثَرُهُم مُّؤْمِنِينَ ﴿١٣٩﴾

140. そして本当にあなたの主（しゅ）*、かれこそは偉力（いりょく）ならびない*お方、慈愛（じあい）深い*お方であられる。

وَإِنَّ رَبَّكَ لَهُوَ الْعَزِيزُ الرَّحِيمُ ﴿١٤٠﴾

141. サムード*は、遣（つか）わされた者（使徒（しと）*）たち[2]を、嘘（うそ）つき呼ばわりした。

كَذَّبَتْ ثَمُودُ الْمُرْسَلِينَ ﴿١٤١﴾

---

1 つまり、ある期間を生きては死に、その後には復活も清算もないという「習い」のこと（アル＝バガウィー3:475 参照）。

2 「遣わされた者（使徒*）」が複数形になっていることについては、識別章 37 の訳注を参照。

142. 彼らの同胞であるサーリフ*が、彼らに（こう）言った時のこと[1]。「一体あなた方は、（アッラー*を）畏れ*ないのか？

إِذۡ قَالَ لَهُمۡ أَخُوهُمۡ صَٰلِحٌ أَلَا تَتَّقُونَ ١٤٢

143. 本当に私は、（啓示の伝達において）あなた方への誠実な使徒*である。

إِنِّي لَكُمۡ رَسُولٌ أَمِينٞ ١٤٣

144. ならばアッラー*を畏れ*、私に従うのだ。

فَٱتَّقُواْ ٱللَّهَ وَأَطِيعُونِ ١٤٤

145. そして、私はそれ（啓示の伝達）ゆえに、あなた方にいかなる見返りも要求してはいない。私の見返りは、全創造物の主*からい外にはないのだから。

وَمَآ أَسۡـَٔلُكُمۡ عَلَيۡهِ مِنۡ أَجۡرٍۖ إِنۡ أَجۡرِيَ إِلَّا عَلَىٰ
رَبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ١٤٥

146. 一体あなた方は、ここにそのまま安泰な状態[2]で放っておかれるというのか？

أَتُتۡرَكُونَ فِي مَا هَٰهُنَآ ءَامِنِينَ ١٤٦

147. 果樹園と泉の中で、

فِي جَنَّٰتٖ وَعُيُونٖ ١٤٧

148. そして農作物と、その莢（から出た果実）が熟れたナツメヤシの中で？

وَزُرُوعٖ وَنَخۡلٖ طَلۡعُهَا هَضِيمٞ ١٤٨

149. またあなた方は器用に[3]、山々をくり貫いて家としている。

وَتَنۡحِتُونَ مِنَ ٱلۡجِبَالِ بُيُوتٗا فَٰرِهِينَ ١٤٩

150. ならばアッラー*を畏れ*、私に従うのだ。

فَٱتَّقُواْ ٱللَّهَ وَأَطِيعُونِ ١٥٠

151. そして、（罪に）度を越した者たち[4]の命令に従うのではない。

وَلَا تُطِيعُوٓاْ أَمۡرَ ٱلۡمُسۡرِفِينَ ١٥١

152. 地上で腐敗*を働き、正しいことをしない者たち（の命令）に」。

ٱلَّذِينَ يُفۡسِدُونَ فِي ٱلۡأَرۡضِ وَلَا يُصۡلِحُونَ ١٥٢

---

1 サーリフ*とその民に起こったことについては、高壁章 73-77、フード*章 61-66、アル＝ヒジュル章 80-84、蟻章 45-53、月章 23-32、太陽章 11-15 なども参照。

2 つまり、「この現世に安住しつつ、恩恵を享受し、その喪失（そうしつ）や懲罰、死などを免れた状態」のこと（ムヤッサル 373 頁参照）。

3 外にも「驕（おご）り高ぶって」「活き活きとして」などといった解釈がある（アッ＝タバリー8：6229-6300 参照）。

4 これは一説に、蟻章 48 以降に登場する九人の男たちを指す（アッ＝サァディー596 頁参照）。

153. 彼ら（サムード*）は言った。「実にあなたは、ひどい魔術にかかった者である。

قَالُوٓاْ إِنَّمَآ أَنتَ مِنَ ٱلۡمُسَحَّرِينَ ١٥٣

154. あなたは、私たちと同様の一人の人間でしかない。ならば、御徴[1]を持って来い。もし、あなたが本当のことを言っているのならば、だが」。

مَآ أَنتَ إِلَّا بَشَرٞ مِّثۡلُنَا فَأۡتِ بِـَٔايَةٍ إِن كُنتَ
مِنَ ٱلصَّٰدِقِينَ ١٥٤

155. 彼（サーリフ*）は言った。「これは、（アッラー*が岩山から出して下さった）雌ラクダである。それには水（の割り当て）があり、あなた方にも決められた日の水（の割り当て）がある。[2]

قَالَ هَٰذِهِۦ نَاقَةٞ لَّهَا شِرۡبٞ وَلَكُمۡ شِرۡبُ يَوۡمٖ
مَّعۡلُومٖ ١٥٥

156. また、それに危害を加えることで、偉大なる日の懲罰があなた方に襲いかかるようなことになってはならない。

وَلَا تَمَسُّوهَا بِسُوٓءٖ فَيَأۡخُذَكُمۡ عَذَابُ يَوۡمٍ
عَظِيمٖ ١٥٦

157. こうして彼らは、その（雌ラクダの）腱を切り[3]、 後悔する者となった。

فَعَقَرُوهَا فَأَصۡبَحُواْ نَٰدِمِينَ ١٥٧

158. そして懲罰[4]が、彼らを襲った。本当にそこにはまさしく、御徴[5]がある。彼らの大半は信仰者ではなかったのだ。

فَأَخَذَهُمُ ٱلۡعَذَابُۚ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَةٗۖ وَمَا
كَانَ أَكۡثَرُهُم مُّؤۡمِنِينَ ١٥٨

159. そして本当にあなたの主*、かれこそは偉力ならびない*お方、慈愛深い*お方であられる。

وَإِنَّ رَبَّكَ لَهُوَ ٱلۡعَزِيزُ ٱلرَّحِيمُ ١٥٩

---

1 この「御徴」は、サーリフ*が主張することの正しさを示す証拠、という意味（ムヤッサル 373 頁参照）。

2 この逸話については、高壁章 73-77 とその訳注、フード*章 64-68、月章 27-29、太陽章 13-14 も参照。

3 雌ラクダを屠ることになった経緯（いきさつ）、「腱を切る」の意味については高壁章 77 の訳注を参照。

4 サムード*に下された懲罰の詳細については、頻出名・用語解説の「サムード*」の項を参照。

5 この「御徴」に関しては、アーヤ*67 の訳注を参照。

160. ルート*の民は、遣わされた者（使徒*）たち[1]を、嘘つき呼ばわりした。

كَذَّبَتۡ قَوۡمُ لُوطٍ ٱلۡمُرۡسَلِينَ ١٦٠

161. 彼らの同胞であるルート*が、彼らに（こう）言った時のこと[2]。「一体あなた方は、（アッラー*を）畏れ*ないのか？

إِذۡ قَالَ لَهُمۡ أَخُوهُمۡ لُوطٌ أَلَا تَتَّقُونَ ١٦١

162. 本当に私は、（啓示の伝達において）あなた方への誠実な使徒*である。

إِنِّي لَكُمۡ رَسُولٌ أَمِينٞ ١٦٢

163. ならばアッラー*を畏れ*、私に従うのだ。

فَٱتَّقُواْ ٱللَّهَ وَأَطِيعُونِ ١٦٣

164. そして、私はそれ（啓示の伝達）ゆえに、あなた方にいかなる見返りも要求してはいない。私の見返りは、全創造物の主*から以外にはないのだから。

وَمَآ أَسۡـَٔلُكُمۡ عَلَيۡهِ مِنۡ أَجۡرٍۖ إِنۡ أَجۡرِيَ إِلَّا عَلَىٰ رَبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ١٦٤

165. 一体あなた方は、創造物（である人類）の内の男性に近寄る[3]というのか？

أَتَأۡتُونَ ٱلذُّكۡرَانَ مِنَ ٱلۡعَٰلَمِينَ ١٦٥

166. あなた方の主*があなた方のためにお創りになった、自分たちの妻を放ったらかしにして？ いや、あなた方は（アッラー*の法の）違反者である民である」。

وَتَذَرُونَ مَا خَلَقَ لَكُمۡ رَبُّكُم مِّنۡ أَزۡوَٰجِكُمۚ بَلۡ أَنتُمۡ قَوۡمٌ عَادُونَ ١٦٦

167. 彼ら（ルート*の民）は言った。「もしもあなたが（私たちへの批判を）止めないのなら、ルート*よ、あなたは必ずや（町[4]から）追放される者となろう」。

قَالُواْ لَئِن لَّمۡ تَنتَهِ يَٰلُوطُ لَتَكُونَنَّ مِنَ ٱلۡمُخۡرَجِينَ ١٦٧

168. 彼（ルート*）は言った。「本当に私は、あなた方の行いを嫌悪する者の一人である。

قَالَ إِنِّي لِعَمَلِكُم مِّنَ ٱلۡقَالِينَ ١٦٨

---

1 「遣わされた者（使徒*）」が複数形になっていることについては、識別章 37 の訳注を参照。

2 彼とその民の間に起こった話については、高壁章 80-84、フード*章 77-83、アル＝ヒジュル章 61-77、蟻章 54-58、蜘蛛章 28-35、月章 33-40 も参照。

3 つまり男色のこと（ムヤッサル 374 頁参照）。

4 この町については、フード*章 81「町」の訳注を参照。

169. 我が主*よ、私と私の家族を、彼らが行っていること（と、それゆえの懲罰）からお救い下さい」。

رَبِّ نَجِّنِي وَأَهْلِي مِمَّا يَعْمَلُونَ ١٦٩

170. こうしてわれら*は、彼とその家族を皆救った。

فَنَجَّيْنَٰهُ وَأَهْلَهُۥٓ أَجْمَعِينَ ١٧٠

171. 但し、残っ（て滅ぼされ）た者たちの一人だった老女[1]だけは、別だったが。

إِلَّا عَجُوزًا فِي ٱلْغَٰبِرِينَ ١٧١

172. それからわれら*は、外の者たち（不信仰者*たち）を全滅させた。

ثُمَّ دَمَّرْنَا ٱلْءَاخَرِينَ ١٧٢

173. そして彼らの上に、（石の）大雨を降らせた。警告を受けていた者たち（へ）の雨は、何と忌まわしかったことか。

وَأَمْطَرْنَا عَلَيْهِم مَّطَرًا فَسَآءَ مَطَرُ ٱلْمُنذَرِينَ ١٧٣

174. 本当にそこにはまさしく、御徴がある。彼らの大半は信仰者ではなかったのだ。

إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَءَايَةً وَمَا كَانَ أَكْثَرُهُم مُّؤْمِنِينَ ١٧٤

175. そして本当にあなたの主、かれこそは偉力ならびない*お方、慈愛深い*お方であられる。

وَإِنَّ رَبَّكَ لَهُوَ ٱلْعَزِيزُ ٱلرَّحِيمُ ١٧٥

176. 藪の仲間たち[2]は、遣わされた者（使徒*）たち[3]を、嘘つき呼ばわりした。

كَذَّبَ أَصْحَٰبُ لْـَٔيْكَةِ ٱلْمُرْسَلِينَ ١٧٦

177. シュアイブ*が、彼らに（こう）言った時[4]のこと。「一体あなた方は、（アッラー*を）畏れ*ないのか？

إِذْ قَالَ لَهُمْ شُعَيْبٌ أَلَا تَتَّقُونَ ١٧٧

---

1 この「老女」は、不信仰者*であったルート*の妻のこと（ムヤッサル 374 頁参照）。

2 「藪の仲間たち」については、アル＝ヒジュル章 78 の訳注を参照。また一説によれば、これはシュアイブ*の民であるマドゥヤン*ではなく、別の民のこと。これ以前に言及された預言者*たち同様、シュアイブ*に「彼らの同胞である」という形容がないのは、そのためであるという（イブン・カスィール 6:159-160 参照）。

3 「遣わされた者（使徒*）」が複数形になっていることについては、識別章 37 の訳注を参照。

4 シュアイブ*とその民に起こったことについては、高壁章 85-93、フード*章 84-95、蜘蛛章 36-37 も参照。

178. 本当に私は、（啓示の伝達において）あなた方への誠実な使徒*である。

إِنِّي لَكُمۡ رَسُولٌ أَمِينٞ ١٧٨

179. ならばアッラー*を畏れ*、私に従うのだ。

فَٱتَّقُواْ ٱللَّهَ وَأَطِيعُونِ ١٧٩

180. そして、私はそれ（啓示の伝達）ゆえに、あなた方にいかなる見返りも要求してはいない。私の見返りは、全創造物の主*から以外にはないのだから。

وَمَآ أَسۡـَٔلُكُمۡ عَلَيۡهِ مِنۡ أَجۡرٍۖ إِنۡ أَجۡرِيَ إِلَّا عَلَىٰ
رَبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ١٨٠

181. （量る時には）升[1]を全うし、（他人の権利を奪うべく）減らす者となってはならない。

۞أَوۡفُواْ ٱلۡكَيۡلَ وَلَا تَكُونُواْ مِنَ ٱلۡمُخۡسِرِينَ ١٨١

182. また、正しい秤で量るのだ。

وَزِنُواْ بِٱلۡقِسۡطَاسِ ٱلۡمُسۡتَقِيمِ ١٨٢

183. また、人々に対し、彼らのもの（権利）を損ねたり、腐敗*を働く者となって、地上で退廃を広めたりしてはならない。

وَلَا تَبۡخَسُواْ ٱلنَّاسَ أَشۡيَآءَهُمۡ وَلَا تَعۡثَوۡاْ فِي
ٱلۡأَرۡضِ مُفۡسِدِينَ ١٨٣

184. そして、あなた方と昔の人々の集団を創られたお方を畏れ*よ」。

وَٱتَّقُواْ ٱلَّذِي خَلَقَكُمۡ وَٱلۡجِبِلَّةَ ٱلۡأَوَّلِينَ ١٨٤

185. 彼らは言った。「（シュアイブ*よ、）あなたは、ひどい魔術にかかった者の一人に過ぎない。

قَالُوٓاْ إِنَّمَآ أَنتَ مِنَ ٱلۡمُسَحَّرِينَ ١٨٥

186. そしてあなたは、私たちと同様の一人の人間に過ぎないし、本当に私たちはあなたが、まさしく嘘つきの類いだと思う。

وَمَآ أَنتَ إِلَّا بَشَرٞ مِّثۡلُنَا وَإِن نَّظُنُّكَ لَمِنَ
ٱلۡكَٰذِبِينَ ١٨٦

187. ならば、私たちに天の破片を下す[2]がよい。もしあなたが、本当のことを言っているのならば」。

فَأَسۡقِطۡ عَلَيۡنَا كِسَفٗا مِّنَ ٱلسَّمَآءِ إِن كُنتَ
مِنَ ٱلصَّٰدِقِينَ ١٨٧

1 「升」については、家畜章 152 の訳注を参照。

2 夜の旅章 92 と、その訳注も参照。

188. 彼（シュアイブ*）は言った。「我が主*が、あなた方の行っていることを最もよくご存知である」。[1]

قَالَ رَبِّيٓ أَعۡلَمُ بِمَا تَعۡمَلُونَ ١٨٨

189. こうして彼らは彼を嘘つき呼ばわりし、暗雲の日の懲罰[2]が彼らを襲った。本当にそれは、偉大なる日の懲罰であった。

فَكَذَّبُوهُ فَأَخَذَهُمۡ عَذَابُ يَوۡمِ ٱلظُّلَّةِۚ إِنَّهُۥ كَانَ عَذَابَ يَوۡمٍ عَظِيمٍ ١٨٩

190. 本当にそこにはまさしく、（アッラー*の御力を示す）御徴がある。彼らの大半は信仰者ではなかったのだ。

إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَةٗۖ وَمَا كَانَ أَكۡثَرُهُم مُّؤۡمِنِينَ ١٩٠

191. そして本当にあなたの主、かれこそは偉力ならびない*お方、慈愛深い*お方であられる。

وَإِنَّ رَبَّكَ لَهُوَ ٱلۡعَزِيزُ ٱلرَّحِيمُ ١٩١

192. 実にそれ[3]はまさしく、全創造物の主*から下されたもの。

وَإِنَّهُۥ لَتَنزِيلُ رَبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ١٩٢

193. （啓示の伝達を）託された魂[4]が、それを携えて降臨したのである。

نَزَلَ بِهِ ٱلرُّوحُ ٱلۡأَمِينُ ١٩٣

194. （使徒*よ、）あなたが警告者の一人となるべく、あなたの心へと、

عَلَىٰ قَلۡبِكَ لِتَكُونَ مِنَ ٱلۡمُنذِرِينَ ١٩٤

195. 明白なるアラビアの言葉によって。

بِلِسَانٍ عَرَبِيّٖ مُّبِينٖ ١٩٥

196. また、本当にそれ（クルアーン*）は、まさに先人たちの書巻（啓典）の中に（言及されて）あったのだ。

وَإِنَّهُۥ لَفِي زُبُرِ ٱلۡأَوَّلِينَ ١٩٦

---

1 つまり、アッラー*こそが懲罰を下されるお方であり、預言者*の使命は啓示の伝達と助言を全（まっと）うすることでしかない（アッ＝サァディー597頁参照）。

2 一説によれば、七日間の酷暑（こくしょ）が彼らを襲った後、雲が現れた。彼らは涼むためにその下に集まったが、そこで雲から炎が下り、大地を激震が捕らえた（高壁章 91 参照）。それから轟（とどろ）く一声が鳴り響き（フード*章 94 参照）、彼らは全滅してしまった（イブン・カスィール 6:160-161 参照）。

3 これら預言者*たちとその民の話が言及された、クルアーン*のこと（ムヤッサル 375 頁参照）。

4 この「魂」とはジブリール*のこと（前掲書、同頁参照）。「魂」と形容されていることについては、マルヤム*章 17「われら*の魂」の訳注も参照。

197. 一体、イスラーイールの子ら*の学者たちがそれを知っていること[1]が、彼らにとって（あなたの使徒*性とクルアーン*の正当性）の御徴とはならなかったのか？

أَوَلَمۡ يَكُن لَّهُمۡ ءَايَةً أَن يَعۡلَمَهُۥ عُلَمَٰٓؤُاْ بَنِيٓ إِسۡرَٰٓءِيلَ ١٩٧

198. また、もしわれら*がそれ（クルアーン*）を、ある異邦人[2]たちに下し、

وَلَوۡ نَزَّلۡنَٰهُ عَلَىٰ بَعۡضِ ٱلۡأَعۡجَمِينَ ١٩٨

199. （その者が）彼ら[3]にそれを誦んで（聞かせて）も、彼らはそれを信じる者とはならなかったであろう。

فَقَرَأَهُۥ عَلَيۡهِم مَّا كَانُواْ بِهِۦ مُؤۡمِنِينَ ١٩٩

200. 同様に、われら*はそれ[4]を、罪悪者たちの心の中にも差し入れた。

كَذَٰلِكَ سَلَكۡنَٰهُ فِي قُلُوبِ ٱلۡمُجۡرِمِينَ ٢٠٠

201. 彼らは、痛ましい懲罰を目にするまで、それを信じないのである。

لَا يُؤۡمِنُونَ بِهِۦ حَتَّىٰ يَرَوُاْ ٱلۡعَذَابَ ٱلۡأَلِيمَ ٢٠١

202. そして彼らが気付かない内に、彼らのもとにそれ（懲罰）が突然到来して、

فَيَأۡتِيَهُم بَغۡتَةً وَهُمۡ لَا يَشۡعُرُونَ ٢٠٢

203. （こう）言うことになる（時まで、信じないのだ）。「一体私たちは、猶予される身なのか？」[5]

فَيَقُولُواْ هَلۡ نَحۡنُ مُنظَرُونَ ٢٠٣

---

1 マッカ*の不信仰者*たちにとって啓典の民*は、宗教の諸事について質問することのできる、知識が豊富な学者たちであった。イスラーム*に改宗したかどうかは別にして、そのような者たちが、預言者*ムハンマド*の到来を知り、その特徴を知っていたことは、彼らにとって重要な意味をなした（アル＝クルトゥビー13:138-139 参照）。砂丘章 10 とその訳注も参照。

2 ここでの「異邦人」は原語では「アァジャミー」で、厳密には、たとえ血統的にはアラブ人であっても、アラビア語が上手く話せない者のこと（アル＝バガウィー3:479 参照）。

3 クライシュ族*の不信仰者*たちのこと（ムヤッサル 375 頁参照）。

4 つまり、クルアーン*を否定すること。そしてそれは、彼ら自身の不正*と、否認のせいである（前掲書、同頁参照）。

5 いざ復活の日*（あるいは懲罰や死）が到来すると、彼らは現世での猶予を求めたり、自分たちを現世に返してくれることを頼んだりする。だが、もちろんそれは叶（かな）わない。家畜章 27-28、高壁章 12、イブラーヒーム*章 44、信仰者たち章 99-100、アッ＝サジダ*章 12、創成者*章 37、赦し深いお方章 11-12、相談章 44、偽信者*たち章 10-11 も参照。

204. 一体彼らは、われら*の懲罰を性急に求める[1]のか？

أَفَبِعَذَابِنَا يَسْتَعْجِلُونَ ٢٠٤

205. （使徒*よ、）言ってみよ。もし、われら*が彼らを（罰さずに）何年も楽しませておき、

أَفَرَءَيْتَ إِن مَّتَّعْنَٰهُمْ سِنِينَ ٢٠٥

206. それから彼らのもとに、彼らが警告されていたもの（懲罰）が訪れたとしたら、

ثُمَّ جَآءَهُم مَّا كَانُوا۟ يُوعَدُونَ ٢٠٦

207. 彼らが楽しまされていたものが、彼らの役に立つことがあるものか？と。

مَآ أَغْنَىٰ عَنْهُم مَّا كَانُوا۟ يُمَتَّعُونَ ٢٠٧

208. われら*は警告者たち（を遣わすこと）なしには、いかなる町も滅ぼすことがなかったのだ。[2]

وَمَآ أَهْلَكْنَا مِن قَرْيَةٍ إِلَّا لَهَا مُنذِرُونَ ٢٠٨

209. 教訓のため（の警告者を）。そしてわれら*はもとより、不正*者ではない。

ذِكْرَىٰ وَمَا كُنَّا ظَٰلِمِينَ ٢٠٩

210. また、シャイターン*たちがそれ（クルアーン*）を、（ムハンマド*に）下したのではない。

وَمَا تَنَزَّلَتْ بِهِ ٱلشَّيَٰطِينُ ٢١٠

211. そしてそれは彼らにそぐわないことであり、出来もしないのだ。

وَمَا يَنۢبَغِى لَهُمْ وَمَا يَسْتَطِيعُونَ ٢١١

212. 本当に彼らは、（天からクルアーン*を）聞くことから、まさに遠ざけられている者たちなのだから。[3]

إِنَّهُمْ عَنِ ٱلسَّمْعِ لَمَعْزُولُونَ ٢١٢

---

1 関連するアーヤ*として、家畜章 57-58、戦利品*章 32、ユーヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、サード章 16、相談章 18、階段章 1-2 なども参照。

2 アッラー*は使徒*を遣わして警告させることなく、人々を滅ぼされることがない。関連するアーヤ*として、婦人章 165、家畜章 131、155-157、夜の旅章 15 とその訳注、ター・ハー章 134、創成者*章 24 も参照。

3 アル＝ヒジュル章 17-18 とその訳注、整列者章 6-10、王権章 5、ジン*章 8-9 も参照。

213. ならば、あなた[1]は、アッラー*と共に外の神[2]に祈り、それゆえに罰される者となってはならない。

فَلَا تَدۡعُ مَعَ ٱللَّهِ إِلَٰهًا ءَاخَرَ فَتَكُونَ مِنَ ٱلۡمُعَذَّبِينَ ٢١٣

214. また（使徒*よ）、一番近い親族に警告せよ。[3]

وَأَنذِرۡ عَشِيرَتَكَ ٱلۡأَقۡرَبِينَ ٢١٤

215. そして信仰者たちの内、あなたに従った者に、あなたの翼を下ろしてやれ[4]。

وَٱخۡفِضۡ جَنَاحَكَ لِمَنِ ٱتَّبَعَكَ مِنَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ٢١٥

216. そして、もし彼ら（シルク*の徒）があなたに逆らうのであれば、言うのだ。「本当に私は、あなた方が行っていること[5]から無縁である」。

فَإِنۡ عَصَوۡكَ فَقُلۡ إِنِّي بَرِيٓءٞ مِّمَّا تَعۡمَلُونَ ٢١٦

217. また、偉力ならびない*お方、慈愛深い*お方にこそ、全てを委ねる*のだ、

وَتَوَكَّلۡ عَلَى ٱلۡعَزِيزِ ٱلرَّحِيمِ ٢١٧

218. あなたが（一人礼拝に）立つ時、あなたをご覧になるお方に（全てを委ねよ）。

ٱلَّذِي يَرَىٰكَ حِينَ تَقُومُ ٢١٨

219. また、サジダ*する者たちの中での、あなたの（礼拝の）動作を（をご覧になるお方に）。

وَتَقَلُّبَكَ فِي ٱلسَّٰجِدِينَ ٢١٩

220. 本当にかれこそは、よくお聞きになるお方、全知者であられるのだから。

إِنَّهُۥ هُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلۡعَلِيمُ ٢٢٠

221. （人々よ、）シャイターン*どもが誰に下るのかを、われがあなた方に教えようか？

هَلۡ أُنَبِّئُكُمۡ عَلَىٰ مَن تَنَزَّلُ ٱلشَّيَٰطِينُ ٢٢١

222. 彼らは大嘘つきで罪に溺れた、あらゆる者[6]に下るのだ。

تَنَزَّلُ عَلَىٰ كُلِّ أَفَّاكٍ أَثِيمٖ ٢٢٢

---

1 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。

2 「神」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

3 縒り合わされた章 1 の訳注も参照。尚このアーヤ*が、彼の近親者やアラブ人以外の者に対しての警告を否定しているわけではない。家畜章 19、高壁章 158 とその訳注、識別章 1、サバア章 28 なども参照（イブン・カスィール 6:166 参照）。

4 「翼を下ろす」という表現については、アル＝ヒジュル章 88 の訳注を参照。

5 つまりシルク*や、迷妄（めいもう）のこと（ムヤッサル 376 頁参照）。

6 これは、占い師、あるいはそれと同様の放逸な者たちのこと（前掲書、同頁参照）。

223. 彼ら（シャイターン*）は（天界に）聞き耳を立てる。そして、彼らの大半は嘘つきなのだ。[1]

يُلْقُونَ ٱلسَّمْعَ وَأَكْثَرُهُمْ كَٰذِبُونَ ﴿٢٢٣﴾

224. 詩人たち[2]はといえば、彼らに従うのは、逸脱者たち[3]である。

وَٱلشُّعَرَآءُ يَتَّبِعُهُمُ ٱلْغَاوُۥنَ ﴿٢٢٤﴾

225. 一体（使徒*よ、）あなたは見なかったのか？　彼らがあらゆる谷で、右往左往している[4]のを？

أَلَمْ تَرَ أَنَّهُمْ فِى كُلِّ وَادٍ يَهِيمُونَ ﴿٢٢٥﴾

226. そして彼らが、自分たちがやりもしないことを言うのを？

وَأَنَّهُمْ يَقُولُونَ مَا لَا يَفْعَلُونَ ﴿٢٢٦﴾

227. 但し、信仰して正しい行い*を行い、アッラー*をよく唱念し、（イスラーム*が不信仰者*の詩人らの風刺によって）不正*を受けた後、（イスラーム*の勝利を）援助した者たち[5]は別である。そして不正*を働いた者たち[6]は、彼らがいかなる戻り場所に戻ることになるか、やがて知ることになろう。

إِلَّا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
وَذَكَرُوا۟ ٱللَّهَ كَثِيرًا وَٱنتَصَرُوا۟ مِنۢ بَعْدِ مَا ظُلِمُوا۟ ۗ
وَسَيَعْلَمُ ٱلَّذِينَ ظَلَمُوٓا۟ أَىَّ مُنقَلَبٍ يَنقَلِبُونَ ﴿٢٢٧﴾

---

1 シャイターン*は天界から盗み聞きしたことを、占い師たちに伝える。但し占い師は一つ正しいことを言ったとしても、そこに百の嘘を混ぜるのが、その常である（ムヤッサル 376 頁参照）。アル＝ヒジュル章 17-18 とその訳注、整列者章 6-10、王権章 5、ジン*章 8-9 も参照。

2 解釈学者らによれば、これは不信仰者*で、かつ預言者*ムハンマド*とムスリム*のことを風刺（ふうし）していた「詩人たち」のこと（アル＝バガウィー3:484 参照）。

3 正しい導きから逸脱し、誤った道へと進む者たちのこと（アッ＝サァディー599 頁参照）。

4 つまり、彼らは詩によって真理や正直さを求めず、何かを貶（けな）した後に褒めそやしたかと思えば、その逆のことをしたりする（アッ＝ラーズィー8:538 参照）。また彼らは大抵、事実とは反する空想の世界にあり、その言葉の大半は、女性、恋愛、嘘の誓い、名誉を貶（おとし）めること、血筋の卑下（ひげ）、嘘の約束、根拠のない思い上がり、それに値しない者への讃美といったことと、密接に結びついている（アル＝バイダーウィー4:256 参照）。

5 これはハッサーン・ブン・サービトなど、不信仰者*を風刺し、預言者*とその教友*たちを弁護したムスリム*詩人たちのこと（アル＝バガウィー3:485 参照）。

6 シルク*やアッラー*への不服従によって、自らに不正*を働き、他人の権利を侵すことで、他人に対しても不正*を働いていた者たちのこと（ムヤッサル 376 頁参照）。

第 27 章
蟻章（アン＝ナムル）[1]

سُورَةُ النَّمۡلِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. ター・スィーン[2]。それはクルアーン*と解明する啓典[3]の御徴（アーヤ*）。

2. 信仰者たちへの導きと、吉報である。

3. （彼らは、）来世こそをまさに確信しつつ、礼拝を遵守*し、浄財*を支払う者たち。

4. 本当に、来世を信じない者たち、彼らに対してわれら*は、その（悪い）行いを目映く見せた[4]。それで彼らは彷徨っているのだ。

5. それらの者たちは（現世で）、忌まわしい懲罰がある者たち。そして彼らこそは、まさに来世において最大の損失者なのである。

6. （使徒*よ、）本当にあなたは、全知で英知あふれる*お方の御許から、クルアーン*をまさしく授かっている。

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

طسٓۚ تِلۡكَ ءَايَٰتُ ٱلۡقُرۡءَانِ وَكِتَابٖ مُّبِينٍ ١

هُدٗى وَبُشۡرَىٰ لِلۡمُؤۡمِنِينَ ٢

ٱلَّذِينَ يُقِيمُونَ ٱلصَّلَوٰةَ وَيُؤۡتُونَ ٱلزَّكَوٰةَ
وَهُم بِٱلۡأٓخِرَةِ هُمۡ يُوقِنُونَ ٣

إِنَّ ٱلَّذِينَ لَا يُؤۡمِنُونَ بِٱلۡأٓخِرَةِ زَيَّنَّا لَهُمۡ
أَعۡمَٰلَهُمۡ فَهُمۡ يَعۡمَهُونَ ٤

أُوْلَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ لَهُمۡ سُوٓءُ ٱلۡعَذَابِ وَهُمۡ فِي
ٱلۡأٓخِرَةِ هُمُ ٱلۡأَخۡسَرُونَ ٥

وَإِنَّكَ لَتُلَقَّى ٱلۡقُرۡءَانَ مِن لَّدُنۡ حَكِيمٍ عَلِيمٍ ٦

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称には、このスーラ*だけに登場する語「蟻」（アーヤ*18）の名が冠される。スーラ*冒頭は、イスラーム*の基本的信仰の言及に始まり、次いで数々の預言者*・使徒*の話が取り上げられる。中でも幾多（いくた）の恩恵を授けられ、それに対する感謝の念を惜しまなかったダーウード*とスライマーン*にまつわる話は、彼らが言及されている他のスーラ*に比べ、特に詳しく述べられている。スーラ*後半では、アッラー*の御力・全能性・恩恵を確証しつつ、シルク*を糾弾（きゅうだん）する力強い議論の提示や、死後の復活と清算の証明が躍動（やくどう）的に描かれている。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 「解明する啓典」については、ユースフ*章 1 の訳注を参照。

4 アッラー*が長い時間と豊かな糧を授けて下さったにも関わらず、彼らは自分たちに対するアッラー*の恩恵と善を、自分たちの欲望や自己満足、豪奢（ごうしゃ）さの追求のための手段とし、自分たちの宗教義務は放棄していた（アブー・ハイヤーン 7:53-54）。識別章 18 の訳注も参照。

7. ムーサー*がその家族に、（こう）言った時のこと（を思い起こさせよ）。「本当に私は、火を見出したのだ。私はそこから、あなた方に（道案内の）知らせか、あるいはあなた方が暖を取れるよう、一片の火種をあなた方に持って来るとしよう」。[1]

إِذۡ قَالَ مُوسَىٰ لِأَهۡلِهِۦٓ إِنِّيٓ ءَانَسۡتُ نَارٗا سَـَٔاتِيكُم مِّنۡهَا
بِخَبَرٍ أَوۡ ءَاتِيكُم بِشِهَابٖ قَبَسٖ لَّعَلَّكُمۡ تَصۡطَلُونَ ٧

8. それで彼がそこにやって来ると、（こう）呼びかけられた。「火の中にある者と、その周りにいる者[2]に祝福あれ。全創造物の主*、アッラー*に称え*あれ。

فَلَمَّا جَآءَهَا نُودِيَ أَنۢ بُورِكَ مَن فِي ٱلنَّارِ وَمَنۡ
حَوۡلَهَا وَسُبۡحَٰنَ ٱللَّهِ رَبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٨

9. ムーサー*よ、本当にわれは、偉力ならびなく*英知あふれるアッラー*である」。

يَٰمُوسَىٰٓ إِنَّهُۥٓ أَنَا ٱللَّهُ ٱلۡعَزِيزُ ٱلۡحَكِيمُ ٩

10. （アッラー*は仰せられた。）「そして、あなたの杖を投げてみよ」。（それで彼が杖を投げると、それは大蛇となった。）そして、それが敏捷な小蛇のように躍動するのを目にした時、彼は背を向けて引き下がり、（そこには）戻って来なかった。（アッラー*は仰せられた。）「ムーサー*よ、怖がるのではない。本当にわが御許で、遣わされた者（使徒*）たちが怖がることはないのだから。

وَأَلۡقِ عَصَاكَۚ فَلَمَّا رَءَاهَا تَهۡتَزُّ كَأَنَّهَا جَآنّٞ وَلَّىٰ
مُدۡبِرٗا وَلَمۡ يُعَقِّبۡۚ يَٰمُوسَىٰ لَا تَخَفۡ إِنِّي لَا يَخَافُ
لَدَيَّ ٱلۡمُرۡسَلُونَ ١٠

11. しかし不正*を犯し、それから（罪の）悪の後に、（悔悟という）善きもので換える者（、われはその者を赦してやろう）[3]。実にわれは赦し深い者、慈愛深い*者なのだから。

إِلَّا مَن ظَلَمَ ثُمَّ بَدَّلَ حُسۡنَۢا بَعۡدَ سُوٓءٖ فَإِنِّي غَفُورٞ
رَّحِيمٞ ١١

---

1 このアーヤ*が描写する情景については、ター・ハー章 10 とその訳注、物語章 29 も参照。

2 「火の中にある者」と「その周りにいる者」の解釈には、「前者が火それ自体、後者がムーサー*と天使*たち」「前者が火の近くにいたムーサー*、後者が天使*たち」「前者が御光に包まれたアッラー*で、後者がムーサー*と天使*たち」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー13:158-159 参照）。

3 一説に、このアーヤ*は「不正*を犯し…換える者（は別で、怖がる）」とも解釈される。実際、ムーサー*はコプト人を殺してしまったことで、報復されることを怖がっていた（前掲書 13:161 参照）。詩人たち章 14、物語章 15-17 も参照。

12. また、あなたの手を自分の懐に入れてみよ。そうすれば、それはフィルアウン*とその民への九つの御徴[1]（の一つ）として、災い[2]もなしに白くなって出てくる。本当に彼ら（フィルアウン*とその民）は、放逸な者たちだったのだ」。

وَأَدۡخِلۡ يَدَكَ فِي جَيۡبِكَ تَخۡرُجۡ بَيۡضَآءَ مِنۡ غَيۡرِ
سُوٓءٖۖ فِي تِسۡعِ ءَايَٰتٍ إِلَىٰ فِرۡعَوۡنَ وَقَوۡمِهِۦٓۚ إِنَّهُمۡ
كَانُواْ قَوۡمٗا فَٰسِقِينَ ١٢

13. こうして彼らのもとに、明らかなるわれら*の御徴（奇跡）が到達した時、彼らは言った。「これは紛れもない魔術である」。

فَلَمَّا جَآءَتۡهُمۡ ءَايَٰتُنَا مُبۡصِرَةٗ قَالُواْ هَٰذَا
سِحۡرٞ مُّبِينٞ ١٣

14. そして彼らの心はそれ（奇跡の真実性）を確信しつつも、不正*と傲慢さによって、それを（言葉で）否定した。ならば見よ、腐敗*を働く者たちの結末がいかなるものであったかを？

وَجَحَدُواْ بِهَا وَٱسۡتَيۡقَنَتۡهَآ أَنفُسُهُمۡ ظُلۡمٗا
وَعُلُوّٗاۚ فَٱنظُرۡ كَيۡفَ كَانَ عَٰقِبَةُ ٱلۡمُفۡسِدِينَ ١٤

15. また、われら*は確かに、ダーウード*とスライマーン*に知識を授けた。そして彼らは（その知識に則って行い、）言った。「私たちを、信仰者であるその僕たちの多く（の者）よりお引き立て下さったアッラー*に、全ての称賛*あれ」。

وَلَقَدۡ ءَاتَيۡنَا دَاوُۥدَ وَسُلَيۡمَٰنَ عِلۡمٗاۖ وَقَالَا
ٱلۡحَمۡدُ لِلَّهِ ٱلَّذِي فَضَّلَنَا عَلَىٰ كَثِيرٖ مِّنۡ عِبَادِهِ
ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ١٥

16. そしてスライマーン*は、ダーウード*（の預言者*としての使命と、知識と王権）を継ぎ、言った。「人々よ、私たちは鳥の言葉を教えられ、全ての（必要な）ものの内から授けられた。本当にこれこそは、紛れもない恩寵である」。

وَوَرِثَ سُلَيۡمَٰنُ دَاوُۥدَۖ وَقَالَ يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ
عُلِّمۡنَا مَنطِقَ ٱلطَّيۡرِ وَأُوتِينَا مِن كُلِّ شَيۡءٍۖ إِنَّ
هَٰذَا لَهُوَ ٱلۡفَضۡلُ ٱلۡمُبِينُ ١٦

17. そしてスライマーン*のもとに、ジン*、人間、鳥からなる彼の軍勢が召集され、整列させられた。

وَحُشِرَ لِسُلَيۡمَٰنَ جُنُودُهُۥ مِنَ ٱلۡجِنِّ
وَٱلۡإِنسِ وَٱلطَّيۡرِ فَهُمۡ يُوزَعُونَ ١٧

---

1 「九つの御徴」については、夜の旅章 101 の訳注を参照。

2 この「災い」については、ター・ハー章 22 の訳注を参照。

18. やがて彼ら（スライマーン*の軍勢）が蟻の谷に到着した時、一匹の蟻が（その仲間たちに）言った。「蟻たちよ、自分たちの巣に入りなさい。スライマーン*とその軍勢が気付かぬまま、あなた方を（踏みつけて）粉砕してしまっては、決してなりませんよ」。

حَتَّىٰٓ إِذَآ أَتَوۡاْ عَلَىٰ وَادِ ٱلنَّمۡلِ قَالَتۡ نَمۡلَةٞ
يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّمۡلُ ٱدۡخُلُواْ مَسَٰكِنَكُمۡ لَا يَحۡطِمَنَّكُمۡ
سُلَيۡمَٰنُ وَجُنُودُهُۥ وَهُمۡ لَا يَشۡعُرُونَ ١٨

19. すると、彼（スライマーン*）はその言葉を（理解して）笑い出し、微笑んだ[1]。そして言った。「我が主*よ、あなたが、私と私の両親にお恵みになったあなたの恩恵に私が感謝できるように、そしてあなたのお喜びになる正しい行い*を私が行えるようにして下さい。また、あなたのご慈悲によって（天国で）私に、あなたの正しい僕たちの仲間入りをさせて下さい」。

فَتَبَسَّمَ ضَاحِكٗا مِّن قَوۡلِهَا وَقَالَ رَبِّ أَوۡزِعۡنِيٓ
أَنۡ أَشۡكُرَ نِعۡمَتَكَ ٱلَّتِيٓ أَنۡعَمۡتَ عَلَيَّ وَعَلَىٰ
وَٰلِدَيَّ وَأَنۡ أَعۡمَلَ صَٰلِحٗا تَرۡضَىٰهُ وَأَدۡخِلۡنِي
بِرَحۡمَتِكَ فِي عِبَادِكَ ٱلصَّٰلِحِينَ ١٩

20. そして彼（スライマーン）は、鳥たちを探し回って、言った。「ヤツガシラが見えないのは、どういうことか？　いや、一体彼は、不在なのか？

وَتَفَقَّدَ ٱلطَّيۡرَ فَقَالَ مَالِيَ لَآ أَرَى ٱلۡهُدۡهُدَ
أَمۡ كَانَ مِنَ ٱلۡغَآئِبِينَ ٢٠

21. 私はきっと彼を厳しい罰で罰するか、あるいはその首をはねてやろう。さもなくば、（不在の言い訳として）はっきりとした証拠を、必ずや私のもとに持ってくるのだ」。

لَأُعَذِّبَنَّهُۥ عَذَابٗا شَدِيدًا أَوۡ لَأَاْذۡبَحَنَّهُۥٓ
أَوۡ لَيَأۡتِيَنِّي بِسُلۡطَٰنٖ مُّبِينٖ ٢١

22. 彼（ヤツガシラ）は少しの間、そのまま（不在）であった後[2]、（スライマーン*のもとにやって来て、）言った。「私は、あなたが把握されなかったことを、把握

فَمَكَثَ غَيۡرَ بَعِيدٖ فَقَالَ أَحَطتُ بِمَا لَمۡ
تُحِطۡ بِهِۦ وَجِئۡتُكَ مِن سَبَإِۭ بِنَبَإٖ يَقِينٍ ٢٢

---

1 スライマーン*は、自分が蟻の言葉を理解することが出来るという、アッラー*の恩恵を実感した（ムヤッサル 378 頁参照）。

2 「暫く待っていた」のは、スライマーン*だったという少数説もあり（アル＝クルトゥビー 13：180 参照）。

しました。そしてサバア[1]から、紛(まぎ)れもない知らせと共に、あなたのもとへとやって来たのです。

23. 実に私は、彼ら（サバアの民）を治(おさ)める一人の女性[2]を見つけました。そして彼女は（王が現世で必要とする）全てのものを授(さず)けられ、偉大なる御座(みくら)を有しています。

إِنِّي وَجَدتُّ ٱمۡرَأَةٗ تَمۡلِكُهُمۡ وَأُوتِيَتۡ مِن
كُلِّ شَيۡءٖ وَلَهَا عَرۡشٌ عَظِيمٞ ٢٣

24. 私は、彼女とその民が、アッラー*を差しおいて太陽にサジダ*しているのを見ました。そしてシャイターン*が彼らに、彼ら自身の（悪い）行いを目映(まばゆ)く見せ、彼らを道[3]から阻(はば)んでおり、彼らは導(みちび)かれずにいます。

وَجَدتُّهَا وَقَوۡمَهَا يَسۡجُدُونَ لِلشَّمۡسِ
مِن دُونِ ٱللَّهِ وَزَيَّنَ لَهُمُ ٱلشَّيۡطَٰنُ أَعۡمَٰلَهُمۡ
فَصَدَّهُمۡ عَنِ ٱلسَّبِيلِ فَهُمۡ لَا يَهۡتَدُونَ ٢٤

25. 諸天(しょてん)と大地において潜(ひそ)むもの[4]をお出しになり、あなた方が隠(かく)すことも露(あら)わにすることもご存知のアッラー*に、彼らがサジダ*しないよう（、彼ら自身の悪い行いを目映(まばゆ)く見せているのです。）

أَلَّا يَسۡجُدُواْۤ لِلَّهِ ٱلَّذِي يُخۡرِجُ ٱلۡخَبۡءَ فِي
ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ وَيَعۡلَمُ مَا تُخۡفُونَ
وَمَا تُعۡلِنُونَ ٢٥

26. アッラー*は、かれ以外に（真に）崇拝(すうはい)*すべきいかなるものもないお方、偉大なる御座(みくら)[5]の主(しゅ)*」。（読誦(どくしょう)のサジダ*）

ٱللَّهُ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ رَبُّ ٱلۡعَرۡشِ ٱلۡعَظِيمِ ۩ ٢٦

27. 彼（スライマーン*）は言った。「お前が本当のことを言っているのか、それとも嘘(うそ)つきの類(たぐ)いであるか、調べてみよう。

۞قَالَ سَنَنظُرُ أَصَدَقۡتَ أَمۡ كُنتَ مِنَ
ٱلۡكَٰذِبِينَ ٢٧

---

1 「サバア」は、イエメンの一都市（ムヤッサル 378 頁参照）。

2 彼女の名は、ビルキース・ビント・シャラーヒールとされる（アル＝バガウィー3:498 参照）。

3 この「道」とは、アッラー*への信仰と、かれのみを崇拝*すること（ムヤッサル 379 頁参照）。

4 「潜むもの」とは、天の雨、大地の植物などのこととされる（アッ＝タバリー8:6281 参照）。

5 アッラー*の「御座」に関しては、高壁章 54 の訳注を参照。

28. 私のこの書簡を携えて行き、それを彼ら（サバアの民）のもとに落として来るがよい。それから彼らから離れ、彼らがいかに反応するかを見守るのだ」。

ٱذْهَب بِّكِتَٰبِى هَٰذَا فَأَلْقِهْ إِلَيْهِمْ ثُمَّ تَوَلَّ عَنْهُمْ
فَٱنظُرْ مَاذَا يَرْجِعُونَ ٢٨

29. （ヤツガラシがその命令に従って落として行った書簡を読むと、有力者たちを集めて、）彼女（ビルキース）は言った。「名士たちよ、本当に私のもとに、重大な書簡が届きました。

قَالَتْ يَٰٓأَيُّهَا ٱلْمَلَؤُا۟ إِنِّىٓ أُلْقِىَ إِلَىَّ كِتَٰبٌ
كَرِيمٌ ٢٩

30. まさにそれはスライマーン*からのもので、実にそれは、『慈悲あまねく*慈愛深い*アッラーの御名において。

إِنَّهُۥ مِن سُلَيْمَٰنَ وَإِنَّهُۥ بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ ٣٠

31. 私（があなた方を招くもの）に対して高慢にならず、服従する者（ムスリム*）となられて、私のもとにいらっしゃるがよい』（というもの）です」。

أَلَّا تَعْلُوا۟ عَلَىَّ وَأْتُونِى مُسْلِمِينَ ٣١

32. 彼女は言った。「名士たちよ、私の（この）件について、私にご教示下さい。あなた方が私と（討議のために）同席されない限り、私は何事も決定しません」。

قَالَتْ يَٰٓأَيُّهَا ٱلْمَلَؤُا۟ أَفْتُونِى فِىٓ أَمْرِى مَا كُنتُ
قَاطِعَةً أَمْرًا حَتَّىٰ تَشْهَدُونِ ٣٢

33. 彼らは言った。「私たちは強力ですし、この上ない勇猛さもあります。そして事は、あなたに委ねられているのです。ですから、あなたが何を命じられるか、ご検討下さい」。

قَالُوا۟ نَحْنُ أُو۟لُوا۟ قُوَّةٍ وَأُو۟لُوا۟ بَأْسٍ شَدِيدٍ
وَٱلْأَمْرُ إِلَيْكِ فَٱنظُرِى مَاذَا تَأْمُرِينَ ٣٣

34. 彼女は言った。「本当に王たちが町に（攻め）入れば、それを崩壊させ、その住民の最も高貴な者たちを、最も卑しい者たちとしたものです。——彼らは、そのようにするのである——[1]。

قَالَتْ إِنَّ ٱلْمُلُوكَ إِذَا دَخَلُوا۟ قَرْيَةً أَفْسَدُوهَا وَجَعَلُوٓا۟
أَعِزَّةَ أَهْلِهَآ أَذِلَّةً ۖ وَكَذَٰلِكَ يَفْعَلُونَ ٣٤

1 この挿入句は、アッラー*の御言葉。一説には、ビルキースの言葉（アル＝クルトゥビー 13:195 参照）。

35. それで本当に私は、彼らへの贈り物を送り、使者たちが何を携えて戻って来るか、観察することとします」。

وَإِنِّي مُرۡسِلَةٌ إِلَيۡهِم بِهَدِيَّةٖ فَنَاظِرَةُۢ بِمَ يَرۡجِعُ
ٱلۡمُرۡسَلُونَ ٣٥

36. そして彼（ビルキースの使者）が、スライマーン*のもとに（贈り物を携えて）やって来た時、彼（スライマーン*）は言った。「一体、私に財を援助するというのか？　アッラー*が私に授けて下さったもの[1]の方が、あなた方に授けて下さったものよりも善いというのに。いや、あなた方は自分たちの贈り物に有頂天になっているのだ。

فَلَمَّا جَآءَ سُلَيۡمَٰنَ قَالَ أَتُمِدُّونَنِ بِمَالٖ فَمَآ
ءَاتَىٰنِۦَ ٱللَّهُ خَيۡرٞ مِّمَّآ ءَاتَىٰكُمۚ بَلۡ أَنتُم بِهَدِيَّتِكُمۡ
تَفۡرَحُونَ ٣٦

37. （贈り物を持って、）彼らのもとへ戻るがよい。私たちは必ずや、彼らには到底太刀打ちできない軍勢と共に、彼らのもとに到来しよう。そして必ずや彼らを、惨めに卑しめられた状態で、そこから追い出してやろう」。

ٱرۡجِعۡ إِلَيۡهِمۡ فَلَنَأۡتِيَنَّهُم بِجُنُودٖ لَّا قِبَلَ لَهُم بِهَا
وَلَنُخۡرِجَنَّهُم مِّنۡهَآ أَذِلَّةٗ وَهُمۡ صَٰغِرُونَ ٣٧

38. 彼（スライマーン*）は言った。「名士たちよ、彼らが服従する者（ムスリム*）として私のもとにやって来る前に[2]、あなた方の誰が、私のところに彼女の御座を持って来るのか？[3]」

قَالَ يَٰٓأَيُّهَا ٱلۡمَلَؤُاْ أَيُّكُمۡ يَأۡتِينِي بِعَرۡشِهَا قَبۡلَ أَن
يَأۡتُونِي مُسۡلِمِينَ ٣٨

---

1 莫大な財産をはじめ、預言者*としての使命や王権など、アッラー*から授かったもの（ムヤッサル 380 頁参照）。

2 スライマーン*は、ビルキースらが来ることになるのを知っていた（アッ＝サアディー605 頁参照）。

3 スライマーン*が、何ゆえに彼女の御座を持って来るよう命じたのかについては、「彼女がイスラーム*を受け入れる前に、その御座を自分のものにしようと思ったため」「それを彼女の城から持って来て見せることで、自分の預言者*性とアッラー*の全能性の証拠とするため」「それを彼女に見せ、彼女の知力を試すため」などといった見解がある（アッ＝タバリー8:6293-6294 参照）。

39. ジン*の内の、あるイフリート[1]が言った。「まことに私めが、あなたがご自身の場所からお立ちになる前に、それをあなたのもとに持って参(まい)りましょう。そして、本当に私はそれ（を持って来ること）に対し、実に強く、信用ある者[2]なのです」。

قَالَ عِفْرِيتٌ مِّنَ ٱلْجِنِّ أَنَا۠ ءَاتِيكَ بِهِۦ قَبْلَ أَن تَقُومَ
مِن مَّقَامِكَ ۖ وَإِنِّى عَلَيْهِ لَقَوِىٌّ أَمِينٌ ﴿٣٩﴾

40. 啓典(けいてん)からの知識を備(そな)えた者[3]が言った。「まことに私めは、あなたが視線を移す前に、それをあなたのところへ持って参(まい)りましょう」。こうして（その者が御座(みくら)を持って来ると、）彼（スライマーン*）はそれが確かに自分のところにあるのを見て、言った。「これは、私が果たして感謝するか、あるいは恩(おん)知らずとなるか試(こころ)みるための、我が主(しゅ)*からの恩寵(おんちょう)である。感謝する者は誰でも、感謝することで自分自身を益(えき)するに外(ほか)ならず、恩(おん)知らずな者があろうと、本当に我が主(しゅ)*は、（そのような者の感謝を必要とはされない）満(み)ち足(た)りた*お方、（そのような者にもお恵みになる）貴(とうと)い*お方であられるのだ」。

قَالَ ٱلَّذِى عِندَهُۥ عِلْمٌ مِّنَ ٱلْكِتَٰبِ أَنَا۠ ءَاتِيكَ
بِهِۦ قَبْلَ أَن يَرْتَدَّ إِلَيْكَ طَرْفُكَ ۚ فَلَمَّا رَءَاهُ
مُسْتَقِرًّا عِندَهُۥ قَالَ هَٰذَا مِن فَضْلِ رَبِّى لِيَبْلُوَنِىٓ
ءَأَشْكُرُ أَمْ أَكْفُرُ ۖ وَمَن شَكَرَ فَإِنَّمَا يَشْكُرُ لِنَفْسِهِۦ ۖ
وَمَن كَفَرَ فَإِنَّ رَبِّى غَنِىٌّ كَرِيمٌ ﴿٤٠﴾

41. 彼（スライマーン*）は（、彼の傍(そば)に控(ひか)えている者に）言った。「彼女の御座(みくら)を、彼女に分からないように（手直し）しておけ。（そうしたら）私たちは、一体彼女が（自分の御座(みくら)の認知へと）導(みちび)かれるか、あるい

قَالَ نَكِّرُوا۟ لَهَا عَرْشَهَا نَنظُرْ أَتَهْتَدِىٓ أَمْ
تَكُونُ مِنَ ٱلَّذِينَ لَا يَهْتَدُونَ ﴿٤١﴾

---

1 「イフリート」とは、ジン*の内でも反抗的で強力な者のこととされる（ムヤッサル 380 頁参照）。

2 つまり、それを運ぶに十分な強さと、それに付いている様々な宝飾品に対して信用のある者、ということ（イブン・カスィール 6:192 参照）。

3 この者は、知識と正しさを備えた男であり、アッラー*にその祈りが叶（かな）えられる者であったという（アッ＝サアディー605 頁参照）。

は導（みちび）かれない者の仲間となるか、見てみるとしよう」。[1]

42. こうして彼女（ビルキース）が、（スライマーン*のもとに）やって来た時、（彼女はこう）言われた。「あなたの御座（みくら）は、このようですか？」彼女は言った。「それは、あたかも（私の）それのようです」。（スライマーン*は言った。）「私たちには彼女よりも前に知識[2]が授（さず）けられたのであり、私たちは服従（ふくじゅう）する者（ムスリム*）だったのだ。

فَلَمَّا جَآءَتۡ قِيلَ أَهَٰكَذَا عَرۡشُكِۖ قَالَتۡ كَأَنَّهُۥ هُوَۚ
وَأُوتِينَا ٱلۡعِلۡمَ مِن قَبۡلِهَا وَكُنَّا مُسۡلِمِينَ ٤٢

43. 彼女がアッラー*をよそに崇（あが）めていたものが、彼女を（イスラーム*から）阻（はば）んだのだ。本当に彼女は、不信仰者*の民の一人だったのだから」。[3]

وَصَدَّهَا مَا كَانَت تَّعۡبُدُ مِن دُونِ ٱللَّهِۖ إِنَّهَا كَانَتۡ مِن
قَوۡمٖ كَٰفِرِينَ ٤٣

44. 彼女に、（こう）言われた。「（宮殿（きゅうでん）の）中庭にお入り下さい」。そしてそれを見た時、彼女はそれを水溜（たま）りと思って、自（みずか）らの両脛（すね）を露（あら）わにした。彼（スライマーン*）は言った。「実にそれは（その下を水が流れる）、磨（みが）き上げられたガラス製の中庭なのです」。彼女は（スライマーン*の王国の偉大さを実感し、）言った。「我が主（しゅ）*よ、本当に私は自分自身に不正*を働（はたら）いていました。そしてスライマーン*と共に、全創造物（そうぞうぶつ）の主（しゅ）*アッラー*に服従（ふくじゅう）（イスラーム*）いたします」。

قِيلَ لَهَا ٱدۡخُلِي ٱلصَّرۡحَۖ فَلَمَّا رَأَتۡهُ حَسِبَتۡهُ
لُجَّةٗ وَكَشَفَتۡ عَن سَاقَيۡهَاۚ قَالَ إِنَّهُۥ صَرۡحٞ
مُّمَرَّدٞ مِّن قَوَارِيرَۗ قَالَتۡ رَبِّ إِنِّي ظَلَمۡتُ نَفۡسِي
وَأَسۡلَمۡتُ مَعَ سُلَيۡمَٰنَ لِلَّهِ رَبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٤٤

---

1 スライマーン*がこのようにした理由については、「シャイターン*たちが、『彼女の知性には問題がある』と言ったことを確かめるため」「ジン*たちが、彼がビルキースと結婚し、子供が生まれれば、自分たちがスライマーン*の一族に仕え続けることになるのを恐れたため、『彼女は知性が薄弱で、その足はロバの足のようである』と吹きこんだため」など、諸説ある（アル＝クルトゥビー13:207 参照）。

2 この「知識」は、導き、知力、思慮（しりょ）分別のこととされる（アッ＝サアディー605頁参照）。

3 彼女は知力と、真理と虚妄を見分ける賢明さを備えた女性であったが、誤った教えの中で生まれ育ったがために、不信仰者*の宗教の中にあり続けた（ムヤッサル 380 頁参照）。

45. また、われら*は確かにサムード*に、彼らの同胞であるサーリフ*を遣わした。（サーリフ*は言った。）「アッラー*（だけ）を崇拝*せよ」。するとどうであろう、彼らは言い争う二つの派[1]となってしまった。[2]

وَلَقَدۡ أَرۡسَلۡنَآ إِلَىٰ ثَمُودَ أَخَاهُمۡ صَٰلِحًا أَنِ
ٱعۡبُدُواْ ٱللَّهَ فَإِذَا هُمۡ فَرِيقَانِ يَخۡتَصِمُونَ ٤٥

46. 彼（サーリフ*）は（、不信仰の一派に）言った。「我が民よ、どうしてあなた方は善きものの前に、悪しきものを性急に求める[3]のか？　どうしてあなた方は、自分たちがご慈悲を授かるよう、アッラー*にお赦しを乞わない？」

قَالَ يَٰقَوۡمِ لِمَ تَسۡتَعۡجِلُونَ بِٱلسَّيِّئَةِ قَبۡلَ
ٱلۡحَسَنَةِۖ لَوۡلَا تَسۡتَغۡفِرُونَ ٱللَّهَ لَعَلَّكُمۡ
تُرۡحَمُونَ ٤٦

47. 彼らは言った。「私たちはあなたと、あなたと共に（あなたの宗教に）ある者を、不吉に思う[4]」。彼（サーリフ*）は言った。「あなた方の不吉のもとは、アッラー*の御許にある[5]。いや、あなた方は試練にかけられている民[6]なのである」。

قَالُواْ ٱطَّيَّرۡنَا بِكَ وَبِمَن مَّعَكَۚ قَالَ طَٰٓئِرُكُمۡ
عِندَ ٱللَّهِۖ بَلۡ أَنتُمۡ قَوۡمٞ تُفۡتَنُونَ ٤٧

48. 町[7]には、地上で腐敗*を働き、正しいことをしない九人の男たち[8]がいた。

وَكَانَ فِي ٱلۡمَدِينَةِ تِسۡعَةُ رَهۡطٖ
يُفۡسِدُونَ فِي ٱلۡأَرۡضِ وَلَا يُصۡلِحُونَ ٤٨

---

1 サーリフ*を信じた一派と、彼を信じない一派のこと（ムヤッサル 380 頁参照）。

2 この言い争いの一部については、高壁章 73-76、フード*章 61-63、詩人たち章 141-154、月章 23-26 章も参照。

3 褒美をもたらしてくれる信仰や善行を後回しにし、罪をもたらす不信仰や悪行に急ぐ様を表す（前掲書 381 頁参照）。

4 「不吉に思う」については、高壁章 131 の訳注を参照。

5 この意味については、高壁章 131 の訳注を参照。

6 順境と逆境、善と悪によって試練にかけられている者、ということ（前掲書、同頁参照）。

7 サムード*の町アル＝ヒジュルのこと（アッ＝タバリー8：6305 参照）。アル＝ヒジュル 80 の訳注も参照。

8 この「九人の男」たちが、サムード*の有力者たちであり、雌ラクダを殺した者たちであるという（イブン・カスィール 6:198 参照）。高壁章 73 とその訳注、フード*章 64-68、詩人たち章 155-157、月章 27-29、太陽章 13-14 も参照。

49. 彼らは（互いに）言った。「お互いに、アッラー*に（こう）誓うのだ。『私たちは必ずや、彼（サーリフ*）とその家族を夜に陰謀し（て殺し）、それから彼の後見人には、（こう）言うのだ。私たちは彼の家族の殺害には立ち会っていないし、本当に私たちはまさしく正直者なのだ、と』」。

قَالُواْ تَقَاسَمُواْ بِٱللَّهِ لَنُبَيِّتَنَّهُۥ وَأَهۡلَهُۥ ثُمَّ لَنَقُولَنَّ لِوَلِيِّهِۦ مَا شَهِدۡنَا مَهۡلِكَ أَهۡلِهِۦ وَإِنَّا لَصَٰدِقُونَ ٤٩

50. 彼らはまさに策謀し、われら*も彼らが気付かぬ内に、まさに策謀した。[1]

وَمَكَرُواْ مَكۡرٗا وَمَكَرۡنَا مَكۡرٗا وَهُمۡ لَا يَشۡعُرُونَ ٥٠

51. （使徒*よ、）彼らの策謀の結末がいかなるものだったか、見てみよ。われら*が彼らとその民を、全滅させたことを。

فَٱنظُرۡ كَيۡفَ كَانَ عَٰقِبَةُ مَكۡرِهِمۡ أَنَّا دَمَّرۡنَٰهُمۡ وَقَوۡمَهُمۡ أَجۡمَعِينَ ٥١

52. そしてそれらは、彼らが不正*を働いていたことゆえ（、アッラー*に滅ぼされて）崩れ落ちた[2]、彼らの家。本当にその中にはまさしく、知識ある民への御徴がある。

فَتِلۡكَ بُيُوتُهُمۡ خَاوِيَةَۢ بِمَا ظَلَمُوٓاْۚ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَةٗ لِّقَوۡمٖ يَعۡلَمُونَ ٥٢

53. またわれら*は、信仰し、（アッラー*を）畏れ*ていた者たちを救った。

وَأَنجَيۡنَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَكَانُواْ يَتَّقُونَ ٥٣

54. また、ルート*（のことを思い出せ）。彼がその民に、（こう）言った時[3]のこと。「一体あなた方は、（その醜悪さを）心得ていながら、醜行[4]を行うのか？

وَلُوطًا إِذۡ قَالَ لِقَوۡمِهِۦٓ أَتَأۡتُونَ ٱلۡفَٰحِشَةَ وَأَنتُمۡ تُبۡصِرُونَ ٥٤

55. 本当にあなた方は女性を差しおいて、欲望ゆえに男性に赴こう[5]などとしているのか？ いや、あなた方は無知な民である」。

أَئِنَّكُمۡ لَتَأۡتُونَ ٱلرِّجَالَ شَهۡوَةٗ مِّن دُونِ ٱلنِّسَآءِۚ بَلۡ أَنتُمۡ قَوۡمٞ تَجۡهَلُونَ ٥٥

---

1 つまりアッラー*は、彼らの策謀に対し、彼らへの懲罰を早めることで応じられた（アル＝バガウィー3:509 参照）。

2 この「崩れ落ちた」については、雌牛章 259 の訳注を参照。

3 彼とその民の間に起こった話については、高壁章 80-84、フード*章 77-83、アル＝ヒジュル章 61-77、詩人たち章 160-175、蜘蛛章 28-35、月章 33-40 も参照。

4 「醜行」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。

5 つまり男色のこと（ムヤッサル 381 頁参照）。

56. その民の答えは、（このように）言うことだけであった。「ルート*の家族を、あなた方の町[1]から追放するのだ。本当に彼らは、潔癖ぶった人々なのだから」。

۞ فَمَا كَانَ جَوَابَ قَوۡمِهِۦٓ إِلَّآ أَن قَالُوٓاْ
أَخۡرِجُوٓاْ ءَالَ لُوطٖ مِّن قَرۡيَتِكُمۡۖ إِنَّهُمۡ أُنَاسٞ
يَتَطَهَّرُونَ ٥٦

57. こうしてわれら*は、彼と、彼の妻を除いた彼の家族を救った。われら*は彼女を、残っ（て滅ぼされ）た者たちの一人と定めたのだ。

فَأَنجَيۡنَٰهُ وَأَهۡلَهُۥٓ إِلَّا ٱمۡرَأَتَهُۥ قَدَّرۡنَٰهَا
مِنَ ٱلۡغَٰبِرِينَ ٥٧

58. そしてわれら*は彼らの上に、（石の）大雨を降らせた。警告を受けていた者たち（へ）の雨は、何と忌まわしかったことか。

وَأَمۡطَرۡنَا عَلَيۡهِم مَّطَرٗاۖ فَسَآءَ مَطَرُ
ٱلۡمُنذَرِينَ ٥٨

59. （使徒*ムハンマド*よ、）言うがよい。「アッラー*に全ての称賛*あれ。そしてかれがお選びになった、かれの僕たちに平安を[2]。一体アッラー*がよいのか、それとも彼らが（アッラー*に）並べているものか？

قُلِ ٱلۡحَمۡدُ لِلَّهِ وَسَلَٰمٌ عَلَىٰ عِبَادِهِ ٱلَّذِينَ
ٱصۡطَفَىٰٓۗ ءَآللَّهُ خَيۡرٌ أَمَّا يُشۡرِكُونَ ٥٩

60. いや、諸天と大地をお創りになり、あなた方に天から（雨）水をお降らしになり、それにより麗しい庭園――あなた方に、その木々を生やすことは叶わない[3]――を生育させられたお方か（、それとも彼らが並べているものがよいのか）？ 一体、アッラー*と共に崇拝*するに値するものなど、あるのか？ いや、彼らは（真理から）逸れ去る民である。

أَمَّنۡ خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَ وَأَنزَلَ لَكُم
مِّنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءٗ فَأَنۢبَتۡنَا بِهِۦ حَدَآئِقَ ذَاتَ
بَهۡجَةٖ مَّا كَانَ لَكُمۡ أَن تُنۢبِتُواْ
شَجَرَهَآۗ أَءِلَٰهٞ مَّعَ ٱللَّهِۚ بَلۡ هُمۡ قَوۡمٞ
يَعۡدِلُونَ ٦٠

---

1 この「町」については、フード*章81の訳注を参照。

2 つまり預言者*や使徒*たちの業績を讃え、その高い地位と、あらゆる悪や汚れからの無縁さ、アッラー*について彼らが語ったことにおける無謬性について、言及すること（アッ＝サァディー607頁参照）。

3 つまり、アッラー*が水を与えて下さらない限りは、ということ（ムヤッサル382頁参照）。

61. いや、大地を安住の地とされ、その裂け目に河川を流れさせられ、そこに堅固な山々を設けられ、二つの海の間に障壁を置かれた[1]お方か（、それとも彼らが並べているものがよいのか）？ 一体、アッラー*と共に崇拝*するに値するものなど、あるのか？ いや、彼らの大半は分からないのだ。

أَمَّن جَعَلَ ٱلۡأَرۡضَ قَرَارٗا وَجَعَلَ خِلَٰلَهَآ
أَنۡهَٰرٗا وَجَعَلَ لَهَا رَوَٰسِيَ وَجَعَلَ بَيۡنَ
ٱلۡبَحۡرَيۡنِ حَاجِزًاۗ أَءِلَٰهٞ مَّعَ ٱللَّهِۚ بَلۡ
أَكۡثَرُهُمۡ لَا يَعۡلَمُونَ ٦١

62. いや、窮迫した者が呼べば応えられ、災いを取り除かれ、あなた方を地上の継承者[2]とされるお方か（、それとも彼らが並べているものがよいのか）？ 一体、アッラー*と共に崇拝*するに値するものなど、あるのか？ あなた方が教訓を得ることの、実に少ないこと。

أَمَّن يُجِيبُ ٱلۡمُضۡطَرَّ إِذَا دَعَاهُ وَيَكۡشِفُ
ٱلسُّوٓءَ وَيَجۡعَلُكُمۡ خُلَفَآءَ ٱلۡأَرۡضِۗ
أَءِلَٰهٞ مَّعَ ٱللَّهِۚ قَلِيلٗا مَّا تَذَكَّرُونَ ٦٢

63. いや、陸と海の闇の中、あなた方を導かれるお方、そしてそのご慈悲（雨）の前触れに吉報を告げる風を送られるお方か（、それとも彼らが並べているものがよいのか）？ 一体、アッラー*と共に崇拝*するに値するものなど、あるのか？ アッラー*は、彼らが（アッラー*に）並べるものから、高遠であられる。

أَمَّن يَهۡدِيكُمۡ فِي ظُلُمَٰتِ ٱلۡبَرِّ وَٱلۡبَحۡرِ
وَمَن يُرۡسِلُ ٱلرِّيَٰحَ بُشۡرَۢا بَيۡنَ يَدَيۡ
رَحۡمَتِهِۦٓۗ أَءِلَٰهٞ مَّعَ ٱللَّهِۚ تَعَٰلَى ٱللَّهُ عَمَّا
يُشۡرِكُونَ ٦٣

64. いや、創造をお始めになり、それから（再び）それを繰り返されるお方、そして天と地から、あなた方に糧をお授け下さるお方か（、それとも彼らが並べているものがよいのか）？ 一体、アッラー*と共に崇拝*するに値するものなど、あるのか？」言ってやれ。「あなた方の明証[3]を持って来るの

أَمَّن يَبۡدَؤُاْ ٱلۡخَلۡقَ ثُمَّ يُعِيدُهُۥ وَمَن يَرۡزُقُكُم مِّنَ
ٱلسَّمَآءِ وَٱلۡأَرۡضِۗ أَءِلَٰهٞ مَّعَ ٱللَّهِۚ قُلۡ هَاتُواْ
بُرۡهَٰنَكُمۡ إِن كُنتُمۡ صَٰدِقِينَ ٦٤

1 「二つの海の間の障壁」については、識別章 53、慈悲あまねき*お方章 19-20 も参照。

2 「継承者」については、家畜章 165 の訳注を参照。

3 つまり、アッラー*の王権と崇拝において、かれに同位者があるという「明証」のこと（ムヤッサル 383 頁参照）。

だ。もし、あなた方が本当のことを言っているのならば」。

65. （使徒*よ、）言ってやれ。「諸天と大地にあるいかなるものも、不可視の世界*を知らない。しかし、アッラー*だけ（が、ご存知）なのだ。そして彼らは、いつ蘇らされるか、知りもしない。

قُل لَّا يَعْلَمُ مَن فِي السَّمَٰوَٰتِ وَالْأَرْضِ الْغَيْبَ إِلَّا
اللَّهُ ۚ وَمَا يَشْعُرُونَ أَيَّانَ يُبْعَثُونَ ﴿٦٥﴾

66. いや、彼らの知は来世で達成される[1]。いや、彼らはそれ（来世）に疑念を抱いている。いや、彼らはそれに盲目[2]なのである」。

بَلِ ادَّارَكَ عِلْمُهُمْ فِي الْآخِرَةِ ۚ بَلْ هُمْ فِي شَكٍّ
مِّنْهَا ۖ بَلْ هُم مِّنْهَا عَمُونَ ﴿٦٦﴾

67. 不信仰に陥った者*たちは言った。「一体、私たちと、私たちのご先祖が（死んで）土となった後、一体本当に私たちが（蘇らされて）出される身なのか？

وَقَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا أَإِذَا كُنَّا تُرَابًا
وَآبَاؤُنَا أَئِنَّا لَمُخْرَجُونَ ﴿٦٧﴾

68. 以前にも私たちと私たちのご先祖様は、確かにこのこと（死後の復活）を約束されたのだ（が、その事実は目にしなかったし、起こりもしなかったのだ）。こんなものは、昔の人々のお伽話に過ぎない」。

لَقَدْ وُعِدْنَا هَٰذَا نَحْنُ وَآبَاؤُنَا مِن قَبْلُ إِنْ
هَٰذَا إِلَّا أَسَٰطِيرُ الْأَوَّلِينَ ﴿٦٨﴾

69. （使徒*よ、）言ってやれ。「あなた方は地上を旅して、罪悪者たちの結末がどのようなものであったか、見てみるがよい」。

قُلْ سِيرُوا فِي الْأَرْضِ فَانظُرُوا كَيْفَ كَانَ
عَٰقِبَةُ الْمُجْرِمِينَ ﴿٦٩﴾

70. そして、彼らゆえに悲しまず、彼らが策謀することゆえに心苦しくなるのではない。

وَلَا تَحْزَنْ عَلَيْهِمْ وَلَا تَكُن فِي ضَيْقٍ مِّمَّا
يَمْكُرُونَ ﴿٧٠﴾

71. 彼ら（シルク*の徒）は言う。「この約束は、一体いつのことなのか？ もし、あなた方が本当のことを言っているのなら？」

وَيَقُولُونَ مَتَىٰ هَٰذَا الْوَعْدُ إِن كُنتُمْ
صَٰدِقِينَ ﴿٧١﴾

1 彼らは、自分たちに来世が到来し、その日の恐怖を目の当たりにして始めて、来世を確信する（ムヤッサル 383 頁参照）。

2 「盲目」については、雌牛章 7、家畜章 50、雷鳴章 16、フード*章 20、24、巡礼*章 46 とその訳注も参照。

72. （使徒*よ、）言ってやれ。「あなた方が性急に求めているもの（アッラー*からの罰）の一部は、あなた方に近づいたかもしれない」。[1]

قُلْ عَسَىٰٓ أَن يَكُونَ رَدِفَ لَكُم بَعْضُ ٱلَّذِى تَسْتَعْجِلُونَ ﴿٧٢﴾

73. 実にあなたの主*は、人々に対するまさに恩寵の主なのだが、彼らの大半は感謝[2]しないのだ。

وَإِنَّ رَبَّكَ لَذُو فَضْلٍ عَلَى ٱلنَّاسِ وَلَٰكِنَّ أَكْثَرَهُمْ لَا يَشْكُرُونَ ﴿٧٣﴾

74. また本当にあなたの主*は、彼らの胸が隠しているものも、露わにしているものも、ご存知である。

وَإِنَّ رَبَّكَ لَيَعْلَمُ مَا تُكِنُّ صُدُورُهُمْ وَمَا يُعْلِنُونَ ﴿٧٤﴾

75. そして天と地に潜むいかなるものでも、明白な書[3]に記されていないものはない。

وَمَا مِنْ غَآئِبَةٍ فِى ٱلسَّمَآءِ وَٱلْأَرْضِ إِلَّا فِى كِتَٰبٍ مُّبِينٍ ﴿٧٥﴾

76. 本当にこのクルアーン*は、イスラーイールの子ら*に、彼らが意見を異にする大半のことについて、語って聞かせる。[4]

إِنَّ هَٰذَا ٱلْقُرْءَانَ يَقُصُّ عَلَىٰ بَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ أَكْثَرَ ٱلَّذِى هُمْ فِيهِ يَخْتَلِفُونَ ﴿٧٦﴾

77. そして実にそれは、まさしく信仰者たちへの導きであり、慈悲なのだ。

وَإِنَّهُۥ لَهُدًى وَرَحْمَةٌ لِّلْمُؤْمِنِينَ ﴿٧٧﴾

78. 本当にあなたの主*は、その裁決で、彼らの間をお裁きになる。かれは偉力ならびない*お方、全知者であられる。

إِنَّ رَبَّكَ يَقْضِى بَيْنَهُم بِحُكْمِهِۦ ۚ وَهُوَ ٱلْعَزِيزُ ٱلْعَلِيمُ ﴿٧٨﴾

79. ならば（使徒*よ）、アッラー*に全てを委ねよ*。あなたこそは、紛れもない真理の上にあるのだから。

فَتَوَكَّلْ عَلَى ٱللَّهِ ۖ إِنَّكَ عَلَى ٱلْحَقِّ ٱلْمُبِينِ ﴿٧٩﴾

---

1 「復活の日*の近さ」については、蜜蜂章 1、預言者*たち章 1 の訳注も参照。

2 つまり感謝して信仰し、アッラー*だけを崇拝*すること（ムヤッサル 383 頁参照）。

3 「明白な書」とは、守られし碑版*のこと（アッ＝サァディー609 頁参照）。

4 例えばイーサー*に関して言えば、キリスト教徒*は彼に神性を認めることで、ユダヤ教徒*は彼を嘘つき呼ばわりすることで、いずれも極端な立場を取った。一方クルアーン*は、彼をアッラー*のしもべ・使徒*の一人として位置づけ、公正かつ中庸（ちゅうよう）な立場を表明した（イブン・カスィール 6:210 参照）。

80. （使徒*よ、）本当にあなたは呼びかけを、死人らに聞かせることも、聾たちに聞かせることも出来ない。彼らが（あなたから）背を向けて立ち去るのであれば。[1]

إِنَّكَ لَا تُسۡمِعُ ٱلۡمَوۡتَىٰ وَلَا تُسۡمِعُ ٱلصُّمَّ ٱلدُّعَآءَ
إِذَا وَلَّوۡاْ مُدۡبِرِينَ ٨٠

81. またあなたは、盲人[2]たちをその迷いから導く者でもない。あなたが聞かせられるのは、われら*の御徴を信じる者だけ。というのも、彼らは服従する者（ムスリム*）なのだから。[3]

وَمَآ أَنتَ بِهَٰدِي ٱلۡعُمۡيِ عَن ضَلَٰلَتِهِمۡۖ إِن
تُسۡمِعُ إِلَّا مَن يُؤۡمِنُ بِـَٔايَٰتِنَا فَهُم مُّسۡلِمُونَ ٨١

82. 彼らに対する（懲罰の）御言葉が確定された時、われら*は彼らのために大地から大獣[4]を出す。それは彼らに、（復活を否定する）人々が、われら*の御徴を確信してはいなかったことについて、話し聞かせるのだ。

۞وَإِذَا وَقَعَ ٱلۡقَوۡلُ عَلَيۡهِمۡ أَخۡرَجۡنَا لَهُمۡ دَآبَّةٗ
مِّنَ ٱلۡأَرۡضِ تُكَلِّمُهُمۡ أَنَّ ٱلنَّاسَ كَانُواْ
بِـَٔايَٰتِنَا لَا يُوقِنُونَ ٨٢

83. われら*が、全ての共同体の内から、われら*の御徴を嘘呼ばわりしていた集団を召集し、彼らが整列させられる日のこと（を思い起こさせよ）。

وَيَوۡمَ نَحۡشُرُ مِن كُلِّ أُمَّةٖ فَوۡجٗا مِّمَّن يُكَذِّبُ
بِـَٔايَٰتِنَا فَهُمۡ يُوزَعُونَ ٨٣

84. やがて彼らがやって来ると、かれ（アッラー*）は仰せられる。「一体あなた方は、わが御徴[5]を嘘呼ばわりしていたのか？それについて、よく知りもしなかった[6]の

حَتَّىٰٓ إِذَا جَآءُو قَالَ أَكَذَّبۡتُم بِـَٔايَٰتِي وَلَمۡ
تُحِيطُواْ بِهَا عِلۡمًا أَمَّاذَا كُنتُمۡ تَعۡمَلُونَ ٨٤

1 この「聾」については、雌牛章 7、18、フード*章 20、24 とその訳注も参照。

2 この「盲人」については、雌牛章 7、18、家畜章 50、104、雷鳴章 16、フード*章 20、24、巡礼*章 46 とその訳注を参照。

3 最終的な導きがアッラー*のみに委ねられていることについては、雌牛章 272、蜜蜂章 37、ユーヌス*章 99-100、物語章 56、相談章 52 とその訳注も参照。

4 この「大獣」の出現は、復活の日*の予兆の一つ（ムスリム「試練と復活の日の諸予兆の書」39 参照）。

5 この「御徴」は、クルアーン*を始めとする、アッラーの唯一性*を示す証拠の数々のこと（ムヤッサル 384 頁参照）。

6 つまり、それが嘘だと熟知してはいなかったのに、嘘呼ばわりしていた、ということ（前掲書、同頁参照）。

に？ いや、一体あなた方は、何を行っていたのか？」

85. 彼らには、自分たちが不正*を働いていたことゆえの（懲罰という）御言葉が確定され、彼らは（まともな言い訳を）喋ることもない[1]。

وَوَقَعَ ٱلْقَوْلُ عَلَيْهِم بِمَا ظَلَمُوا۟ فَهُمْ لَا
يَنطِقُونَ ﴿٨٥﴾

86. 一体彼らは、彼らがそこで安らぐようにわれらが夜を創り、昼を（生活のために）視界が利くものとしたのを、見なかったのか？ 実にそこにはまさしく、信じる民への御徴があるのだ。

أَلَمْ يَرَوْا۟ أَنَّا جَعَلْنَا ٱلَّيْلَ لِيَسْكُنُوا۟ فِيهِ
وَٱلنَّهَارَ مُبْصِرًا ۚ إِنَّ فِى ذَٰلِكَ لَءَايَٰتٍ لِّقَوْمٍ
يُؤْمِنُونَ ﴿٨٦﴾

87. 角笛に吹き込まれ[2]、諸天にいる全ての者と、大地にいる全ての者が戦慄する日のこと（を思い起こさせよ）。但し、アッラー*が（恐怖からの安全を）お望みになる者は別である。全ての者は低頭して、かれの御許にやって来るのだ。

وَيَوْمَ يُنفَخُ فِى ٱلصُّورِ فَفَزِعَ مَن فِى ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَمَن فِى ٱلْأَرْضِ إِلَّا مَن شَآءَ ٱللَّهُ ۚ وَكُلٌّ
أَتَوْهُ دَٰخِرِينَ ﴿٨٧﴾

88. また、あなたは山々を、それらが静止しているものと思って見る。それは、雲の流れのように（速く）流れているのに[3]。全てのものを完璧に仕上げられたアッラー*の御業。本当にかれは、あなた方のすることに通暁されているのだ。

وَتَرَى ٱلْجِبَالَ تَحْسَبُهَا جَامِدَةً وَهِىَ تَمُرُّ مَرَّ
ٱلسَّحَابِ ۚ صُنْعَ ٱللَّهِ ٱلَّذِىٓ أَتْقَنَ كُلَّ شَىْءٍ ۚ
إِنَّهُۥ خَبِيرٌۢ بِمَا تَفْعَلُونَ ﴿٨٨﴾

89. （復活の日*、）善行[4]と共にやって来た者、彼にはそれよりも善きもの[5]がある。そして彼らはその日、戦慄から無事な者たちである。

مَن جَآءَ بِٱلْحَسَنَةِ فَلَهُۥ خَيْرٌ مِّنْهَا وَهُم مِّن فَزَعٍ
يَوْمَئِذٍ ءَامِنُونَ ﴿٨٩﴾

---

1 夜の旅章 97「盲目で、唖で、聾の状態のまま召集する」の訳注も参照。

2 「角笛に吹き込まれ」ることについては、家畜章 73 の訳注を参照。

3 復活の日*における山々の様子については、洞窟章 47 の訳注を参照。

4 この「善行」は、アッラーの唯一性*の信仰と、かれのみを崇拝*すること、そして正しい行い*のこととされる（ムヤッサル 385 頁参照）。

5 この「善きもの」とは、天国のこととされる（前掲書、同頁参照）。

90. そして（復活の日*、）悪行[1]と共にやって来た者、彼らは顔から逆様（さかさま）に業火（ごうか）の中に投げ込まれ（、こう言われ）る。「一体あなた方が報（むく）われているのは、自分たちが（現世で）行っていたこと（によるもの）以外の、何ものでもないのではないか？」

وَمَن جَآءَ بِٱلسَّيِّئَةِ فَكُبَّتۡ وُجُوهُهُمۡ فِي ٱلنَّارِ
هَلۡ تُجۡزَوۡنَ إِلَّا مَا كُنتُمۡ تَعۡمَلُونَ ٩٠

91. （使徒（しと）*よ、言うのだ。）「私は外（ほか）ならぬ、この町（マッカ*）の主（しゅ）[2]を崇拝（すうはい）*するように命じられた。かれがそこを、聖なる地[3]とされたのだ。かれにこそ、全ては属（ぞく）する。また私は、服従（ふくじゅう）する者（ムスリム*）の一人となるよう、命じられたのである。

إِنَّمَآ أُمِرۡتُ أَنۡ أَعۡبُدَ رَبَّ هَٰذِهِ ٱلۡبَلۡدَةِ
ٱلَّذِي حَرَّمَهَا وَلَهُۥ كُلُّ شَيۡءٖۖ وَأُمِرۡتُ أَنۡ أَكُونَ
مِنَ ٱلۡمُسۡلِمِينَ ٩١

92. そして、クルアーン*を誦（よ）む[4]ことを（命じられた）」。導（みちび）かれた者があれば、実に彼は自分を益（えき）するために導（みちび）かれるだけであり、また迷う者があれば（、使徒（しと）*よ）、言ってやるのだ。「私は（信仰しない者にアッラー*からの懲罰（ちょうばつ）を告（つ）げる、）警告（けいこく）者の一人に過（す）ぎない」。

وَأَنۡ أَتۡلُوَاْ ٱلۡقُرۡءَانَۖ فَمَنِ ٱهۡتَدَىٰ فَإِنَّمَا
يَهۡتَدِي لِنَفۡسِهِۦۖ وَمَن ضَلَّ فَقُلۡ إِنَّمَآ أَنَا۠ مِنَ
ٱلۡمُنذِرِينَ ٩٢

93. そして（使徒（しと）*よ、）言うのだ。「アッラー*に全ての称賛（しょうさん）*あれ。やがてかれはあなた方に、その御徴（みしるし）[5]を見せ給（たま）い、あなた方はそれを知ることになる。あなた方の主（しゅ）*は、あなた方が行っていることに迂闊（うかつ）ではあられないのだ」。

وَقُلِ ٱلۡحَمۡدُ لِلَّهِ سَيُرِيكُمۡ ءَايَٰتِهِۦ فَتَعۡرِفُونَهَاۚ
وَمَا رَبُّكَ بِغَٰفِلٍ عَمَّا تَعۡمَلُونَ ٩٣

---

1 この「悪行」は、シルク*を始めとした、諸々の悪行のこと（ムヤッサル 385 頁参照）。

2 アッラー*はマッカ*だけではなく、全ての町の主*である。しかしここではマッカ*の民に、彼らに対するアッラー*の特別の恩恵を知らしめ、彼らがアッラー*のみを崇拝*すべきであることを訴（うった）えている（アッ＝タバリー8:6335 参照）。

3 そこでは不当な流血、不正*、狩猟（しゅりょう）、植物を刈ったりすることなども禁じられる（前掲書、同頁参照）。雌牛章 125 の訳注も参照。

4 「誦む」については、雌牛章 121 の訳注を参照。

5 この「御徴」は、真理を示し、虚妄（きょもう）を明らかにする知識のこととされる（ムヤッサル 385 頁参照）。詳細にされた章 53 も参照。

第 28 章
物語章[1]

سُورَةُ القَصَصِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. ター・スィーン・ミーム[2]。
2. （使徒*よ、）それは解明する啓典[3]の御徴（アーヤ*）である。
3. われら*は（クルアーン*を）信仰する民のため、ムーサー*とフィルアウン*の消息の一部を、真実と共にあなたに誦んで聞かせよう。
4. 本当にフィルアウン*は地上（エジプト）で驕り高ぶり、その住民を諸派に分けた[4]。彼はその内の一派（イスラーイールの子ら*）を抑圧し、その男児を殺しまくり、女児は生かしておいた[5]のだ。本当に彼は、腐敗*を働く者の類いであった。
5. そしてわれら*は、地上で抑圧されていた者たち（イスラーイールの子ら*）に恵みを垂れ、彼らを（善の）導師とし、相続人[6]とすることを望むのである。

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

طسٓمٓ ١
تِلْكَ ءَايَٰتُ ٱلْكِتَٰبِ ٱلْمُبِينِ ٢
نَتْلُوا۟ عَلَيْكَ مِن نَّبَإِ مُوسَىٰ وَفِرْعَوْنَ
بِٱلْحَقِّ لِقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ٣
إِنَّ فِرْعَوْنَ عَلَا فِى ٱلْأَرْضِ وَجَعَلَ
أَهْلَهَا شِيَعًا يَسْتَضْعِفُ طَآئِفَةً مِّنْهُمْ
يُذَبِّحُ أَبْنَآءَهُمْ وَيَسْتَحْىِۦ نِسَآءَهُمْ ۚ إِنَّهُۥ كَانَ
مِنَ ٱلْمُفْسِدِينَ ٤
وَنُرِيدُ أَن نَّمُنَّ عَلَى ٱلَّذِينَ ٱسْتُضْعِفُوا۟ فِى
ٱلْأَرْضِ وَنَجْعَلَهُمْ أَئِمَّةً وَنَجْعَلَهُمُ
ٱلْوَٰرِثِينَ ٥

---

1 マッカ*啓示（一部アーヤ*はマディーナ*啓示説あり）。スーラ*の大半を、ムーサー*に関する物語が占めている。暴君フィルアウン*のイスラーイールの子ら*に対する圧制と、ムーサー*の数奇（すうき）な生い立ち、エジプトからの逃亡、使徒*としての使命を受けた後のエジプト帰還、及び不信仰の暴君に対する勝利という逸話が、不信仰だった大富豪カールーンの破滅の話も交えながら、当時のマッカ*の不信仰者*たちへの教訓と、預言者*ムハンマド*への慰（なぐさ）め、そしてやがて訪れる預言者*のマッカ*帰還とムスリム*たちの勝利を暗示する形で示されている。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 「解明する啓典」については、ユースフ*章 1 の訳注を参照（ムヤッサル 385 頁参照）。

4 フィルアウン*は各集団を、彼が望む分野に仕えさせた（イブン・カスィール 6:220 参照）。

5 「男児を殺し…」については、雌牛章 49 の訳注を参照。

6 フィルアウン*とその民の滅亡後に、その地を相続する者たちということ（ムヤッサル 385 頁参照）。高壁章 137 も参照。

6. また、われら*は地上において彼らを確立させ、フィルアウン*とハーマーン[1]とその軍勢（ぐんぜい）に、彼らが彼ら（イスラーイールの子ら*）から怖（おそ）れていたもの[2]を見せる（ことを、望む）。

وَنُمَكِّنَ لَهُمْ فِي الْأَرْضِ وَنُرِيَ فِرْعَوْنَ وَهَامَانَ
وَجُنُودَهُمَا مِنْهُم مَّا كَانُوا يَحْذَرُونَ ٦

7. われら*はムーサー*の母親に、（こう）示した。「彼（生まれたばかりのムーサー*）に、乳をやるのだ。そしてあなたが彼のこと[3]で怖（おそ）れた時には、彼を（箱に入れて）海原（うなばら）[4]へと放り投げ、怖（おそ）れもせず、悲しみもするのではない。本当にわれら*は、彼をあなたのもとに返す者であり、彼を遣（つか）わされし者（使徒（しと）*）の一人とする者なのだから」。[5]

وَأَوْحَيْنَا إِلَىٰ أُمِّ مُوسَىٰ أَنْ أَرْضِعِيهِ ۖ فَإِذَا
خِفْتِ عَلَيْهِ فَأَلْقِيهِ فِي الْيَمِّ وَلَا تَخَافِي
وَلَا تَحْزَنِي ۖ إِنَّا رَادُّوهُ إِلَيْكِ وَجَاعِلُوهُ مِنَ
الْمُرْسَلِينَ ٧

8. そして彼（ムーサー*）を、フィルアウン*の一族が拾（ひろ）った。その結果、彼は、彼らに対する敵と悲しみ[6]となった。本当にフィルアウン*とハーマーンとその二人の軍勢（ぐんぜい）は、誤（あやま）った者たちだったのだ。

فَالْتَقَطَهُ آلُ فِرْعَوْنَ لِيَكُونَ لَهُمْ
عَدُوًّا وَحَزَنًا ۗ إِنَّ فِرْعَوْنَ وَهَامَانَ
وَجُنُودَهُمَا كَانُوا خَاطِئِينَ ٨

9. そしてフィルアウン*の妻[7]が（、彼を気に入って）言った。「（この子は）私とあなたにとっての、喜び[8]です。彼を殺さないで下

وَقَالَتِ امْرَأَتُ فِرْعَوْنَ قُرَّتُ عَيْنٍ لِّي
وَلَكَ ۖ لَا تَقْتُلُوهُ عَسَىٰ أَن يَنفَعَنَا أَوْ
نَتَّخِذَهُ وَلَدًا وَهُمْ لَا يَشْعُرُونَ ٩

---

1 「ハーマーン」は、フィルアウン*の宰相（さいしょう）（アル＝クルトゥビー13:253 参照）。

2 つまり、彼らの滅亡と王権の終焉（しゅうえん）、イスラーイールの子ら*出身の者の手によって、彼らが国から追放されること（ムヤッサル 386 頁参照）。

3 つまり、彼女に男児がいることが分かって、彼が殺されそうになること（前掲書、同頁参照）。この背景については、雌牛章 49 の「男児は殺し･･･」の訳注を参照。

4 この「海原」は、ナイル川のこと（前掲書、同頁参照）。

5 この後、ムーサー*が見つかって殺されそうになり、彼女はアッラー*に命じられた通りにした（イブン・カスィール 6:222 参照）。

6 つまり、フィルアウン*らの宗教に異を唱（とな）える敵となり、彼らの溺死（できし）と、その王国の崩壊という彼らの悲しみの原因となる者、ということ（ムヤッサル 386 頁参照）。

7 この「妻」は、ムーサー*によって導かれた女性となった、アースィヤのこと（イブン・カスィール 6:222 参照）。預言者*ムハンマド*は彼女を、最善の女性の一人に数えている（アル＝ブハーリー3411 参照）。

8 この「喜び」については、マルヤム*章 26 の訳注を参照。

さい。彼は私たちの役に立つでしょうし、あるいは彼を（私たちの）子供にしてもよいでしょうから」。彼らは（その赤ん坊が自分たちを滅（ほろ）ぼすことになるとは）、気付く由（よし）もなかったのだ。

10. そしてムーサー*の母の心は、（ムーサー*ゆえの悲しみで）空っぽになってしまった。本当に彼女はそれゆえに、（赤ん坊が自分の子であることを）打ち明けてしまいそうなほどであった。彼女が信仰者の一人としてあるべく、われら*が彼女の心を繫（つな）ぎとめて[1]おかなかったならば。

وَأَصۡبَحَ فُؤَادُ أُمِّ مُوسَىٰ فَٰرِغًاۖ إِن كَادَتۡ
لَتُبۡدِي بِهِۦ لَوۡلَآ أَن رَّبَطۡنَا عَلَىٰ قَلۡبِهَا
لِتَكُونَ مِنَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ١٠

11. また、彼女は（ムーサーの入った箱を川に流した時）、彼（ムーサー*）の姉に「彼を追っかけなさい」と言っていた。それで彼女は（その通りにし）、彼ら（フィルアウン*とその民）が気付かぬ中、彼のことを遠くから見た。

وَقَالَتۡ لِأُخۡتِهِۦ قُصِّيهِۖ فَبَصُرَتۡ بِهِۦ عَن
جُنُبٖ وَهُمۡ لَا يَشۡعُرُونَ ١١

12. また、われら*は（ムーサー*が母親のもとに帰される）以前、彼（ムーサー*）に乳母（うば）たちを禁じた[2]。それで彼女（ムーサー*の姉）は、言った。「あなた方のために、彼に対して誠心（せいしん）尽（つ）くして、その世話（せわ）をしてくれる家族へとご案内しましょうか？」

۞وَحَرَّمۡنَا عَلَيۡهِ ٱلۡمَرَاضِعَ مِن قَبۡلُ فَقَالَتۡ
هَلۡ أَدُلُّكُمۡ عَلَىٰٓ أَهۡلِ بَيۡتٖ يَكۡفُلُونَهُۥ
لَكُمۡ وَهُمۡ لَهُۥ نَٰصِحُونَ ١٢

13. こうしてわれら*は彼（ムーサー*）を、その母のもとに帰した。それは彼女が喜び[3]、（彼との別れを）悲しまないようにするためで、また彼女が、アッラー*のお約束が真

فَرَدَدۡنَٰهُ إِلَىٰٓ أُمِّهِۦ كَيۡ تَقَرَّ عَيۡنُهَا وَلَا
تَحۡزَنَ وَلِتَعۡلَمَ أَنَّ وَعۡدَ ٱللَّهِ حَقّٞ وَلَٰكِنَّ
أَكۡثَرَهُمۡ لَا يَعۡلَمُونَ ١٣

---

1 「心を繋ぎとめる」については、戦利品*章 11 の訳注を参照。

2 ムーサー*は複数の乳母をあてがわれたが、その授乳を拒（こば）み続けた（ムヤッサル 386 頁参照）。

3 この「喜び」については、アーヤ*9 の同語についての訳注を参照。

実であることを知るためであった。しかし彼ら（不信仰者*）の大半は、（そのことを）知らないのだ。

14. 彼（ムーサー*）が成熟[1]し、強固になった時、われら*は彼に英知と知識を授けた。そのようにわれら*は、善を尽くす*者たちに報いるのである。

وَلَمَّا بَلَغَ أَشُدَّهُۥ وَٱسْتَوَىٰٓ ءَاتَيْنَٰهُ حُكْمًا
وَعِلْمًا ۚ وَكَذَٰلِكَ نَجْزِى ٱلْمُحْسِنِينَ ١٤

15. そして彼（ムーサー*）は、その民が油断している時間帯[2]に町に入り、そこで戦っている二人の男を見出した。（一方の）この者は彼の部族出身の者で、（もう一方の）この者は彼の敵の内の者[3]。そして彼の部族出身の者が、彼の敵の内の者に対し、彼（ムーサー*）に助けを求めたので、ムーサー*は彼を（拳で）殴り、これを殺してしまった。彼（ムーサー*）は言った。「これはシャイターン*のわざである。本当に彼は、（人間を正道から）迷わせる、紛れもない敵なのだ」。[4]

وَدَخَلَ ٱلْمَدِينَةَ عَلَىٰ حِينِ غَفْلَةٍ مِّنْ أَهْلِهَا
فَوَجَدَ فِيهَا رَجُلَيْنِ يَقْتَتِلَانِ هَٰذَا مِن شِيعَتِهِۦ
وَهَٰذَا مِنْ عَدُوِّهِۦ ۖ فَٱسْتَغَٰثَهُ ٱلَّذِى مِن شِيعَتِهِۦ
عَلَى ٱلَّذِى مِنْ عَدُوِّهِۦ فَوَكَزَهُۥ مُوسَىٰ فَقَضَىٰ
عَلَيْهِ ۖ قَالَ هَٰذَا مِنْ عَمَلِ ٱلشَّيْطَٰنِ ۖ إِنَّهُۥ عَدُوٌّ
مُّضِلٌّ مُّبِينٌ ١٥

16. 彼は申し上げた。「我が主*よ、本当に私は自分自身に不正*を働いてしまいました。ならば私を、お赦し下さい」。そしてかれは、彼をお赦しになった。本当にかれこそは、赦し深いお方、慈愛深い*お方であられるのだから。

قَالَ رَبِّ إِنِّى ظَلَمْتُ نَفْسِى فَٱغْفِرْ لِى فَغَفَرَ لَهُۥٓ ۚ
إِنَّهُۥ هُوَ ٱلْغَفُورُ ٱلرَّحِيمُ ١٦

1 この「成熟」については、巡礼*章 5「成熟」の訳注を参照。

2 この時間帯については、「昼寝時」「マグリブ*とイシャーゥ*の間」という説がある（アル＝バガウィー3:526 参照）。

3 つまり前者がイスラーイールの子ら*の内の者、後者がフィルアウン*の民の内の者であるコプト人（アッ＝サァディー613 頁参照）。この時には、ムーサー*がイスラーイールの子ら*の一人であることは知れ渡っていたとされる（アル＝バガウィー3:527 参照）。

4 この出来事は、ムーサー*が預言者*となる前のこと（ムヤッサル 387 頁参照）。

17. 彼（ムーサー*）は申し上げた。「我が主(しゅ)*よ、あなたが私に恵んで下さったもの[1]ゆえ、私は決して、罪悪(ざいあく)者たちに対する援助者とはなりません」。

قَالَ رَبِّ بِمَآ أَنۡعَمۡتَ عَلَيَّ فَلَنۡ أَكُونَ ظَهِيرٗا
لِّلۡمُجۡرِمِينَ ١٧

18. 彼は翌朝、（復讐(ふくしゅう)されるのではないかと）町で怖(おそ)れ始め、（何が起きるかと）注意深く見守るようになった。そしてどうであろう、昨日彼に助けを求めた者が、（また別のコプト人と争っており、）彼に向かって（助けを求め、）大声で叫んでいる。ムーサー*は彼[2]に言った。「実にあなたは、紛(まぎ)れもなく誤(あやま)った者[3]だ」。

فَأَصۡبَحَ فِي ٱلۡمَدِينَةِ خَآئِفٗا يَتَرَقَّبُ فَإِذَا ٱلَّذِي
ٱسۡتَنصَرَهُۥ بِٱلۡأَمۡسِ يَسۡتَصۡرِخُهُۥۚ قَالَ لَهُۥ مُوسَىٰٓ
إِنَّكَ لَغَوِيّٞ مُّبِينٞ ١٨

19. そして彼（ムーサー*）が、（イスラーイールの子ら*の内の者に同情し、）彼ら二人の敵である者をやっつけようとした時、彼[4]は言った。「ムーサー*よ、一体お前は昨日人を殺したように、私のことも殺すつもりなのか？ お前は、地上で暴君となることを望んでいるに外(ほか)ならない。そしてお前は、改善(かいぜん)者となりたくはないのだ」。

فَلَمَّآ أَنۡ أَرَادَ أَن يَبۡطِشَ بِٱلَّذِي هُوَ عَدُوّٞ لَّهُمَا
قَالَ يَٰمُوسَىٰٓ أَتُرِيدُ أَن تَقۡتُلَنِي كَمَا قَتَلۡتَ
نَفۡسَۢا بِٱلۡأَمۡسِۖ إِن تُرِيدُ إِلَّآ أَن تَكُونَ جَبَّارٗا
فِي ٱلۡأَرۡضِ وَمَا تُرِيدُ أَن تَكُونَ مِنَ ٱلۡمُصۡلِحِينَ ١٩

---

1 悔悟、罪の赦し、その他の偉大な恩恵の数々のこと（ムヤッサル 387 頁参照）。

2 アル＝バガウィー*によれば、大半の学者はこの「彼」を、イスラーイールの子ら*出身の者と解釈している（3:528 参照）。

3 「誤った者」と言ったのは、「自分では太刀（たち）打ちできない者と争う」ゆえ、あるいは「ムーサー*が彼ゆえに人を殺してしまったのに、翌日にまた同じことをさせようとしている」ゆえである、とされる（アル＝クルトゥビー13:265 参照）。

4 この「彼」は、イスラーイールの子ら*出身の者で、ムーサー*が自分に対して暴力を振るうものだと勘違いして、こう言ったのだとされる。そしてそれを聞いたコプト人が、その話を広め、フィルアウン*はムーサー*を捕まえ、殺すお触れを出した（イブン・カスィール 6:225-226 参照）。アッ＝シャウカーニー*によれば、これが大半の解釈学者の見解だが、「彼」がコプト人という説もある（4:217 参照）。

20. 町の一番外れから、一人の男が急いでやって来た。彼は言った。「（ムーサー*よ、）本当に（フィルアウン*の民の）有力者たちは、あなたを殺そうと、あなたについて相談しています。ならば、（この町を）出て行きなさい。本当に私はあなたへの、助言者なのですよ」。

وَجَآءَ رَجُلٞ مِّنۡ أَقۡصَا ٱلۡمَدِينَةِ يَسۡعَىٰ قَالَ
يَٰمُوسَىٰٓ إِنَّ ٱلۡمَلَأَ يَأۡتَمِرُونَ بِكَ لِيَقۡتُلُوكَ
فَٱخۡرُجۡ إِنِّي لَكَ مِنَ ٱلنَّٰصِحِينَ ٢٠

21. それで彼は怖れ、（追っ手につかまらぬよう）注意深くそこを脱出し、（こう）申し上げた。「我が主*よ、私を不正*者である民から救って下さい」。

فَخَرَجَ مِنۡهَا خَآئِفٗا يَتَرَقَّبُۖ قَالَ رَبِّ نَجِّنِي مِنَ
ٱلۡقَوۡمِ ٱلظَّٰلِمِينَ ٢١

22. マドゥヤン*の方を目指すと、彼は（こう）言った。「我が主*は私を、まっすぐな道へと導いて下さるだろう」。[1]

وَلَمَّا تَوَجَّهَ تِلۡقَآءَ مَدۡيَنَ قَالَ عَسَىٰ رَبِّيٓ أَن
يَهۡدِيَنِي سَوَآءَ ٱلسَّبِيلِ ٢٢

23. そしてマドゥヤン*の水場に赴いた時、彼はそこで人々の集団が（家畜に）水をやっているのを見た。また、二人の婦人が（そこに割り込めずに）彼らから離れて、（自分たちの家畜を）制しているのを見出した。彼は言った。「どうなさいましたか？」彼女たち二人は言った。「牧童たちが（彼らの家畜を水場から）出て行かせるまで、（自分たちの家畜に）水をやることが出来ません。そして私たちの父は、年配の老人なのです」。

وَلَمَّا وَرَدَ مَآءَ مَدۡيَنَ وَجَدَ عَلَيۡهِ أُمَّةٗ
مِّنَ ٱلنَّاسِ يَسۡقُونَ وَوَجَدَ مِن دُونِهِمُ
ٱمۡرَأَتَيۡنِ تَذُودَانِۖ قَالَ مَا خَطۡبُكُمَاۖ قَالَتَا لَا
نَسۡقِي حَتَّىٰ يُصۡدِرَ ٱلرِّعَآءُۖ وَأَبُونَا شَيۡخٞ
كَبِيرٞ ٢٣

24. それで彼は、彼女たち二人のために（家畜に）水をやった。それから（木）陰に退くと、（こう）言った。「我が主*よ、本当に私は、あなたが私に下された善きものに飢えています」。[2]

فَسَقَىٰ لَهُمَا ثُمَّ تَوَلَّىٰٓ إِلَى ٱلظِّلِّ فَقَالَ رَبِّ
إِنِّي لِمَآ أَنزَلۡتَ إِلَيَّ مِنۡ خَيۡرٖ فَقِيرٞ ٢٤

---

1 マドゥヤン*の民は預言者*イブラーヒーム*の子孫で、ムーサー*との血縁関係がある。しかし彼は、その道を知らなかったため、アッラー*に道案内を祈ったのだという（アル＝クルトゥビー13:253 参照）。

2 ムーサー*は、着の身着のままでエジプトを後にして来たので、ひどい飢えに襲われていた（アル＝バガウィー3:528 参照）。

25. すると、彼のもとに二人の婦人の内の一人が、恥ずかしそうに歩きながら、やって来た。彼女は言った。「私の父はあなたに、あなたが私たちのために水をやって下さったご褒美を差し上げたく、あなたをお呼びしています」。こうして彼（彼女らの父親）のもとにやって来ると、彼（ムーサー*）は彼に物語[1]を語って聞かせた。彼（彼女らの父親）は言った。「怖れないで下さい。あなたは不正*者である民から、救われたのですから」。

فَجَآءَتۡهُ إِحۡدَىٰهُمَا تَمۡشِي عَلَى ٱسۡتِحۡيَآءٖ قَالَتۡ إِنَّ أَبِي يَدۡعُوكَ لِيَجۡزِيَكَ أَجۡرَ مَا سَقَيۡتَ لَنَاۚ فَلَمَّا جَآءَهُۥ وَقَصَّ عَلَيۡهِ ٱلۡقَصَصَ قَالَ لَا تَخَفۡۖ نَجَوۡتَ مِنَ ٱلۡقَوۡمِ ٱلظَّٰلِمِينَ ٢٥

26. 彼女たちの内の一人が言った。「お父さん、彼をお雇いなさい。本当に、あなたがお雇いになる最善の者は、力強く、誠実な人[2]なのですから」。

قَالَتۡ إِحۡدَىٰهُمَا يَٰٓأَبَتِ ٱسۡتَـٔۡجِرۡهُۖ إِنَّ خَيۡرَ مَنِ ٱسۡتَـٔۡجَرۡتَ ٱلۡقَوِيُّ ٱلۡأَمِينُ ٢٦

27. 彼（婦人たちの父親）は言った。「私は、あなたが八年間、私に（牧童として自らを）雇わせることで、この我が二人の娘たちの内の一人をあなたに嫁がせたいのです。そしてもし、あなたが十年間全うされるのなら、それはあなたからのもの[3]であり、私は（それを義務づけることで、）あなたに苦労させるつもりはありません。あなたは——もしアッラー*がお望みならば——、私が正しい者[4]の一人であることを見出すでしょう」。

قَالَ إِنِّيٓ أُرِيدُ أَنۡ أُنكِحَكَ إِحۡدَى ٱبۡنَتَيَّ هَٰتَيۡنِ عَلَىٰٓ أَن تَأۡجُرَنِي ثَمَٰنِيَ حِجَجٖۖ فَإِنۡ أَتۡمَمۡتَ عَشۡرٗا فَمِنۡ عِندِكَۖ وَمَآ أُرِيدُ أَنۡ أَشُقَّ عَلَيۡكَۚ سَتَجِدُنِيٓ إِن شَآءَ ٱللَّهُ مِنَ ٱلصَّٰلِحِينَ ٢٧

---

1 この「物語」とは、彼と、フィルアウン*とその民の間に起こった話のこと（ムヤッサル 388 頁参照）。

2 ムーサー*は、十人がかりでしか動かせないような重い岩を持ち上げて家畜に水をやった。また、婦人と共に彼女らの父親のもとに行く時には、彼女を（見て誘惑されぬよう）自分の後方に歩かせつつ、道案内をさせたのだという（イブン・カスィール 6:227-229 参照）。

3 つまり、自発的な善行ということ（ムヤッサル 388 頁参照）。

4 つまり、よき付き合いと、約束の遵守において「正しい者*」（前掲書、同頁参照）。

28. 彼（ムーサー*）は言った。「それは、私とあなたの間で（成立しました）。いずれの期限をこなすにせよ、私への違反はなしです。そして、アッラー*が私たちの言うことにおいて、全てを請け負われる*お方です」。

قَالَ ذَٰلِكَ بَيۡنِي وَبَيۡنَكَۖ أَيَّمَا ٱلۡأَجَلَيۡنِ
قَضَيۡتُ فَلَا عُدۡوَٰنَ عَلَيَّۖ وَٱللَّهُ عَلَىٰ مَا نَقُولُ
وَكِيلٞ ٢٨

29. こうしてムーサー*が期限[1]を終え、自分の家族と共に（エジプトへと向かって）歩んだ時[2]、山の傍らに火を認めた。彼は自分の家族に言った。「（ここに）留まっていなさい。実に私は、火を見つけたのだ。私はそこからあなた方のもとに、（道案内の）知らせと共に、あるいはあなた方が暖を取れるように、火種を携えてやって来よう」。

۞فَلَمَّا قَضَىٰ مُوسَى ٱلۡأَجَلَ وَسَارَ بِأَهۡلِهِۦٓ
ءَانَسَ مِن جَانِبِ ٱلطُّورِ نَارٗاۖ قَالَ لِأَهۡلِهِ ٱمۡكُثُوٓاْ
إِنِّيٓ ءَانَسۡتُ نَارٗا لَّعَلِّيٓ ءَاتِيكُم مِّنۡهَا بِخَبَرٍ
أَوۡ جَذۡوَةٖ مِّنَ ٱلنَّارِ لَعَلَّكُمۡ
تَصۡطَلُونَ ٢٩

30. それで彼がそこへやって来た時、祝福にあふれた地における谷の右側から、つまりその木から[3]、彼に（こう）呼びかけられた。「ムーサー*よ、本当にわれこそは、全創造物の主*アッラーである」。

فَلَمَّآ أَتَىٰهَا نُودِيَ مِن شَٰطِيِٕ ٱلۡوَادِ ٱلۡأَيۡمَنِ
فِي ٱلۡبُقۡعَةِ ٱلۡمُبَٰرَكَةِ مِنَ ٱلشَّجَرَةِ أَن
يَٰمُوسَىٰٓ إِنِّيٓ أَنَا ٱللَّهُ رَبُّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٣٠

31. また、「あなたの杖を投げよ」と。それで（彼がそれを投げ、）それが敏捷な小蛇のように躍動するのを見た時、彼は背を向けて引き下がり、戻って来なかった。（アッラー*は仰せられた。）「ムーサー*よ、近寄るのだ。そして怖がるのではない。本当にあなたはまさしく、安全なのだから。

وَأَنۡ أَلۡقِ عَصَاكَۚ فَلَمَّا رَءَاهَا تَهۡتَزُّ كَأَنَّهَا
جَآنّٞ وَلَّىٰ مُدۡبِرٗا وَلَمۡ يُعَقِّبۡۚ يَٰمُوسَىٰٓ
أَقۡبِلۡ وَلَا تَخَفۡۖ إِنَّكَ مِنَ ٱلۡأٓمِنِينَ ٣١

---

1 ムーサー*は十年間、彼のもとで働いたとされる（アル＝ブハーリー2684 参照）。

2 この時の出来事については、ター・ハー章 10-16、蟻章 7 とそれらの訳注も参照。

3 マルヤム*章 52 の訳注も参照。

32. あなたの手を懐に入れてみよ。そうすれば、それは災い[1]もなしに白くなって出てくる。また、恐怖（の軽減）のためには、あなたの翼を自分（の側）に引き寄せてみよ[2]。その二つは、あなたの主*からフィルアウン*とその（民の）有力者たちへの、明証である。本当に彼らは、放逸な民だったのだから」。

33. 彼は申し上げた。「我が主*よ、本当に私は彼ら（フィルアウン*の民）の一人を殺してしまいました[3]。そして、彼らが私を殺すことを怖れます。

34. また、我が兄ハールーン*こそは、私より言葉が雄弁です[4]。ゆえに彼を、私と共に、私（の言葉）を確証する助っ人としてお遣わし下さい。本当に私は、彼らが私を嘘つき呼ばわりすることが怖いのです」。

35. かれは仰せられた。「われら*は、あなたの兄をあなたの片腕とし、あなた方二人に権勢[5]を与えよう。そして彼らが、あなた方二人を害することはない。われら*の御徴ゆえ、あなた方二人と、あなた方二人に従った者は、勝利者なのである」。

اسْلُكْ يَدَكَ فِي جَيْبِكَ تَخْرُجْ بَيْضَاءَ
مِنْ غَيْرِ سُوءٍ وَاضْمُمْ إِلَيْكَ جَنَاحَكَ مِنَ
الرَّهْبِ ۖ فَذَانِكَ بُرْهَانَانِ مِنْ رَبِّكَ إِلَىٰ
فِرْعَوْنَ وَمَلَإِيهِ ۚ إِنَّهُمْ كَانُوا قَوْمًا
فَاسِقِينَ ٣٢

قَالَ رَبِّ إِنِّي قَتَلْتُ مِنْهُمْ نَفْسًا فَأَخَافُ أَنْ
يَقْتُلُونِ ٣٣

وَأَخِي هَارُونُ هُوَ أَفْصَحُ مِنِّي لِسَانًا فَأَرْسِلْهُ
مَعِيَ رِدْءًا يُصَدِّقُنِي ۖ إِنِّي أَخَافُ أَنْ
يُكَذِّبُونِ ٣٤

قَالَ سَنَشُدُّ عَضُدَكَ بِأَخِيكَ وَنَجْعَلُ
لَكُمَا سُلْطَانًا فَلَا يَصِلُونَ إِلَيْكُمَا ۚ بِآيَاتِنَا ۚ
أَنْتُمَا وَمَنِ اتَّبَعَكُمَا الْغَالِبُونَ ٣٥

---

1 「災い」については、ター・ハー章 22 の訳注を参照。

2 この「翼」は、腕、あるいは手全体のこと。意味の解釈には、「手が真っ白になって怖くなったら、それをまた胸元に入れて、戻してみよ。そうすれば、それは元通りになる」「手を胸元へと引き寄せれば、大蛇への恐怖は消え去る」などの諸説がある。また、「翼を引き寄せる」という表現はそもそも、「恐怖を和らげる」という慣用句である、といった説もある（アル＝バガウィー3:534 参照）。

3 詳しくは、アーヤ*15 を参照。

4 ター・ハー章 27 とその訳注、詩人たち章 13 も参照。

5 この「権勢」とは、彼らが招くものに対する根拠と、敵に対する威圧感のこと（アッ＝サァディー615 頁参照）。

36. こうしてムーサー*が、われら*の明白な御徴[1]と共に彼ら（フィルアウン*とその民の有力者たち）のもとにやって来た時、彼らは言った。「これは捏造された魔術に外ならない。それに私たちはこのようなこと[2]を、先人である私たちのご先祖様たち（の時代）にも、聞いてはいなかったのだ」。

فَلَمَّا جَآءَهُم مُّوسَىٰ بِـَٔايَٰتِنَا بَيِّنَٰتٖ قَالُواْ مَا
هَٰذَآ إِلَّا سِحۡرٞ مُّفۡتَرٗى وَمَا سَمِعۡنَا بِهَٰذَا
فِيٓ ءَابَآئِنَا ٱلۡأَوَّلِينَ ٣٦

37. ムーサー*は言った。「我が主*は、誰がかれの御許から導きを携えてやって来たか、そして誰に世の（善き）結末[3]があるかを、最もよくご存知です。本当に不正*者たちは、成功することがありません」。

وَقَالَ مُوسَىٰ رَبِّيٓ أَعۡلَمُ بِمَن جَآءَ بِٱلۡهُدَىٰ
مِنۡ عِندِهِۦ وَمَن تَكُونُ لَهُۥ عَٰقِبَةُ ٱلدَّارِۚ
إِنَّهُۥ لَا يُفۡلِحُ ٱلظَّٰلِمُونَ ٣٧

38. フィルアウン*は言った。「名士たちよ、私は自分以外、あなた方にとって崇拝すべきいかなる存在も知らない[4]。ハーマーン[5]よ、私のために泥土に火をつけよ[6]。そしてムーサーの神を見るために、私のために（それで）塔を建てよ。本当に私は、彼がまさに嘘つきの類いだと思うのだ」。[7]

وَقَالَ فِرۡعَوۡنُ يَٰٓأَيُّهَا ٱلۡمَلَأُ مَا عَلِمۡتُ
لَكُم مِّنۡ إِلَٰهٍ غَيۡرِي فَأَوۡقِدۡ لِي يَٰهَٰمَٰنُ
عَلَى ٱلطِّينِ فَٱجۡعَل لِّي صَرۡحٗا لَّعَلِّيٓ أَطَّلِعُ
إِلَىٰٓ إِلَٰهِ مُوسَىٰ وَإِنِّي لَأَظُنُّهُۥ مِنَ
ٱلۡكَٰذِبِينَ ٣٨

39. そして彼とその軍勢は、不当にも地上（エジプト）で驕り高ぶり、自分たちが（死後）われら*のもとに戻されることなどない、と思い込んでいた。

وَٱسۡتَكۡبَرَ هُوَ وَجُنُودُهُۥ فِي ٱلۡأَرۡضِ
بِغَيۡرِ ٱلۡحَقِّ وَظَنُّوٓاْ أَنَّهُمۡ إِلَيۡنَا لَا يُرۡجَعُونَ ٣٩

---

1 この「御徴」は、彼らの主張を裏づける知的証拠、あるいは奇跡（アル＝クルトゥビー13:288参照）。

2 「このようなこと」とは、アッラー*に何ものも並べずに崇拝*する、という教えのこと（イブン・カスィール 6:237 参照）。

3 「世の（善き）結末」については、家畜章 135 の訳注を参照。

4 同様のアーヤとして、詩人たち章 29、至高者章 24 も参照。

5 「ハーマーン」については、アーヤ 6 の訳注を参照。

6 これは、レンガを焼くことを意味する（アッ＝サァディー616 頁参照）。

7 同様のアーヤとして、赦し深いお方章 36-37 も参照。

40. それで、われら*は彼とその軍勢を捕え、彼らを海原に放り捨てた。ならば不正*者たちの結末がいかなるものであったか、見てみるがよい。[1]

فَأَخَذۡنَٰهُ وَجُنُودَهُۥ فَنَبَذۡنَٰهُمۡ فِي ٱلۡيَمِّۖ فَٱنظُرۡ
كَيۡفَ كَانَ عَٰقِبَةُ ٱلظَّٰلِمِينَ ٤٠

41. また、われら*は彼らを、業火へと招く先導者とした。そして復活の日*、彼らは（いかなる者からも）援助されることがない。

وَجَعَلۡنَٰهُمۡ أَئِمَّةٗ يَدۡعُونَ إِلَى ٱلنَّارِۖ
وَيَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِ لَا يُنصَرُونَ ٤١

42. また、われら*は現世において、彼らに呪いを付き纏わせた[2]。そして復活の日*、彼らは（アッラー*のご慈悲から）遠ざけられた者たち[3]の類いである。

وَأَتۡبَعۡنَٰهُمۡ فِي هَٰذِهِ ٱلدُّنۡيَا لَعۡنَةٗۖ وَيَوۡمَ
ٱلۡقِيَٰمَةِ هُم مِّنَ ٱلۡمَقۡبُوحِينَ ٤٢

43. われら*は確かに、先の（幾多の）世代を滅ぼした後、ムーサー*に啓典（トーラー*）を授けた。人々への開眼[4]と、導き、慈悲として、彼らが教訓を得るようにと（、それを授けたのである）。

وَلَقَدۡ ءَاتَيۡنَا مُوسَى ٱلۡكِتَٰبَ مِنۢ
بَعۡدِ مَآ أَهۡلَكۡنَا ٱلۡقُرُونَ ٱلۡأُولَىٰ بَصَآئِرَ
لِلنَّاسِ وَهُدٗى وَرَحۡمَةٗ لَّعَلَّهُمۡ
يَتَذَكَّرُونَ ٤٣

44. （使徒*ムハンマド*よ、）われら*がムーサー*に事を命じた時[5]、あなたは（その山の）西側にいたわけでもないし、そこに立ち会っていた者の一人でもなかったのだ。

وَمَا كُنتَ بِجَانِبِ ٱلۡغَرۡبِيِّ إِذۡ قَضَيۡنَآ إِلَىٰ مُوسَى
ٱلۡأَمۡرَ وَمَا كُنتَ مِنَ ٱلشَّٰهِدِينَ ٤٤

45. しかしわれら*は（ムーサー*の後）数々の世代を設け、彼らに長い年月が流れ去って（、彼らはアッラー*との約束を忘れて）しまった。またあなたは、マドゥヤン*の民の

وَلَٰكِنَّآ أَنشَأۡنَا قُرُونٗا فَتَطَاوَلَ عَلَيۡهِمُ
ٱلۡعُمُرُۚ وَمَا كُنتَ ثَاوِيٗا فِيٓ أَهۡلِ مَدۡيَنَ
تَتۡلُواْ عَلَيۡهِمۡ ءَايَٰتِنَا وَلَٰكِنَّا كُنَّا
مُرۡسِلِينَ ٤٥

---

1 その様子については、ユーヌス*章 90-92、ター・ハー章 77-78、詩人たち章 61-66、煙霧章 23-24 も参照。

2 同様のアーヤ*として、フード章*99 とその訳注も参照。

3 外にも、「滅ぼされた者たち」「醜くされた者たち」という解釈がある（アル＝バガウィー 3:536 参照）。

4 「開眼」については、家畜章 104 の訳注も参照。

5 つまり、アッラーがムーサーに、彼とその民が守るべき物事において命令され、彼との契約を結んだ時のことを指す（アッ＝タバリー8:6397 参照）。

もとに滞在していた者でもなければ、彼らにわれら*の御徴を誦み聞かせていたわけでもない。だがわれら*はもとより、（使徒*を）遣わす者だったのだ。

46. また（使徒*よ）、われら*が（ムーサー*に）呼びかけた時、あなたはその山の傍らにいたわけでもなかった[1]。しかし、あなた以前に警告者が一人も到来していなかった民[2]に警告を告げるため、あなたの主*からの慈悲として（遣わされたのである）。（それは、）彼らが教訓を得るようにするためだったのだ。

وَمَا كُنتَ بِجَانِبِ ٱلطُّورِ إِذۡ نَادَيۡنَا
وَلَٰكِن رَّحۡمَةٗ مِّن رَّبِّكَ لِتُنذِرَ قَوۡمٗا
مَّآ أَتَىٰهُم مِّن نَّذِيرٖ مِّن قَبۡلِكَ لَعَلَّهُمۡ
يَتَذَكَّرُونَ ٤٦

47. そして、もし自分たちが行ったことゆえに、彼ら（不信仰者*）に災難が降りかかり、「我らが主*よ、どうして私たちに使徒*を遣わしてくれなかったのですか？　そうすれば私たちはあなたの御徴に従い、信仰者の仲間となりましたのに？」と言うことにならなければ（、われら*は使徒*を遣わさなかったのだが）。[3]

وَلَوۡلَآ أَن تُصِيبَهُم مُّصِيبَةُۢ بِمَا قَدَّمَتۡ
أَيۡدِيهِمۡ فَيَقُولُواْ رَبَّنَا لَوۡلَآ أَرۡسَلۡتَ إِلَيۡنَا
رَسُولٗا فَنَتَّبِعَ ءَايَٰتِكَ وَنَكُونَ مِنَ
ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ٤٧

48. そして彼らのもとに、われら*の御許から真理が訪れた時[4]、彼らは言った。「どうして彼（ムハンマド*）には、ムーサー*に与えられたようなもの[5]が、与えられなかった

فَلَمَّا جَآءَهُمُ ٱلۡحَقُّ مِنۡ عِندِنَا قَالُواْ لَوۡلَآ
أُوتِيَ مِثۡلَ مَآ أُوتِيَ مُوسَىٰٓۚ أَوَلَمۡ
يَكۡفُرُواْ بِمَآ أُوتِيَ مُوسَىٰ مِن قَبۡلُۖ قَالُواْ

1 アーヤ*44-46 の説明は、預言者*ムハンマドがその場にいたわけでもなかったのに、当時の状況を事細かに描写できるのは、アッラーからの啓示を授かった使徒であるにほかならない、ということである（アッ＝サアディー617 頁参照）。

2 この「民」は、長い間、使徒が遣わされていなかったアラブ人のこと。尚このアーヤが、アラブ人以外の者に対しての警告を否定することにはならない（前掲書、同頁参照）。家畜章 19、高壁章 158 とその訳注、識別章 1、サバア章 28 なども参照

3 関連するアーヤ*として、夜の旅章 15 とその訳注も参照。

4 預言者*ムハンマド*が警告者として到来した時、ということ（ムヤッサル 391 頁参照）。

5 奇跡や、啓典が一度に全部下されたこと（夜の旅章 106、識別章 32 とその訳注も参照）などを指す（前掲書、同頁参照）。

のか？」彼らは以前、ムーサー*に授けられたものを否定しなかったのか？ 彼らは言ったのだ。「（トーラー*とクルアーン*は、）お互いに支え合う二つの魔術[1]である」。また、（こう）言った。「本当に私たちは、そのいずれをも拒否する者なのだ」。

سِحْرَانِ تَظَٰهَرَا وَقَالُوٓاْ إِنَّا بِكُلّٖ كَٰفِرُونَ ٤٨

49. （使徒*よ、）言ってやれ。「ならば、アッラー*の御許から、その二つ（トーラー*とクルアーン*）よりも正しく導いてくれる啓典を持って来てみよ。そうすれば、私はそれに従おう。もし、あなた方が本当のことを言っているのならば、だが」。

قُلْ فَأْتُواْ بِكِتَٰبٖ مِّنْ عِندِ ٱللَّهِ هُوَ أَهْدَىٰ
مِنْهُمَآ أَتَّبِعْهُ إِن كُنتُمْ صَٰدِقِينَ ٤٩

50. そして、もし彼らがあなた（の要望）に応じなかったら、彼らが自分たちの欲望に従っているに過ぎないということを知れ。アッラー*からのお導きもないままに、自分の欲望に従う者よりも、ひどく迷った者があろうか？ 本当にアッラー*は、不正*者である民をお導きにはならないのだ。

فَإِن لَّمْ يَسْتَجِيبُواْ لَكَ فَٱعْلَمْ أَنَّمَا
يَتَّبِعُونَ أَهْوَآءَهُمْۚ وَمَنْ أَضَلُّ مِمَّنِ ٱتَّبَعَ
هَوَىٰهُ بِغَيْرِ هُدٗى مِّنَ ٱللَّهِۚ إِنَّ ٱللَّهَ
لَا يَهْدِي ٱلْقَوْمَ ٱلظَّٰلِمِينَ ٥٠

51. われら*は確かに、彼らのために御言葉（クルアーン*）を、つなげ（て下し）た[2]。（それは、）彼らが教訓を得るようにするためである。

۞ وَلَقَدْ وَصَّلْنَا لَهُمُ ٱلْقَوْلَ لَعَلَّهُمْ
يَتَذَكَّرُونَ ٥١

52. それ以前に、われら*が啓典を授けた者（啓典の民*）たち[3]、彼らこそは、それ（クルアーン*）を信じるのだ。

ٱلَّذِينَ ءَاتَيْنَٰهُمُ ٱلْكِتَٰبَ مِن قَبْلِهِۦ هُم بِهِۦ
يُؤْمِنُونَ ٥٢

---

1 不信仰者*らは、それらが魔術と人々を迷わせることにおいて互いに助長し合うものだ、と主張した（アッ＝サァディー617 頁参照）。

2 クルアーン*が「つなげる」と表現されているのには、クルアーン*が一度に下らずに、次々と下ったことの外、その内容において、吉報や警告、希望や恐怖、物語や訓戒などが連続して現れることなども示しているとされる（イブン・アーシュール 20:142 参照）。

3 自分たちの啓典を改ざんしたりすることのなかった、啓典の民*のこと（ムヤッサル 392 頁参照）。

53. そして、彼らにそれ（クルアーン*）が誦んで聞かされた時、彼らは（こう）言った。「私たちはそれを信じました。本当にそれは、我らの主*からの真理ですから。本当に私たちはそれ以前から、服従する者（ムスリム*）だったのです」。

وَإِذَا يُتۡلَىٰ عَلَيۡهِمۡ قَالُوٓاْ ءَامَنَّا بِهِۦٓ إِنَّهُ ٱلۡحَقُّ مِن
رَّبِّنَآ إِنَّا كُنَّا مِن قَبۡلِهِۦ مُسۡلِمِينَ ٥٣

54. それらの者たちは、彼らの忍耐*ゆえに、その褒美を二度与えられる。そして彼らは悪を善で追いやり[1]、われら*が彼らに授けたものの内から（施しとして）費やす[2]のである[3]。

أُوْلَٰٓئِكَ يُؤۡتَوۡنَ أَجۡرَهُم مَّرَّتَيۡنِ بِمَا صَبَرُواْ وَيَدۡرَءُونَ
بِٱلۡحَسَنَةِ ٱلسَّيِّئَةَ وَمِمَّا رَزَقۡنَٰهُمۡ يُنفِقُونَ ٥٤

55. また彼らは、戯言[4]を耳にすれば、それに背を向けて（こう）言った。「私たちには私たちの行いがあり、あなた方にはあなた方の行いがあります。あなた方に平安を[5]。私たちは、無知な者たち（のやり方）を望まないのですから」。

وَإِذَا سَمِعُواْ ٱللَّغۡوَ أَعۡرَضُواْ عَنۡهُ وَقَالُواْ لَنَآ
أَعۡمَٰلُنَا وَلَكُمۡ أَعۡمَٰلُكُمۡ سَلَٰمٌ عَلَيۡكُمۡ
لَا نَبۡتَغِي ٱلۡجَٰهِلِينَ ٥٥

56. （使徒*よ、）本当にあなたが、自分の好む者を導くのではない。しかしアッラー*が、かれのお望みになる者をお導きになるのであり、かれは導かれる者たちを最もよくご存知である。[6]

إِنَّكَ لَا تَهۡدِي مَنۡ أَحۡبَبۡتَ وَلَٰكِنَّ ٱللَّهَ
يَهۡدِي مَن يَشَآءُۚ وَهُوَ أَعۡلَمُ بِٱلۡمُهۡتَدِينَ ٥٦

---

1 「悪を善で追いやる」については、信仰者たち章 96、詳細にされた章 34-35 も参照。

2 「（施しとして）費やす」については、雌牛章 3 の訳注を参照。

3 「褒美を二度与えられる」のは、彼らが自分たちの啓典を信じていた上に、クルアーン*のことも信じたため（ムヤッサル 392 頁参照）。鉄章 28 も参照。

4 この「戯言」には、「無意味な言葉」「そもそも啓典には含まれていなかった、人為（じんい）的に付け加えられたもの」といった解釈がある（アッ＝タバリー8:6409 参照）。

5 これは挨拶ではなく、放免の意味。「あなた方は、私たちから悪口や汚い言葉で返されたりすることから無事ですよ」ということ（アル＝バガウィー3:539 参照）。識別章 63 とその訳注も参照。

6 最終的な導きがアッラー*にのみ委ねられていることについては、雌牛章 272、蜜蜂章 37、ユーヌス*章 99-100、蟻章 80、相談章 52 とその訳注も参照。

57. 彼ら（マッカ*の不信仰者*たち）は、言った。「もし私たちが、あなたと一緒に導きに従えば、私たちは自分たちの土地（マッカ*）から攫われてしまうだろう[1]」。われら*は彼らに、安全なる聖域[2]を確立してやったのではないか？ あらゆるものの果実は、われら*の御許からの糧としてそこに集められて来るのだ。しかし彼らの大半は、（その恩恵のほどが）分からない。

وَقَالُوٓاْ إِن نَّتَّبِعِ ٱلۡهُدَىٰ مَعَكَ نُتَخَطَّفۡ
مِنۡ أَرۡضِنَآۚ أَوَلَمۡ نُمَكِّن لَّهُمۡ حَرَمًا ءَامِنٗا
يُجۡبَىٰٓ إِلَيۡهِ ثَمَرَٰتُ كُلِّ شَيۡءٖ رِّزۡقٗا مِّن لَّدُنَّا
وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَهُمۡ لَا يَعۡلَمُونَ ٥٧

58. われら*はその暮らし向きに思い上がった、どれだけ多くの（不信仰な）町（の人々）を滅ぼしてきたことか。そして、それらが（廃墟と化した）彼らの住居である。（その内）僅かなものを除いては、彼らの（滅亡）後、居住されることはなかったのだ。われら*こそはもとより、相続者[3]なのである。

وَكَمۡ أَهۡلَكۡنَا مِن قَرۡيَةِۭ بَطِرَتۡ مَعِيشَتَهَاۖ
فَتِلۡكَ مَسَٰكِنُهُمۡ لَمۡ تُسۡكَن مِّنۢ بَعۡدِهِمۡ
إِلَّا قَلِيلٗاۖ وَكُنَّا نَحۡنُ ٱلۡوَٰرِثِينَ ٥٨

59. また（使徒*よ）、あなたの主*はもとより、町々を滅ぼされるお方ではない――町々の母[4]（の民）のもとに、われら*の御徴を彼らに誦んで聞かせる使徒*を遣わすまでは――。そしてわれら*は、その民が不正*者でありもしないのに、町々を滅ぼす者ではない。[5]

وَمَا كَانَ رَبُّكَ مُهۡلِكَ ٱلۡقُرَىٰ حَتَّىٰ يَبۡعَثَ
فِيٓ أُمِّهَا رَسُولٗا يَتۡلُواْ عَلَيۡهِمۡ ءَايَٰتِنَاۚ وَمَا
كُنَّا مُهۡلِكِي ٱلۡقُرَىٰٓ إِلَّا وَأَهۡلُهَا
ظَٰلِمُونَ ٥٩

1 つまりシルク*の徒である他のアラブ人たちを敵に回すことで、殺害されたり、捕虜（ほりょ）になったり、財産を奪われたりすること（イブン・カスィール 6:247 参照）。

2 「安全なる聖域」とは、マッカ*の聖域のこと。雌牛章 125 の訳注、蟻章 91「聖なる地」の訳注も参照。

3 「相続者」については、イムラーン家章 180 の訳注も参照。

4 町々の「母」とは、マッカ*のこと（ムヤッサル 392 頁参照）。家畜章 92「都市の母」の訳注も参照。

5 関連するアーヤ*として、夜の旅章 15 とその訳注も参照。また、アーヤ*46「民」の訳注も参照。

60. （人々よ、）あなた方に授けられたいかなるもの[1]も、現世の生活の楽しみとその飾りに過ぎないのである。そしてアッラー*の御許にあるものは、より善く、より永く残るもの。一体、あなた方は分別しないのか？

وَمَآ أُوتِيتُم مِّن شَيۡءٖ فَمَتَٰعُ ٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَا
وَزِينَتُهَاۚ وَمَا عِندَ ٱللَّهِ خَيۡرٞ وَأَبۡقَىٰٓۚ
أَفَلَا تَعۡقِلُونَ ٦٠

61. われら*が（われら*に従った者には天国を与えるという）善き約束をし、（その約束を果たすことで）それ[2]を目の当たりにする者は、われら*が現世の生活の享楽で楽しませ、（導きにも従わずに現世に溺れ、）それから復活の日*に（悪い清算へと）連れて来られる者たちの類いと、同様であろうか？

أَفَمَن وَعَدۡنَٰهُ وَعۡدًا حَسَنٗا فَهُوَ لَٰقِيهِ كَمَن
مَّتَّعۡنَٰهُ مَتَٰعَ ٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَا ثُمَّ هُوَ يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِ
مِنَ ٱلۡمُحۡضَرِينَ ٦١

62. そして、かれ（アッラー*）が彼ら（シルク*の徒）を呼んで、「あなた方が主張していた、（崇拝*における）われの同位者たち[3]は、どこなのか？」と仰せられる日のこと（を思い起こさせよ）。

وَيَوۡمَ يُنَادِيهِمۡ فَيَقُولُ أَيۡنَ شُرَكَآءِيَ
ٱلَّذِينَ كُنتُمۡ تَزۡعُمُونَ ٦٢

63. 自分たちに（懲罰という）御言葉が確定した者たち[4]は、言う。「我らが主*よ、これらの者たちは、私たちが逸脱させた者たちです。私たちは自分たちが逸脱したように、彼らを逸脱させました。私たちはあなたに、（彼らとは）無縁だと宣言します。

قَالَ ٱلَّذِينَ حَقَّ عَلَيۡهِمُ ٱلۡقَوۡلُ رَبَّنَا هَٰٓؤُلَآءِ
ٱلَّذِينَ أَغۡوَيۡنَآ أَغۡوَيۡنَٰهُمۡ كَمَا غَوَيۡنَاۖ
تَبَرَّأۡنَآ إِلَيۡكَۖ مَا كَانُوٓاْ إِيَّانَا يَعۡبُدُونَ ٦٣

---

1 つまり財産や子供などのこと（ムヤッサル 393 頁参照）。

2 天国のこと（前掲書、同頁参照）。

3 「われの同位者たち」とは、彼らがアッラー*に対してシルク*を犯していた偶像など、彼らが拠（よ）り所としていた対象のこと（前掲書、同頁参照）。

4 これはシャイターン*を始め、人々を不信仰へと招いていた者たち（イブン・カスィール 6：250 参照）。

彼らは私たちのことなど、崇めてはいなかった[1]のですから」。[2]

64. そして、（シルク*の徒は、こう）言われる。「あなた方（がアッラー*）の同位者（としていたもの）たちを、呼んでみよ」。それで彼らはかれらを呼ぶものの、かれらの方では彼らに応えてはくれず、彼らは懲罰を目の当たりにする。もし、彼らが導かれていれば（、懲罰を目の当たりにすることはなかったものを）。

وَقِيلَ ٱدۡعُواْ شُرَكَآءَكُمۡ فَدَعَوۡهُمۡ فَلَمۡ
يَسۡتَجِيبُواْ لَهُمۡ وَرَأَوُاْ ٱلۡعَذَابَۚ لَوۡ أَنَّهُمۡ
كَانُواْ يَهۡتَدُونَ ٦٤

65. かれ（アッラー*）が、彼ら（シルク*の徒）を呼んで、「あなた方は、遣わされた者（使徒*）たちに何と応えたのか？」と仰せられる日のこと（を思い起こさせよ）。[3]

وَيَوۡمَ يُنَادِيهِمۡ فَيَقُولُ مَاذَآ أَجَبۡتُمُ
ٱلۡمُرۡسَلِينَ ٦٥

66. そしてその日、彼らにとっての言い訳はなくなってしまい、彼らは互いに尋ね合うこと（で、よい言い訳を見出すこと）もない。

فَعَمِيَتۡ عَلَيۡهِمُ ٱلۡأَنۢبَآءُ يَوۡمَئِذٖ فَهُمۡ لَا
يَتَسَآءَلُونَ ٦٦

67. （現世で）悔悟して信仰し、正しい行い*を行った者はといえば、きっと成功者の一人となるであろう。

فَأَمَّا مَن تَابَ وَءَامَنَ وَعَمِلَ صَٰلِحٗا فَعَسَىٰٓ أَن
يَكُونَ مِنَ ٱلۡمُفۡلِحِينَ ٦٧

68. あなたの主*は、お望みのものを創り、選ばれる。彼らに選択（の余地）はないのだ[4]。アッラー*に称え*あれ、かれは彼らがシルク*を犯しているものから（無縁で）、遥か高遠なお方であられる。

وَرَبُّكَ يَخۡلُقُ مَا يَشَآءُ وَيَخۡتَارُۗ مَا كَانَ لَهُمُ ٱلۡخِيَرَةُۚ
سُبۡحَٰنَ ٱللَّهِ وَتَعَٰلَىٰ عَمَّا يُشۡرِكُونَ ٦٨

69. また、あなたの主*は、彼らの胸が潜めることとも、露わにすることとも、ご存知である。

وَرَبُّكَ يَعۡلَمُ مَا تُكِنُّ صُدُورُهُمۡ وَمَا
يُعۡلِنُونَ ٦٩

---

1 実際のところ､彼らが崇めていたのはシャイターン*に過ぎない(ムヤッサル393頁参照)。

2 同様の情景の描写として、雌牛章166-167、高壁章38、イブラーヒーム*章21-22、識別章17-19、部族連合章67-68、サバア章31-33、40-41も参照。

3 この質問に関しては、食卓章109とその訳注も参照。

4 アッラー*のしもべが自ら行う選択は、そもそもアッラー*がそれをお選びになり、お創りになったものである。また一説に、これは金の装飾章31にある言葉への返答（アル＝バイダーウィー4:301参照)。

70. そして、かれはアッラー*、かれ以外に（真に）崇拝*すべきいかなるものもない。かれにこそ、現世と来世における全ての称賛*がある。そしてかれにこそ裁決は属し、かれの御許にこそ、あなた方は戻らされるのである。

وَهُوَ ٱللَّهُ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ ۖ لَهُ ٱلْحَمْدُ فِى ٱلْأُولَىٰ
وَٱلْءَاخِرَةِ ۖ وَلَهُ ٱلْحُكْمُ وَإِلَيْهِ تُرْجَعُونَ ٧٠

71. （使徒*よ、）言ってやれ。「言ってみよ、もしアッラー*があなた方に対し、夜を復活の日*まで永続するものとされたならば、（燦然たる）光をもたらすのはアッラー以外のどの神か？ 一体あなた方は、耳を傾けないのか？」

قُلْ أَرَءَيْتُمْ إِن جَعَلَ ٱللَّهُ عَلَيْكُمُ ٱلَّيْلَ
سَرْمَدًا إِلَىٰ يَوْمِ ٱلْقِيَٰمَةِ مَنْ إِلَٰهٌ غَيْرُ ٱللَّهِ
يَأْتِيكُم بِضِيَآءٍ ۖ أَفَلَا تَسْمَعُونَ ٧١

72. 言ってやれ。「言ってみよ、もしアッラー*があなた方に対し、昼を復活の日まで永続するものとされたならば、あなた方がそこで休息する夜をもたらすのは、アッラー*以外のどの神か？ 一体あなた方は、眼を開かないのか？」

قُلْ أَرَءَيْتُمْ إِن جَعَلَ ٱللَّهُ عَلَيْكُمُ ٱلنَّهَارَ
سَرْمَدًا إِلَىٰ يَوْمِ ٱلْقِيَٰمَةِ مَنْ إِلَٰهٌ غَيْرُ ٱللَّهِ
يَأْتِيكُم بِلَيْلٍ تَسْكُنُونَ فِيهِ ۖ أَفَلَا
تُبْصِرُونَ ٧٢

73. （人々よ、）かれは、そのご慈悲ゆえに、あなた方のために夜と昼を設けられた。（それは）あなた方がそこ（夜）において休息し、また（昼には）かれのご恩寵を求め（て活動す）るため。そして、あなた方が（かれからの恩恵に）感謝するようになるためなのだ。

وَمِن رَّحْمَتِهِۦ جَعَلَ لَكُمُ ٱلَّيْلَ وَٱلنَّهَارَ
لِتَسْكُنُوا۟ فِيهِ وَلِتَبْتَغُوا۟ مِن فَضْلِهِۦ
وَلَعَلَّكُمْ تَشْكُرُونَ ٧٣

74. また、かれ（アッラー*）が彼ら（シルク*の徒）を呼び、「あなた方が主張していた、（崇拝*における）われの同位者たち[1]は、どこなのか？」と仰せられる日のこと（を思い起こさせよ）。

وَيَوْمَ يُنَادِيهِمْ فَيَقُولُ أَيْنَ شُرَكَآءِىَ ٱلَّذِينَ
كُنتُمْ تَزْعُمُونَ ٧٤

1 「同位者たち」については、アーヤ*62の訳注を参照。

75. そして、われら*は（使徒*を嘘つきとした）各共同体から一人の証人[1]を抜き出し、（こう）言う。「（シルク*の正当性を確証する、）あなた方の明証を持って来い」。そして彼らは、真理がアッラー*に属することを知る。彼らの捏造していたものは、彼らから消え失せてしまうのだ。

وَنَزَعْنَا مِن كُلِّ أُمَّةٍ شَهِيدًا فَقُلْنَا هَاتُوا۟
بُرْهَٰنَكُمْ فَعَلِمُوٓا۟ أَنَّ ٱلْحَقَّ لِلَّهِ
وَضَلَّ عَنْهُم مَّا كَانُوا۟ يَفْتَرُونَ ٧٥

76. 本当にカールーンはムーサー*の民の一人[2]であり、彼らに対して（その高慢さと圧制において）度を越していた。またわれら*は、実にその（箱の）鍵が力持ちの集団にさえ重くのしかかるほどの財宝を、彼に与えた。彼の民（の内、正しい者たち）が彼に、（こう）言った時のこと（を思い起こさせよ）。「（自分の財産に）有頂天になってはいけません。本当にアッラー*は、（感謝せずに）有頂天になる者たちを、好まれないのですから。

۞ إِنَّ قَٰرُونَ كَانَ مِن قَوْمِ مُوسَىٰ فَبَغَىٰ عَلَيْهِمْ
وَءَاتَيْنَٰهُ مِنَ ٱلْكُنُوزِ مَآ إِنَّ مَفَاتِحَهُۥ لَتَنُوٓأُ
بِٱلْعُصْبَةِ أُو۟لِى ٱلْقُوَّةِ إِذْ قَالَ لَهُۥ قَوْمُهُۥ لَا تَفْرَحْ
إِنَّ ٱللَّهَ لَا يُحِبُّ ٱلْفَرِحِينَ ٧٦

77. そしてアッラー*があなたに授けたものにおいて、来世の住まい（の褒美）をお求めなさい。また、現世からのご自分の取り分も忘れてはなりません[3]。そしてアッラー*があなたに対して善くなされたように、（他人に対して）善くし、地上で腐敗*を求めてはなりません。本当にアッラー*は、腐敗*を働く者たちをお好みにはならないのですから」。

وَٱبْتَغِ فِيمَآ ءَاتَىٰكَ ٱللَّهُ ٱلدَّارَ ٱلْءَاخِرَةَ وَلَا
تَنسَ نَصِيبَكَ مِنَ ٱلدُّنْيَا وَأَحْسِن كَمَآ
أَحْسَنَ ٱللَّهُ إِلَيْكَ وَلَا تَبْغِ ٱلْفَسَادَ فِى ٱلْأَرْضِ
إِنَّ ٱللَّهَ لَا يُحِبُّ ٱلْمُفْسِدِينَ ٧٧

---

1 この「証人」とは、各預言者*のこと。彼らは自分の民が現世で行っていたシルク*や、自分たちを嘘つき呼ばわりしたことなどを、証言する（ムヤッサル 393 頁参照）。婦人章 41 の訳注も参照。

2 カールーンはムーサー*のいとこであった、と言われる（アッ＝タバリー8:6424 参照）。

3 一説に、この「取り分」は寿命のこと。つまり、「現世で正しい行い*をしないまま、寿命を無駄にしてはならない」という意味。別の一説では、「合法な物事を楽しみ、求める」という「現世の取り分」のことを指す（アル＝クルトゥビー13:314 参照）。

78. 彼（カールーン）は言った。「私は外でもない、自分にある知識ゆえに、それを授けられたのだ[1]」。一体、彼は知らないのか？ 彼よりも、ずっと力が強大で遥かに蓄えも多かった彼以前の数々の世代を、アッラー*が確かに滅ぼされたということを？ 罪悪者たちは、その罪について尋ねられることはない[2]。

قَالَ إِنَّمَآ أُوتِيتُهُۥ عَلَىٰ عِلۡمٍ عِندِيٓۚ أَوَلَمۡ يَعۡلَمۡ
أَنَّ ٱللَّهَ قَدۡ أَهۡلَكَ مِن قَبۡلِهِۦ مِنَ ٱلۡقُرُونِ مَنۡ
هُوَ أَشَدُّ مِنۡهُ قُوَّةٗ وَأَكۡثَرُ جَمۡعٗاۚ وَلَا يُسۡـَٔلُ
عَن ذُنُوبِهِمُ ٱلۡمُجۡرِمُونَ ٧٨

79. こうして彼は（ある日）、その装飾品に身を包んで（自らの偉大さと財産を誇示しつつ）、彼の民の前に現れた。現世の生活（の煌びやかさ）を望んでいる者たちは、言った。「私たちにも、カールーンに与えられたような物があったらいいのに！ 本当に彼はまさしく、偉大な幸運の持ち主だ」。

فَخَرَجَ عَلَىٰ قَوۡمِهِۦ فِي زِينَتِهِۦۖ قَالَ ٱلَّذِينَ
يُرِيدُونَ ٱلۡحَيَوٰةَ ٱلدُّنۡيَا يَٰلَيۡتَ لَنَا مِثۡلَ مَآ
أُوتِيَ قَٰرُونُ إِنَّهُۥ لَذُو حَظٍّ عَظِيمٖ ٧٩

80. そして、知識を授けられた者たち[3]は言った。「あなた方の災いよ！[4] 信仰し、正しい行い*を行う者にとっては、アッラー*のご褒美の方が（カールーンに与えられたもの）より良いのですよ。それを授かるのは、忍耐*強い者たち[5]だけですが」。

وَقَالَ ٱلَّذِينَ أُوتُواْ ٱلۡعِلۡمَ وَيۡلَكُمۡ ثَوَابُ ٱللَّهِ
خَيۡرٞ لِّمَنۡ ءَامَنَ وَعَمِلَ صَٰلِحٗاۚ وَلَا
يُلَقَّىٰهَآ إِلَّا ٱلصَّٰبِرُونَ ٨٠

---

1 つまり、彼はその財産を、自分自身の稼ぎと、金稼ぎの方法に関する知識と技術によって手にした、ということ。あるいは、「アッラー*が、自分のことをそれに相応（ふさわ）しいとご存知であるゆえに、それを授けられたのである」ということ（アッ＝サァディー623頁参照）。

2 復活の日*、清算もなしに地獄へ入れられるということ。あるいは来世において、彼らの容貌（ようぼう）に現れた地獄の民の印ゆえ、もはや天使*たちが彼らに尋ねることはない、ということ（アッ＝タバリー8:6434 参照）。

3 アッラー*とその教え、そして物事の真相を知った者たちのこと（ムヤッサル395頁参照）。

4 この表現については、食卓章 31 の訳注を参照。

5 つまり、アッラー*への服従、罪に対しての自制、辛い定めにおいて忍耐*し、かつ現世とその欲望に対して忍耐*する者たちのこと（アッ＝サァディー623 頁参照）。

81. こうしてわれら*は、彼とその邸宅を地面に飲み込ませた。彼には、アッラー*をよそに彼を助けてくれるいかなる集団もなかったし、（懲罰から）援助される者でもなかったのだ。

فَخَسَفۡنَا بِهِۦ وَبِدَارِهِ ٱلۡأَرۡضَ فَمَا
كَانَ لَهُۥ مِن فِئَةٖ يَنصُرُونَهُۥ مِن دُونِ ٱللَّهِ
وَمَا كَانَ مِنَ ٱلۡمُنتَصِرِينَ ٨١

82. そして昨日、彼の（ような）境遇を望んでいた者たちは、（こう）言い出した。「これは驚いたこと！ アッラー*はその僕たちの内、かれがお望みの者に糧を豊富に与えられ、また控えられるのだ[1]。もしアッラー*が私たちにお恵み下さらなければ、私たちのことも沈めてしまったであろう。これは驚いたこと！ 不信仰者*たちが成功することはないのだ」。

وَأَصۡبَحَ ٱلَّذِينَ تَمَنَّوۡاْ مَكَانَهُۥ بِٱلۡأَمۡسِ
يَقُولُونَ وَيۡكَأَنَّ ٱللَّهَ يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ
مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُۖ لَوۡلَآ أَن مَّنَّ ٱللَّهُ عَلَيۡنَا
لَخَسَفَ بِنَاۖ وَيۡكَأَنَّهُۥ لَا يُفۡلِحُ ٱلۡكَٰفِرُونَ ٨٢

83. （天国という）その来世の住まい、われら*はそれを地上で（、真理に対して）高慢さも腐敗*も望まない者たちのためのものとした。そして（善き）結末[2]は、敬虔*な者たちのものである。

تِلۡكَ ٱلدَّارُ ٱلۡأٓخِرَةُ نَجۡعَلُهَا لِلَّذِينَ لَا يُرِيدُونَ
عُلُوّٗا فِي ٱلۡأَرۡضِ وَلَا فَسَادٗاۚ وَٱلۡعَٰقِبَةُ لِلۡمُتَّقِينَ ٨٣

84. 誰であろうと（復活の日*、）善行を携えてやって来た者、彼にはそれよりも善いもの[3]がある。そして誰であろうと悪行を携えてやって来た者、（彼にはそれに応じた悪い報いがある、というのも）悪行を行っ

مَن جَآءَ بِٱلۡحَسَنَةِ فَلَهُۥ خَيۡرٞ مِّنۡهَاۖ وَمَن جَآءَ
بِٱلسَّيِّئَةِ فَلَا يُجۡزَى ٱلَّذِينَ عَمِلُواْ
ٱلسَّيِّـَٔاتِ إِلَّا مَا كَانُواْ يَعۡمَلُونَ ٨٤

---

1 つまり彼らは、アッラーが誰かに財産をお授けになるのが、その者に対するアッラーのご満足の印ではないことを知った（イブン・カスィール 6:257 参照）。アッラーは財産を、かれが愛される者にも愛されない者にも、お授けになる。だが信仰心は、かれが愛される者にしかお授けにはならない（アル＝ハーキム 7381 参照）。サバア章 36、暁章 15-16 とそれらの訳注も参照。

2 この「約束」とは、天国のこと（ムヤッサル 395 頁参照）。

3 この「善」とは、アッラーの唯一性*に対する純粋な信仰と、アッラーの教えに沿った善行のことであり、「それよりも善いもの」とは、その褒美としての天国と、そこでの安楽であるとされる（前掲書、同頁参照）。

ていた者たちが報われるのは、自分たちが行っていたこと（ゆえの応報）に外ならないのだから。

85. （使徒*よ、）本当にあなたにクルアーン*を（お授けになり、その伝達と遵守を）義務づけ給うたお方は、あなたを帰り場所へと必ずやお返しになるお方[1]。言え。「我が主*は、誰が導きを携えて到来したか、そして誰が紛れもない迷妄の中にあるかを、ご存知である」。

إِنَّ ٱلَّذِي فَرَضَ عَلَيۡكَ ٱلۡقُرۡءَانَ لَرَآدُّكَ إِلَىٰ
مَعَادٖۚ قُل رَّبِّيٓ أَعۡلَمُ مَن جَآءَ بِٱلۡهُدَىٰ وَمَنۡ
هُوَ فِي ضَلَٰلٖ مُّبِينٖ ٨٥

86. （使徒*よ、）あなたは、啓典が自分に下されることを願っていたわけではなかった。しかし、（それは）あなたの主*からのご慈悲ゆえ（のもの）だったのだ。ならば決して、不信仰者*たちの援助者となるのではない。

وَمَا كُنتَ تَرۡجُوٓاْ أَن يُلۡقَىٰٓ إِلَيۡكَ ٱلۡكِتَٰبُ
إِلَّا رَحۡمَةٗ مِّن رَّبِّكَۖ فَلَا تَكُونَنَّ ظَهِيرٗا
لِّلۡكَٰفِرِينَ ٨٦

87. また、あなたにそれが下された後、彼らにあなたをアッラー*の御徴から阻ませては、決してならない。そしてあなたの主*（の教え）へと招け。絶対にシルク*の徒の類いとなってはならない。

وَلَا يَصُدُّنَّكَ عَنۡ ءَايَٰتِ ٱللَّهِ بَعۡدَ إِذۡ أُنزِلَتۡ
إِلَيۡكَۖ وَٱدۡعُ إِلَىٰ رَبِّكَۖ وَلَا تَكُونَنَّ مِنَ
ٱلۡمُشۡرِكِينَ ٨٧

88. そしてアッラー*に並べて、外の神[2]を祈ってはならない。かれの外には、（真に）崇拝*すべきいかなるものもないのだから。かれの御顔[3]以外の全てのものは、滅び行くのである。かれにこそ裁決は属するのであり、かれの御許にこそあなた方は戻されるのだ。

وَلَا تَدۡعُ مَعَ ٱللَّهِ إِلَٰهًا ءَاخَرَۘ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَۚ
كُلُّ شَيۡءٍ هَالِكٌ إِلَّا وَجۡهَهُۥۚ لَهُ ٱلۡحُكۡمُ
وَإِلَيۡهِ تُرۡجَعُونَ ٨٨

1 このアーヤ*の解釈には諸説あるが、アル＝クルトゥビー*によれば、預言者*ムハンマド*が故郷マッカ*に勝利者として帰還（きかん）することの暗示である、という説が多数派とされる（13:288 参照）。

2 「神」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

3 アッラー*ご自身が、「御顔」と表現されている。あるいは、「アッラー*の御顔のみを求めて行われた行為」以外は、全て無駄（むだ）なものとなる、という意味（イブン・カスィール 6:261-262 参照）。

第 29 章

蜘蛛章（アル＝アンカブート）[1]

سُورَةُ العَنكَبُوتِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. アリフ・ラーム・ミーム[2]。

الٓمٓ ١

2. 一体人々は、「私たちは信仰した」と言うことで、試練にかけられることもなく、放って置かれるとでも思ったのか？[3]

أَحَسِبَ ٱلنَّاسُ أَن يُتۡرَكُوٓاْ أَن يَقُولُوٓاْ
ءَامَنَّا وَهُمۡ لَا يُفۡتَنُونَ ٢

3. また、われら*は確かに、（使徒*が遣わされた）彼ら以前の者たちを試練にかけたのだ。それでアッラーは、（信仰に）正直な者たちを必ずやご存知になり給い、嘘つきたちを必ずやご存知になり給う。

وَلَقَدۡ فَتَنَّا ٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِهِمۡۖ فَلَيَعۡلَمَنَّ ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ
صَدَقُواْ وَلَيَعۡلَمَنَّ ٱلۡكَٰذِبِينَ ٣

4. いや、一体、悪行[4]を行う者たちは、われら*を出し抜けるとでも思ったのか？ 彼らの判断することの、何と忌まわしいことか？

أَمۡ حَسِبَ ٱلَّذِينَ يَعۡمَلُونَ ٱلسَّيِّـَٔاتِ أَن
يَسۡبِقُونَاۚ سَآءَ مَا يَحۡكُمُونَ ٤

---

1 マッカ*啓示（一部アーヤ*は、マディーナ*啓示説あり）の中でも、最も遅い時期に下ったものとされる。つまりマディーナ*への移住*を強いられる直前の、苦難と迫害の極（きわ）みにあったムスリム*たちの状況を背景に、冒頭から真の信仰・試練・信仰者と不信仰者*の末路について取り上げられる。そして、信仰者たちの試練と勝利・不信仰者*の敗北という不変の法則は、過去の預言者*・使徒*たちとその民の間に起こった出来事の描写によって強調され、シルク*の無根拠さと脆弱（ぜいじゃく）さが、このスーラ*の名称にもなっている「蜘蛛の巣（アーヤ*41 参照）」にたとえられる。スーラ*の最後は、アッラー*の全能性の描写、試練において忍耐*し、努力奮闘する信仰者たちへの吉報によって締めくくられる。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 預言者*ムハンマド*は仰（おっしゃ）った。「人は、自分の宗教（に対する堅固さの程度）に応じて、試練を受ける･･･」（アフマド 1481 参照）。雌牛章 214、イムラーン家章 186、悔悟章 16、洞窟章 7、ムハンマド*章 31、王権章 2 とそれらの訳注も参照。

4 この「悪行」は、シルク*を始めとした、アッラー*に対する不服従行為のこと（ムヤッサル 396 頁参照）。

5. （来世における）アッラーとの拝謁を望む[1]者は誰でも、（そのために準備せよ、）本当にアッラー*の（復活の）期限は、必ずやって来るのだから。かれは、よくお聞きになるお方、全知者であられる。

مَن كَانَ يَرْجُواْ لِقَآءَ ٱللَّهِ فَإِنَّ أَجَلَ ٱللَّهِ لَأٓتٍۚ وَهُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلْعَلِيمُ ٥

6. そして（アッラー*ゆえに）奮闘する者は誰でも、自分自身のために奮闘しているに過ぎない。本当にアッラー*はいかなる創造物（の行いや崇拝*行為）からも、まさしく満ち足りておられる*お方なのだから。[2]

وَمَن جَٰهَدَ فَإِنَّمَا يُجَٰهِدُ لِنَفْسِهِۦٓۚ إِنَّ ٱللَّهَ لَغَنِيٌّ عَنِ ٱلْعَٰلَمِينَ ٦

7. また、信仰して正しい行い*を行う者たち、われら*は必ずや、その悪行を彼らのために帳消しにしてやる。そして必ずや、彼らが行っていた最善のもので、彼らに報いてやるのだ。

وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ لَنُكَفِّرَنَّ عَنْهُمْ سَيِّـَٔاتِهِمْ وَلَنَجْزِيَنَّهُمْ أَحْسَنَ ٱلَّذِي كَانُواْ يَعْمَلُونَ ٧

8. われら*は人間に、自分の両親への孝行を命じた[3]。そしてもし彼ら二人が、あなた[4]が（崇拝*の正当性について）何も知らないものをわれに並べるべく、あなたに執拗に迫って来たならば、（そのことに関しては）彼らに服従するのではない[5]。われにこそ（復活の日*）、あなた方の帰り所があるのだ。そしてわれは、あなた方が（現世で）行っていたことを、あなた方に告げ聞かせ（、それに報い）る。

وَوَصَّيْنَا ٱلْإِنسَٰنَ بِوَٰلِدَيْهِ حُسْنًاۖ وَإِن جَٰهَدَاكَ لِتُشْرِكَ بِي مَا لَيْسَ لَكَ بِهِۦ عِلْمٌ فَلَا تُطِعْهُمَآۚ إِلَيَّ مَرْجِعُكُمْ فَأُنَبِّئُكُم بِمَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ٨

---

1 この「望む」については、ユーヌス*章 7 の訳注を参照。

2 アッラー*は被造物がご自身に服従することなど、必要とされない。しもべたちに諸々の義務行為を課したのは、ひとえに彼らへの慈悲であり、彼らの利益のためである（アル＝バイダーウィー4:308 参照）。

3 夜の旅章 23-24 も参照。

4 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。以下、同様の表現の際にも、同訳注を参照。

5 アッラー*への不服従における服従、などというものはない（アル＝ブハーリー7257 参照）。それは、たとえ両親であっても同様である。尚シルク*のみに限らず、アッラー*に対する全ての反逆行為において、他人に従ったりしてはならない（ムヤッサル 397 頁参照）。

9. 信仰して正しい行い*を行う者たち、われら*は必ずや彼らに、（天国で）正しい者*たちの仲間入りをさせる。

وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
لَنُدۡخِلَنَّهُمۡ فِي ٱلصَّٰلِحِينَ ٩

10. 人々の中には、「私たちはアッラー*を信じた」と言いつつも、アッラー*（の道）において苦しめられれば、人々（から）の試練をあたかもアッラー*の懲罰のように受け止めて（怯み、イスラーム*に背を向けて）しまう者がいる[1]。そして、もしもあなたの主*からの勝利が（信仰者たちに）やって来れば、彼ら（棄教者たち）はきっと（こう）言うのだ。「本当に私たちは、あなた方と共にあったのだ」。一体アッラー*は、全創造物の胸の内[2]を、最もよくご存知なのではないか？

وَمِنَ ٱلنَّاسِ مَن يَقُولُ ءَامَنَّا بِٱللَّهِ فَإِذَآ أُوذِيَ
فِي ٱللَّهِ جَعَلَ فِتۡنَةَ ٱلنَّاسِ كَعَذَابِ ٱللَّهِۖ وَلَئِن
جَآءَ نَصۡرٞ مِّن رَّبِّكَ لَيَقُولُنَّ إِنَّا كُنَّا مَعَكُمۡۚ
أَوَلَيۡسَ ٱللَّهُ بِأَعۡلَمَ بِمَا فِي صُدُورِ ٱلۡعَٰلَمِينَ ١٠

11. またアッラーは、信仰する者たちを必ずやご存知になり給い、偽信者*たちを必ずやご存知になり給う。[3]

وَلَيَعۡلَمَنَّ ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَلَيَعۡلَمَنَّ
ٱلۡمُنَٰفِقِينَ ١١

12. また不信仰に陥った者*たち[4]は、信仰する者たちに言う。「私たちのやり方（宗教）に従って、私たちにあなた方の過ち（の罪）を背負わせよ」。彼ら（不信仰者*）は、彼ら（信仰者）の罪など少しも背負うことなどないというのに。本当に彼らは、まさしく嘘つきなのだ。

وَقَالَ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ لِلَّذِينَ ءَامَنُواْ
ٱتَّبِعُواْ سَبِيلَنَا وَلۡنَحۡمِلۡ خَطَٰيَٰكُمۡ وَمَا
هُم بِحَٰمِلِينَ مِنۡ خَطَٰيَٰهُم مِّن شَيۡءٍۖ
إِنَّهُمۡ لَكَٰذِبُونَ ١٢

---

1 同様のアーヤ*として、巡礼章 11 とその訳注も参照。

2 いかに表面的に取り繕（つくろ）っても、アッラー*は人が心の内に隠すものをご存知である（イブン・カスィール 6:266 参照）。

3 そしてそれは、順境と逆境による試練によってである（前掲書、同頁参照）。アーヤ 2 の訳注も参照。

4 これは、マッカ*の不信仰者*たち（ムヤッサル 397 頁参照）。

13. また彼らはきっと、自分たちの（罪という）重荷と、（彼らが迷わせた民の罪という）別の重荷を、自分たちの重荷と共に背負うことになる[1]。そして彼らは復活の日*、自分たちが捏造していたことについて、必ずや尋ねられることになるのだ。

وَلَيَحۡمِلُنَّ أَثۡقَالَهُمۡ وَأَثۡقَالٗا مَّعَ أَثۡقَالِهِمۡۖ وَلَيُسۡـَٔلُنَّ يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِ عَمَّا كَانُواْ يَفۡتَرُونَ ١٣

14. われら*は確かにヌーフ*をその民に遣わし、彼はその中で（アッラー*の教えへと招きつつ、）千年から五十年差し引いた年月を過ごした[2]。そして（彼らが信じなかったので、）不正*者であった彼らを、洪水が捕らえた。

وَلَقَدۡ أَرۡسَلۡنَا نُوحًا إِلَىٰ قَوۡمِهِۦ فَلَبِثَ فِيهِمۡ أَلۡفَ سَنَةٍ إِلَّا خَمۡسِينَ عَامٗا فَأَخَذَهُمُ ٱلطُّوفَانُ وَهُمۡ ظَٰلِمُونَ ١٤

15. そしてわれら*は彼（ヌーフ*）と船の民を救い、それ（船）を全創造物に対する一つの御徴[3]とした。

فَأَنجَيۡنَٰهُ وَأَصۡحَٰبَ ٱلسَّفِينَةِ وَجَعَلۡنَٰهَآ ءَايَةٗ لِّلۡعَٰلَمِينَ ١٥

16. また、イブラーヒーム*を（遣わした）。彼がその民に（こう）言った時[4]。「アッラー*を崇拝*し、かれを畏れ*よ。それがあなた方にとってより善いのだ。もし、あなた方が知っていたのならば。

وَإِبۡرَٰهِيمَ إِذۡ قَالَ لِقَوۡمِهِ ٱعۡبُدُواْ ٱللَّهَ وَٱتَّقُوهُۖ ذَٰلِكُمۡ خَيۡرٞ لَّكُمۡ إِن كُنتُمۡ تَعۡلَمُونَ ١٦

17. あなた方は、アッラー*をよそに彫像を崇め、でっち上げを捏造している[5]に過ぎない。本当に、アッラー*をよそにあなた方が崇めている者たちは、あなた方に対して糧（を授ける力）を有してはいないのだ。な

إِنَّمَا تَعۡبُدُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ أَوۡثَٰنٗا وَتَخۡلُقُونَ إِفۡكًاۚ إِنَّ ٱلَّذِينَ تَعۡبُدُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ لَا يَمۡلِكُونَ لَكُمۡ رِزۡقٗا فَٱبۡتَغُواْ عِندَ ٱللَّهِ ٱلرِّزۡقَ وَٱعۡبُدُوهُ وَٱشۡكُرُواْ لَهُۥٓۖ إِلَيۡهِ تُرۡجَعُونَ ١٧

1 同様のアーヤ*として、蜜蜂章 25 とその訳注も参照。

2 ヌーフ*とその民に起こったことに関しては、高壁章 59-64、フード*章 25-48、信仰者たち章 23-30、詩人たち章 105-122、整列者章 75-82、月章 9-17、ヌーフ*章なども参照。

3 この「御徴」とは、信仰者・不信仰者*への教訓のこと。また船それ自体も、それを通してアッラー*のご慈悲に思いを馳（は）せるべき、一つの御徴である（アッ＝サアディー628 頁参照）。

4 イブラーヒーム*とその民のやり取りについては、家畜章 74-82、マルヤム*章 42-48、預言者*たち章 52-70、詩人たち章 70-89、整列者章 85-98、金の装飾章 26-28 も参照。

5 この「でっち上げ」は「彫像」のことである、という解釈もある（アッ＝タバリー8:6459 参照）。

らば、アッラー*の御許にこそ糧を求め、かれを崇拝*し、かれに感謝せよ。かれの御許にこそ、あなた方は戻されるのだから」。

18. ——[1]もしあなた方が（使徒*ムハンマド*を）嘘つき呼ばわりしたとしても、あなた方以前の共同体も（また、その使徒*たちを）確かに嘘つき呼ばわりしたのだ。そして使徒*の義務は、（啓示の）明白なる伝達に外ならないのである。

وَإِن تُكَذِّبُوا۟ فَقَدْ كَذَّبَ أُمَمٌ مِّن
قَبْلِكُمْ ۖ وَمَا عَلَى ٱلرَّسُولِ إِلَّا ٱلْبَلَٰغُ
ٱلْمُبِينُ ١٨

19. また彼らは、アッラーがいかに（無から）創造をお始めになるか知らなかったのか？　それからかれは、それを（死後に）繰り返し給う。本当にそれはアッラーにとって、容易いことなのだから。

أَوَلَمْ يَرَوْا۟ كَيْفَ يُبْدِئُ ٱللَّهُ ٱلْخَلْقَ ثُمَّ
يُعِيدُهُۥٓ ۚ إِنَّ ذَٰلِكَ عَلَى ٱللَّهِ يَسِيرٌ ١٩

20. （使徒*よ、）言え。「地上を旅し、かれがいかに創造を始められたか、見てみるがよい。それからアッラー*は、（死後の復活という）最後の創造をお創りになるのだ。本当にアッラー*は、全てのことがお出来のお方なのだから」。

قُلْ سِيرُوا۟ فِى ٱلْأَرْضِ فَٱنظُرُوا۟ كَيْفَ بَدَأَ
ٱلْخَلْقَ ۚ ثُمَّ ٱللَّهُ يُنشِئُ ٱلنَّشْأَةَ ٱلْءَاخِرَةَ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ
عَلَىٰ كُلِّ شَىْءٍ قَدِيرٌ ٢٠

21. かれは、かれがお望みの者を罰せられ、かれがお望みの者にご慈悲をおかけ下さる。そしてかれの御許にこそ、あなた方は戻されるのだ。

يُعَذِّبُ مَن يَشَآءُ وَيَرْحَمُ مَن يَشَآءُ ۖ وَإِلَيْهِ
تُقْلَبُونَ ٢١

22. （人々よ、）あなた方は地でも天でも、（アッラー*から）逃れられる者ではない。そしてあなた方にはアッラー*の外に、いかなる庇護者も援助者もないのだ。

وَمَآ أَنتُم بِمُعْجِزِينَ فِى ٱلْأَرْضِ وَلَا فِى
ٱلسَّمَآءِ ۖ وَمَا لَكُم مِّن دُونِ ٱللَّهِ مِن
وَلِىٍّ وَلَا نَصِيرٍ ٢٢

1 このアーヤ*からアーヤ*23 までが挿入説ではなく、全てイブラーヒーム*の言葉である、という説もある（イブン・カスィール 6:270 参照）。

23. そしてアッラー*の御徴と、かれとの拝謁を否定した者たち、それらの者たちは（来世において）わが慈悲に絶望することになる者たち。それらの者たち、彼らには痛ましい懲罰がある――。

وَٱلَّذِينَ كَفَرُواْ بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ وَلِقَآئِهِۦٓ
أُوْلَٰٓئِكَ يَئِسُواْ مِن رَّحْمَتِى وَأُوْلَٰٓئِكَ لَهُمْ
عَذَابٌ أَلِيمٌ ٢٣

24. そして彼（イブラーヒーム*）の民の返答は、「彼を殺すか、焼いてしまえ」と言うものだけだった。（彼らはイブラーヒーム*を火の中に放り込んだが、）アッラー*は彼を火からお救いになった[1]。本当にその中にはまさしく、信仰する民への御徴がある。

فَمَا كَانَ جَوَابَ قَوْمِهِۦٓ إِلَّآ أَن قَالُواْ
ٱقْتُلُوهُ أَوْ حَرِّقُوهُ فَأَنجَىٰهُ ٱللَّهُ مِنَ ٱلنَّارِ
إِنَّ فِى ذَٰلِكَ لَءَايَٰتٍ لِّقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ٢٤

25. また、彼（イブラーヒーム*）は言った。「本当にあなた方は、現世における自分たちの間の愛情ゆえ[2]、アッラー*をよそに彫像を設けて（崇めて）いる。やがて復活の日*には、あなた方はお互いを否定し合い、お互いに呪い合う[3]のだ。そして、あなた方の住処は業火なのであり、あなた方には（そこから救ってくれる）いかなる援助者もない」。

وَقَالَ إِنَّمَا ٱتَّخَذْتُم مِّن دُونِ ٱللَّهِ أَوْثَٰنًا
مَّوَدَّةَ بَيْنِكُمْ فِى ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا ثُمَّ
يَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ يَكْفُرُ بَعْضُكُم بِبَعْضٍ
وَيَلْعَنُ بَعْضُكُم بَعْضًا وَمَأْوَىٰكُمُ
ٱلنَّارُ وَمَا لَكُم مِّن نَّٰصِرِينَ ٢٥

26. そしてルート*が彼を信じ、彼（イブラーヒーム*）は言った。「本当に私は、我が主*へと移住*する[4]。本当にかれは、偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方」。

۞ فَـَٔامَنَ لَهُۥ لُوطٌ وَقَالَ إِنِّى مُهَاجِرٌ
إِلَىٰ رَبِّىٓ إِنَّهُۥ هُوَ ٱلْعَزِيزُ ٱلْحَكِيمُ ٢٦

---

1 預言者*たち章 69-70 とその訳注、整列者章 97-98 も参照。

2 つまり、「彼らの間の愛情を育（はぐく）むため」あるいは「彼らの間での、彫像への愛情ゆえ」（アル＝バイダーウィー4:313 参照）。

3 復活の日*、アッラー*をよそに崇めていたものとその崇拝*者は、互いに縁を切り、敵となる。雌牛章 166-167、ユーヌス*章 28-29、マルヤム*章 82、物語章 63、創成者*章 13-14、砂丘章 6 も参照。

4 つまり、不信仰の民*の地から、自分の主*を崇拝*する場所への移住（アッ＝シャウカーニー4:262 参照）。この「移住」に関しては、預言者*たち章 71 とその訳注を参照。

27. またわれら*は、彼（イブラーヒーム*）にイスハーク*とヤアクーブ*を授け、彼の子孫の内に預言者*としての天分と啓典を与えた。また、現世においては彼に褒美[1]を授けた。そして本当に彼は来世において、まさしく正しい者*たちの一人である。

وَوَهَبۡنَا لَهُۥٓ إِسۡحَٰقَ وَيَعۡقُوبَ
وَجَعَلۡنَا فِي ذُرِّيَّتِهِ ٱلنُّبُوَّةَ
وَٱلۡكِتَٰبَ وَءَاتَيۡنَٰهُ أَجۡرَهُۥ فِي ٱلدُّنۡيَاۖ
وَإِنَّهُۥ فِي ٱلۡأٓخِرَةِ لَمِنَ ٱلصَّٰلِحِينَ ٢٧

28. また（われら*は）、ルート*を（遣わした）。彼がその民に、（こう）言った時[2]。「一体、本当にあなた方は、全創造物のいかなる者もあなた方以前には行わなかった醜行[3]に、手を染めるというのか？

وَلُوطًا إِذۡ قَالَ لِقَوۡمِهِۦٓ إِنَّكُمۡ لَتَأۡتُونَ
ٱلۡفَٰحِشَةَ مَا سَبَقَكُم بِهَا مِنۡ أَحَدٖ مِّنَ
ٱلۡعَٰلَمِينَ ٢٨

29. 一体、本当にあなた方は、男性へと赴き[4]、（旅人の）道を阻み[5]、自分たちの集会の場で悪事[6]を犯すのか？」そして彼の民の返答は、「アッラー*の懲罰を、私たちにもたらしてみよ。もし、あなたが正直者の類いなのであれば」と言うものでしかなかった。

أَئِنَّكُمۡ لَتَأۡتُونَ ٱلرِّجَالَ وَتَقۡطَعُونَ ٱلسَّبِيلَ
وَتَأۡتُونَ فِي نَادِيكُمُ ٱلۡمُنكَرَۖ فَمَا كَانَ
جَوَابَ قَوۡمِهِۦٓ إِلَّآ أَن قَالُواْ ٱئۡتِنَا بِعَذَابِ ٱللَّهِ
إِن كُنتَ مِنَ ٱلصَّٰدِقِينَ ٢٩

30. 彼（ルート）は言った。「我が主*よ、腐敗*を働く民に対して、私を勝利させて下さい」。

قَالَ رَبِّ ٱنصُرۡنِي عَلَى ٱلۡقَوۡمِ ٱلۡمُفۡسِدِينَ ٣٠

1 具体的には、人々からの賞讃や、正しい子供などのこと（ムヤッサル 399 頁参照）。

2 彼とその民の間に起こった話については、高壁章 80-84、フード*章 77-83、アル＝ヒジュル章 61-77、詩人たち章 160-175、蟻章 54-58、月章 33-40 も参照。

3 「醜行」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。

4 つまり男色のこと（前掲書、同頁参照）。

5 アル＝クルトゥビー*によれば、彼らは財産や性行為ゆえに旅人の「道を阻み」、女性を放ったらかしにすることで、自らの子孫を残す「道を阻んでいた」（13:341 参照）。

6 「悪事」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。ルート*の民が犯していた悪事に関しては、高壁章 80-81、フード*章 77-79、預言者*たち章 74、詩人たち章 165-166、蟻章 54-55 も参照。

31. こうして、われら*の使い（天使*）たちが吉報[1]を携えてイブラーヒーム*のもとにやって来た時、彼ら（天使*たち）は言った。「本当に私たちは、この町[2]の民を滅ぼす者である。本当にその民は、不正*者だったのだから」。

وَلَمَّا جَآءَتۡ رُسُلُنَآ إِبۡرَٰهِيمَ بِٱلۡبُشۡرَىٰ
قَالُوٓاْ إِنَّا مُهۡلِكُوٓاْ أَهۡلِ هَٰذِهِ ٱلۡقَرۡيَةِۖ إِنَّ
أَهۡلَهَا كَانُواْ ظَٰلِمِينَ ٣١

32. 彼（イブラーヒーム*）は、言った。「本当にそこには、ルート*がいます」。彼らは言った。「私たちの方が、そこにいる者たちのことをよく知っている。私たちは必ずや、彼とその家族を救い出すのだ。但し、残っ（て滅ぼされ）た者たちの一人となる、彼の妻だけは別だが」。[3]

قَالَ إِنَّ فِيهَا لُوطٗاۚ قَالُواْ نَحۡنُ أَعۡلَمُ بِمَن
فِيهَاۖ لَنُنَجِّيَنَّهُۥ وَأَهۡلَهُۥٓ إِلَّا ٱمۡرَأَتَهُۥ
كَانَتۡ مِنَ ٱلۡغَٰبِرِينَ ٣٢

33. こうして、われら*の使いたちがルート*のもとにやって来た時[4]、彼（ルート*）は彼らのことで気が滅入り、心苦しくなった。そして、彼らは（ルート*に）言った。「怖れることも、悲しむこともありません。本当に私たちは、あなたとあなたの家族の救い手なのです。但し、残っ（て滅ぼされ）た者たちの一人となる、あなたの妻は別です。

وَلَمَّآ أَن جَآءَتۡ رُسُلُنَا لُوطٗا سِيٓءَ
بِهِمۡ وَضَاقَ بِهِمۡ ذَرۡعٗاۖ وَقَالُواْ لَا تَخَفۡ
وَلَا تَحۡزَنۡ إِنَّا مُنَجُّوكَ وَأَهۡلَكَ إِلَّا
ٱمۡرَأَتَكَ كَانَتۡ مِنَ ٱلۡغَٰبِرِينَ ٣٣

34. 本当に私たちはこの町の民に、彼らが放逸であったことゆえの（罰の）制裁を、天から下す者なのです」。

إِنَّا مُنزِلُونَ عَلَىٰٓ أَهۡلِ هَٰذِهِ ٱلۡقَرۡيَةِ رِجۡزٗا
مِّنَ ٱلسَّمَآءِ بِمَا كَانُواْ يَفۡسُقُونَ ٣٤

---

1 「吉報」とは、イスハーク*誕生の知らせ（ムヤッサル 400 頁参照）。ルート*の祈りを受けてアッラー*から遣わされた天使*たちは、まずイブラーヒーム*のもとに立ち寄った（アッ＝サァディー630 頁参照）。

2 この「町」については、フード*章 81「町」の訳注を参照。

3 イブラーヒーム*と天使*たちの話の詳細については、フード*章 69-76、アル＝ヒジュル章 51-60、撒き散らすもの章 24-34 も参照。

4 この時、彼とその民の間に起こった話については、高壁章 80-84、フード*章 69-83、詩人たち章 160-175、蟻章 54-58、月章 33-40 も参照。

35. そしてわれら*はそこから確かに、分別する民に対して明らかな御徴[1]を残しておいた。

وَلَقَد تَّرَكۡنَا مِنۡهَآ ءَايَةَۢ بَيِّنَةٗ لِّقَوۡمٖ يَعۡقِلُونَ ٣٥

36. またマドゥヤン*には、その同胞シュアイブ*を（遣わした）[2]。そして彼は言った。「我が民よ、アッラー*を畏れ*、最後の日*を望む[3]のだ。そして腐敗を働きつつ、地上で退廃を広めてはならない」。

وَإِلَىٰ مَدۡيَنَ أَخَاهُمۡ شُعَيۡبٗا فَقَالَ يَٰقَوۡمِ ٱعۡبُدُواْ ٱللَّهَ وَٱرۡجُواْ ٱلۡيَوۡمَ ٱلۡأٓخِرَ وَلَا تَعۡثَوۡاْ فِي ٱلۡأَرۡضِ مُفۡسِدِينَ ٣٦

37. すると彼らは、彼を嘘つき呼ばわりした。それで彼らを激震が捕らえ[4]、彼らは朝、その地で突っ伏して（死んで）いた。

فَكَذَّبُوهُ فَأَخَذَتۡهُمُ ٱلرَّجۡفَةُ فَأَصۡبَحُواْ فِي دَارِهِمۡ جَٰثِمِينَ ٣٧

38. また、アード*とサムード*も（、われら*は滅ぼした）。彼らの住まいの一部は、あなた方に確かに明らかになっている。シャイターン*が彼らに、彼らの行いを目映く見せ、彼らを（アッラー*の）道から阻んだのだ。彼らは、（真理を見極める）見識を備えた者たち[5]だったというのに。

وَعَادٗا وَثَمُودَاْ وَقَد تَّبَيَّنَ لَكُم مِّن مَّسَٰكِنِهِمۡۖ وَزَيَّنَ لَهُمُ ٱلشَّيۡطَٰنُ أَعۡمَٰلَهُمۡ فَصَدَّهُمۡ عَنِ ٱلسَّبِيلِ وَكَانُواْ مُسۡتَبۡصِرِينَ ٣٨

39. また、カールーン、フィルアウン*、ハーマーン（も滅ぼした）[6]。彼らのもとには確かにムーサー*が（奇跡という）明証を携えて到来したのに、彼らは地上において（真理に対し）驕り高ぶったのだ。そして彼らは、（われら*を）出し抜ける者たちではなかった。

وَقَٰرُونَ وَفِرۡعَوۡنَ وَهَٰمَٰنَۖ وَلَقَدۡ جَآءَهُم مُّوسَىٰ بِٱلۡبَيِّنَٰتِ فَٱسۡتَكۡبَرُواْ فِي ٱلۡأَرۡضِ وَمَا كَانُواْ سَٰبِقِينَ ٣٩

---

1 この「御徴」は、ルート*の民の町が滅ぼされた痕跡のこと。それは、分別ある人々への教示である（ムヤッサル 400 頁参照）。アル＝ヒジュル章 76、整列者章 137-138 も参照。

2 マドゥヤン*とシュアイブ*の話については、高壁章 85-93、フード*章 84-95、詩人章 176-191 も参照。

3 この「望む」については、ユーヌス*章 7 の訳注を参照。

4 高壁章 91 とその訳注も参照。

5 一説には、「（自分たちのやり方を）気に入り、悦に入っている者たち。」（アッ＝タバリー 8:6473 参照）

6 「カールーン」については物語章 76-81 を、「ハーマーン」については同章 6 の訳注を参照。

40. われら*は（彼らの内の）いずれの者も、その罪ゆえに（懲罰で）捕らえた。そしてその中には、われら*が石礫を降らせた者もあり、またその中には、（轟く）一声が捕らえた者もあり、またその中には、われら*が地面に飲み込ませた者もあり、またその中には、われら*が溺れさせた者もある[1]。そしてアッラー*が、彼らに対して不正*を働かれることなどは、もとよりあり得ないことだったのだ。しかし彼らが自分自身に、不正*を働いていたのである。

فَكُلًّا أَخَذۡنَا بِذَنۢبِهِۦۖ فَمِنۡهُم مَّنۡ أَرۡسَلۡنَا
عَلَيۡهِ حَاصِبٗا وَمِنۡهُم مَّنۡ أَخَذَتۡهُ ٱلصَّيۡحَةُ
وَمِنۡهُم مَّنۡ خَسَفۡنَا بِهِ ٱلۡأَرۡضَ وَمِنۡهُم
مَّنۡ أَغۡرَقۡنَاۚ وَمَا كَانَ ٱللَّهُ لِيَظۡلِمَهُمۡ وَلَٰكِن
كَانُوٓاْ أَنفُسَهُمۡ يَظۡلِمُونَ ٤٠

41. アッラー*をよそに庇護者を設ける者たちの様子は、巣を作る蜘蛛の様子に似ている。本当に最も脆い住処は、蜘蛛の巣だというのに[2]。彼らが（そのことを）知っていたならば（、彼らを庇護者などとはしなかっただろう）。

مَثَلُ ٱلَّذِينَ ٱتَّخَذُواْ مِن دُونِ ٱللَّهِ
أَوۡلِيَآءَ كَمَثَلِ ٱلۡعَنكَبُوتِ ٱتَّخَذَتۡ
بَيۡتٗاۖ وَإِنَّ أَوۡهَنَ ٱلۡبُيُوتِ لَبَيۡتُ
ٱلۡعَنكَبُوتِۚ لَوۡ كَانُواْ يَعۡلَمُونَ ٤١

42. 本当にアッラー*は、彼らがかれをよそに祈っているいかなるものも、ご存知なのだ[3]。かれは、偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

إِنَّ ٱللَّهَ يَعۡلَمُ مَا يَدۡعُونَ مِن دُونِهِۦ مِن
شَيۡءٖۚ وَهُوَ ٱلۡعَزِيزُ ٱلۡحَكِيمُ ٤٢

43. そしてわれら*は人々にそれらの譬えを挙げるが、それらを理解するのは（アッラー*とその御徴、その教えについて）知識ある者たちだけである。

وَتِلۡكَ ٱلۡأَمۡثَٰلُ نَضۡرِبُهَا لِلنَّاسِۖ وَمَا
يَعۡقِلُهَآ إِلَّا ٱلۡعَٰلِمُونَ ٤٣

---

1 「石礫を降らせた者」はルート*の民、「（轟く）一声が捕らえた者」はサーリフ*の民サムード*と、シュアイブ*の民マドゥヤン*、「地面に飲み込ませた者」はカールーン、「溺れさせた者」はフィルアウン*とその民、及びヌーフ*の民のこと（ムヤッサル 401 頁参照）。

2 蜘蛛の巣は、最も弱い生物の一つが作った、最も弱い家の一つであり、それを自分の砦（とりで）とすることは、弱さの上に弱さを上乗せすることに等しい（アッ＝サアディー631 頁参照）。

3 それらは実際のところ、有名無実の存在である（前掲書、同頁参照）。

44. アッラー*は諸天と大地を、真理と共にお創りになった[1]。本当にそこ（それらの創造）には、まさしく信仰者たちへの御徴[2]がある。

خَلَقَ ٱللَّهُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَ بِٱلۡحَقِّۚ
إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَةٗ لِّلۡمُؤۡمِنِينَ ٤٤

45. あなたに啓典の内から啓示されたものを読誦[3]し、礼拝を遵守*せよ。実に礼拝は、醜行と悪事[4]を禁じるのだから。そして、アッラー*の唱念こそは（何）より偉大[5]であり、アッラー*はあなた方の成すことをご存知なのだ。

ٱتۡلُ مَآ أُوحِيَ إِلَيۡكَ مِنَ ٱلۡكِتَٰبِ وَأَقِمِ
ٱلصَّلَوٰةَۖ إِنَّ ٱلصَّلَوٰةَ تَنۡهَىٰ عَنِ
ٱلۡفَحۡشَآءِ وَٱلۡمُنكَرِۗ وَلَذِكۡرُ ٱللَّهِ
أَكۡبَرُۗ وَٱللَّهُ يَعۡلَمُ مَا تَصۡنَعُونَ ٤٥

46. （信仰者たちよ、）最善の形[6]でなくして、啓典の民*と議論してはならない。但し彼らの内でも、不正*を働いた者たち[7]は別である。そして、言うのだ。「私たちは自分たちに下されたもの（クルアーン*）と、あなた方に下されたもの[8]を信じる。また、私たちの神[9]と、あなた方の神は一つであり、私たちはかれ（アッラー*）に服従する者（ムスリム*）なのである」。

۞ وَلَا تُجَٰدِلُوٓاْ أَهۡلَ ٱلۡكِتَٰبِ إِلَّا بِٱلَّتِي
هِيَ أَحۡسَنُ إِلَّا ٱلَّذِينَ ظَلَمُواْ مِنۡهُمۡۖ وَقُولُوٓاْ
ءَامَنَّا بِٱلَّذِيٓ أُنزِلَ إِلَيۡنَا وَأُنزِلَ إِلَيۡكُمۡ
وَإِلَٰهُنَا وَإِلَٰهُكُمۡ وَٰحِدٞ وَنَحۡنُ لَهُۥ
مُسۡلِمُونَ ٤٦

---

1 イムラーン家章 191「我らが主*よ･･･ありません」の訳注も参照。

2 この「御徴」は、アッラー*の御力の偉大さ、かれのみを崇拝*しなければならないことの根拠（ムヤッサル 401 頁参照）。

3 この「読誦」については、雌牛章 121 の訳注を参照。

4 「醜行」「悪事」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。

5 別の解釈として、「あなた方に対するアッラー*の讃美は、アッラー*に対するあなた方の讃美よりも偉大である」といった複数の説がある（アッ＝タバリー8:6479 参照）。

6 「最善の形」とは、よき品性、穏（おだ）やかさ、柔らかい言葉、真理を讃美し、そこへと誘うこと。また、虚妄（きょもう）を恥ずべきものとし、それに反論すること。そしてそれを伝達するにあたって、最も効果的な手段を用いること（アッ＝サアディー632 頁参照）。蜜蜂章 125 の訳注も参照。

7 頑迷（がんめい）に真理にたてつき、ムスリム*たちに戦いを宣告した者たちのこと（ムヤッサル 402 頁参照）。

8 啓典の民*に下されたトーラー*、福音*といった啓典のこと（前掲書、同頁参照）。

9 「神」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

47. そのように（使徒*よ）、われら*はあなたに啓典（クルアーン*）を下した。そして、われら*が啓典を授けた者たち（啓典の民*）はそれを信じ、それらの者たち[1]の一部にも、それを信じる者がいる。不信仰者*たち以外は、われら*の御徴[2]を否定しないのだ。

وَكَذَٰلِكَ أَنزَلْنَآ إِلَيْكَ ٱلْكِتَٰبَ ۚ
فَٱلَّذِينَ ءَاتَيْنَٰهُمُ ٱلْكِتَٰبَ يُؤْمِنُونَ
بِهِۦ ۖ وَمِنْ هَٰٓؤُلَآءِ مَن يُؤْمِنُ بِهِۦ ۚ وَمَا يَجْحَدُ
بِـَٔايَٰتِنَآ إِلَّا ٱلْكَٰفِرُونَ ﴿٤٧﴾

48. また（使徒*よ）、あなたはそれ（が下る）以前、いかなる書も誦んでいなければ、あなたの右手でそれを書いてもいなかったのだ。そうであったなら、（真実を）虚妄とする者たちは、疑惑に陥ったであろう。[3]

وَمَا كُنتَ تَتْلُوا۟ مِن قَبْلِهِۦ مِن كِتَٰبٍ
وَلَا تَخُطُّهُۥ بِيَمِينِكَ ۖ إِذًا لَّٱرْتَابَ
ٱلْمُبْطِلُونَ ﴿٤٨﴾

49. いや、それ（クルアーン*）は知識を授けられた者たちの胸の内にある、（真理）解明の御徴なのである。そして不正*者たち以外、われら*の御徴を否定することはない。

بَلْ هُوَ ءَايَٰتٌۢ بَيِّنَٰتٌ فِى صُدُورِ ٱلَّذِينَ أُوتُوا۟
ٱلْعِلْمَ ۚ وَمَا يَجْحَدُ بِـَٔايَٰتِنَآ إِلَّا ٱلظَّٰلِمُونَ ﴿٤٩﴾

50. 彼ら（シルク*の徒）は、言った。「どうして彼（ムハンマド*）に、その主*から御徴[4]が下されないのか？」（使徒*よ、）言え。「御徴は、アッラー*の御許にこそある。そして私は、明白なる警告者でしかないのだ」。

وَقَالُوا۟ لَوْلَآ أُنزِلَ عَلَيْهِ ءَايَٰتٌ مِّن رَّبِّهِۦ ۖ قُلْ
إِنَّمَا ٱلْءَايَٰتُ عِندَ ٱللَّهِ وَإِنَّمَآ أَنَا۠ نَذِيرٌ
مُّبِينٌ ﴿٥٠﴾

51. （使徒*よ、あなたの正直さの証明は、）われら*があなたに、彼らに対して読誦される啓典（クルアーン*）を下したことだけで、彼らには十分だったのではないか？　実

أَوَلَمْ يَكْفِهِمْ أَنَّآ أَنزَلْنَا عَلَيْكَ ٱلْكِتَٰبَ
يُتْلَىٰ عَلَيْهِمْ ۚ إِنَّ فِى ذَٰلِكَ لَرَحْمَةً
وَذِكْرَىٰ لِقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ﴿٥١﴾

---

1 この「それらの者たち」とは、クライシュ族*やそれ以外の不信仰者*たち（ムヤッサル 402頁参照）。

2 この「御徴」とは、クルアーン*とそこに含まれる様々な明証のこと（前掲書、同頁参照）。

3 預言者*ムハンマド*がそれらのことに長（た）けていたとしたら、ある種の無知な者たちは「彼は過去の啓典から学んだに違いない」と言ったであろう、ということ。預言者*は文盲であった（イブン・カスィール 6:286 参照）。識別章 5 も参照。

4 この「御徴」とは、サーリフ*の雌ラクダ、ムーサー*の杖（つえ）のような奇跡のこと（ムヤッサル 402 頁参照）。雌牛章 108、家畜章 109-110、ユーヌス*章 97、夜の旅章 90-93、ター・ハー章 133、預言者*たち章 5、識別章 7-8、創成者*章 42 も参照。

にその中にはまさしく、信仰する民にとっての慈悲と教訓がある。

52. （使徒*よ、）言うのだ。「アッラー*だけで、私とあなた方の間の証人は十分。かれは諸天と大地にあるものをご存知なのだ。そして虚妄を信じ、アッラー*を否定した者たち、それらの者たちこそは損失者なのである」。

قُلْ كَفَىٰ بِٱللَّهِ بَيْنِى وَبَيْنَكُمْ
شَهِيدًا ۖ يَعْلَمُ مَا فِى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۗ
وَٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ بِٱلْبَٰطِلِ وَكَفَرُوا۟
بِٱللَّهِ أُو۟لَٰٓئِكَ هُمُ ٱلْخَٰسِرُونَ ٥٢

53. （使徒*よ、）彼らはあなたに、懲罰を（下すことを）性急に求める[1]。そして定められた期限さえなければ、懲罰は彼らのもとに到来したのである。それは必ずや、彼らが気付かないままに、彼らのもとを突然訪れるのだ。

وَيَسْتَعْجِلُونَكَ بِٱلْعَذَابِ ۚ وَلَوْلَآ أَجَلٌ مُّسَمًّى
لَّجَآءَهُمُ ٱلْعَذَابُ ۚ وَلَيَأْتِيَنَّهُم بَغْتَةً وَهُمْ لَا
يَشْعُرُونَ ٥٣

54. 彼らはあなたに、懲罰を（下すことを）性急に求める。本当に地獄は、不信仰者*たちをまさに包囲しているというのに。

يَسْتَعْجِلُونَكَ بِٱلْعَذَابِ وَإِنَّ جَهَنَّمَ
لَمُحِيطَةٌۢ بِٱلْكَٰفِرِينَ ٥٤

55. 懲罰が彼らをその（頭）上から、そしてその足元から覆い込む、（復活の）その日。かれ（アッラー*）は、仰せられるのだ。「あなた方が（現世で）行っていたこと（の報い）を味わえ」。

يَوْمَ يَغْشَىٰهُمُ ٱلْعَذَابُ مِن فَوْقِهِمْ وَمِن
تَحْتِ أَرْجُلِهِمْ وَيَقُولُ ذُوقُوا۟ مَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ٥٥

56. 信仰するわが僕たちよ、本当に我が大地は広いのだ[2]。ならば（移住*し）、われをこそ崇拝*せよ。

يَٰعِبَادِىَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ إِنَّ أَرْضِى وَٰسِعَةٌ
فَإِيَّٰىَ فَٱعْبُدُونِ ٥٦

57. 全ての者は死を味わうのだ。それからあなた方は、（清算のため、）われらのもとへと戻される。

كُلُّ نَفْسٍ ذَآئِقَةُ ٱلْمَوْتِ ۖ ثُمَّ إِلَيْنَا تُرْجَعُونَ ٥٧

---

1 関連するアーヤ*として、家畜章 57-58、戦利品*章 32、ユーヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、サード章 16、相談章 18、階段章 1-2 なども参照。

2 婦人章 97、集団章 10 とその訳注も参照。

58. 信仰し正しい行い*を行う者たち、われら*は必ずや彼らを、その下から河川が流れる楽園の高き住まいに、永遠に住まわせよう。（アッラー*の服従行為を）行っていた者たちの褒美は、何と素晴らしいことか。

وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ لَنُبَوِّئَنَّهُم
مِّنَ ٱلْجَنَّةِ غُرَفًا تَجْرِى مِن تَحْتِهَا ٱلْأَنْهَٰرُ
خَٰلِدِينَ فِيهَا ۚ نِعْمَ أَجْرُ ٱلْعَٰمِلِينَ ٥٨

59. （彼らは）忍耐*し、その主*にこそ、全てを委ねる者たち。

ٱلَّذِينَ صَبَرُواْ وَعَلَىٰ رَبِّهِمْ يَتَوَكَّلُونَ ٥٩

60. 自らの糧を調達することのない、どれほど多くの地を歩む生き物に対し、アッラー*は糧を授けられることか？[1] そしてあなた方にも？　かれはよくお聞きになるお方、全知者であられる。

وَكَأَيِّن مِّن دَآبَّةٍ لَّا تَحْمِلُ رِزْقَهَا ٱللَّهُ
يَرْزُقُهَا وَإِيَّاكُمْ ۚ وَهُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلْعَلِيمُ ٦٠

61. （使徒*よ、）もしも、あなたが彼ら（シルク*の徒）に「諸天と大地をお創りになり、太陽と月を仕えさせられたお方は誰なのか？」と尋ねれば、彼らは決まって（こう）言うのだ。「アッラー*である」。ならば一体、どうしてあなた方は（アッラー*の信仰から）背かされるのか？

وَلَئِن سَأَلْتَهُم مَّنْ خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضَ
وَسَخَّرَ ٱلشَّمْسَ وَٱلْقَمَرَ لَيَقُولُنَّ ٱللَّهُ ۖ فَأَنَّىٰ
يُؤْفَكُونَ ٦١

62. アッラー*はその僕たちの内、かれがお望みの者に糧を豊富に与えられ、また（かれがお望みになる）外の者には控えられる[2]。本当にアッラー*は、全てのことをご存知のお方なのだ。

ٱللَّهُ يَبْسُطُ ٱلرِّزْقَ لِمَن يَشَآءُ مِنْ عِبَادِهِۦ
وَيَقْدِرُ لَهُۥٓ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ بِكُلِّ شَىْءٍ عَلِيمٌ ٦٢

63. また（使徒*よ）、もしもあなたが彼ら（シルク*の徒）に、「天から（雨）水をお降らしになり、それによって大地を、その死後に息吹かせられた[3]のは誰か？」と尋ねれ

وَلَئِن سَأَلْتَهُم مَّن نَّزَّلَ مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءً
فَأَحْيَا بِهِ ٱلْأَرْضَ مِنۢ بَعْدِ مَوْتِهَا لَيَقُولُنَّ
ٱللَّهُ ۚ قُلِ ٱلْحَمْدُ لِلَّهِ ۚ بَلْ أَكْثَرُهُمْ

1 多くの生物は、明日のための糧を備蓄（びちく）しない。しかしアッラー*がそれらに、糧をお授けになるのである（ムヤッサル 403 頁参照）。

2 物語章 82、サバア章 36、暁章 15-16 と、それらの訳注も参照。

3 「大地をその死後に息吹かせる」については、雌牛章 164 の訳注を参照。

ば、彼らは決まって（こう）言うのだ。「アッラー*である」。言ってやれ。「アッラー*に称賛(しょうさん)*あれ」。いや、彼らの大半は弁(わきま)えない。

لَا يَعۡقِلُونَ ٦٣

64. この現世の生活は戯(たわむ)れごとと遊興(ゆうきょう)に過(す)ぎない[1]。そして本当に来世の住まい、それこそが（真の）生なのである。もし彼らが（そのことを）知っていたならば。

وَمَا هَٰذِهِ ٱلۡحَيَوٰةُ ٱلدُّنۡيَآ إِلَّا لَهۡوٞ وَلَعِبٞۚ وَإِنَّ
ٱلدَّارَ ٱلۡأٓخِرَةَ لَهِيَ ٱلۡحَيَوَانُۚ لَوۡ كَانُواْ يَعۡلَمُونَ ٦٤

65. 彼ら（不信仰者*）が船に乗っ（て転覆(てんぷく)を怖(おそ)れ）た時には、アッラー*だけに真摯(しんし)に崇拝(すうはい)*を捧(ささ)げつつ[2]、かれに祈るのだ。そして、かれが自分たちのことを陸地に救って下さった時には、どうであろう、シルク*を犯(おか)すのである。

فَإِذَا رَكِبُواْ فِي ٱلۡفُلۡكِ دَعَوُاْ ٱللَّهَ مُخۡلِصِينَ
لَهُ ٱلدِّينَ فَلَمَّا نَجَّىٰهُمۡ إِلَى ٱلۡبَرِّ إِذَا هُمۡ
يُشۡرِكُونَ ٦٥

66. こうして彼らは、われら*が彼に与えたもの[3]に対して恩(おん)知らずとなり、（再(ふたた)び現世で）楽しむのだ。彼らはやがて、（自分たちの行いの悪い結果を）知ることになる。

لِيَكۡفُرُواْ بِمَآ ءَاتَيۡنَٰهُمۡ وَلِيَتَمَتَّعُواْۚ
فَسَوۡفَ يَعۡلَمُونَ ٦٦

67. 一体、彼ら（不信仰者*）は、われら*が安全なる聖域(せいいき)[4]を設(もう)けたのを、見ないのか？その周(まわ)りから、人々は攫(さら)われている[5]というのに。一体、彼らは虚妄(きょもう)をこそ信じ、アッラー*の恩恵(おんけい)については恩(おん)知らずであるというのか？[6]

أَوَلَمۡ يَرَوۡاْ أَنَّا جَعَلۡنَا حَرَمًا ءَامِنٗا
وَيُتَخَطَّفُ ٱلنَّاسُ مِنۡ حَوۡلِهِمۡۚ أَفَبِٱلۡبَٰطِلِ
يُؤۡمِنُونَ وَبِنِعۡمَةِ ٱللَّهِ يَكۡفُرُونَ ٦٧

---

1 家畜章 32 の訳注も参照。

2 アッラー*だけに「真摯に崇拝*行為を捧げる」ことについては、婦人章 146 の訳注を参照。

3 彼らや彼らの財産に対する、アッラー*の恩恵のこと（ムヤッサル 404 頁参照）。

4 「安全なる聖域」については雌牛章 125 の訳注、蟻章 91「聖なる地」の訳注も参照。

5 当時、マッカ*の聖域外のアラブ部族は、互いに襲撃・略奪し合っており、殺人や捕虜などの被害を出していた（アル＝アルースィー21:14 参照）。

6 「虚妄を信じ･･･」については、蜜蜂章 72 の訳注を参照。。

68. アッラー*に対して嘘をでっち上げた者よりも、ひどい不正*を働く者があろうか？ あるいは真理を、それが自分のもとに到来した後、嘘呼ばわりした者よりも？ 地獄にこそ、不信仰者*たちの住処があるのではないか？

وَمَنۡ أَظۡلَمُ مِمَّنِ ٱفۡتَرَىٰ عَلَى ٱللَّهِ كَذِبًا أَوۡ كَذَّبَ
بِٱلۡحَقِّ لَمَّا جَآءَهُۥٓۚ أَلَيۡسَ فِي جَهَنَّمَ مَثۡوٗى
لِّلۡكَٰفِرِينَ ٦٨

69. われら*において努力奮闘する者[1]たち、われら*は必ずや彼らを、われら*の道[2]へと導こう。そして本当にアッラー*は、善を尽くす者たちとまさしく共にあるのだ[3]。

وَٱلَّذِينَ جَٰهَدُواْ فِينَا لَنَهۡدِيَنَّهُمۡ سُبُلَنَاۚ
وَإِنَّ ٱللَّهَ لَمَعَ ٱلۡمُحۡسِنِينَ ٦٩

1 これは、アッラー*の敵、自分自身、シャイターン*と戦い、試練とアッラー*の道における困難において忍耐*する者のこと（ムヤッサル 404 頁参照）。

2 アッラー*の御許へと続く道のこと。あるいは、あらゆる善の道における導きを上乗せされ、そこを歩み続けるという成功を授けられること（アル＝バイダーウィー4:324 参照）。

3 アッラー*はその援助と、支持、ご加護、導きと共に、善を尽くす者たちと共にあられる（ムヤッサル 404 頁参照）。「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

第 30 章
ビザンチン章（アッ＝ルーム）[1]

سُورَةُ الرُّومِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. アリフ・ラーム・ミーム[2]。

2. ビザンチン（軍）は、敗北した。

3. 最も近接した地[3]で。そして彼らはその敗北の後、やがて勝利するであろう。

4. 数年[4]の内に。アッラー*にこそ、（ビザンチン軍の勝利）以前と以後の、（全ての）物事は属する。そしてその日、信仰者たちは歓喜するのだ、[5]

5. （ビザンチンに授けられた）アッラー*の勝利に。アッラー*は、かれがお望みになる者をお助けになる。かれは偉力ならびない*お方、慈愛深い*お方であられる。

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

الٓمٓ ١

غُلِبَتِ ٱلرُّومُ ٢

فِيٓ أَدْنَى ٱلْأَرْضِ وَهُم مِّنۢ بَعْدِ غَلَبِهِمْ
سَيَغْلِبُونَ ٣

فِي بِضْعِ سِنِينَۗ لِلَّهِ ٱلْأَمْرُ مِن قَبْلُ وَمِنۢ
بَعْدُۚ وَيَوْمَئِذٖ يَفْرَحُ ٱلْمُؤْمِنُونَ ٤

بِنَصْرِ ٱللَّهِۚ يَنصُرُ مَن يَشَآءُۖ وَهُوَ
ٱلْعَزِيزُ ٱلرَّحِيمُ ٥

---

1 マッカ*啓示で学者の見解は一致。スーラ*の名称は、冒頭に登場する、ビザンチン軍のササン朝ペルシャ軍に対する勝利（西暦 622 年）についての予言に由来。マッカ*啓示の常として、アッラーの唯一性*・ムハンマド*の使徒*性・復活と報（むく）いという、イスラーム*の基本的な信仰箇条（かじょう）を確証すると共に、シルク*を始めとした誤（あやま）った信仰を糾弾（きゅうだん）する。また、アッラー*の御力と偉大さを示す自然界の様々な現象が、スーラ*の所々で描写される。スーラ*の最後は、クライシュ族*の不信仰者*への語りかけと、預言者*への忍耐*の勧（すす）めによって締めくくられる。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 ビザンチンにとってペルシャ側から最も近接した地である、シャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）のこととされる（ムヤッサル 404 頁参照）。

4 「数年」の「数（ビドゥア）」は、アラビア語で三から九までの数を表す。そしてビザンチン軍が勝利したのは、このアーヤ*が下った九年後のことであった（イブン・カスィール 6:303 参照）。

5 当時、シルク*の徒は同じ偶像崇拝者である、ペルシャ人がビザンチン人に勝利することを望んでいた。一方ムスリム*たちは、同じ啓典の民*であるビザンチン人がペルシャ人に勝利することを望んでいた（アッ＝ティルミズィー3193 参照）。

6. アッラー*のお約束を（、信仰者たちに約束された）。アッラー*はそのお約束を、破（やぶ）られない。しかし、（マッカ*の不信仰な）人々の大半は知らないのだ。

وَعۡدَ ٱللَّهِۖ لَا يُخۡلِفُ ٱللَّهُ وَعۡدَهُۥ وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَ
ٱلنَّاسِ لَا يَعۡلَمُونَ ٦

7. 彼らは、現世の生活の上辺（うわべ）のことは知っている。実に来世に関しては、まさしく無頓着（むとんちゃく）な者たちなのだが。

يَعۡلَمُونَ ظَٰهِرٗا مِّنَ ٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَا وَهُمۡ عَنِ
ٱلۡأٓخِرَةِ هُمۡ غَٰفِلُونَ ٧

8. 一体、彼らは自分自身について熟考（じゅっこう）しなかったのか？[1] アッラー*が諸天と大地、その間にあるものをお創りになったのは、真理と定められた時期（である復活の日*）[2]ゆえに外（ほか）ならない。本当に人々の多くはまさしく、自分たちの主（しゅ）*との拝謁（はいえつ）に対する否定者なのである。

أَوَلَمۡ يَتَفَكَّرُواْ فِيٓ أَنفُسِهِمۗ مَّا خَلَقَ ٱللَّهُ
ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَ وَمَا بَيۡنَهُمَآ إِلَّا بِٱلۡحَقِّ
وَأَجَلٖ مُّسَمّٗىۗ وَإِنَّ كَثِيرٗا مِّنَ ٱلنَّاسِ
بِلِقَآيِٕ رَبِّهِمۡ لَكَٰفِرُونَ ٨

9. 一体、彼らは地上を旅し、彼ら以前の（不信仰）者*たちの結末がいかなるものであったかを見なかったのか？ その者たちは彼らよりも力が強く、大地を耕（たがや）し、彼らがそれ（大地）を開拓（かいたく）したのよりも沢山、開拓（かいたく）したのだ。そして彼らの使徒（しと）*たちは、明証を携（たずさ）えて彼らのもとに到来（とうらい）した。アッラー*が彼らに不正*を働くなどということは、あり得べくもなかったのだ。しかし彼らが、自分自身に不正*を働いていたのである。

أَوَلَمۡ يَسِيرُواْ فِي ٱلۡأَرۡضِ فَيَنظُرُواْ كَيۡفَ
كَانَ عَٰقِبَةُ ٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِهِمۡۚ كَانُوٓاْ أَشَدَّ
مِنۡهُمۡ قُوَّةٗ وَأَثَارُواْ ٱلۡأَرۡضَ وَعَمَرُوهَآ
أَكۡثَرَ مِمَّا عَمَرُوهَا وَجَآءَتۡهُمۡ رُسُلُهُم
بِٱلۡبَيِّنَٰتِۖ فَمَا كَانَ ٱللَّهُ لِيَظۡلِمَهُمۡ
وَلَٰكِن كَانُوٓاْ أَنفُسَهُمۡ يَظۡلِمُونَ ٩

10. そしてアッラー*の御徴（みしるし）を嘘（うそ）とし、それを嘲笑（ちょうしょう）することによって悪を働いていた者たちの結末は、最悪なものである。

ثُمَّ كَانَ عَٰقِبَةَ ٱلَّذِينَ أَسَٰٓـُٔواْ ٱلسُّوٓأَىٰٓ أَن
كَذَّبُواْ بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ وَكَانُواْ بِهَا يَسۡتَهۡزِءُونَ ١٠

11. アッラー*は創造（そうぞう）を始め給（たま）い、それからそれをお戻（もど）しになり、やがてあなた方は、かれの御許（みもと）にこそ戻（もど）らされる。

ٱللَّهُ يَبۡدَؤُاْ ٱلۡخَلۡقَ ثُمَّ يُعِيدُهُۥ ثُمَّ إِلَيۡهِ تُرۡجَعُونَ ١١

---

1 詳細にされた章 53、撒（ま）き散らすもの章 21 も参照。

2 この「真理」については、イムラーン章 191「我らが主*よ、あなたは…」の訳注を参照。

12. そして（復活*の）その時が到来する日、罪悪者たちは（自分たちの救い難い状況に、）落胆する。

وَيَوْمَ تَقُومُ ٱلسَّاعَةُ يُبْلِسُ ٱلْمُجْرِمُونَ ١٢

13. また彼らには、彼ら（がアッラー*）の同位者（として崇めていたもの）たちからの、いかなる執り成し手もいない[1]。そして彼らは、彼ら（がアッラー*）の同位者（として崇めていたもの）らへの否定者となる。[2]

وَلَمْ يَكُن لَّهُم مِّن شُرَكَآئِهِمْ شُفَعَٰٓؤُا۟
وَكَانُوا۟ بِشُرَكَآئِهِمْ كَٰفِرِينَ ١٣

14. （復活の）その時が到来する日、彼ら（信仰者と不信仰者*）はその日、離れ離れになる。

وَيَوْمَ تَقُومُ ٱلسَّاعَةُ يَوْمَئِذٍ يَتَفَرَّقُونَ ١٤

15. 信仰し、正しい行い*を行った者たちといえば、彼らは（天国の）庭園で、喜悦を授けられる。

فَأَمَّا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
فَهُمْ فِى رَوْضَةٍ يُحْبَرُونَ ١٥

16. そして不信仰に陥り*、われら*の御徴と来世における拝謁を嘘としていた者たちはといえば、それらの者たちは懲罰に立ち合わされる者となる。

وَأَمَّا ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ وَكَذَّبُوا۟ بِـَٔايَٰتِنَا
وَلِقَآئِ ٱلْءَاخِرَةِ فَأُو۟لَٰٓئِكَ فِى ٱلْعَذَابِ
مُحْضَرُونَ ١٦

17. あなた方が夜を迎える時と朝を迎える時、アッラー*に称え*あれ（、と称えよ）。

فَسُبْحَٰنَ ٱللَّهِ حِينَ تُمْسُونَ وَحِينَ تُصْبِحُونَ ١٧

18. ——かれにこそ、諸天と大地における称賛*がある——。また、夜に、そしてあなた方が昼を迎える時に（称えよ）。

وَلَهُ ٱلْحَمْدُ فِى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ
وَعَشِيًّا وَحِينَ تُظْهِرُونَ ١٨

19. かれは死から生を取り出され、生から死を取り出される[3]。また、かれは大地をその死後に、息吹かせられる[4]。そして同様に（人々

يُخْرِجُ ٱلْحَىَّ مِنَ ٱلْمَيِّتِ وَيُخْرِجُ ٱلْمَيِّتَ مِنَ ٱلْحَىِّ
وَيُحْىِ ٱلْأَرْضَ بَعْدَ مَوْتِهَا ۚ وَكَذَٰلِكَ تُخْرَجُونَ ١٩

---

1 復活の日*の「執り成し」については雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

2 シルク*の徒と、彼らが神々として崇めていたものはその日、お互いに縁を切り合う（ムヤッサル 405 頁参照）。関連するアーヤ*として、雌牛章 166-167、ユーヌス*章 28-29、マルヤム*章 82、物語章 63、蜘蛛章 25、創成者*章 13-14、砂丘章 6 も参照。

3 イムラーン家章 27 の訳注を参照。

4 「大地をその死後に息吹かせる」については、雌牛章 164 の訳注を参照。

よ、）あなた方は、（清算のため、墓場から呼び）出されるのである。

20. かれ（アッラー）が、あなた方（の父祖アーダム*）を土からお創りになり[1]、それから何と、あなた方が（アッラーの恩寵を求めて、大地に）散開する人間となったことは、かれの（偉大さと御力を示す）御徴の一つである。

وَمِنْ ءَايَٰتِهِۦٓ أَنْ خَلَقَكُم مِّن تُرَابٍ ثُمَّ
إِذَآ أَنتُم بَشَرٌ تَنتَشِرُونَ ٢٠

21. また、かれがあなた方自身からあなた方のために、あなた方が安らぐために妻をお創りになり[2]、あなた方の間に愛情と慈悲の念をお授けになったことは、かれの（偉大さと御力を示す）御徴の一つである。本当にそこにはまさしく、熟考する民への御徴があるのだ。

وَمِنْ ءَايَٰتِهِۦٓ أَنْ خَلَقَ لَكُم مِّنْ أَنفُسِكُمْ
أَزْوَٰجًا لِّتَسْكُنُوٓا۟ إِلَيْهَا وَجَعَلَ بَيْنَكُم
مَّوَدَّةً وَرَحْمَةً ۚ إِنَّ فِى ذَٰلِكَ لَءَايَٰتٍ لِّقَوْمٍ
يَتَفَكَّرُونَ ٢١

22. また諸天と大地の創造と、あなた方の言葉と（肌の）色の違いは、かれの（偉大さと御力を示す）御徴の一つである。実にそこにはまさしく、知識ある者たちへの御徴がある。

وَمِنْ ءَايَٰتِهِۦ خَلْقُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ
وَٱخْتِلَٰفُ أَلْسِنَتِكُمْ وَأَلْوَٰنِكُمْ ۚ إِنَّ فِى
ذَٰلِكَ لَءَايَٰتٍ لِّلْعَٰلِمِينَ ٢٢

23. また、夜と昼におけるあなた方の睡眠と、かれの恩寵に対するあなた方の追求[3]は、かれの（偉大さと御力を示す）御徴の一つである。本当にそこにはまさしく、耳を傾ける者たちへの御徴がある。

وَمِنْ ءَايَٰتِهِۦ مَنَامُكُم بِٱلَّيْلِ وَٱلنَّهَارِ
وَٱبْتِغَآؤُكُم مِّن فَضْلِهِۦٓ ۚ إِنَّ فِى ذَٰلِكَ
لَءَايَٰتٍ لِّقَوْمٍ يَسْمَعُونَ ٢٣

---

1 アーダムが土から段階を経（へ）て創られたことについては、アル＝ヒジュル章 26 の訳注を参照。

2 アーダム*の肋骨（ろっこつ）から創られた、ハウワーゥ*のことを示唆（しさ）しているとされる（イブン・カスィール 6:309 参照）。

3 つまり、人々が糧を求めて活動するため、昼をお創りになった（ムヤッサル 406 頁参照）。「夜と昼」のいずれも、「あなた方の睡眠」と「あなた方の追及」にかかるという説、「夜」は「あなた方の睡眠」だけにかかり、「昼」は「あなた方の追及」にかかる、という説もある（アッ＝ラーズィー9:93 参照）。

24. また、かれがあなた方に、（あなた方が）恐怖と待望[1]を抱く稲光をお見せになり、天から（雨）水を降らせて、それによって大地をその死後に息吹かせる[2]のは、かれの（偉大さと御力を示す）御徴の一つである。本当にそこにはまさしく、弁える民への御徴があるのだ。

وَمِنۡ ءَايَٰتِهِۦ يُرِيكُمُ ٱلۡبَرۡقَ خَوۡفٗا وَطَمَعٗا
وَيُنَزِّلُ مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءٗ فَيُحۡيِۦ بِهِ ٱلۡأَرۡضَ
بَعۡدَ مَوۡتِهَآۚ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَٰتٖ لِّقَوۡمٖ
يَعۡقِلُونَ ٢٤

25. また、天と大地がかれのご命令によって成り立っている[3]のは、かれの（偉大さと御力を示す）御徴の一つである。それから（復活の日*、）かれがあなた方を大地から（出てくるように）一声呼びかけられれば、どうであろう、あなた方は（墓場から）出されるのである。

وَمِنۡ ءَايَٰتِهِۦٓ أَن تَقُومَ ٱلسَّمَآءُ وَٱلۡأَرۡضُ
بِأَمۡرِهِۦۚ ثُمَّ إِذَا دَعَاكُمۡ دَعۡوَةٗ مِّنَ ٱلۡأَرۡضِ إِذَآ
أَنتُمۡ تَخۡرُجُونَ ٢٥

26. そして、かれにこそ諸天と大地にいる（全ての）者は属する。全ては、かれに謹んで仕える者たちなのだ。

وَلَهُۥ مَن فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۖ كُلّٞ لَّهُۥ
قَٰنِتُونَ ٢٦

27. また、かれは創造をお始めになり、やがてそれを戻し給うお方――それはかれにとって（最初の創造）より容易いこと――。また、かれにこそ諸天と大地における最高の属性がある[4]。かれは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

وَهُوَ ٱلَّذِي يَبۡدَؤُاْ ٱلۡخَلۡقَ ثُمَّ يُعِيدُهُۥ وَهُوَ أَهۡوَنُ
عَلَيۡهِۚ وَلَهُ ٱلۡمَثَلُ ٱلۡأَعۡلَىٰ فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَٱلۡأَرۡضِۚ وَهُوَ ٱلۡعَزِيزُ ٱلۡحَكِيمُ ٢٧

28. （シルク*の徒よ、）かれはあなた方に、あなた方自身の内から、一つの譬えを挙げられた。あなた方に、われら*があなた方に授けた物において、自分たちの右手が所有す

ضَرَبَ لَكُم مَّثَلٗا مِّنۡ أَنفُسِكُمۡۖ هَل
لَّكُم مِّن مَّا مَلَكَتۡ أَيۡمَٰنُكُم مِّن
شُرَكَآءَ فِي مَا رَزَقۡنَٰكُمۡ فَأَنتُمۡ فِيهِ

1 この「恐怖と待望」については、雷鳴章 12 の訳注を参照。また、雌牛章 19 の訳注も参照。

2 「大地をその死後に息吹かせる」については、雌牛章 164 の訳注を参照。

3 天地の安定や、天が崩れ落ちることのないことを示すとされる（ムヤッサル 407 頁参照）。

4 「最高の属性」については、相談章 11 とその訳注を参照。

るもの（奴隷*）である共同者がいたら？　そしてあなた方（とその共同者）がそこにおいて同等であり、あなた方があたかも（自由民である）あなた方自身を怖れるように、彼らを怖れるとしたら（、そのようなことはあなた方の気に入らないであろう）？[1]　同様にわれら*は弁える民に対し、御徴を明らかにするのである。

سَوَآءٞ تَخَافُونَهُمۡ كَخِيفَتِكُمۡ أَنفُسَكُمۡۚ
كَذَٰلِكَ نُفَصِّلُ ٱلۡأٓيَٰتِ لِقَوۡمٖ يَعۡقِلُونَ ٢٨

29. いや、不正*を働いた者たちは知識もなく、自らの欲望に従ったのだ。そしてアッラー*が迷わせ給うた者[2]を、誰が導くというのか？　彼らには、（アッラー*の懲罰から救ってくれる）いかなる援助者もないというのに。

بَلِ ٱتَّبَعَ ٱلَّذِينَ ظَلَمُوٓاْ أَهۡوَآءَهُم بِغَيۡرِ عِلۡمٖۖ
فَمَن يَهۡدِي مَنۡ أَضَلَّ ٱللَّهُۖ وَمَا لَهُم مِّن
نَّٰصِرِينَ ٢٩

30. ならば（使徒*よ）、あなたの顔を純正[3]な宗教（イスラーム*）へと正すのだ。アッラー*がそのように人々をお創りになった、アッラー*の天性[4]に（従え）。アッラーの創造（と宗教）に変更はないのだぞ。それがまっすぐな宗教。しかし人々の大半は、分からないのだ。

فَأَقِمۡ وَجۡهَكَ لِلدِّينِ حَنِيفٗاۚ فِطۡرَتَ ٱللَّهِ
ٱلَّتِي فَطَرَ ٱلنَّاسَ عَلَيۡهَاۚ لَا تَبۡدِيلَ لِخَلۡقِ ٱللَّهِۚ
ذَٰلِكَ ٱلدِّينُ ٱلۡقَيِّمُ وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَ ٱلنَّاسِ
لَا يَعۡلَمُونَ ٣٠

31. かれ（アッラー*）に、よく（悔悟して）立ち返りつつ（従え）。またかれを畏れ*、礼拝を遵守*し、シルク*の徒の仲間となるのではない。

۞مُنِيبِينَ إِلَيۡهِ وَٱتَّقُوهُ وَأَقِيمُواْ ٱلصَّلَوٰةَ
وَلَا تَكُونُواْ مِنَ ٱلۡمُشۡرِكِينَ ٣١

---

1 同様のアーヤ*として、蜜蜂章 71 とその訳注も参照。

2 アッラー*が彼らを迷わせ給うたのは、彼らが不信仰と頑迷さに固執したがゆえに、ほかならない（ムヤッサル 407 頁参照）。

3 雌牛章 135「純正な」についての訳注を参照。また「顔」についても、同章 112 の訳注を参照。

4 アッラー*は人間を、かれのみを崇拝*対象として信じるという天性のもとに、お創りになった。高壁章 172 とその訳注も参照（イブン・カスィール 6:313 参照）。

32. 自分たちの宗教を分裂させ、いくつもの分派となった者たちの内の（仲間とはなるな）。各派は、自分たちのもの（宗教）に有頂天でいる[1]。

مِنَ ٱلَّذِينَ فَرَّقُواْ دِينَهُمْ وَكَانُواْ شِيَعٗاۖ
كُلُّ حِزۡبِۭ بِمَا لَدَيۡهِمۡ فَرِحُونَ ٣٢

33. 害悪が人々に降りかかれば、彼らはよく（悔悟して）立ち返る者となり、（救いを求めて）自分たちの主*に祈る。それから、かれがその御許からのご慈悲を彼らに味わわせられれば、どうであろう、彼らの内の一派は自分たちの主*に対してシルク*を犯すのである。

وَإِذَا مَسَّ ٱلنَّاسَ ضُرّٞ دَعَوۡاْ رَبَّهُم مُّنِيبِينَ إِلَيۡهِ
ثُمَّ إِذَآ أَذَاقَهُم مِّنۡهُ رَحۡمَةً إِذَا فَرِيقٞ مِّنۡهُم
بِرَبِّهِمۡ يُشۡرِكُونَ ٣٣

34. こうして彼らは、われら*が彼に与えたもの[2]に対して恩知らずとなるのだ。（シルク*の徒よ、現世の富を）楽しんでいよ。あなた方はやがて、（自分たちの行いの悪い結果を）知ることになるのだから。

لِيَكۡفُرُواْ بِمَآ ءَاتَيۡنَٰهُمۡۚ فَتَمَتَّعُواْ فَسَوۡفَ
تَعۡلَمُونَ ٣٤

35. いや、一体われら*が、彼らに根拠[3]を下したとでも？ そしてそれが、彼らがかれ（アッラー*）に対してシルク*を犯していたこと（の正当性）について、語るとでも？

أَمۡ أَنزَلۡنَا عَلَيۡهِمۡ سُلۡطَٰنٗا فَهُوَ يَتَكَلَّمُ بِمَا
كَانُواْ بِهِۦ يُشۡرِكُونَ ٣٥

36. われら*が人々に慈悲[4]を味わわせれば、彼らは（感謝することなく）それに有頂天になる。そして、もし彼らに、自分たちが行っていたことゆえに悪[5]が降りかかれば、どうであろう、彼らは絶望の底に陥るのだ。

وَإِذَآ أَذَقۡنَا ٱلنَّاسَ رَحۡمَةٗ فَرِحُواْ بِهَاۖ وَإِن تُصِبۡهُمۡ
سَيِّئَةُۢ بِمَا قَدَّمَتۡ أَيۡدِيهِمۡ إِذَا هُمۡ يَقۡنَطُونَ ٣٦

1 信仰者たち章 53 の訳注を参照。

2 彼らの害悪や困難を取り除いて下さった、アッラー*の恩恵のこと（ムヤッサル 408 頁参照）。

3 この「根拠」とは、啓典のこととされる（アッ＝タバリー8:6528 参照）。

4 この「慈悲」は、健康・無事・安楽といったアッラー*の恩恵（ムヤッサル 408 頁参照）。

5 この「悪」は、病気・貧困・恐怖・苦難などのこと（前掲書、同頁参照）。

37. 彼らはアッラー*が、かれがお望みの者に糧を豊富に与えられ、また控えられる[1]のを知らないのか？ 本当にそこにはまさしく、信仰する民への御徴があるのだ。

أَوَلَمْ يَرَوْا أَنَّ اللَّهَ يَبْسُطُ الرِّزْقَ لِمَن يَشَاءُ
وَيَقْدِرُ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَآيَاتٍ لِّقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ٣٧

38. ならば（信仰者よ）、近親の者、貧者*、旅路（で苦境）にある者に、その権利[2]を与えよ。それがアッラー*の御顔を望む者たちにとってより善いのであり、それらの者たちこそが成功者なのだから。

فَآتِ ذَا الْقُرْبَىٰ حَقَّهُ وَالْمِسْكِينَ وَابْنَ
السَّبِيلِ ذَٰلِكَ خَيْرٌ لِّلَّذِينَ يُرِيدُونَ وَجْهَ
اللَّهِ وَأُولَٰئِكَ هُمُ الْمُفْلِحُونَ ٣٨

39. あなた方が人々の財産から儲けるべく、利息として与えたもの（借金）ならば、それはアッラー*の御許では儲からない。そしてあなた方がアッラー*の御顔を望みつつ、浄財*の内から与えるのであれば、それらの者たちこそは（褒美を）倍増する者たちである。

وَمَا آتَيْتُم مِّن رِّبًا لِّيَرْبُوَ فِي أَمْوَالِ النَّاسِ
فَلَا يَرْبُو عِندَ اللَّهِ وَمَا آتَيْتُم مِّن زَكَاةٍ
تُرِيدُونَ وَجْهَ اللَّهِ فَأُولَٰئِكَ هُمُ
الْمُضْعِفُونَ ٣٩

40. アッラー*は、あなた方をお創りになり、それから（現世で）あなた方に糧をお授けになり、やがてあなた方に死を与えられ、それから（復活の日*、）あなた方に生を与えられるお方。一体、あなた方（がアッラー*）の共同者（として崇めているもの）たちの内、それらのいずれかでも行う者はいるのか？ かれに称え*あれ、かれは彼らがシルク*を犯しているものから（無縁で）、遥か高遠なお方であられる。

اللَّهُ الَّذِي خَلَقَكُمْ ثُمَّ رَزَقَكُمْ ثُمَّ يُمِيتُكُمْ ثُمَّ
يُحْيِيكُمْ هَلْ مِن شُرَكَائِكُم مَّن يَفْعَلُ
مِن ذَٰلِكُم مِّن شَيْءٍ سُبْحَانَهُ وَتَعَالَىٰ عَمَّا
يُشْرِكُونَ ٤٠

---

1 物語章 82、サバア章 36、暁章 15-16 とそれらの訳注も参照。

2 「近親の者」の権利とは、よい近親関係の維持、施（ほどこ）しなど、その他の善行のこと。「貧者*」および「旅路で苦境にある者」の権利とは、浄財*やそれ以外の施しのこと（ムヤッサル 408 頁参照）。

41. 人々の手が稼いだもの（罪）ゆえに、陸と海に腐敗[1]が出現したのである。それはかれ（アッラー*）が、彼らの行ったある種のこと（ゆえの懲罰）を、彼らに味わわせ給うためなのだ。彼らが、（悔悟して）立ち返るように。

ظَهَرَ ٱلْفَسَادُ فِى ٱلْبَرِّ وَٱلْبَحْرِ بِمَا كَسَبَتْ
أَيْدِى ٱلنَّاسِ لِيُذِيقَهُم بَعْضَ ٱلَّذِى عَمِلُوا۟
لَعَلَّهُمْ يَرْجِعُونَ ٤١

42. （使徒*よ、）言え。「地上を旅して、過去の（不信仰）者*たちの結末がどのようなものであったか、見てみるがよい」。彼らの大半は、シルク*の徒だったのだ。

قُلْ سِيرُوا۟ فِى ٱلْأَرْضِ فَٱنظُرُوا۟ كَيْفَ كَانَ عَٰقِبَةُ
ٱلَّذِينَ مِن قَبْلُ ۚ كَانَ أَكْثَرُهُم مُّشْرِكِينَ ٤٢

43. ならば（使徒*よ）、アッラー*から押し戻す術のない（復活*の）その日が到来する前に、あなたの顔をまっすぐな宗教（イスラーム*）へと正せ[2]。彼らはその日、散り散りになる。

فَأَقِمْ وَجْهَكَ لِلدِّينِ ٱلْقَيِّمِ مِن قَبْلِ أَن يَأْتِىَ
يَوْمٌ لَّا مَرَدَّ لَهُۥ مِنَ ٱللَّهِ ۖ يَوْمَئِذٍ يَصَّدَّعُونَ ٤٣

44. 不信仰である者*には、自分自身に自らの不信仰（ゆえの罰）がある。そして（信仰して）正しい行い*を行う者は、自分たちのために（天国の住まいの）支度をしているのである。

مَن كَفَرَ فَعَلَيْهِ كُفْرُهُۥ ۖ وَمَنْ عَمِلَ صَٰلِحًا
فَلِأَنفُسِهِمْ يَمْهَدُونَ ٤٤

45. （それは）信仰し、正しい行い*を行う者たちに、かれ（アッラー*）がそのご恩寵からお報いになるため。本当にかれは、不信仰者*たちをお好みにはならないのだから。

لِيَجْزِىَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ مِن
فَضْلِهِۦٓ ۚ إِنَّهُۥ لَا يُحِبُّ ٱلْكَٰفِرِينَ ٤٥

46. かれが吉報を告げる風を送られることは、かれの（偉大さと御力を示す）御徴の一つである。かれがそのご慈悲からあなた方に味わわせ給い、（かれのご命令とご意思によって）船が進み、あなた方がかれのご

وَمِنْ ءَايَٰتِهِۦٓ أَن يُرْسِلَ ٱلرِّيَاحَ مُبَشِّرَٰتٍ
وَلِيُذِيقَكُم مِّن رَّحْمَتِهِۦ وَلِتَجْرِىَ ٱلْفُلْكُ بِأَمْرِهِۦ
وَلِتَبْتَغُوا۟ مِن فَضْلِهِۦ وَلَعَلَّكُمْ تَشْكُرُونَ ٤٦

---

1 この「陸と海」は、文字通りの意味であるという説と、前者が「砂漠」、後者が「町」「川沿いの町」とする説がある（イブン・カスィール 6:319-320 参照）。また「腐敗*」とは、旱魃（かんばつ）、雨不足、病気の蔓延（まんえん）などのこと（ムヤッサル 408 頁参照）。

2 アーヤ*30 も参照。

恩寵を求めるようにするため（、かれはそうされたのだ）。あなた方が感謝するように、と。

47. （使徒*よ、）われら*は確かにあなた以前、使徒*たちをその民へと遣わした。そして彼ら（使徒*たち）は、彼らのもとに明証[1]を携えて到来し（たが、民の大半は信じなかったので）、われら*は罪悪を働いた者たちに報復した。信仰者たちの援助は、もとよりわれら*にとって必須だったのだ。

وَلَقَدۡ أَرۡسَلۡنَا مِن قَبۡلِكَ رُسُلًا إِلَىٰ قَوۡمِهِمۡ
فَجَآءُوهُم بِٱلۡبَيِّنَٰتِ فَٱنتَقَمۡنَا مِنَ ٱلَّذِينَ أَجۡرَمُواْۖ
وَكَانَ حَقًّا عَلَيۡنَا نَصۡرُ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ٤٧

48. アッラー*は風を送られるお方。そしてそれ（風）は雲を追いやり、かれ（アッラー*）はお望みのままに、それ（雲）を天に散りばめ、断片にされる。そしてあなたは、その間から雨が出てくるのを見るのだ。また、かれがそれ（雨）を、かれの僕たちの内、彼がお望みになる者にお降らしになると、どうであろう、彼らは心躍らせる。

ٱللَّهُ ٱلَّذِي يُرۡسِلُ ٱلرِّيَٰحَ فَتُثِيرُ سَحَابٗا فَيَبۡسُطُهُۥ
فِي ٱلسَّمَآءِ كَيۡفَ يَشَآءُ وَيَجۡعَلُهُۥ كِسَفٗا فَتَرَى
ٱلۡوَدۡقَ يَخۡرُجُ مِنۡ خِلَٰلِهِۦۖ فَإِذَآ أَصَابَ بِهِۦ مَن
يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦٓ إِذَا هُمۡ يَسۡتَبۡشِرُونَ ٤٨

49. かれが彼らの上に（雨を）お降らしになる前、それ以前には、本当に彼らはまさしく（旱魃に）落胆する者であったというのに。

وَإِن كَانُواْ مِن قَبۡلِ أَن يُنَزَّلَ عَلَيۡهِم مِّن قَبۡلِهِۦ
لَمُبۡلِسِينَ ٤٩

50. ならば、かれがどのようにして大地をその死後に生き返らされるか、アッラー*のご慈悲の跡[2]を（しかと）見てみよ。本当にそれこそは、死んだものに生を与えられるお方。かれは全てのことがお出来のお方なのだ。

فَٱنظُرۡ إِلَىٰٓ ءَاثَٰرِ رَحۡمَتِ ٱللَّهِ كَيۡفَ يُحۡيِ
ٱلۡأَرۡضَ بَعۡدَ مَوۡتِهَآۚ إِنَّ ذَٰلِكَ لَمُحۡيِ
ٱلۡمَوۡتَىٰۖ وَهُوَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٞ ٥٠

1 「明証」とは、彼らが招くものの正しさを示す明白な証拠。奇跡もその一つ（ムヤッサル409 頁参照）。

2 「ご慈悲の跡」とは、雨が降ったことで生じた植物・木々・様々な果実のこととされる（アル＝バイダーウィー4:340 参照）。

51. そして、もしもわれら*が（彼らの作物に有害な）風を送り、それが（枯(か)れて）黄色くなってしまうのを彼らが見れば、彼らはその後、（一転して）否定し続ける[1]。

وَلَئِنْ أَرْسَلْنَا رِيحًا فَرَأَوْهُ مُصْفَرًّا لَّظَلُّوا۟ مِنۢ
بَعْدِهِۦ يَكْفُرُونَ ٥١

52. ゆえに（使徒(しと)*よ、）本当にあなたは、死人に聞かせることも、聾(つんぼ)に呼びかけを聞かせることも出来ない。もし彼らが、背を向けて立ち去るのであれば。[2]

فَإِنَّكَ لَا تُسْمِعُ ٱلْمَوْتَىٰ وَلَا تُسْمِعُ ٱلصُّمَّ
ٱلدُّعَآءَ إِذَا وَلَّوْا۟ مُدْبِرِينَ ٥٢

53. また（使徒(しと)*よ）、あなたは盲人(もうじん)[3]をその迷いから導(みちび)く者でもない。あなたが聞かせられるのは、われら*の御徴(みしるし)を信じる者だけであり、彼らは服従(ふくじゅう)する者（ムスリム*）なのだ。[4]

وَمَآ أَنتَ بِهَـٰدِ ٱلْعُمْىِ عَن ضَلَـٰلَتِهِمْ ۖ إِن تُسْمِعُ
إِلَّا مَن يُؤْمِنُ بِـَٔايَـٰتِنَا فَهُم مُّسْلِمُونَ ٥٣

54. アッラー*はあなた方を弱さ[5]からお創りになり、それから（幼児期の）弱さの後、（成人の）強さをお授(さず)けになり、そして強さの後に、弱さと老衰(ろうすい)を与えられたお方。かれはお望みのものをお創りになる。かれは全知者、全能者なのだ。

۞ ٱللَّهُ ٱلَّذِى خَلَقَكُم مِّن ضَعْفٍ ثُمَّ جَعَلَ
مِنۢ بَعْدِ ضَعْفٍ قُوَّةً ثُمَّ جَعَلَ مِنۢ بَعْدِ قُوَّةٍ
ضَعْفًا وَشَيْبَةً ۚ يَخْلُقُ مَا يَشَآءُ ۖ وَهُوَ
ٱلْعَلِيمُ ٱلْقَدِيرُ ٥٤

55. （復活*の）その時が起こる日、罪悪者(ざいあくしゃ)（シルク*の徒）たちは、自分たちが僅(わず)かな時間しか（現世で）過(す)ごさなかった、と誓(ちか)う[6]。そのように、彼らは（現世で、真理から）背(そむ)かされていたのだ。

وَيَوْمَ تَقُومُ ٱلسَّاعَةُ يُقْسِمُ ٱلْمُجْرِمُونَ
مَا لَبِثُوا۟ غَيْرَ سَاعَةٍ ۚ كَذَٰلِكَ كَانُوا۟
يُؤْفَكُونَ ٥٥

---

1 アッラー*を否定し、その恩恵に対して恩知らずになる（ムヤッサル 410 頁参照）。

2 この「聾」については、雌牛章 272、フード*章 20、24 とその訳注も参照。

3 この「盲人」については、雌牛章 7、18、家畜章 50、フード*章 20、24、雷鳴章 16、巡礼*章 46 とその訳注を参照。

4 最終的な導きがアッラー*のみに委ねられていることについては、雌牛章 272、ユーヌス*章 99-100、蜜蜂章 37、物語章 56 も参照。

5 この「弱さ」は、精液のこと。あるいは、幼少期の弱い状態のこと（アル＝クルトゥビー 10:46 参照）。

6 ユーヌス*章 45 とその訳注、及びター・ハー章 103、信仰者たち章 113-114、砂丘章 35、引き離すもの章 46 も参照。

56. また、知識と信仰心を授けられた者たち[1]は、言う。「あなた方は確かに、アッラー*の書の中で[2]、（あなた方が誕生した日から）復活の日まで、過ごしていたのである。そしてこれが復活の日なのだが、あなた方は知らなかった[3]のだ」。

وَقَالَ ٱلَّذِينَ أُوتُوا۟ ٱلْعِلْمَ وَٱلْإِيمَٰنَ لَقَدْ
لَبِثْتُمْ فِى كِتَٰبِ ٱللَّهِ إِلَىٰ يَوْمِ ٱلْبَعْثِ ۖ فَهَٰذَا
يَوْمُ ٱلْبَعْثِ وَلَٰكِنَّكُمْ كُنتُمْ لَا تَعْلَمُونَ ٥٦

57. そしてその日、不正*者たちをその言い訳が益することはなく、彼らが（、アッラー*の）ご満悦を得ることも課されることはない[4]。

فَيَوْمَئِذٍ لَّا يَنفَعُ ٱلَّذِينَ ظَلَمُوا۟ مَعْذِرَتُهُمْ
وَلَا هُمْ يُسْتَعْتَبُونَ ٥٧

58. われら*はこのクルアーン*の中で確かに、人々に対してあらゆる譬えを挙げた。そして（使徒*よ）、もしもあなたが彼らに御徴[5]をもたらしても、不信仰に陥った者*たちは必ずや（こう）言うであろう。「（使徒*とその信徒たちよ、）あなた方は虚妄の徒以外の何ものでもない」。

وَلَقَدْ ضَرَبْنَا لِلنَّاسِ فِى هَٰذَا ٱلْقُرْءَانِ مِن
كُلِّ مَثَلٍ ۚ وَلَئِن جِئْتَهُم بِـَٔايَةٍ لَّيَقُولَنَّ
ٱلَّذِينَ كَفَرُوٓا۟ إِنْ أَنتُمْ إِلَّا مُبْطِلُونَ ٥٨

59. 同様にアッラー*は、知らない者たち[6]の心を閉じられる。

كَذَٰلِكَ يَطْبَعُ ٱللَّهُ عَلَىٰ قُلُوبِ ٱلَّذِينَ لَا يَعْلَمُونَ ٥٩

60. ならば（使徒*よ）、あなたは忍耐*せよ。本当にアッラー*のお約束は、真実なのだから。そして（復活とその日の報いを）確信しない者たちが、あなたを動揺させるようなことがあっては、断じてならない。

فَٱصْبِرْ إِنَّ وَعْدَ ٱللَّهِ حَقٌّ ۖ وَلَا يَسْتَخِفَّنَّكَ
ٱلَّذِينَ لَا يُوقِنُونَ ٦٠

---

1 天使*、預言者*、信仰者などのこととされる（ムヤッサル 410 頁参照）。

2 つまり、アッラー*の定められた運命の中で、ということ（アッ＝サァディー645 頁参照）。

3 真理の探求と追従を怠（おこた）っていたために、復活の日が真実であることを知ることがなかった（アル＝カースィミー13:4790 参照）。

4 蜜蜂章 84 とその訳注も参照。

5 彼と、彼が人々を招いているものの正しさを示す、奇跡などの証拠のこと（アル＝ジャザーイリー4:195 参照）。

6 知識を求めもせず、迷信にすがりつく者たちのこと。無知が重なると、真理を知ることから妨げられ、真理を嘘とするようになる（アル＝バイダーウィー4:343 参照）。心を閉じられることについては、雌牛章 7 の訳注を参照。

第 31 章
ルクマーン章[1]

سُورَةُ لُقۡمَانَ

慈悲(じひ)あまねく*慈愛(じあい)深き*
アッラー*の御名(みな)において

1. アリフ・ラーム・ミーム[2]。

2. それは完全無欠(むけつ)[3]な啓典(けいてん)の御徴(みしるし)である。

3. 導(みちび)きと、善を尽(つ)くす*者たちへの慈悲(じひ)。

4. （彼らは）礼拝(れいはい)を遵守(じゅんしゅ)*し、浄財(じょうざい)*を払い、そして来世をこそ、まさに確信する者たち。

5. それらの者たちは、その主(しゅ)*の導(みちび)きの上にあり、それらの者たちこそは成功者である。

6. 人々の中には、知識もなくアッラー*の道から迷わせ、（アッラー*の御徴(みしるし)を）嘲笑(ちょうしょう)の的(まと)とすべく、下らない話[4]を買う者がいる。それらの者たち、彼らにこそ屈辱(くつじょく)の懲罰(ちょうばつ)があるのだ。

7. そして、われら*の御徴(みしるし)が読誦(どくしょう)された時には、まるでそれを聞かなかったかのように、あたかもその両耳に重しがあるかのように[5]して、高慢(こうまん)にも立ち去った。ならば彼には、痛ましい懲罰(ちょうばつ)の吉報(きっぽう)を告(つ)げよ[6]。

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

الٓمٓ ١

تِلۡكَ ءَايَٰتُ ٱلۡكِتَٰبِ ٱلۡحَكِيمِ ٢

هُدٗى وَرَحۡمَةٗ لِّلۡمُحۡسِنِينَ ٣

ٱلَّذِينَ يُقِيمُونَ ٱلصَّلَوٰةَ وَيُؤۡتُونَ ٱلزَّكَوٰةَ وَهُم
بِٱلۡأٓخِرَةِ هُمۡ يُوقِنُونَ ٤

أُوْلَٰٓئِكَ عَلَىٰ هُدٗى مِّن رَّبِّهِمۡۖ وَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ
ٱلۡمُفۡلِحُونَ ٥

وَمِنَ ٱلنَّاسِ مَن يَشۡتَرِي لَهۡوَ ٱلۡحَدِيثِ لِيُضِلَّ
عَن سَبِيلِ ٱللَّهِ بِغَيۡرِ عِلۡمٖ وَيَتَّخِذَهَا هُزُوًاۚ
أُوْلَٰٓئِكَ لَهُمۡ عَذَابٞ مُّهِينٞ ٦

وَإِذَا تُتۡلَىٰ عَلَيۡهِ ءَايَٰتُنَا وَلَّىٰ مُسۡتَكۡبِرٗا
كَأَن لَّمۡ يَسۡمَعۡهَا كَأَنَّ فِيٓ أُذُنَيۡهِ وَقۡرٗاۖ فَبَشِّرۡهُ
بِعَذَابٍ أَلِيمٍ ٧

---

1 マッカ*啓示で学者の見解は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、アーヤ*12 以降に登場する、賢人ルクマーンに由来。自然界の様々な驚くべき現象の描写や、ルクマーンの息子に対する訓戒の言葉を通して、アッラーの唯一性*、清算と報（むく）いが待ち受ける来世の確証、正しい行い*のすすめ、復活の日*の警告などが提示される。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 「完全無欠な啓典の御徴」については、ユーヌス*章 1 の訳注を参照。

4 「下らない話」とは、アッラーへの服従から勤（いそ）しませ、彼のお喜びから阻（はば）むような、あらゆる物事のこと（ムヤッサル 411 頁参照）。

5 「耳に重しがある」については、家畜章 25 の訳注を参照。

6 「懲罰の吉報を告げる」という表現については、イムラーン家章 21 の訳注を参照。

8. 本当に信仰し、正しい行い*を行う者たち、彼らには安寧の楽園がある。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ لَهُمْ
جَنَّٰتُ ٱلنَّعِيمِ ٨

9. 彼らはそこに永遠に留まる。アッラー*の真実のお約束。かれは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

خَٰلِدِينَ فِيهَا ۖ وَعْدَ ٱللَّهِ حَقًّا ۚ وَهُوَ ٱلْعَزِيزُ
ٱلْحَكِيمُ ٩

10. アッラー*は諸天を、いかなる柱もなしにお創りになった。あなた方は、それを目にしている[1]。また、かれは大地に、それがあなた方と共に揺れ動かないよう、堅固な山々を投げ入れられ、そこに地を歩むあらゆる生物を散開させられた。そしてわれら*[2]は天から（雨）水を降らせ、そこ（大地）にあらゆる貴い種類のものを生育させたのだ。

خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ بِغَيْرِ عَمَدٍ تَرَوْنَهَا ۖ وَأَلْقَىٰ فِى
ٱلْأَرْضِ رَوَٰسِىَ أَن تَمِيدَ بِكُمْ وَبَثَّ فِيهَا مِن
كُلِّ دَآبَّةٍ ۚ وَأَنزَلْنَا مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءً فَأَنۢبَتْنَا
فِيهَا مِن كُلِّ زَوْجٍ كَرِيمٍ ١٠

11. これがアッラー*の創造である。ならば（シルク*の徒よ）、かれ以外の者たちが創ったものを、私に見せてみよ。いや、不正*者たちは紛れもない迷妄の中にあるのだ。

هَٰذَا خَلْقُ ٱللَّهِ فَأَرُونِى مَاذَا خَلَقَ ٱلَّذِينَ مِن
دُونِهِۦ ۚ بَلِ ٱلظَّٰلِمُونَ فِى ضَلَٰلٍ مُّبِينٍ ١١

12. われら*は確かに、ルクマーン[3]に英知[4]を授け（、こう言っ）た。「アッラー*に（その恩恵に対して）感謝せよ。感謝するならば、彼は自分自身を益するために感謝するに外ならないのであり、恩知らずになるのであれば、実にアッラー*は（そのような者の感謝を必要とはされない）満ち足りた*お方、称賛されるべき*お方なのである」。

وَلَقَدْ ءَاتَيْنَا لُقْمَٰنَ ٱلْحِكْمَةَ أَنِ ٱشْكُرْ لِلَّهِ ۚ
وَمَن يَشْكُرْ فَإِنَّمَا يَشْكُرُ لِنَفْسِهِۦ ۖ وَمَن
كَفَرَ فَإِنَّ ٱللَّهَ غَنِىٌّ حَمِيدٌ ١٢

---

1 この箇所の解釈については、雷鳴章 2 の訳注を参照。

2 この人称の移り変わりについては、食卓章 12「われら*」の訳注を参照。

3 イブン・カスィール*によれば大半の学者は、ルクマーンは預言者*ではなく、英知を授けられた人物であった、としている。一説には容色の優れない、エチオピア人奴隷であった（6:333-334 参照）。

4 この「英知」は宗教理解、理性、正しい言葉のこととされる（ムヤッサル 411 頁参照）。

13. （使徒*よ、）ルクマーンがその息子に、彼を戒めつつ、（こう）言った時のこと（を思い起こさせよ）。「我が息子よ、アッラー*に対してシルク*を犯すのではない。本当にシルク*はまさしく、この上ない不正*なのだから」。

وَإِذْ قَالَ لُقْمَٰنُ لِٱبْنِهِۦ وَهُوَ يَعِظُهُۥ يَٰبُنَيَّ
لَا تُشْرِكْ بِٱللَّهِ ۖ إِنَّ ٱلشِّرْكَ لَظُلْمٌ عَظِيمٌ ﴿١٣﴾

14. ——われら*は人間に、両親に対して（孝行を）命じた[1]。彼の母親は、衰弱の上に衰弱を重ねて、彼を身ごもったのである。そして乳離れ（まで）は、二年かかるのだ。（われは言った。）「われに感謝せよ。そしてあなたの両親に。われにこそ行き先があ（り、そこでわれは全ての者に応報す）るのだから。

وَوَصَّيْنَا ٱلْإِنسَٰنَ بِوَٰلِدَيْهِ حَمَلَتْهُ أُمُّهُۥ
وَهْنًا عَلَىٰ وَهْنٍ وَفِصَٰلُهُۥ فِى عَامَيْنِ أَنِ
ٱشْكُرْ لِى وَلِوَٰلِدَيْكَ إِلَىَّ ٱلْمَصِيرُ ﴿١٤﴾

15. そして（信仰者の息子よ、）もし彼ら二人が、あなたが（崇拝*の正当性について）何も知らないものをわれに並べるべく、あなたに執拗に迫って来たならば、彼らに従うのではない[2]。また現世において、彼らに適切な形[3]で同伴せよ。そしてわれによく（悔悟して）立ち返る者の道[4]に従うのだ。それからわれにこそ、あなた方の帰り所があるのであり、われはあなた方に自分たちが（現世で）行っていたことについて、あなた方に告げ聞かせるのである」——。

وَإِن جَٰهَدَاكَ عَلَىٰٓ أَن تُشْرِكَ بِى مَا لَيْسَ
لَكَ بِهِۦ عِلْمٌ فَلَا تُطِعْهُمَا ۖ وَصَاحِبْهُمَا فِى
ٱلدُّنْيَا مَعْرُوفًا ۖ وَٱتَّبِعْ سَبِيلَ مَنْ أَنَابَ إِلَىَّ ۚ
ثُمَّ إِلَىَّ مَرْجِعُكُمْ فَأُنَبِّئُكُم بِمَا
كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿١٥﴾

16. （ルクマーンは言った。）「我が息子よ、実にそれが（悪行であれ、善行であれ）、たとえ芥子種一粒の重さ（ほどのもの）であり、岩の中にあったとしても、または諸

يَٰبُنَىَّ إِنَّهَآ إِن تَكُ مِثْقَالَ حَبَّةٍ مِّنْ خَرْدَلٍ فَتَكُن
فِى صَخْرَةٍ أَوْ فِى ٱلسَّمَٰوَٰتِ أَوْ فِى ٱلْأَرْضِ يَأْتِ
بِهَا ٱللَّهُ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ لَطِيفٌ خَبِيرٌ ﴿١٦﴾

---

1 夜の旅章 23-24 も参照。

2 同様の意味を含む、蜘蛛章 8 とその訳注も参照。

3 罪にはならない形において、という意味（ムヤッサル 412 頁参照）。

4 罪を悔悟し、アッラー*に立ち返り、預言者*ムハンマド*を信じた者の道（前掲書、同頁参照）。

天（のどこか）、あるいは大地（のどこか）にあったとしても、アッラー*は（復活の日*）それを持ち出してこられ（、秤におかけにな）るのだ。本当にアッラーはまさしく、霊妙な*お方、（全てに）通暁されたお方なのだから。[1]

17. 我が息子よ、礼拝を遵守*し、善事を命じ、悪事を禁じよ[2]。そしてあなたに降りかかったことにおいて、忍耐*するのだ。本当にそれこそは、決意を固めるべき事柄の内のものである。

يَٰبُنَيَّ أَقِمِ ٱلصَّلَوٰةَ وَأۡمُرۡ بِٱلۡمَعۡرُوفِ وَٱنۡهَ
عَنِ ٱلۡمُنكَرِ وَٱصۡبِرۡ عَلَىٰ مَآ أَصَابَكَۖ إِنَّ ذَٰلِكَ
مِنۡ عَزۡمِ ٱلۡأُمُورِ ١٧

18. また、あなたの頬を（高慢さから斜に構えて）人々に向けてはならず、大地を得意然として歩いてはならない。本当にアッラー*は、尊大ぶった高慢ちきな者をお好みにはならないのだから。

وَلَا تُصَعِّرۡ خَدَّكَ لِلنَّاسِ وَلَا تَمۡشِ فِي ٱلۡأَرۡضِ
مَرَحًاۖ إِنَّ ٱللَّهَ لَا يُحِبُّ كُلَّ مُخۡتَالٖ فَخُورٖ ١٨

19. また、あなたの歩みにおいて節度を保ち[3]、自分の声を抑えよ。実に最も嫌な声とは、まさしくロバの声なのだから[4]」。

وَٱقۡصِدۡ فِي مَشۡيِكَ وَٱغۡضُضۡ مِن صَوۡتِكَۚ إِنَّ
أَنكَرَ ٱلۡأَصۡوَٰتِ لَصَوۡتُ ٱلۡحَمِيرِ ١٩

20. （人々よ、）一体あなた方は、アッラー*があなた方に諸天にあるものと大地にあるものを仕えさせられ、かれの露わな、そして密かな恩恵[5]を、あなた方に全うされ

أَلَمۡ تَرَوۡاْ أَنَّ ٱللَّهَ سَخَّرَ لَكُم مَّا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي
ٱلۡأَرۡضِ وَأَسۡبَغَ عَلَيۡكُمۡ نِعَمَهُۥ ظَٰهِرَةٗ وَبَاطِنَةٗۗ
وَمِنَ ٱلنَّاسِ مَن يُجَٰدِلُ فِي ٱللَّهِ بِغَيۡرِ عِلۡمٖ

---

1 同様の意味のアーヤ*として、婦人章 40、洞窟章 49、預言者*たち章 47、地震章 7-8 なども参照。

2 この「善事」と「悪事」については、イムラーン家章 104 の訳注を参照。

3 遅すぎでもなく、早過ぎでもなく、その中間で歩くこと（イブン・カスィール 6:339 参照）。

4 これは、話しすぎたり、必要もなく声を上げたりすることへの禁止と、それに対する厳しい非難を表す（前掲書、同頁参照）。これら全ては、謙虚さの命令を示している（アル＝クルトゥビー14:71 参照）。

5 恩恵の「露わなもの」と「密かなもの」については、前者が「健康と財産など」、後者が「アッラーが罪を大目に見て下さること」、または前者が「現世での恩恵」、後者が「来世における恩恵」である、といった諸説があるが、もっと多くの意味も含みうる（イブン・ジュザイ 2:174 参照）。

たのを見ないのか？　人々の中には、知識も導きも光明の書[1]もないのに、アッラー*（の唯一性*）について（盾突いて）議論する者がいる。

وَلَا هُدًى وَلَا كِتَٰبٍ مُّنِيرٍ ٢٠

21. また、彼らに「アッラー*が（預言者*ムハンマド*に）下されたものに従え」と言われれば、彼らは（こう）言った。「いや、私たちは、私たちが見出した自分たちのご先祖様のやり方[2]に従う」。一体、シャイターン*が彼らを烈火の懲罰へと招いているというのに、（彼らはそうするの）か？

وَإِذَا قِيلَ لَهُمُ ٱتَّبِعُوا۟ مَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ قَالُوا۟ بَلْ
نَتَّبِعُ مَا وَجَدْنَا عَلَيْهِ ءَابَآءَنَآ ۚ أَوَلَوْ كَانَ
ٱلشَّيْطَٰنُ يَدْعُوهُمْ إِلَىٰ عَذَابِ ٱلسَّعِيرِ ٢١

22. 誰であろうと、善を尽くす者*でありつつ、アッラー*のみに顔を向けて服従する者[3]、その者は堅固な取っ手を確かに握り締めたのである。そしてアッラー*にこそ、物事の結末は属するのだ。

۞ وَمَن يُسْلِمْ وَجْهَهُۥٓ إِلَى ٱللَّهِ وَهُوَ مُحْسِنٌ
فَقَدِ ٱسْتَمْسَكَ بِٱلْعُرْوَةِ ٱلْوُثْقَىٰ ۗ وَإِلَى ٱللَّهِ
عَٰقِبَةُ ٱلْأُمُورِ ٢٢

23. また（使徒*よ）、不信仰に陥った者*がいても、その不信仰があなた[4]を悲しませるようなことがあってはならない。（復活の日*、）われら*にこそ彼らの帰り所はあり、われら*は彼らに自分たちが行ったことを告げ聞かせ（、それに報いを与え）るのだから。本当にアッラー*は、胸中をご存知になるお方なのである。

وَمَن كَفَرَ فَلَا يَحْزُنكَ كُفْرُهُۥٓ ۚ إِلَيْنَا مَرْجِعُهُمْ
فَنُنَبِّئُهُم بِمَا عَمِلُوٓا۟ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ عَلِيمٌۢ بِذَاتِ ٱلصُّدُورِ ٢٣

24. われら*は彼らを（現世で）少し楽しませ、それから（復活の日*）荒々しい懲罰へと、彼らを無理強いする。

نُمَتِّعُهُمْ قَلِيلًا ثُمَّ نَضْطَرُّهُمْ إِلَىٰ عَذَابٍ
غَلِيظٍ ٢٤

1 「光明の書」については、イムラーン家章 184 の訳注を参照。

2 「ご先祖様のやり方」については、雌牛章 170 の訳注を参照。

3 「アッラーのみに顔を向けて服従する」については、雌牛章 112 の訳注を参照。

4 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。以下、同様の表現の際にも、同訳注を参照。

25. また（使徒*よ）、もしもあなたが彼ら（シルク*の徒）に「諸天と大地を創造されたのは、誰か？」と尋ねれば、彼らはきっと（こう）言う。「アッラー*である」。言ってやれ。「（彼らの誤りを、彼ら自身に証明させた）アッラー*に称賛*あれ」。いや、彼らの大半は知らないのだ。

وَلَئِن سَأَلْتَهُم مَّنْ خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضَ
لَيَقُولُنَّ ٱللَّهُ ۚ قُلِ ٱلْحَمْدُ لِلَّهِ ۚ بَلْ أَكْثَرُهُمْ
لَا يَعْلَمُونَ ٢٥

26. アッラー*にこそ、諸天と大地にあるものは属する。本当にアッラー*は満ち足りた*お方、称賛されるべき*お方。

لِلَّهِ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ هُوَ ٱلْغَنِيُّ
ٱلْحَمِيدُ ٢٦

27. そして、もし大地にある（全ての）木が筆となり、（水がインクと化した）海があって、その（インクが尽きた）後を、七つの海が（インクで）補充したとしても、アッラー*の御言葉は書き尽くせなかっただろう[1]。本当にアッラー*は、偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

وَلَوْ أَنَّمَا فِي ٱلْأَرْضِ مِن شَجَرَةٍ أَقْلَٰمٌ
وَٱلْبَحْرُ يَمُدُّهُۥ مِنۢ بَعْدِهِۦ سَبْعَةُ أَبْحُرٍ
مَّا نَفِدَتْ كَلِمَٰتُ ٱللَّهِ ۗ إِنَّ ٱللَّهَ عَزِيزٌ
حَكِيمٌ ٢٧

28. （人々よ、アッラー*にとって）あなた方の創造と、あなた方の復活は、人間一人（の創造と復活）のような（容易い）もの。本当にアッラー*はよくお聞きになるお方、よくご覧になるお方。

مَّا خَلْقُكُمْ وَلَا بَعْثُكُمْ إِلَّا كَنَفْسٍ وَٰحِدَةٍ ۗ
إِنَّ ٱللَّهَ سَمِيعٌۢ بَصِيرٌ ٢٨

29. （使徒*よ、）一体あなたは、アッラー*が夜を昼にお入れになり、昼を夜にお入れになる[2]のを見ないのか？　また、かれが太陽と月——（その）いずれも、定められた時期（である復活の日*）まで運行し続ける——を仕えさせられたのを？　また、アッ

أَلَمْ تَرَ أَنَّ ٱللَّهَ يُولِجُ ٱلَّيْلَ فِي ٱلنَّهَارِ وَيُولِجُ
ٱلنَّهَارَ فِي ٱلَّيْلِ وَسَخَّرَ ٱلشَّمْسَ وَٱلْقَمَرَ كُلٌّ
يَجْرِيٓ إِلَىٰٓ أَجَلٍ مُّسَمًّى وَأَنَّ ٱللَّهَ بِمَا
تَعْمَلُونَ خَبِيرٌ ٢٩

1 いかなる創造物もアッラー*には似ていないように、アッラー*の属性の一つであるかれの御言葉もまた、どんな創造物の言葉とも似ていない（アッ＝サアディー466頁参照）。

2 「夜を昼に…」については、イムラーン家章27の訳注を参照。

ラー*があなた方の行うこと（全て）に通暁されているのを？

30. それはアッラー*こそが真理であり、彼ら（シルク*の徒）が、かれを差しおいて祈っているものが、虚妄であるため。そしてアッラー*こそが、至高の*お方、大いなる*お方であるためなのだ。

ذَٰلِكَ بِأَنَّ ٱللَّهَ هُوَ ٱلۡحَقُّ وَأَنَّ مَا يَدۡعُونَ مِن
دُونِهِ ٱلۡبَٰطِلُ وَأَنَّ ٱللَّهَ هُوَ ٱلۡعَلِيُّ ٱلۡكَبِيرُ ٣٠

31. 一体あなたは、船が（創造物に対する）アッラー*の恩恵と共に、海を進むのを見ないのか？ （それは）かれが、その御徴[1]のいくつかをあなた方にお見せになるため。本当にそこにはまさしく、忍耐*強く感謝深い全ての者[2]への御徴がある。

أَلَمۡ تَرَ أَنَّ ٱلۡفُلۡكَ تَجۡرِي فِي ٱلۡبَحۡرِ بِنِعۡمَتِ ٱللَّهِ
لِيُرِيَكُم مِّنۡ ءَايَٰتِهِۦٓۚ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَٰتٖ
لِّكُلِّ صَبَّارٖ شَكُورٖ ٣١

32. また、波が雲のように彼ら（シルクの徒）を覆（い、溺死の恐怖が襲）えば、彼らはアッラーだけに真摯に崇拝行為を捧げつつ、祈るのである[3]。そしてかれが彼らを陸にお救いになれば、彼らの中にはいい加減な者[4]もいる。われら*の御徴を否定するのは、あらゆる無節操で不信心この上ない者のみなのだ。

وَإِذَا غَشِيَهُم مَّوۡجٞ كَٱلظُّلَلِ دَعَوُاْ ٱللَّهَ
مُخۡلِصِينَ لَهُ ٱلدِّينَ فَلَمَّا نَجَّىٰهُمۡ إِلَى ٱلۡبَرِّ
فَمِنۡهُم مُّقۡتَصِدٞۚ وَمَا يَجۡحَدُ بِـَٔايَٰتِنَآ إِلَّا
كُلُّ خَتَّارٖ كَفُورٖ ٣٢

33. 人々よ、あなた方の主*を畏れ*よ。また、父親が自分の子を益することがなく、子どももまた、その父親に対して少しの役にも立つこ

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ ٱتَّقُواْ رَبَّكُمۡ وَٱخۡشَوۡاْ يَوۡمٗا لَّا
يَجۡزِي وَالِدٌ عَن وَلَدِهِۦ وَلَا مَوۡلُودٌ هُوَ جَازٍ عَن

---

1 この「御徴」とは、アッラーの唯一性*・御知識・御力とを示す証拠（アブー・アッ＝サウード 7:77 参照）。

2 「忍耐*強く感謝深い」については、イブラーヒーム*章 5 の訳注を参照。

3 同様のアーヤである、ユーヌス章 22 とその訳注も参照。

4「いい加減な者」と訳した語「ムクタスィド」には、「海でアッラーに誓ったこと（その内容については、家畜章 63 などを参照）を守る者」「信仰者」「口では信仰を語るが、内心には不信仰を隠す者」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー14:80 参照）。

وَالِدِهِۦ شَيۡـًٔاۚ إِنَّ وَعۡدَ ٱللَّهِ حَقّٞۖ فَلَا
تَغُرَّنَّكُمُ ٱلۡحَيَوٰةُ ٱلدُّنۡيَا وَلَا
يَغُرَّنَّكُم بِٱللَّهِ ٱلۡغَرُورُ ٣٣

とがない（復活の）日*を恐れよ。本当にアッラー*のお約束は真実なのだ。ならば決して、現世の生活があなた方を欺いたり、欺く者[1]があなた方を、アッラー*において欺いたりすることがあってはならない。

إِنَّ ٱللَّهَ عِندَهُۥ عِلۡمُ ٱلسَّاعَةِ وَيُنَزِّلُ
ٱلۡغَيۡثَ وَيَعۡلَمُ مَا فِي ٱلۡأَرۡحَامِۖ وَمَا تَدۡرِي
نَفۡسٞ مَّاذَا تَكۡسِبُ غَدٗاۖ وَمَا تَدۡرِي نَفۡسُۢ
بِأَيِّ أَرۡضٖ تَمُوتُۚ إِنَّ ٱللَّهَ عَلِيمٌ خَبِيرُۢ ٣٤

34. 本当にアッラー*、かれの御許にこそ、（復活の日*の）その時の知識がある。またかれは慈雨をお降らしになり、子宮の中にあるものをご存知になる。そしていかなる者も、自分が明日かせぐことになるものを知らず、いかなる者も、自分がいずこの地で死ぬことになるかを知らないのだ。本当にアッラー*は、全知者、（全てに）通暁されるお方。[2]

1 「欺く者」とは、ジン*と人間からなる、シャイターン*のこと（ムヤッサル 414 頁参照）。

2 家畜章 59 とその訳注も参照。

第32章
アッ=サジダ*章[1]

سُورَةُ السَّجۡدَةِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. アリフ・ラーム・ミーム[2]。

الٓمٓ ١

2. （このクルアーン*は）全創造物の主*からの、疑惑の余地のない、啓典の降示である。

تَنزِيلُ ٱلۡكِتَٰبِ لَا رَيۡبَ فِيهِ مِن رَّبِّ
ٱلۡعَٰلَمِينَ ٢

3. いや、彼ら（シルク*の徒）は、「彼（ムハンマド*）がそれ（クルアーン*）を捏造したのだ」と言う。いや、（使徒*よ、）それはあなたが、あなた以前にいかなる警告者も訪れなかった民[3]を警告するための、あなたの主*からの真理なのである。（それは）彼らが、導かれるようにするためなのだ。

أَمۡ يَقُولُونَ ٱفۡتَرَىٰهُۚ بَلۡ هُوَ ٱلۡحَقُّ مِن رَّبِّكَ
لِتُنذِرَ قَوۡمٗا مَّآ أَتَىٰهُم مِّن نَّذِيرٖ مِّن قَبۡلِكَ
لَعَلَّهُمۡ يَهۡتَدُونَ ٣

4. アッラー*は諸天と大地、その間のものを六日間でお創りになり[4]、それから御座に上がられた[5]。かれを差しおいて、あなた方にはいかなる庇護者も執り成し手もいない。一体、あなた方は教訓を受けないのか？

ٱللَّهُ ٱلَّذِي خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَ وَمَا
بَيۡنَهُمَا فِي سِتَّةِ أَيَّامٖ ثُمَّ ٱسۡتَوَىٰ عَلَى
ٱلۡعَرۡشِۖ مَا لَكُم مِّن دُونِهِۦ مِن وَلِيّٖ وَلَا شَفِيعٍۚ
أَفَلَا تَتَذَكَّرُونَ ٤

---

1 マッカ*啓示で学者の見解は、ほぼ一致。クルアーン*の真実性、アッラーの唯一性*とその御力、人間に対するその恩恵が描写された後、それに対する従順（じゅうじゅん）な信仰者と頑迷（がんめい）な不信仰者*の態度が対照的に描写される。スーラ*の名称ともなっている「サジダ*」は、信仰者たちが従順にサジダ*する描写に由来する（アーヤ*15参照）。そして復活の日*の復活と清算が確証され、そこにおける信仰者と不信仰者*の描写がここでも対照的に提示される。スーラ*の最後は、預言者*への慰（なぐさ）めと、不信仰者*たちへの警告によって締めくくられる。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 この「民」については、物語章46の訳注を参照。

4 「六日間での天地創造」については、詳細にされた章9-12とその訳注も参照。

5 「御座に上られた」に関しては、高壁章54の訳注を参照。

5. かれは天から地まで（創造物の）物事を司られ、やがてそれは、あなた方が（現世で）数える千年の長さに相当する日*、かれの御許へ昇っていく。[1]

يُدَبِّرُ ٱلْأَمْرَ مِنَ ٱلسَّمَآءِ إِلَى ٱلْأَرْضِ ثُمَّ يَعْرُجُ إِلَيْهِ فِى يَوْمٍ كَانَ مِقْدَارُهُۥٓ أَلْفَ سَنَةٍ مِّمَّا تَعُدُّونَ ٥

6. それは不可視の世界*と現象界[2]をご存知のお方、偉力ならびない*お方、慈愛深い*お方。

ذَٰلِكَ عَٰلِمُ ٱلْغَيْبِ وَٱلشَّهَٰدَةِ ٱلْعَزِيزُ ٱلرَّحِيمُ ٦

7. （かれは、）かれがお創りになった全ての物事を、最善の形にされたお方。またかれは、人間の（祖アーダム*の）創造を泥土から始められた[3]。

ٱلَّذِىٓ أَحْسَنَ كُلَّ شَىْءٍ خَلَقَهُۥ ۖ وَبَدَأَ خَلْقَ ٱلْإِنسَٰنِ مِن طِينٍ ٧

8. それからかれはその子孫を、卑しい液体[4]から抽出した物とされた。

ثُمَّ جَعَلَ نَسْلَهُۥ مِن سُلَٰلَةٍ مِّن مَّآءٍ مَّهِينٍ ٨

9. それからかれは彼を整えられ、かれの魂[5]から、そこに吹き込まれた。そしてかれはあなた方に、聴覚と視覚と心を備え付けて下さったのだ。あなた方が感謝することの、少ないこと。

ثُمَّ سَوَّىٰهُ وَنَفَخَ فِيهِ مِن رُّوحِهِۦ ۖ وَجَعَلَ لَكُمُ ٱلسَّمْعَ وَٱلْأَبْصَٰرَ وَٱلْأَفْـِٔدَةَ ۚ قَلِيلًا مَّا تَشْكُرُونَ ٩

10. 彼ら（シルク*の徒）は言った。「一体、私たちが（死んで砂となり、）地中に消え失せた後、本当に私たちが新たに創造[6]されるとでもいうのか？」いや、彼らは（復活の日*の）自分たちの主*との拝謁を、否定する者たちである。

وَقَالُوٓا۟ أَءِذَا ضَلَلْنَا فِى ٱلْأَرْضِ أَءِنَّا لَفِى خَلْقٍ جَدِيدٍۭ ۚ بَلْ هُم بِلِقَآءِ رَبِّهِمْ كَٰفِرُونَ ١٠

---

1 この「日」は「アッラー*のご命令が下り、また昇っていくまでの期間」とも、または復活の日*のことであるとも言われる（アッ＝シャンキーティ 6:183-184）。巡礼*章 47、離婚章 12、階段章 4 も参照。

2 「現象界」については、家畜章 73 の訳注を参照。

3 アーダム*が「泥土」から創造されたことについては、アル＝ヒジュル章 26 の訳注を参照。

4 これは、それによって人間が生殖する、精液のこと（ムヤッサル 415 頁参照）。人間の創造の変遷（へんせん）については、巡礼*章 5、信仰者たち章 14 も参照。

5 この「かれ（アッラー*）の魂」に関しては、アル＝ヒジュル章 29 の訳注を参照。

6 「新たな創造」とは、復活のこと（前掲書、同頁参照）。

11. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「あなた方を任された死の天使[1]が、あなた方（の魂）を召すのだ。それからあなた方の主*の御許にこそ、あなた方は戻らされ（て、行いの清算を受け）る」。

۞ قُلْ يَتَوَفَّىٰكُم مَّلَكُ ٱلْمَوْتِ ٱلَّذِى وُكِّلَ
بِكُمْ ثُمَّ إِلَىٰ رَبِّكُمْ تُرْجَعُونَ ١١

12. そして、もしあなたが、自分たちの主*の御許で頭をうなだれている[2]罪悪者たちを見るならば。（彼らは言うのだ。）「我らが主*よ、私たちは見、聞きました[3]。ですから、私たちを（現世に）返してください。そうすれば、正しい行い*を行います。本当に私たちは（今や、あなたの唯一性*と復活を）確信する者なのですから」。[4]

وَلَوْ تَرَىٰٓ إِذِ ٱلْمُجْرِمُونَ نَاكِسُوا۟
رُءُوسِهِمْ عِندَ رَبِّهِمْ رَبَّنَآ أَبْصَرْنَا وَسَمِعْنَا
فَٱرْجِعْنَا نَعْمَلْ صَٰلِحًا إِنَّا مُوقِنُونَ ١٢

13. また、もしわれら*が望めば、全ての者に導きを与えたであろう。しかし、「われは必ずや、地獄を全ての（不信仰な）ジン*と人々で満たすのだ」という、われら*からの言葉が確定したのである。[5]

وَلَوْ شِئْنَا لَءَاتَيْنَا كُلَّ نَفْسٍ هُدَىٰهَا
وَلَٰكِنْ حَقَّ ٱلْقَوْلُ مِنِّى لَأَمْلَأَنَّ جَهَنَّمَ
مِنَ ٱلْجِنَّةِ وَٱلنَّاسِ أَجْمَعِينَ ١٣

14. ならば（シルク*の徒よ）、自分たちのこの日の拝謁を忘れていたゆえに、（懲罰を）味わえ――実にわれら*も、あなた方を忘れ

فَذُوقُوا۟ بِمَا نَسِيتُمْ لِقَآءَ يَوْمِكُمْ هَٰذَآ إِنَّا
نَسِينَٰكُمْ ۖ وَذُوقُوا۟ عَذَابَ ٱلْخُلْدِ بِمَا
كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ١٤

---

1 「死の天使*」については、家畜章 61、93 なども参照。

2 恥ずかしさと後悔ゆえに、頭をうなだれる（アル＝バガウィー3:596 参照）。

3 （今、私たちは）自分たちが（現世で）嘘としていたものを見、否定していたものを聞きました、ということ。しかしこのような確信も、この時にはもう役に立たない（アル＝クルトゥビー14:95 参照）。家畜章 158 とその訳注も参照。

4 いざ復活の日*（あるいは死）が到来すると、彼らは現世での猶予を求めたり、自分たちを現世に返してくれることを頼んだりする。だが、もちろんそれは叶わない。家畜章 27-28、高壁章 53、イブラーヒーム*章 44、信仰者たち章 99-100、創成者*章 37、赦し深いお方章 11-12、相談章 44、偽信者*たち章 10-11 も参照。

5 そしてそれは、彼らが導きをそっちのけで迷いを選んだことの結果である（ムヤッサル 416 頁参照）。

たのだ[1]——。そしてあなた方が行っていたこと（不信仰や罪）ゆえに、永遠の懲罰を味わえ。

15. われら*の御徴（アーヤ*）を信じ（、その教えを実践す）るのは、それで教訓を与えられれば思い上がることなくサジダ*して崩れ落ち、自分たちの主*の称賛*と共に（かれを）称える*者たちに外ならない。（読誦のサジダ*）

إِنَّمَا يُؤۡمِنُ بِـَٔايَٰتِنَا ٱلَّذِينَ إِذَا ذُكِّرُواْ بِهَا
خَرُّواْ سُجَّدٗا وَسَبَّحُواْ بِحَمۡدِ رَبِّهِمۡ وَهُمۡ لَا
يَسۡتَكۡبِرُونَ ۩ ١٥

16. （懲罰を）怖れ、（褒美を）望みつつ、その主に祈りながら、彼らの脇腹は寝床から遠ざかる[2]。そして彼らは、われら*が授けたものから（施しのために）費やす[3]のだ。

تَتَجَافَىٰ جُنُوبُهُمۡ عَنِ ٱلۡمَضَاجِعِ يَدۡعُونَ
رَبَّهُمۡ خَوۡفٗا وَطَمَعٗا وَمِمَّا رَزَقۡنَٰهُمۡ
يُنفِقُونَ ١٦

17. また、いかなる者も、彼ら（信仰者たち）が行っていた（善い）ことゆえの報いとして、彼らのために秘蔵された喜びを知らない。[4]

فَلَا تَعۡلَمُ نَفۡسٞ مَّآ أُخۡفِيَ لَهُم مِّن قُرَّةِ أَعۡيُنٖ
جَزَآءَۢ بِمَا كَانُواْ يَعۡمَلُونَ ١٧

18. 一体、信仰者だった者は、放逸だった者と同様だろうか？ 彼らは同等ではない。

أَفَمَن كَانَ مُؤۡمِنٗا كَمَن كَانَ فَاسِقٗاۚ لَّا يَسۡتَوُۥنَ ١٨

19. 信仰し、正しい行い*を行っていた者たちはといえば、彼らには自分たちが行っていたことゆえの御もてなしとして、（真の）住処の楽園がある。

أَمَّا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ فَلَهُمۡ
جَنَّٰتُ ٱلۡمَأۡوَىٰ نُزُلَۢا بِمَا كَانُواْ يَعۡمَلُونَ ١٩

---

1 彼らが「忘れていた」というのは、来世のことをおろそかにし、現世の享楽（きょうらく）に溺れていたことを、アッラー*が「忘れた」というのは、彼らのことを懲罰の中に置き去りにすることを意味するとされる（ムヤッサル 416 頁参照）。

2 甘い眠りから遠ざかり、それよりも甘い、夜の礼拝に勤しむこと（アッ＝サァディー655 頁参照）。

3 「われら*が授けたものから･･･」については、雌牛章 3 の訳注を参照。

4 「喜び」については、マルヤム*章 26 の訳注を参照。預言者*は仰（おっしゃ）った。「アッラー*はこう仰せられた：『われは正しきわが僕（しもべ）に、いかなる目も見たこともなく、いかなる耳も聞いたこともなく、いかなる人間の心にも思い浮かんだことのないようなものを、用意しておいた』」（アル＝ブハーリー4779 参照）。

20. そして、放逸であった者たちはといえば、その住処は（地獄の）業火。そこから出ようとするたび、彼らはそこに戻される。そして（こう）言われるのだ。「あなた方が嘘呼ばわりしていた、業火の懲罰を味わうがよい」。

وَأَمَّا ٱلَّذِينَ فَسَقُواْ فَمَأْوَىٰهُمُ ٱلنَّارُۖ كُلَّمَآ
أَرَادُوٓاْ أَن يَخْرُجُواْ مِنْهَآ أُعِيدُواْ فِيهَا وَقِيلَ لَهُمْ
ذُوقُواْ عَذَابَ ٱلنَّارِ ٱلَّذِي كُنتُم بِهِۦ تُكَذِّبُونَ ٢٠

21. また、われら*は必ずや彼らを、最大の懲罰ではなく、最小の懲罰[1]から味わわせよう。（それは）彼らが、（その罪から）立ち返るようにするため。

وَلَنُذِيقَنَّهُم مِّنَ ٱلْعَذَابِ ٱلْأَدْنَىٰ دُونَ
ٱلْعَذَابِ ٱلْأَكْبَرِ لَعَلَّهُمْ يَرْجِعُونَ ٢١

22. 自分の主*の御徴で教訓を与えられていながら、それに背を向ける者よりもひどい不正*を働く者がいようか？ 本当にわれら*は、罪悪者らに報復する者なのである。

وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّن ذُكِّرَ بِـَٔايَٰتِ رَبِّهِۦ ثُمَّ
أَعْرَضَ عَنْهَآۚ إِنَّا مِنَ ٱلْمُجْرِمِينَ مُنتَقِمُونَ ٢٢

23. われら*は確かに、ムーサー*に啓典（トーラー*）を授けた。ならば、彼との面会[2]について、疑わしく思ってはならない。そしてわれら*はそれを、イスラーイールの子ら*への導きとしたのだ。

وَلَقَدْ ءَاتَيْنَا مُوسَى ٱلْكِتَٰبَ فَلَا تَكُن فِي
مِرْيَةٍ مِّن لِّقَآئِهِۦۖ وَجَعَلْنَٰهُ هُدًى لِّبَنِيٓ
إِسْرَٰٓءِيلَ ٢٣

24. また、われら*は彼ら（イスラーイールの子ら*）が忍耐*した時、彼らの内から、われら*の命令によって導く導師たちを出した。そして彼らは、われら*の御徴をこそ、確信していたのである。

وَجَعَلْنَا مِنْهُمْ أَئِمَّةً يَهْدُونَ بِأَمْرِنَا لَمَّا
صَبَرُواْۖ وَكَانُواْ بِـَٔايَٰتِنَا يُوقِنُونَ ٢٤

25. 本当に（使徒*よ）、あなたの主*こそは復活の日*、彼らが（宗教に関し）意見を異にしていたことについて、彼らの間をお裁きになる。

إِنَّ رَبَّكَ هُوَ يَفْصِلُ بَيْنَهُمْ يَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ
فِيمَا كَانُواْ فِيهِ يَخْتَلِفُونَ ٢٥

---

1 「最大の懲罰」とは、復活の日*のもの。「最小の懲罰」とは、現世における試練や災難のこと（ムヤッサル 417 頁参照）。

2 この「面会」は、預言者*ムハンマド*が昇天した時（夜の旅章 1 の訳注を参照）に、ムーサー*と会った時のことを示しているとされる（前掲書、同頁参照）。

26. そして一体、われら*が彼ら以前にどれほど多くの（不信仰な）民*を滅ぼしたか、彼らには明らかになっていないのか？ 彼らはその者たちの住居の中を、（その滅亡の跡を目にして）歩いているというのに？ 本当にその中にはまさしく、御徴[1]がある。一体、彼らは（アッラー*の御言葉に）耳を傾けないのか？

أَوَلَمۡ يَهۡدِ لَهُمۡ كَمۡ أَهۡلَكۡنَا مِن قَبۡلِهِم
مِّنَ ٱلۡقُرُونِ يَمۡشُونَ فِي مَسَٰكِنِهِمۡۚ إِنَّ
فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَٰتٍۚ أَفَلَا يَسۡمَعُونَ ٢٦

27. また一体、彼らはわれら*が不毛の地に水を引っぱって行き、それによって作物を生育させるのを見なかったのか？ 彼らの家畜と彼ら自身は、そこから食するのだ。一体、彼らは（この恩恵を）目にしないのか？[2]

أَوَلَمۡ يَرَوۡاْ أَنَّا نَسُوقُ ٱلۡمَآءَ إِلَى ٱلۡأَرۡضِ
ٱلۡجُرُزِ فَنُخۡرِجُ بِهِۦ زَرۡعٗا تَأۡكُلُ مِنۡهُ
أَنۡعَٰمُهُمۡ وَأَنفُسُهُمۡۚ أَفَلَا يُبۡصِرُونَ ٢٧

28. 彼ら（シルク*の徒）は、言う。「（私たちが懲罰を受けるという）その裁決は、いつなのかね？[3] もしあなた方が、本当のことを言っているのなら？」

وَيَقُولُونَ مَتَىٰ هَٰذَا ٱلۡفَتۡحُ إِن كُنتُمۡ
صَٰدِقِينَ ٢٨

29. （使徒*よ、）言ってやれ。「裁決の日、不信仰だった者*たちをその信仰が益することはなく[4]、彼らが猶予を与えられることもない」。

قُلۡ يَوۡمَ ٱلۡفَتۡحِ لَا يَنفَعُ ٱلَّذِينَ كَفَرُوٓاْ
إِيمَٰنُهُمۡ وَلَا هُمۡ يُنظَرُونَ ٢٩

30. ならば彼らから離れ、（アッラー*の彼らに対する処分を）待つのだ。実に彼らも（あなた方の不幸を）、待つ者たちなのである。

فَأَعۡرِضۡ عَنۡهُمۡ وَٱنتَظِرۡ إِنَّهُم مُّنتَظِرُونَ ٣٠

---

1 この「御徴」とは、使徒*たちの正直さと、その民のシルク*の虚妄さを示す証拠（ムヤッサル 417 頁参照）。

2 そしてそのような力があるアッラー*には、復活を行われる力が備わっていることに気付かないのか、ということ（前掲書、同頁参照）。

3 これは、「早く私たちに懲罰を下してみよ」という挑発を意味する（前掲書、同頁参照）。アーヤ*12 とその訳注も参照。

4 復活の日*、あるいは死が訪れた際の悔悟については、家畜章 158 とその訳注を参照。

第 33 章
部族連合章（アル＝アハザーブ）[1]

سُورَةُ الأَحۡزَابِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 預言者*よ[2]、アッラー*を畏れ*よ。そして不信仰者*たちと偽信者*たちに従ってはならない。本当にアッラー*はもとより、全知者、英知あふれる*お方なのだから。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّبِيُّ ٱتَّقِ ٱللَّهَ وَلَا تُطِعِ ٱلۡكَٰفِرِينَ
وَٱلۡمُنَٰفِقِينَۚ إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ عَلِيمًا
حَكِيمًا ١

2. また、あなたの主*からあなたに下されたもの（啓示）に従え。本当にアッラー*は、あなた方が行うこと（全て）に通暁されたお方である。

وَٱتَّبِعۡ مَا يُوحَىٰٓ إِلَيۡكَ مِن رَّبِّكَۚ إِنَّ ٱللَّهَ
كَانَ بِمَا تَعۡمَلُونَ خَبِيرًا ٢

3. そしてアッラー*にこそ、全てを委ねる*のだ。アッラー*だけで、委任者[3]は十分なのである。

وَتَوَكَّلۡ عَلَى ٱللَّهِۚ وَكَفَىٰ بِٱللَّهِ وَكِيلًا ٣

4. アッラー*はいかなる者にも、その内面に二つの心をお与えにはならなかった[4]。またか

مَّا جَعَلَ ٱللَّهُ لِرَجُلٍ مِّن قَلۡبَيۡنِ فِي جَوۡفِهِۦۚ
وَمَا جَعَلَ أَزۡوَٰجَكُمُ ٱلَّٰٓـِٔي تُظَٰهِرُونَ

---

1 マディーナ*啓示で学者の見解は一致。スーラ*の名称は、クライシュ族*の不信仰者*と、彼らと徒党を組んだアラブ諸部族が、マディーナ*内のユダヤ教徒*の一部と偽信者*らの協力と共に、マディーナ*に攻めて来たヒジュラ暦*5 年の「部族連合の戦い」別名「塹壕（ざんごう）の戦い」が描写されていることによる。マディーナ*啓示の常として、ズィハール*、養子縁組、結婚、ヒジャーブ（女性のベール）などの法的側面を取り上げる一方、預言者*とその家族に関する特別規定なども提示される。また部族連合の戦いにおけるムスリム*・信仰者・不信仰者*・偽信者*らの様子や、兵数が約一万にも達した強大な敵軍（ムスリム*軍は兵数約三千）を戦うことなく奇跡的に撃退した情景の描写は、アッラー*の恩恵への感謝と、かれとその使徒*への従順（じゅうじゅん）さの重要性、そしてアッラー*の勝利は誠実な信仰者のもとにこそやって来る、ということを想起させる。

2 この預言者*ムハンマド*への語りかけについては、雌牛章 120 の訳注を参照。

3 「委任者」については、頻出名・用語解説の「請け負われる*お方」を参照。

4 この解釈には、「その頭の良さゆえに、自分を『二つの心がある者』だと言っていた、クライシュ族*の不信仰者*に対する批判」「一つの心が、信仰と不信仰を両立することはないこと」「人間に心が二つないのと同様、事実上『母親が二人いる』という主張であるズィハール*は、あり得ないこと」など諸説ある（アル＝クルトゥビー14:116-117 参照）。

れは、あなた方がズィハール*するあなた方の妻たちを、あなた方の母親とはされなかったし、あなた方の養子を、あなた方の（イスラーム*法的に正当な）子供ともされなかった。それはあなた方の口先の言葉[1]である。そしてアッラー*は真実を語られるのであり、かれが（正しい）道へとお導きになるのだ。

مِنْهُنَّ أُمَّهَٰتِكُمْ ۚ وَمَا جَعَلَ أَدْعِيَآءَكُمْ
أَبْنَآءَكُمْ ۚ ذَٰلِكُمْ قَوْلُكُم بِأَفْوَٰهِكُمْ ۖ وَٱللَّهُ
يَقُولُ ٱلْحَقَّ وَهُوَ يَهْدِى ٱلسَّبِيلَ ٤

5. 彼ら（養子）を、その（生みの）父親に帰属させて呼べ。それがアッラー*の御許で、より公正なのだから。そしてもし、あなた方が彼らの（生みの）父親を知らないのであれば、（彼らは）宗教におけるあなた方の同胞であり、盟友である。また、あなた方が（意図せず）間違ったことにおいて、あなた方にはいかなる罪もないが、（アッラー*がお咎めになるのは）あなた方の心が意図したことなのである。アッラー*はもとより、赦し深いお方、慈愛深い*お方。

ٱدْعُوهُمْ لِءَابَآئِهِمْ هُوَ أَقْسَطُ عِندَ ٱللَّهِ ۚ فَإِن لَّمْ
تَعْلَمُوٓا۟ ءَابَآءَهُمْ فَإِخْوَٰنُكُمْ فِى ٱلدِّينِ
وَمَوَٰلِيكُمْ ۚ وَلَيْسَ عَلَيْكُمْ جُنَاحٌ فِيمَآ
أَخْطَأْتُم بِهِۦ وَلَٰكِن مَّا تَعَمَّدَتْ
قُلُوبُكُمْ ۚ وَكَانَ ٱللَّهُ غَفُورًا رَّحِيمًا ٥

6. 預言者*（ムハンマド*）は、信仰者たちに関し、彼ら自身よりも優先されるのであり[2]、その妻たちは彼らの母親なのである[3]。また近親関係にある者たちは（遺産相続に関し）、アッラー*の定めにおいて、信仰者たちやムハージルーン*よりもお互いに優先

ٱلنَّبِىُّ أَوْلَىٰ بِٱلْمُؤْمِنِينَ مِنْ أَنفُسِهِمْ ۖ
وَأَزْوَٰجُهُۥٓ أُمَّهَٰتُهُمْ ۗ وَأُو۟لُوا۟ ٱلْأَرْحَامِ
بَعْضُهُمْ أَوْلَىٰ بِبَعْضٍ فِى كِتَٰبِ ٱللَّهِ مِنَ
ٱلْمُؤْمِنِينَ وَٱلْمُهَٰجِرِينَ إِلَّآ أَن تَفْعَلُوٓا۟ إِلَىٰٓ
أَوْلِيَآئِكُم مَّعْرُوفًا ۚ كَانَ ذَٰلِكَ فِى

---

1 ズィハール*の言葉によって、自分の妻が実の母親のように結婚不可能な相手となることはなく、「これは私の息子だ」と主張することで、養子関係が確定することもない、ということ（ムヤッサル 418 頁参照）。

2 預言者*は仰（おっしゃ）った。「私のことが自分自身の親や子供、そして全ての人々よりも愛すべき存在となるまで、人は（真に）信仰してはいない」（アル＝ブハーリー15 参照）。

3 彼の妻たちは、彼以外の誰とも結婚できない関係にある（アーヤ*53 参照）と同時に、彼女らへの敬意、善行、尊敬といった義務ゆえに、「信仰者たちの母親」である（アル＝クルトゥビー14:123 参照）。

される[1]。但し、あなた方の盟友に善事を行うこと[2]は別である。それはもとより、書（守られし碑板*）の中に記されていたのだ。

ٱلْكِتَٰبِ مَسْطُورًا ٦

7. （預言者*よ、）われら*が預言者*たちから、彼らの確約[3]を取った時のこと（を思い出せ）。またあなたから、そしてヌーフ*、イブラーヒーム*、ムーサー*、マルヤム*の子イーサー*から（確約を取った時のことを）[4]。われら*は彼らから、厳粛なる確約を取ったのだ。

وَإِذْ أَخَذْنَا مِنَ ٱلنَّبِيِّـۧنَ مِيثَٰقَهُمْ وَمِنكَ
وَمِن نُّوحٍ وَإِبْرَٰهِيمَ وَمُوسَىٰ وَعِيسَى ٱبْنِ مَرْيَمَ ۖ
وَأَخَذْنَا مِنْهُم مِّيثَٰقًا غَلِيظًا ٧

8. （それは）かれ（アッラー*）が誠実な者たちに（復活の日*）、その誠実さについてお尋ねになる[5]ため。そしてかれは不信仰者*たちに、痛ましい懲罰を用意された。

لِّيَسْـَٔلَ ٱلصَّٰدِقِينَ عَن صِدْقِهِمْ ۚ وَأَعَدَّ
لِلْكَٰفِرِينَ عَذَابًا أَلِيمًا ٨

9. 信仰する者たちよ、あなた方に対するアッラー*の恩恵を思い起こすのだ。あなた方のもとに軍勢[6]が到来し、われら*が彼らに風と、あなた方には見えなかった軍勢を遣わした時のことを[7]。アッラー*はもとより、あなた方が行うことをご覧になっていたのだ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ ٱذْكُرُوا۟ نِعْمَةَ ٱللَّهِ عَلَيْكُمْ
إِذْ جَآءَتْكُمْ جُنُودٌ فَأَرْسَلْنَا عَلَيْهِمْ رِيحًا وَجُنُودًا
لَّمْ تَرَوْهَا ۚ وَكَانَ ٱللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ بَصِيرًا ٩

---

1 戦利品*章 75 とその訳注を参照。

2 近親関係にある相続人でもない者たちの相続は撤廃（てっぱい）されたが、それ以外の「善事」、つまり援助、善行、よい関係の維持、遺言などは行うことが出来る（イブン・カスィール 6:382 参照）。

3 アッラー*の教えを伝え、かつ全ての預言者*を信じるという「確約」のこと（ムヤッサル 419 頁参照）。雌牛章 40「契約」についての訳注も参照。

4 ここで数ある預言者*の中でもこの五人が取り上げられているのは、彼らが啓典と法を授けられた、「決然とした者たち（ウルー・アル＝アズム）」であるため（アル＝バガウィー3:610 参照）とされる。相談章 13、砂丘章 35 も参照。

5 アッラー*は彼ら預言者*、そしてその追随者たちに、確約を全（まっと）うしたかどうか、お尋ねになる（アッ＝サァディー659 頁参照）。高壁章 8 の訳注も参照。

6 この「軍勢」とは、部族連合のこと（ムヤッサル 419 頁参照）。詳しくは、スーラ*冒頭の訳注を参照。

7 強風が部族連合軍の設営したテントなどを吹き飛ばし、天からは天使*が送られ、その心に恐怖が吹き込まれた（前掲書、同頁参照）。

10. あなた方の上方から、そしてあなた方の下方から、彼らがやって来た時のこと（を思い出せ）[1]。また、視線が（恐怖で敵に釘(くぎ)づけとなって、彼ら以外の全てから）逸(そ)れ、心臓(しんぞう)が喉元(のどもと)にまで達(たっ)し、あなた方がアッラー*に対して（様々な）憶測(おくそく)[2]をした時のことを。

إِذْ جَآءُوكُم مِّن فَوْقِكُمْ وَمِنْ أَسْفَلَ
مِنكُمْ وَإِذْ زَاغَتِ ٱلْأَبْصَـٰرُ وَبَلَغَتِ
ٱلْقُلُوبُ ٱلْحَنَاجِرَ وَتَظُنُّونَ بِٱللَّهِ ٱلظُّنُونَا۠ ١٠

11. そこで信仰者たちは試練(しれん)を受け、激(はげ)しく動揺(どうよう)した。

هُنَالِكَ ٱبْتُلِىَ ٱلْمُؤْمِنُونَ وَزُلْزِلُوا۟ زِلْزَالًا
شَدِيدًا ١١

12. また、偽信者(にせしんじゃ)*たちと心に病(やまい)がある者[3]たちが、こう言った時のこと（を思い出せ）。「私たちにアッラー*とその使徒(しと)*が約束したこと[4]は、欺(あざむ)き以外の何ものでもなかった」。

وَإِذْ يَقُولُ ٱلْمُنَـٰفِقُونَ وَٱلَّذِينَ فِى قُلُوبِهِم
مَّرَضٌ مَّا وَعَدَنَا ٱللَّهُ وَرَسُولُهُۥٓ إِلَّا غُرُورًا ١٢

13. また、彼ら（偽信者(にせしんじゃ)*たち）の内の一団が、（こう）言った時のこと（を思い起こせ）。「ヤスリブ[5]の民よ、あなた方が（戦いで敗(やぶ)れるために）駐留(ちゅうりゅう)することはない。だから、（マディーナ*の中に）戻(もど)る[6]のだ」。

وَإِذْ قَالَت طَّآئِفَةٌ مِّنْهُمْ يَـٰٓأَهْلَ يَثْرِبَ لَا مُقَامَ
لَكُمْ فَٱرْجِعُوا۟ ۚ وَيَسْتَـْٔذِنُ فَرِيقٌ مِّنْهُمُ ٱلنَّبِىَّ
يَقُولُونَ إِنَّ بُيُوتَنَا عَوْرَةٌ وَمَا هِىَ بِعَوْرَةٍ ۖ إِن
يُرِيدُونَ إِلَّا فِرَارًا ١٣

---

1 マディーナ*東部の谷の上方からアラブ諸部族が、西部の谷の下方からはクライシュ族*、ユダヤ教徒*のクライザ族らが迫って来たことを示すという（アル＝クルトゥビー14:144参照）。

2 つまり真摯（しんし）な信仰者たちは、アッラー*のお約束が果たされると思い、またある者たちの脳裏（のうり）には敗北がよぎった。また、偽信者*たちは、次のアーヤ*以降に示されるようなことを憶測した（アル＝バイダーウィー4:366 参照）。

3 「心に病がある者」とは、心に疑念がある、信仰心の弱いムスリム*のこと（ムヤッサル419 頁参照）。

4 つまり、勝利のこと（前掲書、同頁参照）。預言者*は、カエサル（ローマ皇帝）とホスロー（ペルシャ王）の富はムスリム*のものとなるだろう、と予言していた（アル＝ブハーリー2952 参照）。

5 マディーナ*の旧称（ムヤッサル 419 頁参照）。

6 ムスリム*軍はマディーナ*郊外に塹壕（ざんごう）を掘り、その付近に駐留していた（アッ＝サァディー660 頁参照）。

また、彼ら（偽信者*たち）の内の一派は、「本当に私たちの家は（敵から）無防備なのです」と言って、預言者*に（自宅に帰る）許しを請う。それは無防備ではないというのに。彼らが望んでいるのは、逃亡以外の何ものでもないのだ。

14. また、もし彼ら（偽信者*たち）がその方々から（敵軍に）侵入され、試練[1]を要求されたら、それを（進んで）差し出したであろう。そしてそこ（試練）において、少しだけしか持ち堪えることはなかったのだ。

وَلَوْ دُخِلَتْ عَلَيْهِم مِّنْ أَقْطَارِهَا ثُمَّ سُئِلُوا
الْفِتْنَةَ لَآتَوْهَا وَمَا تَلَبَّثُوا بِهَا إِلَّا يَسِيرًا ١٤

15. また、彼らは確かに（その戦い）以前、背を見せて逃げないとの契約を（、アッラー*とその使徒*と）結んだ。アッラー*の契約は、もとより（その遵守を）問われることになっている。

وَلَقَدْ كَانُوا عَاهَدُوا اللَّهَ مِن قَبْلُ لَا يُوَلُّونَ
الْأَدْبَارَ ۚ وَكَانَ عَهْدُ اللَّهِ مَسْئُولًا ١٥

16. （預言者*よ、彼ら偽信者*たちに）言ってやれ。「逃亡があなた方を益することはない。たとえあなた方が、死や殺害から逃れたとしても。そしてそうしたとしても、あなた方は僅かばかりしか、（この現世で）楽しませてはもらえないのだ」。

قُل لَّن يَنفَعَكُمُ الْفِرَارُ إِن فَرَرْتُم مِّنَ الْمَوْتِ
أَوِ الْقَتْلِ وَإِذًا لَّا تُمَتَّعُونَ إِلَّا قَلِيلًا ١٦

17. 言ってやるのだ。「あなた方をアッラー*から守ってくれるのは、誰なのか？ もしかれが、あなた方に災いを望まれるか、あるいはあなた方にご慈悲を望まれるならば？」彼らはアッラー*以外、自分たちへのいかなる庇護者も援助者も見出すことがない。

قُلْ مَن ذَا الَّذِي يَعْصِمُكُم مِّنَ اللَّهِ إِنْ أَرَادَ
بِكُمْ سُوءًا أَوْ أَرَادَ بِكُمْ رَحْمَةً ۚ وَلَا يَجِدُونَ لَهُم
مِّن دُونِ اللَّهِ وَلِيًّا وَلَا نَصِيرًا ١٧

---

1 この「試練」とは、イスラーム*を棄（す）て、不信仰者*たちの宗教に戻ること（アッ＝サァディー660 頁参照）。

18. アッラー*は、あなた方の内（アッラー*の道における戦い）の妨害(ぼうがい)者たちと、その仲間たちに「（ムハンマド*を捨(す)てて）私たちのもとに来るがよい」と言う者たちを、確かにご存知である。そして彼らは僅(わず)かばかりしか、戦いにやって来ることがない。[1]

۞قَدْ يَعْلَمُ ٱللَّهُ ٱلْمُعَوِّقِينَ مِنكُمْ وَٱلْقَآئِلِينَ
لِإِخْوَٰنِهِمْ هَلُمَّ إِلَيْنَا ۖ وَلَا يَأْتُونَ ٱلْبَأْسَ إِلَّا
قَلِيلًا ١٨

19. あなた方（信仰者たち）に対して、惜(お)しみつつ[2]。（戦いによる死の）恐怖が到来(とうらい)した時、あなたは彼らがあなたを凝視(ぎょうし)するのを見たであろう。まるで死（への恐怖）ゆえに気絶する者のように、彼らの眼は回る。そして恐怖が立ち去った時には、善きもの（戦利(せんり)品*）を惜(お)しみつつ、あなた方に鋭(するど)い口調でまくし立てたのだ[3]。それらの者たちは信仰してはいなかったのであり、アッラー*はその行いを無駄(むだ)にされた。それはアッラー*にとって、もとより容易(たやす)いことだったのだ。

أَشِحَّةً عَلَيْكُمْ ۖ فَإِذَا جَآءَ ٱلْخَوْفُ رَأَيْتَهُمْ
يَنظُرُونَ إِلَيْكَ تَدُورُ أَعْيُنُهُمْ كَٱلَّذِى يُغْشَىٰ
عَلَيْهِ مِنَ ٱلْمَوْتِ ۖ فَإِذَا ذَهَبَ ٱلْخَوْفُ سَلَقُوكُم
بِأَلْسِنَةٍ حِدَادٍ أَشِحَّةً عَلَى ٱلْخَيْرِ ۚ أُو۟لَٰٓئِكَ لَمْ
يُؤْمِنُوا۟ فَأَحْبَطَ ٱللَّهُ أَعْمَٰلَهُمْ ۚ وَكَانَ ذَٰلِكَ
عَلَى ٱللَّهِ يَسِيرًا ١٩

20. 彼ら（偽信者(にせしんじゃ)*たち）は、諸（部族）連合が行ってしまったのではない、と思っている[4]。また、もし諸（部族）連合が（再(ふたた)び）やって来たら、（マディーナ*を離(はな)れて）あなた方の（動向についての）知らせを尋(たず)ねつつ、ベドウィンたちと共に砂漠にいたならば、と望んだであろう。そしてもしあなた方と共にあったならば、彼らは僅(わず)かばかりしか戦うことなどなかったのだ。

يَحْسَبُونَ ٱلْأَحْزَابَ لَمْ يَذْهَبُوا۟ ۖ وَإِن يَأْتِ
ٱلْأَحْزَابُ يَوَدُّوا۟ لَوْ أَنَّهُم بَادُونَ فِى
ٱلْأَعْرَابِ يَسْـَٔلُونَ عَنْ أَنۢبَآئِكُمْ ۖ وَلَوْ كَانُوا۟
فِيكُم مَّا قَٰتَلُوٓا۟ إِلَّا قَلِيلًا ٢٠

---

1 死への恐怖のため。あるいは戦いに参加するのは、単なる外聞や見せかけのため（アル＝クルトゥビー14:152 参照）。

2 偽信者*たちは信仰者たちへの敵意と憎しみゆえ、彼らに対して財産・生命・労力・愛情といったことを犠牲にすることを惜しんだ（ムヤッサル 420 頁参照）。

3 戦いの時には誰よりも臆病（おくびょう）だが、戦利品*の分配などにおいては、誰よりも雄弁になった（アル＝クルトゥビー14:154 参照）。

4 アッラー*が彼らを退却（たいきゃく）させられた後も、偽信者*たちは恐怖と臆病（おくびょう）さゆえに、彼らの退却を信じなかったのだという（ムヤッサル 420 頁参照）。

21. （信仰者たちよ、）確かに、あなた方にとってアッラー*の使徒*の内には、よき模範があった。アッラー*と最後の日*を望み[1]、アッラー*をよく唱念していた者にとっては。

لَّقَدْ كَانَ لَكُمْ فِي رَسُولِ ٱللَّهِ أُسْوَةٌ حَسَنَةٌ لِّمَن
كَانَ يَرْجُوا۟ ٱللَّهَ وَٱلْيَوْمَ ٱلْـَٔاخِرَ وَذَكَرَ ٱللَّهَ
كَثِيرًا ٢١

22. また信仰者たちは、諸（部族）連合を目にした時、（こう）言ったのである。「これはアッラー*とその使徒*が、私たちに約束したこと[2]。そしてアッラー*とその使徒*は、本当のことを仰られた」。それ[3]は彼らに、信仰心と従順さしか上乗せしなかったのだ。

وَلَمَّا رَءَا ٱلْمُؤْمِنُونَ ٱلْأَحْزَابَ قَالُوا۟ هَٰذَا مَا
وَعَدَنَا ٱللَّهُ وَرَسُولُهُۥ وَصَدَقَ ٱللَّهُ وَرَسُولُهُۥ ۚ
وَمَا زَادَهُمْ إِلَّآ إِيمَٰنًا وَتَسْلِيمًا ٢٢

23. 信仰者たちの内には、アッラー*と契約したことに誠実であった男たちがいる。また、その中には誓約を果たした者[4]もいれば、その中には待つ者[5]もいる。彼らは（契約を）改竄してしまうことなど、なかったのだ。

مِّنَ ٱلْمُؤْمِنِينَ رِجَالٌ صَدَقُوا۟ مَا عَٰهَدُوا۟ ٱللَّهَ
عَلَيْهِ ۖ فَمِنْهُم مَّن قَضَىٰ نَحْبَهُۥ وَمِنْهُم مَّن
يَنتَظِرُ ۖ وَمَا بَدَّلُوا۟ تَبْدِيلًا ٢٣

24. （これらの出来事が起こったのは、）アッラー*が誠実な者たちをその誠実さで報われ、偽信者*たちを罰され――もし、かれが（彼らの懲罰を）お望みならばであるが――、あるいは彼らの悔悟をお受け入れになるため。本当にアッラー*はもとより、赦し深いお方、慈愛深い*お方。

لِّيَجْزِىَ ٱللَّهُ ٱلصَّٰدِقِينَ بِصِدْقِهِمْ
وَيُعَذِّبَ ٱلْمُنَٰفِقِينَ إِن شَآءَ أَوْ يَتُوبَ
عَلَيْهِمْ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ غَفُورًا رَّحِيمًا ٢٤

---

1 この「望む」については、ユーヌス*章 7 の訳注を参照。

2 一説に、これは雌牛章 214 にある言葉。つまり近い日の勝利に先駆ける試練のこと（イブン・カスィール 6:392 参照）。

3 部族連合を目にしたこと（ムヤッサル 420 頁参照）。

4 アッラー*の道において殉教（じゅんきょう）したり、契約を全（まっと）うした、あるいは契約に誠実な状態で死を迎えたりした者のこと（前掲書 421 頁参照）。契約についてはアーヤ*15 を参照。

5 勝利か殉教という、いずれにしても善きものを待つ者のこと（前掲書、同頁参照）。悔悟章 52 も参照。

25. またアッラー*は、不信仰だった者*たちをその憤(いきどお)りと共に、善いことなく(マディーナ*から)退却(たいきゃく)させられた。そしてアッラー*は信仰者たちを、戦いなしで済(す)ませて下さった[1]。アッラー*はもとより強力なお方、偉力(いりょく)ならびない*お方であられる。

وَرَدَّ ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ بِغَيْظِهِمْ لَمْ يَنَالُوا۟
خَيْرًا ۚ وَكَفَى ٱللَّهُ ٱلْمُؤْمِنِينَ ٱلْقِتَالَ ۚ
وَكَانَ ٱللَّهُ قَوِيًّا عَزِيزًا ٢٥

26. またかれは、啓典(けいてん)の民*の内、彼ら(部族連合)を援助した者たち[2]をその砦(とりで)から引きずり出し、その心の内に恐怖を投げ入れられた。あなた方は(その)一派を殺し、(別の)一派は捕虜(ほりょ)とする。

وَأَنزَلَ ٱلَّذِينَ ظَٰهَرُوهُم مِّنْ أَهْلِ ٱلْكِتَٰبِ
مِن صَيَاصِيهِمْ وَقَذَفَ فِى قُلُوبِهِمُ ٱلرُّعْبَ
فَرِيقًا تَقْتُلُونَ وَتَأْسِرُونَ فَرِيقًا ٢٦

27. また、かれはあなた方に、彼らの土地、彼らの住居、彼らの財産、そしてあなた方がまだ足を踏(ふ)み入れてはいない土地[3]を引き継(つ)がされた。アッラー*はもとより、全てのことがお出来になるお方。

وَأَوْرَثَكُمْ أَرْضَهُمْ وَدِيَٰرَهُمْ وَأَمْوَٰلَهُمْ
وَأَرْضًا لَّمْ تَطَـُٔوهَا ۚ وَكَانَ ٱللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ
شَىْءٍ قَدِيرًا ٢٧

28. 預言者(よげんしゃ)*よ、あなたの妻たちに言うのだ。「もし現世の生活とその飾(かざ)りが欲しいのなら、来なさい。私はあなた方に贈(おく)り物[4]をやり、あなた方と綺麗(きれい)さっぱり別れてやろう。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّبِىُّ قُل لِّأَزْوَٰجِكَ إِن كُنتُنَّ تُرِدْنَ
ٱلْحَيَوٰةَ ٱلدُّنْيَا وَزِينَتَهَا فَتَعَالَيْنَ
أُمَتِّعْكُنَّ وَأُسَرِّحْكُنَّ سَرَاحًا جَمِيلًا ٢٨

---

1 部族連合の退却の経緯(いきさつ)については、アーヤ*9 の訳注を参照。尚、この出来事を境(さかい)に敵の侵攻は途絶(とだ)え、逆にムスリム*軍の進撃が始まる(イブン・カスィール 6:396 参照)。

2 ユダヤ教徒*のクライザ族のこと(ムヤッサル 421 頁参照)。既にマディーナ*を追放されていたユダヤ教徒*ナディール族(集合章参照)の長フヤイイ・ブン・アフタブに唆(そそのか)され、協定を結んでいたムスリム*たちを裏切り、部族連合に協力した(イブン・カスィール 6:384 参照)。

3 その当時、まだムスリム*たちの土地とはなっていなかったマッカ*、ハイバル、ペルシャ、ローマ帝国、イエメンなどのこと(アッ=タバリー8:6650 参照)。

4 雌牛章 236 で言及されている、離婚の際の贈り物のこと(前掲書、同頁参照)。

29. そして、もしあなた方がアッラー*とその使徒*、来世の住まいを望む（がゆえに忍耐*して使徒*に従う）のなら、本当にアッラー*はあなた方の内、善を尽くす*者たちに偉大な褒美を用意されている。[1]

وَإِن كُنتُنَّ تُرِدْنَ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ وَٱلدَّارَ
ٱلْـَٔاخِرَةَ فَإِنَّ ٱللَّهَ أَعَدَّ لِلْمُحْسِنَٰتِ مِنكُنَّ
أَجْرًا عَظِيمًا ٢٩

30. 預言者*の妻たちよ、あなた方の内、紛れもない醜行[2]を犯す者があれば、その者には懲罰が二倍に倍増されよう。そしてそれはもとよりアッラー*にとって、容易いことなのだ。

يَٰنِسَآءَ ٱلنَّبِىِّ مَن يَأْتِ مِنكُنَّ بِفَٰحِشَةٍ
مُّبَيِّنَةٍ يُضَٰعَفْ لَهَا ٱلْعَذَابُ ضِعْفَيْنِ ۚ
وَكَانَ ذَٰلِكَ عَلَى ٱللَّهِ يَسِيرًا ٣٠

31. あなた方の内、アッラー*とその使徒*に謹んで仕え、正しい行い*を行う者があれば、われら*はその者に褒美を二度与えよう。そしてわれら*は彼女のために、貴い糧[3]を用意しておいたのだ。

۞ وَمَن يَقْنُتْ مِنكُنَّ لِلَّهِ وَرَسُولِهِۦ وَتَعْمَلْ
صَٰلِحًا نُّؤْتِهَآ أَجْرَهَا مَرَّتَيْنِ وَأَعْتَدْنَا لَهَا
رِزْقًا كَرِيمًا ٣١

32. 預言者*の妻たちよ[4]、あなた方は（その徳と地位において、）女性たちの誰とも同様ではない。もしあなた方が（アッラー*を）畏れ*るならば、（マハラム*でもない男性に対して）なよなよとした物言いをし、心に病がある者に（禁じられた）欲望を抱かせてしまってはならない。そして適切な物言い[5]をするのだ。

يَٰنِسَآءَ ٱلنَّبِىِّ لَسْتُنَّ كَأَحَدٍ مِّنَ ٱلنِّسَآءِ
إِنِ ٱتَّقَيْتُنَّ ۚ فَلَا تَخْضَعْنَ بِٱلْقَوْلِ فَيَطْمَعَ ٱلَّذِى
فِى قَلْبِهِۦ مَرَضٌ وَقُلْنَ قَوْلًا مَّعْرُوفًا ٣٢

---

1 アーヤ*28-29 は、自分たちへの出費を増やすよう要求した、預言者*の妻たちに関して下ったものとされる。そして彼女らは全員、アッラー*とその使徒*、そして来世を選んだ（ムヤッサル 421 頁参照）。

2 「醜行」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。

3 「貴い糧」とは、天国のこと（前掲書 422 頁参照）。

4 この呼びかけによる一連の指導は、預言者*の妻だけでなく、全てのムスリム*女性にも向けられたものである（イブン・カスィール 6:408 参照）。

5 疑惑の原因となるようなことを避けつつ、イスラーム*法に沿った形で、聞く者が嫌にも思わず、放逸な者の欲望を煽（あお）らないような物言い（アッ＝シャウカーニー4:365 参照）。

33. また（必要時以外は）あなた方の家に留まり、先（代）のジャーヒリーヤ*の飾り立てのように、自らをこれ見よがしに飾り立ててはならない[1]。そして礼拝を遵守*し、浄財*を支払い、アッラー*とその使徒*に従え。本当にアッラー*は――（預言者*の）家の者たち[2]よ――、あなた方から穢れを取り除き、あなた方を綺麗に清められたいのである。

وَقَرۡنَ فِي بُيُوتِكُنَّ وَلَا تَبَرَّجۡنَ تَبَرُّجَ
ٱلۡجَٰهِلِيَّةِ ٱلۡأُولَىٰۖ وَأَقِمۡنَ ٱلصَّلَوٰةَ
وَءَاتِينَ ٱلزَّكَوٰةَ وَأَطِعۡنَ ٱللَّهَ
وَرَسُولَهُۥٓۚ إِنَّمَا يُرِيدُ ٱللَّهُ لِيُذۡهِبَ عَنكُمُ
ٱلرِّجۡسَ أَهۡلَ ٱلۡبَيۡتِ وَيُطَهِّرَكُمۡ تَطۡهِيرٗا ٣٣

34. そして（預言者*の妻たちよ）、あなた方の家で読誦されるアッラー*の御徴と英知[3]を唱念するのだ。本当にアッラー*はもとより、霊妙な*お方、通暁されたお方。

وَٱذۡكُرۡنَ مَا يُتۡلَىٰ فِي بُيُوتِكُنَّ
مِنۡ ءَايَٰتِ ٱللَّهِ وَٱلۡحِكۡمَةِۚ إِنَّ ٱللَّهَ
كَانَ لَطِيفًا خَبِيرًا ٣٤

35. 本当に服従する男（ムスリム*）たちと服従する女たち、信仰する男たちと信仰する女たち、従順な男たちと従順な女たち、（言動において）正直な男たちと正直な女たち、忍耐*する男たちと忍耐*する女たち、恭順[4]な男たちと恭順な女たち、よく施す男たちとよく施す女たち、（義務、任意を問わず）サウム*する男たちとサウム*する女たち、自らの陰部を（禁じられた物事[5]から）守る男たちと（それを）守る女たち、アッラー*をよく唱念する者たちと、（かれをよく）唱念する女たち、アッラー*は

إِنَّ ٱلۡمُسۡلِمِينَ وَٱلۡمُسۡلِمَٰتِ
وَٱلۡمُؤۡمِنِينَ وَٱلۡمُؤۡمِنَٰتِ وَٱلۡقَٰنِتِينَ
وَٱلۡقَٰنِتَٰتِ وَٱلصَّٰدِقِينَ وَٱلصَّٰدِقَٰتِ
وَٱلصَّٰبِرِينَ وَٱلصَّٰبِرَٰتِ وَٱلۡخَٰشِعِينَ
وَٱلۡخَٰشِعَٰتِ وَٱلۡمُتَصَدِّقِينَ وَٱلۡمُتَصَدِّقَٰتِ
وَٱلصَّٰٓئِمِينَ وَٱلصَّٰٓئِمَٰتِ وَٱلۡحَٰفِظِينَ
فُرُوجَهُمۡ وَٱلۡحَٰفِظَٰتِ وَٱلذَّٰكِرِينَ
ٱللَّهَ كَثِيرٗا وَٱلذَّٰكِرَٰتِ
أَعَدَّ ٱللَّهُ لَهُم مَّغۡفِرَةٗ وَأَجۡرًا عَظِيمٗا ٣٥

---

1 アーヤ*59、御光章 31、60 も参照。

2 預言者*の妻、子孫を含む、その一族のこと（ムヤッサル 422 頁参照）。

3 「御徴」はクルアーン*のアーヤ*、「英知」は、その奥にひそむ意味と、預言者*のスンナ*のこと。このアーヤ*の意味には、その言葉を「心に刻む」だけでなく、その読誦、熟考（じゅっこう）、そこに含まれる英知と法規定の発見、その実践と解釈なども含まれるとされる（アッ＝サァディー663 頁参照）。

4 「恭順」については、雌牛章 45 の訳注を参照。

5 この「禁じられた物事」については、御光章 30 の訳注を参照。

彼らのために、お赦しと偉大な褒美[1]をご用意された。

36. 信仰者の男性も、信仰者の女性も、アッラー*とその使徒*が何かを裁決したら、彼らに自分たちの裁量による（別の裁決の）選択はない。そしてアッラー*とその使徒*に逆らう者がいれば、確かに彼は紛れもなく迷い去っているのである。[2]

وَمَا كَانَ لِمُؤۡمِنٖ وَلَا مُؤۡمِنَةٍ إِذَا قَضَى ٱللَّهُ
وَرَسُولُهُۥٓ أَمۡرًا أَن يَكُونَ لَهُمُ ٱلۡخِيَرَةُ مِنۡ أَمۡرِهِمۡۗ
وَمَن يَعۡصِ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ فَقَدۡ ضَلَّ ضَلَٰلٗا
مُّبِينٗا ٣٦

37. （預言者*よ、）アッラー*が恩恵をお授けになり、あなたが恩恵を与えた者（ザイド・ブン・ハーリサ）[3]に、あなたが（こう）言った時のこと（を思い出させよ）。「（ザイドよ、）あなたの妻[4]を自分のもとに留めておけ。そしてアッラー*を畏れる*のだ」。そしてあなたは、アッラー*が露わにされることになるものを心の内に隠し[5]、アッラー*があなたの恐れるにより相応しいお方なのに、人々を恐れていた[6]。そしてザイドが彼女との（離婚という）用件を果たし（、イッダ*が終了し）た時、われら*はあなたと彼女を結婚させた。（それは）自分たちの養子の妻（との結婚）に関し、彼らが彼

وَإِذۡ تَقُولُ لِلَّذِيٓ أَنۡعَمَ ٱللَّهُ عَلَيۡهِ وَأَنۡعَمۡتَ
عَلَيۡهِ أَمۡسِكۡ عَلَيۡكَ زَوۡجَكَ وَٱتَّقِ ٱللَّهَ
وَتُخۡفِي فِي نَفۡسِكَ مَا ٱللَّهُ مُبۡدِيهِ وَتَخۡشَى
ٱلنَّاسَ وَٱللَّهُ أَحَقُّ أَن تَخۡشَىٰهُۖ فَلَمَّا قَضَىٰ زَيۡدٞ
مِّنۡهَا وَطَرٗا زَوَّجۡنَٰكَهَا لِكَيۡ لَا يَكُونَ عَلَى
ٱلۡمُؤۡمِنِينَ حَرَجٞ فِيٓ أَزۡوَٰجِ أَدۡعِيَآئِهِمۡ إِذَا
قَضَوۡاْ مِنۡهُنَّ وَطَرٗاۚ وَكَانَ أَمۡرُ ٱللَّهِ مَفۡعُولٗا ٣٧

1 天国のこととされる（ムヤッサル 422 頁参照）。

2 同様のアーヤ*として、婦人章 65 も参照。

3 アッラー*は彼にイスラーム*の恩恵をお授けになり、預言者*ムハンマド*は奴隷*であった彼を解放し、（イスラーム*において養子関係が禁じられる前に）彼を自分の養子とした（前掲書 423 頁参照）。

4 ザイナブ・ビント・ジャハシュのこと（前掲書、同頁参照）。

5 アッラー*は、ザイドがその妻ザイナブを離婚し、預言者*が彼女と結婚することになることを、預言者*に前もって知らせていた（前掲書 423 頁参照）。

6 悪意ある人々が、「ムハンマド*は自分の養子の妻と結婚した」と言うことを、恐れていた（前掲書、同頁参照）。

女らとの（離婚という）用件を果たしたならば、信仰者たちにとっての罪にはならない（ようにする）ためである[1]。アッラー*のご命令はもとより、実行されることになっていたのだ。

38. 預言者*はアッラー*が彼のために（合法と）定められたことにおいて、何の罪もない。過去に滅び去った（預言）者*たちにおける、アッラー*の摂理（として、かれがお定めになったことなのである）。アッラー*のご命令はもとより、（既に）定められていた定命なのだ。

مَّا كَانَ عَلَى ٱلنَّبِيِّ مِنْ حَرَجٍ فِيمَا فَرَضَ ٱللَّهُ لَهُۥ ۖ
سُنَّةَ ٱللَّهِ فِى ٱلَّذِينَ خَلَوْا۟ مِن قَبْلُ ۚ وَكَانَ أَمْرُ
ٱللَّهِ قَدَرًا مَّقْدُورًا ٣٨

39. （彼ら預言者*たちは、）アッラー*のお言伝を伝達し、かれ（のみ）を恐れ、アッラー*以外のいかなるものも恐れることのない者たち。そしてアッラー*だけで、清算者*は十分である。

ٱلَّذِينَ يُبَلِّغُونَ رِسَـٰلَـٰتِ ٱللَّهِ وَيَخْشَوْنَهُۥ وَلَا
يَخْشَوْنَ أَحَدًا إِلَّا ٱللَّهَ ۗ وَكَفَىٰ بِٱللَّهِ حَسِيبًا ٣٩

40. ムハンマド*はそもそも、あなた方の男性の内の、誰の父親でもない[2]。しかしアッラー*の使徒*、預言者*たちの封印[3]なのだ。そしてアッラー*はもとより、全てのことをご存知のお方。

مَّا كَانَ مُحَمَّدٌ أَبَآ أَحَدٍ مِّن رِّجَالِكُمْ وَلَـٰكِن
رَّسُولَ ٱللَّهِ وَخَاتَمَ ٱلنَّبِيِّـۧنَ ۗ وَكَانَ ٱللَّهُ بِكُلِّ
شَىْءٍ عَلِيمًا ٤٠

41. 信仰する者たちよ、アッラー*をよく唱念せよ。

يَـٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ ٱذْكُرُوا۟ ٱللَّهَ ذِكْرًا كَثِيرًا ٤١

42. そしてかれを、朝に夕に称え*よ。

وَسَبِّحُوهُ بُكْرَةً وَأَصِيلًا ٤٢

---

1 つまりアッラー*は、自分の養子が離婚した女性と結婚することを合法とするため、預言者*をその実例としてお選びになった。養子関係そのものはアーヤ*5 によって禁じられた（ムヤッサル 423 頁参照）。

2 預言者*は生前、ザイドを含め、いかなる成人*男性の父親となることもなかった。彼の男児は皆、夭折（ようせつ）している（アル＝クルトゥビー14:196 参照）。

3 最後の預言者*、ということ（ムヤッサル 423 頁参照）。

43. かれは、あなた方（信仰者）を闇から光[1]へと（導き）出すべく、あなた方のために（善きことを）念じられた[2]お方。そして、かれの天使*たちも（あなた方のため、善きことを念じる[3]）。かれはもとより、信仰者たちに対して慈愛深い*お方なのだ。

هُوَ ٱلَّذِي يُصَلِّي عَلَيۡكُمۡ وَمَلَٰٓئِكَتُهُۥ
لِيُخۡرِجَكُم مِّنَ ٱلظُّلُمَٰتِ إِلَى ٱلنُّورِۚ وَكَانَ
بِٱلۡمُؤۡمِنِينَ رَحِيمٗا ٤٣

44. その日（天国で）、彼らが（アッラー*から）受け取るその挨拶は、「（あなた方に）平安を[4]」。そしてかれは彼らのため、貴い褒美[5]をご用意された。

تَحِيَّتُهُمۡ يَوۡمَ يَلۡقَوۡنَهُۥ سَلَٰمٞۚ وَأَعَدَّ لَهُمۡ أَجۡرٗا
كَرِيمٗا ٤٤

45. 預言者*よ、実にわれら*はあなたを、証人[6]、吉報を伝える者、警告を告げる者[7]として遣わした。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّبِيُّ إِنَّآ أَرۡسَلۡنَٰكَ شَٰهِدٗا وَمُبَشِّرٗا
وَنَذِيرٗا ٤٥

46. また、かれのお許しのもとに、アッラー*（のタウヒード*）へと招く者、煌々たる灯火として。

وَدَاعِيًا إِلَى ٱللَّهِ بِإِذۡنِهِۦ وَسِرَاجٗا مُّنِيرٗا ٤٦

47. そして（預言者*よ、）信仰者たちには、アッラー*の御許から彼らへの大きなご恩寵があることの吉報を伝えよ。

وَبَشِّرِ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ بِأَنَّ لَهُم مِّنَ ٱللَّهِ فَضۡلٗا
كَبِيرٗا ٤٧

48. また、不信仰者*たちや偽信者*たちには従わず、彼らの害は放っておき、アッラー*のみに全てを委ねる*のだ。アッラー*だけで、委任者[8]は十分なのである。

وَلَا تُطِعِ ٱلۡكَٰفِرِينَ وَٱلۡمُنَٰفِقِينَ وَدَعۡ أَذَىٰهُمۡ
وَتَوَكَّلۡ عَلَى ٱللَّهِۚ وَكَفَىٰ بِٱللَّهِ وَكِيلٗا ٤٨

---

1 この「闇」と「光」については、雌牛章 257 の訳注を参照。

2 アッラー*が彼らのために「念じられる」とは、彼らにご慈悲をかけ、彼らを讃美（さんび）されること（ムヤッサル 423 頁参照）。

3 天使*たちが彼らのために「念じる」とは、彼らのために祈願すること（前掲書、同頁参照）。赦し深いお方章 7-9 も参照。

4 「あなた方に平安を」については、雷鳴章 24 の訳注も参照。

5 「貴い褒美」とは、天国のこと（前掲書 424 頁参照）。

6 「証人」については、雌牛章 143 の訳注を参照。

7 「吉報を伝える者」「警告を告げる者」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

8 頻出名・用語解説の「全てを請け負われる*お方」も参照。

49. 信仰する者たちよ、あなた方が信仰者の女たちと結婚し、それから彼女らに触れる前[1]に彼女らと離婚したならば、あなた方にとって彼女らに数えるべきイッダ*はない[2]。ならば彼女らに贈り物を与え[3]、（結婚関係から）綺麗に解き放ってやるのだ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِذَا نَكَحۡتُمُ ٱلۡمُؤۡمِنَٰتِ
ثُمَّ طَلَّقۡتُمُوهُنَّ مِن قَبۡلِ أَن تَمَسُّوهُنَّ فَمَا
لَكُمۡ عَلَيۡهِنَّ مِنۡ عِدَّةٖ تَعۡتَدُّونَهَاۖ فَمَتِّعُوهُنَّ
وَسَرِّحُوهُنَّ سَرَاحٗا جَمِيلٗا ٤٩

50. 預言者*よ、本当にわれら*はあなたに、あなたが婚資金*を贈ったあなたの妻たちを合法とした。また、アッラー*があなたに戦利品[4]としてお与えになった、あなた方の右手が所有した者たち（奴隷*女性）も。またあなたと共に移住*した[5]、あなた方の父方の叔（伯）父の娘たち、あなた方の父方の叔（伯）母の娘たち、あなた方の母方の叔（伯）父の娘たち、あなた方の母方の叔（伯）母の娘たちも[6]。また信仰者の女性も、もし彼女が預言者*に、自らを（婚資金*なしで妻として）贈ったならば（、彼女は彼にとって合法である）。（但し、それは）もし預言者*が、彼女との結婚を望んだ場合であるが[7]。（それは外の）信仰者たちは別とした、あなただけの特別なもの。われら

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّبِيُّ إِنَّآ أَحۡلَلۡنَا لَكَ أَزۡوَٰجَكَ ٱلَّٰتِيٓ
ءَاتَيۡتَ أُجُورَهُنَّ وَمَا مَلَكَتۡ يَمِينُكَ مِمَّآ
أَفَآءَ ٱللَّهُ عَلَيۡكَ وَبَنَاتِ عَمِّكَ وَبَنَاتِ
عَمَّٰتِكَ وَبَنَاتِ خَالِكَ وَبَنَاتِ خَٰلَٰتِكَ ٱلَّٰتِي
هَاجَرۡنَ مَعَكَ وَٱمۡرَأَةٗ مُّؤۡمِنَةً إِن وَهَبَتۡ
نَفۡسَهَا لِلنَّبِيِّ إِنۡ أَرَادَ ٱلنَّبِيُّ أَن يَسۡتَنكِحَهَا
خَالِصَةٗ لَّكَ مِن دُونِ ٱلۡمُؤۡمِنِينَۗ قَدۡ
عَلِمۡنَا مَا فَرَضۡنَا عَلَيۡهِمۡ فِيٓ أَزۡوَٰجِهِمۡ
وَمَا مَلَكَتۡ أَيۡمَٰنُهُمۡ لِكَيۡلَا يَكُونَ
عَلَيۡكَ حَرَجٞۗ وَكَانَ ٱللَّهُ غَفُورٗا
رَّحِيمٗا ٥٠

---

1 性交する前に、ということ（ムヤッサル 424 頁参照）。

2 イッダ*の種類については、雌牛章 228「三度の月経」についての訳注も参照。

3 雌牛章 236-237 も参照。

4 この「戦利品*（ファイゥ）」については、頻出名・用語解説を参照。

5 これは預言者*ムハンマド*だけの、特別な条件とされる（アッ＝サァディー669 頁参照）。

6 アーヤ*冒頭からここまでは、預言者*だけでなくムスリム*男性一般に共通した規定。また、ここで一部の近親女性が挙げられているのは、それ以外の女性が禁じられているというわけではなく（婦人章 23 も参照）、結婚することを許される最近縁の女性を示しているに過ぎない（前掲書、同頁参照）。

7 現実上、預言者*に自らを差し出した女性は複数に上るが、彼がそれを受け入れたことは一度もなかったとされる（イブン・カスィール 6:444 参照）。

*は確かに、彼ら（信仰者たち）の妻と、彼らの右手が所有するもの（奴隷*女性）について、われら*が彼らに定めたもの[1]を知っている。（これらのことを、あなたに特別に合法としたのは、）あなたに困難がないようにするため。アッラー*はもとより、赦し深いお方、慈愛深い*お方。

51. あなたは、あなたが望む者を遅らせ、あなたが望む者を自分のもとに引き寄せる[2]。また、あなたが（一旦は）避けた者の内、あなたが（後に）欲した者も。あなたにはいかなる罪もない。それ[3]が、彼女たちが喜んで[4]、悲しむことはなく、彼女たち全員が、あなたが彼女らに与えたものに満足するのに、より適切なのである。アッラー*は、あなた方の心の中にあることをご存知である。アッラー*はもとより全知者、寛大な*お方なのだから。

۞ تُرْجِي مَن تَشَآءُ مِنْهُنَّ وَتُـْٔوِيٓ إِلَيْكَ مَن
تَشَآءُ ۖ وَمَنِ ٱبْتَغَيْتَ مِمَّنْ عَزَلْتَ فَلَا جُنَاحَ
عَلَيْكَ ۚ ذَٰلِكَ أَدْنَىٰٓ أَن تَقَرَّ أَعْيُنُهُنَّ وَلَا
يَحْزَنَّ وَيَرْضَيْنَ بِمَآ ءَاتَيْتَهُنَّ كُلُّهُنَّ ۚ
وَٱللَّهُ يَعْلَمُ مَا فِي قُلُوبِكُمْ ۚ وَكَانَ ٱللَّهُ
عَلِيمًا حَلِيمًا ٥١

52. 以後、（既に結婚していた妻たちとは別の）女性たち（との結婚）は、あなたに許されないし、彼女らを（離婚して、別の）妻た

لَّا يَحِلُّ لَكَ ٱلنِّسَآءُ مِنۢ بَعْدُ وَلَآ أَن تَبَدَّلَ
بِهِنَّ مِنْ أَزْوَٰجٍ وَلَوْ أَعْجَبَكَ حُسْنُهُنَّ
إِلَّا مَا مَلَكَتْ يَمِينُكَ ۗ

1 この「定めたもの」とは、自由民女性は四人まで、奴隷*女性は数の制限なく結婚できること、そして結婚の際には、後見人、婚資金*、証人が条件付けられることであるとされる（ムヤッサル 424 頁参照）。

2 これは、自らを差し出した女性や、共に過ごす時間を妻たちの間で配分すること（婦人章 128 とその訳注も参照）に関することとされる。一部の学者は、妻たちへの時間の平等な配分は、預言者*にとっての義務ではなかったが、それでも彼は時間を平等に振り分けていた、とする（イブン・カスィール 6:446 参照）。

3 「それ」とは、その選択のこと（ムヤッサル 425 頁参照）。または、自分にとっては義務ではないにも関わらず、預言者*が妻たちに平等に時間を割（さ）いていたこと（イブン・カスィール 6:446 参照）。

4 この「喜び」については、マルヤム*章 26 の訳注を参照。

وَكَانَ ٱللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٖ رَّقِيبٗا ﴿٥٢﴾

ちと換えることも（許されない）[1]。たとえ、彼女ら（妻以外の女性たち）の美しさが、あなたを魅了したとしても。但し、あなたの右手が所有するもの（奴隷*女性）は別である。アッラー*はもとより、全てのことを見守られるお方。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ لَا تَدۡخُلُواْ بُيُوتَ ٱلنَّبِيِّ
إِلَّآ أَن يُؤۡذَنَ لَكُمۡ إِلَىٰ طَعَامٍ غَيۡرَ نَٰظِرِينَ
إِنَىٰهُ وَلَٰكِنۡ إِذَا دُعِيتُمۡ فَٱدۡخُلُواْ فَإِذَا
طَعِمۡتُمۡ فَٱنتَشِرُواْ وَلَا مُسۡتَـٔۡنِسِينَ لِحَدِيثٍۚ
إِنَّ ذَٰلِكُمۡ كَانَ يُؤۡذِي ٱلنَّبِيَّ فَيَسۡتَحۡيِۦ
مِنكُمۡۖ وَٱللَّهُ لَا يَسۡتَحۡيِۦ مِنَ ٱلۡحَقِّۚ وَإِذَا
سَأَلۡتُمُوهُنَّ مَتَٰعٗا فَسۡـَٔلُوهُنَّ مِن وَرَآءِ
حِجَابٖۚ ذَٰلِكُمۡ أَطۡهَرُ لِقُلُوبِكُمۡ
وَقُلُوبِهِنَّۚ وَمَا كَانَ لَكُمۡ أَن تُؤۡذُواْ رَسُولَ
ٱللَّهِ وَلَآ أَن تَنكِحُوٓاْ أَزۡوَٰجَهُۥ مِنۢ بَعۡدِهِۦٓ أَبَدًاۚ إِنَّ
ذَٰلِكُمۡ كَانَ عِندَ ٱللَّهِ عَظِيمًا ﴿٥٣﴾

53. 信仰する者たちよ、あなた方に食事へと許可された場合を除き、預言者*の家に入ってはならない[2]。（食事が用意できる）その時を、（彼の家の中で）待ってもならない。しかし呼ばれたら入り、食べ終わったら解散するのだ。（預言者*の迷惑になるまで、夢中になって長々と）話に興じることなく。本当にそのことは預言者*を害していたのであり、彼はあなた方に対して羞恥心を抱くのだから――アッラー*は、真理に対して恥じ入られないが――。また、あなた方が彼女ら（彼の妻たち）に何らかの物を頼む時には、覆いの向こうから、彼女らに頼むのだ。それがあなた方の心と彼女らの心にとって、より清いのである。また、あなた方にはアッラー*の使徒*を害したり、彼の（死）後、その妻たちと結婚したりすることは、絶対に許されない[3]。本当にそれはもとより、アッラー*の御許でこの上ないこと[4]なのである。

---

1 これは預言者*ムハンマド*の妻たちが、アーヤ*29 を受けて、アッラー*とその使徒*と来世を選んだことによる、栄誉と報いであった（ムヤッサル 425 頁参照）。

2 一説にこのアーヤ*は、ヒジュラ暦*5 年暮れの、預言者*とザイナブ・ビント・ジャハシュの婚宴（こんえん）の食事で起きたことに関して下った（イブン・カスィール 6:451 参照）。

3 アーヤ*6 にもある通り、彼女らは信仰者たちの母であり（ムヤッサル 425 頁参照）、現世と来世における預言者*ムハンマド*の妻なのである（アッ＝サァディー670 頁参照）。

4 この上ない罪、ということ（ムヤッサル 425 頁参照）。

54. あなた方が何かを露わにしようと、それを隠そうと、実にアッラー*はもとより、全てのことをご存知のお方。

إِن تُبۡدُواْ شَيۡـًٔا أَوۡ تُخۡفُوهُ فَإِنَّ ٱللَّهَ كَانَ بِكُلِّ شَيۡءٍ عَلِيمٗا ٥٤

55. 彼女たち[1]にとって、（以下の者たちから、身を覆わなくても）罪はない[2]：自分たちの父親。自分たちの息子。自分たちの兄弟。自分たちの兄弟の息子。自分たちの姉妹の息子。自分たちの女性。自分たちの右手が所有するもの（奴隷*男性）。アッラー*を畏れ*よ。本当にアッラー*はもとより、全てのことの証人であられるのだから。

لَّا جُنَاحَ عَلَيۡهِنَّ فِيٓ ءَابَآئِهِنَّ وَلَآ أَبۡنَآئِهِنَّ وَلَآ إِخۡوَٰنِهِنَّ وَلَآ أَبۡنَآءِ إِخۡوَٰنِهِنَّ وَلَآ أَبۡنَآءِ أَخَوَٰتِهِنَّ وَلَا نِسَآئِهِنَّ وَلَا مَا مَلَكَتۡ أَيۡمَٰنُهُنَّۗ وَٱتَّقِينَ ٱللَّهَۚ إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ شَهِيدًا ٥٥

56. 本当にアッラー*とその天使*たちは、預言者*のために（善きことを）念じる[3]。信仰する者たちよ、彼のために（善きことを）念じ、平安を祈るのだ[4]。

إِنَّ ٱللَّهَ وَمَلَٰٓئِكَتَهُۥ يُصَلُّونَ عَلَى ٱلنَّبِيِّۚ يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ صَلُّواْ عَلَيۡهِ وَسَلِّمُواْ تَسۡلِيمًا ٥٦

57. 本当にアッラー*とその使徒*を害する[5]者たち、アッラー*は彼らを現世と来世において呪われた[6]。そしてかれは彼らに、屈辱的な懲罰をご用意されたのだ。

إِنَّ ٱلَّذِينَ يُؤۡذُونَ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ لَعَنَهُمُ ٱللَّهُ فِي ٱلدُّنۡيَا وَٱلۡأٓخِرَةِ وَأَعَدَّ لَهُمۡ عَذَابٗا مُّهِينٗا ٥٧

---

1 預言者*の妻たちと、それ以外のムスリム*の成人*・自由民女性のこと（アッ＝シャウカーニー4:394 参照）。アーヤ*59 も参照。

2 ムスリム*の成人*・自由民女性が身を覆うべきとされる相手については、御光章 31 とその訳注により詳しく描写されている。また体のどこを覆うべきかについては、同アーヤ*の訳注、および頻出名・用語解説の「アウラ*」を参照。

3 アッラー*が預言者*のために「念じる」とは、かれのお傍（そば）に控えている天使*たちのもとで、彼を讃美（さんび）すること。天使*たちが彼のために「念じる」とは、彼を讃美し、彼のために祈願することとされる（ムヤッサル 426 頁参照）。

4 ムスリム*が預言者*のために「念じる」形式には、様々なものがある。その内の代表的なものとして、アル＝ブハーリー4797 に収録されたものを参照（前掲書、同頁参照）。また、「平安を祈る」については、家畜章 54 の訳注を参照。

5 「アッラー*を害する」とは、不信仰、シルク*、かれに対して相応しくない言葉（前掲書、同頁参照）。「アッラー*の使徒*への害」は、彼を害する全ての言行（アル＝クルトゥビー14:237-238 参照）。

6 「アッラー*の呪い」については、雌牛章 88 の訳注を参照。

58. また、信仰者の男たちと信仰者の女たちを、彼らが稼いだことでもないことで害する[1]者たち、彼らは確かに大嘘と紛れもない罪を背負い込んだのである。

وَٱلَّذِينَ يُؤْذُونَ ٱلْمُؤْمِنِينَ وَٱلْمُؤْمِنَٰتِ بِغَيْرِ مَا ٱكْتَسَبُوا۟ فَقَدِ ٱحْتَمَلُوا۟ بُهْتَٰنًا وَإِثْمًا مُّبِينًا ٥٨

59. 預言者*よ、あなたの妻たちとあなたの娘たち、信仰者たちの女性らに、彼女らの外衣[2]の一部を自らの上に垂らすよう、言うのだ。それが、彼女らが認識され[3]、害されることがないようにするのに、より相応しいのだから。アッラー*はもとより、赦し深いお方、慈愛深い*お方であられる。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّبِىُّ قُل لِّأَزْوَٰجِكَ وَبَنَاتِكَ وَنِسَآءِ ٱلْمُؤْمِنِينَ يُدْنِينَ عَلَيْهِنَّ مِن جَلَٰبِيبِهِنَّ ۚ ذَٰلِكَ أَدْنَىٰٓ أَن يُعْرَفْنَ فَلَا يُؤْذَيْنَ ۗ وَكَانَ ٱللَّهُ غَفُورًا رَّحِيمًا ٥٩

60. もしも偽信者*たち、心の中に病がある者たち、マディーナ*で(ムスリム*に対する嘘を)吹聴する者たちが(悪事を)止めなかったのなら、われら*は必ずやあなたを彼ら(の懲罰)へと促そう。それから彼らは僅かな間しか、そこであなたと隣り合って暮らすことはない。

۞ لَّئِن لَّمْ يَنتَهِ ٱلْمُنَٰفِقُونَ وَٱلَّذِينَ فِى قُلُوبِهِم مَّرَضٌ وَٱلْمُرْجِفُونَ فِى ٱلْمَدِينَةِ لَنُغْرِيَنَّكَ بِهِمْ ثُمَّ لَا يُجَاوِرُونَكَ فِيهَآ إِلَّا قَلِيلًا ٦٠

61. 呪われた者たちとなって。彼らはどこにあろうと、(捕虜として)捕らえられ、完膚なきまでにやっつけられるのだ。

مَّلْعُونِينَ ۖ أَيْنَمَا ثُقِفُوٓا۟ أُخِذُوا۟ وَقُتِّلُوا۟ تَقْتِيلًا ٦١

62. 過去に滅び去った(偽信)者*たちにおける、アッラー*の摂理(として、かれがお定めになったこと)。そして(預言者*よ、)あなたはアッラー*の摂理に、いかなる変更も見出すことはない。

سُنَّةَ ٱللَّهِ فِى ٱلَّذِينَ خَلَوْا۟ مِن قَبْلُ ۖ وَلَن تَجِدَ لِسُنَّةِ ٱللَّهِ تَبْدِيلًا ٦٢

---

1 言ったり、やったりしていない罪のこと(ムヤッサル 426 頁参照)。

2 この「外衣(ジルバーブ)」は、御光章 31 にある「スカーフ」よりも大きく、全身を包むもの(アル=クルトゥビー14:243 参照)。

3 慎(つつし)み深さと、保身を認識されるということ(ムヤッサル 426 頁参照)。あるいは、奴隷*女性やふしだらな女性ではなく、自由民女性と認識されること。一説に、マディーナ*の夜には放逸な者たちが出現し、用事のために外出した奴隷*女性らを害することがあった。しかし外衣をまとった女性は自由民と認識され、害されることはなかったのだという(イブン・カスィール 6:482 参照)。

63. （使徒*よ、）人々はあなたに、（復活*の）その時について尋ねる[1]。言ってやれ。「その知識は、アッラー*の御許にこそある」。そして何があなたに知らせるというのか、その時が近いかもしれないことを？[2]

يَسۡـَٔلُكَ ٱلنَّاسُ عَنِ ٱلسَّاعَةِۖ قُلۡ إِنَّمَا عِلۡمُهَا عِندَ
ٱللَّهِۚ وَمَا يُدۡرِيكَ لَعَلَّ ٱلسَّاعَةَ تَكُونُ قَرِيبًا ٦٣

64. 本当にアッラー*は、不信仰者*たちを呪われ[3]、彼らに烈火をご用意された。

إِنَّ ٱللَّهَ لَعَنَ ٱلۡكَٰفِرِينَ وَأَعَدَّ لَهُمۡ سَعِيرًا ٦٤

65. 彼らはそこに、いかなる庇護者も援助者も見出すことなく、永遠に留まる。

خَٰلِدِينَ فِيهَآ أَبَدٗاۖ لَّا يَجِدُونَ وَلِيّٗا وَلَا نَصِيرٗا ٦٥

66. 業火の中でその顔がひっくり返される日、彼らは（こう）言う。「ああ、私たちがアッラー*に従い、使徒*に従っていたならば！」

يَوۡمَ تُقَلَّبُ وُجُوهُهُمۡ فِي ٱلنَّارِ يَقُولُونَ
يَٰلَيۡتَنَآ أَطَعۡنَا ٱللَّهَ وَأَطَعۡنَا ٱلرَّسُولَا۠ ٦٦

67. そして、彼らは言う。「我らが主*よ、本当に私たちは自分たちの長と有力者たちに従い、彼らは私たちを道に迷わせました。

وَقَالُواْ رَبَّنَآ إِنَّآ أَطَعۡنَا سَادَتَنَا وَكُبَرَآءَنَا
فَأَضَلُّونَا ٱلسَّبِيلَا۠ ٦٧

68. 我らが主*よ、彼らには懲罰の内から倍のものをお与えになり、彼らをこっぴどく呪ってください」。[4]

رَبَّنَآ ءَاتِهِمۡ ضِعۡفَيۡنِ مِنَ ٱلۡعَذَابِ وَٱلۡعَنۡهُمۡ
لَعۡنٗا كَبِيرٗا ٦٨

69. 信仰する者たちよ、ムーサー*を害した者たちのようになってはならない。アッラー*はムーサー*を、彼らが言ったことから潔白として下さったのだ[5]。彼はアッラー*の御許で、栄誉ある者だった。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ لَا تَكُونُواْ كَٱلَّذِينَ ءَاذَوۡاْ
مُوسَىٰ فَبَرَّأَهُ ٱللَّهُ مِمَّا قَالُواْۚ وَكَانَ عِندَ ٱللَّهِ
وَجِيهٗا ٦٩

---

1 ある者はそれを早く起こしてみよ、と言い（家畜章 57-58 とその訳注も参照）、ある者はそれを嘘とした（アッ＝サァディー672 頁参照）。

2 「復活の日*の近さ」については、蜜蜂章 1、預言者*たち章 1 の訳注も参照。

3 「アッラー*の呪い」については、雌牛章 88 の訳注を参照。

4 同様の情景の描写として、雌牛章 166-167、高壁章 38、イブラーヒーム*章 21-22、識別章 17-19、物語章 63、サバア章 31-33、40-41 も参照。

5 一説に、ムーサー*は非常に羞恥（しゅうち）心が強く、人に肌を見せることがなかった。それでイスラーイールの子ら*の一部の者たちは、彼の体には欠陥（けっかん）があるのだと主張したが、アッラー*はある時、彼の体には何の欠陥もないことを証明された（アル＝ブハーリー3404 参照）。

70. 信仰する者たちよ、アッラー*を畏れ*、まっとうな物言い[1]をせよ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ ٱتَّقُواْ ٱللَّهَ وَقُولُواْ قَوۡلٗا
سَدِيدٗا ٧٠

71. （そうすれば）かれはあなた方のため、あなた方の行いを正して下さり、あなた方のためにその罪をお赦し下さろう。アッラー*とその使徒*に従う者は誰でも、確かに（現世と来世において、）偉大な勝利を獲得したのだ。

يُصۡلِحۡ لَكُمۡ أَعۡمَٰلَكُمۡ وَيَغۡفِرۡ لَكُمۡ ذُنُوبَكُمۡۗ
وَمَن يُطِعِ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ فَقَدۡ فَازَ فَوۡزًا عَظِيمًا ٧١

72. 本当にわれら*は信託[2]を、諸天と大地と山々に差し出し（選択させ）た。そしてそれらはそれを請け負うのを拒否して、それ（を遂行できないこと）に怯え、人間がそれを請け負ったのだ。本当に彼は不正*極まりなく、無知この上ない者だったのである[3]。

إِنَّا عَرَضۡنَا ٱلۡأَمَانَةَ عَلَى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ
وَٱلۡجِبَالِ فَأَبَيۡنَ أَن يَحۡمِلۡنَهَا وَأَشۡفَقۡنَ مِنۡهَا
وَحَمَلَهَا ٱلۡإِنسَٰنُۖ إِنَّهُۥ كَانَ ظَلُومٗا جَهُولٗا ٧٢

73. （人間がそれを請け負ったのは）アッラー*が偽信者*の男たちと偽信者*の女たち、シルク*の徒の男たちとシルク*の徒の女たちを罰され、またアッラー*が信仰者の男たちと信仰者の女たちの悔悟をお受け入れになるため[4]。アッラーはもとより、赦し深いお方、慈愛深い*お方である。

لِّيُعَذِّبَ ٱللَّهُ ٱلۡمُنَٰفِقِينَ وَٱلۡمُنَٰفِقَٰتِ
وَٱلۡمُشۡرِكِينَ وَٱلۡمُشۡرِكَٰتِ وَيَتُوبَ
ٱللَّهُ عَلَى ٱلۡمُؤۡمِنِينَ وَٱلۡمُؤۡمِنَٰتِۗ وَكَانَ ٱللَّهُ
غَفُورٗا رَّحِيمَۢا ٧٣

---

1 「まっとうな物言い」とは、真実に根ざした、嘘のないまっすぐな言葉（ムヤッサル 427 頁参照）。

2 この「信託」とは、公私の別なく、アッラー*のご命じになることを行い、禁じられることを避ければ褒美（ほうび）を授かり、それが出来なければ罰を受ける、という信託の事（アッ＝サァディー673 頁参照）。高壁章 172 とその訳注も参照。

3 人間は、その弱さ、無知さ、不正*－アッラー*が成功をお授けになった者には、そうではない者たちもいるが－にも関わらず、信託を請け負った（イブン・カスィール 6:489 参照）。

4 人間はこの「信託」に対する態度において、このアーヤ*で言及されている三種に分類される。つまり信託を表面的にのみ実行する偽信者*、それを表面的にも内面的にも実行しないシルク*の徒、そしてそれを表面的にも内面的にも実行する信仰者である（アッ＝サァディー673 頁参照）。

第 34 章
サバア章[1]

سُورَةُ سَبَإٍ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. 諸天にあるものと大地にあるものが属し、来世における称賛[2]があるお方、アッラー*に称賛*あれ。かれは、英知あふれる*お方、通暁されるお方。

2. かれは大地の中に入り込むものも、そこから出てくるものも、天から落ちてくるものも、そこへ昇っていくもの[3]も、（全て）ご存知である。かれは慈愛深い*お方、赦し深いお方。

3. 不信仰に陥った者*たちは、言った。「（復活*の）その時は、私たちにはやって来ない」。（使徒*よ、）言ってやれ。「いや、不可視の世界*をご存知である我が主*にかけて、それは必ずや、あなた方のもとに到来する。諸天であろうが大地であろうが、僅かな重みでも、かれ（の知識）から免れることはない。また、それより小さいものでも、大きなもの

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

ٱلْحَمْدُ لِلَّهِ ٱلَّذِى لَهُۥ مَا فِى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِى
ٱلْأَرْضِ وَلَهُ ٱلْحَمْدُ فِى ٱلْءَاخِرَةِ ۚ وَهُوَ ٱلْحَكِيمُ
ٱلْخَبِيرُ ١

يَعْلَمُ مَا يَلِجُ فِى ٱلْأَرْضِ وَمَا يَخْرُجُ مِنْهَا وَمَا
يَنزِلُ مِنَ ٱلسَّمَآءِ وَمَا يَعْرُجُ فِيهَا ۚ وَهُوَ
ٱلرَّحِيمُ ٱلْغَفُورُ ٢

وَقَالَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ لَا تَأْتِينَا ٱلسَّاعَةُ ۖ قُلْ بَلَىٰ
وَرَبِّى لَتَأْتِيَنَّكُمْ عَٰلِمِ ٱلْغَيْبِ ۖ لَا يَعْزُبُ
عَنْهُ مِثْقَالُ ذَرَّةٍ فِى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَلَا فِى
ٱلْأَرْضِ وَلَآ أَصْغَرُ مِن ذَٰلِكَ وَلَآ
أَكْبَرُ إِلَّا فِى كِتَٰبٍ مُّبِينٍ ٣

1 マッカ*啓示で学者の見解は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、古代イエメンに栄えたが、洪水で滅んだサバアの民に関する記述に由来。マッカ*啓示の常として、アッラーの唯一性*・復活と報い・ムハンマド*の使徒*性など、イスラーム*の基本的信仰を取り上げる。また、アッラー*からの恩恵に感謝深かった預言者*たちの話と共に、恩知らずな不信仰者*に対する現世と来世における罰が、サバアの民を例に挙げて描写されている。そしてスーラ*の最後は、シルク*の徒に対する信仰への誘いによって締めくくられる。

2 アッラー*が全ての者を完全なる公正さと英知によって裁かれる時、現世ではなかったほどのアッラー*への称賛*が、天国の民・地獄の民の間に起こる（アッ＝サァディー674 頁参照）。

3 「大地の中に入り込むもの」とは、水などを、「そこから出てくるもの」とは、植物、鉱物、水などを、「天から落ちてくるもの」とは雨、天使*、啓示などを、「そこへ昇っていくもの」とは天使*、人間の行いなどを指す、とされる（ムヤッサル 428 頁参照）。

でも、明白な書（守られし碑板*）に（予め記されてい）ないものはないのだ[1]。

4. （復活の日*の到来は、）かれが、信仰し、正しい行い*を行う者たちに報われるため。それらの者たちには、お赦しと貴い糧[2]がある」。

لِّيَجۡزِيَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِۚ أُوْلَٰٓئِكَ لَهُم مَّغۡفِرَةٞ وَرِزۡقٞ كَرِيمٞ ٤

5. われら*の御徴において、（使徒*とクルアーン*を嘘呼ばわりするために）ねじ伏せようと躍起になっていた者たち、それらの者たちには痛ましい制裁による懲罰がある。

وَٱلَّذِينَ سَعَوۡ فِيٓ ءَايَٰتِنَا مُعَٰجِزِينَ أُوْلَٰٓئِكَ لَهُمۡ عَذَابٞ مِّن رِّجۡزٍ أَلِيمٞ ٥

6. そして知識を授けられた者たちは、あなたの主*からあなたに下されたもの（クルアーン*）が真理であり、偉力ならびない*お方、称賛されるべき*お方（アッラー*）の道へと導いてくれるものであると分かるのだ。

وَيَرَى ٱلَّذِينَ أُوتُواْ ٱلۡعِلۡمَ ٱلَّذِيٓ أُنزِلَ إِلَيۡكَ مِن رَّبِّكَ هُوَ ٱلۡحَقَّ وَيَهۡدِيٓ إِلَىٰ صِرَٰطِ ٱلۡعَزِيزِ ٱلۡحَمِيدِ ٦

7. 不信仰に陥った者*たちは（嘲笑しつつ、お互いに）言った。「（死んで）跡形もなくばらばらにされた後、本当にあなた方は新たに創造されるのだ、などとあなた方に告げる男[3]を、あなた方に見せてやろうか？」

وَقَالَ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ هَلۡ نَدُلُّكُمۡ عَلَىٰ رَجُلٖ يُنَبِّئُكُمۡ إِذَا مُزِّقۡتُمۡ كُلَّ مُمَزَّقٍ إِنَّكُمۡ لَفِي خَلۡقٖ جَدِيدٍ ٧

8. 一体、彼はアッラー*に対して嘘を捏造したのか？ それとも、彼には憑き物がついている[4]とでも？ いや、来世を信じない者たちは（来世においては）懲罰と、（現世においては）遠い迷いの中にある。

أَفۡتَرَىٰ عَلَى ٱللَّهِ كَذِبًا أَم بِهِۦ جِنَّةُۢۗ بَلِ ٱلَّذِينَ لَا يُؤۡمِنُونَ بِٱلۡأٓخِرَةِ فِي ٱلۡعَذَابِ وَٱلضَّلَٰلِ ٱلۡبَعِيدِ ٨

---

1 同様のアーヤ*として、婦人章 40、家畜章 59、ユーヌス*章 61 も参照。

2 「貴い糧」とは、天国のこととされる（ムヤッサル 428 頁参照）。

3 復活を説く預言者*ムハンマド*のことを、意図している（前掲書、同頁参照）。

4 アル＝ヒジュル章 6「憑かれた者」の訳注を参照。

9. 一体、彼ら（不信仰者*たち）は天と大地という、自分たちの前にあるものと、自分たちの後ろにあるものを見なかったのか？もしわれら*が望めば、われら*は彼らを地面に飲み込ませ、あるいは彼らの上に天から破片を下してやる[1]のだ。本当にその中にはまさに、よく（アッラー*に悔悟して）立ち返る、全ての僕への御徴がある。

أَفَلَمۡ يَرَوۡاْ إِلَىٰ مَا بَيۡنَ أَيۡدِيهِمۡ وَمَا خَلۡفَهُم مِّنَ
ٱلسَّمَآءِ وَٱلۡأَرۡضِۚ إِن نَّشَأۡ نَخۡسِفۡ بِهِمُ ٱلۡأَرۡضَ
أَوۡ نُسۡقِطۡ عَلَيۡهِمۡ كِسَفٗا مِّنَ ٱلسَّمَآءِۚ إِنَّ
فِي ذَٰلِكَ لَأٓيَةٗ لِّكُلِّ عَبۡدٖ مُّنِيبٖ ٩

10. われら*は確かに、われら*の御許からの恩寵[2]を、ダーウード*に授けた。（われら*は言った。）「山々よ、彼と、そして鳥と共に（アッラー*を称え*て）連呼せよ」。また、われら*は彼のために、鉄を柔らかくしてやった。

۞وَلَقَدۡ ءَاتَيۡنَا دَاوُۥدَ مِنَّا فَضۡلٗاۖ يَٰجِبَالُ
أَوِّبِي مَعَهُۥ وَٱلطَّيۡرَۖ وَأَلَنَّا لَهُ ٱلۡحَدِيدَ ١٠

11. （われら*は命じた。）「すっぽり覆うもの（鎧）をこしらえ、継ぎ目を（いい按配に）調整[3]せよ。（ダーウード*とその一族よ、）あなた方は正しい行い*を行え。本当にわれは、あなた方の行いを見る者なのだから」。

أَنِ ٱعۡمَلۡ سَٰبِغَٰتٖ وَقَدِّرۡ فِي ٱلسَّرۡدِۖ
وَٱعۡمَلُواْ صَٰلِحًاۖ إِنِّي بِمَا تَعۡمَلُونَ بَصِيرٞ ١١

12. またスライマーン*には、その午前（の進行距離）は一ヶ月（の旅程）で、午後（の進行距離）は一ヶ月（の旅程）の風を（、仕えさせた）[4]。そして、われら*は彼のために銅の泉を溶かしてやり[5]、ジン*の内か

وَلِسُلَيۡمَٰنَ ٱلرِّيحَ غُدُوُّهَا شَهۡرٞ وَرَوَاحُهَا
شَهۡرٞۖ وَأَسَلۡنَا لَهُۥ عَيۡنَ ٱلۡقِطۡرِۖ وَمِنَ ٱلۡجِنِّ مَن
يَعۡمَلُ بَيۡنَ يَدَيۡهِ بِإِذۡنِ رَبِّهِۦۖ وَمَن يَزِغۡ
مِنۡهُمۡ عَنۡ أَمۡرِنَا نُذِقۡهُ مِنۡ عَذَابِ ٱلسَّعِيرِ ١٢

---

1 「天から破片を下す」については、夜の旅章 92 の訳注を参照。

2 預言者*としての使命と、啓典、知識のこと（ムヤッサル 429 頁参照）。

3 部品を小さくし過ぎて華奢（きゃしゃ）にするのでもなく、大きくし過ぎて装着する者の負担にするのでもないように調整せよ、ということ（前掲書、同頁参照）。

4 彼は一日で二ヶ月の旅程を進むこの風を、自分やその他の物を乗せたりして、望みのままに操（あやつ）ったのだという（アッ＝サァディー676 頁参照）。

5 彼の鉱山には、溶けた銅が水の泉のように流れたのだという（アル＝クルトゥビー14:270 参照）。彼はそれで、望む物を作ることが出来た（ムヤッサル 429 頁参照）。

らは、その主*のお許しのもと、彼の前で働く者も（仕えさせた）。彼ら（ジン*）の内、われら*の命令[1]に背く者があれば、われら*は彼に烈火の懲罰の内から、味わわせてやろう。

13. 彼ら（ジン*）は彼（スライマーン*）のため、ミフラーブ[2]、（銅やガラス製の）像[3]、池のような貯水槽、堅固な鍋といった、彼の望む物を作る。（われら*は言った。）「ダーウード*の一族よ、（アッラー*に）感謝すべく、行え[4]。わが僕の内、僅かな者だけが、感謝する者なのだから」。

يَعۡمَلُونَ لَهُۥ مَا يَشَآءُ مِن مَّحَٰرِيبَ وَتَمَٰثِيلَ
وَجِفَانٖ كَٱلۡجَوَابِ وَقُدُورٖ رَّاسِيَٰتٍۚ ٱعۡمَلُوٓاْ
ءَالَ دَاوُۥدَ شُكۡرٗاۚ وَقَلِيلٞ مِّنۡ عِبَادِيَ ٱلشَّكُورُ ١٣

14. そして、われら*が彼（スライマーン*）に死を定めた時、彼の杖を蝕む地面の虫以外、彼らにその死を知らせた者はなかった[5]。それでスライマーン*が（地面に）崩れ落ちた時、ジン*たちは、もし彼らが不可視の世界*を知っていたなら、彼らが屈辱の懲罰の中に留ま（り続け）ることはなかったのだ、と分かった[6]のだった。

فَلَمَّا قَضَيۡنَا عَلَيۡهِ ٱلۡمَوۡتَ مَا دَلَّهُمۡ عَلَىٰ مَوۡتِهِۦٓ
إِلَّا دَآبَّةُ ٱلۡأَرۡضِ تَأۡكُلُ مِنسَأَتَهُۥۖ فَلَمَّا
خَرَّ تَبَيَّنَتِ ٱلۡجِنُّ أَن لَّوۡ كَانُواْ يَعۡلَمُونَ ٱلۡغَيۡبَ
مَا لَبِثُواْ فِي ٱلۡعَذَابِ ٱلۡمُهِينِ ١٤

---

1 スライマーン*に従え、というアッラー*のご命令のこと（ムヤッサル 429 頁参照）。

2 「ミフラーブ」については、イムラーン家章 37 の訳注を参照。

3 当時、「像」は合法であった（アル＝クルトゥビー14:273 参照）。

4 この「行い」とは、アッラー*に服従し、かれのご命令を実行すること（ムヤッサル 429 頁参照）。

5 スライマーン*は杖に寄りかかったまま他界したため、ジン*たちは暫（しばら）くの間、彼が生きているものだと思って働き続けた。彼の死が明らかになったのは、その杖が虫に喰われて朽（く）ち、遺体が崩れ落ちた時のことだった（アッ＝サアディー676 頁参照）。

6 ある種の人々が考えているように、ジン*が不可視の世界*を知っていたのなら、彼らはスライマーン*の死後も厳しい労働の中に留まり続けることはなかったのだ、ということ（ムヤッサル 429 頁参照）。

15. 確かにサバア[1]（の民）には、その住まいの中に（アッラー*の御力を示す）御徴があった。右と左に二つの果樹園[2]。（彼らには、こう言われた。）「あなた方の主*の糧から食べ、かれに感謝せよ。（あなた方の国は）よき国であり、（恩恵の主は）赦し深い主*なのだから」。

لَقَدۡ كَانَ لِسَبَإٖ فِي مَسۡكَنِهِمۡ ءَايَةٞۖ جَنَّتَانِ عَن
يَمِينٖ وَشِمَالٖۖ كُلُواْ مِن رِّزۡقِ رَبِّكُمۡ وَٱشۡكُرُواْ
لَهُۥۚ بَلۡدَةٞ طَيِّبَةٞ وَرَبٌّ غَفُورٞ ١٥

16. そして彼らは（アッラー*のご命令と使徒*に）背いたので、われら*は彼らに、猛烈な洪水を送った。またハムトの実とアスルの木、僅かばかりのスィドル[3]からのものがなる二つの果樹園で、彼らの二つの果樹園と取って換えた。

فَأَعۡرَضُواْ فَأَرۡسَلۡنَا عَلَيۡهِمۡ سَيۡلَ ٱلۡعَرِمِ
وَبَدَّلۡنَٰهُم بِجَنَّتَيۡهِمۡ جَنَّتَيۡنِ ذَوَاتَيۡ أُكُلٍ
خَمۡطٖ وَأَثۡلٖ وَشَيۡءٖ مِّن سِدۡرٖ قَلِيلٖ ١٦

17. 彼らが不信仰であ（り、恩恵への感謝を怠）ったことゆえ、われら*はまさしくそれで彼らに報いたのである。そしてわれら*が不信心この上ない者の外に、（このような）罰を与えることがあろうか？

ذَٰلِكَ جَزَيۡنَٰهُم بِمَا كَفَرُواْۖ وَهَلۡ نُجَٰزِيٓ إِلَّا
ٱلۡكَفُورَ ١٧

18. また、われら*は彼らと、われら*が祝福を授けた町々[4]との間に、（その近さゆえ互いに）目に見える町々を設け、そこに（ちょうどいい間隔の）旅程を整えた。（そして、われらは彼らにこう言ったのだ。）「夜に昼に、そこを安全に行くがよい」。

وَجَعَلۡنَا بَيۡنَهُمۡ وَبَيۡنَ ٱلۡقُرَى ٱلَّتِي بَٰرَكۡنَا
فِيهَا قُرٗى ظَٰهِرَةٗ وَقَدَّرۡنَا فِيهَا ٱلسَّيۡرَۖ سِيرُواْ
فِيهَا لَيَالِيَ وَأَيَّامًا ءَامِنِينَ ١٨

---

1 「サバア」の民については、スーラ*冒頭の訳注を参照。

2 サバアの民の町、マアラブには渓谷（けいこく）があり、彼らはそこにダムを築いていた。その水の利用により、渓谷の両側には豊かな果樹園が広がっていた（アッ＝サアディー677頁参照）。

3 これらの植物は、いずれも砂漠性のもの。「ハムト」はいわゆるアラークの木で、苦いものの代名詞。「アスル」は、タマリスクに似た棘々の大きな木。「スィドル」はナツメの木に似た、棘のある木のこと（イブン・アーシュール 22:171 参照）。

4 シャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）のこと、とされる（ムヤッサル 430 頁参照）。

19. そして彼らは（安楽と豊かな暮らしに飽きて）、言った。「我らが主*よ、私たちの（町から町への）旅行（の距離を）を遠ざけて下さい」。こうして彼らが（不信仰によって）自分たちに不正*を働いたので、われら*は彼らを（後世へと）語り継がれるものとし、跡形もなくばらばらにしてやった。本当にその中にはまさしく、忍耐*強く感謝深い[1]全ての者への御徴がある。

فَقَالُوا۟ رَبَّنَا بَٰعِدْ بَيْنَ أَسْفَارِنَا وَظَلَمُوٓا۟
أَنفُسَهُمْ فَجَعَلْنَٰهُمْ أَحَادِيثَ وَمَزَّقْنَٰهُمْ كُلَّ
مُمَزَّقٍ ۚ إِنَّ فِى ذَٰلِكَ لَءَايَٰتٍ لِّكُلِّ صَبَّارٍ
شَكُورٍ ١٩

20. また、イブリース*は確かに、彼ら（人間たち）に対して自分の思い込み[2]を実現し、彼らは信仰者たちの一派以外、彼に従った。

وَلَقَدْ صَدَّقَ عَلَيْهِمْ إِبْلِيسُ ظَنَّهُۥ فَٱتَّبَعُوهُ
إِلَّا فَرِيقًا مِّنَ ٱلْمُؤْمِنِينَ ٢٠

21. そして彼（イブリース*）には、（彼らを自分に従わせることにおいて、）彼らに対するいかなる（正当な）根拠[3]もなかった。しかし（それは、）われら*が来世を信じる者を、それに疑念を抱いている者から判別するためだったのだ。あなたの主*は、全てのことをよくお守りになる*お方である。

وَمَا كَانَ لَهُۥ عَلَيْهِم مِّن سُلْطَٰنٍ إِلَّا لِنَعْلَمَ
مَن يُؤْمِنُ بِٱلْءَاخِرَةِ مِمَّنْ هُوَ مِنْهَا فِى
شَكٍّ ۗ وَرَبُّكَ عَلَىٰ كُلِّ شَىْءٍ حَفِيظٌ ٢١

22. （使徒*よ、）言え。「アッラー*を差しおいて、あなた方が（かれの同位者と）主張して（崇めて）いる者たちに、祈るがよい。彼らは諸天においても大地においても、僅かな重みすら有してはいないのだ[4]。そして彼らにはそこにおいて、（アッラー*に対する）いかなる加担もなければ、かれ（アッラー*）には、彼らからのいかなる援助者もない」。

قُلِ ٱدْعُوا۟ ٱلَّذِينَ زَعَمْتُم مِّن دُونِ ٱللَّهِ ۖ لَا
يَمْلِكُونَ مِثْقَالَ ذَرَّةٍ فِى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَلَا
فِى ٱلْأَرْضِ وَمَا لَهُمْ فِيهِمَا مِن شِرْكٍ وَمَا لَهُۥ
مِنْهُم مِّن ظَهِيرٍ ٢٢

---

1 「忍耐*強く感謝深い」については、イブラーヒーム*章 5 の訳注を参照。

2 イブリース*が人類を迷わせ、彼らがアッラー*への不服従において、自分に従うという「思い込み」のこと（ムヤッサル 430 頁参照）。

3 この「根拠」に関しては、イブラーヒーム*章 22 の同語についての訳注も参照。

4 いかなる害益（がいえき）をもたらす力もない、ということ（アッ＝タバリー8:6750 参照）。

23. またかれの御許では、かれがお許しになった者に対してしか、執り成しが益することはない[1]。やがて彼らの心から戦慄が取り除かれると[2]、彼らは（互いに）言う。「あなた方の主*は、なんと仰せられたのか？」彼らは言う。「真実を（仰せられた）。かれは至高の*お方、大いなる*お方であられる」。

وَلَا تَنفَعُ ٱلشَّفَٰعَةُ عِندَهُۥٓ إِلَّا لِمَنْ أَذِنَ لَهُۥ ۚ
حَتَّىٰٓ إِذَا فُزِّعَ عَن قُلُوبِهِمْ قَالُوا۟ مَاذَا قَالَ
رَبُّكُمْ ۖ قَالُوا۟ ٱلْحَقَّ ۖ وَهُوَ ٱلْعَلِىُّ ٱلْكَبِيرُ ﴿٢٣﴾

24. （使徒*よ、彼らシルク*の徒に）言ってやれ。「あなた方に諸天と大地から、糧を授けられるお方は誰か？」言ってやるのだ。「（それは）アッラー*である。そして実に私たちとあなた方（のいずれか）が、まさしく導きの上か、あるいは紛れもなき迷いの中にあるのだ[3]」。

۞ قُلْ مَن يَرْزُقُكُم مِّنَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَٱلْأَرْضِ ۖ قُلِ ٱللَّهُ ۖ وَإِنَّآ أَوْ إِيَّاكُمْ لَعَلَىٰ
هُدًى أَوْ فِى ضَلَٰلٍ مُّبِينٍ ﴿٢٤﴾

25. 言ってやれ。「私たちが罪を犯したことで、あなた方が問われることはなく、私たちもあなた方が行うことで問われはしない」。

قُل لَّا تُسْـَٔلُونَ عَمَّآ أَجْرَمْنَا وَلَا نُسْـَٔلُ
عَمَّا تَعْمَلُونَ ﴿٢٥﴾

26. 言え。「我らが主*が、（復活の日*に）私たちをお集めになり、それから私たちの間を真理によってお裁きになる。かれは裁決者、全知者であられる」。

قُلْ يَجْمَعُ بَيْنَنَا رَبُّنَا ثُمَّ يَفْتَحُ بَيْنَنَا بِٱلْحَقِّ
وَهُوَ ٱلْفَتَّاحُ ٱلْعَلِيمُ ﴿٢٦﴾

---

1 復活の日*の「執り成し」については雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

2 この「彼ら」は「シルク*の徒」とも、「天使*たち」とも言われる。前者の場合、彼らが復活の日*、自分たちが現世で否定していたことが真理であったことを認める描写となる。また後者の場合、天界での啓示の様子の描写となる（アッ＝サァディー678 頁参照）。アッラー*が天で何かを語られると、天使*たちは畏怖（いふ）の念ゆえに震（ふる）え上がるとされる（アル＝ブハーリー4800 参照）。

3 天地から糧をお授けになるお方に対し、シルク*を犯している者たちこそが迷いの中にあるのは自明であるが、あえて間接的な問いかけをしている（アル＝クルトゥビー14:298-299 参照）。

27. 言ってやるのだ。「あなた方が、かれに（崇拝*における）同位者として属させた者たち（の根拠）を、私に見せてみよ。断じて（、そのようなものは）ない。いや、かれは偉力ならびなく*、英知あふれる*アッラー*であられる」。

قُلۡ أَرُونِيَ ٱلَّذِينَ أَلۡحَقۡتُم بِهِۦ شُرَكَآءَۖ كَلَّاۚ
بَلۡ هُوَ ٱللَّهُ ٱلۡعَزِيزُ ٱلۡحَكِيمُ ٢٧

28. （使徒よ、）われら*があなたを遣わしたのは、全ての人に向けて[1]、吉報を伝える者、警告を告げる者[2]としてに外ならない。しかし大半の人々は、知らないのだ。

وَمَآ أَرۡسَلۡنَٰكَ إِلَّا كَآفَّةٗ لِّلنَّاسِ بَشِيرٗا
وَنَذِيرٗا وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَ ٱلنَّاسِ لَا
يَعۡلَمُونَ ٢٨

29. 彼ら（シルク*の徒）は、言う。「その約束（復活の日*）は、いつなのか？ もし、あなた方が本当のことを言っているのなら」。

وَيَقُولُونَ مَتَىٰ هَٰذَا ٱلۡوَعۡدُ إِن كُنتُمۡ
صَٰدِقِينَ ٢٩

30. （使徒*よ、）言ってやれ。「あなた方には、一時たりとも遅らせることも出来ず、早めることも出来ない（復活の）日*の約束があるのだ」。

قُل لَّكُم مِّيعَادُ يَوۡمٖ لَّا تَسۡتَـٔۡخِرُونَ عَنۡهُ
سَاعَةٗ وَلَا تَسۡتَقۡدِمُونَ ٣٠

31. また、不信仰に陥った者*たちは言った。「私たちはこのクルアーン*を信じないだろうし、それ以前のもの[3]も（信じない）」。（使徒*よ、）もしあなたが、不正*者たちがその主*の御許で（清算のために）拘留され、お互いに（譴責の）言葉を返し合う時のことを見るならば。抑圧されていた者たちは、高慢だった者たち[4]に（こう）言うのだ。「もしあなた方がいなければ、私たちは信仰者だったのに」。[5]

وَقَالَ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ لَن نُّؤۡمِنَ بِهَٰذَا
ٱلۡقُرۡءَانِ وَلَا بِٱلَّذِي بَيۡنَ يَدَيۡهِۗ وَلَوۡ تَرَىٰٓ إِذِ
ٱلظَّٰلِمُونَ مَوۡقُوفُونَ عِندَ رَبِّهِمۡ يَرۡجِعُ
بَعۡضُهُمۡ إِلَىٰ بَعۡضٍ ٱلۡقَوۡلَ يَقُولُ ٱلَّذِينَ
ٱسۡتُضۡعِفُواْ لِلَّذِينَ ٱسۡتَكۡبَرُواْ لَوۡلَآ أَنتُمۡ
لَكُنَّا مُؤۡمِنِينَ ٣١

---

1 高壁章 158 とその訳注も参照。

2 「吉報を伝え…」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

3 クルアーン*以前の啓典のこと（ムヤッサル 431 頁参照）。

4 自分たちが迷うだけでなく、他人をも迷わせていた不信仰の長たちのこと（ムヤッサル 431 頁参照）。

5 同様の情景の描写として、アーヤ*40-41、雌牛章 166-167、高壁章 38、イブラーヒーム*章 21-22、識別章 17-19、物語章 63、部族連合章 67-68 も参照。

32. 高慢だった者たちは、抑圧されていた者たちに言う。「一体、私たちがあなた方を導きから阻んだというのか？ あなた方のもとに、それが到来した後に？ いや、あなた方は（自ら不信仰を選んだ）罪悪者だったのだ」。

قَالَ ٱلَّذِينَ ٱسۡتَكۡبَرُواْ لِلَّذِينَ ٱسۡتُضۡعِفُوٓاْ
أَنَحۡنُ صَدَدۡنَٰكُمۡ عَنِ ٱلۡهُدَىٰ بَعۡدَ إِذۡ جَآءَكُمۖ
بَلۡ كُنتُم مُّجۡرِمِينَ ٣٢

33. そして、抑圧されていた者たちは高慢だった者たちに言う。「いや、私たちがアッラー*を否定し、かれに（崇拝の）同位者を置くよう、あなた方が私たちに命じていた時、（あなた方の）夜と昼の策謀が（私たちを破滅させたのだ）」。そして懲罰を目の当たりにする時、彼らは（余りの恐怖ゆえ）後悔の念を露わに出来ない[1]。また、われら*は不信仰だった者*たちの首に、枷を縛り付ける。一体彼らが報われるのは、自分たちが（現世で）行っていたこと（によるもの）以外の、何ものでもないのではないか？

وَقَالَ ٱلَّذِينَ ٱسۡتُضۡعِفُواْ لِلَّذِينَ ٱسۡتَكۡبَرُواْ
بَلۡ مَكۡرُ ٱلَّيۡلِ وَٱلنَّهَارِ إِذۡ تَأۡمُرُونَنَآ أَن
نَّكۡفُرَ بِٱللَّهِ وَنَجۡعَلَ لَهُۥٓ أَندَادٗاۚ وَأَسَرُّواْ
ٱلنَّدَامَةَ لَمَّا رَأَوُاْ ٱلۡعَذَابَۚ وَجَعَلۡنَا ٱلۡأَغۡلَٰلَ
فِيٓ أَعۡنَاقِ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْۖ هَلۡ يُجۡزَوۡنَ إِلَّا مَا
كَانُواْ يَعۡمَلُونَ ٣٣

34. われら*が警告者を町に遣わした時には決まって、その（町の）贅沢者たちは（こう）言ったものだった。「本当に私たちは、あなた方が携えて遣わされたものを認めない者である」。

وَمَآ أَرۡسَلۡنَا فِي قَرۡيَةٖ مِّن نَّذِيرٍ إِلَّا قَالَ
مُتۡرَفُوهَآ إِنَّا بِمَآ أُرۡسِلۡتُم بِهِۦ كَٰفِرُونَ ٣٤

35. また、彼らは言った。「私たちは財産も子供も（あなた方）より多いし、私たちは（現世でも来世でも、）罰される者などではない」。

وَقَالُواْ نَحۡنُ أَكۡثَرُ أَمۡوَٰلٗا وَأَوۡلَٰدٗا وَمَا نَحۡنُ
بِمُعَذَّبِينَ ٣٥

36. （使徒*よ、）言ってやれ。「本当に我が主*は、かれがお望みの者に糧を豊富に与えられ、また控えられる。しかし、大半の人々は知らないのだ」。[2]

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ وَيَقۡدِرُ
وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَ ٱلنَّاسِ لَا يَعۡلَمُونَ ٣٦

---

1 「後悔の念を露わに出来ない」という表現については、ユーヌス*章 54 の訳注を参照。

2 豊かであるか貧しいか、ということは、その者に対するアッラー*の寵愛（ちょうあい）や憎悪を示しているのではなく、アッラー*からの試練である。だが、多くの人々はそのことを知らない（ムヤッサル 432 頁参照）。物語章 82、暁章 15-16 とそれらの訳注も参照。

37. あなた方の財産もあなた方の子息も、あなた方がわれら*のもとでお近づきを得るものではない。しかし信仰し、正しい行い*を行う者、それらの者たちにこそ、彼らが行ったことゆえの倍の褒美があるのだ[1]。そして彼らは（懲罰から）安全な状態で、（天国の）高き住まいにある。

وَمَآ أَمۡوَٰلُكُمۡ وَلَآ أَوۡلَٰدُكُم بِٱلَّتِي تُقَرِّبُكُمۡ عِندَنَا
زُلۡفَىٰٓ إِلَّا مَنۡ ءَامَنَ وَعَمِلَ صَٰلِحٗا فَأُوْلَٰٓئِكَ
لَهُمۡ جَزَآءُ ٱلضِّعۡفِ بِمَا عَمِلُواْ وَهُمۡ فِي ٱلۡغُرُفَٰتِ
ءَامِنُونَ ٣٧

38. また、われら*の御徴において、（嘘呼ばわりするために）ねじ伏せようと躍起になる者たち、それらの者たちは、懲罰へと立ち合わされる者たちである。

وَٱلَّذِينَ يَسۡعَوۡنَ فِيٓ ءَايَٰتِنَا مُعَٰجِزِينَ أُوْلَٰٓئِكَ
فِي ٱلۡعَذَابِ مُحۡضَرُونَ ٣٨

39. （使徒よ）言ってやれ。「本当に我が主は、その僕たちの内、かれがお望みの者に糧を豊富に与えられ、また控えられる[2]。そして、あなた方がどんなものでも（アッラー*に命じられたことに）費やせば、かれはそれを（褒美で）継がせ給う[3]。かれは、最もよく糧を授けられるお方」。

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ
عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ
فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

40. かれ（アッラー*）が彼ら（シルク*の徒）全員を召集され、それから天使*たちに（こう）仰せられる日のこと（を思い起こさせよ）。「一体これらの者たちは、あなた方（天使*たち）のことを崇めていたのか？」[4]

وَيَوۡمَ يَحۡشُرُهُمۡ جَمِيعٗا ثُمَّ يَقُولُ لِلۡمَلَٰٓئِكَةِ
أَهَٰٓؤُلَآءِ إِيَّاكُمۡ كَانُواْ يَعۡبُدُونَ ٤٠

---

1 財産や子息は、それ自体ではアッラー*へのお近づきを望めない。しかし正しい信仰者が、その財産をアッラー*の道に費やしたり、あるいは自分の子供に善いことを教えたり、正しい教育を施したりすることで、初めてアッラー*へのお近づきを望めるのである（アル＝バイダーウィー4:403 参照）。

2 アーヤ 36 の訳注を参照。

3 現世においてはそれに代わるもので、来世においては褒美で償（つぐな）われる、ということ（ムヤッサル 432 頁参照）。

4 同様の情景の描写として、アーヤ*31-33、雌牛章 166-167、高壁章 38、イブラーヒーム*章 21-22、識別章 17-19、物語章 63、部族連合章 67-68 も参照。

41. 彼ら（天使たち）は申し上げる。「あなたに称え*あれ。彼らは無関係で[1]、あなたこそが私たちの庇護者*です。いえ、彼らはジン*[2]を崇めていました。彼らの大半は、彼ら（ジン*）のことを信じて（従って）いたのです」。

قَالُواْ سُبۡحَٰنَكَ أَنتَ وَلِيُّنَا مِن دُونِهِمۖ بَلۡ كَانُواْ
يَعۡبُدُونَ ٱلۡجِنَّۖ أَكۡثَرُهُم بِهِم مُّؤۡمِنُونَ ٤١

42. （復活の）この日、あなた方はお互いに、益も害も有してはいない。そしてわれら*は不正*を働いていた者たちに、（こう）言うのだ。「あなた方が嘘呼ばわりしていた、業火の罰を味わうがよい」。

فَٱلۡيَوۡمَ لَا يَمۡلِكُ بَعۡضُكُمۡ لِبَعۡضٖ نَّفۡعٗا وَلَا ضَرّٗا
وَنَقُولُ لِلَّذِينَ ظَلَمُواْ ذُوقُواْ عَذَابَ ٱلنَّارِ ٱلَّتِي
كُنتُم بِهَا تُكَذِّبُونَ ٤٢

43. われら*の明白な御徴（アーヤ*）が彼ら（マッカ*の不信仰者*）に読誦されれば、彼らは言ったものであった。「これ（預言者*ムハンマド*）は、あなた方のご先祖様が崇めていたものから、あなた方を阻もうとする男以外の何ものでもない」。また、（こう）言った。「これ（クルアーン*）は、捏造されたでっち上げに過ぎない」。そして不信仰だった者*たちは真理に対し、それが彼らのもとに到来した時、（こう）言ったのである。「これは紛れもない魔術に外ならない」。

وَإِذَا تُتۡلَىٰ عَلَيۡهِمۡ ءَايَٰتُنَا بَيِّنَٰتٖ قَالُواْ مَا هَٰذَآ
إِلَّا رَجُلٞ يُرِيدُ أَن يَصُدَّكُمۡ عَمَّا كَانَ يَعۡبُدُ
ءَابَآؤُكُمۡ وَقَالُواْ مَا هَٰذَآ إِلَّآ إِفۡكٞ مُّفۡتَرٗىۚ وَقَالَ
ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ لِلۡحَقِّ لَمَّا جَآءَهُمۡ إِنۡ هَٰذَآ
إِلَّا سِحۡرٞ مُّبِينٞ ٤٣

44. われら*は（クルアーン*以前）、彼ら[3]が熟読するいかなる啓典も、彼らに下しはしなかったし、（使徒*よ、）あなた以前にはいかなる警告者も、彼らに遣わすことはなかったのだ。

وَمَآ ءَاتَيۡنَٰهُم مِّن كُتُبٖ يَدۡرُسُونَهَاۖ وَمَآ
أَرۡسَلۡنَآ إِلَيۡهِمۡ قَبۡلَكَ مِن نَّذِيرٖ ٤٤

1 私たちは彼らのことを自分たちへの崇拝*者としたわけでもなく、彼らの庇護を引き受けたわけでもない、ということ（アッ＝シャウカーニー4:437 参照）。

2 ここでの「ジン*」は、シャイターン*の意（ムヤッサル 433 頁参照）。

3 ここでの「彼ら」は、アラブ人のこととされる（イブン・カスィール 6:525 参照）。

45. また、彼ら以前の（不信仰）者*たちは、（われら*の使徒*たちを）嘘つき呼ばわりした。彼ら（マッカ*の不信仰者*たち）は、われら*が彼ら（それ以前の不信仰者*たち）に与えたもの[1]の、十分の一にも達していないというのに。彼らは、われの使徒*たちを嘘つき呼ばわりしたのである。それで、わが否認はいかなるものだったか？[2]

وَكَذَّبَ ٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِهِمۡ وَمَا بَلَغُواْ
مِعۡشَارَ مَآ ءَاتَيۡنَٰهُمۡ فَكَذَّبُواْ رُسُلِيۖ
فَكَيۡفَ كَانَ نَكِيرِ ﴿٤٥﴾

46. （使徒*よ、彼らに）言ってやれ。「まさに私は、あなた方に一つだけ訓戒する。あなた方がアッラー*に向かって二人ずつ、また一人ずつ立ち上がり、それから熟考することを[3]。あなた方の仲間（ムハンマド*）に、憑きものなど憑いてはいない[4]。彼は（あなた方が味わうことになる）厳しい懲罰に先立つ、あなた方への警告者に過ぎないのだ[5]」。

۞قُلۡ إِنَّمَآ أَعِظُكُم بِوَٰحِدَةٍۖ أَن تَقُومُواْ لِلَّهِ
مَثۡنَىٰ وَفُرَٰدَىٰ ثُمَّ تَتَفَكَّرُواْۚ مَا بِصَاحِبِكُم
مِّن جِنَّةٍۚ إِنۡ هُوَ إِلَّا نَذِيرٞ لَّكُم بَيۡنَ يَدَيۡ
عَذَابٖ شَدِيدٖ ﴿٤٦﴾

47. （使徒*よ、）言え。「もし、私があなた方に何らかの見返りを求めた[6]としても、それはあなた方のもの。私の見返りは、アッラー*から以外にはないのだ。そしてかれは、全てのことの証人であられる」。

قُلۡ مَا سَأَلۡتُكُم مِّنۡ أَجۡرٖ فَهُوَ لَكُمۡۖ إِنۡ أَجۡرِيَ إِلَّا
عَلَى ٱللَّهِۖ وَهُوَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ شَهِيدٞ ﴿٤٧﴾

---

1 これは勢力、財産、長寿などのこととされる（ムヤッサル 433 頁参照）。

2 「わが否認はいかなるものだったか？」については、巡礼*章 44 の訳注を参照。

3 預言者*の件について、決意と熱意、真理の追求とアッラー*への真摯さをもって立ち上がり、寄り集まって調べ合い、あるいは一人で自分自身に問いかけてみれば、彼が憑（つ）かれてなどいないことが分かる（アッ＝サァディー682 頁参照）。

4 アル＝ヒジュル章 6「憑かれた者」の訳注を参照。

5 縒り合わされた章の訳注 1 も参照。

6 この「見返りの要求」については、家畜章 90 の訳注を参照。

48. 言うのだ。「実に我が主*は、真理を（虚妄に向けて）投げかけ給い[1]、不可視の世界*を熟知されるお方である」。

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَقۡذِفُ بِٱلۡحَقِّ عَلَّٰمُ ٱلۡغُيُوبِ ٤٨

49. 言え。「真理は到来した。そして虚妄は（滅び、もはや）出現することも、回帰することもない」。[2]

قُلۡ جَآءَ ٱلۡحَقُّ وَمَا يُبۡدِئُ ٱلۡبَٰطِلُ وَمَا
يُعِيدُ ٤٩

50. 言ってやれ。「もし私が（真理から）迷ったのなら、私は自分自身に対して（罪を負うべく）迷っているのである。そしてもし（正しく）導かれたのなら、（それは）我が主*が私に啓示されたものゆえのこと。本当にかれはよくお聞きになるお方、（かれを呼ぶ者の）近くにおられるお方」。

قُلۡ إِن ضَلَلۡتُ فَإِنَّمَآ أَضِلُّ عَلَىٰ نَفۡسِيۖ وَإِنِ
ٱهۡتَدَيۡتُ فَبِمَا يُوحِيٓ إِلَيَّ رَبِّيٓۚ إِنَّهُۥ سَمِيعٞ
قَرِيبٞ ٥٠

51. （使徒*よ、）彼ら（不信仰者*たち）が戦慄する時のことを、目にしたならば。彼らに逃げ道はなく、近い場所から連れて行かれるのだ[3]。

وَلَوۡ تَرَىٰٓ إِذۡ فَزِعُواْ فَلَا فَوۡتَ وَأُخِذُواْ مِن
مَّكَانٖ قَرِيبٖ ٥١

52. そして彼らは（、その時になって）言う。「私たちはそれ[4]を信じた」。どうして遠い場所から、易々と（信仰を）手に入れられるというのか？[5]

وَقَالُوٓاْ ءَامَنَّا بِهِۦ وَأَنَّىٰ لَهُمُ ٱلتَّنَاوُشُ مِن
مَّكَانِۭ بَعِيدٖ ٥٢

1 その他、「アッラー*はその啓示を、かれがお選びになる者に下される」「真理を世界中に広められる」といった解釈もある（アル＝バイダーウィー4:406 参照）。

2 つまり虚妄は跡形もなく消え去り、進退も開始も再開もままならない状況になった。あるいは、「虚妄」とはシャイターン*のことで、それは何を創造することも出来なければ、何かを蘇（よみがえ）らせることも出来ない（アッ＝シャウカーニー4:441 参照）。

3 このアーヤ*の解釈には、「（死が訪れ、）地表から地下へと移される時のこと」「復活の日*の清算の場から、地獄へと落とされる時のこと」「かつては強力だったのが、戦場において容易（たやす）く負かされる時のこと」といった諸説がある（アル＝カースィミー14:4968 参照）。

4 この「それ」は、アッラー*、啓典、使徒*のこと（ムヤッサル 434 頁参照）。

5 既に現世から遮（さえぎ）られ、そこが「遠い場所」となってしまった後では、信仰を手にすることは出来ない（前掲書、同頁参照）。家畜章 158 とその訳注も参照。

53. 彼らは確かに以前、それを否定し、不可視の世界*について（真理から）遠い場所から（虚妄に満ちた）憶測をしていたというのに。

وَقَدۡ كَفَرُواْ بِهِۦ مِن قَبۡلُۖ وَيَقۡذِفُونَ
بِٱلۡغَيۡبِ مِن مَّكَانِۭ بَعِيدٖ ٥٣

54. そして彼らと、彼らが渇望するもの[1]との間は阻まれた。ちょうど彼らの（先代である）同類者たちが、以前（そう）されたように。本当に彼らは（現世で）、大きな疑惑の中にあった[2]のである。

وَحِيلَ بَيۡنَهُمۡ وَبَيۡنَ مَا يَشۡتَهُونَ كَمَا فُعِلَ
بِأَشۡيَاعِهِم مِّن قَبۡلُۚ إِنَّهُمۡ كَانُواْ فِي شَكّٖ
مُّرِيبِۭ ٥٤

---

1 「渇望すること」とは、現世に戻って信仰すること（ムヤッサル 434 頁参照）。

2 つまり、使徒*、復活、清算について疑念の中にあった（前掲書、同頁参照）。

第35章
創成者*章（アル＝ファーティル）[1]

سُورَةُ فَاطِرٍ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. アッラー*にこそ称賛*はあり。諸天と大地の創成者*。天使*たちを、二枚、三枚、四枚と、翼を備えた御使いとされたお方。かれは創造において、お望みのものを増やし給う。本当にアッラー*は、全てのことがお出来のお方である。

ٱلۡحَمۡدُ لِلَّهِ فَاطِرِ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ جَاعِلِ ٱلۡمَلَٰٓئِكَةِ رُسُلًا أُوْلِيٓ أَجۡنِحَةٖ مَّثۡنَىٰ وَثُلَٰثَ وَرُبَٰعَۚ يَزِيدُ فِي ٱلۡخَلۡقِ مَا يَشَآءُۚ إِنَّ ٱللَّهَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٞ ١

2. アッラー*が人々にご慈悲[2]を開き放てば、それを押し留める（ことの出来る）者はいない。また、かれが（それを）押し留めるならば、かれを差しおいてそれを放つ（ことの出来る）者はいない。かれは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方であられる。

مَّا يَفۡتَحِ ٱللَّهُ لِلنَّاسِ مِن رَّحۡمَةٖ فَلَا مُمۡسِكَ لَهَاۖ وَمَا يُمۡسِكۡ فَلَا مُرۡسِلَ لَهُۥ مِنۢ بَعۡدِهِۦۚ وَهُوَ ٱلۡعَزِيزُ ٱلۡحَكِيمُ ٢

3. 人々よ、あなた方に対するアッラー*の恩恵を思い起こすのだ。あなた方に天地から糧をお授けになるアッラー*の外、創造主があるというのか？ かれの外に崇拝*すべき、いかなるものもない。どうしてあなた方は、（アッラー*だけを崇拝*することから）背かされるのか？

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ ٱذۡكُرُواْ نِعۡمَتَ ٱللَّهِ عَلَيۡكُمۡۚ هَلۡ مِنۡ خَٰلِقٍ غَيۡرُ ٱللَّهِ يَرۡزُقُكُم مِّنَ ٱلسَّمَآءِ وَٱلۡأَرۡضِۚ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَۖ فَأَنَّىٰ تُؤۡفَكُونَ ٣

---

1 マッカ*啓示で学者の見解は一致。スーラ*の名称は、冒頭に登場するアッラー*の美名の一つ「創成者*」に由来。その名の通り、アッラー*の御力・唯一性*を示す自然界の様々な創造が、スーラ*の所々において描写されている。またマッカ*啓示の常として、シルク*への警告、ムハンマド*の使徒*性・復活の確証、よき品格の強調がなされると同時に、アッラー*の恩恵の描写とその感謝のすすめ、信仰者と不信仰者*のたとえ、預言者*への励ましや慰（なぐさ）めなども窺（うかが）える。

2 この「ご慈悲」とは、生活の糧、雨、健康、知識といった諸々の恩恵のこと（ムヤッサル 434 頁参照）。

4. また（使徒*よ）、もし彼ら（不信仰者*たち）があなたを嘘つき呼ばわりしたとしても、あなた以前の使徒*たちも確かに、嘘つき呼ばわりされたのである。そして（来世では）アッラー*にこそ物事は戻され（て、全ての者はその報いを受け）るのだ。

وَإِن يُكَذِّبُوكَ فَقَدْ كُذِّبَتْ رُسُلٌ مِّن قَبْلِكَ ۚ وَإِلَى
ٱللَّهِ تُرْجَعُ ٱلْأُمُورُ ٤

5. 人々よ、本当にアッラー*のお約束[1]は真実である。ならば決して、現世の生活があなた方を欺いたり、欺く者[2]があなた方を、アッラー*において欺くことがあったりしてはならない。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ إِنَّ وَعْدَ ٱللَّهِ حَقٌّ ۖ فَلَا تَغُرَّنَّكُمُ
ٱلْحَيَوٰةُ ٱلدُّنْيَا ۖ وَلَا يَغُرَّنَّكُم بِٱللَّهِ ٱلْغَرُورُ ٥

6. 実にシャイターン*は、あなた方にとっての敵なのである。ならば彼を、敵とせよ。本当に彼はその徒党を、彼らが（地獄の）烈火の仲間となるべく、（迷妄へと）招くのである。[3]

إِنَّ ٱلشَّيْطَٰنَ لَكُمْ عَدُوٌّ فَٱتَّخِذُوهُ عَدُوًّا ۚ إِنَّمَا
يَدْعُوا۟ حِزْبَهُۥ لِيَكُونُوا۟ مِنْ أَصْحَٰبِ ٱلسَّعِيرِ ٦

7. 不信仰に陥った者*たち、彼らには厳しい懲罰がある。そして信仰し、正しい行い*を行う者たち、彼らにはお赦しと大きな褒美がある。

ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ لَهُمْ عَذَابٌ شَدِيدٌ ۖ وَٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟
وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ لَهُم مَّغْفِرَةٌ وَأَجْرٌ كَبِيرٌ ٧

8. 一体、自分の行いの悪が目映く見え、それを美しく思う者は（、正しく導かれ、それを美しく思う者と同様だろうか）？ 実にアッラー*は、かれがお望みになる者を迷わされ、お望みになる者をお導きになるのだ。ならば、彼ら（の不信仰）への悲嘆ゆえ、あなた[4]自身を滅ぼしてはならない。本当に

أَفَمَن زُيِّنَ لَهُۥ سُوٓءُ عَمَلِهِۦ فَرَءَاهُ حَسَنًا ۖ فَإِنَّ ٱللَّهَ
يُضِلُّ مَن يَشَآءُ وَيَهْدِى مَن يَشَآءُ ۖ فَلَا تَذْهَبْ
نَفْسُكَ عَلَيْهِمْ حَسَرَٰتٍ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ عَلِيمٌۢ بِمَا
يَصْنَعُونَ ٨

---

1 復活、褒美（ほうび）、懲罰といった来世でのお約束のこと（ムヤッサル 434 頁参照）。

2 「欺く者」については、ルクマーン章 33 の訳注を参照。

3 シャイターン*が人類を迷わせることとなった経緯（いきさつ）については、高壁章 11-18、アル＝ヒジュル章 28-42、夜の旅章 61-65、サード章 71-85 を参照。

4 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。以下、同様の表現の際にも、同訳注を参照。

アッラー*は、あなた方のなすことをご存知のお方なのだから。

9. アッラー*は、風を送られるお方。それ（風）は雲を追いやり、われら*はそれを死んだ土地へと率（ひき）いて行き、それ[1]によって大地をその死後に息吹（いぶ）かせる[2]。（復活の日*の）再生も、同様なのだ。

وَٱللَّهُ ٱلَّذِيٓ أَرۡسَلَ ٱلرِّيَٰحَ فَتُثِيرُ سَحَابٗا فَسُقۡنَٰهُ
إِلَىٰ بَلَدٖ مَّيِّتٖ فَأَحۡيَيۡنَا بِهِ ٱلۡأَرۡضَ بَعۡدَ مَوۡتِهَاۚ
كَذَٰلِكَ ٱلنُّشُورُ ٩

10. 権勢（けんせい）を求める者があるならば（、アッラー*からそれを求めよ[3]）、アッラー*にこそ全ての偉力（いりょく）が属（ぞく）するのだ。かれにこそ善き言葉は昇（のぼ）っていくのであり、正しい行い*がそれを上げる[4]。そして悪を策謀（さくぼう）する者たち、彼らには厳（きび）しい懲罰（ちょうばつ）があり、それらの者たちの策謀（さくぼう）こそは、ご破算（はさん）になるのだ。

مَن كَانَ يُرِيدُ ٱلۡعِزَّةَ فَلِلَّهِ ٱلۡعِزَّةُ جَمِيعًاۚ إِلَيۡهِ يَصۡعَدُ
ٱلۡكَلِمُ ٱلطَّيِّبُ وَٱلۡعَمَلُ ٱلصَّٰلِحُ يَرۡفَعُهُۥۚ
وَٱلَّذِينَ يَمۡكُرُونَ ٱلسَّيِّـَٔاتِ لَهُمۡ عَذَابٞ
شَدِيدٞۖ وَمَكۡرُ أُوْلَٰٓئِكَ هُوَ يَبُورُ ١٠

11. アッラー*はあなた方（の父祖（ふそ）アーダム*）を土から[5]、そして（その子孫を）一滴の精液からお創りになり[6]、それからあなた方を夫婦とされた。また、いかなる女性も、かれがご存知になることなくしては、妊娠す

وَٱللَّهُ خَلَقَكُم مِّن تُرَابٖ ثُمَّ مِن نُّطۡفَةٖ ثُمَّ
جَعَلَكُمۡ أَزۡوَٰجٗاۚ وَمَا تَحۡمِلُ مِنۡ أُنثَىٰ وَلَا تَضَعُ
إِلَّا بِعِلۡمِهِۦۚ وَمَا يُعَمَّرُ مِن مُّعَمَّرٖ وَلَا يُنقَصُ مِنۡ
عُمُرِهِۦٓ إِلَّا فِي كِتَٰبٍۚ إِنَّ ذَٰلِكَ عَلَى ٱللَّهِ يَسِيرٌ ١١

---

1 「それ」とは、雲から降る雨のこと（ムヤッサル 435 頁参照）。

2 「大地をその死後に息吹かせる」については、雌牛章 164 の訳注を参照。

3 アッラー*ではなく、その創造物に権勢を求める者は卑（いや）しめられることになるが、アッラー*から権勢を求める者は、かれからそれを授かる。そしてアッラー*からの権勢とは、かれへの服従によって得られるものなのである（前掲書、同頁参照）。

4 「善き言葉」は、シャハーダ*の言葉、唱念、祈願、クルアーン*の読誦、イスラーム*学の教授など、全ての善い言葉を指すとされる。本文のように「正しい行い*」が「善き言葉」を上げる、つまり正しい行い*が伴わない言葉は受け入れられない、といった解釈の外にも、①「善き言葉」が「正しい行い*」を上げる、つまりシャハーダ*の言葉を語ったムスリム*からこそ、正しい行い*は受け入れられる、②アッラー*がそれを「上げて」お受け入れになる、といった解釈もある（イブン・ジュザイ 2:212-213 参照）。

5 アーダム*が土から段階を経（へ）て創られたことについては、アル＝ヒジュル章 26 の訳注を参照。

6 人間の創造の変遷（へんせん）については、巡礼*章 5、信仰者たち章 14 の訳注を参照。

ることも出産することもない。そして長命者が長生きさせられることも、その年から差し引かれることも、全て書（守られし碑板*）の中に（あらかじめ記録されて）あるのだ。本当にそれはアッラー*にとって、容易いことなのである。

12. また、二つの海は同様ではない。こちらは甘くて美味、飲むに喉越しがよく、こちらはしょっぱくて辛いというように。そしてそのいずれからも、あなた方は新鮮な肉を食べ、あなた方が身に纏う装飾品を採り出す。また、あなたはそこを、船が水を切（りつつ走）るのを見る。（それは）あなた方が、かれのご恩寵から求めるためであり、そしてあなた方が（授かった恩恵に対し、アッラー*に）感謝するようにするためである。

وَمَا يَسْتَوِي ٱلْبَحْرَانِ هَٰذَا عَذْبٌ فُرَاتٌ
سَآئِغٌ شَرَابُهُۥ وَهَٰذَا مِلْحٌ أُجَاجٌ ۖ وَمِن كُلٍّ
تَأْكُلُونَ لَحْمًا طَرِيًّا وَتَسْتَخْرِجُونَ
حِلْيَةً تَلْبَسُونَهَا ۖ وَتَرَى ٱلْفُلْكَ فِيهِ مَوَاخِرَ
لِتَبْتَغُوا۟ مِن فَضْلِهِۦ وَلَعَلَّكُمْ
تَشْكُرُونَ ١٢

13. かれは夜を昼にお入れになり、また昼を夜にお入れになり[1]、太陽と月を仕えさせられた。（その）いずれも、定められた時期（である復活の日*）まで運行し続けるのである。そのお方がアッラー*、あなた方の主*、かれにこそ（全ての）王権はある。そして彼らが、かれをよそに祈っている者たちは、薄皮[2]すら有してはいないのだ。

يُولِجُ ٱلَّيْلَ فِي ٱلنَّهَارِ وَيُولِجُ ٱلنَّهَارَ فِي
ٱلَّيْلِ وَسَخَّرَ ٱلشَّمْسَ وَٱلْقَمَرَ كُلٌّ
يَجْرِي لِأَجَلٍ مُّسَمًّى ۚ ذَٰلِكُمُ ٱللَّهُ
رَبُّكُمْ لَهُ ٱلْمُلْكُ ۚ وَٱلَّذِينَ تَدْعُونَ مِن
دُونِهِۦ مَا يَمْلِكُونَ مِن قِطْمِيرٍ ١٣

14. （人々よ、）もし、あなた方が（アッラー*をよそに）彼らに祈っても、彼らにはあなた方の祈願が聞こえない。また、たとえ聞こえたとしても、彼らがあなた方に応じる

إِن تَدْعُوهُمْ لَا يَسْمَعُوا۟ دُعَآءَكُمْ وَلَوْ سَمِعُوا۟
مَا ٱسْتَجَابُوا۟ لَكُمْ ۖ وَيَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ يَكْفُرُونَ
بِشِرْكِكُمْ ۚ وَلَا يُنَبِّئُكَ مِثْلُ خَبِيرٍ ١٤

---

1 「夜を昼に…」については、イムラーン家章 27 の訳注を参照。

2 原語では「キトミール」で、種子の上を覆う薄皮のこと（ムヤッサル 436 頁参照）。僅（わず）かな物も有してはいない、というたとえ（イブン・アーシュール 22:283 参照）。

ことはない。そして復活の日*、彼らはあなた方のシルク*を否定するのである[1]。（使徒*よ、誰も、全てに）通暁されるお方（アッラー*）のようには、あなたに（正しいことを）伝えることはないのだ。

15. 人々よ、あなた方はアッラー*なしではいられない貧者であり、アッラー*は満ち足りておられる*お方、称賛されるべき*お方なのである。

۞ يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ أَنتُمُ ٱلْفُقَرَآءُ إِلَى ٱللَّهِ ۖ
وَٱللَّهُ هُوَ ٱلْغَنِىُّ ٱلْحَمِيدُ ﴿١٥﴾

16. かれがお望みなら、あなた方を滅ぼされ、新たな創造物[2]をもたらされるのだ。

إِن يَشَأْ يُذْهِبْكُمْ وَيَأْتِ بِخَلْقٍ جَدِيدٍ ﴿١٦﴾

17. そしてそれは、アッラー*にとって難しいことなどではない。

وَمَا ذَٰلِكَ عَلَى ٱللَّهِ بِعَزِيزٍ ﴿١٧﴾

18. また、（罪の）重荷を背負う者は、他の（者が犯した罪の）重荷まで背負うことはない。そして、もし（罪の）重荷を背負わされた者が（他人に）それを背負ってくれるように頼んでも、そこから少しも背負ってもらえることはない。たとえ、それが近親者であったとしても（、そうなのである）。（使徒*よ、）あなたは、まだ見ぬままに自分たちの主*を恐れ[3]、礼拝を遵守*する者たちにこそ（、有効な）警告をするのだ。自らを努めて清める者[4]は、清めることで自分を益するに外ならない。そしてアッラー*にこそ、（全ての者の）行き先はある。

وَلَا تَزِرُ وَازِرَةٌ وِزْرَ أُخْرَىٰ ۚ وَإِن تَدْعُ مُثْقَلَةٌ
إِلَىٰ حِمْلِهَا لَا يُحْمَلْ مِنْهُ شَىْءٌ وَلَوْ كَانَ ذَا
قُرْبَىٰٓ ۗ إِنَّمَا تُنذِرُ ٱلَّذِينَ يَخْشَوْنَ رَبَّهُم
بِٱلْغَيْبِ وَأَقَامُوا۟ ٱلصَّلَوٰةَ ۚ وَمَن تَزَكَّىٰ فَإِنَّمَا
يَتَزَكَّىٰ لِنَفْسِهِۦ ۚ وَإِلَى ٱللَّهِ ٱلْمَصِيرُ ﴿١٨﴾

1 この具体的な情景の描写として、雌牛章 166-167、ユーヌス*章 28-29、マルヤム*章 82、物語章 63、蜘蛛章 25、砂丘章 6 なども参照。

2 この「新たな創造物」については、イブラーヒーム*章 19 の訳注を参照。

3 「まだ見ぬままに自分たちの主を恐れる」については、預言者*たち章 49 の訳注を参照。

4 この「自らを努めて清める」については、ター・ハー章 76 の訳注を参照。

19. 盲人と見る者は、同じではない。[1]

وَمَا يَسْتَوِي ٱلْأَعْمَىٰ وَٱلْبَصِيرُ ١٩

20. また、闇と光も。[2]

وَلَا ٱلظُّلُمَٰتُ وَلَا ٱلنُّورُ ٢٠

21. また、（天国の）陰と（地獄の）熱風も。

وَلَا ٱلظِّلُّ وَلَا ٱلْحَرُورُ ٢١

22. そして、生者と死者[3]も。実にアッラー*は、かれがお望みになる者を、（理解と許容の耳で）聞かせられるのであり、（使徒*よ、）あなたは墓の中にいる者[4]に聞かせる者ではないのだ。

وَمَا يَسْتَوِي ٱلْأَحْيَآءُ وَلَا ٱلْأَمْوَٰتُ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ
يُسْمِعُ مَن يَشَآءُ ۖ وَمَآ أَنتَ بِمُسْمِعٍ مَّن فِي
ٱلْقُبُورِ ٢٢

23. あなたは、警告者に外ならないのだから。

إِنْ أَنتَ إِلَّا نَذِيرٌ ٢٣

24. 本当にわれら*はあなたを、吉報を伝える者、警告を告げる者[5]として、真理[6]と共に遣わした。そして、警告者が（出現しては、不信仰の結末を警告し、）過ぎ去っていかなかった共同体など、ないのだ。

إِنَّآ أَرْسَلْنَٰكَ بِٱلْحَقِّ بَشِيرًا وَنَذِيرًا ۚ وَإِن
مِّنْ أُمَّةٍ إِلَّا خَلَا فِيهَا نَذِيرٌ ٢٤

25. そして、もし彼ら（シルク*の徒）があなたを嘘つき呼ばわりするならば、彼ら以前の者たちも確かに、（使徒*たちを）嘘つき呼ばわりしたのである。彼らの使徒*たちは、明証や書巻や明白な啓典を携えて、彼らのもとに到来した。

وَإِن يُكَذِّبُوكَ فَقَدْ كَذَّبَ ٱلَّذِينَ مِن قَبْلِهِمْ
جَآءَتْهُمْ رُسُلُهُم بِٱلْبَيِّنَٰتِ وَبِٱلزُّبُرِ
وَبِٱلْكِتَٰبِ ٱلْمُنِيرِ ٢٥

26. それからわれは、不信仰に陥った者*たちを（様々な懲罰で）捕らえた。それで（彼らの行いに対する）、わが否認はいかなるものだったか？[7]

ثُمَّ أَخَذْتُ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ ۖ فَكَيْفَ كَانَ
نَكِيرِ ٢٦

---

1 「盲人」はアッラー*の宗教に盲目な者、「見る者」は真理を見出し、それに従った者（ムヤッサル 437 頁参照）。また、家畜章 50、雷鳴章 16、フード*章 20 とその訳注も参照。

2 「闇」は不信仰で、「光」は信仰のこと（前掲書、同頁参照）。雌牛章 257 の訳注も参照。

3 「生者」は、信仰で心が生きている者、「死者」は不信仰で心が死んだ者（前掲書、同頁参照）。

4 「墓の中にいる者」は、心が死んだ不信仰者*のたとえ（前掲書、同頁参照）。

5 「吉報を…」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

6 「真理」とは、アッラー*への信仰と、宗教上の決まりのこと（前掲書、同頁参照）。

7 巡礼*章 44 の訳注も参照。

27. （使徒*よ、）あなたはアッラー*が天から（雨）水をお降らしになるのを見ないのか？　そしてわれら*はそれによって、様々な色の果実を生育させる。また山々の内には、白や赤の、異なる色の（道）筋があり、漆黒のものもある。

أَلَمْ تَرَ أَنَّ ٱللَّهَ أَنزَلَ مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءً
فَأَخْرَجْنَا بِهِۦ ثَمَرَٰتٍ مُّخْتَلِفًا أَلْوَٰنُهَا ۚ
وَمِنَ ٱلْجِبَالِ جُدَدٌۢ بِيضٌ وَحُمْرٌ مُّخْتَلِفٌ
أَلْوَٰنُهَا وَغَرَابِيبُ سُودٌ ٢٧

28. また人々や地を歩く生物、家畜の内にも同様に、異なる色のものがある。アッラー*を恐れるのは、その僕たちの内、（アッラー*について）知識ある者たちに外ならない[1]。本当にアッラー*は偉力ならびない*お方、赦し深いお方なのだ。

وَمِنَ ٱلنَّاسِ وَٱلدَّوَآبِّ وَٱلْأَنْعَٰمِ مُخْتَلِفٌ
أَلْوَٰنُهُۥ كَذَٰلِكَ ۗ إِنَّمَا يَخْشَى ٱللَّهَ مِنْ عِبَادِهِ
ٱلْعُلَمَٰٓؤُا۟ ۗ إِنَّ ٱللَّهَ عَزِيزٌ غَفُورٌ ٢٨

29. 本当にアッラー*の啓典（クルアーン*）を読誦し[2]、礼拝を遵守*し、われら*が彼らに授けたものから（施しのために）密に、露わに、費やす[3]者たちは、決してご破算になることのない取引[4]を望む者たち。

إِنَّ ٱلَّذِينَ يَتْلُونَ كِتَٰبَ ٱللَّهِ وَأَقَامُوا۟ ٱلصَّلَوٰةَ
وَأَنفَقُوا۟ مِمَّا رَزَقْنَٰهُمْ سِرًّا وَعَلَانِيَةً يَرْجُونَ
تِجَٰرَةً لَّن تَبُورَ ٢٩

30. （それは）かれが彼らにその褒美を全うされ、そのご恩寵から彼らに上乗せされるため。本当にかれは赦し深いお方、よく労わられる*お方なのだから。

لِيُوَفِّيَهُمْ أُجُورَهُمْ وَيَزِيدَهُم مِّن فَضْلِهِۦٓ ۚ
إِنَّهُۥ غَفُورٌ شَكُورٌ ٣٠

31. （使徒*よ、）われら*があなたに下した啓典（クルアーン*）は、それ以前のもの[5]を確証する真理である。本当にアッラー*はその

وَٱلَّذِىٓ أَوْحَيْنَآ إِلَيْكَ مِنَ ٱلْكِتَٰبِ هُوَ ٱلْحَقُّ
مُصَدِّقًا لِّمَا بَيْنَ يَدَيْهِ ۗ إِنَّ ٱللَّهَ بِعِبَادِهِۦ

---

1 創造物が様々に異なるように、人々のアッラー*に対する恐れの度合いも様々である（アル＝クルトゥビー10:46 参照）。完全なる属性と美名で形容されるアッラー*について知れば知るほど、かれに対する恐れの念は強くなる（イブン・カスィール 6:544 参照）。

2 この「読誦」については、雌牛章 121 の訳注も参照。

3 アッラー*が「授けたものから（施しとして）費やす」については、雌牛章 3 の訳注を参照。

4 それらの行いと引き換えに、アッラー*のお喜びと多大な褒美を得るという取引のこと（ムヤッサル 437 頁参照）。

5 「それ以前のもの」とは、クルアーン*以前の啓典のこと（前掲書 438 頁参照）。

僕たちに対し、まさしく通暁されるお方、よくご覧になられるお方。

لَخَبِيرُۢ بَصِيرٞ ٣١

32. それからわれら*はその啓典（クルアーン*）を、われら*の僕の内から、われら*が選び抜いた者たちに受け継がせた。それで彼らの内には、自らに対して不正*を働く者もいるし、ほどほどの者もいるし、アッラー*のお許しと共に善へと急ぐ者[1]もいる。それ[2]こそは、大いなる恩寵なのだ。

ثُمَّ أَوۡرَثۡنَا ٱلۡكِتَٰبَ ٱلَّذِينَ ٱصۡطَفَيۡنَا مِنۡ
عِبَادِنَاۖ فَمِنۡهُمۡ ظَالِمٞ لِّنَفۡسِهِۦ وَمِنۡهُم
مُّقۡتَصِدٞ وَمِنۡهُمۡ سَابِقُۢ بِٱلۡخَيۡرَٰتِ بِإِذۡنِ
ٱللَّهِۚ ذَٰلِكَ هُوَ ٱلۡفَضۡلُ ٱلۡكَبِيرُ ٣٢

33. 永久の楽園、彼らはそこに入る。彼らはそこで金製の腕輪と真珠で飾り立てられ、そこでの彼らの衣服は絹なのである。[3]

جَنَّٰتُ عَدۡنٖ يَدۡخُلُونَهَا يُحَلَّوۡنَ فِيهَا مِنۡ
أَسَاوِرَ مِن ذَهَبٖ وَلُؤۡلُؤٗاۖ وَلِبَاسُهُمۡ فِيهَا
حَرِيرٞ ٣٣

34. 彼らは（天国に入った時、こう）言う。「私たちから悲しみ[4]を消して下さったアッラー*に、称賛*あれ。本当に我らが主*は、まさしく赦し深いお方、よく労わられる*お方だ。

وَقَالُواْ ٱلۡحَمۡدُ لِلَّهِ ٱلَّذِيٓ أَذۡهَبَ عَنَّا ٱلۡحَزَنَۖ
إِنَّ رَبَّنَا لَغَفُورٞ شَكُورٌ ٣٤

35. （かれは）そのご恩寵により、私たちを永住の世界（である天国）に住まわせて下さったお方。そこでは私たちに、いかなる消耗も及ぶことはなく、そこでは私たちに、いかなる疲労が及ぶこともない」。

ٱلَّذِيٓ أَحَلَّنَا دَارَ ٱلۡمُقَامَةِ مِن فَضۡلِهِۦ لَا
يَمَسُّنَا فِيهَا نَصَبٞ وَلَا يَمَسُّنَا فِيهَا لُغُوبٞ ٣٥

---

1 「自らに対して不正*を働く者」とは罪を犯す者のことで、「ほどほどの者」とは宗教義務を果たし、禁じられた物事を避ける者のこと、「善へと急ぐ者」とは義務行為のほか、任意の善行にも励（はげ）む者のこととされる（ムヤッサル 438 頁参照）。

2 この「それ」は、アッラー*が啓典をお授けになり、預言者*ムハンマド*の共同体をお選びになったということ（前掲書、同頁参照）。

3 天国の民が身にまとう物については、洞窟章 31、巡礼*章 23、煙霧章 51-53、人間章 12、21 も参照。

4 この「悲しみ」とは、地獄の懲罰、復活の日*の恐怖、現世での心配事などにおける、あらゆる悲しみのこと（イブン・ジュザイ 2:217 参照）。

36. また、不信仰に陥った者*たち、彼らには地獄の業火があり、（死の）裁決を下されることで死ぬこともなく、その懲罰が軽減されることもない。同様にわれら*は、あらゆる不信心この上ない者に報いるのだ。

وَٱلَّذِينَ كَفَرُواْ لَهُمۡ نَارُ جَهَنَّمَ لَا يُقۡضَىٰ
عَلَيۡهِمۡ فَيَمُوتُواْ وَلَا يُخَفَّفُ عَنۡهُم مِّنۡ
عَذَابِهَاۚ كَذَٰلِكَ نَجۡزِي كُلَّ كَفُورٖ ٣٦

37. そして彼ら（不信仰者*）はそこで、叫びわめく。「我らが主*よ、私たちを（地獄から）出して下さい。そうして（現世に戻して）下さったら、私たちは自分たちが（現世で）行っていたのとは違う、正しい行い*を行います」。[1]（するとアッラー*は仰せられる。）「一体われら*は、教訓を受ける者がそこにおいて教訓を受けるだけの（十分な）年月を、あなた方に与えなかったのか？ そしてあなた方のもとには、警告者が到来したのでは？ ならば（地獄の懲罰を）味わえ。不正*者たちには、いかなる援助者もないのだから」。

وَهُمۡ يَصۡطَرِخُونَ فِيهَا رَبَّنَآ أَخۡرِجۡنَا
نَعۡمَلۡ صَٰلِحًا غَيۡرَ ٱلَّذِي كُنَّا نَعۡمَلُۚ
أَوَلَمۡ نُعَمِّرۡكُم مَّا يَتَذَكَّرُ فِيهِ مَن تَذَكَّرَ
وَجَآءَكُمُ ٱلنَّذِيرُۖ فَذُوقُواْ فَمَا لِلظَّٰلِمِينَ
مِن نَّصِيرٍ ٣٧

38. 本当にアッラー*は、諸天と大地の不可視の世界*（に関する知識）をご存知のお方。実にかれは、胸の内にあるものをご存知であられる。

إِنَّ ٱللَّهَ عَٰلِمُ غَيۡبِ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۚ
إِنَّهُۥ عَلِيمُۢ بِذَاتِ ٱلصُّدُورِ ٣٨

39. （人々よ、）かれはあなた方を地上の継承者[2]とされたお方。不信仰に陥った者*は自分自身に対して、その不信仰（の害）がある。そして不信仰者*たちの不信仰はその主*の御許において、自分自身への憎悪しか上乗せすることがなく、不信仰者*たちの不信仰は自分自身に、損失しか上乗せしないのだ。

هُوَ ٱلَّذِي جَعَلَكُمۡ خَلَٰٓئِفَ فِي ٱلۡأَرۡضِۚ فَمَن كَفَرَ
فَعَلَيۡهِ كُفۡرُهُۥۖ وَلَا يَزِيدُ ٱلۡكَٰفِرِينَ كُفۡرُهُمۡ عِندَ
رَبِّهِمۡ إِلَّا مَقۡتٗاۖ وَلَا يَزِيدُ ٱلۡكَٰفِرِينَ كُفۡرُهُمۡ
إِلَّا خَسَارٗا ٣٩

1 同様の情景の描写として、家畜章 27-28、高壁章 53、イブラーヒーム*章 44、信仰者たち章 99-100、アッ＝サジダ*章 12、赦し深いお方章 11-12、相談章 44、偽信者*たち章 10-11 も参照。

2 「地上の継承者」については、家畜章 165 の訳注を参照。

40. （使徒*よ、シルク*の徒に）言ってやれ。「言ってみよ、あなた方がアッラー*をよそに祈っている、あなた方（がアッラー*）の同位者たち（として崇拝*しているもの）について。彼らが地上で何を創造したのか、私に見せてみよ」。いや、一体彼らには、諸天（の創造）における、（アッラー*への）加担があるというのか？ いや、一体われら*が彼らに啓典を与え、彼らがそれによる明証[1]に基づいているとでも？ いや、不正*者たちは互いに偽りしか約束することがない。

قُلْ أَرَءَيْتُمْ شُرَكَآءَكُمُ ٱلَّذِينَ تَدْعُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ أَرُونِى مَاذَا خَلَقُوا۟ مِنَ ٱلْأَرْضِ أَمْ لَهُمْ شِرْكٌ فِى ٱلسَّمَٰوَٰتِ أَمْ ءَاتَيْنَٰهُمْ كِتَٰبًا فَهُمْ عَلَىٰ بَيِّنَتٍ مِّنْهُ ۚ بَلْ إِن يَعِدُ ٱلظَّٰلِمُونَ بَعْضُهُم بَعْضًا إِلَّا غُرُورًا ﴿٤٠﴾

41. 実にアッラー*は諸天と大地を、それらが崩れ落ちないよう、お支えになる。そして、もしもそれらが崩れ去ったならば、かれの後、いかなる者もそれらを支えられない。本当に彼はもとより、寛大な*お方、赦し深いお方である。

۞ إِنَّ ٱللَّهَ يُمْسِكُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضَ أَن تَزُولَا ۚ وَلَئِن زَالَتَآ إِنْ أَمْسَكَهُمَا مِنْ أَحَدٍ مِّنۢ بَعْدِهِۦٓ ۚ إِنَّهُۥ كَانَ حَلِيمًا غَفُورًا ﴿٤١﴾

42. 彼ら（不信仰者*）は躍起になって、アッラー*にかけて誓った。もしも自分たちのもとに警告者が到来したならば、自分たちは必ずや、数々の民[2]のいずれよりも導かれたものとなる、と。だが彼らのもとに警告者（預言者*ムハンマド*）が到来した時、それは彼らに対し、（真理から）離れ去ることに拍車をかけただけだった。

وَأَقْسَمُوا۟ بِٱللَّهِ جَهْدَ أَيْمَٰنِهِمْ لَئِن جَآءَهُمْ نَذِيرٌ لَّيَكُونُنَّ أَهْدَىٰ مِنْ إِحْدَى ٱلْأُمَمِ ۖ فَلَمَّا جَآءَهُمْ نَذِيرٌ مَّا زَادَهُمْ إِلَّا نُفُورًا ﴿٤٢﴾

43. 地上で奢り高ぶり、悪の策謀を（望みつつ）。悪い策謀は、その者自身を包囲するだけだというのに。そして彼らは、昔の人々の摂理[3]を待っているだけなのか？ と

ٱسْتِكْبَارًا فِى ٱلْأَرْضِ وَمَكْرَ ٱلسَّيِّئِ ۚ وَلَا يَحِيقُ ٱلْمَكْرُ ٱلسَّيِّئُ إِلَّا بِأَهْلِهِۦ ۚ فَهَلْ يَنظُرُونَ إِلَّا سُنَّتَ ٱلْأَوَّلِينَ ۚ فَلَن تَجِدَ لِسُنَّتِ ٱللَّهِ تَبْدِيلًا ۖ

1 シルク*を正当化する明証のこと（アッ＝サァディー691 頁参照）。

2 ユダヤ教徒*、キリスト教徒*、あるいはその他の自分たち以外の民のこと（ムヤッサル 439 頁参照）。

3 「昔の人々の摂理」については、戦利品*章 38 の訳注を参照。

もあれ、あなたはアッラー*の摂理に変更を見出すこともなく、アッラー*の摂理[1]に転移を見出すこともないのだ。

وَلَن تَجِدَ لِسُنَّتِ ٱللَّهِ تَحۡوِيلًا ٤٣

44. そして彼ら（不信仰者*）は地上を旅し、彼らよりも力強かった、彼ら以前の（不信仰）者*たちの結末がいかなるものだったかを、見てみないのか？ アッラー*はもとより、諸天においても大地においても、いかなるものもかれ（の懲罰）から逃れようもないお方。本当に彼はもとより、全知者、全能者なのだ。

أَوَلَمۡ يَسِيرُواْ فِي ٱلۡأَرۡضِ فَيَنظُرُواْ كَيۡفَ كَانَ
عَٰقِبَةُ ٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِهِمۡ وَكَانُوٓاْ أَشَدَّ مِنۡهُمۡ
قُوَّةٗۚ وَمَا كَانَ ٱللَّهُ لِيُعۡجِزَهُۥ مِن شَيۡءٖ فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَلَا فِي ٱلۡأَرۡضِۚ إِنَّهُۥ كَانَ عَلِيمٗا قَدِيرٗا ٤٤

45. もしアッラー*が人々を、彼らが稼いだもの[2]ゆえにお咎めになれば、かれは（大地の）その表面に、いかなる生物も残してはおかなかっただろう[3]。しかしかれは、彼ら（の懲罰）を定められた時まで遅らせ給うのだ。そして彼らの（懲罰の）時が来たら、（かれは彼らを罰し給う、）本当にアッラー*はもとより、その僕たちをよくご覧になるお方。

وَلَوۡ يُؤَاخِذُ ٱللَّهُ ٱلنَّاسَ بِمَا كَسَبُواْ مَا
تَرَكَ عَلَىٰ ظَهۡرِهَا مِن دَآبَّةٖ وَلَٰكِن
يُؤَخِّرُهُمۡ إِلَىٰٓ أَجَلٖ مُّسَمّٗىۖ فَإِذَا جَآءَ
أَجَلُهُمۡ فَإِنَّ ٱللَّهَ كَانَ بِعِبَادِهِۦ
بَصِيرَۢا ٤٥

---

1 この「アッラー*の摂理」とは不信仰者*への懲罰のこと。誰もそれを変えたり、それを自分から他人に転移させることなど出来ない（ムヤッサル 439 頁参照）。

2 「稼いだもの」とは、罪のこと（前掲書 440 頁参照）。

3 同様のアーヤ*として、蜜蜂章 61 とその訳注を参照。

第 36 章
ヤー・スィーン章[1]

سُورَةُ يسٓ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. ヤー・スィーン[2]。
2. 完全無欠な[3]クルアーン*に誓って、
3. 本当に（ムハンマド*よ、）あなたはまさしく、使徒*の一人、
4. まっすぐな道（イスラーム*）の上にある。
5. （アッラー*は、クルアーン*を）偉力ならびなく*、慈悲あまねき*お方の下されたものとして（お下しになった）。
6. （それは使徒*よ、あなたの到来以前に）自分たちの先祖が警告されておらず、（信仰と正しい行い*において）無頓着になっている民[4]に、あなたが警告するため。
7. （真理を知った後に拒否した）彼らの多くには、既に（懲罰という）御言葉が確定した。彼らは、信仰しないのだから。

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

يسٓ ١

وَٱلۡقُرۡءَانِ ٱلۡحَكِيمِ ٢

إِنَّكَ لَمِنَ ٱلۡمُرۡسَلِينَ ٣

عَلَىٰ صِرَٰطٖ مُّسۡتَقِيمٖ ٤

تَنزِيلَ ٱلۡعَزِيزِ ٱلرَّحِيمِ ٥

لِتُنذِرَ قَوۡمٗا مَّآ أُنذِرَ ءَابَآؤُهُمۡ فَهُمۡ غَٰفِلُونَ ٦

لَقَدۡ حَقَّ ٱلۡقَوۡلُ عَلَىٰٓ أَكۡثَرِهِمۡ فَهُمۡ لَا
يُؤۡمِنُونَ ٧

---

1 マッカ*啓示で学者の見解は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、冒頭のアーヤ*に由来。啓示・預言者*ムハンマド*の使徒*性・復活の日*・報（むく）い・天国と地獄・アッラーの唯一性*といった、イスラーム*の基本的な信仰箇条（かじょう）を取り上げる。また、当時のマッカ*における預言者*と不信仰者*らの情景を彷彿（ほうふつ）とさせる、使徒*が遣わされた町の話は、使徒*に逆らう民への警告と共に、使徒*に従う者たちへの吉報を告げている。そしてスーラ*の最後は、このスーラ*の基本的テーマである、復活と報い、その証明によって締めくくられる。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 「完全無欠な」については、ユーヌス*章 1 の訳注を参照。

4 この「民」は、アラブ人のこと（ムヤッサル 440 頁参照）。尚このアーヤ*が、アラブ人以外の者に対しての警告を否定することにはならない。家畜章 19、高壁章 158 とその訳注、識別章 1、サバア章 28 なども参照（イブン・カスィール 6:166 参照）。

8. 本当にわれら*は、彼らの首に枷をつけた。それは彼らのあごに至っており、彼ら（の顔）は上を仰がされた状態にある。[1]

إِنَّا جَعَلۡنَا فِيٓ أَعۡنَٰقِهِمۡ أَغۡلَٰلٗا فَهِيَ إِلَى
ٱلۡأَذۡقَانِ فَهُم مُّقۡمَحُونَ ٨

9. そしてわれら*は(その不信仰と傲慢さゆえに)、彼らの前に障壁を置き、その後ろからも障壁を置き[2]、彼ら（の眼）を覆った[3]。それで彼らは（正道を）見ることがない。

وَجَعَلۡنَا مِنۢ بَيۡنِ أَيۡدِيهِمۡ سَدّٗا وَمِنۡ خَلۡفِهِمۡ
سَدّٗا فَأَغۡشَيۡنَٰهُمۡ فَهُمۡ لَا يُبۡصِرُونَ ٩

10. （使徒*よ、）あなたが彼らに警告したとしても、警告しなかったとしても、彼らにとっては同じこと。彼らは信じないのだ。

وَسَوَآءٌ عَلَيۡهِمۡ ءَأَنذَرۡتَهُمۡ أَمۡ لَمۡ تُنذِرۡهُمۡ لَا
يُؤۡمِنُونَ ١٠

11. 本当にあなたは教訓（クルアーン*）に従い、まだ見ぬままに慈悲あまねき*お方（アッラー*）を恐れる[4]者にこそ、(有効な)警告をするのである。ならばその者には（罪の）赦しと、貴い褒美[5]の吉報を伝えよ。

إِنَّمَا تُنذِرُ مَنِ ٱتَّبَعَ ٱلذِّكۡرَ وَخَشِيَ
ٱلرَّحۡمَٰنَ بِٱلۡغَيۡبِۖ فَبَشِّرۡهُ بِمَغۡفِرَةٖ وَأَجۡرٖ
كَرِيمٍ ١١

12. 本当にわれら*は（復活の日*、）死者たちに生を与えるのであり、彼らが（現世で）行っていたことと、その軌跡[6]を書き留める。そしてわれら*は全ての物事を、明らかなる規範[7]の中で数え尽くしておいたのである。

إِنَّا نَحۡنُ نُحۡيِ ٱلۡمَوۡتَىٰ وَنَكۡتُبُ مَا قَدَّمُواْ
وَءَاثَٰرَهُمۡۚ وَكُلَّ شَيۡءٍ أَحۡصَيۡنَٰهُ فِيٓ
إِمَامٖ مُّبِينٖ ١٢

---

1 両手をあごの下につけた形で、首もろとも枷をつけられているので、頭が上方を向いた状態（イブン・カスィール 6:166 参照）。この解釈には、「導かれない状態のたとえ」「アッラー*の道において施（ほどこ）さないことのたとえ（夜の旅章 29 参照）」「あらゆる善から阻（はば）まれている状態」「地獄の懲罰の光景（赦し深いお方章 71 参照）」など、諸説ある（アル＝クルトゥビー15:8-9 参照）。

2 これは、信仰から阻まれている様子のこと（ムヤッサル 440 頁参照）。

3 雌牛章 7、フード*章 20 とその訳注も参照。

4 「まだ見ぬままにアッラー*を恐れること」については、預言者*たち章 49 の訳注を参照。

5 天国のこととされる（ムヤッサル 440 頁参照）。

6 「その軌跡」とは、彼らの生前と死後に、彼らが原因として生じた善いことや悪いこと。前者の例としては正しい子供、有益な知識、継続する施（ほどこ）しなどがあり、後者の例としては、シルク*や諸々の罪などがある（前掲書、同頁参照）。

7 「明らかなる規範」とは、守られし碑板*。存在する全てのものは元々、この中に記録されている、ということ（イブン・カスィール 6:568 参照）。高壁章 8 の訳注も参照。

13. （使徒*よ、）彼ら（シルク*の徒）に、一つの譬えを挙げよ。町の人々（の話）を。使徒たちが、そこへとやって来た時のこと。

وَٱضۡرِبۡ لَهُم مَّثَلًا أَصۡحَٰبَ ٱلۡقَرۡيَةِ إِذۡ
جَآءَهَا ٱلۡمُرۡسَلُونَ ١٣

14. われら*が彼らに（アッラー*への信仰と、シルク*の放棄へと招く）二人（の使徒）を遣わし、彼らが二人を嘘つき呼ばわりした時のこと。それでわれら*は（その二人を）三人目（の使徒）で強化した。すると、彼ら（使徒たち）は言った。「本当に私たちは、あなた方へと遣わされた者なのです」。

إِذۡ أَرۡسَلۡنَآ إِلَيۡهِمُ ٱثۡنَيۡنِ فَكَذَّبُوهُمَا فَعَزَّزۡنَا
بِثَالِثٖ فَقَالُوٓاْ إِنَّآ إِلَيۡكُم مُّرۡسَلُونَ ١٤

15. 彼ら（町の人々）は言った。「あなた方は、私たちと同様の人間に過ぎない。そして慈悲あまねき*お方（アッラー*）は、（啓示など）何一つ下してはいないのだ。あなた方は嘘をついているに過ぎない」。

قَالُواْ مَآ أَنتُمۡ إِلَّا بَشَرٞ مِّثۡلُنَا وَمَآ أَنزَلَ
ٱلرَّحۡمَٰنُ مِن شَيۡءٍ إِنۡ أَنتُمۡ إِلَّا تَكۡذِبُونَ ١٥

16. 彼ら（使徒たち）は言った。「我らが主*は、本当に私たちがまさしく、あなた方に対する使徒であることをご存知である。

قَالُواْ رَبُّنَا يَعۡلَمُ إِنَّآ إِلَيۡكُمۡ لَمُرۡسَلُونَ ١٦

17. そして私たちの義務は、（啓示の）明白なる伝達に外ならない」。

وَمَا عَلَيۡنَآ إِلَّا ٱلۡبَلَٰغُ ٱلۡمُبِينُ ١٧

18. 彼ら（町の人々）は言った。「本当に私たちは、あなた方を不吉に思う[1]。もしも、あなた方が（私たちをあなた方の教えに招くのを）止めなければ、私たちは必ずや、あなた方を（石で）打ち殺してやろう[2]。そして、きっと私たちからの痛ましい懲罰が、あなた方に降りかかるであろう」。

قَالُوٓاْ إِنَّا تَطَيَّرۡنَا بِكُمۡۖ لَئِن لَّمۡ تَنتَهُواْ
لَنَرۡجُمَنَّكُمۡ وَلَيَمَسَّنَّكُم مِّنَّا عَذَابٌ أَلِيمٞ ١٨

1 「不吉に思う」については、高壁章 131 の訳注を参照。

2 「（石で）打ち殺す」については、フード*章 91 の同表現の訳注を参照。

19. 彼ら（使徒たち）は言った。「あなた方の不吉のもとは、あなた方のところにある[1]。たとえ教訓を与えられたとしても、（あなた方は私たちを不吉がり、私たちを脅すの）か？　いや、あなた方は（罪と嘘呼ばわりにおいて）度を越した民である」。

قَالُواْ طَٰٓئِرُكُم مَّعَكُمۡۚ أَئِن ذُكِّرۡتُمۚ بَلۡ
أَنتُمۡ قَوۡمٞ مُّسۡرِفُونَ ١٩

20. そして（彼らが使徒たちを手にかけようとした時）、町の一番遠くから、一人の男が急いでやって来た。彼は言った。「我が民よ、使徒たちに従うのだ。

وَجَآءَ مِنۡ أَقۡصَا ٱلۡمَدِينَةِ رَجُلٞ يَسۡعَىٰ قَالَ
يَٰقَوۡمِ ٱتَّبِعُواْ ٱلۡمُرۡسَلِينَ ٢٠

21. あなた方に見返り[2]を求めない者に、従え。彼らは導かれた者たちなのだ。

ٱتَّبِعُواْ مَن لَّا يَسۡـَٔلُكُمۡ أَجۡرٗا وَهُم
مُّهۡتَدُونَ ٢١

22. それに私が、自分のことを創成して下さった*お方を崇めない、などということがあろうか？　かれの御許にこそ、あなた方は戻らされるというのに？

وَمَا لِيَ لَآ أَعۡبُدُ ٱلَّذِي فَطَرَنِي وَإِلَيۡهِ
تُرۡجَعُونَ ٢٢

23. 一体私が、かれを差しおいて（外の）神々[3]を選ぶというのか？　もし慈悲あまねき*お方（アッラー*）が私に害悪をお望みになれば、彼らの執り成しは私を何一つ益することもなく、彼らは私を救ってもくれないのに。

ءَأَتَّخِذُ مِن دُونِهِۦٓ ءَالِهَةً إِن يُرِدۡنِ ٱلرَّحۡمَٰنُ
بِضُرّٖ لَّا تُغۡنِ عَنِّي شَفَٰعَتُهُمۡ شَيۡـٔٗا وَلَا
يُنقِذُونِ ٢٣

24. そんなことをすれば、本当に私はまさしく紛れもない迷いの中にある。

إِنِّيٓ إِذٗا لَّفِي ضَلَٰلٖ مُّبِينٍ ٢٤

25. 本当に私は、あなた方の主*を信じた。だから、私に耳を傾けるのだ」。

إِنِّيٓ ءَامَنتُ بِرَبِّكُمۡ فَٱسۡمَعُونِ ٢٥

---

1 不吉なことが起こるのは、彼らの不信仰のせいだ、ということ。あるいは、善いことも悪いことも、全て既に定命なのである、ということ（アル＝バガウィー4:11 参照）。

2 この「見返り」については、家畜章 90 の訳注を参照。

3 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

26. （彼はこうして殉教した後、こう）言われた。「天国に入るがよい」。彼は言った。「我が民が、知っていたらよかったのに。

قِيلَ ٱدۡخُلِ ٱلۡجَنَّةَۖ قَالَ يَٰلَيۡتَ قَوۡمِي
يَعۡلَمُونَ ٢٦

27. （私の信仰と忍耐*、使徒*たちへの追従ゆえに）我が主*が私をお赦しになり、私を栄誉高き者たちの一人として下さったことを」。

بِمَا غَفَرَ لِي رَبِّي وَجَعَلَنِي مِنَ ٱلۡمُكۡرَمِينَ ٢٧

28. われら*はその（男の死と、使徒たちを嘘つき呼ばわりした）後、その民に対し、天から（天使*の）軍勢など下すまでもなかった。われら*は（人々を滅ぼすため、わざわざ天使*を）下す者ではなかったのである。

۞وَمَآ أَنزَلۡنَا عَلَىٰ قَوۡمِهِۦ مِنۢ بَعۡدِهِۦ مِن جُندٖ
مِّنَ ٱلسَّمَآءِ وَمَا كُنَّا مُنزِلِينَ ٢٨

29. それは、（轟く）一声に過ぎなかった。そしてどうであろう、彼らは息絶えた者となってしまったのである。

إِن كَانَتۡ إِلَّا صَيۡحَةٗ وَٰحِدَةٗ فَإِذَا هُمۡ خَٰمِدُونَ ٢٩

30. （復活の日*、懲罰を目の当たりにした時の、）僕たちの悲痛よ！ 使徒*が彼らのもとを訪れれば、彼らは決まって彼（使徒）のことを嘲笑したものだったのだ。

يَٰحَسۡرَةً عَلَى ٱلۡعِبَادِۚ مَا يَأۡتِيهِم مِّن رَّسُولٍ
إِلَّا كَانُواْ بِهِۦ يَسۡتَهۡزِءُونَ ٣٠

31. 一体彼らは、われら*が彼ら以前にどれだけ多くの世代を滅ぼしたのかを、見なかったのか？ 彼らは、（現世にいる）彼らのもとに戻っては来ない。

أَلَمۡ يَرَوۡاْ كَمۡ أَهۡلَكۡنَا قَبۡلَهُم مِّنَ ٱلۡقُرُونِ
أَنَّهُمۡ إِلَيۡهِمۡ لَا يَرۡجِعُونَ ٣١

32. そして（それら滅ぼされた世代の）全ての者は、（復活の日*には）例外なく、われら*のもとに（清算のため）連れて来られるのである。

وَإِن كُلّٞ لَّمَّا جَمِيعٞ لَّدَيۡنَا مُحۡضَرُونَ ٣٢

33. また、死んだ土地は彼らへの御徴[1]である。われら*はそれを息吹かせ、そこから種粒を生育させ、あなた方はそこから食べるのだ。

وَءَايَةٞ لَّهُمُ ٱلۡأَرۡضُ ٱلۡمَيۡتَةُ أَحۡيَيۡنَٰهَا
وَأَخۡرَجۡنَا مِنۡهَا حَبّٗا فَمِنۡهُ يَأۡكُلُونَ ٣٣

34. また、われら*はそこに、ナツメヤシ、葡萄からなる果樹園を設け、そこに泉を噴き出させたのである。

وَجَعَلۡنَا فِيهَا جَنَّٰتٖ مِّن نَّخِيلٖ وَأَعۡنَٰبٖ
وَفَجَّرۡنَا فِيهَا مِنَ ٱلۡعُيُونِ ٣٤

35. （それは）彼らがその果実から食するため——それを作ったのは、彼らの手ではない[2]——。彼らは、（この恩恵に）感謝しないのか？

لِيَأۡكُلُواْ مِن ثَمَرِهِۦ وَمَا عَمِلَتۡهُ أَيۡدِيهِمۡۚ
أَفَلَا يَشۡكُرُونَ ٣٥

36. 大地から生育するものの内に、あらゆる種類をお創りになったお方に称え*あれ。そしてあなた方自身[3]の内と、あなた方の知らないものの内にも。

سُبۡحَٰنَ ٱلَّذِي خَلَقَ ٱلۡأَزۡوَٰجَ كُلَّهَا
مِمَّا تُنۢبِتُ ٱلۡأَرۡضُ وَمِنۡ أَنفُسِهِمۡ وَمِمَّا لَا
يَعۡلَمُونَ ٣٦

37. また、夜は彼らへの御徴[4]である。われら*がそこから昼を剥ぎ取ると、どうであろう、彼らは真っ暗になってしまう。

وَءَايَةٞ لَّهُمُ ٱلَّيۡلُ نَسۡلَخُ مِنۡهُ ٱلنَّهَارَ فَإِذَا
هُم مُّظۡلِمُونَ ٣٧

38. また、その停まり場[5]へと進み行く太陽も（、彼らへの御徴）。それは偉力ならびない*お方、全知者のお定めなのだ。

وَٱلشَّمۡسُ تَجۡرِي لِمُسۡتَقَرّٖ لَّهَاۚ ذَٰلِكَ
تَقۡدِيرُ ٱلۡعَزِيزِ ٱلۡعَلِيمِ ٣٨

---

1 この「御徴」は、アッラー*に復活と、再生を行う力があることの証拠（ムヤッサル 442頁参照）。

2 「彼らがその果実と、自分たちが作ったものを食べるため」という解釈もある（アッ＝タバリー8:6831-6832 参照）。

3 つまり人間のことも性別、形質、性格、外面的・内面的特徴において、異なるものとされた（アッ＝サァディー695 頁参照）。

4 この「御徴」は、アッラーの唯一性*と、完全なる御力を示す証拠のこと（ムヤッサル 442頁参照）。

5 毎日、あるいは毎年の、決められた周期のこと。あるいは、その動きが止まる、この世の終わりのこと（アル＝カースィミー14:5005 参照）。

39. また、月も。われら*はそれが（細い三日月から満月となり、再び）古い茎[1]のように戻り行くまで、（毎晩の）その諸々の宿り場を定めた。

وَٱلۡقَمَرَ قَدَّرۡنَٰهُ مَنَازِلَ حَتَّىٰ عَادَ كَٱلۡعُرۡجُونِ
ٱلۡقَدِيمِ ٣٩

40. 太陽が月に追いつくことはありえず、夜が昼に先駆けることもない。そして全ては、その軌道を走る。

لَا ٱلشَّمۡسُ يَنۢبَغِي لَهَآ أَن تُدۡرِكَ ٱلۡقَمَرَ وَلَا ٱلَّيۡلُ
سَابِقُ ٱلنَّهَارِۚ وَكُلّٞ فِي فَلَكٖ يَسۡبَحُونَ ٤٠

41. また、われら*が彼ら（アーダム*の子ら）の子孫を、（各種の生き物で）満載された船[2]で運んだのも、（アッラー*のみが崇拝*されるべきことを示す、）彼らへの御徴である。

وَءَايَةٞ لَّهُمۡ أَنَّا حَمَلۡنَا ذُرِّيَّتَهُمۡ فِي ٱلۡفُلۡكِ
ٱلۡمَشۡحُونِ ٤١

42. またわれら*は彼ら[3]にも、彼らが乗る、それと同じような物を作った。

وَخَلَقۡنَا لَهُم مِّن مِّثۡلِهِۦ مَا يَرۡكَبُونَ ٤٢

43. もしわれら*が望めば、彼らを溺れさせるのである。そして彼らにはいかなる救助者もなく、救われることもない。

وَإِن نَّشَأۡ نُغۡرِقۡهُمۡ فَلَا صَرِيخَ لَهُمۡ وَلَا هُمۡ
يُنقَذُونَ ٤٣

44. しかし、われら*からの慈悲ゆえ、そして（彼らに定められた）時[4]までの楽しみゆえ（、彼らを無事に運行させるのだ）。

إِلَّا رَحۡمَةٗ مِّنَّا وَمَتَٰعًا إِلَىٰ حِينٖ ٤٤

45. また、彼ら（シルク*の徒）に、「あなた方の前にあるものと、あなた方の後ろにあるもの[5]を畏れ*よ。（それは）あなた方が、（アッラー*から）慈しまれるようにするためなのだ」と言われれば（、彼らは背を向け、それに応じなかった）。

وَإِذَا قِيلَ لَهُمُ ٱتَّقُواْ مَا بَيۡنَ أَيۡدِيكُمۡ وَمَا
خَلۡفَكُمۡ لَعَلَّكُمۡ تُرۡحَمُونَ ٤٥

---

1 この「茎（ウルジューン）」とは、ナツメヤシの実をつける、先端部分の茎のこと。その細さ、湾曲（わんきょく）した形、黄色い色ゆえに、細い三日月にたとえられている（ムヤッサル 442 頁参照）。

2 これは預言者*ヌーフ*と信仰者たち、生き物たちを乗せた船のこと（前掲書 443 頁参照）。

3 「彼ら」とは、シルク*の徒や、その他の者たち（前掲書、同頁参照）。

4 この「時」は、死期、あるいは復活の日*のこととされる（アル＝クルトゥビー15:35 参照）。

5 「前にあるもの」は来世と、彼らを待ち受ける恐怖のこと。「後ろにあるもの」とは、現世と、そこにおける懲罰のこと（ムヤッサル 443 頁参照）。

46. そして彼らの主*の御徴[1]の内、いかなる御徴が彼らのもとに到来した時でも、彼らがそれに背を向けないことはなかったのである。

وَمَا تَأۡتِيهِم مِّنۡ ءَايَةٖ مِّنۡ ءَايَٰتِ رَبِّهِمۡ إِلَّا
كَانُواْ عَنۡهَا مُعۡرِضِينَ ٤٦

47. また彼らに、「アッラー*があなた方に授けたものから、（施しのために）費やす[2]のだ」と言われれば、不信仰に陥った者*たちは信仰する者たちに、（こう）言った。「もしアッラー*がお望みになれば食べさせ給うた者に、私たちが食べさせるというのか？[3] あなた方は確かに、紛れもない迷いの中にいる[4]」。

وَإِذَا قِيلَ لَهُمۡ أَنفِقُواْ مِمَّا رَزَقَكُمُ ٱللَّهُ قَالَ ٱلَّذِينَ
كَفَرُواْ لِلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ أَنُطۡعِمُ مَن لَّوۡ يَشَآءُ ٱللَّهُ
أَطۡعَمَهُۥٓ إِنۡ أَنتُمۡ إِلَّا فِي ضَلَٰلٖ مُّبِينٖ ٤٧

48. 彼ら（不信仰者*）は、言う。「（復活の）この約束はいつなのか？ もしあなた方が本当のことを言っているのなら」。

وَيَقُولُونَ مَتَىٰ هَٰذَا ٱلۡوَعۡدُ إِن كُنتُمۡ صَٰدِقِينَ ٤٨

49. 彼らは、彼らが（現世の生活において）議論し合っている最中に自分たちを（突然）襲う、（轟きの）一声[5]を待っているに過ぎない。

مَا يَنظُرُونَ إِلَّا صَيۡحَةٗ وَٰحِدَةٗ تَأۡخُذُهُمۡ
وَهُمۡ يَخِصِّمُونَ ٤٩

50. そして彼らは（その時、誰にも）遺言できないし、家族のもとに戻ることも出来ない。[6]

فَلَا يَسۡتَطِيعُونَ تَوۡصِيَةٗ وَلَآ إِلَىٰٓ أَهۡلِهِمۡ
يَرۡجِعُونَ ٥٠

---

1 この「御徴」とは、アッラーの唯一性*と預言者*ムハンマド*の正直さを示す根拠の数々のこと（イブン・カスィール 6:580 参照）。

2 雌牛章 3 の訳注も参照。

3 ムスリム*たちは恵まれない者への施しを勧めていたが、彼らは吝嗇と嘲笑ゆえに、「アッラー*が食を禁じられた者に、私たちが食べさせるわけにはいかない」「全ての物事はアッラー*の御手に委ねられているなら、どうして私たちに施しを求めるのか？」などと返した（イブン・ジュザイ 2:225 参照）。

4 「あなた方は確かに…」という言葉は、不信仰者*たちに対するアッラー*の言葉、あるいは不信仰者*たちに対する信仰者たちの言葉、という説もある（アル＝クルトゥビー15:37 参照）。

5 復活の日*に吹き鳴らされる、最初の角笛の一吹きのこと（ムヤッサル 443 頁参照）。家畜章 73 の訳注も参照。

6 つまり、その場で即死するということ（前掲書、同頁参照）。

51. そして（二度目に）角笛に吹き込まれると[1]、どうであろう、彼らは墓から（出て来て、）自分たちの主*の御許へと、急いで馳せ参じて行く。

وَنُفِخَ فِي ٱلصُّورِ فَإِذَا هُم مِّنَ ٱلۡأَجۡدَاثِ إِلَىٰ
رَبِّهِمۡ يَنسِلُونَ ٥١

52. 彼らは（無念がって、こう）言うのだ。「我らが災いよ！[2] 私たちを、私たちの寝床から蘇らせたのは誰だ？」（すると、彼らにこう言われる。）「これが、慈悲あまねき*お方（アッラー*）が約束され給い、使徒*たちが正直に語ったものである」。

قَالُواْ يَٰوَيۡلَنَا مَنۢ بَعَثَنَا مِن مَّرۡقَدِنَاۜۗ هَٰذَا مَا
وَعَدَ ٱلرَّحۡمَٰنُ وَصَدَقَ ٱلۡمُرۡسَلُونَ ٥٢

53. （復活は、轟きの）一声に過ぎなかったのだ。そしてどうであろう、彼らは皆、（清算と報いのため）われら*のもとに連れて来られるのである。

إِن كَانَتۡ إِلَّا صَيۡحَةٗ وَٰحِدَةٗ فَإِذَا هُمۡ
جَمِيعٞ لَّدَيۡنَا مُحۡضَرُونَ ٥٣

54. この日、人は少しも不正*を受けることがない。そしてあなた方が報われるのは、自分たちが（現世で）行っていたこと（によるもの）以外の、何ものでもない。

فَٱلۡيَوۡمَ لَا تُظۡلَمُ نَفۡسٞ شَيۡـٔٗا وَلَا تُجۡزَوۡنَ
إِلَّا مَا كُنتُمۡ تَعۡمَلُونَ ٥٤

55. 実に天国の住人たちはその日、（様々な安寧に）喜々として忙しい。

إِنَّ أَصۡحَٰبَ ٱلۡجَنَّةِ ٱلۡيَوۡمَ فِي شُغُلٖ فَٰكِهُونَ ٥٥

56. 彼らとその妻たちは日陰におり、寝台に寄りかかっている。

هُمۡ وَأَزۡوَٰجُهُمۡ فِي ظِلَٰلٍ عَلَى ٱلۡأَرَآئِكِ
مُتَّكِـُٔونَ ٥٦

57. 彼らにはそこで（様々な）果実があり、彼らには自分たちが求める（あらゆる）ものがある。

لَهُمۡ فِيهَا فَٰكِهَةٞ وَلَهُم مَّا يَدَّعُونَ ٥٧

58. 慈愛深き*主（アッラー*）からのお言葉、「（あなた方に）平安あれ」（という挨拶も。）[3]

سَلَٰمٞ قَوۡلٗا مِّن رَّبّٖ رَّحِيمٖ ٥٨

---

1 二度目の角笛が鳴らされると、魂は肉体に戻らされて復活する（ムヤッサル 443 頁参照）。

2 この表現については、食卓章 31 の訳注を参照。

3 「平安を」については、雷鳴章 24 の訳注を参照（前掲書 444 頁参照）。

59. そして（不信仰者*たちには、こう言われる。）「この日、あなた方は（信仰者たちから）離れていよ。罪悪者たちめ」。[1]

وَٱمۡتَٰزُواْ ٱلۡيَوۡمَ أَيُّهَا ٱلۡمُجۡرِمُونَ ٥٩

60. （アッラー*は彼らに仰せられる。）アーダム*の子らよ、一体われは、（使徒*たちを通じて）あなた方に命じなかったのか？　シャイターン*を崇める[2]のではない、と？　本当に彼は、あなた方にとって紛れもない敵なのだから。

۞أَلَمۡ أَعۡهَدۡ إِلَيۡكُمۡ يَٰبَنِيٓ ءَادَمَ أَن لَّا تَعۡبُدُواْ ٱلشَّيۡطَٰنَۖ إِنَّهُۥ لَكُمۡ عَدُوّٞ مُّبِينٞ ٦٠

61. また、われ（のみ）を崇拝*せよ、と（命じなかったのか）？　これが（わが喜びと天国へと至る、）まっすぐな道なのである。

وَأَنِ ٱعۡبُدُونِيۚ هَٰذَا صِرَٰطٞ مُّسۡتَقِيمٞ ٦١

62. また、彼（シャイターン*）はあなた方の内、多くの創造物を迷わせた[3]。一体、あなた方は弁えていなかったのか？

وَلَقَدۡ أَضَلَّ مِنكُمۡ جِبِلّٗا كَثِيرًاۖ أَفَلَمۡ تَكُونُواْ تَعۡقِلُونَ ٦٢

63. これが、あなた方が（現世で）約束されていた地獄である。

هَٰذِهِۦ جَهَنَّمُ ٱلَّتِي كُنتُمۡ تُوعَدُونَ ٦٣

64. あなた方は今日、自分たちが不信仰であったことゆえに、そこに入って炙られよ。

ٱصۡلَوۡهَا ٱلۡيَوۡمَ بِمَا كُنتُمۡ تَكۡفُرُونَ ٦٤

65. 今日われら*は、彼ら（シルク*の徒）の口を封じる。そして彼らが稼いでいたもの（罪）については、彼らの手がわれらに話し、その足が証言するのである。[4]

ٱلۡيَوۡمَ نَخۡتِمُ عَلَىٰٓ أَفۡوَٰهِهِمۡ وَتُكَلِّمُنَآ أَيۡدِيهِمۡ وَتَشۡهَدُ أَرۡجُلُهُم بِمَا كَانُواْ يَكۡسِبُونَ ٦٥

---

1 ユーヌス*章 28 とその訳注も参照。

2 「シャイターン*を崇める」とは、彼への服従のこと。そこには、あらゆる種類の不信仰と罪が含まれる（アッ＝サァディー698 頁参照）。

3 シャイターン*が人類を迷わせることとなった経緯（いきさつ）については、高壁章 11-18、アル＝ヒジュル章 28-42、夜の旅章 61-65、サード章 71-85 を参照。

4 食卓章 109、高壁章 8、夜の旅章 97 の各訳注、および御光章 24 も参照。

66. また、もしわれら*が望めば、彼らの眼を消すことも出来るのだ。そうなれば彼らは道を競い合うが、どうして彼らが（道を）見ることが出来るだろうか？[1]

وَلَوۡ نَشَآءُ لَطَمَسۡنَا عَلَىٰٓ أَعۡيُنِهِمۡ فَٱسۡتَبَقُواْ
ٱلصِّرَٰطَ فَأَنَّىٰ يُبۡصِرُونَ ٦٦

67. また、もしわれら*が望めば、彼ら（の創造）をその場で変異させてしまうことも出来る。そうなれば彼らは進むことも出来なければ、戻れもしない。[2]

وَلَوۡ نَشَآءُ لَمَسَخۡنَٰهُمۡ عَلَىٰ مَكَانَتِهِمۡ
فَمَا ٱسۡتَطَٰعُواْ مُضِيّٗا وَلَا يَرۡجِعُونَ ٦٧

68. また、われら*が長生きさせる者があれば、われら*はその創造を逆転させる[3]。一体、彼らは弁えないのか？

وَمَن نُّعَمِّرۡهُ نُنَكِّسۡهُ فِي ٱلۡخَلۡقِۚ أَفَلَا
يَعۡقِلُونَ ٦٨

69. われら*は彼（預言者*ムハンマド*）に詩を教えたりはしなかったし、それは彼に相応しくないこと。それは教訓と、解明する[4]クルアーン*に外ならないのだ。

وَمَا عَلَّمۡنَٰهُ ٱلشِّعۡرَ وَمَا يَنۢبَغِي لَهُۥٓۚ إِنۡ هُوَ إِلَّا
ذِكۡرٞ وَقُرۡءَانٞ مُّبِينٞ ٦٩

70. （それは）彼が（心の）生きている者[5]に警告し、不信仰者*たちに御言葉が確定する[6]ためのものなのである。

لِّيُنذِرَ مَن كَانَ حَيّٗا وَيَحِقَّ ٱلۡقَوۡلُ عَلَى
ٱلۡكَٰفِرِينَ ٧٠

71. そして彼らは、われら*が彼らのために、われら*の手がなしたものである家畜を創造したのを見なかったのか？ 彼らはそれらの所有者なのである。

أَوَلَمۡ يَرَوۡاْ أَنَّا خَلَقۡنَا لَهُم مِّمَّا عَمِلَتۡ أَيۡدِينَآ
أَنۡعَٰمٗا فَهُمۡ لَهَا مَٰلِكُونَ ٧١

---

1 このアーヤ*の意味には、「視力がなくなることのたとえ」「信仰における迷いのたとえ」「復活の日*、地獄の上にかけられた橋の話。そこを越えられる者は、天国の民しかない」といった解釈がある（アル＝クルトゥビー15:49-50 参照）。

2 このアーヤ*の意味には、「石などの物質や、動物などに変異させ、思うように動けなくさせる」「復活の日*のこと（アーヤ*66 の訳注を参照）」といった解釈がある（前掲書 15:50 参照）。

3 高齢になると、幼少期のように、知的・身体的に弱体化することを表す（ムヤッサル 444 頁参照）。

4 「解明する」については、ユースフ*章 1 の訳注を参照。

5 心が生き、目覚めている者こそが、クルアーン*によって清められ、その知識と行いを深める者である。それはちょうど、良質の土地に雨が降る様子に似ている（アッ＝サアディー 698 頁参照）。高壁章 58 とその訳注も参照。

6 この「御言葉」は、懲罰のこと。クルアーン*という明白な根拠ゆえ、彼らは自分たちが不信仰であったことに関し、言い逃れできなくなる（ムヤッサル 444 頁参照）。

72. そしてわれら*は、それら（家畜）を彼らのために仕えさせた。その内には彼らの乗り物があり、また彼らはそこから食べるのである。

وَذَلَّلْنَٰهَا لَهُمْ فَمِنْهَا رَكُوبُهُمْ وَمِنْهَا
يَأْكُلُونَ ٧٢

73. また、そこ（家畜）には彼らにとっての（別の）利益[1]と飲み物[2]もある。一体、彼らは感謝し（て、アッラー*のみを崇拝*し）ないのか？

وَلَهُمْ فِيهَا مَنَٰفِعُ وَمَشَارِبُ ۖ أَفَلَا
يَشْكُرُونَ ٧٣

74. 彼ら（シルク*の徒）は、アッラー*をよそに（崇める）神々[3]を選んだ。自分たちが（それらによって、アッラー*の懲罰から）助けられるように、と。

وَٱتَّخَذُوا۟ مِن دُونِ ٱللَّهِ ءَالِهَةً لَّعَلَّهُمْ
يُنصَرُونَ ٧٤

75. 彼ら（それらの神々）は、彼ら（その崇拝者たち）を助けることなど出来ない。彼らは彼らのために、立ち会わされた兵隊であるというのに[4]。

لَا يَسْتَطِيعُونَ نَصْرَهُمْ وَهُمْ لَهُمْ جُندٌ
مُّحْضَرُونَ ٧٥

76. ならば（使徒*よ）、彼らの言葉[5]に悲しんではならない。実にわれら*は彼らが秘密にしていることも、露わにしていることも知っているのだから。

فَلَا يَحْزُنكَ قَوْلُهُمْ ۘ إِنَّا نَعْلَمُ مَا يُسِرُّونَ وَمَا
يُعْلِنُونَ ٧٦

77. 一体、（復活を否定する）人間は、われら*が彼を一滴の精液から創った[6]のを見なかったのか？ なのにどうであろうか、彼はあからさまな反論者である[7]。

أَوَلَمْ يَرَ ٱلْإِنسَٰنُ أَنَّا خَلَقْنَٰهُ مِن نُّطْفَةٍ
فَإِذَا هُوَ خَصِيمٌ مُّبِينٌ ٧٧

1 具体的な利益の例については、蜜蜂章 5-8、80 も参照。

2 つまり、乳のこと（ムヤッサル 445 頁参照）。蜜蜂章 66 も参照。

3 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

4 この二つの「彼ら」は、前者がシルク*の徒、後者がその神々という説と、その逆という説がある。前者の説の場合、現世において、シルク*の徒がそれらの神々の兵隊的な存在であることを、後者の説の場合、それらの神々が彼らと共に地獄に入ることを意味する（アル＝クルトゥビー15:57 参照）。

5 アッラー*への不信仰、使徒*の嘘つき呼ばわり、彼への嘲笑などに関する言葉（ムヤッサル 445 頁参照）。

6 人間の創造の変遷については、巡礼*章 5、信仰者たち章 14 とその訳注を参照。

7 蜜蜂章 4 の訳注も参照。

78. そして彼は自分自身の創造を忘れて、われら*に対して（許されない）譬え[1]を挙げた。彼は言ったのだ。「誰が、朽ち果てた骨に生を与えるというのか？」

وَضَرَبَ لَنَا مَثَلٗا وَنَسِيَ خَلۡقَهُۥۖ قَالَ مَن
يُحۡيِ ٱلۡعِظَٰمَ وَهِيَ رَمِيمٞ ٧٨

79. 言ってやれ。「それを最初にお創りになったお方が、それに生を与えられる。かれは、全ての創造についてご存知のお方」。

قُلۡ يُحۡيِيهَا ٱلَّذِيٓ أَنشَأَهَآ أَوَّلَ مَرَّةٖۖ وَهُوَ
بِكُلِّ خَلۡقٍ عَلِيمٌ ٧٩

80. （かれは）あなた方のために（湿った）緑樹から、火を生じさせられるお方[2]。そしてどうであろう、あなた方はそこから火を起こすのである。

ٱلَّذِي جَعَلَ لَكُم مِّنَ ٱلشَّجَرِ ٱلۡأَخۡضَرِ نَارٗا
فَإِذَآ أَنتُم مِّنۡهُ تُوقِدُونَ ٨٠

81. 一体、諸天と大地をお創りになったお方は、彼らと同様のものを（再び）お創りになることが出来るお方ではないか？　いや、（かれにはお出来である、）そしてかれは創造主、全知者であられるのだ。

أَوَلَيۡسَ ٱلَّذِي خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَ
بِقَٰدِرٍ عَلَىٰٓ أَن يَخۡلُقَ مِثۡلَهُمۚ بَلَىٰ وَهُوَ
ٱلۡخَلَّٰقُ ٱلۡعَلِيمُ ٨١

82. 本当にかれのご命令というものは、かれが一事をお望みになった時、それに「あれ」と仰せられるだけで、それは存在するのである。

إِنَّمَآ أَمۡرُهُۥٓ إِذَآ أَرَادَ شَيۡـًٔا أَن يَقُولَ لَهُۥ كُن
فَيَكُونُ ٨٢

83. ならば、称え*あれ。その御手にこそ、全てのことの絶対なる王権が属するお方に。そしてかれの御許にこそ、あなた方は戻らされるのである。

فَسُبۡحَٰنَ ٱلَّذِي بِيَدِهِۦ مَلَكُوتُ كُلِّ شَيۡءٖ
وَإِلَيۡهِ تُرۡجَعُونَ ٨٣

1 創造主の力を、創造物の力と同様のものとして推測したことを表す（ムヤッサル 445 頁参照）。

2 つまり、ある物から全く反対の物を創造することが可能なお方は、死人に生を与え、蘇（よみがえ）らせることも可能である（前掲書、同頁参照）。

第 37 章
整列者章（アッ＝サーッファート）[1]

سُورَةُ الصَّافَّاتِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. 列をなす整列者たち[2]にかけて（、誓う）。[3]
2. また、力強く追い立てる者たち、
3. そして、教訓を読誦する者たちにかけて。[4]
4. （人々よ、）本当にあなた方の崇拝*すべきは、ただお一方、
5. 諸天と大地とその間にあるものの主*、いくつもの東[5]の主。
6. 本当にわれら*は、最下層の天を、星々という装飾で飾った。
7. 反抗的な、あらゆるシャイターン*からの護衛のため。

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

وَٱلصَّٰٓفَّٰتِ صَفّٗا ١
فَٱلزَّٰجِرَٰتِ زَجۡرٗا ٢
فَٱلتَّٰلِيَٰتِ ذِكۡرًا ٣
إِنَّ إِلَٰهَكُمۡ لَوَٰحِدٞ ٤
رَّبُّ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ وَمَا بَيۡنَهُمَا وَرَبُّ
ٱلۡمَشَٰرِقِ ٥
إِنَّا زَيَّنَّا ٱلسَّمَآءَ ٱلدُّنۡيَا بِزِينَةٍ ٱلۡكَوَاكِبِ ٦
وَحِفۡظٗا مِّن كُلِّ شَيۡطَٰنٖ مَّارِدٖ ٧

---

1 マッカ*啓示で、学者間の見解は一致。スーラ*の名称の由来は、スーラ*冒頭のアーヤ*に由来。アッラー*の崇拝*に従順な天使*が描写され、当時の人々が信じていた天使*の神性はもちろんのこと、それ以下の存在の神性も否定される。スーラ*全般を通して、あらゆる形のシルク*の否定と、アッラーの唯一性*の証明が提示されている。そしてその一環として、アッラー*とその預言者*に従い、シャイターン*に屈しなかった者たちと、その逆の状態にあった不信仰者*たちの来世での結末が、復活、清算、報（むく）いの確証と共に、過去の預言者*たちとその民の逸話を通して描写される。

2 アッラー*に仕えるため、整列する天使*たちのこと、とされる（アッ＝サァディー700 頁参照）。

3 これは、アッラー*の誓い。アッラー*は、かれがお望みになるもので誓われるが、人間はアッラー*以外のものにおいて誓ってはならない（ムヤッサル 446 頁参照）。

4 大半の解釈学者は、アーヤ*2 を「雲を追いやり、移動させる」天使*たちのことであるとし、このアーヤ*も「アッラー*の教訓を読誦する」天使*たちである、としている（アッ＝シャルビーニー3:448 参照）。

5 ここでの「東」は、同年において毎日異なる、太陽の昇る地点のこととされる。また、「陽の目を見る、全てのものの主」という説もある（アル＝バガウィー4:26 参照）。

8. 彼ら（シャイターン*）は、（天の）最上層の貴人たち（である天使*たちが、啓示について話すこと）に聞き耳を立てては、あらゆる方向から（流星で）撃たれ（、それを阻止され）る。

لَّا يَسَّمَّعُونَ إِلَى ٱلۡمَلَإِ ٱلۡأَعۡلَىٰ وَيُقۡذَفُونَ مِن كُلِّ
جَانِبٖ ٨

9. （彼らを）放逐すべく。そして彼らには（来世で）、常なる懲罰がある。

دُحُورٗاۖ وَلَهُمۡ عَذَابٞ وَاصِبٌ ٩

10. 但し、（話を）さっと掠め取り、貫く流星によって追尾される者は別である。[1]

إِلَّا مَنۡ خَطِفَ ٱلۡخَطۡفَةَ فَأَتۡبَعَهُۥ شِهَابٞ
ثَاقِبٞ ١٠

11. （使徒*よ、）彼ら（復活を否定する者たち）に聞いてみよ。一体彼らがより強力なのか、それともわれら*が創造した（これらの）ものか？ 本当にわれら*は、彼ら（の父祖アーダム*）をねばねばする泥土から創ったのだぞ[2]。

فَٱسۡتَفۡتِهِمۡ أَهُمۡ أَشَدُّ خَلۡقًا أَم مَّنۡ خَلَقۡنَآۚ إِنَّا
خَلَقۡنَٰهُم مِّن طِينٖ لَّازِبِۭ ١١

12. いや（使徒*よ）、あなたは（彼らが復活を否定することに）驚いた。彼らは（あなたの言葉を）嘲笑している。

بَلۡ عَجِبۡتَ وَيَسۡخَرُونَ ١٢

13. また喚起させられても、教訓を得ない。

وَإِذَا ذُكِّرُواْ لَا يَذۡكُرُونَ ١٣

14. そして（あなたの預言者*性を示す）御徴を見れば、嘲笑する。

وَإِذَا رَأَوۡاْ ءَايَةٗ يَسۡتَسۡخِرُونَ ١٤

15. また、彼らは言った。「これは紛れもない魔術に外ならない。

وَقَالُوٓاْ إِنۡ هَٰذَآ إِلَّا سِحۡرٞ مُّبِينٌ ١٥

16. 一体、死んで土と骨と化した後で、本当に私たちが蘇らされる身であるなどというのか？

أَءِذَا مِتۡنَا وَكُنَّا تُرَابٗا وَعِظَٰمًا أَءِنَّا لَمَبۡعُوثُونَ ١٦

17. そして、私たちの昔のご先祖様たちも？」

أَوَ ءَابَآؤُنَا ٱلۡأَوَّلُونَ ١٧

---

1 アル＝ヒジュル章 17-18、詩人たち章 212、223 とその訳注、王権章 5、ジン*章 8-9 も参照。

2 人間の創造の変遷については、巡礼*5 章、信仰者たち章 14 とその訳注を参照。

18. （使徒*よ、）言ってやれ。「ああ。あなた方は蔑まれた者となって（、蘇らされる）」。

قُلْ نَعَمْ وَأَنتُمْ دَاخِرُونَ ﴿١٨﴾

19. それは、ただの一声[1]に過ぎないのだぞ。するとどうであろうか、彼らは（蘇って、復活の日*の恐怖を）目の当たりにする。

فَإِنَّمَا هِيَ زَجْرَةٌ وَاحِدَةٌ فَإِذَا هُمْ يَنظُرُونَ ﴿١٩﴾

20. そして彼らは言う。「我らが災いよ！[2] これは報いの日*だ」。

وَقَالُوا يَا وَيْلَنَا هَٰذَا يَوْمُ الدِّينِ ﴿٢٠﴾

21. （すると、彼らに言われる。）「これが、あなた方が（現世で）嘘呼ばわりしていた裁決の日[3]である」。[4]

هَٰذَا يَوْمُ الْفَصْلِ الَّذِي كُنتُم بِهِ تُكَذِّبُونَ ﴿٢١﴾

22. （そして天使*たちに、こう言われる。）不正*を犯した者たちと彼らと同様の者たち[5]、そして彼らが崇めていた者たちを召集せよ。

۞ احْشُرُوا الَّذِينَ ظَلَمُوا وَأَزْوَاجَهُمْ وَمَا كَانُوا يَعْبُدُونَ ﴿٢٢﴾

23. アッラー*をよそに(崇めていた者たちを)。そして彼らを、火獄の道へと案内せよ。

مِن دُونِ اللَّهِ فَاهْدُوهُمْ إِلَىٰ صِرَاطِ الْجَحِيمِ ﴿٢٣﴾

24. また（地獄に入る前に）、彼らを止めよ。実に彼らは（現世での言動について）、問われる者たちなのだから。[6]

وَقِفُوهُمْ ۖ إِنَّهُم مَّسْئُولُونَ ﴿٢٤﴾

---

1 この「一声」は、二回目の角笛とされる（アル＝クルトゥビー15:72 参照）。家畜章 73 の訳注も参照。

2 「我らが災いよ」という表現については、食卓章 31 の訳注を参照。

3 善い行いの者と悪い行いの者が分けられる、「裁決の日」のこと（アル＝バガウィー4:29 参照）。

4 この言葉の主には、「アッラー*」「天使*」「地獄の民どうしの言葉」という説がある（アル＝クルトゥビー15:72 参照）。

5 「不正*を犯した者たち」とは、シルク*を犯した者たちのこと。それと「同様の者たち」には、「不信仰において同調していた彼らの妻たち」「彼らの仲間であるシャイターン*」といった解釈がある（前掲書 15:73 参照）。

6 食卓章 109、高壁章 8 の訳注も参照。

25. （そして彼らには、こう言われる。）「あなた方が互いに助け合わないのは、どういうことか？」

مَا لَكُمۡ لَا تَنَاصَرُونَ ٢٥

26. いや、彼らはその日、（アッラー*のご命令に）降参した者たちなのだ。

بَلۡ هُمُ ٱلۡيَوۡمَ مُسۡتَسۡلِمُونَ ٢٦

27. 彼ら（不信仰者*）は互いに近づき、質問し合う。

وَأَقۡبَلَ بَعۡضُهُمۡ عَلَىٰ بَعۡضٖ يَتَسَآءَلُونَ ٢٧

28. 彼ら（他人に倣って不信仰者*となった者たち）は、（自分たちを不信仰へと主導した者たちに）言う。「本当にあなた方は（私たちを迷わせるべく）、右側から私たちのもとにやって来ていた[1]」。[2]

قَالُوٓاْ إِنَّكُمۡ كُنتُمۡ تَأۡتُونَنَا عَنِ ٱلۡيَمِينِ ٢٨

29. 彼ら（不信仰へと主導した者たち）は、言う。「いや、あなた方は（そもそも）信仰者（となるべき者）ではなかったのだ。

قَالُواْ بَل لَّمۡ تَكُونُواْ مُؤۡمِنِينَ ٢٩

30. また、私たちには（あなた方を信仰から阻むことにおいて）、あなた方に対するいかなる（正当な）根拠[3]もなかった。いや、あなた方は放埒な民だったのである。

وَمَا كَانَ لَنَا عَلَيۡكُم مِّن سُلۡطَٰنِۭۖ بَلۡ كُنتُمۡ قَوۡمٗا طَٰغِينَ ٣٠

31. それで私たちに対して、我らが主*の御言葉[4]が実現したのだ。本当に私たちは、まさしく（懲罰を）味わう者たちなのである。

فَحَقَّ عَلَيۡنَا قَوۡلُ رَبِّنَآۖ إِنَّا لَذَآئِقُونَ ٣١

---

1 「右側から来る」の解釈には、「期待させるようなことを言いつつ」「誓いの言葉を添えつつ」「宗教的側面から」「力づくで」などの諸説がある（アル＝クルトゥビー15:75参照）。

2 同様の情景の描写として、雌牛章166-167、高壁章38、イブラーヒーム*章21-22、識別章17-19、物語章63、部族連合章67-68、サバア章31-33なども参照。

3 イブラーヒーム*章22の同語に関する訳注も参照。

4 この「御言葉」は、アッ＝サジダ*章13にある、懲罰の言葉とされる（アル＝バガウィー4:30参照）。

32. そして私たちは、あなた方を（正しい道から）逸脱させた。本当に私たちは、誤った者たちであった」。

فَأَغْوَيْنَٰكُمْ إِنَّا كُنَّا غَٰوِينَ ٣٢

33. （復活*の）その日、本当に彼らは（全員）、共に懲罰の中にある。

فَإِنَّهُمْ يَوْمَئِذٍ فِي ٱلْعَذَابِ مُشْتَرِكُونَ ٣٣

34. 本当にわれら*は罪悪者たちに対し、このようにするのだ。

إِنَّا كَذَٰلِكَ نَفْعَلُ بِٱلْمُجْرِمِينَ ٣٤

35. 実に彼らは、「アッラー*の外に、崇拝*すべきいかなるものもない（、と言いなさい）」と言われた時、（そうせずに）奢り高ぶっていた。

إِنَّهُمْ كَانُوٓا۟ إِذَا قِيلَ لَهُمْ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا ٱللَّهُ يَسْتَكْبِرُونَ ٣٥

36. そして、彼らは言うのだ。「一体、本当に私たちが、憑かれた[1]詩人（ムハンマド*のこと）ゆえに、自分たちの神々[2]を棄て去ろうか？」

وَيَقُولُونَ أَئِنَّا لَتَارِكُوٓا۟ ءَالِهَتِنَا لِشَاعِرٍ مَّجْنُونٍۭ ٣٦

37. いや、彼（ムハンマド*）は真実を携えてやって来たのであり、（彼以前に）遣わされた（預言）者*たち（がアッラー*について伝えたこと）を確証したのだ。

بَلْ جَآءَ بِٱلْحَقِّ وَصَدَّقَ ٱلْمُرْسَلِينَ ٣٧

38. 本当に（シルク*の徒よ、）あなた方はまさに、痛ましい懲罰を味わう者たちである。

إِنَّكُمْ لَذَآئِقُوا۟ ٱلْعَذَابِ ٱلْأَلِيمِ ٣٨

39. そしてあなた方が（来世で）報われるのは、自分たちが（現世で）行っていたこと（によるもの）以外の、何ものでもない。

وَمَا تُجْزَوْنَ إِلَّا مَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ٣٩

40. 但し、精選されたアッラー*の僕たち[3]は別であるが。

إِلَّا عِبَادَ ٱللَّهِ ٱلْمُخْلَصِينَ ٤٠

---

1 アル＝ヒジュル章 6「憑かれた者」の訳注も参照。

2 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

3 「精選されたアッラー*の僕」については、ユースフ*章 24 の訳注を参照。

41. それらの者たちには、周知の糧（かて）[1]がある。

42. （それは）果実であり、彼らは厚遇（こうぐう）される者たち。

43. 安寧（あんねい）の楽園で、

44. 互いに向かい合いつつ[2]、寝台の上に。

45. （酒の）湧（わ）き水からの盃（さかずき）が、彼らに回される。

46. （その盃（さかずき）は）白く、飲む者たちにとって美味なもの。

47. そこには（頭や腹の）痛みもなければ、それゆえに理性を失（うしな）うこともない。

48. また彼らのもとには、（自分の夫だけに）視線を定めた[3]、麗（うるわ）しい眼の女性たちがいる。

49. 彼女たちはまるで、秘められた卵[4]のよう。

50. 彼らは互いに近づき、（現世における彼らの状態について、）質問し合う。

51. 彼ら（天国の民）の内の、ある者は言う。「本当に私には（現世で）、付きまとう者[5]がありました。

أُولَٰٓئِكَ لَهُمۡ رِزۡقٞ مَّعۡلُومٞ ٤١
فَوَٰكِهُۖ وَهُم مُّكۡرَمُونَ ٤٢
فِي جَنَّٰتِ ٱلنَّعِيمِ ٤٣
عَلَىٰ سُرُرٖ مُّتَقَٰبِلِينَ ٤٤
يُطَافُ عَلَيۡهِم بِكَأۡسٖ مِّن مَّعِينِۭ ٤٥
بَيۡضَآءَ لَذَّةٖ لِّلشَّٰرِبِينَ ٤٦
لَا فِيهَا غَوۡلٞ وَلَا هُمۡ عَنۡهَا يُنزَفُونَ ٤٧
وَعِندَهُمۡ قَٰصِرَٰتُ ٱلطَّرۡفِ عِينٞ ٤٨
كَأَنَّهُنَّ بَيۡضٞ مَّكۡنُونٞ ٤٩
فَأَقۡبَلَ بَعۡضُهُمۡ عَلَىٰ بَعۡضٖ يَتَسَآءَلُونَ ٥٠
قَالَ قَآئِلٞ مِّنۡهُمۡ إِنِّي كَانَ لِي قَرِينٞ ٥١

---

1 その永遠性、美味さといった特質において、「周知の」糧（アル＝バイダーウィー5:11 参照）。

2 アル＝ヒジュル章 47 の訳注を参照。

3 天国の妻は貞淑で、夫以外の誰のそばにも近づかない。そしてそれは彼女の夫もまた美しく、完全であるためである。あるいは、彼女が夫だけを見つめるのは、夫が完全な美しさを備えた彼女だけを見つめているからなのである（アッ＝サアディー702 頁参照）。雌牛章 25「純潔な妻」、及び煙霧章 54 の訳注も参照。

4 「秘められた卵」の意味には、「その羽で風や埃（ほこり）から守った、ダチョウの卵。黄色地に白身がかった色で、最も美しい女性の色の象徴」「殻（から）が割れる前の、卵の中身のこと」「卵の薄い殻」「真珠のたとえ」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー15:80-81 参照）。

5 これには「シャイターン*」「人間」「兄弟」などの説があるが、いずれにせよ復活を否定する者であった（アル＝バガウィー4:32 参照）。

52. 彼は（こう）言っていました。『本当にあなたは、（復活を）信じるというのか？

يَقُولُ أَءِنَّكَ لَمِنَ ٱلْمُصَدِّقِينَ ٥٢

53. 死んで土と骨と化した後で、本当に私たちが（蘇らされ、自分の行いで）報われる身であると？』」

أَءِذَا مِتْنَا وَكُنَّا تُرَابًا وَعِظَٰمًا أَءِنَّا لَمَدِينُونَ ٥٣

54. 彼（天国の民のある者）は、（仲間たちに）言う。「あなた方は、（現世で付きまとっていたその者の結末を）見てみますか？」

قَالَ هَلْ أَنتُم مُّطَّلِعُونَ ٥٤

55. それで見てみると、彼が火獄の真ん中にいるのを目にする。

فَٱطَّلَعَ فَرَءَاهُ فِى سَوَآءِ ٱلْجَحِيمِ ٥٥

56. 彼は（現世で付きまとっていた者に、）言う。「アッラー*に誓って。本当にあなたは、私のことを（信仰の妨害によって、）まさしく（破滅へと）転落させるところだった。

قَالَ تَٱللَّهِ إِن كِدتَّ لَتُرْدِينِ ٥٦

57. そしてもし、（信仰という）我が主*の恩恵がなければ、私は（あなたと共に懲罰へと）連行される者となっていた。

وَلَوْلَا نِعْمَةُ رَبِّى لَكُنتُ مِنَ ٱلْمُحْضَرِينَ ٥٧

58. 私たちは（永遠に安寧を味わう者であり、）死にゆく者ではないのではないか？

أَفَمَا نَحْنُ بِمَيِّتِينَ ٥٨

59. ただ、（現世で）一度の死だけ（を味わったのみ）であり、（天国に入った後、）私たちは罰されることなどないのではないか？

إِلَّا مَوْتَتَنَا ٱلْأُولَىٰ وَمَا نَحْنُ بِمُعَذَّبِينَ ٥٩

60. 本当にこれこそは、まさに偉大なる勝利。

إِنَّ هَٰذَا لَهُوَ ٱلْفَوْزُ ٱلْعَظِيمُ ٦٠

61. このようなもの（の獲得）のためにこそ、勤行者たちは、（現世で）勤行するがよい」。[1]

لِمِثْلِ هَٰذَا فَلْيَعْمَلِ ٱلْعَٰمِلُونَ ٦١

---

1 アーヤ*60-61 は、天国の民の言葉ではなく、アッラー*の御言葉という説もある（アル＝バイダーウィー5:14 参照）。

62. 一体それが、より善い御もてなしなのか、それともザックームの木[1]か？

أَذَٰلِكَ خَيۡرٞ نُّزُلًا أَمۡ شَجَرَةُ ٱلزَّقُّومِ ٦٢

63. 本当にわれら*はそれを、不正*者たちの試練としたのだ。

إِنَّا جَعَلۡنَٰهَا فِتۡنَةٗ لِّلظَّٰلِمِينَ ٦٣

64. 実にそれは、火獄の奥底に生え出る木。

إِنَّهَا شَجَرَةٞ تَخۡرُجُ فِيٓ أَصۡلِ ٱلۡجَحِيمِ ٦٤

65. その実は、あたかもシャイターン*の頭のよう（に醜い）。

طَلۡعُهَا كَأَنَّهُۥ رُءُوسُ ٱلشَّيَٰطِينِ ٦٥

66. 本当に彼ら（シルク*の徒）は、まさしくそこから食べ、それで腹を満たすことになる。

فَإِنَّهُمۡ لَأٓكِلُونَ مِنۡهَا فَمَالِـُٔونَ مِنۡهَا ٱلۡبُطُونَ ٦٦

67. それから本当に彼らには、その上に煮えたぎる湯の混じった（飲み）物がある。

ثُمَّ إِنَّ لَهُمۡ عَلَيۡهَا لَشَوۡبٗا مِّنۡ حَمِيمٖ ٦٧

68. それから彼らの戻り場所こそは、まさに火獄なのだ。

ثُمَّ إِنَّ مَرۡجِعَهُمۡ لَإِلَى ٱلۡجَحِيمِ ٦٨

69. 本当に彼らは、自分たちの先祖が（シルク*を犯して）迷っているのを認め、

إِنَّهُمۡ أَلۡفَوۡاْ ءَابَآءَهُمۡ ضَآلِّينَ ٦٩

70. その跡を辿って急ぐのだから（、そのような結末となったのである）。

فَهُمۡ عَلَىٰٓ ءَاثَٰرِهِمۡ يُهۡرَعُونَ ٧٠

71. 彼ら以前にも確かに、昔の人々の多くが（真理から）迷った。

وَلَقَدۡ ضَلَّ قَبۡلَهُمۡ أَكۡثَرُ ٱلۡأَوَّلِينَ ٧١

72. そしてわれら*は確かに、彼らに警告者たちを遣わしたのである。

وَلَقَدۡ أَرۡسَلۡنَا فِيهِم مُّنذِرِينَ ٧٢

73. ならば、見てみるがよい。警告された者たちの結末がいかなるものであったかを？

فَٱنظُرۡ كَيۡفَ كَانَ عَٰقِبَةُ ٱلۡمُنذَرِينَ ٧٣

74. 但し、精選されたアッラー*の僕たち[2]は別であるが。

إِلَّا عِبَادَ ٱللَّهِ ٱلۡمُخۡلَصِينَ ٧٤

1 夜の旅章 60「呪われた木」の訳注、および煙霧章 43-46、出来事章 52-53 を参照。

2 「精選されたアッラー*の僕」については、ユースフ*章 24 の訳注を参照。

75. ヌーフ*は確かに、われら*に呼びかけた[1]。（彼に）応(こた)えられるお方の、何とまさしく素晴(すば)らしいことか。

وَلَقَدْ نَادَىٰنَا نُوحٌ فَلَنِعْمَ ٱلْمُجِيبُونَ ٧٥

76. そしてわれら*は、彼とその家族をこの上ない苦悩[2]から救った。

وَنَجَّيْنَٰهُ وَأَهْلَهُۥ مِنَ ٱلْكَرْبِ ٱلْعَظِيمِ ٧٦

77. また、われら*はその子孫を（溺(おぼ)れずに）生き残る者とした。

وَجَعَلْنَا ذُرِّيَّتَهُۥ هُمُ ٱلْبَاقِينَ ٧٧

78. そして後世の人々の内に、彼へ（の賛美(さんび)を）残しておいた。[3]

وَتَرَكْنَا عَلَيْهِ فِى ٱلْـَٔاخِرِينَ ٧٨

79. 全創造物(そうぞう)において、ヌーフ*に平安を。[4]

سَلَٰمٌ عَلَىٰ نُوحٍ فِى ٱلْعَٰلَمِينَ ٧٩

80. 本当にわれら*はこのように、善を尽(つ)くす者[5]たちに報(むく)いるのだ。

إِنَّا كَذَٰلِكَ نَجْزِى ٱلْمُحْسِنِينَ ٨٠

81. 実に彼（ヌーフ*）は、信仰者であるわれら*の僕(しもべ)たちの一人である。

إِنَّهُۥ مِنْ عِبَادِنَا ٱلْمُؤْمِنِينَ ٨١

82. それからわれら*は、（信仰者ではない）他の者たちを溺(おぼ)れさせた。

ثُمَّ أَغْرَقْنَا ٱلْـَٔاخَرِينَ ٨٢

83. また、彼（ヌーフ*）の党派[6]の一人が、まさしくイブラーヒーム*である。

۞ وَإِنَّ مِن شِيعَتِهِۦ لَإِبْرَٰهِيمَ ٨٣

---

1 呼びかけた祈願の内容については、月章 10、ヌーフ*章 26-27 を参照。また、ヌーフ*とその民の間の出来事については、高壁章 59-64、フード*章 25-48、信仰者たち章 23-30、詩人たち章 105-122、月章 9-17 なども参照。

2 「この上ない苦悩」については、預言者*たち章 76 の訳注を参照。

3 アッラー*は復活の日*まで、彼が他の預言者*たちや民の間で、賛美され、褒（ほ）めたたえるようにされた（アル＝バガウィー4:34 参照）。

4 一説に、この「平安」はアッラー*からの御言葉で、誰からも彼が悪く言われることはない、というアッラー*からの保証のこと。また一説に、これは彼が復活の日*まで、「平安を」という挨拶（家畜章 54 の訳注を参照）を受け続けるということ（イブン・アティーヤ 4:478 参照）。

5 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

6 その宗教と手法において、同じ党派であったということ（ムヤッサル 449 頁参照）。

84. 彼が健全な心[1]と共に、その主*の御許へやって来た時[2]のこと。

إِذۡ جَآءَ رَبَّهُۥ بِقَلۡبٖ سَلِيمٍ ٨٤

85. 彼がその父と民に、（こう）言った時。「あなた方は、何を崇めているのですか？

إِذۡ قَالَ لِأَبِيهِ وَقَوۡمِهِۦ مَاذَا تَعۡبُدُونَ ٨٥

86. でっち上げ、つまりアッラー*以外の神々[3]を、あなた方は求めているのですか？

أَئِفۡكًا ءَالِهَةٗ دُونَ ٱللَّهِ تُرِيدُونَ ٨٦

87. 全創造物の主*についての、あなた方のご推測はいかがなものなのですか？[4]」

فَمَا ظَنُّكُم بِرَبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٨٧

88. そして彼（イブラーヒーム*）は、星々の方へと視線をやると、[5]

فَنَظَرَ نَظۡرَةٗ فِي ٱلنُّجُومِ ٨٨

89. （民に）言った。「本当に私は、病気なのです」。

فَقَالَ إِنِّي سَقِيمٞ ٨٩

90. こうして彼らは背を向けて、（イブラーヒーム*を後に）立ち去った。

فَتَوَلَّوۡاْ عَنۡهُ مُدۡبِرِينَ ٩٠

91. それから彼（イブラーヒーム*）は、彼らの神々（彫像）のところへ赴き、（蔑んで）言った。「あなた方は、（供え物の食事を）食べないのか？

فَرَاغَ إِلَىٰٓ ءَالِهَتِهِمۡ فَقَالَ أَلَا تَأۡكُلُونَ ٩١

92. あなた方が喋らないのは、どういうことか？」

مَا لَكُمۡ لَا تَنطِقُونَ ٩٢

---

1 「健全な心」については、詩人たち章 89 の訳注を参照。

2 「主*の御許へやって来た時」とは、アッラーの唯一性*とかれへの服従へと人々を招いた時のこと、あるいは、彼が火の中に放り込まれた時のことを指す、とされる（アル＝クルトゥビー15:91 参照）。イブラーヒーム*とその父親、及びその民のやり取りについては、家畜章 74-82、マルヤム*章 42-48、預言者*たち章 52-70、詩人たち章 70－89、金の装飾章 26-28 も参照。

3 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

4 もしあなた方がアッラー*にシルク*を犯したら、かれはあなた方をどうされると思うのか、ということ（ムヤッサル 449 頁参照）。

5 人々と共に祭日に出かけなくても済むよう、言い訳を思案した様子を表す（前掲書、同頁参照）。そしてそれは彼らの不在中に、彫像を破壊するためであった（イブン・カスィール 7:24 参照）。この一連の出来事については、預言者*たち章 57-70 とその訳注も参照。

93. そして彼は右の手で殴り（壊し）つつ、それらを回った。

فَرَاغَ عَلَيۡهِمۡ ضَرۡبَۢا بِٱلۡيَمِينِ ٩٣

94. こうして彼ら（民）は、彼（イブラーヒーム*）のもとに、駆け足でやって来た。

فَأَقۡبَلُوٓاْ إِلَيۡهِ يَزِفُّونَ ٩٤

95. 彼（イブラーヒーム*）は言った。「一体あなた方は、自分たちが彫ったものを崇めるのですか？

قَالَ أَتَعۡبُدُونَ مَا تَنۡحِتُونَ ٩٥

96. アッラー*があなた方と､あなた方が行うもの[1]をお創りになったというのに？」

وَٱللَّهُ خَلَقَكُمۡ وَمَا تَعۡمَلُونَ ٩٦

97. 彼らは言った。「彼のために建屋を建て（て、そこに火をつけ）、彼を火獄の中へと放り込んでしまえ」。[2]

قَالُواْ ٱبۡنُواْ لَهُۥ بُنۡيَٰنٗا فَأَلۡقُوهُ فِي ٱلۡجَحِيمِ ٩٧

98. こうして彼らは彼（イブラーヒーム*）に策略を望んだが、われら*は彼らを敗北者とした。

فَأَرَادُواْ بِهِۦ كَيۡدٗا فَجَعَلۡنَٰهُمُ ٱلۡأَسۡفَلِينَ ٩٨

99. また、彼は言った。「私はまさしく、我が主*の御許へと赴く[3]者である。かれは私を、お導き下さろう。

وَقَالَ إِنِّي ذَاهِبٌ إِلَىٰ رَبِّي سَيَهۡدِينِ ٩٩

100. 我が主*よ、私に正しい者*たちから（の者となる子供を）、お授け下さい」。

رَبِّ هَبۡ لِي مِنَ ٱلصَّٰلِحِينَ ١٠٠

101. それでわれら*は彼に、寛大な（者となる）男児（イスマーイール*）の吉報を伝えた。

فَبَشَّرۡنَٰهُ بِغُلَٰمٍ حَلِيمٖ ١٠١

102. こうして、彼（イスマーイール*）が彼（イブラーヒーム*）と共に働くようになるま

فَلَمَّا بَلَغَ مَعَهُ ٱلسَّعۡيَ قَالَ يَٰبُنَيَّ إِنِّيٓ أَرَىٰ فِي
ٱلۡمَنَامِ أَنِّيٓ أَذۡبَحُكَ فَٱنظُرۡ مَاذَا تَرَىٰۚ قَالَ

1 「あなた方が行うもの」とは、「行為一般」または「作成した彫像のこと」（イブン・カスィール 7:24 頁参照）。

2 預言者*たち章 69-70 とその訳注も参照。

3 不信仰の民*の土地から、アッラー*の崇拝*が出来る土地へと移住すること（ムヤッサル 449 頁参照）。預言者*たち章 71 とその訳注も参照。

で成長した時、彼（イブラーヒーム*）は言った。「息子よ、実に私は夢で、私がお前のことを屠るのを見る[1]のだ。ならば、お前はどう思うか、考えてみるがよい」。彼（イスマーイール*）は言った。「お父さん、あなたが命じられることをして下さい。あなたは――アッラー*がお望みなら――、私が忍耐*強い者であることを見出すでしょう」。

يَٰٓأَبَتِ ٱفۡعَلۡ مَا تُؤۡمَرُۖ سَتَجِدُنِيٓ إِن
شَآءَ ٱللَّهُ مِنَ ٱلصَّٰبِرِينَ ١٠٢

103. こうして彼らが（主*のご命令に）服し、彼（イブラーヒーム*）が彼（イスマーイール*）を、こめかみを（地面に）つけて（横向きに）倒した時、

فَلَمَّآ أَسۡلَمَا وَتَلَّهُۥ لِلۡجَبِينِ ١٠٣

104. われら*は彼に呼びかけた。「イブラーヒーム*よ、

وَنَٰدَيۡنَٰهُ أَن يَٰٓإِبۡرَٰهِيمُ ١٠٤

105. あなたは確かに夢を確証した。実にわれら*は善を尽くす者[2]たちに対し、このように報いるのだ。

قَدۡ صَدَّقۡتَ ٱلرُّءۡيَآۚ إِنَّا كَذَٰلِكَ نَجۡزِي
ٱلۡمُحۡسِنِينَ ١٠٥

106. 本当にこれこそはまさしく、紛れもなき試練であった」。

إِنَّ هَٰذَا لَهُوَ ٱلۡبَلَٰٓؤُاْ ٱلۡمُبِينُ ١٠٦

107. そしてわれら*は彼（イスマーイール*）を、この上ない犠牲で償った。[3]

وَفَدَيۡنَٰهُ بِذِبۡحٍ عَظِيمٖ ١٠٧

108. また後世の人々の内に、彼へ（の賛美を）残しておいた。[4]

وَتَرَكۡنَا عَلَيۡهِ فِي ٱلۡأٓخِرِينَ ١٠٨

---

1 つまり、アッラー*が夢の中で彼を屠（ほふ）るようにご命じになる、ということ。預言者*の夢は啓示である、と言われる（アッ＝サァディー705 頁参照）。

2 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

3 「この上ない屠り物」とは大きな羊のこと。これがイスマーイール*の代わりに屠られた（ムヤッサル 450 頁参照）。

4 この意味については、アーヤ*78 の訳注を参照。

109. 全創造物において、イブラーヒーム*に平安を。[1]

سَلَٰمٌ عَلَىٰٓ إِبۡرَٰهِيمَ ١٠٩

110. 本当にわれら*はこのように、善を尽くす者[2]たちに報いるのだ。

كَذَٰلِكَ نَجۡزِي ٱلۡمُحۡسِنِينَ ١١٠

111. 実に彼（イブラーヒーム*）は、信仰者であるわれら*の僕たちの一人である。

إِنَّهُۥ مِنۡ عِبَادِنَا ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ١١١

112. またわれら*は彼（イブラーヒーム*）に、（後に）正しい者*の一人である預言者*となる、イスハーク*（誕生）の吉報を伝えた。

وَبَشَّرۡنَٰهُ بِإِسۡحَٰقَ نَبِيّٗا مِّنَ ٱلصَّٰلِحِينَ ١١٢

113. そしてわれら*は、彼（イブラーヒーム*）とイスハーク*を祝福した。彼ら二人の子孫には、善を尽くす者[3]もいれば、自らに明らかな不正*を働く者もいる。

وَبَٰرَكۡنَا عَلَيۡهِ وَعَلَىٰٓ إِسۡحَٰقَۚ وَمِن ذُرِّيَّتِهِمَا
مُحۡسِنٞ وَظَالِمٞ لِّنَفۡسِهِۦ مُبِينٞ ١١٣

114. またわれら*は確かに、ムーサー*とハールーン*に（預言者*としての使命という）恵みを授けた。

وَلَقَدۡ مَنَنَّا عَلَىٰ مُوسَىٰ وَهَٰرُونَ ١١٤

115. そして彼ら二人とその民（イスラーイールの子ら*）を、この上ない苦悩[4]から救った。

وَنَجَّيۡنَٰهُمَا وَقَوۡمَهُمَا مِنَ ٱلۡكَرۡبِ ٱلۡعَظِيمِ ١١٥

116. またわれら*は彼らを助け、彼らはまさに（フィルアウン*とその民に対する）勝利者となった。

وَنَصَرۡنَٰهُمۡ فَكَانُواْ هُمُ ٱلۡغَٰلِبِينَ ١١٦

117. そしてわれら*は彼ら二人に解明の啓典[5]を授け、

وَءَاتَيۡنَٰهُمَا ٱلۡكِتَٰبَ ٱلۡمُسۡتَبِينَ ١١٧

---

1 この意味については、アーヤ*79 の訳注を参照。

2 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

3 アーヤ*110 の訳注を参照。

4 彼らの「苦悩」とは、溺死（できし）のこと（ユーヌス*章 90-92、ター・ハー章 77-78、詩人たち章 61-66、煙霧章 24 参照）、またはフィルアウン*に対する隷属（れいぞく）状態と抑圧（雌牛章 49 とその訳注を参照）のこと。

5 トーラー*のこと。高壁章 145 の訳注も参照。

118. 彼ら二人をまっすぐな道（イスラーム*）へと導(みちび)いた。

وَهَدَيْنَٰهُمَا ٱلصِّرَٰطَ ٱلْمُسْتَقِيمَ ﴿١١٨﴾

119. また後世の人々の内に、彼ら二人へ（の賛(さん)美(び)を）残しておいた。[1]

وَتَرَكْنَا عَلَيْهِمَا فِى ٱلْءَاخِرِينَ ﴿١١٩﴾

120. 全創造(そうぞう)物において、ムーサー*とハールーン*に平安を。[2]

سَلَٰمٌ عَلَىٰ مُوسَىٰ وَهَٰرُونَ ﴿١٢٠﴾

121. 本当にわれら*はこのように、善を尽(つ)くす者[3]たちに報(むく)いるのだ。

إِنَّا كَذَٰلِكَ نَجْزِى ٱلْمُحْسِنِينَ ﴿١٢١﴾

122. 実に彼ら二人は、信仰者であるわれら*の僕(しもべ)たちの内の者である。

إِنَّهُمَا مِنْ عِبَادِنَا ٱلْمُؤْمِنِينَ ﴿١٢٢﴾

123. また実にイルヤース*は、まさしく（預(よ)言者(げんしゃ)*として）遣(つか)わされた者の一人であった。

وَإِنَّ إِلْيَاسَ لَمِنَ ٱلْمُرْسَلِينَ ﴿١٢٣﴾

124. 彼がその民に、（こう）言った時。「一体あなた方は、（アッラー*を）畏(おそ)れ*ないのか？

إِذْ قَالَ لِقَوْمِهِۦٓ أَلَا تَتَّقُونَ ﴿١٢٤﴾

125. 一体あなた方はバァル[4]に祈り、創造(そうぞう)する者の内でも最善のお方（アッラー*）を放ったらかしにするというのか？

أَتَدْعُونَ بَعْلًا وَتَذَرُونَ أَحْسَنَ ٱلْخَٰلِقِينَ ﴿١٢٥﴾

126. アッラー*を、つまりあなた方の主(しゅ)*であり、あなた方の昔の先祖の主(しゅ)を？」

ٱللَّهَ رَبَّكُمْ وَرَبَّ ءَابَآئِكُمُ ٱلْأَوَّلِينَ ﴿١٢٦﴾

127. そして彼らは、彼（イルヤース*）を嘘(うそ)つき呼ばわりした。ゆえに、本当に彼らは（復活の日*、）必(かなら)ずや（懲罰(ちょうばつ)へと）連行される者となる。

فَكَذَّبُوهُ فَإِنَّهُمْ لَمُحْضَرُونَ ﴿١٢٧﴾

---

1 この意味については、アーヤ*78 の訳注を参照。

2 この意味については、アーヤ*79 の訳注を参照。

3 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

4 「バァル」とは、彫像の名とされる（アッ＝サァディー707 頁参照）。

128. 但し、精選されたアッラー*の僕たち[1]は別であるが。 إِلَّا عِبَادَ ٱللَّهِ ٱلۡمُخۡلَصِينَ ١٢٨

129. またわれら*は、後世の人々の内に、彼へ（の賛美を）残しておいた。[2] وَتَرَكۡنَا عَلَيۡهِ فِي ٱلۡأٓخِرِينَ ١٢٩

130. 全創造物において、イル・ヤースィーン[3]に平安を。[4] سَلَٰمٌ عَلَىٰٓ إِلۡ يَاسِينَ ١٣٠

131. 本当にわれら*はこのように、善を尽くす者[5]たちに報いるのだ。 إِنَّا كَذَٰلِكَ نَجۡزِي ٱلۡمُحۡسِنِينَ ١٣١

132. 実に彼（イルヤース*）は、信仰者であるわれら*の僕たちの一人である。 إِنَّهُۥ مِنۡ عِبَادِنَا ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ١٣٢

133. また、実にルート*は、まさに（預言者*として）遣わされた者の一人であった。[6] وَإِنَّ لُوطٗا لَّمِنَ ٱلۡمُرۡسَلِينَ ١٣٣

134. われら*が彼とその家族を、皆救い出した時のこと。 إِذۡ نَجَّيۡنَٰهُ وَأَهۡلَهُۥٓ أَجۡمَعِينَ ١٣٤

135. 但し、残っ（て滅ぼされ）た者たちの一人であった老女[7]だけは、別だったが。 إِلَّا عَجُوزٗا فِي ٱلۡغَٰبِرِينَ ١٣٥

136. それからわれら*は、（信仰者ではない）他の者たちを滅ぼした。 ثُمَّ دَمَّرۡنَا ٱلۡأٓخَرِينَ ١٣٦

137. そして（マッカ*の民よ）、本当にあなた方はまさしく、彼ら（ルート*の民）のもとを朝に通り過ぎている。[8] وَإِنَّكُمۡ لَتَمُرُّونَ عَلَيۡهِم مُّصۡبِحِينَ ١٣٧

---

1 「精選されたアッラー*の僕」については、ユースフ*章24の訳注を参照。

2 この意味については、アーヤ*78の訳注を参照。

3 「イル・ヤースィーン」の解釈としては、「イルヤース*自身の別称」「イルヤース*の信徒たち」など、諸説ある（アル＝バイダーウィー5:26参照）。

4 この意味については、アーヤ*79の訳注を参照。

5 「善を尽くす者」については、蜜蜂章128の訳注を参照。

6 彼とその民の間に起こった話については、高壁章 80-84、フード*章 69-83、詩人たち章160-175、蟻章54-58、蜘蛛章28-35、月章33-40も参照。

7 この「老女」については、詩人たち章171の訳注を参照。

8 アル＝ヒジュル章76とその訳注を参照。

138. また、夜にも。一体、あなた方は弁えないのか？

وَبِٱلَّيۡلِۚ أَفَلَا تَعۡقِلُونَ ١٣٨

139. また実にユーヌス*は、まさに（預言者*として）遣わされた者の一人であった。

وَإِنَّ يُونُسَ لَمِنَ ٱلۡمُرۡسَلِينَ ١٣٩

140. 彼が（自分の民に立腹して、）満載の船へと逃げた時のこと。[1]

إِذۡ أَبَقَ إِلَى ٱلۡفُلۡكِ ٱلۡمَشۡحُونِ ١٤٠

141. そしてくじ引きをし、彼（ユーヌス*）は負けた内の者となった。[2]

فَسَاهَمَ فَكَانَ مِنَ ٱلۡمُدۡحَضِينَ ١٤١

142. こうして（ユーヌス*は海に落とされたが）、大魚が彼を呑み込んだ。彼は咎められるべき者であった。

فَٱلۡتَقَمَهُ ٱلۡحُوتُ وَهُوَ مُلِيمٞ ١٤٢

143. もし彼が、（アッラー*を）よく称える*者の一人でなかったなら、[3]

فَلَوۡلَآ أَنَّهُۥ كَانَ مِنَ ٱلۡمُسَبِّحِينَ ١٤٣

144. 彼らが蘇らされる（復活*の）日まで、その腹の中に留まったことであろう。[4]

لَلَبِثَ فِي بَطۡنِهِۦٓ إِلَىٰ يَوۡمِ يُبۡعَثُونَ ١٤٤

145. こうしてわれら*は彼を（大魚の腹の内から）、弱り切った状態で、不毛の地に放り投げた。

۞فَنَبَذۡنَٰهُ بِٱلۡعَرَآءِ وَهُوَ سَقِيمٞ ١٤٥

146. そしてわれら*は彼の上に、瓜の木[5]を一本、生やしてやった。

وَأَنۢبَتۡنَا عَلَيۡهِ شَجَرَةٗ مِّن يَقۡطِينٖ ١٤٦

---

1 この出来事については、預言者*たち章 87 とその訳注を参照。

2 船は荒波に襲われ、乗員たちは船の転覆（てんぷく）を恐れた。それで彼らは船の重量を減らすため、誰が犠牲になるかで、くじ引きをした（ムヤッサル 451 頁参照）。

3 それ以前に行っていた多くの崇拝*行為や正しい行い*がなかったら、という意味とされる。預言者*たち章 87 に描写されている、この時の彼の言葉も参照（前掲書、同頁参照）。

4 そこが彼の墓となったであろう、という意味（前掲書、同頁参照）。

5 これにより彼は日陰と、その他の益を得た（前掲書、同頁参照）。

147. またわれら*は彼を十万人、いや、それ以上（の民）へと遣わした。[1]

وَأَرۡسَلۡنَٰهُ إِلَىٰ مِاْئَةِ أَلۡفٍ أَوۡ يَزِيدُونَ ١٤٧

148. そして彼らは信じ、われら*は彼らを（彼らに死が訪れる）その時まで楽しませておいた。

فَـَٔامَنُواْ فَمَتَّعۡنَٰهُمۡ إِلَىٰ حِينٖ ١٤٨

149. ならば（使徒*よ）、彼ら（マッカ*の不信仰者*たち）に尋ねよ。一体あなたの主*には娘があり、彼らには息子があるのか、と。[2]

فَٱسۡتَفۡتِهِمۡ أَلِرَبِّكَ ٱلۡبَنَاتُ وَلَهُمُ ٱلۡبَنُونَ ١٤٩

150. それとも、われら*は彼らが立ち会う中、天使*を女として創ったのか？

أَمۡ خَلَقۡنَا ٱلۡمَلَٰٓئِكَةَ إِنَٰثٗا وَهُمۡ
شَٰهِدُونَ ١٥٠

151. 本当に彼らはでっち上げて、まさに（こう）言っているのではないか。

أَلَآ إِنَّهُم مِّنۡ إِفۡكِهِمۡ لَيَقُولُونَ ١٥١

152. 「アッラー*は子供をお産みになった」。本当に彼らは、まさしく嘘つきなのだ。

وَلَدَ ٱللَّهُ وَإِنَّهُمۡ لَكَٰذِبُونَ ١٥٢

153. 一体かれが、息子を差しおいて娘をお選びになったというのか？

أَصۡطَفَى ٱلۡبَنَاتِ عَلَى ٱلۡبَنِينَ ١٥٣

154. 一体、あなた方はどうしたことか？ あなた方はいかに（不当な）決め方をするのか？

مَا لَكُمۡ كَيۡفَ تَحۡكُمُونَ ١٥٤

155. 一体、あなた方は教訓を受けないのか？

أَفَلَا تَذَكَّرُونَ ١٥٥

156. いや、一体あなた方には（そのような主張への、）紛れもない証拠でもあるというのか？

أَمۡ لَكُمۡ سُلۡطَٰنٞ مُّبِينٞ ١٥٦

157. では、あなた方の啓典を持って来てみよ。もし、あなた方が本当のことを言っているのなら。

فَأۡتُواْ بِكِتَٰبِكُمۡ إِن كُنتُمۡ صَٰدِقِينَ ١٥٧

---

1 そもそもユーヌス*が預言者*として遣わされたのは、大魚から出た後のことであるという説もある。また大魚から出た後、彼が自分の民だけでなく、別の民にも遣わされたのだ、という説もある（イブン・カスィール 7:40 参照）。

2 このアーヤ*の意味については、蜜蜂章 57 とその訳注を参照。

158. 彼ら（シルク*の徒）は、かれ（アッラー*）とジン*の間に近親関係をもうけた。そしてジン*は確かに、彼ら（シルク*の徒）が（復活の日*、懲罰へと）まさしく連行されることを、知っているのだ。[1]

وَجَعَلُوا۟ بَيْنَهُۥ وَبَيْنَ ٱلْجِنَّةِ نَسَبًا ۚ وَلَقَدْ عَلِمَتِ ٱلْجِنَّةُ إِنَّهُمْ لَمُحْضَرُونَ ١٥٨

159. 彼らの言うようなことから（無縁な）、アッラー*に称え*あれ。[2]

سُبْحَـٰنَ ٱللَّهِ عَمَّا يَصِفُونَ ١٥٩

160. 但し、精選されたアッラー*の僕たち[3]は別であるが。[4]

إِلَّا عِبَادَ ٱللَّهِ ٱلْمُخْلَصِينَ ١٦٠

161. （シルク*の徒よ、）本当にあなた方と、あなた方が（アッラー*を差しおいて）崇めているもの、

فَإِنَّكُمْ وَمَا تَعْبُدُونَ ١٦١

162. あなた方はそれゆえに、（誰かを）迷わせる（ことが出来る）者ではない、

مَآ أَنتُمْ عَلَيْهِ بِفَـٰتِنِينَ ١٦٢

163. （不信仰ゆえに）火獄に入り炙られる（ことになる、とアッラー*によって定められた）者を除いては。

إِلَّا مَنْ هُوَ صَالِ ٱلْجَحِيمِ ١٦٣

164. （天使*たちは、言う。）「私たちの内で、（天に）特定の持ち場[5]がない者はいない。

وَمَا مِنَّآ إِلَّا لَهُۥ مَقَامٌ مَّعْلُومٌ ١٦٤

165. 私たちこそは、まさしく（アッラー*に仕えるため）整列する者。

وَإِنَّا لَنَحْنُ ٱلصَّآفُّونَ ١٦٥

166. そして本当に私たちこそは、（アッラー*を）称える*者」。

وَإِنَّا لَنَحْنُ ٱلْمُسَبِّحُونَ ١٦٦

---

1 ここでの「ジン*」は、大半の学者によれば天使*のこと（アル＝クルトゥビー15:135 参照）。

2 雌牛章 116 の訳注も参照。

3 「精選されたアッラー*の僕」については、ユースフ*章 24 の訳注を参照。

4 つまり、彼らはアッラー*にふさわしくないことを言わない（ムヤッサル 452 頁参照）。

5 アッラー*を崇拝*し、命じられた通りの任務をこなす「持ち場」（アル＝カースィミー 14:5068 参照）。

167. （預言者*よ、あなたが遣わされる前、）本当に彼ら（マッカ*の不信仰者*ら）は、（こう）言っていた。

وَإِن كَانُوا۟ لَيَقُولُونَ ١٦٧

168. 「もし私たちのもとに、昔の人々からの教訓[1]があったならば、

لَوْ أَنَّ عِندَنَا ذِكْرًا مِّنَ ٱلْأَوَّلِينَ ١٦٨

169. 私たちは、精選されたアッラー*の僕[2]であったのに」。

لَكُنَّا عِبَادَ ٱللَّهِ ٱلْمُخْلَصِينَ ١٦٩

170. しかし彼らは（使徒*ムハンマド*がクルアーン*を携えて到来した時）、それを否定した。ならば、彼らは（来世での自分たちの結末を）知るであろう。

فَكَفَرُوا۟ بِهِۦ ۖ فَسَوْفَ يَعْلَمُونَ ١٧٠

171. 遣わされた者であるわれら*の僕たちには確かに、（彼らが理論と力によって勝利するとの）われら*の言葉が、既に定められている。

وَلَقَدْ سَبَقَتْ كَلِمَتُنَا لِعِبَادِنَا ٱلْمُرْسَلِينَ ١٧١

172. 本当に彼らこそは、援助される者。

إِنَّهُمْ لَهُمُ ٱلْمَنصُورُونَ ١٧٢

173. また本当にわれら*の軍勢こそは、勝利者。

وَإِنَّ جُندَنَا لَهُمُ ٱلْغَٰلِبُونَ ١٧٣

174. ならば（使徒*よ、）その時まで、彼らから背を向けよ。[3]

فَتَوَلَّ عَنْهُمْ حَتَّىٰ حِينٍ ١٧٤

175. そして彼ら（が、どんな目にあうか）を見ておけ。そうすれば、彼らはやがて（懲罰を）見ることとなろう。

وَأَبْصِرْهُمْ فَسَوْفَ يُبْصِرُونَ ١٧٥

176. 一体彼らは、われら*の懲罰を性急に求めるのか？[4]

أَفَبِعَذَابِنَا يَسْتَعْجِلُونَ ١٧٦

---

1 この「教訓」とは、過去の民に到来した、啓典や預言者*のこと（ムヤッサル 452 頁参照）。

2 「精選されたアッラー*の僕」については、ユースフ*章 24 の訳注を参照。

3 真理を受け入れない頑固な者たちを、アッラー*が猶予（ゆうよ）されたその時まで放っておけ、ということ（前掲書、同頁参照）。

4 「懲罰を急ぐ」については、家畜章 57-58、戦利品章 32、ユーヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、サード章 16、相談章 18、階段章 1-2 なども参照。

177. そしてそれが彼らの庭に到着する時、警告（けいこく）されていた者たちの朝は、何と忌（い）まわしいことだろうか。[1]

فَإِذَا نَزَلَ بِسَاحَتِهِمْ فَسَآءَ صَبَاحُ ٱلْمُنذَرِينَ ١٧٧

178. ならば（使徒（しと）*よ、）その時まで、彼らから背を向けよ。[2]

وَتَوَلَّ عَنْهُمْ حَتَّىٰ حِينٍ ١٧٨

179. そして彼ら（が、どんな目にあうか）を見ておけ。そうすれば、彼らはやがて（懲罰（ちょうばつ）を）見ることとなろう。

وَأَبْصِرْ فَسَوْفَ يُبْصِرُونَ ١٧٩

180. 彼らの言うようなことから（無縁（むえん）な）、あなたの主（しゅ）*、権勢（けんせい）の主（しゅ）*に称（たた）え*あれ。

سُبْحَٰنَ رَبِّكَ رَبِّ ٱلْعِزَّةِ عَمَّا يَصِفُونَ ١٨٠

181. また遣（つか）わされた者たちに、平安を。[3]

وَسَلَٰمٌ عَلَى ٱلْمُرْسَلِينَ ١٨١

182. そして全創造物（そうぞう）の主（しゅ）*アッラー*に、称賛（しょうさん）*あれ。

وَٱلْحَمْدُ لِلَّهِ رَبِّ ٱلْعَٰلَمِينَ ١٨٢

---

1 懲罰が、敵の軍隊にたとえられている。また「朝」という語は、不意打ちを連想させる（イブン・アーシュール 23:197 参照）。

2 アーヤ*174 の訳注を参照。

3 この意味については、アーヤ*79 の訳注を参照。

第38章
サード章[1]

سُورَةُ صٓ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. サード[2]。教訓を含むクルアーン*に誓って。

صٓۚ وَٱلۡقُرۡءَانِ ذِي ٱلذِّكۡرِ ١

2. いや、不信仰に陥った者*たちは、（真理に対する）尊大さと対立の中にある。

بَلِ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ فِي عِزَّةٖ وَشِقَاقٖ ٢

3. われら*は彼ら（シルク*の徒）以前にも、どれだけの（不信仰な）世代を滅ぼしてきたか。彼らは（懲罰が訪れて）救いがなくなった時、（救いと悔悟の）呼び声を上げたのだ。[3]

كَمۡ أَهۡلَكۡنَا مِن قَبۡلِهِم مِّن قَرۡنٖ فَنَادَواْ وَّلَاتَ حِينَ مَنَاصٖ ٣

4. また彼らは、自分たちのもとに自分たちの内から（人間の）警告者が到来したことに、驚いた。そして不信仰者*たちは、言ったのだ。「これは大嘘つきの魔術師だ。

وَعَجِبُوٓاْ أَن جَآءَهُم مُّنذِرٞ مِّنۡهُمۡۖ وَقَالَ ٱلۡكَٰفِرُونَ هَٰذَا سَٰحِرٞ كَذَّابٌ ٤

5. 一体彼は、神々[4]を一つの神とする[5]というのか？　本当にこれは、まさしく驚愕すべきこと」。

أَجَعَلَ ٱلۡأٓلِهَةَ إِلَٰهٗا وَٰحِدًاۖ إِنَّ هَٰذَا لَشَيۡءٌ عُجَابٞ ٥

---

1 マッカ*啓示で学者の見解は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、冒頭のアーヤ*に出現する文字「サード」に由来。アッラーの唯一性*・シルク*の禁止・啓示・預言者*ムハンマド*の使徒*性・復活の日*・清算・天国と地獄などといった、イスラーム*の基本的な信仰箇条（かじょう）を取り上げる。また、過去の預言者*たちを訪れた試練の描写は、マッカ*で迫害されていた預言者*ムハンマド*への慰（なぐさ）めと、励（はげ）ましともなっている。

2 この文字については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 「悔悟が受け入れられない時」については、家畜章 158 とその訳注も参照。

4 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

5 つまりアッラー*にいかなる同位者も置かず、かれだけを崇拝*することを命じた（アッ＝サァディー709 頁参照）。

6. そして、彼らの内の有力者らが歩み出(て、民にこう言っ)た。「(そのままシルク*を)やり通し、あなた方の神々(の崇拝*)にしがみ付け。本当にこれはまさしく、仕組まれたこと[1]なのだ。

وَانطَلَقَ الْمَلَأُ مِنْهُمْ أَنِ امْشُوا وَاصْبِرُوا عَلَىٰ
آلِهَتِكُمْ ۖ إِنَّ هَٰذَا لَشَيْءٌ يُرَادُ ٦

7. 私たちはこのようなことを、最近の宗教[2]では聞いたことがない。これは捏造に外ならないのだ。

مَا سَمِعْنَا بِهَٰذَا فِي الْمِلَّةِ الْآخِرَةِ إِنْ هَٰذَا إِلَّا
اخْتِلَاقٌ ٧

8. 一体、私たちの間から(ムハンマド*が特別に選ばれて)、彼に教訓(クルアーン*)が下されたというのか?」 いや、彼らはわが教訓(クルアーン*)に対して、疑念の中にある。いや、彼らはまだ我が懲罰を味わってはいない(から、そのようなことが言えるのだ)。

أَؤُنزِلَ عَلَيْهِ الذِّكْرُ مِن بَيْنِنَا ۚ بَلْ هُمْ فِي شَكٍّ مِّن
ذِكْرِي ۖ بَل لَّمَّا يَذُوقُوا عَذَابِ ٨

9. いや、一体彼らには、偉力ならびなく*、恵み深い*あなたの主*のご慈悲の宝庫があるというのか?

أَمْ عِندَهُمْ خَزَائِنُ رَحْمَةِ رَبِّكَ الْعَزِيزِ الْوَهَّابِ ٩

10. いや、一体彼らには、諸天と大地、その間にあるものの王権があるというのか? ならば、綱で(天へと)昇ってみさせよ。[3]

أَمْ لَهُم مُّلْكُ السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا ۖ
فَلْيَرْتَقُوا فِي الْأَسْبَابِ ١٠

11. (彼らは、それ以前の不信仰な)徒党のように、そこ[4]で敗北することになる、たかが軍勢なのだから。

جُندٌ مَّا هُنَالِكَ مَهْزُومٌ مِّنَ الْأَحْزَابِ ١١

---

1 預言者*ムハンマド*は、彼自身が権勢を得るために、その教えを広めようとしているのだということ(ムヤッサル 453 頁参照)。

2 一説にはクライシュ族*の宗教、また一説にはキリスト教(イブン・カスィール 7:55 参照)。

3 彼らに天地の王権があり、そこにあるものを自由に出来るというのなら、天に昇って本当にそうしてみよ、ということ(ムヤッサル 453 頁参照)。巡礼*章 15 とその訳注も参照。

4 この「そこ」が何を指すかには、「彼らが陥っていた不信仰という立場」「天」「バドルの戦い*」などといった説がある(イブン・ジュザイ 2:248 参照)。

12. 彼ら以前にも、ヌーフ*の民、アード*、杭[1]の主フィルアウン*が、（使徒*たちを）嘘つき呼ばわりした。

كَذَّبَتۡ قَبۡلَهُمۡ قَوۡمُ نُوحٖ وَعَادٞ وَفِرۡعَوۡنُ ذُو ٱلۡأَوۡتَادِ ١٢

13. またサムード*、ルート*の民、藪の仲間たち[2]も。それらの者たちは（不信仰の）徒党であった。

وَثَمُودُ وَقَوۡمُ لُوطٖ وَأَصۡحَٰبُ لۡـَٔيۡكَةِۚ أُوْلَٰٓئِكَ ٱلۡأَحۡزَابُ ١٣

14. （彼ら）全員が、例外なく使徒*たちを嘘つき呼ばわりし、それで（彼らへの）わが懲罰が確定したのである。

إِن كُلٌّ إِلَّا كَذَّبَ ٱلرُّسُلَ فَحَقَّ عِقَابِ ١٤

15. そしてこれらの者たち（シルク*の徒）は、（シルク*に留まることで、轟く）一声（による懲罰）を待っているに過ぎない。そこには、帰り所などない。

وَمَا يَنظُرُ هَٰٓؤُلَآءِ إِلَّا صَيۡحَةٗ وَٰحِدَةٗ مَّا لَهَا مِن فَوَاقٖ ١٥

16. 彼らは言った。「我らが主*よ、清算の日の前に、私たちに取り分をお与え下さい」。[3]

وَقَالُواْ رَبَّنَا عَجِّل لَّنَا قِطَّنَا قَبۡلَ يَوۡمِ ٱلۡحِسَابِ ١٦

17. （使徒*よ、）あなた[4]は彼らの言うことに耐え、つわもの[5]であったダーウード*を思い起こすのだ。実に彼は、常に回帰する者[6]であったのだから。

ٱصۡبِرۡ عَلَىٰ مَا يَقُولُونَ وَٱذۡكُرۡ عَبۡدَنَا دَاوُۥدَ ذَا ٱلۡأَيۡدِۖ إِنَّهُۥٓ أَوَّابٌ ١٧

---

1 「杭」の解釈には、「完成度の高い建築物」「多くの建築物」「武力」「人を罰する時に用いていた杭のこと」「多くの軍勢」などといった説がある（アル＝クルトゥビー15:154 参照）。

2 「藪の仲間たち」については、アル＝ヒジュル章 78 の訳注を参照。

3 懲罰、あるいは天国の享楽の一部を、現世で下してみよ、ということ。これは、不信仰者*らが嘲笑して言った言葉（前掲書 15:157-158 参照）。家畜章 57-58、戦利品*章 32、ユーヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、相談章 18、階段章 1-2 なども参照。

4 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。

5 「つわもの」とは、アッラー*の敵に対しては力強く、かれへの服従においては忍耐*強い者のこと（ムヤッサル 454 頁参照）。

6 「常に回帰する者」については、夜の旅章 25 の訳注を参照。

18. 本当にわれら*は、夕に朝に、彼（ダーウード*）と共に（アッラー*を）称（たた）える*山々を、仕（つか）えさせた。

إِنَّا سَخَّرْنَا ٱلْجِبَالَ مَعَهُۥ يُسَبِّحْنَ بِٱلْعَشِىِّ
وَٱلْإِشْرَاقِ ﴿١٨﴾

19. また、集合させられた鳥たちも（、仕（つか）えさせた）。（その）全ては、かれ[1]に常に回帰する者であった。

وَٱلطَّيْرَ مَحْشُورَةً ۖ كُلٌّ لَّهُۥٓ أَوَّابٌ ﴿١٩﴾

20. そして、われら*は彼の王権を強力にし、彼に英知と能弁（のうべん）さを授（さず）けた。

وَشَدَدْنَا مُلْكَهُۥ وَءَاتَيْنَٰهُ ٱلْحِكْمَةَ وَفَصْلَ
ٱلْخِطَابِ ﴿٢٠﴾

21. また（使徒（しと）*よ、）あなたに論争（者たち）の消息（しょうそく）は届いたか？　彼ら（二人）がミフラーブ[2]を乗り越えて（、ダーウード*のところへ入って）来た時のこと。

۞ وَهَلْ أَتَىٰكَ نَبَؤُا۟ ٱلْخَصْمِ إِذْ تَسَوَّرُوا۟
ٱلْمِحْرَابَ ﴿٢١﴾

22. 彼らがダーウード*のもとに入って来て、彼が慄（おのの）いた時のこと。彼らは言った。「怖（おそ）れてはいけません。（私たちは）論争中で、一方が他方を侵害しています。ですので真理によって私たちの間を裁（さば）き、誤（あやま）ることなく、私たちを全（まっと）うな道へとお導（みちび）き下さい」。

إِذْ دَخَلُوا۟ عَلَىٰ دَاوُۥدَ فَفَزِعَ مِنْهُمْ ۖ قَالُوا۟ لَا تَخَفْ ۖ
خَصْمَانِ بَغَىٰ بَعْضُنَا عَلَىٰ بَعْضٍ فَٱحْكُم بَيْنَنَا
بِٱلْحَقِّ وَلَا تُشْطِطْ وَٱهْدِنَآ إِلَىٰ سَوَآءِ ٱلصِّرَٰطِ ﴿٢٢﴾

23. （一方の男は言った。）「実にこれは我が兄弟で、九十九頭の雌羊（めひつじ）を所有していますが、私には一頭の雌羊（めひつじ）しかいません。なのに彼は、『それを私に（よこして、）任せなさい』と言って、議論（ぎろん）で私を打ち負かしたのです」。

إِنَّ هَٰذَآ أَخِى لَهُۥ تِسْعٌ وَتِسْعُونَ نَعْجَةً وَلِىَ نَعْجَةٌ
وَٰحِدَةٌ فَقَالَ أَكْفِلْنِيهَا وَعَزَّنِى فِى ٱلْخِطَابِ ﴿٢٣﴾

1 この「かれ」はアッラー*のことともダーウード*のことであるともされる。一説に、山々や鳥たちは、ダーウード*がアッラー*を称える*たびに、それに応えて彼とともに称えた（アル＝クルトゥビー15:161 参照）。サバア章 10 も参照。また「常に回帰する者」については、夜の旅章 25 の訳注を参照。

2 「ミフラーブ」については、イムラーン家章 37 の訳注を参照。

24. 彼（ダーウード*）は言った。「彼（あなたの兄弟）は、あなたの一頭の雌羊を、彼の（九十九頭の）雌羊に（加えることを）要求することで、あなたに対して確かに不正*を働いた。そして実に共同者たちの多くは、信仰し、正しい行い*を行う者たちを除き——そして彼らは数少ないのだ——、まさに互いに侵害し合うものなのである」。するとダーウード*は、われら*が彼を（その論争で）試練にかけたということを確信し、彼の主*にお赦しを乞い、ルクーゥ*しながら崩れ落ち、（アッラー*に悔悟して）立ち返った。（読誦のサジダ*）[1]

قَالَ لَقَدْ ظَلَمَكَ بِسُؤَالِ نَعْجَتِكَ إِلَىٰ نِعَاجِهِۦ ۖ وَإِنَّ
كَثِيرًا مِّنَ ٱلْخُلَطَآءِ لَيَبْغِى بَعْضُهُمْ عَلَىٰ بَعْضٍ إِلَّا
ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّـٰلِحَـٰتِ وَقَلِيلٌ مَّا هُمْ ۗ
وَظَنَّ دَاوُۥدُ أَنَّمَا فَتَنَّـٰهُ فَٱسْتَغْفَرَ رَبَّهُۥ وَخَرَّ رَاكِعًا
وَأَنَابَ ۩ ﴿٢٤﴾

25. それでわれら*は彼（ダーウード*）に、そのこと[2]を赦した。そして本当に彼にはまさしく、われら*のもとにおけるお近づきと、（来世における）善き戻り場所があるのだ。

فَغَفَرْنَا لَهُۥ ذَٰلِكَ ۖ وَإِنَّ لَهُۥ عِندَنَا لَزُلْفَىٰ
وَحُسْنَ مَـَٔابٍ ﴿٢٥﴾

26. ダーウード*よ、本当にわれら*は、あなたを地上における継承者とした[3]。ゆえに、真理によって人々の間を裁くのだ。そして私欲に従って、自分をアッラー*の道から迷わせてはならない。本当にアッラー*の道から迷う者たちには、清算の日を忘れたことゆえの厳しい懲罰がある。

يَـٰدَاوُۥدُ إِنَّا جَعَلْنَـٰكَ خَلِيفَةً فِى ٱلْأَرْضِ فَٱحْكُم
بَيْنَ ٱلنَّاسِ بِٱلْحَقِّ وَلَا تَتَّبِعِ ٱلْهَوَىٰ فَيُضِلَّكَ عَن
سَبِيلِ ٱللَّهِ ۚ إِنَّ ٱلَّذِينَ يَضِلُّونَ عَن سَبِيلِ ٱللَّهِ
لَهُمْ عَذَابٌ شَدِيدٌۢ بِمَا نَسُوا۟ يَوْمَ ٱلْحِسَابِ ﴿٢٦﴾

---

1 イブン・カスィール*によれば、多くの解釈学者らがこのアーヤ*に関して言及している説話は、大半がクルアーン*以外の啓典由来の情報で、預言者*ムハンマド*にまで辿（たど）ることのできる真正*な伝承は一つとしてない。ゆえにこの話は読誦するだけに留めておき、その真の意図はアッラー*に委ねておくべきだ、としている（7:60 参照）。

2 アッラー*はその不必要性ゆえに、「そのこと」を明言されなかったのであり、それを追及するのは行き過ぎというものである。この話の意図はそもそも、ダーウード*の優しさと悔悟、そして悔悟の後にはそれ以前よりも優れた者となった、ということなのだから（アッ＝サァディー711 頁参照）。また、預言者*の無謬（むびゅう）性については、雌牛章 36 の訳注を参照。

3 アッラー*は彼を、善事を命じ、悪事を禁じる王とし、それ以前の預言者*・正しい導師たちの後を継がせられた（アル＝クルトゥビー15:188 参照）。

27. ――われら*は天と大地とその間にあるものを、無意味に創ったのではない[1]。それは不信仰に陥った者*たちの思い込みである。そして不信仰に陥った者*たちには、(地獄の)業火の災いあれ。

وَمَا خَلَقْنَا ٱلسَّمَآءَ وَٱلْأَرْضَ وَمَا بَيْنَهُمَا بَٰطِلًاۚ ذَٰلِكَ ظَنُّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْۚ فَوَيْلٌ لِّلَّذِينَ كَفَرُواْ مِنَ ٱلنَّارِ ٢٧

28. いや、一体われら*が、信仰して正しい行い*を行う者たちを、大地で腐敗*を働く者たちと同様にするとでも? いや、一体われら*が敬虔*な者たちを、放逸な者たちと同様にするというのか?

أَمْ نَجْعَلُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ كَٱلْمُفْسِدِينَ فِى ٱلْأَرْضِ أَمْ نَجْعَلُ ٱلْمُتَّقِينَ كَٱلْفُجَّارِ ٢٨

29. (使徒*よ、このクルアーン*は)彼らがその御徴を熟慮し、澄んだ理性の持ち主らが教訓を得るべく、われら*があなたに下した啓典、祝福あふれたものである――。

كِتَٰبٌ أَنزَلْنَٰهُ إِلَيْكَ مُبَٰرَكٌ لِّيَدَّبَّرُوٓاْ ءَايَٰتِهِۦ وَلِيَتَذَكَّرَ أُوْلُواْ ٱلْأَلْبَٰبِ ٢٩

30. われら*はダーウード*に、(その息子)スライマーン*を授けた。僕(スライマーン*)の素晴らしいことよ、本当に彼は常に回帰する者[2]なのだから。

وَوَهَبْنَا لِدَاوُۥدَ سُلَيْمَٰنَۚ نِعْمَ ٱلْعَبْدُ إِنَّهُۥٓ أَوَّابٌ ٣٠

31. 彼(スライマーン*)に夕の頃、優良な駿馬[3]が見せられた時のこと(を思い起こさせよ)。

إِذْ عُرِضَ عَلَيْهِ بِٱلْعَشِىِّ ٱلصَّٰفِنَٰتُ ٱلْجِيَادُ ٣١

32. そして彼(スライマーン*)は、言った。「本当に私は、(太陽が)覆いに包まれる[4]まで、我が主*の唱念をよそに、財産[5]への愛情を傾けてしまった。[6]

فَقَالَ إِنِّىٓ أَحْبَبْتُ حُبَّ ٱلْخَيْرِ عَن ذِكْرِ رَبِّى حَتَّىٰ تَوَارَتْ بِٱلْحِجَابِ ٣٢

---

1 イムラーン家章 191 の訳注も参照。

2 「常に回帰する者」については、夜の旅章 25 の訳注を参照。

3 「駿馬」と意訳した語「サーフィナート」は、馬のみに用いられる能動分詞の複数形。止まっている時に三本足で立ち、四本目の足は爪先立ちしている様子のこと。敏捷(びんしょう)さを示す印とされる(イブン・アーシュール 23:255 参照)。

4 つまり日没のこと(ムヤッサル 455 頁参照)。

5 この「財産」は、馬のこと(前掲書、同頁参照)。

6 解釈学者たちはこの出来事を、スライマーン*が馬の観賞に熱中して、アスル*の礼拝を忘れてしまったのだとしている(イブン・カスィール 7:65 参照)。預言者*の無謬(むびゅう)性については、雌牛章 36 の訳注を参照。

33. それら（馬）を私のもとに、また連れて来い」。そして（馬が連れて来られると、）彼は（剣で）その足と首を打ち始めた。[1]

رُدُّوهَا عَلَيَّ ۖ فَطَفِقَ مَسْحًا بِالسُّوقِ وَالْأَعْنَاقِ ٣٣

34. また、われら*はスライマーン*を試練（しれん）にかけ、その椅子（いす）に（死）体を投げた[2]。それから彼は、（アッラー*に悔悟（かいご）して）立ち返ったのだ。

وَلَقَدْ فَتَنَّا سُلَيْمَانَ وَأَلْقَيْنَا عَلَىٰ كُرْسِيِّهِ جَسَدًا ثُمَّ أَنَابَ ٣٤

35. 彼（スライマーン*）は言った。「我が主（しゅ）*よ、私をお赦（ゆる）し下さい。そして私の後の（人間の内、）誰にも相応（ふさわ）しくないような（偉大な）王権を、私にお授（さず）け下さい。本当にあなたこそは、恵み深い*お方なのですから」。

قَالَ رَبِّ اغْفِرْ لِي وَهَبْ لِي مُلْكًا لَا يَنْبَغِي لِأَحَدٍ مِنْ بَعْدِي ۖ إِنَّكَ أَنْتَ الْوَهَّابُ ٣٥

36. また、われら*は彼（スライマーン*）に、彼の命令によって、彼の意図した場所へと走る、穏（おだ）やかな風[3]を仕えさせた。

فَسَخَّرْنَا لَهُ الرِّيحَ تَجْرِي بِأَمْرِهِ رُخَاءً حَيْثُ أَصَابَ ٣٦

37. また、シャイターン*たち、つまり（彼の命令に従（したが）う）あらゆる建設家、潜水夫（せんすいふ）[4]を（仕えさせた）。

وَالشَّيَاطِينَ كُلَّ بَنَّاءٍ وَغَوَّاصٍ ٣٧

38. そして、枷（かせ）でがんじがらめにされている、別の者たち[5]を。

وَآخَرِينَ مُقَرَّنِينَ فِي الْأَصْفَادِ ٣٨

---

1 馬を殺したのではなく、愛情をもってたてがみと足を撫（な）でた、という解釈もある（アッ＝タバリー8:7000 参照）。

2 スライマーン*はある時、自分が全員の妻と交わり、その結果、彼女ら全員はアッラー*の道ゆえに戦う騎士（きし）を産むのだと誓ったが、その際「もしアッラー*がお望みならば」と付け加えなかった（洞窟章 23-24 とその訳注も参照）。その結果、彼の妻たちの内、妊娠したのは一人だけで、しかも彼女が産んだのは未熟児だったという（アル＝ブハーリー 6639 参照）。

3 風はスライマーン*の思い通りに、強くなったり、穏やかになったりした（アル＝バガウィー3:301 参照）。預言者*たち章 81、サバア章 12 も参照。

4 サバア章 13 で示されているようなものを建設・作成する者たちや、海に潜って真珠や宝石などを採集する者たちのこと（イブン・カスィール 7:73 参照）。

5 これはシャイターン*の内でも、反抗的な者たちのこととされる（ムヤッサル 455 頁参照）。

39. これは（スライマーン*への）、われら*の贈り物。ならば（望む者には）際限なく恵み、あるいは（望む者には）禁じるがよい。

هَٰذَا عَطَآؤُنَا فَٱمۡنُنۡ أَوۡ أَمۡسِكۡ بِغَيۡرِ حِسَابٖ ٣٩

40. そして本当に彼（スライマーン*）にはまさしく、われら*のもとにおける近侍と、（来世における）善き戻り場所があるのだ。

وَإِنَّ لَهُۥ عِندَنَا لَزُلۡفَىٰ وَحُسۡنَ مَـَٔابٖ ٤٠

41. われら*の僕、アイユーブ*を思い出せ。彼がその主*に、「シャイターン*は疲労と罰[1]で、私を襲いました」と呼びかけた時のこと。

وَٱذۡكُرۡ عَبۡدَنَآ أَيُّوبَ إِذۡ نَادَىٰ رَبَّهُۥٓ أَنِّي مَسَّنِيَ
ٱلشَّيۡطَٰنُ بِنُصۡبٖ وَعَذَابٍ ٤١

42. （われら*は言った。）「あなたの足で（地面を）蹴るがよい」。（そしてその通りにすると、水が吹き出た。）「これは冷たい洗浄水であり、飲み物である」。[2]

ٱرۡكُضۡ بِرِجۡلِكَۖ هَٰذَا مُغۡتَسَلُۢ بَارِدٞ وَشَرَابٞ ٤٢

43. また、われら*は彼にその家族と、更にそれと同様のもの[3]を授けた。われら*からの慈悲と、澄んだ理性の持ち主たちへの教訓[4]として。

وَوَهَبۡنَا لَهُۥٓ أَهۡلَهُۥ وَمِثۡلَهُم مَّعَهُمۡ رَحۡمَةٗ مِّنَّا وَذِكۡرَىٰ
لِأُوْلِي ٱلۡأَلۡبَٰبِ ٤٣

44. （われら*は言った。）「そして手に（草の）一束を取り、それでそれ（妻）を叩き、（誓いを）破るのではない[5]」。実にわれら*は、彼が忍耐*する者であることを認めた。僕（アイユーブ*）の素晴らしいことよ、本当に彼は常に回帰する者[6]なのだから。

وَخُذۡ بِيَدِكَ ضِغۡثٗا فَٱضۡرِب بِّهِۦ وَلَا تَحۡنَثۡۗ إِنَّا
وَجَدۡنَٰهُ صَابِرٗاۚ نِّعۡمَ ٱلۡعَبۡدُ إِنَّهُۥٓ أَوَّابٞ ٤٤

---

1 アイユーブ*はシャイターン*により、自分の体、財産、家族において甚大（じんだい）な被害を受けたとされる（ムヤッサル 455 頁参照）。

2 彼がそれを飲み、それで体を洗うと、彼を苦しめていた害悪は消え去った（前掲書、同頁参照）。

3 この「同様のもの」については、預言者*たち章 84 の訳注を参照。

4 忍耐*の後には、慰（なぐさ）めと、害悪の解消があるという「教訓」（前掲書 456 頁参照）。

5 アイユーブ*は病に苦しんでいる時、些細（ささい）なことで妻のことを怒り、もしアッラー*が彼の病を治して下さったら、彼女を鞭（むち）で百回打つ、と誓った。ただし彼女は正しい女性だったので、アッラー*はその誓いをアーヤ*で言及されている行為によって免じられ、彼と彼女を慈しまれたのだという（前掲書、同頁参照）。預言者*の無謬（むびゅう）性については、雌牛章 36 の訳注を参照。

6 「常に回帰する者」については、夜の旅章 25 の訳注を参照。

45. また、われら*の僕（しもべ）たち、つわもの[1]で、慧眼（けいがん）の主（ぬし）だったイブラーヒーム*、イスハーク*、ヤァクーブ*を思い出せ。

وَٱذۡكُرۡ عِبَٰدَنَآ إِبۡرَٰهِيمَ وَإِسۡحَٰقَ وَيَعۡقُوبَ أُوْلِي ٱلۡأَيۡدِي وَٱلۡأَبۡصَٰرِ ٤٥

46. 本当にわれら*は彼らを（偉大なる）特性、つまり（来世の）住まいの唱念（しょうねん）で、精錬（せいれん）した[2]。

إِنَّآ أَخۡلَصۡنَٰهُم بِخَالِصَةٖ ذِكۡرَى ٱلدَّارِ ٤٦

47. また本当に彼らはわれら*のもとで、（啓示（けいじ）の伝達のために）まさに選び抜かれた者たち、（われら*への服従（ふくじゅう）のために）選ばれし者たちである。

وَإِنَّهُمۡ عِندَنَا لَمِنَ ٱلۡمُصۡطَفَيۡنَ ٱلۡأَخۡيَارِ ٤٧

48. また、イスマーイール*とアル＝ヤサァ*とズル＝キフル*を思い出せ。（彼らは）皆、選ばれし者たちである。

وَٱذۡكُرۡ إِسۡمَٰعِيلَ وَٱلۡيَسَعَ وَذَا ٱلۡكِفۡلِۖ وَكُلّٞ مِّنَ ٱلۡأَخۡيَارِ ٤٨

49. これ（クルアーン*）は、訓戒[3]。本当に敬虔（けいけん）*な者たちには、実によい戻（もど）り所がある、

هَٰذَا ذِكۡرٞۚ وَإِنَّ لِلۡمُتَّقِينَ لَحُسۡنَ مَـَٔابٖ ٤٩

50. 彼らに向けて門が開かれた、永久（とわ）の楽園が。

جَنَّٰتِ عَدۡنٖ مُّفَتَّحَةٗ لَّهُمُ ٱلۡأَبۡوَٰبُ ٥٠

51. 彼らはそこで、（寝台に）寄（よ）りかかっている。そこで（望むだけの）沢山の果実と飲み物を、持って来させつつ。

مُتَّكِـِٔينَ فِيهَا يَدۡعُونَ فِيهَا بِفَٰكِهَةٖ كَثِيرَةٖ وَشَرَابٖ ٥١

52. また彼らのもとには、同い年の、（自分の夫だけに）視線を定めた女性[4]たちがいる。

۞وَعِندَهُمۡ قَٰصِرَٰتُ ٱلطَّرۡفِ أَتۡرَابٌ ٥٢

53. （敬虔（けいけん）な*者たちよ、）これが清算の日に、あなた方が約束されているもの。

هَٰذَا مَا تُوعَدُونَ لِيَوۡمِ ٱلۡحِسَابِ ٥٣

---

1 「つわもの」については、アーヤ*17 の訳注を参照。

2 つまり来世をよく想起し、来世のために現世で努力し、アッラー*に服従し、かれを意識して行動する者とした、ということ。自分だけではなく他人のことも、アッラー*と来世について想起させる者、という意味も含まれ得る（アッ＝タバリー8:7018 参照）。

3 栄誉、という解釈もある（アル＝バガウィー4:74 参照）。金の装飾章 44 も参照。

4 「視線を定めた女性」については、整列者章 48 の訳注を参照。

54. 実にこれはまさしく、（あなた方への）われらの糧（かて）。そこに決して終わりはない。

إِنَّ هَٰذَا لَرِزْقُنَا مَا لَهُۥ مِن نَّفَادٍ ٥٤

55. これは（、敬虔（けいけん）な*者たちのためのもの）。実に（不信仰において）度（ど）を越（こ）した者たちには、本当に悪い戻（もど）り場所がある、

هَٰذَا ۚ وَإِنَّ لِلطَّٰغِينَ لَشَرَّ مَـَٔابٍ ٥٥

56. 彼らが入って炙（あぶ）られることになる、地獄が。その寝床（ねどこ）は何と醜悪（しゅうあく）であろうか。

جَهَنَّمَ يَصْلَوْنَهَا فَبِئْسَ ٱلْمِهَادُ ٥٦

57. これは――彼らにそれを味わわせよ――、煮えたぎる湯と膿汁（のうじゅう）[1]。

هَٰذَا فَلْيَذُوقُوهُ حَمِيمٌ وَغَسَّاقٌ ٥٧

58. また、それと同様の別のものが、各種ある。

وَءَاخَرُ مِن شَكْلِهِۦٓ أَزْوَٰجٌ ٥٨

59. （地獄の民は、別の集団がそこに入って来ると、お互いに言う[2]。）「これは、あなた方と共に（地獄に）飛び込んで来る集団だ」。「彼らの疎（うと）ましいこと。本当に彼らは（私たちと同様に、）業火（ごうか）に入って炙（あぶ）られるのだから」。

هَٰذَا فَوْجٌ مُّقْتَحِمٌ مَّعَكُمْ ۖ لَا مَرْحَبًۢا بِهِمْ ۚ إِنَّهُمْ صَالُوا۟ ٱلنَّارِ ٥٩

60. 彼ら（既（すで）に地獄に入っている集団に倣（なら）って不信仰者*となった、後から地獄に入って来た集団）は、（自分たちを不信仰へと主導（しゅどう）した集団に）言う。「いや、あなた方こそ疎（うと）ましいこと。あなた方がそれを、私たちに提供したのだから[3]。その留（とど）まり所は、何と醜悪（しゅうあく）であろうか」。

قَالُوا۟ بَلْ أَنتُمْ لَا مَرْحَبًۢا بِكُمْ ۖ أَنتُمْ قَدَّمْتُمُوهُ لَنَا ۖ فَبِئْسَ ٱلْقَرَارُ ٦٠

---

1 「膿汁」と訳した語「ガッサーク」の解釈には、「強烈な異臭の膿」「極限まで冷やされた冷水」「毒の泉の名称」「地獄の民の体液」などの諸説がある（アル＝クルトゥビー 15:221-222 参照）。

2 あるいは、最初の言葉は地獄の番人で、次の言葉は不信仰へと主導した有力者たちのもの（前掲書 15:223 参照）。

3 あなた方は現世で私たちを迷わすことで、私たちに地獄の住まいを提供したのだ、という意味（ムヤッサル 456 頁参照）。同様の情景の描写として、雌牛章 166-167、高壁章 38、イブラーヒーム*章 21-22、識別章 17-19、物語章 63、部族連合章 67-68、サバア章 31-33 も参照。

61. 彼ら（後から地獄に入って来た集団）は、言う。「我らが主*よ、私たちにこれを提供した者には、業火の中で倍の懲罰を上乗せして下さい」。

قَالُوا۟ رَبَّنَا مَن قَدَّمَ لَنَا هَٰذَا فَزِدْهُ عَذَابًا ضِعْفًا فِى ٱلنَّارِ ﴿٦١﴾

62. 彼ら（地獄の民の内、暴虐な不信仰だった者*たち）は、言う。「私たちが、（現世で）ろくでなしと見なしていた男たち[1]を（ここで）見かけないのは、どうしたことだ？

وَقَالُوا۟ مَا لَنَا لَا نَرَىٰ رِجَالًا كُنَّا نَعُدُّهُم مِّنَ ٱلْأَشْرَارِ ﴿٦٢﴾

63. 一体、私たちは彼らを（誤って）嘲笑の的にしていたのか？　それとも（彼らは地獄にいるのに、私たちの）目は彼らから逸らされてしまったのか？[2]」

أَتَّخَذْنَٰهُمْ سِخْرِيًّا أَمْ زَاغَتْ عَنْهُمُ ٱلْأَبْصَٰرُ ﴿٦٣﴾

64. 実にそれは、まさしく真実なのである。（それは）地獄の民の議論なのだ。

إِنَّ ذَٰلِكَ لَحَقٌّ تَخَاصُمُ أَهْلِ ٱلنَّارِ ﴿٦٤﴾

65. （使徒*よ、）言え。「本当に私は一人の警告者である。そして唯一の*お方、君臨し給う*お方であるアッラー*の外に、崇拝*すべきいかなるものもない。

قُلْ إِنَّمَآ أَنَا۠ مُنذِرٌ ۖ وَمَا مِنْ إِلَٰهٍ إِلَّا ٱللَّهُ ٱلْوَٰحِدُ ٱلْقَهَّارُ ﴿٦٥﴾

66. 諸天と大地と、その間にあるものの主*、偉力ならびない*お方、赦し深いお方である（アッラー*の外には）」。

رَبُّ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا ٱلْعَزِيزُ ٱلْغَفَّٰرُ ﴿٦٦﴾

67. （使徒*よ、民に）言ってやれ。「これ（クルアーン*）は偉大なる消息。

قُلْ هُوَ نَبَؤٌا۟ عَظِيمٌ ﴿٦٧﴾

68. あなた方はそこから背を向けているが。

أَنتُمْ عَنْهُ مُعْرِضُونَ ﴿٦٨﴾

69. 私には、最上界の貴人（天使）たちが（アーダム*の創造に関して）議論している時[3]の知識など、なかったのである。

مَا كَانَ لِىَ مِنْ عِلْمٍۭ بِٱلْمَلَإِ ٱلْأَعْلَىٰٓ إِذْ يَخْتَصِمُونَ ﴿٦٩﴾

---

1 信仰者たちのこと（アッ＝サァディー716 頁参照）。

2 あるいは、「本当は彼らは自分たちより優れていたのに、現世でそれを見落としてしまったのか？」という意味（アル＝バガウィー4:76 参照）。

3 この内容は、アーヤ*71 以降に描写されている出来事のこと（イブン・カスィール 7:81 参照）。

70. 私に啓示（けいじ）が下されるのは、まさに私が明白なる警告（けいこく）者であるゆえに外（ほか）ならない」。

إِن يُوحَىٰٓ إِلَيَّ إِلَّآ أَنَّمَآ أَنَا۠ نَذِيرٞ مُّبِينٌ ٧٠

71. あなたの主（しゅ）*が天使*たちに、（こう）仰（おお）せられた時のこと（を思い起こさせよ）[1]。「本当にわれは、泥土[2]から人間を創る者である。

إِذۡ قَالَ رَبُّكَ لِلۡمَلَٰٓئِكَةِ إِنِّي خَٰلِقُۢ بَشَرٗا مِّن طِينٖ ٧١

72. それでわれら*がそれを整（とと）え、そこにわが魂（たましい）[3]より吹き込んだら、彼（アーダム*）に向かってサジダ[4]せよ」。

فَإِذَا سَوَّيۡتُهُۥ وَنَفَخۡتُ فِيهِ مِن رُّوحِي فَقَعُواْ لَهُۥ
سَٰجِدِينَ ٧٢

73. それで天使*たちは皆、一斉（いっせい）にサジダ*した。

فَسَجَدَ ٱلۡمَلَٰٓئِكَةُ كُلُّهُمۡ أَجۡمَعُونَ ٧٣

74. 但（ただ）し、イブリース*だけは別だった。彼は高慢（こうまん）だったのであり、不信仰者*の類（たぐ）いだったのだ。

إِلَّآ إِبۡلِيسَ ٱسۡتَكۡبَرَ وَكَانَ مِنَ ٱلۡكَٰفِرِينَ ٧٤

75. かれ（アッラー*）は仰（おお）せられた。「イブリース*よ、わが両手によって創造した[5]ものに対し、あなたがサジダ*するのを妨（さまた）げたのは、何なのか？ 一体あなたは（アーダム*に対し）高慢（こうまん）だったのか、それとも（われに対して）奢（おご）り高ぶる者たちの類（たぐ）いだったのか？」

قَالَ يَٰٓإِبۡلِيسُ مَا مَنَعَكَ أَن تَسۡجُدَ لِمَا خَلَقۡتُ
بِيَدَيَّۖ أَسۡتَكۡبَرۡتَ أَمۡ كُنتَ مِنَ ٱلۡعَالِينَ ٧٥

76. 彼（イブリース*）は申し上げた。「私は彼（アーダム*）よりも優れています。あなたは私を火からお創りになり、彼のことは泥土からお創りになったのですから」。[6]

قَالَ أَنَا۠ خَيۡرٞ مِّنۡهُ خَلَقۡتَنِي مِن نَّارٖ وَخَلَقۡتَهُۥ مِن
طِينٖ ٧٦

---

1 この出来事の詳細に関しては、雌牛章 34-39、高壁章 11-25、アル＝ヒジュル章 28-42、夜の旅章 61-65、ター・ハー章 116-123 も参照。

2 アーダム*が土から段階を経（へ）て創られたことについては、アル＝ヒジュル章 26 の訳注を参照。

3 「わが魂」については、アル＝ヒジュル 29 の訳注を参照。

4 このサジダ*については、雌牛章 34 の訳注を参照。

5 アッラー*はこうすることでアーダム*を、他のいかなる創造物に対しても与えられなかった栄誉を授けられた（アッ＝サァディー716 頁参照）。

6 このイブリース*の言葉については、高壁章 12 の訳注を参照。

77. かれ（アッラー*）は仰(おお)せられた。「ならば、そこ（楽園）から出て行くがよい。まさにあなたは、追放された[1]者なのだ。

قَالَ فَٱخۡرُجۡ مِنۡهَا فَإِنَّكَ رَجِيمٞ ٧٧

78. そして本当にあなたの上には、報(むく)いの日*まで、わが呪い[2]がある」。

وَإِنَّ عَلَيۡكَ لَعۡنَتِيٓ إِلَىٰ يَوۡمِ ٱلدِّينِ ٧٨

79. 彼（イブリース*）は申し上げた。「我が主(しゅ)*よ、それなら私に、彼らが蘇(よみがえ)らされる日まで猶予(ゆうよ)をお授(さず)け下さい。

قَالَ رَبِّ فَأَنظِرۡنِيٓ إِلَىٰ يَوۡمِ يُبۡعَثُونَ ٧٩

80. かれ（アッラー*）は仰(おお)せられた。「それでは、実にあなたは猶予(ゆうよ)される者の一人である。[3]

قَالَ فَإِنَّكَ مِنَ ٱلۡمُنظَرِينَ ٨٠

81. 定められた（復活の*）時の日まで」。

إِلَىٰ يَوۡمِ ٱلۡوَقۡتِ ٱلۡمَعۡلُومِ ٨١

82. 彼（イブリース*）は申し上げた。「では、あなたのご偉力(いりょく)に誓(ちか)って、私は必(かなら)ずや彼ら（人類）を全員、踏(ふ)み誤(あやま)らせてみせましょう。

قَالَ فَبِعِزَّتِكَ لَأُغۡوِيَنَّهُمۡ أَجۡمَعِينَ ٨٢

83. 但(ただ)し、彼らの内、精選(せいせん)されたあなたの僕(しもべ)たち[4]はその限りではありませんが」。

إِلَّا عِبَادَكَ مِنۡهُمُ ٱلۡمُخۡلَصِينَ ٨٣

84. かれ（アッラー*）は仰(おお)せられた。「真実こそ（、わが誓(ちか)い）。そして真実をこそ、われは語る。

قَالَ فَٱلۡحَقُّ وَٱلۡحَقَّ أَقُولُ ٨٤

85. われは必(かなら)ずや地獄を、あなた（イブリース*）と、彼ら（人類）の内であなたに従(したが)った者全員で、満たそう」。

لَأَمۡلَأَنَّ جَهَنَّمَ مِنكَ وَمِمَّن تَبِعَكَ مِنۡهُمۡ أَجۡمَعِينَ ٨٥

---

1 「追放された」については、イムラーン家章 36 の訳注を参照。

2 アッラー*の「呪い」については、雌牛章 88 の訳注を参照。

3 イブリース*の申し出が受け入れられたことについては、高壁章 15 の訳注を参照。

4 「精選されたアッラー*の僕」については、ユースフ*章 24 の訳注を参照。

86. （使徒*よ、）言うがよい。「私はそのことゆえに、あなた方に見返り[1]を求めているわけではないし、無理（して預言者*を自称）する者の類いでもない。

قُلْ مَآ أَسْـَٔلُكُمْ عَلَيْهِ مِنْ أَجْرٍ وَمَآ أَنَا۠ مِنَ ٱلْمُتَكَلِّفِينَ ٨٦

87. それ（クルアーン*）は、全創造物への教訓に外ならないのだ。

إِنْ هُوَ إِلَّا ذِكْرٌ لِّلْعَٰلَمِينَ ٨٧

88. そしてあなた方はきっと、しばらく後にその消息[2]を知ることになろう」。

وَلَتَعْلَمُنَّ نَبَأَهُۥ بَعْدَ حِينٍۭ ٨٨

1 この「見返り」については、家畜章 90 の訳注を参照。

2 この「消息」とは、クルアーン*の伝える内容と、その正しさのこと。彼ら不信仰者*はイスラーム*が栄え、人々が一斉に改宗する時、あるいは実際に彼らを懲罰が襲い、取り返しがつかなくなる時になって、それを認めることとなる（ムヤッサル 458 頁参照）。

第 39 章
集団章（アッ＝ズマル）[1]

سُورَةُ الزُّمَرِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. （このクルアーン*は、）偉力ならびなく*、英知あふれる*アッラー*からの啓典の降示。

تَنزِيلُ ٱلۡكِتَٰبِ مِنَ ٱللَّهِ ٱلۡعَزِيزِ ٱلۡحَكِيمِ ١

2. （使徒*よ、）本当にわれら*はあなたに、真実と共に啓典を下した。ゆえにアッラー*を崇拝*せよ、かれだけに真摯に崇拝*行為を捧げつつ[2]。

إِنَّآ أَنزَلۡنَآ إِلَيۡكَ ٱلۡكِتَٰبَ بِٱلۡحَقِّ فَٱعۡبُدِ ٱللَّهَ
مُخۡلِصٗا لَّهُ ٱلدِّينَ ٢

3. アッラー*にこそ、純粋な宗教が属するのではないか[3]。けれども、かれをよそに庇護者を設ける者たちは、（こう言っている。）「私たちが彼らを崇めるのは、彼らが私たちをアッラー*のお傍へと近づけてくれるために外ならない[4]」。本当にアッラー*は（復活の日*）、彼ら（信仰者とシルク*の徒）が意見を異にしていたことにおいて、彼らの間をお裁きになる。本当にアッラー*は、嘘つきで不信心この上ない者を、お導きにならないのだ。

أَلَا لِلَّهِ ٱلدِّينُ ٱلۡخَالِصُۚ وَٱلَّذِينَ ٱتَّخَذُواْ
مِن دُونِهِۦٓ أَوۡلِيَآءَ مَا نَعۡبُدُهُمۡ إِلَّا
لِيُقَرِّبُونَآ إِلَى ٱللَّهِ زُلۡفَىٰٓ إِنَّ ٱللَّهَ يَحۡكُمُ
بَيۡنَهُمۡ فِي مَا هُمۡ فِيهِ يَخۡتَلِفُونَۗ إِنَّ ٱللَّهَ لَا
يَهۡدِي مَنۡ هُوَ كَٰذِبٞ كَفَّارٞ ٣

---

1 マッカ*啓示（一部のアーヤ*は、マディーナ*啓示説もあり）。アッラーの唯一性*の正しさ・シルク*の誤（あやま）りを様々な根拠と例を挙げて証明し、信仰者と不信仰者*の様子を多様な形でたとえ、不信仰者*たちに一刻も早い悔悟をすすめる。スーラ*終盤（しゅうばん）では、天国の民となる幸福な集団（アーヤ*71）と、地獄の民となる不幸な集団（アーヤ*73）の来世での様子が明瞭なコントラストと共に描かれるが、これがスーラ*の名称の由来ともなっている。

2 「かれだけに真摯に崇拝*行為を捧げる」ことについては、婦人章 146 の訳注を参照。

3 アッラー*にこそシルク*とは無縁な、完全な服従を捧げなければならない（ムヤッサル 458 頁参照）。

4 彼らは、それらの存在が創造もしなければ、糧を与えてくれもしないことを知っていた。ただ、それらが、かれの御許で執り成してくれることを望んでいたのである（アッ＝サァディー717 頁参照）。

4. もしアッラー*が、（彼らが思い込んでいるように）子供を設けられることをお望みであったなら、かれがお創りになるものの内から、お望みのものをお選びになったであろう[1]。（そのようなこととは無縁な）かれに称え*あれ[2]。かれは唯一であり*、君臨し給う*アッラーである。

لَوْ أَرَادَ ٱللَّهُ أَن يَتَّخِذَ وَلَدًا لَّٱصْطَفَىٰ مِمَّا
يَخْلُقُ مَا يَشَآءُ ۚ سُبْحَٰنَهُۥ ۖ هُوَ ٱللَّهُ ٱلْوَٰحِدُ
ٱلْقَهَّارُ ٤

5. かれは諸天と大地を、真理によってお創りになった[3]。かれは夜を昼に巻き付け（て覆われ）、昼を夜に巻き付け（覆い）給う[4]。また、太陽と月を（人間を益する秩序において）仕えさせられた。（その）いずれも、定められた時期（である復活の日*）まで（その軌道を）運行し続ける。かれは偉力ならびないお方、赦し深いお方ではないか。

خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضَ بِٱلْحَقِّ ۖ يُكَوِّرُ
ٱلَّيْلَ عَلَى ٱلنَّهَارِ وَيُكَوِّرُ ٱلنَّهَارَ عَلَى ٱلَّيْلِ ۖ
وَسَخَّرَ ٱلشَّمْسَ وَٱلْقَمَرَ ۖ كُلٌّ يَجْرِى
لِأَجَلٍ مُّسَمًّى ۗ أَلَا هُوَ ٱلْعَزِيزُ ٱلْغَفَّٰرُ ٥

6. かれはあなた方を、一人の人間（アーダム*）からお創りになり、そしてそれ（アーダム*）から、彼の妻をお創りになった。また、かれはあなた方のために、家畜の内から八頭[5]を下した。かれはあなた方を、あなた方の母親の胎内に創造の後に創造を重ねつつ、三つの闇[6]においてお創りになる。そのお方がアッラー*、あなた方の主*、かれにこそ王

خَلَقَكُم مِّن نَّفْسٍ وَٰحِدَةٍ ثُمَّ جَعَلَ مِنْهَا
زَوْجَهَا وَأَنزَلَ لَكُم مِّنَ ٱلْأَنْعَٰمِ ثَمَٰنِيَةَ
أَزْوَٰجٍ ۚ يَخْلُقُكُمْ فِى بُطُونِ أُمَّهَٰتِكُمْ خَلْقًا
مِّنۢ بَعْدِ خَلْقٍ فِى ظُلُمَٰتٍ ثَلَٰثٍ ۚ ذَٰلِكُمُ ٱللَّهُ
رَبُّكُمْ لَهُ ٱلْمُلْكُ ۖ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ ۖ فَأَنَّىٰ
تُصْرَفُونَ ٦

---

1 この仮定はそもそも不可能であり、つまりは天使*をアッラー*の娘とし、イーサー*をかれの息子と主張した、シルク*の徒の無知さを露呈（ろてい）させる意味の修辞的表現である（イブン・カスィール 7:85 参照）。預言者*たち章 17、金の装飾章 81 も参照。

2 雌牛章 116 の訳注も参照。

3 「真理によって…」については、イムラーン章 191「我らが主よ、あなたは…」の訳注も参照。

4 イムラーン家章 27「夜を昼の中にお入れになり…」の訳注も参照。

5 ラクダ、牛、羊、山羊の雌雄（しゆう）のこと（ムヤッサル 459 頁参照）。家畜章 143-144 も参照。

6 「三つの闇」とは、お腹、子宮、胎盤（たいばん）のこととされる（前掲書、同頁参照）。

権は属する。かれの外に、崇拝*されるべきいかなるものもない。ならば一体、どうしてあなた方は（かれの崇拝*から）逸らされるのか？

7. （人々よ、）もしあなた方が不信仰に陥っても、実にアッラーはあなた方（に対する必要）などから、満ち足りた*お方。また、かれはその僕たちに不信仰をお喜びにはならない。そして、もしあなた方が（かれの恩恵に）感謝するならば、かれはあなた方にそれをお喜びになる。（罪の）重荷を背負う者は、他の者（が犯した罪）の重荷まで背負うことはない。それからあなた方の主にこそ、（復活の日*の）あなた方の帰り所はあり、かれはあなた方が行っていたことについて、あなた方に告げ聞かせ給う。本当にかれは、胸の内をご存知のお方なのだから。

إِن تَكْفُرُوا۟ فَإِنَّ ٱللَّهَ غَنِىٌّ عَنكُمْ ۖ وَلَا يَرْضَىٰ
لِعِبَادِهِ ٱلْكُفْرَ ۖ وَإِن تَشْكُرُوا۟ يَرْضَهُ لَكُمْ ۗ وَلَا
تَزِرُ وَازِرَةٌ وِزْرَ أُخْرَىٰ ۗ ثُمَّ إِلَىٰ رَبِّكُم
مَّرْجِعُكُمْ فَيُنَبِّئُكُم بِمَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ۚ إِنَّهُۥ
عَلِيمٌۢ بِذَاتِ ٱلصُّدُورِ ٧

8. 害悪[1]が人に降りかかれば、彼は自分の主*に（悔悟して）立ち返りつつ、祈る。それからかれ（アッラー*）が（その害悪を取り除いてやり、）かれの御許からの恩恵を彼にお恵みになれば、かれは以前、自分がかれに祈っていたことを忘れ、アッラー*に同位者を設け（て崇拝*し）、かれの道から（他者を）迷わせてしまう。（使徒*よ、）言うのだ。「あなたの不信仰を、少しばかり楽しんでいよ。本当にあなたは（死後）、業火の仲間となるのだから」。

۞ وَإِذَا مَسَّ ٱلْإِنسَٰنَ ضُرٌّ دَعَا رَبَّهُۥ مُنِيبًا إِلَيْهِ
ثُمَّ إِذَا خَوَّلَهُۥ نِعْمَةً مِّنْهُ نَسِىَ مَا كَانَ يَدْعُوٓا۟
إِلَيْهِ مِن قَبْلُ وَجَعَلَ لِلَّهِ أَندَادًا لِّيُضِلَّ عَن
سَبِيلِهِۦ ۚ قُلْ تَمَتَّعْ بِكُفْرِكَ قَلِيلًا ۖ إِنَّكَ مِنْ
أَصْحَٰبِ ٱلنَّارِ ٨

1 「害悪」とは、試練、苦境、病気などのこと（ムヤッサル 459 頁参照）。

9. （そのような不信仰者*がよいのか、）それとも来世（の懲罰）を用心し、自分の主*のご慈悲を望みつつ、夜の刻にサジダ*し、起立（しつつ礼拝）する従順な者か？（使徒*よ、）言ってやれ。「一体、（自分の主*と宗教を）知る者たちと、知らない者たちは同等か？ 本当に教訓を得るのは、澄んだ理性の持ち主だけである」。

أَمَّنْ هُوَ قَٰنِتٌ ءَانَآءَ ٱلَّيْلِ سَاجِدًا وَقَآئِمًا
يَحْذَرُ ٱلْءَاخِرَةَ وَيَرْجُوا۟ رَحْمَةَ رَبِّهِۦ ۗ قُلْ هَلْ
يَسْتَوِى ٱلَّذِينَ يَعْلَمُونَ وَٱلَّذِينَ لَا
يَعْلَمُونَ ۗ إِنَّمَا يَتَذَكَّرُ أُو۟لُوا۟ ٱلْأَلْبَٰبِ ٩

10. （使徒*よ、われがこう言っている、と）言うのだ。「信仰するわが僕たちよ、あなた方の主を畏れ*よ。この現世で善を尽くす者[1]には、善きもの[2]がある。そしてアッラー*の大地は広大なのだ[3]。本当に忍耐*する者たちは、その褒美を際限なく全うされる」。

قُلْ يَٰعِبَادِ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ ٱتَّقُوا۟ رَبَّكُمْ ۚ لِلَّذِينَ
أَحْسَنُوا۟ فِى هَٰذِهِ ٱلدُّنْيَا حَسَنَةٌ ۗ وَأَرْضُ
ٱللَّهِ وَٰسِعَةٌ ۗ إِنَّمَا يُوَفَّى ٱلصَّٰبِرُونَ أَجْرَهُم بِغَيْرِ
حِسَابٍ ١٠

11. （使徒*よ、）言え。「本当に私（と私の信者）は、アッラー*を崇拝*するよう命じられた。かれだけに真摯に崇拝*行為を捧げつつ[4]。

قُلْ إِنِّىٓ أُمِرْتُ أَنْ أَعْبُدَ ٱللَّهَ مُخْلِصًا لَّهُ ٱلدِّينَ ١١

12. そして（自分の共同体において）、服従する者（ムスリム*）たちの先駆けとなるよう、命じられたのだ」。

وَأُمِرْتُ لِأَنْ أَكُونَ أَوَّلَ ٱلْمُسْلِمِينَ ١٢

13. （使徒*よ、）言うのだ。「本当に私は、もし我が主*に逆らったりしたら、偉大な（復活の）日*の懲罰を怖れる」。

قُلْ إِنِّىٓ أَخَافُ إِنْ عَصَيْتُ رَبِّى عَذَابَ يَوْمٍ عَظِيمٍ ١٣

---

1 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

2 この「善きもの」とは、来世では天国、現世では健康、糧、勝利などのこと（ムヤッサル 459 頁参照）。

3 つまり祖国で「善を尽くす」ことを全う出来ないのであれば、それが出来るところへと移住せよ、ということ（アル＝バイダーウィー5:61 参照）。婦人章 97、蜘蛛章 56 も参照。

4 「かれだけに真摯に崇拝*行為を捧げる」ことについては、婦人章 146 の訳注を参照。

14. （使徒*よ、）言え。「私はアッラー*をこそ、崇拝*する。かれだけに真摯に崇拝*行為を捧げつつ[1]。

قُلِ ٱللَّهَ أَعۡبُدُ مُخۡلِصٗا لَّهُۥ دِينِي ١٤

15. ならば（シルク*の徒よ）、あなた方が望んだ、かれ以外のものを崇めるがよい[2]」。（使徒*よ、）言ってやれ。「本当に損失者とは（現世と不信仰への誘惑によって）、復活の日*に自分自身とその家族を損ねる者たち[3]のこと。それこそは紛れもない損失ではないか」。

فَٱعۡبُدُواْ مَا شِئۡتُم مِّن دُونِهِۦۗ قُلۡ إِنَّ ٱلۡخَٰسِرِينَ
ٱلَّذِينَ خَسِرُوٓاْ أَنفُسَهُمۡ وَأَهۡلِيهِمۡ يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِۗ
أَلَا ذَٰلِكَ هُوَ ٱلۡخُسۡرَانُ ٱلۡمُبِينُ ١٥

16. 彼らには（復活の日*、）その上から（何重もの）業火の層があり、その下からも（同様の）層がある。アッラー*はそれによって、その僕たちを怖れさせる。わが僕たちよ、ならばわれを畏れる*のだ。

لَهُم مِّن فَوۡقِهِمۡ ظُلَلٞ مِّنَ ٱلنَّارِ وَمِن تَحۡتِهِمۡ ظُلَلٞۚ
ذَٰلِكَ يُخَوِّفُ ٱللَّهُ بِهِۦ عِبَادَهُۥۚ يَٰعِبَادِ فَٱتَّقُونِ ١٦

17. ターグート*を崇めることを避け、アッラー*へと（悔悟して不断に）立ち返る者たち、彼らにこそは吉報[4]がある。ゆえに、わが僕たちに吉報を伝えよ。

وَٱلَّذِينَ ٱجۡتَنَبُواْ ٱلطَّٰغُوتَ أَن يَعۡبُدُوهَا وَأَنَابُوٓاْ إِلَى
ٱللَّهِ لَهُمُ ٱلۡبُشۡرَىٰۚ فَبَشِّرۡ عِبَادِ ١٧

18. （彼らは）言葉を聞き、その内の最善のものに従う[5]者たち。それらの者たちは、アッラー*が導かれた者たちであり、それらの者たちこそは、澄んだ理性の持ち主なのだ。

ٱلَّذِينَ يَسۡتَمِعُونَ ٱلۡقَوۡلَ فَيَتَّبِعُونَ أَحۡسَنَهُۥٓۚ
أُوْلَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ هَدَىٰهُمُ ٱللَّهُۖ وَأُوْلَٰٓئِكَ هُمۡ
أُوْلُواْ ٱلۡأَلۡبَٰبِ ١٨

---

1 「かれだけに真摯に崇拝*行為を捧げる」ことについては、婦人章 146 の訳注を参照。

2 これはシルク*の徒への、警告的な意味合い（ムヤッサル 460 頁参照）。

3 現世へと誘惑し、信仰から迷わせることによって損ねること（前掲書、同頁参照）。

4 この「吉報」とは、現世では讃美され、アッラー*の成功へと導かれること。そして来世ではアッラー*のお喜びと、天国における永遠の安寧（あんねい）を得ること（前掲書、同頁参照）。

5 「言葉を聞き、その内の最善のものに従う」の解釈には、「クルアーン*とそれ以外のものを聞いた後、クルアーン*に従う」「善いことと悪いことを聞けば、善いことだけを話し、悪いことからは口を閉ざす」「クルアーン*と預言者*の言葉を聞けば、その内の明確なものに従う（イムラーン家章 7 とその訳注を参照）」など、諸説ある（アル＝クルトゥビー15:244 参照）。

19. 一体（逸脱と頑迷さの中にあり続けることで、）懲罰（という定め）の言葉がその身に確定した者が、（使徒*よ、あなたによって導かれよう）か？　一体地獄の中にある者を、あなたが救い出せるというのか？

أَفَمَنْ حَقَّ عَلَيْهِ كَلِمَةُ ٱلْعَذَابِ أَفَأَنتَ تُنقِذُ
مَن فِي ٱلنَّارِ ١٩

20. しかし自分たちの主*を畏れた*者たち、彼らには（天国で）高き住まいがある。その上には、（幾重にも重なって）建てられた高き住まいがあり、その下からは河川が流れているのだ。（アッラー*はそれを、実現する）アッラー*のお約束（として、約束された）。アッラー*はそのお約束を、破り給わない。

لَٰكِنِ ٱلَّذِينَ ٱتَّقَوْا۟ رَبَّهُمْ لَهُمْ غُرَفٌ مِّن فَوْقِهَا غُرَفٌ
مَّبْنِيَّةٌ تَجْرِي مِن تَحْتِهَا ٱلْأَنْهَٰرُ ۖ وَعْدَ ٱللَّهِ
لَا يُخْلِفُ ٱللَّهُ ٱلْمِيعَادَ ٢٠

21. （使徒*よ、）一体あなたはアッラー*が天から（雨）水をお降らしになり、それを噴泉として（湧き出ることになる）大地にお入れになったのを、見ないのか？　それからかれは、それ（水）によって異なる色の作物を生育させるが、やがてそれは枯れてしまい、あなたはそれが黄色くなるのを目にする。それからかれは、それを木っ端微塵にしてしまうのだ。本当にそこにはまさしく、澄んだ理性の持ち主への教訓がある。

أَلَمْ تَرَ أَنَّ ٱللَّهَ أَنزَلَ مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءً فَسَلَكَهُۥ
يَنَٰبِيعَ فِي ٱلْأَرْضِ ثُمَّ يُخْرِجُ بِهِۦ زَرْعًا مُّخْتَلِفًا
أَلْوَٰنُهُۥ ثُمَّ يَهِيجُ فَتَرَىٰهُ مُصْفَرًّا ثُمَّ
يَجْعَلُهُۥ حُطَٰمًا ۚ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَذِكْرَىٰ
لِأُو۟لِي ٱلْأَلْبَٰبِ ٢١

22. 一体、アッラー*がその胸を服従（イスラーム*）へと広げられ、その主*からの（お導きという）光の上にある者が(、そうでない者と同様)か？　その心がアッラー*の教訓に対し、硬くなってしまった者たちに災いあれ。それらの者たちは、明らかな迷いの中にあるのだから。

أَفَمَن شَرَحَ ٱللَّهُ صَدْرَهُۥ لِلْإِسْلَٰمِ فَهُوَ عَلَىٰ
نُورٍ مِّن رَّبِّهِۦ ۚ فَوَيْلٌ لِّلْقَٰسِيَةِ قُلُوبُهُم مِّن ذِكْرِ
ٱللَّهِ ۚ أُو۟لَٰٓئِكَ فِي ضَلَٰلٍ مُّبِينٍ ٢٢

23. アッラー*は話の内で最善のもの、つまり（その内容が互いに）似通い、反復する[1]啓典（クルアーン*）を下された。その主*を畏れる*者たちの皮膚はそれ[2]によって逆立ち、それから彼らの皮膚と心は、アッラー*の（吉報の）想念へと和らぐ[3]。それは、かれがそれによって、かれがお望みの者を導かれるアッラー*のお導き。そして、アッラー*が（その不信仰と頑迷さゆえに）迷わせ給う者には、いかなる導き手もないのだ。

ٱللَّهُ نَزَّلَ أَحۡسَنَ ٱلۡحَدِيثِ كِتَٰبٗا مُّتَشَٰبِهٗا
مَّثَانِيَ تَقۡشَعِرُّ مِنۡهُ جُلُودُ ٱلَّذِينَ يَخۡشَوۡنَ
رَبَّهُمۡ ثُمَّ تَلِينُ جُلُودُهُمۡ وَقُلُوبُهُمۡ إِلَىٰ
ذِكۡرِ ٱللَّهِۚ ذَٰلِكَ هُدَى ٱللَّهِ يَهۡدِي بِهِۦ مَن
يَشَآءُۚ وَمَن يُضۡلِلِ ٱللَّهُ فَمَا لَهُۥ مِنۡ هَادٍ ٢٣

24. 一体、復活の日*、（自らの不信仰と迷いゆえ、地獄に放り込まれて）自分の顔で忌まわしい懲罰から自らを守る（はめになる）者が（、導かれて天国に入る者と同等）か？[4] 不正*者たちには、（こう）言われるのだ。「あなた方が（現世で）稼いでいたもの[5]（ゆえの罰）を味わえ」。

أَفَمَن يَتَّقِي بِوَجۡهِهِۦ سُوٓءَ ٱلۡعَذَابِ يَوۡمَ
ٱلۡقِيَٰمَةِۚ وَقِيلَ لِلظَّٰلِمِينَ ذُوقُواْ مَا كُنتُمۡ
تَكۡسِبُونَ ٢٤

25. 彼ら以前の者たちも、（その使徒*たちを）嘘つき呼ばわりした。それで懲罰は、彼らが気付きもしない所から、彼らのもとに到来したのである。

كَذَّبَ ٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِهِمۡ فَأَتَىٰهُمُ ٱلۡعَذَابُ
مِنۡ حَيۡثُ لَا يَشۡعُرُونَ ٢٥

---

1 「似通う」とは、各アーヤ*が、その美しさ、完璧さ、矛盾のなさにおいて、互いに似通っていること。また「反復する」とは、物語、法規定、証明、根拠などがくり返し出現し、かつ、どれだけ沢山読んでも飽（あ）きが来ることもなく、くり返し読まれるものであることを指す（ムヤッサル 461 頁参照）。

2 この「それ」とは、クルアーン*に含まれる警告のこと（前掲書、同頁参照）。

3 アッラー*の懲罰への恐怖ゆえに鳥肌が立つが、彼らの皮膚と心はその後、アッラー*の褒美への希望によって和らぐ（アッ＝ラーズィー5:450-451 参照）。戦利品*2、雷鳴章 28 も参照。

4 このアーヤ*の解釈には、「顔から逆様に地獄を引きずられる」「顔からそこに放り込まれる」「手を縛られた状態で、首に巨大な燐（リン）の塊をつけられ、燃やされる」といった諸説がある（アル＝バガウィー4:87 参照）。

5 これは、アッラー*に対する不服従のこと（ムヤッサル 461 頁参照）。

26. こうしてアッラー*は彼らに、現世の生活における屈辱を味わわせられた。そして来世の懲罰こそは、より甚大なのである。もし彼らが、（そのことを）知っていたならば。

فَأَذَاقَهُمُ ٱللَّهُ ٱلْخِزْيَ فِي ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَاۖ وَلَعَذَابُ
ٱلْأٓخِرَةِ أَكْبَرُۚ لَوْ كَانُوا۟ يَعْلَمُونَ ٢٦

27. われら*は確かに人々に対し、彼らが教訓を受けるようにと、このクルアーン*の中であらゆる譬えを挙げた。

وَلَقَدْ ضَرَبْنَا لِلنَّاسِ فِي هَٰذَا ٱلْقُرْءَانِ مِن كُلِّ
مَثَلٍ لَّعَلَّهُمْ يَتَذَكَّرُونَ ٢٧

28. 彼らが（アッラー*を）畏れる*ようにと、歪みのないアラビア語のクルアーン*として。

قُرْءَانًا عَرَبِيًّا غَيْرَ ذِي عِوَجٍ لَّعَلَّهُمْ يَتَّقُونَ ٢٨

29. アッラー*は、互いに確執する複数の共同（所有）者がいる（奴隷*の）男と、一人の男（主人）に従順な（奴隷*の）男の譬えを挙げられた[1]。一体、彼ら二人は譬えとして、同等だろうか？ アッラー*にこそ全ての称賛*あれ。いや、彼らの大半は知らないのである。

ضَرَبَ ٱللَّهُ مَثَلًا رَّجُلًا فِيهِ شُرَكَآءُ مُتَشَٰكِسُونَ
وَرَجُلًا سَلَمًا لِّرَجُلٍ هَلْ يَسْتَوِيَانِ مَثَلًاۚ
ٱلْحَمْدُ لِلَّهِۚ بَلْ أَكْثَرُهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ٢٩

30. （使徒*よ、）実にあなたは死にゆく者であり、本当に彼らも死にゆく者たちなのだ。

إِنَّكَ مَيِّتٌ وَإِنَّهُم مَّيِّتُونَ ٣٠

31. それから本当にあなた方は復活の日*、あなた方の主*の御許で、議論し合（い、アッラー*はあなた方を正義によって裁き給）う。

ثُمَّ إِنَّكُمْ يَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ عِندَ رَبِّكُمْ تَخْتَصِمُونَ ٣١

32. アッラー*に対して嘘をつき、真実が自分のもとに到来した時に嘘呼ばわりした者よりも、ひどい不正*者があろうか？ 一体、地獄にこそ、不信仰者*たちの住まいがあるのではないか？

۞ فَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّن كَذَبَ عَلَى ٱللَّهِ
وَكَذَّبَ بِٱلصِّدْقِ إِذْ جَآءَهُۥٓۚ أَلَيْسَ فِي
جَهَنَّمَ مَثْوًى لِّلْكَٰفِرِينَ ٣٢

1 方針の違う複数の主人に仕えなければならず、彼ら全員を満足させようとして困惑する者が、困惑と疑念の中にあるシルク*の徒にたとえられ、方針が明白なただ一人の主人に仕える者が、安らぎと落ち着きの中にある信仰者にたとえられている（ムヤッサル 461 頁参照）。

33. 真実をもたらし、それを確証した者[1]、それらの者たちこそは敬虔な*者たち。

وَٱلَّذِى جَآءَ بِٱلصِّدْقِ وَصَدَّقَ بِهِۦٓ ۙ
أُو۟لَٰٓئِكَ هُمُ ٱلْمُتَّقُونَ ٣٣

34. 彼らには、その主*の御許において、彼らの望むものがある。それは善を尽くす者[2]たちへの褒美。

لَهُم مَّا يَشَآءُونَ عِندَ رَبِّهِمْ ۚ ذَٰلِكَ جَزَآءُ
ٱلْمُحْسِنِينَ ٣٤

35. （それは）アッラー*が、彼らが（現世で）行った最悪のもの[3]を彼らのために帳消しにされ、彼らが（そこで）行っていた最善のもので、彼らにその褒美をお報いになるからである。

لِيُكَفِّرَ ٱللَّهُ عَنْهُمْ أَسْوَأَ ٱلَّذِى عَمِلُوا۟
وَيَجْزِيَهُمْ أَجْرَهُم بِأَحْسَنِ ٱلَّذِى كَانُوا۟
يَعْمَلُونَ ٣٥

36. 一体アッラー*だけで、その僕（ムハンマド*の守護）には十分なのではないか？（使徒*よ、）彼ら（シルク*の徒）は、かれ（アッラー*）以外の者たちによって、あなたを怖がらせる。アッラー*が迷わせ給う者には、いかなる導き手もないのだ。

أَلَيْسَ ٱللَّهُ بِكَافٍ عَبْدَهُۥ ۖ وَيُخَوِّفُونَكَ
بِٱلَّذِينَ مِن دُونِهِۦ ۚ وَمَن يُضْلِلِ ٱللَّهُ فَمَا
لَهُۥ مِنْ هَادٍ ٣٦

37. そしてアッラー*がお導きになる者、彼にはいかなる迷わし手もいない。一体アッラー*は偉力ならびない*お方、報復の主ではないのか？

وَمَن يَهْدِ ٱللَّهُ فَمَا لَهُۥ مِن مُّضِلٍّ ۗ أَلَيْسَ
ٱللَّهُ بِعَزِيزٍ ذِى ٱنتِقَامٍ ٣٧

38. （使徒*よ、）もしあなたが彼ら（シルク*の徒）に、「諸天と大地を作ったのは誰か？」と尋ねたならば、彼らはきっと（こ

وَلَئِن سَأَلْتَهُم مَّنْ خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضَ
لَيَقُولُنَّ ٱللَّهُ ۚ قُلْ أَفَرَءَيْتُم مَّا تَدْعُونَ مِن
دُونِ ٱللَّهِ إِنْ أَرَادَنِىَ ٱللَّهُ بِضُرٍّ هَلْ هُنَّ

---

1 これらの者たちの筆頭が預言者*であり、その信徒たちである（ムヤッサル 461 頁参照）。ほかにも、「真実をもたらした」のはジブリール*で「それを確証した」のが預言者*であるとか、「真実」とはシャハーダ*の言葉で「それを確証した」のが預言者*である、といった解釈もある（イブン・カスィール 7:99 参照）。

2 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

3 罪が「最悪のもの」と表現されているのは、最悪の罪が放免（ほうめん）されるのであれば、それ以外のものは尚更である、という強調の意味。あるいは、彼ら「善を尽くす者たち」にとっては、小さな罪も最悪なものと位置づけられていたことを表す（アル＝バイダーウィー5:67 参照）。

う）言ったであろう。「アッラー*である」。言ってやれ。「では言ってみよ。あなた方はアッラー*をよそに、何を祈っているのか？　もしアッラー*が私に何らかの害をお望みになったら、一体それらはかれの（お望みになった）害を、除去してくれるというのか？　それとも、かれが私にご慈悲（じひ）をお望みになったら、それらがかれのご慈悲（じひ）を押し留（とど）める（ことが出来る）とでも？」言うのだ。「アッラー*だけで、私には十分。（何かを誰かに）委（ゆだ）ねる者には、かれだけに（全てを）委（ゆだ）ねさせよ*」。

كَٰشِفَٰتُ ضُرِّهِۦٓ أَوْ أَرَادَنِى بِرَحْمَةٍ هَلْ
هُنَّ مُمْسِكَٰتُ رَحْمَتِهِۦ ۚ قُلْ حَسْبِىَ ٱللَّهُ ۖ
عَلَيْهِ يَتَوَكَّلُ ٱلْمُتَوَكِّلُونَ ﴿٣٨﴾

39. （使徒（しと）*よ、）言え。「我が民よ、あなた方は自分たちのやり方で（出来る限りのことを）行うがよい。実に私も、（自分のやり方で）行おう。あなた方はやがて、（誰に罰（ばつ）が下るかを）知ることになるだろうから」。

قُلْ يَٰقَوْمِ ٱعْمَلُوا۟ عَلَىٰ مَكَانَتِكُمْ إِنِّى
عَٰمِلٌ ۖ فَسَوْفَ تَعْلَمُونَ ﴿٣٩﴾

40. （現世で）懲罰（ちょうばつ）が訪（おとず）れる者、かれ（アッラー*）はその者たちを辱（はずか）しめられる。そして（来世では）彼らの上に、永劫（えいごう）の懲罰（ちょうばつ）が降（ふ）りかかるのだ。

مَن يَأْتِيهِ عَذَابٌ يُخْزِيهِ وَيَحِلُّ عَلَيْهِ عَذَابٌ
مُّقِيمٌ ﴿٤٠﴾

41. （使徒（しと）*よ、）本当にわれら*はあなたに、人々への啓典（けいてん）（クルアーン*）を真理と共に下した。それで導（みちび）かれた者は、自分自身のため（に導（みちび）かれたの）であり、また迷った者は、自分を害（がい）するために迷うだけ。そしてあなたは、彼らに対する代理人などではない。

إِنَّآ أَنزَلْنَا عَلَيْكَ ٱلْكِتَٰبَ لِلنَّاسِ بِٱلْحَقِّ ۖ
فَمَنِ ٱهْتَدَىٰ فَلِنَفْسِهِۦ ۖ وَمَن ضَلَّ فَإِنَّمَا
يَضِلُّ عَلَيْهَا ۖ وَمَآ أَنتَ عَلَيْهِم بِوَكِيلٍ ﴿٤١﴾

42. アッラー*は魂（たましい）を、その死の折にお召（め）しになる。また、その眠りにおいて死ななかったもの（魂（たましい））も。そしてかれは、死を決定されたものを（そのまま）留（とど）められ、別のものは定められた期限まで放たれ（、そ

ٱللَّهُ يَتَوَفَّى ٱلْأَنفُسَ حِينَ مَوْتِهَا وَٱلَّتِى
لَمْ تَمُتْ فِى مَنَامِهَا ۖ فَيُمْسِكُ ٱلَّتِى قَضَىٰ
عَلَيْهَا ٱلْمَوْتَ وَيُرْسِلُ ٱلْأُخْرَىٰٓ إِلَىٰٓ أَجَلٍ
مُّسَمًّى ۚ إِنَّ فِى ذَٰلِكَ لَءَايَٰتٍ لِّقَوْمٍ

の肉体へとお戻しにな）る[1]。本当にその中にはまさしく、熟考する民への御徴[2]があるのだ。

يَتَفَكَّرُونَ ﴿٤٢﴾

43. いや、彼らはアッラー*をよそに、執り成し手を設けたのか？　（使徒*よ、）言ってやれ。「一体、彼らは何一つ所有してもいなければ、（あなた方の崇拝*も）弁えることがないというのに、（そうするの）か？」

أَمِ ٱتَّخَذُواْ مِن دُونِ ٱللَّهِ شُفَعَآءَۚ قُلۡ أَوَلَوۡ
كَانُواْ لَا يَمۡلِكُونَ شَيۡـٔٗا وَلَا
يَعۡقِلُونَ ﴿٤٣﴾

44. 言うのだ。「アッラー*にこそ、全ての執り成しが属する[3]。かれにこそ、諸天と大地の王権は属するのだ。それから（復活の日*、）かれの御許にこそ、あなた方は戻されるのである」。

قُل لِّلَّهِ ٱلشَّفَٰعَةُ جَمِيعٗاۖ لَّهُۥ مُلۡكُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَٱلۡأَرۡضِۖ ثُمَّ إِلَيۡهِ تُرۡجَعُونَ ﴿٤٤﴾

45. また、アッラー*だけ（を崇拝*すること）が言及されれば、来世を信じない者たちの心は嫌悪する。そしてかれ以外の者たち（への崇拝*）が言及されれば、どうであろうか、彼らは喜ぶのだ。

وَإِذَا ذُكِرَ ٱللَّهُ وَحۡدَهُ ٱشۡمَأَزَّتۡ قُلُوبُ
ٱلَّذِينَ لَا يُؤۡمِنُونَ بِٱلۡأٓخِرَةِۖ وَإِذَا ذُكِرَ
ٱلَّذِينَ مِن دُونِهِۦٓ إِذَا هُمۡ يَسۡتَبۡشِرُونَ ﴿٤٥﴾

46. 言え。「諸天と大地の創成者*、不可視の世界*も現象界[4]もご存知のアッラー*よ、あなたは（復活の日*、）あなたの僕たちの間を、彼らが（あなたについて）意見を異にしていたことにおいて、お裁きになります」。

قُلِ ٱللَّهُمَّ فَاطِرَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ عَٰلِمَ
ٱلۡغَيۡبِ وَٱلشَّهَٰدَةِ أَنتَ تَحۡكُمُ بَيۡنَ عِبَادِكَ
فِي مَا كَانُواْ فِيهِ يَخۡتَلِفُونَ ﴿٤٦﴾

47. もし、不正*を働いた者たち（シルク*の徒）に大地にあるもの全てと、それと一緒に（別の）同様のものがあったとしたら、復

وَلَوۡ أَنَّ لِلَّذِينَ ظَلَمُواْ مَا فِي ٱلۡأَرۡضِ جَمِيعٗا
وَمِثۡلَهُۥ مَعَهُۥ لَٱفۡتَدَوۡاْ بِهِۦ مِن سُوٓءِ ٱلۡعَذَابِ
يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِۚ وَبَدَا لَهُم مِّنَ ٱللَّهِ مَا لَمۡ يَكُونُواْ

---

1 このアーヤ*の意味については、家畜章 60 とその訳注を参照。

2 この「御徴」は、アッラー*の御力を示す証拠のこと（ムヤッサル 463 頁参照）。

3 復活の日*の「執り成し」については雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

4 「現象界」については、家畜章 73 の訳注を参照。

活の日、それで忌まわしい懲罰を償ったであろう（が、それは受け入れられないのだ）。そしてアッラー*の御許から、彼らに、自分たちが（現世で）予想もしなかったことが出現する。

يَحۡتَسِبُونَ ٤٧

48. また、彼らには（その日、現世で）自分たちが稼いだ悪（の報い）が現れる。そして自分たちが嘲笑していたもの（懲罰）が、彼らを包囲するのである。

وَبَدَا لَهُمۡ سَيِّـَٔاتُ مَا كَسَبُواْ وَحَاقَ بِهِم
مَّا كَانُواْ بِهِۦ يَسۡتَهۡزِءُونَ ٤٨

49. また人間は、害悪が降りかかれば、われら*に（その除去を）祈る。それからわれら*が、われら*のもとからの恩恵を彼に恵んでやれば、（こう）言うのだ。「私は本当に、自分にある知識ゆえに、これを授けられたのだ[1]」。いや、それは試練[2]である。しかし彼らの大半は、（そのことを）知らない。

فَإِذَا مَسَّ ٱلۡإِنسَٰنَ ضُرّٞ دَعَانَا ثُمَّ إِذَا خَوَّلۡنَٰهُ
نِعۡمَةٗ مِّنَّا قَالَ إِنَّمَآ أُوتِيتُهُۥ عَلَىٰ عِلۡمِۭۚ بَلۡ هِيَ
فِتۡنَةٞ وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَهُمۡ لَا يَعۡلَمُونَ ٤٩

50. 彼ら以前の（不信仰）者*たちも確かに、そう言ったのだ。そして彼らが稼いでいたもの[3]は、（懲罰が訪れた時、）彼らを益することがなかったのである。

قَدۡ قَالَهَا ٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِهِمۡ فَمَآ أَغۡنَىٰ عَنۡهُم
مَّا كَانُواْ يَكۡسِبُونَ ٥٠

51. こうして彼らに、彼らが稼いだ悪（の罰）が襲いかかったのだ。そしてそれらの者（マッカ*の民）の内、不正*を働いた者たちには、自分たちが稼いだ悪が襲いかかるだろう。そして彼らは、（アッラー*から）逃れられる者などではない。

فَأَصَابَهُمۡ سَيِّـَٔاتُ مَا كَسَبُواْۚ وَٱلَّذِينَ
ظَلَمُواْ مِنۡ هَٰٓؤُلَآءِ سَيُصِيبُهُمۡ سَيِّـَٔاتُ
مَا كَسَبُواْ وَمَا هُم بِمُعۡجِزِينَ ٥١

1 この意味については、物語章 78 の訳注を参照。

2 恩恵に対して感謝深い者と、恩知らずな者を選別する「試練」のこと（ムヤッサル 464 頁参照）。

3 財産や子供などのこと（前掲書、同頁参照）。

52. 一体、彼らはアッラー*がその僕たちの内、かれがお望みの者に糧を豊富に与えられ、また控えられることを知らなかったのか？[1] 本当にその中にはまさしく、信仰する民への御徴がある。

أَوَلَمْ يَعْلَمُوٓا۟ أَنَّ ٱللَّهَ يَبْسُطُ ٱلرِّزْقَ لِمَن يَشَآءُ
وَيَقْدِرُ ۚ إِنَّ فِى ذَٰلِكَ لَءَايَٰتٍ لِّقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ٥٢

53. （使徒*よ、われがこう言っている、と言え。）「自分自身に対し、（罪という重荷を）背負いに背負った、わが僕たちよ。アッラー*のご慈悲に絶望するのではない。本当にアッラー*は、罪を全てお赦しになるのだから。本当にかれこそは、赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだぞ。[2]

۞ قُلْ يَٰعِبَادِىَ ٱلَّذِينَ أَسْرَفُوا۟ عَلَىٰٓ أَنفُسِهِمْ
لَا تَقْنَطُوا۟ مِن رَّحْمَةِ ٱللَّهِ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ يَغْفِرُ
ٱلذُّنُوبَ جَمِيعًا ۚ إِنَّهُۥ هُوَ ٱلْغَفُورُ
ٱلرَّحِيمُ ٥٣

54. また、あなた方に懲罰が訪れる前に、あなた方の主*に（悔悟して）立ち返り、かれに服従（イスラーム*）せよ。（懲罰が訪れたら、あなた方は罰され、）そこから助けられることはなくなってしまうのだ。

وَأَنِيبُوٓا۟ إِلَىٰ رَبِّكُمْ وَأَسْلِمُوا۟ لَهُۥ مِن قَبْلِ
أَن يَأْتِيَكُمُ ٱلْعَذَابُ ثُمَّ لَا تُنصَرُونَ ٥٤

55. そして、あなた方が気付かぬまま、懲罰があなた方のもとに突然やってくる前に、あなた方の主*から自分たちに下された最善のもの（クルアーン*）に従え。

وَٱتَّبِعُوٓا۟ أَحْسَنَ مَآ أُنزِلَ إِلَيْكُم مِّن
رَّبِّكُم مِّن قَبْلِ أَن يَأْتِيَكُمُ ٱلْعَذَابُ بَغْتَةً
وَأَنتُمْ لَا تَشْعُرُونَ ٥٥

56. 人が、『ああ、私が（現世で）、アッラー*のことにおいていい加減だったことゆえの、我が悲痛よ！　私はまさしく、嘲笑者[3]の類いだったのだ』と言うようにならないために。

أَن تَقُولَ نَفْسٌ يَٰحَسْرَتَىٰ عَلَىٰ مَا فَرَّطتُ
فِى جَنۢبِ ٱللَّهِ وَإِن كُنتُ لَمِنَ ٱلسَّٰخِرِينَ ٥٦

1 物語章 82、サバア章 36、暁章 15-16 とその訳注も参照。

2 このアーヤ*は、殺人や姦通などを散々犯した挙げ句、預言者*のもとにやって来て「あなたが語り、招いているものは素晴らしい。私たちが犯したことの償（つぐな）いについて、教えて下さい。」と尋ねた、シルク*の徒らに関して下ったものとされる（アル＝ブハーリー4810 参照）。

3 アッラー、クルアーン、使徒、信仰者たちを「嘲笑」する者のこと（ムヤッサル 464 頁参照）。

57. または、『アッラー*が私のことを導いて下さっていたら、私は敬虔な*者たちの仲間となっていたのに』とか、

أَوْ تَقُولَ لَوْ أَنَّ ٱللَّهَ هَدَىٰنِى لَكُنتُ مِنَ
ٱلْمُتَّقِينَ ٥٧

58. あるいは（復活の日*）、懲罰を目の当たりにする際に、『もし、私に（現世へと）戻ることが出来て、善を尽くす者[1]たちの一人となることが出来たなら』とか、言わないようにするために。

أَوْ تَقُولَ حِينَ تَرَى ٱلْعَذَابَ لَوْ أَنَّ لِى كَرَّةً
فَأَكُونَ مِنَ ٱلْمُحْسِنِينَ ٥٨

59. いや、（真理を示す）わが御徴は確かに、あなたのもとに到来したのだ。そしてあなたはそれを嘘呼ばわりし、（その受容に対し）高慢で、不信仰者*の一人だったのだ」。

بَلَىٰ قَدْ جَآءَتْكَ ءَايَٰتِى فَكَذَّبْتَ بِهَا
وَٱسْتَكْبَرْتَ وَكُنتَ مِنَ ٱلْكَٰفِرِينَ ٥٩

60. 復活の日*、あなたはアッラー*に対して嘘をついた者[2]たちの顔が黒ずむ[3]のを見る。一体、地獄にこそ、（アッラー*に対して）高慢だった者たちの住まいがあるのではないか？

وَيَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ تَرَى ٱلَّذِينَ كَذَبُوا۟ عَلَى ٱللَّهِ
وُجُوهُهُم مُّسْوَدَّةٌ ۚ أَلَيْسَ فِى جَهَنَّمَ مَثْوًى
لِّلْمُتَكَبِّرِينَ ٦٠

61. そしてアッラー*は敬虔*だった者たちを、その勝利によって（地獄から）お救いになる。彼らには忌まわしいことが降りかかることもないし、（現世でやり残したことについて）悲しむこともない。

وَيُنَجِّى ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ ٱتَّقَوْا۟ بِمَفَازَتِهِمْ لَا
يَمَسُّهُمُ ٱلسُّوٓءُ وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ٦١

62. アッラー*は全てのものの創造主で、かれは全てのことを請け負われる*お方であられる。

ٱللَّهُ خَٰلِقُ كُلِّ شَىْءٍ ۖ وَهُوَ عَلَىٰ كُلِّ شَىْءٍ
وَكِيلٌ ٦٢

1 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

2 アッラー*にとってふさわしくないことを言ったり、シルク*を犯していたりした者のこと（ムヤッサル 465 頁参照）。

3 「顔が黒ずむ」ことに関しては、イムラーン家章 106 の訳注を参照。

63. かれにこそ、諸天と大地の（宝庫の）鍵は属するのだ。そしてアッラー*の御徴を否定する者たち、それらの者たちこそは損失者である。

لَّهُۥ مَقَالِيدُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۗ وَٱلَّذِينَ
كَفَرُوا۟ بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ أُو۟لَٰٓئِكَ هُمُ
ٱلْخَٰسِرُونَ ٦٣

64. （使徒*よ、）言ってやれ。「あなた方は、私がアッラー*以外のものを崇めるよう命じるのか？　無知な者たちよ」。

قُلْ أَفَغَيْرَ ٱللَّهِ تَأْمُرُوٓنِّىٓ أَعْبُدُ أَيُّهَا
ٱلْجَٰهِلُونَ ٦٤

65. （使徒*よ、）あなたと、あなた以前の者（使徒*）たちには、確かに（こう）啓示されたのである。「もしもあなたがシルク*を犯したならば、あなたの行いは必ずや台無しとなるのであり、あなたは必ずや損失者の類いとなるのだ」。

وَلَقَدْ أُوحِىَ إِلَيْكَ وَإِلَى ٱلَّذِينَ مِن
قَبْلِكَ لَئِنْ أَشْرَكْتَ لَيَحْبَطَنَّ
عَمَلُكَ وَلَتَكُونَنَّ مِنَ ٱلْخَٰسِرِينَ ٦٥

66. いや、（預言者*よ、）あなたはアッラー*をこそ崇拝*せよ。そして（アッラー*の恩恵に）感謝深い者の一人となるのだ。

بَلِ ٱللَّهَ فَٱعْبُدْ وَكُن مِّنَ ٱلشَّٰكِرِينَ ٦٦

67. 彼ら（シルク*の徒）は、アッラー*を真に敬わなかった。そして復活の日*、大地は全てかれの一掴みの中にあり、諸天はかれの右手で折りたたまれた状態となる[1]。アッラー*に称え*あれ、かれは彼らの言うようなこと（シルク*）から（無縁で）、遥か高遠なお方であられる。

وَمَا قَدَرُوا۟ ٱللَّهَ حَقَّ قَدْرِهِۦ وَٱلْأَرْضُ جَمِيعًا
قَبْضَتُهُۥ يَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ وَٱلسَّمَٰوَٰتُ مَطْوِيَّٰتٌۢ
بِيَمِينِهِۦ ۚ سُبْحَٰنَهُۥ وَتَعَٰلَىٰ عَمَّا يُشْرِكُونَ ٦٧

68. そして角笛に吹き込まれ[2]、諸天にいる者と大地にいる者は（皆）、アッラー*がお望みになった者[3]以外、卒倒（して死亡）する。それから、そこ（角笛）にもう一回

وَنُفِخَ فِى ٱلصُّورِ فَصَعِقَ مَن فِى ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَمَن فِى ٱلْأَرْضِ إِلَّا مَن شَآءَ ٱللَّهُ ۖ ثُمَّ نُفِخَ
فِيهِ أُخْرَىٰ فَإِذَا هُمْ قِيَامٌ يَنظُرُونَ ٦٨

1 同様のアーヤ*として、預言者*たち章 104 も参照。

2 これは一回目の吹き込みのこと（ムヤッサル 466 頁参照）。家畜章 73 の訳注も参照。

3 これが誰のことであるかという解釈には、「殉教者たち」「ジブリール*などの一部の天使*たち」「それ以前に既に死んでしまった者たち」などの諸説がある（アル＝クルトゥビー 15:279-280 参照）。

吹き込まれると、どうであろう、彼らは立ち上がって（自分たちの処遇を）見守る者たちとなる。

69. また、大地はその主*の御光によって輝き、帳簿が置かれ[1]、預言者*たちと証人たちが連れて来られる[2]。そして不正*を受けることなく、彼らの間が真理によって裁かれるのだ。

وَأَشۡرَقَتِ ٱلۡأَرۡضُ بِنُورِ رَبِّهَا وَوُضِعَ
ٱلۡكِتَٰبُ وَجِاْيٓءَ بِٱلنَّبِيِّـۧنَ وَٱلشُّهَدَآءِ
وَقُضِيَ بَيۡنَهُم بِٱلۡحَقِّ وَهُمۡ لَا يُظۡلَمُونَ ٦٩

70. また全ての者は、自分が行ったこと（の報い）を全うされる。かれ（アッラー*）は、彼らが（現世で）することを、最もよくご存知なのだ。

وَوُفِّيَتۡ كُلُّ نَفۡسٖ مَّا عَمِلَتۡ وَهُوَ أَعۡلَمُ بِمَا
يَفۡعَلُونَ ٧٠

71. そして不信仰だった者*たちは、集団で地獄に引き連れて来られる。やがて彼らがそこにやって来ると、その門が開けられ、門番は言う。「一体あなた方のもとには、あなた方に自分たちの主*の御徴を読誦し、この日の拝謁を警告する、あなた方の内からの使徒*たちは訪れなかったのか？」彼らは言う。「ええ（、確かに訪れました）」。しかし懲罰の御言葉[3]が、不信仰者*たちには確定したのだ。

وَسِيقَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوٓاْ إِلَىٰ جَهَنَّمَ زُمَرًاۖ
حَتَّىٰٓ إِذَا جَآءُوهَا فُتِحَتۡ أَبۡوَٰبُهَا وَقَالَ
لَهُمۡ خَزَنَتُهَآ أَلَمۡ يَأۡتِكُمۡ رُسُلٞ مِّنكُمۡ يَتۡلُونَ
عَلَيۡكُمۡ ءَايَٰتِ رَبِّكُمۡ وَيُنذِرُونَكُمۡ لِقَآءَ
يَوۡمِكُمۡ هَٰذَاۚ قَالُواْ بَلَىٰ وَلَٰكِنۡ حَقَّتۡ كَلِمَةُ
ٱلۡعَذَابِ عَلَى ٱلۡكَٰفِرِينَ ٧١

72. （不信仰者*たちには、こう）言われる。「あなた方は、地獄の門に入れ。そこに永遠に。（信仰に対して）高慢な者たちの住まいは、何と醜悪なことか」。

قِيلَ ٱدۡخُلُوٓاْ أَبۡوَٰبَ جَهَنَّمَ خَٰلِدِينَ فِيهَاۖ
فَبِئۡسَ مَثۡوَى ٱلۡمُتَكَبِّرِينَ ٧٢

---

1 天使*たちによって、各人の行いの帳簿が広げられる（ムヤッサル 466 頁参照）。高壁章 8 の訳注と、洞窟章 49 も参照。

2 雌牛章 143、婦人章 41 とその訳注も参照。

3 この「御言葉」とは一説に、アッ＝サジダ*章 13 にある言葉（アル＝クルトゥビー15:284 参照）。

73. また、自分たちの主*を畏れ*た者たちは、集団で天国へと引き連れて来られる。やがて彼らがそこにやって来ると、その門が開けられ、門番は彼らに言う。「あなた方に平安を[1]。あなた方は、素晴らしい状態となった[2]。ならば、永遠にそこに入るがよい」。

وَسِيقَ ٱلَّذِينَ ٱتَّقَوۡاْ رَبَّهُمۡ إِلَى ٱلۡجَنَّةِ زُمَرًاۖ
حَتَّىٰٓ إِذَا جَآءُوهَا وَفُتِحَتۡ أَبۡوَٰبُهَا وَقَالَ
لَهُمۡ خَزَنَتُهَا سَلَٰمٌ عَلَيۡكُمۡ طِبۡتُمۡ
فَٱدۡخُلُوهَا خَٰلِدِينَ ٧٣

74. そして、彼ら（信仰者たち）は言う。「そのお約束を私たちに実現され、私たちに（天国の）地を引き継がせて下さった[3]お方に、全ての称賛*あれ。私たちは天国で望む所に住むことができます。（アッラー*への服従に）勤しむ者たちの褒美は、何と素晴らしいことでしょう」。

وَقَالُواْ ٱلۡحَمۡدُ لِلَّهِ ٱلَّذِي صَدَقَنَا وَعۡدَهُۥ
وَأَوۡرَثَنَا ٱلۡأَرۡضَ نَتَبَوَّأُ مِنَ ٱلۡجَنَّةِ
حَيۡثُ نَشَآءُۖ فَنِعۡمَ أَجۡرُ ٱلۡعَٰمِلِينَ ٧٤

75. また（預言者*よ、）あなたは天使*たちが、その主*の称賛*と共に（かれを）称え*ながら、御座[4]のまわりを囲むのを見る。そして彼らの間は真理によって裁かれ、（こう）言われるのだ。「全創造物の主*アッラー*に、全ての称賛*あれ」。[5]

وَتَرَى ٱلۡمَلَٰٓئِكَةَ حَآفِّينَ مِنۡ حَوۡلِ ٱلۡعَرۡشِ
يُسَبِّحُونَ بِحَمۡدِ رَبِّهِمۡۚ وَقُضِيَ بَيۡنَهُم بِٱلۡحَقِّۚ
وَقِيلَ ٱلۡحَمۡدُ لِلَّهِ رَبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٧٥

---

1 「あなた方に平安を」については、雷鳴章 24 の訳注も参照。

2 現世における行いと言葉、努力が素晴らしいものだったため、その報いも素晴らしいものとなった（イブン・カスィール 7:122 参照）。

3 「天国の地を引き継がせる」という表現については、マルヤム*章 63 の訳注を参照。

4 「御座」に関しては、高壁章 54 の訳注を参照。

5 その裁決と公正さについて、全創造物がかれを称賛する（イブン・カスィール 7:125 参照）。

第 40 章
赦し深いお方章（ガーフィル）[1]

سُورَةُ غَافِرٍ

慈悲あまねく*慈愛深き*

アッラー*の御名において

1. ハー・ミーム[2]。

2. （このクルアーン*は、）偉力ならびなく*、英知あふれる*アッラー*からの、啓典の降示。

3. 罪をお赦しになり、悔悟をお受け入れになり、懲罰が厳しく、豊潤さの主である（アッラー*からの降示）。かれ以外に、崇拝*すべきいかなるものもない。かれにこそ、（復活の日*における、全創造の）行き先はある。

4. 不信仰に陥った者*たち以外、アッラー*の御徴[3]に（盾ついて）議論したりはしない。ならば（使徒*よ）、不信仰者*らが（商売や現世での享楽に）勤しんでいるのに、惑わされてはならない。

5. 彼ら以前にも、ヌーフ*の民とその後の徒党が、（使徒*たちを）嘘つき呼ばわりしたのだ。そして（それら）全ての共同体は、その使徒*を捕らえ（て殺害し）ようと意図し、真理を消し去るべく虚妄によって議論し

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

حمٓ ١

تَنزِيلُ ٱلۡكِتَٰبِ مِنَ ٱللَّهِ ٱلۡعَزِيزِ ٱلۡعَلِيمِ ٢

غَافِرِ ٱلذَّنۢبِ وَقَابِلِ ٱلتَّوۡبِ شَدِيدِ ٱلۡعِقَابِ ذِي
ٱلطَّوۡلِۖ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَۖ إِلَيۡهِ ٱلۡمَصِيرُ ٣

مَا يُجَٰدِلُ فِيٓ ءَايَٰتِ ٱللَّهِ إِلَّا ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ فَلَا
يَغۡرُرۡكَ تَقَلُّبُهُمۡ فِي ٱلۡبِلَٰدِ ٤

كَذَّبَتۡ قَبۡلَهُمۡ قَوۡمُ نُوحٖ وَٱلۡأَحۡزَابُ مِنۢ
بَعۡدِهِمۡۖ وَهَمَّتۡ كُلُّ أُمَّةِۭ بِرَسُولِهِمۡ
لِيَأۡخُذُوهُۖ وَجَٰدَلُواْ بِٱلۡبَٰطِلِ لِيُدۡحِضُواْ
بِهِ ٱلۡحَقَّ فَأَخَذۡتُهُمۡۖ فَكَيۡفَ كَانَ عِقَابِ ٥

---

1 マッカ*啓示で学者間の見解は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、冒頭に登場する「赦し深いお方（ガーフィル）」という語によるが、「信仰者章」などの別称もあり。マッカ*啓示の常であるように、アッラー*への信仰・来世といった基本的信仰が取り上げられ、真理と迷妄、信仰と不信仰に関する議論が一貫して描かれている。ムーサー*とフィルアウン*、フィルアウン*の民の内で信仰した者の話も、その流れで取り上げられたもの。また、アッラー*の御力と唯一性*を示す宇宙の神秘も、随所で描写されている。

2 これらの文字については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」参照。

3 この「御徴」はクルアーン*や、アッラーの唯一性*の証拠のこと（ムヤッサル 467 頁参照）。

た。それでわれら*は、彼らを（懲罰で）捕らえたのだ。わが懲罰は、いかなるものだったか？

6. 同様に不信仰に陥った者*たちには、彼らは業火の住人であるという、あなたの主*の御言葉が確定したのである。

وَكَذَٰلِكَ حَقَّتْ كَلِمَتُ رَبِّكَ عَلَى ٱلَّذِينَ
كَفَرُوٓا۟ أَنَّهُمْ أَصْحَـٰبُ ٱلنَّارِ ٦

7. 御座を運ぶ者たちと、その周りにいる者[1]は、彼らの主*の称賛*と共に（かれを）称え*、かれを信じる。そして、信仰する者たちのために（こう言って）赦しを乞う。「我らが主*よ、あなたは全てのものを、慈悲と知識で網羅されました。ですから、悔悟し、あなたの道（イスラーム*）に従った者たちをお赦しになり、彼らを火獄の懲罰からお守り下さい。

ٱلَّذِينَ يَحْمِلُونَ ٱلْعَرْشَ وَمَنْ حَوْلَهُۥ يُسَبِّحُونَ
بِحَمْدِ رَبِّهِمْ وَيُؤْمِنُونَ بِهِۦ وَيَسْتَغْفِرُونَ
لِلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ رَبَّنَا وَسِعْتَ كُلَّ شَىْءٍ
رَّحْمَةً وَعِلْمًا فَٱغْفِرْ لِلَّذِينَ تَابُوا۟ وَٱتَّبَعُوا۟
سَبِيلَكَ وَقِهِمْ عَذَابَ ٱلْجَحِيمِ ٧

8. 我らが主*よ、そして彼らを、あなたが彼らにお約束になった永久の楽園にお入れ下さい。また、彼らの父祖、妻、子孫たちの内、正しかった者*を。本当にあなたこそは、偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方なのですから。

رَبَّنَا وَأَدْخِلْهُمْ جَنَّـٰتِ عَدْنٍ ٱلَّتِى وَعَدتَّهُمْ
وَمَن صَلَحَ مِنْ ءَابَآئِهِمْ وَأَزْوَٰجِهِمْ
وَذُرِّيَّـٰتِهِمْ ۚ إِنَّكَ أَنتَ ٱلْعَزِيزُ ٱلْحَكِيمُ ٨

9. また、彼らを悪（の結末）から、お守り下さい。あなたが（復活の）その日、悪からお守りになる者こそは、あなたが確かにご慈悲をかけられた者。それこそは、偉大な勝利です」。

وَقِهِمُ ٱلسَّيِّـَٔاتِ ۚ وَمَن تَقِ ٱلسَّيِّـَٔاتِ
يَوْمَئِذٍ فَقَدْ رَحِمْتَهُۥ ۚ وَذَٰلِكَ هُوَ ٱلْفَوْزُ
ٱلْعَظِيمُ ٩

10. 本当に不信仰に陥った者*たちには、（地獄の番人から、こう）呼びかけられる。「（現世で）あなた方が信仰へと呼びかけられ、

إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ يُنَادَوْنَ لَمَقْتُ ٱللَّهِ
أَكْبَرُ مِن مَّقْتِكُمْ أَنفُسَكُمْ إِذْ تُدْعَوْنَ
إِلَى ٱلْإِيمَـٰنِ فَتَكْفُرُونَ ١٠

1 いずれも天使*たちのこと（ムヤッサル 467 頁参照）。「御座」に関しては、高壁章 54 の訳注を参照。

それを否定していた時の（あなた方に対する）アッラー*の憎悪こそは、（今の）あなた方の自分自身に対する憎悪よりも、大きかったのだぞ」。[1]

11. 彼ら（不信仰者*たち）は言う。「我らが主*よ、あなたは私たちに二度、死を与えられ、二度、生を与えられました[2]。そして私たちは（今）、自分たちの罪を認めました。ですので、（私たちが地獄から）出る術はありますでしょうか？」[3]

قَالُوا۟ رَبَّنَآ أَمَتَّنَا ٱثْنَتَيْنِ وَأَحْيَيْتَنَا ٱثْنَتَيْنِ فَٱعْتَرَفْنَا بِذُنُوبِنَا فَهَلْ إِلَىٰ خُرُوجٍ مِّن سَبِيلٍ ١١

12. （不信仰者*たちよ、）それ（地獄の懲罰）はあなた方が、アッラー*だけが呼ばれた時[4]には否定し、かれに同位者が並べられれば信じていたからなのだ。（全ての）裁決は、至高で*大いなる*アッラーにこそ属する。

ذَٰلِكُم بِأَنَّهُۥٓ إِذَا دُعِىَ ٱللَّهُ وَحْدَهُۥ كَفَرْتُمْ ۖ وَإِن يُشْرَكْ بِهِۦ تُؤْمِنُوا۟ ۚ فَٱلْحُكْمُ لِلَّهِ ٱلْعَلِىِّ ٱلْكَبِيرِ ١٢

13. （人々よ、）かれはあなた方に（、創造の完全さを示す）その御徴をお見せになり、天からあなた方に糧を下されるお方。そして、よく（悔悟して）立ち返る者以外、教訓を受けることはない。

هُوَ ٱلَّذِى يُرِيكُمْ ءَايَٰتِهِۦ وَيُنَزِّلُ لَكُم مِّنَ ٱلسَّمَآءِ رِزْقًا ۚ وَمَا يَتَذَكَّرُ إِلَّا مَن يُنِيبُ ١٣

---

1 不信仰者*たちはいざ地獄を目にすると、自分自身をこれ以上ないほど、激しく憎悪する。しかし現世で不信仰に固執（こしつ）していた彼らに対するアッラー*の憎悪こそは、それよりも激しい憎悪だったのである（ムヤッサル 468 頁参照）。

2 一度目の「死」は、魂を吹き込まれる前の精液だった状態で、二度目の「死」は、現世での人生の終わり。また一度目の「生」は現世での誕生、二度目の「生」は死後の復活のこと（前掲書、同頁参照）。

3 もちろん、現世に戻ることは叶わない。家畜章 27-28、高壁章 53、イブラーヒーム*章 44、信仰者たち章 99-100、アッ＝サジダ*章 12、創成者*章 37、相談章 44、偽信者*たち章 10-11 も参照。

4 アッラーの唯一性*と、かれのみゆえの善行へと招かれた時、ということ（前掲書、同頁参照）。

14. だから、アッラー*だけに真摯に崇拝*行為を捧げつつ[1]、祈（り、崇拝*す）るのだ。たとえ不信仰者*たちが、（それを）嫌ったとしても。

فَٱدۡعُواْ ٱللَّهَ مُخۡلِصِينَ لَهُ ٱلدِّينَ وَلَوۡ
كَرِهَ ٱلۡكَٰفِرُونَ ١٤

15. （アッラー*は）位高きお方、御座[2]の主、かれは会合の日[3]を警告するため、その僕たちの内からお望みの者に、そのご命令によって魂[4]を投げかけられる。

رَفِيعُ ٱلدَّرَجَٰتِ ذُو ٱلۡعَرۡشِ يُلۡقِي ٱلرُّوحَ
مِنۡ أَمۡرِهِۦ عَلَىٰ مَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ لِيُنذِرَ
يَوۡمَ ٱلتَّلَاقِ ١٥

16. 彼らが露わな者たち[5]となる、その日を（警告するため）。彼らの（状態や行いの）内、アッラー*から隠れられるものなど、何一つない。（アッラー*は仰せられる。）「今日、王権は誰のものか？」（かれは、自らお答えになる。）「唯一*かつ君臨し給う*アッラー*にこそ、属するのだ[6]」。

يَوۡمَ هُم بَٰرِزُونَۖ لَا يَخۡفَىٰ عَلَى ٱللَّهِ مِنۡهُمۡ شَيۡءٞۚ
لِّمَنِ ٱلۡمُلۡكُ ٱلۡيَوۡمَۖ لِلَّهِ ٱلۡوَٰحِدِ ٱلۡقَهَّارِ ١٦

17. この日全ての者は、自らが（現世で）稼いだものによって報われる。この日、不正*はない[7]。本当にアッラー*は即座に計算される*お方なのだから。

ٱلۡيَوۡمَ تُجۡزَىٰ كُلُّ نَفۡسِۭ بِمَا كَسَبَتۡۚ لَا
ظُلۡمَ ٱلۡيَوۡمَۚ إِنَّ ٱللَّهَ سَرِيعُ ٱلۡحِسَابِ ١٧

18. （使徒*よ、）心臓が（恐怖ゆえに）喉元にまで達し、沈鬱になる、間近な日[8]のことを彼らに警告せよ。不正*者たちには近しい友

وَأَنذِرۡهُمۡ يَوۡمَ ٱلۡأٓزِفَةِ إِذِ ٱلۡقُلُوبُ لَدَى
ٱلۡحَنَاجِرِ كَٰظِمِينَۚ مَا لِلظَّٰلِمِينَ مِنۡ حَمِيمٖ
وَلَا شَفِيعٖ يُطَاعُ ١٨

---

1 「アッラー*だけに真摯に崇拝*行為を捧げる」ことについては、婦人章 146 の訳注を参照。

2 「御座」に関しては、高壁章 54 の訳注を参照。

3 先代と後代の者が一同に会する、復活の日*のこと（ムヤッサル 468 頁参照）。

4 この「魂」とは、啓示のこと。肉体が魂によって生を受けるように、心は啓示によって生を受けるため（アル＝バガウィー4:108 参照）。

5 その日、彼らを覆い隠すものは、何一つない（イブン・カスィール 7:136 参照）。家畜章 94 とその訳注、洞窟章 48、預言者*たち章 104 も参照。

6 家畜章 73「かれにこそ王権は属する」の訳注も参照。

7 つまり悪行が不当に付け加えられたり、善行が差し引かれたりすることはない（アッ＝サアディー735 頁参照）。

8 「間近な日」とは、復活の日*のこと。その「近さ」については蜜蜂章 1、預言者*たち章 1 の訳注を参照。

人もいなければ、受け入れられる執り成し手もいない[1]。

19. かれは眼が掠め取るもの[2]も、胸が潜める（善いものも悪い）ものもご存知である。

يَعۡلَمُ خَآئِنَةَ ٱلۡأَعۡيُنِ وَمَا تُخۡفِي ٱلصُّدُورُ ١٩

20. アッラー*が真理[3]で（人々の間を）裁かれるのであり、彼らがかれをよそに祈っている者たちは、何も裁きはしない。本当にアッラー*こそは、よくお聞きになるお方、よくご覧になるお方なのだから。

وَٱللَّهُ يَقۡضِي بِٱلۡحَقِّۖ وَٱلَّذِينَ يَدۡعُونَ مِن
دُونِهِۦ لَا يَقۡضُونَ بِشَيۡءٍۗ إِنَّ ٱللَّهَ هُوَ
ٱلسَّمِيعُ ٱلۡبَصِيرُ ٢٠

21. 彼らは地上を旅し、（預言者*たちを嘘つき呼ばわりした）彼ら以前の者たちの結末が、どのようなものであったかを見なかったのか？ 彼ら（以前の者たち）は、彼らよりも力と、大地の建設において強力だった。そしてアッラー*は彼らを、その罪ゆえに（懲罰で）捕らえられ、彼らにはアッラー*（の懲罰）に対してのいかなる守護者もなかったのである。

۞أَوَلَمۡ يَسِيرُواْ فِي ٱلۡأَرۡضِ فَيَنظُرُواْ كَيۡفَ
كَانَ عَٰقِبَةُ ٱلَّذِينَ كَانُواْ مِن قَبۡلِهِمۡۚ كَانُواْ
هُمۡ أَشَدَّ مِنۡهُمۡ قُوَّةٗ وَءَاثَارٗا فِي ٱلۡأَرۡضِ
فَأَخَذَهُمُ ٱللَّهُ بِذُنُوبِهِمۡ وَمَا كَانَ لَهُم مِّنَ
ٱللَّهِ مِن وَاقٖ ٢١

22. それは彼らが、自分たちの使徒*が明証を携えて彼らのもとに到来していたのに、不信仰に陥ったからである。それでアッラー*は、彼らを（懲罰で）捕らえられたのだ。本当にかれは強いお方、厳しく懲罰されるお方であられる。

ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمۡ كَانَت تَّأۡتِيهِمۡ رُسُلُهُم بِٱلۡبَيِّنَٰتِ
فَكَفَرُواْ فَأَخَذَهُمُ ٱللَّهُۚ إِنَّهُۥ قَوِيّٞ شَدِيدُ
ٱلۡعِقَابِ ٢٢

23. われら*はムーサー*を確かに、われら*の御徴[4]と紛れもない証拠[5]と共に遣わした。

وَلَقَدۡ أَرۡسَلۡنَا مُوسَىٰ بِـَٔايَٰتِنَا وَسُلۡطَٰنٖ
مُّبِينٍ ٢٣

---

1 復活の日*の「執り成し」については雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

2 見ることを許されないものを、こっそり見ること（アッ＝シャウカーニー4:638 参照）。

3 この「真理」とは、公正さのこと（ムヤッサル 469 頁参照）。

4 この「御徴」とは、啓示の真実性を証明するもの（前掲書、同頁参照）。夜の旅章 101「九つの御徴」の訳注も参照（アル＝クルトゥビー15:304 参照）。

5 「紛れもない証拠」については、フード*章 96 の訳注を参照。

24. フィルアウン*とハーマーンとカールーン[1]へと。すると彼らは言った。「(彼は)大嘘(うそ)つきの魔術(まじゅつ)師だ」。

إِلَىٰ فِرْعَوْنَ وَهَٰمَٰنَ وَقَٰرُونَ فَقَالُوا۟
سَٰحِرٌ كَذَّابٌ ٢٤

25. そして彼(ムーサー*)がわれら*のもとから、真理を携(たずさ)えて彼らのもとにやって来た時、彼ら(フィルアウン*たち)は言った。「彼と共に信じた者たちの男児を殺し、その女児は生かしておけ[2]」。不信仰者*たちの策謀(さくぼう)は、無に帰(き)すのである。

فَلَمَّا جَآءَهُم بِٱلْحَقِّ مِنْ عِندِنَا قَالُوا۟
ٱقْتُلُوٓا۟ أَبْنَآءَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ مَعَهُۥ
وَٱسْتَحْيُوا۟ نِسَآءَهُمْ ۚ وَمَا كَيْدُ
ٱلْكَٰفِرِينَ إِلَّا فِى ضَلَٰلٍ ٢٥

26. フィルアウン*は、(自分の民の有力者たちに)言った。「私にムーサー*を殺させ、彼を自分の主(しゅ)*に祈らせてみよ。本当に私は、彼があなた方の宗教[3]を変えてしまったり、地上(エジプト)に腐敗(ふはい)*を出現させたりすることを怖(おそ)れているのだ」。

وَقَالَ فِرْعَوْنُ ذَرُونِىٓ أَقْتُلْ مُوسَىٰ وَلْيَدْعُ
رَبَّهُۥٓ ۖ إِنِّىٓ أَخَافُ أَن يُبَدِّلَ دِينَكُمْ أَوْ أَن
يُظْهِرَ فِى ٱلْأَرْضِ ٱلْفَسَادَ ٢٦

27. ムーサー*は言った。「実に私は、我が主(しゅ)*とあなた方の主(しゅ)*に、清算の日を信じないあらゆる高慢(こうまん)な者からのご加護(かご)を乞(こ)いました」。

وَقَالَ مُوسَىٰٓ إِنِّى عُذْتُ بِرَبِّى وَرَبِّكُم مِّن كُلِّ
مُتَكَبِّرٍ لَّا يُؤْمِنُ بِيَوْمِ ٱلْحِسَابِ ٢٧

28. フィルアウン*の一族の内、その信仰を隠していた信仰者の男は、言った。「一体あなた方は一人の男を、『我が主(しゅ)*はアッラー*です』と言う(だけ)ゆえに、殺すというのですか? 彼(ムーサー*)はあなた方の主(しゅ)*から、明証[4]を携(たずさ)えてあなた

وَقَالَ رَجُلٌ مُّؤْمِنٌ مِّنْ ءَالِ فِرْعَوْنَ
يَكْتُمُ إِيمَٰنَهُۥٓ أَتَقْتُلُونَ رَجُلًا أَن يَقُولَ
رَبِّىَ ٱللَّهُ وَقَدْ جَآءَكُم بِٱلْبَيِّنَٰتِ مِن
رَّبِّكُمْ ۖ وَإِن يَكُ كَٰذِبًا فَعَلَيْهِ كَذِبُهُۥ ۖ
وَإِن يَكُ صَادِقًا يُصِبْكُم بَعْضُ ٱلَّذِى

---

1 「ハーマーン」については物語章 6 の訳注を、「カールーン」については物語章 76-82 を参照。

2 高壁章 127 の訳注も参照。

3 フィルアウン*を崇める「宗教」のこと(アル=クルトゥビー15:305 参照)。フィルアウン*は神を自称していた。詩人たち章 29、物語章 38、至高者*章 24 も参照。

4 この「明証」の意味については、アーヤ*23「紛れもない証拠」の訳注を参照(ムヤッサル 470 頁参照)。

方のもとにやって来たと言うのに。そして、もし彼が嘘つきならば、その嘘（の罰）は彼自身が負います。また、もし彼が正直者ならば、彼があなた方に約束するものの一部[1]が、あなた方に襲いかかるでしょう。本当にアッラー*は、（真理への拒否において）度を越した大嘘つきを、お導きにはなりません。

يَعِدُكُمۡۖ إِنَّ ٱللَّهَ لَا يَهۡدِي مَنۡ هُوَ
مُسۡرِفٞ كَذَّابٞ ٢٨

29. 我が民よ、あなた方にこそ今日、地上（エジプト）での勝利者として、王権はあります。でも、アッラー*の（懲罰という）猛威が私たちのもとにやって来たら、誰が私たちを助けてくれるでしょうか？」フィルアウン*は、（自分の民に）言った。「（人々よ、）私があなた方に示すのは、私が（私とあなた方にとって有益なものと）認めるものに外ならない。そして私があなた方を導くのは、正道に外ならないのだ」。

يَٰقَوۡمِ لَكُمُ ٱلۡمُلۡكُ ٱلۡيَوۡمَ ظَٰهِرِينَ فِي
ٱلۡأَرۡضِ فَمَن يَنصُرُنَا مِنۢ بَأۡسِ ٱللَّهِ إِن جَآءَنَاۚ
قَالَ فِرۡعَوۡنُ مَآ أُرِيكُمۡ إِلَّا مَآ أَرَىٰ وَمَآ
أَهۡدِيكُمۡ إِلَّا سَبِيلَ ٱلرَّشَادِ ٢٩

30. 信仰する者は言った。「我が民よ、（あなた方がムーサー*を殺せば、）本当に私はあなた方に、徒党の日[2]のようなことを怖れるのです。

وَقَالَ ٱلَّذِيٓ ءَامَنَ يَٰقَوۡمِ إِنِّيٓ أَخَافُ عَلَيۡكُم
مِّثۡلَ يَوۡمِ ٱلۡأَحۡزَابِ ٣٠

31. ヌーフ*の民、アード*、サムード*、そして彼らの後の（不信仰）者*たちの習いのようなことを。そしてアッラー*は全世界に対し、断じて不正*などお望みにはなりません。

مِثۡلَ دَأۡبِ قَوۡمِ نُوحٖ وَعَادٖ وَثَمُودَ وَٱلَّذِينَ
مِنۢ بَعۡدِهِمۡۚ وَمَا ٱللَّهُ يُرِيدُ ظُلۡمٗا لِّلۡعِبَادِ ٣١

1 これは現世での懲罰のこと（アッ＝サァディー736 頁参照）。

2 「徒党の日」とは、預言者*たちに敵対して徒党を組んだ者たちが、罰された日々のことを指す（アル＝クルトゥビー15:310 参照）。

32. また我が民よ、本当に私はあなた方に、呼び合いの日[1]を怖れます。

وَيَٰقَوۡمِ إِنِّيٓ أَخَافُ عَلَيۡكُمۡ يَوۡمَ ٱلتَّنَادِ ٣٢

33. あなた方が背を向けて逃げる、その日を。あなた方にはアッラー*に対し、いかなる援助者もありません。そしてアッラー*が迷わせ給うた者には、いかなる導き手もないのです。[2]

يَوۡمَ تُوَلُّونَ مُدۡبِرِينَ مَا لَكُم مِّنَ ٱللَّهِ مِنۡ عَاصِمٖۗ
وَمَن يُضۡلِلِ ٱللَّهُ فَمَا لَهُۥ مِنۡ هَادٖ ٣٣

34. （ムーサー*）以前、ユースフ*は明証[3]を携えて、確かにあなた方のもとにやって来ました。そしてあなた方はまだ、彼があなた方にもたらしたものに対する疑念の中にあるのです。やがて彼が死んだ時、あなた方は（自分たちの疑念とシルク*に拍車をかけて、こう）言いました。『アッラー*は彼の後、使徒*を遣わされることはない』。同様にアッラー*は、（真理への拒否において）度を越し、（アッラーの唯一性*に）疑惑の念を抱く者を（正道から）迷わせられます。

وَلَقَدۡ جَآءَكُمۡ يُوسُفُ مِن قَبۡلُ بِٱلۡبَيِّنَٰتِ
فَمَا زِلۡتُمۡ فِي شَكّٖ مِّمَّا جَآءَكُم بِهِۦۖ
حَتَّىٰٓ إِذَا هَلَكَ قُلۡتُمۡ لَن يَبۡعَثَ ٱللَّهُ مِنۢ
بَعۡدِهِۦ رَسُولٗاۚ كَذَٰلِكَ يُضِلُّ ٱللَّهُ مَنۡ
هُوَ مُسۡرِفٞ مُّرۡتَابٌ ٣٤

35. アッラー*の御徴（を拒むこと）において、（アッラー*の御許から）到来した根拠もなく議論する者たち、（そのような議論は）アッラー*の御許と信仰した者たちのもとで、忌まわしいことこの上ないのです。同様にアッラー*は、（アッラー*への服従に対して）高慢で尊大な（あらゆる）者の全ての心を、閉じてしまわれます」。[4]

ٱلَّذِينَ يُجَٰدِلُونَ فِيٓ ءَايَٰتِ ٱللَّهِ بِغَيۡرِ
سُلۡطَٰنٍ أَتَىٰهُمۡۖ كَبُرَ مَقۡتًا عِندَ ٱللَّهِ
وَعِندَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْۚ كَذَٰلِكَ يَطۡبَعُ ٱللَّهُ عَلَىٰ
كُلِّ قَلۡبِ مُتَكَبِّرٖ جَبَّارٖ ٣٥

---

1 人々が自分の指導者のもとに呼ばれ（夜の旅章 71 参照）、互いに呼び合い、天国の民と地獄の民、そして高壁の民が互いに呼び合う（高壁章 44-51 参照）、復活の日*のこと（アル＝バガウィー4:112 参照）。

2 アーヤ*33･34 にある言葉は、①信仰者の男のもの、②ムーサー*のもの、という説がある。アーヤ*35 の言葉は、①アッラー*のもの、②信仰者の男のもの、という説もある（アル＝クルトゥビー15:312-313 参照）。

3 この「明証」は、アッラー*だけを崇拝*せよ、という命令と、彼の言葉の正しさを示す証拠のこと（ムヤッサル 471 頁参照）。

4 アーヤ*33 の訳注も参照。

36. フィルアウン*は、言った。「ハーマーン[1]よ、私のために塔を建てよ。私が通り道に到達（とうたつ）できるように。[2]

وَقَالَ فِرۡعَوۡنُ يَٰهَٰمَٰنُ ٱبۡنِ لِي صَرۡحٗا لَّعَلِّيٓ
أَبۡلُغُ ٱلۡأَسۡبَٰبَ ٣٦

37. 諸天の通り道に。私は、ムーサー*の神を見てみよう。本当に私は、彼がまさに嘘（うそ）つきだと思うのだ」。このように、フィルアウン*には彼の悪い行いが目映（まばゆ）く映り、彼は（真理の）道から阻（はば）まれた。フィルアウン*の策略（さくりゃく）[3]は、破滅（はめつ）する外（ほか）ないのである。

أَسۡبَٰبَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ فَأَطَّلِعَ إِلَىٰٓ إِلَٰهِ مُوسَىٰ
وَإِنِّي لَأَظُنُّهُۥ كَٰذِبٗاۚ وَكَذَٰلِكَ زُيِّنَ
لِفِرۡعَوۡنَ سُوٓءُ عَمَلِهِۦ وَصُدَّ عَنِ ٱلسَّبِيلِۚ
وَمَا كَيۡدُ فِرۡعَوۡنَ إِلَّا فِي تَبَابٖ ٣٧

38. 信仰する者は言った。「我が民よ、私に従（したが）いなさい。あなた方を正道へと導（みちび）いてあげましょう。

وَقَالَ ٱلَّذِيٓ ءَامَنَ يَٰقَوۡمِ ٱتَّبِعُونِ
أَهۡدِكُمۡ سَبِيلَ ٱلرَّشَادِ ٣٨

39. 我が民よ、本当にこの現世の生活は（僅（わず）かな）楽しみなのであり、実に来世こそは、（あなた方が定着する）留（とど）まり所なのです。

يَٰقَوۡمِ إِنَّمَا هَٰذِهِ ٱلۡحَيَوٰةُ ٱلدُّنۡيَا مَتَٰعٞ
وَإِنَّ ٱلۡأٓخِرَةَ هِيَ دَارُ ٱلۡقَرَارِ ٣٩

40. （現世で）悪を行った者は、（来世において）それと同等のものでしか、報（むく）われません。そして男性であれ女性であれ、信仰者で正しい行い*を行う者、それらの者たちは天国に入るのです。彼らはそこで際限（さいげん）なく、糧（かて）を授（さず）けられます。

مَنۡ عَمِلَ سَيِّئَةٗ فَلَا يُجۡزَىٰٓ إِلَّا مِثۡلَهَاۖ
وَمَنۡ عَمِلَ صَٰلِحٗا مِّن ذَكَرٍ أَوۡ أُنثَىٰ وَهُوَ
مُؤۡمِنٞ فَأُوْلَٰٓئِكَ يَدۡخُلُونَ ٱلۡجَنَّةَ
يُرۡزَقُونَ فِيهَا بِغَيۡرِ حِسَابٖ ٤٠

41. 我が民よ、どういうことでしょうか？ 私があなた方を（地獄から天国への）救い[4]へと招（まね）いているのに、あなた方が私を地獄（の原因となる行い）へ招（まね）くのは？

۞ وَيَٰقَوۡمِ مَا لِيٓ أَدۡعُوكُمۡ إِلَى ٱلنَّجَوٰةِ
وَتَدۡعُونَنِيٓ إِلَى ٱلنَّارِ ٤١

---

1 「ハーマーン」については、物語章 6 の訳注を参照。

2 同様のアーヤ*として、物語章 38 も参照。

3 フィルアウン*が正しく、ムーサー*が間違っていると人々に信じさせる「策略」のこと（ムヤッサル 471 頁参照）。

4 つまりアッラー*への信仰と、その使徒*ムーサー*への服従のこと（前掲書 472 頁参照）。

42. あなた方は私がアッラー*を否定し、私が（その崇拝*の正当性について）何も知らないものを、かれに並べることへと招いているのです。私はあなた方を、偉力ならびなく*、赦し深いお方へ（通じる道へ）と招いているというのに。

تَدْعُونَنِي لِأَكْفُرَ بِٱللَّهِ وَأُشْرِكَ بِهِۦ مَا
لَيْسَ لِي بِهِۦ عِلْمٌ وَأَنَا۠ أَدْعُوكُمْ إِلَى
ٱلْعَزِيزِ ٱلْغَفَّٰرِ ٤٢

43. 間違いなく、あなた方が私を招いているものには、現世においても来世においても、いかなる招き（の価値）もありません。そして私たちの戻り場所がアッラー*の御許であり、（罪に）度を越した者たちこそが、地獄の徒であるということも」。

لَا جَرَمَ أَنَّمَا تَدْعُونَنِيٓ إِلَيْهِ لَيْسَ لَهُۥ دَعْوَةٌ
فِي ٱلدُّنْيَا وَلَا فِي ٱلْءَاخِرَةِ وَأَنَّ مَرَدَّنَآ
إِلَى ٱللَّهِ وَأَنَّ ٱلْمُسْرِفِينَ هُمْ أَصْحَٰبُ
ٱلنَّارِ ٤٣

44. （そして民が彼の助言に従わなかった時、彼は言った。）「それでは、あなた方は私があなた方に言っていることを、やがて思い出すでしょう。私はアッラー*に、自分の事を委ねます。本当にアッラー*は僕たちのことを、よくご覧になるのですから」。

فَسَتَذْكُرُونَ مَآ أَقُولُ لَكُمْ وَأُفَوِّضُ
أَمْرِيٓ إِلَى ٱللَّهِ إِنَّ ٱللَّهَ بَصِيرٌۢ بِٱلْعِبَادِ ٤٤

45. こうしてアッラー*は彼を、彼らが策謀したことの悪からお守りになり、（溺死という）忌まわしい懲罰がフィルアウン*の一族を包囲した。

فَوَقَىٰهُ ٱللَّهُ سَيِّـَٔاتِ مَا مَكَرُوا۟ وَحَاقَ بِـَٔالِ
فِرْعَوْنَ سُوٓءُ ٱلْعَذَابِ ٤٥

46. （更にその死後には、）朝に夕に晒されることになる業火が（、彼らを包囲する）。そして（復活*の）その時が起こる日、（彼らにはこう言われるのだ、）「フィルアウン*の一族を、最も厳しい懲罰に入れよ」。[1]

ٱلنَّارُ يُعْرَضُونَ عَلَيْهَا غُدُوًّا وَعَشِيًّا
وَيَوْمَ تَقُومُ ٱلسَّاعَةُ أَدْخِلُوٓا۟ ءَالَ
فِرْعَوْنَ أَشَدَّ ٱلْعَذَابِ ٤٦

1 死後、復活の日*まで、彼らの魂は業火に晒される。そして復活の日*が来れば、魂と肉体が合わさった形で、地獄の業火に入れられることになる（イブン・カスィール 7:146 参照）。

47. 彼らが（地獄の）業火で議論し合い、弱者たちが高慢だった者たち[1]に（こう）言う時のこと（を思い起こさせよ）。「本当に私たちは（現世で）あなた方に追従していたわけだが、（この日）あなた方は業火の一部からでも、私たちを守ってくれるのか？」

وَإِذۡ يَتَحَآجُّونَ فِي ٱلنَّارِ فَيَقُولُ
ٱلضُّعَفَٰٓؤُاْ لِلَّذِينَ ٱسۡتَكۡبَرُوٓاْ إِنَّا
كُنَّا لَكُمۡ تَبَعٗا فَهَلۡ أَنتُم مُّغۡنُونَ عَنَّا
نَصِيبٗا مِّنَ ٱلنَّارِ ٤٧

48. 高慢だった者たちは、言う。「（そのようなことは出来ない。）本当に私たちは皆、（地獄の）その中にあるのだ。本当にアッラー*は、確かに僕たちの間に裁きを下されたのである[2]」。

قَالَ ٱلَّذِينَ ٱسۡتَكۡبَرُوٓاْ إِنَّا كُلّٞ
فِيهَآ إِنَّ ٱللَّهَ قَدۡ حَكَمَ بَيۡنَ ٱلۡعِبَادِ ٤٨

49. また、業火の中にある者たちは、地獄の門番たちに言う。「あなた方の主*に祈ってくれ。かれが私たちから、一日でも懲罰を軽減して下さるよう」。[3]

وَقَالَ ٱلَّذِينَ فِي ٱلنَّارِ لِخَزَنَةِ جَهَنَّمَ
ٱدۡعُواْ رَبَّكُمۡ يُخَفِّفۡ عَنَّا يَوۡمٗا مِّنَ
ٱلۡعَذَابِ ٤٩

50. 彼ら（地獄の門番たち）は言う。「一体、あなた方の使徒*たちは明証を携えて、あなた方のもとに到来していたのではなかったか？」彼ら（地獄の民）は言う。「その通りです」。彼ら（門番たち）は言う。「ならば（私たちは祈らないから、）あなた方が祈るがよい。不信仰者*たちの祈願は、全くの徒労である」。

قَالُوٓاْ أَوَلَمۡ تَكُ تَأۡتِيكُمۡ رُسُلُكُم
بِٱلۡبَيِّنَٰتِۖ قَالُواْ بَلَىٰۚ قَالُواْ فَٱدۡعُواْۗ وَمَا دُعَٰٓؤُاْ
ٱلۡكَٰفِرِينَ إِلَّا فِي ضَلَٰلٍ ٥٠

---

1 「弱者たち」と「高慢だった者たち」については、イブラーヒーム*章 21 の訳注を参照。また同様の情景の描写として、雌牛章 166-167、高壁章 38、識別章 17-19、物語章 63、部族連合章 67-68、サバア章 31-33 も参照。

2 つまりアッラー*はその公正な裁決により、彼らの間に、各人に適当な形で懲罰を振り分けられた（ムヤッサル 472 頁参照）。

3 金の装飾章 77 も参照。

51. 本当にわれら*は、現世の生活と、証人たちが立つ[1]（復活の）日*に、われら*の使徒*たちと、信仰する者たちを必ずや助けるのである。

إِنَّا لَنَنصُرُ رُسُلَنَا وَٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ فِى
ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا وَيَوْمَ يَقُومُ ٱلْأَشْهَٰدُ ﴿٥١﴾

52. 不正*者たちをその言い訳が益することがない、その日に。そして彼らの上には呪いがあり、彼らには（来世で）忌まわしい住まいがある。

يَوْمَ لَا يَنفَعُ ٱلظَّٰلِمِينَ مَعْذِرَتُهُمْ ۖ وَلَهُمُ
ٱللَّعْنَةُ وَلَهُمْ سُوٓءُ ٱلدَّارِ ﴿٥٢﴾

53. われら*は確かにムーサー*に導きを授け、イスラーイールの子ら*に啓典（トーラー*）を引き継がせた。

وَلَقَدْ ءَاتَيْنَا مُوسَى ٱلْهُدَىٰ وَأَوْرَثْنَا
بَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ ٱلْكِتَٰبَ ﴿٥٣﴾

54. 澄んだ理性の持ち主への導きと、教訓として。

هُدًى وَذِكْرَىٰ لِأُو۟لِى ٱلْأَلْبَٰبِ ﴿٥٤﴾

55. ならば（使徒*よ）、忍耐*せよ。本当にアッラー*のお約束は真実なのだ。そしてあなたの罪の赦しを乞い、夕に朝に、あなたの主*の称賛*と共に（かれを）称える*のだ。

فَٱصْبِرْ إِنَّ وَعْدَ ٱللَّهِ حَقٌّ وَٱسْتَغْفِرْ
لِذَنۢبِكَ وَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ بِٱلْعَشِىِّ
وَٱلْإِبْكَٰرِ ﴿٥٥﴾

56. 本当にアッラー*の御徴（を拒むこと）において、（アッラー*から）到来した根拠もなく議論する者たち、彼らの胸の内には、彼らが到達することもないもの[2]に対する高慢さしかない。ならばアッラー*に、（彼らの悪からの）ご加護を乞え。本当にかれこそは、よくお聞きになるお方、よくご覧になるお方なのだから。

إِنَّ ٱلَّذِينَ يُجَٰدِلُونَ فِىٓ ءَايَٰتِ ٱللَّهِ
بِغَيْرِ سُلْطَٰنٍ أَتَىٰهُمْ ۙ إِن فِى صُدُورِهِمْ
إِلَّا كِبْرٌ مَّا هُم بِبَٰلِغِيهِ ۚ فَٱسْتَعِذْ
بِٱللَّهِ ۖ إِنَّهُۥ هُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلْبَصِيرُ ﴿٥٦﴾

57. 諸天と大地の創造こそは、人々の創造（とその再生）よりも偉大なのだ。しかし、人々の大半は分からない。

لَخَلْقُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ أَكْبَرُ مِنْ
خَلْقِ ٱلنَّاسِ وَلَٰكِنَّ أَكْثَرَ ٱلنَّاسِ لَا
يَعْلَمُونَ ﴿٥٧﴾

1 復活の日*の証人については、雌牛章 143、婦人章 41 を参照。

2 アッラー*が預言者*に授けられた恩寵（おんちょう）や、預言者*としての使命という栄誉のこと（ムヤッサル 473 頁参照）。

58. また、盲人と見える者は同じではなく[1]、信仰して正しい行い*を行う者たちと悪い行いの者[2]は、同じではない。あなた方が教訓を得ることの、少ないこと。

وَمَا يَسۡتَوِي ٱلۡأَعۡمَىٰ وَٱلۡبَصِيرُ وَٱلَّذِينَ
ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ وَلَا ٱلۡمُسِيٓءُۚ
قَلِيلٗا مَّا تَتَذَكَّرُونَ ٥٨

59. 本当に（復活の）その時は、疑惑の余地なく、必ずや到来する。しかし、人々の大半は信じないのだ。

إِنَّ ٱلسَّاعَةَ لَأٓتِيَةٞ لَّا رَيۡبَ فِيهَا وَلَٰكِنَّ
أَكۡثَرَ ٱلنَّاسِ لَا يُؤۡمِنُونَ ٥٩

60. また（人々よ）、あなた方の主*は仰せられた。「私に（のみ）祈るのだ。そうすればわれは、あなた方に応えよう。本当にわれの崇拝*に対して奢り高ぶる者たちは、やがて蔑まれた者となって、地獄に入ることになる。

وَقَالَ رَبُّكُمُ ٱدۡعُونِيٓ أَسۡتَجِبۡ لَكُمۡۚ
إِنَّ ٱلَّذِينَ يَسۡتَكۡبِرُونَ عَنۡ عِبَادَتِي
سَيَدۡخُلُونَ جَهَنَّمَ دَاخِرِينَ ٦٠

61. アッラー*はあなた方のために、あなた方がそこで安らぐべく夜をお創りになり、昼を（生活のために）視界が利くものとされた。本当にアッラー*はまさしく人々に対する恩寵の主であられるが、人々の大半は（かれへの服従と崇拝*によって、かれに）感謝しない。

ٱللَّهُ ٱلَّذِي جَعَلَ لَكُمُ ٱلَّيۡلَ لِتَسۡكُنُواْ
فِيهِ وَٱلنَّهَارَ مُبۡصِرًاۚ إِنَّ ٱللَّهَ لَذُو فَضۡلٍ
عَلَى ٱلنَّاسِ وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَ ٱلنَّاسِ لَا
يَشۡكُرُونَ ٦١

62. そのお方がアッラー*、あなた方の主*、全ての創造主。かれの外に、崇拝*すべきいかなるものもない。なのに一体、どうしてあなた方は（かれを信仰し、崇拝*することから）背かされるのか？

ذَٰلِكُمُ ٱللَّهُ رَبُّكُمۡ خَٰلِقُ كُلِّ شَيۡءٖ
لَّآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَۖ فَأَنَّىٰ تُؤۡفَكُونَ ٦٢

63. 同様に、アッラー*の御徴を否定していた者たちは、（真理から）背かされるのである。

كَذَٰلِكَ يُؤۡفَكُ ٱلَّذِينَ كَانُواْ بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ
يَجۡحَدُونَ ٦٣

---

1 この意味については、家畜章 50 の訳注を参照。

2 前者はアッラー*が唯一、真に崇拝*に値する存在であることを認め、その使徒*たちの招きに応え、アッラー*の教えに沿って行う者たち。後者はそのようにしない者のこと（ムヤッサル 473 頁参照）。

64. アッラー*はあなた方のために大地を安住の地とされ、空を屋根とされたお方。また、かれはあなた方を形づくられ、あなた方の形を最善のものとされ、あなた方に善きものの内からお恵みになった（お方）。そのお方がアッラー*、あなた方の主*。そして全創造物の主*アッラー*は、祝福にあふれたお方よ。

ٱللَّهُ ٱلَّذِى جَعَلَ لَكُمُ ٱلْأَرْضَ قَرَارًا
وَٱلسَّمَآءَ بِنَآءً وَصَوَّرَكُمْ فَأَحْسَنَ
صُوَرَكُمْ وَرَزَقَكُم مِّنَ ٱلطَّيِّبَٰتِ ۚ
ذَٰلِكُمُ ٱللَّهُ رَبُّكُمْ ۖ فَتَبَارَكَ ٱللَّهُ
رَبُّ ٱلْعَٰلَمِينَ ٦٤

65. かれは永生されるお方。かれの外に崇拝*すべきいかなるものもない。ゆえに、かれだけに真摯に崇拝*行為を捧げつつ[1]、かれに祈るのだ。全創造物の主*アッラー*に称賛*あれ。

هُوَ ٱلْحَىُّ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ فَٱدْعُوهُ مُخْلِصِينَ
لَهُ ٱلدِّينَ ۗ ٱلْحَمْدُ لِلَّهِ رَبِّ
ٱلْعَٰلَمِينَ ٦٥

66. （使徒*よ）言ってやるがいい。「本当に私は、我が主*からの明証[2]が自分に訪れた時、あなた方がアッラー*を差しおいて祈っている者たちの崇拝*を禁じられたのだ。また私は、全創造物の主*に服従（イスラーム*）するよう命じられたのである」。

۞ قُلْ إِنِّى نُهِيتُ أَنْ أَعْبُدَ ٱلَّذِينَ
تَدْعُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ لَمَّا جَآءَنِىَ ٱلْبَيِّنَٰتُ
مِن رَّبِّى وَأُمِرْتُ أَنْ أُسْلِمَ لِرَبِّ
ٱلْعَٰلَمِينَ ٦٦

67. かれはあなた方（の父祖アーダム*）を土から[3]、そして（あなた方を）一滴の精液から、次いで一塊の凝血からお創りになり、その後あなた方を子供として（生まれ）出させ、それからあなた方が成熟に達し、更に老人になるべく（あなた方の年齢を積み重ねて行かれる）。あなた方の内には、（これらの段階）以前に召される者もいる。また、

هُوَ ٱلَّذِى خَلَقَكُم مِّن تُرَابٍ ثُمَّ مِن نُّطْفَةٍ
ثُمَّ مِنْ عَلَقَةٍ ثُمَّ يُخْرِجُكُمْ طِفْلًا ثُمَّ لِتَبْلُغُوٓا۟
أَشُدَّكُمْ ثُمَّ لِتَكُونُوا۟ شُيُوخًا ۚ وَمِنكُم مَّن
يُتَوَفَّىٰ مِن قَبْلُ ۖ وَلِتَبْلُغُوٓا۟ أَجَلًا مُّسَمًّى
وَلَعَلَّكُمْ تَعْقِلُونَ ٦٧

---

1 「かれだけに真摯に崇拝*行為を捧げる」ことについては、婦人章 146 の訳注を参照。

2 この「明証」とは、アッラーの唯一性*を示す、論理的根拠と神的根拠（啓示）のこと（アッ＝シャウカーニー4:656 参照）。

3 アーダム*が土から段階を経（へ）て創られたことについては、アル＝ヒジュル章 26 の訳注を参照。

かれは、あなた方が（これらの段階を経て）定められた時期[1]へと到達すべく（、あなた方の年齢を積み重ねて行かれる）。そして（それは、）あなた方が弁える[2]ようにするためなのだ。

68. かれは生を与えられ、死をお与えになるお方。そして、かれが一事をお取り決めにな（り、お望みにな）れば、それに「あれ」と仰せられるだけで、それは存在するのである。

هُوَ ٱلَّذِى يُحۡىِۦ وَيُمِيتُۖ فَإِذَا قَضَىٰٓ أَمۡرٗا فَإِنَّمَا
يَقُولُ لَهُۥ كُن فَيَكُونُ ٦٨

69. （使徒*よ、）一体あなたは、アッラー*の御徴[3]に（盾ついて）議論する者たちが、いかに（そこから）逸らされてしまっているか、見ないのか？

أَلَمۡ تَرَ إِلَى ٱلَّذِينَ يُجَٰدِلُونَ فِىٓ ءَايَٰتِ ٱللَّهِ
أَنَّىٰ يُصۡرَفُونَ ٦٩

70. （彼らは）啓典と、われら*がわれら*の使徒*たちと共に遣わしたもの[4]を、嘘呼ばわりした者たち。ならば、彼らはやがて（その結末を）知ることになろう。

ٱلَّذِينَ كَذَّبُواْ بِٱلۡكِتَٰبِ وَبِمَآ أَرۡسَلۡنَا بِهِۦ
رُسُلَنَاۖ فَسَوۡفَ يَعۡلَمُونَ ٧٠

71. その首に枷と、（その足に）鎖が付けられて、（それで）彼らが引き回される時に。

إِذِ ٱلۡأَغۡلَٰلُ فِىٓ أَعۡنَٰقِهِمۡ وَٱلسَّلَٰسِلُ
يُسۡحَبُونَ ٧١

72. 煮えたぎる湯の中で、それから業火の中で、彼らは（彼ら自身がその燃料となって、地獄を）煮えたぎらされる。

فِى ٱلۡحَمِيمِ ثُمَّ فِى ٱلنَّارِ يُسۡجَرُونَ ٧٢

---

1 「定められた時期」とは、死期、あるいは復活の日*のこと（アル＝バイダーウィー5:100参照）。

2 そのようなことがお出来になるのはアッラー*のみであり、崇拝*はかれにのみ行わなければならないということを「弁える」こと（ムヤッサル 475 頁参照）。

3 この「御徴」は、アッラーの唯一性*と御力を示す、明白な証拠のこと（前掲書、同頁参照）。

4 「啓典」はクルアーン*で、「…と共に遣わしたもの」はそれ以前の啓典のこと（前掲書、同頁参照）。

73. それから彼らに、（こう）言われる。「あなた方が（アッラー*の崇拝*において、かれと）並べていた者たちは、どこなのか？[1]

ثُمَّ قِيلَ لَهُمۡ أَيۡنَ مَا كُنتُمۡ تُشۡرِكُونَ ٧٣

74. アッラー*をよそにして？」彼らは言う。「私たちのもとから、いなくなってしまいました。いえ、私たちは以前、何に祈っていたわけでもなかったのです[2]」。同様にアッラー*は、不信仰者*たちを（天国から）迷わせ給う。

مِن دُونِ ٱللَّهِۖ قَالُواْ ضَلُّواْ عَنَّا بَل لَّمۡ نَكُن
نَّدۡعُواْ مِن قَبۡلُ شَيۡـٔٗاۚ كَذَٰلِكَ يُضِلُّ ٱللَّهُ
ٱلۡكَٰفِرِينَ ٧٤

75. それというのも、あなた方が地上で不当にも（罪を犯すことに）有頂天になっていたため、そしてあなた方が（他の僕たちに対して）得意然となっていたためなのだ。

ذَٰلِكُم بِمَا كُنتُمۡ تَفۡرَحُونَ فِي ٱلۡأَرۡضِ بِغَيۡرِ
ٱلۡحَقِّ وَبِمَا كُنتُمۡ تَمۡرَحُونَ ٧٥

76. 地獄の門に入るがよい。そこに永遠に。（アッラー*に対して）高慢な者たちの住まいは、何と醜悪なことか。

ٱدۡخُلُوٓاْ أَبۡوَٰبَ جَهَنَّمَ خَٰلِدِينَ فِيهَاۖ فَبِئۡسَ
مَثۡوَى ٱلۡمُتَكَبِّرِينَ ٧٦

77. ならば（使徒*よ）、忍耐*せよ。実にアッラー*のお約束は、真実なのだ。たとえ、われら*が（あなたの存命中、）彼らに約束したものの一部[3]をあなたに見せてやるにせよ、あるいは（その前に）あなたを召すにせよ、（復活の日*、）われら*（の御許）にこそ彼らは戻らされ（て、罰されることにな）るのである。

فَٱصۡبِرۡ إِنَّ وَعۡدَ ٱللَّهِ حَقّٞۚ فَإِمَّا نُرِيَنَّكَ
بَعۡضَ ٱلَّذِي نَعِدُهُمۡ أَوۡ نَتَوَفَّيَنَّكَ فَإِلَيۡنَا
يُرۡجَعُونَ ٧٧

78. （使徒*よ、）われら*はあなた以前、確かに使徒*たちを遣わした。彼らの中には、われら*があなたに語って聞かせた者もいるし、その中には、われら*があなたに語って聞かせなかった者もいる。また、いかなる

وَلَقَدۡ أَرۡسَلۡنَا رُسُلٗا مِّن قَبۡلِكَ مِنۡهُم مَّن
قَصَصۡنَا عَلَيۡكَ وَمِنۡهُم مَّن لَّمۡ نَقۡصُصۡ
عَلَيۡكَۗ وَمَا كَانَ لِرَسُولٍ أَن يَأۡتِيَ بِـَٔايَةٍ
إِلَّا بِإِذۡنِ ٱللَّهِۚ فَإِذَا جَآءَ أَمۡرُ ٱللَّهِ قُضِيَ بِٱلۡحَقِّ

1 それらはあなた方をこの日、助けてはくれないのか、の意（ムヤッサル 475 頁参照）。
2 彼らが崇（あが）めていたものは、実体がないものだったのである（前掲書、同頁参照）。
3 「約束されたものの一部」については、ユーヌス*章 46 の訳注を参照。

使徒*も、アッラー*のお許しなしには御徴[1]をもたらすことなどなかった。そしてアッラー*のご命令が到来すれば、（使徒*たちと彼らを嘘つき呼ばわりしていた者たちの間は）真実によって裁かれ、（真実を）虚妄とする者たちは、そこで損失するのである。

وَخَسِرَ هُنَالِكَ ٱلۡمُبۡطِلُونَ ٧٨

79. アッラー*は、あなた方のために家畜[2]をご用意されたお方。それはあなた方がその内のものに乗り、そこから食べるため。

ٱللَّهُ ٱلَّذِي جَعَلَ لَكُمُ ٱلۡأَنۡعَٰمَ
لِتَرۡكَبُواْ مِنۡهَا وَمِنۡهَا تَأۡكُلُونَ ٧٩

80. またそこ（家畜）には、あなた方のための諸利益[3]がある。そしてそれらに乗って、あなた方の脳裏に浮かぶ（遠い場所での）用事を果たすため（、アッラー*はそれらをあなた方にご用意された）。あなた方はそれらや、船に乗って運ばれる。

وَلَكُمۡ فِيهَا مَنَٰفِعُ وَلِتَبۡلُغُواْ عَلَيۡهَا حَاجَةٗ
فِي صُدُورِكُمۡ وَعَلَيۡهَا وَعَلَى ٱلۡفُلۡكِ
تُحۡمَلُونَ ٨٠

81. また、かれはあなた方に、その（御力と、かれこそが全創造を司っているのだということを示す）御徴をお見せになる。一体あなた方は、アッラー*のいずれの御徴を否定するというのか？

وَيُرِيكُمۡ ءَايَٰتِهِۦ فَأَيَّ ءَايَٰتِ ٱللَّهِ
تُنكِرُونَ ٨١

82. 一体、彼らは地上を旅し、彼ら以前の（預言者*たちを嘘つき呼ばわりした）者たちの結末がどのようなものであったかを、見なかったのか？ 彼ら（以前の者たち）は、彼らよりも多勢で、力と、大地の建設において強力だった。そして（アッラー*の懲罰が降りかかった時、）彼らが稼いでいたものは、彼らを益することがなかったのだ。

أَفَلَمۡ يَسِيرُواْ فِي ٱلۡأَرۡضِ فَيَنظُرُواْ كَيۡفَ
كَانَ عَٰقِبَةُ ٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِهِمۡۚ كَانُوٓاْ
أَكۡثَرَ مِنۡهُمۡ وَأَشَدَّ قُوَّةٗ وَءَاثَارٗا فِي ٱلۡأَرۡضِ
فَمَآ أَغۡنَىٰ عَنۡهُم مَّا كَانُواْ يَكۡسِبُونَ ٨٢

---

1 この「御徴」とは、論理的証拠（啓示・論証）と感覚的証拠（奇跡）のこと（ムヤッサル476頁参照）。

2 「家畜」については、食卓章1「家畜獣」の訳注を参照。

3 具体的な利益の例については、蜜蜂章5-8、80も参照。

83. また、彼らのもとに彼らの使徒たちが明証を携えてやってきた時、彼らは自分たちのもとにある知識[1]に有頂天になった。そして自分たちが嘲笑していたもの（懲罰）が、彼らを包囲したのだ。

فَلَمَّا جَآءَتۡهُمۡ رُسُلُهُم بِٱلۡبَيِّنَٰتِ فَرِحُواْ بِمَا
عِندَهُم مِّنَ ٱلۡعِلۡمِ وَحَاقَ بِهِم مَّا كَانُواْ بِهِۦ
يَسۡتَهۡزِءُونَ ٨٣

84. また、われら*の猛威（という懲罰）を目の当たりにした時、彼らは（こう）言ったのだ。「私たちはアッラー*だけを信じ、私たちがかれに並べて（崇拝*して）いたものを、否定しました」。

فَلَمَّا رَأَوۡاْ بَأۡسَنَا قَالُوٓاْ ءَامَنَّا بِٱللَّهِ وَحۡدَهُۥ
وَكَفَرۡنَا بِمَا كُنَّا بِهِۦ مُشۡرِكِينَ ٨٤

85. そして彼らの信仰は（その時）、彼らを益することがなかった[2]。彼らが、われら*の猛威（という懲罰）を目の当たりにした時には（、もう遅かったのだ）。（懲罰が訪れたら信仰しても遅いという、）かれの僕たちにおいて過ぎ去ってきた、アッラー*の摂理。そして不信仰者*たちは、そこで損失したのである。

فَلَمۡ يَكُ يَنفَعُهُمۡ إِيمَٰنُهُمۡ لَمَّا رَأَوۡاْ بَأۡسَنَاۖ
سُنَّتَ ٱللَّهِ ٱلَّتِي قَدۡ خَلَتۡ فِي عِبَادِهِۦۖ وَخَسِرَ
هُنَالِكَ ٱلۡكَٰفِرُونَ ٨٥

---

1 「自分たちのもとにある知識」の解釈には、「彼ら（不信仰者*たち）の、『自分たちは罰されることも、蘇（よみがえ）らされることもないことを知っている』という主張」「彼ら（不信仰者*）の、現世に関する知識（ビザンチン章 7 も参照）」「彼ら（預言者*たち）がアッラー*から授かった、『信仰者が救われ、不信仰者*たちが滅ぼされる』という知識」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー15:336 参照）。

2 家畜章 158 とその訳注も参照。

第 41 章
詳細にされた章（フッスィラト）[1]

سُورَةُ فُصِّلَتۡ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. ハー・ミーム[2]。

حمٓ ١

2. （このクルアーン*は、）慈悲あまねく*、慈愛深き*お方からの降示である。

تَنزِيلٞ مِّنَ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ ٢

3. 知識ある民のため、アラビア語のクルアーン*として、そのアーヤ*が詳細にされた啓典。

كِتَٰبٞ فُصِّلَتۡ ءَايَٰتُهُۥ قُرۡءَانًا عَرَبِيّٗا لِّقَوۡمٖ
يَعۡلَمُونَ ٣

4. 吉報を伝え、警告を告げるもの[3]として。そして彼らの大半は（それに）背を向け、耳を傾けない。

بَشِيرٗا وَنَذِيرٗا فَأَعۡرَضَ أَكۡثَرُهُمۡ فَهُمۡ لَا
يَسۡمَعُونَ ٤

5. また、彼ら（不信仰者*たち）は（使徒*ムハンマド*に）言った。「私たちの心は、あなたが私たちを招くもの（への理解）から（阻む）覆いがかけられ、私たちの耳には重しがかけられており[4]、私たちとあなたとの間には（、あなたの招きに応じることを阻む）障壁がある。ならば、あなたは（自分の宗教に従って）行うがよい。本当に私たちは、（自分たちの宗教に従って）行うから」。

وَقَالُواْ قُلُوبُنَا فِيٓ أَكِنَّةٖ مِّمَّا تَدۡعُونَآ إِلَيۡهِ وَفِيٓ
ءَاذَانِنَا وَقۡرٞ وَمِنۢ بَيۡنِنَا وَبَيۡنِكَ حِجَابٞ فَٱعۡمَلۡ
إِنَّنَا عَٰمِلُونَ ٥

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、アーヤ*3 とアーヤ*44 に登場する「詳細にされた（フッスィラト）」という語による。アッラー*への信仰、啓示とその真実性、復活の日*・来世の様子などの基本的信仰が取り上げられる。また、啓示に対する不信仰者*たちの様子、過去の不信仰者*たちの結末、そして来世における信仰者と不信仰者*の状況が対照的に描写されるほか、天地創造を始め、アッラーの唯一性*と御力を示す多様な印の数々も所々に言及されている。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 「吉報を伝え、警告を告げる」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

4 「耳に重しがかけられた」については家畜章 25 の訳注を参照。

6. （使徒*よ、）言ってやれ。「私は、『あなた方の（真に）崇拝*すべきは、ただ一つの神[1]』との啓示を受けている、あなた方と同様の一人の人間に過ぎない。ゆえに、かれへとまっすぐに歩み[2]、かれにお赦しを乞うのだ。そしてシルク*の徒たちには、災いを。

قُلْ إِنَّمَآ أَنَا۠ بَشَرٌ مِّثْلُكُمْ يُوحَىٰٓ إِلَيَّ أَنَّمَآ إِلَٰهُكُمْ إِلَٰهٌ وَٰحِدٌ فَٱسْتَقِيمُوٓا۟ إِلَيْهِ وَٱسْتَغْفِرُوهُ ۗ وَوَيْلٌ لِّلْمُشْرِكِينَ ٦

7. （彼らは）浄財*を支払う[3]ことなく、来世に対してはまさに不信仰者*である。

ٱلَّذِينَ لَا يُؤْتُونَ ٱلزَّكَوٰةَ وَهُم بِٱلْءَاخِرَةِ هُمْ كَٰفِرُونَ ٧

8. 本当に信仰し、正しい行い*を行う者たち、彼らには尽きることのない[4]褒美がある」。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ لَهُمْ أَجْرٌ غَيْرُ مَمْنُونٍ ٨

9. （使徒*よ）言え。「本当にあなた方は、大地を二日間で創られたお方を否定し、かれに同位者を設け（て崇拝*す）るというのか？　そのお方は、全創造物の主*なのである。

۞ قُلْ أَئِنَّكُمْ لَتَكْفُرُونَ بِٱلَّذِى خَلَقَ ٱلْأَرْضَ فِى يَوْمَيْنِ وَتَجْعَلُونَ لَهُۥٓ أَندَادًا ۚ ذَٰلِكَ رَبُّ ٱلْعَٰلَمِينَ ٩

10. またかれはそこに、その上に（聳える）堅固な山々を置かれ、そこを祝福され、ちょうど四日（目）[5]で、その糧をそこにお定めになった。（天地創造の時間について）問う者たちへのために[6]（、彼らがそれを知るべく）。

وَجَعَلَ فِيهَا رَوَٰسِىَ مِن فَوْقِهَا وَبَٰرَكَ فِيهَا وَقَدَّرَ فِيهَآ أَقْوَٰتَهَا فِىٓ أَرْبَعَةِ أَيَّامٍ سَوَآءً لِّلسَّآئِلِينَ ١٠

---

1 この「神」については、洞窟章 110 の訳注を参照。

2 アッラー*へと「まっすぐに歩む」とは、かれの御言葉を信じ、そのご命令を守ることで、かれへと続く道を歩み続けること（アッ＝サァディー744 頁参照）。また、使徒*たちの手法に沿って、かれだけに崇拝*行為を捧（ささ）げること（イブン・カスィール 7:164 参照）。

3 この「浄財*」については、家畜章 141「義務」の訳注を参照。

4 「尽きることのない（マムヌーン）」の意味には、その他「不足ない」「際限（さいげん）ない」「恩着せがましくない」といった解釈もある（アル＝クルトゥビー15:341-342 参照）。

5 アーヤ*9 にある、アッラー*が大地を創造された二日間は、ここで言及されている四日間の内の最初の二日間である（ムヤッサル 477 頁参照）。

6 あるいは、「（糧を）求める者たちのため、ちょうどいい案配に」糧をお定めになった（イブン・カスィール 7:166 参照）。

11. それから、かれは煙状であった天（の創造）をお望みになり、それ（天）と大地に向かって、（こう）仰せられた。「従順にであろうと、嫌々であろうと、（わが命令へと）来たれ」。それら（天と大地）は、申し上げた。「私たちは従順に、参りました」。

ثُمَّ ٱسۡتَوَىٰٓ إِلَى ٱلسَّمَآءِ وَهِيَ دُخَانٞ فَقَالَ
لَهَا وَلِلۡأَرۡضِ ٱئۡتِيَا طَوۡعًا أَوۡ كَرۡهٗا قَالَتَآ
أَتَيۡنَا طَآئِعِينَ ١١

12. こうしてかれはそれらを二日間で、七層の天（の創造）として終えられ[1]、天の各々（の層）に、そのご命令を示された。また、われらは最下層の天を（星）灯りで飾りつけ、（それをシャイターン*に対する）護衛とした[2]。それは偉力ならびなく*、英知あふれる*お方の定めである。

فَقَضَىٰهُنَّ سَبۡعَ سَمَٰوَاتٖ فِي يَوۡمَيۡنِ وَأَوۡحَىٰ فِي
كُلِّ سَمَآءٍ أَمۡرَهَاۚ وَزَيَّنَّا ٱلسَّمَآءَ ٱلدُّنۡيَا بِمَصَٰبِيحَ
وَحِفۡظٗاۚ ذَٰلِكَ تَقۡدِيرُ ٱلۡعَزِيزِ ٱلۡعَلِيمِ ١٢

13. もし彼らが（アッラー*とクルアーン*のことを説明された後に）背を向けるのなら、言ってやるがいい。「私はあなた方に、アード*とサムード*の懲罰のような懲罰を警告した」。

فَإِنۡ أَعۡرَضُواْ فَقُلۡ أَنذَرۡتُكُمۡ صَٰعِقَةٗ مِّثۡلَ
صَٰعِقَةِ عَادٖ وَثَمُودَ ١٣

14. 使徒*たちが、彼らの前と後ろから彼ら（アード*とサムード*）のもとに到来し[3]、アッラー*以外は崇拝*してはならない、と言った時のこと。彼らは言った。「もし我らが主*がお望みになったなら、天使*たちを（使徒*として）下したであろう[4]。ゆえに私たちは、あなた方が携えて遣わされたものを否定する」。

إِذۡ جَآءَتۡهُمُ ٱلرُّسُلُ مِنۢ بَيۡنِ أَيۡدِيهِمۡ وَمِنۡ
خَلۡفِهِمۡ أَلَّا تَعۡبُدُوٓاْ إِلَّا ٱللَّهَۖ قَالُواْ لَوۡ شَآءَ رَبُّنَا
لَأَنزَلَ مَلَٰٓئِكَةٗ فَإِنَّا بِمَآ أُرۡسِلۡتُم بِهِۦ
كَٰفِرُونَ ١٤

---

1 こうしてアッラー*は天地の創造を、日曜日から金曜日までの六日間で終えられた。全能のアッラー*は、お望みであれば、天地を一瞬でお創りになることもお出来だが、それらをこの日数でお創りになったのは、かれの英知ゆえのことである（アッ＝サァディー745 頁参照）。

2 アル＝ヒジュル章 17-18 とその訳注、詩人たち章 212、223、整列者章 6-10、王権章 5、ジン*章 8-9 も参照。

3 つまり、次々と連続して到来した、ということ（ムヤッサル 478 頁参照）。

4 家畜章 8-9 も参照。

15. それでアード*はといえば、不当にも地上で高慢となり、（こう）言った。「誰が私たちよりも強力だと言うのか？[1]」彼らは一体、彼らをお創りになったアッラー*が、彼らよりも強力であるとは思わないのか？ 彼らは、かれの御徴[2]を否定していたのだ。

فَأَمَّا عَادٌ فَٱسۡتَكۡبَرُواْ فِي ٱلۡأَرۡضِ بِغَيۡرِ ٱلۡحَقِّ
وَقَالُواْ مَنۡ أَشَدُّ مِنَّا قُوَّةًۖ أَوَلَمۡ يَرَوۡاْ أَنَّ ٱللَّهَ
ٱلَّذِي خَلَقَهُمۡ هُوَ أَشَدُّ مِنۡهُمۡ قُوَّةٗۖ وَكَانُواْ
بِـَٔايَٰتِنَا يَجۡحَدُونَ ١٥

16. それでわれら*は、彼らに現世の生活における屈辱の懲罰を味わわせるべく、大難の日々[3]において、彼らに咆哮の暴風を送った。そして来世の懲罰こそは、より屈辱に満ちたものなのだ。彼らは（誰からも）援助されることがない。

فَأَرۡسَلۡنَا عَلَيۡهِمۡ رِيحٗا صَرۡصَرٗا فِيٓ أَيَّامٖ نَّحِسَاتٖ
لِّنُذِيقَهُمۡ عَذَابَ ٱلۡخِزۡيِ فِي ٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَاۖ
وَلَعَذَابُ ٱلۡأٓخِرَةِ أَخۡزَىٰۖ وَهُمۡ لَا يُنصَرُونَ ١٦

17. またサムード*はといえば、われら*が彼らに導きを示した後、導きよりも（迷いという）盲目を好んだ。それで彼らが稼いでいたもの[4]ゆえ、屈辱的な懲罰の稲妻[5]が彼らを捕らえたのだ。

وَأَمَّا ثَمُودُ فَهَدَيۡنَٰهُمۡ فَٱسۡتَحَبُّواْ ٱلۡعَمَىٰ عَلَى
ٱلۡهُدَىٰ فَأَخَذَتۡهُمۡ صَٰعِقَةُ ٱلۡعَذَابِ ٱلۡهُونِ
بِمَا كَانُواْ يَكۡسِبُونَ ١٧

18. そしてわれら*は、信仰し、敬虔*だった者たちを救った。

وَنَجَّيۡنَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَكَانُواْ يَتَّقُونَ ١٨

19. アッラー*の敵たちが業火へと集められ、整列させられる時（のことを、思い起こさせよ）。

وَيَوۡمَ يُحۡشَرُ أَعۡدَآءُ ٱللَّهِ إِلَى ٱلنَّارِ فَهُمۡ
يُوزَعُونَ ١٩

1 アード*は強力な身体と武力を備えており、アッラー*の懲罰にすら太刀打ちできると考えていた（イブン・カスィール 7:169 参照）。

2 この「御徴」の解釈には、「使徒*の奇跡」「啓示」「世の中に存在する（アッラーの唯一性*と偉大さの）印」あるいは「それら全てのこと」といった諸説がある（アッ＝シャウカーニー4:669 参照）。

3 この「大難の日々」については、真実章 5-7 も参照。

4 アッラー*への不信仰と、その使徒*たちを嘘つき呼ばわりした罪のこと（ムヤッサル 478 頁参照）。

5 サムード*に下された懲罰の詳細については、頻出名・用語解説の「サムード*」の項を参照。

20. やがて彼らがそこに到来（し、自分たちの罪を否定）すると、彼らの耳と目と皮膚は、彼らが（現世で）行っていたことについて、彼らに不利な証言をする[1]。

حَتَّىٰٓ إِذَا مَا جَآءُوهَا شَهِدَ عَلَيۡهِمۡ سَمۡعُهُمۡ
وَأَبۡصَٰرُهُمۡ وَجُلُودُهُم بِمَا كَانُواْ
يَعۡمَلُونَ ٢٠

21. そして彼らは、自分たちの皮膚に（こう）言う。「あなた方は、どうして私たちに不利な証言をするのか？」彼ら（皮膚）は、言う。「全てのものに言葉を喋らせられるアッラー*が、私たちを喋らせられたのだ。かれがあなた方を最初にお創りになったのであり、かれの御許にこそ、あなた方は戻らされる。

وَقَالُواْ لِجُلُودِهِمۡ لِمَ شَهِدتُّمۡ عَلَيۡنَاۖ قَالُوٓاْ
أَنطَقَنَا ٱللَّهُ ٱلَّذِيٓ أَنطَقَ كُلَّ شَيۡءٖۚ وَهُوَ
خَلَقَكُمۡ أَوَّلَ مَرَّةٖ وَإِلَيۡهِ تُرۡجَعُونَ ٢١

22. あなた方は（罪に手を染める時）、自分たちの耳や目や皮膚が（復活の日*、）自分たちにとって不利な証言をする（だろうことを怖れるが）ゆえに、身を隠すこともしなかった。しかしあなた方はアッラー*が、自分たちの行う（罪の）多くを知らないだろう、と思い込んでいたのである。

وَمَا كُنتُمۡ تَسۡتَتِرُونَ أَن يَشۡهَدَ عَلَيۡكُمۡ
سَمۡعُكُمۡ وَلَآ أَبۡصَٰرُكُمۡ وَلَا جُلُودُكُمۡ وَلَٰكِن
ظَنَنتُمۡ أَنَّ ٱللَّهَ لَا يَعۡلَمُ كَثِيرٗا مِّمَّا تَعۡمَلُونَ ٢٢

23. そしてそれは、あなた方が自分たちの主*に対して思っていた、あなた方の憶測である。それはあなた方を（破滅に）転落させ、あなた方は損失者の類いとなったのだ」。[2]

وَذَٰلِكُمۡ ظَنُّكُمُ ٱلَّذِي ظَنَنتُم بِرَبِّكُمۡ
أَرۡدَىٰكُمۡ فَأَصۡبَحۡتُم مِّنَ ٱلۡخَٰسِرِينَ ٢٣

24. それで、もし彼らが（懲罰を）忍ぶとしても、業火が彼らの住まいである。もし彼らが（アッラー*の）ご満悦を得よう[3]としても、彼らがご満悦を得ることなど叶うわけもないのだ。

فَإِن يَصۡبِرُواْ فَٱلنَّارُ مَثۡوٗى لَّهُمۡۖ وَإِن يَسۡتَعۡتِبُواْ
فَمَا هُم مِّنَ ٱلۡمُعۡتَبِينَ ٢٤

---

1 御光章 24、ヤー・スィーン章 65 も参照。

2 皮膚の言葉は、アーヤ*21「…喋らせられたのだ」まで、あるいは「…思い込んでいたのである」までという説もある。そしてその場合、そこからアーヤ*23 までの言葉はアッラー*、あるいは天使*のもの、とされる（アル＝クルトゥビー15:350-351 参照）。

3 蜜蜂章 84 とその訳注も参照。

25. またわれら*は彼ら（不信仰者*たち）に、付きまとう者たち[1]をあてがった。そして彼らは彼らに対し、その前にあるものと後ろにあるものを目映く見せた[2]。彼らにはジン*と人間からなる、彼ら以前に滅んだ（不信仰の）民*の一員として（地獄に入るという）、御言葉が確定したのである。本当に彼らは、損失者だったのだ。

۞وَقَيَّضْنَا لَهُمْ قُرَنَآءَ فَزَيَّنُوا۟ لَهُم مَّا بَيْنَ
أَيْدِيهِمْ وَمَا خَلْفَهُمْ وَحَقَّ عَلَيْهِمُ ٱلْقَوْلُ
فِىٓ أُمَمٍ قَدْ خَلَتْ مِن قَبْلِهِم مِّنَ ٱلْجِنِّ
وَٱلْإِنسِ ۖ إِنَّهُمْ كَانُوا۟ خَٰسِرِينَ ٢٥

26. 不信仰に陥った者*たちは（、互いに助言し合って、こう）言った。「このクルアーン*には耳を傾けず、それ（読誦）に対して戯言を言って（邪魔して）やれ[3]。（それによって読誦を阻み、）あなた方が優勢となるように」。

وَقَالَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ لَا تَسْمَعُوا۟ لِهَٰذَا
ٱلْقُرْءَانِ وَٱلْغَوْا۟ فِيهِ لَعَلَّكُمْ تَغْلِبُونَ ٢٦

27. われら*は必ずや、不信仰に陥った者*たちに（現世と来世において）厳しい懲罰を味わわせ、彼らが行っていた最悪のもの[4]で、必ずや彼らに報いよう。

فَلَنُذِيقَنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ عَذَابًا شَدِيدًا
وَلَنَجْزِيَنَّهُمْ أَسْوَأَ ٱلَّذِى كَانُوا۟ يَعْمَلُونَ ٢٧

28. それがアッラー*の敵どもの報い、業火である。彼らにはそこで、彼らが（現世で）われら*の御徴[5]を否定していたことゆえの報いとして、永遠の住まいがある。

ذَٰلِكَ جَزَآءُ أَعْدَآءِ ٱللَّهِ ٱلنَّارُ ۖ لَهُمْ فِيهَا دَارُ ٱلْخُلْدِ ۖ
جَزَآءًۢ بِمَا كَانُوا۟ بِـَٔايَٰتِنَا يَجْحَدُونَ ٢٨

---

1 人間とジン*からなる、シャイターン*たちのこと（ムヤッサル 479 頁参照）。

2 「その前にあるもの」を目映く見せるとは、現世で悪事を善いことのように見せ、その禁じられた楽しみや欲望へと招くこと。「後ろにあるもの」を目映く見せるとは、来世のことを忘れさせたり、復活を嘘とする考えへと招いたりすること（前掲書、同頁参照）。高壁章 17 とその訳注も参照。また、シャイターン*が人類を迷わせることとなった経緯（いきさつ）については、高壁章 11-18、アル＝ヒジュル章 28-42、夜の旅章 61-65、サード章 71-85 を参照。

3 クライシュ族*の不信仰者らは、預言者*がクルアーンを読誦すると、口笛や拍手をしたり、雑音を立てたりして、それを妨害した（アッ＝タバリー9:7191 参照）。

4 つまり不信仰と、アッラー*への不服従のこと（アッ＝サァディー748 頁参照）。

5 創造物の内に存在するアッラー*の（唯一性*と偉大さの）印、および預言者*に啓示されたアーヤ*のこと（イブン・アティーヤ 5:13 参照）。

29. また、不信仰に陥った者*たちは（地獄で、こう）言う。「我らが主*よ、ジン*と人間の内、私たちを迷わせた者たちを、お見せ下さい。（そうすれば、）彼らが（地獄の）最下層の者となるべく、私たちの足の下にしてやります」。[1]

وَقَالَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ رَبَّنَآ أَرِنَا ٱلَّذَيْنِ أَضَلَّانَا مِنَ ٱلْجِنِّ وَٱلْإِنسِ نَجْعَلْهُمَا تَحْتَ أَقْدَامِنَا لِيَكُونَا مِنَ ٱلْأَسْفَلِينَ ٢٩

30. 本当に「我らが主*はアッラー*です」と言い、それからまっすぐに歩んだ者[2]たち、彼らには（その死期に、）天使*たちが（こう言いつつ）下る。「怖れるのでも、悲しむのでもない[3]。あなた方が（現世で）約束されていた天国を、喜ぶのだ。

إِنَّ ٱلَّذِينَ قَالُوا۟ رَبُّنَا ٱللَّهُ ثُمَّ ٱسْتَقَٰمُوا۟ تَتَنَزَّلُ عَلَيْهِمُ ٱلْمَلَٰٓئِكَةُ أَلَّا تَخَافُوا۟ وَلَا تَحْزَنُوا۟ وَأَبْشِرُوا۟ بِٱلْجَنَّةِ ٱلَّتِى كُنتُمْ تُوعَدُونَ ٣٠

31. 私たちは現世の生活と来世における、あなた方の味方[4]である。そして、そこ（天国）にはあなた方のために、あなた方自身が欲するものがある。そこにはあなた方のために、あなた方が求めるものがあるのだ。

نَحْنُ أَوْلِيَآؤُكُمْ فِى ٱلْحَيَوٰةِ ٱلدُّنْيَا وَفِى ٱلْءَاخِرَةِ ۖ وَلَكُمْ فِيهَا مَا تَشْتَهِىٓ أَنفُسُكُمْ وَلَكُمْ فِيهَا مَا تَدَّعُونَ ٣١

32. 赦し深く、慈愛深い*お方からの御もてなしとして」。

نُزُلًا مِّنْ غَفُورٍ رَّحِيمٍ ٣٢

33. アッラー*（の唯一性*と崇拝*）へと招き、正しい行い*を行い、「本当に私は、服従する者（ムスリム*）の一人です」と言う者よりも、善い言葉の者がいようか？

وَمَنْ أَحْسَنُ قَوْلًا مِّمَّن دَعَآ إِلَى ٱللَّهِ وَعَمِلَ صَٰلِحًا وَقَالَ إِنَّنِى مِنَ ٱلْمُسْلِمِينَ ٣٣

---

1 同様の情景の描写として、高壁章 38-39 も参照（イブン・カスィール 7:175 参照）。

2 つまり「アッラー*への服従において、信仰、言葉、行いがまっすぐであり続けた者」（アル＝クルトゥビー15:358 参照）。

3 雌牛章 38「怖れもなければ、悲しむこともない」の訳注も参照。

4 つまり天使*たちは、現世ではアッラー*の命によって信仰者たちを正し、成功させ、守護した。そして来世においては、墓の中・復活の日*の恐怖を和らげ、復活の時には安心させ、地獄の架け橋（鉄章 13 参照）を渡るのを助け、天国へと到達させてくれる（イブン・カスィール 7:177 参照）。

34. 善と悪とは同じではない。（使徒*よ、あなた[1]に悪くする者にも、）より善いものでもって、返してやれ。そうすればどうだろう、あなたとの間に敵対心がある者も、あたかも親しい味方のようになるのだ。

وَلَا تَسْتَوِي ٱلْحَسَنَةُ وَلَا ٱلسَّيِّئَةُ ٱدْفَعْ
بِٱلَّتِي هِيَ أَحْسَنُ فَإِذَا ٱلَّذِي بَيْنَكَ وَبَيْنَهُۥ
عَدَٰوَةٌ كَأَنَّهُۥ وَلِيٌّ حَمِيمٌ ٣٤

35. そしてそれは、忍耐*する者しか手にすることがなく、それは（現世と来世における、）この上ない幸福の持ち主しか手にすることはない。

وَمَا يُلَقَّىٰهَآ إِلَّا ٱلَّذِينَ صَبَرُواْ وَمَا يُلَقَّىٰهَآ
إِلَّا ذُو حَظٍّ عَظِيمٍ ٣٥

36. また、もしシャイターン*からの一突きがあなたを突いたら[2]、アッラー*にご加護を乞うのだ。かれこそはよくお聴きになるお方、全知者であられるのだから。

وَإِمَّا يَنزَغَنَّكَ مِنَ ٱلشَّيْطَٰنِ نَزْغٌ فَٱسْتَعِذْ
بِٱللَّهِ إِنَّهُۥ هُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلْعَلِيمُ ٣٦

37. 夜、昼、太陽、月は、かれの（唯一性*と全能性を示す）御徴の一部である。太陽にも月にもサジダ*せず、それらをお創りになったアッラー*にサジダ*せよ。もしあなた方が、かれのみを崇拝*するのなら。

وَمِنْ ءَايَٰتِهِ ٱلَّيْلُ وَٱلنَّهَارُ وَٱلشَّمْسُ
وَٱلْقَمَرُ لَا تَسْجُدُواْ لِلشَّمْسِ وَلَا لِلْقَمَرِ
وَٱسْجُدُواْ لِلَّهِ ٱلَّذِي خَلَقَهُنَّ إِن كُنتُمْ
إِيَّاهُ تَعْبُدُونَ ٣٧

38. そして、もし彼らが（アッラー*へのサジダ*に対して）奢り高ぶったとしても、（放っておくがよい、）あなたの主*の御許にいる者（天使*）たちは倦むことなく、夜に昼にかれを称えている*のだから。（読誦のサジダ*）

فَإِنِ ٱسْتَكْبَرُواْ فَٱلَّذِينَ عِندَ رَبِّكَ
يُسَبِّحُونَ لَهُۥ بِٱلَّيْلِ وَٱلنَّهَارِ وَهُمْ لَا
يَسْـَٔمُونَ ۩ ٣٨

39. またあなたが、大地が惨めな有様[3]なのを見ても、そこにわれら*が（雨）水を降らせると、それが震動し、膨張する[4]のは、

وَمِنْ ءَايَٰتِهِۦٓ أَنَّكَ تَرَى ٱلْأَرْضَ خَٰشِعَةً فَإِذَآ
أَنزَلْنَا عَلَيْهَا ٱلْمَآءَ ٱهْتَزَّتْ وَرَبَتْ إِنَّ ٱلَّذِيٓ
أَحْيَاهَا لَمُحْيِ ٱلْمَوْتَىٰٓ إِنَّهُۥ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ٣٩

1 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。

2 この表現については、高壁章 200 の訳注を参照。

3 「惨めな有様」とは、乾ききって不毛な様子のこと（ムヤッサル 481 頁参照）。

4 「震動」は、植物が芽生え、動き出すことを、「膨張」は大地が水を含んで、膨張することを指すという（イブン・アーシュール 24:302 参照）。

かれの（唯一性*と全能性を示す）御徴の一つ。それに生を与えたお方こそは、まさしく死んだものに生を与えられるお方。本当にかれは全てのことがお出来になるお方なのだ。

40. 本当に、われら*の御徴（アーヤ*）において（真理から）逸脱[1]する者たちが、われら*から隠れることは出来ない。それで（その逸脱者のように、）業火に放り込まれる者がより善いのか、それとも復活の日*に（御徴を信じる者として、懲罰から）安泰な状態でやってくる者か？　あなた方が望むことを行うがよい。本当にかれは、あなた方が行うことをご覧になっている。

إِنَّ ٱلَّذِينَ يُلۡحِدُونَ فِيٓ ءَايَٰتِنَا لَا يَخۡفَوۡنَ
عَلَيۡنَآۗ أَفَمَن يُلۡقَىٰ فِي ٱلنَّارِ خَيۡرٌ أَم مَّن يَأۡتِيٓ
ءَامِنٗا يَوۡمَ ٱلۡقِيَٰمَةِۚ ٱعۡمَلُواْ مَا شِئۡتُمۡ إِنَّهُۥ بِمَا
تَعۡمَلُونَ بَصِيرٌ ٤٠

41. 本当に、その教訓（クルアーン*）が自分たちのもとに到来した時に、それを否定した者たちは（、破滅する定めにある）。それこそは、まさしく偉力あふれた啓典[2]なのだ。

إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ بِٱلذِّكۡرِ لَمَّا جَآءَهُمۡۖ وَإِنَّهُۥ
لَكِتَٰبٌ عَزِيزٞ ٤١

42. その前からも、その後ろからも、虚妄が訪れることがない[3]（啓典）。英知あふれる*、称賛されるべき*お方から下されたもの。

لَّا يَأۡتِيهِ ٱلۡبَٰطِلُ مِنۢ بَيۡنِ يَدَيۡهِ وَلَا مِنۡ خَلۡفِهِۦۖ
تَنزِيلٞ مِّنۡ حَكِيمٍ حَمِيدٖ ٤٢

43. （使徒*よ、シルク*の徒から）あなたに言われることは、既にあなた以前の使徒*たちに言われたことに外ならない。本当にあなたの主*は、まさしく赦しの主であり、痛烈な懲罰の主である。

مَّا يُقَالُ لَكَ إِلَّا مَا قَدۡ قِيلَ لِلرُّسُلِ مِن قَبۡلِكَۚ
إِنَّ رَبَّكَ لَذُو مَغۡفِرَةٖ وَذُو عِقَابٍ أَلِيمٖ ٤٣

---

1 否定、嘘呼ばわり、改ざん、真の意味からの脱線、アッラー*がお望みになってはいない別の意味を与えることなど、あらゆる形での「逸脱」（アッ＝サアディー750 頁参照）。

2 アッラー*によって偉力あふれたものとされ、あらゆる種類の変更から守られた「啓典」のこと（ムヤッサル 481 頁参照）。

3 クルアーン*はアッラー*によって守られた啓典であり、そこに新たな削除や付け加えが及ぶことはない（前掲書、同頁参照）。アル＝ヒジュル章 9 とその訳注も参照。

44. もし、われら*がそれを外国語のクルアーン*としたならば、彼ら（シルク*の徒）は言ったことだろう。「そのアーヤ*はどうして、（私たちに理解できるよう）詳細にはされなかったのか？　外国語（の啓示）とアラブ人[1]（の預言者*）だと？」（使徒*よ、）言ってやれ。「それ（クルアーン*）は、信仰する者たちにとっての導きと癒し[2]なのだ。信仰しない者たちはその耳に重しがある[3]のであり、それは彼らにとっての盲目（の原因）である。それらの者たちは、遠い場所から呼びかけられているのだ[4]」。

وَلَوْ جَعَلْنَاهُ قُرْآنًا أَعْجَمِيًّا لَّقَالُوا لَوْلَا
فُصِّلَتْ آيَاتُهُ ۖ أَأَعْجَمِيٌّ وَعَرَبِيٌّ ۗ قُلْ هُوَ
لِلَّذِينَ آمَنُوا هُدًى وَشِفَاءٌ ۖ وَالَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ
فِي آذَانِهِمْ وَقْرٌ وَهُوَ عَلَيْهِمْ عَمًى ۚ أُولَٰئِكَ
يُنَادَوْنَ مِن مَّكَانٍ بَعِيدٍ ٤٤

45. われら*は確かに、ムーサー*に啓典（トーラー*）を授けたが、そこにおいて異論が生じ（、ある者は信じ、ある者は信じなかっ）た。そして（使徒*よ）、もし（あなたの民に対する懲罰を猶予する、という）あなたの主*からの先んじた御言葉がなければ、彼らの間には裁決が下されてしまったであろう。本当に彼らはそれ（クルアーン*）に対する、大きな疑惑の真っ只中にあるのだ。

وَلَقَدْ آتَيْنَا مُوسَى الْكِتَابَ فَاخْتُلِفَ فِيهِ ۗ
وَلَوْلَا كَلِمَةٌ سَبَقَتْ مِن رَّبِّكَ لَقُضِيَ
بَيْنَهُمْ ۚ وَإِنَّهُمْ لَفِي شَكٍّ مِّنْهُ مُرِيبٍ ٤٥

46. 誰でも正しい行い*を行う者は、自分のために（そうするの）であり、悪い行いをする者は、自分に対して（そうするの）である。アッラー*は、その僕たちに対する不正*者などではない。

مَّنْ عَمِلَ صَالِحًا فَلِنَفْسِهِ ۖ وَمَنْ أَسَاءَ
فَعَلَيْهَا ۗ وَمَا رَبُّكَ بِظَلَّامٍ لِّلْعَبِيدِ ٤٦

1 それが下った者の言葉はアラビア語なのに、外国語のクルアーン*とはどういうことだ、ということ（ムヤッサル 481 頁参照）。

2 「癒し」については、ユーヌス*章 57 の訳注を参照。

3 「耳に重しがある」については、家畜章 25 の訳注を参照。

4 つまり呼びかけを聞くこともなければ、それに応じることもない（前掲書、同頁参照）。

47. かれ（アッラー*）の御許にこそ、（復活の）その時の知識は帰される。また、かれの知識なしには果実がその包みから出て来ることはなく、女性が身ごもることも、出産することもない。かれが（シルク*の徒に、）「（あなた方が、崇拝*において）われの同位者たち（としていた者たち）は、どこなのか？」と呼びかけられる、その日のこと（を思い起こさせよ）。彼らは言う。「（今）私たちは、あなたにお知らせします。私たちの中には、誰も証言者[1]がいません」。

۞ إِلَيۡهِ يُرَدُّ عِلۡمُ ٱلسَّاعَةِۚ وَمَا تَخۡرُجُ مِن
ثَمَرَٰتٖ مِّنۡ أَكۡمَامِهَا وَمَا تَحۡمِلُ مِنۡ أُنثَىٰ
وَلَا تَضَعُ إِلَّا بِعِلۡمِهِۦۚ وَيَوۡمَ يُنَادِيهِمۡ أَيۡنَ
شُرَكَآءِي قَالُوٓاْ ءَاذَنَّٰكَ مَا مِنَّا مِن شَهِيدٖ ٤٧

48. また、彼らが以前（アッラー*をよそに）祈っていたものは、消え失せてしまう。そして彼らは自分たちに、いかなる逃げ道もないことを確信するのだ。

وَضَلَّ عَنۡهُم مَّا كَانُواْ يَدۡعُونَ مِن قَبۡلُۖ
وَظَنُّواْ مَا لَهُم مِّن مَّحِيصٖ ٤٨

49. 人間は、善の祈願[2]には飽きることがない。そして、もし悪が彼を襲えば、失意の念激しい者、絶望の底に陥った者となる[3]。

لَّا يَسۡـَٔمُ ٱلۡإِنسَٰنُ مِن دُعَآءِ ٱلۡخَيۡرِ وَإِن
مَّسَّهُ ٱلشَّرُّ فَيَـُٔوسٞ قَنُوطٞ ٤٩

50. また、もしもわれら*が、彼（人間）に災難が襲った後、われら*の御許からの慈悲を味わわせたならば、彼は必ずや（こう）言うのだ。「これは私のため（に相応しいもの）であり、私は（復活の）その時が起こるとは、思わない。そして、もしも私が我が主*のもとに戻らされたとしても、私にこそはかれの御許において、まさしく最善のもの[4]

وَلَئِنۡ أَذَقۡنَٰهُ رَحۡمَةٗ مِّنَّا مِنۢ بَعۡدِ ضَرَّآءَ
مَسَّتۡهُ لَيَقُولَنَّ هَٰذَا لِي وَمَآ أَظُنُّ ٱلسَّاعَةَ
قَآئِمَةٗ وَلَئِن رُّجِعۡتُ إِلَىٰ رَبِّيٓ إِنَّ لِي عِندَهُۥ
لَلۡحُسۡنَىٰۚ فَلَنُنَبِّئَنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ بِمَا عَمِلُواْ
وَلَنُذِيقَنَّهُم مِّنۡ عَذَابٍ غَلِيظٖ ٥٠

1 アッラー*に同位者がいる、と証言する「証言者」のこと（ムヤッサル 482 頁参照）。

2 富、財産、子供など、現世の魅力的なものを求める祈願のこと（アッ＝サァディー752 頁参照）。

3 つまり、アッラー*のご慈悲に絶望し、その試練が一巻の終わりと思い込む。しかし信仰者はこれとは逆に、善いことがあればアッラー*に感謝し、それが罰の前触れではないかと警戒する。そして災難が襲えば忍耐*し、アッラー*の恩寵（おんちょう）を乞うのである（前掲書、同頁参照）。

4 つまり天国のこと（ムヤッサル 482 頁参照）。

があるのだ」。では、われら*はきっと不信仰に陥った者*たちに、彼らが行った（悪）事を告げ、彼らに必ずや、荒々しい懲罰を味わわせよう。

51. われら*が人間に恩恵を授ければ、彼は（真理に従うことを）拒み、そっぽを向いて遠ざかる。そして自分に悪が降りかかると、延々と祈願する者となる。

وَإِذَآ أَنۡعَمۡنَا عَلَى ٱلۡإِنسَٰنِ أَعۡرَضَ وَنَـَٔا بِجَانِبِهِۦ
وَإِذَا مَسَّهُ ٱلشَّرُّ فَذُو دُعَآءٍ عَرِيضٖ ٥١

52. （使徒*よ、）言ってやれ。「言ってみよ。もし、それ（クルアーン*）がアッラー*の御許からのものであり、そしてあなた方がそれを否定したとすれば（、あなた方ほど迷っている者はいないではないか）？（真理と）遠い対立の中にある者よりも、ひどく迷っている者があろうか？」

قُلۡ أَرَءَيۡتُمۡ إِن كَانَ مِنۡ عِندِ ٱللَّهِ ثُمَّ
كَفَرۡتُم بِهِۦ مَنۡ أَضَلُّ مِمَّنۡ هُوَ فِي
شِقَاقِۭ بَعِيدٖ ٥٢

53. われら*は、彼らに見せよう。それ（クルアーン*）が彼らに真実であることが明らかになるまで、われら*の御徴を彼方に、そして彼ら自身の内に[1]。一体、あなたの主*だけで、かれが全てのことの証人ということだけで、（クルアーン*の真実性の証拠は）十分なのではないか？

سَنُرِيهِمۡ ءَايَٰتِنَا فِي ٱلۡأٓفَاقِ وَفِيٓ أَنفُسِهِمۡ
حَتَّىٰ يَتَبَيَّنَ لَهُمۡ أَنَّهُ ٱلۡحَقُّۗ أَوَلَمۡ يَكۡفِ
بِرَبِّكَ أَنَّهُۥ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ شَهِيدٌ ٥٣

54. 本当に彼ら（不信仰者*たち）は、自分たちの主*との（死後の）拝謁を、疑わしく思っているのではないか。本当にかれ（アッラー*）は、全てのものを悉く包囲される*お方なのではないか。

أَلَآ إِنَّهُمۡ فِي مِرۡيَةٖ مِّن لِّقَآءِ رَبِّهِمۡۗ أَلَآ إِنَّهُۥ
بِكُلِّ شَيۡءٖ مُّحِيطُۢ ٥٤

1 撒き散らすもの章 20-21 も参照。

第 42 章
相談章（アッ＝シューラー）[1]

سُورَةُ الشُّورَىٰ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. ハー・ミーム。

2. アイン・スィーン・カーフ。[2]

3. そのように（預言者*よ、）偉力ならびなく*、英知あふれる*アッラー*は、あなたに、そしてあなた以前の（預言）者*たちにも啓示[3]し給う。

4. かれにこそ、諸天にあるものと大地にあるものは属するのであり、かれは至高の*お方、この上なく偉大なる*お方であられる。

5. 諸天は（アッラー*の偉大さと荘厳さゆえ、）その上方から割れ裂けんばかり。そして天使*たちは彼らの主*の称賛*と共に（かれを）称え*、大地にいる（信仰）者たちのため、赦しを乞う[4]。実にアッラー*こそは赦し深いお方、慈愛深い*お方ではないか。

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

حمٓ ١

عٓسٓقٓ ٢

كَذَٰلِكَ يُوحِيٓ إِلَيۡكَ وَإِلَى ٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِكَ ٱللَّهُ
ٱلۡعَزِيزُ ٱلۡحَكِيمُ ٣

لَهُۥ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلۡأَرۡضِۖ وَهُوَ ٱلۡعَلِيُّ
ٱلۡعَظِيمُ ٤

تَكَادُ ٱلسَّمَٰوَٰتُ يَتَفَطَّرۡنَ مِن فَوۡقِهِنَّۚ وَٱلۡمَلَٰٓئِكَةُ
يُسَبِّحُونَ بِحَمۡدِ رَبِّهِمۡ وَيَسۡتَغۡفِرُونَ لِمَن
فِي ٱلۡأَرۡضِۗ أَلَآ إِنَّ ٱللَّهَ هُوَ ٱلۡغَفُورُ ٱلرَّحِيمُ ٥

---

1 マッカ*啓示で学者間の見解は、ほぼ一致。スーラ*冒頭と末尾に見受けられるように、啓示、および預言者*としての使命の真実が主なテーマになっており、その他、アッラーの唯一性*、復活の日*の信仰などの基本的信仰も取り上げられている。また、アッラー*の御力を示す自然界の様々な恩恵の描写や、施し、赦しの心など、信仰者としての具体的な特徴も描写される。スーラ*の名称ともなっている「相談（アーヤ*38 参照）」の必要性も、この流れで言及されたもの。

2 アーヤ*1-2 の文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 つまりアッラーの唯一性*と復活の信仰へと招く、啓示のこと（アッ＝シャウカーニー 4:688 参照）。

4 人間に対する天使*の祈願については、赦し深いお方章 7-9 も参照。

6. かれをよそに庇護者を設け（て崇め）た者たち、アッラー*は彼らの（行いを）見守られるお方であり、（使徒*よ、）あなたは（警告者であって）彼らの代理人なのではない。

وَٱلَّذِينَ ٱتَّخَذُواْ مِن دُونِهِۦٓ أَوۡلِيَآءَ ٱللَّهُ
حَفِيظٌ عَلَيۡهِمۡ وَمَآ أَنتَ عَلَيۡهِم بِوَكِيلٖ ٦

7. そのように、われら*はあなたにアラビア語のクルアーン*を啓示した。（それは）あなたが都市の母と、その周辺[1]にいる者に警告を告げ、疑惑の余地のない集合の日[2]を警告するため。（そこにおいて）ある集団は天国にあり、またある集団[3]は烈火の中にある。

وَكَذَٰلِكَ أَوۡحَيۡنَآ إِلَيۡكَ قُرۡءَانًا عَرَبِيّٗا لِّتُنذِرَ أُمَّ
ٱلۡقُرَىٰ وَمَنۡ حَوۡلَهَا وَتُنذِرَ يَوۡمَ ٱلۡجَمۡعِ لَا
رَيۡبَ فِيهِۚ فَرِيقٞ فِي ٱلۡجَنَّةِ وَفَرِيقٞ فِي ٱلسَّعِيرِ ٧

8. また、もしアッラー*がお望みだったならば、かれは彼ら（人々）を（導かれた）一つの共同体にされただろう。しかしかれは、かれがお望みになる者を、そのご慈悲の中にお入れになる。そして不正*者たち、彼らにはいかなる庇護者も援助者もない。

وَلَوۡ شَآءَ ٱللَّهُ لَجَعَلَهُمۡ أُمَّةٗ وَٰحِدَةٗ وَلَٰكِن يُدۡخِلُ
مَن يَشَآءُ فِي رَحۡمَتِهِۦۚ وَٱلظَّٰلِمُونَ مَا لَهُم مِّن وَلِيّٖ
وَلَا نَصِيرٍ ٨

9. いや、一体彼ら（シルク*の徒）は、かれ（アッラー*）をよそに庇護者を設け（て崇め）るというのか？ そうだとしてもアッラー*こそが（真の）庇護者*であり、かれは死んだものに生を与えられる。そしてかれは、全てのことがお出来なのだ。

أَمِ ٱتَّخَذُواْ مِن دُونِهِۦٓ أَوۡلِيَآءَۖ فَٱللَّهُ هُوَ ٱلۡوَلِيُّ وَهُوَ
يُحۡيِ ٱلۡمَوۡتَىٰ وَهُوَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٞ ٩

10. （人々よ、）あなた方がそこ（宗教）において、何について意見を異にしたにせよ、その裁決はアッラー*に属するのだ。（使徒*よ、言え。）「そのお方がアッラー*、我が主*。かれにこそ、私は全てを委ね*、かれにこそ、私はよく（悔悟して）立ち返るのだ」。

وَمَا ٱخۡتَلَفۡتُمۡ فِيهِ مِن شَيۡءٖ فَحُكۡمُهُۥٓ إِلَى
ٱللَّهِۚ ذَٰلِكُمُ ٱللَّهُ رَبِّي عَلَيۡهِ تَوَكَّلۡتُ وَإِلَيۡهِ
أُنِيبُ ١٠

---

1 「都市の母」「その周辺にいる者」については、家畜章 92 の訳注を参照。

2 つまり復活の日*の懲罰のこと（ムヤッサル 483 頁参照）。

3 前者の「集団」は、アッラー*を信じ、預言者*に従った集団。後者はその逆（前掲書、同頁参照）。

11. （アッラー*は）諸天と大地の創成者*。かれはあなた方自身の内から、あなた方のために配偶者を創られ、家畜の内からも雌雄をお創りになった。かれはそこにおいて、あなた方を繁茂させるのである。いかなるものも、かれには似ていない[1]。そしてかれはよくお聞きになるお方、よくご覧になるお方である。

فَاطِرُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِۚ جَعَلَ لَكُم مِّنْ
أَنفُسِكُمْ أَزْوَٰجًا وَمِنَ ٱلْأَنْعَٰمِ أَزْوَٰجًا
يَذْرَؤُكُمْ فِيهِۚ لَيْسَ كَمِثْلِهِۦ شَىْءٌۖ وَهُوَ
ٱلسَّمِيعُ ٱلْبَصِيرُ ١١

12. かれにこそ、諸天と大地の鍵は属する[2]。アッラー*は、かれがお望みの者に糧を豊富に与えられ、また控えられる[3]。本当にかれは、全てのことをご存知であるのだから。

لَهُۥ مَقَالِيدُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِۖ يَبْسُطُ ٱلرِّزْقَ
لِمَن يَشَآءُ وَيَقْدِرُۚ إِنَّهُۥ بِكُلِّ شَىْءٍ عَلِيمٌ ١٢

13. （人々よ、）かれは、かれがヌーフ*に命じた宗教の一部を、あなた方に明らかにした。また、（使徒*よ、）われら*[4]があなたに啓示したものと、イブラーヒーム*とムーサー*とイーサー*[5]に命じたものを。つまり「あなた方は宗教を確立し[6]、そこにおいて分裂してはならない」ということである。（ムハンマド*よ、）あなたが彼らを招いているもの（タウヒード*）は、シルク*の徒にとって重大であった。アッラー*は、かれがお望みの者をそこ（タウヒード*）へと選び抜かれ、よく（悔悟して）立ち返る者をそこへと導かれる。

۞ شَرَعَ لَكُم مِّنَ ٱلدِّينِ مَا وَصَّىٰ بِهِۦ نُوحًا
وَٱلَّذِىٓ أَوْحَيْنَآ إِلَيْكَ وَمَا وَصَّيْنَا بِهِۦٓ
إِبْرَٰهِيمَ وَمُوسَىٰ وَعِيسَىٰٓۖ أَنْ أَقِيمُوا۟
ٱلدِّينَ وَلَا تَتَفَرَّقُوا۟ فِيهِۚ كَبُرَ عَلَى ٱلْمُشْرِكِينَ
مَا تَدْعُوهُمْ إِلَيْهِۚ ٱللَّهُ يَجْتَبِىٓ إِلَيْهِ مَن يَشَآءُ
وَيَهْدِىٓ إِلَيْهِ مَن يُنِيبُ ١٣

---

1 アッラー*はその本質、美名、属性、行為において、いかなる創造物にも似ていない（ムヤッサル 484 頁参照）。ビザンチン章 27 も参照。

2 天地の王権、慈悲と糧の鍵はアッラー*にこそ属する（前掲書、同頁参照）。

3 物語章 82、サバア章 36、暁章 15-16 とその訳注も参照。

4 この主語の転換については、食卓章 12「われら*」の訳注を参照。

5 ここで言及されている五人の使徒*については、部族連合章 7 の訳注を参照。

6 アッラー*のタウヒード*と、かれへの服従、かれのみの崇拝*によって、「宗教を確立」すること（前掲書、同頁参照）。

14. 彼ら（シルク*の徒）が（宗教において）分裂したのは、彼らのもとに知識が到来した後のこと、彼らの間の侵犯ゆえ以外の何ものでもなかった[1]。そして定められた期限[2]までの、あなたの主*からの先んじた御言葉がなかったならば、彼らの間には（早期での懲罰という）裁決が下されていただろう。本当に、彼らの後に啓典を引き継がされた者たち（啓典の民*）は、そこ（宗教と信仰）における大きな疑惑の真っ只中にあるのだ。

وَمَا تَفَرَّقُوٓا۟ إِلَّا مِنۢ بَعْدِ مَا جَآءَهُمُ ٱلْعِلْمُ بَغْيًۢا
بَيْنَهُمْ ۚ وَلَوْلَا كَلِمَةٌ سَبَقَتْ مِن رَّبِّكَ إِلَىٰٓ
أَجَلٍ مُّسَمًّى لَّقُضِىَ بَيْنَهُمْ ۚ وَإِنَّ ٱلَّذِينَ أُورِثُوا۟
ٱلْكِتَٰبَ مِنۢ بَعْدِهِمْ لَفِى شَكٍّ مِّنْهُ
مُرِيبٍ ١٤

15. ならば（使徒*よ）、あなた[3]はそこ（正しい宗教）へと招き、自分が命じられたようにまっすぐであれ。そして、彼ら（真実に疑念を抱く者たち）の私欲に従ってはならない。また、言うのだ。「私は、アッラー*が啓典として下された（全ての）ものを信じた。そして私は、あなた方の間を公正に取り持つことを命じられたのである。アッラー*は私たちの主*であり、あなた方の主*。私たちには私たちの行い（の報い）があり、あなた方にはあなた方の行い（の報い）がある。（真実が明らかになった後、）私たちとあなた方の間に、議論の余地はない。アッラー*は（復活の日*、）私たちをお集めにな（り、真実でお裁きにな）る。そしてかれにこそ、戻り場所があるのだ」。

فَلِذَٰلِكَ فَٱدْعُ ۖ وَٱسْتَقِمْ كَمَآ أُمِرْتَ ۖ وَلَا
تَتَّبِعْ أَهْوَآءَهُمْ ۖ وَقُلْ ءَامَنتُ بِمَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ
مِن كِتَٰبٍ ۖ وَأُمِرْتُ لِأَعْدِلَ بَيْنَكُمُ ۖ ٱللَّهُ رَبُّنَا
وَرَبُّكُمْ ۖ لَنَآ أَعْمَٰلُنَا وَلَكُمْ أَعْمَٰلُكُمْ ۖ لَا
حُجَّةَ بَيْنَنَا وَبَيْنَكُمُ ۖ ٱللَّهُ يَجْمَعُ
بَيْنَنَا ۖ وَإِلَيْهِ ٱلْمَصِيرُ ١٥

---

1 この「知識」とは、「分裂の禁止」「使徒*の到来」「使徒*や啓典」についての知識など、諸説ある（アル＝バイダーウィー5:125 参照）。「侵犯」については、雌牛章 213 とその訳注を参照。

2 この「期限」の解釈には、「復活の日*」「彼らが現世で罰されることになっている日」（アル＝クルトゥビー16:12 参照）「彼らの死期」などの説がある（アル＝バイダーウィー5:125 参照）。

3 この「あなた」については、雌牛章 120 の訳注を参照。以下、同様の表現の際にも、同訳注を参照。

16. アッラー*（の宗教）について、彼（預言者*ムハンマド*の呼びかけ）が（人々に）応じられ（て、従われ）た後、（盾ついて）議論する者たち、彼らの議論はその主*の御許で脆いものである。そして彼らの上には（現世ではアッラー*からの）お怒りがあり、（来世では）厳しい懲罰があるのだ。

وَٱلَّذِينَ يُحَآجُّونَ فِي ٱللَّهِ مِنۢ بَعۡدِ مَا
ٱسۡتُجِيبَ لَهُۥ حُجَّتُهُمۡ دَاحِضَةٌ عِندَ رَبِّهِمۡ
وَعَلَيۡهِمۡ غَضَبٞ وَلَهُمۡ عَذَابٞ شَدِيدٌ ١٦

17. アッラー*は真理と共に啓典と、秤[1]をお下しになったお方。そして（復活の）その時が近いかもしれないこと[2]を、何があなたに知らせるというのか？

ٱللَّهُ ٱلَّذِيٓ أَنزَلَ ٱلۡكِتَٰبَ بِٱلۡحَقِّ وَٱلۡمِيزَانَۗ
وَمَا يُدۡرِيكَ لَعَلَّ ٱلسَّاعَةَ قَرِيبٞ ١٧

18. それを信じない者たちは、それ（が到来するの）を性急に求める[3]。そして信仰する者たちは、それ（の到来）を怯える者たちであり、それが真実であることを知っている。本当に、その時（の到来）について疑わしく思っている者たちはまさしく、遠い迷いの中にあるのだ。

يَسۡتَعۡجِلُ بِهَا ٱلَّذِينَ لَا يُؤۡمِنُونَ بِهَاۖ
وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ مُشۡفِقُونَ مِنۡهَا وَيَعۡلَمُونَ
أَنَّهَا ٱلۡحَقُّۗ أَلَآ إِنَّ ٱلَّذِينَ يُمَارُونَ فِي
ٱلسَّاعَةِ لَفِي ضَلَٰلِۭ بَعِيدٍ ١٨

19. アッラー*はその僕たちに対して霊妙な*お方であり、かれがお望みの者に糧をお授けになる。そしてかれは強力なお方、偉力ならびない*お方。

ٱللَّهُ لَطِيفُۢ بِعِبَادِهِۦ يَرۡزُقُ مَن يَشَآءُۖ وَهُوَ
ٱلۡقَوِيُّ ٱلۡعَزِيزُ ١٩

20. われら*は、来世の収穫を望んでいた者[4]には誰でも、その収穫に上乗せする。そして現世の収穫（だけ）を望んでいた者にも、

مَن كَانَ يُرِيدُ حَرۡثَ ٱلۡأٓخِرَةِ نَزِدۡ لَهُۥ فِي
حَرۡثِهِۦۖ وَمَن كَانَ يُرِيدُ حَرۡثَ ٱلدُّنۡيَا نُؤۡتِهِۦ
مِنۡهَا وَمَا لَهُۥ فِي ٱلۡأٓخِرَةِ مِن نَّصِيبٍ ٢٠

---

1 この「秤」は、公正さのこと（ムヤッサル 485 頁参照）。鉄章 25 も参照。

2 「復活の日*の近さ」については、蜜蜂章 1、預言者*たち章 1 の訳注も参照。

3 彼らは復活の日*を嘘とし、あり得ないこととして、不信仰と頑迷さから、このように言った（イブン・カスィール 7:197 参照）。家畜章 57-58、戦利品*章 32、ユーヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、サード章 16、階段章 1-2 も参照。

4 来世を信じ、その褒美ゆえに努力する者のこと（アッ＝サアディー756 頁参照）。

そこから与えてやるが、彼には来世において少しの取り分もないのだ。[1]

21. いや、一体彼ら（シルク*の徒）には、アッラー*がお許しにもなっていないことを、彼らの宗教として定めた共同者たち[2]がいるというのか？ そして（彼らの懲罰の猶予を定めた）裁断の御言葉がなければ、彼らの間には裁決が下されていただろう[3]。本当に（アッラー*を信じない）不正*者たちには（復活の日*）、痛ましい懲罰がある。

أَمۡ لَهُمۡ شُرَكَٰٓؤُاْ شَرَعُواْ لَهُم مِّنَ ٱلدِّينِ مَا لَمۡ يَأۡذَنۢ بِهِ ٱللَّهُۚ وَلَوۡلَا كَلِمَةُ ٱلۡفَصۡلِ لَقُضِيَ بَيۡنَهُمۡۗ وَإِنَّ ٱلظَّٰلِمِينَ لَهُمۡ عَذَابٌ أَلِيمٞ ٢١

22. （使徒*よ、）あなたは（復活の日*に）不正*者たちが怯えるのを見る。彼らが（現世で）稼いだものゆえ、それ（懲罰）が自分たちに降りかかってくる状況の中で。一方、信仰し、正しい行い*を行う者たちは、天国の庭園にある。彼らにはその御許に、望むものがあるのだ。それこそは大いなる恩寵なのである。

تَرَى ٱلظَّٰلِمِينَ مُشۡفِقِينَ مِمَّا كَسَبُواْ وَهُوَ وَاقِعُۢ بِهِمۡۗ وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ فِي رَوۡضَاتِ ٱلۡجَنَّاتِۖ لَهُم مَّا يَشَآءُونَ عِندَ رَبِّهِمۡۚ ذَٰلِكَ هُوَ ٱلۡفَضۡلُ ٱلۡكَبِيرُ ٢٢

23. それはアッラー*が、信仰して正しい行い*を行うその僕たちに、吉報をお告げになっているもの。（使徒*よ、）言うのだ。「私はそのことで、あなた方に見返りを要求しているわけではない[4]。ただ、近親関係における愛情（を、あなた方から求める）だけ」。そして一つの善を稼ぐ者には、われら*がそこに善を上乗せしてやる。本当にアッラー*は赦し深いお方、よく労わられる*お方。

ذَٰلِكَ ٱلَّذِي يُبَشِّرُ ٱللَّهُ عِبَادَهُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِۗ قُل لَّآ أَسۡـَٔلُكُمۡ عَلَيۡهِ أَجۡرًا إِلَّا ٱلۡمَوَدَّةَ فِي ٱلۡقُرۡبَىٰۗ وَمَن يَقۡتَرِفۡ حَسَنَةٗ نَّزِدۡ لَهُۥ فِيهَا حُسۡنًاۚ إِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٞ شَكُورٌ ٢٣

---

1 夜の旅章 18-21 も参照（イブン・カスィール 7:198 参照）。

2 この「共同者たち」とは、不信仰における共同者であり、彼らをそこへと促していたシャイターン*のこと。あるいは、彼らがアッラー*に並べて崇めていた偶像のこと（アル＝カースィミー14:5237 参照）。

3 このアーヤ*の詳細については、アーヤ*14 とその訳注を参照。

4 この「見返りの要求」については、家畜章 90 の訳注を参照。

24. いや、一体彼ら（シルクの徒*）は、「彼（ムハンマド*）はアッラー*に対して嘘を捏造した[1]」と言うのか？　もし（使徒*よ、あなたがそのようなことをし、）アッラー*がお望みになれば、かれはあなたの心を塞がれよう[2]。アッラー*は虚妄を無に帰させられ、その御言葉によって真理を確立させられる[3]。本当にかれは、（人々の）胸の内をご存知であられるのだから。

أَمۡ يَقُولُونَ ٱفۡتَرَىٰ عَلَى ٱللَّهِ كَذِبٗاۖ فَإِن يَشَإِ ٱللَّهُ
يَخۡتِمۡ عَلَىٰ قَلۡبِكَۗ وَيَمۡحُ ٱللَّهُ ٱلۡبَٰطِلَ وَيُحِقُّ
ٱلۡحَقَّ بِكَلِمَٰتِهِۦٓۚ إِنَّهُۥ عَلِيمُۢ بِذَاتِ ٱلصُّدُورِ ٢٤

25. またかれは、（アッラー*だけに服従する）その僕たちから悔悟をお受け入れになり、悪行を大目に見られ、あなた方のすることをご存知のお方。

وَهُوَ ٱلَّذِي يَقۡبَلُ ٱلتَّوۡبَةَ عَنۡ عِبَادِهِۦ وَيَعۡفُواْ
عَنِ ٱلسَّيِّـَٔاتِ وَيَعۡلَمُ مَا تَفۡعَلُونَ ٢٥

26. また信仰し、正しい行い*を行う者たちは（アッラー*の呼びかけに）応え（て服従す）るのであり、かれはそのご恩寵から彼らに上乗せされる。そして不信仰者*たちには、（復活の日*に）厳しい懲罰があるのだ。

وَيَسۡتَجِيبُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ
ٱلصَّٰلِحَٰتِ وَيَزِيدُهُم مِّن فَضۡلِهِۦۚ
وَٱلۡكَٰفِرُونَ لَهُمۡ عَذَابٞ شَدِيدٞ ٢٦

27. もしアッラー*が、その僕たちに糧を豊富に与えられたならば、彼らは地上で度を越した[4]であろう。しかしかれは、彼がお望みになるものを適度に下されるのだ。本当にかれは、その僕たちのことを通暁されるお方、よくご覧になるお方。

۞وَلَوۡ بَسَطَ ٱللَّهُ ٱلرِّزۡقَ لِعِبَادِهِۦ لَبَغَوۡاْ فِي
ٱلۡأَرۡضِ وَلَٰكِن يُنَزِّلُ بِقَدَرٖ مَّا يَشَآءُۚ إِنَّهُۥ
بِعِبَادِهِۦ خَبِيرُۢ بَصِيرٞ ٢٧

---

1 つまり彼らは、クルアーン*が嘘だと主張した（ムヤッサル 486 頁参照）。関連するアーヤ*として、家畜章 105、蜜蜂章 103、識別章 4-5、煙霧章 14 も参照。

2 同様のアーヤ*として、真実章 44-47 も参照（イブン・カスィール 7:204 参照）。

3 ここでの「真理」と「虚妄」については、戦利品*章 8 の訳注を参照。

4 この「度を越す」の解釈には、「放埒になり、反抗的になる」「多くのものを与えられれば、更に多くのものを求める」「富ゆえに互いに侵害し合う」「高慢になる」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー16:27 参照）。

28. かれは、彼らが（旱魃による）絶望の底に陥った後に、慈雨を下され、そのご慈悲を広められるお方。かれは庇護者*、称賛されるべき*お方。

وَهُوَ ٱلَّذِى يُنَزِّلُ ٱلْغَيْثَ مِنۢ بَعْدِ مَا قَنَطُوا۟ وَيَنشُرُ
رَحْمَتَهُۥ ۚ وَهُوَ ٱلْوَلِىُّ ٱلْحَمِيدُ ﴿٢٨﴾

29. 諸天と大地の創造と、歩行生物の内、かれがその両方に散開させられたもの[1]は、かれの（偉大さと御力、権威を示す）御徴の一つである。そしてかれは（復活の日*）、かれがお望みになる時に、それらを集合させることがお出来になるお方。

وَمِنْ ءَايَـٰتِهِۦ خَلْقُ ٱلسَّمَـٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ وَمَا بَثَّ
فِيهِمَا مِن دَآبَّةٍ ۚ وَهُوَ عَلَىٰ جَمْعِهِمْ إِذَا يَشَآءُ قَدِيرٌ ﴿٢٩﴾

30. （人々よ、）いかなる災難であれ、あなた方に降りかかったものは、あなた方の手が稼いだ（悪）事ゆえのこと[2]。そして、かれは多く（の悪行）を大目に見られる[3]。

وَمَآ أَصَـٰبَكُم مِّن مُّصِيبَةٍ فَبِمَا كَسَبَتْ أَيْدِيكُمْ
وَيَعْفُوا۟ عَن كَثِيرٍ ﴿٣٠﴾

31. あなた方は地上で、（アッラー*の御力から）逃げられる者ではない。そしてあなた方にはアッラー*の外に、いかなる庇護者も援助者もないのだ。

وَمَآ أَنتُم بِمُعْجِزِينَ فِى ٱلْأَرْضِ ۖ وَمَا لَكُم
مِّن دُونِ ٱللَّهِ مِن وَلِىٍّ وَلَا نَصِيرٍ ﴿٣١﴾

32. また、山々のように海を進むもの[4]は、かれの（御力、権威を示す）御徴の一つ。

وَمِنْ ءَايَـٰتِهِ ٱلْجَوَارِ فِى ٱلْبَحْرِ كَٱلْأَعْلَـٰمِ ﴿٣٢﴾

33. もしかれがお望みなら、風を鎮められ、それら（の船）は（海の）その表面に停留し続ける。本当にその中にはまさしく、忍耐*強く感謝深い[5]全ての者への御徴がある。

إِن يَشَأْ يُسْكِنِ ٱلرِّيحَ فَيَظْلَلْنَ رَوَاكِدَ عَلَىٰ
ظَهْرِهِۦٓ ۚ إِنَّ فِى ذَٰلِكَ لَـَٔايَـٰتٍ لِّكُلِّ صَبَّارٍ شَكُورٍ ﴿٣٣﴾

---

1 アッラー*が諸天に散開させられた「歩行生物」の解釈には、「天使*」「未知の生物」「そもそも『両方』ではなく、大地だけが意図されている」といった説がある（イブン・ジュザイ 2:303参照）。また一説に、地上に下りれば歩行する鳥類のこと（イブン・アーシュール 25:97 参照）。

2 関連するアーヤ*として、婦人章 79 とその訳注も参照。

3 蜜蜂章 61、創成者*章 45 も参照。

4 「山々のように…」とは、大きな船のこと（ムヤッサル 487 頁参照）。慈悲あまねき*お方章 24 の訳注も参照。

5 「忍耐*強く感謝深い」については、イブラーヒーム*章 5 の訳注を参照。

34. あるいは、かれは彼らが稼いだもの[1]ゆえに、それら（の船）を沈没させられる。そしてかれは、多く（の罪）を大目に見られるのだ。

أَوۡ يُوبِقۡهُنَّ بِمَا كَسَبُواْ وَيَعۡفُ عَن كَثِيرٖ ٣٤

35. われら*の（唯一性*を示す）御徴に対して（虚妄を用いて）議論する者たちが、自分たちには（アッラー*の懲罰から）逃げ道一つないことを知るように、（われら*は彼らを溺れさせるの）である。

وَيَعۡلَمَ ٱلَّذِينَ يُجَٰدِلُونَ فِيٓ ءَايَٰتِنَا مَا لَهُم مِّن
مَّحِيصٖ ٣٥

36. （人々よ、）あなた方がいかなるものを授けられたとしても、（それは）現世の生活の（儚い）楽しみ。そしてアッラー*の御許にあるものは、信仰し、自分たちの主*に全てを委ねる*者たちにとって、より善く、より長く続くものなのだ。

فَمَآ أُوتِيتُم مِّن شَيۡءٖ فَمَتَٰعُ ٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَاۖ وَمَا عِندَ
ٱللَّهِ خَيۡرٞ وَأَبۡقَىٰ لِلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَلَىٰ رَبِّهِمۡ
يَتَوَكَّلُونَ ٣٦

37. そして（彼らは）、罪の内の大きなもの[2]と醜行[3]を避け、（誰かに悪くされて）怒ってしまった時にも、赦してやる[4]者たち。

وَٱلَّذِينَ يَجۡتَنِبُونَ كَبَٰٓئِرَ ٱلۡإِثۡمِ وَٱلۡفَوَٰحِشَ
وَإِذَا مَا غَضِبُواْ هُمۡ يَغۡفِرُونَ ٣٧

38. また（彼らは、）その主*（の唯一性*と服従の呼びかけ）に応え、礼拝を遵守*し、その諸事が彼らの間の相談（によって決定されるの）であり、われら*が彼らに授けたものの内から（施しとして）費やす[5]者たち。

وَٱلَّذِينَ ٱسۡتَجَابُواْ لِرَبِّهِمۡ وَأَقَامُواْ ٱلصَّلَوٰةَ وَأَمۡرُهُمۡ
شُورَىٰ بَيۡنَهُمۡ وَمِمَّا رَزَقۡنَٰهُمۡ يُنفِقُونَ ٣٨

---

1 船に乗っている者たちの罪のこと（ムヤッサル 487 頁参照）。アーヤ*30 とその訳注も参照。

2 「罪の内の大きなもの」については頻出名・用語解説の「大罪*」を参照。

3 「醜行」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。

4 詳細にされた章 34-35 も参照。

5 「われら*が…費やす」については、雌牛章 3 の訳注を参照。

39. また（彼らは）侵害に遭えば、（その侵害に対して）打ち勝つ[1]者たち。

وَالَّذِينَ إِذَا أَصَابَهُمُ الْبَغْيُ هُمْ يَنتَصِرُونَ ٣٩

40. 一つの悪の報いは、それと同様の一つの悪[2]。それで（悪を行った者を）大目に見、（その者との関係を）改善するならば、その褒美はアッラー*の御許で確定する。本当にかれは、不正*者たちをお好みにはならないのだから。

وَجَزَٰٓؤُاْ سَيِّئَةٍ سَيِّئَةٌ مِّثْلُهَا فَمَنْ عَفَا وَأَصْلَحَ
فَأَجْرُهُ عَلَى اللَّهِ إِنَّهُ لَا يُحِبُّ الظَّٰلِمِينَ ٤٠

41. またその不正*の後、（自分に不正*を働いた者に対して）打ち勝つ者、それらの者たちには（そうすることで、）咎められる謂れはない。

وَلَمَنِ انتَصَرَ بَعْدَ ظُلْمِهِ فَأُوْلَٰٓئِكَ مَا عَلَيْهِم مِّن
سَبِيلٍ ٤١

42. 実に咎められるべきは、人々に不正*を働き、地上において不当に度を越す者たち。それらの者たちには、厳しい懲罰がある。

إِنَّمَا السَّبِيلُ عَلَى الَّذِينَ يَظْلِمُونَ النَّاسَ وَيَبْغُونَ
فِي الْأَرْضِ بِغَيْرِ الْحَقِّ أُوْلَٰٓئِكَ لَهُمْ عَذَابٌ
أَلِيمٌ ٤٢

43. また忍耐*し、赦してやる者こそは、本当にそれこそは、あなた方が決意を固めるべき事柄の内のもの。

وَلَمَن صَبَرَ وَغَفَرَ إِنَّ ذَٰلِكَ لَمِنْ عَزْمِ
الْأُمُورِ ٤٣

44. アッラー*が（その者の不正*ゆえに）迷わせ給う者には、かれをおいて、いかなる庇護者もない。そして（使徒*よ、）あなたは（復活の日*）、不正*者たちが懲罰を目の当たりにする時、（こう）言うのを見出すであろう。「（私たちに、現世へ）戻る術はありますでしょうか？」[3]

وَمَن يُضْلِلِ اللَّهُ فَمَا لَهُ مِن وَلِيٍّ مِّن بَعْدِهِ
وَتَرَى الظَّٰلِمِينَ لَمَّا رَأَوُاْ الْعَذَابَ يَقُولُونَ هَلْ
إِلَىٰ مَرَدٍّ مِّن سَبِيلٍ ٤٤

---

1 不正*や侵害に打ち勝つ力があり、無力でも惨（みじ）めでもない。その一方で預言者*ムハンマド*は、侵害に報いる力がありながら、自分を迫害した者たち、魔術をかけた者、毒殺しようとした者など、自分を害した多くの者たちを赦したものだった（イブン・カスィール 7:211 参照）。蜜蜂章 129 も参照。

2 二番目の「悪」は報復のことであり、そもそも「悪」ではないが、表面上の類似点から同じ言い回しが用いられている（アル＝バガウィー4:151 参照）。雌牛章 178「キサース刑」についての訳注も参照。

3 いざ復活の日*（あるいは死）が到来すると、彼らは現世での猶予や、現世への回帰を求める。だが、もちろんそれは叶わない。家畜章 27-28、高壁章 53、イブラーヒーム*章 44、信仰者たち章 99-100、アッ＝サジダ*章 12、創成者*章 37、赦し深いお方章 11-12、偽信者*たち章 10-11 も参照。

45. また（使徒*よ）、あなたは彼らが、そこ（業火）に晒されるのを見る。彼らは屈辱ゆえになす術もなく、（懲罰を、その恐怖ゆえに）ちらちらと横目で見る。（現世で）信仰していた者たちは（これを見て）、言う。「本当に（真の）損失者たちとは、復活の日*に自分たちとその家族を（、業火に入れることによって）損ねた者たちのこと。まさに不正*者たちは、永遠の懲罰の中にあるのではないか」。

وَتَرَىٰهُمْ يُعْرَضُونَ عَلَيْهَا خَٰشِعِينَ مِنَ
ٱلذُّلِّ يَنظُرُونَ مِن طَرْفٍ خَفِيٍّ ۗ وَقَالَ
ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ إِنَّ ٱلْخَٰسِرِينَ ٱلَّذِينَ
خَسِرُوٓا۟ أَنفُسَهُمْ وَأَهْلِيهِمْ يَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ ۗ
أَلَآ إِنَّ ٱلظَّٰلِمِينَ فِى عَذَابٍ مُّقِيمٍ ٤٥

46. また、彼らには（復活の日*）、アッラー*をおいて彼らを助けてくれる、いかなる庇護者もない。アッラー*が（その者の不信仰ゆえに）迷わせ給うた者には、いかなる道[1]もないのだ。

وَمَا كَانَ لَهُم مِّنْ أَوْلِيَآءَ يَنصُرُونَهُم مِّن
دُونِ ٱللَّهِ ۗ وَمَن يُضْلِلِ ٱللَّهُ فَمَا لَهُۥ مِن سَبِيلٍ ٤٦

47. （不信仰者*たちよ、）アッラー*からそれを押し戻す術のない（復活の）日*が来る前に、あなた方の主*に（信仰と服従によって）応えるのだ。その日、あなた方には（懲罰からの）いかなる避難所もなく、あなた方にはいかなる否認もない[2]。

ٱسْتَجِيبُوا۟ لِرَبِّكُم مِّن قَبْلِ أَن يَأْتِىَ يَوْمٌ لَّا
مَرَدَّ لَهُۥ مِنَ ٱللَّهِ ۚ مَا لَكُم مِّن مَّلْجَإٍ
يَوْمَئِذٍ وَمَا لَكُم مِّن نَّكِيرٍ ٤٧

48. それで、たとえ彼らが（信仰から）背を向けても、（使徒*よ、）われら*はあなたを彼らの監視役[3]として遣わしたわけではない。あなたの使命は、（啓示の）伝達のみ。

فَإِنْ أَعْرَضُوا۟ فَمَآ أَرْسَلْنَٰكَ عَلَيْهِمْ
حَفِيظًا ۖ إِنْ عَلَيْكَ إِلَّا ٱلْبَلَٰغُ ۗ وَإِنَّآ إِذَآ أَذَقْنَا
ٱلْإِنسَٰنَ مِنَّا رَحْمَةً فَرِحَ بِهَا ۖ وَإِن
تُصِبْهُمْ سَيِّئَةٌۢ بِمَا قَدَّمَتْ أَيْدِيهِمْ فَإِنَّ

---

1 現世では真理へと至る「道」、来世では天国へと至る「道」のこと（ムヤッサル 488 頁参照）。

2 この解釈には、「その日、彼らに襲いかかる懲罰を否認する者はいない」「自分たちの罪を否認する者はない」「いかなる援助者もない」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー 16:47 参照）。

3 「監視役」については、婦人章 80 の訳注を参照。

われら*が人間に、われら*の御許から慈悲[1]を味わわせれば、彼らはそれに有頂天になる。そしてもし悪[2]が、自らの手が行った（悪）事ゆえに彼らを襲えば（、彼らは恩知らずになる）。本当に人間は、不信心この上ない。

ٱلۡإِنسَٰنَ كَفُورٞ ٤٨

49. アッラー*にこそ、諸天と大地の王権は属する。かれはお望みのものを創られる。お望みの者には女（子のみ）を授けられ、お望みになる者には男（子のみ）を授けられるのだ。

لِّلَّهِ مُلۡكُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۚ يَخۡلُقُ مَا
يَشَآءُۚ يَهَبُ لِمَن يَشَآءُ إِنَٰثٗا وَيَهَبُ لِمَن
يَشَآءُ ٱلذُّكُورَ ٤٩

50. あるいは、かれは（お望みの者に）男子と女子（の両方）を、組み合わせ（て授け）られる。そしてお望みの者を、不妊にされるのだ。本当にかれは全知者、全能者であられる。

أَوۡ يُزَوِّجُهُمۡ ذُكۡرَانٗا وَإِنَٰثٗاۖ وَيَجۡعَلُ مَن
يَشَآءُ عَقِيمًاۚ إِنَّهُۥ عَلِيمٞ قَدِيرٞ ٥٠

51. アッラー*が人間に語りかけ給うことなどは、あり得べくもない。しかし啓示によるものか、または覆いの向こうから（語りかけられるもの）、あるいは御使いを遣わせて、かれのお許しと共に、かれがお望みのことを啓示し給う場合は別である[3]。本当にかれは、至高の*お方、英知あふれる*お方であられる。

۞وَمَا كَانَ لِبَشَرٍ أَن يُكَلِّمَهُ ٱللَّهُ إِلَّا وَحۡيًا
أَوۡ مِن وَرَآيِٕ حِجَابٍ أَوۡ يُرۡسِلَ رَسُولٗا فَيُوحِيَ
بِإِذۡنِهِۦ مَا يَشَآءُۚ إِنَّهُۥ عَلِيٌّ حَكِيمٞ ٥١

---

1 ここでの「慈悲」とは、健康、豊かな糧、地位などのこと（アッ＝サァディー761 頁参照）。

2 この「悪」とは、病気、貧困などのこと（前掲書、同頁参照）。

3 「啓示によるもの」とは、啓示を使徒の心の中に下すこと。「覆いの向こうから語りかける」とは、ムーサー*が経験したように、見えないところから直接語りかけられること。「御使いを遣わせる」とは、ジブリール*などの天使*を介して、アッラー*が語りかけること（前掲書 762 頁参照）。

52. また（預言者*よ）、われら*はそのように、われら*の命令による魂[1]を、あなたに啓示した。あなたは（それ以前、）啓典が、そして信仰が何かを、知らなかったのだ。しかしわれら*はそれ（クルアーン*）を、われら*が望む僕たちを導く、光としたのである。（使徒*よ、）本当にあなたはまさしく、まっすぐな道（イスラーム*）へと導くのだ[2]。

وَكَذَٰلِكَ أَوْحَيْنَآ إِلَيْكَ رُوحًا مِّنْ أَمْرِنَا ۚ مَا كُنتَ
تَدْرِى مَا ٱلْكِتَٰبُ وَلَا ٱلْإِيمَٰنُ وَلَٰكِن جَعَلْنَٰهُ
نُورًا نَّهْدِى بِهِۦ مَن نَّشَآءُ مِنْ عِبَادِنَا ۚ وَإِنَّكَ
لَتَهْدِىٓ إِلَىٰ صِرَٰطٍ مُّسْتَقِيمٍ ٥٢

53. 諸天と大地にあるもの（全て）が属するお方（アッラー*）の道へ。アッラー*の御許にこそ、（全ての）物事は戻り行くので（あり、各人はその行いによって、報いを受けるので）はないか。

صِرَٰطِ ٱللَّهِ ٱلَّذِى لَهُۥ مَا فِى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِى
ٱلْأَرْضِ ۗ أَلَآ إِلَى ٱللَّهِ تَصِيرُ ٱلْأُمُورُ ٥٣

---

1 「われら*の命令による魂を、あなたに啓示した」とは、奇跡的な文体と驚異的な構成からなるクルアーン*を、かれがお望みの形で、お望みの者に下されたこと（アル＝クルトゥビー16:55 参照）。ここで啓示が「魂」と呼ばれている理由については、赦し深いお方章 15 の訳注を参照。

2 前者の「導き」は、「導きを授けること」であり、アッラー*だけに可能な特別な導きのこと。一方、後者の「導き」は「説明、案内による導き」であり、一般的な導きのこと（アッ＝シャンキーティー7:21 参照）。雌牛章 272、蜜蜂章 37、ユーヌス*章 99-100、蟻章 80、物語章 56 とその訳注も参照。

第 43 章
金の装飾章（アッ＝ズフルフ）[1]

سُورَةُ الزُّخۡرُفِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. ハー・ミーム[2]。

حمٓ ١

2. 解明する啓典[3]に誓って。

وَٱلۡكِتَٰبِ ٱلۡمُبِينِ ٢

3. 本当にわれら*はそれを、アラビア語のクルアーン*とした。あなた方が（その意味を）、弁えることが出来るように。

إِنَّا جَعَلۡنَٰهُ قُرۡءَٰنًا عَرَبِيّٗا لَّعَلَّكُمۡ تَعۡقِلُونَ ٣

4. そして本当にそれは、われら*の御許にある啓典の母[4]の中で、実に気高く、完全無欠[5]なものなのである。

وَإِنَّهُۥ فِيٓ أُمِّ ٱلۡكِتَٰبِ لَدَيۡنَا لَعَلِيٌّ حَكِيمٌ ٤

5. 一体、あなた方が（不信仰に）度を越した民だからといって、われら*があなた方への教訓（クルアーン*の啓示）を見合わせ、保留しておくというのか？

أَفَنَضۡرِبُ عَنكُمُ ٱلذِّكۡرَ صَفۡحًا أَن كُنتُمۡ قَوۡمٗا مُّسۡرِفِينَ ٥

6. われら*は昔の人々に、どれだけ多くの預言者*を遣わしたことか。

وَكَمۡ أَرۡسَلۡنَا مِن نَّبِيّٖ فِي ٱلۡأَوَّلِينَ ٦

---

1 マッカ*啓示で学者間の見解は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、アーヤ*35 に登場する「金の装飾」という語による。クルアーン*の奇跡性、アッラーの唯一性*と御力の証明に始まるが、スーラ*の全体を流れているテーマは、シルク*を始めとした、ジャーヒリーヤ*の迷信の打破（だは）と信仰の矯正（きょうせい）というテーマである。過去の不信仰の民*と、イブラーヒーム*、ムーサー*など、彼らに遣わされた使徒*たちの話も、この流れで取り上げられたもの。最後は天国と地獄の描写、不信仰者*たちに対する警告によって締めくくられる。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 「解明する啓典」については、ユースフ*章 1 の訳注を参照。

4 「啓典の母」とは、クルアーン*がそこから写された「啓典の原版」である、守られし碑板*のこと（アッ＝タバリー9:7263 参照)。出来事章 77-78、星座章 21-22 も参照。

5 「完全無欠」については、ユーヌス*章 1 の訳注を参照。

7.　そして彼らのもとに預言者*が訪れた時は決まって、彼らは彼（預言者*）のことを嘲笑したものだった。

وَمَا يَأۡتِيهِم مِّن نَّبِيٍّ إِلَّا كَانُواْ بِهِۦ
يَسۡتَهۡزِءُونَ ٧

8.　それでわれら*は、彼ら[1]よりも強力な者たちを滅ぼした。昔の人々の有り様は、（不信仰ゆえの破滅という形で）過ぎ去っていったのである。

فَأَهۡلَكۡنَآ أَشَدَّ مِنۡهُم بَطۡشٗا وَمَضَىٰ
مَثَلُ ٱلۡأَوَّلِينَ ٨

9.　（使徒*よ、）もしあなたが彼ら（シルク*の徒）に、「諸天と大地を創造したのは誰か？」と尋ねたならば、彼らはきっと（こう）言っただろう。「偉力ならびなく*、全知のお方が、それらをお創りになったのだ」。

وَلَئِن سَأَلۡتَهُم مَّنۡ خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَ
لَيَقُولُنَّ خَلَقَهُنَّ ٱلۡعَزِيزُ ٱلۡعَلِيمُ ٩

10.　（アッラー*は、）あなた方のために大地を平坦にされ、あなた方のためにそこに（多くの）道をお通しになったお方。あなた方が導かれるように、と。

ٱلَّذِي جَعَلَ لَكُمُ ٱلۡأَرۡضَ مَهۡدٗا وَجَعَلَ
لَكُمۡ فِيهَا سُبُلٗا لَّعَلَّكُمۡ تَهۡتَدُونَ ١٠

11.　また（アッラー*は）、天から適量の（雨）水を下されたお方。そしてわれら[2]はそれで、死んだ土地を生き返す。同様に、あなた方は（復活の日*、死んで砂となった後に元通りになって、大地から）出されるのである。

وَٱلَّذِي نَزَّلَ مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءَۢ بِقَدَرٖ
فَأَنشَرۡنَا بِهِۦ بَلۡدَةٗ مَّيۡتٗاۚ كَذَٰلِكَ تُخۡرَجُونَ ١١

12.　また（アッラー*は、生物や植物に）あらゆる種類をお創りになり、あなた方のために船や家畜といった、あなた方が乗る者を創られたお方。

وَٱلَّذِي خَلَقَ ٱلۡأَزۡوَٰجَ كُلَّهَا وَجَعَلَ لَكُم
مِّنَ ٱلۡفُلۡكِ وَٱلۡأَنۡعَٰمِ مَا تَرۡكَبُونَ ١٢

1　この「彼ら」とは、預言者*ムハンマド*の民、つまりマッカ*の不信仰者*たち（ムヤッサル 489 頁参照）。

2　連続した文章での主語の変換については、食卓章 12 の訳注を参照。

13. （それは）あなた方がその上に乗るためであり、あなた方がその上に乗った時には自分たちの主*の恩恵を思い起こし、（こう）言うためである。「私たちに、これを仕えさせて下さったお方に、称え*あれ。私たちには、それを屈従させることは叶いませんでした。

لِتَسْتَوُۥا۟ عَلَىٰ ظُهُورِهِۦ ثُمَّ تَذْكُرُوا۟ نِعْمَةَ رَبِّكُمْ
إِذَا ٱسْتَوَيْتُمْ عَلَيْهِ وَتَقُولُوا۟ سُبْحَـٰنَ ٱلَّذِى
سَخَّرَ لَنَا هَـٰذَا وَمَا كُنَّا لَهُۥ مُقْرِنِينَ ١٣

14. そして本当に私たちは、私たちの主*の御許にこそ、まさしく戻り行く身なのです」。

وَإِنَّآ إِلَىٰ رَبِّنَا لَمُنقَلِبُونَ ١٤

15. 彼ら（シルクの徒*）はかれ（アッラー*）に、その僕たちの内からの分身があるとした[1]。本当に人間は、紛れもない不信心者である。

وَجَعَلُوا۟ لَهُۥ مِنْ عِبَادِهِۦ جُزْءًا ۚ إِنَّ ٱلْإِنسَـٰنَ
لَكَفُورٌ مُّبِينٌ ١٥

16. いや、一体かれ（アッラー*）が、ご自身がお創りになるものの内から娘たちをお選びになり、あなた方には男子を特別に割り当てられたと？[2]

أَمِ ٱتَّخَذَ مِمَّا يَخْلُقُ بَنَاتٍ وَأَصْفَىٰكُم
بِٱلْبَنِينَ ١٦

17. 彼らの内のある者は、自分が慈悲あまねき*お方（アッラー*）に対して譬えを挙げたものの吉報[3]を告げられれば、（悲しみで）意気消沈し、その顔は黒く翳ってしまうのに。

وَإِذَا بُشِّرَ أَحَدُهُم بِمَا ضَرَبَ لِلرَّحْمَـٰنِ مَثَلًا
ظَلَّ وَجْهُهُۥ مُسْوَدًّا وَهُوَ كَظِيمٌ ١٧

18. 一体、議論において明確でもなく、飾り立てられつつ育てられた者[4]を（、アッラー*の子だなどとするのか）？

أَوَمَن يُنَشَّؤُا۟ فِى ٱلْحِلْيَةِ وَهُوَ فِى ٱلْخِصَامِ
غَيْرُ مُبِينٍ ١٨

---

1 アーヤ*16 にある通り、「天使*たちはアッラー*の娘である」という言葉のこと（ムヤッサル 490 頁参照）。

2 このアーヤ*の裏にある背景については、蜜蜂章 57 とその訳注を参照。

3 つまり、女児誕生の知らせのこと（前掲書、同頁参照）。「慈悲あまねき*お方に対しての譬(たと)え」については、この前のアーヤ*とその訳注を参照。

4 喋（しゃべ）ることも出来ない、金銀や宝石などで作られた彼らの偶像のことを指しているという説もある（アル＝クルトゥビー16:72 参照）。

19. 彼ら（シルク*の徒）は、慈悲あまねき*お方（アッラー*）の僕である天使*たちを、女（娘）とした。一体彼らは、彼ら（天使*たち）の創造に立ち会っていたとでも？（天使*はアッラー*の娘である、という）彼らの証言は書きとめられ、彼らは（そのことについて来世で）問われることになろう。

وَجَعَلُوا الْمَلَائِكَةَ الَّذِينَ هُمْ عِبَادُ الرَّحْمَٰنِ
إِنَاثًا ۚ أَشَهِدُوا خَلْقَهُمْ ۚ سَتُكْتَبُ
شَهَادَتُهُمْ وَيُسْأَلُونَ ﴿١٩﴾

20. また、彼らは言った。「もし慈悲あまねき*お方（アッラー*）がお望みだったら、私たちは彼ら[1]を崇めたりはしなかった[2]」。彼らにはそれについて、いかなる知識もない。彼らは（根拠もなく）、ただ決めつけているに過ぎないのだ。

وَقَالُوا لَوْ شَاءَ الرَّحْمَٰنُ مَا عَبَدْنَاهُم ۗ مَّا لَهُم
بِذَٰلِكَ مِنْ عِلْمٍ ۖ إِنْ هُمْ إِلَّا يَخْرُصُونَ ﴿٢٠﴾

21. いや、一体われらが彼らに、それ（クルアーン*）以前に啓典を授けたのであり、彼らがそれを遵守し（、使徒*に対する自分たちの主張の根拠とし）ているとでも？

أَمْ آتَيْنَاهُمْ كِتَابًا مِّن قَبْلِهِ فَهُم بِهِ
مُسْتَمْسِكُونَ ﴿٢١﴾

22. いや、彼らは言ったのだ。「本当に私たちは、ご先祖様が宗教に属しているのを見出した。私たちは、彼らの（辿った）道筋の上に、導かれた者なのである」。

بَلْ قَالُوا إِنَّا وَجَدْنَا آبَاءَنَا عَلَىٰ أُمَّةٍ
وَإِنَّا عَلَىٰ آثَارِهِم مُّهْتَدُونَ ﴿٢٢﴾

23. また同様に（使徒よ、）あなた以前、われらが町に警告者[3]を遣わした時には決まって、その（町の）贅沢者たちは（こう）言ったものなのだ。「本当に私たちは、ご先祖様が宗教に属しているのを見出した。私たちは、彼らの（辿った）道筋を継ぐ者なのだ」。

وَكَذَٰلِكَ مَا أَرْسَلْنَا مِن قَبْلِكَ فِي قَرْيَةٍ مِّن نَّذِيرٍ
إِلَّا قَالَ مُتْرَفُوهَا إِنَّا وَجَدْنَا آبَاءَنَا عَلَىٰ أُمَّةٍ
وَإِنَّا عَلَىٰ آثَارِهِم مُّقْتَدُونَ ﴿٢٣﴾

---

1 「彼ら」とは、天使*たち、あるいは偶像のこと（アル＝バガウィー4:157 参照）。

2 同様のアーヤである、家畜章 148 とその訳注を参照。

3 不信仰者*には懲罰が下るという「警告者」のこと（ムヤッサル 491 頁参照）。

24. 彼[1]は言った。「私が、あなた方が見出したあなた方の先祖のものよりも正しい導きを携えて、あなた方のもとに到来したとしても（、そうするの）か？」

※ قَٰلَ أَوَلَوْ جِئْتُكُم بِأَهْدَىٰ مِمَّا وَجَدتُّمْ عَلَيْهِ ءَابَآءَكُمْ ۖ قَالُوٓا۟ إِنَّا بِمَآ أُرْسِلْتُم بِهِۦ كَٰفِرُونَ ٢٤

25. ゆえに、われら*は彼らに（懲罰で）報復した。ならば見てみよ、（アッラー*の御徴とその使徒*たちを）嘘つき呼ばわりする者たちの結末が、いかなるものだったかを？

فَٱنتَقَمْنَا مِنْهُمْ ۖ فَٱنظُرْ كَيْفَ كَانَ عَٰقِبَةُ ٱلْمُكَذِّبِينَ ٢٥

26. イブラーヒーム*が、彼の父と民に（こう）言った時のこと[2]（を思い出させよ）。「本当に私は、あなた方が（アッラー*をよそに）崇めているものから無縁です。

وَإِذْ قَالَ إِبْرَٰهِيمُ لِأَبِيهِ وَقَوْمِهِۦٓ إِنَّنِى بَرَآءٌ مِّمَّا تَعْبُدُونَ ٢٦

27. 但し、私を創成されたお方[3]は別ですが。本当にかれは、私をお導きになるでしょうから」。

إِلَّا ٱلَّذِى فَطَرَنِى فَإِنَّهُۥ سَيَهْدِينِ ٢٧

28. 彼（イブラーヒーム*）はそれ[4]を、彼の後（世）における永遠の言葉とした。（それは）彼らが、（不信仰から信仰へと）戻って来るようにするためである。

وَجَعَلَهَا كَلِمَةًۢ بَاقِيَةً فِى عَقِبِهِۦ لَعَلَّهُمْ يَرْجِعُونَ ٢٨

29. いや（、使徒*よ）、われら*はそれらの者たちとその先祖[5]を、彼らのもとに真理と解明の使徒[6]が到来するまで、（現世において）楽しませておいたのだ。

بَلْ مَتَّعْتُ هَٰٓؤُلَآءِ وَءَابَآءَهُمْ حَتَّىٰ جَآءَهُمُ ٱلْحَقُّ وَرَسُولٌ مُّبِينٌ ٢٩

---

1 この「彼」は、預言者*ムハンマド*を含む、使徒*たちのこと。言葉を向けられた相手は、アーヤ*22・23 のような主張をしていた者たち（ムヤッサル 491 頁参照）。

2 イブラーヒーム*とその父親、及びその民のやり取りについては、家畜章 74-82、マルヤム*章 42-48、預言者*たち章 52-70、詩人たち章 70－89、整列者章 85-98 も参照。

3 頻出名・用語解説の「創成者*」も参照。

4 「それ」とは、アッラー*以外に崇拝*すべきいかなるものもなし、という言葉（前掲書、同頁参照）。

5 預言者*ムハンマド*の時代のシルクの徒*と、その先祖のこと（前掲書、同頁参照）。

6 「真理」はクルアーン*、「解明の使徒*」とは、人々が必要としている宗教上の物事を明らかにする使徒*のこと（前掲書、同頁参照）。

30. そして彼らのもとに真理がやって来た時、彼らは言った。「これは魔術であり、実に私たちはその否定者である」。

وَلَمَّا جَآءَهُمُ ٱلۡحَقُّ قَالُواْ هَٰذَا سِحۡرٞ وَإِنَّا بِهِۦ
كَٰفِرُونَ ٣٠

31. また、彼らは言った。「どうしてこのクルアーン*は、二つの町の（いずれかの）偉大な者[1]に下らなかったのか？」

وَقَالُواْ لَوۡلَا نُزِّلَ هَٰذَا ٱلۡقُرۡءَانُ عَلَىٰ رَجُلٖ مِّنَ
ٱلۡقَرۡيَتَيۡنِ عَظِيمٍ ٣١

32. 一体彼らが、あなたの主*のご慈悲[2]を（望む者に）割り当てるというのか？　われら*は、現世の生活における彼らの生活（の糧）を彼らの間に割り当て、彼らがお互いに仕える身となる[3]べく、彼らの内のある者を別の者よりも高い位に上げたのである。（使徒*よ、）あなたの主*のご慈悲[4]は、彼らが（現世で）集めている（つまらない）ものよりも善いのだ。

أَهُمۡ يَقۡسِمُونَ رَحۡمَتَ رَبِّكَۚ نَحۡنُ قَسَمۡنَا بَيۡنَهُم
مَّعِيشَتَهُمۡ فِي ٱلۡحَيَوٰةِ ٱلدُّنۡيَاۚ وَرَفَعۡنَا بَعۡضَهُمۡ
فَوۡقَ بَعۡضٖ دَرَجَٰتٖ لِّيَتَّخِذَ بَعۡضُهُم بَعۡضٗا
سُخۡرِيّٗاۗ وَرَحۡمَتُ رَبِّكَ خَيۡرٞ مِّمَّا يَجۡمَعُونَ ٣٢

33. もし、人々が（不信仰な）一つの共同体となってしまうのでなければ、われら*は慈悲あまねき*お方（アッラー*ご自身）を否定する者の家に、銀の屋根と、彼らがそこへと昇る階段を与えたであろう。[5]

وَلَوۡلَآ أَن يَكُونَ ٱلنَّاسُ أُمَّةٗ وَٰحِدَةٗ لَّجَعَلۡنَا
لِمَن يَكۡفُرُ بِٱلرَّحۡمَٰنِ لِبُيُوتِهِمۡ سُقُفٗا مِّن
فِضَّةٖ وَمَعَارِجَ عَلَيۡهَا يَظۡهَرُونَ ٣٣

---

1 マッカ*かターイフにおける、彼ら不信仰者*らの目に偉大な者、という意味（イブン・カスィール 7:225 参照）。具体的に誰を指しているか、ということについては諸説ある。家畜章 124、物語章 68 とその訳注も参照。

2 この「ご慈悲」は、預言者*としての使命を指す（前掲書、同頁参照）。

3 各々の必要において依存し合い、それによって親愛と団結が生まれ、世界は秩序立ったものとなる（アル＝バイダーウィー5:145 参照）。家畜章 165「…高く位置づけられたお方」の訳注も参照。

4 この「ご慈悲」の解釈には、「預言者*としての使命」「天国」「来世での褒美」などの諸説あり（アル＝クルトゥビー16:84 参照）。家畜章 124 とその訳注も参照。

5 全ての人々が現世へと傾倒し、来世を放棄することによって不信仰に陥（おちい）るのでなければ、彼らに現世でそれらのものを授けられただろう、ということ（アル＝クルトゥビー16:84）。

34. また彼らの家に、（銀の）扉と、彼らが寄りかかる寝台を。

وَلِبُيُوتِهِمۡ أَبۡوَٰبٗا وَسُرُرًا عَلَيۡهَا يَتَّكِـُٔونَ ٣٤

35. また、金の装飾を。それら全ては、現世の生活の（儚い）楽しみでしかない。そして来世（の安寧）はあなたの主*の御許で、敬虔な*者たちのためにあるのである。

وَزُخۡرُفٗاۚ وَإِن كُلُّ ذَٰلِكَ لَمَّا مَتَٰعُ ٱلۡحَيَوٰةِ
ٱلدُّنۡيَاۚ وَٱلۡأٓخِرَةُ عِندَ رَبِّكَ لِلۡمُتَّقِينَ ٣٥

36. 慈悲あまねき*お方（アッラー*）の教訓（クルアーン*）に目をつむる者があれば、われら*はその者にシャイターン*をあてがい、彼（シャイターン*）はその者の相棒となろう。

وَمَن يَعۡشُ عَن ذِكۡرِ ٱلرَّحۡمَٰنِ نُقَيِّضۡ لَهُۥ
شَيۡطَٰنٗا فَهُوَ لَهُۥ قَرِينٞ ٣٦

37. また、本当に彼ら（シャイターン*）は、彼ら（教訓に目をつむる者）のことを（真理の）道から、まさしく阻むのである。彼らは、自分たちが導かれた者だと思っているのだが。

وَإِنَّهُمۡ لَيَصُدُّونَهُمۡ عَنِ ٱلسَّبِيلِ وَيَحۡسَبُونَ
أَنَّهُم مُّهۡتَدُونَ ٣٧

38. やがて彼（教訓に目をつむる者）は（復活の日*、清算のために）われら*のもとにやって来ると、（相棒に、こう）言う。「ああ、私とあなたの間に、東西（ほど）の隔たりがあったらよかったのに！（あなたは）何と醜悪な相棒であろうか」。

حَتَّىٰٓ إِذَا جَآءَنَا قَالَ يَٰلَيۡتَ بَيۡنِي وَبَيۡنَكَ
بُعۡدَ ٱلۡمَشۡرِقَيۡنِ فَبِئۡسَ ٱلۡقَرِينُ ٣٨

39. この日、（現世でシルク*という）不正*を（共に）働いたゆえ、あなた方が懲罰の中で一緒になっても、そのことがあなた方を益することはない。

وَلَن يَنفَعَكُمُ ٱلۡيَوۡمَ إِذ ظَّلَمۡتُمۡ أَنَّكُمۡ فِي
ٱلۡعَذَابِ مُشۡتَرِكُونَ ٣٩

40. 一体（使徒*よ）、あなたは聾に聞かせ、盲人[1]と明らかな迷いの中にある者を導く[2]というのか？

أَفَأَنتَ تُسۡمِعُ ٱلصُّمَّ أَوۡ تَهۡدِي ٱلۡعُمۡيَ وَمَن
كَانَ فِي ضَلَٰلٖ مُّبِينٖ ٤٠

1 この「聾」と「盲人」については、雌牛章 7、18、家畜章 50、雷鳴章 16、フード*章 20、24 とその訳注も参照。

2 この「導き」については、雌牛章 272 とその訳注を参照（イブン・カスィール 7:228 参照）。

41. （使徒*よ、）もし、われら*があなたを（、不信仰の民*に対する勝利の前に）他界させたとしても、本当にわれら*は（来世における）彼らへの報復者である。

فَإِمَّا نَذۡهَبَنَّ بِكَ فَإِنَّا مِنۡهُم مُّنتَقِمُونَ ٤١

42. あるいは、われら*が彼らに約束したもの[1]をあなたに見せてやるとしても、本当にわれら*は（早かれ遅かれ、）彼らを掌握する者なのだ。

أَوۡ نُرِيَنَّكَ ٱلَّذِي وَعَدۡنَٰهُمۡ فَإِنَّا عَلَيۡهِم مُّقۡتَدِرُونَ ٤٢

43. ならば（使徒*よ）、あなたに啓示されたものを固守せよ。本当にあなたは、まっすぐな道（イスラーム*）の上にあるのだから。

فَٱسۡتَمۡسِكۡ بِٱلَّذِيٓ أُوحِيَ إِلَيۡكَۖ إِنَّكَ عَلَىٰ صِرَٰطٖ مُّسۡتَقِيمٖ ٤٣

44. また、本当にそれ（クルアーン*）はまさしく、あなた方とあなたの民に対する栄誉[2]なのだ。あなた方は（そのことに関するアッラー*への感謝と、その実践について）問われることになろう。

وَإِنَّهُۥ لَذِكۡرٞ لَّكَ وَلِقَوۡمِكَۖ وَسَوۡفَ تُسۡـَٔلُونَ ٤٤

45. また（使徒*よ、）われら*の使徒*たちの内、われら*があなた以前に遣わした者たち（の信徒である啓典の民*）に、尋ねてみよ。一体われら*が、慈悲あまねき*お方（アッラー*）をよそに崇められる神々[3]を設けたのか、と。

وَسۡـَٔلۡ مَنۡ أَرۡسَلۡنَا مِن قَبۡلِكَ مِن رُّسُلِنَآ
أَجَعَلۡنَا مِن دُونِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ءَالِهَةٗ يُعۡبَدُونَ ٤٥

---

1 アル＝バガウィー*によれば、大半の解釈学者はこれをバドルの戦い*のこととしている（4:162 参照）。

2 クルアーン*は預言者*ムハンマド*の民の言葉で下ったのであり、それゆえに彼らはそれに対する最もよき理解者・実践者たるべきである。その意味でクルアーン*は彼らへの「栄誉」なのであり、よき先人であったムハージルーン*の精鋭たち、彼らと同様の者たち、彼らを踏襲（とうしゅう）した者たちはその好例である（イブン・カスィール 7:229 参照）。預言者*たち章 10、信仰者たち章 71 とその訳注も参照。

3 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

46. われら*は確かにムーサー*を（、彼の正しさを示す）われら*の御徴[1]と共に、フィルアウン*とその有力者たちに遣わした。そして彼（ムーサー*）は、言ったのだ。「本当に私は、全創造物の主*の使徒*なのです」。

وَلَقَدۡ أَرۡسَلۡنَا مُوسَىٰ بِـَٔايَٰتِنَآ إِلَىٰ فِرۡعَوۡنَ وَمَلَإِيْهِۦ فَقَالَ إِنِّي رَسُولُ رَبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٤٦

47. それで彼（ムーサー*）が、われら*の御徴を携えて彼らのもとに到来すると、どうだろうか、彼らはそれ（御徴）を笑い飛ばした。

فَلَمَّا جَآءَهُم بِـَٔايَٰتِنَآ إِذَا هُم مِّنۡهَا يَضۡحَكُونَ ٤٧

48. また、われら*が彼らに御徴を見せる時、それは決まってそれに先行するものよりも大きなものとなった。そしてわれら*は、彼らを懲罰で捕らえたのである。彼らが、（不信仰から信仰へと）戻るようにと。[2]

وَمَا نُرِيهِم مِّنۡ ءَايَةٍ إِلَّا هِيَ أَكۡبَرُ مِنۡ أُخۡتِهَاۖ وَأَخَذۡنَٰهُم بِٱلۡعَذَابِ لَعَلَّهُمۡ يَرۡجِعُونَ ٤٨

49. 彼ら（フィルアウン*たち）は、（ムーサー*に向かって）言った。「魔術師[3]よ、私たちのため、あなたの主*に、かれがあなたに約束されたもの[4]で祈ってくれ。（そうすれば、）本当に私たちは必ず、導かれた者となるから」。

وَقَالُواْ يَٰٓأَيُّهَ ٱلسَّاحِرُ ٱدۡعُ لَنَا رَبَّكَ بِمَا عَهِدَ عِندَكَ إِنَّنَا لَمُهۡتَدُونَ ٤٩

50. それでわれら*が彼らから懲罰を取り除けてやると、どうであろう、彼らは（約束を）破るのだ。

فَلَمَّا كَشَفۡنَا عَنۡهُمُ ٱلۡعَذَابَ إِذَا هُمۡ يَنكُثُونَ ٥٠

51. フィルアウン*は、自分の民に呼びかけた。彼は言った。「我が民よ、私にこそエジプトの王権は属し、これらの河川は私の（宮殿の）下から流れているのではないか？一体、あなた方は（我が偉大さと、ムーサー*の無力さを）見ないのか？

وَنَادَىٰ فِرۡعَوۡنُ فِي قَوۡمِهِۦ قَالَ يَٰقَوۡمِ أَلَيۡسَ لِي مُلۡكُ مِصۡرَ وَهَٰذِهِ ٱلۡأَنۡهَٰرُ تَجۡرِي مِن تَحۡتِيٓۚ أَفَلَا تُبۡصِرُونَ ٥١

---

1 その筆頭が、九つの奇跡（夜の旅章 101 の訳注を参照）である（アル＝クルトゥビー16:97 参照）。

2 同様の情景の描写として、高壁章 133-136 も参照（ムヤッサル 493 頁参照）。

3 当時、魔術師の地位は高く、人々の尊敬を集める存在だったとされる（前掲書、同頁参照）。

4 「約束されたもの」については、高壁章 134 の訳注を参照。

52. いや、私の方が、取るに足らず（言葉の）説明もままならない[1]この者よりも、優れているのではないか？

أَمْ أَنَا۠ خَيْرٌ مِّنْ هَٰذَا ٱلَّذِى هُوَ مَهِينٌ وَلَا يَكَادُ يُبِينُ ٥٢

53. （ムーサー*が本当のことを言っている）ならば、どうして彼には金製の腕輪が下されたり、彼と共に天使*たちが連なり合って到来し（、彼の正しさを証言し）たりはしないのか？」

فَلَوْلَآ أُلْقِىَ عَلَيْهِ أَسْوِرَةٌ مِّن ذَهَبٍ أَوْ جَآءَ مَعَهُ ٱلْمَلَٰٓئِكَةُ مُقْتَرِنِينَ ٥٣

54. そして彼（フィルアウン*）は、その民を無知へ追いやって迷妄へと招き、自分に従わせた。本当に彼らは、放逸な民だったのだ。

فَٱسْتَخَفَّ قَوْمَهُۥ فَأَطَاعُوهُ ۚ إِنَّهُمْ كَانُوا۟ قَوْمًا فَٰسِقِينَ ٥٤

55. それで彼らが（、反抗と不信仰によって）われら*を憤らせた時、われら*は彼らに報復し、彼らを皆、溺れさせたのである。[2]

فَلَمَّآ ءَاسَفُونَا ٱنتَقَمْنَا مِنْهُمْ فَأَغْرَقْنَٰهُمْ أَجْمَعِينَ ٥٥

56. そしてわれら*は彼らを、後世の（同様の）者たちへの先駆と、譬えとした。

فَجَعَلْنَٰهُمْ سَلَفًا وَمَثَلًا لِّلْءَاخِرِينَ ٥٦

57. また、マルヤム*の息子（イーサー*）が譬えとして挙げられれば、どうであろう、あなたの民はそのことで（喜んで）どよめく。[3]

۞ وَلَمَّا ضُرِبَ ٱبْنُ مَرْيَمَ مَثَلًا إِذَا قَوْمُكَ مِنْهُ يَصِدُّونَ ٥٧

58. そして、彼らは言った。「一体、私たちの神々がより優れているのか、それとも彼（イーサー*）か？[4]」彼らは議論のために、あなたに対して彼を（譬えに）挙げたに過ぎない。いや、彼らは（虚妄によって）議論する民なのである。

وَقَالُوٓا۟ ءَأَٰلِهَتُنَا خَيْرٌ أَمْ هُوَ ۚ مَا ضَرَبُوهُ لَكَ إِلَّا جَدَلًۢا ۚ بَلْ هُمْ قَوْمٌ خَصِمُونَ ٥٨

---

1 詳しくはター・ハー章 27 とその訳注、詩人たち章 13 を参照。

2 この時の様子については、ユーヌス*章 90-92、ター・ハー章 77-78、詩人たち章 61-66 も参照。

3 一説に、このアーヤ*と後続のアーヤ*は、預言者*たち章のアーヤ*98 が下った時、シルクの徒*がイーサー*らについて議論したことについて下ったとされる（ムヤッサル 493 頁参照）。詳しくは預言者*たち章 101 の訳注を参照。

4 つまり、彼らがアッラー*の娘として崇めている天使*たちの方が、イーサー*より優れた存在であり、ゆえに天使*たちはイーサー*よりも崇拝*に値する、ということ（アル＝カースィミー14:5278-5279 参照）。

59. 彼（イーサー*）はわれら*が恩恵[1]を授け、イスラーイールの子ら*への譬え[2]とした、一人の僕に過ぎない。

إِنْ هُوَ إِلَّا عَبْدٌ أَنْعَمْنَا عَلَيْهِ وَجَعَلْنَٰهُ مَثَلًا لِّبَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ ٥٩

60. もしわれら*が望めば、われら*はあなた方（人類）の代わりに地上で（の物事の管理を）継承する、天使*たちをもうけただろう[3]。

وَلَوْ نَشَآءُ لَجَعَلْنَا مِنكُم مَّلَٰٓئِكَةً فِى ٱلْأَرْضِ يَخْلُفُونَ ٦٠

61. そして本当に彼（イーサー*）はまさしく、（復活の）その時の知識[4]である。ならば、それ（復活の日*）を疑わしく思わず、私に従うのだ。これが（天国へと続く）まっすぐな道なのである。

وَإِنَّهُۥ لَعِلْمٌ لِّلسَّاعَةِ فَلَا تَمْتَرُنَّ بِهَا وَٱتَّبِعُونِ ۚ هَٰذَا صِرَٰطٌ مُّسْتَقِيمٌ ٦١

62. また、決してシャイターン*に、あなた方を（私への服従から）阻ませてはならない。彼こそはあなた方に対する、紛れもない敵なのだから。

وَلَا يَصُدَّنَّكُمُ ٱلشَّيْطَٰنُ ۖ إِنَّهُۥ لَكُمْ عَدُوٌّ مُّبِينٌ ٦٢

63. イーサー*が明証[5]を携えて（イスラーイールの子ら*のもとに）到来した時、彼は言った。「私は確かに、英知[6]を携えてあなた方のもとに到来した。そしてあなた方に、あなた方が（宗教において）意見を異にし

وَلَمَّا جَآءَ عِيسَىٰ بِٱلْبَيِّنَٰتِ قَالَ قَدْ جِئْتُكُم بِٱلْحِكْمَةِ وَلِأُبَيِّنَ لَكُم بَعْضَ ٱلَّذِى تَخْتَلِفُونَ فِيهِ ۖ فَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ وَأَطِيعُونِ ٦٣

---

1 この「恩恵」とは、預言者*としての使命のこと（ムヤッサル 493 頁参照）。

2 アッラー*の御力を示す御徴と、訓戒としての「譬(たと)え」（前掲書、同頁参照）。

3 「あなた方人類の内から天使を*もうけ、彼らを地上に住まわせ、天使*が天にいることが、崇拝*に値する栄誉ではないことを教えたであろう」という解釈もある（アル＝クルトゥビー16:105 参照）。

4 末世にイーサー*がこの世に降臨（こうりん）することは、復活の日*があることを示す証拠である、と言う意味（ムヤッサル 494 頁参照）。

5 この解釈には「奇跡」「福音*」「明白な法規定」などの諸説がある（アル＝バイダーウィー 5:151 参照）

6 この「英知」の解釈には、「奇跡」「福音*」「預言者*としての使命」などの諸説がある（アル＝クルトゥビー16:107-108 参照）。

ている、いくつかのことを明らかにするため[1]。アッラー*を畏れ*、私に従うのだ。

64. 本当にアッラー*こそは我が主*であり、あなた方の主*。ならば、かれを崇拝*せよ。これがまっすぐな道なのだから」。

إِنَّ ٱللَّهَ هُوَ رَبِّي وَرَبُّكُمْ فَٱعْبُدُوهُ ۚ هَٰذَا
صِرَٰطٌ مُّسْتَقِيمٌ ٦٤

65. それから（イーサー*に関し）、彼らの間で派閥が意見を異にした[2]。それで（イーサー*に神性を認めるという）不正*を働いた者たちに、（復活の）その日の痛ましい懲罰の災いあれ。

فَٱخْتَلَفَ ٱلْأَحْزَابُ مِنۢ بَيْنِهِمْ ۖ فَوَيْلٌ
لِّلَّذِينَ ظَلَمُوا۟ مِنْ عَذَابِ يَوْمٍ أَلِيمٍ ٦٥

66. 一体彼らは、（復活の）その時が、気付かぬ内に突然、彼らのもとにやって来るのを待っているだけなのか？

هَلْ يَنظُرُونَ إِلَّا ٱلسَّاعَةَ أَن تَأْتِيَهُم
بَغْتَةً وَهُمْ لَا يَشْعُرُونَ ٦٦

67. （不信仰と罪における）親友たちはその日、お互いに敵となる。但し、敬虔な*者たちは別（で、その親愛は永遠）だが。

ٱلْأَخِلَّآءُ يَوْمَئِذٍۭ بَعْضُهُمْ لِبَعْضٍ عَدُوٌّ إِلَّا
ٱلْمُتَّقِينَ ٦٧

68. （敬虔な*者たちには、こう言われる。）「わが僕たちよ、この日あなた方に怖れはなく、悲しむこともない[3]」。

يَٰعِبَادِ لَا خَوْفٌ عَلَيْكُمُ ٱلْيَوْمَ وَلَآ أَنتُمْ
تَحْزَنُونَ ٦٨

69. （彼らは）われら*の（啓典と使徒*という）御徴を信じ、服従する者（ムスリム*）だった者たち。

ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ بِـَٔايَٰتِنَا وَكَانُوا۟
مُسْلِمِينَ ٦٩

70. （また、彼らにはこう言われる。）「あなた方とあなた方と同様の者たち[4]は、喜悦を授けられて天国に入るがよい。

ٱدْخُلُوا۟ ٱلْجَنَّةَ أَنتُمْ وَأَزْوَٰجُكُمْ تُحْبَرُونَ ٧٠

---

1 イーサー*はムーサー*の法、つまりトーラー*の法規定を完遂（かんすい）すべく、到来した（アッ＝サァディー768 頁参照）。イムラーン家章 50 も参照。

2 マルヤム*章 37 の訳注も参照。

3 「怖れはなく…」については、雌牛章 38 の訳注を参照。

4 妻、子供、友人などの内、彼らと同様の行いであった者たちのこと（アッ＝サァディー769 頁参照）。

71. 彼らには、金の皿（に載った食事）と（金の）杯（に盛られた飲み物）が回される[1]。また、そこには心が欲し、眼を喜ばせる物があり、あなた方はそこに永遠に留まるのだ。

يُطَافُ عَلَيۡهِم بِصِحَافٖ مِّن ذَهَبٖ وَأَكۡوَابٖۖ
وَفِيهَا مَا تَشۡتَهِيهِ ٱلۡأَنفُسُ وَتَلَذُّ
ٱلۡأَعۡيُنُۖ وَأَنتُمۡ فِيهَا خَٰلِدُونَ ٧١

72. そしてそれは、あなた方が（現世で）自分たちが行っていたことゆえに引き継がされた[2]、天国である。

وَتِلۡكَ ٱلۡجَنَّةُ ٱلَّتِيٓ أُورِثۡتُمُوهَا بِمَا كُنتُمۡ
تَعۡمَلُونَ ٧٢

73. そこにはあなた方に沢山の果実があり、あなた方はそこから食べるのだ」。

لَكُمۡ فِيهَا فَٰكِهَةٞ كَثِيرَةٞ مِّنۡهَا تَأۡكُلُونَ ٧٣

74. 本当に（不信仰を犯した）罪悪者たちは、地獄の懲罰の中に永遠に留まる。

إِنَّ ٱلۡمُجۡرِمِينَ فِي عَذَابِ جَهَنَّمَ خَٰلِدُونَ ٧٤

75. それが彼らに対して鎮められることはなく、彼らはそこで落胆する。

لَا يُفَتَّرُ عَنۡهُمۡ وَهُمۡ فِيهِ مُبۡلِسُونَ ٧٥

76. われら*が（懲罰によって）彼らに不正*を働いたのではない。しかし彼らこそが、（シルク*と預言者*への不服従を犯す）不正*者だったのだ。

وَمَا ظَلَمۡنَٰهُمۡ وَلَٰكِن كَانُواْ هُمُ ٱلظَّٰلِمِينَ ٧٦

77. 彼らは呼ぶ。「マーリクよ、あなたの主*に、（私たちが苦しみから休めるよう、）私たちの息の根を止めさせてくれ」。彼（マーリク）は言う。「実にあなた方は、（永遠にそこに）留まる身なのである」。[3]

وَنَادَوۡاْ يَٰمَٰلِكُ لِيَقۡضِ عَلَيۡنَا رَبُّكَۖ قَالَ إِنَّكُم
مَّٰكِثُونَ ٧٧

---

1 天国の民の食べ物と飲み物についてはヤー・スィーン章 57、整列者章 45-47、サード章 51、詳細にされた章 31、煙霧章 55、ムハンマド*章 15、山章 22、慈悲あまねき*お方章 52、68、出来事章 17-21、真実章 23、人間章 5-6、14、17-18、21、送られるもの章 42、消息章 34、量を減らす者たち章 25-28 なども参照。

2 天国を「引き継がされた」という表現については、マルヤム*章 63 の訳注を参照。

3 「マーリク」は、地獄の番人の名（ムヤッサル 495 頁参照）。赦し深いお方章 49 も参照。

78. われら*は確かに、あなた方に真実をもたらした。しかしあなた方の大半は、真実を嫌う者だったのだ。[1]

لَقَدْ جِئْنَٰكُم بِٱلْحَقِّ وَلَٰكِنَّ أَكْثَرَكُمْ لِلْحَقِّ
كَٰرِهُونَ ٧٨

79. いや、一体彼らは（真理に対する策謀を、）万全に準備したというのか？　だとしても、われら*こそが（彼らへの懲罰を、）万全に準備する者なのである。

أَمْ أَبْرَمُوٓا۟ أَمْرًا فَإِنَّا مُبْرِمُونَ ٧٩

80. いや、一体彼らは、本当にわれら*が彼らの秘密も、彼らの密談も聞いてはいないと思っているのか？　いや、われら*の使いたち[2]はわれら*のもとで、（彼らの全ての行いを）記録しているというのに。

أَمْ يَحْسَبُونَ أَنَّا لَا نَسْمَعُ سِرَّهُمْ وَنَجْوَىٰهُم ۚ بَلَىٰ
وَرُسُلُنَا لَدَيْهِمْ يَكْتُبُونَ ٨٠

81. （使徒*よ、シルク*の徒に）言うのだ。「もし（、あなた方が思い込んでいるように）、慈悲あまねき*お方（アッラー*）に御子があったとしたら、私が（その）崇拝*者の先駆けだっただろう[3]」。

قُلْ إِن كَانَ لِلرَّحْمَٰنِ وَلَدٌ فَأَنَا۠ أَوَّلُ ٱلْعَٰبِدِينَ ٨١

82. 彼らが言うことから（無縁な、）諸天と大地の主*、御座[4]の主*に、称え*あれ。

سُبْحَٰنَ رَبِّ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ رَبِّ
ٱلْعَرْشِ عَمَّا يَصِفُونَ ٨٢

83. ならば（使徒*よ）、彼らを放っておけ。（そうすれば）彼らは、自分たちが（懲罰[5]を）約束されている日に遭遇するまで、（虚妄の中に）のめり込み、（宗教において）戯れるであろう。

فَذَرْهُمْ يَخُوضُوا۟ وَيَلْعَبُوا۟ حَتَّىٰ يُلَٰقُوا۟ يَوْمَهُمُ
ٱلَّذِى يُوعَدُونَ ٨٣

---

1 この言葉は、アッラー*のものとも、天使*たちのもの、とも言われる。また地獄の民のみならず、クライシュ族*に向けて語られている、ともされる（アブー・ハイヤーン 8:2 参照）。

2 人間の行いを記録する天使たちのこと（ムヤッサル 495 頁参照）。雷鳴章 11 とその訳注も参照。

3 もちろん、そのようなことは過去にも未来にもあり得ないことである（前掲書、同頁参照）。同様のアーヤ*として、預言者*たち章 17、集団章 4 とその訳注も参照。

4 「御座」に関しては、高壁章 54 の訳注を参照。

5 この「懲罰」は現世のもの、来世のもの、あるいはそのいずれもとなり得る（前掲書、同頁参照）。

84. かれ（アッラー*）は天で（真に）崇拝*されるべき（唯一の）お方であり、大地で（真に）崇拝*されるべき（唯一の）お方。かれは英知あふれる*お方、全知者であられる。

وَهُوَ ٱلَّذِى فِى ٱلسَّمَآءِ إِلَٰهٌ وَفِى ٱلْأَرْضِ إِلَٰهٌ ۚ
وَهُوَ ٱلْحَكِيمُ ٱلْعَلِيمُ ﴿٨٤﴾

85. また、諸天と大地、そしてその間の（全ての）ものの王権が属し、その御許に（復活*の）その時の知識があり、かれにこそあなた方が戻り行くお方（アッラー*）は、祝福にあふれたお方よ。

وَتَبَارَكَ ٱلَّذِى لَهُۥ مُلْكُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ
وَمَا بَيْنَهُمَا وَعِندَهُۥ عِلْمُ ٱلسَّاعَةِ وَإِلَيْهِ
تُرْجَعُونَ ﴿٨٥﴾

86. 彼ら（シルクの徒*）が、かれ（アッラー*）をよそに祈っている者たちは、執り成し[1]を有していない。但し、知識と共に、真理を証言する者[2]は別だが。

وَلَا يَمْلِكُ ٱلَّذِينَ يَدْعُونَ مِن دُونِهِ
ٱلشَّفَٰعَةَ إِلَّا مَن شَهِدَ بِٱلْحَقِّ وَهُمْ
يَعْلَمُونَ ﴿٨٦﴾

87. （使徒*よ、）もしもあなたが彼らに、誰が彼らを創ったのかと尋ねたならば、彼らは必ずや（こう）言ったことだろう。「アッラー*である」。では、どうして彼らは（アッラー*だけを崇拝*することから）背かされるのか？

وَلَئِن سَأَلْتَهُم مَّنْ خَلَقَهُمْ لَيَقُولُنَّ ٱللَّهُ ۖ فَأَنَّىٰ
يُؤْفَكُونَ ﴿٨٧﴾

88. また、「我が主*よ、本当にこれらの者たちは信じない民なのです」という彼（預言者*）の言葉も（、アッラー*はご存知である）。[3]

وَقِيلِهِۦ يَٰرَبِّ إِنَّ هَٰٓؤُلَآءِ قَوْمٌ لَّا يُؤْمِنُونَ ﴿٨٨﴾

89. ならば（使徒*よ）、彼らを見逃してやり、「（私がすべきは）平安である[4]」と言うのだ。彼らはやがて、（自分たちが遭遇する試練と懲罰を）知るであろう。

فَٱصْفَحْ عَنْهُمْ وَقُلْ سَلَٰمٌ ۚ فَسَوْفَ يَعْلَمُونَ ﴿٨٩﴾

---

1 復活の日*の「執り成し」については雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

2 アッラーの唯一性*とムハンマド*の預言者*性を、その真実性を知った上で証言する者のこと（ムヤッサル 495 頁参照）。

3 「『我が主*よ』という彼の言葉に誓って、本当にこれらの民は…」という、文法的解釈もある（イブン・アーシュール 25:273 参照）。

4 つまり、彼らから安全な状態であり、かつ彼らとの平穏（へいおん）な状態を保つこと（アッ＝シャウカーニー4:742 参照）。

第 44 章
煙霧(えんむ)章（アッ＝ドゥハーン）[1]

سُورَةُ الدُّخَانِ

慈悲(じひ)あまねく*慈愛(じあい)深き*
アッラー*の御名(みな)において

1. ハー・ミーム[2]。
2. 解明(かいめい)する啓典(けいてん)[3]に誓(ちか)って。
3. 本当にわれら*は祝福(しゅくふく)あふれる（誉(ほま)れの）夜*に、それを下した。われら*こそは、もとより（使徒(しと)*を遣(つか)わし、啓示(けいじ)を下す）警告(けいこく)者なのだ。
4. あらゆる的確な物事はそこで、決定される。[4]
5. われら*の御許(みもと)からの命令として（、決定される）。われら*こそはもとより、（使徒(しと)*たちをその民に）遣(つか)わす者。
6. （使徒(しと)*よ、）あなたの主(しゅ)*からのご慈悲(じひ)として（、使徒(しと)*たちは遣(つか)わされるのだ）。本当にかれこそは、よくお聞きになるお方、全知者であられる。
7. 諸天と大地、その間にあるものの主(しゅ)（からのご慈悲(じひ)として）。もし、あなた方が（そのことを）確信する者だったのなら（、アッラー*を信じよ。）

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

حمٓ ١
وَٱلۡكِتَٰبِ ٱلۡمُبِينِ ٢
إِنَّآ أَنزَلۡنَٰهُ فِي لَيۡلَةٖ مُّبَٰرَكَةٍۚ إِنَّا كُنَّا
مُنذِرِينَ ٣
فِيهَا يُفۡرَقُ كُلُّ أَمۡرٍ حَكِيمٍ ٤
أَمۡرٗا مِّنۡ عِندِنَآۚ إِنَّا كُنَّا مُرۡسِلِينَ ٥
رَحۡمَةٗ مِّن رَّبِّكَۚ إِنَّهُۥ هُوَ ٱلسَّمِيعُ ٱلۡعَلِيمُ ٦
رَبِّ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ وَمَا بَيۡنَهُمَآۖ إِن
كُنتُم مُّوقِنِينَ ٧

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、アーヤ*10 に登場する「煙霧」という語による。クルアーン*の啓示、アッラーの唯一性*、死後の復活の確証が主なテーマであり、それに対する不信仰者*らの反応が描写されると共に、彼らに警告が向けられる。ムーサー*とフィルアウン*の話も、その流れで取り上げられたもの。スーラ*後半では、来世における信仰者と不信仰者*の行き先が、対照的に描かれる。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 「解明する啓典」については、ユースフ*章 1 の訳注を参照。

4 誉れの夜に、その一年間における物事の期限や糧についてのことなど、的確に定められた全てのことが、守られし碑板*から、筆記者である天使*たちへのもとへと写される（ムヤッサル 496 頁参照）。

8. かれの外に、崇拝*すべきいかなるものもない。かれは生を与えられ、死を与えられるお方。あなた方の主*と、あなた方の昔の先祖の主*である。

لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ يُحۡيِۦ وَيُمِيتُۖ رَبُّكُمۡ وَرَبُّ ءَابَآئِكُمُ ٱلۡأَوَّلِينَ ٨

9. いや、彼ら（シルクの徒*）は疑念の中で戯れている。

بَلۡ هُمۡ فِي شَكّٖ يَلۡعَبُونَ ٩

10. ならば（使徒*よ）、天が明らかなる煙霧をもたらす日を待て。[1]

فَٱرۡتَقِبۡ يَوۡمَ تَأۡتِي ٱلسَّمَآءُ بِدُخَانٖ مُّبِينٖ ١٠

11. それ（煙霧）は人々を包み込む。（そして彼らには、こう言われる）。「これが痛ましい懲罰だ」。

يَغۡشَى ٱلنَّاسَۖ هَٰذَا عَذَابٌ أَلِيمٞ ١١

12. （すると彼らは言う）。「我らが主*よ、私たちから懲罰を取り除いて下さい。本当に私たちは、（あなたを）信じる者となりますから」。[2]

رَّبَّنَا ٱكۡشِفۡ عَنَّا ٱلۡعَذَابَ إِنَّا مُؤۡمِنُونَ ١٢

13. （この期に及んで、）どうして彼らに教訓などあろうか？　彼らのもとには解明の使徒[3]（ムハンマド*）が確かに到来したというのに。

أَنَّىٰ لَهُمُ ٱلذِّكۡرَىٰ وَقَدۡ جَآءَهُمۡ رَسُولٞ مُّبِينٞ ١٣

14. それから彼らは彼（使徒*）から立ち去り、言ったのだ。「（ムハンマド*は使徒*などではなく、）教授された者[4]、憑かれた者[5]である」。

ثُمَّ تَوَلَّوۡاْ عَنۡهُ وَقَالُواْ مُعَلَّمٞ مَّجۡنُونٌ ١٤

---

1 この「煙霧」の解釈には、「預言者*の祈りによってクライシュ族*を飢饉（ききん）が襲った時、余りの飢えで見えた、幻覚の煙」という説以外にも、「復活の日*の予兆の一つ」という説もある（アッ＝サァディー771 頁参照）。

2 「懲罰」は取り除かれたが、彼らは約束どおり信仰者とはならなかった（ムヤッサル 496 頁参照）。

3 人々に必要な宗教的・現世的諸事を明白にする「使徒*」のこと（アッ＝シャウカーニー 4:746 参照）。

4 占い師、シャイターン*などの他人から、教授された者ということ（ムヤッサル 496 頁参照）。家畜章 105、蜜蜂章 103、識別章 4-5 も参照。

5 アル＝ヒジュル章 6「憑かれた者」の訳注も参照。

15. 実にわれら*は少しの間、(あなた方から)懲罰を取り除こう。本当にあなた方は、(不信仰と迷妄へと)回帰する者となろうから。

إِنَّا كَاشِفُوا۟ ٱلْعَذَابِ قَلِيلًا ۚ إِنَّكُمْ عَآئِدُونَ ﴿١٥﴾

16. われら*が(全ての不信仰者*を)、最大の制圧によって制圧する(復活*の)日のこと(を思い起こせ)。本当にわれら*は報復者なのだ。

يَوْمَ نَبْطِشُ ٱلْبَطْشَةَ ٱلْكُبْرَىٰٓ إِنَّا مُنتَقِمُونَ ﴿١٦﴾

17. われら*は確かに彼ら以前、フィルアウン*の民を試練にかけた。そして彼らのもとには高貴な使徒*(ムーサー*)が到来したのだ。

۞ وَلَقَدْ فَتَنَّا قَبْلَهُمْ قَوْمَ فِرْعَوْنَ وَجَآءَهُمْ
رَسُولٌ كَرِيمٌ ﴿١٧﴾

18. (ムーサー*は彼らに言った。)「アッラー*の僕たち(イスラーイールの子ら*)を、私にお渡し下さい[1]。本当に私は、あなた方への誠実な使徒*なのです。

أَنْ أَدُّوٓا۟ إِلَىَّ عِبَادَ ٱللَّهِ ۖ إِنِّى لَكُمْ رَسُولٌ
أَمِينٌ ﴿١٨﴾

19. そして(私を否定することで)、アッラー*に対して思い上がりませんよう。本当に私はあなた方に、紛れもない明証[2]を携えて来たのですから。

وَأَن لَّا تَعْلُوا۟ عَلَى ٱللَّهِ ۖ إِنِّىٓ ءَاتِيكُم بِسُلْطَٰنٍ
مُّبِينٍ ﴿١٩﴾

20. また本当に私は、我が主*とあなた方の主*(であるアッラー*)に、あなた方が私を(石で)打ち殺すこと[3]からのご加護を乞いました。

وَإِنِّى عُذْتُ بِرَبِّى وَرَبِّكُمْ أَن تَرْجُمُونِ ﴿٢٠﴾

21. そして、もし私を信じないのなら、私のことを放っておいて下さい」。

وَإِن لَّمْ تُؤْمِنُوا۟ لِى فَٱعْتَزِلُونِ ﴿٢١﴾

22. (しかし彼らはムーサー*を、放ってはおかなかった。)それで彼(ムーサー*)は、彼の主*に祈った。これらの者たちは、罪悪の民なのです、と。

فَدَعَا رَبَّهُۥٓ أَنَّ هَٰٓؤُلَآءِ قَوْمٌ مُّجْرِمُونَ ﴿٢٢﴾

---

1 つまりアッラー*だけを崇拝*するべく、私と共に行かせて下さい、ということ(ムヤッサル 496 頁参照)。同様のくだりとして、高壁章 105 とその訳注、ター・ハー章 47、詩人たち章 16-17 も参照。

2 この「紛れもない明証」については、婦人章 153 の同語に関する訳注を参照。

3 「(石で)打ち殺すこと」については、フード*章 91 の同語についての訳注も参照。

23. ならば（ムーサー*よ、信仰した）わが僕（しもべ）たちと共に、夜に旅立て。実にあなた方は、（フィルアウン*とその民から）追われる身となろう。[1]

فَأَسۡرِ بِعِبَادِي لَيۡلًا إِنَّكُم مُّتَّبَعُونَ ٢٣

24. そして海を（閉じずに、割れて）空いたままにせよ。本当に彼らは、溺（おぼ）れる軍勢（ぐんぜい）なのだから。[2]

وَٱتۡرُكِ ٱلۡبَحۡرَ رَهۡوًاۖ إِنَّهُمۡ جُندٞ مُّغۡرَقُونَ ٢٤

25. 彼らは一体、どれだけの果樹（かじゅ）園と泉を残し（て滅（ほろ）び）たのか？

كَمۡ تَرَكُواْ مِن جَنَّٰتٖ وَعُيُونٖ ٢٥

26. また作物と、麗（うるわ）しい住まいを？

وَزُرُوعٖ وَمَقَامٖ كَرِيمٖ ٢٦

27. そして（恩恵（おんけい）の）享受（きょうじゅ）を？　彼らはそこで、喜々（きき）としていたのだ。

وَنَعۡمَةٖ كَانُواْ فِيهَا فَٰكِهِينَ ٢٧

28. このように（、われら*はわれら*に反逆する者を、滅（ほろ）ぼすのである）。そしてわれら*はそれら（の恩恵（おんけい））を、別の民（イスラーイールの子ら*）に引き継（つ）がせたのだ。

كَذَٰلِكَۖ وَأَوۡرَثۡنَٰهَا قَوۡمًا ءَاخَرِينَ ٢٨

29. それで天も大地も、彼ら（の滅亡（めつぼう）への悲しみ）ゆえに泣くことはなかった[3]し、彼らは（懲罰（ちょうばつ）を）猶予（ゆうよ）されもしなかった。

فَمَا بَكَتۡ عَلَيۡهِمُ ٱلسَّمَآءُ وَٱلۡأَرۡضُ وَمَا كَانُواْ مُنظَرِينَ ٢٩

30. われら*は確かに、イスラーイールの子ら*を屈辱（くつじょく）的な懲罰（ちょうばつ）から救った。

وَلَقَدۡ نَجَّيۡنَا بَنِيٓ إِسۡرَٰٓءِيلَ مِنَ ٱلۡعَذَابِ ٱلۡمُهِينِ ٣٠

31. フィルアウン*から（、彼らを救った）。本当に彼は高慢で、（アッラー*の法の侵犯（しんぱん）に）度（ど）を越（こ）した者たちの一人だった。

مِن فِرۡعَوۡنَۚ إِنَّهُۥ كَانَ عَالِيٗا مِّنَ ٱلۡمُسۡرِفِينَ ٣١

---

1 詩人たち章 52 とその訳注も参照。

2 この状況の詳細については、ター・ハー章 77-78、詩人たち章 61-66 とその訳注を参照。

3 「天と大地が泣く」の解釈には、「偉人が他界した時、アラブ人が用いるお悔やみの表現」「泣くのは天と大地にいる天使*たちのこと」「信仰者が他界すると天と地が泣くが、不信仰のまま死んだ彼らに対しては泣かなかった」といった説がある（アル＝クルトゥビー 16:139-140 参照）。

32. われら*は彼ら（イスラーイールの子ら*）を知識と共に、全ての者の上に選び上げた。[1]

وَلَقَدِ ٱخْتَرْنَٰهُمْ عَلَىٰ عِلْمٍ عَلَى ٱلْعَٰلَمِينَ ٣٢

33. そして彼らに御徴[2]の内から、明らかな試練（と恩恵）を含むものを授けたのだ。

وَءَاتَيْنَٰهُم مِّنَ ٱلْءَايَٰتِ مَا فِيهِ بَلَٰٓؤٌا۟
مُّبِينٌ ٣٣

34. 本当に（使徒*よ、あなたの民である）これらの者たちは、まさしく（こう）言っている。

إِنَّ هَٰٓؤُلَآءِ لَيَقُولُونَ ٣٤

35. 「それ（死）は、私たちの最初（で最後）の死に外ならず、私たちは（死後）生き返される者などではないのだ。

إِنْ هِىَ إِلَّا مَوْتَتُنَا ٱلْأُولَىٰ وَمَا نَحْنُ بِمُنشَرِينَ ٣٥

36. では、（既に他界している）私たちのご先祖様を連れてきてみよ。もしあなた方が、本当のことを言っているならば」。

فَأْتُوا۟ بِـَٔابَآئِنَآ إِن كُنتُمْ صَٰدِقِينَ ٣٦

37. 一体彼ら（シルクの徒*）がより優れているのか、それともトッバゥの民[3]と、彼ら以前の（不信仰）者*たちか？ われら*は彼らを滅ぼしたのだ。本当に彼らは、罪悪者であった。

أَهُمْ خَيْرٌ أَمْ قَوْمُ تُبَّعٍ وَٱلَّذِينَ مِن قَبْلِهِمْ
أَهْلَكْنَٰهُمْ ۖ إِنَّهُمْ كَانُوا۟ مُجْرِمِينَ ٣٧

38. われら*は諸天と大地、その間にあるものを、遊び半分で創ったのではない。

وَمَا خَلَقْنَا ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضَ وَمَا بَيْنَهُمَا
لَٰعِبِينَ ٣٨

39. われら*がそれらを創造したのは、真理ゆえに外ならないのだ[4]。しかし彼らの大半は、（そのことを）知らない。

مَا خَلَقْنَٰهُمَآ إِلَّا بِٱلْحَقِّ وَلَٰكِنَّ أَكْثَرَهُمْ لَا
يَعْلَمُونَ ٣٩

---

1 つまり「彼らの内から多くの預言者*が出現するという、われら*の知識と共に」ということ（アル＝クルトゥビー16:142 参照)。「全ての者の上に選び上げた」については、雌牛章47 の訳注を参照。

2 この「御徴」は、ムーサー*に授けられた奇跡の数々のこと（ムヤッサル 497 頁参照)。

3 イブン・カスィール*によれば「トッバァの民」とは、サバアの民のこと（サバア章参照)。サバアの民にとって「トッバァ」とは、ペルシャのホスローやローマのカエサル同様、自分たちの王への称号だったとされる（7:256 参照)。

4 イムラーン家章 191「あなたはこれらを…ありません」の訳注も参照。

40. 本当に裁決（さいけつ）の日[1]は、彼ら全員の約束の時である。

إِنَّ يَوْمَ ٱلْفَصْلِ مِيقَـٰتُهُمْ أَجْمَعِينَ ﴿٤٠﴾

41. 味方同士が少しも益（えき）し合うことはなく、助けられることもない日。[2]

يَوْمَ لَا يُغْنِى مَوْلًى عَن مَّوْلًى شَيْـًٔا وَلَا هُمْ يُنصَرُونَ ﴿٤١﴾

42. 但（ただ）し、アッラー*がご慈悲（じひ）をおかけになった（信仰）者は別である。本当にかれこそは、偉力（いりょく）ならびない*お方、慈愛（じあい）深い*お方なのだから。

إِلَّا مَن رَّحِمَ ٱللَّهُ ۚ إِنَّهُۥ هُوَ ٱلْعَزِيزُ ٱلرَّحِيمُ ﴿٤٢﴾

43. 実にザックームの木[3]、

إِنَّ شَجَرَتَ ٱلزَّقُّومِ ﴿٤٣﴾

44. （その実は、）罪（つみ）に溺（おぼ）れた者の食べ物で、

طَعَامُ ٱلْأَثِيمِ ﴿٤٤﴾

45. 腹の中で煮え立つ、溶けた鉛（なまり）のようなもの。

كَٱلْمُهْلِ يَغْلِى فِى ٱلْبُطُونِ ﴿٤٥﴾

46. 煮（に）えたぎる湯の沸騰（ふっとう）のように。

كَغَلْىِ ٱلْحَمِيمِ ﴿٤٦﴾

47. 「彼を捕（つか）まえ、火獄の真ん中へと彼をしょっぴいていけ。

خُذُوهُ فَٱعْتِلُوهُ إِلَىٰ سَوَآءِ ٱلْجَحِيمِ ﴿٤٧﴾

48. それから彼の頭上に、煮（に）えたぎる湯の懲罰（ちょうばつ）を注（そそ）ぎかけてやれ」。[4]

ثُمَّ صُبُّوا۟ فَوْقَ رَأْسِهِۦ مِنْ عَذَابِ ٱلْحَمِيمِ ﴿٤٨﴾

49. （そして罪（つみ）に溺（おぼ）れたその者には、こう言われる）。「（罰（ばつ）を）味わえ。あなたこそは、偉大な者、高貴な者なのだから」。[5]

ذُقْ إِنَّكَ أَنتَ ٱلْعَزِيزُ ٱلْكَرِيمُ ﴿٤٩﴾

---

1 「裁決の日」については、整列者章 21 の同語の訳注を参照。

2 アーヤ*42 にもあるように、復活の日*に「執り成し」は起こる。詳しくは雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

3 「ザックームの木」については、夜の旅章 60「呪われた木」の訳注、および整列者章 62-66、出来事章 52-53 も参照。地獄の民の飲食物については、イブラーヒーム*章 16-17、洞窟章 29、サード章 57-58、ムハンマド*章 15、出来事章 52-55、衣を纏（まと）う者章 13、真実章 36-37、圧倒的事態章 5-7 も参照。

4 アーヤ*47-48 は、ザバーニヤという地獄の番人（凝血章 18 の訳注を参照）への命令の言葉とされる（アル＝バガウィー4:182 参照）。

5 これは、蔑（さげす）みと咎（とが）めの言葉（ムヤッサル 498 頁参照）。自分がアッラー*の懲罰から免（まぬが）れることが出来るほど偉大で、高貴だと思い込んでいた不信仰者*に、このように言われる（アッ＝サァディー774 頁参照）。

50. 実にこれは、あなた方が（現世で）疑わしく思っていたものなのである。

إِنَّ هَٰذَا مَا كُنتُم بِهِۦ تَمۡتَرُونَ ٥٠

51. 本当に敬虔な*者たちは（来世で）、安全な居場所にある。

إِنَّ ٱلۡمُتَّقِينَ فِي مَقَامٍ أَمِينٖ ٥١

52. 果樹園と泉の中に。

فِي جَنَّٰتٖ وَعُيُونٖ ٥٢

53. 彼らはお互いに向かい合って、精巧な絹地と重厚な絹地のものを身にまとっている。[1]

يَلۡبَسُونَ مِن سُندُسٖ وَإِسۡتَبۡرَقٖ
مُّتَقَٰبِلِينَ ٥٣

54. （それらの恩恵と）同様に、われら*は彼らに、麗しい眼の色白の女性たち[2]を連れ添わせる。

كَذَٰلِكَ وَزَوَّجۡنَٰهُم بِحُورٍ عِينٖ ٥٤

55. 彼らはそこで安泰に、あらゆる果実を持って来させる。

يَدۡعُونَ فِيهَا بِكُلِّ فَٰكِهَةٍ ءَامِنِينَ ٥٥

56. 彼らはそこで、（現世での）最初の死の外、死を味わうことがない。そしてかれ（アッラー*）は、彼らを火獄の懲罰からお守り下さったのだ。

لَا يَذُوقُونَ فِيهَا ٱلۡمَوۡتَ إِلَّا ٱلۡمَوۡتَةَ
ٱلۡأُولَىٰۖ وَوَقَىٰهُمۡ عَذَابَ ٱلۡجَحِيمِ ٥٦

57. あなたの主*からのご恩寵ゆえに。それこそは偉大なる勝利。

فَضۡلٗا مِّن رَّبِّكَۚ ذَٰلِكَ هُوَ ٱلۡفَوۡزُ ٱلۡعَظِيمُ ٥٧

58. （使徒*よ、）われら*はそれ（クルアーン*）を、あなたの言葉（であるアラビア語）によって容易なものとしたのだ。（それは）彼らが教訓を受けるように、とのためである。

فَإِنَّمَا يَسَّرۡنَٰهُ بِلِسَانِكَ لَعَلَّهُمۡ
يَتَذَكَّرُونَ ٥٨

59. ならば（使徒*よ）、待つのだ[3]。実に彼らも、待つ者たち[4]なのだから。

فَٱرۡتَقِبۡ إِنَّهُم مُّرۡتَقِبُونَ ٥٩

---

1 天国の民の衣服については、洞窟章 31、巡礼*章 23、創成者*章 33、人間章 12、21 も参照。

2 この中には、現世で自分の妻だった者もいれば、アッラー*が天国だけのために創造された女性（出来事章 35 参照）もいる（イブン・アーシュール 25:319 参照）。雌牛章 25「純潔な妻」の訳注も参照。

3 アッラー*が預言者*に約束された、シルクの徒*に対する勝利と、彼らに降りかかる懲罰を待て、ということ（ムヤッサル 498 頁参照）。

4 預言者*の死と、自分たちの勝利を「待つ者たち」（前掲書、同頁参照）。

第 45 章
跪く章（アル＝ジャースィヤ）[1]

سُورَةُ الجَاثِيَةِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. ハー・ミーム[2]。

2. （このクルアーン*は、）偉力ならびなく*、英知あふれる*アッラー*からの啓典の降示。

3. 本当に、諸天と大地の中にはまさしく、（アッラー*の存在と御力を示す）信仰者たちへの御徴がある。

4. また（人々よ）、あなた方の創造と、かれが散開させられる、地を歩く生物の中には、（アッラー*とその教えを）確信する民への（、アッラー*の存在と御力を示す）御徴がある。

5. また夜と昼の交代、アッラー*が天から糧として下されたもの（雨）――アッラー*はそれで大地を、それが死んだ後に生き返らされる――、風の変化は、分別する民への（、アッラー*の存在と御力を示す）御徴である。

6. （使徒*よ、）それは、われら*が真実と共にあなたに誦んで聞かせる、アッラー*の（唯一性*と御力を示す）御徴。なのに一体、彼らはアッラー*とその御徴を差しおいて、いかなる話を信じるというのか？

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

حمٓ ١

تَنزِيلُ ٱلۡكِتَٰبِ مِنَ ٱللَّهِ ٱلۡعَزِيزِ ٱلۡحَكِيمِ ٢

إِنَّ فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ لَأٓيَٰتٖ لِّلۡمُؤۡمِنِينَ ٣

وَفِي خَلۡقِكُمۡ وَمَا يَبُثُّ مِن دَآبَّةٍ ءَايَٰتٞ لِّقَوۡمٖ
يُوقِنُونَ ٤

وَٱخۡتِلَٰفِ ٱلَّيۡلِ وَٱلنَّهَارِ وَمَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ مِنَ ٱلسَّمَآءِ
مِن رِّزۡقٖ فَأَحۡيَا بِهِ ٱلۡأَرۡضَ بَعۡدَ مَوۡتِهَا وَتَصۡرِيفِ
ٱلرِّيَٰحِ ءَايَٰتٞ لِّقَوۡمٖ يَعۡقِلُونَ ٥

تِلۡكَ ءَايَٰتُ ٱللَّهِ نَتۡلُوهَا عَلَيۡكَ بِٱلۡحَقِّۖ فَبِأَيِّ
حَدِيثِۭ بَعۡدَ ٱللَّهِ وَءَايَٰتِهِۦ يُؤۡمِنُونَ ٦

1 マッカ*啓示で、学者間の見解はほぼ一致。啓示、アッラーの唯一性*、来世への信仰といった基本的な信仰箇条のほか、自然界における様々な様相によって、アッラー*の御力が証明される。また、啓示・死後の復活・清算を嘘呼ばわりする者への様子が描写され、彼らに対して警告がなされる。スーラ*の最後は、来世における信仰者と不信仰者*の描写だが、スーラ*の名称ともなっている「跪く」（アーヤ*28）は、こうした中での清算の場における、人々の様子である。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

7. 大嘘つきで罪に溺れた、全ての者に災いあれ。

وَيۡلٞ لِّكُلِّ أَفَّاكٍ أَثِيمٖ ٧

8. 彼はアッラー*の御徴（アーヤ*）が自分に読誦されるのを聞いても、まるでそれを耳にしなかったかのように、（アッラー*とその使徒*への服従に対して）高慢な者となり（不信仰を）続ける。（使徒よ、）ならば彼には、痛ましい懲罰の吉報を告げてやるがよい[1]。

يَسۡمَعُ ءَايَٰتِ ٱللَّهِ تُتۡلَىٰ عَلَيۡهِ ثُمَّ يُصِرُّ مُسۡتَكۡبِرٗا كَأَن لَّمۡ يَسۡمَعۡهَاۖ فَبَشِّرۡهُ بِعَذَابٍ أَلِيمٖ ٨

9. また彼は、われら*の御徴（アーヤ*）の内から何か耳にすれば、それを嘲笑の的にした[2]。それらの者たちには、屈辱的な懲罰がある。

وَإِذَا عَلِمَ مِنۡ ءَايَٰتِنَا شَيۡـًٔا ٱتَّخَذَهَا هُزُوًاۚ أُوْلَٰٓئِكَ لَهُمۡ عَذَابٞ مُّهِينٞ ٩

10. 彼らの前には、地獄がある。そして彼らが稼いだもの[3]も、彼らがアッラー*をよそに盟友としたものも、彼らを少しも益することはない。彼らにはこの上ない懲罰があるのだ。

مِّن وَرَآئِهِمۡ جَهَنَّمُۖ وَلَا يُغۡنِي عَنۡهُم مَّا كَسَبُواْ شَيۡـٔٗا وَلَا مَا ٱتَّخَذُواْ مِن دُونِ ٱللَّهِ أَوۡلِيَآءَۖ وَلَهُمۡ عَذَابٌ عَظِيمٌ ١٠

11. これ（クルアーン*）は、導きである。されど自分たちの主*の御徴（アーヤ*）を否定した者たちには、痛ましい制裁による懲罰がある。

هَٰذَا هُدٗىۖ وَٱلَّذِينَ كَفَرُواْ بِـَٔايَٰتِ رَبِّهِمۡ لَهُمۡ عَذَابٞ مِّن رِّجۡزٍ أَلِيمٌ ١١

12. アッラー*はあなた方のために、海を仕えさせられたお方。（それは）かれのご命令によって船がそこを進み、あなた方がその恩寵から（糧を）求めるためであり、あなた方が（アッラー*に）感謝するようにするためである。

۞ٱللَّهُ ٱلَّذِي سَخَّرَ لَكُمُ ٱلۡبَحۡرَ لِتَجۡرِيَ ٱلۡفُلۡكُ فِيهِ بِأَمۡرِهِۦ وَلِتَبۡتَغُواْ مِن فَضۡلِهِۦ وَلَعَلَّكُمۡ تَشۡكُرُونَ ١٢

1 「懲罰の吉報を告げる」という表現については、イムラーン家章 21 の訳注を参照。

2 夜の旅 60「呪われた木」訳注にあるような、嘲笑のこと（アル＝クルトゥビー16:159 参照）。

3 「稼いだもの」とは、財産や子供などのこと（ムヤッサル 499 頁参照）。

13. またかれはあなた方に、諸天にあるものと大地にあるもの、その全てを仕えさせられた。本当にそこには（アッラーの唯一性*を示す）、熟考する民への御徴がある。

وَسَخَّرَ لَكُم مَّا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلْأَرْضِ جَمِيعًا
مِّنْهُ ۚ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَءَايَٰتٍ لِّقَوْمٍ يَتَفَكَّرُونَ ﴿١٣﴾

14. （使徒*よ、）信仰する者たちに、言うのだ。アッラー*の日々を望まない[1]者たちを、赦してやれ、と。（それは）かれが民を、自分たちが（現世で）稼いでいたもので報われるようにするためである。

قُل لِّلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ يَغْفِرُوا۟ لِلَّذِينَ لَا يَرْجُونَ
أَيَّامَ ٱللَّهِ لِيَجْزِىَ قَوْمًۢا بِمَا كَانُوا۟ يَكْسِبُونَ ﴿١٤﴾

15. 誰でも正しい行い*を行う者は、自分自身を益するのであり、（行いが）悪い者は、自分自身を害するのだ。それからあなた方は（復活の日*）、自分たちの主*の御許へと戻らされ（、自分の行いの報いを受け）るのである。

مَنْ عَمِلَ صَٰلِحًا فَلِنَفْسِهِۦ ۖ وَمَنْ أَسَآءَ
فَعَلَيْهَا ۖ ثُمَّ إِلَىٰ رَبِّكُمْ تُرْجَعُونَ ﴿١٥﴾

16. われら*はイスラーイールの子ら*に、啓典（トーラー*、福音*）と英知[2]と預言者*としての天分[3]を与え、善きものの内から授け、彼らを全創造物よりも引き立てた[4]。

وَلَقَدْ ءَاتَيْنَا بَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ ٱلْكِتَٰبَ وَٱلْحُكْمَ
وَٱلنُّبُوَّةَ وَرَزَقْنَٰهُم مِّنَ ٱلطَّيِّبَٰتِ وَفَضَّلْنَٰهُمْ
عَلَى ٱلْعَٰلَمِينَ ﴿١٦﴾

17. また、われら*は彼ら（イスラーイールの子ら*）に、そのことにおける明証[5]を授けた。そして彼らがそこにおいて意見を異にしたのは、彼らのもとに知識が到来した後のこと、彼らの間の侵犯ゆえ以外の何ものでもなかった[6]。（使徒*よ、）本当にあなた

وَءَاتَيْنَٰهُم بَيِّنَٰتٍ مِّنَ ٱلْأَمْرِ ۖ فَمَا ٱخْتَلَفُوٓا۟
إِلَّا مِنۢ بَعْدِ مَا جَآءَهُمُ ٱلْعِلْمُ بَغْيًۢا بَيْنَهُمْ ۚ إِنَّ
رَبَّكَ يَقْضِى بَيْنَهُمْ يَوْمَ ٱلْقِيَٰمَةِ فِيمَا
كَانُوا۟ فِيهِ يَخْتَلِفُونَ ﴿١٧﴾

---

1 「アッラー*の日々」とは、アッラー*が各人に、現世での行いに対して報いを与える復活の日*のこと（ムヤッサル 500 頁参照）。「望む」については、ユーヌス*章 7 の訳注を参照。

2 この「英知」については、イムラーン家章 79 の同語の訳注を参照。

3 大半の預言者*は、イスラーイールの子ら*から出現した（ムヤッサル 500 頁参照）。

4 「彼らを…引き立てた」については、雌牛章 47 の訳注を参照。

5 「そのことにおける明証」の意味については、「ムハンマド*の預言者*性の証拠」「物事の合法性・非合法性を明らかにする、法のこと」といった解釈がある（アル＝クルトゥビー 16:163 参照）。

6 詳しくは、雌牛章 213、相談章 14 とその訳注を参照。

の主*は復活の日*、彼らが意見を異にしていたことについて、彼らの間に裁決をお下しになる。

18. それから（使徒*よ）、われら*はあなたを、そのことにおける道[1]の上に立脚させた。ゆえに、あなたはそれに従うのだ。そして、（真理を）知らない者たちの私欲に従ってはならない。

ثُمَّ جَعَلْنَٰكَ عَلَىٰ شَرِيعَةٍ مِّنَ ٱلْأَمْرِ
فَٱتَّبِعْهَا وَلَا تَتَّبِعْ أَهْوَآءَ ٱلَّذِينَ لَا يَعْلَمُونَ ١٨

19. 本当に彼ら（シルクの徒*）は、アッラー*（の懲罰）において、あなたを少しも益しはしない。そして本当に不正*者たちはお互いに盟友なのであり、アッラー*は敬虔な*者たちの庇護*者なのだ。

إِنَّهُمْ لَن يُغْنُوا۟ عَنكَ مِنَ ٱللَّهِ شَيْـًٔا ۚ وَإِنَّ
ٱلظَّٰلِمِينَ بَعْضُهُمْ أَوْلِيَآءُ بَعْضٍ ۖ وَٱللَّهُ وَلِىُّ
ٱلْمُتَّقِينَ ١٩

20. これ（クルアーン*）は人々への開眼、導きであり、（クルアーン*の真理性を）確信する民への慈悲である。

هَٰذَا بَصَٰٓئِرُ لِلنَّاسِ وَهُدًى وَرَحْمَةٌ لِّقَوْمٍ
يُوقِنُونَ ٢٠

21. いや、悪行を稼いだ者たちは、われら*が彼らを信仰して正しい行い*を行う者たちと同様にするとでも思ったのか？ その生と死[2]において、同等だとも？ 彼らの決めつけることの、何と忌まわしいことか。

أَمْ حَسِبَ ٱلَّذِينَ ٱجْتَرَحُوا۟ ٱلسَّيِّـَٔاتِ أَن
نَّجْعَلَهُمْ كَٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
سَوَآءً مَّحْيَاهُمْ وَمَمَاتُهُمْ ۚ سَآءَ
مَا يَحْكُمُونَ ٢١

22. アッラー*は真理によって、諸天と大地をお創りになった[3]。そして（それはかれがご自身の御力をお示しになり、来世において）各人が不正*を受けることなく、自分が稼いだものによって報われるようにするためだったのだ。

وَخَلَقَ ٱللَّهُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضَ بِٱلْحَقِّ
وَلِتُجْزَىٰ كُلُّ نَفْسٍ بِمَا كَسَبَتْ وَهُمْ
لَا يُظْلَمُونَ ٢٢

1 「そのことにおける道」とは、真理へと導く、宗教における明らかな手法のこと（アル＝クルトゥビー16:163 参照）。

2 この「生と死」は、現世と来世という意味（ムヤッサル 500 頁参照）。

3 イムラーン章 191「我らが主*よ、あなたは…」の訳注も参照。

23. （使徒*よ、）言ってみよ、自分の欲望（への服従）を自分の崇拝*すべきもの（への服従）とした者[1]について。彼は知識を有していたにも関わらずアッラー*に迷わされ[2]、その聴覚と心を塞がれ、その視覚には覆いをかけられた[3]のである。アッラー*（による迷い）の後、誰が彼を導けるというのか？　一体、あなた方は教訓を得ないのか？

أَفَرَءَيۡتَ مَنِ ٱتَّخَذَ إِلَٰهَهُۥ هَوَىٰهُ وَأَضَلَّهُ ٱللَّهُ عَلَىٰ عِلۡمٖ
وَخَتَمَ عَلَىٰ سَمۡعِهِۦ وَقَلۡبِهِۦ وَجَعَلَ عَلَىٰ بَصَرِهِۦ غِشَٰوَةٗ
فَمَن يَهۡدِيهِ مِنۢ بَعۡدِ ٱللَّهِۚ أَفَلَا تَذَكَّرُونَ ٢٣

24. 彼ら（シルク*の徒）は言った。「それ（人生）は、私たちの（今、生きている）現世の生活以外にはない。私たちは（この現世で）死に、生きる（だけな）のであり、私たちを滅ぼすのは、時間に外ならない[4]のだ」。彼らには（、彼らが言っている）そのことについて、いかなる知識もないのに。彼らは憶測しているに過ぎないのだ。

وَقَالُواْ مَا هِيَ إِلَّا حَيَاتُنَا ٱلدُّنۡيَا نَمُوتُ وَنَحۡيَا وَمَا
يُهۡلِكُنَآ إِلَّا ٱلدَّهۡرُۚ وَمَا لَهُم بِذَٰلِكَ مِنۡ عِلۡمٍۖ إِنۡ هُمۡ
إِلَّا يَظُنُّونَ ٢٤

25. また、彼らに（、復活が起こることを確証する）われら*の明らかな御徴（アーヤ*）が読誦されれば、彼らの論拠は（こう）言うことでしかなかった。「私たちのご先祖様たちを、（生き返して）連れて来てみよ。もし、あなた方が本当のことを言っているのなら」。

وَإِذَا تُتۡلَىٰ عَلَيۡهِمۡ ءَايَٰتُنَا بَيِّنَٰتٖ مَّا كَانَ حُجَّتَهُمۡ إِلَّآ
أَن قَالُواْ ٱئۡتُواْ بِـَٔابَآئِنَآ إِن كُنتُمۡ صَٰدِقِينَ ٢٥

---

1 識別章 43 とその訳注も参照。

2 正常な理性があるのに、あるいは正しい導きに関する知識が伝わった後に、迷いを選んだことを示すとされる（イブン・アーシュール 25:358 参照）。また一説には、「アッラー*は、彼がそれにふさわしいことをご存知であるがゆえに、彼を迷わせられた」という意味（イブン・カスィール 7:268 参照）。

3 「その聴覚と心を…」については、雌牛章 7 の訳注を参照。

4 シルク*の徒は、自分たちを死なせ、滅ぼす主*の存在を否定し、「自分たちを滅ぼすのは、歳月の流れと年齢の積み重ねに過ぎない」と言ったものだった（アッ＝タバリー9:7381参照）。

26. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「アッラー*はあなた方に生を与えられ、それから死を与えられる。それからかれは、あなた方を疑惑の余地のない復活の日*へと、集められるのだ。しかし人々の大半は（、アッラー*の御力を）知らない」。

قُلِ ٱللَّهُ يُحۡيِيكُمۡ ثُمَّ يُمِيتُكُمۡ ثُمَّ يَجۡمَعُكُمۡ إِلَىٰ يَوۡمِ
ٱلۡقِيَٰمَةِ لَا رَيۡبَ فِيهِ وَلَٰكِنَّ أَكۡثَرَ ٱلنَّاسِ لَا يَعۡلَمُونَ ٢٦

27. アッラー*にこそ、諸天と大地の王権は属する。そして（復活の）その時が到来する日、その日（真実）を虚妄とする者たちは損失するのだ。

وَلِلَّهِ مُلۡكُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۚ وَيَوۡمَ تَقُومُ ٱلسَّاعَةُ
يَوۡمَئِذٖ يَخۡسَرُ ٱلۡمُبۡطِلُونَ ٢٧

28. そして（使徒*よ）、あなたは（復活の日*）全ての共同体が跪くのを見る[1]。全ての共同体は、自分たちの帳簿[2]へと呼ばれる。（そして、こう言われる。）「この日あなた方は、自分たちが（現世で）行っていたことを報われるのだ」。

وَتَرَىٰ كُلَّ أُمَّةٖ جَاثِيَةٗۚ كُلُّ أُمَّةٖ تُدۡعَىٰٓ إِلَىٰ كِتَٰبِهَا ٱلۡيَوۡمَ
تُجۡزَوۡنَ مَا كُنتُمۡ تَعۡمَلُونَ ٢٨

29. これが、あなた方に対して（あなた方の行いを）真理と共に語る、われら*の帳簿である。われらは、あなた方が行っていたことの転写を（天使*たちに）命じていたのだから。[3]

هَٰذَا كِتَٰبُنَا يَنطِقُ عَلَيۡكُم بِٱلۡحَقِّۚ إِنَّا كُنَّا
نَسۡتَنسِخُ مَا كُنتُمۡ تَعۡمَلُونَ ٢٩

30. それで信仰し、正しい行い*を行う者たちはといえば、主*は彼らをそのご慈悲[4]の中へとお入れになる。それこそは紛れもない勝利なのだ。

فَأَمَّا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
فَيُدۡخِلُهُمۡ رَبُّهُمۡ فِي رَحۡمَتِهِۦۚ ذَٰلِكَ هُوَ
ٱلۡفَوۡزُ ٱلۡمُبِينُ ٣٠

---

1 これは、恐怖と共にアッラー*の裁きを待つ様子のこと（アッ＝サァディー778 頁参照）。

2 現世での行いが記録された「帳簿」のこと（ムヤッサル 501 頁参照）。高壁章 8 の訳注も参照。

3 イブン・アッバース*らによれば、人々の行いを記録する天使*たちは、その記録と共に天に昇って行き、守られし碑板*から写された帳簿のもとにいる天使*たちに会う。その帳簿は毎年、誉れの夜*に守られし碑板*から写されたものであり、記録と帳簿は一字一句符合する（イブン・カスィール 7:271 参照）。

4 この「ご慈悲」とは、つまり天国のこと（ムヤッサル 501 頁参照）。

31. また、不信仰に陥った者*たちはといえば（、こう言われる）。「一体、わが御徴（アーヤ*）は（現世で）あなた方に、読誦されてはいなかったのか？ そしてあなた方は（それに耳を傾け、信仰することから）高慢になったのであり、罪悪の民だったのでは？

وَأَمَّا ٱلَّذِينَ كَفَرُوٓا۟ أَفَلَمْ تَكُنْ ءَايَـٰتِى تُتْلَىٰ عَلَيْكُمْ
فَٱسْتَكْبَرْتُمْ وَكُنتُمْ قَوْمًا مُّجْرِمِينَ ٣١

32. また、『本当に（復活に関する）アッラー*のお約束は真実で、その時（の到来）は、疑惑の余地がない』と言われた時、あなた方は言った。『私たちは（復活の）その時が何のことか、分からない。私たちには、それが思い込みにしか思えない。私たちは（その到来を）、確信する者ではないのだ』」。

وَإِذَا قِيلَ إِنَّ وَعْدَ ٱللَّهِ حَقٌّ وَٱلسَّاعَةُ لَا رَيْبَ
فِيهَا قُلْتُم مَّا نَدْرِى مَا ٱلسَّاعَةُ إِن نَّظُنُّ إِلَّا ظَنًّا
وَمَا نَحْنُ بِمُسْتَيْقِنِينَ ٣٢

33. そして彼らには（その日）、自分たちが（現世で）行った悪（の報い）が現れる。そして自分たちが嘲笑していたもの（懲罰）が、彼らを包囲するのだ。

وَبَدَا لَهُمْ سَيِّـَٔاتُ مَا عَمِلُوا۟ وَحَاقَ بِهِم
مَّا كَانُوا۟ بِهِۦ يَسْتَهْزِءُونَ ٣٣

34. また、彼らには（、こう）言われる。「この日われら*は、あなた方を忘れよう。ちょうどあなた方が、あなた方のこの日の拝謁を忘れたように[1]。そしてあなた方の住処は（地獄の）業火であり、あなた方にはいかなる援助者もない」。

وَقِيلَ ٱلْيَوْمَ نَنسَىٰكُمْ كَمَا نَسِيتُمْ لِقَآءَ يَوْمِكُمْ هَـٰذَا
وَمَأْوَىٰكُمُ ٱلنَّارُ وَمَا لَكُم مِّن نَّـٰصِرِينَ ٣٤

35. それというのも、あなた方はアッラー*の御徴を嘲笑の的とし、現世の生活によって欺かれていたからなのである。この日、あなた方はそこ（業火）から出されることもなく、（アッラー*の）ご満悦を得ること[2]も課されない。

ذَٰلِكُم بِأَنَّكُمُ ٱتَّخَذْتُمْ ءَايَـٰتِ ٱللَّهِ هُزُوًا وَغَرَّتْكُمُ
ٱلْحَيَوٰةُ ٱلدُّنْيَا ۚ فَٱلْيَوْمَ لَا يُخْرَجُونَ مِنْهَا وَلَا هُمْ
يُسْتَعْتَبُونَ ٣٥

1 この「忘れる」については、高壁章 51 の訳注を参照。

2 蜜蜂章 84 とその訳注も参照。

36. アッラー*に称賛*あれ、諸天の主*、大地の主*、全創造の主*に。

37. またかれにこそ、諸天と大地の権威は属する。そしてかれは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方であられる。

فَلِلَّهِ ٱلۡحَمۡدُ رَبِّ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَرَبِّ ٱلۡأَرۡضِ رَبِّ
ٱلۡعَٰلَمِينَ ٣٦
وَلَهُ ٱلۡكِبۡرِيَآءُ فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۖ وَهُوَ
ٱلۡعَزِيزُ ٱلۡحَكِيمُ ٣٧

第 46 章
砂丘章（アル＝アフカーフ）[1]

سُورَةُ الأَحۡقَافِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. ハー・ミーム[2]。

2. （このクルアーン*は、）偉力ならびなく*、英知あふれる*アッラー*からの、啓典の降示。

3. われら*が諸天と大地、その間にあるものを創ったのは、真理と定められた期限ゆえに外ならない[3]。にも関わらず、不信仰に陥った者*たちは、自分たちが警告されていることに対し背を向けている。

4. （使徒*よ、彼ら不信仰者*たちに）言ってやれ。「言ってみよ、あなた方がアッラー*をよそに祈っている者たち（である神々について）。彼らが大地から創ったものを、私に見せてみよ。いや、彼らに、諸天（の創造）において（アッラー*への）何らかの関与でもあるというのか？　（シルク*を正当化する）これ以前の啓典か、あるいは（過去の預言者*から引き継いだ）知識の遺物を、私のもとに持って来てみるがいい。もし、あなた方が本当のことを言っているのならば」。

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

حمٓ ١

تَنزِيلُ ٱلۡكِتَٰبِ مِنَ ٱللَّهِ ٱلۡعَزِيزِ ٱلۡحَكِيمِ ٢

مَا خَلَقۡنَا ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَ وَمَا بَيۡنَهُمَآ إِلَّا
بِٱلۡحَقِّ وَأَجَلٖ مُّسَمّٗىۚ وَٱلَّذِينَ كَفَرُواْ عَمَّآ أُنذِرُواْ
مُعۡرِضُونَ ٣

قُلۡ أَرَءَيۡتُم مَّا تَدۡعُونَ مِن دُونِ ٱللَّهِ أَرُونِي
مَاذَا خَلَقُواْ مِنَ ٱلۡأَرۡضِ أَمۡ لَهُمۡ شِرۡكٞ فِي
ٱلسَّمَٰوَٰتِۖ ٱئۡتُونِي بِكِتَٰبٖ مِّن قَبۡلِ هَٰذَآ أَوۡ أَثَٰرَةٖ
مِّنۡ عِلۡمٍ إِن كُنتُمۡ صَٰدِقِينَ ٤

---

1 マッカ*啓示（一部アーヤ*には、マディーナ*啓示説あり）。クルアーン*の奇跡性と真実性、アッラーの唯一性*、復活の日*の確証、そしてそれらを否定する者たちへの警告が主なテーマ。スーラ*の名称「砂丘」は、不信仰であったアード*の民が住んでいた場所として言及されたもの（アーヤ*21 参照）。スーラ*後半部では、マッカ*時代の布教期において困難の中にあった、預言者*ムハンマド*とその信徒らへの慰（なぐさ）めと励（はげ）ましとして、ジン*の集団がイスラーム*を受け入れた出来事が描（えが）かれる。

2 この文字群については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 「真理と定められた期限」については、ビザンチン章 8 の訳注を参照。

5. 一体アッラー*をよそに、復活の日*まで自分（の祈り）に応えてはくれない者（である神々）に祈る者より、ひどく迷った者がいるだろうか？ 彼ら（アッラー*以外の神々）は、彼らの祈りなどには無頓着だというのに。

وَمَنۡ أَضَلُّ مِمَّن يَدۡعُواْ مِن دُونِ ٱللَّهِ مَن
لَّا يَسۡتَجِيبُ لَهُۥٓ إِلَىٰ يَوۡمِ ٱلۡقِيَٰمَةِ وَهُمۡ عَن
دُعَآئِهِمۡ غَٰفِلُونَ ٥

6. また、人々が（復活の日*に）召集された時には、彼らは自分たちにとっての敵となるのであり、彼らの崇拝*を否定する者となるというのに。[1]

وَإِذَا حُشِرَ ٱلنَّاسُ كَانُواْ لَهُمۡ أَعۡدَآءٗ وَكَانُواْ
بِعِبَادَتِهِمۡ كَٰفِرِينَ ٦

7. 彼ら（シルク*の徒）にわれら*の明白な御徴（アーヤ*）が読誦されれば、不信仰に陥った者*たちは真理（クルアーン*）が彼らに到来した時、（こう）言ったのだ。「これは紛れもない魔術である」。

وَإِذَا تُتۡلَىٰ عَلَيۡهِمۡ ءَايَٰتُنَا بَيِّنَٰتٖ قَالَ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ
لِلۡحَقِّ لَمَّا جَآءَهُمۡ هَٰذَا سِحۡرٞ مُّبِينٌ ٧

8. いや、彼ら（シルク*の徒）は「彼（ムハンマド*）が、それ（クルアーン*）を捏造した」と言うのか？[2] （使徒*よ、）言ってやれ。「もし私がそれを捏造したの（であり、アッラー*がそれゆえに私を罰される）なら、あなた方は私の（援護の）ために、アッラー*に対して何も出来ない。かれは、あなた方が（クルアーン*について）喋り立てていることを、最もよくご存知である。かれだけで、私とあなた方の間の証人は十分なのであり、かれは赦し深いお方、慈愛深い*お方であられるのだ」。

أَمۡ يَقُولُونَ ٱفۡتَرَىٰهُۖ قُلۡ إِنِ ٱفۡتَرَيۡتُهُۥ فَلَا تَمۡلِكُونَ
لِي مِنَ ٱللَّهِ شَيۡـًٔاۖ هُوَ أَعۡلَمُ بِمَا تُفِيضُونَ فِيهِۚ كَفَىٰ بِهِۦ
شَهِيدَۢا بَيۡنِي وَبَيۡنَكُمۡۖ وَهُوَ ٱلۡغَفُورُ ٱلرَّحِيمُ ٨

---

1 復活の日*、偶像などのシルク*の対象は、それを崇拝*していた者への敵となる。雌牛章166-167、ユーヌス*章 28-29、マルヤム*章 82、物語章 63、蜘蛛章 25、創成者*章 13-14も参照。

2 家畜章 105、蜜蜂章 103、識別章 4-5、煙霧章 14 とその訳注も参照。

9. （使徒*よ、）言ってやるがいい。「私は使徒*たちの内でも、目新しい（ことを言う）者ではない[1]。また自分についても、あなた方についても、（現世で）どのように処遇されることになるかも分からない[2]。私は自分に啓示されたことに従うだけであり、明白なる警告者に外ならないのだ」。

قُلْ مَا كُنتُ بِدْعًا مِّنَ الرُّسُلِ وَمَا أَدْرِي مَا يُفْعَلُ بِي وَلَا بِكُمْ ۖ إِنْ أَتَّبِعُ إِلَّا مَا يُوحَىٰ إِلَيَّ وَمَا أَنَا إِلَّا نَذِيرٌ مُّبِينٌ ٩

10. （使徒*よ、シルク*の徒に）言ってやれ。「言ってみよ。もし（クルアーン*が）アッラー*の御許からのもので、あなた方がそれを否定し、イスラーイールの子ら*の証人[3]がそれと同様のもの[4]を証言してそれを信じ、あなた方が（信仰に対して）高慢になったのならば（、それ以上の不信仰があろうか）？　本当にアッラー*が、不正*者である民を導かれることはない」。

قُلْ أَرَأَيْتُمْ إِن كَانَ مِنْ عِندِ اللَّهِ وَكَفَرْتُم بِهِ وَشَهِدَ شَاهِدٌ مِّن بَنِي إِسْرَائِيلَ عَلَىٰ مِثْلِهِ فَآمَنَ وَاسْتَكْبَرْتُمْ ۖ إِنَّ اللَّهَ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الظَّالِمِينَ ١٠

11. 不信仰に陥った者*たちは、信仰する者たちに、（こう）言った。「もし、それ[5]が善いものだったなら、彼らが私たちを差しおいてそれを先取りし（て信仰し）たはずが

وَقَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا لِلَّذِينَ آمَنُوا لَوْ كَانَ خَيْرًا مَّا سَبَقُونَا إِلَيْهِ ۚ وَإِذْ لَمْ يَهْتَدُوا بِهِ فَسَيَقُولُونَ هَٰذَا إِفْكٌ قَدِيمٌ ١١

---

1 預言者*ムハンマド*は史上初の預言者*ではなく、過去の預言者*たちと同様の教えを伝える者であった（イブン・ジュザイ 2:332 参照）。

2 家畜章 50「…不可視の世界*も知らない」の訳注も参照。

3 この「証人」には、「ユダヤ教徒*からムスリム*になった教友*イブン・サラームのこと」「ムーサー*」「イスラーイールの子ら*の、ある預言者*」といった解釈がある（アル＝バガウィー4:193-194 参照）。

4 「それと同様のもの」の解釈には、「クルアーン*と同様のもの。つまりクルアーン*の内容を裏づけ、それと一致するトーラー*の一部のこと」「トーラー*と同様、アッラー*の御許からのものであるクルアーン*そのもののこと」（アル＝バイダーウィー5:178 参照）など諸説がある。詩人たち章 197 とその訳注も参照。

5 「それ」とは、クルアーン*、あるいは預言者*ムハンマド*のこと（アッ＝シャウカーニー5:22 参照）。

ない」[1]。そしてそれによって導かれなかったのなら、彼らは（こう）言い続けるであろう。「これは、古いでっち上げだ」。

12. それ（クルアーン*）以前には、（従うべき）指針と（信仰者への）慈悲である、啓典（トーラー*）があった。そしてこれ（クルアーン*）は、（それ以前の啓典を）確証し、アラビア語で下された啓典であり、（不信仰によって自らに）不正*を働いた者たちには警告し、（信仰と服従に）善を尽くす者[2]たちには吉報を伝えるためのものなのである。[3]

وَمِن قَبۡلِهِۦ كِتَٰبُ مُوسَىٰٓ إِمَامٗا وَرَحۡمَةٗۚ
وَهَٰذَا كِتَٰبٞ مُّصَدِّقٞ لِّسَانًا عَرَبِيّٗا لِّيُنذِرَ
ٱلَّذِينَ ظَلَمُواْ وَبُشۡرَىٰ لِلۡمُحۡسِنِينَ ١٢

13. 本当に「我らが主*はアッラー*」と言い、それからまっすぐ歩んだ者[4]たち、彼らには怖れもなければ、悲しむこともない[5]。

إِنَّ ٱلَّذِينَ قَالُواْ رَبُّنَا ٱللَّهُ ثُمَّ ٱسۡتَقَٰمُواْ فَلَا
خَوۡفٌ عَلَيۡهِمۡ وَلَا هُمۡ يَحۡزَنُونَ ١٣

14. それらの者たちは天国の徒。彼らはそこに永遠に留まる。自分たちが（現世で）行っていた（正しい）ことゆえの、報いである。

أُوْلَٰٓئِكَ أَصۡحَٰبُ ٱلۡجَنَّةِ خَٰلِدِينَ فِيهَا جَزَآءَۢ بِمَا
كَانُواْ يَعۡمَلُونَ ١٤

15. われら*は人間に、両親への孝行を命じた。彼女（母親）は、大変な思いで彼を身ごもり、大変な思いで彼を出産したのだから。そしてその妊娠と乳離れ（の期間）は、三十ヶ月。やがて彼は成熟[6]し、四十歳になった時、（こう）言うのだ。「我が主*よ、あなたが私と我が両親に授けて下さった

وَوَصَّيۡنَا ٱلۡإِنسَٰنَ بِوَٰلِدَيۡهِ إِحۡسَٰنًاۖ حَمَلَتۡهُ
أُمُّهُۥ كُرۡهٗا وَوَضَعَتۡهُ كُرۡهٗاۖ وَحَمۡلُهُۥ وَفِصَٰلُهُۥ
ثَلَٰثُونَ شَهۡرًاۚ حَتَّىٰٓ إِذَا بَلَغَ أَشُدَّهُۥ وَبَلَغَ
أَرۡبَعِينَ سَنَةٗ قَالَ رَبِّ أَوۡزِعۡنِيٓ أَنۡ أَشۡكُرَ
نِعۡمَتَكَ ٱلَّتِيٓ أَنۡعَمۡتَ عَلَيَّ وَعَلَىٰ وَٰلِدَيَّ وَأَنۡ
أَعۡمَلَ صَٰلِحٗا تَرۡضَىٰهُ وَأَصۡلِحۡ لِي فِي ذُرِّيَّتِيٓۖ

1 一説に、これは高い地位にあった不信仰者*たちが、社会的に弱い立場にあったムスリム*たちを見下して言った言葉（イブン・カスィール 1:279 参照）。家畜章 53、マルヤム*章 73 とその訳注も参照。

2 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

3 この「警告」と「吉報」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

4 「まっすぐ歩む」については、詳細にされた章 30 の同様の表現についての訳注を参照。

5 「怖れもなければ…」については、雌牛章 38 の訳注を参照。

6 この「成熟」については、巡礼*章 5 の訳注を参照。

إِنِّي تُبۡتُ إِلَيۡكَ وَإِنِّي مِنَ ٱلۡمُسۡلِمِينَ ١٥

あなたの恩恵（おんけい）に、私が感謝できるようにして下さい。また私が、あなたを喜ばせるような正しい行い*を行えるように。そして私のため、我が子孫を正して下さい。本当に私はあなたに悔悟（かいご）したのであり、まさに私は服従（ふくじゅう）した者（ムスリム*）の一人なのですから」。[1]

أُوْلَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ نَتَقَبَّلُ عَنۡهُمۡ أَحۡسَنَ مَا عَمِلُواْ
وَنَتَجَاوَزُ عَن سَيِّـَٔاتِهِمۡ فِيٓ أَصۡحَٰبِ ٱلۡجَنَّةِۖ
وَعۡدَ ٱلصِّدۡقِ ٱلَّذِي كَانُواْ يُوعَدُونَ ١٦

16. それらの者たちは、われら*が彼らの行った最善のものを受け入れ、その悪行は天国の徒と共に見過（みす）ごしてやる者たち。（それは、）彼らが約束されていた、真なる約束。

وَٱلَّذِي قَالَ لِوَٰلِدَيۡهِ أُفّٖ لَّكُمَآ أَتَعِدَانِنِيٓ أَنۡ
أُخۡرَجَ وَقَدۡ خَلَتِ ٱلۡقُرُونُ مِن قَبۡلِي وَهُمَا
يَسۡتَغِيثَانِ ٱللَّهَ وَيۡلَكَ ءَامِنۡ إِنَّ وَعۡدَ ٱللَّهِ حَقّٞ
فَيَقُولُ مَا هَٰذَآ إِلَّآ أَسَٰطِيرُ ٱلۡأَوَّلِينَ ١٧

17. 一方、（アッラー*と復活の信仰へと招（まね）かれれば、）自分の両親に対して「あなた方の呆（あき）れ果（は）てたこと。私以前にも数々の世代が滅（ほろ）び去っ（て、戻（もど）って来ることもなかっ）たというのに、私が（死後、墓（はか）の中から）出されるんですって？」と言う者。彼ら（両親）は、（子供が導（みちび）かれるよう、こう言いながら）アッラー*にご助力を求めているというのに。「お前の災（わざわ）いよ[2]！　信じなさい。本当に（復活という）アッラー*のお約束は、真実なのだから」。それでも、彼は言う。「これは、昔の人々のお伽話（とぎばなし）以外の何ものでもありませんよ」。

أُوْلَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ حَقَّ عَلَيۡهِمُ ٱلۡقَوۡلُ فِيٓ أُمَمٖ قَدۡ خَلَتۡ
مِن قَبۡلِهِم مِّنَ ٱلۡجِنِّ وَٱلۡإِنسِۖ إِنَّهُمۡ كَانُواْ خَٰسِرِينَ ١٨

18. それらの者たちには、ジン*と人間からなる、彼ら以前に滅（ほろ）んだ（不信仰の）民*の一員として（地獄に入るという）御言葉（おことば）が確定したのだ。本当に彼らは、損失（そんしつ）者だったのである。

1 これは親孝行であり続け、人生において最も忙しい時期に到達した時でさえも親孝行を忘れず、親の目の前でも陰（かげ）でも親孝行することが出来ますように、とアッラー*に祈る信仰者の描写であるという（イブン・アーシュール 26:32 参照）。

2 この言い回しについては、食卓章 31「我が災いよ」の訳注を参照。

19. 各人には（復活の日*）、自分たちが（現世で）行ったことゆえ、（アッラー*の御許での）位がある。それは（アッラー*が）その行い（に対する報い）を彼らにふんだんに報われるためであり、彼らは不正*を受けることがない。

وَلِكُلّٖ دَرَجَٰتٞ مِّمَّا عَمِلُواْۖ وَلِيُوَفِّيَهُمۡ أَعۡمَٰلَهُمۡ
وَهُمۡ لَا يُظۡلَمُونَ ١٩

20. 不信仰だった者*たちが、業火に晒される日。（彼らには、こう言われる。）「あなた方は、現世のあなた方の生活における自分たちの善きもの[1]とはおさらばし、それを楽しんだ。だからこの日あなた方は、自分たちが地上で（アッラー*への信仰と服従に反して）不当にも奢り高ぶっていたことと、放逸だったことゆえに、屈辱の罰で報われるのだ」。

وَيَوۡمَ يُعۡرَضُ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ عَلَى ٱلنَّارِ أَذۡهَبۡتُمۡ
طَيِّبَٰتِكُمۡ فِي حَيَاتِكُمُ ٱلدُّنۡيَا وَٱسۡتَمۡتَعۡتُم بِهَا
فَٱلۡيَوۡمَ تُجۡزَوۡنَ عَذَابَ ٱلۡهُونِ بِمَا كُنتُمۡ
تَسۡتَكۡبِرُونَ فِي ٱلۡأَرۡضِ بِغَيۡرِ ٱلۡحَقِّ وَبِمَا
كُنتُمۡ تَفۡسُقُونَ ٢٠

21. アード*の同胞（フード*）を、思い出せ。彼が砂丘[2]で、彼の民に（こう）警告した時のことを——既に数々の警告者が、彼（フード*）の前後に過ぎ去って行ったのである——。「アッラー*以外（何も）崇拝*してはならない。本当に私は、あなた方に、偉大なる（復活の）日*の懲罰を怖れているのだ」。

۞وَٱذۡكُرۡ أَخَا عَادٍ إِذۡ أَنذَرَ قَوۡمَهُۥ بِٱلۡأَحۡقَافِ
وَقَدۡ خَلَتِ ٱلنُّذُرُ مِنۢ بَيۡنِ يَدَيۡهِ وَمِنۡ خَلۡفِهِۦٓ
أَلَّا تَعۡبُدُوٓاْ إِلَّا ٱللَّهَ إِنِّيٓ أَخَافُ عَلَيۡكُمۡ عَذَابَ
يَوۡمٍ عَظِيمٖ ٢١

22. 彼らは言った。「あなたは、私たちを私たちの神々[3]（への崇拝*）から背かせるために、やって来たのか？ では、あなたが約束するもの（懲罰）を、私たちに持って来てみよ[4]。もし、あなたが正直者の類いなのであれば」。

قَالُوٓاْ أَجِئۡتَنَا لِتَأۡفِكَنَا عَنۡ ءَالِهَتِنَا فَأۡتِنَا بِمَا
تَعِدُنَآ إِن كُنتَ مِنَ ٱلصَّٰدِقِينَ ٢٢

---

1 この「善きもの」とは、アッラー*の法に反した形での、欲望や快楽（アル＝クルトゥビー 16:200 参照）。

2 アラビア半島南部の、砂丘が多く連なる地帯とされる（ムヤッサル 505 頁参照）。

3 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

4 家畜章 57-58、戦利品章 32、ユーヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、サード章 16、相談章 18、階段章 1-2 なども参照。

23. 彼（フード*）は言った。「本当に（懲罰が到来する時の）知識はアッラー*の御許にあるのであり、私は自分が携えて遣わされたものを、あなた方に伝えるだけ。しかし私には、（懲罰を急ぐ）あなた方が無知な民に見える」。

قَالَ إِنَّمَا ٱلۡعِلۡمُ عِندَ ٱللَّهِ وَأُبَلِّغُكُم مَّآ أُرۡسِلۡتُ
بِهِۦ وَلَٰكِنِّيٓ أَرَىٰكُمۡ قَوۡمٗا تَجۡهَلُونَ ٢٣

24. こうして、雲の形をしたそれ（懲罰）が自分たちの谷に向かってくるのを見た時、彼らは言った。「これは、私たちに雨を降らしてくれる雲だ」。いや、それは、あなた方が性急に求めていたもの。痛ましい懲罰を運ぶ、風なのである。

فَلَمَّا رَأَوۡهُ عَارِضٗا مُّسۡتَقۡبِلَ أَوۡدِيَتِهِمۡ قَالُواْ
هَٰذَا عَارِضٞ مُّمۡطِرُنَاۚ بَلۡ هُوَ مَا ٱسۡتَعۡجَلۡتُم
بِهِۦۖ رِيحٞ فِيهَا عَذَابٌ أَلِيمٞ ٢٤

25. それはその主*のご命令により、全てのものを破壊する。こうして（彼らの国には、）彼らの住居の外、（何一つ）見えなくなってしまった。同様に、われら*は罪悪者である民に報いるのである。

تُدَمِّرُ كُلَّ شَيۡءِۭ بِأَمۡرِ رَبِّهَا فَأَصۡبَحُواْ لَا يُرَىٰٓ
إِلَّا مَسَٰكِنُهُمۡۚ كَذَٰلِكَ نَجۡزِي ٱلۡقَوۡمَ
ٱلۡمُجۡرِمِينَ ٢٥

26. また（クライシュ族*の不信仰者*たちよ）、われら*は確かに彼ら（アード*の民）を、あなた方を（そこまでは）強力にしなかったほどに、（現世で）強力にした[1]。また、われら*は彼らに聴覚と視覚と心を与えたのに、彼らの聴覚も視覚も心も、彼らを少しも益することはなかった。彼らはアッラー*の（唯一性*を示す）御徴を否定していたのであり、自分たちが嘲笑していたもの（懲罰）が、彼らを包囲したのだ。

وَلَقَدۡ مَكَّنَّٰهُمۡ فِيمَآ إِن مَّكَّنَّٰكُمۡ فِيهِ
وَجَعَلۡنَا لَهُمۡ سَمۡعٗا وَأَبۡصَٰرٗا وَأَفۡـِٔدَةٗ فَمَآ أَغۡنَىٰ
عَنۡهُمۡ سَمۡعُهُمۡ وَلَآ أَبۡصَٰرُهُمۡ وَلَآ أَفۡـِٔدَتُهُم
مِّن شَيۡءٍ إِذۡ كَانُواْ يَجۡحَدُونَ بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِ وَحَاقَ
بِهِم مَّا كَانُواْ بِهِۦ يَسۡتَهۡزِءُونَ ٢٦

1 アッラー*はアード*に対し、クライシュ族*にもお授けにはならなかったような沢山の財産と強靭（きょうじん）な肉体を授けられたが、その不信仰ゆえに滅ぼされた（アッ＝タバリー9:7419 参照）。

27. また（クライシュ族*の不信仰者*たちよ、）われら*は確かに、あなた方の周りの町々（の民）[1]を滅ぼし、（彼らに）御徴を多彩に示した[2]。（それは）彼らが、（不信仰から）戻って来るようにするためである。

وَلَقَدۡ أَهۡلَكۡنَا مَا حَوۡلَكُم مِّنَ ٱلۡقُرَىٰ
وَصَرَّفۡنَا ٱلۡأٓيَٰتِ لَعَلَّهُمۡ يَرۡجِعُونَ ٢٧

28. そして彼らがアッラー*をよそに、（その崇拝*がアッラー*へと）近づけてくれるもの、つまり神々[3]としていた者たちは、どうして（彼らが必要としている時、）彼らを助けなかったのか？ いや、それら（神々とされたものたち）は、彼ら（シルク*の徒）から、消え去ってしまったのである。それ（シルク*）は彼らのでっち上げであり、彼らが捏造していたものだったのだ。

فَلَوۡلَا نَصَرَهُمُ ٱلَّذِينَ ٱتَّخَذُواْ مِن دُونِ
ٱللَّهِ قُرۡبَانًا ءَالِهَةَۢۖ بَلۡ ضَلُّواْ عَنۡهُمۡۚ وَذَٰلِكَ
إِفۡكُهُمۡ وَمَا كَانُواْ يَفۡتَرُونَ ٢٨

29. （使徒*よ、）われら*があなたへと、クルアーン*に耳を傾けるジン*の集団を送った時のこと（を、思い出させよ）。彼らは、彼（使徒*）のもとにやって来た時、（互いに）言った。「（クルアーン*の読誦を、）傾聴せよ」。そして（読誦が）済むと、彼らは（不信仰者*への懲罰に対する）警告者となって、自分たちの民へと帰って行った。[4]

وَإِذۡ صَرَفۡنَآ إِلَيۡكَ نَفَرٗا مِّنَ ٱلۡجِنِّ يَسۡتَمِعُونَ
ٱلۡقُرۡءَانَ فَلَمَّا حَضَرُوهُ قَالُوٓاْ أَنصِتُواْۖ
فَلَمَّا قُضِيَ وَلَّوۡاْ إِلَىٰ قَوۡمِهِم مُّنذِرِينَ ٢٩

---

1 遣わされた使徒*を嘘つき呼ばわりして滅ぼされた、アード*、サムード*、サバア（サバア章、冒頭の訳注を参照）、マドゥヤン*、ルート*の民などのこと（イブン・カスィール 7:288 参照）。

2 証拠、譬（たと）え、訓戒、教示を様々な形で、くり返し示した、ということ（アル＝ジャザーイリー5:63 参照）。

3 「神々」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

4 イブン・カスィール*によれば、ジン*が預言者*のクルアーン*読誦を聞いたことに関する伝承は、多様な形で数多く存在しており、そのような出来事が起きたのは一度だけではないことを示している（7:296 参照）。

30. 彼らは言った。「我らが民よ、本当に私たちは、ムーサー*の後に下された、それ以前のものを確証する啓典（けいてん）を聞いたのだ。それは真理へと導（みちび）き、まっすぐな道へと導（みちび）くのである。

قَالُوا۟ يَٰقَوْمَنَآ إِنَّا سَمِعْنَا كِتَٰبًا أُنزِلَ مِنۢ
بَعْدِ مُوسَىٰ مُصَدِّقًا لِّمَا بَيْنَ يَدَيْهِ يَهْدِىٓ
إِلَى ٱلْحَقِّ وَإِلَىٰ طَرِيقٍ مُّسْتَقِيمٍ ٣٠

31. 我らが民よ、アッラー*の招（まね）き手（預言者（よげんしゃ）*ムハンマド*）に応（こた）え、彼を信じよ。かれ（アッラー*）はあなた方のためにその罪（つみ）の一部をお赦（ゆる）しになり、あなた方を痛ましい懲罰（ちょうばつ）からお守り下さろう。

يَٰقَوْمَنَآ أَجِيبُوا۟ دَاعِىَ ٱللَّهِ وَءَامِنُوا۟ بِهِۦ
يَغْفِرْ لَكُم مِّن ذُنُوبِكُمْ وَيُجِرْكُم مِّنْ عَذَابٍ
أَلِيمٍ ٣١

32. そしてアッラー*の招（まね）き手に応じなかった者は、地上で（アッラー*の懲罰（ちょうばつ）から）逃（のが）れられる者ではない。また、その者にはかれ（アッラー*）以外、庇護（ひご）者などないのだ。それらの者たちは、明らかな迷いの中にある」。

وَمَن لَّا يُجِبْ دَاعِىَ ٱللَّهِ فَلَيْسَ بِمُعْجِزٍ فِى
ٱلْأَرْضِ وَلَيْسَ لَهُۥ مِن دُونِهِۦٓ أَوْلِيَآءُ ۚ أُو۟لَٰٓئِكَ
فِى ضَلَٰلٍ مُّبِينٍ ٣٢

33. 一体、彼らは諸天と大地をお創りになり、その創造（そうぞう）が不可能ではなかったお方（アッラー*）が、死人に生を与えることがお出来なのを知らなかったのか？ いや、本当にかれは、全てのことがお出来のお方。

أَوَلَمْ يَرَوْا۟ أَنَّ ٱللَّهَ ٱلَّذِى خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ
وَٱلْأَرْضَ وَلَمْ يَعْىَ بِخَلْقِهِنَّ بِقَٰدِرٍ عَلَىٰٓ أَن
يُحْـِۧىَ ٱلْمَوْتَىٰ ۚ بَلَىٰٓ إِنَّهُۥ عَلَىٰ كُلِّ شَىْءٍ قَدِيرٌ ٣٣

34. 不信仰だった者*たちが、業火（ごうか）に晒（さら）される（復活の）日*。（彼らには、こう言われる）「一体、これ[1]は真実ではないのか？」彼らは言う。「我らが主（しゅ）*にかけて、確かにそうです」。かれは仰（おお）せられる。「では、あなた方が（現世で地獄の懲罰（ちょうばつ）を）否定していたことゆえに、懲罰（ちょうばつ）を味わうがよい」。

وَيَوْمَ يُعْرَضُ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ عَلَى ٱلنَّارِ أَلَيْسَ هَٰذَا
بِٱلْحَقِّ ۖ قَالُوا۟ بَلَىٰ وَرَبِّنَا ۚ قَالَ فَذُوقُوا۟ ٱلْعَذَابَ
بِمَا كُنتُمْ تَكْفُرُونَ ٣٤

1 地獄の懲罰のこと（ムヤッサル 506 頁参照）。

35. ならば（使徒*よ）、使徒*たちの内の決然とした者たち[1]が忍耐*したごとく、忍耐*せよ。そして、彼らに（懲罰が降りかかるのを）性急に求めるのではない。自分たちが約束されているもの（懲罰）を目の当たりにする日、彼らは（現世で）あたかも昼の一時しか過ごさなかったかのようなのだから[2]。（これこそは、）伝達だ。そして放逸な民以外に、（懲罰で）滅ぼされることなどあろうか？

فَٱصۡبِرۡ كَمَا صَبَرَ أُوْلُواْ ٱلۡعَزۡمِ مِنَ ٱلرُّسُلِ وَلَا
تَسۡتَعۡجِل لَّهُمۡۚ كَأَنَّهُمۡ يَوۡمَ يَرَوۡنَ مَا يُوعَدُونَ
لَمۡ يَلۡبَثُوٓاْ إِلَّا سَاعَةٗ مِّن نَّهَارِۭۚ بَلَٰغٞۚ فَهَلۡ
يُهۡلَكُ إِلَّا ٱلۡقَوۡمُ ٱلۡفَٰسِقُونَ ٣٥

1 「決然とした者たち」については、部族連合章 7 の訳注を参照。

2 ユーヌス*章 45 とその訳注、及びター・ハー章 103、信仰者たち章 113-114、ビザンチン章 55、引き離すもの章 46 も参照。

第 47 章

ムハンマド*章[1]

سُورَةُ مُحَمَّدٍ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 不信仰であり、アッラー*の道から（人々）を阻んだ者たち、かれ（アッラー*）は彼らの行いを無に帰させ給う。

ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ وَصَدُّواْ عَن سَبِيلِ ٱللَّهِ أَضَلَّ أَعۡمَٰلَهُمۡ ١

2. そしてかれは、信仰し、正しい行い*を行い、ムハンマド*に下されたもの——それは彼らの主*からの真実——を信じる者たちの悪行を帳消しにされ、（現世と来世における）彼らの諸事を正される。

وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ وَءَامَنُواْ بِمَا نُزِّلَ عَلَىٰ مُحَمَّدٖ وَهُوَ ٱلۡحَقُّ مِن رَّبِّهِمۡ كَفَّرَ عَنۡهُمۡ سَيِّـَٔاتِهِمۡ وَأَصۡلَحَ بَالَهُمۡ ٢

3. それというのも、不信仰に陥った者*たちは虚妄に従い、信仰する者たちはその主*からの真実に従うためである。このようにアッラー*は、彼らの様を人々に示される。

ذَٰلِكَ بِأَنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ ٱتَّبَعُواْ ٱلۡبَٰطِلَ وَأَنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ ٱتَّبَعُواْ ٱلۡحَقَّ مِن رَّبِّهِمۡۚ كَذَٰلِكَ يَضۡرِبُ ٱللَّهُ لِلنَّاسِ أَمۡثَٰلَهُمۡ ٣

4. ゆえに（信仰者たちよ）、あなた方が不信仰に陥った者*たちと（戦場で）会ったならば、首への打撃を（食らわせよ）。やがて、あなた方が彼らを徹底的に痛めつけたならば、戦争が幕を引くまで（捕虜に）綱を縛りつけ、後に情けをかけて（無償で解放して）やるか、身代金（を受け取って解放する）か（、するのだ）[2]。（事は、）そうなので

فَإِذَا لَقِيتُمُ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ فَضَرۡبَ ٱلرِّقَابِ حَتَّىٰٓ إِذَآ أَثۡخَنتُمُوهُمۡ فَشُدُّواْ ٱلۡوَثَاقَ فَإِمَّا مَنَّۢا بَعۡدُ وَإِمَّا فِدَآءً حَتَّىٰ تَضَعَ ٱلۡحَرۡبُ أَوۡزَارَهَاۚ ذَٰلِكَۖ وَلَوۡ يَشَآءُ ٱللَّهُ لَٱنتَصَرَ مِنۡهُمۡ وَلَٰكِن لِّيَبۡلُوَاْ بَعۡضَكُم بِبَعۡضٖۗ وَٱلَّذِينَ قُتِلُواْ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ فَلَن يُضِلَّ أَعۡمَٰلَهُمۡ ٤

---

1 マディーナ*啓示で、学者間の意見はほぼ一致。スーラ*名は、アーヤ*2 に出現する預言者*ムハンマド*の名に由来。アッラー*を否定し、イスラーム*を阻止（そし）しようとするシルク*の徒との戦いへと、ムスリム*たちを力強い調子で促（うなが）す。勝利の要因、過去の不信仰者*たちの結末、来世における信仰者と天国の様子、偽（にせ）信者*らの描写も、その流れの中で登場するもの。

2 捕虜はこのほか、「死刑」「奴隷*にする」などという選択肢もある（法学派によって相違の見解あり）が、いずれもその決定権は、イスラーム*国家の統治者、あるいはその代理人に属する（クウェイト法学大全 4：200-201）。アーヤ*20「戦いの命令」についての訳注、および戦利品*章 67-68 とその訳注も参照。

ある。そしてアッラー*がお望みであったなら、（信仰者たちを、戦いなしで）彼ら（不信仰者*たち）に勝利させられただろう。だが（戦いが定められたのは）、あなた方の一方を別の一方で試練[1]におかけになるため。かれ（アッラー*）は、アッラー*の道において殺された（信仰）者たちの行い（に対する報い）を、無に帰させ給わない。

5. かれ（アッラー*）は、彼らを導かれ、その諸事を正して下さろう。

سَيَهۡدِيهِمۡ وَيُصۡلِحُ بَالَهُمۡ ٥

6. そして彼らを、天国に入れて下さる。かれはそれを、彼らにご教示されたのだ[2]。

وَيُدۡخِلُهُمُ ٱلۡجَنَّةَ عَرَّفَهَا لَهُمۡ ٦

7. 信仰する者たちよ、もしあなた方がアッラー*（の宗教）を援助[3]するならば、かれ（アッラー*）はあなた方を援助され、（戦いにおいて）あなた方の足を堅固にして下さろう。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِن تَنصُرُواْ ٱللَّهَ يَنصُرۡكُمۡ وَيُثَبِّتۡ أَقۡدَامَكُمۡ ٧

8. 不信仰に陥った者*たち、彼らには没落があり、かれ（アッラー*）はその行いを無に帰させ給う。

وَٱلَّذِينَ كَفَرُواْ فَتَعۡسٗا لَّهُمۡ وَأَضَلَّ أَعۡمَٰلَهُمۡ ٨

9. それというのも、彼らがアッラー*が下されたもの（クルアーン*）を嫌ったためである。それでかれ（アッラー*）は、彼らの行いを台無しにされたのだ。

ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمۡ كَرِهُواْ مَآ أَنزَلَ ٱللَّهُ فَأَحۡبَطَ أَعۡمَٰلَهُمۡ ٩

1 「試練」については、雌牛章 214、イムラーン家章 186、悔悟章 16、洞窟章 7、蜘蛛章 2、王権章 2 とそれらの訳注も参照。

2 大半の解釈学者の見解では、「天国での各人の居場所を、ご教示された」という意味（アル＝クルトゥビー16:231 参照）。

3 「アッラー*（の宗教）の援助」とは、アッラー*の道において戦い、その啓典によって裁決を下し、かれのご命令を守り、禁じられたものを避（さ）けること（ムヤッサル 507 頁参照）。

10. 一体、彼ら（不信仰者*たち）は地上を旅して、彼ら以前の（不信仰）者*たちの結末が、どのようなものであったかを見なかったのか？ アッラー*は彼らに対して破壊し尽くし給うたのであり、不信仰者*たちには（彼らを襲ったのと）同様のものがある。

۞أَفَلَمۡ يَسِيرُواْ فِي ٱلۡأَرۡضِ فَيَنظُرُواْ كَيۡفَ كَانَ
عَٰقِبَةُ ٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِهِمۡۖ دَمَّرَ ٱللَّهُ عَلَيۡهِمۡۖ
وَلِلۡكَٰفِرِينَ أَمۡثَٰلُهَا ١٠

11. それというのも、アッラー*こそが信仰する者たちの庇護者*であり、不信仰者*たちには庇護者などないからなのだ。

ذَٰلِكَ بِأَنَّ ٱللَّهَ مَوۡلَى ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَأَنَّ
ٱلۡكَٰفِرِينَ لَا مَوۡلَىٰ لَهُمۡ ١١

12. 本当にアッラー*は、信仰し、正しい行い*を行う者たちを、その下から河川が流れる楽園に入れて下さる。一方、不信仰に陥った者*たちは（現世を）楽しみ、まるで家畜が食べるように（ひたすら）食べている。（地獄の）業火が、彼らの住処なのだ。

إِنَّ ٱللَّهَ يُدۡخِلُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
جَنَّٰتٖ تَجۡرِي مِن تَحۡتِهَا ٱلۡأَنۡهَٰرُۖ وَٱلَّذِينَ كَفَرُواْ
يَتَمَتَّعُونَ وَيَأۡكُلُونَ كَمَا تَأۡكُلُ ٱلۡأَنۡعَٰمُ وَٱلنَّارُ
مَثۡوٗى لَّهُمۡ ١٢

13. （使徒*よ、）われら*は、あなたを追い出した、あなたの町（マッカ*）よりも強力な町（の民）を、一体どれだけ滅ぼしたことか？ そして彼らには、いかなる援助者もなかったのだ。

وَكَأَيِّن مِّن قَرۡيَةٍ هِيَ أَشَدُّ قُوَّةٗ مِّن قَرۡيَتِكَ ٱلَّتِيٓ
أَخۡرَجَتۡكَ أَهۡلَكۡنَٰهُمۡ فَلَا نَاصِرَ لَهُمۡ ١٣

14. その主*の御許からの明証に依拠する者は、（シャイターン*によって）自分の悪行が目映く見せられ、自分たちの欲望[1]に従う者と同様であろうか？

أَفَمَن كَانَ عَلَىٰ بَيِّنَةٖ مِّن رَّبِّهِۦ كَمَن زُيِّنَ لَهُۥ سُوٓءُ
عَمَلِهِۦ وَٱتَّبَعُوٓاْ أَهۡوَآءَهُم ١٤

15. 敬虔な*者たちに約束された天国の様子（とは、このようなもの）：そこには、濁ることのない水の河川、その味わいが変わらない乳の河川、飲む者にとって美味な酒の河川、純粋な蜂蜜の河川がある。また、そこには彼らのためにあらゆる果実と、彼らの

مَّثَلُ ٱلۡجَنَّةِ ٱلَّتِي وُعِدَ ٱلۡمُتَّقُونَۖ فِيهَآ أَنۡهَٰرٞ مِّن مَّآءٍ
غَيۡرِ ءَاسِنٖ وَأَنۡهَٰرٞ مِّن لَّبَنٖ لَّمۡ يَتَغَيَّرۡ طَعۡمُهُۥ وَأَنۡهَٰرٞ
مِّنۡ خَمۡرٖ لَّذَّةٖ لِّلشَّٰرِبِينَ وَأَنۡهَٰرٞ مِّنۡ عَسَلٖ مُّصَفّٗىۖ
وَلَهُمۡ فِيهَا مِن كُلِّ ٱلثَّمَرَٰتِ وَمَغۡفِرَةٞ مِّن رَّبِّهِمۡۖ
كَمَنۡ هُوَ خَٰلِدٞ فِي ٱلنَّارِ وَسُقُواْ مَآءً حَمِيمٗا فَقَطَّعَ

---

1 この「欲望」は、シルク*を始めとした罪のこと（ムヤッサル 508 頁参照）。

主からの（罪の）お赦しがある。（一体、この天国の中にある者は、）業火に永遠に留まり、煮えたぎる湯を飲ませられて腸が散り散りになってしまう者と、同様であろうか？

أَمۡعَآءَهُمۡ ١٥

16. （預言者*よ、）彼ら（偽信者*たち）の内には、（理解することなく、ふざけ半分で）あなたに耳を傾ける者もいる。挙げ句、彼らはあなたのもとから出て行くと、（啓典の）知識を授けられた者たちに（、嘲笑してこう）言うのだ。「今、彼（ムハンマド*）は何を語ったのか？」アッラー*は、それらの者たちの心を（真理の理解から）塞がれた[1]のであり、彼らは（不信仰と迷妄において）自分たちの欲望に従ったのである。

وَمِنۡهُم مَّن يَسۡتَمِعُ إِلَيۡكَ حَتَّىٰٓ إِذَا خَرَجُواْ مِنۡ
عِندِكَ قَالُواْ لِلَّذِينَ أُوتُواْ ٱلۡعِلۡمَ مَاذَا قَالَ ءَانِفًاۚ
أُوْلَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ طَبَعَ ٱللَّهُ عَلَىٰ قُلُوبِهِمۡ وَٱتَّبَعُوٓاْ
أَهۡوَآءَهُمۡ ١٦

17. 一方、導かれた者たち[2]はといえば、かれ（アッラー*）から導きを上乗せされ、敬虔さを授けられる。

وَٱلَّذِينَ ٱهۡتَدَوۡاْ زَادَهُمۡ هُدٗى وَءَاتَىٰهُمۡ
تَقۡوَىٰهُمۡ ١٧

18. 彼ら（真理を嘘呼ばわりする者たち）は、（復活の）その時が自分たちのもとに突然やって来るのを、待っているだけなのか？　その予兆[3]は、確かに到来したというのに。彼らのもとに（復活の時が）訪れた時、どうして彼らの教訓（に益）があろうか？[4]

فَهَلۡ يَنظُرُونَ إِلَّا ٱلسَّاعَةَ أَن تَأۡتِيَهُم بَغۡتَةٗۖ
فَقَدۡ جَآءَ أَشۡرَاطُهَاۚ فَأَنَّىٰ لَهُمۡ إِذَا جَآءَتۡهُمۡ
ذِكۡرَىٰهُمۡ ١٨

1　「心を塞がれた」については、雌牛章 7 の訳注を参照。

2　つまり、「導き」を求めた者たち（イブン・カスィール 7:315 参照）。

3　預言者*ムハンマド*の到来は、復活の日*の予兆の一つ（前掲書、同頁参照）。蜜蜂章 1 の訳注も参照。

4　復活の日*が到来した時、彼らは教訓を受け、信仰する。しかしその日、信仰が役立つことはない（アッ＝シャンキーティー7:255 参照）。家畜章 158 とその訳注も参照。

19. ならば（預言者*よ）、アッラー*の外には（真に）崇拝*されるべき何ものもないことを知り、自分の罪のお赦しを乞うのだ。そして男の信仰者たちと、女の信仰者たちのためにも（罪の赦しを乞え）。アッラー*はあなた方の動作も、あなた方の住処[1]もご存知であられる。

فَٱعۡلَمۡ أَنَّهُۥ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا ٱللَّهُ وَٱسۡتَغۡفِرۡ
لِذَنۢبِكَ وَلِلۡمُؤۡمِنِينَ وَٱلۡمُؤۡمِنَٰتِۗ وَٱللَّهُ
يَعۡلَمُ مُتَقَلَّبَكُمۡ وَمَثۡوَىٰكُمۡ ١٩

20. 信仰する者たちは、言う。「どうして、（私たちに不信仰者*たちとの戦いを命じる）スーラ*が下されないのですか？」そして明確なスーラ*が下され、そこで戦い（の命令[2]）が言及された時、（預言者*よ、）あなたは心に病がある者[3]たちが、死（の恐怖）ゆえに気絶する者の視線で、あなたを凝視するのを目にする。彼らには先決であるのに、[4]

وَيَقُولُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ لَوۡلَا نُزِّلَتۡ سُورَةٞۖ فَإِذَآ
أُنزِلَتۡ سُورَةٞ مُّحۡكَمَةٞ وَذُكِرَ فِيهَا ٱلۡقِتَالُ
رَأَيۡتَ ٱلَّذِينَ فِي قُلُوبِهِم مَّرَضٞ يَنظُرُونَ إِلَيۡكَ
نَظَرَ ٱلۡمَغۡشِيِّ عَلَيۡهِ مِنَ ٱلۡمَوۡتِۖ فَأَوۡلَىٰ لَهُمۡ ٢٠

21. （アッラー*への）服従と、適切な言葉[5]が。（不信仰者*との戦いという）ご命令が決定した時、彼らがアッラー*に正直だったなら、それが彼らにとってより善いことであったのだ。

طَاعَةٞ وَقَوۡلٞ مَّعۡرُوفٞۚ فَإِذَا عَزَمَ ٱلۡأَمۡرُ فَلَوۡ
صَدَقُواْ ٱللَّهَ لَكَانَ خَيۡرٗا لَّهُمۡ ٢١

22. あなた方は、もし（イスラーム*の教えから）背を向けたら、地上で腐敗*を働いたり、自分たちの近親関係を断絶したりするのではないか？

فَهَلۡ عَسَيۡتُمۡ إِن تَوَلَّيۡتُمۡ أَن تُفۡسِدُواْ فِي
ٱلۡأَرۡضِ وَتُقَطِّعُوٓاْ أَرۡحَامَكُمۡ ٢٢

---

1 この「動作」と「住処」の解釈には、それぞれ「現世における行動と、来世における行き先」「昼間の行動と、夜の寝場所」「父親の精巣から母親の子宮への移動、地上での居住地」などといった諸説がある（アル＝バガウィー4:215 参照）。

2 「戦いの命令」については、雌牛章 190、悔悟章 36 とその訳注も参照。

3 アッラー*の宗教に対して疑念のある者や、偽信者のこと（ムヤッサル 509 頁参照）。

4 「彼らには先決である」ではなく、「彼らにもっと（破滅が）近づくよう」という解釈もある。その場合、次のアーヤ*冒頭は「…が（、彼らにはより善い）」という意味（アル＝バイダーウィー5:194 参照）。

5 「適切な言葉」とは、イスラーム*の教えに沿った言葉のこと（ムヤッサル 509 頁参照）。

23. それらの者たちは、アッラー*が呪われ[1]、聾にされ、その眼を盲目にされた[2]者たち。

أُوْلَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ لَعَنَهُمُ ٱللَّهُ فَأَصَمَّهُمْ وَأَعْمَىٰٓ
أَبْصَٰرَهُمْ ٢٣

24. 一体、彼ら（偽信者*たち）は、クルアーン*を熟慮しないのか？　いや、心に錠がかけられているのだ。

أَفَلَا يَتَدَبَّرُونَ ٱلْقُرْءَانَ أَمْ عَلَىٰ قُلُوبٍ أَقْفَالُهَآ ٢٤

25. 本当に、導きが明らかにされた後に及んで、背中を向けて（不信仰へと）退いた者たちに、シャイターン*は（彼らの過ちを）目映く見せ、彼らに（欺きの願望を）長引かせた[3]のだ。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ٱرْتَدُّواْ عَلَىٰٓ أَدْبَٰرِهِم مِّنۢ بَعْدِ
مَا تَبَيَّنَ لَهُمُ ٱلْهُدَى ٱلشَّيْطَٰنُ سَوَّلَ
لَهُمْ وَأَمْلَىٰ لَهُمْ ٢٥

26. それというのも彼らが、アッラー*が下されたものを嫌った者たちに対し、（こう）言った[4]からである。「私たちはいくつかの事において、あなた方に従おう」。アッラー*は、彼らの秘密をご存知だというのに。

ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمْ قَالُواْ لِلَّذِينَ كَرِهُواْ مَا
نَزَّلَ ٱللَّهُ سَنُطِيعُكُمْ فِى بَعْضِ ٱلْأَمْرِ ۖ
وَٱللَّهُ يَعْلَمُ إِسْرَارَهُمْ ٢٦

27. では、天使*たちがその顔と背中を殴りつけつつ、彼ら（の魂）を取り上げる時（の状況）は、いかなるものとなろうか？[5]

فَكَيْفَ إِذَا تَوَفَّتْهُمُ ٱلْمَلَٰٓئِكَةُ
يَضْرِبُونَ وُجُوهَهُمْ وَأَدْبَٰرَهُمْ ٢٧

28. それというのも彼らは、アッラー*を激怒させることに従い、かれのご満悦を嫌ったからなのだ。それでかれ（アッラー*）は、彼らの行い（の褒美）を台無しにされたのである。

ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمُ ٱتَّبَعُواْ مَآ أَسْخَطَ ٱللَّهَ
وَكَرِهُواْ رِضْوَٰنَهُۥ فَأَحْبَطَ أَعْمَٰلَهُمْ ٢٨

29. いや、心の中に病がある者たちは、アッラー*が彼らの（イスラーム*とムスリム*に対する）憎悪を（信仰者たちの眼前に）引き出されないとでも思い込んでいたのか？

أَمْ حَسِبَ ٱلَّذِينَ فِى قُلُوبِهِم مَّرَضٌ أَن لَّن
يُخْرِجَ ٱللَّهُ أَضْغَٰنَهُمْ ٢٩

---

1 「アッラー*の呪い」については、雌牛章 88 の訳注を参照。

2 「聾」「盲目」については、雌牛章 7、18、フード*章 20 とその訳注も参照。

3 婦人章 120 も参照。

4 この言葉を誰が誰に言ったかについては、「偽信者*たちが、シルク*の徒に言った」「偽信者*たちが、ユダヤ教徒*に言った」「その逆」という説がある（アッ＝シャウカーニー5:51 参照）。

5 この様子については、家畜章 93、戦利品*章 50 とそれらの訳注を参照。

30. そして（預言者*よ）、もしわれら*が望めば、われら*はあなたに彼らを（特定して）見せ、あなたは必ずや彼らをその特徴で知るであろう。また、あなたは必ずや（彼らの意図が見え隠れする）含みを持たせた言葉によって、彼らを知るのだ。アッラー*は、あなた方の行いをご存知である。

وَلَوۡ نَشَآءُ لَأَرَيۡنَٰكَهُمۡ فَلَعَرَفۡتَهُم
بِسِيمَٰهُمۡۚ وَلَتَعۡرِفَنَّهُمۡ فِي لَحۡنِ ٱلۡقَوۡلِۚ
وَٱللَّهُ يَعۡلَمُ أَعۡمَٰلَكُمۡ ٣٠

31. また（信仰者たちよ）、われら*は必ずや、あなた方を試練[1]にかける。われら*が、あなた方の内の努力奮闘する者たちと、忍耐*ある者たちを如実に表し、あなた方の消息[2]を試すために。

وَلَنَبۡلُوَنَّكُمۡ حَتَّىٰ نَعۡلَمَ ٱلۡمُجَٰهِدِينَ مِنكُمۡ
وَٱلصَّٰبِرِينَ وَنَبۡلُوَاْ أَخۡبَارَكُمۡ ٣١

32. 本当に不信仰であり、アッラー*の道から（人々を）阻み、自分たちに導きが明らかになった後に使徒*に歯向かった者たちは、少しもアッラー*（の宗教）を害することなどない。そしてかれ（アッラー*）はいずれ、彼らの行いを台無しにされるのである。

إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ وَصَدُّواْ عَن سَبِيلِ ٱللَّهِ
وَشَآقُّواْ ٱلرَّسُولَ مِنۢ بَعۡدِ مَا تَبَيَّنَ لَهُمُ
ٱلۡهُدَىٰ لَن يَضُرُّواْ ٱللَّهَ شَيۡـٔٗا وَسَيُحۡبِطُ
أَعۡمَٰلَهُمۡ ٣٢

33. 信仰する者たちよ、アッラー*に従い、使徒*に従え。そしてあなた方の行いを、（不信仰や罪で）無駄にしてはならない。

۞يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ أَطِيعُواْ ٱللَّهَ
وَأَطِيعُواْ ٱلرَّسُولَ وَلَا تُبۡطِلُوٓاْ أَعۡمَٰلَكُمۡ ٣٣

34. 本当に不信仰であり、アッラー*の道から（人々を）阻み、それから不信仰者*のまま死んだ者たちを、アッラー*がお赦しになることはないのだ。

إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ وَصَدُّواْ عَن سَبِيلِ ٱللَّهِ ثُمَّ
مَاتُواْ وَهُمۡ كُفَّارٞ فَلَن يَغۡفِرَ ٱللَّهُ لَهُمۡ ٣٤

---

1 「試練」については、雌牛章 214、イムラーン家章 186、悔悟章 16、洞窟章 7、蜘蛛章 2、王権章 2 とそれらの訳注も参照。

2 この「消息」の解釈については、「あなた方の行いについて、それが善いものだったか、あるいは悪いものだったか、知らせるもの」「信仰心と信仰者たちへの愛情において、それが誠実だったか、嘘だったかを知らせるもの」といった諸説がある（アル＝バイダーウィー 5:196 参照）。

35. ならば（信仰者たちよ）、あなた方が優位者であるというのに、弱気になったり、講和へと呼びかけたりしてはならない[1]。アッラー*は（その勝利と援助によって）、あなた方と共にあり、あなた方の行い（の褒美）を減らしたりはされないのだ。

فَلَا تَهِنُواْ وَتَدۡعُوٓاْ إِلَى ٱلسَّلۡمِ وَأَنتُمُ ٱلۡأَعۡلَوۡنَ
وَٱللَّهُ مَعَكُمۡ وَلَن يَتِرَكُمۡ أَعۡمَٰلَكُمۡ ٣٥

36. 現世の生活とは、遊興と戯れに過ぎない[2]。もし、あなた方が信仰し、（アッラー*を）畏れる*なら、かれはあなた方にその褒美を授けられる。そして、あなた方の財産を（浄財*として、全て）要求されることはない。

إِنَّمَا ٱلۡحَيَوٰةُ ٱلدُّنۡيَا لَعِبٞ وَلَهۡوٞۚ وَإِن تُؤۡمِنُواْ
وَتَتَّقُواْ يُؤۡتِكُمۡ أُجُورَكُمۡ وَلَا يَسۡـَٔلۡكُمۡ
أَمۡوَٰلَكُمۡ ٣٦

37. もし、かれ（アッラー*）がそれをあなた方に要求され、あなた方を無理強いさせられるならば、あなた方は出し惜しみし、かれはあなた方の憎悪を引き出されるであろう。

إِن يَسۡـَٔلۡكُمُوهَا فَيُحۡفِكُمۡ تَبۡخَلُواْ وَيُخۡرِجۡ
أَضۡغَٰنَكُمۡ ٣٧

38. ほら、（信仰者たちよ、）あなた方という人たちは、アッラー*の道において出費することへと招かれているのに、あなた方の内には出し惜しみする者がいる。出し惜しみする者は誰でも、自分自身に出し惜しみしているに外ならない[3]。アッラー*が満ち足りた*お方なのであり、あなた方が貧しい者たちなのだ。そして、もしあなた方が（アッラー*への信仰と服従に）背を向けるなら、かれ（アッラー*）はあなた方ではない別の民と（あなた方を）交換され、それから彼らはあなた方のように（アッラー*に不服従に）なることもないであろう。

هَٰٓأَنتُمۡ هَٰٓؤُلَآءِ تُدۡعَوۡنَ لِتُنفِقُواْ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ
فَمِنكُم مَّن يَبۡخَلُۖ وَمَن يَبۡخَلۡ فَإِنَّمَا يَبۡخَلُ
عَن نَّفۡسِهِۦۚ وَٱللَّهُ ٱلۡغَنِيُّ وَأَنتُمُ ٱلۡفُقَرَآءُۚ
وَإِن تَتَوَلَّوۡاْ يَسۡتَبۡدِلۡ قَوۡمًا غَيۡرَكُمۡ ثُمَّ لَا
يَكُونُوٓاْ أَمۡثَٰلَكُم ٣٨

---

1 「不信仰者*との講和」については、不信仰者*の方から講和を申し入れてきた時には、それを受け入れるのも可能。戦利品*章 61 も参照（アッ＝シャンキーティー7:390 参照）。

2 家畜章 32 の訳注も参照。

3 というのも彼らはそうすることで、自分たちにアッラー*からの褒美を禁じ、多くの善を取り損ねたからである（アッ＝サァディー790 頁参照）。

第 48 章
勝利章（アル＝ファトゥフ）[1]

سُورَةُ الفَتۡحِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. （使徒*よ、）本当にわれら*はあなたに、明白なる勝利で勝利させた。[2]

إِنَّا فَتَحۡنَا لَكَ فَتۡحٗا مُّبِينٗا ١

2. （それは）アッラー*があなたのために、あなたの罪の内、先んじたものと後から生じたもの[3]をお赦しになり、あなたの上にその恩恵を全うされ、あなたをまっすぐな道へと導かれるため。

لِّيَغۡفِرَ لَكَ ٱللَّهُ مَا تَقَدَّمَ مِن ذَنۢبِكَ وَمَا تَأَخَّرَ وَيُتِمَّ نِعۡمَتَهُۥ عَلَيۡكَ وَيَهۡدِيَكَ صِرَٰطٗا مُّسۡتَقِيمٗا ٢

3. また、あなたを、この上ない援助で援助されるため。

وَيَنصُرَكَ ٱللَّهُ نَصۡرًا عَزِيزًا ٣

4. かれ（アッラー*）は信仰者たちの心に、その信仰心の上に更なる信仰心を上乗せすべく、静寂を下された[4]お方。そしてアッラー*にこそ、諸天と大地の軍勢は属する。アッ

هُوَ ٱلَّذِيٓ أَنزَلَ ٱلسَّكِينَةَ فِي قُلُوبِ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ لِيَزۡدَادُوٓاْ إِيمَٰنٗا مَّعَ إِيمَٰنِهِمۡۗ وَلِلَّهِ جُنُودُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۚ وَكَانَ ٱللَّهُ عَلِيمًا حَكِيمًا ٤

---

1 マディーナ*啓示。ムスリム*側にとっては一見不利に見えるフダイビーヤの和議*の後、啓示される。スーラ*名の由来は、スーラ*冒頭、そしてその後も繰り返される「勝利」という言葉（アーヤ*1、18、27 参照）による。また一方で、アッラー*の道における戦いへの誘い、あらゆる局面で従順（じゅうじゅん）な信仰者たちの賛美、それと対照的に不従順なベドウィンや偽信者*らへの非難も描写される。

2 大多数の解釈学者によれば、この「勝利」は、フダイビーヤの和議*のこと（アッ＝シャウカーニー5: 59 参照）。その他「マッカ開城*」「ローマ帝国、その他の征服」「イスラーム*の勝利」などの諸説もあるが、いずれにせよ、それらは全て実現した（アル＝カースィミー15:5395 参照）。

3 罪の内で「先んじたもの」「後から生じたもの」の解釈には、それぞれ「使徒*となった時以前のものと、以後のもの」「使徒*となった時以前のものと、それからこのアーヤ*が下る時までのもの」「使徒*となった時以前のものと、将来の全ての罪」など、数多くの説がある（アル＝クルトゥビー16:262 参照）。尚、預言者*や使徒*の無謬（むびゅう）性については、雌牛章 36 の訳注を参照。

4 これはアッラー*とその使徒*の決定に従（したが）った、フダイビーヤの和議*の日の教友*たちの描写とされる（イブン・カスィール 7:328 参照）。

ラー*はもとより、全知者、英知あふれる*お方であられる。

5. 信仰者の男たちと、信仰者の女たちを、その下から河川が流れる楽園に永遠に留まるべく入れ給い、彼らのためにその悪行を帳消しにされるべく（、静寂を下された）。それはもとより、アッラー*の御許で偉大な勝利であった。

لِّيُدۡخِلَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ وَٱلۡمُؤۡمِنَٰتِ جَنَّٰتٖ تَجۡرِي مِن تَحۡتِهَا ٱلۡأَنۡهَٰرُ خَٰلِدِينَ فِيهَا وَيُكَفِّرَ عَنۡهُمۡ سَيِّـَٔاتِهِمۡۚ وَكَانَ ذَٰلِكَ عِندَ ٱللَّهِ فَوۡزًا عَظِيمٗا ٥

6. また、アッラー*に対して悪い憶測[1]をしている、偽信者*の男たちと偽信者*の女たち、シルク*の徒の男たちとシルク*の徒の女たちを罰するため。彼らの方にこそ（、彼らが憶測している状況の）悪しき暗転があるのだ。そしてアッラー*は彼らをお怒りになり、呪われ[2]、彼らのために地獄を用意された。（それは）何と忌まわしい行き先であろうか。

وَيُعَذِّبَ ٱلۡمُنَٰفِقِينَ وَٱلۡمُنَٰفِقَٰتِ وَٱلۡمُشۡرِكِينَ وَٱلۡمُشۡرِكَٰتِ ٱلظَّآنِّينَ بِٱللَّهِ ظَنَّ ٱلسَّوۡءِۚ عَلَيۡهِمۡ دَآئِرَةُ ٱلسَّوۡءِۖ وَغَضِبَ ٱللَّهُ عَلَيۡهِمۡ وَلَعَنَهُمۡ وَأَعَدَّ لَهُمۡ جَهَنَّمَۖ وَسَآءَتۡ مَصِيرٗا ٦

7. そしてアッラー*にこそ、諸天と大地の軍勢は属する。アッラー*はもとより、偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

وَلِلَّهِ جُنُودُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۚ وَكَانَ ٱللَّهُ عَزِيزًا حَكِيمًا ٧

8. （使徒*よ、）本当にわれら*はあなたを証人[3]、吉報を伝える者、警告を告げる者[4]として、遣わした。

إِنَّآ أَرۡسَلۡنَٰكَ شَٰهِدٗا وَمُبَشِّرٗا وَنَذِيرٗا ٨

9. （それは）あなた方がアッラー*とその使徒*を信じ、かれ（の宗教）を助け[5]、かれを畏敬し、かれを朝に夕に称える*ためである。[6]

لِّتُؤۡمِنُواْ بِٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦ وَتُعَزِّرُوهُ وَتُوَقِّرُوهُۚ وَتُسَبِّحُوهُ بُكۡرَةٗ وَأَصِيلًا ٩

---

1 アッラー*が、預言者*と信仰者たちをその敵に対して援助されず、イスラーム*のことも勝利させられない、という「悪い憶測」のこと（ムヤッサル 511 頁参照）。

2 「アッラー*の呪い」については、雌牛章 88 の訳注を参照。

3 「証人」については雌牛章 143、婦人章 41 の訳注を参照。

4 「吉報を伝える者…」については、雌牛章 119 の訳注を参照。

5 ムハンマド*章 7 と、その訳注も参照。

6 「かれを助け、かれを畏敬し」の「かれ」に限っては、アッラー*ではなく、預言者*のことを指す、という解釈もある（アル＝バガウィー4:224 参照）。

10. （預言者*よ、）あなたに誓う者たちこそは、まさしくアッラー*に誓っている[1]のである。アッラー*の御手は、彼らの手の上にあるのだから[2]。（その誓いを）破った者は誰であろうと、（その罰が自分に返ってくるゆえ、）自分に対して破っているのである。そして誰であろうと、アッラー*と契約したことを全うする者に対し、アッラー*は偉大な褒美をお授けになろう。

إِنَّ ٱلَّذِينَ يُبَايِعُونَكَ إِنَّمَا يُبَايِعُونَ
ٱللَّهَ يَدُ ٱللَّهِ فَوْقَ أَيْدِيهِمْ ۚ فَمَن نَّكَثَ
فَإِنَّمَا يَنكُثُ عَلَىٰ نَفْسِهِۦ ۖ وَمَنْ أَوْفَىٰ بِمَا
عَٰهَدَ عَلَيْهُ ٱللَّهَ فَسَيُؤْتِيهِ أَجْرًا عَظِيمًا ۝١٠

11. （預言者*よ、）ベドウィンたちの内、（あなたと共にマッカ*に出発せず）居残らされた者たち[3]は、あなたに言うであろう。「私たちの財産と家族が、私たちを掛かりっきりにさせたのだ。だから私たちのため、（そのことについてアッラー*に）赦しを乞うてくれ」。彼らは自分たちの心にもないことを、口先で言っている。言ってやるのだ。「ではアッラー*があなた方に害をお望みになるか、あるいは益をお望みになるとしたら、かれ（のご意思）に反して誰か、あなた方に何かしてやれる者がいようか？ いや、アッラー*はもとより、あなた方が行うことに通暁されるお方である。

سَيَقُولُ لَكَ ٱلْمُخَلَّفُونَ مِنَ ٱلْأَعْرَابِ
شَغَلَتْنَآ أَمْوَٰلُنَا وَأَهْلُونَا فَٱسْتَغْفِرْ لَنَا ۚ
يَقُولُونَ بِأَلْسِنَتِهِم مَّا لَيْسَ فِى قُلُوبِهِمْ ۚ
قُلْ فَمَن يَمْلِكُ لَكُم مِّنَ ٱللَّهِ شَيْـًٔا إِنْ أَرَادَ بِكُمْ
ضَرًّا أَوْ أَرَادَ بِكُمْ نَفْعًۢا ۚ بَلْ كَانَ ٱللَّهُ بِمَا
تَعْمَلُونَ خَبِيرًا ۝١١

---

1 これは「リドワーンの誓い」のこと。詳しくは、頻出名・用語解説の「フダイビーヤの和議*」を参照。

2 あたかもアッラー*に直接、手を重ねて誓ったかのようである、ということ。誓いの意味の確認と強調、その遵守（じゅんしゅ）への奨励（しょうれい）の意味（アッ＝サァディー 792 頁参照）。

3 預言者*がウムラ*のためマッカ*へ出発した際、クライシュ族*への警戒心から同行を命じたものの、それに応じなかったマディーナ*周辺のベドウィンたちのこと（アル＝クルトゥビー16:268 参照）。悔悟章 81 の同語についての訳注も参照。

12. いや、あなた方は使徒*と信仰者たちが（殺され）、彼らの家族のもとに永遠に帰って来ないだろうと憶測していたのであり、それはあなた方の心に目映く映ったのだ。そしてあなた方はまさしく悪い憶測をしたのであり、あなた方は滅亡の民だったのだ」。

بَلْ ظَنَنتُمْ أَن لَّن يَنقَلِبَ ٱلرَّسُولُ
وَٱلْمُؤْمِنُونَ إِلَىٰٓ أَهْلِيهِمْ أَبَدًا وَزُيِّنَ ذَٰلِكَ فِى
قُلُوبِكُمْ وَظَنَنتُمْ ظَنَّ ٱلسَّوْءِ وَكُنتُمْ قَوْمًۢا بُورًا ١٢

13. アッラー*とその使徒*を信じない者たちは誰であろうと（、罰されることになろう）、本当にわれら*は不信仰者*たちのために烈火を用意したのだから。

وَمَن لَّمْ يُؤْمِنۢ بِٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦ فَإِنَّآ أَعْتَدْنَا
لِلْكَٰفِرِينَ سَعِيرًا ١٣

14. そして諸天と大地の王権は、アッラー*にこそ属する。かれはお望みになる者をお赦しになり、お望みになる者を罰される。アッラー*はもとより、赦し深いお方、慈愛深い*お方。

وَلِلَّهِ مُلْكُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۚ يَغْفِرُ لِمَن
يَشَآءُ وَيُعَذِّبُ مَن يَشَآءُ ۚ وَكَانَ ٱللَّهُ غَفُورًا
رَّحِيمًا ١٤

15. 居残らされた者たち[1]は、あなた方が戦利品*を手に入れるべく出発した時[2]、（こう）言うだろう。「私たちを、あなた方にお供させて下さい」。彼らはアッラー*の御言葉[3]を、変更しようとしている。言ってやるがいい。「あなた方が、私たちについて来ることはない。アッラー*は以前、そのように仰せられたのだ」。すると、彼らは言う。「いや、あなた方は私たちを嫉妬している」。いや、彼らは僅かばかりしか、理解することがなかったのである。

سَيَقُولُ ٱلْمُخَلَّفُونَ إِذَا ٱنطَلَقْتُمْ إِلَىٰ
مَغَانِمَ لِتَأْخُذُوهَا ذَرُونَا نَتَّبِعْكُمْ ۖ يُرِيدُونَ
أَن يُبَدِّلُوا۟ كَلَٰمَ ٱللَّهِ ۚ قُل لَّن تَتَّبِعُونَا كَذَٰلِكُمْ
قَالَ ٱللَّهُ مِن قَبْلُ ۖ فَسَيَقُولُونَ بَلْ تَحْسُدُونَنَا ۚ
بَلْ كَانُوا۟ لَا يَفْقَهُونَ إِلَّا قَلِيلًا ١٥

---

1 「居残された者たち」については、アーヤ*11 の訳注を参照。

2 これは、ハイバルの戦い*への出征のこと（ムヤッサル 512 頁参照）。

3 アル＝クルトゥビー*によれば、大半の解釈学者はこの「御言葉」を、「アッラー*がフダイビーヤの和議*に立ち会った者たちに、ハイバルの戦利品*を約束されたこと」としている（16:271 参照）。

16. ベドウィンたちの内、（あなたと共に出発せず）居残らされた者たち[1]に、言ってやれ。「あなた方は、強烈な武力を備えた民[2]（との戦い）へと呼ばれるだろう。あなた方が彼らと戦うか、彼らが（戦わずして）服従（イスラーム*）するかの、いずれかなのである[3]。それで、もしあなた方が（その呼びかけに）応じるのなら、アッラー*はあなた方に善き褒美をお授けになる。そして、もし以前（マッカ*へと出発する命令に）背いたように、あなた方が背くのであれば、かれ（アッラー*）はあなた方を痛ましい懲罰で罰されよう」。

قُل لِّلْمُخَلَّفِينَ مِنَ ٱلْأَعْرَابِ سَتُدْعَوْنَ إِلَىٰ
قَوْمٍ أُو۟لِى بَأْسٍ شَدِيدٍ تُقَـٰتِلُونَهُمْ أَوْ يُسْلِمُونَ ۖ
فَإِن تُطِيعُوا۟ يُؤْتِكُمُ ٱللَّهُ أَجْرًا حَسَنًا ۖ وَإِن
تَتَوَلَّوْا۟ كَمَا تَوَلَّيْتُم مِّن قَبْلُ يُعَذِّبْكُمْ عَذَابًا
أَلِيمًا ﴿١٦﴾

17. （出征しないことに関し、）視覚に障害ある者に罪はなく、足が不自由な者にも罪はなく、病人にも罪はない。アッラー*は、かれとその使徒*に従う者は誰でも、その下から河川が流れる楽園に入れて下さる。そしてかれは（アッラー*とその使徒*に）背く者を、痛ましい懲罰で罰されるのだ。

لَّيْسَ عَلَى ٱلْأَعْمَىٰ حَرَجٌ وَلَا عَلَى ٱلْأَعْرَجِ حَرَجٌ
وَلَا عَلَى ٱلْمَرِيضِ حَرَجٌ ۗ وَمَن يُطِعِ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ
يُدْخِلْهُ جَنَّـٰتٍ تَجْرِى مِن تَحْتِهَا ٱلْأَنْهَـٰرُ ۖ
وَمَن يَتَوَلَّ يُعَذِّبْهُ عَذَابًا أَلِيمًا ﴿١٧﴾

18. （預言者*よ、）アッラー*は確かに信仰者たちを、お喜びになった。彼らが木の下であなたに誓った時のこと。かれは彼らの心の内（の信仰心と正直さ、忠誠心）をご存知になり、彼らの上に静寂を下され、彼らに近い勝利（の約束）でお報いになったのだ。[4]

۞ لَّقَدْ رَضِىَ ٱللَّهُ عَنِ ٱلْمُؤْمِنِينَ إِذْ يُبَايِعُونَكَ
تَحْتَ ٱلشَّجَرَةِ فَعَلِمَ مَا فِى قُلُوبِهِمْ فَأَنزَلَ
ٱلسَّكِينَةَ عَلَيْهِمْ وَأَثَـٰبَهُمْ فَتْحًا قَرِيبًا ﴿١٨﴾

---

1 「居残された者たち」については、アーヤ*11 の訳注を参照。

2 この「民」の解釈には、「ペルシャ人」「ローマ人」「その両方」「ハワーズィン族とサキーフ族（頻出名・用語解説「フナインの戦い*」参照）」「ヤマーマ地方で預言者*を自称した、ムサイリマとその民ハニーファ族」などの諸説がある（アル＝クルトゥビー16:272 参照）。

3 これは、ジズヤ*を受け入れられない種類の人々に関する規定とされる（前掲書 16:273 参照）。雌牛章 190、悔悟章 36 の訳注も参照。

4 これは、「リドワーンの誓い」のこと（ムヤッサル 513 頁参照）。詳しくは、頻出名・用語解説「フダイビーヤの和議*」を参照。また「近い勝利」とは、ハイバルの戦い*のこと（前掲書、同頁参照）。

19. また、彼らが手にすることになる沢山の戦利品*[1]（の約束）で（お報(むく)いになった時）。アッラー*はもとより、偉力(いりょく)ならびない*お方、英知あふれる*お方。

وَمَغَانِمَ كَثِيرَةً يَأْخُذُونَهَا ۗ وَكَانَ ٱللَّهُ عَزِيزًا
حَكِيمًا ﴿١٩﴾

20. アッラー*はあなた方に、あなた方が手にすることになる沢山の戦利品*をお約束になり、あなた方のためにこれを前倒しにされたのだ[2]。また、かれは人々[3]の手をあなた方から阻(はば)まれたのであり、（それは、そのことが）信仰者たちにとっての御徴(みしるし)となり、あなた方をまっすぐな道へとお導(みちび)きになるためであった。

وَعَدَكُمُ ٱللَّهُ مَغَانِمَ كَثِيرَةً تَأْخُذُونَهَا
فَعَجَّلَ لَكُمْ هَٰذِهِۦ وَكَفَّ أَيْدِيَ ٱلنَّاسِ
عَنكُمْ وَلِتَكُونَ ءَايَةً لِّلْمُؤْمِنِينَ وَيَهْدِيَكُمْ
صِرَٰطًا مُّسْتَقِيمًا ﴿٢٠﴾

21. また、アッラー*が既(すで)に確保され、あなた方がまだ入手できてはいない、別の物も（お約束になった）。アッラー*はもとより、全てのことがお出来のお方。

وَأُخْرَىٰ لَمْ تَقْدِرُوا۟ عَلَيْهَا قَدْ أَحَاطَ ٱللَّهُ بِهَا ۚ
وَكَانَ ٱللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرًا ﴿٢١﴾

22. たとえ不信仰に陥(おちい)った者*たち[4]が、あなた方と戦ったところで、背中を見せて敗走するのが落ちなのである。その後、彼らは（自分たちの）庇護(ひご)者も援助者も見出(みいだ)すことがない。

وَلَوْ قَٰتَلَكُمُ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ لَوَلَّوُا۟ ٱلْأَدْبَٰرَ ثُمَّ
لَا يَجِدُونَ وَلِيًّا وَلَا نَصِيرًا ﴿٢٢﴾

23. 過去に、（不信仰者*の民と信仰者の民の間において）過(す)ぎ去ってきた、アッラー*の摂理(せつり)。そして（預言者(よげんしゃ)*よ）、あなたはアッラー*の摂理(せつり)に、いかなる変更も見出(みいだ)すことはない。

سُنَّةَ ٱللَّهِ ٱلَّتِي قَدْ خَلَتْ مِن قَبْلُ ۖ وَلَن تَجِدَ
لِسُنَّةِ ٱللَّهِ تَبْدِيلًا ﴿٢٣﴾

---

1 この「戦利品*」は、ハイバルの戦い*によるものとされる（ムヤッサル 513 頁参照）。

2 このアーヤ*の「沢山の戦利品*」は、ムスリム*たちが復活の日*まで手にすることになる全てのもの。「これ」は、ハイバルの戦利品*、またはフダイビーヤの和議*のこと（アル＝クルトゥビー16:278 参照）。

3 この「人々」の解釈には、「フダイビーヤの和議*の時のクライシュ族*」「ハイバルの民と、彼らの援助者たち」「ムスリム*軍がフダイビーヤやハイバルに遠征中に、マディーナ*をユダヤ教徒*の手から阻んで下さった」といった諸説がある（アッ＝シャウカーニー5:68 参照）。

4 マッカ*のクライシュ族*のことを指している、とされる（ムヤッサル 513 頁参照）。

24. かれは、あなた方が彼ら（シルク*の徒）をマッカ*の谷間で掌握した後に、彼らの手をあなた方から阻まれ、あなた方の手を彼らから阻まれた[1]お方。そしてアッラー*はもとより、あなた方の行うことを通暁されるお方である。

وَهُوَ ٱلَّذِي كَفَّ أَيۡدِيَهُمۡ عَنكُمۡ وَأَيۡدِيَكُمۡ عَنۡهُم
بِبَطۡنِ مَكَّةَ مِنۢ بَعۡدِ أَنۡ أَظۡفَرَكُمۡ عَلَيۡهِمۡۚ
وَكَانَ ٱللَّهُ بِمَا تَعۡمَلُونَ بَصِيرًا ٢٤

25. 彼ら（クライシュ族*の不信仰者*たち）は不信仰に陥り、（ウムラ*をしようとしていた）あなた方をハラーム・マスジド*から、そして足止めを食らわされた供物がその（屠殺の）場[2]に達することから、阻んだ者たち。そして、もし（マッカ*に潜んでいる）あなた方の知らない信仰者の男たちと信仰者の女たちがおらず、あなた方が彼らを（シルク*の徒もろとも）粉砕してしまうことで、あなた方に予想もしなかった面倒[3]が降りかかるのでなければ（、われら*はあなた方にその時、マッカ*の民を制圧させたのである）。（それは）アッラー*が、かれがお望みになった者を、そのご慈悲の中にお入れになるため[4]。もし彼らが（不信仰者*たちから）隔たれていたら、われらは彼らの内の不信仰に陥った者*たちを、痛ましい懲罰で罰したのである。

هُمُ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ وَصَدُّوكُمۡ عَنِ
ٱلۡمَسۡجِدِ ٱلۡحَرَامِ وَٱلۡهَدۡيَ مَعۡكُوفًا أَن
يَبۡلُغَ مَحِلَّهُۥۚ وَلَوۡلَا رِجَالٞ مُّؤۡمِنُونَ وَنِسَآءٞ
مُّؤۡمِنَٰتٞ لَّمۡ تَعۡلَمُوهُمۡ أَن تَطَـُٔوهُمۡ فَتُصِيبَكُم
مِّنۡهُم مَّعَرَّةُۢ بِغَيۡرِ عِلۡمٖۖ لِّيُدۡخِلَ ٱللَّهُ فِي
رَحۡمَتِهِۦ مَن يَشَآءُۚ لَوۡ تَزَيَّلُواْ لَعَذَّبۡنَا ٱلَّذِينَ
كَفَرُواْ مِنۡهُمۡ عَذَابًا أَلِيمًا ٢٥

---

1 一説にこれは、フダイビーヤの地で、ムスリム*たちに奇襲（きしゅう）攻撃を仕掛けてきた八十名のシルク*の徒のこと。ムスリム*たちは彼らを捕らえた後、解放してやった（ムヤッサル 514 頁参照）。

2 この「場」とは、マッカ*の聖域のこと。ムスリム*たちはウムラ*の「供物」として、七十頭のラクダを連れて来ていた。アッラー*はフダイビーヤで、それを捧（ささ）げることをお許しになった（アッ＝シャウカーニー5:71 参照）。巡礼*を阻まれてしまった際の規定に関しては、雌牛章 196 も参照。

3 「面倒」とは、信仰者を殺してしまうことによる罪、非難、その罪滅ぼしとしての代償のこと（ムヤッサル 514 頁参照）。

4 実際にこの後、マッカ*の民の内でも、イスラーム*を受け入れ、よきムスリム*となり、天国に入れられることとなった多くの者が出現した（アル＝クルトゥビー16:286 参照）。

26. 不信仰に陥った者*たちが、その心の中に尊大さ、ジャーヒリーヤ*の尊大さを宿した時のこと[1]（を思い起こさせよ）。にも関わらず、アッラー*はかれの静寂を、その使徒*と信仰者たちの上に下された。そして彼らに敬虔さ*の言葉[2]を命じられたのであり、彼らはそれに（シルク*の徒）より相応しく、その適任者だったのである。アッラー*はもとより、全てのことをご存知のお方。

إِذۡ جَعَلَ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ فِي قُلُوبِهِمُ ٱلۡحَمِيَّةَ
حَمِيَّةَ ٱلۡجَٰهِلِيَّةِ فَأَنزَلَ ٱللَّهُ سَكِينَتَهُۥ عَلَىٰ
رَسُولِهِۦ وَعَلَى ٱلۡمُؤۡمِنِينَ وَأَلۡزَمَهُمۡ
كَلِمَةَ ٱلتَّقۡوَىٰ وَكَانُوٓاْ أَحَقَّ بِهَا وَأَهۡلَهَاۚ
وَكَانَ ٱللَّهُ بِكُلِّ شَيۡءٍ عَلِيمٗا ٢٦

27. 確かにアッラー*はその使徒*（ムハンマド*）に、正夢で真実を語られた。あなた方はもしアッラー*がお望みなら、必ずや頭を剃り、髪を切った状態で、（シルク*の徒を）怖れることなく安全に、ハラーム・マスジド*に入るのだ。そしてかれ（アッラー*）は、あなた方が知らなかったこと[3]をご存知になり、それ以外にも近い勝利[4]をご用意になった。

لَّقَدۡ صَدَقَ ٱللَّهُ رَسُولَهُ ٱلرُّءۡيَا بِٱلۡحَقِّۖ
لَتَدۡخُلُنَّ ٱلۡمَسۡجِدَ ٱلۡحَرَامَ إِن شَآءَ ٱللَّهُ
ءَامِنِينَ مُحَلِّقِينَ رُءُوسَكُمۡ وَمُقَصِّرِينَ لَا
تَخَافُونَۖ فَعَلِمَ مَا لَمۡ تَعۡلَمُواْ فَجَعَلَ مِن
دُونِ ذَٰلِكَ فَتۡحٗا قَرِيبًا ٢٧

28. かれ（アッラー*）は、その使徒*を導きと真理の宗教（イスラーム*）と共に遣わされたお方。（それは）かれが、それ（イスラーム*）をあらゆる宗教の上に君臨させる[5]ため。（使徒*よ、）アッラー*だけで、（その）証人は十分である。

هُوَ ٱلَّذِيٓ أَرۡسَلَ رَسُولَهُۥ بِٱلۡهُدَىٰ وَدِينِ
ٱلۡحَقِّ لِيُظۡهِرَهُۥ عَلَى ٱلدِّينِ كُلِّهِۦۚ وَكَفَىٰ
بِٱللَّهِ شَهِيدٗا ٢٨

---

1 彼らはフダイビーヤの和議*の際、預言者*が協定文書に「慈悲あまねく*慈愛深い*アッラーの御名において」「アッラー*の使徒*ムハンマド*」と書くことを認めず、削除させた（ムヤッサル 514 頁参照）。

2 「敬虔さ*の言葉」とは、大半の解釈学者によれば、「アッラー*以外に崇拝*（すうはい）すべき、いかなるものもなし」という言葉（アル＝バガウィー4:243 参照）。

3 「あなた方が知らなかったこと」とは、ムスリム*たちがフダイビーヤの年ではなく、その後にウムラ*のためマッカ*訪問することにおける利益のこと（ムヤッサル 514 頁参照）。

4 大半の解釈学者によれば、この「近い勝利」はフダイビーヤの和議*のこと。マッカ開城*、あるいはハイバルの戦い*における勝利、という説もある（アル＝クルトゥビー16:291 参照）。

5 「イスラーム*をあらゆる宗教の上に君臨させる」については、悔悟章 33 の訳注を参照。

29. ムハンマド*は、アッラー*の使徒*。そして、彼と共にある者（教友*）たちは不信仰者*たちに対しては厳格で、彼ら自身の間では慈悲深い。あなたは彼らが、アッラー*からのご恩寵とご満悦を求めつつ、（アッラー*への礼拝で）ルクーゥ*し、サジダ*するのを目にする。彼らの印[1]はその顔にあり、サジダ*の跡によるもの。それはトーラー*の中にある彼らの描写であり、福音*の中にある彼らの描写である。（その様子は）芽を出し（枝を増やし）てそれを支え、堅固になり、その幹の上に確立した作物のよう[2]。それは栽培者を喜ばせる。かれ（アッラー*）が、彼ら（信仰者たち）によって、不信仰者*たちを憤らせるために。アッラー*は彼ら[3]の内、信仰して正しい行い*を行う者たちに、（罪の）お赦しと偉大なる褒美を約束されたのである。

مُّحَمَّدٌ رَّسُولُ ٱللَّهِۚ وَٱلَّذِينَ مَعَهُۥٓ أَشِدَّآءُ عَلَى
ٱلۡكُفَّارِ رُحَمَآءُ بَيۡنَهُمۡۖ تَرَىٰهُمۡ رُكَّعٗا سُجَّدٗا يَبۡتَغُونَ
فَضۡلٗا مِّنَ ٱللَّهِ وَرِضۡوَٰنٗاۖ سِيمَاهُمۡ فِي
وُجُوهِهِم مِّنۡ أَثَرِ ٱلسُّجُودِۚ ذَٰلِكَ مَثَلُهُمۡ فِي
ٱلتَّوۡرَىٰةِۚ وَمَثَلُهُمۡ فِي ٱلۡإِنجِيلِ كَزَرۡعٍ أَخۡرَجَ
شَطۡـَٔهُۥ فَـَٔازَرَهُۥ فَٱسۡتَغۡلَظَ فَٱسۡتَوَىٰ عَلَىٰ
سُوقِهِۦ يُعۡجِبُ ٱلزُّرَّاعَ لِيَغِيظَ بِهِمُ ٱلۡكُفَّارَۗ
وَعَدَ ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
مِنۡهُم مَّغۡفِرَةٗ وَأَجۡرًا عَظِيمَۢا ٢٩

---

1 「彼らの印」の解釈には、「復活の日*、その顔に現れる白い光」「よき作法、恭順さ（雌牛章 45 の訳注を参照）、謙虚（けんきょ）さ」「（崇拝*行為ゆえの）夜更かしによる、顔の黄色さ」などの諸説がある（アル＝バガウィー4:245 参照）。

2 これは、最初は数少なかったものの、後に多数となった教友たちの例えとされる。また、「作物」は預言者*ムハンマドで、その「芽と枝」が教友と信仰者を表している、という解釈もある（前掲書、同頁参照）。

3 この「彼ら」は教友*たちだけではなく、信仰者一般を指す（アル＝クルトゥビー16:295-296 参照）。

第 49 章
部屋章（アル=フジュラート）[1]

سُورَةُ الحُجُرَاتِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. 信仰する者たちよ、アッラー*とその使徒*の前で、出しゃばってはならない[2]。そしてアッラー*を畏れ*よ。本当にアッラー*は、よくお聞きになるお方、全知者であられる。

2. 信仰する者たちよ、預言者*の声の上に、あなた方の声を張り上げてはならない。また、自分たちが互いに大声を上げるように、彼（預言者*）に対して大声で物言いをしてはならない。（それは）あなた方が気付かない内に、あなた方の行いが台無しになってしまわないように、である。

3. 本当にアッラー*の使徒*のもとで声を低める者たちこそは、アッラー*がその心を敬虔さ*へとお試しにな（り、そこへと導いて下さ）った者たちなのだ。彼らにこそ、（罪の）お赦しと偉大な褒美がある。

4. 本当に（預言者*よ）、あなたを部屋の向こうから（大声で）呼ぶ者たち、その大半は弁えることがない。[3]

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَا تُقَدِّمُوا۟ بَيْنَ يَدَىِ ٱللَّهِ
وَرَسُولِهِۦ ۖ وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ ۚ إِنَّ ٱللَّهَ سَمِيعٌ عَلِيمٌ ١

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَا تَرْفَعُوٓا۟ أَصْوَٰتَكُمْ
فَوْقَ صَوْتِ ٱلنَّبِىِّ وَلَا تَجْهَرُوا۟ لَهُۥ بِٱلْقَوْلِ كَجَهْرِ
بَعْضِكُمْ لِبَعْضٍ أَن تَحْبَطَ أَعْمَٰلُكُمْ وَأَنتُمْ لَا
تَشْعُرُونَ ٢

إِنَّ ٱلَّذِينَ يَغُضُّونَ أَصْوَٰتَهُمْ عِندَ رَسُولِ
ٱللَّهِ أُو۟لَٰٓئِكَ ٱلَّذِينَ ٱمْتَحَنَ ٱللَّهُ قُلُوبَهُمْ
لِلتَّقْوَىٰ ۚ لَهُم مَّغْفِرَةٌ وَأَجْرٌ عَظِيمٌ ٣

إِنَّ ٱلَّذِينَ يُنَادُونَكَ مِن وَرَآءِ ٱلْحُجُرَٰتِ
أَكْثَرُهُمْ لَا يَعْقِلُونَ ٤

---

1 マディーナ*啓示。スーラ*名は、アーヤ*4 に出現する「部屋」という語に由来。信仰の重要な一部として、アッラー*とその預言者*への礼儀を始め、同胞愛を育（はぐく）む作法や品性、真の信仰者としての価値観、それらに逆行する物事の禁止など、健全で正しいムスリム*個人・社会の基礎が取り上げられる。現代の解釈学者の中には、このスーラ*を「品性の章」と呼ぶ者もいる。

2 アッラー*とその使徒*を差しおいて、宗教に関わる物事を勝手に決めたりしてはならない、ということ（ムヤッサル 515 頁参照）。

3 一説にこのアーヤ*は、マディーナ*にやって来たベドウィンたちが、預言者*の部屋の外から「ムハンマド*！ムハンマド*！」と呼んだことに関して下った（アッ＝サァディー799 頁参照）。

5. そして、もし彼らが、彼（預言者*）が出てくるまで我慢していたら、彼らにとってもっと善いことだったのだ。アッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方であられる。

وَلَوْ أَنَّهُمْ صَبَرُوا۟ حَتَّىٰ تَخْرُجَ إِلَيْهِمْ لَكَانَ خَيْرًا
لَّهُمْ ۚ وَٱللَّهُ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ٥

6. 信仰する者たちよ、もしあなた方のもとに放逸な者が何らかの消息を携えてやって来たら、（それを信用する前に、その真偽を）確認せよ[1]。あなた方が、ある民に無知から被害を及ぼし、それであなた方が自分たちがしたことゆえ、悔やむ者とならないように。[2]

يَـٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓا۟ إِن جَآءَكُمْ فَاسِقٌۢ بِنَبَإٍ
فَتَبَيَّنُوٓا۟ أَن تُصِيبُوا۟ قَوْمًۢا بِجَهَـٰلَةٍ فَتُصْبِحُوا۟
عَلَىٰ مَا فَعَلْتُمْ نَـٰدِمِينَ ٦

7. そして知るのだ、あなた方の間には（あなた方の福利を知り、あなた方に善を望む）アッラー*の使徒*がいる、ということを。もし、彼が物事の多くにおいてあなた方に従えば、あなた方は苦境に陥ったであろう。しかしアッラー*は、あなた方に信仰を愛させ給い、それをあなた方の心に目映いものとされた。そして、あなた方に不信仰と放逸さと（アッラー*への）反抗を嫌わせ給うたのである。それらの者たちこそは、正しく導かれた者たちなのだ。

وَٱعْلَمُوٓا۟ أَنَّ فِيكُمْ رَسُولَ ٱللَّهِ ۚ لَوْ يُطِيعُكُمْ فِى كَثِيرٍ
مِّنَ ٱلْأَمْرِ لَعَنِتُّمْ وَلَـٰكِنَّ ٱللَّهَ حَبَّبَ إِلَيْكُمُ
ٱلْإِيمَـٰنَ وَزَيَّنَهُۥ فِى قُلُوبِكُمْ وَكَرَّهَ إِلَيْكُمُ
ٱلْكُفْرَ وَٱلْفُسُوقَ وَٱلْعِصْيَانَ ۚ أُو۟لَـٰٓئِكَ هُمُ
ٱلرَّٰشِدُونَ ٧

8. アッラー*からのご恩寵と、恩恵ゆえ。アッラー*は全知者、英知あふれる*お方である。

فَضْلًا مِّنَ ٱللَّهِ وَنِعْمَةً ۚ وَٱللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٌ ٨

---

1 ここでの「放逸」さの意味には、「嘘つき」「自分の罪を公（おおや）けにする者」「アッラー*に対して羞恥（しゅうち）心を抱かない者」といった諸説がある。尚、放逸であることが確定した者の情報・伝承は、例外的なものを除いては受け入れられないということで、学者間の見解は一致している（アル＝クルトゥビー16:312 参照）。

2 このアーヤは、ワリード・ブン・ウクバが浄財*の徴収（ちょうしゅう）のため、ムスタラク族へ遣わされた際の出来事に関して下ったとされる。ムスタラク族が浄財を渡すことを拒んだというワリードの誤った報告により、ムスリムたちは危うく彼らを攻撃しそうになった（アフマド 18459 参照）。

9. もし、信仰者たちからなる二派が戦い合ったなら、（信仰者たちよ、）彼らの間を取り持て[1]。そして、もしその一方が（呼びかけに応じずに、）他方を侵犯したのであれば、侵犯する方に対し、彼らがアッラー*のご命令[2]に立ち返るまで戦え。それで（その一派が、アッラー*のご命令に）立ち返ったなら、彼ら二派の間を正義で取り持ち、公正に（裁決）するのだ。本当にアッラー*は、公正にする者たちをお好みになるのだから。

وَإِن طَآئِفَتَانِ مِنَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ ٱقۡتَتَلُواْ
فَأَصۡلِحُواْ بَيۡنَهُمَاۖ فَإِنۢ بَغَتۡ إِحۡدَىٰهُمَا عَلَى
ٱلۡأُخۡرَىٰ فَقَٰتِلُواْ ٱلَّتِي تَبۡغِي حَتَّىٰ تَفِيٓءَ إِلَىٰٓ أَمۡرِ ٱللَّهِۚ
فَإِن فَآءَتۡ فَأَصۡلِحُواْ بَيۡنَهُمَا بِٱلۡعَدۡلِ
وَأَقۡسِطُوٓاْۖ إِنَّ ٱللَّهَ يُحِبُّ ٱلۡمُقۡسِطِينَ ٩

10. 本当に信仰者たちは、（宗教における）同胞なのである。ならば、あなた方の同胞を取り持つがよい。そしてあなた方が慈しまれるよう、アッラー*を畏れる*のだ。

إِنَّمَا ٱلۡمُؤۡمِنُونَ إِخۡوَةٞ فَأَصۡلِحُواْ بَيۡنَ
أَخَوَيۡكُمۡۚ وَٱتَّقُواْ ٱللَّهَ لَعَلَّكُمۡ تُرۡحَمُونَ ١٠

11. 信仰する者たちよ、ある民が別の民を馬鹿にしてはならない。（馬鹿にされた）彼らの方が、（馬鹿にした）彼らより優れているかもしれないのだから。また、ある女性たちが、別の女性たちを馬鹿にしてはならない。（馬鹿にされた）彼女らの方が、（馬鹿にした）彼女らより優れているかもしれないのだから[3]。また、

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ لَا يَسۡخَرۡ قَوۡمٞ مِّن قَوۡمٍ
عَسَىٰٓ أَن يَكُونُواْ خَيۡرٗا مِّنۡهُمۡ وَلَا نِسَآءٞ مِّن نِّسَآءٍ
عَسَىٰٓ أَن يَكُنَّ خَيۡرٗا مِّنۡهُنَّۖ وَلَا تَلۡمِزُوٓاْ أَنفُسَكُمۡ
وَلَا تَنَابَزُواْ بِٱلۡأَلۡقَٰبِۖ بِئۡسَ ٱلِٱسۡمُ ٱلۡفُسُوقُ
بَعۡدَ ٱلۡإِيمَٰنِۚ وَمَن لَّمۡ يَتُبۡ فَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ
ٱلظَّٰلِمُونَ ١١

---

1 アッラー*とその使徒*の裁決へと招き、その裁決に満足させよ、ということ（ムヤッサル516 頁参照）。

2 「アッラー*のご命令」とは、アッラー*とその使徒*の裁決のこと（前掲書、同頁参照）。

3 人間が真に徳とすべきことは、大方の場合において嘲笑（ちょうしょう）の対象となる姿形、地位、状況といった表面的なものではなく、心の中に秘められた内面的なものである。ゆえに人は、もしかするとアッラー*の御許では自分よりも徳の高い者であるかもしれない他人を、無闇（むやみ）に蔑（さげす）むべきではない。そうすれば彼は、アッラー*の御許で高い地位にある者を蔑むことにより、自分自身を害することになるからだ（アブー・アッ＝スウード 8:121 参照）。預言者*は、こう仰（おっしゃ）っている。「本当にアッラー*は、あなた方の姿や財産をご覧になるのではない。しかし、あなた方の心と行いをご覧になるのである。」（ムスリム「善行と血縁の絆と礼儀作法の書」34 参照）

あなた方自身[1]を中傷したり、（本人が嫌がる）あだ名で呼び合ったりしてはならない。信仰（に入った）後に放逸さで呼ばれることの、何と醜悪なことか[2]。そして（これらの悪事から）悔悟しない者こそは、不正*者なのである。

12. 信仰する者たちよ、憶測の多くを避けよ。実にある種の憶測[3]は、罪なのだから。また、（同胞のぼろを）詮索したり、互いに陰口[4]を言ったりしてはならない。一体、あなた方の誰が、死んだ同胞の肉を食べたいというのか？[5] あなた方は、それを忌み嫌うであろう。アッラー*を畏れ*よ。本当にアッラー*は、よく悔悟をお受け入れになる*お方、慈愛深い*お方なのだ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ ٱجۡتَنِبُواْ كَثِيرٗا مِّنَ
ٱلظَّنِّ إِنَّ بَعۡضَ ٱلظَّنِّ إِثۡمٞۖ وَلَا تَجَسَّسُواْ وَلَا
يَغۡتَب بَّعۡضُكُم بَعۡضًاۚ أَيُحِبُّ أَحَدُكُمۡ أَن
يَأۡكُلَ لَحۡمَ أَخِيهِ مَيۡتٗا فَكَرِهۡتُمُوهُۚ وَٱتَّقُواْ
ٱللَّهَۚ إِنَّ ٱللَّهَ تَوَّابٞ رَّحِيمٞ ١٢

13. 人々よ、本当にわれら*は、あなた方を一人の男性と一人の女性から創り[6]、あなた方が知り合うべく、あなた方をいくつもの民族や部族とした。実にあなた方の内、アッラ

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّاسُ إِنَّا خَلَقۡنَٰكُم مِّن ذَكَرٖ وَأُنثَىٰ وَجَعَلۡنَٰكُمۡ
شُعُوبٗا وَقَبَآئِلَ لِتَعَارَفُوٓاْۚ إِنَّ أَكۡرَمَكُمۡ عِندَ
ٱللَّهِ أَتۡقَىٰكُمۡۚ إِنَّ ٱللَّهَ عَلِيمٌ خَبِيرٞ ١٣

---

1 他人が「あなた方自身」と表現されているのは、「同胞を中傷した者は、自分自身を中傷したも同様」で、「他人を中傷する者は大抵、自分自身も相手から中傷されるから」（アッ＝ラーズィー10:109参照）。

2 信仰に入った後に、これらの罪を犯す者は「放逸な者」である（アル＝カースィミー15:5461参照）。

3 同胞に対する悪い「憶測」のこと（ムヤッサル517頁参照）。

4 イスラーム*における「陰口（ギーバ）」とは、その内容が真実であったとしても、陰で「自分の同胞について、彼が嫌に思うことを話すこと」である（ムスリム「善行と血縁の絆と礼儀作法の書」70参照）。

5 人の尊厳を傷つけ、人を覆（おお）い隠している尊厳を奪（うば）い去り、反論できない状態で攻撃することが、人の肉体そのものをバラバラにし、身体の要（かなめ）である骨を露出させ、死体に対して口でなぶるという、忌まわしい行為に例えられている（アル＝ビカーイー7:361参照）。

6 全人類はアーダム*とハウワーゥ*という同一の祖先を有し、かつ男性と女性を介して生まれる（アッ＝サァディー802頁参照）。

ー*の御許で最も高貴な者とは、最も敬虔*な者なのである。アッラー*こそは全知者、通暁されるお方。

14. ベドウィンたち[1]は、言った。「私たちは、（アッラー*とその使徒*を）信仰した」。（預言者*よ、彼らに）言ってやれ。「あなた方は、まだ信仰してはいない。しかし、『服従した』と言うのだ。信仰はまだ、あなた方の心の中には入っていない[2]。そして、もしあなた方がアッラー*とその使徒*に従えば、かれはあなた方の行い（の褒美）から、何一つ差し引きされることはない。本当にアッラー*は、赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから」。

۞قَالَتِ ٱلۡأَعۡرَابُ ءَامَنَّاۖ قُل لَّمۡ تُؤۡمِنُواْ وَلَٰكِن
قُولُوٓاْ أَسۡلَمۡنَا وَلَمَّا يَدۡخُلِ ٱلۡإِيمَٰنُ فِي قُلُوبِكُمۡۖ
وَإِن تُطِيعُواْ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ لَا يَلِتۡكُم مِّنۡ
أَعۡمَٰلِكُمۡ شَيۡـًٔاۚ إِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٞ رَّحِيمٌ ١٤

15. 本当に信仰者とは、アッラー*とその使徒*を信じ、その後（信仰において）疑惑を抱かず、アッラー*の道において自らの財産と生命をかけて努力奮闘する者たちのこと。それらの者たちこそは、（自分たちの信仰に対する）正直者である。

إِنَّمَا ٱلۡمُؤۡمِنُونَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ بِٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦ
ثُمَّ لَمۡ يَرۡتَابُواْ وَجَٰهَدُواْ بِأَمۡوَٰلِهِمۡ وَأَنفُسِهِمۡ
فِي سَبِيلِ ٱللَّهِۚ أُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلصَّٰدِقُونَ ١٥

16. （預言者*よ、彼らベドウィンたちに）言ってやれ。「一体、あなた方はアッラー*に、自分たちの宗教（の度合い）について知ら

قُلۡ أَتُعَلِّمُونَ ٱللَّهَ بِدِينِكُمۡ وَٱللَّهُ يَعۡلَمُ مَا فِي
ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلۡأَرۡضِۚ وَٱللَّهُ بِكُلِّ شَيۡءٍ
عَلِيمٞ ١٦

---

1 ここで言及されているのは、信念に満ちた心、純粋な意図、安心感を伴（ともな）う正しい信仰ではなく、殺害や捕虜（ほりょ）となることへの恐怖や、施（ほどこ）しを得ることへの願望などが理由でイスラーム*を受け入れた、ある種のベドウィンたちのこと（アッ＝シャウカーニー5:90 参照）。

2 一説に、このアーヤ*で言及されている「信仰」とは、「心による信念、言葉による承認、身体による行為によって服従すること」であり、「服従」とは「信念はなくても、言葉による承認と、身体による行為によって、表面的に服従すること」。この場合、このベドウィンたちは偽（にせ）信者*となる。別説によれば、ここでの「信仰」は、「完全なる信仰心」のこと。この場合、彼らには信仰心が存在することになる（アッ＝シャンキーティー7:419-420 参照）。

せるというのか？ アッラー*は諸天にあるもの、大地にあるものをご存知であり、アッラー*は全てのことをご存知のお方だというのに？」[1]

17. （預言者*よ、）彼ら（ベドウィンたち）は自分たちが服従（イスラーム*）[2]したことで、あなたに恩を着せる。言ってやれ。「あなた方の服従に関し、私に恩を着せるのではない。いや、アッラー*があなた方を（、あなた方が主張している）信仰へとお導きになったことで、あなた方に恩を施して下さっているのである。もし、あなた方が本当のことを言っているのならば、だが」。

يَمُنُّونَ عَلَيْكَ أَنْ أَسْلَمُوا ۖ قُل لَّا تَمُنُّوا عَلَيَّ
إِسْلَامَكُم ۖ بَلِ اللَّهُ يَمُنُّ عَلَيْكُمْ أَنْ هَدَاكُمْ
لِلْإِيمَانِ إِن كُنتُمْ صَادِقِينَ ﴿١٧﴾

18. 本当にアッラー*は、諸天と大地の不可視の世界*をご存知である。そしてアッラー*は、あなた方が行うことをご覧になるお方なのだ。

إِنَّ اللَّهَ يَعْلَمُ غَيْبَ السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ ۚ وَاللَّهُ
بَصِيرٌ بِمَا تَعْمَلُونَ ﴿١٨﴾

---

1 彼らの「自分たちは信仰者だ」という主張は、全知者であるアッラー*に対する無作法か、あるいはその言葉によって現世的な利益を意図しているかのどちらかである（アッ＝サアディー802 頁参照）。

2 自分たちが服従（イスラーム*）を受け入れた、という主張のこと（アッ＝シャウカーニー 5:91 参照）。

第 50 章
カーフ章[1]

سُورَةُ قٓ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. カーフ[2]。栄誉高きクルアーン[3]*にかけて（誓う）。

2. いや、彼ら（不信仰者*たち）は、彼らのもとに、自分たちの内から警告者が到来したことに驚いている。そして不信仰者*たちは、言ったのだ。「これは驚くべきこと。

3. 私たちが死に、砂となった後に（、元通りに戻されるとは）？ それは途方もない回帰である」。

4. われら*は、大地が彼ら（の死後、その肉体）を減少させるものを、確かに知っている[4]。そしてわれら*の御許には、保存された書[5]があるのだ。

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

قٓ ۚ وَٱلْقُرْءَانِ ٱلْمَجِيدِ ١

بَلْ عَجِبُوٓا۟ أَن جَآءَهُم مُّنذِرٌ مِّنْهُمْ فَقَالَ
ٱلْكَٰفِرُونَ هَٰذَا شَىْءٌ عَجِيبٌ ٢

أَءِذَا مِتْنَا وَكُنَّا تُرَابًا ۖ ذَٰلِكَ رَجْعٌۢ بَعِيدٌ ٣

قَدْ عَلِمْنَا مَا تَنقُصُ ٱلْأَرْضُ مِنْهُمْ ۖ وَعِندَنَا كِتَٰبٌ
حَفِيظٌۢ ٤

---

1 マッカ*啓示で学者間の見解は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、冒頭に出現するアラビア文字「カーフ*」に由来。クルアーン*と預言者*ムハンマド*の使徒*性、死後の復活についての真実性の確証に始まり、それを信じない者に対し、過去の不信仰者*たちの現世と来世における結末、および死と復活の日*に起きる出来事の描写により、警告が放たれる。スーラ*の最後は、預言者*への慰（なぐさ）めと、崇拝*行為と忍耐*への激励（げきれい）によって、締めくくられる。一説には、預言者*が集団礼拝などにおいて、とても多く読誦したスーラ*の一つ。

2 この文字については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 「栄誉高きクルアーン*」については、星座章 21 の訳注を参照。

4 地面が死体を蝕（むしば）むもの、それらがどこに分散したか、どこへ行ったかということまでご存知のお方にとって、復活は不可能ではないということ（イブン・カスィール 7:395 参照）。

5 「保存された書」とは、「（改変など）あらゆることから保存され、あらゆることがその中に保存されている、守られし碑板*のこと（アッ＝シャウカーニー5:95 参照）。

5. いや、彼らは真理（クルアーン*）を、それが自分たちのもとに到来した時、嘘呼ばわりした。それで彼らは、混乱した状態[1]にあるのだ。

بَلْ كَذَّبُوا۟ بِٱلْحَقِّ لَمَّا جَآءَهُمْ فَهُمْ فِىٓ أَمْرٍ
مَّرِيجٍ ٥

6. 一体、彼らは自分たちの上にある天を見ないのか？ われら*がそれをいかに構築し、そこに割れ目一つなく、（星々で）飾り立てたかを？

أَفَلَمْ يَنظُرُوٓا۟ إِلَى ٱلسَّمَآءِ فَوْقَهُمْ كَيْفَ
بَنَيْنَٰهَا وَزَيَّنَّٰهَا وَمَا لَهَا مِن فُرُوجٍ ٦

7. また、われら*は大地を広げ、そこに堅固な山々を投げ入れ、そこにあらゆる麗しい種類のものを芽生えさせた。

وَٱلْأَرْضَ مَدَدْنَٰهَا وَأَلْقَيْنَا فِيهَا رَوَٰسِىَ وَأَنۢبَتْنَا
فِيهَا مِن كُلِّ زَوْجٍۭ بَهِيجٍ ٧

8. よく（われら*に悔悟して）立ち返る、全ての僕のための開眼、教訓として（、万物を創造したのである）。

تَبْصِرَةً وَذِكْرَىٰ لِكُلِّ عَبْدٍ مُّنِيبٍ ٨

9. また、われら*は天から祝福に満ちた（雨）水を降らせ、それによって農園と、収穫の種粒を芽生えさせた。

وَنَزَّلْنَا مِنَ ٱلسَّمَآءِ مَآءً مُّبَٰرَكًا فَأَنۢبَتْنَا بِهِۦ
جَنَّٰتٍ وَحَبَّ ٱلْحَصِيدِ ٩

10. そして、高く聳えるナツメヤシの木を（、芽生えさせた）。それには、重なり合う莢[2]がついている。

وَٱلنَّخْلَ بَاسِقَٰتٍ لَّهَا طَلْعٌ نَّضِيدٌ ١٠

11. 僕たちへの糧として（、それらを芽生えさせたのだ）。またわれら*は、それ（雨）によって死んだ土地を生き返させた。同様に（復活の日*、死後の）召喚はあるのだ。

رِّزْقًا لِّلْعِبَادِ ۖ وَأَحْيَيْنَا بِهِۦ بَلْدَةً مَّيْتًا ۚ كَذَٰلِكَ
ٱلْخُرُوجُ ١١

12. 彼ら（シルク*の徒）以前にも、ヌーフ*の民、ラッスの徒*、サムード*が（自分たちの使徒*を）嘘つき呼ばわりした。

كَذَّبَتْ قَبْلَهُمْ قَوْمُ نُوحٍ وَأَصْحَٰبُ ٱلرَّسِّ
وَثَمُودُ ١٢

1 彼らは預言者*のことを、時には魔術師、時には詩人、時には占い師、と呼んだりした（アル＝クルトゥビー17:5 参照）。

2 この「莢」については、家畜章 99 の訳注を参照。

13. また、アード*、フィルアウン*、ルート*の同胞たちも。

وَعَادٞ وَفِرۡعَوۡنُ وَإِخۡوَٰنُ لُوطٖ ١٣

14. そして、藪の仲間たち[1]、トッバウの民[2]も。（彼らの）全ては使徒*たちを嘘つき呼ばわりしたので、（不信仰に対する懲罰という）わが警告が実現したのである。

وَأَصۡحَٰبُ ٱلۡأَيۡكَةِ وَقَوۡمُ تُبَّعٖۚ كُلّٞ كَذَّبَ ٱلرُّسُلَ فَحَقَّ وَعِيدِ ١٤

15. 一体、われら*が最初の創造において不能だったというのか？　いや、彼らは新たな創造について疑念の中にあるのだ。[3]

أَفَعَيِينَا بِٱلۡخَلۡقِ ٱلۡأَوَّلِۚ بَلۡ هُمۡ فِي لَبۡسٖ مِّنۡ خَلۡقٖ جَدِيدٖ ١٥

16. われら*は確かに、人間を創った。われら*は彼の魂が自らに囁くものを知っており、頚動脈の管よりも彼に近いのである。

وَلَقَدۡ خَلَقۡنَا ٱلۡإِنسَٰنَ وَنَعۡلَمُ مَا تُوَسۡوِسُ بِهِۦ نَفۡسُهُۥۖ وَنَحۡنُ أَقۡرَبُ إِلَيۡهِ مِنۡ حَبۡلِ ٱلۡوَرِيدِ ١٦

17. 右に、そして左に控える二人の受手が、（人間の行いを）受け取（って記録す）る時。[4]

إِذۡ يَتَلَقَّى ٱلۡمُتَلَقِّيَانِ عَنِ ٱلۡيَمِينِ وَعَنِ ٱلشِّمَالِ قَعِيدٞ ١٧

18. 彼（人間）は、自分に配備させられた監視役（の立ち会い）なしには、一言も発することがない。

مَّا يَلۡفِظُ مِن قَوۡلٍ إِلَّا لَدَيۡهِ رَقِيبٌ عَتِيدٞ ١٨

19. そして真の、死の苦悶が到来した。（人間よ、）それはあなたが逃げていたもの。

وَجَآءَتۡ سَكۡرَةُ ٱلۡمَوۡتِ بِٱلۡحَقِّۖ ذَٰلِكَ مَا كُنتَ مِنۡهُ تَحِيدُ ١٩

20. そして、角笛に吹き込まれる[5]。それは警告（されていた、復活）の日*。

وَنُفِخَ فِي ٱلصُّورِۚ ذَٰلِكَ يَوۡمُ ٱلۡوَعِيدِ ٢٠

---

1 「藪の仲間たち」については、アル＝ヒジュル章 78 の訳注を参照。

2 「トッバウの民」については、煙霧章 37 の訳注を参照。

3 無から「最初の創造」を始められたお方には、それを「新たな創造」として元通りにすることもお出来である（ムヤッサル 518 頁参照）。

4 これは人間の右側と左側に付き添い、その行いを記録する二人の天使*のこと（前掲書 519 頁参照）。高壁章 8 の訳注、雷鳴章 11 の訳注も参照。

5 これは、復活を知らせる二番目の吹き込み（前掲書、同頁参照）。家畜章 73 とその訳注も参照。

21. そして全ての者は、先導役と証人[1]を伴って、やって来る。

وَجَآءَتۡ كُلُّ نَفۡسٖ مَّعَهَا سَآئِقٞ وَشَهِيدٞ ٢١

22. （彼には、こう言われる。）「あなたは確かに、これ（復活の日*）に対して無頓着だった。だが、われら*はあなたから、あなたの覆い[2]を取ってやったのだ。それでこの日、あなたの目は研ぎ澄まされ（、現世で否定していたことを目の当たりにし）ている」。

لَّقَدۡ كُنتَ فِي غَفۡلَةٖ مِّنۡ هَٰذَا فَكَشَفۡنَا عَنكَ
غِطَآءَكَ فَبَصَرُكَ ٱلۡيَوۡمَ حَدِيدٞ ٢٢

23. また、彼の同伴者（天使*）は言う。「これが、私のもとで用意されたもの[3]です」。

وَقَالَ قَرِينُهُۥ هَٰذَا مَا لَدَيَّ عَتِيدٌ ٢٣

24. （アッラー*は、二人の天使*に仰せられる。）「頑迷で、不信心この上ない者を全て、地獄に放り込め。

أَلۡقِيَا فِي جَهَنَّمَ كُلَّ كَفَّارٍ عَنِيدٖ ٢٤

25. 善を断固として阻み、（アッラー*の僕たちと、その法を）侵犯し、疑惑的だった者（全てを）。

مَّنَّاعٖ لِّلۡخَيۡرِ مُعۡتَدٖ مُّرِيبٍ ٢٥

26. アッラー*と共に、外の神[4]を拝した者。その者を、厳しい懲罰に放り込むのだ」。

ٱلَّذِي جَعَلَ مَعَ ٱللَّهِ إِلَٰهًا ءَاخَرَ فَأَلۡقِيَاهُ فِي ٱلۡعَذَابِ
ٱلشَّدِيدِ ٢٦

27. 彼の同伴者（シャイターン*）は、言う。「我らが主*よ、私が彼を放埓にしたのではありません。しかし、彼はそもそも遠い迷いの中にあったのです」。[5]

۞قَالَ قَرِينُهُۥ رَبَّنَا مَآ أَطۡغَيۡتُهُۥ وَلَٰكِن كَانَ فِي ضَلَٰلِۭ
بَعِيدٖ ٢٧

---

1 「先導役」は、集合の地まで連行していく天使*で、「証人」は、人が現世で行った善悪の行為を証言する天使*のこと（ムヤッサル 519 参照）。

2 「現世における覆い」については、雌牛章 7、フード*章 20 の訳注も参照。

3 「同伴者」とは、現世での人間の行いを記録していた天使のことで、「用意されたもの」とは行いの帳簿（ちょうぼ）のこと（前掲書、同頁参照）。高壁章 8 の訳注も参照。

4 この「神」については、雌牛章 133 の訳注を参照。

5 同様の情景を描写したアーヤ*として、イブラーヒーム*章 22 も参照。

28. （アッラー*は仰せられる。）「（報いと清算の場である）われのもとで、議論するのではない。われは既に、あなた方に警告をしていたのだから。

قَالَ لَا تَخۡتَصِمُواْ لَدَيَّ وَقَدۡ قَدَّمۡتُ إِلَيۡكُم بِٱلۡوَعِيدِ ٢٨

29. われのもとで言葉が変更されることはなく[1]、われは僕たちに対する不正*者などではないのだ」。

مَا يُبَدَّلُ ٱلۡقَوۡلُ لَدَيَّ وَمَآ أَنَا۠ بِظَلَّٰمٖ لِّلۡعَبِيدِ ٢٩

30. （使徒*よ、）われが地獄に「あなたは、一杯になったのか？」と言い、それ（地獄）が「（まだ）追加はありますか？」と言う日のこと（を、あなたの民に思い起こさせよ）。

يَوۡمَ نَقُولُ لِجَهَنَّمَ هَلِ ٱمۡتَلَأۡتِ وَتَقُولُ هَلۡ مِن مَّزِيدٖ ٣٠

31. そして天国は、敬虔な*者たちに遠くない場所へと、近づく。

وَأُزۡلِفَتِ ٱلۡجَنَّةُ لِلۡمُتَّقِينَ غَيۡرَ بَعِيدٍ ٣١

32. （敬虔な*者たちよ、）これ（天国）は、あなた方に約束されていたもの。常に回帰し、遵守する全ての者[2]に。

هَٰذَا مَا تُوعَدُونَ لِكُلِّ أَوَّابٍ حَفِيظٖ ٣٢

33. 慈悲あまねき*お方（アッラー*）を（現世で）まだ見ぬままに恐れ[3]、（復活の日*、主*の御許に、悔悟して不断に）立ち返る心でやって来た者に。

مَّنۡ خَشِيَ ٱلرَّحۡمَٰنَ بِٱلۡغَيۡبِ وَجَآءَ بِقَلۡبٖ مُّنِيبٍ ٣٣

34. （彼ら信仰者たちには、こう言われる。）「あなた方は平安と共に、そこに入るがよい。それは永遠の日」。

ٱدۡخُلُوهَا بِسَلَٰمٖۖ ذَٰلِكَ يَوۡمُ ٱلۡخُلُودِ ٣٤

---

1 アッラー*のお約束に変更はなく、それは必ずや実現する。かれが懲罰で裁いた者が、その裁決を覆（くつがえ）されることもない。一説にこの「言葉」は、家畜章 160 にある言葉、あるいはアッ＝サジダ*章 13 にある言葉とも言われる（アッ＝シャウカーニー5:102-103 参照）。

2 「常に回帰する者」については、夜の旅章 25 の訳注を参照。「遵守する者」とは、諸々の義務行為、服従行為など、アッラー*へのお近づきとなる全ての物事を遵守する者のこと（ムヤッサル 519 頁参照）。

3 「（アッラー*を）まだ見ぬままに恐れ」ることについては、預言者*たち章 49 の訳注を参照。

35. 彼らにはそこで自分たちが望むものがあり、われら*の御許には（更なる）上乗せ[1]がある。

لَهُم مَّا يَشَآءُونَ فِيهَا وَلَدَيۡنَا مَزِيدٞ ٣٥

36. われら*が彼ら（シルク*の徒）以前、彼らよりも強力であり、国々を（思いのままに）往来した、どれだけの世代を滅ぼしてきたことか？ 一体、（その不信仰ゆえに懲罰が訪れた時、彼らに）逃げ道があったというのか？

وَكَمۡ أَهۡلَكۡنَا قَبۡلَهُم مِّن قَرۡنٍ هُمۡ أَشَدُّ
مِنۡهُم بَطۡشٗا فَنَقَّبُواْ فِي ٱلۡبِلَٰدِ هَلۡ مِن
مَّحِيصٍ ٣٦

37. 本当にそこにはまさしく、（分別する）心を備えているか、あるいは注意深く傾聴する者にとっての教訓がある。

إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَذِكۡرَىٰ لِمَن كَانَ لَهُۥ قَلۡبٌ
أَوۡ أَلۡقَى ٱلسَّمۡعَ وَهُوَ شَهِيدٞ ٣٧

38. われら*は確かに、諸天と大地、その間にあるものを六日間で創った[2]。疲れ一つ、われら*に及ぶこともなしに。

وَلَقَدۡ خَلَقۡنَا ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَ وَمَا بَيۡنَهُمَا
فِي سِتَّةِ أَيَّامٖ وَمَا مَسَّنَا مِن لُّغُوبٖ ٣٨

39. ならば（使徒*よ）、彼らの言うことに耐え、太陽が昇る前と日没前に、あなたの主*の称賛*と共に（かれを）称え*よ。

فَٱصۡبِرۡ عَلَىٰ مَا يَقُولُونَ وَسَبِّحۡ بِحَمۡدِ رَبِّكَ
قَبۡلَ طُلُوعِ ٱلشَّمۡسِ وَقَبۡلَ ٱلۡغُرُوبِ ٣٩

40. また夜の一部にも、かれを称え、サジダ*の後にも（そうせよ）。[3]

وَمِنَ ٱلَّيۡلِ فَسَبِّحۡهُ وَأَدۡبَٰرَ ٱلسُّجُودِ ٤٠

41. （使徒*よ、）聴くがよい。呼びかける者が、近い場所から呼びかける[4]日。

وَٱسۡتَمِعۡ يَوۡمَ يُنَادِ ٱلۡمُنَادِ مِن مَّكَانٖ قَرِيبٖ ٤١

---

1 この「上乗せ」については、ユーヌス*章 26 の訳注を参照。

2 「諸天と大地、…六日間で創り…」については、詳細にされた章 9-12 とその訳注も参照。

3 イブン・カスィール*によれば、アーヤ*39 の「太陽が昇る前」はファジュル*、「日没前」はアスル*のことで、夜の旅*で毎日五回の礼拝が義務づけられる以前は、この二つが義務の礼拝だった。尚「夜の一部」は、マッカ*初期の一時期において義務だった、タハッジュド（夜の旅章 79 の訳注を参照）のこと（7:409 参照）。また、「サジダ*の後」とは、礼拝のすぐ後のこととされる（ムヤッサル 520 頁参照）。

4 この「呼びかけ」とは一説に、「復活の日*へと呼ぶ者の声、あるいはその角笛」のこと。前者の場合はジブリール*、後者の場合はイスラーフィール（家畜章 73 の訳注を参照）。あるいは、そのいずれをも指している、という説もある。「近い場所」とは、一説にエルサレムの岩の上（アル＝クルトゥビー17:27 参照）。

42. 彼らが（轟く）一声を、真実と共に耳にする日。それは（墓場からの）召喚の日である。

يَوۡمَ يَسۡمَعُونَ ٱلصَّيۡحَةَ بِٱلۡحَقِّۚ ذَٰلِكَ يَوۡمُ
ٱلۡخُرُوجِ ٤٢

43. 本当に、われら*こそは（現世で）生を与え、死を与えるのであり、われら*にこそ（復活の日*の）行き先はある。

إِنَّا نَحۡنُ نُحۡيِۦ وَنُمِيتُ وَإِلَيۡنَا ٱلۡمَصِيرُ ٤٣

44. 大地が散り散りに裂け、そこから彼らが慌てて出て来る日。それが召集、われら*には容易いこと。

يَوۡمَ تَشَقَّقُ ٱلۡأَرۡضُ عَنۡهُمۡ سِرَاعٗاۚ ذَٰلِكَ حَشۡرٌ
عَلَيۡنَا يَسِيرٞ ٤٤

45. われら*は、彼ら（シルク*の徒）が言うこと[1]を最もよく知っており、（使徒*よ、）あなたは彼らに対する圧制者ではない[2]。ならば、わが警告を怖れる者に、クルアーン*で戒めるのだ。

نَّحۡنُ أَعۡلَمُ بِمَا يَقُولُونَۖ وَمَآ أَنتَ عَلَيۡهِم بِجَبَّارٖۖ
فَذَكِّرۡ بِٱلۡقُرۡءَانِ مَن يَخَافُ وَعِيدِ ٤٥

1 アッラー*に対する捏造（ねつぞう）や、かれの御徴を嘘呼ばわりしていることなど（ムヤッサル 520 頁参照）。

2 預言者*はアッラー*の教えを伝えるために遣わされたのであり、彼らにイスラーム*を押し付ける者ではない（前掲書、同頁参照）。

第 51 章
撒き散らすもの章（アッ＝ザーリヤート）[1]

سُورَةُ الذَّارِيَاتِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. ばらばらと、撒き散らすもの[2]にかけて、[3]
وَٱلذَّٰرِيَٰتِ ذَرۡوٗا ١

2. また、重厚なものを運ぶもの[4]にかけて、
فَٱلۡحَٰمِلَٰتِ وِقۡرٗا ٢

3. また、滑らかに走るもの[5]にかけて、
فَٱلۡجَٰرِيَٰتِ يُسۡرٗا ٣

4. また、ご命令を分配するものたち[6]にかけて（誓う）。
فَٱلۡمُقَسِّمَٰتِ أَمۡرًا ٤

5. 本当に（人々よ）、あなた方に約束されていること（復活と清算）は、まさしく真実である。
إِنَّمَا تُوعَدُونَ لَصَادِقٞ ٥

6. そして本当に、応報は必ず起こる。
وَإِنَّ ٱلدِّينَ لَوَٰقِعٞ ٦

7. （創造）美を備えた天にかけて（誓う）。
وَٱلسَّمَآءِ ذَاتِ ٱلۡحُبُكِ ٧

8. 本当に（嘘つきたちよ）、あなた方は（使徒*とクルアーン*について、）まさに相異なる（混乱した）言説[7]の中にある。
إِنَّكُمۡ لَفِي قَوۡلٖ مُّخۡتَلِفٖ ٨

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する同語に由来。復活と預言者*ムハンマド*を否定した者たちへの反論、信仰者と不信仰者*の結末、アッラーの唯一性*と御力を示す自然界における数々の明証が取り上げられるほか、中盤からは過去の預言者*たちと不信仰な民*の間に起こった話による訓戒がなされる。またスーラ*終盤では、創造の目的が説明されると共に、不信仰者*たちに警告が向けられる。

2 砂を撒き散らす風のこととされる（ムヤッサル 520 頁参照）。

3 アーヤ*1-4 で言及されている「誓い」については、整列者章 1 の訳注を参照。アッラー*は、ご自身の御業（みわざ）と御力を示すべく、これらのものにおいて誓われた（アル＝バガウィー4:280 参照）。

4 沢山の水を蓄（たくわ）えた、雲のこととされる（ムヤッサル 520 頁参照）。

5 水上を走る、船のこととされる（前掲書、同頁参照）。

6 雨や糧（かて）、その他のものを分配する、天使*たちのこととされる（前掲書、同頁参照）。

7 カーフ章 5「混乱した状態」の訳注も参照。

9. （アッラー*の明証に背を向けたため、信仰から）背かされた者は、そこ[1]から背かされる。

يُؤۡفَكُ عَنۡهُ مَنۡ أُفِكَ ٩

10. 嘘つきたちが、成敗されますよう。

قُتِلَ ٱلۡخَرَّٰصُونَ ١٠

11. （彼らは）不注意にも、（不信仰と迷いの）奥底に漬かり切っている者たち。

ٱلَّذِينَ هُمۡ فِي غَمۡرَةٖ سَاهُونَ ١١

12. 彼らは、報いの日*はいつなのか、と（嘲笑しつつ）尋ねる。[2]

يَسۡـَٔلُونَ أَيَّانَ يَوۡمُ ٱلدِّينِ ١٢

13. （その日とは）彼らが、業火で熱され（るという試練にかけられ）る日。

يَوۡمَ هُمۡ عَلَى ٱلنَّارِ يُفۡتَنُونَ ١٣

14. （彼らには、こう言われる。）「あなた方が（現世で）性急に求めていた（、業火の懲罰という）試練を、味わうがよい」。

ذُوقُواْ فِتۡنَتَكُمۡ هَٰذَا ٱلَّذِي كُنتُم بِهِۦ تَسۡتَعۡجِلُونَ ١٤

15. 本当に敬虔な*者たちは、楽園と泉の中にある。

إِنَّ ٱلۡمُتَّقِينَ فِي جَنَّٰتٖ وَعُيُونٍ ١٥

16. 彼らの主*が授けて下さった（お望みの）ものを、手にしつつ。本当に彼らは以前（現世で）、善を尽くす者[3]たちだったのだから。

ءَاخِذِينَ مَآ ءَاتَىٰهُمۡ رَبُّهُمۡۚ إِنَّهُمۡ كَانُواْ قَبۡلَ ذَٰلِكَ مُحۡسِنِينَ ١٦

17. 彼らが眠っていたのは、（タハッジュド[4]のため、）夜の僅かな時間だけだった。

كَانُواْ قَلِيلٗا مِّنَ ٱلَّيۡلِ مَا يَهۡجَعُونَ ١٧

18. また明け方には、（アッラー*に罪の）赦しを乞うていた。[5]

وَبِٱلۡأَسۡحَارِ هُمۡ يَسۡتَغۡفِرُونَ ١٨

---

1 使徒*とクルアーン*への信仰のこと（ムヤッサル 520 頁参照）。

2 同様のアーヤ*として、家畜章 57-58、戦利品*章 32、ユーヌス*章 50、フード*章 8、雷鳴章 6、夜の旅章 92、巡礼*章 47、蜘蛛章 53-54、サード章 16、相談章 18、階段章 1-2 なども参照。

3 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

4 「タハッジュド」については、夜の旅章 79 の訳注を参照。

5 夜の残りが三分の一を切る頃からファジュル*の時間までは、罪の赦し、祈願、悔悟が（それ以外の時間帯よりも）受け入れられる時間帯である（ムスリム「旅行者の礼拝とその短縮の書」172 参照）。

19. また彼らの財産の内には、（他人に施しを）求める者にも、（それを）禁じられた者[1]にも、（与えることを決めた）権利があった。

وَفِيٓ أَمۡوَٰلِهِمۡ حَقّٞ لِّلسَّآئِلِ وَٱلۡمَحۡرُومِ ١٩

20. また大地には、（アッラーの唯一性*を）確信する者たちにとっての（、かれの全能性を示す）御徴がある。

وَفِي ٱلۡأَرۡضِ ءَايَٰتٞ لِّلۡمُوقِنِينَ ٢٠

21. そして、あなた方自身の（創造の）内にも。一体、あなた方は（それに無頓着で）目を開かないのか？

وَفِيٓ أَنفُسِكُمۡۚ أَفَلَا تُبۡصِرُونَ ٢١

22. また天には、あなた方の糧と、あなた方に約束されているもの[2]がある。

وَفِي ٱلسَّمَآءِ رِزۡقُكُمۡ وَمَا تُوعَدُونَ ٢٢

23. そして天地の主*にかけて、本当にそれ[3]はまさしく真理なのだ。ちょうど、あなた方が喋る（ことに対し、自分自身、その事実を疑うことがない）のと同様に。

فَوَرَبِّ ٱلسَّمَآءِ وَٱلۡأَرۡضِ إِنَّهُۥ لَحَقّٞ مِّثۡلَ مَآ أَنَّكُمۡ تَنطِقُونَ ٢٣

24. （使徒*よ、）あなたのもとに、イブラーヒーム*の貴い客人たち（人間の姿を借りた天使*たち）の話[4]は届いたか？

هَلۡ أَتَىٰكَ حَدِيثُ ضَيۡفِ إِبۡرَٰهِيمَ ٱلۡمُكۡرَمِينَ ٢٤

25. 彼ら（天使*たち）が、彼（イブラーヒーム*）のところに入り、「（あなたに）平安を[5]」と言った時。彼（イブラーヒーム*）は言った。「（あなた方にこそ、）平安を」。――彼らは、見慣れない民であるぞ――。

إِذۡ دَخَلُواْ عَلَيۡهِ فَقَالُواْ سَلَٰمٗاۖ قَالَ سَلَٰمٞ قَوۡمٞ مُّنكَرُونَ ٢٥

1 一説にこれは、その遠慮深さゆえに貧しくないと思われ、その結果、施しを受けるのを「禁じられた」状況にある者（アル＝バイダーウィー5:237 参照）。雌牛章 273 も参照。

2 「糧」には、「雨と、それによって育つ作物、及びそれによって生きる創造物」「糧が定められている『守られし碑板*』」といった解釈がある。「約束されているもの」の解釈には、「善いことや悪いこと」「そのいずれか」「天国と地獄」「復活の日*」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー17:41 参照）。

3 復活の日*、報いといった、アッラー*がお約束になったもの（イブン・カスィール 7:420 参照）。

4 イブラーヒーム*と、この天使*たちの話については、フード*章 69-76、アル＝ヒジュル章 51-60、蜘蛛章 31-32 も参照。

5 家畜章 54「あなた方に平安を」の訳注も参照。

26. それで彼（イブラーヒーム*）は家族の方へと席を外(はず)すと、肥(こ)えた仔牛(こうし)（の焼き肉）を持って（客人(きゃくじん)のところへと）やって来た。

فَرَاغَ إِلَىٰٓ أَهۡلِهِۦ فَجَآءَ بِعِجۡلٖ سَمِينٖ ٢٦

27. そして、それを彼らに差し出した。「どうぞ、召(め)し上がって下さい」と言いつつ。

فَقَرَّبَهُۥٓ إِلَيۡهِمۡ قَالَ أَلَا تَأۡكُلُونَ ٢٧

28. （しかし、彼らが手を出さなかったので、）彼（イブラーヒーム*）は彼らに恐怖心を抱(いだ)いた。彼らは言った。「怖(こわ)がらなくてもよい（、私たちはアッラー*からの御使(みづか)いである）」。そして彼に、有識な男の子[1]の（誕生についての）吉報(きっぽう)を告(つ)げた。

فَأَوۡجَسَ مِنۡهُمۡ خِيفَةٗۖ قَالُواْ لَا تَخَفۡۖ وَبَشَّرُوهُ
بِغُلَٰمٍ عَلِيمٖ ٢٨

29. すると彼（イブラーヒーム*）の妻（サーラ）は、（それを聞くと客人(きゃくじん)たちのところへと）声を上げて赴(おもむ)き、自分の顔を叩きつつ[2]、言った。「（私は、）年寄りで、不妊ですのに！」

فَأَقۡبَلَتِ ٱمۡرَأَتُهُۥ فِي صَرَّةٖ فَصَكَّتۡ وَجۡهَهَا
وَقَالَتۡ عَجُوزٌ عَقِيمٞ ٢٩

30. 彼ら（天使*たち）は言った。「そのように、アッラー*が仰(おお)せられたのだ。本当にかれこそは、英知あふれる*お方、全知者なのだから」。

قَالُواْ كَذَٰلِكِ قَالَ رَبُّكِۖ إِنَّهُۥ هُوَ ٱلۡحَكِيمُ
ٱلۡعَلِيمُ ٣٠

31. 彼（イブラーヒーム*）は言った。「では、あなた方のご用件は何なのでしょう、御使(みづか)いたちよ」。

۞قَالَ فَمَا خَطۡبُكُمۡ أَيُّهَا ٱلۡمُرۡسَلُونَ ٣١

32. 彼らは言った。「本当に私たちは、罪悪者(ざいあくしゃ)である民[3]へと遣(つか)わされたのである。

قَالُوٓاْ إِنَّآ أُرۡسِلۡنَآ إِلَىٰ قَوۡمٖ مُّجۡرِمِينَ ٣٢

---

1 これが誰かについては、フード*章 71、アル＝ヒジュル章 53 とその訳注を参照。

2 これは当時、何か驚くことがあった時、女性がする仕草だった（イブン・アーシュール 26:360 参照）。尚、フード*章 71-72 とその訳注も参照。

3 預言者*ルート*の民のこと。彼らはシルク*を犯し、ルート*を嘘つき呼ばわりし、しかも数々の醜行（しゅうこう）を犯していた（アッ＝サアディー810 頁参照）。蜘蛛章 29 とその訳注も参照。

33. 彼らの上に、泥土からなる石つぶてを送るため。

لِنُرْسِلَ عَلَيْهِمْ حِجَارَةً مِّن طِينٍ ٣٣

34. （放逸さと罪において）度を越している者たちに対し、あなたの主*の御許で印をつけられた（石つぶてを）」。[1]

مُّسَوَّمَةً عِندَ رَبِّكَ لِلْمُسْرِفِينَ ٣٤

35. こうしてわれら*は信仰者だった者たちを、そこ（ルート*の民の町[2]）から脱出させた。

فَأَخْرَجْنَا مَن كَانَ فِيهَا مِنَ الْمُؤْمِنِينَ ٣٥

36. われら*はそこに、服従する者（ムスリム*）たちの一家[3]しか、見出さなかった。

فَمَا وَجَدْنَا فِيهَا غَيْرَ بَيْتٍ مِّنَ الْمُسْلِمِينَ ٣٦

37. そしてわれら*は、痛ましい懲罰を怖れる者たちへの御徴[4]を、そこに残したのである。

وَتَرَكْنَا فِيهَا آيَةً لِّلَّذِينَ يَخَافُونَ الْعَذَابَ الْأَلِيمَ ٣٧

38. ムーサー*にも（、われら*は御徴を残した）。われら*が彼を、紛れもない明証[5]と共にフィルアウン*へと遣わした時のこと。

وَفِي مُوسَىٰ إِذْ أَرْسَلْنَاهُ إِلَىٰ فِرْعَوْنَ بِسُلْطَانٍ
مُّبِينٍ ٣٨

39. そして彼（フィルアウン*）は、自らの後ろ盾[6]と共に（信仰から）背き、言った。「（ムーサー*は）魔術師か、あるいは憑かれた者[7]である」。

فَتَوَلَّىٰ بِرُكْنِهِ وَقَالَ سَاحِرٌ أَوْ مَجْنُونٌ ٣٩

---

1 この時の様子についてはフード*章 82-83、アル＝ヒジュル章 73-74 を、石つぶての「印」については、フード*章 82 を参照。

2 この「町」については、フード*章 81 の訳注を参照。

3 つまりルート*の一家のこと（ムヤッサル 522 頁参照）。ただしフード*章 81、アル＝ヒジュル章 60 にもある通り、彼の妻は不信仰者*であり、救われなかった。

4 この「御徴」とは、アッラー*の御力と、不信仰者*たちに対する応報を示す、懲罰の跡のこと（前掲書、同頁参照）。アル＝ヒジュル章 76 とその訳注も参照。

5 「紛れもない明証」については、婦人章 153 の訳注を参照。

6 「自らの後ろ盾」には、「彼の軍勢」「彼の威力」「そっぽを向いて」などといった解釈がある（アル＝クルトゥビー17:49 参照）。

7 「憑かれた者」については、アル＝ヒジュル章 6 の訳注を参照。

40. それで、われら*は彼とその軍勢を捕らえ、彼らを海原へと放り棄てた[1]。彼（フィルアウン*）は（その不信仰ゆえ）、咎められる者であった。

فَأَخَذۡنَٰهُ وَجُنُودَهُۥ فَنَبَذۡنَٰهُمۡ فِي ٱلۡيَمِّ وَهُوَ مُلِيمٞ ٤٠

41. アード*にも（、われら*は御徴を残した）。われら*が彼らに、不吉な風を送った時のこと。

وَفِي عَادٍ إِذۡ أَرۡسَلۡنَا عَلَيۡهِمُ ٱلرِّيحَ ٱلۡعَقِيمَ ٤١

42. それは、それが届いたいかなるものも、朽ち果てた骨とせずにはおかなかった。

مَا تَذَرُ مِن شَيۡءٍ أَتَتۡ عَلَيۡهِ إِلَّا جَعَلَتۡهُ كَٱلرَّمِيمِ ٤٢

43. サムード*にも（、われら*は御徴を残した）。彼らに「暫くの間、楽しんでいるがよい」と言われた時のこと。

وَفِي ثَمُودَ إِذۡ قِيلَ لَهُمۡ تَمَتَّعُواْ حَتَّىٰ حِينٖ ٤٣

44. そして彼らは自分たちの主*のご命令に反抗した[2]ので、彼らの眼前で、稲妻が彼らを捕らえた。

فَعَتَوۡاْ عَنۡ أَمۡرِ رَبِّهِمۡ فَأَخَذَتۡهُمُ ٱلصَّٰعِقَةُ وَهُمۡ يَنظُرُونَ ٤٤

45. それで彼らは（懲罰から）立ち上がることも叶わなければ、（自分たちを）救うことも出来なかった。

فَمَا ٱسۡتَطَٰعُواْ مِن قِيَامٖ وَمَا كَانُواْ مُنتَصِرِينَ ٤٥

46. （彼ら）以前には、ヌーフ*の民も（、滅ぼした）。本当に彼らは、放逸な民だったのだから。

وَقَوۡمَ نُوحٖ مِّن قَبۡلُۖ إِنَّهُمۡ كَانُواْ قَوۡمٗا فَٰسِقِينَ ٤٦

47. われら*は天を、偉力によって築いた。われら*こそは、まさに力量あふれる者なのだ。

وَٱلسَّمَآءَ بَنَيۡنَٰهَا بِأَيۡيْدٖ وَإِنَّا لَمُوسِعُونَ ٤٧

48. また、大地。われら*はそれを敷き広げた。そして均し整える者の、何と素晴らしいことか。

وَٱلۡأَرۡضَ فَرَشۡنَٰهَا فَنِعۡمَ ٱلۡمَٰهِدُونَ ٤٨

---

1 この時の様子は、ユーヌス*章 90-92、ター・ハー章 77-78、詩人たち章 61-66、煙霧章 23-24 も参照。

2 アッラー*のご命令に反し、雌ラクダを殺したことを指す（アル＝クルトゥビー17:51 参照）。高壁章 73 とその訳注、フード*章 64-68、詩人たち章 155-157、月章 27-29、太陽章 13-14 も参照。

49. また、われら*はあらゆるものに番(つが)い[1]を創った。（それは）あなた方が、教訓を受けるようにするためである。

وَمِن كُلِّ شَيۡءٍ خَلَقۡنَا زَوۡجَيۡنِ لَعَلَّكُمۡ
تَذَكَّرُونَ ٤٩

50. ならば（使徒(しと)*よ、こう言うのだ、）「（人々よ、）アッラー*へと避難(ひなん)せよ[2]。本当に私は、かれからの明白なる警告(けいこく)者である。

فَفِرُّوٓاْ إِلَى ٱللَّهِۖ إِنِّي لَكُم مِّنۡهُ نَذِيرٞ مُّبِينٞ ٥٠

51. そしてアッラー*と共に、別の神[3]を（崇拝(すうはい)*の対象として）拝(はい)してはならない。本当に私は、かれからの明白なる警告(けいこく)者なのである」。

وَلَا تَجۡعَلُواْ مَعَ ٱللَّهِ إِلَٰهًا ءَاخَرَۖ إِنِّي لَكُم مِّنۡهُ
نَذِيرٞ مُّبِينٞ ٥١

52. （クライシュ族*の不信仰者*たちと）同様に、彼ら以前の（不信仰）者*たちのもとに使徒(しと)*が到来(とうらい)した時には、彼らは決まって「（彼は）詩人か、憑(つ)かれた者[4]だ」と言ったものだった。

كَذَٰلِكَ مَآ أَتَى ٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِهِم مِّن رَّسُولٍ إِلَّا
قَالُواْ سَاحِرٌ أَوۡ مَجۡنُونٌ ٥٢

53. 一体、彼らはそのことを勧(すす)め合っていたのか？[5] いや、彼らは放埒(ほうらつ)な民であった。

أَتَوَاصَوۡاْ بِهِۦۚ بَلۡ هُمۡ قَوۡمٞ طَاغُونَ ٥٣

54. ならば（使徒(しと)*よ）、彼ら（シルク*の徒）に背を向けよ[6]。あなたは（誰からも）、咎(とが)められる者ではないのだから。

فَتَوَلَّ عَنۡهُمۡ فَمَآ أَنتَ بِمَلُومٖ ٥٤

---

1 この「番い」の例としては、天と地、太陽と月、夜と昼、陸と海、平地と山、冬と夏、ジン*と人間、男と女、光と闇、信仰と不信仰、幸福と不幸、天国と地獄、真理と虚妄（きょもう）、甘さと苦さなどがある（アル＝バガウィー4:287 参照）。

2 アッラー*とその使徒*への信仰、アッラー*のご命令の遵守（じゅんしゅ）と、かれへの服従によって、アッラー*の懲罰からかれのご慈悲へと「避難」すること（ムヤッサル 522 頁参照）。

3 「神」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

4 「憑かれた者」については、アル＝ヒジュル章 6 の訳注を参照。

5 先代の不信仰者*と、後代の不信仰者*は、いずれも使徒*を嘘つき呼ばわりしていたので、彼らはあたかもお互いにそのことを勧め合っていたかのようである（前掲書 523 頁参照）。

6 アッラー*の教えは伝えたのだから、アッラー*からの新たなご命令が下るまでは、彼らのことを放っておけ、という意味（前掲書、同頁参照）。

55. そして（同時に、人々に）教訓を与えよ。本当に教訓は、信仰者たちの役に立つのだから。

وَذَكِّرْ فَإِنَّ ٱلذِّكْرَىٰ تَنفَعُ ٱلْمُؤْمِنِينَ ﴿٥٥﴾

56. われがジン*と人間を創造したのは、彼らがわれ（のみ）を崇拝*するために外ならない。

وَمَا خَلَقْتُ ٱلْجِنَّ وَٱلْإِنسَ إِلَّا لِيَعْبُدُونِ ﴿٥٦﴾

57. われは彼らから糧が欲しいわけでもなければ、彼らがわれに食べさせてくれるのを欲しているわけでもない。

مَآ أُرِيدُ مِنْهُم مِّن رِّزْقٍ وَمَآ أُرِيدُ أَن يُطْعِمُونِ ﴿٥٧﴾

58. 実にアッラー*こそは糧を授けられるお方、強力さの主、力みなぎるお方なのだから。

إِنَّ ٱللَّهَ هُوَ ٱلرَّزَّاقُ ذُو ٱلْقُوَّةِ ٱلْمَتِينُ ﴿٥٨﴾

59. ならば、（預言者*ムハンマド*を嘘つき呼ばわりするという）不正*を働いた者たちにこそは、彼らの仲間たち[1]の罰と同様の罰がある。彼らはわれに、（それを）性急に求めてはならない[2]。

فَإِنَّ لِلَّذِينَ ظَلَمُوا۟ ذَنُوبًا مِّثْلَ ذَنُوبِ أَصْحَٰبِهِمْ
فَلَا يَسْتَعْجِلُونِ ﴿٥٩﴾

60. 不信仰である者*たちに、彼らが（懲罰を）約束されている、彼らの日[3]の災いあれ。

فَوَيْلٌ لِّلَّذِينَ كَفَرُوا۟ مِن يَوْمِهِمُ ٱلَّذِى
يُوعَدُونَ ﴿٦٠﴾

---

1 「彼らの仲間たち」とは、過去の不信仰者*たちのこと（ムヤッサル 523 頁参照）。

2 彼らは自分たちに懲罰を下してみよ、と挑発していた（アル＝クルトゥビー17:57 参照）。アーヤ*12 とその訳注も参照。

3 「彼らの日」とは、復活の日*のこと。あるいはバドルの戦い*の日（アル＝バガウィー4:289 参照）。

第 52 章
山章（アッ＝トール）[1]

سُورَةُ الطُّورِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. 山[2]にかけて、
2. また、書き記された啓典[3]にかけて、
3. （それは、）広げられた紙片の中。
4. また、詣でられる館[4]にかけて、
5. また、掲げられた天井[5]にかけて、
6. そして溢れかえる海[6]にかけて（誓う）。
7. （使徒*よ、）実に（不信仰者*たちに対する）あなたの主*の懲罰は、必ずや起こるのだ。
8. それを押し戻す者は、誰もいない。
9. 天が揺れに揺れ動く（、復活の）日。

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

وَٱلطُّورِ ١
وَكِتَٰبٖ مَّسۡطُورٖ ٢
فِي رَقّٖ مَّنشُورٖ ٣
وَٱلۡبَيۡتِ ٱلۡمَعۡمُورِ ٤
وَٱلسَّقۡفِ ٱلۡمَرۡفُوعِ ٥
وَٱلۡبَحۡرِ ٱلۡمَسۡجُورِ ٦
إِنَّ عَذَابَ رَبِّكَ لَوَٰقِعٞ ٧
مَّا لَهُۥ مِن دَافِعٖ ٨
يَوۡمَ تَمُورُ ٱلسَّمَآءُ مَوۡرٗا ٩

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する同語に由来。数々の恐るべき兆候（ちょうこう）を伴う復活の日*の到来、不信仰者*への懲罰が起こることの確証と、来世における彼らの悲惨（ひさん）な状況の描写がされた後、それと対照的な形で、来世における信仰者の行き先と、その享楽（きょうらく）が描き出される。後半では、不信仰者*たちに対する啓示の伝達と警告の義務（ぎむ）が取り上げられた後、アッラーの唯一性*と預言者*ムハンマド*の使徒*性の確証が、不信仰者*たちとの議論（ぎろん）の形式で提示され、最後は忍耐*とアッラー*への感謝の勧（すす）めで締めくくられる。

2 アッラー*がムーサー*に語りかけられた、「山」のこととされる（ムヤッサル 523 頁参照）。

3 この「啓典」は、クルアーン*のこととされる（前掲書、同頁参照）。

4 イブン・カスィール*によれば、七層ある天の各層には、地上のカァバ神殿*に相当する館があり、この「詣でられる館」は、七層目の天のそれであるという。そこにはイブラーヒーム*が寄りかかっており、毎日新たに七万もの天使*がその周りをタワーフ*するとされる（7:427-428 参照）。

5 この「天井」は、最下層の天であるとされる（ムヤッサル 523 頁参照）。

6 この「溢れかえる」には外にも、「（復活の日*に）点火された」「空っぽになった」「湧（わ）き返った」といった解釈もある。また一説に、この「海」はアッラー*の御座（みくら）の下にある水のこと。復活の日*にそれが地上に降ると、死人が蘇（よみがえ）るのだという（アル＝クルトゥビー17:61-62 参照）。

10. そして、山々が激しく移動する（日）。[1]

وَتَسِيرُ ٱلْجِبَالُ سَيْرًا ١٠

11. ならば、その日、（アッラー*とその使徒*を否定した）嘘つきたちに災いあれ。

فَوَيْلٌ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ١١

12. 戯言の中でふざけている者たちに。

ٱلَّذِينَ هُمْ فِى خَوْضٍ يَلْعَبُونَ ١٢

13. 彼ら（嘘つきたち）が、地獄の業火へと荒々しく押しやられる日。

يَوْمَ يُدَعُّونَ إِلَىٰ نَارِ جَهَنَّمَ دَعًّا ١٣

14. （彼らには、こう言われる。）「これが、あなた方が嘘呼ばわりしていた業火である。

هَٰذِهِ ٱلنَّارُ ٱلَّتِى كُنتُم بِهَا تُكَذِّبُونَ ١٤

15. 一体、これ（懲罰）は魔術なのか？　それとも、あなた方には見えないのか？

أَفَسِحْرٌ هَٰذَآ أَمْ أَنتُمْ لَا تُبْصِرُونَ ١٥

16. そこに入って炙られよ。そして（その苦痛を）我慢しても、我慢しなくてもよい、（いずれにせよ、）あなた方には同じこと。あなた方は、自分たちが（現世で）行っていたことに対して、報われるのみなのだから」。

ٱصْلَوْهَا فَٱصْبِرُوٓا۟ أَوْ لَا تَصْبِرُوا۟ سَوَآءٌ
عَلَيْكُمْ ۖ إِنَّمَا تُجْزَوْنَ مَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ١٦

17. 実に敬虔な*者たちは、楽園と安楽の中にある。

إِنَّ ٱلْمُتَّقِينَ فِى جَنَّٰتٍ وَنَعِيمٍ ١٧

18. 彼らの主*が、自分たちにお授けになったものに喜々としつつ。彼らの主*は、彼らを火獄の懲罰から守って下さったのである。

فَٰكِهِينَ بِمَآ ءَاتَىٰهُمْ رَبُّهُمْ وَوَقَىٰهُمْ رَبُّهُمْ
عَذَابَ ٱلْجَحِيمِ ١٨

19. 自分たちが（現世で）行っていたこと（の報い）ゆえに、おいしく食べ、飲むのだ。[2]

كُلُوا۟ وَٱشْرَبُوا۟ هَنِيٓـًٔۢا بِمَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ١٩

---

1 復活の日*の天変地異の様子については洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、出来事章 5ー6、衣を纏（まと）う者章 14、真実章 13-15、階段章 8-9、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 も参照。

2 天国の民の飲食物については、ヤー・スィーン章 57、整列者章 45-47、サード章 51、詳細にされた章 31、金の装飾章 73、ムハンマド*章 15、慈悲あまねき*お方章 52、68、出来事章 17-21、真実章 23、人間章 5-6、14、17-18、21、送られるもの章 42、消息章 34、量を減らす者たち章 25-28 も参照。

20. 互いに向かい合いつつ[1]、整列した寝台の上に。われら*は彼らに、麗しい眼の色白の女性たち[2]を連れ添わせる。

مُتَّكِـِٔينَ عَلَىٰ سُرُرٖ مَّصۡفُوفَةٖۖ وَزَوَّجۡنَٰهُم بِحُورٍ عِينٖ ٢٠

21. また、（自分自身が）信仰に入り、その子孫も信仰心と共に彼らに従った者たち、われら*はその子孫を（、その行いが、たとえ彼らの父祖ほどではなくても、天国で）彼らと一緒にしてやり、彼ら（父祖）の行いからは何一つ差し引きしない。全ての者は、自分が稼ぐことによって（解放されるかどうかが決まる、）差し押さえられた者[3]なのだから。

وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَٱتَّبَعَتۡهُمۡ ذُرِّيَّتُهُم بِإِيمَٰنٍ أَلۡحَقۡنَا بِهِمۡ ذُرِّيَّتَهُمۡ وَمَآ أَلَتۡنَٰهُم مِّنۡ عَمَلِهِم مِّن شَيۡءٖۚ كُلُّ ٱمۡرِيِٕۭ بِمَا كَسَبَ رَهِينٞ ٢١

22. また、われら*は彼らに、彼らが欲する果実と肉をふんだんに与えた。

وَأَمۡدَدۡنَٰهُم بِفَٰكِهَةٖ وَلَحۡمٖ مِّمَّا يَشۡتَهُونَ ٢٢

23. 彼らはそこで、盃を交わし合う。そこには戯言もなければ、罪深さもない。[4]

يَتَنَٰزَعُونَ فِيهَا كَأۡسٗا لَّا لَغۡوٞ فِيهَا وَلَا تَأۡثِيمٞ ٢٣

24. また、彼らの（奉仕の）ための少年たちが、彼らの周りを回って歩く。彼らは秘められた真珠のよう。

۞وَيَطُوفُ عَلَيۡهِمۡ غِلۡمَانٞ لَّهُمۡ كَأَنَّهُمۡ لُؤۡلُؤٞ مَّكۡنُونٞ ٢٤

25. そして彼らは互いに近づき、（自分たちが天国に入った理由について）質問し合う。

وَأَقۡبَلَ بَعۡضُهُمۡ عَلَىٰ بَعۡضٖ يَتَسَآءَلُونَ ٢٥

26. 彼らは言う。「本当に私たちは以前（現世にいる時）、家族のもとで、（主*とその懲罰を）怯える者であった。

قَالُوٓاْ إِنَّآ كُنَّا قَبۡلُ فِيٓ أَهۡلِنَا مُشۡفِقِينَ ٢٦

---

1 アル＝ヒジュル章 47 の訳注を参照。

2 「麗しい眼の…女性たち」については、煙霧章 54 の訳注を参照。雌牛章 25「純潔な妻」の訳注も参照。

3 善行によって救われるか、悪行によって滅ぼされるかのいずれかであることから、自分の行いの抵当（ていとう）として「差し押さえられた者」と表現されている（イブン・ジュザイ 2:377 参照)。

4 天国の酒*は現世のそれとは違い、頭痛、腹痛、理性の麻痺（まひ）などをもたらすこともなく、それが理由で戯言や下品なことを口にすることもない（イブン・カスィール 7:434 参照)。

27. それでアッラー*は私たちに（導きを）お恵みになり、私たちを（地獄の）熱風の懲罰から守って下さった。

فَمَنَّ ٱللَّهُ عَلَيۡنَا وَوَقَىٰنَا عَذَابَ ٱلسَّمُومِ ٢٧

28. 本当に私たちは以前、（天国に入り、地獄から救われることを、）かれ（だけ）に祈っていたのだ。実にかれこそは、善きお方、慈愛深い*お方なのだから」。

إِنَّا كُنَّا مِن قَبۡلُ نَدۡعُوهُۖ إِنَّهُۥ هُوَ ٱلۡبَرُّ ٱلرَّحِيمُ ٢٨

29. ならば（使徒*よ、クルアーン*で）戒めよ。あなたはあなたの主*の恩恵[1]ゆえ、占い師[2]でも憑かれた者[3]でもないのだから。

فَذَكِّرۡ فَمَآ أَنتَ بِنِعۡمَتِ رَبِّكَ بِكَاهِنٖ وَلَا مَجۡنُونٍ ٢٩

30. いや、彼ら（シルク*の徒）は言うのか？「（ムハンマド*は）詩人である。私たちは彼に、死の到来を待ち望んでいるのだ」。

أَمۡ يَقُولُونَ شَاعِرٞ نَّتَرَبَّصُ بِهِۦ رَيۡبَ ٱلۡمَنُونِ ٣٠

31. （使徒*よ、）言ってやれ。「（それを）待ち望んでいるがよい。本当に私も、あなた方と共に待ち望む者[4]なのだから」。

قُلۡ تَرَبَّصُواْ فَإِنِّي مَعَكُم مِّنَ ٱلۡمُتَرَبِّصِينَ ٣١

32. いや、彼らの知性が、彼らにこれを命じているのか？ いや、彼らは放埒な民である。[5]

أَمۡ تَأۡمُرُهُمۡ أَحۡلَٰمُهُم بِهَٰذَآۚ أَمۡ هُمۡ قَوۡمٞ طَاغُونَ ٣٢

33. いや、彼ら（シルク*の徒）は言うのか？「彼（ムハンマド*）が、それ（クルアーン*）を仕立て上げたのだ[6]」。いや、彼らは信じていない。

أَمۡ يَقُولُونَ تَقَوَّلَهُۥۚ بَل لَّا يُؤۡمِنُونَ ٣٣

---

1 預言者*としての使命と、高い知性という「恩恵」のこと（ムヤッサル 524 頁参照）。

2 「占い師（カーヒン）」とは、不可視の世界*を知っているかのように見せかけ、啓示を受けてもいないのに、未来のことを伝える者のこと（イブン・アル＝ジャウズィー8:53 参照）。

3 「憑かれた者」については、アル＝ヒジュル章 6 の訳注を参照。

4 彼らへの懲罰を、「待ち望む者」の意（ムヤッサル 524 頁参照）。

5 彼らは預言者*を「占い師」「憑かれた者」「詩人」などと形容したが、それらは互いに矛盾（むじゅん）する言葉である（ムヤッサル 525 頁参照）。しかしクライシュ族*は、自分たちが知性と理性の持ち主であると自負（じふ）していた（アブー・ハイヤーン 8:151 参照）。

6 家畜章 105 とその訳注も参照。

34. ならば彼らに、それ（クルアーン*）と同様の話を持って来させよ。もし、彼らが本当のことを言っているのならば。[1]

فَلۡيَأۡتُواْ بِحَدِيثٖ مِّثۡلِهِۦٓ إِن كَانُواْ صَٰدِقِينَ ٣٤

35. いや、彼らはいかなるものもなしに[2]、創られたというのか？ それとも彼らが創造者なのか？

أَمۡ خُلِقُواْ مِنۡ غَيۡرِ شَيۡءٍ أَمۡ هُمُ ٱلۡخَٰلِقُونَ ٣٥

36. それとも、彼らが諸天と大地を創ったのだと？ いや、彼らは（アッラー*の懲罰を）確信していない。

أَمۡ خَلَقُواْ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَۚ بَل لَّا يُوقِنُونَ ٣٦

37. いや、彼らのもとには、あなたの主*の宝庫[3]があ（り、それを自由にすることが出来）るのか？ それとも、彼らが（アッラー*の創造物に対する）制圧者だとも？

أَمۡ عِندَهُمۡ خَزَآئِنُ رَبِّكَ أَمۡ هُمُ ٱلۡمُصَۜيۡطِرُونَ ٣٧

38. それとも彼らには、（彼らの主張を裏づける啓示を）聞くことの出来る（、天にかける）梯子があるというのか？ ならば、聞いている（と主張する）者に、明らかな根拠を持って来させるがよい。

أَمۡ لَهُمۡ سُلَّمٞ يَسۡتَمِعُونَ فِيهِۖ فَلۡيَأۡتِ
مُسۡتَمِعُهُم بِسُلۡطَٰنٖ مُّبِينٍ ٣٨

39. それとも、かれ（アッラー*）には娘があり、あなた方には息子があるとでも？[4]

أَمۡ لَهُ ٱلۡبَنَٰتُ وَلَكُمُ ٱلۡبَنُونَ ٣٩

40. いや（、使徒*よ）、あなたが彼らに見返りを要求し[5]、それで彼らは負債ゆえの重荷を背負わされ（、あなたの呼びかけを拒否す）る者だというのか？

أَمۡ تَسۡـَٔلُهُمۡ أَجۡرٗا فَهُم مِّن مَّغۡرَمٖ مُّثۡقَلُونَ ٤٠

---

1 雌牛章 23 の訳注も参照。

2 これには、「創造者もなしに」「（命じられることも、禁じられることもない）無生物のように、父も母もなしに」「無意味に」といった解釈がある（アッ＝シャウカーニー5:133 参照）。

3 この「宝庫」の解釈には、「雨や糧」「預言者*性」といった説がある（アル＝バガウィー4:295 参照）。

4 このアーヤ*の意味については、蜜蜂章 57-59 とその訳注を参照。

5 この「見返りの要求」については、家畜章 90 の訳注を参照。

41. それとも、彼らのもとには不可視の世界*（の知識）があり[1]、それで彼らが（そこから、人々のために）書き記している[2]とでも？

أَمْ عِندَهُمُ ٱلْغَيْبُ فَهُمْ يَكْتُبُونَ ٤١

42. いや、彼らは（信仰者たちに）策略を望んでいる。そして不信仰に陥った者*たちこそが、策略されている身なのだ。[3]

أَمْ يُرِيدُونَ كَيْدًا ۖ فَٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ هُمُ ٱلْمَكِيدُونَ ٤٢

43. それとも彼らには、アッラー*以外の神[4]があるというのか？　彼らがシルク*を犯しているものから（無縁な）、アッラー*に称え*あれ。

أَمْ لَهُمْ إِلَٰهٌ غَيْرُ ٱللَّهِ ۚ سُبْحَٰنَ ٱللَّهِ عَمَّا يُشْرِكُونَ ٤٣

44. もし彼らが、天の破片が落下して来るのを目にしても、（不信仰をやめることなく、）「（これは）積み重なった雲だ」などと言ったであろう。[5]

وَإِن يَرَوْا۟ كِسْفًا مِّنَ ٱلسَّمَآءِ سَاقِطًا يَقُولُوا۟ سَحَابٌ مَّرْكُومٌ ٤٤

45. ならば（使徒*よ）、彼らが卒倒するその日[6]に遭遇するまで、彼らを放っておくがよい。

فَذَرْهُمْ حَتَّىٰ يُلَٰقُوا۟ يَوْمَهُمُ ٱلَّذِى فِيهِ يُصْعَقُونَ ٤٥

46. 彼らの策略が少しも自分たちに役立つことがなく、彼らが（アッラー*の懲罰から）助けられることもない日に。

يَوْمَ لَا يُغْنِى عَنْهُمْ كَيْدُهُمْ شَيْـًٔا وَلَا هُمْ يُنصَرُونَ ٤٦

---

1 これは彼らが、「復活の日*を否定したこと」、あるいは彼らがアーヤ*31 の言葉を受けて、「預言者*ムハンマド*の方が、自分たちより先に死ぬ」と主張したことを指している、とされる（アル＝バガウィー4:295 参照）。

2 あるいは、「判断している」という意味（アル＝クルトゥビー17:76 参照）。

3 彼らの策略に対する応報が、「策略」と表現されている（アブー・ハイヤーン 8:153 参照）。この表現法については、雌牛章 15 の訳注も参照。

4 「神」に関しては、雌牛章 133 の訳注を参照。

5 一説に、このアーヤ*は夜の旅章 92 や詩人たち章 187 にあるような、不信仰者*たちの挑発の言葉に対して下った（アル＝クルトゥビー17:77 参照）。

6 「その日」の解釈には、「彼らが死ぬ日」「バドルの戦い*の日」「最初に角笛に吹き込まれる日（家畜章 73 の訳注も参照）」「復活の日*」といった諸説がある（前掲書、同頁参照）。

47. 本当に不正*を働いた者たちには、（その日の前にも、）その他の懲罰がある。しかし彼らの大半は、（そのことを）知らないのだ。

وَإِنَّ لِلَّذِينَ ظَلَمُوا۟ عَذَابًا دُونَ ذَٰلِكَ وَلَٰكِنَّ
أَكْثَرَهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٤٧﴾

48. （使徒*よ、）あなたの主*のお決めになったことゆえに、忍耐*せよ。本当にあなたは、われら*の眼差しのもとにあるのだから[1]。そして立つ時[2]に、あなたの主*の称賛*と共に（かれを）称え*よ。

وَٱصْبِرْ لِحُكْمِ رَبِّكَ فَإِنَّكَ بِأَعْيُنِنَا ۖ وَسَبِّحْ بِحَمْدِ
رَبِّكَ حِينَ تَقُومُ ﴿٤٨﴾

49. また、夜にもかれを称え*、星々が去った時[3]にも（、そうするのだ）。

وَمِنَ ٱلَّيْلِ فَسَبِّحْهُ وَإِدْبَٰرَ ٱلنُّجُومِ ﴿٤٩﴾

---

1 「眼差しのもと」については、ター•ハー章 39 とその訳注も参照。

2 この「立つ時」の解釈には、「座っている姿勢から立つ時」「眠りから起きた時」「礼拝に立つ時」といった説がある（アル＝クルトゥビー17:78-80 参照）。

3 これはファジュル*の礼拝、またはファジュル*の義務の礼拝に先立つ任意の礼拝、あるいはその両方のことを指すとされる（アル＝カースィミー15:5552 参照）。

第 53 章
星章（アン＝ナジュム）[1]

سُورَةُ النَّجْمِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 星[2]にかけて（誓う）。それが、落ち（て消え）た時。[3]

وَٱلنَّجۡمِ إِذَا هَوَىٰ ١

2. あなた方の同胞（ムハンマド*）は（導きから）迷ったのでもなく、（信念を）誤ったのでもない。

مَا ضَلَّ صَاحِبُكُمۡ وَمَا غَوَىٰ ٢

3. また、彼は私欲で語っているのもない。

وَمَا يَنطِقُ عَنِ ٱلۡهَوَىٰٓ ٣

4. それ[4]は、下される啓示以外の何ものでもないのだ。

إِنۡ هُوَ إِلَّا وَحۡيٞ يُوحَىٰ ٤

5. 強力な者（ジブリール*）が、彼（ムハンマド*）にそれを教えた。

عَلَّمَهُۥ شَدِيدُ ٱلۡقُوَىٰ ٥

6. 力を備えた者が。そして彼（ジブリール*）は真っ直ぐに立った、

ذُو مِرَّةٖ فَٱسۡتَوَىٰ ٦

7. 空の向こうの最も高いところに[5]。

وَهُوَ بِٱلۡأُفُقِ ٱلۡأَعۡلَىٰ ٧

---

1 マッカ*啓示。一説に、預言者*がマッカ*で公衆の面前で読んだ最初のスーラ*。スーラ*の名称は、冒頭に出現する同語に由来。前半の主題は、預言者*ムハンマド*の使徒*性と啓示の確証、シルク*の徒が犯している罪と間違いの説明と議論、彼らへの警告など。後半では、復活と報（むく）い、アッラーの唯一性*、不信仰な民*の結末などが明白にされ、アッラー*のみへの崇拝*の呼びかけによって、幕を閉じる。

2 この「星」には「徐々に下ったクルアーン*の啓示」との解釈もある（イブン・カスィール 7:442 参照）。

3 この「誓い」については、整列者章 1 の訳注を参照。

4 「それ」とは、クルアーン*とスンナ*のこと（ムヤッサル 526 頁参照）。

5 預言者*が、ジブリール*をその本来の姿によって目にしたのは地上で一度（この時）、天界で一度（アーヤ*13 参照）だけだった。この時、ジブリール*は東方から出現して上方へと広がり、六百もの翼を広げつつ、西方の空までを覆ったのだという（アル＝クルトゥビー 17:87 参照）。

8. それから（使徒*に）近づき、降りて来た。
ثُمَّ دَنَا فَتَدَلَّىٰ ٨

9. それで彼は（使徒*から）弓矢二本分か、それ以下（の近さ）であった。
فَكَانَ قَابَ قَوْسَيْنِ أَوْ أَدْنَىٰ ٩

10. そしてかれ（アッラー*）は、かれが（ジブリール*に）啓示したことを、その僕に啓示した[1]。
فَأَوْحَىٰٓ إِلَىٰ عَبْدِهِۦ مَآ أَوْحَىٰ ١٠

11. （使徒*の）その心は、彼が目の当たりにしたことについて、嘘をついたのではない。
مَا كَذَبَ ٱلْفُؤَادُ مَا رَأَىٰٓ ١١

12. 一体あなた方は、彼が見たことについて議論するというのか？
أَفَتُمَٰرُونَهُۥ عَلَىٰ مَا يَرَىٰ ١٢

13. 彼（使徒*）は確かに、彼（ジブリール*）をもう一度、目にした。[2]
وَلَقَدْ رَءَاهُ نَزْلَةً أُخْرَىٰ ١٣

14. 最果てのスィドラ[3]のもとで。
عِندَ سِدْرَةِ ٱلْمُنتَهَىٰ ١٤

15. そこには、（敬虔な*者たちの）住処としての楽園がある。
عِندَهَا جَنَّةُ ٱلْمَأْوَىٰٓ ١٥

16. 覆うものが、スィドラを覆っている時（、使徒*は見たのだ）。[4]
إِذْ يَغْشَى ٱلسِّدْرَةَ مَا يَغْشَىٰ ١٦

17. （使徒*の）その目は、（彼が見ることを命じられたものから、）逸れることも、越えることもなかった。
مَا زَاغَ ٱلْبَصَرُ وَمَا طَغَىٰ ١٧

---

1 同様の表現法として、ター・ハー章 38「示されるもの」の訳注も参照。

2 これは、預言者*が夜の旅（夜の旅章 1 とその訳注を参照）で昇天した際、ジブリール*をその本来の姿で二度目に目にした時のこととされる（イブン・カスィール 7:451 参照）。アーヤ*7 の訳注も参照。

3 天の第七層にある木で、地上から昇天した者はそこから先には進めない（ムヤッサル 526 頁参照）。「スィドラ」については、サバア章 16「スィドル（スィドラの複数形）」の訳注を参照。

4 同様の表現法として、ター・ハー章 38「示されるもの」の訳注も参照。「最果てのスィドラ」は、天使*たちと主*の御光、様々な色のものによって覆われているという（イブン・カスィール 7:454 参照）。

18. 彼は確かに、彼の主*の最も偉大な御徴の一部[1]を、目にしたのである。

لَقَدۡ رَأَىٰ مِنۡ ءَايَٰتِ رَبِّهِ ٱلۡكُبۡرَىٰٓ ١٨

19. （シルク*の徒よ、）言ってみよ、アッ＝ラートとアル＝ウッザー[2]について、

أَفَرَءَيۡتُمُ ٱللَّٰتَ وَٱلۡعُزَّىٰ ١٩

20. また、別の三番目、マナートについて（、それらが害する力や益する力を有しているのかを）。

وَمَنَوٰةَ ٱلثَّالِثَةَ ٱلۡأُخۡرَىٰٓ ٢٠

21. 一体、あなた方には息子があり、かれ（アッラー*）には娘があるというのか？[3]

أَلَكُمُ ٱلذَّكَرُ وَلَهُ ٱلۡأُنثَىٰ ٢١

22. だとしたら、それは不当な配分である。

تِلۡكَ إِذٗا قِسۡمَةٞ ضِيزَىٰٓ ٢٢

23. それらは、あなた方と、あなた方の先祖が名付けた名前[4]に過ぎない。アッラー*はそれら（の崇拝*）に、いかなる（正当な）根拠も下されなかったのだ。彼らは憶測と、自分たちが欲するものに従っているに外ならない。彼らのもとには、彼らの主*からの導きが、確かに到来したのである。

إِنۡ هِيَ إِلَّآ أَسۡمَآءٞ سَمَّيۡتُمُوهَآ أَنتُمۡ وَءَابَآؤُكُم مَّآ
أَنزَلَ ٱللَّهُ بِهَا مِن سُلۡطَٰنٍۚ إِن يَتَّبِعُونَ إِلَّا ٱلظَّنَّ
وَمَا تَهۡوَى ٱلۡأَنفُسُۖ وَلَقَدۡ جَآءَهُم مِّن رَّبِّهِمُ
ٱلۡهُدَىٰٓ ٢٣

24. いや、一体、人間には（それらの偶像から、）望み通りのもの[5]があるというのか？

أَمۡ لِلۡإِنسَٰنِ مَا تَمَنَّىٰ ٢٤

25. アッラー*にこそ、最後のもの（来世）と最初のもの（現世）が属するというのに。

فَلِلَّهِ ٱلۡأٓخِرَةُ وَٱلۡأُولَىٰ ٢٥

---

1 「最も偉大な御徴」とは、天国と地獄などを始めとした、アッラー*の御力と偉大さを示す根拠の数々のこと（ムヤッサル 526 頁参照）。

2 アーヤ 20 の「マナート」も含めたこれら三つは、当時アラブ人の間で有名かつ偉大視されていた偶像の名（アッ＝シャウカーニー5:142 参照）。高壁章 180 の訳注も参照。

3 彼ら自身、娘を授かることを嫌っていたにも関わらず、天使*たちを「アッラー*の娘」と呼んだ（蜜蜂章 57-59 とその訳注を参照）り、あるいはアーヤ*19-20 で言及されている偶像に女性の名前をつけたりしていたことを指している、とされる（前掲書 5:143 参照）。

4 「…名前」については、高壁章 71 の訳注を参照。

5 それらのものに対する、執り成しのこと（ムヤッサル 526 頁参照）。集団章 3 とその訳注も参照。

26. 一体、諸天にいるどれだけ多くの天使*の執り成しが、少しも役に立たないことであろうか。アッラー*が、かれがお望みになる者に（執り成しの）許可を授けられ、（執り成しを受ける者に対し、）ご満足する後でなければ。[1]

۞ وَكَم مِّن مَّلَكٍ فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ لَا تُغْنِي
شَفَٰعَتُهُمْ شَيْـًٔا إِلَّا مِنۢ بَعْدِ أَن يَأْذَنَ ٱللَّهُ لِمَن
يَشَآءُ وَيَرْضَىٰٓ ٢٦

27. 本当に、来世を信じない者たちこそが、天使たちを女性の名で名付ける[2]のである。

إِنَّ ٱلَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ بِٱلْـَٔاخِرَةِ لَيُسَمُّونَ
ٱلْمَلَٰٓئِكَةَ تَسْمِيَةَ ٱلْأُنثَىٰ ٢٧

28. 彼らには、それについて僅かばかりの知識もないというのに。彼らは憶測に従っているに外ならない。実に、憶測は真理[3]に対して何の役にも立たないのだが。

وَمَا لَهُم بِهِۦ مِنْ عِلْمٍ ۖ إِن يَتَّبِعُونَ إِلَّا ٱلظَّنَّ ۖ وَإِنَّ
ٱلظَّنَّ لَا يُغْنِي مِنَ ٱلْحَقِّ شَيْـًٔا ٢٨

29. ならば（使徒*よ）、われら*の教訓（クルアーン*）から背を向け、現世しか欲することがなかった者から、背き去れ[4]。

فَأَعْرِضْ عَن مَّن تَوَلَّىٰ عَن ذِكْرِنَا وَلَمْ يُرِدْ إِلَّا
ٱلْحَيَوٰةَ ٱلدُّنْيَا ٢٩

30. それが、彼らの知識の限界[5]。本当にあなたの主*こそは、かれの道から迷う者を最もよくご存知のお方であり、かれこそは導かれた者を最もよくご存知なのだから。

ذَٰلِكَ مَبْلَغُهُم مِّنَ ٱلْعِلْمِ ۚ إِنَّ رَبَّكَ هُوَ أَعْلَمُ بِمَن
ضَلَّ عَن سَبِيلِهِۦ وَهُوَ أَعْلَمُ بِمَنِ ٱهْتَدَىٰ ٣٠

31. アッラー*にこそ、諸天にあるものと大地にあるものは属する。かくして、かれは悪い行いだった者たちを彼らが行ったものによって報われ、善を尽くした者[6]たちを最善のもの（天国）で報われる。

وَلِلَّهِ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلْأَرْضِ لِيَجْزِيَ
ٱلَّذِينَ أَسَٰٓـُٔوا۟ بِمَا عَمِلُوا۟ وَيَجْزِيَ ٱلَّذِينَ أَحْسَنُوا۟
بِٱلْحُسْنَى ٣١

---

1 復活の日*の「執り成し」については雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

2 アーヤ*21 の訳注を参照。

3 この「真理」は、知識、あるいは懲罰のことを指す（アル＝バガウィー4:310 参照）。

4 撒き散らすもの章 54 の訳注も参照。

5 来世よりも現世を優先させたという、彼らの知識の所産と理性の程度に対する、蔑（さげす）みの表現（前掲書、同頁参照）。

6 蜜蜂章 128「善を尽くす者」についての訳注も参照。

32. 些細なもの[1]は別として、罪の内の大きなもの（大罪*）と醜行[2]を避ける者たちを（、最善のもので報われる）。実にあなたの主*は、赦しの念の深いお方なのだから。かれは、あなた方（の父アーダム*）を大地からお創りになった時、そしてあなた方が自分たちの母親のお腹で胎児だった時（から）、あなた方について最もよくご存知なのだぞ。ならば、自分自身を（罪から）潔白であると主張してはならない。かれは敬虔*である者を、最もよくご存知なのだ。

ٱلَّذِينَ يَجۡتَنِبُونَ كَبَٰٓئِرَ ٱلۡإِثۡمِ وَٱلۡفَوَٰحِشَ إِلَّا ٱللَّمَمَۚ إِنَّ رَبَّكَ وَٰسِعُ ٱلۡمَغۡفِرَةِۚ هُوَ أَعۡلَمُ بِكُمۡ إِذۡ أَنشَأَكُم مِّنَ ٱلۡأَرۡضِ وَإِذۡ أَنتُمۡ أَجِنَّةٞ فِي بُطُونِ أُمَّهَٰتِكُمۡۖ فَلَا تُزَكُّوٓاْ أَنفُسَكُمۡۖ هُوَ أَعۡلَمُ بِمَنِ ٱتَّقَىٰٓ ٣٢

33. （使徒*よ、）言ってみよ、（アッラー*への服従に）背き、[3]

أَفَرَءَيۡتَ ٱلَّذِي تَوَلَّىٰ ٣٣

34. （自分の財産から）少しだけ与え、（吝嗇さゆえに、施しを）打ち切った者（について）。

وَأَعۡطَىٰ قَلِيلٗا وَأَكۡدَىٰٓ ٣٤

35. 一体、彼のもとには不可視の世界*の知識があり、彼は（それを）目にしているというのか？[4]

أَعِندَهُۥ عِلۡمُ ٱلۡغَيۡبِ فَهُوَ يَرَىٰٓ ٣٥

36. いや、彼はムーサー*の書巻にあることを、知らされなかったのか？

أَمۡ لَمۡ يُنَبَّأۡ بِمَا فِي صُحُفِ مُوسَىٰ ٣٦

37. そして、（アッラー*の命令を）全うした、イブラーヒーム*の（書巻にあること）を？

وَإِبۡرَٰهِيمَ ٱلَّذِي وَفَّىٰٓ ٣٧

---

1 「些細なもの」とは、本人を害しない程度の小さな罪、あるいは、稀（まれ）に犯してしまう小さな罪のこと。これらの行為は、義務（ぎむ）行為を行い、禁じられた物事を回避（かいひ）している限り、アッラー*がお赦し下さる（ムヤッサル 527 頁参照）。

2 「醜行」については、蜜蜂章 90 の訳注を参照。

3 シルク*の徒の無知さについての描写がここで一旦終わり、ここからは彼らの内の特定の者が、その悪行と共に取り上げられる。それが誰か、いかなる行いに関してか、という点については諸説ある（アル＝クルトゥビー17:111 参照）。

4 施しによって、自分の財産がなくなることを知っているがゆえに、施しを打ち切ったのか、ということ（ムヤッサル 527 頁参照）。

38. （罪の）重荷を背負う者は、他者（が犯した罪）の重荷まで背負うことがない、ということを（、知らされなかったのか）？

أَلَّا تَزِرُ وَازِرَةٌ وِزْرَ أُخْرَىٰ ٣٨

39. また人間には、自分が努力したもの（の報い）しかない、ということを？[1]

وَأَن لَّيْسَ لِلْإِنسَٰنِ إِلَّا مَا سَعَىٰ ٣٩

40. また、その努力はやがて（来世で）目に見えるものとなり、

وَأَنَّ سَعْيَهُۥ سَوْفَ يُرَىٰ ٤٠

41. それから全き応報で、それを報われるのだということを？

ثُمَّ يُجْزَىٰهُ ٱلْجَزَآءَ ٱلْأَوْفَىٰ ٤١

42. また（復活の日*、全創造物の）行き着く先は、（使徒*よ、）あなたの主*にこそあるということを？

وَأَنَّ إِلَىٰ رَبِّكَ ٱلْمُنتَهَىٰ ٤٢

43. また、本当にかれこそが笑わせ、泣かせるのだということを？

وَأَنَّهُۥ هُوَ أَضْحَكَ وَأَبْكَىٰ ٤٣

44. また、本当にかれこそが死なせ、生かすのだということを？

وَأَنَّهُۥ هُوَ أَمَاتَ وَأَحْيَا ٤٤

45. また、かれが雌雄の番いを創造されたのだということを？

وَأَنَّهُۥ خَلَقَ ٱلزَّوْجَيْنِ ٱلذَّكَرَ وَٱلْأُنثَىٰ ٤٥

46. 一滴の精液から、それが（子宮へ）注がれる時に。

مِن نُّطْفَةٍ إِذَا تُمْنَىٰ ٤٦

47. また、かれにこそ（復活の日*）、もう一つの創造[2]が委ねられているということを？

وَأَنَّ عَلَيْهِ ٱلنَّشْأَةَ ٱلْأُخْرَىٰ ٤٧

48. また、かれこそが（お望みの者を）富ませ、所有させ（、満足させ）られるのだということを？

وَأَنَّهُۥ هُوَ أَغْنَىٰ وَأَقْنَىٰ ٤٨

---

1 このことは、人が他人の努力から益を得る可能性を否定しているわけではなく（山章 21も参照）、人は自分自身の努力しか有してはおらず、他人の努力にまで立ち入ることは出来ないことを示している（アッ＝シャンキーティー7:470-471 参照）。

2 死後の復活のこと（ムヤッサル 528 頁参照）。

49. また、かれこそはシリウス[1]の主*だということを？

وَأَنَّهُۥ هُوَ رَبُّ ٱلشِّعۡرَىٰ ٤٩

50. また、かれこそが最初の[2]アード*を滅ぼされ、

وَأَنَّهُۥٓ أَهۡلَكَ عَادًا ٱلۡأُولَىٰ ٥٠

51. サムード*も（滅ぼし）、（一人たりとも）残してはおかず、

وَثَمُودَاْ فَمَآ أَبۡقَىٰ ٥١

52. （彼ら）以前には、ヌーフ*の民も（滅ぼされた）、ということを？　本当に彼らこそは、（それ以後の者たち）より不正*がひどく、より放埒だったのだ。

وَقَوۡمَ نُوحٖ مِّن قَبۡلُۖ إِنَّهُمۡ كَانُواْ هُمۡ أَظۡلَمَ وَأَطۡغَىٰ ٥٢

53. また、転覆した町々。（アッラー*はそれらをひっくり返し、）墜落させせられ、[3]

وَٱلۡمُؤۡتَفِكَةَ أَهۡوَىٰ ٥٣

54. そして覆うものが、それらを覆った[4]。

فَغَشَّىٰهَا مَا غَشَّىٰ ٥٤

55. ならば一体、（不信仰な人間よ、）あなたは自分の主*のいずれの恩徳[5]について、懐疑しているのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكَ تَتَمَارَىٰ ٥٥

56. これ[6]は、先代の警告者たちの内の警告者なのである。

هَٰذَا نَذِيرٞ مِّنَ ٱلنُّذُرِ ٱلۡأُولَىٰ ٥٦

---

1 大いぬ座のシリウス星のこと。一説によればアラブ人のフザーア族が、これを崇めていた（イブン・アーシュール 27:150-151 参照）。

2 この「最初」の解釈には、「彼らがサムード*よりも前の時代だったこと」「ヌーフ*の後に滅ぼされた最初の民だったこと」「アード*には二つあり、これはその最初の方だったこと」を示している、といった諸説がある（アル＝クルトゥビー17:120 参照）。

3 「転覆した町々」については、悔悟章 70 の訳注を参照。それが滅ぼされた時の様子については、フード*章 82-83、アル＝ヒジュル章 73-74 を参照。

4 「覆うもの」とは、石の雨のこと（ムヤッサル 528 頁参照）。同様の表現法として、ター・ハー章 38「示されるもの」の訳注も参照。

5 ここまでのアーヤ*には、恩恵だけでなく、罰の描写も含まれている。それにも関わらず、それら全てが「恩徳」と表現されているのは、それらの罰の中にも数々の教示、訓戒があり、預言者*たちと信仰者たちの敵（かたき）討ちという意味もあったからである（アル＝バイダーウィー5:261 参照）。

6 「これ」には、「ムハンマド*」「クルアーン*」といった解釈がある（アル＝クルトゥビー17:121 参照）。

57. 近づくもの（復活の日*）は、近づいた。

أَزِفَتِ ٱلْأٓزِفَةُ ﴿٥٧﴾

58. アッラー*をよそに、それ（の到来の時）を明かすもの[1]はない。

لَيْسَ لَهَا مِن دُونِ ٱللَّهِ كَاشِفَةٌ ﴿٥٨﴾

59. （シルク*の徒よ、）一体あなた方は、この話に驚いているのか？

أَفَمِنْ هَٰذَا ٱلْحَدِيثِ تَعْجَبُونَ ﴿٥٩﴾

60. そして（嘲笑して）笑うだけで、（警告を怖れて）泣きはしないのか？

وَتَضْحَكُونَ وَلَا تَبْكُونَ ﴿٦٠﴾

61. 得意然となっ（て、そこから背いた）たままで？

وَأَنتُمْ سَٰمِدُونَ ﴿٦١﴾

62. ならばアッラー*にサジダ*し、（かれを）崇拝*するのだ。（読誦のサジダ*）

فَٱسْجُدُوا۟ لِلَّهِ وَٱعْبُدُوا۟ ۩ ﴿٦٢﴾

1 または、「復活の日*が到来した時、その恐怖や困難を取り除（の）けるものは、アッラー*以外にはいない」という意味（アル＝バガウィー4:318 参照）。

第 54 章
月章（アル＝カマル）[1]

سُورَةُ القَمَرِ

慈悲(じひ)あまねく*慈愛(じあい)深き*
アッラー*の御名(みな)において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. （復活の）時は近づき[2]、月は（真っ二つに）裂(さ)けた[3]。

ٱقۡتَرَبَتِ ٱلسَّاعَةُ وَٱنشَقَّ ٱلۡقَمَرُ ١

2. そして、たとえ（使徒(しと)*ムハンマド*の正しさを示す）御徴(みしるし)を目にしても、彼ら（シルク*の徒）は（その信仰に）背を向け、言うのだ。「（これは、）消え失(う)せる魔術(まじゅつ)[4]である」。

وَإِن يَرَوۡاْ ءَايَةٗ يُعۡرِضُواْ وَيَقُولُواْ سِحۡرٞ مُّسۡتَمِرّٞ ٢

3. また、彼らは（預言者(よげんしゃ)*を）嘘(うそ)つき呼ばわりし、自分たちの私欲に従(したが)った。事の全ては（復活の日*）、決着を見る。

وَكَذَّبُواْ وَٱتَّبَعُوٓاْ أَهۡوَآءَهُمۡۚ وَكُلُّ أَمۡرٖ مُّسۡتَقِرّٞ ٣

4. 彼らのもとには、（使徒*を嘘(うそ)つき呼ばわりした、過去(かこ)の民の）消息(しょうそく)である、戒(いまし)めを（十分に）含(ふく)んだものが、確かに到来(とうらい)したのだ。

وَلَقَدۡ جَآءَهُم مِّنَ ٱلۡأَنۢبَآءِ مَا فِيهِ مُزۡدَجَرٌ ٤

5. （それは）確固(かっこ)とした英知である。そして（それに背を向ける者たちに）警告(けいこく)が役立つことなど、あろうか？

حِكۡمَةُۢ بَٰلِغَةٞۖ فَمَا تُغۡنِ ٱلنُّذُرُ ٥

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称の由来ともなっている、預言者*ムハンマド*が起こした奇跡の一つ「月の断割（だんかつ）」の言及に始まり、シルク*の徒に対する警告を放つよう、命令がなされる。スーラ*の大半を、過去の預言者*たちとその民の間に起こった出来事についての教訓に満ちた話が占め、スーラ*の最後はマッカ*の不信仰者*たちへの警告と、信仰者たちの善き結末に関する描写によって締めくくられる。

2 「復活の日*の近さ」については、蜜蜂章 1、預言者たち章 1 の訳注を参照。

3 大半の解釈学者は、これが預言者*の生前、彼に起こった奇跡の一つだという見解を示している（アッ＝シャウカーニー5:158-159 参照）。預言者*がクライシュ族*の不信仰者*たちの要望に応じ、月を割って見せたことは、数多くの真正*な伝承経路によって伝えられている（イブン・カスィール 7:472 参照）。

4 「強力な魔術」という意味に解釈することも可能（アル＝バガウィー4:322 参照）。

6. ゆえに（使徒*よ）、彼らに背を向けるがよい。呼ぶ者[1]が、想像を絶すること[2]へと呼ぶ（復活の）日、

فَتَوَلَّ عَنۡهُمۡۘ يَوۡمَ يَدۡعُ ٱلدَّاعِ إِلَىٰ شَيۡءٖ نُّكُرٍ ٦

7. 彼らは怖気づいた眼をしつつ、まるで散らばるイナゴのように墓場から出て来る、

خُشَّعًا أَبۡصَٰرُهُمۡ يَخۡرُجُونَ مِنَ ٱلۡأَجۡدَاثِ كَأَنَّهُمۡ جَرَادٞ مُّنتَشِرٞ ٧

8. 呼ぶ者のところへ、あたふたと。不信仰者*たちは、言う。「これは過酷な日だ」。

مُّهۡطِعِينَ إِلَى ٱلدَّاعِۖ يَقُولُ ٱلۡكَٰفِرُونَ هَٰذَا يَوۡمٌ عَسِرٞ ٨

9. 彼ら（マッカ*の不信仰者*ら）以前、ヌーフ*の民が嘘つき呼ばわりした。彼らは、われら*の僕（ヌーフ*）を嘘つき呼ばわりして、「（彼は）憑かれた者[3]だ」と言い、（ヌーフ*は布教することを）戒められた[4]。

۞كَذَّبَتۡ قَبۡلَهُمۡ قَوۡمُ نُوحٖ فَكَذَّبُواْ عَبۡدَنَا وَقَالُواْ مَجۡنُونٞ وَٱزۡدُجِرَ ٩

10. それで彼（ヌーフ*）は、「本当に私は抑圧された者です。（私を）お助け下さい[5]」と、その主*に祈った。

فَدَعَا رَبَّهُۥٓ أَنِّي مَغۡلُوبٞ فَٱنتَصِرۡ ١٠

11. こうしてわれら*は降りつける（大量の雨）水と共に、天の諸門を開いた。

فَفَتَحۡنَآ أَبۡوَٰبَ ٱلسَّمَآءِ بِمَآءٖ مُّنۡهَمِرٖ ١١

12. また、大地を（沢山の）泉で噴き出させ、（天と大地からの）水は既に定められていた命令の通り、合流した。

وَفَجَّرۡنَا ٱلۡأَرۡضَ عُيُونٗا فَٱلۡتَقَى ٱلۡمَآءُ عَلَىٰٓ أَمۡرٖ قَدۡ قُدِرَ ١٢

13. そして、われら*は彼（と、彼と共にあった者たち）を、数々の板と釘からなる物（船）で運んだ。[6]

وَحَمَلۡنَٰهُ عَلَىٰ ذَاتِ أَلۡوَٰحٖ وَدُسُرٖ ١٣

---

1 角笛に吹き込む、天使*イスラーフィールのこと（アル＝バガウィー4:322 参照）。家畜章73 と、その訳注も参照。

2 想像を絶するほどに恐ろしい、清算の場のこと（ムヤッサル 528 頁参照）。

3 アル＝ヒジュル章 6「憑かれた者」の訳注を参照。

4 関連するアーヤとして、詩人たち章 116 も参照（イブン・カスィール 7:476 参照）。

5 信仰者たち章 26、ヌーフ*章 26-27 も参照。

6 この時の様子は、フード*章 42-48、信仰者たち章 27-29 に詳しい。

14. それは信じてはもらえなかった者（ヌーフ*）への報(むく)いとして、われら*の眼差(まなざ)しのもと[1]走った。

تَجۡرِي بِأَعۡيُنِنَا جَزَآءٗ لِّمَن كَانَ كُفِرَ ١٤

15. われら*は確かに、それを（われら*の力を証明する）御徴(みしるし)として残しておいた。では、（この話から）教訓を得る者はいるのか？

وَلَقَد تَّرَكۡنَٰهَآ ءَايَةٗ فَهَلۡ مِن مُّدَّكِرٖ ١٥

16. わが懲罰(ちょうばつ)と警告(けいこく)は、いかなるものだったか？

فَكَيۡفَ كَانَ عَذَابِي وَنُذُرِ ١٦

17. われら*は確かにクルアーン*を、教訓を得るに容易(たやす)いものとした[2]。では、（それから）教訓を得る者はいるのか？

وَلَقَدۡ يَسَّرۡنَا ٱلۡقُرۡءَانَ لِلذِّكۡرِ فَهَلۡ مِن مُّدَّكِرٖ ١٧

18. アード*は、（フード*を）嘘(うそ)つき呼ばわりした。わが懲罰(ちょうばつ)と警告(けいこく)は、いかなるものだったか？

كَذَّبَتۡ عَادٞ فَكَيۡفَ كَانَ عَذَابِي وَنُذُرِ ١٨

19. 本当にわれら*は、立て続く大難(たいなん)の日[3]に、彼らに対して咆哮(ほうこう)の暴風(ぼうふう)を送った。

إِنَّآ أَرۡسَلۡنَا عَلَيۡهِمۡ رِيحٗا صَرۡصَرٗا فِي يَوۡمِ نَحۡسٖ
مُّسۡتَمِرّٖ ١٩

20. 人々を、引っこ抜かれたナツメヤシの木の根幹(こんかん)のように、根こそぎにする（暴風(ぼうふう)を）。

تَنزِعُ ٱلنَّاسَ كَأَنَّهُمۡ أَعۡجَازُ نَخۡلٖ مُّنقَعِرٖ ٢٠

21. わが懲罰(ちょうばつ)と警告(けいこく)は、いかなるものだったか？

فَكَيۡفَ كَانَ عَذَابِي وَنُذُرِ ٢١

22. われら*は確かにクルアーン*を、教訓を得るに容易(たやす)いものとした[4]。では、（それから）教訓を得る者はいるのか？

وَلَقَدۡ يَسَّرۡنَا ٱلۡقُرۡءَانَ لِلذِّكۡرِ فَهَلۡ مِن مُّدَّكِرٖ ٢٢

---

1 「眼差しのもと」については、ター・ハー章 39 とその訳注を参照。

2 アッラー*は、クルアーン*の言葉については読誦と暗記という面から、そしてその意味については理解と熟慮（じゅくりょ）という面において、易しいものとされた（ムヤッサル 529 頁参照）。

3 この「大難の日」については、真実章 5-7 も参照。

4 アーヤ*17 の訳注を参照。

23. サムード*は、（サーリフ*からの）警告を嘘呼ばわりした。

كَذَّبَتْ ثَمُودُ بِٱلنُّذُرِ ٢٣

24. 彼らは言った。「一体、私たちの内の一介の人間に、私たちが従うとでも？ そうしたら、本当に私たちは、迷いと狂気の中にあることになる。

فَقَالُوٓا۟ أَبَشَرًا مِّنَّا وَٰحِدًا نَّتَّبِعُهُۥٓ إِنَّآ إِذًا لَّفِى ضَلَٰلٍ وَسُعُرٍ ٢٤

25. 一体、私たちを差しおいて、彼の上に教訓（啓示）が下されたと？ いや、彼は大嘘つきで自惚れ屋だ」。

أَءُلْقِىَ ٱلذِّكْرُ عَلَيْهِ مِنۢ بَيْنِنَا بَلْ هُوَ كَذَّابٌ أَشِرٌ ٢٥

26. 近い日に、彼らは知るであろう。誰が大嘘つきで自惚れ屋かを。

سَيَعْلَمُونَ غَدًا مَّنِ ٱلْكَذَّابُ ٱلْأَشِرُ ٢٦

27. 本当にわれら*は、彼らへの試練ゆえ、雌ラクダを送る者である。ゆえに（サーリフ*よ、）彼ら（に何が起こるか）を見守り、よく忍耐*せよ。[1]

إِنَّا مُرْسِلُوا۟ ٱلنَّاقَةِ فِتْنَةً لَّهُمْ فَٱرْتَقِبْهُمْ وَٱصْطَبِرْ ٢٧

28. そして彼らに伝えるのだ。水は、彼ら（と雌ラクダ）の間で（、隔日の）割り当てであるということを。水の各々の順番は、（順番の主にのみ）立ち会われるものである[2]。

وَنَبِّئْهُمْ أَنَّ ٱلْمَآءَ قِسْمَةٌۢ بَيْنَهُمْ ۖ كُلُّ شِرْبٍ مُّحْتَضَرٌ ٢٨

29. こうして彼らは（、雌ラクダを殺すために）自分たちの仲間[3]を呼び、彼は（それを）捕まえ、（その）腱を切った[4]。

فَنَادَوْا۟ صَاحِبَهُمْ فَتَعَاطَىٰ فَعَقَرَ ٢٩

---

1 この話については高壁章 73 とその訳注、フード*章 64-68、詩人たち章 155-157、太陽章 13-14 も参照。

2 ただし、ラクダが水を飲む日には、人々はその乳を飲んだとされる（イブン・カスィール 7:479 参照）。

3 これは、クッダール・ブン・サーリフという名の男とされる（前掲書、同頁参照）。

4 「腱を切った」という表現については、高壁章 77 の訳注を参照。また、彼らが雌ラクダを殺すことになった背景についても、同アーヤ*の訳注を参照。

30. わが懲罰と警告は、いかなるものだったか？

فَكَيۡفَ كَانَ عَذَابِي وَنُذُرِ ٣٠

31. 本当にわれら*は、彼らに轟きの一声[1]を送り、それで彼らは柵の枯れ枝のようになってしまった。

إِنَّآ أَرۡسَلۡنَا عَلَيۡهِمۡ صَيۡحَةٗ وَٰحِدَةٗ فَكَانُواْ
كَهَشِيمِ ٱلۡمُحۡتَظِرِ ٣١

32. われら*は確かにクルアーン*を、教訓を得るに容易いものとした[2]。では、（それから）教訓を得る者はいるのか？

وَلَقَدۡ يَسَّرۡنَا ٱلۡقُرۡءَانَ لِلذِّكۡرِ فَهَلۡ مِن مُّدَّكِرٖ ٣٢

33. ルート*の民は、警告を嘘呼ばわりした。

كَذَّبَتۡ قَوۡمُ لُوطِۭ بِٱلنُّذُرِ ٣٣

34. 本当にわれら*は彼らに、石を降らす風を送った。ルートの一族は別で、われら*は明け方に、彼ら（ルート*の一族）を救い出した。[3]

إِنَّآ أَرۡسَلۡنَا عَلَيۡهِمۡ حَاصِبًا إِلَّآ ءَالَ لُوطٖۖ
نَّجَّيۡنَٰهُم بِسَحَرٖ ٣٤

35. われら*のもとからの、恩恵ゆえに。（ルート*とその一族にそうしたのと）同様に、われら*は（われら*を信仰し、）感謝した者に報いるのだ。

نِّعۡمَةٗ مِّنۡ عِندِنَاۚ كَذَٰلِكَ نَجۡزِي مَن شَكَرَ ٣٥

36. 彼（ルート*）は確かに彼らに対し、われら*の（懲罰による）制圧を警告した。にも関わらず、彼らは警告に対して懐疑的だったのだ。

وَلَقَدۡ أَنذَرَهُم بَطۡشَتَنَا فَتَمَارَوۡاْ بِٱلنُّذُرِ ٣٦

37. 彼らは確かに彼（ルート*）を、その客人（への醜行を求めるが）ゆえに、言いくるめようと試みた[4]。それでわれら*は、彼らの眼を消したのである。（彼らには、こう言われた。）「わが懲罰と警告を味わうがよい」。

وَلَقَدۡ رَٰوَدُوهُ عَن ضَيۡفِهِۦ فَطَمَسۡنَآ أَعۡيُنَهُمۡ
فَذُوقُواْ عَذَابِي وَنُذُرِ ٣٧

---

1 サムード*に下された懲罰の詳細については、頻出名・用語解説の「サムード*」の項を参照。

2 アーヤ*17 の訳注を参照。

3 この時の様子と、ルート*の一族の中で、彼の妻だけは助からなかったということは、高壁章 80-84、フード*章 69-83、詩人たち章 160-175 に詳しい。

4 この時の様子については、高壁章 80-82、フード*章 77-81、詩人たち章 165-169、蟻章 54-56、蜘蛛章 28-30 とそれらの訳注を参照。

38. そして早朝には、恒久(こうきゅう)的な懲罰(ちょうばつ)が確かに、彼らを襲(おそ)った。

وَلَقَدْ صَبَّحَهُم بُكْرَةً عَذَابٌ مُّسْتَقِرٌّ ٣٨

39. （彼らには、こう言われた。）「わが懲罰(ちょうばつ)と警告(けいこく)を味わうがよい」。

فَذُوقُوا۟ عَذَابِى وَنُذُرِ ٣٩

40. われら*は確かにクルアーン*を、教訓を得るに容易(たやす)いものとした[1]。では、（それから）教訓を得る者はいるのか？

وَلَقَدْ يَسَّرْنَا ٱلْقُرْءَانَ لِلذِّكْرِ فَهَلْ مِن مُّدَّكِرٍ ٤٠

41. フィルアウン*の一族のもとに、（不信仰に対する懲罰(ちょうばつ)の）警告(けいこく)が、確かに到来(とうらい)した。

وَلَقَدْ جَآءَ ءَالَ فِرْعَوْنَ ٱلنُّذُرُ ٤١

42. 彼らは、われら*の御徴(みしるし)[2]を全て嘘(うそ)つき呼ばわりしたので、われら*は彼らを偉力(いりょく)ならびなく全能なる者の掌握(しょうあく)で捕(と)らえた。

كَذَّبُوا۟ بِـَٔايَٰتِنَا كُلِّهَا فَأَخَذْنَٰهُمْ أَخْذَ عَزِيزٍ مُّقْتَدِرٍ ٤٢

43. 一体（クライシュ族*よ、）あなた方の不信仰者*たちの方が、それらの（滅(ほろ)ぼされた不信仰）者*たちよりも優れているのか？　それとも、あなた方には書巻(しょかん)[3]の中に（、アッラー*の懲罰(ちょうばつ)からの）無事が（保証されて）あるというのか？

أَكُفَّارُكُمْ خَيْرٌ مِّنْ أُو۟لَٰٓئِكُمْ أَمْ لَكُم بَرَآءَةٌ فِى ٱلزُّبُرِ ٤٣

44. いや、彼らは「私たちは全員、勝利者である」などと言うのか？

أَمْ يَقُولُونَ نَحْنُ جَمِيعٌ مُّنتَصِرٌ ٤٤

45. （不信仰者*の）集団はじきに打倒され、背中を見せ（敗走す）るのだ。[4]

سَيُهْزَمُ ٱلْجَمْعُ وَيُوَلُّونَ ٱلدُّبُرَ ٤٥

46. いや、（復活の）時が、彼らの約束の時。その時はより過酷(かこく)で、苦痛にあふれている。

بَلِ ٱلسَّاعَةُ مَوْعِدُهُمْ وَٱلسَّاعَةُ أَدْهَىٰ وَأَمَرُّ ٤٦

47. 本当に罪悪(ざいあく)者たちは、迷いと烈火(れっか)の中にある。

إِنَّ ٱلْمُجْرِمِينَ فِى ضَلَٰلٍ وَسُعُرٍ ٤٧

---

1 アーヤ*17 の訳注を参照。

2 この「御徴」とは、アッラーの唯一性*と、預言者*たちの使命を証明する根拠のこと（ムヤッサル 530 頁参照）。

3 この「書巻」とは、啓典のこと（前掲書、同頁参照）。

4 これは後に、バドルの戦い*で実現した（前掲書、同頁参照）。

48. その日、彼らは顔から逆様になって業火の中を引きずられ、（こう言われる、）「焦炎の感触を味わうがよい」。

يَوۡمَ يُسۡحَبُونَ فِي ٱلنَّارِ عَلَىٰ وُجُوهِهِمۡ ذُوقُواْ مَسَّ سَقَرَ ٤٨

49. 本当にわれら*は全てのものを、定めと共に創造した[1]。

إِنَّا كُلَّ شَيۡءٍ خَلَقۡنَٰهُ بِقَدَرٖ ٤٩

50. そして、われら*の命令は一瞥のごとき（「あれ」という）一言[2]に過ぎない。

وَمَآ أَمۡرُنَآ إِلَّا وَٰحِدَةٞ كَلَمۡحِۭ بِٱلۡبَصَرِ ٥٠

51. われら*は確かに、（不信仰だった）彼らの同類たちを滅ぼした。では、（そのことから）教訓を得る者はいるのか？

وَلَقَدۡ أَهۡلَكۡنَآ أَشۡيَاعَكُمۡ فَهَلۡ مِن مُّدَّكِرٖ ٥١

52. そして彼らがした全ての物事は、書巻の中に（記録されて）あり、

وَكُلُّ شَيۡءٖ فَعَلُوهُ فِي ٱلزُّبُرِ ٥٢

53. 小さいことも、大きいことも、全て書き留められているのだ。[3]

وَكُلُّ صَغِيرٖ وَكَبِيرٖ مُّسۡتَطَرٌ ٥٣

54. 本当に敬虔な*者たちは（復活の日*）、楽園と河川のもとにある。

إِنَّ ٱلۡمُتَّقِينَ فِي جَنَّٰتٖ وَنَهَرٖ ٥٤

55. 全能の王者（アッラー*）の御許の、善き座り場所に。

فِي مَقۡعَدِ صِدۡقٍ عِندَ مَلِيكٖ مُّقۡتَدِرِۭ ٥٥

---

1 つまり、アッラー*の英知に基づいた規格において創造した。あるいは、守られし碑板*に記された定命と共に創造した（アル＝バイダーウィー5:270 参照）。

2 雌牛章 117、蜜蜂章 40、ヤー・スィーン章 82、赦し深いお方章 68 なども参照。

3 天使*たちが、現世での行いの帳簿（ちょうぼ）に記録している、ということ（ムヤッサル 531 頁参照）。高壁章 8 の訳注も参照。

第 55 章
慈悲あまねき*お方章（アッ＝ラフマーン）[1]

سُورَةُ الرَّحۡمَٰنِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. 慈悲あまねき*お方、
2. かれがクルアーン*を教えて下さり、
3. 人間を創造され、
4. 彼に（自分の内面にあるものの、）説明を教えて下さった。
5. 太陽と月は（精密な）計算のもとに（運行し）、
6. 星と木[2]はサジダ*する[3]。
7. そしてかれは天を上げ、秤[4]を置かれた。
8. あなた方が秤において、度を越さないよう。
9. そして重さを公正に量り、秤を損ねてはならない。
10. また大地は、それを創造物[5]のために置かれた。

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

ٱلرَّحۡمَٰنُ ١
عَلَّمَ ٱلۡقُرۡءَانَ ٢
خَلَقَ ٱلۡإِنسَٰنَ ٣
عَلَّمَهُ ٱلۡبَيَانَ ٤
ٱلشَّمۡسُ وَٱلۡقَمَرُ بِحُسۡبَانٖ ٥
وَٱلنَّجۡمُ وَٱلشَّجَرُ يَسۡجُدَانِ ٦
وَٱلسَّمَآءَ رَفَعَهَا وَوَضَعَ ٱلۡمِيزَانَ ٧
أَلَّا تَطۡغَوۡاْ فِي ٱلۡمِيزَانِ ٨
وَأَقِيمُواْ ٱلۡوَزۡنَ بِٱلۡقِسۡطِ وَلَا تُخۡسِرُواْ
ٱلۡمِيزَانَ ٩
وَٱلۡأَرۡضَ وَضَعَهَا لِلۡأَنَامِ ١٠

---

1 マッカ*啓示（マディーナ*啓示説もあり）。スーラ*の名称は、冒頭に出現する同語に由来。クルアーン*や創造を始めとしたアッラー*の偉大な恩恵と、かれの全能性を示す証拠の数々が、「ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？」という問いかけの言葉の反復と共に、並べられていく。スーラ*中盤からは復活の日*の恐怖、来世における不信仰者*と信仰者の行き先、そこで彼らが受ける苦しみ、あるいは享楽（きょうらく）の数々が描写されていき、最後はアッラー*への讃美によって締めくくられる。

2 この「木」とは、「茎（くき）や幹（みき）のある植物」のこと。尚「星（ナジュム）」の解釈には、「茎や幹のない植物」という説もある（ムヤッサル 531 頁参照）。

3 この「サジダ*」については、蜜蜂章 49、巡礼*章 18 とその訳注も参照。

4 この「秤」とは、公正さのこととされる。鉄章 25 も参照（イブン・カスィール 7:490 参照）。

5 この「創造物（アナーム）」は、特に人間のこと、あるいはジン*と人間のことを指す、という説もある（アル＝クルトゥビー17:155 参照）。

11. そこには果実や、苞[1]をつけたナツメヤシの木がある。
فِيهَا فَٰكِهَةٌ وَٱلنَّخۡلُ ذَاتُ ٱلۡأَكۡمَامِ ١١

12. そして茎葉を有する種粒と、芳しいもの[2]が。
وَٱلۡحَبُّ ذُو ٱلۡعَصۡفِ وَٱلرَّيۡحَانُ ١٢

13. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？
فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ١٣

14. かれ（アッラー*）は人間（の祖アーダム*）を、陶土のような乾いた土からお創りになり、[3]
خَلَقَ ٱلۡإِنسَٰنَ مِن صَلۡصَٰلٖ كَٱلۡفَخَّارِ ١٤

15. ジン*（イブリース*）は、炎の混じり合ったもの[4]から創られた。
وَخَلَقَ ٱلۡجَآنَّ مِن مَّارِجٖ مِّن نَّارٖ ١٥

16. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？
فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ١٦

17. （アッラー*は）二つの東と、二つの西の主*。[5]
رَبُّ ٱلۡمَشۡرِقَيۡنِ وَرَبُّ ٱلۡمَغۡرِبَيۡنِ ١٧

18. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？
فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ١٨

19. かれは二つの海[6]を出合わせて、合流するものとされた。
مَرَجَ ٱلۡبَحۡرَيۡنِ يَلۡتَقِيَانِ ١٩

---

1 「苞」とは、ナツメヤシの実がその中から出てくる、覆いの部分のこと（ムヤッサル 531 頁参照）。

2 「芳しいもの」については、出来事章 89 の訳注を参照。

3 アーダム*が土から段階を経（へ）て創られたことについては、アル＝ヒジュル章 26 の訳注を参照。

4 「炎の先」「混じり気のない火」といった解釈もある（イブン・カスィール 7:492 参照）。

5 「二つの東」とは、それぞれ冬と夏に太陽が昇る地点で、「二つの西」とは、それぞれ冬と夏に太陽が沈む地点のことを指す、とされる（アル＝バガウィー4:26 参照）。

6 この「二つの海」とは一説に、淡水と海水のこと（ムヤッサル 532 頁参照）。

20. その二つの間には、お互いに越え合うことのない障壁がある。[1]

بَيْنَهُمَا بَرْزَخٌ لَّا يَبْغِيَانِ ٢٠

21. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٢١

22. その二つからは、真珠と赤珊瑚が産する。[2]

يَخْرُجُ مِنْهُمَا ٱللُّؤْلُؤُ وَٱلْمَرْجَانُ ٢٢

23. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٢٣

24. かれ（アッラー*）には、山々のような建造物である、海を走るもの[3]が属する。

وَلَهُ ٱلْجَوَارِ ٱلْمُنشَـَٔاتُ فِى ٱلْبَحْرِ كَٱلْأَعْلَـٰمِ ٢٤

25. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٢٥

26. そこ（大地）にある全てのものは、消え行く。

كُلُّ مَنْ عَلَيْهَا فَانٍ ٢٦

27. そしてあなたの主*の、高貴さと荘厳さを湛えた御顔だけが残る。

وَيَبْقَىٰ وَجْهُ رَبِّكَ ذُو ٱلْجَلَـٰلِ وَٱلْإِكْرَامِ ٢٧

28. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٢٨

29. 諸天と大地にある者は、かれに（自分たちの必要なものを）乞う。毎日、かれは事にあたっておられる[4]。

يَسْـَٔلُهُۥ مَن فِى ٱلسَّمَـٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۚ كُلَّ يَوْمٍ هُوَ فِى
شَأْنٍ ٢٩

---

1 一方の海は、別の海を越境（えっきょう）して、その水の特性を変えてしまうことがない、という意味とされる（ムヤッサル 532 頁参照）。識別章 53 も参照。

2 「赤珊瑚」には、「小さな真珠」「大きな真珠」といった解釈もある（アル＝クルトゥビー 17:163 参照）。

3 高いマストと帆（ほ）を掲げた、船の描写（ムヤッサル 532 頁参照）。相談章 32-34 も参照。

4 「事にあたる」というのは、事を新たに始めるのではなく、（既に定めたことを）実現していくこと（イブン・ジュザイ 2:394 参照）。

30. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٣٠

31. 重き双方の者たちよ[1]、じきにわれら*は、あなた方（の現世での行いの清算と報いの仕事）に、取りかかろう。

سَنَفۡرُغُ لَكُمۡ أَيُّهَ ٱلثَّقَلَانِ ٣١

32. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٣٢

33. ジン*と人間の衆よ、もしあなた方が（アッラー*のご命令とご決定から逃れようと）、諸天と大地の端々から脱出できるのであれば、脱出してみよ。あなた方は（アッラー*の）権威なしには、脱出することなど出来ないのだ。[2]

يَٰمَعۡشَرَ ٱلۡجِنِّ وَٱلۡإِنسِ إِنِ ٱسۡتَطَعۡتُمۡ أَن
تَنفُذُواْ مِنۡ أَقۡطَارِ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ
فَٱنفُذُواْۚ لَا تَنفُذُونَ إِلَّا بِسُلۡطَٰنٖ ٣٣

34. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٣٤

35. あなた方双方には、業火からの無煙の炎と（溶けた）銅[3]が送られ、助けを得ることはない。

يُرۡسَلُ عَلَيۡكُمَا شُوَاظٞ مِّن نَّارٖ وَنُحَاسٞ فَلَا
تَنتَصِرَانِ ٣٥

36. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٣٦

---

1 「重き双方の者たち」とは、ジン*と人間のこと。その名称の由来には、「他の創造物に比べ、その重要な位置づけゆえ」「生前、死後を問わず、地上における荷物のような存在であるため」「罪という重荷を背負っているため」（アル＝バガウィー4:336参照）「アッラー*に対する諸々の義務が課せられているため」（アル＝クルトゥビー17:169参照）といった諸説がある。

2 これは復活の日*のこととも、現世でのこととも言われる（前掲書17:169-170参照）。

3 「無煙の炎」と訳した「シュワーズ」には、ほかにも「地獄から上がって遊離（ゆうり）した緑色の炎」「炎から生じたのではない煙」といった説もある。「銅（ヌハース）」については「炎を伴（ともな）わない煙」「煮えたぎった油」などといった解釈もある（アッ＝シャウカーニー5:182参照）。

37. （復活の日*、）天が裂け、真紅となり、溶けた脂[1]のようになる時（、あなた方は恐るべきものを目にする）。[2]

فَإِذَا ٱنشَقَّتِ ٱلسَّمَآءُ فَكَانَتْ وَرْدَةً كَٱلدِّهَانِ ٣٧

38. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٣٨

39. その日、人間もジン*も、自分の罪について尋ねられることはない。[3]

فَيَوْمَئِذٍ لَّا يُسْـَٔلُ عَن ذَنۢبِهِۦٓ إِنسٌ وَلَا جَآنٌّ ٣٩

40. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٤٠

41. 罪悪者たちは、その目印によって認められ、前髪と足を掴まれ[4]（て、地獄へと放り投げられ）る。

يُعْرَفُ ٱلْمُجْرِمُونَ بِسِيمَٰهُمْ فَيُؤْخَذُ بِٱلنَّوَٰصِى وَٱلْأَقْدَامِ ٤١

42. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٤٢

---

1 「溶けた脂」という訳をあてた「ディハーン」の解釈には、「赤い皮」「赤毛の馬（季節によって色が変化するが、復活の日*の空も同様に色が変化する）」「油そのものではなく、それを撒（ま）いた時に見える様々な色」などといった諸説もある（アル＝クルトゥビー 17:173 参照）。

2 復活の日*の天変地異については洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、山章 9-10、出来事章 5ー6、衣を纏（まと）う者章 14、真実章 13-15、階段章 8-9、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 なども参照。

3 アル＝ヒジュル章 92-93 などにもあるように、クルアーン*の別の箇所には、アッラー*が彼らを問いただす描写が登場する。これに関しては、以下の様な回答がある：①一通り問いただされた後、彼らの口が封じられ、彼らの手や足が、彼らのしたことを話し出す（ヤー・スィーン章 65 とその訳注も参照）。②その日、全知のアッラー*は彼らに、「あなた方はこのようなことをしたのか？」というような言い方ではなく、「なぜ、このようなことをしたのか？」と仰せられる（高壁章 8 の訳注も参照）。③これは、彼らを地獄へと連れて行く天使*たちのことで、彼らは質問などしない（イブン・カスィール 7:499 参照）。

4 「前髪を掴まれる」という表現については、凝血*章 15 の訳注を参照。

43. これが、罪悪者たちが（現世で）嘘呼ばわりしている地獄。

هَٰذِهِۦ جَهَنَّمُ ٱلَّتِي يُكَذِّبُ بِهَا ٱلۡمُجۡرِمُونَ ٤٣

44. 彼らはそれ（火獄）と、煮えたぎる熱湯の間を回る。

يَطُوفُونَ بَيۡنَهَا وَبَيۡنَ حَمِيمٍ ءَانٖ ٤٤

45. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٤٥

46. そして（清算の日における）自らの主*の立ち所を怖れ（、かれに服従し、かれへの反抗を断っ）た者には、二つの楽園がある。

وَلِمَنۡ خَافَ مَقَامَ رَبِّهِۦ جَنَّتَانِ ٤٦

47. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٤٧

48. （果実をつけた豊かな）樹枝を擁する（、二つの楽園が）。

ذَوَاتَآ أَفۡنَانٖ ٤٨

49. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٤٩

50. その二つの（楽園の）中には、二つの泉が流れている。

فِيهِمَا عَيۡنَانِ تَجۡرِيَانِ ٥٠

51. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٥١

52. その二つの（楽園の）中には、あらゆる果実に二つの種類がある。[1]

فِيهِمَا مِن كُلِّ فَٰكِهَةٖ زَوۡجَانِ ٥٢

---

1 この「二つの種類」の解釈については、「いずれも美味な二種類の果実」「瑞々（みずみず）しいものと乾燥したもの」「他の楽園に比べて、倍の楽しみがあることを示している」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー17:179 参照）。また天国の民の食べ物については、ヤー・スィーン章 57、サード章 51、詳細にされた章 31、金の装飾章 73、煙霧章 55、ム

53. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٥٣

54. その内側が、重厚な絹地製[1]の（敷き物である）寝床に寄りかかりつつ（、彼らはそこで楽しむ）。二つの楽園の果実が、（彼らの）手近にある中で。

مُتَّكِـِٔينَ عَلَىٰ فُرُشِۭ بَطَآئِنُهَا مِنۡ إِسۡتَبۡرَقٖۚ وَجَنَى ٱلۡجَنَّتَيۡنِ دَانٖ ٥٤

55. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٥٥

56. そこ（寝床）には、（自分の夫だけに）視線を定めた女性[2]たちがいる。彼女たちには彼ら以前、いかなる人間も、ジン*も触れてはいない。

فِيهِنَّ قَٰصِرَٰتُ ٱلطَّرۡفِ لَمۡ يَطۡمِثۡهُنَّ إِنسٞ قَبۡلَهُمۡ وَلَا جَآنّٞ ٥٦

57. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٥٧

58. 彼女たちは、まるでルビーと赤珊瑚[3]のよう。

كَأَنَّهُنَّ ٱلۡيَاقُوتُ وَٱلۡمَرۡجَانُ ٥٨

59. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٥٩

60. 一体、（現世での）善の報いは、（来世での）善に外ならないのではないか？

هَلۡ جَزَآءُ ٱلۡإِحۡسَٰنِ إِلَّا ٱلۡإِحۡسَٰنُ ٦٠

ハンマド*章 15、山章 22、出来事章 20-21、真実章 23、人間章 14、送られるもの章 42 なども参照。

1 内側が重厚な絹地なのだから、その外側が素晴らしいのは言うまでもない。一説によれば、その外側は地上で比較できるものがないために、あえて言及されてはいない（アル＝バガウィー4:341 参照）。

2 「視線を定めた女性」については、整列者章 48 の訳注を参照。

3 「赤珊瑚」については、アーヤ*22 の訳注を参照。

61. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方(そうほう)は自分たちの主(しゅ)*の、いずれの恩徳(おんとく)を嘘(うそ)呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٦١

62. そして、その二つの（楽園の）外(ほか)に、（もう）二つの楽園がある。

وَمِن دُونِهِمَا جَنَّتَانِ ٦٢

63. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方(そうほう)は自分たちの主(しゅ)*の、いずれの恩徳(おんとく)を嘘(うそ)呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٦٣

64. （緑(みどり)濃(こ)く）黒ずんだ二つの（楽園が）。

مُدۡهَآمَّتَانِ ٦٤

65. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方(そうほう)は自分たちの主(しゅ)*の、いずれの恩徳(おんとく)を嘘(うそ)呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٦٥

66. その二つの（楽園の）中には、二つのほとばしる泉がある。

فِيهِمَا عَيۡنَانِ نَضَّاخَتَانِ ٦٦

67. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方(そうほう)は自分たちの主(しゅ)*の、いずれの恩徳(おんとく)を嘘(うそ)呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٦٧

68. その二つの（楽園の）中には、（各種の）果実、ナツメヤシの木、ザクロがある。[1]

فِيهِمَا فَٰكِهَةٞ وَنَخۡلٞ وَرُمَّانٞ ٦٨

69. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方(そうほう)は自分たちの主(しゅ)*の、いずれの恩徳(おんとく)を嘘(うそ)呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٦٩

70. それら（全ての楽園）の中には、善良で麗(うるわ)しき女性たちがいる。[2]

فِيهِنَّ خَيۡرَٰتٌ حِسَانٞ ٧٠

---

1 天国の民の食べ物については、ヤー・スィーン章 57、サード章 51、詳細にされた章 31、金の装飾章 73、煙霧章 55、ムハンマド*章 15、山章 22、出来事章 20-21、真実章 23、人間章 14、送られるもの章 42 なども参照。

2 雌牛章 25「純潔な妻」の訳注、および整列章 48、煙霧章 54 の訳注も参照。

71. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٧١

72. 天幕の中に滞留させられ（守られ）た、色白の女性たち。[1]

حُورٌ مَّقْصُورَٰتٌ فِى ٱلْخِيَامِ ٧٢

73. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٧٣

74. 彼女たちには彼ら以前、いかなる人間も、ジン*も触れてはいない。

لَمْ يَطْمِثْهُنَّ إِنسٌ قَبْلَهُمْ وَلَا جَآنٌّ ٧٤

75. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٧٥

76. 緑色のクッション[2]と、精妙な敷き物に寄りかかりつつ（、彼らはそこで楽しむ）。

مُتَّكِـِٔينَ عَلَىٰ رَفْرَفٍ خُضْرٍ وَعَبْقَرِىٍّ حِسَانٍ ٧٦

77. ならば（ジン*と人間よ）、あなた方双方は自分たちの主*の、いずれの恩徳を嘘呼ばわりするというのか？

فَبِأَيِّ ءَالَآءِ رَبِّكُمَا تُكَذِّبَانِ ٧٧

78. 高貴さと荘厳さを湛えた、あなたの主*の御名は、祝福にあふれていることよ。

تَبَٰرَكَ ٱسْمُ رَبِّكَ ذِى ٱلْجَلَٰلِ وَٱلْإِكْرَامِ ٧٨

1 雌牛章 25「純潔な妻」の訳注、および整列章 48、煙霧章 54 の訳注も参照。

2 「クッション（ラフラフ）」には、「天国の庭園」「敷き物」「ソファーの類」といった別の解釈もある（アル＝バガウィー4:346 参照）。

第 56 章
出来事章（アル＝ワーキア）[1]

سُورَةُ الوَاقِعَةِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. （復活の日*という）出来事が起こる時。
2. それが起きるのを、嘘とする者はいない。
3. （その出来事は、ある民を地獄へと）下げ、（ある民を天国へと）上げる。
4. 大地は激しく揺れ動き、
5. 山々は細かく砕け散って、
6. ばらばらの塵屑となり、[2]
7. あなた方（人々）が三つの種類[3]となる時。
8. 右側の徒、右側の徒とは何か？
9. また左側の徒、左側の徒とは何か？[4]

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

إِذَا وَقَعَتِ ٱلْوَاقِعَةُ ١
لَيْسَ لِوَقْعَتِهَا كَاذِبَةٌ ٢
خَافِضَةٌ رَّافِعَةٌ ٣
إِذَا رُجَّتِ ٱلْأَرْضُ رَجًّا ٤
وَبُسَّتِ ٱلْجِبَالُ بَسًّا ٥
فَكَانَتْ هَبَآءً مُّنۢبَثًّا ٦
وَكُنتُمْ أَزْوَٰجًا ثَلَٰثَةً ٧
فَأَصْحَٰبُ ٱلْمَيْمَنَةِ مَآ أَصْحَٰبُ ٱلْمَيْمَنَةِ ٨
وَأَصْحَٰبُ ٱلْمَشْـَٔمَةِ مَآ أَصْحَٰبُ ٱلْمَشْـَٔمَةِ ٩

---

1 マッカ*啓示（一部アーヤ*には、マディーナ*啓示説もあり）。冒頭ではスーラ*の名称ともなっている「出来事」、つまり復活の日*の到来の確証とその恐るべき様子の描写がなされ、それから来世における三種類の人々の状況が、信仰者への吉報と不信仰者*への警告と共に、詳しく描き出されていく。スーラ*後半では、自然界の様々な驚異（きょうい）や恩恵の言及と共に、アッラー*の存在、かれの唯一性*の証明がなされ、最後は再び来世における三種類の人々の集団についての描写で幕を閉じる。

2 復活の日*の天変地異の様子については洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、山章 9-10、衣を纏（まと）う者章 14、真実章 13-15、階段章 8-9、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 なども参照。

3 アーヤ*8、9、10 のそれぞれで言及されている者たち（イブン・カスィール 7:515 参照）。

4 「右側の徒」とは、高い位の者たちで、「左側の徒」は低い位の者たち（ムヤッサル 534 頁参照）。その名前の由来については、「天国が右側、地獄が左側にあるため」「アーダム*の全ての子孫がその後背部から出された時（高壁章 172 とその訳注も参照）、彼の右側にいた者たちが、天国の民となることを約束されたため」「行いの帳簿を右手に渡された者が天国の徒に、左手に渡された者が地獄の徒となるため」「右が善行を、左が悪行を表しているため」などの諸説がある（アル＝クルトゥビー17:198 参照）。

10. そして（現世で善に）先んじる者たちは、（来世で高い位へと）先んじる者たち。

وَٱلسَّٰبِقُونَ ٱلسَّٰبِقُونَ ١٠

11. それらの者たちは、（アッラー*の御許における）側近である、

أُوْلَٰٓئِكَ ٱلْمُقَرَّبُونَ ١١

12. 安寧の楽園において。

فِي جَنَّٰتِ ٱلنَّعِيمِ ١٢

13. （彼ら側近たちは、）先代の者たちから多く、

ثُلَّةٞ مِّنَ ٱلْأَوَّلِينَ ١٣

14. 後代の者たちからは少ない。[1]

وَقَلِيلٞ مِّنَ ٱلْأٓخِرِينَ ١٤

15. （金銀宝石で）刺繍された寝台の上に、

عَلَىٰ سُرُرٖ مَّوْضُونَةٖ ١٥

16. その上に寄りかかって、互いに向かい合いつつ。[2]

مُّتَّكِـِٔينَ عَلَيْهَا مُتَقَٰبِلِينَ ١٦

17. 永遠の少年たちが、彼らの周りを（奉仕のために）回って歩く。

يَطُوفُ عَلَيْهِمْ وِلْدَٰنٞ مُّخَلَّدُونَ ١٧

18. 杯と、水差しと、（酒*の）湧き水からの盃を携えて。

بِأَكْوَابٖ وَأَبَارِيقَ وَكَأْسٖ مِّن مَّعِينٖ ١٨

19. 彼らはそれ（酒*）ゆえに頭痛を催すことも、理性を失うこともない。

لَّا يُصَدَّعُونَ عَنْهَا وَلَا يُنزِفُونَ ١٩

20. また（永遠の少年たちは）、彼ら（側近たち）が選り取りの果実と、

وَفَٰكِهَةٖ مِّمَّا يَتَخَيَّرُونَ ٢٠

21. 彼らが欲する鶏肉を（携えて、彼らを回って歩く）。

وَلَحْمِ طَيْرٖ مِّمَّا يَشْتَهُونَ ٢١

22. また（彼らには）、麗しい眼の色白の女性たちがいる、[3]

وَحُورٌ عِينٞ ٢٢

23. 秘められた真珠のような（女性たちが）、

كَأَمْثَٰلِ ٱللُّؤْلُوِ ٱلْمَكْنُونِ ٢٣

---

1 「先代」とは、預言者*ムハンマド*の共同体、及びその他のイスラーム*共同体の先代の者たち。「後代」とは、イスラーム*共同体の後代の者たち（ムヤッサル 534 頁参照）。

2 アル＝ヒジュル章 47 の訳注を参照。

3 雌牛章 25「純潔な妻」の訳注、および整列章 48、煙霧章 54 の訳注も参照。

24. 彼らが（現世で）行っていた（正しい）ことゆえの、報いとして。

جَزَآءَۢ بِمَا كَانُواْ يَعۡمَلُونَ ٢٤

25. 彼らはそこで、戯言[1]も罪な言葉も、耳にすることがない。

لَا يَسۡمَعُونَ فِيهَا لَغۡوٗا وَلَا تَأۡثِيمًا ٢٥

26. ただ、「（あなた方に）平安を、（あなた方に）平安を[2]」という（互いに交わされる）言葉を聞くだけ。

إِلَّا قِيلٗا سَلَٰمٗا سَلَٰمٗا ٢٦

27. そして右側の徒、右側の徒[3]（の大いなる位と報い）とは何か？

وَأَصۡحَٰبُ ٱلۡيَمِينِ مَآ أَصۡحَٰبُ ٱلۡيَمِينِ ٢٧

28. （彼らは、）棘のないスィドル[4]、

فِي سِدۡرٖ مَّخۡضُودٖ ٢٨

29. 折り重なるバナナ[5]、

وَطَلۡحٖ مَّنضُودٖ ٢٩

30. （消え入ることなく）行き渡る陰、

وَظِلّٖ مَّمۡدُودٖ ٣٠

31. （涸れることなく）流れる水、

وَمَآءٖ مَّسۡكُوبٖ ٣١

32. ふんだんな果実の中にいる。

وَفَٰكِهَةٖ كَثِيرَةٖ ٣٢

33. 絶えることがなく、禁じられもしない（果実の中に）。

لَّا مَقۡطُوعَةٖ وَلَا مَمۡنُوعَةٖ ٣٣

34. また、高く上げられた寝床（の中に）。

وَفُرُشٖ مَّرۡفُوعَةٍ ٣٤

35. 本当にわれら*は彼女（天国の女性）たちを、（完全な形に）創り上げ[6]、

إِنَّآ أَنشَأۡنَٰهُنَّ إِنشَآءٗ ٣٥

36. 彼女たちを処女とし、

فَجَعَلۡنَٰهُنَّ أَبۡكَارًا ٣٦

---

1 「戯言」については、信仰者たち章 3 の同語の訳注を参照。

2 「あなた方に平安を」については、雷鳴章 24 の訳注を参照。

3 「右側の徒」については、アーヤ*8-9 の訳注を参照。

4 「スィドル」については、サバア章 16 の訳注を参照。現世では棘だらけで実の少ないスィドルの木だが、来世では逆に棘がなく、沢山の実をつけるのだという（イブン・カスィール 7:525 参照）。

5 アル＝クルトゥビー*によれば、この「バナナ」という解釈が大半の学者の見解だが、ほかにも「アカシアの木」という解釈もある（17:208 参照）。

6 雌牛章 25「純潔な妻」の訳注、および整列章 48、煙霧章 54 の訳注も参照。

37. 愛らしく、（彼女ら自身が互いに）同い年の女性とした。
عُرُبًا أَتْرَابًا ﴿٣٧﴾

38. 右側の徒のために。
لِّأَصْحَٰبِ ٱلْيَمِينِ ﴿٣٨﴾

39. （彼らは、）先代の者たちから多く、
ثُلَّةٌ مِّنَ ٱلْأَوَّلِينَ ﴿٣٩﴾

40. 後代の者たちからも多い。
وَثُلَّةٌ مِّنَ ٱلْءَاخِرِينَ ﴿٤٠﴾

41. そして左側の徒、左側の徒[1]（の状態と報(むく)い）とは何か？
وَأَصْحَٰبُ ٱلشِّمَالِ مَآ أَصْحَٰبُ ٱلشِّمَالِ ﴿٤١﴾

42. （彼らは、）熱風と煮えたぎる湯、
فِى سَمُومٍ وَحَمِيمٍ ﴿٤٢﴾

43. 黒煙(こくえん)の陰(かげ)の中。
وَظِلٍّ مِّن يَحْمُومٍ ﴿٤٣﴾

44. 涼しくも、麗(うるわ)しくもない（陰(かげ)の中にいる）。
لَّا بَارِدٍ وَلَا كَرِيمٍ ﴿٤٤﴾

45. 本当に彼らはそれ以前、（現世で禁じられた）贅(ぜい)を尽(つ)くしていた者たちだったのであり、
إِنَّهُمْ كَانُوا۟ قَبْلَ ذَٰلِكَ مُتْرَفِينَ ﴿٤٥﴾

46. この上ない罪(つみ)[2]に固執(こしつ)し、
وَكَانُوا۟ يُصِرُّونَ عَلَى ٱلْحِنثِ ٱلْعَظِيمِ ﴿٤٦﴾

47. （こう）言っていたからなのだ。「一体、私たちが死んで砂と骨と化した後、本当に蘇(よみがえ)らされるというのか？
وَكَانُوا۟ يَقُولُونَ أَئِذَا مِتْنَا وَكُنَّا تُرَابًا وَعِظَٰمًا أَءِنَّا لَمَبْعُوثُونَ ﴿٤٧﴾

48. そして、私たちの先代のご先祖様たちも？」
أَوَءَابَآؤُنَا ٱلْأَوَّلُونَ ﴿٤٨﴾

49. （使徒(しと)*よ、）言ってやるがいい。「本当に先代の者たちも、後代の者たちも、
قُلْ إِنَّ ٱلْأَوَّلِينَ وَٱلْءَاخِرِينَ ﴿٤٩﴾

50. （復活の日*という）定められた日の定められた時に、まさしく集められるのである。
لَمَجْمُوعُونَ إِلَىٰ مِيقَٰتِ يَوْمٍ مَّعْلُومٍ ﴿٥٠﴾

51. それから――（アッラー*のお約束を）嘘呼(うそ)ばわりする迷い人たちよ――、本当にあなた方は、
ثُمَّ إِنَّكُمْ أَيُّهَا ٱلضَّآلُّونَ ٱلْمُكَذِّبُونَ ﴿٥١﴾

1 「左側の徒」については、アーヤ*8-9 の訳注を参照。

2 「この上ない罪」とは、アッラー*への不信仰、シルク*、かれへの反抗のこと（ムヤッサル 535 頁参照）。

52. まさにザックームの木[1]から食べ、

53. それで腹を満たし、

54. その上に煮えたぎる湯を飲み、

55. 喉を渇かせたラクダが飲むように、（それを）飲む者たち。

56. これが報いの日*の、彼ら（へ）の御もてなし[2]である。

57. （人々よ、）われら*があなた方を、創ったのだ。なのに、どうしてあなた方は（死後の復活を）信じないのか？

58. 言ってみよ、あなた方が（自分たちの妻の子宮に）射精するものについて。

59. 一体、あなた方がそれを（人間として）創るのか？ それとも、われら*が創造者なのか？

60. われら*はあなた方（各々）の間に、死（の時期）を定めたのであり、不能者などではない、

61. われら*が（あなた方を、）あなた方と同様の存在と取り替え、あなた方をあなた方が知らない形に創造することにおいて。[3]

62. あなた方は確かに、最初の創造を知っている。なのに、どうして（アッラー*は二度目の創造もされるとの、）教訓を得ないのか？[4]

لَءَاكِلُونَ مِن شَجَرٖ مِّن زَقُّومٖ ٥٢

فَمَالِـُٔونَ مِنۡهَا ٱلۡبُطُونَ ٥٣

فَشَٰرِبُونَ عَلَيۡهِ مِنَ ٱلۡحَمِيمِ ٥٤

فَشَٰرِبُونَ شُرۡبَ ٱلۡهِيمِ ٥٥

هَٰذَا نُزُلُهُمۡ يَوۡمَ ٱلدِّينِ ٥٦

نَحۡنُ خَلَقۡنَٰكُمۡ فَلَوۡلَا تُصَدِّقُونَ ٥٧

أَفَرَءَيۡتُم مَّا تُمۡنُونَ ٥٨

ءَأَنتُمۡ تَخۡلُقُونَهُۥٓ أَمۡ نَحۡنُ ٱلۡخَٰلِقُونَ ٥٩

نَحۡنُ قَدَّرۡنَا بَيۡنَكُمُ ٱلۡمَوۡتَ وَمَا نَحۡنُ بِمَسۡبُوقِينَ ٦٠

عَلَىٰٓ أَن نُّبَدِّلَ أَمۡثَٰلَكُمۡ وَنُنشِئَكُمۡ فِي مَا لَا
تَعۡلَمُونَ ٦١

وَلَقَدۡ عَلِمۡتُمُ ٱلنَّشۡأَةَ ٱلۡأُولَىٰ فَلَوۡلَا تَذَكَّرُونَ ٦٢

1 「ザックームの木」については、夜の旅章 60「呪われた木」の訳注、および整列者章 62-66、煙霧章 43-46 を参照。

2 この「御もてなし」については、洞窟章 102 の訳注を参照。

3 これは一説に、過去の民に起こったように、その姿形を猿や豚などに変えられてしまうこと（食卓章 60 参照）。あるいは来世において、現世のものとは違う形に蘇（よみがえ）らされる、ということ（アル＝クルトゥビー17:217 参照）。

4 「最初の創出」とは、アッラー*が彼らを創造されたこと。二度目のものは、復活（ムヤッサル 536 頁参照）。マルヤム*章 67、ビザンチン章 27、ヤー・スィーン章 77-79、復活章 36-40 も参照。

63. 言ってみよ、あなた方が耕(たがや)すものについて。
أَفَرَءَيْتُم مَّا تَحْرُثُونَ ٦٣

64. 一体、あなた方がそれ（作物）を生育させるのか？　それとも、われら*が生育者なのか？
ءَأَنتُمْ تَزْرَعُونَهُۥٓ أَمْ نَحْنُ ٱلزَّٰرِعُونَ ٦٤

65. もし望んだなら、われら*はそれを木(こ)っ端微(ぱみ)塵(じん)にし、あなた方は（その罰(ばつ)に）驚愕(きょうがく)したままとなっただろう。
لَوْ نَشَآءُ لَجَعَلْنَٰهُ حُطَٰمًا فَظَلْتُمْ تَفَكَّهُونَ ٦٥

66. 「本当に私たちは、破滅(はめつ)者である。
إِنَّا لَمُغْرَمُونَ ٦٦

67. いや、私たちは（糧(かて)を）禁じられてしまったのだ」（と言いつつ。）
بَلْ نَحْنُ مَحْرُومُونَ ٦٧

68. 言ってみよ、あなた方が飲むもの（水）について。
أَفَرَءَيْتُمُ ٱلْمَآءَ ٱلَّذِى تَشْرَبُونَ ٦٨

69. 一体、あなた方がそれを雲から（地上へ）降(ふ)らすのか？　それとも、われら*が降(ふ)らす者なのか？
ءَأَنتُمْ أَنزَلْتُمُوهُ مِنَ ٱلْمُزْنِ أَمْ نَحْنُ ٱلْمُنزِلُونَ ٦٩

70. もし望んだなら、われら*はそれを辛(から)いものとしたのだ。なのに、どうしてあなた方は感謝しないのか？
لَوْ نَشَآءُ جَعَلْنَٰهُ أُجَاجًا فَلَوْلَا تَشْكُرُونَ ٧٠

71. 言ってみよ、あなた方が点(とも)す火について。
أَفَرَءَيْتُمُ ٱلنَّارَ ٱلَّتِى تُورُونَ ٧١

72. 一体、あなた方が（火種(ひだね)とする）その木を創ったのか？　それとも、われら*が（その）創造(そうぞう)者なのか？
ءَأَنتُمْ أَنشَأْتُمْ شَجَرَتَهَآ أَمْ نَحْنُ ٱلْمُنشِـُٔونَ ٧٢

73. われら*はそれを（復活と地獄の業火(ごうか)を想起させる）教訓と、広漠な地にある者[1]たちへの益(えき)としたのだ。
نَحْنُ جَعَلْنَٰهَا تَذْكِرَةً وَمَتَٰعًا لِّلْمُقْوِينَ ٧٣

74. ならば（預言者(よげんしゃ)*よ）、この上なく偉大なあなたの主(しゅ)*の御名(みな)と共に、（かれを）称(たた)え*よ。
فَسَبِّحْ بِٱسْمِ رَبِّكَ ٱلْعَظِيمِ ٧٤

1　「空腹な者たち」という解釈もある。いずれにせよ、広漠な地にある者は明かりや暖において、空腹な者は食べ物とその調理において、火から特に大きな益を得る（イブン・アーシュール 27:327 参照）。

75. われはまさに、星々の沈む場所[1]にかけて誓う。[2]

۞ فَلَآ أُقۡسِمُ بِمَوَٰقِعِ ٱلنُّجُومِ ٧٥

76. 本当にそれはまさしく、偉大なる誓いなのである。もし、あなた方が（そのことを）知っているのならば。

وَإِنَّهُۥ لَقَسَمٞ لَّوۡ تَعۡلَمُونَ عَظِيمٌ ٧٦

77. 実にそれはまさしく、気高いクルアーン*なのだ、

إِنَّهُۥ لَقُرۡءَانٞ كَرِيمٞ ٧٧

78. 秘められた書[3]の中の。

فِي كِتَٰبٖ مَّكۡنُونٖ ٧٨

79. 清浄な者たちしか、それに触れることはない。[4]

لَّا يَمَسُّهُۥٓ إِلَّا ٱلۡمُطَهَّرُونَ ٧٩

80. （それは）全創造物の主*からの、降示なのである。

تَنزِيلٞ مِّن رَّبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٨٠

81. （シルク*の徒よ、）一体あなた方は、（クルアーン*という）この話を嘘呼ばわりする者[5]なのか？

أَفَبِهَٰذَا ٱلۡحَدِيثِ أَنتُم مُّدۡهِنُونَ ٨١

82. そして自分たちの糧（への感謝の念）を、（恩恵に対する）嘘呼ばわりに替えるというのか？

وَتَجۡعَلُونَ رِزۡقَكُمۡ أَنَّكُمۡ تُكَذِّبُونَ ٨٢

---

1 「星々の沈む場所」のほかにも、「クルアーン*が徐々に下ったこと」「星々の位置」といった解釈の仕方もある（イブン・カスィール 7:544 参照）。

2 この誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

3 「秘められた書」には、「クルアーン*が記録されている、守られし碑板*（金の装飾章 4 とその訳注を参照）」「啓示と共に下される、天使*たちの手許にある書」（アッ＝サアディー836 頁参照）「書物としての形のクルアーン*」といった解釈がある（アル＝クルトゥビー17:225 参照）。

4 それに触れることが出来るのは、害や罪のない清浄な存在である天使*たちと、シルク*、ジャナーバ*、穢（けが）れのない状態にある者たちだけである（ムヤッサル 537 頁参照）。

5 「嘘呼ばわりする者（ムドゥヒン）」の語源的な意味は、「本心ではないもので上辺を取り繕（つくろ）う者」のことで、ほかにも「否定者」「偽善（ぎぜん）者」「背（そむ）く者」「受け入れる決意のない者」などといった解釈がある（アル＝クルトゥビー17:227-228 参照）。

83. さあ、（魂を体に押し留めてみよ、）それが喉元に達した時に。[1]

فَلَوۡلَآ إِذَا بَلَغَتِ ٱلۡحُلۡقُومَ ٨٣

84. あなた方はその時、（その様子を）目の当たりにして（何も出来ずに）いる。

وَأَنتُمۡ حِينَئِذٖ تَنظُرُونَ ٨٤

85. われら*（の天使*たち）は、あなた方（自身）よりもそれ（あなた方の魂）に近いのだが、あなた方には（彼らが）見えないのだ。

وَنَحۡنُ أَقۡرَبُ إِلَيۡهِ مِنكُمۡ وَلَٰكِن لَّا تُبۡصِرُونَ ٨٥

86. さあ、もしあなた方が、（自分たちの行いによって）報いを受ける者ではないというのであれば、

فَلَوۡلَآ إِن كُنتُمۡ غَيۡرَ مَدِينِينَ ٨٦

87. それ（魂）を（体に）戻してみるがいい。もし、あなた方が本当のことを言っているというならば。

تَرۡجِعُونَهَآ إِن كُنتُمۡ صَٰدِقِينَ ٨٧

88. もし（死んだ者が、）側近たち[2]の内の者だったのであれば、

فَأَمَّآ إِن كَانَ مِنَ ٱلۡمُقَرَّبِينَ ٨٨

89. （彼には）ご慈悲、芳しいもの[3]、安寧の楽園がある。

فَرَوۡحٞ وَرَيۡحَانٞ وَجَنَّتُ نَعِيمٖ ٨٩

90. また、もし右側の徒[4]の一人だったのであれば、

وَأَمَّآ إِن كَانَ مِنۡ أَصۡحَٰبِ ٱلۡيَمِينِ ٩٠

91. （彼には、こう言われる。）「あなたに平安を[5]。（あなたは、）右側の徒の一人である」。

فَسَلَٰمٞ لَّكَ مِنۡ أَصۡحَٰبِ ٱلۡيَمِينِ ٩١

92. そして、もし（復活を）嘘呼ばわりする、迷った者の類いだったのであれば、

وَأَمَّآ إِن كَانَ مِنَ ٱلۡمُكَذِّبِينَ ٱلضَّآلِّينَ ٩٢

---

1 家畜章 61、93 とその訳注も参照。

2 「側近たち」については、アーヤ*10-11 も参照。

3 「ご慈悲（ラウフ）」の解釈には、ほかにも「安息」「喜び「お赦しとご慈悲」といった諸説があり、「芳しいもの（ライハーン）」には、「安息」「糧」「香り高い植物」といった解釈もある（アル＝バガウィー5:22 参照）。

4 「右側の徒」については、アーヤ*8-9 の訳注を参照。

5 「あなたに平安を」については、雷鳴章 24 の訳注も参照。

93. （彼には）煮えたぎる湯からの御もてなし[1]と、
فَنُزُلٞ مِّنۡ حَمِيمٖ ٩٣

94. 火獄の火炙りがある。
وَتَصۡلِيَةُ جَحِيمٍ ٩٤

95. （使徒*よ、）本当にこれこそは、まさに確固たる真理なのだ。
إِنَّ هَٰذَا لَهُوَ حَقُّ ٱلۡيَقِينِ ٩٥

96. ならば、この上なく偉大なあなたの主*の御名と共に、（かれを）称え*よ。
فَسَبِّحۡ بِٱسۡمِ رَبِّكَ ٱلۡعَظِيمِ ٩٦

1 この「御もてなし」については、洞窟章 102 の訳注を参照。

第 57 章
鉄章（アル＝ハディード）[1]

سُورَةُ الحَدِيدِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

1. 諸天と大地にあるものは（全て）、アッラー*を称え*る。かれは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

سَبَّحَ لِلَّهِ مَا فِي السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ ۖ وَهُوَ الْعَزِيزُ
الْحَكِيمُ ١

2. かれにこそ、諸天と大地の王権がある。かれは生をお与えになり、死をお与えになるお方。かれは、全てのことがお出来のお方。

لَهُ مُلْكُ السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ ۖ يُحْيِي وَيُمِيتُ ۖ وَهُوَ
عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ٢

3. かれは最初のお方、最後のお方[2]、（最も）外なる*お方、（最も）内なる*お方。そしてかれは、全てのことをご存知のお方であられる。

هُوَ الْأَوَّلُ وَالْآخِرُ وَالظَّاهِرُ وَالْبَاطِنُ ۖ وَهُوَ
بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمٌ ٣

4. かれは諸天と大地を六日間でお創りになり[3]、それから御座に上がられた[4]。かれは大地の中に入り込むものも、そこから出てくるものも、天から落ちてくるものも、そこへ昇っていくもの[5]も、ご存知である。また、か

هُوَ الَّذِي خَلَقَ السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضَ فِي سِتَّةِ
أَيَّامٍ ثُمَّ اسْتَوَىٰ عَلَى الْعَرْشِ ۚ يَعْلَمُ مَا يَلِجُ
فِي الْأَرْضِ وَمَا يَخْرُجُ مِنْهَا وَمَا يَنْزِلُ مِنَ السَّمَاءِ
وَمَا يَعْرُجُ فِيهَا ۖ وَهُوَ مَعَكُمْ أَيْنَ مَا كُنْتُمْ ۚ وَاللَّهُ بِمَا

---

1 マディーナ*啓示（スーラ*の一部、あるいは全体をマッカ*啓示とする説もあり）。スーラ*の名称は、アッラー*からの恩恵であると共に、イスラーム*を支え、守る手段でもある一つの試練として言及された、「鉄」（アーヤ*25 参照）に由来。スーラ*の冒頭はアッラー*の美名と属性（ぞくせい）の言及と、かれへの讃美（さんび）によって始まり、アッラー*とその使徒*への信仰、その命令への服従、献身（けんしん）への呼びかけがなされる。中盤では、信仰者と偽（にせ）信者*の来世での様子が描かれた後、真の信仰への回帰（かいき）、アッラー*の定めに対する忍耐*のすすめなどが提示され、後半では、使徒*や啓示が下されることの英知や、過去の使徒*たちの話が描かれ、最後は使徒*への信仰への誘いで締めくくられる。

2 アッラー*より先に存在したものも、また、かれの後に存在するものもない（ムヤッサル 537 頁参照）。

3 「諸天と大地を六日間でお創りになり…」については、詳細にされた章 9-12 とその訳注も参照。

4 「御座に上がられた」については、高壁章 54 とその訳注を参照。

5 サバア章 2 の同様のアーヤ*についての訳注も参照。

れはあなた方がどこにあろうとも、（その御（おん）知識（ちしき）と共に）あなた方と共にあるのだ。アッラー*は、あなた方が行うことに通暁（つうぎょう）されたお方である。

تَعۡمَلُونَ بَصِيرٞ ٤

5. かれにこそ諸天と大地の王権があり、かれにこそ（来世の）物事は帰される。

لَّهُۥ مُلۡكُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۚ وَإِلَى ٱللَّهِ تُرۡجَعُ
ٱلۡأُمُورُ ٥

6. かれは夜を昼の中にお入れになり、昼を夜の中にお入れになる。また死から生を取り出され、生から死を取り出される[1]。そしてかれは、胸中（きょうちゅう）にあるものを（余すことなく）ご存知なのである。

يُولِجُ ٱلَّيۡلَ فِي ٱلنَّهَارِ وَيُولِجُ ٱلنَّهَارَ فِي ٱلَّيۡلِۚ وَهُوَ
عَلِيمُۢ بِذَاتِ ٱلصُّدُورِ ٦

7. アッラー*とその使徒（しと）*（ムハンマド*）を信じ、かれ（アッラー*）があなた方をその継承（けいしょう）者としたものの内から、費（つい）やせ[2]。あなた方の内で信仰し、費（つい）やした者たちには、大いなる褒美（ほうび）があるのだぞ。

ءَامِنُواْ بِٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦ وَأَنفِقُواْ مِمَّا جَعَلَكُم
مُّسۡتَخۡلَفِينَ فِيهِۖ فَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ مِنكُمۡ وَأَنفَقُواْ
لَهُمۡ أَجۡرٞ كَبِيرٞ ٧

8. 使徒（しと）*が、あなた方の主（しゅ）*を信じるように招（まね）いているというのに、あなた方がアッラー*を信じないのはどうしたことか？　かれ（アッラー*）は確かに、あなた方の確約（かくやく）[3]をお取りになったというのに。もし、あなた方が信仰者だというのならば（、信仰に急ぐのだ）。

وَمَا لَكُمۡ لَا تُؤۡمِنُونَ بِٱللَّهِ وَٱلرَّسُولُ يَدۡعُوكُمۡ
لِتُؤۡمِنُواْ بِرَبِّكُمۡ وَقَدۡ أَخَذَ مِيثَٰقَكُمۡ إِن
كُنتُم مُّؤۡمِنِينَ ٨

---

1 「夜を昼の…」と「死から生を…」については、イムラーン家章 27 の訳注を参照。

2 そもそも全ての財産はアッラー*の所有であり、人間はその代理人として、アッラー*がお喜びになる形において財産を費やす必要がある。または、人間は前の世代から財産を継承したのであり、自分たちもまたそれを次世代に継承するのだから、出し惜しみしてはならない（アッ＝シャウカーニー5:222 参照）。

3 この「確約」とは、「アッラー*が全人類をアーダム*の後背部から取り出して、ご自身が彼らの主*であることを証言させた時のもの（高壁章 172 とその訳注参照）」。また一説には、人間に与えられた理性と、預言者*ムハンマド*への服従を義務づける様々な証拠の存在のこと（アル＝クルトゥビー17:238 参照）。

9. かれは、あなた方を（不信仰という）闇から（信仰という）光[1]へと出すべく、その僕（ムハンマド*）に明白な御徴[2]を下されたお方。本当にアッラー*は、あなた方に対して実に哀れみ深い*お方、慈愛深い*お方。

هُوَ ٱلَّذِي يُنَزِّلُ عَلَىٰ عَبۡدِهِۦٓ ءَايَٰتِۭ بَيِّنَٰتٖ لِّيُخۡرِجَكُم
مِّنَ ٱلظُّلُمَٰتِ إِلَى ٱلنُّورِۚ وَإِنَّ ٱللَّهَ بِكُمۡ لَرَءُوفٞ
رَّحِيمٞ ٩

10. あなた方がアッラー*の道において費やさないのは、どういうことか？　アッラー*にこそ、諸天と大地の遺産は属する[3]というのに。あなた方の内、（マッカ*）開城[4]の前に費やし、（不信仰者*たちと）戦った者は、（褒美において）同等ではないのだぞ。それらの者たちは、（マッカ開城*の）後に費やし、（不信仰者*たちと）戦った者たちよりも位が偉大なのだ[5]。そしてアッラー*は、（その両者の内の）いずれにも最善のもの（天国）をお約束されたのであり、アッラー*はあなた方が行うことに通暁されるお方なのである。

وَمَا لَكُمۡ أَلَّا تُنفِقُواْ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ وَلِلَّهِ مِيرَٰثُ
ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِۚ لَا يَسۡتَوِي مِنكُم مَّنۡ أَنفَقَ
مِن قَبۡلِ ٱلۡفَتۡحِ وَقَٰتَلَۚ أُوْلَٰٓئِكَ أَعۡظَمُ دَرَجَةٗ
مِّنَ ٱلَّذِينَ أَنفَقُواْ مِنۢ بَعۡدُ وَقَٰتَلُواْۚ وَكُلّٗا وَعَدَ
ٱللَّهُ ٱلۡحُسۡنَىٰۚ وَٱللَّهُ بِمَا تَعۡمَلُونَ خَبِيرٞ ١٠

11. アッラー*に、よき貸付[6]をする者は誰か？　そうすれば、かれはそれを彼のために倍増して下さるのであり、彼には貴い褒美（天国）がある。

مَّن ذَا ٱلَّذِي يُقۡرِضُ ٱللَّهَ قَرۡضًا حَسَنٗا
فَيُضَٰعِفَهُۥ لَهُۥ وَلَهُۥٓ أَجۡرٞ كَرِيمٞ ١١

---

1 この「闇」と「光」については、雌牛章 257 の訳注を参照。

2 「明白な御徴」とは、クルアーン*、あるいは奇跡のこと（アル＝クルトゥビー17:239 参照）。

3 「諸天と大地の遺産…」という表現については、イムラーン家章 180 の訳注を参照。

4 この「開城」が、「マッカ開城*」のことであるとするのが、大半の解釈学者の見解。「フダイビーヤの和議*」である、という説もある（前掲書、同頁参照）。

5 「開城」以前は（ムスリム*たちにとって）厳しい状況であり、その当時ムスリム*となる者は、（信仰に）誠実な者しかいなかった。一方、「開城」後はイスラーム*が大きな拡大を見、人々が大挙（たいきょ）してアッラー*の教えを受け入れた（イブン・カスィール 8:12 参照）。

6 アッラー*に対する「よき貸付」については、雌牛章 245 の訳注を参照。

12. あなたが（地獄の上の架け橋[1]のもとで、）信仰者の男たちと、信仰者の女たちの光が（現世での行いに応じて）、彼らの前方と右手[2]を（彼らと共に）進むのを目にする（復活の）日*。（彼らには、こう言われる。）「この日、あなた方の吉報は、その下から河川が流れる楽園である。（あなた方は）そこに永遠に入ることになるのだ。それこそは、偉大なる勝利である」。

يَوۡمَ تَرَى ٱلۡمُؤۡمِنِينَ وَٱلۡمُؤۡمِنَٰتِ يَسۡعَىٰ
نُورُهُم بَيۡنَ أَيۡدِيهِمۡ وَبِأَيۡمَٰنِهِم بُشۡرَىٰكُمُ
ٱلۡيَوۡمَ جَنَّٰتٞ تَجۡرِي مِن تَحۡتِهَا ٱلۡأَنۡهَٰرُ خَٰلِدِينَ
فِيهَاۚ ذَٰلِكَ هُوَ ٱلۡفَوۡزُ ٱلۡعَظِيمُ ١٢

13. 偽信者*の男たちと偽信者*の女たちが、信仰者たちに（こう）言う日。「私たちを待ってくれ。あなた方の光から、灯火を得たい」。（すると彼らには、こう）言われる。「自分たちの後方へと戻って、光を探すがよい」。そして彼らの間には、壁[3]が置かれ（、お互いに遮られ）る。そこには扉があり、（信仰者たちのいる）その内側には慈悲があり、その外側の方向には懲罰がある。

يَوۡمَ يَقُولُ ٱلۡمُنَٰفِقُونَ وَٱلۡمُنَٰفِقَٰتُ لِلَّذِينَ ءَامَنُواْ
ٱنظُرُونَا نَقۡتَبِسۡ مِن نُّورِكُمۡ قِيلَ ٱرۡجِعُواْ وَرَآءَكُمۡ
فَٱلۡتَمِسُواْ نُورٗاۖ فَضُرِبَ بَيۡنَهُم بِسُورٖ لَّهُۥ بَابُۢ
بَاطِنُهُۥ فِيهِ ٱلرَّحۡمَةُ وَظَٰهِرُهُۥ مِن قِبَلِهِ ٱلۡعَذَابُ ١٣

14. 彼ら（偽信者*たち）は、彼ら（信仰者たち）を呼ぶ。「私たちは（現世で）、あなた方と一緒だった[4]ではないか？」彼ら（信仰者たち）は言う。「その通り。しかし、あなた方は自分自身を（偽の信仰と罪で）試練

يُنَادُونَهُمۡ أَلَمۡ نَكُن مَّعَكُمۡۖ قَالُواْ بَلَىٰ وَلَٰكِنَّكُمۡ فَتَنتُمۡ
أَنفُسَكُمۡ وَتَرَبَّصۡتُمۡ وَٱرۡتَبۡتُمۡ وَغَرَّتۡكُمُ ٱلۡأَمَانِيُّ
حَتَّىٰ جَآءَ أَمۡرُ ٱللَّهِ وَغَرَّكُم بِٱللَّهِ ٱلۡغَرُورُ ١٤

---

1 「地獄の上の架け橋」は、足元が定まらず滑（すべ）りやすい所で、その上には様々な障害物がある。信仰者は現世での行いに応じた速さでそこを渡り、天国へと向かう（ムスリム「信仰の書」302 参照）。一説に、この時に各人が授かる光の大きさは様々で、偽信者*の光はこの架け橋で消えてしまうとされる（イブン・カスィール 8:15 参照）。マルヤム*章 71 とその訳注も参照。

2 彼らの前方を照らす光は、彼らの信仰心と正しい行い*で、彼らの右手にあるのは行いの帳簿（ちょうぼ）である（夜の旅章 71 参照）、という解釈もある（アル＝クルトゥビー17:243 参照）。

3 一説にこの「壁」は、高壁章 46 に登場する「障壁」のこと（イブン・カスィール 8:17 参照）。

4 偽信者*たちは表面上、宗教的な義務を果たしていた（ムヤッサル 539 頁参照）。

にかけ、（預言者*と信仰者たちの死と災難を）待ちわび、（復活への）疑惑に陥った。アッラー*のご命令[1]が到来するまで、根拠もない願望があなた方を欺いたのであり、欺く者[2]があなた方をアッラー*（の寛大さと猶予という口実）によって欺いたのだ」。

15. ならば（偽信者*たちよ、）この日、（懲罰を免じてもらうための）償いがあなた方からも、不信仰だった者*たちからも、受け入れられることはない。あなた方の住処は業火なのだから。それがあなた方の相応しい場所。その行き先の、何と醜悪なことか。

فَٱلۡيَوۡمَ لَا يُؤۡخَذُ مِنكُمۡ فِدۡيَةٞ وَلَا مِنَ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْۚ مَأۡوَىٰكُمُ ٱلنَّارُۖ هِيَ مَوۡلَىٰكُمۡۖ وَبِئۡسَ ٱلۡمَصِيرُ ١٥

16. 信仰に入った者たちには、アッラー*の教訓と、真理から下ったもの（クルアーン*）に対して、その心が恭順[3]になる時期はまだ来ないのか？　また、以前に啓典を授けられたものの時間が経ってしまい、その心が硬化してしまった者たちのようにならないための（時期は）？　彼らの多くは、放逸な者たちだったのである。

۞أَلَمۡ يَأۡنِ لِلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ أَن تَخۡشَعَ قُلُوبُهُمۡ لِذِكۡرِ ٱللَّهِ وَمَا نَزَلَ مِنَ ٱلۡحَقِّ وَلَا يَكُونُواْ كَٱلَّذِينَ أُوتُواْ ٱلۡكِتَٰبَ مِن قَبۡلُ فَطَالَ عَلَيۡهِمُ ٱلۡأَمَدُ فَقَسَتۡ قُلُوبُهُمۡۖ وَكَثِيرٞ مِّنۡهُمۡ فَٰسِقُونَ ١٦

17. 知るのだ、アッラー*こそが大地を、その死後に息吹かせられる[4]お方であるということを。われら*はあなた方に対し、確かに（われら*の全能性の）御徴を明らかにした。あなた方が（それを）弁えるように、である。

ٱعۡلَمُوٓاْ أَنَّ ٱللَّهَ يُحۡيِ ٱلۡأَرۡضَ بَعۡدَ مَوۡتِهَاۚ قَدۡ بَيَّنَّا لَكُمُ ٱلۡأٓيَٰتِ لَعَلَّكُمۡ تَعۡقِلُونَ ١٧

---

1 この「アッラー*のご命令」とは、死のこととされる（ムヤッサル 539 頁参照）。

2 「欺く者」については、ルクマーン章 33 の訳注を参照。

3 「恭順」については、雌牛章 45 の訳注も参照。

4 干上がった大地を息吹かせるように、アッラー*は不信仰だった者*を信仰者に、迷った者を導かれた者として下さる（アッ＝タバリー9:7895 参照）。雌牛章 164 の訳注も参照。

18. 本当に、（アッラー*の道において）よく施す男たちとよく施す女たち――彼らは、アッラー*によき貸付[1]をしたのだ――には、（その褒美が）倍増されよう。そして彼らには、貴い糧（天国）があるのだ。

إِنَّ ٱلْمُصَّدِّقِينَ وَٱلْمُصَّدِّقَـٰتِ وَأَقْرَضُوا۟ ٱللَّهَ
قَرْضًا حَسَنًا يُضَـٰعَفُ لَهُمْ وَلَهُمْ أَجْرٌ كَرِيمٌ ١٨

19. アッラー*とその使徒*を信じた者たち、それらの者たちこそは大そうな正直者[2]。また殉教者たちにはアッラー*の御許で（復活の日*）、その報いと光[3]がある。そして不信仰に陥り、われら*の御徴[4]を嘘呼ばわりした者たち、それらの者たちは地獄の徒なのだ。

وَٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ بِٱللَّهِ وَرُسُلِهِۦٓ أُو۟لَـٰٓئِكَ هُمُ
ٱلصِّدِّيقُونَ ۖ وَٱلشُّهَدَآءُ عِندَ رَبِّهِمْ لَهُمْ
أَجْرُهُمْ وَنُورُهُمْ ۖ وَٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ وَكَذَّبُوا۟
بِـَٔايَـٰتِنَآ أُو۟لَـٰٓئِكَ أَصْحَـٰبُ ٱلْجَحِيمِ ١٩

20. （人々よ、）知るがよい、現世の生活は遊興、戯れごと、飾り、自分たちの間の誇り合い、財産と子供の増やし合いに過ぎない。（それは）あたかも、その植物が農夫[5]たちを喜ばせた慈雨のようである。やがてそれは枯れ、あなたはそれが黄色くなるのを目にし、ついにはそれは木っ端微塵になってしまう。そして来世にこそ、（不信仰者に対する）厳しい懲罰と、（信仰者に対する）アッラー*からのお赦しとお喜びがあるのだ。現世の生活は、偽りの楽しみに過ぎない。[6]

ٱعْلَمُوٓا۟ أَنَّمَا ٱلْحَيَوٰةُ ٱلدُّنْيَا لَعِبٌ وَلَهْوٌ وَزِينَةٌ
وَتَفَاخُرٌۢ بَيْنَكُمْ وَتَكَاثُرٌ فِى ٱلْأَمْوَٰلِ وَٱلْأَوْلَـٰدِ ۖ
كَمَثَلِ غَيْثٍ أَعْجَبَ ٱلْكُفَّارَ نَبَاتُهُۥ ثُمَّ يَهِيجُ
فَتَرَىٰهُ مُصْفَرًّا ثُمَّ يَكُونُ حُطَـٰمًا ۖ وَفِى ٱلْـَٔاخِرَةِ
عَذَابٌ شَدِيدٌ وَمَغْفِرَةٌ مِّنَ ٱللَّهِ وَرِضْوَٰنٌ ۚ وَمَا
ٱلْحَيَوٰةُ ٱلدُّنْيَآ إِلَّا مَتَـٰعُ ٱلْغُرُورِ ٢٠

---

1 アッラー*に対する「よき貸付」については、雌牛章 245 の訳注を参照。

2 「大そうな正直者」については、婦人章 69 の訳注を参照。尚、「殉教者たち」も「それらの者たち」の述語に含める、という解釈もある（イブン・カスィール 8:22-23 参照）。

3 この「光」については、アーヤ*12 とその訳注を参照。

4 この「御徴」とは、クルアーン*と、そこに含まれる教えや規定のこと（アル＝ジャザーイリー5:270 参照）。

5 「農夫」ではなく「不信仰者*たち」という解釈もある（アル＝クルトゥビー17:255-256 参照）。

6 家畜章 32 の訳注も参照。

21. （人々よ、）あなた方の主*からのお赦しと、天国へと向かって競い合え。その広さは、天地の広さもあるかのようであり、アッラー*とその使徒*たちを信じる者たちのために用意されている。それは、かれがお望みの者にお与えになる、アッラー*のご恩寵なのだ。アッラー*は偉大な恩寵の主であられる。

سَابِقُوٓاْ إِلَىٰ مَغۡفِرَةٖ مِّن رَّبِّكُمۡ وَجَنَّةٍ عَرۡضُهَا
كَعَرۡضِ ٱلسَّمَآءِ وَٱلۡأَرۡضِ أُعِدَّتۡ لِلَّذِينَ
ءَامَنُواْ بِٱللَّهِ وَرُسُلِهِۦۚ ذَٰلِكَ فَضۡلُ ٱللَّهِ
يُؤۡتِيهِ مَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ ذُو ٱلۡفَضۡلِ ٱلۡعَظِيمِ ٢١

22. 地上における、そしてあなた方自身におけるいかなる災難も、われら*がそれを創生[1]する以前に書[2]の中で（予め定めること）なくしては、降りかかることがなかったのだ。実にそれはアッラー*にとって、容易いこと。

مَآ أَصَابَ مِن مُّصِيبَةٖ فِي ٱلۡأَرۡضِ وَلَا فِيٓ
أَنفُسِكُمۡ إِلَّا فِي كِتَٰبٖ مِّن قَبۡلِ أَن نَّبۡرَأَهَآۚ
إِنَّ ذَٰلِكَ عَلَى ٱللَّهِ يَسِيرٞ ٢٢

23. （アッラー*がこのように仰せられるのは、）あなた方が、（現世で）自分たちが逃したものゆえに心痛ませたり、かれ（アッラー*）が自分たちに授けて下さったものゆえに、有頂天になったりしないようにするため。アッラー*は（、自分が現世で授かったものゆえに）尊大ぶる者、（他人に対して）高慢ちきな者をお好みにはならない。

لِّكَيۡلَا تَأۡسَوۡاْ عَلَىٰ مَا فَاتَكُمۡ وَلَا
تَفۡرَحُواْ بِمَآ ءَاتَىٰكُمۡۗ وَٱللَّهُ لَا يُحِبُّ كُلَّ
مُخۡتَالٖ فَخُورٍ ٢٣

24. （彼らは、財産を）出し惜しみし、人々にも吝嗇を勧める者たち。そして（アッラー*への服従に）背を向ける者があっても、（アッラー*はそのような者のことなど意にも介されない、）本当にアッラー*こそは満ち足りておられる*お方、称賛されるべき*お方なのだから。

ٱلَّذِينَ يَبۡخَلُونَ وَيَأۡمُرُونَ ٱلنَّاسَ بِٱلۡبُخۡلِۗ
وَمَن يَتَوَلَّ فَإِنَّ ٱللَّهَ هُوَ ٱلۡغَنِيُّ ٱلۡحَمِيدُ ٢٤

1 頻出名・用語解説「創生者*」も参照。

2 この「書」は、定められし碑板*のこと（ムヤッサル 540 頁参照）。

25. われら*は確かに、われら*の使徒*たちを明証[1]と共に遣わし、彼らと共に啓典と、人々が公正を行うための秤を下した。またわれら*は、多大な威力と、人々への諸益を有する鉄を下した。（それは）アッラー*が、かれ（の宗教）とその使徒*たちをまだ見ぬままに[2]援助する者が誰かを、如実に表し給うためであった。本当にアッラー*は、強力なお方、偉力ならびない*お方であられる。

لَقَدۡ أَرۡسَلۡنَا رُسُلَنَا بِٱلۡبَيِّنَٰتِ وَأَنزَلۡنَا
مَعَهُمُ ٱلۡكِتَٰبَ وَٱلۡمِيزَانَ لِيَقُومَ
ٱلنَّاسُ بِٱلۡقِسۡطِۖ وَأَنزَلۡنَا ٱلۡحَدِيدَ فِيهِ
بَأۡسٞ شَدِيدٞ وَمَنَٰفِعُ لِلنَّاسِ وَلِيَعۡلَمَ ٱللَّهُ مَن
يَنصُرُهُۥ وَرُسُلَهُۥ بِٱلۡغَيۡبِۚ إِنَّ ٱللَّهَ قَوِيٌّ عَزِيزٞ ٢٥

26. また、われら*はヌーフ*とイブラーヒーム*を遣わし、彼ら二人の子孫の内に預言者*としての天分と啓典を与えた[3]。そして彼らの内には導かれた者がいる一方、彼らの多くは放逸な者たちなのだ。

وَلَقَدۡ أَرۡسَلۡنَا نُوحٗا وَإِبۡرَٰهِيمَ وَجَعَلۡنَا فِي
ذُرِّيَّتِهِمَا ٱلنُّبُوَّةَ وَٱلۡكِتَٰبَۖ فَمِنۡهُم
مُّهۡتَدٖۖ وَكَثِيرٞ مِّنۡهُمۡ فَٰسِقُونَ ٢٦

27. それから、われら*は彼ら（ヌーフ*とイブラーヒーム*）の跡をわれら*の使徒*たちに継がせ、マルヤム*の子イーサー*にも継がせて、彼に福音*を授けた。また、彼（イーサー*）に従った者たちの心の中には、哀れみ深さと慈悲の念を授けた。そして彼らは、われら*が彼らに義務づけたものではない修道生活を、（崇拝*における行き過ぎから勝手に）創始した。ただ、（彼らは）アッラー*のお喜びを求めて（そうしたまで）のことだったのだが、それ（修道生活）に対して真の配慮を払うこともなかった[4]。

ثُمَّ قَفَّيۡنَا عَلَىٰٓ ءَاثَٰرِهِم بِرُسُلِنَا وَقَفَّيۡنَا
بِعِيسَى ٱبۡنِ مَرۡيَمَ وَءَاتَيۡنَٰهُ ٱلۡإِنجِيلَۖ وَجَعَلۡنَا
فِي قُلُوبِ ٱلَّذِينَ ٱتَّبَعُوهُ رَأۡفَةٗ وَرَحۡمَةٗ
وَرَهۡبَانِيَّةً ٱبۡتَدَعُوهَا مَا كَتَبۡنَٰهَا
عَلَيۡهِمۡ إِلَّا ٱبۡتِغَآءَ رِضۡوَٰنِ ٱللَّهِ فَمَا رَعَوۡهَا
حَقَّ رِعَايَتِهَاۖ فَـَٔاتَيۡنَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ مِنۡهُمۡ
أَجۡرَهُمۡۖ وَكَثِيرٞ مِّنۡهُمۡ فَٰسِقُونَ ٢٧

1 この「明証」とは、彼らがもたらしたものの正しさを証明する、証拠のこと（ムヤッサル541頁参照）。

2 人々から見えないところで、援助するということ。あるいは、自分の目で見たわけでもないアッラー*とその使徒*たちを、援助するということ（アッ＝シャウカーニー5:236参照）。

3 全ての預言者*は、ヌーフ*及びイブラーヒーム*の子孫であり、啓典もまた全て、彼らの子孫に下った（アッ＝サァディー842頁参照）。

4 彼らは以下の二つの面で、それをなおざりにした：①そのようなことを勝手に始めたこと。②自分たちに課したことを、十分に果たさなかったこと（前掲書、同頁参照）。

そしてわれら*は彼らの内の（預言者*ムハンマド*を）信仰した者たちに、その褒美を授けたのだ。彼らの多くは（預言者*ムハンマド*を信じない）、放逸な者たちなのだが。

28. 信仰する者たち[1]よ、アッラー*を畏れ*、かれの使徒*を信じよ。かれはあなた方に、そのご慈悲からの倍の取り分をお与えになり、あなた方がそれを携えて歩む光[2]をあなた方に下さり、あなた方のために（罪を）お赦し下さろう。アッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ ٱتَّقُواْ ٱللَّهَ وَءَامِنُواْ بِرَسُولِهِۦ يُؤۡتِكُمۡ كِفۡلَيۡنِ مِن رَّحۡمَتِهِۦ وَيَجۡعَل لَّكُمۡ نُورٗا تَمۡشُونَ بِهِۦ وَيَغۡفِرۡ لَكُمۡۚ وَٱللَّهُ غَفُورٞ رَّحِيمٞ ٢٨

29. （アッラー*がそのようにされるのは、）啓典の民*が、自分たちがアッラー*のご恩寵[3]の内、いかなるものに対しても力を有してはいないこと、そして（全ての）恩寵はアッラー*の御手にこそ委ねられており、かれがそれをお望みの者に与えられるということ[4]を、知るためなのである。アッラー*は、偉大なる恩寵の主であられるのだから。

لِّئَلَّا يَعۡلَمَ أَهۡلُ ٱلۡكِتَٰبِ أَلَّا يَقۡدِرُونَ عَلَىٰ شَيۡءٖ مِّن فَضۡلِ ٱللَّهِ وَأَنَّ ٱلۡفَضۡلَ بِيَدِ ٱللَّهِ يُؤۡتِيهِ مَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ ذُو ٱلۡفَضۡلِ ٱلۡعَظِيمِ ٢٩

---

1 この「信仰する者たち」が誰のことを指すかについては、「啓典の民*」「全ての者」という二つの説がある。前者の場合、「倍の取り分」とは、自分たちの預言者*と預言者*ムハンマド*のいずれをも信仰することゆえの、倍の褒美（ほうび）のこと（イブン・カスィール 8:30-33参照）。物語章 52-54 とその訳注も参照。また後者の場合、「信仰と、畏れ*の念ゆえの二つの褒美」「命令に従い、禁令を避（さ）けることゆえの二つの褒美」あるいは、そもそも「倍」は「二倍」に限らず、褒美が何倍にもされることを示している（アッ＝サァディー843 頁参照）。

2 この「光」には、「（現世での）導き」「クルアーン*」「地獄の架け橋で共に歩み、天国へと導いてくれる光（アーヤ*12 参照）」といった解釈がある。（アル＝クルトゥビー17:267 参照）。

3 この「ご恩寵」の解釈には、「イスラーム*」「褒美」「糧（かて）」「恩恵」といった諸説がある（前掲書 17:268 参照）。

4 この「恩寵」は、特に預言者*ムハンマド*の預言者*性を指している、とも言われる（前掲書、同頁参照）。一説にこの意味は、「自分たちが他の人々よりも優れていると信じていた、イスラーム*を受け入れない啓典の民が、アッラー*がムスリム*たちに彼らよりも沢山の恩寵を与えられたということを、知るため」ということ（アル＝カースィミー16:5702 参照）。

第 58 章
抗弁する女章（アル＝ムジャーディラ）[1]

سُورَةُ المُجَادلَة

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَـٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. （預言者*よ、）アッラー*は確かに、自分の夫（のこと）であなたに抗弁し、アッラー*に苦情を訴える女[2]の言葉をお聞きになった。そしてアッラー*は、あなた方両人の問答をお聞きである。本当にアッラー*は、よくお聞きになるお方、よくご覧になるお方なのだから。

قَدْ سَمِعَ ٱللَّهُ قَوْلَ ٱلَّتِى تُجَـٰدِلُكَ فِى زَوْجِهَا
وَتَشْتَكِىٓ إِلَى ٱللَّهِ وَٱللَّهُ يَسْمَعُ تَحَاوُرَكُمَآ ۚ إِنَّ
ٱللَّهَ سَمِيعٌۢ بَصِيرٌ ١

2. あなた方の内で、自分たちの妻をズィハール*する者たち。彼女らは彼らの母親ではない。彼らの母親は、自分たちを産んだ女性に外ならないのだ[3]。そして本当に彼らは、言葉による悪事[4]と偽りをまさしく口にしているのであり、本当にアッラー*はまさに、よく寛恕される*お方、赦し深いお方であられる。

ٱلَّذِينَ يُظَـٰهِرُونَ مِنكُم مِّن نِّسَآئِهِم مَّا هُنَّ
أُمَّهَـٰتِهِمْ ۖ إِنْ أُمَّهَـٰتُهُمْ إِلَّا ٱلَّـٰٓـِٔى وَلَدْنَهُمْ ۚ
وَإِنَّهُمْ لَيَقُولُونَ مُنكَرًا مِّنَ ٱلْقَوْلِ وَزُورًا ۚ
وَإِنَّ ٱللَّهَ لَعَفُوٌّ غَفُورٌ ٢

3. また、自分たちの妻をズィハール*し、それから自分が言ったことを撤回する者たち、（彼らには、妻と性交渉すべく）お互いに触れ合う前に、首一つ[5]の解放（が義務づけら

وَٱلَّذِينَ يُظَـٰهِرُونَ مِن نِّسَآئِهِمْ ثُمَّ يَعُودُونَ لِمَا
قَالُوا۟ فَتَحْرِيرُ رَقَبَةٍ مِّن قَبْلِ أَن يَتَمَآسَّا ۚ ذَٰلِكُمْ
تُوعَظُونَ بِهِۦ ۚ وَٱللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرٌ ٣

---

1 マディーナ*啓示で学者間の見解は、ほぼ一致。スーラ*名「抗弁する女」の「抗弁」のきっかけとなったズィハール*を始め、密談（みつだん）、集まりの場での決まりや作法などが説明される一方、ユダヤ教徒*や偽（にせ）信者*たちの内に秘めた悪が所々で暴（あば）かれると共に、そのような「シャイターン*の党派」の敗北と、信仰者たち「アッラー*の党派」の勝利が約束される。

2 この女性は、ハウラ・ビント・サァラバで、「夫のこと」とは、彼女の夫アウス・ブン・アッ＝サーミトが、彼女をズィハール*したこと（アブー・ダーウード 2214 参照）。

3 妻をズィハール*することと、自分の母親の関連性については、頻出名・用語解説「ズィハール*」の中の具体的なズィハール*の例と、部族連合章 4 およびその訳注を参照。

4 「悪事」については、イムラーン家章 104 の訳注を参照。

5 ここでの「首」の意味については、婦人章 92 の同語の訳注を参照。

れる）。（信仰者たちよ、）それが、あなた方が戒められていること。アッラー*は、あなた方が行うことに通暁されるお方であられる。

4. （もし夫が、解放すべき奴隷*を）見出せない者ならば、お互いに触れ合う前に、連続二ヶ月の斎戒*（が義務づけられる）。そして（それも）出来ない者ならば、六十人の貧者*に食物[1]を施すこと（が課される）。それは、あなた方がアッラー*とその使徒*を信じ（てアッラー*の法に従い、ジャーヒリーヤ*の習慣を放棄す）るため。そしてそれがアッラー*の決まりであり、不信仰者*たちにこそは痛ましい懲罰があるのだ。

فَمَن لَّمْ يَجِدْ فَصِيَامُ شَهْرَيْنِ مُتَتَابِعَيْنِ مِن قَبْلِ
أَن يَتَمَاسَّا ۖ فَمَن لَّمْ يَسْتَطِعْ فَإِطْعَامُ سِتِّينَ
مِسْكِينًا ۚ ذَٰلِكَ لِتُؤْمِنُوا بِاللَّهِ وَرَسُولِهِ ۚ وَتِلْكَ
حُدُودُ اللَّهِ ۗ وَلِلْكَافِرِينَ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿٤﴾

5. 本当に、アッラー*とその使徒*に歯向かう者たちは、彼ら以前の（同様の）者たちが卑しめられたように、卑しめられるのである。われら*は（、アッラー*の教えと法が真理であることを証明する）明らかなる御徴を、確かに下したのだ。そして不信仰者*たちにこそは、屈辱の懲罰がある。

إِنَّ الَّذِينَ يُحَادُّونَ اللَّهَ وَرَسُولَهُ كُبِتُوا كَمَا
كُبِتَ الَّذِينَ مِن قَبْلِهِمْ ۚ وَقَدْ أَنزَلْنَا آيَاتٍ
بَيِّنَاتٍ ۚ وَلِلْكَافِرِينَ عَذَابٌ مُّهِينٌ ﴿٥﴾

6. アッラー*が彼ら全員を蘇らせられ、彼らが行ったことをお告げになる（復活の）日*（、アッラー*は彼らを罰し給う）。彼らがそれ（行い）を忘れてしまっていても、アッラー*はそれを数え上げられる[2]のであり、アッラー*は全てのことに対する証人なのだから。

يَوْمَ يَبْعَثُهُمُ اللَّهُ جَمِيعًا فَيُنَبِّئُهُم بِمَا عَمِلُوا ۚ
أَحْصَاهُ اللَّهُ وَنَسُوهُ ۚ وَاللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ
شَهِيدٌ ﴿٦﴾

---

1 「食物」の分量については、食卓章 89 の訳注を参照。

2 そもそも全ての出来事は、守られし碑板*に定められており、かつ天使*たちによって行いの帳簿（ちょうぼ）に記録されている（ムヤッサル 542 頁参照）。高壁章 8 の訳注も参照。

7. 一体（預言者*よ、）あなたは、アッラー*が諸天にあるものと、大地にあるもの（全て）をご存知なのを知らないのか？ かれ（アッラー*）が（その御知識によって）その四番目となることなしに、三人の密談は成立せず、かれがその六番目となることなしに、五人（の密談）が成立することもない[1]。また、それより少ない数（の密談）も、多い数（の密談）も、彼らがどこにあろうと、かれが（その御知識によって）彼らと共にあることなくしては成立しないのだ。それから、かれは復活の日*、彼らが行ったことを彼らにお告げになる。本当にアッラー*は、全てのことをご存知のお方なのだから。

أَلَمْ تَرَ أَنَّ اللَّهَ يَعْلَمُ مَا فِي السَّمَاوَاتِ وَمَا فِي
الْأَرْضِ ۖ مَا يَكُونُ مِن نَّجْوَىٰ ثَلَاثَةٍ إِلَّا هُوَ
رَابِعُهُمْ وَلَا خَمْسَةٍ إِلَّا هُوَ سَادِسُهُمْ وَلَا أَدْنَىٰ
مِن ذَٰلِكَ وَلَا أَكْثَرَ إِلَّا هُوَ مَعَهُمْ أَيْنَ مَا
كَانُوا ۖ ثُمَّ يُنَبِّئُهُم بِمَا عَمِلُوا يَوْمَ الْقِيَامَةِ ۚ
إِنَّ اللَّهَ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمٌ ٧

8. （使徒*よ、）一体あなたは、密談を禁じられた後に自分たちが禁じられたことへと戻り、罪や侵犯や使徒への反抗をもって密談する者たちを見なかったのか？[2] （使徒*よ、）彼らはあなたのところにやって来ると、アッラー*があなたに挨拶されたものではないものによって、あなたに挨拶した[3]。そして彼らの内輪で、（こう）言う

أَلَمْ تَرَ إِلَى الَّذِينَ نُهُوا عَنِ النَّجْوَىٰ ثُمَّ يَعُودُونَ
لِمَا نُهُوا عَنْهُ وَيَتَنَاجَوْنَ بِالْإِثْمِ وَالْعُدْوَانِ
وَمَعْصِيَتِ الرَّسُولِ وَإِذَا جَاءُوكَ حَيَّوْكَ بِمَا لَمْ
يُحَيِّكَ بِهِ اللَّهُ وَيَقُولُونَ فِي أَنفُسِهِمْ لَوْلَا يُعَذِّبُنَا
اللَّهُ بِمَا نَقُولُ ۚ حَسْبُهُمْ جَهَنَّمُ يَصْلَوْنَهَا ۖ
فَبِئْسَ الْمَصِيرُ ٨

---

1 この後続の文にもあるように、密談する者の数が何人であろうと、アッラー*は彼らの話をご存知である（アル＝クルトゥビー17:290 参照）。しかし、なぜここでアッラー*が「三人」と「五人」という数を、特に言及されているかについては、以下のような解釈がある：①それが実際に、偽（にせ）信者*たちの間で起こったことだった。②アッラー*は奇数をお好みになるため。③話し合いは常に二者間で、かつその間に誰かをおいた形で行われるため（アル＝バイダーウィー5:310 参照）。

2 ユダヤ教徒*や偽信者*たちは、ムスリム*たちにこれ見よがしに、集まって密談したものだった。そのことはムスリム*たちの不興（ふきょう）を買っていたが、彼らは密談を禁じられても、やめなかったのだという（アル＝クルトゥビー17:291 参照）。婦人章 114 も参照。

3 このアーヤ*は、ユダヤ教徒*が預言者*に対し、「あなたに平安（アッ＝サラーム）を」（その意味については、家畜章 54 の訳注を参照）という挨拶の変わりに、「あなたに死（アッ＝サーム）を」と言ったことについて下ったとされる（ムスリム「挨拶の書」11 参照）。

のだ。「どうしてアッラー*は、私たちが（ムハンマド*について）言うことゆえに、私たちを罰さないのか？」彼らには（その懲罰として）、彼らが入って炙られることになる地獄で十分。その行き先は、何と醜悪だろうか。

9. 信仰する者たちよ、あなた方が密談する時には、罪や侵犯や使徒*への反抗をもって密談してはならない。そして善と敬虔さ*をもって密談し、その御許へとあなた方が召集され（、全ての言動の報いを受け）ることとなるアッラー*を畏れる*のだ。[1]

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِذَا تَنَٰجَيۡتُمۡ فَلَا تَتَنَٰجَوۡاْ
بِٱلۡإِثۡمِ وَٱلۡعُدۡوَٰنِ وَمَعۡصِيَتِ ٱلرَّسُولِ
وَتَنَٰجَوۡاْ بِٱلۡبِرِّ وَٱلتَّقۡوَىٰۖ وَٱتَّقُواْ ٱللَّهَ ٱلَّذِيٓ إِلَيۡهِ
تُحۡشَرُونَ ٩

10. （罪や侵犯ゆえの）密談は、信仰する者たちを悲しませるゆえ、まさしくシャイターン*からのもの。アッラー*のお許しなくしては、彼（シャイターン*）が彼ら（信仰者たち）を害する者となることはないが。そして信仰者たちには、アッラー*にこそ全てを委ね*させるのだ。

إِنَّمَا ٱلنَّجۡوَىٰ مِنَ ٱلشَّيۡطَٰنِ لِيَحۡزُنَ ٱلَّذِينَ
ءَامَنُواْ وَلَيۡسَ بِضَآرِّهِمۡ شَيۡـًٔا إِلَّا بِإِذۡنِ ٱللَّهِۚ
وَعَلَى ٱللَّهِ فَلۡيَتَوَكَّلِ ٱلۡمُؤۡمِنُونَ ١٠

11. 信仰する者たちよ、集まりの場であなた方に「（新しく来た者が座るために、場所を空けて）広くしてやりなさい」と言われたら、広くしてやれ。（そうすれば）アッラー*は、あなた方のために（現世と来世で）広くして下さろう。また、あなた方に（礼拝や戦いなど、自分たちの益となる物事において）「立ち上がりなさい」と言われたならば、立ち上がるのだ。（そうすれば）アッラー*は、あなた方の内の信仰する者たちと、知識を授けられた者たちの位を上げて

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِذَا قِيلَ لَكُمۡ تَفَسَّحُواْ فِي
ٱلۡمَجَٰلِسِ فَٱفۡسَحُواْ يَفۡسَحِ ٱللَّهُ لَكُمۡۖ وَإِذَا قِيلَ
ٱنشُزُواْ فَٱنشُزُواْ يَرۡفَعِ ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ مِنكُمۡ
وَٱلَّذِينَ أُوتُواْ ٱلۡعِلۡمَ دَرَجَٰتٖۚ وَٱللَّهُ بِمَا
تَعۡمَلُونَ خَبِيرٞ ١١

1 婦人章 114 も参照。

下さろう[1]。アッラー*は、あなた方が行うことに通暁されるお方。

12. 信仰する者たちよ、あなた方が使徒*と密談する時には、あなた方の密談の前に、（貧しい者に）施しをせよ[2]。それがあなた方にとって、より善く、清いこと。そして、もし（施すものを）見出せなくても（問題はない）、本当にアッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِذَا نَٰجَيۡتُمُ ٱلرَّسُولَ فَقَدِّمُواْ
بَيۡنَ يَدَيۡ نَجۡوَىٰكُمۡ صَدَقَةٗۚ ذَٰلِكَ خَيۡرٞ لَّكُمۡ وَأَطۡهَرُۚ
فَإِن لَّمۡ تَجِدُواْ فَإِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٞ رَّحِيمٌ ١٢

13. 一体あなた方は、（使徒*との）密談の前に施しをすることを、（貧困の原因として）恐れたのか？ もし、あなた方が（施しを）しなかったのならば――アッラー*は、あなた方の悔悟をお受け入れになった――、礼拝を遵守*し、浄財*を払い、アッラー*とその使徒*に従え。アッラー*は、あなた方が行うことに通暁されるお方なのだ。

ءَأَشۡفَقۡتُمۡ أَن تُقَدِّمُواْ بَيۡنَ يَدَيۡ نَجۡوَىٰكُمۡ
صَدَقَٰتٖۚ فَإِذۡ لَمۡ تَفۡعَلُواْ وَتَابَ ٱللَّهُ عَلَيۡكُمۡ فَأَقِيمُواْ
ٱلصَّلَوٰةَ وَءَاتُواْ ٱلزَّكَوٰةَ وَأَطِيعُواْ ٱللَّهَ
وَرَسُولَهُۥۚ وَٱللَّهُ خَبِيرُۢ بِمَا تَعۡمَلُونَ ١٣

14. 一体あなたは、アッラー*がお怒りになった民（ユダヤ教徒*）を盟友とした者たちを、見なかったのか？[3] 彼らはあなた方（ムスリム*）の仲間でもなければ、彼ら（ユダヤ教徒*）の仲間でもない。そして彼らは（自分たちの嘘を）知りつつ、嘘において誓っているのだ[4]。

۞أَلَمۡ تَرَ إِلَى ٱلَّذِينَ تَوَلَّوۡاْ قَوۡمًا غَضِبَ ٱللَّهُ عَلَيۡهِم
مَّا هُم مِّنكُمۡ وَلَا مِنۡهُمۡ وَيَحۡلِفُونَ عَلَى ٱلۡكَذِبِ وَهُمۡ
يَعۡلَمُونَ ١٤

---

1 つまり、自分の同胞がやって来た時に場所を空けてやったり、立ち上がるように言われて立ったりすることは、自分の権利を失うことではなく、むしろアッラー*の御許での位が上がり、特別なものとなることを意味する（イブン・カスィール 8:48 参照）。また、ここでの「知識を授けられた者」とは、知識と行いを両立した者のこと（アル＝バイダーウィー5:312 参照）。

2 このアーヤ*で述べられている決まりは、間もなくアーヤ*13 によって撤回（てっかい）された（イブン・カスィール 8:49-51 参照）。アーヤ*の撤回については、雌牛章 106 の訳注を参照。

3 ユダヤ教徒*を盟友とした者たちとは、偽信者*のこと（ムヤッサル 544 頁参照）。イムラーン家章 28 とその訳注も参照。

4 偽信者*たちは、自分たちの悪い言動を咎（とが）められると、自分たちはそんなことはしていない、と誓ったものだった（イブン・ジュザイ 2:423 参照）。

15. アッラー*は彼ら（偽信者*たち）に、厳しい懲罰をご用意された。本当に、彼らが行っていたことの何と忌まわしいことか。

أَعَدَّ ٱللَّهُ لَهُمْ عَذَابًا شَدِيدًا ۖ إِنَّهُمْ سَآءَ مَا كَانُوا۟ يَعْمَلُونَ ١٥

16. 彼らは自分たちの（嘘の）誓約を盾[1]にして、（自分たちと人々を）アッラー*の道から阻んだ。彼らには、屈辱的な懲罰がある。

ٱتَّخَذُوٓا۟ أَيْمَـٰنَهُمْ جُنَّةً فَصَدُّوا۟ عَن سَبِيلِ ٱللَّهِ فَلَهُمْ عَذَابٌ مُّهِينٌ ١٦

17. 彼らの財産も、子供たちも、アッラー*（の懲罰）に関して、少しも彼らの役に立つことはない。それらの者たちは、地獄の徒。彼らはそこに、永遠に留まる者たちである。

لَّن تُغْنِىَ عَنْهُمْ أَمْوَٰلُهُمْ وَلَآ أَوْلَـٰدُهُم مِّنَ ٱللَّهِ شَيْـًٔا ۚ أُو۟لَـٰٓئِكَ أَصْحَـٰبُ ٱلنَّارِ ۖ هُمْ فِيهَا خَـٰلِدُونَ ١٧

18. （信仰者たちよ、）アッラー*が彼ら全員を蘇らせられ、あなた方に対して彼らが（現世で）誓っているように、かれ（アッラー*）に対して（自分たちは信仰者でした、と）誓う（復活の）日*。彼らは（現世でそれがムスリム*たちに通用したように）、自分たちが通用すると思っている。本当に、彼らこそは嘘つきなのではないか。

يَوْمَ يَبْعَثُهُمُ ٱللَّهُ جَمِيعًا فَيَحْلِفُونَ لَهُۥ كَمَا يَحْلِفُونَ لَكُمْ ۖ وَيَحْسَبُونَ أَنَّهُمْ عَلَىٰ شَىْءٍ ۚ أَلَآ إِنَّهُمْ هُمُ ٱلْكَـٰذِبُونَ ١٨

19. シャイターン*が彼らを（、彼らがシャイターン*に服従したゆえに）制圧し、彼らにアッラー*の唱念を忘れさせた[2]のである。それらの者たちは、シャイターン*の党派。本当にシャイターン*の党派こそは、損失者なのではないか。

ٱسْتَحْوَذَ عَلَيْهِمُ ٱلشَّيْطَـٰنُ فَأَنسَىٰهُمْ ذِكْرَ ٱللَّهِ ۚ أُو۟لَـٰٓئِكَ حِزْبُ ٱلشَّيْطَـٰنِ ۚ أَلَآ إِنَّ حِزْبَ ٱلشَّيْطَـٰنِ هُمُ ٱلْخَـٰسِرُونَ ١٩

---

1 ムスリム*たちから自分たちの生命と財産を守るための、「盾」という意味（ムヤッサル 544頁参照）。

2 彼らはアッラー*を、心でも言葉でも、想起することがなかった（アル＝バイダーウィー 5:314 参照）。あるいは、アッラー*のご命令とかれへの服従をおろそかにし、放棄した（アル＝クルトゥビー17:306 参照）。シャイターン*が人類を迷わせることとなった経緯（いきさつ）については、高壁章 11-18、アル＝ヒジュル章 28-42、夜の旅章 61-65、サード章 71-85 を参照。

20. 本当に、アッラー*とその使徒*に歯向かう者たち、それらの者たちは（現世と来世において、）最も卑しめられた者。

إِنَّ ٱلَّذِينَ يُحَآدُّونَ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥٓ أُوْلَٰٓئِكَ فِي ٱلۡأَذَلِّينَ ٢٠

21. アッラー*は（守られし碑板*の中で、）「われと、わが使徒*たちは、必ずや勝利するのだ」と書き記されたのである。本当にアッラー*は、強力なお方、偉力ならびない*お方であられるのだ。

كَتَبَ ٱللَّهُ لَأَغۡلِبَنَّ أَنَا۠ وَرُسُلِيٓۚ إِنَّ ٱللَّهَ
قَوِيٌّ عَزِيزٞ ٢١

22. （使徒*よ、）あなたはアッラー*と最後の日*を信仰する民が、アッラー*とその使徒*に歯向かう者を愛するのを、見出すことがない。たとえ彼らが、自分たちの父親、自分たちの兄弟、自分たちの近親だったとしても、である[1]。アッラー*は、それらの者たちの心の中に信仰を（確固たるものとして）書き定められ、かれからの魂[2]によって彼らをお支えになったのだ。そして、かれは（来世において）彼らを、その下から河川が流れる楽園にお入れになる。彼らはそこに、永遠に留まるのだ。アッラー*は彼らをお喜びになり、彼らもかれに満足する。それらの者たちが、アッラー*の党派。本当にアッラー*の党派こそは、（現世と来世での）成功者なのではないか。

لَّا تَجِدُ قَوۡمٗا يُؤۡمِنُونَ بِٱللَّهِ وَٱلۡيَوۡمِ ٱلۡأٓخِرِ
يُوَآدُّونَ مَنۡ حَآدَّ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ وَلَوۡ كَانُوٓاْ
ءَابَآءَهُمۡ أَوۡ أَبۡنَآءَهُمۡ أَوۡ إِخۡوَٰنَهُمۡ أَوۡ عَشِيرَتَهُمۡۚ
أُوْلَٰٓئِكَ كَتَبَ فِي قُلُوبِهِمُ ٱلۡإِيمَٰنَ وَأَيَّدَهُم
بِرُوحٖ مِّنۡهُۖ وَيُدۡخِلُهُمۡ جَنَّٰتٖ تَجۡرِي مِن
تَحۡتِهَا ٱلۡأَنۡهَٰرُ خَٰلِدِينَ فِيهَاۚ رَضِيَ ٱللَّهُ عَنۡهُمۡ
وَرَضُواْ عَنۡهُۚ أُوْلَٰٓئِكَ حِزۡبُ ٱللَّهِۚ أَلَآ إِنَّ حِزۡبَ
ٱللَّهِ هُمُ ٱلۡمُفۡلِحُونَ ٢٢

---

1 同様のアーヤ*として、イムラーン家章 28 とその訳注も参照。

2 この「魂」の解釈には、「勝利」「信仰」「クルアーン*とその根拠」「アッラー*のご慈悲」「ジブリール*とその援助」といった諸説がある（アル＝バガウィー5:50 参照）。

第 59 章

集合章（アル＝ハシュル）[1]

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. 諸天にあるものと大地にあるものは（全て）、アッラーを称え*る。かれは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

2. かれは啓典の民*の内、不信仰だった者*たちを、最初の集合[2]においてその住居から追い出し給うたお方。（ムスリム*たちよ、）あなた方は彼らが出て行くとは思っておらず、彼ら自身、自分たちの砦が、彼らをアッラー*（の懲罰）から守ってくれるものと思っていた。だがアッラー*（による追放の定め）は、彼らが想像もしなかったところから彼らのもとに到来し、彼らの心の中に恐怖を投げ入れたのである。彼らは自分たちの家を自らの手と、信仰者たちの手で壊

سُورَةُ الحَشْرِ

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

سَبَّحَ لِلَّهِ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلْأَرْضِۖ
وَهُوَ ٱلْعَزِيزُ ٱلْحَكِيمُ ١

هُوَ ٱلَّذِيٓ أَخْرَجَ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ مِنْ أَهْلِ ٱلْكِتَٰبِ
مِن دِيَٰرِهِمْ لِأَوَّلِ ٱلْحَشْرِۚ مَا ظَنَنتُمْ أَن يَخْرُجُواْۖ
وَظَنُّوٓاْ أَنَّهُم مَّانِعَتُهُمْ حُصُونُهُم مِّنَ ٱللَّهِ
فَأَتَىٰهُمُ ٱللَّهُ مِنْ حَيْثُ لَمْ يَحْتَسِبُواْۖ وَقَذَفَ
فِي قُلُوبِهِمُ ٱلرُّعْبَۚ يُخْرِبُونَ بُيُوتَهُم بِأَيْدِيهِمْ
وَأَيْدِي ٱلْمُؤْمِنِينَ فَٱعْتَبِرُواْ يَٰٓأُوْلِي ٱلْأَبْصَٰرِ ٢

---

1 マディーナ*啓示。ユダヤ教徒*であったナディール族との戦いに関して下ったスーラ*であり、そのスーラ*名も、彼らが「集合」させられてマディーナ*を追放された出来事に由来する。それに関連し、戦利品*に関する規定、ムハージルーン*やアンサール*への賛美、ユダヤ教徒*と内通する偽（にせ）信者*たちの暴露（ばくろ）などが取り上げられる。スーラ*後半では、信仰者に対する敬虔さ*のすすめと、不信仰者*に対する警告がなされ、アッラー*の偉大な属性の数々による賞賛によって締めくくられる。

2 「最初の集合」とは、ナディール族が集合させられ、最初の追放を強（し）いられた出来事のこと（ムヤッサル 545 頁参照）。詳しくは、頻出名・用語解説「ナディール族との戦い*」を参照。一方、二番目の「集合」については、「アラビア半島からシャーム地方（現在のパレスチナ、シリア周辺地域）へと、彼らをまとめて追放したこと」「復活の日*、大火が人々を東から西へと集めつつ追いやること」といった解釈がある（アル＝バガウィー 5:53 参照）。

した[1]のだ。ならば慧眼の持ち主たちよ、（彼らに起きたことを）熟慮せよ。

3. もし、アッラー*が彼らに追放をお定めにならなかったのなら、かれは現世で彼らを（殺害や捕囚などにより、）罰されたことであろう。そして彼らには来世で、業火の懲罰がある。

وَلَوۡلَآ أَن كَتَبَ ٱللَّهُ عَلَيۡهِمُ ٱلۡجَلَآءَ لَعَذَّبَهُمۡ
فِي ٱلدُّنۡيَاۖ وَلَهُمۡ فِي ٱلۡأٓخِرَةِ عَذَابُ ٱلنَّارِ ٣

4. それというのも、彼らがアッラー*とその使徒*に反したからである。アッラー*とその使徒*に反する者があれば（、アッラー*はその者を罰される）、実にかれは厳しい懲罰を与え給うお方なのだから。

ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمۡ شَآقُّواْ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥۖ وَمَن يُشَآقِّ
ٱللَّهَ فَإِنَّ ٱللَّهَ شَدِيدُ ٱلۡعِقَابِ ٤

5. （信仰者たちよ、）あなた方がナツメヤシの木を切ったとしても、それらをその根幹の上にそびえるまま放っておいたとしても、（それは）アッラー*のお許しによるもの（だったの）であり、かれが放逸な者たちを辱めるためだったのである。[2]

مَا قَطَعۡتُم مِّن لِّينَةٍ أَوۡ تَرَكۡتُمُوهَا قَآئِمَةً
عَلَىٰٓ أُصُولِهَا فَبِإِذۡنِ ٱللَّهِ وَلِيُخۡزِيَ ٱلۡفَٰسِقِينَ ٥

6. そしてアッラー*がその使徒*に、彼ら（ナディール族）から（戦闘することなく）戦利品[3]として与えたものは、あなた方がその（獲得の）ために馬やラクダを駆ったわけではなかった。しかしアッラー*はその使徒

وَمَآ أَفَآءَ ٱللَّهُ عَلَىٰ رَسُولِهِۦ مِنۡهُمۡ فَمَآ
أَوۡجَفۡتُمۡ عَلَيۡهِ مِنۡ خَيۡلٖ وَلَا رِكَابٖ وَلَٰكِنَّ
ٱللَّهَ يُسَلِّطُ رُسُلَهُۥ عَلَىٰ مَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ عَلَىٰ
كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٞ ٦

---

1 この意味には、「追放される際、家屋を壊して木材などを運んで持って行き、残りの部分はムスリム*によって壊された」「追放の後、ムスリム*たちによって利用されないよう、自分たちの手で家屋を壊した」「ムスリム*たちは戦いの場を拡大すべく、彼らの住居を壊していったが、彼らは住居の後方に穴を開けては別の住居へと移動し、転々としていった」などの解釈がある（アル＝バガウィー5:53 参照）。

2 ムスリム*たちは預言者*の認可のもと、ナディール族の士気をくじくため、あるいは場所を広くするため、彼らが所有するナツメヤシの木々を切り倒した。それに関し、ナディール族がそれを悪い行いとして非難したため、このアーヤ*が下ったのだとされる（アル＝クルトゥビー18:6 参照）。

3 この戦利品*「ファイゥ」については、頻出名・用語解説の「戦利品*」を参照。

*たちに、かれがお望みになる者を制圧させ給(たま)う。アッラー*は全てのことがお出来のお方なのだ。

7. アッラー*が、町の住人（であるシルクの徒*）からその使徒(しと)*に、（戦闘することなく）戦利品[1]として与えたものは、アッラー*とその使徒(しと)*、近親、孤児(こじ)、貧者(ひんじゃ)*、旅路(たびじ)（で苦境(くきょう)）にある者に属(ぞく)する[2]。（それは財産が、）あなた方の裕福な者たちの間（だけ）を循環(じゅんかん)するものとならないようにするため。また、使徒(しと)*があなた方に与えたものは取り入れ、彼があなた方に禁じたものは放棄(ほうき)するのだ。アッラー*を畏(おそ)れ*よ。本当にアッラー*は、厳(きび)しい懲罰(ちょうばつ)を与え給(たま)うお方なのだから。

مَّآ أَفَآءَ ٱللَّهُ عَلَىٰ رَسُولِهِۦ مِنْ أَهْلِ ٱلْقُرَىٰ فَلِلَّهِ
وَلِلرَّسُولِ وَلِذِى ٱلْقُرْبَىٰ وَٱلْيَتَـٰمَىٰ وَٱلْمَسَـٰكِينِ
وَٱبْنِ ٱلسَّبِيلِ كَىْ لَا يَكُونَ دُولَةًۢ بَيْنَ
ٱلْأَغْنِيَآءِ مِنكُمْ ۚ وَمَآ ءَاتَىٰكُمُ ٱلرَّسُولُ
فَخُذُوهُ وَمَا نَهَىٰكُمْ عَنْهُ فَٱنتَهُوا۟ ۚ وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ ۖ
إِنَّ ٱللَّهَ شَدِيدُ ٱلْعِقَابِ ٧

8. 自分たちの住居と財産から追い出された、ムハージルーン*の困窮(こんきゅう)者*たちに[3]。彼らはアッラー*からのご恩寵(おんちょう)とお喜びを求め、アッラー*（の宗教）とその使徒(しと)*を援助する。それらの者たちこそは、（自分たちの言葉を行いで証明した）正直者である。

لِلْفُقَرَآءِ ٱلْمُهَـٰجِرِينَ ٱلَّذِينَ أُخْرِجُوا۟ مِن دِيَـٰرِهِمْ
وَأَمْوَٰلِهِمْ يَبْتَغُونَ فَضْلًا مِّنَ ٱللَّهِ وَرِضْوَٰنًا
وَيَنصُرُونَ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥٓ ۚ أُو۟لَـٰٓئِكَ هُمُ
ٱلصَّـٰدِقُونَ ٨

9. また、彼ら（ムハージルーン*の移住*）以前に、その町（マディーナ*）に信仰心と共に居を定めた者たち（アンサール*）[4]。彼らは自分たち（のもと）に移住*した者を愛し、彼ら

وَٱلَّذِينَ تَبَوَّءُو ٱلدَّارَ وَٱلْإِيمَـٰنَ مِن قَبْلِهِمْ
يُحِبُّونَ مَنْ هَاجَرَ إِلَيْهِمْ وَلَا يَجِدُونَ فِى
صُدُورِهِمْ حَاجَةً مِّمَّآ أُوتُوا۟ وَيُؤْثِرُونَ عَلَىٰٓ

1 この戦利品*「ファイゥ」については、頻出名・用語解説の「戦利品*」を参照。また、非ムスリムとの安全保障・戦いについては、悔悟章 36 の訳注も参照。

2 同様のアーヤ*である、戦利品章 41 とその訳注を参照。

3 このアーヤ*「ムハージルーン*の困窮者たちに」の文法的な解釈には、「アーヤ*7 の『…属する』につながる」「同アーヤ*の『…循環するものとならないようにするため』につながり、『…ではなく、しかし…困窮者たちに』となる」「『…困窮者たちに（は驚くべきである）』という文が省略されている」といった諸説がある（アッ＝シャウカーニー5:266 参照）。

4 このアーヤ*は文法上、アーヤ*8「…困窮者たちに」にかかるとも、それとは無関係だとも言われる（アル＝クルトゥビー18:21 参照）。

（ムハージルーン*）が与えられたもの[1]について、その胸中に嫉妬の念を見出さず、（彼らのことを）自分たち自身よりも優先する。たとえ彼らに、必要性があったとしても、である。自分自身の貪欲さから守られた者、それらの者たちこそは成功者なのだ。

أَنفُسِهِمْ وَلَوْ كَانَ بِهِمْ خَصَاصَةٌ ۚ وَمَن يُوقَ
شُحَّ نَفْسِهِۦ فَأُو۟لَٰٓئِكَ هُمُ ٱلْمُفْلِحُونَ ٩

10. また、彼ら（ムハージルーン*とアンサール*）の後にやって来た者たちで、（こう）言う者たち[2]。「我らが主*よ、私たちと、信仰において私たちに先駆けた私たちの兄弟たち（の罪）をお赦し下さい。そして私たちの心の内に、信仰する者たちへの憎しみの念を湧かせないで下さい。我らが主*よ、本当にあなたは哀れみ深い*お方、慈愛深い*お方です」。

وَٱلَّذِينَ جَآءُو مِنۢ بَعْدِهِمْ يَقُولُونَ رَبَّنَا
ٱغْفِرْ لَنَا وَلِإِخْوَٰنِنَا ٱلَّذِينَ سَبَقُونَا
بِٱلْإِيمَٰنِ وَلَا تَجْعَلْ فِى قُلُوبِنَا غِلًّا لِّلَّذِينَ
ءَامَنُوا۟ رَبَّنَآ إِنَّكَ رَءُوفٌ رَّحِيمٌ ١٠

11. 一体あなたは、偽の信仰に陥った者たちを見ないのか？ 彼らは啓典の民*の内、不信仰に陥った彼らの同胞に（こう）言う。「もしも、あなた方が（ムハンマド*によって）追い出されたならば、私たちは必ずやあなた方と共に出て行き、あなた方（を見捨てたりすること）に関して、絶対に誰にも従わない。また、もしあなた方が戦いを仕掛けられたならば、私たちは必ずやあなた方を援助しよう」[3]。アッラー*は、本当に彼ら（偽信者*たち）がまさしく、嘘つきであることを証言される。

۞ أَلَمْ تَرَ إِلَى ٱلَّذِينَ نَافَقُوا۟ يَقُولُونَ
لِإِخْوَٰنِهِمُ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ مِنْ أَهْلِ ٱلْكِتَٰبِ
لَئِنْ أُخْرِجْتُمْ لَنَخْرُجَنَّ مَعَكُمْ وَلَا نُطِيعُ
فِيكُمْ أَحَدًا أَبَدًا وَإِن قُوتِلْتُمْ لَنَنصُرَنَّكُمْ
وَٱللَّهُ يَشْهَدُ إِنَّهُمْ لَكَٰذِبُونَ ١١

1 これはムハージルーン*だけに分配された、ナディール族の戦利品*のこと（アル＝バガウィー5:58 参照）。

2 これは、ムハージルーン*とアンサール*の善き手法と美点を踏襲（とうしゅう）し、かつ彼らのために公私において幸を祈る者たちのこと。悔悟章 100 とその訳注も参照（イブン・カスィール 8:72-73 参照）。

3 これはナディール族に対する、偽信者*たちの扇動（せんどう）の言葉（ムヤッサル 547 頁参照）。詳しくは、頻出名・用語解説「ナディール族との戦い*」を参照。

12. もしも彼ら（ナディール族）が（マディーナ*から）追放されたとしても、彼ら（偽信者*たち）は決して、彼らと共に出て行くことはない。また、もしも彼らが戦いを仕掛けられたとしても、彼ら（偽信者*たち）は絶対に彼らを援助したりしない。そして、たとえ彼ら（偽信者*たち）が（、ナディール族を）援助したとしても、彼らはきっと背中を見せて敗走するのであり、（アッラー*によって）勝利を授けられることもないのだ。

لَئِنْ أُخْرِجُوا۟ لَا يَخْرُجُونَ مَعَهُمْ وَلَئِن قُوتِلُوا۟
لَا يَنصُرُونَهُمْ وَلَئِن نَّصَرُوهُمْ لَيُوَلُّنَّ
ٱلْأَدْبَٰرَ ثُمَّ لَا يُنصَرُونَ ﴿١٢﴾

13. （信仰者たちよ、）彼ら（偽信者*たちとユダヤ教徒*）の胸中においては、あなた方こそがアッラー*よりも激しい恐怖（の的）なのだ。それは実に彼らが、（アッラー*の偉大さと、かれへの信仰を）理解しない民だからなのである。

لَأَنتُمْ أَشَدُّ رَهْبَةً فِى صُدُورِهِم مِّنَ
ٱللَّهِ ۚ ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمْ قَوْمٌ لَّا يَفْقَهُونَ ﴿١٣﴾

14. 彼ら（ユダヤ教徒*）は（その臆病さと恐怖ゆえ、）砦で囲まれた町か、壁の向こう側からしか、あなた方に全員で攻撃してきたりはしない。彼らの間の敵意は激しい[1]。あなたは彼ら[2]が団結していると思う。彼らの心は（信条や目的の不一致で、）ばらばらなのだが。それは実に彼らが、（アッラー*のご命令と御徴を）弁えることのない民だからなのだ。

لَا يُقَٰتِلُونَكُمْ جَمِيعًا إِلَّا فِى قُرًى مُّحَصَّنَةٍ
أَوْ مِن وَرَآءِ جُدُرٍۭ ۚ بَأْسُهُم بَيْنَهُمْ شَدِيدٌ ۚ
تَحْسَبُهُمْ جَمِيعًا وَقُلُوبُهُمْ شَتَّىٰ ۚ ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمْ
قَوْمٌ لَّا يَعْقِلُونَ ﴿١٤﴾

---

1 その他、「壁や砦の向こうに自分たちだけでいる限り、彼らの威勢（いせい）は強い」という解釈もある（アル＝バガウィー5:62 参照）。

2 この「彼ら」が誰を指すのかについては、「ユダヤ教徒*と偽信者*たち」「偽信者*たち」「シルク*の徒と啓典の民*」といった説がある（アル＝クルトゥビー18:36 参照）。

15. （彼らユダヤ教徒*の様子は、）彼らより前の最近の者たち[1]の様子のようである。彼らは（現世で）彼らの事[2]（ゆえ）の罰を味わったのであり、彼らにこそは（来世において）痛ましい懲罰があるのだ。

كَمَثَلِ ٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِهِمۡ قَرِيبٗاۖ ذَاقُواْ وَبَالَ أَمۡرِهِمۡ وَلَهُمۡ عَذَابٌ أَلِيمٞ ١٥

16. （彼ら偽信者*たちが、ユダヤ教徒*を戦いへと唆す様子は、）人間に「不信仰となれ」と言った時の、シャイターン*の様子のようである。それで彼が不信仰に陥ると、彼（シャイターン*）は（こう）言ったのだ。「本当に私は、あなたとは無縁である。本当に私は、全創造物の主*アッラー*を怖れているのだから」。

كَمَثَلِ ٱلشَّيۡطَٰنِ إِذۡ قَالَ لِلۡإِنسَٰنِ ٱكۡفُرۡ فَلَمَّا كَفَرَ قَالَ إِنِّي بَرِيٓءٞ مِّنكَ إِنِّيٓ أَخَافُ ٱللَّهَ رَبَّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ١٦

17. 彼ら（シャイターン*と彼に従った人間）両人の行く末は、地獄の中。彼ら両人はそこに、永遠に留まる者となる。それが不正*者たちへの応報なのだから。

فَكَانَ عَٰقِبَتَهُمَآ أَنَّهُمَا فِي ٱلنَّارِ خَٰلِدَيۡنِ فِيهَاۚ وَذَٰلِكَ جَزَٰٓؤُاْ ٱلظَّٰلِمِينَ ١٧

18. 信仰する者たちよ、アッラー*を畏れ*、自分自身が明日[3]のために成したことをよく考えよ。そしてアッラー*を畏れる*のだ。本当にアッラー*は、あなた方が行うことに通暁されるお方なのだから。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ ٱتَّقُواْ ٱللَّهَ وَلۡتَنظُرۡ نَفۡسٞ مَّا قَدَّمَتۡ لِغَدٖۖ وَٱتَّقُواْ ٱللَّهَۚ إِنَّ ٱللَّهَ خَبِيرُۢ بِمَا تَعۡمَلُونَ ١٨

19. また、アッラー*（の唱念と義務）を忘れ、それでかれが彼らに（その不服従ゆえ）、自分自身のことを忘れさせ給うた者[4]たちのようになってはならない。それらの者たちこそは、放逸な者たちなのだから。

وَلَا تَكُونُواْ كَٱلَّذِينَ نَسُواْ ٱللَّهَ فَأَنسَىٰهُمۡ أَنفُسَهُمۡۚ أُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡفَٰسِقُونَ ١٩

---

1 これは、バドルの戦い*でのクライシュ族*の不信仰者*たちや、ナディール族より先にマディーナ*を追放された、ユダヤ教徒*のカイヌカーゥ族のことを指すとされる（ムヤッサル 547 頁参照）。

2 彼らの不信仰と、預言者*に対する敵対心という「事」（前掲書、同頁参照）。

3 復活の日*という「明日」のこと（前掲書 548 頁参照）。

4 復活の日*に自分自身の役に立つ原因となる、善行を忘れさせられた者のこと（前掲書、同頁参照）。

20. 地獄の徒と天国の徒は、同等ではない。天国の徒こそは勝利者なのだ。

لَا يَسْتَوِيٓ أَصْحَٰبُ ٱلنَّارِ وَأَصْحَٰبُ ٱلْجَنَّةِ ۚ أَصْحَٰبُ ٱلْجَنَّةِ هُمُ ٱلْفَآئِزُونَ ٢٠

21. もし、われら*がこのクルアーン*を山に下し（、それがその約束と警告を理解し）たならば、あなたはそれが恭順[1]となり、アッラー*への恐怖ゆえに砕け散るのを見たであろう。そしてそれらの譬えは、われら*が人々に挙げるもの。彼らが（アッラー*の御力と偉大さを）熟考するように、とのためである。

لَوْ أَنزَلْنَا هَٰذَا ٱلْقُرْءَانَ عَلَىٰ جَبَلٍ لَّرَأَيْتَهُۥ خَٰشِعًا مُّتَصَدِّعًا مِّنْ خَشْيَةِ ٱللَّهِ ۚ وَتِلْكَ ٱلْأَمْثَٰلُ نَضْرِبُهَا لِلنَّاسِ لَعَلَّهُمْ يَتَفَكَّرُونَ ٢١

22. かれはアッラー*。その外に、（真に）崇拝*すべきいかなるものもないお方で、不可視の世界*と現象界[2]をご存知のお方。かれは慈悲あまねき*お方、慈愛深い*お方であられる。

هُوَ ٱللَّهُ ٱلَّذِى لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ ۖ عَٰلِمُ ٱلْغَيْبِ وَٱلشَّهَٰدَةِ ۖ هُوَ ٱلرَّحْمَٰنُ ٱلرَّحِيمُ ٢٢

23. かれはアッラー*。その外に、（真に）崇拝*すべきいかなるものもないお方。（真の）王、聖なる*お方、平安な*お方、保障される*お方、統制される*お方、偉力ならびない*お方、制圧される*お方、威風堂々たる*お方。彼らがシルク*を犯しているものから（無縁な）、アッラー*に称え*あれ。

هُوَ ٱللَّهُ ٱلَّذِى لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ ٱلْمَلِكُ ٱلْقُدُّوسُ ٱلسَّلَٰمُ ٱلْمُؤْمِنُ ٱلْمُهَيْمِنُ ٱلْعَزِيزُ ٱلْجَبَّارُ ٱلْمُتَكَبِّرُ ۚ سُبْحَٰنَ ٱللَّهِ عَمَّا يُشْرِكُونَ ٢٣

24. かれはアッラー*、創造主、創生者*、造形者。かれにこそ、美名は属する。諸天と大地にある（全ての）ものは、かれを称え*る。そして、かれは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方であられる。

هُوَ ٱللَّهُ ٱلْخَٰلِقُ ٱلْبَارِئُ ٱلْمُصَوِّرُ ۖ لَهُ ٱلْأَسْمَآءُ ٱلْحُسْنَىٰ ۚ يُسَبِّحُ لَهُۥ مَا فِى ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۖ وَهُوَ ٱلْعَزِيزُ ٱلْحَكِيمُ ٢٤

---

1 「恭順さ」については、雌牛章 45 の訳注を参照。

2 「現象界」については、家畜章 73 の訳注を参照。

第60章
試問される女章（アル＝ムムタヒナ）[1]

سُورَةُ المُمۡتَحنَةِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 信仰する者たちよ、わが敵と、あなた方の敵を盟友としてはならない。あなた方は（彼らに対する）愛情ゆえ、彼らに（使徒*の情報とムスリム*間の秘密を、）軽々しく流している[2]。彼らは、あなた方のもとに到来した真理[3]を、確かに否定したというのに。（信仰者たちよ、）彼らは、あなた方が自分たちの主*アッラー*を信仰するがゆえ、使徒*とあなた方のことを（マッカ*から）追い出したのだ。あなた方がわが道における奮闘と、わが喜びへの希求ゆえに（、移住*に）出たのだとしたら（、彼らを盟友とするのではない）。あなた方は（彼らへの）愛情ゆえ、彼らに秘密裏に伝えている――われはあなた方が隠したことも、露わにしたことも、最もよく知っているのだ――。あなた方の内、そうする者は誰でも、真っ当な道から確かに迷い去ってしまっている。[4]

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ لَا تَتَّخِذُواْ عَدُوِّي وَعَدُوَّكُمۡ
أَوۡلِيَآءَ تُلۡقُونَ إِلَيۡهِم بِٱلۡمَوَدَّةِ وَقَدۡ كَفَرُواْ بِمَا جَآءَكُم
مِّنَ ٱلۡحَقِّ يُخۡرِجُونَ ٱلرَّسُولَ وَإِيَّاكُمۡ أَن تُؤۡمِنُواْ بِٱللَّهِ
رَبِّكُمۡ إِن كُنتُمۡ خَرَجۡتُمۡ جِهَٰدٗا فِي سَبِيلِي وَٱبۡتِغَآءَ
مَرۡضَاتِيۚ تُسِرُّونَ إِلَيۡهِم بِٱلۡمَوَدَّةِ وَأَنَا۠ أَعۡلَمُ
بِمَآ أَخۡفَيۡتُمۡ وَمَآ أَعۡلَنتُمۡۚ وَمَن يَفۡعَلۡهُ مِنكُمۡ
فَقَدۡ ضَلَّ سَوَآءَ ٱلسَّبِيلِ ١

---

1 マディーナ*啓示。シルク*の徒を盟友とすることの警告が、その理由、結果、たとえなどと共に、取り上げられる。また戦争、あるいは平和な状態におけるムスリム*と非ムスリム間の関係についての法規定が描写されるが、スーラ*名ともなっている「試問される女」は、この流れで登場する、マッカ*から移住*してきた女性たちの試問、誓約（せいやく）などの規定の説明（アーヤ*10 以降を参照）に由来する。スーラ*の最後は再び、不信仰者*を盟友とすることに対する警告によって、締めくくられる。

2 「彼らに、愛情を軽々しく示している」という解釈もある（アル＝クルトゥビー18:52 参照）。

3 この「真理」とは、アッラー*とその使徒*、そしてクルアーン*への信仰のこと（ムヤッサル 549 頁参照）。

4 預言者*がマディーナ*からマッカ*へと向かうことを決心した際、マッカ*にいた自分の子供と財産を心配したハーティブ・ブン・アビー・バルタアという教友*が、その知らせをマッカ*の民に伝える伝言を送った。啓示が下ってその事実が明らかになり、その伝言は阻止（そ

2. もし、彼ら（われとあなた方の敵）があなた方に優勢に立てば、彼らはあなた方に対する（公然の）敵となり、あなた方に悪意をもってその手と口を伸ばして来よう[1]。あなた方が（彼ら同様）、不信仰に陥(おちい)ることを望みつつ。

إِن يَثْقَفُوكُمْ يَكُونُوا لَكُمْ أَعْدَاءً وَيَبْسُطُوا إِلَيْكُمْ
أَيْدِيَهُمْ وَأَلْسِنَتَهُم بِالسُّوءِ وَوَدُّوا لَوْ
تَكْفُرُونَ ٢

3. （彼ら不信仰者*たちを盟友(めいゆう)としても、）あなた方の近親の絆(きずな)も、あなた方の子供たちも、あなた方の役に立つことはない。復活の日*、かれはあなた方の間をお分けにな（り、信仰者は天国へ、不信仰者*は地獄へ入）るのだ。アッラー*は、あなた方が行うことをご覧(らん)になるお方。

لَن تَنفَعَكُمْ أَرْحَامُكُمْ وَلَا أَوْلَادُكُمْ ۚ يَوْمَ الْقِيَامَةِ
يَفْصِلُ بَيْنَكُمْ ۚ وَاللَّهُ بِمَا تَعْمَلُونَ بَصِيرٌ ٣

4. （信仰者たちよ、）イブラーヒーム*と、彼と共にあった（信仰）者の内には、確かにあなた方へのよき模範(もはん)があった。彼らが（不信仰者*である）自分たちの民に、（こう）言った時のこと。「本当に私たちは、あなた方と、あなた方がアッラー*をよそに崇(あが)めているものとは無縁(むえん)です。私たちはあなた方を否定し、あなた方がアッラー*だけを信仰するまで、私たちとあなた方との間には、永遠の敵意と憎悪(ぞうお)が現れたのです」。但(ただ)し、イブラーヒーム*の彼の父親に対する、「私は必(かなら)ずや、あなたのために赦(ゆる)しを乞(こ)いましょう。私はあなたのために、アッラー*（のご意思）に対して、何（の力）も有してはいませんが」という言葉は別（で、模範(もはん)と

قَدْ كَانَتْ لَكُمْ أُسْوَةٌ حَسَنَةٌ فِي إِبْرَاهِيمَ وَالَّذِينَ
مَعَهُ إِذْ قَالُوا لِقَوْمِهِمْ إِنَّا بُرَآءُ مِنكُمْ وَمِمَّا
تَعْبُدُونَ مِن دُونِ اللَّهِ كَفَرْنَا بِكُمْ وَبَدَا بَيْنَنَا
وَبَيْنَكُمُ الْعَدَاوَةُ وَالْبَغْضَاءُ أَبَدًا حَتَّىٰ تُؤْمِنُوا
بِاللَّهِ وَحْدَهُ إِلَّا قَوْلَ إِبْرَاهِيمَ لِأَبِيهِ لَأَسْتَغْفِرَنَّ
لَكَ وَمَا أَمْلِكُ لَكَ مِنَ اللَّهِ مِن شَيْءٍ ۖ رَّبَّنَا
عَلَيْكَ تَوَكَّلْنَا وَإِلَيْكَ أَنَبْنَا وَإِلَيْكَ الْمَصِيرُ ٤

し）されたが、このアーヤ*は、この出来事について下ったとされる（アル＝ブハーリー 4274 参照）。尚、これはマッカ開城*の年のことだとも、フダイビーヤの和議*の年のことだとも言われる（アル＝クルトゥビー18:51 参照）。不信仰者*との関係については、アーヤ*8、イムラーン家章 28 とその訳注も参照。

1 つまり、殺害や捕虜（ほりょ）の憂（う）き目を味わわせたり、悪口や中傷（ちゅうしょう）の言葉を投げかけてきたりする、ということ（ムヤッサル 549 頁参照）。

してはならない）[1]。（イブラーヒーム*とその仲間たちは、言った。）「我らが主*よ、私たちはあなたにこそ全てを委ね*、あなたにこそ（悔悟して）立ち返りました。そしてあなたにこそ、帰り所はあります。

5. 我らが主*よ、私たちを不信仰に陥った者*たちの試練とはしないで下さい[2]。また、私たちのために（私たちの罪を）お赦し下さい、我らが主*よ。本当にあなたこそは、偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方なのですから」。

رَبَّنَا لَا تَجْعَلْنَا فِتْنَةً لِّلَّذِينَ كَفَرُوا وَاغْفِرْ لَنَا رَبَّنَا ۖ
إِنَّكَ أَنتَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ٥

6. （信仰者たちよ、）彼ら（イブラーヒーム*と、彼と共にあった者たち）の内には、確かにあなた方、アッラー*と最後の日*を望む[3]者への、よき模範があった。そして背く者[4]があろうと（、そのつけは自分自身に返って来るだけである）、本当にアッラー*こそは満ち足りた*お方、称賛されるべき*お方なのだから。

لَقَدْ كَانَ لَكُمْ فِيهِمْ أُسْوَةٌ حَسَنَةٌ لِّمَن كَانَ يَرْجُو
اللَّهَ وَالْيَوْمَ الْآخِرَ ۚ وَمَن يَتَوَلَّ فَإِنَّ اللَّهَ هُوَ الْغَنِيُّ
الْحَمِيدُ ٦

7. （信仰者たちよ、）もしかするとアッラー*は、あなた方と、彼ら（近親であるシルク*の徒）の内であなた方が敵対した者たちの間に、（彼らがイスラーム*を受け入れることによって、）愛情を芽生えさせられるかもしれない。アッラー*は全能のお方であり、アッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。

۞ عَسَى اللَّهُ أَن يَجْعَلَ بَيْنَكُمْ وَبَيْنَ الَّذِينَ عَادَيْتُم
مِّنْهُم مَّوَدَّةً ۚ وَاللَّهُ قَدِيرٌ ۚ وَاللَّهُ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ٧

---

1 イブラーヒーム*がアッラー*に、不信仰者*だった父親の罪の赦しを乞うたことについては、悔悟章 114 とその訳注、マルヤム*章 47 を参照。

2 このアーヤ*の意味については、ユーヌス*章 85 とその訳注を参照。

3 この「望む」については、ユーヌス*章 7 の訳注を参照。

4 預言者*たちへの追従（ついじゅう）という、アッラー*のご命令に背き、アッラー*の敵を盟友とする者のこと（ムヤッサル 550 頁参照）。

8. アッラー*は、宗教においてあなた方と戦ってもおらず、あなた方をあなた方の家から追い出してもいない者たちに、あなた方が善行を施し、公正に接することを禁じていらっしゃるわけではない[1]。本当にアッラー*は、公正な者たちをお好みになるのだから。

لَّا يَنْهَاكُمُ اللَّهُ عَنِ الَّذِينَ لَمْ يُقَاتِلُوكُمْ فِي الدِّينِ
وَلَمْ يُخْرِجُوكُم مِّن دِيَارِكُمْ أَن تَبَرُّوهُمْ وَتُقْسِطُوا
إِلَيْهِمْ ۚ إِنَّ اللَّهَ يُحِبُّ الْمُقْسِطِينَ ﴿٨﴾

9. 実にアッラー*があなた方に禁じられるのは、宗教においてあなた方と戦い、あなた方をあなた方の家から追い出し、あなた方の追放に手を貸した者たちを盟友とすることなのである。彼らを盟友とする者、それらの者たちこそは不正*者なのだから。

إِنَّمَا يَنْهَاكُمُ اللَّهُ عَنِ الَّذِينَ قَاتَلُوكُمْ فِي الدِّينِ
وَأَخْرَجُوكُم مِّن دِيَارِكُمْ وَظَاهَرُوا عَلَىٰ إِخْرَاجِكُمْ
أَن تَوَلَّوْهُمْ ۚ وَمَن يَتَوَلَّهُمْ فَأُولَٰئِكَ هُمُ الظَّالِمُونَ ﴿٩﴾

10. 信仰する者たちよ、あなた方のもとに信仰者の女たちが（不信仰者*の世界から、イスラーム*世界へと）移住*者としてやって来たら、（その信仰心を確かめるべく）彼女らを試問せよ[2]——アッラー*が彼女らの信仰心を、最もよくご存知である——。そして、もし彼女らが信仰者だと分かったならば、あなた方は彼女らを不信仰者*たち（である彼女らの夫のもと）に返してはならない。彼女らは彼らにとって（妻として）合法ではなく、彼らも彼女らにとって（夫として）合法ではないのだから。また、彼ら

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا إِذَا جَاءَكُمُ الْمُؤْمِنَاتُ مُهَاجِرَاتٍ
فَامْتَحِنُوهُنَّ ۖ اللَّهُ أَعْلَمُ بِإِيمَانِهِنَّ ۖ فَإِنْ عَلِمْتُمُوهُنَّ
مُؤْمِنَاتٍ فَلَا تَرْجِعُوهُنَّ إِلَى الْكُفَّارِ ۖ لَا هُنَّ حِلٌّ لَّهُمْ
وَلَا هُمْ يَحِلُّونَ لَهُنَّ ۖ وَآتُوهُم مَّا أَنفَقُوا ۚ وَلَا جُنَاحَ
عَلَيْكُمْ أَن تَنكِحُوهُنَّ إِذَا آتَيْتُمُوهُنَّ أُجُورَهُنَّ ۚ
وَلَا تُمْسِكُوا بِعِصَمِ الْكَوَافِرِ وَاسْأَلُوا مَا أَنفَقْتُمْ
وَلْيَسْأَلُوا مَا أَنفَقُوا ۚ ذَٰلِكُمْ حُكْمُ اللَّهِ ۖ يَحْكُمُ بَيْنَكُمْ ۚ
وَاللَّهُ عَلِيمٌ حَكِيمٌ ﴿١٠﴾

---

1 イムラーン家章 28 と、その訳注も参照。

2 フダイビーヤの和議*の合意の中には、マッカ*からマディーナ*へとやって来たムスリム*は、マッカ*へと返還されなければならない、という項目があった。その後、イスラーム*を受け入れた女性がマッカ*を後にして預言者*のもとにやって来たが、彼は「（例の）項目は男性だけのものであり、女性には適用されない」として、彼女をマッカ*に返還しなかった。このアーヤ*は、このことに関して下ったとされる。尚、「試問」の内容については、「移住*の目的が、アッラー*とその使徒*への愛情以外の何ものでもないことの宣誓」「シャハーダ*の証言」「アーヤ*12 にある誓約」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー18:61 参照）。

（自分の妻がイスラーム*に改宗した、不信仰者*の夫たち）には、彼らが（彼女らに）費やしたもの[1]を与えよ。そして、あなた方が彼女らに（イッダ*の後、）彼女らの婚資金*を与えたならば、あなた方が彼女らと結婚しても、あなた方に罪はない。また、不信仰者*の女性たちの絆に、しがみ付いてはならない[2]。そしてあなた方が（自分たちの妻に）費やしたものを請求し、彼らには彼らが（自分たちの妻に）費やしたものを請求させよ[3]。それが、あなた方の間を裁くアッラー*の法。アッラー*は全知者、英知あふれる*お方であられる。

11. また、もしあなた方の妻たちの一部が、（イスラーム*を棄てて）あなた方から不信仰者*たちのところへと逃れ、その後にあなた方が（彼ら不信仰者*たちに勝利を収め、戦利品*という）戦果を得た[4]ならば、妻たちに去られてしまった者たちに、彼らが（彼女らに婚資金*として）費やしたものを与えよ。そしてあなた方が信じているアッラー*をこそ、畏れる*のだ。

وَإِن فَاتَكُمْ شَيْءٌ مِّنْ أَزْوَاجِكُمْ إِلَى ٱلْكُفَّارِ
فَعَاقَبْتُمْ فَـَٔاتُوا۟ ٱلَّذِينَ ذَهَبَتْ أَزْوَاجُهُم مِّثْلَ
مَآ أَنفَقُوا۟ ۚ وَٱتَّقُوا۟ ٱللَّهَ ٱلَّذِىٓ أَنتُم بِهِۦ مُؤْمِنُونَ ١١

---

1 つまり婚資金*のこと（ムヤッサル 550 頁参照）。

2 つまり、不信仰者*の女性との結婚関係を続けてはならない、ということ（前掲書、同頁参照）。尚、啓典の民*の女性は、ここには含まれないとされる（アル＝クルトゥビー18:66 参照）。

3 ムスリム*男性の妻であった女性がイスラーム*を棄（す）て、不信仰者*のところへ逃げて彼らと結婚したら、そのムスリム*男性は彼女に与えた婚資金*を彼らに請求せよ、そしてその逆も同様である、ということ（ムヤッサル 550 頁参照）。イブン・アル＝アラビー*によれば、この規定の有効性が当時の特別な状況に限定されたものということで、学者間の意見は一致している（4:231 参照）。

4 ほかにも、「彼らを戦いで痛めつけて、戦利品*を得たら」「彼らと同じようにやり返したら」といった解釈がある（アル＝バガウィー5:74 参照）。

12. 預言者*よ、信仰者の女たちが、あなたと誓約――アッラー*に何も並べ（て崇拝*せ）ず[1]、盗まず、姦通せず、（出産前でも後でも）自分の子供たちを殺さず[2]、自分たちの手と足の間で捏造をでっち上げず[3]、善事[4]においてあなたに逆らわない、との（誓約）――を交わしに、あなたのもとにやって来たら、彼女らと誓約を交わし、彼女らのためにアッラー*にお赦しを乞え[5]。本当にアッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだから。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّبِيُّ إِذَا جَآءَكَ ٱلْمُؤْمِنَٰتُ يُبَايِعْنَكَ عَلَىٰٓ
أَن لَّا يُشْرِكْنَ بِٱللَّهِ شَيْـًٔا وَلَا يَسْرِقْنَ وَلَا يَزْنِينَ
وَلَا يَقْتُلْنَ أَوْلَٰدَهُنَّ وَلَا يَأْتِينَ بِبُهْتَٰنٍ
يَفْتَرِينَهُۥ بَيْنَ أَيْدِيهِنَّ وَأَرْجُلِهِنَّ وَلَا
يَعْصِينَكَ فِى مَعْرُوفٍ فَبَايِعْهُنَّ وَٱسْتَغْفِرْ
لَهُنَّ ٱللَّهَ ۖ إِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ١٢

13. 信仰する者たちよ、アッラー*がお怒りになった民を盟友とするのではない。彼らは、墓の住人である不信仰者*たちが（、来世でアッラー*のご慈悲を受けることに対して）失望しているように[6]、来世（での褒美を得ること）に対して、確かに失望するのだから。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَا تَتَوَلَّوْا۟ قَوْمًا غَضِبَ ٱللَّهُ
عَلَيْهِمْ قَدْ يَئِسُوا۟ مِنَ ٱلْـَٔاخِرَةِ كَمَا يَئِسَ
ٱلْكُفَّارُ مِنْ أَصْحَٰبِ ٱلْقُبُورِ ١٣

---

1 頻出名・用語解説「シルク*」も参照。

2 「嬰児（えいじ）殺し」については、家畜章 137 とその訳注も参照。

3 「手と足の間で捏造をでっち上げる」とは、大半の解釈学者によれば、夫のものではない子供を、彼の子供であると偽（いつわ）ること（アル＝クルトゥビー18:72 参照）。

4 この「善事」については、イムラーン家章 104 の訳注を参照。

5 この誓約はマッカ開城*の際、イスラーム*を受け入れる意思を表明したマッカ*の女性たちに対し、行われた。また、それ以前、マディーナ*へと移住*してきたムスリム*女性たちに対しても、この誓約が取り交わされたとされる（前掲書 18:71 参照）。

6 「復活を信じない不信仰者*たちが、墓の中に入っている自分たちの親族とは二度と会えないことに、失望しているように…」という別の解釈もある（イブン・カスィール 8:103 参照）。

第61章
戦列章（アッ＝サッフ）[1]

سُورَةُ الصَّفِّ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. 諸天にあるものと大地にあるものは（全て）、アッラー*を称え*る。かれは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

2. 信仰する者たちよ、なぜあなた方は、自分たちがやりもしないことを言うのか？

3. 自分たちがやりもしないことを言うのは、アッラー*の御許で、忌まわしいことこの上ないのだ。

4. 本当にアッラー*は、かれの道において、結束した一つの建物のように（戦）列を組んで戦う者たちを、お好みになる。

5. ムーサー*がその民に、（こう）言った時のこと（を思い起こさせよ）。「我が民よ、あなた方は、本当に私があなた方に対するアッラー*の使徒*であることを確かに知っているのに、なぜ私に危害を加えるのか？」そして彼らが（真理を知った上で、そこから）逸れた時、アッラー*は彼らの心を（、導きの受容から）お逸らしになった。アッラー*は放逸な民をお導きにはならない。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

سَبَّحَ لِلَّهِ مَا فِي السَّمَاوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ ۖ
وَهُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ١

يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا لِمَ تَقُولُونَ مَا لَا
تَفْعَلُونَ ٢
كَبُرَ مَقْتًا عِنْدَ اللَّهِ أَنْ تَقُولُوا مَا لَا
تَفْعَلُونَ ٣

إِنَّ اللَّهَ يُحِبُّ الَّذِينَ يُقَاتِلُونَ فِي سَبِيلِهِ
صَفًّا كَأَنَّهُمْ بُنْيَانٌ مَرْصُوصٌ ٤

وَإِذْ قَالَ مُوسَىٰ لِقَوْمِهِ يَا قَوْمِ لِمَ
تُؤْذُونَنِي وَقَدْ تَعْلَمُونَ أَنِّي رَسُولُ اللَّهِ
إِلَيْكُمْ ۖ فَلَمَّا زَاغُوا أَزَاغَ اللَّهُ قُلُوبَهُمْ ۚ
وَاللَّهُ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الْفَاسِقِينَ ٥

1 マディーナ*啓示で学者間の意見は、ほぼ一致。一説には、このスーラ*自体、教友*たちが「アッラー*が最も好まれる行いは何か？」と話し合っていたことを受けて、下ったものとされる（アフマド 23788 参照）。約束を守ること、信仰に対する誠実さ、アッラー*の道における努力奮闘、アッラー*の使徒*への服従、宗教の援助者となることの勧（すす）めなどが取り上げられているが、スーラ*名ともなっている「戦列」は、その流れで登場したものである。

6. また、マルヤム*の子イーサー*が、（こう）言った時のこと（を思い起こさせよ）。「イスラーイールの子ら*よ、本当に私は、トーラー*という私以前のもの（の内容）を確証し、私の後に到来するアフマドという名の使徒[1]の吉報を伝える、あなた方へのアッラー*の使徒*である」。そして彼（アフマド）が、明証[2]を携えて彼らのもとに到来した時、彼らは言った。「これは紛れもない魔術だ」。

وَإِذۡ قَالَ عِيسَى ٱبۡنُ مَرۡيَمَ يَٰبَنِيٓ إِسۡرَٰٓءِيلَ إِنِّي رَسُولُ ٱللَّهِ
إِلَيۡكُم مُّصَدِّقٗا لِّمَا بَيۡنَ يَدَيَّ مِنَ ٱلتَّوۡرَىٰةِ وَمُبَشِّرَۢا
بِرَسُولٖ يَأۡتِي مِنۢ بَعۡدِي ٱسۡمُهُۥٓ أَحۡمَدُۖ فَلَمَّا جَآءَهُم
بِٱلۡبَيِّنَٰتِ قَالُواْ هَٰذَا سِحۡرٞ مُّبِينٞ ٦

7. 自分がイスラーム*へと招かれているのに、アッラー*に対して嘘を捏造した者より、ひどい不正*を働く者があろうか？　アッラー*は不正*者である民を、お導きにはならない。

وَمَنۡ أَظۡلَمُ مِمَّنِ ٱفۡتَرَىٰ عَلَى ٱللَّهِ ٱلۡكَذِبَ وَهُوَ يُدۡعَىٰٓ
إِلَى ٱلۡإِسۡلَٰمِۚ وَٱللَّهُ لَا يَهۡدِي ٱلۡقَوۡمَ ٱلظَّٰلِمِينَ ٧

8. 彼らは、その口先でアッラー*の御光[3]を消してしまおうと望んでいる。アッラー*は、たとえ不信仰者*たちが嫌おうとも、その御光を完遂させられるお方。

يُرِيدُونَ لِيُطۡفِـُٔواْ نُورَ ٱللَّهِ بِأَفۡوَٰهِهِمۡ وَٱللَّهُ مُتِمُّ
نُورِهِۦ وَلَوۡ كَرِهَ ٱلۡكَٰفِرُونَ ٨

9. かれは、その使徒*を導きと真理の宗教（イスラーム*）と共に遣わされたお方。（それは）かれが、それ（イスラーム*）をあらゆる宗教の上に君臨させる[4]ため。たとえ、シルク*の徒が（そのことを）嫌がろうとも。

هُوَ ٱلَّذِيٓ أَرۡسَلَ رَسُولَهُۥ بِٱلۡهُدَىٰ وَدِينِ ٱلۡحَقِّ
لِيُظۡهِرَهُۥ عَلَى ٱلدِّينِ كُلِّهِۦ وَلَوۡ كَرِهَ ٱلۡمُشۡرِكُونَ ٩

10. 信仰する者たちよ、あなた方に、あなた方を痛ましい懲罰から救ってくれる（偉大な）商売を教えてやろうか？

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ هَلۡ أَدُلُّكُمۡ عَلَىٰ تِجَٰرَةٖ تُنجِيكُم مِّنۡ
عَذَابٍ أَلِيمٖ ١٠

---

1 「アフマド」は、最後の預言者*ムハンマド*の別名（イブン・カスィール 8:109 参照）。雌牛章 129「使徒*」の訳注、高壁章 157 とその訳注も参照。

2 この「明証」とは、アッラー*から授かった、彼の預言者*性を証明する数々の根拠のこと（アッ＝タバリー10:8019 参照）。

3 この「御光」については、悔悟章 32 の同語についての訳注を参照。

4 「…君臨させる」の意味については、悔悟章 33 の訳注を参照。

11. アッラー*とその使徒*を信じ、自分たちの財産と生命をかけて、アッラー*の道に努力奮闘するのだ。それが、あなた方にとって（現世の商売）より善いのだから。もし、あなた方が知っていたのならば（、そうしたであろう）。

تُؤْمِنُونَ بِٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦ وَتُجَٰهِدُونَ فِى سَبِيلِ ٱللَّهِ
بِأَمْوَٰلِكُمْ وَأَنفُسِكُمْ ۚ ذَٰلِكُمْ خَيْرٌ لَّكُمْ إِن كُنتُمْ تَعْلَمُونَ ١١

12. （信仰者たちよ、もしそうしたならば、）かれはあなた方のため、あなた方の罪をお赦しになり、その下から河川が流れる楽園と、永久の楽園の麗しき住まいへと、あなた方をお入れ下さろう。それは偉大なる勝利なのだ。

يَغْفِرْ لَكُمْ ذُنُوبَكُمْ وَيُدْخِلْكُمْ جَنَّٰتٍ تَجْرِى مِن تَحْتِهَا
ٱلْأَنْهَٰرُ وَمَسَٰكِنَ طَيِّبَةً فِى جَنَّٰتِ عَدْنٍ ۚ ذَٰلِكَ ٱلْفَوْزُ
ٱلْعَظِيمُ ١٢

13. また、あなた方が欲する外のものも（恩恵として、お授け下さろう）。（それは）アッラー*からのご援助と、近い勝利。信仰者たちには、吉報を伝えよ。

وَأُخْرَىٰ تُحِبُّونَهَا ۖ نَصْرٌ مِّنَ ٱللَّهِ وَفَتْحٌ قَرِيبٌ ۗ وَبَشِّرِ
ٱلْمُؤْمِنِينَ ١٣

14. 信仰する者たちよ、アッラー*の（宗教への）援助者となれ。マルヤム*の子イーサー*が弟子たち[1]に「アッラー*（の道）への、私の援助者は誰か？」と言い、弟子たちが「私たちが、アッラー*の援助者です」と言ったように。そしてイスラーイールの子ら*の一派は信仰し、（別の）一派は否定した。それで、われら*は信仰した者たちをその敵（である不信仰の一派）に対して支持し、彼ら（信仰者たち）は勝利者となったのである。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ كُونُوٓا۟ أَنصَارَ ٱللَّهِ كَمَا قَالَ
عِيسَى ٱبْنُ مَرْيَمَ لِلْحَوَارِيِّـۧنَ مَنْ أَنصَارِىٓ إِلَى ٱللَّهِ ۖ
قَالَ ٱلْحَوَارِيُّونَ نَحْنُ أَنصَارُ ٱللَّهِ ۖ فَـَٔامَنَت طَّآئِفَةٌ
مِّنۢ بَنِىٓ إِسْرَٰٓءِيلَ وَكَفَرَت طَّآئِفَةٌ ۖ فَأَيَّدْنَا ٱلَّذِينَ
ءَامَنُوا۟ عَلَىٰ عَدُوِّهِمْ فَأَصْبَحُوا۟ ظَٰهِرِينَ ١٤

1 「弟子たち」については、イムラーン家章 52 の訳注を参照。

第62章
合同礼拝章（アル＝ジュムア）[1]

سُورَةُ الجُمُعَةِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

1. 諸天にあるものと大地にあるものは（全て）、アッラー*を称え*る。（真の）王、聖なる*お方、偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方（を）。

يُسَبِّحُ لِلَّهِ مَا فِي السَّمَاوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ
الْمَلِكِ الْقُدُّوسِ الْعَزِيزِ الْحَكِيمِ ١

2. かれは文盲者たち[2]の中に、彼ら自身の内から、その御徴（アーヤ*）を彼らに誦み聞かせ、彼らを清め、彼らに啓典と英知[3]を教える一人の使徒*（ムハンマド*）を遣わされたお方。（その使徒*が遣わされる）以前、彼らは明白な迷いの中にあったのだ。

هُوَ الَّذِي بَعَثَ فِي الْأُمِّيِّينَ رَسُولًا مِنْهُمْ يَتْلُوا
عَلَيْهِمْ آيَاتِهِ وَيُزَكِّيهِمْ وَيُعَلِّمُهُمُ الْكِتَابَ
وَالْحِكْمَةَ وَإِنْ كَانُوا مِنْ قَبْلُ لَفِي ضَلَالٍ
مُبِينٍ ٢

3. また（かれは、）彼らの内、まだ彼らのところに到達していない外の者たち[4]にも（、彼を遣わされた）。かれは偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方。

وَآخَرِينَ مِنْهُمْ لَمَّا يَلْحَقُوا بِهِمْ وَهُوَ الْعَزِيزُ
الْحَكِيمُ ٣

---

1 マディーナ*啓示。アッラー*の賛美と、預言者*ムハンマド*の使徒*性の確証、及び人々に対するその恩恵の言及に始まり、アッラー*の宗教に対する態度におけるユダヤ教徒*の悪例と、彼らへの批判が取り上げられる。スーラ*の終わりは、スーラ*名ともなっており、イスラーム*の特別な宗教行事の一つである金曜日の「合同礼拝」参加への呼びかけと、現世的諸事にかまけることなく、アッラー*のご命令にすぐ応じることへの勧（すす）めによって締めくくられる。

2 「文盲者たち」とは、その大半が読み書きを知らず（アル＝バイダーウィー5:337 参照）、啓典もその残片もなかった、当時のアラブ人のこと（ムヤッサル 553 頁参照）。尚、預言者*ムハンマド*は彼らにだけ遣わされたわけではないが、彼らに対する恩恵は他の民に対するそれよりも大きく、顕著（けんちょ）である。高壁章 158 とその訳注も参照（イブン・カスィール 8:115 参照）。

3 「清める」「英知」に関しては、雌牛章 129 の訳注を参照。

4 この「他の者たち」の解釈には、「非アラブ人」「タービウーン*」「預言者*の死後から、復活の日*までの間にムスリム*となった全ての者」などといった諸説がある（アル＝クルトゥビー18:93 参照）。

4. それ[1]はかれが、お望みになる者に授けられるアッラー*のご恩寵。かれは、偉大なる恩寵の主であられる。

ذَٰلِكَ فَضۡلُ ٱللَّهِ يُؤۡتِيهِ مَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ ذُو
ٱلۡفَضۡلِ ٱلۡعَظِيمِ ٤

5. トーラー*（の実践）を担わされ、その後それを（請け）負わなかった者たち[2]の様子は、あたかも（何冊もの）書物を背負った、ロバの様子のようである[3]。アッラー*の御徴[4]を嘘呼ばわりした民の様子は、何と醜悪なことか。アッラー*は不正*者である民を、お導きにはならない。

مَثَلُ ٱلَّذِينَ حُمِّلُواْ ٱلتَّوۡرَىٰةَ ثُمَّ لَمۡ يَحۡمِلُوهَا
كَمَثَلِ ٱلۡحِمَارِ يَحۡمِلُ أَسۡفَارَۢاۚ بِئۡسَ مَثَلُ
ٱلۡقَوۡمِ ٱلَّذِينَ كَذَّبُواْ بِـَٔايَٰتِ ٱللَّهِۚ وَٱللَّهُ لَا
يَهۡدِي ٱلۡقَوۡمَ ٱلظَّٰلِمِينَ ٥

6. （使徒*よ、）言ってやれ。「ユダヤ教徒*である者たちよ、もし自分たちが人々を差しおいてアッラー*と親密な者であると言い張るなら、死を望んでみたらいかがか？もし、あなた方が真実を語っているというのであれば、だが」。[5]

قُلۡ يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ هَادُوٓاْ إِن زَعَمۡتُمۡ أَنَّكُمۡ
أَوۡلِيَآءُ لِلَّهِ مِن دُونِ ٱلنَّاسِ فَتَمَنَّوُاْ ٱلۡمَوۡتَ
إِن كُنتُمۡ صَٰدِقِينَ ٦

7. 彼らは自分たちが行ってきたことゆえ、決してそのようなことを望んだりはしない。アッラー*は、不正*者たちをご存知のお方。

وَلَا يَتَمَنَّوۡنَهُۥٓ أَبَدَۢا بِمَا قَدَّمَتۡ أَيۡدِيهِمۡۚ وَٱللَّهُ
عَلِيمُۢ بِٱلظَّٰلِمِينَ ٧

8. 言ってやれ。「本当に、あなた方が逃げている死、それはまさしく、あなた方と対面することになるもの。それからあなた方は（復活の日*）、不可視の世界*と現象界[6]をご存知のお方（アッラー*）へと戻され、そ

قُلۡ إِنَّ ٱلۡمَوۡتَ ٱلَّذِي تَفِرُّونَ مِنۡهُ فَإِنَّهُۥ
مُلَٰقِيكُمۡۖ ثُمَّ تُرَدُّونَ إِلَىٰ عَٰلِمِ ٱلۡغَيۡبِ
وَٱلشَّهَٰدَةِ فَيُنَبِّئُكُم بِمَا كُنتُمۡ تَعۡمَلُونَ ٨

1 「それ」とは、彼らアラブ人のもとに使徒*が遣わされたこと（ムヤッサル 553 頁参照）。

2 ユダヤ教徒*のこと（前掲書、同頁参照）。

3 つまり彼らは、自分たちの書を暗記するだけで理解せず、それに従って行いもしないどころか、それを自分たちの都合のよいように解釈したり、改ざんしたりした（イブン・カスィール 8:117 参照）。

4 この「御徴」は、預言者*ムハンマド*の使徒*性の正しさを示す証拠（アル＝バイダーウィー5:338 参照）。

5 雌牛章 94、食卓章 18 なども参照。

6 「現象界」については、家畜章 73 の訳注を参照。

してかれはあなた方に、あなた方が行っていたことをお告げにな（り、それに対して報われ）るのだ」。

9. 信仰する者たちよ、合同の日（金曜日）に（合同）礼拝に呼びかけられたら[1]アッラー*の唱念[2]に励み、商売（など、あらゆる仕事）を中断するのだ。それがあなた方にとって、より善いのだから。もし、あなた方が（そのことを）知っていたのなら（、そうせよ）。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِذَا نُودِيَ لِلصَّلَوٰةِ مِن يَوۡمِ
ٱلۡجُمُعَةِ فَٱسۡعَوۡاْ إِلَىٰ ذِكۡرِ ٱللَّهِ وَذَرُواْ ٱلۡبَيۡعَۚ
ذَٰلِكُمۡ خَيۡرٞ لَّكُمۡ إِن كُنتُمۡ تَعۡلَمُونَ ٩

10. そして（合同）礼拝が終わったら、大地に拡散し、アッラー*のご恩寵を求め、アッラー*を多く唱念するがよい。あなた方が成功するように。

فَإِذَا قُضِيَتِ ٱلصَّلَوٰةُ فَٱنتَشِرُواْ فِي
ٱلۡأَرۡضِ وَٱبۡتَغُواْ مِن فَضۡلِ ٱللَّهِ وَٱذۡكُرُواْ
ٱللَّهَ كَثِيرٗا لَّعَلَّكُمۡ تُفۡلِحُونَ ١٠

11. 彼ら（一部のムスリム*）は商売や戯れごとを目にした時、あなたを（説教壇の上に）立ったまま放ったらかしにして、散り散りになって（そこへと）去ってしまった。（預言者*よ、）言ってやれ。「アッラー*の御許にあるもの（褒美）の方が、戯れごとよりも商売よりも善い」。アッラー*は、最もよく糧を授けられるお方であられる。[3]

وَإِذَا رَأَوۡاْ تِجَٰرَةً أَوۡ لَهۡوًا ٱنفَضُّوٓاْ إِلَيۡهَا وَتَرَكُوكَ
قَآئِمٗاۚ قُلۡ مَا عِندَ ٱللَّهِ خَيۡرٞ مِّنَ ٱللَّهۡوِ وَمِنَ
ٱلتِّجَٰرَةِۚ وَٱللَّهُ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ١١

---

1 この「呼びかけ」は、第三代カリフ・ウスマーン*が人口の増加ゆえに新たに付け加え、現在まで存続する「一度目の呼びかけ」ではなく、預言者*が説教壇に入った時点で行われていた、現在における「二度目の呼びかけ」のこと。尚、金曜日の合同礼拝の参加は、健康上の問題など正当な理由がない限り、定住した状態にある自由民で成人*男性の参加が義務づけられる（イブン・カスィール 8:122 参照）。

2 つまり説教を聴き、その後に続く礼拝を行うこと（ムヤッサル 554 頁参照）。

3 とある金曜日の合同礼拝の最中、マディーナ*に隊商が到着し、わずかな人数を除き、人々がそこへと立ち去ってしまったことがあった。このアーヤ*は、その出来事に関して下ったとされる（アル＝ブハーリー4899 参照）。一説にその時期、マディーナ*は貧しさと困窮（こんきゅう）の中にあった（アッ＝シャウカーニー5:303 参照）。

第 63 章
偽信者*たち章（アル＝ムナーフィクーン）[1]

سُورَةُ المُنَافِقُونَ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. （使徒*よ、）偽信者*たちは、あなたのもとにやって来た時、（こう）言った。「私たちは、あなたこそがまさに、アッラー*の使徒*であると証言します」――アッラー*は、本当にあなたこそがまさしく、かれの使徒*であることをご存知である――。アッラー*は、本当に偽信者*たちがまさしく嘘つきであることを、証言し給うのだ。

إِذَا جَآءَكَ ٱلۡمُنَٰفِقُونَ قَالُواْ نَشۡهَدُ إِنَّكَ لَرَسُولُ
ٱللَّهِۗ وَٱللَّهُ يَعۡلَمُ إِنَّكَ لَرَسُولُهُۥ وَٱللَّهُ يَشۡهَدُ إِنَّ
ٱلۡمُنَٰفِقِينَ لَكَٰذِبُونَ ١

2. 彼ら（偽信者*たち）は、自分たちの（嘘の）誓約を盾代わりとし[2]、（自分たちと人々を）アッラー*の道から阻んだ。本当にまさしく、彼らが行っていたことは、何と忌まわしいことか。

ٱتَّخَذُوٓاْ أَيۡمَٰنَهُمۡ جُنَّةٗ فَصَدُّواْ عَن سَبِيلِ
ٱللَّهِۚ إِنَّهُمۡ سَآءَ مَا كَانُواْ يَعۡمَلُونَ ٢

3. それというのも、彼らは（口先だけで）信仰し、それから（内心では）不信仰に陥り、その心が（不信仰ゆえに）塞がれてしまったからである。ゆえに、彼らは理解することがない。

ذَٰلِكَ بِأَنَّهُمۡ ءَامَنُواْ ثُمَّ كَفَرُواْ فَطُبِعَ عَلَىٰ قُلُوبِهِمۡ
فَهُمۡ لَا يَفۡقَهُونَ ٣

---

1 マディーナ*啓示。ムスリム*たちがある戦い（イブン・カスィール*によれば、これをヒジュラ暦*6 年のムスタラク族の戦いとするのが、伝記学者間の定説。8:127 参照）のために出征した際、偽信者*の長イブン・ウバイイ*が陰で、アーヤ*7-8 にあるような言葉を口にした。彼は後に、その言葉の真偽（しんぎ）を問いただされたが、アッラー*に誓ってそれを否定した（アーヤ*2 参照）。このスーラ*は、この出来事の後に下ったものとされる（アッ＝ティルミズィー3313 参照）。主に偽信者*の悪徳とイスラーム*への敵意が描かれるが、後半は信仰者たちに対する、来世のための出費の勧（すす）めによって締めくくられる。

2 この表現については、抗弁する女章 16 とその訳注を参照。

4. また彼ら（偽信者*たち）を見てみれば、その（結構な）風体はあなたの気に入るだろう。そして彼らが話せば、あなたはその（巧みな）言葉に耳を傾けるだろう。彼らはまるで、立てかけられた木材のよう[1]。（その臆病さと恐怖ゆえ、）全ての大声が、自分たちに向けられたものだと思い込んでいる[2]。彼らは敵であるから、警戒せよ。アッラー*が彼らを成敗して下さいますよう。彼らはどうして、（真理から）背かされるのか？

۞ وَإِذَا رَأَيْتَهُمْ تُعْجِبُكَ أَجْسَامُهُمْ وَإِن يَقُولُوا
تَسْمَعْ لِقَوْلِهِمْ كَأَنَّهُمْ خُشُبٌ مُّسَنَّدَةٌ
يَحْسَبُونَ كُلَّ صَيْحَةٍ عَلَيْهِمْ هُمُ الْعَدُوُّ
فَاحْذَرْهُمْ قَاتَلَهُمُ اللَّهُ أَنَّى يُؤْفَكُونَ ٤

5. また、彼ら（偽信者*たち）に、「（悔悟して）来なさい、アッラー*の使徒*があなた方のために（罪の）赦しを乞うてくれよう」と言われた時、彼らはその顔を背けた。そして（使徒*よ、）あなたは彼らが思い上がりつつ、（その招きを）拒むのを目にしたのだ。

وَإِذَا قِيلَ لَهُمْ تَعَالَوْا يَسْتَغْفِرْ لَكُمْ رَسُولُ اللَّهِ
لَوَّوْا رُءُوسَهُمْ وَرَأَيْتَهُمْ يَصُدُّونَ وَهُم
مُّسْتَكْبِرُونَ ٥

6. （使徒*よ、）あなたが彼らのために赦しを乞うたとしても、彼らのために赦しを乞わなかったとしても、彼らには同じこと。アッラー*は彼らのために、（その罪を）お赦しにはならない。本当にアッラー*は放逸な民を、お導きにはならないのだから。

سَوَاءٌ عَلَيْهِمْ أَسْتَغْفَرْتَ لَهُمْ أَمْ لَمْ
تَسْتَغْفِرْ لَهُمْ لَن يَغْفِرَ اللَّهُ لَهُمْ إِنَّ اللَّهَ
لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الْفَاسِقِينَ ٦

---

1 これは、見た目はよいが、理解力のないことの例え。壁に立てかけられた木材は、屋根や壁の補強に用いられる木材とは違い、無益（むえき）である（イブン・ジュザイ 2:449 参照）。

2 偽信者*たちは常に、預言者*が彼らのことを殺す命令を出すのではないか、と恐れていた。彼らは捜索（そうさく）命令、大声、啓示が下ったとの知らせを耳にすると、動揺したものだった（イブン・アティーヤ 5:312 参照）。悔悟章 64 も参照。

7. 彼ら（偽信者*たち）は、「アッラー*の使徒*のもとにいる者たちには、彼らが（ムハンマド*から）離散するまで（財産を）費やすのではない」と言う者たち[1]。アッラー*にこそ、諸天と大地の宝庫は属するというのに。しかし偽信者*たちは、（糧を司るのはアッラー*だけということを）理解しないのだ。

هُمُ ٱلَّذِينَ يَقُولُونَ لَا تُنفِقُوا۟ عَلَىٰ مَنْ عِندَ
رَسُولِ ٱللَّهِ حَتَّىٰ يَنفَضُّوا۟ ۗ وَلِلَّهِ خَزَآئِنُ
ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ وَلَٰكِنَّ ٱلْمُنَٰفِقِينَ لَا
يَفْقَهُونَ ﴿٧﴾

8. 彼らは言う。「もしも私たちがマディーナ*に帰ったならば、最も偉力ある者が、最も卑しい者[2]を（そこから）追放するであろう」。本当にアッラー*にこそ、そしてその使徒*と信仰者たちにこそ、偉力は属するというのに。しかし偽信者*たちは、（そのことが）分からないのだ。

يَقُولُونَ لَئِن رَّجَعْنَآ إِلَى ٱلْمَدِينَةِ
لَيُخْرِجَنَّ ٱلْأَعَزُّ مِنْهَا ٱلْأَذَلَّ ۚ وَلِلَّهِ ٱلْعِزَّةُ
وَلِرَسُولِهِۦ وَلِلْمُؤْمِنِينَ وَلَٰكِنَّ
ٱلْمُنَٰفِقِينَ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٨﴾

9. 信仰する者たちよ、あなた方の財産と子供たちが、あなた方をアッラー*の唱念から背けさせてしまうようではならない[3]。誰であろうとそうする者、それらの者たちこそは損失者なのである。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ لَا تُلْهِكُمْ أَمْوَٰلُكُمْ
وَلَآ أَوْلَٰدُكُمْ عَن ذِكْرِ ٱللَّهِ ۚ وَمَن
يَفْعَلْ ذَٰلِكَ فَأُو۟لَٰٓئِكَ هُمُ ٱلْخَٰسِرُونَ ﴿٩﴾

10. そして（信仰者たちよ）、われら*があなた方に授けたものの内から、（善いことに）費やす[4]のだ。あなた方の内の誰かに死が到来し、「我が主*よ、私（の死）を近い期限まで、延期して下さい。それによって

وَأَنفِقُوا۟ مِن مَّا رَزَقْنَٰكُم مِّن قَبْلِ أَن يَأْتِىَ
أَحَدَكُمُ ٱلْمَوْتُ فَيَقُولَ رَبِّ لَوْلَآ أَخَّرْتَنِىٓ
إِلَىٰٓ أَجَلٍ قَرِيبٍ فَأَصَّدَّقَ وَأَكُن مِّنَ
ٱلصَّٰلِحِينَ ﴿١٠﴾

1 この言葉、及びアーヤ*8 の偽信者*の言葉の背景にあるものについては、スーラ*冒頭の訳注を参照。

2 この偽信者たちの言葉の中の「最も偉力ある者」とは、スーラ*冒頭の訳注にもあるように、イブン・ウバイイ*、及びその仲間の偽信者*たち。「最も卑しい者」とは、預言者*ムハンマド*と、彼の仲間たち（アッ＝サァディー865 頁参照）。

3 戦利品*章 28 の訳注も参照。

4 「われら*が授けたものの内から…費やす」については、雌牛章 3 の訳注を参照。

私が施しをし、正しい者*たちの仲間となれますように」などと言うようになる前に。[1]

11. アッラー*は誰のことも、その（死という）期限が到来したら、延期して下さらない。そしてアッラー*は、あなた方が行うことに通暁され（、その行いに報われ）るお方であられる。

وَلَن يُؤَخِّرَ ٱللَّهُ نَفۡسًا إِذَا جَآءَ أَجَلُهَاۚ وَٱللَّهُ
خَبِيرُۢ بِمَا تَعۡمَلُونَ ١١

---

1 いざ復活の日*（あるいは死）が到来すると、彼らは現世での猶予を求めたり、自分たちを現世に返してくれることを頼んだりするが、それは叶わない。家畜章 27-28、高壁章 53、イブラーヒーム*章 44、信仰者たち章 99-100、アッ＝サジダ*章 12、創成者*章 37、赦し深いお方章 11-12、相談章 44 も参照。

第64章
騙し合い章（アッ＝タガーブン）[1]

سُورَةُ التَّغَابُنِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 諸天にあるものと大地にあるものは（全て）、アッラー*を称え*る。かれにこそ（全ての）王権はあり、かれにこそ称賛*はある。そしてかれは、全てのことがお出来になるお方。

يُسَبِّحُ لِلَّهِ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَمَا فِي ٱلۡأَرۡضِۖ لَهُ
ٱلۡمُلۡكُ وَلَهُ ٱلۡحَمۡدُۖ وَهُوَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٌ ١

2. かれが、あなた方を創造されたお方であられる。それで、あなた方の内には不信仰者*もいれば、あなた方の内には信仰者もいる。アッラー*は、あなた方が行うことをご覧になるお方。

هُوَ ٱلَّذِي خَلَقَكُمۡ فَمِنكُمۡ كَافِرٞ وَمِنكُم مُّؤۡمِنٞۚ
وَٱللَّهُ بِمَا تَعۡمَلُونَ بَصِيرٌ ٢

3. かれは、諸天と大地を真理によってお創りになり[2]、あなた方を形作られ、その形を最善のものとされた。そしてかれにこそ、（復活の日*の）行き先はある。

خَلَقَ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضَ بِٱلۡحَقِّ وَصَوَّرَكُمۡ
فَأَحۡسَنَ صُوَرَكُمۡۖ وَإِلَيۡهِ ٱلۡمَصِيرُ ٣

4. かれは諸天と大地にあるもの（全て）をご存知であり、（人々よ、）あなた方が秘密にすることも、露わにすることもご存知になる。アッラー*は、胸中にあるものをご存知のお方。

يَعۡلَمُ مَا فِي ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ وَيَعۡلَمُ مَا
تُسِرُّونَ وَمَا تُعۡلِنُونَۚ وَٱللَّهُ عَلِيمُۢ بِذَاتِ
ٱلصُّدُورِ ٤

---

1 マディーナ*啓示（マッカ*啓示説もあり）。全ての所有者、創造主であられるアッラー*の賛美に始まり、かれに対して人間が信仰者と不信仰者*に分かれたこと、そしてアッラー*とその使徒*、復活を否定した過去の不信仰者*たちの結末が、警告と共に描かれる。また、アッラー*とその使徒*、クルアーン*の信仰へと招くと共に、復活の日*の恐怖、及び現世愛に溺（おぼ）れることへの警告がなされ、最後は信仰者たちへの敬虔（けいけん）*さ、使徒*への服従、アッラー*の道における出費の勧（すす）めによって締めくくられる。スーラ*名は、アーヤ*9 で言及されている復活の日*の別名「騙し合いの日」に由来。

2 イムラーン家章 191「我らが主*よ…ありません」の訳注も参照。

5. （シルク*の徒よ、）一体あなた方のもとに、（あなた方）以前に不信仰に陥り、自分たちの事[1]（ゆえ）の罰を（現世で）味わった者たちの消息は届かなかったのか？ そして彼らにこそは、（来世において）痛ましい懲罰があるのだ。

أَلَمْ يَأْتِكُمْ نَبَؤُا۟ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ مِن قَبْلُ فَذَاقُوا۟
وَبَالَ أَمْرِهِمْ وَلَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ٥

6. それは、彼らのもとに彼らの使徒*たちが明証[2]を携えて到来した後、「一体、人間が私たちのことを導くだと？[3]」と言って不信仰に陥り、（真理に）背を向けたからである。アッラー*は、（彼らの信仰や崇拝*など）無要なのだが。アッラー*は満ち足りた*お方、称賛されるべき*お方。

ذَٰلِكَ بِأَنَّهُۥ كَانَت تَّأْتِيهِمْ رُسُلُهُم بِٱلْبَيِّنَٰتِ
فَقَالُوٓا۟ أَبَشَرٌ يَهْدُونَنَا فَكَفَرُوا۟ وَتَوَلَّوا۟ ۚ وَّٱسْتَغْنَى
ٱللَّهُ ۚ وَٱللَّهُ غَنِىٌّ حَمِيدٌ ٦

7. 不信仰に陥った者*たちは、（死後）自分たちが蘇らされないと言い張った。（使徒*よ、）言ってやれ。「いや、我が主*にかけて（誓う）。あなた方は必ずや蘇らされ、それから自分たちが（現世で）行ったことを、必ずや告げ聞かせられるのだ。それはアッラー*にとって、容易なこと」。

زَعَمَ ٱلَّذِينَ كَفَرُوٓا۟ أَن لَّن يُبْعَثُوا۟ ۚ قُلْ بَلَىٰ وَرَبِّى
لَتُبْعَثُنَّ ثُمَّ لَتُنَبَّؤُنَّ بِمَا عَمِلْتُمْ ۚ وَذَٰلِكَ عَلَى ٱللَّهِ
يَسِيرٌ ٧

8. ならば（シルク*の徒よ）、アッラー*とその使徒*、われら*が（彼に）下した光[4]を信じよ。アッラー*は、あなた方が行うことに通暁されているお方。

فَـَٔامِنُوا۟ بِٱللَّهِ وَرَسُولِهِۦ وَٱلنُّورِ ٱلَّذِىٓ أَنزَلْنَا ۚ وَٱللَّهُ
بِمَا تَعْمَلُونَ خَبِيرٌ ٨

---

1 彼らの不信仰と、悪行という「事」（ムヤッサル 556 頁参照）。

2 アッラーの唯一性*と、使徒*の正しさを証明する「明証」のこと（アル＝ジャザーイリー 5:363 参照）。

3 彼らは、使徒*が自分たちと同様の人間であることに対し、高慢になった。そしてその理由ゆえに、真理に従おうとしなかった（アッ＝タバリー10:8056 参照）。

4 この「光」は、クルアーン*のこと（ムヤッサル 556 頁参照）。

9. かれが、あなた方を集合の日にお集めになる（復活の）日*（を、思い起こせ）――それは、騙し合いの日[1]――。誰であろうとアッラー*を信じ、正しい行い*を行う者には、かれ（アッラー*）がその悪行を帳消しにして下さり、その下から河川が流れる楽園に入れて下さろう。彼らはそこに、ずっと永遠に留まる。それは偉大な勝利なのだ。

يَوْمَ يَجْمَعُكُمْ لِيَوْمِ ٱلْجَمْعِ ذَٰلِكَ يَوْمُ ٱلتَّغَابُنِ ۗ وَمَن
يُؤْمِنۢ بِٱللَّهِ وَيَعْمَلْ صَـٰلِحًا يُكَفِّرْ عَنْهُ سَيِّـَٔاتِهِۦ
وَيُدْخِلْهُ جَنَّـٰتٍ تَجْرِى مِن تَحْتِهَا ٱلْأَنْهَـٰرُ
خَـٰلِدِينَ فِيهَآ أَبَدًا ۚ ذَٰلِكَ ٱلْفَوْزُ ٱلْعَظِيمُ ٩

10. また、不信仰で、われら*の（唯一性*を示す）御徴を嘘呼ばわりした者たち、それらの者たちは地獄の徒。彼らはそこに永遠に留まる。その行き先は、何と醜悪なことだろうか。

وَٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ وَكَذَّبُوا۟ بِـَٔايَـٰتِنَآ أُو۟لَـٰٓئِكَ
أَصْحَـٰبُ ٱلنَّارِ خَـٰلِدِينَ فِيهَا ۖ وَبِئْسَ
ٱلْمَصِيرُ ١٠

11. いかなる災難も、アッラー*のお許しなしには降りかかることがない[2]。そしてアッラー*を信じる者は誰でも、かれ（アッラー*）がその心を導いて下さろう[3]。アッラー*は、全てのことをご存知のお方。

مَآ أَصَابَ مِن مُّصِيبَةٍ إِلَّا بِإِذْنِ ٱللَّهِ ۗ وَمَن
يُؤْمِنۢ بِٱللَّهِ يَهْدِ قَلْبَهُۥ ۚ وَٱللَّهُ بِكُلِّ
شَىْءٍ عَلِيمٌ ١١

12. （人々よ、）アッラー*に従い、使徒*に従え。それで、もしあなた方が（アッラー*とその使徒*への服従に）背いたとしても、われら*の使徒*の義務は、（真理を）解明する（啓示の）伝達のみなのである。

وَأَطِيعُوا۟ ٱللَّهَ وَأَطِيعُوا۟ ٱلرَّسُولَ ۚ فَإِن
تَوَلَّيْتُمْ فَإِنَّمَا عَلَىٰ رَسُولِنَا ٱلْبَلَـٰغُ ٱلْمُبِينُ ١٢

13. アッラー*は、かれの外に（真に）崇拝*されるべきものがないお方。信仰者たちには、アッラー*にこそ全てを委ね*させよ。

ٱللَّهُ لَآ إِلَـٰهَ إِلَّا هُوَ ۚ وَعَلَى ٱللَّهِ فَلْيَتَوَكَّلِ
ٱلْمُؤْمِنُونَ ١٣

1 「騙し合いの日」とは、復活の日*の名前の一つ。「騙し合い」の語源となっている「ガブン」の意味は、取引で相手に損をさせること。つまり復活の日*に、天国の徒が天国を手に入れ、地獄の徒が地獄を手に入れることが、あたかも天国の徒が地獄の徒に損な取引をさせたかのように譬（たと）えられている（雌牛章 16 も参照）。また、その日、不信仰者*は信仰を放棄（ほうき）したことで、信仰者はその至らなさと時間の無駄づかいによって、その損失が明白になる（アル＝クルトゥビー18:136-137 参照）。

2 鉄章 22 も参照。

3 「アッラー*のご命令への服従と、かれの定めたことに対する満足、そしてより善い言動と状態」へと導いて下さろう、ということ（ムヤッサル 557 頁参照）。

14. 信仰する者たちよ、実にあなた方の妻たちと子供たちの内には、あなた方への敵[1]がいる。ゆえに、彼らを警戒せよ。そして、もしあなた方が（彼らの悪行を）大目に見、見逃し、赦してやるならば、本当にアッラー*は（あなた方に対して）赦し深いお方、慈愛深い*お方であられる。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِنَّ مِنْ
أَزْوَٰجِكُمْ وَأَوْلَٰدِكُمْ عَدُوًّا لَّكُمْ
فَٱحْذَرُوهُمْ ۚ وَإِن تَعْفُواْ وَتَصْفَحُواْ
وَتَغْفِرُواْ فَإِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ١٤

15. あなた方の財産と子供たちは、試練に外ならない[2]。そしてアッラー*の御許にこそ、（その試練に打ち勝った者への）偉大な褒美がある。

إِنَّمَآ أَمْوَٰلُكُمْ وَأَوْلَٰدُكُمْ فِتْنَةٌ ۚ وَٱللَّهُ
عِندَهُۥٓ أَجْرٌ عَظِيمٌ ١٥

16. ならば（信仰者たちよ）、出来る限りアッラー*を畏れ*、（使徒*の言うことをよく）聞き、（彼の命令に）従い、（アッラー*から授かったものから）費やせ[3]、（そうすれば）あなた方自身のために善いのである。誰であろうと、自分自身の貪欲さから守られた者、それらの者たちこそは成功者なのだ。

فَٱتَّقُواْ ٱللَّهَ مَا ٱسْتَطَعْتُمْ وَٱسْمَعُواْ وَأَطِيعُواْ
وَأَنفِقُواْ خَيْرًا لِّأَنفُسِكُمْ ۗ وَمَن يُوقَ شُحَّ
نَفْسِهِۦ فَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلْمُفْلِحُونَ ١٦

17. もし、あなた方がアッラー*によき貸付[4]をするのであれば、かれはそれをあなた方のために倍増して下さり、あなた方のために（罪を）お赦し下さる。アッラー*はよく労わられる*お方、寛大な*お方。

إِن تُقْرِضُواْ ٱللَّهَ قَرْضًا حَسَنًا يُضَٰعِفْهُ
لَكُمْ وَيَغْفِرْ لَكُمْ ۚ وَٱللَّهُ شَكُورٌ حَلِيمٌ ١٧

18. （かれは）不可視の世界*と現象界[5]をご存知のお方、偉力ならびない*お方、英知あふれる*お方であられる。

عَٰلِمُ ٱلْغَيْبِ وَٱلشَّهَٰدَةِ ٱلْعَزِيزُ
ٱلْحَكِيمُ ١٨

---

1 アッラー*の道から阻（はば）み、かれへの服従を怠（おこた）らせようとするという意味での「敵」ということ（ムヤッサル 557 参照）。

2 戦利品*章 28 の訳注も参照。

3 雌牛章 3「われら*が授けたものから…費やす」の訳注も参照。

4 アッラー*に対する「よき貸付」については、雌牛章 245 の訳注を参照。

5 「現象界」については、家畜章 73 の訳注を参照。

第65章
離婚章（アッ＝タラーク）[1]

سُورَةُ الطَّلَاقِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 預言者*よ[2]、あなた方（あなたと信仰者たち）が女性（妻）たちを離婚し（ようと思っ）たなら、イッダ*に離婚し[3]、イッダ*（の期間）を数え上げよ[4]。そして、あなた方の主*アッラー*を畏れる*のだ。彼女らが紛れもない醜行[5]を犯さない限り、（イッダ*が終わるまでは、）彼女らを彼女らの（住んでいる）家から追い出してはならないし、彼女らも（そこから）出て行ってはならない。それがアッラー*の決まりであり、アッラー*の決まりを侵す者は誰でも、自分自身に対して確かに不正*を働いているのである。（離婚する者よ、）あなたはアッラー*が（離婚の）その後に、何らかの事を引き起こされるかもしれないということ[6]を、知らないのだから。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّبِيُّ إِذَا طَلَّقۡتُمُ ٱلنِّسَآءَ فَطَلِّقُوهُنَّ
لِعِدَّتِهِنَّ وَأَحۡصُواْ ٱلۡعِدَّةَۖ وَٱتَّقُواْ ٱللَّهَ رَبَّكُمۡۖ لَا
تُخۡرِجُوهُنَّ مِنۢ بُيُوتِهِنَّ وَلَا يَخۡرُجۡنَ إِلَّآ أَن
يَأۡتِينَ بِفَٰحِشَةٖ مُّبَيِّنَةٖۚ وَتِلۡكَ حُدُودُ ٱللَّهِۚ
وَمَن يَتَعَدَّ حُدُودَ ٱللَّهِ فَقَدۡ ظَلَمَ نَفۡسَهُۥۚ لَا تَدۡرِي
لَعَلَّ ٱللَّهَ يُحۡدِثُ بَعۡدَ ذَٰلِكَ أَمۡرٗا ١

---

1 マディーナ*啓示。スーラ*名は、冒頭から始まりスーラ*の大半を占める、離婚についての法規定と作法の説明に由来。婦人章を「大きい婦人章」、本章を「小さい婦人章」と呼ぶこともある。離婚という重大なテーマゆえ、随所（ずいしょ）において、アッラー*を畏（おそ）れる*ことが勧（すす）められている。スーラ*の最後は、アッラー*とその使徒*たちに逆らった過去の民の結末や、アッラー*の御力と唯一性*の確証によって幕を閉じる。

2 この預言者*ムハンマド*への呼びかけについては、雌牛章 120 の訳注を参照。

3 つまり彼女が月経中ではなく、かつ最近の月経後にまだ性交していない状態において、あるいはそうでなければ、彼女の妊娠が明らかになっている状態で離婚せよ、ということ（ムヤッサル 558 頁参照）。

4 イッダ*の期間は、女性の状態によって異なる。詳しくは雌牛章 228「三度の月経」の訳注を参照。

5 「紛れもない醜行」とは、姦通（かんつう）を始め、夫とその家族に対する敵対や、言動による害などのこと（イブン・カスィール 8:143-144 参照）。蜜蜂章 90「醜行」の訳注も参照。

6 つまり気が変わって、彼女と復縁しようと思うようになること（ムヤッサル 558 頁参照）。

2. 彼女らがその期限（イッダ*の終わり）に差しかかったならば、彼女らを適切な形で留め置くか、あるいは適切な形で別れよ[1]。また（復縁するにせよ、別れるにせよ）、あなた方の内の公正な男性二人に（それを）証言させ、（証人たちよ、）あなた方はアッラー*に対ししっかり証言せよ。それは、アッラー*と最後の日*を信じる者が訓戒を受けるところのもの。誰であろうとアッラー*を畏れる*者に、かれ（アッラー*）は（あらゆる困難からの）出口をお授けになる。

فَإِذَا بَلَغۡنَ أَجَلَهُنَّ فَأَمۡسِكُوهُنَّ بِمَعۡرُوفٍ أَوۡ فَارِقُوهُنَّ بِمَعۡرُوفٖ وَأَشۡهِدُواْ ذَوَيۡ عَدۡلٖ مِّنكُمۡ وَأَقِيمُواْ ٱلشَّهَٰدَةَ لِلَّهِۚ ذَٰلِكُمۡ يُوعَظُ بِهِۦ مَن كَانَ يُؤۡمِنُ بِٱللَّهِ وَٱلۡيَوۡمِ ٱلۡأٓخِرِۚ وَمَن يَتَّقِ ٱللَّهَ يَجۡعَل لَّهُۥ مَخۡرَجٗا ٢

3. また、かれは、彼が思いもよらない所から、糧をお授けになる。アッラー*に全てを委ねる*者にとっては、かれ（アッラー*）だけで十分。本当にアッラー*は、物事を（望み通りに）成就させられるお方。アッラー*は確かに、全ての物事に定めを与えられたのだ。

وَيَرۡزُقۡهُ مِنۡ حَيۡثُ لَا يَحۡتَسِبُۚ وَمَن يَتَوَكَّلۡ عَلَى ٱللَّهِ فَهُوَ حَسۡبُهُۥٓۚ إِنَّ ٱللَّهَ بَٰلِغُ أَمۡرِهِۦۚ قَدۡ جَعَلَ ٱللَّهُ لِكُلِّ شَيۡءٖ قَدۡرٗا ٣

4. あなた方の女性（妻）たちの内で閉経した者たちは、あなた方が（彼女らについての法規定に）疑惑を抱くのであれば[2]、彼女らのイッダ*は三ヶ月である。そして、まだ初潮を迎えてはいない者たちも（同様）。また、身重な者たちの（イッダ*の）期間は、彼女らがその荷を降ろすまで。誰であろうとアッラー*を畏れる*者には、かれ（アッラー*）が（現世と来世において、）その物事を容易くされるのである。

وَٱلَّٰٓـِٔي يَئِسۡنَ مِنَ ٱلۡمَحِيضِ مِن نِّسَآئِكُمۡ إِنِ ٱرۡتَبۡتُمۡ فَعِدَّتُهُنَّ ثَلَٰثَةُ أَشۡهُرٖ وَٱلَّٰٓـِٔي لَمۡ يَحِضۡنَۚ وَأُوْلَٰتُ ٱلۡأَحۡمَالِ أَجَلُهُنَّ أَن يَضَعۡنَ حَمۡلَهُنَّۚ وَمَن يَتَّقِ ٱللَّهَ يَجۡعَل لَّهُۥ مِنۡ أَمۡرِهِۦ يُسۡرٗا ٤

---

1 雌牛章 229 の同様の表現の訳注も参照。

2 一説にこのアーヤ*は、月経のない者や、妊婦のイッダ*に関する教友*の質問を受けて下った。また「（月経の到来に関して）疑惑を抱く場合には」という解釈もある（イブン・カスィール 8:149 参照）。

5. （人々よ、）それが、かれがあなた方に下されたアッラー*のご命令。そして、誰であろうとアッラー*を畏れる*者に、かれ（アッラー*）はその悪行を帳消しにして下さり、彼のために（来世での）褒美を偉大なものとして下さるのだ。

ذَٰلِكَ أَمۡرُ ٱللَّهِ أَنزَلَهُۥٓ إِلَيۡكُمۡۚ وَمَن يَتَّقِ ٱللَّهَ
يُكَفِّرۡ عَنۡهُ سَيِّـَٔاتِهِۦ وَيُعۡظِمۡ لَهُۥٓ أَجۡرًا ٥

6. （イッダ*の期間中、）彼女（離婚宣告をした自分たちの妻）らを、あなた方が住んでいる場所に、あなた方の能力に応じて、住まわせよ。また、（住まいから出て行かせる魂胆で）彼女らに嫌がらせして、彼女らを害してはならない。そして、もし彼女ら（離婚宣告を受けた妻たち）が身重だったら、彼女らがその荷を降ろすまで[1]、彼女らに出費せよ。また（離婚後）、彼女らがあなた方のために（報酬を条件に）授乳するならば、彼女らにはその報酬を与え、あなた方の間で善事を勧め合う[2]がよい。そして、もし互いに困難を見出したならば[3]、別の女性が彼（乳児）に授乳することになる。

أَسۡكِنُوهُنَّ مِنۡ حَيۡثُ سَكَنتُم مِّن وُجۡدِكُمۡ وَلَا
تُضَآرُّوهُنَّ لِتُضَيِّقُواْ عَلَيۡهِنَّۚ وَإِن كُنَّ أُوْلَٰتِ حَمۡلٖ
فَأَنفِقُواْ عَلَيۡهِنَّ حَتَّىٰ يَضَعۡنَ حَمۡلَهُنَّۚ فَإِنۡ أَرۡضَعۡنَ
لَكُمۡ فَـَٔاتُوهُنَّ أُجُورَهُنَّ وَأۡتَمِرُواْ بَيۡنَكُم
بِمَعۡرُوفٖۖ وَإِن تَعَاسَرۡتُمۡ فَسَتُرۡضِعُ لَهُۥٓ أُخۡرَىٰ ٦

7. 余裕がある者には、その余裕あるものの内から（、離婚宣告した自分の妻と、その子供に）出費させよ。また、糧に乏しい者には、アッラー*が彼にお授けになったものの内から、出費させよ。アッラー*は誰にも、かれがお授けになった以上のものを負わせられないのだから。アッラー*はやがて、逆境の後に順境として下さろう。

لِيُنفِقۡ ذُو سَعَةٖ مِّن سَعَتِهِۦۖ وَمَن قُدِرَ عَلَيۡهِ رِزۡقُهُۥ
فَلۡيُنفِقۡ مِمَّآ ءَاتَىٰهُ ٱللَّهُۚ لَا يُكَلِّفُ ٱللَّهُ نَفۡسًا إِلَّا
مَآ ءَاتَىٰهَاۚ سَيَجۡعَلُ ٱللَّهُ بَعۡدَ عُسۡرٖ يُسۡرٗا ٧

---

1 つまりアーヤ*4にもあるように、イッダ*を終えるまで、ということ（ムヤッサル559頁参照）。

2 「善事」については、イムラーン家章104の訳注を参照。夫婦は、離婚を宣告された妻がイッダ*にある時も、実際に離婚する時も、自分たち自身や子供たちの現世と来世における福利において、善事を勧め合わなければならない（アッ＝サァディー871頁参照）。

3 離婚した実母が、子供を授乳することで合意に至らなかったら、ということ（ムヤッサル559頁参照）。雌牛章233とその訳注も参照。

8. 一体どれだけ多くの町（の民）が、その主*のご命令と使徒*たちに反抗し（て不信仰に陥っ）たことか。それでわれら*は、それを（現世の行いについての）厳しい清算で清算し、想像を絶する懲罰で罰したのだ。

وَكَأَيِّن مِّن قَرۡيَةٍ عَتَتۡ عَنۡ أَمۡرِ رَبِّهَا وَرُسُلِهِۦ
فَحَاسَبۡنَٰهَا حِسَابٗا شَدِيدٗا وَعَذَّبۡنَٰهَا عَذَابٗا نُّكۡرٗا ٨

9. そして、それ（不信仰な民*の町）はその事の罰を味わった。その事（不信仰）の結末は、損失であった。

فَذَاقَتۡ وَبَالَ أَمۡرِهَا وَكَانَ عَٰقِبَةُ أَمۡرِهَا خُسۡرًا ٩

10. アッラー*は彼ら（不信仰な民*）に、厳しい懲罰をご用意された。ならば、信仰に入った澄んだ理性の持ち主たちよ、アッラー*を畏れ*よ。（信仰者たちよ、）アッラー*は確かに、あなた方に対して教訓を下されたのだ。

أَعَدَّ ٱللَّهُ لَهُمۡ عَذَابٗا شَدِيدٗاۖ فَٱتَّقُواْ ٱللَّهَ يَٰٓأُوْلِي
ٱلۡأَلۡبَٰبِ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْۚ قَدۡ أَنزَلَ ٱللَّهُ إِلَيۡكُمۡ ذِكۡرٗا ١٠

11. つまり信仰し、正しい行い*を行う者たちを（不信仰の）闇から（信仰の）光[1]へと（導き）出すべく、あなた方にアッラー*の明らかなる御徴（アーヤ*）を読誦する使徒*（という教訓）を。誰であろうと、アッラー*を信じ、正しい行い*を行う者を、かれ（アッラー*）はその下から河川が流れる楽園にお入れになる。彼らはそこに、ずっと永遠に留まるのだ。アッラー*は確かに、（天国における）彼への糧を善きものとされた。

رَّسُولٗا يَتۡلُواْ عَلَيۡكُمۡ ءَايَٰتِ ٱللَّهِ مُبَيِّنَٰتٖ لِّيُخۡرِجَ
ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ مِنَ ٱلظُّلُمَٰتِ
إِلَى ٱلنُّورِۚ وَمَن يُؤۡمِنۢ بِٱللَّهِ وَيَعۡمَلۡ صَٰلِحٗا يُدۡخِلۡهُ
جَنَّٰتٖ تَجۡرِي مِن تَحۡتِهَا ٱلۡأَنۡهَٰرُ خَٰلِدِينَ فِيهَآ أَبَدٗاۖ
قَدۡ أَحۡسَنَ ٱللَّهُ لَهُۥ رِزۡقًا ١١

12. アッラー*は七層の天と、大地にもそれと同様のものを、お創りになったお方。かれのご命令[2]は、その間から降りて来る。（それは人々よ、）アッラー*こそが全てのことがお出来になるお方であり、アッラー*こそが全ての物事を、知識によって確かに包囲されているということを、あなた方が知るためなのだ。

ٱللَّهُ ٱلَّذِي خَلَقَ سَبۡعَ سَمَٰوَٰتٖ وَمِنَ ٱلۡأَرۡضِ
مِثۡلَهُنَّۖ يَتَنَزَّلُ ٱلۡأَمۡرُ بَيۡنَهُنَّ لِتَعۡلَمُوٓاْ أَنَّ ٱللَّهَ
عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ قَدِيرٞ وَأَنَّ ٱللَّهَ قَدۡ أَحَاطَ
بِكُلِّ شَيۡءٍ عِلۡمَۢا ١٢

---

1 この「闇」と「光」については、雌牛章 257 の訳注を参照。

2 この「ご命令」とは、使徒たちへ啓示するイスラーム*の教え、宗教的な決まり、あるいは創造物を司(つかさど)る自然界の定めや運命などのこと(アッ＝サァディー872 頁参照)。

第66章
禁止章（アッ＝タハリーム）[1]

سُورَةُ التَّحۡرِيمِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 預言者*よ[2]、あなたはなぜ自分の妻たちの満足を求めて、アッラー*があなたに合法とされたものを（自らに）禁じるのか？[3] アッラー*は赦し深いお方、慈愛深い*お方。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّبِيُّ لِمَ تُحَرِّمُ مَآ أَحَلَّ ٱللَّهُ لَكَۖ تَبۡتَغِي
مَرۡضَاتَ أَزۡوَٰجِكَۚ وَٱللَّهُ غَفُورٞ رَّحِيمٞ ١

2. （信仰者たちよ、）アッラー*はあなた方に対し、あなた方の宣誓を解消すること[4]を、確かに義務づけられた。アッラー*はあなた方の守護者であり、かれは全知者、英知あふれる*お方であられる。

قَدۡ فَرَضَ ٱللَّهُ لَكُمۡ تَحِلَّةَ أَيۡمَٰنِكُمۡۚ وَٱللَّهُ مَوۡلَىٰكُمۡۖ وَهُوَ
ٱلۡعَلِيمُ ٱلۡحَكِيمُ ٢

3. 預言者*が彼の妻たちのある者[5]に、ある話を秘密裏に伝えた時のこと。それで彼女がそれを（アーイシャ*に）話し、アッラー*がそ

وَإِذۡ أَسَرَّ ٱلنَّبِيُّ إِلَىٰ بَعۡضِ أَزۡوَٰجِهِۦ حَدِيثٗا فَلَمَّا
نَبَّأَتۡ بِهِۦ وَأَظۡهَرَهُ ٱللَّهُ عَلَيۡهِ عَرَّفَ بَعۡضَهُۥ
وَأَعۡرَضَ عَنۢ بَعۡضٖۖ فَلَمَّا نَبَّأَهَا بِهِۦ قَالَتۡ مَنۡ أَنۢبَأَكَ

---

1 マディーナ*啓示。スーラ*名の由来ともなっているように、預言者*が合法なものを自らに「禁じた」ことへのアッラー*の注意から始まり、次いでその原因となった彼の妻たちへの注意と警告（けいこく）へと移行する。警告は更に信仰者、不信仰者*、偽（にせ）信者*へも向けられ、スーラ*後半では信仰者と不信仰者*の夫婦の例が挙げられ、行いの悪い者には敬虔（けいけん）*な配偶者との縁など役には立たないことが明示される。

2 この預言者*ムハンマド*への語りかけについては、雌牛章120の訳注を参照。

3 預言者*が何を禁じたのかについては、異なる複数の伝承が残っている（アル＝カースィミー16:5852-5854 参照）。アッ＝タバリー*は、こう言う。「…それは彼の奴隷*女性や、何らかの飲み物、あるいはそれ以外のものだった可能性もある。とにかく彼は、そもそも自らにとって合法なものを禁じたのであり、アッラー*はそのことで彼をお咎（とが）めになったのである…」（10:8100 参照）尚、預言者*・使徒*の無謬（むびゅう）性については、雌牛章36の訳注を参照。

4 宣誓の解消における罪滅ぼしについては、食卓章89とその訳注を参照（アッ＝サァディー872頁参照）。

5 多くの解釈学者によれば、「彼の妻たちのある者」とはハフサ・ビント・ウマルのこと。預言者*は彼女にある内緒（ないしょ）話をし、それを誰にも伝えないように言った（前掲書、同頁参照）。

れ[1]を彼（預言者*）に明かされた時、彼（預言者*）は（ハフサに、彼女が洩らした秘密の）一部を知らせ、（別の）一部は（言及せずに）放っておいた。そして彼が彼女（ハフサ）にそれを知らせた時、彼女は言った。「誰があなたに、これを知らせたのですか？」彼（預言者*）は言った。「全知者で通暁されているお方（アッラー*）が、私に知らせて下さったのだ」。

هَٰذَاۖ قَالَ نَبَّأَنِيَ ٱلۡعَلِيمُ ٱلۡخَبِيرُ ٣

4. （ハフサとアーイシャ*[2]よ、）あなた方二人がアッラー*に悔悟するならば、（その悔悟は受け入れられよう、）あなた方二人の心は確かに、（真理から）傾いた[3]のだから。そして、もしそこ[4]において助け合うにしても、（預言者*は援助されよう、というのも）実にアッラー*こそが彼の庇護者*であり、ジブリール*と、信仰者の正しい者*たち、そして天使*たちが、（彼に対しての）その更なる援助者なのだから。

إِن تَتُوبَآ إِلَى ٱللَّهِ فَقَدۡ صَغَتۡ قُلُوبُكُمَاۖ وَإِن
تَظَٰهَرَا عَلَيۡهِ فَإِنَّ ٱللَّهَ هُوَ مَوۡلَىٰهُ وَجِبۡرِيلُ
وَصَٰلِحُ ٱلۡمُؤۡمِنِينَۖ وَٱلۡمَلَٰٓئِكَةُ بَعۡدَ ذَٰلِكَ
ظَهِيرٌ ٤

5. （預言者*の妻たちよ、）彼の主*は——もし彼があなた方を離婚したら——、彼にあなた方よりも善い妻たちを、代わりにあてがって下さろう。服従する女（ムスリマ*）たち、信仰する女たち、従順な女たち、悔悟する女たち、崇拝*行為に専念する女たち、

عَسَىٰ رَبُّهُۥٓ إِن طَلَّقَكُنَّ أَن يُبۡدِلَهُۥٓ أَزۡوَٰجًا خَيۡرٗا
مِّنكُنَّ مُسۡلِمَٰتٖ مُّؤۡمِنَٰتٖ قَٰنِتَٰتٖ تَٰٓئِبَٰتٍ عَٰبِدَٰتٖ
سَٰٓئِحَٰتٖ ثَيِّبَٰتٖ وَأَبۡكَارٗا ٥

---

1 「それ」とは、ハフサが秘密を漏（も）らしたこと（ムヤッサル 560 頁参照）。

2 彼女ら二人は、預言者*が合法なものを自らに禁じた原因であった（アッ＝サアディー872 頁参照）。

3 つまり、預言者*の嫌がることを志向したことで「（真理から）傾いた」こと。あるいは「（悔悟に）傾いた」という解釈もある（アル＝クルトゥビー18:188 参照）。

4 つまり、預言者*が嫌がること（ムヤッサル 560 頁参照）。

斎戒*する[1]女たち、既婚の女たち、処女たち（である妻たちを）。

6. 信仰する者たちよ、あなた方自身と、あなた方の家族を（地獄の）業火から守るのだ。その燃料は、人々と石[2]。その上には、荒々しく厳しい天使*たち[3]がいる。彼らはアッラー*が彼らに命じられたことで、かれに逆らうことがなく、命じられることをするのである。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ قُوٓاْ أَنفُسَكُمۡ وَأَهۡلِيكُمۡ
نَارٗا وَقُودُهَا ٱلنَّاسُ وَٱلۡحِجَارَةُ عَلَيۡهَا
مَلَٰٓئِكَةٌ غِلَاظٞ شِدَادٞ لَّا يَعۡصُونَ ٱللَّهَ
مَآ أَمَرَهُمۡ وَيَفۡعَلُونَ مَا يُؤۡمَرُونَ ٦

7. （彼らが地獄に入れられる時、こう言われる。）「不信仰だった者*たちよ、この日、言い訳をするのではない。あなた方が報われるのは、自分たちが（現世で）行っていたこと（の応報）に外ならないのだ」。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ لَا تَعۡتَذِرُواْ ٱلۡيَوۡمَۖ إِنَّمَا
تُجۡزَوۡنَ مَا كُنتُمۡ تَعۡمَلُونَ ٧

8. 信仰する者たちよ、アッラー*に真摯な悔悟をせよ。あなた方の主*は、あなた方のためにあなた方の悪行を帳消しにして下さり、あなた方を、その下から河川が流れる楽園にお入れになろう。アッラー*が預言者*と、彼と共に信仰した者たちを辱められはしない、（復活の）その日に。彼らの光は（地獄の上の架け橋[4]のもとで）、彼らの前方と右手[5]を（彼らと共に）進む。彼らは言うのだ。「我らが主*よ、私たちに（天国に到達するまで）私たちの光を

يَٰٓأَيُّهَا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ تُوبُوٓاْ إِلَى ٱللَّهِ تَوۡبَةٗ
نَّصُوحًا عَسَىٰ رَبُّكُمۡ أَن يُكَفِّرَ عَنكُمۡ
سَيِّـَٔاتِكُمۡ وَيُدۡخِلَكُمۡ جَنَّٰتٖ تَجۡرِي
مِن تَحۡتِهَا ٱلۡأَنۡهَٰرُ يَوۡمَ لَا يُخۡزِي ٱللَّهُ ٱلنَّبِيَّ
وَٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ مَعَهُۥۖ نُورُهُمۡ يَسۡعَىٰ بَيۡنَ
أَيۡدِيهِمۡ وَبِأَيۡمَٰنِهِمۡ يَقُولُونَ رَبَّنَآ أَتۡمِمۡ لَنَا
نُورَنَا وَٱغۡفِرۡ لَنَآۖ إِنَّكَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ
قَدِيرٞ ٨

1 「斎戒*する女」については、悔悟章 112「斎戒*する者」の訳注を参照。

2 雌牛章 24、預言者*たち章 98 とその訳注も参照。

3 これはザバーニヤと呼ばれる、地獄の天使*たちのこと（イブン・カスィール 8:168 参照）。凝血章 18 の訳注も参照。

4 「地獄の上の架け橋」については、鉄章 12 の訳注を参照。

5 この「前方と右手」についても、鉄章 12 の訳注を参照。

完遂させ、私たちをお赦し下さい。本当にあなたは、全てのことがお出来であられるお方なのですから」。

9. 預言者*よ、不信仰者*たちと偽信者*らに対して努力奮闘し、彼らに厳しくあれ。彼らの（来世での）住処は地獄なのだ。そしてその行き先は、何と醜悪なことであろうか。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلنَّبِيُّ جَٰهِدِ ٱلۡكُفَّارَ وَٱلۡمُنَٰفِقِينَ
وَٱغۡلُظۡ عَلَيۡهِمۡۚ وَمَأۡوَىٰهُمۡ جَهَنَّمُۖ وَبِئۡسَ
ٱلۡمَصِيرُ ٩

10. アッラー*は（、ムスリム*と近い関係にあったにも関わらず、）不信仰だった者*たちの譬えとして、ヌーフ*の妻とルート*の妻を挙げられた。彼女ら二人は、（それぞれ）われら*の正しい僕二人の（後見）下にあったものの、彼ら二人を（宗教的に）裏切った（不信仰者*だった）のであり、彼ら二人はアッラー*（からの懲罰）に対して、彼女らに少しも役に立てなかった。そして彼女ら二人には（来世で、こう）言われるのである。「（そこに）入る者たちと共に、（地獄の）業火に入るがよい」。

ضَرَبَ ٱللَّهُ مَثَلٗا لِّلَّذِينَ كَفَرُواْ ٱمۡرَأَتَ نُوحٖ
وَٱمۡرَأَتَ لُوطٖۖ كَانَتَا تَحۡتَ عَبۡدَيۡنِ مِنۡ
عِبَادِنَا صَٰلِحَيۡنِ فَخَانَتَاهُمَا فَلَمۡ يُغۡنِيَا
عَنۡهُمَا مِنَ ٱللَّهِ شَيۡـٔٗا وَقِيلَ ٱدۡخُلَا ٱلنَّارَ
مَعَ ٱلدَّٰخِلِينَ ١٠

11. またアッラー*は（、不信仰者*の中にあったにも関わらず）信仰した者たちの譬えとして、フィルアウン*の妻[1]を挙げられた。彼女が、（こう）申し上げた時のこと。「我が主*よ、天国のあなたの御許で、私のために家をお建て下さい。そして私をフィルアウン*とその（悪い）行いからお救いになり、私を不正*者である民からお救い下さい」。

وَضَرَبَ ٱللَّهُ مَثَلٗا لِّلَّذِينَ ءَامَنُواْ
ٱمۡرَأَتَ فِرۡعَوۡنَ إِذۡ قَالَتۡ رَبِّ ٱبۡنِ لِي
عِندَكَ بَيۡتٗا فِي ٱلۡجَنَّةِ وَنَجِّنِي مِن فِرۡعَوۡنَ
وَعَمَلِهِۦ وَنَجِّنِي مِنَ ٱلۡقَوۡمِ ٱلظَّٰلِمِينَ ١١

1 フィルアウン*の妻については、物語章 9 の訳注を参照。

12. また（アッラー*は、）自らの貞操を堅持した、イムラーンの娘マルヤム*（を、信仰者についての譬えとしてお挙げになった[1]）。われら*はその内に、われら*の魂[2]から吹き込んだのである。また、彼女は自分の主*の御言葉と啓典を信じたのであり、従順な者たちの一人であった。

وَمَرۡيَمَ ٱبۡنَتَ عِمۡرَٰنَ ٱلَّتِيٓ أَحۡصَنَتۡ
فَرۡجَهَا فَنَفَخۡنَا فِيهِ مِن رُّوحِنَا وَصَدَّقَتۡ
بِكَلِمَٰتِ رَبِّهَا وَكُتُبِهِۦ وَكَانَتۡ مِنَ
ٱلۡقَٰنِتِينَ ١٢

1 アーヤ*10、11 では、それぞれ配偶者が不信仰者であった男女の信仰者の例が挙げられているが、ここでは独身者の信仰者の例が挙げられている（アル＝バイダーウィー 5:358 参照）。

2 この「魂」については、婦人章 171 の訳注を参照。

第67章
王権章（アル＝ムルク）[1]

سُورَةُ المُلۡكِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. その御手にこそ（全創造の）王権があるお方（アッラー*）は、祝福にあふれておられる。そしてかれは、全てのことがお出来になられるお方。

تَبَٰرَكَ ٱلَّذِي بِيَدِهِ ٱلۡمُلۡكُ وَهُوَ عَلَىٰ كُلِّ شَيۡءٖ
قَدِيرٌ ١

2. （人々よ、かれは）あなた方のいずれがより善い行いかを試されるべく[2]、死と生をお創りになったお方。かれは偉力ならびない*お方、赦し深いお方であられる。

ٱلَّذِي خَلَقَ ٱلۡمَوۡتَ وَٱلۡحَيَوٰةَ لِيَبۡلُوَكُمۡ أَيُّكُمۡ أَحۡسَنُ
عَمَلٗاۚ وَهُوَ ٱلۡعَزِيزُ ٱلۡغَفُورُ ٢

3. （かれは）組み合わさった[3]七層の天を、お創りになったお方。（それを見る者よ、）あなたは慈悲あまねき*お方（アッラー*）の創造に、いかなる不調和も見出さない。では、視線を（天へと、）戻してみるがよい。一体あなたは（そこに）、少しでも亀裂を見出すのか？

ٱلَّذِي خَلَقَ سَبۡعَ سَمَٰوَٰتٖ طِبَاقٗاۖ مَّا تَرَىٰ فِي
خَلۡقِ ٱلرَّحۡمَٰنِ مِن تَفَٰوُتٖۖ فَٱرۡجِعِ ٱلۡبَصَرَ هَلۡ تَرَىٰ
مِن فُطُورٖ ٣

---

1 マッカ*啓示で学者間見解は、ほぼ一致。自然界における身近な、そして高遠な驚異（きょうい）に言及しつつ、創造主としてのアッラー*の御力と唯一性*の確証が、一貫して取り上げられている。スーラ*名はその流れの冒頭で言及された、「王権」という語に由来。アッラー*の御力を示す様々な根拠が提示されるが、それでも不信仰に留まる者たちに対し、現世と来世における厳しい警告が告げられている。

2 「より善い行い」とは、より（アッラー*に）純化され（婦人146の訳注も参照）、より（スンナ*に則った）正しい行い*のこと。アッラー*は人間をこの世界に置かれ、彼らがいずれそこから立ち去る身であることをお知らせになった上で、彼らに命令や禁止をされ、それに逆行する私欲によって彼らを試練にかけられた。それでアッラー*のご命令に従い、善き行いに努めた者は、現世と来世における褒美を授かる。しかしそうでなかった場合、その報いは悪いものとなる（アッ＝サァディー875頁参照）。イムラーン家章179、蜘蛛章2及びムハンマド*章31とその訳注も参照。

3 一説には、「（階層的に）重なり合った」という意味（アル＝クルトゥビー18：208参照）。

4. それから何度も、視線を戻してみるがよい。（そうすれば、）視線は惨めにも疲れ切って、自らのもとに返って来よう。

ثُمَّ ٱرۡجِعِ ٱلۡبَصَرَ كَرَّتَيۡنِ يَنقَلِبۡ إِلَيۡكَ ٱلۡبَصَرُ خَاسِئٗا وَهُوَ حَسِيرٞ ٤

5. われら*は確かに最下層の天を（星）灯りで飾りつけ、それをシャイターン*らへの射撃とした[1]。そしてわれら*は彼らに、烈火の懲罰を用意したのだ。

وَلَقَدۡ زَيَّنَّا ٱلسَّمَآءَ ٱلدُّنۡيَا بِمَصَٰبِيحَ وَجَعَلۡنَٰهَا رُجُومٗا لِّلشَّيَٰطِينِۖ وَأَعۡتَدۡنَا لَهُمۡ عَذَابَ ٱلسَّعِيرِ ٥

6. 自分たちの主*に対して不信仰だった者*たちには、地獄の懲罰がある。その行き先は、何と醜悪なことであろうか。

وَلِلَّذِينَ كَفَرُواْ بِرَبِّهِمۡ عَذَابُ جَهَنَّمَۖ وَبِئۡسَ ٱلۡمَصِيرُ ٦

7. 彼ら（不信仰者*）はその中に放り込まれた時、いきり立った（業火の）その咆哮を聞く。

إِذَآ أُلۡقُواْ فِيهَا سَمِعُواْ لَهَا شَهِيقٗا وَهِيَ تَفُورُ ٧

8. それは（不信仰者*への憤りゆえ）、張り裂けんばかり。そこに集団が放り込まれるたび、その門番たちは彼らに尋ねる。「あなた方には（現世で、あなた方が今味わっている懲罰を警告する）、警告者が到来しなかったのか？」

تَكَادُ تَمَيَّزُ مِنَ ٱلۡغَيۡظِۖ كُلَّمَآ أُلۡقِيَ فِيهَا فَوۡجٞ سَأَلَهُمۡ خَزَنَتُهَآ أَلَمۡ يَأۡتِكُمۡ نَذِيرٞ ٨

9. 彼らは（、応えて）言う。「ええ、確かに警告者は、私たちのところに来ました。けれども私たちは（彼を）嘘つき呼ばわりし、（こう）言ったのです。『アッラー*は（あなた方に啓示を）何一つ、下されてなどいない。あなた方（使徒*たち）は、大きな迷いの中にあるに過ぎないのだ』」。

قَالُواْ بَلَىٰ قَدۡ جَآءَنَا نَذِيرٞ فَكَذَّبۡنَا وَقُلۡنَا مَا نَزَّلَ ٱللَّهُ مِن شَيۡءٍ إِنۡ أَنتُمۡ إِلَّا فِي ضَلَٰلٖ كَبِيرٖ ٩

10. また、彼らは言う。「もし私たちが（真理を求めて）聴き、弁えていたら、烈火の徒とはなっていなかったのに」。

وَقَالُواْ لَوۡ كُنَّا نَسۡمَعُ أَوۡ نَعۡقِلُ مَا كُنَّا فِيٓ أَصۡحَٰبِ ٱلسَّعِيرِ ١٠

---

1 アル＝ヒジュル章 17-18 とその訳注、詩人たち章 212、223、整列者章 6-10、ジン*章 8-9 も参照。

11. こうして彼らは自分たちの罪を、認める。ゆえに烈火の徒が、（アッラー*のご慈悲から）遠ざけられるよう。

فَٱعْتَرَفُوا۟ بِذَنۢبِهِمْ فَسُحْقًا لِّأَصْحَٰبِ ٱلسَّعِيرِ ١١

12. 本当に自分たちの主*を、まだ見ぬままに恐れる[1]者たち、彼らには（罪の）赦しと、（天国での）大いなる報いがある。

إِنَّ ٱلَّذِينَ يَخْشَوْنَ رَبَّهُم بِٱلْغَيْبِ لَهُم مَّغْفِرَةٌ
وَأَجْرٌ كَبِيرٌ ١٢

13. （人々よ、）あなた方の言葉を、秘密にしてみよ。あるいは、それを公けにしてみよ（、いずれにしても、アッラー*には同じこと）。本当にかれは、胸中にあるものをご存知のお方なのだから。

وَأَسِرُّوا۟ قَوْلَكُمْ أَوِ ٱجْهَرُوا۟ بِهِۦٓ ۖ إِنَّهُۥ عَلِيمٌۢ بِذَاتِ
ٱلصُّدُورِ ١٣

14. 創造されたお方が、（彼らのことを）ご存知にならないとでも？　かれは霊妙な*お方、通暁されるお方だというのに。

أَلَا يَعْلَمُ مَنْ خَلَقَ وَهُوَ ٱللَّطِيفُ ٱلْخَبِيرُ ١٤

15. かれはあなた方のため、大地を平坦にされたお方。ゆえにその方々を歩き、かれの糧から食べるがよい。そしてかれにこそ、（清算と報いのための）復活があるのだ。

هُوَ ٱلَّذِى جَعَلَ لَكُمُ ٱلْأَرْضَ ذَلُولًا فَٱمْشُوا۟ فِى
مَنَاكِبِهَا وَكُلُوا۟ مِن رِّزْقِهِۦ ۖ وَإِلَيْهِ ٱلنُّشُورُ ١٥

16. （不信仰者*たちよ、）一体あなた方は天におられるお方（アッラー*）が、地面をあなた方もろとも沈め給うことから、安全なのか？　そしてどうであろう、それ（大地）は（あなた方を滅ぼすまで、）揺れ動くのである。

ءَأَمِنتُم مَّن فِى ٱلسَّمَآءِ أَن يَخْسِفَ بِكُمُ ٱلْأَرْضَ
فَإِذَا هِىَ تَمُورُ ١٦

17. いや、一体あなた方は、天におられるお方（アッラー*）が自分たちに、石を運ぶ風をお送りになることから安全だというのか？　ならば彼らは、わが警告がいかなるものかを知ることになろう。

أَمْ أَمِنتُم مَّن فِى ٱلسَّمَآءِ أَن يُرْسِلَ عَلَيْكُمْ
حَاصِبًا ۖ فَسَتَعْلَمُونَ كَيْفَ نَذِيرِ ١٧

1　「（アッラー*を）まだ見ぬままに恐れ」ることについては、預言者*たち章 49 の訳注を参照。

18. 彼ら（マッカ*の不信仰者たち）以前の者たちは、確かに（彼らの使徒*たちを）嘘つき呼ばわりしたのだ。それで、わが否認はいかなるものだったか？[1]

وَلَقَدۡ كَذَّبَ ٱلَّذِينَ مِن قَبۡلِهِمۡ فَكَيۡفَ كَانَ نَكِيرِ ١٨

19. （その無頓着さゆえ、）彼ら（不信仰者*たち）は、自分たちの頭上を羽を広げたり、畳んだり（して飛行）する鳥を見なかったのか？　それらを（墜落から）支えられるのは、慈悲あまねき*お方（アッラー*）しかおられない。本当にかれは、全てのことをご覧になるお方。

أَوَلَمۡ يَرَوۡاْ إِلَى ٱلطَّيۡرِ فَوۡقَهُمۡ صَٰٓفَّٰتٖ وَيَقۡبِضۡنَۚ
مَا يُمۡسِكُهُنَّ إِلَّا ٱلرَّحۡمَٰنُۚ إِنَّهُۥ بِكُلِّ شَيۡءِۭ
بَصِيرٌ ١٩

20. いや（、不信仰者*たちよ）、慈悲あまねき*お方を差しおいてあなた方を援助する、あなた方の軍勢であるこの者[2]とは、誰なのか？　不信仰者*たちは外ならぬ、（シャイターン*の）欺きの中にある。

أَمَّنۡ هَٰذَا ٱلَّذِي هُوَ جُندٞ لَّكُمۡ يَنصُرُكُم مِّن دُونِ
ٱلرَّحۡمَٰنِۚ إِنِ ٱلۡكَٰفِرُونَ إِلَّا فِي غُرُورٍ ٢٠

21. いや、あなた方に糧を授けてくれる、この者とは誰なのか――かれ（アッラー*）が、その糧を（あなた方から）お控えになったとしたら――？　いや、彼らは反抗と（真理への）忌避と共に、歯向かったのである。

أَمَّنۡ هَٰذَا ٱلَّذِي يَرۡزُقُكُمۡ إِنۡ أَمۡسَكَ رِزۡقَهُۥۚ بَل
لَّجُّواْ فِي عُتُوّٖ وَنُفُورٍ ٢١

22. 一体、顔を下にして歩く者が、より導かれているのか？　それとも、まっすぐな道を正しく歩く者か？[3]

أَفَمَن يَمۡشِي مُكِبًّا عَلَىٰ وَجۡهِهِۦٓ أَهۡدَىٰٓ أَمَّن
يَمۡشِي سَوِيًّا عَلَىٰ صِرَٰطٖ مُّسۡتَقِيمٖ ٢٢

---

1 「わが否認はいかなるものだったか？」については、巡礼*章 44 の訳注を参照。

2 アッラー*以外のいかなるものが、いかなる敵に対してどれだけ集結したとしても、それら自体が人を益することは少しもない（アッ＝サァディー877 頁参照）。

3 前者は、真理が虚妄（きょもう）、虚妄が真理になってしまうという心が逆転した状態にあり、迷いと不信仰に浸（ひた）りきっている者のたとえ。後者は真理を知り、それを尊（たっと）び、それに則って行い、あらゆる言動や状態においてまっすぐな道を歩く者（前掲書、同頁参照）。尚、来世において信仰者は天国へとまっすぐに導かれるが、不信仰者*は、顔から逆さにされて地獄に集められる（イブン・カスィール 8:161 参照）。夜の旅 97 章とその訳注、蟻章 90 も参照。

23. （使徒*よ、）言ってやれ。「かれ（アッラー*）はあなた方に、聴覚と視覚と心を備え付けて下さったお方。（不信仰者*たちよ、）あなた方が感謝することの少ないこと」。

قُلْ هُوَ ٱلَّذِىٓ أَنشَأَكُمْ وَجَعَلَ لَكُمُ ٱلسَّمْعَ
وَٱلْأَبْصَٰرَ وَٱلْأَفْـِٔدَةَ ۖ قَلِيلًا مَّا تَشْكُرُونَ ٢٣

24. 言ってやるがいい。「かれは、あなた方を大地に繁茂させられたお方。そしてかれの御許にこそ、あなた方は召集されるのだ」。

قُلْ هُوَ ٱلَّذِى ذَرَأَكُمْ فِى ٱلْأَرْضِ وَإِلَيْهِ
تُحْشَرُونَ ٢٤

25. 彼ら（不信仰者*たち）は、言う。「その約束（復活の日*）は、いつなのか？　もし、あなた方が本当のことを言っているのならば」。

وَيَقُولُونَ مَتَىٰ هَٰذَا ٱلْوَعْدُ إِن كُنتُمْ صَٰدِقِينَ ٢٥

26. （使徒*よ、）言ってやれ。「（復活の日*の到来についての）その知識は、アッラー*の御許にこそある。そして私は、明白なる警告者でしかないのだ」。

قُلْ إِنَّمَا ٱلْعِلْمُ عِندَ ٱللَّهِ وَإِنَّمَآ أَنَا۠ نَذِيرٌ
مُّبِينٌ ٢٦

27. それ（アッラー*の懲罰）が近くに迫るのを目にすると、不信仰だった者*たちの顔つきは（憂鬱さゆえに、）悪くなる。そして彼らには、（こう）言われるのだ。「これが、あなた方が（現世で、その到来を）求めていた[1]ものである」。

فَلَمَّا رَأَوْهُ زُلْفَةً سِيٓـَٔتْ وُجُوهُ ٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟
وَقِيلَ هَٰذَا ٱلَّذِى كُنتُم بِهِۦ تَدَّعُونَ ٢٧

28. （使徒*よ、彼ら不信仰者*たちに）言ってやるがいい。「言ってみよ、もしアッラー*が私と、私と共にある（信仰）者を滅ぼされたり、または私たちにご慈悲をおかけになっ（て、罰から救ってくれ）たりしたとしても、一体誰が、不信仰者たちを痛ましい懲罰から守ってくれるのか？」

قُلْ أَرَءَيْتُمْ إِنْ أَهْلَكَنِىَ ٱللَّهُ وَمَن مَّعِىَ أَوْ رَحِمَنَا
فَمَن يُجِيرُ ٱلْكَٰفِرِينَ مِنْ عَذَابٍ أَلِيمٍ ٢٨

---

1 「（それは到来しない、と）思い込んでいた」という解釈もある（アッ＝シャウカーニー 5:352 参照）。

29. 言ってやれ。「かれは、慈悲あまねき*お方。私たちはかれを信じ、かれに全てを委ねた*。ならば、あなた方は誰がまさに明らかな迷いの中にあったのか、知ることになろう」。

قُلْ هُوَ ٱلرَّحْمَٰنُ ءَامَنَّا بِهِۦ وَعَلَيْهِ تَوَكَّلْنَا ۖ
فَسَتَعْلَمُونَ مَنْ هُوَ فِى ضَلَٰلٍ مُّبِينٍ ٢٩

30. （使徒*よ、シルク*の徒に）言うのだ。「言ってみよ、もしあなた方の水が（地下に沈んで）無くなってしまったら、一体誰が、あなた方に湧き水を与えてくれるというのか？」

قُلْ أَرَءَيْتُمْ إِنْ أَصْبَحَ مَآؤُكُمْ غَوْرًا فَمَن يَأْتِيكُم
بِمَآءٍ مَّعِينٍۭ ٣٠

第68章
筆章（アル＝カラム）[1]

سُورَةُ القَلَمِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. ヌーン[2]。筆と、それと彼らが書き記すもの[3]にかけて（誓う）。[4]

نٓ ۚ وَٱلْقَلَمِ وَمَا يَسْطُرُونَ ١

2. （使徒*よ、）あなたは、あなたの主*の恩恵[5]ゆえ、憑かれた者[6]などではない。

مَآ أَنتَ بِنِعْمَةِ رَبِّكَ بِمَجْنُونٍ ٢

3. あなたにこそは、まさしく尽きることのない[7]褒美がある。

وَإِنَّ لَكَ لَأَجْرًا غَيْرَ مَمْنُونٍ ٣

4. また本当に（使徒*よ）、あなたこそは、この上ない（よき）品性を備えている。

وَإِنَّكَ لَعَلَىٰ خُلُقٍ عَظِيمٍ ٤

5. ならば、あなたは目にし、彼ら（不信仰者*たち）も目にするであろう、

فَسَتُبْصِرُ وَيُبْصِرُونَ ٥

6. あなた方のいずれが、試練にかけられた者[8]かを。

بِأَييِّكُمُ ٱلْمَفْتُونُ ٦

---

1 マッカ*啓示で学者間の見解は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、冒頭に出現する同語「筆」に由来。預言者*ムハンマド*の真実性の確証に始まり、彼の布教の前に立ちはだかる不信仰者の悪い性質が言及され、次いでその帰結としての罰が描写される。アッラー*からの恩恵に対する感謝の念と、善行を蔑（ないがし）ろにした農園主の教訓にあふれる物語を挟（はさ）み、後半では信仰者と不信仰者*の比較、預言者*ムハンマド*という大きな恩恵を否定していた同時代の不信仰者*への警告が改めて繰り返され、預言者*に向けられた忍耐*の勧（すす）めによって、スーラ*は締めくくられる。

2 この文字については、頻出名・用語解説の「クルアーンの冒頭に現れる文字群*」を参照。

3 天使*や人間が「書き記す」善いこと、利益、知識などのことを指す（ムヤッサル 564 頁参照）。

4 アッラー*の「誓い」については、整列者章 1 の訳注も参照。

5 この「恩恵」とは、預言者*性のことであるとされる（前掲書、同頁参照）。

6 「憑かれた者」については、アル＝ヒジュル章 6 の訳注を参照。

7 「尽きることのない」については、詳細にされた章 8 の訳注も参照。

8 つまり、「憑（つ）かれた者」。あるいは、「真理から迷うという試練にかけられた者」（イブン・カスィール 8:190 参照）。

7. 本当にあなたの主*こそは、誰がかれの道（イスラーム*）から迷った者かを最もよくご存知であり、（正しい教えに）導かれた者たちを、最もよくご存知であられるのだ。

إِنَّ رَبَّكَ هُوَ أَعۡلَمُ بِمَن ضَلَّ عَن سَبِيلِهِۦ وَهُوَ أَعۡلَمُ بِٱلۡمُهۡتَدِينَ ٧

8. ならば（使徒*よ）、（アッラー*の御徴と使徒を）嘘呼ばわりする者たちに従うのではない。

فَلَا تُطِعِ ٱلۡمُكَذِّبِينَ ٨

9. 彼らは、あなたが（彼らの宗教に）おもねれば、彼らもおもねることを欲している。[1]

وَدُّواْ لَوۡ تُدۡهِنُ فَيُدۡهِنُونَ ٩

10. また（使徒*よ）、卑しく、やたらと誓ういかなる者にも従うのではない。

وَلَا تُطِعۡ كُلَّ حَلَّافٖ مَّهِينٍ ١٠

11. 中傷ばかりして[2]、悪い噂を吹いて回る[3]（者に）。

هَمَّازٖ مَّشَّآءِۭ بِنَمِيمٖ ١١

12. 善を阻み、（人々への侵害と非合法な物事において）度を越し、罪に溺れた（者に）。

مَّنَّاعٖ لِّلۡخَيۡرِ مُعۡتَدٍ أَثِيمٍ ١٢

13. 粗暴で、その上、素性が知れない（者に）。

عُتُلِّۭ بَعۡدَ ذَٰلِكَ زَنِيمٍ ١٣

14. 財産と子供を有する者だったがゆえに（、彼は真理を受け入れることに対し、高慢になったのだ）。

أَن كَانَ ذَا مَالٖ وَبَنِينَ ١٤

15. われら*の御徴（アーヤ*）が彼に読誦された時、彼は言った。「（これは）昔の人々のお伽話だ」。[4]

إِذَا تُتۡلَىٰ عَلَيۡهِ ءَايَٰتُنَا قَالَ أَسَٰطِيرُ ٱلۡأَوَّلِينَ ١٥

---

1 夜の旅章 74-75 も参照。

2 この「中傷」については、中傷者章 1 の訳注を参照。

3 原語では「ナミーム（またはナミーマ）」で、人間関係の悪化や、敵意や憎悪を生じさせることを意図しつつ、誰かが話したことを第三者に告げること（アッ＝サァディー 879 頁参照）。

4 アーヤ*10-15 は、あるシルク*の徒に関して下ったとされる。その一方でこの中には、これらの性質が当てはまる者たちに対する、ムスリム*への注意の勧告が見受けられる（ムヤッサル 564 頁参照）。

16. われら*は彼に対し（人の目に明らかな懲罰として）、鼻の上に印をつけてやろう。[1]

سَنَسِمُهُۥ عَلَى ٱلْخُرْطُومِ ١٦

17. 本当にわれら*は、彼ら（マッカ*の民）を試練にかけた。ちょうどわれら*が農園主たちを、彼らが「朝早く、それら（果実）を摘み取ってしまおう」と誓った時、試練にかけたように。[2]

إِنَّا بَلَوْنَٰهُمْ كَمَا بَلَوْنَآ أَصْحَٰبَ ٱلْجَنَّةِ إِذْ أَقْسَمُوا۟ لَيَصْرِمُنَّهَا مُصْبِحِينَ ١٧

18. （「もし、アッラー*がお望みになったならば」と言って、それが実現しない可能性を）除外することもなく（、彼らはそう誓った）。[3]

وَلَا يَسْتَثْنُونَ ١٨

19. それで彼らが（夜中）眠っている最中、あなたの主*からの包囲[4]がそれ（農園）を包囲し、

فَطَافَ عَلَيْهَا طَآئِفٌ مِّن رَّبِّكَ وَهُمْ نَآئِمُونَ ١٩

20. それは闇夜のように（、黒こげに）なってしまった。

فَأَصْبَحَتْ كَٱلصَّرِيمِ ٢٠

21. そして彼らは朝、互いに呼びかけ合った、

فَتَنَادَوْا۟ مُصْبِحِينَ ٢١

22. 「あなた方の作物へと、朝早く出かけよ。もしあなた方が、（それを）摘み取るのならば」と。

أَنِ ٱغْدُوا۟ عَلَىٰ حَرْثِكُمْ إِن كُنتُمْ صَٰرِمِينَ ٢٢

---

1 このアーヤ*の解釈には「剣で鼻を打たれる（一説に、このアーヤ*で意図された者は、バドルの戦い*において剣で鼻を打たれ、死んだとされる）」「復活の日*、他人からその姿が認められるよう、鼻に印をつけられる（慈悲あまねき*お方章 41 参照）」「不名誉を与えられる」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー18:236-237 参照）。

2 これは、イエメン地方にあった農園主の話。この農園主は正しい人物で、果実を収穫する時には、恵まれない人々にもそこから施すことを常としていた。しかし彼の死後、それを受け継いだ三人の息子たちは分け前を惜しみ、その習いに反しようとしたのだった（前掲書 18:240 参照）。

3 関連して、洞窟章 24 とその訳注も参照。

4 この「包囲」とは、アッラー*が天からお下しになった炎のこととされる（ムヤッサル 565 頁参照）。

23. それで彼らは、ひそひそ話し合いつつ出発した、

فَٱنطَلَقُواْ وَهُمۡ يَتَخَٰفَتُونَ ٢٣

24. 「今日は貧者*があなた方と共に、そこ（農園）に入ることがあってはならない」と。

أَن لَّا يَدۡخُلَنَّهَا ٱلۡيَوۡمَ عَلَيۡكُم مِّسۡكِينٞ ٢٤

25. そして（貧者*たちに果実を）禁じようとして、（計画を実行する）力にみなぎった状態で、朝に出かけた。

وَغَدَوۡاْ عَلَىٰ حَرۡدٖ قَٰدِرِينَ ٢٥

26. それで、それ（黒こげになった農園）を見た時、彼らは（信じられず、こう）言った。「本当に私たちは（農園への道で）、迷子になってしまったのだ」。

فَلَمَّا رَأَوۡهَا قَالُوٓاْ إِنَّا لَضَآلُّونَ ٢٦

27. （そして、それが自分たちの農園だと認めた時、彼らは言った。）「いや、私たちは（農園の恵みを）禁じられたのである」。

بَلۡ نَحۡنُ مَحۡرُومُونَ ٢٧

28. 彼らの内、最善の者が言った。「私はあなた方に、『さあ、称える*[1]のだ』と言わなかったか？」

قَالَ أَوۡسَطُهُمۡ أَلَمۡ أَقُل لَّكُمۡ لَوۡلَا تُسَبِّحُونَ ٢٨

29. 彼らは言った。「アッラー*に称え*あれ。本当に私たちは、不正*者でした」。

قَالُواْ سُبۡحَٰنَ رَبِّنَآ إِنَّا كُنَّا ظَٰلِمِينَ ٢٩

30. 彼らは互いに、責め合い出した。

فَأَقۡبَلَ بَعۡضُهُمۡ عَلَىٰ بَعۡضٖ يَتَلَٰوَمُونَ ٣٠

31. 彼らは言った。「我らが災いよ！[2] 本当に私たちは、放埓者でした。

قَالُواْ يَٰوَيۡلَنَآ إِنَّا كُنَّا طَٰغِينَ ٣١

32. 我らが主*は、きっとあれ（農園）より善いものを、私たちに取り替えて下さろう。本当に私たちは、我らが主*にこそ、（お赦しとお恵みを）切望するのだから」。

عَسَىٰ رَبُّنَآ أَن يُبۡدِلَنَا خَيۡرٗا مِّنۡهَآ إِنَّآ إِلَىٰ رَبِّنَا رَٰغِبُونَ ٣٢

---

1 つまり、アーヤ*18にあるように「もし、アッラー*がお望みになったら」という言葉のこと（ムヤッサル 565 頁参照)。この言葉が、彼らにとっての称えの言葉だったのだという。また、「アッラー*に称え*あれと言い、感謝すること」「お赦しを乞うこと」という説もある（アル＝バガウィー5:138 参照)。

2 この表現については、食卓章 31「我が災いよ！」の訳注を参照。

33. （現世の）懲罰とは、このようなもの[1]。そして来世の懲罰こそは、より偉大なのである。彼らがもし、知っていたならば。

كَذَٰلِكَ ٱلۡعَذَابُۖ وَلَعَذَابُ ٱلۡأٓخِرَةِ أَكۡبَرُۚ لَوۡ كَانُواْ يَعۡلَمُونَ ٣٣

34. 実に敬虔な*者たちには、その主*の御許に安寧の楽園がある。

إِنَّ لِلۡمُتَّقِينَ عِندَ رَبِّهِمۡ جَنَّٰتِ ٱلنَّعِيمِ ٣٤

35. 一体われら*は服従する者（ムスリム*）たちを、（その報いにおいて、不信仰に陥った）罪悪者たちのようにするであろうか？[2]

أَفَنَجۡعَلُ ٱلۡمُسۡلِمِينَ كَٱلۡمُجۡرِمِينَ ٣٥

36. 一体、あなた方はどうしたことか？ あなた方はいかに（不当な）決め方をするのか？

مَا لَكُمۡ كَيۡفَ تَحۡكُمُونَ ٣٦

37. いや、一体あなた方には啓典があり、あなた方はそれを読んでいるというのか？

أَمۡ لَكُمۡ كِتَٰبٞ فِيهِ تَدۡرُسُونَ ٣٧

38. 本当にその中で、あなた方は、自分たちが選ぶもの[3]を手にするということを（読んで、見出したのか）？

إِنَّ لَكُمۡ فِيهِ لَمَا تَخَيَّرُونَ ٣٨

39. いや、一体あなた方には復活の日*まで（存続する）、われら*に対する確固とした誓約があるとでもいうのか？ 本当にあなた方は、自分たちが決める（思い通りの）ことを手にするという（誓約が）？

أَمۡ لَكُمۡ أَيۡمَٰنٌ عَلَيۡنَا بَٰلِغَةٌ إِلَىٰ يَوۡمِ ٱلۡقِيَٰمَةِ إِنَّ لَكُمۡ لَمَا تَحۡكُمُونَ ٣٩

---

1 それら農園主のように、アッラー*のご命令に逆らい、恵まれた恩恵に対するアッラー*への義務を果たさない者には、同様の罰が下るということ（ムヤッサル 565 頁参照）。

2 一説に、裕福だったクライシュ族*の頭目たちは、貧しかったムスリム*たちを見て、「仮に来世があるとしても、私たちと彼らの状況は、現世における状況と同じ（で、私たちの方が豊か）か、せいぜい同じ位だろう」などと言っていた（アル＝クルトゥビー18:246 参照）。マルヤム*章 77 も参照。

3 つまりアーヤ*35 にあるような、彼らの見解のこと（ムヤッサル 565 頁参照）。

40. （使徒*よ、）彼らの内の誰がそれ[1]についての保証人なのか、彼ら（シルク*の徒）に尋ねよ。

سَلْهُمْ أَيُّهُم بِذَٰلِكَ زَعِيمٌ ﴿٤٠﴾

41. いや、一体彼らには、（彼らがアッラー*の）同位者（とするもの）たちが（、その保証人として）あるのか？ では、自分たちの同位者たちを連れて来てみるがよい。もし、彼らが本当のことを言っているというのならば。

أَمْ لَهُمْ شُرَكَآءُ فَلْيَأْتُوا۟ بِشُرَكَآئِهِمْ إِن كَانُوا۟
صَٰدِقِينَ ﴿٤١﴾

42. その脛が露わにされ[2]、彼ら（不信仰者*や偽信者*）がサジダ*に呼ばれ、（そうすることが）出来ない[3]（復活の）日*のこと（を思い起こさせよ）。

يَوْمَ يُكْشَفُ عَن سَاقٍ وَيُدْعَوْنَ إِلَى ٱلسُّجُودِ
فَلَا يَسْتَطِيعُونَ ﴿٤٢﴾

43. 怖気づいた目をし、屈辱が彼らを覆う。彼らは確かに（現世で、健康も力も備わっていた）無事な時、サジダ*へと呼ばれていた[4]（が、高慢にもそうしなかった）のである。

خَٰشِعَةً أَبْصَٰرُهُمْ تَرْهَقُهُمْ ذِلَّةٌ ۖ وَقَدْ كَانُوا۟ يُدْعَوْنَ
إِلَى ٱلسُّجُودِ وَهُمْ سَٰلِمُونَ ﴿٤٣﴾

44. ならば（使徒*よ）、（クルアーン*の）この話を嘘呼ばわりする者を、われに（任せて）放っておけ。われら*は彼らを、彼らが知らない所から徐々に（破滅へと）導いて行こう。[5]

فَذَرْنِى وَمَن يُكَذِّبُ بِهَٰذَا ٱلْحَدِيثِ ۖ
سَنَسْتَدْرِجُهُم مِّنْ حَيْثُ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٤٤﴾

---

1 「それ」とは、アーヤ*35 にある、彼ら不信仰者*の思い込みのこと（ムヤッサル 565 頁参照）。

2 アッラー*が「その脛を露わにされる」という文字通りの解釈と、その日の「厳しさと恐怖」を表す言い回しである、という説がある（イブン・カスィール 8:198-199 参照）。

3 その日、信仰者はサジダ*できるが、現世で人目や外聞（がいぶん）ゆえにサジダ*していた者は、そうすることが出来ない（アル＝ブハーリー4919 参照）。

4 つまり礼拝や、アッラー*への崇拝*へと呼ばれていた（ムヤッサル 566 頁参照）。

5 「知らない所から徐々に導いて行く」ことの具体例については、家畜章 44 を参照。

45. そしてわれら*は彼らに、猶予を与えておくのだ。本当にわが策略[1]は、手堅いのだから。

وَأُمۡلِي لَهُمۡۚ إِنَّ كَيۡدِي مَتِينٌ ٤٥

46. いや、（使徒*よ、）あなたが彼らに見返りを要求し[2]、それで彼らは負債ゆえの重荷を背負わされ（、あなたの呼びかけを拒否す）る者だというのか？

أَمۡ تَسۡـَٔلُهُمۡ أَجۡرٗا فَهُم مِّن مَّغۡرَمٖ مُّثۡقَلُونَ ٤٦

47. それとも、彼らのもとには不可視の世界*（の知識）があり[3]、それで彼らが（そこから、人々のために）書き記している[4]とでも？

أَمۡ عِندَهُمُ ٱلۡغَيۡبُ فَهُمۡ يَكۡتُبُونَ ٤٧

48. ならば（使徒*よ）、あなたの主*のお決めになったことゆえに、忍耐*せよ。そして（悲しみで）意気消沈し、（自分の民への懲罰が早く下ることを）祈った時の、大魚の人（預言者*ユーヌス*）のようになるのではない[5]。

فَٱصۡبِرۡ لِحُكۡمِ رَبِّكَ وَلَا تَكُن كَصَاحِبِ
ٱلۡحُوتِ إِذۡ نَادَىٰ وَهُوَ مَكۡظُومٞ ٤٨

49. もし、（彼の悔悟が受け入れられることにより[6]、）彼の主*からのご慈悲が彼に降りかからなければ、彼は謗られつつ、不毛の地に放り去られたであろう。

لَّوۡلَآ أَن تَدَٰرَكَهُۥ نِعۡمَةٞ مِّن رَّبِّهِۦ لَنُبِذَ بِٱلۡعَرَآءِ
وَهُوَ مَذۡمُومٞ ٤٩

---

1 彼らに猶予を与えておくことにおける、アッラー*の「策略」については、イムラーン家章178を参照。

2 この「見返りの要求」については、家畜章90の訳注を参照。

3 この背景にあることについては、山章41の訳注を参照。

4 「書き記している」については、山章41の訳注を参照。

5 ユーヌス*が「大魚の人」と呼ばれる由来については、預言者*たち章87「ズン＝ヌーン」の訳注を参照。また、この話の背景にある出来事については、同章とその訳注、及び整列者章139-148を参照。

6 この時の様子と悔悟の言葉については、預言者たち章87を参照。

50. だが、かれの主*は彼を選び抜かれ、彼を正しい者*たちの一人とされた。

فَٱجۡتَبَٰهُ رَبُّهُۥ فَجَعَلَهُۥ مِنَ ٱلصَّٰلِحِينَ ٥٠

51. （使徒*よ、）不信仰に陥った者*たちは教訓（クルアーン*）を耳にした時、その視線によって、あなたを今にも躓かせんばかりである[1]。そして彼らは、言うのだ。「本当に彼（ムハンマド*）は、まさに憑かれた者[2]である」。

وَإِن يَكَادُ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ لَيُزۡلِقُونَكَ بِأَبۡصَٰرِهِمۡ لَمَّا سَمِعُواْ ٱلذِّكۡرَ وَيَقُولُونَ إِنَّهُۥ لَمَجۡنُونٞ ٥١

52. それは全世界への教訓に、外ならないというのに。

وَمَا هُوَ إِلَّا ذِكۡرٞ لِّلۡعَٰلَمِينَ ٥٢

1 つまり、「アイン（邪視）を及ぼす」という意味（ムヤッサル 566 頁参照）。ほかにも「滅ぼす」「視線で射抜く」「（アッラー*から授かった地位から）退（しりぞ）かせる」「（イスラーム*の教えを伝達するという任務から）逸らせる」というような解釈があるが、アル＝クルトゥビー*によれば、これら全ての説は「アインを及ぼす」という意味から派生したもの（18:255-256 参照）。尚「アイン」とは、悪い性質を帯びた者から発される、嫉妬（しっと）が混じった羨望（せんぼう）の視線のことで、それによって視線の対象が害を被（こうむ）る類いのもの（クウェイト法学大全 31:119-120 参照）。

2 「憑かれた者」については、アル＝ヒジュル章 6 の訳注を参照。

第69章 真実章（アル＝ハーッカ）[1]

سُورَةُ الحَاقَّةِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. 真実（である復活の日*）、

2. 真実（である復活の日*）とは何か？

3. （使徒*よ、）あなたに、真実（である復活の日*）が何かということを知らせるものは、何か？

4. サムード*とアード*は、（恐怖による）衝撃（である復活の日*）を嘘呼ばわりした。

5. それでサムード*はといえば、甚だしいものによって[2]滅ぼされた。

6. またアード*はといえば、凄まじい咆哮の暴風によって滅ぼされた。

7. かれ（アッラー*）はそれ（暴風）で彼らを、七晩と八昼に渡って続けざまに制圧した。あなたはその民がその（暴風の）中で、まるで空洞になったナツメヤシの木の根幹のようになぎ倒されているのを見る。

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

ٱلۡحَآقَّةُ ١

مَا ٱلۡحَآقَّةُ ٢

وَمَآ أَدۡرَىٰكَ مَا ٱلۡحَآقَّةُ ٣

كَذَّبَتۡ ثَمُودُ وَعَادُۢ بِٱلۡقَارِعَةِ ٤

فَأَمَّا ثَمُودُ فَأُهۡلِكُواْ بِٱلطَّاغِيَةِ ٥

وَأَمَّا عَادٞ فَأُهۡلِكُواْ بِرِيحٖ صَرۡصَرٍ عَاتِيَةٖ ٦

سَخَّرَهَا عَلَيۡهِمۡ سَبۡعَ لَيَالٖ وَثَمَٰنِيَةَ أَيَّامٍ حُسُومٗاۖ فَتَرَى
ٱلۡقَوۡمَ فِيهَا صَرۡعَىٰ كَأَنَّهُمۡ أَعۡجَازُ نَخۡلٍ خَاوِيَةٖ ٧

---

1 マッカ*啓示。復活の日*の到来を示す、冒頭の「真実」という言葉がスーラ*名ともなっている通り、前半部分では復活の日*の到来の確証、その恐怖、それを嘘とした過去の不信仰者*たちへの罰が、同時代の不信仰者*への警告と共に提示される。また中盤では、復活の日*の到来に伴って起こる諸々の出来事や、清算と報（むく）い、そこにおける信仰者と不信仰者*の描写が描かれる。後半では、クルアーン*と預言者*ムハンマド*の使徒*性が確証されると共に、それらを信じない者に厳しい警告が投げかけられ、アッラーへの崇拝*の命令によって締めくくられる。

2 この「甚だしいものによって」には、「（轟きの）一声によって」「罪ゆえに」「雌ラクダを屠（ほふ）った者（高壁章 77 とその訳注を参照）ゆえに」といった解釈がある（イブン・カスィール 8:208 参照）。尚、サムード*に下された懲罰の詳細については、頻出名・用語解説の「サムード*」の項を参照。

8. あなたは彼らの内、一人でも（その懲罰から生き）残った者を見出すのか？

فَهَلْ تَرَىٰ لَهُم مِّنۢ بَاقِيَةٍ ٨

9. また、フィルアウン*とそれ以前の（不信仰）者*、転覆した町々[1]は、罪[2]を犯した。

وَجَآءَ فِرْعَوْنُ وَمَن قَبْلَهُۥ وَٱلْمُؤْتَفِكَٰتُ بِٱلْخَاطِئَةِ ٩

10. 彼らは自分たちの主*の使徒*に逆らった。それで、かれ（アッラー*）は途轍もない罰で彼らを罰した。

فَعَصَوْا۟ رَسُولَ رَبِّهِمْ فَأَخَذَهُمْ أَخْذَةً رَّابِيَةً ١٠

11. 本当にわれら*は、（洪水で）水が溢れた時、あなた方（の先祖であるヌーフ*と、彼と共にあった者たち）を、走るもの（船）に乗せて運んだ。[3]

إِنَّا لَمَّا طَغَا ٱلْمَآءُ حَمَلْنَٰكُمْ فِى ٱلْجَارِيَةِ ١١

12. （それは、）われら*がそれ[4]をあなた方への教訓とし、分別ある耳がそれを分別（し、記憶）するためである。

لِنَجْعَلَهَا لَكُمْ تَذْكِرَةً وَتَعِيَهَآ أُذُنٌ وَٰعِيَةٌ ١٢

13. 角笛に一吹き、吹き込まれ、[5]

فَإِذَا نُفِخَ فِى ٱلصُّورِ نَفْخَةٌ وَٰحِدَةٌ ١٣

14. 大地と山々が（元の場所から）運ばれ、それらが一撃のもと粉々にされる時、[6]

وَحُمِلَتِ ٱلْأَرْضُ وَٱلْجِبَالُ فَدُكَّتَا دَكَّةً وَٰحِدَةً ١٤

15. その日、（復活の日*という）出来事は起こる。

فَيَوْمَئِذٍ وَقَعَتِ ٱلْوَاقِعَةُ ١٥

16. また天は裂け、それはその日脆くなる。

وَٱنشَقَّتِ ٱلسَّمَآءُ فَهِىَ يَوْمَئِذٍ وَاهِيَةٌ ١٦

---

1 「転覆した町々」については、悔悟章 70 の訳注を参照。それが滅ぼされた時の様子については、フード*章 82-83、アル＝ヒジュル章 73-74 を参照。

2 この「罪」は、不信仰、シルク*、醜行などのこと（ムヤッサル 567 頁参照）。

3 この出来事の描写は、フード*章 40-48 に詳しい。

4 「それ」とは、信仰者が救われ、不信仰者*は溺（おぼ）れ死んだという、その出来事のことを指す（前掲書、同頁参照）。

5 これは、一回目の吹き込みのこと（前掲書、同頁参照）。家畜章 73 の訳注も参照。

6 復活の日*の天変地異の様子については洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、山章 9-10、出来事章 5ー6、衣を纏（まと）う者章 14、階段章 8-9、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 なども参照。

17. そして天使*は（天の）その方々にあり、八名（の天使*）がその日、あなたの主*の御座[1]をその上に担ぐ。[2]

وَٱلۡمَلَكُ عَلَىٰٓ أَرۡجَآئِهَاۚ وَيَحۡمِلُ عَرۡشَ رَبِّكَ فَوۡقَهُمۡ
يَوۡمَئِذٖ ثَمَٰنِيَةٞ ١٧

18. （人々よ、）その日、あなた方は（清算と報いへと）差し出されるのだ。あなた方のいかなる秘め事も、（アッラー*から）隠しおおせはしない。

يَوۡمَئِذٖ تُعۡرَضُونَ لَا تَخۡفَىٰ مِنكُمۡ خَافِيَةٞ ١٨

19. 自分の（行いの）帳簿を右手に渡された者はといえば、（嬉々として、こう）言う。「お取り下さい、我が帳簿をお読み下さい。[3]

فَأَمَّا مَنۡ أُوتِيَ كِتَٰبَهُۥ بِيَمِينِهِۦ فَيَقُولُ هَآؤُمُ ٱقۡرَءُواْ
كِتَٰبِيَهۡ ١٩

20. 私は、我が清算と面会することを、（現世で）確信していたのですから」。

إِنِّي ظَنَنتُ أَنِّي مُلَٰقٍ حِسَابِيَهۡ ٢٠

21. 彼は、満足する生活の中にある、

فَهُوَ فِي عِيشَةٖ رَّاضِيَةٖ ٢١

22. 高き楽園の中。

فِي جَنَّةٍ عَالِيَةٖ ٢٢

23. その果実の房は、手近にある。

قُطُوفُهَا دَانِيَةٞ ٢٣

24. （彼らには、こう言われる。）「過ぎ去った（現世での）日々において、あなた方が既に行った（正しい）ことゆえ、おいしく食べ、飲むがよい」。

كُلُواْ وَٱشۡرَبُواْ هَنِيٓـَٔۢا بِمَآ أَسۡلَفۡتُمۡ فِي ٱلۡأَيَّامِ
ٱلۡخَالِيَةِ ٢٤

25. そして、自分の（行いの）帳簿を左手に渡された者[4]はといえば、（悔しがって、こう）言う。「我が帳簿など渡されることがなかったら、よかったのに。

وَأَمَّا مَنۡ أُوتِيَ كِتَٰبَهُۥ بِشِمَالِهِۦ فَيَقُولُ يَٰلَيۡتَنِي لَمۡ
أُوتَ كِتَٰبِيَهۡ ٢٥

---

1 「御座」については、高壁章 54 の訳注を参照。

2 同様の状況を示すアーヤ*として、雌牛章 210 とその訳注、識別章 25、暁章 22 も参照。

3 高壁章 8 の訳注も参照。また、この時の様子については夜の旅章 13-14、71 とその訳注、洞窟章 49、割れる章 7 以降なども参照。

4 割れる章 10 と、その訳注も参照。

26. 我が清算など、知らなければよかった。

27. あれが終結であれば、よかったのに。[1]

28. 我が財産は、私の役に立たなかった。

29. （言い訳に出来る）我が根拠[2]は、私から消え失せてしまったのだ」。

30. （地獄の番人たちに、こう言われる。）「彼を捕まえ、（枷で）縛りつけよ。

31. それから彼を地獄に入れて、炙ってやれ。

32. それから、七十腕尺[3]の長さの鎖の中に、彼を巻き入れよ。

33. 本当に彼は、この上なく偉大な*アッラー*を信じておらず、

34. 貧者*たちに食べ物を施すことを、勧めてもいなかったのだから。

35. ゆえにこの日、彼にはそこで（懲罰から守ってくれる）、近しい者もいなければ、

36. （地獄の徒の体から出る）膿[4]くらいしか、食べ物もない。

37. それを食べるのは、（不信仰による）罪深い者たちのみである」。

وَلَمْ أَدْرِ مَا حِسَابِيَهْ ٢٦

يَٰلَيْتَهَا كَانَتِ ٱلْقَاضِيَةَ ٢٧

مَآ أَغْنَىٰ عَنِّى مَالِيَهْ ۜ ٢٨

هَلَكَ عَنِّى سُلْطَٰنِيَهْ ٢٩

خُذُوهُ فَغُلُّوهُ ٣٠

ثُمَّ ٱلْجَحِيمَ صَلُّوهُ ٣١

ثُمَّ فِى سِلْسِلَةٍ ذَرْعُهَا سَبْعُونَ ذِرَاعًا فَٱسْلُكُوهُ ٣٢

إِنَّهُۥ كَانَ لَا يُؤْمِنُ بِٱللَّهِ ٱلْعَظِيمِ ٣٣

وَلَا يَحُضُّ عَلَىٰ طَعَامِ ٱلْمِسْكِينِ ٣٤

فَلَيْسَ لَهُ ٱلْيَوْمَ هَٰهُنَا حَمِيمٌ ٣٥

وَلَا طَعَامٌ إِلَّا مِنْ غِسْلِينٍ ٣٦

لَّا يَأْكُلُهُۥٓ إِلَّا ٱلْخَٰطِـُٔونَ ٣٧

1 つまり復活などなく、現世での死で全てが終わっていればよかったのに、ということ（ムヤッサル 567 頁参照）。

2 「根拠」ではなく、「王権、力」といった少数派の見解もある（アル＝バガウィー5:148参照）。

3 アル＝ハサン*は言った。「それがいかなる（基準による）腕尺かは、アッラー*が最もよくご存知である」（前掲書、同頁参照）。

4 この「膿（ギスリーン）」には、「地獄の徒が食べる木」「地獄の徒の血肉」「ザックームの木（夜の旅章 60「呪われた木」の訳注を参照）」といった解釈もある（アル＝クルトゥビー18:273 参照）。

38. われはまさに、あなた方が見えるものにおいて、誓う。[1]

فَلَآ أُقۡسِمُ بِمَا تُبۡصِرُونَ ٣٨

39. また、あなた方が見えないものにおいて（、誓う）。

وَمَا لَا تُبۡصِرُونَ ٣٩

40. 本当にそれ（クルアーン*）は、まさしく高貴なる使徒*の（読誦する、アッラー*の）言葉。

إِنَّهُۥ لَقَوۡلُ رَسُولٖ كَرِيمٖ ٤٠

41. そしてそれは、詩人の言葉などではない。あなた方が信じることの、少ないことよ。

وَمَا هُوَ بِقَوۡلِ شَاعِرٖۚ قَلِيلٗا مَّا تُؤۡمِنُونَ ٤١

42. また、占い師[2]の言葉でもない。あなた方が教訓を受けることの、少ないことよ。

وَلَا بِقَوۡلِ كَاهِنٖۚ قَلِيلٗا مَّا تَذَكَّرُونَ ٤٢

43. （クルアーン*は、）全創造物の主*アッラー*からの、降示なのである。

تَنزِيلٞ مِّن رَّبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٤٣

44. もし、彼（ムハンマド*）がわれら*に対し、いくらかでも（われら*が言っていない）言葉を捏造したのであれば、

وَلَوۡ تَقَوَّلَ عَلَيۡنَا بَعۡضَ ٱلۡأَقَاوِيلِ ٤٤

45. われら*は彼を右手[3]で罰し、

لَأَخَذۡنَا مِنۡهُ بِٱلۡيَمِينِ ٤٥

46. それから、彼の大動脈を断ち切ってしまっただろう。[4]

ثُمَّ لَقَطَعۡنَا مِنۡهُ ٱلۡوَتِينَ ٤٦

47. そして、あなた方の内の誰も、彼を（われら*の懲罰から）遮る者はないのである。

فَمَا مِنكُم مِّنۡ أَحَدٍ عَنۡهُ حَٰجِزِينَ ٤٧

48. また、本当にそれ（クルアーン*）は、敬虔な*者たちへの教訓である。

وَإِنَّهُۥ لَتَذۡكِرَةٞ لِّلۡمُتَّقِينَ ٤٨

1 この誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

2 「占い師」については、山章 29 の訳注を参照。

3 この「右手」とは、力強さのことを表わす（ムヤッサル 568 頁参照）。

4 同様のアーヤ*として、相談章 24 とその訳注も参照。

49. そして実にわれら*は、あなた方の内に（それを）嘘呼ばわりする者たちがいることを、まさしく知っている。 وَإِنَّا لَنَعۡلَمُ أَنَّ مِنكُم مُّكَذِّبِينَ ٤٩

50. また、本当にそれは、まさに不信仰者*たちへの悲痛[1]である。 وَإِنَّهُۥ لَحَسۡرَةٌ عَلَى ٱلۡكَٰفِرِينَ ٥٠

51. そして本当にそれは、確固たる真実なのだ。 وَإِنَّهُۥ لَحَقُّ ٱلۡيَقِينِ ٥١

52. ならばこの上なく偉大な*、あなたの主*の御名で（アッラー*を）称え*よ。[2] فَسَبِّحۡ بِٱسۡمِ رَبِّكَ ٱلۡعَظِيمِ ٥٢

---

1 不信仰者*たちは、自分たちがクルアーン*によって約束されていたもの（罰）を目にする時、それによって導かれず、それに従いもしなかったことゆえに褒美（ほうび）を貰い損ね、現世に戻る機会も失ったことを知り、「悲痛」の念にとらわれる（アッ＝サアディー884頁参照）。

2 アッラー*を唱念し、人々をかれとその教えへと招き続けよ、あなたと信仰者たちにこそ、よき結末が待っているのだ、という意味（アル＝カースィミー16:5922参照）。

第70章

階段章（アル＝マアーリジュ）[1]

سُورَةُ المَعَارِج

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 請う者が、（自分と自分の民に、復活の日*に）起こるべき懲罰（が下されること）を請うた。[2]

سَأَلَ سَآئِلُۢ بِعَذَابٖ وَاقِعٖ ١

2. 不信仰者*たちには、それを防いでくれる者など、いない。

لِّلۡكَٰفِرِينَ لَيۡسَ لَهُۥ دَافِعٞ ٢

3. 階段の主[3]であられるアッラー*から（、それを防いでくれる者など）。

مِّنَ ٱللَّهِ ذِي ٱلۡمَعَارِجِ ٣

4. 天使*たちと魂[4]は、その長さが五万年もの日、かれの御許へと昇っていく[5]。

تَعۡرُجُ ٱلۡمَلَٰٓئِكَةُ وَٱلرُّوحُ إِلَيۡهِ فِي يَوۡمٖ كَانَ
مِقۡدَارُهُۥ خَمۡسِينَ أَلۡفَ سَنَةٖ ٤

5. ならば（使徒*よ、彼らの嘲笑と挑発に）、よき忍耐[6]で忍耐*せよ。

فَٱصۡبِرۡ صَبۡرٗا جَمِيلًا ٥

6. 本当に彼ら（不信仰者*）は、それ（懲罰）があり得ないと思っている。

إِنَّهُمۡ يَرَوۡنَهُۥ بَعِيدٗا ٦

---

1 マッカ*啓示。スーラ*名は、アッラー*の御名「階段の主（アーヤ*4参照）」に由来。前半では、復活の日*の到来の確証と、その恐怖の描写、それを否定し嘲笑する不信仰者*たちへの警告が提示される。そして中盤では、それと対比するように信仰者の特質が描かれ、最後は再び復活の確証と、その日に関する不信仰者*たちへの警告によって幕を閉じる。

2 これは、懲罰を早く下してみよ、という不信仰者*の挑発的な言葉とされる（アル＝バガウィー5:151参照）。家畜章57-58、戦利品*章32、ユーヌス*章50、フード*章8、雷鳴章6、夜の旅章92、巡礼*章47、蜘蛛章53、サード章16、相談章18も参照。

3 天使*が天へと昇って行く「『階段』の主」のほかにも、「高さの極みと、位階、徳、恩恵を備えたお方」「偉大さと至高性の主」といった解釈がある（アル＝クルトゥビー18:281参照）。

4 この「魂」には、「ジブリール*」「人間の魂」といった解釈がある（イブン・カスィール8:220参照）。

5 これは一説に「復活の日*」の事。また一説には「地上からアッラー*の御座（高壁章54とその訳注も参照）までの階段を、彼ら以外であれば五万年かかるところを、一日で昇る」事を指す（イブン・アル＝ジャウズィー8:359-360参照）。

6 「よき忍耐*」については、ユースフ*章18の訳注を参照。

7. そしてわれら*は、それが近い（日に、確実に到来する）ものと見る。

وَنَرَىٰهُ قَرِيبٗا ٧

8. 天が、溶けた鉛のようになる日。

يَوۡمَ تَكُونُ ٱلسَّمَآءُ كَٱلۡمُهۡلِ ٨

9. また山々が、（解されて散り散りになった、）染められた羊毛のようになる日。[1]

وَتَكُونُ ٱلۡجِبَالُ كَٱلۡعِهۡنِ ٩

10. 近しい者が、近しい者について尋ねることもない。[2]

وَلَا يَسۡـَٔلُ حَمِيمٌ حَمِيمٗا ١٠

11. 彼らには、彼ら[3]が見える。（不信仰だった）罪悪者は、自分の子供たちで、その日の懲罰を償えれば、と望む。

يُبَصَّرُونَهُمۡۚ يَوَدُّ ٱلۡمُجۡرِمُ لَوۡ يَفۡتَدِي مِنۡ عَذَابِ يَوۡمِئِذِۭ بِبَنِيهِ ١١

12. また自分の配偶者、兄弟、

وَصَٰحِبَتِهِۦ وَأَخِيهِ ١٢

13. 自分を匿ってくれる近親、

وَفَصِيلَتِهِ ٱلَّتِي تُـٔۡوِيهِ ١٣

14. そして地上の全ての者（によって自らの懲罰を償うこと）で、（その代償が）自分を救ってくれることを（望む）。

وَمَن فِي ٱلۡأَرۡضِ جَمِيعٗا ثُمَّ يُنجِيهِ ١٤

15. 断じて（、そんなことは役に立た）ない！実にそれ（地獄）は燃え盛るもの。

كَلَّآۖ إِنَّهَا لَظَىٰ ١٥

16. （それは、）身体の各部[4]をもぎ取る。

نَزَّاعَةٗ لِّلشَّوَىٰ ١٦

---

1 復活の日*の天変地異の様子については、洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、山章 9-10、出来事章 5ー6、衣を纏（まと）う者章 14、真実章 14-16、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 も参照。

2 この解釈には、「人はその日、近しい者からの援助を請うことはない。なぜなら彼が何も出来ないことを、知っているからである」「誰しもが自分のことで頭が一杯なため、他人のことを尋ねる余裕もない」といった説がある（イブン・ジュザイ 2:486 参照）。

3 二つの「彼ら」については、「いずれも、近しい者たち」「信仰者たちが、地獄にいる不信仰者たちを見せられる」「いずれも不信仰者*だが、前者は追従者たち、後者は指導者たち」「前者は天使*たち、後者は人々」といった説がある（アル＝クルトゥビー 18:285-286 参照）。

4 「身体の各部」の解釈には、ほかにも「頭皮」「骨以外の肉」「顔の重要な部分」といった諸説がある（アル＝バガウィー5:153 参照）。

17. それは、招くのである。（現世で真理に）背を向け、（アッラー*とその使徒*への服従から）背き去り、

تَدۡعُواْ مَنۡ أَدۡبَرَ وَتَوَلَّىٰ ١٧

18. （財産を）かき集めては、（そこにおけるアッラー*への義務も果たすことなく、）貯めこんだ者を。

وَجَمَعَ فَأَوۡعَىٰٓ ١٨

19. 本当に人間は、せっかちに創られた。

۞إِنَّ ٱلۡإِنسَٰنَ خُلِقَ هَلُوعًا ١٩

20. 悪が自分に降りかかれば、ひどく取り乱し、

إِذَا مَسَّهُ ٱلشَّرُّ جَزُوعٗا ٢٠

21. 善が自分に降りかかれば、強欲になる。

وَإِذَا مَسَّهُ ٱلۡخَيۡرُ مَنُوعًا ٢١

22. 但し、礼拝する者たちは別だが。[1]

إِلَّا ٱلۡمُصَلِّينَ ٢٢

23. （彼らは、）自らの礼拝を常々（守りつつ、）行う者たち。

ٱلَّذِينَ هُمۡ عَلَىٰ صَلَاتِهِمۡ دَآئِمُونَ ٢٣

24. また、自らの財産の内に、（施しのための）一定の権利[2]がある者たち、

وَٱلَّذِينَ فِيٓ أَمۡوَٰلِهِمۡ حَقّٞ مَّعۡلُومٞ ٢٤

25. （人々に施しを）要求する者にも、（それを）禁じられた者[3]に対しても。

لِّلسَّآئِلِ وَٱلۡمَحۡرُومِ ٢٥

26. また、報いの日*を信じ（、正しい行い*によってそれに備え）る者たち。

وَٱلَّذِينَ يُصَدِّقُونَ بِيَوۡمِ ٱلدِّينِ ٢٦

27. また、自らの主*の懲罰に、怯える者たち。

وَٱلَّذِينَ هُم مِّنۡ عَذَابِ رَبِّهِم مُّشۡفِقُونَ ٢٧

28. ——本当に彼らの主*の懲罰は、（誰も）安心していられるものではないのだから——。

إِنَّ عَذَابَ رَبِّهِمۡ غَيۡرُ مَأۡمُونٖ ٢٨

29. また、自らの陰部を（禁じられた物事[4]から）守る者たち。

وَٱلَّذِينَ هُمۡ لِفُرُوجِهِمۡ حَٰفِظُونَ ٢٩

1 彼らは礼拝の遵守ゆえ、現世においては慎ましい人間となった者たちである。彼らは、現世での悪い出来事に取り乱すこともなく、善い物事に対して強欲になることもない（イブン・ジュザイ 2:486-487 参照）。

2 この「権利」については、撒き散らすもの章 19 の訳注を参照。

3 「禁じられた者」については、撒き散らすもの章 19 の訳注を参照。

4 この「禁じられた物事」については、御光章 30 の訳注を参照。

30. 但し、自分の妻たち、あるいは自分の右手が所有するもの（奴隷*女性）は別で、本当に彼ら（合法な物事だけを行う者たち）は咎められる者などではない。

إِلَّا عَلَىٰٓ أَزۡوَٰجِهِمۡ أَوۡ مَا مَلَكَتۡ أَيۡمَٰنُهُمۡ فَإِنَّهُمۡ
غَيۡرُ مَلُومِينَ ٣٠

31. 誰であろうとそれ以上を欲する者、それらの者たちこそは（アッラー*の法の）違反者なのだ。

فَمَنِ ٱبۡتَغَىٰ وَرَآءَ ذَٰلِكَ فَأُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡعَادُونَ ٣١

32. また、自らの信託と契約を厳守する[1]者たち。

وَٱلَّذِينَ هُمۡ لِأَمَٰنَٰتِهِمۡ وَعَهۡدِهِمۡ رَٰعُونَ ٣٢

33. また、自らの証言を（改変も隠蔽もなく）遂行する者たち。

وَٱلَّذِينَ هُم بِشَهَٰدَٰتِهِمۡ قَآئِمُونَ ٣٣

34. また、自分たちの礼拝を固守する者たち。

وَٱلَّذِينَ هُمۡ عَلَىٰ صَلَاتِهِمۡ يُحَافِظُونَ ٣٤

35. それらの者たちは天国で、厚遇される者たちである。

أُوْلَٰٓئِكَ فِي جَنَّٰتٖ مُّكۡرَمُونَ ٣٥

36. （使徒*よ、）不信仰に陥った者*たちが、あなたに向かってあたふたとやって来るのは、どうしたことか？[2]

فَمَالِ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ قِبَلَكَ مُهۡطِعِينَ ٣٦

37. 右から左から、三々五々に？

عَنِ ٱلۡيَمِينِ وَعَنِ ٱلشِّمَالِ عِزِينَ ٣٧

38. 一体、彼ら（不信仰者*たち）の内のいずれの者も、安寧の楽園に入れられることを所望しているというのか？[3]

أَيَطۡمَعُ كُلُّ ٱمۡرِيٕٖ مِّنۡهُمۡ أَن يُدۡخَلَ جَنَّةَ نَعِيمٖ ٣٨

---

1 同様のアーヤ*である、信仰者たち章 8 の訳注も参照。

2 一説にこのアーヤ*は、預言者*の言葉を聞き、嘲笑（ちょうしょう）し、嘘呼ばわりするため、彼のもとに集まって来た不信仰者*たちの集団に関して下った（アル＝バガウィー 5:154 参照）。

3 彼らは、「彼ら（ムスリム*たち）が天国に入るのであれば、必ずや私たちこそが、彼らよりも先にそこに入るであろう。そして彼らがそこから何か授かるのなら、必ずや私たちこそが、それより多くのものを授かるだろう」などと言ったものだった（アル＝クルトゥビー18:294 参照）。

39. 断じて（、そんなことは絶対にあり得）ない！　本当にわれら*は彼らが知っているもの[1]から、彼らを創ったのだから。

كَلَّآ إِنَّا خَلَقْنَٰهُم مِّمَّا يَعْلَمُونَ ٣٩

40. われはまさに、いくつもの東と、いくつもの西[2]において誓う[3]。本当にわれら*はまさしく、可能な者なのである、

فَلَآ أُقْسِمُ بِرَبِّ ٱلْمَشَٰرِقِ وَٱلْمَغَٰرِبِ إِنَّا لَقَٰدِرُونَ ٤٠

41. 彼らよりも（アッラー*に服従する）善い者たちを、（彼らの）代わりとすることが。そしてわれらは、出し抜かれる者などではない。

عَلَىٰٓ أَن نُّبَدِّلَ خَيْرًا مِّنْهُمْ وَمَا نَحْنُ
بِمَسْبُوقِينَ ٤١

42. ならば（使徒*よ）、彼らを放っておけ。彼らは、自分たちが（懲罰[4]を）約束されている日に遭遇するまで、（虚妄の中に）のめり込み、（宗教において）戯れるであろう。

فَذَرْهُمْ يَخُوضُوا۟ وَيَلْعَبُوا۟ حَتَّىٰ يُلَٰقُوا۟ يَوْمَهُمُ
ٱلَّذِى يُوعَدُونَ ٤٢

43. まるで（アッラー*を差しおいて崇めるために）立てられたもの[5]へと急ぐように、彼らが墓場から慌てて出て来る日に（遭遇するまで）。

يَوْمَ يَخْرُجُونَ مِنَ ٱلْأَجْدَاثِ سِرَاعًا كَأَنَّهُمْ إِلَىٰ
نُصُبٍ يُوفِضُونَ ٤٣

44. 怖気づいた目をし、屈辱が彼らを覆う。それが（現世で）、彼らに約束されていた日なのである。

خَٰشِعَةً أَبْصَٰرُهُمْ تَرْهَقُهُمْ ذِلَّةٌ ۚ ذَٰلِكَ ٱلْيَوْمُ ٱلَّذِى
كَانُوا۟ يُوعَدُونَ ٤٤

1 彼ら以外の者たちと同じ、しがない一滴の精液から創られたのだから、天国に入るに値するほど高貴な存在だなどと考えるのではない、ということ（ムヤッサル 569 頁参照）。

2 ここでの「いくつもの東」と「いくつもの西」は、同年において毎日異なる、太陽の昇る地点と沈む地点のこととされる（アル＝バガウィー4:26 参照）。

3 この誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

4 この「懲罰」については、金の装飾章 83 の訳注を参照。

5 この「立てられたもの」については、食卓章 3 の訳注を参照。

第 71 章
ヌーフ*章[1]

سُورَةُ نُوحٍ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 本当にわれら*は、ヌーフ*をその民に遣わし（て言っ）た。「あなたの民に警告せよ。彼らに、（その不信仰ゆえの）痛ましい懲罰が到来する前に」。

إِنَّآ أَرۡسَلۡنَا نُوحًا إِلَىٰ قَوۡمِهِۦٓ أَنۡ أَنذِرۡ قَوۡمَكَ مِن
قَبۡلِ أَن يَأۡتِيَهُمۡ عَذَابٌ أَلِيمٞ ١

2. 彼（ヌーフ*）は言った。「我が民よ、本当に私は、あなた方への明白なる警告者[2]なのだ。

قَالَ يَٰقَوۡمِ إِنِّي لَكُمۡ نَذِيرٞ مُّبِينٌ ٢

3. アッラー*（だけ）を崇拝*し、かれを畏れ*、私に従え。

أَنِ ٱعۡبُدُواْ ٱللَّهَ وَٱتَّقُوهُ وَأَطِيعُونِ ٣

4. （そうすれば、）かれはあなた方に、あなた方の罪をお赦し下さり、（罰することなく、）あなた方に定められた期限[3]までの猶予を与えて下さろう。本当に、アッラー*の期限が到来したら、それは（絶対に）猶予されることがないのだ。あなた方が（そのことを）知っていたのなら（、かれへの信仰と服従へと急いだであろうに）」。

يَغۡفِرۡ لَكُم مِّن ذُنُوبِكُمۡ وَيُؤَخِّرۡكُمۡ إِلَىٰٓ أَجَلٖ
مُّسَمًّىۚ إِنَّ أَجَلَ ٱللَّهِ إِذَا جَآءَ لَا يُؤَخَّرُۚ لَوۡ كُنتُمۡ
تَعۡلَمُونَ ٤

5. 彼（ヌーフ*）は言った。「我が主*よ、本当に私は我が民を、夜に昼に、（あなたへの信仰へと）招きました。

قَالَ رَبِّ إِنِّي دَعَوۡتُ قَوۡمِي لَيۡلٗا وَنَهَارٗا ٥

6. そして（彼らに対する）私の招きは、彼らの逃亡に拍車をかけただけでした。

فَلَمۡ يَزِدۡهُمۡ دُعَآءِيٓ إِلَّا فِرَارٗا ٦

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称ともなっているように、預言者*ヌーフ*とその民への熱心な布教、警告、祈願についての詳細が取り上げられている。

2 アッラー*に逆らえば、かれの懲罰があなた方に降りかかる、と「警告」する者（ムヤッサル 570 頁参照）。

3 アッラー*がお決めになった、現世での滞在「期限」のこと（アッ＝サァディー888 頁参照）。

7. また本当に、あなたが彼ら（の罪）をお赦し下さるよう、私が彼らを（あなたへの信仰へと）招くたび、彼らは（それを聞くまいとして）その指を自分たちの耳にあて、（私を見まいとして）衣服で身を覆い、（信仰を受け入れることに対して）ひどく驕り高ぶりました。

وَإِنِّي كُلَّمَا دَعَوۡتُهُمۡ لِتَغۡفِرَ لَهُمۡ جَعَلُوٓاْ
أَصَٰبِعَهُمۡ فِيٓ ءَاذَانِهِمۡ وَٱسۡتَغۡشَوۡاْ ثِيَابَهُمۡ
وَأَصَرُّواْ وَٱسۡتَكۡبَرُواْ ٱسۡتِكۡبَارٗا ٧

8. それから本当に私は、彼らを大っぴらに（信仰へと）招き、

ثُمَّ إِنِّي دَعَوۡتُهُمۡ جِهَارٗا ٨

9. それから本当に私は、（ある時は）彼らに対して（布教を）公然と行い、（またある時には）彼らに対して（布教を）そっと内密に行いました。

ثُمَّ إِنِّيٓ أَعۡلَنتُ لَهُمۡ وَأَسۡرَرۡتُ لَهُمۡ إِسۡرَارٗا ٩

10. また、私は（民に）言いました。『あなた方の主*に、（罪の）赦しを乞い（、不信仰から悔悟し）なさい。本当にかれは、赦し深いお方なのだから。

فَقُلۡتُ ٱسۡتَغۡفِرُواْ رَبَّكُمۡ إِنَّهُۥ كَانَ غَفَّارٗا ١٠

11. （そうすれば、）かれは、あなた方の上に豊かな雨をお送りになり、

يُرۡسِلِ ٱلسَّمَآءَ عَلَيۡكُم مِّدۡرَارٗا ١١

12. あなた方に財産と子供を増やされ、あなた方のために農園を創られ、あなた方のために河川をお創りになろう。

وَيُمۡدِدۡكُم بِأَمۡوَٰلٖ وَبَنِينَ وَيَجۡعَل لَّكُمۡ جَنَّٰتٖ
وَيَجۡعَل لَّكُمۡ أَنۡهَٰرٗا ١٢

13. （民よ、）あなた方がアッラー*の偉大さを怖れないのは、どういうことか？[1]

مَّا لَكُمۡ لَا تَرۡجُونَ لِلَّهِ وَقَارٗا ١٣

14. かれは確かに、あなた方を段階的にお創りになった[2]というのに。

وَقَدۡ خَلَقَكُمۡ أَطۡوَارًا ١٤

---

1 「アッラー*に褒美を望まず、その懲罰を恐れないのか？」「アッラー*の偉大さを知らないのか？」「アッラー*に（信仰することによる善い）結末を望まないのか？」などといった解釈もある（アル＝クルトゥビー18:303 参照）。

2 関連して、巡礼*章 5、信仰者たち章 14 も参照。

15. 一体あなた方は、いかにしてアッラー*が、組み合わさった[1]七層の天をお創りになったのか、見なかったのか？

أَلَمْ تَرَوْا۟ كَيْفَ خَلَقَ ٱللَّهُ سَبْعَ سَمَٰوَٰتٍ طِبَاقًا ١٥

16. また、かれが月をそこにおける光とされ、太陽を煌々たる灯火とされたのを？

وَجَعَلَ ٱلْقَمَرَ فِيهِنَّ نُورًا وَجَعَلَ ٱلشَّمْسَ سِرَاجًا ١٦

17. アッラー*は、あなた方（の先祖アーダム*）を確かに大地から芽生え[2]させられ、

وَٱللَّهُ أَنۢبَتَكُم مِّنَ ٱلْأَرْضِ نَبَاتًا ١٧

18. それから、あなた方を（その死後に）そこへとお戻しになり、（復活の日*には）あなた方を必ずや（そこから）お出しになる。

ثُمَّ يُعِيدُكُمْ فِيهَا وَيُخْرِجُكُمْ إِخْرَاجًا ١٨

19. またアッラー*は、あなた方のために大地を敷物（のように平坦なもの）とされた。

وَٱللَّهُ جَعَلَ لَكُمُ ٱلْأَرْضَ بِسَاطًا ١٩

20. （それは、）あなた方がそこで、広々とした道々を進むためである」。

لِّتَسْلُكُوا۟ مِنْهَا سُبُلًا فِجَاجًا ٢٠

21. ヌーフ*は言った。「我が主*よ、本当に彼ら（民の内の弱者たち）は私に逆らい、その財産も子供も自らに損失しか上乗せしない者に従ってしまいました。[3]

قَالَ نُوحٌ رَّبِّ إِنَّهُمْ عَصَوْنِى وَٱتَّبَعُوا۟ مَن لَّمْ يَزِدْهُ مَالُهُۥ وَوَلَدُهُۥٓ إِلَّا خَسَارًا ٢١

22. 彼らは（弱者たちに対して、）途方もない策謀[4]を企んだのです。

وَمَكَرُوا۟ مَكْرًا كُبَّارًا ٢٢

1 「組み合わさった」については、王権章 3 の訳注を参照。

2 アーダム*が大地から出現し、そこから組成（そせい）されたことを強調すべく、「創造」が「芽生え」に譬（たと）えられている（アル＝バイダーウィー5:394 参照）。

3 つまり、彼らの内の弱い者たちは、財産や子供を沢山持っている、（正しい道から）迷った指導者たちに従ってしまった。そして彼らの財産も子供も、彼らには現世での迷いと、来世における懲罰を上乗せする原因でしかなかった（ムヤッサル 571 頁参照）。戦利品*章 28 の訳注も参照。

4 この「策謀」の解釈には、「ヌーフ*の殺害を促（うなが）したこと」「現世的な楽しみを誇大（こだい）視させたこと」「不信仰」「次のアーヤ*で言及されていること」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー18:307 参照）。

23. また、彼らは（弱者たちに）言いました。『あなた方は絶対に、（アッラー*だけを崇拝*することで、）あなた方の神々を捨て去ってはならないぞ。そして絶対に、ワッド、スワーウ、ヤグース、ヤウーク、ナスル[1]を捨て去ってはならない』。

وَقَالُوا۟ لَا تَذَرُنَّ ءَالِهَتَكُمْ وَلَا تَذَرُنَّ وَدًّا وَلَا
سُوَاعًا وَلَا يَغُوثَ وَيَعُوقَ وَنَسْرًا ٢٣

24. 彼らは確かに、多くの者たちを迷い去らせました」。（それから、ヌーフ*は言った。）「（我が主*よ、）不正*者たちには迷いの外、何も上乗せしないで下さい」。[2]

وَقَدْ أَضَلُّوا۟ كَثِيرًا ۖ وَلَا تَزِدِ ٱلظَّٰلِمِينَ إِلَّا
ضَلَٰلًا ٢٤

25. 彼らは（不信仰への固執という）その過ちゆえ、（洪水で）溺れさせられ[3]、業火に入れられた。そして彼らはアッラー*とは別の、自分たちのための援助者たちを見出すこともなかった。

مِّمَّا خَطِيٓـَٰٔتِهِمْ أُغْرِقُوا۟ فَأُدْخِلُوا۟ نَارًا فَلَمْ يَجِدُوا۟
لَهُم مِّن دُونِ ٱللَّهِ أَنصَارًا ٢٥

26. また、ヌーフ*は言った[4]。「我が主*よ、不信仰者*で動き回る者[5]は誰一人、地上に残しておかないで下さい。

وَقَالَ نُوحٌ رَّبِّ لَا تَذَرْ عَلَى ٱلْأَرْضِ مِنَ ٱلْكَٰفِرِينَ
دَيَّارًا ٢٦

27. 本当にもし、あなたが彼らを残しておかれるなら、彼らはあなたの（信仰者である）僕たちを迷わせ、彼らは放逸で不信仰の激しい者（となる子孫）しか生まないでしょうから。

إِنَّكَ إِن تَذَرْهُمْ يُضِلُّوا۟ عِبَادَكَ وَلَا يَلِدُوٓا۟
إِلَّا فَاجِرًا كَفَّارًا ٢٧

---

1 これらの名称はいずれも、彼らがアッラー*をよそに崇めていた偶像の名前。そもそもは正しい人物が死んだ後、人々が彼らを思い出して崇拝*行為に励むべく作った像だったが、時間の経過とシャイターン*の策略により、それら自体を崇めるようになってしまっていた（ムヤッサル 571 頁参照）。

2 ヌーフ*は、彼らがもう信じないことをアッラー*から知らされた後、この祈願の言葉を言った（アル＝バガウィー5:158 参照）。

3 この出来事の描写は、フード*章 40-48 に詳しい。

4 この言葉については、アーヤ*24 の訳注を参照。

5 あるいは「家に居住する者」という意味（前掲書、同頁参照）。

28. 我が主*よ、私と我が両親、信仰者として我が家に入った者[1]、信仰者の男たちと信仰者の女たちを、お赦し下さい。そして不正*者たちには、（現世と来世における）滅亡以外の何も上乗せしないで下さい」。

رَّبِّ ٱغۡفِرۡ لِي وَلِوَٰلِدَيَّ وَلِمَن دَخَلَ بَيۡتِيَ
مُؤۡمِنٗا وَلِلۡمُؤۡمِنِينَ وَٱلۡمُؤۡمِنَٰتِۖ وَلَا تَزِدِ
ٱلظَّٰلِمِينَ إِلَّا تَبَارَۢا ٢٨

1 ヌーフ*の両親は、信仰者だった。また「我が家」の解釈には、ほかにも「私のマスジド*」「私の船」といった諸説もある（アル＝クルトゥビー18:313-314 参照）。

第 72 章
ジン*章（アル＝ジン）[1]

سُورَةُ الجِنِّ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

1. （使徒*よ、）言え。「私には、啓示された。ジン*の集団が（、私のクルアーン*読誦に）耳を傾け、（自分たちの民に、こう）言ったということを。『本当に私たちは、驚くべき読み物[2]（クルアーン*）を聞いた。[3]

قُلْ أُوحِيَ إِلَيَّ أَنَّهُ اسْتَمَعَ نَفَرٌ مِّنَ الْجِنِّ فَقَالُوا إِنَّا سَمِعْنَا قُرْآنًا عَجَبًا ١

2. （それは）正しさへと導いてくれる。ゆえに私たちはそれを信じたのであり、我らが主*に何者も並べたりはしまい[4]』。

يَهْدِي إِلَى الرُّشْدِ فَآمَنَّا بِهِ ۖ وَلَن نُّشْرِكَ بِرَبِّنَا أَحَدًا ٢

3. また、――我らが主*の偉大さは、崇高である――、かれが配偶者も子供も、もうけられなかったということ。[5]

وَأَنَّهُ تَعَالَىٰ جَدُّ رَبِّنَا مَا اتَّخَذَ صَاحِبَةً وَلَا وَلَدًا ٣

4. また、私たちの内の愚か者[6]が、アッラー*に対して（真実から）逸脱したこと[7]を言っていたということ。

وَأَنَّهُ كَانَ يَقُولُ سَفِيهُنَا عَلَى اللَّهِ شَطَطًا ٤

---

1 マッカ*啓示。ジン*の言葉、性質、宗教、人間との関係などが多く取り上げられていることが、スーラ*名の由来。クルアーン*を聞いて信仰に入ったジン*の言葉を通して、アッラーの唯一性*、クルアーン*の真実性、預言者*ムハンマド*の使徒*性、復活などの基本的信仰が確証される。そしてそれは同時に、人間の内の不信仰者*への警告、信仰への呼びかけであり、預言者*への慰（なぐさ）めともなっている。

2 その修辞的秀越さ、雄弁さ、英知、法規定、情報において「驚くべき読み物」（ムヤッサル 572 頁参照）。

3 この出来事については、砂丘章 29 の訳注も参照。

4 つまり、アッラー*に対してシルク*を犯さない、ということ。

5 アーヤ*15 まで続く、このジン*の言葉の中の「…ということ」という名詞文は、アーヤ*2 の「…を信じた」にかかる、とされる（イブン・アーシュール 29:222 参照）。

6 この「愚か者」には、「イブリース*」「シルク*を犯すジン*」といった解釈がある（イブン・カスィール 8:239 参照）。

7 洞窟章 14 の同様の表現と、その訳注も参照。

5. また、私たちが人間もジン*も、アッラー*に対して嘘[1]などつかないだろう、と思っていたということ。

وَأَنَّا ظَنَنَّآ أَن لَّن تَقُولَ ٱلْإِنسُ وَٱلْجِنُّ عَلَى ٱللَّهِ
كَذِبًا ٥

6. また、人間の男たちがジン*の男たちに加護を乞い、それで彼ら（ジン*）が彼ら（人間）に恐怖[2]を上乗せしたということ。

وَأَنَّهُۥ كَانَ رِجَالٌ مِّنَ ٱلْإِنسِ يَعُوذُونَ بِرِجَالٍ مِّنَ
ٱلْجِنِّ فَزَادُوهُمْ رَهَقًا ٦

7. また（ジン*たちよ）、あなた方が考えていたように、アッラー*は誰も（死後に）蘇らせたりしないだろうと、彼ら（人間の不信仰者*たち）が考えていたということ。

وَأَنَّهُمْ ظَنُّوا۟ كَمَا ظَنَنتُمْ أَن لَّن يَبْعَثَ ٱللَّهُ أَحَدًا ٧

8. また、私たちが（天界の住民の話を聴こうとして）天を探ると、そこが（天使*による）厳しい警護と、流星に満ち溢れている[3]のを見出した、ということ。

وَأَنَّا لَمَسْنَا ٱلسَّمَآءَ فَوَجَدْنَٰهَا مُلِئَتْ
حَرَسًا شَدِيدًا وَشُهُبًا ٨

9. また、私たちが（以前、天界の話を）聴くために、その一部に居場所を構えていた、ということ。そして今、聞き耳を立てる者は誰でも、そこに護衛の流星を見出すのだ。

وَأَنَّا كُنَّا نَقْعُدُ مِنْهَا مَقَٰعِدَ لِلسَّمْعِ ۖ فَمَن
يَسْتَمِعِ ٱلْـَٔانَ يَجِدْ لَهُۥ شِهَابًا رَّصَدًا ٩

10. また、（この天界の変化によって）一体、地上の者に悪が望まれているのか、それとも彼らの主*が彼らに正しい導きをお望みなのか、私たちには分からないということ。[4]

وَأَنَّا لَا نَدْرِىٓ أَشَرٌّ أُرِيدَ بِمَن فِى ٱلْأَرْضِ أَمْ أَرَادَ
بِهِمْ رَبُّهُمْ رَشَدًا ١٠

---

1 アッラー*に配偶者や子供がいる、という「嘘」（ムヤッサル 572 頁参照）。

2 「恐怖（ラハク）」の解釈には、「罪」「不信仰」といった諸説もある（アル＝クルトゥビー19:10 参照）。

3 この「流星」については、アル＝ヒジュル章 17-18 とその訳注、詩人たち章 212、223、整列者章 6-10、王権章 5 も参照。

4 つまり、地上の者たちが預言者*ムハンマド*を信じて導かれるか、あるいは嘘つき呼ばわりして滅びるか、分からないということ（アル＝クルトゥビー19:14 参照）。あるいは、これは天の護衛が厳しくなったのを見出した時に、ジン*たちが互いに不思議がって言った言葉。その後、クルアーン*を聞いた時、彼らはその理由を知ったのだった（アッ＝シャンキーティー8:318 参照）。

11. また、私たちの内には正しい者*たちもいれば、そうでないのもいるということ。私たちは、ばらばらな道にあった。

وَأَنَّا مِنَّا ٱلصَّٰلِحُونَ وَمِنَّا دُونَ ذَٰلِكَ ۖ كُنَّا طَرَآئِقَ
قِدَدًا ١١

12. また、私たちが地上で、アッラー*（がお望みになったこと）から逃れることも（出来）なく、（天へと）逃亡してかれから逃れることも（出来）ないことを確信した、ということ。

وَأَنَّا ظَنَنَّآ أَن لَّن نُّعْجِزَ ٱللَّهَ فِى ٱلْأَرْضِ وَلَن
نُّعْجِزَهُۥ هَرَبًا ١٢

13. また、私たちが導き（クルアーン*）を聞いた時、それを信じた、ということ。自らの主*を信じる者は誰でも、いかなる（善行の）減損も、屈辱も、怖れることがないのだから。

وَأَنَّا لَمَّا سَمِعْنَا ٱلْهُدَىٰٓ ءَامَنَّا بِهِۦ ۖ فَمَن يُؤْمِنۢ
بِرَبِّهِۦ فَلَا يَخَافُ بَخْسًا وَلَا رَهَقًا ١٣

14. また、私たちの内には服従した者（ムスリム*）たちもいれば、（真理から外れた）不公正な者たちもいる、ということ。そして誰であろうと服従した者（ムスリム*）、それらの者たちは正しい導きを目指したのだ。

وَأَنَّا مِنَّا ٱلْمُسْلِمُونَ وَمِنَّا ٱلْقَٰسِطُونَ ۖ فَمَنْ
أَسْلَمَ فَأُو۟لَٰٓئِكَ تَحَرَّوْا۟ رَشَدًا ١٤

15. また、（真理から外れた）不公正な者たちはといえば、地獄の薪となった」。

وَأَمَّا ٱلْقَٰسِطُونَ فَكَانُوا۟ لِجَهَنَّمَ حَطَبًا ١٥

16. また、もし彼ら（不信仰者*の人間とジン*）が（、イスラーム*という）道をまっすぐ歩んだ[1]のなら、われら*が彼らに豊富な水を飲ませてやったのだ、ということ。[2]

وَأَلَّوِ ٱسْتَقَٰمُوا۟ عَلَى ٱلطَّرِيقَةِ لَأَسْقَيْنَٰهُم مَّآءً
غَدَقًا ١٦

17. （われら*の恩恵に感謝するかどうか、）彼らを試練にかけるべく。そして自らの主*の唱念[3]に背を向ける者があれば、かれ（アッラー*）はその者を険しい懲罰にお入れになろう。

لِّنَفْتِنَهُمْ فِيهِ ۚ وَمَن يُعْرِضْ عَن ذِكْرِ رَبِّهِۦ
يَسْلُكْهُ عَذَابًا صَعَدًا ١٧

---

1 この「まっすぐ歩くこと」に関しては、詳細にされた章 30 の訳注を参照。

2 このアーヤ*以降の「…ということ」は、アーヤ*1 に「…が、啓示された」という形でかかる、とされる（イブン・アーシュール 29:237 参照）。

3 この「唱念」には、アッラー*への服従、クルアーン*に耳を傾けること、その熟慮（じゅくりょ）、それに則（のっと）った行為などが含まれる（ムヤッサル 573 頁参照）。

18. また、マスジド*はアッラー*（だけを崇拝*するため）のもの、ということ。ならば、あなた方はアッラー*と並べて、何ものにも祈って（崇拝*して）はならない。[1]

وَأَنَّ ٱلْمَسَٰجِدَ لِلَّهِ فَلَا تَدْعُوا۟ مَعَ ٱللَّهِ أَحَدًا ١٨

19. また、アッラー*の僕（ムハンマド*）が、かれに祈って（崇拝*しつつ）立った時、彼ら（ジン*たち）は（クルアーン*を聴くために、）彼に一丸とな（って覆いかぶさ）らんばかりだったということ。[2]

وَأَنَّهُۥ لَمَّا قَامَ عَبْدُ ٱللَّهِ يَدْعُوهُ كَادُوا۟ يَكُونُونَ عَلَيْهِ لِبَدًا ١٩

20. （使徒*よ、不信仰者*たちに）言ってやれ。「私は我が主*（だけ）に祈願（しつつ崇拝*）するのであり、かれ（の崇拝*）に誰も並べたりはしない[3]」。

قُلْ إِنَّمَآ أَدْعُوا۟ رَبِّى وَلَآ أُشْرِكُ بِهِۦٓ أَحَدًا ٢٠

21. （使徒*よ、）言うのだ。「本当に私は、あなた方に対して、害悪も善も有してはいない」。

قُلْ إِنِّى لَآ أَمْلِكُ لَكُمْ ضَرًّا وَلَا رَشَدًا ٢١

22. （使徒*よ、）言え。「実に（もし私がアッラー*に逆らえば）、誰一人アッラー*（の懲罰）から私を守ってくれはしないし、また私がかれをよそに、（かれの懲罰からの）いかなる避難所も見出すこともない。

قُلْ إِنِّى لَن يُجِيرَنِى مِنَ ٱللَّهِ أَحَدٌ وَلَنْ أَجِدَ مِن دُونِهِۦ مُلْتَحَدًا ٢٢

23. ただ、アッラー*と、かれのお言伝からの伝達のみ（を、私は有しているのだ）。誰であろうと、アッラー*とその使徒*に逆らう

إِلَّا بَلَٰغًا مِّنَ ٱللَّهِ وَرِسَٰلَٰتِهِۦ ۚ وَمَن يَعْصِ ٱللَّهَ وَرَسُولَهُۥ فَإِنَّ لَهُۥ نَارَ جَهَنَّمَ خَٰلِدِينَ فِيهَآ أَبَدًا ٢٣

---

1 このアーヤ*については一説に、「啓典の民*は自分たちの教会に入るとシルク*を犯していたため、信仰者たちはマスジド*に入った時、彼らと同様にするのではない、という意味」「ここでの『マスジド*』は、あらゆる土地の意味」「この『マスジド*（語義的に「サジダ*する場所」）』とは、サジダ*する時に地面につける、身体の各箇所のこと」といった解釈がある（アル＝バガウィー5:162 参照）。

2 ほかにも、「これはジン*が、自分たちの民に伝えて言った言葉。この場合、彼に押し寄せて来たのは、彼と共に崇拝*行為に勤（いそ）しむことに熱心な教友*たち」「彼に押し寄せて来たのは、彼の布教を阻（はば）もうとする人間とジン*たち」といった解釈がある（イブン・カスィール 8:245 参照）。

3 つまり、シルク*を犯したりはしない、ということ。

者、実にその者には地獄があり、彼らはずっと永遠にそこに留まる。

24. やがて自分たちが約束されているもの（懲罰）を見る時、彼ら（シルク*の徒）は誰が援助者が弱く、（軍勢の）数が少ない者かを知ることになろう」。

حَتَّىٰٓ إِذَا رَأَوۡاْ مَا يُوعَدُونَ فَسَيَعۡلَمُونَ مَنۡ أَضۡعَفُ نَاصِرٗا وَأَقَلُّ عَدَدٗا ٢٤

25. （使徒*よ、彼らシルク*の徒に）言ってやれ。「私は、あなた方が約束されているもの（懲罰）が近いのか、それとも、我が主*がそこに（長い）期間を置かれるのか、分からない」。

قُلۡ إِنۡ أَدۡرِيٓ أَقَرِيبٞ مَّا تُوعَدُونَ أَمۡ يَجۡعَلُ لَهُۥ رَبِّيٓ أَمَدًا ٢٥

26. （アッラー*は、）不可視の世界*をご存知のお方であり、かれの不可視の世界を、誰にも露わにはされない。

عَٰلِمُ ٱلۡغَيۡبِ فَلَا يُظۡهِرُ عَلَىٰ غَيۡبِهِۦٓ أَحَدًا ٢٦

27. ただ、かれがご満悦になった使徒*である者は別（で、不可視の世界*の一部を、お教えになる）。というのも、本当にかれは彼の前と後ろから、（天使*の）護衛を遣わされる[1]のだから。

إِلَّا مَنِ ٱرۡتَضَىٰ مِن رَّسُولٖ فَإِنَّهُۥ يَسۡلُكُ مِنۢ بَيۡنِ يَدَيۡهِ وَمِنۡ خَلۡفِهِۦ رَصَدٗا ٢٧

28. （それは使徒が、）彼ら（過去の使徒*たち）[2]がその主*のお言伝を確かに伝達した、ということ、そして、かれ（アッラー*）が（その知識で、）彼らのもとにあるものを包囲され、全ての物事の数を数え上げられたということを知るためなのである。

لِّيَعۡلَمَ أَن قَدۡ أَبۡلَغُواْ رِسَٰلَٰتِ رَبِّهِمۡ وَأَحَاطَ بِمَا لَدَيۡهِمۡ وَأَحۡصَىٰ كُلَّ شَيۡءٍ عَدَدَۢا ٢٨

1 彼ら天使*たちは、使徒*をジン*から守り、天界からの情報が盗み聞きされないようにする（ムヤッサル 573 頁参照）。

2 「知る者」が「使徒*ムハンマド*」、「伝達した者たち」が「過去の使徒*たち」という解釈のほかにも、前者と後者がそれぞれ「使徒*ムハンマド*、ジブリール*とその仲間たち」「使徒*たち、天使*たち」「ある使徒*、自分以外の使徒*たち」「イブリース*、使徒*たち」「ジン*、使徒*たち」「使徒*たちを嘘つき呼ばわりした者たち、使徒*たち」「アッラー*、使徒*たち」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー19:30 参照）。

第73章
衣を纏う者章（アル＝ムッザンミル）[1]

سُورَةُ المُزَّمِّلِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 衣を纏う者[2]よ、

يَٰٓأَيُّهَا ٱلۡمُزَّمِّلُ ١

2. 少しだけ除いて、（礼拝のため）夜に起きていよ。[3]

قُمِ ٱلَّيۡلَ إِلَّا قَلِيلٗا ٢

3. つまり、その半分（を起きて過ごせ）。または、そこから少し（、つまり三分の一まで）減らすがよい。

نِّصۡفَهُۥٓ أَوِ ٱنقُصۡ مِنۡهُ قَلِيلًا ٣

4. あるいは、そこに上乗せし（、三分の二にし）てもよい。そしてクルアーン*を、明瞭に区切りつつ読誦せよ[4]。

أَوۡ زِدۡ عَلَيۡهِ وَرَتِّلِ ٱلۡقُرۡءَانَ تَرۡتِيلًا ٤

5. （預言者*よ、）本当にわれら*は、あなたに重厚な言葉（クルアーン*）[5]を投げかけよう。

إِنَّا سَنُلۡقِي عَلَيۡكَ قَوۡلٗا ثَقِيلًا ٥

---

1 マッカ*啓示の内でも、最初に下ったものの内の一つ（一部アーヤ*には、マディーナ*啓示説もあり）。スーラ*の名称は、スーラ*冒頭に出現する同語に由来。夜の礼拝、及び唯一なるアッラー*への真摯（しんし）な崇拝*の命令とその手法の描写に始まり、預言者*ムハンマド*の真実性と復活の日*の確証、使徒*を信じない不信仰者*への警告が取り上げられる。そして最後は、夜の礼拝の軽減と、その他の崇拝*行為の命令によって締めくくられる。

2 預言者*はヒラー洞窟で最初の啓示が下った時、余りの恐怖のために当時の妻であったハディージャのもとへ戻り、衣で包んでくれるように頼んだ（イブン・ジュザイ 2:500 参照）。

3 この夜中の礼拝（夜の旅章 79 の訳注も参照）の義務は、このアーヤ*が下った一年後、アーヤ*20 によって撤回（「アーヤ*の撤回」については、雌牛章 106 の訳注を参照）され、ムスリム*たちにとっての任意の行為となった（ムスリム「旅行者の礼拝とその短縮の書」139 参照）。

4 つまり、各文字をはっきりと発音し、伸ばすべき箇所は伸ばしつつ、ゆっくりと読誦すること（イブン・アーシュール 29:260 参照）。

5 「重厚な」の解釈には、「そこに含まれる様々な宗教義務」「高貴な」「その褒美が、復活の日*の秤に重い」「不信仰者*たちにとって厳しい」「その啓示を受け取る時に、使徒*に大きな負担がかかる」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー19:38 参照）。

6. 実に夜に生ずるもの（崇拝*行為）は、より強く（心に）響き、より確実な言葉[1]なのだ。

إِنَّ نَاشِئَةَ ٱلَّيۡلِ هِيَ أَشَدُّ وَطۡـٔٗا وَأَقۡوَمُ قِيلًا ٦

7. 本当にあなたには昼間、（生活や用事のための）長い奔走がある。

إِنَّ لَكَ فِي ٱلنَّهَارِ سَبۡحٗا طَوِيلٗا ٧

8. （夜か昼かを問わず、）あなたの主*の御名を唱念し、かれ（の崇拝*）に完全に専念せよ。

وَٱذۡكُرِ ٱسۡمَ رَبِّكَ وَتَبَتَّلۡ إِلَيۡهِ تَبۡتِيلٗا ٨

9. （かれは）東西（と、そこにある全て）の主*なのだ。かれ以外に（真に）崇拝*すべきものはない。ならば、かれを委任者[2]とせよ。

رَّبُّ ٱلۡمَشۡرِقِ وَٱلۡمَغۡرِبِ لَآ إِلَٰهَ إِلَّا هُوَ فَٱتَّخِذۡهُ وَكِيلٗا ٩

10. また、彼ら（シルク*の徒）が（あなたとあなたの宗教について）言うことに忍耐*し、彼ら（の悪）を綺麗な回避でもって避けるのだ。

وَٱصۡبِرۡ عَلَىٰ مَا يَقُولُونَ وَٱهۡجُرۡهُمۡ هَجۡرٗا جَمِيلٗا ١٠

11. そして（使徒*よ）、贅沢さの主で（クルアーン*を）嘘呼ばわりする者たちを、われに（任せて）放っておき、少しの間、彼らに猶予を与えておけ。

وَذَرۡنِي وَٱلۡمُكَذِّبِينَ أُوْلِي ٱلنَّعۡمَةِ وَمَهِّلۡهُمۡ قَلِيلًا ١١

12. 本当にわれら*のもとには（来世で）、重いくびきと火獄、

إِنَّ لَدَيۡنَآ أَنكَالٗا وَجَحِيمٗا ١٢

13. そして喉に詰まる食べ物[3]と、痛ましい懲罰がある。

وَطَعَامٗا ذَا غُصَّةٖ وَعَذَابًا أَلِيمٗا ١٣

14. 大地と山々が激震し、山々が砕け散った砂山となる日に。[4]

يَوۡمَ تَرۡجُفُ ٱلۡأَرۡضُ وَٱلۡجِبَالُ وَكَانَتِ ٱلۡجِبَالُ كَثِيبٗا مَّهِيلًا ١٤

---

1 「より確実な言葉」には、「周囲が静かなので、より正しい形で確実かつ継続する読誦ができる」「より活発で、より真摯で、より祝福にあふれた崇拝*行為」といった解釈がある（アル＝クルトゥビー19:41 参照）。

2 「委任者」については、頻出名・用語解説「全てを請け負われる*お方」も参照。

3 「喉に詰まる食べ物」とは、ザックーム（夜の旅章 60「呪われた木」の訳注を参照）と、忌々しい植物（圧倒的事態章 6 の訳注を参照）のこととされる（アル＝バガウィー5:170 参照）。

4 復活の日*の天変地異の様子については洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、山章 9-10、出来事章 5-6、真実章 13-15、階段章 8-9、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 なども参照。

15. 本当にわれら*は使徒*（ムハンマド*）を、あなた方に対する証人[1]としてあなた方に遣わした。ちょうど、フィルアウン*に使徒（ムーサー*）を遣わしたように。

إِنَّآ أَرۡسَلۡنَآ إِلَيۡكُمۡ رَسُولٗا شَٰهِدًا عَلَيۡكُمۡ كَمَآ
أَرۡسَلۡنَآ إِلَىٰ فِرۡعَوۡنَ رَسُولٗا ١٥

16. それでフィルアウンは使徒*に逆らい、われら*は彼をおぞましい罰で罰した。

فَعَصَىٰ فِرۡعَوۡنُ ٱلرَّسُولَ فَأَخَذۡنَٰهُ أَخۡذٗا وَبِيلٗا ١٦

17. では、かれ（アッラー*）が子供たちを（その余りの恐怖ゆえに）白髪にされる（復活の）日*、あなた方はいかにして自分たちを守るというのか？ もし、あなた方が不信仰に陥ったのなら？

فَكَيۡفَ تَتَّقُونَ إِن كَفَرۡتُمۡ يَوۡمٗا يَجۡعَلُ
ٱلۡوِلۡدَٰنَ شِيبًا ١٧

18. そこにおいて、天は裂ける[2]。かれのお約束は、実現されることになっていたのだ。

ٱلسَّمَآءُ مُنفَطِرُۢ بِهِۦۚ كَانَ وَعۡدُهُۥ مَفۡعُولًا ١٨

19. 本当にこれ（警告のアーヤ*）は、教訓である。そして、誰でも（それによる教訓を）望む者には、（服従行為と敬虔さ*によって）自らの主*（のご満悦）へと道を取らせよ。

إِنَّ هَٰذِهِۦ تَذۡكِرَةٞۖ فَمَن شَآءَ ٱتَّخَذَ إِلَىٰ رَبِّهِۦ
سَبِيلًا ١٩

20. （使徒*よ、）本当にあなたの主*は、あなたと、あなたと共にある者の一団が、（時には）夜の三分の二未満、（時には）その半分、（また時には）その三分の一を（礼拝に）立つことをご存知である。そしてアッラー*（のみ）が、夜と昼（の範囲）をお定めにな（り、それをご存知にな）るのだ。かれは、あなた方がそれを数え上げられないことをご存知になり、あなた方の悔悟をお受け入れになっ

۞إِنَّ رَبَّكَ يَعۡلَمُ أَنَّكَ تَقُومُ أَدۡنَىٰ مِن ثُلُثَيِ ٱلَّيۡلِ وَنِصۡفَهُۥ
وَثُلُثَهُۥ وَطَآئِفَةٞ مِّنَ ٱلَّذِينَ مَعَكَۚ وَٱللَّهُ يُقَدِّرُ ٱلَّيۡلَ
وَٱلنَّهَارَۚ عَلِمَ أَن لَّن تُحۡصُوهُ فَتَابَ عَلَيۡكُمۡۖ فَٱقۡرَءُواْ مَا
تَيَسَّرَ مِنَ ٱلۡقُرۡءَانِۚ عَلِمَ أَن سَيَكُونُ مِنكُم مَّرۡضَىٰ
وَءَاخَرُونَ يَضۡرِبُونَ فِي ٱلۡأَرۡضِ يَبۡتَغُونَ مِن
فَضۡلِ ٱللَّهِ وَءَاخَرُونَ يُقَٰتِلُونَ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِۖ
فَٱقۡرَءُواْ مَا تَيَسَّرَ مِنۡهُۚ وَأَقِيمُواْ ٱلصَّلَوٰةَ وَءَاتُواْ ٱلزَّكَوٰةَ
وَأَقۡرِضُواْ ٱللَّهَ قَرۡضًا حَسَنٗاۚ وَمَا تُقَدِّمُواْ لِأَنفُسِكُم مِّنۡ
خَيۡرٖ تَجِدُوهُ عِندَ ٱللَّهِ هُوَ خَيۡرٗا وَأَعۡظَمَ أَجۡرٗاۚ وَٱسۡتَغۡفِرُواْ

1 この「証人」については、婦人章 41 の訳注を参照。

2 識別章 25 も参照（アル＝クルトゥビー19:244 参照）。

た[1]。ならば（夜の礼拝の中で）、クルアーン*から、（あなた方にとって読誦が）容易なものを誦むがよい[2]。かれは、あなた方の内に病人や、アッラー*のご恩寵を求めつつ地上を旅する別の者たち、アッラー*の道において努力奮闘する別の者たちが出てくることも、ご存知になったのだから。ならば（夜の礼拝の中で）、そこ（クルアーン*）から、（あなた方にとって読誦が）容易なものを誦むがよい。そして（義務の）礼拝を遵守*し、浄財*を支払い、アッラー*によき貸付[3]をせよ。あなた方が自分のためにしておく善いことは何であれ、あなた方はそれを（復活の日*に）アッラー*の御許で、（現世で自分たちが行ったもの）より善く、より偉大な報いとして見出すことになるのだから。そしてアッラー*に、お赦しを乞え。本当にアッラーは、赦し深いお方、慈愛深い*お方なのだ。[4]

إِنَّ ٱللَّهَ غَفُورٌ رَّحِيمُۢ ٢٠

---

1 アーヤ*2 によって夜の礼拝が義務づけられた後、ある種の者は夜の礼拝時間の計算が分からず、その結果、間違いを避けるために夜通しで礼拝し続け、ひどい疲労に教われるということがあった。このような中、アッラー*は彼らにご慈悲をおかけになり、軽減して下さった（アル＝クルトゥビー19:53 参照）。

2 夜の任意の礼拝が、クルアーン*の読誦によって表わされている。つまり、自分にとって容易に感じられる範囲で、夜に任意の礼拝をせよ、ということ（イブン・カスィール 8:258 参照）。

3 アッラー*に「よき貸付」をすることについては、雌牛章 245 の訳注を参照。

4 このアーヤ*と、夜の任意の礼拝については、アーヤ*2 の訳注も参照。

第74章
包る者章（アル＝ムッダッスィル）[1]

سُورَةُ المُدَّثِّرِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. （衣に）包る者よ、[2]

2. 立ち上がり、（人々にアッラー*の懲罰を）警告せよ。

3. また、あなたの主*（の偉大さを）を称揚し*、

4. あなたの衣服を清め、[3]

5. 偶像[4]（と、あらゆるシルク*）を避けよ。

6. また、（見返りに）多くのものを得ようとしつつ、恵んではならない。

7. そして、あなたの主*の（ご満悦の）ため、忍耐*せよ。

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

يَٰٓأَيُّهَا ٱلۡمُدَّثِّرُ ١

قُمۡ فَأَنذِرۡ ٢

وَرَبَّكَ فَكَبِّرۡ ٣

وَثِيَابَكَ فَطَهِّرۡ ٤

وَٱلرُّجۡزَ فَٱهۡجُرۡ ٥

وَلَا تَمۡنُن تَسۡتَكۡثِرُ ٦

وَلِرَبِّكَ فَٱصۡبِرۡ ٧

---

1 マッカ*啓示（一部アーヤ*にはマディーナ*啓示説あり）。スーラ*の名称は、冒頭での預言者*ムハンマド*に対する呼びかけの語に由来。イスラーム*の教えを実践すると共に伝達する命令がなされ、次いで復活の日*が確証される。また、現世に溺（おぼ）れた、頑迷で恩知らずな不信仰者*の悪例が取り上げられ、同様の状態にある者に厳しい警告が向けられる一方、信仰者には楽園の吉報が告げられる。スーラ*の最後は再び、信仰への呼びかけと、それを拒（こば）む者への警告で締めくくられる。

2 最初の啓示（凝血章の冒頭）が下った後、しばらく啓示は途絶（とだ）えた。そのような中、預言者*がヒラー洞窟の近くを歩いている時、ジブリール*が本来の巨大な姿で天に現れた。彼は恐怖に襲われて妻ハディージャのもとに戻り、「私を（衣で）包んでくれ」と言った。このアーヤ*は、この時に下ったものとされる（アル＝ブハーリー4922、イブン・カスィール 8:261-262 参照）。

3 衣服の汚れだけでなく、あらゆる行いを、悪、見せかけ、偽善、自惚（うぬぼ）れ、高慢さ、不注意など、それを台無しにしてしまう、あるいは不完全なものとしてしまうような、あらゆる要素から「清める」こと（アッ＝サアディー895 頁参照）。

4 「偶像（ルジュズ）」には、「罪」「懲罰（の原因となるような全ての行為）」といった解釈もある（アル＝クルトゥビー19:67 参照）。

8. 角笛に打ち鳴らされる時、[1]

فَإِذَا نُقِرَ فِي ٱلنَّاقُورِ ٨

9. その日、それは困難な日である。

فَذَٰلِكَ يَوۡمَئِذٖ يَوۡمٌ عَسِيرٌ ٩

10. 不信仰者*たちにとって、容易ではない。

عَلَى ٱلۡكَٰفِرِينَ غَيۡرُ يَسِيرٖ ١٠

11. （使徒*よ、）われに（任せて）放っておけ、われが（子供も財産もない）独りきりの者として（彼の母親の胎内に）創った者を。

ذَرۡنِي وَمَنۡ خَلَقۡتُ وَحِيدٗا ١١

12. われは、彼にたっぷり財産を授けてやった。

وَجَعَلۡتُ لَهُۥ مَالٗا مَّمۡدُودٗا ١٢

13. （離れることなく、彼にいつも）お付きする、子供たちも。

وَبَنِينَ شُهُودٗا ١٣

14. また、われは彼に（生計の）道を均してやった。

وَمَهَّدتُّ لَهُۥ تَمۡهِيدٗا ١٤

15. その後に及んで彼は（不信仰に陥り）、われが（彼の子供と財産に）上乗せすること[2]を所望するのだ。

ثُمَّ يَطۡمَعُ أَنۡ أَزِيدَ ١٥

16. 断じて（、そんなことはあり得）ない！　本当に彼は、われら*の御徴[3]（を嘘呼ばわりすること）に頑迷な者だったのだから。

كَلَّآۖ إِنَّهُۥ كَانَ لِأٓيَٰتِنَا عَنِيدٗا ١٦

17. われはやがて、彼を険しい上り坂（による懲罰）で苦しめてやろう。[4]

سَأُرۡهِقُهُۥ صَعُودًا ١٧

18. 本当に彼は、（使徒*とクルアーン*に対する誹謗を）思索し、準備したのだから。

إِنَّهُۥ فَكَّرَ وَقَدَّرَ ١٨

---

1 「角笛」については、家畜章 73 の訳注を参照。ここでの角笛は、一回目のもの、あるいは二回目のもの、という説がある（アル＝クルトゥビー19：70 参照）。

2 これには、「来世でも同様の恩恵を得ること」という解釈もある（アッ＝サァディー896 頁参照）。

3 この「御徴」は、啓典や使徒といった、創造物に対するアッラー*からの論拠（ムヤッサル 575 頁参照）。

4 アーヤ*11 から取り上げられている者は、一説にマッカ*の不信仰者*たちの長の一人であった、アル＝ワリード・ブン・アル＝ムギーラ*のこととされる。しかし真理に対して頑迷であり、それを放棄（ほうき）した者には、彼と同様の罰が待ち受けている（前掲書、同頁参照）。

19. 彼が成敗されますよう。彼はいかに（そのような誹謗を）準備したというのか？

فَقُتِلَ كَيْفَ قَدَّرَ ١٩

20. そして、彼が成敗されますよう。彼はいかに（そのような誹謗を）準備したというのか？

ثُمَّ قُتِلَ كَيْفَ قَدَّرَ ٢٠

21. それから、彼は（準備した誹謗を）吟味した。

ثُمَّ نَظَرَ ٢١

22. それから彼は（、クルアーン*を誹謗することが出来ないことを認めると、）眉をひそめ、顔をしかめた。

ثُمَّ عَبَسَ وَبَسَرَ ٢٢

23. それから彼は（真理に背を向け）後退し、（真理を認めずに）驕り高ぶった。

ثُمَّ أَدْبَرَ وَاسْتَكْبَرَ ٢٣

24. そして、彼は言った。「これ（クルアーン*）は、（昔の人々から）伝わる魔術に外ならない。

فَقَالَ إِنْ هَٰذَا إِلَّا سِحْرٌ يُؤْثَرُ ٢٤

25. これは人間の言葉以外の、何ものでもないのだ」。[1]

إِنْ هَٰذَا إِلَّا قَوْلُ الْبَشَرِ ٢٥

26. われはやがて、彼を焦炎[2]へと入れて炙ってやろう。

سَأُصْلِيهِ سَقَرَ ٢٦

27. 焦炎が何かを、あなたに知らせるものは何か？

وَمَا أَدْرَاكَ مَا سَقَرُ ٢٧

28. それは（肉も骨も、焼き尽くして）残してはおかず、放っておきもしない。[3]

لَا تُبْقِي وَلَا تَذَرُ ٢٨

29. （それは、人間の）皮膚を、黒焦げに変える。

لَوَّاحَةٌ لِلْبَشَرِ ٢٩

1　家畜章 105「あなたは学習したのだ」の訳注も参照。

2　「焦炎（サカル）」は「溶かす、焼く」という意味から派生した語で、地獄の別称。一説には、地獄の第六層のこと（アル＝クルトゥビー19:77 参照）。

3　一説には、「（焼き尽くしたまま）放っておきもしない」という意味。つまり、新しく創造されては焼き尽くされる、という苦しみをずっと味わい続ける（前掲書、同頁参照）。

30. その上には、（地獄の番人である）十九人（の天使*たち）がいる。[1]

عَلَيۡهَا تِسۡعَةَ عَشَرَ ٣٠

31. われら*は地獄の主（である番人）たちを、天使*以外の何者にもしなかった。また、その数を、不信仰に陥った者*たちへの試練以外の何ものともしなかった[2]。（また、それは）啓典を授けられた者*たちが（クルアーン*の真実性を）確信し[3]、信仰する者たちが信仰心を増加させ、そして啓典を授けられた者*たちと信仰者たちが疑惑に陥らないようにするためであり、かつ心の中に病がある者[4]たちと不信仰者*たちに、「一体アッラー*は、この譬えで何を望んだのか？」と言わせるためである。同様にアッラー*は、かれがお望みになる者を迷わされ、かれがお望みになる者を導かれる。そして（それらの天使*も含め）、あなたの主*の軍勢を知るのは、かれのみであり、それ[5]は人間に対する教訓に外ならないのだ。

وَمَا جَعَلۡنَآ أَصۡحَٰبَ ٱلنَّارِ إِلَّا مَلَٰٓئِكَةٗۖ وَمَا جَعَلۡنَا
عِدَّتَهُمۡ إِلَّا فِتۡنَةٗ لِّلَّذِينَ كَفَرُواْ لِيَسۡتَيۡقِنَ ٱلَّذِينَ
أُوتُواْ ٱلۡكِتَٰبَ وَيَزۡدَادَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوٓاْ إِيمَٰنٗا وَلَا يَرۡتَابَ
ٱلَّذِينَ أُوتُواْ ٱلۡكِتَٰبَ وَٱلۡمُؤۡمِنُونَ وَلِيَقُولَ ٱلَّذِينَ
فِي قُلُوبِهِم مَّرَضٞ وَٱلۡكَٰفِرُونَ مَاذَآ أَرَادَ ٱللَّهُ بِهَٰذَا
مَثَلٗاۚ كَذَٰلِكَ يُضِلُّ ٱللَّهُ مَن يَشَآءُ وَيَهۡدِي مَن
يَشَآءُۚ وَمَا يَعۡلَمُ جُنُودَ رَبِّكَ إِلَّا هُوَۚ وَمَا هِيَ إِلَّا
ذِكۡرَىٰ لِلۡبَشَرِ ٣١

32. 断じて（、使徒*は嘘つきなどでは）ない！月にかけて、[6]

كَلَّا وَٱلۡقَمَرِ ٣٢

33. また、後退する夜にかけて、

وَٱلَّيۡلِ إِذۡ أَدۡبَرَ ٣٣

---

1 これは、地獄の天使*ザバーニヤのこと（ムヤッサル 576 頁参照）。凝血章 18 とその訳注も参照。

2 一説にアブー・ジャハル*は、地獄の番人の数が十九人と聞き、その数の少なさを嘲笑（ちょうしょう）した（アル＝バガウィー5:178 参照）。

3 啓典の民*は、預言者*を試す目的で、地獄の番人の数を尋ねたことがあった。そしてこの「十九人」という数は、彼らの知識と一致するものだったのだという（イブン・カスィール 8:268-269 参照）。

4 つまりイスラーム*に疑念を抱く者や、偽信者*のこと（アッ＝サァディー896 頁参照）。

5 「それ」が何を指すかについては、「地獄」「現世の火」「地獄の番人の数」「軍勢」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー19:83 参照）。

6 アーヤ*32-34 における、アッラー*による誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

34. また、露わになる朝にかけて（誓う）、
وَٱلصُّبۡحِ إِذَآ أَسۡفَرَ ٣٤

35. 本当にそれ（地獄）は、まさに途方もない事の一つなのである。
إِنَّهَا لَإِحۡدَى ٱلۡكُبَرِ ٣٥

36. 人類への警告である。
نَذِيرٗا لِّلۡبَشَرِ ٣٦

37. あなた方の内、（服従行為によってアッラー*のお傍へと）近づくことを、あるいは（罪によって、かれから）遠ざかることを、望む者への（警告なのだ）。
لِمَن شَآءَ مِنكُمۡ أَن يَتَقَدَّمَ أَوۡ يَتَأَخَّرَ ٣٧

38. 全ての者は、自分が稼いだことによって差し押さえられた者[1]。
كُلُّ نَفۡسِۭ بِمَا كَسَبَتۡ رَهِينَةٌ ٣٨

39. 但し、右側の徒[2]は別だが。
إِلَّآ أَصۡحَٰبَ ٱلۡيَمِينِ ٣٩

40. 彼らは楽園で尋ね合う、
فِي جَنَّٰتٖ يَتَسَآءَلُونَ ٤٠

41. （不信仰を犯していた）罪悪者たちについて、
عَنِ ٱلۡمُجۡرِمِينَ ٤١

42. 「あなた方を焦炎[3]に入れたのは、何なのか？」と。[4]
مَا سَلَكَكُمۡ فِي سَقَرَ ٤٢

43. 彼ら（罪悪者たち）は、言った。「私たちは（現世で）礼拝する者ではなく、
قَالُواْ لَمۡ نَكُ مِنَ ٱلۡمُصَلِّينَ ٤٣

44. 貧者*たちに、食べ物を与えてもいませんでした。
وَلَمۡ نَكُ نُطۡعِمُ ٱلۡمِسۡكِينَ ٤٤

45. また、私たちは戯言を喋る者たちと共に戯言を喋り、
وَكُنَّا نَخُوضُ مَعَ ٱلۡخَآئِضِينَ ٤٥

46. 報いの日*を嘘呼ばわりしていました、
وَكُنَّا نُكَذِّبُ بِيَوۡمِ ٱلدِّينِ ٤٦

47. 確然たるもの[5]が到来するまで」。
حَتَّىٰٓ أَتَىٰنَا ٱلۡيَقِينُ ٤٧

---

1 この表現については、山章 21 の訳注を参照。

2 「右側の徒」については、出来事章 9 の訳注を参照。

3 「焦炎」については、アーヤ*26 の訳注を参照。

4 天国の住人たちは、地獄の民の様子を目にし、話しかけることが出来るとされる（アッ＝サァディー897 頁参照）。整列章 54 以降も参照。

5 「確然たるもの」については、アル＝ヒジュル章 99 の訳注を参照。

48. ならば、執り成し手らの執り成しが、彼らの役に立つことはない。[1]

فَمَا تَنفَعُهُمْ شَفَٰعَةُ ٱلشَّٰفِعِينَ ﴿٤٨﴾

49. 彼ら（シルク*の徒）が、教訓（クルアーン*）から背を向けるのは、どういうことか？

فَمَا لَهُمْ عَنِ ٱلتَّذْكِرَةِ مُعْرِضِينَ ﴿٤٩﴾

50. まるで退散するロバのように？

كَأَنَّهُمْ حُمُرٌ مُّسْتَنفِرَةٌ ﴿٥٠﴾

51. ライオン[2]から逃げ出した（ロバのように？）。

فَرَّتْ مِن قَسْوَرَةٍۭ ﴿٥١﴾

52. いや、彼ら（シルク*の徒）の全ての者が、開かれた書巻を授かることを望んでいるのか？[3]

بَلْ يُرِيدُ كُلُّ ٱمْرِئٍ مِّنْهُمْ أَن يُؤْتَىٰ صُحُفًا مُّنَشَّرَةً ﴿٥٢﴾

53. 断じて（、そんなことがあるはずも）ない！彼らは来世を怖れてはいないのだ。

كَلَّا ۖ بَل لَّا يَخَافُونَ ٱلْـَٔاخِرَةَ ﴿٥٣﴾

54. 断じて（真実である）！ 本当にそれ（クルアーン*）は教訓なのだ。

كَلَّآ إِنَّهُۥ تَذْكِرَةٌ ﴿٥٤﴾

55. そして誰でも（教訓を）望む者には、それを熟慮させよ。

فَمَن شَآءَ ذَكَرَهُۥ ﴿٥٥﴾

56. そして彼らは、アッラー*が（彼らに導きを）お望みにならない限り、（教訓を）想起することがない[4]。かれは畏れ*の念（を受ける）に相応しいお方、お赦し（をお授けになる）に相応しいお方。

وَمَا يَذْكُرُونَ إِلَّآ أَن يَشَآءَ ٱللَّهُ ۚ هُوَ أَهْلُ ٱلتَّقْوَىٰ وَأَهْلُ ٱلْمَغْفِرَةِ ﴿٥٦﴾

---

1 復活の日*の「執り成し」については雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

2 一説にはライオンではなく、「射手」のこと（イブン・カスィール 8:273 参照）。

3 同様のアーヤ*として、家畜章 7、124、夜の旅章 93 も参照（アル＝カースィミー16:5985 参照）。

4 人間は自由意志を有するが、それはあくまでアッラー*のご意思に付随（ふずい）するものである（アッ＝サァディー898 頁参照）。

第 75 章
復活章（アル＝キヤーマ）[1]

سُورَةُ القِيَامَةِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. われはまさに、復活の日*にかけて誓う。[2]

لَآ أُقۡسِمُ بِيَوۡمِ ٱلۡقِيَٰمَةِ ١

2. また、責め苛む魂[3]にかけて誓う（、人々は蘇らされるのである、と）。

وَلَآ أُقۡسِمُ بِٱلنَّفۡسِ ٱللَّوَّامَةِ ٢

3. （不信仰な）人間は、われら*が彼の骨を（それが散り散りになった後に、）集めることが（出来）ない、とでも思っているのか？

أَيَحۡسَبُ ٱلۡإِنسَٰنُ أَلَّن نَّجۡمَعَ عِظَامَهُۥ ٣

4. いや、われら*はその指先まで、きっちり整え（て組み立て、生前と同じ状態に復活させ）ることが出来る。

بَلَىٰ قَٰدِرِينَ عَلَىٰٓ أَن نُّسَوِّيَ بَنَانَهُۥ ٤

5. いや、（不信仰な）人間は、自らの前途において[4]放逸であることを欲し（、復活を否定し）ている。

بَلۡ يُرِيدُ ٱلۡإِنسَٰنُ لِيَفۡجُرَ أَمَامَهُۥ ٥

6. 「復活の日*は、一体いつなのか？」と尋ねながら。

يَسۡـَٔلُ أَيَّانَ يَوۡمُ ٱلۡقِيَٰمَةِ ٦

7. （人々の）眼が（、復活の日*の恐怖によって）動転し、

فَإِذَا بَرِقَ ٱلۡبَصَرُ ٧

---

1 マッカ*啓示。スーラ*名は冒頭のアーヤ*に登場すると共に、スーラ*全体を流れるテーマでもある「復活の日*」に由来。復活を否定する者たちを前に、その真実、到来の予兆、人々の状態などが鮮明に示され、不信仰者*らに対する厳しい警告が投げかけられる。そして復活と報いが正義であること、アッラー*にとって復活が可能であることの実証により、スーラ*は幕を閉じる。

2 この誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

3 死を迎える時、魂は自分の行いを責める。一方、信仰者の魂は、義務の遂行における至らなさ、不注意などについて、現世で自分自身を責めるのである（アッ＝サアディー898 頁参照）。

4 ほかにも、「自分自身の目的と欲望の追求において」「復活の日*が到来する前に」といった解釈もある（イブン・ジュザイ 2:513 参照）。

8. 月（の明かり）が消え、

وَخَسَفَ ٱلۡقَمَرُ ٨

9. 太陽と月が（共に暗くなって、）一緒くたにされる時、[1]

وَجُمِعَ ٱلشَّمۡسُ وَٱلۡقَمَرُ ٩

10. 人間はその日、言う。「（懲罰からの）逃げ場所はどこだ？」

يَقُولُ ٱلۡإِنسَٰنُ يَوۡمَئِذٍ أَيۡنَ ٱلۡمَفَرُّ ١٠

11. 断じて（、そうはいか）ない。避難場所など、ないのだ。

كَلَّا لَا وَزَرَ ١١

12. その日はあなたの主*にこそ、定住先があるのだから。

إِلَىٰ رَبِّكَ يَوۡمَئِذٍ ٱلۡمُسۡتَقَرُّ ١٢

13. 人間はその日、自分が（生きている時に）早めたものと、遅らせたもの[2]について（全て）告げ聞かせられる。

يُنَبَّؤُاْ ٱلۡإِنسَٰنُ يَوۡمَئِذِۭ بِمَا قَدَّمَ وَأَخَّرَ ١٣

14. いや、人間は自分自身（が行ったこと）に対する、証人である。

بَلِ ٱلۡإِنسَٰنُ عَلَىٰ نَفۡسِهِۦ بَصِيرَةٞ ١٤

15. たとえ、自分の（罪の）言い訳を申し立てても。

وَلَوۡ أَلۡقَىٰ مَعَاذِيرَهُۥ ١٥

16. ――（預言者*よ、啓示が下った時には、）それ（クルアーン*の暗記）に急ぐがゆえに、（啓示が下りきる前に）あなたの舌を動かすのではない。[3]

لَا تُحَرِّكۡ بِهِۦ لِسَانَكَ لِتَعۡجَلَ بِهِۦٓ ١٦

---

1 その他、「合わさって真っ黒な形で、西から同時に昇る」「一緒にされて海へと放り込まれ、海が燃え上がる」あるいは地獄に「まとめて入れられる」といった解釈がある（アル＝クルトゥビー19:97 参照）。

2 「早めたもの」と「遅らせたもの」の解釈には、「生前の行為と、死後に自分の行為を規範（きはん）として行われる他人の行為」「最初の行為と最後の行為」「前者が罪、後者が服従行為」といった諸説がある（前掲書 19:98 参照）。

3 預言者*はジブリール*が啓示と共に訪れると、それを急いで受け取ろうと、躍起（やっき）になって口を動かしたものだった。それでアッラー*は、彼がまずは啓示に耳を傾けるようご命じになり、暗記と読誦と説明については、アッラー*ご自身が保証されることを約束されたのだった。ター・ハー章 114 も参照（アル＝ブハーリー4927-4929、イブン・カスィール 8:278 参照）。

17. 本当にそれを（あなたの胸に）結集させることと、それを（あなたが望む時にいつでも）読むこと（を可能にさせるの）は、われら*の任務なのだから。

إِنَّ عَلَيْنَا جَمْعَهُۥ وَقُرْءَانَهُۥ ۝١٧

18. それで、われら*がそれを（ジブリール*を介し、あなたに）読んだ時には、その読みに（まずはよく耳を傾け、それからその読誦に）続くのだ。

فَإِذَا قَرَأْنَٰهُ فَٱتَّبِعْ قُرْءَانَهُۥ ۝١٨

19. それから、実にわれら*にこそ、その（意味や法規定についての）説明義務があるのだ――。

ثُمَّ إِنَّ عَلَيْنَا بَيَانَهُۥ ۝١٩

20. （シルク*の徒よ、）断じて（、復活と報いは嘘などでは）ない。いや、あなた方は手っ取り早いもの（現世）を愛し、

كَلَّا بَلْ تُحِبُّونَ ٱلْعَاجِلَةَ ۝٢٠

21. 来世（のための行い）を放ったらかしにしている。[1]

وَتَذَرُونَ ٱلْـَٔاخِرَةَ ۝٢١

22. （復活の）その日、（信仰者たちの）ほころびる顔は、

وُجُوهٌ يَوْمَئِذٍ نَّاضِرَةٌ ۝٢٢

23. まさにその主*を眺める。[2]

إِلَىٰ رَبِّهَا نَاظِرَةٌ ۝٢٣

24. またその日、（不信仰者*たちの）しかめっ顔は、

وَوُجُوهٌ يَوْمَئِذٍۭ بَاسِرَةٌ ۝٢٤

25. 脊椎を破壊するほどの災禍が、自分たちに及ぼされることを確信する。

تَظُنُّ أَن يُفْعَلَ بِهَا فَاقِرَةٌ ۝٢٥

26. 断じて（、復活と報いは嘘などでは）ない！（死期が到来して、）それ（魂）が鎖骨まで達し、[3]

كَلَّآ إِذَا بَلَغَتِ ٱلتَّرَاقِىَ ۝٢٦

1 現世の享楽は手っ取り早く、来世（遅れるもの、という原義もあり）は永遠の安寧ながらも、遅れてやって来るもの（アッ＝サァディー899 頁参照）。

2 復活の日*、天国の民がアッラー*を拝見することについては、家畜章 103 とその訳注、ユーヌス*章 26、量を減らす者章 15 も参照。

3 家畜章 61、93 とその訳注も参照。

27. （彼らの間で）「（この状態を）治してくれる者は、誰か？」と言われ、

وَقِيلَ مَنْۜ رَاقٖ ٢٧

28. それがまさに（現世との）別離（べつり）だと確信し、

وَظَنَّ أَنَّهُ ٱلْفِرَاقُ ٢٨

29. 脛（すね）と脛（すね）が絡（から）み合った時。[1]

وَٱلْتَفَّتِ ٱلسَّاقُ بِٱلسَّاقِ ٢٩

30. （復活の日*、）あなたの主（しゅ）*にこそ、連れられて行く先があるのである。

إِلَىٰ رَبِّكَ يَوْمَئِذٍ ٱلْمَسَاقُ ٣٠

31. 彼（不信仰者*）は、（使徒（しと）*もクルアーン*も）信じなければ、礼拝（れいはい）もしなかった。

فَلَا صَدَّقَ وَلَا صَلَّىٰ ٣١

32. それどころか（クルアーン*を）嘘（うそ）呼ばわりし、（信仰から）背（そむ）いた。

وَلَٰكِن كَذَّبَ وَتَوَلَّىٰ ٣٢

33. それから自分の家族のもとへ、闊歩（かっぽ）しつつ[2]向かったのだ。

ثُمَّ ذَهَبَ إِلَىٰٓ أَهْلِهِۦ يَتَمَطَّىٰٓ ٣٣

34. あなたに、もっと（破滅（はめつ）が）近づくよう、もっと（破滅（はめつ）が）近づくよう。

أَوْلَىٰ لَكَ فَأَوْلَىٰ ٣٤

35. 更（さら）に、あなたにもっと（破滅（はめつ）が）近づくよう、もっと（破滅（はめつ）が）近づくよう。[3]

ثُمَّ أَوْلَىٰ لَكَ فَأَوْلَىٰٓ ٣٥

36. 一体、（復活を否定する）人間は、（命令も禁止もされず、報（むく）いも懲罰（ちょうばつ）もなく、）放ったらかしにされるとでも思っているのか？

أَيَحْسَبُ ٱلْإِنسَٰنُ أَن يُتْرَكَ سُدًى ٣٦

37. 彼は、（子宮（しきゅう）へ）注（そそ）がれる精液の一滴ではなかったのか？

أَلَمْ يَكُ نُطْفَةً مِّن مَّنِيٍّ يُمْنَىٰ ٣٧

---

1 この解釈には、「現世の最後における苦しみと、来世の始まりにおける苦しみが連続すること」「激しい苦しみゆえに、人の両足が絡み合う様」「死人の両足が、遺体を包む布で包まれること」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー19:112 参照）。

2 これはつまり、尊大さ、高慢さを示す歩き方のこと。このアーヤ*は一説に、自分の出身部族であるマフズーム族の中でそのようにして歩くことが知られていた、アブー・ジャハル*について下った（イブン・ジュザイ 2:515 参照）。

3 一説にこのアーヤ*は、ある時アブー・ジャハル*から嫌がらせを受けた預言者*が彼に対して言った言葉が、後にそのまま啓示として下ったもの（イブン・カスィール 8:283 参照）。

38. それから一塊(いっかい)の凝血(ぎょうけつ)となり、そしてかれがお創りになって、(その姿形(すがたかたち)を最も美しく)整(ととの)えられ、

ثُمَّ كَانَ عَلَقَةً فَخَلَقَ فَسَوَّىٰ ٣٨

39. そこから二種類、つまり男性と女性をお創りになったのでは?

فَجَعَلَ مِنْهُ ٱلزَّوْجَيْنِ ٱلذَّكَرَ وَٱلْأُنثَىٰٓ ٣٩

40. 一体(それらの創造主(そうぞうしゅ)である)そのお方(アッラー*)は、死者に(再び)生をお与えになることが出来るお方なのではないか?

أَلَيْسَ ذَٰلِكَ بِقَٰدِرٍ عَلَىٰٓ أَن يُحْـِۧيَ
ٱلْمَوْتَىٰ ٤٠

第 76 章
人間章（アル＝インサーン）[1]

سُورَةُ الإِنسَانِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 人間には（そこに魂を吹き込まれる以前）、言及すべき何ものでもなかった長い一時期が、確かに訪れたではないか？[2]

هَلْ أَتَىٰ عَلَى ٱلْإِنسَٰنِ حِينٌ مِّنَ ٱلدَّهْرِ لَمْ يَكُن شَيْـًٔا مَّذْكُورًا ١

2. 本当にわれら*は人間を、（男女の精液が）混じり合った、一滴の精液から創造した。われら*は彼を（その後、宗教的な義務によって）試練にかけるのだ[3]。われら*は彼を聞き、見る者とした。

إِنَّا خَلَقْنَا ٱلْإِنسَٰنَ مِن نُّطْفَةٍ أَمْشَاجٍ نَّبْتَلِيهِ فَجَعَلْنَٰهُ سَمِيعًۢا بَصِيرًا ٢

3. 本当にわれら*は彼を、道[4]へと導いた。感謝する者か、あるいは大層な恩知らずか（となるべく）。

إِنَّا هَدَيْنَٰهُ ٱلسَّبِيلَ إِمَّا شَاكِرًا وَإِمَّا كَفُورًا ٣

4. 本当にわれら*は不信仰者*たちに、鎖と枷と（地獄の）烈火を用意した。

إِنَّآ أَعْتَدْنَا لِلْكَٰفِرِينَ سَلَٰسِلَا۟ وَأَغْلَٰلًا وَسَعِيرًا ٤

---

1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。スーラ*の名称は、冒頭に出現する「人間」という語が由来。人間の創造についての示唆（しさ）に始まり、その意味、そして人間が二つの種類に分かれることが明らかにされ、各々の特徴、来世での行き先が、特に信仰者たちの天国における褒美（ほうび）と楽しみの数々の詳細と共に、描かれる。スーラ*の最後は、預言者*ムハンマド*の使徒*性とクルアーン*の真実性の確証、布教と崇拝*行為における忍耐*の勧（すす）め、不信仰者*への警告によって締めくくられる。尚、預言者*はこのスーラ*を、金曜日のファジュル*の礼拝でよく読誦（どくしょう）したものだった（アル＝ブハーリー891 参照）。

2 人は以前、根源的物質や液体といった、人間としての特性がない、取るに足らない存在だった（アル＝バイダーウィー5:425 参照）。

3 蜘蛛章 2、および王権章 2「試練」の訳注も参照。

4 正しい導きと迷い、善と悪という「道」（ムヤッサル 578 頁参照）。

5. 実に（アッラー*への義務を果たす）善行者たちは（復活の日*）、その混ぜ物が樟脳である（酒の）盃から飲む。[1]

إِنَّ ٱلۡأَبۡرَارَ يَشۡرَبُونَ مِن كَأۡسٖ كَانَ مِزَاجُهَا كَافُورًا ٥

6. つまり、アッラー*の僕たちが（思うがまま）容易に噴き出させつつ飲む、泉である。

عَيۡنٗا يَشۡرَبُ بِهَا عِبَادُ ٱللَّهِ يُفَجِّرُونَهَا تَفۡجِيرٗا ٦

7. 彼ら（善行者たち）は（現世で）誓約を全うし、（アッラー*がご慈悲をおかけになった者を除く全ての者に）その悪が拡散する（復活の）日を怖れ、

يُوفُونَ بِٱلنَّذۡرِ وَيَخَافُونَ يَوۡمٗا كَانَ شَرُّهُۥ مُسۡتَطِيرٗا ٧

8. 自らの（それに対する）愛着にも関わらず、貧者*、孤児、捕虜に食べ物を食べさせるのだから。

وَيُطۡعِمُونَ ٱلطَّعَامَ عَلَىٰ حُبِّهِۦ مِسۡكِينٗا وَيَتِيمٗا
وَأَسِيرًا ٨

9. （彼らは心中で、こう言うのだ。）「私たちがあなた方に食べさせるのは、アッラー*の御顔ゆえに外ならない。私たちはあなた方から、見返りも感謝もいらない。

إِنَّمَا نُطۡعِمُكُمۡ لِوَجۡهِ ٱللَّهِ لَا نُرِيدُ مِنكُمۡ جَزَآءٗ وَلَا
شُكُورًا ٩

10. 本当に私たちは、眉をしかめる凄まじい日の、我らが主*を怖れているのだから」。

إِنَّا نَخَافُ مِن رَّبِّنَا يَوۡمًا عَبُوسٗا قَمۡطَرِيرٗا ١٠

11. それでアッラー*は、その日の悪から彼らをお守りになり、彼らに（顔の）輝きと（心の）喜びをお授けになった。

فَوَقَىٰهُمُ ٱللَّهُ شَرَّ ذَٰلِكَ ٱلۡيَوۡمِ وَلَقَّىٰهُمۡ نَضۡرَةٗ
وَسُرُورٗا ١١

12. そして彼らが（現世で）忍耐*したことゆえに、彼らを楽園と絹（の衣服[2]）でお報いになった。

وَجَزَىٰهُم بِمَا صَبَرُواْ جَنَّةٗ وَحَرِيرٗا ١٢

---

1 天国の民の飲み物については、アーヤ*17-18、21、サード章 51、整列者章 45-47、詳細にされた章 31、ムハンマド*章 15、出来事章 17-19、消息章 34、量を減らす者たち章 25-28も参照。

2 天国の民の衣服については、アーヤ*21、洞窟章 31、巡礼*章 23、創成者*章 33、煙霧章 51-53 も参照。

13. 彼らはそこで、寝台に寄りかかっている。彼らはそこで、太陽（の灼熱）も酷寒も見出すことがない。

مُتَّكِـِٔينَ فِيهَا عَلَى ٱلْأَرَآئِكِ لَا يَرَوْنَ فِيهَا شَمْسًا
وَلَا زَمْهَرِيرًا ١٣

14. また、彼らの上には（、楽園の木々の）その陰が間近に（覆いかぶさって）あり、その果実の房は（手近に）低く垂れ下げられている。

وَدَانِيَةً عَلَيْهِمْ ظِلَٰلُهَا وَذُلِّلَتْ قُطُوفُهَا تَذْلِيلًا ١٤

15. また彼らには、銀の食器と硝子の杯と共に（奉仕する少年たちが）回らせられる。

وَيُطَافُ عَلَيْهِم بِـَٔانِيَةٍ مِّن فِضَّةٍ وَأَكْوَابٍ كَانَتْ
قَوَارِيرَا۠ ١٥

16. 彼らがちょうどいい分量に合わせた、銀製の硝子[1]（の杯と共に）。

قَوَارِيرَا۠ مِن فِضَّةٍ قَدَّرُوهَا تَقْدِيرًا ١٦

17. また彼らはそこで、その混ぜ物が生姜である（酒の）盃を飲まされる。

وَيُسْقَوْنَ فِيهَا كَأْسًا كَانَ مِزَاجُهَا زَنجَبِيلًا ١٧

18. つまりサルサビール[2]と呼ばれる、そこ（楽園）にある泉の（生姜[3]である）。

عَيْنًا فِيهَا تُسَمَّىٰ سَلْسَبِيلًا ١٨

19. また、永遠の少年たちが、彼らの周りを（奉仕のために）回って歩く。もしあなたが彼らを見れば、彼らを散りばめられた真珠かと思ったであろう。

۞ وَيَطُوفُ عَلَيْهِمْ وِلْدَٰنٌ مُّخَلَّدُونَ إِذَا رَأَيْتَهُمْ
حَسِبْتَهُمْ لُؤْلُؤًا مَّنثُورًا ١٩

20. そして、あなたがそこで（天国のいかなる場所でも）見れば、安楽と、大いなる王国を目にしたことであろう。

وَإِذَا رَأَيْتَ ثَمَّ رَأَيْتَ نَعِيمًا وَمُلْكًا كَبِيرًا ٢٠

---

1 つまり、その杯は銀製にも関わらず、ガラスの透明さを備えている（アル＝クルトゥビー 19：140 参照）。

2 「サルサビール」とは、「サラサ（滑らかである）」という語から派生していると言われるように、飲む者の喉にも、その流れる状態も滑らかであり、天国の民はそれをどこにでも好きなように操（あやつ）ることが出来る（アッ＝タバリー10:8376 参照）。

3 つまり、その泉に漬けられた生姜である。あるいは生姜から抽出（ちゅうしゅつ）された液体が、泉のように豊富である（イブン・アーシュール 29:395 参照）。また、天国の民の飲み物については、アーヤ*5、21、サード章 51、整列者章 45-47、詳細にされた章 31、ムハンマド*章 15、出来事章 17-19、消息章 34、量を減らす者たち章 25-28 も参照。

21. 彼らの上には、緑色の精巧な絹地と重厚な絹地の衣服。そして銀製の腕輪で飾り立てられ[1]、彼らの主*は彼らに清い水を飲ませて下さる。

عَٰلِيَهُمْ ثِيَابُ سُندُسٍ خُضْرٌ وَإِسْتَبْرَقٌ وَحُلُّوٓا۟
أَسَاوِرَ مِن فِضَّةٍ وَسَقَىٰهُمْ رَبُّهُمْ شَرَابًا طَهُورًا ٢١

22. （彼らには、こう言われる。）「本当にこれはもとより、あなた方への（正しい行い*の）報いである。そして、あなた方の（現世での）努力は、（アッラー*の御許で）労われる[2]ことになっていたのだ」。

إِنَّ هَٰذَا كَانَ لَكُمْ جَزَآءً وَكَانَ سَعْيُكُم مَّشْكُورًا ٢٢

23. （使徒*よ、）本当にわれら*はあなたに、クルアーン*を徐々に下した[3]。

إِنَّا نَحْنُ نَزَّلْنَا عَلَيْكَ ٱلْقُرْءَانَ تَنزِيلًا ٢٣

24. ならば、あなたの主*のお決めになったことゆえに忍耐*し、彼ら（シルク*の徒）の内の罪に溺れた者にも、不信心この上ない者にも、従うのではない。

فَٱصْبِرْ لِحُكْمِ رَبِّكَ وَلَا تُطِعْ مِنْهُمْ ءَاثِمًا أَوْ
كَفُورًا ٢٤

25. また、あなたの主*を朝に夕に念じ、

وَٱذْكُرِ ٱسْمَ رَبِّكَ بُكْرَةً وَأَصِيلًا ٢٥

26. 夜の一部にはかれにサジダ*し、かれを夜長く称える*[4]のだ。

وَمِنَ ٱلَّيْلِ فَٱسْجُدْ لَهُۥ وَسَبِّحْهُ لَيْلًا
طَوِيلًا ٢٦

27. 本当にこれらの者たち（シルク*の徒）は、手っ取り早いもの[5]を愛し、自分たちの背後に（復活の日*という）重大な日（のための行い）を、放ったらかしにしている[6]。

إِنَّ هَٰٓؤُلَآءِ يُحِبُّونَ ٱلْعَاجِلَةَ وَيَذَرُونَ وَرَآءَهُمْ
يَوْمًا ثَقِيلًا ٢٧

---

1 天国の民の衣服については、アーヤ*12、洞窟章 31、巡礼*章 23、創成者*章 33、煙霧章 51-53 も参照。

2 頻出名・用語解説の「よく労（ねぎら）われる*お方」の項も参照。

3 「徐々に下した」に関しては、夜の旅章 106、識別章 32 とそれらの訳注も参照

4 これはタハッジュド（夜の旅章 79 の訳注を参照）のことを指す、とされる（ムヤッサル 580 頁参照）。

5 「手っ取り早いもの」については、復活章 20-21 とその訳注も参照。

6 「自分たちの前方にある復活の日*への信仰を、放ったらかしにしている」という解釈もある（アル＝クルトゥビー19:151 参照）。

28. われら*が彼らを創り、その繋ぎ目を堅固にしたのだ[1]。そして、もしわれら*が望んだなら（彼らを）、彼らと似た者たち（だが、われら*に従順な者たち）とすっかり取り替えてしまったであろう。[2]

نَّحۡنُ خَلَقۡنَٰهُمۡ وَشَدَدۡنَآ أَسۡرَهُمۡۖ وَإِذَا شِئۡنَا
بَدَّلۡنَآ أَمۡثَٰلَهُمۡ تَبۡدِيلًا ٢٨

29. 本当にこれ（このスーラ*）は、教訓。そして、誰でも（それによる教訓を）望む者には、（信仰心と敬虔さ*によって）自らの主*（のご満悦）へと道を取らせよ。

إِنَّ هَٰذِهِۦ تَذۡكِرَةٞۖ فَمَن شَآءَ ٱتَّخَذَ إِلَىٰ رَبِّهِۦ
سَبِيلٗا ٢٩

30. そしてあなた方は、アッラー*がお望みにならない限り、（いかなることも）望むことがない[3]。本当にアッラー*は、もとより全知者、英知あふれる*お方であられるのだから。

وَمَا تَشَآءُونَ إِلَّآ أَن يَشَآءَ ٱللَّهُۚ إِنَّ ٱللَّهَ كَانَ
عَلِيمًا حَكِيمٗا ٣٠

31. かれは、かれがお望みになる（信仰）者を、そのご慈悲の中にお入れになる。そして不正*者たち、彼らには痛ましい懲罰を用意されたのだ。

يُدۡخِلُ مَن يَشَآءُ فِي رَحۡمَتِهِۦۚ وَٱلظَّٰلِمِينَ
أَعَدَّ لَهُمۡ عَذَابًا أَلِيمَۢا ٣١

1 骨や神経や血管で、体の各部をしっかりと繋ぎ止めたということ（イブン・アーシュール 29:409 参照）。

2 彼らの姿形を、醜いものに変えてしまっただろう、という解釈もある（アル＝クルトゥビー19:152 参照）。

3 包る者章 56 の、同様の件（くだり）の訳注も参照。

第 77 章 送られるもの章（アル＝ムルサラート）[1]

سُورَةُ المُرۡسَلَاتِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 立て続けに送られるものにかけて、
2. また、轟々という吹き荒れるものにかけて、
3. また、広く拡散するもの[2]にかけて、
4. また、しっかと分断するもの[3]にかけて、
5. また、教訓を投げかけるもの[4]たちにかけて（誓う）。[5]
6. 弁解[6]、あるいは警告ゆえに。

وَٱلۡمُرۡسَلَٰتِ عُرۡفٗا ١
فَٱلۡعَٰصِفَٰتِ عَصۡفٗا ٢
وَٱلنَّٰشِرَٰتِ نَشۡرٗا ٣
فَٱلۡفَٰرِقَٰتِ فَرۡقٗا ٤
فَٱلۡمُلۡقِيَٰتِ ذِكۡرًا ٥
عُذۡرًا أَوۡ نُذۡرًا ٦

---

1 マッカ*啓示で学者間の見解は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、冒頭に出現する同語に由来。冒頭では風や天使*たちにおけるアッラー*の誓いによって、死後の復活の真実が確証される。前半部では復活の日*が起きる時の光景が描写された後、アッラー*の御力と全能性を示す物事の数々が示され、後半部では来世における不信仰者*と信仰者の様子が描かれる。「その日、嘘呼ばわりしていた者たちに、災いあれ」という言葉が何度も繰り返されるように、スーラ*全般で、不信仰者*に厳しい警告が投げかけられている。

2 何を「拡散する」かについては、「雲」「雨」「行いの帳簿（ちょうぼ）」などといった諸説がある（アル＝クルトゥビー19:155 参照）。

3 「真理と虚妄（きょもう）を分断する啓示と共に下る天使*たち」「雲を分散させる風」といった解釈がある（前掲書、同頁参照）。

4 アッラー*から啓示を授かり、それを預言者*たちへと伝える天使*たちのこと（ムヤッサル 580 頁参照）。

5 アーヤ*1-5 で言及されている「誓い」については、整列者章 1 の訳注を参照。尚イブン・カスィール*によれば、これらの誓われているものについては、アーヤ*5 を除き、それらが天使*のことを示しているか、あるいは風そのものであるかで、学者間の解釈の相違がある（8:297 参照）。

6 啓示によって、人々のアッラー*に対する弁解の余地はなくなる（ムヤッサル 580 頁参照）。関連するアーヤ*として、婦人章 165、家畜章 131、155-157、夜の旅章 15 とその訳注、ター・ハー章 134、詩人たち章 208、創成者*章 24 も参照。

7. あなた方に約束されていること[1]は、確実に起こるのである。
إِنَّمَا تُوعَدُونَ لَوَٰقِعٞ ٧

8. 星々（の光）が消された時、
فَإِذَا ٱلنُّجُومُ طُمِسَتۡ ٨

9. また、天が割れた時、
وَإِذَا ٱلسَّمَآءُ فُرِجَتۡ ٩

10. また、山々が粉々（こなごな）にされた時、[2]
وَإِذَا ٱلۡجِبَالُ نُسِفَتۡ ١٠

11. また、使徒（しと）*たちが（、その民との決着まで、）時間[3]を定められた時、
وَإِذَا ٱلرُّسُلُ أُقِّتَتۡ ١١

12. （彼らには、こう言われる。）「一体、いずれの（偉大なる）日まで、（使徒（しと）*たちは）延期（えんき）されたのか？
لِأَيِّ يَوۡمٍ أُجِّلَتۡ ١٢

13. 裁決（さいけつ）の日[4]まで、である」。
لِيَوۡمِ ٱلۡفَصۡلِ ١٣

14. （人間よ、）裁決（さいけつ）の日が何かを、あなたに知らせるのは何か？
وَمَآ أَدۡرَىٰكَ مَا يَوۡمُ ٱلۡفَصۡلِ ١٤

15. その日、（復活の日*を）嘘（うそ）呼ばわりしていた者たちに、災（わざわ）いあれ。
وَيۡلٞ يَوۡمَئِذٖ لِّلۡمُكَذِّبِينَ ١٥

16. われら*は、（自分たちの使徒（しと）*を嘘（うそ）つき呼ばわりしたことゆえ、）昔の人々を滅（ほろ）ぼしたのではなかったか？
أَلَمۡ نُهۡلِكِ ٱلۡأَوَّلِينَ ١٦

17. それから、われら*は（彼らと同様であった）後代の者たちを、彼らに続かせるのだ。
ثُمَّ نُتۡبِعُهُمُ ٱلۡأٓخِرِينَ ١٧

---

1 「約束されていること」とは、復活の日*と、そこでの清算や報いのこと（ムヤッサル 580 頁参照）。

2 復活の日*の天変地異の様子については洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、山章 9-10、出来事章 5-6、衣を纏（まと）う者章 14、階段章 8-9、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 なども参照。

3 これは、使徒*たちが自分たちの民について証言する、復活の日*のこと（アル＝バガウィー5:196 参照）。婦人章 41 とその訳注も参照。

4 「裁決の日」については、整列者章 21 の訳注を参照。

18. そのように、われら*は（使徒*ムハンマド*を嘘つき呼ばわりした）罪悪者たちに対して、するのである。

كَذَٰلِكَ نَفۡعَلُ بِٱلۡمُجۡرِمِينَ ١٨

19. （復活の）その日、（アッラーの唯一性*と、使徒*と、復活と報いを）嘘呼ばわりしていた者たちに、災いあれ。

وَيۡلٞ يَوۡمَئِذٖ لِّلۡمُكَذِّبِينَ ١٩

20. （不信仰者*たちよ、）われら*はあなた方を、卑しい液体[1]から創ったのではないか？

أَلَمۡ نَخۡلُقكُّم مِّن مَّآءٖ مَّهِينٖ ٢٠

21. そしてそれを、しっかりとした定着場[2]に設えたのでは？

فَجَعَلۡنَٰهُ فِي قَرَارٖ مَّكِينٍ ٢١

22. 定められた段階[3]まで。

إِلَىٰ قَدَرٖ مَّعۡلُومٖ ٢٢

23. われら*は、（その創造、造形、出産を）調整したのだ。調整するお方の何と素晴らしいことか。

فَقَدَرۡنَا فَنِعۡمَ ٱلۡقَٰدِرُونَ ٢٣

24. （復活の）その日、（われら*の力を）嘘呼ばわりしていた者たちに、災いあれ。

وَيۡلٞ يَوۡمَئِذٖ لِّلۡمُكَذِّبِينَ ٢٤

25. われら*は大地を、収容するものとしたのではないか？

أَلَمۡ نَجۡعَلِ ٱلۡأَرۡضَ كِفَاتًا ٢٥

26. （数え切れないほどの）生者たちと死者たちを（、収容するものと）？

أَحۡيَآءٗ وَأَمۡوَٰتٗا ٢٦

27. また、われら*はそこ（大地）に、高く聳える堅固な山々を置き、あなた方に美味なる水を飲ませてやった。

وَجَعَلۡنَا فِيهَا رَوَٰسِيَ شَٰمِخَٰتٖ وَأَسۡقَيۡنَٰكُم مَّآءٗ فُرَاتٗا ٢٧

28. （復活の）その日、（これらの恩恵を）嘘呼ばわりしていた者たちに、災いあれ。

وَيۡلٞ يَوۡمَئِذٖ لِّلۡمُكَذِّبِينَ ٢٨

1 「卑しい液体」については、アッ＝サジダ*章 8 の訳注を参照。

2 「しっかりとした定着場」については、信仰者たち章 13 の訳注を参照。

3 つまり、出産の時期のこと（アル＝バガウィー5:197 参照）。

29. （復活の日*、不信仰者*たちには、こう言われる。）「（現世で）あなた方が嘘呼ばわりしていたもの（地獄の懲罰）へと、進み行くがよい。

ٱنطَلِقُوٓا۟ إِلَىٰ مَا كُنتُم بِهِۦ تُكَذِّبُونَ ٢٩

30. 三つ又の[1]（煙の）陰へと、進み行け」。

ٱنطَلِقُوٓا۟ إِلَىٰ ظِلٍّ ذِى ثَلَـٰثِ شُعَبٍ ٣٠

31. 濃影でもなく、炎から防いでもくれない（陰へ）。

لَّا ظَلِيلٍ وَلَا يُغْنِى مِنَ ٱللَّهَبِ ٣١

32. 実にそれ（地獄）は、城のような（巨大な）火花を飛ばす。

إِنَّهَا تَرْمِى بِشَرَرٍ كَٱلْقَصْرِ ٣٢

33. まるで、黄褐色のラクダの一群[2]のような（火花を）。

كَأَنَّهُۥ جِمَـٰلَتٌ صُفْرٌ ٣٣

34. （復活の）その日、（アッラー*の警告を）嘘呼ばわりしていた者たちに、災いあれ。

وَيْلٌ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ٣٤

35. これは、彼ら（嘘呼ばわりしていた者たちが、自分たちを益することを）喋ることがない[3]（復活の）日*。

هَـٰذَا يَوْمُ لَا يَنطِقُونَ ٣٥

36. また、彼らに（弁明が）許可されることで、言い訳することもない（日）。

وَلَا يُؤْذَنُ لَهُمْ فَيَعْتَذِرُونَ ٣٦

37. （復活の）その日、（この日の出来事を）嘘呼ばわりしていた者たちに、災いあれ。

وَيْلٌ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ٣٧

38. これは裁決の日[4]。われら*はあなた方（不信仰者*たち）と、昔の（不信仰だった）人々を集結させた。

هَـٰذَا يَوْمُ ٱلْفَصْلِ ۖ جَمَعْنَـٰكُمْ وَٱلْأَوَّلِينَ ٣٨

---

1 燃え立つ炎と共に上る煙が、その激しさゆえに三本に分かれる様子とされる（イブン・カスィール 8:299 参照）。

2 その大きさ、色、炎から飛び散って遠ざかって行く動きが、黄褐色のラクダの一群に例えられているのだという（イブン・アーシュール 29:437 参照）。また、黄褐色ではなく黒色という説もある（イブン・カスィール 8:299 参照）。

3 復活の日、「喋ることがない」ことについては、夜の旅章 97 の訳注も参照。

4 「裁決の日」については、整列者章 21 の訳注を参照。

39. それで、もしあなた方に（懲罰から逃れる）策略があるのなら、われら*に策略してみよ。

فَإِن كَانَ لَكُمْ كَيْدٌ فَكِيدُونِ ٣٩

40. （復活の）その日、（復活の日*を）嘘呼ばわりしていた者たちに、災いあれ。

وَيْلٌ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ٤٠

41. 本当に敬虔な*者たちは、（その日、木々の）陰と泉のもとにある。

إِنَّ ٱلْمُتَّقِينَ فِى ظِلَٰلٍ وَعُيُونٍ ٤١

42. また、自分たちが欲する果実のもとに。

وَفَوَٰكِهَ مِمَّا يَشْتَهُونَ ٤٢

43. （彼らには、こう言われる。）「自分たちが（現世で）行っていた（正しい）こと（の報い）ゆえに、おいしく食べ、飲むのだ。[1]

كُلُوا۟ وَٱشْرَبُوا۟ هَنِيٓـًٔۢا بِمَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ٤٣

44. 本当に、われら*はこのように、善を尽くす者[2]たちに報いるのだから」。

إِنَّا كَذَٰلِكَ نَجْزِى ٱلْمُحْسِنِينَ ٤٤

45. （復活の）その日、（報いと清算を）嘘呼ばわりしていた者たちに、災いあれ。

وَيْلٌ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ٤٥

46. （不信仰者*たちよ、）僅かな間、食べ、楽しむがよい。本当にあなた方は、（シルク*という罪を犯す）罪悪者なのだ。

كُلُوا۟ وَتَمَتَّعُوا۟ قَلِيلًا إِنَّكُم مُّجْرِمُونَ ٤٦

47. （復活の）その日、（清算と報いの日を）嘘呼ばわりしていた者たちに、災いあれ。

وَيْلٌ يَوْمَئِذٍ لِّلْمُكَذِّبِينَ ٤٧

48. 彼ら（シルク*の徒）は、自分たちに「ルクーゥ*せよ」と言われても、ルクーゥ*しない。[3]

وَإِذَا قِيلَ لَهُمُ ٱرْكَعُوا۟ لَا يَرْكَعُونَ ٤٨

---

1 天国の民の飲食物については、ヤー・スィーン章 57、整列者章 45-47、サード章 51、詳細にされた章 31、金の装飾章 73、煙霧章 55、ムハンマド*章 15、山章 22、慈悲あまねき*お方章 52、68、出来事章 17-21、真実章 23、人間章 5-6、14、17-18、21、消息章 34、量を減らすたち者章 25-28 も参照。

2 「善を尽くす者」については、蜜蜂章 128 の訳注を参照。

3 つまり、礼拝せよ、と言われてもしないということ（ムヤッサル 581 頁参照）。一説には、これは復活の日*のこと（アル＝バガウィー5:198-199 参照）。筆章 42-43 とその訳注も参照。

49. （復活の）その日、（アッラー*の御徴を）嘘呼ばわりしていた者たちに、災いあれ。

وَيۡلٞ يَوۡمَئِذٖ لِّلۡمُكَذِّبِينَ ٤٩

50. ならば一体、彼らはそれ（クルアーン*）を差しおいて、いかなる話を信じるというのか？

فَبِأَيِّ حَدِيثِۭ بَعۡدَهُۥ يُؤۡمِنُونَ ٥٠

第78章
消息章（アン＝ナバア）[1]

سُورَةُ النَّبَإِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. 彼ら（不信仰者*たち）は何について、尋ね合っているのか？
2. 偉大なる消息[2]について（、である）。
3. 彼らはそこにおいて、意見を異にしている[3]。
4. 断じて（、復活は嘘では）ない！ やがて、彼らは（自分たちが嘘呼ばわりしたことの結末を、）知ろう。
5. 更に、断じて（、復活は嘘では）ない！ やがて、彼らは（自分たちが嘘呼ばわりしたことの結末を、）知ろう。
6. われら*は大地を、（平坦な）寝床（のよう）にはしなかったのか？
7. また、山々を（堅固な）杭のように？
8. また、われら*はあなた方を（様々な）種類[4]に創造し、
9. あなた方の眠りを休息とし、

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

عَمَّ يَتَسَآءَلُونَ ١
عَنِ ٱلنَّبَإِ ٱلْعَظِيمِ ٢
ٱلَّذِى هُمْ فِيهِ مُخْتَلِفُونَ ٣
كَلَّا سَيَعْلَمُونَ ٤
ثُمَّ كَلَّا سَيَعْلَمُونَ ٥
أَلَمْ نَجْعَلِ ٱلْأَرْضَ مِهَٰدًا ٦
وَٱلْجِبَالَ أَوْتَادًا ٧
وَخَلَقْنَٰكُمْ أَزْوَٰجًا ٨
وَجَعَلْنَا نَوْمَكُمْ سُبَاتًا ٩

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭の同語に由来。スーラ*は、不信仰の重大さを喚起（かんき）する質問の形で始まり、次いでアッラー*の全能性と唯一性*を示す、自然界の驚異（きょうい）と恩恵が並べられていく。中盤からは復活の日*の確証と、それが起こる日の様子が描かれた後、不信仰者*たちのその日における悲惨（ひさん）な状況が警告と共に、そして信仰者たちの善き結末が吉報と共に描写される。スーラ*の最後は再び、不信仰者*たちへの警告によって締めくくられる。

2 「偉大なる消息」とは、死後の復活を伝えるクルアーン*のこと（ムヤッサル 582 頁参照）。

3 「意見を異にしている」には、「ある者はそれを嘘と決めつけ、またある者はそれを疑った」「それを魔術、詩、占い師の言葉などと異なる言葉で表現した」「ある者はそれを信じ、ある者はそれを信じなかった」といった解釈がある（イブン・ジュザイ 2:527-528 参照）。

4 この「種類」の解説には、「男女」「様々な色」「美醜（びしゅう）、背の高低など、対になった、あらゆる種類のこと」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー19:171 参照）。

10. 夜を衣（ころも）とし、[1]

وَجَعَلۡنَا ٱلَّيۡلَ لِبَاسٗا ١٠

11. 昼を生計（の手段）とし、

وَجَعَلۡنَا ٱلنَّهَارَ مَعَاشٗا ١١

12. あなた方の上に、（割れ目一つない）強固な七層（そう）（の天）を築（きず）き上げ、

وَبَنَيۡنَا فَوۡقَكُمۡ سَبۡعٗا شِدَادٗا ١٢

13. 煌々（こうこう）とした灯火（ともしび）[2]を置き、

وَجَعَلۡنَا سِرَاجٗا وَهَّاجٗا ١٣

14. 絞（しぼ）り時のもの（雨を湛（たた）えた雲）から、ざあざあという雨を降（ふ）らせた。

وَأَنزَلۡنَا مِنَ ٱلۡمُعۡصِرَٰتِ مَآءٗ ثَجَّاجٗا ١٤

15. （それは）われら*がそれで、（人が食べる）種粒（たねつぶ）と（家畜（かちく）が食べる）植物を生え出させるため。

لِّنُخۡرِجَ بِهِۦ حَبّٗا وَنَبَاتٗا ١٥

16. そして、（いくつもの枝が交差して）重（かさ）なり合った農園を。

وَجَنَّٰتٍ أَلۡفَافًا ١٦

17. 本当に裁決（さいけつ）の日[3]はもとより、時が定められている。

إِنَّ يَوۡمَ ٱلۡفَصۡلِ كَانَ مِيقَٰتٗا ١٧

18. 角笛（つのぶえ）に吹（ふ）き込まれ[4]、あなた方が（各々（おのおの）、自分たちの指導者と共に）集団でやって来る日は。

يَوۡمَ يُنفَخُ فِي ٱلصُّورِ فَتَأۡتُونَ أَفۡوَاجٗا ١٨

19. また（その日、）天は開かれ、（天使*が降臨（こうりん）するための）いくつもの扉（とびら）（を有するもの）となり、

وَفُتِحَتِ ٱلسَّمَآءُ فَكَانَتۡ أَبۡوَٰبٗا ١٩

20. 山々は動かされ、（それから粉々（こなごな）にされて）蜃気楼（しんきろう）のようになる。[5]

وَسُيِّرَتِ ٱلۡجِبَالُ فَكَانَتۡ سَرَابًا ٢٠

21. 本当に地獄はもとより、（不信仰者*たちに対する）見張りの場である。

إِنَّ جَهَنَّمَ كَانَتۡ مِرۡصَادٗا ٢١

---

1 識別章 47 の訳注も参照。

2 この「灯火」については、識別章 61 の訳注を参照。

3 「裁決の日」については、整列者章 21 の訳注を参照。

4 「角笛に吹き込まれる」については、家畜章 73 の訳注を参照。尚、これは復活を知らせる一吹きのこと（ムヤッサル 582 頁参照）。

5 復活の日*の天変地異の様子については洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、山章 9-10、出来事章 5-6、衣を纏（まと）う者章 14、階段章 8-9、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 も参照。

22. （それは、不信仰において）度を越した者たちの、帰り場所なのだ。
لِّلطَّٰغِينَ مَـَٔابًا ٢٢

23. 彼らはそこに長期間、留まる身の上。
لَّٰبِثِينَ فِيهَآ أَحْقَابًا ٢٣

24. 彼らはそこで、（暑さを冷ます）冷たさも（、喉を潤す）飲み物も、味わうことがない、
لَّا يَذُوقُونَ فِيهَا بَرْدًا وَلَا شَرَابًا ٢٤

25. 煮えたぎる湯と膿汁[1]の外は。
إِلَّا حَمِيمًا وَغَسَّاقًا ٢٥

26. （それらは、彼らの現世での行いに）相応しい報いとしてのもの。
جَزَآءً وِفَاقًا ٢٦

27. 本当に彼らは、清算を望んでおらず、[2]
إِنَّهُمْ كَانُوا۟ لَا يَرْجُونَ حِسَابًا ٢٧

28. われら*の御徴[3]をひどく嘘呼ばわりし、
وَكَذَّبُوا۟ بِـَٔايَٰتِنَا كِذَّابًا ٢٨

29. そしてわれら*は、全ての物事を書で数え尽くしておいた[4]のだから。
وَكُلَّ شَىْءٍ أَحْصَيْنَٰهُ كِتَٰبًا ٢٩

30. ならば（不信仰者たちよ、自分たちの行いの応報を）味わえ。われら*はあなた方に、懲罰以外の何も上乗せはしまい。
فَذُوقُوا۟ فَلَن نَّزِيدَكُمْ إِلَّا عَذَابًا ٣٠

31. 本当に敬虔な*者たちには、勝利の場がある。
إِنَّ لِلْمُتَّقِينَ مَفَازًا ٣١

32. 農園、葡萄、
حَدَآئِقَ وَأَعْنَٰبًا ٣٢

33. （彼女ら自身が互いに）同い年の、胸もふっくらとした女たち、
وَكَوَاعِبَ أَتْرَابًا ٣٣

34. （酒*で）満杯の[5]盃が。
وَكَأْسًا دِهَاقًا ٣٤

---

1 「膿汁」については、サード章 57 の訳注を参照。

2 この「望む」に関しては、ユーヌス*章 7 の同語についての訳注も参照。

3 クルアーン*のアーヤ*を始めとした、アッラー*からの「御徴」のこと（アッ＝シャウカーニー5:486 参照）。

4 ヤー・スィーン章 12 とその訳注も参照。尚、この「書」の解釈には、「天使*たちが書き留める、行いの帳簿（ちょうぼ）」「守られし碑板*」という説がある（アル＝クルトゥビー19:182 参照）。

5 ほかにも、「次々とやって来る」「澄（す）んだ」といった解釈もある（アル＝バガウィー5:202 参照）。

35. 彼らはそこで戯言[1]も、嘘の言い合いも、耳にすることがない。[2]

لَّا يَسۡمَعُونَ فِيهَا لَغۡوٗا وَلَا كِذَّٰبٗا ٣٥

36. （それらは全て、）あなたの主*からの報い、ふんだんなる贈り物としてのもの。

جَزَآءٗ مِّن رَّبِّكَ عَطَآءً حِسَابٗا ٣٦

37. 諸天と大地、その間にあるものの主*、慈悲あまねき*お方（からの）。彼らはかれに対し、（お許しを授かった者以外、）語りかけることが出来ない、[3]

رَّبِّ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلۡأَرۡضِ وَمَا بَيۡنَهُمَا ٱلرَّحۡمَٰنِۖ لَا يَمۡلِكُونَ مِنۡهُ خِطَابٗا ٣٧

38. 魂[4]と天使*たちが、列をなして立つ日に。慈悲あまねき*お方が（執り成し[5]を）お許しになり、正しいこと[6]を語った者しか、話すことはないのだ。

يَوۡمَ يَقُومُ ٱلرُّوحُ وَٱلۡمَلَٰٓئِكَةُ صَفّٗاۖ لَّا يَتَكَلَّمُونَ إِلَّا مَنۡ أَذِنَ لَهُ ٱلرَّحۡمَٰنُ وَقَالَ صَوَابٗا ٣٨

39. それは（必ずや起こる、）真実の日。ならば、誰でも（その日の救いを）望む者には、（正しい行い*により、）自らの主*を帰り場所とさせるのだ。

ذَٰلِكَ ٱلۡيَوۡمُ ٱلۡحَقُّۖ فَمَن شَآءَ ٱتَّخَذَ إِلَىٰ رَبِّهِۦ مَـَٔابًا ٣٩

40. 本当にわれら*は、あなた方に間近に迫った懲罰を警告した。人が、自分が行った（全ての）ことを目にし、不信仰者*が（清算の恐怖ゆえ、）「ああ、私が土であったらよかったのに！[7]」という日の（懲罰を）。

إِنَّآ أَنذَرۡنَٰكُمۡ عَذَابٗا قَرِيبٗا يَوۡمَ يَنظُرُ ٱلۡمَرۡءُ مَا قَدَّمَتۡ يَدَاهُ وَيَقُولُ ٱلۡكَافِرُ يَٰلَيۡتَنِي كُنتُ تُرَٰبَۢا ٤٠

---

1 「戯言」については、信仰者たち章 3 の同語の訳注を参照。

2 山章 23 と、その訳注も参照（イブン・カスィール 8:308 参照）。

3 復活の日*に「話すこと」については、夜の旅 97 の訳注も参照。

4 この「魂」は、ジブリール*のこととされる（ムヤッサル 583 頁参照）。「魂」と呼ばれている所以については、マルヤム*章 17 の訳注を参照。

5 復活の日*の「執り成し」については雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

6 「正しいこと」の筆頭が、シャハーダ*の言葉である（イブン・カスィール 8:310 参照）。

7 その日、人間は懲罰を目にし、自分が現世で（清算を受ける必要のない）土であったならば、と望む。あるいは、その日は動物でさえも集められ、公正な裁きを受けるが、それらはその後に懲罰を受けることなく土と化す。彼らは、自分たちもそのような存在であったなら、と望むのだという（前掲書 8:310-311 参照）。

第 79 章
引き離すもの章（アン＝ナーズィアート）[1]

سُورَةُ النَّازِعَاتِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. （不信仰者*の魂を、）力任せに引き離すものにかけて、[2]

وَٱلنَّٰزِعَٰتِ غَرۡقٗا ١

2. また、（信仰者の魂を）さっと引き抜くものにかけて、

وَٱلنَّٰشِطَٰتِ نَشۡطٗا ٢

3. また、（天空を）自在に飛び回るものにかけて、

وَٱلسَّٰبِحَٰتِ سَبۡحٗا ٣

4. また、（アッラー*のご命令の遂行へ、）我先にと先んずるものにかけて、

فَٱلسَّٰبِقَٰتِ سَبۡقٗا ٤

5. また、（アッラー*から委任された）ご命令を司るもの[3]にかけて（誓う。あなた方は蘇らされ、清算を受けるのである）、

فَٱلۡمُدَبِّرَٰتِ أَمۡرٗا ٥

6. 激震するものが、激震する日に。[4]

يَوۡمَ تَرۡجُفُ ٱلرَّاجِفَةُ ٦

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する同語に由来。様々な任務を任された天使*たちにおけるアッラー*の誓いによって、死後の復活の真実が確証され、その日の不信仰者*の様子が描かれる。その後は、アッラー*の使徒*への不信仰を警告するムーサー*とフィルアウン*の話を挟んだ後、アッラーの唯一性*と全能性を示す偉大な創造と恩恵が示され、再び復活と報いの確証がなされた後、信仰者には吉報が、不信仰者*には警告が告げられる。

2 アーヤ*1-5 で言及されている「誓い」については、整列者章 1 の訳注を参照。尚、これらのアーヤ*で誓われているものは全て天使*たちのことを指しているとされる（ムヤッサル 583 頁参照）が、アーヤ*5 を除いては、「星のこと」を表す、といった別説もある（イブン・カスィール 8:312-313 参照）。アーヤ*1-2 で言及されている、不信仰者*と信仰者の「魂を抜く」ことに関しては、家畜章 93 とその訳注を参照。

3 アッラー*から啓示を授かり、それを預言者*たちへと伝える天使*たちのこと（ムヤッサル 583 頁参照）。

4 「激震するもの」とは大地のことで、これは全てのものに死がもたらされる、一回目の角笛（家畜章 73 の訳注も参照）のこととされる（前掲書、同頁参照）。

7. 後続のもの[1]が、それに続く。

تَتۡبَعُهَا ٱلرَّادِفَةُ ٧

8. その日、(不信仰者*たちの)心は震撼(しんかん)する。

قُلُوبٞ يَوۡمَئِذٖ وَاجِفَةٌ ٨

9. その眼は怖気(おじけ)づいている。

أَبۡصَٰرُهَا خَٰشِعَةٞ ٩

10. 彼ら（復活を否定する者たち）は、言う。「一体（死後）、本当に私たちが（生）前の状態に、戻(もど)される身だと？

يَقُولُونَ أَءِنَّا لَمَرۡدُودُونَ فِي ٱلۡحَافِرَةِ ١٠

11. 私たちが、朽(く)ち果(は)てた骨となった後に？」

أَءِذَا كُنَّا عِظَٰمٗا نَّخِرَةٗ ١١

12. 彼らは言った。「それは、そうであるならば、損(そん)な戻(もど)り様だ」。[2]

قَالُواْ تِلۡكَ إِذٗا كَرَّةٌ خَاسِرَةٞ ١٢

13. それは、ただの一喝(いっかつ)に過(す)ぎない。

فَإِنَّمَا هِيَ زَجۡرَةٞ وَٰحِدَةٞ ١٣

14. するとどうであろう、彼らは(地中から蘇(よみがえ)らされ、生きた状態で）地表[3]にあるのだ。

فَإِذَا هُم بِٱلسَّاهِرَةِ ١٤

15. （使徒(しと)*よ、）あなたのもとに、ムーサー*の話は届(とど)いたか？

هَلۡ أَتَىٰكَ حَدِيثُ مُوسَىٰٓ ١٥

16. 彼の主(しゅ)*がトゥワー[4]の聖なる谷で、彼をお呼びになった時のこと。[5]

إِذۡ نَادَىٰهُ رَبُّهُۥ بِٱلۡوَادِ ٱلۡمُقَدَّسِ طُوًى ١٦

17. （アッラー*は、彼に仰(おお)せられた。）「フィルアウン*のところへ行け。本当に彼は、（われら*への反逆者として)ひどく放埒(ほうらつ)なのだから。

ٱذۡهَبۡ إِلَىٰ فِرۡعَوۡنَ إِنَّهُۥ طَغَىٰ ١٧

18. そして、（彼に）言うのだ。『あなたに、ご自身を清める[6]おつもりはありますか？

فَقُلۡ هَل لَّكَ إِلَىٰٓ أَن تَزَكَّىٰ ١٨

---

1 これは復活を知らせる、二回目の角笛（家畜章 73 の訳注も参照）のこととされる（ムヤッサル 583 頁参照）。

2 これはアッラー*の御力に対する無知さと、不遜さから、復活をあり得ないこととして言った言葉とされる（アッ＝サアディー908 頁参照）。

3 この「地表」については、イブラーヒーム*章 48 も参照（イブン・カスィール 8:314 参照）。

4 「トゥワー」については、ター・ハー章 12 の同語の訳注を参照。

5 この出来事は、ター・ハー章 10 以降、蟻章 7 以降、物語章 29 以降に詳しい。

6 不信仰と放埒さの汚れを清め、信仰と正しい行い*を身につけること（アッ＝サアディー909 頁参照）。

19. そして私があなたを、あなたの主*へと導き、それによってあなたが（かれを）恐れるようになる（おつもりは）？』」

وَأَهۡدِيَكَ إِلَىٰ رَبِّكَ فَتَخۡشَىٰ ١٩

20. それで彼（ムーサー*）は、彼（フィルアウン*）に最大の御徴[1]を披露し、

فَأَرَىٰهُ ٱلۡأٓيَةَ ٱلۡكُبۡرَىٰ ٢٠

21. 彼（フィルアウン*）は（ムーサー*を）嘘つき呼ばわりして、（自らの主*に）逆らった。

فَكَذَّبَ وَعَصَىٰ ٢١

22. それから彼（フィルアウン*）は、（ムーサー*への対抗心に）躍起になって（信仰から）背を向け、

ثُمَّ أَدۡبَرَ يَسۡعَىٰ ٢٢

23. （自国の民を）召集して、呼びかけ、

فَحَشَرَ فَنَادَىٰ ٢٣

24. 言った。「私が、あなた方の至高の主*である」。

فَقَالَ أَنَا۠ رَبُّكُمُ ٱلۡأَعۡلَىٰ ٢٤

25. それでアッラー*は彼（フィルアウン*）を、後のもの（来世）と初めのもの（現世）の懲罰[2]で罰された。

فَأَخَذَهُ ٱللَّهُ نَكَالَ ٱلۡأٓخِرَةِ وَٱلۡأُولَىٰٓ ٢٥

26. 本当にその中にはまさしく、恐れる者への教示があるのだ。

إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَعِبۡرَةٗ لِّمَن يَخۡشَىٰٓ ٢٦

27. （人々よ、）一体あなた方（の死後の再生）が、より創造に難いのか？　それとも、天（の創造）か？　かれがそれ（天）を、築かれたのである。

ءَأَنتُمۡ أَشَدُّ خَلۡقًا أَمِ ٱلسَّمَآءُۚ بَنَىٰهَا ٢٧

28. かれは（天の）その高みをお上げになり、それを（完璧に）整えられ[3]、

رَفَعَ سَمۡكَهَا فَسَوَّىٰهَا ٢٨

29. その夜を（日没によって）闇とされ、（日の出によって）その光をお出しになった。

وَأَغۡطَشَ لَيۡلَهَا وَأَخۡرَجَ ضُحَىٰهَا ٢٩

1　「最大の御徴」とは、手と杖の奇跡とされる（ムヤッサル 584 頁参照）。高壁章 107-108、詩人たち章 32-33 も参照。

2　現世における彼らの懲罰については、ユーヌス*章 90-92、ター・ハー章 78、詩人たち章 66 を参照。また、来世における懲罰については、赦し深いお方章 46 も参照。

3　天が完璧に整えられたことに関しては、カーフ章 6、王権章 3 を参照。

30. また、大地は、（天の創造の）その後に平らに広げられ、

وَٱلۡأَرۡضَ بَعۡدَ ذَٰلِكَ دَحَىٰهَآ ٣٠

31. そこからその水と、（家畜に）食ませるものをお出しになり、

أَخۡرَجَ مِنۡهَا مَآءَهَا وَمَرۡعَىٰهَا ٣١

32. 山々を堅固にされた、

وَٱلۡجِبَالَ أَرۡسَىٰهَا ٣٢

33. あなた方と、あなた方の家畜の利益のために。

مَتَٰعٗا لَّكُمۡ وَلِأَنۡعَٰمِكُمۡ ٣٣

34. そして、この上ない大難[1]が到来した時（、人々は蘇らされる）。

فَإِذَا جَآءَتِ ٱلطَّآمَّةُ ٱلۡكُبۡرَىٰ ٣٤

35. 人間が、（現世での自分の行いを見せられ、）自分が勤しんでいた（善いこと、悪い）ことを思い出す日、

يَوۡمَ يَتَذَكَّرُ ٱلۡإِنسَٰنُ مَا سَعَىٰ ٣٥

36. また、見る者の眼に、火獄が露わになる（日に）。

وَبُرِّزَتِ ٱلۡجَحِيمُ لِمَن يَرَىٰ ٣٦

37. それで(アッラー*のご命令に対して)放埓で、

فَأَمَّا مَن طَغَىٰ ٣٧

38. 現世の生活を（来世よりも）好んだ者はといえば、

وَءَاثَرَ ٱلۡحَيَوٰةَ ٱلدُّنۡيَا ٣٨

39. 本当に火獄こそが、（その）住処である。

فَإِنَّ ٱلۡجَحِيمَ هِيَ ٱلۡمَأۡوَىٰ ٣٩

40. そして自分の主*の立ち所[2](での清算)を怖れ、自らに（罪深いことへの）私欲を禁じた者はといえば、

وَأَمَّا مَنۡ خَافَ مَقَامَ رَبِّهِۦ وَنَهَى ٱلنَّفۡسَ عَنِ ٱلۡهَوَىٰ ٤٠

41. 本当に天国こそが、（その）住処である。

فَإِنَّ ٱلۡجَنَّةَ هِيَ ٱلۡمَأۡوَىٰ ٤١

42. （使徒*よ、）彼ら(シルク*の徒)は、(嘲笑しつつ）あなたに尋ねる。一体いつ、（復活の）その時はやって来るのか、と。

يَسۡـَٔلُونَكَ عَنِ ٱلسَّاعَةِ أَيَّانَ مُرۡسَىٰهَا ٤٢

1 あらゆる恐ろしい物事の上をいく最大の災難である「この上ない大難」とは、清算と報いが行われる復活の時のこと（アル＝カースィミー17:6053 参照)。

2 「自分の主の立ち所」については、イブラーヒーム*章 14 の訳注を参照。

43. （使徒*よ、）あなたは、それを話すことに何の関わりがあるのか？
فِيمَ أَنتَ مِن ذِكۡرَىٰهَآ ٤٣

44. あなたの主*にこそ、その（知識の）終着点が属するのだから。[1]
إِلَىٰ رَبِّكَ مُنتَهَىٰهَآ ٤٤

45. あなたは、それを恐れる者への警告者に過ぎないのだ。
إِنَّمَآ أَنتَ مُنذِرُ مَن يَخۡشَىٰهَا ٤٥

46. 彼らが、それ（復活）を目の当たりにする日、彼らは（その余りの恐怖ゆえ、現世において）あたかも（一日の）午後か、あるいは午前中しか過ごさなかったかのようである[2]。
كَأَنَّهُمۡ يَوۡمَ يَرَوۡنَهَا لَمۡ يَلۡبَثُوٓاْ إِلَّا عَشِيَّةً أَوۡ ضُحَىٰهَا ٤٦

1 高壁章 187 も参照。

2 ユーヌス*章 45 とその訳注、及びター・ハー章 103、信仰者たち章 113-114、ビザンチン章 55、砂丘章 35 も参照。

第80章
眉（まゆ）をひそめた章（アバサ）[1]

سُورَةُ عَبَسَ

慈悲（じひ）あまねく*慈愛（じあい）深き*
アッラー*の御名（みな）において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 眉（まゆ）をひそめて、背を向けた、

عَبَسَ وَتَوَلَّىٰٓ ١

2. 自分のもとに、盲目（もうもく）の者が来たために。[2]

أَن جَآءَهُ ٱلۡأَعۡمَىٰ ٢

3. そして、何があなたに（彼の真実を）知らせるのか？ 彼が清められる[3]かもしれない、ということを？

وَمَا يُدۡرِيكَ لَعَلَّهُۥ يَزَّكَّىٰٓ ٣

4. あるいは、彼が教訓を受け、それで教訓が彼を益（えき）するかもしれないことを？

أَوۡ يَذَّكَّرُ فَتَنفَعَهُ ٱلذِّكۡرَىٰٓ ٤

5. （導（みちび）きなしでも）十分だとする者[4]はといえば、

أَمَّا مَنِ ٱسۡتَغۡنَىٰ ٥

6. あなたは彼に掛（か）かりきり。

فَأَنتَ لَهُۥ تَصَدَّىٰ ٦

---

1 マッカ*啓示。スーラ*名は、冒頭に出現する同語に由来。預言者*ムハンマド*に対するアッラー*のお咎（とが）めに始まり（詳しくはアーヤ*2 の訳注を参照）、クルアーン*の真実性とその偉大さの確証と共に、それを信じない者への警告が告げられる。そして創造におけるアッラーの唯一性*が、自然界の様々な事象によって証明された後、復活の日*とその日の出来事、信仰者と不信仰者*の対照的な結末が描かれる。

2 アッ＝ラーズィー*によれば、解釈学者らは、このアーヤ*が預言者*ムハンマド*と教友*イブン・ウンム・マクトゥームに関して下ったということで、一致している（11:53 参照）。預言者*はある時、クライシュ族*の有力者らがムスリム*になることを望み、彼らをイスラーム*へと熱心に招いていた。そのような場にやって来た盲目のイブン・ウンム・マクトゥームは、預言者*が別の者との話に勤（いそ）しんでいるのを知らず、イスラーム*の教えを彼にしつこくせがんでしまう。預言者*は話を邪魔されるのを嫌い、彼を相手にせず、有力者たちへの話に勤しんだ。このアーヤ*が下ってそのことを咎められた後、預言者*は彼を大事に扱い、重用するようになった（アル＝バガウィー5:210 参照）。尚、預言者*・使徒*の無謬（むびゅう）性については、雌牛章 36 の訳注を参照。

3 ここでの「清められる」とは、預言者*からの教えを得ることで、自らの宗教においてより清浄となり、無知という闇が消え去ること、とされる（アル＝クルトゥビー19:213 参照）。

4 これは善への意欲がないため、質問も教示も乞うこともないような者のこと（アッ＝サァディー910 頁参照）。

7. 彼が清められずとも、あなたには何の咎めもないというのに。

وَمَا عَلَيۡكَ أَلَّا يَزَّكَّىٰ ٧

8. そして（あなたと会うことに）意気込んで、あなたのもとにやって来た者はといえば、

وَأَمَّا مَن جَآءَكَ يَسۡعَىٰ ٨

9. （アッラー*を）恐れているというのに、

وَهُوَ يَخۡشَىٰ ٩

10. あなたは彼をそっちのけにしている。

فَأَنتَ عَنۡهُ تَلَهَّىٰ ١٠

11. 断じて（、使徒*よ、あなたがしたようなことは、許され）ない！　実にそれ（このスーラ*）は、教訓なのだ。

كَلَّآ إِنَّهَا تَذۡكِرَةٞ ١١

12. そして誰でも（教訓を）望む者は、それ（啓示）を熟慮せよ。

فَمَن شَآءَ ذَكَرَهُۥ ١٢

13. （このクルアーン*は）貴い書巻[1]の中、

فِي صُحُفٖ مُّكَرَّمَةٖ ١٣

14. （位）高く、（あらゆる不純さや改変から）清浄な（書巻の中）、

مَّرۡفُوعَةٖ مُّطَهَّرَةِۭ ١٤

15. 使いの者（天使*）たちの手許にある。

بِأَيۡدِي سَفَرَةٖ ١٥

16. 高貴で、善良な者たちの（手許に）。

كِرَامِۭ بَرَرَةٖ ١٦

17. （不信仰な）人間が、成敗されますよう。彼は（自分の主*に対し）、何とひどい不信仰に陥っていることか！

قُتِلَ ٱلۡإِنسَٰنُ مَآ أَكۡفَرَهُۥ ١٧

18. かれ（アッラー*）は彼を、いかなるものからお創りになったのか？

مِنۡ أَيِّ شَيۡءٍ خَلَقَهُۥ ١٨

19. 一滴の精液から彼をお創りになり、それを（徐々に）調整されたのだ。[2]

مِن نُّطۡفَةٍ خَلَقَهُۥ فَقَدَّرَهُۥ ١٩

---

1 「貴い書巻」とは、守られし碑板*、あるいは啓典のこと（アル＝バガウィー5:210 参照）。

2 「その各身体器官、美醜（びしゅう）、大小、不幸な者となるか幸福な者となるか、ということなどをお決めになった」という解釈もある（アル＝クルトゥビー19:218 参照）。尚、人間の創造の変遷（へんせん）については、巡礼*章 5 章、信仰者たち章 14 を参照。

20. それからかれ（アッラー*）は、道を容易くされ、[1]

ثُمَّ ٱلسَّبِيلَ يَسَّرَهُۥ ٢٠

21. やがては彼に死を与えられ、墓にお埋めになり、

ثُمَّ أَمَاتَهُۥ فَأَقْبَرَهُۥ ٢١

22. それから、かれがお望みになったら、（清算と報いのために、）彼を生き返させ給う。

ثُمَّ إِذَا شَآءَ أَنشَرَهُۥ ٢٢

23. 断じて（、不信仰者*の状況は正しく）ない！彼は、かれ（アッラー*）が自分にご命じになったこと[2]を、遂行してはいないのだから。

كَلَّا لَمَّا يَقْضِ مَآ أَمَرَهُۥ ٢٣

24. ならば人間に、自分の食べ物（が、いかに創造されたか）について考えさせてみよ。

فَلْيَنظُرِ ٱلْإِنسَٰنُ إِلَىٰ طَعَامِهِۦٓ ٢٤

25. われら*は、（地上に）水をざあざあと降らせ、

أَنَّا صَبَبْنَا ٱلْمَآءَ صَبًّا ٢٥

26. それから大地を、ひび割れさせ（、そこから各種の植物を芽出せさせ）たのだ。

ثُمَّ شَقَقْنَا ٱلْأَرْضَ شَقًّا ٢٦

27. そして、われら*はそこに種粒を生育させた、

فَأَنۢبَتْنَا فِيهَا حَبًّا ٢٧

28. また、葡萄、まぐさ、

وَعِنَبًا وَقَضْبًا ٢٨

29. オリーブ、ナツメヤシ、

وَزَيْتُونًا وَنَخْلًا ٢٩

30. 木深い農園、

وَحَدَآئِقَ غُلْبًا ٣٠

31. 果実、牧草も（生育させた）、

وَفَٰكِهَةً وَأَبًّا ٣١

32. あなた方と、あなた方の家畜の利益のために。

مَّتَٰعًا لَّكُمْ وَلِأَنْعَٰمِكُمْ ٣٢

33. そして、（復活の日*を知らせる）轟きの一声[3]が到来した時（、人々は自分の事で掛かりきりになる）。

فَإِذَا جَآءَتِ ٱلصَّآخَّةُ ٣٣

---

1 この「道」には、「母親の胎内から出て来ること」「真理と虚偽の道、及びその判別（人間章 3 とその訳注も参照）」「各自が運命づけられた物事」といった解釈がある（アル＝バガウィー5:211 参照）。

2 つまり信仰と、かれへの服従ということ（ムヤッサル 585 頁参照）。

3 「轟きの一声」は一説に、角笛が吹き鳴らされること（アル＝バイダーウィー5:454 参照）。家畜章 73 とその訳注も参照。

34. 人間が、（その恐怖ゆえに、）自分の兄弟から逃げ出す日、

يَوۡمَ يَفِرُّ ٱلۡمَرۡءُ مِنۡ أَخِيهِ ٣٤

35. また、自分の母親、父親、

وَأُمِّهِۦ وَأَبِيهِ ٣٥

36. 自分の妻、子供たち（から逃げ出す日）。

وَصَٰحِبَتِهِۦ وَبَنِيهِ ٣٦

37. 彼ら全員にはその日、自分のことだけで精一杯な用事がある。

لِكُلِّ ٱمۡرِيٕٖ مِّنۡهُمۡ يَوۡمَئِذٖ شَأۡنٞ يُغۡنِيهِ ٣٧

38. その日、（天国に入る）顔の数々は輝（かがや）いており、

وُجُوهٞ يَوۡمَئِذٖ مُّسۡفِرَةٞ ٣٨

39. 笑い、心躍（おど）らせている。

ضَاحِكَةٞ مُّسۡتَبۡشِرَةٞ ٣٩

40. またその日、（地獄に入る）顔の数々は、その上に煤（すす）がかか（って真っ黒にな）る。

وَوُجُوهٞ يَوۡمَئِذٍ عَلَيۡهَا غَبَرَةٞ ٤٠

41. 埃（ほこり）がそれらを覆（おお）（い、辱（はずかし）めにあ）う。

تَرۡهَقُهَا قَتَرَةٌ ٤١

42. それらの者たちこそは、不信仰者*、放逸（ほういつ）な者たちである。

أُوْلَٰٓئِكَ هُمُ ٱلۡكَفَرَةُ ٱلۡفَجَرَةُ ٤٢

第81章
巻き込む章（アッ＝タクウィール）[1]

سُورَةُ التَّكۡوِيرِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 太陽が巻き込まれ（、その光を失っ）た時、

إِذَا ٱلشَّمۡسُ كُوِّرَتۡ ١

2. また、星々が（その光を失って）落下した時、

وَإِذَا ٱلنُّجُومُ ٱنكَدَرَتۡ ٢

3. また、山々が動かされ（て、粉々にされ）た時、[2]

وَإِذَا ٱلۡجِبَالُ سُيِّرَتۡ ٣

4. また、妊娠十ヶ月目の雌ラクダが放ったらかしにされた時、[3]

وَإِذَا ٱلۡعِشَارُ عُطِّلَتۡ ٤

5. また、野獣たちが集められた時、[4]

وَإِذَا ٱلۡوُحُوشُ حُشِرَتۡ ٥

6. また、海々が溢れ返った時、[5]

وَإِذَا ٱلۡبِحَارُ سُجِّرَتۡ ٦

7. また、魂が（自分と同様のものと）一緒にされた時、[6]

وَإِذَا ٱلنُّفُوسُ زُوِّجَتۡ ٧

8. また、埋められた女児[7]が尋ねられた時、

وَإِذَا ٱلۡمَوۡءُۥدَةُ سُئِلَتۡ ٨

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。その前半の六つが復活の日*の始まり、後半の六つが終わりに起こるとされる、十二の出来事の言及によって始まり、復活と報いが、不信仰者*への警告と共に確証される。後半では啓示と、預言者*ムハンマド*の使徒*性の真実が証明され、人々をその教えに招くと共に、全てはアッラー*のご意思に委ねられているということの言及で締めくくられる。

2 復活の日*の山々の変化については、洞窟章 47 の訳注を参照。

3 「妊娠十ヶ月目の雌ラクダ」は、アラブ人にとって、最も大事なものの一つだった。その日はそれすらも構っている余裕はなく、自分のことで手一杯の状態である（アル＝クルトゥビー19:228 参照）。

4 復活の日*には、動物でさえも集められ、裁きを受けた後に砂と化せられる（アッ＝サァディー912 頁参照）。消息章 40 の訳注も参照。また、ほかにも「殺される」「一緒くたにされる」という解釈もある（イブン・カスィール 8:331 参照）。

5 「海が溢れ返る」ことについては、山章 5 の訳注を参照。

6 出来事章 7 とその訳注も参照。ほかにも「魂が肉体に戻される」「魂に行いが結び付けられる」といった解釈もある（アル＝クルトゥビー19:232 参照）。

7 生まれた女児を殺すジャーヒリーヤ*の習慣については、家畜章 137 とその訳注を参照。

9. 「彼女は、いかなる罪（つみ）ゆえに殺されたのか？」と。
بِأَيِّ ذَنۢبٖ قُتِلَتۡ ٩

10. また、書巻が開かれ（て、各人に差し出され）た時、[1]
وَإِذَا ٱلصُّحُفُ نُشِرَتۡ ١٠

11. また、天が剥（は）ぎ取られた時、[2]
وَإِذَا ٱلسَّمَآءُ كُشِطَتۡ ١١

12. また、火獄が点火された時、
وَإِذَا ٱلۡجَحِيمُ سُعِّرَتۡ ١٢

13. また、天国が（その住人である敬虔（けいけん）な*者たちに）近づいた時、
وَإِذَا ٱلۡجَنَّةُ أُزۡلِفَتۡ ١٣

14. 人は、自分が携（たずさ）えて来たもの（善行と悪行）を知る。
عَلِمَتۡ نَفۡسٞ مَّآ أَحۡضَرَتۡ ١٤

15. われはまさに、身を隠すものにかけて誓（ちか）う。[3]
فَلَآ أُقۡسِمُ بِٱلۡخُنَّسِ ١٥

16. つまり、巣（す）に向かって駆（か）けるもの[4]にかけて、
ٱلۡجَوَارِ ٱلۡكُنَّسِ ١٦

17. また、到来（とうらい）した夜[5]にかけて、
وَٱلَّيۡلِ إِذَا عَسۡعَسَ ١٧

18. また、息づいた朝にかけて。
وَٱلصُّبۡحِ إِذَا تَنَفَّسَ ١٨

19. 本当にそれ（クルアーン*）は、まさしく高貴な御（み）使い（ジブリール*）の（伝達する）言葉。
إِنَّهُۥ لَقَوۡلُ رَسُولٖ كَرِيمٖ ١٩

20. 力みなぎる者、御座（みくら）[6]のもとで位（くらい）高き者、
ذِي قُوَّةٍ عِندَ ذِي ٱلۡعَرۡشِ مَكِينٖ ٢٠

21. （他の天使*たちに）追従（ついじゅう）される者で、誠実な者の（伝達する言葉である）。
مُّطَاعٖ ثَمَّ أَمِينٖ ٢١

---

1 この「書巻」は、現世での行いの帳簿（ちょうぼ）のこと（ムヤッサル 586 頁参照）。高壁章 8 の訳注も参照。また、この時の様子については夜の旅章 13-14、洞窟章 49、真実章 19-29、割れる章 7 以降などを参照。

2 イブラーヒーム*章 48、預言者*たち章 104、集団章 67 とそれらの訳注も参照。

3 アーヤ*15-18 までの、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

4 これは、夜に現れ、昼には見えなくなる星々のこととされるが、「野牛」「カモシカの類」といった解釈もある（イブン・カスィール 8:336-337 参照）。

5 「過ぎ去った夜」という解釈もある（前掲書 8:338 参照）。

6 「御座」に関しては、高壁章 54 の訳注を参照。

22. そして、あなた方の同胞（ムハンマド*）は、憑かれた者[1]などではなく、

وَمَا صَاحِبُكُم بِمَجۡنُونٖ ٢٢

23. 彼は確かに彼（ジブリール*）を、明瞭な地平線上に見たのである。[2]

وَلَقَدۡ رَءَاهُ بِٱلۡأُفُقِ ٱلۡمُبِينِ ٢٣

24. また、彼（ムハンマド*）は不可視の世界[3]について、出し惜しみする者などではなく、

وَمَا هُوَ عَلَى ٱلۡغَيۡبِ بِضَنِينٖ ٢٤

25. それ（クルアーン*）は、追放された[4]シャイターン*の言葉などではない。

وَمَا هُوَ بِقَوۡلِ شَيۡطَٰنٖ رَّجِيمٖ ٢٥

26. ならば、あなた方は（この明白な論拠の後、）どこへと向かうのか？[5]

فَأَيۡنَ تَذۡهَبُونَ ٢٦

27. それは、全創造物への教訓に外ならないというのに。

إِنۡ هُوَ إِلَّا ذِكۡرٞ لِّلۡعَٰلَمِينَ ٢٧

28. あなた方の内、（真理の上を）まっすぐ歩むことを望んだ者への。

لِمَن شَآءَ مِنكُمۡ أَن يَسۡتَقِيمَ ٢٨

29. そしてあなた方は、全創造物の主*であられるアッラー*がお望みにならない限り、（いかなることも）望むことがないのだ。[6]

وَمَا تَشَآءُونَ إِلَّآ أَن يَشَآءَ ٱللَّهُ رَبُّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٢٩

---

1 「憑かれた者」については、アル＝ヒジュル章 6 の訳注を参照。

2 これは預言者*が、初めてジブリール*をその本来の姿で見た時のこととされる（ムヤッサル 586 頁参照）。詳しくは星章 7 の訳注を参照。

3 ここでの「不可視の世界*」とは、啓示を伝達すること（前掲書、同頁参照）。

4 「追放された」については、イムラーン家章 36 の訳注を参照。

5 これは、クルアーン*を嘘呼ばわりすることに対する非難の言葉（前掲書、同頁参照）。

6 包る者章 56 の、同様の件（くだり）の訳注も参照。

第82章
裂ける章（アル＝インフィタール）[1]

سُورَةُ الانفِطَارِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 天が裂けた時、[2]

إِذَا ٱلسَّمَآءُ ٱنفَطَرَتۡ ١

2. また、星々が（散り散りに）墜落した時、

وَإِذَا ٱلۡكَوَاكِبُ ٱنتَثَرَتۡ ٢

3. また、海々が溢れ出（て、互いに混じり合っ）た時、

وَإِذَا ٱلۡبِحَارُ فُجِّرَتۡ ٣

4. また、墓がひっくり返され（て、その中にいる者が蘇らされ）た時、

وَإِذَا ٱلۡقُبُورُ بُعۡثِرَتۡ ٤

5. 人間は、自分が（生きている時に）早めたものと、遅らせたもの[3]（の全て）を、知ることになる。

عَلِمَتۡ نَفۡسࣱ مَّا قَدَّمَتۡ وَأَخَّرَتۡ ٥

6. （復活を否定する）人間よ、貴い*お方であるあなたの主*（への義務の遂行）において、何があなたを欺いたのか？[4]

يَٰٓأَيُّهَا ٱلۡإِنسَٰنُ مَا غَرَّكَ بِرَبِّكَ ٱلۡكَرِيمِ ٦

7. あなたをお創りになり、整えられ、（最良の形に）均整づけられたお方において？

ٱلَّذِي خَلَقَكَ فَسَوَّىٰكَ فَعَدَلَكَ ٧

8. かれはあなたを、かれがお望みになったいかなる姿に、組み立てられたというのか？[5]

فِيٓ أَيِّ صُورَةࣲ مَّا شَآءَ رَكَّبَكَ ٨

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。復活の日*の出来事の言及によって始まり、復活と報いが確証される。また、復活を否定し、唯一の創造主であり恩恵の主であるアッラー*に対して恩知らずな不信仰者*を咎（とが）めると共に、彼らに反省を促（うなが）す。スーラ*の最後は、来世における信仰者と不信仰者*の行く末の描写と、復活の日*の報いに対する警告によって締めくくられる。

2 識別章 25 も参照（アル＝クルトゥビー19:244 参照）。

3 「早めたもの」と「遅らせたもの」については、復活章 13 の訳注を参照。

4 彼を「欺いたもの」の解釈には、「シャイターン*」「無知」といった諸説がある（前掲書 19:245 参照）。

5 「かれがお望みになったなら、あなたをいかなる姿にでも組み立てられた」という解釈もある（前掲書 19:247 参照）。

9. 断じて（、欺かれてはなら）ない！ いや、あなた方は応報（の日）を嘘呼ばわりしているのだ。

كَلَّا بَلْ تُكَذِّبُونَ بِٱلدِّينِ ٩

10. 本当にあなた方には、見守る者（天使*）たち[1]がついているのに。

وَإِنَّ عَلَيْكُمْ لَحَٰفِظِينَ ١٠

11. 高貴で、記録する（者たちが）。

كِرَامًا كَٰتِبِينَ ١١

12. 彼らは、あなた方のすることを知っている。

يَعْلَمُونَ مَا تَفْعَلُونَ ١٢

13. 本当に善行者[2]たちは、必ずや安寧の中。

إِنَّ ٱلْأَبْرَارَ لَفِى نَعِيمٍ ١٣

14. そして本当に、放逸な者[3]たちは、必ずや火獄の中に。

وَإِنَّ ٱلْفُجَّارَ لَفِى جَحِيمٍ ١٤

15. 彼らは報いの日*、そこ（地獄に）入って炙られる。

يَصْلَوْنَهَا يَوْمَ ٱلدِّينِ ١٥

16. そして彼らは、そこから不在でいられる者たちではない。

وَمَا هُمْ عَنْهَا بِغَآئِبِينَ ١٦

17. 報いの日*が何かを、あなたに知らせるのは何か？

وَمَآ أَدْرَىٰكَ مَا يَوْمُ ٱلدِّينِ ١٧

18. 更に、報いの日*が何かを、あなたに知らせるのは何か？

ثُمَّ مَآ أَدْرَىٰكَ مَا يَوْمُ ٱلدِّينِ ١٨

19. （報いの日*とは、）人が（他）人に対し、何一つ役立てない日[4]。その日、事はアッラー*（だけ）に属するのだ。[5]

يَوْمَ لَا تَمْلِكُ نَفْسٌ لِّنَفْسٍ شَيْـًٔا ۖ وَٱلْأَمْرُ يَوْمَئِذٍ لِّلَّهِ ١٩

---

1 この天使*たちについては、雷鳴章 11 の訳注、カーフ章 17-18 とその訳注も参照。

2 アッラー*への義務、人々への義務を果たしていた、敬虔な*者のこと（ムヤッサル 587 頁参照）。

3 これはアッラー*と人々への義務の遂行を、怠（おこた）っていた者（前掲書、同頁参照）。

4 復活の日*の「執り成し」については雌牛章 48、マルヤム*章 87、ター・ハー章 109 とその訳注を参照。

5 復活の日*だけでなく、現在も全てアッラー*のものである。しかし、その日は誰一人として、かれに反抗する者がいない（イブン・カスィール 8:345 参照）。家畜章 73「かれにこそ王権は属する」の訳注も参照。

第83章
量を減らす者たち章（アル＝ムタッフィフィーン）[1]

سُورَةُ المُطَفِّفِينَ

慈悲(じひ)あまねく*慈愛(じあい)深き*
アッラー*の御名(みな)において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 量を減らす者たちに災(わざわ)いあれ。[2]

وَيۡلٞ لِّلۡمُطَفِّفِينَ ١

2. （彼らは、）自分たちが（買うため、）人々に升(ます)（や秤(はかり)[3]）で量(はか)らせる時には、（自分たちの権利を）全(まっと)うさせる者たち。

ٱلَّذِينَ إِذَا ٱكۡتَالُواْ عَلَى ٱلنَّاسِ يَسۡتَوۡفُونَ ٢

3. そして自分たちが（売るため、）彼らに升(ます)で量(はか)ったり、秤(はかり)で量(はか)ったりする時には、（相手に）損(そん)させる（者たち）。

وَإِذَا كَالُوهُمۡ أَو وَّزَنُوهُمۡ يُخۡسِرُونَ ٣

4. 一体、彼らは自分たちが蘇(よみがえ)らされ（て、応報(おうほう)を受け）る身であると、考えないのか？

أَلَا يَظُنُّ أُوْلَٰٓئِكَ أَنَّهُم مَّبۡعُوثُونَ ٤

5. 偉大なる（報(むく)いの）日*に？

لِيَوۡمٍ عَظِيمٖ ٥

6. 人々が（行いの清算のため）、全創造物(そうぞうぶつ)の主(しゅ)*（の御前(おんまえ)）に立つ日。

يَوۡمَ يَقُومُ ٱلنَّاسُ لِرَبِّ ٱلۡعَٰلَمِينَ ٦

7. 断じて（、彼らの状態は正しく）ない！　本当に放逸(ほういつ)な者たちの（行いが記録された）帳簿(ちょうぼ)は、まさにスィッジーン[4]の中にある。

كَلَّآ إِنَّ كِتَٰبَ ٱلۡفُجَّارِ لَفِي سِجِّينٖ ٧

---

1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。スーラ*の名称ともなっている、取引において公正ではない者たちの批判を皮切りに、復活と清算、クルアーン*の真実性の確証、それらを信じない者たちへの警告がなされた後、来世における彼らの懲罰の描写へと移行する。次いで、来世における信仰者たちの幸福と享楽（きょうらく）が対照的に取り上げられ、最後は現世において信仰者たちに悪行を働いていた不信仰者*たちが、来世でその報いを受けることが確証される。

2 このアーヤ*は、商取引において公正ではなかったマディーナ*の民に関して下ったとされる。そしてこのアーヤ*が下った後、彼らの商取引は改善された（イブン・マージャ 2223 参照）。

3 「升」と「秤」の詳細については、家畜章 153 の訳注を参照。

4 この「帳簿」の解釈には、文字通りの意味のほかにも「行い」「魂と行い」といった説もある（アル＝クルトゥビー19：257 参照）。「スィッジーン」は一説に、「スィジン（牢獄）」という語から派生した言葉で、地獄での幽閉（ゆうへい）と苦しみの原因であり、それ自

8. スィッジーンが何かを、あなたに何が知らせるか？

وَمَآ أَدۡرَىٰكَ مَا سِجِّينٞ ٨

9. （その書は、）しっかりと記された[1]帳簿である。

كِتَٰبٞ مَّرۡقُومٞ ٩

10. その日、嘘呼ばわりする者たちに災いあれ。

وَيۡلٞ يَوۡمَئِذٖ لِّلۡمُكَذِّبِينَ ١٠

11. 報いの日*を、嘘呼ばわりする者たちに。

ٱلَّذِينَ يُكَذِّبُونَ بِيَوۡمِ ٱلدِّينِ ١١

12. 侵犯し、罪に溺れた全ての者以外、それ（報いの日*）を嘘呼ばわりしたりはしないというのに。

وَمَا يُكَذِّبُ بِهِۦٓ إِلَّا كُلُّ مُعۡتَدٍ أَثِيمٍ ١٢

13. われら*の御徴（アーヤ*）がその者に読誦された時、彼は言った。「（これは）昔の人々のお伽話だ」。

إِذَا تُتۡلَىٰ عَلَيۡهِ ءَايَٰتُنَا قَالَ أَسَٰطِيرُ ٱلۡأَوَّلِينَ ١٣

14. 断じて（、彼らの主張は正しく）ない！ いや、彼らが稼いでいたもの（罪）が、その心に錆をつけたのである。

كَلَّاۖ بَلۡۜ رَانَ عَلَىٰ قُلُوبِهِم مَّا كَانُواْ يَكۡسِبُونَ ١٤

15. 断じて（、彼らの主張は正しく）ない！ 本当に彼らは（復活の）その日、自分たちの主*（の拝謁）から阻まれている。[2]

كَلَّآ إِنَّهُمۡ عَن رَّبِّهِمۡ يَوۡمَئِذٖ لَّمَحۡجُوبُونَ ١٥

16. それから本当に彼らは、必ずや火獄に入って炙られる。

ثُمَّ إِنَّهُمۡ لَصَالُواْ ٱلۡجَحِيمِ ١٦

17. それから、（彼らにはこう）言われるのだ。「これが、あなた方が嘘呼ばわりしていたこと（の、報い）である」。

ثُمَّ يُقَالُ هَٰذَا ٱلَّذِي كُنتُم بِهِۦ تُكَذِّبُونَ ١٧

体が牢獄のような屈辱（くつじょく）と懲罰の場所にあることが、その名称の由来とされる（イブン・ジュザイ 2:548 参照）。不信仰者*や不正*者の魂、彼らの行いの帳簿が置かれることになる、世界で最も低い場所のこと（アル＝ジャザーイリー5:535 参照）。

1 ほかにも、「目印のつけられた」「封印された」という解釈がある（アル＝バガウィー5:224参照）。

2 復活の日*に天国の民が、アッラー*を拝見することについては、家畜章 103 とその訳注、ユーヌス*章 26、復活章 23 も参照。

18. 断じて（、彼らの主張は正しく）ない！　本当に善行者[1]たちの（行いが記録された）帳簿は、まさにイッリイユーン[2]の中にある。

كَلَّآ إِنَّ كِتَٰبَ ٱلْأَبْرَارِ لَفِى عِلِّيِّينَ ١٨

19. イッリイユーンが何かを、あなたに何が知らせるか？

وَمَآ أَدْرَىٰكَ مَا عِلِّيُّونَ ١٩

20. （その書は、）しっかりと記された[3]帳簿である。

كِتَٰبٌ مَّرْقُومٌ ٢٠

21. 側近（天使*）たちが、そこに立ち会う。[4]

يَشْهَدُهُ ٱلْمُقَرَّبُونَ ٢١

22. 本当に善行者たちは、必ずや安寧の中に。

إِنَّ ٱلْأَبْرَارَ لَفِى نَعِيمٍ ٢٢

23. 寝台の上で、（アッラー*と天国の美を）眺めつつ。[5]

عَلَى ٱلْأَرَآئِكِ يَنظُرُونَ ٢٣

24. あなたは彼らの顔に、安寧の輝きを見出す。

تَعْرِفُ فِى وُجُوهِهِمْ نَضْرَةَ ٱلنَّعِيمِ ٢٤

25. 彼らは、封印された[6]美酒から飲まされる。[7]

يُسْقَوْنَ مِن رَّحِيقٍ مَّخْتُومٍ ٢٥

26. その封印[8]は、麝香（の風味）。ならば、そこにおいてこそ、競い合う者たちを競い合わせよ。

خِتَٰمُهُۥ مِسْكٌ ۚ وَفِى ذَٰلِكَ فَلْيَتَنَافَسِ ٱلْمُتَنَٰفِسُونَ ٢٦

---

1 この「善行者」については、裂けるの章 13 の訳注を参照。

2 この「帳簿」の解釈については、アーヤ*7 の訳注を参照。「イッリイユーン」は一説に、「ウルウ（高さ）」という語から派生した言葉で、天国における位の高さ、あるいは高い場所であることが、その名称の由来とされる（イブン・ジュザイ 2:549 参照）。具体的な解釈としては、「天国」「（信仰者の魂が留まる、）天の第七層」「最果てのスィドラ（星章 14 の訳注を参照）」「天の第七層の上にある、アッラー*の御座（高壁章 54 の訳注を参照）の右足部分」「天使*たちのこと」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー19:262-263 参照）。

3 「しっかりと記された」については、アーヤ*9 の訳注も参照。

4 あるいは復活の日*、そこに記されている内容を証言する（アッ＝シャウカーニー5:535 参照）。

5 地獄にいる（現世での）自分たちの敵が罰される様子を見る、という解釈もある（アル＝バガウィー5:226 参照）。包る者章 42 の訳注も参照。

6 彼ら善行者たちがその「封印」を解くまでは、誰の手も触れることがない（アル＝バガウィー5:226 参照）。

7 天国の民の飲み物については、サード章 51、整列者章 45-47、詳細にされた章 31、ムハンマド*章 15、出来事章 17-19、人間章 5-6、17-18、21、消息章 34 も参照。

8 この「封印」には、「混ぜ物」「最後の味、あるいは残り香」といった解釈もある（アル＝クルトゥビー19:265 参照）。

27. そして、その混ぜ物はタスニーム[1]からのもの。

وَمِزَاجُهُۥ مِن تَسۡنِيمٍ ٢٧

28. （つまり、）側近たち[2]がそこから飲む、泉である。

عَيۡنٗا يَشۡرَبُ بِهَا ٱلۡمُقَرَّبُونَ ٢٨

29. 本当に、罪悪に手を染めていた者たちは（現世で）、信仰に入った者たちを嘲り笑っていた。

إِنَّ ٱلَّذِينَ أَجۡرَمُواْ كَانُواْ مِنَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ يَضۡحَكُونَ ٢٩

30. また、彼らのもとを通りかかった時には、（馬鹿にして）目配せし合っていた。

وَإِذَا مَرُّواْ بِهِمۡ يَتَغَامَزُونَ ٣٠

31. また、自分たちの家族のもとに帰った時には、（信仰者たちを茶化す話に）興じながら帰ったものだった。

وَإِذَا ٱنقَلَبُوٓاْ إِلَىٰٓ أَهۡلِهِمُ ٱنقَلَبُواْ فَكِهِينَ ٣١

32. そして彼らを見た時には、（こう）言ったのだ。「本当にこれらの者たちは、まさしく迷った者たちだ」。

وَإِذَا رَأَوۡهُمۡ قَالُوٓاْ إِنَّ هَٰٓؤُلَآءِ لَضَآلُّونَ ٣٢

33. 彼ら（罪悪者たち）は、彼ら（信仰者たち）に監視役[3]として遣わされたのではないというのに。

وَمَآ أُرۡسِلُواْ عَلَيۡهِمۡ حَٰفِظِينَ ٣٣

34. ならば、（復活の）その日には、信仰した者たちが不信仰者*たちを笑うのだ。

فَٱلۡيَوۡمَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ مِنَ ٱلۡكُفَّارِ يَضۡحَكُونَ ٣٤

35. 寝台の上で、（アッラー*と天国の美を）眺めつつ。[4]

عَلَى ٱلۡأَرَآئِكِ يَنظُرُونَ ٣٥

36. 一体、不信仰者*たちは、自分たちが（現世で）していた（罪深い）こと（の応報）を、報われたではないか？[5]

هَلۡ ثُوِّبَ ٱلۡكُفَّارُ مَا كَانُواْ يَفۡعَلُونَ ٣٦

---

1 「タスニーム」は「スィナーム（高い場所）」という語から派生した言葉と言われ、高い場所から、天国の民の部屋や家へと流れ注ぐ飲み物。あるいは空中を流れ、彼らの杯にちょうどいい塩梅（あんばい）で注がれる飲み物（アル＝バガウィー5:226 参照）。

2 この「側近たち」は、天国の民でも最良の者たちのこと（アル＝クルトゥビー19:266 参照）。

3 信仰者たちが迷いの中にあるという虚偽（きょぎ）の主張をすべく、その行いを見守る「監視役」のこと（アッ＝サァディー916 頁参照）。

4 アーヤ*23 の訳注も参照。

5 これは、「不信仰者*たちは･･･確かに報われた」という意味を表わす、断定の疑問形（イブン・アーシュール 30:215 参照）。

第 84 章
割れる章（アル＝インシカーク）[1]

سُورَةُ الانشِقَاقِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. （復活の日*に、）天が割れ、[2]

إِذَا ٱلسَّمَآءُ ٱنشَقَّتۡ ١

2. それ（天）が自分の主*（のご命令）を聞き、（そのご命令への服従が）義務づけられた時、

وَأَذِنَتۡ لِرَبِّهَا وَحُقَّتۡ ٢

3. また、（山々が粉々にされて）大地が伸ばされ、

وَإِذَا ٱلۡأَرۡضُ مُدَّتۡ ٣

4. それ（大地）がその中にあるもの（死んだ人々）を投げ出し、（彼らを）すっかり吐き出し、

وَأَلۡقَتۡ مَا فِيهَا وَتَخَلَّتۡ ٤

5. それ（大地）が自分の主*（のご命令）を聞き、（そのご命令への服従が）義務づけられた時、

وَأَذِنَتۡ لِرَبِّهَا وَحُقَّتۡ ٥

6. 人間よ、本当にあなたは、あなたの主*へと懸命に励む者であり、そして（復活の日*には）かれ[3]と拝謁する身の上なのだ。

يَٰٓأَيُّهَا ٱلۡإِنسَٰنُ إِنَّكَ كَادِحٌ إِلَىٰ رَبِّكَ كَدۡحٗا فَمُلَٰقِيهِ ٦

7. それで自分の（行いの）帳簿を、右手に渡された者はといえば、

فَأَمَّا مَنۡ أُوتِيَ كِتَٰبَهُۥ بِيَمِينِهِۦ ٧

8. 易しい清算で、清算され、[4]

فَسَوۡفَ يُحَاسَبُ حِسَابٗا يَسِيرٗا ٨

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。前半では、復活の日*と、それが起きる時の出来事が描かれると共に、信仰者と不信仰者*の清算の様子が描写される。そして後半では、アッラー*からの啓示も復活も信仰しないシルク*の徒に、厳しい警告が放たれる。

2 識別章 25 も参照（アル＝クルトゥビー19:244 参照）。

3 その他、「自らの善悪の行いと直面する」という解釈もある（イブン・カスィール 8:356 参照）。

4 高壁章 8 の訳注も参照。また、この時の様子については夜の旅章 13-14、71 とその訳注、洞窟章 49、真実章 19 以降なども参照。

9. 嬉々（きき）として（天国にいる）自分の家族[1]のところへ、戻（もど）って行くことになろう。

وَيَنقَلِبُ إِلَىٰٓ أَهۡلِهِۦ مَسۡرُورٗا ٩

10. また、自分の（行いの）帳簿（ちょうぼ）を自らの背後から渡された者はといえば、[2]

وَأَمَّا مَنۡ أُوتِيَ كِتَٰبَهُۥ وَرَآءَ ظَهۡرِهِۦ ١٠

11. （自（みずか）らに対して）破滅（はめつ）を祈り、[3]

فَسَوۡفَ يَدۡعُواْ ثُبُورٗا ١١

12. 烈火（れっか）に入って炙（あぶ）られることとなろう。

وَيَصۡلَىٰ سَعِيرًا ١٢

13. 実に彼は、（自分の行く末も考えず、）自分の家族のもとで嬉々（きき）としていたのだから。

إِنَّهُۥ كَانَ فِيٓ أَهۡلِهِۦ مَسۡرُورًا ١٣

14. 実に彼らは、（清算のために創造主（そうぞうしゅ）のもとへ）戻（もど）ることなどあるまい、と考えていたのだ。

إِنَّهُۥ ظَنَّ أَن لَّن يَحُورَ ١٤

15. いや、（彼は蘇（よみがえ）らされ、行いの報（むく）いを受ける、）本当にかれの主（しゅ）*はもとより、彼のことをよくご覧（らん）になるお方であったのだ。

بَلَىٰٓۚ إِنَّ رَبَّهُۥ كَانَ بِهِۦ بَصِيرٗا ١٥

16. われはまさに、夕焼けにかけて誓（ちか）う。[4]

فَلَآ أُقۡسِمُ بِٱلشَّفَقِ ١٦

17. また、夜と、それが集めたもの[5]にかけて、

وَٱلَّيۡلِ وَمَا وَسَقَ ١٧

18. また、（その光と形が）満ちた月にかけて（誓（ちか）う）。

وَٱلۡقَمَرِ إِذَا ٱتَّسَقَ ١٨

---

1 この「家族」の解釈には、「近親の内の、天国の住人」「現世で自分の妻子だった者たちで、先に天国に入った者たち」「アッラーが天国の民のために創造した、配偶者たち」「それら全員」といった諸説がある（アッ＝シャウカーニー5:541 参照）。

2 この日、彼らは右手を首に巻き付けられて縛（しば）られ、左手は背中に回されている状態なのだという（アル＝バガウィー5:229 参照）。真実章 25 も参照。

3 この情景についての詳細については、識別章 13-14 とその訳注を参照（前掲書、同頁参照）。

4 アーヤ*16-18 の、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

5 「夜が集めたもの」とは、昼間に活動する鳥類や動物を始め、夜に安らぎ、静かになる、全ての創造物のことを指すとされる（アル＝カースィミー17:6110 参照）。

19. （人々よ、）あなた方は必ずや、ある段階から（別の）段階へと、乗り次いで（移転して）行くのである。[1]

لَتَرۡكَبُنَّ طَبَقًا عَن طَبَقٖ ١٩

20. では、彼らが（アッラー*と最後の日*を）信じないのは、どうしたわけか？

فَمَا لَهُمۡ لَا يُؤۡمِنُونَ ٢٠

21. そして、彼らに対してクルアーン*が誦まれても、彼らがサジダ*しないのは？（読誦のサジダ*）

وَإِذَا قُرِئَ عَلَيۡهِمُ ٱلۡقُرۡءَانُ لَا يَسۡجُدُونَ۩ ٢١

22. いや、不信仰に陥った者*たちは、（真実を）嘘呼ばわりしている。

بَلِ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ يُكَذِّبُونَ ٢٢

23. アッラー*は、彼らが（胸の内に）包み隠していること[2]を、最もよくご存知なのに。

وَٱللَّهُ أَعۡلَمُ بِمَا يُوعُونَ ٢٣

24. ならば、彼らに痛ましい懲罰の吉報を告げよ。[3]

فَبَشِّرۡهُم بِعَذَابٍ أَلِيمٍ ٢٤

25. 但し、信仰して正しい行い*を行う者たちは、別である。彼らには（来世で）、尽きることのない褒美[4]があるのだ。

إِلَّا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ لَهُمۡ أَجۡرٌ غَيۡرُ مَمۡنُونِۭ ٢٥

---

1 精液、凝血、肉塊、魂が吹き込まれた状態、死、復活、という段階のこと（ムヤッサル 589 頁参照）。巡礼*章 5、信仰者たち章 13-16 も参照。また、「復活の日*の厳しい状況の変化」「過去の不信仰な民*の宗教へと逆行すること」「順境と逆境、貧富、健康状態などの変化」「現世から来世への移行」といった解釈もある（アル＝クルトゥビー19:278-280 参照）。

2 つまり、クルアーン*が真実であることを知っていながら、それを頑迷（がんめい）に拒んでいること（ムヤッサル 589 頁参照）。

3 「･･･懲罰の吉報を告げよ」については、イムラーン家章 21 の訳注を参照。

4 「尽きることのない褒美」については、詳細にされた章 8 の訳注を参照。

第85章
星座章（アル＝ブルージュ）[1]

سُورَةُ البُرُوجِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

1. 星座を擁する天にかけて、[2]
2. また、約束された（復活の）日*にかけて、
3. また、立ち会うものと立ち会われるものにかけて（誓う）、[3]
4. 堀の仲間たち[4]が、成敗されますよう。
5. つまり、燃料がくべられた炎という（堀の）。
6. 彼らが（信仰を棄てない信仰者たちを、その炎で罰するべく、）そこ（の淵）に腰かけた時のこと、
7. 自分たちが信仰者たちにすること（懲罰）を、見物しつつ。

وَالسَّمَاءِ ذَاتِ الْبُرُوجِ ﴿١﴾
وَالْيَوْمِ الْمَوْعُودِ ﴿٢﴾
وَشَاهِدٍ وَمَشْهُودٍ ﴿٣﴾
قُتِلَ أَصْحَابُ الْأُخْدُودِ ﴿٤﴾
النَّارِ ذَاتِ الْوَقُودِ ﴿٥﴾
إِذْ هُمْ عَلَيْهَا قُعُودٌ ﴿٦﴾
وَهُمْ عَلَىٰ مَا يَفْعَلُونَ بِالْمُؤْمِنِينَ شُهُودٌ ﴿٧﴾

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。過去の信仰者が不信仰者*から受けた抑圧と試練についての話が、マッカ*時代にクライシュ族*の不信仰者*から抑圧されていた信仰者への慰（なぐさ）めと吉報、不信仰者*への警告と共に、取り上げられる。また、アッラー*の御力、復活、預言者*ムハンマド*の使徒*性、クルアーン*の真実が確証されている。

2 アーヤ*1-3 の、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

3 「立ち会うもの（シャーヒド）」と「立ち会われるもの（マシュフード）」は、それぞれ「証言するもの、証言されるもの」とも解釈可能（イブン・ジュザイ 2:555 参照）。アル＝ワーヒディー*によれば、大半の解釈学者は前者と後者を、それぞれ「金曜日とアラファの日（ズル＝ヒッジャ*月九日）」と解釈しているが、その他「その逆」「預言者*ムハンマド*（雌牛章 143、婦人章 41 とその訳注を参照）と復活の日*（フード*章 103 参照）」「人間と復活の日*」など、非常に多くの説がある（23:380-383 参照）。

4 「堀の仲間たち」とは、信仰に入った自国民に対して、堀を掘ってその中に火をつけ、信仰を捨てなかった者をその中に放り込んで殺害した、不信仰者*の王とその手下たちのこと（ムスリム「信心深さと心温まる話の書」73 参照）。彼らが殺害した信仰者たちについては、「預言者*ムハンマド*が遣わされるより四十年前の、イエメンのキリスト教徒*」「イスラーイールの民*」「エチオピアの民」「ペルシャの民」などといった諸説がある（アル＝クルトゥビー19:289-290 参照）。

8. そして、彼ら（堀の仲間たち）が彼ら（信仰者たち）を咎めたのは、彼ら（信仰者たち）が偉力ならびなく*、称賛されるべき*アッラー*を信じるがゆえに外ならなかった。

وَمَا نَقَمُوا۟ مِنْهُمْ إِلَّآ أَن يُؤْمِنُوا۟ بِٱللَّهِ ٱلْعَزِيزِ ٱلْحَمِيدِ ٨

9. 諸天と大地の王権が属するお方（であるアッラー*）を。アッラー*は、全てのことの証人であられる。

ٱلَّذِى لَهُۥ مُلْكُ ٱلسَّمَٰوَٰتِ وَٱلْأَرْضِ ۚ وَٱللَّهُ عَلَىٰ كُلِّ شَىْءٍ شَهِيدٌ ٩

10. 本当に、信仰者の男たちと信仰者の女たちを火（という試練）にかけ、その後に悔悟しなかった者たち、彼らにこそは地獄の懲罰があり、彼らにこそは、（焼き尽くす）炎の懲罰がある。

إِنَّ ٱلَّذِينَ فَتَنُوا۟ ٱلْمُؤْمِنِينَ وَٱلْمُؤْمِنَٰتِ ثُمَّ لَمْ يَتُوبُوا۟ فَلَهُمْ عَذَابُ جَهَنَّمَ وَلَهُمْ عَذَابُ ٱلْحَرِيقِ ١٠

11. 本当に、信仰して正しい行い*を行う者たち、彼らにこそは、その下から河川が流れる楽園がある。それは大いなる勝利なのだ。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَعَمِلُوا۟ ٱلصَّٰلِحَٰتِ لَهُمْ جَنَّٰتٌ تَجْرِى مِن تَحْتِهَا ٱلْأَنْهَٰرُ ۚ ذَٰلِكَ ٱلْفَوْزُ ٱلْكَبِيرُ ١١

12. 本当にあなたの主*の（懲罰による）捕らえ方は、実に痛烈なのである。

إِنَّ بَطْشَ رَبِّكَ لَشَدِيدٌ ١٢

13. 本当にかれこそは、（創造を）始められ、（それを）お戻しになるのだ。

إِنَّهُۥ هُوَ يُبْدِئُ وَيُعِيدُ ١٣

14. そしてかれは、赦し深いお方、寵愛深い*お方、

وَهُوَ ٱلْغَفُورُ ٱلْوَدُودُ ١٤

15. 栄誉高き御座[1]の主、

ذُو ٱلْعَرْشِ ٱلْمَجِيدُ ١٥

16. お望みのことを決行されるお方である。

فَعَّالٌ لِّمَا يُرِيدُ ١٦

17. （使徒*よ、）あなたに、（自分たちの預言者*に対して集結した、不信仰な）軍勢の話は届いたか？

هَلْ أَتَىٰكَ حَدِيثُ ٱلْجُنُودِ ١٧

1 「御座」に関しては、高壁章 54 の訳注を参照。

18. フィルアウン*とサムード*の（話は）？[1]
فِرۡعَوۡنَ وَثَمُودَ ﴿١٨﴾

19. いや、不信仰に陥った者*たちは、（彼ら以前の不信仰者*たちと同様、使徒*と啓示の）嘘呼ばわりをしており、
بَلِ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ فِي تَكۡذِيبٖ ﴿١٩﴾

20. アッラー*は彼らの後方から、悉く包囲されるお方なのだ。[2]
وَٱللَّهُ مِن وَرَآئِهِم مُّحِيطُۢ ﴿٢٠﴾

21. いや、それは栄誉高きクルアーン*[3]なのである、
بَلۡ هُوَ قُرۡءَانٞ مَّجِيدٞ ﴿٢١﴾

22. （いかなる改変からも無事な、）守られし碑板*の中の。
فِي لَوۡحٖ مَّحۡفُوظِۢ ﴿٢٢﴾

1 ここで特にフィルアウン*とサムード*だけが取り上げられているのは、比較的後代に滅亡した前者は啓典の民*らによく知られており、一方後者は、比較的先代に滅亡したにも関わらず、アラブの地に居住していた民で、アラブ人たちによく知られていたからだと言われる（アル＝クルトゥビー19:298 参照）。

2 アッラー*は彼らを、その知識と御力によって掌握（しょうあく）されており、彼らの行いは全てアッラー*に筒抜（つつぬ）けなのである（ムヤッサル 590 頁参照）。

3 つまりそれは、シルクの徒*らが主張していたような詩、占い、魔術などではなく、宗教的・現世的諸事に関する様々な教えを明らかにする、この上ない誉（ほま）れ、高貴さ、祝福にあふれた啓典である（アッ＝シャウカーニー5:552 参照）。

第86章 夜訪れるもの章（アッ＝ターリク）[1]

سُورَةُ الطَّارِقِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 天と、夜訪れるものにかけて（誓う）。[2]
2. そして、夜訪れるものが何かを、何があなたに知らせるか？
3. （それは）穿ち煌く星[3]である。
4. いかなる者でも、その上に見守る者（天使*）[4]がついていない者はない。
5. では人間に、自分が何から創られたのか、考えさせてみよ。
6. 彼は、射出する液体[5]から創られたのだ。
7. 後背部と胸部の間から分泌される（、液体から）。[6]

وَٱلسَّمَآءِ وَٱلطَّارِقِ ١

وَمَآ أَدۡرَىٰكَ مَا ٱلطَّارِقُ ٢

ٱلنَّجۡمُ ٱلثَّاقِبُ ٣

إِن كُلُّ نَفۡسٖ لَّمَّا عَلَيۡهَا حَافِظٞ ٤

فَلۡيَنظُرِ ٱلۡإِنسَٰنُ مِمَّ خُلِقَ ٥

خُلِقَ مِن مَّآءٖ دَافِقٖ ٦

يَخۡرُجُ مِنۢ بَيۡنِ ٱلصُّلۡبِ وَٱلتَّرَآئِبِ ٧

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。死後の清算と復活が、それが全能の創造主アッラー*にとって可能であることの証明と、復活の日*に対する警告と共に、確証される。そして復活を約束するクルアーン*の真実性の強調、不信仰者*に対するアッラー*の懲罰の警告と共に、スーラ*は幕（まく）を閉じる。

2 アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

3 夜に現われ、昼には姿を隠す星が、「夜訪れるもの」と形容されている（イブン・カスィール 8:374 参照）。

4 この天使*たちについては、雷鳴章 11 の訳注も参照（前掲書 8:375 参照）。

5 「射出する液体」とは、子宮に射出される精液のこと（ムヤッサル 591 頁参照）。

6 「後背部と胸部」には、「男性の精液が、そこで分泌される」「男性の精液が後背部で、女性の精液が胸部で分泌される」という解釈（アッ＝サァディー919 頁参照）のほか、「前者が男性、後者が女性を表している」という説もある（アル＝カースィミー 17:6124 参照）。また、人間の創造の変遷については、巡礼*章 5、信仰者たち章 14 も参照。

8. 本当にかれ（アッラー*）は、彼を（その死後に、生きた状態へと）戻すことがお出来のお方。[1]

إِنَّهُۥ عَلَىٰ رَجۡعِهِۦ لَقَادِرٞ ٨

9. 秘められたことが試される（、復活の）日*に。[2]

يَوۡمَ تُبۡلَى ٱلسَّرَآئِرُ ٩

10. ならば、彼には（自分自身からアッラー*の懲罰を押しのける、）いかなる力も援助者もない。

فَمَا لَهُۥ مِن قُوَّةٖ وَلَا نَاصِرٖ ١٠

11. 回帰するもの[3]を有する、天にかけて、

وَٱلسَّمَآءِ ذَاتِ ٱلرَّجۡعِ ١١

12. また、（植物を生えさせるべく、）亀裂を有する大地にかけて（誓う）、[4]

وَٱلۡأَرۡضِ ذَاتِ ٱلصَّدۡعِ ١٢

13. 本当にそれ（クルアーン*）は、（真理と虚偽を）裁断する御言葉であり、

إِنَّهُۥ لَقَوۡلٞ فَصۡلٞ ١٣

14. 戯言ではない。

وَمَا هُوَ بِٱلۡهَزۡلِ ١٤

15. 本当に彼ら（使徒*とクルアーン*を嘘呼ばわりする者たち）は、（真理を退けるための）策略を講じている。

إِنَّهُمۡ يَكِيدُونَ كَيۡدٗا ١٥

16. われも策略[5]を講じるのだが。

وَأَكِيدُ كَيۡدٗا ١٦

17. ならば（使徒*よ）、（懲罰が下ることを急がずに、）不信仰者*に猶予を与えよ。彼らに暫し、猶予を与えるのだ。

فَمَهِّلِ ٱلۡكَٰفِرِينَ أَمۡهِلۡهُمۡ رُوَيۡدَۢا ١٧

---

1 関連するアーヤ*として、ビザンチン章 27 も参照（イブン・カスィール 8:375 参照）。

2 その日、善悪の別なく、人が隠していた全ての物事と、心に秘めた信仰心と不信仰が露（あら）わになる（アル＝クルトゥビー20:8 参照）。

3 「回帰するもの」の解釈には、「（降っては止むのを繰（く）り返す、あるいは海から水を湛（たた）えて大地に戻って来る）雨」「（出現しては姿を隠す）天体」「（人間の行いと共に、天へと戻って行く）天使*」などといった諸説がある（アッ＝シャウカーニー5:560-561 参照）。

4 同様のアーヤ*として、眉をひそめた章 26 も参照。また、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

5 この「策略」とは、彼らが知らない所から、徐々に破滅(はめつ)へと導いて行くこと（アル＝バガウィー5:240 参照）。その具体例については、家畜章 44 を参照。

第 87 章
至高者章（アル＝アァラー）[1]

سُورَةُ الأَعْلَىٰ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. あなたの主*の御名を称え*よ。
2. 創造され、（創造物を完璧に）整えられたお方を。
3. また、（全てを）調整し給い、お導きになった[2]お方を。
4. また、（家畜に）食ませる（緑の牧）草をお出しになり、
5. そしてそれを、黒ずんだ枯れ草とされたお方を。
6. （使徒*よ、）われら*は、あなたに（ジブリール*を介して、クルアーン*を）読ませよう。そして、あなたは（それを）忘れない。
7. 但し、アッラー*がお望みになったもの[3]は別だが。本当にかれは、露わなものも、隠されるものもご存知なのだから。
8. また、われら*はあなたに、（あらゆる物事における）容易さへと導いてやろう。

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

سَبِّحِ ٱسۡمَ رَبِّكَ ٱلۡأَعۡلَى ١
ٱلَّذِي خَلَقَ فَسَوَّىٰ ٢
وَٱلَّذِي قَدَّرَ فَهَدَىٰ ٣
وَٱلَّذِيٓ أَخۡرَجَ ٱلۡمَرۡعَىٰ ٤
فَجَعَلَهُۥ غُثَآءً أَحۡوَىٰ ٥
سَنُقۡرِئُكَ فَلَا تَنسَىٰٓ ٦
إِلَّا مَا شَآءَ ٱللَّهُۚ إِنَّهُۥ يَعۡلَمُ ٱلۡجَهۡرَ وَمَا يَخۡفَىٰ ٧
وَنُيَسِّرُكَ لِلۡيُسۡرَىٰ ٨

---

1 マッカ*啓示（マディーナ*啓示説もあり）。スーラ*名は、冒頭に登場するアッラー*の美名に由来。全てを最善の形に整え、秩序（ちつじょ）づけられた創造主アッラー*の賛美によって始まり、次いでイスラーム*布教における預言者*ムハンマド*への教示、使命、布教に対する人々の態度が示される。そして来世における信仰者と不信仰者*の結末が、各々への吉報と警告と共に描かれ、それらの教えが過去の使徒*らの教えと共通のものであるということを強調しつつ、スーラ*は幕を閉じる。尚、このスーラ*は圧倒的事態章と共に、預言者*が二つのイード*の礼拝と金曜日の合同礼拝において、よく読誦したスーラ*である（ムスリム「金曜日の書 62 参照」）。

2 この「導かれた」については、ター・ハー章 50 の訳注を参照。

3 アッラー*が、かれがご存知になる利益ゆえ、それを忘れさせせることが英知に適（かな）うもののこと（ムヤッサル 591 頁参照）。雌牛章 106 の、アーヤ*の撤回についての訳注も参照。

9. ならば（使徒*よ、あなたに啓示されたもので、民に）教訓を与えよ。もし、教訓が役立つならば（、だが）[1]。

فَذَكِّرْ إِن نَّفَعَتِ ٱلذِّكْرَىٰ ٩

10. （自らの主*を）恐れる者は教訓を受け、

سَيَذَّكَّرُ مَن يَخْشَىٰ ١٠

11. 最も不幸な者は、それを回避しよう、

وَيَتَجَنَّبُهَا ٱلْأَشْقَى ١١

12. 至大なる業火に入って炙られる（者は）。

ٱلَّذِى يَصْلَى ٱلنَّارَ ٱلْكُبْرَىٰ ١٢

13. それから、彼はそこで（安らぐために）死ぬことも、（有益な生を）生きることもない。

ثُمَّ لَا يَمُوتُ فِيهَا وَلَا يَحْيَىٰ ١٣

14. 自らを努めて清めた者[2]は、確かに成功したのである。

قَدْ أَفْلَحَ مَن تَزَكَّىٰ ١٤

15. そして、自らの主*の御名を唱念し[3]、礼拝[4]した（者は）。

وَذَكَرَ ٱسْمَ رَبِّهِۦ فَصَلَّىٰ ١٥

16. いや、（人々よ、）あなた方は（来世の安寧よりも）、現世の生活の方を愛している。

بَلْ تُؤْثِرُونَ ٱلْحَيَوٰةَ ٱلدُّنْيَا ١٦

17. 来世（の安寧）は（現世のそれ）より善く、より長く続くものなのに。

وَٱلْءَاخِرَةُ خَيْرٌ وَأَبْقَىٰ ١٧

18. 実にこれ[5]は、まさしく最初の書巻に（確証されて）あるのである。

إِنَّ هَٰذَا لَفِى ٱلصُّحُفِ ٱلْأُولَىٰ ١٨

19. イブラーヒーム*と、ムーサー*の書巻に。

صُحُفِ إِبْرَٰهِيمَ وَمُوسَىٰ ١٩

---

1 つまり、教訓に対して頑固で、それを受け入れないような者の教訓に勤（いそ）しむことはない、ということ（ムヤッサル 591 頁参照）。または、「教訓が役立ったならば」の後に「あるいは、役立たなくても」という文が省略されている、という説もある（アル＝バガウィー5:242 参照）。

2 シルク*や不正*、悪い品性から自らを「清めた者」のこと（アッ＝サァディー920 頁参照）。ター・ハー章 76 の同語についての訳注も参照。

3 アッラー*を想起し、その唯一性*を信じ、かれに祈り、かれのご満悦に沿う行いを行うこと（ムヤッサル 592 頁参照）。

4 これは一説に、毎日五回の義務の礼拝のこと（イブン・カスィール 8:381 参照）。

5 この「これ」は、特にアーヤ*14-17 を指すとされる（アッ＝タバリー10:8597 参照）。

第88章
圧倒的事態章（アル=ガーシヤ）[1]

سُورَةُ الغَاشِيَةِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

1. （使徒*よ、）圧倒的事態[2]の話は、あなたに届いたか？
هَلْ أَتَاكَ حَدِيثُ الْغَاشِيَةِ ١

2. その日、（不信仰者*たちの）顔は、（懲罰への）恐怖に陥っている。
وُجُوهٌ يَوْمَئِذٍ خَاشِعَةٌ ٢

3. （それらの顔は、過酷な）労役に就き、消耗している。
عَامِلَةٌ نَّاصِبَةٌ ٣

4. （それらは、）酷熱の業火に入って炙られる。
تَصْلَىٰ نَارًا حَامِيَةً ٤

5. （それらは、）煮えたぎる泉から、飲まされる。[3]
تُسْقَىٰ مِنْ عَيْنٍ آنِيَةٍ ٥

6. 彼らには、忌々しい植物[4]しか、食べ物がない。
لَّيْسَ لَهُمْ طَعَامٌ إِلَّا مِن ضَرِيعٍ ٦

7. （それは彼らを）太らせもしなければ、（彼らの）飢えを満たしてもくれない。
لَّا يُسْمِنُ وَلَا يُغْنِي مِن جُوعٍ ٧

8. （復活の）その日、（信仰者たちの）顔は、恩恵を享受している。
وُجُوهٌ يَوْمَئِذٍ نَّاعِمَةٌ ٨

9. （それらは、）自分たちの（現世で行った）努力（への褒美）ゆえに満足している、
لِّسَعْيِهَا رَاضِيَةٌ ٩

---

1 マッカ*啓示。スーラ*名は、冒頭に出現する同語に由来。復活の日*が、その日の信仰者と不信仰者*の対照的な状態の描写と共に、取り上げられる。また、自然界の観察によって、創造主アッラーの唯一性*と全能性を確認することが促（うなが）され、アッラー*の教えの伝達義務（ぎむ）と、それに背いた者の悪い結末が示される。スーラ*の最後は、再び復活と清算の確証で締めくくられる。至高者*章と共に、預言者*ムハンマド*が折に触れてよく読誦（どくしょう）したスーラ*（至高者章の冒頭の訳注も参照）。

2 「圧倒的事態」とは、その恐怖で人々を圧倒する、復活の日*のこと（ムヤッサル 592 頁参照）。

3 地獄の民の飲食物については、洞窟章 29、イブラーヒーム*章 16-17、整列者章 62-66、サード章 57-58、煙霧章 43-46、ムハンマド*章 15、出来事章 52-55、衣を纏（まと）う者章 13、真実章 36-37 なども参照。

4 「忌々しい植物」の解釈には、「炎の木」「ザックーム（夜の旅章 60「呪われた木」の訳注を参照）」「棘のある植物の一種」といった諸説がある（イブン・カスィール 8:385 参照）。

10. 高き楽園で。
فِي جَنَّةٍ عَالِيَةٍ ١٠

11. （それらは、）そこで戯言[1]を耳にすることもない。
لَّا تَسْمَعُ فِيهَا لَٰغِيَةً ١١

12. そこには、流れる泉がある。
فِيهَا عَيْنٌ جَارِيَةٌ ١٢

13. そこには、高い寝台がある。
فِيهَا سُرُرٌ مَّرْفُوعَةٌ ١٣

14. また、配置された杯、
وَأَكْوَابٌ مَّوْضُوعَةٌ ١٤

15. 並べられた肘掛け、
وَنَمَارِقُ مَصْفُوفَةٌ ١٥

16. 敷き広げられた絨毯がある。
وَزَرَابِيُّ مَبْثُوثَةٌ ١٦

17. 一体、彼ら（不信仰者*たち）は、ラクダがいかに創られたのか、見て（考え）ないのか？
أَفَلَا يَنظُرُونَ إِلَى ٱلْإِبِلِ كَيْفَ خُلِقَتْ ١٧

18. また天が、いかに上げられたのかを？
وَإِلَى ٱلسَّمَآءِ كَيْفَ رُفِعَتْ ١٨

19. また、山々がいかに据え付けられたのかを？
وَإِلَى ٱلْجِبَالِ كَيْفَ نُصِبَتْ ١٩

20. また、大地がいかに平坦に伸ばされたかを？
وَإِلَى ٱلْأَرْضِ كَيْفَ سُطِحَتْ ٢٠

21. ならば（使徒*よ、人々に、啓示で）教訓を与えよ。あなたは教訓を与える者でしかないのだから。
فَذَكِّرْ إِنَّمَآ أَنتَ مُذَكِّرٌ ٢١

22. あなたは、彼らに対（して信仰へと無理強い）する制圧者などではない。
لَّسْتَ عَلَيْهِم بِمُصَيْطِرٍ ٢٢

23. 但し、（教訓に）背を向け、不信仰（の固執）に陥った者は別で、
إِلَّا مَن تَوَلَّىٰ وَكَفَرَ ٢٣

24. アッラー*は彼を（、業火という）最大の懲罰で罰される。
فَيُعَذِّبُهُ ٱللَّهُ ٱلْعَذَابَ ٱلْأَكْبَرَ ٢٤

25. 本当にわれら*にこそ、彼らの（死後の）帰り所があるのだから。
إِنَّ إِلَيْنَآ إِيَابَهُمْ ٢٥

26. それから、本当にわれら*にこそ、彼らの（行いの）清算が委ねられているのだから。
ثُمَّ إِنَّ عَلَيْنَا حِسَابَهُم ٢٦

1 「戯言」については、信仰者たち章３の同語の訳注を参照（アッ＝サァディー921頁参照）。

第89章
暁章（アル＝ファジュル）[1]

سُورَةُ الفَجۡرِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. 暁にかけて、[2]

2. また、十夜[3]にかけて、

3. また、偶数と奇数[4]にかけて、

4. また、（その闇と共に）流れ行く夜にかけて（誓う）。

5. その中には、分別ある者への誓いがあるのではないか？

6. （使徒*よ、）一体あなたは、あなたの主*がアード*に対してされたことを、見なかったのか？

7. 柱の主、イラムに[5]対して？

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

وَٱلۡفَجۡرِ ١

وَلَيَالٍ عَشۡرٖ ٢

وَٱلشَّفۡعِ وَٱلۡوَتۡرِ ٣

وَٱلَّيۡلِ إِذَا يَسۡرِ ٤

هَلۡ فِي ذَٰلِكَ قَسَمٞ لِّذِي حِجۡرٍ ٥

أَلَمۡ تَرَ كَيۡفَ فَعَلَ رَبُّكَ بِعَادٍ ٦

إِرَمَ ذَاتِ ٱلۡعِمَادِ ٧

---

1 マッカ*啓示で学者間の意見は、ほぼ一致。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。過去に地上で栄えてはいたが、その不信仰ゆえに滅ぼされた民の言及と共に、現世と来世における不信仰者*への応報が警告される。また、アッラー*と最後の日*を信仰しない者の誤った人生観、諸々の悪行が描かれた後、復活の日*の恐るべき出来事の描写と共に、再び彼らの悪い結末への警告が放たれる。スーラ*の最後は、信仰者の誉（ほま）れ高い結末が、不信仰者*とは対照的な形で描写され、締めくくられる。

2 アーヤ*1-4 における、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

3 この「十夜」は、非常に徳が多いとされる、ズル＝ヒッジャ*月の最初の十日間であるとされる（イブン・カスィール 8:390-391 参照）。

4 この「偶数と奇数」の解釈には、それぞれ「奇数回と偶数回の礼拝」「アラファの日（ズル＝ヒッジャ*月九日）とイード*・アル＝アドハー（同月十日の犠牲祭）」「（つがいとして、あるいは対極的な別のものと共に創られた）創造物と（唯一である）アッラー*」「文字通り、偶数と奇数、つまり全ての数」など、非常に多くの説がある（アル＝クルトゥビー20:39 - 41 参照）。

5 「イラム」は、アード*の民の部族名。彼らの住居は、「柱」によって非常に高く建築されたものだったとされる（ムヤッサル 593 頁参照）。

8. 諸国において、それと同様の（強靭(きょうじん)かつ強力な）ものは創られたことがなかった（、イラムに対して）。

ٱلَّتِي لَمْ يُخْلَقْ مِثْلُهَا فِي ٱلْبِلَٰدِ ٨

9. また、渓谷(けいこく)で岩を切り抜い（て、住居とし）たサムード*に対して？

وَثَمُودَ ٱلَّذِينَ جَابُوا۟ ٱلصَّخْرَ بِٱلْوَادِ ٩

10. また、杭(くい)[1]の主(ぬし)フィルアウン*に対して？

وَفِرْعَوْنَ ذِى ٱلْأَوْتَادِ ١٠

11. （彼ら不信仰の民*は、）諸国で放埓(ほうらつ)さの限りを尽(つ)くし、

ٱلَّذِينَ طَغَوْا۟ فِى ٱلْبِلَٰدِ ١١

12. そこにおいて腐敗(ふはい)*を散々(さんざん)行い、

فَأَكْثَرُوا۟ فِيهَا ٱلْفَسَادَ ١٢

13. それで、あなたの主(しゅ)*がその上に、懲罰(ちょうばつ)の鞭(むち)を浴(あ)びせられた者たち。

فَصَبَّ عَلَيْهِمْ رَبُّكَ سَوْطَ عَذَابٍ ١٣

14. （使徒(しと)*よ、）本当にあなたの主(しゅ)*は、監視(かんし)の場におられるのだ。

إِنَّ رَبَّكَ لَبِٱلْمِرْصَادِ ١٤

15. 人間というものは、その主(しゅ)*が彼を試練(しれん)におかけになり、栄誉(えいよ)をお授(さず)けになり、恩恵(おんけい)を与え給(たも)うた時には、（こう）言う。「我が主(しゅ)*は、私に栄誉(えいよ)をお授(さず)けになった」。

فَأَمَّا ٱلْإِنسَٰنُ إِذَا مَا ٱبْتَلَىٰهُ رَبُّهُۥ فَأَكْرَمَهُۥ
وَنَعَّمَهُۥ فَيَقُولُ رَبِّىٓ أَكْرَمَنِ ١٥

16. そして、かれが彼を試練(しれん)におかけになり、彼にその糧(かて)を控(ひか)えられた時には、（こう）言うのだ。「我が主(しゅ)*は、私を卑(いや)しめられた」。[2]

وَأَمَّآ إِذَا مَا ٱبْتَلَىٰهُ فَقَدَرَ عَلَيْهِ رِزْقَهُۥ فَيَقُولُ رَبِّىٓ
أَهَٰنَنِ ١٦

---

1 この「杭」については、サード章 12 の訳注を参照。

2 現世におけるアッラー*からの厚遇と恩恵を、アッラー*の御許における自分自身の高貴さと、かれとの特別な間柄ゆえのものと考え、逆の場合には、それが自分に対するアッラー*からの卑下（ひげ）であると考える、人間の一般的な性向を示している。しかし物質的な状況の良し悪しは、いずれもアッラー*からの試練なのであり、アッラー*はそのような状況において人が感謝するか、または忍耐*するかをご覧になるのである（アッ＝サアディー 923 頁参照）。サバア章 36 とその訳注も参照。

17. 断じて（、そのような考えは正しく）ない！いや、（栄誉（えいよ）はアッラー*への服従（ふくじゅう）、辱（はずかし）めはかれへの反抗によるものなのだ[1]、）あなた方は孤児（こじ）を手厚く扱（あつか）わず、

كَلَّاۖ بَل لَّا تُكْرِمُونَ ٱلْيَتِيمَ ﴿١٧﴾

18. 貧者（ひんじゃ）*らに食べさせることも勧（すす）め合わず、

وَلَا تَحَٰٓضُّونَ عَلَىٰ طَعَامِ ٱلْمِسْكِينِ ﴿١٨﴾

19. 遺産（いさん）をごっそりと貪（むさぼ）り、

وَتَأْكُلُونَ ٱلتُّرَاثَ أَكْلًا لَّمًّا ﴿١٩﴾

20. 財産をこよなく愛している。

وَتُحِبُّونَ ٱلْمَالَ حُبًّا جَمًّا ﴿٢٠﴾

21. 断じて（、そのような状態は正しく）ない！大地が木（こ）っ端微塵（ぱみじん）に、粉々（こなごな）にされ、[2]

كَلَّآ إِذَا دُكَّتِ ٱلْأَرْضُ دَكًّا دَكًّا ﴿٢١﴾

22. あなたの主（しゅ）*と、次から次へと隊列（たいれつ）を組んだ天使*が到来（とうらい）し、[3]

وَجَآءَ رَبُّكَ وَٱلْمَلَكُ صَفًّا صَفًّا ﴿٢٢﴾

23. その日、地獄がもたらされる時[4]、その日に（不信仰な）人間は教訓を受け（、悔悟（かいご）す）る[5]。（現世は終わってしまったというのに、）教訓（と悔悟（かいご））が、どうして彼の役に立とうか？

وَجِاْىٓءَ يَوْمَئِذٍۭ بِجَهَنَّمَۚ يَوْمَئِذٍ يَتَذَكَّرُ ٱلْإِنسَٰنُ وَأَنَّىٰ لَهُ ٱلذِّكْرَىٰ ﴿٢٣﴾

24. 彼は言う。「ああ、（来世での）我が人生のため、あらかじめ（現世で、有益な行いを）しておけばよかった！」

يَقُولُ يَٰلَيْتَنِى قَدَّمْتُ لِحَيَاتِى ﴿٢٤﴾

25. その日、誰もかれ（アッラー*）の懲罰（ちょうばつ）のように罰（ばっ）することはなく、

فَيَوْمَئِذٍ لَّا يُعَذِّبُ عَذَابَهُۥٓ أَحَدٌ ﴿٢٥﴾

---

1 関連するアーヤ*として、婦人章 79、相談章 30 とその訳注も参照。

2 復活の日*の天変地異の様子については、洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、山章 9-10、出来事章 5-6、衣を纏（まと）う者章 14、真実章 13-15、階段章 8-9、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 なども参照。

3 同様の状況を示すアーヤ*として、雌牛章 210 とその訳注、識別章 25、真実章 15-17 も参照。

4 その日、地獄は七万の手綱をつけられて、持って来られる。その各々の手綱には、それを引っ張る七万の天使*がついている（ムスリム「天国とその享楽、及びその住人の描写の書」29、イブン・カスィール 8:399 参照）。

5 復活の日*の悔悟については、家畜章 158 とその訳注を参照。

26. 誰も、かれの縛(しば)り方のように縛(しば)ることはない。

وَلَا يُوثِقُ وَثَاقَهُۥٓ أَحَدٌ ٢٦

27. （アッラー*の唱念(しょうねん)と、かれへの信仰へと）安らぐ魂(たましい)よ、

يَٰٓأَيَّتُهَا ٱلنَّفْسُ ٱلْمُطْمَئِنَّةُ ٢٧

28. （アッラー*からの御(お)もてなしに）満足し、（アッラー*から）ご満悦(まんえつ)を受けつつ、あなたの主(しゅ)*へと戻(もど)るがよい。

ٱرْجِعِىٓ إِلَىٰ رَبِّكِ رَاضِيَةً مَّرْضِيَّةً ٢٨

29. そして、わが（正しき）僕(しもべ)たちのところに入り、

فَٱدْخُلِى فِى عِبَٰدِى ٢٩

30. （彼らと共に、）わが楽園に入るのだ。

وَٱدْخُلِى جَنَّتِى ٣٠

第 90 章
町章（アル＝バラド）[1]

سُورَةُ البَلَدِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. われはまさに、この町（マッカ*）において誓う。[2]
لَآ أُقۡسِمُ بِهَٰذَا ٱلۡبَلَدِ ١

2. ――（預言者*よ、）あなたはこの町で、許された者[3]である――
وَأَنتَ حِلُّۢ بِهَٰذَا ٱلۡبَلَدِ ٢

3. また、生むものと生まれたもの[4]にかけて（誓う）。
وَوَالِدٖ وَمَا وَلَدَ ٣

4. われら*は確かに、人間を（現世の）辛労[5]の中に創った。
لَقَدۡ خَلَقۡنَا ٱلۡإِنسَٰنَ فِي كَبَدٍ ٤

5. 一体、彼は思っているのか、（自分が集めた財産ゆえに、）誰も自分を掌握（し、罰）することなどないと？
أَيَحۡسَبُ أَن لَّن يَقۡدِرَ عَلَيۡهِ أَحَدٞ ٥

6. 彼は（、得意になって）言う。「私は、山ほどの財産を使い切ったぞ」。
يَقُولُ أَهۡلَكۡتُ مَالٗا لُّبَدًا ٦

7. 一体、彼は思っているのか、誰も彼を見ていなかったと？
أَيَحۡسَبُ أَن لَّمۡ يَرَهُۥٓ أَحَدٌ ٧

---

1 マッカ*啓示。スーラ*名は冒頭のアーヤ*に登場する語に由来。人間が苦労する存在であることが強調された後、アッラー*の存在と唯一性*を示す様々な印を目にし、正しい道と間違った道が明らかになった後に、アッラー*の教えに従わずに現世の楽しみにかまける不信仰者*に警告が向けられる。また来世で成功するためには、信仰、忍耐*、慈悲、善行、そこにおける助け合いが必要であることが明らかにされる。

2 アッラー*による、この誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

3 これは預言者*が、マッカ*の神聖さ（雌牛章 125 の訳注も参照）にも関わらず、後にそこで戦うことを「許され」、開城することを約束するもの（アル＝バガウィー5:254 参照）。その他「居住者」「アッラー*のご満悦を受けた善行者」「罪なき者」といった解釈もある（アル＝クルトゥビー20:60-61 参照）。

4 「生むものと生まれたもの」の解釈には、それぞれ「アーダム*とその子孫」「全ての生むものと、生まれるもの」「生む者と、不産の者」などの諸説がある（イブン・カスィール 8:402-403 参照）。

5 「現世と来世での辛労」「きちんと整った形に創った」などといった解釈もある（前掲書 8:403 参照）。

8. 一体、われら*は彼に、二つの眼を与えてやったではないか？
أَلَمْ نَجْعَل لَّهُۥ عَيْنَيْنِ ٨

9. また、一本の舌と、二つの唇を？[1]
وَلِسَانًا وَشَفَتَيْنِ ٩

10. また、われら*は彼を、二つの道筋[2]へと導いてやったのだ。
وَهَدَيْنَٰهُ ٱلنَّجْدَيْنِ ١٠

11. それで、どうして彼は、（その財産によって、来世という）険しい道（の踏破）へ飛び込まなかったのか？
فَلَا ٱقْتَحَمَ ٱلْعَقَبَةَ ١١

12. （来世という）険しい道（の踏破）が何かを、あなたに知らせるのは何か？
وَمَآ أَدْرَىٰكَ مَا ٱلْعَقَبَةُ ١٢

13. （それは、）首[3]の解放。
فَكُّ رَقَبَةٍ ١٣

14. または空腹の日に、食べ物を施すこと、
أَوْ إِطْعَٰمٌ فِى يَوْمٍ ذِى مَسْغَبَةٍ ١٤

15. 近親の孤児に、
يَتِيمًا ذَا مَقْرَبَةٍ ١٥

16. あるいは、砂まみれの貧者*に。
أَوْ مِسْكِينًا ذَا مَتْرَبَةٍ ١٦

17. それから彼は、信仰し、忍耐*を勧め合い、（創造物に対する）慈悲を勧め合う者たちの一人とは（、ならなかったのか）？
ثُمَّ كَانَ مِنَ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَتَوَاصَوْا۟ بِٱلصَّبْرِ وَتَوَاصَوْا۟ بِٱلْمَرْحَمَةِ ١٧

18. それらの者たちは、右側の徒[4]。
أُو۟لَٰٓئِكَ أَصْحَٰبُ ٱلْمَيْمَنَةِ ١٨

19. そして、われら*の御徴（アーヤ*）を否定する者たちは、左側の徒[5]。
وَٱلَّذِينَ كَفَرُوا۟ بِـَٔايَٰتِنَا هُمْ أَصْحَٰبُ ٱلْمَشْـَٔمَةِ ١٩

20. 彼らには、密閉された業火がある。
عَلَيْهِمْ نَارٌ مُّؤْصَدَةٌۢ ٢٠

---

1 つまり、それらのものを人間に備え付けられたアッラー*は、人間を蘇（よみがえ）らされ、その行いを全てご覧になることもお出来なのである（アル＝クルトゥビー20:65 参照）。

2 アル＝バガウィー*によれば、大半の解釈学者は「二つの道筋」を、善と悪、真理と虚偽（きょぎ）、導きと迷いの道と解釈している。人間章 3 とその訳注も参照（5:256 参照）。

3 この「首」については、雌牛章 177 の訳注を参照（アッ＝サァディー924 頁参照）。

4 「右側の徒」については、出来事章 8-9 とその訳注を参照。

5 「左側の徒」についても、出来事章 8-9 の訳注を参照。

第91章
太陽章（アッ＝シャムス）[1]

سورة الشمس

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

1. 太陽と、その朝[2]にかけて、[3]

وَالشَّمْسِ وَضُحَاهَا ١

2. また、それに続い（て昇降し）た月にかけて、

وَالْقَمَرِ إِذَا تَلَاهَا ٢

3. また、それ（闇）[4]を開いた昼にかけて、

وَالنَّهَارِ إِذَا جَلَّاهَا ٣

4. また、それ（大地）[5]を覆う夜にかけて、

وَاللَّيْلِ إِذَا يَغْشَاهَا ٤

5. また、天と、それを築いたもの[6]にかけて、

وَالسَّمَاءِ وَمَا بَنَاهَا ٥

6. また、大地と、それを平らに広げたものにかけて、

وَالْأَرْضِ وَمَا طَحَاهَا ٦

7. また、魂と、それを整え、

وَنَفْسٍ وَمَا سَوَّاهَا ٧

8. それに、その放逸さと敬虔さ*[7]を吹き込んだものにかけて（誓う）。

فَأَلْهَمَهَا فُجُورَهَا وَتَقْوَاهَا ٨

9. それを清めた者[8]は、確かに成功したのであり、

قَدْ أَفْلَحَ مَن زَكَّاهَا ٩

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。アッラー*の偉大な創造物における誓いの後、人間の真の成功と敗北とは何かが、確証される。また、サーリフ*とその民の出来事が、アッラー*の預言者*に対する不信仰への厳しい警告と共に、描写される。

2 この「朝」の解釈には、「光」「美しさ」「暑さ」「昼間」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー20:72-73 参照）。

3 アーヤ*1-8 までの、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

4 「闇」のほかにも「太陽」「大地」「大地にあるもの」といった解釈がある（前掲書 20:74 参照）。

5 「太陽」という解釈もある（前掲書、同頁参照）。

6 つまり、「その構築」という意味。あるいは「アッラー*」のこと。アーヤ*6-8 の解釈も同様（前掲書、同頁参照）。

7 つまり善悪の道のこと（ムヤッサル 595 頁参照）。人間章 3 とその訳注も参照。

8 自らを罪や汚点から清め、アッラー*に対する服従により崇高なものとし、有益な知識と正しい行い*で高めた者のこと（アッ＝サァディー926 頁参照）。ター・ハー章 76、至高者章 14 の訳注も参照。

10. それを（罪で）埋もれさせた者は、確かに敗北したのだ。

وَقَدۡ خَابَ مَن دَسَّىٰهَا ١٠

11. サムード*は、そのひどい放埓さゆえに、（預言者*サーリフ*を）嘘つき呼ばわりした。

كَذَّبَتۡ ثَمُودُ بِطَغۡوَىٰهَآ ١١

12. その（サムード*の部族の内、）最も不幸な者[1]が立ち上がった時のこと。

إِذِ ٱنۢبَعَثَ أَشۡقَىٰهَا ١٢

13. それでアッラー*の使徒*（サーリフ*）は、彼らに言った。「アッラー*の雌ラクダ[2]（に危害を加えないこと）と、それに水をやること（において粗相がないよう、気をつけよ）」。

فَقَالَ لَهُمۡ رَسُولُ ٱللَّهِ نَاقَةَ ٱللَّهِ وَسُقۡيَٰهَا ١٣

14. だが彼らは、彼（サーリフ*）を嘘つき呼ばわりして、それ（雌ラクダ）の腱を切った[3]。それでかれ（アッラー*）は、彼らをその罪ゆえに（懲罰で）覆い給い[4]、それ（サムード*）を等しく（滅ぼ）された。

فَكَذَّبُوهُ فَعَقَرُوهَا فَدَمۡدَمَ عَلَيۡهِمۡ رَبُّهُم بِذَنۢبِهِمۡ فَسَوَّىٰهَا ١٤

15. そしてかれは、その結末を怖れることなどないのだ。[5]

وَلَا يَخَافُ عُقۡبَٰهَا ١٥

---

1 この「最も不幸な者」については、月章 29「仲間」の訳注を参照。

2 「アッラー*の雌ラクダ」という表現については、アル＝ヒジュル章 29 の「わが魂」に関する訳注を参照。また、この話の詳細については、高壁章 73-77 とその訳注、フード*章 64-68、詩人たち章 155-157、月章 27-29 を参照。

3 「腱を切った」という表現については、高壁章 77 の訳注を参照。

4 サムード*に下された懲罰の詳細については、頻出名・用語解説の「サムード*」の項を参照。

5 このアーヤ*の解釈には、「アッラー*は、懲罰によるサムード*の結末など怖れない」「雌ラクダを屠（ほふ）った者は、自分がしたことの結末を怖れない」「サーリフ*は、サムード*の結末を怖れない」（アル＝クルトゥビー20:79-80 参照）といった諸説がある。

第 92 章
夜章（アッ＝ライル）[1]

سُورَةُ اللَّيْلِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. （その闇によって、大地を）覆う夜にかけて、[2]

2. また、（その光で闇から）露わになった昼にかけて、

3. また、男性と女性を創ったもの[3]にかけて（誓う）。

4. 本当にあなた方の行いは、実に多様[4]である。

5. （自分の財産を）与え[5]、（アッラー*を）畏れ*、

6. 最善のもの[6]を信じる者はといえば、

7. われら*が彼を、（善、正しさ、あらゆる物事における）容易さへと導いてやろう。[7]

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

وَاللَّيْلِ إِذَا يَغْشَىٰ ﴿١﴾

وَالنَّهَارِ إِذَا تَجَلَّىٰ ﴿٢﴾

وَمَا خَلَقَ الذَّكَرَ وَالْأُنثَىٰ ﴿٣﴾

إِنَّ سَعْيَكُمْ لَشَتَّىٰ ﴿٤﴾

فَأَمَّا مَنْ أَعْطَىٰ وَاتَّقَىٰ ﴿٥﴾

وَصَدَّقَ بِالْحُسْنَىٰ ﴿٦﴾

فَسَنُيَسِّرُهُ لِلْيُسْرَىٰ ﴿٧﴾

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。対照的な物事におけるアッラー*の誓いの後、真の成功者と失敗者の様子が、各々への吉報と警告と共に対照的に描かれる。

2 アーヤ*1-3 における、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

3 つまり、「その創造」という意味。あるいは「アッラー*」のこと（アル＝クルトゥビー 20:80-81 参照）。

4 行いの種類、量、そこにおける活力、目的などにおいて「多様」である（アッ＝サァディー926 頁参照）。

5 アッ＝サァディー*によれば、これは浄財*、施（ほどこ）し、扶養（ふよう）などといった、財産による崇拝*行為において「与える」ことを始め、礼拝や斎戒*などの身体による崇拝*行為、あるいは巡礼*などの、財産と身体のいずれにも関連した崇拝*行為において自らの義務を果たすこと（926 頁参照）。

6 この「最善のもの」とは、シャハーダ*の言葉と、それが要求するもの、そしてそれによって得られる褒美のこととされる（ムヤッサル 595 頁参照）。婦人章 95 の同語についての訳注も参照。

7 一説にこのアーヤ*は、マッカ*時代、抑圧されていた弱い奴隷*たちを解放していたアブー・バクル*に関して下ったものとされる（アッ＝タバリー10:8674 参照）。アーヤ*17 の訳注も参照。

8. そして、（財産を）出し惜しみし、（主*の褒美なしでも）十分だと主張し、

وَأَمَّا مَنۢ بَخِلَ وَٱسۡتَغۡنَىٰ ٨

9. 最善のもの[1]を嘘呼ばわりした者はといえば、

وَكَذَّبَ بِٱلۡحُسۡنَىٰ ٩

10. われら*が彼を、困難へと導いてやろう。[2]

فَسَنُيَسِّرُهُۥ لِلۡعُسۡرَىٰ ١٠

11. そして、彼の財産は彼に役立たない、彼が（業火へと）転落してしまった[3]時には。

وَمَا يُغۡنِي عَنۡهُ مَالُهُۥٓ إِذَا تَرَدَّىٰٓ ١١

12. 本当にわれら*にこそ、導き（の解明）が属するのであり、

إِنَّ عَلَيۡنَا لَلۡهُدَىٰ ١٢

13. 本当にわれら*にこそ、来世と最初のもの（現世）が属するのだ。

وَإِنَّ لَنَا لَلۡأٓخِرَةَ وَٱلۡأُولَىٰ ١٣

14. ならば（人々よ）、われら*はあなた方に、燃え盛る（地獄の）業火を警告した。

فَأَنذَرۡتُكُمۡ نَارٗا تَلَظَّىٰ ١٤

15. そこに入って炙られるのは、最も不幸な者だけ。

لَا يَصۡلَىٰهَآ إِلَّا ٱلۡأَشۡقَى ١٥

16. （預言者*ムハンマド*を）嘘つき呼ばわりし、（信仰に）背を向けた者。

ٱلَّذِي كَذَّبَ وَتَوَلَّىٰ ١٦

17. そして、敬虔な*者[4]は、そこから免れることになろう。

وَسَيُجَنَّبُهَا ٱلۡأَتۡقَى ١٧

18. 自らを努めて清め[5]つつ、自分の財産を与える者は。

ٱلَّذِي يُؤۡتِي مَالَهُۥ يَتَزَكَّىٰ ١٨

---

1 この「最善のもの」については、アーヤ*6 の訳注を参照。

2 アッラー*は善を志した者には、そこへとお導きになることでお報いになり、悪を志した者には、失敗という応報を与えられる。そしてその全ては、定められた運命なのである（イブン・カスィール 8:417 参照）。

3 あるいは、「死んでしまった」という意味（アル＝クルトゥビー20:85 参照）。

4 一説に、この「敬虔*な者」とはアブー・バクル*を指しているとされるが、アーヤ*18-20 のような特質を備えているほかの全ての者も、ここに含まれるとされる（イブン・カスィール 8:422 参照）。

5 「自らを努めて清める」ことについては、ター・ハー章 76、至高者*章 14 の訳注を参照。

19. 彼には、誰かに対して返すべき恩があ（って、それゆえに財産を与え）るわけではない。

وَمَا لِأَحَدٍ عِندَهُۥ مِن نِّعْمَةٍ تُجْزَىٰٓ ١٩

20. しかし、至高なる*自分の主(しゅ)*の御顔(おかお)を求めるがゆえなのであり、

إِلَّا ٱبْتِغَآءَ وَجْهِ رَبِّهِ ٱلْأَعْلَىٰ ٢٠

21. 彼は必(かなら)ずや、（天国で彼が授(さず)かるものに）満足することになろう。

وَلَسَوْفَ يَرْضَىٰ ٢١

第 93 章
朝章（アッ＝ドハー）[1]

سُورَةُ الضُّحَىٰ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. 朝にかけて、[2]
2. また、静まった夜にかけて（誓う）。
3. （預言者*よ、）かれ（アッラー*）は、あなたに見切りをつけられたのでもなければ、あなたをお嫌いになったわけでもない。[3]
4. そして来世こそは、あなたにとって最初のもの（現世）よりも善いのであり、
5. あなたの主*は（来世で）、あなたに必ずや（諸々のお恵みを）お授けになり、あなたは（それに）満足するのである。
6. かれは、あなたが（以前、）孤児であるのを見出され、それで（あなたを）匿って下さったのではないか？[4]

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

وَٱلضُّحَىٰ ١
وَٱلَّيۡلِ إِذَا سَجَىٰ ٢
مَا وَدَّعَكَ رَبُّكَ وَمَا قَلَىٰ ٣
وَلَلۡأٓخِرَةُ خَيۡرٞ لَّكَ مِنَ ٱلۡأُولَىٰ ٤
وَلَسَوۡفَ يُعۡطِيكَ رَبُّكَ فَتَرۡضَىٰٓ ٥
أَلَمۡ يَجِدۡكَ يَتِيمٗا فَـَٔاوَىٰ ٦

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来（「朝」については、ター・ハー章 59 の訳注も参照）。マッカ*時代の苦境にあった預言者*ムハンマド*への吉報、彼に対するアッラー*の特別な思（おぼ）し召しが、彼に対する慰（なぐさ）めと共に再確認される。また、過去の苦難を思い出してアッラー*の恩恵に感謝しつつ、忍耐*、善行、崇拝*行為に励（はげ）むよう、命じられている。

2 アーヤ*1-2 における、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

3 このアーヤ*は、預言者*に対するジブリール*の訪問がしばらく途絶（とだ）えた時、シルク*の徒が「アッラー*は彼を嫌い、見切りをつけたのだ」と言ったことについて、下ったとされる（アル＝クルトゥビー20:92 参照）。

4 預言者*ムハンマド*は誕生前、あるいは誕生後すぐに父親を亡くし、六歳の時には母親も亡くした。その後は祖父の後見下に入ったが、八歳の時に彼が他界してからは、叔父アブー・ターリブが彼の面倒を見始め、預言者*としての使命を受けてからも、彼を援助し続けた（イブン・カスィール 8:426 参照）。

7. また、あなたが迷っているのを見出され、それで（あなたを）お導き下さったのでは？[1]

وَوَجَدَكَ ضَآلّٗا فَهَدَىٰ ٧

8. また、あなたが貧しい者であるのを見出され、（満足と忍耐*によって）豊かにして下さったのでは？

وَوَجَدَكَ عَآئِلٗا فَأَغۡنَىٰ ٨

9. ならば、孤児については、居丈高になるのではない。

فَأَمَّا ٱلۡيَتِيمَ فَلَا تَقۡهَرۡ ٩

10. また、乞う者については、叱りつけたりするのではない。

وَأَمَّا ٱلسَّآئِلَ فَلَا تَنۡهَرۡ ١٠

11. そして、あなたの主*の恩恵[2]についてこそ、話して聞かせるのだ。

وَأَمَّا بِنِعۡمَةِ رَبِّكَ فَحَدِّثۡ ١١

---

1 つまり、啓典も信仰も知らない状態だった（相談章 52 参照）彼に、それ以前には知らなかったものを教えて下さり、最善の行為と品性へとお導きになった、ということ（アッ＝サァディー928 頁参照）。

2 「恩恵」のほか、「アッラー*から伝達を命じられたこと」「クルアーン*」といった解釈もある（アル＝バガウィー5:270 参照）。

第94章
胸を広げる章（アッ＝シャルフ）[1]

سُورَةُ الشَّرْحِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. （預言者*よ、）われら*はあなたのため、あなたの胸を広げてやった[2]のではないか？

أَلَمْ نَشْرَحْ لَكَ صَدْرَكَ ١

2. そして、あなたから、あなたの重荷[3]を下ろしてやったのだ。

وَوَضَعْنَا عَنكَ وِزْرَكَ ٢

3. （その重みで、）あなたの背を軋ませていたもの（重荷）を。

ٱلَّذِىٓ أَنقَضَ ظَهْرَكَ ٣

4. また、あなたのため、あなたの名声を高めてやった。[4]

وَرَفَعْنَا لَكَ ذِكْرَكَ ٤

5. 本当に、苦と共にこそ楽あり、

فَإِنَّ مَعَ ٱلْعُسْرِ يُسْرًا ٥

6. 本当に、苦と共にこそ楽あり。[5]

إِنَّ مَعَ ٱلْعُسْرِ يُسْرًا ٦

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。マッカ*時代の苦境の中にある預言者*ムハンマド*への慰（なぐさ）めとして、彼に対するアッラー*の特別なお計らいと、彼に授けられた預言者*としての使命という偉大な恩恵について、語りかけられている。また、苦境は一時的なものであるという世の法則が確認された後、預言者*としての使命を果たすべく、アッラー*のみを求め、かれのみに全てを委ねつつ、努力することが命じられている。

2 つまり信仰、預言者*としての使命、知識、英知を受容できるよう、心を広げ、柔らかくされた、ということ（アル＝バガウィー5:274 参照）。家畜章 125、ター・ハー25 章も参照。

3 この「重荷」の解釈については、「罪（勝利章 2 の訳注も参照）」「間違い」「預言者*としての使命につきものの苦労」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー20:105-106 参照）。

4 預言者*としての使命を授かることなどによって、またはシャハーダ*の言葉において、彼の名がアッラー*の御名と共に言及されたり、彼への服従がアッラー*への服従と見なされたり（婦人章 80 参照）、天使*たちや信仰者たちによって讃美（さんび）される（部族連合章 56 とその訳注を参照）存在となることによって「名声を高められた」（アル＝バイダーウィー5:505 参照）。

5 解釈学者らによれば、アーヤ*5 と 6 の「苦」は同一のもので、「楽」は別のもの。つまり、一つの苦は、必ず二つの楽を伴うということ（アル＝バガウィー5:275 参照）。

7. ならば、（現世の用事から）手が空いたら、（崇拝*行為に）尽力せよ。[1]

فَإِذَا فَرَغۡتَ فَٱنصَبۡ ٧

8. そして（あらゆる必要において）、あなたの主*にこそ希求するのだ。

وَإِلَىٰ رَبِّكَ فَٱرۡغَب ٨

1 ほかにも、前者と後者がそれぞれ「礼拝、祈願」「義務の崇拝*行為、夜の任意の礼拝」「イスラーム*の教えの伝達、自分と信仰者たちの赦しをアッラー*に乞うこと」「敵との戦い、アッラー*の崇拝*」であるといった解釈もある（アル＝クルトゥビー20:108-109 参照）。

第95章 無花果章（アッ＝ティーン）[1]

سُورَةُ التِّينِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 無花果とオリーブにかけて、[2]
2. また、シナイ山にかけて、
3. また、この平安な町（マッカ*）にかけて（誓う）。[3]
4. われら*は確かに人間を、最善の形に創造した。
5. それから、われら*は彼を、（われら*と使徒*に服従しなかったゆえに）低劣な者たちの内でも最低の者と帰させた[4]のである。
6. 但し、信仰して正しい行い*を行う者たちは別だが。彼らには、尽きることのない褒美[5]がある。

وَٱلتِّينِ وَٱلزَّيۡتُونِ ١
وَطُورِ سِينِينَ ٢
وَهَٰذَا ٱلۡبَلَدِ ٱلۡأَمِينِ ٣
لَقَدۡ خَلَقۡنَا ٱلۡإِنسَٰنَ فِيٓ أَحۡسَنِ تَقۡوِيمٖ ٤
ثُمَّ رَدَدۡنَٰهُ أَسۡفَلَ سَٰفِلِينَ ٥
إِلَّا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ فَلَهُمۡ أَجۡرٌ غَيۡرُ مَمۡنُونٖ ٦

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。アッラー*の創造における御力と恩恵が強調された後、不信仰者*と信仰者の様子が対照的に描かれ、次いで復活と報いの真実が確証される。

2 アーヤ*1-3 における、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

3 ある種の学者らは、アーヤ*1-3 で言及されている語が、「決然とした者たち（部族連合章 7 の訳注を参照）」の内の三人の使徒*が遣わされた場所を示している、と解釈している。つまり「無花果とオリーブ」はエルサレムの地で、イーサー*が遣わされた場所、「シナイ山」は、ムーサー*がアッラー*から語りかけられた場所、「平安な町（この名の由来については、雌牛章 125 の訳注を参照）」は、預言者*ムハンマド*が遣わされた町マッカだということ（イブン・カスィール 8:434 参照）。

4 つまり、地獄に落とした、ということ（ムヤッサル 597 頁参照）。または、「最悪の年齢（蜜蜂章 70 の訳注を参照）」に戻した、という解釈もある。その場合、アーヤ*6 とのつながりは「理性が衰（おとろ）えることで新たに善行の褒美を得ることはなくなるが、信仰し正しい行い*を行った者たちは別で、若く健康だった頃の善行が書き留められる」といった風になる（アル＝バガウィー5:277-278 参照）。あるいは、そもそもアーヤ*6 とのつながりはなくなる（アル＝クルトゥビー20:115 参照）。

5 「尽きることのない褒美」については、詳細にされた章 8 の訳注を参照。

7. ならば（人間よ、その根拠が明白になった）後で、何があなたに（来世での復活と）報いを嘘とさせるのか？

فَمَا يُكَذِّبُكَ بَعْدُ بِٱلدِّينِ ﴿٧﴾

8. 一体アッラー*は、英知あふれる*者の内でも、最も英知あふれるお方なのではないか？[1]

أَلَيْسَ ٱللَّهُ بِأَحْكَمِ ٱلْحَٰكِمِينَ ﴿٨﴾

1 果たして、命令も禁止も、褒美（ほうび）も罰もないままに、創造物を放ったらかしにしておくことが、アッラー*の英知に適う事であろうか、ということ（アッ＝サアディー929頁参照）。

第96章 凝血章（アル＝アラク）[1]

سُورَةُ الْعَلَقِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

1. （預言者*よ、）創造をされた、あなたの主*の御名において（、啓示されたクルアーン*を）読め。

اقْرَأْ بِاسْمِ رَبِّكَ الَّذِي خَلَقَ ١

2. かれは人間を、一塊の凝血からお創りになった。[2]

خَلَقَ الْإِنسَانَ مِنْ عَلَقٍ ٢

3. （預言者*よ、クルアーン*を）読め。あなたの主*は、最も貴い*お方。

اقْرَأْ وَرَبُّكَ الْأَكْرَمُ ٣

4. 筆（記）を教えて下さったお方。

الَّذِي عَلَّمَ بِالْقَلَمِ ٤

5. 人間に、彼が知らなかったことを教えて下さった（お方）。

عَلَّمَ الْإِنسَانَ مَا لَمْ يَعْلَمْ ٥

6. 断じて（、アッラー*の恩恵に対して恩知らずになってはなら）ない！　実に人間は、（アッラー*に対して、）まさしく放埒である。

كَلَّا إِنَّ الْإِنسَانَ لَيَطْغَىٰ ٦

7. 自らを、十分な者[3]と見なすがゆえ。

أَن رَّآهُ اسْتَغْنَىٰ ٧

8. 実にあなたの主*にこそ、（来世での）戻り場所があ（り、そこで自分が行ったことを報われることにな）るのである。

إِنَّ إِلَىٰ رَبِّكَ الرُّجْعَىٰ ٨

---

1 マッカ*啓示。スーラ*名はアーヤ*2 で言及されている語に由来。初期に下ったスーラ*の一つで、特に最初の 5 アーヤ*は、ヒラー洞窟に篭（こも）って崇拝*行為に没頭していたムハンマド*が、ジブリール*の訪問を受け、初めて受け取った啓示（アル＝ブハーリー3参照）。創造と知識という恩恵の言及に始まり、預言者*のイスラーム*布教を阻む不信仰者*に対して厳しい警告が向けられると共に、敵に対する毅然（きぜん）とした態度、忍耐*、崇拝*行為によるアッラー*への奉仕が命じられている。

2 人間の創造の変遷（へんせん）については、巡礼*章 5、信仰者たち章 14 も参照。

3 財産、子供、権力において満たされた「十分な者」ということ（アル＝ジャザーイリー5:594参照）。

9. 言ってみよ、阻む者[1]（について）、

أَرَءَيْتَ ٱلَّذِى يَنْهَىٰ ﴿٩﴾

10. 僕（ムハンマド*）を、彼が礼拝した時に（阻む者について）。

عَبْدًا إِذَا صَلَّىٰٓ ﴿١٠﴾

11. 言ってみよ、もし彼（預言者*）が導きの上にあったとしたら（、いかに彼を礼拝から阻むというのか）？

أَرَءَيْتَ إِن كَانَ عَلَى ٱلْهُدَىٰٓ ﴿١١﴾

12. あるいは、（人に）敬虔さ*を命じたのだとしたら（、いかに彼をそこから阻むというのか）？

أَوْ أَمَرَ بِٱلتَّقْوَىٰٓ ﴿١٢﴾

13. 言ってみよ、もし彼（阻む者）が、（自分がそこへと招かれているものを）嘘呼ばわりし、背を向けたならば、

أَرَءَيْتَ إِن كَذَّبَ وَتَوَلَّىٰٓ ﴿١٣﴾

14. 彼はアッラー*が(、自分のすること全てを)ご覧にな（り、それに対して報われ）るということを、知らなかったのか？

أَلَمْ يَعْلَم بِأَنَّ ٱللَّهَ يَرَىٰ ﴿١٤﴾

15. 断じて（、彼の主張は正しく）ない！　もしも彼が（預言者*に対する敵対と抑圧を）止めなければ、われら*は必ずや（彼の）前髪を引っ掴んで[2]（、業火へ放り込んで）しまおう。

كَلَّا لَئِن لَّمْ يَنتَهِ لَنَسْفَعًۢا بِٱلنَّاصِيَةِ ﴿١٥﴾

16. （言葉は）嘘つきで、（行いの）誤った（、彼の）前髪を。

نَاصِيَةٍ كَٰذِبَةٍ خَاطِئَةٍ ﴿١٦﴾

17. ならば彼に、自分の会合の場（の仲間たち）を呼ばせて（、援助を乞わせて）みよ。

فَلْيَدْعُ نَادِيَهُۥ ﴿١٧﴾

---

1 これは不信仰者*の長アブー・ジャハル*のことだが、彼と同様に善を阻もうとする全ての者も、ここに当てはまる（アッ＝サァディー930 頁参照）。

2 「前髪を掴む」という表現には、その対象への蔑（さげす）みや辱（はずかし）めの意味が含まれている（アル＝クルトゥビー20:125 参照）。

18. われら*はザバーニヤ[1]を呼んでやるから。
سَنَدۡعُ ٱلزَّبَانِيَةَ ١٨

19. 断じて(、彼の主張は正しく)ない！（使徒
*よ、）彼に従わず[2]、（あなたの主*に）
サジダ*し、お近づきを求めよ。（読誦の
サジダ*）
كَلَّا لَا تُطِعۡهُ وَٱسۡجُدۡ وَٱقۡتَرِب ۩ ١٩

1 「ザバーニヤ」とは、「ザブン（押しやる）」という語からの派生語とされ、地獄の住人を押しやる、荒々しく厳しい天使*たち（禁止章 6 の訳注も参照）のこと（アル＝バガウィー5:282 参照）。

2 つまり、崇拝*行為を継続し、沢山行うことから阻（はば）まれても従うのではない、ということ（イブン・カスィール 8:439 参照）。

第 97 章
誉(ほま)れの夜*章（アル＝カドゥル）[1]

سُورَةُ القَدۡرِ

慈悲(じひ)あまねく*慈愛(じあい)深き*
アッラー*の御名(みな)において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 本当にわれら*は、誉(ほま)れの夜にそれ（クルアーン*）を下した。

إِنَّآ أَنزَلۡنَٰهُ فِي لَيۡلَةِ ٱلۡقَدۡرِ ١

2. （預言者(よげんしゃ)*よ、）誉(ほま)れの夜が何かを、何があなたに知らせるか？

وَمَآ أَدۡرَىٰكَ مَا لَيۡلَةُ ٱلۡقَدۡرِ ٢

3. 誉(ほま)れの夜は、千の月に優るもの。[2]

لَيۡلَةُ ٱلۡقَدۡرِ خَيۡرٞ مِّنۡ أَلۡفِ شَهۡرٖ ٣

4. 天使*たちと魂(たましい)（ジブリール*）[3]はそこにおいて、彼らの主(しゅ)*のお許(ゆる)しと共に、（かれがお定めになった）全ての物事ゆえ、次々と降臨(こうりん)する。[4]

تَنَزَّلُ ٱلۡمَلَٰٓئِكَةُ وَٱلرُّوحُ فِيهَا بِإِذۡنِ رَبِّهِم مِّن كُلِّ أَمۡرٖ ٤

5. 黎明(れいめい)の出現まで、それは（いかなる悪からも、）まさしく安全[5]なのである。

سَلَٰمٌ هِيَ حَتَّىٰ مَطۡلَعِ ٱلۡفَجۡرِ ٥

---

1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。スーラ*名は、本スーラ*の主題であり、かつこのスーラ*にしか登場しない「誉れの夜」という語による。クルアーン*の徳と恩恵、創造の管理を一手に司（つかさど）られるアッラー*の偉大さと英知が取り上げられると共に、それらと密接な関係のある、荘厳（そうごん）さと祝福にあふれた誉れの夜の様子が描かれる。

2 つまり、そこにおける正しい行い*は、誉れの夜がない千の月における正しい行い*に優る、ということ（ムヤッサル 598 頁参照）。

3 ここでジブリール*が「魂」と呼ばれていることについては、マルヤム*章 17 の訳注を参照。

4 煙霧章 4 の訳注も参照。

5 この「安全（サラーム）」という語は、「『平安を』という、天使*たちの挨拶（家畜章 54 の訳注を参照）」のことである、という解釈もある（アル＝バガウィー5:289 参照）。

第98章
明証章（アル＝バイイナ）[1]

سُورَةُ الْبَيِّنَةِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

1. 啓典の民*とシルク*の徒である不信仰に陥った者*たちは、自分たちのもとに明証が到来するまで、（不信仰からの）脱却者とはならなかった。[2]

لَمْ يَكُنِ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ أَهْلِ الْكِتَابِ وَالْمُشْرِكِينَ مُنفَكِّينَ حَتَّىٰ تَأْتِيَهُمُ الْبَيِّنَةُ ﴿١﴾

2. 清浄なる書巻[3]を読誦[4]する、アッラー*からの使徒*（という明証）が。

رَسُولٌ مِّنَ اللَّهِ يَتْلُو صُحُفًا مُّطَهَّرَةً ﴿٢﴾

3. その（書巻の）中には、適確な書[5]がある。

فِيهَا كُتُبٌ قَيِّمَةٌ ﴿٣﴾

4. また、啓典を授けられた者*たちが（、ムハンマド*の使徒*性が真実かどうかについて）分裂したのは、自分たちのもとに明証が到来した後のことに外ならなかった。[6]

وَمَا تَفَرَّقَ الَّذِينَ أُوتُوا الْكِتَابَ إِلَّا مِن بَعْدِ مَا جَاءَتْهُمُ الْبَيِّنَةُ ﴿٤﴾

---

1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。スーラ*名にもなっている、アッラー*の使徒*と彼が授かったクルアーン*という「明証」が、啓典の民*とそれ以外の不信仰者*の前で確証される。そしてクルアーン*とそれ以前の啓典の根本的な教えが同一であることを強調しつつ、アッラー*の教えの基本が提示され、それを拒否する者と信じる者の来世での行き先が、対照的に描写される。

2 このアーヤ*は、上記の不信仰者*の内、使徒*の招きに従って信仰し、無知と迷いから救われた者たちのことを話している（アル＝バガウィー5:290 参照）。

3 つまり、クルアーン*のこと（ムヤッサル 598 頁参照）。その内容に虚妄（きょもう）が触れることはなく（詳細にされた章 42 と、その訳注も参照）、清浄な者しかそれに触れることが出来ない（出来事章 79、眉をひそめた章 14 とその訳注も参照）（アル＝バイダーウィー5:515 参照）。

4 この「読誦」については、雌牛章 121 の訳注も参照。

5 「適確な書」とは、真理とまっすぐな道へと導いてくれる、正しい情報と命令のこと（アッ＝サァディー931 頁参照）、あるいは法規定のこと（アル＝クルトゥビー20:143 参照）。

6 「明証」とは、ムハンマド*が、彼らの啓典の中でその到来を約束されている預言者*であることを示す、数々の証拠のこと。彼らはそのことを心得ていたが、いざ彼が使徒*として遣わされると、彼を信じる者と、嫉妬（しっと）して否定する者に分裂した（ムヤッサル 598 頁参照）。雌牛章 213 とその訳注も参照。

5. そして彼らは、アッラー*に真摯（しんし）に崇拝（すうはい）*行為を捧（ささ）げつつ、純正[1]な状態でかれ（だけ）を崇拝（すうはい）*し、礼拝（れいはい）を遵守（じゅんしゅ）*し、浄財（じょうざい）*を支払うことしか、命じられはしなかったのだ[2]。それが、適確（てきかく）な宗教（イスラーム*）である。

وَمَآ أُمِرُوٓاْ إِلَّا لِيَعۡبُدُواْ ٱللَّهَ مُخۡلِصِينَ لَهُ
ٱلدِّينَ حُنَفَآءَ وَيُقِيمُواْ ٱلصَّلَوٰةَ وَيُؤۡتُواْ
ٱلزَّكَوٰةَۚ وَذَٰلِكَ دِينُ ٱلۡقَيِّمَةِ ٥

6. 本当に、啓典（けいてん）の民*とシルクの徒*である不信仰に陥（おちい）った者*たちは（復活の日*）、地獄の業火（ごうか）の中にある。彼らはそこに永遠に留（とど）まるのだ。それらの者たちこそは、最悪の創造物（そうぞう）。

إِنَّ ٱلَّذِينَ كَفَرُواْ مِنۡ أَهۡلِ ٱلۡكِتَٰبِ
وَٱلۡمُشۡرِكِينَ فِي نَارِ جَهَنَّمَ خَٰلِدِينَ فِيهَآۚ أُوْلَٰٓئِكَ
هُمۡ شَرُّ ٱلۡبَرِيَّةِ ٦

7. 本当に、信仰し、正しい行い*を行う者たち、それらの者たちこそは最善の創造物（そうぞう）。

إِنَّ ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
أُوْلَٰٓئِكَ هُمۡ خَيۡرُ ٱلۡبَرِيَّةِ ٧

8. （復活の日*における）彼らの報（むく）いは、その下から河川（かせん）が流れる、彼らの主（しゅ）*の御許（みもと）での永久（とわ）の楽園。彼らはそこで、ずっと永遠に留（とど）まる。アッラー*は彼らをお喜びになり、彼らもアッラー*に満足する。それが、自分の主（しゅ）*を恐れた者[3]のためのものなのだ。

جَزَآؤُهُمۡ عِندَ رَبِّهِمۡ جَنَّٰتُ عَدۡنٖ تَجۡرِي
مِن تَحۡتِهَا ٱلۡأَنۡهَٰرُ خَٰلِدِينَ فِيهَآ أَبَدٗاۖ رَّضِيَ ٱللَّهُ
عَنۡهُمۡ وَرَضُواْ عَنۡهُۚ ذَٰلِكَ لِمَنۡ خَشِيَ رَبَّهُۥ ٨

---

1 「純正」については、雌牛章 135 の同語についての訳注を参照。

2 蜜蜂章 36、預言者*たち章 25 も参照（イブン・カスィール 8:457 参照）。

3 つまり主*を恐れるがゆえに、かれに逆らわず、義務を果たした者のこと（アッ＝サァディー932 頁参照）。

第99章
地震章（アッ＝ザルザラ）[1]

سورة الزلزلة

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. 大地が激しく震動させられる時、

2. また、大地がその重荷[2]を吐き出し、

3. （戦慄に襲われた）人間が「それ（大地）に、何が起こったのか？」と言う時、[3]

4. それ（大地）は（復活の）その日、自らの消息[4]を話す、

5. あなたの主*が、（そうするよう、）自分にご命じになったのだ、ということを。[5]

6. その日、人々は自分たちの行いを見るべく、三々五々に出て行く[6]。

7. それで、僅かな重みでも善いことを行う者は誰でも、（来世で）それ（に対する褒美）を見出すのであり、

بسم الله الرحمن الرحيم

إذا زلزلت الأرض زلزالها ١

وأخرجت الأرض أثقالها ٢

وقال الإنسان ما لها ٣

يومئذ تحدث أخبارها ٤

بأن ربك أوحى لها ٥

يومئذ يصدر الناس أشتاتا ليروا أعمالهم ٦

فمن يعمل مثقال ذرة خيرا يره ٧

---

1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。復活の日*が、それが起こる時の恐ろしい出来事と共に描写される。スーラ*名ともなっている「地震」は、その日に起こる天変地異の一つ。その日の清算と報いが、善行者への吉報と悪行者への警告と共に確証される。

2 この「重荷」は、死んだ人々や、財宝のこととされる（ムヤッサル 599 頁参照）。

3 復活の日の天変地異の様子については、洞窟章 47、ター・ハー章 105-107、蟻章 88、山章 9-10、出来事章 5-6、衣を纏（まと）う者章 14、真実章 13-15、階段章 8-9、消息章 20、巻き込む章 3、衝撃章 4-5 なども参照。

4 この「消息」とは、大地で行われた善悪の行いのこと（ムヤッサル 599 頁参照）、あるいは大地の変動の理由（アル＝バイダーウィー5:518 参照）。

5 「･･･自分にお伝えになったために」という解釈もある（前掲書、同頁参照）。

6 清算の場から、天国、または地獄へと連れて行かれる。あるいは、墓場から清算の場へと出て行く（アル＝クルトゥビー20:149-150 参照）。

8. 僅かな重みでも悪いことを行う者は誰でも、（来世で）それ（に対する応報）を見出すのだ。[1]

وَمَن يَعۡمَلۡ مِثۡقَالَ ذَرَّةٖ شَرّٗا يَرَهُۥ ٨

1 同様の意味のアーヤ*として、婦人章 40、洞窟章 49、預言者*たち 47、ルクマーン章 16 なども参照。

第100章 疾駆するもの章(アル＝アーディヤート)[1]

سُورَةُ العَادِيَات

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. 鼻息を荒げて疾駆するもの[2]にかけて、[3]
2. また、(蹄で石を)打ち付けつつ、火花を散らすものにかけて、
3. また、朝に(敵陣へと)進撃するものにかけて(誓う)、
4. それらは、それ[4]によって埃を巻き上げ、
5. それ[5]と共に、(敵の)集団の只中へと進み込む[6]、
6. 本当に人間は、自分の主*に対してまさしく恩知らずであり、
7. 本当にかれ[7]は、そのことにおける確かな証言者である。

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

وَٱلۡعَٰدِيَٰتِ ضَبۡحٗا ١
فَٱلۡمُورِيَٰتِ قَدۡحٗا ٢
فَٱلۡمُغِيرَٰتِ صُبۡحٗا ٣
فَأَثَرۡنَ بِهِۦ نَقۡعٗا ٤
فَوَسَطۡنَ بِهِۦ جَمۡعًا ٥
إِنَّ ٱلۡإِنسَٰنَ لِرَبِّهِۦ لَكَنُودٞ ٦
وَإِنَّهُۥ عَلَىٰ ذَٰلِكَ لَشَهِيدٞ ٧

---

1 マッカ*啓示(マディーナ*啓示説もあり)。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。勇猛に敵陣へと駆け込んでいく軍隊の様子が描かれた後、アッラー*の恩恵に対して恩知らずで、復活の日*の清算と報いを疎(おろそ)かにしている人間に警告が放たれる。一見、前半部と後半部の関連性がないように見えるが、一説には前半部では不信仰者*である敵、後半部では復活の日*が、いずれも来世での損失につながる用心すべきものとして取り上げられている。

2 大方の解釈学者は、アーヤ*5まで登場する、この「疾駆」し「火花を散らし」「進撃する」ものを、アッラー*の道において敵を目指して駆ける馬と解釈している。「ハッジ*におけるラクダ」という説もあるが、その場合、アーヤ*5までの解釈は、本文訳とは多少変わって来る(アル＝クルトゥビー20:160参照)。

3 アーヤ*1-3までの、アッラー*によるこの誓いについては、整列者章1の訳注を参照。

4 この「それ」とは、疾駆と、敵への進撃のこと(アッ＝サァディー932頁参照)。

5 この「それ」には、「朝の時間」「疾駆」「埃」といった解釈がある(アル＝バイダーウィー5:520参照)。

6 あるいは「(敵の)只中に、集団で入り込む」という意味(イブン・カスィール8:466参照)。

7 この「かれ」が誰かについては、「人間」「アッラー*」という説がある(アル＝クルトゥビー20:162参照)。

8. また、本当に彼（人間）は、善きもの[1]への愛情において、ことさら激《はげ》しい者である。

وَإِنَّهُۥ لِحُبِّ ٱلۡخَيۡرِ لَشَدِيدٌ ٨

9. 一体、彼は（何が自分を待ち受けているか、）知らないのか？ 墓《はか》の中にあるもの（死んだ人々）が、ひっくり返され（て、清算と報《むく》いのために 蘇《よみがえ》 らされ）、

۞ أَفَلَا يَعۡلَمُ إِذَا بُعۡثِرَ مَا فِي ٱلۡقُبُورِ ٩

10. 胸《むね》の内にある（善悪の）ことが明らかにされる時、

وَحُصِّلَ مَا فِي ٱلصُّدُورِ ١٠

11. 本当に彼らの主《しゅ》*は（復活の）その日、彼ら（の行い）をまさしく通暁《つうぎょう》されるお方であられる。[2]

إِنَّ رَبَّهُم بِهِمۡ يَوۡمَئِذٖ لَّخَبِيرُۢ ١١

---

1 この「善きもの」は、財産のこと（ムヤッサル 600 頁参照）。

2 アッラー*は復活の日*以外でも、全てを通暁されるお方である。ここで「その日」と限定されているのは、報いの日*に対する警告の意味（イブン・ジュザイ 2:602 参照）。

第 101 章
衝撃章（アル＝カーリア）[1]

سُورَةُ القَارِعَةِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 衝撃[2]、
2. 衝撃とは何か？
3. 衝撃とは何かを、何があなたに知らせるか？
4. （衝撃とは、）人々が、散り散りになった蛾のようになり、[3]
5. また山々が、梳かれた羊毛のようになる日。[4]
6. 自分の（善行の）秤が（悪行の秤より）重かった者はといえば、[5]
7. 彼は（天国で）満足な生活の中にある。
8. また、自分の（善行の）秤が（悪行の秤より）軽かった者はといえば、
9. その落ち着く先は、墜落。[6]
10. それが何かを、何があなたに知らせるか？
11. （それは）酷熱の業火である。

ٱلْقَارِعَةُ ﴿١﴾
مَا ٱلْقَارِعَةُ ﴿٢﴾
وَمَآ أَدْرَىٰكَ مَا ٱلْقَارِعَةُ ﴿٣﴾
يَوْمَ يَكُونُ ٱلنَّاسُ كَٱلْفَرَاشِ ٱلْمَبْثُوثِ ﴿٤﴾
وَتَكُونُ ٱلْجِبَالُ كَٱلْعِهْنِ ٱلْمَنفُوشِ ﴿٥﴾
فَأَمَّا مَن ثَقُلَتْ مَوَٰزِينُهُۥ ﴿٦﴾
فَهُوَ فِى عِيشَةٍ رَّاضِيَةٍ ﴿٧﴾
وَأَمَّا مَنْ خَفَّتْ مَوَٰزِينُهُۥ ﴿٨﴾
فَأُمُّهُۥ هَاوِيَةٌ ﴿٩﴾
وَمَآ أَدْرَىٰكَ مَا هِيَهْ ﴿١٠﴾
نَارٌ حَامِيَةٌۢ ﴿١١﴾

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。復活の日*が、その日の恐るべき様子、そこで起きる清算と報い、善行者と悪行者の対照的な行き先の描写と共に、確証される。

2 この「衝撃」とは、その恐怖と戦慄(せんりつ）によって創造物に衝撃を与える、復活の日*のこと（アル＝クルトゥビー20:164 参照)。

3 その数の多さ、哀（あわ）れさと、散らばり、混乱した様子が蛾に譬（たと）えられている（アル＝バイダーウィー5:522 参照)。

4 復活の日*の山々の変化については、洞窟章 47 の訳注を参照。

5 復活の日*の秤については、高壁章 8 の訳注も参照。

6 「落ち着く先（ウンム)」には、「頭」という解釈もある。その場合、「頭から業火へと墜落する」という意味となる。また、「墜落」とは、底知れず墜落する場所である、地獄の別称（アル＝バガウィー5:297 参照)。

第 102 章
増やし合い章（アッ＝タカースル）[1]

سورة التكاثر

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

1. 増やし合い[2]が、あなた方を（アッラー*への服従[3]から）そっちのけにさせる、

أَلْهَاكُمُ التَّكَاثُرُ ١

2. あなた方が（死んで）墓場を訪れるまで。

حَتَّىٰ زُرْتُمُ الْمَقَابِرَ ٢

3. 断じて（、そのようであるべきでは）ない！ あなた方はやがて、（事の結末を）知るだろう。

كَلَّا سَوْفَ تَعْلَمُونَ ٣

4. 更に、断じて（、そのようであるべきでは）ない！ あなた方はやがて、（事の結末を）知るだろう。[4]

ثُمَّ كَلَّا سَوْفَ تَعْلَمُونَ ٤

5. 断じて（、そのようであるべきでは）ない！ もし、あなた方が確固たる知識[5]で知るならば（、あなた方はそのようなことから身を慎み、自らを破滅から救うことへと急いだであろう）。

كَلَّا لَوْ تَعْلَمُونَ عِلْمَ الْيَقِينِ ٥

---

1 マッカ*啓示。スーラ*の名称は、冒頭に出現する語が由来。復活の日*と、その日の報（むく）いの確証と共に、来世で自分自身を救ってくれる物事をおろそかにし、現世の諸事にかまけることへの厳（きび）しい警告がなされる。

2 財産、子供、仲間、軍勢、部下、地位など、アッラー*のためではなく、他人に対する数量的な優勢を意図した全ての物事における「増やし合い」のこと（アッ＝サァディー933 頁参照）。

3 あるいは、「来世を求めること」（イブン・カスィール 8:472 参照）。

4 一説に、このアーヤ*はアーヤ*3 の内容の強調。その他、アーヤ*3 とアーヤ*4 の「知る」が、それぞれ「墓の中でのものと来世でのもの」「死が訪れた時と復活の時」「死が訪れた時と墓に入った時」「不信仰者*のものと信仰者のもの」である、という解釈もある（アル＝クルトゥビー20:172-173 参照）。

5 この「確固たる知識」とは、「死後、アッラー*が人を蘇（よみがえ）らせるということ」（アッ＝タバリー10:8754-8755 頁参照）。

6. あなた方は必ずや、火獄を見よう。

لَتَرَوُنَّ ٱلۡجَحِيمَ ٦

7. 更に、あなた方は必ずや、揺るぎない目でそれを見よう。[1]

ثُمَّ لَتَرَوُنَّهَا عَيۡنَ ٱلۡيَقِينِ ٧

8. それから、あなた方は（復活の）その日、必ずや安寧について尋ねられよう。[2]

ثُمَّ لَتُسۡـَٔلُنَّ يَوۡمَئِذٍ عَنِ ٱلنَّعِيمِ ٨

---

1 一説に、このアーヤ*はアーヤ*6の内容に対する強調。その他、アーヤ*6とアーヤ*7の「見る」は、それぞれ「地獄が彼らを遠い場所から認めること（識別章 12 参照）と、彼らが地獄へとやって来た時、それを目にすること（マルヤム*章 71 とその訳注を参照）」「知識によるものと、目視によるもの」とする解釈もある（アル＝バイダーウィー5:524 参照）。

2 「安寧」とは、人が現世で味わう、あらゆる恩恵のこと（アッ＝タバリー10:8759 参照）。人はその日、現世で味わった恩恵に対して感謝をし、そこにおいてアッラー*に対する義務を果たしていたか、それを罪に利用することはなかったか尋ねられ（この「質問」については、高壁章 8 の訳注も参照）、その内容いかんにより、更なる恩恵を頂くか、あるいは懲罰を受けるかすることになる（アッ＝サァディー933 頁参照）。そして、アッラー*以外のものを崇（あが）める者は、かれの恩恵に対して感謝していることにはならない（アル＝バガウィー5:299 参照）。

第103章
時間章（アル＝アスル）[1]

سُورَةُ العَصۡرِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 時間にかけて（誓う）。[2]
2. 本当に人間は、まさしく損失の中にある。
3. 信仰し、正しい行い*を行い、真理（の固守とアッラー*への服従）を勧め合い、忍耐*を勧め合う者たち以外は。

وَٱلۡعَصۡرِ ١
إِنَّ ٱلۡإِنسَٰنَ لَفِي خُسۡرٍ ٢
إِلَّا ٱلَّذِينَ ءَامَنُواْ وَعَمِلُواْ ٱلصَّٰلِحَٰتِ
وَتَوَاصَوۡاْ بِٱلۡحَقِّ وَتَوَاصَوۡاْ بِٱلصَّبۡرِ ٣

1 マッカ*啓示。スーラ*名は冒頭で登場する語に由来。信仰、正しい行い*、互いに真理と忍耐を勧め合うことを実現しない限り、人間は損失と欠如の中にあることが確証される。

2 アッラー*による、この誓いについては、整列者章 1 の訳注を参照。

第 104 章
中傷者章（アル＝フマザ）[1]

سُورَةُ الهُمَزَةِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. 全ての中傷者、誹謗者[2]に、災いあれ。

وَيْلٌ لِّكُلِّ هُمَزَةٍ لُّمَزَةٍ ١

2. 財産を集め、それを数える（ことに現を抜かす）者に。

ٱلَّذِى جَمَعَ مَالًا وَعَدَّدَهُۥ ٢

3. 彼は自分の財産が、自分を（現世で）永遠に生かしてくれると思っている。

يَحْسَبُ أَنَّ مَالَهُۥٓ أَخْلَدَهُۥ ٣

4. 断じて（、彼の主張は正しく）ない！　彼は必ずや、粉砕するもの[3]の中に投げ込まれよう。

كَلَّا ۖ لَيُنۢبَذَنَّ فِى ٱلْحُطَمَةِ ٤

5. （使徒*よ、）粉砕するものが何かを、何があなたに知らせるのか？

وَمَآ أَدْرَىٰكَ مَا ٱلْحُطَمَةُ ٥

6. （それは、）点火され（激しく燃え上がっ）た業火。

نَارُ ٱللَّهِ ٱلْمُوقَدَةُ ٦

7. （身体を突き抜け、）心臓にまで達するもの。[4]

ٱلَّتِى تَطَّلِعُ عَلَى ٱلْأَفْـِٔدَةِ ٧

---

1 マッカ*啓示。スーラ*名は冒頭のアーヤ*に登場する語に由来。シルク*の徒が、ムスリム*たちをイスラーム*から遠ざけ、シルク*へと回帰（かいき）させようとして行っていた害の一例が取り上げられ、正しい信仰も善行もせず現世に溺（おぼ）れている彼らに対する、来世での厳しい懲罰が警告される。

2 この「中傷者」「誹謗者」の解釈には、前者と後者がそれぞれ、「悪い噂を吹いて回る者（筆章 11 の訳注を参照）、人の欠点をあげつらう者」「面と向かって中傷する者、陰口（部屋章 12 の訳注を参照）を言う者」「その逆」「言葉で中傷する者、目配（くば）せで中傷する者」など、非常に多くの説がある（アル＝クルトゥビー20:181-182 参照）。

3 「粉砕するもの」とは、そこに入れられたもの全てを粉砕する、地獄の業火の別称（前掲書 20:184 参照）。

4 このアーヤ*の解釈には、「炎は全身を覆（おお）い尽くすが、誤った信仰は心に宿（やど）るものであることから、心臓が特に言及されている」「心臓にまで痛みが達すれば人は死ぬものだが、そこでは死ぬこともできない（創成者*章 36、至高者*者 13 も参照）」「心の内を見通し、彼らの各々がどれだけ懲罰に値するかを知っている」といった諸説がある（アッ＝シャウカーニー5:665 参照）。

8. 本当にそれは、彼らを密閉（みっぺい）している、
9. 長く伸びた列柱（れっちゅう）[1]の中で。

إِنَّهَا عَلَيۡهِم مُّؤۡصَدَةٞ ۝٨
فِي عَمَدٖ مُّمَدَّدَةِۭ ۝٩

1 この「列柱」の解釈には、「それによって罰される柱」「首につけられる枷（ヤー・スィーン章 8 も参照）」「足につけられる枷」「地獄の民を密閉する杭（くい）」「体を縛（しば）る長い鎖や枷（真実章 30-32 も参照）」「終わりのない長い時間」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー20:186 参照）。

第 105 章
象章（アル＝フィール）[1]

سُورَةُ الفِيلِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. （使徒*よ、）一体あなたは、あなたの主*が、象の仲間たちにどのようになさったのか、知らなかったのか？[2]

أَلَمۡ تَرَ كَيۡفَ فَعَلَ رَبُّكَ بِأَصۡحَٰبِ ٱلۡفِيلِ ١

2. かれは彼らの策略[3]を、無に帰させられたのではなかったか？

أَلَمۡ يَجۡعَلۡ كَيۡدَهُمۡ فِي تَضۡلِيلٖ ٢

3. そして、かれは彼らに、大群をなす鳥たちを遣わされたのだ。[4]

وَأَرۡسَلَ عَلَيۡهِمۡ طَيۡرًا أَبَابِيلَ ٣

---

1 マッカ*啓示。預言者*ムハンマド*が誕生した年であるとされる「象の年」の出来事を簡潔（かんけつ）に描写しており、それがスーラ*の名称ともなっている。タウヒード*の徒であったイブラーヒーム*と、その息子でありアラブ人の祖でもあるイスマーイール*が建設し、アッラー*が神聖なるものとされたカァバ神殿*とマッカ*を汚そうとする者に対する、アッラー*のお怒りと懲罰（ちょうばつ）の警告、それをお守りになるのは当時そこで崇（あが）められていた偶像などではなく、アッラー*ご自身であることが強調される。そこには、カァバ神殿*の諸事を司（つかさど）っていた当時のクライシュ族*の不信仰者*に対する警告と、預言者*ムハンマド*とその宗教に対するアッラー*のご加護（かご）、そしてイスラーム*とその預言者*に対する敵の策略が無に帰すことの約束が、暗に示されている。

2 キリスト教であったエチオピア王国のイエメン総督（そうとく）アブラハは、サヌアに大きな教会を建て、それがカァバ神殿*に代わる巡礼*の場となること（雌牛章 125、悔悟章 28 の訳注も参照）を望んだ。しかしアラブ人たちがそれを受け入れないのを見ると、カァバ神殿*を破壊（はかい）すべく、象を従えた強大な軍隊と共にマッカ*へと進軍した（イブン・カスィール 8:483-484 参照）。

3 彼らは、クライシュ族*に対しては殺害や捕囚（ほしゅう）、カァバ神殿*に対しては破壊という「策略」を立てていた（アル＝クルトゥビー20:195 参照）。クライシュ族*は彼らに対して軍事的に太刀（たち）打ち出来なかったので、周辺の山中に避難（ひなん）したが、いよいよアブラハ軍のマッカ*入城というところでアブラハの象が進軍を拒（こば）み、彼らはイエメンへの撤退（てったい）を余儀（よぎ）なくされた（イブン・カスィール 8:485 参照）。

4 これはアブラハ軍が、イエメンへ撤退する途中のこと。それらの鳥はくちばしと両足から三つの石を投下したが、その石が命中した者は即死するか、あるいは体が少しずつ崩（くず）れ落ちて行き、死に至った。尚、「大群をなす（アバービール）」という語には、ほかにも「次々と連（つら）なってやって来る」「四方から分散してやって来る」といった解釈がある（前掲書 8: 485-487 参照）。

4. 彼らに、泥土(どろつち)からなる石を落下させる（鳥たちを）。

تَرۡمِيهِم بِحِجَارَةٖ مِّن سِجِّيلٖ ٤

5. それでかれは、彼らを食い散(ち)らかされた枯(か)れ葉のようになさったのだ。

فَجَعَلَهُمۡ كَعَصۡفٖ مَّأۡكُولِۭ ٥

第 106 章
クライシュ族*章[1]

سُورَةُ قُرَيۡشٍ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. クライシュ族*の慣例に（、感嘆せよ）。[2]

لِإِيلَٰفِ قُرَيۡشٍ ١

2. 冬と夏の旅における彼らの慣例に（、感嘆せよ）。[3]

إِۦلَٰفِهِمۡ رِحۡلَةَ ٱلشِّتَآءِ وَٱلصَّيۡفِ ٢

3. ならば彼らに、この館（カァバ神殿*）の主*を崇拝*させるのだ。

فَلۡيَعۡبُدُواْ رَبَّ هَٰذَا ٱلۡبَيۡتِ ٣

4. 空腹ゆえに食べ物を彼らにお授けになり、彼らを恐怖から安らげて下さった[4]お方を。

ٱلَّذِيٓ أَطۡعَمَهُم مِّن جُوعٖ وَءَامَنَهُم مِّنۡ خَوۡفِۭ ٤

---

1 マッカ*啓示。スーラ*名は冒頭に出現する、クルアーン*の中ではこのスーラ*のみに登場するクライシュ族*という語に由来。マッカ*の住民であり、カァバ神殿*の世話人でもあったクライシュ族*の不信仰者*に対し、アッラー*が彼らに特別の恩恵をお授けになったことへの感謝と共に、アッラーの唯一性*を認め、かれのみを崇拝*することが命じられる。

2 その他、「このアーヤ*はこの前のスーラ*と関連しており、『クライシュ族*の慣例ゆえに（、アッラー*は象の仲間を壊滅させられた）』という意味」「これはアーヤ*3 と関連しており、『クライシュ族*の慣例ゆえに（･･･主*を崇拝*させるのだ）』という意味」といった解釈がある（アル＝クルトゥビー20:201 参照）。

3 「冬の旅」とはイエメン地方、「夏の旅」とはシャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）へのもの（ムヤッサル 602 頁参照）。マッカ*は作物も実らない土地（イブラーヒーム*章 37 も参照）で、その周囲ではアラブ人たちが常に戦争し合っていた（蜘蛛章 67 とその訳注を参照）が、アッラー*は、クライシュ族*が定期的に交易（こうえき）の旅をし、必要な物資を手に入れることを容易（たやす）くして下さった。（マッカ*の外で）何か問題が降りかかった時には、「私たちはアッラー*の聖域の住民である」と言えば、人々から害を及ぼされることもなかったのだという（アル＝クルトゥビー20:204-209 参照）。

4 アーヤ*2 の訳注、雌牛章 125 の訳注、蟻章 91「聖なる地」の訳注も参照。

第 107 章
手助け章（アル=マーウーン）[1]

سُورَةُ المَاعُونِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. 言ってみよ、（復活と）報いを嘘とする者（について）。
2. それは孤児を（その権利から）押しやり、
3. 貧者*たちに食べ物を施すことを勧めない者。
4. 災いあれ、礼拝者たち（ではあっても）、
5. 自分たちの礼拝を、おろそかにする者[2]たち。
6. 見せびらかしで（善行を）行い、
7. 手助け[3]を妨げる者たちに。

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

أَرَءَيۡتَ ٱلَّذِي يُكَذِّبُ بِٱلدِّينِ ١

فَذَٰلِكَ ٱلَّذِي يَدُعُّ ٱلۡيَتِيمَ ٢

وَلَا يَحُضُّ عَلَىٰ طَعَامِ ٱلۡمِسۡكِينِ ٣

فَوَيۡلٞ لِّلۡمُصَلِّينَ ٤

ٱلَّذِينَ هُمۡ عَن صَلَاتِهِمۡ سَاهُونَ ٥

ٱلَّذِينَ هُمۡ يُرَآءُونَ ٦

وَيَمۡنَعُونَ ٱلۡمَاعُونَ ٧

---

1 マッカ*啓示（マディーナ*啓示説もあり）。スーラ*名は、クルアーン*の中でこのスーラ*のみに登場する同語（アーヤ*7 とその訳注を参照）に由来。復活と報いを信じないことが悪の元凶の一つであることを強調しつつ、アッラー*の崇拝*においても、その創造物に対しても善を尽くさないことで、自分自身に災いを招く者の姿が警告と共に描かれている。

2 （義務の）礼拝時間の遵守（じゅんしゅ）、礼拝の基本的行為や条件を満たすこと、礼拝における恭順さ（雌牛章 45 の訳注も参照）や、その意味の熟慮（じゅくりょ）などを「おろそかにする者」のこと（イブン・カスィール 8:493 参照）。

3 この「手助け（マーウーン）」という語の具体的な解釈には、「浄財*」「財産」「斧（おの）、鍋（なべ）、火など、家で利用する物」「全ての有益な物」「貸し物」「あらゆる善事」「水と草」「水」「権利」「水と火と塩」などといった諸説がある（アル＝クルトゥビー20:213-215 参照）。

第 108 章 潤沢章（アル=カウサル）[1]

سُورَةُ الكَوثَر

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. （預言者*よ、）本当にわれら*は、あなたに潤沢[2]を授けた。

إِنَّآ أَعۡطَيۡنَٰكَ ٱلۡكَوۡثَرَ ١

2. ならば、あなたの主*にのみ礼拝し、（かれの御名においてのみ）屠れ。[3]

فَصَلِّ لِرَبِّكَ وَٱنۡحَرۡ ٢

3. 実にあなた（と、あなたの携えて来た導き）を憎む者こそは、断ち切られた者[4]なのである。

إِنَّ شَانِئَكَ هُوَ ٱلۡأَبۡتَرُ ٣

---

1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。スーラ*名は、クルアーン*の中でこのスーラ*のみに登場する同語に由来。預言者*ムハンマド*が、現世と来世において多くの善きものを授かるということの吉報と慰安（いあん）、それに対するアッラー*への感謝の命令、預言者*とその教えに敵対する者への警告が述べられている。

2 「潤沢（カウサル）」とは、そもそも「沢山の善きもの」という意味。そしてその一つが、復活の日*に預言者*に与えられる同名の川「カウサル」と、水飲み場である。その川の長さと幅は一ヶ月の旅程、水は乳より白く、蜜より甘く、水を飲むための杯はその数の多さと輝きゆえに星空のようで、それを一口飲めば永遠に喉（のど）が渇（かわ）くことはない、とされる（アッ＝サァディー935 頁参照）。

3 これは、アッラー*以外のものにサジダ*し、アッラー*以外の名において家畜を屠っていたシルク*の徒と、正反対のこと。家畜章 121、162-163 も参照（イブン・カスィール 8:503 参照）。また、これは特に「イード*・アル＝アドハー（犠牲祭）の日、礼拝をしてから犠牲を屠ること」を示しているのだ、とも言われる（アル＝クルトゥビー20:218-219 参照）。尚、ここで「屠れ」という訳をあてたアラビア語は「ナフル」で、主にラクダに対して行われる「首の付け根を刃物で突き刺す」屠殺法。ただし、このアーヤ*の意味には、それ以外の屠殺法による屠殺も含まれる（アッ＝シャンキーティー9：130 参照）。

4 「断ち切られた者（アブタル）」とは語源的に、男児がいない者、尻尾（しっぽ）のない家畜のことで、それが転じて、「その後に善きものが残らないような全てのこと」を指す言葉（アル＝クルトゥビー20:223 参照）。マッカ*の不信仰者*らは、預言者*に「死んでしまえば、その後に語り継がれることもない者」「男児が夭折（ようせつ）したため、跡継（あとつ）ぎのない者」などと悪口を言ったものだった（イブン・カスィール 8:504-505 参照）。しかし実際のところ、そうなるのは彼ら預言者*の敵なのであり、預言者*はといえば、その子孫も名声も徳も復活の日*まで続くのである（アル＝バイダーウィー5:537 参照）。

第 109 章
不信仰者*たち章（アル=カーフィルーン）[1]

سُورَةُ الكَافِرُونَ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. （使徒*よ、アッラー*とその使徒*を否定する者たちに、）言ってやれ。「不信仰者*たちよ、
2. 私は、あなた方の崇拝*するもの[2]を崇拝*せず、
3. あなた方は、私の崇拝*するもの（アッラー*）の崇拝*者ではない。
4. また、私はあなた方が崇拝*したものの崇拝*者ではなく、
5. あなた方は、私の崇拝*するものの崇拝*者ではない。[3]
6. あなた方にはあなた方の宗教[4]があり、私には我が宗教がある」。

قُلْ يَٰٓأَيُّهَا ٱلْكَٰفِرُونَ ١
لَآ أَعْبُدُ مَا تَعْبُدُونَ ٢
وَلَآ أَنتُمْ عَٰبِدُونَ مَآ أَعْبُدُ ٣
وَلَآ أَنَا۠ عَابِدٌ مَّا عَبَدتُّمْ ٤
وَلَآ أَنتُمْ عَٰبِدُونَ مَآ أَعْبُدُ ٥
لَكُمْ دِينُكُمْ وَلِىَ دِينِ ٦

---

1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。タウヒード*の強調と、シルク*との決別を謳（うた）うスーラ*で、スーラ*名は冒頭での呼びかけの言葉に由来。一説に、マッカ*の不信仰者*たちが預言者*ムハンマド*に対し、「隔年（かくねん）でお互いの崇拝対象を崇拝*しよう」という妥協（だきょう）策を提示したことに関し、下ったスーラ*とも言われる。クルアーン*の中でも特に重要とされ、預言者*によって頻繁（ひんぱん）に読誦（どくしょう）されたスーラ*の一つ。

2 つまり偶像や、偽（にせ）の神々のこと（ムヤッサル 603 頁参照）。

3 アーヤ*2-3 とアーヤ*4-5 の関係については、「前者は崇拝*の対象、後者は崇拝*の仕方において、不信仰者*たちとの決別を表明するもの。つまりアーヤ*4-5 は、『私はあなた方の崇拝*の仕方で崇拝*せず、アッラーがお喜びになる仕方で崇拝*するが、あなた方はアッラー*の崇拝*において、アッラー*のご命令と決まりを守らず、自分たちで勝手に崇拝*の仕方をでっち上げている』という意味」「前者は現在、後者は未来のこと」「後者は前者の意味の強調」「前者が彼らの行為の否定、後者が行為とそれを受け入れることの否定」（イブン・カスィール 8:507-508 参照）「前者は未来、後者は現在、あるいは過去のこと」（アル＝バイダーウィー5:537-538 参照）といった諸説がある。

4 「宗教」ではなく、「報い」という解釈もある（アル＝クルトゥビー20:229 参照）。

第 110 章
援助章（アン=ナスル）[1]

سُورَةُ النَّصْرِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. （使徒*よ、）アッラー*の援助と勝利が到来し、[2]

إِذَا جَآءَ نَصْرُ ٱللَّهِ وَٱلْفَتْحُ ﴿١﴾

2. 人々が、次々と集団でアッラー*の宗教（イスラーム*）に入るのを見たならば、

وَرَأَيْتَ ٱلنَّاسَ يَدْخُلُونَ فِى دِينِ ٱللَّهِ أَفْوَاجًا ﴿٢﴾

3. あなたの主*の称賛*と共に（かれを）称え*、かれにお赦しを乞え。本当にかれはもとより、よく悔悟をお受け入れになる*お方なのだから。

فَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ وَٱسْتَغْفِرْهُ ۚ إِنَّهُۥ كَانَ تَوَّابًۢا ﴿٣﴾

---

1 マディーナ*啓示でも後期に下ったもの。スーラ*名にもなっているように、アッラー*からの援助と勝利、宗教の完結、大勢の人々がイスラーム*を受け入れることの吉報と共に、預言者*ムハンマド*のこの世との別れが近づいたことが暗に示される。そして偉業（いぎょう）が完遂した締めくくりとして、アッラー*に対する更なる感謝と崇拝*、罪のお赦しを乞うことが、命じられている。

2 この「勝利」とは、マッカ開城*のこととされる。アラビア半島のアラブ諸部族は、預言者*ムハンマド*が自分の民に勝利し、マッカ*を開城することを預言者*性の印の一つとしていた。それでマッカ開城*の後、彼らは次々とイスラーム*を受け入れることとなり、アラビア半島全体にイスラーム*が行き渡るまで二年も要しなかったのである（イブン・カスィール 8:513 参照）。また、「勝利」が「諸国の開城」「一般的な意味での勝利」である、といった解釈もある（アル＝クルトゥビー20:230 参照）

第 111 章
縒り合わされたもの章（アル=マサド）[1]

سُورَةُ المَسَدِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. アブー・ラハブ*の両手[2]は破滅せよ。そして彼は、（確かに）破滅したのだ。[3]

تَبَّتۡ يَدَآ أَبِي لَهَبٖ وَتَبَّ ١

2. 彼の財産も、彼が得たもの[4]も、（アッラー*の懲罰が下された時、）彼の役には立たなかった。

مَآ أَغۡنَىٰ عَنۡهُ مَالُهُۥ وَمَا كَسَبَ ٢

3. 彼は、（激しく燃え上がる）炎を有する業火に入って炙られることになろう。

سَيَصۡلَىٰ نَارٗا ذَاتَ لَهَبٖ ٣

4. そしてその妻、つまり薪の運搬人[5]も（そこに入って炙られよう）。[6]

وَٱمۡرَأَتُهُۥ حَمَّالَةَ ٱلۡحَطَبِ ٤

---

1 マッカ*啓示。スーラ*名は、このスーラ*にしか登場しない同語（アーヤ*5）に由来。預言者*ムハンマド*を否定し、敵対し、危害を加えようとする男女に対する懲罰の警告がなされる。

2 アラビア語特有の表現で、体の一部「両手」によって体全身を表している。あるいは、「彼の財産、所有物」（アル＝バガウィー5:327 参照）。その他「預言者*に向けて石を投げていたために、両手が特に言及されている」「彼の現世と来世」といった解釈もある（アル＝バイダーウィー5:544 参照）。

3 「一番近い親族に警告せよ」というアーヤ*（詩人たち章 214）が下った後、預言者*ムハンマド*はサファーの丘に登り、アッラー*からの命令通り、クライシュ族*を集めて「本当に私は厳しい懲罰に先立つ、あなた方への警告者である」（サバア章 46 も参照）と呼びかけた。それに対し、アブー・ラハブ*が「お前に破滅あれ。こんなことのために私たちを集めたのか？」と言ったことに対し、このスーラ*が下ったとされる（アル＝ブハーリー4971 参照）。

4 「彼が得たもの」とは、子供のこととされる。一説に彼は、来世における不信仰の応報を聞かされた時、「もしそれが本当なら、（その日、）私は自分の財産と子供を代償（だいしょう）として、それを免じてもらおう」などと言った（イブン・カスィール 8:515 参照）。

5 アブー・ラハブ*の妻は、ウンム・ジャミール。「薪の運搬人」の解釈には、「棘（とげ）を運んできては、預言者*の通り道に撒（ま）いていたこと」「預言者*について、悪い噂を吹いて回っていた（筆章 11 の訳注も参照）ことのたとえ」「預言者*の貧しさを蔑（さげす）む一方、自分は裕福なのに、けちだったことのたとえ」「罪を負うことのたとえ」といった諸説がある（アル＝クルトゥビー20:239-240 参照）。

6 実際、彼ら夫婦はイスラーム*を受容することなく、この世を去った（アッ＝サァディー936 頁参照）。

5. 彼女の首には、縒(よ)り合わされたものの紐(ひも)が（かけられて）ある。[1]

فِي جِيدِهَا حَبْلٌ مِّن مَّسَدٍۭ ﴿٥﴾

1 「縒り合わされたもの（マサド）」の具体的な意味については、様々な説がある。だが、その語義的意味は「ラクダの革であれ、ヤシの木の繊維・葉であれ、鉄であれ、きつく縒り合わされたもののこと」（アル＝ワーヒディー24:417 参照）。ここから解釈学者らは、彼女が「現世では、『縒り合わされた紐』で首にかけた背負い袋に棘（とげ）を集めていた（アーヤ*4 の訳注も参照）が、来世では首に『火の鎖（鉄で縒り合わされたもの）』をかけつつ、地獄の業火にくべる薪の袋を背負う」という解釈を導き出している（アッ＝ラーズィー11:355 参照）。

第 112 章
純正章（アル=イフラース）[1]

سُورَةُ الإِخْلَاص

慈悲(じひ)あまねく*慈愛(じあい)深き*
アッラー*の御名(みな)において

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. （使徒(しと)*よ、）言え。「かれはアッラー*、唯一なる*お方、

قُلۡ هُوَ ٱللَّهُ أَحَدٌ ١

2. アッラー*は、威光(いこう)高き*お方、

ٱللَّهُ ٱلصَّمَدُ ٢

3. お産みすることもなければ[2]、お産まれにもならなかった[3]のであり、[4]

لَمۡ يَلِدۡ وَلَمۡ يُولَدۡ ٣

4. 誰一人、かれに匹敵(ひってき)するものもなかった」。

وَلَمۡ يَكُن لَّهُۥ كُفُوًا أَحَدُۢ ٤

---

1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。アッラーの唯一性*を肯定すると共に、シルク*を否定する。アッラー*の属性のみを純粋に取り上げ、アッラーの唯一性*に対する信仰を純正なものとすることの必要性を説くことから、このスーラ*名で知られる。イスラーム*の根本教義が簡潔にまとめられていることから、「クルアーン*の三分の一に相当する（アル＝ブハーリー5013 参照）」とされ、礼拝中かどうかに関わらず、折に触れてよく読まれるスーラ*の一つ。

2 アッラー*に子供がないのは、以下のことからも明白である:①子供は親と同種だが、アッラー*に同種のものはない（食卓章 75、相談章 11 とそれらの訳注なども参照）。②親は子供を必要とするゆえに子供があるが、アッラー*は何ものをも必要とされない（ユーヌス*章 68 も参照）。③全創造物はアッラー*のしもべ（マルヤム*章 93 も参照）なのであり、その事実は親子関係を否定する。④そもそもアッラー*に配偶者はない（家畜章 101 も参照）（イブン・ジュザイ 2:626 参照）。

3 全ての産まれるものは「発生させられた存在」だが、アッラー*は誰にもその永遠の存在を発生させられることなく、その存在において誰にも先行されることのなかった「最初のお方（鉄章 3 とその訳注も参照）」なのである（前掲書、同頁参照）。

4 これらの動詞は全て、過去における否定形で表現されており、未来形は言及されていない。その理由は、このアーヤ*がそもそも、当時のシルク*の徒の「アッラー*は子供をお生みになった（整列者章 152 参照）」という言葉への反論として下ったためである、とされる（アッ＝シャウカーニー5:698-699 参照）。

第 113 章
黎明章（アル＝ファラク）[1]

سُورَةُ الفَلَقِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

1. （使徒*よ、）言え。「私は黎明[2]の主*に、ご加護を乞う。
2. かれが創造された物の悪から。
3. また、深まった闇（夜）の悪から。
4. また、繋ぎ目に息を吹き込む女たちの悪から。[3]
5. また、嫉妬[4]した妬み屋の悪から」。

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَـٰنِ ٱلرَّحِيمِ

قُلْ أَعُوذُ بِرَبِّ ٱلْفَلَقِ ١

مِن شَرِّ مَا خَلَقَ ٢

وَمِن شَرِّ غَاسِقٍ إِذَا وَقَبَ ٣

وَمِن شَرِّ ٱلنَّفَّـٰثَـٰتِ فِى ٱلْعُقَدِ ٤

وَمِن شَرِّ حَاسِدٍ إِذَا حَسَدَ ٥

---

1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。スーラ*名は、冒頭に登場する語に由来。悪がはびこりやすい時期や状況を示しつつ、悪しき創造物の悪から身を守るための祈願の言葉が教示される。預言者*ムハンマド*は折に触れて、このスーラ*を「人々章」と共に読み（この二つのスーラ*は、まとめて「アル＝ムアウウィザターン（ご加護を求める二つのスーラ*）」と呼ばれる）、災難からの予防と魔よけとしたものであり、それは以後のムスリム*たちの慣習となった。

2 「黎明（ファラク）」は、「裂く」という語から派生したものとされる。そこから、「（夜の闇から裂き出される）黎明（家畜章 96 も参照）」だけでなく、動物、種子、水など、裂かれて出現する全てのものを指す、といった説もある（アル＝クルトゥビー20:255 参照）。

3 これは魔術師の女たちのこと。魔術を行う際には、紐（ひも）のつなぎ目に息を吹き込んでいたとされる。また、魔術師として特に女性が言及されていることに関しては、「そもそも魔術師が女性なのではなく、『心』という省略された女性名詞にかかっているため」「預言者*ムハンマド*に魔術をかけたユダヤ教徒*ラビード・ブン・アル＝アァサムの娘たちのことを、特に指しているため」（アッ＝シャウカーニー5:704-705 参照）「アラブ人の魔術師の多くは、女性だったため」（イブン・アーシュール 30:628 参照）といった説がある。

4 「嫉妬（ハサド）」とは、恩恵を授かった誰かから、その恩恵が消え去ってしまうことを望むこと（ムヤッサル 604 頁参照）。筆章 51 訳注内の「アイン」についての説明も参照。

第 114 章
人々章（アン＝ナース）[1]

سُورَةُ النَّاسِ

慈悲あまねく*慈愛深き*
アッラー*の御名において

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

1. （使徒*よ、）言え。「私は人々の主*に、ご加護を乞う、

قُلْ أَعُوذُ بِرَبِّ ٱلنَّاسِ ١

2. 人々の王、

مَلِكِ ٱلنَّاسِ ٢

3. （真に崇拝*されるべき唯一の存在である、）人々の神[2]に、

إِلَٰهِ ٱلنَّاسِ ٣

4. 頻りに身を潜ませて囁きかける者[3]（シャイターン*）の悪から。

مِن شَرِّ ٱلْوَسْوَاسِ ٱلْخَنَّاسِ ٤

5. （それは、）人々の胸に（悪を）囁きかける、

ٱلَّذِى يُوَسْوِسُ فِى صُدُورِ ٱلنَّاسِ ٥

6. ジン*と人々である」。[4]

مِنَ ٱلْجِنَّةِ وَٱلنَّاسِ ٦

---

1 マッカ*啓示かマディーナ*啓示かで、学者間の大きな相違があるスーラ*の一つ。スーラ*名は、冒頭に登場する語に由来。全能かつ唯一のアッラー*に縋（すが）りつつ、人間の行いを損（そこ）ね、正しい道から逸（そ）らそうとする、人間とジン*からなるシャイターン*の悪から身を守るための祈願の言葉が教示される。いわゆる「アル＝ムアウウィザターン（黎明章の訳注 1 を参照）」の一つで、黎明章が主に身体的な害悪に対するご加護を祈るのに比べ、本スーラ*は主に心的な害悪に対するご加護を祈る。

2 「神」については、雌牛章 133 の訳注を参照。

3 シャイターン*は不注意な時には囁きかけてくるが、アッラー*が想起されると「身を潜めてしまう」（ムヤッサル 604 頁参照）。

4 家畜章 112 も参照。尚、人間のシャイターン*の「囁き」とは、同情的な忠告者を装（よそお）って、ジン*のシャイターン*が囁くようなことを、忠告の形で胸に訴（うった）えかけること（アッ＝シャウカーニー5:708 参照）。

参考文献目録[1]

- **アブー・アッ=スウード、**ムハンマド・ブン・ムハンマド・アル=イマーディー（Abu al-Su'ud Muhammad al-'Imadi）、『クルアーンの特色への健常な理性の誘い（*Irshad al-'Aql al-Salim ila Mazaya al-Quran al-Karim*）』、第二版、Dar Ihya at-Turath al-'Arabi 社、ベイルート、1995 年。
- **アブー・ダーウード、**スライマーン・ブン・アル=アシュアス・アッ=スィジスターニー（Abu Dawud Sulaiman al-Sijistani）、『アブー・ダーウードのスナン集（*Sunan Abi Dawud*）』、ムハンマド・ムフイイ・アッ=ディーン校訂、Dar al-Fikr 社、ベイルート。
- **アブー・ハイヤーン、**ムハンマド・ブン・ユースフ・ブン・アリー・アル=アンダルースィー（Abu Hayan Muhammad al-Andalusi）、『クルアーン解釈・大洋（*al-Bahar al-Muhit*）』、Dar al-Fikr 社、ベイルート。
- **アフマド、**アフマド・ブン・ムハンマド・ブン・ハンバル・アッ=シャイバーニー（Ahmad Muhammad Hanbal al-Shaibani）、『アフマドのムスナド集（*Musnad Ahmad*）』、シュアイブ・アル=アルナウート他による校訂、アブドッラー・ブン・アル=ムフスィン・アッ=トルキー監修、Muassasat al-Risalah 社、ベイルート、2001 年。
- **アル=アルースィー、**マフムード・ブン・アブドッラー・アル=フサイニー（Mahmud al-Alusi）、『偉大なるクルアーンと反復される七つのものの解釈における意味の魂（*Ruh al-Ma'ani fi Tafsir al-Quran al-'Azim wa al-Sab'i al-Mathani*）』、Dar Ihya al-Turath al-'Arabi 社、ベイルート。
- **アル=アルバーニー、**ムハンマド・ナースィル・アッ=ディーン（Muhammad Nasir al-Deen al-Albani）、『真正な伝承の連鎖（*Silsilat al-Ahadith al-Sahihah*）』、Maktabat al-Ma'aarif 社、リヤド、1995 年。
- **アリー・アル=フダイリー**（Ali al-Khudairi）、『三つの基礎の解釈における簡明（*al-Wajazat fi Sharah al-Usul al-Thalathah*）』
- **井筒俊彦**（Toshihiko Izutsu）、『コーラン（*Al-Quran*）』、岩波文庫、第六十三版、2010 年。
- **イブン・アーシュール、**ムハンマド・ブン・ムハンマド・ブン・アーシュール・アッ=トゥーニスィー（Ibn 'Ashur Muhammad al-Tunisi）、『クルアーン解釈における正しい意味の検証と新たな理性の啓発（*Tahrir al-Ma'na al-Sadid wa Tanwir al-'Aql al-Jadid min Tafsir al-Kitab al-Majid*）』、Dar al-Tunisiyah 社、1984 年。

1 ここではアラビア語における目録の一般的法則に従い、アラビア語の定冠詞「アル」を語の一部と見なさない。つまり「アル=バガウィー」は、「バ」から始まる語とする。

- **イブン・アティーヤ、**アブド・アル＝ハック・ブン・ガーリブ・ブン・アブド・アッ＝ラフマーン・ブン・アティーヤ（Ibn ʻAtiya）、『偉大なるクルアーンに関する抄録（*al-Muharrar al-Wajiz fi Tafsir al-Kitab al-Aziz*）』、アブド・アッ＝サラーム・アブド・アッ＝シャーフィー・ムハンマド校訂、第一版、Dar al-Kutub al-ʻIlmiyah 社、ベイルート、1993 年。
- **イブン・アビー・アル＝イッズ、**ムハンマド・ブン・アリー・ブン・ムハンマド・アッ＝ディマシュキー（Ibn Abi Al-ʻizz al-Dimashqi）、『アッ＝タハーウィーの信仰箇条解説（*Sharah al-ʻAqidat al-Tahawiyah*）』、サウジアラビア王国イスラーム諸事・財産寄進・布教・伝道省、ヒジュラ暦 1419 年。
- **イブン・アル＝アスィール、**アル＝ムバーラク・ブン・ムハンマド・ブン・ムハンマド・アル＝ジャザリー（Ibn al-Athir）、『伝承の難解語における極み（*al-Nihayat fi al-Gharib al-Hadith*）』、ハリール・マァムーン校訂、第二版、Dar al-Ma'rifah 社、レバノン、2006 年。
- **イブン・アビー・ハーティム、**アブド・アッ＝ラフマーン・ブン・ムハンマド・アッ＝ラーズィー（Ibn Abi Hatim al-Razi）、『偉大なるクルアーン（*Tafsir al-Quran al-Azim*）』、アスアド・ムハンマド・アッ＝タイイブ校訂、第一版、Dar Nizar Mustafa al-Baz 社、サウジアラビア、ヒジュラ暦 1417 年。
- **イブン・アル＝アラビー、**ムハンマド・ブン・アブドッラー・ブン・ムハンマド（Ibn al-ʻArabi）、『クルアーンの法規定（*Ahkam al-Quran*）』、第三版、Dar al-Kutub al-ʻIlmiyah 社、ベイルート、ヒジュラ暦 1424 年。
- **イブン・アル＝ジャウズィー、**アブド・アッ＝ラフマーン・ブン・アリー・ブン・ムハンマド（Ibn al-Jawzi）、『クルアーン解釈における旅路の蓄え（*Zad al-Masir fi ʻIlm al-Tafsir*）』、第三版、al-Maktab al-Islami 社、ベイルート、ヒジュラ暦 1404 年。
- **イブン・イスハーク、**ムハンマド・ブン・イスハーク・ヤサール（Muhammad Ibn Ishaq）、『預言者伝（*al-Sirat al-Nabawiyah*）』、アフマド・ファリード・アル＝マズィーディー校訂、第一版、Dar al-Kutub al-ʻIlmiyah 社、ベイルート、2004 年。
- **イブン・ウサイミーン、**ムハンマド・ブン・サーリフ・アル＝ウサイミーン（Muhammad Ibn Salih al-ʻUthaimin）、『価値ある集成』。
- **イブン・ウサイミーン、**ムハンマド・ブン・サーリフ・アル＝ウサイミーン（Muhammad Ibn Salih al-ʻUthaimin）『ファトワー・論説集（*Majmu'u al-Fatawa wa Rasail al-Shaikh Muhammad Ibn Salih al-ʻUthaimin*）』、ファハド・ブン・ナースィル・アッ＝スライマーン編、Dar al-Watan - Dar al-Thuraiyah 社、ヒジュラ暦 1413 年。

- **イブン・カスィール、**イスマーイール・ブン・ウマル・ブン・カスィール（Ibn Kathir）、『偉大なるクルアーン解釈（*Tafsir al-Quran al-‘Azim*）』、サーミー・ブン・ムハンマド・サラーマ校訂、第二版、Dar al-Taibah 社、1999 年。
- **イブン・ジュザイ、**ムハンマド・ブン・アフマド・ブン・ジュザイ・アル＝カルビー（Ibn Juzai al--Kalbi）、『啓示に関する学問の簡易化（*Tashil li Ulum al-Tanzil*）』、ムハンマド・サーリム・ハーシム校訂、第一版、Dar al-Kutub al-‘Ilmiyah 社、ベイルート、1995 年。
- **イブン・タイミーヤ、**アフマド・ブン・アブド・アル＝ハリーム・ブン・アブド・アッ＝サラーム（Ibn Taimiyah）、『ファトワー集（*Majmu'u al-Fatawa li Shaikh al-Islam Ibn Taimiyah*）』、アンワル・アル＝バーズ他による編集、第三版、Dar al-Wafa 社、2005 年。
- **イブン・タイミーヤ、**アフマド・ブン・アブド・アル＝ハリーム・ブン・アブド・アッ＝サラーム（Ibn Taimiyah）、『預言者的慣行の手法（*Minhaj al-Sunnat al-Nabawiyah*）』、ムハンマド・ラシャード・サーリム校訂、Muassasat al-Qurtubiyah 社、ヒジュラ暦 1406 年。
- **イブン・ハジャル、**アフマド・ブン・アリー・ブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー（Ibn Hajar al-‘Askalani）、『アル＝ブハーリーの真正集解説における創生者の勝利（*Fath al-Bari Sharah Sahih al-Bukhari*）』、Dar al-Ma'rifah 社、ベイルート、ヒジュラ暦 1379 年。
- **イブン・ハジャル、**アフマド・ブン・アリー・ブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー（Ibn Hajar al-‘Askalani）、『教友の判別に関する正答（*‘Isabat fi Tamyiz al-Sahabah*）』、アリー・ムハンマド・アル＝バジャーウィー校訂、第一版、Dar al-Jil 社、ベイルート、1992 年。
- **イブン・ハジャル、**アフマド・ブン・アリー・ブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー（Ibn Hajar al-‘Askalani）、『修訂の簡約（*Taqrib al-Tahzhib*）』、アーディル・ムルシド校訂、第一版、Muassasat al-Risalah 社、2002 年。
- **イブン・バッタール、**アリー・ブン・ハラフ・ブン・アブド・アル＝マリク（Ibn Battal）、『アル＝ブハーリーの真正集解説（*Sharah Sahih al-Bukhari*）』ヤースィル・ブン・イブラーヒーム校訂、第二版、Maktabah al-Rushud 社、リヤド、2003 年。
- **イブン・ヒシャーム、**アブド・アル＝マリク・ブン・ヒシャーム・ブン・アイユーブ・アル＝マアーフィリー（Ibn Hisham al-Ma'afiri）、『預言者伝（*al-Sirat al-Nabawiyah*）』、ウマル・アブド・アッ＝サラーム・タドゥムリー校訂、第三版、Dar al-Kitab al-‘Arabi 社、ベイルート、1990 年。

- **イブン・マージャ、**ムハンマド・ブン・ヤズィード・アル＝カズウィーニー（Ibn Majah al-Qazwini）、『イブン・マージャのスナン（*Sunan Ibn Majah*）』、ムハンマド・フアード・アブド・アル＝バーキー校訂、Dar al-Fikr 社、ベイルート。
- **イブン・マンズール、**ムハンマド・ブン・ムクリム・ブン・マンズール（Ibn Manzur）、『アラブの言詞（*Lisan al- ʻArab*）』、第一版、Dar Sadir 社、ベイルート。
- **ウマル・アル＝アシュカル**（ʻUmar al-Ashqar）、『アッラーの美名（*Asma Allah al-Husna*）』、第一版、Dar al-Nafais 社、アンマン、2004 年。
- **クウェイト法学大全**（*al-Mausu'at al-Fiqhiyat al-Kuweitiyah*）、クウェイト・ワクフ・イスラーム諸事省（*Ministry of Awqaf and Islamic Affairs, State of Kuweit*）、1404-1427 年。
- **アル＝カースィミー、**ムハンマド・ジャマール・アッ＝ディーン（Muhammad al-Qasimi）、『釈義の美点（*Mahasin al-Taawil*）』、ムハンマド・フアード・アブド・アル＝バーキー校訂、第一版、Dar Ihya al-Kutub al- ʻArabiyah 社、カイロ、1957 年。
- **アル＝クルトゥビー、**ムハンマド・ブン・アフマド（Muhammad Ibn Ahmad al-Qurtubi）、『クルアーン法規定に関する大全（*al-Jami' li Ahkam al-Quran*）』、アフマド・アル＝バルドゥーニー他による校訂、Dar al-Kutub al-Misriyah 社、カイロ、1964 年。
- **アッ＝サァディー、**アブド・アッ＝ラフマーン・ブン・ナースィル（Abd al-Rahman al-Sa'di）、『恵み深いお方の御言葉の解釈における貴く慈悲あまねきお方の簡便（*Taisir al-Karim al-Rahman fi Tafsir Kalam al-Mannan*）』、アブド・アッ＝ラフマーン・アル＝ルワイヒク校訂、Muassasat al-Risalah 社、ベイルート、2000 年。
- **アッ＝サミーン、**アフマド・ブン・ユースフ・アル＝ハラビー（al-Samin al-Halabi）、『秘められた書の学問における守られた真珠（*al-Durr al-Masun fi ʻIlm al-Kitab al-Maknun*）』、アフマド・ムハンマド・アル＝ハッラート校訂、Dar al-Qalam 社、ダマスカス。
- **アッ＝ザッジャージー、**アブド・アッ＝ラフマーン・ブン・イスハーク（Abd al-Rahman al-Zajjaji）、『アッラーの美名の派生（*Ishtiqaq Asma Allah*）』、アブド・ラッブ・アル＝フサイン・アル＝ムバーラク校訂、Muassasat al-Risalah 社、ベイルート、1986 年。
- **サーリフ・アーリ・アッ＝シャイフ**（Salih Ibn Abd al-Aziz Ali Shaikh）、『三つの根本原理解説（*Sharah Thalathat al-Usul*）』Maktabat Dar al-Hijaz 社、ヒジュラ暦 1433 年。

- **アッ=シャウカーニー、**ムハンマド・ブン・アリー・ムハンマド・アッ=シャウカーニー（Muhammad al-Shawkani）、『クルアーン解釈学における、伝承と智見の両学を集結した全能者の勝利（*Fath al-Qadir al-Jami' baina Fannai al-Riwayat wa al-Dirayat min 'Ilm al-Tafsir*）』、アブド・アッ=ラフマーン・ウマイラ校訂、第三版、Dar al-Wafa – Dar Ibn Hazm 社、マンスーラ、ヒジュラ暦 1426 年。

- **アル=ジャザーイリー、**アブー・バクル・ジャービル・ブン・ムーサー（Abu Bakr al-Jazairi）、『至高かつ大いなるお方の御言葉の最も簡易な解釈（*Aisar al-Tafasir li Kalam al-'Aliy al-Kabir*）』、Maktabat al-Ulum wa al-Hikam 社、マディーナ、2003 年。

- **アッ=シャルビーニー、**ムハンマド・ブン・アフマド（Muhamma al-Sharbini）、『クルアーン解釈書・煌々たる灯火（*Tafsir al-Siraj al-Munir*）』、Dar al-Kutub al-'Ilmiyah 社、ベイルート。

- **アッ=シャンキーティー、**ムハンマド・アル=アミーン・ブン・ムハンマド・アル=ムフタール（Muhammad al-Amin al-Shanqiti）、『クルアーン解釈における解明の光（*Adwa al-Bayan fi Idahi al-Quran bi al-Quran*）』、Dar al-Fikr 社、ベイルート、1995 年。

- **アッ=ズハイリー、**ワフバ・ブン・ムスタファー（Wahbat al-Zuhaili）、『イスラーム法とその典拠（*al-Fiqh al-Islami wa Adillatuh*）』、Dar al-Fikr 社、第四版、ダマスカス。

- **アッ=ズィリクリー、**ハイル・アッ=ディーン・ブン・マフムード・ブン・ムハンマド（Khair al-Din al-Zirkli）、『人名（*al-A'lam*）』、第十五版、Dar al-'Ilm li al-Malaeen 社、2002 年。

- **アッ=ズバイディー、**ムハンマド・ブン・ムハンマド（Muhammad al-Zubaidi）、『辞典の宝珠からなる花嫁の王冠（*Taj al-'Urus min Jawahir al-Qamus*）』、Dar al-Hidayah 社。

- **アッ=スユーティー、**ジャラール・アッ=ディーン・アブド・アッ=ラフマーン・ブン・アビー・バクル・ブン・ムハンマド（Jalal al-Din al-Suyuti）、『クルアーン諸学の精通（*al-Itqan fi Ulum al-Quran*）』、アフマド・ブン・アリー校訂、Dar al-Hadith 社、カイロ、ヒジュラ暦 1425 年。

- **アッ=ダーリミー、**アブドッラー・ブン・アブド・アッ=ラフマーン（Abd Allah al-Darimi）、『アッ=ダーリミーのムスナド集（*Musnad al-Darimi*）』。フサイン・サリーム・ハーン校訂、al-Mughni 社。

- **アッ＝タバリー、**ムハンマド・ブン・ジャリール（Muhammad Ibn Jarir al-Tabari）、『クルアーンのアーヤ釈義に関する明証大全（*Jami' al-Bayan 'An Taawil Ay al-Quran*）』、アブド・アル＝マジード・アブド・アル＝ムヌイム・マドゥクール監修、第一版、Dar al-Salam社、リヤド、2005年。

- **ダルウィーシュ、**ムフイイ・アッ＝ディーン・ブン・アフマド・ムスタファー・ダルウィーシュ（Muhyi al-Din Ibn Ahmad Mustafa Darwish）、『クルアーンの文法解釈とその解説（*I'rab al-Quran wa Bayanuh*）』、第四版、Dar al-Irshad li al-shuun al-Jami'iyah社、ヒムス、ヒジュラ暦1415年。

- **アッ＝ティルミズィー、**ムハンマド・ブン・イーサー（Muhammad Ibn 'Isa al-Tirmidhi）、『アッ＝ティルミズィーのスナン集（*Sunan al-Tirmidhi*）』、アフマド・ムハンマド・シャーキル他による校訂、Dar Ihya al-Turath al- 'Arabi社、ベイルート。

- **アン＝ナイサーブーリー、**アル＝ハサン・ブン・ムハンマド・ブン・フサイン（al-Hasan Ibn Muhammad al-Naisaburi）、『クルアーンの難解語と識別の野心（*Gharaib al-Quran wa Raghaib al-Furqan*）』、ザカリーヤー・ウマイラーン校訂、Dar al-Kutub al- 'Ilmiyah社、ベイルート、1996年。

- **アン＝ナサーイー、**アフマド・ブン・シュアイブ（Ahmad al-Nasai）、『アン＝ナサーイーの大スナン集（*Sunan* al-*Nasai* al-*Kubra*）』アブド・アル＝ガッファール・スライマーン・アル＝バンダーリー他による校訂、Dar al-Kutub al- 'Ilmiyah社、ベイルート、1991年。

- **日本ムスリム協会**（Japan Muslim Association）、『日亜対訳・注解　聖クルアーン（*Tarjmat Ma'ani al-Quran*）』、第六版、2000年。

- **アル＝バイダーウィー、**アブドッラー・ブン・ウマル・ブン・ムハンマド・アッ＝シーラーズィー（Abd Allah Ibn 'Umar al-Baidawi）、『啓示の光と釈義の奥義（*Anwar al-Tanzil wa Asrar al-Taawil*）』、Dar al-Fikr社、ベイルート。

- **アル＝バガウィー、**アル＝フサイン・ブン・マスウード・ブン・ムハンマド（al-Husain Ibn Mas'ud al-Baghawi）、『クルアーン解釈における降示の表徴（*Ma'alim al-Tanzil*）』、アブド・アッラッザーク・アル＝マハディー校訂、Dar Ihya al-Turath al- 'Arabi社、ベイルート、ヒジュラ暦1420年。

- **アル＝ハーキム、**ムハンマド・ブン・アブドッラー・ブン・ハマダウィヒ・アン＝ナイサーブーリー（Muhammad al-Hakim）、『ムスタドゥラク（*Mustadrak 'Ala al-Sahihain*）』、ムクビル・ハーディー・アル＝ワダーイー校訂、第一版、Dar al-Haramain、カイロ、1997年。

- **アル＝ハッタービー、**ハマド・ブン・ムハンマド（Abu Sulaiman Hamad al-Khattabi）、『祈願の重要性（*Shaan al-Du'a*）』、アフマド・ユースフ・アッ＝ダッカーク校訂、第三版、Dar al-Thaqafat al-‘Arabiyah 社、ダマスカス、1992 年。
- **アル＝ビカーイー、**イブラーヒーム・ブン・ウマル（Ibrahim al-Biqa'yi）、『アーヤとスーラにの関連性における真珠の連結（*Nuzzum al-Durar fi Tanasub al-Ayat wa al-Suwar*）』、アブド・アッ＝ラッザーク・ガーリブ・アル＝マハディー校訂、Dar al-Kutub al-‘Ilmiyah 社、ベイルート、1995 年。
- **アル＝ビカーイー、**イブラーヒーム・ブン・ウマル（Ibnrahim al-Biqa'yi）『スーラの諸目的を観測するにあたっての視点の上昇（*Masa'id al-Nazar li al-Ishraf ‘ala Maqasid al-Suwar*）』、アブド・アッ＝サミーウ・ムハンマド・アフマド・ハサナイン校訂、第一版、Maktabat al-Ma'aarif 社、リヤド、1987 年。
- **ヒシャーム・ブン・アブド・アル＝カーディル・アーリ・ウクダ**（Hisham Ibn Abd al-Qadir Ali ‘Uqudah）、『受容の階梯・要約（*Mukhtasar Ma'arij al-Qabul*）』、第五版、Maktabat al-Kauthar 社、リヤド、ヒジュラ暦 1418 年。
- **アル＝ファイルーズアーバーディー、**マジド・アッ＝ディーン・ムハンマド・ブン・ヤァクーブ（Majd al-Din Muhammad al-Fairuzabadi）、『偉大なるクルアーンの霊妙な知識を判別する慧眼（*Basair Zawi al-Tamyiz fi Lataif al-Kitab al-Aziz*）』、Maktabat al-‘Ilmiyah 社、ベイルート。
- **アル＝ブハーリー、**ムハンマド・ブン・イスマーイール・ブン・イブラーヒーム（Muhammad Ibn Isma'il al-Bukhari）、『アル＝ブハーリーの真正集（*Sahih al-Bukhari*）』、ムハンマド・ズハイル・アン＝ナースィル校訂、Dar Tawq al-Najah 社、ヒジュラ暦 1422 年。
- **マフムード・アッ＝タッハーン**（Mahmud al-Tahhan）、『ハディース学簡略（*Taisir Mustalah al-Hadith*）』、第十版、Maktabah al-Ma'aarif 社、2004 年。
- **マフムード・ブン・アブド・アッ＝ラフマーン・サーフィー**（Mahmud Ibn Abd al-Rahman al-Safi）、『クルアーン文法解釈と形態文法、及びその説明（*al-Jadwal fi I'rab al-Quran wa Sarfuhu wa Bayanuhu*）』、第四版、Dar al-Rashid Muassasat al-Iman 社、ダマスカス、ヒジュラ暦 1418 年。
- **マンナーウ・アル＝カッターン**（Manna'u al-Qattan）、『クルアーン学研究（*Mabahith fi Ulum al-Quran*）』、第三版、Maktabat al-Ma'aarif 社、2000 年。
- **アル＝ミッズィー、**ジャマール・アッ＝ディーン・ユースフ（Jamal al-Din Yusuf al-Mizzi）『伝承者らの名称に関する極致の修訂（*Tahdhib al-Kamal Fi Asma al-Rijal*）』、第一版、バッシャール・アウワード・マァルーフ校訂、Muassasat al-Risalah 社、ベイルート、1983 年。

- **ムスリム、ムスリム・ブン・ハッジャージュ・アル＝クシャイリー・アン＝ナイサーブーリー**（Muslim Ibn Hajjaj al-Naisaburi）、『ムスリムの真正集（*Sahih Muslim*）』、ムハンマド・フアード・アブド・アル＝バーキー校訂、Dar Ihya al-Turath al- ʻArabi 社、ベイルート。
- **ムハンマド・ブン・アブドッラー・アッ＝タブリーズィー**（Muhammad al-Tabrizi）、『灯火の壁龕（*Mishkat al-Masabih*）』、第三版、ムハンマド・アル＝アルバーニー校訂、al-Maktab al-Islami 社、ベイルート、1985 年。
- **ムハンマド・アル＝フダイリー、**ムハンマド・ブン・アブドッラー・アリー（Muhammad al-Khudairi）、『タービウーンのクルアーン解釈（*Tafsir al-Tabi'yin*）』、Dar al-Watan 社。
- **ムバーラクフーリー、**サフィーユ・アッ＝ディーン（Safiy al-Din Mubarakfuri）、『封印された果汁（*al-Rahiq al-Makhtum*）』、Dar al-Muayed 社、リヤド、2000 年。
- **ムヤッサル、アッ＝タフスィール・アル＝ムヤッサル**（*al-Tafsir al-Muyassar*）、第二版、King Fahad Complex for Printing、2009 年。
- **ユースフ・アッ＝サイード**（Yusuf al-Sa'id）、『ムハンマド・ブン・アブド・アル＝ワッハーブ著"アッラーの使徒が反した、ジャーヒリーヤ的諸事"の研究・校訂・解説（*Sharah Kitab al-Masail allati Khalafa fiha Rasul Allah Ahl al-Jahiliyah*）』、Dar al-Muayed 社、リヤド、1996 年。
- **ムニーラ・ムハンマド・ナースィル・アッ＝ドースリー**（Munira Muhammad al-Dusuri）、『クルアーンのスーラの名称とその徳（*Asma Suwar al-Quran wa Fadailuha*）』、第一版、Dar Ibn al-Jauzi 社、サウジアラビア、ヒジュラ暦 1426 年。
- **アッ＝ラーギブ、**アル＝フサイン・ブン・ムハンマド・アル＝アスファハーニー（al-Raghib al-Asfahani）、『クルアーンの難易語目録（*al-Mufradat fi Gharib al-Quran*）』、サフワーン・アドゥナーン・ダーウーディー校訂、Dar al-ʻIlm - al-Dar al-Shamiyah 社、ヒジュラ暦 1412 年。
- **アッ＝ラーズィー、**ファフル・アッ＝ディーン・ムハンマド・ブン・ウマル・ブン・アル＝ハサン（Fakhr al-Din al-Razi）、『不可視の世界の鍵（*Tafsir Mafatih al-Ghaib*）』、第一版、Dar Ihya al-Turath al- ʻArabi 社、ベイルート、ヒジュラ暦 1429 年。
- **アッ＝ルーミー、**ファハド・ブン・アブド・アッ＝ラフマーン・スライマーン（Fahad al-Rumi）、『クルアーン諸学研究（*Dirasat fi Ulum al-Quran*）』、第十三版、Fahrasat Maktabat al-Malik Fahad al-Wataniyah、リヤド、2013 年。

- **アッ＝ルーミー、**ファハド・ブン・アブド・アッ＝ラフマーン・スライマーン（Fahad al-Rumi）、『スーラ冒頭の文字群における挑戦と奇跡性の諸側面（*Wujuh al-Tahaddi wa al-I'jaz fi al-Huruf al-Muqatta'a fi Awail al-Suwar*）』、第一版、Maktabat al-Taubah 社、1997 年。
- **アル＝ワーヒディー、**アリー・ブン・アフマド・ブン・ムハンマド（'Ali Ibn Ahmad al-Wahidi）、『詳注（*al-Tafsir al-Basit*）』、アブド・アル＝アズィーズ・ブン・サッターム・ブン・アブド・アル＝アズィーズ・アーリ・サウード監修、Imam Muhammad Ibn Saud Islamic University、リヤド、ヒジュラ暦 1430 年。

頻出名・用語解説（五十音順）[1]

- **アーイシャ：**アブー・バクル*の娘アーイシャ。預言者*ムハンマド*の妻の一人で、傑出した学者の一人であり、預言者*から最も多くの伝承を伝える教友*の一人でもある。ヒジュラ暦*58 年頃没。[2]

- **アイユーブ：**旧約聖書のヨブのことであると言われる。忍耐強い預言者*で、アラブ人だったとされる[3]。預言者*たち章 83–84、サード章 41–44 でその話が言及されている。

- **アウラ：**語源的意味は「急所」。法学的には「男女が露わにするのを禁じられている場所」。成人*男性のアウラは、臍より下と両膝から上ということで学者の見解は一致。礼拝時以外における、自由民の成人*女性のアウラについての一般的見解は次の通り。①マハラム*以外の男性に対してのアウラ：顔と両手首から先を除く全身（ハナフィー学派*では、両足首から先について意見の相違あり）。②マハラム*男性およびムスリム*女性に対してのアウラ：マーリク学派*・ハンバリー学派*では、顔・頭部・首・両腕・両足を除く全身。ハナフィー学派*では、そこに胸も含める。シャーフィイー学派*では、臍より下と両膝から上まで[4]。但しこれらは全て、欲望や問題を引き起こす恐れがない場合において許される、ということである[5]。尚、夫婦どうしは、互いに全身を見ることが許される[6]。

- **アスル：**五つの義務の礼拝の一つで、午後の四ラクアの礼拝。その時間帯は大半の法学者によれば、ある物の影がそれ自身と同じ長さにまで達した時点から始まる（影がそれ自身の倍の長さに達した時点から始まるという、少数派の見解もあり）。アスルの時間が終わるのは、①太陽が沈む前まで、②太陽が白ずみ始めるまで、③ある物の影がそれ自身の倍の長さになるまで、といった見解がある[7]。しかし一般的に言って、何の正当な理由もない限り、②の時間までに行うことが望ましいとされる。

---

1 ここではアラビア語における目録の一般的法則に従い、アラビア語の定冠詞「アル」を語の一部と見なさない。つまり「アル＝ヤサァ」は、「ヤ」から始まる語とする。

2 アッ＝ズィリクリー3:240 参照。

3 前掲書 2:36–37 参照。

4 クウェイト法学大全 24:173–174 参照。

5 前掲書31:48 参照。

6 前掲書24:174 参照。

7 前掲書7:173–175 参照。

- **アーダム：**人類の祖アダムのこと。イスラーム*では預言者*の一人[1]とされ、その名は大地の「表面（アディーム）」にあった土から創られたことに由来するとも言われる[2]。

- **アッラー：**全知全能の創造主。アッラー*を信仰することは、いわゆる六信の一つである。完全無欠かつ永遠である唯一の存在であり、崇拝*すべき唯一の対象。全てをその英知に適った形でお定めになり、お望みのことを行い給い、復活の日*には現世での被造物の行いを公正にお裁きになる。「アッラー」という語の由来には、それが固有名詞であるとか[3]、「アリハ（崇拝*する）」という動詞から派生したものに定冠詞の「アル」が結合して変化したものである[4]など、諸説存在する。アッラーは人類の創造以来、人々にかれの啓示を伝える預言者*や使徒*をお遣わしになった。ヌーフ*やイブラーヒーム*、ムーサー*、イーサー*らはその一人であり、預言者*ムハンマド*は最後の使徒*として啓示の最終版と共に全人類に遣わされた。

- **アッラー*にこそ全てを委ねる：**原語では「タワックル・アラー＝アッラー」とその派生形。アッ＝ラーズィー*によれば、それは自らの努力を怠ることではなく、目的達成のための外的要因を満たした上で、心はアッラー*の完全なる御心にお任せする、ということ[5]。またアル＝クルトゥビー*によれば、法学者間でのその定義は「アッラー*を信頼し、その定めの実現を確信すること。また、飲食、敵に対する自衛、武器の準備、アッラー*が定められた自然法則上、必要不可欠なものの使用など、避けられない物事において、アッラー*の使徒*のスンナ*に依拠しつつ努力すること」[6]。そして「アッラー*にこそ全てを委ねること」は自分の無力さを認め、全ての物事をお望みのままにされるアッラーの御力に頼ることである。それは信仰と不可分であり、アッラー*が愛でられ、ご満悦される最も偉大な崇拝*行為の一つで、全ての崇拝*行為の前提でもある[7]。全てを請け負われるお方*も参照。

- **アッラ*ーに（全てを）委ねる：**アッラー*にこそ全てを委ねるの項を参照。

- **アッラー*の偉大さを称揚する：**原語は「大きくする」という意味の「タクビール」とその派生形。アッラー*が全創造物の主*として、崇拝*される唯一の存在として、またその美名と属性において、そしてかれが定められた定命と法において、この上なく偉大であることを称えること[8]。大いなるお方*の項も参照。

1　アッ＝タバリー1:357 参照。

2　アル＝ハーキム 2:261 参照。

3　アン＝ナイサーブーリー1:73、アッ＝ラーズィー1:65 参照。

4　アッ＝タバリー1:125-127、アッ＝ザッジャッジー29 頁、イブン・タイミーヤ「ファトワー集」1:88 参照。

5　アッ＝ラーズィー3:410 参照。

6　アル＝クルトゥビー4:189 参照。

7　アッ＝サァディー145、422、657 頁参照。

8　サーリフ・アーリ・アッ＝シャイフ 196-198 頁参照。

- **アッラー*の唯一性：**タウヒード*の項を参照。

- **アード：**古代アラビア半島南部に栄えた強大な民。アッラー*は彼らに預言者*フード*を遣わされたが、彼に背いたために滅亡させられた。その記述は高壁章65-72、フード*章 50-60、詩人たち章 123-140、詳細にされた章 13-16、砂丘章21-26、月章 18-22、真実章 1-6、暁 章 6-14 などに見受けられる。

- **アブー・ザッル：**イスラーム*布教開始期でも最も早期に改宗した、教友*の一人。正直さと清貧さで知られる。ヒジュラ暦*32 年没。[1]

- **アブー・ジャハル：**本名はアムル・ブン・ヒシャーム。マッカ*の不信仰者*の中でも、イスラーム*とその信徒に対して特に敵対していた指導者的存在の一人。バドルの役*（ヒジュラ暦*2 年）で戦死。

- **アブー・スフヤーン：**本名はサフル・ブン・ハルブ。クライシュ族*の指導者的存在の一人。ウマイヤ家出身で、ウマイヤ朝初代カリフのムアーウィヤの父。イスラーム*に対して長年敵対していたが、マッカ開城*の際にイスラーム*改宗。ヒジュラ暦*31 年没。[2]

- **アブー・バクル：**本名アブドッラー・ブン・ウスマーン・ブン・アーミル・アッ＝タイミー。預言者*ムハンマド*逝去後の、イスラーム*国家初代正統カリフ。預言者*によって天国を約束された、十人の教友*の一人[3]。マッカ*のクライシュ族*の中でも、有力者の家に生を受ける。成人*男性では最も早期に改宗した教友*であると言われ、預言者*に最も近しい人物であった。また敬虔さと善行で知られ、マッカ*における布教期には、抑圧されていた数多くの奴隷*改宗者を買い取り、解放した。また、その信仰心の強さゆえに「スィッディーク（よく信じる者、信仰を体現する者といった意味）」という称号を有する。カリフ在位期にはウマル*の提案により、クルアーン*の第一次編纂を主導。娘アーイシャ*は、預言者*ムハンマド*の妻の一人。ヒジュラ暦*13 年没。[4]

- **アブー・ラハブ：**本名アブド・アル＝ウッザー・ブン・アブドル＝ムッタリブ。預言者*ムハンマド*の伯父だったが、イスラーム*に対して最も激しく敵対し、信徒たちを抑圧した者の一人。バドルの戦い*の数日後、病死[5]。縒り合わされた章も参照。

1　アッ＝ズィリクリー2:140 参照。

2　前掲書3:201 参照。

3　アブー・ダーウード 4650 参照。

4　イブン・ハジャル「修訂の簡約」255 頁、アッ＝ズィリクリー4:102 参照。

5　アッ＝ズィリクリー4:12 参照。

- **アブドッラー・ブン・ウバイイ：**マディーナ*のハズラジュ族の指導者で、偽信者*の長。バドルの戦い*後イスラーム教徒を装い、内側から様々な手段を用いてイスラーム*に敵対する行動を行う。ヒジュラ暦*9 年没。[1]

- **アーヤ：**クルアーン*における節のこと。

- **アリー：**アリー・ブン・アビー・ターリブ・ブン・アブド・アル＝ムッタリブ。第四代正統カリフ。預言者*ムハンマド*の叔父の息子で、預言者*の娘ファーティマの夫。預言者*によって天国を約束された、十人の教友*の一人[2]。最も早期に改宗したムスリム*の一人であり、未成年では最初に改宗。勇猛さと雄弁さ、英知を兼ね備えた英傑。クルアーン*解釈だけでなく、イスラーム法にも長じていた。ヒジュラ暦*40 年に殉教。[3]

- **哀れみ深いお方：**アッラー*の美名の一つで、原語では「アッ＝ラウーフ」。「ラフマ」を語源とする「慈悲あまねきお方*」「慈愛深きお方*」よりも、繊細な慈悲の意味合いがあると言われる。[4]

- **アンサール：**アンサールとは複数形で、単数形は「アンサーリー」。語源的には「援助する者」という意味で、イスラーム*用語においては、マッカ*からの移住者たち（ムハージルーン*）を迎え入れ援助した、マディーナ*在住のムスリム*たちのことを指す。

- **アンマール：**アンマール・ブン・ヤースィル。最も早期に両親と共に改宗した、教友*の一人。両親はいずれも、拷問死した殉教者。ヒジュラ暦*37 年没。[5]

- **イァティカーフ：**一定期間の間、特定の条件に基づいてマスジド*にお篭もりする崇拝*行為のこと。

- **威光高きお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では、「アッ＝サマド」。アッラー*は、この上ない威光を誇り、その栄誉、偉大さ、寛大さ、知識、英知において完全さを極めた、強固なる長。それゆえに全創造物は、かれを求め、かれに乞い、かれに依存するが、そのことがかれを不注意にさせることもない。[6]

- **イーサー：**いわゆるマリアの子イエス。イスラーム*においては傑出した使徒*の一人であり、福音*を授かった。イスラーム*においてはいかなる神性も備えてはおらず、磔にされて死んでもいない。預言者*ムハンマド*の伝承によれば、彼

---

1 アッ＝ズィリクリー4:65 参照。

2 アッ＝ティルミズィー3747 参照。

3 イブン・ハジャル「修訂の簡約」341 頁、アッ＝ズィリクリー4:295-296 参照。

4 ウマル・アル＝アシュカル 258 - 259 頁参照。

5 アッ＝ズィリクリー5:36 参照。

6 ウマル・アル＝アシュカル 235 - 236 頁参照。

は末世に地上に降臨し、十字架を破壊し、豚を殺し、富を広く行き渡らせ、彼が死を迎えるまでイスラームで公正に統治する[1]。イムラーン家章 42–55、婦人章 157–158、食卓章 110–118、マルヤム*章 16–37 などにその描写が認められる。

- **イシャーゥ：**五つの義務の礼拝の一つで、夜の四ラクアの礼拝。その時間帯は夕焼けが消え去ってから始まり、ファジュル*の時間帯に入る前まで続く。しかし正当な理由もなく、夜の最初の三分の一、あるいは半分が終わるまで遅らせるべきではない、というのが一般的な学者の見解。[2]

- **移住：**原語の名詞形は、何かを回避するという意味の「ヒジュラ」。「聖遷」と訳されることも多い。イスラーム*用語上の意味は、シルク*の徒の支配下にあり、彼らからの宗教的迫害の恐れのある地から、その心配のない地へと移住することを指す。クルアーン*の中では特に断わりがない場合、マッカ*からマディーナ*への第二次移住を示している（第一次移住は、預言者*ムハンマド*が啓示を受けてから五年後に行われた、現在のエチオピア地方への移住）。

- **イスハーク：**イサクのこと。イスラーム*における預言者*の一人で、イブラーヒーム*とサーラとの息子。ヤァクーブ*の父親であり、つまりはユダヤ教徒*の父祖でもある。預言者*たち章 72–73、整列者章 112–113、サード章 45–47 などに、その描写を垣間見ることが出来る。

- **イスマーイール：**イシュマエルのこと。イスラーム*における預言者*の一人で、イブラーヒーム*とハージャルとの息子。アラブ人の父祖とされ、ゆえに預言者*ムハンマド*もまた彼の子孫である。雌牛章 125–129、マルヤム*章 54–55、整列章 100–111 などにその描写を垣間見ることが出来る。

- **イスラーイールの子ら：**原語では「バヌー・イスラーイール」。イスラーイールとは、イブラーヒーム*の孫ヤァクーブ*の別名。その子らとは彼の子孫のことであり、一般にユダヤ教徒*のことを指す。ただしクルアーン*の中で、ユダヤ教徒*がこの名称で呼びかけられることには、彼らの父祖イスラーイールを言及することによる、特別な意味が含まれているのだという。つまり、「アッラー*に従順であった正しいしもべ（ヤァクーブ*）の子孫よ、彼を見習うのだ」といった意味合いが含まれているのだとされる[3]。

- **イスラーム：**ムスリム*の項を参照。

- **偉大なお方：**この上なく偉大なお方*の項を参照。

1　アル＝ブハーリー3443 参照。

2　クウェイト法学大全 7:174–176 参照。

3　イブン・カスィール 1:241 参照。

- **イッダ：**夫との離別などの理由により、女性が妊娠の有無の確認などの目的で待機する、ある一定の期間のこと[1]。この期間中、（それまでに同一の妻に対して二回の離婚を宣告していないことを条件に）夫には新たな結婚の契約を結ぶことなく、彼女を復縁する権利がある[2]。またこの期間中、女性は再婚することが許されない。雌牛章 228 とその訳注なども参照。

- **イドリース：**イスラーム*における預言者*の一人で、旧約聖書のエノックのこととされる。マルヤム*章 56–57 に言及あり。

- **イード：**一般的には祭りのこと。イスラーム*用語においては、斎戒*明けの祭りと呼ばれるイード・アル＝フィトゥル（シャウワール*月の一日目）と、犠牲祭と呼ばれるイード・アル＝アドハー（ズル＝ヒッジャ*月の十日目）のこと。[3]

- **威風堂々たるお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では「アル＝ムタカッビル」。偉大さと権威を備え、創造物の属性からは無縁かつ高遠であり、高慢な者たちに対してはその高大さを誇り給うお方。[4]

- **イブラーヒーム：**旧約聖書のアブラハムのこと。イスマーイール*とイスハーク*の父親でもあり、イスラーム*における傑出した使徒*の一人。イラクの人であったが、シャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）、エジプト、アラビア半島と様々な地を旅した。イスラーム*においてはユダヤ教徒*でもなくキリスト教徒*でもない、純正な一神教徒の模範として描写され（イムラーン家章 67 参照）、「アッラーに近しい者」という尊称で呼ばれる（婦人章 125 参照）。雌牛章 124–132、258、260、イムラーン家章 65–68、家畜章 74–84、フード*章 69–76、イブラーヒーム章 35–41、アル＝ヒジュル章 51–58、マルヤム*章 41–50、預言者*たち 51–73、巡礼*章 26–29、詩人たち章 69–89、蜘蛛章 16–32、整列者章 83–113、撒き散らされるもの章 24–34 などにその描写が認められる。

- **イフラーム：**語源的には、「禁忌状態に入ること」。イスラーム*用語においては、ハッジ*、またはウムラ*、あるいはその両方の宗教儀礼に入る意図のこと。大半の法学派は、これをハッジ*とウムラ*における根幹的要素の一つ、としている[5]。尚、この状態に入った者は、頭髪や体毛を除去しないことや、結婚しないことなど、身だしなみやある種の行動などにおいて一定の制約を守らなければならない。

1　クウェイト法学大全 29:304 参照。

2　前掲書22:107–108 参照。

3　前掲書31:114 参照。

4　ウマル・アル＝アシュカル 164–167 頁参照。

5　アッ＝ズハイリー3:2180 参照。

- **イブリース：**一説にはそもそもジン*の出自であり、天使*たちと共にアーダム*にサジダ*するようにアッラー*から命令された（雌牛章 34、高壁章 11、アル＝ヒジュル章 29、夜の旅章 61、ター・ハー章 116、サード章 72 参照）のは、彼が崇拝*行為などの行為において天使*に相似していたからだと言われる。また一説には、イブリースは天使*の内の「ジン」と呼ばれる一族の出身で、他の天使*のように光からではなく火から創られた。いずれにせよ、これらの説が基になっている伝承の大半は典拠が不確かなものであり、クルアーン*において明確に示されているのは、イブリースがアッラー*に反抗したために追放されたシャイターン*となったということである[1]。

- **イブン・アッバース：**アブドッラー・ブン・アッバース・アブド・アル＝ムッタリブ。預言者*ムハンマド*のいとこで、傑出した学者の一人であり、預言者*から最も多くの伝承を伝える教友*の一人でもある。クルアーン*解釈学の大家。マッカ*のクルアーン*解釈・伝承学派の祖。ヒジュラ暦*68 年没。[2]

- **イブン・アティーヤ：**本名アブド・アル＝ハック・ブン・ガーリブ・ブン・アブド・アッ＝ラフマーン・ブン・アティーヤ。グラナダ出身のクルアーン*解釈学・伝承学・アラビア語学・法学者で、裁判官も務めた。全時代を通して卓越したクルアーン解釈書の一つと見なされる「偉大なるクルアーンに関する抄録」の著者。ヒジュラ暦*540 年代没。[3]

- **イブン・アル＝アラビー：**本名ムハンマド・ブン・アブドッラー・ブン・ムハンマド。ヒジュラ暦*468 年没。セビリアの出身。マーリキー学派*の法学者で裁判官。伝承学・法学・法源学・クルアーン*解釈学・文学・歴史学などにおいて、後世に残る著作を残した。[4]

- **イブン・イスハーク：**本名ムハンマド・ブン・イスハーク。歴史上、初めて預言者*伝を著したと言われる歴史家・伝承家。ヒジュラ暦*150 年頃没[5]。

- **イブン・ウバイイ：**アブドッラー・ブン・ウバイイ*の項を参照。

- **イブン・ウマル：**第二代カリフ・ウマル・ブン・アル＝ハッターブ*の息子。預言者*から最も多くの伝承を伝える教友*の一人。ヒジュラ暦* 73 年頃没。[6]

---

1 イブン・カスィール 5:167-169 参照。

2 イブン・ハジャル「修訂の簡約」251 頁参照。

3 アッ＝ズィリクリー3:282 参照。

4 前掲書6:230 参照。

5 イブン・ハジャル「修訂の簡約」403 頁参照。

6 前掲書256 頁参照。

- **イブン・ウヤイナ：**スフヤーン・ブン・ウヤイナ。クーファに生まれ、マッカ*に住み、そこでヒジュラ暦* 198 年に没。当時のヒジャーズ地方（マッカ*やマディーナ*を擁するアラビア半島の紅海沿岸地域）における傑出した学者の一人であり、初期にクルアーン*についての伝承を書にまとめた学者の一人でもある。[1]

- **イブン・カスィール：**本名イスマーイール・ブン・ウマル・ブン・カスィール。現在のシリア地方出身のクルアーン*解釈・伝承・法学・歴史学者。全時代を通して最良のクルアーン*解釈書の一つと目される「偉大なるクルアーン解釈」の著者。クルアーン*それ自身と伝承に基づいてクルアーン*を解釈する、という手法が特徴的。ヒジュラ暦*774 年没。[2]

- **イブン・タイミーヤ：**本名アフマド・ブン・アブド・アル＝ハリーム・ブン・アブド・アッ＝サラーム。現在のシリア地方出身。多分野に渡って傑出した学者であり、「シャイフ・アル＝イスラーム（イスラーム*の長老）」という尊称で呼ぶことを好む人々もいる。二十歳になる前に既に教鞭を取り、法的決定を発する権威があったと言われる。ヒジュラ暦* 728 年没。イブン・カスィール*の師でもある。[3]

- **イブン・マスウード：**アブドッラー・ブン・マスウード。最も早期に改宗した教友*の一人で、クルアーン*学を始めとするイスラーム*諸学に通じた学者の一人でもあった。イラクのクーファにおける、クルアーン*解釈学派の祖。ヒジュラ暦*32 年頃没。[4]

- **偉力ならびないお方：**アッラー*の美名の一つ。原語は「アル＝アズィーズ」。最も強大で、何よりも優越し、荘厳で、いかなるものも匹敵することが不可能な存在。クルアーン*の中ではよく、「英知あふれるお方*」「慈愛深きお方*」といった美名と並列して言及される。アッラー*のご偉力は英知や公正さ、慈悲の念に裏づけされたものである。[5]

- **外なるお方：**アッラー*の美名の一つ。原語は「アッ＝ザーヒル」。光によるベールと、その主*性と唯一性*を証明する事象と、明らかなる根拠の数々により、この上なく顕現した存在。また、高きにあり、全てを上回るお方。いかなる外側にあるもの、上にあるものも、かれを越えることは出来ない。関連して「内なるお方*」も参照。[6]

---

1 アッ＝ズィリクリー3:105 参照。

2 前掲書1:320 参照。

3 前掲書1:144 参照。

4 イブン・ハジャル「修訂の簡約」265 頁参照。

5 ウマル・アル＝アシュカル 69-73 頁参照。

6 前掲書242-243 頁参照。

- **ウスマーン：**第三代正統カリフ、ウスマーン・ブン・アッファーン。預言者*によって天国を約束された、十人の教友*の一人[1]。預言者*ムハンマド*の娘二人（ルカイヤとウンム・クルスーム）を娶ったことから、「ズー・アン＝ヌーライン（二つの光の持ち主）」と呼ばれる。裕福かつ地位の高い家に生まれ、イスラーム*のために財を惜しむことなく施した。彼のカリフ時代にはイスラーム*国家の領土が大きく拡大したが、扇動されたムスリム群衆によって殺害され、ヒジュラ暦*35 年に殉教。[2]

- **内なるお方：**アッラー*の美名の一つ。原語は「アル＝バーティン」。全ての内なるもの、秘められたものをご存知になり、何よりも近い存在（カーフ章 16 参照）で、かつ現世では拝見することの出来ない存在。被造物にとってはいかに遠いものも、かれにとっては近いものである。また不可視の世界*もかれにとっては現象界と変わらず、いかなる内に秘められたものも、かれにとっては露わなものでしかない。関連して「外なるお方*」も参照。[3]

- **ウドゥー：**語源的には、「よい状態、清めること」。法的用語としての意味は、「そうする意図を持ちつつ、身体の特定部分を水を用いて洗うこと」。ウドゥーは、排泄、放屁、深い眠り、失神などによって生じたいわゆる「小さな穢れ」を清め、礼拝やクルアーン*に触れることなど、特定の行為を可能な状態にさせるだけでなく、その他様々な状況において勧められている[4]。尚「大きな穢れ」は、グスルによって清める。

- **ウフドの戦い：**ヒジュラ暦*3 年、マディーナ*近郊ウフド山の麓で起こった、マディーナ*のムスリム*軍とマッカ*の不信仰者*軍の戦い。アブー・スフヤーン*率いるマッカ*軍は、前年に喫したバドルでの大敗の雪辱をかけ、約三千もの兵と多数のラクダと馬を従えて、マディーナ*近郊に進軍した。バドルの戦いに参加する機会を逃した教友*たちは勝気にはやり、マディーナ*郊外に出向いてマッカ*軍を迎え撃つべきだと提案し、預言者*ムハンマド*は多数派の意見であったその提案を受け入れた。当初マディーナ*軍の兵数は約千名だったが、敵軍を前に、偽信者*の長アブドッラー・ブン・ウバイイ*率いる約三百名が撤退。そのような中でも戦局はマディーナ*軍に有利に進み、マッカ*軍は後退し始める。しかしその時、絶対に持ち場を離れないよう預言者*から命じられていた五十名の弓兵の大半が、戦利品*を目にしてその命令に背いてしまった。その隙をついてマッカ*の騎兵隊がマディーナ*軍を包囲し、戦況は一転する。この結果、マディーナ*軍は戦死者

1　アブー・ダーウード 4650 参照。

2　アッ＝ズィリクリー4:210 参照。

3　ウマル・アル＝アシュカル著 242-244 頁参照。

4　クウェイト法学大全 43：315、320-325、385-399 参照。

七十名（マッカ*軍の戦死者は三十数名）という被害を出す結果となった[1]。ウフドの戦いの描写は、イムラーン家章（121-179 参照）に詳しい。

- **ウマル・ブン・アル＝ハッターブ：**アブー・バクル*の跡を継いだ、第二代正統カリフ。預言者*によって天国を約束された、十人の教友*の一人[2]。イスラーム*改宗以前からその政治力と豪胆さで知られた彼の改宗は、イスラーム*の歴史に大きな影響を与えた。マッカ*のムスリム*たちは彼が改宗して始めて、カァバ神殿*で公けに礼拝が出来るようになったと言われ[3]、彼のカリフ時代にはイスラーム*国家の領土がシャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）、イラク、エジプト、アルジェリア方面にまで及び、国家組織の整備が進むと共に、社会的公正が広く行き渡った。「アル＝ファールーク（真っ二つに分断する者）」の異名通り、真理と虚妄を分けるイスラーム*の興隆に大きく貢献する一方で、敬虔な*信仰者としても知られた。娘ハフサは、預言者*ムハンマド*の妻の一人。ヒジュラ暦*23 年に殉教。[4]

- **ウムラ：**いわゆる小巡礼。マッカ*のカァバ神殿*を訪問し、ある特定の形式において宗教儀礼を行うこと。

- **永生するお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では、生きる、という意味の語から派生した「アル＝ハイユ」。アッラー*は、生という属性をもって存在し続けるお方。他の生物のように誕生したのでもなく、死を迎えることもない。[5]

- **英知あふれるお方：**アッラー*の美名の一つ。原語は「アル＝ハキーム」で、「何かをそれに相応しい場に置くこと」という意味の、「ヒクマ」という語の強調能動分詞。つまり、かれの御言葉と御業は、全て英知に適った正しいものであり、完璧なものである。また、かれこそは唯一の完璧な裁き手であり、その権限を一手に担われたお方である。[6]

- **栄誉高きお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では、寛大さや、恵み深さ、高貴さなどを表す語から派生した「アル＝マジード」。クルアーン*とアッラ*ーの御座もまた、同語によって形容される。[7]

1　ムバーラクフーリー248-284 参照。

2　アブー・ダーウード 4650 参照。

3　アル＝ハーキム 3:4548 参照。

4　アッ＝ズィリクリー4:45-46 参照。

5　アル＝ハッタービー80 頁参照。

6　ウマル・アル＝アシュカル 127-131 頁参照。

7　前掲書188-189 頁参照。

- **大いなるお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では、「アル＝カビール」。アッラー*は、その本質と程度において大いなるお方で、かれに比べればいかなる偉大な存在も卑小なものとなってしまう[1]。アッラーの偉大さを称揚する*の項も参照。

- **畏れる：**拙訳にて便宜上、一貫して「畏れる」「敬虔」といった訳語をあてた原語は、動詞「イッタカー」の派生形（名詞形は「イッティカーゥ」あるいは「タクワー」）。そもそもの語源的意味は「自らを守ること」であり、つまりアッラー*のご命令に従いつつ、かれが禁じられた物事やかれへの不従順さを回避することで、自らをアッラー*のお怒りや懲罰から守るという意味が含まれている。[2]

- **カァバ神殿：**マッカ*のハラーム・マスジド*のほぼ中央部に位置する、立方体に近い建築物。イムラーン家章 96 にもある通り、アッラー*を崇拝*するために地上に建てられた最初の館とされ、ムスリム*にとってのキブラ*である。東南の角には、天国から落ちたとされる黒石が嵌められている。

- **アル＝カースィミー：**ムハンマド・ブン・ジャマール・アッ＝ディーン・ムハンマド・アル＝カースィミー。様々な分野において多くの著作を残した、ダマスカス出身の学者。それ以前のクルアーン*解釈書から、著者が選りすぐった解釈を引用した作品「釈義の美点」の著者。ヒジュラ暦*1332 年没。[3]

- **カターダ：**カターダ・アッ＝サドゥースィー。タービイー*。アル＝ハサン*と並び、当時のバスラにおける傑出したクルアーン*解釈・伝承学者の一人。ヒジュラ暦*110 年代に没。[4]

- **かれにこそ全てを委ねる：**アッラーにこそ全てを委ねる*の項を参照。

- **寛恕されるお方：**よく寛恕されるお方*の項を参照。

- **寛大なお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では、「アル＝ハリーム」。怒りに流されることもなく、人間の無知さや罪深さに取り乱すこともない、赦し深く、辛抱強いお方。[5]

- **看視されるお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では、「アル＝ムキート」。守護する、見守る、立ち会う、力あふれる、といった意味。語源的には、糧を与えるという意味の語「アカータ」が由来。[6]

1　ウマル・アル＝アシュカル 156-157 頁参照。

2　アッ＝タバリー1：183 参照。

3　アッ＝ズィリクリー2：135 参照。

4　イブン・ハジャル「修訂の簡約」389 頁参照。

5　アル＝ハッタービー63 頁参照。

6　イブン・アーシュール 5：144 参照。

- **キブラ：**礼拝の際に向かう方向のこと。ムスリム*のキブラは、マッカ*のハラーム･マスジド*の中に位置しているカァバ神殿*である。雌牛章 142-150 とその訳注も参照。礼拝においてキブラに向かうことは、それが可能な者にとって、礼拝が有効となるための一条件（旅行中に乗り物に乗ったままで行う任意の礼拝を除く）である。また、礼拝の際に、カァバ神殿*を見ることが可能な者にとっては、カァバ神殿*そのものに向かうことが義務づけられることで、法学者の見解は一致。一方、カァバ神殿*を見ることが出来ない者にとっては、カァバ神殿*自体に正確に向かわなければならないという意見と、その方向へと向かう努力さえすればよいという意見がある[1]。尚、マッカ*から遠い場所にいる者の礼拝に関しては、四大法学派*の大半の見解では、カァバ神殿*の方向へと向く努力をするだけで十分とされる[2]。

- **教友：**原語では「サハービー(複数形はサハーバ)。」教友の定義は、信仰者として預言者*ムハンマド*と会い、信仰者として天命を全うした者[3]。悔悟章 100、勝利章 18、29 などを始め、預言者*ムハンマド*の「最善の人々は我が世代であり、それにその次の世代、そしてその次の世代が続く」[4]といった言葉など、その徳はクルアーン*とスンナ*に数多く見受けられる。

- **キリスト教徒：**原語では「ナスラーニー（複数形はナサーラー）」。その名称は、彼らがお互いに助け合っていた（ナサラ：援助する）ことに由来するとか、彼らの居住していた「ナースィラ（ナザレ）」という知名に由来するなど、諸説ある[5]。預言者*ムハンマド*時代のアラビア半島周辺には、ローマ帝国の支配下にあったシャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）、エチオピア王国、その属領であったイエメン地方など、キリスト教徒の領域が広がっていた。またアラビア半島内にもキリスト教徒は少数ながら存在していたことから、イスラームが信徒レベルでも国家レベルでも、当時からキリスト教と関わり合いを持つことはごく自然なことであった。まだ年若いムハンマド*がシャーム地方への隊商に同行した時、彼が将来預言者*となることを予言したのはボスラのキリスト教修道士だったし、彼が初めて啓示を受けた際、その預言者*性を最初に認めたワラカ･ブン･ナウファルもまた、聖書に通じたキリスト教徒であったとされる。マッカ*での迫害を逃れ、少数のムスリム*たちが庇護を求めてキリスト教国であったエチオピアに移住*したこともあれば、マディーナ*のイスラーム国家とローマ帝国との間に戦いが起こったこと（タブークの戦い*の項も参照）もあり、預言者*時代からキリスト教徒との接触は多かった。

---

1 クウェイト法学大全 32:302 参照。

2 前掲書4:67 参照。

3 イブン･ハジャル「教友の判別に関する正答」1:7 参照。

4 アル＝ブハーリー6429 参照。

5 イブン･カスィール 1:285 参照。

- **グスル：**法的用語においては、「特定の条件を満たしつつ、全身を清い水で洗うこと」。精液の放出、性交、月経、産後の出血などによって生じた「大きな穢れ」を清める。「大きな穢れ」の状態にある時は、礼拝、タワーフ*、書物としてのクルアーン*に触れること、クルアーン*の読誦、マスジド*に滞在することが禁じられ、月経・産後の出血がある女性は斎戒*も禁じられる。またグスルは金曜日やイード*において、勧められた行為となる[1]。ウドゥー*の項も参照。

- **クライシュ族：**預言者*ムハンマド*時代以前から巡礼地として栄えていたマッカ*に居住し、商業やハラーム・マスジド*の管理などに携わっていた、アラブ部族の中でもとりわけ高貴な一族。預言者*ムハンマド*はこの一族の中でも、更に高貴とされるハーシム家の出身。

- **クルアーン：**いわゆる「コーラン」のこと。アッラー*からの人類への導きとして数ある啓典が下されてきたが、クルアーン*は最後の預言者*ムハンマド*に啓示された、啓典の最終版。過去にムーサー*に啓示されたトーラー*、イーサー*に啓示された福音*など周知の啓典が下されたということへの信仰や、それ以外の詳細が知られていない啓典についても一般的な形で信仰すること、そして最後の啓典クルアーン*とそこに含まれる永久不変の教えを信じるのは、いわゆる六信の一つ。クルアーン*とは何かという定義は大きな議論の的になっているが、その内の最も簡潔なものの一つに「ムハンマド*に啓示されたアッラー*の御言葉で、その読誦が崇拝*行為となるもの」というものがある[2]。尚、本来は定冠詞「アル」が付属して、「アル＝クルアーン」と呼ばれるが、拙訳では一般的に普及しつつある通称に基づき、単に「クルアーン」とした。

- **クルアーンの冒頭に現れる文字群：**全部で百十四あるクルアーン*のスーラ*の内、二十九のスーラ*が「アリフ・ラーム・ミーム」「ハー・ミーム」といった、一見意味不明のアラビア文字群によって始まる。その意味には様々な解釈があるが、多くの学者によって支持されている説は、これらの文字がクルアーン*の奇跡性を示している、というものである。つまりクルアーン*は、これらの限られたアラビア文字（全二十八文字の内、その半数の十四文字が、このような形でいくつかのスーラ*の冒頭に出現している）から成立しているにも関わらず、その様式と内容において類を見ない完成度を示している、というものである[3]。そしてアラビア語に最も精通していた当時のアラブ人でさえ、このごく限られた文字から成立しているクルアーンと同様のものを創作してみよと挑まれても、応じることが出来なかった[4]。雌牛章 23、ユーヌス*章 38、フード*章 13、夜の旅章 88、山章 33-34 も参照。

---

1 クウェイト法学大全 17:124-128、31:194 - 205 参照。

2 イブン・ハジャル「修訂の簡約」255 頁、アッ＝ズィリクリー「人名」4:102 参照。

3 アッ＝ルーミー「スーラ冒頭の文字群における、挑戦と奇跡性の諸側面」8 頁以降参照。

4 ムヤッサル 2 頁参照。

- **アル＝クルトゥビー：**ムハンマド・ブン・アフマド・アル＝クルトゥビー。コルドバ出身のクルアーン*解釈学者で、特に法学的側面を詳細に扱った大著「クルアーン*法規定に関する大全」の著者。学問のため諸国を旅した後、エジプトに定住し、そこでヒジュラ暦*671 年に逝去。[1]

- **君臨し給うお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では「征服する、制圧する」といった意味の語から派生した「アル＝カーヒル」または「アル＝カッハール」。後者の方が、より強調された意味合いがあるという。アッラー*はその偉大さと崇高さ、至高さと全能性ゆえに全創造物が屈服し、その御力とご裁決の前ではいかなる権力者も惨めであるようなお方である。[2]

- **敬虔：**「畏れる*」の項を参照のこと。

- **啓典の民：**ユダヤ教徒*とキリスト教徒*のこと。

- **啓典を授けられた民、啓典を授けられた者たち：**「啓典の民*」の項を参照。

- **固定刑：**法学用語上は、「アッラー*への権利、あるいはアッラー*と人間の権利（の侵害）ゆえに義務づけられた、あらかじめ規定された刑罰のこと」。前者の例としては、姦通罪など、後者の例としては他人を姦通で訴える罪などが挙げられる[3]。

- **悉く包囲されるお方：**アッラー*の美名の一つ。原語は、何かを完全に配下に収め、制することを表す語から派生した能動分詞「アル＝ムヒート」。アッラー*は、その偉大さと御知識、御力によって、創造物を完全に包囲しており、いかなるものもそこから免れることは出来ない。[4]

- **この上なく偉大なお方：**アッラー*の美名の一つ。原語は、高さや広さ、奥行きなどにおける大きさを表す語から派生した強調能動分詞「アル＝アズィーム」[5]。アッラー*はその位階において途方もなく、その荘厳さが理性の限界を超えたお方。ゆえにその本質や、真実のお姿は想像不可能である[6]。

- **広量なお方：**アッラー*の美名の一つ。原語は、「広い」とか「余裕のある」とかいった意味の語から派生した能動分詞「アル＝ワースィゥ」。全創造に対するその糧とご慈悲が、あり余るほどに豊かなお方。そしてその知識、法規定、英知、赦し深さなどにおいても、広大無辺なお方。[7]

---

1 アッ＝ズィリクリー5:322 参照。

2 ウマル･アル＝アシュカル 95-96 頁参照。

3 クウェイト法学大全 17：129 参照。

4 ウマル･アル＝アシュカル 202-203 頁参照。

5 アッ＝ズバイディー3:110。

6 イブン･アル＝アスィール 2:224 参照。

7 ウマル･アル＝アシュカル 180 頁参照。

- **困窮者：**「貧者」を参照のこと。

- **婚資金：**原語では「マハル」、「サダーク」、「ニフラ」など多数の呼び名がある。イスラーム*用語においては、女性が結婚の契約をするか、あるいは男性と性交渉した際（無知から、イスラーム*法的に正しい条件を満たしていない結婚をし、性交渉してしまったような場合）に、贈られるべき財産のこと。これは結婚という契約の重要性と価値を表し、女性に栄誉と敬意を示すものである。[1]

- **サーア：**容積による測量単位で、4 ムッドに相当。約 2.75 リットルに相当するというのが一般的な説だが、他説もあり。[2]

- **アッ＝サァディー：**近代サウジアラビアを代表する学者の一人。代表作に「恵み深いお方の御言葉の解釈における貴く*慈悲あまねき*お方の簡便」などがある。ヒジュラ暦*1376 年没。[3]

- **斎戒：**原語では「サウム」または「スィヤーム」で、語源的には「何かを控える」という意味がある[4]。イスラーム*法においては、アッラー*への崇拝*行為の意図をもって飲食や性交など、斎戒で禁じられている行為を日の出しばらく前から日没まで控えることを指す。尚、ムスリム*は特別な状態にある者を除き、ラマダーン月*に一ヶ月間の斎戒を行うことが義務づけられている。いわゆる五行の一つ。雌牛章 183 以降も参照のこと。

- **最後の日：**善行にせよ悪行にせよ、現世で行った行為の清算と報いを受ける日。つまり復活の日*のこと。[5]　最後の日と来世を信仰することは、いわゆる六信の一つ。

- **ザイド・ブン・サービト：**マディーナ*で生まれマッカ*で育った、ハズラジュ族出身の教友*。十一歳の時、ムスリム*たちと共にマディーナ*へ移住*。イスラーム*諸学に秀で、クルアーン*の筆録者の一人であり、アブー・バクル*とウマル*のカリフ期に編纂作業を委任され担当した。ヒジュラ暦*45 年没。[6]

- **サウダ・ビント・ザムア：**預言者*ムハンマド*の妻の一人で、一説には彼の最初の妻ハディージャの逝去後、初めて結婚した女性。ヒジュラ暦*55 年頃没。[7]

1　クウェイト法学大全 24:64 参照。
2　アッ＝ズハイリー1:142-143 参照。
3　アッ＝ズィリクリー3:340 参照。
4　アッ＝タバリー2:889 参照。
5　前掲書1:143-144 参照。
6　アッ＝ズィリクリー3:57 参照。
7　アル＝ミッズィー35:200 以降、イブン・ハジャル「修訂の簡約」666 頁参照。

- **ザカリーヤー：**新約聖書のザカリア、あるいはザカリヤのこと。預言者*ヤヒヤー*の父親であり、彼自身も預言者*の一人。イーサー*の母親マルヤム*の後見も務めた。イムラーン家章 37-41、マルヤム*章 2-11 などにその描写が認められる。

- **酒：**原語の「ハムル」には、語源的に「覆うもの」という意味が含まれている。つまり酒などの酩酊を及ぼす物質には理性を覆い、人がアッラーを想念することを妨げる弊害がある（食卓章 91 も参照）[1]。大半の学者は麻薬など、酒同様の作用がある物質の摂取も禁じる見解を示している。尚、イスラーム*の歴史において、酒は段階的に禁止された。雌牛章 219 の訳注も参照。

- **サジダ：**跪き、額づく動作のこと。礼拝の一動作でもある。

- **サービア教徒：**彼らがいかなる民だったかに関しては、「無宗教者」「天使崇拝者」「啓典の民*の一派」など、諸説が存在する[2]。

- **サムード：**「サムード」は、古代アラビア半島北西部に栄えた民。岩山をくり貫いた住居に住んでいたと言われる。彼らには預言者*サーリフ*が遣わされたが、彼に背いたかどで滅ぼされる。その記述は高壁章 73-77、フード*章 61-66、アル＝ヒジュル章 80-84、詩人たち章 141-159、蟻章 45-53、詳細にされた章 17-18、月章 23-32、太陽章 11-15 などに見受けられる。尚、サムードに下った懲罰は、クルアーン*の中で「稲妻（詳細にされた章 18、撒き散らすもの章 44）」「（轟きの）一声（フード*章 67、アル＝ヒジュル章 83、月章 31）」「激震（高壁章 78）」「甚だしいもの（真実章 5）」「彼らを覆い給うた（太陽章 14）」と様々な形で描写されているが、アッ＝シャンキーティー*はその全ての発端が「（轟きの）一声」であるとしている。つまり「稲妻」を伴う「（轟きの）一声」が起きることによって「激震」がおき、その様子は「甚だしいもの」であり、かつアッラーは彼らをそれらの懲罰で「覆い給うた」のである[3]。

- **サーリフ：**「サムード*」の項参照のこと。

- **慈愛深きお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では「ラフマ」という名詞から派生した、「アッ＝ラヒーム」という能動分詞の強調形。「慈悲あまねきお方*」という訳語を当てた「アッ＝ラフマーン」に比べ、特に信仰者を対象とした行為的な慈悲である、と言われている。[4]

---

1 アッ＝タバリー2:1155-1159 参照。

2 前掲書 1:444-445、イブン・カスィール 1:286-287 参照。

3 アッ＝シャンキーティー7:21-23 参照。

4 アッ＝タバリー1:125-129 参照。

- **至高のお方、至高者：**アッラー*の美名の一つ。原語では「アル＝アリー」または「アル＝アァラー」あるいは「アル＝ムタアーリー」。その属性においていかなる創造物よりも高く、全てのものがその支配下にあり、かつこの上ない位階におられるお方。[1]

- **使徒：** 拙訳において一貫して「使徒*」という訳語をあてたアラビア語は「ラスール（複数形はルスル）」であり、一方「預言者*」という訳をあてたのはアラビア語の「ナビイ（複数形はアンビヤーゥ、ナビイユーン）」。使徒*と預言者*の違いについては、以下のような諸説がある：①使徒*は「アッラーから天啓法と共に人々へと遣わされた者」で、預言者*は「それ以前の天啓法へと民を招くことにより、あるいは天啓法の内で既に確立された教えへと導くことにより、彼らの諸事を正すべく、アッラーから啓示を受けた者」[2]。②使徒*は「天啓法の伝達を課せられた自由民男性」で、預言者*は「啓示は受けたものの、その伝達までは課せられなかった者」。③使徒*は「啓典と共に遣わされた者」で、預言者*は「啓典を授かることなく遣わされた者」[3]。つまり以上のいずれの説にせよ、使徒*の方が預言者*よりも特別であり、そのことは預言者*の数が十二万四千人、使徒*の数が三一三人であるという預言者*の伝承にも現れている[4]。ヌーフ*、イブラーヒーム*、ムーサー*、イーサー*、ムハンマド*といった周知の使徒*・預言者*を信仰するのはもちろんのこと、それ以外の知られてはいない使徒*・預言者*についても一般的な形で信仰することは、いわゆる六信の一つ。尚、全人類に向けて遣わされた最後の使徒*「預言者*の封印（部族連合章 40 参照）」ムハンマド*は、クルアーン*の中で「使徒*」「預言者*」と描写されることがほとんどである。

- **慈悲あまねきお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では「ラフマ」という名詞から派生した、「アッ＝ラフマーン」という能動分詞の強調形。「慈愛深きお方」という訳語を当てた「アッ＝ラヒーム」に比べ、全創造物を包含する普遍的な慈悲という属性の持ち主、といったニュアンスが含まれている。[5]

- **ジズヤ：**イスラーム*法治国家内に居住するため、または生命・子孫・財産の保証のため、あるいは停戦状態の維持のため、自発的に支払われる財産のこと[6]。その額

1　ウマル・アル＝アシュカル 152-155 頁参照。

2　イブン・アーシュール 17:297 参照。

3　アル＝アルースィー17:172-173 参照。

4　アル＝バイダーウィー4:133 参照。尚、この伝承は伝承学者の間で脆弱（ぜいじゃく）なものと見なされている。預言者*と使徒*の数に関する真正な伝承については、アッ＝タブリーズィーによる伝承集「灯火（ともしび）の壁龕（へきがん）」の中に収録されている「預言者*の数は十二万四千人で、使徒*の数はその内、三一五人」という伝承が現代の伝承学者アル＝アルバーニーによって真正*と判定されている（5737）。

5　アッ＝タバリー1:125-129 参照。

6　クウェイト法学大全 15:150 参照。

は、法学派や状況により大きな差異がある[1]。啓典（けいてん）の民*、マジュース教徒（巡礼*章 17 の訳注を参照）からジズヤを取ることが出来ることに異論（いろん）の余地（よち）はないが、その他のシルク*の徒、偶像崇拝者（ぐうぞうすうはい）に関しては見解の相違がある。[2]

- **ジブリール:** 大天使ガブリエルのこと。アッラー*からの啓示（けいじ）を使徒（しと）*に伝達する役目を負う。

- **シャイターン：** 悪魔、サタンのこと。語源的には「人間、ジン*、その他の生き物であるかどうかを問わず、反逆・謀反（むほん）するもの」[3]のことを指す。クルアーン*において言及される場合、その反逆と謀反（むほん）の対象は、アッラー*とその宗教である。尚、シャイターンが人類を迷わせることとなった経緯（けいい）については、高壁章 11–18、アル＝ヒジュル章 28–42、夜の旅章 61–65、サード章 71–85 を参照。

- **アッ＝シャウカーニー：** ムハンマド・ブン・アリー・ムハンマド・アッ＝シャウカーニー。イエメン出身の法学者。「クルアーン*解釈（かいしゃく）学における、伝承と智見の両学を集結した全能者の勝利」の著者。ヒジュラ暦*1250 年没。[4]

- **シャウワール月：** ヒジュラ暦*の十月。

- **ジャナーバ：** 法的用語における意味は、精液（せいえき）の放出、性交による「大きな穢（けが）れ」の状態にあること。この状態にある限り、グスル*しなければ、礼拝（れいはい）、タワーフ*、書物としてのクルアーン*に触（ふ）れること、クルアーン*の読誦（どくしょう）、マスジド*に滞在することなどが禁じられる。原語「ジャナーバ」は、語源的に「遠ざかること」。身を清めない限り、礼拝（れいはい）の場に近づけない状態であることから、こう名付けられたとされる。[5]

- **シャハーダ：** 「ラー・イラーハ・イッラッラー、ムハンマドゥッラスールッラー（アッラー以外、真に崇拝（すうはい）*すべきいかなるものも存在しない。ムハンマド*はアッラー*の使徒（しと）*である）」というアラビア語の証言。いわゆる五行の一つで、その内でも一番上位に位置するもの。この言葉を信仰心と共に証言することで、ムスリム*でない者はムスリム*となる。

- **ジャーヒリーヤ：** 「無知」という意味の語から派生した語。通常は、アッラー*とその使徒（しと）*、及び宗教規定についての無知、そして血統の誇（ほこ）り合いや傲慢（ごうまん）さなどに

1　クウェイト法学大全 15:183 参照。

2　前掲書15:166 参照。

3　アッ＝タバリー1:119 参照。

4　アッ＝ズィリクリー6:298 参照。

5　クウェイト法学大全 16:47–54 参照。

よって特徴づけられる、イスラーム*以前のアラブ人の状態を指す[1]。また近代においては、「アッラー*のお導きが到来する以前の、社会の状態。または、アッラー*のお導きを拒否する社会全体、あるいは社会の一部の状態のこと」という、より一般的な解釈も見られる[2]。

- **シャーフィイー法学派：**四大法学派*の一つ。法源学を初めて体系化させたと言われる、ムハンマド・ブン・イドリース・アッ＝シャーフィイー（ヒジュラ暦*204 年没）を祖とする。現在は東アラブ世界、東アフリカ、インド南部、東南アジアなどを中心に分布。

- **アッ＝シャンキーティー：**ムハンマド・アル＝アミーン・ブン・ムハンマド・アル＝ムフタール・アッ＝シャンキーティー。モーリタニア出身の近代の学者で、サウジアラビアにて教鞭を取る。「クルアーン*解釈における解明の光」の著者。ヒジュラ暦*1394 年没。[3]

- **主：**拙訳にて「主」と統一して訳した語は、原語では「ラッブ」。語源的には、支配者、王、物事を改善する者、物事を司る者、何かをその完成に向けて段階的に成長させる者、などという複数の意味が含まれる[4]。クルアーン*の中では大方の場合、「全創造物の主」「天の主」「地の主」といったように、他の語の修飾を受けた形で出現し、この場合の「主」はアッラー*のことを指す。しかし非限定の複数形（イムラーン家章 64、80、悔悟章 31、ユースフ*章 39 参照）だったり、文脈的に明らかにアッラー*以外のものを指している場合（ユースフ*章 23、41「ご主人様」など）、アッラー*ご自身のことを指しているのではない。

- **シュアイブ：**マドゥヤン*の民に遣わされた預言者*。その記述は高壁章 85–93、フード*章 84–95、詩人たち章 176–191、蜘蛛章 36–37 などに見受けられる。

- **巡礼：**ハッジ*とウムラ*の項参照。

- **浄財：**「浄財」という訳語をあてた原語は「アッ＝ザカー」であり、義務の浄財のこと。いわゆる五行の一つで、ムスリム*にとっての義務。イスラーム*法上の定義は「特定の形式において、特定の財産における義務を果たすこと」であり、所有した財産の種類、その数や量、それを所有した期間など、様々な条件が揃って初めて、浄財の義務が生じる。浄財を支払う対象は、悔悟章 60 に明らかにされている通り、貧者*や借金に苦しんでいる者などである[5]。尚「ザカー」には語源

1　イブン・アル＝アスィール 1:317 参照。

2　ユースフ・アッ＝サイード 1:59 参照。

3　アッ＝ズィリクリー6:45 参照。

4　ウマル・アル＝アシュカル 41 頁参照。

5　クウェイト法学大全 23:226–335 参照。

的に、増加、成長などといった意味が含まれている。つまり樹木が適切な形で剪定されることによって、成長の促進や害虫の予防が期待されるように、アッラー*は浄財を支払うことゆえに財産を増加させ、お清め下さるのである[1]。またアッラー*は、浄財を施す者を罪と悪い性質から清め、彼らを成長させ、善い性質と正しい行い*、現世と来世における彼らの褒美を増やして下さる。[2]

- **称賛：**称賛という訳語を当てた「ハムド」は、讃える対象の美点を、愛慕の念をもって表明することを意味する。[3]

- **称賛されるべきお方：**アッラー*の美名の一つ。原語は、称賛する、という意味の語から派生した受動分詞「アル＝ハミード」。アッラー*はその御業ゆえに、称賛に値するお方。そして順境にあっても苦境にあっても、困難にあっても安寧にあっても、常に称えられるべきお方である。[4]

- **称揚：**称える*の項を参照。

- **シルク：**往々にして「多神教」という訳があてられることの多いアラビア語の「シルク」という言葉とその派生形は、拙訳において「シルク」という原語のままに留めておいた。それはシルクという言葉は多神教という概念と全く無縁ではないものの、それとは異なる概念も多く含んでいるために、「多神教」と訳することによって大きな誤解を招く恐れがあるからである。シルクとは、全宇宙の創造・所有・支配など、アッラー*のみが専有する権威や性質において、かれ以外の何かが共同・関与しているなどと考えたり、あるいはアッラー*のみに向けられるべき崇拝*行為を、かれ以外のものに向けて行ったりすることを意味する。この意味においてシルクは、単に複数の神性を認めることだけではない。シルクはイスラーム*の根本教義であるタウヒード*の反対語であり、ムスリム*は信条や崇拝*行為だけに限らず、些細な心の動きなどにおいてもシルク*的なものを避け、タウヒード*を純粋なものにしていく努力を課されている。

- **ジン：**人間のように理性と身体能力を有する、火から創られた霊的存在。人間同様にアッラー*の宗教に従う義務を課されており、来世では現世の行いに応じてその行き先が決定される（家畜章 130、高壁章 179、撒き散らされるもの章 56、慈悲あまねきお方章など参照）。

- **真正：**伝承（ハディース）学用語「サヒーフ」の訳。一般に、以下の条件を満たした伝承は「真正」な伝承と呼ばれ、信頼するに足る典拠と見なされる。①伝承

1　アッ＝タバリー1:369 参照。

2　アッ＝サァディー350 頁参照。

3　イブン・タイミーヤ「ファトワー集」8:378-379 参照。

4　アル＝ハッタービー78 頁参照。

者の鎖が最初から最後まで、途切れずにつながっていること。②それを伝える全ての伝承者が、正常な理性と良識を備え、信頼性に足る（つまり嘘つきでもなく、嘘つきの嫌疑をかけられてもおらず、大罪*も犯さず、それ以外の罪深い行為にも固執しておらず、また正統な教義からの逸脱も見られず、かつ素性不明でもない）成人*ムスリムであること。③それを伝える全ての伝承者が、伝達行為において正確さを備えていること。④伝承本文の内容に、それよりもっと信頼性の高い伝承の内容と反する部分がないこと。⑤伝承本文の内容に、その信頼性を損なうような要素が含まれてはいないこと。[1]

- **神聖月：**ムハッラム月*、ラジャブ月*、ズル＝カァダ月*、ズル＝ヒッジャ月*の四つの月のこと。アラブ人の間ではイスラーム*以前にも、これらの月における戦闘は禁じられていた[2]。尚、神聖月における戦いの禁止は悔悟章 36 によって撤回された、という説と、応戦の時以外には神聖月に戦ってはならない、という説がある[3]。

- **ズィハール：**「ズィハール（「背中」という意味の「ザハル」が由来）」とは、ジャーヒリーヤ*からイスラーム*初期にかけてアラブ社会に存在していた悪習の一つで、夫が妻に対し「お前は私にとって、私の母親の背中同然だ」と言うこと。より一般的な定義としては、「夫が妻（または彼女の一部）を、彼にとって永久に結婚が禁じられる関係にある女性、あるいはそのような女性の身体部分のうち、『背中、腹、腿』など、彼が見ることを禁じられる部位になぞらえること」。こうすることで、夫は妻を自分にとって妻でもなく、かと言って完全に離婚するわけでもないという窮地に置いた。この行いは離婚とは見なされない禁じられた行為・大罪であり、贖罪を行わなければならない（抗弁する女章 2-3 参照）。そして贖罪を行うまでは、妻との関係が禁じられる。[4]

- **崇拝：**「崇拝」という訳語を当てた原語は「イバーダ」。イブン・タイミーヤ*は、イスラーム*用語としての「崇拝」を、「アッラー*が愛でられ、お喜びになる、あらゆる内面的・外面的言動を含む、全ての物事に対する集合的名称」と定義づける[5]。この「イバーダ」をアッラー*のみに向け、その他のいかなる対象にも逸らさないことが、イスラーム*の重要な根本教義である[6]。

- **ズフル：**五つの義務の礼拝の一つで、正午過ぎの四ラクアの礼拝。太陽が子午線を通過した後から始まり、ある物の影がそれ自身と同じ長さにまで達した時点で

---

1 マフムード・アッ＝タッハーン 44 頁参照。
2 アッ＝サァディー336 頁参照。
3 イブン・カスィール 4:149 参照。
4 クウェイト法学大全 29:189-208 参照。
5 イブン・タイミーヤ「ファトワー集」1:149 参照。
6 ムヤッサル 1 頁参照。

その時間帯は終了する（影がそれ自身の倍の長さに達した時点で終わるという、少数派の見解もあり）。[1]

- **全てを請け負われるお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では、任せる、委ねる、といった意味の語から派生した受動分詞「アル＝ワキール」。アッラー*は全てのものを存在させられた後、その諸事を見守られ、存続に必要なものを供給され、滅亡からお守りになるお方。人はこのような存在にこそ全てを委ね、依拠しなければならない[2]。アッラーにこそ全てを委ねる*の項も参照。

- **全てを司るお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では、立つ、行う、といった意味の語から派生した能動分詞「アル＝カーイム」、あるいは強調能動分詞「アル＝カイユーム」。後者の方が意味的に強い。アッラー*は自ら存立され、かつ他の存在を存続させられるお方。かれは何も必要とはされないが、全ての被造物は、かれの思し召しなしでは存続できない。[3]

- **全てを包囲されるお方：**悉く包囲されるお方の項を参照。

- **全てを委ねる：**アッラー*にこそ全てを委ねるの項を参照。

- **スーラ：**クルアーン*における章のこと。クルアーン*は百十四のスーラ*からなる。

- **スライマーン：**ソロモンのこと。イスラーム*では預言者*の一人に数えられる。預言者*ダーウード*の息子。雌牛章 102、預言者*たち章 78–79、81、蟻章 15 以降、サバア章 12–14、サード章 30–40 などにおいて、彼に関する描写が見受けられる。

- **ズル＝カアダ月：**ヒジュラ暦*の十一月。神聖月*の一つ。

- **ズル＝カルナイン：**原語では、「二本の角を持つ者」という意味。尚、その名称の由来については、「髪を二本に結わえていた」「東西の果てに到達した」といった説がある[4]。この人物の特定については、古くから学者の間で大きな見解の相違があるが、確実なのはクルアーン*の中で述べられているように、強大な力と正しい信仰を備えた者であったということである。

- **ズル＝キフル：**一説には旧約聖書に登場する預言者*エゼキエルとも言われるが、詳細は不明。アラビア語では語源的に「順守する者」といった意味合いがあるが、それは一説にアル＝ヤサア*の呼びかけに答えて彼の忠言を順守する者となり、イスラーイールの子ら*に対する彼の後継者となったためとされる[5]。

---

1 クウェイト法学大全 7:172–173 参照。

2 ウマル・アル＝アシュカル 204 頁参照。

3 前掲書225 頁参照。

4 アル＝クルトゥビー5:34–36 参照。

5 イブン・アーシュール 17:129–130 参照。

- **ズル＝ヒッジャ月：**ヒジュラ暦*の十二月。神聖月*の一つで、その上旬にハッジ*の主な行事が行われる。

- **スンナ：**この語の定義は、伝承学者・法学者・法源学者の間で異なるが、拙訳では一貫して「預言者*ムハンマド*に帰せられる言動と彼の認証したこと、及び彼の外面的・内面的特徴」という伝承学の定義に沿ったものとした。

- **即座に計算されるお方：**原語では「サリーウ・アル＝ヒサーブ」または「アスラウ・アル＝ハースィビーン」。アッラー*はその僕のあらゆる行いをご存知になり、それに対して適切にお報いになられる[1]。復活の日*、現世での行いの裁きを受ける僕の数は膨大であるが、アッラー*はその清算を即座に、かつ容易に行われる[2]。清算者*の項も参照。

- **制圧されるお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では「アル＝ジャッバール」。この美名には、以下のような複数の意味が含まれるとされる：①「育む（ジャバル）」という意味。つまり弱い者、貧しい者、虐げられている者などの状況を改善して下さるお方。②「制圧、強制（イジュバール）」という意味。つまり、そのご意思を有無を言わせず実行し給うお方で、全創造物はかれに服している。③「高い」という意味。[3]

- **清算者：**アッラー*の美名の一つ。原語では「アル＝ハスィーブ」。この美名は主に二つの意味を含む、と言われる。一つは、アッラー*が現世における僕の行いをその大小を問わず数え上げられ、来世においてはそれにお報いになるお方だというもの。もう一つは、その御力とご援助さえあれば、信仰者が敵を打ち負かすに十分なお方、という意味である[4]。即座に計算されるお方*の項も参照。

- **成人：**イスラーム*における成年の徴候は、女性の場合、初潮と妊娠がある。また男女に共通する徴候としては一般的に、精通を見るか、ヒジュラ暦*で十五歳（他説もあり）に達するか、陰毛が生えるかの三つがある[5]。

- **聖なるお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では「アル＝クッドゥース」。アッラー*は、あらゆる不足や欠陥といったことから無縁で、清く、祝福にあふれたお方。伴侶、子供、同位者などを有することから無縁な存在であり、その徳と善性によって賛美される、完全な属性を備えたお方である。[6]

---

1 ムヤッサル 31 頁参照。

2 ウマル・アル＝アシュカル著「アッラーの美名」166 頁参照。

3 前掲書74–76 頁参照。

4 前掲書164–167 頁参照。

5 ムヤッサル 31 頁参照。

6 ウマル・アル＝アシュカル 51 頁参照。

- **戦利品：**イスラーム*における戦利品の種類には様々なものがあるが、以下に示すのはその一部である：「ファイゥ」は、ムスリム*が戦闘なしに手に入れた戦利品。「ガニーマ」は、戦闘によって手に入れた戦利品。「ナファル（複数形はアンファールで、スーラ*名にもなっている）」は、戦いへと鼓舞すべく、ムスリム*の指導者が通常の戦利品とは別に、戦闘員のために特別に用意するもの。[1]

- **創成者：**アッラー*の美名の一つ。原語では「アル＝ファーティル」であり、語源的には単なる創造者という以外にも、「何かを裂いたり、割ったりして創造する者」というニュアンスが含まれるとされる[2]。

- **創生者：**アッラー*の美名の一つ。原語では「アル＝バーリウ」。語源的には単なる創造者という以外にも、「分離させたり、創造することによって、何かから別のものを抽出する」という意味合いが含まれるという[3]。アッラーは、欠損などから無縁（バリーウ）な創造をされ、かつ創造を互いに異なる形と姿において特徴づけられたお方である[4]

- **大罪：**原語では「カビーラ（複数形はカバーイル）」。具体的には、それを犯すことで現世においてイスラーム*法における刑罰が適用されたり、あるいは来世において地獄の懲罰を警告されていたり、またアッラー*のお怒りを招いたりすることとされているもの。具体例としてはシルク*、殺人、姦淫、魔術、利息*、親不孝、嘘の誓いなどがある。

- **タウヒード：**語源的には「何かを一つにすること」という意味。イスラーム用語上は、「アッラー*だけに特徴づけられる物事において、かれだけを唯一とすること」。「アッラー*だけに特徴づけられる物事」には大きく分けて、①主性、②神性、③美名と属性という三つの分野がある。①は、アッラー*のみが創造主で、所有者で、この世を司るお方であるという信じること。②は、そのような存在であるアッラー*だけを崇拝*し、それには値しない他の何ものも崇拝*しないこと。③は、アッラー*がその啓典や使徒*の言葉でご自身を表した美名・属性において唯一であることを認め、それらの美名・属性を改ざんしたり、実質がないと見なしたり、「アッラー*がいかにそのようであるのか？」と考えたり、被造物に譬えたりすることなく、アッラー*が肯定し給うたものを肯定し、否定し給うたものを否定すること。[5]

1　クウェイト法学大全 32：227-228 参照。

2　アッ＝タバリー4:3143 参照。

3　アッ＝ズバイディー1:145 参照。

4　アッ＝ラーズィー1:516 参照。

5　イブン・ウサイミーン「ファトワー・論説集」6:33-34 参照。

- **称える：**拙訳にて、便宜上「称える」という表現をあてた原語は、動詞「サッバハ」の派生形。その語源的な意味は、何かを遠ざけたり、隔絶させたりすること。イスラーム用語上は、アッラーをかれに相応しくないあらゆる性質から無縁で崇高な存在として称えること[1]。

- **正しい行い：**原語では「アル＝アマル・アッ＝サーリフ」及びその派生形。具体的にはアッラー*に服従し、その法を遵守し、そこにおいて定められた義務を果たし、禁じられたものを避けること。あるいはアッラー*の教えに則った善行のこと[2]。

- **正しい者：**拙訳において「正しい者」という訳語をあてたアラビア語は、「サーリフ（複数形はサーリフーン）」。「正しい行い*」を行う者のこと。アッ＝タバリー*はこの語を、「アッラー*への義務を果たす者」と説明している[3]。

- **ターグート**：アッラー*を差し置いて崇拝*されたり、服従されたりする全ての対象のこと。その意味では偶像であるか、シャイターン*であるか、あるいは人間であるかを問わず、そのような状態にあるもの全てがこの概念の中に含まれることになる。[4]

- **アッ＝タバリー：**ムハンマド・ブン・ジャリール・アッ＝タバリー。タバリスターンに生を受ける。クルアーン*学に限らず、アラビア語学、法学、伝承学、歴史学などにも精通。代表作「クルアーン*のアーヤ*釈義に関する明証大全」は、後世のあらゆるクルアーン*解釈書に大きな影響を及ぼしたと言われるほど傑出した大著。預言者*ムハンマド*の伝承を始め、初期のクルアーン*解釈学者の言葉を伝承経路をもって提示した上でそれらを分析・吟味する、という当時としては画期的な手法で全クルアーンに解釈を施した。ヒジュラ暦*310年没[5]。

- **タービイー：**教友*の次世代。数多くの定義があるが、一般的には教友*と出会ったことがあるムスリム*のこと。[6]

- **タービウーン：**「タービイー*」の複数形。

- **タブークの戦い：**ヒジュラ暦*9年、タブークで起こった、マディーナ*からのムスリム*遠征軍と、ローマ軍との戦い。ムウタの戦い*での敗北の後、ローマ軍はム

---

1 アッ＝タバリー1:311参照。

2 アッ＝タバリー1:526、ムヤッサル12頁参照。

3 アッ＝タバリー1:720参照。

4 前掲書2:1499-1500参照。

5 アッ＝ズィリクリー6:69参照。

6 ムハンマド・アル＝フダイリー1:45-47参照。

スリム*軍の壊滅を目的に、大軍を整えていた。その知らせを受け取った預言者*は、先手を打ってローマ帝国の国境を攻撃すべく、マディーナ*だけでなく、周辺のアラブ遊牧民部族やマッカ*の民にも、タブーク出征の命令を出した。時節は酷暑で、果物が熟す頃、しかもタブークまでの旅程は長く、困難であった。また過去に例を見ない三万もの兵数を率いての遠征ではあったが、乗り物用のラクダや食料品・水は不足していた。しかし預言者*自らが率いるムスリム*軍がタブークに入ると、ローマ帝国国境周辺にいたローマ軍は恐れをなして退却し、武器を交えることなくムスリム*軍が勝利を得ることとなった。この結果、イスラーム*国家の勢力は拡大し、ローマ帝国周辺のアズルフ、ジャルバーゥ、アイラといったキリスト教都市国家がイスラーム*国家にジズヤ*を払うことによる協定を申し出た。タブークの戦いの描写は悔悟章に詳しく、遠征の命令に応じなかった多くの偽信者*たち、あるいは一部の信仰者たちについても、その様子の詳細が描かれている。[1]

- **タヤンムム：**語学的には「何かを意図する」。法学的には「特定のやり方において、顔と両手を清浄な砂で撫でること」。身体を清めるための水の使用が何らかの理由により不可能な場合、ムスリム*は砂を用いて顔と両手を撫でることにより、ウドゥー*やグスル*の代用とすることが出来る[2]。婦人章 43、食卓章 6 も参照。

- **タワーフ：**カァバ神殿*の周りを黒石が嵌め込まれている柱から始め、逆時計周りに七周回る崇拝*行為のこと。ハッジ*とウムラ*における必須行為の一つでもある。

- **寵愛深いお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では「アル＝ワドゥード」。愛する、という意味の語から派生した強調能動分詞。アッラー*は様々な恩恵によって、その僕たちにその愛情を示されるお方、そして信仰者や正しい*者たちを特別に寵愛され、罪深い者たちにもまたそのご慈悲とお赦しによって、慈愛深さを示されるお方である。またアッラー*ご自身、寵愛し給うだけではなく、信仰者たちによって愛される存在でもある。[3]

- **天使：**アッラー*の崇拝*のため、光から創られた存在。理性を備え、欲望を有しない[4]。羽を有し（創成者*章 1 参照）、様々な任務を負う天使がいる。啓示を使徒*へと伝達する役割のジブリール*、雨に関する任務を負うミーカーイール*、復活の日*に角笛を吹き鳴らすイスラーフィール（家畜章 73 参照）など名称が知られている者たち以外にも、人間に死が訪れた際に魂を引き抜く役目の天使たち（家畜章 61 参照）、人間を守る役目の天使たち（雷鳴章 10-11 参照）、人間の善

1　ムバーラクフーリー429-438 参照。

2　クウェイト法学大全 14:248-273 参照。

3　ウマル・アル＝アシュカル 186-187 頁参照。

4　イブン・アビー・アル＝イッズ 284 頁参照。

悪の行為を記録する役目の天使たち（カーフ章 17-18 参照）、天国の番人と地獄の番人（集団章 71、73 参照）、アッラー*の御座を運ぶ天使たち（赦し深いお方章 7 参照）などがいる[1]。天使たちを信仰することは、いわゆる六信の一つである。また、フード*章 69 以降、マルヤム*章 17 以降などにもあるように、天使は人間の形を借りることもできる。

- **統制されるお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では「アル＝ムハイミン」。創造物の行い、糧、寿命など全ての事柄を、全てお見通しになるその知識、その支配力、保護力によって、統制されるお方。[2]

- **貴いお方：**アッラー*の美名の一つ。原語は「アル＝カリーム」あるいは「アル＝アクラム」。気前がよく、偉大で、赦し深いお方。アッラー*はそれに値しない者にも恩恵を授けられ、乞われる前に善を施し給い、罪をお赦しになり、過ちを犯した者を大目に見られるお方である。[3]

- **独創者：**アッラー*の美名の一つで、クルアーン*の中では「諸天と大地の独創者」という形で、二回（雌牛章 117、家畜章 101）だけ登場する。原語では「アル＝バディーウ」。語源的には創造者であるという以外にも、「前例のない形で、新しく画期的な創造をする者」といった意味合いが含まれる。[4]

- **トーラー：**原語では「タウラート」。ムーサー*がシナイ山でアッラー*から授かった啓典のこと。ムスリム*はムーサー*を偉大なる使徒*の一人として信じ、彼に啓典が下されたことも信じるが、現存しているトーラーは改竄されたものと見なしている。イスラーム*における啓典への信仰については、クルアーン*の項を参照。

- **読誦のサジダ：**「サジダ*のアーヤ*」を読誦した時に義務づけられる、あるいは推奨されるサジダ*のこと。マーリキー学派*・シャーフィイー学派*・ハンバリー学派*では推奨される行為とされ、ハナフィー学派*では義務と見なされる。クルアーン*における「サジダ*のアーヤ*」の特定には、学者によって微妙な見解の相違がある。サジダ*の回数は一回だけで、大半の学者はサジダ*の前後に「アッラーフ・アクバル（アッラーは偉大なり）」と唱えることを義務としている。そしてサジダ*する際には、礼拝における条件と同じ条件が求められ、礼拝で勧められていることと同じことが勧められる。[5]

1　ヒシャーム・ブン・アブド・アル＝カーディル 187-192 頁参照。

2　ウマル・アル＝アシュカル 67-68 頁参照。

3　前掲書168-169 頁参照。

4　アッ＝タバリー1:663 参照。

5　クウェイト法学大全 24:212-221 参照。

- **奴隷：**当時のアラビア半島に限らず、奴隷はイスラーム*が到来する以前から世界各地に存在していた。イスラーム*は奴隷制を積極的に肯定し、勧めているわけではなく、実際にはそれを除去するための多くの扉を開いた。イスラーム*において奴隷の解放は強く推奨された善行の一つであり、また同時に、殺人を始めとした様々な罪の贖罪として定められてもいる。

- **ナディール族との戦い：**ヒジュラ暦*4 年、ムスリム*たちがマディーナ*近郊に住むユダヤ教徒*のナディール族を武装包囲し、最終的にはマディーナ*から追放した出来事。そもそもマディーナ*のユダヤ教徒*たちは預言者*ムハンマド*のイスラーム*国家と安全協定を結んでいたが、徐々にムスリム*に対する敵意を露わにしていき、このナディール族に至っては預言者*の暗殺を企んだ。それが判明した後、預言者*は彼らがマディーナ*を出て行くよう命じるが、彼らは偽信者*らにそそのかされ（集合章 11 以降参照）、それを拒む。その結果、ムスリム*たちは彼らの集落を六日間、あるいは十五日間に渡って武装包囲し、最終的には彼らが降伏し、マディーナ*を出て行くということで合意に至った。彼らはハイバルやシャーム地方（現在のパレスチナ、シリア周辺地域）へと移住し、彼らが運び切れなかった多大な動産、武器などは、彼らの住居と共にムスリム*によって没収された[1]。この戦いの様子は、集合章に詳しく描写されている。

- **七大読誦法：**アッラー*からジブリール*を介して預言者*に啓示されたクルアーン*だが、それにはただ一通りの読み方だけしかないのではない。クルアーン*の一部には、正しい伝承に則った複数の読み方が存在する。現在、最も信頼性が高いと目されている七大読誦法は、そもそもイブン・ムジャーヒド（ヒジュラ暦*324 年没）がその著「七つの読誦法」において厳選した、七人の学者たちから伝わるもの。一般に正しい読誦法とは、①伝承経路が真正*であること、②アラビア語法に則していること、③筆記的見地からウスマーン*版のクルアーン*写本表記と矛盾しないこと、の三つの条件を満たしたものだが、これは彼ら七人のみに限定されるわけではない。ただ一般に、この七人から伝わる読誦法はムタワーティル*として認識されている。そして更にここに、信憑性の高い別の三人を加え、十大読誦法とする場合もある。なお読み方の相違点は、単語そのものであったり、単語の派生や活用に関するもの（ウスマーン*版のクルアーン*写本原本には、ある種の似通った文字どうしを区別する文字記号や、語の派生形や活用形を明確に示すアクセント記号などが存在していなかった）であったり、発音に関するものであったりするが、注意すべきは正しい読誦法間の相違が意味的な矛盾を抱えることはなく、むしろ意味の多様性や説明を提供していることである[2]。

1　ムバーラクフーリー294-297 参照。

2　アッ＝ルーミー「クルアーン諸学研究」341 頁以降参照。

- **偽信者：**原語は「ムナーフィク」で、抜け道のある穴、という意味の語に由来すると言われる[1]。つまり表面上はイスラーム*を受け入れることで、内に秘めた不信仰の抜け道としている者のこと。これは単なる不信仰者*よりも悪いとされ、クルアーン*の中でも最高の懲罰を警告されている（雌牛章 145 参照）。尚、預言者*ムハンマド*は、偽信者の特徴として「何かを託されれば裏切り、喋れば嘘をつき、約束すれば破り、争論になれば放逸である」ことを挙げている[2]が、イスラーム*の基本的信仰を信じている限りにおいて、これらの「行為的な特徴」ゆえに偽信者と見なされることはない。

- **忍耐：**アッラー*ゆえに忍耐することは、最も完全な忍耐である。それはつまり、①アッラー*への服従において忍耐し、②アッラー*への反抗に対して自らを制することにおいて忍耐し、③アッラー*の定め給うた苦難において忍耐することである。[3]

- **ヌーフ：**旧約聖書のノア。イスラーム*における使徒*の一人。彼とその民についての記述は、高壁章 59-64、フード*章 25-48、信仰者たち章 23-30、詩人たち章 105-122、整列者章 75-82、月章 9-17、ヌーフ章などに見受けられる。

- **ハイバルの戦い：**フダイビーヤの和議*によるクライシュ族*との休戦中のヒジュラ暦*7 年ムハッラム月*に、マディーナ*のムスリム*軍がマディーナ*北部約百キロの地点にあった町、ハイバルを攻略した戦いのこと。ハイバル*は、部族連合の戦いやクライザ族の謀反を画策したユダヤ教徒*の本拠地であり、彼ら自身もムスリム*たちとの戦いを準備していた。この遠征に参加したのは、フダイビーヤの和議*に立ち会った千四百名のみで、その時に預言者*の命令に応じて出発しなかった者たちは、遠征の参加を拒否された（勝利章 15 を参照）。ハイバルにはいくつかの砦があり、ユダヤ教徒*らはその砦を転々として篭城したが、ついにムスリム*軍の前に降伏する。これによってムスリム*軍は、莫大な戦利品*を得た。ムスリム*側の戦死者は十数名、ハイバル側の戦死者は約九十名だった。[4]

- **ハウワーゥ：**アーダム*の妻。いわゆるイブのこと。イスラーム*においては、彼女がアーダムを唆して禁断の実を食べさせたとは信じられていない。

- **アル＝バガウィー：**アル＝フサイン・ブン・マスウード・ブン・ムハンマド・アル＝バガウィー。ホラーサーン地方出身のクルアーン*解釈・伝承学・シャーフィイー派*

1　アッ＝ラーギブ 503 頁参照。

2　アル＝ブハーリー33 参照。

3　アッ＝サァディー895 頁参照。

4　ムバーラクフーリー364-379 参照。

法学者。豊富な伝承学の知識によって著され、優れたクルアーン*解釈書の一つとしての評価が高い「クルアーン解釈における降示の表徴」の著者。ヒジュラ暦*510 年没。[1]

- **アル＝ハサン：**アル＝ハサン・アル＝バスリー。タービイー*。その高弟カターダ*と並び、当時のバスラにおける傑出したクルアーン*解釈・伝承学者の一人。ヒジュラ暦* 110 年没。[2]

- **ハッジ：**いわゆる大巡礼のこと。マッカ*のカァバ神殿*及びその周辺の関連する場所を、ある特定の時期に、ある特定の形式において訪問すること。精神的に健常な成人*の自由民ムスリム*は、旅行の往復必要経費、交通手段、身体的健康、道の安全、十分な時間を確保できる場合において、ハッジを義務づけられる。尚、扶養義務のある者は、自分が留守の間、扶養する者たちの必要経費を確保していることも要求される。また女性の場合、上記の条件以外にも、マハラム*の同伴、イッダ*中ではないことも条件づけられる。雌牛章 196 以降、イムラーン家章 97 も参照。[3]

- **バドルの戦い：**イスラーム*の命運を分けることになった、ヒジュラ暦*2 年における、マディーナ*のムスリム*軍と、マッカ*の不信仰者*軍の戦い。預言者*はシャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）からマッカ*へ帰る途中の、クライシュ族*の莫大な富を積んだ隊商の知らせを受け、その襲撃のために三百十数名のムスリム*を率いてマディーナ*を出陣する。しかしそれを知った隊商の指導者アブー・スフヤーン*がマッカ*に援軍を要請したことにより、ムスリム*たちは隊商ではなく、アブー・ジャハル*が指揮する兵数一千に及ぶマッカ*からの援軍と戦うことになる。戦闘のために準備して出軍してきたマッカ*軍に比べ、ムスリム*たちは数でも装備でも大きく劣っていたが、勝利はムスリム*たちのものとなった。ムスリム*側の戦死者が十四名だったのに対し、マッカ*側は七十名の戦死者と七十名の捕虜という大きな被害を受けた[4]。バドルの戦いの様子は、戦利品*章に取り上げられている。

- **ハナフィー法学派：**四大法学派*の一つ。アブー・ハニーファ（ヒジュラ暦*150 年没）を祖とし、当時のイラク地方を起点に広まった法学派。現在は、ユーラシア・インド亜大陸一帯を中心に広く分布。

1　アッ＝ズィリクリー2:259-260 参照。

2　イブン・ハジャル「修訂の簡約」99 頁参照。

3　クウェイト法学大全 17:27-38 参照。

4　ムバーラクフーリー204-225 参照。

- **ハラーム・マスジド：**いわゆるハラーム・モスクのことで、イスラーム*第一の聖マスジド*。マッカ*に位置し、その中心にカァバ神殿*を擁する。

- **ハールーン：**アーロンのこと。ムーサー*の兄弟で、イスラーム*では預言者*の一人に数えられる。高壁章 150-151、ター・ハー章 42-48、90-94、詩人たち章 13、81、整列者章 114-122 などに彼に関する描写が見受けられる。

- **ハンバリー法学派：**四大法学派*の一つ。アフマド・ブン・ハンバル（ヒジュラ暦*241 年没）を祖とし、現在は主にアラビア半島を中心に分布している。

- **庇護者：**アッラー*の美名の一つ。原語では「アル＝ワリイ」あるいは「アル＝マウラー」。一般には、全世界・全創造の諸事を司どり、ご助力を下さるお方、という意味。ただしアッラー*は、その恩恵と善を、シルク*や不服従という仇で返す不信仰者*の庇護者ではあられない。アッラー*は信仰者に対して特別のご愛顧とご加護、ご援助をもって見守って下さるのであり、アッラー*こそは信仰者にとっての真実かつ唯一の庇護者である。[1]

- **ヒジュラ暦：**預言者*ムハンマド*がマッカ*からマディーナ*に移住*した年（西暦 622 年）を元年とする、太陰暦のこと。十二の月から成立するが、各月は二十九日か三十日しかなく、太陽暦の一年と比べると十一日ほど短くなる。

- **貧者：**拙訳にて「貧者」という訳をあてた「ミスキーン（複数形はマサーキーン）」は、十分な必需品を所有していない者のことであり、一方「困窮者*」という訳をあてた「ファキール（複数形はフカラーウ）」は、全くの無所有者という説がある[2]。尚、この意味上の差異は、これら二つが並べて言及された場合の話であり、お互いに独立して言及された場合には、ほぼ同様の意味（一般的な意味での「貧しい者」）を指す、というのが解釈学者らの通則である[3]。

- **ファジュル：**五つの義務の礼拝の一つで、夜明け前の二ラクアの礼拝。その開始時刻は、夜空に白い光が地平線と平行に広がり始める時で、終了時刻は太陽が現れる前まで。しかし正当な理由がない限り、空が白み始める頃までは遅らせるべきではない、というのが一般的な学者の見解。[4]

- **フィルアウン：**ムーサー*の時代のファラオのこと。これは固有名詞ではなく、当時のエジプトを支配していた不信仰な王の通称であった。[5]

---

1 ウマル・アル＝アシュカル 213-214 頁参照。

2 ムヤッサル 196 頁参照。

3 アッ＝シャンキーティー5:195 参照。

4 クウェイト法学大全 7:171-172 参照。

5 イブン・カスィール 1:258 参照。

- **不可視の世界：**原語では「ガイブ」。天国や地獄、復活の日*など、啓示によってでしか知り得ない、全ての秘められた物事を指す[1]。厳密には視覚のみでなく、他の感覚をもってしても啓示なしには到達出来ない知識の領域のことだが、拙訳では便宜上、一律「不可視の世界」という訳をあてた。

- **福音：**原語は「インジール」。使徒*イーサー*がアッラー*から授かった啓示のこと。ムスリム*はトーラー*と同様に福音も、後に改竄を蒙ったと信じる。イスラーム*における啓典への信仰については、クルアーン*の項を参照。

- **不信仰だった者、不信仰である者：**不信仰者*の項を参照。

- **不信仰者：**覆い隠す、という意味の「カファラ」から派生した能動分詞。拙訳では便宜上「不信仰者」あるいは「不信仰だった者たち」「不信仰に陥った者たち」という訳で統一したが、そもそもは意図的であるかどうかを問わず、「真理を知った後に、それを否定して覆い隠す者」という意味合いが含まれている。

- **不信仰に陥った者：**不信仰者*の項を参照。

- **不信仰の民：**不信仰者*の項を参照。

- **不正：**拙訳において「不正」という訳語をあてたアラビア語は、「ザラマ」とその派生形。語学的には「何かをそれに相応しくない場所に置くこと」であるが、その意味で「不正」の最たるものは「アッラー*に対し、かれに相応しくない考えを持ったり、言動を示したりすること」である。「シルク*」の項、ルクマーン章13も参照。

- **フダイビーヤの和議：**ヒジュラ暦*6 年ズル＝カァダ月*、マディーナ*のイスラーム*国家とマッカ*のクライシュ族*との間で結ばれた条約。教友*たちとマッカ*へ巡礼*する夢を見た預言者*は、（最有力説によれば）総数千四百というムスリム*を率いて、ウムラ*をするだけためにマッカ*へと向かう。しかしムスリム*たちのマッカ*入りを警戒したクライシュ族*の動向を受け、ムスリム*たちはマッカ*近郊のフダイビーヤの地に留まり、両者の仲介役や使者を介して、交渉が始まる。一時は、ムスリム*側の使者ウスマーン*がマッカ*で殺害されたとの噂が広まったことで、マッカ*へと攻撃をしかけ、絶対に退却しないとの誓い（リドワーンの誓い）が預言者*とムスリム*たちの間で交わされたが、それは真実ではないことが明らかになり、結局フダイビーヤの地にて預言者*とクライシュ族*との間の和議が結ばれた。それは十年間の休戦協定であり、その期間内は誰もが、両陣営のどちらとでも自由に同盟関係を結ぶことが出来た。しかし一方で、ムスリム*たちがウムラ*を翌年に延期することや、新規にマッカ*からマディーナ*にやって来

1　アッ＝タバリー1:184-185、ムヤッサル 2 頁参照。

るムスリム*はマッカ*に送還される一方、マディーナ*からマッカ*に逃れた者はマディーナ*に送還不要とする、一見マディーナ*側には不利な条件も含まれていた。これは一部のムスリム*にとって屈辱的な出来事だったが、これがムスリム*たちにとっての「勝利」であることを宣言する啓示（勝利章）が下ると、彼らの心は和らいだ。そしてムスリム*たちは翌年ウムラ*を行い、休戦期間が守られた二年間にムスリム*の数は激増することになる。尚この協定は、マディーナ*との同盟関係にあったフザーア族を襲ったバヌー・バクル族に対し、クライシュ族*が秘密裏に援軍を送ったことで破棄された。[1]

- **復活の日：**原語では「ヤウム・アル＝キヤーマ」で、人々がアッラー*の御前に立つ日、あるいは人々が墓の中から立ち上がる日のこと[2]。詳しい意味については、最後の日*の項を参照のこと。

- **フード：**「アード*」の項を参照のこと。

- **フナインの戦い：**ムスリム*軍がマッカ*開城から約一ヵ月後のヒジュラ暦*8 年、彼らに対する戦闘の準備を始めていたターイフ方面のハワーズィン族とサキーフ族を討伐するために遠征した戦い。総勢一万二千名という大軍を誇ったムスリム*軍であったが、多勢ゆえの慢心も災いし、フナイン渓谷で敵軍の弓兵隊に奇襲攻撃される。ムスリム*軍は一時敗走しかけたが、アッラー*のご助力により形勢を立て直し、最終的には勝利を収めた[3]。悔悟章 25-26 も参照。

- **腐敗：**「腐敗」という訳語をあてた「ファサダ」及びその派生形は、そもそも「正常な状態からの逸脱」を表す[4]。一般的には全ての害悪を指す言葉。尚「地上で腐敗を働く」ことの具体例としては、信仰者たちを唆して戦争や騒乱を誘発させたり、不信仰者*に肩入れして、信仰者たちの秘密を彼らに漏らしたりすることなどのほか、アッラー*への不服従を露わにしたり、イスラーム*を蔑んだりすることなどがある。このようなことは全て、混乱を生じしめ、世界の秩序を損なう類いのものである。[5]

- **平安なお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では「アッ＝サラーム」。アッラー*は、その本質、属性、御業において完全なお方で、あらゆる不足、欠陥、悪などといったことから、安泰なお方である。[6]

---

1 ムバーラクフーリー337–348 参照。

2 イブン・マンズール 12:496 参照。

3 アッ＝タバリー5:3959–3963 参照。

4 アッ＝ラーギブ 381 頁参照。

5 アル＝バイダーウィー1:169 参照。

6 ウマル・アル＝アシュカル 57 頁参照。

- **包囲されるお方：** 悉く包囲されるお方*を参照。

- **報復の主：**アッラー*はかれに逆らう者を、いかなる者にも出来ないような激しい懲罰でもって、罰し給うお方である。[1]

- **保障されるお方：**アッラーの美名の一つ。原語「ムウミン」には語源的に、大きく分けて「保障、安全」「承認、証明」という二つの意味がある、とされる。つまりアッラー*は、その創造物に安全を授けて下さるお方であり、またご自身の唯一性、使徒*たちの正直さを明証によって証明されるお方である。[2]

- **誉れの夜**：原語では「ライラトゥ・アル＝カドゥル。」一年を通して最も祝福と報奨にあふれた一夜と見なされる。アッラー*が預言者*ムハンマド*にクルアーン*をお授けになるべく、それを守られし碑板*から、七層からなる天の最下層にまで下し給うたのがこの夜のことであった（定説によれば、その後クルアーン*は二十三年間に渡り、そこから預言者*ムハンマド*に徐々に下された[3]）。尚、この夜が「カドゥル」と名付けられた所以には、アッラー*がそこにおいて毎年起きる定め（カダル）を天使*に知らせるからである（そもそも創造の原初から終わりまでに起きることは全て、守られし碑板*に記されている）とか、またはその偉大さと高い誉れ（カドゥル）ゆえであるなどといった説がある。毎年、ラマダーン月*奇数日のいずれかの夜にあたるとされるが、その夜の崇拝*行為や善行は八十年分以上の価値がある[4]。煙霧章 3-4 とその訳注、跪く章 29 の訳注、誉れの夜章も参照のこと。

- **マグリブ：**五つの義務の礼拝の一つで、日没後の三ラクアの礼拝。その時間帯は日没後に始まり、夕焼けが消え去ることによって終了する。[5]

- **マスィーフ：**いわゆる「メシア」のこと。アラビア語の「マスィーフ」は、「マサハ（消す、触れる）」という動詞の派生形であるという説が有力である。そこからその意味は「罪や穢れを払拭された者」とか、「祝福でもって触れる者」である、などという解釈がある。[6]

- **マスジド：**いわゆる「モスク」のこと。原語ではそもそも「マスジド」であり、語源的には「サジダ*する場所」の意味。日本語では、様々な言語を経由して変化した「モスク」が外来語として定着したが、拙訳では「マスジド」と統一表記している。

---

1 アッ＝シャルビーニー1:161 参照。

2 ウマル・アル＝アシュカル 61-66 頁参照。

3 イブン・カスィール 8:441 参照。

4 アッ＝ラーズィー11:229-230 参照。

5 クウェイト法学大全 7:174 参照。

6 アッ＝タバリー3:1787 参照。

- **マーリキー法学派：**四大法学派*の一つ。マーリク・ブン・アナス（ヒジュラ暦*179年没）を祖とし、当時のマディーナを中心に広まった法学派。現在は、北・西アフリカ世界を中心に分布。

- **マーリク：**マーリク・ブン・アナス。マーリキー法学派*を参照。

- **マッカ：**日本語では「メッカ」としても知られるが、拙訳ではより原語に忠実と思われる「マッカ」と表記した。預言者*ムハンマド*の生誕の地。アラビア半島西部に位置し、ハラーム・マスジド*及びカァバ神殿*を擁する。イスラーム*第一の聖地。

- **マッカ開城：**ヒジュラ暦*8 年ラマダーン月*、クライシュ族*がフダイビーヤの和議*を破棄したことをきっかけに、総数一万にも上るマディーナ*のムスリム*軍がマッカ*へ無血入城。クライシュ族*は降伏してイスラーム*を受け入れた。

- **マドゥヤン：**古代アラビア半島北西部の王国都市であったと言われる。その民の間には不信仰だけでなく、商取引における不正*なども蔓延していた。彼らに遣わされたのが、預言者*シュアイブ*である。

- **マディーナ：**日本語では「メディナ」としても知られるが、拙訳においてはより原語に忠実と思われる「マディーナ」で表記した。マッカ*から北東へ約四百キロの距離に位置する。かつては「ヤスリブ」という名で呼ばれていたが、預言者*ムハンマド*の移住*以降は「マディーナトゥ・アン＝ナビイ（預言者*の町）」といった名称で呼ばれるようになり、それが簡略化されて「マディーナ」と通称されるようになった。イスラーム*国家の首都として栄え、ここを中心にイスラーム*は世界へと大きく拡大した。マスジド*・アン＝ナビイ（預言者*マスジド）を擁し、マッカ*に次いでイスラーム*における第二の聖地と見なされる。

- **マハラム：**法学上、血縁上の近親関係・授乳によって生じた近親関係・結婚によって生じた婚姻関係により、恒久的に結婚が許されない関係にある男性のこと。[1]

- **守られし碑板：**原語では「アッ＝ラウフ・アル＝マフフーズ」。全ての定命が記された碑板*のこと。預言者*ムハンマド*は仰った。「アッラー*は諸天と大地を創造される五万年前 - 御座（高壁章）は水の上にあった - 、被造物の定命をお書き留めになった」[2]。その場所や形状に関しては、「天使*イスラーフィールの面前にあるが、彼はそれを見ることができない」「白い真珠で出来ており、その頁は赤いルビー、その筆と字は光である」「アッラー*の御座の右側にある」[3]「御座の上にあ

1 クウェイト法学大全 36:200 参照。

2 ムスリム「定命の書」16 参照。

3 イブン・カスィール 48:373 参照。

る」[1]など、様々な説がある。定命を信じることは、いわゆる六信の内の一つである。尚、定命に関しては、次のような伝承が預言者*ムハンマド*から伝わっている。「預言者*は仰った。『全ての者は地獄か天国かに、その居場所を既に定められている』。ある教友*が言った。『アッラー*の使徒*よ、自分の定命に任せて、一切（行いを）行わないというのはどうでしょう？』預言者*ムハンマド*は仰った。『行いなさい。全ての容易いことが、自らの定めなのだから。幸福の民には、幸福の民の行いが容易くなり、不幸の民には不幸の民の行いが容易くなろう』。そう仰って、夜章 5-10 をお読みになった」[2]。誉れの夜*の項も参照。巡礼*章 70、創成者*章 11、鉄章 22、星座章 22 などにも、関連するアーヤがある。

- **マルヤム：**いわゆるイエスの母マリアのこと。敬虔な*女性として知られ、イーサー*を処女懐胎した。イスラーム*においても最善の女性の一人に数えられる。彼女に関する描写は主に、イムラーン家章 35-47、マルヤム章 16-29、禁止章 12 などに見受けられる。

- **ミーカーイール：**いわゆる天使*ミカエルのこと。雨や作物など糧に関する任務を負わされているという。

- **満ち足りておられるお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では、豊かである、他を必要としない、といった意味の語から派生した「アル＝ガニイ」。アッラー*は唯一、自己完結されたお方であり、天地とそこにある全てのものの真の所有者である。かれは連れ合いや子供、共同者などを始め、何ものも必要とはされない。むしろ人間を始めとする全ての被造物こそが、かれを必要としているのである。[3]

- **満ち足りたお方：**満ち足りておられるお方*を参照。

- **ムウタの戦い：**ヒジュラ暦*8 年に起きた、ムスリム*のキリスト教諸国への進出のきっかけとなった戦い。ローマ帝国からシャーム地方（現在のシリア、パレスチナ周辺地域）の支配を委任されていたアラブ人キリスト教徒*のガッサーン族が、ムスリム*側の使節を殺害したことが原因で勃発。使節の殺害は大きな罪と見なされ、戦争の布告を意味していた。三千の兵と共に進軍したムスリム*軍だが、ローマ帝国は一万に及ぶ大軍でそれを迎え撃つ。しかし勝利はムスリム*軍のものとなり、ローマ帝国側の多数の戦死者に対し、戦死者十二名を数えるだけであった。[4]

- **報いの日：**最後の日*を参照のこと。

---

1 イブン・ハジャル「アル＝ブハーリーの真正集解説における創生者の勝利」13:526 参照。

2 アル＝ブハーリー4949 参照。

3 ウマル・アル＝アシュカル 260-265 頁参照。

4 ムバーラクフーリー387-392 参照。

- **ムーサー：**旧約聖書のモーゼのこと。クルアーン*の中で、最も言及されることが多い使徒*。トーラー*を授かる。雌牛章、高壁章、ユーヌス*章、洞窟章、詩人たち章のかなりの部分が彼とその民にまつわる話に割かれているが、その他多くの章でも言及されている。尚ター･ハー章と物語章の大半は、彼とその民にまつわる話である。

- **ムジャーヒド：**ムジャーヒド･ブン･ジャブル。タービイー*。マッカ*のクルアーン*解釈･伝承学派の祖である教友*イブン･アッバース*の高弟。ヒジュラ暦*100年初頭に没。[1]

- **ムスリマ：**ムスリム*の女性形。

- **ムスリム：**いわゆるイスラーム*教徒のこと。「アスラマ（服従する）」という語の能動分詞で、イスラーム*はその名詞形。つまりムスリムとはそもそも、「全身全霊をもってアッラーに服従する者」のことである[2]。その意味において、アーダム*、ヌーフ*、イブラーヒーム*、ムーサー*、イーサー*といった預言者*･使徒*を始め、彼らの純正なる教えに従っていた信徒たちも、れっきとした「ムスリム」であった。しかしイスラーム*用語上は、「アッラー*以外に崇拝*すべき存在はなく、ムハンマド*はアッラー*の使徒*である」と証言することで、アッラー*から最後の使徒*に下された最後の啓示を認め、信じ、その証言と、その証言において求められる物事を信条･言動面において遵守する者のことである[3]。

- **ムタワーティル：**伝承学用語。語源的には「連続したもの」といった意味。イスラーム*用語上は、「常識的に嘘の合意が不可能なほど、多数の伝承者によって伝えられた伝承」のこと。[4]

- **ムッド：**容積による測量単位で、四分の一サーア*に相当。そもそもは、平均的な成人*男性が両手に掬える量のこと。約 0.688 リットルに相当するというのが一般的な説だが、他説もあり。[5]

- **ムハージルーン：**「ムハージル」の複数形。語源的には「避難する者」という意味。イスラーム*用語においては通常、イスラーム*の信仰を守り実践するために、アッラー*とその使徒*の命に従ってマッカ*からマディーナ*へと移住*した者たちのことを指す。

- **ムハッラム月：**ヒジュラ暦*の一月。神聖月*の一つ。

1　イブン･ハジャル「修訂の簡約」453 頁参照。

2　アッ＝タバリー1:646-647 参照。

3　アリー･アル＝フダイリー1:27 参照。

4　マフムード･アッ＝タッハーン 23 頁参照。

5　アッ＝ズハイリー1:143 参照。

- **ムハンマド：**ムハンマド・ブン・アブドッラー・ブン・アブド・アル＝ムッタリブ。マッカ*の豪族であったクライシュ族*ハーシム家に生を受ける。幼くして両親を亡くし、祖父や叔父の後見を受けながら育つ。預言者*としての使命を受ける前から、「アル＝アミーン（信頼のおける人）」という呼び名で知られた。二十五歳の時に初めて結婚し、四十歳の時にマッカ*のヒラー洞穴で瞑想中、初めての啓示を受ける。迫害を受けながらもマッカ*にて十三年間ほど布教を続けた後、アッラー*のご命令を受けてマディーナ*に移住*。当地でイスラーム*国家の基礎を築き、その僅か八年後にはマッカ開城*に成功。アラビア半島全域にイスラーム*を広め、アッラー*が遣わされた最後の使徒*としての任務を余すことなく果たした後、ヒジュラ暦*十一年にこの世を去った。[1]

- **ムフサン（女性形はムフサナ）：**語源的には「防護された者」という意味。一般的には、①ムスリム（ムスリマ）*で、②正しい結婚のもとに完全な性交を経験し、③正常な理性を備えた、④自由民の、⑤成人*を指す。[2]

- **恵み深いお方：**アッラー*の美名の一つ。原語は、贈る、与える、という意味の語から派生した強調能動分詞「アル＝ワッハーブ」。天地の真の所有者であり、その宝庫を一手にされるアッラー*は、限りなくお与えになるお方。かれがお授けになるいかなるものも、かれにとっては些少であり、それによってかれの王国の宝庫から減ることもない。[3]

- **ヤァクーブ：**旧約聖書のヤコブのこと。イスラーム*における預言者*の一人で、イスハーク*の息子。ユースフ*の父親。別名イスラーイール（イスラエル）。ユースフ*章、預言者*たち章 72-73、蜘蛛章 27、サード章 45-47 などにその描写を垣間見ることが出来る。

- **アル＝ヤサァ：**一説には、旧約聖書のエリシャのこと。

- **ヤヒヤー：**旧約聖書のヨハネのことで、預言者*の一人。一説にはイーサー*の従兄で、最初に彼を信じた人物。マルヤム*章 2-15 などに彼に関する叙述あり。

- **唯一なるお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では「（数字の）一、一つ、単独の」といった意味の語から派生した「アル＝ワーヒド」または「アル＝アハド」。後者の方が、より強調された意味合いがある。アッラー*はその本質と属性において永遠に唯一の存在であり、同様のものがなく、何にも似てはおられない。また、創造や世界の運営など全宇宙の主*としての権威、崇拝*されるという権威において唯一であり、いかなる共同者もおられないお方である[4]。アッラーの唯一性*の項も参照。

---

1 アッ＝ズィリクリー6:218-219 参照。

2 クウェイト法学大全参照 2:223-226。

3 ウマル・アル＝アシュカル 97 頁参照。

4 前掲書228 以降頁参照。

- **唯一性：**アッラーの唯一性*の項を参照。

- **ユースフ：**旧約聖書のヨセフのこと。イスラーム*における預言者*の一人で、ヤァクーブ*の息子。彼に降りかかった数奇な運命と、数々の試練を乗り越えて成功に至った逸話は、ユースフ章に詳しく描写されている。

- **ユーヌス：**古代イラクのモスル地方に遣わされた、預言者*ユーヌス・ブン・マッター[1]。別名「ズン＝ヌーン」（預言者*たち章 87 の訳注も参照）、旧約聖書のヨナのこと。ユーヌス章 98、預言者*たち章 87–88、整列者章 139–148、筆章 48 などに描写あり。

- **ユダヤ教徒：**原語では「ヤフーディー（複数形はヤフード）」。その名称は、高壁章 156 に見受けられるように彼らの悔悟（アラビア語の「ハーダ／ヤフード」）に由来するとか、ヤァクーブ*の息子ヤフーザ（ユダ）に由来するなど、諸説存在する[2]。預言者*ムハンマド*時代のアラビア半島にはユダヤ教徒が存在しており、ムスリム*たちがマッカ*から移住*したヤスリブ（ムスリム*たちの移住*後に「マディーナ*」と改名）においては、有力な地位を築いていた。彼らは一説に、新バビロニア王国のネブカドネザル二世によるユダ王国の攻撃や、紀元後一世紀と二世紀初頭におけるローマ帝国とユダヤ属州との間の戦争により、幾度かに分けてアラビア半島に移住・定着したのだという。当時のヤスリブのユダヤ教徒には、カイヌカーウ族、ナディール族（集合章を参照）、クライザ族（部族連合章 26–27 とその訳注を参照）という主要三部族がおり、砦を築いて独自の閉鎖的な生活を営みつつ、農業や工業によってヤスリブの経済を握っていた。また、当地の主要アラブ部族であったアウス族、ハズラジュ族が勢力を増しつつあるのを察すると、バヌー・カイヌカーウ族はハズラジュ族と、他の二部族はアウス族と同盟を結び、策謀してアラブ二部族を互いに戦い合わせた（雌牛章 85 とその訳注も参照）。この状態は彼らの間の最後の戦争が終わり、アウス族とハズラジュ族がアブドッラー・ブン・ウバイイ*を指導者とすることで一致団結した、ムスリム*たちの移住*の五年前まで続いていたのだという。尚、預言者*ムハンマド*の移住*後には、アウス族とハズラジュ族の間の敵対関係は完全に取り除かれ、ユダヤ部族とも友好条約が結ばれた。

- **よく労われる（お方）：**アッラー*の美名の一つ。原語ではそもそも「感謝する」という意味の語から派生した「アッ＝シャーキル」あるいは「アッ＝シャクール」で、後者の方がより強い意味を含むといわれる。アッラー*は、ほんの少しのよき行いを労い給い、それに対して豊かな褒美でお報いになり、偉大な恩恵を授けられ、小さな感謝の念でもご満悦されるお方である。[3]

1　イブン・カスィール 5:366 参照。

2　前掲書 1:285 参照。

3　アル＝ハッタービー65 頁参照。

- **よくお守りになるお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では「守る、記録する」という意味の語から派生した「アル＝ハーフィズ」または「アル＝ハフィーズ」。後者の方が、より強調（きょうちょう）された意味合いがあるという。アッラー*は定められた時期まで、その御知識（おんちしき）と御力（おちから）とご采配（さいはい）により、全ての創造（そうぞう）物をその消滅や滅亡（めつぼう）からお守りになるお方。また人々の現世での言行を天使*たちに記録させ、敬虔（けいけん）な*信仰者を様々な害悪（がいあく）から守られるお方でもある。[1]

- **よく悔悟（かいご）をお受け入れになるお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では「戻（もど）る」という意味の語から派生した強調能動分詞（きょうちょうのうどうぶんし）「アッ＝タウワーブ」。アッラー*は僕（しもべ）の悔悟（かいご）を、いつまでも、何度でも、お受け入れになるお方[2]。また、イスラーム*におけるアッラー*への悔悟（かいご）は、以下の四つを満たすことである：①罪（つみ）から手を引くこと。②犯（おか）してしまった罪（つみ）を悔（く）やむこと。③その罪（つみ）を再び犯（おか）さないと決心（けっしん）すること。④その罪（つみ）が取り返しのつくことであったら、そうすること。[3]

- **よく寛恕（かんじょ）されるお方：**アッラー*の美名の一つ。原語ではそもそも、「消す」という意味の語から派生した「アル＝アフウ」。つまりアッラーは、罪（つみ）そのものを消し去ってくれるお方である。一説に、この美名が「赦（ゆる）し深いお方」という訳を当てた「アル＝ガフール」「アル＝ガーフィル」「アル＝ガッファール」よりも強い意味を含むと言われるのは、それらが「覆（おお）い隠す」という意味の「ガファラ」に由来している[4]からであり、罪（つみ）を「覆（おお）い隠す」よりも「消し去る」方が強力であるからだと言われる[5]。

- **預言者（よげんしゃ）：**使徒（しと）*の項を参照のこと。

- **四大法学派：**ハナフィー学派*、マーリキー学派*、シャーフィイー学派*、ハンバリー学派*の四学派のこと。

- **ラビーウ・アル＝アーヒル月：**ヒジュラ暦*の四月。

- **ラジャブ月：**ヒジュラ暦*の七月。神聖（しんせい）月*の一つ。

- **アッ＝ラーズィー：**ファフル・アッ＝ディーン・ムハンマド・ブン・ウマル・ブン・アル＝ハサン。現在のイラン北部出身。クルアーン*解釈（かいしゃく）学の導師（どうし）と呼ばれるが、宗教分野だけでなく、様々な分野の学問に通じていた。クルアーン*解釈（かいしゃく）書「不可視（ふかし）の世界の鍵（かぎ）」の著者（完成前に他界し、未完部分は別の学者が同じ手法で完遂（かんすい））。ヒジュラ暦*606 年、ヘラートにて没。[6]

---

1 ウマル・アル＝アシュカル 159-161 頁参照。

2 前掲書 247 頁参照。

3 アッ＝ラーギブ 83 頁参照。

4 前掲書 364 頁参照。

5 ウマル・アル＝アシュカル 255-257 頁参照。

6 アッ＝ズィリクリー6:313 参照。

- **ラッスの徒：**「ラッス」の原義は井戸のこと。彼らが誰だったかには、「ヤー・スィーン章に登場する民（同章 13 以降を参照）」「シュアイブ*が遣わされた民の一つ」「アゼルバイジャン地方にいた民」「ヤマーマ地方（アラビア半島中部）にいた民」など諸説あるが、要は彼らに遣わされた預言者*を信じずに滅ぼされた、シルク*の民である。[1]

- **ラマダーン月：**ヒジュラ暦*の九月。義務の斎戒*の季節でもある。

- **利息：**便宜上「利息」という訳語をあてた原語は「リバー」であるが、これはイスラーム*法学的には正確な訳ではない。「リバー」には大きく分けて「遅延のリバー」と「余剰のリバー」の二種類があり、いわゆる利息は前者に分類される。雌牛章 275-280、イムラーン家章 130、ビザンチン章 39 も参照。

- **ルクーゥ：**語源的にはそもそも「服従」という意味がある[2]。イスラーム*用語上は、立ったまま上体を前方へ直角に傾ける、お辞儀のような形の礼拝動作のこと。

- **ルート：**旧約聖書のロト。使徒*イブラーヒーム*の甥にあたり、彼と共にイラクの地から現在のパレスチナ地方へと移住した。彼自身も預言者*の一人。彼とその民の間に起こった話は、高壁章 80-84、フード*章 69-83、詩人たち章 160-175、蟻章 54-58、蜘蛛章 28-35、月章 33-40 などに見受けられる。

- **礼拝を遵守する：**原語では「イカーマトゥ・アッ＝サラー」という言い回し、及びその派生形で表現されている。これには、特定の時間帯や、定められた形式を遵守しつつ礼拝を行う、という意味が含まれている。[3]

- **霊妙なお方：**アッラー*の美名の一つ。原語では「優しい、繊細な」といった意味の語から派生した「アッ＝ラティーフ」。アッラー*は最も微妙で微小な福利をご存知であり、かつその福利をそれに値するものに、精妙かつ繊細な形で実現されるお方である。[4]

- **アル＝ワリード・ブン・アル＝ムギーラ：**ジャーヒリーヤ*におけるアラブ人裁判官で、クライシュ族*の指導者の一人。イスラーム*が出現した時期には既に老齢だったが、激しく敵対し、その信徒を抑圧した。「アッラー*の剣」の異名を持つハーリド・ブン・アル＝ワリードの父親でもある。ヒジュラ暦*元年没。[5]

1　アル＝クルトゥビー13:32-33 参照。

2　アッ＝タバリー1:369 参照。

3　前掲書 1:187、ムヤッサル 2 頁参照。

4　ウマル・アル＝アシュカル 132 頁参照。

5　アッ＝ズィリクリー8:122 参照。

- **アル＝ワーヒディー：**アリー・ブン・アフマド・ブン・ムハンマド。ナイサーブール出身のクルアーン*解釈学者、文学者。代表作は、「詳注」「中庸」「簡略」という規模の異なる三つのクルアーン*解釈書など。ヒジュラ暦*468年没。[1]

- **われら：**第一人称代名詞の単数形を複数形で表すのは、アラビア語だけでなく西欧の言語などにも見られる「尊厳の複数（pluralis majestatis）」という表現法である。アッラー*はクルアーン*の中でご自身を、時には単数形の代名詞で、また時には複数形の代名詞でお示しになった。拙訳では、この表現法の違いにもアッラー*の英知が含まれているという信念に基づき、前者の場合には「われ」、後者の場合は「われら」として区別を付けた。

1　アッ＝ズィリクリー4:255参照。

فهرس بأسماء السور
スーラ名の索引

إنَّ وزارة الشؤون الإسلامية والدعوة والإرشاد

في المملكة العربية السعودية

المشرفة على مجمع الملك فهد

لطباعة المصحف الشريف في المدينة المنورة

إذ يسرُّها أن يصدر المجمع هذه الطبعة من القرآن الكريم

وترجمة معانيه وتفسيره إلى اللغة اليابانية

تسأل الله أن ينفع بها الناس

وأن يجزي

خادم الحرمين الشريفين الملك سلمان بن عبدالعزيز آل سعود

أحسن الجزاء على جهوده العظيمة في نشر كتاب الله الكريم

والله وليُّ التوفيق

サウジアラビア王国イスラーム諸事･布教･伝道省は、その管轄下にあるファハド国王マディーナ･クルアーン印刷コンプレックスを通じて、クルアーンの日亜対訳注解を出版できることを喜ばしく思うと共に、この書が人々にとって有益なものとなることをアッラーにお祈りします。また、クルアーンの配布におけるその並ならぬご尽力に対し、アッラーが、二大聖地の守護者サルマーン･ブン･アブドルアズィーズ･アーリ･サウード国王に、最善のご褒美をお授け下さいますよう。
アッラーは全ての成功の主であられます

بعون الله وتوفيقه
تم طبع هذا المصحف الشريف
وترجمة معانيه في مجمع الملك فهد
لطباعة المصحف الشريف بالمدينة المنورة
بإشراف وزارة الشؤون الإسلامية
والدعوة والإرشاد في
المملكة العربية السعودية
عام ١٤٤٠هـ

ص.ب ٦٢٦٢ - المدينة المنورة
www.qurancomplex.gov.sa
contact@qurancomplex.gov.sa

ヒジュラ暦1440年
アッラーからの
ご援助とご成功により
そしてファハド国王マディーナ
・クルアーン印刷コンプレックス
及びサウジアラビア王国イスラーム諸事・
布教・伝道省の監督下のもと
このクルアーン日亜対訳注解は
印刷されました

P.O. 6262 マディーナ、サウジアラビア王国

www.qurancomplex.gov.sa
contact@qurancomplex.gov.sa

ⓗ **مجمع الملك فهد لطباعة المصحف الشريف ، ١٤٤٠ هـ**

فهرسة مكتبة الملك فهد الوطنية أثناء النشر .

مجمع الملك فهد لطباعة المصحف الشريف

القرآن الكريم وترجمة معانيه وتفسيره إلى اللغة اليابانية . /

مجمع الملك فهد لطباعة المصحف الشريف . - المدينة المنورة ، ١٤٤٠ هـ

١٤٠٨ ص ؛ ١٤ × ٢١ سم

ردمك : ٩-٥٧-٨١٨٧-٦٠٣-٩٧٨

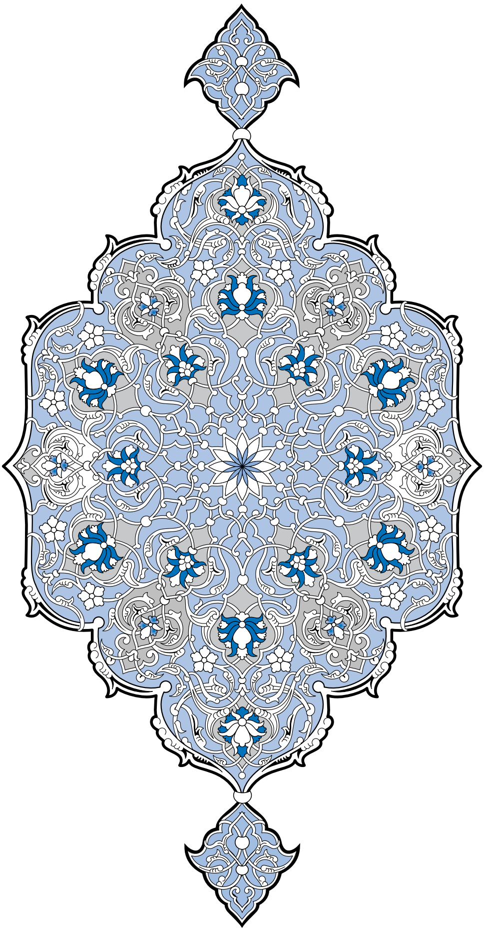
١- القرآن - ترجمة ٢- القرآن - تفسير أ. العنوان

ديوي ٢٢١،٤ ١٤٤٠/٤١٩

رقم الإيداع : ١٤٤٠/٤١٩

ردمك : ٩-٥٧-٨١٨٧-٦٠٣-٩٧٨

9 786038 187579



٤٠٠٠/ د ٦٩ (٠١)(٠١)
ردمك: ٩-٥٧-٨١٨٧-٦٠٣-٩٧٨